モルモン書

イエス・キリストについての
もう一つの証

末日聖徒イエス・キリスト教会の

教義と聖約

高価な真珠

発　行
末日聖徒イエス・キリスト教会
2009 年

合本：モルモン書，教義と聖約，高価な真珠

Ⓒ 1995, 2009 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有
印刷：日本　2009 年 6 月
原題：*The Book of Mormon, Doctrine and Covenants, and Pearl of Great Price* ― Japanese
34404 300

Ⓒ 1995, 2009 by Intellectual Reserve, Inc.
Printed in the USA 06 / 2012
19932009
Translation of the Book of Mormon, Doctrine and Covenants, and Pearl of Great Price ― Japanese
34404 300

合本目次

モルモン書
教義と聖約
高価な真珠
聖句ガイド

序文
項目リスト
聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）
教会歴史の年表
地図
写真
聖書の地図
写真

脚注と「聖句ガイド」で用いられる書名の略語

旧約聖書

創世……創世記
出エ……出エジプト記
レビ……レビ記
民数……民数記
申命……申命記
ヨシ……ヨシュア記
士師……士師記
ルツ……ルツ記
サ上……サムエル記上
サ下……サムエル記下
列上……列王紀上
列下……列王紀下
歴上……歴代志上
歴下……歴代志下
エズ……エズラ記
ネヘ……ネヘミヤ記
エス……エステル記
ヨブ……ヨブ記
詩篇……詩篇
箴言……箴言
伝道……伝道の書
雅歌……雅歌
イザ……イザヤ書
エレ……エレミヤ書
哀歌……哀歌
エゼ……エゼキエル書
ダニ……ダニエル書
ホセ……ホセア書
ヨエ……ヨエル書
アモ……アモス書
オバ……オバデヤ書
ヨナ……ヨナ書
ミカ……ミカ書
ナホ……ナホム書
ハバ……ハバクク書
ゼパ……ゼパニヤ書
ハガ……ハガイ書
ゼカ……ゼカリヤ書
マラ……マラキ書

新約聖書

マタ……マタイによる福音書
マコ……マルコによる福音書
ルカ……ルカによる福音書
ヨハ……ヨハネによる福音書
使徒……使徒行伝
ロマ……ローマ人への手紙
1コリ……コリント人への第一の手紙
2コリ……コリント人への第二の手紙
ガラ……ガラテヤ人への手紙
エペ……エペソ人への手紙
ピリ……ピリピ人への手紙
コロ……コロサイ人への手紙
1テサ……テサロニケ人への第一の手紙
2テサ……テサロニケ人への第二の手紙
1テモ……テモテへの第一の手紙
2テモ……テモテへの第二の手紙
テト……テトスへの手紙
ピレ……ピレモンへの手紙
ヘブ……ヘブル人への手紙
新ヤコ……ヤコブの手紙
1ペテ……ペテロの第一の手紙
2ペテ……ペテロの第二の手紙
1ヨハ……ヨハネの第一の手紙
2ヨハ……ヨハネの第二の手紙
3ヨハ……ヨハネの第三の手紙
ユダ……ユダの手紙
黙示……ヨハネの黙示録

モルモン書
1ニフ……ニーファイ第一書
2ニフ……ニーファイ第二書
ヤコ……ヤコブ書
エノ……エノス書

教義と聖約
教義……教義と聖約
公式1……公式の宣言一
公式2……公式の宣言二

高価な真珠
モセ……モーセ書
アブ……アブラハム書
ジ―マタ…ジョセフ・スミス―マタイ
ジ―歴史…ジョセフ・スミス―歴史
箇条……信仰箇条

JS……ジョセフ・スミス訳聖書
KJ……欽定訳聖書
GS……聖句ガイド項目リスト

ジェロ……ジェロム書
オム……オムナイ書
モ言……モルモンの言葉
モサ……モーサヤ書

アル……アルマ書
ヒラ……ヒラマン書
3ニフ……第三ニーファイ
4ニフ……第四ニーファイ

モル……モルモン書
エテ……エテル書
モロ……モロナイ書

モルモン書

イエス・キリストについての
もう一つの証

モルモン書

モルモンがニーファイの版から取って自分の手で別の版に書き記した記録

したがってこれは、ニーファイの民とレーマン人についての記録を短くまとめたものである。――イスラエルの家の残りの者であるレーマン人、ならびにユダヤ人と異邦人にあてて書き記されたもの――戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記されたもの――書き記され、封じられ、主に託して隠され、損なわれることのないようにされたもの――神の賜物と力によりもたらされ、翻訳されるもの――定められたときに異邦人によって伝わるように、モロナイの手により封じられ、主に託して隠されたもの――また、神の賜物により翻訳されるものである。

これには、エテル書から取って短くまとめたものも含まれている。エテル書はヤレドの民の記録であり、ヤレドの民は主が民の言語を乱されたとき、すなわち民が天に達しようと一つの塔を建てていたときに散らされた人々である。――これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示すものであり、また、彼らはとこしえに捨てられないという主の聖約を、彼らに分かるように示すものである。――また、ユダヤ人と異邦人に、**イエスがキリストであり、永遠の神**であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。――ところで、もし誤りがあるとすれば、それは人の犯した間違いである。したがって、キリストの裁きの座で染みがないと認められるために、神にかかわるものを非難しないようにしなさい。

諸版よりの英語への原訳
ジョセフ・スミス・ジュニア
英文初版発行　千八百三十年
アメリカ合衆国ニューヨーク州パルマイラ

序文

『モルモン書』は『聖書』と肩を並べる聖典である。この聖典は、アメリカ大陸の昔の住民に対する神の導きの記録であり、この書物には完全な永遠の福音が記されている。

この書物は、昔の多くの預言者たちが啓示と預言の霊によって書き記したものであり、モルモンという名の預言者であり歴史家であった人物が、金版に書き記された言葉を引用し、短くまとめたものである。この記録は、偉大な文明を持つ二つの民のことを述べている。一つの民は、紀元前六百年にエルサレムからやって来て、後にニーファイ人およびレーマン人として知られる二つの民に分かれた。もう一つの民はそれよりもはるか以前に、主がバベルの塔で言語を乱されたときにやって来た人々で、ヤレド人として知られている。しかし数千年後には、これらの文明の民はレーマン人のほかはすべて滅びてしまった。このレーマン人もアメリカインディアンの先祖である。

『モルモン書』に記録されている中で最も栄光ある出来事は、主イエス・キリストが復活後間もなく、ニーファイ人の間で親しく教え導かれたことであろう。また、『モルモン書』は福音の教えを宣言し、救いの計画の概要を説き、人がこの世で平和を得、後の世で永遠の救いにあずかるには何をしなければならないかを告げている。

モルモンは自分の記録を終えると、それを息子のモロナイに渡した。モロナイは、自分の言葉を多少付け加えて、その版をクモラの丘に隠した。その後、千八百二十三年九月二十一日に、復活し栄光を受けた同じモロナイが預言者ジョセフ・スミスに現れて、古代のその記録について指示を与え、やがてそれが英語に翻訳されることを告げたのである。

その後、時が訪れて、ジョセフ・スミスはその版を渡され、神の賜物と力によって翻訳した。そして、その記録は現在、イエス・キリストが生ける神の御子であられることを証し、またイエス・キリストのもとに来て、イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うすべての人が救われることを証する、新たなもう一つの証の書物として、数多くの

言語で出版されている。

この記録について、預言者ジョセフ・スミスは次のように言っている。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」

主はジョセフ・スミスに加えて、ほかに十一人の人々を、金版を実際に目にし、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であることを証する、特別な証人として立てられた。彼らの証は、「三人の証人の証」ならびに「八人の証人の証」として、この書物に収められている。

わたしたちはあらゆる地に住むすべての人に、『モルモン書』を読み、この書物に含まれている教えを心の中で深く考え、そして、この書物が真実かどうか、キリストの名によって永遠の父なる神に問うようにお勧めする。この手順を踏んで、信仰をもって問う人々は、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であるという証を、聖霊の力によって得るであろう（モロナイ書第十章三―五節）。

聖なる御霊を通じて神からのこの証を得る人々は、その同じ力によって、イエス・キリストが世の救い主であられ、ジョセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であることを、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が、メシヤの再臨に先立って地上に再び設立された主の王国であることを知るであろう。

三人の証人の証

この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによって、この記録が記されている版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と、聖典に述べられているあの塔から来たヤレドの民についての記録である。また、その版が神の賜物と力によって翻訳されたことも知っている。神の声がわたしたちにそのことを宣言されたからである。したがって、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知っている。また、その版に刻まれている文字を見たことと、それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力によることを証する。また、一人の天使が天から降って来て、携えて来たその版を目の前に置いたので、わたしたちはその版とそれに刻まれている文字を見たことを謹んで言明する。目で見て、これらのものが真実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによるものであることを知っている。これはわたしたちの目に驚くべきことではあるが、主の声がこのことを証するようにわたしたちに命じられたので、わたしたちは神命に従ってこのことを証する。わたしたちは、キリストにあって忠実であれば、すべての人の血をわたしたちの衣から取り除いて、キリストとともに天の裁きの座で染みがないと認められ、キリストとともに天に永遠に住めることを知っている。一つの神である御父と御子と聖霊に誉れがあるように。アーメン。

オリバー・カウドリ
デビッド・ホイットマー
マーティン・ハリス

八人の証人の証

この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、この書物の翻訳者ジョセフ・スミス・ジュニアから、前述の金に見える版を見せてもらい、またスミス氏が翻訳を終えた部分を手で触れてみた。また、その版に刻まれている文字も見たが、それらはすべて、昔のもののようで、入念な造りに見えた。わたしたちは実際に目で見、手で持ち上げ、今語っている版をスミス氏が所有していたことを確かに知っているので、スミス氏がわたしたちに見せてくれたことを謹んで証するものである。そしてわたしたちは、自分たちが見たことを世の人々に証するために、各々の名を公にする。

わたしたちは偽りを言わない。神がそのことを証される。

クリスチャン・ホイットマー
ジェイコブ・ホイットマー
ピーター・ホイットマー・ジュニア
ジョン・ホイットマー
ハイラム・ページ
ジョセフ・スミス・シニア
ハイラム・スミス
サミュエル・H・スミス

預言者ジョセフ・スミスの証

預言者ジョセフ・スミスは、『モルモン書』が世に出されるに至った次第を、次のように述べている。

「〔千八百二十三年〕九月二十一日の夜のことである。わたしは……全能の神に……祈って嘆願した。……

わたしはこのように神を呼び求めていたとき、室内に光が現れたのに気づいた。その光は次第に明るさを増し、ついにその部屋は真昼の時よりも明るくなった。すると、すぐに一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ、空中に立たれた。というのは、その足が床から離れていたからである。

その方はこの上なく美しい白さの、ゆったりとした衣を着ておられた。それは、わたしがこれまで見たこの世のいかなるものにも勝る白さであった。この世のいかなるものも、これほど白く輝いて見えるようにすることはできないと思う。その方の手はあらわで、衣の袖は手首の少し上までで、その足もあらわで、衣の裾は足首の少し上までしかなかった。その頭と首も覆われていなかった。その方の胸が見えるほど衣がゆったりとしていたので、わたしはその方がその衣のほか何も着ておられないのに気づいた。

その衣が非常に白かっただけでなく、その全身も筆紙に尽くし難い輝きに満ち、その顔はまことに稲妻のようであった。部屋は非常に明るかったが、その方のすぐ周りほど明るくはなかった。わたしは最初にその方を見たときに恐れたが、その恐れはすぐに去った。

その方はわたしの名を呼び、自分は神の前から遣わされた使者であること、その名はモロナイであること、神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることをわたしに告げられた。

その方はまた、この大陸の先住民の話と彼らの起源を伝える、金版に記された書が隠されていることも告げられた。また、それには救い主がその昔の住民に述べられたままに完全な永遠の福音が載っていることも告げられた。

また、銀のつるにはめた二つの石も版とともに隠されていること――これらの石は胸当てに付けてあって、ウリムとトンミムと呼ばれるものを成す――これらの石を所有して使った者が昔すなわち前の時代の聖見者となったこと、ならびにその書を翻訳するために神がそれらを備えてくださったことを、その方は告げられた。

＊＊＊＊＊＊＊

さらに、わたしがその方の語ったその版を受け取るとき――というのは、それを手に入れる時はまだ来ていなかったからである――その版や、ウリムとトンミムの付いた胸当てを、それらを見せるように命じられた人々のほかにはだれにも見せてはならない、もしも見せたならば滅ぼされる、とその方はわたしに告げられた。その方が版についてわたしと語っておられる間に、わたしの心に示現が開かれ、わたしはその版の隠されている場所を見ることができた。そして、それは非常に明瞭ではっきりとしていたので、そこを訪れたときにはその場所が分かった。

この指示を受けた後、わたしが見ると、室内の光はたちまち、わたしに語っておられたその方の周りに集まり始めた。そして、光は集まり続け、その方のすぐ周りを除いてついにその部屋は再び暗くなった。その途端に、わたしが見ると、あたかも一筋の道が天に向かってまっすぐに開いたかのようで、その方は昇って行かれ、ついにその姿がまったく見えなくなった。そして、その部屋は、この天の光が現れる前の状態に戻った。

わたしはその奇異な有様をつくづくと考え、またこの常ならぬ使者によって告げられたことを不思議に思いながら横になっていた。このように思いにふけっている最中に、わたしは、突然部屋が再び明るくなり始めたのに気づいた。そして、あたかも突然であるかのように、同じ天の使者が再びわたしの寝台の傍らにおられた。

その方は語り始め、最初に訪れたときに述べたこととまったく同じことを少しも変えずに再び述べられた。それを述べた後、飢饉と戦争と疫病によるひどい荒廃を伴って地上に来ようとしている大きな裁きについてわたしに告げ、またこれらの厳しい裁きがこの時代に地上に来ることを告げられた。これらのことを述べた後、その方は再び前と同じように昇って行かれた。

このときには、心に受けた印象が非常に深かったので、

わたしは目がさえて眠れなくなっており、見たり聞いたりしたことへの驚きに圧倒されて横になっていた。ところが何とも驚いたことに、わたしはまたもや寝台の傍らに同じ使者を見、その方が前と同じことをわたしに詳しく語られるのを、すなわち、再び繰り返し語られるのを聞いたのである。そして、その方はわたしに一つの警告を加え、（父の家族は貧しい暮らしをしていたので）金持ちになるために版を手に入れるように、サタンがわたしを誘惑しようとするであろうと告げられた。そしてその方は、このようなことのないようにわたしに命じ、版を手に入れるに当たっては神の栄光を現す以外の目的を心に抱いてはならないこと、また神の王国を築こうとする動機以外のいかなる動機にも左右されてはならないこと、そうでなければそれを手に入れることはできないことを告げられた。

この三度目の訪れの後、その方は前のようにまた天に昇って行かれた。そして、わたしはたった今経験したことの不思議さをまた深く考え続けた。その天の使者が三度目にわたしを離れて昇って行かれたのとほとんど同時に、鶏が鳴いたので、わたしは夜明けの近いことを知った。したがって、わたしは一晩中その使者と会見していたことになる。

わたしはその後間もなく起きて、いつものように、その日にしなければならない仕事に出かけた。しかし、わたしは普段のように働こうとしたが、まったく働けないほど疲れ果てているのを知った。わたしと一緒に働いていた父は、わたしの具合が悪いのに気づき、家に帰るように言った。そこで、わたしは家に帰ろうとして出かけた。しかし、囲いを越えて畑から出ようとしたときに、すっかり力を失ってぐったりと地に倒れ、しばらくの間まったく意識を失っていた。

わたしが思い出せる最初のことは、わたしの名を呼んで、わたしに語りかける声があったことである。見上げると、あの同じ使者が前のように光に包まれて、頭上に立っておられるのが見えた。それからその方は、前夜わたしに話したすべてのことを再びわたしに話し、父のところへ行って、わたしが受けた示現と命令のことを告げるようにと命じられた。

わたしはそれに従い、畑にいた父のところへ戻って、父にすべてのことを詳しく告げた。すると、父はわたしに、それは神から出ていると答え、その使者から命じられたと

おりにするように告げた。わたしは畑を去って、版が隠されていると使者から告げられた場所へ行った。すると、それに関して受けていた示現が明瞭であったので、そこに着くとすぐにその場所が分かった。

ニューヨーク州オンタリオ郡マンチェスターの村の近くに、かなりの大きさの丘が一つある。そこはその界わい切っての高い丘である。この丘の頂上から遠くない西側の所にかなりの大きさの石があって、その石の下にあった石の箱の中に版が置かれていた。この石は厚みがあって、上部の中央が丸みを帯びており、へりに行くに従って薄くなっていたので、その中央部は地上に見えていたが、へりはすべて土に覆われていた。

わたしは土を取り除いて、てこを一本手に入れ、それをその石のへりの下に差し込んで、わずかな力でそれを持ち上げた。中をのぞき込むと、あの使者から言われたように、実際にそこに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てが見えた。それらが納められていた箱は、ある種のセメントの中に石を置いて造ったものである。箱の底には、横向きに二個の石が置かれ、その石の上に版とその他の物が一緒に載せられていた。

わたしはそれらを取り出そうとしたが、あの使者に止められた。そして、それらを出す時はまだ来ていないことを再び知らされた。また、そのときから四年たたないと、その時は来ないとのことであった。その方はわたしに、そのときからちょうど一年目にその場所に来るように、そうすれば彼がわたしに会ってくださること、また版を手に入れる時が来るまでわたしはそれを続けなければならないことを告げられた。

それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこへ行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を行おうとしておられるか、また終わりの時に主の王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。

＊＊＊＊＊＊＊

ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやって来た。千八百二十七年九月二十二日、わたしがいつものように満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ天の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださった。すなわち、わたしはそれらに

対して責任を持たなければならない、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであろう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしがそれらを保存するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られる、というのであった。

わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つためにそのような厳しい責任を課せられたのか、またわたしが自分に求められたことを成し遂げたときにそれらを取りに来るとなぜ使者が言われたのか、その理由が分かった。わたしがそれらを持っていることが知れるやいなや、わたしからそれらを奪おうとするあらん限りの努力が払われたからである。そのために思いつく限りのあらゆる策略が実行に移された。迫害は以前にも増して激しく、容赦のないものとなり、大勢の人が、できればわたしからそれらを奪おうと絶えず機会をうかがった。しかし、わたしが求められたことをそれらによって成し遂げるまで、それらは神の知恵によって、わたしの手の中で無事であった。そして、前もって定められたとおり、使者がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使者に引き渡したのである。そして、千八百三十八年五月二日の今日まで、その使者がそれらを管理しておられる。」

記録の全文については、『高価な真珠』の「ジョセフ・スミス—歴史」ならびに『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史』（History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints）第一巻、第一—六章を参照していただきたい。

このようにして、地の中から語る一つの民の声として地から取り出され、神の断言によって明らかなように、神の賜物と力によって近代の言語に翻訳されたこの古代の記録は、千八百三十年に、The Book of Mormon（『モルモン書』）として初めて世に出された。

『モルモン書』についての概説

『モルモン書』は、昔アメリカ大陸に住んでいた民の神聖な記録であり、金属版に刻まれていたものである。そしてこの書には、四種類の金属版のことが述べられている。

一、ニーファイの版。小版と大版の二種類がある。小版には、特に霊的な事柄と預言者たちの務めと教えが記されており、一方大版は、大部分が世俗の歴史で占められている（ニーファイ第一書第九章二―四節）。しかし、モーサヤの時代以後は、大版にも、霊的に際立って重要な事柄が記された。

二、モルモンの版。モルモンがニーファイの大版から短くまとめた記事と、多くの解説文から成る。この版には、モルモンが書き継いだ歴史と、息子モロナイが付け加えた記事が載っている。

三、エテルの版。ヤレド人の歴史を伝えるものである。モロナイはこの記録を短くまとめて、これに自分の解説を織り込み、「エテル書」という表題を付け、全体の歴史に組み入れて編集した。

四、真鍮の版。紀元前六百年に、リーハイの民がエルサレムから携えて来たものである。この版には、「モーセの五書……また、世の初めからユダの王ゼデキヤの統治の初めに至るユダヤ人の記録……また……聖なる預言者たちの預言」（ニーファイ第一書第五章十一―十三節）が載っている。イザヤやその他、聖書の預言者や聖書に現れない預言者たちの言葉が、この版からたくさん『モルモン書』に引用されている。

『モルモン書』は、一つの例外はあるものの、ほかはすべて各々の主要な著者の名を冠した「書」として知られる十五の主部すなわち区分から成っている。「オムナイ書」までの最初の六つの書は、ニーファイの小版からの翻訳である。また、「オムナイ書」と「モーサヤ書」の間に「モルモンの言葉」と呼ばれる挿入記事がある。これは、小版に刻まれている記録とモルモンが大版から短くまとめた記録をつなぐものである。

「モーサヤ書」から「モルモン書」第七章に至る長い部分

は、モルモンがニーファイの大版から短くまとめたものの翻訳である。また、「モルモン書」第八章から巻末までの残りの部分は、モルモンの息子モロナイが刻んだものである。モロナイは父の生涯について記録を終えた後、（「エテル書」として）ヤレド人の記録を短くまとめたものを作り、その後、「モロナイ書」として知られている部分を付け加えた。

紀元四百二十一年、あるいはそれに近いある年に、ニーファイ人の最後の預言者であり歴史家であるモロナイは、昔の預言者たちを通じて神の声により予告されたとおりに、末日に明らかにされるように、その神聖な記録を封じ、主に託して隠した。そして紀元千八百二十三年に、当時復活していたこの同じモロナイが預言者ジョセフ・スミスを訪れ、後に、記録の刻まれているその版を彼に渡したのである。

本版について――過去に出版された英文の『モルモン書』には、その本文に小さな誤りが幾つか残っていた。本版は、出版前の原稿と預言者ジョセフ・スミスが校訂した初期の版に合わせて、適切と思われる訂正を加えたものである。

目次

モルモン書

書名	ページ
ニーファイ第一書	1
ニーファイ第二書	69
ヤコブ書	153
エノス書	179
ジェロム書	183
オムナイ書	186
モルモンの言葉	190
モーサヤ書	193
アルマ書	280
ヒラマン書	515
第三ニーファイ	570
第四ニーファイ	650
モルモン書	655
エテル書	682
モロナイ書	726

ニーファイ第一書

ニーファイの統治と務め

リーハイと妻サライア、および（長男から始めて）レーマン、レムエル、サム、ニーファイと呼ばれた四人の息子たちの話。リーハイが民に向かって彼らの罪悪について預言をし、民がそのリーハイの命を奪おうとしたので、主はリーハイにエルサレムの地を立ち去るように警告される。リーハイは、家族を連れて荒れ野に三日間の旅をする。ニーファイ、兄たちを伴い、ユダヤ人の記録を手に入れるためにエルサレムの地に戻る。一行が遭った苦しみの話。ニーファイと兄たち、イシマエルの娘たちを妻とする。一行は家族を連れて荒れ野に出発する。荒れ野で遭った苦しみと苦難。一行の旅路。一行、大海に来る。ニーファイの兄たち、ニーファイに反抗する。ニーファイ、兄たちを言い伏せて一隻の船を造る。その地をバウンティフルと名付ける。一行が大海を渡って約束の地に着くことなど。これはすべて、ニーファイが記すところによる。言い換えれば、わたしニーファイがこの記録を書き記したのである。

第1章

ニーファイ、自分の民について記録を始める。リーハイ、示現の中で火の柱を目にし、また預言の書を読む。リーハイ、神をほめたたえ、メシヤの来臨を予告し、エルサレムの滅亡を預言する。リーハイ、ユダヤ人に迫害される。紀元前約六百年。

1 わたしニーファイ[1]は善い[2]両親[3]から生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの[4]教えを受けた。わたしはこれまでの人生で多くの[5]苦難に遭ったが、生まれてこのかた主の厚い恵みを受け、まことに神の慈しみと[6]奥義を深く知った。そこで、生まれてからこれまでの間に行ってきたことを[7]記録する。

2 まことにわたしは父の[1]言葉で記録するが、それは、ユダヤ人が学んできたこととエジプト人の言葉から成っている。

ニーファイ第一書
第1章
1 ① GS「ニーファイ（リーハイの息子）」
② 箴言22・1
③ 教義68・25、28、GS「親」
④ エノ1・1、モサ1・2—3、GS「教える・教師」
⑤ GS「逆境」
⑥ GS「神の奥義」
⑦ GS「聖文」
2 ① モサ1・2—4、モル9・32—33

3 わたしは、自分の書く記録が真実であることを知っている。わたしはこれを自分の手で書き、自分の知っていることに従って書く。

4 さて、ユダの王ゼデキヤの統治第一年の初めに（父リーハイは生まれてこのかたエルサレムに住んでいた）、その同じ年に多くの預言者が現れて、民に向かい、悔い改めなければ大きな都のエルサレムは滅ぼされるに違いないと預言した。

5 さて、父リーハイは、出て行って民のためにまことに一心に主に祈った。

6 そして、祈っていたときに、火の柱が現れて、父の前にある岩の上にとどまった。そして父は、多くのことを見たり聞いたりした。父はこれらの見たり聞いたりしたことのために、ひどく震えおののいた。

7 さて、父はエルサレムにある自分の家に帰って来たが、御霊と自分が見たものに圧倒され、床に伏してしまった。

8 このように御霊に圧倒されていたとき、父は示現に引き込まれ、まことに天が開くのを見た。また父は、神が御座に着き、御自身を賛美しほめたたえる様子で群れ集まる、無数の天使たちに取り囲まれておられるのを見た思いがした。

9 そして父は、天の真ん中から降りて来られる一人の御方を見たが、その輝きは真昼の太陽の輝きにも勝るものであった。

10 また父は、このほかにこの御方に従う十二人の人も見たが、その明るさは大空に輝く星の明るさをしのいでいた。

11 そして、この人たちは天から降りて来て地の面を進んで行った。やがて最初の人が父の前に来て立ち、一つの書物を渡して読むように言った。

12 そこでその書物を読むと、父は主の御霊に満たされた。

13 父は声に出して読んだ。「災いである。エルサレムは災いである。わたしはあなたの忌まわしい行いを見たからである。」そして父は、エルサレムについて多くのことを読んだが、それはエルサレムが滅ぼされ、その地に住む者も滅ぼされ、多くが剣で殺され、多くが囚われの身となってバビロンへ連れ去られるということであった。

14 さて、父は多くの大いなる驚くべきことを読んだ

---

3 ① 1ニフ14・30、モサ1・6、エテ5・1—3、教義17・6
4 ① 歴下36・10、エレ52・1・4
② 3—5、オム1・15
GS「年表—紀元前598」
③ 歴上9・3
④ 列下17・13—15、歴下36・15—16、エレ7・25—26、GS「預言者」
⑤ エレ26・18、2ニフ1・4、ヒラ8・20
5 ① GS「リーハイ（ニーファイの父）」
② 新ヤコ5・16
6 ① 出エ13・21、ヒラ5・24、43、教義29・12、ジ—歴史1・16
7 ① ダニ10・8、1ニフ17・47、モセ1・9—10、ジ—歴史1・20
8 ① 1ニフ5・4、GS「示現」
② エゼ1・1、使徒7・55—56、1ニフ11・14、ヒラ5・45—49、教義137・1
9 ① ジ—歴史1・16—17
GS「使徒」
10 ① エゼ2・9
11 ① 教義6・15
12 ① 列下24・18—20、歴下36・14
13 ① ②列下23・27、24・2、エレ13・13—14、2ニフ1・4
③ 列下20・17—18、2ニフ25・10、オム1・15

り見たりした後、主に向かい、「おお、全能の主なる神よ、あなたの御業は何と偉大で驚くべきものでしょう。あなたの御座は高く天にあって、あなたの力と慈しみと憐れみは地に住むすべての者に及んでいます。あなたは憐れみ深い御方ですから、1)あなたのみもとに来る者が滅びるのを許されません」などと、大声で多くのことを叫んで言った。

15 このような言葉で神をほめたたえたのは、父が見たこと、すなわち主が父に示されたことで父が心から喜び、まことに胸がいっぱいになったからである。

16 ところで、わたしニーファイは、父が書き記したことを残らず述べることはしない。それは、父が示現や夢で見たことをたくさん書き記しており、また子供たちに預言をしたり語ったりしたこともたくさん書き記しているからであって、わたしはそのことについて残らず述べるつもりはない。

17 そうではなく、わたしは生まれてからこれまでの間に自分が行ってきたことを述べる。見よ、わたしは自分の手で造った版に父の記録を短くまとめる。そして父の記録を短くまとめてから、次にわたしの生涯について述べるつもりである。

18 さて、あなたがたに知っていてもらいたいと思うことがある。すなわち、主が父リーハイに、非常に多くの驚くべきこと、まことにエルサレムの滅亡1)について示されてから、見よ、父は民の中に出て行って、自分が先に見たり聞いたりしたことについて預言し、また告げ知らせ始めた。

19 さて、ユダヤ人は、父が彼らについて証をしたことのために父をあざ笑った。1)父が、ユダヤ人の悪事と彼らの忌まわしい行いについて、ありのままに証したからであり、自分が見聞きしたことや、あの書物で読んだことが、2)メシヤの来臨と世の贖いをはっきり表していると、証したからである。

20 ユダヤ人は、これらのことを聞いて父に腹を立てた。まことに、彼らが昔の預言者に腹を立てたのと同様である。彼らは預言者を追い出し、石を投げつけ、殺してしまった。そして、今また彼らは父の命をねらい、殺してしまおうとしたのである。しかし見よ、主の深い2)憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。

---

14 ① アル5・33−36、3ニフ9・14
16 ① 1ニフ7・1
17 ① 1ニフ6・1−3、19・1−6、2ニフ5・29−33、教義10・38−46
18 ① ② 1ニフ9・2−5、2ニフ25・9−10、教義5・20、GS「預言」
19 ① ② 歴下36・15−16、エレ25・4、1ニフ2・13、7・14、GS「メシヤ」
20 ① ② ヒラ13・24−26、アル34・38、教義46・15、GS「憐れみ」

第2章

リーハイ、家族を連れて紅海に近い荒れ野に出発する。財産を後に残す。主に犠牲をささげ、息子たちに主の戒めを守るように教える。レーマンとレムエル、父に対してつぶやく。ニーファイは従順であり、信仰をもって祈る。主、ニーファイに語られ、ニーファイは兄たちを治める者として選ばれる。紀元前約六百年。

1 さて見よ、主はまことに夢の中で父に告げてこう言われた。「リーハイよ、あなたはこれまで行ってきたことのために、幸いである。あなたは忠実であり、わたしが命じたことをこの民に告げ知らせたため、見よ、彼らはあなたの命を奪おうとしている。」

2 そして、主は[1)]夢の中で父に、家族を連れて荒れ野へ出て行くように命じられた。

3 そして、父は主の言葉に従順であったので、主が命じられたとおりにした。

4 そして、父は荒れ野へ出て行った。父は自分の家や受け継ぎの地、金や銀、貴重品を後に残して、家族と食糧と天幕のほかは何も持たずに荒れ野へ出て行った。

5 そして父は、まず[1)]紅海の海辺に近い境の地の辺りに下って行って、それから、さらに紅海に近い境の地の荒れ野を進んだ。父は荒れ野の中を家族を連れて旅をしたが、その家族とは、母サライアと兄たち、すなわち[2)]レーマン、レムエル、サムであった。

6 さて、父は荒れ野を三日の間旅してから、[1)]ある谷で、水の流れている川のほとりに天幕を張った。

7 そして父は、[1)]石で一つの[2)]祭壇を築き、主にささげ物をして、主なるわたしたちの神に[3)]感謝をささげた。

8 さて、父はその川をレーマンと名付けた。その川は紅海に注ぎ、その谷は河口に近い境の地にあった。

9 父は、その川の水が紅海の源に注ぐのを見て、レーマンに向かって言った。「おお、おまえはこの川のように、絶え間なくあらゆる義の源に流れ込むように。」

10 またレムエルに向かって言った。「おお、おまえはこの谷のように、主の戒めを守ることにおいて堅く確固として、揺るぎなくあるように。」

第2章

1 (1) 1ニフ7・14
2 (1) GS「夢」
(2) 創世12・1、2ニフ10・20、エテ1・42、アブ2・3
(3) 1ニフ5・8、17・44
3 (1) GS「従順・従う」
4 (1) 1ニフ10・4、19・8
5 (1) 1ニフ16・14、教義17・1
(2) GS「レーマン」
6 (1) 1ニフ9・1
7 (1) 出エ20・25、申命27・5—6
(2) 創世12・7—8、出エ24・4、アブ2・17
(3) GS「感謝」

11 ところで、父がこう言ったのは、レーマンとレム
エルが強情であったからである。見よ、この二人は
多くのことで[1]父に対して[2]つぶやいた。それは、父
が[3]幻を見る人で、自分たちの受け継ぎの地や、金や
銀、貴重品を後に残して、エルサレムの地から自分
たちを連れ出し、荒れ野で死ぬほかなかったためで
あった。そして、父がこのようにしたのは、心に浮
かんだつまらない空想のためだ、と彼らは言った。
12 このように、いちばん年上のレーマンとレムエル
は父に対してつぶやいた。彼らがつぶやいたのは、
自分たちを造られたあの神の計らいを[1]知らないため
であった。
13 またこの二人は、あの大きな都のエルサレムが、
預言者たちが言ったように[1]滅ぼされることも信じな
かった。彼らは、父の命を奪おうとしたエルサレム
のユダヤ人のようであった。
14 そこで父は、レムエルの谷で御霊に満たされ、二
人の体が自分の前で[1]打ち震えるまで[2]力強く彼らに
語った。そして父が二人を言い伏せたので、二人は
一言も言い返さず、父の命じるとおりにした。
15 父は天幕に住んだ。

16 さて、わたしニーファイはまだとても若かった
が、もう身の丈は高く、また神の[1]奥義を知りたいと
いう大きな望みを抱いていたので、主に叫び求め
た。すると見よ、主がわたしを[2]訪れ、[3]心を和らげて
くださったので、わたしは、[4]父がこれまでに語った
言葉をすべて[5]信じた。そのためにわたしは、兄たち
のように父に逆らおうとはしなかったのである。
17 そしてわたしはサムに、主が聖なる御霊によって
わたしに明らかにしてくださったことを話して聞か
せた。そこで、サムはわたしの言葉を信じた。
18 しかし見よ、レーマンとレムエルは、わたしの言
うことに決して聞き従おうとしなかったので、わた
しは二人の心がかたくななのを[1]悲しく思い、二人の
ために主に叫び求めた。
19 そこで主は、わたしに告げて言われた。「ニーファ
イよ、あなたは[1]信仰があるので幸いである。あなた
がへりくだった心で、熱心にわたしを求めたからで
ある。
20 あなたがたは、わたしの命令を守るかぎり[1]栄え
て、[2]約束の地に導かれるであろう。まことにそこ
は、あなたがたのためにわたしが備えた地であっ

11 ① 箴言20・20
② 1ニフ17・17、GS「つぶやき」
③ 1ニフ5・2—4
12 ① モセ4・6
13 ① エレ13・14、1ニフ1・13
14 ① 1ニフ17・45
② GS「力」
16 ① GS「神の奥義」
② アル17・10、教義5・16、GS「啓示」
③ 列上18・37、アル5・7
④ GS「父(現世の)」「預言者」
⑤ 1ニフ11・5
18 ① アル31・24、3ニフ7・16
19 ① 1ニフ7・12、15・11
20 ① ヨシ1・7、1ニフ4・14、モサ1・7
② 申命33・13—16、1ニフ5・5、7・13、モセ7・17—18、GS「約束の地」

て、それはまことに、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地である。
21 あなたの兄たちは、あなたに背くかぎり主の前から[1]絶たれるであろう。
22 またあなたは、わたしの命令を守るかぎり、兄たちを[1]治める者、教える者とされるであろう。
23 見よ、彼らがわたしに背くその日に、まことにわたしはひどいのろいをもって彼らを[1]のろうであろう。また、あなたの子孫がわたしに背いた場合を除いて、彼らがあなたの子孫を支配する権力を得ることは決してないであろう。
24 しかし、もしあなたの子孫がわたしに背くならば、彼らは、あなたの子孫に主を思い出させるために、あなたの子孫にとって[2]むち鞭となるであろう。」

第 3 章

リーハイの息子たち、真鍮の版を手に入れるためにエルサレムに戻る。ラバン、真鍮の版を渡すのを拒む。ニーファイ、兄たちを促し、励ます。ラバン、彼らの持ち物を奪い、彼らを殺そうとする。レーマンとレムエル、ニーファイとサムを打ち、天使にとがめられる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、主と話をしてから父の天幕に帰った。
2 そこで父は、わたしに次のように言った。「見よ、わたしは[1]夢を見た。その夢の中で主は、あなたと兄たちをエルサレムに戻らせるようにわたしに命じられた。
3 それは見よ、ラバンがユダヤ人の記録とわたしの先祖の[1]系図を持っているからであって、それらは真鍮の版に刻まれている。
4 それで主はわたしに、あなたとあなたの兄たちがラバンの家へ行ってその記録を何とか手に入れ、それを荒れ野の中のここまで持って来るように命じられたのである。
5 ところで、あなたの兄たちは、わたしの求めていることが難しいと言って、つぶやいている。しかし、わたしが彼らにそれを求めたのでは決してない。それは主の命令なのだ。
6 だからわが子よ、行きなさい。あなたは[1]つぶやくことがなかったので、主から恵みを受けるであろ

---

21 ① 2ニフ 5・20—24、アル 9・13—15、38・1
22 ① 創世 37・8—11、1ニフ 3・29
23 ① 申命 11・28、1ニフ 12・22—23、教義 41・1
24 ① 2ニフ 5・25
② ヨシ 23・13、士師 2・22—23
第 3 章
2 ① GS「夢」
3 ① 1ニフ 5・14
6 ① GS「支持（教会指導者の）」

う。」
7そこで、わたしニーファイは父に言った。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」
8さて、父はこの言葉を聞くと、わたしが主から祝福を受けていたことを知って非常に喜んだ。
9それでわたしニーファイと兄たちは、エルサレムの地へ上って行くために天幕を持って荒れ野に旅立った。
10そしてエルサレムの地に着くと、わたしと兄たちは相談した。
11わたしたちは、だれがラバンの家に入って行くか、くじを引いた。そして、そのくじがレーマンに当たった。それでレーマンはラバンの家に入って行き、座に着いているラバンと話をした。
12そして彼は、真鍮の版に刻まれていて、父の系図が載っている記録を譲ってくれるようにラバンに頼んだ。
13そこで見よ、ラバンは、ひどく怒ってレーマンを自分のもとから追い出し、その記録を渡そうとはしなかった。またラバンはレーマンに、「おまえは盗賊だ。殺してやる」と言った。
14しかしレーマンは、ラバンのもとから逃げ出して来て、ラバンのしたことをわたしたちに話した。それでわたしたちは大いに悲嘆に暮れ、兄たちは荒れ野にいる父のところへ帰ってしまおうとした。
15しかし見よ、わたしは兄たちに言った。「主が生きておられ、またわたしたちが生きているように確かに、わたしたちは主から命じられたことを成し遂げるまでは、荒れ野にいる父のところへは下って行きません。
16だから、主の命令を忠実に守りましょう。父の受け継ぎの地へ行きましょう。まことに、父は金や銀など、あらゆる富を後に残してきているからです。そして父は、これをすべて主の命令によってしたのです。
17それは父が、民の悪事のためにエルサレムが必ず滅ぼされることを知っていたからです。
18まことに、エルサレムの民は預言者たちの言葉

7 ①サ上17・32、列上17・11—15、GS「従順・従う」 ②「信仰」 11 ①創世18・14、ピリ4・13、1ニフ17・3、50、教義5・34 ③GS「戒め（神の）」 26 ①ネヘ10・34、使徒1・1 12 ①1ニフ3・3、5・14 16 ①1ニフ2・4 ②1ニフ2・2、4・34 17 ①歴下36・16—20、エレ39・1—9、1ニフ1・13

を拒[1)こば]みました。だから、もし父[ちち]がこの地[ち]から逃[に]げるように命[2)めい]じられながらこの地にとどまるなら、父[ちち]もまたきっと滅[ほろ]びるでしょう。そういうわけで、父[ちち]はこの地[ち]からどうしても逃[のが]れなければならなかったのです。

19 そしてまことに、これらの記録[1)きろく]を手[て]に入[い]れるのは、神[かみ]の知恵[ちえ]です。そうすれば、先祖[せんぞ]の言葉[ことば]を子孫[しそん]に残[のこ]すことができるし、

20 また、世[よ]の初[はじ]めから現在[げんざい]に至[いた]るまで、すべての聖[せい]なる預言者[よげんしゃ]の口[くち]を通[とお]して語[かた]られ、神[かみ]の御霊[みたま]と力[ちから]によって語られてきた御言葉[みことば]を、子孫[しそん]に残[1)のこ]すことができるのです。」

21 わたしは、兄[あに]たちが神[かみ]の命令[めいれい]を忠実[ちゅうじつ]に守[まも]るように、このような言葉[ことば]で説得[せっとく]したのであった。

22 さて、わたしたちは受[う]け継[つ]ぎの地[ち]へ下[くだ]って行[い]って、わたしたちの金[1)きん]や銀[ぎん]、貴重品[きちょうひん]を集[あつ]めた。

23 そしてこれらの品々[しなじな]を集[あつ]めてから、もう一度[いちど]ラバンの家[いえ]に行[い]った。

24 さて、わたしたちはラバンのところに行[い]って、金[きん]や銀[ぎん]やすべての貴重品[きちょうひん]を渡[わた]す代[か]わりに、真鍮[1)しんちゅう]の版[はん]に刻[きざ]まれた記録[きろく]をわたしたちに譲[ゆず]ってくれるように頼[たの]んだ。

25 そこで、ラバンはわたしたちの持[も]っているものを目[め]にし、しかもそれが大[たい]したものであるのを見[み]て、欲[1)ほ]しくてたまらなくなった。それで彼[かれ]は、わたしたちを追[お]い出[だ]し、わたしたちの持[も]っているものを自分[じぶん]のものにするために、召[め]し使[つか]いにわたしたちを殺[ころ]させようとした。

26 そこでわたしたちは、ラバンの召[め]し使[つか]いたちの前[まえ]から逃[に]げ出[だ]した。そして、持[も]っていたものは後[あと]に残[のこ]してくるよりほか仕方[しかた]がなかったので、それはラバンのものになってしまった。

27 さて、わたしたちは荒れ野[の]に逃[に]げ込[こ]み、またラバンの召[め]し使[つか]いたちに追[お]いつかれなかったので、とある岩[いわ]の洞穴[ほらあな]に身[み]を隠[かく]した。

28 さて、レーマンはわたしと父[ちち]に腹[はら]を立[た]てた。またレムエルも、レーマンの言葉[ことば]に聞[き]き従[したが]ったのでともに腹を立てた。それでレーマンとレムエルは、弟[おとうと]であるわたしたちに多[おお]くの荒々[1)あらあら]しい言葉[ことば]を吐[は]き、そのうえ棒[ぼう]でわたしたちを打[う]った。

29 さて、彼[かれ]らがわたしたちを棒[ぼう]で打[う]っていると、見[み]よ、一人[ひとり]の主[しゅ]の天使[1)てんし]が来[き]て、彼[かれ]らの前[まえ]に立[た]ち、この

18 ①GS「背く」
19 ①②1ニフ16・8
20 ①GS「聖文—保存されるべき聖文」
22 ①1ニフ2・4
24 ①1ニフ3・3
25 ①GS「貪欲・むさぼり」
28 ①1ニフ17・17—18
29 ①1ニフ4・3、7・10、GS「天使」

ように言った。「なぜあなたがたは自分の弟を棒でたたくのか。主が彼を選んであなたがたを治める者になさったこと、そしてこれがあなたがたの罪悪のためであることを知らないのか。さあ、もう一度エルサレムへ上って行きなさい。そうすれば、主はラバンをあなたがたの手に渡されるであろう。」

30 この天使はわたしたちにこのように語ると、立ち去った。

31 天使が立ち去ってから、レーマンとレムエルはまたもつぶやき始め[1]、こう言った。「主がどのようにして、ラバンを我々の手に渡すことができるというのか。見よ、ラバンは力のある人で、五十人を指揮することができるし、まことに、五十人を殺すことさえできる。それならば、どうして我々を殺せないわけがあろうか。」

第4章

ニーファイ、主の命令でラバンを殺し、計略によって真鍮の版を手に入れる。ゾーラム、荒れ野にいるリーハイの家族と行動を共にする。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしは兄たちに言った。「わたしたちはまたエルサレムへ上って行きましょう。そして、主の命令を忠実に守りましょう。まことに、主は全地にも増して力ある御方なのですから、どうしてラバンとその家来の五十人よりも力が劣ることがあるでしょうか。いや、ラバンに何万人あっても主の力にはかないません。

2 だから行きましょう。モーセのように強くなろうではありませんか。事実、モーセが紅海の水に語りかけると、紅海の水は右と左に分かれました。そして、わたしたちの先祖は囚われの身から逃れて、乾いた土の上を通って来ました。ところがパロの軍勢は、後を追って来て、紅海の水におぼれて死にました。

3 さてまことに、あなたがたは、これがほんとうであることを知っています。また、一人の天使があなたがたに語りかけたことも知っています。それでいて、どうして疑うことができるのですか。行きましょう。主は、わたしたちの先祖を救われたように、わたしたちも救い、エジプト人を滅ぼされたように、ラバンをも滅ぼすことがおできになるのです。」

---

29 ② 1ニフ2・22
30 ① 1ニフ16・38
31 ① GS「つぶやき」

第4章
1 ① GS「信仰」「勇敢・勇気」
② 1ニフ7・11—12
2 ① GS「モーセ」
② 申命11・8
③ 出エ14・21、1ニフ17・26、モサ7・19
3 ① 1ニフ3・29—31、7・10

4 わたしがそう言ってからも、まだ兄たちは憤ってつぶやき続けた。それでも彼らはわたしの後について来て、わたしたちはエルサレムの城壁の外まで来た。

5 時はもう夜であった。わたしは兄たちを城壁の外に忍ばせた。彼らが身を隠してから、わたしニーファイは都に忍び込み、ラバンの家に向かって進んで行った。

6 わたしは、前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれて行った。

7 にもかかわらず、そのようにして進んで、ラバンの家の近くに来ると、一人の男を見かけた。その男はぶどう酒に酔ってわたしの前の地面に倒れていた。

8 近づいて見ると、それはラバンであった。

9 わたしはラバンの剣に目をやった。そして、それをさやから引き抜いた。柄は純金であって実に見事な造りで、刃は最も上等な鋼でできていた。

10 さて、わたしはラバンを殺すように強く御霊に促された。しかし心の中で、「わたしは今までどんなときにも人の血を流したことはない」と言った。わたしはしりごみをし、ラバンを殺さなくて済むようにと思った。

11 すると御霊が再び、「見よ、主はすでに、この男をあなたの手に渡された」と言われた。そしてわたしも、ラバンがわたしの命を奪おうとしたこと、ラバンが主の命令に聞き従わないだろうということ、またわたしたちの持っているものを奪ったことを知っていた。

12 そして御霊が、またわたしに言われた。「この男を殺しなさい。主はあなたの手にこの男を渡された。

13 見よ、主は、義にかなった目的を果たすためには、悪人を殺される。一人の人が滅びるのは、一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい。」

14 わたしニーファイはこの御言葉を聞いたとき、主が荒れ野でわたしに言われた、「あなたの子孫はわたしの命令を守るかぎり、約束の地で栄える」という御言葉を思い出した。

15 そしてわたしはまた、もしもわたしの子孫にモーセの律法がなかったならば、子孫はその律法に従って主の命令を守ることができなくなるとも考えた。

16 またわたしは、その律法が真鍮の版に刻まれてい

---

6 ①ヘブ11・8
9 ①②GS「聖霊」「霊感」
2ニフ5・14、教義
10 ①アル14・11
11 ①サ上17・41−49
②1ニフ3・26
13 ①②GS「邪悪」
1ニフ17・33−38、
②教義98・31−32
14 ①③アル30・47
GS「戒め」（神の）
オム1・6、モサ2・
22、エテ2・7−12
③1ニフ17・13−14、
ヤコ2・12
16 ①④1ニフ2・20
GS「モーセの律法」

ることも知っていた。
17さらにわたしは、この理由、すなわち、わたしが主の命令に従ってあの記録を手に入れることができるようにという理由で、主がラバンをわたしの手に渡されたことを知っていた。
18それでわたしは御霊の声に従い、ラバンの髪の毛をつかみ、ラバン自身の剣で彼の首を打ち落とした。
19わたしは、ラバン自身の剣で彼の首を打ち落としてから、ラバンの衣服を取って一つ残らず身に着け、また彼の武具を腰にまとった。
20それからわたしは、ラバンの宝物蔵へ進んで行った。ラバンの宝物蔵へ進んで行くと、見よ、宝物蔵の鍵を持ったラバンの召し使いに会ってしまった。それでわたしは、ラバンの声色を使って、わたしとともに宝物蔵に入るように命じた。
21召し使いは、わたしの衣服と腰に帯びている剣を見て、わたしを主人のラバンだと思い込んでいた。
22彼は、主人のラバンがその夜ユダヤ人の長老たちのところへ出かけて行ったのを知っていたので、その長老たちのことをわたしに話した。
23わたしはラバンのふりをして彼に話をした。
24わたしはまた、真鍮の版に刻まれたものを、城壁の外にいるわたしの兄弟たちのところへ持って行くのだと言った。
25そしてその召し使いに、ついて来るように言った。
26するとその召し使いは、教会の兄弟たちのことを言っているのだと思い、またわたしのことを、わたしが手にかけたあのラバンだとほんとうに思い込んでいたので、後について来た。
27また召し使いは、城壁の外にいる兄たちのところへ行く途中で、何度もわたしに向かってユダヤ人の長老たちのことを話した。
28さて、レーマンはわたしを見ると非常におびえ、またレムエルもサムもともにおびえて、わたしの前から逃げ出した。わたしをラバンだと思い、ラバンがわたしを殺して、自分たちの命も奪いに来たと思ったからである。
29そこでわたしは、逃げる後から兄たちを呼んだ。すると兄たちは、わたしの声を聞いて、わたしの前から逃げるのをやめた。
30そして、ラバンの召し使いは、兄たちを見ておの

18① サ上17・51
20① 2ニフ1・30
24① 1ニフ3・12、19−24、5・10−22

のき始め、わたしの前から逃げてエルサレムの都へ
帰ろうとした。
31しかしわたしニーファイは、身の丈が高いうえに
主から強い力を授かっていたので、ラバンの召し使
いを捕まえて、逃げないように押さえつけた。
32そしてわたしは、わたしの言うことに聞き従うな
らば、主が生きておられ、またわたしが生きている
ように確かに、わたしたちの言うことに聞き従うな
らば、命を助けてやると言った。
33また、恐れるには及ばないこと、そしてもしわた
したちと荒れ野へ下って行くならば、わたしたちと
同様に自由の身になることを、まことに誓って言っ
た。
34わたしはまた言った。「主は確かに、このことを行
うようにわたしたちに命じられた。わたしたちは主
の命令を熱心に守るべきではないか。もしあなたが
荒れ野へ下って、わたしの父のところへ行くなら
ば、わたしたちとともに暮らせるだろう。」
35さて、ゾーラムは、わたしの語った言葉を聞いて
勇気を得た。ところで、ゾーラムとはこの召し使い
の名である。彼は荒れ野へ下って行って、わたしの
父のところへ行くと約束した。そしてまた、その先
わたしたちとともに住むと誓った。
36ところでわたしたちには、ゾーラムが行動を共に
することを願う理由があった。それは、わたしたち
が荒れ野へ逃げたことをユダヤ人に知られ、追いか
けられて殺されることのないようにするためであっ
た。
37さて、ゾーラムがわたしたちに誓ったので、彼に
ついての心配はなくなった。
38そこでわたしたちは、真鍮の版を持ち、ラバンの
召し使いを連れて荒れ野へ出発し、父の天幕に向か
って旅路を進んだ。

第5章

サライア、リーハイに向かって不平を言う。二人と
も、息子たちが帰って来たことを喜び、犠牲をささげ
る。真鍮の版には、モーセと預言者たちの記録が載せ
られている。その版から、リーハイがヨセフの子孫で
あることが分かる。リーハイ、自分の子孫と真鍮の版
の保存について預言する。紀元前約六百年から五百九
十二年に至る。

31 ① モサ9・17、アル5・56
33 ① GS「誓い」
34 ① 1ニフ2・2、3・16
35 ① 1ニフ16・7、2ニフ5・5−6、GS「ゾーラム・ゾーラム人」
37 ① ヨシ9・1−21、伝道5・4、GS「誓い」

1 さて、わたしたちが荒れ野へ下って来て父のところに着くと、父は喜びに満たされた。また母のサライア[1]も、ほんとうにわたしたちのことで悲しんでいたので、非常に喜んだ。

2 母は、わたしたちが荒れ野で死んでしまったと思ったからである。母はまた、父のことを幻を見る人だと言って父に不平を言い、「あなたがわたしたちを受け継ぎの地から連れ出したので、息子たちはいなくなってしまい、わたしたちも荒れ野で死んでしまいます」と言っていた。

3 母は、このような言葉で父に不平を言っていた。

4 そこで父は母に言った。「わたしは自分が[1]幻を見る者であることを知っている。もしわたしが、[2]示現の中で神が示してくださった事柄を見なかったならば、わたしは神の慈しみを知らず、エルサレムにとどまって、同胞とともに滅びてしまったであろう。

5 しかし見よ、わたしは[1]約束の地を頂いており、そのことについて喜ばしく思う。またわたしは、主が息子たちをラバンの手から救い出し、荒れ野にいるわたしたちのもとにまた連れ戻してくださることを[2]知っている。」

6 父リーハイはこのような言葉で、わたしたちのことについて母サライアを慰めたのであった。それは、わたしたちがユダヤ人の記録を手に入れるために、荒れ野をエルサレムの地へ向かって旅をしていた間のことであった。

7 そこで、わたしたちが父の天幕に帰って来ると、見よ、父母は喜びに満たされ、母は慰めを得た。

8 母は言った。「[1]主が夫に荒れ野へ逃げるように命じられたことが、今確かに分かりました。また、主が息子たちを守り、ラバンの手から救い出し、主が命じられたことを[2]成し遂げるための力を息子たちにお与えくださったことが、確かに分かります。」母はこのような言葉で話した。

9 そして父母は、非常に喜び、[1]犠牲と燔祭を主にささげ、イスラエルの神に[2]感謝した。

10 二人でイスラエルの神に感謝をささげてから、父リーハイは[1]真鍮の版に刻まれた記録を手に取り、最初から調べてみた。

11 父が見ると、その中には、世界の創造とわたしたちの最初の先祖であるアダムとエバの話を載せた、[1]モーセの五書があった。

第5章

1 (1) GS「サライア」
4 (1) 1ニフ2・11
(2) 1ニフ1・8—13、GS「示現」
5 (1) 1ニフ2・20、18・8、22—23、GS「約束の地」
(2) GS「信仰」
8 (1) (2) 1ニフ2・2
(2) 1ニフ3・7
9 (1) (2) モサ2・3、3ニフ9・19—20、GS「モーセの律法」
(2) GS「感謝」
10 (1) (2) 1ニフ4・24、38、13・23、GS「真鍮版」
11 (1) 1ニフ19・23、GS「五書」

12 また、世の初めからユダの王ゼデキヤの統治の初めに至るユダヤ人の記録[1]もあり、
13 また、世の初めからゼデキヤの統治の初めに至る聖なる預言者たちの預言や、そのほか、[2]エレミヤの口を通して語られた多くの預言も載せてあった。
14 そして父リーハイは、[1]真鍮の版に自分の先祖の系図も見つけ、それで自分が[2]ヨセフの子孫であることを知った。このヨセフとは、[3]ヤコブの子のヨセフであって、[4]エジプトへ売られ、父ヤコブとその家のすべての者が飢饉で死ぬことのないように守るため主の手によって[5]守られたあのヨセフである。
15 彼らは自分たちを守ってくださったあの同じ神によって、囚われの身から[1]救い出され、エジプトの地から導き出されたのである。
16 このようにして、父リーハイは自分の先祖の系図を見つけた。ラバンもまたヨセフの子孫であったので、ラバンとその先祖がこの記録を書き記しておいたのである。
17 ところで、父はこれらのことをすべて見ると、御霊に満たされ、自分の子孫について預言し始めた。
18 すなわち、この真鍮の版が父の子孫であるすべての国民、部族、国語の民、民族に伝わるということである。
19 それで父は、この真鍮の版は[1]決して朽ちることなく、またこれから先どれだけ歳月を経ても、さびて読めなくなることはまったくないと言った。そして彼は、自分の子孫について多くのことを預言した。
20 さて、わたしと父は、主が下された命令をこれまで守ってきた。
21 そしてわたしたちは、主が手に入れるようにと言われた記録を手に入れ、また、それを調べて、それが望ましいものであることを知った。まことに、それは、子孫に主の戒めを[1]残すことができるものであり、したがって、わたしたちにとって大きな[2]価値のあるものである。
22 それゆえ、わたしたちが約束の地を目指して荒れ野を旅するときに、この版を携えて行くのは、主の知恵であった。

第 6 章

ニーファイ、神にかかわる事柄を書き記す。ニーファイの目的は、アブラハムの神のもとに来て救われる

12 ①歴上 9・1、GS「聖文」
13 ①1 列下 24・18、エレ 37・1
②エズ 1・1、エレ 36・17—32、1 ニフ 7・14、ヒラ 8・20
14 ①1 ニフ 3・3、12、GS「真鍮版」
②2 ニフ 3・4、アル 10・3、GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
③GS「ヤコブ（イサクの息子）」
④創世 37・29—36
⑤創世 45・4—5
出エ 13・17—18、アモ 3・1—2、1 ニフ 17・23—31、教義 103・16—18、136・22
16 ①1 ニフ 6・2
19 ①アル 37・4—5
21 ①2 ニフ 25・26
②GS「聖文—聖文の価値」

ように、人々に説き勧めることである。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしニーファイは、わたしの記録のこの部分に先祖の系図を書き記さない。また、わたしが今書き記しているこの版には、今後も書き記さない。それは、父が書いた記録に載っていることだからである。したがって、この版にはそれを書き記さない。

2わたしたちがヨセフの子孫であると言えば、それで十分である。

3わたしは、父について残らず詳しく述べようとは思わない。この版には、神にかかわる事柄を書き記すための余白が欲しいので、残らず詳しく書き記すことはできないからである。

4わたしが一心に志すのは、人々がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のもとに来て救われるように、説き勧めることである。

5したがってわたしは、俗世の人々にとって喜ばしいことを書き記さないで、神にとって喜ばしいことや、俗世のものでない人々にとって喜ばしいことを書き記す。

6それでわたしは、人の子らにとって価値のないことでこの版を埋めてはならないと、子孫に命じよう。

第7章

リーハイの息子たち、エルサレムに戻り、イシマエルとその一家を約束の地に向かう旅の一行に招く。レーマンとほかの者たち、背く。ニーファイ、主を信じる信仰を持つように兄たちに勧める。兄たち、ニーファイを縄で縛り、殺そうとする。ニーファイ、信仰の力によって自由の身となる。兄たち、赦しを求める。リーハイとその一行、犠牲と燔祭をささげる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1ところで、ここであなたがたに知らせたいと思うことがある。それは、父リーハイが自分の子孫について預言をした後、そこで主が再び父に、家族だけを連れて荒れ野へ行くのは父リーハイにとってよくない、約束の地へ行って主のために子供をもうけられるよう、息子たちがよその娘たちを妻に迎えるよ

第6章
1 ①1 2ニフ4・14—15
②2 1ニフ9・2
③19 1ニフ1・16—17、19・1—6
2 ①1 1ニフ5・14—16
3 ①1 ヤコ7・27、ジェロ1・2、14、オム1・30
4 ①1 2ニフ9・41、45、51
②2 ヨハ20・30—31。「モルモン書」のタイトルページを参照
5 ①1 1テサ2・4、モ言1・4

第7章
1 ①1 1ニフ5・17—19
②2 1ニフ16・7
③ GS「結婚」

うに、と言われたことである。
2 そこで主は父に、わたしニーファイと兄たちを再
びエルサレムの地へ帰して、イシマエルとその家族
を荒れ野に連れて来させるように命じられた。
3 そこでわたしニーファイは、再び兄たちとともに
エルサレムへ上って行くために、荒れ野へ出て行っ
た。
4 さて、わたしたちはイシマエルの家に行った。そ
して、イシマエルの好意を得たので、主の言葉を彼
に話した。
5 そこで主は、まことにイシマエルの心を和らげ、
また彼の家族の心も和らげられたので、彼らはわた
したちとともに、父の天幕に向かって荒れ野へ旅を
した。
6 さて、荒れ野を旅する途中で、見よ、レーマンと
レムエル、イシマエルの二人の娘、イシマエルの二
人の息子とその家族がわたしたちに背いた。まこと
に、わたしニーファイとサム、また彼らの父イシマ
エルとその妻、それにイシマエルのほかの三人の娘
たちに背いたのである。
7 そして彼らは、そのように背いて、エルサレムの
地へ帰りたがった。
8 それでわたしニーファイは、彼らの心がかたくな
なのを悲しく思い、彼らに、すなわちレーマンとレ
ムエルに言った。「まことに、あなたがたはわたしの
兄さんではありませんか。それなのに、弟のわたし
があなたがたに話をし、模範を示さなければならな
いほど、心がかたくなで思いがくらんでいるのはど
ういうわけですか。
9 主の御言葉に聞き従わないのは、どういうわけで
すか。
10 主の天使に会ったことを忘れたのは、どういうわ
けですか。
11 また、わたしたちをラバンの手から救い出すに当
たって、主がなされた偉大な事柄と、また、主があ
の記録を手に入れさせてくださったことを忘れたの
は、どういうわけですか。
12 まことに、人の子らが主を信じる信仰を働かせれ
ば、主は彼らのために、御心のままに何でもおでき
になります。そのことを忘れたのは、どういうわけ
ですか。主に忠誠を尽くそうではありませんか。
13 主に忠実であれば、わたしたちは約束の地を手に

2 ① 1ニフ16・7—8
3 ① 1ニフ3・2—3
6 ① 2ニフ4・10
8 ① アル31・2、モセ7・41
10 ① 申命4・9、1ニフ3・29、4・3
11 ① 1ニフ4章
12 ① 1ニフ3・7、15・11
② 1ニフ17・50、アル26・12
13 ① 1ニフ2・20、GS「約束の地」

入れるでしょう。またあなたがたは、エルサレムの滅亡[2]についての主の御言葉が成就するのを、将来いつか知ることでしょう。主がエルサレムの滅亡について語られたすべてのことは、必ず成就するに違いないからです。

14まことに主の御霊は、彼らを励ますことをもうすぐやめるでしょう。まことに、彼らは預言者たちを決して受け入れず、[1]エレミヤを牢に入れたからです。また、わたしの父の命を[2][3]奪おうとして、父をその地から追い出しました。

15さてまことに、あなたがたに言っておきます。もしあなたがたがエルサレムへ戻るなら、あなたがたもエルサレムの民とともに滅びてしまうでしょう。もしそうしたいのであれば、エルサレムへ行けばよい。しかし、行けばあなたがたも滅びるという、わたしの語った言葉を覚えておいてください。主の御霊がこう言うように、わたしを強く促すからです。」

16さて、わたしニーファイが兄たちにこう言うと、兄たちはわたしに腹を立てた。そして彼らは非常に憤り、わたしを捕まえて、縄で縛った。[1]わたしを荒れ野に捨てて猛獣に食わせ、命を奪おうとしたのであった。

17そこでわたしは主に祈って言った。「おお、主よ、あなたを信じるわたしの信仰により、兄たちの手から救い出してください。まことに、わたしを縛っているこの縄を[1]断ち切る力をお与えください。」

18そして、わたしがこのように言うと、見よ、縄がすぐにわたしの手足から解けたので、わたしは兄たちの前に立って、また話をした。

19そこで兄たちはまた腹を立て、わたしに手をかけようとした。しかし見よ、[1]イシマエルの娘の一人とその母、それにイシマエルの息子の一人が兄たちに執り成してくれたので、兄たちは心を和らげて、わたしの命を奪おうとするのをやめた。

20そして兄たちは自分たちの悪事を悲しみ、わたしの前にひざまずいて、わたしに対してしたことを赦してくれるように頼み込んだ。

21そこでわたしは、兄たちのしたことをすべて心から[1]赦し、主なる彼らの神に赦しを求めて祈るように勧めた。それで彼らは、そのとおりにして祈った。彼らが主に祈り終えると、わたしたちはまた、父の天幕を目指して旅を続けた。

13② 列下25・1—21、2ニフ6・8、25・10、オムト1・15、ヒラ8・20—21
14① エゼ5・6、1ニフ1・18—20、2・13、GS「背く」
② エレ37・15—21
16① 1ニフ2・1
② 1ニフ18・11—15
③ アル14・26—28
17① 1ニフ16・7
19① GS「赦し」
21① GS「赦し」

22 そして、ついにわたしたちは、父の天幕に着いた。わたしと兄たちとイシマエルの家に属するすべての者が父の天幕に着くと、彼らは主なる彼らの神に感謝をした。そして犠牲[2]と燔祭をささげた。

第8章

リーハイ、命の木の示現を見る。そしてその木の実を食べ、家族にも食べてほしいと思う。また鉄の棒と、細くて狭い道と、人々を包む暗黒の霧を見る。サライアとニーファイとサムはその実を食べるが、レーマンとレムエルは拒む。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしたちは、すべての種類の種、すなわちあらゆる穀物の種とあらゆる果物の種を集めておいた。

2 さて、父は、荒れ野にとどまっていたときに、わたしたちに次のように言った。「見よ、わたしは夢[1]を見た。別の言葉で言えば、示現[2]を見た。

3 そして見よ、わたしは、自分が見たことのために、ニーファイとサムについては主にあって喜ばずにはいられない。彼らとその子孫の多くは救われると思うからである。

4 しかし見よ、レーマン[1]とレムエルよ、わたしはあなたがたについて非常に心配している。わたしは夢の中でひどく暗くて寂しい荒れ野を見たように思う。

5 そして、わたしは一人の男の人を見た。その人は白い衣[1]を着ていて、わたしの方に来て、わたしの前に立った。

6 そして、その人はわたしに言葉をかけて、後について来るように言った。

7 そこでついて行くと、わたしは自分が暗くて寂しい荒れ野にいることが分かった。

8 そして暗闇の中を長い間進んだところで、わたしは、主がその豊かな深い憐れみ[1]によってわたしを憐れんでくださるように、主に祈り始めた。

9 そして主に祈り終えると、大きく広々とした野原[1]が見えた。

10 そして、一本の木[1]が見えたが、その実[2]は人を幸せにする好ましいものであった。

11 そこで、行ってその木の実[1]を食べると、それは、

---

22 ①GS「感謝」
②1ニフ5・9

第8章

2 ①GS「啓示」「夢」
②1ニフ10・17、GS「示現」

3 ①1ニフ8・14—18
4 ①1ニフ8・35—36
5 ①ジー歴史1・30—32
8 ①GS「憐れみ」
9 ①マタ13・38
10 ①創世2・9、黙示2・7、22・2、1ニフ11・4、8—25、GS「命の木」
11 ①②アル32・41—43
②アル5・34

今までに味わったどんな実よりもずっと甘いことが
分かった。またその木の実は白く、今までに見たど
んな白いものにも勝って白かった。
12 そしてその木の実を食べると、わたしの心は非常
に大きな喜びに満たされた。それでわたしは、家族
にも食べてほしいと思い始めた。その実が、ほかの
どんな実よりも好ましいことが分かったからであ
る。
13 それで、自分の家族もいるのではないかと辺りに
目をやると、水の流れている川が見えた。それは、
わたしが実を取って食べた、あの木のそばを流れて
いた。
14 その川がどこから来るのかと眺めると、少し離れ
た所に川の源があった。そして、その源の所にあな
たがたの母サライアとサムとニーファイがいるのが
見えたが、彼らは、どちらへ行ったらよいか迷って
いるかのように立っていた。
15 そこでわたしは手招きをして、わたしのところに
来て、ほかのどんな実よりも好ましいその実を食べ
るように、大声で言った。
16 そこで彼らは、わたしのところにやって来て、そ
の実を食べた。
17 さて、わたしは、レーマンとレムエルもここに来
て、その実を食べてほしいと思った。それで、二人
の姿が見えはしないかと、川の源の方へ目をやった。
18 そして二人が見えたが、二人はわたしのところ
に来てその実を食べようとはしなかった。
19 それから、一本の鉄の棒が見えた。それは川の岸
に沿ってずっと延び、わたしの立っているそばの木
の所まで達していた。
20 また一本の細くて狭い道も見えた。その道はこの
鉄の棒に沿い、わたしの立っているそばの木の所ま
で来ていた。その道はまた、流れの源のそばを通り、
まるで一つの世界かと思われるような、大きく広々
とした野原に通じていた。
21 わたしは群れ集まる無数の人々を見たが、その中
の多くは、わたしの立っているそばの木の所に通じ
る道にたどり着こうとして、押し進んでいた。
22 そして、その人たちは進んで来ると、木に通じて
いる道を歩き始めた。
23 そこで、暗黒の霧が起こった。まことに、非常に
深い暗黒の霧であったため、道を歩き始めていた

11 ② 1ニフ11・8
12 ① GS「喜び」
② アル36・24
③ 1ニフ15・36
13 ① 1ニフ12・16—18、15・26—29
18 ① 2ニフ5・20—25
19 ① 詩篇2・9、黙示12・5、JS黙示19・15、1ニフ8・30、11・25、15・23—24
20 ① マタ7・14、2ニフ31・17—20
② マタ13・38
21 ① GS「道」
23 ① 1ニフ12・17、15・24

人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。

24 そして、わたしはまた、押し進んで来るほかの人々を見たが、この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実[1]を食べた。

25 そして彼らは、木の実を取って食べると、恥じるかのように辺りを見回した。[1]

26 それでわたしも辺りを見回すと、水の流れている川の向こう側に、一つの大きく広々とした[1]建物が見えた。それは地上に高くそびえ、ちょうど空中にあるかのように立っていた。

27 その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは、非常に華やかであった。そして彼らは、その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、[1]あざけり笑っている様子であった。

28 それでその木の所までやって来た人々は、その実を[1]味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に[3]踏み込んで姿が見えなくなってしまった。

29 ところで、わたしニーファイは、父の言葉をすべて[1]述べることはしない。

30 しかし、手短に記すと、見よ、父は、このほかに大勢の人が押し進んで来るのを見た。この人々は進んで来て、[1]鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた。

31 父はまた、ほかに[1]大勢の人が、大きく広々とした建物の方へ道を探りながら進んでいるのを見た。

32 そしてまた、多くの人が、[1]流れの深みにおぼれて死に、また多くの人が、見知らぬ道に迷って父の視界から消えてしまった。

33 「あの奇妙な建物の中に入った人々の数は非常に多かった。彼らはその建物に入ると、わたしやほかにその実を食べていた人々を指さして[1]あざけり笑った。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。」

34 これらはわたしの父の言葉である。「それは、これらの人々を気に留めた者は皆、道を外れてしまったからである。」

---

24 ①1ニフ 8・10—12
25 ①ロマ 1・16、2テモ 1・8、アル 46・21、モル 8・38
26 ①1ニフ 11・35—36、12・18
27 ①GS「高慢」
28 ①2ペテ 2・19—22　②マコ 4・14—20、8・38、ルカ 8・11—15、ヨハ 12・42—43　③GS「背教」、背信」
29 ①1ニフ 1・1、16—17
30 ①1ニフ 15・23—24
31 ①マタ 7・13
32 ①1ニフ 15・26—29
33 ①GS「迫害」
34 ①出エ 23・2

35 そして父は、「[1]レーマンとレムエルはその実を食べなかった」と言った。

36 さて、父の見た夢、すなわち示現についての話は多かった。父はこれらについてすべて語り終えてから、わたしたちに向かい、その示現の中で見たことのためにレーマンとレムエルのことを非常に心配していると言った。まことに、父は二人が主の前から捨てられはしないか心配であると言った。

37 また父は、優しい[1]親の情を込めて、父の言葉に聞き従うように、そうすれば恐らく主は憐れみを示し、追い出すようなことはなさらないだろうと彼らに勧めた。このように、父は彼らに説き聞かせたのである。

38 父はこの二人に説き聞かせ、また多くの事柄を預言した後、主の命令を守るように告げて、彼らに語るのをやめた。

第9章

ニーファイ、二組の記録を作る。どちらもニーファイの版と呼ばれる。大きい方の版には世俗の歴史が載っており、小さい方の版には、おもに神聖な事柄が採り上げられている。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 これらのことはすべて、父が[1]レムエルの谷で天幕を張って住んでいたときに見聞きし、話してくれたことである。父はまた、この版に書き記せないもっと多くのことも見聞きし、話してくれた。

2 ところで、この版について前に述べたように、これはわたしの民の歴史を残らず述べる版では決してない。わたしの民について残らず述べる[1]版には、ニーファイという名を付けておいた。したがって、それはわたしの名にちなんでニーファイの版と呼ぶが、この版もまたニーファイの版と呼ぶ。

3 にもかかわらず、わたしは、民に対する[1]務めについての話を刻むという特別な[2]目的のためにこの版を造るように、主から命令を受けた。

4 ほかの版には、もろもろの王の統治と、わたしの民の戦争や争いに関する話を刻むことになっている。したがって、この版はおおよそが民に対する務めについてであり、[1]ほかの版はおおよそがもろもろの王の統治と、わたしの民の戦争や争いについての

35 ① 1ニフ8・17—18、2ニフ5・19—24
37 ① GS「親」「家族」
第9章
1 ① 1ニフ2・4—6、8、14—15、16・6
2 ① 1ニフ19・2、4、ヤコ3・13—14、モ言1・2—11、教義10・38—40、GS「版」
3 ① 1ニフ6・3
4 ① ② 教義3・19、ヤコ1・2—4、モ言1・10

ものである。

5さて、主はある賢明な目的[1)]のために、わたしにこの版を造るように命じられたが、その目的はわたしには分からない。

6しかし、主は初めからすべてのことを御存じ[1)]である。したがって、人の子らの中で御自身のすべての業を成就するために、ある方法を備えておられる。それは見よ、主は御自分のすべての言葉を成就する一切の権威[2)]を持っておられるからである。まことにそのとおりである。アーメン。

第10章

リーハイ、ユダヤ人がバビロニア人に捕らえられて連れ去られることを預言する。そして、ユダヤ人の中に救い主であり贖い主であるメシヤが来られることを告げる。また、神の小羊にバプテスマを施す人が現れることも告げる。リーハイ、メシヤの死と復活について告げる。また、イスラエルの散乱と集合をオリーブの木にたとえる。ニーファイ、神の御子と聖霊の賜物と義が求められることとを述べる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1ところでわたしニーファイは、わたしが行ってきたことと、わたしの統治と民に対するわたしの務めについての話をこの版に続ける。[1)]さて、わたしの話を続けるには、父と兄たちのことをある程度述べる必要がある。

2さて見よ、父は[1)]夢の話を語り聞かせ、レーマンとレムエルに力の限り励むように勧めてから、ユダヤ人について二人に話して聞かせた。

3ユダヤ人は滅び、まことにあの大きな[1)]都のエルサレムも滅んで、そこに住む多くの者が[2)]バビロンへ囚われの身となって[3)]連れ去られる。しかし、主がふさわしいと思われる時機になると、これらの人々はまた[1)]帰って来る。すなわち、囚われの身から連れ戻される。そして、囚われの身から連れ戻されてから、彼らは再び受け継ぎの地を所有する。

4そして、まことに父がエルサレムを去ってから六百年後に、[1)]主なる神はユダヤ人の中に一人の[2)]預言者すなわち[3)]メシヤ、言い換えれば、世の救い主を立てられる。

5父はまた預言者たちのことについても話して、非常に多くの預言者がこれらのこと、すなわち父が話

5① 1ニフ19・3、モ言1・7、アル37・2、12、14
6① 2ニフ9・20、教義38・2、モセ1・6、35、GS「全知」
② マタ28・18

第10章
1① 1ニフ9・1—5、19・1—6、ヤコ1・1—4
2① 1ニフ8章
3① エス2・6、2ニフ6・8、ヒラ8・20—21
② エゼ24・2、1ニフ1・13、オム1・15
③ 2ニフ25・10、GS「年表—紀元前587」
④ エレ29・10、2ニフ6・8—9
4① 1ニフ19・8、2ニフ25・19、3ニフ1・1
② 1ニフ22・20—21
③ GS「メシヤ」

したこのメシヤ、つまり世の贖い主について証[1)あかし]していることも語った。

6 また、すべての人類は、迷い堕落[1)だらく]した状態にあり、この贖い主に頼らなければいつまでも同じ状態にあることを述べた。

7 また父は、主の道を備えるためにメシヤに先立って来る一人の預言者[1)よげんしゃ]についても語った。

8 まことにその預言者は、荒れ野に出て行って叫ぶであろう。「[1)]主の道を備え、その道筋をまっすぐにせよ。あなたがたの知らない方があなたがたの中に立っておられるからである。その方はわたしよりも力のある方で、わたしはその方の履物のひもを解く値打ちもない。」父はこのことについて多くの話をした。

9 そして、父が言うには、この預言者はヨルダンのかなたベテアバラで[1)]バプテスマを施す。またバプテスマは水で施し、まことにメシヤに水でバプテスマを施す。

10 そして彼は、メシヤに水でバプテスマを施してから、世の罪を取り除く[1)]神の小羊にバプテスマを施したことを認め、その証をする。

11 さて、父はこれらの言葉を語ってから、ユダヤ人の間に宣べ伝えられる福音について、またユダヤ人が[1)]不信仰に陥ることについて兄たちに語った。ユダヤ人は降臨されるメシヤを殺すが、メシヤは殺された後に死者の中からよみがえり、聖霊によって異邦人に御自身を現される。

12 まことに父は、異邦人とイスラエルの家について多くの話をし、イスラエルの家は、枝が折られて地の全面に[1)]散らされる、一本のオリーブの木にたとえられると語った。

13 したがって父が言うには、地の全面に散るという主の言葉が成就するために、わたしたちは一つとなって[1)]約束の地へ導かれる必要がある。

14 そして、イスラエルの家は散らされてから、再び集められる。要するに、異邦人が完全な福音を受け入れてから、オリーブの木の自然の枝、すなわちイスラエルの家の残りの者たちは接ぎ木される。すなわち、彼らの主であり贖い主であるまことのメシヤを知るようになる。

15 父はこのような言葉で兄たちに預言し、語り、また、もっと多くの事柄についても預言し、語った。

---

5 ①ヤコ7:11、モサ13:33、ヒラ8:19−24、3ニフ20:23−24
6 ①GS「堕落（アダムとエバの）」
7 ①1ニフ11:27、2ニフ31:4
8 ①イザ40:3、マタ3:1−3
9 ①GS「ヨハネ（バプテスマの）」
10 ①GS「神の小羊」
11 ①モル5:14
12 ①ヤコ4:14−18
②GS「イエス・キリスト」「十字架の刑」
③GS「復活」
④GS「聖霊」
⑤1ニフ22:3−8、GS「イスラエル−イスラエルの散乱」
13 ①②創世49:22−26、1ニフ15:12、2ニフ3:4−5、ヤコ5章、6:1−7、GS「オリーブの木」「ぶどう園（果樹園）（主の）」
14 ①1ニフ2:20、GS「約束の地」
②GS「イスラエル−イスラエルの集合」
③1ニフ13:42、教義14:10、ヤコ5:8、52、54、60、68

しかし、それはこの書には書き記さない。わたしのほかの書[1)]に、わたしにとって益になることをたくさん書き記しておいたからである。

16 今までに語ったことはすべて、父がレムエルの谷に天幕を張って住んでいたときに起こったことである。

17 さて、わたしニーファイは、父が[1)]示現の中で見たこと、また父が来るべきメシヤ[2)]である神の御子を信じる信仰により授かった聖霊の力によって語ったことについて、父の[3)]言葉をすべて聞いた後、わたしニーファイもまた、聖霊の力によってこのようなことを見聞きし、また知りたいと思った。聖霊とは、[4)]昔の時代でも、またメシヤが人の子らに御自身を現される時でも、およそ神を[5)]熱心に求めるすべての人に神が与えられる[6)]賜物である。

18 神は、昨日も、今日も、またとこしえに[1)]変わることのない御方だからである。人々が悔い改めて神のもとに来るならば、世の初めから、すべての人にその道が備えられている。

19 熱心に求める人は見いだすであろう。神の[1)]奥義は[2)]聖霊の力によって、昔の時代のみならず今の時代にも、またこれから先の時代のみならず昔の時代にも、同じようにその人々に明らかにされる。したがって、[3)]主の道は一つの永遠の環である。

20 だから、人々よ、あなたがたは、自分のすべての行いについて[1)]裁きを受けるということを覚えておきなさい。

21 それで、自分たちの[1)]試しの生涯に悪いことをしようとしたならば、あなたがたは神の裁きの座の前で[2)]清くない者とされるであろう。清くない者は神とともに住むことができないので、あなたがたはとこしえに捨てられるに違いない。

22 聖霊はわたしに、これらのことを語る権能を授けてくださっているので、わたしは黙することをしない。

第 11 章

ニーファイ、主の御霊を目にし、示現の中で命の木を見せられる。彼は神の御子の母を目にし、神が御自身を低くされることを知る。また神の小羊のバプテスマと務め、十字架の刑を見る。彼はまた、小羊の十二使徒の召しと務めを見る。紀元前約六百年から五百九

15 ① 1ニフ1・16—17
17 ① 1ニフ8・2
② GS「メシヤ」
③ エノ1・3、アル36・教義20・26
④ モロ10・4—5、7、
19 ⑤ GS「聖霊」
⑥ ヘブ13・8、モル9・9、教義20・12、GS「神・神会」
18 ① 9、
19 ① GS「神の奥義」
② GS「聖霊」
② アル7・20、教義3・2、35・1
③ 伝道12・14、2ニフ9・46、GS「最後の裁き」
20 ① アル34・32—35
21 ① 1コリ6・9—10、3ニフ27・19、教義76・50—62、モセ6・57

十二年に至る。

1 さて、わたしは、父の見たことを知りたいと思い、また主がそれを明らかにしてくださると信じて、[1]思いにふけりながら腰を下ろしていたとき、主の御霊に捕らえられて、まことに、非常に高い[2]山へ[3]連れて行かれた。それは、まだ一度も見たことがなく、一度も足を踏み入れたことのない山であった。

2 そして御霊がわたしに、「見よ、あなたは何を望んでいるのか」と言われた。

3 それでわたしは、「父の[1]見たことをわたしも見たいと望んでいます」と言った。

4 すると御霊はわたしに、「あなたは、父の語った[1]木を父が実際に見たと信じるか」と言われた。

5 それでわたしは、「はい、わたしが父の言葉をすべて[1]信じていることは、あなたも御存じです」と答えた。

6 わたしがこれらの言葉を語ると、御霊は声高らかに叫んで言われた。「いと高き神にまします主に、ホサナ。主は[1]全地を支配される神、まことにすべてのものの上にまします神であられる。ニーファイよ、あなたはいと高き神の御子を[2]信じているので幸いである。それゆえ、あなたは望んでいたものを見るであろう。

7 そして見よ、このことが一つの[1]しるしとしてあなたに授けられる。すなわち、あなたは父が味わった実を結ぶ木を見てから、一人の男の人が天から降って来るのを見る。その人をあなたは見る。そしてその人を見た後、あなたはその人が神の御子であることを[2]証する。」

8 そして、御霊はわたしに「見なさい」と言われた。そこでわたしが見ると、一本の木が見えた。その木はちょうど父が見た[1]木のようであって、その木の美しさはほかに比べようがなく、まことにあらゆる美しいものをしのいでいた。またその[2]白さは、風に舞う雪の白さにも勝っていた。

9 そこでわたしは、その木を見てから御霊に言った。「わたしは、あなたがあらゆるものに勝って[1]貴い木を見せてくださったことが分かります。」

10 すると御霊はわたしに、「何を望むか」と言われた。

11 それでわたしは御霊に、「その木の[1]解き明かしを

第11章

1 ①教義76・19、GS「深く考える」 ②申命10・1、エテ3・2 ③2コリ12・1−4、黙示21・10、2ニフ4・25、モセ1・1

3 ①1ニフ8・2−34

4 ①1ニフ8・10−12、15・21−22

5 ①1ニフ2・16

6 ①出エ9・29、2ニフ29・7、3ニフ11・14、モセ6・44

7 ①②GS「信じる」 ②GS「しるし」

8 ①②GS「証」 1ニフ8・10

9 ①②1ニフ8・11

11 ①1ニフ11・22−25、創世40・8

知ることです」と言った。わたしは人が人に語るように御霊に語った。御霊が[2]人の形をしておられるのを見たからである。にもかかわらず、わたしはその御方が主の御霊であられることを知っていた。そして御霊もわたしに、人が人に語るように語られた。

12 さて、御霊がわたしに「見なさい」と言われた。それで御霊を仰ぎ見るように眺めると、その御姿は見えなかった。すでにわたしの前を去っておられたからである。

13 そこでわたしが眺めると、大きな都のエルサレムをはじめ、そのほかのもろもろの町が見えた。またナザレの町も見えた。そしてわたしは[1]ナザレの町に一人の[2]おとめを見たが、それはまことに色が白く美しいおとめであった。

14 そしてわたしは、[1]天が開くのを見た。そして、一人の天使が降って来てわたしの前に立ち、「ニーファイよ、何が見えるか」と言った。

15 それでわたしは言った。「ほかのどんなおとめにも勝って美しく、また麗しいおとめが見えます。」

16 すると天使はわたしに、「神が御自身を低くされることがあなたに分かるか」と言った。

17 それでわたしは、「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません」と言った。

18 すると天使は言った。「見よ、あなたが見ている[1]おとめは、肉に関して神の御子の[2]母である。」

19 そしてわたしは、そのおとめが御霊に連れて行かれるのを見た。そのおとめが[1]御霊に連れて行かれてからしばらくして、天使がわたしに「見なさい」と言った。

20 それで眺めると、腕に幼子を抱いたおとめが見えた。

21 すると天使がわたしに言った。「[1]神の小羊、まことに永遠の[2]父なる神の御子を見なさい。あなたは父が見た[3]木の意味を知っているか。」

22 それでわたしは答えて言った。「はい、その木は人の子らの心にあまねく注がれる神の[1]愛です。だから、どんなものよりも好ましいものです。」

23 すると天使はわたしに、「そのとおり。それは人にとって最も喜ばしいものである」と言った。

24 天使はこれらのことを言ってから、またわたしに

---

11 ②エテ3・15—16
13 ①マタ2・23　②ルカ1・26—27、アル7・10、GS「マリヤ（イエスの母）」
14 ①エゼ1・1、1ニフ1・8
18 ①イザ7・14、ルカ1・34—35　②モサ3・8
19 ①マタ1・20　②ルカ2・16
20 ①GS「神の小羊」
21 ①GS「神・神会—父なる神」　②GS「イエス・キリスト」　③GS「イエス・キリスト」　④1ニフ8・10、アル5・62、GS「命の木」
22 ①GS「愛」
23 ①GS「喜び」

「見なさい」と言った。眺めると、神の御子が人の子らの中に進んで行かれるのが見えた。また多くの人がその足もとに伏して、御子を拝むのが見えた。

25 そしてわたしは、父の見た鉄の棒が生ける水の源、すなわち、命の木に導く神の言葉であること、またその水が神の愛の表れであり、命の木もまた神の愛の表れであることを知った。

26 そして、天使がまたわたしに、「神が御自身を低くされる様子を眺めてみなさい」と言った。

27 それで眺めると、父の語った世の贖い主が見え、また贖い主の前に道を備える預言者も見えた。また神の小羊が進み出て、その預言者からバプテスマを受けられた。バプテスマを受けられると、天が開いて聖霊が鳩の形を取って降って来て、神の小羊のうえにとどまられるのが見えた。

28 またわたしには、小羊が出て行き、力と大いなる栄光をもって人々を教え導かれるのが見えた。また、幾つもの大勢の人々の群れが、その小羊の言葉を聞くために集まるのが見えた。そして、彼らが自分たちの中から小羊を追い出すのが見えた。

29 そして、ほかに十二人の人が小羊に従うのも見えた。すると、この十二人の人は、わたしの前から御霊によって連れ去られ、姿が見えなくなった。

30 そこで、天使がまた「見なさい」と言うので眺めると、天がまた開いて、天使たちが人の子らのもとに降って来て、彼らを教え導くのが見えた。

31 天使がまたわたしに、「見なさい」と言うので眺めると、神の小羊が人の子らの中に出て行かれるのが見えた。また病気の人々や、様々な患いに苦しんでいる人々、悪霊や汚れた霊につかれて苦しんでいる人々の群れが見えた。天使はこれらのことをすべてわたしに語り、また見せてくれたが、これらの人々は神の小羊の力によって癒され、また悪霊や汚れた霊は追い出された。

32 さて、天使がもう一度「見なさい」と言うので眺めると、神の小羊が人々に捕らえられるのが見えた。まことに、永遠の神の御子は世に裁かれた。わたしはこれを見たので、その証をする。

33 わたしニーファイは、神の小羊が世の罪のために十字架につけられて殺されたのを見た。

34 また神の小羊が殺されてから、世の幾つもの大勢の人々の群れが集まって、主の天使が小羊の使徒と

---

25 ①1ニフ8・19 ②③GS「生ける水」
26 ①創世2・9、アル32・40−41、モセ4・28、31
27 ①1ニフ11・16−33 ②2ニフ25・13 ③マタ11・10、1ニフ10・7−10、2ニフ31・4
28 ①GS「バプテスマ」 ②GS「鳩のしるし」 ③教義138・25−26
29 ①GS「使徒」 ②GS「天使」
30 ①マコ5・15−20、モサ3・5−7、GS「悪魔」
31 ①②GS「霊−悪霊」 ③GS「癒し」
32 ①マコ15・17−20、ヨハ19・16−19、モサ3・9−10、3ニフ27・14、GS「十字架」
33 ①GS「贖罪」

呼ぶあの十二人の人々と戦いをしようとするのが見
えた。
35 このように、世の大勢の人々が集まっていたが、
彼らが、父の見た建物のような大きく広々とした[1]建
物の中にいるのが見えた。このとき、主の天使がま
たわたしに言った。「世の人々と彼らの知恵を見な
さい。まことに、イスラエルの家が小羊の十二使徒
と戦うために集まっているのを見なさい。」
36 そこでわたしは、あの大きく広々とした建物が世
の人々の[1]高慢であることを見て、その証をする。そ
の建物は崩れて、その崩れ方は非常に甚だしかっ
た。主の天使が再び、わたしに向かって言った。「小
羊の十二使徒と戦うすべての国民、部族、国語の民、
民族の滅亡は、まさにこのようになるであろう。」

第12章

ニーファイ、示現の中で約束の地を見る。その地に
住む者の義と罪悪と没落。神の小羊が約束の地に住む
者を訪れられる様子。十二弟子と十二使徒がイスラエ
ルを裁く様子。不信仰に陥る人々の不快で汚らわしい
状態。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、天使がわたしに、「あなたの子孫と兄たちの
子孫を眺めてみなさい」と言った。それで眺める
と、[1]約束の地が見え、また大勢の人々の群れが見え
たが、まことにその人々の数は海の砂のように多か
った。
2 そして、大勢の人々の群れが、互いに戦うために
集まっているのが見えた。また[1]戦争が見え、戦争の
うわさがあり、わたしの民の中で剣によって大虐
殺が行われるのも見えた。
3 そしてその地で、戦争や争いの有様で多くの世代
が過ぎていくのが見えた。また多くの町が見えた
が、それはまことに数え切れないほどであった。
4 そしてわたしは、約束の地の面に[1]暗黒の[2]霧を見た。
また稲妻が見え、雷や地震、そのほかあらゆる騒が
しい物音を聞いた。大地や岩が裂け、山が崩れ、平
地が砕け、多くの町が[3]沈み、多くの町が焼け、また
多くの町が地震で地に崩れ落ちるのを見た。
5 さて、これらのことを見た後、[1]暗黒の霧が地の面
から消え去るのが見えた。そして見よ、わたしは、
主のこの大変な恐ろしい裁きによっても倒れなかっ
た、大勢の人々の群れを見た。

35 ① 1ニフ8・26、12・18
36 ① GS「高慢」
第12章
1 ① GS「約束の地」
2 ① エノ1・24、モル8・7−8、GS「戦争」
4 ① 1ニフ19・10
② ヒラ14・20−28
③ 3ニフ8・14
5 ① 3ニフ8・20、10・9

6 そしてわたしは、天が開いて神の小羊[1]が天から降って来られるのを見た。神の小羊は降って来て、彼らに御姿を現された。

7 わたしはまた、聖霊がほかの十二人[1]に降って来られるのを見たので、それを証する。この十二人は神によって聖任され、選ばれた人々である。

8 天使はわたしに、「小羊の十二弟子を見なさい。この人たちはあなたの子孫を教え導くために選ばれる」と言った。

9 また天使はわたしに言った。「あなたは小羊の十二使徒[1]を覚えているか。見よ、彼らはイスラエルの十二部族[2]を裁く人々である。したがって、あなたの子孫から出る十二人の教え導く者は、この十二使徒によって裁かれる。あなたがたはイスラエルの家に属するからである。

10 あなたが見ているこの十二人[1]の教え導く者は、あなたの子孫を裁く。見よ、この十二人は、神の小羊を信じる信仰のために小羊の血によって衣を白くされている[2]ので、とこしえに義人である。」

11 さて、天使がわたしに、「見なさい」と言うので眺めると、三世代[1]が義のうちに世を去り、その間の人の衣はまことに神の小羊のように白かった。天使がわたしに言った。「この人々の衣は、小羊を信じる信仰のために小羊の血によって白くされたのである。」

12 さて、わたしニーファイは、四代目[1]の人々の中にも義のうちに世を去った人々が多くいるのを見た。

13 さて、わたしは、世の大勢の人々が群れ集まるのを見た。

14 天使がわたしに、「あなたの子孫と兄たちの子孫を見なさい」と言った。

15 そこで眺めると、わたしの子孫の民が兄たちの子孫に向[1]かい、大勢の人々の群れとなって集まるのが見えた。彼らは戦うために集められたのである。

16 また天使が言った。「あなたの父が見た汚[1]れた水の流れ、すなわちあなたの父が語った川[2]を見なさい。その深みは地獄[3]の深みである。

17 また、あの暗黒[1]の霧は悪魔の誘惑である。それは人の子らの目[2]をくらまし、心をかたくなにし、広い[3]道に踏み込ませて、彼らが滅び失われるように仕向ける。

18 また、あなたの父が見たあの大きく広々とした建[1]物は、人の子らのうぬぼれた空想[2]と高慢[3]である。ま

---

6 ① 2ニフ26・1、9、3ニフ11・3—17
7 ① 3ニフ12・1、19、12—13
9 ① ルカ6・13
9 ② マタ19・28、教義29・GS「最後の裁き」
10 ① 3ニフ27・27、モル3・18—19
10 ② 黙示7・14、アル5・21—27、13・11—13、3ニフ27・19—20
11 ① 2ニフ26・9—10、3ニフ27・30—32
12 ① アル45・10—12、ヒラ13・5、9—10、3ニフ27・32、4ニフ1・14—27
15 ① モル6章
16 ① GS「汚れ」
16 ② 1ニフ8・13、15、26—29
16 ③ GS「地獄」
17 ① 1ニフ8・23、15、24、教義10・20—32
17 ② GS「背教、背信」
18 ① マタ7・13—14、1ニフ8・26、11、35—36
18 ② エレ7・24
18 ③ GS「高慢」

た、一つの大きな恐ろしい淵があって、彼らを隔てている。まことに、それは、永遠の神と神の小羊であるメシヤの正義の御言葉であって、このメシヤについては、世の初めから今に至るまで、また今から後とこしえに、聖霊がその証をされる。」

19 そして、天使がこれらの言葉を語っていた間、わたしが眺めると、天使の言葉のとおりに、兄たちの子孫がわたしの子孫と戦うのが見えた。そして、わたしの子孫の高慢と悪魔の誘惑のために、兄たちの子孫がわたしの子孫の民を打ち負かすのが見えた。

20 そしてわたしが眺めると、兄たちの子孫の民はわたしの子孫を打ち負かしてから、幾つもの大勢の人々の群れとなって、地の面に出て行くのが見えた。

21 そしてわたしは、彼らが幾つもの大勢の人々の群れとなって集まるのを見た。そして、彼らの中に戦争と戦争のうわさがあるのを見た。そして、戦争と戦争のうわさの中で、多くの世代が過ぎ去るのを見た。

22 すると天使がわたしに、「見よ、これらの人々は不信仰に陥る」と言った。

23 そこでわたしが見ると、これらの人々は不信仰に陥ってから、肌の黒ずんだ不快な汚らわしい民、まったくの怠け者であらゆる忌まわしい行いをする民になった。

第13章

ニーファイ、示現の中で異邦人の中に設けられる悪魔の教会を見る。またアメリカ大陸の発見と入植、聖書の分かりやすくて貴い多くの部分が失われること、異邦人の背教がもたらす有様についても見る。さらに福音の回復と末日の聖典の出現、シオンの建設について見る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、天使がわたしに、「見なさい」と言った。それでわたしは眺めると、多くの国民と王国が見えた。

2 天使がわたしに、「何が見えるか」と言ったので、わたしは、「多くの国民と王国が見えます」と答えた。

3 天使はわたしに、「これらは異邦人の国民とその王国である」と言った。

4 そしてわたしは、異邦人の国民の中に一つの大き

---

18 ④ ルカ16・26、1ニフ15・28—30
19 ①⑤ GS「正義」
② GS「誘惑」ジェロ1・10、モ言1・1—2
21 ① モル8・8、モロ1・2、GS「戦争」
22 ① 1ニフ15・13、2ニフ26・15
23 ① 2ニフ26・33
② 2ニフ5・20—25
③ GS「怠惰」

第13章
4 ① GS「異邦人」
② 1ニフ13・26、34、14・3、9—17

な教会が設立されるのを見た。

5 天使はわたしに言った。「ほかのあらゆる教会にも増して忌まわしい教会が設立されるのを見なさい。この教会は神の聖徒たちを殺し、苦しめ、縛り上げ、[2]鉄のくびきを負わせて、囚われの身に陥れるものである。」

6 そしてわたしは、この[1]大きな忌まわしい教会を見て、[2]悪魔がその創設者であるのを知った。

7 わたしはまた[1]金と銀と絹と緋の衣とこまやかに織った亜麻布、それにいろいろな種類の高価な衣類を見た。また、多くの娼婦を見た。

8 天使がわたしに言った。「見よ、金と銀と絹と緋の衣とこまやかに織った亜麻布、それに高価な衣類、また娼婦などは、この大きな忌まわしい教会が好むものである。

9 また彼らは、世の誉れを得るために神の[1]聖徒たちを殺し、彼らを囚われの身に陥れる。」

10 さて、わたしが眺めると、大海があって、それが異邦人と兄たちの子孫とを隔てているのが見えた。

11 そして天使がわたしに、「見なさい。神の怒りがあなたの兄たちの子孫のうえにある」と言った。

12 それで眺めると、異邦人の中に一人の男が見え、その男は大海によってわたしの兄たちの子孫から隔てられていた。すると[1]神の御霊が降ってこの男に働きかけ、この男が大海を渡って、約束の地にいるわたしの兄たちの子孫のところへ行くのが見えた。

13 そして、神の御霊がほかの異邦人にも働きかけ、彼らが囚われの身の上から逃れて大海を渡って行くのが見えた。

14 そして、[1]約束の地に大勢の異邦人の群れがいるのが見え、神の激しい怒りが兄たちの子孫に下り、彼らが異邦人の前から[3]散らされ、打ち負かされるのが見えた。

15 またわたしは、主の御霊が異邦人のうえにあって、彼らがまことに栄えてその地を[1]受け継ぎとして得るのを見た。また彼らが、[2]殺される前のわたしの民のように肌の色が白く、非常に麗しく美しいのが見えた。

16 そして、わたしニーファイは、囚われの身から逃れて来た異邦人が主の前にへりくだり、主の力が彼らとともにあるのを見た。

17 わたしはまた、彼らの母国の異邦人が、彼らと戦

---

5 ①黙示17・3—6、1ニフ14・13
6 ①②エレ28・10—14 教義88・94、GS「悪魔—悪魔の教会」 ②1ニフ22・22—23
7 ①モル8・36—38
8 ①黙示18・10—24、モル8・35—38
9 ①黙示13・4—7
12 ①GS「霊感」
14 ①②2ニフ1・11、モル5・19—20
15 ①③1ニフ22・7—8、GS「イスラエル—イスラエルの散乱」 ②2ニフ10・19
16 ①②モル6・17—22 ③2ニフ5・21 教義10!80

うために海にも陸にも集まるのを見た。
18 そしてわたしは、神の力が彼らとともにあり、また神の激しい怒りが、彼らと戦うために集まったすべての人に下るのを見た。
19 そしてわたしニーファイは、囚われの身から逃れて来た異邦人が、神の力によって、ほかのすべての国民の手から[1]救い出されるのを見た。
20 そしてわたしは、彼らがその地で栄えるのを見た。また、一冊の書物が見え、それが彼らの中で広まるのが見えた。
21 すると天使が、「この書物の意味が分かるか」と言った。
22 わたしは天使に、「分かりません」と答えた。
23 すると天使は、「見なさい。この書物はユダヤ人の口から出ている」と言った。わたしニーファイがそれを見ると、天使はわたしに言った。「あなたが見ている[1]書物は[2]ユダヤ人の[3]記録であって、主がイスラエルの家に立てられた聖約が載っており、それにはまた、聖なる預言者たちの語った多くの預言も載っている。それは[1]真鍮の版に刻まれている記録に似たものであって、ただその量が少ないだけである。それでもその中には、主がイスラエルの家に立てられた聖約が載せてあるので、異邦人にとって大いに価値のあるものである。」
24 また、主の天使はわたしに言った。「あなたはその書物がユダヤ人の口から出て来たのを見たが、それがユダヤ人の口から出て来たときには、主の完全な福音が載っていた。この主については、十二使徒が証をしており、彼らは神の小羊にある真理によって証をしている。
25 したがって、これらのことは神の内にある真理によって[1]ユダヤ人から[2]異邦人に純粋なまま伝わる。
26 そして、これらが小羊の十二使徒の手によってユダヤ人から異邦人に伝わってから、あなたには、ほかのあらゆる教会にも増して大きな忌まわしい[3]教会が設立されるのが見える。見よ、その教会の者たちは、[4]分かりやすくて大変貴い多くの部分を小羊の福音から[5]取り去り、また主の多くの聖約も取り去ってしまったからである。
27 彼らがこれをしたのは、主の正しい道を曲げて人の子らの目をくらまし、その心をかたくなにするためである。

---

19 ① 2ニフ10・10−14、3ニフ21・4、エテ2・12
20 ① 1ニフ14・23
23 ① 1ニフ13・38、2ニフ29・4−12
② 2ニフ3・12
③ GS「聖文」
25 ① 1ニフ5・10−13
② 2ニフ29・4−6、教義3・16、GS「ユダヤ人」
26 ① GS「異邦人」
② マタ21・43
③ 1ニフ13・4−6、14・3、9−17
GS「背教」、背信—過去のキリスト教会における背教」
④ 1ニフ14・20−26、箇条1・8
⑤ モル8・33、モセ1・41

28 したがってあなたには、あの書物があの大きな忌まわしい教会の手を経て出て来てからは、神の小羊の書物から分かりやすくて貴い多くの部分が取り去られていることが分かる。

29 そして、これらの分かりやすくて貴い部分が取り去られてから、この書物は異邦人であるすべての国民に伝わる。まことに、それが囚われの身から逃れた異邦人とともに、あなたの見た大海を渡って、異邦人であるすべての国民に伝わった後、非常に多くの人がつまずき、まことにサタンがその人々を大いに支配する力を持つほどになるのが見える。それは、神の小羊にある明瞭さによって人の子らに理解しやすかった、分かりやすくて貴い多くの部分が、その書物から取り去られてしまったため、すなわち小羊の福音からこれらのことが取り去られてしまったためである。

30 しかしながら、あなたは見る。囚われの身を逃れる異邦人、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地、すなわち、あなたの子孫が受け継ぎの地として所有すると、主なる神があなたの父に聖約された地の面において、神の力によってすべてのほかの国民より高められる異邦人を。それゆえ、あなたの兄たちの中に生きている、あなたの子孫で血が混じった者たちが、この異邦人によってことごとく滅ぼされてしまうのを、主なる神は許されない。このことをあなたは見る。

31 また主なる神は、この異邦人があなたの兄たちの子孫を滅ぼすのも許されない。

32 また主なる神は、異邦人が恐ろしい盲目の状態にとどしえにとどまることも許されない。あなたが見る彼らのその状態は、小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分があの忌まわしい教会によって差し止められたためである。そして、あなたはその教会が設立されるのを見たのである。

33 したがって、神の小羊は言われる。『わたしは異邦人を憐れみ、イスラエルの家の残りの者に大いなる裁きをもって報いを加える』と。」

34 そして、主の天使はわたしに言った。「神の小羊は次のように言われる。『見よ、わたしはイスラエルの家の残りの者、すなわちわたしが話しているこの残りの者とは、あなたの父の子孫であるが、彼らに裁きをもって報いを加え、異邦人の手によって彼らを

30 ① GS「約束の地」
② アル45・10−14
31 ① 2ニフ4・7、10・18−19、ヤコ3・5−9、ヒラ15・12、3ニフ16・8−9、モル5・20−21
32 ① GS「悪魔−悪魔の教会」
34 ① GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」

悩ました後、また娼婦の母であるあの忌まわしい教会が、小羊の福音の大変分かりやすくて貴い部分のため、すなわちその部分があの忌まわしい教会によって差し止められたために、異邦人が甚だしくつまずいた後、』小羊はこう言われ、さらに『その日わたしは異邦人を憐れみ、力をもって、わたしの福音の中の分かりやすくて貴い多くの部分を彼らに明らかにしよう』と小羊は言われる。

35 見よ、小羊は言われる。『わたしはあなたの子孫にわたし自身を現し、わたしが教える分かりやすくて貴い多くのことを記させる。そして、あなたの子孫が滅ぼされ、また不信仰に陥り、またあなたの兄たちの子孫もそうなった後、まさにこれらのことは隠されて、小羊の賜物と力によって異邦人にもたらされる。』

36 小羊は言われる。『その中には、わたしの福音とわたしの岩とわたしの救いが書き記される。

37 その日、わたしのシオンを起こそうと努める者は幸いである。彼らは聖霊の賜物と力を受けるであろう。また、彼らは最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に高く上げられて、小羊の永遠の王国に救われるであろう。また平和を告げて広め、まことに大いなる喜びのおとずれを告げる者は、山の上にあって何と麗しいことであろう。』」

38 さて、わたしは兄たちの子孫の残りの者を見、また神の小羊の書を見て、それがユダヤ人の口から出て来て、異邦人から兄たちの子孫の残りの者にもたらされるのを見た。

39 その書物が彼らに伝わってから、わたしはほかにも幾つかの書物を見た。それらは小羊の力によって異邦人から彼らに伝わったものであって、預言者たちと小羊の十二使徒の記録が真実であることを、異邦人と兄たちの子孫の残りの者と、地の面に散らされたユダヤ人に確信させるためのものである。

40 天使はわたしに言った。「あなたが異邦人の中で見たそれら後の方の記録は、小羊の十二使徒から出た初めの記録が真実であることを立証し、またその中から取り去られた分かりやすくて貴い部分を明らかにする。またそれらの記録は、神の小羊が永遠の御父の御子であって、世の救い主であられること、すべての人はこの救い主のみもとに来なければならず、そうしなければ救われないことを、すべての部

---

34 ② 1ニフ 14・1−3、2ニフ 26・20
35 ① 1−2、GS「モルモン書」 ② 2ニフ 27・6、29・3ニフ 27・13−21 ③ ④ 教義 10・62、GS「福音の回復」
36 ① 3ニフ 27・13−21 ② ヒラ 5・12、3ニフ 11・38−39、GS「岩」 ③ GS「ジオン」 ④ 教義 21・9
37 ① ② GS「聖霊の賜物」 ③ 3ニフ 27・16、GS「堪え忍ぶ」 ④ GS「日の栄え」 ⑤ イザ 52・7、モサ 15・14−18、3ニフ 20・40
38 ① 1ニフ 13・23、2ニフ 29・4−6 ② モル 5・15
39 ① GS「聖文−出現を預言された聖文」 ② 1ニフ 14・30、エゼ 37・15−20、2ニフ 3・11−12
40 ① 2ニフ 26・16−17、29・12、GS「モルモン書」 ② GS「聖書」 ③ ④ モル 7・8−9「モルモン書」のタイトルページを参照。モセ 1・6

族、国語の民、民族に知らせる。
41 またすべての人は、小羊の口によって立証される御言葉に従って、みもとに来なければならない。そして小羊の御言葉は、小羊の十二使徒の記録のみならず、あなたの子孫の記録の中でも明らかにされるであろう。したがって、これら二つの記録は一つに[1]合わせられる。全地を支配されるのは[2]唯一の神、唯一の[3]羊飼いだからである。
42 そしてこの御方が、すべての国民、すなわち[1]ユダヤ人にも異邦人にも御姿を現される時が来る。この御方はユダヤ人に、次に異邦人に御姿を現され、そして異邦人に、次にユダヤ人に御姿を現される。このように、[2]後の者は先になり、[3]先の者は後になる。」

第14章

天使、異邦人に及ぶ祝福とのろいについてニーファイに伝える。教会はただ二つ、神の小羊の教会と悪魔の教会があること。すべての国々にいる神の聖徒たち、大きな忌まわしい教会によって迫害される。使徒ヨハネが世の終わりについて書き記す。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 「さて、神の小羊が御言葉と力を[1]もって、確かに異邦人に[2]御姿を現し、[3]つまずきの石を取り除かれる日、もし異邦人が神の小羊の御言葉に聞き従い、
2 神の小羊に対して心をかたくなにしなければ、彼らは、あなたの父の子孫の中に数えられるようになる。まことに、彼らはイスラエルの家の中に[1]数えられ、約束の地でとこしえに[2]祝福された民となり、もう囚われの身となることはない。そして、イスラエルの家は再び乱されることがない。
3 神の小羊は言われる。『人の霊を地獄に誘い落とすために、悪魔が自分の子らとともに築いたあの大きな忌まわしい教会は、人々のために大きな穴を[1]掘ったが、まことに人々を滅ぼすために掘られたその大きな穴は、それを掘った者たちでいっぱいになり、彼らはことごとく滅びてしまう。しかし滅びるといっても、霊が滅びるのではなく、終わりのないあの地獄に投げ込まれることをいうのである。
4 見よ、これは悪魔の束縛と神の正義に従って人々に及ぶもので、神の御前に悪事と忌まわしい行いをするすべての人に及ぶのである。』」
5 そこで天使は、またわたしニーファイに言った。

---

41 ①エゼ37・17 ②申命6・4、ヨハ17・21−23 ③2ニフ31・21、GS「良い羊飼い」
42 ①33、112・4 ②ヤコ5・63 ③ルカ13・30、1ニフ15・13−20

第14章
1 ①1テサ1・5、1ニフ14・14、ヤコ6・2− 3 ②3ニフ16・6−13、GS「異邦人」 ③イザ57・14、1ニフ13・29、34、2ニフ26・20
2 ①ガラ3・7、29、2ニフ10・18−19、3ニフ16・13、21・6、22、アブ2・9−11 ②2ニフ6・12、10・8−14、3ニフ16・6−7、20・27 ③1ニフ22・14、教義3・109・25 ①GS「地獄」「罰の定め」

「あなたは、異邦人も悔い改めれば幸いであるのを見た。また、主がイスラエルの家と交わされた聖約についても知り、悔い改めない者はだれでも滅びなければならないことも聞いている。

6 したがって、異邦人は神の小羊に対して心をかたくなにするならば、災いである。

7 神の小羊は言われる。『わたしが大いなる驚くべき業を人の子らの中で行う時が来る。その業は、いずれにおいても永遠のものである。すなわち、彼らに確信を与えて平安と永遠の命を得させるか、それとも彼らが心をかたくなにし、思いをくらませるに任せて、彼らを束縛された状態に陥らせ、悪魔の束縛、これについては前に話したことがあるが、この束縛にあって、肉体的にも霊的にも滅びに至らせるか、そのいずれかである。』」

8 そこで天使は、これらの言葉を語ってからわたしに向かい、「御父がイスラエルの家と交わされた聖約を覚えているか」と言ったので、わたしは天使に、「はい」と答えた。

9 そこで天使はわたしに言った。「見なさい。忌まわしい行いの母であり、悪魔を創設者とする大きな忌まわしい教会を見なさい。」

10 天使はわたしに言った。「見よ、教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり、もう一つは悪魔の教会である。したがって、神の小羊の教会に属していない者はだれでも、忌まわしい行いの母であるあの大きな教会に属する者である。彼女は全地の淫婦である。」

11 そこでわたしがあの全地の淫婦を眺めてみると、彼女は多くの水の上に座を占め、すべての国民、部族、国語の民、民族の中にあって全地を支配していた。

12 そして、神の小羊の教会が見えたが、この教会に属している者の数は、多くの水の上に座を占めている、あの淫婦の悪事と忌まわしい行いのために少なかった。それでも、神の聖徒である小羊の教会の人々もまた、地の全面にいるのが見えた。しかし、地の面における彼らの占める場所は、わたしの見た大淫婦の悪事のために小さかった。

13 そして、あの忌まわしい行いの大いなる母が、神の小羊と戦うために、異邦人のすべての国民の中にあって、全地の面に大勢の人を寄せ集めるのが見え

---

5 ①GS「悔い改め」
6 ①2ニフ28・32
7 ①イザ29・14、1ニフ22・8、2ニフ27・26、29・1−2、教義4・1、GS「福音の回復」 ②GS「永遠の命」 ③2ニフ2・26−29、アル12・9−11
8 ①GS「アブラハムの聖約（契約）」 9 ①1ニフ15・35、教義1・35、GS「悪魔」
10 ①1ニフ22・23 ②1ニフ13・4−6、26、黙示17・5、15、2ニフ10・16 ③黙示17・5
11 ①教義35・11、エレ51・13、黙示17・15 ②マタ7・14、3ニフ14・14、教義138・26
12 ①教義90・11 ②黙示17・1−6、18・24、1ニフ13・5、教義123・7−8
13 ①1ニフ14・12

た。

14 そしてわたしニーファイは、神の小羊の力が、地の全面に散っている小羊の教会の聖徒たち、すなわち主の聖約の民のうえに下るのを見た。彼らは義と神の[1]力とをもって、大いなる栄光のうちに武装していた。

15 そしてわたしは、神の激しい怒りがあの大きな忌まわしい教会のうえに[1]注がれ、そのために、地のすべての[2]国民と部族の中で戦争と戦争のうわさがあるのを見た。

16 そして、あの忌まわしい行いの母に属しているすべての国民の中で[1]戦争が始まり、戦争のうわさが出始めたときに、天使がわたしに言った。「見よ、神の激しい怒りは娼婦たちの母に下る。そして見よ、あなたにはこれらのことがすべて見える。

17 娼婦たちの母、すなわち悪魔が創設者である全地の大きな忌まわしい教会に、神の[1]激しい怒りが注がれる日が[2]来ると、その日、御父の[3]業が始まり、御父は、イスラエルの家に属する御自分の民と交わされた聖約を[4]果たすための道を備えられる。」

18 そこで、天使はわたしに語って、「見なさい」と言った。

19 眺めると、白い衣を着ている一人の男の人が見えた。

20 すると天使はわたしに言った。「小羊の十二使徒の[1]一人を見なさい。

21 見よ、彼は、これらのことの残りの部分と、また今までにあった多くのことを見て書き記す。

22 また、世の終わりについても書き記す。

23 彼が書き記すことは正しく真実である。そして見よ、それらのことは、あなたがユダヤ人の口から出るのを見た[1]書物の中に書き記される。そして、それらがユダヤ人の口から出て来た当時、すなわちその書物がユダヤ人の口から出て来た当時は、書き記されたことは分かりやすくて純粋であり、また大変、貴くて、すべての人に理解しやすいものであった。

24 見よ、この小羊の[1]使徒の書き記すことの多くを、あなたは見た。そして見よ、これからあなたはその残りの部分を見るであろう。

25 しかし、これからあなたが見ることは書き留めてはならない。主なる神が、それらのことを書き記す

---

14 ①ヤコ6・2、教義38・6
15 ①教義1・13—14
② マコ13・8、教義87・6
16 ①1ニフ22・13—14、モル8・30
17 ①1ニフ22・15—16
②GS「終わりの時・末日」
③3ニフ21・7、20—29、GS「福音の回復」
④モル8・21、41、GS「アブラハムの聖約（契約）」
20 ①黙示1・1—3、1ニフ14・27
23 ①1ニフ13・20—24、モル8・33
24 ①②1ニフ13・28—32
25 ①エテ4・16
1・19 ヨハ20・30—31、黙示

ように、あの神の小羊の使徒を任じられたからである。

26 神はまた、かつてこの世に生きたほかの人々にも、すべてのことを示され、彼らはそれらのことを書き記した。そしてそれらの記録は、主御自身がふさわしいと思われるときに、小羊の内にある真理によって純粋なままでイスラエルの家に伝わるように、今は封じられている。」

27 わたしニーファイは、天使の言葉により、この小羊の使徒の名がヨハネであることを聞き、ここに証する。

28 そして見よ、わたしニーファイは、見聞きしたことの残りの部分を書き記すことを禁じられているので、今まで書き記したことで満足するが、これまで書き記したことは、わたしが見たことの一部分にすぎない。

29 わたしは父の見たことを見、そして主の天使がそれらのことをわたしに明らかにしてくれたことを証する。

30 わたしは、御霊に連れ去られたときに見たことについての話を、これで終わりにする。わたしの見たことがたとえすべて書き記されていなくても、今まで書き記したことは真実である。まことにそのとおりである。アーメン。

第15章

リーハイの子孫は、末日に異邦人から福音を受ける。イスラエルの集合は、オリーブの木に元の自然の枝が接ぎ戻されることにたとえられる。ニーファイ、命の木の示現を解き明かし、また義人と悪人を分ける神の正義について語る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、御霊に連れ去られて以上のことをすべて見てから、父の天幕に帰って来た。

2 そこで兄たちに会うと、彼らは以前に父が話したことについて言い争っていた。

3 父はまことに偉大なことを多く兄たちに語ったが、それは主に尋ねないかぎり理解しにくいことであった。兄たちは、心がかたくなであったので、当然なすべきことではあったが、主を仰ぎ見ることを

26① 2ニフ27・6−23、エテ3・21−27、4・4−7、教義35・18、ジ−歴史1・65
27① 黙示1・1−3
29① 1ニフ8章
30① 2ニフ33・10−14
第15章
3① 1コリ2・10−12、アル12・9−11

しなかった。
4そこでわたしニーファイは、兄たちの心がかたくなであったために、また今までいろいろなことを見てきたために悲しく思った。わたしは、人の子らの犯す大きな悪事のために、それらのことが間違いなく起こることを知ったのである。
5そしてわたしは、わたしの民が倒れるのを見たので、彼らの1)滅亡のために自分の2)悩みが何にも増して大きく思われて、その悩みのために圧倒されてしまった。
6そしてその後、わたしは1)力を取り戻すと、言い争いの訳を知りたいと思い、兄たちに尋ねた。
7すると兄たちは、「見よ、父がオリーブの木の元の自然の枝と異邦人について語ったが、その意味が分からない」と答えた。
8それでわたしは彼らに、「あなたがたは主に1)尋ねたのですか」と言った。
9すると彼らは、「主に尋ねてはいない。主はこんなことを我々に明らかにしてくださらないからだ」と答えた。
10見よ、わたしは彼らに言った。「どうしてあなたがたは、主の戒めを守ろうとしないのですか。なぜ心を1)かたくなにして滅びを招こうとするのですか。
11主が言われたことを覚えていないのですか。主は、『もしあなたがたが心をかたくなにせず、わたしの戒めを熱心に守りながら、答えを与えられると信じて信仰をもってわたしに1)求めれば、これらのことは必ずあなたがたに明らかにされる』と言われました。
12まことに、わたしはあなたがたに言います。父は、自分に宿った主の御霊によって、イスラエルの家をオリーブの木にたとえました。まことに、わたしたちは、イスラエルの家から折り取られた者ではありませんか。イスラエルの家の1)一枝ではありませんか。
13ところでわたしたちの父は、異邦人が満ちみちる恵みにあずかることによって、元の自然の枝が接ぎ戻されることについて語りましたが、それは、1)メシヤが人の子らに肉体をもって御姿を現された後に、わたしたちの子孫がまことに長い間、しかも多くの世代にわたって2)不信仰に陥るようになった末日において、メシヤの完全な3)福音が異邦人に与えられ、次いで4)異邦人からわたしたちの子孫の残りの者に伝え

---

5 1 ①エノ1・13、モル6・5—10、教義14・10、GS「異邦人」
6 ①②GS「逆境」
モセ1・10、ジー歴1・20、48
8 ①モサ26・13、アル40・3、GS「祈り」
10 ①①GS「背教・背信」
11 ①①新ヤコ1・5—6、エノ1・15、モロ7・26、教義18・18、GS「求める」
12 ①創世49・22—26、1ニフ10・12—14、19・24、GS「リーハイ（ニーファイの父）」
13 ①①GS「メシヤ」
②1ニフ12・22—23、2ニフ26・15
③GS「福音」
④1ニフ13・42、22・5—10、教義14・10、GS「異邦人」

られるようになるということです。
14その日、わたしたちの1)子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属する主の2)聖約の民であることを知るでしょう。それから彼らは、自分たちの先祖のことを3)知って理解するようになり、また彼らの贖い主によって先祖に与えられた贖い主の福音も理解するようになるでしょう。このようにして、彼らは贖い主とその教義の詳しい点について理解するようになり、どうすれば贖い主のみもとに帰って救いを得られるかを知るのです。
15その日、彼らは自分たちの1)岩であり救いである永遠の神を喜び、賛美せずにいられるでしょうか。まことにその日、まことのぶどうの木から2)力と養いを受けないでいられるでしょうか。まことに、神のまことの羊の群れに入らないでいられるでしょうか。
16まことに、わたしはあなたがたに言います。そうです。彼らはイスラエルの家の中で再び覚えられ、またオリーブの木の元の自然の枝であるので、まことのオリーブの木に1)つぎ戻されるのです。
17これが、わたしたちの父が言おうとしたことです。また父は、このことは彼らが異邦人によって散らされるまで起こらないと言っています。また父は、このことが異邦人を通して起こり、主がユダヤ人、すなわちイスラエルの家によって1)拒まれるので、主が御自分の力を異邦人に現されるためにそれが起こると言っています。
18それで父は、末日に成就する聖約について触れながら、わたしたちの子孫のことだけでなく、イスラエルの家に属するすべての者についても語ったのです。その聖約とは、主がわたしたちの先祖アブラハムに立てられたもので、主は、『あなたの1)子孫により、地のすべての部族は祝福を受けるであろう』と言われました。」
19さて、わたしニーファイは、これらのことについて兄たちにたくさんのことを語った。まことに、わたしは末日におけるユダヤ人の1)回復について、彼らに語ったのであった。
20そしてわたしは、1)イザヤの言葉を兄たちに詳しく述べた。イザヤはユダヤ人、すなわちイスラエルの家の回復について語り、また、彼らが回復されてからはもう乱されることもなければ、再び散らされることもない、と語っている。そして、わたしが兄た

14①2ニフ10・2、3ニフ5・21—26、21・4—7
②GS「アブラハムの聖約（契約）」
③2ニフ3・12、30・5、モル7・1、9—10、教義3・16—20。『モルモン書』のタイトルページを参照
15①GS「岩」
②創世49・11、ヨハ15・1
16①ヤコ5・60—68
17①GS「十字架の刑」
18①創世12・1—3、アブ2・6—11
19①1ニフ19・15、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
20①1ニフ19・23

ちに多くの言葉を述べたので、兄たちは心が和らいで主の前にへりくだった。[2]

21 そして、兄たちは再びわたしに、「父が夢の中で見たことは何を意味するのか。父の見た木[1]は何を意味するのか」と言った。

22 それでわたしは、「その木は命の木[1]を表すものです」と言った。

23 すると兄たちは、「あの木の所に通じている、父が見た鉄[1]の棒は何を意味するのか」と言った。

24 わたしは兄たちに、それは神[1]の言葉であって、だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる[2]者は、決して滅びることがなく、また敵対する[3]者の誘惑[4]や火の矢[5]も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはないと言った。

25 わたしニーファイは、主の言葉を心[1]に留めるように兄たちに勧めた。まことに、わたしは兄たちが神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることを覚えるように、全精力を傾け、能力の限りを尽くして兄たちに勧めた。

26 すると、彼らはわたしに、「父の見た水の流れている川[1]は何を意味するのか」と言った。

27 わたしは、父の見た水[1]は汚れ[2]であるが、父は心をほかの物事に奪われていて、水の汚れは見えなかったと言った。

28 またわたしは、それは悪人を命の木や神の聖徒から隔てている恐ろしい淵[1]であると彼らに言った。

29 そして、それは悪人のために用意されていると天使が語ったあの恐ろしい地獄[1]を表していると、わたしは彼らに言った。

30 また、神の正義[1]も悪人を義人から隔てており、それを父も見たと、わたしは彼らに言った。その輝きは、とこしえにいつまでも神に向かって立ち上る、燃える火の輝きのようであった。

31 すると兄たちはわたしに言った。「今言ったことは、この試し[1]の生涯で肉体が受ける苦痛を指すのか、または肉体が死[2]んでから後の、霊の最後の状態を指すのか、それとも現世のことをいうのか。」

32 そこでわたしは、それは現世のことにも霊的なことにもかかわることを表していると言った。それは、兄たちが自分のなした行い[1]、すなわち、試しの生涯において肉体をもってなした行いによって裁かれなければならない日が、必ず来るからである。

---

20 ② 1ニフ16・5、24、39
21 ① 1ニフ8・10–12
22 ① 1ニフ11・4、25、モセ3・9
23 ① 1ニフ8・19–24
24 ① GS「言葉（神の）」 ② 1ニフ8・30、2ニフ31・20 ③ GS「悪魔」 ④ 1ニフ8・23、GS「誘惑」 ⑤ エペ6・16、教義3・8、27・17
25 ① 教義11・2、32・4、84・43–44
26 ① 1ニフ8・13
27 ① 1ニフ12・16 ② GS「汚れ」
28 ① ルカ16・26、1ニフ12・18、2ニフ1・13
29 ① GS「地獄」
30 ① GS「正義」
31 ① アル12・24、42・10、ヒラ13・38 ② アル40・6、11–14
32 ① GS「行い」

33 したがって、もし彼らが邪悪なままで死[1]ぬならば、彼らは義にかかわる霊的なことからも捨[2]てられなければならない。したがって、彼らは自分の行い[3]について裁きを受けるために、神の前に引き出されなければならない。そして、もし彼らの行いが汚れているならば、彼らは必ず汚れ[5]ているに違いない。もし彼らが汚れているならば、決して神の王国に住む[6]ことはできない。もし彼らが住めるとしたら、神の王国もまた汚れているに違いない。

34 「しかしまことに、わたしはあなたがたに言います。神の王国は汚れ[1]てはいません。清くないものは、どのようなものでも神の王国に入ることができないのです。したがって、汚れたもののためには、汚れたものの場所が必ず用意してあります。

35 事実、用意された場所が一つあります。まことに、それはわたしが話したあの恐ろしい地獄[1]で、それを用意したのは悪魔[2]です。ですから、人の最後の状態は、神の王国に住むか、そうでなければ、わたしが話したあの正義[3]によって追い出されるかのどちらかです。

36 したがって、悪人は義人から拒まれ、また命の木[1]からも拒まれます。その命の木の実は非常に貴く、ほかのあらゆる実よりも好[2]ましいもので、またそれは、神のあらゆる賜物[3]の中で最も大いなるものです。」わたしはこのように兄たちに語った。アーメン。

第16章

悪人は真理を厳しいものと考える。リーハイの息子たち、イシマエルの娘たちと結婚する。リアホナ、荒れ野での一行の進路を指し示す。主の御告げが時々リアホナに記される。イシマエル、死ぬ。イシマエルの子供たち、苦難のためにつぶやく。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしニーファイが兄たちに語り終えると、見よ、兄たちは、「おまえは我々が聞くに堪えないほど厳しいことを言った」とわたしに言った。

2 そこでわたしは兄たちに、真理に従い、悪人にとって厳しいことを言ったのはよく承知していると話した。わたしは義人を義とし、彼らが終わりの日に高く上げられることを証した。そのために、罪のあ

---

33 ①26 モサ15・26、モロ10・26 ②26 アル12・12−16、40・3 ③26 ニフ27・23−27 ④26 GS「最後の裁き」 ⑤88 ニフ9・16、教義88・35 ⑥88 詩篇15・1−5、24・4、アル11・37、教義76・50−70、モセ6・57 34 ①35 GS「汚れ」 35 ①26・27 GS「地獄」 ②1 ニフ14・9、教義1・35 ③GS「正義」 36 ①2・15 GS「創世2・9、2ニフ1・15 ②1 ニフ8・10−12、アル32・42 ③教義14・7、GS「永遠の命」 ④教義6・13

第16章

2 ①33・5、エノ1・23、ヒラ14・10、GS「罪悪感」

る者は真理が胸の底まで刺し貫くので、真理を厳しいものと思うのである。

3 「兄さんたち、もし兄さんたちが義にかなっていて、神の御前をまっすぐに歩めるように、進んで真理に聞き従い、それを心に留めるならば、その真理のためにつぶやいて、『おまえは我々に厳しいことを言った』などとは言わないでしょう。」

4 そして、わたしニーファイは兄たちに、主の戒めを守るように力の限り勧めた。

5 そこで、兄たちが主の前にへりくだったので、わたしは兄たちが義の道を歩むようになることを喜び、またそのことに大きな希望を抱いた。

6 さて、以上のことはすべて、父がレムエルと名付けた谷で天幕に住んでいたときに語られ、また行われたことである。

7 さて、わたしニーファイは、イシマエルの娘の一人を妻にめとり、兄たちもまた、イシマエルの娘たちを妻にめとった。そしてゾーラムも、イシマエルの長女を妻にめとった。

8 このようにして、父は主から受けた戒めをことごとく果たし、またわたしニーファイも、主から非常に豊かな祝福を受けた。

9 さて、夜に、主の声が父に語りかけ、翌日に荒れ野へ旅立つように命じられた。

10 そこで、父が朝起きて天幕の入り口へ出て行ったところ、非常に驚いたことに、地の上に入念な造りの丸い球が一つあった。それは純良な真鍮でできていて、その球の内部には二本の指針があり、その一本は、わたしたちが荒れ野で進むべき方向を指していた。

11 そこでわたしたちは、荒れ野へ持って行くべき一切のものと、主が与えてくださった食糧の残りをことごとく集めた。また、荒れ野へ持って行くためあらゆる種を携えた。

12 そしてわたしたちは天幕を持ち、レーマン川を渡って荒れ野へ出発した。

13 そして、わたしたちは四日間、ほぼ南南東の方角へ旅路を進み、再び天幕を張ってその地をシェザーと名付けた。

14 そこでわたしたちは、弓矢を携え、家族の食糧にする獲物をとりに荒れ野へ出かけて行った。そして獲物をとると、荒れ野の家族のもとに、すなわちシ

---

2 ② モサ13・7
③ 箴言15・10、2ニフ1・26、9・40、ヒラ13・24—26
3 ① 教義5・21、GS「歩む（神とともに）」
5 ① 1ニフ16・24、39、18・4
7 ① 1ニフ7・1
② GS「結婚」
③ 1ニフ4・35、2ニフ5・5—6
10 ① アル37・38—46、GS「リアホナ」

エザーに帰って来た。そして、また前と同じ方角に、1)紅海に近い境の地の荒れ野の中で、最も肥沃な所をたどりながら進んで行った。

15 そしてわたしたちは、道々、弓矢や石、石投げで食糧にする獲物をとりながら幾日もの間旅をした。

16 そして、その球の指す1)方向へ進んで行ったが、それはわたしたちを荒れ野の中で、より肥沃な場所へ導いて行った。

17 わたしたちは、幾日もの間旅をしてからしばらく天幕を張り、体を休めて、家族の食糧にする獲物をとることにした。

18 そして、わたしニーファイは食糧にする獲物をとるために出て行ったが、見よ、純良な鋼でできているわたしの1)弓を折ってしまった。それで、弓を折ってからは、食糧を得ることができなかったので、見よ、兄たちは弓を使えなくしたことでわたしに大いに腹を立てた。

19 そこでわたしたちは、食糧がないままに家族のもとに帰ったが、家族の者は旅のためにひどく疲れていたので、食糧がないことで非常に苦しんだ。

20 そして、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちは、荒れ野での苦しみと苦難のためにひどくつぶやき始め、また父も主なる神に対してつぶやき始めた。彼らは皆、非常に嘆き悲しみ、主に対してつぶやいたのであった。

21 さて、わたしニーファイは、自分の弓を使えなくしたために兄たちから苦しめられたが、兄たちの弓も弾力がなくなったので事態はさらに深刻になり、まことにわたしたちは、食糧をまったく得ることができなかった。

22 そして兄たちが、主なる神に対して1)不平を言うほどまた心をかたくなにしたので、わたしニーファイは兄たちにたくさんのことを語った。

23 さて、わたしニーファイは木で一つの弓を作り、まっすぐな枝で一本の矢を作った。それでわたしは、弓と矢、石投げと石で身を固め、「食糧を得るのにどこへ行ったらよいですか」と父に1)尋ねた。

24 そこで父は主に1)尋ねた。わたしが精力を込めて、彼らにたくさんのことを語ったので、わたしが語った言葉で父も家族もすでにへりくだっていたからである。

---

14 ① 教義17・1
16 ① 1ニフ16・10、16、26、18・12、アル37・38
18 ① ↓46
22 ① 1 サ下22・35、出エ16・8、民数11・1
23 ① 1 出エ20・12、モサ13・20
24 ① GS「祈り」

25 さて、主の声が父に聞こえて、主に対してつぶやいたことでひどく懲らしめられたので、父は深い悲しみに沈んだ。

26 そこで、主の声が父に、「球を見て、記してあることをよく心に留めなさい」と言われた。

27 そこで父は、球の上に記してあることを見て非常に恐れおののき、また兄たちもイシマエルの息子たちも、わたしたちの妻も同様に恐れおののいた。

28 そこで、わたしニーファイが球の中にある指針を見ると、それらは、わたしたちがそれに寄せる信仰と熱意と注意力に応じて働いた。

29 また、それらの指針の上には新しい言葉が記されていて、それは読みやすく、主の道についてわたしたちに理解を与えてくれるものであった。そしてその言葉は、わたしたちが寄せる信仰と熱意に応じて、時々書き替えられた。このようにして、主は小さな手段によって大いなることを成し遂げられることが分かるのである。

30 さて、わたしニーファイは球の上に現れた指示に従って、山の頂まで登って行った。

31 そして、野の獣を何頭もとったので、家族のための食糧が手に入った。

32 そこでわたしは、とった獣を運んで天幕に帰った。すると、わたしが食糧を手に入れたのを見たときの家族の喜びようは、大変なものであった。それで彼らは、主の前にへりくだり、主に感謝した。

33 さて、わたしたちは再び旅路に就き、初めとほぼ同じ道筋を進んで行った。そして、幾日もの間旅をした後、しばらくとどまるためにまた天幕を張った。

34 そして、イシマエルが死んで、ネホムという所に葬られた。

35 さて、イシマエルの娘たちは、父を亡くしたため、また荒れ野の中の苦難のために非常に嘆き悲しんだ。そして彼女たちは、自分たちをエルサレムの地から連れ出したのはわたしの父であったことから、父に向かってこうつぶやいた。「父は死んでしまいました。わたしたちは長い間荒れ野をさまよい、多くの苦難に遭い、飢えと渇きと疲労に苦しんできました。このような苦しみに遭った末に、結局荒れ野の中で飢えて滅びてしまうに違いないのです。」

36 イシマエルの娘たちはこのように、父とわたしに

25① エテ 2・14、GS「懲らしめ」
28① アル 37・40、GS「信仰」
29① GS「理解」
② 列下 5・13、新ヤコ 3・4、アル 37・6−7、41、教義 123・16
34① 1ニフ 7・2−6
35① GS「逆境」

対してつぶやき、エルサレムに帰ることを望んだ。

37 レーマンは、レムエルとイシマエルの息子たちに言った。「父と弟ニーファイを殺してしまおうではないか。ニーファイは兄である我々の支配者となり、我々を教える者になっている。

38 彼は主が自分に語られたと言い、また天使が教え導いたとも言っている。しかし見よ、我々には、彼が偽りを言っていることが分かっている。彼はそのようなことを言いながら、策略をもって多くのことをなし、我々の目をくらまして、恐らくどこか見知らぬ荒れ野に我々を誘い込めると思っているのだろう。そして我々を誘い込んでしまったら、彼は我々の王となり、支配者となって、意のまま、思いのままに振る舞おうと思っているのだ。」兄のレーマンは、このようにして彼らの心をあおり立てて怒らせた。

39 さて、主はわたしたちとともにおられ、まことに主の声が聞こえて彼らに多くの御言葉を語り、彼らをひどく懲らしめられた。彼らは主の声によって懲らしめを受けると、怒りを静め、罪を悔い改めた。そして、主が再び食糧を与えて祝福されたので、わたしたちは滅びずに済んだ。

第17章

ニーファイ、船を一隻造るように命じられる。ニーファイの兄たち、ニーファイに反抗する。ニーファイ、イスラエルに対する神の計らいの歴史を述べて兄たちに説き勧める。ニーファイ、神の力に満たされる。兄たち、枯れた葦のようにしおれてしまわないように、ニーファイに触れることを禁じられる。紀元前約五百九十二年から五百九十一年に至る。

1 さて、わたしたちはまた荒れ野の中を旅し、このときからはほぼ東の方へ進んで行った。わたしたちは旅をしながら、多くの苦難を乗り越えていった。そして妻たちは荒れ野の中で子供を産んだ。

2 そして、主の祝福が大変豊かであったので、妻たちは荒れ野で生肉を食べて暮らしていたのに、子供に乳を十分飲ませ、しかもまことに男のように強かった。彼女たちはつぶやかずに旅に耐えるようになった。

3 このように、神の命令は必ず成し遂げなければな

---

37 ① 1ニフ17・44、GS「殺人」
② 創世37・9−11、1ニフ2・22、18・10
38 ① 1ニフ3・30−31、4・3
39 ① GS「懲らしめ」
第17章
2 ① 1ニフ17・12

らないことが分かる。もし人の子らが神の戒めを守[1]
るならば、神は彼らを養い、強くし、また御自分が
命じられたことを成し遂げる手段を与えられる。そ
れで神は、わたしたちが荒れ野にとどまっていたと
きにも、わたしたちに手段を与[2]えられた。
4 そしてわたしたちは、長い間、まことに八年もの
間荒れ野の中にとどまった。
5 そして、果実と野蜜が豊かであることからバウン
ティフルと名付けた地に来た。これらのものはすべ
て、わたしたちが滅びないように主が備えてくださ
ったのであった。わたしたちはここで海を見て、イ
リアンタムと名付けた。それは多くの水という意味
である。
6 さて、わたしたちは海辺の近くに天幕を張った。
わたしたちはこれまで多くの苦難[1]や困難に、まこと
に書き尽くせないほど多くの苦難や困難に遭った
が、海辺に着いて非常に喜びを感じ、そこは果実が
豊かであることから、その地をバウンティフルと名
付けたのであった。
7 さて、わたしニーファイが、バウンティフルの地
で何日も日を過ごしたところで、主の声が聞こえて、
わたしに、「立って山へ行きなさい」と言われた。そ
こでわたしは、立って山へ行き、主に叫び求めた。
8 そこで主は、わたしに言われた。「わたしがこれか
ら示す方法[1]に従って、一隻の船を造りなさい。この
大海を越えて、わたしがあなたの民を連れて行ける
ようにするためである。」
9 それでわたしは、「主よ、お示しくださった方法に
従って船を造るための道具を造るには、どこへ行っ
てあらがねを見つけたらよろしいでしょうか」と言
った。
10 そこで主は、その道具を造れるように、あらがね
の見つかる場所をわたしに教えてくださった。
11 そこでわたしニーファイは、火を吹くためのふい
ごを獣の皮で作った。そして火を吹くためのふいご
を作ってから、二個の石を打ち合わせて火をおこし
た。
12 荒れ野を旅するときに、主はこれまでわたしたち
に、あまり火をおこすことを許されなかった。主が、
「わたしがあなたがたの食物の味を良くするの
で、煮[1]炊きするには及ばない。
13 わたしはまた、荒れ野であなたがたの光となろ

3 ① モサ2・41、アル26・12、GS「従順・従う」
② 1ニフ3・7
6 ① 2ニフ4・20
8 ① 1ニフ18・2
12 ① 1ニフ17・2

う。あなたがたがわたしの命令を守るならば、わたしはあなたがたの前に道を備えよう。したがって、あなたがたはわたしの命令を守るかぎり、約束の地に導かれるであろう。そして、あなたがたを導いているのがわたしであることを知るであろう」と言われたからである。

14 主はまた言われた。「あなたがたは約束の地に着いた後、主なるわたしが神であり、また主なるわたしがあなたがたを滅亡から救い出したこと、まことに、わたしがあなたがたをエルサレムの地から連れ出したことを知るであろう。」

15 それでわたしニーファイは、主の命令を守るように努め、また兄たちにも、忠実であり勤勉であるように勧めた。

16 さて、わたしは岩石から溶かし出したあらがねで道具を造った。

17 兄たちは、わたしが船を造ろうとするのを見ると、わたしのことをつぶやいて言った。「弟は愚か者だ。弟は船が造れると思っているし、この大海を渡れると思っている。」

18 このように、兄たちはわたしのことで不平を言い、働かなくてもよいようにと思っていた。彼らは、わたしに船が造れることを信じようとせず、またわたしが主から指示を受けていたことも、信じようとしなかったからである。

19 そこでわたしニーファイは、兄たちの心がかたくなためにひどく悲しんだ。すると兄たちは、わたしが悲しみだしたのを見て心の中で喜び、わたしのことでうれしく思ったほどで、このように言った。「おまえに船が造れないのは分かっていた。分別が足りないからだ。おまえには、そんな大仕事を成し遂げることはできない。

20 おまえは、心に浮かぶつまらない空想に惑わされた父によく似ている。まことに、父は我々をエルサレムの地から連れ出し、我々は長年の間荒れ野をさまよってきた。そして、我々の妻は身重の体で身を粉にして働き、荒れ野で子を産み、ただ死ななかっただけであらゆる苦しみに遭った。妻たちは、このような苦難に遭うくらいなら、エルサレムを出る前に死んだ方がましだった。

21 見よ、我々は、長年の間荒れ野で苦しんできたが、その間に自分たちの財産や受け継ぎの地を欲しいま

---

13 ①アル37・38–39 ②1ニフ2・20 ヤコ2・12
14 ①出エ6・7 ②教義5・2 ③2ニフ1・4、GS「証」
17 ①1ニフ18・1–6
19 ①GS「迫害」
20 ①1ニフ2・11

まにして、幸せに暮らせたかもしれない。

22 我々は、エルサレムの地にいた民が義[1]の民であったことを知っている。なぜなら、彼らはモーセの律法に従って、主の掟と裁決と主のすべての戒めに従っていたからだ。だから我々は、彼らが義の民であることを知っている。ところが、父は彼らを裁いた。そして、我々が父の言葉に聞き従ったので、我々をエルサレムから連れ出した。弟は父によく似ている。」兄たちはこのような言葉でつぶやき、父とわたしに対して不平を言った。

23 そこで、わたしニーファイは兄たちに言った。「あなたがたは、イスラエルの子らであるわたしたちの先祖が、主の御言葉に聞き従わなかったとしても、エジプト人の手から導き出されていたと信じているのですか。

24 まことに、あなたがたは、主がモーセに彼らを奴隷の状態から導き出[1]すように命じられなかったとしても、先祖が奴隷の状態から導き出されたと思っているのですか。

25 あなたがたは、イスラエルの子らが奴隷[1]の状態になっていたことや、彼らが堪え難いほどの苦役[2]を負っていたことを知っています。ですから、彼らが奴隷の状態から導き出されることが、彼らにとって良いことであったに違いないことを、あなたがたは知っているのです。

26 あなたがたは、モーセ[1]があの大いなる業を行うように主から命じられたことを知っています。また、モーセの言葉によって紅海[2]の水が右と左に分かれ、イスラエルの子らが乾いた地を渡ったことも知っています。

27 しかしあなたがたは、パロの軍勢であるエジプト人が、紅海でおぼれて死んでしまったことも知っています。

28 あなたがたはまた、イスラエルの子らが荒れ野において、マナ[1]で養われたことも知っています。

29 またモーセが、自分の内にある神の力によって言葉を発して岩[1]を打ったところ、水がわき出し、これを飲んでイスラエルの子らが渇きをいやすことができたことも知っています。

30 彼らの神であり贖い主である主は、彼らに先立[1]って進み、昼は彼らを導き、夜は彼らに光を与え、人が受けて益[1]になるあらゆることを彼らのためにして

---

22 ①1ニフ1・13
24 ①出エ3・2–10、1ニフ19・10、2ニフ3・9、25・20
25 ①創世15・13–14 ②出エ1・11、2・11
26 ①使徒7・22–39 ②出エ14・21–31、1ニフ4・2、モサ7・19、ヒラ8・11、教義8・3、モセ1・25
28 ①出エ16・4、14–15、35、民数11・7–8、申命8・3、モサ7・19
29 ①出エ17・6、民数20・11、申命8・15、1ニフ20・21、教義18・18、88・64–65
30 ①1ニフ1・13

くださいました。そのようにして導かれたにもかかわらず、彼らは心をかたくなにし、思いをくらまして、モーセとまことの生ける神をののしりました。

31そこで神は、御自分の御言葉のとおりに彼らを滅ぼし、御自分の御言葉のとおりに彼らを導き、御自分の御言葉のとおりに彼らのためにあらゆることを行われました。神の御言葉によらないで行われたことは何もありません。

32そして、彼らがヨルダン川を渡ると、主は彼らを、その地に住む人々を追い散らして滅ぼすほどにまで強大にされました。

33さて、この地の人々、すなわち、約束の地に住んでいてわたしたちの先祖に追い出された人々、あなたがたはその人々を義人だと思いますか。まことにわたしは、決してそうではなかったと言います。

34あなたがたは、彼らがもしも義人であったなら、わたしたちの先祖は彼らよりもさらにえり抜かれた者になっていたと思いますか。わたしはそうではなかったと言います。

35まことに、主はすべての人を公平に重んじられ、義にかなった者は神から恵みを受けます。しかしまことに、この民は、神のすべての御言葉を拒んで罪悪が熟しました。それで、神の満ちみちた激しい怒りが彼らに下り、主は彼らに対しては地をのろい、わたしたちの先祖のためには地を祝福されました。すなわち、彼らに対しては、地をのろって彼らを滅びに至らせ、わたしたちの先祖のためには、地を祝福してその地を治める力を得させてくださったのです。

36まことに主は、人が住めるように大地を造り、それを所有できるように御自分の子供たちを造られました。

37そして主は、義にかなった一つの国民を起こして、邪悪な者たちから成る諸国民を滅ぼされます。

38そして主は、義人を貴い地へ導き、また悪人を滅ぼして、彼らのために地をのろわれます。彼らの行いがそうさせるのです。

39天は主の御座であって、地は主の足台ですから、主は高く天にあって支配されます。

40そして主は、主を神とする人々を愛されます。まことに、主はわたしたちの先祖を愛し、彼ら、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブと聖約を交わされ

---

30 ② 出エ 32・8、民数 14・2−3、エゼ 20・13−16、教義 84・23−25
31 ① 民数 26・65
② 1ニフ 5・15、教義 103・16−18
32 ① 民数 33・52−53、ヨシ 24・8
35 ① 使徒 10・15、34、ロマ 2・11、2ニフ 26・23−33
② 詩篇 55・22、1ニフ 22・17
③ サ上 2・30、詩篇 97・10、145・20、アル 13・4、教義 82・10
36 ① イザ 45・18、アブ 3・24−25
② ③ GS「地球（地）」
GS「創造・創造する」
37 ① 箴言 14・34、1ニフ 4・13
エテ 2・10、教義 117・6
38 ① GS「約束の地」
② レビ 20・22
39 ① イザ 66・1、教義 38・17、
40 ① アブ 2・7
創世 21・12、教義 27・10
② 創世 28・1−5
③ GS「アブラハムの聖約（契約）」

ました。そして主は、御自分が交わした聖約を覚えておられます。それで、わたしたちの先祖をエジプトの地から導き出されたのです。

41 しかし、わたしたちの先祖がちょうどあなたがたのように心をかたくなにしたので、主は荒れ野で、杖をもって彼らを苦しい目に遭わせられました。主は、彼らの罪悪のために、彼らを苦しい目に遭わせられたのです。主は火の飛ぶ蛇を彼らの中に送り、また彼らがかまれた後で、癒される方法を備えられました。彼らがしなければならなかったことは、ただ目を向けて見るだけのことでしたが、その方法が単純であったため、すなわち容易であったために、死んだ人が大勢いました。

42 彼らは時々心をかたくなにし、モーセをののしり、また神をもののしりました。にもかかわらず、彼らが神のたぐいない力によって約束の地に導かれたことは、あなたがたがよく承知していることです。

43 そして、すべてこれらのことがあって、彼らは邪悪になり、まことにほぼ熟するほど邪悪になってしまいました。今日にも滅ぼされるかもしれません。囚われの身となってよそへ連れて行かれるわずかな者を除いて、彼らが滅ぼされる日が必ず来るに違いないことを、わたしは知っているからです。

44 そのために、主は父に荒れ野へ出て行くように命じられました。またユダヤ人が父の命を奪おうとしたこともありました。あなたがたもまた、父の命を奪おうとしたことがあります。したがって、あなたがたは心の中で人殺しをしたのであって、まるでユダヤ人のようです。

45 あなたがたは罪悪を行うのは早いけれども、主なるあなたがたの神を思い起こすのは遅い。あなたがたは一人の天使に会い、その天使はあなたがたに語りかけました。まことに、あなたがたはその声を時々聞いています。天使は静かな細い声で語りかけましたが、あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした。それで天使は雷のような声であなたがたに語りかけ、その声は、まるで引き裂くほどに大地を揺り動かしました。

46 またあなたがたは、主が全能の御言葉の力をもって、この大地を過ぎ去らせることがおできになることを知っています。また主が、御自分の御言葉によ

---

40 ④ 申命 4・37
41 ① 列下 17・7−23
② 民数 21・4−9、申命 8・15、アル 33・18−22
③ ヨハ 3・13−15、2 ニフ 25・20
④ アル 37・44−47、ヒラ 8・15
42 ① 教義 84・23−24
② 民数 14・11−12、GS「背く」
44 ① 1 ニフ 2・1−2
② 1 ニフ 16・37
45 ① モサ 13・29
② 1 ニフ 4・3
③ エベ 4・19
46 ① ヒラ 12・6−18

って起伏の激しい地を平らにし、平らな所を崩すことがおできになることを知っています。おお、それなのにどうしてあなたがたは、そのように心をかたくなにしていられるのですか。

47 まことに、わたしの心はあなたがたのことで苦しんで張り裂け、わたしの胸は痛みます。あなたがたがとこしえに捨てられてしまうことを、わたしは恐れます。まことに、わたしは神の御霊に[1]満たされて、体の力が[2]なくなりそうです。」

48 さて、わたしがこれらの言葉を語り終えると、兄たちはわたしに腹を立てて、わたしを海の深みに投げ込んでしまおうと思った。そして、兄たちがわたしを捕まえようとして近寄って来たところで、わたしは言った。「全能の神の御名によって命じる。わたしに手を[1]触れるな。わたしは身が燃え尽きるほどに神の[2]力に満たされているから、わたしに手をかける者はだれでも、枯れた葦のようにし[3]おれてしまうであろう。また、神がその人を打たれるから、神の力の前に取るに足りない者となるであろう。」

49 そして、わたしニーファイは兄たちに、これからもう父に対してつぶやいてはならないこと、また神がわたしに船を造るように命じられたので、わたしとともに働くことを拒んではならないことを話した。

50 わたしはまた彼らに言った。「[1]どのようなことでも神がわたしに命じられれば、わたしにはそれができる。もし、神がわたしにこの水に向かって『陸になれ』と言うように命じられれば、水は陸になる。わたしがそう言えば、そのとおりになる。

51 主がこのように偉大な力をお持ちになって、これほど多くの奇跡を人の子らの中で行われたとすれば、どうしてわたしに一隻の船を造ることを[1]教えられないことがあろうか。」

52 さて、わたしニーファイが兄たちに多くのことを言ったので、兄たちは言い伏せられてわたしと言い争うことができず、それから長い間、あえてわたしに手をかけることも、指で触れることもしなかった。神の御霊が非常に力強かったので、兄たちはわたしの前で枯れてしまうことのないように、あえてそうしなかったのである。[1]神の御霊は、それほどまでに彼らに働きかけられたのであった。

53 そして主は、「あなたの手を、もう一度あなたの兄

---

47 ① ミカ 3・8
② 1ニフ 19・20
48 ① モサ 13・3
② 2ニフ 1・26–27、GS「力」
50 ① 列上 13・4–7
③ ビリ 4・13、1ニフ 3・7
51 ① 創世 6・14–16、1ニフ 18・1
52 ① GS「聖霊」

たちに向けて伸ばしなさい。彼らはあなたの前で枯れはしないが、わたしは彼らの体を震えさせよう。こうするのは、わたしが主なる彼らの神であることを知らせるためである」と言われた。

54そこでわたしが、片方の手を兄たちに向けて伸ばすと、兄たちはわたしの前で枯れはしなかったが、主は語られた御言葉のとおりに彼らの身を震えさせられた。

55そこで兄たちは、「主がおまえとともにおられることが、確かに分かった。我々の身を震えさせたのが主の力であることが、分かっているからだ」と言い、わたしの前にひれ伏して、わたしを拝[1]もうとした。しかし、わたしはそれをさせないで言った。「わたしはあなたがたの兄弟です。弟ではありませんか。ですから、主なるあなたがたの神を拝して、主があなたがたに授けてくださる地で長く暮[2]らせるように、父と母を敬ってください。」

第18章

船が完成する。ヤコブとヨセフの誕生が述べられる。一行、約束の地に向かって出発する。イシマエルの息子たちとその妻たち、空騒ぎと反逆に加わる。ニーファイは縛られ、船はすさまじい暴風雨で吹き戻される。解き放されたニーファイが祈ると、嵐が静まる。一行、約束の地に着く。紀元前約五百九十一年から五百八十九年に至る。

1さて、兄たちは主を拝して、わたしとともに出かけた。そしてわたしたちは、材木を入念な造りにこしらえた。主は船材をどのようにこしらえるかを、わたしに度々示してくださった。

2またわたしニーファイは、人が学んだ方法で材木を細工することもなく、船も人の方法で造らなかった。わたしは、主がわたしに見せてくださった方法で船を造った。それで、それは人の方法とは違っていた。

3わたしニーファイは度々山の中へ行き、度々主に祈[1]った。それで、主はわたしに大いなることを示[2]してくださった。

4そして、わたしが主の言葉に従って船を造り上げると、兄たちはその出来栄えの良いのと、その造りが非常に見事なのを見た。それで兄たちは、再び主

55 ① 使徒14・11−15
20 ② 出エ20・12、モサ13・
第18章
3 ① GS「祈り」
② GS「啓示」

の前にへりくだった。[1)]

5 さて、主の声がわたしの父に聞こえ、わたしたちは立ち上がって船に乗り込むように言われた。

6 そしてその明くる日、わたしたちは主の命に従い、荒れ野でとった多くの木の実や肉、[1)]たくさんの蜂蜜、そのほかの食糧など、すべてのものの準備を終えてから、すべての荷物と種、また各々が年齢に応じて携えて来たすべての品物を持って、船に乗り込んだ。わたしたちは、妻子とともに一同が船に乗り込んだのである。

7 ところで父は、荒れ野にいた間に二人の息子をもうけており、兄の方を[1)]ヤコブ、弟の方を[2)]ヨセフといった。

8 さて、わたしたちは、命じられた食糧と品物を携えて、一同船に乗り終えると、[1)]海に乗り出し、[2)]約束の地に向かって追い風に吹かれて進んだ。

9 追い風に吹かれて多くの日が過ぎたところで、見よ、兄たちとイシマエルの息子たち、それにその妻たちは、浮かれて踊り歌い、多くの下品な話を始めた。まことに、彼らは、何の力によって自分たちがそこまで導かれて来たのかも忘れてしまうほどで、果ては非常に下品になってしまった。

10 それでわたしニーファイは、罪悪のために主が怒ってわたしたちを懲らしめられ、そのために、わたしたちが海の深みにのまれてしまうのではないかと、非常に恐れるようになった。そこでわたしニーファイは、兄たちに真剣に語り始めた。しかし、彼らはわたしに[1)]腹を立てて、「我々は弟に支配されたくない」と言った。

11 そしてレーマンとレムエルは、わたしを捕らえて縄で縛り、情け容赦なくわたしを扱った。それでも主は、悪人たちについてかねてから言われていた御言葉を成就して、御自分の力を現すために、これを[1)]そのままにしておかれた。

12 さて、彼らがわたしを縛って動けなくしてしまうと、主が用意された[1)]羅針盤の働きが止まってしまった。

13 そのため、彼らはどちらへ船を向けてよいか分からず、そのうえ大きな嵐、まことに激しくすさまじい暴風雨が起こり、わたしたちは三日間、海の上をもと来た方へ[1)]吹き戻された。彼らは海におぼれてしまうのではないかと非常に恐れたが、それでもわた

---

4 ①1ニフ16・5
5 ①1ニフ17・2
6 ①1ニフ17・2
7 ①2ニフ2・1
②2ニフ3・1
8 ①2ニフ10・20
②1ニフ2・20、GS約束の地」
10 ①1ニフ17・17—55
②創世37・9—11、1ニフ16・37—38、2ニフ1・25—27
11 ①アル14・11
12 ①1ニフ16・10、16、26、2ニフ5・12、アル37・38—47、教義17・1
13 ①モサ1・17

しを自由にしてはくれなかった。
14そして、風に吹き戻されてから四日目、暴風雨が非常に激しくなった。
15そこでわたしたちは、まさに海の深みにのまれてしまいそうであった。そして四日間、海の上を吹き戻されたところで、兄たちは神の裁きが自分たちに及んでおり、罪悪を悔い改めなければ滅びてしまうに違いないことに気づき始めた。[1]それで彼らはわたしのもとに来て、わたしの手首を縛っていた縄を解いたが、見よ、わたしの両方の手首は大きくはれ上がり、両方の足首もまたひどくはれて、その痛みは激しかった。
16それでもわたしは神に頼り、一日中神を賛美し、[1]わたしの遭った苦難のことで主に対してつぶやくことはしなかった。
17ところで父リーハイは、彼らに多くのことを語り、[1]またイシマエルの息子たちにも語ったが、見よ、彼らは、だれでもわたしのために言い開きをする人に対して、ひどい脅しの言葉を吐いた。両親は年も取っていて、また子供たちのためにひどく悲しい目に遭ったので、とうとう病の床に就いてしまった。
18両親は、深い憂いとひどい悲しみと、兄たちの罪悪のために、この世から連れ去られて神と顔を合わせるばかりの状態となった。まことに、彼らの白髪は、葬られて地の中に低く横たわるばかりであり、まことに悲しくも、二人が大海の墓に投げ込まれるのは間近いことであった。
19ヤコブとヨセフも幼くて、十分な栄養を必要としていたので、母の遭った苦難のことでつらい思いをした。また、わたしの[1]妻や子供たちも涙を流し、また祈ったが、兄たちの心が和らいでわたしを解き放すには至らなかった。
20兄たちを滅ぼそうと脅かした神の力のほかに、彼らの心を和らげることのできるものは何もなかった。そのようなわけで、兄たちは自分たちがまさに海の深みにのまれようとするのを見て、今までの行いを悔い改めて、わたしを解き放したのであった。
21さて、兄たちがわたしを解き放したところで、見よ、わたしが羅針盤を手に取ると、それはわたしが望むように動いた。そこで、わたしは主に祈りをささげた。祈り終えると風がやみ、嵐が収まり、きわめて穏やかになった。

15① ヒラ12・3
16① アル36・28
16① 1ニフ7・4—20
17① 1ニフ7・19、16-7
19① 1ニフ7・19、16-7

22 そこでわたしニーファイは、船の舵を取り、再び約束の地に向かって船を走らせた。
23 そして、幾日も航海した後、わたしたちは1)約束の地に着いた。そして陸に上がって天幕を張り、そこを約束の地と名付けた。
24 そしてわたしたちは、地を耕して種をまき始めた。まことに、エルサレムから持って来た種をすべて地にまいた。すると、この種は非常によく育った。そして、わたしたちは豊かな祝福を受けた。
25 そしてわたしたちは、荒れ野の中を旅したとき、この約束の地には森の中にあらゆる獣、すなわち雌牛と雄牛、またろばと馬、やぎと野やぎ、そのほか人の役に立つあらゆる獣がいるのを知った。またわたしたちは、金や銀や銅など、あらゆるあらがねも見つけた。

第19章

ニーファイ、あらがねで版を造り、民の歴史を記録する。イスラエルの神は、リーハイがエルサレムを去ってから六百年で来られる。ニーファイ、イスラエルの神が受けられる苦しみと十字架の刑について述べる。ユダヤ人は末日になるまでさげすまれ、散らされて、末日には主に立ち返る。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 さて、わたしは主に命じられたので、民の記録を刻むためにあらがねで版を造った。そして、その1)版に父の2)記録と荒れ野での旅のこと、父の預言、またわたし自身が語った多くの預言を刻んだ。
2 わたしがその版を造ったときには、後に主から、別にこの1)版を造るように命じられるとは知らなかった。したがって、父の記録や先祖の系図、それに荒れ野での行動の大部分は、わたしが先に述べた最初の版に刻んである。それで、わたしがこの2)版を造る前に起こったことは、まことにいっそう詳しく最初の版に述べられている。
3 主の命令によってこの版を造った後で、わたしニーファイは、務めと預言、すなわちそれらの中で分かりやすくて貴重な部分を、この1)版に書き記すように命じられた。また、これからこの地を所有するわたしの民を教えるために、それにまた主が御存じである2)賢明な目的のために、この版に書き記されたこ

23① GS「約束の地」
第19章
1① GS「版」
②1ニフ1・16−17、6・1−3
2①2ニフ5・30
②1ニフ9・1−5
3①ヤコ1・1−4、3・13−14、4・1−4
②1ニフ9・4−5、モ言1・7、教義3・19−20、10・1−51

とを保存するようにとの命を受けた。
4 それでわたしニーファイは、民の戦争と争いと滅亡のいきさつをいっそう詳しく述べる話を、ほかの版に記録した。わたしはこれを行ってから、わたしの死んだ後になすべきことを民に命じ、また主が後に命じられるまでは、これらの版を代々譲り伝え、また預言者から預言者へ譲り伝えるように命じた。
5 わたしはまた、後にこの版を造ったいきさつを述べるので、見よ、今はわたしがこれまで話したことに従って書き進める。わたしがこうするのは、より神聖な事柄が保存されて、それが民にとって知識となるようにしたいと思うからである。
6 それでもわたしは、1)神聖であると思うことでなければ、何事も版に書き記さない。そのようにすることで、もしもわたしが誤りを犯すなら、昔の人でも誤りを犯したのであるが、他人の例を引いて申し開きをするのではなく、ただ、肉においてのわたしの2)弱さのためであると申し開きをしよう。
7 ある人々が肉体にも霊にも大いに価値があると思うことを、ほかの人々が1)何とも思わないで足の下に踏みつけることがある。まことに、イスラエルのまことの神ですら人々は足の下に踏みつける。2)足の下に踏みつけると言ったが、言い換えれば、彼らは神を取るに足りない者とし、その勧めの声に聞き従わないということである。
8 そして見よ、天使の言葉によれば、イスラエルの神は、父がエルサレムを去ってから六百1)年後に2)おいでになる。
9 しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方に1)つばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。
10 わたしたちの先祖の1)神、すなわち、わたしたちの先祖を奴隷の状態から救って、エジプトから2)導き出し、荒れ野の中で彼らを守られた神、まことに、ア3)ブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は、あの天使の言葉のように一人の人として悪人たちの手に身をゆだねて、ゼノクの言葉のように4)上げられ、ニア

5 ① 2ニフ5・28—33 ② GS「聖文—保存されるべき聖文」
6 ① 『モルモン書』のタイトルページを参照。
7 ① GS「聖い」 ② モル8・13—17、エテ12・23—28
8 ① GS「背く」 ② 1ニフ10・4、2ニフ25・19 ② GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
9 ① イザ50・5—6、マタ27・30 ② 2ニフ26・12、モサ7・27、27・30—31、アル11・38—39、3ニフ11・14—15 ② 出エ3・2—10、6・1、1ニフ5・15、教義136・22
10 ① 2ニフ26・12、モサ7・27、27・30—31、アル11・38—39、3ニフ11・14—15 ② 創世32・9、モサ7・19、教義136・21、GS「エホバ」 ③ GS「贖罪」 ④ アル33・15、34・7、ヒラ8・19—20、3ニフ10・15—16、GS「聖文—失われた聖文」「ゼノク」 ⑤ 3ニフ27・14

ムの言葉のように十字架につけられ、[7]ゼノスの言葉のように墓に葬られるのである。[8]ゼノスは三日間の暗闇について語ったが、それはこの御方が亡くなられるときのしるしであって、海の島々に住む者たち、特にイスラエルの家に属する者に与えられるしるしである。

11 預言者ゼノスは言った。「その日、主なる神は必ずイスラエルの家に属するすべての者に臨み、ある者には、彼らの義のゆえに御声をもって臨んで大きな喜びと救いを与え、またほかの者には、御力の起こす雷鳴と稲妻をもって、暴風雨、火、煙、暗黒の霧、地割れ、盛り上がる山々をもって臨まれる。」[2]

12 預言者ゼノスはさらに言う。「これらのことは、すべて必ず起こる。そして地の岩は必ず裂ける。また大地がうなりを起こすので、海の島々にある多くの王は神の御霊に動かされて、『万物の神が苦しみに耐えておられる』と叫ぶ。」

13 またその預言者は言う。「エルサレムにいる者たちについて言えば、彼らはイスラエルの神を十字架につけ、自分たちの心を背けて、しるしも不思議も、またイスラエルの神の力と栄光をも顧みないために、すべての民から鞭打たれる。」

14 その預言者はまた言う。「彼らは心を背けて、イスラエルの聖者をさげすむので、肉にあってさまよい、滅びうせ、すべての国民の中であざけられ、笑いぐさとなり、憎まれる。」

15 その預言者はさらに言う。「それでも、彼らがもはやイスラエルの聖者に心を背けなくなる日が来れば、イスラエルの聖者は彼らの先祖と交わした聖約を思い起こされる。」

16 まことにそのときに、イスラエルの聖者は海の島々を思い起こされる。そして主は、預言者ゼノスの言葉のように、「わたしはイスラエルの家に属する民を、すべて地の四方から集めよう」と言われる。

17 その預言者は、「全地の人々は主の救いを見るようになり、すべての国民、部族、国語の民、民族が祝福される」と言う。

18 わたしニーファイがこれらのことを民に書き記してきたのは、主なる彼らの贖い主を覚えるように彼らを説得できると思ったからである。

19 したがってわたしは、イスラエルの家のすべての者がこれらの記録を手に入れたときのために、イス

---

10 ⑦ 2ニフ 6・9、モサ 3・9、GS「十字架の刑」
⑧ ヤコ 6・1、ヒラ 15・11、GS「ゼノス」
⑨ マタ 27・60、ルカ 23・53、2ニフ 25・13
⑩ 1ニフ 12・4−5、ヒラ 14・20、27、3ニフ 8・3、19−23、10・9
⑪ 3ニフ 16・11−4
11 ① 3ニフ 9・1−22、教義 5・16
② ヒラ 14・20−27、3ニフ 8・5−23
③ ルカ 23・44−45、3ニフ 8・19−20
④ 2ニフ 26・5
⑤ 3ニフ 8・10
12 ① ヤコ 5・1
② ヒラ 14・20−28
③ マタ 27・51
13 ① 2ニフ 10・3
② ルカ 23・27−30、イザ 53・3−6、モサ 14・3−6
③ GS「ユダヤ人」
14 ① 申命 28・37、列上 9・7、3ニフ 16・9
② 1ニフ 22・11−12、GS「アブラハムの聖約（契約）」
15 ① 1ニフ 22・4、2ニフ 10・21
② イザ 49・20−22、GS「イスラエル−イスラエルの集合」
16 ① イザ 40・4−5、エノ 1・16、モル 5・12、7・9−10
17 ① イザ 40・4−5、エノ 1・16、モル 5・19

ラエルの家のすべての者に向かって語るのである。
20 見よ、エルサレムにいる人々のために、わたしの心は大いに立ち騒いでおり、全身の関節が緩むほど、わたしは疲れ果てている。もし主が、昔の預言者たちに示されたように、わたしを憐れんで、エルサレムにいる人々のことをわたしにも示されなかったら、わたしもまた滅びてしまっていたからである。
21 主は確かに、昔の[1]預言者たちに、[2]エルサレムにいる人々についてすべてのことを示され、またわたしたちについても多くの預言者に示された。それでこれらのことは、真鍮の版に書き記されているので、当然のことながら、わたしたちは彼らについて知っているのである。
22 さて、わたしニーファイは、兄たちにこれらのことを教えた。そして、主がほかの地で昔の人々の中で行われたことを、兄たちも知ることができるように、[1]真鍮の版に刻まれている多くのことを読んで聞かせた。
23 わたしはまた、[1]モーセの書に書き記してある多くのことを読んで聞かせたが、主なる贖い主を信じるようさらに十分に勧めるために、預言者イザヤが[2]したことを彼らに読んで聞かせた。すべての聖文を[3]自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにするためであった。
24 それでわたしは兄たちに言った。「この預言者の言葉を聞いてください。イスラエルの家の残りの者であって、元木から折られた[1]一本の枝である兄さんたち、イスラエルの家のすべての者に向けて書き記された預言者の言葉を聞いてください。そしてあなたがたの同胞、すなわちあなたがたはその同胞から折り取られた者ですが、その同胞と同様に望みを抱くことができるように、その言葉を自分自身に当てはめてください。この預言者はそのように書き記しているからです。」

第20章

主はイスラエルに御自分の目的を示される。苦難の炉の中で選ばれたイスラエルは、バビロンから出る。イザヤ書第四十八章と比較せよ。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

---

21 ①列下17・13、アモ3・7、GS「預言者」
②3ニフ10・16−17
22 ①1ニフ22・1
23 ①出エ17・14、1ニフ5・11、モセ1・40−41
②1ニフ15・20、2ニフ25・4−6、3ニフ23・1
③GS「聖文−聖文の価値」
24 ①2ニフ4・15
②創世49・22−26、1ニフ15・12、2ニフ3・4−5

1「イスラエルという名で呼ばれ、ユダの水から、すなわちバプテスマ[1]の水から出て、主の名によって誓い、イスラエルの神のことを口にしながら真実をもって誓わず、義をもっても誓わないヤコブの家よ、耳を傾けてこれを聞け。
2しかし彼らは、自ら聖なる都の者であると言いながら、万軍の主であるイスラエルの神にとどまることをしない。まことに、万軍の主とは主の名である。
3『見よ、わたしは、[1]先にあったことを世の初めから告げ知らせてきた。それらはわたしの口から出、わたしはそれらを示した。わたしはにわかにそれらを示したのである。
4わたしがそれを行ったのは、[1]あなたが強情で、あなたの首が鉄の筋であり、あなたの額が真鍮であることを知っていたからである。
5そこでわたしは、まさに世の初めからあなたに告げ知らせてきた。それが起こるに先立って、それらをあなたに示した。それらのことを示したのは、「わたしの[1]偶像がそれらのことをした。わたしの彫像とわたしの鋳像がそれらのことを命じた」とあなたが言うことのないようにするためである。
6あなたはこのことをすべて見聞きしてきた。それでもあなたは、それらのことを告げ知らせずにおくだろうか。これからわたしが示す新しいこと、隠されていたことさえも、告げ知らせずにおくだろうか。それらはあなたの知らなかったことである。
7それらのことは、今造られたのであって、初めからあったのではない。あなたがそれらのことを聞く前から、それらのことは告げ知らされていた。それは、「見よ、わたしはそれらを知っている」とあなたが言うことのないようにするためである。
8まことに、あなたは聞かなかった。まことに、あなたは知らなかった。まことに、あのときからあなたの耳は開かれなかった。それはあなたがひどく不真実で、また生まれながらにして[1]背く者と呼ばれたことを知っていたからである。
9にもかかわらず、わたしはわたしの[1]名のために怒りを延ばし、わたしの誉れのために自らを制して、あなたを絶つことをしない。
10見よ、わたしはあなたを精錬し、[1]苦難の炉の中であなたを選んだからである。

第20章
1 (1) GS「バプテスマ」
2 (1) イザ52・1、GS「エルサレム」
3 (1) ②頼る、の意
4 (1) イザ46・9−10
5 (1) GS「偶像礼拝」
8 (1) 詩篇58・3
9 (1) サ上12・22、詩篇23・3、1ヨハ2・12
10 (1) GS「逆境」

11 わたし自身のために、まことにわたし自身のためにわたしはこのことを行う。それは、わたしはわたしの名が汚1)されるのを許さず、またわたしの栄光をほかの者に与えようとは思わないからである。
12 おお、ヤコブよ、わたしが召したイスラエルよ、わたしに聞き従え。わたしは神である。わたしは初1)めであり、また終わりである。
13 わたしの手は地の基1)を据え、わたしの右の手は天を測った。わたしが天地を呼ぶと、天地はともに立つ。』
14 あなたがたすべての者よ、皆集まって聞け。彼らの中でこれらのことを彼らに宣べたのはだれか。その人を主は愛された。まことに、その人は、彼らを通して告げ知らせてきた自らの言葉を成就1)し、その望むままをバビロン2)に行い、その腕をカルデヤ人のうえに下す。
15 主はまた、『主であるわたし、まことにわたしが語った。まことに、わたしは告げ知らせるためにその人を召し、その人を連れて来た。彼は自らの道を栄えさせるであろう』と言われる。
16 わたしに近づけ。わたしはひそか1)に語ったことはない。初めから、それが告げ知らされたときからわたしは語ってきた。そして、主なる神と主の御霊がわたしを遣わされた。
17 あなたの贖1)い主、イスラエルの聖者なる主はこのように言われる。『わたしがその人を遣わした。あなたの益となるように教え、あなたをその行くべき道に導2)く、主なるあなたの神がこれを行った。
18 おお、あなたはわたしの戒1)めに聞き従ったらよかったものを。そうすればあなたの平安は川のようで、またあなたの義は海の波のようであったであろう。
19 またあなたの子孫1)は砂のようであったであろう。あなたの腹から生まれる子は砂の粒のように多くなり、その子の名はわたしの前から絶たれることも、滅ぼされることもなかったであろう。』
20 バビロンから出1)よ。カルデヤから逃れよ。あなたがたは歌声をもって宣べ、これを伝え、地の果てに至るまで告げ知らせよ。すなわち、『主はその僕ヤコブを贖われた』と言え。
21 彼らは渇1)くことがなかった。主が彼らを導いて砂漠を行かせ、彼らのために岩2)から水をわき出させら

---

11 ①エレ44・26 ②イザ42・8、モセ4・1—4
12 ①黙示1・17、22・13、GS「アルパとオメガ」「長子・初子」
13 ①詩篇102・25、GS「創造・創造する」
14 ①列上8・56、教義64・31、76・3 ②GS「バビロン・バベル」
16 ①イザ45・19
17 ①GS「贖い主」 ②GS「啓示」「霊感」
18 ①伝道8・5
19 ①創世22・15—19、ホセ1・10
20 ①エレ51・6、教義133・5—14
21 ①イザ44・1—2、21 ②イザ41・17—20、出エ17・6、民数20・11、1ニフ17・29、2ニフ25・20

れた。岩を割られると水がほとばしり出たのである。

22すべてこのことや、これよりもさらに偉大なことを行ってきたにもかかわらず、『悪人には[1]平安がない』と主は言われる。」

第21章

メシヤは異邦人の光となり、捕らえられている者を解放される。終わりの時に、イスラエルは力をもって集められる。王たちが彼らの養父となる。イザヤ書第四十九章と比較せよ。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1「再び言う。聴け、おお、あなたがたイスラエルの家よ、わたしの民の牧者たちの悪事のために折り取られ、追い出されたあなたがたすべての者よ、まことに、わたしの民であって、折り取られ、広く散らされたあなたがたすべての者よ、おお、イスラエルの家よ。おお、[1]もろもろの島よ、わたしに耳を傾けよ。あなたがた[2]遠くの民よ、聴け。わたしが胎内にいたときから主はわたしを召し、わたしが母の腹の中にいるときから主はわたしの名を口にされた。

2主は、わたしの口を鋭い剣のようにして、御手の陰にわたしを隠し、わたしを研ぎ澄ました矢として、その矢筒の中にわたしを隠された。

3そしてわたしに言われた。『おお、イスラエルよ、あなたはわたしの[1]僕である。わたしはあなたによって栄光を得よう。』

4そのとき、わたしは言った。『わたしはいたずらに働き、益なくむなしく力を費やした。まことに、わたしへの裁きは主とともにあり、わたしの働きは神とともにある。』

5わたしが[1]胎内にいたときから、ヤコブを再び主に連れ戻すためにわたしを僕とされた主は言われる。『イスラエルがたとえ集められなくても、わたしは主の目にかなって栄光を得、わたしの神はわたしの力となる。』

6主は言われた。『あなたをわたしの僕としてヤコブの[1]もろもろの部族を起こさせ、イスラエルの守られてきた者たちを回復させるのは、小さなことである。わたしはまたあなたを異邦人の光とし、地の果てまでわたしの救いとしよう。』

22① GS「平安・平和」

第21章

1① 1ニフ22・4、2ニフ10・20−22
② 教義1・1
3① レビ25・55、イザ41・8、教義93・45−46
5① イザ44・24
6① GS「イスラエル−イスラエルの十二部族」
② 3ニフ21・11
③ 教義103・8−10、アブ2・10−11

7 イスラエルの贖い主、イスラエルの聖者なる主は、人に侮られる者、もろもろの国民に忌み嫌われる者、治める者の僕に向かって、『主が真実であるためにもろもろの王は見て立ち上がり、もろもろの王子も拝する』と言われる。

8 主はこう言われる。『おお、海の島々よ、わたしは心にかなったときにあなたの言葉を聞き、救いの日にあなたを助けた。わたしはあなたを守り、民への聖約として、[1]わたしの僕をあなたに与えて地を築かせ、荒れ果てた受け継ぎの地をあなたに継がせよう。

9 あなたは捕[1]らえられている者たちに「出よ」と言い、[2]暗闇に座している者たちに「現れよ」と言うことができる。彼らは道すがら食物を食べ、その[3]牧場はすべての高い所にある。

10 彼らは飢え渇くことがなく、熱も太陽も彼らを悩ますことはない。彼らに憐れみの心を持つ者が彼らを導き、泉のほとりに彼らを連れて行くからである。

11 わたしはあらゆる山を道とし、わたしの[1]大路を高くする。

12 そして、おお、イスラエルの家よ、見よ、[1]これらの者は遠くから来る。見よ、これらの者は北から、西から、またシニムの地から来る。』

13 おお、[1]天よ、歌え。おお、地よ、喜べ。東にいる者たちの歩みが定まるからである。おお、もろもろの山よ、声を放って歌え。彼らはもはや打たれることがないからである。主は御自分の民を慰め、また苦しむ者に憐れみをかけられるからである。

14 しかし見よ、シオンは言った。『主はわたしを見捨てられた。わたしの主はわたしを忘れられた。』しかし、主はそうされなかったことを示される。

15 『[1]女が乳飲み子を忘れ、自分の産んだ子を哀れまないことがあろうか。まことに、たとえ女たちが[2]忘れようとも、おお、イスラエルの家よ、わたしはあなたを忘れない。

16 見よ、わたしはあなたを、わたしの手のひらに彫り刻んだ。あなたの石垣はいつもわたしの前にある。

17 あなたの子孫は、あなたを滅ぼす者たちに速やかに立ち向かい、あなたを荒[1]らした者たちは、あなたから出て行く。

---

8 ①2ニフ3・6−15、3ニフ21・8−11、モル8・16、25
9 ①GS「死者の救い」 ②2ニフ3・5 ③エゼ34・14
11 ①イザ62・10、教義133・23−32
12 ①イザ43・5−6
13 ①イザ44・23
15 ①GS「女」 ②イザ41・17、アル46・8、教義61・36
17 ①3ニフ21・12−20

18 あなたの目を上げて辺りを見回せ。これらの者は、皆集まってあなたのもとに来る。』主はまた言われる。『わたしが生きているように確かに、あなたは彼らを皆飾り物のように身にまとい、花嫁のように彼らを帯に結ぶ。

19 あなたの荒れ衰えた所、あなたの荒廃した所、そしてあなたの滅びの地は、今に人が住むには狭すぎるようになり、あなたをのみ尽くした者たちは遠く離れ去る。

20 あなたが最初の子供たちを失った後に授かる子供たちは、再びあなたの耳もとで言う。「この場所はわたしには狭すぎます。わたしが住めるように場所を与えてください。」

21 そのとき、あなたは心の中で言う。「だれがこれらの者を産んだのか。わたしは自分の子供たちを失い、子供を授からず、囚われの身となってあちらこちらをさまよい歩いたのに。だれがこれらの者たちを育てたのか。見よ、わたしは独り残されていたのに、これらの者たちはどこにいたのか。」』

22 主なる神はこう言われる。『見よ、わたしは異邦人に向かって手を挙げ、もろもろの民に向かってわたしの旗を掲げよう。すると彼らはあなたの息子たちを腕に抱き、あなたの娘たちを肩に乗せて来る。

23 王たちはあなたの養父となり、王妃たちはあなたの養母となる。彼らは顔を地に向けてあなたに身をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあなたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を受けないからである。

24 勇士から獲物をどうして取り返せようか。また正当な捕虜をどうして救い出せようか。』

25 しかし、主はこのように言われる。『勇士の捕らえた捕虜さえ取り返され、荒々しい者に奪われたものさえ奪い返される。わたしはあなたと争う者と争い、またあなたの子供たちを救うからである。

26 わたしは、あなたを虐げる者に彼ら自身の肉を食わせる。彼らは、甘いぶどう酒に酔うように自分の血に酔う。こうしてすべての者は、主なるわたしがあなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力ある者であることを知るようになる。』」

第22章

イスラエルはやがて地の全面に散らされる。終わり

18① ミカ4・11―13
21① シオンのこと
21② イザ54・1、ガラ4・27
22① イザ66・18―20
22② イザ11・12、18・3
22③ 1ニフ22・8、2ニフ10・8―9
23① イザ60・16
23② 1ニフ22・6
23③ 2ニフ6・13、教義98・2、133・10―11、45
24① 1ニフ21・25
26① 1ニフ22・13―14
26② GS「エホバ」
26③ モサ11・22

の時に、異邦人は福音でイスラエルを養い育てる。イスラエルは集められて救われる。悪人はわらのように燃える。悪魔の王国は滅ぼされ、サタンは縛られる。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 さて、わたしニーファイが、1)真鍮の版に刻んであるこれらのことを読み終えると、兄たちがやって来てわたしに言った。「おまえが読んだこれらのことはどういう意味なのか。見よ、これらのことは肉によるのではなく、霊によって起こる霊的なこととして解釈するのか。」

2 そこでわたしニーファイは、彼らに言った。「これらのことは1)御霊の声によって、その2)預言者に3)示されたものです。すべてのことは御霊によって預言者たちに知らされ、肉において人の子らに起こるからです。

3 ですからわたしが読んだことは、1)現世のことにも霊的なことにもかかわることです。イスラエルの家は遅かれ早かれ地の全面に、またすべての国民の中に2)散らされると思われるからです。

4 まことに、エルサレムにいる人たちにとって、すでに行方の分からなくなっている人が大勢います。まことに、1)全部族の大半がすでに連れ去られ、2)海の島々のここかしこに散らされています。わたしたちは、彼らが連れ去られたことだけは知っていますが、どこにいるかはだれも知りません。

5 これらのことは、彼らが連れ去られて以来彼らにかかわることとして預言されており、また、これからイスラエルの聖者によって散り乱されるすべての人についても預言されています。それは、彼らがイスラエルの聖者に対して心をかたくなにし、そのためにすべての国民の中に散らされ、すべての人から1)憎まれるようになるからです。

6 にもかかわらず、彼らが1)異邦人に2)養い育てられた後、主は異邦人のうえに御手を挙げ、異邦人を旗として立てられます。そして異邦人は、3)イスラエルの子らを腕に抱き、娘らを肩に乗せて来ます。まことに、ここで言われていることは必ずこの世で起こることです。主がわたしたちの先祖と、そのように聖約を交わされたからです。これらのことは、これからのわたしたちのことを指し、またイスラエルの家に属するすべての同胞のことも指しているのです。

第22章
1 ①1ニフ19・22、2ニフ4・2
2 ①GS「聖霊」
②GS「預言」
③2ペテ1・19−21
3 ①教義29・31−34
②1ニフ10・12−14、2ニフ25・14−16、GS「イスラエル−イスラエルの散乱」
4 ①GS「イスラエル−行方の知れない十部族」
②2ニフ10・22
③1ニフ21・1、2ニフ10・8、20
5 ①1ニフ19・14
6 ①GS「異邦人」
②1ニフ21・23
③1ニフ15・13

7 またそれは、イスラエルの家に属するすべての者がことごとく散り乱されてから、主なる神がまことにこの地の面において、異邦人[1]の中に一つの強大な国民を起こされ、彼らによってわたしたちの子孫が散らされる時が来ることを指しています。

8 そして、わたしたちの子孫が散らされてから、主なる神はわたしたちの子孫にとって大いに価値[1]のある驚くべき業を、異邦人[3]の中で始められます。それでこれは、わたしたちの子孫が異邦人に養われ、その腕に抱かれ、その肩に乗せられて来るのにたとえられます。

9 それは、異邦人にとっても価値[1]のあるものです。また、異邦人だけでなく、イスラエル[2]の家に属するすべての者にとっても価値のあるものであって、天の御父[3]がアブラハムに対して、『あなたの子孫[4]により、地のすべての部族は祝福を受けるであろう』と言われた聖約[6]が、これで知らされるのです。

10 天の御父が、もろもろの国民の目の前にその御腕[1]を現されないかぎり、地のすべての部族が祝福を受けることはないということを、わたしは兄さんたちに知ってほしいと思います。

11 それで主なる神は、イスラエルの家に属する者たちに聖約と福音をもたらし、やがて、すべての国民の目の前にその御腕を現されるのです。

12 それで主は、イスラエルの家の者たちを囚われの身から再び連れ出されます。彼らはその受け継ぎの地に集められます。そして暗闇[2]から、また暗黒から連れ戻されます。彼らは、主[3]が自分たちの救い[4]主、贖い主、イスラエルの力[5]ある者であることを知るのです。

13 また、全地の淫婦であるあの大きな忌まわしい教会[1]の人々の流した血は、彼ら自身の頭にはね返ります。彼らは互いに戦争[2]をして、自分の手に持つ剣を自分の頭上に落とし、自分自身の血を飲んで酔うからです。

14 おお、イスラエルの家よ、あなたと戦うすべての国民[1]は互いに敵対し、主の民を陥れようとして掘った穴に自分が落ち[2]てしまうでしょう。そしてシオンに向かって戦う[3]者は皆滅び、主の正しい道を曲げたあの大淫婦、まことに、あの大きな忌まわしい教会は地[1]に崩れ落ちますが、その倒れ方はひどいでしょう。

---

7 ①3ニファイ20・27 ②1ニファイ13・12−14、2ニファイ1・11
8 ①1ニファイ15・13−18、3ニファイ5・21−26、21・7 ②イザ29・14、1ニファイ14・7、2ニファイ27・26、GS「福音の回復」 ③2ニファイ10・10−11、3ニファイ16・4−7、モルモン5・19
9 ①1ニファイ14・1−5 ②2ニファイ29・13−14、2ニファイ30・1−7 ③GS「アブラハムの聖約（契約）」 ④創世12・2−3、3ニファイ20・27、アブ2・9−11 ⑤申命4・31 ⑥イザ52・10
10 ①GS「イスラエルの集合」
12 ①GS「暗闇（霊的な）」 ②2ニファイ6・10−11 ③GS「救い主」 ④GS「エホバ」 ⑤GS「悪魔−悪魔の教会」
13 ①1ニファイ14・3、15−17 ②1ニファイ21・10−14 ③1ニファイ21・26
14 ①イザ60・12、1ニファイ22・3、教義109・25 ②2ニファイ10・13、27・3 ③3イザ25・12 ④3

15 まことに、預言者は言っています。『サタンがもはや人の子らの心を支配できなくなる時が、速やかに来る。すべて高ぶる者と悪を行う者がわらのようになる日が、すぐに来るからである。彼らが焼かれる日が来る。

16 すべての人の子らに神の満ちみちる激しい怒りが注がれる日が、速やかに来る。神は、悪人が義人を滅ぼすのを許されないからである。

17 そのため神は、満ちみちる激しい怒りを下し、義人を守るために火をもって敵を滅ぼすことになっても、御自分の力によって義人を守られる。したがって、義人は恐れるには及ばない。たとえ火によってでも、彼らは救われるであろう。』預言者はそのように言っています。

18 まことに、兄さんたち、あなたがたに言います。これらのことは間もなく必ず起こります。まことに、血と、火と、立ち込める煙は必ず及びます。これらのことは、この大地の面で起こるに相違なく、人々がイスラエルの聖者に対して心をかたくなにするならば、肉において人々に及ぶのです。

19 まことに義人は滅びません。シオンに敵対して戦う者たちがすべて絶たれる時が、必ず来るからです。

20 そして主は、確かに御自分の民のために方法を設けて、モーセの言葉を成就されます。モーセは言いました。『主なるあなたがたの神は、あなたがたのために、わたしのような預言者を一人お立てになる。その預言者があなたがたに語るすべてのことに耳を傾けなさい。その預言者に耳を傾けない者はすべて、民の中から絶たれるであろう。』

21 さて、わたしニーファイはあなたがたに言明します。モーセが語ったこの預言者とはイスラエルの聖者のことです。ですからこの御方は、義をもって裁きをされます。

22 義人は打ち破られることのない人々ですから、恐れるには及びません。恐れるのは悪魔の王国であって、これは人の子らの中に築かれる王国で、肉体を持つ人々の中に設けられます。

23 利を得るために設けられるすべての教会、人のうえに支配権を得ようと設けられるすべての教会、世の人々の目にかなって評判を得るために設けられる教会、肉欲やこの世のものを求め、あらゆる罪悪

---

15 ①イザ5・23−24、ナホ1・10、マラ4・1、2ニフ15・24、26・4−6、教義64・23−24、133・64 ②詩篇21・9、3ニフ25・1、教義29・9、GS「地球（地）−地球の清め」
16 ①1ニフ14・17 ②1ニフ17・33−40 2ニフ30・10、モセ7・61
17 ①ヨハ4・19、7・40 ②教義133・63
18 ①使徒3・20−23、1ニフ10・4、3ニフ20・23 ②詩篇98・9、モセ6・57
23 ①1ニフ14・10、2ニフ26・20、GS「偽善売教」 ②ルカ6・26、アル1・3

を行う教会、要するに、悪魔の王国に属するすべての教会が恐れて震えおののく日が、速やかに来ます。これらの教会は地に引き倒され、わらのように焼き尽くされなければならないのです。これはあの預言者の言葉のとおりです。

24 また、義人が牛舎から出る子牛のように必ず導かれ、イスラエルの聖者が主権と威勢と力と大いなる栄光をもって必ず統治される日が、速やかに来ます。

25 そして聖者は、地の四方からその子らを集め、その羊を数えられ、羊は聖者を知るようになります。それから一つの群れ、一人の羊飼いとなって、聖者は御自分の羊を養われ、羊は聖者によって牧草を見いだします。

26 また、聖者の民の義のために、サタンはまったく力を持たず、長い年月にわたって解き放されることはありません。民が義のうちに住み、イスラエルの聖者が統治されるので、サタンは彼らの心を支配する力を持たないからです。

27 さてまことに、わたしニーファイはあなたがたに言います。これらのことはすべて、必ず肉において起こるのです。

28 しかしまことに、すべての国民、部族、国語の民、民族は、もしも悔い改めるならば、イスラエルの聖者によって安全に暮らせるでしょう。

29 ところでわたしニーファイは、これらのことについてあえてこれ以上語ろうと思わないので、これで終わりにします。

30 そこで兄さんたち、わたしはあなたがたに、真鍮の版に書き記されている事柄が真実であることを知ってほしいのです。これらの事柄は、人が神の戒めに従順でなければならないことを証しています。

31 ですから、わたしと父だけが証をし、神の戒めを教えたのだと考える必要はありません。あなたがたは、神の戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に救われるでしょう。まことにそのとおりです。アーメン。」

---

23 ③ 2ニフ28・19
24 ① 2ニフ26・6
② アモ6・4、マラ4・2、3ニフ25・2
25 ① GS「イスラエルの集合」
② GS「良い羊飼い」
③ 詩篇23篇
26 ① 黙示20・2、アル48・17、教義43・31、45・55、88・110、101・28、GS「悪魔」
② ヤコ5・76
③ GS「福千年」
28 ① GS「悔い改め」「赦し」
30 ① 2ニフ4・2
31 ① マタ19・17、GS「戒め（神の）」

ニーファイ第二書

リーハイの死。ニーファイの兄たち、ニーファイに背く。主、ニーファイに荒れ野へ立ち去るように警告される。荒れ野での旅など。

第1章

リーハイ、自由の地について預言する。リーハイの子孫は、イスラエルの聖者を拒むならば散らされ、打たれる。リーハイ、義の武具を身に着けるように息子たちに勧める。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 さて、わたしニーファイが兄たちに教え終えてから、父のリーハイもまた多くのことを兄たちに話し、主が彼らをエルサレムの地から連れ出すに当たり、どれほど大いなることをなさったかを彼らに語った。

2 父はまた、彼らが海の上で背いたことや、神が彼らを憐れんで、海にのみ込まれないように命を助けてくださったことについて、彼らに語った。

3 さらに父は、彼らが得た約束の地について話し、また、エルサレムの地から逃れるように警告してくださった主がいかに憐れみ深い御方であるかを、彼らに語った。

4 見よ、父は言った。「わたしは示現を受け、エルサレムがすでに滅びてしまったことを知っている。エルサレムに残っていたら、わたしたちもまた滅びていたであろう。」

5 父は言った。「しかし、わたしたちはいろいろな苦難に遭ったにもかかわらず、約束の地を手に入れた。これはほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地であって、主なる神がわたしの子孫の受け継ぎの地としてわたしに聖約してくださった地である。まことに、主はこの地を、わたしやわたしの子孫にとこしえに下さると聖約され、また主の御手によってほかの国々から導かれて来るすべての人にも与えると聖約された。

6 それでわたしリーハイは、わたしの内にある御霊の働きによって預言する。すなわち、主の御手によ

ニーファイ第二書
第1章
1 (1) GS「族長」
2 (1) 1ニフ18・9—20
4 (1) GS「示現」
(2) 列下24・14—15、エレ44・2、1ニフ1・4、ヒラ8・20
5 (1) (3) アル9・22
(2) エテ2・9—10
(3) GS「約束の地」
(2) GS「聖約（契約）」

って導かれて来るのでなければ、だれもこの地に来ることはない。

7 したがって、この地は主が連れて来られる者のために聖別されている。もしこの人々が主から与えられた戒めに従って主に仕えるならば、ここは彼らにとって自由の地となり、彼らは決して囚われの身に陥ることがないであろう。もし囚われの身に陥るならば、それは罪悪のためである。罪悪がはびこるとき、地は罪悪を犯す人々のためにのろわれるが、義人のためにはとこしえに祝福されるからである。

8 見よ、この地を今なおほかの国民に知られないようにしておくのは、賢いことである。見よ、多くの国民が群がって来て、受け継ぎの地がなくなってしまうからである。

9 それで、わたしリーハイは約束を受けている。すなわち、主なる神によってエルサレムの地から連れて来られる人々は、主の命令を守るかぎりこの地の面で栄え、またほかのすべての国民からも離されて、この地を自分のものとして所有する。そして彼らは、主の命令を守るならばこの地で祝福を受け、彼らを苦しめる者はなく、またその受け継ぎの地を取り上げる者もなく、とこしえに安全に暮らせるのである。

10 しかし見よ、彼らが主の御手から非常に大きな祝福を受けた後、すなわち、彼らが地とすべての人の創造についての知識を得、世の創造以来の主の大いなる驚くべき業を知り、信仰によってすべてのことを行う力を与えられ、世の初めからの戒めをことごとく授かり、しかも主の限りない慈しみによってこの貴い約束の地へ連れて来られた後に、不信仰に陥る時が来ると、見よ、わたしは言うが、もし彼らがまことのメシヤ、彼らの贖い主、彼らの神であるイスラエルの聖者を拒む日が来れば、公正な神の裁きが彼らにとどまるであろう。

11 まことに主は、彼らのもとにほかの国民を連れて来て力を授けられる。そして、彼らは所有している地を取り上げられ、散らされ、打たれる。

12 まことに、世代が移るにつれて、彼らの中に流血があり、大きな刑罰が下る。だから息子たちよ、覚えておいてほしい。まことに、わたしの言葉に聞き従ってほしい。

13 おお、あなたがたは目を覚ましていてもらいたい。深い眠りから、すなわち地獄の眠りから目覚め

---

6 ① 2ニフ10・22
7 ① モサ29・32、アル46・10
② 2ニフ10・11、GS「自由」
③ アル45・10－14、16、モル1・17、エテ2・8－12
9 ① 2ニフ4・4、アル9・13
② ③ 申命29・9
10 ① GS「従順、従う」
② GS「メシヤ」
11 ① 1ニフ13・12－20、モル5・19－20
12 ① ② 1ニフ22・7
13 ① 11 モル1・11－19、4・GS「地獄」

て、あなたがたを縛っている恐ろしい[2]鎖を振り払い
なさい。その鎖は人の子らを縛って、不幸と災いの
永遠の[3]淵に連れ去る鎖である。
14 目を覚ましなさい。そして地から立ち上がり、お
ののく[1]父の言葉を聞きなさい。あなたがたは間もな
く父の体を冷たい無言の[2]墓に横たえなければならな
い。そこからはどんな旅人も決して戻って来ること
ができない。あとわずかで、わたしは世のすべての
人のたどる[3]道を行く。
15 しかし見よ、主はわたしを地獄から[1]贖ってくださ
った。わたしは主の栄光を見た。そして、主の[2]愛
の[3]御腕に永遠に抱かれている。
16 わたしは、あなたがたが主の[1]掟と裁決を忘れずに
守ることを願っているが、まさにこれは、初めから
わたしの心配していたところである。
17 わたしの心は時々、悲しみに押しつぶされるよう
であった。それは、あなたがたの心がかたくななた
めに、主なるあなたがたの神が満ちみちる[1]激しい怒
りを下されて、あなたがたが[2]絶たれ、とこしえに滅
ぼされてしまうのではないかと恐れてきたからであ
る。
18 あるいは、[1]多くの代にわたってのろいがあなたが
たに及び、剣や飢饉に見舞われ、忌み嫌われ、ま
た[2]悪魔の意志に惑わされ、捕らえられはしないかと
恐れてきたからである。
19 おお、息子たちよ、これらのことがあなたがたに
及ぶことなく、あなたがたが主に[1]選ばれた愛される
民となるように願っている。しかし見よ、[2]主の道は
とこしえに義であるから、御心が行われるように。
20 主は『あなたがたはわたしの[1]命令を[2]守るかぎり地
に[3]栄える。しかし、わたしの命令を守らなければ、
わたしの前から絶たれる』と言われた。
21 さて、わたしの霊があなたがたにあって喜びを得
て、あなたがたのことを喜びながらこの世を去るこ
とができるように、また、わたしの心が憂いや悲し
みを抱いて墓に入ることのないように、息子たち
よ、地から立ち上がって、[1]男らしくありなさい。そ
して[2]思いを一つにし、心を一つにして決意を固め、
あらゆることに結束しなさい。これはあなたがたが
囚われの身に陥らないためである。
22 また、ひどいのろいをもってのろわれないためで
あり、[1]公正な神の不興を自分に招いて、滅びを、ま

13 ② アル12・9−11
③ 1ニフ15・28−30、ヒラ3・29−30
14 ① GS「親」
② GS「死（肉体の）」
③ ヨシ23・14
15 ① アル36・28、GS「贖罪」
② ロマ8・39、GS「愛」
③ ヤコ6・5、アル5・33、3ニフ9・14
16 ① 申命4・5−8、2ニフ5・10−11
17 ① 2ニフ5・21−24、アル3・6−19
② モサ12・8
18 ① 1ニフ12・20−23
② GS「悪魔」
19 ① GS「選ばれた者」
② ホセ14・9
20 ① レビ26・3−14、ヨエ2・23−26
② ジェロ1・9、モサ1・6−7、アル9・13−14
③ 詩篇67・6、モサ2・21−25
21 ① サ上4・9、列上2・2
② モセ7・18
22 ① 教義3・4

ことに霊と体の両方の永遠の滅びを受けることのないようにするためである。

23 目を覚ましなさい、息子たちよ。義の武具[1]を身に着けなさい。あなたがたを縛っている鎖を振り払い、暗闇を抜け出て、地から立ち上がりなさい。

24 これからはもう、あなたがたの弟に背かないようにしなさい。彼の見た示現は荘厳なものであって、彼はわたしたちがエルサレムを出たときから神の命令を守り、神の御手に使われる者としてわたしたちを約束の地へ導いて来た。もし彼がいなかったなら、わたしたちはきっと荒れ野で飢え死にしていたであろう。にもかかわらず、あなたがたは彼の命を奪[2]おうとした。そして、彼はあなたがたのためにひどく憂い悲しんだ。

25 わたしは、この後またニーファイが苦しむのではないかと、見よ、あなたがたのことで非常に恐れおののいている。それはあなたがたが、彼があなたがたを支配する権力[1]と権能を求めたと言って彼をひどく責めてきたからである。しかしニーファイは、あなたがたを支配する権力と権能を求めたのではなく、神の栄光とあなたがた自身の永遠の幸いを求めてきたのである。わたしはそのことを知っている。

26 あなたがたは、彼がはっきり言ったのでつぶやいた。あなたがたは、彼が厳[1]しかった、自分たちに対して怒ったなどと言う。しかし見よ、彼の厳しさは、彼の内にある神の御言葉の力の厳しさであって、またあなたがたの言う怒りとは、神の内にある真理にほかならない。それをニーファイは自ら抑えることができなくて、あなたがたの罪悪について大胆に明らかにしたのである。

27 神[1]の力が彼とともにあるのは必要なことであって、彼が命じたことにあなたがたは従わなければならない。しかし見よ、彼が口をつぐむことができないほど彼の口[2]を開いて語らせたのは、彼自身ではなく、彼の内にある主[3]の御霊であった。

28 さて、わたしの息子レーマン、それにレムエル、サム、ならびにイシマエルの息子であるわたしの息子たちよ。見よ、あなたがたがニーファイの声に聞き従うならば、滅びないであろう。そして彼に聞き従うならば、わたしはあなたがたに祝福[1]を、それも第一の祝福を残そう。

29 しかし、もしあなたがたが彼に聞き従わないなら

---

23 ① エペ 6・11－17
24 ① 1ニフ 16・32
② 1ニフ 16・37
25 ① 創世 37・9－11
26 ① 箴言 15・10、1ニフ 16・2、モロ 9・4、教義 121・41－43
27 ① 1ニフ 17・48
② 教義 33・8
③ 教義 121・43
28 ① GS―長子の特権・生得権

ば、わたしは第一[1]の祝福、まことにわたしの祝福を取り上げて、それをニーファイに授けよう。

30 さて、ゾーラムよ、わたしはあなたに告げる。見よ、あなたはラバンの僕[1]であったが、エルサレムの地から連れて来られた。わたしはあなたが息子ニーファイにとって、とこしえに真の友であることを知っている。

31 したがって、あなたが忠実であったので、あなたの子孫はニーファイの子孫とともに祝福を受けて、長くこの地の面に住んで栄えるであろう。[1] そしてあなたの子孫の中で罪悪が行われないかぎり、この地の面で栄えるのを損なったり阻害したりする者は、とこしえにないであろう。

32 それで、あなたがたが主の命令に従うならば、主はこの地を聖別し、あなたの子孫をわたしの息子の子孫とともに、安全に守ってくださるであろう。」

第2章

贖いは聖なるメシヤを通してもたらされる。選択の自由は存在と進歩にとって欠かせない。アダムが堕落したのは人が存在するためである。人は自由と永遠の命を選ぶことを許されている。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 「さて、ヤコブよ、わたしはあなたに告げる。あなたは、わたしが荒れ野で艱難に遭っていたときに[1]最初に生まれた子である。見よ、あなたは、幼いとき、あなたの兄たちが乱暴なためにひどい苦難を味わい、つらい思いをした。

2 しかしながら、荒れ野で最初に生まれたわたしの子ヤコブよ、あなたは神の偉大さを知っている。神はあなたの苦難を聖別して、あなたの益としてくださる。

3 そのため、あなたは祝福されて、兄ニーファイとともに安全に暮らすであろう。そして、神に仕えて生涯を送るであろう。それでわたしは、あなたが贖い主の義によって贖われていることを知っている。それは、時が満ちると人に救いをもたらすために贖い主が来られることを、あなたが見たからである。

4 またあなたは、若いときに贖い主の栄光を見た。だからあなたは、贖い主が肉にあって教え導かれるときにそれを受ける人々と同じように幸いである。

29 (1) アブ1・3
30 (1) 1ニフ4・20、35
31 (1) 2ニフ5・6
第2章
1 (1) 1ニフ18・7
4 (1) 2ニフ11・3、ヤコ7・5

それは、御霊は昨日も、今日も、またとこしえに変わらない御方だからである。人の堕落以来、方法が用意されており、救いは無料である。

5 人は善悪をわきまえることを十分に教えられている。また、人には律法が与えられている。しかし、この律法によって義とされる者はだれもいない。すなわち、この律法によって人は絶たれるのである。まことに、現世にかかわる律法によって人は絶たれ、また霊にかかわる律法によっても人は良いものから絶たれて、とこしえに惨めな状態になる。

6 したがって、贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。それは、メシヤが恵みと真理に満ちておられるからである。

7 見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。

8 したがって、これらのことを地に住む者に知らせて、聖なるメシヤの功徳と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないことに気づかせるのは、何と大切なことであろうか。聖なるメシヤは、肉において御自分の命を一度捨て、そして、死者の復活をもたらすために御霊の力によって再びそれを得て、最初によみがえる者となられる。

9 したがって、メシヤは神にとって初穂となられるので、すべての人の子らのために執り成しをしてくださる。だから、メシヤを信じる者は救われるのである。

10 また、すべての人への執り成しがあるので、人は皆、神のみもとに来る。そのため、彼らは神の御前に立ち、神の内にある真理と聖さによって裁かれる。したがって、聖者が授けられた律法の目的は、定められた罰の執行にあり、贖罪の目的を達するために定められた罰を科することは、同じ目的で定められている幸福を与えることと相対している。

11 それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。荒れ野で最初に生まれた息子よ、もし事物に反対のものがなければ、義は生じ得ないし、邪悪も、聖さも惨めな状態も、善も悪も生じ得ない。そうすると、すべての事物は混じり合って一つとならざるを得ない。したがって、事物が一

---

1. 1) ぜんあく
2. 1) むりょう
3. 1) ぎせい
4. 1) めぐ
5. 1) あがない
2. 1) もくてき
3. 1) もくてき
4. 1) しょくざい
5. 1) はんたい

4 ① 1) GS「恵み」
5 ① 1) モロ 7・16
② 1) ロマ 3・20、2 ニフ 25・23、アル 42・12−16、GS「義認・義とされる」
③ GS フ 9・6、2 ニフ 1・10・6、2 ニフ 10・24、アル 11・40−45、12・16、38、42・6
6 ① 1) 1 ニフ 10・6、2 ニフ 25・20、アル 12・22−11、ヒラ 14・15−18
② 1) 2 ニフ 25・20、GS「贖いの計画」
③ GS「メシヤ」ヨハ 1・14、17、モセ 1・6
7 ① 1) GS「贖罪」
② 1) ロマ 10・4
8 ① 1) 2 ニフ 25・20、31・21、モサ 4・8、5・8、アル 38・9
② 1) 1 コリ 15・20、アル 7・12、12・24−25、42・23、GS「復活」
9 ① 1) イザ 53・1−12、モサ 14・12、15・8−9
10 ① 1) GS「贖い主」
② GS「聖い」
③ GS「最後の裁き」
④ 2 ニフ 9・7、21−22、26、アル 22・14、33・34・9
11 ① 1) 教義 29・39、122・5−9、GS「逆境」

体となるならば、生も死も、朽ちる状態も朽ちない状態もなく、幸不幸も、意識も無意識もなく、死んだ状態で続かなければならない。

12 そうすると、すべての事物は無用に造られたということになり、したがって、創造には何も目的がなかったことになる。そのため、この一体となった事物は神の知恵とその永遠の目的、また神の力と憐れみと公正を滅ぼしてしまうに違いない。

13 もし律法がないと言うならば、罪もないと言わなければならない。もし罪がないと言うならば、義もないと言わなければならない。そして、もし義がなければ、幸福はない。そして、義も幸福もなければ、罰も不幸もない。そしてこれらのものがなければ、神は実在しない。神が実在しなければ、わたしたちは存在せず、大地もない。なぜならば、作用するものも作用されるものもなく、事物の創造はあり得なかったからである。そこで、すべての事物は消えうせていたに違いない。

14 さて、息子たちよ、わたしがこれらのことをあなたがたに話すのは、あなたがたの利益となり知識となるようにするためである。それは、神が実在し、すべての事物を、すなわち天地とその中にある万物を、作用するものも作用されるものも創造されたからである。

15 また、神がわたしたちの最初の先祖と野の獣と空の鳥、要するに、創造されて現在あるすべての事物を創造された後、人の行く末にかかわる永遠の目的を達するために反対のものが備えられなくてはならなかった。すなわち、禁断の実に対しては命の木というようであって、一方は甘く他方は苦かった。

16 そのようにして、主なる神は思いのままに行動することを人に許された。しかし人は、一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ、思いのままに行動することはできなかった。

17 わたしリーハイは、自分が読んだことから考えるのだが、記録にあるとおり神の一人の天使が天から落ち、彼は神の御前で邪悪なことを求めたので、悪魔になったと思わざるを得ない。

18 彼は天から落ちて、とこしえに惨めな状態になったので、全人類もまた惨めな状態にしようとした。そこで彼、すなわち悪魔であり、あらゆる偽りの父である、あの年を経た蛇は、エバに、『禁断の実を食

12 ① 教義88・25—26、GS「地球（地）—人のために創造された」 ② GS「正義」
13 ① ② 2ニフ9・25 ② アル42・13
14 ① ② 教義93・30 ② GS「創造・創造する」
15 ① イザ45・18、アル42・26、モセ1・31、39 ② 創世2・16—17、モセ3・17 ③ 創世3・6、アル12・21—23 ④ 創世2・9、1ニフ15・22、36、アル32・40
16 ① ② 2ニフ10・23、アル12・31、GS「選択の自由」 ② 教義29・39—40、GS「悪魔」
17 ① ② イザ14・12、2ニフ9・8、モセ4・3—4、アブ3・27—28 ③ GS「悪魔」
18 ① ② 2ニフ28・19—23、3ニフ18・18、教義10・22—27 ② 2ニフ28・8、モセ4・4 ③ GS「エバ」

べなさい。あなたがたは死ぬことがなく、善悪[4]を知って神のようになるであろう』と言った。

19 アダムとエバは禁断の実を食べた[1]後、エデン[2]の園から追い出され、地を耕すことになった。

20 そして彼らは、子供をもうけ、まことに全地[1]の家族をもたらした。

21 また、人の子[1]らの命は、肉にある間に悔い改め[2]ることができるように、神の御心によって引き延ばされた。したがって、彼らの状態[3]は試しの状態となり、彼らの寿命は主なる神が人の子らに与えられた命令で長くされた。主なる神が、すべての人は悔い改めなければならないと命じられたからである。主なる神はすべての人に、先祖の背きのために彼らが道[1]に迷った状態にあることを示されたのである。

22 ところで見よ、アダムがもし背かなかったならば、彼は堕落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造されたすべてのものは、創造された後の状態そのままで存続したに違いない。また、すべてのものはとこしえに存続し、終わりがなかったに違いない。

23 そして、アダムとエバは子供[1]を持たなかったであろう。また、不幸を知らないので喜びもなく、罪を知らないので善も行わず、罪のない状態にとどまっていたであろう。

24 しかし見よ、すべての物事は、万事を御存じ[1]である御方の知恵によって行われてきた。

25 アダムが堕落[2]したのは人が存在するためであり、人が存在[3]するのは喜び[1]を得るためである。

26 そして時が満ちると、人の子らを堕落から贖う[1]ためにメシヤ[2]が来られる。人の子らは堕落から贖われているので、すでにとこしえに自由[3]となり、善悪を知るようになっている。彼らは、神が下された戒めによって、大いなる終わりの日に律法[4]に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。

27 そのため、人は肉においては自由[1]であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命[2]を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。

---

18 ④ 創世 3・5、アル 29・5、モロ 7・15－19
19 ① アル 12・31、GS「堕落（アダムとエバの）」
② GS「エデン」
20 ① 教義 138・38－39
② アル 12・24、モセ 4・21 ① 23－25
② アル 34・32、GS「悔い改め」
③ GS「死すべき状態」
④ ヤコ 7・12
23 ① モセ 5・11
24 ① GS「神」「神会」
25 ① GS「アダム」
② モセ 6・48、GS「堕落（アダムとエバの）」
③ GS「死すべき状態」
④ モセ 5・10、GS「人」「喜び」
26 ① GS「贖いの計画」
② GS「メシヤ」
③ アル 42・27、ヒラ 14・30
④ GS「律法」
27 ① ガラ 5・1、モセ 6・56
② GS「永遠の命」
③ GS「選択の自由」

28 ところで、息子たちよ、わたしはあなたがたが偉大な仲保者[1)ちゅうほしゃ]に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であって、主の聖なる御霊の御心に添って永遠の命を選んでほしいと思っている。29 肉の思いとその中に潜む悪に従って、永遠の死を選んではならない。肉の思いは、悪魔の霊に力を与え、あなたがたを捕らえて[1)と]地獄[2)じごく]に落とし、悪魔は彼自身の王国であなたがたを支配するであろう。30 息子たちよ、わたしは自分の試しの生涯が終わろうとするに当たって、これらのわずかな言葉を、あなたがたすべての者に告げておく。わたしは預言者の言葉に従って善なるものを選んできた。わたしには、あなたがたの永遠の幸いを願う以外に何の目的もないのである。アーメン。」

第3章

エジプトにおいてヨセフは示現でニーファイ人を見た。ヨセフは、末日の聖見者ジョセフ・スミスと、イスラエルを救い出すモーセと、世に出る『モルモン書』について預言した。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 「わたしの末[1)すえ]の子であるヨセフよ、わたしはあなたに告げる。あなたはわたしが苦難に遭った荒れ野で生まれた。まことに、わたしが大いに嘆き苦しんでいたころに、あなたの母はあなたを産んだ。2 あなたとあなたの子孫がイスラエルの聖者の戒めを守ることにより、主があなたの受け継ぎとして、またあなたの同胞とともにあなたの子孫が受け継ぐ地として、またとこしえに安全な地として、最も貴い地であるこの地[1)ち]を聖別してくださるように。3 さて、わたしが苦難に遭った荒れ野から連れて来た末の子ヨセフよ、主がとこしえにあなたを祝福してくださるように。あなたの子孫がことごとく滅びてしまうことはないであろう。4 見よ、あなたはわたしの腰から出た者であり、また囚われの身[1)とら]となってエジプトへ連れて行かれたヨセフの子孫だからである。主がヨセフに立てられた聖約は偉大である。5 すなわち、ヨセフはまことにわたしたちの時代を見た。そしてヨセフは、主なる神[1)み]がイスラエルの家のために、ヨセフの腰から出た者の中から一本の義[2)ぎ]にかなった枝[3)えだ]を起こされるという、主の約束を

---

28 ①GS「仲保者」 ②ロマ6・16−18、アル29・12・11、GS「地獄」
第3章
1 ①1ニフ18・7 ②1ニフ2・20、GS「約束の地」
3 ①2ニフ9・53 ②創世37・29−36
4 ①創世39・1−2、45・4、49・22−26、1ニフ5・14−16、JS創世50・24−38、2ニフ4・1−2 ②ヤコ2・25 ③創世49・22−26、1ニフ15・12、19・24、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」

受けた。その枝というのはメシヤではなく、折り取られる一本の枝のことである。この枝は、折り取られるにもかかわらず、主の聖約の中で思い起こされる。その聖約とは、彼らを暗闇から光に連れ出すために、まことに隠れた[1]暗闇と束縛から自由へ連れ出すために、メシヤが力の霊によって[5]末日にその御姿を彼らに現されるというものである。

6 ヨセフはまことに証して言った。『主なるわたしの神は、一人の聖見者を立てられる。それは、わたしの[2]腰から出た者のためのえり抜きの聖見者である。』

7 まことに、ヨセフはまた言った。『主はわたしにこう言われた。「わたしはあなたの腰から出た者の中から、一人のえり抜きの[1]聖見者を立てよう。彼はあなたの腰から出た者の中で大いに尊ばれるであろう。わたしはその聖見者に、彼の同胞であるあなたの腰から出た者のために一つの業を行うように命じよう。その業は、彼らにとって大いに価値のあるものであり、わたしがあなたの先祖と交わした聖約をあなたの腰から出た者に知らせるものである。

8 わたしはその聖見者に、わたしが命じる業のほかには[1]何の業も行わないように命じよう。彼はわたしの業を行うので、わたしは彼を、わたしの目にかなった偉大な者としよう。

9 その聖見者は[1]モーセのように偉大である。モーセとは、わたしの民を[2]救い出すために、おお、イスラエルの家よ、わたしがあなたのために立てると言っておいた者である。

10 わたしはモーセを立てて、あなたの民をエジプトの地から救い出そう。

11 しかし、わたしはあなたの腰から出た者の中から一人の聖見者を立て、わたしの言葉をあなたの腰から出た子孫に伝える[1]力を彼に授けよう。また、わたしの言葉を伝えるだけでなく、すでに彼らの中に伝わっているわたしの言葉を確信させる力も授けよう。

12 そのために、あなたの腰から出た者は書き記す。またユダの[2]腰から出た者も書き記す。そして、あなたの腰から出た者が書き記すものと、ユダの腰から出た者が書き記すものは一つに合わされて、偽りの教義を[4]打ち破り、争いを鎮め、あなたの腰から出た者の中に平和を確立し、また末日に先祖について

---

5 ④ イザ 42・16
5 ⑤ 2ニフ 6・14、教義 3・16−20
6 ① 3ニフ 21・8−11、モル 8・16、GS「聖見者」
6 ② 教義 132・30
7 ① GS「ヨセフ、ジュニア」
8 ① 教義 24・7、9
9 ① モセ 1・41
9 ② 出エ 3・7−10、1ニフ 17・24
11 ① 教義 5・3−4
12 ① GS「モルモン書」
12 ② 1ニフ 13・23−29
12 ③ GS「聖書」
12 ④ エゼ 37・15−20、1ニフ 13・38−41、2ニフ 29・8、33・10−11

の知識を彼らに与え、そしてまた、わたしの聖約についても知らせる。」主はそう言われる。

13 「おお、イスラエルの家よ、あなたを元どおりにするために、わたしの業がわたしのすべての民の中で始まるその日、その聖見者は弱さを強くされる」と主は言われる。』

14 またヨセフは次のように預言した。『見よ、主はその聖見者を祝福される。わたしがわたしの腰から出た者について主から頂いたこの約束は、必ず果たされるので、その聖見者を滅ぼそうとする者は打ち破られる。見よ、わたしは、この約束が果たされることを確信している。

15 その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。そして、彼はわたしのようである。主が彼の手により、主の力によってもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。』

16 まことにヨセフは、次のように預言した。『わたしは、モーセについての約束を確信しているように、このことも確信している。それは主が、「あなたの子孫をとこしえに守ろう」とわたしに言われたからである。

17 また、主は言われた。「わたしはモーセを立てよう。そして、杖をもって彼に力を与え、また明瞭に書き記す力も彼に与えよう。しかしわたしは、彼の舌を緩めて、彼がよく語れるようにはしない。わたしは彼を、語るに力ある者とはしないからである。しかしわたしは、自分の手の指でわたしの律法を彼に書き与え、また彼のために一人の代弁者を備えよう。」

18 主はまたわたしに言われた。「わたしはあなたの腰から出た者のために聖見者を立て、また彼のために一人の代弁者を備えよう。そして見よ、わたしはその聖見者に、あなたの腰から出た者の書き記したものをあなたの腰から出た者に書き伝えさせる。また、あなたの子孫の代弁者がそれを告げ知らせる。

19 その聖見者が書き記す言葉は、わたしの知恵にかなって、あなたの腰から出た者に伝わる言葉である。それはあたかも、あなたの腰から出た者が、地から叫んでいるかのようである。わたしは、彼らの信仰を知っているからである。

20 あなたの腰から出た者は、地から叫ぶ。すなわち、

12 ⑤ 1ニフ15・14、2ニフ30・5、モル7・1、5・9−10
15 ①②⑥ モロ1・4 教義18・8 ジ−歴史1・3
16 ① 創世45・1−8
17 ① 申命10・2、4、モセ2・1
19 ①② 出エ4・16 教義28・8
19 ②③ イザ29・4、2ニフ27・13、33・13、モル9・30、モロ10・27
20 ① 2ニフ26・16、モル8・23

多くの時代が過ぎてから、彼らの同胞に悔い改めを叫ぶ。そして、彼らの叫びは分かりやすい言葉で伝わる。

21 彼らの信仰のゆえに、彼らの言葉[1]はわたしの口から出て、あなたの腰から出た者である彼らの同胞に伝わる。わたしは彼らの言葉の弱いところを、彼らの信仰のゆえに強くし、わたしがあなたの先祖と交わした聖約を思い起こさせよう。」』

22 さて見よ、わたしの息子ヨセフよ、わたしの遠い先祖はこのように預言[1]した。

23 したがって、あなたはこの聖約によって祝福されている。あなたの子孫はその書物の言葉に聞き従うので、滅ぼされないからである。

24 あなたの子孫の中に、一人の力ある者が現れる。その者は神の御手に使われる者として、篤い信仰をもって、言葉にも行いにも大いに善をなし、偉大な驚嘆すべきことを行い、また神の目に大いなることを行い、イスラエルの家とあなたの兄たちの子孫に対して十分な回復をもたらす。

25 さて、ヨセフよ、あなたは幸いである。見よ、あなたはまだ若いので、兄のニーファイの言葉に聞き従いなさい。そうすれば、わたしの語った言葉のとおりになるであろう。もうすぐこの世を去ろうとする父の言葉を覚えておきなさい。アーメン。」

第4章

リーハイ、子孫に勧告と祝福を残す。その後、死んで葬られる。ニーファイ、神の慈しみを喜び、とこしえに主に信頼を寄せる。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、エジプトに連れて行かれたヨセフ[1]に関し、父が語った預言について述べる。

2 見よ、ヨセフは自分のすべての子孫について預言した。そして、彼の書き記した預言[1]に勝るものは少ない。彼はわたしたちと、わたしたちの将来の子孫について預言した。その預言は真鍮の版に書き記されている。

3 それで父は、ヨセフの預言について語り終えると、レーマンの子供、すなわちレーマンの息子、娘たちを呼び寄せて言った。「見よ、わたしの長男の[1]

21① 2ニフ29・2
22① 2ニフ3・5
第4章
1① 創世39・1－2
2① 2ニフ3・5
3① GS「長子・初子」

息子や娘であるわたしの孫たちよ、わたしの言葉に
耳を傾けてほしい。
4 それは主なる神が、『あなたがたは、わたしの命令
を守るかぎり地に栄える。しかし、わたしの命令を
守らなければ、わたしの前から絶たれる』と言われ
たからである。
5 しかし見よ、わたしの孫たちよ、わたしはあなた
がたに祝福を残さなければ、墓に入ることができな
い。見よ、わたしは、あなたがたが行くべき道に従
って育てられるならば、その道から離れないことを
知っているからである。
6 したがって、もしあなたがたがのろわれるなら
ば、見よ、そののろいがあなたがたから取り去られ
て、その責任が両親の頭に帰するように、わたしは
あなたがたに祝福を残す。
7 したがって、わたしの祝福のゆえに、主なる神は
あなたがたが滅びるのを許さず、あなたがたと子孫
を、とこしえに憐れんでくださるであろう。」
8 さて、父はレーマンの息子、娘たちに語り終える
と、次にレムエルの息子、娘たちを自分の前に連れ
て来させた。
9 そして、父は彼らに言った。「見よ、わたしの次男
の息子や娘である孫たちよ、見よ、わたしはレーマ
ンの息子、娘たちに残した祝福と同じ祝福をあな
たがたに残す。したがって、あなたがたはことごと
く滅ぼされてしまうことはなく、あなたがたの子孫
は、最後には祝福されるであろう。」
10 そして父は、彼らに語り終えると、見よ、イシマ
エルの息子たちと、またイシマエルの家のすべての
者に語った。
11 そして、彼らに語り終えると、父はサムに言った。
「あなたとあなたの子孫は幸いである。あなたは弟
のニーファイと同様に、地を受け継ぐからである。
あなたの子孫は、ニーファイの子孫とともに数えら
れる。そして、あなたは弟と同じようになり、あな
たの子孫は弟の子孫と同じようになる。そしてあな
たは生涯、祝福を受けるであろう。」
12 そして父リーハイは、自分の心に感じるままに、
また自分の内にある主の御霊に従って、自分の家の
すべての者に語った後、年老いて、死んで葬られた。
13 さて、父の死後幾日もたたないうちに、レーマン
とレムエル、それにイシマエルの息子たちは、主の

4 ① 2ニフ1・9
5 ① GS「族長」
② 箴言22・6
6 ① 教義68・25−29
7 ① 2ニフ30・3−6、教義3・17−18
② 1ニフ13・31、2ニフ10・18−19、ヤコ3・5−9、ヒラ15・12−13
10 ① 1ニフ7・6

勧告のことでわたしに腹を立てた。

14それは、わたしニーファイが主の言葉に促されて、やむを得ず彼らに語ったからである。わたしはそれまでに多くのことを彼らに語り、父も生前に多くのことを彼らに語ってきた。そして、語ったことの多くは、わたしの造ったほかの版に書き記してある。[1]わたしの造ったほかの版には、歴史に関する部分が多く書き記してあるからである。

15そしてこの版には、わたし自身のことと、真鍮の版に刻まれている聖文の多くを書き記す。わたしは聖文に喜びを感じるからである。[2]わたしの心は、[2]心に深く考え、わたしの子孫の[3]知識となり利益となるようにこれを書き記す。

16見よ、わたしは主に関することに[1]喜びを感じる。わたしの[2]心は、これまでに見聞きしたことを絶えず深く考えている。

17それでも、主が深い[1]慈しみを、大いなる驚くべき業の中でわたしに示してくださっているにもかかわらず、わたしの心は、「おお、わたしは何と[2]惨めな人間なのだろう」と叫ぶ。まことに、わたしの心はわたしの肉のために苦悩し、わたしの霊はわたしの罪悪のために嘆く。

18わたしは、非常にたやすくまとわりつく[1]誘惑と罪に取り囲まれている。

19そしてわたしが喜ぼうとすると、心は罪のためにうめき苦しむ。それでもわたしは、これまでに自分がだれに頼ってきたかを知っている。

20わたしを支えてこられたのは神である。神はわたしが荒れ野で苦難に遭っていたときに、いつもわたしを導き、また底知れない深みの海の上でも、わたしを守られた。

21神は、わたしの肉体が燃え尽きるほどに、わたしを[1]愛で満たされた。

22また、わたしの[1]敵を辱め、わたしの前で彼らの身を震えさせられた。

23見よ、神は、日中はわたしの嘆願を聞き、夜は[1]示現によってわたしに知識を授けられた。

24また日中、わたしは神の前に熱烈な[1]祈りを力強くささげ、まことにわたしの声を天に向かって上げた。すると天使たちが降って来て、わたしを教え導いた。

25わたしの体は神の御霊の翼に乗せられて、非常に

---

14 ① 1ニフ1・16−17、9・4
15 ① 1ニフ6・4−6 ② GS「聖文」「深く考える」
16 ① GS「感謝」 ② GS「心」 ③ 1ニフ19・23
17 ① 2ニフ9・10、教義86・11 ② ロマ7・24
18 ① ロマ7・21−23、ヘブ12・1、アル7・15 ② GS「愛」
21 ① 1ニフ17・52
22 ① GS「示現」
23 ① 新ヤコ5・16、1ニフ2・16
24 ① 1ニフ1・16−17、

高い山の上に運ばれて行った。そしてわたしの目は数々の偉大なことを、まことに人にとってあまりにも偉大すぎることを見た。そのためにわたしは、それらのことを書き記してはならないと告げられた。

26 おお、わたしがそれほど偉大なことを見たのであれば、そして主が、人の子らに対して御自身を低くして、それほど深い憐れみをもって人々を訪れてこられたとするならば、たとえわたしが苦難に遭ったからと言って、どうしてわたしの心が涙し、わたしの霊が悲しみの谷にとどまり、わたしの肉体がやせ衰え、わたしの力が弱くなってよいだろうか。

27 またわたしの肉のことで、どうして罪に負けてよいだろうか。まことに、どうして誘惑に負けて、悪しき者がわたしの心に入って、わたしの平安を破り、わたしの霊を苦しめるのを許してよいだろうか。わたしが敵のことで怒りを抱くのはなぜなのか。

28 目覚めよ、わたしの霊よ。もはや罪の中でしおれるな。喜べ、おお、わたしの心よ。もうわたしの敵に場所を与えてはならない。

29 わたしの敵のことで二度と怒ってはならない。苦難のために力を弱くしてはならない。

30 喜べ、おお、わたしの心よ。主に叫び求めて言え。「おお、主よ、わたしはとこしえにあなたをほめたたえます。まことに、わたしの神であり、わたしの救いの岩であるあなたを喜びます。

31 おお、主よ、わたしを贖ってください。わたしを敵の手からお救いください。わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください。

32 わたしの心は打ち砕かれており、わたしの霊は悔いていますので、地獄の門がいつもわたしの前に閉じていますように。おお、主よ、わたしが低い谷の道を歩み、しっかりと平坦な道を進むことができるように、わたしの前で義の門を閉ざさないでください。

33 おお、主よ、あなたの義の衣でわたしを包み込んでください。おお、主よ、わたしが敵の前から逃れられるように道を備えてください。わたしの前に道をまっすぐにしてください。つまずかせるものをわたしの道に置かず、わたしの前に道を開いてください。わたしの道を遮らず、敵の道をふさいでください。

---

25 ① 1ニフ11・1、モセ1・1−12
26 ① 詩篇43・5
27 ① ロマ6・13
② GS「誘惑」
③ GS「平安・平和」
28 ① GS「悪魔」
30 ① 1コリ3・11、GS「君」
31 ① ロマ12・9、アル13・12
32 ① GS「打ち砕かれた心」
② GS「歩む（神とともに）」

34 おお、主よ、わたしはあなたを頼ってまいりました。これからもとこしえに、あなたを頼ってまいります。わたしは肉の腕に[2]頼る者はのろわれることを知っているので、肉の腕には頼りません。[3]まことに、人に頼る者、すなわち肉を自分の腕とする者はのろわれます。

35 まことに、わたしは、神は求める者には惜しみなく与えられることを知っています。わたしが道理に外れた求め方をしなければ、わたしの神はわたしに与えてくださいます。それでわたしはあなたに声を上げ、まことに、わたしの神、わたしの義の岩であるあなたに叫び求めます。まことに、わたしの声はわたしの岩であり、永遠の神であるあなたのみもとに、とこしえに上ることでしょう。アーメン。」

第5章

ニーファイ人はレーマン人から分かれ、モーセの律法を守り、神殿を建てる。レーマン人は不信仰のために主の前から絶たれ、のろいを受け、ニーファイ人にとって鞭となる。紀元前約五百八十八年から五百五十九年に至る。

1 さて見よ、わたしニーファイは、兄たちが腹を立てたので、主なるわたしの神に切に叫び求めた。

2 しかし見よ、わたしに対する兄たちの怒りは激しくなり、彼らはわたしの命を奪おうとした。

3 まことに彼らは、わたしに向かってつぶやいて言った。「弟は我々を支配しようと思っている。我々は彼のためにひどい試練を受けてきた。見よ、もう弟の言葉で苦難を味わわなくても済むように、弟を殺してしまおう。我々は弟を支配者には決してさせない。この民を支配する権利は、兄の我々にある。」

4 ところでわたしは、兄たちがわたしに対してつぶやいた言葉のすべてをこの版に載せることはしない。ただ、彼らがわたしの命を奪おうとしたと言えば十分である。

5 さて、主はわたしニーファイに、彼らのもとを去って荒れ野へ逃げるように、またわたしとともに行きたい者も皆、そうするように警告された。

6 そこでわたしニーファイは、自分の家族と、ゾーラムとその家族、兄サムとその家族、弟のヤコブとヨセフ、わたしの姉妹たち、そのほかわたしとともに行きたい者たち全員を連れて出た。わたしととも

---

34 ①GS「信頼」 ②エレ17・5、モル3・9、4・8 ③詩篇44・6―8
35 ①新ヤコ1・5 ②ヒラ10・5 ③GS「祈り」 ④申命32・4
第5章
1 ①2ニフ4・13―14
3 ①1ニフ16・37―38、モサ10・14―15 ②GS「霊感」 ③1ニフ4・35、16・6 ④7、2ニフ1・30―32

に行くことを望んだ者たちは皆、神の2)警告と啓示を信じる者たちであったので、わたしの言葉に聞き従った。

7わたしたちは天幕と持てるものをすべて携えて、幾日も荒れ野を旅した。そして、幾日も荒れ野を旅した後、わたしたちは天幕を張った。

8そして、わたしの民がその地を1)ニーファイと呼ぶことを望んだので、わたしたちはその地をニーファイと名付けた。

9また、わたしとともにいた者たちは皆、自分たちを1)ニーファイの民と呼ぶことにした。

10わたしたちはモーセの律法に従って、何事にも主の裁決と掟と戒めを守るように努めた。

11そして、主がわたしたちとともにおられた。わたしたちは種をまき、豊かに収穫して、非常に栄えた。またわたしたちは、大小の家畜の群れと、あらゆる動物を飼い始めた。

12わたしニーファイは、1)真鍮の版に刻まれた記録と、前にわたしがこの版に刻んだとおり、主の手によって父のために備えられた2)球、すなわち3)羅針盤も持って来た。

13そこでわたしたちは、非常に栄えて、その地で増え始めた。

14それでわたしニーファイは、1)ラバンの剣を取り、それに倣って多くの剣を造った。それは今やレーマン人と呼ばれている2)民が、わたしたちを襲って滅ぼすことのないようにするためであった。彼らがわたしとわたしの子供たちと、またわたしの民と称する者たちを憎んでいることを、わたしは知っていたからである。

15わたしは民に、建物を建てることを教え、また非常に豊富にあった木材や1)鉄や銅、また真鍮や鋼や金や銀や貴重なあらがねなど、あらゆる材料で物を造り出すことを教えた。

16また、わたしニーファイは1)神殿を建てた。2)ソロモンの神殿に倣って建てたが、その違いは、建てるのにそれほど多く3)貴重な品を使わなかったことである。そのような貴重な品がこの地になかったため、ソロモンの神殿と同じようには建てることができなかった。しかし、建築の様式はソロモンの神殿と同じで、その造りは非常に見事であった。

17そしてわたしニーファイは、民を1)勤勉に働かせ、

---

6 ②GS「警告」
8 ①オム1・12、27、モサ9・1−4、28・1
9 ①ヤコ1・13−14
10 ①2ニフ11・4、GS「モーセの律法」
12 ①モサ1・3−4、GS「版」
②モサ1・16
26、③1ニフ16・10、16、38−47、教義17・1
14 ①1ニフ4・9、ヤコ1・10、モ言1・13
15 ①②GS「レーマン人」
エテ10・23
16 ①②GS「神殿・主の宮」
列上6章、歴下3章
③教義124・26−27
17 ①③創世3・19、教義42・

また手を使って働くようにさせた。

18 さて、民はわたしが彼らの[1]王になることを望んだ。しかしわたしニーファイは、彼らには王がない方がよいと思った。それでも、わたしの力の及ぶかぎり彼らのために尽くした。

19 見よ、主は兄たちについて、わたしが彼らを[1]治める者になり[2]教える者になると言われたが、その主の言葉はすでに成就していた。したがって、彼らがわたしの命を奪おうとしたときまで、わたしは主の命令どおりに彼らを治める者、教える者となっていたのである。

20 それで、主がわたしに言われた、「あなたの言うことに[1]聞き従わなければ、彼らは主の前から[2]絶たれる」という御言葉は成就した。見よ、彼らは御前から絶たれてしまったのである。

21 主はまた、彼らの罪悪のために、[1]のろいを彼らに下された。まことにひどいのろいを下された。見よ、彼らが主に対して心をかたくなにし、あたかも火打ち石のように硬くなってしまったからである。それで主なる神は、彼らが肌の白い、非常に麗しく[2]喜ばしい者たちであったので、わたしの民に誘惑とならないように、彼らの肌を[3]黒ずんだ肌にされた。

22 主なる神はこう言われる。「彼らが自分たちの罪悪を悔い改めなければ、わたしは彼らをあなたの民にとって[1]不快な者としよう。

23 彼らの子孫と[1]縁を結ぶ者の子孫はのろわれる。それらの者は同じのろいを受けるからである。」主はそう言われ、そのとおりになった。

24 彼らは、自分たちに下されたのろいのために、悪意と狡猾さに満ちた[1]怠惰な民となり、荒れ野で猛獣をあさった。

25 主なる神はわたしに言われた。「彼らはあなたの子孫にわたしのことを思い起こさせるため、あなたの子孫にとって鞭となるであろう。そして、あなたの子孫がわたしを覚えて、わたしの言葉に聞き従わなければ、彼らはあなたの子孫を、滅びに至るまで鞭打つであろう。」

26 さて、わたしニーファイはヤコブとヨセフを[1]任じ、彼らをわたしの民の地における祭司と教師にした。

27 そして、わたしたちは幸福に暮らした。

28 そして、わたしたちがエルサレムを去ってから三

---

18 (1) ヤコ1・9、11
19 (1) 1ニフ2・22
(2) GS「教える・教師」
20 (1) 2ニフ2・21
(2) アル9・14
21 (1) GS「のろい」
(2) 4ニフ1・10
(3) 2ニフ26・33、3ニフ2・14−16
22 (1) 1ニフ12・23
23 (1) GS「結婚−異なった信仰を持つ人との結婚」
24 (1) GS「怠惰」
26 (1) ヤコ1・18−19、モサ23・17

十年が過ぎた。
29わたしニーファイはこれまで、自分の造った版にわたしの民についての記録を付けてきた。
30そこで、主なる神はわたしに、「ほかに版を造り、あなたの民の益となるように、わたしの目に善しとする多くの事柄をそれに刻みなさい」と言われた。
31それでわたしニーファイは、主の命令に従い、行ってこの版[1]を造り、これらのことを刻んだ。
32わたしは神に喜ばれる事柄を刻んだ。もしもわたしの民が神にかかわる事柄を喜ぶならば、彼らはこの版にわたしが刻んだことも喜ぶであろう。
33また、もしもわたしの民が自分たちの歴史についてもっと詳しく知りたいならば、わたしの造ったほかの版を調べなくてはならない。
34しかし、もう四十年が過ぎ去り、兄たちとの間にすでに戦争や争いがあったと言えば、それで十分であろう。

第6章

ヤコブ、ユダヤ人の歴史を詳しく述べる。バビロニア捕囚と帰還。イスラエルの聖者の務めと十字架の刑。異邦人から受ける助け。ユダヤ人がメシヤを信じるときに起こる末日のユダヤ人の回復。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1ニーファイの弟ヤコブがニーファイの民に語った言葉。
2「見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは神から召され、神の聖なる位に従って聖任され、またあなたがたが王すなわち保護者として頼り、身の安全のよりどころとしているわたしの兄ニーファイによって任じられたので、あなたがたも知っているように、わたしは非常に多くのことをあなたがたに語ってきた。
3にもかかわらず、わたしはあなたがたの幸いを願って、あなたがたに再び話をする。まことに、わたしはあなたがたのことを非常に心配している。また、あなたがたも知っているように、わたしはこれまでも心配してきた。そのためにわたしは、力の限りあなたがたに説き勧め、父の言葉をあなたがたに教え、また、世界の創造以来書き記されてきたすべての事柄について、あなたがたに語ってきた。

30① 1ニフ19・1−6
31① GS「版」
第6章
2① ヤコ1・9、11

4ところで、見よ、わたしはあなたがたに、現在あることとこれから起こることについて話したいと思う。それで、イザヤ[1]の言葉を読んで聞かせよう。これらの言葉は、わたしがあなたがたに話すようにと兄が望んだものである。わたしは、あなたがたが神の御名を覚えてあがめるように、あなたがたのためを思ってこれを話す。

5さて、わたしがこれから読む言葉は、イザヤがイスラエルの家に属するすべての者について述べたものである。したがって、あなたがたはイスラエルの家の者であるので、それらをあなたがたにたとえて差し支えない。また、あなたがたはイスラエルの家の者であるので、イザヤが述べたことの中には、あなたがたにたとえて差し支えないものがたくさんある。

6ところで、イザヤの述べた言葉は次のとおりである。『[1]主なる神はこう言われる。「見よ、わたしは異邦人に向かって手を挙げ、もろもろの民に向かってわたしの[2]旗を掲げよう。すると彼らはあなたの息子たちを腕に抱き、あなたの娘たちを肩に乗せて来る。

7王たちはあなたの養父となり、王妃たちはあなたの養母となる。彼らは顔を地に向けてあなたに身をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあなたは、わたしが主であることを知る。わたしを[1]待ち望む者は恥を受けないからである。」』

8わたしヤコブは、これらの言葉について少し話したい。見よ、わたしたちは[1]エルサレムから出て来たのであるが、主は、そのエルサレムにいた人々がすでに殺され、また囚われの身となって[2]連れ去られたことを、わたしに示された。

9しかしながら、主は、彼らが再び[1]帰って来ることをわたしに示してくださった。またイスラエルの聖者である主なる神が、肉にあって彼らに御自身を現されることと、主が御自身を現された後、わたしに語った天使の言葉のとおりに、彼らが主を鞭打って[2]十字架につけることも、主はわたしにお示しになった。

10彼らがイスラエルの聖者に対して心をかたくなにし、強情になった後、見よ、イスラエルの聖者の[1]裁きが下る。そして彼らが打たれ、苦しめられる日が来る。

---

4 ① 3ニフ23・1
6 ① イザ49・22－23
② GS「旗」
7 ① モセ1・6、教義133・45
8 ① エス2・6、1ニフ7・13、2ニフ25・10、オム1・15、ヒラ8・20－21
② 列下24・10－16、25・1－12、GS「イスラエル－イスラエルの散乱」
9 ① 1ニフ10・3
② 1ニフ19・10、13、モサ3・9、3ニフ11・14－15、GS「十字架の刑」
10 ① マタ27・24－25

11 したがって彼らは、あちらこちらに追い立てられた後、天使が言うように、多くの者が肉にあって苦しみを受ける。しかし、忠実な者の祈りのおかげで、彼らは滅びることはない。彼らは散らされ、打たれ、嫌われるが、主が彼らに憐れみをかけられるので、彼らは自分たちの贖い主を知るようになるとき、再び受け継ぎの地に集められる。

12 この預言者が書き記している異邦人は、幸いである。見よ、彼らは悔い改めてシオンと戦わず、あの大きな忌まわしい教会に加わらなければ救われるからである。主なる神は御自分の子供たちと交わされた聖約を果たされるからである。預言者がこれらの事柄を書き記したのはこのためである。

13 したがって、シオンと、また主の聖約の民と戦う者たちは、これらの人々の足のちりをなめるであろう。しかし、主の民は恥を受けることはない。主の民は主を待ち望む者であり、今なおメシヤの来臨を待ち望んでいるからである。

14 見よ、この預言者の言葉によれば、メシヤは彼らを再び元に戻す業を始められる。それで、彼らがメシヤを信じる日が来ると、メシヤは力と大いなる栄光とをもって、彼らに御自身を現し、彼らの敵を滅ぼされる。またメシヤは、御自分を信じる者を一人も滅ぼされない。

15 メシヤを信じない者は、火と嵐と地震と流血と疫病と飢饉によって滅ぼされる。そして彼らは、主がイスラエルの聖者なる神であられることを知るのである。

16 『勇士から獲物をどうして取り返せようか。また正当な捕虜をどうして救い出せようか。』

17 しかし主はこのように言われる。『勇士の捕らえた捕虜さえ取り返され、荒々しい者に奪われたものさえ奪い返される。』力の神が御自分の聖約の民を救い出されるからである。主はこう言われる。『わたしはあなたと争う者と争う。

18 わたしはあなたを虐げる者に、彼ら自身の肉を食わせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように自分の血に酔う。こうしてすべての者は、主なるわたしがあなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力ある者であることを知るようになる。』」

---

11 ①1ニファ 22・11−12、2ニファ 9・2 ②ホセ 3・5 ③GS「イスラエル ― イスラエルの集合」
12 ①1ニファ 14・1−2、2ニファ 10・9−10 ②GS「悪魔 1 悪魔の教会」 ③GS「アブラハムの聖約（契約）」
13 ①3ニファ 22・4、イザ 40・31、1ニファ 21・23、教義 133・45 ②GS「アブラハムの聖約（契約）」
14 ①イザ 11・11、2ニファ 25・17、29・1 ②2ニファ 3・5 ③1ニファ 22・13−14
15 ①ヤコ 6・3 ②教義 97・22−26 ③2ニファ 10・16、28・3ニファ 16・8、GS「終わりの時 ― 末日」
16 ①イザ 49・24−26 ②第17節の主の聖約の民のこと
17 ①1ニファ 21・25 ②GS「エホバ」 ③列下 17・39
18 ①GS「贖い主」 ②創世 49・24、イザ 60・16

第7章

イザヤ、メシヤについて述べる。メシヤは博学な者の舌を持っておられる。また、打つ者に御自分の背を向けられる。メシヤは辱められることはない。イザヤ書第五十章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「まことに、主はこう言われる。『わたしはあなたを去らせたか。とこしえにあなたを捨てたか。』主は言われる。『あなたの母の離縁状はどこにあるか。わたしはあなたをだれのもとに去らせたか。どの債主にあなたを売り渡したか。わたしはだれにあなたを売り渡したか。見よ、あなたは自分の罪悪のために自分自身を売り渡し、あなたの母は、あなたの背きのために捨てられた。

2 それゆえ、わたしが来たときにはだれもいなかった。わたしが呼んだときに、まことに、答える者はだれ一人いなかった。おお、イスラエルの家よ、わたしの手が短くて贖うことができないのか。わたしには救う力がないのか。見よ、わたしは海をしかって干上がらせ、川を荒れ野とする。水が乾いてその中の魚は悪臭を放ち、渇きのために死ぬ。

3 わたしは天を暗黒で覆い、粗布をその覆いとする。』

4 おお、イスラエルの家よ、主なる神は博学な者の舌をわたしに与えて、わたしがあなたに、時宜を得た言葉をどのように語ればよいか分かるようにされた。あなたが疲れているとき、主なる神は朝ごとに目覚めさせてくださる。主なる神はわたしの耳を開いて、博学な者として聞けるようにしてくださる。

5 主なる神は、わたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退くこともしなかった。

6 わたしは打つ者にわたしの背を任せ、ひげを抜く者にわたしの頬を任せた。わたしは侮辱されても、つばきをかけられても、顔を隠さなかった。

7 主なる神がわたしを助けてくださるので、わたしは恥を受けない。それで、わたしは顔を火打ち石のようにした。わたしは自分が辱められないことを知っている。

8 主は近くにいて、わたしを義とされる。わたしと争う者はだれか。さあ、ともに立とう。わたしの敵

第7章
1 (1) GS「背教・背信」
2 (1) 箴言1・24−25、イザ65・12
(2) 出エ14・21、詩篇106・9、教義133・68−69
(3) ヨシ3・15−16
(4) 出エ7・21
3 (1) 出エ10・21
4 (1) 黙示6・12
(2) ルカ2・46−47
5 (1) 教義58・1
6 (1) マタ27・26、2ニフ9・5

はだれか。近くに来させよ。そうすれば、わたしは口の力をもってその敵を打とう。

9 主なる神がわたしを助けてくださる。わたしを罪[1]に定める者は皆、まさに衣のように古び、しみが彼らを食い尽くす。

10 あなたがたの中で、主を畏れ、主の僕の声に従い、暗闇の中を歩いて光を持たない者はだれか。

11 見よ、火をともし、火の粉で自分の身を囲む者よ。あなたがたは皆、[1]自分たちの火の光の中を歩み、自分たちのともした火の粉の中を歩め。あなたがたがわたしの手から受けるのは、苦しみのうちに横たわることである。」

第8章

終わりの時に、主はシオンを慰め、イスラエルを集められる。贖われた者は大きな喜びのうちにシオンに来る。イザヤ書第五十一章および第五十二章一―二節と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「『義を追い求める者よ、わたしに聞き従え。あなたがたが切り出された岩[1]と、あなたがたが掘り出された穴とを思いみよ。

2 あなたがたの父[1]アブラハムと、あなたがたを産んだサラ[2]とを思いみよ。わたしは彼ただ一人を召し、彼を祝福した。』

3 主[1]はシオンを慰め、すべてその荒れた所を慰められる。主はその荒れ野[2]をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにされる。そこには喜びと楽しみがあり、感謝と歌声がある。

4 『わたしの民よ、わたしに聴け。おお、わたしの国民よ、わたしに耳を傾けよ。[1]律法はわたしから出、わたしは、わたしの裁きを民を照らす光[2]とする。

5 わたしの義は近い。わたしの[1]救いはすでに出ており、わたしの腕は民を裁く。もろもろの島[2]はわたしを待ち望み、わたしの腕に頼る。

6 天に向かって目を上げよ。また、下の地を見よ。[1]天は煙のように消えうせ[2]、地は衣のように古び[3]、そこに住む者も同じように死ぬ。しかし、わたしの救いはとこしえに続き、わたしの義は廃れない。

---

9 ①ロマ8・31
10 ①教義1・38
11 ①士師17・6

第8章

1 ①GS「岩」
②創世17・1−8、教義132・49
2 ①創世24・36
②GS「シオン」
3 ①イザ35・1−2、6−7
②あるいは「教え」「教義」。イザ2・3、GS「福音」
4 ①GS「光・キリストの光」
②GS「救い」
5 ①2ニフ10・20
②ヘブライ語で「散らされる」の意。詩篇2・10
6 ①ヘブライ語で「散らされる」の意。詩篇102・25−27
②ヘブライ語で「朽ちる」の意

7 義を知る者よ、わたしが心の中にわたしの律法を書き記した民よ、わたしに聴け。人のそしりを恐れるな。ののしりを怖がるな。
8 しみが彼らを衣のように食い尽くし、虫が彼らを羊の毛のように食う。しかし、わたしの義はとこしえに続き、わたしの救いは代々に及ぶ。』
9 目覚めてください、目覚めてください。お お、主の御腕よ、力をまとってください。昔のように目を覚ましてください。かつてラハブを切り裂き、龍を貫いた御方は、あなたではありませんか。
10 かつて海を、すなわち大いなる深みの水を干上がらせ、海の深みを贖われた者の通る道とされた御方は、あなたではありませんか。
11 それゆえ、主に贖われた者は帰って来ます。歌いながらシオンに帰って来ます。そして、永遠の喜びと聖さは彼らの頭上にあり、彼らは楽しみと喜びを得、悲しみと嘆きは逃げ去ります。
12 『そうしたのはわたしである。まことに、わたしがあなたがたを慰める者である。見よ、あなたは何者なので、いつかは死ぬ人を、また草のような人の子を恐れるのか。
13 天を広げ地の基を据えた、あなたの造り主である主を忘れるあなたは、何者であるか。虐げる者がまるで滅ぼす用意が整ったかのように憤っているのを、日々絶えず恐れてきたあなたは、何者であるか。虐げる者の憤りはどこにあるのか。
14 流浪の囚われ人は速やかに解き放されて、穴の中で死ぬことなく、パンが尽きることもない。
15 わたしは波をとどろかせる、主なるあなたの神である。万軍の主とは、わたしの名である。
16 わたしは天を設け、地の基を据え、シオンに向かって、見よ、あなたはわたしの民である、と言うために、あなたの口にわたしの言葉を置き、わたしの手の陰であなたを覆った。』
17 おお、エルサレムよ、目覚めよ、目覚めよ、立ち上がれ。あなたは先に主の手から主の憤りの杯を飲んだ。すなわち、あなたは震える杯の搾り取ったかすを飲み干した。
18 彼女が産んだすべての息子の中に、彼女を導く者は一人もなく、彼女が育て上げたすべての息子の中に、彼女の手を取る者は一人もいない。
19 これら二人の息子があなたのもとに来ている。こ

7 ①詩篇56・4、11、教義122・9
9 ①教義113・7−8
10 ①イザ35・8
11 ①GS「贖い、贖う」 ②イザ35・10
12 ①黙示21・4、教義133・47、136・22 ②イザ40・6−8、1ペテ1・24 ③エレ1・8
13 ①エレ23・27
15 ①1ニフ4・2 ②2ニフ3・9、29・14
16 ①ルカ21・24
17 ①イザ29・9、エレ25・15
19 ①黙示11・3

の二人はあなたの荒廃と滅亡、飢饉と剣のゆえにあなたを哀れに思う。わたしはだれによって、あなたを慰めようか。

20 あなたの息子たちは、この二人のほかは皆、気を失った。この二人はすべての通りの起点に当たる場所で横たわっている。網にかかったかもしかのように、この二人には主の憤り、あなたの神の責めが満ちている。

21 それゆえ、苦しむ者よ、ぶどう酒によらず酔っている者よ、今これを聞け。

22 あなたの主、御自分の民のことを弁護なさるあなたの神、主はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの手から震える杯を、すなわちわたしの憤りの杯のかすを取り除いた。あなたは二度とそれを飲むことはない。

23 わたしは、あなたを苦しめる者の手にそれを渡そう。彼らは先にあなたに、「身をかがめて、我々が踏み越えて行けるようにせよ」と言った。そしてあなたは、自分の体を地面のように、また通りのように横たえて、彼らが踏み越えて行くに任せた。』

24 おお、シオンよ、目覚めよ、目覚めよ、力を着よ。おお、聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。これからはもう、割礼を受けない者と清くない者は、あなたの中に入って来ることはないからである。

25 あなたの身からちりを振り落とせ。おお、エルサレムよ、立ち上がって座せ。おお、囚われたシオンの娘よ、あなたの首の縄を解き捨てよ。」

第9章

ユダヤ人は将来、彼らに約束されたすべての地に集められる。贖罪は人を堕落から贖う。死者の体は墓から出、霊は地獄やパラダイスから出て来る。その後、人は裁きを受ける。贖罪は人を死と地獄、悪魔、無窮の苦痛から救う。義人は神の王国に救われる。罪に対しては罰が宣告される。イスラエルの聖者が門を守る御方である。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしがこれらのことを読んだのは、イスラエルの家に属するすべての者と交わされた主の聖約について、あなたがたに知らせるためである。

---

21 ① 2ニフ27・4
22 ① エレ50・34
23 ① ゼカ12・9
24 ① GS「シオン」
② イザ52・1−2
③ 教義113・7−8
④ ヨエ3・17
25 ① ちりから立ち上がって威厳をもって座せ。そうすれば、終わりには贖われる、の意
② 教義113・9−10

第9章
1 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」

2この聖約は、ユダヤ人が神のまことの教会と群れ
に[1]回復され、彼らの[2]受け継ぎの地に[3]集め戻され、彼
らに約束されたすべての地に定住する時が来るま
で、主が初めから代々、聖なる預言者たちの口を通
してユダヤ人に語ってこられたものである。
3見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしがこれらの
ことをあなたがたに話すのは、主なる神があなたが
たの子孫に授けられる祝福のことで、あなたがたが
喜びを味わい、とこしえに[1]頭を上げていられるよう
にするためである。
4わたしはあなたがたが、すなわちあなたがたの多
くが将来のことを知ろうとして、大いに探し求めて
きたことを知っている。その結果わたしに分かるの
は、わたしたちの肉体は必ず衰えて死ぬけれども、
将来わたしたちが[1]肉体にあって神にまみえること
を、あなたがたが知っているということである。
5また、まことにわたしに分かるのは、わたしたち
が出て来たエルサレムで、将来、神が肉体にあって
人々に御自身を現されることを、あなたがたが知っ
ているということである。そのことが、彼らの中で
起こることが必要だからである。すべての人が大い
なる[1]創造主に従うようになるためには、創造主御自
身が肉にあって人のなすがままになり、[2]すべての人
のために亡くなられることが必要なのである。
6死がすべての人に及ぶようになったので、大いな
る創造主の憐れみに満ちた[1]計画を成就するために
は、[2]復活の力が必ずなければならない。その復活
は、[3]堕落のゆえに必ず人に及ばなければならない。
堕落は背きのゆえに生じたのである。そして、人は
堕落したために主の御前から[4]絶たれてしまった。
7したがって、[1]贖罪は[2]無限の贖罪でなければなら
ない。もしそれが無限の贖罪でなければ、この朽ち
るものが朽ちないものを着ることはできない。した
がって、人に下った[3]最初の裁きが限りなく[4]続かなけ
ればならない。もしそうならば、この肉体は横たえ
られ、朽ち果てて母なる大地に返り、もう二度と起
き上がることがないに違いない。
8おお、神の[1]知恵、神の[2]憐れみと[3]恵みよ。見よ、も
しも[4]肉体がもう二度と起き上がることがないとすれ
ば、わたしたちの霊は、永遠の神の御前から[5]落ち
て[6]悪魔となったあの天使に従うようになり、もはや
起き上がることはない。

---

2 ① 2ニフ6・11、GS「福音の回復」
② 2ニフ10・7−8、GS「約束の地」
③ GS「イスラエル−イスラエルの集合」
3 ① JS詩篇24・7−10
4 ① ヨブ19・26、アル11・41−45、42・23、ヒラ14・15、モル9・13
5 ① GS「創造・創造する」
② ヨハ12・32、2ニフ26・24、3ニフ27・14−15
6 ① GS「贖いの計画」
② GS「復活」
③ GS「堕落（アダムとエバの）」
④ 2ニフ2・5
7 ① GS「贖罪」
② アル34・10
③ モサ16・4−5、アル42・6、9、14
④ モサ15・19
8 ① ヨブ12・13、アブ3・21、GS「知恵」
② GS「憐れみ」
③ GS「恵み」
④ 教義93・33−34
⑤ イザ14・12、2ニフ2・17−18、モセ4・3−4、アブ3・27−28
⑥ GS「悪魔」

9 そして、わたしたちの霊は、あの天使のようになっていたに違いない。わたしたちは悪魔の[1]使いである悪霊となって、神の御前から[2]締め出され、[3]偽りの父とともに、彼自身のように惨めな状態にとどまっていたに違いない。まことに、その者はわたしたちの始祖をだ[4]ました者であり、[5]光の天使であるかのように[6]装い、人の子らをそそのかして人殺しをする[7]秘密結社を作らせたり、あらゆる隠れた闇の業を行わせたりする者である。

10 おお、神の慈しみの何と深いことか。わたしたちがこの恐ろしい怪物に捕まらないように、神は逃れる道を備えてくださっている。まことに、その恐ろしい怪物とは[1]死と[2]地獄であり、わたしはそれを肉体の死および霊の死と呼ぶ。

11 イスラエルの聖者であるわたしたちの神の[1]解放の道により、わたしが語ってきたこの[2]死は肉体の死であって、やがてその死者を解き放す。その死とは墓のことである。

12 また、わたしが語ってきたこの[1]死、すなわち霊の死もやがてその死を解き放す。その霊の死とは[2]地獄のことである。したがって、死と地獄とはその死を解き放さなければならない。すなわち、地獄はそこに囚われている霊を解き放し、墓はそこに囚われている肉体を解き放して、人々の肉体と[3]霊は互いに[4]回復される。それはイスラエルの聖者の復活の力によるのである。

13 おお、わたしたちの神の[1]計画の何と偉大なことよ。今語ったことのほかに、神の[2]パラダイスは義人の霊を解き放し、墓は義人の体を解き放さなければならない。そして、その霊と体は再び本来のものに[3]回復され、すべての人は不朽となり、[4]不死となる。彼らは生けるものであって、わたしたちのように肉にあって[5]完全な[6]知識を持つ。わたしたちが持っている知識は、そのときに完全になるのである。

14 それでわたしたちは、自分に[1]罪があること、汚れていること、[2]裸であることについて、すべて完全な[3]知識を得る。また義人は、自分の喜びと自分の[4]義について完全な知識を得、[5]潔白を、まことに[6]義の衣をま[7]とう。

15 そしてすべての人は、この第一の死から命に移行すると、すでに不死となっているので、イスラエルの聖者の[1]裁きの座の前に出なければならない。それ

9 ① ヤコ3・11、アル5・25、39
② 黙示12・7－9
③ GS「偽り」
④ 創世3・1－13、モサ16・3、モセ4・5－19
⑤ 教義129・8
⑥ 2コリ11・14、アル30・53
⑦ GS「秘密結社」

10 ① モサ16・7－8、アル42・6－15
② GS「地獄」

11 ① GS「解放者」
② GS「死（肉体の）」

12 ① GS「死（霊の）」
② 教義76・81－85
③ GS「霊」
④ GS「復活」

13 ① GS「贖いの計画」
② 教義138・14－19、GS「パラダイス」
③ アル11・43
④ GS「不死不滅」
⑤ GS「完全」
⑥ 教義130・18－19

14 ① GS「罪悪感」
② モル9・5
③ モサ3・25、アル5・18
④ GS「義」
⑤ GS「清さ」
⑥ 教義109・76
⑦ 箴言31・25

15 ① GS「最後の裁き」

から裁き[2]があって、すべての人は神の聖なる裁きによって裁かれなければならない。

16そして、義にかなった者はそのまま義の状態にあり、[1]汚れている者は、[2]そのまま汚れた状態にある。このことは、主が生きておられるように確かである。主なる神がそう言われたからであり、これは、決して[3]過ぎ去ることのない神の永遠の[1]御言葉である。ところで、汚れている者は[5]悪魔と悪魔の使いであり、これらの者は、彼らのために用意された[6]永遠の火の中に入る。彼らの苦痛は、炎がとこしえに立ち上って[7]消えることのない、火と硫黄の池のようである。

17おお、わたしたちの神の偉大で[1]公正なことよ。神は御自分のすべての御言葉を実行されるからであり、神の御言葉がすでに神の口から出たもので、その律法は成就されなければならないものだからである。

18しかし見よ、義人、すなわちイスラエルの聖者の[1]聖徒たち、イスラエルの聖者を信じてきた者たち、世の十字架を堪え忍んできた者たち、世の辱めをいとわなかった者たち、これらの人々は、[3]世の初めから彼らのために用意された神[4]の王国を受け継ぐ。そして彼らの喜びは、[6]とこしえに満たされるであろう。

19おお、イスラエルの聖者であるわたしたちの神の憐れみ深いことよ。神は御自分の聖徒たちをあの[1]恐ろしい怪物、すなわち悪魔と死と地獄と、無窮の苦痛であるあの火と硫黄の池から[3]救われる。

20おお、わたしたちの神の[1]聖さは何と偉大なことか。神はすべてのことを御存じであり、神の御存じでないことはない。

21神は、神の声に聞き従うすべての人を[1]救うために、この世に来られる。見よ、神はすべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、アダム[2]の家族に属する、生けるものすべての[3]苦痛を受けられる。

22神がこれを受けられるのは、復活がすべての人に及び、大いなる裁きの日に、すべての人が神の御前に立つようにするためである。

23また神は、すべての人に、イスラエルの聖者に対して完全な信仰を抱きながら、[1]悔い改めて、神の御名によってバプテスマ[2]を受けなければならないと命

15② 詩篇19・9、2ニフ30・9
16① GS「汚れ」　② 1ニフ15・33−35、アル7・21、モル9・14、教義88・35　③ 教義56・11　④ 列上8・56、教義1・8　⑤ GS「悪魔」　⑥ モサ27・28、黙示21・8、2ニフ28・23、教義63・17　⑦ GS「正義」
17① GS「聖徒」　② ルカ14・27　③ アル13・3　④ GS「昇栄」　⑤ 教義45・58、84・38　⑥ GS「永遠の命」
18① 1ニフ15・35　② GS「地獄」　③ 教義108・8
19① GS「聖い」　② アル26・35、教義38・2
20① GS「救い」　② GS「アダム」　③ 教義18・11、19・18
21① GS「悔い改め」　② GS「バプテスマ」

じておられる。そうでなければ、人は神の王国に救われない。

24 もし彼らが、悔い改めて神の御名[1]を信じることをせず、またその御名によってバプテスマを受けることなく、最後まで堪え忍ぶ[2]ことをしなければ、彼らは罰[3]の定めを受ける。イスラエルの聖者である主なる神が、そう言われたからである。

25 それゆえ、イスラエルの聖者は律法[1]を授けられた。律法[2]がないところには罰がない。また罰のないところには罪の宣告もない。そして、罪の宣告のないところで、イスラエルの聖者の憐れみが人々に対してその役割を主張するのはなぜかといえば、それは贖罪のゆえである。彼らはイスラエルの聖者の力によって救われているからである。

26 その贖罪[1]は、律法を与[2]えられたことのないすべての人にとっても、神の正義[4]の要求を満たすので、これらの人々は、あの恐ろしい怪物、すなわち死と地獄と悪魔と、無窮の苦痛である火と硫黄の池から救われて、彼らに息をお与えになったイスラエルの聖者である神のみもとに連れ戻されるのである。

27 しかし、すでに律法[1]を与えられ、まことにわたしたちと同じように神のすべての戒めを受けていながら、それらに背き、自分の試しの生涯をいたずらに過ごす者は災いである。その者の状態は恐ろしいものである。

28 おお、悪しき者のあの狡猾な策謀[1]よ。おお、人の虚栄[2]と意志の弱さと愚かしさよ。人は学識[3]があると自分は賢いと思い、神の勧告[4]に聞き従わない。そして自分独りで分かると思って神の勧告[5]を無視するので、彼らの知恵は愚かであって役に立たない。そして彼らは滅びるのである。

29 しかし、神の勧告[1]に聞き従[2]うならば、学識のあるのはよいことである。

30 しかし、この世のものを豊かに持つ富者[1]は災いである。彼らは自分が富んでいるので、貧しい者[2]をさげすみ、柔和な者を迫害する。また、彼らの心は彼らの富にあるので、富が彼らの神となっている。そして見よ、彼らの富は彼らとともに滅びるのである。

31 聞[1]こうとせずに、耳の聞こえない者のようになっている者は災いである。彼らは滅びるからである。

32 見ようとせずに、盲人のようになっている者は災

---

24 ① GS「イエス・キリスト−御名を受ける」 ② GS「堪え忍ぶ」 ③ GS「罰の定め」
25 ① 新ヤコ 4・17、GS「律法」 ② ロマ 4・15、2ニフ 2・13、アル 42・12−24、GS「責任を負う」 2ニフ 2・10、アル 34・15−16、GS「贖罪」 モサ 15・24、教義 137・7 ③ モサ 3・11 GS「正義」 ④ ⑤ 創世 2・7、教義 93・33、アブ 5・7 ⑤ アル 28・13 ② GS「うぬぼれ」 ③ ルカ 16・15、2ニフ 26・20、28・4、15 箴言 14・6、エレ 8・8−9、ロマ 1・22、GS「高慢」「知恵」 ⑤ アル 37・12、GS「勧告・勧め」
29 ① ヤコ 4・10 ② 2ニフ 28・26 ルカ 12・34、1テモ 6・10、教義 56・16
30 ① ② 2ニフ 9・30、33、マタ 11・15、モサ 26・28、教義 1・2、11、14、モセ 6・27
31 ① ② GS「貧しい」 エゼ 33・30−33、マタ 11・15、モサ 26・28、教義 1・2、11、14、モセ 6・

いである。彼らもまた滅びるからである。
33 心に割礼のない者は災いである。彼らは終わりの
日に自分の罪悪を知って打たれるからである。
34 1)偽りを言う者は災いである。彼は2)地獄に突き落と
されるからである。
35 故意に人を1)殺す者は災いである。彼は2)死ぬからで
ある。
36 1)みだらな行いをする者は災いである。彼らは地獄
に突き落とされるからである。
37 偶像を1)礼拝する者は災いである。すべての悪霊を
治める悪魔が喜ぶからである。
38 要するに、罪を抱いたまま死ぬ者は皆、災いであ
る。彼らは神のみもとに1)帰って神の御顔を仰ぐが、
罪の中にとどまるからである。
39 おお、わたしの愛する同胞よ、あの聖なる神に背
くことの恐ろしさと、あの1)狡猾な者の誘惑に負ける
ことの恐ろしさを思い起こしなさい。2)肉の思いを抱
くことは3)死であり、霊的な思いを抱くことは4)永遠
5)の命であることを覚えておきなさい。
40 おお、わたしの愛する同胞よ、わたしの言葉に耳
を傾けなさい。イスラエルの聖者の偉大さを思い起
こしなさい。わたしがあなたがたに対してひどいこ
とを語ったと言ってはならない。もしそう言うな
ら、あなたがたは1)真理をののしることになる。わた
しはあなたがたの造り主の御言葉を語ってきたから
である。わたしは真理の言葉が、すべての汚れに対
して2)厳しいことを知っている。しかし、義人は真理
を愛しており、おののかないので、真理の言葉を恐
れない。
41 おお、それで、わたしの愛する同胞よ、聖者なる
主のみもとに1)来なさい。主の道が義にかなっている
ことを覚えておきなさい。見よ、その2)道は人にとっ
て3)狭いが、人の前にまっすぐであり、4)門を守る者は
イスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使わ
れない。またその門を通る以外に、ほかの道はない。
そしてその御方を欺くことはできない。その御方の
御名は、主なる神だからである。
42 そして、たたく者にはだれにでも、主なる神は門
をお開けになる。しかし、自分に学識のあること
を1)誇る2)知者や、知恵のあることを誇る学者、富のあ
ることを誇る富者、まことに、これらの者を主なる
神はさげすまれる。彼らがこのようなものを捨て

34 ① 箴言19・9、GS「偽り」「正直」
② GS「地獄」
35 ① 出エ20・13、モサ13・21
② GS「死刑」
36 ① 3ニフ12・27－29、GS「純潔」
37 ① GS「偶像礼拝」
38 ① アル40・11、13
39 ① 2ニフ28・20－22、32・8、モサ2・32、4・14、アル30・53
② ロマ8・6、GS「現世的」
③ GS「死（霊の）」
④ GS「永遠の命」
⑤ 箴言11・19
40 ① GS「真理」
② 1ニフ16・2、2ニフ28・28、33・5
41 ① 1ニフ6・4、ヤコ1・7、オム1・26、モロ10・30－32
② 2ニフ31・17－21、アル37・46、教義132・22、25
③ ルカ13・24、2ニフ33・9、ヒラ3・29－30
④ 2ニフ31・9、17－18、3ニフ14・13－14、教義43・7、137・2
42 ① GS「高慢」
② マタ11・25

て、神の御前で自分を愚かな者[3]だと思って心底謙遜[4]になるのでなければ、主は彼らのために門をお開けにはならない。

43 そして、知者と賢者にかかわるもの、すなわち聖徒たちのために用意されているあの幸福は、彼らからとこしえに隠[1]されるのである。

44 おお、わたしの愛する同胞よ、わたしの言葉を覚えておきなさい。見よ、わたしは自分の衣を脱いで、これをあなたがたの前で振り、わたしの救いの神に、そのすべてを見通す目[1]でわたしを見てくださるように祈る。それであなたがたは、すべての人が各自の行いに応じて裁かれる終わりの日に、わたしがこうしてあなたがたの罪悪をわたしの身から振り払[2]ったのを、イスラエルの神が御覧になったことと、わたしが神の御前に輝いて立っており、あなたがたの血から免れていることを知るであろう。

45 おお、わたしの愛する同胞よ、罪を捨てなさい。あなたがたを固く縛ろうとする者の鎖を振り落とし、あなたがたの救いの岩[2]である神のみもとに来なさい。

46 義人に公正[1]な報いが与えられるあの栄えある日、すなわち裁き[2]の日のために、あなたがた自身を備えなさい。そうすればあなたがたは、ひどく恐れてしりごみしなくて済む。また、自分のひどい罪悪[3]をことごとく思い出して、『おお、全能[4]の神なる主よ、神聖です。あなたの裁きは神聖です。わたしは自分に罪のあることを知っています。わたしはあなたの律法に背きました。わたしの背きはわたし自身が犯したものです。そして、わたしはすでに悪魔に捕らえられており、悪魔のひどい惨めな状態のとりこになっています』と、やむを得ず叫ばなくて済むであろう。

47 しかし見よ、わたしの同胞よ、わたしがあなたがたに、これらの事柄が恐ろしい現実であることを自覚させる必要があるだろうか。あなたがたの思いが清かったならば、わたしはあなたがたをひどく苦しめたりするだろうか。もしあなたがたが罪から解放されているならば、わたしは、真理の率直さに従ってあなたがたにも率直であろうとするだろうか。

48 見よ、もしあなたがたが聖なる状態であるならば、わたしは、聖さについてあなたがたに語るだろう。しかしあなたがたは、今聖なる状態ではなく、

---

42 ③ 1コリ3・18−21
43 ① GS「謙遜」
43 ② 1コリ2・9−16
44 ① ヤコ2・10
44 ② ヤコ1・19
44 ③ ヤコ2・2、モサ2・28
45 ① 2ニフ28・22、アル36・18
46 ① GS「岩」
46 ② GS「正義」
46 ③ GS「最後の裁き」
46 ④ モサ3・25
2・1 1ニフ1・14、モセ

またわたしを師と見なしてくれているので、わたしは、[1]罪の結果についてあなたがたに[2]教えることが必要である。

49 見よ、わたしの霊は罪を忌み嫌い、わたしの心は義を喜ぶ。そしてわたしは、神の聖なる御名を[1]ほめたたえよう。

50 さあ、わたしの同胞よ、渇いている者は皆、[1]水の所に来なさい。金のない者は、さあ、買って食べなさい。まことに、さあ、[2]金を出さず、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買いなさい。

51 それゆえ、価値のないものに金を使ってはならない。満足を得られないものに[1]労力を費やしてはならない。熱心にわたしに聞き従い、わたしがこれまでに語った言葉を覚えておきなさい。そして、イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを[2]食べて、豊かなものによってあなた自身を喜ばせなさい。

52 見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたの神の御言葉を覚えておきなさい。日中は絶えず神に祈り、夜は神の聖なる御名に[1]感謝し、心を喜ばせなさい。

53 主の[1]聖約がどれほど偉大で、人の子らに対して主が御自身を低くされる姿がどれほど偉大であるかを見なさい。主の偉大さと、主の恵みと[2]憐れみのゆえに、主はわたしたちの子孫が肉においてことごとく滅ぼされてしまうことはなく、主御自身が守ってくださると、わたしたちに約束された。また、後の時代にわたしたちの子孫が、イスラエルの家のために一本の義にかなった[3]枝になるとも約束された。

54 さて、わたしの同胞よ、わたしはもっとあなたがたに話したい。しかし明日、わたしの言葉の残りを告げ知らせることにしよう。アーメン。」

第10章

ユダヤ人は将来、自分たちの神を十字架につける。ユダヤ人は、主を信じるようになるときまで散らされる。アメリカは将来、支配する王のいない自由の地となる。人は神と和解し、神の恵みによって救いを得るようにしなければならない。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは、

48 ① GS「罪」
② アル37・32
49 ① 1ニフ18・16
50 ① GS「生ける水」
② アル42・27
51 ① イザ55・1－2
② 2ニフ31・20、32・3、3ニフ12・6
52 ① GS「感謝」
53 ① GS「聖約（契約）」
② GS「憐れみ」
③ GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」

先にわたしが語ったこの義にかなった1)枝について、もう一度あなたがたに話そう。

2 見よ、わたしたちが得た1)約束は、肉におけるわたしたちへの約束である。だからわたしに示されたように、わたしたちの子孫の中には、不信仰のために肉において滅びる者が多い。しかし、それでも神は多くの者に憐れみをかけられる。それで、わたしたちの子孫は元に戻され、自分たちの贖い主について真実の知識を与えるものを得る。

3 それゆえ、わたしが先にあなたがたに語ったように、キリストは（この名こそが贖い主の御名であるとわたしは昨晩1)天使から告げられたが）ユダヤ人の中に、すなわち世の人々の中でいちばん邪悪な者たちの中に来られる必要がある。そして、彼らはキリストを2)十字架につける。それがわたしたちの神にとって必要だからである。彼らのほかには、自分たちの1)神を2)十字架につけるような国民は、地上のどこにもいない。

4 もし大きな1)奇跡がほかの国民の中で行われたならば、その民は悔い改め、その奇跡を行われた御方が自分たちの神であられることに気づくからである。

5 しかし、エルサレムにいる人々は、1)偽善売教と罪悪のために、キリストに対して心をかたくなにして、キリストを十字架につける。

6 それゆえ、彼らの罪悪のために、滅亡と飢饉、疫病、流血が彼らを襲う。また滅ぼされなかった者は、すべての国民の中に1)散らされる。

7 しかし見よ、1)主なる神はこう言われる。『彼らがわたしをキリストであると信じる日が2)来ると、わたしが彼らの先祖と聖約したように、彼らは肉にあって、地上で彼らの受け継ぎの地に戻される。

8 そして彼らは、長年の離散から、すなわち1)海の島々から、また地の四方から集められる。また異邦人の国民は、彼らを受け継ぎの地に3)連れ戻すことによって、わたしの目に大いなる者となる。』神はこう言われる。

9 1)まことに異邦人の王たちは、彼らにとって養父となり、王妃たちは養母となる。したがって主の2)約束は、異邦人にとって偉大である。主がそう言われたからであって、だれがこれに反駁できようか。

10 しかし見よ、神は言われた。『この地はあなたの受け継ぎの地となる。また、1)異邦人はこの地で祝福さ

第10章

1 (1) 1ニフ15・12—16、2ニフ3・5、ヤコ5・43—45
2 (1) 1ニフ22・8、3ニフ5・21—26、21・4—7
3 (1) 2ニフ25・19、ヤコ7・5、モロ7・22
(2) GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
(3) 1ニフ11・33、モサ3・9、教義45・52—53
4 (1) 1ニフ19・10
(4) 1ニフ23・20—24
5 (1) GS「奇跡」、ルカ22・2、GS「偽善売教」
6 (1) 1ニフ19・13—14、GS「イスラエル—イスラエルの散乱」
7 (1) GS「主」
(2) 2ニフ25・16—17
8 (1) 1ニフ22・4、2ニフ10・20—22、教義133・8
(2) GS「イスラエル—イスラエルの集合」
(3) 1ニフ22・8
9 (1) イザ49・22—23
(2) 1ニフ22・8—9、教義3・19—20
10 (1) 2ニフ6・12

れる。
11 そして、この地は異邦人にとって自由の地となり、将来異邦人のために立つ王は、この地に一人もいない。
12 わたしは、ほかのすべての国民に対してこの地を防ぎ固めよう。
13 シオンと戦う者は滅びる。
14 わたしに逆らって王を立てる者は滅びる。主であり天の王であるわたしが彼らの王となり、わたしの言葉を聞く彼らにとって、わたしはとこしえに彼らの光となるからである。
15 さて、わたしはこの目的のために、すなわち、人の子らが肉にある間にわたしが彼らに行うと約束した聖約を果たすために、隠れた闇の業と殺人と忌まわしい行いを絶やさなければならない。
16 そのために、シオンに挑む者は、ユダヤ人も異邦人も、束縛された者も自由な者も、男も女もすべて滅びる。これらの者は全地の淫婦だからである。わたしに味方しない者は、わたしに反対する者だからである。』わたしたちの神はこう言われる。
17 『わたしは人の子らに立てた約束、すなわち、彼らが肉にある間にわたしが彼らに行うと約束したことを果たす。』
18 それで愛する同胞よ、神はこう言われる。『わたしは異邦人の手によって、あなたの子孫を苦しめ悩ます。それでも、わたしは異邦人の心を和らげるので、彼らはあなたの子孫にとって父親のようになる。それで、異邦人は祝福されて、イスラエルの家の中に数えられる。
19 さて、わたしはあなたの子孫と、あなたの子孫に数えられる者のために、この地を受け継ぎの地としてとこしえに聖別しよう。』神はわたしにそう言われる。『この地はわたしにとって、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地である。それゆえわたしは、ここに住むすべての者がわたしを礼拝することを望む。』神はそう言われる。
20 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしたちの憐れみ深い神は、これらのことについて、このように多くの知識を与えてくださったので、わたしたちは神を覚えて、罪を捨てようではないか。わたしたちは捨てられてはいないので、うなだれるのはやめよう。わたしたちは受け継ぎの地から追い出された

---

11 ① GS「自由」
② モサ29・31－32
13 ① 1ニフ22・14、19
② イザ60・12
14 ① アル5・50、教義38・21－22、128・22－23、モセ7・53
② GS「光・キリストの光」
15 ① GS「聖約（契約）」
② ヒラ3・23、GS「秘密結社」
③ GS「暗闇（霊的な）」
16 ① GS「シオン」
② 1ニフ13・4－5
③ 1ニフ22・13－23、2ニフ28・15－32、3ニフ16・8－15、エテ2・9
④ 1ニフ14・10
⑤ マタ12・30
17 ① 教義1・38
18 ① ルカ13・28－30、教義45・7－30
② エペ3・6
③ ガラ3・7、29、1ニフ14・1－2、3ニフ16・13、21・6、22、30・2、アブ2・9－11
19 ① 2ニフ3・2
20 ① 1ニフ2・1－4

が、主が海をわたしたちの道[2]とされたので、わたしたちはもっと良い地[3]に導かれて来た。そして、わたしたちは今、海[4]の島にいる。

21しかし、海[1]の島々にいる者たちに対する主の約束は偉大である。また、島々というからには、このほかにももっとあるに違いない。そこにもわたしたちの同胞が住んでいる。

22それは見よ、主なる神が御自分の意のまま、思いのままに、時々イスラエルの家から人々を連れ出されたからである。そして見よ、主は、折り取られた者をすべて覚えておられるので、わたしたちのことも覚えておられる。

23それゆえ、心を喜ばせなさい。そしてあなたがたは、自分の思う[1]とおりに行動する[2]こと、すなわち永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶ[3]ことも自由であるのを覚えておきなさい。

24さて、わたしの愛する同胞よ、神の御心と和解しなさい。悪魔の意志と肉の思いに自らを従わせてはならない。また、神と和解した後にあなたがたが救[1]われるのは、ただ神の恵み[2]によること、また神の恵みを通してであることを覚えておきなさい。

25そして、神が復活の力によって、あなたがたを死からよみがえらせ、また贖罪[1]の力によって、永遠の死からもよみがえらせてくださって、あなたがたが神の永遠の王国に迎え入れられ、神の恵みによって神をほめたたえることができるように。アーメン。」

第11章

ヤコブ、贖い主にまみえる。モーセの律法はキリストの予型であり、キリストが来られることを立証する。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1ところで、ヤコブはそのときに、もっと多くのことをわたしの民に語ったが、わたしは以上のことだけを書き記す[2]にとどめた。わたしが書き記してきたことで十分だからである。

2さて、わたしニーファイはイザヤ[1]の言葉に喜びを感じるので、もっと彼の言葉を書き記そう。わたしは彼の言葉をわたしの民に当てはめ、また彼の言葉をわたしの子孫に伝えよう。わたしが贖い主[2]にまみえたと同じように、まことに彼も贖い主にまみえたからである。

20②
③ 1ニフ18・5−23
1ニフ2・20、GS「約束の地」
21①
④ イザ11・10−12
1ニフ19・15−16、22・4
22①
1ニフ22・4
23①
GS「選択の自由」
②
2ニフ2・16
③
申命30・19
24①
GS「救い」
②
GS「恵み」
25①
GS「贖罪」

第11章

1①
2ニフ6・1−10
②
2ニフ31・1
2①
3ニフ23・1
②
GS「贖い主」

3 わたしの弟のヤコブもまた、わたしが贖い主にまみえたと同じように、すでに贖い主にまみえている。それで、わたしは自分の言葉が真実であることをわたしの子孫に立証するために、この二人の言葉を子孫に伝えよう。神はかつて、「わたしは三[2]人の言葉をもって、わたしの言葉を確かなものとする」と言われた。にもかかわらず、神はさらに多くの証人を遣わして、御自分の言葉をことごとく立証される。

4 見よ、わたしは、キリストの来臨[1]が真実であることを、わたしの民に立証[2]することに喜びを感じる。モーセ[3]の律法は、まさにそのために与えられたのである。世の初めから神が人に与えてこられたすべてのものは、キリストの予型である。

5 わたしはまた、主がわたしたちの先祖に立てられた聖約[1]を喜んでいる。まことに、死から人々を解放する、偉大な永遠の計画に見られる主の恵みと公正、力、憐れみを喜んでいる。

6 またわたしは、キリストが来られなければすべての人が必ず滅びるということを、わたしの民に立証[1]することを喜ぶ。

7 というのは、もしキリストが実在[1]しなければ神は実在せず、神が実在しなければ創造[2]はあり得ないので、わたしたちの存在もないからである。しかしながら、神は実在しておられ、その神はキリストであって、御自身の定められた時が満ちると来られるのである。

8 さて、わたしはイザヤの言葉を少し書き記して、わたしの民の中でこれらの言葉を見る者が心を高めて、すべての人のために喜べるようにしよう。さあ、その言葉は次のとおりである。あなたがたはこれらを、自分自身とすべての人に当てはめてみるがよい。

第12章

イザヤ、末日の神殿とイスラエルの集合、それに福千年の裁きと平和を見る。高ぶる者と悪を行う者は、主の再臨の時に低くされる。イザヤ書第二章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「アモツ[1]の子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た[2]言葉。

---

3 ① 2ニフ2・3、ヤコ7・5
② 2ニフ27・12、エテ5・2−4、教義5・11
4 ① ヤコ4・5、ジェロ1・11、アル25・15−16、エテ12・19
② 2ニフ31・2
③ 2ニフ5・10
5 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
6 ① モサ3・15
7 ① 2ニフ2・13
② GS「創造・創造する」

第12章
1 ① 2ニフ12−24章は、ニーファイが真鍮版からイザ2−14章を引用したものであるが、多少言い回しに違いが見受けられる
② ヘブライ語で「示現で見る」の意。イザヤは主からの示現によって御告げを受けたということ

2 さて、終わりの時に次のことが起こる。主の家[1)いえ]の山は[2)やま]山々の[3)やまやま]頂に堅く立ち[いただき]、もろもろの丘よりも高[かた]くそびえ、すべての国民はそこに流れて来る。
3 多くの民が来て言う。『さあ、わたしたちは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。主は御自分の道をわたしたちに教えてくださる。わたしたちは主の道を[1)あゆ]歩もう。』[2)りっぽう]律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。
4 主は国民の中で裁きを[1)さば]行い、多くの人を責められる。彼らは剣を鋤先に、槍を鎌に打ち直し、国民は国民に向かって剣を上げず、彼らはもう戦いのことを学ばない。
5 おお、ヤコブの家よ、さあ、わたしたちは主の光の中を歩もう。さあ、歩もうではないか。あなたがたは皆、これまで悪の道に[1)まよ]迷ってきた。
6 それゆえ、おお、主よ、あなたはあなたの民、ヤコブの家を捨てられた。それは彼らが、東方からのものを国に満たし、[1)み]ペリシテ人[2)ほし]のように占い師に聴き、見知らぬ者の子供たちと[3)まじ]交わるのを好むからである。
7 彼らの地には銀と金が満ち、彼らの宝には限りがない。彼らの地には馬も満ち、戦車も限りなくある。
8 彼らの地には[1)ぐうぞう]偶像も満ち、彼らは自分の手の業、すなわち自分自身の指で造ったものを拝む。
9 地位の低い者は[1)み]身をかがめず、地位の高い者はへりくだらない。それゆえ、彼をお赦しにならないように。
10 おお、あなたがた悪人たちよ、岩の中に入り、土の[1)かく]中に隠れよ。主への畏れと主の尊厳の輝きが、あなたがたを打つからである。
11 そしてその日には、目を上げて高ぶる者は低くされ、傲慢な者はかがめられ、ただ主だけが高められる。
12 それは、万軍の主の日が[1)ひ]間もなくすべての国民に、まことにすべての者に、すなわち、[2)ほこ]誇り高ぶる者に、また思い上がるすべての者に臨んで、その者は低くされるからである。
13 主の日は、レバノンの杉が高くそびえているために、そのすべての杉に臨み、またバシャンのすべてのかしの木に臨む。
14 また、すべての高い山、すべての丘、思い上がる

---

2 ①GS「神殿・主の宮」 ②ヨエ3・17、GS「シオン」 ③教義49・25
3 ①GS「歩む（神とともに）」 ②ヘブライ語で「教え」「教義」の意。GS「福音」
4 ①2ニフ21・2—9
5 ①2ニフ28・14、モサ14・6、アル5・37
6 ①様々な教えや異国の信仰を持ち込むこと。詩篇106・35 ②GS「ペリシテ人」 ③ヘブライ語で「手を打ち合う」「契約を結ぶ」の意
8 ①GS「偶像礼拝」
9 ①神に対して。それどころか、偶像を拝むこと
10 ①アル12・14
12 ①GS「イエス・キリストの再臨」 ②マラ4・1、2ニフ23・11、教義64・24

すべての国民、すべての人、
15 また、すべての高いやぐら、すべての堅固な城
壁、
16 また、海のすべての船、タルシシのすべての船、
すべての好ましい景色に臨む。
17 その日には、高ぶる者はかがめられ、傲慢な者は
低くされ、ただ主だけが高められる。
18 そして、主は偶像をことごとく廃される。
19 主が地を激しく揺り動かされると、主への畏れが
彼らに生じ、主の尊厳の輝きが彼らを打つので、彼
らは岩の洞穴や地の穴に入る。
20 その日、人は拝むために自分で造った銀の偶像と
金の偶像を、もぐらやこうもりに投げ与え、
21 岩の割れ目や、険しい岩の頂に入る。主が地を激
しく揺り動かされると、主への畏れが彼らに生じ、
主の大いなる尊厳の輝きが彼らを打つからである。
22 あなたがたは、鼻で息をする人間に頼むことをや
めよ。そのような者に何の価値があろうか。」

第13章

ユダとエルサレム、不従順のために罰せられる。

主、御自分の民を弁護し、また裁かれる。シオンの娘たち、世俗につかって、のろいと苦しみを受ける。イザヤ書第三章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「見よ、万軍の主なる主は、エルサレムとユダから柱と杖、すなわち、杖と頼むすべてのパンと、柱と頼むすべての水を取り去られる。
2 また勇士、戦士、さばきつかさ、預言者、賢者、長老、
3 五十人の長、高官、議官、熟練した職人、雄弁な演説家を取り去られる。
4 『わたしは子供たちを彼らの君とし、みどりごが彼らを治める。』
5 民は互いに虐げ合い、隣人同士が虐げ合い、子供は長老に向かって高ぶり、地位の低い者は高貴な者に向かって高ぶる。
6 そのとき、人は自分の父の家にいる兄弟に取りすがって言う。『あなたには衣があります。わたしたちを治める者になって、あなたの手でこの破滅が起こらないようにしてください。』

16① ギリシャ語版（七十人訳）とヘブライ語版にはそれぞれお互いにない句があるが、2ニフ12・16にはその両方が含まれている。詩篇48・7、エゼ27・25
17① 主が栄光のうちに来臨される日
22① 死すべき人間に頼るのをやめること。死すべき人間は神に比べれば取るに足りない。モセ1・10

第13章
6① イザ3・6

7 その日、彼は誓って言う。『わたしの家にはパンも着る物もないので、わたしは癒す者にはなれません。わたしを民を治める者にしないでください。』
8 民の舌と行いが主に背いて、主の栄光の目を怒らせたために、エルサレムは滅び、ユダは倒れたのである。
9 彼らの顔つきは彼らについて不利な証言をし、彼らの罪があたかもソドムのようであることを表しており、彼らはそれを隠すことができない。彼らは災いである。彼らは自ら悪の報いを受けたのである。
10 義人に、彼らは幸いであることを告げなさい。彼らは自分の行いの実を食べるからである。
11 悪人は滅びるので災いである。彼らの手の報いが彼らに及ぶからである。
12 わたしの民は子供たちに虐げられ、女たちに治められる。おお、わたしの民よ、あなたを導く者たちはあなたを誤らせ、あなたの歩む道を絶やす。
13 主は弁護するために立ち上がり、民を裁くために立たれる。
14 主は御自分の民の長老たちと君たちについて裁きを行われる。あなたがたはぶどう園を食い尽くし、あなたがたの家には貧しい者から奪ったものがある。
15 『どういうつもりなのか。あなたがたはわたしの民を打ち砕き、貧しい者の顔をすりつぶす。』万軍の主なる神はそう言われる。
16 さらに主は言われる。『シオンの娘たちは高ぶり、首を伸ばして目でこびを売りながら歩き、小またで歩きながら、その足で鈴の音を出す。』
17 それゆえ、主はシオンの娘たちの頭の頂を打ってかさぶたで覆い、また主は彼女たちの隠し所をあらわにされる。
18 その日、主は彼女たちの鈴の音を出す飾り物、髪にかぶせる網、月形の飾り物、
19 鎖、腕輪、顔覆い、
20 頭飾り、すね飾り、結わえひも、香の入れ物、耳飾り、
21 指輪、鼻飾り、
22 礼服、外套、頭巾、髪を縮らすもの、
23 鏡、こまやかに織った亜麻布の衣服、ターバン風の帽子、かぶり物などの装いを取り除かれる。
24 そして、芳香は変わって悪臭となり、帯は変わっ

---

7 ①ヘブライ語で「(傷を)縛る者」の意。わたしはあなたの問題を解決できないということ
8 ①エレ9・11 ②哀歌1・3
9 ①②創世19・1、4−7、24−25 GS「同性愛」
10 ①申命12・28
12 ①イザ9・16
13 ①ヘブライ語で「論争する」の意。ミカ6・2、教義45・3−5
14 ①ヘブライ語で「統治者」「指導者」の意 ②イザ5・7 ③ヘブライ語で「焼く」の意 ④2ニフ28・12−13 ⑤横領したもの
16 ①気取った様子で小また で歩くこと
17 ①ヘブライ語で「露出させる」の意。恥をかかせるということ
18 ①第18−23節に挙げられている女性の装身具が具体的に何を指すかは、学者の間で意見が分かれる ②三日月の形をした飾り物のこと
19 ①ヘブライ語で「かぶり物」の意
22 ①ヘブライ語で「きらびやかな衣服」の意 ②あるいは「薄織りの衣」

て裂けた布となり、美しく整えた髪は変わってかぶ[1]ろとなり、胸衣[3]は変わって粗布の帯となり、美しさは変わって焼け傷[4]となる。
25あなたの男たちは剣に倒れ、あなたの勇士たちは戦いで倒れる。
26シオンの門は嘆き悲しみ、シオンは荒れ廃れて、地に座する。」

第14章

シオンとその娘たち、福千年に贖われ、清められる。イザヤ書第四章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「その日、七人の女が一人の男に取りすがって言う。『わたしたちは自分のパンを食べ、自分の着物を着ます。ただわたしたちをあなたの名で呼ばれるようにし、わたしたちの恥[1]を取り除いてください。』
2その日、主の枝[1]は麗しく栄光に満ち、地の産物は、イスラエルの逃れた者にとって並外れて麗しくなる。
3そして、シオンに残る者、エルサレムにとどまる者、すなわちエルサレムで暮らす者として書き記されているすべての者は、聖なる者と呼ばれる。
4主[1]がその裁きの霊と焼き尽くす霊[2]によって、シオンの娘たちの汚れ[3]を洗い清め、エルサレムの血をその中からすすぎ清められるとき、そのことは起こる。
5主はシオンの山のすべての住まいと、その集会のうえに、昼は雲と煙[1]、夜は燃える火の輝きを設けられる。シオンのすべての栄光のうえに守りがあるためである。
6また一つの幕屋があって、昼は暑さを避ける陰となり、また避け所[1]となり、嵐と雨をしのぐ隠れ場所となる。」

第15章

主のぶどう園（イスラエル）は荒れ廃れ、主の民は散らされる。背教し、散らされた状態にある彼らに、数々の災いが及ぶ。主は一つの旗を掲げ、イスラエルを集められる。イザヤ書第五章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

24① ヘブライ語で「ぼろ」の意
② 髪の毛がないこと あるいは「衣」
③④ あるいは「焼き印」（奴隷のしるし）

第14章
1① 未婚で子供がいないという汚名
2① イザ60・21、2ニフ3・5、ヤコ2・25
4① 主が地球を清められるとき
② マラ3・2－3、4・1
5① ③ GS「洗い」
6① ③ 出エ13・21
6 イザ25・4、教義115・6

1 「そのときに、わたしは深く愛する者に、その人のぶどう園についてわたしの愛する者の歌[1]を歌おう。わたしの愛する者は、よく肥えた丘にぶどう園を持っていた。
2 彼はそこに垣を巡らし、その中の石を取り除き、そこに最も良いぶどう[1]を植え、その中にやぐらを建て、またそこにぶどうの搾り場を設けた。そして、ぶどうがなるのを待ち望んだ。ところが、なったのは良くないぶどうであった。
3 さて、おお、エルサレムに住む者たちと、ユダの人々よ、さあ、わたしとぶどう園との間を裁きなさい。
4 『わたしがぶどう園にしたことのほかに、何かもっとそこでできたことがあっただろうか。わたしはぶどうがなるのを待ち望んでいたのに、なったのは良くないぶどうであった。
5 さあ、わたしは自分がぶどう園に行おうとしていることを、あなたがたに告げよう。わたしはその垣を[1]取り去って、食い尽くされるに任せる。また、その塀を取り壊して、踏みにじられるに任せる。
6 わたしはそれを荒れるままにしておき、刈り込むことも、耕すこともせず、[1]いばらとおどろを生えさせる。またわたしは、雲に命じ、その上に[2]雨を降らせない。』
7 万軍の主の[1]ぶどう園はイスラエルの家であり、ユダの人々は主が楽しみにして植えられた苗木である。主は公平を望まれたのに、見よ、圧制。義を望まれたのに、見よ、叫び。
8 空地がなくなるまで家に家を[1]建て連ね、[2]自分たちだけが国の真ん中にいようとする者は災いである。
9 万軍の主がわたしの耳に言われた。『多くの家が必ず荒れ廃れ、大きな麗しいもろもろの町は住む者のない所となる。
10 まことに、十エーカーのぶどう園は一[1]バテの実しか結ばず、一ホメルの種はわずかに一エパの実しか結ばない。』
11 朝早く起きて[1]強い酒を追い求め、夜まで飲み続けて、ぶどう酒に[2]身を焼かれる者は災いである。
12 彼らの酒宴には、琴と竪琴、鼓と笛とぶどう酒がある。しかし、彼らは主の業に[1]見向きもせず、主の手の働きに目を留めない。
13 それゆえ、わたしの民は[1]無知のために囚われの身

第15章
1 ① 預言者がぶどう園についての歌もしくは寓話詩を作ること。それには、神の憐れみとイスラエルの民のかたくなな様子が表現されている
2 ① エレ2・21
5 ① 詩篇80・12
6 ① イザ7・23、32・13
② エレ3・3
7 ① GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
8 ① ミカ2・1−2
② 自分だけが住むこと。裕福な地主が貧しい者の狭い農地を買い占めてしまうこと
10 ① エゼ45・10−11
11 ① 箴言23・30−32
② GS「知恵の言葉」
12 ① 詩篇28・5
13 ① ホセ4・6、GS「知識」

となる。彼らの高官たちは飢え、民衆は渇きで干上がる。
14それゆえ、地獄は広がり、その口を限りなく開く。そして彼らの栄華と、彼らのどよめきと、彼らの華やかさ、および喜び楽しむ者は、その中に落ち込む。
15地位の低い者はさらに下げられ、力ある者は低くされ、高ぶる者の目は低くされる。
16しかし、万軍の主は1)公平によってあがめられ、聖なる神は義をもって神聖であるとたたえられる。
17そのとき、子羊たちは自分の牧場にいるように草をはみ、見知らぬ者たちは肥えた者たちの食べ残しを食べる。
18虚栄の縄で悪を引き寄せ、2)車の綱でするように罪を引き寄せる者は災いである。
19彼は言う。『我々に見えるように、彼を急がせ、彼の業を早くさせよ。我々が知ることができるように、イスラエルの聖者の勧告をそば近くに寄せよ。』
20悪を善と呼び、1)善を悪と呼び、2)闇を光とし、光を闇とし、苦いものを甘い、甘いものを苦いとする者は災いである。
21自分を見て賢いと思う者、自分を見て分別があると思う者は災いである。
22ぶどう酒を飲むのに強い者、強い酒を混ぜ合わせる剛の者は災いである。
23彼らはわいろのために悪人を義とし、義人からその義を1)奪う。
24それゆえ、1)火がわらを2)焼き尽くし、炎がもみ殻を3)なめ尽くすように、彼らの根は腐り、彼らの花はちりのように飛び散る。彼らが万軍の主の律法を捨て、イスラエルの聖者の言葉を4)侮ったからである。
25それゆえ、主の怒りは1)主の民に向かって燃え、主は彼らに対して御手を伸ばし、彼らを打たれた。もろもろの丘は揺れ動き、彼らのしかばねは通りで引き裂かれた。それでも主の怒りは解かれず、なおも御手は伸ばされている。
26主は遠く離れた国民に一つの1)旗を掲げ、地の果てから彼らを2)呼ばれる。すると、彼らは急いで速やかに3)来る。見よ、彼らの中には疲れる者も、つまずく者もない。
27また、まどろむ者も、眠る者もない。彼らの腰の帯は解けず、靴のひもも切れない。
28その矢は鋭く、その弓はことごとく張っている。

16①GS「イエス・キリスト裁き」
18①GS「うぬぼれ」 ②家畜が荷に縛られるように罪につながれている、の意
19①見るまではメシヤを信じないこと ②エレ17・15
20①モロ7・14、18、教義64・16、121・16 ②1ヨハ1・6
21①①箴言3・5—7、2ニフ28・15 ②法的な権限を奪うこと
24①オバ1・18、マラ4・1—2、2ニフ20・17 ②ヨエ2・5、1ニフ22・15、23、2ニフ26・4、6、教義64・23—24、133・64 ③ルカ3・17、モサ7・29—31 ④サ下12・7—9、教義63・32、モセ6・27
25①GS「旗」 ②あるいは「口笛で呼ばれる」。集合のための合図をする、の意。イザ7・18、2ニフ29・2 ③GS「イスラエルの集合」

そして、その馬のひづめは火打ち石のように、その車輪は旋風のように、そのとどろきはライオンのように思われる。
29 彼らは若いライオン[1]のようにほえる。ほえて、獲物を捕らえると、確実に運び去るので、だれも救い出す者はいない。
30 その日、彼らは海鳴りのように彼らにほえる。もし彼らが地を見るならば、見よ、暗闇と悲しみがあり、光は天で暗くなる。」

第16章

イザヤ、主を目にする。イザヤの罪は赦される。イザヤ、預言するように召され、ユダヤ人がキリストの教えを拒むことを預言する。残りの者が帰って来る。イザヤ書第六章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「ウジヤ王が死んだ年[1]に、わたしは高く上げられた御座に主が座しておられるのを見た。主の衣のすそは神殿に満ちていた。
2 その上方[1]にセラピムがいて、それぞれ六つの翼を持っており、二つの翼で顔を覆い、二つの翼で両足を覆い、二つの翼で飛んでいた。
3 そして、一人が別の一人に叫んで言った。『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主。全地は万軍の主の栄光に満ちる。』
4 そのように叫んだ者の声で入り口の柱[1]が揺れ動き、宮には煙が満ちた。
5 それでわたしは言った。『わたしは災いだ。わたしは滅ぼされる[1]。わたしは唇の清くない者で、唇の清くない人々の中に住んでいる。ところが、わたしの目は万軍の主なる王を見たからである。』
6 そのとき、セラピムの一人が、火ばしで祭壇の上から取った燃え盛る[1]炭を手に携えて、わたしのところに飛んで来た。
7 そして、彼はそれをわたしの口に当てて言った。『これがあなたの唇に触れたので、あなたの悪[1]は取り去られ、あなたの罪は清められた。』
8 また主の声があって、こう言われた。『だれを遣わそうか。我々のためにだれが行くだろうか。』それでわたしは言った。『わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。』

---

29 ① 3ニフ21・12－13
第16章
1 ① 紀元前約七百五十年
2 ① GS「ケルビム」
4 ① ヘブライ語で「入り口の土台が揺れた」の意
5 ① ヘブライ語で「断ち切られる」の意。自分と民の罪に気づき、それに圧倒されるということ
6 ① 清めの象徴
7 ① GS「罪の赦し」

9 すると主は言われた。『行ってこの民に必ず聞けと告げなさい。』しかし彼らは理解しなかった。『必ず見よと告げなさい。』しかし彼らは悟らなかった。10 また主は言われた。『この民の心を鈍くし、彼らの耳を重くし、彼らの目を閉ざしなさい。彼らが自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の心で理解し、心を改めて、癒されることがないためである。』

11 それでわたしは、『主よ、いつまでですか』と言った。すると主は言われた。『もろもろの町が荒廃して住む者がいなくなり、家々に人がいなくなり、地もすっかり荒れ果てるときまでである。12 そして、そのただ中には荒れ廃れた所が増えるので、主は人々を遠くに移した。[1]

13 しかし、それでもなお十分の一の者がいる。彼らは帰って来るが、食い尽くされる。しかし、テレビンの木とかしの木がその葉を落としても幹が木の中にあるように、聖なる子孫はその幹[1]となる。』」

第17章

エフライムとスリヤ、ユダと戦う。キリストはおとめからお生まれになる。イザヤ書第七章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、ユダの王、ウジヤの子のヨタムの子、アハズの時代に、スリヤの王レヂンとレマリヤの子であるイスラエルの王ペカが、エルサレムに上って来て攻めたが、勝つことができなかった。

2 ときに、スリヤがエフライム[1]と同盟をしているとダビデの家に知らせがあった。それで、王の心も、民の心も、森の木々が風に揺らぐように動揺した。

3 そのとき、主はイザヤに言われた。『あなたとあなたの子シャル・ヤシュブ[1]とは出て行って、布さらしの野の大路にある上の池の水道の端でアハズに会い、

4 彼に言いなさい。気を落ち着けて静かにしていなさい。[1]恐れてはならない。スリヤを率いるレヂンとレマリヤの子が激しく怒っても、それは二つのくすぶっているたいまつの燃えさしにすぎないので、気弱になってはならない。

5 スリヤとエフライム、およびレマリヤの子は、あなたに対して悪事を企てて言っている。

6 「我々はユダに攻め上って、これを悩まそう。そ

---

10 (1) マタ 13・14−15
12 (1) 列下 17・18、20
13 (1) 木のように、葉は落ちても命と種を生じさせる力はその中にある、の意

第17章

2 (1) イスラエルの北王国は、指導的な部族であるエフライムの名で呼ばれた
3 (1) ヘブライ語で「残りの者は帰る」の意
4 (1) 攻撃を恐れるな。その二人の王には戦意がない、の意

して我々のためにこれを分けて、タビエルの子をそこで王にしよう。」[1)わ]

7 主なる神はこう言われる。そのことは行われない。また起こることはない。

8 スリヤの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレヂンである。エフライムは六十五年のうちに破られて、一つの民を成さなくなる。

9 またエフライムの頭はサマリヤ、サマリヤの頭はレマリヤの子である。もしあなたがたが信じなければ、しっかりと立つことはできない。』[1)しん]

10 さらに主は、再びアハズに言われた。

11 『主なるあなたの神にしるしを求めなさい。深い所にも、また頭上の高い所にも求めなさい。』[1)]

12 しかしアハズは言った。『わたしは求めません。主を試みることはいたしません。』

13 そこでイザヤは言った。『おお、ダビデの家よ、聞きなさい。人を煩わすことはあなたがたにとってささいなことだろうか。そのようにして、わたしの神までも煩わそうとするのか。

14 それゆえ、主は自らしるしをあなたがたに与えられる。見よ、[1)]おとめが身ごもって男の子を産み、その子の名をインマヌエルと呼ぶ。[2)]

15 その子はバターと蜂蜜を食べて、悪を退け、善を選ぶことを知るようになる。

16 その子[1)こ]が悪を退け、善を選ぶことを知るようになる前に、あなたが忌み嫌った地は[2)ふたり]二人の王から捨てられる。

17 主は、あなたと、あなたの民と、あなたの父の家に、[1)]エフライムがユダから離れた日以来まだ臨んだことのない日をもたらされる。それはアッスリヤの王である。』[2)]

18 さて、その日、主はエジプトの果ての地にいるあぶと、アッスリヤの地にいる蜂を呼ばれる。[1)よ]

19 すると、彼らはやって来て、荒れた谷や岩の裂け目に、またすべてのいばらと、すべての灌木の上にとどまる。

20 その同じ日に、主は雇い入れたかみそり、すなわち川の向こうの者、[1)]アッスリヤの王によって、頭と足の毛をそり、[2)]またひげもそり落とす。

21 そしてその日、一人の男が若い雌牛一頭と羊二頭を飼う。[1)か]

22 そして、これらは乳をたくさん出すので、彼はバ

---

6 ①ヘブライ語で「分割する」の意
9 ①歴下20・20
11 ①GS「しるし」
14 ①GS「おとめ」
②ヘブライ語で「神はわたしたちとともにおられる」の意。GS「インマヌエル」
16 ①2ニフ18・4
②列下15・30、16・9
17 ①列上12・16—19
②歴下28・19—21
18 ①あるいは「口笛で呼ばれる。」合図する、呼び出す、の意。イザ5・26
20 ①列下16・5—9
②外国からの侵入者によって住民が少なくなるということ
21 ①わずかな者だけが自力で生き残るということ

ターを食べる。その地に残された者は皆、バターと蜂蜜を食べる。
23そしてその日に、かつて銀千枚に値した千株のぶどうの木のあった所は、すべていばらとおどろの生える所となる。
24全地がいばらとおどろになるので、人々は弓と矢を持ってそこへ行く。
25しかし、鍬で掘り耕されたすべての丘は、いばらとおどろの生える恐れがない。そこは牛を放す所、小さな家畜の踏む所となる。」

第18章

キリストはつまずきの石、妨げの岩のようである。

さえずる口寄せにではなく、主に求めよ。律法と証に頼って導きを得よ。イザヤ書第八章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「さらに、主の言葉がわたしに言われた。『大きな巻き物を一巻取り、それに普通の文字でマヘル・シャラル・ハシ・バズと書きなさい。』
2わたしは、証言する確かな証人として、祭司ウリヤとエベレキヤの子のゼカリヤをわたしのために立てた。
3わたしが女預言者のもとに行くと、彼女は身ごもって男の子を産んだ。すると、主はわたしに言われた。『この子の名をマヘル・シャラル・ハシ・バズと呼びなさい。
4それは、見よ、この子がまだ「お父さん、お母さん」と呼ぶことを知らないうちに、ダマスコの富とサマリヤの分捕り品が、アッスリヤの王のもとに運び去られるからである。』
5主はまた重ねてわたしに言われた。
6『この民は緩やかに流れるシロアの水を捨てて、レヂンとレマリヤの子とを喜んでいる。
7それゆえ見よ、主は勢いと水量のある川の水、すなわちアッスリヤの王と彼のすべての栄光を彼らのうえにもたらす。それはすべての水路にあふれ、すべての堤を越え、
8ユダに流れ込み、あふれみなぎって、首にまで達する。おお、インマヌエルよ、彼の翼は伸びて、あなたの国の広がりのすべてを覆う。』
9おお、民よ、連合せよ。それでもあなたがたは打

25① 羊、あるいは、やぎ

第18章
1① 「破滅が迫っている」の意
2① GS「証人・証」
3① イザヤの妻のこと
4① 2ニフ17・16
② イザ8・4
③ 列下15・29
6① イザ7・1
7① まず北のイスラエルにアッスリヤはユダにも進攻する
8① GS「インマヌエル」
9① GS「同盟を結ぶこと」

ち砕かれる。遠くの国々のすべての者よ、耳を傾けよ。腰に帯をせよ。それでもあなたがたは打ち砕かれる。腰に帯をせよ。それでもあなたがたは打ち砕かれる。

10 ともに諮れ。しかし、それは無に帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。[1]神がわたしたちとともにおられるからである。

11 主は強い御手をもって次のようにわたしに語り、この民の道を歩まないようにわたしを諭された。

12 『この民が「同盟を」と言うすべての相手に、あなたがたは「[1]同盟を」と言ってはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。おののいてはならない。

13 万軍の主を聖なる方としてたたえ、その方をあなたがたの[1]恐れとし、また、あなたがたのおののきとしなさい。

14 そうすれば、その方は[1]聖所となる。しかし、イスラエルの両家には[2]つまずきの石となり、妨げの岩となる。また、エルサレムに住む者には、わなとなり、落とし穴となる。

15 そして彼らの多くが[1]つまずき、倒れ、砕かれ、わなにかかり、捕らえられる。』

16 証を束ね、[1]律法をわたしの弟子たちの中に封じておきなさい。

17 わたしは、ヤコブの家から御顔を[1]隠しておられる主を待ち望む。わたしは主を待ち受ける。

18 見よ、わたしと、主がわたしに賜わった子供たちは、シオンの山に住んでおられる万軍の主からイスラエルに与えられた[1]しるしであり、不思議である。

19 人々があなたに、『[1]霊媒に求めよ、さえずりささやく[2]口寄せに求めよ』と言うとき、民は[3]死者から知らせを受けようとする生者のために、自分たちの[1]神に求めるべきではないだろうか。

20 律法と証に求めなさい。もし[1]彼らがこの言葉に従って語らないとすれば、それは彼らの中に光がまったくないためである。

21 [1]彼らはそこでつらい目に遭い、飢えに苦しむ。そして、彼らは飢えるといらだって、自分たちの王と神をのろって上を見る。

22 また彼らが地を見ると、災難と暗闇と苦しみの闇があり、彼らは暗闇に追いやられる。」

---

10 ①ユダ（インマヌエルの地）は守られる。詩篇46・7

12 ①ユダは自らの安全を得るために他国との密約に頼ってはならないということ

13 ①神の前に敬虔であり謙遜であること エゼ11・15−21

14 ①1ペテ2・4−8、ヤコ4・14−15 ②マタ21・42−44

15 ①ヘブライ語で「教え」「教義」の意。GS「福音」イザ54・8

16 ①イザヤと息子たちの名前にはそれぞれ、「エホバは救われる」「残りの者は帰る」「速やかに奪い取る」という意味がある。2ニフ17・3、18・3 ②レビ20・6 ③魔術師、占い師のこと ④あるいは「死者に代わって」サ上28・6−20

20 ①霊媒や口寄せのこと（第21−22節も同じ）

21 ①イスラエルは聞き従わないので囚われの身となる、の意

第19章

イザヤ、メシヤについて語る。暗闇の中にいる人々は大きな光を見る。わたしたちのために、一人のみどりごが生まれる。そのみどりごは平和の君となり、ダビデの王座に着いて治める。イザヤ書第九章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「しかし、その闇は、初め主がゼブルン[1]の地とナフタリの地を少しばかり苦しめ、後にそれよりも激しく、ヨルダンの向こうの紅海の道沿いにもろもろの国民の住むガリラヤを苦しめられたときの、その苦しみのようではない。

2 [1]暗闇の中を歩いていた人々は大きな光を見た。死の陰の地に住む者たちのうえに光がさした。

3 あなたは民を増やし、喜びを[1]増し加えられた。彼らは刈り入れのときに喜ぶように、また男たちが分捕り品を分けるときに喜ぶように、あなたの前で喜ぶ。

4 あなたが彼の重荷のくびきと、彼の肩の棒と、彼を虐げる者の鞭を折られたからだ。

5 戦士の戦いには、ことごとく騒がしい音と血にまみれた衣が伴うが、しかしこれは、焼き払いと火の薪によって行われる。

6 わたしたちのために一人のみどりご[1]が生まれる。わたしたちのために一人の男の子が与えられる。[2]主権は彼の肩にあり、その名は霊妙、助言者、[3]力ある神、[4]永遠の父、[5]平和の君ととなえられる。

7 ダビデの王座にも、また彼の王国においても、彼の[1]主権と平和とは増し加わって[2]限りなく、これから後とこしえに公平と公正によって王国は整えられて、確立される。万軍の主の熱意がこれを行うのである。

8 主はヤコブに言葉を送られ、それは[1]イスラエルに及んだ。

9 すべての人は知るであろう。エフライムやサマリヤに住む者でさえ高ぶりおごった心でこう言うのを。

10 『れんがが崩れても切り石で建てよう。いちじくの木が切り倒されても杉の木でそれに代えよう。』

11 それゆえ、主は[1]レヂンの敵を彼に対して立て、彼の敵を連合される。

12 前方にスリヤ人がおり、後方にはペリシテ人がい

第19章
1 (1) マタ 4・12−16
2 (1) 「闇」と「暗闇」は背教と捕囚を指す。「大きな光」とはキリストのこと
3 (1) イザ 9・3、イザ 7・14、ルカ 2・11
6 (1) マタ 28・18、テト 2・13−14、アル 11・38−39、44、ヨハ 14・27
(2) GS「政府」
(3) ダニ 2・44
(4) (5) 次に続く預言の言葉（第8−21節）は、イスラエルと呼ばれた北の十部族への警告であった
8 (1) 列下 16・5−9

て、彼らは大口を開けてイスラエルを食い尽くす。[1]それでも主の怒りは解かれず、主の手は伸ばされたままである。

13 人々が自分たちを打つ御方に立ち返らず、また万軍の主を求めないからである。

14 それゆえ、主は一日のうちに、イスラエルから頭と尾、また枝と葦を断ち切られる。

15 その頭とは長老であり、その尾とは偽りを教える預言者である。

16 この人々を導く者たちは民を誤らせ、彼らから導きを受ける者は滅びる。

17 それゆえ、主は彼らの若い男たちを喜ばず、父のいない子供ややもめに[1]憐れみをかけられない。彼らはことごとく偽善者であり、悪を行う者であって、すべての口が愚かなことを語るからである。それでも主の怒りは解かれず、主の手[3]は伸ばされたままである。

18 悪は火のように燃え盛る。火はいばらとおどろを焼き尽くし、森の茂みを燃え立たせ、茂みは煙の柱のように巻き上がる。

19 万軍の主の激しい怒りによって地は暗くなり、民は火の薪のようになるが、[1]だれ一人その兄弟を救う者はいない。

20 彼は右手で引ったくってもなお飢え、左手で[1]食らっても満たされることはない。彼らは皆、各々自分の腕の肉を食らうようになる。

21 マナセはエフライム[2]を、エフライムはマナセを攻め、両者はともにユダ[3]を攻める。それでも主の怒りは解かれず、主の手はなお伸ばされたままである。」

第20章

アッスリヤの滅亡は、主の再臨の時の悪人の滅亡の予型である。主が再び来られた後に残る人々はわずかである。その日には、ヤコブの残りの者が帰って来る。イザヤ書第十章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「不義な法令を制定する者と、自分の定めた圧制の法を書き記す者は災いである。

2 彼らは乏しい者を公平から遠ざけ、わたしの民の中の貧しい者から権利を奪い、[1]やもめを食い物にし、父のいない子供から略奪する。

---

12 ① 列下17・6、18
13 ① ② イザ5・25、10・4
アモ4・6—12
17 ① GS「憐れみ」
② 2ニフ9・28—29
③ ヤコ5・47、6・4
19 ① ミカ7・2—6
20 ① 申命28・53—57
21 ① GS「マナセ」
② GS「エフライム」
③ GS「ユダ」

第20章
2 ① GS「やもめ」

3 あなたがたは、1)刑罰の日に遠くから荒廃が来るとき、どうするつもりか。あなたがたは、だれのもとに逃れて助けを求めるつもりか。自分の栄光をどこに残そうとするのか。
4 わたしがいなかったら、彼らは囚われた者の中にかがみ、殺された者の中に伏し倒れる。それでも主の怒りはやまず、主の手は伸ばされたままである。
5 『おお、アッスリヤ人よ、わたしの怒りの鞭よ。彼らの手にある杖は1)彼らの憤りである。
6 わたしは彼を遣わして偽善の国を攻めさせる。彼に命じてわたしの激しい怒りの民を攻めて物を奪わせ、獲物を奪わせて、彼らをちまたの泥のように踏みにじらせる。
7 しかし、彼はそのようには思わず、その心もそのようには考えない。彼の心にあるのは、多くの国民を滅ぼし、絶つことである。
8 彼は言う。「わたしの諸侯は皆、王ではないか。
9 カルノはカルケミシのようではないか。ハマテはアルパデのようではないか。サマリヤはダマスコのようではないか。
10 わたしの手は偶像の王国を幾つも築き、その彫像はエルサレムやサマリヤのものに勝っていた。
11 わたしは、サマリヤとその偶像に行ったように、エルサレムとその偶像にも同じように行わないだろうか。」
12 そして、主がシオンの山とエルサレムで御自分のすべての業を成し遂げられると、わたしは1)アッスリヤの王の2)頑強な心の実と、彼らの誇らしげな高ぶりを罰しよう。
13 それは、1)彼がこう言うからである。「わたしは自分の手の力で、また自分の知恵でこれらのことを行った。わたしは賢いからだ。わたしは人々の境を移し、彼らの宝を略奪した。わたしは勇士のように住む者を征服した。
14 わたしの手は、人々の富を鳥の巣のように見つけた。また、残された卵を人が集めるように、わたしは全地を集めた。しかし、翼を動かす者も、口を開く者も、さえずる者もなかった。」』
15 1)斧は、それを使って切る者に向かって、自分を誇るだろうか。のこぎりは、それをひく者に向かって高ぶるだろうか。それはちょうど、鞭がそれを振り上げる者に向かって、自分を打ち振るようなもので

3 ① 罰のこと
5 ① イザ10・5
6 ① イスラエルのこと
10 ① アッスリヤの王の手のこと（第10−11節）
12 ① ゼパ2・13
② 誇り高ぶること
13 ① アッスリヤの王
15 ① （第13−14節）預言者は王を道具にたとえている
② この節の隠喩はすべて同じことを問いかけている。すなわち、「人（例えば、アッスリヤの王）は神に背いて栄えるだろうか」というのがその問いである

あり、また、杖が木ではないかのように、自らを持ち上げるようなものである。

16それゆえ、万軍の主なる主は、彼の肥えた者たちの中に衰弱を送り、[1]彼の栄光の下で、火が燃えるように炎を燃え上がらせる。

17イスラエルの光は火となり、その聖者は炎となり、燃え上がって、一日のうちに彼のいばらとおどろとを焼き尽くす。

18また、彼の森とよく肥えた畑の栄えを、[1]霊も体も二つながらに焼き尽くす。そこで、旗手が弱り果てるように彼らもそのようになる。

19その森に残る木はわずかであって、子供でさえも、それを書き留めることができるであろう。

20そしてその日には、イスラエルの残りの者とヤコブの家の逃れた者は、自分たちを打った者にもはや頼らず、イスラエルの聖者なる主に真心から頼る。

21[1]残りの者、すなわちヤコブの残りの者は、力ある神に立ち返る。

22あなたの民イスラエルは海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。[1]滅びはすでに定まり、義があふれようとしている。

23万軍の主なる神が、すでに定められている滅びを全地に[1]及ぼされるからである。

24それゆえ、万軍の主なる神はこう言われる。『おお、シオンに住むわたしの民よ、アッスリヤ人を恐れてはならない。彼は[1]エジプトに倣って鞭であなたを打ち、杖をあなたに向かって振り上げる。

25しかし、もうしばらくすれば憤りはやみ、わたしの怒りが彼らを滅ぼすであろう。』

26万軍の主は、かつて[1]ミデアン人がオレブの岩で殺されたときのように、彼に向かって鞭を振るわれる。また、海の上に杖がかざされたように、主はエジプトでの例に倣って、それを振り上げられる。

27そしてその日には、彼の[1]重荷はあなたの肩から取り去られ、彼のくびきはあなたの首から取り除かれ、また油を注がれたために、そのくびきは砕かれる。

28[1]彼はアイアテに着き、ミグロンを過ぎ、ミクマシに荷を置いた。

29彼らは渡し場を過ぎてゲバに宿った。ラマはおのき、サウルのギベアは逃げ去った。

30おお、ガリムの娘よ、声を上げよ。おお、哀れな

---

16 ①アッスリヤの王（第17−19節も同じ）
17 ①アッスリヤは完全に消滅する、の意
19 ①アッスリヤの軍隊の残りの者のこと
20 ①未の日のこと ②アモ9・8−9
21 ①イザ11・11−12 ②教義63・34、GS「世の終わり」
22 ①罰が来ようとも、憐れみもある、の意
23 ①宣言された滅びをもたらす、の意
24 ①エジプト人がかつて行ったように、の意。出エ1・13−14
26 ①創世25・1−2、士師7・25
27 ①イザ14・25 ②GS「油注がれた者」
28 ①アッスリヤの軍隊のエルサレムへの行程が述べられ、次いで（第33−34節）彼らに対する主の業が比喩的に述べられている

アナトテよ、その声をライシに聞かせよ。
31 マデメナはすでに逃げ去り、ゲビムに住む者は集まって逃げ出そうとしている。
32 しかしその日、彼はノブにとどまり、シオンの娘の山、エルサレムの丘に向かって手を振る。
33 見よ、万軍の主なる主は、恐ろしい勢いで大枝を切り払われる。[1]丈の高いものは切り落とされ、そびえ立つものは低くされる。
34 主は鉄で森の茂みを切り倒され、レバノンは力ある御方によって倒される。」

第21章

エッサイの株（キリスト）は、義をもって裁きを行われる。福千年には神を知る知識が地を覆う。主は旗を掲げて、イスラエルを集められる。イザヤ書第十一章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「[1]エッサイの株[2]から一つの芽[3]が出、その根から一つの枝が生じる。
2 そして、そのうえに[1]主の御霊がとどまる。それは知恵と理解の霊、深慮と能力の霊、主を知る知識と主への畏れの霊である。
3 主の御霊は、主を畏れることを彼に早く悟らせる。彼は自分の目で見たことによって裁かず、[1]自分の耳で聞いたことによって責めることをしない。
4 しかし、彼は[1]義をもって貧しい者を裁き、公平をもって地の柔和な者のために責められる。[3]また、彼の口の鞭で世を打ち、彼の唇の息で悪人を殺す。
5 義は彼の腰の帯となり、忠信は彼の腹の帯となる。
6 おおかみは子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛と若いライオンと肥えた若い家畜はともにいて、幼い子供がこれらを導く。
7 雌牛とくまはともに食べ、その子らはともに伏し、ライオンは牛のようにわらを食べる。
8 乳飲み子は毒蛇の穴の上で戯れ、乳離れした子は[2]まむしの穴に手を置く。
9 彼らはわたしの聖なる山のどこにおいても、[1]害を与えることも損なうこともない。水が海を覆っているように、主を知る[2]知識が地に満ちるからである。
10 その日、[1][2]エッサイの根が民の旗として立ち、[3]異邦

33 ① ヒラ4・12−13
第21章
1 ① エッサイはダビデの父である。やがてイエスの誕生を迎えることになるダビデの血統のことが紹介されている。ミカ5・2、ヘブ7・14、GS「エッサイ」
② 教義113・1−2
③ 教義113・3−4
2 ① イザ61・1−3
3 ① ヨハ7・24
4 ① 詩篇72・2−4、モサ29・12、GS「柔和」
② ヘブライ語で「判決を下す」の意
③ エジプトにいる小さな毒蛇
8 ① 別の種類の毒蛇
② イザ2・4、GS「福千年」
9 ① 教義101・32−33、130・1
② 末日のこと。ジー歴史1・40
10 ① ロマ15・12、教義113・5−6
② 教義45・9−10

人はこれに求め、彼の安息は栄光に満ちる。
11そしてその日、主は再び、残されている御自分の民の残りの者を、アッスリヤ、エジプト、パテロス、クシ、エラム、シナル、ハマテ、および海の島々から元に戻す業を始められる。
12主はもろもろの国民のために旗を掲げ、イスラエルの追放された者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。
13また、エフライムのねたみは消え去り、ユダの敵は絶たれる。エフライムはユダをねたまず、ユダもまたエフライムを悩まさない。
14彼らは西の方のペリシテ人の肩に飛びかかり、またともに東の民から強奪する。彼らはエドムとモアブにも手を伸ばし、またアンモンの子孫を従わせる。
15主はエジプトの海の入江をことごとく涸らされる。また、強風を伴って川の上で手を振り動かし、それを打って七つの流れとし、乾いた靴で人々を渡らせられる。
16残された主の民の残りの者のために、アッスリヤからの大路がある。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。」

第22章

福千年には、すべての人が主をほめたたえる。主は民の中にとどまられる。イザヤ書第十二章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「その日、あなたは言う。『おお、主よ、わたしはあなたをほめたたえます。あなたはかつて、わたしのことをお怒りになりましたが、今はあなたの怒りも解かれ、あなたはわたしを慰めてくださいました。』
2『見よ、神はわたしの救いである。わたしは信頼して恐れない。主なるエホバはわたしの力であり、わたしの歌である。また、主はわたしの救いとなってくださった。』
3それゆえ、あなたがたは喜んで、救いの井戸から水をくむ。
4その日、あなたがたは言う。『主をほめたたえ、主の御名を呼び、主の行われたことを人々の中に告げ知らせ、主の御名があがめられていることを話しな

10④ あるいは「彼に」
11① 2ニフ6・14、25・17、29・1
12① GS「旗」
② 3ニフ15・15、16・1—4
13① ネヘ1・9、1ニフ22・10—12、教義45・24—25、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
② GS「ユダ」
③ 〔列上12・16—20の出来事の後〕ユダとエフライムによって導かれたそれぞれの部族は、歴史上敵対する者となった。末日に、この敵意は解消する。エゼ37・16—22、GS「ねたみ」
14① ペリシテ人の領土であった西側の傾斜地を攻撃すること ゼカ10・11
15① イザ35・8、教義133・27
16① 2ニフ6・14、25・
第22章
2① モサ4・6、ヒラ12・1
② 出エ15・2、KJ詩篇83・18、GS「エホバ」
3① GS「生ける水」
4① GS「感謝」

さい。
5 主をたたえて歌いなさい。[1]主はすばらしいことをされたからである。このことは全地に知られている。
6 シオンに住む者よ、[1]大声を上げて叫びなさい。イスラエルの聖者は、あなたの中にあって大いなる御方なのだから。』」

第23章

バビロンの滅亡は、主の再臨の時に悪人が滅びることの予型である。やがて怒りと報復の日が来る。バビロン（世）はとこしえに倒れる。イザヤ書第十三章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「アモツの子イザヤが見た、[1]バビロンについての[2]託宣。
2 高い山の上に[1]旗を掲げ、彼らに向かって声を上げ、[2]手を振って、彼らを貴族の門に入らせなさい。
3 『わたしは[1]聖別した者たちに命じた。また、わたしの勇士たちを召した。わたしの怒りは、わたしが高い位にあることを喜ぶ者には及ばないからである。』
4 群衆のような山々のとどろき。[1]寄り集まったもろもろの民の[2]王国のどよめき。万軍の主が軍隊を召集しておられる。
5 彼らは遠い地方から、天の果てからやって来る。まことに、主と主の憤りの武器が全地を滅ぼすために来る。
6 泣きわめけ。主の日は近づいているからである。それは全能者から滅亡として来る。
7 それゆえ、すべての手は弱り、すべての人の心はくじける。
8 彼らはおののき、ひどい苦しみと悲しみが彼らを捕らえる。彼らは互いに見合って驚き、彼らの顔は炎のようになる。
9 見よ、主の日が来る。憤りと激しい怒りを伴う容赦のない日が来て、地を荒れ廃れさせる。そして主は、そこにいた罪人を[1]滅ぼされる。
10 天の星と星座は光を放たず、[1]太陽は日の出から暗く、月もその光を輝かさない。
11 『わたしは悪のために世を[1]罰し、罪悪のために悪人を罰する。また、[2]誇る者の傲慢をとどめ、荒々しる。』

---

1 ① イザ13、14章に預言された邪悪なバビロンの歴史的な滅亡は、邪悪な世が最後には滅びることを示すものである。教義133・5、7、14、GS「バビロン、バベル」
② 滅亡を告げる言葉
2 ① GS「旗」
② 合図を送ること
3 ① 聖徒のこと
4 ① ゼカ12・3
② ゼカ14・2—3
9 ① GS「地球（地）—地球の清め」
10 ① GS「世—世の終わり」
11 ① マラ4・1
② 教義64・24
5 ① 教義136・28
6 ① イザ54・1、ゼパ3・14
第23章

い者の高慢を抑える。
12わたしは人を純金よりも、オフルの金塊よりも少[1]
なくする。
13それゆえ、わたしは天を震わせる。また、万軍の主の激しい怒りにより、主のすさまじい怒りの日に、地はその場所から移る[1]。』
14それは、狩り出されるかもしかのようであり、集める者のいない羊のようである。彼らは各々自分の民に帰り、各々自分の国に逃げ戻る。
15誇る者は皆、刺し貫かれ、また悪人の仲間に加わる者は皆、剣によって倒れる。
16彼らの子供たちは目の前で投げ砕かれ、彼らの家は強奪され、彼らの妻は犯される。
17『見よ、わたしはメデア人を起こして彼らに向かわせる。メデア人は金銀に見向きもせず、それを喜びもしない。
18彼らの弓は若い男たちを射砕く。彼らは胎の実を哀れまず、彼らの目は子供たちを容赦しない。
19もろもろの王国の誉れであり、カルデヤ人の卓越した麗しさであるバビロンは、かつて神がソドム[2]とゴモラを滅ぼされたときのようになる。
20そこに住む[1]者は一人もなく、代々住みつく者もいない。アラビア人もそこには天幕を張らず、羊飼いたちもそこには羊の囲いを設けない。
21砂漠の野獣[1]がそこに伏し、彼らの家々には陰気な生き物が満ち、ふくろうがそこに住み、鬼神[2]がそこで踊る。
22島々の野獣が彼らの家[1]でほえ、彼らの華麗な宮殿には龍[2]が鳴く。バビロンの時は間近であり、その日は延ばされない。わたしは速やかにバビロンを滅ぼす。まことに、わたしは自分の民を憐れむが、悪人は滅びる。』」

第24章

イスラエルは集められ、福千年の安息を享受する。ルシフェルは背いたために天から追い出された。イスラエルはバビロン（世）に打ち勝つ。イザヤ書第十四章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「主はヤコブを憐れみ、やがてイスラエルを選[1]んで、彼らを彼ら自身の地に置かれる。また、見知[2]ら

12①イザ4・1−4
13①GS「地球（地）」—最終的な状態」
19①虚栄のこと
②創世19・24−25、申命29・23、2ニフ13・9
20①エレ50・3、39−40
21①イザ34・14−15
②ヘブライ語で「雄やぎ」「魔神」の意
22①ヘブライ語で「館」の意
②ヘブライ語で（恐らく）「ジャッカル」「野犬」の意

第24章
1①ゼカ1・17
②イザ60・3−5、10

ぬ者たちが彼らに連なり、ヤコブの家に結びつく。
2 人々は彼らを連れて、彼らの地に導く。まことに、遠くから地の果てまで彼らを導く。そして、彼らは自分たちの[2]約束の地に帰る。イスラエルの家はそれらを所有し、主の地は僕のものとなり、はしためのものとなる。そして彼らは、かつて自分たちをとりこにした者をとりこにし、自分たちを虐げた者を治める。
3 そしてその日、主はあなたの悲しみと恐れを取り除き、またあなたが服したつらい苦役を解いて、あなたに安息を与えられる。
4 そしてその日、あなたはバビロンの王に対して次の言葉を告げて言う。『虐げる者がどうして果てたのか。黄金の都がどうして滅びたのか。
5 主は悪人の杖、支配者たちの笏を折られた。
6 激しい怒りをもって民を打ち続けて苦しめた者、怒りのうちに国民を治めた者は今責められる。そして、それをとどめる者はだれもいない。
7 全地は安息を得、穏やかになり、人々は声を放って歌う。
8 まことに、もみの木も、レバノンの杉の木もあなたのことを喜んで言う。「あなたが倒れてから、わたしたちを切りに来るきこりは一人もいない。」
9 下の地獄は、あなたが来るのを迎えて揺れ動く。あなたのために死者を、すなわち地のすべての指導者たちを揺り起こす。また、国々のすべての王たちをその王座から立ち上がらせる。
10 彼らは皆、あなたに告げて言う。「あなたもまた、わたしたちのように弱くなったのか。あなたも、わたしたちと同じようになったのか。」
11 あなたの華やかさは墓に葬られ、あなたの琴の音は聞こえない。うじがあなたの下に敷かれ、またあなたを覆う。
12 おお、暁の子ルシフェルよ、あなたはどうして天から落ちたのか。もろもろの国々を打ちのめしたあなたが、地に切り倒されるとは。
13 あなたはかつて心の中で言った。「わたしは天に昇り、わたしの王座を神のもろもろの星よりも高くしよう。また、北の果てにある集会の山に座そう。
14 わたしは雲の頂に昇り、いと高き者のようになろう。」
15 しかし、あなたは地獄に落とされ、穴の底に入れ

---

2 ① 他の国々がイスラエルを助けること
② GS「約束の地」
3 ① イザ 60・14
③ ヨシ 1・13、教義 84・24
4 ① GS「バビロン・バベル」
7 ① イザ 55・12
8 ① ヘブライ語で「糸杉」の意
② 死ぬこと
③ ヘブライ語で「木を」切る者はわたしたちを攻めて来なかった」の意
9 ① GS「地獄」
② 肉体から分離した霊たちのこと
12 ① ヘブライ語で「明けの明星」「暁の子」の意。邪悪な世（バビロン）の支配者がすべての悪の支配者であるルシフェルとして述べられている。GS「悪魔」「ルシフェル」
② 教義 76・26
モセ 4・1−4
② バビロニアの信仰による神々の住む所。詩篇 48・2
15 ① 1ニフ 14・3

られる。
16 あなたを見る者はつくづくとあなたを見、あなた
に目を留めて言う。「これが地を震わせ、もろもろの
王国を揺り動かした者か。
17 世界を荒れ野のようにし、そのもろもろの町を滅
ぼし、捕らえた者たちを釈放しなかった者か。」
18 もろもろの国の王たちは皆、まことにすべての王
たちはそれぞれ、尊い有様で自分の家に横たわって
いる。
19 しかし、あなたは忌み嫌われる枝のように墓の外
に投げ出される。また、剣で刺し殺された者の残り
は、穴の底に投げ落とされる。まるで、足で踏みつ
けられるしかばねのようである。
20 あなたは自分の国を滅ぼし、自分の民を殺したの
で、彼らとともには葬られない。悪を行う者の子孫
は、決して名を知られることがない。
21 先祖が罪悪を犯したので、彼の子孫が立って地を
占領して、世界の面をもろもろの町で満たすことの
ないように、子孫を殺す備えをしなさい。』
22 万軍の主は言われる。『わたしは彼らに逆らって
立ち、バビロンからその名と、残りの者と、息子
と、孫とを絶とう。』そう主は言われる。
23 『わたしはバビロンをさぎの住みかとし、水の池
とする。また、滅びのほうきでそれを掃こう。』万軍
の主はそう言われる。
24 万軍の主は誓って言われた。『わたしが思ったよ
うに必ず事は成り、わたしが定めたように必ず立つ。
25 わたしはアッスリヤ人をわたしの地に入らせ、わ
たしの山々の上で踏みにじろう。そのとき、アッス
リヤ人のくびきはイスラエルから取り去られ、その
重荷は彼らの肩から取り除かれる。』
26 これは全地に対して定められたことであり、また
これは、すべての国の上に伸ばされた御手である。
27 万軍の主が定められたものを、だれが取り消せよ
うか。主の手が伸ばされているのを、だれが押し戻
せようか。
28 アハズ王の死んだ年に、この託宣があった。
29 『ペリシテの全地よ、あなたを打った者の鞭が折
れたからといって喜んではならない。蛇の根からま
むしが出、その実は火の飛ぶ蛇となるからである。
30 貧しい者の初子は食物を得て、乏しい者は安らか
に伏す。わたしはあなたの根を飢饉で枯らし、彼は

---

16 ① ヘブライ語で「横目で見て非難する」の意
18 ① 自分の家族の墓のこと
19 ① 切られ、捨てられる枝
20 ① GS「邪悪」
② 詩篇21・10—11、37・28
21 ① 出エ20・5
22 ① 箴言10・7
② ヨブ18・19
23 ① イザ34・11—15
25 ① 主題が紀元前七百一年のユダにおけるアッスリヤの攻撃と衰退に移っている（第24—27節）。列下19・32—37、イザ37・33—38
② ユダとイスラエルの山々
③ イザ10・27
26 ① やがてこのように、この世の国々は覆される
28 ① 列下16・20
② 紀元前約七百二十年に出されたこの託宣は、ペリシテ人についての預言であり、ユダが守られるというものである

あなたの残りの者を殺す。
31 おお、門よ、泣きわめけ。おお、町よ、叫べ。ペリシテの全地よ、崩れよ。北から煙が来るからである。定められたときに独りでいる者はだれもいない。』
32 そのとき、国々の使者たちは何と答えるだろうか。『主はシオンを築かれた。主の民の貧しい者はそれに[3]頼る』と答える。」

第25章

ニーファイは、分かりやすいことを喜びとする。終わりの時にはイザヤの預言が理解される。ユダヤ人はバビロンから帰り、メシヤを十字架につけ、散らされ、苦しめられる。ユダヤ人はメシヤを信じるようになると、元の状態に戻される。リーハイがエルサレムを去って六百年たつと、メシヤの最初の来臨がある。ニーファイ人はモーセの律法を守り、イスラエルの聖者であるキリストを信じる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 ところで、わたしニーファイは、イザヤの口を通して語られた御言葉をこれまで書き記してきたが、今これらについて少し話をしよう。見よ、イザヤが語った多くの事柄は、わたしの民の多くの者にとって[1]理解しにくいものである。それは、彼らがユダヤ人の預言の仕方を知らないからである。
2 それは、ユダヤ人が闇の[1]業にふけり、忌まわしい行いに走っていたので、わたしニーファイはユダヤ人の風習について多くのことを民に教えなかったからである。
3 それで、わたしは自分の民に、また、わたしが今書いているこれらのものを将来受けるすべての人に書き記して、彼らが神の語られた御言葉のとおりに、すべての国民に及ぶ神の裁きについて知ることができるようにしよう。
4 したがって、聴きなさい、おお、イスラエルの家に属するわたしの民よ。わたしの言葉に耳を傾けなさい。イザヤの言葉はあなたがたには分かりにくいが、[1]預言の[2]霊に満たされている人々には分かりやすい。わたしはあなたがたに、わたしの内にある御霊によって預言する。すなわち、父とともにエルサレムを出たときから絶えず示してきた、[3]分かりやすい

---

32 ①GS「シオン」
②③ゼパ3・12 あるいは「その中に避け所を得ようとする」
第25章
1 ①2ニフ25・5—6
②①列下17・13—20
③①GS「預言」
②GS「聖霊」
③2ニフ31・3、33・5—6、ヤコ4・13

言葉で預言する。見よ、わたしは、民が学べるように分かりやすい言葉で話すことを喜びとしているからである。

5 また、わたしは自分がエルサレムから出て来た者であり、この目でユダヤ人にかかわることを見てきたので、[1]イザヤの言葉を喜んでいる。[2]ユダヤ人は、預言者たちの述べた事柄をよく理解している。しかも、ユダヤ人に話された事柄をユダヤ人ほどよく理解できる者は、ユダヤ人の風習を教わっていないかぎり、ほかにいない。このことをわたしは知っている。

6 しかし見よ、わたしはユダヤ人の風習について自分の子供たちに教えなかったが、わたし自身はかつてエルサレムに住んでいたので、その周りの地方についても知っている。また、わたしは子供たちに、イザヤが語ったすべての事柄のとおりに、すでにユダヤ人に神の裁きが[1]下ったことを告げた。それについてはここには書かない。

7 しかし見よ、わたしは[1]分かりやすい言葉で自分の預言を続けよう。分かりやすく述べれば、だれも誤解しようがないことを知っているからである。しかし、イザヤの預言が成就する日に、すなわちそれらの預言が事実となるときに、人々はそれが確かであることを知るであろう。

8 それゆえ、イザヤの預言は人の子らにとって[1]価値がある。価値がないと思う者に特にわたしは語ろう。また、[2]わたしの民に対してだけ語る。それはイザヤの言葉が、[3]終わりの時に、彼らにとって大いに価値のあるものとなることを知っているからである。彼らはその日に、イザヤの言葉を理解するからである。それゆえ、わたしは彼らのためにそれらを書き記してきたのである。

9 ユダヤ人の中で一代の人々がすでに罪悪のために[1]滅びたように、代々のユダヤ人も彼らの罪悪のために滅びてきた。彼らの中には、主の預言者たちから[2]予告を受けることなしに滅びた者は、これまでにまだ一人もいない。

10 さて、ユダヤ人は、わたしの父がエルサレムを去ったすぐ後に滅亡が及ぶことを告げられていた。にもかかわらず、彼らは心をかたくなにした。囚われの身となってバビロンへ[1]連れ去られた者以外は、わたしの預言どおりに[2]滅ぼされてしまった。

---

5 ①GS「ユダヤ人」 ②1ニフ19・23、3ニフ23・1
6 ①2ニフ6・8、ヒラ8・20−21
7 ①2ニフ32・7、アル13・23
8 ①GS「聖文−聖文の価値」 ②エノ1・13−16、モル5・12−15、教義3・16−20 ③GS「終わりの時・末日」
9 ①エレ39・4−10、マタ23・37−38 ②アモ3・7、1ニフ1・13
10 ①列下24・14、エレ52・3−16 ②1ニフ7・13、2ニフ6・8、オム1・15、ヒラ8・20−21

11 わたしは今このことを、わたしの内にある御霊によって語る。彼らは連れ去られたにもかかわらず、将来再び帰って来て、エルサレムの地を所有する。彼らの受け継ぎの地に再び戻されるのである。

12 しかし見よ、彼らの中には戦争と戦争のうわさがある。また、御父の独り子[1]、すなわち天地の父が肉にあって彼らに御自身を現される日が来ると、見よ、彼らは罪悪を犯し、心をかたくなにし、強情になって、その御方を拒む。

13 見よ、彼らは独り子を十字架につける。しかし、独り子は三日間[2]墓[3]に横たえられた後、御自分の翼にある癒しによって死者の中からよみがえられる[4]。そして、独り子の名を信じる者は皆、神の王国に救われる。わたしは、この独り子について預言することに喜びを感じる。それは、わたしはすでにこの独り子の生涯を見たからである[5]。したがって、わたしの心は独り子の聖なる名を賛美する。

14 そして見よ、メシヤが死者の中からよみがえり[1]、御自分の民に、すなわち御名を信じる多くの者に御自身を現された後、エルサレムは再び滅ぼされる[2]。神と神の教会の聖徒たちに逆らって戦う者は、災いを受けるからである。

15 これによって、ユダヤ人[1]はすべての国民の中に散らされる[2]。また、バビロン[3]も滅ぼされるので、ユダヤ人はほかの国民によって散らされる。

16 そして、彼らが散らされ、主なる神が何世代もの間、すなわち、彼らが神の御子キリストと全人類のための無限の贖罪[1]を信じるようになるまで、代々ほかのもろもろの国によって彼らを鞭打たれた後、やがて彼らがキリストを信じ、純真な心と清い手をもってキリストの名により天の御父を拝し、もうほかのメシヤを待ち望まない日が来る。そのときには、彼らはこれらの事柄を信じざるを得なくなる。

17 やがて主は御自分の民を、迷い堕落した状態から元の状態[1]に戻す業を再び始められる。そのために、主は驚くべき業と不思議を人の子らの中で行われる。

18 そして主は、彼らに御自分の言葉[1]を伝えられる。それらの御言葉は彼らに、かつてユダヤ人が拒んだまことのメシヤを信じさせ、また、もうほかのメシヤがおいでになるのを待ち望む必要がないことを確信させるために与えられるものであるから、彼らは

11 ① エズ 1・1−4、エレ 24・5−7
12 ① GS「独り子」
② ルカ 23・33
13 ① ルカ 24・6−7、モサ 3・10
② ヨハ 19・41−42、1ニフ 19・10
③ GS「復活」
④ 1ニフ 11・13−34
⑤ GS「メシヤ」
14 ① ルカ 21・24、ジーマタ 1・1−18
② GS「ユダヤ人」
15 ① ネヘ 1・8−9、2ニフ 10・6
② GS「バビロン・バベル」
③ 2ニフ 10・6−9、16 ① モル 5・14
17 ① 2ニフ 21・11−12、30・7、
29・1、GS「福音の回復」
② イザ 29・14、2ニフ 27・26、3ニフ 28・31−33
18 ① 2ニフ 29・11−12、33・11、14−15
② 2ニフ 26・12−13

終わりの日にこれらの御言葉によって裁かれるのである。預言者たちの語るメシヤはただ一人であって、ユダヤ人はそのメシヤを拒むのであるから、ほかにメシヤが来るとすれば、それは民を惑わす偽りのメシヤにほかならない。

19 預言者たちの言葉によれば、メシヤはわたしの父がエルサレムを去ってから六百年で来られる。また、預言者たちの言葉と神の天使の言葉によれば、その御名は神の御子イエス・キリストととなえられる。

20 さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたが誤解しないように分かりやすく語ってきた。主なる神はイスラエルをエジプトの地から導き出し、また、民が毒蛇にかまれたときには、モーセが彼らの前に上げた蛇を見れば癒されるようにモーセに力を与え、さらに、岩を打てば水が出るようにモーセに力を授けられた。見よ、これらのことが真実であるように、また主なる神が生きておられるように確かに、わたしが語ってきたイエス・キリストのほかに、人に救いを与えることのできる名は天下に与えられていないということを、あなたがたに言っておく。

21 さて、このような理由で、主なる神は、わたしが書き記すこれらのものが保存され、残されて、代々わたしの子孫に伝えられると約束してくださった。それによって、ヨセフの子孫は大地のあるかぎり決して滅びることはないという約束が、ヨセフに対して果たされるのである。

22 それゆえ、これらのものは大地のあるかぎり代々伝わる。神の御心と思いのままに伝わるのである。そして、これらのものを所有する国民は、書き記されている言葉によって裁かれるのである。

23 わたしたちは子孫と同胞に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている。それは、わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知っているからである。

24 また、わたしたちはキリストを信じているが、今はモーセの律法を守り、律法が成就するまで確固としてキリストを待ち望む。

25 この目的のために律法が与えられたからである。それゆえ、律法はわたしたちにとってすでに無用となって、わたしたちは信仰により、キリストによっ

---

18 ③ GS「最後の裁き」
19 ① ④ GS「反キリスト」
GS「イエス・キリスト降誕と死に関する預言」
② 1ニフ10・4、3ニフ1・1、13
③ 2ニフ10・3
20 ① 出エ3・7—10、1ニフ17・24、31、19・10
② 民数21・8—9、アルヒラ8・14—15
③ ヨハ3・14、1ニフ17・41
④ 出エ17・6、民数20・11、1ニフ17・29、20・
21 ① ホセ13・4、使徒4・10—12、モサ5・8、モセ6・52、GS「救い主」
② 2ニフ27・6—14
アモ5・15、2ニフ3・16、アル46・24—27
22 ① 2ニフ29・11、33・10—15、3ニフ27・23—
23 ① GS「子供」
② 新ヤコ2・14—26、GS「行い」
③ ロマ3・23—24、2ニフ2・4—10、モサ13・32、アル42・12—16、教義138・4、GS「恵み」
24 ① ヤコ4・4—5
GS「モーセの律法」
② ロマ7・4—6
25 ① GS「モーセの律法」

て生かされている。それでも、神の戒めに従って律法を守るのである。

26 わたしたちはキリストのことを話し[1]、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し[2]、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために[3]、自分たちの預言したことを書き記すのである。

27 それゆえ、律法について語るのは、わたしたちの子孫に律法が無用であることを知らせるためである。また彼らが、律法が無用であることを知って、キリストの内にある命を待ち望み、律法が何の目的で与えられたかを知ることができるようにするためである。さらに、キリストによって律法が成就して律法が廃されるときに、彼らがキリストに対して心をかたくなにすることがないようにするためである。

28 さて見よ、わたしの民よ、あなたがたは強情な[1]民であるから、誤解しようのないように、わたしは分かりやすく語ってきた。わたしが語ってきた言葉は、どんな人にでも正しい道を教えるのに十分であるから、あなたがたを責める証[3]になる。正しい道とは、キリストを信じること、キリストを否定しないことである。キリストを否定すれば、預言者と律法も否定することになる。

29 さて見よ、わたしはあなたがたに言っておく。正しい道とはキリストを信じること、キリストを否定しないことである。そして、キリストとはイスラエルの聖者である。それゆえ、あなたがたはキリストの前にひれ伏し、あなたがたの勢力[1]と思いと力を尽くし、全身全霊を込めてキリストを拝さなければならない。これを行えば、あなたがたは決して追い出されることはない。

30 モーセに与えられた律法が成就するまで、必要なかぎり、あなたがたは神の勤めと儀式[1]を守らなければならない。

第26章

キリストは将来、ニーファイ人を教え導かれる。ニーファイ、自分の民の滅亡を予見する。彼らは地から語る。異邦人、偽りの教会と秘密結社を作る。主は偽り善売教を禁じられる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

---

26 ① ヤコ 4・12、ジェロ 1・11、モサ 3・13
② ルカ 10・23−24
③ GS「罪の赦し」
④ GS「子供」
28 ① モサ 3・14
② 2ニフ 33・10
③ GS「証」
29 ① 申命 6・5、マコ 12・30
29−31 ① GS「儀式」

1 キリストは死者の中からよみがえった後、あなたがた、すなわちわたしの子孫と愛する同胞に御自身を現される。[1)] そして、そのときにキリストがあなたがたに語られる御言葉は、あなたがたが守らなければならない律法となる。[2)] 2 見よ、わたしはあなたがたに言っておく。将来多くの代が過ぎて、わたしの民の中に大きな戦争と争いがあるのを、わたしは見た。[3)] 3 メシヤが来られると、わたしの民にメシヤの降誕[1)]のしるし[2)]が数々与えられる。また、死と復活のしるしも数々与えられる。その日は悪人にとって大変な恐ろしい日となる。彼らはその日に滅びるからである。彼らが滅びるのは、預言者と聖徒を追い出し、石を投げつけ、殺すからである。そのため、聖徒の血[3)]の叫びが地から神のもとに上って、彼らのことを訴えるのである。

4 それであるから、すべて高ぶる者と悪を行う者が、やがて焼き尽くされる日が来るであろうと、万軍の主は言われる。彼らはわらのようになるからである。[1)] 5 預言者と聖徒を殺す者は地の深い所にのみ込まれると、万軍の主は言われる。山々が彼らに覆いかぶさり、[2)] 旋風が彼らを運び去り、建物が彼らの上に倒れかかって、彼らを押しつぶし、粉みじんにしてしまう。6 また彼らは、雷や稲妻、地震、およびあらゆる破壊に見舞われる。それは、主の怒りの火が彼らに対して燃え上がり、彼らはわらのようになり、やがて彼らを焼き尽くしてしまう日が来るからである。このように万軍の主は言われる。

7 おお、わたしの民の中の殺されて失われる者のゆえに、わたしの心は痛み、苦しむ。わたしニーファイはそれを見たので、主の前に燃え尽きてしまいそうである。しかし、わたしは神に向かって、「あなたが行われることは公正です[1)]」と叫ばざるを得ない。8 しかし見よ、預言者たちの言葉に聞き従い、また彼らを滅ぼそうとすることなく、どのような迫害[1)]を受けても与えられたしるしを心に留めて、確固としてキリストを待ち望む義人は、滅びを受けない人々である。[2)] 9 しかし、義の御子は将来彼らに現れ、[1)] 彼らを癒される。[2)] そして、三代[3)]の人々が世を去り、四代目[4)]の多

第26章

1 (1) 3ニフ11・1−12
(2) 1ニフ11・7、12・
6 (3) 3ニフ15・2−10
GS「イエス・キリスト−降誕と死に関する預言」
3 (1) (2) 1ニフ12・4−6、GS「しるし」
(3) 創世4・10、2ニフ28・10、モル8・27
4 (1) 3ニフ8・14−24、9・3、9
5 (1) 1ニフ19・11、3ニフ10・14
(2) 3ニフ8・10、9・5−8
7 (1) GS「正義」
8 (1) GS「迫害」
9 (1) (2) 3ニフ10・12−13
3ニフ11・8−15
(2) 3ニフ17・7−9
(3) 1ニフ12・11−12、3ニフ27・30−32
(4) アル45・10−12、ヒラ13・9−10

くの人も義のうちに世を去るまで、彼らは御子によって[5]平安を保つ。

10 しかし、これらのことがあってから、速やかな滅[1]亡がわたしの民に下る。わたしの心は痛むが、わたしはそれを見たので、将来そのことが起こることを知っている。彼らは価値のないものに自分自身を売り渡すのである。わたしの民は、高慢と愚かな行いの報いとして滅亡を刈り取る。彼らは悪魔に従い、光よりも闇の業の方を選ぶので、[2]地獄へ下って行かなければならない。

11 主の御霊はいつでも人を励ますわけではないからである。そして、御霊が人を励ますのをやめると、速やかに滅びが来る。わたしが悲しく思うのは、このためである。

12 わたしは、イエスが[1]まことのキリストであられるとユダヤ人に[2][3]確信させることについて語ったが、異邦人にもイエスはキリストであり、永遠の神であられることを確信させることが必要である。

13 イエスは御自分を信じるすべての人、まことにあらゆる国民、部族、国語の民、民族に[1]聖霊の力によって御自身を現され、人の子らの中で、彼らの信仰に応じて大きな奇跡としるしと不思議を行われる。このことも、異邦人に確信させる必要がある。

14 しかし見よ、わたしはあなたがたに、終わりの[1]時について、すなわち、主なる神がこれらのことを人の子らに[2]明らかにされる時代について、預言する。

15 わたしの子孫とわたしの兄弟の子孫は、不信仰に陥って異邦人に打たれる。まことに、主なる神は彼らの周りに陣を構え、彼らを山で囲み、彼らに対してとりでを築かれる。そして彼らは地に倒されて、もはや存在しなくなる。しかしながらその後、義人の言葉が書き記され、忠実な者の祈りが聞き届けられるので、不信仰に陥った者のすべてが忘れ去られるわけではない。

16 滅ぼされる者が、地から人々に[1]語りかけるからである。その言葉は低く地の中から出て来て、その声は霊媒の声のように聞こえる。主なる神はその者に力を授け、まるで地の中から出て来るかのように、その者が彼らのことをささやけるようにされる。こうして彼らの言葉は、地の中からささやくのである。

17 主なる神はこう言われる。「彼らは彼らの中で行

9 (5) 4ニフ1・1−4
10 (1) アル45・9−14、モル8・1−9
11 (1) (2) GS「地獄」
12 (1) エテ2・15
(2) モル3・21
13 (1) (3) 2ニフ30・7、モル5・14
GS「ユダヤ人」
14 (1) 2ニフ25・18
GS「聖霊」
GS「終わりの時・末日」
16 (1) (2) GS「福音の回復」
イザ29・4、モロ10・27、モセ7・62、GS「モルモン書」

われることを書き記す。そして、それらのことは、一つの書物に書き記されて封じられる。不信仰に陥った者は、神にかかわるものを絶やそうとするので、それらのものを得られない。

18 それゆえ、すでに滅ぼされた者たちは速やかに滅ぼされた。また、荒々しい者の群れは、吹き飛ぶもみ殻のようになる。」まことに主なる神は言われる。「このことは突然に、瞬く間に起こる。」

19 そして不信仰に陥った者は、異邦人によって打たれる。

20 また異邦人は高慢な目をもって高ぶり、つまずきとなるものが大きいためにつまずいた。そして多くの教会を設けた。しかしながら彼らは、神の力と奇跡を侮り、自分の知恵と学識を自賛して、利益を求め、貧しい者の顔をすりつぶす。

21 ねたみと争いと悪意を引き起こす教会が、多く設けられる。

22 また昔のように、悪魔の結社である秘密結社もある。悪魔はすべてこれらのものの創設者、まことに、殺人やいろいろな闇の業の創始者である。そして悪魔は、麻縄を彼らの首にかけて引っ張って行き、つ

いには強い縄で、とこしえに彼らを縛ってしまうのである。

23 見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに言っておく。主なる神は暗闇の中で業を行うようなことはなさらない。

24 主は、世のためになることでなければ何事もなさらない。すべての人をみもとに引き寄せるために御自分の命を捨てるほど、主は世を愛しておられるからである。したがって主は、御自分の救いにあずかってはならないと、だれにも命じられることはない。

25 見よ、主がだれかに向かって、「わたしのもとから去れ」と叫ばれるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ、「地の果てに至るすべての者よ、わたしのもとに来て、金を出さず、代価を払わないで、乳と蜜を買いなさい」と言われる。

26 見よ、主はだれかに、会堂、すなわち礼拝の家から立ち去るように命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。

27 また主がだれかに、主の救いにあずかってはなら

---

17 ①② 2ニフ29・12
18 ①① エノ1・14、モル5・16—18
19 ①① 3ニフ16・8—9、20・27—28
20 ①② GS「高慢」
③② エゼ14・4
④GS 1ニフ13・29、34、「背教・背信」
⑤ 1ニフ14・10、22・23、モル8・28
⑥ モル9・7—8、2ニフ9・28
21 ①① GS「ねたみ」
⑥ 2ニフ13・15
22 ①① GS「秘密結社」
24 ①① 3ニフ27・14—15
25 ①② ヨハ3・16、アル5・33—35、3ニフ9・13—14
27 ①② イザ55・1—2 GS「救い」

ないと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ主は、すべての人に救いを無料で[2]授けてこられた。そして、すべての人に[3]悔い改めを説き勧めるよう、主の民に命じてこられた。

28 見よ、主がだれかに、主の慈しみにあずかってはならないと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろすべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。[1]

29 主なる神は、[1]偽善売教はあってはならないと命じられる。見よ、偽善売教とは、利益と世の誉れ[2]を得るために、説教をして自分自身を世の光とすることであって、シオンの幸いを求めることではない。

30 見よ、主はこのことを禁じられた。それゆえ主なる神は、人は皆、[1]慈愛すなわち[2]愛を持つようにとの戒めを与えられた。慈愛がなかったならば人は何の価値もない。それゆえ、もし人に慈愛があれば、シオンで働く者を死なせたりはしないであろう。

31 しかし、[1]シオンで働く者は、シオンのために働くべきである。もしも[2]金銭のために働くならば、滅びるであろう。

32 また、主なる神は、人を殺してはならない、偽りを言ってはならない、盗んではならない、自分たちの神である主の名を[1]みだりに唱えてはならない、ねたんではならない、悪意を抱いてはならない、互いに言い争ってはならない、みだらな行いをしてはならない、これらのことをどれも行ってはならないと[2]命じられた。これらのことを行う者は滅びるからである。

33 これらの罪悪は、いずれも主から来るものではない。主は人の子らの中で、ためになることを行われるからである。また主は、人の子らにとって分かりやすいことでなければ、何事も行われない。そして主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して[1]拒まれない。主は[2]異教徒さえも心にかけられる。ユダヤ人も異邦人も、[3]すべての人が神にとって等しい存在なのである。

---

27 ②エペ 2・8、2ニフ 25・23
28 ①③GS「悔い改め」ロマ 2・11、1ニフ 17・33–35
29 ①GS「偽善売教」②教義 121・34–37
30 ①②モロ 7・47–48、GS「慈愛」②GS「愛」
31 ①②GS「ジオン」②ヤコ 2・17–19、教義 11・7、38・39
32 ①GS「不敬」GS「戒め（神の）」②使徒 10・9–35、44
33 ①②GS 1・45 ③アル 26・37 ロマ 2・11、1ニフ 17・35

第27章

終わりの時に暗黒と背教が地を覆う。『モルモン書』が出て来る。その書物について三人の証人が証する。学者はその封じられた書物を読むことはできないと言う。主は驚くべき業と不思議を行われる。イザヤ書第二十九章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 しかし見よ、1)終わりの時、すなわち異邦人の時代になると、見よ、異邦人とユダヤ人のすべての国民は、この地に来る者もほかの地にいる者も、すなわち全地の者が皆、見よ、罪悪とあらゆる忌まわしい行いで酔う。

2 その日が来ると、万軍の主は、雷、地震、大音響、嵐、暴風雨、焼き尽くす火の炎を1)彼らに下される。

3 そして、シオンと1)戦い、シオンを悩ますすべての2)国民は、夜の幻のようになる。すなわち、飢えた者が夢を見るようである。飢えた者が夢の中で食べても、目を覚ませば空腹である。あるいは、のどの渇いた者が夢を見るようである。見よ、のどの渇いた者が夢の中で飲んでも、目を覚ませば体は弱っており、渇きは続いている。まことに、シオンの山と戦うすべての国民の群れも、そのようになる。

4 また見よ、罪悪を行う者たちよ、あなたがたは皆、立ち尽くして驚嘆せよ。あなたがたは大声で叫び、わめくであろう。まことに、あなたがたは酔うが、ぶどう酒によるのではない。震えるが、強い酒によるのではない。

5 また見よ、主があなたがたのうえに、深い眠りの霊を注がれたからである。あなたがたが目を閉じ、預言者たちを拒んだためである。それで、主はあなたがたの罪悪のために、統治者と聖見者を隠してしまわれた。

6 そして主なる神は、ある1)書物の言葉を2)あなたがたにもたらされる。それは眠りに就いた者たちの言葉である。

7 見よ、その書物は1)封じられており、その中には、世の初めから世の2)終わりまでの神からの3)啓示が載っている。

8 また、1)封じられているものがあるので、封じられているものは、民が悪事と忌まわしい行いにふけっている時代には2)授けられない。したがって、その書

第27章

1 ① GS「終わりの時・末日」
② イザ24・6、66・15−16、ヤコ6・3、3ニフ25・1
2 ① 1ニフ22・14
② イザ29・7−8
3 ① 2ニフ26・16−17、29・12、GS「モルモン書」
② ジェロ1・2、モル5・12−13
7 ① イザ29・11−12、エテ3・25−27、4・4−7
② エテ13・1−12
8 ① モサ8・19
② 3ニフ26・9−12、エテ4・5−6
③ エテ5・1

物は人々から隠される。

9 しかしその書物は、やがて一人の1)男に授けられる。そして彼は、その書物の中の言葉、すなわち地の中で眠りに就いている者たちの言葉を、2)別の男に授ける。

10 しかし彼は、封じられている言葉は授けないし、その書物も渡さない。その書物は神の力によって封じられており、また、封じられている啓示は、主がふさわしいと思われる時が来て世に出るまで、その書物の中に保たれるからである。見よ、それらの啓示は世の初めから世の終わりまで、すべてのことを示すものである。

11 こうして、封じられた書物の言葉が屋根の上で読み上げられ、またキリストの力によって読まれる日が来る。そして、かつて人の子らの中にあったことと、またこれから世の終わりまでに起こることがすべて、人の子らに1)示される。

12 それゆえ、わたしが前に述べた男にその書物が授けられる日に、その書物は世の人々の目につかないように隠される。そして、その書物を授けられる男のほかに、1)三人の2)証人が神の力によってそれを見るが、そのほかにはだれも見ない。そしてこの三人は、その書物とその中に書いてあることが真実であることを証する。

13 このほかにそれを見る者は、ただ神の御心に従って人の子らに神の言葉について証を述べる少数の者だけで、だれもほかにいない。主なる神は、忠実な者の言葉はあたかも死者から出るかのように語る、と言われた。

14 それゆえ、主なる神はその書物の言葉をもたらし、また適切であると見なされる人数の証人の口を通して、御自分の言葉を確かなものとされる。したがって、神の言葉を1)担む者は災いである。

15 しかし見よ、そこで主なる神はその書物を受け取る男にこう言われる。「封じられていないこれらの言葉を取って別の男に渡し、彼が学者にそれを見せて、『どうぞ、これを1)読んでください』と言うようにしなさい。するとその学者は、『その書物をここに持って来てください。そうすれば読みましょう』と言う。

16 ところで、彼らがそう言うのは、世の誉れのため、また利益を得るためであって、神の栄光のためではない。1)

---

9 ①教義17・5−6 ②ジ−歴史1・64−65
11 ①ルカ12・3、モル5・8、教義121・26−31
12 ①2ニフ11・3、エテ5・2−4、教義5・11、15、17・1
13 ①②申命19・15、2ニフ3・19−20、33・13−15、モロ10・27
14 ①2ニフ28・29−30、エテ4・8
15 ①イザ29・11−12、ジ−歴史1・65
16 ①GS「偽善売教」

17 それで先の男は、『その書物は封じられているので、持って来ることはできません』と言う。
18 すると、学者は、『それでは、わたしには読めない』と言う。」
19 そこで、主なる神はその書物とその中の御言葉をもう一度学識のない者に授けられる。すると学識のない者は、「わたしは無学です」と言う。
20 そのとき、主なる神は言われる。「学者は、これらの言葉を受け入れなかったので、読めない。しかし、わたしにはわたし自身の業を行う能力があるので、あなたはわたしが授ける言葉を読むであろう。
21 封じられている部分に触れてはならない。わたしは、自分がふさわしいと思うときにそれらをもたらすからである。そして、わたしにはわたし自身の業を行う能力があることを、人の子らに示そう。
22 それゆえ、あなたはわたしの命じた言葉を読み、またわたしがあなたに約束した証人たちを得たら、その後、あなたは再びその書物を封じて、わたしに託して隠すようにしなさい。そうすればわたしは、人の子らにすべてのことを明らかにするのがわたしの知恵にかなうと思うときまで、あなたのまだ読んでいない言葉を保っておくことができる。
23 さて見よ、わたしは神である。奇跡の神である。わたしは、昨日も、今日も、またとこしえに変わらないこと、また、わたしは人の子らの信仰に応じてでなければ彼らの中で業を行わないことを、世の人々に示そう。」
24 そしてまた、主は御言葉を授けられて、それを読む先の男に言われる。
25 「この民は口ではわたしに近づき、唇ではわたしをあがめるが、彼らの心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを畏れ敬うのは、人の訓戒によって教えられているからである。
26 それゆえ、わたしはこの民の中で驚くべき業を、まことに驚くべき業と不思議を行う。知者と学者の知恵は失われ、賢者の知識は隠される。」
27 自分たちのはかりごとを奥深く隠して、主に知られないようにしようとする者は、災いである。彼らの行いは闇の中にあり、彼らは、「だれがわたしたちを見ていようか。だれがわたしたちを知っていようか」と言う。彼らはまた、「確かに、あなたがたが物事を転倒して考えていることは、陶器師の粘土のよ

21 ①エテ5・1
22 ①GS「証人（モルモン書の）」 ②GS「奇跡」
23 ①ヘブ13・8 ②ヘブ11章、エテ12・7—22 ③ヘブ13・8
25 ①イザ29・13 ②マタ15・8 ③2ニフ28・31
26 ①1ニフ22・8、2ニフ29・1—2、GS「福音の回復」 ②イザ29・14、2ニフ27・26 ③イザ29・15 ④エレ18・6

うなものだ」と言う。しかし見よ、万軍の主は言われる。「わたしは彼らのあらゆる行いを知っていることを彼らに示そう。造られたものがそれを造った者について、『彼はわたしを造らなかった』と言えるだろうか。形造られたものが形造った者について、『彼には分別がない』と言えるだろうか。」

28 しかし見よ、万軍の主は言われる。「わたしは人の子らに、もうしばらくするとレバノンがよく肥えた畑に変わり、そのよく肥えた畑が森のように思われる時が来ることを示そう。」

29 そしてその日、耳の聞こえない者もその書物の御言葉を聞き、目の見えない者も暗闇から、また暗黒から出て見えるようになる。

30 また、柔和な者たちも増えて主にあって喜びを得、人々の中の貧しい者たちは、イスラエルの聖者によって喜びを味わうようになる。

31 荒々しい者はいなくなり、あざける者は焼き尽くされ、罪悪の機をうかがう者は絶たれることを、主が生きておられるように確かに、彼らは知るからである。

32 たった一言のために人を悪く見る者、門でとがめる者に対してわなを仕掛ける者、また価値のないもののために正しい者を退ける者、これらの者は絶たれる。

33 さて、アブラハムを贖われた主は、ヤコブの家についてこう言われる。「それゆえ、ヤコブはもはや恥を受けることなく、また、もはや顔色を失うこともない。

34 彼が自分の中にわたしの手の業である自分の子孫を見るとき、彼らはわたしの名を神聖であるとたたえ、ヤコブの賢者を神聖な方としてたたえ、イスラエルの神を畏れ敬う。

35 心に誤解を生じていた者も理解するようになり、つぶやいていた者も教義を知るようになる。」

第28章

終わりの時に、多くの偽りの教会が設けられる。これらの教会は、偽りの、むなしい、愚かな教義を教える。偽教師がいて背教が広がる。悪魔は人々の心の中で荒れ狂う。悪魔はあらゆる偽りの教えを広める。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

---

29 ① イザ29・18
30 ① GS「柔和」
② 教義101・36
31 ① イザ29・20
32 ① ルカ11・54
② アモ5・10
③ 2ニフ28・16
34 ① イザ29・23−24
35 ① 2ニフ28・14、教義33・4
② ダニ12・4

1 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしは御霊によって促されるままに、あなたがたに語ってきた。したがって、これらのことが将来必ず起こることを、わたしは知っている。

2 その書物から書き記される事柄は、人の子らのために、特にイスラエルの家の残りの者であるわたしたちの子孫のために、大いに価値がある。

3 そしてその日には、主のために設けられたのではない数々の教会があって、ある者は別の者に向かって、「見よ、わたしは主の教会の者だ」と言い、別の者も、「わたしこそ主の教会の者だ」と言う。教会を設けた者たちは皆、主のために設けたのではないにもかかわらず、このように言う。

4 そして、彼らは互いに言い争う。また、その聖職者たちも互いに言い争って、自分の学識で教え、語る言葉を与えてくださる聖霊を否定する。

5 彼らはイスラエルの聖者である神の力を否定し、人々に言う。「わたしたちに耳を傾け、わたしたちの訓戒を聞きなさい。見よ、今日、神は存在しないからである。主なる贖い主はすでに御自分の業を終え、御自分の力を人に与えられた。

6 見よ、わたしの訓戒を聴きなさい。もし主の手によって奇跡が行われたと言う者がいても、信じてはならない。今日、神は奇跡の神ではないからである。神はすでに御自分の業を終えられた。」

7 また、次のように言う者も大勢いる。「明日は死ぬ身なのだから、飲み食いし、楽しみなさい。そうすれば、わたしたちは幸せだ。」

8 次のように言う者もまた大勢いる。「飲み食いし、楽しみなさい。しかし同時に神を畏れなさい。神は少しの罪を犯すことは許してくださる。だから、少しばかり偽りを言い、人の言葉に付け込んで欺き、隣人を陥れる穴を掘りなさい。これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから、これらのことをすべて行いなさい。たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。」

9 このように、偽りの、むなしい、愚かな教義を教え、心の中で誇り高ぶり、自分たちのはかりごとを深く隠して主に知られないようにしようとする者が大勢いる。彼らの行いは、闇の中にある。

第28章

2 ① GS「モルモン書」
② 1ニフ13・34—42、22・9、3ニフ21・6
3 ① 1コリ1・10—13、1ニフ22・23、4ニフ1・25—29、モル8・28、32—38
4 ① 2ニフ9・28
5 ① 2ニフ26・20
② アル30・28
6 ① モル8・26、9・15—26
7 ① 1コリ15・32、アル30・17—18
8 ① モル8・31
② 教義10・25、モセ4・4、GS「偽り」
③ 4箴言26・27、1ニフ14・3、エゼ13・3、ヒラ13・29
9 ① マタ15・9

10 そのとき、聖徒たちの血が、地から叫んで彼らを訴える。
11 まことに、彼らは皆、道から外れ、堕落してしまっている。
12 彼らの教会は、高慢のために、また偽教師と偽りの教義のために腐敗している。彼らの教会は思い上がっており、高慢のために、彼らは誇り高ぶっている。
13 彼らは立派な聖堂を建てるために貧しい者から奪い取り、また華やかな衣をまとうために貧しい者から奪い、柔和な者と心の貧しい者を苦しめる。高慢のために誇り高ぶっているからである。
14 彼らは心をかたくなにし、頭を高くする。そして、キリストに従う少数の謙遜な者たちを除いて、すべての者が、高慢と悪事と忌まわしい行いとみだらな行いのために迷ってしまっている。しかし、キリストに従う少数の者たちも誘いを受け、人の訓戒によって教えられるので、度々過ちを犯す。
15 おお、心を高慢にして誇り高ぶる知者、学者、物持ち、また偽りの教義を説くすべての者、みだらな行いをして主の正しい道を曲げるすべての者、これらの者は災いである、災いである、災いである。全能の主なる神がこう言われる。これらの者は地獄に突き落とされるからである。
16 価値のないもののために正しい者を退け、善いことをののしって、それは何の価値もないと言う者は、災いである。主なる神が地に住む者に、速やかに報いを下される日が来るからである。罪悪が完全に熟すその日に、彼らは滅びるのである。
17 しかし見よ、地に住む者が自分たちの悪事と忌まわしい行いを悔い改めるならば、彼らは滅ぼされることはないと、万軍の主は言われる。
18 しかし見よ、全地の淫婦であるあの大きな忌まわしい教会は、地に崩れ落ち、その倒れ方はひどい。
19 悪魔の王国は必ず揺れ動く。また、それに属する者は、必ず悔い改めるように促される。そうでなければ、彼らは悪魔の永遠の鎖に縛られ、怒るようにそそのかされて滅びてしまう。
20 見よ、その日、悪魔は人の子らの心の中で荒れ狂い、人の子らをそそのかして善いことに対して怒らせる。
21 また、悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて

10① 黙示 6・9—11、2 ニフ 26・3、モル 8・27、エテ 8・22—24、教義 87・7
11① ヒラ 6・31
②② モル 8・28—41、教義 33・4
13① ヒラ 4・12
②② エゼ 34・8
③ アル 5・53
14① 箴言 21・4
② イザ 53・6
15① GS「高慢」
② 箴言 3・5—7
③ 2 ニフ 29・5
16① イザ 29・21
② エテ 2・9—10
17① 黙示 19・2
18① 1 ニフ 14・3、17
② 1 ニフ 22・23
19① 2 ニフ 24・35
② アル 12・11
20① 教義 10・20—27
21① モル 8・31

現世での安全を確信させるので、彼らは、「シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い」と言う。[2]悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。

22 そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、「[1]地獄はない」と告げ、「悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない」と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい[2]鎖で縛ってしまう。

23 まことに彼らは、死と地獄に捕らえられる。そして、死と地獄と悪魔と、それらに捕らえられたすべての者は、神の御座の前に立たなければならない。そして、彼らは自分の行いに応じて[1]裁かれる。それから彼らは、自分たちのために用意された場所、すなわち無窮の苦痛である[2]火と硫黄の池に入らなければならない。

24 したがって、シオンでのんきに暮らす者は、災いである。

25 「すべてが良い」と大声で叫ぶ者は、災いである。

26 まことに、人の訓戒に耳を傾け、[1]神の力と聖霊の賜物を否定する者は、災いである。

27 まことに、「わたしたちは受けているので、もうこれ以上は必要ない」と言う者は、災いである。

28 要するに、神の真理のゆえに身を震わせて[1]怒る者は皆、災いである。見よ、[2]岩の上に建てられる者は喜んで神の真理を受け入れるが、砂の土台の上に建てられる者は、倒れるのではないかと震えおののくからである。

29 「わたしたちは、すでに神の言葉を頂いている。もうこれで十分だから、[1]これ以上神の言葉は必要ない」と言う者は、災いである。

30 見よ、主なる神はこう言われる。「わたしはここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、[1]訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らに与えよう。わたしの訓戒を聴き、わたしの勧めに耳を貸す者は、[2]知恵を得るので幸いである。わたしは[3]受け入れる者にさらに多く与え、『もう十分である』と言う者からは、彼らが持っているものさえも取り上げる。」

31 人に[1]頼る者、すなわち肉を自分の腕とする者はのろわれる。すなわち、聖霊の力によって与えられる訓戒ではなく、人の訓戒に耳を傾ける者はのろわれる。

---

21 ① 2ニフ 9・39
22 ① GS「地獄」
② アル 36・18
23 ① GS「イエス・キリスト―最後の裁き」
② 2ニフ 9・16、19、26
26 ① 2ニフ 9・29
② アル 12・10―11
27 ① 2ニフ 9・40、33・5、GS「背く」
28 ① マタ 7・24―27、GS「岩」
② 2ニフ 29・3―10
29 ① 2ニフ 27・14、エテ 4・8
② イザ 28・9―13、教義 98・12
30 ① GS「知恵」
② ルカ 8・18
③ アル 12・10、教義 50・24
④ 教義 1・19―20
31 ① 2ニフ 9・39

32 万軍の主なる神は言われる。「異邦人は災いである。わたしが日々腕を伸べているにもかかわらず、彼らはわたしを拒むからである。それでも、彼らが悔い改めてわたしのもとに来るならば、わたしは彼らを憐れもう。わたしは終日、腕を伸べているからである」と主なる神は言われる。

第29章

多くの異邦人は『モルモン書』を拒む。彼らは、「ほかに聖書は必要ない」と言う。主は多くの国民に語られる。主は書き記される数々の書によって世の人々を裁かれる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「しかし見よ、わたしが異邦人の中で驚くべき業を始めるその日には、異邦人の数は多い。わたしが驚くべき業を行うのは、人の子らに立てた聖約を思い起こして、イスラエルの家に属するわたしの民を再び連れ戻す業に着手するためである。

2 また、あなたニーファイとあなたの父に立てた約束、すなわち、あなたがたの子孫を覚え、あなたがたの子孫の言葉がわたしの口から出て、あなたがたの子孫に伝わるようにするという約束を、わたしが思い起こして守るためである。わたしの言葉は地の果てまで響き渡り、イスラエルの家に属するわたしの民にとって旗となる。

3 そして、わたしの言葉が響き渡るので、多くの異邦人は、『聖書か、聖書か。我々はすでに聖書を持っている。これ以外に聖書があるはずがない』と言う。」

4 しかし、主なる神はこう言われる。「おお、愚かな者よ、彼らは聖書を持つが、それは昔わたしが聖約を交わした民、ユダヤ人から出るものである。彼らはユダヤ人から得る聖書について、ユダヤ人にどのように感謝しているか。まことに、異邦人はどういうつもりか。彼らはユダヤ人が負った労苦と労力、骨折り、また自分たちに救いを得させることになったユダヤ人の、わたしに対する努力を思い起こしているか。

5 おお、異邦人よ、あなたがたは、昔わたしが聖約を交わした民、ユダヤ人を覚えていたか。いや、逆にあなたがたは彼らをのろい、憎み、彼らを元の状

32 ①1ニフ14・6 ②ヤコ5・47、6・4

第29章
1 ①2ニフ27・26、GS「福音の回復」 ②GS「アブラハムの聖約（契約）」 ③2ニフ6・14、21・11—12、25・17、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
2 ①2ニフ3・18—21 ②イザ5・26、2ニフ15・26、モロ10・28 ③1ニフ21・22、GS「旗」
3 ①1ニフ13・23—25、GS「聖書」「モルモン書」
4 ①GS「教義3・16」 ②GS「ユダヤ人」 ③GS「ユダーユダの木」
5 ①3ニフ29・8

態に戻そうとはしなかった。しかし見よ、主なるわたしはわたしの民を忘れたことはないので、これらすべてのことの責めをあなたがた自身の頭に求める。

6 『聖書か。我々はすでに聖書を持っている。だから、ほかに聖書は必要ない』と言う者よ、あなたがたは愚か者である。あなたがたはユダヤ人によらずに聖書を手に入れたか。

7 あなたがたは、国民は数多くあることを知らないのか。主であり、あなたがたの神であるわたしがすべての人を造ったこと、またわたしが海の島々にいる者たちを覚えていることを知らないのか。またわたしが上は天で治め、下は地で治めていること、そしてわたしの言葉を人の子ら、すなわち地のすべての国民にもたらすことを知らないのか。

8 さて、なぜあなたがたは、わたしの言葉がもっと多く与えられるからと言ってつぶやくのか。二つの国民の証が、わたしが神であることと、一つの国民をもう一つの国民と同じように覚えていることの、あなたがたへの証拠となることを知らないのか。わたしは一つの国民に語るのと同じ言葉を別の国民にも語る。そして、その二つの国民が合わせられるとき、二つの国民の証も合わせられるのである。

9 わたしがこれを行うのは、わたしが昨日も、今日も、またとこしえに変わらないことと、わたし自身の望むままにわたしの言葉を語るということを、多くの人に証明するためである。したがってわたしが一言語ったので、もう一言も語れないと思ってはならない。わたしの業はまだ終わっていないからである。わたしの業は人の存在が尽きるまで終わらないし、その後とこしえに終わりがないのである。

10 それゆえ、聖書を持っているからといって、わたしの言葉がすべてそこに含まれていると思ってはならない。また、わたしがもっと大切なことを書き記させなかったと思ってもならない。

11 わたしは、東の地、西の地、北の地、南の地、また海の島々にいるすべての者に、わたしの語る言葉を書き記すように命じるからである。わたしは書き記される数々の書によって、世のあらゆる人を、書き記されていることに従い、彼らの行いに応じて裁く。

12 見よ、わたしがユダヤ人に語れば、彼らはそれを

---

6 1) 1ニフ13・38
7 1) GS「創造・創造する」
8 1) 1ニフ22・4
2) エゼ37・15—20、1ニフ13・38—41、2ニフ3・12
2) マタ18・16、GS「証人・証」
9 1) ホセ1・11
2) ヘブ13・8
3) GS「啓示」
10 1) GS「聖文—出現を預言された聖文」
11 1) アル29・8
2) 2テモ3・16
3) GS「命の書」
2) 2ニフ25・22、33・11、14—15、GS「最後の裁き」
12 1) 1ニフ13・23—29

書き記し、ニーファイ人に語れば、彼らはそれを書き記す。また、わたしが連れ出したイスラエルの家のほかの部族に語れば、彼らもそれを書き記す。さらにわたしが地のすべての国民に語れば、彼らはそれを書き記す。

13 そしてユダヤ人はニーファイ人の言葉を得て、ニーファイ人はユダヤ人の言葉を得る。また、ニーファイ人とユダヤ人は、イスラエルの行方の知れない部族の言葉を得て、イスラエルの行方の知れない部族は、ニーファイ人とユダヤ人の言葉を得る。

14 そして、イスラエルの家に属するわたしの民は、彼らの所有の地に集め戻され、わたしの言葉も一つに集められる。こうして、わたしが神であることと、わたしがアブラハムに彼の子孫をとこしえに覚えると聖約を立てたことを、わたしの言葉とイスラエルの家に属するわたしの民に逆らって戦う者たちに示そう。」

第30章

改宗した異邦人は聖約の民とともに数えられる。多くのレーマン人とユダヤ人が書物の御言葉を信じて、喜ばしい状態になる。イスラエルは元の状態に戻り、悪人は滅ぼされる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに語りたい。わたしニーファイはあなたがたに、自分たちが異邦人以上に義にかなっていると思ってほしくないからである。神の命令に従わないならば、あなたがたも皆同じように滅びる。しかし、すでに述べられた言葉があるからといって、異邦人がことごとく滅ぼされると考えてはならない。

2 それは、見よ、あなたがたに言うが、異邦人であっても悔い改める者は皆、主の聖約の民となり、ユダヤ人であっても悔い改めない者は皆、捨てられるからである。悔い改めてイスラエルの聖者である御子を信じる者でなければ、主はだれとも聖約されないからである。

3 ところで、わたしはユダヤ人と異邦人についてもう少し預言したい。わたしが前に語ったあの書物が出て、異邦人に書き伝えられ、再び封じられて主に託された後、書き記されたそれらの御言葉を信じる

12 ②1 ニファ13・38−42、2 ニファ26・17
13 ①③ 2 ニファ26・33
②GS「イスラエル ― 行方の知れない十部族」
14 ①エレ3・17−18
②エゼ37・16−17
③教義132・30
④⑤創世17・7
⑥創世12・1−3、1 ニファ17・40、3 ニファ20・27、アブ2・9、GS「アブラハムの聖約（契約）」
1 ニファ22・8−9

第30章
2 ①ガラ3・26−29
②マタ8・10−13、GS「ユダヤ人」
3 ①③GS「悔い改め」
3 ニファ16・6−7

人々が大勢いる。2)彼らはそれらの御言葉を、わたしたちの子孫の残りの者に広める。

4その後、わたしたちの子孫の残りの者は、わたしたちのことと、わたしたちがエルサレムから出て来た次第と、自分たちがユダヤ人の子孫であることを知る。

5そして、イエス・キリストの福音が1)彼らの中で告げ知らされる。それゆえ2)彼らは、自分たちの先祖についての3)知識を再び得て、また先祖の中で知られていたイエス・キリストについての知識も得るようになる。

6そこで彼らは、それが神の手から自分たちに与えられた祝福であることを知って、喜ぶであろう。また、暗黒のうろこが彼らの目からはがれ始め、多くの世代が過ぎないうちに、彼らは清い、1)よろこ喜ばしい民になる。

7そして、散らされているユダヤ1)人もキリストを2)信じ始め、地の面に集まり始める。そして、キリストを信じる者は皆、喜ばしい民になる。

8そして主なる神は、御自分の民を地上で回復するために、すべての国民、部族、国語の民、民族の中で御自分の業を始められる。

9そして1)主なる神は、義をもって貧しい者を裁き、公平をもって地の3)柔和な者のために責められる。また、その口の鞭で世を打ち、その唇の息で悪人を殺される。

10主なる神が、民の中に甚だしい1)分離を引き起こされる2)時が速やかに来る。そのとき、主なる神は悪人を滅ぼし、御自分の民を救われる。3)まことに、たとえ火で悪人を4)滅ぼさなければならなくても、そのようにされる。

11義はその腰の帯となり、1)忠信はその腹の帯となる。

12またそのとき、おおかみは子羊とともに1)宿り、ひようは子やぎとともに伏し、子牛と若いライオンと肥えた若い家畜はともにいて、幼い子供がこれらを導く。

13雌牛とくまはともに食べ、その子らはともに伏し、ライオンは牛のようにわらを食べる。

14乳飲み子は毒蛇の穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの穴に手を置く。

15彼らは、わたしの聖なる山のどこにおいても、害

---

3) 2) 1ニフ22・8—9
5) 1) 3ニフ21・3—7、24
2) 2) 教義3・20
3) 2) 1ニフ15・14、2ニフ3・12、モル7・1、9
6) 1) 教義49・24、109・65
7) 1) 2ニフ29・13—14
2) 2ニフ25・16—17
9) 1) イザ11・4—9
2) 2ニフ9・15
10) 1) 教義63・53—54
2) GS「終わりの時・末日」
3) モセ7・61
4) 1ニフ22・15—17、23、GS「地球（地）—地球の清め」
11) 1) イザ11・5—9
12) 1) イザ65・25、GS「福千年」

を与えることはなく損なうこともない。水が海を覆っているように、主を知る知識が地に満ちるからである。

16 また、すべての国民のことが知られるようになる。まことに、すべてのことが人の子らに知らされるようになる。

17 秘密のことで明らかにされないことはなく、闇の業で明るみに出ないものもない。また、地上で結ばれたもので解かれないものもない。

18 したがって、人の子らに明らかにされてきたことはすべて、その日に明らかにされる。サタンはもはや長い間人の子らの心を支配する力を持たない。さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはこれでわたしの言葉を終える。

第31章

ニーファイ、キリストがバプテスマを受けられた訳を告げる。救いを得るためには、人はキリストに倣ってバプテスマを受け、聖霊を授かり、最後まで堪え忍ばなければならない。悔い改めとバプテスマは、細くて狭い道に至る門である。永遠の命は、バプテスマを受けた後も戒めを守る人々に与えられる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、あなたがた愛する同胞に預言することをこれで終える。わたしは将来必ず起こると知っていることを、少ししか書き記せない。また、弟のヤコブの言葉も少ししか書き記せない。

2 しかし、これまで書き記してきたことで十分である。ただ、キリストの教義については少し述べておかなければならない。それで、わたしの分かりやすい預言の仕方で、あなたがたに分かりやすく述べておく。

3 わたしは、分かりやすいことを喜びとする。主なる神は分かりやすい方法で、人の子らの中で業を行われるからである。主なる神は理解力に光をお与えになる。主なる神は、人々が理解できるように彼らの言葉に倣って語られる。

4 そこで、主がわたしに示されたあの預言者、すなわち世の罪を取り除かれる神の小羊にバプテスマを施す預言者について、わたしが前に述べたことを思

16① 教義101・32—35、121・28—29
② エテ4・6—7
17① 教義1・2—3
18① 黙示20・1—3、エテ8・26
第31章
1① 2ニフ25・1—4
2① 2ニフ11・6—7
3① GS「光・キリストの光」
② 教義1・24
4① 1ニフ10・7、11・27、GS「ヨハネ（バプテスマの）」
② GS「神の小羊」

い起こしてもらいたい。

5 さて、神の小羊が聖なる御方であっても、あらゆる義を満たすために水でバプテスマをお受けになる必要があるとすれば、おお、聖くないわたしたちがバプテスマを、すなわち水でバプテスマを受けることは、なおさら必要ではないだろうか。

6 そこで、わたしの愛する同胞よ、神の小羊は水でバプテスマをお受けになることによって、どのようにあらゆる義を満たされたのか、わたしはあなたがたに尋ねたい。

7 あなたがたは小羊が聖くあられたことを知らないのか。しかし小羊は、聖いにもかかわらず、肉においては御父の前にへりくだることを人の子らに示される。そして、御父の戒めを守ることについて御父に1)従順であることを、御父に証明されるのである。

8 それゆえ、小羊が水でバプテスマをお受けになると、聖霊が1)2)鳩の形を取って小羊のうえに降って来られた。

9 そしてまた、それは人の子らに、道が細くて彼らの入る1)門が狭いことを示しており、小羊は彼らの前に模範を示されたのである。

10 小羊は、「わたしに1)従いなさい」と人の子らに言われた。それゆえ、愛する同胞よ、進んで御父の戒めに従わないで、わたしたちはイエスに2)従うことができるだろうか。

11 御父は言われた。「悔い改めよ。悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ。」

12 また、御子の声がわたしに聞こえて言われた。「父は、わたしの名によってバプテスマを受ける者に、わたしに授けてくださったと同じように聖霊を1)授けてくださる。それゆえ、わたしに2)従い、わたしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。」

13 したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたが十分に固い決意をもって御子に従い、神の前に決して偽善と欺きを行うことなく誠意をもって行動し、罪を悔い改め、1)バプテスマによって、まことに、あなたがたの主であり救い主である御方に従い、主の言葉のとおりに水に入り、バプテスマを受けることによって、キリストの名を喜んで受けることを御父に証明するならば、見よ、そのとき、あな

5 ①マタ 3・11—17、GS「バプテスマ」
7 ①ヨハ 5・30、GS「従順」
8 ①GS「鳩のしるし」
②1ニフ 11・27
9 ①2ニフ 9・41、3ニフ 13・14、教義 22・4
10 ①マタ 4・19、8・22、9・9
②モロ 7・11、教義 56・2
12 ①GS「聖霊の賜物」
②ルカ 9・57—62、ヨハ 12・26
13 ①ガラ 3・26—27

たがたは聖霊を受ける。すなわち、そのとき火と聖霊によるバプテスマを受ける。するとあなたがたは天使の言葉で語り、イスラエルの聖者に賛美の声を上げることができるのである。わたしはそれを知っている。

14 しかし見よ、わたしの愛する同胞よ、御子の声が次のように聞こえてわたしに言われた。「あなたがたは罪を悔い改め、水によるバプテスマを受けることによってわたしの戒めを進んで守ることを御父に証明し、火と聖霊によるバプテスマを受け、新しい言葉、すなわち天使の言葉で語れるようになった後に、わたしを否定するのであれば、わたしを知らなかった方があなたがたのためによかったであろう。」

15 わたしはまた、御父がこう言われる声を聞いた。「まことに、わたしの愛する者の言葉は真実であり、確かである。最後まで堪え忍ぶ者は救われる。」

16 さて、わたしの愛する同胞よ、このことから、人は生ける神の御子の模範に倣って、最後まで堪え忍ばなければ救われないことが分かる。

17 したがって、わたしがあなたがたの主であり贖い主である御方の行われることを先見して、これまで語ってきたことを、あなたがたも行いなさい。これらのことがわたしに示されたのは、あなたがたが入らなければならない門を知ることができるようにするためである。あなたがたが入らなければならない門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しが与えられる。

18 そのとき、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる。まことに、あなたがたはその門から入っている。あなたがたは御父と御子の戒めに従ってこのように行っている。またあなたがたは、御父と御子について証をされる聖霊を受けている。こうして、その方法によって入るならば受けると主が約束された、その約束が果たされたのである。

19 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは尋ねたい。あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功徳にひたすら頼らな

---

13 ②GS「聖霊の賜物」
14 ①③2ニフ32・2–3
②マタ10・32–33、アル24・30、教義101・1–5、GS「赦されない罪」
②2ペテ2・21
16 ①②GS「イエス・キリスト―模範」
②アル5・13、38・2、教義20・29
17 ①モサ18・10、GS「バプテスマ」
②GS「罪の赦し」
18 ①1ニフ8・20
②箴言4・18、GS「道」
③使徒5・29–32
19 ①モサ4・10
②GS「信仰」
③教義3・20

かったならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかったからである。

20 したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望[1]の輝きを持ち、神とすべての人を愛して[2]力強く進[3]まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍[4]ぶならば、見よ、御父は、「あなたがたは永遠の命を受ける」と言われる。

21 さて、わたしの愛する同胞[5]よ、これが道[1]である。そして、このほかには人を神の王国に救う道も名も[3]天下に与えられていない。見よ、これがキリストの教義[4]であって、限りなく一つの神である御父[6]と御子と聖霊の唯一の真正な教えである。アーメン。

第32章

天使は聖霊の力によって語る。人は祈り、自分で聖霊から知識を得るようにしなければならない。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはその道によって入ってからどのようにすればよいのか、多少心の中で深く考えていると思う。しかし見よ、なぜこれらのことを心の中で深く考えているのか。

2 あなたがたは、聖霊を受け[1]たら天使[2]の言葉で語ることができるとわたしが言ったことを覚えていないのか。また、聖霊によらなければ、どうして天使の言葉で語ることができようか。

3 天使[1]は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わ[2]うようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。

4 さて、わたしがこれらのことを述べても、あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求[1]めもせず、また、門をたたきもしないためである。それゆえ、あなたがたは光の中に導かれず、闇の中で滅びてしまうに違いない。

5 見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言っておく。あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。

---

20 ①GS「希望」 ②GS「愛」 ③GS「歩む（神とともに）」
21 ①④GS「堪え忍ぶ」、2ニフ9・41、アル37・46、教義132・22、25 ②モサ3・17 ③GS「イエス・キリスト―御名を受ける」 ④マタ7・28、ヨハ7・16―17 ⑤3ニフ11・27、35―36、GS「一致」 ⑥GS「神・神会」

第32章 2 ①3ニフ9・20 ②2ニフ31・13 3 ①GS「天使」 ②エレ15・16 4 ①GS「求める」

6 見よ、これがキリストの教義である。キリストが
肉にあってあなたがたに御自身を現される時まで、
これ以上の教義は与えられない。そして、キリスト
が肉にあってあなたがたに御自身を現される時に
は、あなたがたはキリストが言われることを行うよ
うに努めなければならない。
7 さて、わたしニーファイはこれ以上言うことがで
きない。御霊がわたしの語るのを止められるからで
ある。わたしは、人々が不信仰で、邪悪で、無知で
あり、強情であるのを悲しく思う。彼らは知識を求
めようとしない。また、偉大な知識を分かりやすく、
可能なかぎりはっきりした言葉で教えられても、そ
れを理解しようとしない。
8 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたが
たがまだ心の中で深く考えているのを承知してい
る。そして、このことについてあなたがたに述べな
ければならないのは、わたしにとって悲しいことで
ある。あなたがたは、祈るように人に教えてくださ
る御霊に耳を傾けるならば、祈らなければならない
ことが分かるであろう。悪霊は祈るようにとは人に
教えず、かえって祈ってはならないと人に教える。
9 しかし見よ、わたしはあなたがたに言っておく。
あなたがたは気を落とさずに常に祈らなければなら
ない。そして、主があなたがたの行うことを神聖に
してくださり、あなたがたの行うことが自分自身
に幸いをもたらすものとなるように、キリストの名
によってまず御父に祈らずには、主のためにどんな
ことも行ってはならない。

第33章

ニーファイの言葉は真実であり、キリストについて
証する。キリストを信じる者はニーファイの言葉を信
じる。彼の言葉は裁きの法廷で証言となる。紀元前約
五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、民の中で教えられた
ことをすべて書き記すことはできない。また書くと
きには話すときほどの力もない。人が聖霊の力によ
って語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心
に伝えるからである。
2 しかし見よ、聖なる御霊に対して心をかたくなに
する人が大勢いる。彼らには聖なる御霊は宿りたま

6 ① 3ニフ11・8
7 ① GS「不信仰」
② 2ニフ31・2—3、ヤコ4・13
8 ① GS「祈り」
② モサ4・14、GS「悪魔」
9 ① 3ニフ20・1、教義75・11
② アル34・27
③ モセ5・8

第33章
1 ① エテ12・23—24
② 教義100・7—8
2 ① ヒラ6・35—36

わない。そのために、これらの人々は、書き記されている多くのことを捨てて、これらを価値のないものと見なす。

3 しかし、わたしニーファイは、これまで書き記してきたものを大いに価値があると考え、特にわたしの民にとってそうであると考えている。わたしは昼は絶えず民のために祈り、夜は彼らのことを心配して涙で枕をぬらしている。そしてわたしは、信仰をもって神に叫び求めている。わたしは、神がわたしの嘆願を聞き届けてくださることを知っている。

4 また、主なる神がわたしの祈りを民の益となるように神聖なものとしてくださることを、わたしは知っている。また、弱点がありながらも書き記してきた言葉は、わたしの民のために力強いものとなるであろう。それは、この言葉が善を行うように説き勧め、また彼らに先祖のことを知らせ、イエスについて述べ、イエスを信じて最後まで堪え忍ぶように彼らに説き勧めるものだからである。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶならば、永遠の命を授かるのである。

5 また、真理が率直であることから、わたしが書き記してきた言葉は、罪に対して厳しく語る。それゆえ、悪魔の霊を宿している者でないかぎり、だれもわたしが書き記してきた言葉に腹を立てないであろう。

6 わたしは率直さに誇りを感じ、真理に誇りを感じる。また、イエスがわたしを地獄から贖ってくださったので、わたしはイエスを誇りとする。

7 わたしは自分の民に慈愛を抱いており、また、キリストの裁きの座でまったく染みのない多くの人に会えるであろうと、キリストに深い信仰を抱いている。

8 わたしはユダヤ人に対しても慈愛を抱いている。ここでいうユダヤ人とは、わたしが出て来た地の民のことである。

9 わたしはまた異邦人に対しても慈愛を抱いている。しかし見よ、これらの人々はだれであっても、キリストとの和解を得、狭い門を入って命に至る細い道を歩み、試しの生涯の最後までその道を歩み続けないかぎり、わたしはその人のために何も望むことができない。

10 さて、わたしの愛する同胞よ、ユダヤ人よ、地の

3 ①GS「聖文—聖文の価値」 ②エノ1・9—12、モ言1・8
4 ①エテ12・26—27 ②モロ7・13 ③GS「永遠の命」
5 ①2ニフ31・3、ヤコ4・13 ②1ニフ16・1—3、2ニフ9・40
6 ①GS「贖い・贖う」
7 ①GS「慈愛」
8 ①GS「ユダヤ人」
9 ①GS「異邦人」 ②GS「贖罪」 ③2ニフ9・41 ④ヒラ3・29—30、教義132・22 ⑤GS「歩む（神とともに）」

果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。[1)]また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの[2)]言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉は[3)]キリストの言葉であり、キリストがわたしに授けてくださったものだからである。そして、これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に[1)]教えている。

11 これらがキリストの言葉でないかどうか、判断してもらいたい。キリストは終わりの日に、[1)]力と大いなる栄光とをもって、これらが御自分の言葉であることをあなたがたに示されるであろう。そして、あなたがたとわたしとはキリストの[2)]法廷で対面する。そうすればあなたがたは、わたしが、弱点があるにもかかわらず、これらのことを書き記すようにキリストから命じられたことを知るであろう。

12 わたしは、あの大いなる終わりの日に、たとえすべてではなくても、わたしたちの多くの者が御父の[1)]王国に救われるように、キリストの名によって御父に祈る。

13 さて、わたしの愛する同胞よ、すなわち、イスラエルの家に属するすべての人よ、地の果てに至るすべての人よ、わたしは地から[1)]叫ぶ者の声のようにあなたがたに告げる。「あの大いなる日が来るまで、さらば。」

14 神の慈しみにあずかろうとせず、[1)]ユダヤ人の言葉も、わたしの[2)]言葉も、神の小羊の口から出る御言葉も心に留めようとしない者たちよ、これらの言葉は終わりの日にあなたがたを[3)]罪に定めるので、見よ、わたしはあなたがたに永遠の別れを告げる。

15 なぜなら、わたしが地上で結ぶことは、[1)]裁きの法廷に持ち出され、あなたがたに対して不利に働くからである。主がわたしにこのように命じられたので、わたしは従わなければならない。アーメン。

---

10 ① GS「信じる」
② GS「モルモン書」
③ モロ10・27−29
④ 2ニフ25・28
11 ① エテ5・4、モロ7・35
② 黙示20・12、モロ10・34
12 ① GS「日の栄え」
13 ① イザ29・4、2ニフ26・16
14 ① GS「聖書」
② GS「モルモン書」
③ 2ニフ29・11、エテ4・8−10
15 ① モ言1・11

ヤコブ書

ニーファイの弟ヤコブの書

同胞に説き教えるヤコブの言葉。ヤコブ、キリストの教義を覆そうとする男を言い伏せる。ニーファイの民の歴史についての言葉。

第1章

ヤコブとヨセフ、キリストを信じてキリストの戒めを守るように人々に説き勧める。ニーファイの死。ニーファイ人の中に悪事が広がる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 さて見よ、リーハイがエルサレムを去ったときからもはや五十五年が過ぎ去った。そして、ニーファイはわたしヤコブに、これらの事柄が刻まれている[1]小さい版について[2]指示を与えた。

2 彼はまたわたしヤコブに、いちばん貴いと思うわずかなことだけをこの版に書き記すこと、またニーファイの民と呼ばれるこの民の歴史については、少ししか触れてはならないことを命じた。

3 ニーファイは、彼の民の歴史は彼のほかの版に刻まなければならないこと、そしてこの小さい版はわたしが保存して、代々わたしの子孫に伝えなければならないことを告げた。

4 また神聖な説教や重要な啓示、あるいは預言があれば、それらの要点[1]をこの版に刻むように、そしてキリストのため、またわたしたちの民のためにできるだけ多く書き記すようにと言った。

5 わたしたちは信仰を持ち、また民のことを大いに心配していたので、将来彼らに何が[1]起こるかが、すでに明らかにされていた。

6 また、わたしたちは多くの啓示を受け、十分な預言の霊を授かっていたので、将来来られる[1]キリストのことも、将来築かれるキリストの王国のことも知っていた。

7 それゆえ、わたしたちは、民が神の[1]安息に入るようにするために、民の中で熱心に働いて、[2]キリストのもとに来て神の慈しみにあずかるように彼らに説

ヤコブ書
第1章
1 ① GS「ヤコブ（リーハイの息子）」
② 2ニフ5・28−33、ヤコ3・13−14、GS「版」
③ ヤコ7・27 主要で大切な事柄
4 ① 1ニフ12章
5 ① 1ニフ10・4−11、19・8−14
6 ① 7 ① GS「安息」
② 2ニフ9・41、オム1・26、モロ10・32

き勧めた。もし民がそうしなければ、かつてイスラエルの子らが荒れ野にいた試練の日々に神の怒りを引き起こしたときのように、神が激しい怒りを示して、わたしたちの民も安息に入ってはならないと誓いをされる恐れがあったからである。

8 それで、わたしたちが神に願ったのは、すべての人が神に背くことや神を怒らせることをせず、キリストを信じ、キリストの死について考え、キリストの十字架を負い、世の辱めを忍耐するよう、わたしたちが彼らを説得できるようにということであった。それゆえ、わたしヤコブは、兄ニーファイから命じられたことを果たす責任を引き受けるのである。

9 ところで、ニーファイは老いが進み、自分の死が近いことを知った。それで彼は一人の男に油を注ぎ、彼を王たちの統治に従ってその民を治める王とし、統治者とした。

10 民はニーファイを非常に愛していた。ニーファイは彼らの偉大な守り手であり、彼らを守るためにラバンの剣を振るい、生涯民の幸いのために働いてきたからである。

11 そのために、民は彼の名を記憶にとどめておきたいと願った。それで民は、ニーファイに代わって治める者を、それがだれであろうと、王たちの統治に従って、ニーファイ二世、ニーファイ三世などと呼んだ。彼らの実際の名がどうであろうと、民はこのように呼んだのである。

12 そして、ニーファイは死んだ。

13 さて、レーマン人でない民はニーファイ人であったが、民はそれぞれニーファイ人、ヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人、レーマン人、レムエル人、イシマエル人と呼ばれた。

14 しかし、わたしヤコブは、今後このような名で民を区別しない。ニーファイの民を滅ぼそうとする者をレーマン人と呼び、ニーファイに好意を持っている者をニーファイ人、すなわち、王たちの統治に従ってニーファイの民と呼ぶ。

15 さて、二代目の王の治世になって、ニーファイの民は次第に心をかたくなにし始め、多少悪習にふけるようになった。その悪習とは、昔ダビデと息子ソロモンが、多くの妻とそばめを好んだようなことである。

---

7 ③ 民数26・65、1ニフ17・23−31
④ ヘブ3・8
⑤ 民数14・23、申命1・35−37、教義84・23−25
8 ① GS「背く」
② 1ニフ17・30、アル12・36−37、ヒラ7・18
③ JSマタ16・25−26、ルカ14・27
9 ① 2ニフ1・14
② GS「油注ぎ」
③ 2ニフ6・2、ジェロ1・7
10 ① 1ニフ4・9、2ニフ5・14、モ言1・13、モサ1・16、教義17・1
11 ① エノ1・13、教義3・18
12 ① GS「ニーファイ人」
② 1ニフ4・35、4ニフ1・36−37
13 ① モサ25・12、アル2・11
14 ① 2ニフ4・11
② 2ニフ5・9
③ 教義132・38−39
15 ① 1

16そのうえ彼らは、多くの金と銀を探し求めるようになり、また多少高慢になり始めた。
17それで、わたしヤコブは、すでに主から務め[1]を託されていたので、神殿[2]で教えを説いたときに次の言葉を彼らに告げた。
18わたしヤコブと弟ヨセフは、ニーファイの手によってこの民の祭司と教師[1]に任じられていたからである。
19そしてわたしたちは、もし自分たちが力の限り神の言葉を民に教えなければ、民の罪を自分たちの頭に受けるという覚悟で責任[1]を受けたので、主に対して自分たちの務め[2]を尊んで大いなるものとした。そしてわたしたちは、民の血がわたしたちの衣にかかることのないように、力の限り働いた。そうしなければ、彼らの血[3]がわたしたちの衣にかかって、わたしたちは終わりの日に染みのない者とは認められないであろう。

第2章

ヤコブ、富を愛することや高慢、不貞を非難する。同胞を助けるためであれば、富を求めることができる。

ヤコブ、主の認められない多妻結婚を行うことをとがめる。主は婦人たちの貞節を喜ばれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1ニーファイの死後、ニーファイの弟ヤコブがニーファイの民に語った言葉。
2「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは、まじめに自分の務めを尊んで大いなるものとするという責任を神から受けており、また、わたしの衣からあなたがたの罪を取り除きたいので、今日こうして神殿に来て、あなたがたに神の御言葉を告げる。
3あなたがたも知っているように、わたしは召された職務にこれまで努め励んできた。しかし今日のわたしは、あなたがたの幸い[1]を願う気持ちと心配がこれまでよりも大きいので、心が沈んでいる。
4見よ、あなたがたは、今までわたしが宣べてきた主の御言葉に従ってきた。
5しかし見よ、わたしの言うことをよく聴きなさい。そして、わたしが天地の全能の創造主の助けによって、あなたがたの思い[1]について告げることができるということを知りなさい。それはどういうこと

17① GS「召し・神の召し」
② 2ニフ5・16、GS「神殿・主の宮」
18① 2ニフ5・26
19① 教義107・99—100、GS「管理人・管理人の職」
② GS「職」
③ 2ニフ9・44
第2章
5① アル12・3、教義6・16、GS「神・神会」

かといえば、あなたがたが、わたしにとって非常に忌まわしく、また神にとっても忌まわしく思われる罪を犯し始めていることである。

6 まことに、あなたがたの心が邪悪であることをあなたがたに証言しなければならないのは、わたしにとって悲しいことであり、またわたしはこのために、造り主の御前で恥じて縮み上がる思いである。

7 また、あなたがたの妻子の前で、あなたがたのことをひどくあからさまに話さなければならないのは、[1]わたしにとって悲しいことである。あなたがたの妻子の多くは、神の御前にあって非常に感じやすく、[2]清く、繊細である。これは神にとって喜ばしいことである。

8 そしてあなたがたの妻子は、喜びをもたらす[1]神の御言葉、まことに傷ついた心を癒す御言葉を聞こうとして、ここに来たことと思う。

9 それゆえ、わたしの心は重い。というのは、神から受けた厳しい命令があるので、どうしてもあなたがたの罪悪についてあなたがたを戒めなければならず、そのようにすることで、すでに傷を負っている者たちを慰め、その傷を癒す代わりに、ますますその傷を深くすることになってしまうからである。また、傷を負っていない者たちに対しても、喜びをもたらす神の御言葉を味わわせる代わりに、短刀で彼らの心を刺し貫き、繊細な心を傷つけることになってしまうからである。

10 しかし、この務めが大変であっても、わたしは神の厳しい[1]命令に従ってこれを果たし、心の清い者と打ち砕かれた心を持つ者の前で、また全能の神が鋭い目で御覧になる所で、あなたがたの悪事と忌まわしい行いについて、あなたがたに告げなければならない。

11 したがって、わたしは神の御言葉の[1]率直さのまま、あなたがたに事実を告げなければならない。見よ、わたしが主に尋ねたところ、主の御言葉がわたしに下って、『ヤコブよ、明日神殿に行き、わたしがあなたに授ける言葉をこの民に告げ知らせなさい』と言われた。

12 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしがあなたがたに告げ知らせる言葉は次のとおりである。あなたがたと子孫のための[1]約束の地であるこの地に非常に豊富にある金や銀、そのほかあらゆる貴重なあらがね

---

7 ① 教義121・43
8 ① GS「徳」
② アル31・5
10 ① GS「戒め（神の）」
11 ① 2ニフ9・44
2 2ニフ25・4、31
2-3 12 ① 1ニフ2・20、GS「約束の地」
② 1ニフ18・25、ヒラ6・9—11、エテ10・23

を、あなたがたの多くは探し求めるようになってき
た。
13 このようにしてあなたがたは、神の御心の御手が
あなたがたにほほえんで、たくさんの富を手に入れ
た。ところがある者たちは、ほかの者より豊かに富
を得たことで心が高慢[1]になり、また自分の衣服が高
価なことで強情になって高ぶり、さらに、自分はほ
かの者よりも優れていると思って同胞を苦しめてい
る。
14 さて、わたしの同胞よ、あなたがたはこのような
ことを行っていて、神から義とされると思うか。見
よ、わたしはあなたがたに言う。そうではない。か
えって神はあなたがたを罪に定められる。このよう
なことを続けるならば、神の裁きが速やかに下るに
違いない。
15 おお、神があなたがたを刺し貫き、一目であなた
がたを地に打ち倒すこともおできになることを、あ
なたがたに示されるように。
16 おお、神があなたがたを、この罪悪と忌まわしい
行いから解き放してくださるように。おお、あなた
がたが神の命じられる御言葉を聴き、心の高慢[1]によ
って霊に滅びを招かないように。
17 同胞を自分自身のように思いなさい。そして、す
べての人と親しくし、あなたがたのように彼らも豊
かになれるよう、所有物[2]を惜しみなく与えなさい。
18 しかし、富[1]を求める前に神[2]の王国を求めなさい。
19 キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、
富は得られるであろう。しかし、富を求める目的は、
裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束
縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者
を救うなど、善[1]を行うことである。
20 さて、わたしの同胞よ、わたしは高慢についてあ
なたがたに語った。神から与えられたものを心の中
で誇って、隣人を苦しめ悩まし、虐げてきた者よ、
あなたがたは今そのことをどのように考えている
か。
21 このようなことは、すべての人を造られた御方に
とって忌まわしいことであるとは思わないか。神の
目には、人は皆等しく貴い存在である。すべての人
はちりから造られている。そして、神の戒め[1]を守り、
とこしえに神をあがめるという同一の目的をもっ
て、神により造られたのである。

13 ① モル8・35—39
16 ① GS「高慢」
17 ① 4ニフ1・3
② GS「福祉」「施し」
18 ① 列上3・11—13、マコ10・17—27、2ニフ26・31、教義6・7、GS「富」
② ルカ12・22—31
19 ① モサ4・26
21 ① 教義11・20、アブ3・25—26

22わたしはこれで、高慢についてあなたがたに語ることを終わりにするが、もっとひどい罪悪について話さなくてよかったならば、あなたがたのことで心に非常に大きな喜びを感じたであろう。
23しかし、あなたがたのもっとひどい罪悪のために、神の御言葉がわたしに重くのしかかっている。見よ、主はこう言われる。『この民の罪悪はますますひどくなっている。彼らは聖文を理解しておらず、ダビデとその息子ソロモンについて書き記されていることをもって、自分たちがみだらな行いをしていることの言い訳にしようとしている。
24見よ、ダビデとソロモン[1]は事実、多くの妻[2]とそばめを持ったが、それは、わたしの目に忌まわしいことであった。』
25そして、主は言われる。『それゆえわたしは、わたしの腕の力によってこの民をエルサレムの地から連れ出し、ヨセフの腰から出た者の中から一本の義[1]にかなった枝をわたしのために起こせるようにした。
26それゆえ主なる神であるわたしは、この民が昔の者たちのような行いをするのを許さない。』
27したがって、わたしの同胞よ、わたしの言うことを聞き、主の御言葉に耳を傾けなさい。万軍の主はこう言われる。『あなたがたの中のどの男も、妻は一人しか持ってはならない。また、そばめは一人[1]も持ってはならない。
28主なる神であるわたしは、婦人たちの貞節[1]を喜ばしく思う。みだらな行いは、わたしの目に忌まわしいことである。
29さて、この民は、わたしの戒めを守らなければならない。さもなければ、地は民のために呪われ[1]であろう。』
30万軍の主は言われる。『将来わたしのために子孫[1]を起こしたいと思う時が来れば、わたしは民に命じよう。その命令がない間は、民はこれらのことに聞き従わなければならない。
31見よ、主なるわたしは、エルサレムの地に住むわたしの民の娘たちと、わたしの民が住む全地の娘たちが、夫の悪事と忌まわしい行いのために悲しむのを見、嘆くのを聞いた。
32わたしがエルサレムから導き出したこの民の美しい娘たちの叫びが、わたしの民の男たちのことをわたしに訴えるのを、わたしはほうっておくことはで

24 ① 列上 11・1、ネヘ 13・25−27　② 列上 11・1−3、エズ 9・1−2、教義 132・38−39
25 ① 創世 49・22−26、アモ 5・15、2ニフ 3・5、アル 26・36、GS「リーハイ（ニーファイの父）」
27 ① 教義 42・22、49・16、GS「結婚」
28 ① GS「純潔」
29 ① エテ 2・8−12
30 ① マラ 2・15、教義 132・61−66

きない。
33 男たちは、わたしの民の娘たちを、彼女たちの優しさに付け込んで奴隷のようにしてはならない。さもなければ、わたしは男たちにひどいのろいを下し、彼らを滅ぼしてしまうであろう。男たちは昔の者のようにみだらな[1]行いをしてはならない。』万軍の主はこのように言われる。
34 さて見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは父リーハイにもこの戒めが与えられたことを知っている。したがって、あなたがたは以前からこの戒めを知っていた。にもかかわらず、あなたがたは、行ってはならないこれらのことを行ったので、重い罪の宣告を受けたのである。
35 見よ、あなたがたは、同胞であるレーマン人よりもひどい[1]罪悪を犯した。あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失った。彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上って、あなたがたを訴えている。また、あなたがたを責める神の御言葉が厳しいために、多くの者が心に深い傷を負って、死んだようになっている。」

第3章

心の清い者は、喜びをもたらす神の言葉を受け入れる。レーマン人の義がニーファイ人の義をしのぐ。ヤコブ、不貞や好色、そのほかあらゆる罪を遠ざけるように戒める。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 「しかし見よ、わたしヤコブは、心の清いあなたがたに述べたい。確固とした思いをもって神に頼り、篤い信仰をもって祈りなさい。そうすれば、神は苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。また、あなたがたのことを弁護してくださり、あなたがたを滅ぼそうとする者たちに罰を下される。
2 おお、あなたがた、心の清いすべての人よ、頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。あなたがたの思いが[1]確固としていれば、とこしえにそうすることができるからである。
3 しかし、心が清くなく、今日、神の御前に[1]汚れている者は災いである。災いである。悔い改めなければ、地はあなたがたのためにのろわれるからであ

33 ①GS「性的不道徳」「肉欲」
35 ①ヤコ3・5−7
第3章
2 ①アル57・26−27
3 ①GS「汚れ」

る。レーマン人はひどいのろいをもってのろわれているが、あなたがたのように汚れてはいない。そのレーマン人があなたがたをひどく苦しめ、滅ぼすであろう。

4 また、あなたがたが悔い改めなければ、レーマン人があなたがたの受け継ぎの地を所有し、さらに主なる神があなたがたの中から義人を連れ出される時が速やかに来る。

5 見よ、あなたがたは、自分たちの同胞であるレーマン人を、彼らが汚く、またのろいをその肌に受けていることで嫌うけれども、彼らはあなたがたよりも義にかなっている。彼らは、わたしたちの父に与えられた主の戒め、すなわち、妻は一人しか持ってはならない、そばめは一人も持ってはならない、民の中にみだらな行いがあってはならない、という戒めを今でも忘れていないからである。

6 彼らは今も、この戒めを守るように努めている。したがって、この戒めを守ろうとこのように努めているので、主なる神は彼らを滅ぼすことなく、彼らに憐れみを示される。そして、彼らはいつの日か、祝福された民になるであろう。

7 見よ、レーマン人の夫は妻を愛し、妻は夫を愛し、夫と妻は子供たちを愛している。彼らの不信仰とあなたがたに対する憎しみは、彼らの先祖の罪悪のためである。そうであるとすれば、大いなる創造主の目から見て、あなたがたは彼らよりどれほど立派だと言えるだろうか。

8 おお、わたしの同胞よ、あなたがたが罪を悔い改めなければ、彼らとともに神の御座の前に連れ出されるとき、彼らの肌はあなたがたの肌よりも白いであろう。

9 さて、わたしは戒めをあなたがたに与える。これは神の御言葉である。あなたがたは彼らの肌が黒ずんでいるからといって、彼らを二度とののしってはならない。汚いからといって彼らをののしってはならない。むしろ、あなたがた自身の汚れを思い起こし、彼らが汚いのは彼らの先祖のためであることを覚えておきなさい。

10 そして、あなたがたは自分の子供たちのことを思い起こし、自分が彼らの前に示した手本で、どれほど彼らの心を悲しませてきたかを考えなさい。また、あなたがたは自分の汚れのために子供たちを滅

---

3 (2) 1ニフ12・23
4 (1)−13 オム1・5−7、12
5 (1) ヤコ2・35
6 (1) 2ニフ4・3、6−7、ヒラ15・10−13
7 (1) GS「愛」「家族」
10 (1) GS「子供」

びに至らせる恐れがあり、そうなれば彼らの罪が、終わりの日にあなたがたの頭に積み上げられるということを覚えておきなさい。

11 おお、わたしの同胞よ、わたしの言葉を聴きなさい。あなたの精神に宿る能力を奮い立たせなさい。身を震わせて死の眠りから目覚めなさい。悪魔の使いとなって[3]第二の死であるあの火と硫黄の池に投げ込まれることのないように、地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい。」

12 さて、わたしヤコブはこのほかにも多くのことをニーファイの民に語り、不貞や好色、そのほかあらゆる罪を遠ざけるように戒め、これらの罪がもたらす恐ろしい結果を告げた。

13 今やおびただしい数になり始めたこの民の行いは、百分の一もこの版に書き記せない。しかし、大きい版には民の行いの多くが書き記されており、戦争と争い、王たちの統治のことも書き記されている。

14 この版はヤコブの版と呼ばれているが、ニーファイの手で造られたものである。ここでこれらのことを述べるのを終わりにする。

第4章

預言者はすべて、キリストの名によって御父を拝した。アブラハムがイサクをささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であった。人は贖罪を通じて神と和解しなければならない。ユダヤ人は土台石を拒む。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 さて見よ、わたしは、言葉で民に多くのことを教えた。（しかし、わたしたちの言葉を版に刻むのは難しいので、わたしは自分の言葉を少ししか書き記すことができない。）わたしたちは、版に書き記すことは必ず残ることを知っている。

2 しかしながら、版でないほかのものに書き記すことは、すべて朽ちて消え去ってしまうに違いない。しかし、わたしたちは子孫と愛する同胞に、わたしたちについて、すなわち彼らの先祖について少々知らせるために、版にわずかばかりの言葉を書き記すことができる。

3 さて、このことをわたしたちは喜んでいる。わたしたちは、愛する同胞とわたしたちの子孫が感謝の心をもってこれらを受け、またこれらを見て、自分

11 ①アル5・6−9 ②2ニフ9・8−9 ③GS「死（霊の）」 ④GS「地獄」
12 ①GS「不貞」 ②GS「邪悪」「欲望」
13 ①1ニフ19・1−4、ヤコ1・1−4

たちの最初の先祖のことを悲しみや侮りではなく、喜びをもって知るようになることを望みながら、これらの言葉を版に刻むことに励んでいる。

4わたしたちがこれらのことを書き記してきたのは、わたしたちがキリスト[1]のことを知っていたということと、キリストの来臨の何百年も前にキリストの栄光を待ち望んでいたこと、また、わたしたちばかりでなく、前の時代の聖なる預言者[2]もすべてキリストの栄光を待ち望んでいたことを、彼らが知ることができるようにするためである。

5見よ、預言者たちはキリストを信じ、キリストの名によって御父を拝した。また、わたしたちも、キリストの名によって御父を拝している。モーセ[2]の律法[3]は、わたしたちの心をキリストへ向けるものであるから、わたしたちは今それを守っている。そして、そのためにわたしたちは聖められ、義とされているのである。それはまさに、息子イサクをささげるようにとの神の命令に従順であった、荒れ野のアブラハムが義とされたのと同様である。アブラハムがイサク[1]をささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であった。

6それゆえ、わたしたちは預言者の書を調べている。また、わたしたちには多くの啓示があり、また預言[1]の霊がある。このように証[2]するものが数々あるので、わたしたちは希望を抱いており、わたしたちの信仰は揺るぎないものになっている。実際にイエスの名によって命[3]じれば、木々も山々も海の波も従うほどである。

7にもかかわらず、主なる神はわたしたちの弱点[1]を示される。それは、このようなことを行う力がわたしたちにあるのは、神の恵みと人の子らに対する神の大いなるへりくだりによるということを、わたしたちに分からせるためである。

8見よ、主の業は大いなる驚くべきものである。主の奥義[1]の深さは何と計り知れないことか。主の道を知り尽くすことは、とても人にできることではない。[2]主の道は、啓示されないかぎりだれも知ることはできない。それゆえ同胞よ、神の啓示を侮ってはならない。

9見よ、神の言葉[1]の力によって人[2]は大地の面に現れ、その大地も神の言葉の力によって創造された。したがって、神が御言葉を発して世界が存在するよ

第4章

4①GS「イエス・キリスト」
②ルカ24・25—27、ヤコ1・11、モサ13・33—35、教義20・26
5①モセ5・8
②2ニフ25・24、ジェロ7・11、モサ13・27、30、アル25・15—16、GS「モーセの律法」
③ガラ3・24
④創世22・1—14、ヨハ3・16—18、GS「独り子」
6①GS「預言」
②GS「証人・証」
③使徒3・6—16、3ニフ8・1
7①④GS「力」
②エテ12・27
8①教義19・10、76・114、GS「神の奥義」
②ロマ11・33—36
③イザ55・8—9
④1コリ2・9—16、アル26・21—22、GS「知識」
9①モル9・17、モセ1・32
②GS「創造・創造する」「人」

うになり、また、御言葉を発して人が造られたとするならば、おお、どうして神は御自分の意のまま、思いのままに、[3]大地やその面にある神の手により造られたものに、命令をお下しになれないことがあろうか。
10 それゆえ、同胞よ、主に[1]助言しようとしないで、主の手から助言を受けるようにしなさい。見よ、あなたがたは、主が、造られたすべてのものに[2]知恵と公正と深い憐れみをもって助言を与えられることを知っているからである。
11 それゆえ、愛する同胞よ、神の[1]独り子キリストの[2]贖罪を通じて神と和解しなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの内にある[3]復活の力によって復活することができる。またあなたがたは信仰を持ち、キリストが肉にあって御自身を現される前に、キリストにある栄光を確固として待ち望んでいたので、キリストの[4]初穂として神のためにささげられるのである。
12 さて、愛する人々よ、わたしがこれらのことをあなたがたに述べているのを驚いてはならない。キリストの贖罪について[1]語るのに、また復活と来るべき世についての知識を得るのと同じように、キリストについて完全な知識を得るのに、何の差し支えがあろうか。
13 見よ、わたしの同胞よ、預言する者には、人々が理解できるように預言させなさい。[1]御霊は真実を語り、偽りを言われることがない。したがって、御霊は[2]現在のことをありのままに示し、未来のこともまた、ありのままに述べられる。それゆえ、これらのことはわたしたちの救いのために、[3]わたしたちに分かりやすく示されているのである。しかし見よ、これらのことについての証人は、わたしたちだけではない。神は昔の預言者にもこれらのことを語っておられる。
14 しかし見よ、ユダヤ人は強情な[1]民であって、彼らは分かりやすい言葉を[2]侮り、預言者たちを殺し、自分たちの理解できないものを求めた。それゆえ、彼らは的のかなたに目を向けたために[3]盲目となり、盲目のために堕落しなければならなかった。神が分かりやすいことを彼らから取り去り、彼らが[4]理解できないことを多く伝えられたからであり、彼らがそれを望んだためである。彼らが望んだので、神はそのように行われ、彼らはつまずいた。

---

9 ③ ヒラ 12・8−17
10 ① 2ニフ 9・28−29、アル 37・12、37、教義 3・4、13
11 ① ② GS「全知」「知恵」
ヘブ 5・9
② ③ GS「贖罪」
③ GS「復活」
④ モサ 15・21−23、18・9、アル 40・16−21
12 ① 2ニフ 25・26
13 ① GS「真理」「聖霊」
② 教義 93・24
③ アル 13・23
14 ① マタ 23・37−38、2ニフ 25・2
② 1ニフ 19・7、2ニフ 33・2
③ イザ 44・18、ロマ 11・25
④ 2ニフ 25・1−2

15そして今、わたしヤコブは、預言するように御霊に促されている。わたしは、わたしの内にある御霊の働きによって、ユダヤ人が、自分たちがつまずいたためにそのつまずいた[1)]石を拒むことを知っている。その石は、その上に建物を建てることのできる安全な土台であった。

16しかしながら見よ、聖文によると、その[1)]石は、ユダヤ人がその上に建物を建てることのできる、偉大な、最後の、しかも唯一の堅固な[2)]土台となるものである。

17さて、わたしの愛する人々よ、これらの者がその堅固な土台を拒んだ後に、[1)]どうしてそれを隅のかしら石として、その上に建物を建てることができるであろうか。

18見よ、わたしの愛する同胞よ、もしわたしが何かによって強い御霊を失ったり、あなたがたを心配するあまり口ごもったりするようなことがなければ、わたしはあなたがたにこの奥義を明らかにしよう。

第5章

ヤコブ、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木の比喩について述べたゼノスの言葉を引用する。それらのオリーブの木は、それぞれイスラエルと異邦人とをたとえたものである。イスラエルの散乱と集合があらかじめ示される。ニーファイ人とレーマン人、およびイスラエルの家に属するすべての者について示される。異邦人はイスラエルに接がれる。果樹園は最後に焼かれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは、預言者[1)]ゼノスがイスラエルの家に語った彼の言葉を読んだのを覚えていないか。その言葉は次のとおりである。

2「聴きなさい、おお、あなたがたイスラエルの家よ。主の預言者であるわたしの言葉を聞きなさい。

3見よ、主はこう言われる。『おお、[1)]イスラエルの家よ、わたしはあなたを、人が自分の[2)]果樹園に植えて養いを与えた、一本の栽培された[3)]オリーブの木にたとえよう。その木は生長し、やがて老い、[1)]朽ち始めた。

4そして、果樹園の主人がやって来て、オリーブの木が朽ち始めたのを見て言った。「この木を刈り込み、

---

15 ①イザ 8・13—15、1コリ 1・23、2ニフ 18・13—15
②GS「岩」「隅の石」
③1ニフ 10・11
16 ①詩篇 118・22—23
②イザ 28・16、ヒラ 5・12
17 ①マタ 19・30、教義 29・30
第5章
1 ①GS「ゼノス」
3 ①エゼ 36・8、GS「イスラエル」
②教義 101・44、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
③ロマ 11・17—24、GS「オリーブの木」
④GS「背教、背信」

木の周りを掘り、養いを与えよう。そうすれば、恐らくこの木は柔らかい若枝を出し、枯れないであろう。」
5さて、主人はその言葉のとおりにその木を刈り込み、木の周りを掘って養いを与えた。
6そして、多くの日の後に、その木は柔らかい若枝を少し出し始めた。ところが見よ、その木の中心の先の方が枯れ始めた。
7そこで、果樹園の主人はそれを見て僕に言った。「この木を失うのは悲しい。だから、[1]野生のオリーブの木から何本か枝を切り取って、わたしのところに持って来なさい。わたしたちは枯れ始めた大枝を切り落とし、それらを火の中に投げ込んで燃やしてしまおう。」
8また見よ、果樹園の主人は言った。「わたしはこの木の柔らかい若枝をたくさん取って、わたしが良いと思う所で接ぎ木をしよう。この木の根が枯れても、わたしのためにこの木の実を保存できればよい。だから、これらの柔らかい若枝を取って、わたしが良いと思う所で接ぎ木をしよう。
9あなたは野生のオリーブの木の枝を何本か取って、枯れた枝の代わりにそれらの枝を接ぎなさい。わたしは切り落としたこれらの枝を、果樹園の土地をふさがないように、火の中に投げ込んで燃やしてしまおう。」
10そこで、僕は果樹園の主人の言葉のとおりにし、[1]野生のオリーブの木の枝を接いだ。
11また、果樹園の主人は僕にその木の周りを掘らせ、木を刈り込ませ、養いを与えさせて言った。「この木を失うのは悲しい。それで、根を枯らさずに残しておくことができると思い、また、わたし自身のために残しておくことができると思ってこうしたのである。
12さあ、仕事にかかり、わたしの言葉のとおりに木を見守り、養いを与えなさい。
13わたしはこれらの若枝を、果樹園のいちばん低い場所で、わたしが良いと思う所に置こう。それがどこか、あなたは知らなくてよい。こうするのは、わたし自身のためにこの木の自然の枝を残し、また実のとれない時節に備えてわたし自身のために実を蓄えられるようにするためである。この木と実の両方を失うのは悲しいことだからである。」
14そして、果樹園の主人は仕事にかかり、栽培した

7① ロマ11・17、24
9① GS「異邦人」
10① ロマ1・13
13① 1ニフ10・12

オリーブの木の自然の枝を、果樹園のいちばん低い場所で、自分の意のまま、思いのままに、ある枝はあちらに、ある枝はこちらにと隠した。
15さて、久しく時がたって、果樹園の主人は僕に、「さあ、一緒に果樹園に行って働こう」と言った。
16そして、果樹園の主人と僕は、働くために果樹園に行った。そのとき、僕は主人に、「御覧ください。ここです。この木を御覧ください」と言った。
17そこで、果樹園の主人がそちらを向いて、野生のオリーブの枝を接いだ木を見ると、その木はすでに枝を伸ばし、実を結び始めていた。見ると、それは良く、その実は自然の実のようであった。
18主人は僕に言った。「見よ、野生の木の枝はこの木の根から養分を吸い上げ、根は十分な力を与えている。そして、根に十分な力があるので、野生の枝は、栽培した木が結ぶような実を結んだ。これらの枝を接がなかったならば、この木は枯れていたであろう。さあ、この木が結んだたくさんの実を蓄えよう。実のとれない時節に備えて、わたし自身のためにこの木の実を蓄えることにしよう。」
19そして、果樹園の主人は僕に言った。「さあ、一緒に果樹園のいちばん低い場所へ行き、その木の自然の枝もたくさん実を結んでいるかどうか見よう。実を結んでいれば、実のとれない時節に備えて、わたし自身のためにその実を蓄えることができる。」
20そして二人は、前に主人がその木の自然の枝を隠した所へ行った。そして、主人は僕に、「これらの枝を見なさい」と言った。僕が最初の枝を見ると、それはたくさんの実を結んでいた。僕には、それが良いものであることが分かった。また、主人は僕に言った。「この実をとり入れ、わたし自身のために保存できるように、実のとれない時節に備えてこれを蓄えなさい。見よ、わたしがこれまで長い間養いを与えてきたので、これはたくさんの実を結んだ。」
21そこで僕は主人に言った。「この木を、いや、木のこの枝を植えるために、どうしてここにおいでになったのですか。まことに、ここはあなたの果樹園のすべての土地の中でいちばんやせた場所です。」
22果樹園の主人は僕に言った。「わたしに助言は要らない。わたしはここがやせ地であることを知っていた。わたしが前にあなたに言ったように、わたしはこれまで長い間これに養いを与えてきた。それで

あなたの見るとおり、これはたくさんの実を結んだのである。」
23さて、果樹園の主人は僕に言った。「こちらを見なさい。わたしはもう一本、木の枝を植えておいた。あなたの知っているように、この土地は最初の土地よりもやせていた。しかし、この木を見なさい。わたしはこれまで長い間これに養いを与えてきたので、これはたくさんの実を結んだ。だから、実を集め、わたし自身のために保存できるように、実のとれない時節に備えてそれを蓄えなさい。」
24そして、果樹園の主人は再び僕に言った。「こちらも見なさい。わたしが前に植えたもう一本の枝を見なさい。これにも養いを与えてきたので、実を結んだ。」
25また、主人は僕に言った。「こちらを向いて、最後の枝を見なさい。見よ、わたしはこれを良い[1]土地に植え、これまで長い間養いを与えてきたが、この木は一部分だけが、栽培した木が結ぶような実を結び、ほかの部分[2]は野生の実を結んだ。見よ、わたしは、この木にもほかの木と同じように養いを与えてきた。
26そして、果樹園の主人は僕に言った。「良い実を結[1]ばなかった枝は切り落として、火の中に投げ込みなさい。」
27しかし見よ、僕は主人に言った。「木を刈り込み、木の周りを掘って、もうしばらく養いを与えましょう。そうすれば、恐らくこの木はあなたのために良い実を結び、実のとれない時節に備えて実を蓄えられることでしょう。」
28そして、果樹園の主人と僕は、果樹園のすべての実に養いを与えた。
29さて、久しく時がたって、果樹園の主人は僕に言った。「さあ、一緒に果樹園に行って、また果樹園で働こう。見よ、[2]時が近づいており、[3]終わりはすぐに来る。だから実のとれない時節に備えて、わたし自身のために実を蓄えなければならない。」
30そして、果樹園の主人と僕は果樹園へ行き、自然の枝を折り取って野生の枝を接いだ木の所へ行ってみた。すると見よ、いろいろな[1]種類の実を木いっぱいに結んでいた。
31そこで、果樹園の主人は、その実を種類ごとにすべて味見して言った。「見よ、わたしたちは、これま

---

24 ①エゼ17・22−24、アル16・17、3ニフ15・21
25 ①1ニフ2・20
26 ①②3ニフ10・12−13
29 ①5・36、教義97・7
②教義101・55、103・21「終わりの時・末日」
③2ニフ30・10、ヤコ6・2
30 ①GS「背教・背信」

で長い間この木に養いを与え、実のとれない時節に備えてわたし自身のためにたくさんの実を蓄えてきた。

32 ところが見よ、この度はたくさんの実を結んだけれども、[1]一つとして良い実はない。見よ、あるのはすべて悪い種類の実であり、わたしたちのあらゆる骨折りにもかかわらず、まったくわたしの利益にならない。しかし、この木を失うのは悲しい。」

33 そして、果樹園の主人は僕に、「もう一度わたし自身のためにこの木の良い実を保存できるようにするには、どうすればよいだろうか」と言った。

34 すると僕は、主人に言った。「まことにあなたが野生のオリーブの木の枝を接がれたので、枝が根を養い、根は今も枯れずに生きています。ですから御覧のとおり、根はまだ大丈夫です。」

35 そこで、果樹園の主人は僕に言った。「この木が悪い実を結ぶかぎり、これはわたしにとって何の利益にもならないし、またこの根も何の役にも立たない。

36 それでもわたしは、この根が良いことを知っており、わたし自身のためにこれを残してきた。この根は十分な力があったので、これまで野生の枝に良い実を結ばせてきた。

37 ところが見よ、野生の枝が生長して根を[1]負かしてしまった。野生の枝が根を負かしてしまったために、この木は悪い実をたくさん結んだ。そして、この木は悪い実をたくさん結んだために、あなたの見るとおり枯れ始めている。だから、わたしたちがこれを残すために何かしなければ、これはすぐだめになってしまい、火の中に投げ込まれることになる。」

38 さて、果樹園の主人は僕に言った。「さあ、果樹園のいちばん低い場所へ行き、元の自然の枝も悪い実を結んでいないかどうか、見ることにしよう。」

39 そして、二人が果樹園のいちばん低い場所へ行ってみると、元の自然の枝の実も悪くなっていた。まことに、[1]最初の枝も、第二の枝も、また最後の枝も、実がすべて悪くなっていた。

40 また、最後の枝の[1]野生の実は、木の良い実を結んだ部分を負かしてしまい、枝は弱り果てて枯れていた。

41 そこで、果樹園の主人は涙を流し、僕に言った。「わたしの果樹園のために、これ以上[1]何ができた

---

32 ①
37 ①
39 ①
40 ①
41 ①

ジ歴史 1・19
教義 45・28−30
ヤコ 5・20、23、25
モル 6・6−18
2ニフ 26・24

であろうか。

42 見よ、果樹園の実が、これらのものを除いてすべて悪くなっていたことは分かっていた。ところが、かつて良い実を結んでいたこれらの枝も悪くなっている。わたしの果樹園の木はどれもこれも役に立たないので、切り倒して火の中に投げ込むしかない。

43 見よ、もう枝が枯れてしまったこの最後の木は、わたしが良い土地[1]に植えたものである。まことに、ここはわたしの果樹園の中で、ほかのあらゆる土地に勝ったえり抜きの土地であった。

44 しかも、あなたの見たとおり、わたしは、この土地をふさいでいたものを切り払って、その代わりにこの木を植えた。

45 また、あなたの見たとおり、この木の一部分は良い実を結び、また一部分は野生の実を結んだ。しかし、わたしが野生の実を結んだ枝を切り落として火の中に投げ込まなかったので、見よ、その枝は良い枝を負かして枯らしてしまった。

46 さて見よ、わたしたちが果樹園でできるだけの世話をしたにもかかわらず、果樹園の木はだめになってしまい、少しも良い実を結ばない。わたしはこれらの木を残しておいて、実のとれない時節に備えて、わたし自身のために実を蓄えようとしてきた。ところが、これらの木は野生のオリーブの木のようになってしまった。これらの木はもう何の価値もないので、切り倒して火の中に投げ込んでしまうしかない。これらの木を失うのは、わたしには悲しいことである。

47 しかしわたしは、果樹園でこれ以上何ができたであろうか。わたしは怠けて養いを与えなかったであろうか。いや、わたしは養いを与えてきた。果樹園を掘り起こし、刈り込み、肥料もやった。ほとんど一日中、手を差し伸べてきた。しかし、終わりが近づいている。果樹園の木をすべて切り倒し、火の中に投げ込んで燃やしてしまわなければならないのは、わたしには悲しいことである。わたしの果樹園をだめにしたのは何者であろうか。」

48 そこで、僕は主人に言った。「それは果樹園の木が高くそびえているからではありませんか。そのために、木の枝が良い根を負かしたのではありませんか。枝が根を負かしたために、枝が根の力以上に生長し、勢力を奪ったのです。まことに、果樹園の木

---

1) 2ニフ1・5
1) エテ13・20−21
1) 3ニフ27・11
1) 2ニフ28・32、ヤコ6・4
2) GS「世−世の終わり」

がだめになった原因はこれであると、わたしは申し上げます。」

49 そこで、果樹園の主人は僕に言った。「行って果樹園の木を切り倒し、火の中に投げ込み、それらの木が果樹園の土地をふさがないようにしよう。わたしは手を尽くしてきた。果樹園のためにこれ以上何ができたであろうか。」

50 しかし見よ、僕は果樹園の主人に、「もうしばらく[1]お待ちください」と言った。

51 すると主人は言った。「よろしい。果樹園の木を失うのは悲しいので、もうしばらく待つことにしよう。

52 そして、わたしが果樹園のいちばん低い場所に植えておいたこれらの木の[1]枝を取り、親木に接ぎ返そう。いちばん渋い実のなる枝を何本か親木から切り落とし、代わりに親木の元の自然の枝を接ぐことにしよう。

53 わたしがこうするのは、親木を枯らさないためである。こうすれば、わたし自身のためにその根を残せるかもしれない。

54 また見よ、わたしが良いと思う所に植えた親木の自然の枝の根は、まだ生きている。これらの根もわたし自身のために残せるように、この親木の枝を取って、これらの根に[1]接ごう。まことに、これらの根にその親木の枝を接げば、わたし自身のためにそれらの根も残すことができ、根が十分に強くなると恐らくわたしのために良い実を結べるようになる。そうすれば、わたしは果樹園の実によって、まだ栄えを得ることができる。」

55 そして二人は、すでに野生のようになった自然の親木から枝を取り、これまたすでに野生のようになった自然の木にそれらを接いだ。

56 また二人は、すでに野生のようになった自然の木の枝を取り、それらを親木に接いだ。

57 果樹園の主人は僕に言った。「いちばん渋い実を結ぶ枝のほかは、野生の枝を木から切り落としてはならない。また、切り落とした木には、わたしが言ったように接ぎ木をしなさい。

58 わたしたちは、もう一度果樹園の木に養いを与えよう。そして、枝を刈り込もう。また、もう実を結ばず、枯れることが分かっている枝は、木から切り落として、火の中に投げ込んでしまおう。

---

50 ① ヤコ 5・27
52 ① GS「イスラエルの集合」
54 ① 1ニフ 15・12−16

59 わたしがこうするのは、根がまだ良いので、枝を取り換えることで根がまた強くなり、良い枝が悪い枝を負かしてしまうのではないかと思うからである。

60 わたしは元の自然の枝と根を残し、また自然の枝をもう一度親木に接ぎ返して親木の根も残したので、わたしの果樹園の木は恐らくまた良い実を結ぶ[1]であろう。そして、わたしは果樹園の実によって再び喜びを得られるであろう。また恐らく、最初の実を結んだ根と枝を残したことを非常に喜びに感じるであろう。

61 だから、行って僕[1]たちを呼び集めなさい。わたしたちは果樹園で力を尽くして熱心に働き[2]、もう一度自然の実を結ばせる準備をしよう。自然の実は良い実であり、ほかのどんな実よりも価値のあるものである。

62 だから、行って、この最後の時に当たって、わたしたちの力を尽くして働こう。終わりは近づいている。これはわたしが果樹園で刈り込みをする最後の時である。

63 枝を接ぎなさい。[1]最後の枝が最初となり、最初の枝が最後となるように、最後の枝から始めなさい。そして、古い木も新しい木も、最初の木も最後の木も、その周りを掘って、最後の木から最初の木までのすべてが、最後にもう一度養いを与えられるようにしなさい。

64 終わりが近づいているので、最後にもう一度木の周りを掘り、刈り込み、肥料をやりなさい。そして、これらの最後の接ぎ穂が生長して自然の実を結ぶようであれば、生長できるように必要な準備をしなさい。

65 そして、接ぎ穂が生長し始めたら、良い枝の力とその大きさに応じて、渋い実を結ぶ枝を取り除きなさい。しかし、悪い枝を一度にすべて取り除いてはならない。[1]そのようなことをすれば、接ぎ穂に対して根の方が強くなりすぎて、接ぎ穂が枯れてしまい、果樹園の木を失ってしまうことになる。

66 果樹園の木を失うのは悲しいことである。だからあなたがたは、根とこずえの力の釣り合いを取りながら、良い枝が生長するに応じて悪い枝を取り除き、良い枝が悪い枝を負かすようにしなさい。それから、悪い枝を切り取って火の中に投げ込み、悪い

60① イザ27・6
61① ヤコ6・2、教義24・19
② 教義39・11、13、17
63① 1ニフ13・42、エテ13・10−12
65① 教義86・6−7

ものが果樹園の土地をふさがないようにしなさい。このようにして、わたしは自分の果樹園から悪いものを一掃してしまおう。

67 わたしは、元の自然の木の枝を、もう一度自然の親木に接ぎ返そう。

68 また、自然の親木の枝を、親木の自然の枝に接ごう。こうしてわたしは、再びそれらのものを組み合わせて、それらの木が自然の実を結び、一つとなるようにしよう。

69 そして、悪いものをわたしの果樹園の全体から捨[1]て去る。そのために、見よ、わたしはもう一度だけ、わたしの果樹園の刈り込みをしよう。」

70 そして、果樹園の主人は僕を遣わした。それで僕は行って、主人から命じられたとおりにし、ほかの僕たちを連れて来た。その数は[2]少なかった。

71 それで果樹園の主人は僕たちに言った。「行って、果樹園で力を尽くして働[1]きなさい。これが、わたしが果樹園に養いを与える[2]最後の時である。終わりはすでに近く、時節はすぐに来る。しかし、あなたがたがわたしと一緒に力を尽くして働くならば、わたしがもうすぐやって来る時節に備えてわたし自身のために実を蓄える、その実によってあなたがたは[3]喜びを得るであろう。」

72 そこで、僕たちは行って、力を尽くして働いた。果樹園の主人も彼らと一緒に働いた。僕たちは何事もすべて果樹園の主人の命令に従った。

73 すると、自然の実がまた果樹園で結び始め、自然の枝も生長してよく生い茂り始めた。それで、野生の枝を切り落とし、捨て始めた。僕たちは、木の根とこずえの力に応じて、それらの釣り合いを保つようにした。

74 こうして、僕たちは果樹園の主人の命じたとおりに、力の限り働き、とうとう悪い枝を果樹園から捨ててしまった。そして、主人は自分自身のために木を保存し、これらの木は再び自然の実を結んだ。また、これらの木は[1]一つの体のようになり、実はすべて同じであった。こうして、果樹園の主人は、初めから自分にとって最も価値があると考えていた自然の実を、自分自身のために保存できたのである。

75 そして果樹園の主人は、その実が良く、また自分の果樹園がもはや悪い状態にないことを知ると、僕たちを呼び集めて、彼らに言った。「この最後の時

---

69 ① 1ニフ22・15−17、23、2ニフ30・9−10、教義101・55、103・21
70 ① ② 1ニフ14・12
71 ① ② マタ21・28、ヤコ6・2−3、教義33・3−4、教義39・17、43・28−
30 ② 教義18・10−16
74 ① ③ 教義38・27

に、わたしたちは果樹園に養いを与えてきた。あなたがたの見るとおり、わたしは自分の望むままに行い、自然の実を保存した。その実は最初の時と同じように良い実である。あなたがたは、わたしの果樹園でわたしと一緒に熱心に働き、わたしの命じたことを守り、わたしのために再び自然の実が得られるようにしてくれたからである。わたしの果樹園はもはや悪くない。悪い枝は捨ててしまった。だから、あなたがたはわたしの果樹園の実のことで、わたしと一緒に喜びを得るであろう。

76 さて見よ、わたしはしばらくの間[1]、もうすぐやって来る実のとれない時節に備えて、わたし自身のために果樹園の実を蓄えよう。わたしはこれを最後として、果樹園に養いを与えてきた。刈り込み、周りを掘り、肥料をやってきた。わたしはすでに言ったように、しばらくの間自分自身のために実を蓄えることにしよう。

77 そして、将来再びわたしの果樹園に悪い実が生じる時が来れば、わたしはそのときに良い実と悪い実を集めさせ、良い実はわたし自身のために保存し、悪い実はそれ相応の場所に捨ててしまおう。その後、実を結べない時節[1]、すなわち終わりが来る。そうすれば、わたしは自分の果樹園を火で焼かせよう[2]。」』

第6章

主は終わりの時にイスラエルを回復される。世界は火で焼かれる。人は火と硫黄の池を避けるには、キリストに従わなければならない。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしは前にあなたがたに預言をすると言ったが、わたしの預言は次のとおりである。すなわち、この預言者ゼノスがイスラエルの家を栽培されたオリーブの木にたとえて語ったことは、必ず起こるに違いない。

2 主なる神が主の民を元に戻す業に再び着手されるのは、主の僕たち[2]が主の果樹園[3]に養いを与え、刈り込みを行うために主の力[5]をもって出て行く日、すなわち最後の時である。そして、その後すぐに終わりが来る[6]。

---

75 ① 1ニフ 13・37
76 ① ② GS「イスラエル」、1ニフ 22・24−26、GS「福千年」
77 ① 黙示 20・2−10、教義 29・22−24、43・29−33、88・110−116
② GS「世−世の終わり」

第6章
1 ① ヤコ 5・1
2 ① 1ニフ 22・10−12、教義 110・11、GS「福音の回復」
② ヤコ 5・61
③ GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
④ ヤコ 5・71
⑤ 1ニフ 14・14
⑥ 2ニフ 30・10

3 主の果樹園で熱心に働いてきた人々は、何と幸いであろうか。また、自分の定められた場所に投げ込まれる者たちは、何と災いであろう。世界は火で[1]焼かれるであろう。

4 神はわたしたちに対して何と憐れみ深いことか。神は[1]イスラエルの家を根も枝もともに覚えて、終日彼らに手を[2]差し伸べておられる。ところが、彼らは[3]強情で反抗的な民である。しかし、心をかたくなにしない者たちは皆、神の王国に救われる。

5 だから、わたしの愛する同胞よ、あなたがたが悔い改めて、十分に固い決意をもって神のもとに来て、神があなたがたを心にかけてこられたと同じように、あなたがたも神に[1]堅くついて離れないように、わたしはまじめな言葉であなたがたに勧める。神の[2]憐れみの腕が、昼の光の中であなたがたに伸べられている間、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。

6 まことに今日、神の声を聞こうとするならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。なぜあなたがたは死の[1]うとするのか。

7 見よ、あなたがたは、終日神の善い言葉によって養われてきた後に悪い実を結び、そのため切り倒されて、火の中に投げ込まれなければならないようなことをするのだろうか。

8 見よ、あなたがたはこれらの言葉を拒むのだろうか。預言者たちの言葉を拒むのだろうか。非常に多くの人がキリストについて語った後に、あなたがたはキリストについて語られた言葉をすべて拒むのだろうか。またあなたがたは、キリストの善い言葉と、神の力と、[1]聖霊の賜物を否定し、聖なる御霊を退けて、あなたがたのために備えられた偉大な贖いの計画をあざけるのだろうか。

9 もしもあなたがたがこれらのことを行うならば、キリストの内にある贖いと復活の力が、あなたがたを恥とひどい[1]罪悪感をもって[2]神の法廷に立たせる。あなたがたはこのことを知らないのか。

10 [1]正義の要求は拒めないので、正義の力によって、あなたがたは、炎が消えることなく上り、煙がとこしえにいつまでも立ち上るあの[2]火と硫黄の池に、必ず投げ込まれることになる。その火と硫黄の池は、[3]無窮の苦[4]痛である。

11 おお、わたしの愛する同胞よ、悔い改めなさい。

---

3 ①2ニフ27・2、ヤコ5・7、3ニフ25・1
4 ①サ下7・24 ②ヤコ5・47 ③モサ13・29 GS「一致」
5 ①アル5・33−34、3ニフ9・14 ②エゼ18・21−23
6 ①アル5・51−52、3ニフ27・11−12
7 ①GS「聖霊の賜物」
8 ①モサ15・26、GS「罪悪感」
9 ①GS「最後の裁き」 ②GS「正義」
10 ①2ニフ28・23、GS「地獄」 ②教義19・10−12 ③④GS「罰の定め」

そして、1)狭い門から入り、永遠の命を得るまで細い道を歩み続けなさい。
12おお、1)賢くありなさい。わたしはこのうえ、何を言えようか。
13最後に、悪人を非常に1)恐れおののかせる神の楽しい法廷であなたがたに会うまで、わたしはあなたがたに別れを告げる。アーメン。

第7章

シーレム、キリストを否定し、ヤコブと議論してしるしを求め、神によって打たれる。預言者はすべてキリストとキリストの贖罪について語る。ニーファイ人は流浪の民として生涯を過ごし、艱難の中で生まれ、レーマン人に憎まれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1さて、それから何年かたって、シーレムという名の男がニーファイの民の中にやって来た。
2そしてこの男は、民の中で教えを説き、キリストなどというものは存在するはずがないと、民に宣べ始めた。また彼は、民にへつらう事柄をたくさん説いた。これは彼が、キリストの教義を覆そうとして行ったことである。
3彼は、民の心を惑わそうと熱心に努めたので、多くの人を迷わすのに成功した。また彼は、わたしヤコブが将来来られるキリストを信じているのを知っていたので、わたしのもとに来る機会をしきりに求めていた。
4彼は博学で、民の言葉に完全に通じていたので、悪魔の力によって多くの甘言と十分な弁舌の力を用いることができた。
5わたしが多くの1)啓示を受け、またこれらの事柄についてたくさんのことを先見していたにもかかわらず、彼はわたしの信仰を動揺させることができると思っていた。しかしわたしは、実際に天使に会って教えを受け、また主の声がまことにわたしに言葉をかけてくださるのを時折聞いていたので、動揺することはなかった。
6さて、彼はわたしのところに来ると、このように言った。「ヤコブ兄弟、わたしはあなたと話ができるように、度々機会を求めてきました。あなたが方々を巡って、あなたが福音と呼んでいるもの、す

11① 2ニフ9・41
12① モル9・28
13① アル40・14
第7章
5① 2ニフ11・3、ヤコ2・11

なわちキリストの教義を宣べ伝えていることをわたしは耳にし、知っているからです。
7 あなたがこの民の多くの者を惑わしたので、彼らは神の正しい道を曲げ、正しい道であるモーセの律法を守っていません。[1)] また、モーセの律法を変えて、あなたがたの言う、何百年か後に来る一人の人を礼拝しています。さてまことに、わたしシーレムはあなたに言明します。これは神への冒瀆です。だれにもそのようなことは分からないからです。だれも将来のことを告げることはできません。[2)]」このようにして、シーレムはわたしに論争を仕掛けた。
8 しかし見よ、主なる神がわたしに神の御霊を注いでくださったので、わたしは彼のすべての言葉について彼を説き破った。
9 わたしは彼に言った。「あなたは将来来られるキリストを否定するのですか。」すると彼は言った。「キリストが必ず存在するのであれば、わたしは否定しません。しかし、キリストなどというものが、現在にも、過去にも、未来にも存在しないことを、わたしは知っています。」
10 次にわたしが、「あなたは聖文を信じていますか」と言うと、彼は、「はい」と言った。
11 それでわたしは彼に言った。「それならば、あなたは聖文を理解していません。聖文はまことにキリストについて証しているからです。見よ、わたしはあなたに言いますが、このキリストについて述べることなしに書き記したり預言[1)]したりした預言者は一人もいません。
12 それだけではない。キリストのことは、わたしにも示されました。わたしは目で見、耳で聞いたからです。また、[1)]聖霊の力によってもわたしに明らかにされました。ですから、贖罪が行われなければ、全人類が必ず失われた状態[2)]になることを、わたしは知っています。」
13 そこで、彼はわたしに、「それでは、そのように多くのことをあなたに教える聖霊のその力によって、わたしにしるしを見せてください」と言った。[1)]
14 それで、わたしは彼に言った。「わたしは何者なので、あなたがすでに[1)]真実であると知っていることについて、しるしをあなたに見せるために神を試みることができましょうか。あなたはしるしを見ても否定するでしょう。あなたは[2)]悪魔に従う者だからで

7 ①ヤコ 4・5 ②アル 30・13
8 ①GS「霊感」 ②黙示 19・10、1ニフ 11・5、ヤコ 4・4、モサ 13・33−35、教義 20・26、GS「イエス・キリスト」
12 ①GS「神・神会−聖霊」 ②2ニフ 2・21
13 ①マタ 16・1−4、アル 30・43−60、GS「しるし」 ②2ニフ 2・21
14 ①アル 30・41−42 ②アル 30・53

す。しかしながら、わたしの思いが行われるのではなく、神があなたを打たれるならば、それがすなわち、神が天と地の両方で力を持っておられることと、キリストが将来来られることをあなたに示すしるしとなるでしょう。お、主よ、わたしの思いではなく、あなたの御心が行われますように。」

15さて、わたしヤコブがこれらの言葉を語り終えると、主の力が彼に下り、彼は地に倒れた。その後、彼は何日もの間、介抱を受ける身となった。

16そこで、彼は民に言った。「明日集まってほしい。わたしはもう死ぬ。だから死ぬ前に民に話しておきたい。」

17さて、翌日、大勢の人が集まった。すると、シーレムは彼らにはっきり語って、自分がこれまで彼らに教えてきたことを取り消し、キリストと、聖霊の力の実在と、天使の働きを告白した。

18また彼は、彼らにはっきりと、自分が[1]悪魔の力によって[2]欺かれていたことを語り、地獄と永遠と永遠の罰についても語った。

19また、彼は言った。「わたしは[1]赦されない罪を犯したのではないかと恐れています。神に偽りを言ったからです。また、聖文を信じていると言いながら、キリストを否定したからです。聖文は確かにキリストのことを証しています。わたしはこのように神に偽りを言ったので、わたしの境涯[2]が恐ろしいものになるのではないかと非常に恐れています。しかし、わたしは神に告白します。」

20そして、彼はこれらの言葉を語り終えると、何も言えなくなって[1]息絶えた。

21群衆は、シーレムがまさに息を引き取ろうとするときにこれらのことを語ったのを見て、非常に驚いた。そのために、神の力が彼らに及び、彼らは[1]圧倒されて地に倒れた。

22ところで、これはわたしヤコブにとってうれしいことであった。わたしはこのことを前もって天における御父にお願いし、御父はわたしの嘆願に耳を傾けて、祈りにこたえてくださったからである。

23そして、平和と神の愛が再び民の中に回復された。民は聖文を[1]詳しく調べ、二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかった。

24さて、レーマン人を[1]再び正して真理の知識のもとに連れ戻すために、多くの手段が講じられたが、い

18 ①GS「悪魔」
②アル30・53、GS「欺き」
19 ①GS「赦されない罪」
20 ①モサ15・26
②エレ28・15—17
21 ①アル19・6
23 ①アル17・2
24 ①エノ1・20

ずれも[2]無駄に終わった。彼らは[3]戦争と[1]流血を喜びとし、また、彼らの同胞であるわたしたちに対して、永遠の[5]憎しみを抱いていたからである。そして彼らは、武力で絶えずわたしたちを滅ぼそうとした。

25それゆえ、ニーファイの民は自分たちの救いの[1]岩である神に頼りながら、武器とあらんかぎりの力をもって、レーマン人に対する防備を固めた。そのため、この当時までは敵に勝利を収めていた。

26さて、わたしヤコブは、もう老いが進んだ。この民の記録はニーファイの[1]ほかの版に書き継がれるので、わたしは自分の知っているかぎりの事柄を書き記してきたことを宣言し、この記録を終えることにする。わたしたちの時はもう過ぎ去った。[2]一生はあたかも夢のように過ぎてしまった。わたしたちは孤独でまじめな民であり、流浪の民であって、エルサレムから追い出され、艱難のただ中に荒れ野で生まれ、わたしたちの同胞に憎まれてきた。そして、その憎しみが戦争と争いを引き起こし、わたしたちは生涯を嘆き悲しんで送ってきたのである。

27わたしヤコブは、間もなく墓に入らなければならないことを知った。それで息子の[1]エノスに、「この版を受け継ぎなさい」と言い、また兄ニーファイから[2]命じられたことを告げたところ、息子はその命令に従うことを約束してくれた。これまで書き記してきたことはわずかであるが、わたしはこの版に書き記すのをこれで終える。そして、わたしの同胞の多くがわたしの言葉を読めるように期待しながら、わたしは読む者に別れを告げる。同胞よ、さらば。

---

24 ②エノ1・14 ③④モサ10・11−18、ジェロ1・6、アル26・23−25 ⑤2ニフ5・1−3、モサ28・2
25 ①GS「岩」
26 ①1ニフ19・1−6、ジェロ1・14−15、GS「版」
27 ①②新ヤコ4・14 ①エノ1・1 ②ヤコ1・1−4

エノス書

エノス、熱烈に祈り、罪の赦しを得る。主の声がエノスの思いに告げて、将来レーマン人に救いが与えられることを約束する。ニーファイ人、レーマン人を再び正そうと努める。エノス、自分の贖い主のことを喜ぶ。紀元前約四百二十年。

1 さて見よ、わたしエノス[1]は、父が[2]正しい人であったことを知っている。父はわたしを父の言葉で、また主の[3]薫陶と訓戒によって教えてくれたからである。神の御名がほめたたえられるように。

2 わたしは、[1]罪の赦しを受けるに先立って神の前で味わった[2]苦闘について、あなたがたに述べよう。

3 見よ、わたしは森で獣を狩ろうとして出かけた。かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの[1]喜びについて語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉が、そのときになってわたしの心に深く[2]しみ込んできた。

4 すると、わたしの霊は飢えを[1]感じた。それで、わたしは造り主の前に[2]ひざまずき、自分自身のために熱烈な祈りと[3]懇願をもって造り主に叫び求めた。わたしは一日中造り主に叫び求めた。また夜になっても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。

5 すると、わたしに[1]声が聞こえた。「エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。」

6 わたしエノスは、神は偽りを言われるはずがないので、わたしの罪がすでにぬぐい去られたのを知った。

7 それでわたしは、「主よ、それはどうしてですか」と尋ねた。

8 そこで、主はわたしに言われた。「あなたが、これまでに声を聞いたことも見たこともないキリストを[1]信じているからである。多くの歳月が過ぎた後、キリストは肉にあって自分自身を現すであろう。それゆえ、行きなさい。あなたの信仰があなたを[2]罪のない者としたのである。」

9 さて、この御言葉を聞いたとき、同胞であるニー

エノス書

1 ① GS「エノス（ヤコブの息子）」 ② 2ニフ2・2−4 ③ エペ6・4
2 ① 1ニフ1・1−2 ② GS「罪の赦し」 ③ 創世32・24−32、アル8・10、GS「悔い改め」
3 ① GS「喜び」 ② 1ニフ10・17−19、アル36・17−21
4 ① 2ニフ9・51、3ニフ12・6 ② GS「敬虔」
5 ① ② GS「祈り」 ③ GS「啓示」
8 ① 「信仰」 エテ3・12−13、GS ② マタ9・22

ファイ人の幸いを[1]願う気持ちがわいてきた。それで
わたしは、彼らのためにわたしの心のすべてを神
に[2]注ぎ出した。
10 わたしがこのように心を込めて祈っていると、見
よ、再び主の声がわたしの[1]思いに告げて、次のよう
に言われた。「わたしはあなたの同胞を、わたしの戒
めを守る勤勉さに応じて訪れよう。わたしは彼らに
この地を[2]与えた。この地は聖なる地である。罪悪の
ゆえでなければ、わたしはこれをの[3]ろわない。それ
ゆえ、わたしはすでに述べたように、あなたの同胞
を訪れよう。また、彼らの背きに対しては、彼ら自
身の頭に悲しみを下そう。」
11 わたしエノスは、この御言葉を聞くと、主を信じ
る信仰が揺るぎないものになってきた。そして、わ
たしの同胞、すなわちレーマン人のために、何度も
長い時間熱烈に主に祈った。
12 そして、わたしが[1]祈り、力の限り努力した後に、
主はわたしに、「あなたの信仰のゆえに、わたしはあ
なたの[2]願いを望みどおりに聞き届けよう」と言われ
た。
13 さて見よ、わたしが主に望んだこととは、わたし
の民のニーファイ人が戒めに背くようになって、何
らかの方法で[1]滅ぼされてしまっても、レーマン人が
滅ぼされなければ、主なる神が聖なる腕の力によっ
てでもわたしの民ニーファイ人の記録を[2]残し、それ
が将来いつかレーマン人に[3]伝えられて、彼らが救い
に[4]あずかれるようにしていただくことであった。
14 現在のところ、レーマン人を真実の信仰に連れ戻
そうとするわたしたちの努力は、[1]むなしいものとな
っている。彼らは激しい怒りをもって、何とかして
わたしたちの記録とわたしたち自身を、それにわた
したちの先祖のすべての言い伝えを[2]絶やしてしまお
うと誓っているのである。
15 しかしわたしは、主なる神がわたしたちの[1]記録を
残す力を持っておられることを知っていたので、ま
た主なる神がかつてわたしに、「あなたがたは必ず
与えられると信じて信仰をもってキリストの名によ
って求めれば、何でも与えられる」と言われたので、
わたしは続けて神に叫び求めた。
16 わたしは信仰を持っていたので、わたしたちの[1]記
録を[2]残すように神に叫び求めた。すると神は、御自
身がふさわしいと思うときにそれらの記録をレーマ

9 ① 1ニフ8・12、アル36・24
② 2ニフ33・3、モ言1・8、アル34・26−27
10 ① GS「思い・心」「霊感」
② 1ニフ2・20
③ エテ2・7−12
12 ① モル5・21、9・36
② 詩篇37・4、1ニフ7・12、ヒラ10・5
13 ① モル6・1、6
② モ言1・6−11、アル37・2
③ アル37・19、エテ12・22、教義3・18
④ アル9・17
14 ① ヤコ7・24
② モル6・6
15 ① GS「聖文−保存されるべき聖文」
16 ① GS「モルモン書」
② 3ニフ5・13−15、教義3・19−20、10・46−50

ン人に伝えると聖約された。
17わたしエノスは、神が立てられた聖約のとおりになることを知っていたので、心が安らかになった。
18また、主はわたしに言われた。「あなたの先祖たちも、わたしにこのことを求めた。このことは彼らの信仰に応じて行われるであろう。彼らの信仰も、あなたの信仰と同様であった。」
19そこでわたしエノスは、ニーファイの民の中を巡って、将来起こることを預言し、また自分の見聞きしたことについて証した。
20わたしは、ニーファイの民がレーマン人を、神を信じる真実の信仰に連れ戻そうと熱心に努めたことを証する。しかし、わたしたちの働きは無益であった。レーマン人の憎悪は凝り固まっていた。そして彼らは、邪悪な性質に任せて野蛮で残忍で血に飢えた民となり、偶像礼拝と汚れに満ちた民となり、猛獣を食い料として天幕に住み、短い皮帯を腰に締めて、頭をそった姿で荒れ野をさまよっていた。彼らは弓や三日月刀や斧を使うことを得意としていた。また、彼らの多くは生肉のほかは何も食べなかった。そして、彼らは絶えずわたしたちを滅ぼそうとしていた。
21さて、ニーファイの民は地を耕し、あらゆる穀物や果実を作り、大きな家畜の群れやあらゆる家畜の群れ、また、やぎや野やぎ、多くの馬を飼っていた。
22また、わたしたちの中には非常に多くの預言者がいた。しかし民は、物分かりの悪い、強情な民であった。
23それで、非常に厳しく、戦争と争いと滅亡について説き、預言し、また死や永遠の来世、神の裁きと力など、これらすべてのことを絶えず思い起こさせ、主を畏れる気持ちを抱くように、絶えず彼らを奮い立たせるほかに、方法はなかった。これらのことと、きわめて率直に語ることのほかに、彼らが速やかに滅亡に落ちて行くのをとどめる方法はなかったと、わたしは言う。わたしが彼らについて書き記すのは、以上のとおりである。
24わたしは一生の間、ニーファイ人とレーマン人との戦争を見てきた。
25さて、わたしはもう年を取った。わたしたちの先祖リーハイがエルサレムを去ったときから、すでに百七十九年が過ぎ去った。

---

16 ③ 2ニフ27・6
20 ① モロ9・6
② ジェロ1・6
③ モサ9・12、GS「偶像礼拝」
④ モサ10・8
21 ① モサ9・9
22 ① モ言1・16−18
② ジェロ1・3
23 ① 1ニフ16・2、2ニフ33・5
② GS「宣べ伝える」
③ ヒラ12・3
④ ジェロ1・12、アル31・5
25 ① 1ニフ2・2−4

26 わたしは、自分もやがて墓に入らなければならないことを知った。わたしはこの民に教えを説き、預言しなければならないこと、またキリストにある真理に従って御言葉を告げ知らせなければならないことを、神の力によって感じてきた。それでわたしは、生涯それを宣べ伝え、俗世のことよりもそれを喜びとしてきた。

27 わたしは間もなく[1]安息の場所へ行く。それは、贖い主のもとでの安息である。わたしは、贖い主によって安息を得ることを知っているからである。わたしは自分の[2]死すべき体が[3]不死のものを着て、贖い主の前に立つ日のあることに喜びを感じる。そのとき、わたしは喜んで贖い主の顔を拝するであろう。そして、贖い主はわたしに、「祝福された者よ、わたしのもとに来なさい。わたしの父の[4]住まいには、あなたのために用意された場所がある」と言われるであろう。アーメン。

---

27 ① GS「安息」
② GS「死すべき状態」
③ GS「不死不滅」
④ 12・32−34、ヨハ14・2−3、エテ教義72・4、98・18

ジェロム書

ニーファイ人はモーセの律法を守り、キリストの来臨を待ち望み、その地で栄える。ニーファイ人を真理の道にとどめるために、多くの預言者が働く。紀元前約三百九十九年から三百六十一年に至る。

1 さて見よ、わたしジェロムは、わたしたちの系図[1]を書き継ぐようにという父エノスの命令に従って、少しの言葉を書き記す。

2 この版[1]は小[2]さく、またこれらの事柄は、わたしたちの同胞であるレーマン人[3]に益を与えるという意図をもって書き記[4]されているので、わたしも少し書き記す必要がある。しかし、わたしの預言したことや、わたしが受けた啓示については書き記さない。わたしの先祖たちが書き記してきたこと以上に、わたしに書き記せることが何かあるであろうか。彼らは救いの計画を明らかにしていないであろうか。明らかにしているとわたしはあなたがたに言う。わたしにはそれで十分である。

3 この民の中で行う必要のあることは実にたくさんある。それは、彼らが心をかたくなにし、耳を傾けようとせず、思いをくらまし、強情[1]になっているからである。にもかかわらず、神は彼らに非常に深い憐れみを示し、これまでのところ、彼らを地の面から一掃[2]してはおられない。

4 また、民が皆強情なわけではなく、わたしたちの中には啓示[1]を多く受けている者が大勢いる。そして、強情にならずに信仰を抱いている者は皆、その信仰に応じて人の子らに物事を明らかにされる聖なる御霊と交わり[2]を持っている。

5 ところで、すでに二百年が過ぎ去り、ニーファイの民はこの地で強くなった。彼らはモーセの律法を守り[1]、また安息日[2]を主のために聖なる日として守った。彼らはまた、不敬[3]な言葉を口にせず、神聖を汚[4]さなかった。そして、国の法律は非常に厳しかった。

6 彼らは地の面に広く散らされた。また、レーマン人も同様であった。しかし、ニーファイ人に属する者よりも、レーマン人の方がはるかにおびただしい

ジェロム書

1 ① 1ニフ3・12、5・14
2 ① ヤコ3・14、オム1・1
② 1ニフ6・1−6
③ 2ニフ27・6、モル5・12
④ GS「聖文−聖文の価値」
3 ① エノ1・22−23
② エテ2・8−10
4 ① アル26・22、ヒラ11・23、教義107・18−19、GS「啓示」
② GS「聖霊」
5 ① 2ニフ25・24、アル34・13−14
② 出エ35・2、GS「安息日」
③ GS「不敬」
④ GS「冒瀆・汚す罪」

数で、彼らは1)殺人を好み、獣の血をよく飲んでいた。
7そして彼らは、度々わたしたちニーファイ人に攻めかかって来た。しかし、わたしたちの1)王や指導者は、主を信じる信仰の篤い人々であり、また民に主の道を教えていたので、わたしたちはレーマン人に2)立ち向かい、彼らをわたしたちの地から一掃した。そしてわたしたちは、自分たちの町や、そのほかのあらゆる受け継ぎの場所の防備を固める仕事に取りかかった。
8わたしたちは非常に増えて、地の面に広がり、金や銀や貴重な品々、見事な造りの木工品や建物や機械、それに鉄や銅、真鍮、鋼などを豊かに持つようになった。そして、地を耕すためにあらゆる道具を造り、また戦争の1)武器、まことに、鋭いやじりの矢と矢筒、投げ矢と投げ槍を造り、さらに戦争のためにすべての準備を整えた。
9わたしたちがこのようにしてレーマン人と戦う準備を整えていたので、彼らはわたしたちに対して栄えることはなかった。そして、主がわたしたちの先祖に言われた、「あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える」という主の言葉が実証されたのである。
10そして主の預言者たちは、もし民が戒めを守らず、背くようになるならば、彼らは地の面から1)滅ぼし去られるという神の言葉に従って、ニーファイの民に強い警告の言葉を発した。
11そして、預言者や祭司や教師たちは熱心に働き、民にも熱心であるよう、あくまでも寛容な心で勧めた。またモーセの1)律法とそれが与えられた目的を彼らに教え、さらにメシヤを2)待ち望み、あたかもメシヤがすでに3)来ておられるかのように、将来来られるメシヤを信じるよう民に勧めた。彼らはこのようにして民を教えた。
12そして、そうすることによって、彼らは民が地の面で1)滅ぼされるのを防いだ。彼らが言葉で民の心を2)刺激し、絶えず民に悔い改めを促したからである。
13そして、二百三十八年が過ぎ去り、その間、多くの歳月が戦争と争いと不和の有様で暮れた。
14わたしジェロムは、版が小さいのでこれ以上書き記さない。しかし見よ、わたしの同胞よ、ニーファイのほかの1)版を見るがよい。わたしたちの戦争の記

---

6 ①ヤコ 7・24、エノ 1・20
7 ①②ヤコ 1・9、11、15
8 ①②モサ 1・14
9 ①モサ 10・8
10 ①1 ニフ 12・19−20、オム 1・5
11 ①ヤコ 4・5、アル 25・15−16 ②2 ニフ 11・4、エテ 12・18−19 ③2 ニフ 25・24−27、モサ 3・13、16・6
12 ①エテ 2・10 ②アル 31・5
14 ①②1 ニフ 9・2−4

録は、王たちの書き記したとおりに、または彼らが書き記させたとおりに、その版に刻まれているからである。

15わたしは先祖たちの[1]命令どおりにこの版が書き継がれるように、息子オムナイの手にこの版を渡す。

15① ヤコ1・1―4

オムナイ書

オムナイ、アメーロン、ケミシ、アビナドム、アマレカイが順次記録を書き継ぐ。モーサヤ、ゼデキヤの時代にエルサレムから来たゼラヘムラの民を発見する。モーサヤ、彼らを治める王とされる。ミュレクの子孫は、かつてゼラヘムラで、ヤレド人の最後の生存者であったコリアンタマーを発見していた。ベニヤミン王、モーサヤの跡を継ぐ。人は自分自身をキリストへのささげ物としてささげなければならない。紀元前約三百二十三年から百三十年に至る。

1 見よ、わたしオムナイは、わたしたちの系図を残すためにこの版に多少のことを書き記すように、父ジェロムに命じられた。

2 それゆえ、わたしはあなたがたに知らせたいことがある。わたしは、自分の民ニーファイ人が敵であるレーマン人の手に落ちないように、彼らを守るために生涯剣を取ってよく戦った。しかし見よ、わたし自身は悪い人間であり、当然守っていなければならないほど主の掟と戒めを守ってこなかった。

3 そして、すでに二百七十六年が過ぎ去った。その間、平和な時代も多くあり、また激しい戦争と流血の時代も多かった。そして要するに、すでに二百八十二年が過ぎ去った。わたしは先祖の命令に従って、この版を保存してきた。そしてわたしは、息子アメーロンにこれを託した。わたしはこれで記録を終える。

4 わたしアメーロンは、今わたしが書き記すことを少しではあるが、父の書に書き記す。

5 さて見よ、すでに三百二十年が過ぎ去り、ニーファイ人の中のひときわ悪い者たちは滅ぼされてしまった。

6 なぜならば、主はニーファイ人をエルサレムの地から連れ出し、敵の手に落ちないように守ってこられたので、かつて先祖に言われた、「あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える」という御言葉が実証されないのを許されないからである。

7 それゆえ、主は彼らに厳しい裁きを下された。しかしながら、主は義人が滅びることのないように彼

オムナイ書
3① ヤコ1・1−4、ジェロ1・15
5① ジェロ1・9−10

らの命を助け、彼らを敵の手から救われた。
8 そしてわたしは、この版を兄弟のケミシに渡した。
9 わたしケミシは、今書き記しているわずかなことだけを、兄弟と同じ書に書き記す。見よ、わたしは兄弟が書き記した最後の記事を見たが、それは彼が自分自身で書き記したものである。彼は、わたしに版を渡してくれたその日にそれを書き記した。このように、わたしたちは記録を書き継いでいる。それは、わたしたちの先祖の命令によるのである。わたしはこれで記録を終える。
10 見よ、わたしアビナドムはケミシの子である。わたしは、わたしの民であるニーファイ人とレーマン人の間に多くの戦争や争いを見た。またわたしは、同胞を守るために、自分自身の剣で多くのレーマン人の命を奪ってきた。
11 見よ、この民の記録は、歴代の王が所有する版に刻まれている。わたしは、すでに書き記されている啓示や預言のほかには何一つ知らない。したがって、十分なことが書き記されている。わたしはこれで記録を終える。
12 見よ、わたしはアビナドムの子、アマレカイである。見よ、わたしはゼラヘムラの地を治める王とされたモーサヤについて、少しあなたがたに述べよう。見よ、モーサヤは[1]ニーファイの地から逃げ出すように、また、主の声に聞き従う者も皆、モーサヤとともにその地から荒れ野へ出て行くように、主から警告を受けた。
13 そこでモーサヤは、主に命じられたとおりにした。また、主の声に聞き従う者も皆、その地から荒れ野へ出て行った。そして、幾度にもわたる説教と預言によって導かれ、また神の言葉により絶えず訓戒を受けた。また彼らは、神の腕の力によって導かれ、荒れ野を通り過ぎてゼラヘムラの地と呼ばれる地に着いた。
14 そして彼らは、ゼ[1]ラヘムラの民と呼ばれた民を発見した。そのために、ゼラヘムラの民の中に大きな喜びが起こり、またゼラヘムラ自身も、主がモーサヤの民を遣わされたので、ことのほか喜んだ。モーサヤの民はユダヤ人の記録が載っている[2]真鍮の版を持っていたからである。
15 さて見よ、モーサヤが知ったところによれば、ゼ[1]

12 ①2ニフ5・6−9 ②ヤコ3・4
14 ①GS「ゼラヘムラ」 ②1ニフ3・19−20、5・10−22、モサ25・2

ラヘムラの民は、ユダの王ゼデキヤがバビロンへ囚われの身となって連れ去られたときに、エルサレムから出て来た民であった。
16そして、この民は荒れ野を旅し、主の手によって導かれて大海を渡り、モーサヤが彼らを発見した地に来た。そのときから、彼らはいつまでもそこに住んでいた。
17そして、モーサヤが発見したときには、彼らは非常に大きな数になっていた。しかし、その前に多くの戦争と激しい争いがあって、民が剣によって倒れたことも度々あった。また、彼らの言葉はなまっており、そのうえ、彼らは何一つ記録を持って来ておらず、しかも、自分たちの創造主の存在を否定していた。それでモーサヤも、モーサヤの民も、彼らのことを理解できなかった。
18そこでモーサヤはゼラヘムラの民に、モーサヤの言葉を教えさせた。そして、彼らがモーサヤの言葉を教わった後、ゼラヘムラは自分の記憶に従って先祖の系図を述べた。その系図は書き留められているが、この版には載せない。
19さて、ゼラヘムラの民とモーサヤの民は連合し、モーサヤが彼らの王に選任された。
20そしてモーサヤの時代に、文字の刻まれている一つの大きな石が彼のもとに運ばれてきた。それで彼は、神の賜物と力によって、刻まれていたものを解読した。
21それには、コリアンタマーという人物と、彼の民の中の殺された者たちの話が載っていた。このコリアンタマーはゼラヘムラの民によって発見され、九か月の間彼らとともに暮らしたのであった。
22また、コリアンタマーの先祖についても少し述べられていた。彼の最初の先祖は、主が人々の言葉を乱されたときに、塔のある所から出て来たのである。そして、主の公正な裁きによって彼の民に主の厳しい罰が下り、現在、北方の地に彼らの骨が散り散りになっている。
23見よ、わたしアマレカイはモーサヤの時代に生まれ、生きている間にモーサヤの死を見た。そして、彼の息子ベニヤミンが父に代わって治めている。
24見よ、わたしはベニヤミン王の時代に、ニーファイ人とレーマン人の間で一度激しい戦争があり、またひどい流血があったのを見た。しかし見よ、ニー

15 ②エレ39・1—10、ヒラ8・21
17 ①①モサ1・2—6
19 ①①モサ25・13
②②オム1・12
20 ①「聖見者」モサ8・13—19、GS
21 ①①エテ12・1、GS「コリアンタマー」
22 ①①創世11・6—9、モサ28・17、エテ1・33
②②エテ1・1—5
③③モサ8・8
23 ①①モ言1・3

ファイ人がレーマン人よりも大いに優勢であったので、ベニヤミン王はゼラヘムラの地から彼らを追い出した。

25 さて、わたしはもう年を取った。そして、わたしは子供がなく、またベニヤミン王[1]が主の前に正しい人であることを知っているので、この版を彼に渡[2]す。わたしはすべての人に、イスラエルの聖者である神のもとに来て、預言と啓示、天使の働き、異言で語る賜物、言語を解釈する賜物、そのほかすべての善[3]いことを信じるように説き勧めよう。主から出るもののほかに、善いものは何一つないからである。悪いものは悪魔から出る。

26 ところで、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリスト[1]のもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物[2]としてささげ[3]、断食[4]と祈りを続け、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、主が生きておられるように確かに、あなたがたは救われるであろう。

27 ところでわたしは、ニーファイの地へ帰ろうとして荒れ野へ行ったある人々のことについて、少々述べたい。自分たちのかつての受け継ぎの地を手に入れたいと思った者たちが、大勢いたのである。

28 それで、彼らは荒れ野へ行った。ところが、彼らの指導者は屈強な力の強い男で、そのうえ強情な男であったので、彼らの中に争いを引き起こした。そして、五十人を除く全員が荒れ野の中で殺[1]され、これらの五十人の者たちは、再びゼラヘムラの地に引き返して来た。

29 そして彼らは、またほかの人々を大勢連れて、再び荒れ野へ旅立った。

30 わたしアマレカイには一人の兄弟がいたが、彼もこれらの人々と一緒に行った。その後の彼らの消息は分からない。わたしは今や、まさに墓に身を横たえようとしている。この版[1]はすでに書き尽くされている。わたしはこれで述べることを終わりにする。

---

25 ① モ言1・17−18、モサ29・13
② モ言1・10
③ アル5・40、エテ4・12、モロ7・15−17
26 ① ヤコ1・7、アル29・2、モロ10・32
② 3ニフ9・20
③ GS「犠牲」
④ GS「断食」
28 ① モサ9・1−4
30 ① 1ニフ6・1−6

モルモンの言葉

モルモン、ニーファイの大版を短くまとめ、小版をほかの版と一緒にする。ベニヤミン王、国内に平和を確立する。紀元約三百八十五年。

1 ところで、わたしモルモン[1]は、これまで自分が作ってきた記録を息子モロナイの手に渡そうとしている。わたしはすでにわたしの民であるニーファイ人がほとんどすべて滅びてしまうのを見た。

2 キリストの来臨後[1]数百年たった今、わたしはこれらの記録を息子の手に渡す。息子は、わたしの民の完全な滅亡を目撃するであろう。しかし、息子が彼らよりも長く生きて、彼らについて多少のことを、またキリストについても多少のことを書き記して、それがいつの日か彼らを[2]益するものとなるように神に祈る。

3 ところで、わたしはこれまで書き記してきたことについて少し述べよう。わたしはニーファイの版から[2]短くまとめたものを、アマレカイの述べたこのベニヤミン王の治世に至るまで作り終えた後、以前にわたしの手に渡されたいろいろな[3]記録を調べてみたところ、ヤコブからこのベニヤミン[4]王の治世に至るまでの預言者たちの短い話と、ニーファイのたくさんの言葉が載っているこの版が見つかった。

4 この版に書き記されていることの中に、キリストの来臨の預言があるので、わたし[1]は喜んでいる。わたしの先祖は、預言の多くが成就したのを知っていた。そして、わたしもまた今日まで、わたしたちについて預言されてきたことがすべて成就したこと、また将来についての預言もすべて必ず成就することを知っている。

5 それゆえ、わたしは[1]これらの事柄を選んで、それらに関連させてわたしの記録を終えよう。わたしの記録の残りの部分は、[2]ニーファイの版から抜いて書こう。わたしは、自分の民のことを百分の[3]一も書き記すことができない。

6 しかし見よ、わたしはこれらの預言と啓示の載っているこの版を取って、わたしの記録の残りの部分と一緒にしよう。これらの預言と啓示はわたしにと

モルモンの言葉
1 ① 3ニフ5・9–12、モル1・1–4、8・1、4–5、GS「モルモン（ニーファイ人の預言者）」
2 ① モル6・5–6
② 教義3・16–20
3 ① 教義10・38–40
② 教義10・44
③ モサ1・6、ヒラ3・13–15、モル4・23
4 ① オム1・23
1ニフ6・5
5 ① 第4節に述べられているモルモンを喜ばせた事柄のこと
② 1ニフ9・2
③ 3ニフ5・8–11、26・6–12

って貴いものであり、またわたしの同胞にも貴いものになることを知っているからである。

7 わたしは、ある賢明な[1]目的のためにこのようにする。わたしの内にある主の御霊の働きによって、わたしにそのようなささやきがあるからである。わたしはすべてのことを知っているわけではないが、主は将来起こることをすべて[2]御存じである。したがって主は、御自分の御心どおりに行うように、わたしに働きかけられるのである。

8 わたしが神にささげる[1]祈りは、わたしの同胞のことであって、彼らが再び神について、まことにキリストの贖いについて知るようになり、また再び[2]喜ばしい民となれるようにということである。

9 さて、わたしモルモンは、ニーファイの版から抜き書きして作るわたしの記録を書き上げる仕事を続けよう。わたしはこの記録を、神が授けてくださった知識と理解に応じて作る。

10 そこで、アマレカイがこの版をベニヤミン王の手に[1]渡したところ、ベニヤミン王はこれを受け取って、彼の代まで[2]歴代の王が譲り伝えてきた記録を含むほかの版[3]と一緒にした。

11 そしてこれらは、ベニヤミン王から代々譲り伝えられて、わたしの[1]手に入ったのである。わたしモルモンは、これらがこれから先も残されるように神に祈っている。またこれらが残されることをわたしは知っている。これらの版には重要な事柄が書き記されており、わたしの民とその同胞は、書き記されている神の言葉のとおりに、大いなる終わりの日にそのことによって[2]裁きを受けるからである。

12 ところで、このベニヤミン王のことであるが、彼の時代に民の中に多少の争いがあった。

13 そして、レーマン人の軍隊がニーファイの地から[1]下って来て、ベニヤミン王の民を攻めた。しかし見よ、ベニヤミン王は軍隊を召集して彼らに立ち向かった。彼は[2]ラバンの剣を持ち、自分自身の腕の力を振るって戦った。

14 そして、ベニヤミン王の軍隊は主の力を頂いて敵と戦い、ついにレーマン人を何千人も殺した。彼らはレーマン人と戦って、自分たちの受け継ぎの地の全域からレーマン人を追い払ったのである。

15 また、偽キリスト[1]が現れたが、彼らは口を閉ざされ、罪科に応じて罰せられた。

---

7 ① 1ニフ 9・5、19・3、教義 3・12—20、10・19—30、47
8 ① GS「全知」 ② 2ニフ 33・3—4、エノ 1・11—12
10 ① ② 2ニフ 30・6 ② オム 1・25、30 ③ ジェロ 1・14 ③ 1ニフ 9・4
11 ① ③ 3ニフ 5・8—12、モル 1・1—5 ② 2ニフ 25・18、29・11、33・11—15、3ニフ 27・23—27
13 ① オム 1・12 ② 1ニフ 4・9、2ニフ 5・14、ヤコ 1・10、モサ 1・16、教義 17・1
15 ① GS「反キリスト」

16 そして、民の中に偽預言者や偽説教者、偽教師も現れたが、彼らも皆、それぞれの罪科に応じて罰せられた。また、多くの争いが起こり、多くの者が離反してレーマン人のもとへ去って行ったが、その後、見よ、ベニヤミン王は、民の中にいる聖なる預[1]言者たちの助けを得た。

17 見よ、ベニヤミン王は[1]聖なる人であり、義をもって自分の民を治めた。また、国内には聖なる人が大勢おり、彼らは[2]力と権能をもって神の言葉を語った。しかも、民が強情であったために、彼らは非常に[3]厳しい言葉を用いた。

18 こうして、ベニヤミン王はこれらの人々の助けを得て、自分の体力の限りを尽くし、能力の限りを尽くして働くことによって、預言者たちの助けを受けながら、国内にもう一度平和を確立したのであった。

16① エノ1・22
17① アル13・26
② アル17・2−3
③ モロ9・4、教義121・41−43

モーサヤ書

第1章

ベニヤミン王、息子たちに彼らの先祖の言葉と預言を教える。いろいろな版に書き継がれた記録のおかげで、彼らの宗教と文明が残される。モーサヤ、王として選ばれ、また、記録とほかの品々を保管する責任が与えられる。紀元前約百三十年から百二十四年に至る。

1 さて、ゼラヘムラの1)全地では、ベニヤミン王に従ったすべての民の中に、もはや争いが起こらなかったので、ベニヤミン王は残る生涯を引き続き安らかに送った。

2 さて、彼には三人の息子があって、それぞれモーサヤ、ヒローラム、ヒラマンと名付けられた。彼は、先祖のすべての言葉によって1)彼らが2)教育を受けられるようにし、それによって彼らが思慮分別のある者となるように、また先祖の口を通して語られ、主の手によってもたらされた数々の預言について知ることができるようにした。

3 また彼は、真鍮の版に刻まれた記録についても彼らに教え、次のように言った。「息子たちよ、これらの記録とこれらの戒めが載っているこの1)版がなかったならば、わたしたちは今でも神の奥義を知らず2)に無知のままでいたに違いない。あなたがたは、このことを覚えておいてほしい。

4 この版の助けがなければ、先祖のリーハイは、これらの事柄をすべて思い出して子供たちに教えることなどできなかったであろう。彼はエジプト人の言葉を教えられていたので、これらの刻まれたものを読み、それを子供たちに教えることができた。そして、子供たちもまたその子供たちに教え、そのようにして現在に至るまで、神の命令が果たされてきたのである。

5 息子たちよ、わたしはあなたがたに言う。これらのものが神の御手によって書き継がれ、そして1)残されたのは、わたしたちがこれを2)読んで神の3)奥義を理解し、神の戒めを常に目の前に置いておけるようにするためであって、もしこれらのものがなかったな

モーサヤ書
第1章
1① オム1・13
2① モル9・32
② モサ4・14—15、教義2・25、28
3① GS「版」
② アル37・8—9
4① ジ歴史1・64
5① GS「聖文—保存されるべき聖文」
② 申命6・6—8
③ GS「神の奥義」

らば、わたしたちの先祖でさえも不信仰に陥っていたであろう。そしてわたしたちは、同胞のレーマン人のようになっていたに違いない。レーマン人はこれらのことについてまったく知らず、たとえ教えられても、彼らの先祖の正しくない言い伝えがあるために信じないのである。

6 おお、息子たちよ、わたしが望むのは、これらの言葉が真実であり、これらの記録も真実であることを覚えておいてほしいということである。そして見よ、エルサレムを出たときから今に至るまでの先祖の記録と言葉が載っているニーファイの版も真実である。これが今わたしの目の前にあるので、これが確かであることが分かる。

7 さて、息子たちよ、あなたがたはこれらの記録を努めて丁寧に調べることを忘れず、それによって益を得るようにしてほしい。また、神の戒めを守り、主がわたしたちの先祖に立てられた約束どおりに、この地で栄えることができるようにしてほしい。」

8 そしてベニヤミン王は、ほかにもこの書に書き記されていない多くのことを息子たちに教えた。

9 そして、息子たちに教え終えた後、ベニヤミン王は年老いて、自分ももうすぐに世のすべての人が行く道を行かなければならないことを知っていたので、王位を息子の一人に譲る方が望ましいと考えた。

10 そこで、王はモーサヤを自分の前に連れて来させた。王がモーサヤに語った言葉は次のとおりである。「息子よ、全地のすべての民に、すなわちこの地に住んでいるゼラヘムラの民とモーサヤの民に、皆集まるように布告を出してもらいたい。それは明日、わたしの口から、あなたが、主なるわたしたちの神が託してくださった、民を治める王であり統治者であることを、民に宣言するためである。

11 そしてさらに、わたしはこの民に一つの名を与え、主なる神がエルサレムの地から連れて来られたほかのすべての民と区別できるようにしよう。わたしがこうするのは、彼らが主の戒めを熱心に守る民であったからである。

12 そしてわたしは、彼らに名を与えるが、それは戒めに背かなければ決して消されることはない。

13 また、わたしはさらにあなたに言っておく。主の厚い恵みを受けているこの民が、戒めに背くように

5 (4) モサ10・11—17
6 (1) 1ニフ1・3、2ニフ33・10—11、モロ10・27
7 (1) GS「聖文」
(2) モサ2・22、アル50・20—22
(3) アル9・12—14
(4) 詩篇122・6、1ニフ2・20
10 (1) オム1・14
11 (1) モサ2・30
(2) モサ5・8—12
12 (1) GS「罪」
13 (1) ヘブ6・4—6

なり、邪悪で不義な民となるならば、主は彼らを引き渡される。その結果、彼らは同胞のように弱くなるであろう。そして主は、これまでわたしたちの先祖を残してこられたように、もはやそのたぐいない驚くべき力でこの民を残すことはなさらない。

14 わたしはあなたに言うが、もしも主が御腕を伸べてわたしたちの先祖を残してくださらなかったならば、先祖はレーマン人の手に落ちて、彼らの憎悪の犠牲になっていたに違いない。」

15 そして、ベニヤミン王は息子にこれらの言葉を語り終えると、王国の政務のすべてに関する責任を息子にゆだねた。

16 そしてさらに、彼は[1]真鍮の版に刻まれた記録と、ニーファイの版と、[2]ラバンの剣と、荒れ野の中で先祖を導いた球、[3]すなわち指示器についても息子に責任をゆだねた。この指示器は、先祖がそれぞれ主に向けた注意力と熱意に応じて導かれるように、主の手によって備えられたものである。

17 したがって、彼らが忠実でないときには、旅は順調に進まず、またはかどらず、かえって[1]押し戻されて、神の不興を招いた。そしてまた彼らは、自分たちの義務を思い出すように促す飢饉と、ひどい艱難に悩まされたのであった。

18 さて、モーサヤは父から命じられたとおりに行い、ゼラヘムラの地にいるすべての人に、皆連れ立ってモーサヤの父の語る言葉を聞くために神殿に集まるように布告を出した。

第2章

ベニヤミン王、民に語る。自分の治世が平等かつ公正で、霊的な意義の深いものであったことを述べる。天の王に仕えるように民に勧告する。神に背く者は消すことのできない火のような苦しみを受ける。紀元前約百二十四年。

1 さて、モーサヤが父から命じられたとおりに行い、全地に布告を出したところ、民は全地から集まり、ベニヤミン王の語る言葉を聞くために神殿にやって来た。

2 そして、集まった者の数はたいそう多く、数え切れないほどであった。民はすでに非常に増えて、この地で大きな数になっていたからである。

---

13 ②ヒラ 4・24—26
16 ①③教義 103・8—10
②モサ 1・3
17 ①③1ニフ 16・10、モ言 1・13、教義 17・1
②1ニフ 4・8—19、1ニフ 18・12—13

3 そして彼らはまた、自分たちの家畜の群れの初子[1]も連れて来た。それは、モーセ[2]の律法に従って犠牲[3]と燔祭[4]をささげるためであった。

4 また、主なる神に感謝をするためでもあった。この神は彼らをエルサレムの地から連れ出し、敵の手から救い出し、また正しい人々を教師[1]に任じ、また一人の正しい人を王に任じてくださった。そしてその王は、[2]ゼラヘムラの地に平和を確立し、神の戒めを守るように民に教えて、民が喜びを味わい、神とすべての人に対する[3]愛で満たされるようにしたのであった。

5 さて、彼らは神殿に来ると、その周りに天幕を張った。男たちは皆、自分の妻と息子、娘、孫から成る各々の家族[1]に応じて、最年長の者から最年少の者まで、すべての家族が互いに離れて場所を取った。

6 彼らは神殿の周りに[1]天幕を張ったが、天幕の中にいながらベニヤミン王の語る言葉を聞けるように、すべての者がその天幕の入り口を神殿の方へ向けていた。

7 集まった群衆が非常に大勢であったため、ベニヤミン王は神殿の中ですべての人を教えることができなかった。そこで彼は、自分の語る言葉を民が聞けるように、やぐらを建てさせた。

8 そして王は、そのやぐらから民に語り始めた。しかし、大勢の群衆であったため、王の言葉を聞けない者もいた。それで王は、自分の語る言葉を書き取らせ、それを声の届かない所にいる人々のもとに送って、彼らにもその言葉を知らせた。

9 このときにベニヤミン王が[1]語って書き取らせた言葉は、次のとおりである。「こうして連れ立って集まり、今日わたしが語る言葉を聞くことのできる同胞よ、わたしがあなたがたにここに来るように命じたのは、これからわたしが語る言葉を軽んじさせるためではない。わたしの言葉を聴かせるためである。だから、耳を開いて聞き、[3]胸を開いて理解し、また[5]心を開いて、神の[6]奥義があなたがたの心に明らかにされるようにしなさい。

10 わたしがあなたがたに、ここに来るように命じたのは、あなたがたにわたしを畏れさせるためでもなければ、わたしが死すべき人間以上の者であると思わせるためでもない。

第2章

3 ①創世4・4 ②2ニフ25・24、アル30・3、34・13−14 ③GS「犠牲」
4 ①1ニフ5・9 ③モサ18・18−22、GS「教える・教師」 ②GS「召し・神の召し」 ③オム1・12−15 ④ヨハ15・10 ⑤GS「愛」 ⑥GS「家族」
5 ①出エ33・8−10
9 ①モサ8・3 ②教義6・12 ③GS「聞き従う・聴く」 ④モサ12・27、3ニフ19・33 ⑤GS「思い・心」 ⑥GS「神の奥義」
10 ①GS「畏れ・恐れ」

11わたしはあなたがたと同じで、心身ともにあらゆる弱さを持っている。それでもわたしは、この民を治める統治者となり王となるように、この民に選ばれ、父によって任じられ、主の御手によって認められた。そして、主から授かった勢力と思いと力を尽くしてあなたがたのために努めるように、主のたぐいない力によって守られてきたのである。

12あなたがたに言うが、わたしは現在まで、生涯をあなたがたのための務めに費やすことを許されてきた。しかし、1)金も銀も、そのほかどんな富もあなたがたに求めたことはない。

13わたしはあなたがたを地下牢に閉じ込めることも、あなたがたが互いを奴隷にすることも、殺すことも、略奪することも、盗むことも、姦淫を犯すことも許したことはない。また、あなたがたがどのような悪を行うことも許したことはなく、主から命じられたすべてのことについて、主の戒めを守るようにあなたがたに教えてきた。

14そして、わたし自身でさえ、自分の手を使って働いてきた。それは、わたしがあなたがたのために務めることができるように、またあなたがたが税に苦しむことなく、それに、堪え難いことを何一つ身に受けなくてもよいようにするためであった。わたしがこれまで語ったこれらすべてのことについては、今日あなたがた自身がその証人である。

15しかし、わたしの同胞よ、わたしは自慢するためにこれらのことを行ってきたのでもなければ、あなたがたを責めるためにこれらのことを語っているのでもない。これらのことを語るのは、わたしが今日神の御前で澄んだ1)良心をもって申し開きができるということを、あなたがたに知らせるためである。

16見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしは自分の生涯をあなたがたのための務めに費やしてきたと言ったが、それは自慢したくて言ったのではない。わたしは神のために務めてきたにすぎないからである。

17そして見よ、わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに1)知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが2)同胞のために3)務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということを悟らせるためである。

18見よ、あなたがたは、わたしのことを王と呼んで

12① 使徒20・33—34
14① 1コリ9・18
15① GS「良心」
17① GS「知恵」
② GS「兄弟」
③ マタ25・40、新ヤコGS 1・27、教義42・29—31、「奉仕」

きた。あなたがたが王と呼んでいるわたしでさえも、あなたがたのために務めているとすれば、ましてあなたがたは、互いに務め合うようにすべきではないだろうか。

19 また見よ、あなたがたから王と呼ばれ、生涯をあなたがたのための務めに費やし、それによって神に仕えてきたわたしが、あなたがたから幾らかでも感謝を受ける値打ちがあるとすれば、おお、あなたがたはどれほど天の王に感謝すべきであろうか。

20 わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたを造り、あなたがたを守り、あなたがたに喜びを得させ、互いに平和に暮らせるようにしてくださった神に、たとえあなたがたが全身全霊の力を尽くして一切の感謝と賛美をささげたとしても、

21 さらに言うが、あなたがたがまた、たとえ世の初めからあなたがたを造り、あなたがたが自分の意のままに生きて動き、行動できるようにあなたがたに息を与えて日々守り、いかなる瞬間にもあなたがたを支えてくださっている御方に、たとえ全身全霊を尽くして仕えたとしても、それでもなお、あなたがたはふつつかな僕である。

22 見よ、神があなたがたに要求しておられるのは、神の戒めを守ることだけである。そして神は、戒めを守るならばこの地で栄えると約束してくださっている。神は一度言われたことは決して変更されないので、あなたがたが神の戒めを守れば、神はあなたがたを祝福し、栄えさせてくださる。

23 さて、まず第一に、神はあなたがたを造り、あなたがたに命を与えられた。そのために、あなたがたは神に恩を受けている。

24 そして第二に、神はあなたがたが神から命じられたとおりに行うことを要求しておられる。そして、あなたがたが命じられたとおりに行うならば、神はすぐに祝福を授けてくださる。また現にこれまで、あなたがたに報いてくださった。そのためにあなたがたは、今も神に恩を受けているし、これからもこしえにいつまでも恩を受けるであろう。だから、あなたがたに何か自慢できるものがあるだろうか。

25 さて、わたしは尋ねたい。あなたがたは自分自身のことを何か少しでも言えるだろうか。言えないと、わたしはあなたがたに答える。あなたがたは、大地のちりに等しい者であるとさえ言うことができ

---

18 (1) マタ 20・26—27
19 (1) GS「感謝」
20 (1) GS「神・神会」
(2) 1ニフ 18・16
21 (1) GS「選択の自由」
(2) ルカ 17・7—10
22 (1) GS「戒め（神の）」
(2) レビ 25・18—19、2ニフ 1・9
(3) 教義 3・1—2
(4) 教義 14・7、58・2
24 (1) GS「祝福」

ない。あなたがたは大地のちり[1]から造られたが、見
よ、そのちりは、あなたがたを造られた御方のもの
である。
26 そしてわたし、すなわちあなたがたが王と呼ぶわ
たしでさえも、あなたがたより優れてはいない。わ
たしもちりから造られた者だからである。そして、
あなたがたの見るとおり、わたしは年を取り、まさ
に死すべき体を母なる大地に返そうとしている。
27 それでわたしは、自分が澄んだ良心をもって神の
御前を歩み[1]ながら、あなたがたのために務めてきた
と言ったが、この度わたしがあなたがたを集めさせ
たのは、わたしがあなたがたに関して神から命じら
れてきたことについて、神に裁かれるために立つと
きに、わたしが罪なしと認められるように、また、
あなたがたの血[2]がわたしに降りかかることのないよ
うにするためである。
28 わたしはあなたがたに言う。わたしがあなたがた
を集めさせたのは、わたしがまさに墓に入ろうとし
ているこの時期に、わたしの衣からあなたがたの血
を取り[1]除いて安らかに行けるように、またわたしの
不滅の霊[2]が天の聖歌隊[3]に加わって、公正な神を賛美
して歌えるようにするためである。
29 さらにあなたがたに言う。あなたがたを集めたの
は、わたしがもはや、あなたがたの教師ではなく王
でもないことを告げ知らせるためである。
30 あなたがたに語っている今でさえ、わたしの全身
はひどく震えている。しかし、主なる神がわたしを
支えてくださっている。そして、主なる神はあなた
がたに語れるようにしてくださり、息子モーサヤが
あなたがたを治める王であり統治者であることを、
今日宣言するようにわたしに命じられた。
31 さて、わたしの同胞よ、今まで行ってきたことを
これからも行ってほしい。あなたがたはわたしが命
じたことと、わたしの父が命じたことを守って栄
え、敵の手に落ちないように守られてきたが、同じ
ように今後もわたしの息子の命じること、すなわち
息子があなたがたに告げる神の戒めを守るならば、
あなたがたはこの地で栄え、敵はあなたがたを支配
する権力をまったく持たないであろう。
32 しかし、おお、わたしの民よ、あなたがたの中
に争い[1]が起こらないように、また父のモーサヤが語
った悪霊に従おうとすることのないように気をつけ

25 ① 創世3・19、ヤコ2・21 ② GS「創造・創造する」
27 ① GS「歩む（神とともに）」
28 ① ヤコ1・19 ② ヤコ2・2 ③ GS「霊」
32 ① モル7・7 ② 3ニフ11・29—30

なさい。
33 見よ、あの霊に従おうとする者には、災いが宣言される。もしも悪霊に従うことを望んで、罪の中にとどまったまま死ぬならば、自分自身に罰の定めを招く。なぜならその人は、知っていながら神の律法に背き、その報いとして[2]永遠の罰を受けるからである。
34 わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中には幼い子供たちを除いて、これらのことについて教えられていない者はだれ一人おらず、あなたがたは自分の持ち物と能力をすべてささげるに値するほど、天の御父にとこしえに恩を受けていることを知っている。また、わたしたちの先祖リーハイがエルサレムを去るときまで、聖なる預言者たちが語ってきた数々の預言を載せている記録についても、あなたがたは教えられてきた。
35 また、これまで先祖が語ってきた事柄もすべて教えられている。そして見よ、彼らは、主から命じられたことを語ったので、それらは正しくて真実である。
36 さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがこれらのことをすべて知った後、また教えられた後、もしもそれに背いてすでに告げられていることに反した行いをし、主の御霊から身を引いて、祝福と繁栄と守りを得るための知恵の道に導く御霊を自分の内に宿さないようにするならば、
37 わたしはあなたがたに言うが、このようにする者は、公然と神に[1]背く者であって、悪霊に従うことを望み、あらゆる義の敵となる。したがって、主は[2]清くない宮には住まわれないので、このような者の内には決して宿られない。
38 そこで、その者がもしも[1]悔い改めず、神の敵である状態で死ぬならば、神の[2]正義の要求が、その者の不滅の霊に強烈な[3]罪の意識を起こさせる。そして、その罪の意識のために、その者は主の御前からしりごみし、またその胸は罪悪感と心痛と苦しみで満たされる。その罪悪感と心痛と苦しみは、炎がとこしえにいつまでも立ち上る、消すことのできない火のようである。
39 さて、わたしはあなたがたに言う。そのような者には[1]憐れみは及ばない。したがって、その者の最後

33① GS「罰の定め」
②教義19・6、10—12
37① モサ3・12、ヒラ8・24—25、GS「背く」
② アル7・21
38① GS「悔い改め」
② GS「正義」
③ GS「罪悪感」
39① アル34・8—9、15—16、GS「憐れみ」

の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである。

40 おお、わたしの言葉を理解できるすべての年老いた人々よ、若い人々よ、幼い子供たちよ。わたしはあなたがたが理解できるように、分かりやすく語ってきた。わたしはあなたがたが目を覚まして、神の律法に背いた者の受ける恐ろしい状態を1)思い起こすように祈っている。

41 そしてさらにあなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された1)幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて2)祝福を受ける。そして、もし最後まで3)忠実であり続けるならば、彼らは4)天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。おお、これらのことが真実であることを記憶にとどめ、覚えておきなさい。主なる神がこれを言われたからである。」

第3章

ベニヤミン王、説教を続ける。全能の主が将来、土の幕屋に宿って、人々の中で教え導かれる。主が世の罪を贖われるとき、あらゆる毛穴から血が流れ出る。主の名は救いをもたらす唯一の名である。人は贖罪によって、生まれながらの人を捨てて聖徒となることができる。悪人の受ける苦痛は、火と硫黄の池である。紀元前約百二十四年。

1 「また、わたしの同胞よ、わたしはもう少しあなたがたに話したいことがあるので、さらにあなたがたの注意を促したい。見よ、将来起こる出来事について述べることがある。

2 そして、これから述べることは、神から遣わされた1)天使がわたしに知らせてくれたものである。天使がわたしに、『目を覚ましなさい』と言ったので目を覚ましたところ、見よ、天使はわたしの前に立っていた。

3 そして、天使はわたしに言った。『目を覚まして、わたしが告げる言葉を聞きなさい。見よ、わたしはあなたに、1)胸躍る大いなる喜びのおとずれを告げ知らせよう。

4 主はあなたの祈りを聞き、あなたの義を裁かれた。そして、わたしを遣わしてあなたに告げ知らせ、

40① アル5・18
41① 4ニフ1・15−18、GS「喜び」
② GS「祝福」
③ 教義6・13
④ GS「天」
第3章
2① GS「天使」
3① ルカ2・10−11

あなたが喜びを得られるように、またあなたが民に告げ知らせて、あなたの民も喜びに満たされるようにされた。

5 見よ、現在世を統治しておられ、永遠から永遠にわたってまします全能[1]の主が、力をもって天から人の子らの中に降って来て、土の幕屋[2]に宿り、人々の中に出て行って大きな奇跡[3]を行われる時が来る。しかもそれは遠い先のことではない。この御方はそのときに、病人を癒し、死者を生き返らせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにし、すべての病気を癒される。

6 またこの御方は、[1]悪霊、すなわち人の子らの心の中にとどまる悪い霊どもを追い出される。

7 見よ、この御方は数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に[2]耐えようのないものである。見よ、御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる[3]苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が[4]流れ出るほどだからである。

8 そしてこの御方は、[1]イエス・キリスト、[2]神の御子、[3]天地の父、時の初めからの万物の創造主と呼ばれ、[4]母は[5]マリヤと呼ばれる。

9 見よ、この御方は、御自分の民のところに来られ、人の子らがその御名を信じる[1]信仰を持ちさえすれば、[2]救いが与えられるようにされる。ところが、このようなことがあるにもかかわらず、彼らはこの御方をただの人と思い、また[3]悪魔につかれていると言い、この御方を[4]鞭打ち、[5]十字架につける。

10 しかしこの御方は、[1]三日目に死者の中から[2]よみがえられる。そして見よ、この御方は世を[3]裁く立場に立たれる。また見よ、これらのことはすべて、人の子らに義にかなった裁きが下されるために行われるのである。

11 そして見よ、この御方の血は、[1]アダムの背きのために[2]堕落した者たちの中で、自分たちに関する神の御心を知らずに死んだ者たち、あるいは[3]気づかないで罪を犯した者たちの罪も贖う。

12 しかし、自分が神に[1]背いていることを承知している者は、災いである。災いである。悔い改めて、[2]主イエス・キリストを信じるのでなければ、このような者には決して救いは与えられないからである。

---

5 ①GS「エホバ」 ②モサ7・27、アル7・9−13 ③マタ4・23−24、使徒2・22、1ニフ11・31、GS「奇跡」
6 ①マコ1・32−34
7 ①マタ4・1−2 ②教義19・15−18 ③イザ53・4−5、ルカ22・44、GS「神・神会−子なる神」
8 ①アル7・10 ②ヒラ14・12、3ニフ9・15 ③マタ1・16、1ニフ11・14−21 ④GS「マリヤ（イエスの母）」
9 ①GS「信仰」 ②GS「救い」、ヨハ8・48、マコ15・15、ルカ18・33、1ニフ19・10、2ニフ10・3、GS「十字架の刑」 ③マタ16・21、2ニフ25・13、ヒラ14・20−27、GS「復活」 ④GS「裁き」、GS「血」、GS「堕落（アダムとエバの）」、2ニフ9・25−26 ⑤GS「贖罪」、モサ2・36−38、ヒラ8・25、GS「背く」
10 ①GS「主」

13 そして、主なる神はこれらのことをすべての部族、国民、国語の民に告げ知らせるために、聖なる預言者たちをすべての人の子らの中に遣わされた。またそのことによって、キリストが来られると信じるすべての者が、あたかもキリストが自分たちの中に[1]すでに来ておられるかのように自分たちの[2]罪の赦しを受け、また非常に大きな喜びを味わえるようにされた。

14 しかし、主なる神は御自分の民が強情な民であることを知って、彼らに律法、すなわち[1]モーセの律法を定められた。

15 そして主なる神は、御自分の来臨に関する多くの[1]しるしと不思議、予型と影を彼らに示された。聖なる預言者たちもまた、主の来臨について彼らに語った。それでも、彼らは心をかたくなにし、主の血の贖罪によらなければ[2]モーセの律法は決して役に立たないということを理解しなかった。

16 また幼い[1]子供たちは、たとえ罪を犯すことができるとしても、贖罪がなければ救いは得られない。しかし、あなたに言っておくが、幼い子供たちは[2]祝福されている。見よ、アダムによって、すなわち生まれながらの本性のために人は堕落することがあるが、それと同じように、キリストの血は人の罪を贖うからである。

17 さらにわたしはあなたに言う。全能の主であるキリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、[2]どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。

18 見よ、主は裁きをなさり、その裁きは公正である。そして、幼いときに死ぬ乳飲み子は滅びることがない。しかし、大人はへりくだって幼い子供のようになり、救いは過去も現在も未来も、全能の主であるキリストの[2]贖いの血によって、また贖いの血を通じてのみ与えられるということを信じないかぎり、自分自身に罰の定めを招く。

19 生まれながらの人は神の敵であり、アダムの[2]堕落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる[3]御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのこ

---

13 ①2ニフ25・24—27、ジェロ1・11
14 ①②GS「罪の赦し」 ①GS「モーセの律法」
15 ①GS「イエス・キリスト—キリストの予型と象徴」 ②モサ13・27—32
16 ①②GS「子供」 ②モロ8・8—9
17 ①GS「イエス・キリスト—御名を受ける」 ②使徒4・10—12、2ニフ31・21
18 ①③GS「救い」 ②マタ18・3
19 ①1コリ2・11—14、モサ16・2—3、GS「生まれながらの人」 ②GS「堕落（アダムとエバの）」 ③モロ10・4—5、GS「聖霊」 ④歴下30・8 ⑤GS「聖徒」 ⑥3ニフ9・22

とに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。

20そしてさらに、わたしはあなたに言う。救い主についての知識が、[1]あらゆる国民、[2]部族、国語の民、民族の間に広まる時が来る。

21そして見よ、その時が来ると、悔い改めて全能者である主なる神の御名を信じるのでなければ、幼い子供たちを除いて、神の御前に[1]罪がないと認められる者はだれもいないであろう。

22また、今でさえ、すなわちあなたが主なる神から命じられてきたことを民に教える現在でさえ、わたしがあなたに語っている言葉に従わなければ、彼らはもはや神の目から見て罪がないとは認められない。

23さて、わたしは主なる神が命じられた御言葉を語り終えた。

24そして、主はこのように言われる。「これらの言葉は裁きの日にこの民を責める明らかな証となる。これらの言葉によって、この民はそれぞれ皆、自分の行いが善いかそれとも悪いか、その行いに応じて裁かれる。

25そして、もし行いが悪ければ、彼らは自分の罪と忌まわしい行いの恐ろしい[1]思いに引き渡される。そして、その恐ろしい思いは彼らを主の前からしりぞみさせ、決して戻ることのできない、[2]惨めな無窮の苦痛の状態に彼らを陥れる。これらの者は、自分自身に罰の定めを招いたのである。

26それゆえ、これらの者は神の激しい怒りの杯から飲んだのである。正義は彼らに対する怒りの杯を取り消すことはできない。それは、[1]アダムが禁断の実[2]を食べたために堕落することになったのを取り消せないのと同様である。したがって、[3]憐れみはもはやとこしえに彼らに及ぶことはない。

27そして、彼らの受ける[1]苦痛は、消えることなく炎が上り、とこしえにいつまでも煙を吐く[2]火と硫黄の池のようである。」主はこのように言うことをわたしに命じられた。アーメン。』」

第 4 章

ベニヤミン王、説教を続ける。贖罪のゆえに救いが及ぶ。救われるように神を信じること。忠実であることによって罪の赦しを保つこと。貧しい者に持ち物を

---

20 ① 教義 3・16
21 ① ② GS「伝道活動」
25 ① 15 アル 5・18、12・14—
26 ① ② モル 8・38
モル 9・12
創世 3・1—12、2ニフ 2・15—19、アル 12・21
23 ① ③ GS
27 ① ② GS「憐れみ」
GS「罪悪感」
2ニフ 9・16、ヤコ 6・10、教義 76・36

分け与えること。賢明に秩序正しくすべてのことを行うこと。紀元前約百二十四年。

1 さて、ベニヤミン王が、主の天使から告げられた言葉を語り終えて、群衆を見渡したところ、見よ、彼らは地に伏していた。主への1)畏れが彼らに生じたからである。

2 そして彼らは、自分たちがこの世的な状態にあり、大地のちりよりも劣っていると2)思った。そして彼らは皆、声を合わせて大声で叫んだ。「お、憐れんでください。わたしたちが罪の赦しを受けて心が清められるように、キリストの3)贖いの血の効力を及ぼしてください。わたしたちは、天地と万物を4)創造され、また将来人の子らの中に降って来られる神の御子イエス・キリストを信じています。」

3 そして、彼らがこれらの言葉を語り終えると、主の御霊が彼らに降られた。そして彼らは、1)罪の赦しを受け、2)良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた。それは、彼らがベニヤミン王の語った言葉のとおりに、将来来られるイエス・キリストを深く3)信じたためである。

4 それからベニヤミン王は、再び口を開いて彼らに語り始めた。「わたしの友よ、わたしの同胞よ、わたしの親族よ、わたしの民よ、これからわたしが語る言葉を聞いて理解できるように、もう一度あなたがたの注意を促したい。

5 見よ、もしも今、あなたがたが1)神の慈しみを知ったことで、自分たちを無力な者、値打ちのない者、堕落した状態にある者と感じるようになっているならば、

6 あなたがたに言うが、もしあなたがたが、神の慈しみと神のたぐいない力、神の知恵、神の忍耐、人の子らへの神の寛容を知るようになり、また主に頼り、主の戒めを熱心に守って、自分の生涯、すなわち、死すべき体の生涯の最後まで信仰を持ち続ける人に救いが与えられるように、世の初めから贖罪が備えられてきたことをも知るようになったならば、

7 わたしは言うが、その人は、アダムの堕落以来この世に住んだ、あるいは現在住んでいる、あるいは世の終わりまでに住む全人類のために、世の初めから備えられた贖罪によって救いを受ける人である。

8 これが救いが与えられる方法である。これまで語

第4章
1 (1) GS「畏れ・恐れ」
(2) GS「現世的」
ヒラ12・7—8
(3) (2) モサ3・18、ヒラ5・9
(4) GS「創造・創造する」
3 (1) GS「罪の赦し」
(2) GS「良心」
(3) GS「信仰」
5 (1) モセ1・10
6 (1) GS「神・神会」
(2) 詩篇36・7、2ニフ22・2、ヒラ12・1、GS「信頼」
(3) モサ15・19
7 (1) (4) GS「贖罪」
GS「堕落（アダムとエバの）」

ってきたこのことのほかにどのような救いもなく、わたしがあなたがたに述べてきた条件のほかに人が救われる条件はない。[1)]

9 神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄[2)]すべては理解しないということを信じなさい。

10 さらにあなたがたは、罪を悔い改めてその罪を捨て、神の御前にへりくだらなければならないことを信じなさい。そして、神があなたがたを赦してくださるように真心から求めなさい。これらのことをすべて信じるならば、必ずそれを実行しなさい。[3)]

11 そして再び、すでに語ったように、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはすでに神の栄光を知るようになったので、すなわち、神の慈しみを知り、神の愛を味わい、[1)]心にこのような非常に大きな喜びを与えた罪の赦し[2)]を受けたので、今後も神の偉大さと自分自身の無力さ、[3)]それに取るに足りない人間であるあなたがたに対する神の慈しみ[4)]と寛容、これらを覚えて、いつも記憶にとどめておくようにしてほしい。また、心底謙遜[5)]にへりくだって、日々主の御名を呼び、[6)]天使の口を通して語られた将来の出来事を確固として信じ続けてほしい。

12 そして見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがこのようにするならば、いつも喜びを感じ、神の愛[1)]で満たされ、またいつも罪の赦しを保てるであろう。[2)]またあなたがたを造られた御方の栄光、すなわち、正しく真実な事柄をますます知るようになるであろう。

13 またあなたがたは、互いに傷つけ合う心を持たず、[1)]平和に暮らし、あらゆる人にその人が当然受けるべきものを与えたいと思うようになるであろう。

14 またあなたがたは、自分の子供[1)]たちが飢えていたり、着る物がなかったりするのをほうってはおかないであろう。あなたがたは子供たちが神の律法に背くのも、互いに戦うのも、争い合うのもほうってはおかないであろう。また、罪の頭である悪魔、すなわち、わたしたちの先祖が語ってきた悪霊であり、あらゆる義の敵である悪魔に仕えることも許さないであろう。

---

8 ① 使徒4・12、2ニフ31・21、モサ3・17、ロマ11・33−34、ヤコ4・8−13
9 ① ② イザ55・9
10 ① ② GS「悔い改め」
教義61・2
② ③ マタ7・24−27
③ ④ 2ニフ31・19−21
11 ① ① アル36・24−26
② ③ GS「罪の赦し」
モセ1・10
③ ④ 出エ34・6、モロ8・3
④ ⑤ GS「謙遜」
12 ① ⑥ GS「祈り」
② ⑦ GS「愛」
アル4・13−14、5・26−35、教義20・31−34
13 ① ① GS「平和をつくり出す人」
14 ① ① 1テモ5・8、教義83・4
② ② GS「争い」

15 むしろあなたがたは、彼らに真理の道をまじめ
に歩むように教えるであろう。互いに愛し合い、互
いに仕え合うように教えるであろう。
16 そしてまた、あなたがたは自分自身でも、助けを
必要としている人を助け、乏しい人に自分の持ち物
を与えるであろう。また、物乞いがあなたがたに請
い願うのに応じないで、追い払って死なせるような
ことをしないであろう。
17 あるいは、あなたがたは次のように言うかもしれ
ない。『その人は自分でその不幸を招いたのだから、
わたしは手を差し伸べない。彼が苦しまなくて済む
ように食物を与えることはしないし、持ち物を分け
ることもしない。彼が罰を受けるのは当然なのだか
ら。』
18 しかし、おお、人々よ、わたしはあなたがたに言
う。このようにする者はだれでも、大いに悔い改め
る必要がある。このような者は、自分の行ってきた
ことを悔い改めなければ、とこしえに滅びて、神の
王国にあずかることはない。
19 見よ、わたしたちは皆、物乞いではないだろうか。
わたしたちは皆、持っているすべてのものについ
て、すなわち食物も衣服も、金も銀も、そのほか持
っているあらゆる富について、同一の御方、すなわ
ち神に依存してはいないだろうか。
20 そして見よ、今でさえあなたがたは神の御名を呼
び、罪の赦しを請い願っている。神はあなたがたが
請い願うのに応じないで、聞き流してこられただろ
うか。いや、神はあなたがたに御霊を注ぎ、あなた
がたの心を喜びで満たし、あなたがたが語る言葉を
見いだせないで口をつぐむほどにされた。それほど
あなたがたの喜びが非常に大きかったのである。
21 さて、もしもあなたがたを造られた神、あなたが
たが自分の命についても自分の持ち物と能力のすべてについても頼っている神が、あなたがたが必ず
与えられると信じて、信仰をもって求める正当なも
のを、何でもすべて与えてくださるとすれば、まし
てあなたがたは、自分たちの持っているものを互い
に分かち合って当然ではないだろうか。
22 また、死を免れるために物乞いをする人を、あな
たがたが裁いて罪に定めるならば、自分の持ち物
を与えないことで罪に定められることの方が、もっ
と理にかなってはいないだろうか。あなたがたの持

15 ①GS「歩む（神とともに）」 ②教義68, 25—28、モセ6・58、GS「教える・教師」 ③モサ18・21
16 ①GS「慈愛」 ②「奉仕」申命15・7—11、箴言21・13、イザ10・1—2
17 ①箴言17・5
20 ①GS「喜び」
21 ①GS「福祉」
22 ①マタ7・1—2、ヨハ7・24 ②1ヨハ3・17

ち物はあなたがたのものではなく、神のものであり、命もまた神のものである。にもかかわらず、あなたがたは神にまったく物乞いをせず、自分の行ってきたことを悔い改めもしない。

23 わたしはあなたがたに言う。そのような者は災いである。その持ち物はその者とともに滅びるからである。わたしはこれらのことを、この世のものに富んでいる者たちに告げる。

24 さらに、わたしは、富めるほどではないが、日々の生活には足りるほどの物を持っているあなたがた貧しい人々、すなわち、自分にはないからということで、物乞いに与えることを断るあなたがたに言う。あなたがたは心の中で、『わたしにはないので与えないが、もしあれば与えるであろう』と言うようにしてほしい。

25 さて、心の中でこう言うかぎり依然として罪はない。そうでなければ罪に定められる。まだ得ていないものをむさぼるのであるから、罪の宣告を受けて当然である。

26 さて、あなたがたに語ってきたこれらのことのために、すなわち、神の御前を罪なく歩めるよう、日々罪の赦しを続けて受けるために、自分の持っている分に応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて霊的にも物質的にも助けを与えることである。

27 これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかしまた、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがって、何事も秩序正しく行うようにしなさい。

28 また、このことを覚えておいてほしい。あなたがたはだれであっても、隣人から物を借りたなら、その物を約束どおりに返すようにしなければならない。そうでなければ、自分が罪を犯すばかりでなく、恐らく隣人にも罪を犯させることになる。

29 最後に言うが、あなたがたが罪を犯すもとになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。

30 しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分

---

23 ① 教義 56・16
24 ① マコ 12・44
25 ① 教義 56・17
26 ① GS「歩む（神とともに）」
② ゼカ 7・10、アル 1・27、GS「施し」
③ ヤコ 2・17—19
④ イザ 58・10—11、教義 104・17—18
27 ① 教義 10・4

の[1]思い、[2]言葉、行いに[3]注意を払わず、神の戒めを守
らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後ま
で信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違い
ない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びては
ならない。」

第5章

聖徒たちは、信仰によってキリストの息子および娘
となる。その後、キリストの名によって呼ばれる。ベ
ニヤミン王、確固として揺らぐことなく善い行いをす
るように民に説き勧める。紀元前約百二十四年。

1 さて、ベニヤミン王はこのように民に語り終える
と、自分の語った言葉を民が信じているかどうか知
りたいと思い、使いを民の中に遣わした。
2 すると民は皆、声を合わせて叫んだ。「そのとお
り、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださ
った言葉をすべて信じています。また、全能の主の
御霊のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かで真
実であることを知っています。御霊は、わたしたち
が[1]悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず
善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、す
なわちわたしたちの心の中に大きな[2]変化を生じさせ
てくださいました。
3 そして、わたしたち自身もまた、神の限りない慈
しみと神の御霊の現れによって、将来起こることを
はっきりと示されており、ふさわしければすべての
物事について預言することができます。
4 また、この偉大な知識が与えられたのは、わたし
たちが、王が語ってくださったことを信じたからで
す。その結果、わたしたちはこのように、非常に大
きな喜びを得ています。
5 そしてわたしたちは、残りの全生涯、神の御心を
行い、神から命じられるすべてのことについて神の
戒めに従うという[1]聖約を交わします。そして、[2]天使
によって告げられたような、決して[3]終わることのな
い苦痛を自分自身に招くことのないように、また神
の激しい怒りの杯から飲まないようにします。」
6 さて、これはベニヤミン王が彼らから聞きたいと
望んでいた言葉であった。そこで、王は彼らに言っ
た。「あなたがたは、わたしの望んでいた言葉を語っ
てくれた。あなたがたが交わした聖約は義にかなっ

30 ① マコ7・18−23、GS「思い」
② マタ15・18−20、GS「不敬」
③ アル12・14、GS「見守る・見守る者」

第5章
2 ① アル19・33
② アル5・14、GS「再び生まれる」
5 ① モサ18・10
② モサ3・2
③ モサ3・25−27

た聖約である。
7さて、あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが霊的にあなたがたを子としてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。
8そしてあなたがたは、この称号の下で自由を得た。このほかにはあなたがたに自由を得させる称号はない。救いをもたらす名はほかに与えられていない。だから、キリストの御名を受けて、神と聖約を交わしたあなたがたは皆、生涯の最後まで従順であってほしい。
9そして、このとおりにする者はだれでも、自分がどのような名で呼ばれるか分かるので、神の右に見いだされるであろう。なぜならば、キリストの御名を受けない者はだれでも、何かほかの名で呼ばれる。それゆえ、神の左にいる自分に気づくであろう。
11そして、これこそが、戒めに背かなければ決して消されることのない名で、わたしがあなたがたに与えると言ったその名であることをあなたがたは覚えておいてほしい。だから、この名があなたがたの心から消えてなくならないように、あなたがたは戒めに背くことのないよう注意しなさい。
12わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの名をいつも心にしっかりと記しておくことを忘れないようにしてほしい。そうすればあなたがたは、神の左に見いだされることがなく、自分がどの声で呼ばれ、どの名で呼ばれるかが聞いて分かるであろう。
13なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。
14人はまた、隣人の持ち物であるろばを連れて来て、これを飼うだろうか。そのようなことはしないと、わたしはあなたがたに言おう。人は、そのろばが自分の群れの中で草をはむことさえ許さず、それを駆り立てて追い出すであろう。わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたがどの名で呼ばれるのか

7①モサ27・24−26、モセ6・64−68、GS「神の息子、娘」
②GS「生まれる・産む・もうける」
③④GS「心」
モサ15・10−11、GS「再び生まれる」
⑤教義11・30
8①ロマ6・18、ガラ5・1、ヒラ14・30
②使徒4・10、12、アル21・9
③モサ26・18
使徒11・26、アル46・15
④アル5・38−39
⑤マタ25・33
モサ1・11−12、GS「イエス・キリスト−御名を受ける」
⑥教義18・23−25
モサ26・24−27

知らなければ、同じようなことがあなたがたの中で起こるであろう。

15 したがって、あなたがたは確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるように、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるようにしてほしい。この永遠の救いと永遠の命は、天地の万物を創造された、あらゆるものに勝る神の知恵と力、公正、憐れみによって与えられるものである。アーメン。」

第6章

ベニヤミン王、民の名を記録し、彼らを教える祭司たちを任命する。モーサヤ、義にかなった王として統治する。紀元前約百二十四年から百二十一年に至る。

1 さて、ベニヤミン王は民に語り終えると、神の戒めを守るという聖約を神と交わしたすべての人の名を書き留めておく方がよいと思った。

2 そこで民は、幼い子供を除いて一人残らず聖約を交わし、キリストの名を受けた。

3 そして、さらにベニヤミン王は、これらのことをすべて終えると、息子モーサヤを聖別して民の統治者とし、王とし、王国に関する一切の責任を彼にゆだねた。また、民を教える祭司たちも任命した。人々が神の戒めを聞いて知ることができるように、またすでに立てた誓いを思い起こすように促すためである。その後、ベニヤミン王は群衆を解散させた。そこで民は、それぞれ家族ごとに各自の家へ帰って行った。

4 そして、モーサヤが父に代わって統治を始めた。モーサヤが統治を始めたのは三十歳の年であり、リーハイがエルサレムを去ってからおよそ四百七十六年後のことになる。

5 そしてベニヤミン王は、その後三年生き長らえて死んだ。

6 さて、モーサヤ王は主の道を歩み、主の掟と裁決を守り、主から命じられたすべてのことについて主の戒めを守った。

7 またモーサヤ王は、民に地を耕させた。そして、彼自身も地を耕して、民に負担をかけることのないようにし、すべてのことについて、父の行ったとお

---

15 ①GS「聖め」「召しと選び」 ②コロ1・16、モサ4・2、アル11・39

第6章

1 ①教義128・8 ②モサ1・10、2・30

3 ①アル4・7 ②GS「聖任」

4 ①③④モサ5・5−7 ②GS「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」

7 ①②1ニフ1・4 2コリ11・9

りに行おうとした。そして三年間、民の中にはまったく争いがなかった。

第7章

アンモン、リムハイが王となっているリーハイ・ニーファイの地を発見する。リムハイの民、レーマン人の奴隷の状態にある。リムハイ、自分の民の歴史を語る。預言者（アビナダイ）はキリストが万物の神であり父であることを証した。汚れをまく者は旋風を受け、主を信頼する者は救われる。紀元前約百二十一年。

1 さて、モーサヤ王は三年間引き続き平和を保った後、かつてリーハイ・ニーファイの地、すなわちリーハイ・ニーファイの町に住もうとして出て行った[1)]人々のことを知りたいと思った。それは、その人々がゼラヘムラの地を去って以来、何の音さたもなかったので、民がうるさく訴えて王を煩わしたからである。

2 そこでモーサヤ王は、十六人の屈強な男たちがリーハイ・ニーファイの地へ出かけて行って、同胞のことを調べるのを許した。

3 そしてその翌日、彼らはアンモンという男とともに出発した。このアンモンは屈強な力の強い男で、ゼラヘムラの子孫であって、一行の統率者でもあった。

4 さて、彼らは、リーハイ・ニーファイの地へ行くのに、荒れ野をどの方向へ旅をしてよいか分からなかったので、荒れ野の中をさまよった。実に、四十日間もさまよった。

5 そして、四十日間さまよった後に、彼らはシャイロム[1)]の地の北方にある丘にたどり着き、そこに天幕を張った。

6 そしてアンモンは、一行の中からアマレカイ、ヘレム、ヘムという名の三人の同僚を連れて、ニーファイの地へ向かった。

7 すると見よ、彼らは、ニーファイの地とシャイロムの地に住む人々の王に出会った。そして、王の衛兵に取り囲まれて捕らえられ、縛られて牢に入れられてしまった。

8 そして彼らは、牢に二日置かれてから再び王の前に連れて行かれ、縄を解かれた。そして彼らが王の前に立つと、王の問いに答えるのを許された。いや、

第7章
1 (1) オム1・27—30
(2) オム1・13
5 (1) モサ9・6、8、14
6 (1) 2ニフ5・8

答えるように命じられた。
9 王は彼らに言った。「見よ、わたしはリムハイ[1]といって、ノアの息子である。ノアはゼニフの息子であり、このゼニフは先祖の土地であったこの地を継ごうとしてゼラヘムラの地から出て来て、民の声によって王となった者である。
10 ところで、わたしが衛兵と町の門の外にいたとき、おまえたちはなぜあえて城壁に近づいて来たのか。
11 わたしはそのことを尋ねるために、おまえたちを生かしておいた。そうでなければ、衛兵に殺させていたであろう。それでは、おまえたちが話すのを許す。」
12 さて、アンモンは話すのを許されたことを知ると、王の前に進み出て身をかがめ、また再び身を起こすと、次のように言った。「王様、わたしは今日、自分がまだ生きていて、話すのを許されたことを、神の御前に深く感謝しています。わたしは思い切って話したいと思います。
13 王様は、もしわたしのことを知っておられたら、きっとわたしを縛ることはなさらなかったでしょう。わたしはアンモンといって、ゼラヘムラ[1]の子孫で、ゼニフがゼラヘムラの地から連れて出た同胞のことを調べるために、その地からやって来た者だからです。」
14 そこでリムハイは、アンモンの言葉を聞いて非常に喜んで言った。「ゼラヘムラの地にいた同胞が、今もなお生きていることが確かに分かった。うれしいことだ。明日、わたしの民にも喜んでもらおう。
15 見よ、我らは今、レーマン人の奴隷となって堪え難い税[1]をかけられている。しかしながら、見よ、同胞は我らを奴隷の状態から、すなわちレーマン人の手から救い出してくれるであろう。そうしたら、我らは同胞の奴隷になろう。レーマン人の王に貢ぎ物を納めるよりも、ニーファイ人の奴隷になる方がよい。」
16 そこでリムハイ王は衛兵たちに、もうアンモンも彼の同僚たちも縛ってはならないと命じた。そして、アンモンたちをシャイロムの北方にある丘に行かせ、同僚たちを町に連れて来させて、彼らが飲食し、旅の疲れをいやせるようにした。彼らは多くの苦しい目に遭い、飢えと渇きと疲労に苦しんできたからである。

9① モサ11・1
13① オム1・12−15
15① モサ19・15

17そして翌日、リムハイ王はすべての民の中に布告を出し、すべての者が連れ立って神殿[1]に集まり、王の語る言葉を聞くようにさせた。
18そして民が連れ立って集まると、リムハイ王は彼らにこのように言った。「おお、わたしの民よ、頭を上げて慰めを得なさい。見よ、我らがもはや敵に隷従しなくて済む時が近づいている。それは遠い先のことではない。これまでの多くの戦いは実を結ばなかったが、実りある戦いがまだ残されていることを、わたしは確信している。
19だから、頭を上げて喜び、[1]神に頼りなさい。アブラハム、イサク、ヤコブの神に頼りなさい。この神はイスラエルの子らをエジプトの地から導き出し[2]、乾いた地を歩いて紅海を渡らせ、また彼らが荒れ野で滅びることのないように、[3]マナで彼らを養われた。そのほか、もっと多くのことをイスラエルの子らのためになさった。
20さらに、この同じ神は、我らの先祖をエルサレムの地から導き出し、現在に至るまで御自分の民を守ってこられた。見よ、その神が我らを奴隷の状態に落とされたのは、我らの罪悪と忌まわしい行いのためである。
21今日、あなたがたは皆、わたしが次に述べることの証人である。かつてこの民を治める王とされたゼニフは、先祖の地を受け継ぎたいという[1]望みが強すぎたので、レーマン王の悪知恵と悪巧みにだまされてしまった。レーマン王はゼニフ王と条約を結び、国の領土の一部であるリーハイ・ニーファイの町とシャイロムの町、およびその周辺の土地をゼニフ王の手に渡した。
22レーマン王がこうしたのは、この民を従える、すなわち奴隷の状態に[1]置くというただ一つの目的があったからである。そして見よ、今我らは貢ぎ物として、とうもろこしの半分と大麦の半分とあらゆる穀物の半分、および大小の家畜の群れの増加分の半分をレーマン人の王に納めている。レーマン人の王は、実に我らの持つ、すなわち所有するすべてのものの半分を、我らから厳しく取り立てる。これを出さなければ、我らの命を求める。
23これは堪え難いことではないか。我らの受けているこの苦難は、甚だしいではないか。見よ、嘆き悲しんで当然ではないか。

17① 2ニフ5・16
19① 出エ3・6、1ニフ19・10
② 出エ12・40—41、アル36・28
③ 出エ16・15、35、民数11・7—8、ヨシ5・12
20① 1ニフ2・1—4
21① モサ9・1—3
22① モサ10・18

24 まことに、あなたがたに告げる。嘆き悲しんで当然な理由がたくさんある。何と多くの同胞が殺され、血が無駄に流されたことか。これはすべて罪悪の結果である。
25 もしこの民が戒めに背かなかったならば、主はこのように大きな災いが民のうえに及ぶのを許されなかったであろう。ところが見よ、民は主の御言葉に聞き従おうとしなかった。そして、民の中に争いが起こり、それが高じて彼らは血を流し合った。
26 また彼らは主の預言者、すなわち神の選ばれた人も殺した。まことに、その人は民に彼らの悪事と忌まわしい行いについて告げ、将来起こる多くのこと、まことにキリストの来臨さえ預言した。
27 その人は民に、キリストは万物の父なる[1]神であられると述べ、またキリストは後に人の形を取られること、そしてその[2]形は人が初めにそれに倣って造られた形であることを告げた。言い換えれば、人が[3]神の形に造られたこと、また神が人の子らの中に降って来て血肉を受け、地の面に出て行かれることを、その人は民に告げたのである。
28 さて、その人がそう言ったので、民は彼を殺してしまった。また彼らは、ほかにももっと多くのことを行い、神の怒りを自分たちに招いたのである。だから、この民が現在奴隷の状態にあること、またひどい苦難に打たれていることを不思議に思う者がだれかいるであろうか。
29 見よ、主は言われた。『わたしは、自分の民が戒めに背く日にはこれを[1]助けず、彼らが栄えないようにその道をふさごう。彼らの行いは、彼らの前に置かれたつまずきの石のようになる。』
30 さらに主は、『わたしの民は、もし[1]汚れをまくなら旋風の中でその殻を[2]取り入れることになる。そしてその結果は毒である』と言われる。
31 また、『わたしの民は、もし汚れをまくなら、速やかな滅亡をもたらす[1]東風を招くことになる』と言われる。
32 さて見よ、主の約束は果たされ、あなたがたは打たれて苦しんでいる。
33 しかし、もしあなたがたが十分に固い決意をもって主に[1]立ち返り、主に頼り、力の限り主に仕えるならば、もしあなたがたがこのようにするならば、主は御自分の意のままに、思いのままに、奴隷の状態か

---

26 ① モサ17・12—20
27 ① GS「神・神会」
② 創世1・26—28、エテ3・14—17、教義20・17—18
③ モサ13・33—34、15・1—4
29 ① サ上12・15、歴下24・20
30 ① GS「汚れ」
② ガラ6・7—8、教義6・33
31 ① GS「刈り入れ」
エレ18・17、モサ12・6
33 ① モル9・6

ら救い出してくださるであろう。」

第8章

アンモン、リムハイの民を教える。アンモン、ヤレド人の二十四枚の版のことを知る。聖見者は昔の記録を翻訳することができる。聖見者の賜物より大いなる賜物はない。紀元前約百二十一年。

1 さて、リムハイ王は民に多くのことを語ったが、わたしはその中からわずかな事柄だけをこの書に書き記した。王は民に語り終えると、ゼラヘムラの地にいる同胞についても、すべてのことを彼らに告げた。

2 そして彼はアンモンを群衆の前に立たせて、ゼニフがゼラヘムラを立ち去ったときからアンモン自身がゼラヘムラを出るときまでに同胞に起こったことを、すべて詳しく語らせた。

3 そこでアンモンはリムハイ王の民に、ベニヤミン王がゼラヘムラの民に教えた最後の言葉についても詳しく語り、またリムハイ王の民がベニヤミン王の語った言葉をすべて理解できるように、その言葉を解説した。

4 そして、アンモンがこれをすべて終えると、リムハイ王は群衆を解散させ、一人残らず各自の家に帰らせた。

5 そして王は、彼の民がゼラヘムラの地を出たときからの記録が載っている版をアンモンの前に持って来させ、彼がそれを読めるようにした。

6 さて、アンモンがその記録を読み終えるとすぐに、王は彼に外国の言葉を翻訳できるかどうか尋ねた。アンモンはできないことを王に告げた。

7 そこで王はアンモンに言った。「わたしは民の苦難を見て悲しく思い、民の中から四十三人の者を荒れ野へ旅立たせた。彼らがゼラヘムラの地を見つけ、我らを奴隷の状態から救い出してくれるように同胞に頼めると思ったからである。

8 ところが彼らは、幾日もの間荒れ野の中で迷ってしまった。それでも彼らは熱心に探したので、ゼラヘムラの地は見つからなかったものの、またこの地に戻って来た。その間、彼らは多くの水のある地方を旅し、人間と獣の骨が辺り一帯に散乱しており、またあらゆる建物の廃虚が一面に散在している地を

発見した。すなわち、イスラエルの大群ほどに数多くの人が住んでいた地を発見した。

9そして彼らは、自分たちの語ることが真実であるという証拠として、文字が一面に刻んである[1]二十四枚の版を持ち帰った。その版は純金でできている。

10また見よ、彼らは幾つかの大きな[1]胸当ても持ち帰ったが、それらは[2]真鍮と銅でできており、まったく傷んでいない。

11さらに彼らは、剣も何本か持ち帰ったが、その柄は朽ち、刃はさびで腐食していた。ところで、その言葉、すなわちその版に刻まれている事柄を解釈できる者はこの地に一人もいない。だからあなたに、翻訳できるかと尋ねたのである。

12わたしはもう一度言うが、あなたは翻訳のできる人をだれか知っているか。わたしはこの記録をわたしたちの言葉に翻訳してもらいたい。そうすればこの記録から、この記録を残して滅びた民の残りの者のことが恐らく分かるであろう。あるいは、滅びてしまったこの民そのものについて、分かるかもしれない。わたしは、彼らが滅びた訳を知りたい。」

13そこでアンモンは王に言った。「王様、わたしはその記録を[1]翻訳できる人を確かにお教えできます。その方は、あるものを持っていて、それを使って見れば、昔の記録でもすべて翻訳することができます。それは神から授けられた賜物です。それは[2]解訳器と呼ばれており、神から命じられないかぎり、だれもそれをのぞいて見ることはできません。求めてはならないものを求めて滅びることのないためです。また、それをのぞいて見るように命じられる人は、[3]聖見者と呼ばれます。

14まことに、ゼラヘムラの地にいる民の王が、これらのことを行うように命じられた方で、神からこの貴い賜物を授かっています。」

15すると王は、「聖見者は預言者よりも偉大である」と言った。

16そこでアンモンは言った。「聖見者は啓示者であり、預言者でもあります。だれ一人として持つことのできないこの神の力を備えていなければ、これより大いなる賜物をだれも持つことはできません。しかし、大きな力が神から授けられることもあります。

17聖見者は過去のことも将来のことも知ることができます。解訳器によってすべてのことが示される

9① エテ1・1—2
10① エテ15・15
10② エテ10・23
13① モサ28・10—17
13② GS「ウリムとトンミム」
13③ GS「聖見者」

のです。というよりむしろ、秘密のことが明らかにされ、隠れたことが明るみに出るのです。知られていないことが解訳器によって知られるようになり、またほかの方法では知ることのできないことが、解訳器によって知られるようになります。

18 このように、神は人が信仰によって偉大な奇跡を行うことができるように、一つの手段を与えてくださいました。それでその人は、同胞に大きな利益をもたらすようになるのです。」

19 さて、アンモンがこれらの言葉を語り終えると、王は非常に喜び、次のように言いながら神に感謝した。「これらの版には疑いもなく大いなる奥義が載[1]っている。そしてその解訳器は、このようなすべての奥義を人の子らに明らかにするために備えられたものである。

20 おお、主の業は何と驚くべき業であろう。主は何と長い間、民のために耐えてこられたことか。人の子らは何と理解力がなく鈍感なことか。人の子らは知恵を求めようとせず、また知恵に支配されるのを望まない。

21 まことに人の子らは、羊飼いから逃げて散り散りになり、森の獣に追われてえじきになる野生の羊の群れのようだ。」

ゼニフの記録――ゼラヘムラの地を出てからレーマン人の手より救い出されるまでのゼニフの民の話。
次の第九―二十二章がそれに相当する。

第９章

ゼニフ、リーハイ・ニーファイの地を所有するためにゼラヘムラから人々を率いて行く。レーマン人の王、彼らがその地を受け継ぐことを認める。レーマン人とゼニフの民の間に戦争が起こる。紀元前約二百年から百八十七年に至る。

1 わたしゼニフはニーファイ人の言葉のすべてを教えられており、また先祖の最初の受け継ぎの地であるニーファイの地のことも知っていたので、密偵としてレーマン人の中に遣わされた。それは、レーマン人の軍を偵察し、わたしたちの軍がこれを襲って滅ぼすためであった。しかし、わたしはレーマン人

19① エテ3・21−28、4・4−5
第9章
1① 2ニフ5・5−8、オム1・12

の中に善いものがあるのを見て、彼らが滅ぼされないように願った。
2そこでわたしは、荒れ野で同胞と論争をした。わたしたちの統率者にレーマン人と条約を結んでもらいたかったからである。ところが、この統率者は冷酷で、血を流すことを好む男であったから、わたしを殺すように命じた。しかしわたしは、多くの流血の末に救い出された。父親同士が戦い、兄弟同士が戦って、とうとうわたしたちの軍の大半が荒れ野で死んでしまった。そこでわたしたち、すなわち命の助かった者は、ゼラヘムラの地に帰り、死んだ者の妻や子供たちにその出来事を話した。
3それでもわたしは、先祖の地を受け継ぎたいという望みが強すぎたので、行ってその地を所有したいと思う人々を皆集め、その地へ出て行こうと再び荒れ野へ旅立った。しかしわたしたちは、主なるわたしたちの神を思い起こすのが遅かったので、飢饉やひどい苦難に悩まされた。
4にもかかわらず、わたしたちは多くの日を荒れ野でさまよった末、前に同胞の殺された場所に天幕を張った。そこは、わたしたちの先祖の地に近い所であった。
5そしてわたしは、一行のうち四人の男たちを伴って再び町へ行き、王のもとを訪れた。それは、王の意向を知り、またわたしの民を連れてその地へ入り、平穏にその地を所有できるかどうかを知るためであった。
6王のもとに行くと、王はわたしにリーハイ・ニーファイの地とシャイロムの地を所有してもよいと誓約してくれた。
7王はまた、その地に住んでいる民に立ち退くように命じてくれた。そこでわたしとわたしの民はこの地に入り、ここを所有することになった。
8そこで、わたしたちは数々の建物を建設し、町の城壁、すなわち、リーハイ・ニーファイの町とシャイロムの町の城壁の補修に着手した。
9また、わたしたちは地を耕し、あらゆる種、すなわち、とうもろこしや小麦、大麦の種、またニアスや、シウム、それにすべての種類の果物の種をまき始めた。こうしてわたしたちはこの地で増え、栄え始めた。
10レーマン王がこの地を譲って、わたしたちがここ

を所有できるようにしてくれたのは、わたしの民を奴隷[1)]にしようとする彼の悪知恵と悪巧みによるものであった。

11さて、わたしたちがこの地に住んで十二年たつと、レーマン王は、わたしの民が何らかの方法でこの地で強くなり、自分たちがわたしの民を打ち負かして奴隷にすることができなくなるのではないかと、心配になってきた。

12レーマン人は怠惰で偶像[1)]を礼拝する民であったから、わたしたちを奴隷にして、わたしたちの手の労働によって腹を満たし、まことに、わたしたちの牧場の家畜の群れを飽きるほど食べたいと思っていた。

13そこでレーマン王が、民を扇動してわたしの民と戦わせるようにしたので、この地に戦争と争いが起こり始めた。

14ニーファイの地でのわたしの治世の第十三年に、民がシャイロムの地のはるか南で家畜の群れに水を飲ませ、草をはませ、また地を耕していたとき、レーマン人の大軍が襲いかかって彼らを殺し始め、家畜の群れと畑のとうもろこしを奪い始めた。

15そして、レーマン人に追いつかれなかった者は皆、ニーファイの町へ逃げ込み、わたしに保護を求めてきた。

16そこでわたしは、弓と矢、剣、三日月刀、こん棒、石投げ、そのほか考えつくかぎりのあらゆる武器で彼らを武装させた。そして、わたしと民はレーマン人と戦うために出陣した。

17まことにわたしたちは、主の力を受けて、レーマン人と戦うために出陣した。わたしと民は、先祖が救われたことを思い出し、わたしたちを敵の手から解放してくださるように主に熱烈に叫び求めた。

18すると神は、わたしたちの嘆願を聞き、祈りにこたえてくださった。そして、まことにわたしたちは神の力を受けて出て行き、レーマン人と戦って一昼夜に三千四十三人を殺した。わたしたちはレーマン人を殺して、とうとうわたしたちの地から彼らを追い払ってしまった。

19そしてわたしも、自分の手でレーマン人の死体を葬るのを手伝った。しかし見よ、わたしたちにとって非常に悲しく、また痛ましいことであるが、わたしたちの同胞も二百七十九人殺された。

10①モサ7・21—22
12①エノ1・20、GS「偶像礼拝」
18①モサ29・20

第10章

レーマン王、死ぬ。レーマン人は野蛮であり、残忍で、偽りの言い伝えを信じている。ゼニフと彼の民、レーマン人に勝利を得る。紀元前約百八十七年から百六十年に至る。

1 さて、わたしたちは再び王国の確立に着手し、また再び平穏にその地を所有することになった。わたしはあらゆる武器を造らせ、レーマン人がまたやって来てわたしの民と戦いをするときに備えて、民が武器を持てるようにした。

2 また、わたしはこの地の周囲に見張りの兵を置き、レーマン人がまた不意に襲って来て、わたしたちを滅ぼすことのないようにした。こうしてわたしは、民と家畜の群れを守って、敵の手に落ちないようにした。

3 そして、わたしたちは長年、まことに二十二年の間先祖の地を受け継いだ。

4 わたしは、男たちには地を耕させて、あらゆる穀[1]物とあらゆる果物を栽培させた。

5 そして、女たちには糸を紡がせ、骨折って働かせ、わたしたちの裸にまとうあらゆる織り目の細かい亜麻布と、あらゆる織[1]物を織らせた。このようにして、わたしたちはこの地で栄え、二十二年間この地は引き続き平和であった。

6 さて、[1]レーマン王が死んで、代わって息子が統治を始めた。彼は、わたしの民に敵対して立ち上がるように、自分の民を扇動し始めた。そのため、彼らは戦争の準備を始め、攻めて来てわたしの民と戦おうとした。

7 しかしわたしは、[1]シェムロンの地の方々に密偵を出していた。そうすることによって、レーマン人の準備の状態を知って彼らに対する防備を固め、民が襲われて滅びることのないようにしたのである。

8 さて、彼らは大軍でシャイロムの地の北方に進軍して来た。その兵は、[1]弓と矢、剣、三日月刀、石、石投げで武[2]装しており、頭をそり、腰に皮帯を締めていた。

9 そこでわたしは、民の中の女子供を荒れ野に隠れさせた。そして、武器を持てる男たちを、年老いた者も若い者も皆、レーマン人と戦うために集合させ、それぞれの年齢に応じて整列させた。

第10章
4 (1) モサ9・9
5 (1) アル1・29
6 (1) モサ9・10−11、24・3
7 (1) モサ11・12
8 (1) アル3・4−5
(2) ジェロ1・8

10そしてわたしたちは、レーマン人と戦うために出て行った。わたしも年老いていたが、レーマン人と戦うために出て行った。わたしたちは戦うために主[1]の力を受けて出て行った。

11さて、レーマン人は主についても主の力についてもまったく知らなかったので、自分の力だけを頼みにしていた。しかし、人の力について言えば、彼らは強い民であった。

12彼らは野蛮[1]で残忍で、血に飢えた民であって、先祖の言い伝え[2]を信じていた。彼らが信じている言い伝えとは、彼らの先祖はそのまた先祖の罪悪のためにエルサレムの地から追い出されたこと、そして、荒れ野で同胞から不当な扱いを受け、また航海中にも不当に扱われたということである。

13そしてまた、海を渡った後も、彼らは最初[1]の受け継ぎの地で不当な扱いを受けたというのであった。しかし、これはすべて、ニーファイが兄たちよりも忠実に主の戒めを守ったためである。そのためニーファイは主の恵み[2]を受けた。主はニーファイの祈りを聞いて、祈りにこたえられた。そしてニーファイは、荒れ野で彼らの旅を導いたのである。

14ところが兄たちは、主の計らいを理解[1]しなかったので、ニーファイに対して腹を立てた。彼らは主に対して心をかたくなにしたので、海の上でも彼に対して腹[2]を立てた。

15そしてまた、彼らは約束の地に着いてからも、ニーファイが民を治める[1]権限を自分たちから奪ったと言って彼に対して腹を立て、彼を殺そうとした。

16そしてまた、ニーファイが主に命じられるままに荒れ野へ出て行き、しかも真鍮の版に刻まれた記録[1]を持って行ったので、彼らはニーファイがその記録を自分たちから盗んだ[2]と言って、彼に対して腹を立てた。

17このようにして、彼らは子供たちに、ニーファイの子孫を憎むように、また彼らを殺すように、彼らから盗み、略奪し、彼らを滅ぼすためにできるかぎりのことをするように教えた。そのためにレーマン人は、ニーファイの子孫に対して、尽きることのない憎しみを抱いている。

18まさにこのために、レーマン王は悪知恵と悪巧みを働かせ、もっともらしい約束をしてわたしをだまし、この民をこの地へ連れて来るようにさせて、彼

10①GS「信頼」
10②アル17・14
12①2ニフ5・1−3
12②1ニフ18・23
13①1ニフ17・35
13②1ニフ17・7−11
14①1ニフ18・10−11
14②2ニフ5・3
15①2ニフ5・12
15②2ニフ20・10、13
16①
16②

の民にわたしの民を滅ぼさせるようにしたのである。それでわたしたちは、長年の間この地で苦しんできた。

19さて、わたしゼニフは、レーマン人についてこれらのことをすべて民に語り終えると、主を信頼して、力を尽くして戦いに出るように民を励ました。それからわたしたちは、レーマン人と相対して戦った。

20そしてわたしたちは、レーマン人を再び自分たちの国から追い払った。わたしたちはレーマン人を大勢殺し、その人数は実に多かったので数えなかった。

21そして、わたしたちは再び自分の土地へ帰り、民はまた家畜の群れの世話をし、地を耕し始めた。

22さて、わたしは年老いて、王位を息子の一人に譲ったので、これ以上は述べない。主がわたしの民を祝福してくださるように。アーメン。

第11章

ノア王、邪悪な統治をし、妻やそばめたちとの放埒な生活にふける。アビナダイ、民が奴隷になることを預言する。ノア王、アビナダイの命をねらう。紀元前約百六十年から百五十年に至る。

1さて、ゼニフが王位を息子の一人ノアに譲ったので、ノアが父に代わって統治を始めた。しかし、彼は父の道を歩まなかった。

2見よ、ノア王は神の戒めを守らず、自分の心の望むままに歩んだ。彼は多くの妻とそばめ[1]を持ち、また民にも罪を犯させ[2]、主の目から見て忌まわしいことを行わせた。そして彼の民は、みだらなこととあらゆる悪事とを行った[3]。

3また彼は、民が所有するすべてのものに五分の一の税をかけた。すなわち、民の金と銀の五分の一を、そしてジフと銅と真鍮[1]と鉄の五分の一を、また民の肥えた若い家畜の五分の一を、それに穀物の五分の一を徴税した。

4そして彼は、この税をすべて、自分自身と妻たちとそばめたち、また祭司たちとその妻たちとそばめたちの生活を支えるために取り立てた。このようにして彼は、王国の政務を変えてしまった。

5彼はかつて父が任命した祭司たちをすべて辞めさ

第11章
2① ヤコ3・5
2② 列上14・15−16、モサ29・31
3① 2ニフ28・15
3② 「ヘブライ語に、「輝く」（形容詞）、「金属で覆う、あるいは、かぶせる」（動詞）という意の類語がある

せ、代わりに高慢な、心の高ぶっている新しい祭司たちを任命した。
6 このようにして、祭司たちは怠惰に暮らして、偶像を拝し、みだらな行いをしながら、ノア王が民に課した税で養われた。このように、民は罪悪を支えるために、非常な骨折りをしたのであった。
7 そして民はまた、王や祭司たちのむなしいへつらいの言葉にだまされ、彼らも偶像を礼拝するようになった。王や祭司たちが民にへつらい事を語ったからである。
8 そしてノア王は、風雅で広々とした建物をたくさん建て、それらの建物を見事な木細工と、金や銀、また鉄や真鍮やジフや銅などのあらゆる貴重な品から造った見事な細工で飾った。
9 彼はまた、自分のために大きな宮殿を建ててその中に王座を設けたが、それらはすべて上等な材木で作り、金や銀や貴重な品で飾った。
10 彼はまた職人たちに、上等な材木と銅と真鍮で、神殿内にあらゆる見事な細工をさせた。
11 そして彼は、ほかのすべての座よりも高い、大祭司たちのために設けられた座を純金で飾った。そして、大祭司たちがむなしい偽りの言葉を民に述べるときに、体と腕をもたせかけることができるように、台を作らせた。
12 そして彼は、神殿の近くに一つの塔[1]、つまり非常に高い塔を建てた。それはきわめて高く、その上に立てば、シャイロムの地と、レーマン人の所有しているシェムロンの地と、付近一帯の地を見渡すことができた。
13 そして彼は、シャイロムの地にも多くの建物を建てさせ、シャイロムの地の北方の丘の上にも一つの大きな塔を建てさせた。そこはかつてニーファイの子らが、この地から逃げ出したときに集合場所とした所であった。ノア王は民に課税して得た富でこのように行った。
14 さて、王は富に心を寄せ、妻たちやそばめたちとの放埒な生活に時を過ごした。また、王の祭司たちも娼婦たちと時を費やした。
15 そして彼は、国内の至る所にぶどう園を設け、ぶどうの搾り場を設けてぶどう酒をたくさん造った。そのために、彼も民も大酒飲みになってしまった。
16 そこで、少数でいるノア王の民を、畑にいるとき

12①
15①
モサ19・5−6
GS「知恵の言葉」

や家畜の群れの世話をしているときに、レーマン人が襲いかかって殺すようになった。
17そこでノア王は、レーマン人の来襲を防ぐために見張りの兵を国の周囲に送った。しかし、彼が十分な数の兵を送らなかったので、レーマン人は民を襲って殺し、この国から家畜の群れをたくさん連れ去った。このようにして、レーマン人は彼の民を滅ぼし始め、また彼らに憎しみをあらわにするようになった。
18そこでノア王は軍隊を送り、彼らを撃退した。すなわち、ノア王の軍は一時レーマン人を撃退した。そこで彼らは分捕り品を得たことを喜びながら帰って来た。
19さて、この大勝利のために、ノア王の民は高慢な心を募らせ、[1]おごり高ぶりながら、自分たちの五十人は数千人のレーマン人に立ち向かうことができると言って、血を見ることと同胞の血を流すことを喜んだ。これは、王や祭司たちの悪事がもたらしたものである。
20さて、ノア王の民の中に、[1]アビナダイという名の一人の男がいた。彼は人々の中に出て行って、預言して言った。「見よ、主は次のように言われ、次のようにわたしに命じられた。『出て行って、この民に主が次のように言われると告げなさい。この民は災いである。わたしはこの民の忌まわしい行いと、悪事と、みだらな行いを見たからである。悔い改めなければ、わたしは怒って彼らを罰しよう。
21彼らが悔い改めて主なる神に立ち返らなければ、見よ、わたしは彼らを敵の手に渡そう。彼らは[1]奴隷になり、敵の手によって苦しめられるであろう。
22そして彼らは、わたしが主なる神であり、わたしの民の罪悪を罰するねたむ[1]神であることを知るようになる。
23そしてこの民は、悔い改めて主なる神に立ち返らなければ、奴隷になるであろう。そのときには、主なる全能の神のほかに、だれも彼らを救うことができない。
24そして、彼らがわたしに叫び求めても、わたしはその叫びを聞き届けることを[1]遅くし、彼らが敵に打たれるままにしよう。
25彼らが粗布をまとい、灰をかぶって悔い改め、主なる神に熱烈に叫び求めなければ、わたしは彼らの

19① 教義3・4、GS「高慢」
20① GS「アビナダイ」
21① モサ12・2、20・21、
21 13・15、23・21−23
22① 出エ20・5、申命6・15、モサ13・13
24① ミカ3・4、モサ21・15

祈りを聞き[1)]届けず、彼らを苦難から救い出すこともしない。』主はこのように言われ、このようにわたしに命じられた。」

26 さて、アビナダイが人々にこれらの言葉を語り終えると、人々は彼に腹を立てて、彼の命を奪おうとした。しかし主は、アビナダイを彼らの手から救い出された。

27 ノア王はアビナダイが人々に語った言葉を伝え聞くと、彼もまた腹を立てて言った。「わたしとわたしの民を裁くアビナダイとは何者か。そのようにひどい苦難をわたしの民にもたらす主とは[1)]何者か。

28 わたしが殺すことのできるように、アビナダイをここに連れて来るよう、おまえたちに命じる。その男はわたしの民を扇動して互いに怒らせ、民の中に争いを生じさせようとして、これらのことを述べた。だからわたしはその男を殺そう。」

29 さて、人々は[1)]目をくらまされていたので、アビナダイの言葉に対して[2)]心をかたくなにした。それで彼らは、そのときからアビナダイを捕らえようとした。またノア王は、主の言葉に対して心をかたくなにし、自分の悪い行いを悔い改めなかった。

第12章

アビナダイ、民の滅亡とノア王の死を預言して投獄される。偽祭司たち、聖文を引用し、モーセの律法を守っていると主張する。アビナダイ、彼らに十戒を教え始める。紀元前約百四十八年。

1 さて、それから二年後、アビナダイは人に分からないように姿を変えてやって来て、人々の中で預言し始めた。「主はわたしに次のように命じられた。『アビナダイよ、行ってわたしのこの民に預言しなさい。彼らは、わたしの言葉に対して心をかたくなにしており、まだ自分たちの悪い行いを悔い改めていない。それゆえ、わたしは怒って彼らを[1)]罰する。まことに、彼らの罪悪と忌まわしい行いに対して、わたしは激しく怒って彼らを罰しよう。

2 まことに、この時代の人々は災いである。』主はまたわたしに言われた。『あなたの手を伸ばし、次のように預言しなさい。主はこのように言われる。この時代の者たちは罪悪のために奴隷にされ、[2)]頬を打たれ、人々に追われて殺される。また、空を飛ぶはげたかと、犬と、野獣がその肉を食う。

---

25 ① イザ1・15、59・2
27 ① 出エ5・2、モサ12・13
29 ① モセ4・4
② アル33・20、エテ11・13
第12章
1 ① イザ65・6
2 ① モサ11・21、20・21、21・13−15、23・21−23
② モサ21・3−4

3 そして、ノア王の命は、熱い炉の中の衣ほどの値打ちもなくなる。彼はわたしが主であることを知るであろう。

4 そして、わたしはこの民をひどい苦難で、また飢饉と疫病で打とう。彼らは終日泣きわめくであろう。

5 また、わたしは、彼らが重荷を背に負わされ、物を言えないろばのように追い立てられるようにしよう。

6 また、わたしは、彼らの中に雹を降らせ、彼らを打たせよう。彼らは東風にも悩まされるであろう。また、昆虫が彼らの地を襲い、穀物を食うであろう。

7 また、彼らはひどい疫病に悩まされるであろう。わたしは、彼らの罪悪と忌まわしい行いのゆえに、すべてこのように行おう。

8 そして、彼らが悔い改めなければ、わたしは彼らを地の面からことごとく滅ぼし去ってしまおう。しかし彼らは記録を後に残すであろう。わたしはその記録を将来、この地を所有するほかの国民のために残そう。わたしがこのように行うのは、この民の忌まわしい行いをほかの国民に明らかにするためである。』」アビナダイはこのほか、この民に災いとなる多くの事柄を預言した。

9 そこで人々は彼のことを怒り、彼を捕らえて縛り上げ、王の前に連れて行った。そして、王に言った。「御覧ください。あなたの民について災いを預言し、神がこの民を滅ぼすと語った男を御前に連れてまいりました。

10 この男はまた、あなたの命についても災いを預言し、あなたの命は火の燃える炉の中の衣のようになると言っています。

11 この男はまた、あなたが草の茎、それも獣に踏まれて足で踏みにじられる、野の枯れた茎のようになると言っています。

12 この男はまた、あなたのことを、満開のときに風が吹けば地面に吹き散らされてしまうあざみの花のようになると言っています。そしてこの男は、主がそのように語ったと主張しています。またこの男は、あなたが悔い改めなければ、このことはすべてあなたに起こる、あなたの罪悪のためにこのことが起こると言っています。

---

3 (1) モサ12・10
(2) モサ19・20
4 (1) 教義97・26
(2) モサ21・9—10
5 (1) モサ21・3
6 (1) エレ18・17、モサ7・31
(2) 出エ10・1—12
7 (1) 教義3・18
(2) アル45・9—14
8 (1) モル8・14—16
(2)

13 王様、あなたがどのような大きな悪事をなさり、またあなたの民がどのような重大な罪を犯したので、わたしたちは神から罪に定められ、またこの男から裁かれなければならないのでしょうか。
14 王様、わたしたちには罪はありません。王様、あなたもこれまで罪を犯してはこられませんでした。ですから、この男があなたについて語ったことは偽りであり、ありもしないことを預言したのです。
15 まことに、わたしたちは強いので、これから先、奴隷になることも、敵に捕らえられることもありません。そして、あなたはこの地で栄えてこられましたし、今後も栄えられることでありましょう。
16 御覧ください。ここにいるのがその男です。わたしたちはこの男をあなたの手にお渡ししますので、お好きなようになさってください。」
17 そこでノア王は、アビナダイを牢に投げ込ませた。そして、[1]祭司たちに集まるように命じ、アビナダイをどのようにするかについて、彼らと協議するための会合を開いた。
18 そこで祭司たちは王に、「その男をここへ連れて来て、わたしたちが尋問できるようにしてくださ
い」と言った。そこで王は命令を下して、アビナダイを祭司たちの前に連れて来させた。
19 そこで祭司たちは彼に尋問し始め、彼に矛盾したことを言わせて、彼を訴える口実を得ようとした。しかし、アビナダイは大胆に答え、まことに祭司たちが驚くほど、彼らのすべての問いを論破した。アビナダイはすべての問いについて彼らを[1]論破し、彼らのすべての言葉について彼らを言い負かした。
20 そこで、祭司の中の一人がアビナダイに言った。「記録に記されていて、わたしたちの先祖から教わってきた次の言葉はどういう意味か。
21 『[1]よきおとずれを伝え、平和を告げて広め、善のよきおとずれを伝え、救いを告げて広め、シオンに向かって「あなたの神が統治しておられる」と言う者の足は、山の上にあって何と麗しいことであろう。
22 あなたの見張り人は声を上げ、声を合わせて歌う。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれを目の当たりに見るからである。
23 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、ともに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖わ

17 ① モサ11・11
19 ① 教義100・5−6
21 ① イザ52・7−10、ナホ1・15

れたからである。
24 主はその聖なる[1]腕を、すべての国民の目の前に現
された。地の果てに至るすべての人は、わたしたち
の神の救いを見るであろう』とある。」
25 そこでアビナダイは彼らに答えた。「あなたがた
は[1]祭司であり、また自分たちはこの民を教えてお
り、預言の霊に通じていると主張していながら、こ
れらのことが何を意味するかをわたしから聞いて知
りたいと言うのか。
26 わたしはあなたがたに言う。主の道を曲げている
あなたがたは災いである。あなたがたはこれらのこ
とを理解しているかもしれないが、それを民に教え
てこなかったので、主の道を曲げてきたことになる。
27 あなたがたは心を注いで[1]理解しようとしてこなか
った。したがって、あなたがたは賢明ではなかった。
あなたがたはこの民に何を教えているのか。」
28 すると彼らは、「我々はモーセの律法を教えてい
る」と言った。
29 そこでアビナダイはまた彼らに言った。「もしあ
なたがたが[1]モーセの律法を教えているのならば、な
ぜそれを守らないのか。なぜあなたがたは富に執
着するのか。なぜみ[2]だらな行いをし、娼婦と過ごし
て精力を費やすのか。また、なぜこの民に罪を犯さ
せるのか。それゆえ主はこの民に対して預言を、ま
ことにこの民に対して大きな災いの預言を述べるた
めに、わたしを遣わされたのである。
30 あなたがたは、わたしが真実を語っているのを知
らないのか。いや、あなたがたは、わたしが真実を
語っているのを知っている。だからあなたがたは、
神の御前で震えおののかなければならない。
31 そしてあなたがたは将来、自分の罪悪のために打
たれるであろう。あなたがたはモーセの律法を教え
ていると言っているからである。モーセの律法につ
いてあなたがたが知っているのは何か。[1]モーセの律
法によって救いが与えられるのか。あなたがたは何
と答えるか。」
32 すると彼らは、モーセの律法によって救いが与え
られると答えた。
33 そこでアビナダイは彼らに言った。「あなたがた
が神の戒めを守れば救われることを、わたしは知っ
ている。まことに、主が[1]シナイの山でモーセに告げ

24 ① 1ニフ22・11
25 ① モサ11・5
27 ① GS「理解」
29 ① GS「モーセの律法」
② GS「姦淫」
31 ① モサ3・15、13・27—32、アル25・16
33 ① 出エ19・9、16—20、モサ13・5

られた戒めを守るならば、あなたがたは救われる。その戒めは次のとおりである。

34 『[1]わたしは主なるあなたの神であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から[2]連れ出した者である。

35 あなたは[1]わたしのほかに、何ものをも神としてはならない。

36 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるものの、どのような形をも造ってはならない。』」

37 そしてアビナダイは彼らに言った。「あなたがたはこれをすべて守ってきたか。いや、守ってこなかったとわたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの民に、これらのことをすべて守るように[1]教えてきたか。いや、教えてこなかったと、わたしはあなたがたに言う。」

第13章

アビナダイ、神の力によって守られる。十戒を教える。救いはモーセの律法だけでは与えられない。将来、神御自身が贖罪を行われ、御自身の民を贖われる。紀元前約百四十八年。

1 さて、王はこれらの言葉を聞くと、祭司たちに、「この男を連れ出して、殺してしまえ。我らはこの男と何のかかわりがあるか。この男は気が狂っている」と言った。

2 そこで祭司たちが前に出て、アビナダイを捕らえようとしたところ、アビナダイは彼らを防いで言った。

3 「わたしに触れるな。わたしに手をかければ、神があなたがたを打たれるであろう。わたしは、主がわたしを遣わして告げさせようとされたことをまだ伝え終えていない。また、あなたがたがわたしに説明するように[1]求めたことについても、まだ説明していない。したがって、神はわたしが今滅ぼされることを許されない。

4 わたしは神から受けた命令を果たさなければならない。わたしが真実を告げたので、あなたがたはわたしに対して怒っている。また、神の御言葉を告げたので、あなたがたはわたしを気が狂っていると言って裁いた。」

5 さて、アビナダイがこれらの言葉を語ったところ、ノア王の民はあえて彼に手をかけようとしなか

---

34 ①出エ20・2−4
②出エ12・51、1ニフ17・40、モサ7・19
35 ①ホセ13・4、GS「偶像礼拝」
37 ①モサ13・25−26
第13章
3 ①モサ12・20−24

った。主の御霊がアビナダイのうえにあったからである。そして、彼の顔は非常な輝きを放っていた。それはまるで、モーセがシナイの山で主と語ったときの顔の輝きのようであった。

6 そしてアビナダイは、神から受けた力と権能をもって語り、言葉を続けた。

7 「あなたがたは、わたしを殺す力があなたがたにないことを知っている。だからわたしは、自分の伝えたいことを言ってしまおう。わたしはあなたがたの罪悪について真実を告げるので、それがあなたがたの心を刺すことを承知している。

8 そして、わたしの言葉によってあなたがたは不思議な思いと驚きと、また怒りに満たされている。

9 しかし、わたしは自分の言うことを伝えてしまおう。その後、自分がどこへ行くことになろうとかまわないし、救われればそれでよいと思っている。

10 ただ、これだけはあなたがたに言っておく。これから後あなたがたがわたしに対してすることは、将来起こることの予型であり、影となる。

11 さて、あなたがたに神の戒めの残りの部分を読んで聞かせよう。これらの戒めが、まだあなたがたの心に書き記されていないことが分かるからである。あなたがたがこれまで人生の大半を、罪悪を習い、教えることに費やしてきたことを、わたしは知っているからである。

12 さて、あなたがたが覚えているように、わたしは前にこう言った。『あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。』

13 さらに、このようにある。『あなたはそれらにひれ伏してはならない。それらに仕えてはならない。主なるあなたの神であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎む者には、先祖の罪悪を子孫に報いて、三代、四代にまで及ぼし、

14 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、千代に及ぶまで憐れみを示すからである。

15 あなたは、主なるあなたの神の名をみだりに唱えてはならない。主は、その名をみだりに唱える者を、罪のない者とはしないからである。

16 安息日を覚えて、これを聖なる日として保ちなさい。

5 (1) 出エ 34・29—35
6 (1) GS「力」
7 (1) 1ニフ 16・2
10 (1) モサ 17・13—19、アル
11 (1) 25・10
11 (1) 出エ 20・1—17
16 (1) GS「安息日」

17 六日の間働いて、あなたのすべての仕事をしなさい。
18 しかし、七日目、すなわち主なるあなたの神の安息日には、あなたはどのような仕事もしてはならない。あなたもあなたの息子、娘、僕、はしため、家畜、それにあなたの門の内にいる来訪者もそうである。
19 主は[1]六日の間に、天地と海と、その中にある万物を造ったからである。それで、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。
20 あなたの父と母を敬いなさい。主なるあなたの神があなたに与える地で、末長く暮らせるためである。
21 あなたは[1]殺してはならない。
22 あなたは[1]姦淫してはならない。あなたは[2]盗んではならない。
23 あなたは隣人に対して[1]偽証してはならない。
24 あなたは隣人の家を[1]むさぼってはならない。隣人の妻も、僕も、はしためも、牛も、ろばも、何であっても隣人のものをむさぼってはならない。』」
25 さて、アビナダイはこれらの言葉を語り終えると、彼らに次のように言った。「あなたがたはこれらの戒めを守るために、これらのことをすべて努めて行うようこの民に教えてきたか。
26 いや、教えてこなかったと、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが教えていれば、主はわたしを遣わして、この民について災いを預言させるようなことはされなかったであろう。
27 さて、あなたがたは先ほど、救いはモーセの律法によって与えられると言った。わたしはあなたがたに言う。今はまだ[1]モーセの律法を守る必要がある。しかし将来、もはやモーセの律法を守る[2]必要のない時が来ることを、あなたがたに言っておく。
28 そしてさらに、わたしはあなたがたに言う。[1]救いは[2]律法だけで与えられるものではない。もしも神御自身が民の罪と不義のために行われる[3]贖罪がなければ、たとえモーセの律法があっても、彼らは滅びるほかはない。
29 さて、わたしはあなたがたに言う。イスラエルの子らに律法が、まことに非常に[1]厳しい律法が与えられたのは必要なことであった。彼らは強情な民で、罪悪を行うことは[2]早いが、主なる彼らの神を思い起

19 ①創世1・31
20 ①マコ7・10
21 ①マタ5・21−22、教義42・18、GS「殺人」
22 ①GS「姦淫」 ②GS「盗み」
23 ①箴言24・28、GS「偽り」
24 ①GS「貪欲・むさぼり」
27 ①GS「モーセの律法」 ②3ニフ9・19−20、15・4−5
28 ①ガラ2・16、GS「贖い・贖う」「救い」 ②ガラ2・21、モサ3・14−15、アル25・15−16
29 ①③GS「贖罪」 ②ヨシ1・7−8、アル46・8

こすことの遅い民であったからである。
30 そこで、彼らに[1]律法が、まことに、勤めと[2]儀式の
律法が与えられた。その律法は、神と、神に対する
義務を思い起こさせるために、日々厳密に[3]守らなけ
ればならないものであった。
31 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。これら
のものはすべて、将来起こることの[1]予型であった。
32 さて、彼らは律法を理解しただろうか。いや、す
べての者が理解したわけではないとわたしはあなた
がたに言う。それは、彼らの心がかたくなであった
からである。[1]神の贖いによらなければだれも救われ
ないことを、彼らは理解しなかった。
33 見よ、モーセはメシヤの来臨について、また神が
御自分の民を贖われることについて、彼らに預言し
なかったであろうか。また、世界が始まって以来、
預言を述べてきたす[1]べての預言者たちも、これらの
ことについて多少にかかわりなく述べてこなかった
であろうか。
34 [1]神御自身が人の子らの中に降って来て、人の形を
取り、偉大な力をもって地の面に出て行かれること
を、彼らは述べてこなかったであろうか。
35 また、神が死者の[1]復活をもたらされることと、神
御自身が虐げられ、苦しめられることも、彼らは述
べてこなかったであろうか。」

第14章

イザヤ、メシヤについて述べる。メシヤが受けられる屈辱と苦難が宣言される。メシヤは御自分を罪のためのささげ物とし、背く者のために執り成しをされる。イザヤ書第五十三章と比較せよ。紀元前約百四十八年。

1 「まことにイザヤは次のように述べているではな
いか。『だれがわたしたちの告げたことを信じたか。
主の腕はだれに現されたか。
2 彼は主の前に、か弱い苗木のように、また乾いた
土から出る根のように育つ。彼には見目の良さもな
く、華麗さもない。わたしたちが彼を見るときに、
彼を慕うような美しさも彼にはない。
3 人々から侮られて捨てられている彼は悲しみの人
で、悲哀を知っている。そこでわたしたちは、彼か
ら顔を背けるかのように振る舞った。彼は侮られ、

30 ① 出エ20章 ② GS「儀式」 ③ ヤコ4・5
31 ① モサ16・14、アル25・15、GS「象徴」
32 ① 2ニフ25・23−25
33 ① 1ニフ10・5、ヤコ4・4、7・11
34 ① モサ7・27、15・1−3、GS「神・神会」
35 ① イザ26・19、2ニフ2・8

わたしたちは彼を尊ばなかった。
4 まことに彼はわたしたちの悲哀を負い、わたした
ちの悲しみを担った。ところがわたしたちは彼のこ
とを、打たれ、神に罰せられ、苦しめられているの
だと受け止めた。
5 しかし彼は、わたしたちの背きのために刺し貫か
れ、わたしたちの罪悪のために傷つけられた。わた
したちの平安のために、懲らしめが彼に及んだ。彼
の鞭の打ち傷によって、わたしたちは癒されている。
6 わたしたちは皆、羊のように迷って、各々自分の
道に向かって行った。主はわたしたちすべての者の
罪悪を彼に負わせられた。
7 彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかっ
た。彼は小羊のようにほふり場に引かれて行く。毛
を刈る者の前の物を言わない羊のように、彼は口を
開かなかった。
8 彼は獄から連れ去られ、裁きから取り去られた
が、だれが彼の子孫であると名乗るだろうか。なぜ
なら、彼は生きている者の地から絶たれたからであ
る。また、わたしの民の背きのために、彼は打たれ
たからである。
9 また彼は、悪人とともにその墓を設け、死んで
は富裕な者とともにあった。なぜなら、彼は決し
て悪を行わず、その口には少しの欺きもなかったか
らである。
10 それでも、彼を傷つけることは主の御心にかなっ
ていた。主は彼に苦痛を受けさせられた。あなたが
彼を罪のささげ物とするとき、彼は自分の子孫を見
てその命を延ばし、主の御心は彼の手によって栄え
る。
11 彼は自分自身の苦しみを知り、それに満足する。
彼の知識により、わたしの義にかなった僕は多くの
者を義とするが、それは、彼が彼らの罪悪を身に負
うからである。
12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者とともに物を
分かち取らせ、得たものを強い者に分け与えよう。
彼が自分の魂を死に至るまで注いだからである。彼
は背く者たちとともに数えられ、多くの者の罪を負
い、背く者たちのために執り成しをした。』」

第15章

キリストが御父であり、御子である理由。キリスト

第14章
4 ① マタ8・17
② アル7・11−12
5 ① モサ15・9、アル11・40
② 1ペテ2・24−25
6 ① マタ9・36、2ニフ28・14、アル5・37
7 ① マコ15・3−5、GS「イエス・キリスト」
② GS「神の小羊」「過越」
9 ① マタ27・57−60、マコ15・27、43−46、GS「ヨセフ（アリマタヤの）」
② ヨハ19・4
10 ① モサ15・10−13
11 ① レビ16・21−22、1ペテ3・18、教義19・16−19
12 ① 2ニフ2・9、モサ15・8、モロ7・27−28

は執り成しをし、御自分の民の背きを身に負われる。キリストの民とすべての聖なる預言者たちは、キリストの子孫である。キリストは復活をもたらされる。幼い子供たちは永遠の命を得る。紀元前約百四十八年。

1 さて、アビナダイは彼らに言った。「わたしはあなたがたに、1)神御自身が人の子らの中に降って来て、御自分の民を2)贖われるということを理解してほしいと思う。

2 この神は肉体に1)宿られるので、神の御子と呼ばれる。またその肉体を2)御父の御心に従わせられるので、御父にして御子なのである。

3 1)御父とは、神の力によって胎内に2)宿られるからであり、御子とは、肉体を持たれるからである。このようにして、御父にもなり、御子にもなられるのである。

4 そして御二方は1)一つの神、まことに、天地のまことの2)永遠の3)父であられる。

5 このように、肉体が御霊に従い、あるいは御子が御父に一つの神として従われた後、御子は1)誘惑を受けてもその誘惑に負けず、かえって御自分の民からあざけられ、鞭打たれ、追い出され、3)拒まれるままになさる。

6 そして、このようなことの後、また人の子らの中で多くの大きな奇跡が行われた後、この御方は、1)イザヤが、『毛を刈る者の前の物を言わない羊のように、彼は口を2)開かなかった』と言ったように連れて行かれる。

7 まことにこの御方は連れて行かれて、1)十字架につけられ、殺され、その肉体は死に従うが、御子の御心は御父の御心にのみ込まれてしまう。

8 こうして、神は死の1)縄目を断って、2)死に対して勝利を得、人の子らのために3)執り成しをする力を御子に授けられる。

9 また天に昇り、憐れみの心を持ち、人の子らを哀れむ思いに満たされており、人の子らと正義の間に立ち、死の縄目を断ち、人の子らの罪悪と背きを身に負い、彼らを贖い、正義の要求を満たされる。

10 さて、わたしはあなたがたに言うが、だれが御子の子孫であると名乗るであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。御子は罪のためのささげ物にされると、御自分の1)子孫を御覧になる。では、あなた

第15章

1 ①1) 1テモ3・16、モサ13・33—34、GS「イエス・キリスト」
2 ①② GS「贖い・贖う」
モサ3・5、7・27、アル7・9—13
② イザ64・8、ヨハ10・30、14・8—10、モサ5・7、アル11・38—39、エテ3・14
3 ①1) 教義93・4
② ルカ1・31—33、モサ3・8—9、アル7・10、ニフ1・14
4 ①1) 申命6・4、ヨハ17・20—23、GS「神・神会」
② アル11・39
③ モサ3・8、ヒラ14・12、3ニフ9・15、エテ4・7
5 ①1) ルカ4・2、ヘブ4・14—15
②2) ヨハ19・1
③3) マコ8・31、ルカ17・25
6 ①1) イザ53・7
② ルカ23・9、ヨハ19・9、モサ14・7
7 ①1) GS「十字架の刑」
② ルカ22・42、ヨハ6・38、3ニフ11・11
8 ①1) モサ16・7、アル22・14
② ホセ13・14、1コリ15・55—57
9 ①3) 2ニフ2・9
イザ53章、モサ14・5—12
② GS「贖罪」
イザ53・10、モサ5・10、7、27・25、モロ7・19

がたは何と答えるか。御子の子孫とはだれか。
11 見よ、わたしはあなたがたに言う。預言者[1]たち、まことに、主の来臨について預言してきたすべての聖なる預言者の言葉を聞いた人々、預言者たちの言葉を聴き、主が御自分の民を贖われることを信じ、自分たちの罪の赦しのためにその日を待ち望んできたすべての人、わたしはあなたがたに言うが、これらの人々が御子の子孫なのである。すなわち、彼らは神[2]の王国を受け継ぐ者である。
12 これらの人々は、[1]御子が罪を負ってくださる人々だからである。御子はこれらの人々を背きから贖おうとして、彼らのために死なれた。だから彼らは、御子の子孫ではないだろうか。
13 また、口を開いて預言し、戒めに背くことのなかったすべての預言者、すなわち世界が始まって以来のすべての聖なる預言者も、御子の子孫ではないだろうか。彼らは御子の子孫であると、わたしはあなたがたに言う。
14 そして彼らは、平和を告げて広め、善のよきおとずれを伝えた人々であり、救いを告げて広め、シオンに向かって、『あなたの神が統治しておられる』と言った人々である。
15 おお、彼らの足は山の上にあって何と麗しかったことであろう。
16 そしてまた、今なお平和を告げて広めている者たちの足も、山の上にあって何と麗しいことであろう。
17 そしてまた、これから後とこしえに平和を告げて広める者たちの足も、山の上にあって何と麗しいことであろう。
18 見よ、わたしはあなたがたに言うが、これだけではない。おお、よきおとずれを伝えられる御方、[1]平和の創始者、すなわち御自分の民を贖われた主、御自分の民に救いを授けられた御方、まことに、この御方の[2]足は、山の上にあって何と麗しいことであろう。
19 もし、御自分の民のために主が行われる、世の[1]初めから備えられた贖いがなければ、わたしはあなたがたに言うが、これがなければ、全人類は[2]滅びるほかはなかった。
20 しかし見よ、死の縄目は断たれ、御子が統治し、死者を治める力を持たれる。そこで、御子は死者の復活をもたらされる。

---

11 ①教義84・36−38 ②GS「神の王国・天の王国」「救い」
12 ①モサ14・12、アル7・13、11・40−41
14 ①イザ52・7、ロマ10・15、1ニフ13・37、モサ12・21−24、GS「伝道活動」
18 ①ヨハ16・33、GS「平安・平和」 ②3ニフ20・40、教義128・19
19 ①モサ4・6 ②2ニフ9・6−13

21 こうして、復活が起こる。これは第一[1]の復活、すなわち、過去の人々と、現在の人々と、キリストの復活までの将来の人々の復活である。御子はキリストと呼ばれる。

22 さて、すべての預言者と、預言者たちの言葉を信じた人々、すなわち神の戒めを守ったすべての人の復活は、最初の復活の時にある。したがって、その復活は第一の復活である。

23 彼らはよみがえって、彼らを贖ってくださった[1]神とともに住む。このようにして彼らは、[2]死の縄目を断ってくださったキリストによって、永遠の命を得るのである。

24 彼らは、第一の復活にあずかる人々である。また、これらの人々こそ、[1]救いのことを告げ知らされなかったために無知のままで、キリストが来られる前に死んだ人々である。主はこれらの人々に回復をもたらされる。そして彼らは、主に贖われて第一の復活にあずかり、永遠の命を得る。

25 また、幼い[1]子供たちも永遠の命を得る。

26 しかし見よ、あなたがたは神の御前で[1]畏れ、震えおののきなさい。あなたがたは震えおののいて当然である。主は、御自分に[2]背いて罪の中で[3]死ぬ者、すなわち、世界が始まって以来、故意に神に背き、神の戒めを知っていながらそれらを守ろうとせず、罪の中に滅びてしまったすべての者については、決して贖いをなさらないからである。[4]これらの者は、第一の復活に[5]決してあずかれない者たちである。

27 だから、あなたがたは震えおののいて当然ではないか。救いはこのような者には決して与えられない。主はこのような者を贖われないからである。まったく、主はこのような者を贖うことがおできにならない。主は御自分の御言葉をお取り消しになれないからである。主は正義がその権利を主張するときに、[1]正義を拒むことがおできにならないからである。

28 さて、あなたがたに言っておく。将来、主の救いがあらゆる国民、部族、国語の民、民族に告げ知らされる時が来るであろう。

29 まことに主よ、あなたの[1]見張り人は声を上げ、声を合わせて歌うことでしょう。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれを目の当たりに見るからです。

---

21 (1) アル 40・16−21
23 (1) 詩篇 24・3−4、1ニフ 15・33−36、教義 76・50
24 (1) (2) GS「死（肉体の）」2ニフ 9・25−26、教義 137・7
25 (1) 教義 29・46、137・10、GS「救い−幼い子供たちの救い」
26 (1) 申命 5・29、ヤコ 6・9
27 (1) (2) 1ニフ 2・21−24
(3) エゼ 18・26、1ニフ 15・32−33、モロ 10・26
(4) アル 40・19
(5) 教義 76・81−86
28 (1) 1 GS「伝道活動」
29 (1) GS「見守る・見守る者」

30 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、ともに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖われたからである。
31 主はその聖なる御腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、わたしたちの神の救いを見るであろう。」

第16章

神は人々を、迷い堕落した状態から贖われる。肉欲にふける者は、あたかも贖いがないかのような状態にとどまる。キリストは復活をもたらし、人は無窮の命か、無窮の罰の定めを受ける。紀元前約百四十八年。

1 さて、アビナダイはこれらの言葉を語り終えると、手を伸ばして言った。「将来、すべての人が主の[1]救いを見る時が来る。あらゆる国民、部族、国語の民、民族が目と目を合わせて見て、神の裁きが公正であることを神の御前で[2]認める時が来る。
2 そのとき、悪人は[1]追い出されるであろう。そして、彼らは[2]泣きわめき、涙を流し、嘆き悲しみ、歯ぎしりをするに違いない。それは、彼らが主の声に聞き従おうとしなかったからである。そのために、主は彼らを贖われない。
3 彼らは[1]肉欲にふけり、[2]悪魔に従うので、悪魔が彼らを支配する力を持つ。この悪魔はわたしたちの始祖をだ[3]ました、年を経たあの蛇である。その年を経た蛇が始祖をだましたために始祖は[4]堕落し、そのためにすべての人は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従い、[5]善と悪を知りながら悪魔に従うようになった。
4 このようにして、全人類は[1]迷った状態になった。そして見よ、もし神が御自分の民を迷い堕落した状態から贖われなければ、彼らは限りなく迷った状態になっていたであろう。
5 自分自身の[1]肉の性質の中にとどまり、罪の道と神に背く道を進む者は、その堕落した状態にとどまって、悪魔がその者を支配するすべての力を持つということを忘れるな。だから、その者は神の敵であって、あたかも[2]贖いがなかったかのようである。悪魔もまた神の敵なのである。
6 さて、将来起こることをす[1]でに起こったことのように話すと、もしもキリストがこの世に来られなかったならば、贖いは決してあり得なかった。

第16章
1 ① GS「救い」
② モサ27・31
2 ① 教義63・53−54
② マタ13・41−42、ルカ13・28、アル40・13
3 ① ガラ5・16−25、モサ3・19、GS「生まれながらの人」
② 2ニフ9・8−9、GS「悪魔」
③ 創世3・1−13、モセ4・5−19
④ GS「堕落（アダムとエバの）」
⑤ 2ニフ2・17−18、22−26
4 ① アル42・6−14
5 ① アル41・11、GS「現世的」
② GS「贖い・贖う」
6 ① モサ3・13

7 また、墓が勝利を得ないように、そして死が[1]とげを持たないように、もしキリストが死者の中からよみがえられなかったならば、すなわち死の縄目を断たれなかったならば、復活はあり得なかった。
8 しかしながら、[1]復活は実際にあるので、墓は勝利を得ず、死の[2]とげはキリストにのみ込まれてしまう。
9 キリストは世の光であり[1]命であられる。まことに、決して暗くなることのない無窮の光であり、また決して死ぬことのない無窮の命であられる。
10 この死すべき体は[1]不死をまとい、この朽ちるものは朽ちないものをまとって、神の法廷に[2]立つように連れ出され、自分の行いが善いか悪いか、その行いに応じて神に裁かれる。
11 すなわち、行いが善ければ[1]無窮の命と幸福の復活にあずかる。また、行いが悪ければ[2]無窮の罰の定めの復活にあずかることになるが、それは、彼らを服従させてきた悪魔に引き渡されるということである。
12 彼らは、自分の肉の思いと欲望のままに振る舞い、主の[1]憐れみの御腕が伸べられている間にも決して主に請い願わず、主の憐れみの御腕が彼らに伸べられても、彼らは頼ろうとせず、罪悪について戒められても、それから離れようとせず、悔い改めるように命じられても、悔い改めようとしなかった。
13 そこであなたがたは、震えおののいて罪を悔い改め、キリストによって、またキリストを通じてのみ救われるということを覚えておくべきではないか。
14 それゆえ、あなたがたが[1]モーセの律法を教えるのであれば、それは将来起こるこれらのことの影であるということも教えなさい。
15 贖いはまことの永遠の[1]父である主なるキリストを通じて与えられるということを、民に教えなさい。アーメン。」

第17章

アルマ、アビナダイの言葉を信じて書き留める。アビナダイ、火で焼かれて死ぬ。アビナダイ、自分を殺す者たちが病気になり、また火で焼かれて死ぬことを預言する。紀元前約百四十八年。

---

7 ①ホセ13・14、モサ15・8、20
8 ①アル42・15、GS「復活」
②イザ25・8、1コリ15・54—55
9 ①教義88・5—13、GS「光・キリストの光」
10 ①アル40・2、GS「不死不滅」
②GS「最後の裁き」
③アル41・3—6
11 ①GS「永遠の命」
②GS「罰の定め」
12 ①GS「憐れみ」
14 ①GS「モーセの律法」
15 ①モサ3・8、5・7、エテ3・14

1 さて、アビナダイがこれらの言葉を語り終えると、王は祭司[1]たちに、彼を捕らえて殺させるように命じた。
2 ところが、祭司たちの中にアルマという名の[1]者がいて、彼もまたニーファイの子孫であった。彼は年の若い男で、アビナダイが語った言葉を[2]信じた。アビナダイが彼らに向かって証言した罪悪のことを、彼は知っていたからである。そこで、彼は王に、アビナダイを怒らずに、彼が安らかに去るのを許すように懇願し始めた。
3 しかし、王はますます腹を立てて、彼らの中からアルマを追い出させ、そのうえ、召し使いたちに彼の後を追わせて殺させようとした。
4 しかし、アルマは彼らの前から逃げ出し、彼らに見つからないように身を隠した。彼は幾日も隠れたままで、その間にアビナダイが語った言葉をすべて[1]書き記した。
5 さて、王は衛兵にアビナダイを取り囲んで捕らえさせた。そこで衛兵は彼を縛り、牢に投げ込んだ。
6 それから三日後、王は祭司たちと相談した末、アビナダイをもう一度自分の前に連れて来させた。
7 そして王は彼に言った。「アビナダイよ、おまえの罪状は確定している。おまえは死に値する。
8 神[1]自らが人の子らの中に降って来ると言ったからだ。だから、わたしとわたしの民について災いを述べた言葉をすべて取り消さないかぎり、おまえはこの理由で殺されることになる。」
9 すると、アビナダイは王に言った。「わたしは王に申し上げます。わたしがこの民についてあなたに申し上げた言葉は真実ですから、わたしは取り消しません。わたしはその言葉が確かであることをあなたに知っていただくために、自らあなたの手に落ちることにしたのです。
10 そして、わたしは死に至るまでも苦しみに耐え、自分の言葉を取り消すことはせず、その言葉はあなたを責める証となるでしょう。わたしを殺すならば、あなたは[1]罪のない者の血を流すことになり、これもまた、終わりの日にあなたを責める証となるでしょう。」
11 そこでノア王は、彼の言葉を恐れ、彼を釈放しようとした。神の裁きが自分に下ることを恐れたからである。

第17章
1 (1) モサ11・1、5−6
2 (1) モサ23・6、9−10、GS「アルマ（父）」
4 (1) (2) GS「聖文」、モサ26・15
8 (1) モサ13・25、33−34
10 (1) アル60・13

12ところが祭司たちは、彼に対して声を上げ、彼のことを訴えて、「この男は王をののしった」と言った。そのため王は、彼に対する怒りをかき立てられ、彼を殺すために引き渡した。
13そこで祭司たちはアビナダイを捕らえて縛り上げ、薪を燃やしてその肌を焼き苦しめ、火あぶりにして殺した。
14さて、炎が体を焼き始めると、彼は祭司たちに叫んで言った。
15「見よ、まことにあなたがたがわたしに行ったように、あなたがたの子孫も多くの人に、わたしが今受けている苦しみ、火あぶりの死[1]の苦しみを与えるであろう。その人々が、主なる彼らの神の救いを信じているという理由でそうするのである。
16そしてあなたがたは、自分の罪悪のために、あらゆる病気で苦しむであろう。
17またあなたがたは、至る所で打たれ、野生の羊の群れが猛獣に追われるように、追われてあちらこちらに散らされるであろう。
18その日にあなたがたは狩り出され、敵の手に捕らえられ、その後、わたしが今受けているように、火あぶりの死[1]の苦しみを受けるであろう。
19このようにして、神は御自分の民を滅ぼす者に報復をされる。おお、神よ、わたしの霊をお受けください。」
20アビナダイはこれらの言葉を述べ終えると、倒れて焼け死んだ。まことに、彼は神の命令を拒もうとしなかったために殺され、自分の言葉が真実であることを死によって確かなものとしたのである。

第18章

1アルマ、ひそかに教えを説く。バプテスマの聖約を宣言し、モルモンの泉でバプテスマを施す。キリストの教会を設立し、祭司たちを聖任する。祭司たち、自活し、民を教える。アルマと彼の民、ノア王から逃れ、荒れ野に旅立つ。紀元前約百四十七年から百四十五年に至る。

1さて、ノア王の召し使いたちから逃れたアルマは、自分の罪と不義を悔い改め[1]、人々の中をひそかに巡って、アビナダイの言葉を教え始めた。
2まことに、将来起こる事柄について、また死者の

15① モサ13・9−10、アル25・4−12
17① モサ21・1−5、13
18① モサ19・18−20
19① GS「報復」

第18章
1① モサ23・9−10

復活について、そしてキリストの1)力や受難、死、復活、昇天によってもたらされる人々の2)贖いについて、教え始めた。

3そしてアルマは、自分の言葉を聞こうとする人々すべてに教えた。彼は王に知られることのないように、ひそかに教えた。そして、多くの人がアルマの言葉を信じた。

4そして、アルマの語ったことを信じた人々は皆、モルモンと呼ばれた1)地へ行った。そこは王がその名を付けた所で、境の地にあり、時節によっては野獣が群れを成していた所である。

5さて、モルモンには水の清らかな泉があり、アルマはそこへ行った。そこには、泉の近くに小さな木の茂みがあり、彼は日中そこに身を隠して王の捜索から逃れた。

6そして、アルマの語ったことを信じた人々は皆、彼の言葉を聞くためにそこへ行った。

7さて、多くの日の後、アルマの言葉を聞くためにモルモンの地に集まった人々は、相当な数に上った。まことに、彼の言葉を信じた人々は皆、彼の語ることを聞くために集まった。そこで彼は、これらの人々を1)教え、悔い改めと贖いと主を信じる信仰とを説いた。

8そして、アルマは言った。「見よ、ここにモルモンの泉がある。（この泉はこのように呼ばれていた。）あなたがたは神の羊の群れに1)入って、神の民と呼ばれたいと2)願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを3)望み、

9また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、1)第一の復活にあずかる人々とともに数えられて2)永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても、死に至るまでも神の3)証人になることを望んでいる。

10まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るという1)聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあろうか。」

11人々はこの言葉を聞くと手をたたいて喜び、「それこそわたしたちが心から望んでいることです」と

2①GS「贖罪」
②GS「贖い・贖う」
4①アル5・3
②アル5・11—13
7①GS「イエス・キリストの教会」
②教義20・37
8①GS「哀れみ」
②GS「永遠の命」
③GS「証する」「証人・証」
9①モサ15・21—26
②GS「伝道活動」
10①GS「聖約（契約）」
②2ニフ31・17、GS「バプテスマ」

叫んだ。

12さて、アルマは、最初この地にやって来た人々の一人であるヘラムを連れて水の中に立ち、祈り願って言った。「おお、主よ、あなたの僕が聖い心でこの務めを果たせるように、僕にあなたの御霊を注いでください。」

13そして彼がこの言葉を語ったとき、主の[1]御霊が彼のうえにあった。そこで彼は言った。「ヘラム、わたしは全能の神から[2]権能を授かっているので、あなたの肉体が死ぬまで全能の神に仕えるという聖約を交わした証拠として、あなたに[3]バプテスマを施す。主の御霊があなたに注がれるように。また全能の神が、[4]世の初めから備えてくださっているキリストの[5]贖いによって、あなたに永遠の命を授けられるように。」

14アルマがこれらの言葉を語り終えると、アルマとヘラムはともに水の中に[1]沈んだ。それから二人は立ち上がると、御霊に満たされて、喜びながら水から出て来た。

15さらに、アルマはまた別の一人を連れて、もう一度水の中に入って行くと、最初のときと同じようにバプテスマを施したが、今度は自分自身は水の中に沈まなかった。

16このようにして、彼はモルモンの地にやって来たすべての人にバプテスマを施した。その数は二百四人ほどであった。そして、これらの人々はモルモンの泉で[1]バプテスマを受けると、神の[2]恵みに満たされた。

17そしてそれ以後、彼らは神の教会、すなわち[1]キリストの教会と呼ばれた。また、神の力と権能によってバプテスマを受けた人々はだれでも、神の教会に加えられた。

18そしてアルマは、神から[1]権能を授かっていたので、祭司たちを聖任した。すなわち、彼は五十人ごとに一人の祭司を聖任して、彼らに教えを説き、また神の王国にかかわる事柄について[2]教えられるようにした。

19またアルマは祭司たちに、自分が教えたことと、聖なる預言者たちの口を通して述べられたことのほかは、何も教えないように指示した。

20まことに、彼は祭司たちに、悔い改めと、御自分の民を贖われた主を信じる信仰のほかは、何も説か[1]

---

13 ①GS「聖霊」 ②箇条1・5、GS「神権」 ③3ニフ11・23−26、教義20・72−74 ④モセ4・2、5・9 ⑤GS「贖い・贖う」
14 ①GS「バプテスマ−全身を水に沈める」 16 ①モサ25・18 ②GS「恵み」 17 ①3ニフ26・21、27・3−8、GS「イエス・キリストの教会」 18 ①GS「神権」 ②GS「教える・教師」 20 ①教義15・6、18・14−16

ないように指示したのである。
21また彼は祭司たちに、決して互いに争うことなく、互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマをもって、一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。
22彼はこのように祭司たちに、教えを説くように指示した。このようにして、人々は神の子となった。
23また、アルマは彼らに、安息日を守って聖なる日として保つこと、また毎日主なる自分たちの神に感謝することを指示した。
24また、聖任を受けた祭司たちは自分自身の手を使って生活の糧を得るようにすべきであると、アルマは指示した。
25さらに、彼らが人々を教え、また主なる自分たちの神を礼拝するために集まる日を週に一日定めること、またほかにもできるかぎりしばしば集まることとした。
26そして、祭司たちは生活の糧を人々に頼るべきでなく、自分の労働に対して神の恵みを受けるべきであるとされた。それは、彼らが御霊を受けて強くなり、神の知識を得られるようにするため、また神からの力と権能をもって教えることができるようにするためである。
27アルマはまた、教会の人々が各々自分の持っている分に応じて持ち物を分け与えるように、つまり、ほかの人よりも豊かに持っていれば、ほかの人よりも多く分け与えるべきであり、少ししか持っていない人には少ししか求めず、持っていない人には分け与えるべきであると指示した。
28このように、人々は自分の自由意志と神にかかわる善い望みから、自分の持ち物を、それを必要としている祭司たちと、乏しくて着る物のないすべての人に分け与えなければならなかった。
29アルマは神から命じられたので、このように彼らに告げた。そして彼らは、各々の必要と入り用に応じて物質的にも霊的にも互いに助け合い、神の前をまっすぐに歩んだ。
30さて、これはすべてモルモンにおいて、まことにモルモンの泉のそば、つまりモルモンの泉に近い森の中で行われたことである。モルモンの地も、モルモンの泉も、モルモンの森も、自分たちの贖い主を知るようになった人々の目には何と麗しいことか。

21①GS「争い」
②GS「一致」
③マタ 6・22、教義 88・67−68
22①モサ 5・5−7、モセ 6・64−68
23①モサ 13・16−19、教義 59・9−12
24①使徒 20・33−35、モサ 27・3−5、アル 1・26
25①GS「礼拝」
26①GS「恵み」
②GS「知識」
27①使徒 2・44−45、4 ニフ 1・3
29①GS「福祉」
②GS「歩む（神とともに）」
30①モサ 26・15
1)3 ニフ 11・28−30、

また、これらの人々は何と祝福されていることか。だから、彼らはとこしえに贖い主を賛美して歌うであろう。

31 これらのことは、ノア王に知られることのないように、国の境で行われた。

32 しかし見よ、王は民の中に動きがあるのを知り、召し使いたちを遣わして民を見張らせた。そのため、人々が神の言葉を聞こうとして集まった日に、彼らのことが王に知られてしまった。

33 そこで王は、アルマが民を扇動して自分に対する謀反を起こしていると言って、アルマと彼に従う人々を滅ぼすために、軍隊を派遣した。

34 そこでアルマと主の民は、王の軍隊が来るという[1]知らせを受けたので、天幕を持ち、家族を連れて荒れ野へ旅立った。

35 その数はおよそ四百五十人であった。

第19章

ギデオン、ノア王を殺そうとする。レーマン人が攻め込んで来る。ノア王、火で焼き殺される。リムハイ、貢ぎ物を納め、王として統治する。紀元前約百四十五年から百二十一年に至る。

1 さて、王の軍隊は主の民を捜し回ったが、徒労に終わり、引き返した。

2 さて見よ、王の軍勢は人数が減って小規模になり、残った民の中に分裂が生じ始めた。

3 そして、少数派が王を脅す言葉を吐き始め、残りの民の中にひどい争いが起こった。

4 さて、少数派の中にギデオンという名の者がいた。彼は屈強な男で、王を敵としていたので、自分の剣を抜き、王を殺すと怒りの誓いを立てた。

5 そして彼は王と戦った。王は彼に打ち負かされそうになったところで逃げ出し、走って神殿の近くにある[1]塔に登ってしまった。

6 そこでギデオンは王の後を追いかけ、王を殺すためにその塔に登ろうとした。このとき、王がシェムロンの地の方を眺めると、見よ、レーマン人の軍隊がすでに国の境を越えていた。

7 そこで王は心に苦しみを覚え、叫んで言った。「ギデオンよ、命を助けてくれ。レーマン人が攻めて来ており、我らを滅ぼそうとしている。まことに、民

31① モサ18・4
34① モサ23・1
第19章
5① モサ11・12

を滅ぼそうとしている。」
8 実のところ、王は民のことよりも自分の命のことを心配していたのである。にもかかわらず、ギデオンは王の命を助けた。
9 そこで王は、レーマン人から逃れるように民に命じて、自分がその先頭に立って逃げた。民も女や子供たちを連れて荒れ野へ逃げ込んだ。
10 そこでレーマン人は彼らを追いかけ、追いついて彼らを殺し始めた。
11 そこで王は男たちに、皆、妻子を捨ててレーマン人から逃れるように命じた。
12 しかし、妻子を捨てるくらいなら、一緒にとどまって死ぬ方がよいと考える者が多かった。ほかの者たちは妻子を捨てて逃げ去った。
13 そして妻子とともにとどまった者たちは、美しい娘たちを前に立たせ、自分たちを殺さないようにレーマン人に懇願させた。
14 そこでレーマン人は、彼らの娘たちの美しさに魅せられ、哀れみの心を示した。
15 レーマン人は彼らの命を助け、彼らを捕虜にしてニーファイの地へ連れ戻した。そして、ノア王をレーマン人の手に引き渡すこと、また彼らが所有するものの半分、金や銀やすべての貴重な品々の半分を渡すことを条件として、彼らがその地を所有することを許した。このようにして、彼らは毎年、レーマン人の王に貢ぎ物を納めることになったのである。
16 さて、捕らえられた者たちの中に王の息子が一人おり、その名をリムハイといった。
17 さて、リムハイは、父が殺されることのないようにと願っていた。それでもリムハイ自身は正しい人であったので、父の犯した罪悪を知らないわけではなかった。
18 さて、ギデオンは、ひそかに人々を荒れ野に遣わして、王と、また王と一緒にいる者たちを捜させた。すると彼らは荒れ野で、王とその祭司たちを除くすべての人に会った。
19 彼らはニーファイの地へ帰って、もし妻子や一緒にとどまった者たちが殺されていたら、その敵を討って、一緒に死のうと心に誓っていた。
20 ところが、王が彼らに帰らないように命じたので、彼らは怒って王を焼き殺してしまった。
21 また彼らは、祭司たちも捕らえて殺そうとした

16① モサ7・9
20① モサ17・13―19、アル25・11

が、祭司たちは逃げてしまった。
22そして、彼らがちょうどニーファイの地へ帰ろうとしていたところで、ギデオンに遣わされた人々に出会ったのである。ギデオンに遣わされた人々は彼らに、自分たちの妻子に起こったすべてのことを告げ、またレーマン人に自分たちの所有するすべてのものの半分を貢ぎ物として納めることによって、その地を所有できると、レーマン人から認められたことを話した。
23また彼らも、ギデオンに遣わされた人々に、自分たちが王を殺したことと、王の祭司たちが荒れ野の奥へ逃げ込んでしまったことを告げた。
24そして彼らは、あいさつを終えると、自分たちの妻子が殺されなかったことを喜びながら、ニーファイの地へ帰った。それから彼らは、自分たちが王に行ったことをギデオンに告げた。
25さて、レーマン人の王は、自分の民がニーファイ人を殺すことはないとニーファイ人に[1]誓った。
26そしてまた、ノア王の子であり、[1]民から王位を与えられたリムハイも、レーマン人の王に、自分の民は所有するすべてのものの半分を貢ぎ物として彼に納めると誓った。
27そして、リムハイは王国を確立し、民の中に平和を確立する業に着手した。
28またレーマン人の王は、その国の周囲に見張りの兵を配置し、リムハイの民を国内にとどまらせ、荒れ野に出て行くことのないようにした。そして王は、ニーファイ人から受け取る貢ぎ物の一部で見張りの兵を養った。
29さて、リムハイ王は、二年間引き続き王国の平和を保ち、レーマン人は彼らを苦しめ悩ますことも、彼らを滅ぼそうとすることもなかった。

第20章

レーマン人の娘たち、ノア王の祭司たちに誘拐される。レーマン人、リムハイと彼の民に戦争を仕掛ける。レーマン人、撃退され、心を和らげる。紀元前約百四十五年から百二十三年に至る。

1さて、シェムロンには、レーマン人の娘たちが集まって歌い、踊り、そして楽しむ場所があった。
2そしてある日のこと、少数のレーマン人の娘たち

25① モサ21・3
26① モサ7・9

が、歌ったり踊ったりするためにそこに集まった。
3ノア王の祭司たちはニーファイの町へ帰ることを恥じ、また民に殺されることを恐れたので、妻子のところへ帰る勇気がなかった。
4そして、荒れ野にとどまっていたときにレーマン人の娘たちを見つけたので、彼らは身を伏せて娘たちを見ていた。
5そして、踊るために集まった娘たちが少ないときに、彼らは隠れている所から飛び出して娘たちを捕まえ、荒れ野へ連れ去った。まことに、レーマン人の娘たちを二十四人、荒れ野へ連れ去ってしまった。
6さて、レーマン人は娘たちがいなくなったことを知ると、リムハイの民の仕業であると思って、リムハイの民のことを怒った。
7それで彼らは軍隊を出した。まことに、王自身が民を率いて、リムハイの民を滅ぼすためにニーファイの地へ向かった。
8しかしながら、リムハイはすでに塔の上から彼らを見ていた。まことに、彼らが戦いの準備をすべて整えているのを見た。そこで彼は、自分の民を召集し、畑でも森でもレーマン人を待ち伏せた。
9そして、レーマン人がやって来ると、リムハイの民は待ち伏せていた場所から襲いかかり、彼らを殺し始めた。
10そして、彼らは獲物を襲うライオンのように戦ったので、その戦闘は非常に激しいものになった。
11そして、リムハイの民は、レーマン人を追い散らし始めた。彼らはレーマン人の半数にも満たなかったが、自分たちの命のため、また妻子たちのために戦っていたので、力を尽くし、龍のように戦った。
12そして彼らは、レーマン人の死体の間にレーマン人の王を見つけた。しかし、王は傷を負っていただけで死んではいなかった。兵の逃げ足が速かったために、その場に置き去りにされたのであった。
13そこでリムハイの民は、王を捕らえて傷口に包帯を巻き、リムハイのもとへ連れて来て言った。「ここにいるのはレーマン人の王です。王は負傷してレーマン人の死体の間に倒れ、置き去りにされていました。それでわたしたちは、御前に連れてまいりました。この王を殺してしまいましょう。」
14しかし、リムハイは彼らに、「殺してはならない。

わたしが会えるように、ここに連れて来なさい」と言った。そこで、彼らはレーマン人の王を連れて来た。そして、リムハイは彼に尋ねた。「あなたがたはどのような理由で、わたしの民と戦うために攻めて来たのですか。まことに、わたしの民は、わたしがあなたに立てた誓い[1)]を破ってはいません。それなのに、なぜあなたはわたしの民に立てた誓いを破ったのですか。」

15 すると、レーマン人の王は言った。「わたしが誓いを破ったのは、おまえの民がわたしの民の娘たちを連れ去ったからだ。だから、わたしは怒って、おまえの民と戦うためにわたしの民を攻めさせたのだ。」

16 さて、リムハイはこのことについて何も聞いていなかったので、「わたしは民の中を捜し、そのようなことをした者はだれであろうと殺す」と言った。そして、彼は民の中を捜索させた。

17 さて、ギデオンはこれらのことを聞くと、彼はリムハイ王の軍隊の長であったので、王のもとへ行って、言った。「どうか思いとどまり、この民を調べることなく、またこのことを彼らの責任とすることのないようにしてください。

18 父君の祭司であって、この民が殺そうとした者たちのことを王は覚えておられませんか。彼らは今、荒れ野にいるではありませんか。レーマン人の娘たちをさらったのは、彼らではないでしょうか。

19 どうかレーマン人の王にこれらのことをお話しください。そうすれば、王は彼の民に話し、彼らはわたしたちに対して心を和らげることでしょう。まことに、彼らはわたしたちを攻めようと、すでに準備を進めていますし、わたしたちの人数はわずかです。

20 そしてまことに、彼らは大軍でやって来ます。ですから、もしこの王がわたしたちに対して彼らの心を和らげてくれなければ、わたしたちは滅びてしまうに違いないのです。

21 わたしたちについてアビナダイが預言した言葉は、わたしたちが主の御言葉に聞き従って自分たちの罪悪から離れようとしなかったので、すべて成就しているではありませんか。

22 ですから、王の心を和らげましょう。わたしたちは王に立てた誓いを守ります。わたしたちは、命を失うよりも奴隷の状態にある方がよいからです。で

14① モサ19・25−26
17① モサ19・4−8
21① モサ12・1−8

すから、このように多くの血を流すことはやめましょう。」

23そこでリムハイはレーマン人の王に、自分の父のことと、荒れ野へ逃げ込んだ祭司たちのことをすべて話し、レーマン人の娘たちを連れ去ったのはその祭司たちの仕業であると告げた。

24そこでレーマン人の王は、リムハイの民に対して心を和らげ、彼らに言った。「武器を持たないで、わたしの民に会いに行こう。そうすれば、わたしの民がおまえの民を殺さないことを誓って約束する。」

25そして彼らはレーマン人の王に従い、武器を持たずにレーマン人に会いに出かけた。そして、彼らはレーマン人に会った。するとレーマン人の王は、自分の民の前に伏して、リムハイの民のために執り成してくれた。

26そこでレーマン人は、リムハイの民が武器を持っていないのを見て、彼らを哀れに思い、心を和らげ、王とともに安らかに自分の国へ帰って行った。

第21章

リムハイの民、レーマン人に打たれ、打ち負かされる。リムハイの民、アンモンに会い、改宗する。アンモンにヤレド人の二十四枚の版のことを告げる。紀元前約百二十二年から百二十一年に至る。

1さて、リムハイと彼の民はニーファイの町に帰り、再び平和にその地に住むことになった。

2そして多くの日の後、レーマン人はまたニーファイ人に対して怒りをかき立てられ、周囲の境の地に侵入して来るようになった。

3しかし、彼らの王がリムハイに立てた誓いがあるので、彼らはあえてニーファイ人を殺しはしなかった。それでも彼らは、ニーファイ人の頬を打ち、権力を振るった。そして彼らの背に重荷を負わせ、彼らを物を言えないろばのように追い立てるようになった。

4まことに、これはすべて、主の言葉が成就するために起こったことである。

5さて、ニーファイ人の苦難はひどかったが、レーマン人にあらゆる方面から取り囲まれていたので、彼らがレーマン人の手から逃れる手立てはまったくなかった。

23① モサ19・21、23
26① GS「哀れみ」
第21章
3① モサ12・2
② モサ12・5

6 そして民は、自分たちの苦難のことで王につぶやくようになり、また、レーマン人に向かって出て行って戦いたいと願うようになった。このように、彼らが不平を言ってひどく王を悩ましたので、王は彼らに望みどおりにすることを許した。
7 そこで彼らは再び集まり、よろいを着け、レーマン人を自分たちの国から追い出すために、彼らに向かって出て行った。
8 そして、レーマン人が勝ってリムハイの民を追い返し、多くの者を殺した。
9 そのため、リムハイの民の中に大きな嘆き[1]と悲しみがあった。やもめは夫のために嘆き、息子と娘は父のために嘆き、兄弟は兄弟のために嘆いた。
10 さて、国内には非常に多くのやもめがおり、そのやもめたちはレーマン人に対するひどい恐れが募っていたので、毎日毎日激しく泣き叫んだ。
11 そして、やもめたちが絶え間なく泣き叫んだため、リムハイの民の残りの者たちは、レーマン人に対する怒りをかき立てられた。そして、彼らは再び戦いに出たが、大きな損害を被り、またもや追い返された。
12 まことに彼らはもう一度、すなわち三度目の戦いに出たが、同じように損害を被った。そして、殺されなかった者たちは、ニーファイの町にまた帰った。
13 また彼らは、地に伏すほどにへりくだって、奴隷のくびきを受け、敵の望むままに打たれ、あちらこちらに追い立てられ、荷を負わされるに任せた。
14 それで彼らは、心底謙遜にへりくだり[1]、神に熱烈に叫び求めた。彼らは、自分たちの受けている苦難から救い出してくださるように、終日神に叫び求めた。
15 しかし、主は彼らの罪悪のために、彼らの嘆願を聞き届けるのを遅くされた[1]。それでも主は、彼らの嘆願を聞き届け、レーマン人の心を和らげてくださったので、レーマン人はリムハイの民の重荷を軽くするようになった。しかし主は、彼らを奴隷の状態から救い出すのを、ふさわしいとは思われなかった。
16 さてその後、彼らはその地で次第に栄え始めた。以前よりも豊かに穀物を栽培し、大小の家畜の群れを飼うようになったので、飢えに苦しむことはなか

9① モサ12・4
14① モサ29・20、GS「謙遜」
15① 箴言15・29、モサ11・23−25、教義101・7−9

った。
17ところが、女の数が非常に多くて男の数を上回っ
ていたので、リムハイ王は、やもめ[1]とその子供たち
が飢えて死ぬことのないように、すべての男に、生
活の糧を彼らに分け[2]与えるよう命じた。殺された者
がおびただしい数に上っていたので、彼らはそうし
たのである。
18さて、リムハイの民はできるかぎり一団となって
生活し、自分たちの穀物と家畜の群れを守った。
19また、王自身も何らかの方法でレーマン人の手に
落ちることを恐れ、衛兵を連れずには、町の城壁の
外に安心して出ようとはしなかった。
20また王は、自分の民に周辺の地を見張らせた。そ
して、荒れ野の中に逃げ込んでレーマン人の娘[1]たち
をさらい、自分の民にこのようなひどい破壊をもた
らしたあの祭司たちを、何とかして捕らえさせよう
とした。
21リムハイの民は、彼らを捕らえて罰したいと思っ
ていた。それは彼らが、夜ニーファイの地へやって
来て、民の穀物や多くの貴重な品々を運び去ったか
らである。それで民は彼らを待ち伏せした。
22そしてその後、アンモン[1]と彼の同僚たちがその地
に来るまで、レーマン人とリムハイの民の間に二度
と争いがなかった。
23そして、王が衛兵とともに町の門の外にいたとき
に、アンモンと彼の同僚たちを見つけたのであっ
た。そのとき、王は彼らのことをノアの祭司たちだ
と思ったので、彼らを捕らえて縛らせ、牢[1]に投げ込
ませたのであった。もし彼らがノアの祭司たちであ
ったら、王は殺させたことであろう。
24ところが王は、彼らがそうではなく、自分の同胞
で、ゼラヘムラの地からやって来たことを知り、非
常に大きな喜びに満たされた。
25さて、リムハイ王は、アンモンが来る前にゼラヘ
ムラの地を探す[1]ために少数[2]の人々を派遣したこと
があった。しかし、彼らはその地を見つけることが
できなくて、荒れ野の中で迷ってしまった。
26それでも彼らは、かつて人々の住んでいた地、干
からびた骨[1]が辺り一帯に散乱していた地、まこと
に、かつて人々が住み、滅びてしまった地を発見し
た。そして彼らは、そこをゼラヘムラの地であると
思って、ニーファイの地に引き返し、アンモンが来

17 ① GS「やもめ」
② モサ4・16、26
20 ① モサ20・5
22 ① モサ7・6−13
23 ① ヒラ5・21
25 ① モサ7・14
② モサ8・7
26 ① モサ8・8

る少し前に、境の地に到着したのであった。
27そのときに、彼らは記録を持ち帰った。すなわち、彼らが発見した、骨を残した民の記録を持ち帰った。それは金属の版に刻まれていた。
28さて、リムハイは、モーサヤ王が神からの賜物[1]を持っており、それによってこのような刻まれた記録を解釈できるということをアンモンの口から聞いて、またもや喜びに満たされた。そして、アンモンも喜んだ。
29しかし、アンモンと彼の同僚たちは、自分たちの同胞がそのように大勢殺されていたので、悲しみでいっぱいになった。
30またノア王と彼の祭司たちが、そのように多くの人に神に対して罪と不義を犯させたことについても、彼らは悲しんだ。また彼らは、アビナダイが死んだことも、アルマや彼と行動を共にした人々が立ち去ったことについても、悲しんだ。アルマとその人々は、神の力と権威と、またアビナダイが語った言葉を信じる信仰によって、神の教会を設立していた。
31まことにアンモンと彼の同僚たちは、彼らが立ち去ったことを悲しんだ。リムハイと彼の民は、彼らがどこへ逃げて行ったか知らなかったからである。もし知っていれば、アルマや彼とともにいた人々は、神に仕え、神の戒めを守るという聖約を神と交わしていたので、リムハイと彼の民は、喜んで彼らと行動を共にしたことであろう。
32さて、アンモンがやって来た後、リムハイ王も彼の民の多くの者も、神に仕え、神の戒めを守るという聖約を神と交わした。
33そして、リムハイ王と彼の民の多くの者は、バプテスマを受けたいと願った。しかしその地には、神から権能[1]を授かっている者は一人もいなかった。またアンモンは、自分自身をふさわしくない僕であると考えて、そのことを行うのを辞退した。
34そこで彼らは、そのとき自分たちで教会を設けることをせずに、主の御霊を待ち望むことにした。彼らは荒れ野に逃げ込んだアルマと彼の同胞のようになりたいと願っていた。
35彼らは心を尽くして喜んで神に仕える証拠として、また証明としてバプテスマを受けたいと願っていたにもかかわらず、その時期は引き延ばされた。

28① オム1・20−22、モサ28・11−16
30① モサ17・12−20
② モサ18・34−35
33① GS「権威・権限・権能」

彼らのバプテスマについての話は、後に載せることにする。

36 さて、アンモンとその一行、およびリムハイ王とその民は、レーマン人の手から、また奴隷の状態から抜け出すことをひたすら考え続けた。

第22章

民がレーマン人の下での奴隷の状態から逃れるための計画が立てられる。レーマン人、酒に酔う。民は逃れ、ゼラヘムラに帰り、モーサヤ王の臣民となる。紀元前約百二十一年から百二十年に至る。

1 さて、アンモンとリムハイ王は、奴隷の状態から抜け出す方法について民と相談を始めた。彼らはすべての民を連れ立って集まらせた。彼らはこの件について民の声を聞くことができるように、こうしたのである。

2 さて、彼らが奴隷の状態から抜け出すには、女子供を伴い、大小の家畜の群れを連れ、天幕を携えて荒れ野へ出て行く以外に何の方法も見いだせなかった。レーマン人が非常に大勢であったため、リムハイの民は剣によって奴隷の状態から抜け出そうと考えても、彼らと戦うことは不可能だったからである。

3 さてこのとき、ギデオンが進み出て王の前に立ち、そして言った。「王様、わたしたちが同胞であるレーマン人と戦ったときに、あなたはこれまでに何度も、わたしの言葉を聞き入れてくださいました。

4 そして王様、もしわたしをふつつかな僕であったと思われなければ、すなわち、これまで多少なりともわたしの言葉をお聴きになって、それがあなたのお役に立っていましたならば、この度もわたしの言葉をお聴きくださるようにお願いいたします。わたしはこれからもあなたの僕となり、この民を奴隷の状態から救い出しましょう。」

5 そこで、王は彼に語ることを許した。すると、ギデオンは王に言った。

6 「町の裏手の城壁を通って行く裏道に御注目ください。そこにいるレーマン人、すなわちレーマン人の見張りの兵は、夜は酒に酔っています。ですから、民の全体に布告を出して大小の家畜の群れを集めさせ、夜の間に荒れ野に群れを追って行けるよう

にしましょう。
7そして、わたしはあなたの命令に従い、最後の貢ぎ物であるぶどう酒をレーマン人に納めます。すると彼らは、飲んで酔うでしょう。彼らが酔って眠っている間に、わたしたちは彼らの宿営の左手にある間道を通って行きましょう。
8こうしてわたしたちは、女子供を伴い、大小の家畜の群れを連れて荒れ野に出て行き、シャイロムの地を回って進みましょう。」
9そこで王は、ギデオンの言葉を聞き入れることにした。
10そこでリムハイ王は、民に彼らの家畜の群れを集めさせた。また王は、貢ぎ物のぶどう酒をレーマン人に、贈り物としていつもよりたくさん届けた。すると彼らは、リムハイ王が届けたぶどう酒をふんだんに飲んだ。
11さて、リムハイ王の民は、夜の間に大小の家畜の群れを連れて荒れ野へ出て行った。彼らは荒れ野の中をシャイロムの地を回って行き、アンモンとその同僚たちに導かれて、ゼラヘムラの地へ向かって道を進んだ。
12彼らは、自分たちの金や銀、貴重な品々、それに食糧を運べるかぎり持って荒れ野に出て、旅を続けた。
13このようにして、彼らは荒れ野の中で幾日も過ごした後、ゼラヘムラの地に到着してモーサヤの民に加わり、彼の臣民となった。
14そして、モーサヤ王は喜んで彼らを迎え入れ、彼らの[1]記録と、以前にリムハイの民が見つけた[2]記録を受け取った。
15さて、レーマン人は、リムハイの民が夜の間にその地を出て行ったことを知ると、彼らを追跡するために荒れ野に軍隊を送り出した。
16軍隊は二日間彼らを追跡した後、もはやその跡を見つけることができず、荒れ野の中で迷ってしまった。

ノア王の民により荒れ野に追われたアルマと主の民の話。

次の第二十三—二十四章がそれに相当する。

第22章
14 ①モサ8・5
②モサ8・9

第23章

アルマ、王になることを断る。アルマ、大祭司として務める。主、アルマの民を懲らしめられる。レーマン人、ヘラムの地を征服する。ノア王の邪悪な祭司たちの統率者であるアミュロン、レーマン人の王の臣民を治める。紀元前約百四十五年から百二十一年に至る。

1 さて、アルマは、ノア王の軍隊がやって来ると主から警告を受け、それを民に知らせたので、民は家畜の群れを集め、穀物を持ち、ノア王の軍隊を避けて荒れ野に出て行った。
2 主は彼らを強くし、ノア王の民に追いつかれて滅ぼされることのないようにされた。
3 それで彼らは、荒れ野に逃げ込んで、八日間旅をした。
4 彼らは非常に美しく、心地よい地、清らかな水のある地に着いた。
5 そこで彼らは天幕を張り、地を耕し、建物を建て始めた。まことに、彼らは勤勉であり、非常によく働いた。
6 また民は、アルマを愛していたので、彼が王になることを願った。
7 しかし、彼は民に言った。「わたしたちに王がいるのは決して望ましいことではない。主は、『あなたがたは、ある[1]人をほかの人よりも優れていると思ってはならない。すなわち、人は自分自身をほかの人よりも優れていると考えてはならない』と言われた。したがって、あなたがたに王がいるのは望ましいことではないと、わたしはあなたがたに言う。
8 しかしながら、あなたがたが正しい人をいつも王に頂くことが可能であれば、王がいるのもよいであろう。
9 しかし、ノア王と彼の祭司たちの[1]罪悪を思い出してほしい。わたし自身もわなにかかり、主の目から見て忌まわしいことをたくさん行い、つらい悔い改めをした。
10 にもかかわらず、わたしが多くの[1]艱難を味わった後、主はわたしの嘆願を聞いて、わたしの祈りにこたえ、わたしを主の御手に使われる者にしてくださり、このように、あなたがたの多くに[2]主の真理を知らせることができるようにしてくださった。

第23章
7 ① モサ27・3—5
9 ① 箴言16・12、モサ11・1—15
10 ① モサ17・1—4
② 教義58・4
② モサ18・35

11 それでも、わたしはこのことを誇らない。わたしは自分自身について誇るにふさわしくないからである。

12 今、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはかつてノア王に虐げられ、彼と彼の祭司たちに対して奴隷の状態にあり、彼らによって罪悪に引き込まれたため、罪悪の縄目[1]をかけられてしまった。

13 ところがあなたがたは、神の力によってこれらのかせから、すなわちノア王と彼の民の手から、また罪悪のかせから救い出されているので、わたしはあなたがたが解放されたこの自由[1]にしっかりと立つ[2]ように、まただれもあなたがたを治める王としないように望んでいる。

14 また、神の道を歩み、神の戒めを守っている神の人でなければ、だれも、あなたがたの教師や教え導く者としてはならない[1]。」

15 このようにアルマは、人は皆、自分自身のように隣人を愛し[1]、民の中に決して争い[2]がないようにしなければならないことを、彼の民に教えた。

16 さて、アルマは彼らの教会の創設者であったので、彼らの大祭司[1]であった。

17 そして、アルマを通じて神から与えられなければ、だれも説教をする権能[1]や教える権能を受けられなかった。したがってアルマは、民のすべての祭司とすべての教師を任命した。また、正しい人でなければだれも任命されなかった。

18 そして、彼らは民を見守り、義にかかわることをもって彼らを養った[1]。

19 さて、彼らはその地で非常に栄え、その地をヘラムと名付けた。

20 そして、彼らはヘラムの地で増え、非常に栄えた。そして、一つの町を築いてヘラムの町[1]と名付けた。

21 にもかかわらず、主は御自分の民を懲らしめるのを、御心にかなうことと見ておられる。まことに、主は民の忍耐[2]と信仰を試される。

22 しかしながら、主に頼る[1]者はだれであろうと、終わりの日に高く上げられる[2]。そして、この民はそのように試されたのであった。

23 見よ、わたしは、これからあなたがたに、彼らが奴隷の状態に落とされたことと、主なる彼らの神、すなわちアブラハムとイサクとヤコブの神のほかに、だれも彼らを救い出せなかったことを示そう。

---

12 (1) 2ニフ28:19−22
13 (1) GS「自由」
(2) ガラ5:1
14 (1) モサ29:13
(3) モサ18:18−22
15 (1) GS「愛」
(2) 3ニフ11:28−29
16 (1) モサ26:7
17 (1) GS「権威・権限・権能」「神権」
18 (1) 1テモ4:6
21 (1) ヒラ12:3、教義98:21、GS「懲らしめ」
(2) GS「忍耐」
22 (1) GS「信頼」
(2) 1ニフ13:37

24さて、主が彼らを救い出し、彼らに御自分の偉大な力を示されたので、彼らの喜びは大きかった。25さて見よ、彼らがヘラムの地、まことに、ヘラムの町にいて周辺の地を耕していたところ、レーマン人の軍隊がその地の境に現れた。26そこでアルマの同胞は、畑から逃げてヘラムの町に集まった。レーマン人が現れたことで、彼らはひどくおびえていた。27しかし、アルマは出て行って民の中に立ち、怖がらないように、また主なる自分たちの神を覚えていれば主は助けてくださると彼らに説いた。28そこで彼らは恐れを静め、レーマン人が自分たちと妻子を助けてくれるように、彼らの心を和らげてくださることを主に叫び求めた。29そこで主は、レーマン人の心を和らげてくださった。そこで、アルマと彼の同胞は出て行って、自分たちの身を彼らにゆだねた。そしてレーマン人は、ヘラムの地を占領した。30ところで、リムハイ王の民を追っていたレーマン人の軍隊は、幾日もの間荒れ野をさまよっていた。31そして見よ、彼らは、ノア王の祭司たちがアミュロンと名付けた地で、その祭司たちを見つけた。祭司たちはアミュロンの地を所有し、土地を耕し始めていた。32そして、祭司たちの統率者の名はアミュロンといった。33さて、アミュロンはレーマン人に懇願し、さらにレーマン人の娘である妻たちを遣わして、夫を殺すことのないように同胞に懇願させた。34そこでレーマン人は、アミュロンと彼の仲間を哀れみ、その妻たちに免じて彼らを殺さなかった。35このようにして、アミュロンと彼の仲間はレーマン人に加わった。そして彼らは、ニーファイの地を探して荒れ野の中を旅していたときに、アルマと彼の同胞が所有していたヘラムの地を発見したのである。36さて、レーマン人はアルマと彼の同胞に、ニーファイの地へ通じている道を教えるならば命を助けて、自由を認めると約束した。37ところが、アルマがニーファイの地へ通じる道を教えたところ、レーマン人はその約束を守ろうとせず、彼らはアルマと彼の同胞を見張る兵をヘラムの

33① 34① 37①
モサ 20・3−5
GS「哀れみ」
モサ 24・8−15

地の周辺に置いた。
38そして、残りの者たちはニーファイの地へ向かった。それから一部の者は、ヘラムの地に残された見張りの兵の妻子を連れて、またこの地に戻って来た。
39レーマン人の王はアミュロンに、ヘラムの地にいる自分の民の王となり統治者となることを許していた。しかし、それでも彼は、レーマン人の王の意に反して事を行う力は持っていなかった。

第24章

アミュロン、アルマと彼の民を虐げる。祈る者は殺されることになる。主は彼らの重荷を軽くされる。主は彼らを奴隷の状態から救い出され、彼らはゼラヘムラの地に帰る。紀元前約百四十五年から百二十年に至る。

1さて、アミュロンはレーマン人の王の歓心を買った。そこで、レーマン人の王はアミュロンと彼の仲間を、自分の民、すなわちシェムロンの地とシャイロムの地とアミュロンの地に住んでいる民を教える者として任命させた。
2レーマン人は、すでにこれらの地をすべて占領していたからである。またそのためにレーマン人の王は、これらすべての地を治める王たちを任命していた。
3ところでレーマン人の王の名は、その父の名を取って付けられ、レーマンといった。そのため、彼はレーマン王と呼ばれた。彼は大勢の民を治める王であった。
4彼は自分の民が所有するあらゆる地で、アミュロンの仲間の中から教える者を任命した。このようにして、レーマン人のすべての民の中で、ニーファイの言語が教えられるようになった。
5レーマン人は互いに親しみ合う民であった。しかし、神を知らなかった。アミュロンの仲間は彼らに、主なる自分たちの神についてはどのようなことも教えず、モーセの律法についても教えなかった。また、アビナダイの言葉も教えなかった。
6しかし彼らは、記録を書き記すようにレーマン人に教え、また彼らが互いに文書でやり取りができるように教えた。

7 このようにしてレーマン人は富を殖やし始め、互いに商売をして富むようになった。また彼らは、俗世の知恵ということではずる賢く抜け目のない民、まことに、非常に悪知恵にたけた民になり、自分の仲間以外に対して、あらゆる悪事と略奪を働くのを喜びとした。

8 さて、アミュロンはアルマと彼の同胞に対して[1]権力を振るうようになり、アルマを迫害し、また自分の子供たちにアルマとその同胞の子供たちをいじめさせるようになった。

9 アミュロンはアルマを知っており、アルマがかつてノア王の祭司の[1]一人であり、アビナダイの言葉を信じて王の前から追い出された者であることを知っていたからである。そのために、アミュロンはアルマに憤りを感じていた。彼はレーマン王の支配を受けていたにもかかわらず、アルマと彼の同胞に対して権力を振るい、彼らに[2]苦役を課し、彼らを見張る監督を置いた。

10 さて、彼らの苦難は非常に大きかったので、彼らは熱烈に神に叫び求めるようになった。

11 ところが、アミュロンは叫び求めることをやめるように彼らに命じた。そして、彼らを見張る者を置いて彼らを見張らせた。神に叫び求めているところを見つかった者はだれであろうと、殺すことにした。

12 そこでアルマと彼の民は、主なる自分たちの神に声を上げることなく、自分たちの心を主に[1]注ぎ出した。そして主は、彼らの心の思いを御存じであった。

13 そして、苦難の中にいる彼らに主の声が聞こえて、言われた。「あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。わたしは自分の民と聖約を交わし、その民を奴隷の状態から救い出す。

14 またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、あなたがたが奴隷の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがこの後、わたしのために証人になれるようにするため、また主なる神であるわたしが、[2]苦難の中にいる自分の民を訪れるということを、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。」

15 そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽

第24章
8 ① 教義121・39
9 ① モサ17・1—4、23・9
9 ② モサ21・3—6
12 ① GS「祈り」
14 ① GS「証人」「証」
14 ② GS「逆境」

くなった。まことに、主は、彼らが容易に[1]重荷に耐
えられるように彼らを[2]強くされた。そこで彼らは心
楽しく[3]忍耐して、主の御心にすべて従った。
16さて、彼らは信仰が篤く、忍耐強かったので、主の
声が再び聞こえて、言われた。「喜びなさい。明日、
わたしはあなたがたを奴隷の状態から救い出す。」
17そして、主はアルマに言われた。「あなたはこの民
の先頭に立たなければならない。わたしはあなたと
ともに行き、この民を[1]奴隷の状態から救い出そう。」
18そこでアルマと彼の民は、夜間自分たちの家畜の
群れを集め、また穀物の幾分かを集めた。まことに、
彼らは一晩中家畜の群れを集め続けた。
19そして朝、主はレーマン人を[1]深く寝入るようにさ
れたので、彼らの監督たちは皆、深い眠りに落ちて
いた。
20そこで、アルマと彼の民は荒れ野に出て行った。
そして彼らは一日中旅をして、ある谷に天幕を張
った。彼らは、アルマが荒れ野の中で彼らを導いた
ので、その谷をアルマの谷と名付けた。
21そして、神が自分たちに憐れみをかけ、重荷を軽
くし、自分たちを奴隷の状態から救い出してくださ
ったので、彼らはアルマの谷で神に[1]感謝の気持ちを
注ぎ出した。彼らは奴隷の状態にあって、主なる彼
らの神のほかに、だれも彼らを救い出すことができ
なかったからである。
22そして、彼らは神に感謝をささげた。まことに、
男も女も子供も、語ることのできる者は皆、声を上
げて神を賛美した。
23すると、主がアルマに言われた。「あなたとこの民
は急いでこの地を立ち去りなさい。レーマン人が目
を覚まして、あなたを追っているので、この地を立
ち去りなさい。レーマン人がこれ以上この民を追わ
ないように、わたしは彼らをこの谷でとどめよう。」
24そして、彼らはその谷を出て、荒れ野に旅立った。
25そして彼らは、十二日間荒れ野を旅した後、ゼラ
ヘムラの地に着いた。モーサヤ王は喜んで彼らを迎
え入れた。

第25章

ゼラヘムラのミュレクの子孫はニーファイ人にな
る。彼らはアルマの民とゼニフの民のことを知る。ア
ルマ、リムハイと彼の民の全員にバプテスマを施す。

15 ① アル31・38、33・23
② マタ11・28—30
③ 教義54・10、GS「忍耐」
17 ① GS「とりこ」
19 ① サ上26・12
21 ① GS「感謝」

モーサヤ、神の教会を設立することをアルマに許す。紀元前約百二十年。

1さて、モーサヤ王はすべての人を集めさせた。2当時ニーファイの子ら、すなわちニーファイの子孫であった人々は、[1]ミュレクと、また彼とともに荒れ野へ出た人々の子孫である、[2]ゼラヘムラの民ほど多くはなかった。3また、ニーファイの民とゼラヘムラの民を合わせても、レーマン人ほど多くはなかった。まことに、彼らはその半分にも満たなかった。4さて、ニーファイの民は皆集まり、ゼラヘムラの民も皆集まった。彼らは集まって二つの集団を作った。5そして、モーサヤ王は民にゼニフの記録を自ら読んで聞かせ、また人にも読ませた。まことに、彼は、ゼニフの民がゼラヘムラの地を立ち去ったときから再び帰って来るまでの、彼らの記録を読んで聞かせた。6彼はまた、アルマと彼の同胞の話と、また彼らがゼラヘムラの地を立ち去ったときから再び帰って来るときまでに受けた、あらゆる苦難の話を読んで聞かせた。7さて、モーサヤ王がこれらの記録を読み終えると、その地にとどまっていた彼の民は、不思議な思いと驚きに打たれた。8彼らには思いも及ばなかったからである。彼らが奴隷の状態から救い出された人々を見ると、その人々は非常に大きな喜びに満たされていた。9またその人々は、レーマン人に殺された自分たちの同胞のことを思っては、悲しみでいっぱいになり、悲哀の涙を流した。10さらに彼らは、アルマと彼の同胞をレーマン人の手と奴隷の状態から救い出してくださった神の直接の慈しみと神の力のことを思っては、声を上げ、神に感謝をささげた。11また彼らは、罪深く汚れた状態にある自分たちの同胞のレーマン人のことを思っては、[1]彼らの幸いを案じて苦痛と苦悩にさいなまれた。12さて、レーマン人の娘たちを妻としたアミュロンと彼の仲間の子供たちは、自分の父たちの行為を快く思っていなかった。そして、彼らはもはや父た

第25章
2 ①ヒラ6・10、GS「ミュレク」　②オム1・13—19
8 ①モサ22・11—13
11 ①GS「人（霊を持つ存在としての）—人の価値」　②モサ28・3—4、アル13・27

ちの名で呼ばれることを望まなかったので、ニーファイの名を受けた。それは、ニーファイの子らと呼ばれ、ニーファイ人と呼ばれる人々の中に数えられるようにするためであった。

13 今やゼラヘムラの民はすべて、ニーファイ人とともに[1]数えられた。それは、ニーファイの子孫である人々のほかに、だれにも王位が授けられなかったからである。

14 さて、モーサヤ王は民に語り終え、読み終えると、アルマにも民に語ってもらいたいと思った。

15 そこでアルマは、民が幾つもの大きな集団を成して集まっているときに、彼らに語った。彼は一つの集団から次の集団へと巡って、悔い改めと主を信じる信仰を民に宣べ伝えた。

16 また彼は、リムハイと彼の同胞から成る民、すなわち奴隷の状態から救い出されたすべての人に、彼らを救い出してくださったのが主であることを覚えておくように勧めた。

17 さて、アルマが民に多くのことを教え、彼らに語り終えると、リムハイ王はバプテスマを受けたいと願った。また、彼の民も皆、バプテスマを受けたいと願った。

18 そこでアルマは水の中に入って行き、彼らに[1]バプテスマを施した。まことに、彼は[2]モルモンの泉で同胞に授けた方法で、彼らにバプテスマを施した。そして、彼がバプテスマを施した人々は皆、神の教会に属した。それは彼らがアルマの言葉を信じたからである。

19 さて、モーサヤ王はゼラヘムラの全地に教会を設立することをアルマに許し、またそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を聖任する[1]力を彼に授けた。

20 さて、このように行われたのは、人々の数が非常に多く、一人の教師ですべての人をつかさどることができなかったからであり、また一つの集会ですべての人に神の言葉を聞かせることもできなかったからである。

21 それで彼らは、教会と呼ばれた別々の集団に集まった。それぞれの教会に祭司と教師がいて、祭司は皆、アルマの口により伝えられたとおりの言葉を宣べ伝えた。

22 このように、多くの教会があったにもかかわら

13 ①オム1・19
18 ①モサ21・35
18 ②モサ18・8−17
19 ①GS「神権」

ず、それらはすべて一つの教会、すなわち神の教会であった。どの教会でも、悔い改めと神を信じる信仰以外に、どのようなことも説かれなかったからである。

23 さて、ゼラヘムラの地には七つの教会があった。そして、キリストすなわち神の名を受けることを望んだ者はだれでも皆、神の教会に加わった。

24 そして、彼らは神の民と呼ばれた。主は彼らに主の御霊を注がれ、彼らは祝福され、その地で栄えた。

第26章

多くの教会員が不信仰な者たちによって罪に誘い込まれる。アルマ、永遠の命を約束される。悔い改めてバプテスマを受ける者は赦しを得る。罪を犯した教会員で、悔い改めてアルマと主に告白する者は赦される。そのようにしない者は教会の民の中に数えられない。紀元前約百二十年から百年に至る。

1 さて、当時の若者の中には、ベニヤミン王が民に語ったときにまだ幼い子供であったために、彼の言葉を理解できなかった者が大勢いた。彼らは、自分たちの先祖の言い伝えを信じなかった。

2 彼らは、死者の復活について述べられたことも信じなければ、キリストの来臨についても信じなかった。

3 また、彼らは自分の不信仰のために、神の言葉を理解できなかった。そして、彼らの心はかたくなであった。

4 彼らは、バプテスマを受けようともしなければ、教会に加わろうともしなかった。彼らは信仰に関してはまったく違った民になっており、いつまでもそのままで肉欲にふける罪深い状態にとどまっていた。彼らは主なる自分たちの神に請い願おうとしなかったからである。

5 モーサヤ王の治世に、このような者の数は神の民の半分に満たなかったが、教会の兄弟たちの中に不和が起こったために、やがて神の民よりも多くなった。

6 そして、これらの者は教会に属していた多くの者をだまし、彼らに多くの罪を犯させた。そのため、教会に属していながら罪を犯した者を、教会は説

---

22 1) モサ18・17
23 1) GS「イエス・キリスト」「御名を受ける」
24 1) GS「聖約（契約）」
第26章
3 1) GS「理解」
4 1) GS「生まれながらの人」
5 1) GS「争い」「背教・背信」
6 1) アル5・57−58、6・3、GS「警告」

諭しなければならなかった。
7そこで、教師たちはこれらの者を祭司たちの前に連れて行き、祭司たちに引き渡した。そして祭司たちは、彼らを1)大祭司アルマの前に連れて行った。
8当時モーサヤ王は、教会を管理する権能をアルマに与えていた。
9さて、アルマは彼らのことについて知らなかったが、彼らを訴える証人は大勢いた。まことに、人々は立って、彼らの罪悪についてたくさんの証言をした。
10ところで、このようなことはこれまで教会の中で起こったことがなかったので、アルマは心の中で思い悩み、これらの者を王の前に連れて行かせた。
11そして、アルマは王に言った。「まことにわたしたちは、教会の兄弟たちから訴えられたこれらの多くの者を、王の御前に連れてまいりました。彼らはいろいろな罪悪を犯して連れて来られた者たちですが、自分たちの罪を悔い改めません。ですから、罪科に応じて王に裁いていただくために、王の御前にこれらの者を連れてまいりました。」
12ところが、モーサヤ王はアルマに言った。「まことに、わたしはこの人々を裁きません。あなたが裁くようにあなたの手に1)渡します。」
13そこでアルマは、再び心を悩ました。そして彼は、この問題について何を行えばよいか主に尋ねた。神の目にかなわないことを行うのを恐れたからである。
14アルマが自分の心のすべてを神に注ぎ出したところ、主の声が聞こえて言われた。
15「アルマよ、あなたは幸いである。1)モルモンの泉でバプテスマを受けた者たちも幸いである。あなたはわたしの僕であるアビナダイの言葉だけを深く信じたので、幸いである。
16また彼らは、あなたが彼らに語った言葉だけを深く信じたので、幸いである。
17あなたはこの民の中に1)教会を設立したので、幸いである。この民は立てられ、わたしの民となるであろう。
18まことに、喜んでわたしの名を1)受けるこの民は幸いである。わたしの名によって彼らは呼ばれるからである。彼らはわたしのものである。
19あなたは、戒めに背いた者についてわたしに尋ね

7① モサ29・42
12① 教義42・78—93
15① モサ18・30
② モサ17・2、GS「信仰」
17① モサ25・19—24
18① モサ1・11、5・8、GS「イエス・キリスト—御名を受ける」

たので、幸いである。
20 あなたはわたしの僕である。わたしはあなたに、あなたが永遠の命[1]を受けると聖約する。あなたはわたしに仕え、わたしの名によって出て行き、わたしの羊を集めなさい。
21 そして、わたしの声を聞く者はわたしの羊[1]となる。あなたはその者を教会に受け入れなさい。その者をわたしも受け入れよう。
22 見よ、これはわたしの教会である。[1]パプテスマを受ける者はだれでも、悔い改めのためのバプテスマを受けなければならない。あなたが受け入れる者はだれでも、わたしの名を信じなければならない。そうすれば、その者をわたしは惜しみなく赦[2]そう。
23 世の罪を負うのはわたしである。世の人々を造ったのはわたしであり、最後まで信じる者にわたしの右の場所を与えるのは、わたしである。
24 見よ、これらの者はわたしの名によって呼ばれる。これらの者はわたしを知るならば、進み出て、永遠にわたしの右に一つの場所を得るであろう。
25 そして、[1]第二のラッパが鳴ると、そのとき、わたしをまったく知らなかった者たちが出て来て、わたしの前に立つであろう。
26 そのとき、彼らはわたしが主なる彼らの神であり、彼らの贖い主であることを知るであろう。しかし、彼らは贖われないであろう。
27 そのとき、わたしは彼らに、彼らをまったく知らなかったと告げよう。これらの者は、悪魔とその使いのために用意された[2]永遠の火の中に入るであろう。
28 わたしはあなたに言う。わたしの声に耳を傾けない者を、あなたはわたしの教会に受け入れてはならない。そのような者を、わたしは終わりの日に受け入れないからである。
29 わたしはあなたに言う。行きなさい。そして、だれであろうとわたしに背く者を、あなたはその者の犯した罪に応じて裁きなさい。もしその者があなたとわたしの前で罪を告白し、真心から悔い改めるならば、その者をあなたは赦しなさい。わたしもその者を赦そう。
30 そしてわたしは、民が悔い改める度に、わたしに対する彼らの過ちを赦そう。
31 あなたがたも互いに過ちを赦し合わなければなら

20 ①GS「永遠の命」「選び」「選民」
21 ①GS「良い羊飼い」
22 ①2ニフ9・23、GS「バプテスマ」 ②GS「罪の赦し」「赦し」
23 ①GS「贖い主」 ②GS「創造・創造する」
24 ①ヨハ17・3 ②教義88・99、109
25 ①教義76・81−86
27 ①②マタ7・21−23 ②教義76・43−44
28 ①ルカ13・27 ②2ニフ9・31、教義1・14 ③2ニフ9・31、教義
29 ①GS「責任を負う」 ②GS「裁き」 ③3ニフ1・25、GS「告白」 ④GS「悔い改め」 ⑤GS「赦し」
30 ①エゼ33・11、15−16、使徒3・19−20、モサ29・19−20 ②モロ6・8
31 ①②3ニフ13・14−15、教義64・9−10

ない。まことに、わたしはあなたに言う。隣人が悔い改めると言うときにその過ちを赦さない者は、自分自身に罪の宣告を招くことになる。

32 さて、わたしはあなたに言う。行きなさい。罪を悔い改めようとしない者はだれであろうと、わたしの民の中に数えてはならない。今後、このことを守るようにしなければならない。」

33 さて、アルマはこれらの御言葉を聞くと、それを保存できるように、また神が命じられたとおりに教会の人々を裁けるように、それを書き記した。

34 そして、アルマは行って、罪悪を犯して連れて来られた者たちを主の言葉に従って裁いた。

35 また、罪を悔い改めてそれを告白した者はだれであろうと、教会の人々の中に数えた。

36 しかし、罪を告白しようとせず、罪悪を悔い改めようとしない者は、教会の人々の中に数えられることなく、彼らの名は消された[1]。

37 そして、アルマは教会の諸事をすべて整えた。人々は再び平和を得て、教会の諸事において非常に栄えるようになり、神の前を慎み深く歩み、多くの人を受け入れ、多くの人にバプテスマを施した。

38 さて、ともに教会を管理したアルマと彼の同僚たちは、これらのことをすべて行い、力の限り歩み、すべてのことについて神の言葉を教え、あらゆる苦難に耐え、また、神の教会に属していないすべての者から迫害を受けた。

39 彼らは教会の兄弟たちを戒めた[1]。また、彼らも各々、神の言葉により、自分の罪、すなわち過去に犯した罪に応じて戒めを受け、絶えず祈る[2]ように、またすべてのことについて感謝[3]をささげるように神から命じられた。

第27章

モーサヤ、迫害を禁じ、平等を指示する。息子アルマとモーサヤの四人の息子たち、教会を滅ぼそうとする。一人の天使が現れ、悪行をやめるように命じる。アルマ、口が利けなくなる。人は皆、救いを得るためには再び生まれなければならない。アルマとモーサヤの息子たち、喜びのおとずれを告げ知らせる。紀元前約百年から九十二年に至る。

1 さて、不信仰な者たちが教会員に加える迫害が非

35① GS「告白」
36① 出エ32・33、アル1・24、GS「命の書」「破門」
② GS「警告」
③ 2ニフ32・8−9 GS「感謝」
39① GS「警告」

常にひどくなったので、教会員はつぶやき、その件について指導者たちに訴え始めた。そこで、指導者たちはアルマに訴えた。アルマはその件を王であるモーサヤの前に持ち出し、モーサヤは祭司たちに意見を求めた。

2 そしてモーサヤ王は、不信者は神の教会に属している者を迫害してはならないと、周辺の全地に布告を出した。

3 また、すべての教会に次のような厳しい命令が出された。すなわち、教会の中に迫害があってはならない。すべての者は平等でなければならない。

4 高慢あるいは傲慢になって、平和を乱すようなことがあってはならない。すべての者は隣人を自分自身のように尊ばなければならない。また、自分自身の手で働いて生活の糧を得なければならない。

5 また、教会の祭司と教師は皆、病気のときやひどく生活に困ったときのほかは、どのような場合でも、自分自身で働いて生活の糧を得るようにしなければならない、というものであった。彼らはこれらのことを守ったので、神の恵みを豊かに受けた。

6 そして、国内は再び非常に平和になってきた。また、民は非常に多くなり始め、地の面に、まことに、東西南北に広く分散して、その地の全域に大きな町や村を築き始めた。

7 そして、主は彼らを顧み、栄えさせられた。そのため、彼らは裕福で大きな民となった。

8 ところで、モーサヤの息子たちは不信仰な者たちの中に数えられており、アルマの息子の一人もその中に数えられていた。アルマのその息子は、父の名を取ってアルマと名付けられていた。にもかかわらず、彼は非常に邪悪な男で、偶像を礼拝する者になってしまった。また、彼は言葉数の多い男で、民に多くの世辞を述べ、多くの者に自分と同じような罪悪を犯させた。

9 そして彼は、民の心を奪って民の中にひどい不和を生じさせ、神の敵に民を支配する権力を振るう機会を与えたので、神の教会の繁栄にとって大きな妨げとなった。

10 さて、彼が神の教会を滅ぼそうとして歩き回っていたときに、すなわち、彼が神の戒めにも王の命令にも逆らって、教会を滅ぼし、主の民を惑わそうと、モーサヤの息子たちとともにひそかに歩き回っ

第27章

2 (1) GS「迫害」
3 (1) モサ23・7、29・32
4 (1) (2) GS「平安・平和」
GS「尊ぶ」
5 (1) (2) モサ18・24、26
GS「恵み」
8 (1) GS「アルマ（アルマの息子）」
9 (1) (2) GS「偶像礼拝」
サ下15・1—6

ていたときに、
11わたしが前に述べたように、彼らが神に背いて歩き回っていたときに、見よ、主の天使が彼らに現れた。その天使は、まるで雲に包まれて来たかのように降って来て、さながら雷のような声で語り、その声は彼らの立っていた大地を震わせた。
12彼らはそのためにひどく驚き、地に倒れた。しかし、彼らには天使の語った言葉が分からなかった。
13それでも天使は、また大声で言った。「アルマよ、起き上がって立ちなさい。あなたはなぜ神の教会を迫害するのか。主はかつて、『これはわたしの教会である。わたしがこれを設ける。わたしの民の背きのほかに、これを覆すものはない』と言われた。」
14天使はまた言った。「見よ、主は、御自分の民の祈りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもってあなたのことを祈ってきたからである。したがって、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるためである。
15さて見よ、あなたは神の力に抵抗することができるか。わたしの声は大地を震わせているではないか。あなたには、わたしがあなたの前にいるのが見えないか。わたしは神から遣わされた者である。
16さて、わたしはあなたに言う。あなたの先祖がラムの地とニーファイの地で囚われの状態にあったことを思い出しなさい。また、神があなたの先祖のために、どれほど大いなることを行われたかを思い起こしなさい。あなたの先祖は奴隷の状態にあったが、神が救い出してくださった。アルマよ、わたしはあなたに言う。行きなさい。これからはもう教会を滅ぼそうとしてはならない。たとえあなた自身が捨てられようとも、彼らの祈りが聞き届けられるためである。」
17そしてこれは、天使がアルマに語った最後の言葉である。そのようにして、天使は去って行った。
18さて、アルマと、またアルマとともにいた者たちは、ひどく驚いて、再び地に倒れた。それは、自分の目で主の天使を見、天使の声が雷のようであって大地を震わせ、また大地を震わせてそれが引き裂けるほどに揺り動かせるのは、神の力のほかにないこ

11 ①GS「背く」 ②③GS「天使」 使徒9・1−9、アル8・15
13 ①GS「イエス・キリスト教会の頭」 14 ①アル10・22 ②モル9・36−37 16 ①モサ23・1−4

とを、知ったからである。
19このときアルマは、ひどく驚いたために物が言えなくなった。口を開くことができなくなったのである。また、体の力が弱くなり、手も動かせないほどになった。そこで、身動きができないまま彼と一緒にいた者たちに運ばれて、彼の父の前に置かれた。
20そして彼らは、彼の父に、自分たちに起こったことをすべて詳しく告げた。すると彼の父は、それが神の力によって起こったことを知って喜んだ。
21彼は主が自分の息子と、また息子と一緒にいた者たちに行われたことを見せようとして、大勢の人を集めた。
22また、彼は祭司たちも集めた。そして、彼らは断食して、主なる自分たちの神に祈り始め、アルマの口を開いて物が言えるようにしてくださること、また彼の手足に力が与えられること、そして、それによって民の目が開かれて、彼らが神の慈しみと栄光を見て知るようになることを請い願った。
23そして、彼らが二日二晩断食して祈ったところ、アルマの手足は力を取り戻した。そして、アルマは立ち上がると、彼らに語り始め、安心するように彼らに言った。
24彼はこのように述べた。「わたしは自分の罪を悔い改め、主に1)贖われました。まことに、わたしは御霊によって生まれました。
25主はわたしに言われました。『全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、2)肉欲にふける堕落した状態から義の状態に3)変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。
26このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、1)決して神の王国を受け継ぐことはできない。』
27わたしは皆様に申し上げます。人は実際にこのような状態にならないかぎり、必ず捨てられます。わたしは一度捨てられそうになったので、このことが分かります。
28にもかかわらず、多くの艱難を耐え抜いて、死ぬほどの悔い改めをしたところ、主はわたしを憐れんで、1)永遠に燃える火からわたしを救い出すことがふ

24① 2ニフ2・6―7、GS「贖い・贖う」
25① ロマ6・3―11、モサ5・7、アル5・14、モセ6・59、GS「再び生まれる」
26① GS「現世的」
② モサ3・19、16・3
③ ヨハ3・5
28① 2ニフ9・16

さわしいとされました。そして、わたしは今、神から生まれたのです。

29わたしはすでに苦汁と罪悪のかせから贖われました。わたしはかつて、最も暗く深い淵の中にいましたが、今は神の驚くべき光を見ています。わたしはかつて永遠の苦痛に責めさいなまれましたが、今は救い出されており、もう心に苦痛を感じません。

30わたしはかつて贖い主を拒み、わたしたちの先祖が語ってきたことを受け入れませんでした。しかし今は、贖い主が将来来られるのを全人類が先見できること、また贖い主が御自分の造られたすべてのものを覚えていて、将来すべての人に御自身を現されるということをわたしは知っています。

31まことに、すべてのひざがかがみ、すべての舌が贖い主の御前で告白します。すべての人が立って贖い主に裁かれる終わりの日に、彼らは贖い主が神であられることを告白します。またそのとき、神に頼らずにこの世の中で生きている者たちは、永遠の罰の裁きが自分たちにとって公正であることを告白します。そして、彼らはすべてのことを見通す贖い主の目の下で震えおののき、縮み上がります。」

32さて、アルマはこのとき以来、民を教え始めた。また、天使が現れたときにアルマと一緒にいた者たちとともに、全地を旅して回り、自分たちの聞いたり見たりしたことをすべての民に告げ、多くの艱難の中で神の言葉を宣べ伝えた。そして、不信仰な者たちからひどい迫害を受け、彼らの多くから打たれた。

33しかし、このような目に遭ったにもかかわらず、彼らは教会員に大きな慰めを与え、彼らの信仰を強め、また、ひどい苦労をしながらも、寛容をもって彼らに神の戒めを守るように勧めた。

34これらの者のうちの四人はモーサヤの息子であり、その名をアンモン、アロン、オムナー、ヒムナイといった。以上はモーサヤの息子たちの名である。

35そして、彼らはゼラヘムラの全地を旅し、モーサヤ王が治めているすべての民の中を巡って、自分たちがかつて教会に加えたすべての害悪の償いをしようと熱心に努め、自分たちのすべての罪を告白し、自分たちが見たすべてのことを告げ、また自分たちの言葉を聞きたいと望んだすべての人に、預言

29① モサ2・38
31① ビリ2・9−11、モサ16・1−2、教義88・104
② GS「イエス・キリスト」
③ アル41・11
34① ④ GS「神」
① GS「アンモン（モーサヤの息子）」

と聖文について解説した。
36このようにして、彼らは神の手に使われる者となって多くの人を真理の知識に導き、まことに、贖い主について知らせた。
37何と彼らは祝福されていることか。彼らは平和を告げて広め、善のよきおとずれ[2]を告げて広め、主が統治しておられることを民に告げ知らせたからである。

第28章

モーサヤの息子たち、レーマン人に宣べ伝えに行く。モーサヤ、二つの聖見者の石を使ってヤレド人の版を翻訳する。紀元前約九十二年。

1さて、モーサヤの息子たち[1]はこれらのことをすべて終えた後、少数の人々を連れて、自分たちの父である王のもとに帰った。そして、自分たちの選んだこれらの人々とともにニーファイの地へ行き、同胞[2]であるレーマン人に自分たちの聞いたことを宣べ伝え、神の言葉を告げることができるように、許可を与えてほしいと願った。
2それは、このようにすれば、レーマン人に主なる彼らの神のことを悟らせ、彼らの先祖の罪悪を立証し、ニーファイ人に対する憎悪[1]をなくさせ、主なる彼らの神を信じて喜ばせ、互いに友好を深めさせて、またニーファイ人とレーマン人の両方に対して主なる彼らの神が与えてくださった全地に、もはや争いがないようにすることができると思ったからである。
3さて、モーサヤの息子たちは、救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った[2]。彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。まことに、無窮[3]の苦痛を受ける人がいると考えただけで、彼らは震えおののいた。
4このように、主の御霊が彼らに働きかけた。彼らはかつて罪人の中でも最も罪深い者[1]であった。しかし主は、その限りない憐れみ[2]により、彼らを救うのが御心にかなうとされた。それでも彼らは、自分たちの罪悪のために心にひどい苦しみを受け、とこしえに捨てられてしまうのではないかと非常に悩み、心配した。
5そして彼らは、ニーファイの地へ行くことができ

---

37 ① イザ52・7、モサ15・14−17、GS「宣べ伝える」
② GS「福音」
第28章
1 ① モサ27・34
② オム1・12−13、モサ9・1
2 ① ヤコ7・24
3 ① GS「人（霊を持つ存在としての）－人の価値」
② アル13・27、3ニフ17・14、モセ7・41
③ ヤコ6・10、教義19・10−12
4 ① モサ27・10
② GS「憐れみ」

るように、幾日も父に懇願した。
6そこでモーサヤ王は、息子たちをレーマン人の中へ行かせて御言葉を宣べ伝えさせるべきかどうか、主に尋ねた。
7すると、主はモーサヤに言われた。「彼らを行かせなさい。多くの者が彼らの言葉を信じるからである。そして、彼らは永遠の命を得るであろう。また、わたしはあなたの息子たちをレーマン人の手から1)救い出そう。」
8そこでモーサヤは、彼らの願いどおりにすることを許した。
9そして、彼らは荒れ野に1)旅立ち、レーマン人の中で御言葉を伝えるために出かけて行った。彼らが行ったことについての2)話は後に書き記す。
10さて、モーサヤ王には王位を継ぐ者が一人もいなかった。王の息子たちの中に、王位を受けたいと思う者がだれもいなかったからである。
11そこでモーサヤ王は、リムハイの民が発見し、リムハイの手から王に渡された金の版の記録を翻訳し、書き取らせた後、1)2)真鍮の版に刻まれた記録と、ニーファイの版と、神の命令に従って王自身が守り、保存してきたすべてのものを取りまとめた。
12彼がそうしたのは、彼の民がそれを切望したからである。彼らはすでに滅びてしまった人々のことを非常に知りたいと思った。
13さて、彼は、弓形のものの両端にしっかり取り付けられたあの二つの石を1)用いて、それらを翻訳した。
14これらのものは世の初めから用意され、言語を解訳するために代々伝えられたものであり、
15また、この地を所有するすべての者に、御自分の民の罪悪と忌まわしい行いを明らかにするために、主が御自分の手により守り、保存してこられたものである。
16そして、これらのものを持つ者は、昔言われたように1)聖見者と言われる。
17さて、モーサヤがこの記録を翻訳したところ、見よ、それはすでに1)滅びた民についての話であった。彼らが滅びたときからさかのぼって、主が民の言葉を2)乱されて、民が全地の面に広く散らされた時代の3)大きな塔の建設に至るまでのこと、さらにその時代からさかのぼって、アダムの創造に至るまでのこ

7①アル19・22—23
9①アル17・6—9
11①②GS「金版」
②GS「真鍮版」
13①GS「ウリムとトンミム」
16①モサ8・13—18、GS「聖見者」
17①モサ8・7—12
②③創世11・6—9
エテ1・1—5

とが書き記されていた。
18さて、モーサヤの民はこの話を聞いて非常に嘆き、まことに、悲しみでいっぱいになった。しかし、それでも彼らはこの話から多くのことを知り、喜びも得た。
19そして、この話の中に書き記されていることを知るのは、見よ、すべての人にとって望ましいので、この話は後に書き記すことにする。
20さて、前にあなたがたに述べたように、モーサヤ王はこれらのことを行った後、1)真鍮の版と、自分が保存してきたすべてのものを取りまとめ、これらのものをアルマの子であるアルマに託した。まことに、すべての記録と2)解訳器を取って彼に与え、これらのものを守り、3)保存すること、また民の記録を書き続けること、そして、リーハイがエルサレムを出たときから伝えられてきたように、今後も代々これらのものを伝えることを彼に命じた。

第29章

モーサヤ、王の代わりにさばきつかさを選ぶことを提案する。不義な王は民を罪に陥らせる。息子アルマ、民の声によって大さばきつかさに選ばれる。また、教会の大祭司も務める。父アルマとモーサヤ、死ぬ。紀元前約九十二年から九十一年に至る。

1さて、モーサヤはこれを終えると、だれが民の王になるべきかについて民の気持ちを知りたいと思い、全地に、すなわち民の全員に自分の言葉を伝えた。
2そして、「わたしたちは王の子アロンが王となり、統治者となることを願っています」というのが民の声であった。
3ところが、アロンはすでにニーファイの地へ行った後であったので、王は彼に王位を譲れなかった。またアロンも、王位を受けることを望まなかったであろう。さらに、1)モーサヤの息子たちの中には、王位を受けたいと思う者はだれもいなかった。
4そこでモーサヤ王は、民にもう一度自分の言葉を伝えた。すなわち、自分の言葉を書き記した文書を民に送った。その言葉は次のとおりである。
5「見よ、おお、わたしの民、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたを同胞と思っているので、考慮す

20①アル37・3−10
②GS「ウリムとトンミム」
③GS「聖文−保存されるべき聖文」
第29章
3①モサ27・34

るように求められている事柄について、よく考慮してほしい。あなたがたは1)王を持ちたいと願っているからである。

6さて、あなたがたに告げる。王位を継ぐ権利のある者は辞退し、王位を受けようとしない。

7もし彼の代わりにほかの者が任命されるならば、あなたがたの中に争いが起こる恐れがある。王位を継ぐ権利のあるわたしの息子が後に怒って、民の一部を率いるようにならないともかぎらない。そうなれば、あなたがたの中に戦争と対立が起こって、多くの血が流され、主の道が曲げられる原因になり、また多くの人の霊が滅ぼされることになる。

8わたしはあなたがたに告げる。知恵をよく働かせて、これらのことをよく考えよう。わたしたちにはわたしの息子を滅ぼす権利はまったくないし、彼に代わって任命されるほかの者を滅ぼすいかなる権利もない。

9わたしの息子は、もし再び高慢になり、むなしいことに戻るならば、自分が前に言ったことを取り消し、王国に対する自分の権利を主張するであろう。そうなれば、わたしの息子もこの民もひどい罪を犯すことになる。

10そこでわたしたちは、知恵を働かせてあらかじめこれらのことを考え、この民の平和に役立つことを行うようにしよう。

11したがって、わたしは余生をあなたがたの王として過ごすことにする。しかしわたしたちは、自分たちの法に従ってこの民を裁くさばきつかさを任命しよう。また、神の戒めに従ってこの民を裁く賢明な人々をさばきつかさとして選任し、この民の政務を新たに整えよう。

12さて、人は、神に裁かれる方が人に裁かれるよりもよい。神の裁きはいつも公正であるが、人の裁きは必ずしも公正でないからである。

13したがって、もし神の律法を確立して、神の律法に従ってこの民を裁こうとする1)正しい人々を、王に持つことが可能であれば、まことに、もしもわたしの父ベニヤミンがこの民のために行ったように行おうとする人々を、自分たちの王に持つことができるならば、あなたがたに告げる、もしもこのようにいつもできるのであれば、いつもあなたがたを治める王がいるのが望ましいであろう。

5(1) 上8・9—19
11(1) 出エ18・13—24
11(2) モサ29・25—27
13(1) モサ23・8、13—14
13(2) モ言1・17—18

14 そして、わたし自身、戦争や争い、盗み、略奪、殺人、そのほかどのような罪悪も存在することのないように、わたしの持つあらゆる力と知力を働かせて、あなたがたに神の戒めを教えようと、また全地に平和を確立しようと努めてきた。
15 また、わたしは罪悪を犯した者に、それがだれであろうと、わたしたちの先祖から与えられた法に従って、その者の犯した罪科に応じて罰[1]を与えてきた。
16 さて、あなたがたに告げる。すべての人は必ずしも正しくないので、あなたがたを治める王、あるいは王たちがいるのは望ましいことではない。
17 見よ、一人の悪い[1]王が犯させる罪悪[2]は何とひどいことか。また、滅亡の何と大きいことか。
18 まことに、ノア王を思い出しなさい。ノア王の悪事と忌まわしい行いと、また彼の民の悪事と忌まわしい行いを思い出しなさい。見よ、何と大きな滅亡が彼らに及んだことか。また彼らは、自分たちの罪悪のために奴隷[1]の状態に陥ってしまった。
19 もしも彼らが心から悔い改めて、全知の創造主の介在を受けなかったならば、彼らは必ず現在まで奴隷の状態のままでいたに違いない。
20 しかし見よ、彼らが主の御前に[1]へりくだったので、主は彼らを救い出された。また、彼らが主に熱烈に叫び[2]求めたので、主は彼らを奴隷の状態から救い出された。このように、どの場合でも、主は人の子らの中で御自分の力をもって働き、主に頼る者に憐れみ[1]の御腕を伸ばされる。
21 そして見よ、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは罪深い王を退位させる場合、ひどい争いと多くの流血によらなければ、それができない。
22 見よ、罪深い王には罪悪を犯す仲間[1]がいる。また彼は、身辺に衛兵を置き、自分よりも前に義をもって治めてきた王たちの法を破棄し、神の戒めを足の下に踏みにじり、
23 新しい法律、まことに、自分の悪事にかなう法律を制定して民の間に発布し、その法律に従わない者はだれであろうと殺させ、自分に背く者にはだれであろうと軍隊を派遣して戦わせ、できればそれらの者を滅ぼそうとするからである。このように、不義な王はあらゆる義の道を曲げる。
24 さて見よ、わたしはあなたがたに告げる。このよ

15 ①アル1・32−33
17 ①モサ23・7−9
18 ①②アル46・9−10
モサ11・15
19 ①モサ8・10−18、エテ6・22−12・1−8、エテ12・23
20 ①②出エ2・23−25、アル43・49−50
③GS「信頼」
④モサ21・13−15
エゼ33・11、15−16、モサ26・30
22 ①列上12・8−14
23 ①GS「邪悪」

うな忌まわしいことがあなたがたに及ぶのは、望ましいことではない。

25 したがって、あなたがたは、わたしたちの先祖から与えられた法に従って裁かれるように、この民の声によってさばきつかさを選びなさい。先祖によって与えられた法は正しいものであって、主の御手によって先祖に授けられたものである。

26 さて、民の声が正しいことに反する事柄を望むのはまれであるが、民の少数が正しくないことを求めるのは度々あることである。したがって、あなたがたは民の声によって職務を果たすように留意し、それをあなたがたの法とすべきである。

27 そして、もしも民の声が罪悪を選ぶ時が来れば、それは神の裁きがあなたがたに下る時であり、神がこれまでこの地に報いを下してこられたように、あなたがたにひどい滅亡を及ぼされる時である。

28 さて、もしあなたがたにさばきつかさたちがいて、彼らが与えられている法に従ってあなたがたを裁かなければ、あなたがたは、彼らを上級さばきつかさに裁いてもらうことができる。

29 もし上級さばきつかさが義にかなった判決を下さなければ、あなたがたは下級のさばきつかさを集め、彼らに民の声に従って上級さばきつかさを裁かせるようにしなさい。

30 わたしはあなたがたに、主を畏れてこれらのことを行うようにと命じる。わたしはあなたがたに、王を持つことなくこれらのことを行うように命じる。もしこのような状態にある人々が罪と不義を犯すならば、その責任は人々の頭に帰するであろう。

31 見よ、わたしはあなたがたに告げる。過去の多くの人の罪は、彼らの王の罪悪によって引き起こされた。したがって、彼らの罪悪の責任は彼らの王の頭に帰する。

32 さて、わたしはもう二度とこの[1]不平等がこの地に、特にわたしのこの民の中にないことを願っている。この地が[2]自由の地となり、わたしたちがこの地に住んでこれを受け継ぐことを、主が御心にかなうと見なしてくださるかぎり、またわたしたちの子孫が一人でもこの地の面に残っているかぎり、すべての人が権利と特権を等しく享受できることを、わたしは願っている。」

33 モーサヤ王は、ほかにも多くのことを民に書き記

---

27 ① アル10・19
32 ① アル30・11
② 2ニフ1・7、10・11、GS「自由」
③ アル27・9

し、義を守る王の直面するあらゆる試練と苦難、ことに、民のために感じる心の苦しみのすべて、民が王に訴える不平のすべてを彼らに明らかにし、また彼らにそれをすべて説明した。

34 また、モーサヤ王は彼らに、このようなことはあってはならないこと、責任は民の全体で分担して、すべての人が自分の責任を負わなければならないことを告げた。

35 彼はまた、不義な王が治めるときに民が被る不利益、

36 まことに、不義な王のすべての罪悪と忌まわしい行い、またすべての戦争と争い、流血、盗み、略奪、みだらな行い、そのほか一々数え上げられないすべての罪悪について彼らに明らかにし、またこれらのことがあってはならないこと、これらのことは明らかに神の戒めに反することを彼らに告げた。

37 そして、モーサヤ王がこれらのことを民に書き送ったところ、彼らは王の言葉が真実であると確信した。

38 そこで彼らは、王を持とうとする望みを捨て、国中のすべての人が平等な機会を得ることを非常に切望するようになった。そして、すべての人が自分自身の罪の責任を喜んで負うことを言明した。

39 そして彼らは、自分たちに与えられた法[1]に従って裁く、さばきつかさとなるべき人々を、自分たちの声によって選ぶため、国の方々で幾つかの集団を成して集まった。そして彼らは、自分たちに与えられた自由[2]を非常に喜んだ。

40 彼らはモーサヤ王への愛の気持ちをますます深め、ほかのだれよりも彼を敬った。彼らは王のことを、利益すなわち人を堕落させるあの利得を追求する暴君とは思わなかったからである。彼は民から富を厳しく取り立てたことはなく、血を流すことを喜びとしたこともなく、国内に平和[1]を確立し、民があらゆる束縛から救い出されるようにしてきたからである。そのため、彼らは王を非常に、まことに計り知れないほど敬った。

41 さて、彼らは自分たちを治めるさばきつかさたち[1]、すなわち法に従って自分たちを裁くさばきつかさたちを任命した。彼らは国中でこれを行った。

42 そして、アルマは最初の大さばきつかさに任命されたが、彼は大祭司でもあった。アルマの父は彼に

---

39 ① アル1・14
40 ① GS「自由」
② GS「平和をつくり出す人」
41 ① モサ29・11

その職を授け、教会の諸事全般に関する責任をゆだねていた。
43 さて、アルマは主の道を歩み[1]、主の戒めを守り、義にかなった裁きを行ったので、引き続き国中が平和であった。
44 このようにして、ゼラヘムラの全地で、すなわちニーファイ人と呼ばれたすべての民の中で、さばきつかさの統治が始まった。そして、アルマが最初のさばきつかさであり、大さばきつかさであった。
45 さて、アルマの父は神の命令を果たし終えるまで生きて、八十二歳で死んだ。
46 そしてモーサヤも、在位の第三十三年に、六十三[1]歳で死んだ。リーハイがエルサレムを出たときから数えて五百九年になる。
47 このようにして、ニーファイの民を治めた王たちの統治は終わり、また、民の教会の創設者であったアルマの時代も終わった。

43① GS「歩む（神とともに）」
46① モサ6・4

アルマ書

アルマの息子アルマの書

アルマの息子であり、ニーファイの民を治める最初のさばきつかさであり、大さばきつかさでもあり、教会の大祭司でもあったアルマについての話。さばきつかさの統治と、民の中の戦争と争いについての話。ニーファイ人とレーマン人の間の戦争についての話。これは、最初のさばきつかさであり、大さばきつかさであったアルマの記録による。

第1章

ニーホル、偽りの教義を教え、教会を設立し、偽善売教を始め、ギデオンを殺す。ニーホル、罪科に応じて死刑にされる。偽善売教と迫害が民の中に広まる。祭司たちは自活し、民は貧しい人々を助け、教会は栄える。紀元前約九十一年から八十八年に至る。

1 さて、モーサヤ王は善の戦いに従事し、神の前をまっすぐに歩み、自分に代わって統治する者をだれも残すことなく、世のすべての人の行く道を行ったが、世を去る前に法律を制定し、民がそれを承認した。したがって、ニーファイの民を治めるさばきつかさの統治の第一年以降、民はモーサヤ王の定めた法律に従わなければならなかった。

2 さて、アルマがさばきつかさの職に就いて治めた最初の年に、裁判を受けるために、彼の前に連れ出された一人の男がいた。その男は体が大きく、力が強いことで名高かった。

3 彼は人々の中を巡り歩いて、自分で神の言葉と称したことを彼らに宣べ伝え、教会に圧迫を加え、また、祭司と教師は皆、人望を得るはずであって、自分の手で働く必要はなく、人々によって生活を支えられて当然であると宣言した。

4 彼はまた、全人類は終わりの日に救われるので、人は恐れる必要もおののく必要もない、むしろ頭を上げて喜ぶがよい、主がすべての人を造られ、すでにすべての人を贖っておられ、結局すべての人が永遠の命を得るからであると、人々に公言した。

アルマ書
第1章
1 ① モサ29・46
② ジェロ1・5、アル4・16、ヒラ4・22
2 ① アル1・15
3 ① エゼ13・3
② GS「反キリスト」
③ ルカ6・26、1ニフ22・23
4 モサ18・24、26、27
5 モサ29・46

5 さて、彼はこれらのことを多く教えたので、多くの者が彼の言葉を信じ、彼の生活を支え、金銭を彼に贈るようになった。

6 そこで彼は、高慢な心で高ぶり始め、非常に高価な衣服を身に着けるようになり、自分の説き教えることにかなう教会を設立するようにさえなった。

7 そして彼は、自分の言葉を信じる者たちに説教するために出かけて行く途中で、神の教会に属する者、すなわち教会の教師の一人に出会った。そこで彼はその人と激しく論争し、教会の人々を惑わそうとした。しかし、その人は彼に反論し、[1]神の言葉をもって彼を諭した。

8 さて、その人の名は[1]ギデオンという。かつて、神の手に使われる者となって、リムハイの民を奴隷の状態から救い出した人である。

9 さて、ギデオンが神の言葉をもって彼に反論したので、彼はギデオンに対して腹を立て、剣を抜いてギデオンに打ちかかった。ところが、ギデオンは年を取っていたので、その男が切りかかってくるのに抗することができず、剣によって[1]殺されてしまった。

10 それで、ギデオンを殺したその男は教会の人々に捕らえられて、アルマの前に連れて行かれ、彼の犯した罪科に従って[1]裁判されることになった。

11 そこで彼は、アルマの前に立つと非常に大胆に自己弁護をした。

12 しかし、アルマは彼に言った。「見よ、この民の中で[1]偽善売教が起こったのは、これが初めてである。見よ、あなたは偽善売教の罪を犯しただけでなく、剣によってそれを強要しようとした。この民の中で偽善売教が行われれば、民は完全に滅びてしまうであろう。

13 また、あなたは義人、まことに、この民の中で多くの善を行ってきた人の血を流したので、もしわたしたちがあなたを赦したならば、彼の血が[1]報復を求めてわたしたちに降りかかるであろう。

14 したがって、わたしたちの最後の王モーサヤから与えられた法律により、あなたに死刑を宣告する。この法律はこの民によって承認されたものであるから、この民はこの法律に[1]従わなければならない。」

15 そして、人々は彼を捕らえた。彼の名は[1]ニーホルといった。そして人々は、彼をマンタイの丘の頂上に運んで行った。そこにおいて彼は、自分が民に

6(1) 1ニフ14・10
7(1) GS「言葉〈神の〉」
8(1) モサ20・17、22・3
9(1) アル6・7
10(1) モサ29・42
12(1) 2ニフ26・29、GS「偽善売教」
13(1) GS「報復」
14(1) GS「死刑」
15(1) アル1・2

教えてきたことが神の言葉に反するものであったことを、天地の間で白状させられた、いや、自分から認めた。そして、彼は不名誉な最期を遂げた。

16 にもかかわらず、偽善売教が国中に広まるのはやまなかった。俗世のむなしいものを非常に好む者が大勢いたからである。彼らは出て行って偽りの教義を宣べ伝えた。[1]富と誉れを得ようとして、このように行ったのであった。

17 それでも、[1]偽りを言う者は罰せられるので、彼らは法律を恐れて、あえて公然とは偽りを言わなかった。それで、自分の信条に従って教えを説いているふりをした。法律は、[2]人の信条については、だれをも罰する力を持たなかったからである。

18 また、盗みを働く者は罰せられるので、彼らは法律を恐れて、あえて[1]盗みをしなかった。彼らは奪い取ることもしなかったし、人も殺さなかった。人を[2]殺す者は[3]死刑に処せられたからである。

19 しかし、神の教会に加わっていない者たちは、神の教会に属してキリストの名を受けた人々を迫害し始めた。

20 まことに彼らは、神の教会に属する人々を迫害し、あらゆる言葉で苦しめ悩ました。これは、教会の人々が謙遜であり、彼らの目に高ぶりがなく、また[1]金を出さず、代価を払わないで、互いに神の言葉を教え合っていたからである。

21 さて、教会の人々の中には厳しい律法があり、教会に属している人は、教会に属していない人を[1]苦しめてはならない、また互いに苦しめ合ってはならないとされていた。

22 にもかかわらず、彼らの中には高ぶり、相手と激しく論争して殴り合いさえするようになった者が大勢いた。まことに、彼らは互いにこぶしで殴り合った。

23 さて、これはアルマの統治第二年にあったことで、教会がひどい苦しみに遭う原因となり、まことに、ひどい試練を受ける原因となった。

24 それは、多くの者の心がかたくなであったからである。そして、これらの者の名が[1]消されたため、彼らはもはや神の民の中で思い出されることはなかった。また、多くの者が自ら神の民のもとを[2]去った。

25 さて、これは信仰にしっかりと立っている人々にとって大きな試練であった。にもかかわらず、彼ら

15 ②申命 13・1−9
16 ①GS「富」「むなしさ」
17 ①GS「偽り」「正直」
②アル 30・7−12、箇条 1・11
18 ①GS「盗み」
②GS「殺人」
③GS「死刑」
20 ①イザ 55・1−2
21 ①GS「迫害」
22 ①出エ 32・33、モサ 26・36、アル 6・3、GS「破門」
24 ①アル 46・7、GS「背教・背信」

は確固として動かずに神の戒めを守り、また自分たちに加えられる迫害に辛抱強く耐えた。

26 そして、祭司たちが神の言葉を民に告げるために仕事を休めば、民もまた神の言葉を聞くために仕事を休んだ。そして、祭司たちが彼らに神の言葉を告げ終えると、彼らは皆、再び自分たちの仕事に戻り、熱心に働いた。教えを説く者は聞く者よりも偉いわけではないので、教える者は学ぶ者よりも偉いわけではないので、祭司は自分自身を自分の話を聞く者よりも優れているとは思わなかった。このように、彼らは皆、平等であった。そして、彼らは皆、各々自分の力に応じて働いた。

27 また彼らは、各々自分の持っている分に応じて、貧しい者や乏しい者、病気の者、苦しんでいる者に自分の持ち物を分け与えた。彼らは高価な衣服を身に着けてはいなかったが、その装いはこざっぱりして麗しかった。

28 このように、彼らは教会の諸事を整えた。また、あらゆる迫害にもかかわらず、彼らはまた引き続き平和を保つようになった。

29 さて、教会員は堅実であったので、非常に物持ちになり、自分たちが必要としたすべてのものを豊かに持つようになった。すなわち、大小の家畜の群れや、あらゆる若い肥えた家畜、それに穀物や金や銀や貴重な品々、また絹や、より糸で織った亜麻布、あらゆる丈夫で素朴な織物、これらのものを豊かに持つようになった。

30 このようにして、彼らは裕福な暮らしの中で、着る物のない者や飢えている者、渇いている者、病気の者、栄養の足りない者を追い払うことがなかった。また、彼らは富に執着することもなかった。そのため、老いた者にも若い者にも、束縛された者にも自由な者にも、男にも女にも、また教会員であるなしの区別なく、助けの必要な人々については人を偏り見ることなく、すべての人に物を惜しまなかった。

31 このように彼らは栄え、教会に属していない者たちよりもはるかに裕福になった。

32 それは、教会に属していない者が魔術や偶像礼拝にふけり、あるいは怠惰に浸り、また無駄話やねたみや争いにふけり、高価な衣服を身に着け、高慢な目で高ぶり、迫害し、さらには偽りを言い、盗み、強盗をし、みだらな行いをし、人を殺し、そのほか

---

25 ① GS「忍耐」
26 ① モサ 18・24、26、27・3−5
② モサ 4・27、教義 10・4
27 ① ルカ 18・22、モサ 4・26、教義 42・29−31
② GS「施し」
29 ① GS「富」
② アル 4・6
30 ① ヤコ 2・17−19
② GS「貧しい」
③ アル 16・14、教義 1・32 ① GS「偶像礼拝」
35 ② GS「怠惰」
③ GS「悪口」
④ GS「ねたみ」
⑤ ヤコ 2・13、アル 31・25、モル 8・28、GS「高慢」

あらゆる悪事を行ったからである。しかし、法律に背いた者にはすべて、できるかぎりその法律が適用された。

33そして、法律に背いた者には、その法律が適用され、すべての者が自分の行ったことに応じて処罰されたので、彼らは前よりも穏やかになり、あえて公然とこのような悪事を行おうとしなかった。そのため、さばきつかさの統治第五年まで、ニーファイの民の中は十分に平和が保たれていた。

第2章

アムリサイ、王になろうとするが、民の声により拒絶される。アムリサイに従う者たち、アムリサイを王にする。アムリサイ人、ニーファイ人に戦争を仕掛け、打ち負かされる。レーマン人の軍隊とアムリサイ人の軍隊が連合するが、打ち負かされる。アルマ、アムリサイを殺す。紀元前約八十七年。

1さて、さばきつかさの統治第五年の初めに、民の中に争いが起こった。これは、アムリサイという男のために起こったものである。この男は非常に狡猾な男、まことに、俗世の知恵に関していえば賢い男であり、かつて剣でギデオン[1]を殺し、法律によって死刑にされた男の教団に属していた。

2さて、このアムリサイは、悪知恵によって多くの人を引き寄せて自分につかせた。そして、その人数が非常に多かったので、彼らは大いに勢力を増し、アムリサイを立てて民を治める王にしようとし始めた。

3さて、これは教会の人々にとっても、また、アムリサイの説得に引き寄せられなかったすべての人にとっても、憂慮すべきことであった。法律によれば、このようなことは[1]民の声によって決めなければならないということを、彼らは知っていたからである。

4したがって、もし民の支持を得るようなことになれば、アムリサイは邪悪な男であったので、教会の権利と特権を民から奪うつもりであった。神の教会を滅ぼすことが彼の目的であったからである。

5さて、人々は国の至る所で各々思いのままに、アムリサイに味方する者と反対する者が分かれて集まり、そこには、ひどい論争と驚くほどの[1]争いが見られた。

第2章
1 (1) アル1・8
3 (1) モサ29・25—27、アル4・16
4 (1) アル10・19、ヒラ5・2
5 (1) 3ニフ11・29

6 このようにして、彼らは集まってこの件について
投票し、その投票をさばきつかさたちの前に置い
た。
7 そして、民の声はアムリサイに反対であったの
で、彼は民を治める王になれなかった。
8 さてこれは、彼に反対であった人々には大いに喜
ばしいことであった。しかし、アムリサイは自分に
好意を寄せる者たちを扇動し、自分に好意を寄せな
い人々に対して怒りを抱かせた。
9 そして、彼らは集まり、アムリサイを自分たちの
王に任じた。
10 さて、アムリサイは彼らを治める王になると、同
胞に対して武器を取るように彼らに命じた。彼は民
を自分に従わせようとして、このように行ったので
ある。
11 ところで、アムリサイの民はアムリサイの名で区
別されて、[1]アムリサイ人と呼ばれ、残りの者は[2]ニー
ファイ人、すなわち神の民と呼ばれた。
12 ニーファイ人はアムリサイ人の意図を知って、彼
らと戦いを交える用意をした。まことに、彼らは剣
と三日月刀、弓と矢、また石と石投げ、そのほかあ
らゆる[1]武器で武装した。
13 このように、彼らはアムリサイ人が攻めて来たと
きのために、彼らと戦いを交える用意をした。また、
人数に応じて隊長と大隊長、連隊長が任命された。
14 また、アムリサイもあらゆる武器で自分の兵を武
装させ、自分の民をつかさどる統率官と指揮官を任
命し、同胞と戦う指揮を執らせた。
15 そしてアムリサイ人は、[1]ゼラヘムラの地のそばを
流れる[2]シドン川の東にあるアムナイフの丘にやって
来て、そこでニーファイ人と戦いを始めた。
16 さて、アルマはニーファイの民の[1]大さばきつかさ
であり、総督であったので、自分の民とともに、す
なわち隊長や連隊長たちとともに、まことに軍隊
を率いて、戦うためにアムリサイ人に向かって行っ
た。
17 そして、彼らはシドン川の東の丘でアムリサイ人
を殺し始めた。しかし、アムリサイ人が非常な力で
ニーファイ人と戦ったので、多くのニーファイ人が
アムリサイ人の前に倒れた。
18 それでも、主がニーファイ人の手を強くされたの
で、彼らはアムリサイ人を大勢殺し、アムリサイ人

11 ① アル3・4
② ヤコ1・13—14、モサ25・12、アル3・11
12 ① モサ10・8、ヒラ1・14
15 ① オム1・13—15
② アル3・3
16 ① モサ29・42

は彼らの前から逃げ始めた。
19そこで、ニーファイ人は終日アムリサイ人を追撃し、多くの者を殺したので、アムリサイ人の戦死者[1]は一万二千五百三十二人に及び、またニーファイ人の戦死者も六千五百六十二人に及んだ。
20そしてアルマは、もはやアムリサイ人を追撃できなくなると、民にギデオンの谷で天幕を張らせた。この谷は、[2]ニーホルの手によって剣で殺されたあのギデオンにちなんで名付けられた所である。この谷で、ニーファイ人はその夜天幕を張った。
21また、アルマは密偵を遣わしてアムリサイ人の残りの者を追わせ、彼らの計画と陰謀を知ろうとした。そうすることによって、彼らに対する防備を固め、自分の民が滅びるのを防ごうとしたのである。
22さて、アムリサイ人の宿営をうかがうために遣わされたのは、ゼラム、アムノル、マンタイ、リムハーという名の者たちであった。これらの者たちは、アムリサイ人の宿営をうかがうために、自分たちの兵を連れて出かけた。
23さて、その翌日、彼らは大いに驚き、またひどく恐れて、ニーファイ人の宿営に大急ぎで帰って来て言った。
24「まことに、わたしたちはアムリサイ人[1]の軍を追って行きましたが、何とも驚いたことに、[2]ニーファイの地へ行く途中の、ゼラヘムラの地の上に当たるマイノンの地で、レーマン人の大軍を見ました。まことに、アムリサイ人は彼らと連合しています。
25そして、彼らはその地でわたしたちの同胞を襲い、同胞は家畜の群れと妻子を連れて、彼らの前をわたしたちの町を目指して逃げています。急がなければ彼らはわたしたちの町を占領し、わたしたちの父と妻子たちを殺してしまうことでしょう。」
26そこでニーファイの民は天幕を携え、ギデオンの谷を出て、自分たちの町であるゼラヘムラの町[1]へ向かった。
27そして見よ、彼らがシドン川を渡っていたときに、まるで海の砂のようにおびただしい[1]レーマン人とアムリサイ人が、彼らを滅ぼそうと襲いかかって来た。
28にもかかわらず、ニーファイ人は主の手によって[1]強くされ、また彼らが敵の手から救い出されるようにと主に熱烈に祈ったので、主は彼らの嘆願を聞

19① アル3・1—2、26、4・2
20① アル6・7
② アル1・7—15、14・16
24① アル3・4、13—18
② 2ニフ5・8
26① オム1・14、18
② ジェロ1・6
27① 申命31・6
28① 申命31・6

いて強くしてくださり、レーマン人とアムリサイ人は彼らの前に倒れた。

29さて、アルマはアムリサイと一対一で、剣で戦った。彼らは互いに激しく戦った。

30そして、神の人であったアルマは、強い信仰[1]に鼓舞され、叫んで言った。「おお、主よ、わたしを憐れんで命を助け、わたしがあなたの御手に使われる者となってこの民を救い、守ることができるようにしてください。」

31さて、アルマはこのように言い終えると、再びアムリサイと戦った。そして、アルマは強くされたので、剣でアムリサイを殺した。

32彼はまたレーマン人の王とも戦った。しかし、レーマン人の王はアルマの前から逃げ帰り、自分の衛兵を出してアルマと戦わせた。

33しかし、アルマは自分の衛兵とともにレーマン人の王の衛兵と戦い、ついに彼らを殺し、また追い返した。

34このようにして、彼はその地の、いや、シドン川の西の岸の妨げとなるものを一掃し、殺されたレーマン人の死体をシドンの水に投げ込んだ。そうすることによって、彼の民が川を渡り、シドン川の西側でレーマン人およびアムリサイ人と戦う場所を得られるようにしたのである。

35さて、彼らが全員川を渡り終えると、レーマン人とアムリサイ人は数え切れないほど大勢であったにもかかわらず、彼らの前から逃げ始めた。

36そして、レーマン人とアムリサイ人は、ニーファイ人の前から、境の地のはるか向こう、西と北の荒れ野へと逃げ出したので、ニーファイ人は力の限り彼らを追撃して殺した。

37まことに、彼らは至る所で戦いを交え、殺され、追われ、西へ北へと散らされて、ついにハーモンツという荒れ野に行き着いた。そこは飢えた猛獣が群れを成して住んでいる荒れ野の一部であった。

38そして多くの者は、負傷していたためにその荒れ野で死に、それらの獣や空を飛ぶはげたかに食われてしまった。後に、彼らの骨が探し出されて、地上に積み上げられた。

第3章

アムリサイ人、預言された言葉のとおりに自分の身

30
① GS「信仰」

にしるしを付ける。レーマン人は背いたためののろいをすでに受けていた。人は自分の招いたのろいを自分自身に受ける。ニーファイ人、レーマン人のほかの軍隊を打ち破る。紀元前約八十七年から八十六年に至る。

1さて、武器によって[1)]殺されなかったニーファイ人は、殺された者たちを葬った後、すなわち、殺された者はおびただしい数に及んだので、それを数えることもなく死体を葬り終えた後、彼らは皆、自分たちの土地、自分たちの家、自分たちの妻子のもとに帰った。

2ところが、多くの女と子供たちが剣で殺されており、家畜の群れも多く殺され、また穀物畑の多くも軍隊に踏み荒らされていた。

3さて、シドン川の岸で殺されたレーマン人とアムリサイ人の多くは、[1)]シドンの水に投げ込まれたので、見よ、彼らの骨は今、[2)]海の深みにあり、その数は多い。

4アムリサイ人[1)]はレーマン人に倣って、額に赤いし[2)]るしを付けていたので、ニーファイ人と見分けることができた。しかし彼らは、レーマン人のように頭髪をそってはいなかった。

5一方、レーマン人は頭髪をそっており、腰に皮をまとい、よろいを着け、弓と矢、石と石投げなどを持っているほかは裸であった。

6またレーマン人の肌は、彼らの先祖に付けられたしるしのとおりに黒ずんでいた。そのしるしは、先祖が戒めに背き、兄弟たちに背いたために受けた[1)]のろいであった。また、その兄弟たちとは、正しい聖なる人々であったニーファイとヤコブ、ヨセフ、サムである。

7これらの人々の兄たちは、これらの人々を滅ぼそうとしたために、のろわれたのであった。主なる神が彼ら、まことにレーマンとレムエル、およびイシマエルの息子たちとイシマエル人の女たちにしるし[1)]を付けられたのである。

8そして、このことが行われたのは、彼らの子孫をその兄弟たちの子孫と見分けられるようにするためであった。それによって主なる神は、御自分の民がのろいを受けた民と縁を結んで間違った言い伝え[1)]を信じ、滅びることがないように、彼らを守ろうとされたのである。

第3章
1 (1) アル2・19、4・2
3 (1) アル2・15
(2) アル44・22
4 (1) アル2・11
(2) アル3・13−19
5 (1) エノ1・20、モサ10・8、アル42・18−21
6 (1) 2ニフ5・21、26・33、GS「のろい」
7 (1) 1ニフ12・23
8 (1) GS「結婚−異なった信仰を持つ人との結婚」
(2) モサ10・11−18、アル9・16

9 さて、自分の子孫をレーマン人の子孫と結婚させた者はだれであろうと、その子孫に同じのろいを招いた。

10 したがって、レーマン人に惑わされた者はだれであろうと、その呼び名で呼ばれ、しるしを付けられた。

11 そして、レーマン人の言い伝え[1]を信じようとせずに、エルサレムの地から持って来たあの記録と先祖の正しい言い伝えを信じた者、神の戒めを信じて守った者はだれであろうと、そのとき以降、ニーファイ人、すなわちニーファイの民と呼ばれた。

12 そしてこの民は、自分の民とレーマン人の民についての記録を書き継いでおり、その記録は[1]真実である。

13 さて、再びアムリサイ人のことに話を戻すと、彼らもまたしるしを付けた。まことに、彼らは自分の身にしるしを、すなわち自分の額に赤いしるし[1]を付けた。

14 このようにして、神の言葉は成就した。神がかつてニーファイに言われた御言葉は次のとおりである。「見よ、わたしはレーマン人をのろった。わたしは彼らにしるしを付けて、今より後とこしえに、彼らと彼らの子孫が悪を悔い改めてわたしに立ち返らないかぎり、あなたとあなたの子孫から区別されるようにする。

15 そしてまた、わたしはあなたの兄弟たちと種を交える者にもしるしを付け、彼らものろおう。

16 そしてまた、わたしはあなたやあなたの子孫と戦う者にもしるしを付けよう。

17 そしてまた、あなたのもとを去る者は、もはやあなたの子孫と呼んではならない。わたしはあなたと、またあなたの子孫と呼ばれる者たちを、これから先とこしえに祝福しよう。」これは、ニーファイと彼の子孫にあてた主の約束である。

18 ところで、アムリサイ人はその額に自分でしるしを付け始めたとき、自分たちが神の言葉を成就しているのを知らなかった。しかし、彼らは公然と神に[1]背いた。したがって、のろいが彼らに下って当然であった。

19 さて、あなたがたは、彼らが自分自身に[1]のろいを招いたということを知ってほしい。また、のろいを受ける者は皆、そのように自分自身に自分の罪の宣

11 (1) アル 17・9—11、モサ 1・6、エテ 4・12
(1) モサ 1・6、エテ 4・12
13 (1) アル 3・4
14 (1) 2ニフ 30・4—6
18 (1) 4ニフ 1・38、GS「背く」
19 (1) 2ニフ 5・21—25、アル 17・15

告を招くのである。

20さて、レーマン人とアムリサイ人によるゼラヘムラの地での戦闘の後、あまり日のたたないうちに、レーマン人の別の軍隊がニーファイ人の民を襲撃した。そこは、かつてレーマン人の最初の軍隊がアムリサイ人と合流した所である。

21そこで、彼らをその地から追い払うために軍隊が派遣された。

22さて、アルマ自身は負傷していたので、出て行ってレーマン人と戦うことはしなかった。

23しかし、彼は大規模な軍隊を派遣した。そして、軍隊は出て行って多くのレーマン人を殺し、残りの者たちを境の地から外へ追い払った。

24そして、彼らはまた帰って来て、その後しばらく敵に悩まされなかったので、国内に平和を確立した。

25さて、これらのことはすべて、さばきつかさの統治第五年に起こった。まことに、これらの戦争と争いはすべて、その年に始まって同じ年に終わった。

26そしてその一年間に、何千何万という人々が永遠の世に送られた。彼らはそこで、自分の行いが善いか、それとも悪いか、その行いに応じて報いを刈り取り、自分が従おうとした霊が善い霊であったか悪い霊であったか、その霊に応じて永遠の幸福あるいは永遠の不幸を刈り取るのである。

27人は皆、自分が従おうとした者から報いを受けるものである。これは預言の霊の言葉によるものであるから、真理にかなってそのようになるであろう。このようにして、さばきつかさの統治第五年が終わった。

第4章

アルマ、改心した数千の人々にバプテスマを施す。罪悪が教会に入り込み、教会の発展が妨げられる。ニーファイハ、大さばきつかさに任命される。アルマ、大祭司としての務めに専念する。紀元前約八十六年から八十三年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六年には、ゼラヘムラの地に争いも戦争もなかった。

2しかし、民は同胞を失い、大小の家畜の群れを失い、レーマン人によって足で踏みつけられ、荒らさ

20① アル2・24
22① アル2・29—33
26① GS「行い」
27① ロマ6・16、ヒラ14・29—31、GS「従順・従う」
② モサ2・31—33、アル5・41—42
第4章
1① オム1・12—19
2① アル2・19、3・1—2、26

れて穀物畑を失ったので苦しんだ。

3 すべての者が嘆き悲しんで当然なほど、彼らの受けた苦難はひどいものであった。そして彼らは、自分たちの悪事と忌まわしい行いのために神の裁きが下されたと思い、目覚めて自分たちの義務を思い起こした。

4 そして彼らは、さらに完全に教会を確立する業に取りかかり、多くの人がシドンの水で[1]バプテスマを受けて、神の教会に加えられた。彼らはアルマの手によってバプテスマを受けた。このアルマは、彼の父アルマの手によって、教会の人々を見守る[2]大祭司に聖任されていた。

5 さて、さばきつかさの統治第七年には、[1]神の教会に加わった者、バプテスマを受けた者は、およそ三千五百人に上った。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第七年が終わり、その間は引き続き平和であった。

6 さて、さばきつかさの統治第八年には、教会の人々は次第に高慢になり始めた。それは、彼らが勤勉であることによって得た非常に多くの[1]富と[2]織り目の細かい絹と、より糸で織った亜麻布と、大小の多くの家畜の群れと、金と銀、あらゆる貴重な品々のためであった。彼らはこれらのものに恵まれて非常に高価な衣服を身に着けるようになり、高慢な目をもって高ぶった。

7 これは、アルマにとっても、またアルマから教会を見守る教師や祭司、長老の職に[1]任じられた多くの人にとっても、ひどい苦痛の種であった。彼らの多くは、すでに悪が教会の人々の中に入り始めているのを見て、非常に嘆いた。

8 教会の人々は[1]高慢な目をもって高ぶり、富や俗世のむなしいものに執着するようになり、互いにあざけり合い、[2]自分たちの思いと望みに添った考え方をしない者を迫害するようになってきた。アルマは、このような有様を見て、非常に憂い悲しんだ。

9 このようにして、さばきつかさの統治第八年に、教会の人々の中にひどい[1]争いが起こった。すなわち、[2]ねたみ、争い、悪意、迫害、高慢があり、彼らの高慢は神の教会に属していない者の高慢よりもひどかった。

10 このようにして、さばきつかさの統治第八年が終わった。教会員の悪事は、教会に属していない者た

---

4 ①モサ18・10−17 ②モサ29・42
5 ①モサ25・18−23、3ニフ26・21 ②GS「富」
6 ①アル1・29 ②GS「権威・権限・権能」
7 ①GS「うぬぼれ」「高慢」
8 ①アル1・21 ②GS「争い」
9 ①②GS「ねたみ」

ちにとって大きなつまずきの石となり、そのために教会の発展が鈍り始めた。

11 そして第九年の初めに、アルマは教会員の悪事を見た。また、教会員の良くない手本のために信仰心のない者たちが次々と罪悪を犯し、民の滅亡が訪れようとしているのも見た。

12 まことに彼は、人々の中にひどい不平等があり、一部の者たちが高慢になって高ぶり、ほかの者をさげすみ、乏しい者や着る物のない者、飢えている者、渇いている者、病気の者、苦しんでいる者に背を向けているのも見た。

13 さてこれは、人々の中に憂いをもたらした大きな原因であったが、その一方で、ある人々はへりくだり、自分の持ち物を貧しい者や乏しい者に分け与え、飢えている者に食物を与えるなどして、助けを必要としている者を助けており、さらにあらゆる苦難に耐えていた。彼らは預言の霊の示すとおりに、将来来られるキリストを信じていたからである。

14 また彼らは、キリストの来臨の日を待ち望んで、罪の赦しを保ち、イエス・キリストの御心と力と死の縄目からの解放とによって死者の復活がもたらされることを考えて、大きな喜びに満たされた。

15 さて、アルマは神に従う謙遜な人々の受けている苦難と、ほかの者たちが彼らに加える迫害と、民のあらゆる不平等を見て、非常に嘆いたが、それでも主の御霊は彼から離れなかった。

16 アルマは教会の長老たちの中から一人の賢明な人を選び、民の声によって彼に権限を授けて、彼がすでに定められている法律に添う法律を制定する権限と、また人々の悪と罪科とに応じてその法律を適用する権限を持てるようにした。

17 さて、この人の名はニーファイハといって、大さばきつかさに任命された。そして、彼は人々を裁判し、また治めるために、さばきつかさの職に就いた。

18 しかしアルマは、教会の大祭司としての職は彼に授けることなく、大祭司の職は自分で保有し、さばきつかさの職だけをニーファイハに譲った。

19 彼がこのようにしたのは、彼自身が民の中に、すなわちニーファイの民の中に出て行って、人々に神の言葉を宣べ伝えて、彼らの義務を思い起こすように促すため、また人々の中にあるあらゆる高慢と悪巧みと争いを、神の言葉によって取り除くためであ

---

11 ① サ下12・14、アル39・
12 ① イザ3・14、ヤコ2・
11 ① 17 ② モサ4・26
13 ① GS「施し」
② GS「逆境」
③ 2コリ12・10
14 ① モサ4・12、アル5・
26−35、GS「義認・義とされる」
② GS「喜び」
15 ① 教義38・27、49・20
16 ① アル2・3−7
② アル1・1、14、18
17 ① アル7・1
② アル50・37
19 ① アル31・5、教義11・
② 21−22 モサ1・17、ヒラ12・
③ 3 エノ1・23
④

る。それは、純粋な証[5]をもって責めるほかに、人々
を改心させる方法がないことを知っていたからであ
る。
20 このように、ニーファイの民のさばきつかさの統
治第九年の初めに、アルマはニーファイハ[1]にさばき
つかさの職を譲り、自分はひたすら神の聖なる位
の大祭司[2]の職に専念し、啓示と預言の霊に従って御
言葉を証した。

神の聖なる位による大祭司であるアルマが、全地の
町と村で人々に告げた言葉。
次の第五章がそれに相当する。

第5章

救いを得るために、人は悔い改めて戒めを守り、再
び生まれ、キリストの血によって衣を清め、へりくだ
って高慢とねたみを除き去り、義の業を行わなければ
ならない。良い羊飼いは自分の民を呼び集める。悪い
行いをする者は悪魔の子である。アルマ、自分の語る
教義が真実であることを証し、人々に悔い改めるよう
に命じる。義人の名は命の書に書き記される。紀元前
約八十三年。

1 さて、アルマは最初にゼラヘムラの地で、その後、
国内の至る所で、人々に神[1]の言葉を告げ始めた。
2 アルマ自身の記録によると、彼がゼラヘムラの町
に設けられた教会で人々に語った言葉は、次のとお
りである。
3 「わたしアルマは、父アルマによって神の教会
の大祭司[1]に聖任[2]された。父はこのことを行う力と権
能[3]を神から授かっていたからである。見よ、わたし
はあなたがたに言う。父はニーファイの地の境、ま
ことに、モルモン[4]の地と呼ばれた所で教会の設立に
取りかかり、モルモンの泉で同胞にバプテスマを施
した。
4 そして見よ、わたしはあなたがたに言う。彼らは
神の憐れみと力により、ノア王の民の手から救い出[1]
された。
5 そして見よ、その後、彼らは荒れ野でレーマン人
の手によって奴隷[1]の状態となった。あなたがたに言
う。まことに、彼らは囚われの状態にあったが、再

---

19 ⑤ GS「証」
20 ① アル8・12
② モサ29・42、アル5・3、44、49
第5章
1 ① アル5・61
② アル4・19
3 ① アル4・4、18、20
② GS「聖任」
③ モサ18・13、3ニフ11・25
④ モサ18・4、3ニフ5・12
4 ① モサ23・1—3
5 ① モサ23・37—39、24・8—15

び主は、御言葉の力によって彼らを奴隷の状態から救い出された。そしてわたしたちはこの地に導かれ、この地でも至る所に神の教会を設立するようになった。

6 さて見よ、今この教会に属している同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、先祖が囚われの状態にあったことをよく覚えているか。先祖に対する神の憐れみと寛容をよく覚えているか。また神が彼らを地獄から救い出されたことをよく覚えているか。

7 見よ、神は彼らの心を改めさせ、彼らを深い眠りから覚まされたので、彼らは目覚めて神に従った。見よ、彼らはかつて暗闇のただ中にいたにもかかわらず、後に永遠の御言葉の光に照らされるようになった。まことに彼らは死の縄目[1]と地獄[2]の鎖に縛られ、永遠の滅びが彼らを待ち受けていた。

8 さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。彼らは滅ぼされたか。見よ、あなたがたに言う。いや、滅ぼされなかった、と。

9 わたしはまた尋ねる。死の縄目は断たれ、彼らを縛っていた地獄の鎖は解かれたか。わたしはあなたがたに言う。そのとおり、死の縄目と地獄の鎖は解かれ、彼らの心は広がり、彼らは贖いをもたらした愛について歌った。彼らは今、救われている、とわたしはあなたがたに言う。

10 それではあなたがたに尋ねるが、彼らはどのような条件で救われているのであろうか。まことに、彼らは何を根拠にして、救いを望むことができたのであろうか。彼らが死の縄目と地獄の鎖から解かれた理由は何であろうか。

11 見よ、わたしはあなたがたに告げることができる。父アルマは、アビナダイの口から告げられた御言葉を信じなかったか。アビナダイは聖なる預言者ではなかったか。彼は神の御言葉を語らなかったか。父アルマはそれを信じなかったか。

12 父は信じたので、心の中に大きな変化が生じた。見よ、わたしはあなたがたに言う。このことはすべて真実である。

13 そして見よ、父はあなたがたの先祖に御言葉を宣べ伝え、彼らの心の中にも大きな変化が生じた。そして、彼らはへりくだり、まことの生ける神に信頼を寄せた。そして見よ、彼らは最後まで忠実であっ

---

5 ②
7 ①
10 ①
11 ①
12 ①
13 ①
19 ②
23 ②
モサ 24・17
モサ 15・8
アル 12・11、教義 138・
GS「贖いの計画」
「救い」
モサ 17・1—4
GS「改宗」
モサ 18・7
モル 9・28、教義 20・
③
④
GS「信頼」
GS「堪え忍ぶ」

たので、救われたのである。
14 さて見よ、教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。
15 あなたがたは、自分たちを造られた御方の贖いを信じる信仰を働かせているか。あなたがたは信仰の目をもって待ち望み、この死すべき体がよみがえって不死のものとなり、この朽ちるものがよみがえって朽ちないものとなって、死すべき体にあってなした行いに応じて裁かれるために神の御前に立っている有様を見ているか。
16 わたしはあなたがたに言う。あなたがたはその日、『祝福された者たちよ、わたしのもとに来なさい。見よ、地の面でのあなたがたの行いは義の業であった』と言われる主の声を聞く自分自身を、今、心に描くことができるか。
17 それとも、あなたがたが今、心に描いているのは、その日主に向かって偽りを言い、『主よ、地の面でのわたしの行いは義にかなった行いでした』と語って、主から救いを得ようとしている自分自身であろうか。
18 それとも、自分のすべての罪を思い起こし、まことに、自分の犯したすべての悪をことごとく思い出し、まことに、神の戒めを無視してきたことを思い起こしながら、罪悪感と悔恨の情にさいなまれながら、神の裁きの座に連れ出される自分自身を、今、心に描くことができるであろうか。
19 わたしはあなたがたに言う。あなたがたはその日、純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか。あなたがたに言うが、あなたがたは、自分の顔に神の面影を刻まれた有様で仰ぎ見ることができるか。
20 わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、たとえ自分の身をゆだねて悪魔の手下になったとしても救われる、と考えているだろうか。
21 わたしはあなたがたに言う。あなたがたが救いを得られないことは、その日に分かるであろう。だれも衣を白く洗い清められないかぎり、救いを得られないからである。まことに、人の衣は、わたしたちの先祖がこれまで語ってきた御方の血によって、すべての汚れがきれいになるまで清められなければな

14 ①モサ 27・24—27、アル 22・15、GS「再び生まれる」 ②ロマ 8・11—17、モサ 5・2、モセ 6・65、GS「改宗」
15 ①GS「創造・創造する」 ②GS「復活」 ③GS「最後の裁き」
16 ①マタ 25・31—46
17 ①3 ニフ 14・21—23
18 ①エゼ 20・43、2 ニフ 9・14、モサ 3・25、アル 11・43
19 ①1 ヨハ 3・1—3
20 ①モサ 2・32 ②1 ニフ 12・10、アル 13・11—13、3 ニフ 27・19 ③GS「清さ」
21 ①GS「救い」

らない。その御方は、御自分の民を罪から贖うために必ず来られる。

22 そこで、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたの中で血とあらゆる[2]汚れで汚れた[1]衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば、その人はどのように感じるであろうか。見よ、それらのものは、あなたがたについてどのような不利な証言をするであろうか。

23 見よ、それらのものは、あなたがたが人殺しであること、また、あらゆる悪事を犯した者であることを証言しないであろうか。

24 見よ、わたしの同胞よ、あなたがたはこのような人が、今清められていて染みのない、清くて白い衣を着ているアブラハム、イサク、ヤコブ、そのほかすべての聖なる預言者とともに、神の王国で座に着く場所を得られると思うか。

25 わたしはあなたがたに言う。それは得られない。あなたがたがわたしたちの創造主を世の初めからの偽り者としないかぎり、または世の初めからの偽りの者であると思わないかぎり、このような人々が天の王国で住む場所を得られるとは思えない。かえって、このような人々は悪魔の王国の子であるから、追い出されるであろう。

26 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。

27 あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、心の中で自分は十分にへりくだっていると言えるであろうか。また、自分の衣は、将来御自分の民を罪から贖うために来られるキリストの血によって清められ、白くされていると言えるであろうか。

28 見よ、あなたがたは高慢な心を取り去っているか。わたしはあなたがたに言う。もし取り去っていなければ、神にお会いする用意ができていない。見よ、あなたがたは早く用意をしなければならない。天の王国はすでに近く、このような人は永遠の命を得られないからである。

29 見よ、わたしは言う。あなたがたの中にねたみを

22① イザ 59・3
22② GS「汚れ」
23① イザ 59・12
24① ルカ 13・28
25① 2ニフ 9・9
26① GS「改宗」
26② アル 26・13
26③ モサ 4・12、教義 20・31−34
27① GS「義認・義とされる」
28① GS「謙遜」
28② GS「贖い・贖う」
28③ GS「高慢」
29① GS「ねたみ」

取り去っていない人がいるか。わたしはあなたがた
に言う。このような人は用意ができていないので、
早く用意をしてほしい。時は近づいており、いつそ
の時が来るか分からないからである。そして、この
ような人は罪がないとは認められない。
30 また、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの
中に自分の兄弟をあざけっている人、あるいは兄
弟に迫害を加えている人がいるか。
31 このような人は、用意ができていないので災いで
ある。悔い改めなければならない時が近づいてい
る。悔い改めなければ救われないであろう。
32 まことに、罪悪を行う人はすべて災いである。
『悔い改めよ。悔い改めよ』と主なる神は言われた。
33 見よ、主はすべての人を招き、憐れみの御腕を伸
べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたが
たを受け入れよう』と言われる。
34 まことに、主は言われる。『わたしのもとに来なさ
い。あなたがたは命の木の実を食べるであろう。あ
なたがたは価なしに命のパンを食べ、命の水を飲む
であろう。
35 まことに、わたしのもとに来て、義の業を行いな
さい。そうすれば、あなたがたは切り倒されて火の
中に投げ込まれることはない。
36 見よ、良い実を結ばない者、すなわち義の業を行
わない者の嘆き悲しむ時が近づいている。』
37 おお、罪悪を行う人々よ。俗世のむなしいものを
誇る人々よ。義の道を知っていると公言しながら、
羊飼いがこれまでも、また現在も呼んでおられるに
もかかわらず、その声を聴こうとしないで、まるで
羊飼いのいない羊のように迷っている人々よ。
38 見よ、あなたがたに言う。良い羊飼いはあなたが
たを呼んでおられる。しかも御自分の御名、すなわ
ちキリストの御名によってあなたがたを呼んでおら
れる。もしあなたがたがその良い羊飼いの声を、将
来その名によってあなたがたが呼ばれるその御名
を聴こうとしないならば、見よ、あなたがたはその
良い羊飼いの羊ではない。
39 さて、もし良い羊飼いの羊でなければ、あなたが
たは何の羊の群れに属しているのであろうか。見
よ、わたしはあなたがたに言う。悪魔があなたがた
の羊飼いであり、あなたがたは悪魔の羊の群れに属
している。これを否定できる者がだれかいるであろ

30 ① GS「悪口」
32 ① 詩篇5・5
33 ① アル19・36、3ニフ18・25
② ヤコ6・5、3ニフ9・14
34 ① 2ニフ26・24—28、3ニフ9・13—14
② 1ニフ8・11、15・36
③ 2ニフ9・50—51、アル42・27
④ GS「命のパン」
36 ① マタ3・10、7・15—20、3ニフ14・19、教義97・7
37 ① GS「むなしさ」
② 箴言1・24—27、イザ65・12
③ エレ26・4—5、アル10・6
④ マタ9・36
⑤ 2ニフ12・5、28・14、モサ14・6
38 ① GS「良い羊飼い」
② 3ニフ15・24、18・31
③ モサ5・8、アル34・38
④ レビ26・14—20、教義101・7
39 ① マタ6・24、ルカ16・13
② モサ5・10、GS「悪魔」

うか。見よ、わたしはあなたがたに言う。これを否定する者は偽り者であり、悪魔の子である。

40 わたしはあなたがたに言う。善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出るからである。

41 したがって、人がもし善い行いをするならば、その人は良い羊飼いの声を聴き、良い羊飼いに従う。しかし、悪い行いをする者はだれであろうと、悪魔の子になる。悪魔の声を聴き、悪魔に従うからである。

42 そして、このように行う者はだれであろうと、悪魔から報いを受ける。したがって、このような者はすべての善い行いに対して死んだ有様になるので、義にかかわることについて報いとして死を受けるのである。

43 さて、わたしの同胞よ、わたしの言うことを聞いてほしい。わたしは心を込めて語っており、またあなたがたが誤解しないように、見よ、分かりやすく語ってきた。すなわち、神が命じられるままに語ってきた。

44 わたしは、キリストなるイエスにある神の聖なる位に従って、このように語るように召されているからである。まことに、わたしは、将来起こることについて先祖が語ってきたことを、立ってこの民に証するように命じられている。

45 そしてこれだけではない。あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであるのを知ったと思うか。

46 見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であるのを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。

47 さらに、あなたがたに言う。先祖が語ってきた言葉が真実であることは、わたしの内にある預言の霊

---

1) 1ヨハ 2・22
2) 2ニフ 9・9
3) オム 1・25、エテ 4・12、モロ 7・12、15−17
4) 3ニフ 14・16−20、GS「行い」
1) モサ 16・3−5、アル 11・23
2) アル 3・26−27、教義 42
1) ロマ 6・23
2) ヒラ 14・16−18、GS「死（霊の）」 29・45
1) アル 13・6
2) GS「証」 44
1) 1コリ 2・9−16
2) GS「断食」 45
1) GS「啓示」 46

によってもわたしに示されてきた。これはまた、神の御霊の現れによるものである。

48 わたしはあなたがたに言う。将来起こることについてこれからあなたがたに語ることは、何事もすべて真実であると、わたしは自分で知っている。わたしはあなたがたに言う。わたしはイエス・キリストが将来来られることを知っている。イエス・キリストは御子、すなわち御父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。見よ、世の罪、まことにその御名を確固として信じるすべての人の罪を取り除くために来られるのは、この御方である。

49 わたしはあなたがたに言う。まことに、わたしの愛する同胞とこの地に住むすべての人に教えを説き、まことに、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、まことに、老人にも中年の人にも青年にも、すべての人に教えを説き、まことに、彼らに悔い改めて再び[1]生まれなければならないことを叫び求めること、これが、わたしが召された[2]位である。

50 まことに御霊は言われる。『地の果てに至るすべての者よ、悔い改めよ。天の王国はもう近い。まことに、神の御子は、[1]栄光、威勢、尊厳、力、主権を帯びて来られる。』まことに、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに言う。御霊は、『見よ、全地の[2]王であり、また天の王でもある御方の栄光が、間もなくすべての人の子らの中に輝き渡る』と言われる。

51 御霊はまたわたしに語り、まことに、力強い声でわたしに叫んで、『出て行ってこの民に、「悔い改めよ。悔い改めないかぎり決して[1]天の王国を受け継ぐことはできない」と言いなさい』と言われる。

52 またわたしはあなたがたに言う。御霊は言われる。『見よ、[1]斧は木の根元に置かれている。したがって、良い実を結ばない木はことごとく[2]切り倒されて火の中に、まことに燃え尽きることのない火、すなわち消すことのできない火の中に投げ込まれる。見よ、聖者がこのように言われたということをよく覚えておきなさい。』

53 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこれらの御言葉に反論できるか。まことに、これらのことを退け、聖者を足の下に[1]踏みつけることができるか。まことに、あなた

49 ① GS「再び生まれる」
② GS「神権」「召し」
50 ① GS「イエス・キリストの再臨」「栄光」
② 詩篇24篇、マタ2・2、ルカ23・2、2ニフ10・14、教義38・21—22、GS128・22—23、モセ7・53、GS「イエス・キリスト」「神の王国・天の王国」
51 ① GS「天」
52 ① ルカ3・9、教義97・7
② ヤコ5・46、6・7、3ニフ27・11—12
53 ① 1ニフ19・7

がたの心を高慢[2]にして誇ることができるか。まことに、あなたがたはこの後もなお、高価[3]な衣服を着て、俗世[4]のむなしいもの、自分の富に執着し続けるつもりか。

54 まことに、あなたがたはこの後もなお、自分はほかの者よりも優れていると思い続けるつもりか。まことに、へりくだり、神の聖なる位に従って歩む同胞を、迫害し続けるつもりか。その同胞は、神の聖なる位によってこの教会に導かれ、聖なる御霊によって聖[1]められており、そして今、悔い改めにふさわしい行いをしている。

55 また、あなたがたはこの後もなお、貧しい[1]人や乏しい人に背を向け、彼らにあなたがたの持ち物を与えないつもりか。

56 最後に、自分の悪の中にとどまるつもりのすべての人に言う。これらの人々は、すぐに悔い改めないかぎり、切り倒されて火の中に投げ込まれてしまうであろう。

57 さて、良い羊飼[1]いの声に従いたいと望んでいるすべての人に、わたしは言う。悪人から去り、離れ[2]、彼らの清くないものに触れてはならない。見よ、悪人の名は消[3]され、義人の名の中には数えられない。それは神の御言葉が成就するためである。神は言われる。『悪人の名が、わたしの民の名とともに並べられることはない。

58 義人の名は命の書[1]に書き記されるからである。わたしは義人に、わたしの右において受け継ぎを授ける』と。さて、わたしの同胞よ、あなたがたはこれに対して、何か反論することがあるであろうか。わたしはあなたがたに言う。たとえ反論したとしても、大したことはない。神の御言葉は必ず成就するからである。

59 多くの羊を飼っているとき、おおかみが入って来て、羊の群れを食い尽くすことのないように、羊の番をしない羊飼いがあなたがたの中にいるであろうか。そして見よ、おおかみが羊の群れの中に入って来れば、羊飼いはそのおおかみを追い払わないであろうか。そして最後に、できれば羊飼いは、そのおおかみを殺すであろう。

60 さて、わたしはあなたがたに言う。良い羊飼いは今、あなたがたを呼んでおられる。あなたがたがその声を聴くならば、良い羊飼いはあなたがたを御自

---

53 ② GS「高慢」
③ 2 ニファ 28・11—14、モル 8・36—39
④ 詩篇 62・10、教義 56・1
54 ① 16—18 GS「聖め」
55 ① 詩篇 109・15—16、ヤコ 2・17、ヒラ 6・39—40
57 ① GS「良い羊飼い」
② エズ 6・21、9・1、ネヘ 9・2、2 テサ 3・6、教義 133・5、14
③ 申命 29・20、モロ 6・7、教義 20・8
58 ① GS「命の書」

分の羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊になる。また良い羊飼いは、あなたがたが滅びることのないように、飢えたおおかみをあなたがたの中に決して入れてはならないと、あなたがたに命じておられる。

61さて、わたしアルマは、あなたがたに語ってきた言葉を、わたしに命じられた1)御方の御言葉のとおり実行するように、あなたがたに命じる。

62わたしは教会に属しているあなたがたに、これらのことを命令として告げる。そして、教会に属していない人々には、招きの言葉として次のように言う。『あなたがたも命の木の実を食べる者となれるように、来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい』と。」

第6章

ゼラヘムラの教会は清められ、整えられる。アルマ、教えを説くためにギデオンへ行く。紀元前約八十三年。

1さて、アルマはゼラヘムラの町に設けられた教会の人々に語り終えると、神の位に従って、1)按手により、教会を管理し見守る2)祭司たちと3)長老たちを4)聖任した。

2そして、教会に属していない者たちの中で、罪を悔い改めた者は、悔い改めのための1)バプテスマを受け、教会に受け入れられた。

3そして、教会に属していながら自分の悪事を1)悔い改めず、神の前にへりくだらない者、すなわち2)高慢な心で高ぶる者はだれであろうと、拒まれて、その名は3)消され、彼らの名は義人の中に数えられなかった。

4このようにして祭司たちと長老たちは、ゼラヘムラの町で教会の秩序を確立するようになった。

5さて、あなたがたは神の言葉がすべての人に自由に与えられたこと、神の言葉を聞くために集会をする特権が、だれからも奪われなかったことを理解してほしい。

6それでも神の子たちは、しばしば集まって、神を知らない者たちの幸いのためにともに1)断食し、熱烈に祈るように命じられた。

7さて、アルマはこのように整え終えると、彼らの

61① アル5・44
62① 1ニフ8・10、11・21−23
第6章
1① GS「按手」
1② 教義52・39
1③ GS「長老」
1④ GS「聖任」
2① GS「バプテスマ」
3① モサ26・6
3② GS「高慢」
3③ 出エ32・33、モサ26・36、アル1・24、5・57
6① 1ニ58、GS「破門」
GS「断食」

もとを、まことに、ゼラヘムラの町にある教会を去り、シドン川の東に渡ってギデオンの谷へ行った。[1] ニーホルの手によって剣で殺された、[2] ギデオンの名にちなんで名付けられたこの谷には、ギデオンの町という一つの町があった。

8 そして、アルマはそこへ行き、彼の先祖が語った言葉が真実であることを告げる啓示に従って、また彼の内にある預言の霊に従って、さらに、御自分の民を罪から贖うために来られる神の御子イエス・キリストの証と、彼が召された聖なる位によって、ギデオンの谷に設けられている教会に神の言葉を宣言した。書き記されているのは以上のとおりである。アーメン。

アルマがギデオンに住む民に告げた言葉。これはアルマ自身の記録による。

次の第七章がそれに相当する。

第7章

キリストはマリヤからお生まれになる。キリストは死の縄目を解き、御自分の民の罪を負われる。悔い改めてバプテスマを受け、戒めを守る者は、永遠の命を得る。汚れた者は神の王国を受け継ぐことができない。謙遜と信仰、希望、慈愛が求められる。紀元前約八十三年。

1 「見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたのもとに来る機会を得たので、わたし自身の言葉で、まことに、わたしの口からあなたがたに話したいと思う。わたしにはあなたがたのもとに来られないほど多くの務めがあり、[2] さばきつかさの職にすっかり掛かり切りになっていたので、直接あなたがたに語るのはこれが初めてである。

2 また、もしもさばきつかさの職を、わたしに代わって治めるほかの人に譲れなかったとしたら、わたしはこの度も来られなかったであろう。しかし主は、深い憐れみをもって、わたしがあなたがたのもとに来られるようにしてくださった。

3 また見よ、わたしはあなたがたが神の御前にへりくだり、神の恵みを懇願し続けていること、あなたがたが神の御前に罪のないこと、ゼラヘムラに住ん

---

7 ① アル 2・20
8 ① ② アル 1・9　黙示 19・10
第7章
1 ① アル 4・19
2 ① ② モサ 29・42　アル 4・16—18

でいる同胞が陥っているひどい苦境にあなたがたが陥っていないこと、これらのことを知りたいという大きな期待と深い望みを抱いてやって来た。

4 神の御名をほめたたえまつる。ゼラヘムラに住んでいる同胞が再び神の義の道に堅く立っていることを、神はわたしに知らせてくださり、まことにそれによって、非常に大きな喜びをわたしに与えてくださったからである。

5 わたしは、自分の内にある神の御霊によって、あなたがたについても喜べるであろうと確信している。しかしわたしは、あなたがたについての喜びが、ゼラヘムラの同胞のことで感じたような、ひどい苦しみと悲しみの末に得られるものでないことを願っている。見よ、彼らについてのわたしの喜びは、ひどい苦しみと悲しみに耐え抜いた末に得られたものだからである。

6 しかし見よ、わたしは、あなたがたが同胞のようにひどい不信仰な状態にないことを確信している。わたしは、あなたがたが高慢な心で高ぶっていないことを確信している。まことに、あなたがたが富や俗世のむなしいものに執着していないことを、わたしは確信している。まことに、あなたがたが偶像[1)]を礼拝しておらず、まことの生ける神[2)]を礼拝していること、そして、永遠の信仰をもって、将来与えられる自分の罪の赦しを待ち望んでいることを、わたしは確信している。

7 見よ、わたしはあなたがたに言う。将来多くのことがある。そして見よ、それらのどれよりも重要なことが一つある。見よ、贖い主が命を得て、御自分の民の中に来られる時は遠くない。

8 見よ、贖い主が御自分の死すべき幕屋に宿っておられるときにわたしたちの中に来られるとは、わたしは言わない。見よ、御霊はそのようにはわたしに言われなかった。今わたしは、このことについては知らない。しかし主なる神が、御自分の御言葉のとおりにすべてのことを行う力をお持ちであるということ、これについてわたしは知っている。

9 しかし見よ、御霊はわたしにこれだけを言われた。『この民に叫んで言いなさい。「悔い改めよ。主の道を備えよ。まっすぐな主の道を歩め。見よ、天の王国は近づいており、神の御子は地の面に来られるからである」と。』

---

6 ① 2ニフ9・37、ヒラ6・31
7 ① ② ダニ6・26
9 ① アル9・26
9 ② マタ3・2—3、アルモサ3・5、7・27、15・1—2

10 そして見よ、神の御子は、わたしたちの[1]先祖の地であるエルサレムで、[2]マリヤからお生まれになる。[3]マリヤは聖霊の力により覆われて身ごもり、[4]男の子、まことに神の御子をもうけるおとめであって、尊い、選ばれた器である。[5]

11 そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

12 また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。[1]また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、[2]彼らの弱さを御自分に受けられる。

13 さて、御霊はすべてのことを[1]御存じである。にもかかわらず、神の御子は御自分の民の罪を[2]負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられる。さて見よ、これがわたしの内にある証である。

14 さて、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、[1]再び生まれなければならない。再び生まれなければ天の王国を受け継ぐことができない、と御霊が言われるからである。したがって、自分の罪から洗い清められ、神の小羊を信じる信仰を持てるように、やって来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい。神の小羊は世の罪を取り除く御方であり、人々を救い、すべての不義から清める力を持つ御方である。

15 まことに、あなたがたに言う。来なさい。恐れてはならない。[1]たやすくまとわりつき、あなたがたを束縛して滅亡に至らせるすべての罪を捨てなさい。まことに、来て、罪を進んで悔い改める気持ちのあること、また、神の戒めを守るという神との聖約に進んで入ることを、神に示しなさい。そして、今日バプテスマの水に入ることによって、神にそのことを証明しなさい。

16 だれであってもこのように行い、その後、神の戒めを守る人は、わたしがその人に言うことを覚えているであろう。まことに、わたしの内で証する聖なる御霊の証によって、わたしがその人に永遠の命を得るであろうと語ったことを、その人は覚えている

---

10 ①歴上9・3、歴下15・9、1ニフ1・4、3ニフ20・29 ②モサ3・8、GS「マリヤ（イエスの母）」 ③イザ7・14、ルカ1・27 ④マタ1・20、モサ15・3 ⑤1ニフ11・13−21、イザ53・3−5、モサ14・3−5

11 ①2ニフ2・8、アル12・24−25、GS「十字架の刑」 ②ヘブ2・18、4・15、教義62・1

13 ①GS「神・神会」 ②モサ15・12、GS「贖罪」

14 ①GS「再び生まれる」

15 ①2ニフ4・18

であろう。
17さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはこれらのことを信じるか。見よ、あなたがたに言う。まことに、わたしは、あなたがたがこれらのことを信じているのを知っている。あなたがたがこれらのことを信じていることが分かるのは、わたしの内にある御霊の示しによる。そしてそれについて、すなわちわたしが語ってきた事柄について、あなたがたが深く信じているので、わたしは大いに喜んでいる。
18わたしは初めに、あなたがたが同胞のように苦境に陥っていないことを深く望んでいると言ったが、わたしの望みがそのとおりにかなえられたことを、わたしは知った。
19それは、あなたがたが義の道にいることがわたしには分かるからである。あなたがたが神の王国に通じる道にいること、まことに、1)神の道をまっすぐにしていることが、わたしには分かる。
20神は曲がった道を1)歩まれないということが、神の御言葉の証によってあなたがたに知らされてきたことを、わたしは知っている。神は一度言われたことは変更されないし、右から左へ、すなわち正しいことから誤ったことへ転じる気配さえもお見せにならない。したがって、神の道は一つの永遠の環である。
21また、神は1)清くない宮には住まわれない。それればかりでなく、汚れや清くないものは神の王国に受け入れられない。したがって、わたしはあなたがたに言う。2)汚れている者が、その汚れの中にとどまる時が来る。それは終わりの日である。
22さて、わたしの愛する同胞よ、これらのことをあなたがたに語ってきたのは、神への義務感をあなたがたに自覚させ、あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように、またあなたがたが、かつてそれによって受け入れられた神の聖なる位に従って歩めるようにするためである。
23さて、わたしはあなたがたが1)謙遜であり、従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐と寛容に富み、すべてのことについて自制し、いつも熱心に神の戒めを守るように、また霊的にも物質的にも、必要としているものは何でも求め、与えられるものについては何であろうといつも神に感謝するように願っている。
24また、あなたがたは1)信仰と希望、慈愛を必ず持つ

19① マタ3・3
20① 1ニフ10・19、アル37・12、教義3・2
21① 1コリ3・16—17、モサ2・37、アル6・19、34・36
② 1ニフ15・33—35、2ニフ9・16、モル9・14、教義88・35
23① GS「謙遜」
24① 1コリ13・1—13、エテ12・30—35、モロ7・33—48

ようにしてほしい。そうするときに、あなたがたはいつも多くの善い行いをするであろう。

25 主があなたがたを祝福し、あなたがたの衣を染1)みのない状態に保ってくださって、最後にはアブラハム、イサク、ヤコブ、および世界が始まって以来この世に住んだ聖なる預言者たちとともに、彼らの衣が染みのない状態であるようにあなたがたも染みのない衣を着て、もはや外に出されることなく天の王国で座に着けるように。

26 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは自分の内で証する御霊によって、これらの言葉をあなたがたに語ってきた。あなたがたが非常に熱心に、注意深くわたしの言葉を聞いてくれたので、心からうれしく思う。

27 神の1)平安が、あなたがたの信仰と善い行いに応じて、今から後とこしえに、あなたがたと、あなたがたの住まい、土地、家畜の群れ、すべての所有物、および婦人たちと子供たちのうえにとどまるように。」わたしが語ったのは以上のとおりである。アーメン。

第8章

アルマ、ミレクで教えを説き、バプテスマを施す。アモナイハで拒まれ、そこを去る。一人の天使が、引き返して民に悔い改めを叫ぶようにアルマに命じる。アルマ、アミュレクに迎えられる。アルマとアミュレク、アモナイハで教えを説く。紀元前約八十二年。

1 さて、アルマはここに書き記せない多くのことをギデオンの民に教え、また、以前ゼラヘムラの地で行ったように教会の秩序を確立した後、まことに、1)ギデオンの地からゼラヘムラの自宅に帰り、それまで果たしてきた務めを離れて休んだ。

2 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第九年が終わった。

3 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年の初めに、アルマはゼラヘムラを出て、1)シドン川の西にあって西方に荒れ野を望むミレクの地へ旅立った。

4 そして彼は、自分が召された神の1)聖なる位に従って、ミレクの地で人々を教え始めた。彼はミレクの全地で人々を教え始めたのである。

---

25 1) 2ペテ3・14
27 1) GS「平安・平和」
第8章
1 1) アル2・20、6・7
3 1) アル16・6―7
4 1) 教義107・2―4、GS「メルキゼデク神権」

5 そこで、その地の荒れ野の境の全域で、人々が彼のもとにやって来た。そして、その地の全域で、人々はバプテスマを受けた。

6 このようにして、彼はミレクの地で務めを終えると、そこを去り、ミレクの地の北方を三日間旅した。そして、アモナイハという町に着いた。

7 さて、ニーファイの民の地や町や村は、小さい村であってもすべて、最初にそこを所有した人の名を付けるというのが彼らの習わしであった。アモナイハの地についても同様であった。

8 さて、アルマはアモナイハの町に着くと、人々に神の言葉を宣べ伝え始めた。

9 しかし、サタンがすでにアモナイハの町の人々の心をしっかりと捕らえていたので、彼らはアルマの言葉を聴こうとしなかった。

10 それでも、アルマは精神を込めて熱心に働き、神に取りすがって熱烈に祈り、その町に住む人々に御霊を注いでくださるように、また、彼らに悔い改めのためのバプテスマを施させてくださるように願った。

11 それでも、彼らは心をかたくなにして、彼に言った。「見よ、我々はおまえがアルマであることを知っている。またおまえが、おまえたちの言い伝えによって国内の多くの場所に設けた教会の大祭司であることも、我々は知っている。我々はおまえの教会の者ではないし、そのような愚かな言い伝えは信じていない。

12 また、我々はおまえの教会の者ではないから、おまえには我々を治める力がないことも、我々は知っている。おまえはもうさばきつかさの職をニーファイハに譲ってしまったので、我々を治める大さばきつかさではない。」

13 人々はこのように言って、彼の言葉にことごとく反論し、彼をののしり、彼につばきを吐きかけ、彼を自分たちの町から追い出したので、彼はそこを去ってアロンという町へ向かって旅立った。

14 さて、彼がアモナイハの町に住んでいる人々の悪事のために悲しみに打ちひしがれ、多くの艱難と苦しみに耐えながら旅をしていたときに、すなわち、アルマがこのように悲しみに打ちひしがれていたときに、見よ、主の天使が彼に現れて言った。

15 「アルマ、あなたは幸いである。頭を上げて喜び

9 ① 2ニフ28・19—22、教義10・20
10 ① アル17・5
② エノ1・1—12
③ 3ニフ27・1、GS「祈り」
12 ① アル4・20
14 ① GS「逆境」、アル10・7—10、20
② GS「天使」

なさい。あなたには喜んでよい十分な理由がある。あなたは初めて神から御告げを受けて以来、忠実に神の戒めを守ってきたからである。見よ、わたしはあなたにその御告げを伝えた[1]者である。

16 そして見よ、わたしが遣わされたのは、あなたがアモナイハの町へ引き返してその町の民にもう一度教えを説くように、あなたに命じるためである。まことに、彼らに教えを説きなさい。まことに、悔い改めなければ主なる神が彼らを滅ぼ[1]されることを告げなさい。

17 見よ、彼らは今、あなたの民の自由を損なおうともくろんでいる。（主がこのように言われる。）それは、神が御自分の民に与えられた掟と裁決と戒めに反することである。」

18 さて、アルマは主の天使から御告げを受けると、すぐにアモナイハの地へ引き返した。そして、別の道、すなわちアモナイハの町の南にある道を通って町に入った。

19 町に入ったとき、彼は飢えていたので、一人の人に、「神の至らない僕に何か食べるものを下さいませんか」と言った。

20 するとその人は、彼に言った。「わたしはニーファイ人であり、あなたが神の聖なる預言者であることを存じています。示現の中で天使が、『迎えなさい』と、あなたのことを告げたからです。ですから、一緒にわたしの家においでください。わたしの食べ物を差し上げます。わたしは、あなたがわたしと家族に祝福をもたらす方であることを存じています。」

21 そしてその人は、アルマを自分の家に迎えた。その人はアミュレク[1]といった。彼はパンと肉を運んで来ると、アルマの前に置いた。

22 そこでアルマは、パンを食べて満たされた。そして彼は、アミュレクとその家族を祝福し、また神に感謝をささげた。

23 彼は食事をして満たされると、アミュレクに言った。「わたしはアルマであり、全地の神の教会を管理する大祭司[1]です。

24 そしてまことに、わたしは啓示と預言の霊によって、このすべての民の中で神の御言葉を宣べ伝えるように召されて、この地にやって来ましたが、人々はわたしを受け入れようとせず、追い出[1]しました。そこでわたしは、とこしえにこの地に背を向けるつ

15 (1) モサ 27・11−16
16 (1) アル 9・12、18、24
20 (1) アル 10・7−9
21 (1) GS「アミュレク」
22 (1) アル 10・11
23 (1) アル 5・3、44、49、13・1−20
24 (1) アル 8・13

もりでした。
25ところがまことに、わたしはもう一度引き返してこの民に預言し、彼らの罪悪について彼らを責める証を述べるように命じられました。
26さて、アミュレク、あなたは食べ物を与え、わたしを受け入れてくれたので、祝福を受けます。わたしは幾日もの間断食をしていたので、飢えていました。」
27それからアルマは民に教えを説き始めるまで、幾日もの間アミュレクの家に滞在した。
28さて、民はますますひどい罪悪を犯すようになった。
29そこで、御言葉がアルマに下った。「行きなさい。また、わたしの僕アミュレクにも告げなさい。『出て行って、この民に預言し、悔い改めるように言いなさい。悔い改めなければ主は怒ってこの民を罰し、その激しい怒りを解かれないと言いなさい』と。」
30それでアルマとアミュレクは、神の言葉を告げ知らせるために人々の中に出て行った。そして、二人は聖霊に満たされた。
31また彼らは、だれも彼らを地下牢に閉じ込めることもできなければ、殺すこともできないほどの[1]力を与えられていた。それでも彼らは、縄で縛られて牢に投げ込まれるまで、その[2]力を使わなかった。それは、主が彼らによって主の力を現されるようにするためであった。
32さて、彼らは出て行くと、主から授かった御霊と力によって、人々に教えを説き、また預言し始めた。

アモナイハの地にいる民に告げ知らされたアルマの言葉とアミュレクの言葉。アルマとアミュレクは牢に投げ込まれたが、彼らの内にある奇跡を起こす神の力によって救われる。これはアルマの記録による。

次の第九―十四章がそれに相当する。

第9章

アルマ、アモナイハの民に悔い改めるように命じる。主は終わりの時にレーマン人に憐れみを示される。ニーファイ人は、光を捨てればレーマン人によって滅ぼされる。神の御子が間もなく来られる。神の御子は、悔い改めてバプテスマを受け、御子の名を信じ

29① アル9・12、18、GS「悔い改め」
31① 1ニフ1・20
② アル14・17−29

る人々を贖われる。紀元前約八十二年。

1さらに、わたしアルマは、アミュレクを連れて出て行って、もう一度この民に、すなわちアモナイハの町にいる人々に教えを説くように神から命じられたので、彼らに教えを説き始めたところ、彼らはわたしと論争を始めて言った。

2「おまえは何者だ。人一人が大地は過ぎ去ると我々に説いて、我々がその人の証を信じるとでも思うのか。」

3彼らは、自分たちの語った言葉を理解していなかった。大地が過ぎ去ることを、彼らは知らなかったからである。

4彼らはまた、「たとえおまえが、この大きな町が一日で滅びてしまうと預言しても、我々はおまえの言葉を信じない」と言った。

5彼らは、心がかたくなで強情な民であったので、神にそのような驚くべき業がおできになることが分からなかった。

6また彼らは言った。「神は何者なので、そのように大いなる驚くべき業が現実に起こることをこの民に告げ知らせるのに、権能を持つ者をたった一人しか送らないのか。」

7そして、彼らはわたしを捕らえようとして進んで来たが、しかし見よ、捕らえなかった。そこで、わたしは彼らに告げ知らせるために勇気を奮って立ち、まことに、彼らに大胆に証して言った。

8「見よ、おお、邪悪でよこしまな時代の人々よ、どうしてあなたがたは先祖の言い伝えを忘れてしまったのか。まことに、何と早く神の戒めを忘れてしまったことか。

9あなたがたは、わたしたちの先祖リーハイが神の御手によってエルサレムから導き出されたことを覚えていないのか。あなたがたは、彼らが皆、神に導かれて荒れ野を通り抜けたことを覚えていないのか。

10またあなたがたは、神が何度もわたしたちの先祖を敵の手から救い出し、また、彼ら自身の同胞の手にかかって滅びることのないように彼らを守ってくださったことを、こんなに早く忘れてしまったのか。

11まことに、もしも神のたぐいない力と、神の憐れみと、わたしたちに対する神の寛容がなかったなら

第9章
2① 申命17・6
4① アル16・9−10
6① 出エ5・2、モサ11・27、モセ5・16
① ② アル10・12
8① アル10・17−25
9① 1ニフ2・1−7

ば、わたしたちは間違いなく、はるか以前に地の面から絶たれていたであろうし、また恐らく無窮の惨めで不幸な状態に置かれていたことであろう。

12 見よ、あなたがたに言う。神はあなたがたに、悔い改めるように命じておられる。悔い改めなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐことはできない。しかし見よ、そればかりではない。神はあなたがたに悔い改めるように命じてこられたので、悔い改めなければ、神はあなたがたを地の面から[1]ことごとく滅ぼされるであろう。まことに、神は怒ってあなたがたを罰し、その[2]激しい怒りを解かれることはないであろう。

13 見よ、あなたがたは、神がリーハイに、『あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える』と言われた御言葉を覚えていないのか。また神は、『わたしの命令を守らなければ、わたしの前から絶たれる』とも言っておられる。

14 レーマン人は神の戒めを守らなかったので、主の御前から絶たれた。あなたがたはこのことを覚えておいてほしい。わたしたちは、このことにおいて主の御言葉がすでに実証されていることを知っている。レーマン人はこの地で戒めに背き、主の御前から[1]絶たれた。

15 にもかかわらず、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが自分の罪の中にとどまるならば、裁きの日には、彼らの方があなたがたよりも[1]堪えやすいであろう。また、あなたがたが悔い改めなければ、まことに、この世でも彼らの方があなたがたよりも堪えやすいであろう。

16 それは、レーマン人に[1]与えられている約束が多くあるからである。彼らを[2]無知の状態にとどめたのは、彼らの先祖の[3]言い伝えである。したがって、主は彼らを憐れみ、彼らがこの地に[4]長く住めるようにされるであろう。

17 そして、彼らはある時期に、[1]導かれて主の御言葉を信じ、自分たちの先祖の言い伝えが正しくないことを知るようになるであろう。そして、彼らの多くが救われるであろう。主は御名を[2]呼ぶすべての人に憐れみを示されるからである。

18 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが悪事を続けるならば、この地でのあなたがたの生涯は延ばされない。[1]レーマン人があなたが

11 (1) モサ 16・11
12 (1) アル 8・16、10・19、23、27
13 (1) (2) 2ニフ 1・20、モサ 1・7、アル 37・13
14 (1) 2ニフ 5・20—24、アル 38・1
15 (1) マタ 11・22、24
16 (1) アル 17・15
(2) モサ 3・11
(3) モサ 10・11—17
(4) ヒラ 15・10—12
17 (1) エノ 1・13
(2) アル 38・5、教義 3・8
18 (1) アル 16・2—3

たのもとに送られるからである。もしあなたがたが悔い改めなければ、彼らが気づかないうちにやって来て、あなたがたは2)完全な滅亡に見舞われるであろう。これは主の激しい3)怒りによるのである。

19 あなたがたが罪悪のあるまま生き続けて主の民を1)滅ぼすことを、主は許されないからである。わたしはあなたがたに、そのとおりであると言う。もしニーファイの民と呼ばれる主の民が、主なる自分たちの神から授けられた非常に多くの光と非常に多くの知識を受けた後、罪と背きに陥るようなことがあるとすれば、主はむしろレーマン人がニーファイの民をことごとく滅ぼすのを許されるであろう。

20 まことに、ニーファイの民は、そのように主から厚い恵みを受けた民であり、まことに、ほかのあらゆる国民、部族、国語の民、民族に勝る恵みを受け、彼らの望みと信仰と祈りに応じて、過去、現在、未来のことをすべて示され、

21 また、神の御霊の訪れを受け、天使と語り、主の声による御告げを受け、預言の霊と啓示の霊と、そのほか異言で語る賜物、説教の賜物、聖霊の賜物、1)翻訳の賜物など、多くの賜物を受けてきた。

22 また、神によりエルサレムの地から主の御手によって1)救い出され、飢饉や病気、あらゆる患いから救われ、戦闘の際には滅ぼされないように強くされ、幾度も奴隷の状態から導き出されて現在に至るまで守られ、保護され、そしてこのように栄えてあらゆるものに富むようになった。

23 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。このように多くの祝福を主の御手から受けてきたこの民が、もし現在受けている光と知識に背くとすれば、わたしはあなたがたに言うが、もし彼らが戒めに背くならば、レーマン人の方がこの民よりもはるかに1)堪えやすいであろう。

24 見よ、主の1)約束がレーマン人に与えられているからである。しかし、あなたがたが戒めに背くならば、主の約束はあなたがたには及ばない。もし主に背くならば、あなたがたは地の面からことごとく滅ぼされてしまうと、主がはっきり約束し、そう明確に定めておられないであろうか。

25 このために、すなわちあなたがたが滅ぼされることのないために、主は天使を遣わして御自分の民の多くの者を訪れさせられた。そして、天使はこれら

---

18 ②アル16・9
19 ①1ニフ12・15、19—20、アル45・10—14
19 ③アル8・29
20 ①②アル24・30
20 ②GS「啓示」
21 ①オム1・20、モサ8・18—19、28・11—17
22 ①2ニフ1・4
23 ①②モサ27・16
23 ②マタ11・22—24
24 ①2ニフ30・4—6、教義3・20

の者に、出て行って、この民に次のように力強く叫
ぶように告げた。『[1]悔い改めよ。天の王国は近づい
ている。
26 今から多くの日が[1]過ぎないうちに、神の御子が栄
光のうちに来られる。神の御子の栄光は御父の[2]独り
子の栄光であり、その独り子は[3]恵みと公平と真理に
満ち、忍耐と[4]憐れみと寛容に富み、御自分の民の嘆
願を[5]聞くのも、また彼らの祈りにこたえるのも早い
御方である。
27 そして見よ、神の御子は、御子の御名を信じて悔
い改めのための[1]バプテスマを受ける人々を[2]贖うため
に来られる。
28 だから、主の道を備えなさい。すべての人が自分
の[1]行いに応じて、その行いの報いを[2]刈り取る時が近
づいているからである。すなわち、人はその行いが
義にかなっていれば、イエス・キリストの力と解放
によって自分自身の救いを刈り取り、その行いが悪
ければ、悪魔の力と束縛によって自分自身の[3]罰の定
めを刈り取ることになる。』
29 さて見よ、これが民に向かって叫ぶ天使の声であ
る。

30 そこで、わたしの[1]愛する同胞よ、あなたがたはわ
たしの同胞であるから、愛されて当然である。しか
し、あなたがたの心は神の御言葉に対して非常にか
たくなになっており、あなたがたは、[2]迷い堕落した
民となっているので、悔い改めに導く行いをしなく
てはならない。」
31 さて、わたしアルマがこれらの言葉を語り終える
と、見よ、人々はわたしに腹を立てた。わたしが彼
らのことを、心のかたくなな、[1]強情な民であると言
ったからである。
32 また、わたしが彼らのことを迷い堕落した民であ
るとも言ったので、彼らは腹を立て、わたしを捕ら
えて牢に投げ込もうとした。
33 しかしそのとき、主は彼らがわたしを捕らえて牢
に投げ込むのを許されなかった。
34 そこで、アミュレクも進み出て、彼らに教えを説
き始めた。この書には[1]アミュレクの言葉をすべては
書き記さず、その言葉の一部だけを記すことにする。

第10章

リーハイはマナセの子孫である。アミュレク、アル

25 ① アル7・9、ヒラ5・32
26 ① アル7・7
② GS「独り子」
③ GS「恵み」
④ GS「憐れみ」
⑤ 申命26・7
27 ① GS「バプテスマ」
② GS「贖い・贖う」
28 ① 教義1・10、6・33
② 詩篇7・16
③ GS「罰の定め」
30 ① 1ヨハ4・11
② アル12・22
31 ① 2ニフ25・28、モサ3・14
34 ① アル10章

マの世話をするように天使から命じられたことを述べる。義人の祈りは人々の命が救われる元となる。不義な法律家とさばきつかさが、民の滅亡の基を据える。紀元前約八十二年。

1 さて、アミュレクがアモナイハの地に住む人々に説いた言葉は、次のとおりである。

2 「わたしはアミュレクである。わたしはギドーナの子であり、ギドーナはイシマエルの子、イシマエルはアミナダイの子孫である。このアミナダイは、神殿の壁に神の指で書き記された言葉を解き明かした、あのアミナダイである。

3 そして、アミナダイはニーファイの子孫であり、ニーファイはエルサレムの地から来たリーハイの子、リーハイはマナセの子孫、マナセは兄たちの手によってエジプトに売られたヨセフの子である。

4 そして見よ、わたしも、わたしを知っているすべての人の中では少なからず信望を得ている者であり、まことに見よ、わたしには多くの親族と友人がいる。わたしはまた勤勉に働いて大きな富も得た。

5 それでもわたしは、主の道と、主の奥義と、驚くべき力については、まだ多くのことを知らない。いや、わたしはこれらのことについて多くを知らないと言ったが、しかし見よ、それは間違いである。わたしはすでに、主の奥義と、まことにこの民の命を守るために現された主の驚くべき力を、多く見てきたからである。

6 それでもわたしは、心をかたくなにした。幾度となく呼ばれたが、わたしは聞こうとしなかった。だからわたしは、これらのことについて知っていながら、知りたいと思わなかった。そこでわたしは、悪い心のまま、さばきつかさの統治第十年のこの七月の四日まで、神に背き続けた。

7 そしてわたしが、ごく身近な親族に会おうとして出かけたときに、見よ、主の天使がわたしに現れてこう言った。『アミュレクよ、あなたは主の預言者に食べ物を与えなければならないので、家へ戻りなさい。その預言者は聖なる人であり、神の選ばれた人である。その人は、この民の罪のために、幾日もの間断食をして飢えている。あなたは彼を自分の家に迎え、食べ物を与えなさい。そうすれば、彼はあなたとあなたの家族を祝福し、主の祝福があなた

第10章
1 ① アル 8・21—29
1 ② アル 9・34
3 ① 創世 41・51、歴上 9・3
3 ② 創世 37・29—36
3 ③ GS—ヨセフ（ヤコブの息子）
4 ① アル 15・16
5 ① GS「神の奥義」
6 ① アル 5・37
6 ② 教義 39・9
7 ① アル 8・20
7 ② アル 5・46、6・6、GS「断食」
7 ③ 使徒 10・30—35

とあなたの家族のうえにとどまるであろう。』

8 そこでわたしは、その天使の声に従い、我が家へ向かった。そして、我が家へ帰る途中で、天使がわたしに『自分の家に迎えよ』と言ったその人[1]に会った。その人こそ、これまであなたがたに神にかかわる事柄について語ってこられた、この方である。

9 天使は、この方が聖なる人[1]であるとわたしに言った。それでわたしは、この方が聖なる人であることを知っている。神の天使がそう言ったからである。

10 わたしはまた、この方が証されたことが真実であることを知っている。見よ、わたしはあなたがたに言う。主が生きておられるように確かに、主は御自分の天使[1]を遣わして、これらのことをわたしに明らかにしてくださった。この方アルマがわたしの家に住[2]んでおられたときに、天使がこれを明らかにしたのである。

11 見よ、この方はわたしの家族を祝福された。わたしと、女たち、子供たち、わたしの父、わたしの親族、すなわちわたしの一族[1]全員を祝福されたので、この方の告げられた言葉のとおりに、主の祝福がわたしたちのうえにとどまった。」

12 さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、人々は、自分たちが責めを受けている事柄について証する証人が一人にとどまらなかったので、またその証人たちがその内にある預言の霊によって将来起こることも証したので、驚いた。

13 それでも彼らの中には、この二人を問い詰めようと考えた者たちがいた。これらの者は、狡猾な策略[1]によって二人の言葉じりをとらえ、彼らに不利な証拠を見つけ、彼らをさばきつかさたちに引き渡して法律によって裁いてもらい、自分たちが彼らについて見せかけることができた、あるいは証明できた罪科に応じて彼らを殺すか、あるいは投獄するかしようとした。

14 さて、この二人を滅ぼそうとしたのは法律家[1]たちであった。法律家とは、人々が裁判のときに、すなわち人々がさばきつかさの前で犯罪の審理を受けるときに、彼らに雇われて、または任命されて法律を取り扱う者たちであった。

15 この法律家たちは、民のあらゆる策略と悪知恵に通じていた。そして、それによって彼らはその職業を巧みにこなしていた。

8(1) アルマ8・19−21
9(1) GS「聖い」
10(1) アルマ11・30−31
11(1)(2) アルマ8・22、27
12(1)(1) アルマ9・6
13(1)(1) アルマ11・21
14(1) アルマ10・24、11・20、14・18、21

16さて、彼らはアミュレクに質問を始め、彼に言葉の混乱を起こさせようと、すなわち、彼の語る言葉に矛盾を生じさせようとした。17しかし彼らは、アミュレクに自分たちの企てが知れてしまったのを知らなかった。彼らが質問を始めたとき、アミュレクは彼らの思いを[1]見抜いて言った。「おお、[2]邪悪でよこしまな時代の人々よ、法律家たちと偽善者たちよ。あなたがたは悪魔の基を据えている。神の聖なる人々を捕らえるために、わなと[3]落とし穴を仕掛けている。18義人の道を曲げるために策を巡らし、自分たちの頭に、この民が全滅するまで神の怒りを招こうとしている。19まことに、我々の最後の王モーサヤが王位を譲ろうとしたときに言ったことは、適切であった。モーサヤ王が王位を譲る相手がだれもいなかったので、この民は、民自身の声によって治められることになった。そのときに、もしこの民の声が罪悪を[1]選ぶ時が来れば、すなわちこの民が戒めに背く時が来れば、民の滅亡の機が熟しているとモーサヤ王が言ったが、実にそのとおりであった。20さて、わたしはあなたがたに言う。主があなたがたの罪悪を裁かれるのはふさわしいことである。主が御自分の[1]天使たちの声によってこの民に、『悔い改めよ。悔い改めよ。天の王国は近づいているからである』と叫ばれるのはふさわしいことである。21まことに、主が天使の声によって、『[1]わたしは公平と公正を手に携えて、わたしの民の中に降ろう』と叫ばれるのはふさわしいことである。22また、わたしはあなたがたに言う。もしも今、この地に住む義人の[1]祈りがなかったならば、あなたがたは完全な滅亡に見舞われていたことであろう。しかし、それはノアの時代の人々のように[2]洪水によるのではなく、飢饉と疫病と剣によったことであろう。23しかし、あなたがたが救われているのは、義人の[1]祈りによる。したがって、もしあなたがたが自分たちの中から義人を追い出すならば、そのときに主は手をとどめず、激しい怒りのうちに降って来て、あなたがたを責められるであろう。そのとき、あなたがたは飢饉と疫病と剣によって打たれるであろう。あなたがたが悔い改めなければ、その[2]時はすで

17①アル12・3、18・20、32、教義6・16
②教義10・21—27
8①③使徒13・10
19①モサ29・27、アル2・3—7、ヒラ5・2
20①アル8・14—16、13・22
21①モサ13・34
22①新ヤコ5・16、モサ27・14—16
②創世8・21、3ニフ22・8—10、GS「ノアの時代の洪水」
23①GS「祈り」
②アル34・32—35

に近い。」

24そこで、民はますますアミュレクに腹を立て、「この男は我々の公正な法律と我々の選んだ賢い法律家をののしっている」と叫んだ。

25しかし、アミュレクは手を伸ばし、さらに力強く彼らに叫んだ。「おお、邪悪でよこしまな時代の人々よ、なぜサタンはこのようにあなたがたの心をしっかりと捕らえたのか。なぜあなたがたはサタンに自分自身をゆだねようとするのか。サタンはあなたがたに告げられている御言葉を、あなたがたがその真実なままに理解しないように、あなたがたを支配する力を得て、あなたがたの目をくらましている。[1]

26見よ、わたしはあなたがたの法律に逆らう証を述べたか。あなたがたは分かっていない。あなたがたは、わたしがあなたがたの法律をけなしたと言うが、わたしはそのようなことはしていない。むしろわたしは、あなたがたの法律を支持し、あなたがたが罪に定められることを語った。

27見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの[1]法律家たちとさばきつかさたちの不義によって、この民の滅亡の基が据えられている。」

28さて、アミュレクがこれらの言葉を語ったところ、人々は彼を非難して叫んだ。「我々には分かる。この男は悪魔の子だ。我々にうそを言っている。[1]この男は我々の法律をけなした。それなのに、法律をけなさなかったと言っている。

29そのうえこの男は、我々の法律家とさばきつかさをののしった。」

30そして法律家たちは、アミュレクを責めるためにこれらの事柄を覚えておくように、人々の心の中にそれを植え付けたのである。

31その法律家たちの中に、ゼーズロムという名の者がいた。彼は法律家の中では最も有能な者の一人であり、民の中で多くの仕事を抱えていたので、アミュレクとアルマを責めた[1]中心人物であった。

32この法律家たちの目的は、利益を得ることであり、彼らは自分の働きに応じて利益を得たのであった。

第11章

ニーファイ人の貨幣制度についての説明。アミュレク、ゼーズロムと論じ合う。キリストは人々を罪のあ

25① 2コリ4・4、アルカ11・45−52
27① 14・6
28① アル14・2
31① アル11・20−36

るままでは救われない。天の王国を受け継ぐ人々だけが救われる。すべての人が不死不滅の状態によみがえる。復活後には死はない。紀元前約八十二年。

1さて、モーサヤ王の法律では、法律のさばきつかさであるすべての者、すなわち、さばきつかさとして任命されている者たちは、彼らの前に連れて来られた者たちを裁判するために働いた時間に応じて、俸給を受けることになっていた。

2そこで、もしある人がほかの人に借金をしてそれを返さないならば、その人はさばきつかさに訴えられた。すると、さばきつかさは職権を行使し、役人たちを遣わしてその人を自分の前に連れて来させた。そして、さばきつかさはその人を法律と、その人に対して提出された証拠によって裁判した。その結果、その人は強制的に借金を払わされるか、強制的に持ち物を取り上げられるか、または盗人や強盗として強制的に民の中から追い出された。

3また、さばきつかさは自分の働いた時間に応じて俸給を受けた。すなわち、一日について金一セナイン、または銀一セヌムを受けた。銀一セヌムは金一セナインに相当する。これは、定められた法律による。

4さて、ニーファイ人の各種の金貨と銀貨の名称は、その価値に従って挙げると次のとおりである。この名称はニーファイ人が付けたものである。彼らはエルサレムにいたユダヤ人の方法では計算していなかった。また、ユダヤ人の方法で量ることもしなかった。彼らはモーサヤ王が[1]確立したさばきつかさの治世に至るまで、民の意向と状況に応じて、時代ごとに貨幣単位と度量法を変えてきたのである。

5さて、その貨幣単位は次のとおりである。すなわち、金一セナイン、金一セオン、金一シュム、金一リムナ。

6銀一セヌム、銀一アムノル、銀一エズロム、銀一オンタイがあり、

7銀一セヌムは金一セナインに等しく、どちらも大麦一升、または各種の穀物一升分に相当した。

8さて、金一セオンの額はセナインの二倍の価値があり、

9また、金一シュムはセオンの二倍の価値があり、

10また、金一リムナは、一セナインと一セオンと一

シュムを合わせた価値があった。
11 また、銀一アムノルは二セヌムに等しく、
12 また、銀一エズロムは四セヌムに等しく、
13 また、銀一オンタイは、一セヌムと一アムノルと一エズロムを合わせたものに等しかった。
14 さて、貨幣単位の小さいものの価値は次のとおりである。
15 一シブロンは一セヌムの半分である。したがって、一シブロンは大麦半升分に相当する。
16 また、一シブルムは一シブロンの半分であり、
17 そして、一レアは一シブルムの半分である。
18 さて、これがニーファイ人の貨幣評価による数の取り方である。
19 また、金一アンテオンは三シブロンに等しい。
20 さて、さばきつかさたちは利益を得ることを唯一の目的としており、自分たちの働きに応じて俸給を受けたので、騒動を起こすように、またあらゆる争いと悪事を行うように人々を扇動した。それは、自分たちがさらに多くの働きができるように、そして、自分たちの前に持ち出される訴訟によって[1]金銭を得られるようにするためであった。そこで、彼らは人々を扇動してアルマとアミュレクに逆らわせたのである。
21 それで、ゼーズロムはアミュレクに質問を始め、「わたしが尋ねる少しの質問に答えてもらえるだろうか」と言った。ゼーズロムは善いことを損なうために悪魔の[1]策略に長じていた男であったので、アミュレクに、「わたしが質問することに答えてもらえるだろうか」と尋ねたのである。
22 そこで、アミュレクは彼に、「もしそれがわたしの内にある[1]主の御霊にかなうならば答える。わたしは主の御霊にかなわないことは何も言わない」と答えた。するとゼーズロムは彼に、「見よ、ここに銀六オンタイがある。あなたが至高者の実在を否定するならば、わたしはこれをすべてあなたに進呈しよう」と言った。
23 そこでアミュレクは言った。「おお、[1]地獄の子よ、なぜわたしをそそのかすのか。[2]義人はこのような誘惑に決して屈しないことを、あなたは知っているではないか。
24 あなたは神がおられないと信じているのか。いや、わたしはあなたに言うが、あなたは神がおられ

20 ①
21 ①
22 ①
23 ②

アルマ10・32
GS「聖霊」
アル5・41
GS「誘惑」

ることを知っている。しかし、あなたは神よりもその[1)]金の方を愛している。
25さて、あなたは神の御前でわたしに偽りを言った。あなたはわたしに、『この大枚の六オンタイを見なさい。これを進呈しよう』と言ったが、あなたは心の中では、それをわたしに渡すまいと考えている。あなたの望みはただ、わたしにまことの生ける神を否定させて、わたしを滅ぼす口実を得ることであった。さて見よ、あなたはこの大きな悪事のために報いを受けるであろう。」
26そこで、ゼーズロムがまた彼に、「あなたはまことの生ける神がいると言うのか」と問うた。
27そこでアミュレクは、「そのとおり、まことの生ける神がおられる」と答えた。
28そこでゼーズロムが、「神は何人もいるのか」と問うので、
29彼は、「そうではない」と答えた。
30またゼーズロムが重ねて、「どうしてあなたは、これらのことを知っているのか」と問うので、
31彼は、「[1)]天使がわたしにそれを知らせてくれた」と答えた。
32そして、ゼーズロムがまた、「将来来るというのはだれか。神の子なのか」と問うので、
33彼は「そのとおり」と答えた。
34ゼーズロムはまた、「神の子は、自分の民を罪があるまま救うのか」と言った。そこで、アミュレクは答えて言った。「わたしはあなたに、そうではないと言おう。神の御子は御自分の御言葉を否定し得ないからである。」
35ここで、ゼーズロムは人々に向かって言った。「あなたがたはこれらのことをしっかり覚えていてほしい。この男は、神はただ一人であると言った。しかし、神の子は将来来るが、自分の民を救わないとこの男は言う。まるで、この男は神に命じる権能を持っているかのようだ。」
36さて、アミュレクはまた彼に言った。「あなたは偽りを言っている。神の御子が御自分の民を罪のあるまま救われないとわたしが言ったことで、わたしが神に命じる権能を持っているかのように語ったとあなたは言う。
37わたしはもう一度あなたに言う。神の御子は人々を[1)]罪のあるまま救うことはおできにならない。わた

24① 1テモ6・10、テト1・11
31① アル10・7−10
34① ヒラ5・10−11
37① 1コリ6・9−10

しは神の御子の御言葉を否定することはできない。神の御子は、2)清くない者は決して3)天の王国を受け継ぐことができないと言われた。天の王国を受け継がなければ、どうして救われるであろうか。だから、あなたがたは罪のあるまま救われることはできないのである。」

38 さて、ゼーズロムはまた彼に、「神の子はまことの永遠の父であるのか」と尋ねた。

39 そこでアミュレクは彼に答えた。「そのとおり。神の御子は、天地とその中にある1)万物のまことの2)永遠の父である。神の御子は初めであり終わりであり、最初であり最後である。

40 また、神の御子は御自分の民を贖うために、将来2)この世に来られ、御自分の御名を信じる人々の背きを3)負われる。これらの人々は永遠の命を得る人々であり、これ以外の人々に救いは与えられない。

41 したがって、悪人はあたかも1)贖いがなかったかのような有様であり、ただ死の縄目からの解放だけがある。見よ、すべての人が死者の中からよみがえって2)神の御前に立ち、自分の行いに応じて3)裁かれる日が来るからである。

42 さて、肉体の死と呼ばれる死がある。そして、キリストの死は将来この肉体の死の1)縄目を解き、すべての人がこの肉体の死からよみがえる。

43 霊と体は再び1)結合して完全な形になり、手足も関節も、ちょうど今のわたしたちのような、その本来の造りに回復される。そして、わたしたちは今持っている知識を保ったまま、神の御前に連れ出されて立ち、自分のすべての2)罪をはっきりと思い出す。

44 さて、この復活は、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、男にも女にも、悪人にも義人にも、すべての人に与えられる。そして、髪の毛一筋さえも失われることはなく、すべてのものが今あるような、その完全な造りに、すなわち体に1)回復される。それから、自分の行いが善いか、それとも悪いか、行いに応じて2)裁かれるために、3)一つの永遠の神である御子なるキリストと4)御父なる神と聖なる御霊との法廷に連れ出され、罪の有無を問われる。

45 さて見よ、わたしは死すべき体の死について、また死すべき1)体の復活についてあなたに語ってきた。わたしはあなたに言う。この死すべき体は2)不死不滅

---

37 ② 1ニフ15・33、アル40・26、3ニフ27・19、GS「不信心」
③ GS「神の王国・天の王国」
39 ① コロ1・16、モサ4・2
② イザ9・6
40 ① ロマ11・26−27
② GS「世」
③ 出エ34・6−7、イザ53・5、1ヨハ2・2、モサ14・5、15・12、教義19・16−19
41 ① アル12・18、教義88・33
② 黙示20・12−13、アル42・23
42 ② GS「最後の裁き」
③ アル12・16
43 ① 2ニフ9・13、アル40・23
② GS「罪悪感」
③ 2ニフ9・14、モサ3・25、アル5・18
44 ① アル41・12−15
② 黙示20・12−13
③ 3ニフ11・27、36、GS「神・神会」
④ GS「神・神会ー父なる神」
45 ① アル40・23、教義88・16
② GS「不死不滅」

の体によみがえる。[3]死から、すなわち第一の死から命に移り、すべての人がもう死ぬことはあり得ない。[4]彼らの霊は体と結合して、決して分離しない。このように相合したものは、[5]霊的な、不死不滅のものとなり、彼らはもはや朽ちることがない。」

46 さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、人々はまた驚き、ゼーズロムもおののき始めた。このようにして、アミュレクの話は終わった。すなわち、わたしが書き記した言葉はこれだけである。

第12章

アルマ、ゼーズロムと論じ合う。神の奥義は忠実な人々にだけ示される。人は自分の思い、信じていること、言葉、行いによって裁かれる。悪人は霊の死を受ける。この死すべき生涯は試しの状態である。贖いの計画は復活をもたらし、また信仰によって罪の赦しももたらす。悔い改めた者は、神の独り子を通じて憐れみを受ける権利を持つ。紀元前約八十二年。

1 さて、ゼーズロムは、アミュレクを滅ぼすための[1]偽りと欺きをアミュレクに見破られ、彼の言葉に沈黙してしまうとともに、自分の罪を[2]自覚して震えおののき始めた。アルマはその様子を見ると、口を開いてゼーズロムに語り、アミュレクの言葉を確認し、さらに多くのことを説き始めた。すなわち、アミュレクよりもさらに詳しく聖文を説き明かし始めた。

2 さて、アルマがゼーズロムに語った言葉は、取り巻いていた人々にも聞こえた。群衆は大勢であった。アルマは次のように語った。

3 「ゼーズロムよ、あなたの偽りと悪巧みは見破られている。あなたは人に偽りを言っただけでなく、神にも偽りを言ったのだ。見よ、神はあなたの[1]思いをすべて御存じである。そして、あなたも分かっているように、あなたの思いは神の御霊によってわたしたちに知らされている。

4 あなたも分かっているように、わたしたちは、あなたのはかりごとが悪魔の狡猾さによって非常に狡猾であって、この民を偽り欺いて彼らにわたしたちに対する反感を抱かせ、わたしたちをののしり、追い出させるのに有効であることを知っている。

5 これはあなたの[1]敵のはかりごとであって、彼はあ

---

45 ③ GS「復活」
④ 黙示21・4、教義63・⑤ 49、88・116
1コリ15・44

第12章

1 ① アル11・20−38
② GS「良心」
3 ① ヤコ2・5、アル10・17、教義6・16
5 ① GS「悪魔」

なたの中で力を行使してきたのである。さて、わたしがあなたに告げることは、すべての人に告げることでもある。あなたがたはそのことを覚えておいてほしい。

6 見よ、わたしはあなたがた全員に言う。これはこの民を捕らえるために敵対する者の仕掛けたわなであり、これによって彼は、あなたがたを自分に服従させ、鎖であなたがたを縛り、束縛の力によってあなたがたに鎖をかけたまま、永遠の滅びに陥れようとしたのである。」

7 さて、アルマがこれらの言葉を語り終えると、ゼーズロムはさらにひどくおののき始めた。彼はますます神の力を感じ、またアルマとアミュレクが自分のことを知っていると分かったからである。彼は、二人が自分の心の思いと意図を知っていることに気づいた。彼ら二人は、預言の霊によってこれらのことが分かるように、力を与えられたのである。

8 そこでゼーズロムは、神の王国についてもっと多く知ろうとして、熱心に彼らに尋ね、アルマにこう言った。「アミュレクが死者の復活について語り、すべての人は正しい者も正しくない者も死者の中からよみがえり、ともに行いに応じて裁かれるために神の御前に引き出されて立つと言ったのは、どういう意味ですか。」

9 そこでアルマは、このことを次のように詳しく述べて彼に言った。「神の奥義を知ることは多くの人に許されている。しかしこれらの人々は、神が人の子らに授けておられるだけの御言葉しか伝えてはならないという、厳しい命令を受けている。神の御言葉は、人の子らが神に寄せる注意力と熱意の度合いに応じて与えられる。

10 したがって、心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか受けないが、心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される。

11 また、心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか与えられず、ついに神の奥義をまったく知らない有様となる。その後、これらの者は悪魔に捕らえられて、悪魔の意のままに滅びに引き込まれる。地獄の鎖とはこのことを意味する。

12 そしてアミュレクは、死と、この死すべき状態か

6 ①アル5・7−10
9 ①アル26・22、GS「神の奥義」 ②ヨハ16・12、アル29・8、3ニフ26・8−11、エテ4・7
10 ①2ニフ28・27、エテ4・8 ②③教義93・39 ③GS「謙遜」 ④2ニフ28・30、教義50・24
11 ①マタ25・29 ②GS「背教、背信」 ③箴言9・18、2ニフ2・29、GS「地獄」
12 ①28・4ヨハ8・34、2ニフ19、アル11・41−45

ら不死不滅の状態によみがえることと、行いに応じて裁かれるために神の法廷に連れ出されることについて分かりやすく話した。

13 したがって、もしわたしたちの心がかたくなであり、まことに、わたしたちが御言葉に対して心をかたくなにして、御言葉がわたしたちの中に見いだされないようになれば、そのとき、わたしたちの状態は恐ろしいものになるであろう。そのとき、わたしたちは罪に定められるからである。

14 わたしたちの言葉がわたしたちを罪に定め、まことに、行いもすべてわたしたちを罪に定めるので、わたしたちは染みのない者とは認められない。また、わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。そして、このような恐ろしい状態の中で、わたしたちはあえて神を仰ぎ見ようとはしないであろう。そして、神の御前から隠れるために、岩や山に自分の上に落ちてくるように命じることができれば、喜んでそうするであろう。

15 しかし、それはできない。わたしたちは出て来て、栄光と力、威勢、尊厳、主権を帯びておられる神の御前に立ち、永遠の恥辱を感じながら、神の裁きがすべて公正であること、神がすべての業を公正に進めておられること、神が人の子らに対して憐れみに富んでおられること、神が御名を信じて悔い改めにふさわしい実を結ぶあらゆる人を救う一切の権威を持っておられることを、認めなければならない。

16 さて見よ、わたしはあなたに言う。そのときに死がやって来る。第二の死、すなわち霊の死がやって来る。それは、肉体の死に関して罪のあるまま死ぬ者が霊の死をも受ける時である。まことにその人は、義にかかわることについて死ぬのである。

17 それは、彼らの受ける苦痛が、炎がとこしえに立ち上って消えることのない、火と硫黄の池のようになる時である。またそれは、彼らがサタンの力と束縛によって鎖をかけられて、永遠の滅びに至る時である。それは、サタンが意のままに彼らを従わせてしまったからである。

18 またあなたに言う。そのとき、彼らはあたかも贖いがなかったかのようになるであろう。彼らは神の正義によれば、贖いを受けることができないからである。また彼らは、もはや朽ちることがないので、死ぬこともできない。」

---

12 ②GS「最後の裁き」
14 ①マタ12・36、新ヤコ3・6、モサ4・29−30 ②ヨブ34・22、2ニフ12・10 ③ホセ10・8、2ニフ26・5
15 ①モサ3・25 ②2ペテ2・9−10
16 ①②GS「死（霊の）」 ②③アル11・40−45、1ニフ15・33、アル40・26
17 ①黙示19・20、21・8、モサ3・27
18 ①アル11・41 ②黙示21・4、アル11・45、教義63・49

19 さて、アルマがこれらの言葉を語り終えると、人々はことのほか驚いた。

20 ところが、人々の中に高官の一人でアンテオナという人がいた。彼は進み出ると、アルマに言った。「人は死者の中からよみがえって、この死すべき状態から、決して死ぬことのできない[1]不死不滅の状態に変えられるとあなたは言ったが、それはどういうことか。

21 聖文には、神が[1]エデンの園の東に[2]ケルビムと燃える剣を置いて、わたしたちの始祖が園に入って命の木の実を食べ、とこしえに生きることのないようにされたとあるが、それはどういう意味か。そうであるとすれば、わたしたちの始祖がとこしえに生きるという可能性がまったくないことになる。」

22 そこで、アルマは彼に言った。「わたしは、それを説明しようと思っていた。わたしたちの知っているように、アダムは禁断の[1]実を食べたことによって神の御言葉のとおりに[2]堕落した。また、わたしたちの知っているように、アダムが堕落したことにより、全人類は[3]迷い堕落した民となった。

23 さて見よ、わたしはあなたに言う。もしそのときにアダムが命の木の実を食べることができたとすれば、死ぬことはなく、御言葉はむなしくなって、神は偽り者とされていたことであろう。なぜなら神は、『[2]もし食べればあなたは必ず死ぬであろう』と言われたからである。

24 そして、わたしたちの知っているように、現在、[1]死が人類に及んでいる。まことに、アミュレクが語った死、つまり肉体の死が及んでいる。にもかかわらず、[2]人が悔い改めることができるように、猶予期間が与えられた。したがって、この世の生涯は試しの状態、すなわち神にお会いする[3]用意をする時期、わたしたちが前に語った死者の復活後に訪れるあの無窮の状態に対して用意をする時期となった。

25 さて、もし世の初めから備えられていた[1]贖いの計画がなかったならば、[2]死者の復活はあり得なかったであろう。しかし、前に語った死者の復活をもたらす贖いの計画はすでに備えられていた。

26 さて見よ、もしもわたしたちの始祖が行って[1]命の木から食べることができたとすれば、準備の状態がまったくないので、始祖はとこしえに不幸な状態でいたことであろう。したがって、[2]贖いの計画は挫折

20 ①GS「不死不滅」
21 ①GS「エデン」 ②創世3・24、アル42・2、モセ4・31、GS「ケルビム」
22 ①創世3・6、2ニフ2・15—19、モサ3・26 ②GS「堕落（アダムとエバの）」 ③モサ16・4—5
23 ①③アル42・2—9 ②創世2・17
24 ①②GS「死（肉体の）」 ②2ニフ2・21、モセ5・8—12
25 ①③アル34・32—35 ②GS「贖いの計画」 2ニフ2・8、アル7・12、42・23
26 ①創世2・9、1ニフ15・36、アル32・40 ②アル34・8—16、42・6—28、モセ6・59—62

し、神の御言葉はむなしくなって、何も成就しなかったであろう。

27しかし見よ、実際はそのようにはならず、人々は死ななければならないこと、そして死後に裁き[1]を受けなければならないことが定められた[2]。その裁きとは、わたしたちが前に語ったあの裁きであり、すなわち終わりである。

28また、神はこれらのことが人に起こるように定められた後、見よ、御自分が人のために定められたことについて、人が知っておくのが望ましいと認められた。

29そこで神は天使[1]たちを遣わして人々と語らせ、天使たちは人々に神の栄光を示した。

30すると人々は、そのときから神の御名を呼ぶようになった。そこで神は人々と語り[1]、世[2]の初めから備えられていた贖い[3]の計画を人々に示された。これを神は、彼らの信仰と悔い改め、彼らの聖なる行いに応じて示された。

31そして、神は人々に数々の戒め[1]を与えられた。人々がすでに現世にかかわることについての最初[2]の戒めに背き、神々のように善悪[3]をわきまえて行動す[4]る状態に自分自身を置いたため、すなわち、自分の意のまま、思いのままに、悪でも善でも行える状態に置かれたためである。

32そこで神は、贖いの計画を人々に示された[1]後、悪を行ってはならないという戒めを彼らに与えられた。悪を行うことに対する罰は第二の死[2]、すなわち義にかかわることについての永遠の死であった。このような者には、贖いの計画は何の力も及ぼさない。神の至善によれば、正義[3]の働きが損なわれてはならないからである。

33しかし神は、御自分の御子の御名によって人々に勧めて言われた。（これが用意された贖いの計画である。）『もしあなたがたが悔い改めて、心をかたくなにしなければ、そのとき、わたしは独り子を通じてあなたがたに憐れみを示そう。

34それゆえ、悔い改めて、心をかたくなにしない者はだれであろうと、わたしの独り子を通じて憐れみ[1]を受け、罪の赦し[2]を得る権利を持つ。これらの者はわたしの安息[3]に入るであろう。

35しかし、心をかたくなにして、罪悪を行おうとする者はだれであろうと、見よ、わたしは怒って、そ

---

27 ① GS「最後の裁き」
② ヘブ 9・27、教義 42・48
29 ① モロ 7・25、31、教義 42・51
30 ① 29・42、モセ 5・4−5、6・3、5、7−8
② モサ 18・13、アル 13・3
31 ① GS「贖いの計画」
② GS「戒め（神の）」
③ 創世 2・16−17、2ニフ 2・18−19
④ 創世 3・22−23、モセ 4・11
32 ① モセ 5・4−9「選択の自由」
② GS「死（霊の）」
③ モサ 15・27、アル 34・2ニフ 2・16、GS 15−16、42・15
34 ① GS「憐れみ」
② GS「罪の赦し」
③ GS「安息」

の者をわたしの安息に入れないと誓う。』

36 さて、わたしの同胞よ、見よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心をかたくなにするならば、あなたがたは主の安息に入れないであろう。そこで、あなたがたの罪悪は神を怒らせ、ちょうど人々が最初、神の怒りを引き起こしたときのように、神はあなたがたに怒りを下される。まことに、最初の時と同じように、最後の時にも神の御言葉のとおりに怒りが下され、あなたがたは永遠の滅びに至るのである。したがって、あなたがたは神の御言葉のとおりに、最初の死と同じように最後の死も受ける。

37 さて、わたしの同胞よ、わたしたちはこれらのことを知っており、これはほんとうのことであるので、主なるわたしたちの神がわたしたちに与えてくださったこれらの第二の戒めについて神を怒らせ、神の激しい怒りを招くことのないように、悔い改めて、心をかたくなにしないようにしようではないか。そして、神の御言葉のとおりに備えられている神の安息に入ろうではないか。」

第13章

人々が大祭司として召されるのは、その人自身の非常に深い信仰と善い行いのためである。大祭司は戒めを教えなければならない。彼らは義によって聖められ、主の安息に入る。メルキゼデクはその一人であった。天使たち、国中で喜びのおとずれを告げ知らせる。天使たちは将来、キリストの実際の来臨を知らせる。紀元前約八十二年。

1 「さて、わたしの同胞よ、主なる神が御自分の子供たちにこれらの戒めを与えられたときのことに、あなたがたの注意を向けたいと思う。あなたがたは、主なる神が、御子の位に従う聖なる位に従って祭司たちを聖任し、民にこれらの戒めを教えるようにされたことを覚えておいてほしい。

2 その祭司たちは神の御子の位に従って聖任されたが、人々はその聖任の仕方から、どのようにすれば神の御子を待ち望んで贖いを得られるかを知ることができた。

3 そして、祭司たちが聖任された方法は次のとおりである。すなわち、祭司たちは彼らの非常に深い信

36 ①② ヤコ1・7−8、アル42・6、9、14
37 ① GS「罰の定め」1ニフ17・30、ヤコ1・8、ヒラ7・18
② アル13・6−9
第13章
1 ①① アブ2・9、11
2 ①① 教義107・2−4
② アル13・16

仰と善い行いのために、神の先見の明によって世の初めから召され、備えられていた。彼らは初めに善を選ぶのも悪を選ぶのも任されていた。そこで彼らは、善を選んで、非常に深い信仰を働かせたので、現在、聖なる召しを受けている。まことに、このような者のために前もって用意された贖いとともに備えられ、また贖いに応じて備えられた、その聖なる召しを受けている。

4 このように、祭司たちは彼らの信仰のゆえにこの聖なる召しを受けたのである。一方、ほかの者たちは、その心がかたくなで、思いをくらませているために、神の御霊を拒んだ。もしそうでなかったならば、彼らはその同胞と同じ大きな特権を得ることができたであろう。

5 要するに、彼らは初めはその同胞と同じ立場にいた。このように、この聖なる召しは、心をかたくなにしない人々のために世の初めから備えられており、前もって用意された神の独り子の贖罪によって、また贖罪を通して定められている。

6 このように、祭司たちは人の子らに神の戒めを教えて、彼らも神の安息に入ることができるようにするため、この聖なる召しによって召され、神の聖なる位の大神権に聖任されたのである。

7 この大神権は神の御子の位に従うものであり、その位は世の初めから存在していた。言い換えれば、それは日の初めもなく年の終わりもなく、すべての物事に対する神の先見の明によって、永遠から永遠にわたって備えられているのである。

8 さて、彼らは次のようにして聖任された。すなわち、彼らは聖なる召しによって召され、聖なる儀式によって聖任されて、聖なる位の大神権を受けた。この召しと儀式と大神権は、初めもなく終わりもない。

9 このようにして、彼らはとこしえに御子の位に従う大祭司となる。この御子は御父のもうけられる独り子であり、日の初めもなく年の終わりもない御方であり、恵みと公平と真理に満ちておられる御方である。まことにそのとおりである。アーメン。

10 さて、この聖なる位、すなわち大神権について述べたように、聖任されて神の大祭司になった人は大勢いた。それは彼らの非常に深い信仰と悔い改めと、神の御前での彼らの義によるものであり、彼ら

---

3 ① 教義38・2
② アル12・25、30、GS「前世」
③ 教義127・2、GS「選び」「召し」
④ 教義138・55—56
⑤ GS「選択の自由」
⑥ GS「信仰」
⑦ GS「神権」「召し・神の召し」
4 ① エテ12・10
② 1ニフ17・32—35
5 ① 2ニフ26・28
② アル12・37、16・17、GS「安息」
6 ① ヘブ7・3
② GS「神・神会」
7 ① 教義84・33—42、GS「メルキゼデク神権」
8 ① GS「大祭司」
② 2ニフ2・6、GS「恵み」
9 ① 教義84・18—22
② GS「悔い改め」
10 ① アル12・25、30、GS「前世」
② 教義127・2、GS「選び」「召し」
③ 教義138・55—56
④ GS「選択の自由」
⑤ GS「信仰」
⑥ GS「神権」「召し・神の召し」
⑦ エテ12・10
1ニフ17・32—35
2ニフ26・28
アル12・37、16・17、GS「安息」
ヘブ7・3
GS「神・神会」
教義84・33—42、GS「メルキゼデク神権」
GS「大祭司」
2ニフ2・6、GS「恵み」
教義84・18—22
GS「悔い改め」

は滅びることよりも、むしろ悔い改めて義を行う方を選んだのである。

11 そのために、彼らはこの聖なる位に従って召され、1)聖められて、彼らの2)衣は小羊の血によって白く洗い清められた。

12 そして彼らは、1)聖霊によって2)聖められ、衣を白くされ、神の御前に3)清く、染みのない状態になったので、4)罪を見て忌み嫌うのを5)禁じることができなかった。このように清められて、主なる神の安息に入った人々は大勢おり、非常に多くの数に上った。

13 さて、わたしの同胞よ、あなたがたもその安息に入れるように、神の御前にへりくだり、1)悔い改めにふさわしい実を結んでほしい。

14 まことに、1)メルキゼデクの時代の民のようにへりくだりなさい。メルキゼデクも、わたしがこれまで語ってきたこの同じ位に従う大祭司であり、とこしえに大神権を受けた人である。

15 1)アブラハムが2)什分の一を納めた相手はこのメルキゼデクであった。まことに、わたしたちの先祖アブラハムは、彼の所有したすべてのものの十分の一をこの人に納めたのである。

16 さて、これらの1)儀式は、それによって人々が神の御子を待ち望めるように定められた。それは神の御子の位の予型、2)すなわち神の御子の位そのものであった。これが行われたのは、人々が自分の罪の赦しを受けるために神の御子を待ち望んで、主の安息に入れるようにするためであった。

17 ところで、このメルキゼデクは、サレムの地を治める王であった。彼の民はかつて罪悪と忌まわしい行いを募らせていた。彼らは皆迷って、あらゆる悪事にふけっていたのである。

18 しかし、メルキゼデクは力強い信仰を働かせ、神の1)聖なる位に従う大神権の職を受けたので、民に悔い改めを説いた。すると見よ、彼らは悔い改めた。そして、メルキゼデクは生涯その地に平和を確立した。そのために、彼はサレムの王であったので、平和の君と呼ばれた。彼はその父の下で国を治めた。

19 さて、メルキゼデクよりも前に1)多くの人がおり、メルキゼデクより後にも多くの人がいたが、彼よりも偉大な人は一人もいなかった。そのため、人々が彼について述べることは特別であった。

20 さて、わたしがそのことを並べ立てる必要はな

---

11 ①モセ 6・59−60 ②1ニフ 12・10、アル 5・21−27、3ニフ 27・19−20
12 ①GS「聖霊」 ②ロマ 8・1−9、GS「聖め」 ③GS「清さ」 ④モサ 5・2、アル 19・33 ⑤箴言 8・13、アル 37・29
13 ①ルカ 3・8
14 ①教義 84・14、JS 創世 14・25−40、GS「メルキゼデク」
15 ①GS「アブラハム」 ②創世 14・18−20、マラ 3・8−10、GS「什分の一」
16 ①GS「儀式」 ②GS「象徴」
18 ①②GS「メルキゼデク神権」
19 ①ヒラ 8・18、教義 84・6−16、107・40−55 ②教義 107・1−4

く、これまで語ってきたことで十分であろう。見
よ、[1]聖文はあなたがたの前にある。もし聖文を[2]曲げ
て解釈するならば、あなたがた自身の滅びを招くで
あろう。」
21 さて、アルマは彼らにこれらの言葉を語り終える
と、彼らに向かって手を伸ばし、力強い声で叫ん
だ。「今こそ[1]悔い改める時である。救いの日は近づい
ている。
22 主の声は、天使たちの[1]口を通して、すべての国民
にそれを告げ知らせておられる。まことに、彼らが
胸躍る大いなる喜びのおとずれを得られるように、
それを告げておられる。主は御自分のすべての民の
中に、すなわち地の面に広く散らされている御自分
の民に、これらの喜びのおとずれを告げて広めてお
られる。そして、それはわたしたちにも明らかにさ
れたのである。
23 また、そのおとずれは、わたしたちが誤りなく理
解できるように、[1]分かりやすい言葉で知らされてい
る。これは、わたしたちが異郷で[2]流浪の民となって
いるからである。このようにわたしたちは、自分の
ぶどう園の全域でこれらの喜びのおとずれを告げ知
らされているので、非常に恵まれている。
24 見よ、[1]天使たちはわたしたちの地で多くの人にそ
れを宣言している。これは、主が栄光のうちに来ら
れるときに、人の子らが主の御言葉を受け入れるよ
うに、彼らの心を備えさせるためである。
25 そして、今や主の来臨について、天使たちの口を
通してわたしたちに告げ知らされる、喜びに満ちた
おとずれを聞くのを待つばかりである。どれくらい
早く来るか[1]分からないが、その時が来るからであ
る。それがわたしの生きている間であるようにと神
に願っている。しかし、それが早くても遅くても、
わたしはそれを喜ぶ。
26 主の来臨の時には、そのことが天使たちの口を通
して、[1]正しい聖なる人々に知らされるであろう。そ
れは、わたしたちの先祖が彼らの内にある預言の霊
に従って主について語ってきたとおりに、彼らの言
葉が成就するためである。
27 さて、わたしの同胞よ、まことにわたしが心痛を
感じるほどにひどく心配するとともに、心の底か
ら[1]願っていることがある。それは、あなたがたがわ
たしの言葉を聴き、罪を捨て、悔い改めの日を先に

20 ① GS「聖文」
② 2ペテ3・16、アル41・1
21 ① GS「悔い改め」
22 ① アル10・20
23 ① 2ニフ25・7－8、31・3、32・7、ヤコ4・13、エテ12・39
② ヤコ7・26
24 ① アル10・10、39・19
25 ① 1ニフ10・4、3ニフ1・13
26 ① アモ3・7、ルカ2・8－11
27 ① モサ28・3

延ばすことのないようにということである。
28しかし、あなたがたは主の御前にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈りなさい。そのようにして、聖なる御霊の導きを得て、謙遜、2)柔和、従順になり、忍耐強くなり、愛に富み、限りなく寛容になって、
29さらに主を信じる1)信仰を持ち、永遠の命を得る希望を抱き、常に心の中に神の2)愛を持って、終わりの日に上げられて神の3)安息に入れるようにしてほしい。
30主があなたがたに悔い改めることを許してくださって、あなたがたが主の激しい怒りを招くことのないように、また1)地獄の鎖につながれることのないように、そして、第二の2)死を受けることのないように願っている。」
31アルマはこの書に書き記されていないもっと多くの言葉を人々に語った。

第14章

アルマとアミュレク、投獄され、打たれる。信じた者たちと彼らの聖文が火で焼かれる。これらの殉教者たち、栄光のうちに主によって受け入れられる。牢の壁は裂けて崩れ落ちる。アルマとアミュレクは救われ、迫害者たちは殺される。紀元前約八十二年から八十一年に至る。

1さて、アルマが人々に語り終えた後、多くの人がアルマの言葉を信じ、悔い改めて1)聖文を調べ始めた。
2しかし大半の人々は、アルマとアミュレクを殺してしまいたいと思っていた。アルマがゼーズロムに1)あからさまに語ったことで、彼らはアルマに怒りを抱いたからである。彼らはまた、アミュレクが自分たちに偽りを2)言い、自分たちの法律と、法律家と、さばきつかさをののしったと言った。
3彼らは、アルマとアミュレクのことを怒った。そして、二人が彼らの悪事をあからさまに証言したので、二人をひそかに殺してしまおうとした。
4しかし、結局彼らはそうせずに、二人を捕らえ、丈夫な縄で縛って、その地の大さばきつかさの前に連れて行った。

28① GS「祈り」
② GS「柔和」「忍耐」
29① アル7・24
② 教義20・31、76・116、GS「慈愛」
③ GS 教義84・24
30① GS「地獄」「罰の定め」
② GS「死（霊の）」

第14章
1① 列下22・8−13、GS「聖文」
② アル12・3−7
2① アル10・27

5 そして、人々は進み出て、二人について不利な証言をした。彼らは二人が法律とその地の法律家たち、さばきつかさたち、またその地にいるすべての人をののしり、さらに、唯一の神がおられてその御子を人々の中に遣わされるが、御子は人々を救われないと述べたと証言した。人々はアルマとアミュレクについてこのように多くの不利な証言をした。これはその地の大さばきつかさの前で行われた。

6 そこでゼーズロムは、告げられた言葉に驚くとともに、自分の虚言によって人々の思いがくらまされたのを知った。そのため、彼は自分の罪を自覚して心をひどく苦しめ始めた。まことに、彼は地獄の苦しみに包まれ始めたのである。

7 そしてゼーズロムは、人々に向かって叫び、「見よ、わたしには罪[1]がある。この方々は神の御前に染みがない」と言った。そして彼は、そのときから二人の弁護を始めた。しかし、人々は彼をののしり、「おまえも悪魔に取りつかれたのか」と言って、彼につばきを吐きかけて、彼を追い出した。また、アルマとアミュレクの語った言葉を信じた人々も全員追い出された。人々はこれらの人を追い出したうえ、追手を出してこれらの人に石を投げつけさせた。

8 また彼らは、追い出された人々の妻子たちを集めて、神の言葉を信じている者たちと信じるように教えられた者たちを火の中に投げ込ませた。さらに彼らは、神の言葉を信じる者たちが持っていた聖文の載っている記録を持ち出し、それも火の中に投げ込んで、焼き捨ててしまった。

9 そして彼らは、アルマとアミュレクを引き出すと、二人を殉教の場へ運んで行き、火で焼かれている人々の死ぬ様子を見せた。

10 するとアミュレクは、火で焼かれている女や子供たちの苦しみを見て自分も苦痛を感じ、アルマに向かって、「この痛ましい有様をどうして見ていられましょうか。わたしたちの手を伸べ、わたしたちの内にある[1]神の力を行使して、彼らを炎から救い出しましょう」と言った。

11 しかし、アルマは彼に言った。「御霊が、手を伸べてはならないとわたしを制されます。まことに、主はこの人々を栄光のうちに御自分のみもとに受け入れられるからです。主は彼らがこのことを行うのを、すなわち人々が心のかたくななままにこの人々

---

6 (1) GS「良心」
7 (1) アルマ15・5
(2) アルマ11・21−37
10 (1) アルマ15・1
11 (1) アルマ8・30−31 GS「栄光」

にこのことを行うのを黙認しておられます。それは、主が怒って彼らに下される[2]罰が公正なものとなるためです。[3]罪のない者の血は彼らを責める証拠となり、終わりの日に彼らを非難して激しく叫ぶことでしょう。」

12 すると、アミュレクはアルマに、「まことに、彼らは恐らくわたしたちも火あぶりにするでしょう」と言った。

13 そこで、アルマは言った。「主の御心のままであるように。しかしまことに、わたしたちの務めはまだ終わっていないので、彼らがわたしたちを火あぶりにすることはないでしょう。」

14 さて、火の中に投げ込まれた人々の体と、また彼らとともに火の中に投げ込まれた記録が焼けてしまうと、その地の大さばきつかさが縛られたままのアルマとアミュレクの前にやって来て立ち、手で二人の頬を打って言った。「おまえたちはこれを見てもなお、この民に、[1]火と硫黄の池に投げ込まれるとまた説くつもりか。

15 見よ、おまえたちが分かったように、おまえたちには、火に投げ込まれた者たちを救い出す力はない。彼らはおまえたちと同じ信仰を持っていたが、神は彼らを救わなかったではないか。」それから、このさばきつかさはまた二人の頬を打ち、「おまえたちは何と弁解するのか」と言った。

16 ところで、このさばきつかさはギデオンを殺した[1]ニーホルの教団に属し、同じ信仰を持っていた者である。

17 さて、アルマとアミュレクはさばきつかさに何も答えなかった。そこで、彼はもう一度二人を打ち、役人に引き渡して牢に入れさせた。

18 そして、二人が牢に入れられて三日後、ニーホルの教団に属している[1]多くの法律家やさばきつかさ、祭司、教師たちがやって来て牢の中に入り、二人に会った。そして彼らは、二人に多くの事柄について質問したが、二人は何も答えなかった。

19 そこで、あのさばきつかさが二人の前に立って、「なぜこの人々の質問に答えないのか。おまえたちを炎の中に投げ込ませる力がわたしにあることを、おまえたちは知らないのか」と言った。そして、彼は答えるように二人に命じたが、二人は答えなかった。

---

11 ② 詩篇37・8−13、アル60・13、教義103・3、GS「正義」
14 ① モサ17・10
14 ① GS「殉教者・殉教」
14 ④ アル12・17
16 ① アル1・7−15
18 ① アル10・14、11・20

20 そこで彼らは去って行った。ところが、彼らはまた翌日にやって来て、あのさばきつかさがまた二人の頬を打った。それから、ほかに多くの者たちも進み出て、二人を打って言った。「おまえたちはまた立ってこの民を裁き、我々の法律を非難するつもりか。おまえたちにそのような大きな力があるならば、なぜ1)自分自身を救わないのか」

21 そして、彼らは歯ぎしりをし、二人につばきを吐きかけながら、このようにたくさんのことを並べ立て、「我々は罰の定めを受けるとき、どのような有様なのか」と言った。

22 また彼らはたくさんのことを、まことにこのようなことをいろいろと二人に言った。このように、彼らは幾日もの間二人をあざけった。そのうえ彼らは、二人を飢えさせるために食物を与えず、渇かせるために水も飲ませず、また、二人の着物をはぎ取って裸にした。このようにして二人は、丈夫な縄で縛られ、牢に閉じ込められていた。

23 そして、二人がこのように幾日もの間苦しんだ後（ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年の十月十二日に）、アモナイハの地の大さばきつかさと、多くの教師と法律家が、アルマとアミュレクが縄で縛られて閉じ込められていた牢に入って来た。

24 そして、大さばきつかさは二人の前に立つと、二人をまた打ち、「もしおまえたちに神の力があるのであれば、この縄から自分自身を解き放て。そうすれば、おまえたちの言葉のとおりに主がこの民を滅ぼすということを、我々は信じよう」と言った。

25 そして、ほかの者たちも、最後の一人に至るまで皆進み出て、大さばきつかさと同じことを言いながら二人を打った。ところが、最後の者が二人に言い終えたとき、1)神の力がアルマとアミュレクに下った。そこで、二人は起きて、立ち上がった。

26 そして、アルマは叫んで言った。「おお、主よ、わたしたちはいつまでこのようなひどい1)苦しみに耐えればよろしいのでしょうか。おお、主よ、キリストを信じるわたしたちの信仰に応じて、自由になる力をわたしたちにお与えください。」そして二人は、自分たちを縛っていた縄を断ち切った。人々はそれを見ると、滅ぼされるのではないかという恐怖に襲われ、逃げ始めた。

27 さて、彼らの恐れは非常に大きかったので、彼ら

20① マタ27・39—43
25① アル8・31
26① 新ヤコ5・10—11、モサ17・10—20、教義121・7—8

は地に倒れ、1)牢の外側の出口までも逃げ出せなかった。そして、地が激しく揺れ動き、牢の壁が二つに裂けて崩れ落ち、アルマとアミュレクを打った大きばきつかさと法律家たち、祭司たちは、崩れ落ちた壁に打たれて死んでしまった。

28そして、アルマとアミュレクは牢を出た。二人はキリストを信じる彼らの信仰に応じて主から力を授けられていたので、傷も負っていなかった。彼らは牢からすぐに出て来たが、彼らを縛っていた縄は解けていた。牢はすでに崩れ落ちており、牢の中にいた者は、アルマとアミュレクを除いてことごとく死んだ。そこで、二人はすぐに町に入って行った。

29そのとき、大きな物音を聞いた民が、その訳を知ろうとして群れを成して走って来た。そして彼らは、アルマとアミュレクが牢から出て来たのを目にし、また牢の壁が地に崩れ落ちているのを見ると、ひどい恐怖に襲われ、アルマとアミュレクの前から逃げた。それはまるで、やぎが子やぎを連れて二頭のライオンの前から逃げるのに似ていた。このように彼らは、アルマとアミュレクの前から逃げたのである。

第15章

アルマとアミュレク、シドムへ行き、教会を設立する。アルマ、ゼーズロムを癒し、ゼーズロムは教会に加入する。多くの人がバプテスマを受け、教会が栄える。アルマとアミュレク、ゼラヘムラへ向かう。紀元前約八十一年。

1さて、アルマとアミュレクはその町を立ち去るように命じられたので、そこを去ってシドムの地へ行った。すると見よ、彼らはそこで、1)アモナイハの地を出て来たすべての人に会った。これらの人々は、アルマの言葉を信じたために追い出され、石を投げつけられた人々である。

2そこで、二人は彼らに、彼らの1)妻子たちの身の上に起こった出来事をすべて話し、また自分たちのことと、自分たちを解放した力のことについても述べた。

3また、ゼーズロムもシドムにいて、燃えるような高熱を出して病床に伏していた。その高熱は、自分の1)悪事のことで心にひどい苦しみを受けたために起こったものであった。彼はアルマとアミュレクがも

---

27 ①13 使徒16・26、エテ12・28 ①28・19−22 ヤコ4・6、3ニフ

第15章

1 ①11 アル16・2−3、9、2 ①② アル14・7 アル14・8−14 3 ① アル14・28 ② アル14・6−7

う生きていないと思い、二人が殺されたのは自分の
罪悪のためであると考えたからである。この大きな
罪と、そのほか数多くの罪により心をひどく苦しめ
られて、とうとう介抱する手立てもないほど心をひ
どく痛めてしまった。そして、そのために彼は燃え
るような熱で身を焼かれ始めたのである。
4 ところがゼーズロムは、アルマとアミュレクがシ
ドムの地にいると聞くや、心が奮い立ち、すぐに二
人に伝言を送って、自分のもとに来てほしいと伝え
た。
5 そこで二人は、ゼーズロムからの伝言に応じてす
ぐに出かけた。そして、ゼーズロムのいる家に入っ
て行ったところ、彼は燃えるような高熱で実に弱々
しい有様で病んで床に伏していた。また彼は、自分
の罪悪のためにひどく心を痛めていた。そして、二
人を見ると、手を伸ばし、癒してほしいと懇願した。
6 そこでアルマは彼の手を取って、「あなたは救い
を得させるキリストの力を信じますか[1]」と尋ねた。
7 すると彼はそれに答え、「はい。わたしはあなた
が教えた言葉をすべて信じています」と言った。
8 そこでアルマは、「キリストの贖いを信じるなら
ば、あなたは癒し[1]を得られます」と言った。
9 すると彼は、「はい。わたしはあなたの言葉のと
おりに信じています」と答えた。
10 そこでアルマは、主に叫び求めて言った。「おお、
主なるわたしたちの神よ、この人に憐れみを示し、
キリストを信じるこの人の信仰に応じて癒し[1]をお与
えください。」
11 アルマがこれらの言葉を語り終えると、ゼーズロ
ムは立ち上がり[1]、そして歩き始めた。これは、民の
すべての者にとって大きな驚きであった。そして、
このことはシドムの全地に知れ渡った。
12 アルマはゼーズロムにバプテスマを施して主に属
する者とし、ゼーズロムはそのとき以来、民に教え
を説き始めた。
13 そしてアルマは、シドムの地に教会を設立し、そ
の地で祭司たちと教師たちを聖任して、バプテスマ
を受けたいと望むすべての人にバプテスマを施し、
主に属する者とするようにした。
14 さて、バプテスマを受けたいと望む人々は多く、
シドムの周囲のすべての地方から群れを成してやっ
て来て、バプテスマを受けた。

6 ① マコ 9・23
8 ① GS「癒し」
10 ① マコ 2・1—12
11 ① 使徒 3・1—11

15 しかし、アモナイハの地に住む人々は依然として心のかたくなな、強情な民であったので、アルマとアミュレクの力はすべて悪魔によるものであるとして、自分たちの罪を悔い改めなかった。彼らはニーホルの教団に属しており、自分たちの罪を悔い改める必要があるとは信じていなかったからである。
16 さて、アミュレクはかつて自分の友であった者たちから拒まれ、また自分の父親や親族からも拒まれたので、アモナイハの地にある自分の金、銀、貴重な品々をすべて神の言葉のために捨てた。
17 したがって、アルマはシドムに教会を設立した後、大きな抑制が働いたこと、まことに、民がその心の高ぶりを抑え、神の前にへりくだるようになり、聖壇の前で神を礼拝するために聖堂に集まって、サタンと死と滅亡から救われるように、目を覚ましていて絶えず祈るようになったことを知り、
18 すでにわたしが語ったように、アルマはこれらのことをすべて見てから、アミュレクを連れてゼラヘムラの地へ向かい、自分の家に彼を迎えた。そして、艱難に遭っているアミュレクに必要なものを与え、主にあって彼を強くした。
19 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年が終わった。

第16章

レーマン人、アモナイハの民を滅ぼす。ゾーラム、ニーファイ人を率いてレーマン人に勝利を得る。アルマとアミュレクとそのほか多くの人、御言葉を宣べ伝え、キリストが復活後にニーファイ人に御自身を現されることを教える。紀元前約八十一年から七十七年に至る。

1 さて、ゼラヘムラの地は非常に平和であり、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十一年二月五日までの数年の間、戦争もなければ争いもなかった。ところが、第十一年の二月五日に、全地で戦争を告げる叫びが聞かれた。
2 見よ、レーマン人の軍隊がすでに荒れ野の方から境の地に侵入してアモナイハの町に入り、民を殺して町を破壊し始めたからである。
3 そして、ニーファイ人がレーマン人をその地から追い払うに足る軍隊を起こす前に、レーマン人はア

15 ① アル1・2—15
16 ① GS「迫害」
② ルカ14・33、アル10・4
17 ① アル16・21
② GS「譲遜」
③ GS「礼拝」
④ GS「死（霊の）」
⑤ GS「祈り」
第16章
2 ① アル15・1、15—16

モナイハの町にいた人々を殺し、ノアの地の境付近でもかなりの人々を殺し、また残りの人々を捕らえて荒れ野へ連れ去ってしまった。

4 そこでニーファイ人は、囚われの身となって荒れ野に連れ去られた人々を取り戻したいと思った。

5 そのため、ニーファイ人の軍隊を指揮する司令官に任命された人（その名はゾーラムといい、彼には二人の息子、リーハイとエーハがいた）、すなわち、ゾーラムと彼の二人の息子は、アルマが教会を管理する大祭司であることを知っており、またアルマが預言の霊を受けていることも聞いて知っていたので、彼のもとを訪れ、レーマン人に捕らえられた同胞を捜すのに、主は自分たちが荒れ野のどこへ行くのを望んでおられるか知りたいと彼に告げた。

6 そこでアルマは、その件について主に尋ねた。それから戻って来ると、彼らに言った。「見よ、レーマン人はマンタイの地の境のはるか向こうにある南の荒れ野でシドン川を渡るでしょう。見よ、あなたがたはシドン川の東側で彼らを迎えて戦いなさい。そうすれば主はあなたがたに、レーマン人に捕らえられた同胞を渡されます。」

7 そこで、ゾーラムと息子たちは、軍隊を率いてシドン川を渡り、マンタイの地の境を越えて、シドン川の東側に当たる南の荒れ野まで進軍した。

8 そして彼らは、レーマン人の軍隊に攻めかかり、レーマン人を散り散りに荒れ野の中へ追い払った。このようにして彼らは、レーマン人に捕らえられていた同胞を取り戻した。しかも、捕らえられていた同胞は一人も失われていなかった。そして彼らは、同胞に連れられて、それぞれの土地に帰った。

9 このようにして、さばきつかさの統治第十一年が終わった。レーマン人はすでにその地から追い払われ、アモナイハの民は滅びた。まことに、アモナイハ人はことごとく殺され、非常に大きいので神でも破壊できないと彼らが述べた、その大きな町もまた滅びた。

10 見よ、その町は一日で荒れ廃れた所となり、しかばねは犬と荒れ野の野獣に食い裂かれてしまった。

11 それでも多くの日の後、彼らの死体は地の面に積み上げられ、薄く土がかけられた。しかし、そのにおいがとてもひどかったので、長年の間、アモナイハの地に来てそこを所有しようとする者はいなかっ

3① アル9・18
6① アル43・23—24
9① アル8・16、9・18
10① アル25・1—2
10② モル6・15—22、24、アル9・4

た。そして、その土地は「ニーホル人の廃虚」と呼
ばれた。それは、そこで殺された者たちがニーホル
の教団に属し、彼らの地が荒れ廃れたままであった
からである。
12 ニーファイの民のさばきつかさの統治第十四年ま
で、レーマン人は再びやって来てニーファイ人と戦
うことをしなかった。このようにして三年間、ニー
ファイの民は引き続き全地に平和を保った。
13 そして、アルマとアミュレクは出て行って、ユダ
ヤ人に倣って建てられた神殿や聖堂や会堂で、民に
悔い改めを宣べ伝えた。
14 そして彼らは、自分たちの言葉を聞こうとするす
べての人に、偏り見ることなく、引き続き神の言葉
を告げた。
15 このように、アルマとアミュレクと、その務めを
果たすように選ばれたさらに多くの人は、全地に御
言葉を宣べ伝えるために出て行った。そして全地
で、すなわち周辺のすべての地方で、ニーファイ人
に属するすべての人の中に広く教会が設立される
ようになった。
16 また、教会員の中には少しの不平等もなかった。
主は人の子らの心を備えさせるために、すなわち、
主の来臨の時に、彼らの中で教えられる御言葉を受
け入れるように彼らの心を備えさせるために、その
地の全面に主の御霊を注がれた。
17 彼らが御言葉に対してかたくなになることがな
く、また不信仰になって滅亡に至ることもなく、む
しろ喜んで御言葉を受け入れて、一つの枝としてま
ことのぶどうの木に接がれ、主なる彼らの神の安息
に入れるようにするためである。
18 さて、民の中に出て行ったその祭司たちは、あら
ゆる偽りと欺き、ねたみ、争い、悪意、ののしり、
盗み、強盗、略奪、殺人、姦淫、およびあらゆる好
色を責める教えを説き、これらのことを行ってはな
らないと訴えた。
19 そして彼らは、間もなく必ず起こること、まこと
に、神の御子の来臨と、御子のお受けになる苦しみ
と死、死者の復活について説いた。
20 それで多くの人は、神の御子が来られる場所につ
いて尋ね、神の御子が復活後にこの民に御自身を現
されるということを教わった。そして人々は、これ
を聞いて非常に喜んだ。

---

11 ① アル1・15、24・28—30
13 ① 2ニフ5・16
② アル21・4—6、20
14 ① アル1・30
16 ① モサ18・19—29、4ニフ1・3
② GS「打ち砕かれた心」
17 ① ヤコ5・24
② GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
③ アル12・37、13・10—13
18 ① アル15・13
② GS「欺き」
③ GS「ねたみ」
19 ① GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
20 ① 1ニフ12・4—6
② 2ニフ26・9、3ニフ11・7—14

21 このように、教会が全地に設立され、悪魔に勝利し、神の言葉が純粋なままに国中に宣べ伝えられて、主は人々に祝福を注がれた。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十四年が終わった。

神の言葉のために王位を継ぐ権利を放棄し、レーマン人に教えを説こうとしてニーファイの地へ上って行ったモーサヤの息子たちの話。彼らの受けた苦難と解放。これはアルマの記録による。

次の第十七―二十七章がそれに相当する。

第17章

モーサヤの息子たち、預言と啓示の霊を受ける。レーマン人に御言葉を告げ知らせるために、各々別々の道を行く。アンモン、イシマエルの地へ行き、ラモーナイ王の僕になる。アンモン、セブスの泉のそばで王の羊の群れを救い、敵を殺す。第一―三節は紀元前約七十七年、第四節は約九十一―七十七年、第五―三十九節は約九十一年の出来事である。

1 さて、アルマはギデオンの地から南方のマンタイの地へ向かって旅をしていたとき、見よ、思いがけず、ゼラヘムラの地を指して旅をしていたモーサヤ[1]の息子たち[2]に出会った。

2 モーサヤのこの息子たちは、天使が初めて[1]アルマに現れたときにアルマとともにいた人々である。そのため、アルマは自分の仲間に会えたことでひとかたならず喜んだ。しかも、彼らがなおも主にあって兄弟であったので、その喜びはいっそう深かった。さらに、彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

3 それればかりではない。彼らはしばしば祈り、また[1]断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、[2]教えるときには、神の力と権能をもって教えた。

4 そして彼らは、それまで十四年間レーマン人の中で神の言葉を教えて、多くの人に真理を知らせるのに大きな[2]成功を収めていた。まことに、彼らの言葉の力によって、多くの人が神の聖壇の前に導かれ、神の名を呼び、神の前で自分たちの罪を[3]告白した。

21 ① アル15・17
第17章
1 ① モサ27・34
② アル27・16
2 ① モサ27・11−17
② GS「聖文」
3 ① GS「祈り」「断食」
② GS「教える・教師―御霊によって教える」
4 ① GS「伝道活動」
② アル29・14
③ GS「告白」

5 さて、彼らが旅をしていた間の状況は次のとおりである。彼らは多くの苦難に遭い、飢えや渇き、疲労、多くの霊的な労苦[1]など、肉体的にも精神的にもひどく苦しんだ。

6 さて、彼らの旅は次のとおりであった。彼らの父モーサヤが彼らに王位を譲[1]りたいと思い、また民も同じ思いを抱いていたが、彼らは王位を受けることを辞退[2]し、さばきつかさの統治の第一年に、父に別れを告げて出かけた。

7 彼らは、譲位の話があったにもかかわらずゼラヘムラの地を去ったのである。彼らは自分たちの剣と槍、弓、矢、石投げを持って行った。荒れ野で食べ物を手に入れるためであった。

8 このように、彼らはすでに選んでおいた人々とともに荒れ野に旅立ち、レーマン人に神の言葉を宣べ伝えるためにニーファイの地へ上って行った。

9 そして、彼らは荒れ野の中を幾日も旅をした。また彼らは、主が御霊の一部を授けて自分たちに伴わせてくださり、またとどめてくださることを願って、大いに断食し、大いに祈[1]った。それは、彼らが神の手に使われる者[2]となり、できれば自分たちの同胞であるレーマン人に真理を知らせ、彼らの先祖の正しくない言い伝[3]えが不純であることを知らせるためであった。

10 そこで主は彼らに御霊[1]を下し、「慰[3]めを得[2]なさい」と言われた。そこで彼らは慰めを得た。

11 主はまた彼らに、「あなたがたの同胞であるレーマン人の中へ行き、わたしの言葉を確立しなさい。しかし、あなたがたはわたしにあって彼らに良い模範を示せるように、長い苦しみと苦難の中で忍耐[1]強くありなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをわたしの手に使われる者として多くの人を救おう」と言われた。

12 そこで、モーサヤの息子たちと、一緒にいた人々は、レーマン人のところへ行って彼らに神の言葉を告げ知らせる勇気を得た。

13 そこで彼らは、レーマン人の地の境に着くと、主が刈[1]り入れの後に自分たちを再会させてくださることに信頼を寄せ、各々[2]別れて次々に去って行った。彼らは自分たちが取りかかった業が大変なものであると考えていた。

14 そして確かに、それは大変なものであった。彼ら

---

5 (1) アル 8・10
6 (1) モサ 28・1、5−9
(2) モサ 29・3
9 (1) アル 25・17、GS「祈り」
(2) モサ 23・10、アル 26・3
10 (1) (3) GS「聖霊」
(2) 教義 5・16
11 (1) (3) アル 26・27
(2) アル 20・29、GS「忍耐」
13 (1) マタ 9・37
(2) アル 21・1

は、[1]野蛮でかたくなで残忍な民に神の言葉を宣べ伝
えようとしていたからである。その民は、ニーファ
イ人を殺したり、ニーファイ人のものを盗んだり、
奪ったりすることを喜びとしていた。また彼らは、
富、すなわち金銀や宝石に執着しており、しかも彼
らは、これらのものを手に入れるのに自分の手で働
くことなく、殺人や略奪によって手に入れようとし
ていた。
15 このように、彼らは非常に怠惰な民であり、その
中の多くの者は偶像を礼拝していた。そして、彼ら
の先祖の[1]言い伝えのために、神の[2]のろいが彼らに下
っていた。それでも、悔い改めを条件として、主の
約束が彼らに与えられていたのである。
16 したがって、モーサヤの息子たちは、恐らく彼ら
を悔い改めさせることができると思い、また恐らく
彼らに贖いの計画を知らせることができると[1]思っ
て、その業に着手したのであった。
17 そこで彼らは、各々別れて、自分に与えられた神
の言葉と力をもって、独りでレーマン人の中へ入っ
て行った。
18 さて、アンモンは彼らの指導者であったので、い
や、彼らに必要なものを与え、各々の職に応じて彼
らに[1]祝福を授け、彼らに神の言葉を告げた後、すな
わち自分の出発に先立って彼らに祝福を授けた後、
彼らのもとを去った。このようにして、彼らはそれ
ぞれ別れて全地に旅立った。
19 そして、アンモンはイシマエルの地へ行った。そ
こは、レーマン人となった[1]イシマエルの息子にちな
んで名付けられた地である。
20 アンモンがイシマエルの地へ入ったところ、レー
マン人は彼を捕らえて縛った。レーマン人は、自分
たちの手に落ちたニーファイ人を皆縛って、王の前
に連れて行くのを習わしとしていたからである。そ
して、捕らえたニーファイ人を殺すか、束縛の身に
置くか、牢に入れるか、それともその地から追い出
すか、それは王の意のまま、思いのままに任されて
いた。
21 このようにして、アンモンはイシマエルの地を治
めている王の前に連れて行かれた。この王は名をラ
モーナイといって、イシマエルの子孫であった。
22 王はアンモンに、この地にいてレーマン人の中で
暮らしたいか、すなわち自分の民の中で暮らしたい

14 ① モサ10・12
15 ① アル9・16—24、18・5
② アル3・6—19、3ニフ2・15—16
16 ① モサ28・1—3
18 ① GS「祝福」
19 ① 1ニフ7・4—6

かどうか尋ねた。
23そこでアンモンは王に、「はい。しばらくこの民の中で暮らしたいと思います。死ぬまでここに住むかもしれません」と答えた。
24そこでラモーナイ王は、アンモンのことを非常に気に入り、彼を縛っている縄を解かせた。そして、アンモンに自分の娘の一人を妻にめとらせようとした。
25しかしアンモンは、「そうではなく、王の僕になりたいのです」と言い、ラモーナイ王の僕になった。そして彼は、レーマン人の習わしに従って、ほかの僕たちの中に加えられてラモーナイ王の家畜の群れを守ることになった。
26そして彼は、三日間王に仕えた後、レーマン人である僕たちとともに、家畜の群れを水のある場所へ連れて行くことになった。その場所はセブスの泉と呼ばれた。レーマン人は皆、それぞれ家畜の群れをここに追って来て水を飲ませるのである。
27こうして、アンモンと王の僕たちが家畜の群れをこの水のある場所に追って行く途中、見よ、すでに家畜の群れに水を飲ませてしまったあるレーマン人の一団が立っていて、アンモンと王の僕たちが連れた家畜の群れを追い散らした。そして、彼らが追い散らしたために、家畜は方々に逃げ去ってしまった。
28すると、王の僕たちは、「我々の仲間は前に、この連中の悪事のために群れを追い散らされたので、王に殺されてしまった。我々も王に殺される」とつぶやき始めた。そして、「見よ、我々の群れはもう散ってしまった」と言いながら、激しく泣き始めた。
29彼らは殺されるのを恐れて泣いたのである。アンモンはこれを見ると喜びで胸がいっぱいになり、「王のためにこの家畜を元どおりにして、同僚であるこの僕たちにわたしの力を、すなわちわたしの内にある力を示し、同僚であるこの僕たちの信頼を得て、彼らにわたしの言葉を信じさせるようにしよう」と言った。
30さて、これはアンモンが自分の同僚と呼んだ者たちの悩む様子を見て、心に思ったことであった。
31そしてアンモンは、次のように言って彼らをなだめた。「同僚たち、元気を出してください。群れを捜しに行きましょう。群れを集めて水のある場所へ連

れ戻しましょう。こうして王のために群れを守れ
ば、王はわたしたちを殺さないでしょう。」
32そして、彼らは群れを捜しに行った。彼らはアン
モンに従って大急ぎで走って行き、王の家畜の先に
立って、群れを再び水のある場所に集めた。
33ところが、あの男たちが、アンモンたちの家畜の
群れを追い散らそうとしてまた立っていた。そこで
アンモンは同僚たちに、「群れが逃げ出さないよう
に周りを囲んでいてください。わたしは行って、わ
たしたちの群れを散らすあの男たちと戦います」と
言った。
34そこで彼らは、アンモンから指示されたとおりに
した。一方、アンモンは進んで行くと、セブスの泉
のそばに立っている者たちと戦う身構えをした。し
かし、相手は少ない数ではなかった。
35そのため彼らは、独りでも思いのままにアンモン
を殺せると思い、彼を恐れなかった。主がモーサヤ
に、レーマン人の手から彼の息子たちを[1]救い出すと
約束しておられたことを、彼らは知らなかったから
である。彼らはまた、主のことをまったく知らなか
ったので、自分たちの同胞が滅びるのを喜びとして
いた。そのために彼らは、王の家畜の群れを追い散
らそうと待ち構えていたのである。
36そこで[1]アンモンは、進み出て身構えると、石投げ
を使って彼らに石を投げ始めた。まことに、彼は大
いなる力で彼らの中に石を投げた。このようにし
て、彼がその[2]幾人かを殺したので、彼らはその力に
驚き始めた。それでも、彼らは仲間の中の殺された
者のために怒り、アンモンを必ず倒そうと心に決め
た。そこで彼らは、石でアンモンを[3]撃てないことを
知ると、こん棒を持って近づき、彼を殺そうとした。
37しかし見よ、アンモンを打とうとしてこん棒を振
り上げた者は、ことごとくアンモンの剣で腕を切り
落とされた。アンモンが剣の刃で彼らの腕を打っ
て、彼らが打ちかかってくるのを防いだからであ
る。そのため彼らは驚いて、彼の前から逃げ始めた。
彼らの数は少なくなかったが、アンモンはその腕の
力によって彼らを退けたのである。
38ところで、石投げで倒れた者は六人であったが、
アンモンは首謀者のほかは剣でだれも殺さず、自分
に向かって腕を振り上げた者の腕を切り落としただ
けであった。それでも、その数は少なくなかった。

35 ① モサ28・7、アル19・22−23
36 ① エテ12・15
② アル18・16
③ アル18・3

39 アンモンは彼らを追い払うと、引き返して来た。
そして彼らは群れに水を飲ませ、王の牧場に群れを
連れ戻した。それから彼らは、アンモンを殺そうと
した者たちの、剣で切り落とされた腕を持って王の
もとへ行った。それらの腕は、彼らが行ったことの
証拠として、王のもとに運ばれたのである。

第18章

ラモーナイ王、アンモンを大霊であると思う。アン
モン、創造と、人々に対する神の計らいと、キリスト
を通じて与えられる贖いについて王に教える。ラモー
ナイ、それを信じて地に倒れ、死んだようになる。紀
元前約九十年。

1 さて、ラモーナイ王は僕たちを前に立たせ、その
事件について見たことをすべて証言させた。
2 そして、彼らが皆自分たちの見たことを証言した
ので、王はアンモンが忠実に自分の家畜の群れを守
ったことと、また彼を殺そうとした者たちと戦った
ときに大いなる力を振るったことを知った。そして
王は非常に驚いて、「確かに、その人は人間以上の人
である。見よ、彼は、この民が行う殺人の罪のため
に重い罰を下す、あの大霊ではないだろうか」と言
った。
3 すると、彼らは王に答えて言った。「彼が大霊か、
それとも人間か、わたしどもには分かりません。し
かし、彼は王様の敵に[1]殺されるような人ではなく、
また技量と大きな力があるので、わたしたちと一緒
にいるときには敵も王様の群れを追い散らせないと
いうことだけは、わたしどもにも分かります。わた
しどもは、彼が王様の味方であることを知っていま
す。王様、ただの人間にこのような大きな力がある
とは思えません。彼はほかの者に殺されるような人
ではないことを、わたしどもは知っているからで
す。」
4 すると王は、これらの言葉を聞いて彼らに言っ
た。「わたしにはその人が大霊であることが分かる。
わたしは前におまえたちの仲間を殺したが、それと
同じようにおまえたちを[1]殺すことのないよう、その
人はおまえたちの命を守るために降って来たのだ。
その人は我らの先祖が語っていた大霊だ。」
5 このように、[1]大霊が実在するということは、ラモ

第18章
3 ① アル17・34—38
4 ① アル17・28—31
5 ① アル19・25—27、「神・神会」GS

ーナイが彼の父から受けた言い伝えであった。そして彼らは、大霊を信じていたにもかかわらず、自分たちの行うことはすべて正しいと思っていた。しかしラモーナイは、僕たちを殺したことで自分が間違いを犯したのではないかという恐れを抱き、非常に心配になってきた。

6 僕たちが水のある場所で同胞によって家畜の群れを追い散らされたことで、王は大勢の僕を殺していたからである。このように、僕たちは家畜を散らされたために殺されていた。

7 さて、これらのレーマン人たちは、いつもセブスの泉のそばに立っていて、民の家畜の群れを追い散らしていた。そして、散った家畜をたくさん自分たちの地へ追い立てて行くのである。これが彼らの略奪の手口であった。

8 さて、ラモーナイ王は僕たちに、「そのような大きな力のあるその人はどこにいるか」と尋ねた。

9 すると彼らは、「王様の馬にえさをやっています」と答えた。王は僕たちに、王の馬と馬車を用意してニーファイの地へ案内して行くようにと、彼らが群れに水を飲ませに行く前に命じておいたのである。全地を治める王であるラモーナイの父が、ニーファイの地で盛大な宴会を催すことになっていたからである。

10 さて、ラモーナイ王は、アンモンが王の馬と馬車の用意をしていると聞いて、アンモンの忠義にます驚いて言った。「まことにわたしの僕の中にいまだかつてこの人のように忠実な者はいなかった。この人はわたしの命じたことをよく覚えていて、すべてそれを行う。

11 わたしにはこの人が大霊であることが確かに分かる。わたしのところに来てもらいたいと思ってはいるが、わたしにはその勇気がない。」

12 さて、アンモンは王と僕たちのために馬と馬車の用意を終えると、王のもとに入って来た。しかし、王の顔色が変わったのを見て、彼は王の前を立ち去ろうとした。

13 そのとき、王の僕の一人が彼に、「ラバナ」と言った。ラバナとは勢力のある王、すなわち大王という意味である。彼らの王は皆、勢力があると考えられていたのである。このように王の僕の一人が彼に、「ラバナ、王様はあなたがいてくださることを願って

おいでです」と言った。
14そこでアンモンは、王に向き直って、「王様、わたしが何をすることをお望みでしょうか」と尋ねた。ところが王は、何と言ってよいか分からなかったので、彼らの時間で一時間、アンモンに返答しなかった。
15そこで、アンモンはもう一度王に、「わたしに何をお望みですか」と尋ねたが、この度も返答がなかった。
16さて、アンモンは神の御霊に満たされ、王の思い[1)]を見抜いて言った。「王様は、わたしが王様の僕たちと家畜の群れを守って、石投げと剣で同国人を七人殺し、また王様の家畜の群れと僕たちを守るために、ほかの者たちの腕を切り落としたと聞いて、そのことで驚いておられるのですか。
17王様に申し上げますが、王様はどうしてそんなに驚いておられるのですか。まことに、わたしはただの人間であって、王様の僕です。ですから、わたしは王様がお望みになることで正しいことは何でもいたします。」
18王はその言葉を聞くと、アンモンが自分の思いを見抜[1)]くことができたのを知って、またもや驚いた。しかし、それでもラモーナイ王は口を開き、「おまえはだれなのだ。すべての物事を知っているあの大霊[2)]か」と尋ねた。
19アンモンは王に答えて、「そうではありません」と言った。
20すると、王は言った。「どうしてわたしの心の思いが分かるのか。はっきりと言ってよい。わたしに話しなさい。わたしの家畜の群れを追い散らす同国人を殺したり、その腕を切り落としたりしたのは何の力によったのかも、わたしに話してくれ。
21おまえがもし、これらのことをわたしに話してくれるなら、何でも望むものをやろう。必要であれば、軍隊でおまえを守ろう。しかし、おまえがわたしの全軍よりも強いことを、わたしは知っている。それでも、おまえがわたしに望むものは何でもやろう。」
22アンモンは賢いけれども素直な人であったので、ラモーナイ王にこう言った。「もしわたしが何の力によってこれらのことを行ったか申し上げれば、王様はわたしの言葉をお聞きくださいますか。わたしが王様に望むのはそのことです。」

16① アル12・3
18① GS「識別の賜物」
② GS「神・神会」

23 すると王は、彼に答えて、「分かった。わたしはおまえの言葉をすべて信じよう」と言った。このようにして、王は策に乗ったのである。
24 そこでアンモンは、王に大胆に語り始めて、「王様は神のましますことを信じますか」と尋ねた。
25 すると王は答えて、「わたしにはそれがどういう意味か分からない」と言った。
26 そこでアンモンは、「王様は大霊のましますことを信じますか」と尋ねた。
27 すると王は、「信じる」と答えた。
28 そこでアンモンは、「その大霊が神です」と言った。アンモンはまた王に、「王様は、神でましますこの大霊が天地にある万物を創造されたことを信じますか」と尋ねた。
29 すると王は、「信じる。わたしは神が地にある万物を創造されたことを信じる。しかし、わたしは天というものを知らない」と答えた。
30 そこで、アンモンは王に、「天とは、神と神のすべての聖なる天使が住んでおられる所です」と言った。
31 するとラモーナイ王は、「それは地の上の方にあるのか」と言った。
32 そこでアンモンは、「そのとおりです。そして、神はすべての人の子らを見下ろしておられます。また、人の子らはすべて初めから神の御手によって造られたので、神はその心の思いと志をすべて御存じです」と言った。
33 するとラモーナイ王は、「わたしはあなたの語ったこれらのことをすべて信じよう。あなたは神から遣わされたのか」と言った。
34 アンモンは王に言った。「わたしはただの人間です。人は初めに神の形に造られました。わたしはこの民にこれらのことを教えて、正しい真実のことを知らせるために、神の聖なる御霊によって召されています。
35 そして、その御霊の一部がわたしの内にとどまっていて、神に対するわたしの信仰と望みに応じて、理解と力を与えてくれるのです。」
36 さて、アンモンはこれらの言葉を述べてから、世界の創造とアダムの造られたことから始めて、人の堕落に関する一切のことを告げ、また預言者たちが語ってきたことを、自分たちの先祖リーハイがエル

24 ①アル38・12
32 ①アモ4・13、3ニフ
34 ①28・6、教義6・16、モサ7・27、エテ3・13−16
②GS「教える・教師―御霊によって教える」
35 ①②GS「霊感」「知識」、モサ1・4、アル22・36 ①、37・9 ②12、使徒3・18−21

サレムを去った当時に至るまで語り、その民の記録と聖文[3]を王の前に置いた。

37 アンモンはまた彼ら（王と王の僕たち）に、自分たちの先祖が荒れ野を旅したことと、彼らが飢えや渇きに苦しんだこと、彼らの労苦など、すべてのことを語った。

38 また彼は、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちの反抗についても彼らに語った。まことに、彼は彼らの反抗についてすべて話した。そして彼は、リーハイがエルサレムを去ったときからその時点までのすべての記録と聖文について、彼らに説き明かしたのである。

39 しかも、それだけではなかった。彼は世の初めから備えられていた贖い[1]の計画についても彼らに説き明かし、またキリストの来臨についても彼らに知らせ、主のすべての業について彼らに明らかにしたのである。

40 さて、アンモンがこれらのことをすべて述べ、王にそれを説き明かしたところ、王は彼の言葉をすべて信じた。

41 そして王は主に向かって、「おお、主よ、憐れみをおかけください。あなたがこれまでニーファイの民に示してこられた深い憐れみ[1]により、わたしとわたしの民にも憐れみをおかけください」と叫び求めた。

42 そして、王はそのように言うと、地に倒れて死んだようになった。

43 そこで王の僕たちは、王を王妃のもとに運んで行き、床の上に横たえた。王は二日二晩まるで死んだように横たわっていた。また、王妃と王の息子たちと娘たちは、王を亡くしたことを深く悲しみ、レーマン人の習わしに従って王の喪に服した。

第19章

ラモーナイ、永遠の命の光を受け、贖い主を見る。王の家の者たち、意識を失って倒れ、多くの者たちは天使を見る。アンモン、奇跡的に守られる。アンモン、多くの人にバプテスマを施し、彼らの中に教会を設立する。紀元前約九十年。

1 さて、二日二晩たってから、彼らは死者を葬るために造っておいた墓に王の遺体を運んで、まさに葬

---

36 ③ 「聖文」
39 ① GS 「贖いの計画」
41 ① GS 「憐れみ」

ろうとしていた。
2そのとき、王妃はアンモンの名声を聞いていたので、人を遣わして、アンモンに自分のところに来てほしいと告げた。
3そこでアンモンは、命じられたとおりに王妃のもとへ行き、自分が何をすることを望んでいるのか知りたいと言った。
4すると、王妃は彼に言った。「夫の僕たちは、あなたが聖なる神の預言者[1]であり、あなたには神の御名によって多くの力ある業を行う力があると、わたしに教えてくれました。
5もしそうであれば、入ってわたしの夫に会ってほしいのです。夫は二日二晩の間、床に伏したままです。夫はまだ死んでいないと言う者もいれば、もう死んでいて悪臭を放っているので墓に葬らなければならないと言う者もいます。しかし、わたしが見たところ、においはありません。」
6さて、これはアンモンが望んでいたことであった。アンモンは、ラモーナイ王が神の力の下にあることを知っていたからである。アンモンは、王の心から不信仰という暗黒の[1]覆いが取り除かれつつあること、そしてその心を照らす光、神の栄光の光であり神の慈しみの驚くべき光であるこの光が、まことに、王自身の中に大きな喜びを注ぎ込んで暗黒の雲が消え去り、永遠の命の光が王自身の中にともされたことを知っていた。まことに、アンモンはこれが王の肉体に打ち勝って、王が神によって意識を失っていたことを知っていたのである。
7したがって、王妃が彼に求めたことは、彼がただ一つ願っていたことであった。そこで、彼は王妃から求められるままに、王に会うために入って行った。そして、彼は王を見ると、王がまだ死んでいないことが分かった。
8そこで彼は王妃に、「王は亡くなっていません。神によって眠っているので、明日、再び起き上がります。ですから王を葬ってはなりません」と言った。
9そしてアンモンは王妃に、「このことをお信じになりますか」と尋ねた。すると、王妃は彼に、「あなたの言葉とわたしたちの僕たちの言葉のほかに何の証拠もありませんが、あなたの言ったとおりになると信じます」と答えた。
10そこで、アンモンは王妃に言った。「お妃様は信

第19章
4①GS「預言者」
6①2コリ4・3−4、②GS「幕」GS「光・キリストの光」

仰が非常に深いので幸いです。お妃様、わたしは申し上げます。ニーファイ人のすべての民の中にさえ、これほどの深い信仰はありませんでした。」

11 さて、王妃はそのときから、王が起き上がるとアンモンが告げた翌日のその時刻まで、夫の床のそばで起きていた。

12 そして王は、アンモンの言葉のとおりに起き上がった。そして王は、起き上がると、王妃に向かって手を伸ばして言った。「神の御名がほめたたえられるように。また、あなたは幸いである。

13 あなたが生きているように確かに、見よ、わたしは贖い主を見た。贖い主は将来おいでになり、一人の女からお生まれになり、御名を信じるすべての人を贖われる。」王はこれらの言葉を言い終えると、胸がいっぱいになり、喜びのあまり再び倒れてしまった。すると、王妃も御霊に強く感じて倒れた。

14 アンモンは、罪悪と言い伝えのためにこれまでニーファイ人の中に、すなわち神のすべての民の中にひどい嘆きをもたらしてきた同胞のレーマン人に、自分の祈りに応じて主の御霊が注がれたのを見て、ひざまずいた。そして、その心を注ぎ出して祈り、神が自分の同胞のために行ってくださったことについて神に感謝した。それから、彼もまた喜びのあまり力を失ってしまった。このように、彼らは三人とも地に倒れたのであった。

15 さて、王の僕たちは彼らが倒れたのを見ると、主への畏れが生じていたので、彼らもまた神に叫び求めた。以前に王の前に立って、アンモンの大きな力について王に証言したのは、この僕たちであった。

16 そして彼らは、力の限り主の名を呼び、ついに一人のレーマン人の女を除いて、全員が地に倒れてしまった。この女は名をエービシといい、父の驚くべき示現のために、何年も前からすでに主に帰依していた。

17 このようにして、エービシは主に帰依していたので、ほかの者たちにはそのことを知られてはいなかったものの、ラモーナイの僕たちが皆、地に倒れ、また自分の主である王妃も王も、またアンモンまでが地に倒れて横たわっているのを見ると、それが神の力であることを知った。そして、この機会に彼らの中に起こったことを知らせてこの有様を見せれば、人々は神の力を信じるようになるであろうと思

---

10 ① ルカ 7・9、GS「信仰」
13 ① 1 ニフ 11・13−21
② GS「イエス・キリスト―降誕と死に関する預言」
14 ① モサ 1・5
② 教義 42・14
③ GS「喜び」
④ アル 27・17
15 ① アル 18・1−2
17 ① モサ 27・14

ったので、エービシは家から家へと走り回って、人々にそのことを知らせた。

18そこで人々は、王の宮殿に集まり始めた。そして、大勢の人がそこにやって来ると、驚いたことに、王と王妃と彼らの僕たちが地に倒れていた。彼らは皆、死んだようにそこに横たわっていた。また、人々はアンモンも見たが、見よ、その人はニーファイ人であった。

19そこで人々は、互いにつぶやき始めた。そして、ある者たちは、王がこのニーファイ人にこの地に住むことを許したので、彼ら、すなわち王と王の家に属するすべての者に大きな災いが及んだのだと言った。

20しかし、別の者たちは彼らをたしなめて、「王は[1]セブスの泉で家畜の群れを追い散らされた僕たちを殺したために、この災いを王の家に属するすべての者に招いてしまったのだ」と言った。

21しかし、こう言った者たちも、セブスの泉のそばに立っていて王の家畜の群れを追い散らした者たちからとがめられた。これらの者たちは、アンモンがセブスの泉で王の家畜の群れを守ったときに仲間を何人も殺したことで、アンモンに怒りを抱いていたからである。

22そして、その中に、アンモンの剣によって兄弟[1]を殺された者がいた。その男はアンモンのことを非常に怒っていたので、剣を抜くと前に進み出て、その剣でアンモンを殺そうとした。そして、アンモンを殺そうとして剣を振り上げたところ、見よ、その男は倒れて死んでしまった。

23これでわたしたちは、だれもアンモンを殺せないことが分かる。[1]主が彼の父モーサヤに、「わたしは彼の命を救おう。あなたの信仰に応じてそれは彼に起こる」と言われ、モーサヤが主にアンモンのことを[2]お任せしたからである。

24さて、大勢の人は、アンモンを殺そうとして剣を振り上げた男が倒れて死んだのを見て、皆恐れを抱き、アンモンにも、倒れているほかの者にも、あえて手を伸ばして触れようとはしなかった。そして彼らは、この大きな力の元は何であろうか、これらのことは皆どのような意味があるのか、と思い始めた。

25さて、彼らの中には、アンモンが大霊であると言

19①　アル17・22—23
20①　アル17・26、18・7
21①　アル17・27、18・3
22①　アル17・38
23①　モサ28・7、アル17・35
②　GS「信頼」

う者が多かったが、1)大霊から遣わされたのだと言う者もいた。

26しかし、その両者をたしなめて、アンモンは自分たちを苦しめるためにニーファイ人から遣わされた怪物であると言う別の者たちもいた。

27またある者たちは、アンモンは自分たちが罪悪を犯したので、自分たちを苦しめるために大霊から遣わされた者であり、大霊はいつもニーファイ人についていて、自分たちの手から彼らを救い出してきたとも言った。これらの者たちは、自分たちの同胞であるレーマン人を大勢滅ぼしてきたのはこの大霊であると言った。

28このようにして、彼らの中で非常に激しい争いが起こった。そして、彼らがそのように言い争っていたときに、その大勢の人を集めたはしためがやって来た。その女は大勢の人が言い争っているのを見ると、ひどく嘆いて涙を流した。

29そしてその女は、王妃のそばに行くと、王妃を地から起き上がらせようとでもするかのように、その手を取った。すると、その女が王妃の手に触れた途端、王妃は起きて立ち上がり、大声で叫んだ。「お、1)恐ろしい地獄からわたしを救われた、祝福に満ちたイエス様。お、祝福に満ちた神様。この民に2)憐れみをおかけください。」

30そして、王妃はこのように言うと、喜びに満たされて両手を組み、人々の理解できない多くの言葉を語った。そして、語り終えて、ラモーナイ王の手を取ると、王も起きて立ち上がった。

31そして、王は民の間に争いがあるのを知ると、すぐに出て行って彼らをたしなめ、アンモンから聞いた1)言葉を彼らに教え始めた。すると、王の言葉を聞いた人々は皆信じて、主に帰依した。

32しかし、王の言葉を聞こうとしない者たちもたくさんいて、彼らは立ち去った。

33そして、アンモンも起き上がると、彼らに教えを授け、ラモーナイの僕たちも皆同じようにした。彼らは皆すでにその心が改まっており、もう二度と2)悪を行いたいとは思わなかったので、そのことを口をそろえて人々に告げた。

34そして見よ、多くの僕たちが1)天使を見、また天使と話をしたと告げた。このように、彼らは神と神の義にかかわることを人々に述べたのである。

25① アル18・2−5
28① アル19・16
29① 1ニフ14・3
29② GS「憐れみ」
31① アル18・36−39
31② GS「再び生まれる」
33① モサ5・2、アル13・12②
34① GS「天使」

35 そして、彼らの言葉を信じた人々は大勢いて、信じた人々は皆バプテスマを受け、義にかなった民となり、自分たちの中に教会を設けた。
36 このようにして、主の業がレーマン人の中に始まり、主は彼らに主の御霊を注がれた。このことから、主の腕が、悔い改めて主の名を信じるすべての人に伸べられることが分かるのである。

第20章

アンモンが牢にいる兄弟たちを救い出せるように、主は彼をミドーナイの地に遣わされる。アンモンとラモーナイ、全地を治める王であるラモーナイの父に会う。アンモン、その年取った王に自分の兄弟たちの釈放を認めさせる。紀元前約九十年。

1 さて、彼らがその地に教会を設立した後、ラモーナイ王はアンモンを自分の父に会わせたいと思い、自分とともにニーファイの地へ行くように彼に求めた。
2 すると、主の声がアンモンに聞こえて、「あなたはニーファイの地へ上って行ってはならない。王があなたの命をねらうであろう。見よ、あなたの兄弟アロンと、ミュロカイ、アンマが牢に入っているので、ミドーナイの地へ行きなさい」と言われた。
3 さて、アンモンはこの御言葉を聞くと、ラモーナイに言った。「見よ、わたしの兄弟と同僚たちがミドーナイの牢に入れられているので、わたしは行って彼らを救い出します。」
4 すると、ラモーナイはアンモンに言った。「わたしはあなたが主の力で何事でもできることを知っています。しかし見よ、わたしも一緒にミドーナイの地へ行きましょう。ミドーナイの地の王はその名をアンテオムノといい、わたしの友です。ですから、わたしもミドーナイの地へ行って、その地の王をなだめましょう。そうすれば、彼はあなたの兄弟たちを牢から出してくれるでしょう。」また、ラモーナイは彼に、「あなたの兄弟たちが牢に入っているとあなたに告げたのはだれですか」と尋ねた。
5 そこでアンモンは彼に、「わたしに告げたのはほかでもない、神です。神がわたしに、『あなたの兄弟たちがミドーナイの地で牢に入っているので、行って救い出しなさい』と言われたのです」と答えた。

35① GS「バプテスマ」
36① 2ニフ26・33、アル5・33
第20章
4① アル26・12
②② アル20・28—30

6 ラモーナイはこの言葉を聞くと、僕たちに自分の馬[1]と馬車を用意させた。
7 そして、彼はアンモンに言った。「さあ、わたしもあなたとともにミドーナイの地へ行き、あなたの兄弟たちを牢から出すように王に頼みましょう。」
8 さて、アンモンとラモーナイがその地へ向かって旅をしていたところ、彼らは途中で、ラモーナイの父である全地を[1]治める王に出会った。
9 すると見よ、ラモーナイの父はラモーナイに、「わたしが息子たちと民のために宴会[1]を催したあの特別な日に、なぜおまえはその宴会に来なかったのか」と尋ね、
10 また、「おまえは偽り者[1]の子孫の一人であるこのニーファイ人と連れ立って、どこへ行こうとしているのか」と言った。
11 そこでラモーナイは、父を怒らせるのを恐れて、自分がどこへ行こうとしているかを語った。
12 彼はまた、父が用意した宴会に出るために父のもとへ行かずに自分の国にいた理由をすべて父に告げた。
13 さて、ラモーナイがこれらのことをすべて語ったところ、見よ、意外なことに、彼の父は彼に怒りを示し、「ラモーナイ、おまえはそのニーファイ人たちを救い出そうとしているが、その者たちは偽り者の子孫だ。見よ、その偽り者は我らの先祖から物を奪った。そして、今その子孫も我らの中にやって来て、悪知恵と偽りによって我らを欺き、また我らから持ち物を奪おうとしている」と言った。
14 そしてラモーナイの父は、剣でアンモンを殺すようにラモーナイに命じた。また、ミドーナイの地へ行かず、自分とともに[1]イシマエルの地へ帰るように命じた。
15 しかし、ラモーナイは父に言った。「わたしはアンモンを殺すつもりはありませんし、イシマエルの地へも帰りません。ミドーナイの地へ行って、アンモンの兄弟たちを解き放します。わたしは彼らが正しい人々であり、まことの神の聖なる預言者であることを知っているからです。」
16 彼の父はこれらの言葉を聞くと、彼に怒りを発し、剣を抜いて彼を地に打ち倒そうとした。
17 そのとき、アンモンが進み出て、ラモーナイの父に言った。「まことに、あなたは自分の息子を殺して

6(1) アル18・9—10
8(1) アル22・1
9(1) アル18・9
10(1) モサ10・12—17
14(1) アル17・19

はなりません。彼はすでに罪を悔い改めているので、もし殺されたとしても、あなたが倒れるよりはよいでしょう。しかし、あなた自身は、今怒ったまま倒れるならば救われません。

18 あなたは思いとどまった方がよいでしょう。もしあなたが自分の息子を殺せば、彼には罪がないので、彼の血は地から主なる神に向かって、あなたに報復するように叫ぶでしょう。そして、恐らくあなたは命を失うでしょう。」

19 アンモンがラモーナイの父にこれらの言葉を語り終えると、彼はそれに答えて、「わたしは、息子を殺せば罪のない者の血を流すことになるのを知っている。おまえこそわたしの息子を滅ぼそうとした者だ」と言った。

20 そして、彼は腕を伸ばして、アンモンを殺そうとした。しかし、アンモンは彼が打ちかかってくるのを防ぐとともに、彼の腕を打ってその腕を利かなくした。

21 そこで王は、アンモンに自分を殺す力があるのを知って、命を助けてほしいとアンモンに懇願し始めた。

22 しかし、アンモンは剣を振り上げ、「まことに、わたしの兄弟たちを牢から出すのを認めないかぎり、わたしはあなたを討つ」と言った。

23 すると王は、命を失うのを恐れて、「わたしの命を助けてくれれば、おまえの求めるものは何でも与えよう。王国の半分でも与える」と言った。

24 そこでアンモンは、自分の望みどおりにその年老いた王に影響を与えることができたのを知って、こう言った。「わたしの兄弟たちを牢から出すことと、ラモーナイに彼の王位を保たせることと、ラモーナイに対して怒りを示さず、何事でも彼の望むままに彼の考えていることを行わせることを認めるならば、わたしはあなたの命を助けよう。そうでなければ、あなたを地に打ち倒す。」

25 さて、アンモンがこれらの言葉を語り終えると、王は自分の命が助かることを喜んだ。

26 また彼は、アンモンが自分を殺す気がなく、また息子ラモーナイを深く愛していることを知って、非常に驚いて言った。「おまえが求めたのはただ、おまえの兄弟たちを釈放することと、わたしの息子ラモーナイに彼の王位を保たせること、それだけであ

---

17 ①
18 ①②
24 ①②

アルマ19・12—13
アルマ48・23
GS「殺人」
教義42・18
アルマ21・21—22

るから、まことにわたしは、これから先とこしえに息子に王位を保たせ、今後二度と息子に指図をするまい。

27わたしはまた、おまえの兄弟たちを牢から出すことと、おまえとおまえの兄弟たちがわたしの国でわたしのもとに来ることを認めよう。わたしはぜひおまえに会いたいからである。」王はアンモンが語った言葉と、息子ラモーナイが語った言葉に非常に驚き、それを知りたいと思ったのである。[1]

28さて、アンモンとラモーナイは、ミドーナイの地へ旅を続けた。そして、ラモーナイはその地の王の好意を得、アンモンの兄弟たちは牢から連れ出された。

29アンモンは、彼らに会うと非常に心を痛めた。見よ、彼らが裸であったうえに、丈夫な縄で縛られていたため、体の皮膚がすりむけていたからである。また、彼らは飢えと渇きとあらゆる苦難を受けて苦しんでいた。それでも、彼らはすべての苦しみに耐えていたのである。[1]

30このように、彼らはアンモンが出会った人々よりももっとかたくなで、もっと強情な人々の手に落ちる巡り合わせにあったのである。人々は彼らの言葉を聴こうとせず、彼らを追い出し、打ちたたき、家から家へ、こちらからあちらへと彼らを追い払い、とうとう彼らはミドーナイの地へやって来た。そこで彼らは捕らえられ、牢に入れられて丈夫な縄で縛られ、幾日もの間牢に閉じ込められていて、ラモーナイとアンモンによって救い出されたのであった。[1]

アロンとミュロカイと彼らの同僚たちがレーマン人に教えを説いたことについての話。

次の第二十一―二十六章がそれに相当する。

第21章

アロン、アマレカイ人にキリストとキリストの贖罪について教える。アロンと彼の同僚たち、ミドーナイで投獄される。アロンたち、解放された後、会堂で教え、多くの人を改宗させる。ラモーナイ、イシマエルの地の人々に信教の自由を認める。紀元前約九十年から七十七年に至る。

---

30 ①
29 ①
27 ①

GS「謙遜」
アルマ17・11
アル26・29

1 さて、アンモンと彼の同僚たちがレーマン人の国の境でそれぞれ別れたとき、アロンは、レーマン人がエルサレムと名付けた地を指して旅をした。そこは彼らの先祖の生まれた地にちなんで名付けられた所で、はるか遠くモルモンの地と境を接していた。
2 レーマン人とアマレカイ人とアミュロンの民は、そこに大きな町を築き、エルサレムと名付けた。
3 ところで、レーマン人はもともと相当にかたくなであったが、アマレカイ人とアミュロン人はことのほかかたくなであったので、彼らはレーマン人の心をさらにかたくなにさせ、悪事と忌まわしい行いにふけるようにさせた。
4 さて、アロンはエルサレムの町に着くと、最初にアマレカイ人に教えを説き始めた。アロンは彼らの会堂で教えを説き始めたが、それは彼らがニーホルの教団の会堂を幾つも建てていたからである。アマレカイ人とアミュロン人の多くがニーホルの教団に属していたのであった。
5 そこでアロンが、人々に教えを説くために、彼らの会堂の一つに入って彼らに語っていたときに、一人のアマレカイ人が立ち上がり、アロンと論じ始めた。「おまえが証したのは何のことだ。おまえは天使に会ったのか。なぜ天使は我々にも現れないのか。この民はおまえの民よりも善くないと言うのか。
6 おまえはまた、我々が悔い改めないかぎり滅びると言ったが、どうしておまえに我々の心の思いと志が分かるのか。我々に悔い改めなければならない理由があることがどうしておまえに分かるのか。我々が義にかなった民でないことがどうしておまえに分かるのか。見よ、我々は聖堂を建てたし、神を礼拝するために集まっている。我々は、神がすべての人を救われることを信じている。」
7 そこでアロンは彼に、「あなたは、神の御子が人類を罪から贖うために来られるということを信じていますか」と尋ねた。
8 するとその人はアロンに言った。「我々は、おまえにそのようなことが分かるとは信じない。我々はそのような愚かな言い伝えは信じない。また、おまえに将来のことが分かるとも信じないし、おまえの先祖と我々の先祖が、自分たちが語った将来のことについて分かっていたとは信じない。」
9 そこでアロンは、キリストの来臨と死者の復活に

第21章
1 (1) アル17・13、17
2 (1) モサ24・1、アル25・4−9
4 (1) アル1・2−15
5 (1) モサ27・11−15
8 (1) ヤコ7・1−8

ついての聖文を彼らに説明し、キリストの死と苦し
みと、キリストの血による[1]贖罪によるほかに、人類
のための贖いは[2]あり得ないことを話し始めた。
10そして、アロンがこれらのことを彼らに説き明か
したところ、彼らはアロンに怒りを示し、また彼を
あざけり始めた。そして、彼らは彼の語る言葉を聞
こうとしなかった。
11そこでアロンは、彼らが自分の言葉を聞こうとし
ないのを見て、会堂を去り、アナイ・アンタイと呼
ばれている村を訪れた。そこで彼は、人々に御言葉
を宣べ伝えていたミュロカイに出会い、またアンマ
と彼の同僚たちに会った。それから彼らは、御言葉
について多くの人と論じ合った。
12そして彼らは、人々が心をかたくなにするのを見
て、そこを去り、ミドーナイの地を訪れた。そして
彼らは、多くの人に御言葉を宣べ伝え、わずかな人
が彼らの教えた御言葉を信じた。
13にもかかわらず、アロンと彼の同僚たちの中の数
人は、捕らえられて牢に入れられた。また、残りの
同僚たちは、ミドーナイの地から周辺の地へ逃れ
て行った。
14そして、牢に入れられた人々は多くの[1]苦しみを受
けたが、後にラモーナイとアンモンの手によって救
い出された。そして、食べる物と着る物を与えられ
たのである。
15それから、彼らは御言葉を告げ知らせるために再
び出て行った。彼らが初めて牢から救い出された次
第は以上のとおりであり、彼らが苦しんだ次第も以
上のとおりである。
16そして彼らは、[1]主の御霊に導かれる所へならばど
こへでも行き、彼らが入ることのできたアマレカイ
人のすべての会堂で、またレーマン人のすべての集
会で、神の言葉を宣べ伝えた。
17そこで、主が彼らに祝福を授けてくださるよう
になり、彼らは多くの人に真理を知らせることがで
きた。すなわち、彼らは多くの人に、各自に罪のあ
ることと、彼らの先祖の言い伝えが正しくないこと
を[1]納得させた。
18そして、アンモンとラモーナイは、ミドーナイの
地からラモーナイと彼の民の受け継ぎの地であるイ
シマエルの地へ帰った。
19ラモーナイ王は、アンモンを自分に仕えさせよう

9 ① GS「贖罪」
② モサ5・8、アル38・
9
14 ① アル20・29
16 ① アル22・1
17 ① 教義18・44

とせず、自分の僕でいることを許そうとしなかった。

20また王は、イシマエルの地に幾つもの会堂を建てさせた。また彼は自分の民、すなわち自分の統治下にある人々をともに集めさせた。

21そこで彼は、集まった人々を見て喜び、彼らに多くのことを教えた。また、彼らが自分の下にある民であることと、自分の父である王の圧制を受けない自由の民であることを彼らに告げ知らせた。ラモーナイ王の父が彼に、イシマエルの地とその周辺の全地にいる人々を治めることを認めたからである。

22ラモーナイ王はまた、自分の統治下にある地であればどこででも、自分たちの望むままに、主なる自分たちの神を礼拝する自由が彼らにあることを告げ知らせた。

23そしてアンモンは、ラモーナイ王の民に教えを説いた。彼は、義にかかわることについてあらゆる事柄を民に教えた。アンモンは日々力の限り彼らに説き勧め、また彼らは彼の言葉を心に留めて、熱心に神の戒めを守った。

第22章

アロン、創造と、アダムの堕落と、キリストによる贖いの計画についてラモーナイの父に教える。王と王の家のすべての者が改宗する。ニーファイ人とレーマン人の領土の区分についての説明。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、アンモンはこのようにして引き続きラモーナイの民を教えていたので、話をアロンと彼の同僚たちのことに戻そう。アロンはミドーナイの地を去った後、御霊によってニーファイの地へ導かれ、王の宮殿に行った。この王は、イシマエルの地を[2]除く全地を治めている王であり、ラモーナイの父であった。

2そこでアロンは、彼の同僚たちとともに王の宮殿に入り、王のもとに進み出て、王の前にひれ伏して言った。「まことに、王様、わたしたちはアンモンの仲間であり、あなたに牢から救い出していただいた者であります。

3王様、わたしたちの命を助けてくださるならば、わたしたちは王様の僕になります。」すると王は彼

22①教義134・1—4、箇条1・11 GS「自由」
第22章
1①アル21・16—17
①②アル21・21—22
2①アル20・26

らに言った。「立ちなさい。わたしはあなたがたの命を許そう。しかし、わたしの僕になることは認めない。その代わりに、わたしにぜひとも教えてもらいたい。あなたの兄弟アンモンの言葉が寛大であり、偉大であったので、わたしは少々心に思い悩んでいることがある。また、アンモンがあなたとともにミドーナイから上って来なかった理由も知りたい。」

4 そこでアロンは王に、「まことに、主の御霊が彼をほかの場所へ呼ばれたのです。彼はラモーナイの民を教えるために、イシマエルの地へ行きました」と言った。

5 すると、王は彼に言った。「あなたは主の御霊について語っているが、それはどういうことなのか。見よ、わたしが思い悩んでいるのはそのことである。

6 アンモンは、『悔い改めるならば救われるが、悔い改めなければ終わりの日に捨てられる』と言ったが、それはどういうことなのか。」

7 そこでアロンは王に答えて、「王様は神がましますことを信じておられますか」と言った。すると、王は、「アマレカイ人が神がいると言っているのは知っている。わたしは彼らが集まって神を礼拝することができるように、幾つかの聖堂を建てることを彼らに許してきた。だから、今あなたが神はましますと言うならば、見よ、わたしは信じよう」と答えた。

8 さて、アロンはこれを聞いて心に喜びを覚え、「王様、まことに、あなたが今生きておられるように確かに、神は生きておられます」と言った。

9 すると王は、「神とは、我らの先祖をエルサレムの地から導き出したあの大霊のことか」と尋ねた。

10 そこでアロンは王に、「そのとおりです。神とはあの大霊のことです。神は天と地の両方で万物を創造されました。王様はこのことをお信じになりますか」と言った。

11 すると、王は答えた。「まことに、わたしは信じる。わたしは大霊が万物を創造されたことを信じる。だから、これらすべてのことについてわたしに話してほしい。わたしはあなたの言葉を信じよう。」

12 そこでアロンは、王が自分の言葉を信じようとするのを見て、聖文を王に読んで聞かせながら、アダムの造られたこと、すなわち神が御自分の形に人を創造されたことから始めて、神がアダムに戒めを与

6 (1) アル 20・17—18
7 (1) 教義 46・13—14
9 (1) アル 18・18—28
10 (1) GS「創造・創造する」
11 (1) GS「信じる」
12 (1) 1ニフ 5・10—18、アル 37・9

えられたことや、人が背きのために堕落したことを話して聞かせた。

13そしてアロンは、アダムが[1]造られたことから始めて王に聖文を説き明かし、人が堕落したことと、人類のこの世の状態と、[2]贖いの計画について話した。この贖いの計画は、キリストの名を信じようとするすべての人のために、キリストによって世の初めから備えられたものである。

14また人類は[1]堕落したので、自分自身で何も良い報いを得ることはできなかった。しかし、信仰と悔い改めなどによって、キリストの苦しみと死が彼らの罪を[3]贖うのである。そして、キリストは死の縄目を断ち、[4]墓は勝利を得ず、死のとげは栄光の望みの中にのみ込まれてしまう。アロンはこれらのことをすべて王に説き明かした。

15さて、アロンがこれらのことを王に説き明かした後、王は言った。「あなたの語ったこの永遠の命を得るには、わたしは[1]何をすればよいのか。まことに、わたしは何をすれば、この悪い霊をわたしの胸からことごとく取り除いて、神から生まれ、[2]神の御霊を受けて、喜びに満たされ、終わりの日に捨てられなくて済むのか。見よ、この大きな喜びを得るために、わたしは持ち物をすべて[3]捨てよう。まことに、王位も譲ろう。」

16しかし、アロンは王に言った。「あなたがこのことを[1]願い、神の御前にひれ伏すならば、まことに、あなたの罪をすべて悔い改め、神の御前にひれ伏して、与えられると信じて信仰をもって神の御名を呼ぶならば、そのときあなたは、今[2]願っているものを得るでしょう。」

17そして、アロンがこれらの言葉を語ると、王はひざまずいて主の前に[1]ひれ伏した。まことに、王は地に平伏し、熱烈に[2]叫び求めた。

18「おお、神よ、アロンは、あなたがましますことをわたしに告げました。もしも神が生きてましますならば、そしてあなたがその神であられるならば、あなた御自身のことをわたしにお知らせください。わたしはあなたを知り、死者の中からよみがえり、終わりの日に救われるように、自分の罪をすべて捨てます。」王はこれらの言葉を語り終えると、倒れて死んだようになった。

19さて、王の僕たちが走って行って、王の身に起こ

13① 創世1・26−28
②② GS「贖いの計画」
③ 2ニフ9・18
14① GS「堕落（アダムとエバの）」
②② 2ニフ25・23、アル42・10−25
③ アル34・8−16、GS「贖罪」
④ イザ25・8、1コリ15・55
15① 使徒2・37
②③ アル5・14、49
③ マタ13・44−46、19・16−22
16① GS「改宗」
② エテ12・4
17① 教義5・24
② GS「祈り」

ったことをすべて王妃に知らせたので、王妃は王のもとに来た。そして、死んだように横たわっている王と、張本人であるかのように立っているアロンと彼の同僚たちを見て、王妃は彼らに怒りを発し、自分の僕たち、いや王の僕たちに、彼らを捕らえて殺すように命じた。

20 ところが僕たちは、王が倒れた訳を知っていたので、アロンと彼の同僚たちにあえて手をかけようとせず、王妃に懇願して言った。「どうしてこの人々を殺すようにお命じになるのですか。この人々の一人は、わたしたち全員よりも強いのです。[1]わたしたちはこの人々の前で倒れてしまうでしょう。」

21 すると王妃は、僕たちが恐れているのを見て、自分に何か災いが及ぶかもしれないと思い、非常に恐れ始めた。そして、自分の僕たちに、行って人々を呼び集め、アロンと彼の同僚たちを殺させるように命じた。

22 さて、アロンは王妃の決意を知ると、人々の心がかたくなであるのも知っていたので、大勢の人が集まって、彼らの中にひどい争いと騒動が起こるのではないかと心配した。そこで彼は、手を差し伸べて王を地から起こし、「立ちなさい」と言った。すると、王は力を得て立ち上がった。

23 さて、このことは王妃と多くの僕たちの前で行われた。そこで彼らは、それを見ると非常に驚き、恐れた。すると、王は前に進み出て、彼らを[1]教え始めた。そして、王が彼らを教えたので、王の家のすべての者が主に[2]帰依した。

24 ところが、すでに王妃が命令を出していたので、大勢の人が集まって来た。そして彼らは、アロンと彼の同僚たちのことでひどくつぶやき始めた。

25 しかし、王が出て行って彼らの中に立ち、彼らを教えたので、彼らはアロンと、また彼と一緒にいた人々に対して心を和らげた。

26 そして王は、人々が心を和らげたのを見ると、アロンと彼の同僚たちを群衆の中に行かせて立たせ、彼らに御言葉を宣べ伝えさせた。

27 そして王は全地に、すなわち自分の国内にいるすべての民と、その周辺の全地方にいるすべての民に[1]布告を出した。この国は東と西で海に接しており、また[2]ゼラヘムラの地とは、東の海から西の海まで続いている細長い荒れ野で隔てられていた。ま

---

20 ① アル 18・1−3
23 ① GS「教える・教師」
② GS「仕える」「宣べ伝える」
27 ① GS「改宗」
② アル 23・1−4
オム 1・13−17

た、この荒れ野は海岸線で湾曲しており、その北方の境はゼラヘムラの地からマンタイの境を通り、また東から西に流れるシドン川の源まで達していた。レーマン人とニーファイ人はこのようにして分かれていた。

28さて、レーマン人の中でさらに[1]怠惰な者たちは荒れ野にいて、天幕に住んでいた。彼らはニーファイの地に含まれる西方の荒れ野全体に広く住んでおり、また、ゼラヘムラの地の西方の海岸に近い境の地付近にも、さらには、ニーファイの地の西方の、彼らの先祖が最初受け継ぎの地とした所にも住んでいた。このように、彼らは海沿いの境の地に住んでいた。

29また、東方の海岸近くにも多くのレーマン人がいた。彼らはニーファイ人によってそこに追い込まれたのである。このように、ニーファイ人はほとんどレーマン人に囲まれていた。それでも、ニーファイ人はシドン川の源で荒れ野に接する地の北部全体を所有してきた。その地は東から西まで荒れ野に沿っており、北方は彼らが[1]バウンティフルと名付けた地まで達していた。

30バウンティフルの地は、ニーファイ人が[1]デソレションと名付けた地に接していた。そのデソレションの地ははるか北方にあって、かつて人々が住んでいたが今はもう滅びてしまい、前に述べたようにゼラヘムラの民がその人々の骨を[2]発見した地である。またそこは、ゼラヘムラの民が[3]最初に上陸した所でもある。

31彼らはそこから南の荒れ野へ上って来た。このようにして、北方の地は[1]デソレションと呼ばれ、南方の地は、あらゆる野生動物で満ちている荒れ野があったので、バウンティフルと呼ばれた。その野生動物の一部は、食べ物を求めて北方の地から来たものであった。

32さて、東の海から西の海までは、バウンティフルとデソレションの地の境界線上をニーファイ人が一日半旅をすれば行けるわずかな距離であった。[1]このように、ニーファイの地とゼラヘムラの地はほとんど海に囲まれており、北方の地と南方の地の間には小さい[2]地峡があった。

33そしてニーファイ人は、東の海から西の海に至るまでバウンティフルの地に住んでいた。このよう

28① 2ニフ5・22−25
29① アル52・9、63・5
30① アル50・34、モル4・1−3
② モサ8・7−12、28・11−19
③ ヒラ6・10
31① ヒラ3・5−6
32① ヒラ4・7
② アル50・34

に、ニーファイ人は賢明に彼らの見張りの兵と軍隊をもってレーマン人を南方に閉ざし、レーマン人が北方に領土を持って北方の地で増え広がることのないようにした。

34そのためにレーマン人は、ニーファイの地と周辺の荒れ野の中にしか領土を持てなかった。これはニーファイ人の知恵であった。レーマン人は彼らの敵であったので、彼らはあらゆる方面で苦難を受けることのないようにし、またどこへでも思うままに逃げて行く先を確保できるようにしたのである。

35さて、このことはこれで終わりとし、再びアンモンとアロン、オムナーとヒムナイ、および彼らの同僚たちの話に戻ることにする。

第23章

信教の自由が宣言される。七つの地と町のレーマン人が改宗する。彼らはアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と自称し、のろいを解かれる。アマレカイ人とアミュロン人、真理を拒む。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて見よ、レーマン人の王はすべての民の中に布告を出して、国内のどこにおいても、民はアンモンやアロン、オムナー、ヒムナイ、そのほか神の言葉を宣べ伝えながら旅をしているその同僚たちに、手をかけてはならないと告げた。

2まことに、王は民に布告を出して、民は彼らを捕らえて縛ったり、牢に入れたりしてはならない、つばきを吐きかけたり、打ったり、会堂から追い出したり、鞭打ったりしてはならない、また彼らに石を投げつけてはならない、むしろ彼らが民の家や、神殿や、聖堂に自由に出入りできるようにしなければならないとした。

3そのため彼らは、思いのままに巡り歩いて御言葉を宣べ伝えることができた。それは、王と王の家のすべての者が主に帰依したからである。王は民にあてて全地に布告を出し、神の言葉が何の妨げにも遭うことなく国中に伝わって、先祖の言い伝えが正しくないことを民が納得するように、また自分たちは皆同胞であるので、殺人や略奪、盗み、姦淫、そのほかどのような悪事も行ってはならないことを納得するように仕向けた。

第23章
1(1) アル22・27
3(1) アル26・24

4 さて、王がこの布告を出した後、アロンと彼の同
僚たちは町から町へ、また礼拝の建物から建物へと
巡って、国中のレーマン人の中に教会を設け、祭司
たちと教師たちを聖任して、彼らの中で神の言葉を
宣べ伝え、教えるようにした。このようにして、彼
らは大きな成功を収め始めた。
5 そして、何千もの人々が主を知るようになった。
まことに、何千もの人々がニーファイ人の言い伝え
を信じるようになったのである。そしてこれらの
人々には、その当時まで伝えられてきた数々の記録
と預言が教えられた。
6 そして、主が生きておられるように確かに、アン
モンと彼の同僚たちが啓示と預言の霊によって行
った宣教と、彼らを通じて数々の奇跡を行われた神
の力によって信仰を持つようになったすべての人、
すなわち真理を知るようになったすべての人は、あ
なたがたに申し上げるが、主が生きておられるよう
に確かに、彼らの説教を信じて主に帰依したレーマ
ン人は皆、二度と道を踏み外さなかった。
7 彼らは義にかなった民となったのである。まこと
に、彼らは謀反に使う武器を捨てて、もはや神と戦
わず、同胞のだれとも戦わなかった。
8 さて、主に帰依したのは次の人々である。
9 すなわち、イシマエルの地にいたレーマン人の
民、
10 また、ミドーナイの地にいたレーマン人の民、
11 また、ニーファイの町にいたレーマン人の民、
12 また、シャイロムの地、シェムロンの地、レムエ
ルの町、シムナイロムの町にいたレーマン人の民。
13 以上は主に帰依したレーマン人の住んでいた町の
名であり、また謀反に使う武器、すなわち戦争に使
うすべての武器を捨てた人々である。彼らはすべて
レーマン人であった。
14 ところが、アマレカイ人はたった一人が改宗した
だけであり、アミュロン人はだれも改宗しなかっ
た。むしろ彼らは心をかたくなにし、彼らの住んで
いる地で、すなわち彼らのすべての村と彼らのすべ
ての町で、レーマン人の心をかたくなにさせた。
15 そのために、悔い改めて真理を知り、改宗したレ
ーマン人の住む町の名を、すべて挙げたのである。
16 さて、王と改宗した人々は、彼らの同国人と区
別される名を持ちたいと望んだ。そこで王は、何と

5 ① アル37・19
② アル63・12、GS「聖
文」
6 ① GS「改宗」
② アル27・27
8 ① アル26・3、31
12 ① モサ22・8、11
13 ① アル53・10
14 ① アル24・29
② モサ23・31—39

いう名を受けて区別されるのがよいかについて、アロンと多くの祭司たちに意見を求めた。
17そして彼らは、自分たちをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と名付けた。彼らはこの名で呼ばれるようになり、もはやレーマン人とは呼ばれなかった。
18そして彼らは、非常に勤勉な民になった。また彼らは、ニーファイ人と親しくなったので、ニーファイ人と交わりを持つようになった。そして、神のろいはもはや彼らから離れ去った。

第24章

レーマン人、神の民を攻める。アンタイ・ニーファイ・リーハイ人、キリストのことを喜び、天使たちの訪れを受ける。彼らは自衛するよりもむしろ死ぬ方を選ぶ。さらに多くのレーマン人が改宗する。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、アミュロンの地、またヘラムの地、さらにエルサレムの地、要するに周辺の全地にいて、改宗しておらず、アンタイ・ニーファイ・リーハイの名も受けていないアマレカイ人とアミュロン人とレーマン人たちは、アマレカイ人とアミュロン人に扇動されて同胞に怒りを示すようになった。
2そして、同胞に対する彼らの憎しみは非常にひどくなって、ついに彼らは自分たちの王に背くようになり、その王が自分たちの王であることを望まなくなった。その結果、彼らはアンタイ・ニーファイ・リーハイの民に対して武器を取った。
3ところで、王は息子に王位を譲り、彼の名をアンタイ・ニーファイ・リーハイと呼んだ。
4そして王は、レーマン人が神の民と戦うための準備を始めたその年に亡くなった。
5さて、アンモンと彼の同僚たちと、彼と行動を共にしていたすべての人は、レーマン人がその同胞を滅ぼす準備をしているのを見て、ミデアンの地へ向かった。そこでアンモンは同僚たち全員と落ち合い、そこから彼らはイシマエルの地へ向かった。ラモーナイおよび彼の兄弟であるアンタイ・ニーファイ・リーハイとともに、レーマン人に対して自衛するために何をすればよいか協議するためであった。

17① GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
18① 1ニフ2・23、2ニフ30・5−6、3ニフ2・14−16
第24章
1① アル21・1
② アル25・1、13
5① アル27・4−13

6 ところが、すでに主に帰依していた人々の中には、その同胞に対して武器を取ろうとする人はだれ一人いなかった。それだけでなく、彼らは戦いの準備をすることさえも望まなかった。また、彼らの王も戦いの準備をしてはならないと命じたのである。

7 さて、王がこの件について民に語った言葉は次のとおりである。「愛する民よ、わたしは神に感謝する。大いなる神は慈しみをもって、同胞であるこのニーファイ人たちを我らのもとに遣わしてくださった。そして、我らに教えを説き、また、不義な先祖の[1]言い伝えが正しくないことを認めさせてくださった。

8 また見よ、我らの心を和らげるために、大いなる神が御霊の一部をお授けくださったことに、わたしは感謝している。おかげで我らは、同胞であるこれらのニーファイ人たちと行き来するようになった。

9 また見よ、行き来することによって、我らが自分たちの[1]罪と、これまでに犯した多くの殺人を自覚するようになったことも、わたしは神に感謝している。

10 さらに、わたしの神、まことに大いなる神は、我らがこれらのことを悔い改められるようにしてくださり、またこれまでに犯した多くの罪と殺人の罪を[1]赦し、神の御子の功徳によって我らの心から[2]罪を取り除いてくださった。わたしはこのことも神に感謝している。

11 さて見よ、わたしの同胞よ、（我らは全人類の中で最も霊的にすさんだ者であったので）我らができることはただ、我らのすべての罪と、これまでに犯した多くの殺人の罪を悔い改めて、我らの心からそれらのものを神に[1]取り去っていただくことであった。我らができることはただ、神に我らの汚れを取り除いていただけるように、神の御前に十分に悔い改めをすることであったからである。

12 さて、わたしの最愛の同胞よ、神がすでに我らの汚れを取り除いてくださり、我らの剣は光を放つようになったので、剣を二度と同胞の血で汚すことのないようにしようではないか。

13 見よ、わたしはあなたがたに言う。我らは剣が同胞の血で汚されることのないようにしようではないか。恐らく、もし我らが再び剣を汚すならば、それらは、将来我らの罪の贖いのために流される、大い

7 (1) モサ 1・5
9 (1) 教義 18・44
10 (1) ダニ 9・9
10 (2) GS「罪悪感」
11 (1) イザ 53・4−6

なる神の御子の血[1)ち]によって洗われて光を放つことは二度とないであろう。

14 大いなる神は我らを憐れみ、我らが滅びないようにこれらのことを知らせてくださった。神は我らの子供たちを愛するように[1)われ]我らも愛してくださっているので、これらのことをあらかじめ知らせてくださったのである。そのために、神は憐れみをもって天使たちを遣わして、将来の子孫と同じように我らにも[2)すく]救いの計画を知らせてくださっている。

15 おお、我らの神は何と憐れみ深いことか。さて見よ、我らは汚れを取り除いていただくためにできることはすべて行ってきて、今我らの剣は光っているので、その輝きを保てるように、それを隠してしまおうではないか。そうすればその剣は、終わりの日に、すなわち裁きを受けるために神の御前に連れ出される日に、神の御言葉を伝えて我らを清めてくださって以来、我らが剣を同胞の血で汚したことはないという、神への証拠となることであろう。

16 さて、わたしの同胞よ、たとえ同胞が我らを殺そうとしても、見よ、我らは剣を隠してしまおう。それを決して使わなかったという証拠として、終わりの日に輝きを保っているように、それを地中深く埋めてしまおう。そうすれば、たとえ同胞に殺されても、見よ、我らは神のみもとへ[1)いい]行き、救われることであろう。」

17 さて、王がこのように語り終えると、民は皆集まり、自分たちの剣と、かつて人の血を流すのに使ったあらゆる武器を取って来て、それを地中深く埋めてしまった。

18 彼らがこのようにしたのは、こうすることが、武器を使って人の血を流すことは決して[1)けっ]ないことを神と人に示す証拠になると考えたからである。彼らはこのようにして、同胞の血を流すよりは自分の命を[2)すて]捨て、同胞から奪うよりは同胞に与え、怠惰に生涯を送るよりは自分の手を使って一生懸命に働くつもりであることを証明し、神に[3)せいやく]聖約したのである。

19 このことから分かるように、このレーマン人たちは信仰を持ち、真理を知るようになったときに、[1)かっ]確固とした者になり、罪を犯すよりは死に至るまでも苦しみに耐えようとしたのである。また、前に述べたことから分かるように、彼らは平和の武器、すな

---

13 ① 黙示1・5
14 ① GS「人（霊を持つ存在としての）―人の価値」
16 ① ② GS「贖いの計画」 アル40・11―15
17 ① ① ヒラ15・9
18 ① ② GS「犠牲」 アル53・11
19 ① ③ GS「聖約（契約）」 GS「信仰」

わち平和を得るための戦いの武器を埋めてしまったのである。

20さて、彼らの同胞であるレーマン人は戦いの準備を整え、ニーファイの地に向かって来た。彼らが目的としていたのは、王を殺してほかの者を代わりに立て、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民もまたその地から滅ぼし尽くすことであった。

21さて、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民は、レーマン人が攻めて来るのを見ると、出て行って彼らに会い、彼らの前で地に1)身を伏せて、主の名を呼び始めた。彼らがこのような姿勢を取っていたところ、レーマン人は彼らに襲いかかり、彼らを殺し始めた。

22このようにして、レーマン人は何の抵抗も受けることなく、アンタイ・ニーファイ・リーハイ人を千五人殺した。これらの人々は神とともに住むために世を去ったので幸いであることを、わたしたちは知っている。

23ところでレーマン人は、自分たちの同胞が剣から逃れようとせず、右にも左にも身をかわそうとせずに、伏したまま1)死のうとしており、剣に倒れるその最中でさえ神をほめたたえるのを見て、

24すなわち、レーマン人はそれを見て、彼らを殺すのをやめた。1)そして、多くの者が自分たちのしたことを悔い、剣に倒れた同胞のためにひどく心を痛めた。

25そして、これらの者は自分たちの武器を投げ捨て、人を殺してきたことにひどく苦しみを覚え、二度と武器を取ろうとしなかった。それから彼らは、同胞と同じように身を伏せて、彼らを殺すために腕を振り上げた者たちのなすがままに任せたのであった。

26そしてその日、殺された人の数よりも多くの者が神の民に加わった。また、殺された人々は義にかなった人々であったので、彼らが1)救われたことは決して疑う余地がない。

27また、このようにして死んだ人々の中には一人の悪人もなく、しかも真理を知るようになった人々は千人を超えた。このことから、主は御自分の民を救うために様々な1)方法を用いられることが分かる。

28ところで、そのように多くの同胞を殺したレーマン人に属する者の大多数は、アマレカイ人とアミュ

21① アル27・3
23① アル26・32
24① アル25・1
24② GS「哀れみ」
26① 黙示14・13、イザ55・8−9、アル37・6−7
27① 1)

ロン人であり、しかもその大多数はニーホル[1]の教団[2]に属する者であった。

29 主の民に加わった人々の中には、アマレカイ人やアミュロン人、あるいはニーホルの教団に属する者はだれ一人おらず、主の民に加わったのはレーマン[1]とレムエルの実の子孫だけであった。

30 このことから明らかに分かるように、民は一度神の御霊に照らされ[1]、義にかかわることに関して大いなる知識を得てから、その後、罪と背きに陥る[3]と、前よりもいっそうかたくなになる。したがって彼らの状態は、これらのことをまったく知らない場合よりももっと悪くなる[4]のである。

第25章

レーマン人の侵略が広がる。ノアの祭司たちの子孫、アビナダイが預言したように滅びる。多くのレーマン人が改宗し、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民に加わる。彼らはキリストを信じ、モーセの律法を守る。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1 さて見よ、そのレーマン人は自分たちの同胞を殺すことになったのでますます怒り、ニーファイ人への報復を誓った。そして、そのときにはもうアンタイ・ニーファイ・リーハイ[1]人を殺そうとはしなかった。

2 その代わりに、彼らは軍隊を率いてゼラヘムラの地の境を越え、アモナイハの地にいる民を攻めて滅[1]ぼした。

3 その後、彼らはニーファイ人と何度も戦ったが、その戦いで追い払われ、殺された。

4 そして、ノアの祭司であったアミュロンと彼の仲間たちの子孫[1]は、そのほとんど全員が殺されてレーマン人の戦死者の中にいた。彼らはニーファイ人の手によって殺されたのである。

5 また、生き残った者たちは東の荒れ野に逃げ込んで、レーマン人を支配する権力と権能を奪い取り、彼らが信仰を持っているという理由でレーマン人の多くを火あぶりにして殺[1]させた。

6 それというのも、レーマン人の中の多くの者たちが、多くの同胞を失い、非常に多くの苦難を受けた後、かつてアロンと彼の同僚たちが自分たちの地で宣べ伝えた言葉を思い出すに至ったからである。そ

---

28 ① アル 1・15、2・1、
20 ①
29 ① アル 21・4
② アル 23・14
30 ① マタ 12・45
② ヘブ 10・26、アル 47・
③ 36 2ニフ 31・14、アル 9・19、GS「背教・背信」
④ 2ペテ 2・20—21

第25章
1 ① GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
2 ① アル 8・16、16・9
4 ① モサ 23・35
5 ① モサ 17・15
6 ① アル 21・9

して、これらの者たちは、先祖の言い伝えを信じるのをやめて主を信じるようになり、また主がニーファイ人に大きな力を与えられたことを信じるようになったのである。このように、荒れ野の中で大勢のレーマン人が改宗した。

7 さて、アミュロンの子孫の生き残りの者で支配者になった者たちは、まことに、これらのことを信じているすべての人を殺させてしまった。

8 すると、この殉教を見て多くの同胞が怒りをかき立てられ、荒れ野で争いが起こった。そして、レーマン人がアミュロンと彼の仲間の子孫を狩り出して殺し始めたため、彼らは東の荒れ野に逃げ込んでしまった。

9 そして見よ、彼らは今でもレーマン人に追い回されている。このようにして、自分を焼き殺すように仕向けた祭司たちの子孫について、アビナダイの述べた言葉は成就した。

10 アビナダイは、「あなたがたがわたしに行うことは、将来起こることの予型である」と言ったからである。

11 さて、アビナダイは神を信じているという理由で火あぶりにされて死んだ最初の人であった。したがって、彼が言おうとしたことは、多くの人が自分と同じように火あぶりにされて死ぬということである。

12 アビナダイはノアの祭司たちに、彼らの子孫はアビナダイが殺されるのと同じ方法で多くの人を殺すが、その後彼らは、羊飼いのいない羊が野獣に追われて殺されるように、方々に散らされて殺されると述べた。見よ、これらの言葉は実証されたのである。祭司たちの子孫はレーマン人に追われ、狩り出され、打たれたからである。

13 さて、レーマン人はニーファイ人を打ち負かせないことを知ると、再び自分の国に引き揚げた。そして、その中の多くの者がイシマエルの地とニーファイの地に移り住み、神の民、すなわちアンタイ・ニーファイ・リーハイの民に加わった。

14 彼らもまた、その同胞がしたように自分たちの武器を埋め、義にかなった民になった。そして主の道を歩み、主の戒めと主の掟を守るように努めた。

15 また、彼らはモーセの律法も守った。モーセの律法はまだすべては成就していなかったので、彼らは

---

6 ② アル26・24
7 ① アル21・3、24・1、28−30
② GS「殉教者・殉教」
8 ① モサ17・18
10 ① モサ13・10
11 ① モサ17・13
13 ① アル23・16−17
14 ① アル24・15、26・32

モーセの律法を守る必要があったからである。しかし彼らは、[1]モーセの律法を守っていたにもかかわらず、キリストの来臨を待ち望んでいた。彼らは、モーセの律法はキリストの来臨の[2]予型であると考え、キリストが自分たちに御姿を現されるときまでは、それらの[3]外形上の勤めを守らなければならないと信じていたからである。

16ところで彼らは、[1]モーセの律法によって[2]救いが得られるとは思っていなかった。しかしモーセの律法は、キリストを信じる信仰を強めるのに役立った。このようにして彼らは、将来起こることについて告げる預言の霊に頼りながら、信仰をもって永遠の救いにあずかることができるという[3]希望を抱き続けたのである。

17さて見よ、アンモンとアロン、オムナー、ヒムナイ、およびその同僚たちは、主が彼らの[1]祈りに応じて願いをかなえてくださり、またすべてのことについて御自身の言葉を実証してくださったことを知って、彼らがレーマン人の中で得た成功に非常に喜びを得たのであった。

第26章

アンモン、主を誇って喜ぶ。忠実な者は主によって強められ、知識を与えられる。人は信仰によって何千もの人々を悔い改めさせることができる。神は一切の権威を持ち、すべてのことを悟っておられる。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、アンモンが同僚たちに語った言葉は、次のとおりである。「わたしの兄弟たちと同僚たちよ、わたしはあなたがたに言いたい。わたしたちは大いに喜んでよい。わたしたちは、ゼラヘムラの地を[1]出たときに、神がこれほどまでに大きな祝福を与えてくださると想像できただろうか。

2さて、わたしは尋ねるが、神はわたしたちにどんな大きな祝福を与えてくださっただろうか。あなたがたはそれを告げることができるだろうか。

3見よ、あなたがたに代わってわたしが答えよう。わたしたちの同胞のレーマン人は、かつて暗闇の中に、まことに最も暗い、深い淵の中にいた。しかし今は何と多くのレーマン人が神の驚くべき光を見るようになったことか。わたしたちがこの大いなる業

15① 1・11、GS「モーセの律法」
② モサ3・14—15、16・
③ 14 モサ13・29—32
16① 2ニフ11・4
② モサ12・31—37、13・27—33
③ 1テサ5・8—9
17① アル17・9

第26章
1① モサ28・9、アル17・6—11
3① アル23・8—13

を成し遂げるために、神の御手に使われる者とされたことは、わたしたちに与えられた祝福である。
4 見よ、何千人ものレーマン人が今喜びを得ており、神の羊の群れに入っている。
5 見よ、畑は熟していた。そして、あなたがたは鎌を入れ、力を尽くして刈り入れ、まことに一日中働いたので、あなたがたは幸いである。見よ、あなたがたの得た束は何と多いことか。それらの束は、無駄にならないように倉に納められるであろう。
6 まことに、それらの束は終わりの日に嵐に打たれることなく、旋風に巻き上げられることもない。嵐が来るときに、それらの束はそのあるべき場所に集められるので、嵐がその束に吹きつけることはない。まことに、敵が追いやろうと思う所に暴風で押しやられることもないであろう。
7 しかし見よ、それらの束は収穫をつかさどる主の御手の中にあり、それらは主のものである。主は終わりの日にそれらの者をよみがえらせてくださる。
8 神の御名がほめたたえられるように。わたしたちの神を賛美して歌おう。神の聖なる御名に感謝をささげよう。神はとこしえに義を行われるからである。
9 もしわたしたちがゼラヘムラの地から来なかったならば、わたしたちを今心から愛してくれている、またわたしたちが深く愛するこの同胞は、今もなおわたしたちに対する憎しみで苦しみ、また神を知らなかったであろう。」
10 そして、アンモンがこれらの言葉を語り終えると、兄弟のアロンが彼をたしなめて言った。「アンモン、あなたは喜びのあまり、我を忘れて誇るようになってしまったのではないか。」
11 そこで、アンモンはアロンに言った。「わたしは自分の力も知恵も誇ってはいない。しかし見よ、わたしの喜びは満ちており、胸は喜びでいっぱいである。だから、わたしは主にあって喜ぼう。
12 まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知っている。わたしは力の弱い者である。だから、わたしは自分のことを誇るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力によって何事でもすることができるからである。まことに見よ、わたしたちはこの地で多くの偉大な奇跡を行ってきた。だから、とこしえに神の御名をほめたたえよう。

---

3 (2) 2コリ4・5、モサ23・10
4 (1) アル23・5
5 (1) ヨハ4・35−37、教義4・4
(2) ヨエ3・13
(3) 教義33・7−11、75・2、5
6 (1) 14・24−27
(2) ヒラ5・12、3ニフ7
(1) GS「刈り入れ」
(2) モサ23・22、アル36・8
(1) 28
(2) 教義25・12
GS「感謝」
9 (1) (2) モサ28・1−2
10 (1) 2コリ7・14
11 (1) 教義18・14−16、GS「喜び」
(2) エレ9・24、アル29・12
(1) 9
(2) 詩篇18・32−40、ピリ4・13、1ニフ17・3

13見よ、神が地獄[1]の苦痛から解き放してくださった同胞の数は、何千人にも上るではないか。彼らは今、贖いをもたらした愛について歌う[2]ようになっている。これはわたしたちの内にある神の御言葉の力のおかげである。だから、大いに喜んでよいのではないだろうか。

14まことにわたしたちは、とこしえに神をほめたたえて当然である。わたしたちの神はいと高き神であり、わたしたちの同胞を地獄[1]の鎖から解き放してくださった。

15まことに、わたしたちの同胞はかつて永遠の暗闇と滅びに取り巻かれていたが、しかし見よ、神は彼らを御自分の永遠の光[1]の中に、まことに永遠の救いの中に導いてくださった。そして今、彼らはたぐいない豊かな神の愛に取り巻かれている。そして、わたしたちは神の御手に使われる者となって、この大いなる驚くべき業を行ってきた。

16だから、わたしたちは誇って喜ぼう。まことに、主を誇[2]って喜ぼう。まことに、わたしたちの喜びは満ちているので、喜びを味わおう。まことに、とこしえに神をほめたたえよう。見よ、主を誇って喜びすぎるということがあり得ようか。まことに、主の大いなる力と、主の憐れみ[3]と、人の子らに対する主の寛容について語りすぎるということがあり得ようか。見よ、わたしはあなたがたに言うが、わたしは感じていることの万分の一も言い表せない。

17神はわたしたちを恐ろしい、罪深い、汚れた状態から救い出してくださったが、神がそのように憐れみ深い御方であられることを、だれが想像できただろうか。

18見よ、かつてわたしたちは怒って出て行き、ひどい脅迫によって神の教会を滅ぼ[1]そうとした。

19おお、そのときに神は、なぜわたしたちを恐ろしい滅びに引き渡されなかったのだろうか。まことに、なぜわたしたちに罰の剣を下し、わたしたちを永遠の絶望の淵に落とされなかったのだろうか。

20おお、そのことを考えると、わたしは消え入ってしまいそうである。見よ、神はわたしたちに御自分の正義を行使されることなく、深い憐れみによって、死と不幸のあの永遠の淵[1]からわたしたちを救いに導いてくださった。

21さて見よ、兄弟たちよ、生まれながら[1]の人でこれ

13①GS「地獄」 ②アル5・26
14①アル12・11
15①GS「光・キリストの光」 16①1・31 ②2コリ10・15—18、教義76・61 ③詩篇36・5—6
18①モサ27・8—10
20①2ニフ1・13、ヒラ3・29—30
21①GS「生まれながらの人」

らのことを知っている人がいるだろうか。わたしはあなたがたに言う。悔い改めた人以外、これらのことを知っている[2]人はだれもいない。

22 まことに、[1]悔い改めて[2]信仰を働かせ、善い行いをし、絶えず祈り続ける人には、神の[3]奥義を知ることが許され、まことに、まだ明らかにされていないことを明らかにすることが許される。また、この同胞を悔い改めに導く務めがわたしたちに与えられたように、何千もの人々を悔い改めに導く務めがその人に与えられる。

23 さて、兄弟たちよ、わたしたちがゼラヘムラの地に住む同胞に、わたしたちの同胞であるレーマン人に教えを説くためにニーファイの地へ行くと言ったとき、彼らがわたしたちをあざけり笑ったのを覚えているだろうか。

24 彼らはわたしたちに言った。『あなたがたはレーマン人に真理を知らせることができると思っているのか。今見るとおりの[1]強情な民であるレーマン人に、彼らの先祖の[2]言い伝えが正しくないことを納得させることができると思っているのか。彼らは今でも血を流すことを喜びとしており、日々ひどい罪悪に明け暮れ、彼らの生活は初めから背く者の生活だ。』兄弟たち、あなたがたは彼らがこう言ったのを覚えているはずである。

25 また彼らは、『レーマン人に打ち負かされて滅びることのないように、我々は武器を取って、彼らと彼らの罪悪を地から一掃しよう』とも言った。

26 しかし見よ、愛する兄弟たちよ、わたしたちは同胞を滅ぼすためではなく、わずかな人でも救えるのではないかということで荒れ野にやって来た。

27 そして、わたしたちが意気消沈して、まさに引き返そうとしたときに、見よ、主はわたしたちを[1]慰め、『あなたがたの同胞であるレーマン人の中に行き、[2]忍耐して[3]苦難に耐えなさい。そうすれば、あなたがたに成功を得させよう』と言われた。

28 さて見よ、わたしたちはレーマン人の中に来て方々を巡り、様々な苦難に耐え、あらゆる窮乏をしのいできた。まことに、世の人々の憐れみに頼りながら、家々を訪れた。世の人々の憐れみばかりでなく、神の憐れみにも頼ってきた。

29 そして、わたしたちは彼らの家に入って、彼らを教え、また通りでも、丘の上でも教えた。彼らの神

---

21 ② 1コリ2・9—16、ヤコ4・8
22 ① アル36・4—5、GS「悔い改め」
② ② GS「信仰」
③ ① GS「神の奥義」
24 ① モサ13・29
② モサ10・11—17
27 ① アル17・9—11
② ③ GS「忍耐」
③ ② アル20・29—30、GS「逆境」

殿や会堂にも入って教えた。そして、わたしたちは追い出され、あざけられ、つばきを吐きかけられ、頬を打たれた。また、石を投げつけられ、捕らえられて丈夫な縄で縛られ、牢に入れられた。その後、わたしたちは神の力と知恵によって、再び救い出された。

30 また、わたしたちはあらゆる苦難に耐えてきた。これはすべて、だれか一人でも救う仲立ちになれるようにと行ってきたことであった。わたしたちは、だれかを救う仲立ちになれたら喜びに満たされるだろうと思った。

31 さて見よ、わたしたちは、自分たちの労苦の成果を見て、それを目にすることができる。その成果はわずかだろうか。あなたがたに言う。いや、その成果は多い、と。[1)] また、彼らが同胞とわたしたちに示してきた愛から、彼らの誠実さを見ることができる。

32 見よ、彼らは、敵の命であっても、その命を奪うよりはむしろ自分の命を犠牲にする方を選んだ。そして彼らは、[2)] 同胞を愛していたので、自分たちの武器を地中深く埋めてしまった。

33 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。これまで全地でこれほどの深い愛があっただろうか。見よ、あなたがたに言う。いや、ニーファイ人の中にさえなかった、と。

34 見よ、ニーファイ人ならば、同胞に対して武器を取るであろう。殺されるに任せることはないであろう。しかし見よ、これらのレーマン人の何と多くが命を捨てたことか。これらの人々は愛があり、罪を憎んでいたので、自分たちの神のみもとに行ったことをわたしたちは知っている。

35 それでも、喜んでよい理由はないのだろうか。あると、あなたがたに言おう。世界が始まって以来、わたしたちほど喜んでよい、立派な理由を持っている者はいない。わたしは神にあって自分の喜びを誇るほどまでに、今喜びに浸り切っている。神は、一切の[1)] 権威とあらゆる知恵、あらゆる理解を備えておられる。神はすべてのことを悟っておられる。神は[2)] 憐れみ深い御方であり、悔い改めて神の御名を信じる人々に救いを与えてくださる。

36 さて、もしこれが誇っていることになると言うのであれば、わたしはこれからもこのように誇ろう。この御方はわたしの命、わたしの光、わたしの喜び、

30 ① 教義 18・15−16
31 ① アルマ 23・8−13
32 ① アルマ 24・20−24
② アルマ 24・15
35 ① GS「力」
② 教義 88・41
③ GS「憐れみ」

わたしの救いであり、またわたしを永遠の苦悩から贖ってくださる御方である。まことに、イスラエルの木の1)一枝であって、親木から分けられて異郷でさまよっているこの民を心にかけてくださった神の御名がほめたたえられるように。まことに、異郷で2)流浪の民となっているわたしたちを心にかけてくださったわたしの神の御名がほめたたえられるように。

37さて、兄弟たち、神は民がどの地に住んでいようとも、すべての1)民を心にかけられることが分かる。まことに、神は御自分の民を数えておられ、神の憐れみの心は全地のうえに及んでいる。これがわたしの喜びであり、わたしの深く感謝しているところである。わたしはとこしえに神に感謝をささげよう。アーメン。」

第27章

主はアンモンに、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民を安全な地に導くように命じられる。アンモン、アルマに出会い、喜びのあまり力を失う。ニーファイ人、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民にジェルションの地を譲り与える。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民は、アンモンの民と呼ばれる。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、ニーファイ人に向かって進んだレーマン人は、ニーファイ人を攻めて、彼らを滅ぼそうと何度も戦闘を繰り返した後、彼らを滅ぼそうとしても無駄であることを知って、ニーファイの地へ引き揚げた。

2そして、アマレカイ人は仲間を失ったことで非常に怒っていたので、ニーファイ人に報復する機会が得られなくなったのを知ると、民を扇動して、1)同胞であるアンタイ・ニーファイ・リーハイの民に対して怒りを抱かせた。そこで彼らは、再びアンタイ・ニーファイ・リーハイの民を殺し始めた。

3ところがこの民は、1)またもや武器を取ることを拒み、相手の思いのままに殺されるに任せた。

4アンモンと彼の同僚たちは、自分たちが非常に深く愛するとともに、また自分たちを非常に深く愛してくれた民の中でこのような殺害が行われているのを見て、すなわち、アンモンと彼の同僚たちは、永遠の滅びからその民を救うために神より遣わされた

---

36 ① 創世49・22—26、ヤコ2・25、5・25
37 ① ② ヤコ7・26
使徒10・34—35、2ニフ26・33
第27章
2 ① アル43・11
② アル25・1、GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
3 ① アル24・21—26

天使であるかのような扱いを受けていたので、このようなひどい殺害が行われているのを見て哀れみの情に動かされ、王に言った。

5「この主の民を集めて、わたしたちの同胞であるニーファイ人のいるゼラヘムラの地へ下って行き、滅ぼされることのないように敵の手から逃れましょう。」

6しかし、王は彼らに、「見よ、我らはこれまで、ニーファイ人に対して殺人と罪を度々犯してきたので、ニーファイ人は我らを殺すであろう」と答えた。

7そこでアンモンは、「わたしは行って、主に尋ねましょう。もし主がわたしたちの同胞のところへ行くように言われたら、あなたがたは行かれますか」と尋ねた。

8すると、王は彼に言った。「そうしよう。主がもし行くように言われるなら、我らは同胞のところへ行こう。そして、これまで彼らに対して度々犯してきた殺人と罪の償いを終えるまで、彼らの奴隷になろう。」

9しかし、アンモンは王に言った。「わたしたちの同胞の中に奴隷がいることは、わたしの父が制定した法律に反することです。ですから、行って、同胞の憐れみにすがりましょう。」

10しかし、王は彼に、「主に尋ねてほしい。もし主が行くように言われるなら、我らは行く。そうでなければ、我らはこの地で滅びよう」と言った。

11そこで、アンモンが行って主に尋ねると、主はアンモンにこう言われた。

12「この民が滅びないように、この地を立ち去らせなさい。サタンがアマレカイ人の心をしっかりと捕らえているからである。アマレカイ人はレーマン人を扇動して、その同胞に対して怒りを抱かせ、殺させようとしている。それゆえ、あなたがたはこの地を立ち去りなさい。この時代のこの民は幸いである。わたしがこの民を守るからである。」

13そこで、アンモンは王のもとに行き、主が言われた御言葉をすべて王に告げた。

14すると彼らは、自分たちの民、すなわち主の民を全員集め、また彼らの家畜の群れもすべて集めて、その地を去り、ニーファイの地とゼラヘムラの地を隔てる荒れ野に入って行った。そして彼らは、ゼラヘムラの地の境の近くにやって来た。

4①
アル24・5
9①
モサ2・13、29・32、
38、40

15 そして、アンモンは彼らに言った。「わたしと同僚たちはゼラヘムラの地へ行きます。あなたがたは、わたしたちが戻って来るまでここで待っていてください。あなたがたがその地に入ることをわたしたちの国の者が許すかどうか、彼らの気持ちを探って来ます。」

16 そして、アンモンがその地に向かっていたときに、彼と同僚たちは、前に述べた場所[1]でアルマに出会ったのである。そして見よ、これは喜ばしい出会いであった。

17 アンモンの喜び[1]はたとえようもなく、胸にあふれるほどであった。まことに、彼は力が尽きてしまうほどに[2]神の喜びにのまれてしまった。そして、彼はまたもや[3]地に倒れた。

18 これは非常な喜びではなかっただろうか。見よ、これは心から悔いて謙遜に幸福を求める者でなければ得られない喜びである。

19 同僚たちに出会ったときのアルマの喜びはまことに大きく、また、アロンとオムナー、ヒムナイの喜びも大きかった。しかし見よ、彼らの喜びはその身の力をしのぐほどではなかった。

20 さて、アルマは同僚たちをゼラヘムラの地へ案内して帰り、自分の家に連れて行った。それから彼らは、[1]大さばきつかさのもとに行き、自分たちの同胞であるレーマン人の中にいた間にニーファイの地で自分たちに起こったことを、すべて彼に話した。

21 そこで大さばきつかさは全地に布告を出し、同胞であるアンタイ・ニーファイ・リーハイの民を国に入れることについて民の声を求めた。

22 そして、民の声は次のとおりであった。「見よ、我々は、東の方の海のそばにあり、バウンティフルの地の南方にあって、バウンティフルの地と境を接しているジェルションの地を譲ろう。このジェルションの地を受け継ぎの地として同胞に譲ろう。

23 見よ、我々は、ジェルションの地とニーファイの地の間に軍隊を配備して、ジェルションの地の同胞を守る。彼らが同胞に対して武器を取ることにより罪を犯すことになるのを恐れるからである。彼らがこのことをひどく恐れるのは、彼らがかつて多くの殺人と恐ろしい悪事を行ってきたことについて、つらい悔い改めをしたからである。

24 さて見よ、我々は同胞のためにこのようにして、

---

16 ① アル17・1—4
17 ① GS「喜び」
　 ② 1ニフ1・7
20 ① アル19・14
　 ③ アル4・16—18

彼らがジェルションの地を受け継ぐことができるようにしよう。また、彼らが物資の一部を提供して、我々の軍隊を維持できるように援助するという条件の下に、我々は軍隊をもって彼らをその敵から守ろう。」

25さて、アンモンはこれを聞くと、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民が天幕を張っている荒れ野へアルマと一緒に引き返し、これらのことをすべて彼らに知らせた。そしてアルマもまた、自分がアンモンやアロン、そのほかの同僚たちとともに1)改心したときのことを彼らに話した。

26さて、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民は非常に喜び、ジェルションの地へ下って行って、そこを所有した。また彼らは、ニーファイ人からアンモンの民と呼ばれたので、その後いつまでもその名によって区別された。

27また彼らは、ニーファイの民の中にあり、神の教会に属する民の中に数えられた。さらに彼らは、神と人々に貢献する熱心さでも秀でていた。彼らはすべてのことについてまったく1)正直でまっすぐであり、また最後まで2)確固としてキリストを信じた。

28そして彼らは、同胞の血を流すことを最も忌まわしいことであると考えていた。そこで彼らは、同胞に対して武器を取るように説かれても決してそれに応じなかった。また彼らは、キリストと復活についての望みと思いがあったので、死を少しも恐ろしいと思わなかった。彼らにとっては、死はすでにそれに打ち勝つキリストの勝利にのまれてしまったのである。

29したがって彼らは、剣や三日月刀を取って同胞を討つよりも、むしろ同胞が加える最も無残で痛ましい死を1)受ける方を望んだ。

30このように、彼らは熱心な愛すべき民であり、主から厚い恵みを受けた民であった。

第28章

レーマン人は激しい戦闘で敗れる。その戦闘で、数万の人々が死ぬ。悪人は無窮の不幸な状態に置かれ、義人は決して終わりのない幸福を得る。紀元前約七十七年から七十六年に至る。

1さて、アンモンの民が1)ジェルションの地に定住

25 1) モサ27・10−24
27 1) GS「正直」
2) アル23・6
29 1) アル24・20−23
第28章
1 1) アル27・22、30・1、19

し、教会もジェルションの地に設けられ、ニーファイ人の軍隊がジェルションの地の周囲に、まことに、ゼラヘムラの地の周囲の境の全域に配備された後、見よ、レーマン人の軍隊が彼らの同胞を追って荒れ野に進んで来た。

2 このようにして、すさまじい戦闘が始まった。まことに、リーハイがエルサレムを去って以来、この地で人々が一度も経験したことのない規模の戦闘であった。そして、殺され、方々に追い散らされたレーマン人は数万人にも及んだ。

3 また、ニーファイの民にもすさまじい殺戮が及んだが、それでもレーマン人は追い払われ、散らされた。そしてニーファイの民は、再び自分たちの地に帰った。

4 これによって国中至る所に、すなわちニーファイのすべての民の中に大きな嘆きと悲しみの声が起こった。

5 まことに、やもめは夫のことを嘆き、父は息子のことを、娘は兄弟のことを、まことに、兄弟は父のことをそれぞれ嘆いて泣き叫んだ。このようにすべての人の中で、殺された親族のことを嘆く叫び声が聞かれた。

6 さて、これはまことに嘆きに満ちた日であり、まことに、厳粛な時、1)断食と祈りを重ねた時であった。

7 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十五年が終わる。

8 アンモンと彼の同僚たちがニーファイの地を旅したことと、その地で受けた苦しみ、悲嘆、苦難、1)計り知れない喜び、同胞がジェルションの地に迎えられて安全に暮らしたことについての話は、以上のとおりである。万人の贖い主である主が、とこしえに彼らを祝福してくださるように。

9 ニーファイ人の中の戦争と争い、およびニーファイ人とレーマン人の間の戦争についての話は以上のとおりである。これで、さばきつかさの統治第十五年が終わる。

10 さばきつかさの統治の第一年から第十五年までの間に、何千もの人々が殺された。まことに、その間に流血の惨事もあった。

11 そして、何千もの遺体が地中に葬られたが、地の面に積み上げられたまま朽ちている遺体も何千とある。また、身内を失ったことで2)嘆いている人々も何

3① アル30・1
6① アル30・2
8① アル27・16—19
11① アル16・11
11②—45—46 アル48・23、教義42・

千人といる。彼らが嘆くのは、主の約束によってその親族が無窮の不幸な状態に置かれることを恐れる理由があるからである。

12 また一方では、親族を失ったことをまことに悲しみながらも、彼らがよみがえって、決して終わることのない幸福な状態で神の右に住むであろうという望みに喜びを感じ、また主の[1]約束によってそれを知ってさえいる人々が何千人もいる。

13 以上のことから、悪魔が人の心を捕らえようとして企てた狡猾な[1]策謀によって生じる、罪と背きと悪魔の力とのために、人々の[2]差異がどれほど大きくなるものであるかが、わたしたちに分かるのである。

14 また以上のことから、主の[1]ぶどう園で働く人々が勤勉であるように大いに求められていることも分かる。さらに、悲しみの大きな原因と喜びの大きな原因についても分かる。悲しみは人々の中の死と滅亡のために生じ、喜びは命に至る[2]キリストの光のために生じるのである。

第29章

アルマ、天使のような熱意をもって悔い改めを叫ぶことを望む。主はすべての国民のために教える人々を与えられる。アルマ、主の業を誇り、またアンモンと彼の同僚たちの成功を誇る。紀元前約七十六年。

1 「おお、わたしが天使であって、わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは、出て行って、神のラッパのように地を震わせる声で語り、すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

2 まことに、わたしは雷のような声で、あらゆる人に悔い改めと贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのないように、悔い改めて神のみもとに[1]来ることを彼らに勧めたい。

3 しかし見よ、わたしはただの人であり、このように願うことさえも罪である。わたしは主から与えられたもので満足すべきだからである。

4 わたしは、公正な神の堅い定めを、わたしの願いによって乱してはならないのである。人が死ぬことを望もうと生きることを望もうと、神が彼らの[1]望むままにされることを知っているからである。まことに、人々が救いを望もうと滅びを望もうと、神は彼

12① アル11・41
13① 2ニフ9・28
② 1ニフ17・35
14① GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
② GS「光・キリストの光」
第29章
2① オム1・26、3ニフ21・20
4① 詩篇37・4

らの意[2]のままに、不変の定めを彼らに布告されるということをわたしは知っている。

5 またわたしは、善と悪がすべての人の前にあることも知っている。善悪の分からない人は、罪のない状態にある。しかし、[1]善悪の分かる人には、善を望もうと悪を望もうと、生を望もうと死を望もうと、喜びを望もうと[2]良心のとがめを望もうと、自分の望むままに与えられるのである。

6 さて、わたしはこれらのことを知っていながら、どうして自分の召された務めを果たすこと以上に多くのことを望んでよいだろうか。

7 わたしはどうして、天使になって地の果てに至るすべての人に語ることができればと願ってよいだろうか。

8 見よ、主はすべての国民に[1]、その国民を使い、その国民の[2]言葉を使って主の御言葉を教えることを許されるからである。まことに、主は賢明にも、御自分が彼らにとって[3]ふさわしいと思われるすべての事柄を教えることを許される。したがって、賢明にも主は正しく真実なことに応じて勧告されるということが、わたしたちには分かるのである。

9 わたしは主から命じられた事柄を知っており、それに誇りを感じている。わたしは自分自身のことを[1]誇らないで、主から命じられた事柄を誇る。神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りであり、喜びである。

10 見よ、わたしは、多くの同胞が心から悔いて、主なる神のみもとに来るのを見るとき、喜びに満たされる。またそのとき、わたしは主がわたしのために[1]行ってくださったこと、すなわちわたしの祈りを聞き届けてくださったことを思い出す。まことに、わたしはそのときに、主がかつてわたしに憐れみ深い御腕を伸べてくださったことを思い出す。

11 わたしはまた、先祖が囚われの状態にあったことも思い出す。[1]主がわたしの先祖を奴隷の状態から救い出し、そうすることによって御自分の教会を設けられたことを、わたしは確かに知っているからである。まことに、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主なる神は、わたしの先祖を奴隷の状態から救い出してくださったのである。

12 まことにわたしは、先祖が囚われの状態にあったことをいつも思い出す。わたしの先祖をエジプト人

---

4 ② GS「選択の自由」
5 ① 2ニフ2・18、26、モロ7・15−19、GS「識別の賜物」
② GS「良心」
8 ① 2ニフ29・12
② 教義90・11
③ アル12・9−11
9 ① アル26・12
10 ① モサ27・11−31
11 ① モサ24・16−21、アル5・3−5

の手から救い出してくださったその同じ神が、わたしの先祖を奴隷の状態からも救い出してくださった。

13まことに、その同じ神がわたしの先祖の中に御自分の教会を設けられた。また、その同じ神が、この民に御言葉を宣べ伝えるために、聖なる召しによってわたしを召し、わたしに大きな成功を得させてくださった。そして、その成功によってわたしは喜びに満たされている。

14しかしわたしは、自分の成功だけを喜ぶことはしない。ニーファイの地へ行ったわたしの兄弟たちの成功で、わたしはなおさら喜びに満たされている。

15見よ、彼らは非常によく働き、大きな成果を得た。将来彼らの得る報いは何と大きいことだろう。

16さて、この兄弟たちの成功を考えると、わたしの喜びは大きくて、まるで自分の霊が肉体を離れるかと思うほどに我を忘れてしまう。

17わたしの兄弟であるこれらの人々が神の王国で座に着くことを、神がお許しくださり、また彼らの労苦の結ぶ実であるすべての人が、もはや二度と出て行くことなく、とこしえに神をほめたたえることもお許しくださるように。神がわたしの言葉のとおりに、すなわち、わたしがこれまで語ってきたようになることをお許しくださるように。アーメン。」

第30章

反キリストのコリホル、キリストと贖罪と預言の霊をあざける。コリホル、神は存在せず、人の堕落はなく、罪に対する罰はなく、キリストも存在しないと教える。アルマ、将来キリストが来られることと、万物が神の存在を示していることを証する。コリホル、しるしを求め、物が言えなくなる。悪魔が天使のようにコリホルに現れ、語ることを彼に教えていた。コリホル、踏みつけられて死ぬ。紀元前約七十六年から七十四年に至る。

1さて見よ、アンモンの民がジェルションの地に定住した後、またレーマン人がその地から追い払われ、レーマン人の死体がその地の民によって葬られた後、

2レーマン人の死体はおびただしい数であったので

12① 出エ14・30—31
13① 教義18・14—16
14① アル17・1—4

第30章
1① アル27・25—26、GS「アンタイ・ニ—ファイ・リーハイ人」
② アル28・1—3

数えられることなく、ニーファイ人の死者も数えられなかったが、その地の民が彼らの死者を葬った後、そして断食と喪と祈りの日々が終わった後、（ニーファイの民のさばきつかさの統治第十六年には）全地に平和が続くようになった。

3 そして民は、主の戒めを守るように努め、またモーセの律法に従って神の儀式を厳密に守った。彼らはモーセの律法が成就するまで、その律法を守るように教えられていたからである。

4 このように、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十六年には、一年間、国民の間にまったく不和がなかった。

5 そして、さばきつかさの統治第十七年の初めも、引き続き平和であった。

6 ところが、第十七年の末に、ゼラヘムラの地に一人の男がやって来た。その男は反キリストであった。彼は預言者たちがキリストの来臨について語った預言に反対して、民に教えを説き始めた。

7 このときには、人の信条を禁止する法律はなかった。人々を不平等な立場に置く法律があることは、まったく神の戒めに反していたからである。

8 聖文には、「[1]あなたがたの仕える者を、今日、選びなさい」とある。

9 そこで、もし人が神に仕えたいと思うならば、神に仕える特権があった。いや、その人が神を信じるならば、神に仕える特権があった。しかし、たとえ人が神を信じなくても、その人を罰する法律はなかった。

10 しかし、人殺しをすれば、その人は[1]死刑に処せられた。また、略奪する者も罰せられ、盗む者も罰せられ、姦淫を行う者も罰せられた。まことに、すべてこのような悪事を行う者は罰せられた。

11 人々は罪科に応じて裁かれるという法律があったからである。にもかかわらず、人の信教に反対する法律はなかった。したがって、人は自分の行った犯罪についてだけ罰せられたので、すべての人が平等な立場にあった。

12 そして、名前をコリホルというこの反キリストは、（法律は彼をまったく拘束できなかったので）キリストはいないと民に教えを説き始めた。そして、彼は次のように述べた。

13 「おお、愚かでむなしい希望の下に縛られている

3 ①GS「モーセの律法」
②2ニフ25・24−27、アル25・15
6 ①GS「反キリスト」
7 ①アル1・17
8 ①ヨシ24・15、GS「選択の自由」
10 ①GS「死刑」
11 ①モサ29・32

人々よ、あなたがたはどうしてこのような愚かなことに束縛されているのか。あなたがたはどうしてキリストを待ち望んでいるのか。だれも将来起こることを知ることはできない。

14 見よ、あなたがたが預言と呼び、聖なる預言者から伝えられたと言っているこれらのことは、見よ、あなたがたの先祖の愚かな言い伝えである。

15 あなたがたはどのようにしてそれが確かであると分かるのか。見よ、あなたがたはまだ見ていない物事を知ることはできない。だから、将来キリストが現れるということを前もって知ることはできないのである。

16 あなたがたは将来を見通して、自分たちの罪が赦されるのが分かると言う。しかし見よ、それは精神がおかしくなっている結果である。このような精神の錯乱は、実際にはないことを信じるように惑わす、あなたがたの先祖の言い伝えのために生じたものである。」

17 コリホルはこのようなことをほかにも多く民に語り、人々の罪のために行われる贖罪などあり得ないこと、人は皆、この世の生涯を善く暮らすも悪く暮らすも、その人の対処の仕方次第であるから、人は皆自分の素質に応じて栄え、自分の力に応じて勝利を得ること、また人がすることはどんなことも決して罪にならないことを民に告げた。

18 彼は民にこのように説いて、多くの人の心を惑わし、平然と悪事を犯させ、まことに、多くの男女を惑わしてみだらな行いをさせた。そして、人が死ねばそれで終わりである、と民に語った。

19 またこの男は、かつてレーマン人であったアンモンの民の中でこのことを教えようとして、ジェルションの地へも行った。

20 しかし見よ、アンモンの民は多くのニーファイ人よりも賢明であった。彼らはコリホルを捕らえて縛り、その民の大祭司であるアンモンの前に連れて行った。

21 そこでアンモンは、彼をその地から連れ出させた。そこで彼はギデオンの地へ行き、その地の民にも教えを説き始めた。しかし、ここでもあまり成果は上がらなかった。彼は捕らえられて縛られ、その地の大祭司と大さばきつかさの前に連れて行かれたからである。

15 ① エテ12・5—6

22 そこで、大祭司はコリホルに、「なぜあなたは方々歩き回って主の道を曲げようとしているのか。なぜキリストは現れるはずがないとこの民に教えて、彼らの喜びを妨げるのか。なぜ聖なる預言者たちのすべての預言に逆らって語るのか」と尋ねた。
23 この大祭司の名はギドーナであった。コリホルはギドーナに答えた。「その訳は、わたしがあなたがたの先祖の愚かな言い伝えをこの民に教えていないからであり、また昔の祭司たちによって設けられた愚かな儀式と勤めに自分自身を縛りつけるように、この民に教えていないからである。昔の祭司たちは民を支配する権力と権能を奪い取り、民がその頭を上げることなくあなたの言葉に従うようにするために、民を無知の中にとどめておこうとして、それらの儀式と勤めを設けたのだ。
24 あなたがたは、この民は自由の民であると言う。見よ、わたしに言わせれば、この民は奴隷の状態にある。あなたがたは昔の預言は真実であると言う。見よ、それらが真実であることはあなたがたには分からない、とわたしは言おう。
25 あなたがたは、この民は親の背きのために罪のある堕落した民になっていると言う。見よ、子は親のために罪を負わない、とわたしは言おう。
26 またあなたがたは、将来キリストが来るとも言っている。しかし見よ、将来キリストが来ることはあなたがたには決して分からない、とわたしは言う。あなたがたはまた、キリストが世の罪のために殺されるとも言っている。
27 このようにしてあなたがたは、先祖の愚かな言い伝えによって、あなたがたの望むままにこの民を惑わしている。そしてあなたがたは、この民の労苦で飽きるほどに食べようと、まるで奴隷でもあるかのように民を抑圧している。そのため、民はあえて勇気を奮って頭を上げようとせず、またあえて自分たちの権利と特権を享受しようともしない。
28 まことにこの民は、祭司たちを怒らせるのを恐れて、自分自身のものもあえて使おうとしない。この祭司たちは自分たちの望むままに民にくびきをかけ、また自分たちの言い伝えと幻想と気まぐれと空想と偽りの奥義によって、もし民が祭司たちの言葉のとおりに行わなければ、民は神と呼ばれる未知の存在者を怒らせることになると民に信じ込ませた。

しかし、彼らの言う神は、いまだかつて人が見たこともなく知ってもおらず、過去にも現在にも未来にも決して存在しない者である。」

29さて、大祭司と大さばきつかさは、コリホルの心がかたくなであるのを見ると、また彼が神さえものしろうとするのを見ると、彼の言葉にまったく応じることなく、彼を縛らせて役人の手に引き渡し、ゼラヘムラの地へ送った。それは、彼をアルマと全地の総督である大さばきつかさの前に引き出すためであった。

30さてコリホルは、アルマと大さばきつかさの前に引き出されても、ギデオンの地で語ったように語り、不敬な[1]言葉を吐き続けた。

31また彼は、アルマの前で[1]大言壮語し、祭司たちと教師たちをののしり、彼らは民の労苦によって飽きるほど食べるために先祖の愚かな言い伝えで民を惑わしていると言って彼らを非難した。

32そこで、アルマは彼に言った。「あなたは我々が民の労苦で飽きるほど食べるようなことはしていないことを知っている。見よ、わたしは、民に神の御言葉を告げ知らせるために何度も国の方々を旅したが、さばきつかさの統治の初めから今に至るまで、自分の手で働いて生活の糧を得てきた。

33またわたしは、教会で多くの務めを果たしてきたが、これまで自分の働きに対して一[1]セナインも報酬を受けたことはなかった。わたしの同胞も、さばきつかさの職を務める者のほかは皆そうである。そして、さばきつかさの職にある者も、法律に定められたとおり、務めた時間の分の報酬を受けるだけである。

34では、もし教会での働きに対して何も報酬を受けないとすれば、我々は、真理を告げ知らせて同胞の[1]喜ぶのを見て喜びとするほかに、どのような得があって教会で働くのであろうか。

35また、あなた自身、我々が何の報酬も受けていないことを知っているのに、どうして我々が利を得るためにこの民に教えを説いていると言うのか。また、あなたは、この民の心の中にこのような喜びが満ちているのは、我々がこの民を欺いているためだとでも思っているのか。」

36するとコリホルはアルマに、「そのとおり」と答えた。

30① GS「冒瀆・汚す罪」
31① ヒラ13・22
33① アル11・3
34① GS「喜び」

37 そこで、アルマは彼に、「あなたは神がましますことを信じるか」と尋ねた。
38 すると彼は、「いや」と答えた。
39 また、アルマは彼に言った。「あなたは神がましますことをまたもや否定し、キリストも否定するのか。見よ、あなたに言う。わたしは神のましますことと、将来キリストが来られることを知っている。
40 あなたは何の証拠があって神は1)実在せず、またキリストは来られないと言うのか。あなたの言葉のほかには何一つ証拠がないと、わたしはあなたに告げる。
41 しかし見よ、わたしはすべての事物をもって、これらのことが真実であると1)証する。また、これらのことが真実であることを証するすべての事物があなたにもあるのである。それでもあなたは、これらのことを否定するつもりか。あなたはこれらのことが真実であることを信じるか。
42 見よ、わたしは、あなたが信じていることを知っている。ところがあなたは偽りを言う霊に取りつかれている。あなたが自分に神の御霊が宿らないように遠ざけてしまったので、悪魔があなたを支配する力を持ったのである。そして、悪魔は神の子たちを滅ぼすために様々な策略を働かせ、あなたを方々に行かせるのである。」
43 すると、コリホルはアルマに、「もしあなたが、神のいることを確信させる1)しるしをわたしに見せ、まことに、神に力のあることを示してくれるなら、あなたの言葉が真実であることを納得するだろう」と言った。
44 しかし、アルマは彼に言った。「あなたはすでに1)数々のしるしを十分に持っている。あなたは神を試みようとするのか。あなたの同胞であるこのすべての人の証と、すべての聖なる預言者たちの証があるのに、あなたは『しるしを見せてくれ』と言うのか。あなたの前に聖文が置いてある。まことに、2)万物は神がましますことを示している。まことに、3)大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と4)運行しているすべての5)惑星も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。
45 それでも、あなたは方々を歩き回ってこの民の心を惑わし、神は実在しないと彼らに証するつもりか。また、あなたはそれでも、このように証するす

40 ① 詩篇14・1
41 ① GS「証人」「証」
43 ① ヤコ7・13−21、教義46・8−9、GS「しるし」
44 ① モサ13・33−34
② 詩篇19・1、教義88・47
③ ヨブ12・7−10
④ ヒラ12・11−15
⑤ モセ6・63

べてのものに逆らって否定するつもりか。」するとコリホルは、「そのとおり。しるしを見せてくれないかぎり、わたしは否定する」と答えた。

46そこでアルマは彼に言った。「まことに、あなたの心がかたくなであって、なおも真理の霊に逆らって霊の滅びを招こうとしていることを、見よ、わたしは嘆かわしく思う。

47しかし見よ、あなたが仲立ちになって、あなたの偽りとへつらいの言葉により多くの人を滅びに至らせるよりは、むしろあなた自身が滅びる方がよい。したがって、もしあなたがもう一度否定するならば、まことに神はあなたを打たれるであろう。あなたは物が言えなくなり、二度と口を開くことができず、もはやこの民を欺くことができなくなるであろう。」

48ところが、コリホルはアルマに、「わたしは神の存在を否定はしないが、神がいるとは信じない。だから、神がいることはあなたたちには分からないと言っているのだ。しるしを見せてくれなければ、わたしは信じない」と言った。

49そこで、アルマは彼に、「あなたにしるしを示そう。あなたはわたしの言うとおり物が言えなくなるというのがそれである。わたしは神の御名によって言う。あなたは物が言えなくなり、今後二度と口を利くことができないであろう」と言った。

50アルマがこの言葉を言い終えると、アルマの言葉のように、コリホルは物が言えなくなり、語ることができなくなった。

51さて、大さばきつかさはこれを見ると、手を差し伸べてコリホルに書き示し、「あなたは神の力を認めるか。あなたはだれにしるしを示すようにアルマに求めたのか。あなたにしるしを示すために、彼がほかの人々を苦しめることを願ったか。見よ、彼はもうすでにあなたにしるしを示した。それでもなおあなたは反論するか」と告げた。

52するとコリホルも、手を差し伸べて書き示し、言った。「わたしは今、話すことができないので、物が言えなくなったことを認めます。また、神の力によるのでなければ、わたしにこのようなことが決して起きないことも、わたしは知っています。また、わたしは神がましますことを前から知っていました。

53しかし見よ、悪魔がわたしを欺いたのです。悪魔は天使の姿でわたしに現れて、『この民は皆、未知の

47① 1ニフ4・13
52① アル30・42
52② ヤコ7・14
53① 2コリ11・14、2ニフ9・9

神を求めて迷っているので、行って改心させよ』と言いました。また悪魔はわたしに、『[3]神はいない』と言い、わたしが言うべきことも教えてくれました。そこで、わたしは悪魔の言葉を教えてきました。わたしは、悪魔の言葉が肉の[1]思いに快いので、それを教えてきたのです。また、わたしはそれを教えてついに大きな成功を収めたので、自分でもそれが真実だとまったく信じるようになりました。このようなわけで、わたしは真理に逆らい、とうとうこの大きなのろいを招いてしまいました。」

54 さて、コリホルはこのように言うと、そののろいが取り去られるように神に祈ってほしいとアルマに懇願した。

55 しかし、アルマは彼に、「こののろいがあなたから取り去られると、あなたはまた、この民の心を惑わすようになるであろう。だから、主が望まれるとおりになるがよい」と言った。

56 そして、そののろいはコリホルから取り去られなかった。そして、彼は追い出され、食べ物を請うて家々を巡るようになった。

57 一方、コリホルの身に起こったことは、すぐ全地に告げ知らされた。まことに、大さばきつかさが国のすべての人に布告を出し、コリホルの言葉を信じた人々に、同じ裁きを受けることのないように速やかに悔い改めなければならないと告げたのである。

58 そこで彼らは皆、コリホルの悪事を認め、再び主に帰依するようになった。そして、これによってコリホルに倣った罪悪は後を絶った。コリホルは家々を巡り、食べ物を請うて命をつないだ。

59 さて、ニーファイ人から分かれ、ゾーラムという名の男に率いられて自分たちをゾーラム人と呼ぶようになった民があったが、コリホルはその民の中を歩き回っていたときに、見よ、突き倒されて踏みつけられ、とうとう死んでしまった。

60 このことから、主の道を曲げる者の末路が分かる。また、[1]悪魔は終わりの日には自分の子らを助けようとせず、速やかに[3]地獄に引きずり込むということも、わたしたちに分かるのである。

第31章

アルマ、神の教えに背いているゾーラム人を改心させるために、先頭に立って伝道の業に従事する。ゾー

---

53 ③ 詩篇10・4
60 ① ④ GS「現世的」
② GS「悪魔」
アル3・26−27、5・41−42、教義29・45
③ GS「地獄」

ラム人、キリストを否定し、選民についての間違った考えを信じ、決まり文句の祈りで礼拝する。宣教師たち、聖なる御霊に満たされる。彼らの苦難はキリストの喜びにのまれてしまう。紀元前約七十四年。

1 さて、コリホルの死後、アルマは、ゾーラム人が主の道を曲げており、また彼らの指導者であるゾーラムが人々の心を迷わせて、物の言えない1)偶像2)を拝ませているという知らせを受けたので、その民の罪悪のために再び心を3)痛めた。

2 自分の民の中に罪悪があるのを知ることは、アルマにとって深い1)嘆きの種であったからである。したがって、ゾーラム人がニーファイ人から別れたことで、彼は心に非常な悲しみを覚えた。

3 ところで、ゾーラム人は彼らがアンテオヌムと名付けた地に集まっていた。その地はゼラヘムラの地の東にあり、ほとんど海岸に接しており、ジェルションの地の南にあって、南方の荒れ野にも接していた。その南方の荒れ野にはレーマン人が大勢いた。

4 そこでニーファイ人は、ゾーラム人がレーマン人と行き来し、そのためにニーファイ人の側に大きな損害が出るのではないかとひどく恐れた。

5 ところで、1)御言葉を説き教えることは民に正しいことを2)行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。

6 それでアルマは、アンモンとアロンとオムナーを連れて出かけた。アルマはヒムナイをゼラヘムラの教会に残して、先の三人とミレクにいたアミュレクとゼーズロム、および自分の二人の息子を連れて行ったのである。

7 このとき、アルマは長男を連れて行かなかった。その長男の名は1)ヒラマンという。また、彼が連れて行った息子たちの名は、シブロンとコリアントンである。以上が、2)ゾーラム人に御言葉を宣べ伝えるために、アルマと一緒にゾーラム人の中に出かけて行った人々の名である。

8 さて、ゾーラム人はニーファイ人から1)離反した者たちであったので、彼らは以前に御言葉を聞いていた。

第31章

1 ①2ニフ9・37、GS「偶像礼拝」 ②出エ20・5、モサ13・13 ③アル35・15

2 ①③モサ28・3、3ニフ17・14、モセ7・41 ②ヘブ4・12、ヤコ2・5

5 ①8、アル36・26、エノ1・23、アル4・19、GS「宣べ伝える」 ②ジェロ1・11–12、教義11・2 ③アル24・30

7 ①GS「ヒラマン（アルマの息子）」 ②アル30・59

8 ①アル24・30

9 しかし彼らは、モーセの律法に従って神の戒めと神の掟を守ろうと努めなかったので、大きな過ちに陥(1)っていた。10 また彼らは、誘惑に陥らないために神への祈りと嘆願を日々続けるようにという教会の決まりを守ろうとしなかった。11 要するに、彼らは非常に多くの点で主の道を曲げていた。それでアルマと彼の同僚たちは、彼らに御言葉を伝えようとしてその地に入って行ったのである。12 さて、彼らがその地に入ってみると、見よ、驚いたことに、ゾーラム人は会堂を幾つも建てており、一週のうちの一日を主の日と呼んで、その日に集まることにしていた。そして彼らは、アルマと彼の同僚たちがまだ一度も見たことのない方法で礼拝していた。13 彼らは会堂の中央に一つの場所、すなわち立ち台を設けていた。それは人の背丈よりも高く、その上の部分は人が一人しか立てない広さであった。14 そして、(1)礼拝したいと思う者はだれでも、進み出てその台の上に立ち、両手を天に向けて伸ばし、大声で次のように叫ばなければならなかった。15 「聖なる、聖なる神よ、わたしたちはあなたが神でましますことを信じています。あなたが聖なる御方であり、あなたが過去に霊であり、現在も霊であり、将来もとこしえに霊であられることを、わたしたちは信じています。16 聖なる神よ、わたしたちは、あなたがわたしたちを同胞から分けられたことを信じています。わたしたちは、同胞の先祖が愚かにも同胞に伝え、彼らが今もなお受け入れている言い伝えを信じていません。しかし、あなたがわたしたちをあなたの(1)聖なる子となるように(2)選ばれたこと、またわたしたちにキリストが現れることはないと知らせてくださったことを、わたしたちは信じています。17 またあなたは、昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方でましま(1)す。あなたはわたしたちを選んで、わたしたちが将来救われるようにしてくださいました。一方、わたしたちの周りの者は皆、あなたの怒りによって地獄に投げ込まれるように定められています。おお、神よ、わたしたちを聖い者としてくださったことを、わたしたちは感謝します。また、

9 ①
14 ①
16 ①
17 ①②

GS「背教・背信」
マタ 6・1−7
イザ 65・3、5
アル 38・13−14
GS「うぬぼれ」

わたしたちを選んで、同胞の愚かな言い伝えに惑わ
されることのないようにしてくださったことを感謝
します。その愚かな言い伝えは彼らを束縛してキリ
ストを信じさせ、彼らの心を神でましますあなたか
ら遠く引き離しています。
18 おお、神よ、今一度、わたしたちが選ばれた聖な
る民であることをあなたに感謝します。アーメン。」
19 さて、アルマと同僚たちと彼の息子たちは、この
祈りを聞いて非常に驚いた。
20 見よ、すべての男が進み出て、この同じ祈りをさ
さげたからである。
21 ところで、ゾーラム人はその場所をラミアンプト
ムと名付けた。それは聖台という意味である。
22 さて、彼らは一人残らずこの台からまったく同じ
祈りを神にささげ、自分たちが神から選ばれている
こと、また神が自分たちを同胞の言い伝えに惑わさ
れないようにされたこと、また心を奪われて、自分
たちのまったく知らない将来のことを信じるよう
に仕向けられることのなかったことを、自分たちの
神に感謝した。
23 人々は皆この方法で感謝をささげてから各々の家
に帰ったが、その後は、再びその方法で感謝をささ
げるためにその聖台に集まるまで、神のことをまっ[1]
たく口にしなかった。
24 さて、アルマはこれを見ると、[1]心が痛んだ。彼ら
が邪悪でよこしまな民であるのを見たからである。
まことに彼らが、金銀そのほかあらゆる立派な品々
に執着しているのを見たからである。
25 アルマはまた、彼らが心を[1]高ぶらせて、非常に誇
るようになり、高慢になっているのも見た。
26 そこでアルマは、天に向かって声を上げ、[1]叫び求
めた。「おお、いつまで、おお、主よ、あなたは僕
たちが肉にあってこの地上で暮らし、人の子らの中
でこのようなひどい悪事を見るのをそのままにして
おかれるのでしょうか。
27 まことに、おお、神よ、この民はあなたに[1]叫び求
めていますが、その心は高慢にのまれています。ま
ことに、おお、神よ、彼らは口ではあなたに叫び求
めながら、俗世のむなしいものをもって、甚だし
く[2]誇り高ぶっています。
28 まことに、おお、わたしの神よ、彼らの高価な衣
服と小環、[1]腕輪、金の装身具、そのほか装飾に用い

23 ① 新ヤコ1・21—25
24 ① 創世6・5—6
25 ① ヤコ2・13、アル1・32
26 ① モセ7・41—58
27 ① イザ29・13
② GS「高慢」
28 ① イザ3・16—24

るすべての高価な品々を御覧ください。まことに、彼らはそれらのものに執着していながら、あなたに叫び求め、『お、神よ、ほかの人々は滅びますが、わたしたちはあなたにとって選ばれた民であることを、あなたに感謝します』と言っています。

29 また彼らは、キリストは現れることはないと、あなたが彼らに示されたと言っています。

30 おお、主なる神よ、いつまでこのような悪事と不信仰がこの民の中にあるのをお許しになるのでしょうか。おお、主よ、わたしが自分の弱さに耐えられるように、どうかわたしに力をお与えください。わたしは弱い者であり、この民の中のこのような悪がわたしを苦しめます。

31 おお、主よ、わたしの心は非常に嘆いています。どうか、キリスト[1)]にあってわたしを慰めてください。おお、主よ、この民の罪悪のためにこれから先わたしに降りかかるこれらの苦難を、忍耐をもって乗り切ることができるように、どうか力を得させてください。

32 おお、主よ、どうかわたしを慰め、わたしに成功を収めさせてください。また、わたしとともにいる同僚のアンモンとアロン、オムナー、アミュレク、ゼーズロム、および二[1)]人の息子たちにも成功を収めさせてください。おお、主よ、これらの人々をすべて慰めてください。どうかキリストにあって彼らを慰めてください。

33 民の罪悪のために彼らに降りかかる苦難に耐えることができるように、どうか彼らに力を得させてください。

34 おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、[1)]成功を収められるようにしてください。

35 まことに、おお、主よ、彼らは貴い[1)]人々であり、その多くはわたしたちの同胞です。ですから、おお、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」

36 さて、アルマはこれらの言葉を述べ終えると、ともにいたすべての人に手を[1)]置いた。[2)]すると見よ、アルマが手を置いたので、彼らは聖なる御霊に満たされた。

37 その後、彼らはそれぞれ分かれて出かけたが、何

---

31 ①ヨハ16・33
32 ①アル31・7
34 ①2ニフ26・33
35 ①GS「人（霊を持つ存在としての）―人の価値」
36 ①GS「按手」 ②3ニフ18・36―37

を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかなどと思い煩うことはまったくなかった。

38 彼らが飢えることも渇くこともないように、主が彼らのために備えをされたのである。また主は、彼らに力を与え、キリストの喜びにのまれてしまう苦難のほか、彼らがどのような苦難も受けることがないようにされた。これはアルマの祈りによるものであった。彼が信仰をもって祈ったので、このようになったのである。

第32章

アルマ、多くの苦しみを受けて謙遜になった貧しい人々を教える。信仰とはまだ見ていない真実のことを待ち望むことである。アルマ、天使たちが男も女も、子供たちをも教え導くことを証する。アルマ、御言葉を種にたとえる。それは植えて養いを与えなければならない。そうすればそれは生長して木になり、永遠の命の実を得ることができる。紀元前約七十四年。

1 さて、アルマと同僚たちは出て行って、ゾーラム人の会堂や彼らの家に入り、人々に神の言葉を宣べ伝え始めた。彼らはまた、通りでも御言葉を宣べ伝えた。

2 そして、人々の中で多くの労苦を重ねた末、彼らは貧しい階層の人々の中で成功を収め始めた。見よ、これらの人々は、衣服が粗末であるために会堂から追い出されていたからである。

3 これらの人々は衣服が粗末なため汚れた者と見なされ、会堂に入って神を礼拝することを許されていなかった。彼らは貧しく、同胞からかすのように見なされていたので、この世のものに関して貧しく、心が謙遜であった。

4 さて、アルマがオナイダの丘で人々に教え、語っていたときに、今述べた人々、すなわちこの世のものに関して貧しいために心が謙遜になっている人々が、大きな群れを成してアルマのもとにやって来た。

5 そして、彼らはアルマのもとにやって来ると、その群衆の中心になっている一人の人がアルマに言った。「まことに、ここにいるわたしの仲間は、どうすればよいのでしょうか。この人々は、貧乏であるためにすべての人から見下されています。とりわけ

37 ① マタ 6・25—34、3ニフ 13・25—34
38 ① マタ 5・10—12、モサ 24・13—15、アル 33・23
② GS「信仰」
第32章
2 ① GS「貧しい」
3 ① アル 34・40
4 ① GS「貧しい—心が謙遜な状態」
5 ① 箴言 18・23

祭司たちに嫌われています。祭司たちは、わたしたちが自分の手を使って大いに働いて建てた会堂から、わたしたちを追い出2)しました。わたしたちがひどく貧乏だからということで、わたしたちを追い出したのです。わたしたちには神を礼拝する場所がどこにもありません。どうすればよいでしょうか。」3)

6 アルマはこれを聞くと、振り返って彼の方に面と向かい、非常に喜びながらじっと彼を見詰めた。彼らが多くの苦しみ1)を受けて心が2)へりくだっており、御言葉を聞く用意3)のできていることが、アルマに分かったからである。

7 そこでアルマは、もうほかの群衆にそれ以上語るのをやめ、しかし、目の前にいる、心から悔い改めている彼らに向かって手を伸ばして大声で言った。

8 「わたしの見るところ、今あなたがたの心は1)へりくだっている。もしそうならば、あなたがたは幸いである。

9 見よ、あなたがたの仲間の一人は、『どうすればよいでしょうか。わたしたちは会堂から追い出され、自分たちの神を礼拝できません』と言った。

10 見よ、あなたがたに尋ねたい。あなたがたは自分たちの会堂でしか神を1)礼拝することができないと思っているのか。

11 そして、さらに尋ねたい。あなたがたは週に一度しか神を礼拝してはならないと思っているのか。

12 あなたがたに言う。会堂から追い出されていることは、あなたがたが謙遜になれるので、また知恵を1)得られるのでよいことである。あなたがたが知恵を得ることは必要だからである。あなたがたが今へりくだった心でいるのは、追い出されているためであり、また非常に貧しい2)ために同胞から見下されているためである。あなたがたは、やむを得ずへりくだっている。

13 さて、やむを得ずへりくだっているので、あなたがたは幸いである。人は時々、やむを得ずへりくだっていても悔い改めようとするからである。そして、悔い改める人はだれでも、必ず憐れみを受ける。そして、憐れみを受けて最後まで堪え忍ぶ人は救われる。

14 わたしは、あなたがたがやむを得ずへりくだっているので幸いであると言ったが、御言葉のために自

---

5 (2) アル 33・10
6 (1)(3) GS 使徒 2・37−38
(2) GS「逆境」
8 (1) GS「謙遜」
(2) アル 16・16−17、教義 101・8
10 (1) マタ 5・3−5
11 (1) GS「礼拝」
12 (1) 伝道 4・13
(2) 箴言 16・8
13 (1) アル 38・2

ら進んで心からへりくだる人々は、なおさら幸いであると思わないか。

15まことに、自ら進んで心からへりくだり、罪を悔い改め、最後まで堪え忍ぶ人は祝福を受ける。まことにこのような人は、非常に貧しいためにやむを得ずへりくだっている人々よりも、なおさら祝福を受ける。

16したがって、やむを得ずへりくだるのではなく、自らへりくだる人々は幸いである。いや、心をかたくなにすることなく、また御言葉を知るように仕向けられたり、知るように強いられたりして初めて信じるというのではなく、進んで神の御言葉を信じ、バプテスマを受ける人は幸いである。

17まことに、もし天からしるしを見せてくれれば、それが確かなことが分かるから信じようと言う人々が大勢いる。

18さて、わたしは尋ねる。これは信仰であろうか。見よ、わたしはそうではないと答える。もし人がある物事を知っているならば、それを信じる理由はない。すでに知っているからである。

19さて、神の御心を知っていながらそれを行わない人は、ただ信じているだけで、あるいは信じる理由があるだけで背いてしまうよりも、どれほどひどいのろいを受けることであろう。

20このことについて、あなたがたは判断しなければならない。見よ、わたしはあなたがたに言う。両者はそれぞれ同様に裁かれ、人は皆、各々の行いに応じて報われるのである。

21さて、信仰についてわたしがすでに語ったように、信仰とは物事を完全に知ることではない。したがって、もし信仰があれば、あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである。

22さて見よ、あなたがたに言う。このことを覚えておいてほしい。それは、神は御自分の御名を信じるすべての人に憐れみをかけられるということである。したがって、神はまず初めに、あなたがたが、まことに神の御言葉を信じることを望んでおられる。

23さて、神は天使によって、人々に、まことに男ばかりでなく女にも御自分の御言葉を伝えられる。それだけではない。知者や学者を辱める御言葉が、これまで何度も幼い子供に与えられてきた。

16①GS「謙遜」
17①GS「しるし」
18①エテ12・12、18
19①ヨハ15・22—24
21①ヨハ20・29、ヘブ11章
②エテ12・6
23①GS「希望」
②ヨエ2・28—29
③マタ11・25、ルカ10・21、2ニフ26・14—16、教義128・18

24 さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは今、苦しめられ、追い出されているので、どうすればよいかわたしから聞いて知りたいと望んでいる。ところで、わたしは事実によってだけあなたがたのことを判断しようとしていると思われたくない。25 つまり、あなたがた全員がやむを得ずへりくだっているのではないということである。どのような境遇にあっても進んでへりくだろうとする人々が、あなたがたの中に何人もいることを、わたしは確かに信じているからである。

26 さて、信仰についてわたしが言ったように、信仰とは完全に知ることではない。わたしの言葉についてもそのとおりである。信仰が完全に知ることではないのと同じように、あなたがたはわたしの言葉が確かであることも最初から完全に知ることはできない。

27 しかし見よ、もしあなたがたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。

28 さて、御言葉を一つの種[1]にたとえてみよう。さて、もしあなたがたが心[2]の中に場所を設けて、種[3]をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御霊に逆らおうとする不信仰[1]によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解[5]力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』

29 さて見よ、これによってあなたがたの信仰は増さないであろうか。わたしはあなたがたに言う。信仰は増す、と。にもかかわらず、まだ完全に知るというところまでは行かない。

30 しかし見よ、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めると、あなたがたはその種を良いものであると思うに違いない。見よ、それがふくらんで芽を出し、生長しているからである。さて見よ、これはあ

---

28 27
⑤④③②①①

マコ 11・24
アル 33・1
GS「心」
マルカ 8・11
タ 17・20
GS「理解」

なたがたの信仰を強めないであろうか。まことに、
それはあなたがたの信仰を強めるであろう。あなた
がたは、『これは良い種であることが分かる』と言
う。見よ、それが芽を出し、生長し始めているから
である。
31ところで見よ、あなたがたはこれが良い種である
と確信しているであろうか。確信していると、わた
しはあなたがたに言う。種はその種独自の[1]形を生じ
るからである。
32したがって、もし種が芽を出して生長するなら
ば、それは良い種である。しかし、芽を出さなけれ
ば、見よ、それは良い種ではないので捨てられる。
33さて見よ、あなたがたはすでに試して種を植え、
その種がふくらんで芽を出し、生長し始めているの
で、その種が良いものであることを知るに違いな
い。
34さて見よ、あなたがたの[1]知識は完全であろうか。
そのとおり、あなたがたの知識はそのことに関して
は完全であるが、あなたがたの[2]信仰は眠ったままで
ある。この理由はあなたがたが知っている。という
のは、あなたがたは、御言葉があなたがたの心を高
めたのを知っており、またあなたがたは、それがす
でに芽を出し、あなたがたの理解力に光が注がれ、
あなたがたの[3]心が広がり始めているのを知っている
からである。
35おお、それならば、このことはほんとうではない
だろうか。わたしはあなたがたに言う。確かにほん
とうである、と。なぜなら、それは[1]光だからである。
光は何であろうと善である。というのは、そのよう
に見分けがつくからであり、こうしてあなたがた
は、それが善であることを必ず知るようになる。さ
て見よ、この光を経験した後、あなたがたの知識は
完全であろうか。
36見よ、そうでないとあなたがたに言おう。あなた
がたは自分の信仰を捨ててはならない。あなたがた
は、種が良いものかどうかを知ろうとして、ただ信
仰を働かせてその種を植えてみただけだからであ
る。
37そして見よ、木が生長し始めると、あなたがた
は、『この木が根付き、生長し、わたしたちのために
実を結ぶように、十分に注意して養いを与えよう』
と言うであろう。さて見よ、あなたがたが十分に注

31 ① 創世1・11−12
34 ① GS「知識」
② エテ3・19
③ GS「思い・心」
35 ① ヨハ3・18−21、GS「光・キリストの光」

意して養いを与えれば、それは根付き、生長し、実を結ぶであろう。

38しかし、もしあなたがたがその木に構わず、養い育てることに心を配らなければ、見よ、それが根付くことはないであろう。そして、太陽の暑さが及んでその木を熱すると、その木はまったく根がないので枯れてしまうであろう。そこであなたがたは、その木を抜いて捨てる。

39さてこれは、種が良くなかったからでもなければ、実が好ましいものでなかったからでもない。ただ、あなたがたの土地がやせているためである。あなたがたがその木に養いを与えようとしないので、実を得ることができないのである。

40このように、もし信仰の目をもって実を期待しながら御言葉を養おうとしなければ、あなたがたは決して命の木の実を得ることができない。

41しかし、あなたがたが御言葉に養いを与えようとすれば、つまり、その木が生長を始めるときに、非常な熱意と、忍耐を伴う信仰を働かせてその実を期待しながら養いを与えようとすれば、それは根付くであろう。そして見よ、それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。

42あなたがたは、御言葉が自分の中に根付くように、熱意と信仰と忍耐をもってそれを養うので、見よ、やがてその実を得るであろう。その実は最も価値があり、どんな甘いものよりも甘く、どんな白いものよりも白く、どんな清いものよりも清い。また、あなたがたは満ち足りるまでその実を食べて、もう飢えることも、渇くこともないであろう。

43それで、わたしの同胞よ、そのときにあなたがたは、その木があなたがたのために実を結ぶのを待ちながら示した、あなたがたの信仰と熱意と忍耐と寛容の報いを刈り入れるのである。」

第33章

ゼノス、人はどんな場所でも祈り、礼拝すべきであることと、御子のゆえに裁きが遠ざけられることを教える。ゼノク、御子のゆえに憐れみがかけられることを教える。モーセが荒れ野で神の御子の予型を掲げたこと。紀元前約七十四年。

1アルマがこれらの言葉を語り終えると、彼らはア

---

38 ① GS「背教・背信」
39 ① マタ13・5
40 ① 15・36 創世2・9、1ニフ
41 ① ② 23 GS「忍耐」
アル33・23、教義63・
42 ① ② GS「熱心」
1ニフ8・10−12

ルマのもとに人をやって、彼が述べたその実を得るためには、1)唯一の神を信じなければならないのかどうか、その種、2)すなわち心の中に植えなければならないとアルマが述べたその御言葉をどのように植えればよいのか、すなわち、どのような方法で信仰を働かせ始めればよいのかを知りたいと伝えさせた。

2 そこで、アルマは彼らに言った。「見よ、あなたがたは、自分たちの会堂から追い出されているので、神を1)礼拝できないと言っている。しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。もし神を礼拝できないと思っているのであれば、あなたがたはひどく誤解している。2)聖文を調べてみるべきであろう。もしあなたがたが聖文からそのことを教わったと思っているのであれば、あなたがたは聖文を理解していない。

3 あなたがたは、昔の預言者ゼノスが祈りについて、すなわち礼拝について述べたものを以前に読んだのを覚えているだろうか。

4 ゼノスはこう述べている。『おお、神よ、あなたは憐れみ深い御方です。わたしが荒れ野にいたときでさえ、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。またわたしが1)敵について祈ったときも、憐れみ深くあって、彼らがわたしに心を向けるようにしてくださいました。

5 まことに、おお、神よ、わたしが1)畑で叫び求めたとき、わたしを憐れんでくださいました。あなたに叫び求めたとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

6 さらにまた、おお、神よ、わたしが家に向かったときも、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

7 また、おお、主よ、わたしが自分の部屋に1)戻ってあなたに祈ったとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

8 まことに、あなたの子供たちが人々にではなくあなたに聞いていただくために叫び求めるとき、あなたは彼らを憐れんで、彼らの祈りを聞き届けてくださいます。

9 まことに、おお、神よ、あなたはわたしを憐れんで、会衆の中でわたしの嘆願をお聞きくださいました。

10 また、あなたはわたしが敵から1)追い出され、さげすまれたときにも、わたしの祈りをお聞きください

第33章
1 ① 15・2−4 2ニフ31・21、モサ ② アル32・28−43
2 ① ② アル32・5
3 ① ② アル37・3−10 GS「聖文−失われた聖文」「ゼノス」 ② GS「礼拝」
4 ① 5 ① マタ5・44 アル34・20−25 マタ6・5−6、アル7 ① 34・26 ① アル32・5

ました。まことに、わたしの嘆願を聞き届け、わたしの敵に怒りを示されました。そして、怒って彼らを速やかに滅ぼされました。

11 わたしが苦難に遭いながらも誠実であったので、あなたはわたしの祈りをお聞きくださいました。あなたがこのようにわたしを憐れんでくださったのは、御子のおかげです。ですからわたしは、これからもあらゆる苦難のさなかで、あなたに叫び求めます。あなたの内にわたしの喜びがあるからです。あなたは御子のゆえに、わたしからあなたの裁きを遠ざけてくださったからです。』」

12 また、アルマは彼らに言った。「あなたがたは昔の人々が書いた1)聖文を信じているか。

13 見よ、もし信じているならば、1)ゼノスが述べたことも信じているに違いない。見よ、ゼノスは、『あなたは御子のゆえに、あなたの裁きを遠ざけてくださいました』と述べた。

14 さて見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは聖文を読んだことがあるかどうか、わたしは尋ねたい。もし読んだことがあるならば、どうして神の御子を信じないでいられようか。

15 ゼノスだけがこれらのことを述べたとは1)書き記されていない。2)ゼノクもこれらのことについて述べた。

16 見よ、ゼノクはこう述べている。『おお、主よ、あなたが御子のゆえにこの民にかけてこられた憐れみを、この民が理解しようとしないので、あなたはこの民のことを怒っておられます。』

17 さて、わたしの同胞よ、このことから分かるように、昔の預言者がもう一人神の御子について証を述べている。ところが民は、この預言者の言葉を理解しようとしないで、彼を1)石で打ち殺してしまった。

18 しかし見よ、これだけではない。神の御子について述べたのは、これらの人々だけではない。

19 見よ、1)モーセも神の御子について述べた。荒れ野で一つの2)予型が3)掲げられ、それを仰ぎ見ようとした者はだれでも、生き延びられるようにされた。そして、多くの人がそれを見て生き延びた。

20 しかし、そのことの意味を理解した人はわずかであった。彼らの心がかたくなであったからである。そして、予型を見ようともしないほどかたくなな人が大勢おり、彼らは死んでしまった。彼らが見ようとしなかったのは、それで自分が1)癒されるとは信じ

---

12 ① GS「聖文」
13 ① アル34・7
15 ① ② 1ニフ19・10、アル34・7
17 ① ② 民数21・9、2ニフ25・20、モサ3・15
19 ① ③ ヨハ3・14、ヒラ8・14―15
20 ① 1ニフ17・40―41

なかったからである。
21 おお、わたしの同胞よ、もしあなたがたが癒しを
得るために、目を向けるだけでよいとしたら、あな
たがたはすぐにも見ようとしないだろうか。それと
も、不信仰のままで心をかたくなにし、怠けて目を
向けようとしないで死ぬことを望むだろうか。
22 もしそうであれば、災いがあなたがたに降りかか
るであろう。しかし、それを望まなければ、あなた
がたの目を向けて、神の御子を[1]信じるようにしなさ
い。神の御子が将来、御自分の民を贖うために降臨
されること、御子がその民の罪を[2]贖うために苦しみ
を受け、死なれること、御子が死者の中から[3]よみが
えり、[4]復活をもたらされること、終わりの裁きの日
に、すべての人が各々の[5]行いに応じて裁きを受ける
ために神の御子の御前に立つこと、これらのことを
信じてほしい。
23 さて、わたしの同胞よ、あなたがたがこの御言葉
を心の中に[1]植えて、それがふくらみ始めたら、あな
たがたの信仰によってそれを養い育ててほしい。そ
うすれば見よ、それはあなたがたの心の中で[2]生長し
て、永遠の命をもたらす木になるであろう。そのと
きに、神があなたがたのために、神の御子の喜びに
よって[3]重荷を軽くしてくださるように。これまで述
べてきたことは、もしあなたがたにこれを行う意志
さえあれば、すべて行えることである。アーメン。」

第34章

アミュレク、御言葉はキリストの内にあって救いを
得させるものであることを証する。贖罪が行われない
かぎり、全人類は必ず滅びる。モーセの全律法が神の
御子の犠牲を指し示している。永遠の贖いの計画は信
仰と悔い改めに基づいている。物質的な祝福のために
も、霊的な祝福のためにも祈ること。現世の生涯は人
が神にお会いする用意をする時期である。神の前に畏
れて自分の救いを達成すること。紀元前約七十四年。

1 さて、アルマは彼らにこれらの言葉を語り終える
と、地に腰を下ろした。次いで[1]アミュレクが立ち上
がり、彼らを教え始めた。
2 「わたしの同胞よ、今わたしたちはキリストが神
の御子であると教えたが、わたしが思うに、そのキ
リストの来臨についてこれまで述べられてきたこと

22 ① アル32・27−28
② アル22・14、34・8
③ GS「復活」
④ アル11・44
⑤ GS「行い」
23 ① アル33・1、34・4
② アル32・41、教義63・9
③ アル31・38
第34章
1 ① アル8・21

を、あなたがたが知らないはずはない。あなたがたがわたしたちから背いて去る前に、[1]これらのことがあなたがたに十分教えられていたことを、わたしは知っている。

3 あなたがたは苦難に遭っているので、どうしたらよいか教えてほしいとわたしの愛する兄弟に頼み、わたしの兄弟はあなたがたに心の備えをさせるために、多少のことを述べてきた。また彼は、信仰と忍耐をあなたがたに勧めた。

4 まことに、御言葉を心に植えるほどの信仰を持ち、その御言葉の良さを試してみるように、あなたがたに勧めた。

5 そしてわたしたちは、その御言葉が神の御子の内にあるのかどうか、キリストが将来降臨されるのかどうかという大きな疑問が、あなたがたの心の中にあることが分かった。

6 また、あなたがたも見たように、わたしの兄弟は、その御言葉がキリストの内にあって救いに至らせるものであることを、多くの例を引きながらあなたがたに立証した。

7 わたしの兄弟は、贖いが神の御子を通して与えられるというゼノスの言葉と、またゼノクの言葉を参照した。また、モーセも引き合いに出して、これらのことが真実であることを立証した。

8 さて見よ、わたしも、これらのことが真実であることをあなたがたに証しよう。見よ、あなたがたに言う。将来キリストは、御自分の民の背きを御自身に負うために人の子らの中に来られ、世の罪を贖われる。わたしはこのことを知っている。主なる神がそう言われたからである。

9 贖罪が行われることは必要である。というのは、永遠の神の偉大な計画によって贖罪が行われなければならず、そうでなければ、全人類が滅びるのは避けられないからである。まことに、すべての人はかたくなになっており、堕落し、迷った状態にあるので、贖罪によらなければ必ず滅びる。贖罪は必ず行われなければならない。

10 大いなる最後の犠牲が必要である。それは、人を犠牲にすることでも、獣や鳥類を犠牲にすることでもない。人の犠牲であってはならず、無限にして永遠の犠牲でなければならない。

11 さて、自分の血をささげてほかの人の罪を贖うこ

---

2 (1) アル16・13−21
4 (1) アル33・23
6 (1) GS「証する」
8 (1) ヨハ1・1、14
(2) GS「贖罪」
9 (1) アル33・22
(2) アル12・22−33、モセ6・62
(3) GS「堕落（アダムとエバの）」
10 (1) モセ5・6−7
(2) 2ニフ9・7
(3) GS「犠牲」

とができる人など、だれ一人いない。さて、ある人が人を殺した場合、見よ、わたしたちの公正な法律[1]は、その人の兄弟の命を奪おうとするだろうか。そのようなことはないと、わたしはあなたがたに言う。

12 そうではなく、法律は人を殺した当人の命を要求する。[1]したがって、無限の贖罪でなくては世の罪を十分に贖うことはできない。

13 それゆえ、大いなる最後の犠牲が必要である。そのときに、血を流すことは終わるであろうし、また、[1]やめなければならない。それで、モーセ[2]の律法が成就するのである。まことに、モーセの律法は一点一画に至るまでことごとく成就し、むなしくなるものは何一つない。

14 見よ、これが[1]律法の[2]目的そのものであり、すべての部分がこの大いなる最後の[3]犠牲を指し示している。そして、この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので、まことに、これは無限にして永遠の犠牲である。

15 このように神の御子は、その御名を信じるすべての人に[1]救いをもたらされる。この最後の犠牲の目的は、憐れみの心を成し遂げることであり、この憐れみは正義に打ち勝ち、また人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設けるのである。

16 このように、[1]憐れみは[2]正義の要求を満たし、これらの人々を腕に包み込んで保護する。一方、悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、[3]正義を要求するすべての律法にこたえなければならない。したがって、偉大な永遠の[4]贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。

17 それゆえ、神がわたしの同胞であるあなたがたに、あなたがたが悔い改めを生じる[1]信仰を働かせて、神の聖なる御名を[2]呼び始め、神の憐れみを得られるようにしてくださいますように。

18 まことに、神に憐れみを叫び求めなさい。なぜなら、神は人を救う力を備えておられるからである。

19 まことに、へりくだって、神に祈り続けなさい。

20 牧場にいるときには、まことに、すべての家畜の群れについて神に叫び求めなさい。

21 家にいるときには、まことに、あなたがたの家のすべての者について、朝も昼も晩も神に[1]叫び求めなさい。

---

11 ① 申命24・16、モサ29・25
12 ① GS「殺人」「死刑」
13 ① 3ニフ9・17、19—20
② 3ニフ15・5
14 ① GS「モーセの律法」
② アル30・3
③ 教義138・35
15 ① GS「救い」
16 ① GS「憐れみ」
② GS「正義」
③ アル12・32
④ GS「贖いの計画」
17 ① GS「信仰」
② GS「祈り」
21 ① 詩篇5・1—3、3ニフ18・21

22まことに、敵の力を防ぐことができるように、神
に叫び求めなさい。
23まことに、あらゆる義[1]の敵である悪魔[2]を防ぐこと
ができるように、神に叫び求めなさい。[3]
24あなたがたの畑の収穫が豊かであるように、作物
について神に叫び求めなさい。
25あなたがたの牧場の家畜が増えるように、家畜の
群れについて叫び求めなさい。
26しかし、これだけではない。あなたがたは自分
の部屋[1]でも、人目に触れない場所でも、荒れ野でも、
あなたがたの心を注ぎ出さなければならない。
27また、声に出して主に叫び求めないときでも、あ
なたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸い
を気遣う気持ちを心に満[1][2]たし、それが絶えず主への
祈りになるようにしなさい。
28さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに
言う。これですべてであると思ってはならない。こ
れらのことをすべて行っても、もし乏[1]しい人や着る
物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでい
る人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありな
がら、それを必要としている人々に分け与[2]えなかっ
たりするならば、あなたがたに言うが、もしあなた
がたがこれらのことのどれも行うことがなければ、
見よ、あなたがたの祈りはむなしく[3][4]、何の役にも立
たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じ
である。
29したがって、もし愛[1]を示すことを覚えていなけれ
ば、あなたがたは精錬する者たちが（価値のないも
のとして）捨てて、人が足で踏みつけるかすのよう
なものである。
30さて、わたしの同胞よ、あなたがたはすでに多く
の証拠を得ており、聖文がこれらのことを立証して
いるのも知っているので、進み出て悔い改めの実を
結んでもらいたい。
31まことに、進み出て、もはや心をかたくなにしな
いでほしい。見よ、今があなたがたの救い[1]の時であ
り、救いの日である。したがって、あなたがたが悔
い改めて心をかたくなにしなければ、偉大な贖いの
計画はすぐにあなたがたに効果を及ぼすであろう。
32見よ、現世は人が神にお会いする用意[1]をする時期
である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務め
を果たす時期である。

23 ① GS「義」
② GS「悪魔」
③ 3ニフ18・15、18
26 ① マタ6・5−6
27 ① GS「心」
② GS「深く考える」
28 ① GS「貧しい」
② GS「施し」
③ マタ15・7−8
④ モロ7・6−8
29 ① GS「慈愛」
30 ① マタ3・8、アル13・
13
31 ① ロマ13・11−12
32 ① 2ニフ2・21、アル
12・24、42・4−6

33 さて、前に話したように、あなたがたにはすでに
非常に多くの証拠があるので、最後まで悔い改めの
日を引き延ばすことのないように切に勧める。永遠
に備えるためにわたしたちに与えられている現世の
生涯を終えると、見よ、もしわたしたちが現世にい
る間に時間を有益に用いなければ、後から暗闇の夜
がやって来る。そして、そこでは何の働きもできな
い。
34 あなたがたはその恐ろしい危機に陥るときに、『わ
たしは悔い改めて神に立ち返ろう』と言うことはで
きない。あなたがたはこのように言うことはできな
い。なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉
体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、
あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。
35 見よ、もし死ぬときまで悔い改めの日を引き延ば
したならば、見よ、あなたがたはすでに悪魔の霊
の支配を受けるようになっているので、悪魔はあな
たがたに自分のものであるという印を押す。したが
って、主の御霊はもはや退き去って、あなたがたの
内に決して宿ることはなく、悪魔があなたがたを支
配するすべての力を得る。これが悪人の最後の状態
である。
36 わたしはこのことを知っている。主は清くない宮
に住まず、義人の心に住むと言われたからである。
主はまた、義人は主の王国で座に着いて二度とそこ
を去ることがなく、義人の衣は小羊の血によって白
くされるとも言われた。
37 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたが
たがこれらのことを思い出すように、また神を畏れ
て自分の救いを達成するように、さらに、キリスト
の来臨を二度と否定することのないように願ってい
る。
38 また、あなたがたがこれから二度と聖霊に逆らう
ことなく、聖霊を受け、キリストの御名を受けるよ
うに、そして地に伏すほどにへりくだり、どこにい
ても霊とまことをもって神を礼拝するように、さ
らに、神が授けてくださる多くの憐れみと祝福を
日々感謝しながら生活するように、わたしは願っ
ている。
39 また、わたしの同胞よ、悪魔の誘惑に惑わされる
ことなく、悪魔に打ち負かされることなく、終わり
の日に悪魔の手下になることのないように、絶えず

33 ① GS「悔い改め」
② ヒラ13・38、教義45・2
③ GS「暗闇（霊的な）」「死（霊の）」
④ ヨハ9・4、教義45・17
34 ① アル40・13—14
35 ① 2ニフ28・19—23
② 2ニフ9・9
36 ① モサ2・37、アル7・21、ヒラ4・24
② GS「義」
37 ① ピリ2・12
38 ① GS「争い」
② モサ5・8、アル5・38
③ GS「礼拝」
④ 詩篇69・30、教義59・7、GS「感謝」
39 ① GS「誘惑」

祈りに心を配ることを、あなたがたに勧める。見よ、悪魔はあなたがたに決して良いものを報いとして与えないからである。

40わたしの愛する同胞よ、[1]忍耐するように、そしてあらゆる苦難に耐えるように、あなたがたに勧める。また、ひどく貧乏だからということであなたがたを追い出した者のような罪人にならないために、彼らをののしることのないように勧める。

41むしろあなたがたは忍耐し、いつの日かあらゆる苦難を離れて休めるという確固とした望みをもってそれらの苦難に耐えるように、あなたがたに勧める。」

第35章

御言葉が宣べ伝えられたことで、ゾーラム人の慣行が崩れる。ゾーラム人から追い出された改宗者たち、ジェルションの地に住むアンモンの民に加わる。アルマ、民の悪を嘆く。紀元前約七十四年。

1さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、二人は群衆のもとを去り、ジェルションの地へ行った。

2また、ほかの兄弟たちも、ゾーラム人に御言葉を宣べ伝えた後、ジェルションの地へ行った。

3さて、ゾーラム人の中で多数派を占める者たちは、ゾーラム人に宣べ伝えられた御言葉について協議した後、御言葉のために自分たちの[1]慣行が崩れたことに腹を立て、宣べ伝えられた御言葉に聞き従わないことにした。

4そして、彼らは使いを出し、その地の至る所にいるすべての民を集め、宣べられた御言葉について彼らの意見を求めた。

5さて、ゾーラム人の指導者たちと祭司たちと教師たちは、自分たちの意図していることを民に知らせず、ひそかに民の意向をうかがった。

6そして、彼らがすべての人の意向を探り出した後、アルマと彼の兄弟たちが語った言葉を支持した人々は、その地から追い出された。これらの人々の数は多く、彼らもまたジェルションの地へ行った。

7そこで、アルマと彼の兄弟たちは、これらの人々に教えを授けた。

8さて、ゾーラム人の民は、ジェルションにいるア

39②GS「見守る・見守る者」
40①③アル30・60
②①GS「忍耐」
教義31・9
第35章
3①GS「偽善売教」

ンモンの民に腹を立てた。また、ゾーラム人の指導
者の長は、非常に悪い男であったので、アンモンの
民に使いを送り、ゾーラム人の地から彼らの地に行
ったすべての人を、その地から追い出すように求め
た。
9 また彼は、アンモンの民を脅す言葉をたくさん吐
いた。ところが、アンモンの民は彼らの言葉を恐れ
なかったので、これらの人々を追い出すことなく、
自分たちのもとに来たすべての貧しいゾーラム人を
受け入れた。そして彼らは、これらの人々に食べる
物や着る物を与え、また土地を受け継ぎとして譲り
与えた。彼らは、これらの人々の入り用に応じて必
要なものを提供したのであった。
10 さて、このことによってゾーラム人は、アンモン
の民に対する怒りをかき立てられた。そして、彼ら
はレーマン人と交わり始め、レーマン人を扇動して
アンモンの民に対して怒らせるようにした。
11 このようにして、ゾーラム人とレーマン人は、ア
ンモンの民とニーファイ人に対して戦う用意を始め
た。
12 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさ
の統治第十七年が終わった。
13 アンモンの民はジェルションの地を去ってミレク
の地に移り、ジェルションの地をニーファイ人の軍
に明け渡して、ニーファイ人の軍がジェルションの
地でレーマン人の軍およびゾーラム人の軍と戦える
ようにした。このようにして、さばきつかさの統治
第十八年に、レーマン人とニーファイ人の間で戦争
が始まった。この戦争の話は後に述べることにす
る。
14 アルマとアンモンと彼らの兄弟たちとアルマの
二人の息子は、神の手に使われる者となって多くの
ゾーラム人を悔い改めさせた後、ゼラヘムラの地に
帰った。また、悔い改めに導かれた人々は皆、自分
たちの地から追い出されたが、ジェルションの地で
自分たちの受け継ぎの土地を得た。そして、自分自
身と妻子、および自分たちの土地を守るために武器
を取った。
15 さて、アルマは自分の民の罪悪、すなわち民の中
にある戦争と流血と争いを嘆き、出かけて行って、
すなわち遣わされて、あらゆる町のすべての民に御
言葉を告げ知らせた。ところが、民の心はかたくな

9 ① モサ4・26、GS「福
13 ① 祉」
14 ① アル43・3
アル35・6

になり、また御言葉が厳しいために彼らは次第に[1)]怒るようになった。それを見たアルマの心は非常な憂いにさいなまれた。

16そこで、アルマは息子たちを集め、義にかかわることについて、息子たちにそれぞれの[1)]責任を与えることにした。アルマが息子たちを戒めた事柄の記録は今わたしたちの手もとにあるが、これはアルマ自身が記録したものである。

アルマが息子のヒラマンに与えた戒め。
次の第三十六—三十七章がそれに相当する。

第36章

アルマ、自分が天使によって改心に導かれたことをヒラマンに証する。アルマが罰の定めを受けた者の苦痛を経験し、イエスの名を呼び、神から生まれたこと。快い喜びに満たされたこと。神をほめたたえる天使の群れを見たこと。多くの改宗者も、アルマと同じように味わい、同じような光景を見た。紀元前約七十四年。

1「わが子よ、[1)]わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしはあなたに誓う。あなたは神の戒めを守るかぎり地に栄えるであろう。

2あなたはわたしと同じように、わたしたちの先祖が囚われの身にあったことを思い起こしてもらいたい。わたしたちの先祖は[1)]奴隷の状態にあり、[2)]アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のほかにはだれも彼らを救い出せなかった。そして神は、確かに苦難の中にいる彼らを救い出された。

3おお、わが子ヒラマンよ、見よ、あなたは若い。だから、わたしの言葉を聞いて、わたしに学ぶように勧める。神に頼る者はだれであろうと、[1)]試練や災難や苦難の中にあって支えられ、また終わりの日に[2)]高く上げられるということをわたしは知っているからである。

4しかし、わたしがそれを[1)]自分独りで知ったと思ってもらいたくない。物質的なものからではなく、霊的なものから知ったのであり、[2)]肉の思いからではなく、神から知らされたのである。

5見よ、わたしはあなたに言う。わたしは神から[1)]生まれていなかったならば、これらのことを[2)]知ること

15①GS「背教・背信」
16①GS「管理人・管理人の職」
第36章
1①ヒラ5・9—14
2①モサ23・23、24・17—21
②出エ3・6、アル29・11
3①ロマ8・28
②モサ23・21—22
4①1コリ2・11、アル5・45—46、GS「知識」
②GS「現世的」
5①GS「再び生まれる」
②アル26・21—22

はなかったであろう。しかし、神は聖なる天使の口を通して、これらのことをわたしに知らせてくださった。わたし自身はまったくふさわしくなかったにもかかわらず、そうしてくださった。[3]

6 わたしはかつてモーサヤの息子たちと一緒に歩き回って、神の教会を滅ぼ[1]そうとしていた。ところが見よ、神は、聖なる天使を遣わして、道の途中でわたしたちを止められた。

7 見よ、その天使はわたしたちに語りかけたが、それはまるで雷の音のようであった。そして、大地全体がわたしたちの足もとで揺れ[1]動き、わたしたちは皆、地に伏した。主への畏れ[2]を覚えたからである。

8 ところが見よ、その声がわたしに、『起きなさい』と言った。そこでわたしは起き上がって立ち、その天使を見た。

9 すると、天使はわたしに、『たとえあなた自身が滅ぼされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそうとしてはならない』と言った。

10 そして、わたしは地に倒れた。そして[1]三日三晩、口を利くことができず、手足を動かすこともできなかった。

11 天使はわたしにもっと多くのことを語り、仲間はそれを聞いたが、わたしには聞こえなかった。わたしは、『たとえあなた自身が滅ぼされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそうとしてはならない』という言葉を聞いたときに、自分は滅ぼされるのではないかというひどい恐れと驚きに打たれて地に倒れ、それ以上は何も聞こえなかったからである。

12 しかしわたしは、[1]永遠の苦痛に責めさいなまれた。わたしはきわめてひどい苦しみを受け、自分のすべての罪に責めさいなまれた。

13 まことに、わたしは自分のあらゆる罪と不義を思い出し、そのために地獄の苦しみを[1]味わった。わたしは自分が神に逆らってきたことと、神の聖なる戒めを守っていなかったことを知ったのである。

14 また、わたしは神の子供たちを大勢殺した。いや、彼らを惑わして滅びに至らせた。要するに、わたしの罪悪が非常に大きかったので、神の御前に行くことを考えるだけで、わたしは言いようのない恐怖に責めさいなまれた。

15 おお、そのときにわたしが思ったのは、自分が追[1]放されて霊と肉体がともになくなってしまえば、神

---

5 ③ GS「ふさわしさ」
6 ① モサ 27・10
7 ① モサ 27・18
② GS「畏れ・恐れ ― 神への畏れ」
10 ① モサ 27・19―23
12 ① 教義 19・11―15
13 ① GS「罪悪感」
15 ① 黙示 6・15―17、アル 12・14

の御前に立たされて自分の行いを裁かれることはないだろうということであった。

16 さて、三日三晩、わたしはまさに罰の定めを受けた者の苦痛に責めさいなまれた。

17 そして苦痛に責めさいなまれていたときに、わたしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について民に預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

18 心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください』と叫んだ。

19 さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

20 おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。

21 わが子よ、まことに、あなたに言うが、わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わった。また息子よ、わたしは言う。それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わった。

22 思うに、ちょうどわたしたちの先祖リーハイが見たように、わたしも神が御座に着き、神を賛美しほめたたえる様子で群れ集まる無数の天使たちに取り囲まれておられるのを見た思いがした。そして、わたしはそこに行きたいと切に望んだ。

23 すると見よ、わたしの手足は再び力を取り戻した。そこでわたしは立ち上がり、自分が神から生まれたことを民に言明した。

24 また、そのときからまさに現在まで、わたしは絶えず働き続け、人々を悔い改めに導き、わたしが味わった非常な喜びを味わわせ、彼らも神から生まれ、聖霊に満たされるようにしてきた。

25 そして、見よ、おお、わが子よ、今主はわたしの労苦の結ぶ実によって非常に大きな喜びをわたしに与えてくださっている。

26 主がわたしに告げてくださった御言葉のために、

15 ②アル41・3、教義1・9−10
16 ①GS「罰の定め」
17 ①2コリ7・10
18 ①ひどい悔恨の念に駆られ、の意　②2ニフ9・45、28・22、アル12・11、モセ7・26
19 ①GS「罪悪感」
20 ①GS「喜び」
22 ①1ニフ1・8　②モセ1・10、アル5・14、GS「再び生まれる」
23 ①1ニフ8・12、モサ4・11　②2ニフ32・5、3ニフ9・20、GS「聖霊」
26 ①アル31・5

見よ、多くの人が神から生まれ、わたしの味わったように味わい、わたしが見たように目の当たりに見た。そのために彼らは、わたしが述べてきたこれらのことを、わたしが今知っているように知っている。わたしが今知っていることは、神から出たものである。

27 そしてわたしは、あらゆる試練と災難の下で、またあらゆる苦難の中で支えられてきた。まことに、神は牢から、また束縛から、死からわたしを救い出してくださった。わたしは神を信頼している。神はこれからもわたしを救い出してくださるであろう。

28 わたしは、神が終わりの日にわたしをよみがえらせ、[2]栄光のうちに御自身とともに住めるようにしてくださることを知っている。わたしは神をとこしえにほめたたえよう。神はわたしたちの先祖をエジプトから[3]導き出してくださったからである。神は[4]エジプト人を紅海の中にのみ込ませ、御自分の力によって、わたしたちの先祖を約束の地に導かれた。また神は、何度も奴隷と束縛の状態から先祖を救い出してくださった。

29 神はまた、エルサレムの地からわたしたちの先祖を連れ出してくださった。また、永遠の力によって、今日に至るまで何度も奴隷と束縛の状態から先祖を救い出してくださった。わたしは先祖が囚われの身にあったことをいつも思い起こすようにしてきた。あなたもわたしと同じように、先祖が囚われの身にあったことを思い起こすようにしなければならない。

30 しかし見よ、わが子よ、それだけではない。神の戒めを[1]守るかぎり地に栄えることを、わたしが知っているように、あなたも知らなければならない。また、神の戒めを守らなければ神の御前から絶たれるということも、あなたは知らなければならない。これは神の御言葉による。」

第37章

真鍮の版とそのほかの聖文が、人々を救いに導くために保存される。ヤレド人が彼らの悪事のために滅ぼされたこと。ヤレド人の秘密の誓いの言葉と誓約は民に隠しておかなければならない。自分のすべての行いについて主と相談すること。リアホナがニーファイ人を導いたように、キリストの言葉は人々を永遠の命に導く。紀元前約七十四年。

---

27 ① 詩篇34・17
28 ① 3ニフ15・1
② GS「栄光」
③ 出エ12・51
29 ① ④ モサ24・17、27・16、出エ14・26−27、アル5・5−6
30 ① 2ニフ1・9−11、アル50・19−22

1「さて、わが子ヒラマンよ、わたしはあなたに、これまでわたしに託されてきた記録を受け取るように告げる。

2また、わたしが行ってきたように、この民の記録をニーファイの版に書き続け、またわたしが行ってきたように、これまでわたしが保存してきたこれらのものをすべて神聖に保つようあなたに告げる。これらのものは、ある賢明な目的のために保存されているからである。

3また、この真鍮の版も保存しなさい。この真鍮の版には様々な記録が刻まれており、聖文も記されていて、まことに世の初めからのわたしたちの先祖の系図も載っている。

4見よ、わたしたちの先祖が預言したように、この版はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に明らかに示されて、彼らがこれに書き記されている奥義を知るようになるときまで、これは代々保存され、伝えられ、また主の御手によって保存され、残されることになっている。

5さて見よ、この版は、保存されるならばその輝きを保つに違いない。確かに、この版はその輝きを保つであろう。また、聖文の載っている版はすべてそうである。

6記録を保存するのはわたしが愚かだからであると、あなたは思うかもしれない。しかし見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。そして、小さな手段が度々知者を辱める。

7主なる神は偉大な永遠の目的を達するために、様々な手段によって事を行われる。また、ごく小さな手段によって、主は知者を辱め、また多くの人を救われる。

8これまでこれらの記録が残されてきたのは、神の知恵によるものであった。見よ、これらの記録はこの民に多くのことを思い出させ、また多くの人に彼らの行いが誤っていることを納得させ、神について知らせて彼らが救われるようにしてきたからである。

9まことに、わたしはあなたに言う。もしこれらの記録に載っている、すなわちこれらの版に載っているこれらのものがなければ、アンモンと彼の同僚たちは何千人ものレーマン人に、彼らの先祖の言い伝

第37章
1 (1) モサ28・20
(2) アル45・2–8
2 (1) エノ1・13–18、モ言1・6–11、アル37・9
3 (1) 1ニフ5・10–19、GS「真鍮版」、1/12
4 (1) GS「神の奥義」
6 (1) 1コリ2・14
(2) 1ニフ16・28–29、教義64・33、123・15–17
7 (1) イザ55・8–9
8 (1) 列下5・1–14
(2) 2テモ3・15–17、モサ1・3–5
9 (1) モサ1・5

えが正しくないことを納得させることはできなかっ
たであろう。これらの記録と彼らの言葉は、レーマ
ン人を悔い改めに導いた。すなわち、これらの記録
と彼らの言葉は、レーマン人に主なる神について知
らせ、彼らの贖い主イエス・キリストのことを喜ぶ
ように彼らを導いた。
10 また、だれもこれらの記録が、将来何千人ものレ
ーマン人と、また今、罪と悪事の中で心をかたくな
にしている、わたしたちの強情な同胞である何千人
ものニーファイ人に、彼らの贖い主について知らせ
る手段にならないとは言い切れない。
11 これらの奥義は、まだ全部はわたしに知らされて
いないので、わたしはそれを語ることを控えなけれ
ばならない。
12 ただこれらの記録は、神が御存じの、ある賢明な
目的のために残されるとだけ言えば、それで十分で
あろう。神は御自分が造られたすべてのものに知恵
をもって助言を与えられる。そして、主の道はまっ
すぐで、その道は一つの永遠の環である。
13 おお、覚えておきなさい。わが子ヒラマンよ、神
の戒めがどれほど厳しいか覚えておきなさい。神
は、『あなたがたはわたしの戒めを守るかぎり地
に栄える』と言われた。しかし、神の戒めを守らな
ければ、神の御前から絶たれるであろう。
14 わが子よ、神がこれらのものをあなたに託された
ということを覚えておきなさい。これらのものは神
聖であり、神はこれまでこれらのものを神聖に保っ
てこられた。そしてこれからも、御自分の力を後の
時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明
な目的のためにこれらのものを保存し、守られるで
あろう。
15 さて見よ、わたしは預言の霊によってあなたに告
げる。もしあなたが神の戒めに背くならば、これら
の神聖なものは神の力によってあなたから取り去ら
れる。そして、あなたはサタンに引き渡され、サタ
ンはあなたを風に吹かれるもみ殻のようにふるいに
かけるであろう。
16 しかし、あなたが神の戒めを守り、主から命じら
れるとおりにこれらの神聖なものを扱うならば（す
なわち、あなたはこれらのものをどのように扱わな
ければならないかについて、一切のことを主に請い
求めなければならない）、見よ、この世のどのような

9 ② アル18・36、22・12
③ GS「福音」
12 ① 2ニフ9・28、ヤコ4・10
② 1ニフ10・19、アル7・20
13 ① 2ニフ9・41
② アル9・13、3ニフ5・22
③ モサ1・7、アル50・20
14 ① 教義3・5
② GS「聖い」
③ 1ニフ9・3−6

力も、地獄のどのような力も、決してあなたからこれらのものを取り去ることはできない。神は御自分の御言葉をすべて成就する十分な力を持っておられる御方だからである。

17 神は、あなたに立てるすべての約束を果たされる。神はこれまでもわたしたちの先祖と交わした約束を果たしてこられたからである。

18 神は、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のためにこれらのものを守ろうと、わたしたちの先祖に約束された。

19 さて見よ、神はすでに一つの目的を達せられた。何千人ものレーマン人が再び真理を知るようになったのである。そして、神はこれらの記録によって御自分の力を示された。神はまた後の時代の人々にも、これらの記録によって御自分の力を示されるであろう。そのために、これらのものは残される。

20 そこで、わが子ヒラマンよ、わたしはあなたに告げる。あなたは勤勉にわたしのすべての言葉に従いなさい。また、神の戒めを記されているとおりに熱心に守りなさい。

21 また、あの二十四枚の版について話そう。あなたはあの版を保存し、様々な秘密の行いと闇の業、隠れた業、すなわち滅ぼされてしまったあの民の秘密の業が、この民に明らかにされるようにしなさい。すなわち、彼らのあらゆる殺人、強盗、略奪、またあらゆる悪事と忌まわしい行いがこの民に明らかにされるようにしなさい。また、あなたはこの解訳器も保存しなさい。

22 見よ、主は、御自分の民が暗闇の中で業を行い始めたこと、すなわち暗殺と忌まわしい行いをするようになったことを御覧になった。そこで主は、もし悔い改めなければ、彼らは地の面から滅ぼし去られると言われた。

23 また、主は言われた。『わたしは暗闇の中で輝いて光を放つ一つの石を、わたしの僕ガゼレムのために用意しよう。それによってわたしは、わたしに仕える民のために彼らの同胞の業、すなわち同胞の秘密の業、闇の業、悪事と忌まわしい行いを明らかにしよう。』

24 わが子よ、この解訳器は神の御言葉が成就するように備えられたものである。神はこれについて次のように言われた。

---

16 ① ジー歴史1・59
18 ① 教義5・9
19 ① アル23・5
19 ② エノ1・13、モル7・8−10
21 ① エテ1・1−5
21 ② GS「秘密結社」
21 ③ GS「ウリムとトンミム」
23 ① モサ8・13

25 『わたしは彼らのあらゆる秘密の業と忌まわしい
行いを暗闇から明るみに出そう。また、彼らが悔い
改めなければ、彼らを地の面から滅ぼし去ろう。そ
してわたしは、彼らのあらゆる秘密と忌まわしい行
いを、今後この地を所有するすべての国民に明らか
に示そう。』
26 さて、わが子よ、わたしたちが知っているように、
彼らは悔い改めなかったので滅ぼされてしまった。
そして、これまで神の御言葉は成就し、彼らの秘密
の忌まわしい行いは暗闇から出されて、わたしたち
に知らされてきた。
27 わが子よ、あなたに告げる。彼らのあらゆる誓い
の言葉と誓約と、彼らの秘密の忌まわしい行いにつ
いての取り決めを忘れないようにしなさい。また、
彼らのすべての合図と不思議なことをこの民に隠し
て、この民がそれらのものを知ることなく、彼らも
暗闇に陥って滅ぼされることのないようにしなさ
い。
28 見よ、この地の全体に、一つののろいがあるから
である。そののろいとは、闇の業を行う者たちの悪
が完全に熟すとき、神の力によってそれらの者たち
が皆滅ぼされるというものである。わたしはこの民
が滅ぼされることのないように願っている。
29 だからあなたは、彼らの誓いの言葉と誓約から成
る秘密のはかりごとを、この民に隠しなさい。彼ら
の悪事と殺人と忌まわしい行いだけをこの民に知ら
せて、そのような悪事と忌まわしい行いと殺人を忌
み嫌うように彼らに教えなさい。また、これらの
人々が彼らの悪事と忌まわしい行いと殺人のために
滅ぼされたことも、彼らに教えなさい。
30 見よ、彼らは自分たちの中にやって来て、その罪
悪について告げ知らせた主の預言者をすべて殺し
た。そのため、彼らに殺された人々の血が、主なる
神に向かって、自分たちを殺した者たちに報復する
ように叫んだ。その結果、神の裁きが、これらの闇
の業を行い、秘密結社を作った者たちに下ったので
ある。
31 また、それらの闇の業を行い、秘密結社を作った
者たちに対して、この地はとこしえにいつまでもの
ろわれる。彼らは、悪事が完全に熟す前に悔い改め
なければ滅びるであろう。
32 わが子よ、わたしがあなたに語ってきた言葉を覚

25 ① 教義88・108—110
② モサ21・26
27 ① ヒラ6・22
28 ① アル45・16、エテ2・7—12
29 ① ヒラ6・25
② アル13・12

えておきなさい。あの秘密のはかりごとをこの民に
明らかにすることなく、罪と悪事を永遠に[1]憎むこと
を教えなさい。
33 悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰につ
いてこの民に[1]宣べ伝えなさい。謙遜になるように、
また[2]柔和で心のへりくだった者になるように教えな
さい。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、
悪魔のあらゆる[3]誘惑に立ち向かうように教えなさ
い。
34 善い行いをするのに決して疲れず、柔和で心のへ
りくだった者になるようにこの民に教えなさい。こ
のような者は、その霊に[1]安息を得るであろう。
35 おお、覚えておきなさい、わが子よ。若いうち
に[1]知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ること
を若いうちに習慣としなさい。
36 また、あなたの必要とするあらゆる助けを神に[1]叫
び求めなさい。まことに、あなたの行うことはすべ
て、主のために行うようにしなさい。どこへ行くに
も主にあって行くようにしなさい。まことに、あな
たの思いを常に主に向けるようにしなさい。まこと
に、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるよう
にしなさい。
37 あなたのすべての行いについて主と[1]相談しなさ
い。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与
えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠ってい
る間も主が見守ってくださるように、主に身を託し
て寝なさい。そして、朝起きるときに、神への[2]感謝
で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、
終わりの日に高く上げられるであろう。
38 さて、わが子よ、わたしは先祖が球、すなわち指
示器と呼んだものについて少々話しておかなけれ
ばならない。先祖はこれを[1]リアホナと呼んだ。それ
は、羅針盤という意味である。主が用意してくださ
ったのである。
39 見よ、これほど入念に細工のできる人はあり得な
い。それは、先祖に荒れ野の中で旅をする進路を教
えるために用意されたものであった。
40 そしてこれは、神を信じる先祖の[1]信仰に応じて働
いた。したがって、先祖が信仰を持ち、神がその指
針によって自分たちの行くべき方向を示してくださ
ると信じたときには、見よ、そのようになった。そ
こで彼らは、この奇跡と、また日々神の力によって

32 ① 2ニフ4・31
33 ① GS「宣べ伝える」
② GS「柔和」
③ GS「誘惑」
34 ① 詩篇37・4—7、マタ11・28—30
35 ① GS「知恵」
36 ① GS「祈り」
37 ① ヤコ4・10、教義3・4
② 教義46・32
38 ① 1ニフ16・10、18・12、教義17・1
40 ① 1ニフ16・28

行われたほかの多くの奇跡を経験したのである。

41 しかし、それらの奇跡は小さな手段によって行われたため、それは彼らに数々の驚くべき業を示した。ところが、彼らが怠けて、信仰を働かせることと熱意を示すことを忘れると、それらの驚くべき業は止まってしまい、彼らの旅は進まなかった。

42 そのために彼らは、荒れ野に長居することになってしまった。すなわち、彼らはまっすぐな道を進まず、自分たちの背きのために飢えと渇きに苦しんだのである。

43 さて、わが子よ、このようなことには必ず影があることを理解してもらいたい。先祖はこの羅針盤を心に留めることを怠ったので（これらは物質的なことであり）、旅は順調ではなかった。霊的なことについても同様である。

44 見よ、キリストの御言葉は、永遠の喜びに至るまっすぐな道を指し示すものであるが、その御言葉を心に留めることが容易であるのは、約束の地に至るまっすぐな道を示すこの羅針盤に注意を払うのが、先祖にとって容易であったのと同じである。

45 さて、わたしは尋ねるが、このことの中に予型はないだろうか。この指示器がその示す道をたどる先祖を約束の地に導いたように、確かにキリストの御言葉は、わたしたちがキリストの御言葉の示す道をたどるならば、この悲しみの谷を越えてはるかに良い約束の地へわたしたちを導き入れてくれるのである。

46 おお、わが子よ、方法が容易だからということで怠けないようにしよう。わたしたちの先祖がそうであったからである。それは先祖のために備えられたもので、彼らがそれを見ていたら生き延びることができたであろう。わたしたちについても同様である。方法はすでに備えられており、わたしたちが見ようとすれば、とこしえに生きることができるであろう。

47 さて、わが子よ、あなたはこれらの神聖なものを大切にしなさい。神に頼って生きるようにしなさい。この民のところへ出て行き、御言葉を告げ知らせなさい。まじめでありなさい。さらば、わが子よ。」

アルマが息子のシブロンに与えた戒め。

次の第三十八章がそれに相当する。

41① アル37・6−7
44① 詩篇119・105、1ニフ11・25
46① ヒラ3・29−30、2ニフ9・41、31・17−21、教義132・22、25
② 1ニフ17・40−41
③ ヨハ11・25、ヒラ8・15、3ニフ15・9

第38章

シブロンは義のために迫害された。救いは世の命であり光であるキリストの内にある。自分の激情をすべて制すること。紀元前約七十四年。

1「わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしはヒラマンに言ったようにあなたにも言う。あなたは神の戒めを守るかぎり地に栄えるであろう。また、神の戒めを守ろうとしなければ、神の御前から絶たれるであろう。

2わが子よ、あなたが確固としており、神に忠実であるので、わたしはあなたによって大きな喜びを得られると確信している。あなたは若いときから主なる神に頼り始めたので、これからも神の戒めを守り続けるようにしてもらいたい。最後まで堪え忍ぶ者は幸いだからである。

3わが子よ、わたしはあなたに言う。あなたはゾーラム人の民の中にあって忠実で、勤勉で、忍耐強く、寛容であったので、わたしはあなたによってすでに大きな喜びを得た。

4わたしは、あなたが縛られていたのを知っているからである。また、御言葉のために石を投げられたのも知っている。主があなたとともにおられたので、あなたは忍耐してこれらすべてのことに耐えた。そして、今あなたは、神があなたを救い出してくださったことを知っている。

5わが子シブロンよ、神を信頼すればするほど、あなたはそれだけ試練や災難や苦難から救い出され、そして終わりの日に高く上げられるということを覚えていてもらいたい。

6わが子よ、わたしは、自分独りでこれらのことを知ったとあなたに思ってもらいたくない。わたしの内にある神の御霊が、これらのことをわたしに知らせてくださるのである。もし神から生まれていなかったならば、わたしはこれらのことを知ることはなかったであろう。

7しかし見よ、主は深い憐れみをもって、主の民の中での滅びの業をやめなければならないとわたしに告げるために、主の天使を遣わされた。そして、わたしは顔と顔を合わせて天使を見、天使はわたしに語った。その天使の声はまるで雷鳴のようで、大地全体を揺り動かした。

第38章
2 ①アル63・1—2 ②2ニフ31・15—20、3ニフ15・9、27・6、16—17
3 ①アル31・7
4 ①ロマ8・35—39 ②GS「忍耐」
5 ①アル36・27、GS「信頼」 ②教義3・8、121・7—8
6 ①③マタ11・28—30 ②アル36・26、教義5・16、GS「再び生まれる」 ③教義5・7 ①アル26・17—18、36・6—11 ②モサ27・11—17

8そして、わたしは三日三晩、激烈な苦痛と苦悩にさいなまれ、主イエス・キリストに憐れみを叫び求めるまでは、決して[1]罪の赦しを受けなかった。しかし見よ、主に叫び求めたところ、自分の霊に安息を得た。

9わが子よ、このことをあなたに話したのは、あなたが知恵を得るため、また人が救われるのはただキリストにより、キリストを通じてだけであり、決してほかの方法や手段は[1]ないことを、わたしから学べるようにするためである。見よ、キリストは世の命であり[2]光であられる。見よ、キリストは真理と義の御言葉であられる。

10あなたは御言葉を教え始めているので、今後も教え続けてもらいたい。そして、すべてのことに勤勉であり、自制するようにしてもらいたい。

11高慢にならないようにしなさい。自分の知恵や優れた力を[1]誇らないようにしなさい。

12大胆でありなさい。しかし、尊大であってはならない。また、激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。怠惰にならないようにしなさい。

13ゾーラム人のように祈ってはならない。あなたが見たとおり、彼らは人に聞こえて自分の知恵が称賛されるように祈っているからである。

14『おお、神よ、わたしたちが同胞よりも[1]優れていることを感謝します』と祈ってはならない。むしろ、『おお、主よ、わたしが[2]ふさわしくない者であることをお許しください。憐れみをもってわたしの同胞を思い起こしてください』と祈りなさい。まことに、いつも神の御前で自分がふさわしくないことを認めなさい。

15主があなたを祝福し、終わりの日にあなたを王国に迎え入れて、安らかに座に着かせてくださるように。さあ、わが子よ、行ってこの民に御言葉を教えなさい。まじめでありなさい。さらば、わが子よ。」

アルマが息子のコリアントンに与えた戒め。次の第三十九―四十二章がそれに相当する。

第39章

性的な罪は忌まわしい行いである。コリアントンの罪は、ゾーラム人が御言葉を受け入れる妨げとなっ

8① GS「罪の赦し」
9① ヒラ5・9
9② モサ16・9
11① GS「高慢」
11② アル31・16
14① ルカ18・10−14
14② GS「ふさわしくない」

た。キリストの贖いは、それよりも前の時代の忠実な人々をもさかのぼって救う。紀元前約七十四年。

1 「わが子よ、あなたには、あなたの兄弟に言ったことよりも少し多く言っておきたい。あなたは自分の兄弟が神の戒めを守るのに確固としており、忠実であり、勤勉であったのを見なかったか。見よ、彼はあなたのために良い模範を示さなかったか。

2 あなたはゾーラム人[1]の民の中で、あなたの兄弟のようにはわたしの言葉に注意を払わなかった。わたしがあなたに戒めたいのはこのこと、すなわち、あなたが自分の力と知恵を自慢し続けたことである。

3 わが子よ、それだけではない。あなたはわたしを悲しませることをした。あなたは神の道を説く務めを放棄して、レーマン人の境にあるサイロンの地まで娼婦[1]イザベルを追って行った。

4 この娼婦は多くの人の心を奪ったが、だからといって、わが子よ、これはあなたにとって決して言い訳にはならない。あなたは自分に託された務めに心を注ぐべきであった。

5 わが子よ、あなたはこのことが主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為であることを知らないのか。

6 見よ、聖霊が一度あなたに宿ってから、あなたがその聖霊を否定[1]するならば、しかも自分で聖霊を否定していることを知っているならば、見よ、これは赦[2]されない罪である。神の光と知識に逆らって人を殺す者が赦し[3]を得るのは容易ではない。まことに、わが子よ、あなたに言うが、このような者が赦しを得るのは容易ではない。

7 わが子よ、あなたはそのような重大な罪[1]を犯さなければよかったものを。あなたの罪についてくどくどと述べてあなたをひどく苦しめることが、あなたのためにならないようであれば、わたしはそうはしなかったであろう。

8 しかし見よ、あなたは自分の罪を神から隠すことはできない。また、悔い改めなければ、あなたの罪は終わりの日にあなたを責める証となるであろう。

9 わが子よ、悔い改めて自分の罪を捨て、これからはもう自分の目の欲[1]を追うことなく、これらのこと

第39章
2 (1) アル 38・3
3 (1) GS「肉欲」
4 (1) 箴言 7・6−27
5 (1) GS「性的不道徳」
6 (1) GS 教義 76・35−36
(2) GS「赦されない罪」
(3) 教義 64・10、GS「赦し」
7 (1) GS「罪悪感」
9 (1) GS「現世的」

をすべて断つようにしてほしい。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことができないからである。おお、このことを覚えて、これらのことを必ず断つようにしなさい。

10 また、あなたが行おうとすることについて、必ず兄たちと相談するように、わたしはあなたに告げておく。見よ、あなたはまだ若く、兄たちから助けを受ける必要があるからである。兄たちの忠告を心に留めなさい。

11 どんなむなしいものにも、愚かなものにも惑わされてはならない。二度と心を悪魔に惑わされて、あの邪悪な娼婦たちを追ってはならない。見よ、おお、わが子よ、あなたは何と大きな罪悪をゾーラム人に[1]招いたことか。彼らはあなたの行いを[2]見て、わたしの言葉を信じなかった。

12 それで、主の御霊はわたしに、『あなたの子供たちが多くの人の心を惑わして滅びに至らせることのないように、善を行うことを彼らに[1]命じなさい』と言われる。したがって、わが子よ、わたしは神を畏れてあなたに命じる。罪悪から遠ざかりなさい。

13 思いと勢力と力を尽くして主に立ち返りなさい。だれの心をも悪いことを行うように惑わしてはならない。むしろ彼らのところに帰り、あなたの過ちと、あなたが行った悪事を[1]認めなさい。

14 富やこの世のむなしいものを[1]求めてはならない。見よ、あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである。

15 さて、わが子よ、キリストの来臨についてあなたに少し述べておきたい。見よ、あなたに言う。キリストは確かに世の罪を取り除くために来られる。キリストは御自分の民に救いの喜びのおとずれを告げ知らせるために来られる。

16 さて、わが子よ、あなたが召された務めは、この民にこの喜びのおとずれを告げ知らせて、彼らの心を備えること、いや、救いがこの民に与えられるようにすること、この民がその子孫の[1]心を備えて、キリストの来臨の時に御言葉を聞けるようにすることであった。

17 さて、わたしはこの件についてあなたの心を少し軽くしよう。見よ、あなたはどうしてこれらのことが、このようにずっと前から分かるのかと不思議に思っている。見よ、あなたに言おう。今の人はキリ

9 ②) 3ニフ 12・30
11 ①) アル 35・2−14
11 ②) ロマ 2・21−23、14・13、アル 4・11
12 ①) GS「戒め（神の）」「教える・教師」
13 ①) モサ 27・34−35
14 ①) マタ 6・25−34、ヤコ 2・18−19、教義 6・6−7、68・31−32
16 ①) GS「家族−親の責任」

ストが来られる時代の人と同じように、神にとって貴い存在ではないだろうか。

18 贖いの計画は、この民の子孫と同じように、この民にも知らされることが必要ではないだろうか。

19 今、主が天使を遣わして、この喜びのおとずれをわたしたちに告げ知らせてくださるのは、わたしたちの子孫に宣言されるのと同様に、あるいはキリストの来臨の後に宣言されるのと同様に容易なことではないだろうか。」

第40章

キリストはすべての人の復活を実現される。義人の死者はパラダイスへ行き、悪人は外の暗闇に追い出されて、それぞれ復活の日を待つ。復活の際、すべてのものが本来の完全な体の造りに回復される。紀元前約七十四年。

1 「さて、わが子よ、あなたに言っておきたいことがもう少しある。死者の復活について、あなたが心を悩ましていることが分かるからである。

2 見よ、わたしはあなたに言っておく。キリストの[1)]来臨後までは復活はない。言い換えれば、そのときまで、この死すべき体が[2)]不死のものを着ることはなく、この朽ちるものが[3)]朽ちないものを着ることはないということである。

3 見よ、キリストは、死者の[1)]復活を実現される。しかしわが子よ、その復活の時はまだ来ていない。あなたに一つの奥義を明らかにしよう。神御自身のほかだれも知らない[2)]隠されている[3)]奥義がたくさんある。しかし、わたしが知りたいと思って神に熱心に尋ねた一つのことについて、あなたに告げよう。それは復活に関することである。

4 見よ、すべての人が将来、死者の中から[1)]出て来る定められた時がある。さて、その時がいつやって来るかはだれも知らない。しかし、神は定められているその時を御存じである。

5 さて、人が死者の中から出て来るのは一度だけか、それとも二[1)]度か、三度か、それは重要ではない。神はこれらのことをすべて[2)]御存じだからである。これが事実であるということ、すなわち、すべての人が死者の中からよみがえる時が定められているということが分かれば、わたしにはそれで十分である。

第40章
2 ① 1コリ15・20
② モサ16・10−13、GS「不死不滅」
3 ① ③ 1コリ15・53−54
② GS「復活」
③ 教義25・4、124・41
4 ① ③ GS「神の奥義」
5 ① ヨハ5・28−29
43 モサ26・24−25 教義18、76、85
② GS「神・神会」

6 さて、死ぬ時と復活の時の間には、時の隔たりが必ずあるに違いない。

7 そこでわたしは尋ねたい。[1]人が死んだ時から復活の定められた時に至るまで、どのようなことが人に起こるのだろうか。

8 人がよみがえるように定められている時が二度以上あるのかどうか、それは重要ではない。すべての人は同時には死なないからである。また、このことも重要ではない。すなわち、神にあってはすべてが一日のようであり、時が計られるのは人に対してだけである。

9 したがって、人に対して、死者の中からよみがえるように定められた時がある。そして、死ぬ時と復活の時の間には、時の隔たりがある。この時の隔たりに関してどのようなことが人の霊に起こるのか、それが知りたくて、わたしは主に熱心に尋ねた。そして、このことをわたしは今知っている。

10 すべての人がよみがえる時が来ると、神は人に定められている[1]時をすべて御存じであるということが分かるであろう。

11 さて、死と復活の間の人の状態についてであるが、見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、まことに、善い霊であろうと悪い霊であろうと、彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。

12 そして、義人の霊は[1]パラダイスと呼ばれる[2]幸福な状態、すなわち[3]安息の状態、[4]平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。

13 さて、そのときの悪人の霊の状態はといえば、見よ、彼らは少しも主の御霊を受けずに、見よ、善い行いよりも悪い行いを好んだので、悪魔の霊が彼らの内に入り込んで、彼らの体を支配していた。それで、これらの霊は外の[1]暗闇に追い出され、そこで[2]涙を流し、泣きわめき、歯ぎしりをする。これは、彼ら自身の罪悪のために、悪魔の意のままに捕らえられて連れ去られた結果である。

14 さて、これが[1]悪人の霊の状態である。まことに、暗闇の中で、自分たちに下る火の憤りのような神の激しい怒りを、ひどく[2]恐れながら待っている状態である。義人がパラダイスにとどまるように、彼らは

---

7 ①アル40・21、教義138章、GS「人（霊を持つ存在としての）」
10 ①使徒17・26
11 ①ルカ16・22−26、1ペテ3・18−19、4・6、教義76・71−74、138章
② 伝道12・7、2ニフ9・38
12 ①GS「パラダイス」
②GS「喜び」
③GS「安息」
④教義45・46、GS「平安」「平和」
13 ①GS「地獄」
2 ②マタ8・12、モサ16・2
14 ①教義138・20
1 ②ヤコ6・13、モセ7・

このように、自分たちの復活の時までこの3)状態にとどまるのである。

15 さて、ある人々は、復活前の霊のこの幸福な状態とこの不幸な状態を、第一の復活と解釈してきた。まことに、わたしに告げられた御言葉からすれば、霊すなわち魂が引き上げられて幸福か不幸かの状態に置かれることを復活と呼んでもよいとわたしは認める。

16 また見よ、別に1)第一の2)復活があると述べられているが、それは過去にいたすべての人、現在いるすべての人、死者の中からキリストが復活されるまでの将来のすべての人の復活である。

17 さて、このように述べられているこの第一の復活とは、霊の復活があって幸福か不幸かの状態に1)置かれることではないと、わたしは考えている。これがそういう意味であると考えてはならない。

18 見よ、わたしはあなたに言うが、そうではなく、それはアダムの時代からキリストの復活に至るまでの人々の、霊と体との再結合を意味する。

19 さて、これらの人々が、悪人であっても義人であっても、同時に皆その霊と体が再結合されるかどうか、わたしは言わない。ただ、彼らは皆出て来る、すなわちキリストの復活後に死ぬ人々の復活に1)先立って彼らの復活が起こると言えば十分である。

20 さて、わが子よ、わたしは彼らの復活がキリストの復活の時に起こるとは言わない。しかし見よ、わたしの考えとして述べるならば、義人の霊と体はキリストの復活の時、またキリストの1)昇天の時に再結合される。

21 しかし、それがキリストの復活の時かその後か、わたしは言わない。しかし、肉体の死と復活の間には1)時の隔たりがあるとだけ言っておこう。また、霊は2)幸福か3)不幸かいずれかの状態に置かれ、この状態は神が定められた時まで続く。その時が来ると、死者は出て来てその霊と体とが再結合され、神の御前に4)連れ出されて立ち、自分の行いに応じて裁かれるのである。

22 まことに、これがそれらのものの回復をもたらし、その回復については、預言者たちの口を通して語られてきたとおりである。

23 1)霊は体に2)回復され、3)体は霊に回復される。そして、手足と関節はことごとくその体に回復される。

16 ①第一 ②復活 21−23 GS「復活」
17 ①②教義 76・17、32、50−51
18 ①マタ 27・52−53
19 ①モサ 15・26
20 ①GS「昇天」
21 ①ルカ 23・39−43 ②GS「パラダイス」 ③GS「地獄」 ④アル 42・23 教義 88・15−17、GS「人（霊を持つ存在としての）」
23 ①②2ニフ 9・12−13、アル 11・40−45 ③GS「体」
14 ③アル 34・34
16 ①ヤコ 4・11、モサ 15・21−23

まことに、髪の毛一筋さえも失われることなく、すべてのものが本来の完全な造りに回復される。
24わが子よ、これこそが預言者たちの口を通して語られてきた回復なのである。
25そのとき、義人は神の王国で輝きを放つ。
26しかし見よ、悪人には恐ろしい死が及ぶ。彼らは清くないので、義にかかわることに関して死んだ状態になるからである。清くない者は決して神の王国を受け継ぐことができず、彼らは追い出されて、自分の働きの成果、すなわち自分の悪い行いの結果を受けるように定められる。そして、苦い杯のかすを飲むのである。」

第41章

復活の時に、人々は出て来て、無窮の幸福な状態か、無窮の不幸な状態に入る。悪事は決して幸福を生じたことがない。この世的な状態にある者は、現世で神なしに生きている。人は皆、死すべき状態にあって身に付けた特質と性質を、回復の時に再び受ける。紀元前約七十四年。

1「さて、わが子よ、今述べた回復について言っておくことが少しある。見よ、ある人々は聖文を曲げて解釈し、このことについて大いに迷っているからである。また、あなたもこのことについて心を悩ませてきたことが分かる。しかし見よ、このことについてあなたに説明しよう。
2わが子よ、あなたに言っておく。回復の計画は神の正義にとって必要である。すべてのものがふさわしい状態に回復されることは必要だからである。見よ、キリストの力と復活からいえば、人の霊がその体に回復されることと、体のあらゆる部分が体そのものに回復されることは、必要であり正当なことである。
3また、人々が自分の行いに応じて裁かれること、そして現世での彼らの行いが善く、心の望みも善かったならば、彼らが終わりの日に善なるものに回復されることは、神の正義にとって必要である。
4また、彼らの行いが悪ければ、それらの行いは災いとして彼らに回復される。したがって、すべてのものはふさわしい状態に回復され、あらゆるものはその本来の体に回復されるのである。すなわち、死

24①イザ26・19
②12・16
26①1ニフ15・33、アル11・37
第41章
1①2ペテ1・20、3・16、アル13・20
②GS「背教・背信」
2①アル40・23
②GS「行い」
3①GS「裁き」
②「責任を負う」
③ヒラ14・31
④GS「正義」
4①アル42・28
②2ニフ9・12−13、教義138・17、GS「復活」

すべき状態は不死に、[3]朽ちるものは朽ちないものによみがえるのである。そして、[4]無窮の幸福な状態によみがえって神の王国を受け継ぐか、あるいは無窮の不幸な状態によみがえって悪魔の王国を受け継ぐ。すなわち、前者は一方にあり、後者は他方にある。

5 前者は幸福を望んだことによって幸福に、すなわち善を望んだことによって善によみがえり、後者は悪を望んだことによって悪によみがえる。後者は終日悪を行うことを望んだので、夜がやって来ると、報いとして災いを受けるからである。

6 もう一方も同様である。罪を悔い改めて、生涯の最後まで義を望む者は、義にかなう報いを与えられるであろう。

7 [1]このような人々は主に贖われる。まことに、このような人々は、あの無窮の暗黒の夜から連れ出され、救われるのである。このようにして、人々は立ったり倒れたりする。見よ、人々は善を行うか悪を行うか自分で[2]判断するからである。

8 さて、神の定めは変えることができない。そして、道は用意されており、望む者はだれでもその道を歩いて、救われるようになっている。

9 さて見よ、わが子よ、あなたはこれまで、教義のある点について罪を犯すという危険を冒してきたが、もう[1]二度とその点について、神に対して罪を犯さないようにしなさい。

10 回復について述べられているというので、罪から幸福へ回復されると思ってはならない。見よ、あなたに言っておくが、[1]悪事は決して幸福を生じたことがない。

11 さて、わが子よ、[1]生まれながらの状態、すなわち[2]この世的な状態にあるすべての人は、苦汁の中にあり、罪悪の縄目を受けている。彼らはこの世で[3]神なしに生きている人々であり、神の性質に反して行動してきた。したがって彼らは、幸福の本質に反する状態にある。

12 さて見よ、回復とは、あるものを自然の状態から取り去って不自然な状態、すなわちそのものの本質に反する状態に置くことであろうか。

13 おお、わが子よ、そうではない。回復とは悪を悪に、肉欲を肉欲に、悪心を悪心に、善を善に、義を義に、公正を公正に、憐れみを憐れみに再び返すこ

---

4 ③ 1コリ15・51−55
4 ④ GS「永遠の命」
7 ① 教義76・50−70
7 ② 2ニフ2・26、アル42・27、ヒラ14・30、GS「選択の自由」
8 ① 教義1・38
9 ① 教義42・23−28
10 ① 詩篇32・10、イザ57・20−21、ヒラ13・38
11 ① モサ3・19、GS「生まれながらの人」
11 ② GS「現世的」
11 ③ エペ2・12

とである。

14 したがって、わが子よ、同胞に対して常に憐れみ深くありなさい。[1]公正に振る舞い、義にかなって裁き、絶えず善を[3]行いなさい。これらのことをすべて行えば、そのときあなたは報いを受けるであろう。まことに、あなたに[4]憐れみが再び回復され、再び公正が回復され、再び義にかなった裁きが回復され、再び善が報われるであろう。

15 あなたから出るものがあなたに返って来て、回復されるからである。したがって、回復という言葉は罪人をさらにはっきりと罪に定めるのであって、決して義とはしないのである。」

第42章

死すべき状態の現世は、人が悔い改めて神に仕えることを可能にする試しの時期である。堕落は全人類に肉体の死と霊の死をもたらした。贖いは悔い改めを通じて与えられる。神御自身が世の罪のために贖いをなさる。憐れみは悔い改める人々のためにある。悔い改めない者は皆、神の正義の支配を受ける。憐れみは贖罪により与えられる。心から悔い改める者だけが救われる。紀元前約七十四年。

1 「さて、わが子よ、今あなたの心を悩ましている、あなたの理解できないことがほかにも多少あることを、わたしは知っている。それは罪人を罰する神の[1]公正についてである。あなたは罪人が不幸な状態に置かれるのは不当であると思っている。

2 さて見よ、わが子よ、このことをあなたに説明しよう。見よ、主なる神はわたしたちの始祖を[1]エデンの園から[2]追い出して、彼らの肉体が造られた土を耕すようにされた後、まことに主なる神は人を追い出された後、エデンの園の東の端に[3]ケルビムとあらゆる方向に回る燃える剣を置いて、[4]命の木を守らせられた。

3 わたしたちが知っているように、人は神のようになり、善悪をわきまえるようになった。そこで、人が手を伸ばして命の木からも取って食べ、とこしえに生き長らえることのないように、主なる神はケルビムと燃える剣とを置いて、人がその木の実を食べられないようにされた。

4 このことから分かるように、人が悔い改めること

14 ①GS「正直」 ②ヨハ7・24、教義11・12 ③教義6・13、58・27 ④I 28 GS「憐れみ」

第42章

1 ①2ニフ26・7、モサ15・26−27、GS「正義」 ②GS「エデン」 ③創世3・23−24、モセ4・28−31 ④GS「ケルビム」 2 ①創世2・9

を許された期間があった。まことに、それは試しの時期であり、悔い改めて神に仕える時期である。

5 見よ、もしアダムがすぐに手を伸ばして命の木から取って食べていたら、彼は悔い改めの期間がまったくないまま、神の御言葉のとおりにとこしえに生き長らえたであろう。そして、神の御言葉はむなしくなり、偉大な救いの計画は挫折していたことであろう。

6 しかし見よ、人は死ぬものと定められた。そこで人は、命の木から絶たれたときに、地の面から絶たれることとなった。そして人は、とこしえに迷った状態になり、まことに、堕落した者となったのである。

7 さて、これによって分かるように、わたしたちの始祖は、肉体的にも霊的にも主の御前から絶たれてしまった。このようにして、わたしたちが知っているように、彼らは自分の意志に従う者となったのである。

8 さて見よ、そのときすぐに人がこの肉体の死から救われることは、偉大な幸福の計画を損なうことになるので適当ではなかった。

9 そこで、魂は決して死ぬことがあり得ず、また堕落は全人類に肉体の死だけでなく霊の死ももたらしたので、すなわち彼らは主の御前から絶たれたので、人類はこの霊の死から救われることが望まれた。

10 人類は生まれながらの本性のために、肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となったので、この試しの状態は彼らが用意をする状態となった。すなわち、準備の状態となったのである。

11 さて、わが子よ、覚えておきなさい。もし贖いの計画がなければ（それを捨てるならば）、人が死ぬとすぐに、その霊は主の御前から絶たれるので不幸な状態に陥ったであろう。

12 さて、人々をこの堕落した状態から救い出す手段はまったくなかった。この堕落した状態は、人が自分の不従順のために自分自身に招いたものである。

13 したがって、正義によれば、贖いの計画はこの試しの状態、すなわちこの準備の状態で人々が悔い改めるという条件がなければ成し遂げられない。これらの条件がなければ、正義の働きを損なうことなしに憐れみが効力を発することは不可能だからで

---

4 1) アル34・32−33
6 1) GS「死（肉体の）」
2) 「堕落（アダムとエバの）」
7 1) 2ニフ2・5、9・6、ヒラ14・16、GS「死（霊の）」
2) GS「選択の自由」
8 1) アル34・9、モセ6・62
9 1) GS「堕落（アダムとエバの）」
10 1) GS「生まれながらの人」
2) GS「現世的」
3) GS「死すべき状態」
11 1) 2ニフ9・7−9
13 1) GS「贖いの計画」
2) GS「悔い改め」

ある。正義の働きが損なわれることはあり得ない。もしそのようなことがあれば、神は神でなくなる。

14 このようにして、わたしたちが知っているように、全人類は堕落した状態になり、正義の支配下に入った。まことに、この正義は神の正義であり、全人類がとこしえに神の御前から絶たれることになったのである。

15 さて、憐れみの計画は、贖罪が行われなければ成し遂げることができなかった。したがって、神は憐れみの計画を成し遂げるため、正義の要求を満たすため、また御自分が完全で公正な神、憐れみ深い神であり続けるために、御自分で世の罪の贖いをされるのである。

16 さて、罰がなければ、人は悔い改めをすることができなかった。この罰も霊の命と同じように永遠のものであり、霊の命と同じように永遠である幸福の計画に相対して定められたのである。

17 人は罪を犯さなければ、どうして悔い改めることができようか。律法がまったくなければ、どのようにして人は罪を犯すことができようか。罰がなければ、どうして律法があり得ようか。

18 罰が定められ、公正な律法が与えられて、それらが人に良心のとがめを生じさせた。

19 もしも、人殺しをした者は死ななければならないという律法が与えられていなければ、人は人殺しをすれば自分が死ぬことになると恐れるであろうか。

20 また、もし罪を禁じる律法がまったく与えられていなければ、人は罪を犯すことを恐れないであろう。

21 もし律法がまったく与えられていなければ、たとえ人が罪を犯しても、正義や憐れみに何ができるであろうか。正義も憐れみもその人について何も要求する権利を持たないであろう。

22 しかし、現在、律法が与えられ、罰が定められており、悔い改めが許されている。そして、憐れみは悔い改めを要求する。そうでなければ、正義がその人について権利を主張し、律法を執行し、律法は罰を負わせる。もしそうでなければ、正義の働きは損なわれ、神は神でなくなる。

23 しかし、神が神でなくなることはなく、憐れみは悔い改める者について権利を主張する。憐れみは贖罪によって与えられるのである。そして、贖罪

---

13 ③ 2ニフ2・13—14
14 ① アル22・13—14
② 2ニフ2・5
15 ① GS「憐れみ」
② GS「正義」
③ 3ニフ12・48
④ 2ニフ9・7—10、GS「贖罪」
16 ① モサ16・7—8、GS「贖罪」
① 教義19・10—12
17 ① GS「罪」
② ロマ4・15
18 ① GS「良心」
19 ① GS「殺人」
21 ① 2ニフ9・25—26、モサ3・11
22 ① GS「悔い改め」
23 ① GS「憐れみ」
② GS「贖罪」

は死者の復活をもたらし、死者の復活は人を神の御前に連れ戻す。[1]このようにして、人は神の御前に連れ戻され、律法と正義により、自分の行いに応じて裁かれる。[5]

24 見よ、正義は正義のすべての要求を働かせ、また、憐れみは憐れみを受ける資格のあるすべての者について権利を主張する。したがって、心から悔い改める者のほかにはだれも救われない。

25 そもそも、あなたは憐れみが[1]正義から奪えると思うのか。いや、少しも奪えない、とわたしは言おう。もし奪えるようであれば、神は神でなくなる。

26 このようにして神は、[1]世の初めから用意されていた御自分の偉大な永遠の[2]目的を達せられる。そしてこのようにして、人の救いと贖いと、また滅びと不幸が生じるのである。

27 したがって、おお、わが子よ、来たいと思う者は[1]だれでも来て、価なしに命の水を飲むことができる。また、来たいと思わない者はだれも来るように強いられない。しかしその者は、終わりの日にその[2]行いに応じて[3]回復を受ける。

28 もし彼が悪を行いたいと望んで、生涯悔い改めなければ、神の回復の原則によって、見よ、彼に災いが及ぼされる。

29 さて、わが子よ、あなたはこれからはもう、これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。

30 おお、わが子よ、あなたはこれからはもう、神の正義を否定しないようにしてもらいたい。神の正義を否定することによって、どんなささいなことでも罪の言い訳をしようとしてはならない。むしろ、神の正義と憐れみと寛容があなたの心の中で存分に力を振るえるようにし、そのために[1]へりくだって地にひれ伏すことができるようにしなさい。

31 さて、おお、わが子よ、あなたはこの民に御言葉を告げ知らせるために神から召されている。わが子よ、あなたの道を行き、誠実にまじめに御言葉を告げ知らせて、人々を悔い改めに導き、偉大な憐れみの計画が彼らについて権利を主張できるようにしなさい。神がまことにわたしの言葉のとおりにあなたにかなえてくださるように。アーメン。」

---

23 ③ 4、アル 7・12、11・41
25 ① 2ニフ 2・8、9・45、12・24—25、ヒラ 14・15—18、モル 9・13
26 ① ④ アル 40・21—24
27 ① ⑤ GS「最後の裁き」
30 ① ② GS「正義」
28 ① ② ③ 12 ① 2ニフ 2・14—30、モセ 1・39
アル 5・34、ヒラ 14・
アル 41・15
アル 41・2—5
GS「選択の自由」
イザ 59・18 黙示 20・
GS「謙遜」

第43章

アルマとその息子たち、御言葉を宣べ伝える。ゾーラム人とほかのニーファイ人の離反者たち、レーマン人となる。レーマン人、ニーファイ人を攻める。モロナイ、ニーファイ人に防御用の武具を着けさせる。主、アルマにレーマン人の作戦を明らかにされる。ニーファイ人、自分たちの家と自由、家族、宗教を守る。モロナイの軍隊とリーハイの軍隊、レーマン人を包囲する。紀元前約七十四年。

1 さて、アルマの息子たちは御言葉を告げ知らせるために民の中に出て行った。また、アルマ自身も休んでいることができず、彼もまた出て行った。
2 ところで、彼らの宣教についてはこれ以上述べないが、ただ、彼らが預言と啓示の霊によって御言葉と真理を宣べ伝えたとだけ言っておく。彼らは召されている神の聖なる位[1]に従って教えを説いた。
3 ここで、ニーファイ人とレーマン人の間の戦争の話に戻ろう。それはさばきつかさの統治第十八年のことである。
4 さて見よ、ゾーラム人はレーマン人となってしまった。そして第十八年の初めに、ニーファイ人の民はレーマン人が攻め寄せて来るのを見て、戦争の準備をした。すなわち、彼らはジェルションの地に軍隊を集めた。
5 さて、レーマン人は数千人の軍勢でやって来ると、ゾーラム人の土地であるアンテオヌムの地に入って来た。彼らの指揮官はゼラヘムナという名の男であった。
6 ところで、アマレカイ人は元来レーマン人よりももっと邪悪で、殺人を好む気質を持った者たちであったので、ゼラヘムナがレーマン人を率いる連隊長として任命した者たちは皆、アマレカイ人とゾーラム人であった。
7 彼がこのようにしたのは、レーマン人に引き続きニーファイ人を憎ませ、レーマン人を服従させて自分の企てを果たすためであった。
8 見よ、彼の企ては、レーマン人をそそのかしてニーファイ人に対して怒りを抱かせることであった。彼がこのようにしたのは、レーマン人を支配する大きな権力を自分のものとし、さらにニーファイ人を奴隷にして彼らを支配する権力をも得るためであ

第43章
2 ① 「神権」GS
4 ① アル35・2−14、52・33

った。

9ところが、ニーファイ人の目的は、自分たちの土地と家、1)妻子を保護して、これらのものが敵の手に落ちないようにすること、また自分たちの権利と特権と、望みのままに神を礼拝できる2)自由を保つことであった。

10彼らは、もしレーマン人の手に落ちれば、1)霊とまことをもって神を、すなわちまことの生ける神を礼拝する者を皆、レーマン人が殺すことを知っていたからである。

11彼らはまた、レーマン人が彼らの1)同胞、すなわちアンモンの民と呼ばれているアンタイ・ニーファイ・リーハイ人に対してひどい憎しみを抱いていることも知っていた。アンモンの民は武器を取ろうとしなかった。彼らは聖約を交わしており、それを破ろうとはしなかった。したがって、もしレーマン人の手に落ちれば、彼らは滅ぼされたであろう。

12ニーファイ人は、彼らが滅ぼされるままにしておくのを望まなかったので、彼らに受け継ぎとして土地を譲った。

13そして、アンモンの民はニーファイ人に、彼らの軍隊を支援するために自分たちの持ち物の多くを提供した。このようなわけで、ニーファイ人はやむを得ず単独でレーマン人に立ち向かうことになった。一方レーマン人は、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちの子孫、およびニーファイ人から離反してアマレカイ人やゾーラム人になったすべての者、ならびにノアの祭司たちの1)子孫から成っていた。

14その子孫はニーファイ人とほぼ同数であった。したがって、ニーファイ人は自分たちの同胞と血を流してでも戦わざるを得なかった。

15さて、レーマン人の軍隊がアンテオヌムの地に集まっていたので、見よ、ニーファイ人の軍隊はジェルションの地で彼らと戦いを交える用意をした。

16ところで、ニーファイ人の指揮官、すなわちニーファイ人を率いる司令官に任命された人、この司令官がニーファイ人の全軍の指揮を執ったが、その人はモロナイという名であった。

17モロナイは一切の指揮を執り、軍政をつかさどった。彼がニーファイ人の軍隊を率いる司令官に任命されたのは、わずか二十五歳のときであった。

---

9 ①アル44・5、46・12
10 ①②GS「自由」
11 ①②ヨハ4・23−24
13 ①GS「礼拝」
20、25・1、13、27・2、アル24・1−3、5、21−26
1)アル25・4

18さて、彼はジェルションの地の境でレーマン人と相対した。このとき、彼の民は剣と三日月刀、そのほかあらゆる武器で武装していた。
19レーマン人の軍隊がニーファイの民を見ると、モロナイは胸当てと腕盾と、頭部を防御する防具を彼の民に装備させていた。また、彼らは厚手の衣を着ていた。
20ところが、ゼラヘムナの軍隊はそのようなものは着けておらず、ただ剣と三日月刀、弓と矢、石と石投げを携えているだけであった。また、腰に皮をまとっているほかは裸であった。ゾーラム人とアマレカイ人以外、全員が裸であった。
21そのように、彼らは胸当てや盾で武装していなかったので、ニーファイ人より人数が多かったにもかかわらず、ニーファイ人の軍隊の武具を見てひどく恐れた。
22見よ、そこで彼らは、ジェルションの地の境であえてニーファイ人を攻めようとせず、アンテオヌムを去って荒れ野へ向かった。そして、はるかシドン川の源の近くを、荒れ野の中を遠回りして進み、マンタイの地に入ってその地を占領しようとした。彼らは自分たちがどこへ行ったかモロナイの軍隊には分からないであろうと思ったからである。
23しかし、彼らが荒れ野に向かって出発するとすぐに、モロナイは数人の密偵を荒れ野に送り込んで、彼らの陣営をうかがわせた。モロナイはまた、アルマの数々の預言のことを知っていたので、ある人々をアルマのもとに遣わし、レーマン人を防ぐためにニーファイ人の軍隊はどこへ行けばよいか、主に尋ねてほしいと願った。
24そこで、主の言葉がアルマに下った。そして、アルマはモロナイの使者たちに、レーマン人の軍隊は荒れ野の中を遠回りして進んでおり、彼らはマンタイの地へ行って民の弱い部分に攻撃を仕掛けようとしていると告げた。そこで、使者たちは帰って、モロナイにその伝言を伝えた。
25そこでモロナイは、軍隊の一部をジェルションの地に残して、レーマン人の一部がその地にやって来て町を占領することのないように備えておき、軍隊の残りを率いてマンタイの地へ進軍した。
26そしてモロナイは、その地のすべての人を集め、レーマン人と戦って彼らの土地と国、権利と自由

23①
20①
エノ1・20
アル48・16

を守らせるようにした。このようにして彼らは、レ
ーマン人の来襲に備えたのである。
27 さて、モロナイは、シドン川の岸に近い谷に自分
の軍隊を隠した。そこはシドン川の西方の荒れ野の
中であった。
28 またモロナイは、方々に密偵を配置し、レーマン
人の軍隊が来たときにそれが分かるようにした。
29 モロナイはレーマン人の目的を知っていた。彼ら
の目的は、自分たちの同胞を滅ぼすか、そうでなけ
れば同胞を服従させて奴隷にし、全地に彼ら自身の
ための王国を築くことであった。
30 またモロナイは、ニーファイ人のただ一つの望み
が自分たちの土地と自由と教会を守ることである
のを知っていたので、計略を用いてニーファイ人を
守ることは少しも罪ではないと思った。そこで彼は
何人もの密偵を使って、レーマン人がどの進路を取
ろうとしているかを探った。
31 その結果、彼は自分の軍隊を分けて、一部を川を
渡らせて谷に入れ、東方に、すなわちリプラの丘の
南方に彼らを隠した。
32 また、残りの兵をシドン川の西方の西の谷に、マ
ンタイの地の境に至るまで隠した。
33 このように彼は、自分の望むままに軍隊を配置
し、レーマン人と戦いを交える用意をした。
34 そして、レーマン人はモロナイの軍隊の一部が隠
れている丘の北方を上って来た。
35 そして彼らは、リプラの丘を過ぎて谷に入り、シ
ドン川を渡り始めた。そこで、丘の南方に隠れてい
て、リーハイという名の人に率いられていた軍隊
が、彼の指揮の下に東方からレーマン人の背後を包
囲した。
36 そこでレーマン人は、ニーファイ人が背後から攻
めて来るのを見て、向きを変えてリーハイの軍隊と
戦い始めた。
37 そして、双方ともに死者が出始めたが、死者はレ
ーマン人の方がはるかに多かった。レーマン人はニ
ーファイ人の剣と三日月刀による激しい攻撃にそ
の裸の体をさらしており、ほとんど一太刀ごとに死
んだからである。
38 一方、ニーファイ人は体の特に大切な部分が保護
されていたので、すなわち、体の特に大切な部分
が胸当てと腕盾とかぶとでレーマン人の攻撃から保

26 ① 教義134・11
30 ① アル46・12、35
35 ① アル49・16
37 ① アル3・5
38 ① アル44・8−9

護されていたので、レーマン人の剣に触れ、血を失ったことにより倒れる者が時折いたくらいであった。このようにニーファイ人はレーマン人を殺し続けた。

39 そこでレーマン人は、味方が大勢殺されたことでおびえ、とうとうシドン川の方へ逃げ始めた。

40 そして彼らは、リーハイと彼の兵たちに追撃され、リーハイによってシドンの水の中に追い込まれて、シドンの水を渡った。しかしリーハイは、軍隊をシドン川の岸にとどめ、彼らには川を渡らせなかった。

41 そして、モロナイと彼の軍隊がシドン川の対岸の谷でレーマン人を迎え、攻めかかって彼らを殺し始めた。

42 そこでレーマン人は、再び彼らの前から逃げ出し、マンタイの地へ向かった。ところが、またしてもモロナイの軍隊に出会ってしまった。

43 するとこの度は、レーマン人も激しく戦った。レーマン人はいまだかつて知られていないほど、すなわち、両者の戦争が始まって以来一度もなかったほど、非常に大きな力と勇気を奮って戦った。

44 彼らは自分たちの連隊長であり指揮官であるゾーラム人とアマレカイ人、および総隊長すなわち総指揮官であり総司令官であるゼラヘムナに励まされた。まことに、彼らは龍のように戦い、多くのニーファイ人が彼らの手によって殺された。まことに、彼らはニーファイ人のかぶとをたくさん打ち割り、ニーファイ人の胸当てをたくさん刺し貫き、ニーファイ人の腕をたくさん切り落とした。このようにレーマン人は激しく怒って打ちかかった。

45 しかし、ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた。彼らは君主制のために戦ったのではなく、権力のためでもなく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦っていた。

46 彼らは、神に義務を負っていると感じていたことを行っていたのである。主は彼らに、また彼らの先祖に、「あなたがたは最初の攻撃についても、二度目の攻撃についても、罪を犯していないかぎり、敵の手によって殺されるに任せてはならない」と言われたからである。

47 主はまた、「あなたがたは血を流してでも自分た

44① アル43・6
45① アル44・5
② GS「自由」
46① GS「義務」
② 3ニフ3・21、教義98・23−24
③ アル48・14、教義98・33−36

ちの家族を守りなさい」とも言われた。したがって、ニーファイ人は自分自身と家族、土地、国、権利、宗教を守るためにレーマン人と戦っていたのである。

48 さて、モロナイの兵たちは、レーマン人の勇猛ぶりと怒りを見ると、恐れをなして逃げ出そうとした。しかしモロナイは、兵たちの思いを見抜くと、使者を出し、次のこと、すなわち自分たちの土地と自由のこと、まことに奴隷の状態に陥るのを免れることを思い出させて、彼らの心を奮い立たせた。

49 そこで彼らは、レーマン人の方に向き直り、声を合わせて主なる神に、自由を保ち、奴隷の状態に陥るのを免れることができるように叫び求めた。

50 そして彼らは、力を得てレーマン人に立ち向かった。すると、彼らが主に自由を叫び求めると同時にレーマン人は彼らの前から逃げ始め、シドンの水際まで退いた。

51 レーマン人はニーファイ人よりも多く、まことに倍以上の人数であったにもかかわらず、彼らは追いやられて、その谷でシドン川の岸に一団となって集まった。

52 そこで、モロナイの軍隊は彼らを包囲した。すなわち、リーハイの兵たちが川の東側にいたため、川の両側から包囲する形になった。

53 ゼラヘムナはシドン川の東にいるリーハイの兵とシドン川の西にいるモロナイの軍隊を見て、自分たちがニーファイ人に包囲されているのを知り、彼らは恐れおののいた。

54 モロナイは彼らが恐れているのを見て、血を流すのをやめるように兵に命じた。

第44章

モロナイ、平和の誓いを立てるようにレーマン人に命じ、そうしなければ滅びると警告する。ゼラヘムナ、その申し出を拒絶し、戦いが続く。モロナイの軍隊、レーマン人を打ち負かす。紀元前約七十四年から七十三年に至る。

1 さて、モロナイの兵は戦うのをやめて、レーマン人から一歩退いた。そこで、モロナイはゼラヘムナに言った。「見よ、ゼラヘムナよ、我々は血を流す者にはなりたくない。おまえたちにも分かるとおり、

47① 教義134・11
49① 出エ2・23−25、モサ29・20
第44章
1① アル43・45

おまえたちは我々の手の中にある。しかし、我々はおまえたちを殺したくない。

2 見よ、我々がおまえたちと戦うためにやって来たのは、おまえたちの血を流して権力を得るためでは決してない。また、だれかに奴隷のくびきをかけたいと思っているためでもない。しかし、おまえたちが我々を攻めて来たのは、まさにこのためである。そのうえ、おまえたちは我々の宗教のことで我々に腹を立てている。

3 しかし、おまえたちの見るとおり、主は我々とともにおられる。おまえたちの見るとおり、主はおまえたちを我々の手に渡された。主が我々にこうしてくださったのは、我々の宗教とキリストを信じる我々の信仰のためであることを知ってもらいたい。また、おまえたちの見るとおり、おまえたちはこの我々の信仰を打ち砕くことはできない。

4 おまえたちの見るとおり、これは神のまことの信仰である。まことに、おまえたちの見るとおり、我々が神と自分の信仰と宗教に忠実であるかぎり、神は我々を支え、保ち、守ってくださる。また、我々が戒めに背いて自分の信仰を否定するようなことがなければ、主は我々が滅ぼされるのを決してそのままにしておかれない。

5 ゼラヘムナよ、我々の腕を強くしておまえたちを打ち負かす力を得させてくださったあの全能の神の御名によって、また我々の信仰、宗教、礼拝の儀式、教会にかけて、妻子を養う神聖な務めにかけて、我々の国土に愛着を起こさせる自由にかけて、我々のあらゆる幸福の源である神の神聖な御言葉を守る行為にかけて、また我々にとって非常に大切なすべてのものにかけて、わたしはおまえに命じる。

6 それだけではない。おまえたちが生き延びたいと思っている望みにかけて、おまえに命じる。我々に武器を引き渡せ。そうすれば、我々はおまえたちの血を求めない。もしおまえたちが去って、再び攻めて来ないというのであれば、命を助けてやろう。

7 しかし、もしそうしないのであれば、見よ、おまえたちは我々の手の中にあるので、わたしは兵に命じて攻撃させ、おまえたちの身に致命傷を負わせて全滅させよう。そのときに、我々のどちらがこの民を治める権力を持ち、どちらが奴隷になるかが分かるであろう。」

---

5 ②① GS GS 「儀式」「自由」

8 さて、ゼラヘムナはこれらの言葉を聞くと、前に進み出て、剣と三日月刀と弓をモロナイの手に渡して言った。「見よ、我々の武器はこのとおりおまえたちに渡そう。しかし、将来我々も子孫も破ると分かっている誓い[1]については、これをおまえたちに立てることはできない。だが、武器を受け取り、我々を荒れ野へ去らせてくれ。さもなければ、我々は自分の剣を渡さずに、滅びるか勝利を得るか決するまで戦い続ける。

9 見よ、我々は、おまえたちと同じ信仰を持ってはいない。神が我々をおまえたちの手に渡したなどとは信じない。我々は、おまえたちを我々の剣から守ったのはおまえたちの悪知恵であると思っている。見よ、おまえたちを守ったのは胸当て[1]と盾だ。」

10 ゼラヘムナがこれらの言葉を語り終えると、モロナイは受け取った剣と武器をゼラヘムナに返して言った。「さあ、戦いの決着をつけよう。

11 わたしはすでに語った言葉を取り消すことができないので、主が生きておられるように確かに、二度と我々のもとに戻って来て戦わないと誓って去るのでなければ、おまえたちを去らせるわけにはいかない。おまえたちは我々の手の中にあるので、我々はおまえたちの血を地上に流そう。それが嫌ならば、おまえたちはわたしの告げた条件に従え。」

12 モロナイがこれらの言葉を述べると、ゼラヘムナは剣を取った。そして、モロナイのことを怒り、モロナイを殺そうとして駆け寄った。しかし、ゼラヘムナが剣を振り上げたとき、見よ、モロナイの兵の一人がそれを地にたたき落とした。すると、それは柄のところで折れてしまった。その兵はまた、ゼラヘムナを打って彼の頭の皮をはぎ、それを地に落とした。そこでゼラヘムナは、自分の兵の中に逃げ込んでしまった。

13 そして、傍らに立っていたゼラヘムナの頭の皮をはぎ取った兵は、その頭皮を、髪をつかんで地から拾い上げ、剣の先に引っかけてレーマン人の方に差し伸べ、大声で彼らに言った。

14 「おまえたちが武器を引き渡して平和の誓いを立てて去らなければ、おまえたちの指揮官のこの頭の皮が地に落ちたように、おまえたちも地に倒れることになるだろう。」

15 レーマン人はこの言葉を聞き、剣にかけられてい

8①
9①
GS「誓い」
アル43・38

る頭の皮を見て、多くの者が恐れをなした。そして、
多くの者が進み出て、モロナイの足もとに武器を投
げ出し、平和の誓いを立てた。そして、誓いを立て
た者は皆、荒れ野へ立ち去ることを許された。
16 そこで、ゼラヘムナは非常に怒り、残った兵たち
をそそのかして怒らせ、前よりもさらに激しくニー
ファイ人と戦わせた。
17 そして、モロナイもレーマン人が強情であること
を怒って、彼らを攻めて殺すように民に命じた。そ
こで、彼の民はレーマン人を殺し始め、レーマン人
も剣を振るい、力を尽くして応戦した。
18 しかし見よ、レーマン人は、むき出しの肌と覆い
のない頭をニーファイ人の鋭い剣にさらしており、
まことに見よ、彼らは刺し貫かれ、討たれて、ニー
ファイ人の剣の前で見る間に倒れていった。そし
て、モロナイの兵が預言したように、彼らは一掃さ
れ始めた。
19 するとゼラヘムナは、彼らが皆殺しにされてしま
いそうなのを見て、モロナイに必死に叫び求めて、
残った者の命を助けてくれるならば自分も部下も二
度と攻めて来ないと誓うことを約束した。
20 そこでモロナイは、再び殺すのをやめさせ、レー
マン人から武器を取り上げた。こうしてレーマン人
は、モロナイと平和の誓いを立てた後、荒れ野へ立
ち去ることを許された。
21 両軍の死者は多数に及んだために数えられなか
った。死者の数はニーファイ人側でもレーマン人側
でも非常に多かった。
22 そこで彼らは死体をシドンの水に投げ込み、死体
は流れて行って海の深みに葬られた。
23 その後、ニーファイ人の軍隊、すなわちモロナイ
の軍隊は引き揚げ、自分たちの家と土地へ帰って行
った。
24 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさ
の統治第十八年が終わった。これでニーファイの版
に書き記されていたアルマの記録は終わった。

ヒラマンの時代のニーファイの民と、彼らの戦争と
不和についての話。ヒラマンが生涯書き続けた記録に
よる。

次の第四十五—六十二章がそれに相当する。

---

15 ① 1ニフ4・37、アル50・36
19 ① アル47・6
20 ① アル62・16—17

第45章

ヒラマン、アルマの言葉を信じる。アルマ、ニーファイ人の滅亡を預言する。アルマ、地を祝福し、またのろう。アルマ、モーセのように御霊によって取り上げられたと伝えられる。教会の中に不和が募る。紀元前約七十三年。

1 さて見よ、主が再び敵の手から救ってくださったので、ニーファイの民は非常に喜び、主なる神に感謝をささげた。そして、彼らは大いに1)断食し、大いに祈り、非常に大きな喜びをもって神を礼拝した。
2 さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十九年に、アルマは息子ヒラマンのところに来て、1)これまで書き継がれてきた記録についてあなたに語った言葉を信じるか」と彼に言った。
3 そこで、ヒラマンは、「はい、信じています」と言った。
4 すると、アルマはまた、「将来来られるイエス・キリストを信じるか」と言った。
5 そこで彼は、「はい。お父さんの言った言葉をすべて信じています」と言った。
6 すると、アルマはまた彼に、「あなたはわたしの命じてきたことを守るか1)」と言った。
7 そこで彼は、「はい、命じられたことを、わたしは心を尽くして守ります」と言った。
8 すると、アルマは彼に言った。「あなたは幸いだ。主はあなたをこの地で栄えさせてくださるであろう。
9 見よ、あなたに預言1)しておくことが少しある。しかし、わたしがあなたに預言することを公にしてはならない。まことに、わたしがあなたに預言することは、その預言が成就するまで公にしてはならない。だから、わたしが告げる言葉を書き留めなさい。
10 その言葉は次のとおりである。見よ、わたしは自分の内にある啓示の霊によって知っている。この民、ニーファイ人は、イエス・キリストがこの民に御自身を現されるときから四百年1)たつと2)不信仰に陥る。
11 そのときに彼らは戦争と疫病、まことに、飢饉と流血を目にし、ついにニーファイの民は1)全滅するであろう。
12 これは、彼らが不信仰になり、また闇の業と好色

第45章
1 1) GS「断食」
2 1) アル37・1−5、50・38
6 1) GS「戒め（神の）」
8 1) 1ニフ4・14、アル48・15−16、25
9 1) GS「預言」
10 1) 1ニフ12・10−15、ヒラ13・9、モル8・6−7
2) GS「背教、背信」「不信仰」
11 1) ジェロ1・10、モル8・2−3、6−7
12 1) GS「欲望」

とすべての罪悪に陥るからである。わたしはあなたに言う。彼らが非常に大きな光と知識に対して罪を犯すからである。まことに、言っておくが、その日から第四世代の人々が全員世を去る前に、この大きな罪悪が起こるであろう。

13 その大いなる日が来ると、見よ、今いる者たち、今ニーファイの民の中に数えられている者たちの子孫がもはやニーファイの民の中に数えられない時がすぐに来る。[1]

14 そのときに生き残って、大いなる恐るべき日に滅ぼされない者は、主の弟子と呼ばれる少数の者を除いて、皆レーマン人の中に数えられ、[1]レーマン人のようになる。しかも、主の弟子と呼ばれる者たちもレーマン人に追われ、[2]ついに彼らも絶えてしまう。罪悪のために、将来この預言は成就するであろう。」

15 さて、アルマはヒラマンにこれらのことを述べた後、彼を祝福し、ほかの息子たちをも祝福し、さらに[1]義人のために地をも祝福した。

16 そして、アルマは言った。「主なる神は言われる。『地は、まことにこの地は悪を行うあらゆる国民、部族、国語の民、民族に対して[1]のろわれる。悪が完全に熟すとき、彼らは滅びるであろう。』必ずわたしが言ったようになる。これは神が地に下されたのろいであり、[2]祝福だからである。主はほんのわずか[3]でも、罪を見過ごしにされることはないからである。」

17 アルマはこれらの言葉を語り終えると、[1]教会員を、すなわちそのときから後信仰にしっかりと立つすべての人を祝福した。

18 そして、アルマはこれを済ませると、ミレクの地へ向かうようにゼラヘムラの地を出て行った。ところがそれ以降、彼の消息は絶えてしまった。彼の死や埋葬についてわたしたちは知らない。

19 見よ、わたしたちが知っているのは、彼が義人であったということである。また、彼は御霊によって取り上げられた、すなわち、モーセのように主の手によって[1]葬られたという説が教会員の間に広まった。しかし見よ、聖文には主がモーセを御自分のもとに受け入れられたと述べられているので、わたしたちは主がアルマも霊にあって御自分のもとに受け入れられたと考えている。このために、わたしたちは彼の死と埋葬について何も知らないのである。

20 さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十

13 ①ヒラ3・16
14 ①モロ9・24 ②モロ1・1—3
15 ①アル46・10、62・40
16 ①2ニフ1・7、アル37・31、エテ2・8—12 ②教義130・21 ③教義1・31
17 ①GS—イエス・キリストの教会
19 ①GS—身を変えられた人

九年の初めに、ヒラマンは御言葉を告げ知らせるために民の中に出て行った。

21 見よ、レーマン人との戦争のため、また民の中にあった多くの小さな不和と騒動のために、1)神の言葉を民の中で告げ知らせることと、教会全体にわたって統一を図ることが必要になったからである。

22 そこで、ヒラマンと彼の同僚たちは、すべての地に、すなわちニーファイの民が所有している全地のすべての町に再び教会を設けるために出て行った。そして彼らは、全地の至る所でそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を任命した。

23 そして、ヒラマンと彼の同僚たちがそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を任命した後、教会員の中に1)不和が起こり、彼らはヒラマンと彼の同僚たちの言葉を心に留めようとしなくなった。

24 彼らは非常に豊かに富を持つようになったために、心の中で高ぶり、次第に高慢になった。そのため、彼らはますます富に目を向けるようになり、また、神の前をまっすぐに歩むようにという、ヒラマンとその同僚たちの言葉を心に留めようとしなくなった。

第46章

アマリキヤ、王になろうとたくらむ。モロナイ、自由の旗を掲げる。モロナイ、宗教を守るために民を呼び集める。まことの信者はクリスチャンと呼ばれる。ヨセフの残りの者が守り残される。アマリキヤと離反者たち、ニーファイの地へ逃げる。自由の大義を支持しようとしない者たちは死刑に処せられる。紀元前約七十三年から七十一年に至る。

1 さて、ヒラマンと彼の同僚たちの言葉に聞き従おうとしない者たちは皆、同胞に対抗するために集まった。

2 そして見よ、彼らはひどく怒って、同胞を殺そうと決意した。

3 このように同胞に対して怒った者たちの首謀者は、大きな強い男で、その名をアマリキヤといった。

4 アマリキヤは王になることを望んでおり、また、怒りを抱いた者たちも、彼が王になることを願った。これらの者たちはその大半が国の1)下級さばきつかさであり、権力を得ようとしていた。

5 彼らは、もし自分を支持して王に立ててくれれば

21① アル31・5
23① 3ニフ11・28−29
24① GS「富」
② GS「高慢」
第46章
4① モサ29・11、28−29

民の指導者にしようという、アマリキヤの甘言に乗ったのである。

6 このようにして、ヒラマンと彼の同僚たちが教えを説いたにもかかわらず、また、教会をつかさどる大祭司であった彼らの、教会に対する非常に深い配慮があったにもかかわらず、これらの者たちはアマリキヤに惑わされて離反してしまった。

7 そして、アマリキヤのへつらいの言葉を信じた者が教会の中に大勢おり、彼らは教会から離反してしまった。ニーファイの民はレーマン人に対して[1]大勝利を収め、主の手によって解放されたことで大きな喜びを得たにもかかわらず、このように彼らの状態は非常に不安定で危険であった。

8 以上のことから、人の子らが主なる神を忘れるのがどれほど[1]早く、また罪悪を行うことや悪しき者に惑わされることがどれほど早いかが分かる。

9 さらに、一人の非常に悪い人間が、人の子らの中に大きな悪事を引き起こす原因になることがあるということも分かる。

10 また、わたしたちの知っているように、アマリキヤは狡猾な策略に通じた男であり、多くのへつらいの言葉に長じた男であったので、多くの人の心を惑わして悪いことを行わせ、また神の教会を滅ぼさせようとし、さらに神がニーファイ人に与えられた自由の基、すなわち神が義人のために地の面に送られた祝福である[2]自由の基を損なわせようとした。

11 さて、ニーファイ人の軍隊の[1]総司令官であったモロナイは、これらの離反について聞き、アマリキヤのことを怒った。

12 そして、自分の衣を裂いて、その一片を取り、それに「[1]我々の神と宗教、自由、平和、妻子のために」と書いて、竿の先にしっかりとくくり付けた。

13 それから、彼は自分のかぶとと胸当てと盾をしっかりと身に着け、よろいを腰にまとい、先端に裂いた衣を付けた竿を取って（彼はそれを自由の旗と呼んだ）、地にひれ伏し、そしてクリスチャンの一団が残ってその地を所有しているかぎり、自分の同胞に自由の祝福をとどめてくださるようにと、熱烈に神に祈った。

14 神の教会に属しているキリストのまことの信者は皆、教会に属していない者たちからクリスチャンと呼ばれていた。

---

7 (1) アル44・19−20
8 (1) ヒラ12・2、4−5
9 (1) モサ29・17−18
10 (1) 2ニフ1・7
(2) 29・32 2ニフ1・7、モサ29・32、アル43・16−17
11 (1) ネヘ4・14、アル44・5
12 (1)

15 教会に属している人々は忠実であった。キリストのまことの信者であった人々は皆、将来来られるキリストを信じていたので、呼ばれるままにキリスト[1)]の名、すなわち[2)]クリスチャンという名を喜んで受けた。

16 したがって、このときモロナイは、クリスチャンの大義と国の自由に神の恵みがあるようにと祈ったのであった。

17 さて、彼はその心を神に注ぎ出してから、デソレ[1)]ションの地の南の全地を、要するに、北方も南方も含めた全地を、選ばれた地、自由の地と名付けた。

18 そして、彼は言った。「わたしたちはキリストの御名を受けているためにさげすまれるが、わたしたちが自分の背きによって自分の身に災いを招くまでは、決して神はわたしたちが踏みにじられ、滅ぼされるのをお許しにならない。」

19 モロナイはこの言葉を述べてから、民の中に出て行き、裂いた衣の一片に書いた文字がすべての人に見えるように、その裂いた衣を空中で打ち振り、大声で叫んで言った。

20 「見よ、この地にこの旗を立てて守ろうとする者たちは皆、主の力をもって出て来なさい。そして、主なる神から祝福を頂けるように、自分たちの権利と宗教を守るという聖約を交わそうではないか。」

21 さて、モロナイがこの言葉を宣言したところ、見よ、人々は腰によろいをまとって走ってやって来て、主なる神を捨てないしるしとして、すなわち聖約として自分たちの衣を裂いた。言い換えれば、もし神の戒めに背くならば、すなわち律法に背いてキリストの名を受けるのを恥とする[1)]ならば、自分たちが衣を裂いたように、主が自分たちを裂かれてもよいということであった。

22 これが彼らの交わした聖約である。そして彼らは、自分たちの衣をモロナイの足もとに投げ出して言った。「わたしたちは神と聖約します。わたしたちはもし戒めに背くならば、北方の地の同胞のように滅ぼされるでしょう。まことに、もし戒めに背くならば、わたしたちが衣をあなたの足もとに投げ出し、踏みつけられるに任せるように、神がわたしたちを敵の足もとに投げ出されますよう。」

23 そこでモロナイは、彼らに言った。「見よ、わたしたちはヤコブの子孫の残りの者である。また、わた

15 ① モサ 5・7−9
② 使徒 11・26、1 ペテ 4・16
17 ① アル 22・30−31
19 ① GS「旗」
21 ① 1 ニフ 8・25−28、モル 8・38

したちは兄弟に衣をずたずたに裂かれた、ヨセフ[1)]の子孫[3)]の残りの者である。見よ、わたしたちは神の戒めを守るのを忘れないようにしよう。さもなければ、わたしたちの衣は同胞によって裂かれ、わたしたちは牢に入れられるであろう。あるいは売られたり、殺されたりするであろう。

24 わたしたちはヨセフの残り[1)]の者として自由を保とう。ヤコブが死ぬ前に語った言葉を覚えておこう。見よ、ヤコブはヨセフの衣の切れ端が保存されており、朽ちていないのを見て言った。『息子の衣のこの切れ端が保存されてきたように、息子の子孫の一部の者は神の御手によって守られ、神御自身のみもとに受け入れられるであろう。しかし、ヨセフの子孫の残りの者は、彼の衣のほかの部分のように滅びてしまう。

25 さて見よ、これはわたしにとって悲しいことだが、息子の子孫の一部の者が神のみもとに受け入れられるので、わたしはその息子のために喜ぶ。』

26 見よ、ヤコブはこのように語った。

27 ヨセフの衣のように滅びてしまうヨセフの残りの者とは、わたしたちから離反した者たちではないと、だれに分かるであろうか。わたしたちがキリストの信仰をもってしっかりと立たなければ、それはわたしたち自身にさえ当てはまるであろう。」

28 さて、モロナイはこれらの言葉を語り終えると出て行き、また離反のあったすべての地方へ使者を送って、アマリキヤと、すでに離反してアマリキヤ人と呼ばれている者たちとに立ち向かって、自分たちの自由を守りたいと望むすべての人を集めた。

29 さて、アマリキヤは、モロナイの民がアマリキヤ人よりも多いのを見て、また自分の民が自分たちの行ってきたことの正当性に疑いを抱いているのを知ると、目的を達せられなくなるのを恐れて、その民の中で行くことを望んだ者たちを連れてニーファイの地へ向かった。

30 しかしモロナイは、レーマン人がこれ以上の兵力を持つことは望ましくないと思ったので、アマリキヤの民の合流を阻むか、そうでなければ彼らを捕らえて連れ戻し、アマリキヤを殺してしまおうと思った。まことに、アマリキヤがレーマン人を扇動してニーファイ人に対して怒りを抱かせ、ニーファイ人を攻めるように仕向けることを知っていたからで

23 ①創世37・3、31−36 ②GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」 ③創世49・22−26、1ニフ5・14−15
24 ①アモ5・15、3ニフ5・21−24、10・17 ②2ニフ3・5−24、エテ13・6−7

ある。モロナイは、アマリキヤが自分の目的を達するためにこのようにするのを知っていた。

31そこでモロナイは、すでに集まって武装し、平和を守るという聖約を交わしている自分の軍隊を率いて行くのがよいと思った。このようにして彼は、荒れ野でアマリキヤの進路を断つために、軍隊を率いて、天幕を携えて荒れ野に進軍した。

32そして彼は、自分の望むままに行い、荒れ野に進軍し、アマリキヤの軍隊の前に立ちはだかった。

33そこでアマリキヤは、少数の兵とともに逃げ去った。そして、残りの者たちはモロナイの手に引き渡されて、ゼラヘムラの地へ連れ戻された。

34さて、モロナイは大さばきつかさたちと民の声とによって[1]任命されていたので、ニーファイ人の軍隊については自分の意のままにこれを組織することも、軍隊に対する権威を行使することもできる権限を持っていた。

35そこでモロナイは、アマリキヤ人の中の、自由政体を守るために自由の大義を支持するという誓いを立てようとしなかった者をすべて殺させた。しかし、自由の誓いを拒否した者はごくわずかであった。

36そして彼は、ニーファイ人が所有していた全地にあるすべての塔の上に自由の旗を掲げさせた。モロナイはこのようにニーファイ人の中に自由の旗を掲げさせた。

37そしてニーファイ人は、再び国内に平和を保つようになった。このようにして、彼らはさばきつかさの統治第十九年の終わりごろまで国内に平和を保った。

38また、ヒラマンと[1]大祭司たちも、教会内の秩序を保った。そして、四年の間、教会の中には大いに平安と喜びがあった。

39そして、死んだ人が大勢いたが、彼らは主イエス・キリストによって贖われることを固く[1]信じていたので、喜びながらこの世を去った。

40またある季節になると、この地によく熱病が起こったので、それにかかって死んだ人々もいた。しかし、熱病で死んだ人はそれほど多くはなかった。多くの[1]草根木皮の効能が著しかったからである。これらの草根木皮は、特有な気候の下で人がかかりやすい病気を原因から取り除くために、神が用意してくださったものであった。

---

34 ①
38 ①
39 ①
40 ①

アルマ43・16
アルマ46・6
モロ7・3、41
教義89・10

41さらに、老衰で死んだ人も多かった。キリストを信じながら死んだ人々は、今キリストにあって幸いを得ていると確信できる。

第47章

アマリキヤ、裏切りと殺人と陰謀によってレーマン人の王となる。ニーファイ人の離反者たち、レーマン人よりも邪悪で残忍な者となる。紀元前約七十二年。

1さて、アマリキヤおよび彼とともに荒れ野へ逃げて行った者たちの記録に戻ろう。見よ、アマリキヤは、自分に従う者たちを連れてニーファイの地へ上って行き、レーマン人の中に行って、レーマン人を扇動してニーファイの民に対して怒らせた。そのため、レーマン人の王は国中至る所に、すなわち自分のすべての民の中に、ニーファイ人との戦いに出るためもう一度集まるようにという布告を出した。

2そして、その布告が彼らの中に出されると、彼らはひどく恐れた。王の気持ちを損ねるのを恐れるとともに、ニーファイ人と戦うために出て行けば命を失うことになるのではないかと恐れたのであった。

そこで彼らは、正確に言えば彼らの大半は、王の命令に従おうとしなかった。

3そして王は、彼らが従おうとしないので怒った。そして王は、自分の軍隊の中の、命令に従順な者たちに対する指揮権をアマリキヤに与え、行って強制的に彼らに武器を取らせるように彼に命じた。

4さて見よ、これはアマリキヤの願っていたことであった。アマリキヤは悪を行うのに非常に巧みな男であったので、レーマン人の王を王位から退ける計画を心の中で練っていた。

5彼はレーマン人の中の、王を支持する者たちに対する指揮権を得たので、次に、従わない者たちの歓心を買おうとした。そこで彼は、オナイダと呼ばれている所へ進んで行った。レーマン人は皆、そこへ逃げていたからである。彼らは軍隊がやって来るのを知ると、自分たちを滅ぼすために来たのだと思い、オナイダ、すなわち武器の場所へ逃げたのである。

6そして彼らは、ニーファイ人と戦わされることのないようにしようと固く決意していたので、一人の男を任命して自分たちを治める王とし、また指揮官

41 ① 黙示14・13
第47章
1 ① アル46・33
② 2ニフ5・5−8、オム1・12−13
5 ① アル32・4

としていた。
7そして彼らは、戦う準備をして、アンテパスと呼ばれている山の頂上に集まっていた。
8ところで、王の命令に従って彼らと戦うことは、アマリキヤの本意ではなかった。しかし見よ、彼の目的はレーマン人の軍隊の歓心を買い、自分が彼らの長の地位に就き、王を退位させて、自分が王位を手に入れることであった。
9見よ、そこで彼は、自分の軍隊にアンテパス山に近い谷で天幕を張らせた。
10そして夜になると、彼は密使をアンテパス山に派遣し、その名をレホンタイという、山上にいる者たちの指揮官に、会談したいので山のふもとに下りて来るように求めた。
11さて、レホンタイはその伝言を受けても、山のふもとに下りて来ようとはしなかった。そこでアマリキヤは再度伝言を送って、下りて来るように彼に求めた。それでもレホンタイは下りて来ようとしなかった。そこで彼は、三度目の伝言を送った。
12さて、アマリキヤは、レホンタイを山から下りて来させることができないのを知ると、自分から山を登って行き、レホンタイの宿営の近くまで行った。そして彼は、四度目の伝言をレホンタイに送り、下りて来るように、また衛兵を連れて来るように求めた。
13そして、レホンタイが衛兵とともにアマリキヤのところに下りて来たとき、アマリキヤは彼に、夜の間に軍隊を率いて下りて来て、王が自分に指揮権を与えてくれた宿営中の兵を包囲するように求めた。また、もしレホンタイが自分（アマリキヤ）を全軍の副指揮官にしてくれるならば、その兵をレホンタイの手に引き渡してもいいと言った。
14そこでレホンタイは、兵を率いて下りて来て、アマリキヤの兵を包囲した。このようにアマリキヤの兵は、夜が明けて目を覚ます前にレホンタイの軍隊に包囲されたのであった。
15さて、アマリキヤの兵は、自分たちが包囲されているのを見ると、滅ぼされることのないように同胞に合流させてもらいたいとアマリキヤに懇願した。これはまさにアマリキヤが願っていたことであった。
16そこで彼は、王の命令に背いて兵を引き渡した。

これは王を退位させるという企てを成し遂げるために、アマリキヤが願っていたことであった。
17ところで、レーマン人の中では、総指揮官が殺されることがあれば、副指揮官を総指揮官に任命するというのが習わしであった。
18そこでアマリキヤは、部下の一人を使って、少しずつレホンタイに毒を盛らせた。そのために彼は死んでしまった。
19さて、レホンタイが死ぬと、レーマン人はアマリキヤを自分たちの指揮官、自分たちの総司令官に任命した。
20そして、アマリキヤは（自分の望みを達したので）軍隊を率いてニーファイの地へ、すなわち首府であるニーファイの町へ向かった。
21すると王は、衛兵を伴い、彼を迎えるために出て来た。王は、アマリキヤが自分の命令を果たし、ニーファイ人に向かって戦いに出るために、これほどの大軍を集めてきたのだと思ったからである。
22ところが見よ、王が迎えようとして出て来ると、アマリキヤは部下を先に行かせて王を迎えさせた。彼の部下は王の前に出ると、王が偉大であるために王を敬うかのように王の前にひれ伏した。
23そこで王は、手を差し伸べて彼らを立たせようとした。そうすることがレーマン人の習わしであり、平和のしるしであった。彼らはこの習わしをニーファイ人から取り入れたのであった。
24そして、王が最初の者を地から立たせたとき、見よ、その男は王の心臓を突き刺したので、王は地に倒れた。
25これを見て、王の僕たちは逃げ出した。そこで、アマリキヤの部下たちは叫んだ。
26「見よ、王の僕たちが王の心臓を突き刺し、王を倒して逃げた。来て確かめてみよ。」
27そこで、アマリキヤは自分の兵に、行って、王に何事が起こったのか見るように命じた。そして、彼らがその場に着いて、血まみれになって倒れている王を見つけたとき、アマリキヤは怒ったふりをして、「王を愛していた者は皆行って、王の僕たちを追いかけて殺せ」と言った。
28そこで、王を愛していた者たちは皆、この言葉を聞くと、王の僕たちの後を追いかけた。
29王の僕たちは軍隊が自分たちを追って来るのを見

て、またもやおびえ、荒れ野へ逃げ込んだ。そして、ゼラヘムラの地へ行って、アンモンの民に加わった。[1)]

30 一方、彼らを追いかけた軍隊は、追跡が無駄に終わって戻って来た。このようにして、アマリキヤは欺瞞によって民の信用を得た。

31 そして、その翌日、彼は軍隊を率いてニーファイの町に入り、町を支配下に置いた。

32 さて、王妃は王が殺されたことを聞くと――というのは、アマリキヤはすでに使者を遣わして、王が王の僕たちによって殺されたことと、自分が軍隊を率いて彼らを追いかけたが、そのかいがなく彼らを取り逃がしてしまったことを、王妃に知らせておいたからである――

33 したがって、王妃はこの知らせを受けると、アマリキヤに使者を送って、その町の民の命を助けてくれるように求めた。また王妃は、彼に自分のもとに来てほしいと伝え、さらに王の死について立証する証人たちを一緒に連れて来てほしいと告げた。

34 そこでアマリキヤは、王を殺したその部下、および一緒にいたすべての者を連れて王妃のもとへ、王妃の座している所へ入って行った。そして、彼らは皆、王が王自身の僕たちによって殺されたことを王妃に証言し、また、「彼らは逃げました。このことは彼らに対する証拠にならないでしょうか」と言った。このようにして、彼らは王の死について王妃の問いに十分に答えたのであった。

35 そして、アマリキヤは王妃の歓心を買うように努め、王妃を妻にした。このようにして、彼は欺瞞により、また悪賢い部下たちの助けによって王位を得、全地の至る所で、レーマン人のすべての民の中で王と認められた。このレーマン人の民は、レーマン人とレムエル人、イシマエル人、それにニーファイの統治からその当時に至るまでのニーファイ人のすべての離反者から成っていた。[1)]

36 これらの離反者たちは、ニーファイ人と同じ教えと同じ知識を得ていた。また、同じように主について知る教えを受けていた。[2)] にもかかわらず、不思議な話であるが、離反後間もなく、レーマン人よりもかたくなで悔い改めない者、[3)] また彼らよりも野蛮で邪悪、残忍な者となってしまい、レーマン人の言い伝えを受け入れ、怠惰やあらゆる好色に身を任せ、主なる神をすっかり忘れてしまったのである。

---

29 ① アル 43・11−12、GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
35 ① ヤコ 1・13−14
36 ① GS「背教・背信」
② ヘブ 10・26−27、アル 24・30
③ エレ 8・12

第48章

アマリキヤ、レーマン人を扇動してニーファイ人に反感を抱かせる。モロナイ、クリスチャンの大義を守るために民を備える。モロナイは自由と解放を喜ぶ偉大な神の人である。紀元前約七十二年。

1 さて、アマリキヤは王位を得るやいなや、ニーファイの民に反感を抱くようにレーマン人の心をあおり始めた。彼は幾人かの者たちを任じて、方々の塔からレーマン人に向かってニーファイ人の悪口を言わせた。

2 このようにして、彼はニーファイ人に反感を抱くように彼らの心をあおった。そして、さばきつかさの統治第十九年の末に、彼はそれまで自分の企てを成し遂げていたので、すなわちすでにレーマン人を治める王になっていたので、全地と全地のすべての人、すなわちレーマン人だけでなくニーファイ人をも支配しようとした。

3 彼はレーマン人の心をかたくなにし、思いをくらまし、彼らの怒りをかき立てるのに成功して、自分の企てを成し遂げたので、ニーファイ人に対して戦いに出て行くために大軍を召集した。

4 彼は自分の民がおびただしい数であったので、ニーファイ人を打ち負かして奴隷にしようと決意した。

5 そのため彼は、ゾーラム人の中から連隊長[1]を任命した。ゾーラム人がニーファイ人の戦う力と、彼らが身を隠す場所と、方々の町の最も弱い箇所を最もよく知っていたので、軍隊の連隊長に任命したのであった。

6 そして彼らは、それぞれ軍隊を率いて、ゼラヘムラの地を指して荒れ野の中を進んだ。

7 さて、アマリキヤがこのように欺瞞と偽りによって権力を手に入れていた間、一方でモロナイは、主なる神に忠実であるように民の心を備えさせていた。

8 また彼は、ニーファイ人の軍隊を強化し、小さいとりで、すなわち身を隠す場所を幾つも築き、軍隊を囲む土手を造り、また軍隊を囲む石垣も築いて、ニーファイ人の方々の町と方々の地の境、まことに国の周囲一帯を囲った。

9 また彼は、防御の最も弱いとりでにさらに多くの

第48章
5①1 アル43・6
7① アル49・8

兵を配備した。このようにして彼は、ニーファイ人の所有する地の防備を固め、強化した。

10 このように彼は、ニーファイ人の自由と土地、妻子、平和を維持する備えをして、彼らが主なる神のために生きることができるように、また敵からクリスチャンの大義と呼ばれているものを保つことができるようにした。

11 モロナイは屈強で勢いのある人であり、完全な理解力を備えた人であり、また流血を喜ばない人であった。そして、自分の国が自由であり、同胞が束縛や奴隷の状態にないことを喜びとした人であった。

12 まことに彼は、神が民に授けてくださった多くの特権と祝福について、神への感謝で胸をいっぱいにした人であり、民の幸いと安全のために大いに働いた人であった。

13 また彼は、確固としてキリストを信じた人であり、血を流してでも、自分の民と、自分の権利と、自分の国と、自分の宗教を守ると固く誓っていた。

14 ニーファイ人は、必要であれば血を流してでも敵に対して自衛するように教えられていた。さらに、自分から危害を加えないように、また敵に立ち向かうのでなければ、すなわち自分の命を守るためでなければ、決して剣を振り上げないようにとも教えられていた。

15 そのようにすれば、神は自分たちをこの地で栄えさせてくださると、彼らは信じていた。言い換えれば、神の戒めを忠実に守るならば、神は自分たちをこの地で栄えさせてくださり、また自分たちの直面する危険に応じて、逃れるように、あるいは戦争の準備をするように警告してくださると、彼らは信じていた。

16 また、神は敵を防ぐためにどこへ行けばよいかを自分たちに知らせてくださり、そのとおりにすれば主は自分たちを救ってくださることも、彼らは信じていた。これはモロナイが信じていたことであり、彼は心の中でそのことに誇りを感じていた。すなわち、血を流すことではなく、善を行うこと、民を守ること、神の戒めを守ること、罪悪に立ち向かうことに誇りを感じていた。

17 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのよ

10① アル46・12−13
11① GS「理解」
12① GS「福祉」
13① アル46・20−22
14① アル43・46−47、3ニフ3・20−21、モル3・10
16① 1ニ11、教義98・16、アル55・19

うであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔[1]は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。

18 見よ、モロナイは、モーサヤの息子アンモンや、モーサヤのほかの息子たち、またアルマとアルマの息子たちのような人であった。彼らは皆、神の人であったからである。

19 さて見よ、ヒラマンと彼の同僚たちも、モロナイに劣らず民のためによく働いた。彼らは神の言葉を宣べ伝え、また彼らの言葉を聴くすべての人に悔い改めのためのバプテスマを施した。

20 そのために彼らは出て行った。そして人々は、彼らの言葉のために謙遜[1]になったので、主から豊かに恵みを授けられた[2]。したがって四年の間、ニーファイ人の中には戦争も争いもなかった。

21 しかし、前に述べたように、第十九年の末に、ニーファイ人の中は平和であったにもかかわらず、彼らは不本意ながら同胞のレーマン人と戦わざるを得なくなった。

22 要するに、甚だ不本意ではあったが、レーマン人との戦争が長年の間絶えなかった。

23 ニーファイ人は血を流すことは喜ばなかったので、レーマン人に対して武器を取るのをつらく思った[1]。それだけではない。神にお会いする用意ができていない多くの同胞を、自分たちがこの世から永遠の世に送り込むことになるのをつらく思った。

24 それでも、彼らは命を捨てるわけにはいかなかった。命を捨てれば、妻[1]や子供たちが、かつて同胞であった者たちの野蛮なむごい仕打ちによって虐殺されることになるからである。その同胞はニーファイ人の教会から離反[2]し、彼らのもとを去り、レーマン人に加わって彼らを滅ぼそうとしていた。

25 まことにニーファイ人は、神の戒めを守る者がいるかぎり、その同胞がニーファイ人の血を流すことを喜ぶのに耐えられなかった。それは、主の戒めを守るかぎりニーファイ人はその地で栄えるであろうという、主の約束があったからである。

第49章

侵攻して来たレーマン人は、防備を施したアモナイハの町とノアの町を攻略できない。アマリキヤ、神をのろい、モロナイの血を飲むと誓う。ヒラマンと同僚

17 ① 1ニフ22・26、3ニフ6・15
20 ① GS「謙遜」
② 1ニフ17・35
23 ① 教義42・45
24 ① アル46・12
② GS「背教・背信」

たち、教会を強化し続ける。紀元前約七十二年。

1 さて、第十九年の十一月十日に、レーマン人の軍隊がアモナイハの地に近づいて来るのが見えた。2 見よ、すでにその町は再建されており、モロナイは町の境の近くに軍隊を配備していた。そして彼らは、レーマン人の矢と石を避けるために、周囲に土を盛り上げておいた。レーマン人は石と矢で戦ったからである。3 見よ、わたしはアモナイハの町が再建されたと述べたが、町は一部分再建されたと言い直そう。レーマン人は、民の罪悪のためにその町がかつて滅ぼされたことがあるので、再びそこが容易に自分たちのえじきになるであろうと思ったのである。4 しかし見よ、彼らの期待は何と大きく外れたことか。ニーファイ人は自分たちの周囲に土手を築き上げており、それが非常に高かったので、レーマン人はニーファイ人に石を投げても矢を射ても効果を上げることができず、また入り口からでなければ彼らを攻めることができなかったのである。5 このとき、レーマン人の連隊長たちは、ニーファイ人が防御の場所を備えるに当たって知恵を働かせたことに非常に驚いた。6 レーマン人の指揮官たちは、自分たちの人数が非常に多かったので、これまでと同じように当然ニーファイ人を攻めることができると思っていた。また、レーマン人も盾と胸当てを装備し、さらに皮の衣、まことに裸を覆う非常に厚い衣を着ていた。7 このように装備を整えていたので、レーマン人は、自分たちの意のままに容易に同胞を打ち負かして、彼らに奴隷のくびきをかけることができる、そうでなければ彼らを殺し、虐殺できると思っていた。8 しかし見よ、まったく驚いたことに、ニーファイ人はこれまでリーハイの子孫の中にまったく知られていなかった方法で、レーマン人に対する備えをしていた。ニーファイ人はモロナイの指示に従って、レーマン人と戦う備えをしていたのである。9 そして、レーマン人、いやアマリキヤ人はニーファイ人の戦いの備え方に非常に驚いた。10 さて、もしアマリキヤ王が軍隊を率いてニーファイの地から下って来ていたら、恐らく彼はレーマン

第49章
3① アル16・2−3、9、11
8① アル48・7−10
10① 2ニフ5・8、オム1・12、アル47・1

人にアモナイハの町でニーファイ人を攻撃させていたことであろう。見よ、彼は自分の民の血など気にもかけなかったからである。

11しかし見よ、アマリキヤ自身は戦うために下って来てはいなかった。そこで彼の連隊長たちは、アモナイハの町であえてニーファイ人を攻撃しようとしなかった。モロナイがニーファイ人の中の諸事の管理体制を変えていたからである。そのため、レーマン人はニーファイ人が避難する場所を設けていたことに期待を裏切られ、彼らを攻めることができなかった。

12そこで彼らは荒れ野へ退き、軍隊を率いてノアの地へ向かって進軍した。そこがニーファイ人を攻める次の最適地だと思ったからである。

13彼らはモロナイがすでに国中のすべての町で防備を固めていたこと、すなわち防御のとりで[1]を築いていたことを知らなかった。そのため、彼らは固い決意をもってノアの地へ進軍した。実に、彼らの連隊長たちは前に進み出て、その町の民を滅ぼすと誓ったのであった。

14しかし見よ、驚いたことに、これまで弱い所であったノアの町は、モロナイの働きによって今や堅固になっており、アモナイハの町の堅固さをしのぐほどになっていた。

15さて見よ、これはモロナイの知恵によるものであった。モロナイは、彼らがアモナイハの町に驚くであろうと思い、またこれまでノアの町がその地でいちばん弱い所であったので、彼らはそこへ進軍して戦おうとするであろうと思ったからである。そして、それは彼の望みどおりになった。

16見よ、すでにモロナイはリーハイを、その町の兵を指揮する司令官に任命していた。このリーハイはシドン川の東の谷でレーマン人と戦ったあのリーハイ[1]である。

17さて見よ、レーマン人はリーハイがその町で指揮を執っていることを知ると、またもや意気消沈した。彼らはリーハイを非常に恐れていたのである。それでも、彼らの連隊長たちはその町を攻撃すると固く誓っていたので、それぞれの軍隊を率いて攻め寄せた。

18見よ、周囲に築き上げられた土手は高く、堀は深かったので、レーマン人は入り口による以外、ほか

16①
アル43・35

13①
アル48・8

の道からニーファイ人の防御のとりでに入ることはできなかった。

19このように、ニーファイ人は入り口以外の所からとりでに入ろうとして登って来る者たちに、上から石を投げつけ、矢を射て全員を殺してしまおうと備えをしていた。

20また彼らは、ニーファイ人の中でも最も強い兵の一団を置いて、入り口からニーファイ人の防御地に入って来ようとするすべての者を、剣と石投げで打ち倒そうと待ち構えていた。このように彼らは、レーマン人に対して自衛する備えをしていた。

21さて、レーマン人の隊長たちは、それぞれの軍隊を入り口の前に率いて行き、ニーファイ人の防御地に入ろうとしてニーファイ人と戦い始めた。しかし見よ、彼らは何度も撃退され、おびただしい数の死者を出した。

22彼らはその通路でニーファイ人に勝てないことを知ると、次に、土手を掘り崩してニーファイ人の軍隊に近づく道を開き、対等に戦う機会を得ようとした。しかし見よ、その最中に彼らは石を投げつけられ、矢を射られて倒された。そのため、土手を掘り崩して堀を埋める代わりに、死者や負傷者の体で多少堀が埋められることになった。

23このように、ニーファイ人はあらゆる点で敵に勝っていた。また、このようにレーマン人はニーファイ人を滅ぼそうと試みたが、とうとう彼らの連隊長たちは全員殺されてしまった。そして、千人を越えるレーマン人が殺された。一方、ニーファイ人で殺された者はただの一人もいなかった。

24しかし、負傷者がおよそ五十人いた。それは通路でレーマン人の矢が当たった者たちである。彼らは盾と胸当てとかぶとで保護されていたので、負傷した箇所は足で、その多くが重傷であった。

25さて、レーマン人は、連隊長たちが全員殺されたのを知ると、荒れ野へ逃げて行った。そして彼らはニーファイの地へ引き返し、生まれはニーファイ人でありながら今は王となっているアマリキヤに、自分たちの被った大きな損害について報告した。

26そこで彼は、自分の民をひどく怒った。ニーファイ人を支配するという望みを達せられず、ニーファイ人に奴隷のくびきをかけることができなかったからである。

27まことに、彼はひどく怒り、神とモロナイをのろい、必ずモロナイの血を飲むと誓った。[2]それは、モロナイが神の命じられたことを守って、民を保護する備えをしたからである。
28さて一方、ニーファイの民は、主がたぐいない力で自分たちを敵の手から救ってくださったことを、主なる神に感謝した。[1]
29このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十九年が終わった。
30そして、彼らの中には引き続き平和があり、また彼らが神の言葉に注意を払い、勤勉であったために、教会は非常に大きな繁栄を見た。神の言葉はヒラマンとシブロン、コリアントン、アンモン、彼の同僚たち、および悔い改めのためのバプテスマを受けて神の聖なる位によって聖任され、民の中で教えを説くように遣わされたすべての人により、彼らに告げ知らされたのである。

第50章

モロナイ、ニーファイ人の住む方々の地の防備を固める。ニーファイ人、多くの新しい町を築く。ニーファイ人が悪事と忌まわしい行いに陥った時代には、戦争と滅亡がニーファイ人に降りかかった。モリアントンと彼に従う離反者たち、テアンクムに打ち負かされる。ニーファイハが死んで、その息子パホーランがさばきつかさの職に就く。紀元前約七十二年から六十七年に至る。

1さて、モロナイは戦争の準備をし、レーマン人から民を守る準備を整えるのをやめなかった。彼はさばきつかさの統治第二十年の初めに、軍隊に命じて、ニーファイ人が所有していた全地の至る所ですべての町の周囲に土を盛り上げて土塁を築く作業を開始させた。
2彼はまた、町を囲むこれらの土手の上に木材を、すなわち人の背丈ほどの高さの木材の建造物を築かせた。
3そして、町を囲むこれらの木材の建造物の上に、先端のとがった杭で柵を造らせた。この杭は丈夫で、丈が高かった。
4また彼は、この柵を見下ろすやぐらを建てさせ、そのやぐらの上に防御の場所を造らせて、レーマン

27① GS「冒瀆・汚す罪」
28① 使徒23・12
28② GS「感謝」
30① アル43・2

人の石や矢がそこにいる人々に当たらないようにした。

5 また、ニーファイ人の兵たちは自分たちの思うままに、また力の及ぶかぎり、そのやぐらの上から石を投げつけ、町の防壁に近づこうとする者を殺せるように備えをした。

6 このように、モロナイは全地のすべての町の周囲にとりでを築いて、敵の来襲に備えた。

7 そしてモロナイは、軍隊を東の荒れ野に行かせた。そこで、彼らは出て行って、東の荒れ野にいたすべてのレーマン人を、ゼラヘムラの地の南にある彼らの土地へ追い払った。

8 ニーファイの地は、東の海からまっすぐ西の海に及んでいた。

9 さて、モロナイは、彼らの所有地の北方にある東の荒れ野からすべてのレーマン人を追い払うと、ゼラヘムラの地とその周辺の地に住む者たちを東の荒れ野に行かせ、海岸に近い地方までやって、その地に住まわせた。

10 彼はまた、南方の彼らの領土の境に軍隊を配置して、軍隊と民が敵の手から守られるように幾つものとりで[1]を築かせた。

11 このようにして、彼は東の荒れ野のレーマン人のとりでをすべて断ち切り、また西の方でも同様にして、ニーファイ人とレーマン人の間の境界線上をとりでで固めた。この境界線はゼラヘムラの地とニーファイの地の間にあり、西の海からシドン川の源の付近を走っていた。ニーファイ人はその北方の全地を、すなわち、バウンティフルの地の北方にある全地を自分たちの好むままに所有した。

12 このようにして、モロナイは自分の軍隊をもって、すなわち、彼の働きによって守りが与えられると確信して日々増え続ける軍隊をもって、レーマン人の兵力と勢力をニーファイ人の所有地から断ち切り、レーマン人がニーファイ人の所有地でまったく権力を振るえなくしようと努めた。

13 そしてニーファイ人は、一つの町の建設を始め、その町の名をモロナイと呼んだ。それは東の海の近くで、レーマン人の領土の境界線に近い南の方にあった。

14 彼らはまた、モロナイの町とアロンの町の間に、アロンの町の境とモロナイの町の境に接して一つの

第50章
10①　アル49・18—22

町の建設を始めた。そして彼らは、その町の名、すなわちその地の名をニーファイハと呼んだ。
15 彼らはまた、同じ年に北の方で多くの町を築き始めた。その代表的なものはリーハイと名付けた町で、北の方の海岸に近い所にあった。
16 このようにして、第二十年が終わった。
17 また、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十一年の初めに、ニーファイの民はこのように繁栄していた。
18 彼らは非常に栄え、豊かになり、また増えて、その地で強くなった。
19 以上のことから、主が人の子らに言われた御言葉をすべて成就されるに当たって、主の計らいが皆どれほど憐れみ深く、公正であるかが分かる。また、主がリーハイに言われた御言葉が今このときでさえ実証されていることを、わたしたちは知ることができるのである。主の言われた御言葉は次のとおりである。
20 「あなたとあなたの子孫とは幸いである。彼らは祝福を受けるであろう。彼らはわたしの命令を守るかぎり地に栄える。しかし、わたしの命令を守らなければ主の前から絶たれるということを覚えておきなさい。」
21 そして今わたしたちは、この約束がニーファイの民に実証されていることを知っている。彼らの中に口論や争い、殺人、略奪、偶像礼拝、みだらな行い、忌まわしい行いがあって、それらが彼らに戦争と滅亡を招いたからである。
22 しかし、主の命令を忠実に守っていた人々はいつも救い出された。一方、邪悪な同胞は何千人も奴隷の状態に陥ったり、剣で殺されたり、不信仰に陥ってレーマン人と混じり合ったりした。
23 しかし見よ、ニーファイの時代からこのかた、ニーファイの民にとって、モロナイの時代、すなわちさばきつかさの統治第二十一年当時以上に幸せな時はかつて一度もなかった。
24 そして、さばきつかさの統治第二十二年が平穏に終わり、第二十三年も同様であった。
25 さて、さばきつかさの統治第二十四年の初めも、リーハイの地とモリアントンの地について起こった争いがなければ、ニーファイの民の中には平和が続いたことであろう。このモリアントンの地はリー

1) 絶たれる

20① 教義1・14
23① モサ2・41
25① GS「争い」

ハイの地と境を接しており、両方とも、海岸に近い地方にあった。

26見よ、モリアントンの地を所有していた人々が、リーハイの地の一部について所有権を主張したのである。そのため、両者の間に激しい争いが起こり、モリアントンの民は同胞に対して武器を取り、剣で相手を殺そうとした。

27しかし見よ、リーハイの地を所有していた人々はモロナイの宿営に逃げ込んで、モロナイに助けを求めて訴えた。彼らに非がなかったからである。

28さて、モリアントンという名の男の指導下にあったモリアントンの民は、リーハイの民がモロナイの宿営に逃げ込んだことを知ると、モロナイの軍隊がやって来て自分たちは滅ぼされてしまうのではないかと非常に恐れた。

29そこでモリアントンは、大きな湖沼がたくさんある北方の地へ逃げて行って北方の地を占有しようとする思いを民の心に抱かせた。

30そして見よ、彼らはこの計画を実行しようとした。（これが成功していれば、悲しい事態が生じていたであろう。）しかし見よ、モリアントンは、ひどく怒りっぽい男であったので、はしための一人に腹を立て、なぐりかかってその女をひどく打ちたたいてしまった。

31そこでその女は、逃げ出してモロナイの宿営にやって来ると、その件について、また北方の地へ逃げようとしている彼らの企てについて、すべてのことをモロナイに告げた。

32さて見よ、バウンティフルの地にいる人々は、いや、モロナイは、バウンティフルの地にいる人々がモリアントンの言葉に聞き従って彼の民に加わり、そのために彼がその地の各所の支配権を得てニーファイの民の中に重大な結果をもたらし、ニーファイの民の自由を覆すことになるのではないかと懸念した。

33そこでモロナイは、モリアントンの民の行く手を遮って、彼らが北方の地へ逃げるのを阻止するために、装備を整えた軍隊を派遣した。

34さて、デソレーションの地の境に達するまで、彼らはモリアントンの民の進路を断てなかった。それでも、海に近く北方の地に通じており、また西も東も海に近い地峡のそばで、彼らはモリアントンの民の

32①
34①
GS「自由」
アル46・17

進路を断つことができた。

35そして、モロナイによって派遣され、テアンクムという名の人によって率いられた軍隊は、モリアントンの民と相対した。ところが、モリアントンの民は（モリアントンの悪事とへつらいの言葉に感化されて）非常にかたくなになっていたので、両者の間で戦いが始まった。そして、その戦いでテアンクムはモリアントンを殺し、彼の軍隊を破って彼らを捕虜にし、モロナイの宿営に帰った。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十四年が終わった。

36モリアントンの民はこのようにして連れ戻された。そして彼らは、平和を守ると誓ってモリアントンの地へ返され、彼らとリーハイの民の間で和合が成立した。そして、リーハイの民も自分たちの土地へ戻った。

37さて、ニーファイの民が平和を取り戻したその同じ年に、二代目の大さばきつかさであったニーファイハが、神の前に完全に正しくさばきつかさの職を果たして亡くなった。

38ニーファイハは神の前に完全に正しい人であったが、アルマと彼の先祖たちが最も神聖であると見なしていた、数々の記録と品々をアルマから預かることは辞退していた。そこでアルマは、それらのものを息子ヒラマンに託していた。

39見よ、ニーファイハの息子が、父に代わってさばきつかさの職を務めるように任命された。まことに、彼は義にかなって裁判すること、民の平和と自由を守ること、民に彼らの主なる神を礼拝する神聖な特権を与えること、生涯神の大義を支持し、守ること、悪人にそれぞれの罪科に応じた罰を科すこと、これらのことを誓って、神聖な儀式により民の大さばきつかさ兼総督に任命された。

40見よ、この人の名はパホーランという。彼が父の座に着き、第二十四年の終わりにニーファイの民を治める彼の統治が始まった。

第51章

王政党の者たち、法律を変えて王を立てようとする。パホーランと自由党、民の声によって支持される。モロナイ、王政党の者たちに、戦って国を守るように求め、従わなければ処刑することを告げる。アマリキ

ヤとレーマン人はとりでで固められた多くの町を占領する。テアンクム、レーマン人の侵略を撃退し、アマリキヤを天幕の中で殺す。紀元前約六十七年から六十六年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十五年の初めには、彼らはリーハイの民とモリアントンの民との間に彼らの土地のことについて和解を確立しており、第二十五年が平穏に始まった。

2しかし、国内の完全な平和は長くは続かなかった。大さばきつかさのパホーランについて民の中に争いが起こったのである。というのは、法律の条項を少し変えてほしいと望んだ者たちが民の中にいたからである。

3しかし見よ、パホーランは法律を変えることを望まず、また法律が変えられるのを認めようとも思わなかった。そのため、法律の変更について請願の形で意見を表明した者たちの言うことにも、彼は耳を傾けなかった。

4そのため、法律が変更されることを願った者たちは彼に腹を立て、彼が引き続き国の大さばきつかさであるのを望まなかった。その結果、その件について激しい論争が起こったが、血を流すには至らなかった。

5さて、パホーランをさばきつかさの職から退けることを願った者たちは、王政党と呼ばれた。彼らは法律を変更して自由政体を廃し、国を治める王を立てることを願ったからである。

6また、パホーランが引き続き国を治める大さばきつかさでいることを願った人々は、自ら自由党と称した。このようにして、民の中に分裂が生じた。自由党の人々は、自由政体によって自分たちの権利と宗教の特権を守ることを誓った、すなわち聖約したからである。

7さて、両者の争いに関するこの件は、民の声により解決された。そして、民の声により自由党が支持を受け、パホーランはさばきつかさの職を保った。これはパホーランの同胞と自由を願う多くの人に大きな喜びを与えた。また、このようにして彼らは王政党の者たちを沈黙させたので、王政党の者たちはあえて反対せず、仕方なしに自由の大義を守ることになった。

8 王を立てることを支持した者たちは上流の生まれの者であり、自分が王になろうとしていた。そして彼らは、民を治める権力と権能を得ようとした者たちから支持を受けた。

9 しかし見よ、このような争いがニーファイの民の中にあったこのときは、危機であった。アマリキヤが再びレーマン人の民の心をあおって、ニーファイ人の民に対して反感を抱かせていたからである。そして彼は、自分の国の全地方から兵を集め、彼らを武装させ、着々と戦争の準備をしていた。彼はモロナイの血を飲むと誓っていたからである。

10 しかし見よ、後に分かるように、彼が立てた約束は無分別なものであった。それでも、彼はニーファイ人を攻めるために、自分自身と自分の軍隊を備えていた。

11 彼の軍隊はすでにニーファイ人の手によって何千人も殺されていたので、その人数は以前ほど多くなかった。しかし、多大の損害を被っていたにもかかわらず、アマリキヤは驚くほどの大軍を集めたので、ゼラヘムラの地へ向かうことを恐れなかった。

12 まことに、アマリキヤ自身がレーマン人を率いて下って来た。それはさばきつかさの統治第二十五年のことであり、大さばきつかさパホーランに関する争いの問題が収まり始めたちょうどそのときであった。

13 さて、王政党と呼ばれた人々は、レーマン人がニーファイ人と戦うために進んで来ていると聞いて内心喜んだ。そして彼らは、武器を取ることを拒んだ。彼らは大さばきつかさと自由を願う人々のことをひどく怒っていたので、武器を取って国を守る気持ちがなかったからである。

14 さて、モロナイはこのことを知り、さらにレーマン人が国境を越えているのを知ると、自分がこれまでそれらの人々を守るために精いっぱい努めてきたにもかかわらず、彼らがかたくなであるのを非常に怒った。彼は激怒し、彼の心は彼らに対する怒りでいっぱいになった。

15 そして彼は、民の声を受けて、国の総督に請願書を送ってそれを読むように求め、自分たちの国を守るようにそれらの離反者たちに強要する力と、また従わなければ彼らを処刑する力を自分（モロナイ）に与えてほしいと願った。

第51章
8①
9①
13①
GS「高慢」
アル49・26−27
アル46・10−16

16 彼が第一になすべきことは、民の中にこのような争いと不和をなくすことであった。というのは、見よ、民の中の争いと対立がこれまで彼らの被ったすべての滅亡の原因となってきたからである。そしてそれは、民の声に応じて聞き届けられた。

17 そこでモロナイは、自分の軍隊に、それら王政党の者たちと戦って彼らの高慢と特権意識を打ち倒し、彼らを地に倒すように、そうでなければ彼らに武器を取って自由の大義を守らせるように命じた。

18 そこで、軍隊が彼らに向かって進軍し、彼らの高慢と特権意識を打ち倒した。彼らの中で武器を振り上げてモロナイの兵に立ち向かう者は、切られて地に倒された。

19 そして、離反者[1]たちの中の四千人が剣で切り倒された。また、戦いで殺されなかった彼らの指導者たちは、捕らえられて、すぐに審理する暇がなかったので牢に入れられた。

20 また、残りの離反者たちは、剣によって地に打ち倒されるよりも自由の旗に従うことを選んだ。そして、仕方なく自分たちのやぐらと自分たちの町に自由の旗を掲げ、また国を守るために武器を取った。

21 このようにして、モロナイは王政党の者たちを滅ぼし、王政党という名で知られる者はだれ一人いなくなった。また、このようにして彼は、高貴な血統の出であると主張した者たちの強情と高慢をくじいた。そして彼らは、同胞のように謙遜になり、奴隷とならないために勇敢に戦うようになった。

22 さて見よ、モロナイがこのように自分の民の中の戦いと争いを鎮め、民の中に平和と秩序を確立し、レーマン人と戦う準備をするための規則を定めている間に、レーマン人は海岸に近い地方にあるモロナイの地に入って来た。[1]

23 そして、モロナイの町にいたニーファイ人は耐えられるほど強くなかったので、アマリキヤは彼らを追い出し、多くの者を殺した。そして、アマリキヤはその町を占領し、まことにすべてのとりでを占領した。

24 そこで、モロナイの町から逃げ出した人々は、ニーファイハの町へ行った。また、リーハイの町の民も集まって準備を整え、レーマン人を迎え撃つ用意をした。

25 しかし、アマリキヤはレーマン人にニーファイハ

---

19 ① アル60・16
20 ① アル46・12―13
22 ① GS「モロナイ（司令官）」

の町を攻めさせようとしないで、海岸近くに彼らをとどめ、それぞれの町にそこを守る兵を置いた。

26 このようにして、彼は進軍を続けて、ニーファイハの町、リーハイの町、モリアントンの町、オムナーの町、ギドの町、ミュレクの町などの多くの町を占領した。これらの町はすべて海岸に近い東の国境地方にあった。

27 このように、レーマン人はアマリキヤの悪知恵と無数の軍勢によって非常に多くの町を手に入れた。しかも、これらの町はどれも皆モロナイのとりでの築き方に倣って強固に防備が固められており、レーマン人はこれらをすべて自分たちのとりでとした。

28 そして、彼らは行く手のニーファイ人を追い払い、また多くの者を殺しながら、バウンティフルの地に進軍した。

29 ところが、彼らはテアンクムと相対することになった。このテアンクムはかつてモリアントンが逃走しようとしたときに彼を殺し、彼の民の前に立ちはだかった人である。

30 そして、このテアンクムがここでまたアマリキヤの前に立ちはだかったのである。このときアマリキヤは、バウンティフルの地とその北方の地を占領しようとして、大軍を率いて進んでいた。

31 しかし見よ、テアンクムとその兵が偉大な戦士であったために、アマリキヤは彼らに撃退されて望みを遂げることができなかった。テアンクムの兵は一人残らず体力の面で、また戦いの技術の面でレーマン人をしのいでいたので、彼らはレーマン人よりも優位に立った。

32 そして、テアンクムとその兵はレーマン人を休みなく攻め、暗くなるまで彼らを殺した。それから、テアンクムとその兵はバウンティフルの地の境で天幕を張った。また、アマリキヤも海岸に近い境の地で天幕を張った。彼らはここまで追われたのである。

33 さて、夜になると、テアンクムとその部下は夜に紛れてひそかに出て行き、アマリキヤの宿営に忍び込んだ。すると見よ、レーマン人は、日中の戦いと暑さのためにひどく疲れて眠り込んでいた。

34 そこでテアンクムは王の天幕に忍び込み、投げ槍を王の心臓に突き立てて王を即死させたので、王は僕たちを起こすことができなかった。

27① アル48・8−9
29① アル50・35

35それから、テアンクムがひそかに自分の宿営に帰ると、見よ、兵は眠っていた。そこで彼は兵を起こして、自分が行ってきたことをすべて告げた。
36また彼は、レーマン人が目を覚まして攻め寄せて来るのではないかと案じ、軍隊に準備をして待ち受けさせた。
37このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十五年が終わり、またアマリキヤの生涯も終わるのである。

第52章

アモロン、アマリキヤの跡を継いでレーマン人の王となる。モロナイとテアンクムとリーハイ、ニーファイ人を率いて戦い、レーマン人に勝利を得る。ミュレクの町は取り返され、ゾーラム人ヤコブは死ぬ。紀元前約六十六年から六十四年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十六年の一月一日の朝、見よ、レーマン人は目を覚まし、見よ、アマリキヤが彼の天幕の中で死んでいるのを発見した。また彼らは、テアンクムがその日彼らと戦う準備をしているのも見た。
2レーマン人はこれを見て驚き恐れ、北方の地へ進軍する企てを捨てて、全軍がミュレクの町へ退き、とりでにこもって守りを固めようとした。
3そして、アマリキヤの兄弟が民を治める王に選ばれた。その王の名はアモロンという。このようにアマリキヤ王の兄弟であるアモロン王が選ばれ、アマリキヤ王に代わって治めることになった。
4そしてアモロン王は、血を流して奪い取ったそれらの町を守り通すように民に命じた。彼らが多くの血を失わずに奪い取った町は一つとしてなかったからである。
5さて、テアンクムは、レーマン人がこれまでに奪い取ったそれらの町と、手に入れたそれらの土地を守り通そうと決意しているのを知り、また彼らの人数がおびただしいのを見て、とりでにこもっている彼らを攻撃しようとするのは得策ではないと思った。
6それでも彼は、戦う準備をしているかのように、兵をとりでの近くにとどめておいた。そして、実際はその間に方々に防壁を築き、身を隠す場所を用意

第52章
6① アル50・1−6、53・3−5

して、レーマン人の来襲を防ぐ準備を進めていた。
7 そして、彼が戦いの準備を続けていると、やがてモロナイからテアンクムの軍隊を強化する大勢の兵が送られてきた。
8 また、モロナイからテアンクムに、彼の手に落ちた捕虜は全員そのまま捕らえておくようにとの命令も届いた。レーマン人も大勢を捕虜にしていたので、レーマン人に捕らえられている人々と交換するために、レーマン人の捕虜を全員残しておく必要があったからである。
9 モロナイはまた、バウンティフルの地の防備を固めて北方の地に通じる地峡[1]を守り、レーマン人がその地点に達して四方からニーファイ人を攻め悩ます力を持たないようにすることをテアンクムに命じた。
10 さらにモロナイは彼に伝言を送り、忠実にその地域を守るように、またニーファイ人の手から奪い取られたそれらの町を、計略やそのほかの方法で再び取り返すことができるかもしれないので、できるかぎりあらゆる機会を求めてその地域でレーマン人を苦しめ悩ますように、さらに、レーマン人の手に落ちていない方々の町を防備を固めて強化するように求めた。
11 また、モロナイは彼に、「わたしはあなたのところに行きたいが、まことにレーマン人が西の海に近い境の地でわたしたちを攻めて来ており、まことに、わたしは彼らに立ち向かっているので、あなたのところへは行けない」とも述べた。
12 さて、(アモロン)王はゼラヘムラの地を去って、王妃に自分の兄弟の死について知らせ、大勢の兵を集めて、西の海に近い境の地でニーファイ人と戦うために軍隊を進めていた。
13 このようにして、彼はニーファイ人を休みなく攻めて、その地域にニーファイ人の軍の一部を引き寄せるようにした。その一方で、彼は以前に奪い取った町を守るために残してきた者たちにも、東の海に近い境の地でニーファイ人を休みなく攻め、兵力の及ぶかぎりできるだけニーファイ人の地を占領するように命じておいた。
14 ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十六年の終わりに、ニーファイ人はこのような危うい状況にあった。
15 しかし見よ、さばきつかさの統治第二十七年に

9
29①
アル22.32、モル2.

は、モロナイは南と西の境を守る軍隊の組織を終え、以前に失った町をテアンクムと彼の兵が取り返すのを助けるために、バウンティフルの地へ軍隊を進めた。

16さて、テアンクムは、ミュレクの町に攻撃を加えて、できればそこを取り返すようにという命令を受けていた。

17そこでテアンクムは、ミュレクの町に攻撃を加える準備をし、軍隊を率いてレーマン人に攻めかかる準備を整えた。しかし、レーマン人がとりでの中にいる間は打ち負かせないことを知ったので、その計画を断念し、バウンティフルの町に引き返してモロナイの到着を待ち、軍隊を増強することにした。

18そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十七年の末に、モロナイが軍隊を率いてバウンティフルの地に到着した。

19また、第二十八年の初めに、モロナイとテアンクムと多くの連隊長たちが作戦会議を開き、レーマン人を外に出して戦わせるにはどうすればよいか、また何らかの方法で彼らをとりでから誘い出し、彼らより優位に立って再びミュレクの町を取り返すにはどうすればよいかを協議した。

20そして彼らは、ミュレクの町を守っているレーマン人の軍隊に、すなわちヤコブという名の彼らの指揮官に使者を送り、軍隊を率いて出て来て二つの町の間の平原で戦いを交えるように求めた。しかし見よ、ゾーラム人であったヤコブは、軍隊を率いて出て来て平原で戦いを交えようとはしなかった。

21そこでモロナイは、対等の条件で彼らと戦いを交える望みを失ったため、策を用いてレーマン人をとりでから誘い出すことにした。

22彼はテアンクムに少数の兵を連れて海岸の近くを下って行かせた。また、モロナイと彼の軍隊は夜に紛れてミュレクの町の西方の荒れ野に進軍した。するとその翌朝、レーマン人の見張りの兵たちがテアンクムを見つけ、走って行って、そのことを自分たちの指揮官であるヤコブに知らせた。

23そして、レーマン人の軍隊は、テアンクムの兵の数が少なかったので自分たちの手勢で打ち負かせると思い、テアンクムに向かって進んで行った。そこでテアンクムは、レーマン人の軍隊が自分に向かって出て来たのを見て、海岸の近くを北方に退却し始

めた。

24さて、レーマン人は、彼が逃げ出したのを見て勇み立ち、勢いよく彼らを追った。また、テアンクムが無駄な追跡をして来るレーマン人をこのように誘い出している間に、見よ、モロナイは自分が率いていた軍の一部に、町に入ってそこを占領するように命じた。

25そこで彼らは、町に入ってそこを占領し、町を守るために残っていたすべての者、すなわち武器を引き渡そうとしないすべての者を殺した。

26このようにしてモロナイは、自分の軍の一部をもってミュレクの町を手に入れるとともに、自分はテアンクムの追跡から戻って来るレーマン人と戦いを交えるために、残りの兵を率いて進軍した。

27さて、レーマン人はテアンクムを追跡し、ついにバウンティフルの町の近くまでやって来た。そして、彼らはそこで、バウンティフルの町を守るために残っていたリーハイと少数の軍隊に出会った。

28さて見よ、レーマン人の連隊長たちは、リーハイが彼の軍隊を率いて向かって来るのを見たとき、自分たちがミュレクの町に帰り着く前にリーハイに追いつかれるのではないかと大慌てで逃げ出した。彼らは行軍のために疲れているのに、リーハイの兵たちは元気であったからである。

29さて、このときレーマン人は、モロナイが彼の軍隊を率いて彼らの後方に迫っていたのを知らず、ただリーハイとその兵だけを恐れていた。

30ところでリーハイは、モロナイとその軍隊に出会うまで、彼らに追いつこうとしなかった。

31そしてレーマン人は、遠くへ退く前にニーファイ人に取り囲まれてしまった。一方にはモロナイの兵、もう一方にはリーハイの兵がいて、どちらも皆、元気で力に満ちあふれていた。それに引き替え、レーマン人は長い行軍で疲れ切っていた。

32そこで、モロナイは兵に、彼らが武器を引き渡すまで攻撃を続けるように命じた。

33さて、レーマン人の指揮官ヤコブはゾーラム人[1]であり、不屈の精神を持っていたので、レーマン人を率いてモロナイに向かって猛烈な戦いを仕掛けてきた。

34モロナイがレーマン人の行く手を遮っていたので、ヤコブはモロナイの兵を殺し、道を切り開いて

33
① アル31・12

ミュレクの町へ帰ろうと決意したのであった。しかし見よ、モロナイとその兵の方が強く、レーマン人に道を譲らなかった。

35そして彼らは、どちらも非常に激しく戦った。そして、双方ともに多くの者が殺され、モロナイは負傷し、ヤコブは死んだ。

36また、リーハイが屈強な兵を率いて激しくレーマン人の後方を攻め立てたので、後方のレーマン人は武器を引き渡した。また残りの者たちもひどくうろたえ、どこへ行けばよいのか、どこを攻めればよいのか分からない有様であった。

37それでモロナイは、彼らがうろたえているのを見て、「もし武器を持って進み出て、それを引き渡すならば、おまえたちの血を流すのをやめよう」と彼らに告げた。

38さて、レーマン人がこの言葉を聞くと、まだ殺されていないその連隊長たちは皆進み出て、武器をモロナイの足もとに投げ出し、兵たちにも同じようにすることを命じた。

39しかし見よ、そうすることを望まない者も多かった。そこで、剣を引き渡そうとしない者たちは捕らえられて縛られ、武器を取り上げられた。そして、彼らの仲間とともにバウンティフルの地へ引っ立てられて行った。

40捕らえられた捕虜の人数は、殺された者の数よりも、まことに両軍の殺された者の数よりも多かった。

第53章

レーマン人の捕虜はバウンティフルの町の防備を固めるために働かされる。ニーファイ人の中の不和がもとで、レーマン人が勝利を得る。ヒラマン、アンモンの民から出た二千人の青年の指揮を執る。紀元前約六十四年から六十三年に至る。

1さて、ニーファイ人は捕虜のレーマン人を見張る番兵を置き、その捕虜たちにレーマン人の死体と、殺されたニーファイ人の死体とを葬らせた。モロナイは、彼らが働いている間彼らを見張る兵を置いた。

2またモロナイは、リーハイとともにミュレクの町へ行き、その町の指揮権を掌握し、それをリーハイ

に与えた。見よ、このリーハイは、モロナイが戦闘に出るときにはほとんどいつも彼とともにいた人で、モロナイに似た人物であった。[1]そして、二人は互いの無事を喜び合い、また互いに愛し合い、ニーファイの民も皆この二人を愛していた。

3さて、レーマン人は同胞の死体とニーファイ人の死体を葬り終えると、バウンティフルの地へ連れ戻された。それからテアンクムは、モロナイの命令によって彼らにその地、もっと正確に言えばその町、バウンティフルの町の周りに堀を築く作業を開始させた。

4またテアンクムは、彼らに堀の内土手の上に木材で[1)]胸壁を築かせ、さらにその胸壁に堀から上げた土を盛らせた。このようにニーファイ人はレーマン人を働かせて、ついにバウンティフルの町を木材と土から成る非常に高い丈夫な防壁で囲んだ。

5この町は、それ以来非常に堅固なとりでとなった。そして、彼らはこの町の中で、すなわち捕虜のレーマン人の手で築かせた防壁を持つこの町の中で、捕虜たちを見張ったのであった。レーマン人が働いている間は彼らを見張るのは容易であり、またレーマン人に攻撃を仕掛けるのに全軍が欲しかったので、モロナイはどうしてもレーマン人を働かせなければならなかった。

6そしてモロナイは、レーマン人の中で最強の軍隊の一つに勝利を収め、またニーファイの地におけるレーマン人の最も堅固なとりでの一つであるミュレクの町を手に入れたのである。そして、捕虜を抑留するとりでも一つ築いたのであった。

7さて、彼はその年にはもうレーマン人と戦いをしようとせずに、兵を使って戦争の準備をし、レーマン人を防ぐためのとりでを築き、ニーファイ人の女子供を飢饉と苦難から救い、またニーファイ人の軍隊のために兵糧の備えをした。

8さて、ニーファイ人の中に大きな陰謀が企てられて彼らの中に不和が生じたため、モロナイが出かけて不在になった間に、西の海に近い南方のレーマン人の軍隊がニーファイ人に対して多少優勢になり、その地方でニーファイ人の町をまとめて占領した。

9このようにして、ニーファイ人は自分たちの罪悪のために、すなわち自分たちの中の不和と陰謀のために、最も危険な状況に陥った。

第53章
2①アル48・16—17
4①アル50・2—3

10 さて見よ、アンモンの民について少々述べておかなければならない。アンモンの民は初めはレーマン人であったが、アンモンとその同僚たちによって、いや、神の力と言葉によって主を信じるようになった。そして彼らは、ゼラヘムラの地に連れて来られ、それ以来ニーファイ人によって守られてきた。
11 また彼らは、誓いを立てていたので、同胞に対してこれまで武器を取らなかった。彼らは、これからはもう決して血を流さないと誓いを立てていたからである。したがって、もしアンモンとその同僚たちが彼らに示した同情と深い愛情がなければ、彼らは自分たちの誓いのために滅ぼされていたであろう。すなわち、甘んじて同胞の手に落ちていたことであろう。
12 このようなわけで、彼らはゼラヘムラの地に連れて来られ、ニーファイ人によって守られてきたのである。
13 しかし、彼らは自分たちのためにニーファイ人が危険に遭い、多くの苦難と艱難を負っているのを見て申し訳なく思い、自分たちの国を守るために武器を取りたいと願った。
14 しかし見よ、彼らはまさに武器を取ろうとしたときに、ヒラマンやその同僚たちの説得を受けて心を翻した。このようにヒラマンたちが彼らを説得したのは、彼らが以前に立てた誓いをまさに破ろうとしていたからである。
15 ヒラマンは、彼らがそうすることによって滅びることになりはしないかと懸念したのである。このようにして、以前にこの誓いを立てたすべての人は、当時の危うい状況の中で彼らの同胞が何とか苦難を切り抜けるのを見ているほかなかった。
16 しかし見よ、彼らには多くの息子たちがおり、その息子たちは武器を取って敵を防ぐことはしないという誓いをまだ立てていなかった。そこで、彼らの中で武器を取ることのできる者は皆このときに集まり、自分たちをニーファイ人と呼んだ。
17 そして彼らは、ニーファイ人の自由のために戦うという、つまり自分たちの命を捨ててでも国を守るという誓いを立てた。また、自分たちの自由を決して放棄することなく、ニーファイ人と自分たちが奴隷の状態に陥らないようにするために、どのような場合でも戦うと誓った。

---

10 ① アル27・24－26
② アル23・8－13
11 ① アル24・17－19
12 ① アル27・23
13 ① アル56・7
14 ① GS「誓い」
② 民数30・2
17 ① アル56・47、GS「自由」

18さて見よ、この誓いを立てて、国を守るために武器を取った青年たちは、二千人であった。19見よ、この青年たちは、これまで一度もニーファイ人にとって負担となったことがなく、この度も大いなる助け手となった。彼らは武器を取り、ヒラマンが自分たちの指揮官になることを願った。20彼らは皆、青年であって、非常に1)勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは託されたことは何であろうと、いつでも2)誠実に果たす者たちであった。21まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに1)歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。22そしてヒラマンは、西の海に近い南方の境の地にいる人々を支援するために、この1)二千人の若い兵士を率いて行った。23このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十八年が終わった。

第54章

アモロンとモロナイ、捕虜の交換を交渉する。モロナイ、撤兵して残忍な攻撃をやめるようレーマン人に要求する。アモロン、武器を捨ててレーマン人に服従することをニーファイ人に要求する。紀元前約六十三年。

1さて、さばきつかさの統治第二十九年の初めに、1)アモロンは捕虜を交換することを求めて、使者をモロナイに送ってきた。2そして、モロナイはこの要請を非常に喜んだ。というのは、捕虜のレーマン人を養うのに使っている食糧を自分の民を養うのに充てたいと思い、また民を返してもらって自分の軍隊を増強したいとも思っていたからである。3ところで、レーマン人は多くの女子供を捕らえていたが、モロナイのすべての捕虜、すなわち、モロナイが捕らえていた捕虜の中には女と子供はいなかった。そこでモロナイは、できるだけ多くのニーファイ人の捕虜をレーマン人から取り返すために、一つの策を講じることにした。4それでモロナイは手紙をしたため、自分に手紙を持って来てくれたアモロンの部下にそれを託した。

20① GS「勇敢・勇気」
21①② GS「高潔」
22① GS「歩む（神とともに）」
第54章
1① アル52・3

彼がアモロンに書いた言葉は次のとおりである。
5「アモロンよ、見よ、あなたがわたしの民に仕掛けたこの戦争、いや、あなたの兄弟[1]がわたしの民に仕掛け、あなたが兄弟の死後もなお続けようとしているこの戦争について、わたしは以前に少しあなたに書き送ったことがある。
6見よ、わたしは、神の[1]正義と神の激しい怒りの剣について、少しあなたに告げたい。あなたがたが悔い改めて、軍隊をあなたの土地、すなわち、あなたの所有地であるニーファイの地に撤退させなければ、神の激しい怒りの剣があなたのうえに迫るであろう。
7まことに、もしこれらのことを聴く度量があなたにあるならば、まことにわたしはあなたに告げたい。すなわち、あなたがたが悔い改めて残忍なもくろみを捨て、軍隊を率いて自分の土地へ帰らなければ、あの恐ろしい[1]地獄があなたやあなたの兄弟のような[2]殺人者を迎え入れようと待ち受けていることを、あなたに告げたい。
8しかし、あなたはかつてこれらのことを拒み、主の民に敵対して戦ったので、わたしはあなたがまたそのようにするであろうと思う。
9さて見よ、我々にはあなたがたを迎え撃つ用意ができている。また、あなたは自分のもくろみを捨てなければ、あなたが拒んだあの神の激しい怒りを自分の身に受け、完全な滅亡を被るであろう。
10あなたがたが撤退しなければ、主が生きておられるように確かに、我々の軍隊はあなたがたに攻め上り、あなたがたは間もなく死に見舞われるであろう。我々は自分たちの町と土地を保有し、また自分たちの宗教と神の大義を守るつもりだからである。
11しかし見よ、これらのことをあなたに述べても無駄であるとわたしには思われる。また、あなたは地獄の子であるようにわたしには思われる。したがってわたしは、手紙を結ぶに当たって告げる。一人の捕虜に対して男一人とその妻とその子供たちを引き渡すという条件に同意しなければ、わたしは捕虜の交換をしない。もしあなたがたがそのようにするならば、交換をしよう。
12見よ、もしあなたがたがこれを行わなければ、わたしは軍隊を率いてあなたがたを攻めるつもりである。まことに、わたしは女たちと子供たちを武装さ

5①　アル48・1
6①　GS「正義」
7①　GS「地獄」
②　アル47・18、22−24、
11①　GS「殺人」
ヨハ8・42−44

せてあなたを攻め、1)我々の最初の受け継ぎの地である現在のあなたがたの地までも追って行こう。そして、血には血を、命には命を求めよう。そしてわたしは、あなたがたが地の面から滅ぼし去られるまで戦おう。

13 見よ、わたしは怒っており、わたしの民も怒っている。あなたがたはこれまで我々を殺そうとしてきたが、我々は防衛にのみ努めてきた。しかし、もしあなたがたがこれ以上我々を滅ぼそうとするならば、我々もあなたがたを滅ぼすようにしよう。そして、我々は自分たちの土地、すなわち我々の最初の受け継ぎの地を手に入れるであろう。

14 これでわたしは手紙を結ぶ。わたしはモロナイであり、ニーファイ人の民の指揮官である。」

15 さて、アモロンはこの手紙を受け取ると腹を立て、モロナイに手紙をもう一通書いた。彼が書いた言葉は次のとおりである。

16 「わたしはレーマン人の王、アモロンであり、おまえたちが殺したアマリキヤの兄弟である。見よ、1)こころわたしはおまえたちに、兄弟の血の報復をするつもりである。またわたしは、おまえの脅迫など恐れないので、軍隊を率いておまえたちを攻めよう。

17 見よ、おまえの先祖は自分の兄たちを不当に扱った。1)統治権は正当にはその兄たちのものであったのに、おまえの先祖はそれを兄たちから奪った。

18 さて見よ、もしおまえたちが武器を捨てて、統治権の正当な所有者の統治に服するならば、そのとき、わたしも民に武器を捨てさせ、もう決して戦争をさせないようにしよう。

19 見よ、おまえはわたしとわたしの民に脅迫の言葉をたくさん吐いたが、我々はおまえの脅迫を恐れない。

20 しかしながら、わたしは喜んでおまえの求めるとおりに捕虜を交換することを認め、食糧をわが軍の兵たちのために蓄えておくようにしよう。そして、我々はニーファイ人が我々の権威に服従するまで、そうでなければ、ニーファイ人を永遠に絶滅させるまで、いつまでも戦争を続けよう。

21 また、我々が拒んだとおまえの言うその神についてであるが、見よ、我々はそのような者を知らないし、おまえにも分かるはずがない。しかし、もしそのような者がいるとすれば、その者はおまえだけで

12① 2ニフ5・5−8
16① アル51・34
17① 2ニフ5・1−4、モサ10・12−17

なく、我々をも造ったことになる。
22また、もし悪魔がおり、地獄があるとすれば、わたしの兄弟を殺したうえに、彼はそのような場所に行ったとほのめかすおまえたちも、悪魔によってそこへ送り込まれ、わたしの兄弟とともにそこで住むことにならないだろうか。しかし、これらのことはどうでもよい。
23わたしはアモロンであって、おまえの先祖によって無理やりにエルサレムから連れ出されたゾーラムの子孫である。
24そして見よ、今やわたしは勇敢なレーマン人である。見よ、この戦争はレーマン人が受けた不当な扱いの報復をし、レーマン人の統治権を守り、手に入れるために行われてきたものである。これでモロナイにあてた手紙を結ぶ。」

第55章

モロナイ、捕虜を交換することを断る。レーマン人の番兵たちは誘いに負けて酔っ払い、捕虜のニーファイ人は解放される。ギドの町は血を流すことなく取り返される。紀元前約六十三年から六十二年に至る。

1さて、モロナイはこの手紙を受け取ると、アモロンが彼自身の欺瞞[1]をよくよく承知しているのを知り、またニーファイの民と戦争をするのが正当な動機によるものではないことも承知しているのを知り、ますます怒った。
2そして、彼は言った。「見よ、わたしが手紙の中で述べたように、もしアモロンが彼のもくろみを捨てなければ、わたしは彼と捕虜の交換をしない。彼がこれまで得てきた力以上に大きな力を持つことを、彼に認めるつもりはないからである。
3見よ、わたしは、レーマン人が捕虜にしたわたしの民をどこで見張っているのか、その場所をよく知っている。手紙に記したわたしの要求をアモロンが認めようとしないので、見よ、わたしは、自分の言葉のとおりに彼に行おう。まことに、彼らが和平を求めるまで彼らの中に死を求めよう。」
4さて、モロナイはこの言葉を語り終えると、自分の兵の中にレーマンの子孫に当たる者がいるかもしれないと思い、兵の中を調べさせた。
5そして、レーマンという名の者が見つかった。この者はアマリキヤによって殺された王の僕の一人で

23① 1ニフ4・31—35
第55章
1① アル47・12—35
1① アル47・29
5① アル47・29

あった。
6そこでモロナイは、レーマンと自分の少数の兵を、ニーファイ人を見張っている番兵たちのところへ行かせた。
7ニーファイ人はギドの町に囚われていたので、モロナイはレーマンを任命し、少数の兵を彼とともに行かせた。
8そして、夜になってレーマンがニーファイ人を見張っている番兵たちのもとへ行くと、見よ、彼らはレーマンがやって来るのを見て、彼に呼びかけた。そこで、レーマンは彼らに言った。「怖がるな。わたしはレーマン人だ。我々はニーファイ人のもとから逃げ出して来た。ニーファイ人は今眠っている。だから、ぶどう酒を手に入れて持って来た。」
9さて、レーマン人はこの言葉を聞くと、喜んで彼を迎え入れ、「ぶどう酒を我々にも飲ませてくれ。我々は疲れているので、このようにおまえがぶどう酒を持って来てくれたことはうれしいことだ」と彼に言った。
10ところがレーマンは、「ニーファイ人に向かって戦いに出るまで我々のぶどう酒は取っておこう」と彼らに言った。しかしこの言葉は、そのぶどう酒を飲みたいという彼らの気持ちを募らせるばかりであった。
11そして、彼らは言った。「疲れているから、今そのぶどう酒を飲もう。そのうちに配給のぶどう酒が来る。ニーファイ人に向かって行く力はそれでつけることにしよう。」
12そこで、レーマンは彼らに、「思うとおりにするがよい」と言った。
13そこで彼らは、ぶどう酒をふんだんに飲んだ。しかも、彼らの味の好みに合っていたので、彼らはなおさらふんだんに飲んだ。ところが、そのぶどう酒は濃く造られていたので、強かった。
14そして彼らは、飲むといい気持ちになり、やがて全員酔っ払ってしまった。
15さて、レーマンと兵たちは、番兵たちが全員酔ってぐっすり眠っているのを見て、モロナイのもとに引き返して事の次第をすべて報告した。
16これはモロナイの計画のとおりであり、モロナイは兵たちに武器を持たせて準備を整えていた。そして、レーマン人が酔って熟睡している間に、ギドの

町へ行って町に武器を投げ込み、捕虜たちに渡した。そこで捕虜は皆武装した。

17 モロナイが捕虜を全員武装させたとき、武器を使える者は、女や子供に至るまで全員が武装した。これらのことはすべてまったく静かに行われた。

18 しかし、たとえレーマン人を起こしたとしても、見よ、レーマン人は酔っていたので、ニーファイ人は彼らを殺すことができたであろう。

19 しかし見よ、それはモロナイが願っていたことではなかった。彼は殺人や流血を喜ばず、自分の民を滅亡から救うことを喜びとしていた。そして彼は、不当な行為を働くことができなかったので、レーマン人が酔っている間に彼らを襲って殺すことは望まなかった。

20 それでも彼は、自分の願いを達していた。彼は町の城壁の内側にいる捕虜のニーファイ人を武装させ、城壁内の町を手に入れる力を彼らに与えていたからである。

21 それから彼は、自分の率いる兵を彼らから一歩退かせて、レーマン人の軍隊を包囲させた。

22 さて見よ、これは夜間に行われたので、朝レーマン人が目を覚まして見ると、外側はニーファイ人が包囲しており、内側では捕虜たちが武装していた。

23 このようにして彼らは、ニーファイ人が自分たちを打ち負かす力を得ているのを知った。このような状況の中で、彼らはニーファイ人と戦うのは得策ではないのを知ったので、彼らの連隊長たちは武器の引き渡しを命じた。そこで彼らは、武器を持って来てニーファイ人の足もとに投げ出し、連隊長たちは哀れみを請うた。

24 さて見よ、これはモロナイが願っていたことであった。そこでモロナイは、彼らを捕虜にして、その町を占領し、捕虜になっていたニーファイ人を全員解放した。そしてこれらの人々は、モロナイの軍隊に加わり、彼の軍隊にとって大きな力となった。

25 そして、彼は捕虜にしたレーマン人に、ギドの町の周囲の防備を強固にする仕事を始めさせた。

26 そして彼は、自分の望みどおりにギドの町の防備を固め終えると、捕虜たちをバウンティフルの町へ連れて行かせた。そして、彼はまた非常に強力な軍隊でその町を守った。

27 そして、レーマン人の陰謀が何度かあったにもか

19①アル48・16
25①アル53・3−5

かわらず、彼らはそれまでに捕らえたすべての捕虜を見張って守り、また取り返したすべての土地を守り通し、優位を保ち続けた。

28そしてニーファイ人は、再び勝利を収めるようになり、自分たちの権利と特権を取り戻し始めた。

29レーマン人は何度も夜に紛れてニーファイ人を包囲しようとしたが、その度に彼らは、多くの者を捕虜として失った。

30また彼らは、ニーファイ人にぶどう酒を飲ませて毒で殺すことや、酔わせて殺すことを何度も企てた。

31しかし見よ、ニーファイ人は、この苦難のときにすぐ主なる神を1)思い起こした。そのため、レーマン人のわなにかからなかった。彼らはまず捕虜のレーマン人の幾人かに飲ませてからでなければ、レーマン人のぶどう酒を飲もうとはしなかったのである。

32彼らはこのように用心したので、彼らの中には毒を飲まされた者は一人もいなかった。もしぶどう酒がレーマン人を中毒させるようであれば、それはニーファイ人をも中毒させるからである。このように、彼らはレーマン人の酒をすべて試したのであった。

33さて、モロナイは、モリアントンの町を攻撃するために様々な準備を整える必要があった。見よ、レーマン人が自ら骨折ってモリアントンの町の防備を固め、それが非常に堅固なとりでとなっていたからである。

34そして彼らは、絶えずその町に新たな軍隊と食糧を運び込んでいた。

35このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十九年が終わった。

第56章

ヒラマン、モロナイに手紙を送り、レーマン人との戦いの状況を詳しく述べる。アンテプスとヒラマン、レーマン人に大勝利を収める。ヒラマンの二千人の息子たちは奇跡的な力で戦い、一人も殺されない。第一節は紀元前約六十二年、第二―十九節は約六十六年、第二十―五十七節は約六十五―六十四年の出来事である。

1さて、さばきつかさの統治第三十年の初め、一月二日にモロナイはヒラマンから手紙を受け取ったが、それには彼がいる地方の民に関する事柄が述べられていた。

2ヒラマンが書いた言葉は次のとおりである。「戦時の艱難の中にあっても、主にあっても兄弟である、わたしの心から深く愛する兄弟、モロナイ殿。まことに、愛する兄弟、わたしはこの地方の戦況について少々お知らせしておきたいと思います。

3まことに、それは、アンモンがニーファイの地から連れて来た人々の息子たち二千人[1]のことについてです。御存じのように、アンモンが連れて来たこれらの人々は、わたしたちの先祖リーハイの長男であるレーマンの子孫です。

4わたしがあなたに彼らの言い伝えや不信仰について事細かに述べるまでもなく、あなたはこれらのことをすべて御存じです。

5ですから、この二千人の青年たちが武器を取り、わたしに彼らの指揮官になるように望んだこと、そしてわたしたちが自分の国を守るために出て行ったこと、これらのことだけあなたに申し上げれば十分です。

6そして、あなたはまた、彼らの先祖が交わした、同胞に対して武器を取って血を流すことはしないという聖約[1]についても御存じです。

7しかし、第二十六年に、彼らはわたしたちが彼らのために苦難と艱難に陥っているのを見て、わたしたちを援護するために、彼らが以前に交わした聖約を破って武器を取ろうとしました。

8しかし、わたしは神がわたしたちを強くしてくださるので、彼らが自分たちの立てた誓いを守るならばわたしたちはそれ以上苦しみを受けないであろうと思い、彼らが以前に交わしたこの聖約を破ることを認めませんでした。

9しかしまことに、わたしたちにとって非常にうれしいことが一つあります。第二十六年に、わたしヒラマンはこの二千人の青年たちを率いて、アンテプスを助けるためにユダヤの町へ進軍しました。このアンテプスは、あなたがその地の民の指揮官に任命した人です。

10そしてわたしは、アンテプスの軍隊にわたしの二千人の息子たち（彼らは息子と呼ばれるにふさわし

第56章
3:1 アルマ53:22
6:1 アルマ24:17−18
7:1 アルマ53:13−15

い人々です）を加えたので、アンテプスはその兵力を非常に喜びました。というのは、まことにレーマン人の軍隊によっておびただしい数の兵が殺され、彼の軍隊の兵の数が減っていたからです。このように大勢の人が殺されたことを、わたしたちは嘆き悲しまないではいられません。

11 にもかかわらず、わたしたちは、彼らが自分たちの国と神のために死んで、今幸せな状態にあるということで、自らを慰めることができます。

12 レーマン人はまた多くの捕虜を残しており、その全員が連隊長です。彼らはほかの者をだれ一人生かしておかなかったからです。彼らは今ニーファイの地にいると思います。殺されていなければそこにいます。

13 レーマン人が、そのように多くのわたしたちの勇敢な兵たちの血を流して支配権を得た町は、次のとおりです。

14 マンタイの地、すなわちマンタイの町、ゼーズロムの町、クメナイの町、アンテパラの町。

15 以上は、わたしがユダヤの町に着いたときにレーマン人が占領していた町です。またわたしは、アンテプスとその兵がユダヤの町の防備を固めるのに力を尽くしているのを見ました。

16 そして彼らは、町を守り抜くために昼は勇ましく戦い、夜は夜で苦労を重ねていたので、肉体も精神も疲れ切っていました。彼らはこのように、ありとあらゆるひどい苦難に耐えてきました。

17 また彼らは、この地で勝利を得るか、そうでなければ死のうと決意していたので、あなたにも十分に想像がつくと思いますが、わたしが連れて来たこの小さな軍隊、すなわちわたしの息子たちは、彼らに大きな希望と大きな喜びを与えました。

18 さて、レーマン人は、アンテプスが軍隊に援兵を得たのを知ると、アモロンの命令で、戦闘のためにユダヤの町に来るのを、すなわちわたしたちを攻めるのを禁じられました。

19 このようにして、わたしたちは主の恵みを受けました。というのは、もし彼らがこの弱い状態にあるわたしたちに攻め寄せていたら、わたしたちの小さな軍隊は恐らく滅ぼされていたことでしょう。しかし、このようにしてわたしたちは守られたのです。

20 彼らは、それまでに奪ってきた町を守るようにア

モロンから命じられたのです。このようにして、第二十六年が終わりました。第二十七年の初めに、わたしたちは自分たちの町と自分自身を守る準備を終えました。

21そしてわたしたちは、レーマン人が攻めて来てくれることを願いました。わたしたちは、とりでにこもっている彼らを攻撃することを望まなかったからです。

22そして、レーマン人が夜に紛れて、あるいは日中にでも、わたしたちのもとを通り過ぎて北方にあるほかの町に攻撃を加えるようなことがないよう、わたしたちはレーマン人の動きを見張るために方々に密偵を置きました。

23北方にあるそれらの町の人々には、レーマン人と交戦できるほどの力がないことをわたしは知っていたからです。したがって、もしレーマン人がそばを通り過ぎるようであれば、彼らを背後から攻めて、正面からの交戦と同時に、背後からも彼らを攻めたいと思っていました。そうすれば彼らを打ち負かせると思ったのですが、まことに、この望みはくじかれてしまいました。

24彼らは、あえて全軍でわたしたちのそばを通り過ぎようとはせず、また軍隊の一部でも、力が足りなくて負けるのを心配して通り過ぎようとしませんでした。

25また彼らは、あえてゼラヘムラの町に対して進軍することも、またシドンの源を越えてニーファイハの町へ向かうこともしませんでした。

26このように彼らは、以前に奪ったそれらの町を自分たちの軍隊で守ろうと決意していたのです。

27さて、この年の二月に、わたしの二千人の息子たちの父親から多くの食糧がわたしたちのもとに届きました。

28さらに、ゼラヘムラの地からわたしたちのもとに、二千人の兵も送られてきました。このようにして、わたしたちには一万人の兵と、この兵たちとその妻子たちのための食糧が備わりました。

29レーマン人は、このようにわたしたちの軍隊が日々増大し、またわたしたちの支えである食糧が届くのを見て恐れ始め、できればわたしたちにもう食糧と兵力を得させないようにしようということで、出撃して来るようになりました。

30わたしたちは、レーマン人がこのように次第に不安になり始めたのを知ると、彼らに一つの策を講じたいと思いました。そこでアンテプスの命を受け、わたしはあたかも食糧を運んでいるところであるかのように、若い息子たちとともに近隣のある町へ出かけて行くことになりました。

31わたしたちはアンテパラの町の近くを、あたかも海岸に近い地方にあるその先の町へ向かっているかのように進むことになりました。

32そして、食糧を運んでその町へ向かっているかのように進軍しました。

33そしてアンテプスも、町を守るために彼の軍隊の一部を残し、残りの兵とともに進軍しました。しかし、わたしが自分の若い軍隊とともにアンテパラの町に近づくまで、彼は進軍しませんでした。

34アンテパラの町には、レーマン人の最強の軍隊が最大の規模で配備されていました。

35さて彼らは、密偵から知らせを受けると、軍隊を出し、わたしたちに向かって進んで来ました。

36そこでわたしたちは、彼らの前を北方へ逃げました。このようにしてわたしたちは、レーマン人の最も強い軍隊を連れ出したのです。

37まことに、かなり遠くまで連れ出しました。彼らは、アンテプスの軍隊が全力で追って来るのを知ると、右にも左にも曲がらず、まっすぐにわたしたちを追って来ました。今思うに、彼らはアンテプスに追いつかれる前にわたしたちを殺し、わたしたちの民に取り囲まれることのないようにしようと考えたようです。

38アンテプスは、わたしたちが危ういのを見て、行軍の速度を増しましたが、しかしまことに、夜になってしまいました。そのため、レーマン人はわたしたちに追いつかず、アンテプスもレーマン人に追いつかなかったので、わたしたちは夜の間野営しました。

39そして、夜明け前に、レーマン人はまたわたしたちを追って来ました。しかしわたしたちは、彼らと戦えるほど強くなく、またわたしは若い息子たちを彼らの手に落としたくないと思ったので、そのまま行軍を続け、荒れ野へ向かいました。

40レーマン人は取り囲まれることを恐れて、あえて右にも左にも曲がらず、わたしも彼らに追いつかれ

るのを恐れて、右にも左にも曲がりませんでした。わたしたちは追いつかれれば抵抗できず彼らに殺され、彼らは逃れていたことでしょう。したがって、暗くなるまで、わたしたちは一日中荒れ野の中を逃げました。

41そして、また翌日夜が明けると、わたしたちはレーマン人が追って来るのを見て、彼らの前から逃げました。

42ところが、彼らはわたしたちを遠く追わないうちに立ち止まりました。それは七月三日の朝のことでした。

43わたしたちには、アンテプスが彼らに追いついたのかどうか分かりませんでしたが、わたしは兵たちに言いました。『見よ、彼らは我々に攻撃をさせ、我々をわなにかけて捕らえるために止まったのかもしれない。

44したがって、わたしの息子たちよ、あなたがたはどうだろうか。彼らと戦うつもりがあるか。』

45愛する兄弟、モロナイ殿。わたしは申し上げます。わたしはこれまでこのような大いなる勇気[1]を一度も見たことがありません。ニーファイ人の中にはないことでした。

46わたしがいつも彼らを（皆、非常に若かったので）わたしの息子たちと呼んできたように、彼らもわたしに、『父よ、まことに、神はわたしたちとともにいて、わたしたちが敗れることのないようにしてくださいます。ですから、出て行きましょう。もしわたしたちの同胞が仕掛けてこなければ、わたしたちは彼らを殺しません。彼らがアンテプスの軍隊を打ち負かすことのないように、わたしたちは行きましょう』と言いました。

47彼らはまだ一度も戦ったことがありませんでしたが、死を恐れませんでした。そして彼らは、自分の命よりも父親たちの自由[1]のことを考えていました。彼らは母親[2]から、疑わなければ神が救ってくださると教わっていたのです。

48そして彼らは、わたしに母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません』と言いました。

49そこで、わたしたちを追って来たレーマン人と戦うために、わたしは二千人の兵とともに引き返しました。すると、アンテプスの軍隊が彼らに襲いかか

45 ① アルマ53・20−21
47 ① アルマ53・16−18
② アルマ57・21、GS「母」

り、激しい戦いが始まっていました。
50しかも、アンテプスの軍隊はそのようなわずかな
日時で長い道のりを進んだことで疲れており、まさ
にレーマン人の手に落ちようとしていたところでし
た。もしわたしが二千人の兵とともに引き返さなけ
れば、レーマン人は彼らの目的を達していたことで
しょう。
51アンテプスと彼の指揮官たちの多くが、行軍が速
かったために疲れ果てて、すでに剣に倒れていたか
らです。そしてアンテプスの兵たちは、指揮官たち
が倒れたことでうろたえ、レーマン人の前から退
却を始めました。
52そこでレーマン人は勇み立ち、彼らを追撃し始め
ました。このように、レーマン人が激しい勢いで彼
らを追撃していたときに、ヒラマンが二千人の兵と
ともにレーマン人の背後から攻めかかり、彼らを大
いに殺し始めたのです。そこでレーマン人の全軍は
立ち止まって、今度はヒラマンに向かいました。
53するとアンテプスの民は、レーマン人が向きを転
じたのを見て自分たちの兵を集め、再びレーマン人
の背後を攻めました。
54そして、わたしたちニーファイの民、すなわちア
ンテプスの民とわたしとわたしの二千人の兵がレー
マン人を取り囲み、彼らを殺したので、彼らは仕方
なく武器を引き渡し、捕虜となりました。
55さて、彼らがわたしたちに降伏したので、わたし
はともに戦ってきた青年たちが大勢殺されたのでは
ないかと心配になり、彼らの人数を数えました。
56ところがまことに、非常にうれしいことに、彼ら
の中で地に倒れた者は[1]一人もいませんでした。彼ら
はまるで神の力を得たかのように戦いました。この
ように奇跡的な力で戦った人はこれまでに一人もい
ません。彼らはレーマン人が肝をつぶすほどの大い
なる力で彼らに攻めかかり、そのために、レーマン
人は降伏して捕虜になりました。
57また、そこには捕虜をレーマン人の軍隊から遠ざ
けて見張っておける場所がなかったので、わたした
ちは殺されなかったアンテプスの兵の一部を付け
て、彼らをゼラヘムラの地に送りました。そして、
残りの兵はわたしが率いて若いアンモン人[1]に加え、
ユダヤの町に引き返しました。」

56 ① アル 57・25、58・39
57 ① アル 27・26、53・10—11、16

第57章

ヒラマン、アンテパラの奪回と明け渡しと、クメナイの防御について述べる。アンモン人の青年たち、勇敢に戦う。全員が負傷するが、一人も死なない。ギド、捕虜のレーマン人の殺害と逃亡について報告する。紀元前約六十三年。

1 「さて、わたしは王のアモロンから手紙を受け取りましたが、それは、もしわたしたちが捕らえた捕虜を引き渡すならば、アンテパラの町をわたしたちに譲り渡そうというものでした。

2 しかし、わたしは王に手紙を送り、わたしたちの軍隊には自力でアンテパラの町を取り返す力があると確信しているので、捕虜と町を交換するのは賢明ではないと思う、したがって、捕虜同士を交換するときにのみ捕虜を引き渡すつもりである、と告げました。

3 するとアモロンは、捕虜の交換はしたくなかったので、わたしの手紙での申し出を拒絶しました。そこでわたしたちは、アンテパラの町を攻める準備を整えました。

4 ところが、アンテパラの民はその町を去り、彼らが支配していたほかの町へ逃げて行き、それらの町の防備を固めました。このようにして、アンテパラの町はわたしたちの手に落ちました。

5 このようにして、さばきつかさの統治第二十八年が終わりました。

6 さて、第二十九年の初めに、わたしたちはゼラヘムラの地と周辺の地から、食糧と六千人の援兵を受け、またほかにアンモン人の[1]息子たち六十人が彼らの同胞、すなわち二千人から成るわたしの小さな軍隊に加わりました。そしてまことに、わたしたちは強くなり、また食糧もたくさん補給されました。

7 そこでわたしたちは、クメナイの町を守るために配置されている軍隊と一戦交えたいと思いました。

8 さて、まことに、わたしたちがやがて自分たちの望みを遂げたことをあなたに明らかにしたいと思います。まことにわたしたちは、クメナイの町の者が食糧を受け取ることになっていた少し前から、わたしたちの強い軍隊をもって、いや、わたしたちの強い軍隊の一部をもって、夜その町を包囲しました。

9 そしてわたしたちは、幾晩もその町の周囲で野営

第57章
6 ① アル53・16–18

しました。しかしわたしたちは、夜に紛れてレーマン人に襲われ、殺されることのないように、剣を身に着けたまま眠り、また見張りの兵を置きました。それでも彼らは、何度も襲撃を試みて、その度に彼らの血が流されたのでした。

10そのうちにやっと彼らの食糧が到着し、レーマン人は夜に紛れて町に入ろうとしました。ところが、わたしたちはレーマン人ではなくニーファイ人であったので、彼らを捕らえ、彼らの食糧を奪いました。

11しかしレーマン人は、このようにして補給を断たれたにもかかわらず、なおもその町を守り通そうと決意していました。そこでわたしたちは、それらの食糧を運んでユダヤに送り、また捕虜はゼラヘムラの地に送る必要がありました。

12そして、それほど多くの日数がたたないうちに、レーマン人は救援を得られる望みをすっかり失い、その町をわたしたちの手に明け渡しました。このようにして、わたしたちはクメナイの町を手に入れる計画を達成しました。

13しかし、捕虜の数が甚だ多かったので、わたしたちの兵の数が非常に多かったにもかかわらず、わたしたちは彼らを見張るのに全軍を用いるか、そうでなければ彼らを処刑するかしなければなりませんでした。

14というのは、まことに彼らは大勢で逃げ出し、石やこん棒や、そのほか手に入るものを何でも手に取って戦おうとしたからです。そのために、彼らが降伏して捕虜になった後、わたしたちは彼らの中の二千人以上を殺しました。

15そのようなわけで、わたしたちは彼らの命を取るか、そうでなければ剣を手にしたまま彼らをゼラヘムラの地へ護送して行くことが必要になりました。そのうえ、わたしたちが以前にレーマン人から奪った食糧があったにもかかわらず、食糧はわたしたちの軍隊にも十分ではありませんでした。

16そのような危うい状況の下で、この捕虜たちについて判断を下すことは非常に重大な問題となりました。にもかかわらず、彼らをゼラヘムラの地へ送ることにしました。そして、兵の一部を選んで捕虜を見張る任務を彼らに与え、ゼラヘムラの地へ下って行かせました。

17 ところがその翌日、彼らは戻って来ました。しかし、わたしたちは彼らに捕虜のことを尋ねませんでした。まことに、わたしたちはそのときレーマン人に攻められており、彼らはちょうどよいときに戻って来て、わたしたちがレーマン人の手に落ちるのを救ってくれたからです。というのは、まことに、レーマン人を支援するために、アモロンが新たな食糧と大勢の兵を送ってきたからでした。
18 そして、わたしたちが捕虜に付けて送り出した兵たちは、わたしたちがまさにレーマン人に負かされようとしたときに、ちょうど折よく到着して彼らを食い止めてくれたのです。
19 しかしまことに、二千六十人の兵から成るわたしの小さな軍隊は必死に戦い、まことに、彼らはレーマン人の前に確固として立ちはだかり、向かって来るすべての者を殺しました。
20 わたしたちの軍隊のほかの兵たちがレーマン人の前から退却しようとしていたときに、まことにその二千六十人の兵は確固としており、ひるみませんでした。
21 まことに、彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めたのです。そして、実に彼らの信仰に応じて、そのようになりました。そのことでわたしは、彼らが母親[1]たちから教わったと言ってわたしに話してくれた言葉を思い出しました。
22 わたしたちがこの大勝利を収めたのは、実にわたしのこの息子たちと、選ばれて捕虜を護送して行ったその兵たちのおかげです。レーマン人を打ち負かしたのは、これらの兵たちでした。そしてレーマン人は、マンタイの町へ追い返されました。
23 わたしたちはクメナイの町を守り、全員が剣で滅ぼされることは避けられたものの、それでもわたしたちは大きな損害を被っていました。
24 さて、レーマン人が逃げ去った後、わたしはすぐに、負傷した兵を死者の中から連れ出すように命令を下し、彼らの傷の手当てをし、包帯をさせました。
25 さて、わたしの二千六十人の兵のうち、二百人が失血のために意識を失っていました。にもかかわらず、神の慈しみによってだれ[1]一人死なずに済んだことは、わたしたちにとってまったく驚きであり、またわたしたち全軍の喜びでもありました。彼らの中には傷をたくさん負わなかった者は一人もいません

21 ① アル 56・47－48
25 ① アル 56・56

でした。
26彼らが守られたのは、わたしたち全軍にとって驚きでした。千人の同胞が殺されながら、彼らは命を救われたのです。それは神の奇跡を起こす力によったものと考えざるを得ません。彼らは信じるように教えられたことを深く信じていたので、すなわち、公正な神がましますことと、疑わない者はだれでも神の驚くべき力によって守られるということを深く信じていたので、それが起こったのです。
27わたしの述べてきたこれらの者たちは、これを信じていました。彼らは若いながらも考えはしっかりしていて、絶えず神に頼っています。
28さて、このように味方の負傷兵の世話を終え、味方の死者と多くのレーマン人の死者を葬り終えた後、わたしたちはギドに、彼らがゼラヘムラの地へ連れて行った捕虜たちのことを尋ねました。
29ギドは、その地に彼らを護送して行くように任命された軍隊の連隊長でした。
30ギドがわたしに述べた言葉は、次のとおりです。『まことに、わたしたちは捕虜を連れてゼラヘムラの地へ下って行くために出発しました。すると途中で、レーマン人の軍を見張るために遣わされていたわたしたちの軍の密偵たちに出会いました。
31ところが、彼らはわたしたちに向かって、「レーマン人の軍がクメナイの町へ向かって進んでいる。彼らはクメナイの町にいる者を襲い、わたしたちの民を滅ぼすつもりだ」と叫んだのです。
32そこで捕虜たちは、彼らの叫び声を聞いて勇み立ち、わたしたちに対して暴動を起こしました。
33さて、彼らが暴動を起こしたので、わたしたちは剣で彼らを討ちました。彼らが一団となってわたしたちの剣を目がけて走り寄って来たため、わたしたちは彼らの大半を殺しました。しかし、残りの者たちはわたしたちを押し分けて逃げて行ってしまいました。
34まことに、彼らが逃げてしまい、追いつけなかったので、わたしたちはクメナイの町へ向かって急いで進み、まことに、ちょうどよいときに到着して、町を守っていた同胞を助けることができました。
35まことにわたしたちは、敵の手からまた救い出されました。わたしたちの神の御名がほめたたえられますように。まことに、わたしたちの神はわたした

26
②①
GS GS
「力」
「信仰」

ちを救い出し、まことに、わたしたちのためにこのような大いなることを行ってくださいました。』

36さて、わたしヒラマンはギドのこの言葉を聞くと、わたしたちを守ってわたしたち全員が滅びることのないようにしてくださっている神の慈しみを思い、非常な喜びに満たされました。またわたしは、これまでに殺された人々の霊がすでに神の[1]安息に入っているものと信じています。」

第58章

ヒラマンとギドとテオムナー、策を用いてマンタイの町を取り返す。レーマン人、撤退する。アンモンの民の息子たち、しっかりと立って自分たちの自由と信仰を擁護するときに守られる。紀元前約六十三年から六十二年に至る。

1「さて、まことに、わたしたちの次の目標は、マンタイの町を手に入れることでしたが、わたしたちの小さな軍隊ではどうしてもレーマン人をその町から誘い出せませんでした。彼らはわたしたちがこれまでに行ったことを覚えていたため、彼らをとりでからおびき出せませんでした。[1]

2また、彼らがわたしたちの軍隊よりもはるかに大勢であったので、わたしたちはあえて出て行って、とりでにこもっている彼らを攻撃しませんでした。

3また、わたしたちは、これまでに取り返した土地を守り通すために兵を使うことが必要になり、ゼラヘムラの地からもっと多くの援兵と新たな食糧が届くのを待たなければなりませんでした。

4そこでわたしは、国の総督のもとに使者を送って、わたしたちの民の状況について知らせました。そしてわたしたちは、ゼラヘムラの地から食糧と援兵が来るのを待ちました。

5しかしまことに、レーマン人も日々多くの援兵と多くの食糧を得ていたので、これは、わたしたちにとってあまり得にはなりませんでした。当時のわたしたちの状況は以上のとおりでした。

6またレーマン人は、策を巡らしてわたしたちを滅ぼそうとして、時々出撃して来ました。しかし、彼らには待避所ととりでがあったので、わたしたちは彼らと戦うことができませんでした。

7そしてわたしたちは、難しい状況の下で何か月

36① アル12・34
第58章
1① アル52・21、56・30

も待ち、とうとう食糧の欠乏で飢え死にしそうになりました。

8 さて、わたしたちを援助するために来た二千人の兵から成る軍隊に守られて、食糧が届きました。しかし、わたしたちが自分自身と国とを敵の手に落ちないように守り、おびただしい数の敵と戦うために受け取った援助は、ただこれだけでした。

9 このような苦しい事態に至った原因、すなわち、なぜ彼らがわたしたちにもっと多くの援兵を送ってくれなかったのか、その理由はわたしたちには分かりません。そのため、わたしたちは心を痛め、また何らかの手段で神の裁きがわたしたちの国に下って、わたしたちが打ち倒され、完全に滅ぼされてしまうのではないかという恐れでいっぱいになりました。

10 そこでわたしたちは、心を神に注ぎ出して祈り、わたしたちを強めてくださるように、また敵の手から救ってくださるように、さらにわたしたちの民を支えるために、わたしたちの町と土地と所有物を取り返す力をわたしたちに与えてくださるようにとお願いしました。

11 そして、主なるわたしたちの神は、わたしたちを救うという保証を与えてくださいました。わたしたちの霊に平安を告げ、わたしたちに大いなる信仰を授け、また主によって解放されるという望みをわたしたちに抱かせてくださったのです。

12 そこでわたしたちは、少数ながら援兵を得たことに勇気を奮い起こし、敵を打ち破って、わたしたちの土地と所有物と妻子と自由の大義を守ろうと固く決意しました。

13 このようにしてわたしたちは、マンタイの町にいるレーマン人と戦うために全勢力を注いで出て行き、その町に近い荒れ野のそばに天幕を張りました。

14 その翌日、レーマン人はわたしたちが町に近い荒れ野のそばの境の地にいるのを見ると、わたしたちの軍隊の兵数と兵力を知るために、わたしたちの周りに何人もの密偵を送ってきました。

15 そして密偵の調べで、わたしたちが兵数のうえで強力でないのが分かると、彼らは、出撃して戦ってわたしたちを殺さなければ自分たちへの支援が断たれるに違いないと恐れ、また自分たちの大軍で容易にわたしたちを滅ぼせると思い、わたしたちを攻

12 ①②GS「自由」アル46・12−13、モル2・23

撃する用意を始めました。
16彼らが攻撃の用意をしているのを知り、まことに、わたしはギドを少数の兵とともに荒れ野の中に隠れさせ、またテオムナーと少数の兵も荒れ野の中に隠れさせました。
17ギドと彼の兵は右側に、ほかの者たちは左側にいました。彼らがこのように隠れてしまうと、まことに、わたしは最初に天幕を張ったその同じ場所にわたしの軍隊の残りの兵とともにとどまり、レーマン人が攻めて来るのを待ちました。
18そこでレーマン人は、わたしたちに向かって大軍で攻めて来ました。そして、彼らが攻めて来て、わたしたちに剣でまさに襲いかかろうとしたとき、わたしは率いていた兵を荒れ野に退却させました。
19そこでレーマン人は、何としてでも追いついてわたしたちを殺したいと思ったので、猛烈な速さでわたしたちの後を追い、荒れ野に入って来ました。わたしたちはギドとテオムナーの真ん中を通り抜けたため、彼らはレーマン人に気づかれませんでした。
20さて、レーマン人が通り過ぎると、すなわちその軍隊が通り過ぎると、ギドとテオムナーは隠れていた場所から立ち上がり、レーマン人の密偵たちが町に帰れないように彼らの帰路を断ちました。
21そして、ギドとテオムナーと兵たちは密偵たちの帰路を断ってから町に走って行き、その町を守るために残っていた見張りの兵たちに襲いかかって、彼らを殺し、町を占領しました。
22これは、レーマン人が少数の見張りの兵を残して全軍を荒れ野に誘い出されてしまったために起こったことでした。
23そしてギドとテオムナーは、レーマン人のとりでを手に入れました。一方、わたしたちはしばらく荒れ野の中を逃げた後、ゼラヘムラの地の方向に進路を取りました。
24するとレーマン人は、ゼラヘムラの地に向かって進んでいるのに気づき、自分たちを滅亡に誘い込むために練られた計略があるのではないかと非常に恐れました。そこで彼らは再び荒れ野に戻り、やって来た同じ道を引き返しました。
25そしてまことに夜になり、彼らは天幕を張りました。レーマン人の連隊長たちは、ニーファイ人も行軍で疲れ切っていると思ったからです。また彼ら

は、すでにニーファイ人の全軍を追い払ってしまっ
たと思い、マンタイの町のことは少しも考えません
でした。
26 さて、夜になると、わたしは兵を眠らせずに、別
の道からマンタイの地へ向かわせました。
27 そして、わたしたちは夜の間行軍したため、まこ
とに、翌日にはレーマン人よりはるかに先になり、
彼らよりも早くマンタイの町に着きました。
28 そして、この策によってわたしたちは血を流すこ
となくマンタイの町を占領しました。
29 そして、レーマン人の軍隊は町の近くに到着し、
わたしたちが彼らと戦いを交える用意をしているの
を見て非常に驚き、またひどい恐怖を覚えて、荒れ
野の中へ逃げて行きました。
30 そして、レーマン人の軍隊は、この地方の全域か
ら逃げ出しました。しかしまことに、彼らはこの地
から多くの婦人たちと子供たちを連れ去ってしまい
ました。
31 かつてレーマン人に奪われた町[1]は、現在すべてわ
たしたちの所有下にあります。そして、わたしたち
の父親たちと婦人たちと子供たちは、捕虜になって
レーマン人に連れ去られた人々を除いて、全員各自
の家へ帰っているところです。
32 しかしまことに、わたしたちの軍隊は、そのよう
に多くの町とそのようにたくさんの領土を守り通す
には小さすぎます。
33 それでもまことに、わたしたちは、それらの土地
でわたしたちに勝利を得させ、かつて所有していた
それらの町と土地を取り返させてくださった神に頼
っています。
34 わたしたちには、政府がもっと多くの援兵を送っ
てくれない理由が分かりません。わたしたちのもと
に来た兵たちも、どうしてわたしたちにもっと援兵
が送られなかったのか、その訳を知りません。
35 まことに、あなたの方が首尾よくいっておらず、
そちらの地方に軍隊を退却させなければならなか
ったのかもしれません。もしそうであれば、わたし
たちはつぶやきたくありません。
36 また、もしそうでなければ、政府の中に何らか
の対立[1]があり、彼らはわたしたちを援助する兵をこ
れ以上送ってこないのではないかと、わたしたちは
懸念しています。なぜならば、すでに派遣されてき

31 ① アル 56・14
36 ① アル 61・1—5

た兵よりももっと多くの兵がいることを、わたしたちは知っているからです。

37しかしまことに、それはどうでもよいことです。わたしたちの軍隊が弱くても、神がわたしたちを救い、敵の手から救い出してくださることを信じています。

38まことに、今は第二十九年の末で、わたしたちは自分たちの土地を所有しており、レーマン人はニーファイの地へ逃げました。

39わたしが前に大いにほめたたえたアンモンの民の息子たちは、今わたしと一緒にマンタイの町にいます。主は彼らを力づけ、剣で倒されないように守ってくださったので、[1]一人も殺されませんでした。

40しかしまことに、彼らは多くの傷を負いました。それでも彼らは、神が自分たちを自由な者にしてくださったその自由にしっかりと立っています。そして彼らは、日々主なる神をよく覚え、まことに、主の掟と裁決と戒めをいつも守るように努めており、将来起こることについての預言を深く信じています。

41愛する兄弟、モロナイ殿。わたしたちを贖い、自由にしてくださった主なるわたしたちの神が、いつもあなたを御前にとどめてくださいますように。また、主がこの民に恵みを授けてくださり、かつてレーマン人がわたしたちから奪った生活に必要なすべてのものを、あなたがたが首尾よく取り返すことができますように。まことに、これでわたしの手紙を結びます。わたしはアルマの子、ヒラマンです。」

第59章

モロナイ、ヒラマンの軍隊を強化するようにパホーランに要請する。レーマン人、ニーファイ人の町を奪う。モロナイ、政府に腹を立てる。紀元前約六十二年。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十年に、モロナイはヒラマンの[1]手紙を受け取って読むと、その幸いを、すなわち、以前に失った土地を得るのにヒラマンが大きな成功を収めたことを非常に喜んだ。

2また、彼は自分の民にも喜んでもらおうとして、自分のいるその地方の全域ですべての民にそれを知らせた。

3そして彼は、すぐに[1]パホーランに[2]手紙を書き、ヒ

37① 列下17・38−39
39① アル56・56
40① GS「自由」
第59章
1① アル56・1
3① アル50・40
② アル60・1−3

ラマンがそのように奇跡的に首尾よく取り返した地方を容易に守り通せるように、ヒラマンを、いや、ヒラマンの軍隊を強化するために兵を集めるように依頼した。

4 そして、その手紙をゼラヘムラの地へ送ると、モロナイは、レーマン人がニーファイ人から奪った領土と町の中でまだ取り返していない分を手に入れるために、再び策を練り始めた。

5 さて、モロナイがこのようにレーマン人を攻める準備をしている間に、モロナイの町、リーハイの町、モリアントンの町から集まったニーファイハの民が、レーマン人から攻撃を受けた。

6 まことに、マンタイの地とその周辺の地から追われた者たちが、この地方のレーマン人のもとに来て合流していた。

7 このようにして、彼らは非常に人数が多くなったうえに、日々援兵を得たので、アモロンの命令によってニーファイハの民を攻め、彼らに対して大変な殺戮を始めたのである。

8 彼らの軍隊が非常に大軍であったので、ニーファイハの民の中で生き残った者たちは仕方なく彼らの前から逃げ出し、モロナイのもとへやって来て彼の軍隊に加わった。

9 ところでモロナイは、ニーファイハの町にすでに兵が送られていて、その町を守り通すために民を助ける任務に就いているものと思っており、またレーマン人の手に落ちないように町を守ることの方が、それを彼らから取り返すことよりも容易であるのを知っていたので、ニーファイハの町の民が容易にその町を守り通せると思った。

10 そこで彼は、自分が取り返した所を何か所も守るために、自分の全軍を用いていた。

11 モロナイは、ニーファイハの町を失ったことを知って非常に嘆き、またニーファイ人が民の悪のために同胞の手に落ちてしまうのではないかと危ぶみ始めた。

12 これは彼の連隊長たちも皆同じであった。彼らも民の悪を危ぶみ、驚いた。それは、レーマン人がニーファイハの町の民に勝ったからである。

13 そしてモロナイは、政府が国の自由を守るのに冷[1]淡であるということで、彼らに腹を立てた。

13①
13 アル58・34、61・2

第60章

モロナイ、政府が軍隊に心を配らないことについてパホーランを非難する。主は義人が殺されるのをそのままにしておかれる。ニーファイ人は敵を防ぐためにあらゆる力と手段を用いなければならない。モロナイ、自分の軍隊に援助が与えられなければ政府を敵として戦うと脅す。紀元前約六十二年。

1 さて、モロナイは国の総督であるパホーランに再び手紙を書いた。彼が書いた言葉は次のとおりである。「わたしはゼラヘムラの町にいる大さばきつかさであり国の総督であるパホーランと、またこの戦争の諸事を統轄し取り仕切るためにこの民によって選ばれたすべての方々にあてて、この手紙を記します。

2 さてまことに、これらの方々に語って非難したいことが少々あります。まことに、あなたがた自身御存じのように、あなたがたは兵を集め、彼らを剣と三日月刀とあらゆる武器で武装させ、またレーマン人がわたしたちの国に入って来る所に派遣して彼らと戦わせる、そのような職に任命されています。

3 そこでまことに、あなたがたに申しますが、わたし自身もわたしの兵も、ヒラマンも彼の兵も、とてもひどい苦難を受けてきました。飢えや渇き、疲労、そのほかあらゆる苦難を味わってきました。

4 しかしまことに、わたしたちの受けたのがこれだけであれば、わたしたちはつぶやかず、不平も言わなかったでしょう。

5 ところがまことに、わたしたちの民の受けた殺戮はひどく、すでに数千人が剣に倒れています。もしわたしたちの軍隊に十分な援兵と援助を与えてくれていたら、このようにはならなかったかもしれません。まことに、あなたがたはわたしたちのことをないがしろにしています。

6 今まことに、わたしたちは、このように甚だしくないがしろにされた理由を知りたいと思います。あなたがたが無頓着な状態にある理由を知りたいと思います。

7 敵があなたがたの周囲で死の業を繰り広げているのに、あなたがたは考えもなくぼんやりとした状態で座に着いていられると思うのですか。まことにその間に、彼らはあなたがたの同胞を何千人も殺して

第60章
1① アル50・39−40

いるのです。

8まことに、あなたがたの同胞はあなたがたの保護を頼りにし、自分たちを救う地位にあなたがたを任じました。まことに、自分たちのもとに軍隊を派遣して自分たちを強化し、数千の人々が剣に倒されるのを救える、そのような地位にあなたがたを任じたのです。

9しかしまことに、それだけではありません。あなたがたは彼らに食糧を送りませんでした。それでも、多くの人はこの民の幸いを深く望んでいたので、戦いに出て血を流し、命を失いました。彼らは飢え死にしそうになりながらも、このようにしたのです。あなたがたが彼らを甚だひどく軽視したからです。

10愛する兄弟たち、あなたがたは愛されるようにすべきであり、またこの民の幸いと自由のために、もっと熱心に務めるべきでした。しかしまことに、あなたがたは彼らに心を配らなかったので、将来数千人の血が、報復を求めてあなたがたの頭に降りかかることでしょう。まことに、彼らの嘆願と彼らの苦しみを、すべて神は御存じだからです。

11まことに、あなたがたは、これからも自分は座に着いていることができ、神の深い慈しみのおかげで何もすることなく神によって救われると考えることができるでしょうか。まことに、そのように考えているのであれば、それはむなしいことです。

12非常に多くの同胞が殺されたのは彼らの悪のためであると、あなたがたは思っているのですか。あなたがたに申します。もしそのように考えているのであれば、それはむなしいことです。あなたがたに申しますが、剣で殺された人々は大勢おり、まことに、あなたがたはそのために罪の宣告を受けるでしょう。

13主は御自分の罰と裁きを悪人に下せるように、義人が殺されるのをそのままにしておかれます。したがって、あなたがたは、義人が殺されても捨てられたと思うには及びません。まことに、彼らは主なる神の安息に入るのです。

14さてまことに、ここであなたがたに申しますが、わたしは神の裁きが一部の人々のひどい怠慢のために、すなわち、わたしたちの政府の怠慢のために、また同胞である殺された者たちを彼らが甚だひどく

9① アルマ58・7
12① ルカ13・1—5
13① アルマ14・10—11、教義42・46—47

軽視したために、この民に下るのではないかと非常に懸念しています。

15わたしたちの国の指導者から始まった1)悪がなければ、わたしたちは敵を防ぐことができ、わたしたちを支配する権力を決して彼らに得させなかったでしょう。

16まことに、もしわたしたち自身の中に起きた1)内戦がなかったならば、またわたしたち自身の中にあれほど多くの流血を引き起こした2)王政党の者たちがいなければ、またわたしたちの中に争いのあったときに、これまで行ってきたようにわたしたちが力を合わせていたならば、また王政党の者たちがわたしたちを支配する権力と権能を得ようと望まなかったならば、また彼らがわたしたちに対して武器を取って、非常に多くの流血をわたしたちの中に引き起こすことなく、自由の大義に誠実であり、わたしたちと結束し、敵と戦っていたならば、そしてわたしたちが主の力をもって敵と戦っていたならば、わたしたちは敵を追い散らしていたでしょう。主の御言葉のとおりにそれは成るからです。

17しかしまことに、今レーマン人はわたしたちの土地を占領し、わたしたちに攻め寄せています。彼らはわたしたちの民を剣で殺し、まことに女や子供さえも殺し、また女と子供を捕らえて連れて行き、あらゆる苦難を彼らに負わせています。これは権力と権威を求めている者たち、すなわちあの王政党の者たちのひどい悪事のせいです。

18しかしわたしは、このことをどうしてくどくどと言えましょうか。あなたがたも権威を求めていないとは言い切れないからです。あなたがたも国賊でないとは言い切れません。

19それとも、あなたがたがわたしたちのことを心にかけず、わたしたちに食糧を送らせず、またわたしたちの軍隊を強める兵も派遣させないのは、あなたがたが国の中央部にいて、周りが安全なためなのですか。

20あなたがたは、主なる神の戒めを忘れたのですか。まことに、あなたがたは先祖が囚われの身にあったことを忘れたのですか。わたしたちが幾度も敵の手から救われたことを忘れたのですか。

21それとも、わたしたちが座に着いているまま、主から与えられた手段を利用しないでいて、主がそれ

15① アルマ51・9、13
16① アルマ51・16—19
16② アルマ51・5、8

でもなおわたしたちを救ってくださると思っているのですか。

22まことに、境の地の至る所で、何千もの人々が剣に倒れて傷つき、血を流しているのに、あなたがたは、何もせずに座している何千何万の者たちに囲まれたまま、自分も何もせずに座しているつもりですか。

23あなたがたはただじっと座してこれらのことを見ていて、神があなたがたを罪のない者と見なしてくださるとでも思っているのですか。まことに、わたしはあなたがたに、そのようなことはないと申します。神がかつて、『まず器の内側[1]を清めなさい。それから器の外側も清めなさい』と言われたことを、忘れないようにしてほしいと思います。

24ところで、あなたがこれまで行ってきたことを悔い改め、立ち上がって行動を起こし、わたしたちとヒラマンに食糧と兵を送り、ヒラマンがすでに取り返したわたしたちの国のあの地方を維持できるようにし、またわたしたちにもこの地方の領土の残りを取り返せるようにしてくれなければ、わたしたちはまず器の内側、すなわちわたしたちの政府の最高責任者を清め終えるまで、もはやレーマン人と戦わないのが得策でしょう。

25あなたがわたしの手紙による要請を聞き届け、まことの自由の精神をわたしに示し、わたしたちの軍隊を強化し堅固にする努力を払い、軍隊を養うための食糧を送ってくれなければ、まことに、わたしは自由党の者たちの一部を国のこの地方を守るために残し、また神の力と祝福を彼らに残してほかのいかなる力も彼らに及ばないようにしておきます。

26彼らの深い信仰と艱難の中での忍耐のゆえに、ほかの力は彼らに及びません。

27そして、わたしはあなたがたのもとへ行き、もしあなたがたの中に自由を求める者がいれば、まことに、自由の痕跡でも残っていれば、権力と権威を奪い取ることを願っている者たちが死に絶えるまで、わたしはあなたがたの中で謀反を扇動しましょう。

28まことに、わたしは、あなたがたの権力もあなたがたの権威も恐れません。わたしが畏れるのはわたしの神[1]です。わたしが国の大義を守るために剣を取ることは、神の命じられたことにかなっています。わたしたちがこのように多大の損害を被ったのは、

23① マタ23・25—26
25① アル51・6、61・15
28① 使徒5・26—29

あなたがたの罪悪のためです。

29まことに、もしあなたがたが自分たちの国と子供たちを守る努力を払わなければ、1)罰の剣があなたがたのうえに迫る時が今や近づいています。やがてそれはあなたがたのうえに落ち、あなたがたを討ってことごとく滅ぼすことでしょう。

30まことに、わたしはあなたがたからの援助を待っています。もしあなたがたがわたしたちの救援に必要なものを与えてくれなければ、わたしはあなたがたのもとへ、まことにゼラヘムラの地へ行って剣であなたがたを討ちます。したがってあなたがたは、この民が自由の大義を広めるのを妨げる力を二度と持てなくなるでしょう。

31まことに、あなたがたが生きていて罪悪を募らせ、主の義にかなった民を滅ぼすことを、主は許されません。

32まことに、レーマン人の憎悪のもとになったのは、彼らの先祖の言い伝えであり、それは、わたしたちから離反した者たちによって倍加されました。一方あなたがたの罪悪は、あなたがたが誉れと俗世のむなしいものに愛着して生じたものです。そうであるのにあなたがたは、主があなたがたの命を救い、レーマン人に対しては裁きを下されると考えられるでしょうか。

33あなたがたは、自分たちが神の律法に背いていることを承知しています。また、神の律法を足の下に踏みつけていることも承知しています。まことに、主はわたしに、『もしあなたがたが総督に選んだ者たちが、自分の罪と不義を悔い改めなければ、あなたがたは上って行って彼らと戦いなさい』と言われます。

34さてまことに、わたしモロナイは、以前に自分が交わした聖約に応じて、神の命じられたことを果たすように強く促されています。したがって、あなたがたが神の御言葉に従うこと、またあなたがたの食糧と兵をわたしとヒラマンのもとに速やかに送ることをわたしは願っています。

35まことに、もしあなたがたがこうしてくださらなければ、わたしは速やかにあなたがたのもとへ行きます。まことに、わたしたちが飢えのために滅びるのを、神は許されないからです。したがって、たとえ剣によってであろうと、神はわたしたちにあなた

29① 2・19 ヒラ13・5、3ニフ

がたの食糧をお与えくださるでしょう。今すぐに神の御言葉を実行に移すように手はずを整えてください。

36まことに、わたしはあなたがたの司令官、モロナイです。わたしは権力[1]を求めず、むしろそれを引き倒そうとしています。わたしは世の誉れを求めず、むしろ神の栄光とわたしの国の自由と幸いとを求めています。これでわたしの手紙を結びます。」

第61章

パホーラン、政府に対する謀反と反抗があることをモロナイに告げる。王政党の者たち、ゼラヘムラを奪い、レーマン人と同盟を結ぶ。パホーラン、謀反人たちと戦うために軍の援助を要請する。紀元前約六十二年。

1さて見よ、モロナイは総督に手紙を送った後、間もなくその総督であるパホーラン[1]から返事を受け取った。彼が受け取った言葉は次のとおりである。

2「この地の総督であるわたしパホーランは、軍の司令官モロナイにこの言葉を送ります。まことに、モロナイ殿、あなたに申しますが、わたしはあなたがひどい苦難[1]を受けていることを喜ばず、むしろ、そのことを深く悲しんでいます。

3しかしまことに、あなたの苦難を喜んでいる者たちがいます。まことに、彼らはわたしに、またわたしの民の自由党員[1]である人々に反抗して立ち上がりました。反抗して立ち上がった者はおびただしい数に上ります。

4わたしからさばきつかさの職を奪い取ろうとした者たちこそ、この大きな罪悪のもとになった者たちです。彼らは多くの甘言を用い、また多くの人の心を惑わしてきました。これは将来わたしたちの中にひどい苦難を生じる原因になることでしょう。彼らはわたしたちの食糧を差し止め、また自由党の人々の勇気をくじいたので、その人々はあなたのもとへ行けなかったのです。

5そしてまことに、彼らはわたしを追い出しました。そこでわたしは、集められるかぎりの多くの人を伴い、ギデオンの地に逃れました。

6またまことに、わたしは、国のこの地方の至る所に布告を出したので、まことに、人々は武器を取っ

36① 教義121・39—42
第61章
1① アル50・39—40
2① アル60・3—9
3① アル51・6—7

て自分たちの国と自分たちの自由を守るために、またわたしたちが受けた不当な仕打ちに報復するために、日々わたしたちのもとに群れを成して集まっています。

7そして、彼らがわたしたちのもとに来たので、わたしたちに謀反を起こした者たちは脅威を覚えてわたしたちを恐れ、あえてわたしたちに攻めて来ようとはしません。

8彼らはすでにゼラヘムラの地、すなわちその町を占領し、自分たちを治める王を選びました。そしてその王はレーマン人の王に手紙を書き、彼と同盟を結び、その同盟条約の中でゼラヘムラの町を守り通すことに同意しました。彼は、そこを守り通せばレーマン人が国の残りの部分を征服できると思い、またこの民が征服されてレーマン人の支配下に入るときには、自分がこの民を治める王に任じられると思っています。

9ところで、あなたは手紙の中でわたしをとがめましたが、それはどうでもよいことです。わたしは怒ってはおらず、むしろあなたの心の広さを喜んでいます。わたしパホーランは、民の権利と自由を守れるようにさばきつかさの職を保つこと以外、何の権力も求めません。わたしは、神がわたしたちを自由な者にしてくださったその自由にしっかりと立っています。

10ところでまことに、わたしたちは血を流してでも悪に抵抗するつもりです。もしレーマン人が彼らの国にとどまっているならば、わたしたちは彼らの血を流さないでしょう。

11わたしたちの同胞が謀反を起こさず、わたしたちに対して剣を取らなければ、わたしたちは同胞の血を流さないでしょう。

12もし神の公正によって必要とされるならば、または神がわたしたちにそうするようにお命じになるならば、わたしたちは奴隷のくびきを受けましょう。

13しかしまことに、神は敵に服従するようにとはわたしたちに命じられず、むしろ神に頼るように、そうすればわたしたちは救われると言われます。

14したがって、愛する兄弟モロナイ殿、悪を阻止しましょう。そして、言葉で阻止できない悪、すなわち謀反や離反のような悪は剣で阻止し、わたしたちの自由を保てるように、またわたしたちの教会の大

6(1) GS「自由」
9(1) ヨハ8・31−36、教義88・86
13(1) GS「信仰」「信頼」
14(1) アル43・47

きな特権と、わたしたちの贖い主、わたしたちの神の大義を喜べるようにしましょう。
15 したがって、少数の兵を率いてすぐにわたしのもとに来てください。残りの兵はリーハイとテアンクムにその指揮を託し、国のその地方で神の御霊、すなわち彼らの内にある自由の精神に応じて戦いを指揮できるように、彼らに力を与えておいてください。
16 まことに、わたしはすでに彼らに食糧を少し送っておいたので、あなたがわたしのもとに来るまで、彼らは死ぬことはないでしょう。
17 こちらに行軍する間に、できるだけ兵を集めてください。そしてわたしたちは、自分たちの内にある信仰により、神の力をもって速やかに離反者たちを攻めましょう。
18 そしてわたしたちは、リーハイとテアンクムに送る食糧をもっとたくさん手に入れるために、ゼラヘムラの町を占領しましょう。まことに、主の力をもって彼らと戦いましょう。そして、この大きな罪悪を根絶しましょう。
19 ところで、モロナイ殿、わたしはあなたの手紙を受け取って喜んでいます。わたしは、わたしたちのなすべきことについて、すなわち同胞と戦うことが正当かどうかについて少々思い悩んでいたからです。
20 ところがあなたは、彼らが悔い改めなければ彼らと戦うように主が命じられたと言いました。
21 主にあってリーハイとテアンクムを必ず強めるようにしてください。恐れないように彼らに告げてください。神は彼らを救い、また神が自由な者にしてくださったその自由にしっかりと立つ人々もすべて救ってくださるからです。これでわたしは愛する兄弟モロナイにあてたわたしの手紙を結びます。」

第62章

モロナイ、ギデオンの地にいるパホーランを助けるために進軍する。国を守ることを担む王政党の者たち、処刑される。パホーランとモロナイ、ニーファイハの町を取り返す。多くのレーマン人がアンモンの民に加わる。テアンクム、アモロンを殺し、また自分も殺される。レーマン人がその地から追い払われ、平和が確立される。ヒラマン、神の務めに戻り、教会を確

15① 2コリ3・17、「聖霊」GS
21① ゼカ10・12

立する。紀元前約六十二年から五十七年に至る。

1さて、この手紙を受け取ると、モロナイの心は奮い立ち、またパホーランが自分の国の自由と大義に背く者ではなく忠実であったので、非常に大きな喜びに満たされた。

2しかし同時に、パホーランをさばきつかさの職から追放した者たち、要するに、自分たちの国と神に背いた者たちの罪悪を非常に嘆かわしく思った。

3そこでモロナイは、パホーランの望むとおり少数の兵を伴い、軍隊の残りの兵に対する指揮権をリーハイとテアンクムに与えておいて、ギデオンの地に向かって進軍した。

4また彼は、行く先々のすべての地方で自由の旗を掲げ、ギデオンの地へ向かって進みながら、できるだけ多くの兵を集めた。

5そこで、何千もの人々が彼の旗の下に群れを成して集まり、奴隷にならないよう自由を守るために武器を取った。

6このようにして、モロナイは行軍中にできるだけ多くの兵を集めて、ギデオンの地にやって来た。そして、彼の軍隊とパホーランの軍隊が連合したので、彼らは非常に強力になり、ペーカスの兵よりも強くなった。このペーカスとは、ゼラヘムラの地から自由党[1]の人々を追い出してその地を占領した、あの離反者たちの王[2]である。

7そしてモロナイとパホーランは、軍隊を伴ってゼラヘムラの地へ行き、町を攻め、ペーカスの兵と相対して戦った。

8そして見よ、ペーカスは殺され、彼の兵は捕虜となり、パホーランは元のさばきつかさの職に戻った。

9ペーカスの兵は法律によって裁判を受け、また捕らえられて牢に入れられた王政党の者たちも、法律によって裁判を受けた。そして、彼らは法律によって処刑[1]された。まことに、ペーカスの兵と、王政党の者の中で国を守るために武器を取ろうとせず、むしろ国家に反抗して戦おうとした者たちは皆、だれであろうと処刑された。

10このように、国の安全のためにこの法律を厳しく執行することが必要になった。そして、人々の自由を阻んでいることが明らかになった者はだれであろ

第62章
1①　アル60・18
1②　GS「自由」
4①　アル46・12−13、36、GS「旗」
6①　アル51・5−7
6②　アル61・4−8
9①　GS「死刑」

うと、法律によって速やかに処刑された。

11 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十年が終わった。この年のうちに、モロナイとパホーランは自由の大義に忠実でないすべての者に死刑を科し、ゼラヘムラの地の彼ら自身の民の中に平和を回復した。

12 さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十一年の初めに、ヒラマンが国のその地方を守るのを助けるために、モロナイは彼のもとにすぐに食糧を送らせ、また六千人の兵から成る軍隊を派遣させた。

13 彼はまた、リーハイとテアンクムの軍隊にも十分な食糧とともに六千人の兵から成る軍隊を送った。これはレーマン人に対して国の防備を固めるために行われたことであった。

14 さて、モロナイとパホーランは、ゼラヘムラの地に大勢の兵を残しておいて、ニーファイハの町にいるレーマン人を打ち破ろうと決意し、大勢の兵を率いてニーファイハの地を指して進軍した。

15 そして彼らは、その地へ進軍しながら、途中でレーマン人の兵を大勢捕らえ、多くの者を殺し、また彼らの食糧と武器を奪った。

16 そして彼らは、これらの者を捕らえた後、二度とニーファイ人に対して武器を取らないという誓いを彼らに立てさせた。

17 そして、これらの者が誓いを立てると、彼らはこれらの者をアンモンの民とともに住めるように送り出した。このときに殺されなかった者は、およそ四千人であった。

18 さて、彼らはこれらの者を送り出してしまうと、ニーファイハの地を指して進軍を続けた。そして、ニーファイハの町に着くと、町に近いニーファイハの平原に天幕を張った。

19 モロナイは、レーマン人が出て来て平原で戦うことを望んだ。しかしレーマン人は、モロナイの兵が非常に勇敢であるのを知っており、また人数も非常に多いのを見たので、あえて出て来て戦おうとせず、その日は戦いがなかった。

20 夜になると、モロナイは暗闇の中を出て行き、城壁の上に登って、レーマン人が町のどこに軍隊を宿営させているかを探った。

21 さて、彼らは、東の方の入り口のそばにおり、全

員眠っていた。そこでモロナイは自分の軍へ引き返し、兵たちに急いで丈夫な縄とはしごを幾つも準備させた。城壁の上から内側に降ろすためであった。

22 そしてモロナイは、兵を出して城壁の上に登らせ、レーマン人が軍隊を宿営させていない町の西の方に彼らを降ろした。

23 そして彼らは皆、夜の間に丈夫な縄とはしごを使って町の中に降りたので、朝には、全員が町の城壁の内側に入っていた。

24 そしてレーマン人は目を覚まし、モロナイの軍隊が城壁の内側に入っているのを見ると、非常に驚き恐れ、間道を通って外へ逃げ出した。

25 モロナイは、彼らが自分の前から逃げるのを見て、兵を彼らに向かわせた。兵は多くの者を殺し、また多くの者を取り囲んで捕虜にした。そのほかの者たちは海岸に近い地方にあるモロナイの地へ逃げた。

26 このようにして、モロナイとパホーランは味方を一人も失うことなく、ニーファイハの町を手に入れた。しかし、レーマン人は多くの者が殺された。

27 さて、捕虜になったレーマン人の多くは、アンモンの民に加わって自由な民になることを願った。

28 そして、願った者は皆、願いどおりに認められた。

29 そこで、捕虜のレーマン人は皆、アンモンの民に加わって、土地を耕し、あらゆる穀物を栽培し、あらゆる家畜を飼い、大いに働き始めた。このようにしてニーファイ人は大きな重荷を取り除かれた。まことに、レーマン人のすべての捕虜の監視から解放されたのである。

30 さて、モロナイはニーファイハの町を手に入れ、多くの者を捕虜にしてレーマン人の軍隊を大いに減らし、また捕虜になっていたニーファイ人の多くを奪い返して自分の軍隊を大いに増強した後、ニーファイハの地からリーハイの地へ向かった。

31 そこでレーマン人は、モロナイが攻め寄せて来るのを見て、またもや肝をつぶし、モロナイの軍隊の前から逃げ出した。

32 そこで、モロナイと彼の軍隊は町から町へと彼らを追撃し、追われたレーマン人はリーハイとテアンクムに出会うことになった。そしてレーマン人は、リーハイとテアンクムからも逃げて海岸に近い地方へ逃れて行き、ついにモロナイの地に至った。

27① GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」

33 このようにして、レーマン人の軍隊はすべて集ま
り、モロナイの地で一団となった。レーマン人の王
アモロンも彼らとともにいた。
34 そして、モロナイとリーハイとテアンクムが彼ら
の軍隊を率いてモロナイの地の境一帯に陣を張っ
たので、レーマン人は南方の荒れ野によって、また
東方の荒れ野によって、その地に包囲されてしまっ
た。
35 この状態で、夜ニーファイ人は宿営した。見よ、
ニーファイ人もレーマン人も強行軍で疲れ切って
いたので、その夜は何の戦略も決めず、ただテアン
クムだけがそれを考えていた。彼はアモロンのこと
をひどく怒り、アモロンと彼の兄弟のアマリキヤこ
そがニーファイ人とレーマン人の間のこの長期の大
戦のもと[1]であり、このようにひどい戦争と流血と、
またこのようにひどい飢饉のもとであると考えた。
36 そしてテアンクムは、怒ってレーマン人の宿営に
入って行き、町の城壁を越えて下に降りた。そして
彼は、縄を持ってあちらこちらへ行き、ついに王を
捜し出した。そこで彼は、王をねらって投げ槍を投[1]
げ、心臓のそばを貫いた。しかし見よ、王が死ぬ前
に部下を起こしたので、テアンクムは彼らに追われ
て殺されてしまった。
37 さて、リーハイとモロナイは、テアンクムが死ん
だことを知って非常に悲しんだ。見よ、テアンクム
は自分の国のために勇ましく戦った人であり、自由
のまことの友であったからである。彼はこれまで非
常に多くのひどい苦難に耐えてきた。しかし見よ、
今は死んで、世のすべての人の行く道を行った。
38 そして翌日、モロナイは進軍してレーマン人を攻
め、モロナイの兵はレーマン人を大勢殺し、その地
からレーマン人を追い払った。そして、レーマン人
は逃げ出し、そのときには、戻って来てニーファイ
人と戦うことはしなかった。
39 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさ
の統治第三十一年が終わった。ニーファイ人は長年
の間、戦争と流血と飢饉と苦難に遭ってきたが、そ
れは以上のとおりである。
40 ニーファイの民の中には、殺人と争いと不和とあ
らゆる罪悪があった。それでも義人[1]がいたために、
まことに、義人の祈りのおかげで彼らは救われた。
41 しかし見よ、ニーファイ人とレーマン人の間の戦

35 ① アル 48・1
36 ① アル 51・33—34
40 ① アル 45・15—16

争が非常に長期に及んだため、多くの者がかたくなになった。戦争が非常に長期に及んだためにそうなったのである。しかし、苦難[1]を受けたために柔和になった者も多く、彼らは神の前に心底謙遜にへりくだった。

42 さて、モロナイは、レーマン人の攻撃をきわめて受けやすい何か所かの地方の防備を固め、それらの地方が十分堅固になると、ゼラヘムラの町へ帰った。また、ヒラマンも彼の受け継ぎの地へ帰った。そして、ニーファイの民の中に再び平和が確立された。

43 モロナイは、軍の指揮権をモロナイハという名の息子の手にゆだねた。そして彼は家に引きこもり、余生を安らかに送ることにした。

44 パホーランは元のさばきつかさの職に戻った。またヒラマンも、神の言葉を民に宣べ伝える務めに就いた。このように多くの戦争と争いがあったので、再び教会内の統一を図ることが必要になった。

45 そこで、ヒラマンと彼の同僚たちは出て行って、多くの人に各自の悪を自覚させるため、非常に力強く神の言葉を告げ知らせた。その結果、人々は罪を悔い改めてバプテスマを受け、主なる神の民となった。

46 そして、ヒラマンと彼の同僚たちは、全地の至る所に再び神の教会を確立した。

47 そして、法律について数々の条例[1]が定められた。また、民のさばきつかさたちと大さばきつかさたちが選ばれた。

48 ニーファイの民は再び地で栄え始め、増え始め、再び非常に力をつけるようになった。そして彼らは大変豊かになった。

49 しかし彼らは、富と力と繁栄を得たにもかかわらず、高慢な目をもって高ぶることなく、主なる神を忘れることもなく、主の前に深くへりくだった。

50 まことに彼らは、主が自分たちのためにどれほど大いなることを行ってくださったかを忘れず、主が自分たちを死から、束縛から、牢から、あらゆる苦難から救い出してくださったこと、また敵の手からも救い出してくださったことを忘れなかった。

51 そして彼らは、主なる神に絶えず祈ったので、主は御言葉のとおりに彼らを祝福された。そのため、彼らはその地で力をつけ、栄えた。

---

48 ①
47 ①
45 ①
41 ①

GS「逆境」
教義 18・44
モサ 29・39
アル 50・20

52さて、これらのことはすべて以上のとおりになった。そしてヒラマンは、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十五年に死んだ。

第63章

シブロンが聖なる記録を所有し、後にヒラマンが所有する。多くのニーファイ人が北方の地へ行く。ハゴス、何隻もの船を造り、それらの船は西の海に出る。モロナイ八、戦いでレーマン人を打ち破る。紀元前約五十六年から五十二年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十六年の初めに、1)シブロンは、アルマがヒラマンに渡した2)神聖な品々を所有することになった。

2シブロンは正しい人であって、神の前をまっすぐに歩んでいた。そして、絶えず善を行い、主なる神の戒めを守るように努めた。彼の兄弟もまた同様であった。

3さて、モロナイもまた死んだ。このようにして、さばきつかさの統治第三十六年が終わった。

4さて、さばきつかさの統治第三十七年には、ゼラヘムラの地から1)北方の地へ旅立った大きな一団があった。その一団は五千四百人の男たちと、彼らの妻子から成っていた。

5さて、ハゴスという人がおり、彼は非常に技量の優れた人であったので、出かけて行って、デソレシヨンの地に近いバウンティフルの地の境で一隻の非常に大きな船を建造し、それを西の海に進水させた。そこは北方の地へ通じている1)地峡の近くであった。

6そして見よ、多くのニーファイ人がそれに乗り込み、たくさんの食糧を持って船出した。多くの女と子供も一緒であった。そして、彼らは北方へ進路を取った。このようにして、第三十七年が終わった。

7第三十八年に、この人はほかにも何隻か船を建造した。最初の船が戻って来ると、また多くの人がそれに乗り込み、彼らもたくさんの食糧を持って再び北方の地へ出発した。

8そして、彼らの消息は絶えてしまった。思うに、彼らは海の深みに沈んでおぼれてしまったのであろう。また、ほかにも一隻が船出したが、それもどこへ行ったかわたしたちには分からない。

第63章
1 ①アル38・1−2
②アル37・1−12、GS「聖い」
4 ①アル22・31
5 ①アル22・32、エテ10・20

9 そして、この年に多くの人が北方[1)]の地へ行った。そして、第三十八年が終わった。
10 さて、さばきつかさの統治第三十九年に、シブロンも死んだ。コリアントンは、北方の地へ行った人々に食糧を届けるために船でその地へ出かけて行った。
11 そこでシブロンは死ぬ前に、ヒラマン[1)]の息子に神聖な品々を託さなければならなかった。ヒラマンのこの息子は、父の名にちなんで名付けられ、ヒラマンと呼ばれていた。
12 さて見よ、ヒラマンが所有した版に刻まれた記録[1)]は、[2)]公にしてはならないとアルマが命じた部分を除いて、すべて書き写されて全地の至る所の人の子らに送られた。
13 それでも、これらの品々は神聖に保ち、代々伝えなければならないので、この年に、シブロンが死ぬ前にヒラマンに託されたのである。
14 さて、この年にレーマン人のもとへ去って行った何人かの離反者がおり、レーマン人はまたそのかされてニーファイ人に対して怒った。
15 そしてこの同じ年に、彼らはモロナイハ[1)]の民、いや、モロナイハの軍隊と戦うために大軍で下って来た。しかし、彼らは打ち負かされ、大きな損害を受けて自分たちの国へ追い返された。
16 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十九年が終わった。
17 これで、アルマと、息子ヒラマンと、アルマの息子シブロンについての話は終わった。

9 (1) ヒラ 3・11−12
11 (1) 「ヒラマン書」の前書きを参照
12 (1) アル 18・36
(2) アル 37・27−32
13 (1) アル 37・4
15 (1) アル 62・43

ヒラマン書

ニーファイ人についての話。彼らの戦争と争いと、彼らの不和についての話。キリストの来臨前の、多くの聖なる預言者たちの預言についての話。ヒラマンの息子であるヒラマンの記録、および彼の息子たちの記録によるもので、キリストの来臨の時にまで至る。多くのレーマン人が改宗する。彼らの改宗についての記事。レーマン人の義、およびニーファイ人の悪事と忌まわしい行いについての記事。ヒラマンと彼の息子たちの記録によるもので、キリストの来臨の時にまで至る。この記録はヒラマン書と呼ばれる。

第1章

パホーラン二世、大さばきつかさになり、キシクメンに殺される。パクメナイ、さばきつかさの職に就く。コリアンタマー、レーマン人の軍隊を率いてゼラヘムラを奪い、パクメナイを殺す。モロナイハ、レーマン人を破り、ゼラヘムラを取り返す。コリアンタマー、殺される。紀元前約五十二年から五十年に至る。

1 さて見よ、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十年の初めに、ニーファイ人の民の中に一つの重大な問題が起こった。

2 見よ、[1]パホーランが死んで、世のすべての人の行く道を行ってしまったので、だれがさばきつかさの職に就くべきかについて、パホーランの息子たちである兄弟の中で深刻な争いが起こったからである。

3 さばきつかさの職のために争って、民をも争わせたこの兄弟たちの名は、パホーラン、パアンカイ、パクメナイという。

4 パホーランの息子はこの三人だけではない。（彼には多くの息子がいた。）しかし、さばきつかさの職のために争ったのはこの三人であり、彼らは民を三つの集団に分裂させてしまった。

5 それでも、パホーランが民の声によって大さばきつかさとなり、ニーファイの民を治める総督となるように任命された。

6 そしてパクメナイは、自分がさばきつかさの職を得られないことを知ると、民の声に同意した。

ヒラマン書 第1章
2 ① アル50・40
5 ① モサ29・26–29

7 しかし見よ、パアンカイと、彼が総督になることを願った民の一部の者たちは、非常に怒った。そのため彼は、その人々にへつらって、同胞に対して謀反を起こさせようとした。

8 そして彼は、まさにそれを実行しようとしたときに、捕らえられ、民の声によって裁かれ、死刑を宣告された。彼が謀反を起こし、民の[1]自由を損なおうとしたからである。

9 ところが、彼が総督になることを願った者たちは、彼に死刑が宣告されたことを知って怒った。そして彼らは、キシクメンという者をさばきつかさの職にあるパホーランのもとに遣わし、さばきつかさの席に着いているパホーランを殺した。

10 パホーランの従者たちはキシクメンを追いかけたが、キシクメンの逃げ足が非常に速かったので、だれも彼に追いつけなかった。

11 そして、彼は自分を行かせた者たちのところに帰り、彼らは全員誓いを立てた。すなわち、彼らはキシクメンがパホーランを殺したことをだれにも話さないと、自分たちの永遠の造り主にかけて誓ったのである。

12 そのためキシクメンは、パホーランを殺したときに姿を変えていたので、ニーファイの民に知られることはなかった。そしてキシクメンも、彼と誓った仲間も、見つかることのないように民の中に交じっていたが、見つかった者は皆、[1]死刑を宣告された。

13 さて見よ、パクメナイが民の声によって大さばきつかさとなり、民の総督となるように任命され、彼の兄弟パホーランに代わって治めることになった。それは彼の権利にかなっていた。これはすべてさばきつかさの統治第四十年にあったことであり、この年は終わった。

14 さて、さばきつかさの統治第四十一年に、レーマン人はおびただしい数の兵を集めて、剣と三日月刀、弓、矢、かぶと、胸当て、それにあらゆる盾で武装させていた。

15 そして彼らは、ニーファイ人と戦うためにまたもやって来た。彼らはコリアンタマーという名の男に率いられていた。この男はゼラヘムラの子孫であり、ニーファイ人からの離反者であって、大きな強い男であった。

16 それで、[1]アモロンの息子で名をツバロスというレ

8 ① GS「自由」
12 ① GS「死刑」
16 ① アル52・3

ーマン人の王は、コリアンタマーが強い男であり、彼の力と深い知恵でニーファイ人に立ち向かえると思ったので、彼を行かせてニーファイ人を支配する権力を得ようとした。

17そこでツバロスは、レーマン人を扇動して怒らせ、自分の軍隊を集め、コリアンタマーを軍隊の指揮官に任命して、ニーファイ人と戦うために彼らをゼラヘムラの地へ進軍させた。

18さて、ニーファイ人は、政府内に多くの争いと多くの問題があったので、ゼラヘムラの地に十分な見張りの兵を配置していなかった。彼らはレーマン人があえて自分たちの地の中央部に入って来て、この大きな町ゼラヘムラを攻撃することはないと思っていたからである。

19ところが、コリアンタマーは大軍を率いて進み、その町に住む者を襲ったのである。しかも、彼らの進軍が非常に速かったので、ニーファイ人は軍隊を集める暇がなかった。

20そのためコリアンタマーは、町の入り口の近くで警備兵を切り倒し、全軍を率いて町に入った。そして、彼らは手向かう者をすべて殺し、町全体を占領した。

21さて、大さばきつかさであったパクメナイは、コリアンタマーから逃れて町の城壁の所まで行った。しかし、そこで城壁に寄りかかった状態でコリアンタマーに討たれ、死んだ。このようにして、パクメナイの生涯は終わった。

22コリアンタマーは、ゼラヘムラの町が手に入ったのを見て、またニーファイ人がレーマン人の前から逃げ出し、殺され、捕らえられ、牢に入れられなどして、自分が全地で最も堅固なとりでの占領を終えたのを見て、心が奮い立ち、全地に向かって出て行こうとした。

23そして、彼はゼラヘムラの地に長居せず、大軍を伴ってバウンティフルの町に向かって進軍した。それは、進んで行って剣で道を切り開き、国の北部も手に入れようと決意していたからである。

24また彼は、ニーファイ人の軍隊の主力が国の中央部にいると思っていたので、ニーファイ人が幾つかの小さな軍隊に集まる以外に集まる暇のないように進軍した。このようにして、彼らはニーファイ人を攻め、地に切り倒したのであった。

25 しかし見よ、国の中央部を通ったこのコリアンタマーの進軍は、殺されたニーファイ人がおびただしい数に上ったにもかかわらず、彼らに対してモロナイハを非常に有利な立場に置くことになった。
26 見よ、モロナイハは、レーマン人があえて国の中央部に入って来ることはなく、これまで行ってきたように、境の地の方々の町を攻撃して来るであろうと思い、ニーファイ人の強い軍隊に境の地の方々を守らせていたからである。
27 しかし見よ、レーマン人は彼の願ったようには恐れず、国の中央部に入って来て首府であるゼラヘムラの町を奪い、国の最も重要な地方を経由して進みながら、男、女、子供の区別なく民を大勢殺し、多くの町と多くのとりでを占領した。
28 モロナイハはこれを知ると、彼らがバウンティフルの地へ達する前に遠回りして彼らの進路を断つため、すぐにリーハイを軍隊とともに派遣した。
29 そして、リーハイはそのように行った。彼はレーマン人がバウンティフルの地に達する前に、彼らの進路を断って攻撃したので、彼らはゼラヘムラの地へ向かって退却し始めた。
30 そこでモロナイハも、退却中の彼らの退路を断って攻撃した。そのため、非常に血なまぐさい戦いになった。まことに、多くの者が殺され、殺された者たちの中にコリアンタマーもいた。[1]
31 さて、レーマン人はあらゆる方向からニーファイ人に取り囲まれたので、北にも、南にも、東にも、西にも、どの方向にも退却できなかった。
32 このように、コリアンタマーがレーマン人をニーファイ人のただ中へ突入させたので、彼らはニーファイ人の手中に落ちて、コリアンタマー自身も殺されてしまった。そして、レーマン人はニーファイ人に降伏した。
33 そこでモロナイハは、ゼラヘムラの町を取り返し、捕虜になったレーマン人を安らかに国外へ去らせた。
34 このようにして、さばきつかさの統治第四十一年が終わった。

第 2 章

ヒラマンの息子ヒラマン、大さばきつかさになる。ガデアントン、キシクメンの団を率いる。ヒラマンの

僕がキシクメンを殺し、ガデアントンの団は荒れ野へ逃げる。紀元前約五十年から四十九年に至る。

1さて、さばきつかさの統治第四十二年に、モロナイハはニーファイ人とレーマン人の間に再び和平を成立させていたが、さばきつかさの職に就く人はだれもいなかった。そのため、だれがさばきつかさの職に就くべきかについて、民の中に再び争いが起こった。

2そして、ヒラマンの息子であるヒラマンが、民の声によって選ばれ、さばきつかさの職に就いた。

3しかし見よ、以前にパホーランを殺したキシクメンは、ヒラマンをも殺そうとして待ち伏せした。彼は自分の仲間に支援され、その仲間はだれにもキシクメンの悪事を知らせないという誓いを立てていた。[1]

4多くの言葉を非常に巧みに操り、またひそかに殺人と強盗を行う悪知恵にも非常にたけていたガデアントンという者がいた。この男はこのように巧みな者であったので、キシクメンの団の首領になった。

5そこで彼は、仲間とキシクメンとをおだてて、もし自分をさばきつかさの職に就かせてくれるならば、団に所属する者たちを民の中で権力と権威のある地位に就かせようと言った。そこでキシクメンはヒラマンを殺そうとしたのである。

6さて、キシクメンがヒラマンを殺すためにさばきつかさのもとへ向かっていたとき、ヒラマンの僕に会った。この僕は、前に夜出て行って姿を変えてこの団に紛れ込み、この団がヒラマンを殺すために企てた計画を知っていた。

7そこで彼は、キシクメンに会うと合図を送った。それでキシクメンは自分がしようとしていることを打ち明け、ヒラマンを殺せるように自分をさばきつかさの席に案内してもらいたいと言った。

8ヒラマンの僕はキシクメンの心がすべて分かった。人を殺すことが彼の目的であり、また人を殺し、盗み、権力を得ることが彼の団に所属しているすべての者の目的であった。（これが彼らの陰謀であり、彼らの結社である。）ヒラマンの僕はこのことを知ると、キシクメンに、「さばきつかさの席へ行こう」と言った。

9キシクメンはこれを非常に喜んだ。自分の企てを

第2章
3① ヒラ1・9
4① GS「ガデアントンの強盗団」
8① 2ニフ10・15、GS「秘密結社」

遂げられると思ったからである。ところが見よ、さばきつかさの席へ行く途中、ヒラマンの僕がキシクメンを心臓まで突き刺したので、キシクメンはうめき声さえ立てずに死んで倒れた。そこで、ヒラマンの僕は走って行き、自分が見たこと、聞いたこと、行ったことをすべてヒラマンに告げた。

10 そこでヒラマンは、この強盗団の者たちを法律によって処刑するために、人々を送って彼らを捕らえようとした。

11 しかし見よ、ガデアントンは、キシクメンが帰って来ないのを知ると、自分が殺されることになるのではないかとひどく心配になり、仲間に自分について来るように告げた。そして彼らは、間道を通ってその地から荒れ野へ逃げ出した。したがって、ヒラマンが彼らを捕らえるために人々を送ったときには、彼らはどこにもいなかった。

12 このガデアントンのことは、後でもっと述べることにする。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十二年が終わった。

13 そして見よ、あなたがたは本書の終わりで、このガデアントン[1]がニーファイの民を覆す、まことにほとんど完全に滅ぼしてしまう元になることを知るであろう。

14 見よ、わたしが言うのは、ヒラマン書の終わりではなく、わたしがこれまで書いてきたすべての話の基であるニーファイの書の終わりのことである。

第 3 章

多くのニーファイ人が北方の地へ移住する。彼らはセメントで家を造り、また多くの記録を記す。数万人が改宗し、バプテスマを受ける。神の言葉は人を救いに導く。ヒラマンの息子ニーファイ、さばきつかさの職に就く。紀元前約四十九年から三十九年に至る。

1 さて、さばきつかさの統治第四十三年には、ニーファイの民の中にまったく争いがなかった。ただ教会員の中に少し高慢があり、それが民の中に多少の不和を引き起こしたが、第四十三年の終わりにはその問題は解決した。

2 また、第四十四年には民の中にまったく争いがなく、第四十五年にもひどい争いはなかった。

3 さて、第四十六年には、ひどい争いと多くの離反

---

13 ① 1・42 ヒラ 6・18、4 ニフ

があった。そのために、ゼラヘムラの地を去り、[1]北
方の地へ行ってそこに住もうとした者が非常に大勢
いた。
4 彼らは非常に遠くまで旅をし、幾つもの[1]大きな湖
沼と多くの川のある所に着いた。
5 そして、彼らはその地の全域に広がった。以前に
その地に住んでいた多くの者のために荒らされてお
らず、樹木もなくなっていない方々の地方に広がっ
た。
6 その地はどこも樹木のほかは少しも荒れていなか
った。しかし、前にその地に住んでいた人々の[1]滅亡
がひどかったので、[2]荒れ果てた地と呼ばれた。
7 その地の面には樹木がほとんどなかったので、そ
こへやって来た人々はセメントの工事が非常に上手
になった。そこで彼らは、セメント造りの家を建て
て住んだ。
8 そして彼らは増え、広がり、南方の地から北方の地
へ移り、広がったので、南の海から北の海まで、[1]西
の海から東の海まで、全地の面を覆い始めた。
9 北方の地にいた人々は天幕やセメント造りの家に
住んでいた。そして彼らは、その地の面に生える木
はどんなものでも育てるようにして、将来材木を得
て自分たちの家を建てられるように、まことに自分
たちの町を築き、自分たちの神殿や会堂、聖堂、そ
のほかあらゆる建物を建てられるようにした。
10 そして、北方の地には材木が非常に乏しかったの
で、南方の地の人々は[1]船で多くの材木を送った。
11 このようにして、彼らは北方の地の人々が、多く
の町を木とセメントの両方で建設できるようにし
た。
12 そして、生まれがレーマン人であった[1]アンモンの
民も、多くの者がこの地に移った。
13 ところで、この民の多くの者がこの民の行ってき
たことを書き続けてたくさんの記録を残しており、
その記録は詳細で非常に大部である。
14 しかし見よ、この民が行ってきたことの百分の一
も、本書に載せることができない。すなわち、レー
マン人についての話とニーファイ人についての話、
彼らの戦争と争いと不和、宣教と預言、海運と船の
建造、[1]神殿と会堂と聖堂の建設、義と悪、殺人と強
盗と略奪、あらゆる忌まわしい行いとみだらな行
い、これらについての話の百分の一も載せることは

第3章
3 ① アル63・4
4 ① モサ8・8、モル6・4
6 ① モサ21・25—27
② アル22・31
8 ① アル22・27、32
10 ① アル63・5—8
12 ① アル27・21—26
14 ① 2ニフ5・16、ヤコ1・17、3ニフ11・1

できない。
15 しかし見よ、多くの書とあらゆる多くの記録がある。これらはおもにニーファイ人が書き記してきたものである。
16 そして、ニーファイ人が戒めに背き、殺され、略奪され、狩り出され、追い出され、虐殺され、地の面に散らされ、レーマン人と交じってもはやニーファイ人と呼ばれなくなり、邪悪で野蛮で残忍になり、まことにレーマン人になってしまうまで、これらはニーファイ人によって代々伝えられてきた。
17 さて、わたしの話に戻ろう。わたしがこれまで述べてきたことは、ニーファイの民の中にひどい争い、騒動、内戦、不和があった後に起こったことである。
18 さばきつかさの統治第四十六年が終わった。
19 そして、この地にはなお、第四十七年にも、第四十八年にもひどい争いがあった。
20 それでもヒラマンは、公正と公平をもってさばきつかさの職を務めた。まことに彼は、神の掟と裁決と戒めを守るように努めた。そして、引き続き神の目から見て正しいことを行った。また彼は、自分の父の道を歩んだので、この地で栄えた。
21 さて、彼には二人の息子がおり、兄にニーファイという名を付け、弟にリーハイという名を付けた。そして、二人は成長して主の役に立つようになった。
22 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十八年の末には、ニーファイ人の民の中の内戦と争いは多少収まり始めた。
23 さて、さばきつかさの統治第四十九年には、秘密結社を別にして、国内は引き続き平和が確立されていた。強盗のガデアントンは、人々が住んでいる地域の大半ですでにこの秘密結社を設けていたが、当時この秘密結社は、政府の指導的な立場にある人々には知られていなかったので、この国から駆逐されていなかった。
24 そして、この同じ年に、教会は非常に大きな発展を遂げ、数千人が教会に加わって悔い改めのためのバプテスマを受けた。
25 教会の発展は著しく、また人々に注がれた祝福はとても多く、大祭司たちや教師たちでさえ非常に驚いたほどであった。

16 ① アル45・12—14
② 1ニフ5・16—19、アル37・4
21 ① GS「ニーファイ（ヒラマンの息子）」
② GS「リーハイ（ニーファイ人の宣教師）」
23 ① ヒラ2・4

26 そして、主の業は発展し、バプテスマを受けて神の教会に加わった人は多く、まことに数万人に及んだ。

27 これによって分かるように、主は、真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる。

28 まことに、これによって分かるように、[1]天の門は[2]すべての人に、言い換えれば、神の御子イエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれているのである。

29 まことに、望む者はだれでも、[1]神の言葉を手に入れることができるということも、わたしたちに分かるのである。この神の言葉は生きていて[2]力があり、悪魔の悪知恵とわなと策略をことごとく断つ。また、悪人をのみ込むために備えられている、あの不幸の永遠の[3]淵を横切る細くて[4]狭い道にあって、キリストの人を導き、

30 また彼らを、まことに彼らの不滅の霊を天の王国におられる神の[1]右に至らせ、もはや外に出されることなく、アブラハム、イサク、ヤコブ、およびわたしたちのすべての聖なる先祖とともに座に着かせるものである。

31 この年には、ゼラヘムラの地と周辺のすべての地方、まことにニーファイ人が所有していた全地に引き続き喜びがあった。

32 そして、第四十九年の残りの期間は平和であり、非常に大きな喜びがあった。また、さばきつかさの統治第五十年も引き続き平和であり、大きな喜びがあった。

33 さばきつかさの統治第五十一年も、教会の中に入り込んできた高慢を別にすれば、平和であった。教会の中に入り込んできたと言ったが、神の教会の中ではなく、神の教会に属していると公言する人々の心の中に入り込んできたのである。

34 そして彼らは[1]高慢になり、多くの兄弟たちを迫害するようになった。これは大きな悪であり、このために彼らよりも謙遜な人々はひどい迫害を受け、多くの苦難を踏み越えなければならなかった。

35 それでも彼らは、しばしば[1]断食して祈り、ますます[3]謙遜になり、ますますキリストを信じる信仰を確固としたものにしたので、喜びと慰めで満たされ、まことに[4]清められ、心の[5]聖めを受けた。この聖めも

---

28 ① 2ニフ 31・9、17
28 ② 使徒 10・28、ロマ 2・11
29 ① 10—GS「言葉（神の）」
29 ② ヘブ 4・12、教義 11・2
9 ③ 1ニフ 15・28—30
9 ④ 2ニフ 9・41、33・
30 ① GS マタ 25・33—34
34 ① GS「高慢」
35 ① GS「断食」
35 ② GS「祈り」
③ GS「謙遜」
④ GS「清さ」
⑤ GS「聖め」

は、彼らが心を神に従わせたために受けたのである。

36そして、第五十二年も平穏に終わったが、民の心の中には大変にひどい高慢が入り込んでいた。それは彼らが非常に豊かに富み、その地で栄えていたためであり、それは日に日に募ってきた。

37さて、さばきつかさの統治第五十三年にヒラマンが死んで、彼の長男ニーファイが彼に代わって治め始めた。彼は公正と公平をもってさばきつかさの職を務め、まことに、神の戒めを守り、自分の父の道を歩んだ。

第4章

ニーファイ人の離反者とレーマン人、軍隊を連合して、ゼラヘムラの地を奪う。ニーファイ人、自らの悪事のために敗北する。教会は衰え、民はレーマン人のように弱くなる。紀元前約三十八年から三十年に至る。

1さて、第五十四年に教会内に多くの不和があった。また、民の中にも争いがあり、多くの流血があった。

2そして謀反を起こした者たちは、殺されたり、国から追放されたりした。そこでこれらの者は、レーマン人の王のもとへ行った。

3そして彼らは、レーマン人を扇動してニーファイ人と戦わせようとしたが、レーマン人は非常に恐れて、離反者たちの言葉を聴こうとしなかった。

4ところが、さばきつかさの統治第五十六年にも、ニーファイ人のもとからレーマン人のもとへ行った離反者たちがおり、彼らはほかの者たちとともに、レーマン人を扇動してニーファイ人に対して怒りを抱かせるのに成功した。そこで、彼らはその年の間、戦争の準備をした。

5第五十七年に、彼らはニーファイ人のもとに来て戦い、死の業を開始した。そして、さばきつかさの統治第五十八年に、彼らはゼラヘムラの地と、またバウンティフルの地に近い地方まですべての地を占領することに成功した。

6そして、ニーファイ人とモロナイハの軍隊は、バウンティフルの地に追い込まれた。

7そこで彼らは、西の海から東の海に至るまで、そ

35⑥ 歴下30・8、モサ3・19
36① GS「富」
第4章
1① 3ニフ11・29
4① ヒラ5・17

の地でレーマン人に対する防備を固めた。彼らが北の地を守るために防備を固めて軍隊を配備したその境界線上では、西の海から東の海まで、ニーファイ人が一日旅をすれば行ける距離であった。

8 このようにして、ニーファイ人の離反者たちは、レーマン人の大軍の助けを得て、南方の地にあるニーファイ人の領土をすべて手に入れたのであった。これはすべて、さばきつかさの統治第五十八年と第五十九年にあったことである。

9 さて、さばきつかさの統治第六十年に、モロナイハは軍隊をもってその地の多くの地方を手に入れることに成功した。まことに、彼らはレーマン人の手に落ちていた多くの町を取り返した。

10 そして、さばきつかさの統治第六十一年には、彼らは自分たちの全領土の半分まで取り返すことに成功した。

11 ところで、ニーファイ人の被ったこの大きな損害と、彼らの中で行われたひどい殺戮は、彼らの中にあった悪事と忌まわしい行いがもしもなかったならば、起こらなかったであろう。この悪事と忌まわしい行いは、神の教会に属していると公言する者たちの中にもあった。

12 彼らは非常に富んでいたために心が高慢になり[1)]、また飢えている者に食物を与えず、着る物のない者に着る物を与えず、謙遜な同胞の頬を打つなどして[2)]貧しい者を虐げ、神聖なものをあざけり、預言と啓示の霊を否定し、人を殺し、略奪し、偽りを言い、盗み、姦淫を犯し、ひどい争いを起こし、ニーファイの地へ逃げて行ってレーマン人に加わったために、

13 すなわち、彼らはこのように大きな悪事を行ったために、また自分の力を誇ったために[1)]、自分の力しか頼れない状態に置かれたのであった。したがって、彼らは栄えることなく、苦しめられ、悩まされ、レーマン人の前から追い出されて、とうとうほとんどすべての所有地を失ってしまった。

14 しかし見よ、モロナイハは民が罪悪を犯していたので彼らに多くのことを説き、またヒラマンの息子であるニーファイとリーハイも民に多くのことを説き、また彼らの罪深い状態と、罪を悔い改めなければ彼らに起こることについて、多くのことを預言した。

12① 1テモ6・17、2ニフ9・42
② オバ1・3−4、教義101・42
13① ③ 教義42・30−31
GS「高慢」
14① ヒラ3・21

15 そこで、彼らは悔い改めた。そして、悔い改めた程度に応じて栄え始めた。
16 モロナイハは民が悔い改めたのを見ると、大胆にもあちらこちらに、また町から町へと彼らを率いて行き、ついに彼らは自分たちの所有物の半分とすべての所有地の半分を取り返した。
17 このようにして、さばきつかさの統治第六十一年が終わった。
18 さて、さばきつかさの統治第六十二年には、モロナイハはそれ以上レーマン人から領土を取り返すことができなかった。
19 それで彼らは、残りの土地を手に入れる計画を断念した。レーマン人が非常に大勢であったので、ニーファイ人は彼らに勝って勢力を得ることが不可能になったからである。そこでモロナイハは、それまでに取り返した地方を守るために、自分の全軍を使った。
20 そして、レーマン人の数が非常に多かったので、ニーファイ人は打ち負かされ、踏みにじられ、殺され、滅ぼされるのではないかとひどく恐れた。
21 まことに彼らは、アルマの預言とモーサヤの言葉を思い出し始めた。そして彼らは、自分たちが強情な民であったこと、また神の戒めを軽んじてきたこと、
22 自分たちがモーサヤの[1]法律、すなわち主が民に与えるようにとモーサヤに命じられた法律を変更し、足で踏みつけてきたことを知った。また彼らは、自分たちの法律が不正なものになってしまったこと、そして自分たちが邪悪な民になってしまったために、まさにレーマン人のように悪くなっていることを知った。
23 また、彼らの罪悪のために、教会は[1]衰え始めていた。そして彼らは、預言の霊と啓示の霊を信じなくなり、神の裁きは彼らの目前に迫っていた。
24 彼らは、自分たちが同胞のレーマン人のように[1]弱くなってしまったこと、また主の御霊がもはや自分たちを守ってくださらないことを知った。まことに、[2]主の御霊は清くない宮にはとどまらないので、彼らから去ってしまわれたのである。
25 したがって主は、奇跡を起こすたぐいない力で彼らを守ることをおやめになった。彼らが[1]不信仰な、ひどい邪悪な状態に陥っていたからである。また彼

22 ① アル1：1
23 ① GS「背教・背信」
24 ① モサ1・13　② GS「聖霊」　③ モサ2・37、アル7・34・36
25 ① GS「不信仰」

らは、レーマン人が自分たちよりもはるかに大勢であり、もし自分たちが主なる神に堅くすがらなければ必ず滅びるに違いないということを知った。[2]
26 見よ、彼らは、レーマン人の兵力が自分たちの兵力と同等であり、一人一人を比べても同等であることを知ったからである。このように彼らは大きな背きに陥っていた。まことに、彼らは背きに陥ったので、このように、[1]わずかな歳月で弱くなってしまったのであった。

第5章

ニーファイとリーハイ、宣教に専念する。この二人の名は、先祖に倣って生活するように彼らを促すものである。キリストは悔い改める人々を贖われる。ニーファイとリーハイ、多くの人を改宗させ、投獄され、火に包まれる。暗黒の雲が三百人を覆う。大地が揺れ動き、悔い改めるように命じる声が人々に聞こえる。ニーファイとリーハイ、天使たちと語り、群衆は火に包まれる。紀元前約三十年。

1 さて、この同じ年に、[1]ニーファイはセゾーラムという名の人にさばきつかさの職を譲った。
2 それは、ニーファイ人の法律と彼らの政体が民の声によって定められ、[2]悪を選んだ者が善を選んだ者よりもはるかに大勢であったために、法律が改悪されて彼らの滅亡の機が熟していたからである。
3 また、これだけではない。彼らは強情な民であったので、法律によっても正義によっても彼らを治めることができず、ただ滅亡があるのみであった。
4 そしてニーファイは、彼らの罪悪にうんざりしてしまった。そこで彼はさばきつかさの職を譲り、[1]神の言葉を宣べ伝える務めに余生をささげた。また、彼の弟リーハイも同じ務めに余生をささげた。
5 彼らは父ヒラマンが自分たちに語った言葉を思い出したからである。ヒラマンが語った言葉は次のとおりである。
6 「見よ、わが子らよ、わたしはあなたたちが神の戒めを守ることを忘れないようにと願っている。また、次の言葉を民に告げ知らせてもらいたい。わたしは、エルサレムの地からやって来たわたしたちの最初の[1]先祖の名を、あなたたちに付けた。わたしがこうしたのは、あなたたちが自分の名を思うときに

25 ②ヤコ6・5
26 ①アル46・8、ヒラ12・3−4
第5章
1 ①ヒラ3・37
2 ①モサ29・25−27
②アル10・19
4 ①アル4・15−20
6 ①1ニフ1・1、5

先祖を思い起こせるように、そして先祖を思い起こすときに先祖の行いを思い起こせるように、そして先祖の行いを思い起こすときに、先祖の行いが善かったことがどのように言い伝えられ、書き記されているか分かるようにするためである。

7 わが子らよ、あなたたちは先祖について言い伝えられ、書き記されてきたように、自分たちについても言い伝えられ、書き記されるように善いことをしてもらいたい。

8 わが子らよ、見よ、あなたたちに望むことがもう少しある。それは、誇るためにこれらのことを行うのではなく、まことに永遠の、消えてなくなることのない宝を自分自身のために天に蓄えるため、これらのことを行うようにということ、そしてわたしたちの先祖にすでに与えられていると考えて当然である、あの貴い永遠の命の賜物をあなたたちも持てるようにということである。

9 おお、覚えておきなさい。わが子らよ、ベニヤミン王が彼の民に語った言葉を覚えておきなさい。まことに、将来来られるイエス・キリストの贖いの血によってのみ人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もないことを覚えておきなさい。まことに、イエス・キリストが世を贖うために来られることを覚えておきなさい。

10 また、アミュレクがアモナイハの町でゼーズロムに語った言葉も覚えておきなさい。アミュレクは彼らに、主は確かに主の民を贖うために来られるが、彼らを罪のあるまま贖うためではなく、彼らを罪から贖うために来られるのであると語った。

11 主は、彼らが悔い改めるときに彼らを罪から贖うために、御父から授けられた力を持っておられるのである。したがって、主は悔い改めの条件について告げ知らせるために、天使たちを遣わしてこられた。この悔い改めは人々を贖い主の力のもとに導き、彼らに救いを得させるものである。

12 わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。

---

6 ②
8 ①2ニフ33章 ②3ニフ13・19−21
9 ①教義14・7 ②モサ2・9 ③モサ3・17−18、GS「贖罪」
10 ①GS「世」戒めに従わない人々 ④GS「贖い・贖う」
11 ①アル11・34 ②アル13・24−25
12 ①マタ7・24−27、教義6・34、モセ7・53、GS「岩」「隅の石」イザ28・16、ヤコ4・16 ②3ニフ14・25、27

なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」

13 さてこれは、ヒラマンが息子たちに1)教えた言葉である。まことに、彼はここに書き記されていない多くのことと、ここに書き記されている多くのことを彼らに教えた。

14 ヒラマンの息子たちは父の言葉を思い出したので、神が命じられるままに、ニーファイのすべての民の中で神の言葉を教えるために出て行った。そして、最初にバウンティフルの町で教えた。

15 そして、そこからギドの町へ行き、ギドの町からミュレクの町へ行った。

16 そして、町から町へと巡って、ついに彼らは南方の地にいたすべてのニーファイの民の間を巡り終え、そこからゼラヘムラの地へ行ってレーマン人の中に入って行った。

17 そして彼らは、大きな力をもって教えを説き、前にニーファイ人から別れて去った1)離反者たちの多くを説き破った。そこで、これらの者たちは進み出て、罪を告白し、悔い改めのためのバプテスマを受け、以前にニーファイ人に対して自分たちが行った不当な仕打ちを償うために、すぐにニーファイ人のもとに帰って行った。

18 そしてニーファイとリーハイは、レーマン人にも同じように大きな力と権能をもって教えを説いた。彼らは1)語ることができるように力と権能を与えられており、また語るべき事柄も示されたからである。

19 そこで彼らは語ってレーマン人を非常に驚かせ、彼らに1)確信を抱かせたので、ゼラヘムラの地とその周りで悔い改めのためのバプテスマを受け、自分たちの先祖の言い伝えが正しくないことを確信したレーマン人は八千人に上った。

20 そして、ニーファイとリーハイはそこからニーファイの地へ向かった。

21 さて、彼らは、レーマン人の軍隊に捕らえられ、1)牢に入れられてしまった。まことに、アンモンと彼の同僚たちがリムハイの部下によって入れられた、あの牢であった。

22 ニーファイとリーハイが食べ物もなく牢に入れられたまま幾日も過ぎてから、見よ、人々が二人を連れ出して殺そうと、牢の中に入って来た。

13 ① モサ 1・4
17 ① ヒラ 4・4
18 ① 教義 100・5—8、GS「預言」
19 ① GS「改宗」「伝道活動」
21 ① モサ 7・6—7、21・23

23 さて、ニーファイとリーハイは火のようなものに包まれていた。そのため、人々は自分たちが焼かれてしまうのではないかと恐れ、あえて二人に手をかけようとしなかった。それでも、ニーファイとリーハイは焼かれなかった。二人は火の中に立っているようでありながら焼かれなかった。

24 二人は、自分たちが火の柱に包み込まれていながらも焼かれないのを見て、心に勇気を得た。

25 二人は、レーマン人があえて自分たちに手をかけようとせず、またあえて近づこうともせず、驚きのあまり物が言えなくなったかのような有様で立っているのを見たからである。

26 そこで、ニーファイとリーハイは進み出て、彼らに語り始めた。「恐れてはならない。見よ、あなたがたにこの驚くべきことを示されたのは神である。わたしたちに手をかけて殺すことはできないということが、これによってあなたがたに示されているのである。」

27 見よ、二人がこれらの言葉を語り終えると、大地が激しく揺れ動き、牢の壁がまさに地に崩れ落ちるほどに揺れた。それでも壁は倒れなかった。このときに牢の中にいた者たちは、レーマン人と、離反者のニーファイ人であった。

28 そして彼らは、暗黒の雲に覆われ、非常な恐怖に襲われた。

29 そして、その暗黒の雲の上の方から聞こえるかのように、一つの声があって言った。「悔い改めよ、悔い改めよ。よきおとずれを告げ知らせるためにあなたがたのもとに遣わした僕たちを、二度と滅ぼそうとしてはならない。」

30 さて、彼らはこの声を聞いたが、それは雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫いた。

31 その声は優しかったにもかかわらず、見よ、大地は激しく揺れ動き、まさに地に崩れ落ちるほどに牢の壁は再び揺れた。見よ、彼らを覆っていた暗黒の雲は消え去らなかった。

32 そして見よ、再び声が聞こえた。「悔い改めよ、悔い改めよ。天の王国は近いからである。二度とわたしの僕たちを滅ぼそうとしてはならない。」その後、再び大地が揺れ動き、壁が揺れた。

23① 出エ3・2
24① 出エ14・24、1ニフ1・6、教義29・12、ジー歴史1・16
28① 出エ14・20
29① 3ニフ11・3—14
30① 列上19・12、教義85・6

33 それから三度目の声が聞こえ、人に言い表せない驚くべき言葉を彼らに告げた。そして、またもや壁が揺れ、大地がまさに引き裂けるほどに揺れ動いた。34 さてレーマン人は、暗黒の雲に覆われていたので、逃げることができなかった。また恐怖に打たれていたので、動くこともできなかった。35 このレーマン人の中に、生まれがニーファイ人で、かつて神の教会に属していたが、その後教会から離反していた者が一人いた。36 そして、彼は振り返ると、暗黒の雲を通してニーファイとリーハイの顔を見た。すると見よ、二人の顔はまるで天使の顔のように非常に輝いていた。また彼は、二人が目を天に向けて、二人には見えているある人に語りかけて、すなわち声を上げているような様子であるのも見た。37 そこでこの男は大勢の者たちに、振り向いて見るように叫んだ。そして見よ、振り向いて見る力が彼らに与えられたので、彼らはニーファイとリーハイの顔を見た。38 そして彼らはその男に、「見よ、これは一体どういうことなのだ。この者たちが話している相手はだれなのか」と尋ねた。39 その男の名はアミナダブといった。アミナダブは彼らに、「二人は神の天使たちと話している」と言った。40 そこで、レーマン人は彼に、「我々を覆っているこの暗黒の雲が離れ去るようにするには、我々はどうすればよいのか」と言った。41 そこでアミナダブは彼らに、「あなたがたは悔い改めて、アルマとアミュレクとゼーズロムがあなたがたに教えた、キリストを信じる信仰を持てるまで、先ほどの声に向かって叫び求めなければならない。このようにするときに、あなたがたを覆っている暗黒の雲は離れ去るだろう」と言った。42 そこで、彼らは皆、大地を震わせた御方の声に向かって叫び求め、まことに、暗黒の雲が消え去るまで叫び求めた。43 そして周りを見回すと、彼らを覆っていた暗黒の雲は離れ去り、見よ、彼らは一人残らず火の柱に包み込まれていた。44 そして、ニーファイとリーハイが彼らの真ん中にいた。まことに、彼らは包み込まれ、まるで燃える

36① 出エ34・29—35、使徒6・15
40① 使徒2・37—39
41① GS「悔い改め」
41② GS「信仰」
43① 3ニフ17・24、19・14

火の中にいるかのようであったが、その火は彼らを
損なうことなく、また牢の壁に燃えつくこともなか
った。また彼らは、言いようのない、栄光に満ち
1)た喜びに満たされた。
45 そして見よ、神の1)聖なる御霊が天から降って、彼
らの心の中に入られたので、彼らはあたかも火で満
たされたかのようになり、驚くべき言葉を2)語ること
ができた。
46 そして彼らに声が、すなわち、まるでささやくよ
うな快い声が聞こえた。
47 「1)平安があるように。あなたがたは世の初めか
らいる、わたしの心から愛する者を信じているの
で、あなたがたに平安があるように。」
48 彼らはこの声を聞くと、どこから声が聞こえてく
るのか見ようとするかのように仰ぎ見た。すると見
よ、1)天が開くのが見えた。そして、天使たちが天か
ら降って来て、彼らを教え導いた。
49 これらのことを見聞きした者はおよそ三百人であ
った。彼らは不思議に思うことなく、また疑うこと
もなく出て行くように命じられた。
50 そこで、彼らは出て行き、民を教え、自分たちが
見聞きしたすべてのことを、周りのすべての地方に
告げ知らせた。その結果、レーマン人の大半がそれ
らのことを確信するようになった。彼らの得た証拠
が偉大であったからである。
51 そして、1)確信を得た者たちは皆、武器を捨て、ま
た憎悪と先祖の言い伝えも捨てた。
52 そして彼らは、ニーファイ人の所有地をニーファ
イ人に譲り渡した。

第6章

義人のレーマン人、悪人のニーファイ人に教えを説
く。民はともに栄え、平和で豊かな時代を迎える。罪
の根源であるルシフェル、悪人とガデアントンの強盗
たちの心をかき立て、殺人と悪事を行わせる。強盗た
ち、ニーファイ人の政権を握る。紀元前約二十九年か
ら二十三年に至る。

1 さて、さばきつかさの統治第六十二年が終わった
ときには、これらのことがすべて起こり、レーマン
人はその大半が義人になっていたので、レーマン人
の1)義はニーファイ人の義をしのいでいた。彼らは確

44 ① GS「喜び」
45 ① 3ニフ9・20、エテ12・14
② GS「御霊の賜物」
47 ① GS「平安・平和」
48 ① 1ニフ1・8
51 ① アル31・5
第6章
1 ① ヒラ13・1

固として揺るぎない信仰を抱いていたからである。
2 見よ、ニーファイ人の多くはかたくなになり、悔い改めをせず、非常に邪悪になっていたので、神の言葉と彼らの中で行われた宣教と預言を少しも受け入れなかった。
3 にもかかわらず、教会の人々は、レーマン人が改宗したことと、レーマン人の中に神の教会が設立されたことで大きな喜びを得た。そして両者は互いに親しく交わり、またともに喜び、大きな幸せを得た。
4 そして、多くのレーマン人がゼラヘムラの地にやって来て、自分たちが改宗した次第をニーファイ人の民に告げ知らせ、信仰をもって悔い改めるように勧めた。
5 そして、多くの者が非常に大きな力と権能をもって教えを説き、ニーファイ人の多くを心底謙遜にへりくだらせ、神と小羊に謙遜に従う者とした。
6 そして、多くのレーマン人が北方の地へ行き、ニーファイとリーハイも民に教えを説くために北方の地へ行った。このようにして、第六十三年が終わった。
7 見よ、全地が平和であったので、ニーファイ人はニーファイ人の中であろうとレーマン人の中であろうと、自分が行きたい所へはどこへでも行った。
8 そしてレーマン人も、レーマン人の中であろうとニーファイ人の中であろうと、自分の行きたい所へはどこへでも行った。このようにして、彼らは互いに自由に交流し、自分たちの思いのままに売買をして利益を得た。
9 そしてレーマン人もニーファイ人も、ともに非常に豊かになった。また、南の地でも北の地でも、彼らは非常にたくさんの金と銀とあらゆる貴い金属を持っていた。
10 ところで、南の地はリーハイと呼ばれ、北の地はゼデキヤの息子にちなんでミュレクと呼ばれた。主がミュレクを北の地へ導き、リーハイを南の地へ導いてこられたからである。
11 見よ、これらの地には両方とも、あらゆる金と銀、あらゆる貴いあらがねがあった。また、あらゆるあらがねを加工し精錬する、技量の優れた職人たちもおり、そのために彼らは豊かになった。
12 彼らは北でも南でも豊かに穀物を栽培し、北でも南でも非常に栄えた。また、彼らは増えて、その地

2 (1) ロマ1・28−32
3 (1) GS「プエローシッ」
4 (1) GS「改宗」
6 (1) アル63・4−9、ヒラ3・11−12
10 (1) モサ25・2−4、ヒラ8・21

で非常に力をつけた。そして、多くの大小の家畜の群れ、多くの肥えた若い家畜を飼育した。
13 見よ、女たちは骨折って働き、糸を紡ぎ、裸にまとうためにあらゆる織物を、すなわち、より糸で織った亜麻布とあらゆる織物を作った。このようにして、第六十四年が平穏に過ぎ去った。
14 第六十五年も、大きな喜びがあり、平和であって、まことに多くの宣教が行われ、将来起こることについて多くの預言が述べられた。このようにして、第六十五年が過ぎ去った。
15 さて、さばきつかさの統治第六十六年に、セゾーラム[1]が、さばきつかさの席に着いていたときに何者かによって殺された。また、同じ年に、彼に代わって民によって任じられた彼の息子も殺されてしまった。このようにして、第六十六年が終わった。
16 第六十七年の初めに、民はまた非常に悪くなり始めた。
17 見よ、主が長い間、世の富を彼らに恵んでこられたので、彼らは扇動されて怒ることも、戦うことも、流血を起こすこともなかった。そのため、彼らは富に執着するようになり、互いに相手の上に立てるように、利益を得ようと求め始めた。その結果、彼らは[1]暗殺や強盗や略奪をして利益を得始めたのである。
18 さて見よ、そのような殺人者たちと略奪者たちは、キシクメンとガデアントン[1]が作った団に所属していた。そして、ニーファイ人の中にさえガデアントンの団に所属している者が大勢おり、レーマン人の中の悪い者たちの中にはもっと多くの者がいた。そして彼らは、ガデアントンの強盗および殺人者と呼ばれた。
19 大さばきつかさセゾーラムとその息子を、さばきつかさの職にある間に殺したのは彼らであったが、殺人者は見つからなかった。
20 さて、レーマン人は自分たちの中に強盗がいることを知ると、非常に嘆いた。そして彼らは、できるかぎりあらゆる手段を使って、地の面から強盗たちを滅ぼし去ろうとした。
21 ところが見よ、ニーファイ人の大半はサタンにひどく心をあおり立てられ、それらの強盗の団に加わった。そして彼らは、どのような困難な状態に置かれても、自分たちの殺人や略奪や盗みのために苦し

15① ヒラ5・1
17① 3ニフ9・9
18① ヒラ2・4、12—13

みを受けることのないように、互いに保護し、守り合うという誓約と誓いを交わした。

22 そして、彼らには合図、すなわち秘密[1]の合図と秘密の言葉があった。これは、仲間がどのような悪事を働いても、その仲間から、すなわちこの誓いを立てて団に所属した者たちから害を受けることのないように、誓いを立てた仲間を確認できるようにするためのものであった。

23 したがって彼らは、国の法律にも神の律法にも背いて人を殺し、略奪し、盗み、みだらな行いをし、あらゆる悪事を行うことができた。

24 また、団に所属している者はだれであろうと、彼らの悪事[1]と忌まわしい行いを世の人々に漏らしたならば、国の法律によってではなく、ガデアントンとキシクメンが定めた、彼らの邪悪な掟によって裁かれることになっていた。

25 さて見よ、これらの秘密の誓い[1]の言葉と誓約こそ、アルマが息子に、民を滅亡に至らせる手段とならないように世の人々に公にしてはならないと命じたものである。

26 見よ、それらの秘密[1]の誓いの言葉と誓約は、ヒラマンに渡された記録からガデアントンに伝わったのではない。それらは、禁断の実を食べるようにわたしたちの始祖をそそのかした者[2]によって、ガデアントンの心に植え付けられたのである。

27 まことにその者は、弟のアベルを殺しても、世の人々には分からないと、カイン[1]とはかりごとを巡らしたその者である。その者は、そのとき以来、カインおよび彼に従う者たちとはかりごとを巡らしてきた。

28 また、十分に高い[1]塔を建てて天に達することができるようにしようという思いを、民の心に与えたのも、その者である。その塔からこの地に来た人々を惑わし、闇の業と忌まわしい行いを地の全面に広め、ついに民を完全[2]に滅ぼし、永遠の地獄に引きずり落としてしまったのも、その者である。

29 まことに、闇の業と暗殺の業をなお続けようという思い[1]をガデアントンの心に与えたのも、その者である。彼は人類の始まりから現在に至るまで、それを続けてきた。

30 見よ、彼こそ、あらゆる罪の根源[1]である。見よ、彼は、人の子らの心を支配できるかぎり代々闇の業

22 (1) GS「秘密結社」
24 (1) GS「邪悪」
25 (1) アル 37・27—32
26 (1) モセ 5・29、49—52
(2) 3 ニフ 6・28、モセ 4・6—12
27 (1) モセ 5・18—33
28 (1) 創世 11・1—4、エテ 1・3
(2) エテ 8・9、15—25
29 (1) (2) ヒラ 2・4—13
30 (1) アル 5・39—42、モロ 7・12、17、モセ 4・4

と暗殺の業を続け、カインと彼に従う者たちのはかりごとと、誓いの言葉と、誓約と、恐ろしい悪事の策を伝えている。

31 さて見よ、彼は、すでにニーファイ人の心を大いに支配しており、そのために、彼らは非常に邪悪になっていた。彼らの大半はすでに義の道を離れており、神の戒めを足の下に踏みつけ、自分勝手な道に向かい、自分のために金と銀で偶像を造っていた。

32 そして、これらの罪悪はすべて、わずかな年数で[1]彼らに起こった。しかもそのほとんどは、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六十七年に彼らに起こったのであった。

33 そして彼らは、第六十八年にもますます罪悪を募らせ、義人の深い悲しみと嘆きを誘った。

34 このことから分かるように、ニーファイ人は不信仰に陥って、ますます悪事と忌まわしい行いをするようになった。一方レーマン人は、神をますます深く知るようになった。まことに、彼らは神の掟と戒めを守り、神の前を真理にかなってまっすぐに歩み始めたのであった。

35 またこのことから、ニーファイ人の心が邪悪でかたくなであったので、主の御霊が彼らから去り[1]始めたことが分かる。

36 またこのことから、レーマン人が主の言葉を容易に喜んで信じたので、主が彼らに主の御霊を注ぎ始められたことも分かる。

37 そしてレーマン人は、ガデアントンの強盗団を捜し、強盗団の中のひときわ悪い者たちの中で神の言葉を宣べ伝えたので、この強盗団はレーマン人の中から完全に絶えてしまった。

38 そして、他方ニーファイ人は、強盗団の中のひときわ悪い者たちをはじめとして、強盗団を盛り上げ、彼らを支援した。そのため、ついに強盗団はニーファイ人の地の全体に広がり、義人の大半を惑わしてしまった。そしてついには、これらの者たちも強盗団の行うことを信頼し、奪ったものの分け前をもらうようになり、彼らと暗殺を共にし、彼らの秘密結社に加わるようになった。

39 このようにして、強盗団は政府のすべての管理権を手に入れ、[1]貧しい者と柔和な者と神に謙遜に従う者を足の下に踏みつけ、打ち、裂き、また彼らを無視した。

31① 1ニフ19・7
32① アル46・8、モサ2・36、教義121・35①
37 詩篇109・16、アル5・39①
54—56、教義56・16

40 このことから、彼らが恐ろしい状態にあり、永遠の滅びの機[1]が熟してきたことが分かる。
41 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六十八年が終わった。

ヒラマンの息子であるニーファイの預言——神はニーファイの民に、悪事を悔い改めなければ怒りを下して罰し、ことごとく滅ぼしてしまおうと脅される。神は疫病をもってニーファイの民を打たれる。ニーファイの民、悔い改めて神に立ち返る。レーマン人サムエル、ニーファイ人に預言する。

次の第七—十六章がそれに相当する。

第7章

1 ニーファイ、北方で拒まれ、ゼラヘムラの地に帰る。ニーファイ、自分の庭にある塔の上で祈り、次いで民に悔い改めるように求め、悔い改めなければ滅びることを告げる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1 見よ、ニーファイ人の民のさばきつかさの統治第六十九年に、ヒラマンの息子であるニーファイは、北方の地からゼラヘムラの地に帰って来た。[1]
2 彼は北方の地にいる人々の中を巡って、彼らに神の言葉を宣べ伝え、また多くのことを彼らに預言した。
3 ところが、彼らがその御言葉をまったく受け入れなかったので、彼は彼らの中にとどまっていることができず、生まれ故郷に帰って来たのであった。
4 そして、彼が見ると、民はひどく邪悪な状態にあり、あのガデアントンの強盗たちがさばきつかさの職に就いていて、国の権力と権威を奪い取っていた。また、強盗たちは神の戒めを捨て、神の前に少しも正しいことを行わず、人の子らをまったく公正に扱わず、
5 義人を彼らの義のゆえに罪に定め、罪人と悪人は金銭を受け取って無罪放免とし、さらに自分たちが利益と世の誉れを得られるように、またもっと安易に姦淫を犯し、盗み、殺し、自分の思いどおりのことを行えるように、政府の要職に就いて統治し、自分の思いどおりに行っていた。
6 このひどい罪悪は、わずかな年数でニーファイ人

40① ヒラ5・2、11・37、教義18・6
第7章
1① ヒラ6・6
5① マタ13・22、16・26

に及んでいた。ニーファイはそれを見ると、悲しみで胸が詰まり、苦しみもだえて叫んだ。

7「おお、わたしの先祖のニーファイが初めてエルサレムの地からやって来たその時代にわたしも生きていて、約束の地で先祖のニーファイと一緒に喜ぶことができたらよかったのに。当時のニーファイの民は容易に勧告に従い、神の戒めを確固として守り、罪悪を犯すように誘われるのは遅く、主の御言葉を聴くのは早かった。

8まことに、もしわたしがその時代に生きていたら、同胞の義を喜んだことだろう。

9しかし見よ、わたしはこの時代を自分の時代とし、同胞のこの悪事を見て悲しみに打ちひしがれるように定められている。」

10さて見よ、それは、ニーファイの庭にある塔の上で叫んだことであった。彼の庭はゼラヘムラの町にある最も大きな市場へ通じている大通りのそばにあった。そしてニーファイは、自分の庭にあるその塔の上でひれ伏していた。その塔も大通りに出る庭の門の近くにあった。

11さて、ある人々が近くを通りかかり、ニーファイが塔の上でその心を神に注ぎ出しているのを見た。そして、彼らは走って行って、自分たちの見たことを人々に告げた。すると人々は、彼が民の悪事をそのように深く嘆いている訳を知ろうとして、大勢集まって来た。

12さて、ニーファイは立ち上がると、大勢の人々が集まっているのを見た。

13そして彼は口を開くと、彼らに言った。「見よ、[1]何のためにあなたがたは集まって来たのか。あなたがたの罪悪についてわたしに語らせるためか。

14まことに、それはわたしがあなたがたの罪悪のことで心に深い憂いを覚え、その心を神に注ぎ出すために塔に登ったからである。

15わたしが嘆き、悲しんでいるので、あなたがたは集まって驚いている。あなたがたは大いに驚く必要がある。あなたがたは悪魔に引き渡されて、心をこのように大いに支配されてきたので、驚いて当然である。

16まことに、どうしてあなたがたは、永遠の不幸と無窮の苦悩へ投げ落とそうとしている者の誘惑に身をゆだねることができたのか。

13① マタ3・5—8

17 おお、悔い改めなさい、悔い改めなさい。[1]なぜあ
なたがたは死のうとするのか。立ち返りなさい、主
なるあなたがたの神に立ち返りなさい。なぜ主はあ
なたがたを見捨てられたのか。
18 それは、あなたがたが心をかたくなにしたからで
ある。まことに、あなたがたは、[1]良い羊飼いの声を
聴こうとしない。まことに、あなたがたは、自分た
ちのことで良い羊飼いを[2]怒らせてしまったのだ。
19 見よ、あなたがたが悔い改めようとしなければ、
羊飼いはあなたがたを[1]集めるどころか、追い散らし
て犬と野獣のえじきにされるであろう。
20 おお、どうしてあなたがたは、神が助けてくださ
ったその日に、神を忘れることができたのか。
21 しかし見よ、それは利益を得、人々から称賛され、
また金と銀を得ようとするからである。あなたがた
は富と、この[1]世のむなしいものに執着してきた。そ
のためにあなたがたは人を殺し、略奪し、盗み、隣
人に不利な[2]偽証をし、あらゆる罪悪を行っている。
22 だから、悔い改めなければ、あなたがたに災いが
下るであろう。もしあなたがたが悔い改めようとし
なければ、見よ、わたしたちの所有地にあるこの偉
大な町も、周りの偉大な町々もすべて奪われ、そこ
にあなたがたの居場所はなくなるであろう。見よ、
主は、これまでしてくださったようには、敵を防
ぐ[1]力をあなたがたに与えてくださらないからであ
る。
23 見よ、主はこう言われる。『自分たちの罪を悔い改
め、わたしの言葉に聞き従う者でなければ、わたし
は悪人にはほかの者以上に力を示すまい。』そのた
め、同胞よ、あなたがたが悔い改めなければ、[1]レー
マン人の方があなたがたよりも幸いであることを知
ってほしい。
24 見よ、彼らは、あなたがたに与えられてきたあの
大いなる知識に対して罪を犯さなかったので、あな
たがたよりも義にかなっている。そのため、主は彼
らに憐れみをかけられる。まことに、主は彼らの日
を[1]長くして、子孫を増し加えられる。一方あなたが
たは、悔い改めなければことごとく[2]滅ぼされる。
25 まことに、あなたがたの中に起こったあのひどく
忌まわしいもののために、あなたがたは災いであ
る。あなたがたはその忌まわしいもの、ガデアント
ンが設けたあの[1]秘密の団に加わっている。

17 ① エゼ18・23、31—32
18 ① エゼ34・12、ヨハ10・14—16、アル5・38—41、57—60、GS「良い羊飼い」
② ヤコ1・8、アル12・36—37
19 ① 3ニフ10・4—7
21 ① GS「物欲」
② 出エ20・16、マタ15・19—20
22 ① モサ7・29
23 ① ヒラ15・11—15
24 ① アル9・16、教義5・33
② アル9・19
25 ① ヒラ3・23

26 まことに、あなたがたの心に募る高慢のために、[1]災いが下るであろう。その高慢は、あなたがたが非常に多くの[2]富を得たために、度を越してあなたがたを高ぶらせた。
27 まことに、あなたがたの悪事と忌まわしい行いのために、あなたがたは災いである。
28 あなたがたは悔い改めなければ滅びるであろう。すなわち、あなたがたの土地は奪われ、あなたがたは地の面から滅ぼし去られるであろう。
29 見よ、わたしは、これらのことが起こるであろうと、わたし自身から言うのではない。わたしがこれらのことを[1]知っているのは、わたしが独りで知ったのではない。しかし見よ、主なる神がこれらのことを知らせてくださったので、わたしはこれらのことが真実であると知っているのである。したがって、これらのことが将来起こると証する。」

第 8 章

邪悪なさばきつかさたち、民をそそのかしてニーファイのことを怒らせようとする。アブラハム、モーセ、ゼノス、ゼノク、イザイアス、イザヤ、エレミヤ、リーハイ、ニーファイは皆、キリストについて証した。ニーファイ、大さばきつかさが殺されたことを霊感によって告げる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1 さて、ニーファイがこれらの言葉を語り終えたとき、見よ、そこには、さばきつかさでありながらガデアントンの秘密の団にも所属している男たちがおり、彼らは怒ってニーファイに非難の声を上げ、人々に言った。「なぜあなたがたはこの男を捕らえて連れて来て、この男が犯した罪科に応じて罪に定められるようにしないのか。
2 なぜあなたがたはこの男に見とれていて、この男がこの民と我々の法律を非難するのを聞いているのか。」
3 見よ、ニーファイが、彼らの法律が腐敗していることについて彼らに語ったからである。まことに、ニーファイはここに書き記せない多くのことを語った。しかし、神の戒めに反することは何一つ言わなかった。
4 ところが、ニーファイがさばきつかさたちの隠れた闇の業について、彼らにあからさまに[1]語ったので、

---

26 ① イザ 5・8−25
29 ① ② ヤコ 2・13
アル 5・45−46
第 8 章
4 ① 1ニフ 16・2−3

さばきつかさたちは、彼に対して怒ったのである。それでもさばきつかさたちは、あえて彼を捕らえようとはしなかった。彼らは、人々が自分たちに非難の声を上げるのではないかと恐れたからである。

5それで彼らは、人々に向かって叫んだ。「なぜあなたがたはこの男が我々を非難するのを許しておくのか。この男はこの民の全員に滅亡を宣告している。そのうえ、これらの偉大な町が我々から奪われ、そこに我々の居場所がなくなるとも言っている。

6我々は、このようなことがあり得ないのを知っている。まことに、我々は強く、町は偉大であるので、敵は我々を支配する権力を持てないからだ。」

7そして、彼らは人々を扇動してニーファイのことを怒らせ、人々の中に争いを生じさせた。というのは、次のように叫んだ人々もいたからである。「この人をそのままにしておけ。この人は立派な人だ。我々が悔い改めなければ、この人の言うことは必ず起こるだろう。

8そして見よ、この人が我々に証した裁きは、すべて我々に下るだろう。我々は、この人が我々の罪悪について正しく証したのを知っている。見よ、我々の罪悪は多い。この人は、我々の罪悪を知っているように、将来我々に起こるすべてのことも知っている。

9まことに見よ、もしこの人が預言者でなかったならば、それらのことについて証ができなかっただろう。」

10そして、ニーファイを殺そうとした者たちは恐れ、彼を捕らえることはどうしてもできなかった。そこで彼は、ある人々が自分に好意を寄せ、またそのことでほかの者が恐れているのを見て、人々に再び話し始めた。

11彼はもっと話すように強く促されて、人々に言った。「見よ、同胞よ、あなたがたは神が一人の人モーセに、紅海の水を打つ力を与えられたことを読んだことがないのか。[1]紅海の水は右と左に分かれたので、わたしたちの先祖であるイスラエル人は、乾いた地を通って出て来た。また、その水はエジプト人の軍勢の上に閉じ、彼らをのみ尽くしてしまった。

12そして見よ、神がかつてこのような力をこの人に与えられたのであれば、なぜあなたがたは互いに論じ合うのか。あなたがたが悔い改めなければあなた

8①
11①
17・26、モサ7・19、教義8・2−3、モセ1・25
ヒラ7・29、出エ14・16、1ニフ

がたに及ぶことになる裁きについて、知ることのできる力を、神がわたしに与えられなかったと言うのか。

13 しかし見よ、あなたがたは、わたしの言葉を否定しているだけでなく、わたしたちの先祖が語ったすべての言葉と、このような偉大な力を与えられたこのモーセが語った言葉、まことに、彼がメシヤの来臨に関して語った言葉をも否定している。

14 まことに彼は、神の御子が将来来られることを証しなかったか。彼が荒れ野で青銅の蛇を上げたように、将来来られる神の御子も上げられるであろう。

15 また、その蛇を仰ぎ見る者が皆生きたように、悔いる霊を抱いて、信仰をもって神の御子を仰ぎ見る者は皆、生きることができ、永遠であるあの命にあずかるであろう。

16 さて見よ、これらのことを証したのはモーセだけではない。彼の時代からアブラハムの時代にさかのぼる聖なる預言者たちも皆、証した。

17 そして見よ、アブラハムは、神の御子の来臨を見て、喜びに満たされ、うれしく思った。

18 見よ、あなたがたに言うが、これらのことを知っていたのはアブラハムだけではない。アブラハムの時代以前にも、神の位に従って、すなわち神の御子の位に従って召された人々が多数いた。これは、神の御子の来臨に先立つ何千年も前に、将来贖いが与えられるということを民に示すためであった。

19 またあなたがたは、アブラハムの時代以降にもこれらのことを証した預言者が多くいたということを知ってほしい。まことに、預言者ゼノスは大胆に証し、そのために殺された。

20 また見よ、ゼノクも、イザイアスも、イザヤも、エレミヤもいた。（エレミヤとは、エルサレムの滅亡について証したあの預言者である。）そしてわたしたちは、エルサレムがエレミヤの言葉のとおりに滅ぼされたことを知っている。おお、それならば、どうして彼の言葉のとおりに神の御子が来られないことがあろうか。

21 あなたがたはエルサレムが滅ぼされたという事実に反論するつもりか。あなたがたは、ゼデキヤの息子たちがミュレクのほか皆殺されたのに、殺されなかったと言うつもりか。ゼデキヤの子孫がエルサレムの地を追われ、今わたしたちとともにいるのを、

---

14 ① 民数21・6−9、2ニフ25・20、アル33・19−22、GS「イエス・キリストーキリストの予型と象徴」
15 ① 1ニフ17・41、アル37・45−47、3ニフ15・9
16 ① ② ヨハ11・25、ヤコ4・4−5、7・11
17 ① 創世22・8−14、ヨハ8・56
18 ① GS「メルキゼデク神権」
② アル13・19、教義84・6−16、136・37
19 ① アル34・7
20 ① 1ニフ19・10、3ニフ10・15−16、GS「聖文−失われた聖文」
② イザ53章
③ 1ニフ5・13、7・14
④ エレ26・18、1ニフ1・4
21 ① 2ニフ6・8、オム1・15
② 列下25・7、エレ39・6、52・10
③ エゼ17・22−23、ヒラ6・10

あなたがたは見ていないのか。しかし見よ、これだけではない。

22 わたしたちの先祖リーハイは、これらのことを証したためにエルサレムから追い出された。ニーファイもこれらのことを証し、現在に至るまでの先祖たちもほとんど皆、証した。彼らはキリストの来臨[1]について証し、将来を見通し、将来来るキリストの日を喜んだ。

23 見よ、キリストは神であり、今わたしたちの先祖とともにおられる。また、キリストは彼らに御自身を現し、彼らがキリストによって贖われることを告げられた。そこで彼らは、将来起こることのために、キリストに栄光を帰した。

24 あなたがたはこれらのことを知っており、偽りを言うのでなければこれらのことを否定できないので、このことにおいてあなたがたは罪を犯した。あなたがたは、このように多くの証拠を与えられてきたにもかかわらず、これらのことをすべて受け入れなかったからである。まことに、あなたがたはこれらのことが真実であるという証拠として、[1]万物を、すなわち天にあるものと地にある万物を、ともに与えられてきた。

25 しかし見よ、あなたがたは真実を受け入れず、聖なる神に[1]背いてきた。そして、今でさえあなたがたは、何ものも朽ちない、また清くないものは何一つ入れない天に、自分自身のために[2]宝を蓄えるのではなく、[3]裁きの日に対して自分自身のために激しい怒りを積み重ねている。

26 まことに、今でさえあなたがたは、殺人と[1]不貞と悪事のために永遠の滅びの機を熟させつつある。悔い改めなければ、それは間もなくあなたがたに及ぶであろう。

27 まことに見よ、それは今まさにあなたがたの戸口にある。さばきつかさのいる所へ行って調べてみなさい。見よ、あなたがたのさばきつかさは殺されており、血の中に[1]横たわっている。彼はさばきつかさの職に就くことを求めている自分の兄弟に殺されたのである。

28 見よ、彼らは二人とも、あなたがたの秘密の団に所属している。その秘密の団の[1]創設者は、ガデアントンと、人々の霊を滅ぼそうとしている悪しき者である。」

---

22 ① GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
24 ① アル30・44、モセ6・63
25 ① モサ2・36—38、3・12 ② ヒラ5・8、3ニフ13・19—21 ③ 教義10・20—23、121・23—25
26 ① GS「不貞」
27 ① ヒラ9・3、15 ② ヒラ9・6、26—38
28 ① ヒラ6・26—30

第9章

使いの者たち、大さばきつかさがさばきつかさの席で死んでいるのを発見する。彼らは投獄され、後に釈放される。ニーファイ、霊感によってセアンタムを殺人者と断定する。ニーファイ、ある人々から預言者として受け入れられる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1 さて見よ、ニーファイがこれらの言葉を語り終えると、彼らの中のある者たちがさばきつかさのいる所へ走って行った。すなわち、五人の者が行き、行く途中で互いに言った。

2 「見よ、この男が預言者かどうか、またこのような驚くべきことを我々に預言するように、神がこの男に命じたのかどうか、必ず分かるだろう。見よ、我々は神が命じたとは信じない。まことに、彼が預言者であるとも信じない。しかし、彼が大さばきつかさについて言ったこのことがほんとうで、大さばきつかさが死んでいれば、彼の語ったほかの言葉もほんとうだと、我々は信じよう。」

3 そして彼らは力の限り走って、さばきつかさのいる所に入って行った。すると見よ、大さばきつかさが地に倒れ、血の中に[1]横たわっていた。

4 さて見よ、彼らはこれを見ると非常に驚き、地に倒れてしまった。彼らはニーファイが大さばきつかさについて語った言葉を信じていなかったからである。

5 しかし、彼らは見て信じ、ニーファイの語った裁きがすべて民に下るのではないかという恐れに打たれた。そして、そのために彼らは震えおののき、地に倒れてしまったのである。

6 ところで、さばきつかさが殺されるとすぐに、すなわち、彼の兄弟がひそかに彼を突き刺して逃げるとすぐに、従者たちは走って行き、人々に殺害のことを大声で告げ知らせた。

7 すると見よ、人々はさばきつかさの席のある場所に集まって来たが、見よ、驚いたことに、五人の者が地に倒れていた。

8 さて見よ、人々は、ニーファイの[1]庭に集まっていた大勢の者のことは何も知らなかったので、互いに、「この男たちはさばきつかさを殺した者たちだ。この男たちが我々から逃げられないように、神が打

第9章
3① ヒラ8・27
8① ヒラ7・10

たれたのだ」と言った。
9そして彼らは、この五人を捕らえて縛ると、牢に入れた。それから、さばきつかさが殺され、殺人者たちが捕らえられて牢に入れられたということが広く告げ知らされた。
10そしてその翌日、殺された大さばきつかさの埋葬に当たって、人々は哀悼の意を表し、1)断食するために集まった。
11そのため、ニーファイの庭にいて、彼の言葉を聞いたさばきつかさたちも、埋葬に集まっていた。
12そして彼らは人々の中で、「大さばきつかさが死んでいるかどうか調べるために遣わされた五人の者はどこにいるだろうか」と尋ねた。すると人々は、「あなたがたが遣わしたと言うその五人については、我々は知りませんが、殺人者である五人の者は牢に入れてあります」と答えた。
13そこでさばきつかさたちは、彼らを連れて来るように求め、彼らは連れて来られた。見よ、それは遣わされた五人の者たちであった。そこで見よ、さばきつかさたちは、その件について彼らに尋ね、彼らは自分たちの行ったことをすべて、さばきつかさたちに話した。
14「わたしたちは走って、さばきつかさのいる所に行きました。そして、ニーファイが証したとおりのことをすべて見たので、驚いて地に倒れてしまいました。そして、驚きが収まって正気に戻ると、牢に入れられていました。
15この方の殺害に関しては、わたしたちはだれがそれを行ったのか知りません。わたしたちの知っているのは、ただ、あなたがたに求められたとおりにわたしたちが走って行ったところ、まことに、ニーファイの言葉のとおりに、この方が死んでいたことです。」
16そこでさばきつかさたちは、人々にそのことをよく説明し、ニーファイを非難して叫んで言った。「見よ、我々は知っている。そのニーファイという者がだれかと共謀して、さばきつかさを殺したに違いない。そして彼は、その後に我々にそのことを告げ、我々を彼の信仰に転向させて、自分が神の選ばれた偉大な者に、また預言者になろうとしたのだ。
17さて見よ、我々はその男を調べよう。その男は自分の悪事を自白し、このさばきつかさのほんとうの殺害者を我々に告げるだろう。」

10①GS「断食」

18 そして五人の者は、埋葬の日に釈放された。しかし彼らは、さばきつかさたちがニーファイを非難して語った言葉のことで、さばきつかさたちをたしなめ、彼らの一人一人と論じ合って、彼らを言い伏せた。

19 にもかかわらず、さばきつかさたちはニーファイを捕らえて縛らせ、群衆の前に連れて来させた。そして彼らは、いろいろな方法で彼を尋問し、彼に矛盾したことを言わせて、死刑にする訴えを起こせるように謀った。

20 そして、彼らは彼に言った。「おまえは共謀者だ。この殺害を行った当人はだれだ。我々に話して、おまえの悪事を認めよ。」また言った。「見よ、ここに金がある。もしおまえが我々に話して、おまえが殺人者と取り決めを結んだことも認めるならば、我々はおまえの命を許してやろう。」

21 しかし、ニーファイは彼らに言った。「おお、[1]愚かな者、心に割礼のない者、盲目な者、[2]強情な民よ。あなたがたがこの罪の道を歩き続けるのを、主なる神がいつまで許されるか、あなたがたは知っているのか。

22 おお、あなたがたは悔い改めなければ、今あなたがたを待ち受けているひどい滅亡のために、泣きわめき、[1]嘆き悲しむようになるに違いない。

23 見よ、わたしがある男と共謀して、わたしたちの大さばきつかさであるセゾーラムを殺させたと、あなたがたは言う。しかしまことに、あなたがたに言うが、あなたがたがそう言うのは、あなたがたがこのことについて知ることができるように、わたしが証したためである。すなわち、あなたがたの中にある悪事と忌まわしい行いを知っている証拠として、あなたがたに証したためである。

24 ところが、わたしがこのようにしたので、あなたがたは、わたしがある男と共謀してこのことを行わせたと言う。また、わたしがこのしるしをあなたがたに示したので、あなたがたはわたしのことを怒り、わたしの命を取ろうとしている。

25 さて見よ、わたしはもう一つのしるしをあなたがたに示し、あなたがたがこのことで、わたしを殺そうとするかどうかを見よう。

26 見よ、あなたがたに言う。セゾーラムの[1]兄弟であるセアンタムの家に行き、彼に、

---

21 ① 使徒7・51
② GS「背く」
22 ① モサ7・24
26 ① ヒラ8・27

27 『この民について非常に多くの災いを預言している、自称預言者のニーファイがあなたと共謀し、それであなたがたが兄弟のセゾーラムを殺したのですか』と言いなさい。
28 見よ、彼は、『そうではない』とあなたがたに言うだろう。
29 そこで、あなたがたは彼に、『あなたが兄弟を殺したのですか』と言いなさい。
30 すると彼は恐れて立ち尽くし、言葉に詰まる。そして彼はあなたがたの言葉を打ち消し、驚いたふりをするだろう。それでも、自分は潔白であるとあなたがたに告げるだろう。
31 しかし彼をよく調べなさい。そうすれば、彼の外套のすそに血が見つかるだろう。
32 あなたがたはこれを見たら、『この血はどこでついたのですか。これはあなたの兄弟の血ではないですか』と言いなさい。
33 すると彼は震えおののき、まるで死んだように蒼白になる。
34 そこであなたがたは、『このように恐れ、また顔色が蒼白になったからには、きっとあなたが罪を犯したのだろう』と言いなさい。
35 すると彼は、ますます恐れて、やがてあなたがたに自白し、自分がこの殺害を行ったことをもはや否定しないだろう。
36 それから彼は、神の力によってわたしニーファイにそれが示されたのでなければ、そのことについて分かるはずがないと、あなたがたに告げるだろう。そのときあなたがたは、わたしが正直な男であり、あなたがたのもとに神から遣わされていることを知るだろう。」
37 そこで彼らは行って、ニーファイから言われたとおりにした。するとまことに、彼の言った言葉はほんとうであった。セアンタムはその言葉のとおりに否定し、またその言葉のとおりに自白した。
38 そして、彼自身がまさにその殺害者であることが立証されたので、五人の者は釈放され、ニーファイも釈放された。
39 ニーファイの言葉を信じた者がニーファイ人の中に何人もおり、また五人の者が証したことで信じた者も何人もいた。五人の者は、牢の中にいた間に改心していたからである。

40そして、ニーファイは預言者であると言う者が、民の中に何人もいた。

41また、「神でなければすべてのことを知ることができないので、まことにこの人は神だ。この人はわたしたちの心の思いを告げ、またいろいろなこともわたしたちに告げてきた。わたしたちの大さばきつかさのほんとうの殺害者さえも教えてくれた」と言う者たちもいた。

第10章

主、ニーファイに結び固めの権威を授けられる。ニーファイ、地上でも天でもつなぎ、解く力を付与される。ニーファイ、悔い改めるように民に命じ、悔い改めなければ滅びることを告げる。ニーファイ、御霊によって群衆から群衆へと連れて行かれる。紀元前約二十一年から二十年に至る。

1さて、民の中に不一致が生じたため、彼らはあちらこちらに分かれて、それぞれ去って行った。そしてニーファイは、彼らの真ん中に立っていて、ただ一人残された。

2そこでニーファイも、主が自分に示してくださったいろいろなことを深く考えながら、家路に就いた。

3そして、彼は深く考え、ニーファイの民の悪事と、彼らの隠れた闇の業と、殺人と、略奪と、あらゆる罪悪のことでひどく沈んでいた。そして、彼がこのように心の中で深く考えていたとき、まことに一つの声が彼に聞こえて、こう言われた。

4「ニーファイ、あなたはこれまで行ってきたことのために幸いである。わたしがあなたに授けた言葉を、あなたが根気よくこの民に告げ知らせたことを、わたしは見たからである。あなたは彼らを恐れることなく、また自分の命を得ようとせず、わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろうとしてきた。

5さて、あなたがこのように根気よくこのことを行ってきたので、見よ、わたしはとこしえにあなたを祝福しよう。また、わたしはあなたを言葉にも行いにも、信仰にも働きにも、力のある者にしよう。あなたはわたしの思いに反することを求めないので、まことに、すべてのことがあなたの言葉のとおりに行われるであろう。

第10章
2 ①GS「深く考える」
4 ①GS「熱心」 ②GS「犠牲」 ③ニフ11・11
5 ①2ニフ4・35、教義46・30 ②3ニフ18・20、教義88・63−65 ③エノ1・12

6 見よ、あなたはニーファイであり、わたしは神である。見よ、わたしは天使たちの前であなたに宣言する。あなたはこの民に対して力を持ち、またこの民の悪に応じて飢饉、疫病、破壊で地を打つであろう。

7 見よ、あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれるように、わたしはあなたに力を授ける。したがって、あなたはこの民の中で力を持つであろう。

8 したがって、もしあなたがこの神殿に向かって二つに裂けるように言えば、そのとおりになるであろう。

9 もしあなたがこの山に向かって、『崩れて平らになれ』と言えば、そのとおりになるであろう。

10 また見よ、もしあなたが神はこの民を打たれると言えば、そのようになるであろう。

11 さて見よ、今わたしはあなたに命じる。あなたは行ってこの民に、『全能者である主なる神は、「あなたがたは悔い改めなければ滅びるまで打たれる」と言われる』と告げ知らせなさい。」

12 さて見よ、主がこれらの御言葉をニーファイに言われると、ニーファイは立ち止まり、自分の家に帰らず、地の面の方々に散っている群衆のもとへ戻って行った。そして、彼らは悔い改めなければ滅びるという、自分に告げられた主の言葉を彼らに告げた。

13 さて見よ、ニーファイが大さばきつかさの死について彼らに告げて行った、あの大きな奇跡があったにもかかわらず、彼らは心をかたくなにし、主の言葉に聞き従わなかった。

14 そこでニーファイは、彼らに主の言葉を告げ、「『あなたがたは悔い改めなければ滅びるまで打たれる』と主が言われる」と語った。

15 さて、ニーファイが彼らにその御言葉を告げても、見よ、彼らはなおも心をかたくなにし、彼の言葉に聞き従おうとしなかった。そして彼らは、ニーファイをののしり、また牢に入れるために彼を捕らえようとした。

16 しかし見よ、神の力がニーファイとともにあったので、彼らはニーファイを捕らえて牢に入れることができなかった。彼は御霊によって取り上げられ、彼らの中から連れ去られてしまったからである。

6① ヒラ11・4−18
7① マタ16・19、GS「奉仕」
9① 「結び固め」
11① ヒラ5・2
30 6、モル8・24、エテ12・4、マタ17・20、ヤコ

17そして、彼は御霊の内にあって群衆から群衆へと巡り、神の言葉を告げ知らせた。そして、ついに彼はすべての者に神の言葉を告げ終え、すべての民の中に神の言葉を伝え終えた。
18さて、彼らはニーファイの言葉を聴こうとしなかった。そして、争いが起こったため、彼らは分かれて互いに剣で殺し合うようになった。
19このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第七十一年が終わった。

第11章

ニーファイ、民の戦争の代わりに飢饉があるように主に願う。多くの人が死ぬ。人々は悔い改め、ニーファイは主に雨を請い願う。ニーファイとリーハイ、多くの啓示を受ける。ガデアントンの強盗たち、その地で勢力を確立する。紀元前約二十年から六年に至る。

1さて、さばきつかさの統治第七十二年に、争いが激しくなり、国中至る所ですべてのニーファイの民の中に戦争が起こった。
2この滅亡と悪の業を行ったのは、あの1)秘密強盗団であった。この戦争は年内続き、第七十三年にも続いた。
3そしてこの年に、ニーファイは主に叫び求めた。
4「おお、主よ、この民が剣で滅びることのないようにしてください。おお、主よ、むしろ国内に1)飢饉があるようにし、彼らに主なる彼らの神を思い起こさせてください。恐らく彼らは悔い改めて、あなたに立ち返るでしょう。」
5すると、ニーファイの言葉のとおりになった。その地に、すなわちすべてのニーファイの民の中に大飢饉があった。このようにして、第七十四年にも飢饉は続き、剣による滅亡の業はやんだが、飢饉によって滅亡がひどくなった。
6この滅亡は第七十五年にも続いた。地は打たれて乾き、穀物の実る季節にも穀物を産しなかった。また、全地が打たれて、ニーファイ人の中だけでなくレーマン人にも影響が及んだ。その結果、民は打たれ、ひときわ邪悪な地方では何千もの人々が死んだ。
7そこで人々は、自分たちがまさに飢饉によって滅びようとしているのを見て、主なる神を1)思い起こす

第11章
2① ヒラ6・18−24、11・25−26
4① 列上17・1、ヒラ10・6
7① ヒラ12・3

ようになり、またニーファイの言葉を思い返すようになった。

8そして人々は、自分たちの大さばきつかさたちと指導者たちに、ニーファイに対して次のように言うよう頼んだ。「まことに、わたしたちはあなたが神の人であることを知っています。ですから、あなたがわたしたちの滅亡について語った言葉がすべて成就することのないように、主なるわたしたちの神に、この飢饉を遠ざけてくださるよう叫び求めてください。」

9そこでさばきつかさたちは、人々が望んだ言葉のとおりにニーファイに言った。するとニーファイは、人々が悔い改め、粗布をまとってへりくだっているのを見て、再び主に叫び求めて言った。

10「おお、主よ、この民は悔い改めています。彼らが自分たちの中からガデアントンの団を一掃したため、団の者たちはいなくなり、彼らは秘密のはかりごとを地中に隠してしまいました。

11おお、主よ、このように彼らは謙遜になっていますので、あなたの怒りを解いてください。あなたがすでに滅ぼされたあの悪人たちの滅亡をもって、あなたの怒りを和らげてください。

12おお、主よ、あなたの怒り、まことにあなたの激しい怒りを解いて、この地における飢饉をやませてください。

13おお、主よ、わたしの祈りをお聴きください。わたしの言葉のとおりになり、地の面に雨が降り、穀物の実る季節に、地が果実と穀物を産するようにしてください。

14おお、主よ、わたしが、『飢饉があって、剣による滅亡がやむようにしてください』と申し上げたときに、あなたはわたしの言葉をお聴きくださいました。また、あなたがかつて、『この民が悔い改めるならば、わたしは彼らの命を助けよう』と言われましたので、わたしはこの度も、あなたがわたしの言葉をお聴きくださることを存じています。

15まことに、おお、主よ、彼らに起こった飢饉と疫病と滅亡のために、彼らがすでに悔い改めていることを、あなたは御存じです。

16おお、主よ、あなたの怒りを解き、彼らがあなたに仕えるかどうかもう一度お試しください。もし仕えるならば、おお、主よ、かつて言われた御言葉の

8① ヒラ10・11—14
13① 列上18・1、41—46
14① ヒラ11・4

とおりに、彼らを祝福してください。」

17そこで、第七十六年に、主は民から怒りを遠ざけて地に1)雨が降るようにされたので、地は果実の実る季節に果実を産した。また、穀物の実る季節に穀物を産した。

18そこで見よ、民は喜び、神をあがめ、喜びが地の全面に満ちた。そして彼らは、もうニーファイを殺そうとせず、彼を偉大な預言者として、また神から授けられた大いなる力と権能を持つ神の人として尊んだ。

19見よ、彼の弟リーハイも、義にかかわることに関しては少しもニーファイに劣らなかった。

20さて、ニーファイの民は再びその地で栄えるようになり、荒れ果てた所を建て直し始めた。また彼らは、増えて広がり始め、ついに北方と南方の地の全面を、西の海から東の海に至るまで覆った。

21そして、第七十六年が平穏に終わり、第七十七年も平穏に始まった。1)教会は全地の面に広がり、ニーファイ人もレーマン人も、民の大半が教会に所属し、彼らはその地で非常に大いなる平和を得た。このようにして、第七十七年が終わった。

22また第七十八年も、預言者たちによって定められた教義の幾つかの点について少し争いがあったほかは、平和であった。

23ところが第七十九年に、多くの争いが始まった。しかし、ニーファイとリーハイと、彼らの同僚たちの多くは、教義の真の要点について理解し、日々多くの1)啓示を受けていたので、人々に教えを説き、その年のうちに争いを鎮めた。

24さて、何年か前にニーファイの民からレーマン人のもとへ行き、自らレーマン人と名乗った離反者たちがおり、また、その離反者たちによって怒りをかき立てられたレーマン人の実の子孫たちもいて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十年に、これらの者たちが同胞と戦争を始めた。

25彼らは殺人と略奪を行っては、山の中や荒れ野や隠れ場に引き揚げて身を隠し、見つからないようにしていた。そして、彼らのもとに行く離反者たちがいたため、日々その人数が増えた。

26このようにしてついに、何年もたたないうちに、彼らは非常に大きな強盗団になった。そして彼らは、ガデアントンの秘密のはかりごとをすべて探し

17①申命11・13−17
18①ヒラ10・5−11
19①ヒラ5・36−44
21①GS「イエス・キリストの教会」
23①アル26・22、教義107・19

出し、ガデアントン流の強盗になった。
27さて見よ、この強盗たちは、ニーファイの民の中に、またレーマン人の民の中にも、ひどい荒廃、ことにひどい滅亡をもたらした。
28そこで、この滅亡の業をやめさせることが必要であったので、この強盗団を捜し出して滅ぼすために、荒れ野と山に強い兵から成る軍隊が送り込まれた。
29しかし見よ、その年のうちに、兵はそれぞれの地へ追い返された。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十年が終わった。
30さて、第八十一年の初めに、彼らは再びこの強盗団に向かって出て行き、多くの者を殺した。しかし、彼らもひどい損害を受けた。
31また、山や荒れ野に群れを成していたその強盗たちの数が非常に多かったので、兵は再び荒れ野と山からそれぞれの地に引き揚げざるを得なかった。
32そして、このようにしてこの年は終わった。強盗たちは依然として増え続け、強くなったため、ニーファイ人とレーマン人の全軍をものともしなかった。そして、彼らは地の全面で人々をひどく恐れさせた。
33まことにそれは、彼らが多くの地方を襲って、民にひどい滅亡をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去ったからである。
34そこで民は、自分たちの罪悪のために受けたこの大きな災いに促され、再び主なる彼らの神を思い起こすようになった。
35このようにして、さばきつかさの統治第八十一年が終わった。
36ところが第八十二年に、彼らはまた主なる神を忘れ始めた。そして第八十三年に、彼らはさらに罪悪を募らせ、第八十四年にも行いを改めなかった。
37そして第八十五年には、彼らはますます高慢と悪事を募らせ、そのために再び滅亡の機が熟してきた。
38このようにして、第八十五年が終わった。

第12章

人は不安定で、愚かで、悪を行うのが早い。主は御自分の民を懲らしめられる。人の無力さと対比される

神の力。裁きの日に、人は永遠の命か永遠の罰の定めかのどちらかを受ける。紀元前約六年。

1 このことからわたしたちは、人の子らの心がどれほど不誠実で不安定であるかを知ることができる。まことに、主を1)信頼する者たちを、主が大いなる限りない慈しみをもって祝福し、2)栄えさせられるということも、わたしたちは知ることができる。

2 また、主が御自分の民を栄えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民を救い出し、また宣戦することのないように敵の心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなにし、1)主なる神を忘れ、聖者を足の下に2)踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。

3 またこのことから、主が多くの苦難をもって御自分の民を1)懲らしめられなければ、まことに、死と恐怖と飢饉とあらゆる疫病を下されなければ、彼らは主を2)思い起こそうとしないことが分かる。

4 おお、人の子らは何と愚かで、虚栄心が強く、邪悪で悪魔に従い、何と罪悪を行うのが1)早く、善を行うのが遅いことか。何と悪しき者の言葉を聴くのが早く、俗世のむなしいものに2)執着するのが早いことか。

5 まことに、何と1)高慢になるのが早いことか。何と誇るのが早く、あらゆる罪悪を行うのが早いことか。人の子らは何と主なる神を思い起こすのが遅く、主の勧告に耳を傾けるのが遅いことか。何と知恵の道を2)歩むのが遅いことか。

6 見よ、人の子らは、自分たちを造ってくださった主なる神に治められ、統治されるのを望まない。主が深い慈しみと憐れみをかけてくださっているのに、人の子らは主の勧告を軽んじ、主が自分たちの導き手になってくださるのを望まない。

7 おお、人の子らは何と無力なことか。まことに、地のちりよりも劣っている。

8 見よ、地のちりは、わたしたちの大いなる永遠の神の命令に応じてあちらこちらに動いて分かれる。

第12章

1 ① 詩篇36・7−8、2ニフ22・2、モサ4・6、GS「信頼」
② 歴下26・5、詩篇1・2−3
2 ① GS「背教・背信」
② アル5・53、3ニフ28・35
3 ① モサ23・21、教義98・21、101・8
4 ① ② アモ4・6−11
① 出エ32・8
② マタ15・19、ヘブ3・12
5 ① 箴言29・23、GS「高慢」
② GS「歩む（神とともに）」
6 ① イザ45・9、教義58・30、モセ7・32−33
② 教義60・4
7 ① ② イザ40・15、17、モサ4・19、モセ1・10

9 まことに見よ、神の声によって丘と山は揺れ動き、[1]震える。
10 神の声の力によってそれらは崩れて平らになり、まことに谷のようにさえなる。
11 まことに、神の声の力によって全地が揺れ動く。
12 まことに、神の声の力によって地の基がその中心までも振動する。
13 そして、もし神が大地に向かって、「動け」と言われれば、大地は動く。
14 まことに、もし神が大地に向かって、「[2]逆に進んで、昼を何時間も長くせよ」と言われれば、そのとおりになる。
15 このように、神の言葉のとおりに大地は逆に進むので、人には太陽が静止しているように見える。見よ、これは事実である。確かに動いているのは大地であり、太陽ではないからである。
16 また見よ、もし神が大いなる深みの水に向かって、「[2]干上がれ」と言われれば、そのとおりになる。
17 見よ、もし神がこの山に向かって、「持ち上がって、行ってあの町の上に落ち、町を埋めよ」と言われれば、見よ、そのとおりになる。
18 見よ、もしある人が地中に宝を隠し、主が、「それを隠した者の罪悪のために、それはのろわれよ」と言われれば、見よ、それはのろわれる。
19 もし主が、「今から後とこしえにだれにも見つからないように、おまえはのろわれよ」と言われれば、見よ、これから先とこしえに、だれもそれを得られない。
20 見よ、もし主がある人に向かって、「あなたは自分の罪悪のためにとこしえにのろわれる」と言われれば、そのとおりになるであろう。
21 もし主が、「あなたは自分の罪悪のためにわたしの前から絶たれる」と言われれば、主はそのようになさるであろう。
22 主からこのように言われる者は災いである。罪悪を行う者はそのとおりになり、その者は救われないからである。このため、人々が救われるように、悔い改めが告げ知らされてきたのである。
23 したがって、悔い改めて、主なる神の声に聞き従おうとする者は幸いである。[1]救われるのはこれらの者だからである。
24 神が御自分の大いなる完全さに照らして、人々を

---

9 (1) 3ニフ22・10
10 (1) 1ニフ17・46
11 (1) モル5・23、エテ4・9
14 (1) ヨシ10・12—14
(2) イザ38・7—8
16 (1) (3) 列下20・8—11
マタ8・27
17 (1) (2) イザ44・27、51・10
18 (1) 3ニフ8・10
モル1・18、エテ14・1
23 (1) (2) ヒラ13・17
GS「救い」

悔い改めと善行に導き、それぞれの行いに応じた恵[1)]みに回復してくださるように。
25わたしはすべての人が救われることを願っている。しかし、わたしたちの読んだところによれば、大いなる終わりの日には、捨てられる者たち、まことに、主の前から追い出される者たち、
26まことに、無窮の惨めな状態に置かれる者たちがいるとのことである。そして、「善を行った者は永遠[1)]の命を受け、悪を行った者は永遠の罰[2)]の定めを受ける」という御言葉が成就するのである。まことにそのとおりである。アーメン。

レーマン人サムエルがニーファイ人に語った預言。次の第十三―十五章がそれに相当する。

第13章

レーマン人サムエル、ニーファイ人は悔い改めなければ滅亡することを預言する。ニーファイ人と彼らの富はのろわれる。ニーファイ人は預言者たちを拒んで石を投げつけ、悪霊たちに取り囲まれ、罪悪を行うことに楽しみを求める。紀元前約六年。

1さて、第八十六年にも、ニーファイ人は依然として悪事を、まことに大きな悪事を続けていた。一方[1)]レーマン人は、モーセの律法に従って神の戒めを厳密に守るように努めていた。
2そしてこの年に、レーマン人のサムエルという者がゼラヘムラの地にやって来て、民に教えを説き始めた。彼は幾日もの間、民に悔い改めを宣べ伝えたが、民が彼を追い出したので、彼は自分の国へ帰ろうとした。
3ところが見よ、主の声が彼に聞こえて、もう一度引き返し、心の中に浮かぶことを、どのようなことであろうと民に預言するように言われた。
4さて、民は、彼が町に入るのを許さなかった。そこで彼は、町の城壁の上に登り、手を伸ばして大声で叫び、主が心に与えてくださることをすべて民に預言した。
5彼は民に言った。「見よ、わたし、レーマン人サムエルは、主がわたしの心に与えてくださる主の御言葉を告げる。この民に告げるように主がわたしの心

24① GS「恵み」
26① マタ25・46、ヨハ5・28−29、ロマ6・13
② GS「罰の定め」
第13章
1① ヒラ15・4−5
3① 教義100・5

に与えてくださったことは次のとおりである。罰の剣が今この民のうえに迫っている。四百年たたないうちに、罰の剣はこの民のうえに振り下ろされる。

6 まことに、ひどい滅亡がこの民を待ち受けており、それは必ずこの民に下る。悔い改めて、主イエス・キリスト、すなわち、将来必ずこの世に来て、多くの苦しみを受け、御自分の民のために殺される主イエス・キリストを信じる以外に、何事もこの民を救うことはできない。

7 そして見よ、主の天使がそれをわたしに告げた。また主の天使は、わたしに喜びのおとずれを携えて来た。見よ、あなたがたもその喜ばしいおとずれを得られるように、わたしはあなたがたにそれを告げ知らせるために遣わされたのである。しかし見よ、あなたがたはわたしを受け入れようとしなかった。

8 したがって、主は次のように言われる。『ニーファイ人の民の心がかたくなであるので、彼らが悔い改めなければ、彼らからわたしの言葉を取り去ろう。また、わたしの霊も取り去ろう。そしてわたしは、もはや彼らをそのままにはしておかず、彼らの同胞に彼らに対する敵対心を抱かせよう。

9 四百年たたないうちに、わたしは彼らが打たれるようにしよう。まことに、わたしは剣と飢饉と疫病を彼らに及ぼそう。

10 まことにわたしは、激しい怒りをもって彼らを罰しよう。あなたがたの敵の第四世代の者の中には、生き長らえて、あなたがたの完全な滅亡を見る者がいるであろう。あなたがたが悔い改めなければ、このことは必ず起こる』と、主は言われる。『その第四世代の者たちがあなたがたを滅ぼすであろう。

11 しかし、もしあなたがたが悔い改めて、主なるあなたがたの神に立ち返るならば、わたしは怒りを解こう』と、主は言われる。まことに、主は次のように言われる。『悔い改めてわたしに立ち返ろうとする者は幸いである。しかし、悔い改めない者は災いである。

12 まことに、この大きなゼラヘムラの町は災いである。見よ、この町が今救われているのは、義を守っている者たちのおかげである。まことに、この大きな町は災いである。多くの者、まことにこの大きな町の大半の者が将来わたしに対して心をかたくなにすることを、わたしは知っているからである』と、

5① アル60・29、3ニフ2・19
6① アル45・10—14、ヒラ15・17
7① アル13・26
7② イザ52・7
8① ヒラ6・35
9① アル45・10—12
10① 1ニフ12・12、2ニフ26・9、3ニフ27・32
11① 3ニフ10・5—7
12① 3ニフ8・8、24、9・3

主は言われる。
13『しかし、悔い改める者は幸いである。わたしはその者たちの命を救うからである。しかし見よ、もしこの大きな町に義人がいなければ、見よ、わたしは天から火を下し、この町を滅ぼしていたであろう。
14しかし見よ、この町が今助かっているのは、義人のためである。しかし見よ、あなたがたが義人を追い出す時が来る。そのとき、あなたがたの滅亡の機は熟する』と、主は言われる。『まことに、この大きな町は、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。
15また、ギデオンの町も、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。
16また、周りの地にあるニーファイ人が所有しているすべての町は、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。』
17また見よ、万軍の主は言われる。『この地にいる民のために、まことに彼らの悪事と忌まわしい行いのために、のろいが地に下るであろう。』
18そしてこのように、万軍の主、まことにわたしたちの大いなるまことの神は言われる。『地中に宝を隠す者は、その者が義人であって、主に託してそれを隠すのでなければ、地のひどいのろいのために、もはや二度とそれを見いだせないであろう。』
19主は言われる。『宝を隠す者はわたしに託して隠すようにわたしは望む。わたしに託すことなく宝を隠す者はのろわれる。義人以外にはだれも、わたしに託して宝を隠さないからである。わたしに託すことなく宝を隠す者はのろわれるし、その宝ものろわれる。また、地がのろわれるために、それを取り出す者はだれもいない。
20人々が富に執着して自分の宝を隠す日が来る。人々は自分の富に執着し、敵の前から逃げるときに自分の宝を隠すであろう。しかし、彼らは宝を隠すときにわたしに託さないので、彼らも宝ものろわれる。そしてその日に彼らは打たれる』と、主は言われる。
21見よ、あなたがた、この大きな町の民よ、注意を払い、わたしの言葉を聴きなさい。まことに、主が言われる御言葉を聴きなさい。あなたがたは富のためにのろわれると、主は言われる。また、あなたがたが富に執着し、それを授けてくださった御方の

13①創世19・24、列下1・9−16、3ニフ9・11
17①ヒラ12・18
18①モル1・18、エテ14・1
21①GS「聞き従う・聴く」

御言葉に聞き従わなかったので、あなたがたの富も
のろわれると、主は言われる。
22 あなたがたは、主なる神が授けてくださったもの
について、主を思い起こさない。あなたがたはいつ
も[1]富のことを心にかけていて、主なるあなたがたの
神に富のことを感謝するのを忘れている。まこと
に、あなたがたの心は主に向いておらず、ひどくお
ごり[2]高ぶって、誇りや大言壮語、[3]ねたみ、争い、悪
意、迫害、殺人、そのほかあらゆる罪悪に陥ってい
る。
23 このために、主なる神は、のろいが地に下るよう
に、またあなたがたの富にも下るようにされた。そ
れはあなたがたの罪悪のためである。
24 まことに、この民は災いである。あなたがたは昔
の人々が行ったように、今、預言者たちを[1]追い出し、
あざけり、石を投げつけ、彼らを殺し、また彼らに
対してあらゆる罪悪を行っているからである。
25 あなたがたは語るとき、『わたしたちは、もし昔
の[1]先祖の時代に生きていたならば、預言者たちを殺
さなかったであろう。預言者たちに石を投げつける
ことも、彼らを追い出すこともしなかったであろ
う』と言う。
26 見よ、あなたがたは彼らよりも悪い。主が生きて
おられるように確かに、もし[1]預言者があなたがたの
中に来て、あなたがたの罪と不義を証する主の御言
葉を告げ知らせたならば、あなたがたはその預言者
のことを[2]怒り、追い出し、あらゆる方法を使って殺
そうとする。まことに、彼があなたがたの行いは悪
いと[3]証するので、あなたがたは、彼は[4]偽預言者であ
り、罪人であり、悪魔から出た者であると言う。
27 しかし見よ、もしある人があなたがたの中に来
て、『これを行いなさい。行っても罪悪ではない。そ
れを行いなさい。行っても苦しみを受けない』と言
えば、また、『あなた自身の心の高ぶりに従って歩き
なさい。まことに、あなたの目の高ぶりに従って歩
きなさい。あなたの心が望むことを何でも行いなさ
い』と言えば、すなわち、もしある人があなたがた
の中に来てこのように言えば、あなたがたは彼を受
け入れ、彼は[1]預言者であると言うであろう。
28 まことに、あなたがたは彼をあがめ、彼にあなた
がたの持ち物を与え、彼にあなたがたの金銀を与
え、また彼に高価な衣服を着せるであろう。そして、

22 ① ルカ12・34、GS「富」「物欲」
② GS「高慢」
③ GS「ねたみ」
24 ① 歴下36・15−16、1ニフ1・20
25 ① 使徒7・51
26 ① 歴下18・7、ルカ16・31
② イザ30・9−10
③ ガラ4・16
④ マタ13・57
27 ① ミカ2・11、GS「偽善売教」

彼があなたがたにへつらいの言葉を語り、万事よし
と言うので、あなたがたは彼を非難しないであろう。
29おお、邪悪でよこしまな人々よ、かたくなで強情
な民よ、あなたがたは、主がいつまであなたがたを
そのままにしておかれると思っているのか。まこと
に、あなたがたはいつまで愚かな盲目の導き手たち
に引かれていくつもりか。まことに、あなたがたは
いつまで光よりも闇を選ぶつもりか。
30まことに見よ、主の怒りはすでにあなたがたに向
かって燃えている。見よ、主はあなたがたの罪悪の
ために地をのろわれた。
31また見よ、主があなたがたの富をのろわれて、そ
れがなくなりやすくなり、あなたがたがそれを保つ
ことのできない時が来る。あなたがたは、貧しいと
きにそれを保てない。
32あなたがたの貧しいときに、あなたがたは主に叫
び求めるであろう。しかし、あなたがたが叫び求め
ても無駄である。すでに荒廃があなたがたに及んで
おり、あなたがたの滅亡が確定しているからであ
る。そして、『その日、あなたがたは涙を流し、泣き
わめくであろう』と、万軍の主は言われる。また、
そのときにあなたがたは嘆いて、
33『おお、わたしは悔い改め、預言者たちを殺さ
ず、石を投げつけず、追い出さなければよかった』
と言うであろう。まことに、その日にあなたがたは
言うであろう。『おお、主なるわたしたちの神が富を
与えてくださったその日に、主を思い起こしておけ
ばよかった。そうすれば、富がなくなりやすくなっ
て、それを失うということはなかったであろう。見
よ、わたしたちの富は今はもうわたしたちのもとに
ない。
34見よ、わたしたちがここに道具を置くと、翌日に
はそれはなくなる。見よ、戦いのために自分の剣を
捜す日には、それはなくなっている。
35まことに、わたしたちは自分の宝を隠しておいた
のに、地ののろいのために失われてしまった。
36おお、主の御言葉がわたしたちに及んだ日に、悔
い改めておけばよかった。今、地はのろわれ、すべ
てのものがなくなりやすくなっており、わたしたち
はそれらを保てない。
37見よ、わたしたちは悪霊に取り囲まれている。わ
たしたちの霊を滅ぼそうとしてきた者の使いに取り

28 ① 2テモ4・3−4
29 ① 2ニフ28・9
② マタ15・14
③ ヨブ24・13
④ ヨハ3・19
31 ① モル1・17−18
33 ① モル2・10−15
② マタ23・37

囲まれている。わたしたちの罪悪は大きい。おお、主よ、あなたの怒りを解いていただけませんでしょうか。』これがその日にあなたがたの言う言葉である。

38 しかし見よ、あなたがたの[1]試しの日はすでに過ぎ去った。あなたがたは自分の救いの日を[2]引き延ばしたので、とうとう永遠に間に合わなくなってしまい、あなたがたの滅亡は確定してしまった。まことに、あなたがたは手に入れることのできないものを、生涯をかけて求めてきたのである。あなたがたは、罪悪を行いながら[3]幸福を求めてきた。それはわたしたちの大いなる永遠の頭の内にある、あの義の本質に反することである。

39 おお、この地の民よ、わたしの言葉を聞いてもらいたい。わたしは主の怒りが解かれるように、またあなたがたが悔い改めて救われるようにと祈っている。」

第14章

サムエル、キリストの降誕の時には夜中も明るく、一つの新しい星が現れることを予告する。キリストは人々を肉体の死と霊の死から贖われる。キリストの死のしるしとして、三日間の暗闇があり、岩が裂け、自然の大変動がある。紀元前約六年。

1 さて、レーマン人サムエル[1]は、ほかにもここに書き記せない非常に多くのことを預言した。

2 見よ、彼は民に言った。「見よ、わたしはあなたがたにしるしを与える。もう五年たつと、見よ、神の御子がその御名を信じるすべての人を贖うために来られる。

3 見よ、神の御子の来臨の時の[1]しるしとして、あなたがたに次のことを知らせておく。見よ、天に大いなる光があるために、神の御子が来られる前の夜は暗闇がなく、人にはまるで昼のように思われる。

4 したがって、二昼一夜がまるで一日のようであって、夜がない。これがあなたがたへのしるしである。あなたがたには日の出も日の入りも分かるので、二昼一夜であることが確かに分かる。しかし、夜は暗くならない。それが神の[1]御子のお生まれになる前夜である。

5 また見よ、あなたがたが一度も見たことのないよ

38 ①モル2・15 ②アル34・33−34 ③アル41・10−11
第14章
1 ①ヒラ13・2
3 ①3ニフ1・15
4 ①GS「イエス・キリスト降誕と死に関する預言」

うな一つの新しい星[1]が現れる。これもあなたがたへのしるしである。
6 そして見よ、これだけではない。天には多くのしるしと不思議がある。
7 そして、あなたがたは皆、驚き、不思議に思い、地に倒れ[1]るであろう。
8 そして、神の御子を信じる[1]者は皆、永遠の命を受ける。
9 見よ、わたしが来て、このことをあなたがたに告げるように、主は天使を通じてわたしに命じられた。まことに、これらのことをあなたがたに預言するようにと、主は命じられた。まことに、主はわたしに、『悔い改めて主の道を備えよと、この民に叫びなさい』と言われた。
10 ところが、わたしがレーマン人であって、主から命じられた御言葉をあなたがたに語ったので、また、それがあなたがたにとって堪え難かったので、あなたがたはわたしを怒って、わたしを殺そうとし、あなたがたの中からわたしを追い出[1]した。
11 あなたがたは、わたしの言葉を聞かなければならない。わたしがこの町の城壁に登ったのは、あなたがたの罪悪のゆえにあなたがたを待ち受けている神の裁きについて、あなたがたが聞いて知ることができるように、またあなたがたが悔い改めの条件を知ることができるようにするためである。
12 また、あなたがたがイエス・キリスト、すなわち神の御子、天地の父[1]、時の初めからの万物の創造主の来臨を知ることができるようにするためであり、さらにあなたがたがイエス・キリストの来臨のしるしを知って、イエス・キリストの御名を信じられるようにするためである。
13 あなたがたは、イエス・キリストの御名を[1]信じるならば、罪をすべて悔い改めるであろう。それによってあなたがたは、イエス・キリストの功徳[2]を通じて罪の赦しを得るのである。
14 見よ、さらにわたしはもう一つのしるし、すなわち、イエス・キリストの死のしるしをあなたがたに知らせておく。
15 見よ、イエス・キリストは必ず死なくてはならない。救い[1]がもたらされるためである。まことに、それはイエス・キリストの務めである。死者の復活[2]をもたらし、それによって人々が主の御前に導かれ

5 ①マタ2・1—2、3ニフ1・21
7 ①3ニフ1・16—17
8 ①ヨハ3・16
10 ①ヒラ13・2
12 ①モサ3・8、3ニフ9・15、エテ4・7、GS「イエス・キリスト」
13 ①使徒16・30—31
13 ②教義19・16—20
15 ①GS「救い主」
15 ②GS「復活」アル42・23、

るようにするために、イエス・キリストが死なれることが必要になっているのである。

16まことに見よ、この死は復活をもたらし、第一の死、すなわちあの霊の死から全人類を贖う。全人類は、アダムが堕落[2]したことによって主の御前から絶たれているので、現世の事柄に関しても霊的な事柄に関しても、ともに死んだ[4]と考えられているからである。

17しかし見よ、キリストの復活は人類、まことに全人類を贖[1]って主の御前に連れ戻す。

18そして、それは悔い改めの条件を果たし、悔い改める者は、切り倒されて火の中に投げ込まれることはないが、悔い改めない者は皆、切り倒されて火の中に投げ込まれる。そしてこれらの者には、再び霊の死、まことに第二の死が及ぶ。彼らは義にかかわる事柄に関して再び絶たれるからである。

19だから、あなたがたは悔い改めなさい、悔い改めなさい。さもなければ、あなたがたはこれらの事柄を知っていて行わないので、罪の宣告を受けることになり、またこの第二の死に落とされることになる。

20ところで見よ、前に言ったように、もう一つのし[1]るし、すなわちキリストの死のしるしについて述べ[2]ると、見よ、キリストが死なれる日には、太陽は暗くなって、あなたがたにその光を与えようとしない。また、月も星も同様である。キリストが亡くなられるときから三日[3]間、すなわちキリストが再び死者の中からよみがえられるときまで、この地の面にはまったく光がない。

21まことに、キリストが息を引き取られるときには、何時間[1]も雷と稲妻があり、大地が震動し、揺れ動くであろう。また、この地の面にある岩は地上の岩も地下の岩も、今あなたがたの知っているように堅固であり、その大半は頑丈な一つの塊であるが、それが[2]砕かれるであろう。

22まことに、それらの岩は二つに裂けて、ひびや割れ目や砕けた破片がその後いつまでも、全地の面に、また地上にも地下にも見いだされるであろう。[1]

23また見よ、大暴風雨があるであろう。そして、多くの山が谷のように低くなり、現在谷と呼ばれている多くの場所が、非常に高い山となるであろう。

24また、多くの街道が破壊され、多くの町[1]が荒れ果

16 ① GS「贖いの計画」
② GS「堕落（アダムとエバの）」
17 ① GS「死（霊の）」
④ GS「贖い・贖う」
20 ① アル42・6−9
② 3ニフ8・5−25
ルカ23・44
③ 3ニフ8・6
モサ3・10
21 ① 3ニフ10・9
② 3ニフ8・18
22 ① 3ニフ9・3−12
24 ① 3ニフ9・3−12

てるであろう。

25 さらに、多くの墓[1)]が開かれて、多くの死者を出し、多くの聖徒が多くの人に現れるであろう。

26 見よ、このように天使[1)]がわたしに語った。何時間にもわたって雷と稲妻があると、天使はわたしに言った。

27 また天使はわたしに、これらのことは、このように雷と稲妻と暴風雨が続く間にあり、さらにまた暗闇[1)]が三日間、全地の面を覆うと言った。

28 また天使はわたしに、これらのしるしとこれらの不思議がこの地の全面に現れることを、多くの者が信じられるように、また人の子らの中に不信仰の起こることがないように、多くの者はこれらのことよりも大いなることを見るであろうと言った。

29 またこれは、信じる者が皆救われ、信じない者に義の裁き[1)]が下るようにするためでもある。そして、もし彼らが罪に定められるとすれば、自分の罪の宣告を自分自身に招くのである。

30 覚えておきなさい。わたしの同胞よ、覚えておきなさい。滅びる者は自分で滅び、罪悪を行う者は自分でそれを行うのである。なぜなら、あなたがたは自由[1)]であり、あなたがたは随意に行動することを許されているからである。見よ、神はあなたがたに知識[2)]を与えて、あなたがたを自由にしてくださったからである。

31 神はあなたがたが善悪[1)]をわきまえられるようにしてくださり、また、あなたがたが生でも死でも選べる[2)]ようにしてくださった。あなたがたは善を行って、善であるものに回復[3)]される。言い換えれば、あなたがたに回復された善であるものを持つことができる。また、あなたがたは悪を行って、あなたがたに回復された悪であるものを持つこともできるのである。」

第15章

主はニーファイ人を愛しておられたので、彼らを懲らしめられた。改宗したレーマン人は信仰が確固として堅固である。主は末日にレーマン人に憐れみをかけられる。紀元前約六年。

1 「わたしの愛する同胞よ、見よ、あなたがたに告げる。悔い改めなければ、あなたがたの家は荒れ果[1)]

25 ①マタ27・50−54、3ニフ8・3
26 ①1ニフ19・10、3ニフ23・9−11
27 ①アル13・26
28 ①1ニフ12・4−5
29 ①GS「最後の裁き」
30 ①2ニフ2・26−29、モセ6・56、GS「選択の自由」
31 ①②GS「知識」
②2ニフ2・28−29、モロ7・16
③アル3・26−27、アル41・3−5
第15章
1 ①マタ23・37−38

てたまま残されるであろう。
2まことに、あなたがたが悔い改めなければ、あなたがたの婦人たちは乳を飲ませる日に嘆き悲しむことになる。あなたがたは逃げようとするが、避け所となる場所がない。また、子供を宿している婦人たちは災いである。身重で逃げられないからである。したがって、その婦人たちは踏みにじられ、置き去りにされて死ぬであろう。
3まことに、ニーファイの民と呼ばれているこの民は、自分たちに示されるこれらのしるしと不思議をすべて見るときに、悔い改めなければ災いである。まことに、彼らは主の選ばれた民であったからである。まことに、ニーファイの民を主は愛してこられ、また主はこの民を懲らしめてこられた。主はニーファイの民を愛しておられたので、彼らが罪悪を犯した日に彼らを懲らしめられた。
4しかし見よ、わたしの同胞よ、主はレーマン人を憎んでこられた。彼らの行いがいつも悪かったからであり、これは彼らの先祖の言い伝えが正しくなかったためである。ところが見よ、ニーファイ人の宣教によって、救いがレーマン人に与えられ、このために主は彼らの時代を引き延ばされた。
5またあなたがたは、レーマン人の大半が自分の義務の道にあり、神の御前を注意深く歩み、モーセの律法に従って神の戒めと神の掟と神の裁決を守るように努めているのを、見てもらいたい。
6まことに、あなたがたに言うが、彼らの大半がこのように行っている。そして彼らは、残りの同胞にも真理を知らせようと熱心に勤勉に努めているので、日々彼らの仲間に加わる者が多い。
7見よ、あなたがた自身見て知っているとおり、彼らの多くは今真理を知っており、彼らの先祖の言い伝えが邪悪で忌まわしいことも知っており、また聖文、まことに書き記されている聖なる預言者たちの預言を信じるようになっている。これらの預言は主を信じる信仰と悔い改めに彼らを導き、その信仰と悔い改めが彼らに心の変化をもたらしている。
8したがって、あなたがた自身知っているとおり、このようになった者は皆、信仰において、また彼らに自由を得させた事柄において確固として堅固である。
9また、あなたがたも知っているように、彼らは自

2①マタ24・19
3①箴言3・12、ヘブ12・5—11、教義95・1
4①GS「言い伝え」
②アル9・16
5①ヒラ13・1
7①GS「改宗」
8①アル23・6、27・27、3ニフ6・14

分たちの武器を埋めてしまった。[1)]そして彼らは、決して罪を犯してはならないと思い、武器を取ることを恐れている。まことに、あなたがたは彼らが罪を犯すのを恐れているのを見ることができる。見よ、彼らは敵に踏みにじられて殺されるに任せ、敵に対して剣を振り上げようとしない。これは、彼らがキリストを信じているためである。

10 また彼らには、自分の信じていることを信じる確固とした強さがあり、一度啓発されると固く守り通す強さもあるので、彼らが罪悪を犯したにもかかわらず、見よ、主は将来彼らを祝福し、彼らの時代を引き延ばされるであろう。

11 まことに、たとえ彼らが不信仰に陥ったとしても、主は彼らの時代を引き延ばされ、わたしたちの先祖と預言者[2)]ゼノスとそのほか多くの預言者が語ってきた時が訪れるであろう。すなわち、同胞であるレーマン人に、[3)]再び以前のように真理が知らされることについて語ってきた、その時が訪れるであろう。

12 まことに、あなたがたに言う。末の時代における主の[1)]約束はわたしたちの同胞であるレーマン人に与えられている。彼らは多くの苦難に遭い、地の面であちらこちらへ[2)]追い立てられ、狩り出され、打たれ、広く散らされて、避け所となる場所がなくなるにもかかわらず、主は彼らに[3)]憐れみをかけられる。

13 これは、彼らが真実の知識、すなわち彼らの贖い主、彼らの大いなるまことの羊飼いを知る知識に再び[1)]導かれて、その羊飼いの羊の中に数えられるという預言にかなっている。

14 したがって、あなたがたに言う。あなたがたが悔い改めなければ、彼らの方があなたがたよりも幸いである。

15 見よ、これまであなたがたに示されてきた力ある業が、彼らに、まことに先祖の言い伝えのために不信仰に陥っている彼らに示されていたならば、彼らは決して二度と不信仰に陥らなかったであろう。あなたがた自身、それを見ることができる。

16 したがって主は、『彼らを完全には滅ぼさず、わたしの知恵にかなう日に、彼らを再びわたしに立ち返らせよう』と言われる。

17 また見よ、主は、ニーファイ人の民について、『もし彼らが悔い改めてわたしの思いを行うように努め

---

9 (1) アル 24・17−19
11 (1) アル 9・16
(2) ヒラ 8・19
12 (1) 2ニフ 30・5−8
(2) エノ 1・12−13
(3) モル 5・15
13 (1) 1ニフ 13・31、2ニフ 10・18−19、ヤコ 3・5
14 (1) GS「良い羊飼い」
(2) 3ニフ 16・12
15 (1) ヒラ 7・23
マタ 11・20−23

なければ、わたしが彼らの中で行ってきた多くの力ある業にもかかわらず、彼らは不信仰であるので、わたしは彼らをことごとく1)滅ぼそう。主が生きているように確かに、これらのことは行われる』と言われる。」

第16章

サムエルの言葉を信じたニーファイ人、ニーファイからバプテスマを受ける。悔い改めないニーファイ人の矢も石も、サムエルを殺すことはできない。ある者は心をかたくなにし、別の者は天使を見る。キリストを信じることも、エルサレムにキリストが来臨されることを信じることも道理にかなっていないと、不信者たちは言う。紀元前約六年から一年に至る。

1 さて、レーマン人サムエルが町の城壁の上で語る言葉を聞いた者は大勢いた。そして、彼の言葉を信じた者は皆、出て行ってニーファイを捜した。彼らは行ってニーファイを見つけると、バプテスマを受けて主のものとなることを願って、罪を彼に告白して否定しなかった。

2 しかし、サムエルの言葉を信じない者たちもおり、彼らは皆サムエルに腹を立てた。そして彼らは、城壁の上にいる彼に石を投げつけた。また、城壁の上に立っている彼に多くの者が矢を射かけた。しかし、主の御霊が彼に伴っていたので、彼らは石も矢も当てることができなかった。

3 そして、当てることができないのを見て、さらに多くの者が彼の言葉を信じた。そして彼らは、バプテスマを受けるためにニーファイのもとへ行った。

4 見よ、それは、ニーファイがバプテスマを施し、預言し、教えを説き、民に悔い改めを叫び、またキリストが1)間もなく必ず来られることを民に知らせるために、数々のしるしと不思議を示し、彼らの中で数々の2)奇跡を行っていたからである。

5 ニーファイは、間もなく起こることを民に告げていた。それらのことが実際に起こったときに信じることができるように、あらかじめそれが知らされていたということを認めさせ、思い起こさせるためであった。そこで、サムエルの言葉を信じた者は皆、バプテスマを受けるためにニーファイのもとへ行った。彼らは悔い改め、罪を告白するために行ったの

17 ① ヒラ13・6—10
第16章
4 ① ヒラ14・2
② GS「奇跡」

である。
6 しかし、民の大半はサムエルの言葉を信じなかった。そこで彼らは、石も矢も彼に当てることができないのを見ると、彼らの隊長たちに叫び、「この男を捕らえて、縛ってくれ。この男には悪霊がついている。この男の内にある悪魔の力のために、我々は石も矢も当てることができない。だから、この男を捕らえて、縛り、追い払ってくれ」と言った。
7 そこで、隊長たちが行ってサムエルを捕らえようとしたところ、見よ、彼は城壁から飛び降りて、彼らの地から逃げ出し、自分の国へ帰って行った。そして彼は、自分の民の中で教えを説き、預言し始めた。
8 見よ、彼がこれ以上ニーファイ人を訪れたという話は一度もない。民の状況は以上のとおりであった。
9 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十六年が終わった。
10 また、さばきつかさの統治第八十七年もこのようにして終わり、民の大半は依然として高慢で悪事を続けており、神の前をさらに注意深く歩んでいたのは、少数の者にすぎなかった。
11 さばきつかさの統治第八十八年もこのような状態であった。
12 また、さばきつかさの統治第八十九年も、民がさらに罪悪にふけるようになり、ますます神の戒めに反することを行うようになったことを除けば、民の状況はほんの少し変わっただけであった。
13 ところが、さばきつかさの統治第九十年になると、民に数々の大きなしるしと不思議が与えられ、預言者たちの言葉が成就し始めた。
14 また、1)天使たちが人々、すなわち賢い人々に現れ、胸躍る大いなる喜びのおとずれを彼らに告げ知らせた。このように、聖文に記されていることがこの年に成就し始めた。
15 にもかかわらず、ニーファイ人もレーマン人も、民の中で最も信仰の深い人々を除いて、彼らは皆、心をかたくなにし始め、自分自身の力と自分自身の知恵に頼るようになって、こう言った。
16 「このように多くのことの中で、彼らがうまく言い当てたことも幾らかある。しかし見よ、これまで述べられてきたこれらの大いなる驚くべき業が、す

13① 3ニフ1・4
14①② ヒラ14・3—7
15① アル13・26
イザ5・21

べて現実に起こることはあり得ないのを我々は知っている。」

17また、彼らは互いに論じ、論争して言った。

18「キリストのような者が来ることは道理に合わない。[1]仮にそうだとして、これまで言われてきたように、その人が神の御子であり天地の父であるとすれば、なぜエルサレムにいる者たちだけでなく、我々にも現れないのか。

19まことに、なぜエルサレムの地だけでなく、この地にも姿を現さないのか。

20しかし見よ、我々は、これが我々の先祖から伝えられてきた悪い言い伝え[1]であることを知っている。これが伝えられたのは、将来起こるある大いなる驚くべきことを我々に信じさせるためであるが、それは我々の中ではなく、我々の知らない遠くの地で起こる。だから、我々はその言い伝えがほんとうであることを自分の目で見[2]ることができないので、彼らは我々を無知の中にとどめておくことができる。

21また彼らは、悪しき者の悪知恵と不思議な術策によって、我々の理解できないある大きな奇跡を起こし、我々を従えて彼らの言葉の奴隷とし、彼らの僕にしようとする。それは、我々が彼らから御言葉を教わろうとするからである。このように我々が彼らに自分の身をゆだねようとすれば、彼らは生涯我々を無知の中にとどめておくだろう。」

22民は、愚かでむなしい[1]ことをほかにもたくさん心に思い浮かべた。またサタンが絶えず罪悪を行うように彼らをあおり立てたので、彼らはひどく心を乱された。まことに、サタンは方々を巡って地の全面にうわさと争いを広め、善いことと将来起こることに対して民の心をかたくなにさせたのであった。

23そして、主の民の中で数々のしるしと不思議が行われ、また主の民が多くの奇跡を行ったにもかかわらず、サタンは地の全面で人々の心を大いに支配するようになった。

24このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第九十年が終わった。

25これでヒラマンと彼の息子たちの記録によるヒラマン書は終わる。

18①アル30・12−13
20①GS「言い伝え」
②エテ12・5−6、19
22①GS「むなしさ」

第三ニーファイ
ニーファイの書

このニーファイは、ヒラマンの息子であったニーファイの息子である

そのヒラマンはヒラマンの息子であり、そのヒラマンはアルマの息子であり、アルマはアルマの息子であり、そのアルマはリーハイの息子ニーファイの子孫であり、リーハイはユダの王ゼデキヤの治世の第一年にエルサレムを出て来た人である。

第1章

ヒラマンの息子ニーファイはゼラヘムラの地を去り、その息子ニーファイが記録を書き継ぐ。しるしと不思議がたくさんあったにもかかわらず、悪人は義人を殺そうとする。キリストの降誕の夜が来る。しるしが示され、新しい星が現れる。偽りと欺きが増し、ガデアントンの強盗が多くの者を殺す。紀元約一年から四年に至る。

1 さて、第九十一年が過ぎ去った。それはリーハイがエルサレムを去ったときから六百年[1)]であり、その年には、ラコーニアスが大さばきつかさであり、国の総督であった。

2 ヒラマンの息子ニーファイは、[1)]真鍮の版と、それまで書き継がれてきたすべての記録と、リーハイがエルサレムを去って以来神聖に保存されてきたすべての品々に関する責任を、長男の[2)]ニーファイにゆだねて、ゼラヘムラの地を去っていた。

3 彼はその地を去ったが、彼がどこへ行ったかはだれも知らない。[1)]そして、彼の息子ニーファイが父に代わって記録を、すなわちこの民の記録を書き継いだ。

4 さて、第九十二年の初めには、見よ、預言者たちの預言がさらに完全に成就し始めた。民の中にさらに大きなしるしと、さらに大きな奇跡が行われ始めたからである。

5 しかし、レーマン人サムエルによって[1)]述べられた言葉の成就する時は過ぎ去ったと言い出す者たち

第三ニーファイ
第1章
1 ①1) 2ニフ25・19
2 ①1) アル37・3—5
②2) GS「ニーファイ（ニーファイの息子、ヒラマンの孫）」
3 ①1) 3ニフ2・9
5 ①1) ヒラ14・2—4

が何人かいた。
6 彼らは同胞のことを喜び始めて、「見よ、時は過ぎ去り、サムエルの言葉は成就していない。だから、あなたがたがこのことを喜び、信じたのは、むなしいことだった」と言った。
7 そして彼らは、国中にひどい騒動を起こした。そこで、信じていた人々は、述べられていることが何らかの理由で起こらないようなことがありはしないかと、非常に悩み始めた。
8 しかし見よ、彼らは、まるで夜のない一日のような二昼一夜を確固として待ち設け、自分たちの信仰がむなしいものでなかったことを知ろうとした。
9 さて、信仰心のない者たちはある一日を特に定め、預言者サムエルによって告げられたしるしがその日までに現れなければ、これらの言い伝えを信じているすべての人を殺すことにした。
10 さて、ニーファイの息子ニーファイは、自分の民のこの悪事を見て、心に非常な憂いを覚えた。
11 そこで彼は、出て行って地に伏し、自分の民のために、すなわち先祖の言い伝えを信じていることで殺されようとしている人々のために、熱烈に神に叫び求めた。
12 そして彼は、[1]終日熱烈に主に叫び求めた。すると見よ、主の声が彼に聞こえて言われた。
13 「頭を上げて、元気を出しなさい。見よ、時は近い。今夜、しるしが示され、[1]明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して[2]語ってきたすべてのことを、世の人々に示す。
14 見よ、わたしは、[1]世の初めから人の子らに知らせてきたすべてのことを成就するため、また父と子の[2]両方の思いを行うために、わたし自身の民のもとへ行く。わたし自身のゆえに父の御心を行い、わたしの肉のゆえに子の思いを行う。見よ、時は近い。今夜、しるしが示されるであろう。」
15 さて、ニーファイに下された御言葉は告げられたとおりに成就し、見よ、太陽が沈んでも少しも[1]暗くならなかった。こうして夜になっても暗くならなかったので、民は驚いた。
16 そして、預言者たちの言葉を信じなかった多くの者は地に[1]倒れ、まるで死んだようになった。預言者たちの言葉を信じた者たちに対して企てた[2]殺害の大

9 ①GS「殉教者・殉教」
12 ①エノ1・4、アル5・46
13 ①ルカ2・10—11
②GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
14 ①アル42・26
②マタ5・17—18
③教義93・3—4
15 ①④ヨハ1・11
②ヒラ14・3
16 ①ヒラ14・7
②3ニフ1・9

計画が破れてしまったことが分かったからである。また、かつて告げられたしるしがすでに現れたからである。

17そして彼らは、神の御子が間もなく御姿を現されるに違いないということを知るようになった。まことに、要するに北の地でも南の地でも、西から東に至るまで全地の面にいる人々は皆、非常に驚いて地に倒れた。

18彼らは預言者たちが長年これらのことについて証してきたこと、またかつて告げられたしるしがすでに現れたことを知ったからである。そして彼らは、自分たちの罪悪と不信仰のために恐れ始めた。

19そして、その夜は一晩中少しも暗くならず、まるで真昼のように明るかった。そして朝には、いつものとおりに再び太陽が昇った。そこで彼らは、しるしが与えられていたので、その日に主がお生まれになったことを知った。

20そして、預言者の言葉のとおりに、すべてのことがことごとく成就した。

21そして、一つの新しい星[1)]もその言葉のとおりに現れた。

22さて、このとき以後、サタンは民の心をかたくなにし、彼らが見たそれらの数々のしるしと不思議を信じないようにさせるために、民の中に偽りを広め始めた。しかし、これらの偽りと欺きにもかかわらず、民の大半は信じて、主に帰依した。

23さて、ニーファイは民の中に出て行き、またほかにも多くの者が出て行き、悔い改めのためのバプテスマを施し、それによって民の中に罪の大きな赦し[1)]があった。このようにして、民はその地に再び平和を保つようになった。

24そして、もうモーセの律法を守る必要[1)]がないことを、聖文を使って立証しようと努めながら、教えを説き始めた数人の者がいたほかは、何の争いもなかった。この数人の者は、聖文を理解していなかったので、このことを誤解したのである。

25さて、彼らは間もなく心を改め、自分たちが思い違いをしていたことを納得した。律法はまだ成就していないことと、それはことごとく成就しなければならないことが彼らに知らされたからである。律法は成就しなければならず、まことに、それがすべて成就するまで一点一画もむなしくなることはない

19① ルカ2・1−7
21① マタ2・1−2、ヒラ14・5
23① GS「罪の赦し」
24① アル34・13
25① マタ5・17−18

という御言葉が彼らに与えられた。したがって、この年のうちに彼らは自分たちの思い違いを知り、自分たちの誤りを[2]告白した。

26 このように、すべての聖なる預言者たちの預言の言葉のとおりに数々のしるしが現れ、民に喜びのおとずれがもたらされて、第九十二年が過ぎ去った。

27 そして、第九十三年も平穏に過ぎ去ったが、ただガデアントン[1]の強盗が山々に住んでいて、この地を荒らし回っていた。彼らのとりでと隠れ場が非常に堅固であったので、民は彼らを打ち負かせなかった。そのため彼らは多くの殺人を犯し、民の中でひどい殺戮を行った。

28 そして第九十四年に、ニーファイ人の多くの離反者たちが彼らのところへ逃げ込んだため、彼らは非常に増え始めた。このことはこの地に残っているニーファイ人に深い憂いを与えた。

29 また、レーマン人の中にも深い憂いを与える事柄があった。見よ、彼らには成人になった子供たちと年齢の進んできた子供たちが大勢いたが、彼らは独り立ちすると、あるゾーラム[1]人たちの偽りとへつらいの言葉に惑わされ、あのガデアントンの強盗の仲間になった。

30 このようにレーマン人も苦しんだ。そして、若者たちの悪事のために、彼らの信仰と義は衰え始めた。

第2章

悪事と忌まわしい行いが民の中に増える。ニーファイ人とレーマン人は結束して、ガデアントンの強盗に対して自衛する。改宗したレーマン人、肌が白くなり、ニーファイ人と呼ばれる。紀元約五年から十六年に至る。

1 さて、第九十五年も過ぎ去り、民は前に聞いたあの数々のしるしと不思議を忘れ始め、またしるし、すなわち天からの不思議に次第に驚かなくなってきた。そして、彼らの心はかたくなになり、思いはくらみ、彼らはかつて見聞きしたすべてのことを信じなくなった。

2 すなわち、そのしるしは民の心を惑わし[1]欺くために、人によって、また悪魔の力によって行われたものであるという、愚かな思いを心に抱くようになった。このようにしてサタンは再び民の心を支配し

25② モサ26・29
27① GS「ガデアントンの強盗団」
29① アル30・59
第2章
2① GS「欺き」

た。そして、彼らの目をくらまし、彼らを惑わして、キリストの教義は愚かでむなしいものであると信じさせた。

3そこで民は、悪事と忌まわしい行いを重ね、さらにこれからもしるし、すなわち不思議が示されることを信じなかった。そしてサタンは、方々を巡って[1]民の心を惑わし、誘惑し、民にこの地で大きな悪事を行わせた。

4このようにして、第九十六年が過ぎ去り、また第九十七年も、第九十八年も、第九十九年も過ぎ去った。

5また、ニーファイ人の民の王モーサヤの時代からすでに百年が過ぎ去った。

6リーハイがエルサレムを去ってからすでに六百九年が過ぎ去った。

7キリストが世に来られるしるしが預言者たちによって告げられたが、そのしるしが示されたときから九年が過ぎ去った。

8ニーファイ人はしるしが示されたこのときから、すなわちキリストの来臨から彼らの時を数え始めた。したがって、九年が過ぎた。

9ニーファイは記録について責任を負っていたが、その父のニーファイはゼラヘムラの地に帰って来ず、国中どこにも見当たらなかった。

10そして、民の中で多くの宣教と預言が行われたにもかかわらず、民は依然として悪事を続けていた。このようにして、第十年も過ぎ去り、第十一年も罪悪のうちに過ぎ去った。

11そして第十三年には、国中至る所で戦争と争いが始まった。ガデアントンの強盗がおびただしい数になり、民の中の多くの者を殺し、多くの町を荒らし、国中に多くの虐殺を広めたので、民は皆、ニーファイ人もレーマン人も、彼らに対して武器を取ることが必要になった。

12そのため、主に帰依していたレーマン人は皆、同胞であるニーファイ人と結束し、自分たちの命と女子供を守るために、また自分たちの権利と教会の特権、礼拝の特権と自由を守るために、仕方なくガデアントンの強盗に対して武器を取った。

13そして、この第十三年が過ぎ去る前に、ニーファイ人は、非常に激しくなったこの戦争のために全滅の危機にさらされた。

3①教義10・27
5①モサ29・46—47
9①3ニフ1・2—3
12①GS「自由」

14 さて、ニーファイ人に合流していたレーマン人は、ニーファイ人の中に数えられ、
15 彼らののろい[1]は取り去られ、彼らの肌はニーファイ人のように白く[2]なった。
16 また、彼らの若い男たちと娘たちは非常に麗しくなり、ニーファイ人の中に数えられ、ニーファイ人と呼ばれた。このようにして第十三年が終わった。
17 そして、第十四年の初めにも強盗たちとニーファイの民の間の戦争は続き、ますます激しくなった。それでも、ニーファイの民は強盗たちに対して幾分優位に立ったため、自分たちの土地から彼らを山や彼らの隠れ場に追い返した。
18 このようにして、第十四年が終わったが、第十五年に彼らはニーファイの民に向かって出て来た。そして、ニーファイの民の悪事と多くの争いと不和のために、ガデアントンの強盗はニーファイの民に対して何度も優位に立った。
19 このようにして、第十五年が終わった。このように民は多くの苦難を受け、滅亡[1]の剣は彼らのうえに迫っていて、彼らはまさにその剣によって打たれようとしていた。これは彼らの罪悪のためである。

第3章

ガデアントン強盗団の首領のギデアンハイ、降伏して土地を明け渡すようにラコーニアスとニーファイ人に要求する。ラコーニアス、ギドギドーナイを軍の総司令官に任命する。ニーファイ人、自衛のためにゼラヘムラとバウンティフルの地に集まる。紀元約十六年から十八年に至る。

1 さて、キリストの来臨から十六年目に、国の総督であるラコーニアスは、この強盗団の首領であり、支配者である者から手紙を受け取った。それに記されていた言葉は次のとおりである。
2 「国の総督であるラコーニアス閣下。見よ、わたしはあなたにこの手紙を書き、あなたとあなたの民が、自己の権利であり自由であると考えているものを守るに当たって確固としていることに、甚だ大いなる賛辞を呈するものである。あなたがたは自分たちの自由と自分たちの所有物、自分たちの国、すなわちあなたがたがそのように呼んでいるものを守るのに、まるで神の手によって支えられているかのようにしっかりと立っている。

15 ① アル17・15、23・18
② 2ニフ5・21、30・6、ヤコ3・8
19 ① アル60・29

3 しかし、ラコーニアス閣下。あなたがたがわたしの指揮に従うこのように多くの勇敢な部下たちに立ち向かえると考えるほど、愚かでうぬぼれが強いことは、わたしには残念に思われる。わたしの勇敢な部下たちは今、武器を身に着けて待ち、『ニーファイ人のもとへ下って行って滅ぼせ』という言葉を大いに待ち焦がれている。

4 わたしはすでに戦場で部下たちを試して、彼らに不屈の精神があるのを知っており、また、あなたがたが彼らに行った多くの不当な扱いのために、彼らがあなたがたにいつまでも変わらない憎悪を抱いていることも知っている。したがって、彼らがあなたがたに向かって下って行けば、あなたがたを完全に滅ぼしてしまうことだろう。

5 そこでわたしは、あなたがたの幸いを思いつつこの手紙を書いて、自分自身の手で封じるものである。それは、あなたがたが自分の正しいと思ったことに対して確固としており、また戦場で高潔な精神を示しているからである。

6 したがって、わたしはあなたに手紙を書き送り、あなたがたがわたしの部下の剣を受けて滅亡するよりは、むしろこのわたしの民にあなたがたの町と土地と所有物を引き渡すように望む次第である。

7 つまり、あなたがたが降伏し、我々と連合して我々の秘密の業をよく知り、仲間になって我々のようになること、すなわち、我々の奴隷ではなく、仲間になり、すべての持ち物の共有者になることである。

8 見よ、わたしはあなたがたに、もしこのように行うならば、あなたがたは滅ぼされないと誓って約束する。しかし、もしこのように行わなければ、わたしは誓って言うが、来月命令を下して、軍隊をあなたがたに向かって下って行かせよう。わたしの軍隊は手をとどめることなく、助命することもなく、あなたがたを殺し、あなたがたが絶滅するまで剣を浴びせることだろう。

9 見よ、わたしはギデアンハイである。わたしはこのガデアントン秘密結社の支配者である。わたしはこの結社と結社の業が善いものであることを知っている。これらは昔からあり、我々に伝えられたものである。

10 ラコーニアス殿。わたしはあなたにこの手紙を書

第3章
7① ヒラ6・22—26
8① エテ8・13—14
9① GS—秘密結社
② アル30・53
③ ヒラ6・26—30、モセ5・29—49—52

き送る。あなたがたは、血を流すことなく土地と所有物を引き渡し、あなたがたから離反したこの民が、自分たちの権利と統治権を回復できるようにしてもらいたい。この民は、あなたがたが不当にも統治権を与えなかったために離反したのである。したがって、もしあなたがたがこのようにしなければ、わたしはこの民が受けた不当な扱いに報復しよう。わたしはギデアンハイである。」

11 さて、ラコーニアスは、この手紙を受け取ると非常に驚いた。ギデアンハイが大胆にも、ニーファイ人の地の所有権を要求し、民を脅迫し、また不当な扱いを少しも受けたことのない者たちのために不当な扱いの報復をすると述べていたからである。これらの者たちは、その邪悪な忌まわしい強盗たちのところへ離反して行ったことで、自らに損害を招いただけであった。

12 さて見よ、総督であるこのラコーニアスはまことに正しい人であり、1)強盗の要求も脅迫も恐れなかった。そこで彼は、強盗の支配者ギデアンハイの手紙を気にせず、自分の民に、強盗たちが下って来るときに備えて主に力を叫び求めるようにさせた。

13 まことに、彼はすべての民の中に布告を出し、土地は別にして、女子供と大小の家畜の群れ、それにすべての持ち物を一か所に集めるように伝えた。

14 そして彼は、民を囲むとりでを幾つも築かせ、それを非常に堅固にさせた。また彼は、ニーファイ人と、レーマン人、すなわちニーファイ人の中に数えられたすべてのレーマン人の両方から成る軍隊を、見張りとして周囲に配置して民を見守らせ、日夜強盗から彼らを守らせた。

15 まことに、彼は民に言った。「主が生きておられるように確かに、あなたがたは罪悪をすべて悔い改めて主に叫び求めなければ、あのガデアントンの強盗の手から決して救われない。」

16 ラコーニアスの言葉と預言は、まことに大いなる驚くべきものであり、民の全員に恐れを生じさせた。そこで彼らは、ラコーニアスの言葉のとおりに行おうと力の限り努力した。

17 さて、ラコーニアスは、ニーファイ人の全軍隊に連隊長を任命し、強盗たちが荒れ野から攻めて来るときに軍隊を指揮できるようにした。

18 また、すべての連隊長の中の最高位の者である、

11① ヒラ14・30
12① アル54・5−11、ニラ4・7−10
3

ニーファイ人の全軍の総司令官も任命された。その人の名はギドギドーナイといった。[1]

19 ニーファイ人の中には、（彼らが悪事を働いている時代は別にして）啓示と預言の霊を持っている人を連隊長に任命するという習わしがあった。したがって、このギドギドーナイも大さばきつかさと同じように、民の中の偉大な預言者であった。

20 そこで、民はギドギドーナイに言った。「主に祈ってください。そして、わたしたちが山や荒れ野に上って行き、強盗たちを攻めて、彼ら自身の土地で滅ぼせるようにしてください。」

21 しかし、ギドギドーナイは彼らに言った。「主は許されない。もしわたしたちが彼らに向かって上って行けば、主はわたしたちを彼らの手に渡されるであろう。だからわたしたちは、自分たちの土地の中央で準備し、わたしたちの全軍を集めよう。彼らに向かって出て行かないで、彼らが向かって来るまで待とう。主が生きておられるように確かに、わたしたちがこのようにすれば、主は彼らをわたしたちの手に渡してくださる。」

22 さて、第十七年の末に、ラコーニアスの布告が地の面の至る所に出された。そして民は、自分たちの馬と馬車、家畜、すべての大小の家畜の群れ、穀物、そのほかすべての持ち物を携えて、何千人となく、何万人となく進んで行き、彼らは皆、敵を防ぐために集まるように指定された所へ向かった。

23 指定された地は、ゼラヘムラの地と、ゼラヘムラの地とバウンティフルの地の間の地であり、バウンティフルの地とデソレーションの地の間の境界にまで達していた。

24 そして、ニーファイ人と呼ばれる非常に大勢の人々がこの地に集まった。ラコーニアスが南方の地に彼らを集めさせたのは、[1]北方の地にひどいのろいが及んでいたためである。

25 そして彼らは、敵に対して防備を固め、同じ土地に一団となって住んだ。また彼らは、ラコーニアスの語った言葉を恐れて、自分たちのすべての罪を悔い改めた。そして、主なる彼らの神に祈りをささげ、敵が攻め下って来るときに自分たちを救ってくださるように願った。

26 彼らは自分たちの敵のことで深い憂いを抱いた。また、ギドギドーナイは彼らにあらゆる武器を造ら

18 ①3ニフ6・6
19 ①GS「預言」
21 ①アル14・48
②サル14・12
24 ①アル22・31
25 ①GS「信頼」
26 ①2ニフ5・14

せ、自分の指示に従ってよろいと盾と小盾で身を固めさせた。

第4章

ニーファイ人の軍隊、ガデアントンの強盗を打ち負かす。ギデアンハイは殺され、彼の後継者ゼムナライハは木につるされる。ニーファイ人、勝利を得たことで主をほめたたえる。紀元約十九年から二十二年に至る。

1 さて、第十八年の末に、強盗たちの軍勢は戦いの準備をし、方々の丘や山、荒れ野、とりで、隠れ場から下って出撃して来た。そして彼らは、南の地と北の地の両方で方々の土地を占領し始め、ニーファイ人が捨てた土地と、荒れ果てるに任せた町をすべて占領し始めた。

2 しかし見よ、ニーファイ人が捨てた土地には、まったく野生の獣がおらず、獲物となる動物もいなかった。荒れ野の中でなければ強盗たちの食糧になる鳥獣はいなかった。

3 そして強盗たちは、食糧がないために、荒れ野でなければ暮らせなかった。それは、ニーファイ人が土地を荒れ果てるに任せて、自分たちの大小の家畜の群れとすべての持ち物を集め、一団となっていたからである。

4 そのため強盗たちには、ニーファイ人に向かって公然と攻め上るほかに略奪して食べ物を得る機会はなかった。一方、ニーファイ人は一団となっていて、その数は非常に多く、食糧や馬や家畜やあらゆる家畜の群れを蓄えとして持っており、七年間暮らすことができたので、彼らはその間に地の面から強盗たちを滅ぼしてしまいたいと思っていた。このようにして、第十八年が過ぎ去った。

5 そして第十九年に、ギデアンハイはニーファイ人に向かって攻め上ることが必要であることを知った。彼らは略奪し、強奪し、人殺しをする以外に生きていく方法がなかったからである。

6 また彼らは、ニーファイ人に襲われて殺されるのではないかと恐れ、思い切って地の面に広がって穀物を作ることもできなかった。そこでギデアンハイはこの年に、ニーファイ人に向かって攻め上る命令を自分の軍隊に下した。

第4章
1① 22①
3 ニフ3・13−14、

7 そして、彼らは攻め上った。それは六月のことで
あり、彼らが攻め上った日は、見よ、大変な恐ろし
い日であった。彼らは強盗風の装いをしており、腰
に子羊の皮を巻き、体を血で染め、頭髪を刈り込み、
かぶとをかぶっていた。ギデアンハイの軍隊はよろ
いをまとい、体を血で染めていたので、ひどい、恐
ろしい姿であった。
8 さて、ニーファイ人の軍隊はギデアンハイの軍隊
の姿を見ると、全員地に伏して、主なる神に、命を
助けて敵の手から救ってくださるように叫んだ。
9 そこで、ギデアンハイの軍隊はこれを見て、ニー
ファイ人が自分たちの恐ろしい姿に恐れをなして倒
れたのだと思い、喜んで、大声を上げて叫び始めた。
10 しかし、彼らのこの期待は外れた。ニーファイ人
は彼らを恐れたのではなかったからである。ニーフ
ァイ人は神を畏れ[1]、守護を叫び求めたのである。そ
こで、ギデアンハイの軍隊が突撃して来たときに
は、ニーファイ人は彼らと戦いを交える用意ができ
ており、主の力をもって彼らを迎えた。
11 戦いはこの六月に始まり、その戦いは大変な恐ろ
しいものであった。まことに、その戦いでの殺戮は
大変な恐ろしいものであって、リーハイがエルサレ
ムを去って以来、これほどひどい殺戮はリーハイの
民の中にまったく知られていない。
12 そして、ギデアンハイの脅迫や誓いにもかかわら
ず、見よ、ニーファイ人が彼らを打ち負かしたため、
彼らはニーファイ人の前から退いた。
13 さて、ギドギドーナイ[1]は自分の軍隊に、荒れ野の
境まで彼らを追撃するように、そして途中でニーフ
ァイ人の手に落ちる者はだれも容赦しないようにと
命じた。そこで彼の軍隊は、荒れ野の境まで彼らを
追撃して殺し、ギドギドーナイの命令を果たした。
14 そして、立ち向かって勇ましく戦っていたギデア
ンハイも、ついに逃げ出して追撃された。そして、
激しく戦って疲れていたので、追いつかれて殺され
てしまった。強盗ギデアンハイの最期はこのようで
あった。
15 さて、ニーファイ人の軍隊は自分たちの防御の地
へ引き返した。そして、この第十九年が過ぎ去り、
強盗たちはもう攻めて来なかった。また、第二十年
にも彼らはやって来なかった。
16 第二十一年に、彼らは攻めることはなかったもの

10 ① GS「畏れ・恐れ」
12 ① 3ニフ3・1—10
13 ① 3ニフ3・18

の、ニーファイの民を包囲するためにあらゆる方面から上って来た。彼らは、もしニーファイの民を彼らの土地から遮断して、あらゆる方面で彼らを閉じ込めれば、また、外で活動する特権をすべて差し止めれば、自分たちの望みどおりに彼らを降伏させることができると思ったからである。

17 ところで彼らは、ゼムナライハという名の別の首領を選んでいた。したがって、この包囲を行わせたのはゼムナライハであった。

18 しかし見よ、これはニーファイ人にとって有利であった。強盗たちがニーファイ人に何らかの影響を及ぼすほど、十分に長く包囲を続けることは不可能であったからである。というのは、ニーファイ人は多くの食糧を蓄えており、

19 強盗たちの食糧は乏しかったからである。見よ、彼らには命をつなぐための肉、すなわち荒れ野で手に入れた肉のほかには何もなかった。

20 そして、野生の鳥獣は荒れ野に少なくなったので、強盗たちはまさに飢えて死にそうになった。

21 しかも、ニーファイ人は昼も夜も絶えず出撃して敵を攻め、何千人も、何万人も殺した。

22 それで、ゼムナライハの民は昼も夜も大勢の人が殺されたため、自分たちの企てを取りやめたいと思うようになった。

23 そして、ゼムナライハは自分の民に、包囲を解いて、北方の地の最も遠い地方へ行くように命令を下した。

24 ところがギドギドーナイは、彼らの企てを知り、また食糧の不足とそれまでに受けた大きな殺戮のために彼らが弱っているのを知っていたので、夜の間に軍隊を送って彼らの退路を断ち、また彼らの退路に軍隊を配置した。

25 彼の軍隊は夜の間にこれを行い、強盗たちを追い越して進軍した。そして翌日、強盗たちが行軍を始めると、ニーファイ人の軍隊は前方と後方の両面から彼らを攻撃した。

26 また、南方にいた強盗たちも彼らの待避所で絶たれた。これらのことはすべて、ギドギドーナイの命令によって行われたことである。

27 そして、ニーファイ人に降伏して捕虜になった者は何千人にも上り、ほかの者たちは殺された。

28 また、彼らの首領であったゼムナライハは捕らえ

られ、木に、すなわち木の頂につるされて死んだ。
ニーファイ人は彼をつるし、彼が死んでしまうと、
その木を地に倒して大声で叫んで言った。
29「どうか主よ、義にかなった、心の清い民をお守
りくださり、この男が地に倒されたように、権力と
秘密結社のために主の民を殺そうとするすべての者
を地に倒れさせてくださいますように。」
30また、彼らは喜び、再び声を合わせて、「どうかア[1]
ブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神よ、義にか
なったこの民を、この民が守護を求めて神の御名
を呼[2]ぶかぎりお守りくださいますように」と叫んだ。
31そして彼らは、神が大いなることを自分たちのた
めに行い、敵の手に落ちないように守ってくださっ
たので、皆一斉に声を放って歌い、神をほ[1]めたたえ
た。
32まことに彼らは、「いと高き神に、ホサナ[1]」と叫
び、また、「いと高き神、全能[2]の主なる神の御名はほ
むべきかな」と叫んだ。
33そして、敵の手から救ってくださった神の深い慈
しみのために、彼らの心は喜びにあふれ、多くの涙
を流した。また彼らは、自分たちが永遠の滅亡から
救われたのは、悔い改めて謙遜であったためである
ことを知ったのである。

第5章

ニーファイ人、悔い改めて罪を捨てる。モルモン、
民の歴史を記し、また民に永遠の御言葉を告げ知らせ
る。イスラエルは将来、久しく散乱した状態から集め
られる。紀元約二十二年から二十六年に至る。

1さて見よ、ニーファイ人の民の中には、すべての
聖なる預言者たちがかつて語った言葉をわずかでも
疑う者はいなかった。彼らはそれらの言葉が必ず成
就することを知っていたからである。
2また彼らは、預言者たちの言葉のとおりに多くの
しるしが示されたので、キリストが来られたに違い
ないことを知っていた。そして、いろいろなことが
起こったので、かつて告げられたとおりにすべての
ことが将来起こるに違いないことも、彼らは知って
いた。
3そこで彼らは、自分たちの罪と、忌まわしい行い
と、みだらな行いをすべて捨てて、日夜、力の限り

30 ① アル29・11
② エテ4・15
31 ① アル26・8、GS「感謝」
32 ① GS「ホサナ」
② 1ニフ1・14、GS「神・神会」

神に仕えた。

4 さて、ニーファイ人は殺されなかった強盗たちを一人も逃すことなく全員捕らえて捕虜にすると、その捕虜たちを牢に入れ、彼らに神の言葉を説き聞かせるようにした。そして、罪を悔い改めて、もう二度と殺人をしないという聖約を交わそうとした者は皆、1)釈放された。

5 しかし、聖約を交わさず、依然として暗殺の心を持ち続ける者、まことに、同胞を脅していることが分かった者は皆、罪に定められ、法律に従って罰せられた。

6 このようにして彼らは、そのようなひどい悪事と多くの殺人を犯したあの邪悪な秘密の忌まわしい結社をことごとく絶やした。

7 このようにして、1)第二十二年が過ぎ去り、第二十三年も、第二十四年も、第二十五年も過ぎ去った。このようにして、二十五年が過ぎ去った。

8 ある人々の目に大いなる驚くべきことと映った多くのことが、これまでに起こった。しかし、それらをすべてこの書に書き記すことはできない。まことに、この書には、二十五年間にそのように多くの人の中で行われたことの1)百分の一も載せることができない。

9 しかし見よ、この民の行ったことをすべて載せている1)記録が幾つかある。また、短いけれども真実の記録がニーファイによって記された。

10 そこでわたしは、ニーファイの版と呼ばれる版に刻まれたニーファイの記録に従って、これまでこれらのことについて記録してきた。

11 そして見よ、わたしは今、自分の手で造った版に記録している。

12 見よ、わたしはモルモン1)と呼ばれている。この名は、アルマが人々の中に教会を、まことに彼らの背きの後で最初の教会を彼らの中に設立した地、モルモンの地にちなんで名付けられたものである。

13 見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。

14 すでに世を去った聖なる人々の祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるように、これまでに起こっ

第5章
4 (1) GS「自由」
7 (1) 3ニフ2・8
8 (1) 3ニフ26・6—12
9 (1) ヒラ3・13—15
12 (1) モル1・1—5
12 (2) モサ18・4、アル5・3

たこれらのことを、神の御心に従って記録[1]することは望ましいことである。

15 まことにわたしは、リーハイがエルサレムを去ったときから現在までに起こったことを、簡潔に記録する。

16 したがってわたしは、自分が生まれるときまでのことを、わたしよりも前に生きていた人々が記してきた記事から取って記録し、

17 次に、わたし自身の目で見てきたことを記録する。[1]わたしは自分自身のことについて述べるのを終え、わたしの生まれる前にあったことについて記録を書き進めることにする。

18 わたしは自分の記す記録が正しく真実の記録であることを知っている。それでも、わたしたちの言語では書[1]けないことがたくさんある。

19 わたしは自分自身のことについて述べるのを終え、わたしの生まれる前にあったことについて記録を書き進めることにする。

20 わたしはモルモンであり、リーハイの生っ粋の子孫である。神であって救い主であるイエス・キリストをわたしが賛美するのは正当である。神はわたしたちの先祖をエルサレムの地から連れ出された。（このことは神御自身と、その地から連れ出された人々のほかにはだれも知[1]らない。）また、神はわたしとわたしの民に、わたしたちが救われるように多くの知識を与えてくださった。

21 確かに神はヤコブ[1]の家を祝福し、ヨセフの子孫[2]に憐れみをかけてこられた。[3]

22 また、リーハイの子孫が神[1]の戒めを守るかぎり、神は御自分の言葉のとおりに彼らを祝福し、栄えさせてこられた。

23 そして、神はヨセフの子孫の残り[1]の者に、主なる彼らの神のことを再び[2]お知らせになる。

24 また、主が生きておられるように確かに、主は将来、地の全面に広く散らされているヤコブの子孫の残り[1]の者をすべて地の四方から集められる。

25 主はヤコブの家に属するすべての者と聖約されたので、主がヤコブの家と交わされた聖約は主御自身がふさわしいと思われるときに果たされ、ヤコブの家に属するすべての者に、主がかつて彼らと交わされた聖約が再び[1]元のように知らされる。

26 そのとき彼らは、自分たちの贖い主、神の御子イエス・キリストを知[1]るようになる。そして彼らは、地の四方から、散らされる前に住んでいた自分たちの土地に集められる。まことに、主が生きておられ

14 ①エノ 1・13—18、教義 3・19—20
17 ①モル 1・1
18 ①エテ 12・25
20 ①1ニフ 4・36
21 ①創世 32・28
②GS「イスラエル」
③申命 33・13—17
22 ①2ニフ 1・20
23 ①アル 46・24
②2ニフ 3・12
24 ①GS「イスラエルーイスラエルの集合」
25 ①3ニフ 16・5
26 ①2ニフ 30・5—8、3ニフ 20・29—34

るように確かに、それは起こる。アーメン。

第6章

ニーファイ人、栄える。高慢な者、富裕な者が出て、階級差別が生じる。不和のために教会が分裂する。サタン、民を惑わして公然と謀反を起こさせる。多くの預言者たち、悔い改めを叫んで殺される。殺人者たち、政府の乗っ取りを企てる。紀元約二十六年から三十年に至る。

1 さて、第二十六年に、ニーファイ人の民は皆各々の家族を伴い、大小の家畜の群れ、馬、牛を連れ、持ち物をすべて携えて自分の土地へ帰って行った。
2 そして彼らは、食糧を食べ尽くしていなかったので、残っているあらゆる穀物を、また金銀やすべての貴重な品々を携えて、南北に分かれ、北方の地と南方の地のそれぞれの所有地に帰って行った。
3 また、国の平和を守ると聖約を交わし、引き続き レーマン人でいたいと望んだ強盗たちには、自分の労働で生きていくことができるように、彼らの人数に応じて土地が与えられた。このようにして、彼らは全地に平和を確立した。
4 そして、彼らは再び栄えて富み始めた。第二十六年、第二十七年が過ぎ去り、国の秩序はしっかり保たれていた。また彼らは、公平かつ公正に法律を制定した。
5 民が戒めに背くことさえなければ、彼らが引き続き栄えるのを妨げるものは全地に何一つなかった。
6 国にこの大いなる平和を確立した人々は、ギドギドーナイと、大さばきつかさのラコーニアスと、指導者に任命された人々である。
7 そして、多くの町が新たに築かれ、多くの古い町が改築され、
8 町から町へ、地方から地方へ、地域から地域へと通じる多くの街道が造られ、多くの道路が建設された。
9 このようにして、第二十八年が過ぎ去り、民は引き続き平和を保っていた。
10 ところが第二十九年に、民の中に多少の分裂が起こった。そして、ある者たちは非常に豊かに富んでいたために高慢になって誇り、ひどい迫害さえ加えるようになった。

11 国には多くの商人がおり、また多くの法律家と役人もいた。
12 そして民は、彼らの富[1]と学問の機会の多少に応じて階級に区別され始めた。まことに、貧しいために無学な者もいれば、富んでいたので大いに教育を受けた者もいた。
13 高慢になった者もいれば、非常に謙遜な者もいた。そしる者にそしり返す者もいれば、そしりや迫害[1]やあらゆる苦難を受けながらも、向き直ってののしり返すことをせず、神の前にへりくだって悔いる者もいた。[2]
14 このように、全地にひどい不平等が生じたために、教会が分裂し始めた。まことに第三十年には、真実の信仰に帰依している少数のレーマン人の中の教会を除いて、全地の教会が分裂してしまった。この少数のレーマン人は堅く確固として動かず、喜んで力の限り[1]主の戒めを守っていたので、真実の信仰から離れようとしなかった。
15 ところで、民のこの罪悪の原因は、あらゆる罪悪を行うように民をそそのかし、民を誇らせて高慢にし、民を誘惑して権力と権威、富、俗世のむなしいものを求めさせる大きな力をサタンが持っていたことである。
16 このように、サタンがあらゆる罪悪を行うように民の心を惑わしたため、民が平和を享受したのはほんの数年にすぎなかった。
17 したがって、第三十年の初めには、民はすでに悪魔の手に引き渡されて久しくたっており、悪魔が行かせたいと思う所へはどこへでも誘い[1]に乗って行き、また悪魔が行わせたいと思う罪悪はどんなことでもするようになっていた。そのためにこの第三十年の初めには、彼らは恐ろしい邪悪な状態にあった。
18 彼らは無知[1]で罪を犯したのではない。自分たちに関する神の御心を教えられて知っていた。したがって、彼らは故意に神に背いた[2]のである。
19 それはラコーニアスの息子ラコーニアスの時代のことである。このラコーニアスはその年に父の職に就いて民を治めたのであった。
20 また、何人もの人々が天から霊感[1]を受け、遣わされて、全地の民の中に立って教えを説き、民の罪と不義について大胆に証言し、また主が御自分の民のために行われる贖い、言い換えれば、キリストの復

12 ① 1テモ 6・17−19、ヒラ 4・12
13 ① GS「迫害」 ② マタ 5・39、4ニフ 1・34、教義 98・23−25
14 ① GS「熱心」
17 ① GS「誘惑」
18 ① モサ 3・11
20 ① GS「背く」 ② GS「預言者」「霊感」

活に関して彼らに証した。さらに彼らは、キリストの死と苦しみについても大胆に証した。[2]

21 ところが、民の中には、これらのことについて証した人々のことを非常に怒る者が多かった。このように怒った者たちは、特に大さばきつかさたちと、かつて大祭司や法律家を務めた者たちであった。[1]まことに、当時法律家であった者も皆、これらのことを証した人々のことを怒った。

22 しかし、法律家もさばきつかさも大祭司も、国の総督が宣言書に署名しないかぎり、だれに対しても死刑を宣告する力を持たなかった。

23 ところが、キリストに関することについて大胆に証した人々の多くが、さばきつかさたちによって捕らえられ、ひそかに殺されてしまった。そのため、国の総督が彼らの死について知ったのは、彼らが死んだ後のことであった。

24 さて見よ、このことは、国の総督から権限を受けないかぎり人を死刑にしてはならないという国の法律に反していた。

25 そこで、法律に背いて主の預言者たちに死刑を宣告したこれらのさばきつかさたちに対して、ゼラヘムラの地にいた国の総督への訴えが起こされた。

26 そして、彼らは捕らえられ、大さばきつかさの前に連れ出されて、犯した罪悪を、民によって定められた法律[1]に従って裁かれることになった。

27 さて、それらのさばきつかさたちには多くの友人と親族がいた。また、ほかの者たち、すなわち法律家たちと大祭司たちもほとんど全員が集まり、法律によって裁判されることになったそれらのさばきつかさたちの親族と結束した。

28 そして、彼らは互いに[1]誓いを立てた。すなわち、あらゆる義に敵対して結束するために、昔の人々によって設けられたあの誓い、[2]悪魔によって与えられ実施された誓いを立てたのである。

29 このために彼らは、主の民に敵対して結束し、主の民を滅ぼすという誓いを立て、また殺人罪を犯した者たちを、法律に従って実施されようとしている罰の執行から救い出すという誓いも立てた。

30 そして、彼らは国の法律と権利に反抗した。また彼らは総督を殺し、国を治める[1]王を立て、国をもはや自由な国ではなく、王の支配を受ける所にしようと互いに誓いを立てた。

---

20 ②GS「十字架の刑」「贖罪」
21 ①教義121・36−37、GS「背教・背信」、モサ29・25、アル1・51・5
26 ①14GS「秘密結社」、ヒラ6・26−30
28 ①②サ上8・5−7、アル
30 ①

第7章

大さばきつかさが殺され、政府は滅ぼされ、民は部族に分かれる。反キリストのヤコブ、秘密結社の王となる。ニーファイ、悔い改めとキリストを信じる信仰を宣べ伝える。天使たち、日々ニーファイを教え導く。ニーファイ、自分の兄弟を死者の中からよみがえらせる。多くの人が悔い改めてバプテスマを受ける。紀元約三十年から三十三年に至る。

1 さて見よ、わたしはあなたがたに、彼らが国を治める王を立ててなかったことを示そう。この年、すなわち第三十年に、彼らはさばきつかさの席に着いていた国の大さばきつかさを殺した。
2 そして、民は互いに分裂し、家族と親族と友人ごとにそれぞれ部族に分かれた。このようにして、彼らは国の政府を滅ぼした。
3 そして各部族は、彼らを治める族長や指導者を任命した。このようにして、彼らは部族の者となり、部族の指導者となった。
4 さて見よ、彼らの中には家族や親族や友人が大勢いない者はだれ一人いなかったので、彼らの部族は非常に大きなものとなった。
5 さて、このようなことがすべて行われたが、彼らの中にはまだ戦争はなかった。この罪悪はすべて、民がサタンの力に身をゆだねたために民に及んだのであった。
6 また、預言者たちを殺した者の友人や親族から成る秘密結社[1]のために、政府の条例は損なわれてしまった。
7 また、彼らがその地にひどい争いを引き起こしたので、民の中でひときわ義にかなった者たちも、ほとんど皆すでに悪くなってしまい、まことに、民の中に義人はほんのわずかになった。
8 このようにして六年たたないうちに、民の大半は、自分の吐いた[1]ものに帰る犬のように、あるいは泥の中に転がる豚のように、義に背いてしまった。
9 さて、このようなひどい罪悪を民にもたらしたこの秘密結社の者たちは、ともに集まり、ヤコブと呼ばれた一人の男を自分たちの頭に立てた。
10 そして、彼らはヤコブを自分たちの王と呼び、彼はこの邪悪な団を治める王となった。預言者たちはイエスについて証をしたが、この男は、その預言者

第7章
5① ロマ6・13—16、アル10・25
6① 2ニフ9・9
8① 箴言26・11、2ペテ2・22

たちに敵対する声を上げた首謀者の一人である。
11さて、彼らは、同盟を結んだ民の部族ほど人数が多くなかった。民の部族は同盟していたが、彼らの法はそれぞれ部族ごとに指導者が定めていた。それでも彼らは、秘密結社に敵対していた。彼らは義を守る者たちではなかったにもかかわらず、政府を滅ぼす誓いを立てた者たちを憎むことでは一致していた。
12したがって、ヤコブはその団の王であったので、敵が自分たちよりもはるかに多いのを見ると、自分の民に、その地の最北部へ逃げて行き、そこで王国を築いて離反者を加え（彼は多くの離反者が出るように民にへつらっていた）、民の部族と戦うのに十分な力を蓄えるようにと命じた。そして、彼らはそのようにした。
13彼らの移動は非常に速かったので、妨げられることなく、民の手の届かない所へ行ってしまった。このようにして第三十年が終わった。ニーファイの民の状況はこのようであった。
14さて、第三十一年に、民は家族と親族と友人ごとに部族に分かれていた。それでも彼らは、互いに戦争をしないという取り決めを結んでいた。ところが、彼らの法や統治方法は、彼らの族長と指導者の思いのままに定められていたので、一致していなかった。しかし彼らは、部族がほかの部族を侵害してはならないという、非常に厳しい法を定めていたので、ある程度地は平和であった。にもかかわらず、彼らの心は主なる神からそれていた。そして彼らは、預言者たちに石を投げつけ、預言者たちを自分たちの中から追い出した。
15さて、ニーファイは天使の訪れを受け、主の声も聞き、天使を見て見証者となり、キリストの務めについて知る力を与えられ、また民が義から悪事と忌まわしい行いに早々と戻ったことを目撃した。
16したがって、彼は民の心がかたくなで、思いをくらませていることを悲しく思い、その年に民の中に出て行って、悔い改めと、主イエス・キリストを信じる信仰による罪の赦しについて大胆に証し始めた。
17彼は多くのことを民に教えたが、それを全部書き記すことはできない。また、一部では不十分であるから、この書には書き記さない。ニーファイは、「力

12① 3ニフ6・30
15① 3ニフ1・2
17① GS「力」

と大きな権能をもって教えた。

18 そこで民は、彼が自分たちよりも大きな力を持っていたので、彼に腹を立てた。主イエス・キリストを信じる彼の信仰が非常に深かったので、天使が日々彼を教え導き、そのため彼らは、彼の言葉を信じないわけにはいかなかったからである。

19 また彼は、イエスの名によって悪霊と汚れた霊を追い出し、また、民に石を投げつけられて殺された自分の兄弟を、死者の中からよみがえらせた。

20 民はそれを目にし、目撃し、彼に力があることで腹を立てた。また彼は、民の目の前でイエスの名によってさらに多くの奇跡を行った。

21 そして第三十一年が過ぎ去った。そして、主に帰依した者はごくわずかであったが、心を改めた者は皆、自分たちが信じているイエス・キリストの内にある神の力と御霊を与えられたことを、民に実際に示した。

22 悪霊を追い出された者、病気や肉体の弱さを癒された者は皆、神の御霊の働きを受けて癒されたことを民に実際に告げた。また彼らは、数々のしるしを示し、民の中で多少の奇跡を行った。

23 このようにして、第三十二年も過ぎ去った。第三十三年の初めに、ニーファイは民に叫び、悔い改めと罪の赦しを宣べ伝えた。

24 ところで、悔い改めに導かれた者で水でバプテスマを受けなかった者は一人もいなかったことも、覚えておいてもらいたい。

25 したがってニーファイは、人々をこの務めに聖任した。彼らのもとに来る人々がすべて水でバプテスマを受けられるようにするためであった。このバプテスマは、これを受ける人々が悔い改めて罪の赦しを受けたことを、神の前に、また民に対して立証し、証するものである。

26 この年の初めに、悔い改めのためのバプテスマを受けた人々が多くいた。このようにして、その年の大半が過ぎ去った。

第 8 章

暴風雨や地震、火事、旋風、自然の大変動で、キリストの十字架の刑が証明される。多くの者が滅びる。暗闇が三日間地を覆う。生き残った者たち、自分の運命を嘆く。紀元約三十三年から三十四年に至る。

---

18 ① 2ニフ33・1、アル4・19
19 ① GS「霊―悪霊」
20 ① 3ニフ8・1
24 ① GS「バプテスマ」
25 ① 教義20・37、GS「罪の赦し」

1さて、わたしたちの記録によれば、そして、わたしたちはこの記録が真実であることを知っているが、見よ、それは記録を書き継いだのが正しい人であったからである——その人は、1)イエスの名によって実際に多くの2)奇跡を行った。そして、自分の罪悪からことごとく清められなければ、イエスの名によって奇跡を行える人はだれもいなかった。——

2さて、わたしたちの時の計算についてこの人が間違いをしていなければ、1)第三十三年が過ぎ去った。

3そして民は、レーマン人の預言者サムエルによって知らされたしるし、すなわち地の面に三日間暗闇が続く時を、大きな期待をもって待ち望むようになった。

4また、非常に多くの1)しるしが現れていたにもかかわらず、民の中にひどい疑いと論争が起こった。

5さて、第三十四年一月四日に、全地でこれまでにまったく知られていないような大きな嵐が起こった。

6また、激しくすさまじい暴風雨もあった。また、すさまじい1)雷があり、まさに引き裂くほどに全地を2)揺り動かした。

7さらに、全地でこれまでにまったく知られていないような非常に強烈な稲妻があった。

8そして、1)ゼラヘムラの町に火がついた。

9モロナイの町は海の深みに沈んで、そこに住む者はおぼれた。

10また、地がモロナイハの町の上に持ち上がり、その町のあった所に大きな山ができた。

11南方の地にも大変な恐ろしい破壊があった。

12しかし見よ、北方の地にはもっと大変な恐ろしい破壊があった。見よ、暴風雨と旋風と雷と稲妻と全地の非常に激しい震動のために、地の全面が変わってしまった。

13街道は1)破壊され、平坦な道は損なわれ、多くの平らな場所が起伏の激しい所となり、

14多くの大きな名の知れた町が沈み、多くの町が焼け、また多くの町が揺れ動いて建物が地に倒れ、そこに住む者が死に、方々の地が荒れ果てるに任された。

15残った町も多少あったが、それでもそれらの町の受けた被害は非常に大きく、それらの町の多くの者が死んだ。

第8章
1 ①使徒3・6、ヤコ4・6 ②3ニフ7・19—20、モル9・18—19
2 ①3ニフ2・8
3 ①1ニフ19・10、ヒラ14・20、27、3ニフ10・9
4 ①GS「十字架の刑」
6 ①1ニフ19・11、ヒラ14・21
8 ①②4ニフ1・7—8
13 ①ヒラ14・24、3ニフ6・8
14 ①1ニフ12・4

16 また、旋風によって運び去られた者もかなりいた。人々は彼らが運び去られたことは知っているが、どこへ運ばれて行ったのかだれも知らない。17 このように、暴風雨と雷と稲妻と地の震動のために、全地の面が形を変えてしまった。18 そして見よ、方々の岩[1]は二つに裂けて、全地の面に及んだので、地の全面に砕けた破片として、ひびとして、割れ目として見られるようになった。19 そして、雷と稲妻、嵐、暴風雨、地の震動はやんだ。見よ、これらはおよそ三時間[1]続いた。その時間はもっと長かったと言う人々もいたが、このような大変な恐ろしい出来事はすべて、およそ三時間続いた。その後、見よ、地の面が暗くなった。20 そして、地の全面に深い暗闇があり、それまでに倒れなかった民がその暗黒の霧[1]に触れると、それを感じ[2]ることができるほどであった。21 また、暗闇のために光はまったく存在することができず、ろうそくも、たいまつもともすことができなかった。また、良質の十分に乾燥した木にも火をつけることができなかったので、光はまったくなかった。22 地の面にある暗黒の霧が非常に深かったので、どんな光も見えず、火も、かすかな光も、太陽も、月も、星も見えなかった。23 そして、光のまったく見えない状態が三日間[1]続き、すべての民の中に大きな悲しみとわめき声と泣き声が絶えなかった。まことに、民に及んだ暗闇と大きな破壊のために、民のうめき声は大きかった。24 そして、ある所では民が、「おお、この大変な恐ろしい日が来る前に悔い改めておけばよかった。そうすれば、我々の同胞は命を助けられ、あの大きな町ゼラヘムラ[1]で焼かれることはなかっただろう」と叫ぶのが聞かれ、25 また別の所では、「おお、この大変な恐ろしい日が来る前に悔い改めておき、預言者たちを殺さず、石を投げつけず、追い出さなければよかった。そうすれば、我々の母も、麗しい娘たちも、子供たちも命を助けられ、あの大きな町モロナイハで埋められることはなかっただろう」と叫ぶのが聞かれた。このように、民は大いに、またひどくうめき苦しんだ。

---

18 ①ヒラ14・21–22
19 ①ルカ23・44
20 ①1ニフ12・5、19
20 ②出エ10・21–22
23 ①1ニフ19・10
24 ①ヒラ13・12

第9章

暗闇の中でキリストの声が聞こえ、民の悪事のために多くの者が滅び、多くの町が破壊されたことが宣言される。キリストはまた、御自分の神性を宣言し、モーセの律法が成就したことを告げ、御自分のもとに来て救われるようにと人々を招かれる。紀元約三十四年。

1 さて、この地の全面で、地に住むすべての者に次のように告げる声が聞こえた。

2 「災いである、災いである、この民は災いである。全地の民は悔い改めなければ[1]災いである。わたしの民の麗しい息子、娘たちが殺されたことを、悪魔は[2]笑い、悪魔の使いは喜んでいる。わたしの民の麗しい息子、娘たちが倒されたのは、彼らの罪悪と忌まわしい行いのためである。

3 見よ、あの大きな町ゼラヘムラとそこに住む者たちを、わたしは火で焼いた。

4 また見よ、あの大きな町モロナイを、わたしは海の深みに沈め、そこに住む者たちをおぼれさせた。

5 また見よ、あの大きな町モロナイハとそこに住む者たちを土で覆い、彼らの罪悪と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

6 見よ、ギルガルの町を沈め、そこに住む者たちを地の深みに埋めた。

7 また、オナイハの町とその民、モクムの町とその民、エルサレムの町とその民も同様であり、わたしはそれらの町に代わって[1]水をわき上がらせ、彼らの悪事と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

8 また見よ、ガデアンダイの町、ガデオムナの町、ヤコブの町、ギムギムノの町、これらをすべて沈め、それらの場所に[1]丘と谷を造った。また、それらの町に住む者たちを地の深みに埋め、彼らの悪事と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

9 また見よ、ヤコブ王の民が住んでいたあの大きな町ヤコブガスを、全地のどんな悪事も及ばない彼ら

第9章
1 (1) 1ニフ19・11、3ニフ11・10
2 (1) マタ11・20—21
(2) モセ7・26
7 (1) エゼ26・19
8 (1) 1ニフ19・11

の罪と悪事のゆえに、また彼らの1)暗殺と秘密結社のゆえに、わたしは火で焼かせた。わたしの民の平和を破り、国の政府を滅ぼしたのは彼らである。したがって、わたしは彼らを焼かせ、わたしの前から彼らを2)滅ぼして、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

10 また見よ、レーマンの町と、ヨシの町と、ガドの町と、キシクメンの町と、それらの町に住む者たちを、わたしは火で焼かせた。彼らが預言者たちを追い出すという悪事、また彼らの悪事と忌まわしい行いのことを彼らに告げさせるために、わたしが遣わした者たちに石を投げつけるという悪事を行ったからである。

11 彼らが預言者たちをすべて追い出し、彼らの中に一人も義人がいなくなったので、わたしは火を1)下して彼らを滅ぼし、彼らの悪事と忌まわしい行いがわたしの前から隠されて、わたしが彼らの中に遣わした預言者たちと聖徒たちの血が、2)地から叫んで彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

12 わたしは、1)多くのひどい破壊がこの地とここに住む者たちに及ぶようにさせたが、それは彼らの悪事と忌まわしい行いのゆえである。

13 おお、彼らよりも義にかなっているために、1)命を助けられているすべての者よ。わたしがあなたがたを2)癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。

14 まことに、あなたがたに言う。あなたがたは、わたしのもとに来るならば1)2)永遠の命を得るであろう。見よ、わたしの3)憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。

15 見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは天地とその中にある万物を1)創造した。わたしは初めから父とともにいた。2)わたしは父におり、父はわたしにおられる。そして、わたしによって父は御名に栄光を受けられた。

16 わたしは自分の民のところに来たのに、民はわたしを1)受け入れなかった。わたしの来臨に関する聖文は成就している。

17 わたしを受け入れた者に、わたしは神の子となる

---

9 ① ヒラ 6・17–18、21
11 ① ② モサ 12・8
列下 1・9–16、ヒラ 13・13
12 ① ② 創世 4・10
3ニフ 8・8–10、14
13 ① ② 3ニフ 10・12
エレ 3・22、3ニフ 18・32
14 ① ② 2ニフ 26・24–28、アル 5・33–36
ヨハ 3・16
15 ① ② ③ アル 19・36
ヨハ 1・1–3、コロ 1・16、ヒラ 14・12、エテ 4・7、教義 14・9
16 ① ② ヨハ 17・20–22、3ニフ 11・27、19・23、29
21 ① ヨハ 1・11、教義 6・

ことを許した。わたしの名を信じる者にも同様にしよう。見よ、わたしによって贖いは可能になっており、またわたしによってモーセの律法は成就している。

18 わたしは世の光であり命である。わたしはアルパでありオメガであり、初めであり終わりである。

19 あなたがたは、もはや血を流すことをわたしへのささげ物としてはならない。あなたがたの犠牲と燔祭は取りやめなさい。わたしはこれから、あなたがたの犠牲と燔祭を受け入れないからである。

20 あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしはレーマン人に授けたように、火と聖霊によってバプテスマを授けよう。レーマン人は改心したときにわたしを信じたので、火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。

21 見よ、わたしは、世に贖いをもたらし、世の人々を罪から救うために世に来た。

22 それゆえ、悔い改めて幼子のようにわたしのもとに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう。神の王国はこのような者の国である。見よ、このような者のために、わたしは自分の命を捨て、再びそれを得た。それゆえ、地の果てに至る人々よ、悔い改め、わたしのもとに来て救われなさい。」

第10章

地が何時間も静かであったこと。キリストの声が聞こえ、めんどりがひなを集めるように御自分の民を集めることを約束される。守られた者は、ひときわ義にかなった人々であった。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて見よ、この地のすべての人がこれらの御言葉を聞き、それについて証人となった。そして、これらの御言葉の後、地は何時間も静かであった。

2 民があまりの驚きに、親族を失ったのを嘆くこと、また泣きわめくことをやめてしまったからである。そのために、全地は何時間も静かであった。

3 そして、再び民に声が聞こえた。すべての人はそれを聞き、それについての証人となったが、その声は次のように語られた。

---

17 ① ヨハ1・12、GS「神の息子、娘」「人−天の御父のようになる可能性を持った人間」
② GS「贖い・贖う」
③ 3ニフ12・19、46−47、15・2−9
18 ① GS「光・キリストの光」
② 黙示1・8、GS「アルパとオメガ」
19 ① アル34・13
20 ① 3ニフ12・19、教義20・37
② 2ニフ31・13−14
22 ① GS「悔い改め」
② マコ10・15、モサ3・19、3ニフ11・37−38
③ ヨハ10・15−18

4 「おお、ヤコブの子孫であり、イスラエルの家に属する者である、崩れ落ちたこれらの大きな町の民よ。めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集め、2)養ってきたことか。
5 さらにまた、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。まことに、おお、罪を犯してきたイスラエルの家の民よ。まことに、おお、同じように罪を犯してきたエルサレムに住むイスラエルの家の民よ。まことに、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。
6 おお、わたしが命を助けたイスラエルの家よ。あなたがたが悔い改め、十分に固い決意をもってわたしに2)立ち返るならば、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度も集めよう。
7 しかし、おお、イスラエルの家よ、もし悔い改めて立ち返らなければ、あなたがたの住居のある所は、あなたがたの先祖に立てた1)聖約が果たされるときまで荒れ果てた所となるであろう。」
8 さて、民はこれらの御言葉を聞いた後、見よ、親族と友人を失ったことで再び涙を流し、泣きわめき始めた。
9 そして三日たった。そして朝になると、1)暗闇は地の面から消え去り、地が揺れ動くのはやみ、岩が裂けるのもやみ、恐ろしいうなりは静まり、騒々しい音はすべてやんだ。
10 地は再び合わさってそのままになった。また、命を助けられた人々の嘆きや泣き悲しむ声もやんだ。そして、彼らの嘆きは喜びに変わり、彼らの悲しみは、彼らの贖い主なる主イエス・キリストへの賛美と感謝に変わった。
11 預言者たちによって述べられた聖文はここまで1)成就した。
12 このときに命を助けられたのは、1)ひときわ義にかなった人々である。彼らは預言者たちを受け入れた人々で、預言者たちに石を投げつけなかった。また、聖徒たちの血を流したこともなかった。
13 彼らは命を助けられ、地の中に沈められることも埋められることもなかった。海の深みにおぼれることもなく、火で焼かれもせず、落ちて押しつぶされて死ぬこともなかった。また、彼らは旋風に運び去

第10章
4 (1) 3ニフ8・14
(2) 1ニフ17・3
5 (1)(2) マタ23・37、教義43・24—25
6 (1)(2) 3ニフ9・13、サ上7・3、ヒラ13・11、3ニフ24・7
7 (1)(1) GS「聖約（契約）」、3ニフ8・19
9 (1)(1) 使徒3・18—20
11 (1)(1) 2ニフ26・8、3ニフ9・13
12 (1)(1) 2ニフ26・8、3ニフ9・13

られることもなく、立ち込める煙と暗黒の霧に打ち倒されるということもなかった。

14 さて、読む者は理解しなさい。聖文を持っている者は聖文を1)調べて、火と煙、暴風雨、旋風、それに人々をのみ込む地の裂けた穴によるこれらの死と破壊がすべて、多くの聖なる預言者たちの預言を成就するものでないかどうか確かめなさい。2)

15 見よ、あなたがたに言う。まことに、多くの預言者が、キリストの来臨の時のこれらのことについて証し、そしてこれらのことを証したために1)殺された。

16 まことに、預言者ゼノスはこれらのことについて証し、ゼノクもこれらのことについて述べ、彼らは特に、彼らの子孫の残りの者であるわたしたちについて証した。

17 見よ、わたしたちの先祖ヤコブも、ヨセフの子孫の1)残りの者について証した。わたしたちはヨセフの子孫の残りの者ではないだろうか。わたしたちについて証するこれらのことは、先祖リーハイがエルサレムから持って来た真鍮の版に書き記されてはいないだろうか。

18 さて、第三十四年の末に、命を助けられたニーファイの民と、レーマン人と呼ばれた命を助けられた人々に大きな恵みが与えられ、彼らの頭に大きな祝福が注がれたことを、見よ、わたしはあなたがたに示そう。キリストは1)天に昇られてからすぐに、実際に彼らに御自身を現し、

19 彼らに御自分の体を示し、教えと導きを授けられた。キリストの務めについての話は後に記すことにする。したがって、今はわたしの言葉を終わりにする。

大勢の人がバウンティフルの地に集まったとき、イエス・キリストはニーファイの民に御自身を現し、彼らを教え導かれた。イエス・キリストが彼らに御自身を現された次第は、次に記すとおりである。

次の第十一—二十六章がそれに相当する。

第11章

御父、愛する御子について証される。キリストが現れ、御自分の贖罪について宣言される。人々、キリス

14 ①「聖文—聖文の価値」GS
②1ニフ19・11、2ニフ26・5
15 ①GS「殉教者・殉教」
ヒラ8・19—20
16 ①2ニフ3・4—5、アル46・24、3ニフ5・23—24
17 ①18 ①使徒1・9—11
19 ①3ニフ11・12—15

トの両手と両足とわきの傷跡に触れる。人々、「ホサナ」と叫ぶ。キリスト、バプテスマの様式を述べられる。争いの心は悪魔のもの。キリストの教義とは、人は信じてバプテスマを受け、聖霊を受けなければならないというものである。紀元約三十四年。

1 さて、ニーファイの民の大勢の群衆がバウンティフルの地にある神殿の周りに集まり、互いに驚き、不思議に思い、また各地に起こった[1]大いなる驚くべき変化について互いに話し合っていた。
2 彼らはまた、すでにその死にかかわるしるしが現れたイエス・キリストについても語り合っていた。[1]
3 そして、彼らが互いに語り合っていたとき、天から発せられるような[1]声が聞こえた。しかし彼らは、自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分からなかったので、辺りを見回した。それは耳障りな声ではなく、大きな声でもなかったが、[2]小さな声でありながら、聞いた人々の心の中まで貫いたので、彼らの全身はことごとくそれによって震えた。まったく、それは魂そのものにまで彼らを貫き、彼らの心を燃え上がらせた。
4 そして彼らは、再びその声を聞いたが、それでもその声の告げる意味が分からなかった。
5 その声は三度まで聞こえ、彼らはこの度は耳を開いてそれを聞き、目をその声のする方へ向けて、その声が発せられる天を見詰めていた。
6 すると見よ、三度目には、彼らは自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分かった。その声は彼らに語った。
7 「わたしの[1]愛する子を見なさい。[2]わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」
8 そして、彼らはその意味が分かったので、再び天を見上げた。すると見よ、天から[1]一人の男の方が降って来られるのが見えた。この御方は白い衣を着ておられ、降って来て群衆の中に立たれた。全群衆の目がこの御方に注がれたが、彼らは互いの間でさえ、あえて口を開こうとはしなかった。また彼らは、自分たちに御姿を現された御方を天使であると思ったが、これがどういうことなのか分からなかった。
9 そこでこの御方は、片手を差し伸べて人々に言われた。

第11章
1 ① 3ニフ8・11—14
2 ① ヒラ14・20—27
3 ① 申命4・33—36、ヒラ5・29—33
② 列上19・11—13、教義85・6
7 ① マタ3・17、17・5、ジ—歴史1・17
② 3ニフ9・15
8 ① 1ニフ12・6、2ニフ26・1

10 「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。
11 見よ、わたしは世の光[1]であり命である。わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯[2]から飲み、世の罪を自分に負う[3]ことによって父に栄光をささげた。わたしは世の罪を負うことによって、初めから、すべてのことについて父の御心[4]に従ってきた。」
12 さて、イエスがこれらの御言葉を語り終えられると、群衆は全員地に伏した。彼らは、キリストが天に昇られた後、自分たちに御自身を現されることが預言されていた[1]のを思い出したからである。
13 そこで、主は彼らに言われた。
14 「立ってわたしのもとに来て、あなたがたの手をわたしのわき[1]に差し入れ、またわたしの両手と両足の釘の跡[2]に触れて、わたしがイスラエルの神[3]であり、全地の神[4]であること、そして世の罪のために殺されたことを知りなさい。」
15 そこで群衆は進み出て、主のわきに手を差し入れ、また主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目で見、自分の手で触れ、[1]この御方が、将来来られると預言者たちによって書き記された主であられることを、確かに知って証した。
16 彼らは全員進み出て、自ら確認した後、一斉に叫んだ。
17 「ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられますように。」そして、彼らはイエスの足もとに伏して、イエスを拝した[1]。
18 そして、イエスは（ニーファイが群衆の中にいたので）[1]ニーファイに語りかけ、進み出るように命じられた。
19 そこでニーファイは、立ち上がって進み出て、主の前にひれ伏し、主の両足に口づけした。
20 すると主は、立ち上がるように彼に命じられた。そこで彼は、身を起こして主の前に立った。
21 すると主は彼に、「わたしはあなたに力[1]を授ける。わたしが再び天に上げられるとき、あなたはこの力をもってこの民にバプテスマを施しなさい」と言われた。
22 さらに主は、ほか[1]の人々も召して、彼らにも同じように言われた。そして主は、バプテスマを施す力をこれらの人に授けられた。それから、主は彼らに

11 ①GS「光・キリストの光」
②③マタ 26・39、42
ヨハ 1・29、教義 19・
18—19
④マコ 14・36、ヨハ 6・
38、教義 19・2
12 ①アル 16・20
14 ①ヨハ 20・27
②ルカ 24・36—39、教義
129・2
③イザ 45・3、3 ニフ
15・5
15 ①④1 ニフ 11・6
②GS「イエス・キリスト」
17 ①GS「礼拝」
18 ①3 ニフ 1・2、10
21 ①GS「力」
②GS「バプテスマ」
22 ①1 ニフ 12・7、3 ニフ 12・1

言われた。「次の方法であなたがたはバプテスマを
施しなさい。あなたがたの中に決して[2]論争があって
はならない。
23まことに、あなたがたに言う。あなたがたの[1]言葉
によって罪を悔い改め、わたしの名によってバプテ
スマを受けたいと[2]望む人に、次の方法でバプテスマ
を施しなさい。見よ、あなたがたは水の中に下りて
行って[3]立ち、わたしの名によって彼らにバプテスマ
を施しなさい。
24さて見よ、そのときにあなたがたの言う言葉は次
のとおりである。まず、バプテスマを受ける人の名
を呼んで、
25『わたしはイエス・キリストより[1]権能を受けたの
で、[2]御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバ
プテスマを施します。アーメン』と言いなさい。
26それから、あなたがたはその人を水中に[1]沈め、水
から上がりなさい。
27このような方法で、わたしの名によってバプテス
マを施しなさい。見よ、まことに、あなたがたに言
う。父と子と聖霊は[1]一つである。わたしは父におり、
父はわたしにおられ、父とわたしは一つである。

28わたしが命じたとおり、あなたがたはこのように
バプテスマを施しなさい。これまであったような[1]論
争が、今後は決してあなたがたの中にあってはなら
ない。また、わたしの教義の要点について、これま
でにあったような論争が、今後決してあなたがたの
中にあってはならない。
29まことに、まことに、あなたがたに言う。[1]争いの
心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父で
ある[2]悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争う
ように人々の心をあおり立てる。
30見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てる
のは、わたしの教義ではない。このようなことをや
めるようにというのが、わたしの教義である。
31見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。
あなたがたにわたしの[1]教義を告げよう。
32これから述べるのがわたしの[1]教義であり、父がわ
たしに与えてくださった教義である。わたしは父の
ことを[2]証し、父はわたしのことを証され、[3]聖霊は父
とわたしのことを証する。父は、どこにいる人でも
すべての人に、悔い改めてわたしを信じるように命
じておられることを、わたしは証する。

---

22 ② 3ニフ18・34
23 ① 3ニフ12・2
② GS「バプテスマー資格」
③ 3ニフ19・10−13
25 ① モサ18・13、教義20・73、GS「バプテスマー正当な権能」
② GS「神・神会」
26 ① GS「バプテスマー全身を水に沈める」
27 ① ヨハ17・20−22、3ニフ28・10、モル7・7、教義20・28
28 ① 1コリ1・10、エペ4・11−14、教義38・27
29 ① 2テモ2・23−24、モサ23・15、GS「争い」
② JSエペ4・26、モサ2・32−33
31 ① 2ニフ31・2−21
32 ① GS「キリストの教義」
② 1ヨハ5・7
③ 3ニフ28・11、エテ5・4

33 わたしを信じてバプテスマを受ける[1]者は、だれでも救[2]われる。神の王国を受け継[3]ぐのはこれらの者である。

34 また、わたしを信じないでバプテスマを受けない者は、だれでも罰の定めを受ける。

35 まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。わたしは、父から告げられたとおりにこれを証する。わたしを信じる[1]者は父をも信じるのである。その者に、父はわたしのことを証されるであろう。父はその者に火[2]と聖霊[3]を与えられる。

36 このようにして、父はわたしのことを証され、聖霊はその者に父とわたしのことを証する。父とわたしと聖霊は一つである。

37 もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、[1]幼子のようになり、わたしの名によってバプテスマを受けなければならない。そうしなければ、あなたがたは決してこれらのものを受けることができない。

38 もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、わたしの名によってバプテスマを受け、幼子のようにならなければならない。そうしなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐことができない。

39 まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。この教義の上に建[1]てる者はわたしの岩の上に建てるのである。[2]地獄の門もこれらの者に打ち勝つことはない。

40 また、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを告げ知らせて、それをわたしの教義とする者は、悪から出る者であり、わたしの岩の上に建てられてはいない。このような者は、[1]砂の土台の上に建てているのである。地獄の門は開かれており、洪水が起こり、風が打ちつけるときにこのような者を迎え入れる。

41 したがって、あなたがたはこの民の中に出て行き、わたしの語った言葉を地の果てまで告げ知らせなさい。」

第12章

イエス、十二弟子を召して力を授けられる。イエス、ニーファイ人に山上の垂訓に似た説教をし、至福の

---

33 ①マコ16・16、GS「バプテスマ−必要不可欠な条件」 ②GS「救い」
35 ①②GS「日の栄え」 ③エテ4・12、3ニフ9・20、12・2
37 ①③GS「聖霊」 ②マコ10・15、ルカ18・17、モサ3・19、3ニフ9・22
39 ①マタ7・24−29、ヒラ5・12、GS「岩」 ②3ニフ18・12−13
40 ①②3ニフ14・24−27

教えを説かれる。イエスの教えはモーセの律法をしのぎ、モーセの律法に優先する。イエスと御父が完全であられるように完全になることが、人々に命じられる。マタイによる福音書第五章と比較せよ。紀元約三十四年。

1さて、イエスはこれらの御言葉をニーファイと前に召された人々（召されてバプテスマを施す力と権能を授けられた人々の数は[1]十二人であった）に語り終えると、見よ、群衆に手を伸ばして、大きな声で言われた。「わたしがあなたがたの中から[2]選んで、あなたがたを教え導き、またあなたがたの僕となるようにしたこの十二人の言葉に注意を払うならば、あなたがたは[3]幸いである。わたしは水であなたがたにバプテスマを施す力をこの十二人に授けた。あなたがたが水でバプテスマを受けた後、見よ、わたしはあなたがたに火と聖霊によってバプテスマを授けよう。あなたがたはすでにわたしを見ており、わたしが実在することを知っているので、わたしを信じてバプテスマを受けるならば、あなたがたは[2]幸いである。

2さらにまた、あなたがたがわたしに会ったと証し、わたしが実在することを知っていると証するとき、あなたがたのその言葉を信じる[1]人々は、なおさら幸いである。まことに、あなたがたの言葉を信じて、[2]心底謙遜になってバプテスマを受ける人々は、幸いである。彼らは[3]火と聖霊を授かり、罪の赦しを受けるからである。

3まことに、わたしのもとに来る[1]心の[2]貧しい人々は、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。

4また、悲しむ人々は皆、幸いである。彼らは慰められるからである。

5[1]柔和な人々は、幸いである。彼らは[2]地を受け継ぐからである。

6[1]義に飢え渇いている人々は皆、幸いである。彼らは聖霊に満たされるからである。

7[1]憐れみ深い人々は、幸いである。彼らは憐れみを受けるからである。

8[1]心の清い人々は皆、幸いである。彼らは[2]神を見るからである。

9[1]平和をつくり出す人々は皆、幸いである。[2]彼らは神の子と呼ばれるからである。

第12章

1 ①②3ニフ13・25 GS「召し・神の召し」 ③GS「祝福」
2 ①③教義46・13—14、GS「信じる」 ②エテ4・13—15
3 ①③13 3ニフ11・35、19・マタ11・28—30 ②教義56・17—18、GS「謙遜」
5 ①ロマ12・16、モサ3・19、GS「柔和」 ②GS「地球（地）」
6 ①②箴言21・21
2 ②2ニフ9・51、エノ1・4
7 ①③エレ29・13 GS「憐れみ」
8 ①②GS「清さ」 教義93・1
9 ①GS「平和をつくり出す人」 ②GS「神の息子、娘」

10 わたしの名のために迫害される人々は皆、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。
11 わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、またあなたがたに対して偽って悪口を言うときには、あなたがたは幸いである。
12 あなたがたは大きな喜びを得て、非常に喜ぶようになる。天においてあなたがたの受ける報いは大きいからである。あなたがたより前にいた預言者たちも、同じように迫害されたのである。
13 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたを地の塩とする。しかし、もし塩がその塩気を失ったら、地は何によって塩味をつけられようか。その塩はもはや何の役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけである。
14 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの民の光とする。丘の上にある町は隠れることができない。
15 見よ、人はろうそくに火をつけて升の下に置くだろうか。そのようなことはせず、燭台に立てて、家の中のすべてのものを照らす。
16 だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。
17 わたしが律法や預言者を廃するために来た、と思ってはならない。わたしが来たのは廃するためでなく、成就するためである。
18 まことに、あなたがたに言う。律法は一点一画もむなしくなることがなく、わたしによってすべて成就した。
19 そして見よ、わたしはあなたがたに、わたしを信じ、罪を悔い改めて、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来るようにという父の律法と戒めを与えた。見よ、あなたがたの前には戒めがあり、律法はすでに成就している。
20 だから、わたしのもとに来て救いを得なさい。まことに、あなたがたに言う。今あなたがたに命じたわたしの戒めを守らなければ、あなたがたは決して天の王国に入れないであろう。
21 昔の人々により、『あなたがたは殺してはならない。殺す者はだれでも、神の裁きを受ける恐れがある』と言われてきたことは、あなたがたの聞いているところであり、またそれは、あなたがたの前に書

10 ①迫害 教義122・5—9、GS
12 ①エテ 12・4
13 ①教義101・39—40、GS
15 ①塩 ルカ8・16
16 ①3ニフ18・24 GS「モーセの律法」
18 ①3ニフ9・20、GS
19 ①打ち砕かれた心 3ニフ9・17
21 ①②出エ20・13、モサ13・21、教義42・18

き記されている。

22しかし、あなたがたに言う。自分の兄弟に対して怒る者はだれであろうと、神の裁きを受ける恐れがある。自分の兄弟に向かって『愚か者』と言う者はだれでも、議会に引き渡される恐れがある。また、『ばか者』と言う者はだれでも、地獄の火に投げ込まれる恐れがある。

23だから、あなたはわたしのもとに来るとき、またはわたしのもとに来たいと思うとき、兄弟があなたに対して何か恨みを抱いていることを思い出したら、

24あなたの兄弟のところに行って、まずその兄弟と和解[1]し、それから十分に固い決意をもってわたしのもとに来なさい。そうすれば、わたしはあなたを受け入れよう。

25自分に敵意を抱いている者と、一緒にいる間に早く仲直りしなさい。そうしないと、いつか彼はあなたを捕らえるであろう。そして、あなたは牢に入れられるであろう。

26まことに、まことに、あなたに言う。あなたは最後の一セナインを支払ってしまうまで、決してそこから出て来ることはできない。あなたは牢の中にいて一セナイン[1]でも支払えるだろうか。まことに、まことに、あなたに言う。『支払うことはできない』と。

27見よ、昔の人々は、『あなたは姦淫[1]してはならない』と書いている。

28しかし、あなたがたに言う。情欲[1]を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を行ったのである。

29見よ、わたしはあなたがたに、これらのことを決して心[1]の中に入れないようにと命じる。

30あなたがたは、これらのことを断って自分の十字架を負う方が、地獄に投げ込まれるよりもよいからである。

31『妻を出す者は離縁[1]状を渡せ』と書かれている。

32まことに、まことに、あなたがたに言う。だれでも、不貞[1]以外の理由で自分の妻[2]を出す者は、姦淫[3]を行わせるのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである。

33さらに、『偽り誓うな。誓[1]ったことは、すべて主に対して果たせ』と書かれている。

24①GS「赦し」
26①アル11・3
27①2ニフ9・36、教義42・23、GS「欲望」
28①59・6
29①使徒8・22
30①マタ10・38、16・24、ルカ9・23
31①GS「離婚」
32①GS「不貞」
②マコ10・11−12
33①③GS「姦淫」
GS「誓い」

34 しかし、まことに、まことに、あなたがたに言う。一切[1]誓ってはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の御座であるから。
35 また、地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台であるから。
36 また、自分の頭にかけて誓ってはならない。あなたは髪の毛一筋さえ黒くも白くもすることができない。
37 あなたがたの言葉はただ、『はい、はい』『いいえ、いいえ』であるべきだ。それ以上のものから出るものはすべて悪である。
38 また見よ、『[1]目には目を、歯には歯を』と書かれている。
39 しかし、あなたがたに言う。悪人に[1]手向かってはならない。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、[2]ほかの頬をも向けてやりなさい。
40 あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。
41 もし、だれかが、あなたを強いて一マイル行かせようとするなら、その人とともに二マイル行きなさい。
42 求める者には[1]与え、借りようとする者を断らないようにしなさい。
43 また見よ、『隣人を愛し、敵を憎め』とも書かれている。
44 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの[1]敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために[2]祈りなさい。
45 こうして、天におられるあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも善い者の上にも太陽を昇らせてくださるからである。
46 以前律法の下にあったことはすべて、わたしによって成就している。
47 [1]古いものは廃されて、すべてのものが新しくなったのである。
48 わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも[1]完全になることを、わたしは望んでいる。」

第13章

イエス、主の祈りを二ーファイ人に教えられる。人

34① GS「不敬」
38① レビ24・20
39① 3ニフ6・13、4ニフ1・34、教義98・23—32
42① ② GS「忍耐」
44① 4・22—26
23 ヤコ2・17—19、モサ箴言24・17、アル48・
47① ② 使徒7・59—60
3ニフ15・2、7、教義22・1
48① マタ5・48、3ニフ27・27、GS「完全」

は天に宝を蓄えなければならない。主の務めに携わる十二弟子、この世のものを思い煩わないように命じられる。マタイによる福音書第六章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 「まことに、まことに、わたしは言う。あなたがたは貧しい者に施しをしてほしい。しかし、見られるために人々の前で施しをすることのないように注意しなさい。もし、そうしないと、天におられるあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。

2 だから、施しをするときには、偽善者たちが人から1)褒められるために会堂や通りでするように、自分の前でラッパを吹いてはならない。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまっている。

3 あなたは施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知らせてはならない。

4 それは、あなたのする施しが隠れているためである。そうすれば、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

5 また、1)祈るときには、偽善者たちのようにしてはならない。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまっている。

6 あなたは祈るとき、自分の部屋に入り、戸を閉じて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。すると、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

7 また、祈るとき、異教徒のように無益に繰り返すことはやめなさい。彼らは、言葉数が多ければ聞き入れられると思っている。

8 だから、彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、求めない先から、あなたがたに必要なものを1)御存じだからである。

9 だから、あなたがたは1)2)こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの3)父よ、御名があがめられますように。

10 御心が天で行われるように、地でも行われますように。

11 わたしたちが自分に負債のある者を赦しています

第13章
1 ① GS「施し」
2 ① 教義121・34−35
5 ① GS「祈り」
8 ① 教義84・83
9 ① マタ6・9−13
② GS「祈り」
③ GS「神・神会ー父なる神」

ように、わたしたちの負債をお赦しください。
12わたしたちを誘惑に陥らせることのないようにし、悪からお救いください。
13王国と力と栄光はとこしえにあなたのものです。アーメン。』
14もしあなたがたが人の過ちを赦すならば、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださるであろう。
15もし人を赦さないならば、あなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してくださらないであろう。
16さらにあなたがたは、断食をするときには、偽善者のように悲しげな顔つきをしてはならない。彼らは断食をしていることを人に知らせようとして、自分の顔を見苦しくする。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまっている。
17あなたがたは断食をするときには、頭に油を塗り、顔を洗いなさい。
18それは、断食をしていることを人に知られないで、隠れた所におられるあなたの父に知っていただくためである。そうすれば、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。
19あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝を蓄えてはならない。
20むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝を蓄えなさい。
21あなたの宝のある所には、心もあるからである。
22体の明かりは目である。だから、あなたの目が正しく見ていれば、あなたの全身に光が満ちるであろう。
23しかし、あなたの目が悪を見ていれば、全身に暗闇が及ぶであろう。だから、もしあなたの内にある光が暗闇になるならば、その暗さはどんなに深いことか。
24だれも、二人の主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」
25さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選んだ十二人を見て言われた。「わたしが語った言葉を覚えておきなさい。見よ、あなたがたは

12① JSマタ6・14
14① モサ26・30—31、教義64・9、GS「赦し」
16① イザ58・5—7、GS「断食」
18① 教義38・7
20① ヒラ5・8、8・25
22① 教義88・67
24① サ上7・3

この民を教え導くようにわたしが選んだ者だからである。あなたがたに言う。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思い煩い、何を着ようかと自分の体のことで思い煩ってはならない。命は食物に勝り、体は衣服に勝っていないだろうか。

26 空の鳥を見なさい。まくことも刈ることもせず、倉に納めることもしない。それでも、あなたがたの天の父は鳥を養っておられる。あなたがたは、鳥よりもはるかに優れた者ではないか。

27 あなたがたの中のだれが、思い煩ったからといって、自分の背丈を一キュビト伸ばすことができようか。

28 また、なぜ衣服のことで思い煩うのか。野のゆりがどのように育っているか考えてみなさい。野のゆりは働きもせず、紡ぎもしない。

29 しかし、あなたがたに言うが、栄華を極めたときのソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

30 だから、今日はあって、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神がこのように装ってくださるとすれば、あなたがたの信仰が薄くないかぎり、神はあなたがたにも同じように装わせてくださるであろう。

31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って思い煩ってはならない。

32 あなたがたの天の父は、これらのものがすべてあなたがたに必要であることを御存じだからである。

33 まず神の王国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。

34 だから、明日のことを思い煩ってはならない。明日のことは明日自身が思い煩うであろう。その日はその日の苦労だけで十分である。」

第14章

イエス、裁かないように、神を求めるように、偽預言者に気をつけるようにと命じられる。イエス、御父の御心を行う者に救いを約束される。マタイによる福音書第七章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、もう一度群衆の方に向き直って、再び彼らに口を開かれた。「まことに、まことに、あなたがたに

---

25 ① GS「仕える」
33 ① ② 84・79—85、アル31・37—38、教義ルカ12・31

言う。1)裁いてはならない。自分が裁かれないためである。
2あなたがたが裁くその裁きで、自分も裁かれ、あなたがたが量るそのはかりで、あなたがたも量られるからである。
3なぜ兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。
4自分の目には梁があるのに、どうして兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取らせてください』と言えようか。見よ、自分の目の中に梁があるではないか。
5偽善者よ、まず自分の目から1)梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるであろう。
6聖なるものを犬に与えてはならない。1)また豚の前に真珠を投げてはならない。彼らはそれらを足で踏みつけ、向き直って、あなたがたを引き裂くであろう。
7求めなさい。1)そうすれば、与えられるであろう。捜しなさい。そうすれば、見いだすであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。
8すべて求める者は与えられ、捜す者は見いだし、たたく者には開かれるからである。
9あなたがたの中に、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。
10魚を求めるのに、蛇を与える者があろうか。
11このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天におられるあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか。
12だから、何事でも人からしてほしいと望むことは、1)人々にもそのとおりにしなさい。これが律法であり、預言者である。
13狭い1)門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。2)そして、そこから入って行く者が多い。
14命に至る1)門は狭く、その道は細い。2)そして、それを見いだす者が3)少ない。
15偽預言者に気をつけなさい。1)彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。

第14章
1① JSマタ7:1−2、ヨハ7:24
2① モル8:19
5① ヨハ8:3−11
6① GS「聖い」
7① 3ニフ27:29、GS「祈り」
12① GS「哀れみ」
13① ルカ13:24、3ニフ27:33
14① ② 教義132:25
② 2ニフ9:41、31
9、17−18、教義22:1−4
② 1ニフ8:20
③ 1ニフ14:12
15① エレ23:21−32、2ニフ28:9、12、15

16 あなたがたは、その実によって彼らを見分けるであろう。いばらからぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。
17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。
18 良い木が悪い実を結ぶことはないし、悪い木が良い実を結ぶこともあり得ない。
19 1)良い実を結ばない木はことごとく切り倒されて、火の中に投げ込まれる。
20 このように、あなたがたはその1)実によって彼らを見分けるのである。
21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の王国に入るのではなく、ただ、天におられるわたしの父の御心を行う者だけが入るのである。
22 その日には、多くの者がわたしに向かって、『主よ、主よ、わたしたちはあなたの御名によって預言したではありませんか。あなたの御名によって悪霊を追い出し、あなたの御名によって多くの驚くべき業を行ったではありませんか』と1)言うであろう。
23 そのとき、わたしは彼らにはっきりこう言おう。『わたしはあなたがたをまったく1)知らない。罪悪を行う者たちよ、わたしのもとから2)去りなさい。』
24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者を、わたしは岩の上に家を建てた賢い人にたとえよう。
25 1)雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それは2)倒れなかった。岩を土台としていたからである。
26 また、わたしのこれらの言葉を聞いて行わない者は皆、1)砂の上に家を建てた愚かな人にたとえられる。
27 雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまった。そして、その倒れ方はひどかった。」

第15章

イエス、モーセの律法が御自分によって成就したことを告げられる。イエスがエルサレムで言われた他の羊とは、ニーファイ人のことである。エルサレムにいる主の民は、罪悪のために、イスラエルの散らされた羊のことを知らない。紀元約三十四年。

1 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、

19 ①マタ3・10、アル5・36−41、教義97・7
20 ①ルカ6・43−45、モロ7・5
22 ①アル5・17
23 ①モサ5・13、26・24−27
24 ①②ルカ13・27
25 ①②GS「岩」
26 ①②アル26・6、ヒラ5・12
27 箴言12・7
3ニフ11・40

群衆を見回して、「見よ、あなたがたは、わたしが父のみもとに昇って行く前に教えたことを聞いた。だから、わたしのこれらの言葉を覚えていて行う者を、わたしは終わりの日によみがえらせよう」と言われた。

2 そしてイエスは、これらの御言葉を述べると、彼らの中に、イエスはモーセ[1]の律法をどうするおつもりかと驚き怪しんでいる人々がいるのに気づかれた。これらの人々は、古いものは過ぎ去って、すべてのものが新しくなったという御言葉の意味を、理解していなかったからである。

3 そこでイエスは、彼らに言われた。「わたしが、古いものは過ぎ去って、すべてのものが新しくなったとあなたがたに言ったことを、不思議に思ってはならない。

4 見よ、あなたがたに言う。モーセに与えられた律法はもう成就している。

5 見よ、その律法を与えたのはこのわたし[1]であり、わたしの民イスラエルと聖約した者はわたしである。律法はわたしによって成就している。わたしは律法を成就するために来たからである。したがって、律法は終わった。

6 見よ、わたしは、預言者を廃止することはしない。まことに、わたしはあなたがたに言う。まだわたしによって成就していないことはすべて、これから成就するであろう。

7 わたしは、古いものは過ぎ去ったとあなたがたに言った。ということは、将来のものについて告げられてきたことを、廃していないということである。

8 見よ、わたしが民と交わした聖約は、まだすべては成就していないからである。しかし、モーセに与えられた律法は、わたしによって成就している。

9 見よ、わたしは律法であり、光である。わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。最後まで堪え忍ぶ者に、わたしは永遠の命を与えるからである。

10 見よ、わたしはあなたがたに戒めを与えたので、わたしの戒めを守りなさい。これは律法であり、預言者である。律法と預言者は、実際にわたしについて証したからである。」

11 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選んだあの十二人に向かって言われた。

第15章

1 ①新ヤコ1・22 ②1ニフ13・37、教義5・35
2 ①GS「モーセの律法」
4 ①モサ13・27—31、3ニフ9・17—20
5 ①1コリ10・1—4、3ニフ11・14、GS「エホバ」
6 ①②アル34・13
8 ①3ニフ23・1—5 ②3ニフ5・24—26
9 ①②2ニフ26・1 GS「光・キリストの光」 ③ヨハ11・25、教義84・10 ④44 GS「堪え忍ぶ」
10 ①②3ニフ12・20 モサ13・33

12 「あなたがたはわたしの弟子である。またあなたがたは、ヨセフ[1]の家の残りの者であるこの民にとって光である。
13 見よ、この地はあなたがたの受け継ぎの地[1]である。父はこれをあなたがたに与えてくださった。
14 このことを、エルサレムにいるあなたがたの同胞に告げるように、父は一[1]度もわたしに命じられなかった。
15 また父が、その地から導き出されたイスラエルの家のほかの部族[1]について、彼らに告げるようにわたしに命じられたことも、これまでに一度もない。
16 彼らに告げるようにと、父がわたしに命じられたことはただ、
17 『わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼い[1]となるであろう』ということだけである。
18 ところが、彼らは強情であり、不信仰であったので、わたしの言葉を理解[1]しなかった。そこで、このことについてそれ以上彼らに言わないように、わたしは父から命じられた。
19 しかしまことに、わたしはあなたがたに言う。父から命じられたので、わたしはあなたがたに告げる。彼らが罪悪を犯したために、あなたがたは彼らから分けられた。だから、彼らがあなたがたのことを知らないのは、彼らの罪悪のためである。
20 まことに、もう一度あなたがたに言う。父はほかにも彼らから幾つかの部族を分けられた。彼らがそれらの部族のことを知らないのは、彼らの罪悪のためである。
21 まことに、あなたがたに言う。『わたしには、この囲いにいない他[1]の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとなるであろう』とわたしが言ったその羊とは、あなたがたのことである。
22 しかし、彼らはわたしの言ったことを理解しなかった。それは異邦人[1]のことであると、彼らは思った。異邦人は彼らの宣教によって改宗[2]するということを、彼らは理解していなかったからである。
23 また、『彼らもわたしの声に聞き従うであろう』と

12 ①GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
13 ①1ニフ18・22—23
14 ①3ニフ5・20
15 ①3ニフ16・1—4、GS「イスラエル—行方の知れない十部族」
17 ①GS「良い羊飼い」
18 ①教義10・59
21 ①ヨハ10・14—16
22 ①GS「異邦人」　②使徒10・34—48

わたしが言った意味を、彼らは理解しなかった。異邦人[1]は決してわたしの声を聞かないということ、すなわち、[2]聖霊による以外にわたしは異邦人に自分自身を現さないということを、彼らは理解しなかった。

24 しかし見よ、あなたがたは[1]わたしの声を聞き、わたしを見た。あなたがたはわたしの羊である。そしてあなたがたは、父がわたしに[2]与えてくださった者の中に数えられている。」

第16章

イエスはこの後、行方の知れないイスラエルの他の羊を訪れられる。末日に、福音は異邦人に伝わり、次いでイスラエルの家に伝わる。主がシオンを再び元に戻されるとき、主の民はそれを目の当たりに見るであろう。紀元約三十四年。

1 「まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしには、この地におらず、エルサレムの地にもおらず、またわたしがこれまでに行って教え導いた周囲の地のどこにもいない[1]他の羊がいる。

2 わたしの言うその羊は、まだわたしの声を聞いたことがなく、またわたしも彼らに自分自身を現したことはない。

3 しかし、わたしは[1]彼らのところへ行って、彼らがわたしの声を聞いて、わたしの羊の中に数えられるようにし、一つの群れ、一人の羊飼いとなるようにすることを、父から命じられた。だから、わたしは行って彼らにわたし自身を現す。

4 また、わたしはあなたがたに、わたしが去った後にこれらの[1]言葉を書き記すように命じる。エルサレムにいるわたしの民、すなわち、わたしを目にし、わたしが務めを果たしている間わたしとともにいた民が、聖霊によってあなたがたについて知ることができるように、また彼らの知らないほかの部族についても知ることができるように、わたしの名によって父に求めなければ、あなたがたがこれから書き記すこれらの言葉は、書き継がれて[2]異邦人に明らかにされるであろう。それは、エルサレムにいるわたしの民の不信仰のために、地の面に散らされる彼らの子孫の残りの者が、異邦人が満ちみちた恵みにあずかることによって導かれるためである。すなわち、

23 ①マタ15・24、②2ニフ10・11、GS「聖霊」アル5・38、3ニフ16・11-15 ②ヨハ6・37、教義27・14

第16章

1 ①3ニフ15・15、GS「イスラエル—行方の知れない十部族」 ②3ニフ17・4 ③GS「聖文」 ④1ニフ10・14、3ニフ21・6

彼らの贖い主であるわたしについて知るようになるためである。

5 そのとき、わたしは彼らを地の四方から集めよう。またそのとき、わたしは父がイスラエルの家のすべての民に立てられた聖約を果たそう。

6 異邦人は、わたしと父について証する聖霊によってわたしを信じるので、幸いである。

7 見よ、父が言われるには、彼らはわたしを信じ、おお、イスラエルの家よ、あなたがたは信じないので、末日には異邦人に真理が明らかにされて、これらのことがことごとく彼らに知らされるであろう。

8 しかし、異邦人の中の信仰心のない者は災いであると、父は言われる。彼らはこの地の面にやって来るにもかかわらず、イスラエルの家に属するわたしの民を散らすからである。そして、イスラエルの家に属するわたしの民は、彼らの中から追い出され、彼らに足で踏みつけられる。

9 父は異邦人を憐れみ、イスラエルの家に属するわたしの民を裁かれるので、まことに、まことに、あなたがたに言うが、これらの後、わたしはイスラエルの家に属するわたしの民が打たれ、苦しめられ、殺され、異邦人の中から追い出され、彼らに憎まれ、軽蔑の的となり、笑いぐさとなるようにする。

10 また父は、あなたがたに次のことを言うように、わたしに命じられた。『異邦人がわたしの福音に背いて罪を犯し、わたしの完全な福音を受け入れず、あらゆる国民、全地のあらゆる民にも増して高慢な心で高ぶり、あらゆる偽りと欺き、悪事、あらゆる偽善と殺人、偽善売教、みだらな行い、秘密の忌まわしい行いにふけるその日、もし彼らがそのようなことをすべて行い、わたしの完全な福音を受け入れなければ、見よ、わたしは彼らの中からわたしの完全な福音を取り去ろう』と、父は言われる。

11 『そのとき、わたしはかつてわたしの民、イスラエルの家に立てたわたしの聖約を思い出し、彼らにわたしの福音を伝えよう。

12 そして、おお、イスラエルの家よ、異邦人にはあなたがたを支配する権力がないことを、わたしはあなたがたに示そう。おお、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたに立てたわたしの聖約を思い出そう。そしてあなたがたは、わたしの完全な福音を知るようになるであろう。

---

4 ③ エゼ 20・42−44、3ニフ 20・13
5 ① GS「イスラエル ― イスラエルの集合」
② 1ニフ 22・9、3ニフ 21・26−29
③ 3ニフ 5・24−26
6 ① 1ニフ 13・30−42、2ニフ 30・3
② 2ニフ 32・5、3ニフ 11・32、35−36、GS「聖霊」
7 ① GS「福音の回復」
8 ① 1ニフ 13・14、モル 5・9、15
9 ① 3ニフ 20・27−29
② アモ 9・1−4
10 ① モル 8・35−41
② 2ニフ 26・29
11 ① 3ニフ 21・1−11、モル 5・20
12 ① ヒラ 15・12−13

13 しかし、もし異邦人が悔い改めて、わたしに立ち返るならば、見よ、彼らはわたしの民、イスラエルの家の中に1)数えられる』と、父は言われる。
14 『また、わたしはイスラエルの家に属するわたしの民が彼らの中を通り過ぎて、彼らを踏みにじることを許さない』と、父は言われる。
15 『しかし、もし彼らがわたしに立ち返らず、わたしの声に聞き従おうとしなければ、わたしは彼らが、すなわちわたしの民イスラエルの家が彼らの中を通り過ぎて、彼らを踏みにじることを許そう。彼らは塩気を失った塩のようで、もう何の役にも立たず、捨てられて、わたしの民イスラエルの家の足の下に踏みつけられるだけである。』
16 まことに、まことに、あなたがたに言う。父はわたしに、この地を受け継ぎとしてこの民に与えるようにと命じられた。
17 そのとき、預言者イザヤの言葉が1)成就するであろう。イザヤは言った。
18 『2)あなたの見張り人は声を上げ、声を合わせて彼らは歌う。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれを目の当たりに見るからである。
19 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、ともに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖われたからである。
20 主はその聖なる腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、わたしたちの神の救いを見るであろう。』」

第17章

イエス、民に御自分の言葉について深く考え、理解力を祈り願うように指示される。イエス、民の病気を癒される。イエス、書き記せない言葉で民のために祈られる。天使たちは幼い子供たちに恵みを施し、幼い子供たちは火に包まれる。紀元約三十四年。

1 さて見よ、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、再び群衆を見回して言われた。「見よ、わたしの1)時は近づいた。
2 あなたがたは弱く、あなたがたに今告げるようにと父から命じられているわたしの言葉を、すべては1)理解できないことを、わたしは知っている。
3 だから、自分の家に帰り、わたしが述べたこと

---

13 ①ガラ3・7、29、1ニフ15・13—17、2ニフ10・18、3ニフ30・2、アブ2・9—11
15 ①ミカ5・8—15、3ニフ20・16—19、21・12—21、教義87・5
17 ①3ニフ20・11—12
18 ①イザ52・8—10 ②エゼ33・1—7、GS「見守る・見守る者」
第17章
1 ①御父のもとに帰る時のこと。第4節参照
2 ①第4節参照
17—18 ヨハ16・12、教義78・

を深く考えなさい。そして、理解できるように、また明日のために心が備えられるように、わたしの名によって父に願いなさい。わたしはもう一度あなたがたのところに来るであろう。

4 しかし、わたしは今は父のみもとに帰り、またイスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身を現そう。彼らは父にとっては行方知れずではない。父は彼らを導いた先を御存じだからである。」

5 さて、イエスはこのように言うと、もう一度群衆を見回して、彼らが涙を流しながら、もうしばらくとどまっていてほしいと願うかのように、イエスをじっと見詰めているのを御覧になった。

6 そこで、イエスは彼らに言われた。「見よ、わたしの心は、あなたがたに対する哀れみに満たされている。

7 あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、手の不自由な者、重い皮膚病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。

8 あなたがたは、わたしがエルサレムにいるあなたがたの同胞に示したことを、自分たちにも示してほしいと思っている。わたしはそのことを知っている。また、あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも、わたしは知っている。」

9 さて、イエスがこのように言われると、群衆はこぞって、病気の者、苦しんでいる者、足の不自由な者、目の見えない者、口の利けない者、そのほかどんなことでも苦しんでいる者たちを伴って前に進み出た。するとイエスは、御自分のところに連れて来られた者をことごとく癒された。

10 そこで、彼らは皆、癒された者も健康な者も、イエスの足もとにひれ伏して、イエスを拝した。また、群衆の中を近づくことのできた者はイエスの足に口づけし、涙でイエスの足をぬらした。

11 さて、イエスは、幼い子供たちを連れて来るように命じられた。

12 そこで、彼らは幼い子供たちを連れて来て、イエスの傍らに降ろした。イエスはその真ん中に立って

3 1) GS「深く考える」
2) 3ニフ19・2
3) 教義132・3
4 1) 3ニフ18・39
2) GS「イスラエル—行方の知れない十部族」
3) 3ニフ16・1—3
6 1) GS「哀れみ」
8 1) ルカ18・42
2) 2ニフ27・23、エテ12・12
9 1) モサ3・5、3ニフ26・15
10 1) ルカ7・38
11 1) マタ19・13—14、3ニフ26・14、16

おられた。また、群衆は道を譲って、幼い子供たちが皆、イエスのもとに来られるようにした。

13 さて、幼い子供たちが皆連れて来られると、イエスはその真ん中に立ち、地にひざまずくように群衆に命じられた。

14 そして、彼らが地にひざまずくと、イエスは心の中で苦悩され、「父よ、イスラエルの家に属する民の悪事のために、今わたしは心[1]が騒いでいます」と言われた。

15 そして、イエスはこのように言われると、御自分も地にひざまずき、見よ、御父に祈られた。イエスが祈られた事柄を書き記すことはできないが、イエスの祈りを聞いた群衆はそのことを証した。

16 彼らは次のように証した。「わたしたちはイエスが御父に話されるのを見聞きしたが、それは目[1]がまだ見たこともなく、耳がまだ聞いたこともないほど、大いなる驚くべきことであった。

17 わたしたちはイエスが話されるのを見聞きしたが、それはどんな舌も語ることができず、どんな人も書き記すことができず、人々の心が想像できないほど、大いなる驚くべきことであった。またわたしたちは、イエスがわたしたちのために御父に祈ってくださるのを聞いたが、そのときにわたしたちの心に満ちた喜びは、だれも想像することができない。」

18 さて、イエスは御父に祈り終えると、立ち上がられた。しかし、群衆は喜びが非常に大きかったので力を失っていた。

19 そこで、イエスは彼らに語り、立ち上がるように命じられた。

20 そこで、彼らは地から立ち上がった。すると、イエスは彼らに、「あなたがたは信仰があるので、幸いである。見よ、わたしの喜びは満ちている」と言われた。

21 そして、イエスはこれらの御言葉を語ると、[1]涙を流された。群衆はそのことを証した。また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて[2]祝福し、彼らのために御父に祈られた。

22 そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。

23 また、イエスは群衆に語って、「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」と言われた。

24 そこで彼らは、見ようとして天に目を向けたと

---

13 ①36 ルカ22・41、使徒20・36

14 ①1 モセ7・41

16 ①1 イザ64・4、1コリ2・9、教義76・10、114

17 ①1 2コリ12・4

18 ①1 GS「喜び」

19 ①1 ヨハ11・35

21 ①1 マコ10・14—16

き、天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのような有様で天から降って来るのを見た。天使は降って来ると、幼い子供たちを取り囲み、幼い子供たちも火に包まれた。そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。

25 群衆はそれを見聞きして、証した。彼らは皆、自分自身で見聞きしたので、その証が真実であることを知っている。群衆の人数はおよそ二千五百人であり、男と女と子供から成っていた。

第18章

イエス、ニーファイ人の中に聖餐を定められる。ニーファイ人、イエスの名によって常に祈るように命じられる。ふさわしくないままでイエスの肉を食べ、イエスの血を飲む者は、罰の定めを受ける。弟子たち、聖霊を授ける力を与えられる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは弟子たちに、幾らかのパン[1]とぶどう酒を持って来るように命じられた。

2 そして、彼らがパンとぶどう酒を取りに行っている間に、イエスは群衆に、地に腰を下ろすよう命じられた。

3 そして、弟子たちがパン[1]とぶどう酒を持って来ると、イエスはパンを取り、それを裂いて祝福された。それからイエスは、弟子たちに与えて、食べるように命じられた。

4 彼らが食べて満たされると、イエスは群衆にも与えるように命じられた。

5 そして、群衆が食べて満たされると、イエスは弟子たちに言われた。「見よ、あなたがたの中の一人を聖任しよう。わたしはその人に力を授け、彼がパン[1]を裂いて祝福し、わたしの教会の人々、すなわち信じてわたしの名によってバプテスマを受けるすべての人に、それを与えることができるようにしよう。

6 またあなたがたは、わたしがしたように、すなわち、わたしがパンを裂いて祝福し、それをあなたがたに与えたように、いつもこれを行うように努めなさい。

7 あなたがたは、わたしがあなたがたに示したわたしの体を記念して、これを行いなさい。それは、あなたがたがいつもわたしを覚えているということを、父に示す証となるであろう。そして、あなたが

24① ヒラ5・23—24、43—45①
第18章
1① マタ26・26—28
3① GS「聖餐」
5① モロ4章
5① モロ4・3
7① モロ4・3

たは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御霊を受けるであろう。」

8 さて、イエスはこれらの御言葉を語ると、弟子たちに、器のぶどう酒を取って飲むように告げ、さらに群衆にも与えて飲ませるように命じられた。

9 そこで、弟子たちはそのようにして、飲んで満たされた。また、彼らは群衆にも与え、群衆も飲んで満たされた。

10 弟子たちがこれをなし終えると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたはこれを行ったので、幸いである。これはわたしの戒めを守ることである。またこれは、わたしの命じたことをあなたがたが喜んで行うということを、父に証明するものである。

11 これをあなたがたは、悔い改めてわたしの名によってバプテスマを受ける人々のためにいつも行いなさい。あなたがたは、わたしがあなたがたのために流したわたしの血の記念として、それを行いなさい。そうすれば、あなたがたはいつもわたしを覚えているということを、父に証明することができる。

そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御霊を受けるであろう。

12 わたしはあなたがたに、これらのことを行うようにという戒めを与える。あなたがたはいつもこれらのことを行うならば、わたしの岩[1]の上に建てられているので、幸いである。

13 しかし、あなたがたの中で、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを行う者は、わたしの岩の上に建てられておらず、砂の土台の上に建てられているのである。雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてこれらの者に打ちつけると、彼ら[1]は倒れてしまう。また地獄[2]の門は、彼らを受け入れるためにいつでも開かれている。

14 だから、あなたがたに与えるように父がわたしに命じられたわたしの戒めを守るならば、あなたがたは幸いである。

15 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは悪魔に誘惑されないように、また悪魔に捕らえられないように、常に目を覚ましていて祈[1]らなくてはならない。

16 わたしがあなたがたの中で祈ったように、あなたがたもわたしの教会で、悔い改めてわたしの名によってバプテスマを受けるわたしの民の中で祈りなさ

12 (1) GS「岩」
13 (1) GS「背教・背信」
(2) 3ニフ11・39
15 (1) アル34・17−27、GS「祈り」

い。見よ、わたしは[1]光である。わたしはあなたがたのために[2]模範を示した。」

17 さて、イエスはこれらの御言葉を弟子たちに語り終えると、再び群衆の方に向き直って、言われた。

18 「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。[1]サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを願っているからである。

19 だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。

20 与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、[1]何でもあなたがたに与えられる。

21 あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に[1]祈りなさい。

22 見よ、あなたがたはしばしばともに集いなさい。また、ともに集うときには、どんな人もあなたがたのところに来るのを禁じてはならない。彼らがあなたがたのところに来るのを許しなさい。禁じてはならない。

23 むしろあなたがたは彼らのために[1]祈りなさい。彼らを追い出してはならない。もし彼らがしばしばあなたがたのところに来るならば、彼らのためにわたしの名によって父に祈りなさい。

24 あなたがたの[1]光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる[2]光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。見よ、あなたがたはわたしが父に祈るのを見た。皆、目の当たりに見ている。

25 また、あなたがたが見たように、わたしはあなたがたのだれにも[1]立ち去るように命じることなく、むしろわたしのもとに来て、[2]触れるように、また見るように命じた。あなたがたも世の人々にそのようにしなさい。この戒めを破る者はだれでも、誘惑に陥ることを自ら許す者である。」

26 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選ばれた弟子たちにもう一度目を向けて言われた。

27 「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。

16 ①GS「光・キリストの光」
18 ①ルカ22・31、2ニフ2・17—18、教義10・22—27
20 ①マタ21・22、ヒラ10・5、モロ7・26、教義88・63—65
21 ①アル34・21
23 ①3ニフ18・30
24 ①マタ5・16
②モサ16・9
25 ①アル5・33
②3ニフ11・14—17
GS「イエス・キリスト—模範」

わたしはあなたがたにもう一つの戒めを与える。その後、わたしは父のみもとに帰り、父から与えられているほかの命令を果たさなければならない。

28 さて見よ、わたしがあなたがたに与える戒めはこれである。すなわち、あなたがたは、わたしの肉と血を分け与えるとき、だれであってもふさわしくないままでわたしの肉と血にあずかることを、承知のうえで許してはならないということである。

29 ふさわしくないままでわたしの肉を食べ、血を飲む者は、そうすることで自分に罰の定めを招くからである。だから、ある人がわたしの肉を食べ、血を飲むのにふさわしくないと分かったならば、あなたがたはその人に禁じなさい。

30 それでもあなたがたは、その人をあなたがたの中から追い出すことなく、教え導き、またその人のためにわたしの名によって父に祈りなさい。もしその人が悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受けるならば、あなたがたはその人を受け入れて、わたしの肉と血を分け与えなさい。

31 しかし、悔い改めなければ、その人がわたしの民を滅ぼすことのないように、あなたがたはその人をわたしの民の中に数えてはならない。見よ、わたしは自分の羊を知っており、わたしの羊は数えられているからである。

32 それでも、あなたがたは引き続き教え導くことができるように、その人を会堂や礼拝の場所から追い出してはならない。彼らが立ち返って悔い改め、十分に固い決意をもってわたしのもとに戻って来るようにならないとは言い切れないからである。彼らがそうするならば、わたしは彼らを癒そう。だからあなたがたは、彼らに救いをもたらす者になりなさい。

33 罪の宣告を受けることのないように、あなたがたはわたしが命じたこれらの言葉を守りなさい。なぜなら、父から罪に定められる者は災いだからである。

34 わたしがあなたがたにこれらの戒めを与えるのは、これまであなたがたの中に論争があったからである。あなたがたの中にこれから論争がなければ、あなたがたは幸いである。

35 今、わたしは父のみもとに行く。あなたがたのために父のみもとに行くことが必要だからである。」

36 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、

27 ①GS「神・神会—父なる神」
28 ①②3ニフ16・1—3 モル9・29
29 ①②1コリ11・27—30 教義46・4「血」
30 ①②GS「聖餐」 教義46・3
31 ①ヨハ10・14、アル5・38、3ニフ15・24
32 ①教義112・13
33 ①GS「罪の宣告」
34 ①3ニフ11・28—30
35 ①1ヨハ2・1、2ニフ2・9、モロ7・27—28、教義29・5

以前に御自分が選ばれた弟子たち[1]全員に一人ずつ手[2]で触れ、触れながら彼らに何事かを言われた。

37 群衆はイエスの言われた御言葉を聞かなかったので、彼らは証しなかった。しかし弟子たちは、[1]聖霊を授ける力[2]をイエスから授けられたと証した。わたしはこの証が真実であることを、後にあなたがたに示そう。

38 さて、イエスが彼ら全員に手で触れられると、[1]雲が現れて群衆を覆ったので、彼らはイエスを見ることができなかった。

39 そして、群衆が覆われている間に、イエスは彼らのもとを去り、天に昇られた。弟子たちはイエスが再び天に昇って行かれたのを見て、そのことを証した。

第19章

十二人の弟子、民を教え導き、聖霊を求めて祈る。十二人の弟子、バプテスマを受け、聖霊を授かり、天使から教えと導きを受ける。イエス、書き記せない言葉で祈られる。イエス、これらのニーファイ人の信仰が非常に深いことを認められる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスが天に昇って行かれると、群衆は解散し、男たちは各々妻子を連れて家に帰った。

2 そして、群衆がイエスにお会いしたことと、イエスが彼らを教え導かれたことと、イエスが翌日も群衆に御自身を現されることが、暗くなる前に、すぐに民の中に広く告げ知らされた。

3 まことに、一晩中イエスのことが広く告げ知らされた。そして彼らは、民に使いを出して、多くの者、まことに非常に大勢の者が一晩中大いに働き、イエスが群衆に御自身を現される場所に、翌日人々が集まることができるようにした。

4 そしてその翌日、群衆が集まったときに、見よ、ニーファイと、ニーファイが死者の中からよみがえらせた彼の兄弟テモテと、ヨナという名のニーファイの息子と、マソーナイと、その兄弟マソーナイハと、クメンと、クメノンハイと、エレミヤと、シェムノンと、ヨナと、ゼデキヤと、イザヤ、以上はイエスが選ばれた弟子たちの名であるが、さて、彼らは進み出ると、群衆の中に立った。

5 そして見よ、群衆が非常に大勢であったため、彼らは群衆を十二組に分けた。

---

36 ① 1ニフ12・7、3ニフ19・4
37 ① ② GS「按手」
37 ① GS「聖霊の賜物」
38 ① ② GS「力」
出エ19・9、16

6 十二人はその群衆を教え、また見よ、彼らは群衆を地の面にひざまずかせ、イエスの名によって御父に祈らせた。

7 また弟子たちもイエスの名によって御父に祈った。そして、彼らは立ち上がり、民を教え導いた。

8 彼らは、イエスが言われたとおりの御言葉を、イエスが教えられた御言葉と少しも異なることなく教えると、見よ、再びひざまずいて、イエスの名によって御父に祈った。

9 彼らは、自分たちが最も望んでいるものを求めて祈った。[1]聖霊が授けられるようにと望んでいたのである。

10 彼らはこのように祈り終えると、水際に下りて行き、群衆も彼らに続いた。

11 そして、ニーファイが[1]水の中に入って行き、バプテスマを受けた。

12 そして彼は、水の中から出て来ると、バプテスマを施し始め、イエスが選ばれた者たち全員にバプテスマを施した。

13 そして、彼らが皆[1]バプテスマを受けて、水から上がると、聖霊が彼らに降られた。そして、彼らは[2]聖霊と火に満たされた。

14 見よ、彼らは火のようなものに[1]包まれた。それは天から降って来たものである。群衆はそれを見て証した。また、天使たちが天から降って来て、彼らを教え導いた。

15 さて、天使たちが弟子たちを教え導いていたときに、見よ、イエスが来られ、彼らの中に立って教えを授けられた。

16 そして、イエスは群衆に語りかけ、もう一度地にひざまずくように命じ、弟子たちにも地にひざまずくように言われた。

17 そして、彼らが皆、地にひざまずくと、イエスは弟子たちに、祈るように命じられた。

18 見よ、彼らは祈り始め、イエスを自分たちの主、自分たちの神ととなえて、イエスに向かって祈った。

19 そこでイエスは、彼らの中から去り、少し離れた所に行って御自分も地に伏して、言われた。

20 「父よ、わたしが選んだこれらの者に聖霊を与えてくださり、感謝いたします。彼らがわたしを信じたので、わたしは彼らを世から選び出しました。

第19章
9① 3ニフ9・20
11① 3ニフ11・23
13① GS「バプテスマ」
② 3ニフ12・2、モル7・10、GS「聖霊の賜物」
14① ヒラ5・23—24、43—45、3ニフ17・24

21 父よ、どうか彼らの言葉を信じるすべての者に聖霊をお与えください。
22 父よ、あなたは彼らがわたしを信じているので、彼らに聖霊を与えてくださいました。彼らが祈るのをお聞きになってお分かりのように、彼らはわたしを信じています。彼らはわたしに祈っています。わたしが彼らとともにいるので、彼らはわたしに祈っています。
23 さて、父よ、わたしは彼らのために、また彼らの言葉を信じるすべての者のためにお願いします。彼らがわたしを信じることができるようにしてください。父よ、[1]あなたがわたしにおられるように、わたしが彼らにいることができ、わたしたちが一つとなれるようにしてください。」[2]
24 さて、イエスはこのように御父に祈り終えると、弟子たちのところに来られた。ところが見よ、彼らは、絶え間なくなおもイエスに向かって祈り続けていた。彼らは[1]言葉数を多くしたのではない。[2]祈るべき事柄が彼らに示され、また彼らには、願い事がいっぱいあったからである。
25 そこで、弟子たちがイエスに祈っている間に、イエスは彼らを祝福された。また、イエスは彼らにほほえみかけ、イエスの[1]顔の光が彼らを照らした。すると彼らも、イエスの顔のように、またイエスの衣のように[2]白くなった。そして見よ、その白さはあらゆる白さに勝っており、まことに、地上のものでこれほど白いものはあり得ないほどであった。
26 また、イエスは彼らに、「祈り続けなさい」と言われた。しかし、実は彼らはまだ祈るのをやめていなかった。
27 イエスは彼らからまた向き直り、少し離れた所に行って地に伏された。そして、再び御父に祈って言われた。
28 「父よ、わたしが選んだ者たちを、彼らの信仰のゆえに[1]清めてくださり感謝します。わたしは彼らのために、また彼らの言葉を信じる者たちのためにもお願いします。彼らがわたしによって清められているように、彼らの言葉を信じる者たちも、彼らの言葉を信じることでわたしによって清められるようにしてください。
29 父よ、わたしは世のためではなく、信仰があるということであなたが[1]世から選んで、わたしに与えて

23 ①3ニフ9・15
②ヨハ17・21—23、GS「一致」
24 ①マタ6・7
②教義46・30
25 ①民数6・23—27
②GS「変貌—変貌した人」
28 ①モロ7・48、教義50・28—29、88・74—75、GS「清さ」
29 ①ヨハ17・6

くださった者たちのためにお願いします。彼らがわたしによって清められるようにしてください。父よ、あなたがわたしのうちにおられるように、わたしが彼らのうちにいることができ、わたしたちが一つとなり、わたしが彼らによって栄光を受けることができるようにしてください。」

30 イエスはこれらの御言葉を語ると、また弟子たちのところに来られた。すると彼らは、絶え間なく続けてイエスに向かって祈っていた。そこでイエスは、また彼らにほほえみかけられた。見よ、彼らはイエスのように[1]白かった。

31 さて、イエスはまた少し離れた所に行って、御父に祈られた。

32 イエスが祈られた御言葉を舌は語ることができないし、イエスが祈られた御言葉を人は[1]書き記すことができない。

33 群衆は聞いて、証している。彼らの心は開かれ、彼らはイエスが祈られた御言葉を心の中で理解した。

34 しかし、イエスが祈られた御言葉は、まことに大いなる驚くべきものであったので、人はそれを書き記すこともできなければ、[1]言い表すこともできない。

35 さて、イエスは祈り終えると、また弟子たちのところに来て彼らに言われた。「わたしはすべてのユダヤ人の中で、これほどの深い[1]信仰を見たことがない。わたしは、彼らの[1]不信仰のゆえに、このように大きな奇跡を彼らに現すことができなかった。

36 まことに、あなたがたに言う。彼らの中には、あなたがたが見たような大いなることを見た者、またあなたがたが聞いたような大いなることを聞いた者は一人もいない。」

第20章

イエス、不思議な力でパンとぶどう酒を用意し、再び聖餐を執行される。ヤコブの残りの者は将来、主なる彼らの神を知るようになり、アメリカ大陸を受け継ぐ。イエスはモーセのような預言者である。ニーファイ人は預言者たちの子孫である。主の民に属するほかの者たち、将来エルサレムに集められる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは群衆と弟子たちに、祈るのをやめ

30 ① マタ17・2
32 ① 教義76・116
34 ① 2コリ12・4、3ニフ17・17
35 ① GS「信仰」
② マタ13・58、GS「不信仰」

るように、しかし心の中で祈ることはやめないよう
にと命じられた。
2また、イエスは彼らに、体を起こして立ち上がる
ように命じられた。そこで、彼らは体を起こして立
ち上がった。
3そして、イエスは再びパンを裂いて、それを祝福
し、弟子たちに食べるようにとお与えになった。
4そして、彼らが食べ終えると、イエスは彼らに、
パンを裂いて群衆に与えるように命じられた。
5彼らが群衆に与え終えると、イエスは彼らにぶど
う酒も与えて飲ませ、また群衆にも与えるように命
じられた。
6ところで、弟子たちと群衆は、パンもぶどう酒も
持って来ていなかった。
7しかしイエスは、実際に彼らにパンを与えて食べ
させ、ぶどう酒を与えて飲ませられたのであった。
8そして、イエスは彼らに言われた。「このパンを食
べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであ
り、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたし
の血を飲むのである。その者は決して飢えることも
渇くこともなく、満たされるであろう。」
9さて、群衆は皆食べ終え、飲み終えると、見よ、
彼らは御霊に満たされた。そして、彼らは声を合わ
せて叫び、自分たちが見たり聞いたりしたイエスに
栄光を帰した。
10そして、彼らが皆、イエスに栄光を帰すると、イ
エスは彼らに言われた。「見よ、今、わたしはイスラ
エルの家の残りの者であるこの民について、父から
命じられたことを果たそう。
11あなたがたが覚えているように、わたしはあなた
がたに、イザヤの言葉が成就するときのことを語っ
た。見よ、イザヤの言葉は書き記されてあなたがた
の前にあるので、それを調べなさい。
12まことに、まことに、あなたがたに言う。イザヤ
の言葉が成就するのは、父が御自分の民、イスラエ
ルの家に立てられた聖約が果たされるときである。
13そのとき、地の面に広く散らされる残りの者たち
が、東から西から、南から北から集められる。そし
て、彼らを贖われた主なる彼らの神を知るようにな
る。
14また父は、受け継ぎとしてこの地をあなたがたに
与えるように、わたしに命じられた。

第20章
1 ① 2ニフ32・9、モサ24・12
6 ① マタ14・19—21
7 ① ヨハ6・9—14
8 ① ヨハ6・50—58、3ニフ18・7、GS「聖餐」
11 ① 2ニフ25・1—5、モル8・23
② 3ニフ16・17—20、23・1—3
12 ① 3ニフ15・7—8
13 ① GS「イスラエル—イスラエルの散乱」
② 3ニフ16・11—12、21・2—7
③ GS「イスラエル—イスラエルの集合」
14 ① 3ニフ16・4—5
① GS「約束の地」

15 あなたがたに言う。異邦人がわたしの民を散らし
た後、祝福を受けてから、もし悔い[1]改めなければ、
16 そのとき、ヤコブの家の残りの者であるあなたが
たは、彼らの中に出て行くであろう。異邦人の数は
多いが、あなたがたは彼らの中にいる。あなたがた
は彼らの中で、森の獣の中のライオンのようであ
り、羊の群れの中の若いライオン[1]のようである。若
いライオンは通り過ぎるときに踏み[2]にじり、引き裂
いて、だれも救うことができない。
17 あなたの手はあなたに敵意を抱いている者のうえ
に振り上げられ、あなたの敵はことごとく絶たれる。
18 人が刈り束を床に集めるように、わたしは自分の
民を集め[1]よう。
19 父が聖約を交わされたわたしの民、わたしはあな
たの角[1]を鉄とし、またあなたのひづめを真鍮としよ
う。あなたは多くの民を打ち砕くであろう。わたし
は彼らの利得を主のために聖別し、彼らの所有物を
全地の主のために聖別しよう。見よ、それを行うの
はわたしである。
20 さて、わたしの罰[1]の剣はその日彼らのうえに迫る
と、父は言われる。彼らが悔い改めなければ、それ
は彼らに、すなわち異邦人のすべての国民に下る
と、父は言われる。
21 そしてわたしは、自分の民[1]、イスラエルの家を築
き上げよう。
22 見よ、わたしはこの民をこの地に立てて、わたし
がかつてあなたがたの先祖ヤコブと交わした聖約[1]を
果たそう。この地は新エルサレム[2]となるであろう。
天の力はこの民の中にあり、まことに、わたしはあ[3]
なたがたの中にいるであろう。
23 見よ、モーセが語ったのはわたしのことである。
モーセは言った。『主なるあなたがたの神は、あなた
がたのために、あなたがたの同胞の中からわたしの
ような預言者[1]を一人お立てになる。その預言者があ
なたがたに語るすべてのことに耳を傾けなさい。そ
して、その預言者に耳を傾けない者はすべて、民の
中から絶たれるであろう。』
24 まことに、あなたがたに言う。サムエルをはじめ
として、彼に続いて語った預言者[1]は皆、わたしにつ
いて証した。
25 見よ、あなたがたは預言者たちの子孫であり、イ
スラエルの家に属する者であり、父があなたがたの

15 ① 3ニフ16・10—14
16 ① モル5・24、教義19・27
② ミカ5・8—9、3ニフ16・14—15、21・12
18 ① ミカ4・12
19 ① ミカ4・13
20 ① 3ニフ29・4
21 ① 3ニフ16・8—15
22 ① 創世49・22—26、教義57・2—3
② イザ2・2—5、3ニフ21・23—24、エテ13・1—12、教義84・2—4、GS「新エルサレム」
③ イザ59・20—21、マラ3・1、3ニフ24・1
23 ① 申命18・15—19、使徒3・22—23、1ニフ22・20—21
24 ① 使徒3・24—26、1ニフ10・5、ヤコ7・11

先祖と交わされた[1]聖約を受けている者である。父は
アブラハムに、『[2]あなたの子孫により、地のすべて
の部族は祝福を受けるであろう』と言われた。
26 父はわたしをよみがえらせ、まずあなたがたに遣
わされた。あなたがた一人一人を罪悪から[1]遠ざけて
祝福にあずからせるためである。これは、あなたが
たが聖約の子孫だからである。
27 あなたがたが祝福にあずかった後、父は、『[1]あな
たの子孫により、地のすべての部族が祝福を受ける
であろう』と言ってアブラハムと交わした聖約を果
たされる。それは、わたしを通じて、異邦人に聖霊
が注がれるためである。[2]異邦人はこの祝福を与え
られて、何者にも増して強くなり、わたしの民、イ
スラエルの家を散らすであろう。
28 そして異邦人は、この地の民にとって[1]鞭となるで
あろう。それでも、彼らがわたしの完全な福音を受
け入れたとき、『もしもわたしに対して心をかたく
なにするならば、わたしは彼らの罪悪を彼ら自身の
頭に戻そう』と、父は言われる。
29 『またわたしは、自分の民と交わした聖約を[1]思い
起こそう。わたしは自分がふさわしいと思うときに
彼らを[2]集め、彼らの[3]先祖の地を受け継ぎとして再び
彼らに与えると聖約した。その先祖の地とは[4]エルサ
レムの地、彼らのためのとこしえの約束の地であ
る』と、父は言われる。
30 そして将来、わたしの完全な福音が彼らに宣べ伝
えられる時が来る。
31 そして彼らはわたしを[1]信じ、わたしが神の子イエ
ス・キリストであることを認め、わたしの名によっ
て父に祈るようになるであろう。
32 そのとき、彼らの[1]見張り人たちは声を上げ、彼ら
は声を合わせて歌う。彼らは目の当たりに見るから
である。
33 そのとき、父は再び彼らを集め、彼らの受け継ぎ
の地としてエルサレムを彼らに与えられる。
34 そのとき、彼らは喜びの声を上げる。『[1]エルサレ
ムの荒れた所よ、ともに歌え。父が御自分の民を慰
め、エルサレムを贖われたからである。』
35 父はその聖なる御腕を、すべての国民の目の前に
現された。地の果てに至るすべての人は、父の救い
を見るであろう。父とわたしは一つである。
36 そのとき、書き記されていることが成就するで

25 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
② 創世12・1−3、22・18
26 ① 箴言16・6
27 ① ガラ3・8、2ニフ29・14、アブ2・9
② 3ニフ16・6−7
28 ① 3ニフ16・8−9
29 ① イザ44・21、3ニフ16・11−12
② GS「イスラエル−イスラエルの集合」
③ アモ9・14−15
④ GS「エルサレム」
31 ① 3ニフ5・21−26、21・26−29
32 ① イザ52・8、3ニフ16・18−20、GS「見守る・見守る者」
34 ① イザ52・9

あろう。『[1]おお、シオンよ、目覚めよ、再び目覚めよ、力を着よ。おお、聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。これからはもう、割礼を受けていない者と清くない者は、あなたの中に入って来ることはないからである。

37 あなたの身からちりを振り落とせ。おお、エルサレムよ、立ち上がって座せ。おお、囚われたシオンの娘よ、あなたの首の縄を解き捨てよ。

38 主はこう言われる。「あなたがたは自分自身をただで売り渡した。あなたがたは金を払わずに贖われるであろう。」』

39 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしの民はわたしの名を知るであろう。まことに、その日、彼らは語っている者がわたしであることを知るであろう。

40 そのとき、彼らは言う。『よきおとずれを伝え、平和を告げて広め、善のよきおとずれを伝え、救いを告げて広め、シオンに向かって「あなたの神が統治しておられる」と言う者の足は、山の上にあって[2]何と麗しいことであろう。』

41 またそのとき、叫び声が起こる。『[1]去れ、去れ、そこを出よ。[2]清くないものに触れるな。その中を出よ。主の器を担う者たちよ、[3]清くあれ。

42 あなたがたは慌てて出る[1]必要もなければ、逃げるようにして去る必要もない。主があなたがたの前を行き、イスラエルの神があなたがたのしんがりとなられるからである。

43 見よ、わたしの僕は賢く振る舞う。彼はあがめられ、たたえられ、非常に高くなる。

44 多くの人があなたに驚いたように——彼の顔つきはほかのだれよりも損なわれて、また彼の姿も、人の子らのようではなかった——

45 彼は多くの国民を清める。王たちは彼を見て口をつぐむ。彼らはまだ告げられたことのないことを見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。』

46 まことに、まことに、あなたがたに言う。これらのことはすべて、父がわたしに命じられたように必ず起こる。そのとき、父が御自分の民と交わされた聖約が果たされる。そのとき、エルサレムは[1]再びわたしの民の住む所となり、彼らの受け継ぎの地となるであろう。」

---

36 ①イザ 52・1—3、教義 113・7—10、GS「シオン」
40 ①イザ 52・7、ナホ 1・15、モサ 15・13—18、教義 128・19
41 ①②マコ 13・10、1ニフ 13・37
②イザ 52・11—15、GS「清いものと清くないもの」
42 ①③教義 133・5
46 ①3ニフ 21・29、エテ 13・5、11

第21章

『モルモン書』が出るときに、イスラエルは集められる。異邦人、自由な民としてアメリカ大陸に住む。異邦人、信じて従うならば救われる。そうでなければ、絶たれて滅ぼされる。イスラエルは新エルサレムを築き、行方の知れない部族は戻って来る。紀元約三十四年。

1 「まことに、あなたがたに言う。これらのことが起こる時、すなわち、わたしが自分の民、イスラエルの家を長年の離散した状態から集めて、彼らの中に再びわたしのシオンを設ける時を、あなたがたが知ることのできるように、一つのしるしをあなたがたに示そう。

2 見よ、わたしが一つのしるしとしてあなたがたに示すのは、次のことである。まことに、あなたがたに言う。今あなたがたに告げるこれらのこと、またわたし自身と、父があなたがたに授けられる聖霊の力とによって、わたしがこの後あなたがたに告げるこれらのことは、将来異邦人に知らされるであろう。異邦人がヤコブの家の残りの者であるこの民について、また彼らによって散らされるこのわたしの民について、知るようにするためである。

3 まことに、まことに、あなたがたに言う。これらのことは父によって彼らに知らされ、父から出て彼らからあなたがたに伝わる。

4 彼らがこの地に定住し、父の力によって自由な民とされて、これらのことが彼らからあなたがたの子孫の残りの者に伝わり、父が御自分の民、イスラエルの家と交わされた父の聖約が果たされるようになることは、父の知恵にかなうことである。

5 これらの業と、この後あなたがたの中で行われる業は、罪悪のために不信仰に陥るあなたがたの子孫に、異邦人から伝わるであろう。

6 このようにして、父が望んでおられるように、それは異邦人から伝わって、父が御自分の力を異邦人に示されるようになり、またその結果、異邦人は心をかたくなにしなければ、悔い改めてわたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受け、わたしの教義の真の要点を知って、わたしの民、イスラエルの家の中に数えられるようになるであろう。

7 これらのことが起こって、あなたがたの子孫がこ

第21章
1 ①GS「終わりの時・末日」
3 ①エテ4・17、ジー歴史1・34—36
4 ①1ニフ13・17—19、教義101・77—80
②モル5・20、GS「アブラハムの聖約（契約）」
5 ①2ニフ30・4—5、モル5・15、教義3・18—19
6 ①3ニフ26・8
②1ニフ10・14、ヤコ5・54、3ニフ16・4—7
7 ②ガラ3・7、29、3ニフ16・13、アブ2・9—11
①3ニフ5・21—26

れらのことを知るようになるとき、それは彼らにとって一つのしるしとなって、彼らは、父がイスラエルの家に属する人々に立てられた聖約を果たすために業を始められた、ということを知るのである。

8 その日が来ると、そこで王たちは口をつぐむようになる。王たちはまだ告げられたことのないことを見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。

9 その日、わたしのために父は異邦人の中で一つの業を、すなわち大いなる驚くべき業を行われる。—1)人の男が彼らにその業について告げるが、彼らの中にはそれを信じない者たちがいる。

10 しかし見よ、わたしの僕の命はわたしの手の内にあるので、彼は彼らによって1)損なわれることはあっても、害は受けない。損なわれても、わたしは彼を癒そう。2)わたしの知恵が悪魔の悪知恵よりも深いことを、わたしは彼らに示そう。

11 さて、父はこの僕がイエス・キリストであるわたしの言葉を異邦人にもたらすことを許し、また異邦人にわたしの言葉をもたらす力を彼に与えられる。わたしの言葉を信じない者はだれであろうと、聖約を受けているわたしの民の中から2)絶たれるであろう。(それは、モーセの言ったとおりになる。)

12 ヤコブの残りの者であるわたしの民は、異邦人の中で、彼らのただ中で、森の獣の中のライオンのように、1)羊の群れの中の若いライオンのようになるであろう。若いライオンは通り過ぎるときに2)踏みにじり、引き裂いて、だれも救うことができない。

13 彼らの手は彼らに敵意を抱いている者のうえに振り上げられ、彼らの敵はことごとく絶たれるであろう。

14 まことに、異邦人は悔い改めなければ災いである。父は言われる。『そしてその日には、わたしはあなたのうちから馬を絶やし、戦車を壊し、

15 あなたの国のもろもろの町を絶やし、あなたの城をことごとく覆す。

16 また、あなたの国から魔術を絶やす。あなたのうちには占い師がないようになる。

17 また、あなたのうちから彫像と石の柱を絶やす。あなたは重ねて手で造ったものを拝むことはない。

18 また、あなたのうちからアシラ像を抜き倒し、あなたのもろもろの町を滅ぼす。

19 そして、1)偽りや欺きやねたみ、また争いや偽善売

9 ①イザ29・14、使徒13・41、1ニフ22・8、GS「福音の回復」
10 ①教義135・1–3 ②教義10・43
11 ①②2ニフ3・6–15、モル8・16、25
12 ①②教義1・14 ミカ5・8–15、3ニフ20・16
14 ①②3ニフ16・13–15 2ニフ10・18、33・
9
17 ①出エ20・3–4、モサ13・12–13、教義1・16、GS「偶像礼拝」 3ニフ30・2
19 ①

教、みだらな行いはすべて廃される。』

20そして、父は言われる。『その日、悔い改めてわたしの愛子のもとに来ない者を、わたしは自分の民、イスラエルの家の中から絶とう。

21わたしは異教徒に及ぼすように、彼らが聞いたこともないほどの報復と怒りを彼らに及ぼそう。』

22しかし、彼らが悔い改めてわたしの言葉に聞き従い、心をかたくなにしなければ、わたしは彼らの中にわたしの教会[1]を設けよう。彼らは聖約を交わし、わたしがこの地を彼らの受け継ぎとして与えた、このヤコブの残りの者の中に[2]数えられるであろう。

23そして、わたしの民であるヤコブの残りの者と、将来やって来るイスラエルの家のすべての者が、[1]新エルサレムと呼ばれる一つの都を築くのを、彼らは助けるであろう。

24そのとき、地の全面に散らされているわたしの民が新エルサレムに集まるのを、彼らは助けるであろう。

25そのとき、[1]天の力が彼らの中に下り、[2]わたしも彼らの中にいるであろう。

26またその日、すなわちこの福音がこの民の残りの者の中で宣べ伝えられるとき、父の業が始まるであろう。まことに、あなたがたに言う。その日、父の業は、わたしの民のすべての散らされた者の中で、すなわち、父がエルサレムから連れ出された[1]行方の知れない部族の中で始まるであろう。

27まことに父は、わたしの民のすべての[1]散らされた者がわたしのもとに来て、わたしの名によって父に請い願うことができるように、道を備えるために彼らの中でその業を始められる。

28そのとき、父は、御自分の民が彼らの受け継ぎの地に[1]戻されるように、道を備えるためにすべての国民の中で業を始められる。

29『そして、彼らはあらゆる国民の中から出て来る。彼らは[1]慌てて出る必要もなければ、逃げるようにして去る必要もない。わたしが彼らの前を行き、またわたしが彼らのしんがりとなるからである』と、父は言われる。」

第22章

終わりの時に、シオンとシオンのステークが確立され、イスラエルは憐れみと慈しみをもって集められ

22①GS「神権時代」
②2ニフ10・18−19、3ニフ16・13
23①3ニフ20・22、エテ13・1−12、GS「新エルサレム」
25①1ニフ13・37
②イザ2・2−4、3ニフ24・1
26①GS「イスラエル−行方の知れない十部族」
②1ニフ14・17、3ニフ21・6−7
27①3ニフ16・4−5
28①GS「イスラエル−イスラエルの集合」
29①イザ52・12、3ニフ20・42

る。イスラエルは勝利を得る。イザヤ書第五十四章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 「書き記されていることは、そのときに起こる。『「おお、子を生まなかった不妊の女よ、1)歌いなさい。産みの苦しみを味わわなかった者よ、声を放って歌い、声高らかに叫びなさい。見捨てられた者の子供は、夫のある者の子供よりも多いからである」と、主は言われる。

2 「あなたの天幕の場所を広くし、あなたの住まいの幕を張って広げなさい。惜しむことなく、あなたの綱を長くし、あなたの1)杭を強固にしなさい。

3 あなたは右にも左にも広がり、あなたの子孫は異1)邦人から受け継いで、荒れ果てたもろもろの町を人の住む所とするからである。

4 あなたは恥じることはないので、恐れてはならない。あなたは1)辱められることはないので、うろたえてはならない。あなたは若いときの恥を忘れ、若いときの恥辱を思い出さず、寡婦であったときの恥辱を決して思い出すことはない。

5 あなたを造った者があなたの夫であり、その名は万軍の主である。あなたの贖い主はイスラエルの聖者であり、全地の神ととなえられる。

6 主はあなたを、見捨てられて心に痛手を負っている女のように、また若いときに拒まれた妻のように招かれたからである」と、あなたの神は言われる。

7 「わたしは少しの間あなたを捨てたが、深い憐れみをもってあなたを集めよう。

8 わたしはいささか怒って、少しの間あなたから顔を隠したが、永遠の慈しみをもってあなたを1)憐れもう」と、あなたの贖い主である主は言われる。

9 「1)このことは、わたしにはノアの洪水のようである。わたしはかつてノアの洪水が二度と地を覆うことはないと誓ったが、そのように、わたしはあなたを怒らないと誓った。

10 1)山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことがない」と、あなたを憐れむ主は言われる。

11 「おお、苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰めを得ない者よ。見よ、わたしは麗しい色であなたの1)石を敷き、サファイヤであなたの基を据えよう。

12 また、めのうであなたの窓を造り、紅玉であなた

第22章

1 1) GS「歌う」
2 1) GS「ステーク」
3 1) GS「異邦人」
4 1) 2ニフ6:7、13
8 1) GS「憐れみ」
9 1) イザ54:9
2) GS「ノアの時代の洪水」
10 1) イザ40:4
2) 詩篇94:14、教義35:25
11 1) 黙示21:18−21

の門を造り、あなたの境をすべて宝石で造ろう。
13 あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。
14 あなたは義をもって堅く立てられる。あなたは恐れないので、虐げられることはない。また、恐怖から遠ざかる。それはあなたに近づくことがないからである。
15 見よ、彼らは必ずあなたに敵対して集まるが、それはわたしによるのではない。あなたに敵対して集まる者はだれであろうと、あなたのゆえに倒れる。
16 見よ、わたしは炭火を吹きおこして、自分の仕事のために道具を造る鍛冶を造った。また、わたしは荒らし滅ぼす者も造った。
17 あなたを攻めるために造られる武器は、まったく役に立たない。また、裁きの時にあなたに向かってのしる舌はことごとく、あなたがそれを罪に定める。これが主の僕たちの受け継ぐものであって、彼らの義はわたしから出る」と、主は言われる。』」

第23章

イエス、イザヤの言葉を是認される。イエス、預言者の書を調べるように民に命じられる。復活についてのレーマン人サムエルの言葉が記録に加えられる。紀元約三十四年。

1 「さて見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこれらのことを調[1]べなさい。まことにわたしは、これらのことを熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える。[2]イザヤの言葉はまことに偉大だからである。
2 確かにイザヤは、イスラエルの家に属するわたしの民について、すべてのことを述べた。そこで、どうしても彼は異邦人にも語る必要があった。
3 彼の語ったことはすべて、彼の語った言葉のとおりにこれまで起こっており、また[1]これからも起こるであろう。
4 したがって、わたしの言葉を心に留め、わたしがあなたがたに告げたことを書き記しなさい。これらの言葉は、父の定められたときに、父の御心のままに異邦人に伝わるであろう。
5 わたしの言葉に聞き従い、悔い改めてバプテスマを受ける者は、だれであろうと救われる。[1]預言者の

13 ①エレ31・33—34
14 ①GS「義」
第23章
1 ①GS「聖文」
②2ニフ25・1—5、モル8・23、GS「イザヤ」
3 ①3ニフ20・11—12
5 ①ルカ24・25—27

書を調べなさい。これらのことについて、証している預言者が多いからである。」

6さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、再び彼らに語り、彼らに与えられている聖文をすべて説き明かした後、「見よ、あなたがたが書いていない別の聖文を書き記すことを、あなたがたに望む」と、彼らに言われた。

7そして、イエスはニーファイに、「あなたがたが書き継いできた記録を持って来なさい」と言われた。

8そこでニーファイが記録を持って来てイエスの前に置くと、イエスはそれらの記録に目をやって言われた。

9「まことに、あなたがたに言う。わたしはレーマン人であるわたしの僕[1]サムエルに、この民に証するようにと命じた。その証とは、父がわたしによって御名に栄光を受けられる日に、[2]多くの[3]聖徒が死者の中から[4]よみがえって、多くの者に現れ、彼らを教え導くであろうということである。」そして、イエスは彼らに、「そのとおりではなかったか」と言われた。

10そこでイエスの弟子たちは、イエスに答え、「はい、主よ、サムエルはあなたの御言葉のとおりに預言し、それはすべて成就しました」と言った。

11するとイエスは彼らに、「多くの聖徒がよみがえって多くの者に現れ、彼らを教え導いたことを書き記していないのはどうしてか」と言われた。

12そこでニーファイは、このことがまだ書き記されていないのを思い出した。

13そして、イエスがそれを書き記すように命じられたので、イエスが命じられたとおりにそのことが書き記された。

14さて、弟子たちが書き記してきたすべての聖文をまとめて[1]説き明かした後、イエスは、御自分が説き明かした事柄を教えるように、彼らに命じられた。

第24章

主の使者が再臨のために道を備える。キリスト、裁きの座に着かれる。イスラエル、什分の一を納め、さげ物をするように命じられる。覚えの書が記される。マラキ書第三章と比較せよ。紀元約三十四年。

1さて、イエスは、御自分がこれから告げる御言葉を書き記すように、彼らに命じられた。それは、御

9① ヒラ13・2
② ヒラ14・25
③④ GS「聖徒」
マタ27・52−53、GS「復活」ルカ24・44−46
14① GS

父がマラキに与えられた御言葉である。そして、それらの御言葉が書き記された後、イエスはそれを説き明かされた。イエスが彼らに告げられた御言葉は次のとおりである。「父はマラキに次のように言われた。『「見よ、わたしは使者を遣わす。彼はわたしの前に道を備える。あなたがたの求める主、すなわちあなたがたの喜ぶ聖約の使者は、突如主の神殿に来る。見よ、主は来る」と、万軍の主は言う。
2 しかし、主の来る日には、だれが堪え得よう。[1]主の現れるときには、だれが立ち得よう。主は[2]精錬する者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。
3 主は銀を精錬し清める者として座に着き、[1]レビの子らを清め、金銀のように彼らを清めて、彼らが義をもってささげ物を主にささげられるようにされる。
4 そのとき、ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる。
5 「そして、わたしはあなたがたに近づいて、裁きをなし、魔法を使う者、姦淫を行う者、偽りの誓いを立てる者、賃金について雇い人を虐げる者、やもめと父のいない子供を虐げる者、外来者を退ける者、わたしを畏れない者に対して速やかに証を立てる」と、万軍の主は言う。
6 「わたしは主であるので、変わることがない。それゆえ、ヤコブの子らよ、あなたがたは焼き尽くされることがない。
7 あなたがたは、先祖の時代からわたしの定めを[1]離れて、それを守らなかった。[2]わたしに帰りなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに帰ろう」と、万軍の主は言う。「ところが、あなたがたは、『どのようにして帰りましょうか』と言う。
8 人は神から盗むだろうか。ところが、あなたがたはわたしから盗んでいる。しかし、あなたがたは、『わたしたちはどのようにしてあなたから盗んでいるのでしょうか』と言う。[1]什分の一と[2]ささげ物によってである。
9 あなたがたはのろいをもってのろわれる。あなたがた、まことに民のすべてがわたしから盗んでいるからである。
10 わたしの家に食物があるように、[1]什分の一をすべてわたしの倉に携えて来なさい。これをもってわ

第24章
1 (1) 教義45・9
2 (1) 3ニフ25・1
(2) ゼカ13・9、教義128・24、GS「イエス・キリストの再臨」「地球（地）」
3 (1) 地球の清め」
(2) 申命10・8、教義84・31−34
5 (1) 教義13・1
(2) 新ヤコ1・27
7 (1) GS「背教・背信」
(2) ヒラ13・11、3ニフ10・6、モロ9・22
8 (1) GS「什分の一」
(2) GS「ささげ物」
10 (1) 教義64・23、119・1
1-7

たしを試み、わたしが天の窓を開いて、受け入れる
余地がないほどの[2]祝福を、あなたがたに注ぐかどう
かを見なさい」と、万軍の主は言う。
11 「わたしは食い荒らすものをあなたがたのために
抑えて、あなたがたの地の産物が荒らされないよう
にしよう。また、あなたがたのぶどうの木が熟す前
に、その実を畑に落とすことのないようにしよう」
と、万軍の主は言う。
12 「諸国の民は皆、あなたがたを祝福された者と言
うであろう。あなたがたは喜ばしい国となるからで
ある」と、万軍の主は言う。
13 「あなたがたは言葉を激しくしてわたしに逆らっ
た」と、主は言う。ところが、あなたがたは、「わた
したちはあなたに逆らって何を言いましたか」と言
う。
14 あなたがたは言った。「神に仕えることは無益だ。
神の定めを守ってきたことが、また万軍の主の前を
悲しんで歩んできたことが、どんな益になっている
か。
15 今わたしたちは、高ぶる者は幸せであると言う。
まことに、悪を行う者は高く上げられ、まことに、
神を試みる者でさえも救われる」と。
16 そのとき、主を畏れる者たちはしばしば互いに[1]語
り合い、主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして、
主を畏れ、主の名を尊んだ者たちのために、主の前
で一つの[2]覚えの書が書き記された。
17 万軍の主は言う。「わたしがわたしの宝石を[1]集め
る日に、彼らはわたしのものとなる。人が自分に仕
える息子を憐れむように、わたしは彼らを憐れもう。
18 そのとき、あなたがたは帰り、義人と悪人、神に
仕える者と神に仕えない者との[1]区別を知るようにな
る。」』」

第25章

再臨の時には、高ぶる者と悪人はわらのように焼か
れる。エリヤは大いなる恐るべき日の前に戻って来
る。マラキ書第四章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 「『「見よ、炉のように[1]燃える日が来る。すべて[2]高
ぶる者と悪を行う者は、わらのようになる。やがて
来る日が彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない」
と、万軍の主は言う。

---

10 ② GS「祝福」
16 ① モロ6・5
② 教義85・9、モセ6・5、GS「覚えの書」
17 ① 教義101・3
18 ① GS「識別の賜物」

第25章

1 ① イザ24・6、1ニフ22・15、3ニフ24・2、教義29・9、64・23−24、133・64、ジー歴史1・37、GS「地球（地）−地球の清め」
② 2ニフ20・33、GS「高慢」

2 「しかし、わたしの名を畏れるあなたがたのために、[1]義の御子は翼に癒しを携えて現れる。あなたがたは出て行って、牛舎の中の[2]子牛のように[3]育つ。
3 そしてあなたがたは、悪人を[1]踏みつける。わたしがこれを行う日に、彼らはあなたがたの足もとで灰となる」と、万軍の主は言う。
4 「あなたがたは、わたしが全イスラエルのために[1]ホレブでわたしの僕モーセに命じたモーセの律法と、掟と裁決を思い出しなさい。
5 見よ、[1]主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者[2]エリヤをあなたがたに遣わす。
6 彼は先祖の心を子孫に[1]向けさせ、子孫の心をその先祖に向けさせる。これは、わたしが来て、のろいをもって地を打つことのないようにするためである。」』」

第26章

イエス、初めから終わりに至るまでのすべてのことについて説き明かされる。乳飲み子と小児たち、書き記せない驚くべき事柄を述べる。キリストの教会の人々、すべてのものを共有する。紀元約三十四年。

1 さて、イエスはこれらのことを語り終えると、群衆にそれを説き明かし、また大小を問わず、あらゆることを彼らに説き明かされた。
2 そしてイエスは、「あなたがたの持っていないこ[1]れらの聖文が、後の時代の人々に伝えられることは、父の知恵にかなっていたので、父は、これらの聖文をあなたがたに伝えるようにわたしに命じられた」と言われた。
3 そして、イエスは世の初めから将来御自分が[1]栄光のうちに来られるときまでのすべてのこと、すなわち、[2]諸元素が酷熱に溶け、大地が巻き物のように[3]巻かれ、天地が過ぎ去るときまでに地の面に起こるすべてのことについて説き明かされた。
4 すべての民族、すべての部族、すべての国民および国語の民が、彼らの行いが善いか悪いか、行いに応じて裁かれるために神の前に[1]立つ、[2]大いなる終わりの日に至るまでのことを、イエスは説き明かされたのであった。
5 行いが善ければ永遠の命の[1]復活にあずかり、悪ければ罰の定めの復活を受ける。すなわち、世の始まる[2]前からすでにおられたキリストの内にある憐れみ

2 ① エテ9・22
② アモ6・4、1ニフ22・24
③ 教義45・58
3 ① 3ニフ21・12
4 ① 出エ3・1—6
5 ① GS「イエス・キリストの再臨」
② 列下2・1—2、教義2・1、110・13—16、128・17—18、GS「エリヤ」「死者の救い」「結び固め」
6 ① 教義2・2

第26章

2 ① マラ3、4章が、3ニフ24、25章に引用されている
3 ① GS「イエス・キリスト—栄光」
② アモ9・13、2ペテ3・10、12、モル9・2、GS「地球（地）—地球の清め」「世—世の終わり」
③ モル5・23
4 ① モサ16・10—11、GS「最後の裁き」
② ヒラ12・25、3ニフ28・31
5 ① ダニ12・2、ヨハ5・29
② エテ3・14、GS「イエス・キリスト—前世におけるキリスト」

と公正[3]と神聖さによって、前者は一方にあり、後者は他方にあって、互いに平行している。

6 ところで、イエスが実際に民に教えられたことは、その百分の一[1]もこの書に書き記せない。

7 しかし見よ、ニーファイの版[1]には、イエスが民に教えられたことの大部分が載せられている。

8 わたしがこれまで書き記したこれらのことは、イエスが民に教えられたことのほんの一部でしかない。わたしが書き記してきたのは、これらのことがイエスの言われた御言葉のように、異邦人[1]からこの民に再び伝えられるためである。

9 彼らがまずこれを持つことは、彼らの信仰を試すのに必要である。彼らはこれを与えられたとき、これらのことを信じるならば、そのときにはもっと大[1]いなることが彼らに明らかにされる。

10 しかし、彼らがこれらのことを信じなければ、そのときにはそれより大いなることは彼らに与[1]えられることなく、彼らは罪の宣告を受けるであろう。

11 見よ、わたしがニーファイの版に刻まれているすべてのことを書き記そうとしたところ、主はそれを禁じて、「わたしは自分の民の信仰[1]を試みよう」と言われた。

12 そこでわたしモルモンは、主から命じられたことを書く。わたしモルモンは、これでわたしの言葉を終え、命じられたことを書き進めよう。

13 したがって、わたしは、あなたがたに知ってもらいたい。主は実際に三日間民を教えられた。その後、主はしばしば彼らに御自身を現[1]し、しばしばパン[2]を裂いて祝福し、彼らに与えられた。

14 そしてイエスは、前に述べた群衆の子供[1]たちをも教え導き、彼らの舌を緩[2]められた。そこで子供たちは、大いなる驚くべきことを、実に、イエスがかつて民に明らかにされたことよりも大いなることを、自分たちの父親に語った。イエスが子供たちの舌を緩められたので、彼らは語ることができたのであった。

15 そして、イエスが天に昇って行かれた後、すなわち、イエスが二度目に群衆に御自身を現し、彼らの中の病気の者も、足の不自由な者もすべて癒[1]し、目の見えない者の目を開け、耳の聞こえない者の耳を開き、そのほか彼らの中であらゆる癒しを与え、一人の男を死者の中からよみがえらせ、彼らに御自

---

5 (3) GS「正義」
6 (1) ヨハ 21・25、3ニフ 5・8
7 (1) GS「版」
8 (1) 3ニフ 21・5−6
9 (1) エテ 4・4−10
10 (1) アル 12・9−11
11 (1) エテ 12・6
13 (1) ヨハ 21・14
(2) 3ニフ 20・3−9、GS「聖餐」
14 (1) 3ニフ 17・11−12
(2) アル 32・23、3ニフ 26・16
15 (1) 3ニフ 17・9、GS「癒し」「奇跡」

分の力を示して、御父のもとに昇って行かれた後の、

16 見よ、その翌日、群衆は集まり、これらの子供たちが語るのを、まことに乳飲み子でさえも口を開いて[1]驚くべきことを語るのを見聞きした。しかし、彼らの語ったことはだれも書き記してはならないと止められた。

17 さて、イエスから選ばれた弟子[1]たちは、そのときから、彼らのもとに来るすべての者にバプテスマを施し、彼らを教え始めた。そして、イエスの名によってバプテスマを受けた者は皆、聖霊に満たされた。[2]

18 また、彼らの多くは、語ってはならない様々なことを見たり聞いたりした。今、それを書き記すことは許されていない。[1]

19 また彼らは、互いに教え、互いに仕え合った。そして、彼らはすべてのものを[2]共有し、皆、互いに公正に振る舞った。

20 そして彼らは、イエスから命じられたとおりにすべてのことを行った。

21 そして、イエスの名によってバプテスマを受けた人々は、キリストの[1]教会と呼ばれた。

第27章

イエス、御自分の名によって教会を呼ぶように命じられる。イエスの使命と贖いの犠牲がイエスの福音を構成する。人々は聖霊によって聖められるために、悔い改めてバプテスマを受けるように命じられる。人はイエスのようにならなければならない。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて、イエスの弟子たちは旅をしながら、自分たちがそれまで聞いたり見たりしたことを宣べ伝え、イエスの名によってバプテスマを施していた。また、弟子たちは集まり、[1]一つになって熱烈に祈り、[2]断食をした。

2 そして、彼らがイエスの名によって御父に祈っていると、イエスが再び彼らに御自身を[1]現された。イエスは来て彼らの中に立つと、「あなたがたはわたしから何を与えられたいのか」と彼らに言われた。

3 そこで彼らはイエスに、「主よ、この教会をどのような名で呼ぶべきか、わたしたちにお教えいただきたいと存じます。この件について民の中に論争がございますから」と言った。

16①　マタ11・25
17①　3ニフ19・4―13
②　4ニフ1・1
18①　3ニフ26・11
19①　4ニフ1・3
②　GS「奉献・奉献の律法」
21①　モサ18・17、GS「イエス・キリストの教会」

第27章
1①　教義29・6
②　アル6・6、GS「断食」
2①　3ニフ26・13、GS「イエス・キリスト―死後の現れ」

4 すると主は、彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言う。民がこのことについてつぶやき、論じ合うのはなぜか。
5 彼らは、『[1]キリストの名を受けなければならない』という聖文を読んだことがないのか。キリストとはわたしの名である。終わりの日にあなたがたは、この名によって呼ばれるのである。
6 わたしの名を受け、最後まで[1]堪え忍ぶ者は、終わりの日に救われるであろう。
7 だから、あなたがたが行うことは何事でも、わたしの名によって行いなさい。あなたがたは教会をわたしの名で呼びなさい。また、父がわたしのために教会を祝福してくださるように、わたしの名によって父に呼び求めなさい。
8 わたしの名で呼ばれなければ、どうしてわたし[1]の教会であろうか。ある教会がモーセの名で呼ばれれば、それはモーセの教会である。あるいは、ある人の名で呼ばれれば、それはその人の教会である。しかし、わたしの名で呼ばれ、人々がわたしの福音の上に築かれていれば、それはわたしの教会である。
9 まことに、あなたがたに言う。あなたがたはわたしの福音の上に築かれている。だから、あなたがたが呼ぶものは何であろうと、わたしの名によって呼びなさい。あなたがたが教会のために、わたしの名によって父に呼び求めるならば、父はあなたがたの祈りを聞いてくださる。
10 また、教会がわたしの福音の上に築かれていれば、父は教会の中で御自分の業を示されるであろう。
11 しかし、教会がわたしの福音の上に築かれておらず、人の業の上に、あるいは悪魔の業の上に築かれていれば、まことにあなたがたに言う、彼らはしばらくの間は自分たちの業を楽しむが、やがて最後が来て、彼らは[1]切り倒されて火の中に投げ込まれ、そこから二度と戻ることができない。
12 彼らの[1]業は彼らにつき従い、彼らはその業のために切り倒される。だから、わたしがあなたがたに告げたことを覚えておきなさい。
13 見よ、わたしはあなたがたに、わたしの[1]福音について告げた。わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣

5 ①GS「イエス・キリスト御名を受ける」
6 ①3ニフ15・9
8 ①教義115・4
②GS「イエス・キリスト教会の頭」
11 ①アル5・52
12 ①黙示14・13、教義59・2
13 ①教義76・40−42、GS「福音」

わされたので、わたしは父の御心を行うために世に来た。

14 父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。

15 このために、わたしは上げられたのである。それで、父の力によってすべての人をわたしのもとに引き寄せ、彼らが各々の行いに応じて裁かれるようにするのである。

16 さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者としよう。

17 また、最後まで堪え忍ばない者は、切り倒されて火の中に投げ込まれ、父の正義のゆえに、そこから二度と戻ることができない。

18 これは父が人の子らに告げられた御言葉である。父は御自分の正義のゆえに、御自分が告げられた御言葉をことごとく成就される。父は偽らず、御自分の御言葉をことごとく成就される。

19 清くない者は、決して父の王国に入ることができない。したがって、信仰を持ち、罪をすべて悔い改め、最後まで忠実であることによって、わたしの血により衣を洗われた者のほかには、父の安息に入る者はいない。

20 さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。

21 まことに、まことに、あなたがたに言う。以上がわたしの福音である。あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。

---

13 ②ヨハ 6・38—39
14 ①1ニフ 11・32—33、モセ 7・55 ②ヨハ 6・44、2ニフ 9・5、教義 27・18 ③GS「イエス・キリスト」「裁き」
15 ①GS「贖罪」 ②GS「悔い改め」 ③1ニフ 13・37、GS「堪え忍ぶ」
16 ①GS「バプテスマ」
17 ①GS「正義」アル 11・37
19 ①アル 11・37、②黙示 1・5、7・14、アル 5・21、27、13・11—13 ③教義 84・24、GS「安息」
20 ①エテ 4・18 ②GS「バプテスマ—必要不可欠な条件」 ③GS「聖め」 ④教義 4・2

22 あなたがたは、これらのことを行うならば、幸いである。終わりの日に高く上げられるからである。
23 あなたがたが見たこと、聞いたことを、1)禁じられているものを除いてすべて書き記しなさい。
24 これまで書き記されてきたように、これからもこの民の行いを書き記しなさい。
25 見よ、これまで書き記されてきた数々の書と、これから書き記される数々の書によって、この民は裁かれるであろう。これらの書によって彼らの2)行いが人々に知られるからである。
26 また見よ、すべてのことは父によって1)書き記されている。したがって、これから書き記される数々の書によって、世の人々は裁かれるであろう。
27 あなたがたが知っているように、将来1)あなたがたは、わたしがあなたがたに与える公正な判断力によって、この民を裁く者となるであろう。したがって、あなたがたは2)どのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。3)わたしのようでなければならない。
28 さて、わたしは父のみもとに行くが、まことに、あなたがたに言っておく。あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何であろうと、あなたがたに与えられる。
29 だから、1)求めなさい。そうすれば与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば開かれるであろう。求める者には与えられ、たたく者には開かれるからである。
30 さて見よ、あなたがたとこの時代の人々についてのわたしの喜びは、大きくて限りがない。また父も、あなたがたとこの時代の人々のことを喜んでおられ、すべての聖なる天使たちも喜んでいる。だれ1)一人、失われていないからである。
31 見よ、あなたがたに理解してもらいたい。わたしが言っているのは、1)今2)この時代に生きている人々のことである。彼らはだれ一人、失われていない。そして、彼らのことでわたしは満ちみちる3)喜びを得ている。
32 しかし見よ、この時代から1)四代目の人々について、わたしは悲しむ。彼らは滅びの子が捕らえられたように、悪魔に捕らえられるからである。彼らは銀や金、また2)虫のつくものや盗人が押し入って盗むもののためにわたしを売るであろう。その日、わた

---

23 ①3ニフ26・16
25 ①2ニフ33・10—15、モ言1・11
26 ②1ニフ15・32—33、3ニフ24・16、GS「命の書」
27 ①1ニフ12・9—10、モル3・19 ②GS「イエス・キリスト」模範」 ③マタ5・48、3ニフ12・48
28 ①ヨハ20・17 29 ①マタ7・7、3ニフ14・7
30 ①ヨハ17・12 31 ①3ニフ9・11—13、10・12 ②3ニフ28・23 ③GS「喜び」 32 ①2ニフ26・9—10、アル45・10、12 ②マタ6・19—21、3ニフ13・19—21

しは彼らに報いを下し、彼らの業を彼ら自身の頭上に浴びせよう。」

33さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、弟子たちに言われた。「1)狭い門から入りなさい。命に至る門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。しかし、死に至る門は広く、その道も広い。そして、だれも働くことのできない夜が来るまで、そこから入って行く者が多い。」

第28章

十二弟子のうち九人は、死後にキリストの王国で受け継ぎを得ることを望み、そのことを約束される。三人のニーファイ人は、イエスが再び来られるときまで地上にとどまることを望み、とどまるために死を制する力を与えられる。彼らは身を変えられ、語るのを許されていない数々のことを見る。彼らが現在も人々の中で務めを果たしていること。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分の弟子たち一人一人に、「わたしが父のみもとに行った後、あなたがたはわたしに何を願うか」と言われた。

2すると弟子たちは、三人を除いて皆、「わたしたちは人の寿命まで生き長らえたら、あなたから召されたわたしたちの務めを終え、速やかにあなたの王国であなたのみもとに行けるように願っています」と答えた。

3そこで、イエスは彼らに、「あなたがたは、わたしにこのことを願ったので、幸いである。あなたがたは七十二歳になると、わたしの王国でわたしのもとに来て、わたしとともに1)安息を得るであろう」と言われた。

4イエスは彼らに語り終えると、三人の方を向き、「わたしが父のみもとに行ったら、あなたがたはわたしに何をしてもらいたいか」と言われた。

5すると彼らは、自分たちの望んでいることをイエスに思い切って言えなかったので、心の中でつらく思っていた。

6するとイエスは、彼らに言われた。「見よ、わたしはあなたがたの1)思いを知っている。あなたがたは、愛するヨハネ2)がわたしに願ったことを願っている。

33① マタ7・13−14、3ニフ14・13−14、教義22・1−4

第28章

3① GS「安息」

6① アモ4・13、アル18・32

② ヨハ21・21−23、教義7・1−4

ヨハネとは、わたしがユダヤ人によって上げられる前に、わたしとともに務めに携わっていた者である。

7 したがって、あなたがたはさらに幸いである。あなたがたは決して[1]死を味わうことがない。わたしが[3]天の力をもってわたしの栄光のうちに来るときまで、すなわち父の御心のとおりにすべてのことが成就するそのときまで、あなたがたは生き長らえて、父が人の子らのために行われるすべてのことを見るであろう。

8 また、あなたがたは決して死の苦しみを受けることなく、わたしがわたしの栄光のうちに来るとき、一瞬のうちに[1]死すべき状態から[2]不死の状態に変えられる。その後、あなたがたは父の王国で祝福を受けるであろう。

9 またあなたがたは、肉体に宿っている間、苦しみを感じることなく、また世の罪に対する以外に悲しみを感じることもない。わたしがすべてこのように行うのは、あなたがたがわたしに願ったためである。あなたがたは世界が存在する間、人々をわたしのもとに[1]導きたいと願ったからである。

10 このために、あなたがたは満ち[1]満ちる喜びを得、父の王国で座に着くであろう。父が満ちみちる喜びをわたしに与えてくださったように、まことに、あなたがたの喜びは満ちるであろう。そして、あなたがたはわたしのようになる。わたしは父のようであり、父とわたしは一[2]つである。

11 [1]聖霊は父とわたしのことを証する。そして父は、わたしのゆえに人の子らに聖霊を与えられる。」

12 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、とどまることになった三人を除いて、ほかの全員に一人一人指で触れ、その後去って行かれた。

13 すると見よ、天が開かれ、三人の者は天に[1]引き上げられて、言い表すことのできない様々なことを見聞きした。

14 彼らはそれらのことについて語るのを[1]禁じられ、また見聞きしたことについて語る力も与えられなかった。

15 それが体のままであったか、体を離れてであったか、彼らには分からなかった。彼らには、神のものを見ることができるように、自分たちがこの肉の体から不死の状態に変えられ、[1]変貌したように思わ

7 ①4ニフ1・14、モル8・10−11、エテ12・17
8 ①GS「身を変えられた人」
②3ニフ20・22
③3ニフ28・36−40、GS「死すべき状態」
9 ①②GS「不死不滅」
ビリ1・23−24、教義7・5−6
10 ①教義84・36−38
②ヨハ17・20−23
11 ①2ニフ31・17−21、3ニフ11・32
13 ①2コリ12・2−4
14 ①教義76・114−116
15 ①モセ1・11、GS「変貌」

れたからである。

16さて、彼らは再び地の面で教えを説いたが、天で与えられた戒めがあったので、自分たちが見聞きしたことについては教えなかった。

17ところで、彼らが変貌した日以来、死すべき状態にあったのか不死の状態にあったのか、わたしは知らない。

18しかし、これまで記されてきた記録によってわたしが知っていることは次のとおりである。すなわち、彼らは地の面に出て行き、すべての民に教えを説き、彼らの宣教を信じる者を皆、教会に加えた。彼らにバプテスマを施したのである。そして、バプテスマを受けた者は皆、聖霊を受けた。

19また彼らは、教会に属していない者たちによって牢に入れられた。しかし、牢は[1]二つに裂け、彼らを閉じ込めておくことができなかった。

20また彼らは、地の中に投げ込まれた。しかし彼らは、神の言葉で地を打ったので、神の力によって地の深みから救い出された。そのため人々は、彼らを閉じ込めておけるほどの穴を掘ることはできなかった。

21また、彼らは三度、[1]炉の中に投げ込まれたが、何の害も受けなかった。

22また二度、猛獣の穴の中に投げ込まれたが、見よ、子供が乳離れしていない子羊と遊ぶように猛獣たちと戯れ、何の害も受けなかった。

23そして、彼らはすべてのニーファイの民の中に出て行って、地の面のすべての人に、キリストの[1]福音を宣べ伝えた。すると人々は、主に帰依し、キリストの教会に加わった。このように、[2]その時代の人々はイエスの言葉のとおりに祝福を受けた。

24さて、わたしモルモンは、これらのことについて述べるのを少しの間やめよう。

25見よ、わたしは、決して死を味わうことのない[1]人々の名を書き記そうとしたが、主から禁じられた。したがって、その名が世から隠されているので、わたしはそれを書き記さない。

26しかし見よ、わたしはかつて彼らに会い、彼らはわたしを教え導いてくれた。

27見よ、彼らは将来異邦人の中に行くが、異邦人は彼らに気づかないであろう。

28彼らはユダヤ人の中にも行くが、ユダヤ人も彼ら

19①使徒16・26、アル14・26—28
20①モル8・24
21①ダニ3・22—27、4ニフ1・32
22①ダニ6・16—23、4ニフ1・33
23①GS「福音」
25①②3ニフ27・30—31
3ニフ19・4

に気づかないであろう。

29 そして、主が御自分の知恵でふさわしいと見なされるときに、彼らは自分たちの望みが果たされるように、また彼らの内に神の説得力があるために、イスラエルのすべての散らされた部族[1]、およびすべての国民、部族、国語の民、民族を教え導き、彼らの中から多くの人をイエスのもとに導くであろう。

30 彼らは神の天使[1]のようであり、イエスの名によって御父に祈るならば、彼らはふさわしいと思う人にはだれにでも、自分自身を現すことができる。

31 それであるから、大いなる来るべき日[1]の前に、大いなる驚くべき業が彼らによって行われるので、すべての人は、必ずキリストの裁きの座の前に立たなければならない。

32 まことに、あの裁きの日に先立って、異邦人の中で一つの大いなる驚くべき業[1]が彼らによって行われる。

33 あなたがたは、キリストの驚くべき業の一切を記しているすべての聖文を持っているならば、キリストの言葉のとおりに、これらのことが必ず起こることが分かるであろう。

34 イエスの言葉と、イエスが選んで民の中に遣わされた人々[1]の言葉に聞き従わない者は、災いである。イエスの言葉と、イエスが遣わされた人々の言葉を受け入れない者は、イエスをも受け入れないからである。イエスは終わりの日に、彼らを受け入れることはなさらないであろう。[2]

35 彼らは生まれない方が、彼らのためによかったであろう。あなたがたは不当な扱いを受けた神の正義から逃れることができると思うか。神はかつて人々に足の下に踏みつけられ[1]、そのために救いがもたらされたのではなかったか。

36 さて見よ、わたしは主が選ばれた人々、すなわち天に引き上げられた三人について、死すべき状態から不死の状態に清められたかどうか知らないと前に述べたが、

37 しかし見よ、わたしはそう書き記した後、主に尋ねた。すると主はわたしに、ある変化が彼らの体に生じなければならない、そうでなければ、彼らは必ず死を味わうということを明らかにしてくださった。

38 彼らが死を味わわないように、ある変化[1]が彼らの

---

29 ① GS「イスラエル ― イスラエルの散乱」「イスラエル ― 行方の知れない十部族」
30 ① GS「天使」
31 ① ヒラ 12・25、3ニフ 26・4―5
32 ① 2ニフ 25・17
34 ① GS「預言者」
35 ① ② エテ 4・8―12
38 ① GS「身を変えられた人」

体に生じ、彼らは世の罪に対する以外に苦しみも悲しみも受けないようになったのである。

39 ところで、この変化は終わりの日に起こる変化と同様のものではなかったが、彼らに変化が生じたので、サタンは彼らを支配する力をまったく持てず、彼らを[1]誘惑できなかった。そして、彼らは肉にあって[2]聖められ、[3]聖なる者となり、地の力も彼らを閉じ込めておくことができなかった。

40 この状態で、彼らはキリストの裁きの日までとどまることになった。そして、その日、彼らはさらに大きな変化を受けて、御父の王国に受け入れられ、二度とそこを去ることがなく、永遠に神とともに天に住むことになるのである。

第29章

『モルモン書』が出ることは、主がイスラエルを集め、御自分の聖約を果たし始められたことのしるしである。末日の主の啓示と賜物を拒む者はのろわれる。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。主が御自分の知恵で、これらの御言葉を御自分の言葉のとおりに異邦人に[1]明らかにするのがふさわしいと見なされるときに、あなたがたは、御父がイスラエルの子らと交わされた[2]聖約、すなわち彼らが自分たちの受け継ぎの地へ回復されることについての聖約が、すでに果たされ始めていることを知るであろう。

2 また、聖なる預言者たちによって述べられた主の言葉がすべて成就するということも、あなたがたは知るであろう。あなたがたは、主がイスラエルの子らのもとに来るのを[1]遅らせておられると言ってはならない。

3 またあなたがたは、述べられてきた御言葉がむなしいと、心の中で思ってはならない。見よ、主は、イスラエルの家に属する御自分の民に立てられた御自分の聖約を思い起こされるからである。

4 あなたがたは、これらの御言葉があなたがたの中で事実となるのを見るときに、主の行われることを、もはやねつけてはならない。主の[1]罰の剣は[2]つるぎ主の右手にあり、見よ、その日、あなたがたが主の行われることをはねつけるならば、主はその剣をすぐにあなたがたに下されるであろう。

---

39 ①GS「誘惑」
②GS「聖め」
③GS「聖い」

第29章

1 ①2ニフ30・3—8
②モル5・14、20

2 ①ルカ12・45—48
②GS「正義」

4 ①3ニフ20・20
②

5 主の行われることをはねつける[1]者は、災いである。[2]まことに、キリストとキリストの業を否定[3]する者は、災いである。

6 まことに、主の啓示を否定し、主はもはや啓示や預言、[1]賜物、異言、癒し、聖霊の力によって業を行われることはないと言う者は、[2]災いである。

7 またその日、[1]利益を得るために、イエス・キリストによって行われる[2]奇跡などないと言う者は、災いである。このように言う者は、キリストの言葉のとおりに、まったく憐れみを受けなかった[3]滅びの子のようになるからである。

8 そして、あなたがたは、もはやユダヤ人[1]についても、イスラエルの家のどの残りの者についても、[2]あざけったり、[3]はねつけたり、嘲笑したりしてはならない。見よ、主は彼らに対する聖約を思い起こし、誓われたことをそのとおりに彼らに行われる。

9 それであるから、あなたがたは、主がイスラエルの家に立てられた聖約を果たすための裁きを行えないように、あなたがたの手で主の右手を左手に変えることができると思ってはならない。

第30章

末日の異邦人は、悔い改め、キリストのもとに来て、イスラエルの家とともに数えられるように命じられている。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 聴きなさい、おお、あなたがた異邦人よ。生ける神の御子イエス・キリストの言葉、すなわち、イエス・キリストがあなたがたについて述べるようにとわたしに[1]命じられた御言葉に耳を傾けなさい。そのために見よ、イエス・キリストは、次の御言葉を書き記すようにわたしに命じられた。

2 「あなたがたすべての[1]異邦人よ、あなたがたの悪い道を離れなさい。あなたの悪事、偽り、欺き、みだらな行い、秘密の忌まわしい行い、偶像礼拝、殺人、偽善売教、ねたみ、争い、あらゆる悪事と忌まわしい行いを悔い[2]改め、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは罪の赦しを受け、聖霊に満たされて、イスラエルの家に属するわたしの民とともに[3]数えられるであろう。」

---

5 ①8−10 モル8・17、エテ4・
② 2ニフ28・15−16
③ マタ10・32−33 GS「御霊の賜物」
6 ① モル9・7−11、15
② GS「偽善売教」
7 ① 2ニフ28・4−6、モル9・15−26
② GS「滅びの子」
③ GS「ユダヤ人」
8 ① 1ニフ19・14
② 2ニフ29・4−5
③ 2ニフ28・15−16
マタ10・32−33 GS「御霊の賜物」
モル9・7−11、15 GS「偽善売教」
2ニフ28・4−6、モル9・15−26 GS「滅びの子」
GS「ユダヤ人」 1ニフ19・14
2ニフ29・4−5

第30章
1 1 3ニフ5・12−13
2 ① GS「異邦人」
② GS「悔い改め」
③ ガラ3・27−29、2ニフ10・18−19、3ニフ16・10−13、21・22−25、アブ2・10

第四ニーファイ
ニーファイの書

このニーファイは、イエス・キリストの弟子の一人であったニーファイの息子である

ニーファイの記録によるニーファイの民の話。

ニーファイ人とレーマン人は皆、主に帰依する。すべてのものを共有し、数々の奇跡を行い、地で栄える。二世紀後、分裂と悪、偽りの教会、迫害が起こる。三百年後、ニーファイ人もレーマン人もともに悪くなる。アマロン、神聖な記録を隠す。紀元約三十五年から三百二十一年に至る。

1 さて、第三十四年が過ぎ去り、第三十五年も過ぎ去って、見よ、イエスの弟子たちは周囲の全地でキリストの教会を設立した。そして、彼らのところに来て、罪を心から悔い改めた者は皆、イエスの名によってバプテスマを受け、また聖霊を受けた。

2 そして第三十六年には、民はニーファイ人もレーマン人もともに皆、地の全面で主に帰依した。そして、彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。

3 また、彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者も、束縛された者も自由な者もなく、皆自由となり、天の賜物にあずかる者となった。

4 さて、第三十七年も過ぎ去り、地は依然として引き続き平和であった。

5 そして、イエスの弟子たちは大いなる驚くべき業を行い、病気の者を癒し、死者をよみがえらせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにした。また彼らは、人の子らの中で様々な奇跡を行った。しかし、イエスの名のほかには、どのような名でも奇跡を行わなかった。

6 このようにして、第三十八年が過ぎ去り、また第三十九年、第四十一年、第四十二年、そして第四十九年も過ぎ去り、また第五十一年、第五十二年、さらに第五十九年も過ぎた。

第四ニーファイ
3 ① 使徒4・32、3ニフ26・19、GS「奉献・奉献の律法」
5 ① GS「癒し」
② ヨハ14・12、GS「奇跡」

7 主は民を地上で非常に栄えさせられたので、まことに、彼らは以前に焼けた町のあった所に再び町を築いた。
8 まことに、あの大きな町[1]ゼラヘムラさえも復興した。
9 しかし、[1]沈められ、水に覆われた町も多く、これらの町は再建することができなかった。
10 さて見よ、ニーファイの民は力をつけ、急速に増え、非常に[1]麗しくて喜ばしい民になった。
11 彼らはめとり、嫁ぎ、主が彼らに立てられた多くの約束のとおりに祝福された。
12 また彼らは、もはやモーセの律法の[1]勤めと[2]儀式を守ることなく、自分たちの主、自分たちの神から受けた戒めに従って歩み、[3]断食と祈りを続け、また祈りをささげ、主の言葉を聞くためにしばしば集まった。
13 そして、全地ですべての民の中にまったく争いがなく、イエスの弟子たちの中で数々の大きな奇跡が行われた。
14 さて、第七十一年が過ぎ、第七十二年も過ぎ、要するに第七十九年まで過ぎ去った。また、第百年も過ぎ去った。そして、イエスが選ばれた弟子たちは、とどまることになっていた[1]三人を除いて、全員がすでに神の[2]パラダイスへ行き、彼らに代わってほかの[3]弟子たちが[1]聖任された。また、その世代の多くの人もすでに世を去った。
15 そして、民の心の中に宿っていた神の愛のために、地の面にはまったく[1]争いがなかった。
16 また、[1]ねたみや紛争、騒動、みだらな行い、偽り、殺人もなく、どのような[2]好色もなく、神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に[3]幸せな民は確かにあり得なかった。
17 強盗も人殺しもおらず、レーマン人とか何々人とか言われる者もなく、彼らは[1]一つであり、キリストの子であり、神の王国を受け継ぐ者であった。
18 このように、彼らは何と祝福されていたことか。主が彼らの行うすべてのことについて彼らを祝福されたからである。第百十年が過ぎ去るまで、彼らは祝福されて栄えた。そして、キリストからの最初の世代の人々が世を去ったが、全地に少しも争いがなかった。
19 さて、ここまでの記録を記したニーファイ（彼は

8 ①3ニフ8・8
9 ①3ニフ9・4、7
10 ①GS「モーセの律法」
12 ①2ニフ25・30、3ニフ15・2—8 ②モロ6・5、教義88・76—77 ③3ニフ28・3—9、GS「身を変えられた人」
14 ①GS「聖任」 ②GS「パラダイス」 ③GS「弟子」 ④GS「平安・平和」
15 ①GS「一致」
16 ①GS「欲望」 ②モサ2・41、アル50・23、GS「喜び」 ③ヨハ17・21、GS「シオン」
17 ①GS「神の王国」

それをニーファイの版[1]に記した）が死に、彼の息子アモスが代わって書き継いだ。そして、アモスもニーファイの版に記した。

20 彼は八十四年間記録を書き継ぎ、その地は依然として平和であった。ただ教会から背いて、自らレーマン人と名乗った者たちが少数いただけである。このために再びこの地にレーマン人が存在することになった。

21 さて、アモスも死んで（それはキリストの来臨から数えて百九十四年目のことであった）、彼の息子アモスが彼に代わって記録を書き継いだ。息子のアモスもまた、ニーファイの版に書き記した。その記録はニーファイの書、すなわちこの書にも書き記されている。

22 さて、二百年が過ぎ去り、第二世代の人々は、わずかな人々を除いてすべて世を去った。

23 さて、わたしモルモンがあなたがたに知ってもらいたいのは、民が増えて地の全面に広がり、キリストにあって栄えたために非常に豊かになったということである。

24 ところが、この第二百一年には、高価な衣服を着て、あらゆる見事な真珠と世の美しいものを身に着けるなどして、[1]高慢になった者たちが彼らの中に現れ始めた。

25 そのときから、彼らはもはや自分たちの所有物と持ち物を共有しなくなった。

26 そして、彼らは階級に分かれ始めた。また、彼らは[1]利益を得ようとして自分自身のために[2]教会を築き始め、キリストのまことの教会を否定するようになった。

27 さて、第二百十年が過ぎたとき、国中に多くの教会があった。すなわち、キリストを知っていると公言する教会がたくさんあった。それらの教会はキリストの福音の大半を[1]否定し、あらゆる悪を受け入れ、また神聖なものを、[2]ふさわしくないので与えてはならないと禁じられた者にまで与えた。

28 この教会は[1]罪悪のために、また彼らの心を捕らえたサタンの力のために、非常に人数が増えた。

29 さらに、ほかにキリストを否定する教会もあった。彼らはキリストのまことの教会の人々が謙遜で、キリストを信じていたために、これらの人を迫害した。また、これらの人の中で多くの奇跡が行わ

19 ①GS「版」
24 ①GS「高慢」
25 ①教義10・56、GS「偽善売教」
26 ①1ニフ22・23、2ニフ28・3、モル8・32−38
27 ①GS「背教、背信」
28 ①3ニフ18・28−29
②GS「悪魔−悪魔の教会」
29 ①GS「迫害」

れたために、彼らはこれらの人をさげすんだ。
30 そして彼らは、自分たちとともにいたイエスの弟
子たちに権力と権威を振るい、イエスの弟子たち
を牢に入れた。しかし、イエスの弟子たちの内にあ
る神の言葉の力によって牢は二つに裂け、弟子たち
は出て来て人々の中で大きな奇跡を行った。
31 にもかかわらず、またこれらのすべての奇跡にも
かかわらず、民は心をかたくなにした。そして、エ
ルサレムのユダヤ人がイエスをその御言葉のとおり
に殺そうとしたように、イエスの弟子たちを殺そう
とした。
32 そして彼らは、イエスの弟子たちを燃え盛る炉の
中に投げ込んだが、弟子たちは何の害も受けずに出
て来た。
33 彼らはまた、イエスの弟子たちを猛獣の穴の中に
投げ込んだが、弟子たちは子供が子羊と遊ぶように
猛獣たちと戯れ、何の害も受けずに猛獣たちの中
から出て来た。
34 それでも、民は多くの教会を築き、様々な罪悪を
行うように多くの祭司たちと偽預言者たちに誘われ
たので、心をかたくなにした。そして、彼らはイエ
スの民を打った。しかし、イエスの民は打ち返さな
かった。このために彼らは、二百三十年が過ぎるま
でには、年々、次第に不信仰になり、悪に陥ってい
った。
35 そして、この年、すなわち第二百三十一年に、ま
ことに、民の中に大きな分裂があった。
36 そしてこの年に、ニーファイ人と呼ばれる民が起
こった。この民はキリストのまことの信者であっ
た。また、この民の中にはレーマン人からヤコブ人、
ヨセフ人、ゾーラム人と呼ばれた人々もいた。
37 そこで、キリストのまことの信者、またキリスト
のまことの礼拝者は（この世にとどまることになっ
ていたイエスの三人の弟子たちもその中にいた）、
ニーファイ人、ヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人と
呼ばれた。
38 そして、福音を受け入れなかった者は、レーマン
人、レムエル人、イシマエル人と呼ばれた。彼らは
次第に不信仰に陥ったのではなく、故意にキリスト
の福音に背いたのである。そして、彼らの先祖が初
めから信仰が薄らいでいたように、彼らは自分の子
供たちに信じてはならないと教えたのであった。

30 ① 3ニフ28・19—20
32 ① ダニ3・26—27
② 3ニフ28・21
33 ① 3ニフ28・22
34 ① 3ニフ12・39、教義98・23—27
37 ① 3ニフ28・6—7、モル8・10—11
38 ① GS「背く」

39 それは、初めの時と同じように、彼らの先祖の悪事と忌まわしい行いのためであった。レーマン人が初めからニーファイの子孫を憎むことを教えられたように、彼らも神の子たちを憎むように教えられたのである。

40 さて、すでに第二百四十四年が過ぎ去り、民の状況はこのようであった。そして、民の中のひときわ悪い者たちが力をつけ、神の民よりもはるかに数が多くなった。

41 彼らは依然として自分自身のために教会を築くことを続け、あらゆる貴重な品々で教会を飾った。このようにして、第二百五十年が過ぎ去り、第二百六十年も過ぎ去った。

42 さて、民の中の悪い者たちは再びガデアントンの秘密の誓いと結社[1]を設け始めた。

43 また、ニーファイの民と呼ばれた民も、自分たちの非常に多くの富のために心の中で誇り、同胞であるレーマン人のように虚栄心が強くなり始めた。

44 このときから、弟子たちは世の罪[1]を悲しむようになった。

45 さて、第三百年が過ぎ去ると、ニーファイの民もレーマン人もともに、同じように非常に悪くなっていた。

46 そして、ガデアントンの強盗たちが地の全面に広がっており、イエスの弟子たちのほかには、義人は一人もいなかった。ガデアントンの強盗たちは金と銀を豊かに蓄え、またあらゆる商品を交易していた。

47 さて、第三百五年が過ぎ去り（民は依然として悪い状態であり）、アモスが死んで、彼の兄弟アマロンが彼に代わって記録を書き継いだ。

48 さて、第三百二十年が過ぎ、アマロンは聖霊に強く促されて、神聖な数々の記録、言い換えれば、キリストの来臨から第三百二十年まで代々伝えられてきたすべての神聖な記録[1]を隠した。

49 彼はそれらの記録が主の預言と約束のとおりに、ヤコブの家の残りの者に再び伝えられるように、それらの記録を主に託して隠したのである。これでアマロンの記録は終わる。

39① モサ10・17
42① GS「秘密結社」
44① 3ニフ28・9
48① ヒラ3・13、15–16
49① エノ1・13

モルモン書

第1章

アマロン、神聖な数々の記録についてモルモンに指示を与える。ニーファイ人とレーマン人の間に戦争が始まる。三人のニーファイ人、よそに連れ去られる。悪事と不信仰が広がり、魔術と魔法が広く行われる。紀元約三百二十一年から三百二十六年に至る。

1 さて、わたしモルモン[1]は、自分がこれまでに見聞きしたことを記録して[2]、これをモルモン書と呼ぶ。
2 アマロン[1]は数々の記録を主に託して隠したころ、わたしのところにやって来た。（当時わたしは十歳くらいで、わたしの民の教育方法に従ってかなり教育[2]を受け始めていた。）そして、アマロンはわたしに言った。「わたしはあなたがまじめな子供で、観察が鋭いことを知っている。
3 だから、あなたが二十四歳くらいになったら、この民についてあなたが見てきたことを思い出してもらいたい。そして、その年齢になったら、アンタムの地の、シム[1]と呼ばれる丘へ行きなさい。そこにわたしは、この民のことが刻まれているすべての神聖な記録を、主に託して隠してある。
4 見よ、あなたはニーファイの版[1]を取り出し、残りの版は今それがある場所にそのままにしておきなさい。そして、この民についてあなたが見てきたことをすべてニーファイの版に刻みなさい。」
5 わたしモルモン[1]はニーファイの子孫であり（わたしの父の名もモルモンであった）、わたしはアマロンから命じられたことを思い出した。
6 さて、わたしは十一歳のとき、父に連れられて南方の地、ゼラヘムラへ行った。
7 地の全面が建物でいっぱいであり、人々はまるで海の砂のように大勢であった。
8 さてこの年に、ニーファイ人とヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人から成るニーファイ人の間に戦争が始まった。この戦争は、ニーファイ人に対して、レーマン人とレムエル人とイシマエル人が戦ったものであった。
9 ところで、レーマン人とレムエル人、それにイシ

モルモン書
第1章
1 ① GS「モルモン（ニーファイ人の預言者）」
2 ① ② 3ニフ5・11−18
3 ① ② 4ニフ1・47−49
モサ1・3−5
4 ① エテ9・3
モ言1・1、11、GS「版」
5 ① 3ニフ5・12、20

マエル人はレーマン人と呼ばれていたので、この戦いはニーファイ人とレーマン人との間で行われたものであった。

10 さて、その戦争は、シドンの水のそばにあるゼラヘムラの境で始まった。

11 そしてニーファイ人は、三万人を越える大勢の兵を集めていた。この年に彼らは何度も戦い、ニーファイ人はレーマン人を打ち負かして、多くの者を殺した。

12 そこでレーマン人は彼らの企てを捨て、地は平和になった。そして、およそ四年間平和が続き、まったく流血がなかった。

13 しかし、悪事が全地の面に広がったので、主は御自分の[1]愛する弟子たちをよそに連れ去ってしまわれた。そして、民の罪悪のために、奇跡と癒しの業はやんだ。

14 また、民の悪事と[1]不信仰のために、主から何の[2]賜物も与えられず、[3]聖霊はだれにも降られなかった。

15 わたしは十五歳で、多少まじめな心の持ち主であったので、主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わって知った。

16 そこで、わたしはこの民に教えを説こうとしたが、わたしの口は閉じられ、彼らに教えを説くことを禁じられた。見よ、彼らが神に故意に[1]背いたからである。また、愛された弟子たちは、民の罪悪のためにその地からよそに連れ去られてしまった。

17 しかし、わたしは民の中に残った。それでも、彼らの心がかたくなであったので、彼らに教えを説くことは禁じられた。そして、彼らがかたくなであったので、地は彼らのために[1]のろわれた。

18 また、レーマン人の中にいたガデアントンの強盗たちが、この地を荒らし回ったので、この地に住む者たちは、自分たちの[1]宝を地中に隠すようになった。ところが、主がすでに地をのろっておられたので、彼らの宝はなくなりやすくなってしまい、彼らはそれらの宝を保つことも、再び所有することもできなくなった。

19 そして、魔術と魔法と呪術が行われ、悪しき者の力が地の全面に働いて、まことにアビナダイの言葉とレーマン人のサムエルの言葉がすべて事実となったのであった。

---

13 (1) 3ニフ 28・2、12
14 (1) GS「不信仰」
(2) モロ 10・8—18、24
(3) GS「聖霊」
16 (1) GS「背く」
17 (1) (2) モル 8・10
2ニフ 1・7、アル 45・10—14、16
18 (1) ヒラ 13・18—20、エテ 14・1—2

第2章

モルモン、ニーファイ人の軍隊を率いる。流血と虐殺が地に広がる。ニーファイ人、罰の定めを受ける者の苦しみを思い、嘆き悲しむ。ニーファイ人のための猶予の日は過ぎ去る。モルモン、ニーファイの版を取り出す。戦争が続く。紀元約三百二十七年から三百五十年に至る。

1 さて、その同じ年に、ニーファイ人とレーマン人の間で再び戦争が始まった。そして、わたしは若かったにもかかわらず、身の丈が高かったので、ニーファイの民はわたしを彼らの指揮官に任命した。

2 そこでわたしは、十六歳になる年に、ニーファイ人の軍隊を率いてレーマン人に向かって出て行った。当時、すでに三百二十六年が過ぎ去っていた。

3 さて、第三百二十七年に、レーマン人が非常に大きな力で攻めて来たので、わたしの軍隊は彼らにおびえて戦おうとせず、北の地方に向かって退却し始めた。

4 そして、わたしたちはアンゴラの町に着いて、その町を占領し、レーマン人に対して自衛する準備をした。わたしたちは力の限りその町の防備を固めた。しかし、わたしたちは防備を固めたにもかかわらず、レーマン人に攻められ、その町から追い出された。

5 わたしたちはまた、彼らによってダビデの地からも追い出された。

6 そこで、わたしたちは軍隊を進め、海岸に近い西の境にあるヨシュアの地に着いた。

7 そしてわたしたちは、自分たちの民を一団として集めることができるように、可能なかぎり速やかに民を集めた。

8 しかし見よ、地には強盗とレーマン人が満ちていた。また、ひどい滅亡がわたしの民に迫っていたにもかかわらず、わたしの民は、自分たちの邪悪な行いを悔い改めなかった。そのために、地の全面でニーファイ人とレーマン人の双方に流血と虐殺が広がった。それは地の全面に広がった一つの完全な変革であった。

9 さて、レーマン人には王がおり、その名をアロンといった。彼は四万四千人の軍隊を伴って、わたし

たちを攻めて来た。そこで見よ、わたしは、四万二
千人で彼らに立ち向かった。そして、自分の軍隊で
彼を打ち負かし、彼はわたしの前から逃げ出した。
そのようなことがあって、三百三十年が過ぎていっ
た。
10 さて、ニーファイ人は自分たちの罪悪を悔い改め
るようになり、預言者サムエルによって預言された
ように叫び始めた。その地に盗人と強盗と人殺しが
おり、また呪術と魔法が行われていて、見よ、だれ
も自分のものを保っておくことができなかったから
である。
11 その結果、これらのことのために全地に嘆きと悲
しみが起こった。しかも、特にニーファイの民の中
でそれがひどかった。
12 さて、わたしモルモンは、彼らの悲しみと嘆きと、
主の前での彼らの悲嘆ぶりを見ると、心の中で喜び
始めた。わたしは主の憐れみと寛容を知っていたの
で、主が彼らに憐れみをかけてくださり、彼らが再
び義にかなった民になるであろうと思ったからであ
る。
13 しかし見よ、わたしのこの喜びは無駄であった。
彼らの[1]悲しみは、神の慈しみを思って悔い改めに至
るものではなかった。それはむしろ、彼らに罪のあ
るままで[2]幸福になるのを主がいつでも許そうとなさ
らないことに対する悲しみであり、[3]罰の定めを受け
る者の悲しみと同じであった。
14 彼らは、打ち砕かれた[1]心と悔いる霊をもってイエ
スのもとに来ることをせずに、神を[2]のろい、死ぬこ
とを願った。それでも彼らは、自分の命を守るため
に剣で戦おうとした。
15 そこで、わたしの悲しみが再び戻ってきた。わた
しは、彼らのための[1]猶予の[2]日が、この世的にも霊的
にも[3]過ぎ去ってしまったことを知ったのである。わ
たしの民が、何千人も自分たちの神に公然と背いた
状態で切り倒され、糞のように地の面に積み上げ
られているのを見たからである。このようにして、
三百四十四年が過ぎ去った。
16 さて、ニーファイ人は第三百四十五年にレーマン
人の前から逃げ始め、追撃されて、とうとうジェシ
ョンの地に至った。レーマン人は、退却しているニ
ーファイ人をその地まで止めることができなかっ
た。

第2章
13 ① 2コリ7・10、アル42・29
② アル41・10
③ GS「罰の定め」
14 ① GS「打ち砕かれた心」
② GS「冒瀆・汚す罪」
15 ① GS「恵み」
② ヒラ13・38
③ エレ8・20、教義56・16

17 ところで、ジェションの町は、アマロンが主に託して数々の記録を隠して損なわれないようにした地の近くにあった。そこで見よ、わたしは、アマロンの言葉のとおりに行ってニーファイの版を取り出し、アマロンの言葉に従って記録した。

18 わたしはニーファイの版に、あらゆる悪事と忌わしい行いを残らず記録した。しかし、この版に[1]彼らのあらゆる悪事と忌まわしい行いを残らず記録することは控えた。それは見よ、わたしが人の道を十分に見られるようになって以来、いつも悪事と忌わしい行いがわたしの目の前に絶えなかったからである。

19 彼らの悪事のためにわたしは悲しい。彼らの悪事のために、わたしの心は日々いつも悲しみに満たされてきた。それでも、わたしは自分が終わりの日に高く上げられることを知っている。

20 さてこの年に、ニーファイ人は再び狩り出され、追われた。そして、わたしたちは北方へ、セムと呼ばれる地に着くまで追い立てられた。

21 そしてわたしたちは、セムの町の防備を固め、わたしたちの民を滅亡から救えるように、できるだけ大勢民を集めた。

22 さて、第三百四十六年に、レーマン人は再びわたしたちを攻め始めた。

23 そこでわたしは、自分の民に語り、レーマン人の前に断固として立ちはだかって自分たちの妻子と家と家庭を守るために戦うように、大いに力を込めて彼らに勧めた。

24 すると彼らは、わたしの言葉で多少奮い立ったので、レーマン人の前から逃げることなく、勇ましく彼らに立ち向かった。

25 そしてわたしたちは、三万人の軍隊で五万人の軍隊と戦い、彼らがわたしたちの前から逃げ出すほどにしっかりと彼らの前に立ちはだかった。

26 そして、彼らが逃げ出すと、わたしたちは軍隊を率いて追撃し、再び彼らと戦いを交えて、彼らを打ち負かした。それでも、主の力はわたしたちに伴っていなかった。主の御霊はわたしたちの内にとどまっておらず、自分の力に頼るしかなかったので、わたしたちはすでに同胞のように弱くなっていた。

27 わたしの民の受けたこの大きな災いと、また民の悪事と忌まわしい行いのために、わたしの心は悲し

17 ① モル 1・1—4
18 ① GS「版」
19 ① モサ 23・22、エテ 4・
19 モサ 20・11、アル 43・
23 ① 45

みに沈んだ。しかし見よ、わたしたちは、レーマン人とガデアントンの強盗たちに向かって出て行き、再びわたしたちの受け継ぎの地を取り返した。

28 第三百四十九年が過ぎ去った。第三百五十年に、わたしたちはレーマン人およびガデアントンの強盗たちと条約を結び、その条約によって分割された受け継ぎの地を得た。

29 レーマン人は北方の地を、南方の地に通じる地峡までわたしたちに譲り、わたしたちは南方の地をすべてレーマン人に譲った。

第3章

モルモン、ニーファイ人に悔い改めを叫ぶ。ニーファイ人、大勝利を収め、自分自身の強さを誇る。モルモン、民の指揮を執ることを断る。モルモン、祈りがかなえられるという信仰のないまま民のために祈る。『モルモン書』は、福音を信じるようにイスラエルの十二部族を招くものである。紀元約三百六十年から三百六十二年に至る。

1 さて、レーマン人は再び攻めて来ることなく十年が過ぎ去った。見よ、その間に、わたしは自分の民、ニーファイ人を使い、戦いのときのために土地と武器を備えさせた。

2 そして、主はわたしに言われた。「この民に、『悔い改めてわたしのもとに来てバプテスマを受け、わたしの教会を再建しなさい。そうすれば、あなたがたは救われる』と宣言しなさい。」

3 そこでわたしはこの民に宣言したが、無駄であった。これまで彼らの命を助け、彼らに悔い改めの機会を与えてこられたのが主であることを、彼らは悟っていなかった。そして見よ、彼らは主なる神に対して心をかたくなにした。

4 さて、この十年目が過ぎ去り、キリストの来臨から数えて三百六十年目になると、レーマン人の王がわたしに手紙を送ってきた。そして、彼らが再びわたしたちを攻める準備をしていることを知らせてきた。

5 そこでわたしは、自分の民をデソレーションの地に、すなわち南方の地に通じる地峡のそばの境の地にある町に集めた。

6 わたしたちはまた、レーマン人の軍隊を阻止し、

わたしたちの土地を少しも占領させないように、軍隊を配置した。そのように、わたしたちは総力を挙げて彼らに対する防備を固めた。

7 さて、第三百六十一年に、レーマン人はわたしたちと戦うためにデソレションの町に下って来た。しかしその年に、わたしたちは彼らを打ち負かしたので、彼らは自分たちの土地へ引き返した。

8 第三百六十二年に、彼らは戦うためにまた下って来たが、わたしたちはまた彼らを打ち負かして大勢を殺した。そして、彼らの死体は海に投げ込まれた。

9 ところが、わたしの民ニーファイ人は、このような大きな戦果を得たため、自分たちの力を誇るようになるとともに、また敵に殺された同胞の血の報復をすると天の前に誓い始めた。

10 彼らは敵と戦うために[1]上って行って、地の面から敵を絶つと、天にかけて、また神の御座にかけて誓った。

11 そこでわたしモルモンは、この民の悪事と忌まわしい行いのために、彼らの司令官となり指揮官となることを、このとき以来きっぱりと断るようにした。

12 見よ、わたしはこれまで彼らを導いてきた。彼らの悪事があったにもかかわらず、わたしは何度も彼らを率いて戦い、またわたしの内にある神の[1]愛によって、心を尽くして彼らを愛してきた。また、彼らのために終日心を注ぎ出して神に祈った。それでも、彼らの心がかたくなであったので、祈りがかなえられるという[2]信仰はわたしになかった。

13 わたしはこれまで三度、民を敵の手から救い出したが、彼らは自分たちの罪を悔い改めなかった。

14 そして彼らが、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストによって[1]禁じられていた、すべてのものにかけて、自分たちは敵のところに上って行って戦い、同胞の血の報復をすると誓ったとき、見よ、主の声がわたしに聞こえてこう言われた。

15 「[1]報復はわたしのすることである。わたしが[2]報復する。この民はわたしによって救い出された後に悔い改めなかったので、見よ、地の面から絶たれる。」

16 さて、わたしは敵に向かって上って行くことをきっぱりと断り、主から命じられたとおりにした。わたしは、将来起こることについて証をされた御霊の示しのとおりに、自分が見聞きしたことを世の人々

第3章
9①② 2ニフ4・34
10① 3ニフ3・20−21、モル4・4
12① GS「愛」
②モル5・2
14① 3ニフ12・34−37
②GS「報復」
15① 教義82・23

に明らかにする証人になった。

17 したがって、異邦人[1]よ、わたしはあなたがたに書き伝える。また、イスラエルの家よ、あなたがたが自分の受け継ぎの地に帰る用意をする、その業が始まるときに読めるように、あなたがたにも書き伝える。

18 まことに見よ、わたしは地の果てに至るすべての人に書き伝える。イエスがエルサレムの地で御自分の弟子となるように選ばれた十二人から、自分の行いに応じて裁き[1]を受けるイスラエルの十二部族よ、あなたがたにも書き伝える。

19 わたしはまた、この地でイエスが選ばれた十二人[1]から同じく裁きを受ける、この民の残りの者にも書き伝える。この十二人は、イエスがエルサレムの地で選ばれた、別の十二人から裁きを受けるであろう。

20 これらのことは、御霊がわたしに示してくださった。そこで、わたしはあなたがた全員に書き伝える。わたしがあなたがたに書き伝えるのは、あなたがた全員が、まことにアダムの全人類[1]家族に属するすべての人が、キリストの裁き[2]の座の前に立たなければならないこと、あなたがたの行いが善いか悪いか、自分の行いについて裁かれるために立たなければならないことを、あなたがたに知らせるためであり、

21 また、将来あなたがたの中にあるイエス・キリストの福音を、あなたがたに信じさせるためであり、また、主の聖約の民であるユダヤ人[2]に、彼らがかつて殺したイエスがまことのキリスト[3]であり、まことの神であられることを知らせることになっている、彼らの見聞きした証人以外の別の証人[4]を与えるためである。

22 わたしは地の果てに至るすべての人[1]に、悔い改めてキリストの裁きの座に立つ備えをするように説き勧めることができればと願っている。

第 4 章

戦争と虐殺が続く。悪人が悪人を罰する。これまでイスラエル全体のどこにもなかったひどい悪事が広がる。女子供が偶像のいけにえにされる。レーマン人、ニーファイ人を一掃し始める。紀元約三百六十三年から三百七十五年に至る。

---

17 ① 2ニフ 30・3—8、3ニフ 29・1
18 ① マタ 19・28、ルカ 22・29—30、教義 29・12
19 ① 1ニフ 12・9—10
20 ① 教義 27・11
21 ① GS「最後の裁き」
② 教義 3・20
③ GS「ユダヤ人」
④ 2ニフ 26・12、モサ 7・27
22 ① 2ニフ 25・18、アル 29・1

1さて、第三百六十三年に、ニーファイ人はレーマン人と戦うために、デソレションの地から彼らの軍隊とともに上って行った。

2さて、ニーファイ人の軍隊はデソレションの地に追い返された。そして、彼らがまだ疲れているうちに、レーマン人の新手の軍隊が彼らを攻めた。そして、激しい戦いがあって、レーマン人がデソレションの町を占領し、多くのニーファイ人を殺し、多くの者を捕虜にした。

3残りの者は逃げて、テアンクムの町に住む者たちに合流した。テアンクムの町は海岸に近い境の地にあり、デソレションの町にも近かった。

4ニーファイ人が討たれ始めたのは、彼らの軍隊がレーマン人のところに[1]上って行ったためである。もしそのようにしなければ、レーマン人はニーファイ人を支配する権力を持てなかったであろう。

5しかし見よ、神の裁きは悪人に下る。そして、悪人によって悪人が[1]罰せられる。人の子らの心をあおり立てて流血を生じさせるのは悪人だからである。

6さて、レーマン人はテアンクムの町を攻める準備を整え、

7そして、第三百六十四年に、テアンクムの町も占領しようとして、テアンクムの町を攻めた。

8さて、彼らはニーファイ人によって撃退され、追い返された。するとニーファイ人は、自分たちがレーマン人を追い払ったのを見て、またもや自分たちの力を誇った。そして彼らは、自分の力だけに頼って出て行き、デソレションの町をもう一度取り返した。

9さて、このようなことが終わってみると、双方で、すなわち、ニーファイ人とレーマン人の両方で何千もの人々が戦死していた。

10さて、第三百六十六年が過ぎ去り、レーマン人がまたニーファイ人と戦うためにやって来た。それでもニーファイ人は、自分たちの行ってきた悪事を悔い改めず、絶えず悪事を続けていた。

11ニーファイ人とレーマン人の双方の民の中に見られた、流血と虐殺のすさまじい有様は、口で述べることができず、人がそれを完全に描写して書き記すことも不可能である。彼らは一人残らず心をかたくなにし、血を流すことを絶えず喜びとした。

12この民の中にあったようなひどい[1]悪事は、リーハ

第4章
4:1 モル3:10
5:1 教義63:33
12:1 創世6:5、3ニフ9:9

イのすべての子孫の中に、また主の言葉によれば、イスラエルの家に属するすべての者の中にも、これまで決してなかった。
13 そして、レーマン人はデソレションの町を占領した。これができたのは、彼らの[1]人数がニーファイ人の人数よりも多かったからである。
14 そして彼らは、さらにテアンクムの町に向かって進軍し、その町から民を追い払い、女子供を大勢捕虜にし、自分たちの[1]偶像の神にいけにえとしてささげた。
15 さて、第三百六十七年に、ニーファイ人はレーマン人が自分たちの女子供をいけにえにしたことに腹を立て、非常に激怒してレーマン人に向かって行ったので、またもやレーマン人を打ち負かし、彼らを自分たちの土地から追い出した。
16 その後、第三百七十五年まで、レーマン人は再びニーファイ人を攻めて来ることはなかった。
17 しかしこの年に、彼らは全軍でニーファイ人に向かって攻め下って来た。彼らの人数はあまりにも多くて、数えられなかった。
18 [1]このとき以来、ニーファイ人はレーマン人に勝つ力を得られず、朝日に露が消えるようにレーマン人によって一掃され始めた。
19 そしてレーマン人は、デソレションの町に攻め下って来た。そして、デソレションの地で非常に激しい戦いがあり、その戦いでレーマン人がニーファイ人を打ち負かした。
20 そこでニーファイ人は、レーマン人の前からまた逃げ出し、ボアズの町に至った。そして、彼らはそこで非常に勇ましくレーマン人に立ち向かったので、レーマン人は二度目の攻撃をかけるまでニーファイ人を打ち負かせなかった。
21 そして、レーマン人が二度目に攻め寄せたとき、ニーファイ人は追い払われ、非常に大勢の者が殺された。さらにニーファイ人の女子供が、また偶像のいけにえにされた。
22 そこでニーファイ人は、彼らの前からまた逃げ、方々の町や村のすべての民を一緒に伴って行った。
23 わたしモルモンは、レーマン人がまさに全土を征服しようとしているのを見て、[1]シムの丘へ行き、アマロンが主に託して隠しておいたすべての記録を取り出した。

13① モル5・6
14① GS「偶像礼拝」
18① モル3・3
23① モル1・3

第5章

モルモン、再びニーファイ人の軍隊を率いて流血と虐殺の戦いに出る。イエスがキリストであることを全イスラエルに確信させるために、将来『モルモン書』が出る。不信仰のため、レーマン人は散らされ、御霊は彼らを励ますのをやめる。レーマン人は末日に異邦人から福音を受ける。紀元約三百七十五年から三百八十四年に至る。

1 さて、わたしはニーファイ人の中に出て行き、彼らをもう助けないと以前に誓った誓いを取り消した。すると彼らは、わたしなら自分たちを苦難から救い出せるであろうと考え、わたしにもう一度ニーファイ人の軍の指揮権を与えた。

2 しかし見よ、わたしは主の裁きが彼らに下ることを知っていたので、望みを持っていなかった。彼らが自分たちの罪悪を悔い改めず、自分たちを造られた御方に請い願うことなく、ただ自分たちの命のために戦っていたからである。

3 さて、わたしたちがヨルダンの町に逃げていたので、レーマン人はわたしたちを攻めた。しかし見よ、彼らは撃退され、そのときにはその町を奪えなかった。

4 そして、彼らはまたわたしたちを攻めたが、わたしたちはその町を守り通した。ほかにもニーファイ人が守り通した町が幾つもあり、レーマン人はそれらの町のとりでに遮られて、わたしたちの先にある地方に入って行って、わたしたちの国の民を滅ぼすことができなかった。

5 しかし、わたしたちが素通りしてきた土地と、わたしたちが集めなかった土地に住む者たちは、すべてレーマン人によって滅ぼされ、彼らの集落や村や町は火で焼かれた。このようにして、三百七十九年が過ぎ去った。

6 そして第三百八十年に、レーマン人がまた攻め寄せて来たので、わたしたちは勇ましく彼らに立ち向かった。しかし、それはまったく無駄であった。彼らは人数が非常に多く、ニーファイ人の民を足で踏みにじったからである。

7 そこで、わたしたちはまた逃げた。そして、逃げ足がレーマン人の追撃よりも速かった者は逃れ、レーマン人より速くなかった者は襲われて殺された。

第5章
1① モル3・11
2① モル3・12

8 さて見よ、わたしモルモンは、自分の目で見たこのような流血と虐殺の恐ろしい光景を人々の前に持ち出して、人々をひどく苦しめたいとは思わない。しかしわたしは、これらのことが将来必ず知らされ、現在隠されているすべてのことが将来屋根の上で明らかにされることを知っており、

9 またこれらのことが、将来これらの民の残りの者と異邦人に知らされることも知っている。主は、異邦人がこの民を散らし、この民が彼らの中で価値のない者と見なされるようになると言われた。わたしは以上のことを知っているので、あえて自分がこれまで見てきたことを全部は記録せず、小さな短くまとめた記録を書き記している。それは、そのように命じられたからであり、またあなたがたが、この民の悪事のことであまりひどく嘆くことのないようにするためである。

10 さて見よ、わたしはこのことをこの民の子孫と、また異邦人に、すなわち、イスラエルの家を心にかけ、自分たちの祝福がどこから来るかをはっきり自覚して知っている異邦人に述べる。

11 わたしは、このような人々がイスラエルの家の災いについて嘆くことを知っているからである。まことに、彼らはこの民の滅亡を嘆き、また、この民が悔い改めをしなかったためにイエスの腕の中にしっかり抱き締められることがなかったことを嘆くであろう。

12 わたしは、これらのことをヤコブの家の残りの者に書き伝える。これらのことをこのように書き伝えるのは、邪悪な者がこれらの記録を伝えることはないと、神から知らされているからである。そこで、これらのことが主御自身がふさわしいと思われるときに伝わるように、主に託してこれを隠しておかなければならない。

13 これがわたしの受けた命令である。そして見よ、これらのことは、主が御自分の知恵でふさわしいと見なされるときに、主の命令どおりに伝わるであろう。

14 そして見よ、これらのことは、ユダヤ人の中の信仰のない者に伝わる。これらのことが伝わる目的は、彼らにイエスが生ける神の御子キリストであられることを信じさせることである。また、ユダヤ人、さらに正確に言えば、イスラエルの家に属するすべ

8 ①ルカ12・2—3、2ニフ27・11、教義1・3
9 ①4ニフ1・49 ②3ニフ16・8 ③モル1・1
12 ①エノ1・16、ヒラ15・11—13、GS「モルモン書」 ②教義3・16—20 ③モル8・4、13—14、モロ10・1—2
14 ①2ニフ29・13、30・7—8、GS「ユダヤ人」 ②2ニフ25・16—17

ての者を、主なる彼らの神がお与えになった受け継ぎの地に連れ戻すという、あの御父の偉大な永遠の目的が、御父のこの上なく愛する御子を通じて成し遂げられ、御父の聖約[3]が果たされるようにすることである。

15 またこの民[1]の子孫に、異邦人から伝わる[2]主の福音をさらによく信じさせることである。この民はこの後散らされて[3]、これまでわたしたちの中になかったほど、すなわちかつてレーマン人の中になかったほど、肌[4]の黒ずんだ、汚らしい、不快な民になる。これは彼らの不信仰と偶像礼拝のためである。

16 見よ、主の御霊は、すでにこれらの者たちの先祖を励ます[1]のをやめてしまった。そして彼らは、この世の中でキリストも神もなく生きており、風に吹かれるもみ殻[2]のようにあちらこちらに追いやられている。

17 彼らはかつて喜ばしい民であって、キリストを自分たちの羊飼い[1]とし、まことに、父なる神からも導かれていた。

18 ところが見よ、彼らは今、サタンによってあちらこちらに誘[1]われている。まるでもみ殻が風に吹かれているようであり、また船が帆や錨のないまま、あるいは舵を取る手段のないまま波間に漂っているようである。彼らは、ちょうどその船のようである。

19 見よ、主は、彼らがこの地で受けることのできた祝福を、将来この地を所有する異邦人[1]のために残しておられる。

20 しかし見よ、将来この民は異邦人に追われ、散らされるであろう。そして、彼らが異邦人に追われ、散らされた後、見よ、主はアブラハムとイスラエルの家に属するすべての者に立てられた聖約[1]を思い出されるであろう。

21 また主は、彼らのためにささげられた義人の祈り[1]も思い出されるであろう。

22 おお、異邦人よ、あなたがたは悔い改めて悪の道から離れなければ、どうして神の力の前に立てるであろうか。

23 あなたがたは自分が神の手の内にあるのを知らないのか。あなたがたは神が一切の権威を持っておられることと、神の大いなる命令[1]で将来大地が巻き物のように巻[2]かれることを知らないのか。

24 だからあなたがたは、悔い改めて神の前にへりく

---

15 ① 3ニフ29・1—3
② 3ニフ21・3—7、24—26
16 ① 1ニフ13・20—29、38、モル7・8—9
② 3ニフ16・8
③ 1ニフ10・12—14、2ニフ26・33
④ エテ2・15
17 ① 詩篇1・4
② GS「良い羊飼い」
18 ① 2ニフ28・21
19 ① 3ニフ20・27—28
20 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
② 3ニフ16・8—12
21 ① エノ1・12—18、モル9・36—37
② ヒラ12・8—17
23 ① 3ニフ26・3
② 3ニフ29・1—3
24 ① 3ニフ21・3—7、24—26
② 1ニフ13・20—29、38、モル7・8—9
③ 1ニフ10・12—14、3ニフ16・8
④ 2ニフ26・33

だりなさい。さもなければ、神はあなたがたに罰を下される。すなわち、ヤコブの子孫の残りの者が、ライオン[1]のようにあなたがたの中に出て行って、あなたがたを引き裂くであろう。そして、救う者はだれもいない。

第6章

ニーファイ人、最後の戦いのためにクモラの地に集まる。モルモン、神聖な記録をクモラの丘に隠す。レーマン人が勝利を収め、ニーファイ人の国は滅亡する。数十万人が剣で殺される。紀元約三百八十五年。

1 さて、これでわたしの民、ニーファイ人の滅亡[1]についてのわたしの記録を終わりにする。わたしたちは、レーマン人の前に進軍した。

2 そして、わたしモルモンは、レーマン人の王に手紙を書いて、クモラと呼ばれる丘に近い[1]クモラの地に民を集め、そこでレーマン人と戦えるようにするのを認めてほしいと頼んだ。

3 そこで、レーマン人の王はわたしが求めたことを認めてくれた。

4 そこで、わたしたちはクモラの地に進軍し、クモラの丘の周りに天幕を張った。その丘は多くの水と川、泉のある地にあった。わたしたちはここで、レーマン人に対して優位に立てることを期待した。

5 三百八十四年が過ぎ去ったとき、わたしたちは民の残っている者を全員クモラの地に集め終えていた。

6 そして、わたしたちが民を全員一団としてクモラの地に集め終えたとき、見よ、わたしモルモンは老いが進んでいた。わたしは、これが自分の民の最後の戦闘であることを知っており、また、先祖から伝えられてきた神聖な記録をレーマン人の手に渡してはならないと主から命じられていたので（レーマン人はそれらの記録を損なうからである）、わたしはニーファイの版からこの記録[1]を作り、主の手によってわたしに託されたすべての記録をクモラの丘[2]に隠した。そして、[3]このわずかな版だけを息子モロナイ[4]に渡す。

7 さて、わたしの民は妻子たちとともに、レーマン人の軍隊[1]がこちらに向かって進んで来るのを見た。そして、すべての悪人の胸に満ちているあのひどく

---

24 ①ミカ5・8、3ニフ20・15—16

第6章

1 ①1ニフ12・19、ジェロ1・10、アル45・9—14、ヒラ13・5—11

2 ①エテ9・3

6 ①GS「版」

②エテ15・11

③モ言1・2

④モル8・1

7 ①1ニフ12・15

死を恐れる気持ちをもって、レーマン人を迎え撃とうと待ち受けた。

8 そして、レーマン人がわたしたちに攻めかかって来た。すると、レーマン人がおびただしい人数であったので、わたしの民は一人残らず恐れでいっぱいになった。

9 そしてレーマン人は、剣と弓、矢、斧、そのほかあらゆる武器でわたしの民に襲いかかった。

10 そこでわたしの民、すなわちわたしとともにいた一万人の者が切り倒され、わたしも負傷してその中に倒れた。すると、レーマン人はわたしを殺さず、わたしのそばを通り過ぎて行った。

11 彼らは通り過ぎて、わたしたちの中の二十四人（この中にはわたしの息子モロナイもいた）を除くわたしの民をことごとく切り倒した。そこで、レーマン人が彼らの宿営に引き揚げた翌日、生き延びたわたしたちがクモラの丘の頂上から、わたしの民の死んだ者たちを見たところ、わたしが率いて指揮を執っていた一万人が切り倒されているのが見えた。

12 また、息子モロナイが指揮を執っていた一万人も見えた。

13 また見よ、ギドギドーナの一万人が倒れており、ギドギドーナもその中に倒れていた。

14 また、レーマも彼の一万人とともに倒れており、ギルガルも彼の一万人とともに倒れており、リムハも彼の一万人とともに倒れており、ジェニウムも彼の一万人とともに倒れており、クメナイハとモロナイハ、アンテオヌム、シブロム、セム、ヨシもそれぞれの一万人とともに倒れていた。

15 そしてほかにも、十人の者とそれぞれの一万人が剣で倒れていた。まことに、わたしの民は、わたしとともにいた二十四人と、南の地方へ逃げて行った少数の者と、レーマン人のもとへ脱走した少数の者を除いて、[1]全員が倒れていた。そして、彼らの肉と骨と血は、彼らを殺した者の手によってそのまま放置されて地の面にあり、地上で朽ち、また朽ち果てて母なる大地に返るに任された。

16 わたしの心は、わたしの民の殺された者たちのことで苦しみのあまり張り裂けてしまいそうになり、わたしは叫んだ。

17 「おお、麗しい者たちよ、あなたがたはどうして

11 ①1ニフ12・19−20、ヒラ15・17
15 ①アル9・24

主の道から離れてしまったのか。おお、麗しい者たちよ、あなたがたは両腕を広げて立ってあなたがたを受け入れようとしておられた、あのイエスをどうして拒んだのか。

18 見よ、あなたがたはそのようにしなければ、倒れなかったであろうに。しかし見よ、あなたがたはもう倒れてしまい、わたしはあなたがたを失ったことを嘆き悲しんでいる。

19 おお、麗しい息子と娘よ、父と母よ、夫と妻よ、麗しい者たちよ、あなたがたはどうして倒れたのか。

20 しかし見よ、あなたがたはもう去ってしまい、わたしが悲しんでも、あなたがたを連れ戻すことはできない。

21 あなたがたの死すべき体が不死のものを着て、今朽ちつつあるこれらの体が朽ちない[1]体になる日がもうすぐ来る。そのときあなたがたは、行いに応じて裁かれるために、キリストの裁きの座の前に立たなければならない。そして、もしあなたがたが義にかなっていれば、あなたがたはあなたがたよりも前に世を去った先祖とともに祝福を受けるのである。

22 おお、あなたがたは、この大きな滅亡が及ぶ前に悔い改めておけばよかったものを。しかし見よ、あなたがたはもう去ってしまった。御父は、まことに天の永遠の御父は、あなたがたの状態を御存じであり、御自分の[1]公正と[2]憐れみによってあなたがたを扱われるであろう。」

第7章

モルモン、末日のレーマン人に、キリストを信じ、キリストの福音を受け入れて救われるように勧める。『聖書』を信じる者はすべて、『モルモン書』も信じるであろう。紀元約三百八十五年。

1 さて見よ、わたしは命を助けられているこの民の[1]残りの者に、もしも神がわたしの言葉を彼らに伝えてくださるならば、彼らが自分たちの先祖のことについて知ることができるように、少々述べたい。イスラエルの家の残りの者よ、わたしはあなたがたに述べる。わたしが告げる言葉は次のとおりである。

2 あなたがたは、自分が[1]イスラエルの家に属していることを知りなさい。

---

21 ① 1コリ15・53—54
22 ① GS「正義」
② GS「憐れみ」
第7章
1 ① ヒラ15・11—13
2 ① アル10・3

3 あなたがたは、悔い改めなければ救われないことを知りなさい。

4 武器を捨て、もはや血を流すことを喜びとせず、神から命じられるのでなければ、二度と武器を取ってはならないことを知りなさい。

5 先祖について知り、[1]すべての罪と不義を悔い改め、[2]イエス・キリストを信じなければならないことを知りなさい。イエス・キリストは神の御子であり、またイエス・キリストはユダヤ人によって殺され、御父の力によって再びよみがえって墓に対して[3]勝利を得られた。そして、死のとげはイエス・キリストにのまれてしまった。

6 そして、イエス・キリストは死者の[1]復活をもたらされる。したがって、人はよみがえってイエス・キリストの[2]裁きの座の前に立たなければならない。

7 そして、イエス・キリストは世の贖いをもたらされた。そのため、裁きの日にイエス・キリストの前に[2]罪がないと認められる者は、神の王国で神の前に住み、天の[3]聖歌隊とともに、[4]一つの神である御父と御子と聖霊に、絶え間ない賛美の歌を歌うことを許され、決して終わりのない[5]幸福な状態にいることができる。

8 だから、悔い改め、イエスの名によってバプテスマを受け、キリストの[1]福音を手にしなさい。キリストの福音はこの記録だけでなく、[2]ユダヤ人から異邦人に伝わり、異邦人からあなたがたに伝わる[3]記録によってもあなたがたに知らされるであろう。

9 見よ、[1]この記録を書き記しているのは、ユダヤ人から伝わる記録をあなたがたに[2]信じさせるためである。また、あなたがたはそれを信じるならば、これも信じるであろう。そして、もしこれを信じるならば、あなたがたの先祖について知り、また先祖の中で神の力によって行われた驚くべき業についても知るようになるであろう。

10 またあなたがたは、自分がヤコブの子孫の残りの者であり、そのために最初の聖約の民の中に数えられるということも知るようになるであろう。もしあなたがたがキリストを信じて、わたしたちの救い主の[1]模範に従って、救い主がわたしたちに命じられたとおりにまず水でバプテスマを受け、次に火と聖霊によってバプテスマを受けるならば、あなたがたは裁きの日に幸いを得るであろう。アーメン。

---

5 ①②2ニフ3・12 GS「信仰」「信じる」 ③イザ25・8、モサ16・7—8
6 ①GS「復活」 ②GS「イエス・キリスト—裁き」「最後の裁き」
7 ①GS「贖い・贖う」 ②GS「義認・義とされる」 ③1ニフ10・21、教義76・62、モセ6・57 ④モサ2・28 ⑤教義20・28、GS「神・神会」
8 ①⑥GS「喜び」 ②2ニフ29・4—13 ③1ニフ13・38 ④GS「聖書」 9 ①GS「モルモン書」 ②1ニフ13・38—41 10 ①2ニフ31・5—9

第8章

レーマン人、ニーファイ人を捜し出して殺す。『モルモン書』は将来神の力によって出る。主の業に対して怒りと争いの言葉を吐く者に宣言された数々の災い。ニーファイ人の記録は、悪事と退廃と背教の時代に出る。紀元約四百年から四百二十一年に至る。

1 見よ、わたしモロナイ[1]は父モルモンの記録[2]を書き上げる。見よ、わたしが書く事柄はわずかであり、それは父から指示されたものである。

2 さて、クモラでの大規模[1]ですさまじい戦いの後、見よ、南方の地方に逃げていたニーファイ人は、レーマン人によって狩り出され、とうとう全員殺されてしまった。[2]

3 わたしの父も彼らに殺された。そして、わたしだけが一人[1]生き残り、わたしの民の滅亡の悲話を書き記すことになった。見よ、わたしの民はもう世を去ってしまったので、わたしは父から命じられたことを果たす。わたしはこの後レーマン人に殺されるかどうか分からない。

4 そこでわたしは、記録を書き記して、地の中に隠そう。そうすれば、わたしはどこへ行こうとかまわない。

5 見よ、父はこの記録[1]を作り、この記録の目的を書いた。そしてまことに、わたしも版[2]に余地があればそれを書きたいが、その余地はない。また、あらがねもない。わたしは孤独である。わたしの父は戦いで殺され、親族も全員殺されてしまった。わたしには友もなく、行く所もない。また、主がわたしをいつまで生かしてくださるか、わたしには分からない。

6 見よ、わたしたちの主、救い主の来臨から四百年[1]が過ぎ去った。

7 また見よ、レーマン人は、わたしの民ニーファイ人を町から町へ、地方から地方へと追い詰めて、とうとうニーファイ人は一人[1]もいなくなった。その滅亡はひどかった。まことに、わたしの民ニーファイ人の滅亡は、ひどく驚くべきものである。

8 そして見よ、それを行われたのは主の手である。また見よ、レーマン人も互いに戦い合っていて、この地の全面が殺人と流血の絶えない有様を見せており、だれも戦争の終わる日を知らない。

9 さて見よ、わたしはもうニーファイ人のことにつ

第8章
1 (1) GS「モロナイ（モルモンの息子）」
(2) GS「版」
2 (1) モル6・2—15
(2) 教義3・18
3 (1) モロ9・22
(2) モル2・17—18
5 (1) モル6・6
(2) モル6・6
6 (1) アル45・10
7 (1) 1ニフ12・2—3
8 (1) 1ニフ12・20—23

いて述べない。地の面にいるのはレーマン人と強盗[1]だけで、ほかにはだれもいないからである。

10 イエスの弟子[1]たちのほかに、まことの神を知っている者はだれもいない。イエスの弟子たちは民の悪事がひどくなるまではこの地に住んでいたが、悪事が非常にひどくなったので、主は彼らが民[2]とともにいることをお許しにならなかった。彼らが今この地の面にいるかどうか、だれも知らない。

11 しかし見よ、父とわたしはかつて彼らに会い、彼らはわたしたちを教え導いてくれた。

12 この記録を受け入れ、この中に不完全なところがあるからといって非難したりしない者は、これらのことよりも大いなる[1]ことを知るであろう。見よ、わたしはモロナイである。できれば、わたしはあなたがたにすべての事柄を知らせたい。

13 見よ、これでこの民について述べるのを終える。わたしはモルモンの息子であり、わたしの父はニーファイの子孫[1]であった。

14 わたしは、主に託してこの記録を隠す[1]者である。この記録の版は、主の命令があるので、金銭上の価値はまったくない。利益[2]を得るためにこの記録の版を所有する者はだれもいないと、主が実際に言っておられるからである。しかし、この版の記録は非常に価値がある。これを明るみに出す者に、主は祝福を授けられるであろう。

15 これを明るみに出す力は、神から与えられるのでなければ、だれも持つことができない。神は、神の栄光にひたすら目を向けながらこれを明るみに出すように、あるいは長い間散らされている昔の主の聖約の民の幸いのためにこれを行うように望んでおられる。

16 この記録を明るみに出す[1]者は幸いである。神の言葉のとおりに、これは暗闇から[2]明るみに出される。まことに、これは地から出され、暗闇から輝き出て、民に知られるようになる。それは神の力によって行われる。

17 もし誤り[1]があるとすれば、それは人の誤りである。しかし見よ、わたしたちはまったく誤りを見いださない。それでも、神はすべてのことを御存じであるので、非難[2]する者は、地獄の火に投げ込まれる恐れのないように用心しなければならない。

18 「わたしに見せよ。さもなければ、おまえを打つ」

---

9 (1) モル2・8
10 (1) 3ニフ28・7、エテ12・17、GS「三人の弟子(ニーファイ人の)」
11 (1) (2) モル1・16
12 (1) (1) 3ニフ28・24—26
13 (1) (1) 3ニフ26・6—11
14 (1) (1) 3ニフ5・20
15 (1) (2) モロ10・1—2
16 (1) (1) 歴史1・46
17 (1) (2) 教義4・5、2ニフ3・6—7、11、13—14
27・29 (1) イザ29・18、2ニフ
12・23—28 (2) モル9・31、33、エテ
4・8 (2) 3ニフ29・5、エテ

と言う者は、主から禁じられていることを命じないように気をつけなければならない。

19それは見よ、軽率に裁く者は同じように軽率に裁かれ、人の報いは当人の行いに応じるものだからである。したがって、打つ者は同じように主から打たれるであろう。

20見よ、『人は打ってはならないし、裁いてもならない。裁きはわたしのすることである。報復もわたしのすることである。わたしが仕返しをする』と、主が言われる」と、聖文は述べている。

21主の業に対して、またイスラエルの家である主の聖約の民に対して、怒りと争いの言葉を吐き、「主の業を絶やそう。主はイスラエルの家に立てた聖約を思い出しはしない」と言う者は、切り倒されて火の中に投げ込まれる恐れがある。

22主のすべての約束が果たされるまで、主の永遠の目的は続くからである。

23イザヤの預言を調べなさい。見よ、わたしはそれを書き記すことはできないが、まことに見よ、あなたがたに言っておく。この地を所有していて、わたしよりも前に世を去った聖徒たちは叫ぶ。まことに、彼らは地から主に叫ぶ。そして、主が生きておられるように確かに、主は彼らと交わした聖約を思い出されるであろう。

24主は、同胞のためにささげられた聖徒たちの祈りを御存じである。また主は、彼らの信仰も御存じである。彼らは、主の名によって山々を移すことができた。彼らは、主の名によって地を揺り動かすこともできた。また、主の言葉の力によって牢を地に倒した。まことに、主の言葉の力のために、火の燃える炉も彼らを害することができず、猛獣も毒蛇も危害を加えることができなかった。

25また見よ、彼らの祈りは、将来これらのものを世に出すことを主から許される者のためにもささげられた。

26だれも、これらのものは出て来ることはないと言ってはならない。主が言われたので、これらのものは必ず出て来るからである。これらのものは主の手によって地から出て来る。だれもそれを妨げることはできない。それは、奇跡がやんでしまったと言われる時代に出て来る。あたかも人が死者の中から語るかのようにそれは出て来る。

19 ①JSマタ7・1—2、ニフ14・1—2、モロ7・14
22 ①教義3・3
23 ①3ニフ20・11、23・1
24 ①②3・19—20、26・16、イザ29・4、2ニフ9・36、教義10・46
②ヤコ4・6、ヒラ10・9
25 ①②③アル14・27—29、モル5・21、イザ29・4、2ニフ26
①33・13、モル9・15—26、モロ7・27—29、33—37
②2ニフ26・15—16、モル9・30、モロ10・27

27 聖徒たちの血[1]が秘密結社[2]と闇の業のことで主に叫
んで訴える時代に、それは出て来る。
28 まことに、神の力が否定され、もろもろの教会[1]が
汚れたものとなり、教会の者たちが高慢な心で高ぶ
る時代に、それは出て来る。まことに、教会の指導
者たちと教師たちが心を高慢にして、彼らの教会に
属する者たちさえねたみの目で見るようになる時代
に、それは出て来る。
29 まことに、ほかの国々の火と暴風雨と立ち込める[1]
煙のことを伝え[2]聞く時代に、それは現れ出る。
30 またそのとき、様々な地における戦争[1]と戦争のう
わさと地震のことも伝え聞くであろう。
31 まことに、地の面にひどい汚れがあり、殺人と強
盗と偽りと欺きとみだらな行いとあらゆる忌まわし
い行いがある時代に、また、「これを行え。あれを行
え。それをしてもかまわない[1]。主は終わりの日に弁[2]
護してくださる」と言う者が多くいる時代に、それ
は出て来る。しかし、このように言う者は災いであ
る。彼らは苦汁[3]の中におり、罪悪の縄目を受けてい
るからである。
32 まことに、「わたしのところに来なさい。金銭と
引き換えにあなたがたの罪は赦される」と言う教会
が設けられている時代に、それは出て来る。
33 おお、邪悪でよこしまで強情な民よ、なぜあなた
がたは利益[1]を得ようとして自分自身のために教会を
設けたのか。なぜあなたがたは神の聖なる言葉を変[2]
えて、自分に罰[3]の定めを招くようにしたのか。見よ、
神の啓示に頼りなさい。見よ、これらのことがすべ
て必ず成就する時が、その時代に来るからである。
34 見よ、これらのことがあなたがたの中に起こるそ
の時代に、間もなく必ず出て来るものについて、主
は大いなる驚くべきことをわたしに示してくださっ
た。
35 見よ、わたしはあなたがたがここにいるかのよう
に語っているが、あなたがたはまだこの世にいな
い。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあな
たがたを見せてくださったので、わたしはあなたが
たが行うことを知っている。
36 わたしは、あなたがたが心を高慢にして歩[1]くこと
を知っている。心を高慢にして高[2]ぶることをしない
者はわずかしかいない。高慢な者は、非常[3]に華やか
な衣服を着て、ねたみや争い、悪意、迫害、またあ

27 ① エテ8・22−24、教義87・6−7
② GS「秘密結社」
28 ① 2テモ3・1−7、1ニフ14・9−10、2ニフ28・3−32、教義33・4
29 ① 1ニフ19・11、教義45・39−42
② ヨエ2・28−32、2ニフ27・2−3
30 ① マタ24・6、1ニフ14・15−17
31 ① 2ニフ28・21−22
② 2ニフ28・8
③ アル41・11
33 ① GS「偽善売教」
② 1ニフ13・26−29
③ GS「罰の定め」
36 ① GS「歩む（神とともに）」
② ヤコ2・13
③ アル5・53

らゆる罪悪に染まる。また、あなたがたの教会、ま
ことにすべての教会は、あなたがたの心が高慢なた
めに汚れたものになってしまった。
37見よ、あなたがたは、貧しい人と乏しい人、病人
と苦しんでいる人を愛する以上に、1)金銭や財産、華
やかな衣服を愛し、あなたがたの教会を飾ることを
大切にする。
38おお、腐食するもののために自分自身を売る汚れ
た者たちよ、偽善者たちよ、教師たちよ、なぜあな
たがたは神の聖なる教会を汚したのか。なぜあなた
がたは、キリストの名を受けるのを1)恥じるのか。な
ぜあなたがたは、無窮の幸福が、決して尽きないあ
の2)不幸な状態よりも大きな価値があることを考え
ないのか。それは世の3)誉れのためである。
39なぜあなたがたは、命のないもので自分自身を飾
りながら、飢えている人や乏しい人、着る物のない
人、病人、苦しんでいる人を見過ごしにし、彼らに
注意を払わないのか。
40まことに、なぜあなたがたは、利益を得るために1)秘
密の忌まわしい行いを企て、やもめを主の前で嘆き
悲しませ、みなしごも主の前で嘆き悲しませ、彼ら
の父と夫の血があなたがたの頭に報復が及ぶよう訴
えて、地の中から主に叫ぶようにさせるのか。
41見よ、報復の剣があなたがたに迫っている。主は
もはや聖徒たちの嘆願をそのままにしておかれない
ので、主があなたがたに彼らの血のために1)報復され
る時がすぐに来るであろう。

第9章

モロナイ、キリストを信じていない者に悔い改める
ように呼びかける。忠実な者に数々の啓示を与え、
数々の賜物としるしを注いでくださる奇跡の神につ
いて宣言する。不信仰のために奇跡はやむ。信じる者に
はしるしが伴う。賢くあって戒めを守るように、人々
に勧告が与えられる。紀元約四百一年から四百二十一
年に至る。

1さて、わたしは、キリストを信じていない者につ
いても語ろう。
2見よ、あなたがたは刑罰の日に信じるのであろう
か。主が来られる時に、すなわち、1)大地が巻き物の
ように巻かれて、諸元素が2)酷熱に溶かされるあの3)大

37① 2ニフ28・9−16
38① 1・8、1ニフ8・25−
ロマ1・16、2テモ
1・8、アル46・21
② 28、モサ3・25
39③ 1ニフ13・9
40① GS「秘密結社」
41① 1ニフ22・14
第9章
2① モル5・23、教義63・
20−21、GS「世−世の終
わり」
② アモ9・13、3ニフ
26・3
③ マラ4・5、3ニフ
28・31

いなる日に、まことに、あなたがたが神の小羊の前に立たされるあの大いなる日に、あなたがたは神はいないと言うであろうか。

3そのとき、まだあなたがたはキリストを否定するであろうか。あるいは、あなたがたは神の小羊を見るのに堪えられるであろうか。あなたがたは、自分に罪の意識のあるままで、神の小羊とともに住めると思うか。あなたがたは、神の小羊の律法を踏みにじったという罪の意識に苦しんでいながら、あの聖なる御方とともに幸せに暮らせると思うのか。

4見よ、あなたがたに言うが、聖なる公正な神の前に自分は汚れているという意識のあるままで、神とともに住むときの悲惨は、1)地獄で2)罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう。

5見よ、あなたがたが、自分が神の前で1)裸であるのを見せられ、また神の栄光とイエス・キリストの神聖さを見せられるとき、あなたがたのうえに消すことのできない火の炎が燃え盛ることであろう。

6おお、だから、1)信仰のない者たちよ、主に2)立ち返りなさい。3)小羊の血によって清められて、あの大いなる終わりの日に染みがなく、4)清く、美しく、潔白であると認められるように、イエスの名によって熱烈に御父に叫び求めなさい。

7さらに、神の啓示を1)否定して、啓示はやんでしまった、今は啓示も、預言も、賜物も、癒しも、異言で語ることも、異言の2)解釈もないと言うあなたがたにわたしは告げる。

8見よ、あなたがたに言うが、これらのことを否定する者は、キリストの1)福音を知らない者、まことに、聖文を読んだことのない者である。もし読んだことがあれば、聖文を2)理解していない。

9神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であり、また神には変化も変化の兆しもないということを読んでいないのか。

10さて、もしあなたがたが変わることのある神や、変わる兆しのある神を想像しているならば、あなたがたは奇跡の神ではない神を想像しているのである。

11しかし見よ、わたしはあなたがたに奇跡の神、すなわちアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神について明らかにしよう。奇跡の神は、天地とその中

---

4 ①GS「地獄」
5 ①②GS「罰の定め」
6 ①GS「不信仰」
2ニフ9・14
エゼ18・23、32、教義98・②47
7 ①④GS「神の小羊」
③GS「清さ」
3ニフ29・6−7
1コリ12・7−10、箇条1・7
8 ①GS「福音」
マタ22・29
②ヘブ13・8、1ニフ10・18−19、アル7・20、モロ8・18、教義20・12

にある万物を創造されたあの神[1]である。
12 見よ、神はアダムを造られた。[1] そして、アダムによって人の堕落[2]が生じ、人の堕落のためにイエス・キリスト、すなわち御父であり御子である御方が来られた。そして、イエス・キリストによって人の贖い[3]がもたらされた。
13 そして、イエス・キリストにより人にもたらされた贖いのおかげで、人は主の前に連れ戻される。まことに、これがすべての人の贖われる方法である。キリストの死は復活[1]をもたらし、復活は無窮の眠り[2]からの贖いをもたらし、すべての人は、ラッパが鳴るときに、神の力によってその眠りから起こされる。そして人は、小さな者も大いなる者も出て来て、すべての人が肉体の死であるこの永遠の死の縄目[3]から贖われ、解き放されて、キリストの法廷に立つ。
14 次いで、聖者の裁き[1]が彼らに下る。それから、汚れ[2]ている者は汚れているままになり、義にかなった者は義にかなった状態にとどまり、幸せな者は幸せなままになり、不幸な者は不幸なままになる時が来る。
15 さて、おお、奇跡を行[1]えない神を心に描いてきたすべての人よ、わたしはあなたがたに尋ねたい。わたしが述べてきたこれらのことはすべて起こったか。終わりはもう来たか。見よ、まだであると、あなたがたに答えよう。また、神は奇跡の神であることをやめてはおられない。
16 見よ、神が行ってこられたことは、わたしたちの目に驚くべきものではないだろうか。また、だれが神の驚くべき業[1]を悟れるであろうか。
17 神[1]の言葉によって天と地があること、また神の言葉の力によって、人が地のちり[2]から造[3]られたことを、奇跡ではないと言う者はだれであろうか。神の言葉の力によって、奇跡が行われてこなかったであろうか。
18 イエス・キリストが多くの偉大な奇跡[1]を行われなかったと言う者は、だれであろうか。使徒たちの手によって行われた大きな奇跡もたくさんあった。
19 その当時に数々の奇跡[1]が行われたのであれば、どうして神は奇跡の神であることをやめられたのであろうか。それでいて、変わらない御方であると言えるであろうか。見よ、あなたがたに言うが、神は変わってはおられない。もし変わっておられるとすれ

11 ① 創世 1・1、モサ 4・2、教義 76・20—24、GS「イエス・キリスト」
12 ① モサ 3・26　② GS「堕落（アダムとエバの）」　③ GS「贖い・贖う」、ヒラ 14・15—18、教義 43・18　② 教義 138・16　③ GS「最後の裁き」、アル 7・21、教義 88・35　② モロ 7・35—37、教義 35・8、GS「奇跡」
13 ① 詩篇 40・5、教義 76・114、モセ 1・3—5　② ヤコ 4・9、創世 2・7、モサ 2・25　③ GS「創造・創造する」
14 ① ヨハ 6・14、教義 63・7—10

ば、神は神であることをやめられたのであろう。しかし、神は神であることをやめてはおられず、今も奇跡の神であられる。

20 神が人の子らの中で奇跡[1]を行うのをやめられるのは、彼らが不信仰に陥り、正しい道から離れ、[2]頼るべき神を知らないためである。

21 見よ、あなたがたに言うが、何も疑わないでキリストを信じる者には、キリストの名によって御父に求めるものは何[1]でも与えられるであろう。この約束はすべての人に、すなわち地の果てまで及ぶものである。

22 見よ、神の御子イエス・キリストは、群衆の聞いている所で、この世にとどまることになっていた御自分の弟子たちと、ほかのすべての弟子たちに次のように言われた。「[1]全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

23 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、信じない者は罰[1]の定めを受ける。

24 信じる者には次のようなしるし[1]が伴う。すなわち、彼らはわたしの名によって[2]悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、蛇を取り上げるであろう。また彼らは、毒を飲んでも害を受けない。彼らが病人に手[3]を置けば、病人は快復する。

25 何も疑わないでわたしの名を信じる者に、わたしは自分の言葉が確かであることを証明する。地の果てに至るまで、そのとおりにする。」

26 さて見よ、だれが主の業に立ち向かえるであろうか。だれが主[1]の言われたことを否定できるであろうか。だれが主の全能の力に反抗して立てるであろうか。主の業を侮る者がだれかいるであろうか。キリストの子らを侮る者が、だれかいるであろうか。見よ、主の業を侮るすべての者よ、あなたがたは怪しみ、そして滅びるであろう。

27 おお、だから、侮ってはならない。怪しんではならない。主の言葉に聞き従いなさい。そして、あなたがたが必要としているものは何でも、イエスの名によって御父に求めなさい。疑ってはならない。信じなさい。昔のようになり、[1]心を尽くして[2]主のもとに来て、主の前に恐れおののいて、自分の救いを[3]達成しなさい。

28 試しの生涯にあって[1]賢くありなさい。あらゆる汚れを取り除きなさい。求めるものを自分の[2]欲望のた

20 ①士師 6・11—13、エテ 12・12—18、モロ 7・35—37 ②GS「信頼」、マタ 21・22、3ニフ 18・20
21 ①マコ 16・15—16、GS「伝道活動」
22 ①GS「罰の定め」、マコ 16・17—18、GS「しるし」
23 ①使徒 16・16—18 ②GS「病人への癒しの祝福」
24 ①3ニフ 29・4—7 ②GS「証」「啓示」
25 ①箴言 13・13、教義 64・22、34、GS「心」 ②モロ 10・30—32
26 ①ヨシ 22・5、GS「心」 ②ピリ 2・12 ③ヤコ 6・12
27 ①GS「欲望」

めに無益なものにせず、むしろどんな誘惑にも負けないで、まことの生ける[3]神に仕えようという、確固とした決意をもって求めなさい。

29 あなたがたは、[1]ふさわしくないままでバプテスマを受けることのないようにしなさい。[2]ふさわしくないままでキリストの聖餐を受けないようにしなさい。むしろあなたがたは、[3]ふさわしい状態ですべてのことを行い、しかも、生ける神の御子イエス・キリストの名によって行うようにしなさい。このように行い、最後まで堪え忍ぶならば、あなたがたは決して追い出されることはないであろう。

30 見よ、わたしは今、死者の中から[1]語っているかのようにあなたがたに述べている。わたしはあなたがたが将来、わたしの言葉を手に入れることを知っているからである。

31 [1]不完全なところがあるからということで、わたしを非難してはならない。わたしの父をも、不完全なところがあるからということで非難してはならないし、父よりも前に書き記してきた人々も、非難してはならない。むしろこれまでのわたしたちよりも、あなたがたがもっと賢くなれるようにと、わたしたちの不完全なところをあなたがたに明らかにしてくださった神に、感謝しなさい。

32 さて見よ、わたしたちは、わたしたちの中で[1]改良エジプト文字と呼ばれている文字で、わたしたちの知っていることに従ってこの記録を書いてきた。この文字は、わたしたちに代々伝えられ、わたしたちの言葉の使い方に応じて変えられたものである。

33 もしわたしたちの版が十分に大きかったならば、わたしたちはヘブライ語で書き記したであろう。しかし、ヘブライ語もわたしたちによって変えられてきた。もしわたしたちがヘブライ語で書き記せたならば、見よ、わたしたちの記録は不完全なところがまったくなかったであろう。

34 しかし主は、わたしたちが書き記してきたことを御存じであり、またわたしたちの言語を知っている民はほかにないということも、御存じである。そして、わたしたちの言語を知っている民はほかにないので、主はわたしたちの言語を翻訳する[1]手段を備えられた。

35 また、これらのことを書き記したのは、[1]不信仰に陥った同胞の血が、わたしたちの衣に降りかかるの

---

28 ③ アル 5・13
29 ① GS「バプテスマー資格」
② 1コリ 11・27—30、3ニフ 18・28—32
③ GS「ふさわしさ」
30 ① モル 8・26、モロ 10・27
31 ① モル 8・17、エテ 12・22—28、35
32 ① 1ニフ 1・2、モサ 1・4
34 ① モサ 8・13—18、エテ 3・23、28、教義 17・1
35 ① 2ニフ 26・15

を避けるためである。
36 見よ、わたしたちが同胞について[1]望んできたこれらのこと、まことに、彼らが再びキリストについて知ることができるようにすることは、この地に住んでいたすべての聖徒たちの祈りにかなっている。
37 主イエス・キリストが、信仰に応じて彼らの祈りを聞き届けてくださるように。また父なる神が、イスラエルの家と交わされた聖約を思い起こしてくださるように。そして、父なる神が彼らを、イエス・キリストの名を信じる信仰によって、とこしえに祝福してくださるように。アーメン。

36① モル 8・24−26、教義 10・46−49

エテル書

モーサヤ王の時代にリムハイの民が発見した、二十四枚の版から取ったヤレド人の記録。

第1章

モロナイ、エテルの書いた記録を短くまとめる。エテルの系図。ヤレド人の言語、バベルの塔のある地で乱されることを免れる。主はヤレド人をえり抜きの地に導き、大いなる国民とすることを約束される。

1 わたしモロナイ[1]は、この北の地の面で[2]主の手によって滅ぼされた、昔のあの民について話をすることにする。

2 わたしは、リムハイの民が発見した[1]二十四枚の版から取ってわたしの記録とする。その版はエテル書と呼ばれている。

3 その版の記録の最初の部分には、世界の創造とアダムが造られたこと、そのときから[1]大塔に至るまでの話、それに大塔のときまでに人の子らの中に起こったことが載っているが、この部分はユダヤ人も持っていると思うので、

4 わたしは、[1]アダムの時代から大塔のときまでに起こったそれらの事柄については書き記さない。それらの事柄はその版に載っているので、その版を見つける者は、すべての内容を手に入れる力を持つであろう。

5 しかし見よ、わたしが記すのはすべての話ではない。塔のときから彼らが滅びるときまで、話の一部のみを記す。

6 わたしが記す話は次のとおりである。この記録を書き記したのは[1]エテルであって、コリアントルの子孫であった。

7 コリアントルはモロンの息子であり、

8 モロンはイーサムの息子であり、

9 イーサムはエーハの息子であり、

10 エーハはセツの息子であり、

11 セツはシブロンの息子であり、

12 シブロンはコムの息子であり、

13 コムはコリアンタムの息子であり、

エテル書
第1章
1 ①1 GS「モロナイ（モルモンの息子）」
②2 モル5・23、教義87・6−7
2 ①33 アル37・21、エテ15・3
3 ①1 オム1・22、モサ28・17、ヒラ6・28
4 ①1 創世1−10章と同じ時代のこと
6 ①1 エテ12・2、15・34

14 コリアンタムはアムニガダの息子であり、
15 アムニガダはアロンの息子であり、
16 アロンはヘテの子孫であり、ヘテはヒアルサムの
息子であり、
17 ヒアルサムはリブの息子であり、
18 リブはキシの息子であり、
19 キシはコロムの息子であり、
20 コロムはレビの息子であり、
21 レビはキムの息子であり、
22 キムはモリアントンの息子であり、
23 モリアントンはリプレーキシの子孫であり、
24 リプレーキシはシェズの息子であり、
25 シェズはヘテの息子であり、
26 ヘテはコムの息子であり、
27 コムはコリアンタムの息子であり、
28 コリアンタムはイーマーの息子であり、
29 イーマーはオメルの息子であり、
30 オメルはシュールの息子であり、
31 シュールはキブの息子であり、
32 キブはオライハの息子であり、オライハはヤレド
の息子であった。

33 1) ヤレドは彼の一人の兄弟と彼らの家族、および何
人かのほかの人々と彼らの家族と一緒に、大塔のあ
る所から出て来た。それは、主が民の言語を乱し、
また激しく怒って民を地の全面に散らすと誓われた
ときのことである。そして、主の言葉のとおりに民
は散らされた。
34 1) ヤレドの兄弟は体の大きな強い人であり、主から
大いに恵みを受けていた人であったので、彼の兄弟
ヤレドは彼に言った。「主がわたしたちの言語を乱
して、わたしたちが自分たちの言葉を理解できなく
なることのないように、主に祈り願ってほしい。」
35 そこで、ヤレドの兄弟が主に叫び求めたところ、
主はヤレドを哀れんで、ヤレドの言語を乱されなか
った。そのため、ヤレドと彼の兄弟には言語の混乱
はなかった。
36 その後、ヤレドは彼の兄弟に言った。「もう一度
主に叫び求めてほしい。そうすれば、主はわたした
ちの友である人々から怒りを解いて、彼らの言語を
乱されないかもしれない。」
37 そこでヤレドの兄弟が主に叫び求めたところ、主
は彼らの友人たちとその家族も哀れんで、彼らの言

33 ① GS「ヤレド」
34 ① ③ ② 創世11・6–9
モサ28・17
GS「ヤレドの兄弟」

語も乱されなかった。
38そして、ヤレドは再び彼の兄弟に言った。「主がわたしたちをこの地から追い出すおつもりかどうか、行って主に尋ねてほしい。そして、もし主がわたしたちをこの地から追い出すおつもりであれば、わたしたちはどこに行くのか、主に祈って尋ねてもらいたい。主は、全地の中でえり抜き[1]の地に、わたしたちを連れ出してくださるかもしれない。もしそうであれば、わたしたちはそこを受け継ぎとして頂けるように、主に忠実であろうではないか。」
39そこでヤレドの兄弟は、ヤレドの口を通して述べられたとおりに主に叫び求めた。
40そこで主は、ヤレドの兄弟の祈りを聞き、彼を哀れんで言われた。
41「行って、あなたの家畜の群れを全種類雄も雌も集め、また地の種も全種類にわたって集めなさい。また、あなたの家族[1]と、あなたの兄弟ヤレドと彼の家族、あなたの友人[2]たちと彼らの家族、ヤレドの友人たちと彼らの家族を集めなさい。
42そして、あなたはこれを終えたら、彼らを率いて北方にある谷に下って[1]行きなさい。そこであなたに会おう。そして、わたしはあなたの前[2]を行き、地のあらゆる土地に勝ったえり抜き[3]の土地へとあなたを導こう。
43そしてわたしは、あなたとあなたの子孫をそこで祝福し、またあなたの子孫と、あなたの兄弟の子孫と、あなたがたとともに行く者たちの子孫から、わたしのために一つの大いなる国民を起こそう。わたしがあなたがたの子孫からわたしのために起こす国民よりも大いなる国民は、地の全面に一つもないであろう。わたしがあなたにこのように行うのは、あなたがこのように長い間わたしに叫び求めてきたからである。」

第 2 章

ヤレド人、約束の地へ旅立つ用意をする。約束の地はえり抜きの地であり、この地の人々はキリストに仕えなければ一掃される。主は三時間ヤレドの兄弟に語られる。ヤレド人、数隻の船を造る。主はヤレドの兄弟に、どのようにして船内を明るくすることを望むかお尋ねになる。

38①
41①②
42①②③
GS「約束の地」
エテ 6・20
1ニフ 2・1−2、アブ 2・3
教義 84・88
1ニフ 13・30

1 さて、ヤレドと彼の兄弟と、彼らの家族と、ヤレドの友人たちと、ヤレドの兄弟の友人たちと、友人たちの家族は、彼らの集めたあらゆる家畜の群れを雄も雌も連れて、北方にある谷に下って行った。（その谷の名は、力ある狩人にちなんで名付けられ、ニムロデといった。）

2 彼らはまた、わなを仕掛けて空の鳥を捕らえた。また、器を用意して水の魚を運んだ。

3 また、彼らはデゼレトも運んだ。デゼレトとは、蜜蜂という意味である。このようにして、彼らは幾つかの蜂の群れを運び、また地の面にあるあらゆるもの、あらゆる種も携えて行った。

4 さて、彼らがニムロデの谷に下って行くと、主が降って来て、ヤレドの兄弟と話された。しかし、主は雲[1]の中におられたので、ヤレドの兄弟には主が見えなかった。

5 そこで主は彼らに、荒れ野の中へ、すなわち、これまで人が決して住んだことのない地方へ行くように命じられた。そして、主は彼らの前を行かれた。また、主は雲の中に立って彼らと話し、彼らの旅をする方向について指示を与えられた。

6 そこで、彼らは荒れ野を旅し、数隻の船を造ってそれで多くの水を渡り、絶えず主の手に導かれて行った。

7 主は、彼らが海を越えた荒れ野にとどまることを許さず、彼らが[1]約束の地まで行くことを望まれた。約束の地とは、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地で、主なる神が義にかなった民のために残しておかれた所である。

8 また主は激しく怒って、この約束の地を所有する者はだれでもそのときから後とこしえに、主に、すなわちまことの唯一の神に[1]仕えなければならず、さもなければ神の限りない怒りが彼らに下るときに彼らは[2]一掃されると、ヤレドの兄弟に誓っておられた。

9 さて、わたしたちは、約束の地であるこの地について神の定めを知ることができる。この地を所有する国民はどの国民も神に仕えなければならない。さもなければ、神の限りない怒りが彼らに下るときに彼らは一掃される。また、彼らの罪悪が熟したときに、神の限りない怒りが彼らに下るのである。

10 見よ、まことにこの地が、ほかのあらゆる地に勝

第2章
1 ① 創世10・8
4 ① 民数11・25、教義34・7−9、ジェ歴史1・68
5 ① 出エ13・21−22
7 ① 1ニフ4・14、GS「約束の地」
8 ① エテ13・2
② ジェロ1・3、10、アル37・28、エテ9・20

ったえり抜きの地だからである。したがって、この地を所有する者は神に仕えなければならない。さもなければ一掃される。これは神の永遠の定めである。しかし、この地の子らの中に罪悪が満ちるまで、彼らが[2]一掃されることはない。

11 おお、異邦人[1]よ、この記録をあなたがたに伝えるのは、あなたがたに神の定めを知らせるためである。また、あなたがたが悔い改めて、罪悪の満ちるまであなたがたの罪悪を続けることのないように、またこれまで、この地に住む民が自分のうえに神の限りない怒りを招いてきたようなことを、あなたがたもすることのないようにさせるためである。

12 見よ、この地はえり抜きの地であり、この地を所有する民はどの国民も、この地の神に仕えさえすれば、[2]奴隷の状態にも囚われの身にもなることなく、天下のほかのどのような国民からも支配を受けない。この地の神とはイエス・キリストであり、わたしたちが書き記してきたことによって、明らかにされた御方である。

13 さて、わたしは自分の記録を続けよう。見よ、主はヤレドと彼の同行者たちを、陸地と陸地を分けている大海まで導かれた。そこで彼らは、海に着くと天幕を張り、その場所をモリアンカマーと名付けた。そして、彼らは天幕に住んだ。彼らは四年間、その海岸で天幕に住んだ。

14 さて、四年の終わりに、主は再びヤレドの兄弟を訪れ、雲の中に立って彼と話された。そして、主は三時間ヤレドの兄弟と話し、彼が主の名を呼ぶことを思い起こさなかったので、彼を[2]懲らしめられた。

15 そこでヤレドの兄弟は、自分が行った悪を悔い改め、自分とともにいた同行者たちのために主の名を呼んだ。すると、主は彼に言われた。「わたしはあなたを赦し、またあなたの同行者たちの罪を赦そう。あなたはもう罪を犯してはならない。あなたがたは覚えておきなさい。わたしの[1]御霊はいつでも人を[2]励ますわけではない。したがってあなたがたは、罪の熟するまで罪を犯すならば、主の前から絶たれるであろう。これが、受け継ぎとしてあなたがたに与える土地についてのわたしの考えである。なぜならば、この地は、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地だからである。[3]」

16 また主は、「仕事に取りかかり、あなたがたが前に

---

10 ① 2ニフ 28・16
11 ① 1ニフ 17・37−38
11 ② 2ニフ 28・32
12 ① イザ 60・12
12 ② GS「自由」
14 ① GS「祈り」
15 ① GS「懲らしめ」
15 ② エテ 15・19
26 ② 創世 6・3、2ニフ 26・11、モル 5・16
26 ③ エテ 9・20

造った船に倣って船を造りなさい」と言われた。そこで、ヤレドの兄弟と彼の同行者たちは仕事に取りかかり、主の指示のとおりに、彼らがかつて造った方法で数隻の船を造った。その船は小さく、水の上に軽く浮き、まるで水の上に軽く浮いた鳥のようであった。

17 またその船は、[1]透き間がなく非常によく造られており、水の漏れないことは皿のようであった。その船底は皿のように透き間がなく、船腹も皿のように透き間がなく、船のへさきとともはとがっており、船の屋根も皿のように透き間がなく、その船の長さは一本の木の長さであった。また、船の入り口は、閉じると皿のように透き間がなかった。

18 さて、ヤレドの兄弟は主に祈って言った。「おお、主よ、わたしはあなたから命じられた務めを果たし、あなたから指示されたとおりに船を造りました。

19 まことに、おお、主よ、船の中には光がありません。わたしたちはどこへ向かえばよいのでしょうか。また、わたしたちは死んでしまうことでしょう。船の中にある空気だけでは呼吸ができなくなるからです。それゆえ、わたしたちは死んでしまうでしょう。」

20 すると、主はヤレドの兄弟に言われた。「見よ、屋根と船底に一つずつ穴を作りなさい。そして、空気で苦しむようになったら、その穴の栓を抜いて空気を入れなさい。もし水が入って来るようであれば、水があふれて死ぬことのないように、見よ、その穴をふさぎなさい。」

21 そこでヤレドの兄弟は、主から命じられたとおりにした。

22 そして、彼は再び主に祈って言った。「おお、主よ、わたしはあなたから命じられたように行いました。そして、わたしの民のために船を準備しました。しかし、船の中には光がありません。まことに、おお、主よ、あなたはわたしたちに、暗闇の中でこの大海を渡らせようとなさるおつもりですか。」

23 主はヤレドの兄弟に言われた。「あなたがたは、船の中に光があるようにするために、わたしに何をしてもらいたいのか。窓はばらばらに砕けるので、見よ、窓を付けることはできない。また、火を携えることもない。火の光を使って旅をすることはないからである。

16① 1ニフ17・50−51
17① エテ6・7

24見よ、あなたがたは、海の中の鯨のようになるであろう。山のような波があなたがたに打ちつける。しかし、わたしは再び海の深みからあなたがたを連れ出そう。[1]風はわたしの口から吹き出し、また[2]雨と多くの水もわたしは送り出した。
25見よ、わたしはこれらのものに対してあなたがたを備えさせる。わたしが海の波と、吹きつける風と、寄せ来る多くの水に対してあなたがたを備えさせなければ、あなたがたはこの大いなる深みを渡ることができないからである。したがって、あなたがたが海の深みにのまれるときに光があるように、あなたがたはわたしに何をしてもらいたいか。」

第3章

ヤレドの兄弟、主が十六個の石に触れられたときに主の指を見る。キリスト、ヤレドの兄弟に御自分の霊体をお見せになる。完全な知識を持つ者は、幕の内側を見ることを禁じられない。ヤレド人の記録を明るみに出すために解訳器が準備される。

1さて（このときに準備された船の数は八隻であった）、ヤレドの兄弟は、非常に高いために彼らがシーレム山と名付けた山に行き、一つの岩から十六個の小さな石を溶かし出した。その石は白く、透き通っており、透明なガラスのようであった。そして、彼はそれらの石を両手に持って山の頂上に登り、再び主に祈って言った。
2「おお、主よ、あなたは、わたしたちが必ず水の深みに取り囲まれると言われました。まことに、おお、主よ、あなたの僕があなたの御前にあって弱いからということで、あなたの僕をお怒りにならないでください。わたしたちはあなたが聖なる御方であり、天に住んでおられること、そしてわたしたちがあなたの御前に取るに足りない者であることを存じています。[1]堕落のために、わたしたちの[2]性質は絶えず悪くなっています。にもかかわらず、おお、主よ、あなたはわたしたちに戒めを与えられ、わたしたちの望みに応じてあなたから得られるようにあなたに請い願わなければならないと言われました。
3まことに、おお、主よ、あなたはわたしたちの罪悪のためにわたしたちを打ち、わたしたちを追い出されました。そして、わたしたちはこれまで何年間

24 ① エテ6・5
② 詩篇148・8
第3章
2 ① GS「堕落（アダムとエバの）」
② モサ3・19

も荒れ野で暮らしてきました。それでも、あなたは
わたしたちに憐れみ[1]をかけられました。おお、主よ、
わたしたちを哀れと思い、あなたのこの民からあな
たの怒りを遠ざけ、この民が暗闇の中でこの荒れ狂
う深みを越えて行くことのないようにしてくださ
い。わたしが岩から溶かし出したこれらのものを御
覧ください。
4 おお、主よ、わたしはあなたが一切の権威[1]をお持
ちであり、あなたが人のために望まれることは何で
もおできになることを存じています。ですから、お
お、主よ、これらの石にあなたの指で触れて、これ
らの石が暗闇の中で光を放つものとなるようにして
ください。そうすれば、これらの石はわたしたちが
準備した船の中でわたしたちのために光を放ち、わ
たしたちは海を渡る間、光を得ることができるでし
ょう。
5 まことに、おお、主よ、あなたにはこれができ
になります。わたしたちはあなたが大いなる力を示
されることを存じています。その力は人々の理解で
は小さく見えますが、実は大いなるものです。」
6 そして、ヤレドの兄弟がこれらの言葉を述べ終え
ると、見よ、[1]主は手を差し伸べて、指で一つ一つ石
に触れられた。すると、ヤレドの兄弟の目から幕[2]が
取り除かれ、彼は主の指を見た。それは人の指のよ
うで、血肉の指に似ていた。ところが、ヤレドの兄
弟は恐怖に打たれ主の前に倒れた。
7 主はヤレドの兄弟が地に倒れたのを見て、彼に言
われた。「立ち上がりなさい。なぜあなたは倒れたの
か。」
8 そこで彼は主に答えた。「わたしは主の指を見て、
主に打たれるのではないかと恐れました。主が血肉
をお持ちであることを知らなかったからです。」
9 すると主は彼に言われた。「あなたは信仰があ
るので、わたしが将来[1]血肉を受けるのを見たのであ
る。これまでにあなたのような深い信仰をもって、
わたしの前に来た者は一人もいない。もしそうでな
ければ、あなたはわたしの指を見ることができなか
ったであろう。あなたはこれ以外に何かを見たか。」
10 そこで彼は答えた。「いいえ。主よ、わたしに御
自身を現してください。」
11 すると主は彼に言われた。「あなたはわたしが告
げる言葉を信じるか。」

---

3 ① エテ1・34−43
4 ① GS「力」
5 ① イザ55・8−9、1ニフ16・29
6 ① GS「イエス・キリスト」
9 ① ② エテ12・19、21
① GS「イエス・キリスト」「死すべき状態」「肉」

12そこで、彼は答えた。「はい。主よ、わたしはあなたが真実を告げられることを存じています。あなたは真理の神であり、1)偽りを言われることはありません。」

13彼がこれらの言葉を述べ終えると、見よ、主は彼に御自身を1)現して言われた。「あなたはこれらのことを知っているので、堕落から贖われ、わたしの前に連れ戻されている。そこで、わたしはあなたにわたし自身を3)現す。

14見よ、わたしは、自分の民を贖うために1)世の初めから備えられた者である。わたしはイエス・キリストである。わたしは2)父であり、子である。わたしによって全人類は3)命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。そして、これらの者はわたしの息子となり、4)娘となる。

15わたしは、これまでわたしの造った者に一度もわたし自身を現したことはない。あなたほど深くわたしを1)信じた者がいなかったからである。あなたは、あなたがたがわたし自身の2)形に造られていることが分かったか。まことに、すべての人は初めにわたし自身の形に造られたのである。

16見よ、あなたが今見ているこの体は、わたしの1)霊の体である。わたしは自分の霊の体に倣って人を造った。わたしは今、霊の状態であなたに現れているように、将来肉にあってわたしの民に現れる。」

17さて、わたしモロナイは、書き記されているこれらのことについて、すべてを記すことはできないと前に述べたので、次のことを言えばわたしにとって十分である。すなわちイエスは、ニーファイ人に御自身を1)現されたときと同じように、同じ体の形で、霊の状態でこの人に御自身を現された。

18またイエスは、ニーファイ人を教え導かれたように、彼をも教え導かれた。これはすべて、主がこれまでこの人に示された多くの大いなる業によって、御自分が神であられることを彼に知らせるためであった。

19この人は知識があったので、1)幕の内側を見るのを禁じられなかった。そして彼は、イエスの指を見て、見たときに恐れて倒れてしまった。それが主の指であることを知ったからである。彼が得ているものは、もはや信仰ではなかった。なぜなら、彼は何の疑いもなく知ったからである。

---

12 ①ヘブ 6・18
13 ①教義 67・10−11 ②エノ 1・6−8 ③GS「イエス・キリスト―前世におけるキリスト」
14 ①GS「贖い主」「贖う」 ②モサ 15・1−4 ③モサ 16・9 ④GS「神の息子、娘」
15 ①GS「信じる」 ②創世 1・26−27、モサ 7・27、教義 20・17−18
16 ①GS「霊」
17 ①3ニフ 11・8−10
19 ①GS「幕」

20 したがって、彼は神についてのこの完全な知識を得たので、幕の内側を見るのを[1]禁じられなかった。それゆえ彼は、イエスにまみえ、イエスから教えと導きを授けられたのであった。

21 さて、主はヤレドの兄弟に言われた。「見よ、わたしが肉にあってわたしの名に栄光を受ける[1]時が来るまで、あなたは見聞きしたこれらのことを、世の人々に公にしてはならない。あなたは見聞きしたことを心に留めておき、だれにもそれを知らせてはならない。

22 見よ、あなたはわたしのもとに来るとき、これらのことを書き記し、それを封じて、だれもこれらのことを解釈できないようにしなさい。あなたは人々が読めない言語でこれらのことを書き記すので、だれも読むことができない。

23 見よ、これらの[1]二つの石をあなたに与えよう。あなたは書き記すこととともに、これらの石も封じなさい。

24 見よ、あなたが書き記す言語はわたしがすでに乱したので、わたしは自分がふさわしいと思うときに、あなたが書き記すこれらのことを、これらの石によって人々の目に明らかにさせよう。」

25 主はこれらの御言葉を語ると、かつてこの世にいた地の[1]すべての民と、これからこの世に来るすべての民をヤレドの兄弟にお見せになった。また主は彼らを、地の果てに至るまで彼に見せずにはおかれなかった。

26 主は以前に何度か、[1]もし自分を[2]信じるならば[3]あらゆるものを見せることができる、必ず見せると、彼に言っておられた。そこで主は、彼に何事も見せずにはおかれなかった。彼は、主があらゆるものを自分に見せることがおできになることを、知っていたからである。

27 主は彼に言われた。「これらのことを書き記して[1]封じなさい。わたしは自分がふさわしいと思うときに、これらのことを人の子らに知らせよう。」

28 そして主は彼に、彼の受け取った二つの[1]石も封じて、主がこれらのことを人の子らに示されるときまで、これを示してはならないと命じられた。

第4章

モロナイ、ヤレドの兄弟の記録を封じるように命じ

20 ①エテ12・19−21
21 ①エテ4・1
23 ①GS「ウリムとトンミム」
25 ①モセ1・8
26 ①エテ3・11−13
②GS「信じる」
③エテ4・4
27 ①2ニフ27・6−8
28 ①教義17・1

られる。その記録は、人々がヤレドの兄弟のような信仰を持つまで明らかにされない。キリスト、御自分の言葉と弟子たちの言葉を信じるように人々に命じられる。人々は、悔い改めて福音を信じることによって救いを得るように命じられる。

1 主はヤレドの兄弟に、主の前を去って山を下り、
見たことを書き記すように命じられた。しかし、書
き記す内容は、主が十字架に上げられる後まで、人
の子らに明らかにするのを禁じられた。このために
モーサヤ王は、キリストが御自分の民に御自身を現
される後まで、その記録が世の人々に明らかにされ
ることのないように保存したのであった。
2 そしてキリストは、実際に御自分の民に御自身を
現された後、それを明らかにするようにと命じられ
たのである。
3 その後、彼らは皆不信仰に陥り、今はレーマン人
のほかにはだれもいない。そして、レーマン人もキ
リストの福音を拒んだので、わたしはその記録を再
び地の中に隠すように命じられている。
4 見よ、わたしは、ヤレドの兄弟が見たとおりのこ
とをこの版に書き記した。ヤレドの兄弟に明らかに
されたこと以上に大いなることは、いまだかつて明
らかにされたことがない。
5 そこで主はわたしに、それらのことを書き記すよ
うに命じられた。そして、わたしはそれを書き記し
た。すると、主はわたしに、それを封じるように命
じられた。また、主がその解訳も封じるようにと命
じられたので、わたしは主の命じられたとおりに解
訳器も封じた。
6 主がわたしに、「異邦人が彼らの罪悪を悔い改め
て、わたしの前に清くなる日まで、これらのものは
異邦人に伝わることがないであろう」と言われたか
らである。
7 また、主は言われる。「彼らがわたしによって聖い
者となるために、ヤレドの兄弟のようにわたしを信
じる日に、わたしはヤレドの兄弟が見たことを彼ら
に示し、わたしが啓示したことをすべて彼らに明ら
かにしよう」と、神の御子であり、天地とその中に
ある万物の父であるイエス・キリストは言われる。
8 「主の言葉に逆らう者はのろわれよ。これらのこ
とを否定する者ものろわれよ。わたしはそのような

第4章
1① エテ12・24、GS「聖文」
②
3① エテ3・21
② モル8・14
5① エテ5・1
② 教義17・1、ジー歴史1・52、GS「ウリムとトンミム」
7① GS「聖め」
② モサ3・8
8① 3ニフ29・5−6、モル8・17
② 2ニフ27・14、28・29−30

者には、これ以上大いなることを示すまい。このように語るのはわたしである」と、イエス・キリストは言われる。

9 「わたしの命令で天は開かれ、また閉ざされる。わたしの言葉で地は揺れ動く。また、わたしの命令で、地に住む者はまさに火で焼かれるようにして世を去る。

10 わたしの言葉を信じない者は、わたしの弟子たちをも信じない。わたしが語っていないかどうか、考えてみなさい。今語っているのがわたしであることを、あなたがたは終わりの日に知るであろう。

11 わたしが語ったこれらのことを信じる者に、わたしはわたしの御霊の示しを与えるので、その者は知って、証を述べるであろう。わたしの御霊のゆえに、その人はこれらのことが真実であることを知るであろう。わたしの御霊は、善を行うように人々を促すからである。

12 善を行うように人々を促すものはすべて、わたしから出る。善はわたし以外の者からは出ない。人々をあらゆる善に導く者はわたしである。わたしの言葉を信じない者は、わたしを、すなわちわたしが実在していることを信じない。わたしを信じない者は、わたしを遣わされた父をも信じない。見よ、わたしは父であり、光であり、命であり、世の真理である。

13 おお、異邦人よ、わたしのもとに来なさい。わたしはもっと大いなること、すなわち不信仰のために隠されている知識をあなたがたに示そう。

14 おお、イスラエルの家よ、わたしのもとに来なさい。父が世の初めから、あなたがたのためにどれほど大いなるものを備えてこられたかを、あなたがたに示そう。それがまだあなたがたに知らされていないのは、不信仰のためである。

15 見よ、おお、イスラエルの家よ、あなたがたを恐ろしい邪悪な状態、心のかたくなな状態、思いをくらまされた状態にとどめさせるあの不信仰の幕をあなたがたが裂くとき、世の初めからあなたがたに対して隠されてきた大いなる驚くべきことが明らかにされるであろう。まことに、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしの名によって父に呼び求めるとき、あなたがたは、父があなたがたの先祖に立てられた聖約をすでに思い出されたことを知るであろ

---

8 ③ アル12・10−11、3ニフ26・9−10
9 ① 列上8・35、教義77・8 ② ヒラ12・8−18、モル5・23
10 ① 2ニフ33・10−15
11 ① 教義5・16 ② エテ5・3−4、モロ10・4−5 ③ GS「証」
12 ① アル5・40、モロ7・16−17 ② 3ニフ28・34 ③ GS「光・キリストの光」 ④ ヨハ8・12、アル38・9
13 ① 3ニフ12・2−3
14 ① 教義121・26−29
15 ① 2ニフ27・10

う。

16 その後、わたしが僕ヨハネに書き記させたわたしの啓示[1]は、すべての民の目に明らかにされるであろう。覚えておきなさい。あなたがたはこれらのことを目にするとき、その啓示が実際に明らかにされる時の近いことが分かるであろう。

17 したがって、あなたがたはこの記録[1]を受けるとき、父の業が地の全面で始まっているのを知るであろう。

18 だから、地の果てに至るすべての者よ、悔い改めてわたしのもとに来なさい。そして、わたしの福音[2]を信じて、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、信じない者は罰の定めを受ける。わたしの名を信じる者にはしるし[3]が伴う。

19 終わりの日に、わたしの名に忠実[1]であると認められる者は幸いである。そのような者は高く上げられて、世の初めから用意されている王国[2]に住むであろう。見よ、これを語ったのはわたしである。アーメン。」

第5章

三人の証人と書物そのものが、『モルモン書』が真実であることの証となる。

1 さて、わたしモロナイは、命じられた言葉を記憶に従って書き記してきた。また、わたしが封じた[1]ものについてもあなたに告げた。したがって、封じられているものに手を着けて翻訳しようとしてはならない。そのことは禁じられているからである。しかし、やがてそれが神の知恵にかなう時が来るであろう。

2 また見よ、あなたは、この書物を出す助けをする者たちに版を見せるのを、特別に許されるであろう。

3 版は神の力によって三人[1]の者に示されるので、その三人はこれらのことが真実[2]であるのを確かに知るであろう。

4 そして、三人の証人[1]の口を通してこれらのことは確認される。また、三人の証とこの書物、すなわち、御父と御子と聖霊が証しておられる神の言葉と神の力を明らかにするこの書物は、終わりの日に世の人々に対する証となるであろう。

---

16 ① 黙示1・1、1ニフ14・18—27
17 ① 3ニフ21・1—9、28
18 ① 3ニフ27・20、モロ7・34
② ヨハ3・3—5、GS「バプテスマ—必要不可欠な条件」
③ GS「御霊の賜物」
19 ① モサ2・41、教義6・13、GS「イエス・キリスト—御名を受ける」
② 2ニフ9・18

第5章

1 ① 2ニフ27・7—8、21、エテ4・4—7
2 ① 2ニフ27・12—14、教義5・9—15
3 ① 2ニフ11・3、27・12
② エテ4・11
② 教義5・25
4 ① ② 教義17章の前書きと第1—3節を参照。「モルモン書」の序のページの「三人の証人の証」を参照

5 もしも世の人々が悔い改めて、イエスの名によって[1]御父のもとに来るならば、彼らは神の王国に迎え入れられるであろう。
6 さて、これらのことを述べる権能がわたしにないかどうか、考えてみなさい。あなたがたは終わりの日にわたしに会い、ともに神の前に立つとき、わたしに権能があることを知るであろう。アーメン。

第6章

ヤレド人の船は風に運ばれて約束の地に向かう。民は主の慈しみを思い、主をほめたたえる。オライハ、民を治める王に選ばれる。ヤレドと彼の兄弟、死ぬ。

1 さて、わたしモロナイは、ヤレドと彼の兄弟についての記録を書き進めよう。
2 さて、ヤレドの兄弟が山に持って登った[1]石を主が備えてくださった後、ヤレドの兄弟は山を下り、すでに準備しておいた船の中の、へさきとともにその石を一つずつ置いた。すると見よ、その石によって船の中が明るくなった。
3 このように主は、暗闇の中で石が輝くようにして、男や女、子供たちが暗闇の状態で大海を渡らなくてもよいように、彼らに光を与えられた。
4 さて、彼らは海の上で暮らせるように、あらゆる食物を準備し、また大小の家畜の群れと、一緒に連れて行くあらゆる獣や動物や鳥のためのえさも準備した。そして、これらのことをすべて終えると、彼らのはしけのような船に乗り込み、主なる神に身を託して海に出た。
5 そこで主なる神は、水の面に約束の地に向かって吹く[1]激しい風を起こされた。そのために、船は追い風を受けて海の波の上を運ばれて行った。
6 そして船は、砕ける山のような波と、激しい風によって生じたすさまじい大暴風雨のために、何度も海の深みに沈められた。
7 さて、彼らの船は深みに沈められても、皿のように透き間がなく、ノアの[2]箱船のようにしっかりして水が漏らなかったので、彼らは少しも水による害を受けなかった。そこで彼らは、海の深みに沈むと、主に叫び求めた。すると、主は船を再び水面に引き戻された。
8 そして、船が海上にある間、風は一度もやむこと

---

5 ①30—32 モル9・27、モロ10・
第6章
2 ①43 ②創世6・14、モセ7・
5 ①エテ3・3—6
7 ①エテ2・24—25 エテ2・17

なく約束の地に向かって吹き続けた。そのために、彼らは追い風を受けて進んだ。

9 そして、彼らは主に賛美の歌を歌った。まことに、ヤレドの兄弟は主に賛美の歌を歌い、一日中主に感謝し、主をほめたたえた。夜になっても、彼らは主をほめたたえるのをやめなかった。

10 このようにして、彼らは進んで行き、海の怪物も彼らの船を裂くことができず、鯨も彼らの船を害することができなかった。また、海上にあるときも、海中にあるときも、いつも彼らには光があった。

11 このようにして、船は海上を三百四十四日間運ばれて行った。

12 そして、彼らは約束の地の海岸に上陸した。彼らは約束の地の海岸に足を踏み下ろすと、地の面にひれ伏して主の前にへりくだり、主が深い憐れみを豊かにかけてくださったことについて、主の前に喜びの涙を流した。

13 そして彼らは、地の面に出て行き、地を耕し始めた。

14 ヤレドには四人の息子がおり、その息子はジェコム、ギルガ、メーハ、オライハと呼ばれた。

15 また、ヤレドの兄弟も息子たちと娘たちをもうけた。

16 また、ヤレドの友人たちとヤレドの兄弟の友人たちの人数はおよそ二十二人であり、彼らも約束の地に来る前に息子たちと娘たちをもうけていた。そのために彼らは多くなり始めた。

17 彼らは主の前をへりくだって歩むことを教えられ、天からも教えを受けた。

18 そして彼らは、地の面に広がり、増えて、土地を耕し始め、その地で強くなった。

19 ヤレドの兄弟は老いが進んで、間もなく墓に入らなければならないことを知った。そこで、彼はヤレドに言った。「わたしたちの民の人数を数えるために、またわたしたちが墓に入る前に、民がわたしたちに何を望むかを知るために、民を集めよう。」

20 そこで、民が集められた。ヤレドの兄弟の息子、娘の人数は二十二人、ヤレドの息子、娘の人数は十二人で、ヤレドには四人の息子がいた。

21 さて、彼らは民の人数を数えた。そして、人数を数え終えると、彼らは自分たちが墓に入る前に何をしてほしいか、民に尋ねた。

---

9 ① GS「歌う」
② 歴上16・7−9、アル37・37、教義46・32
16 ① エテ1・41
17 ① GS「歩む（神とともに）」
② GS「啓示」

22そこで民は、彼らの息子たちの中の一人に油を注いで、民を治める王にするように求めた。
23さて見よ、これは彼らにとって嘆かわしいことであった。そこで、ヤレドの兄弟は、「そのようなことをすれば、必ず囚われの身に陥ることになる」と民に言った。
24しかし、ヤレドは彼の兄弟に、「彼らが王を持つのを許そう」と言った。そこでヤレドの兄弟は、「わたしたちの息子たちの中から、あなたがたが望む者を王に選びなさい」と民に言った。
25そこで、彼らはヤレドの兄弟の長男を選んだ。彼の名はペーガグといった。ところが、彼は断って、王になろうとしなかった。そこで民は彼の父に、彼を何としてでも王にするように願ったが、父はそうしようとせず、王になることをだれにも強いてはならないと民に命じた。
26そして、民はペーガグの兄弟を次々に選んだが、彼らはだれも応じなかった。
27そして、ヤレドの息子たちも、ただ一人を除いてだれも望まなかったので、オライハが油を注がれて、民を治める王になった。
28そして、オライハが統治し始め、民は栄えるようになり、非常に豊かになった。
29そして、ヤレドが死に、彼の兄弟も死んだ。
30そして、オライハは主の前をへりくだって歩み、主が彼の父のためにどれほど偉大なことを行われたかを覚え、また主が民の先祖のためにどれほど大いなることを行われたかを民に教えた。

第7章

オライハ、義をもって治める。侵略と争いの中で、シュールの王国とコーホルの王国が互いに敵対して築かれる。預言者たちが民の悪事と偶像礼拝を非難し、民は悔い改める。

1さて、オライハは生涯この地で義をもって裁きを行い、彼の一生は非常に長かった。
2また、彼は息子たちと娘たちをもうけた。すなわち、彼は三十一人の子供をもうけ、その中の二十三人が息子であった。
3そして、彼は年老いてキブをもうけた。そして、キブが彼に代わって統治し、またキブはコリホルを

22① 1) GS「油注ぎ」
23① サ上8・10−18、モサ29・16−23

もうけた。
4ところがコリホルは、三十二歳のときに父に背いて、ニーホルの地へ行って住んだ。そして彼は、息子たちと娘たちをもうけた。ところが、子供たちが非常に美しくなったので、コリホルは多くの人を引き寄せて自分につかせた。
5そして彼は、軍隊を召集すると、王の住んでいたモロンの地へ上って行き、王を捕らえた。このことによって、囚われの身に陥るであろうというヤレドの兄弟の言葉[1]が事実となったのであった。
6王が住んでいたモロンの地は、ニーファイ人がデソレーションと呼んでいる地に近かった。
7そして、キブは高齢になるまで囚われの身で暮らし、彼の民も、キブの息子であるコリホルの下で囚われの身であった。それでもキブは、囚われの状態にありながら、年老いてシュールをもうけた。
8さて、シュールは兄のことを怒った。シュールは強くなり、体力の点でも強くなり、また判断力も優れた者になった。
9さて、彼はエフライムの丘に行き、その丘で金属を溶かし出し、自分に引き寄せていた者たちのために鋼で剣を造った。そして彼は、剣で彼らを武装させてから、ニーホルの町に引き返し、兄のコリホルを攻めた。その結果、彼は王国を手中に収め、それを父キブに返した。
10すると、シュールがこのことを行ったので、父は王位をシュールに授けた。そこで、シュールは父に代わって統治し始めた。
11そして彼は、義をもって裁きを行い、また民が非常に大勢になったので、地の全面に王国の領土を広げた。
12そして、シュールも多くの息子、娘をもうけた。
13さらに、コリホルが彼の行った多くの悪事を悔い改めたので、シュールは彼に王国内で力を持たせた。
14さて、コリホルにも多くの息子、娘がおり、息子たちの中にノアという名の者がいた。
15さて、ノアは、王のシュールと父コリホルに背いて、兄弟コーホルとほかの兄弟全員と多くの人を味方に引き入れた。
16そして彼は、王のシュールを攻めて、彼らの最初の受け継ぎの地を手に入れ、この地方を治める王になった。

第7章
5①　エテ6・23

17そして彼は、また王のシュールを攻めて捕らえ、モロンに連れ去った。
18そして、ノアがまさにシュールを殺そうとしたときに、シュールの息子たちは、夜に紛れてノアの家に忍び込んでノアを殺し、牢の扉を壊して父を連れ出した。そして彼らは、シュールをシュール自身の王国で王座に着かせた。
19また、ノアの息子もノアに代わって王国を築き上げたが、彼らは二度と王のシュールを支配する勢力を持つことはなかった。そして、シュール王の統治下にある人々は、非常に栄えて富んだ。
20しかし、国は分割され、二つの王国、すなわち、シュールの王国と、ノアの息子コーホルの王国があった。
21ノアの息子コーホルは、民にシュールを攻めさせたが、その戦いでシュールは彼らを打ち負かして、コーホルを殺した。
22コーホルには、ニムロデと呼ばれた息子がいた。このニムロデは、コーホルの王国をシュールに譲り渡し、シュールの好意を得た。その結果、彼はシュールから大いに引き立てられ、シュールの王国内で自分の思いどおりのことを行った。
23また、シュールの治世に、主から遣わされた預言者たちが民の中にやって来て、民の悪事と偶像礼拝[1]が地にのろいを招いており、もし悔い改めなければ民は滅ぼされると預言した。
24さて民は、その預言者たちをののしり、あざけった。そこでシュール王は、預言者たちをののしったすべての者を罰した。
25また彼は、全地で法律を施行し、その法律によって預言者たちに、彼らの望む所へはどこへでも行ける権限を与えた。このことによって、民は悔い改めるようになった。
26そして民が、彼らの罪悪と偶像礼拝を悔い改めたので、主は彼らを赦された。そして彼らは、再び地に栄え始めた。またシュールは、年老いて息子たちと娘たちをもうけた。
27シュールの時代には、もはや戦争はなかった。そして彼は、主が自分の先祖のために数々の偉大なことを行って、大いなる深みを渡らせて先祖を約束の地に導いてくださったことを思い起こし、生涯義をもって裁きを行った。

23① 27① GS「偶像礼拝」エテ6・4、12

第8章

王国全体に対立と争いがある。エーキシ、王を殺すために誓いの言葉で結ばれた秘密結社を作る。秘密結社は悪魔から出たものであり、結局は国々を滅ぼす。あらゆる地、あらゆる国民、あらゆる国々の自由を覆そうとする秘密結社について、現代の異邦人に警告が発せられる。

1 さて、シュールはオメルをもうけ、オメルがシュールに代わって統治した。また、オメルはヤレドをもうけ、ヤレドは息子たちと娘たちをもうけた。
2 そして、ヤレドは父に背き、ヘテの地に行って住んだ。彼は巧みな言葉で多くの人にへつらい、とう王国の半分を得るに至った。
3 そして彼は王国の半分を得ると、父を攻め、父を連れ去って囚われの状態に置き、囚われの状態で仕えさせた。
4 オメルは彼の統治の間、生涯の半分を囚われの身で過ごした。それから彼は息子たちと娘たちをもうけ、その中にエズロムとコリアンタマーがいた。
5 この二人は自分たちの兄ヤレドの行ったことを非常に怒り、軍隊を組織してヤレドを攻めた。そして夜に紛れて、二人は彼を攻めたのである。
6 そして彼らは、ヤレドの軍隊を滅ぼしてしまうと、ヤレドも殺してしまおうとした。するとヤレドは、殺さないでほしい、そうすれば王国を父に譲り渡そうと言って懇願した。そこで彼らは彼の命を許した。
7 さて、ヤレドは王国と世の誉れに執着していたので、王国を失ったことを非常に悲しく思った。
8 ところで、ヤレドの娘は非常に利口であったので、父が悲しんでいるのを見て、父のために王国を取り戻す策を講じようとした。
9 ヤレドの娘は非常に美しかった。そこで彼女は父と語って言った。「父上はどうしてそのようにひどく悲しんでおられるのですか。わたしたちの先祖が大いなる深みを渡って持って来た記録を、お読みになったことがないのですか。秘密のはかりごとによって王位と大きな栄華を得た、昔の人々についての話があるではありませんか。
10 父上、キムノルの息子のエーキシを迎えにやってください。まことに、わたしは美しいので、彼の前

第8章
9① 3ニフ6・28、ヒラ6・26−30、モセ5・51−52

で踊り、[1)]彼を喜ばせて、わたしを妻にしたいと思わせるようにしましょう。もし彼がわたしを妻にしたいと父上に願ったら、そのとき父上は、『王であるわたしの父の首をわたしのところに持って来れば娘を与えよう』と言ってください。」

11 オメルはエーキシの友人であった。さて、ヤレドがエーキシを迎えにやると、ヤレドの娘は彼の前で踊って彼を喜ばせたので、彼は彼女を妻にしたいと思った。そして、彼はヤレドに、「あなたの娘をわたしに妻として下さい」と言った。

12 そこで、ヤレドは彼に言った。「王であるわたしの父の首をわたしのところに持って来れば娘を与えよう。」

13 そこでエーキシは、ヤレドの家に自分の親族を皆集めて言った。「わたしがこれから頼むことについて、わたしに忠誠を誓ってくれるだろうか。」

14 そこで彼らは皆、エーキシが求めた援助を行わない者はだれでも首をはねられ、また、エーキシから知らされたことを何事でも漏らす者はだれでも命を失うと、天の神にかけて、また天にかけ、地にかけて、さらに自分の頭にかけて彼に誓った。[1)]

15 そして、彼らはエーキシに同意した。そこでエーキシは、権力を求めて昔の人々が行った誓いを[1)]彼らに立てさせた。これらの誓いは、世の初めから人殺しであった[2)]カインから伝えられてきたものである。

16 この誓いは、民にこの誓いを立てさせて民を暗闇の中にとどめるために、また権力を求める者に権力を得させ、殺人と略奪と偽りと、あらゆる悪事とみだらな行いを犯させるために、悪魔の力によって保たれてきたものであった。

17 ヤレドの心の中に、これらの昔のことを探り出す気持ちを起こさせたのは、ヤレドの娘であった。そして、ヤレドがその気持ちをエーキシの心の中に起こさせたので、エーキシは自分の親族と友人たちに誓いを立てさせ、もっともらしい約束で彼らを惑わして、自分の求めることを何事でも行わせたのであった。

18 そして、彼らは昔の人々のように[1)]秘密結社を作った。この結社は、神の目から見て、どのようなものにも増して最も忌まわしく、邪悪なものである。

19 主は秘密結社によって事を行われることはなく、また主は、人が血を流すことを望まれず、人が造ら

---

10 ① マコ 6・22−28
14 ① GS「冒瀆・汚す罪」
15 ① GS「誓い」
② 創世 4・7−8、モセ 5・28−30
18 ① GS「秘密結社」

れて以来あらゆることにおいてそれを禁じてこられた。

20 さて、わたしモロナイは、彼らの誓いの方法と結社の様式について書き記さない。これらがあらゆる民の中にあり、レーマン人の中にもあることが、わたしに知らされたからである。

21 これらが、わたしの今述べているこの民の滅亡[1]を引き起こしたのである。また、ニーファイの民の滅亡も同じである。

22 権力と利益を得るために、このような秘密結社が全地に広がるまで支援する国民は、見よ、どのような国民でも滅ぼされる。なぜならば、秘密結社によって流される主の聖徒たちの血[1]が、秘密結社への報復[2]を訴えて地からいつまでも主に叫ぶのに、主が秘密結社に報復なさらないということはあり得ないからである。

23 おお、あなたがた異邦人よ、これらのことがあなたがたに知らされるのは、神の知恵にかなっている。それによってあなたがたが罪を悔い改めることができるようにするためであり、また権力[1]と利益を得るために築かれるこれらの殺人結社に支配されることのないようにするためであり、その業、すなわち滅亡の業があなたがたに及ばないようにするためである。もしこれらのことが起こるのを許すならば、永遠なる神の罰の剣があなたがたに下り、あなたがたは打ち倒され、滅びるであろう。

24 そこで、主はあなたがたに、これらのものがあなたがたの中に起こるのを見るときに、自分たちがひどい状態にいるという意識に目覚めるようにと命じておられる。この秘密結社があなたがたの中にあるからである。殺された者たちの血のゆえに、秘密結社は災いである。これらの者たちの血が、秘密結社への、また秘密結社を築いた者たちへの報復を訴えて、地から叫ぶからである。

25 さて、秘密結社を築く者はあらゆる地、国民、国々の自由[1]を覆そうとする。そして、秘密結社はあらゆる民の滅亡をもたらす。それはあらゆる偽りの父である悪魔によって築かれるからである。悪魔はわたしたちの始祖をだました[2]あの偽り者であり、また初めから人に殺人を犯させたあの偽り者であり、また人々の心をかたくなにして、初めから人々に預言者を殺させ、石で打たせ、追い出させたあの偽り

---

21 ① ヒラ 6・28
22 ① モル 8・27、40−41
22 ② GS「報復」
23 ① 1 ニフ 22・22−23、モセ 6・15
25 ① GS「自由」
25 ② 創世 3・1−13、2 ニフ 9・9、モサ 16・3、モセ 4・5−19

者である。
26そこでわたしモロナイは、これらのことを書き記すように命じられている。このことによって、悪がなくなるようにするためであり、またサタンが人の子らの心を1)支配する力を持つことなく、彼らが絶えず善を行うように2)促されてあらゆる義の源に来て、救われる時が来るようにするためである。

第9章

血統により、また陰謀と殺人により、王位が次々に移る。イーマー、義の御子にまみえる。多くの預言者が悔い改めを叫ぶ。飢饉と毒蛇が民を苦しめる。

1さて、わたしモロナイは記録を続ける。さて見よ、エーキシと彼の仲間たちは、彼らの秘密結社1)でオメルの王国を倒した。
2それでも主は、オメルとオメルを殺そうとしなかった彼の息子たちと娘たちに憐れみをかけられた。
3そして主は、その地を去るように夢の中でオメルに警告された。そこでオメルは、家族を連れてその地を去り、幾日もの間旅をして、1)シムの丘のそばを通り、2)ニーファイ人が滅ぼされた地方の近くを通り、そこから東の方に向かって、海岸に近いアブロムと呼ばれる地方に着いた。そして彼はそこに天幕を張り、またヤレドと彼の家族を除く、オメルの息子たちと娘たち、およびオメルの家のすべての者が皆、そこに天幕を張った。
4さて、ヤレドは、悪の手によって油を注がれて、民を治める王になり、娘をエーキシに妻として与えた。
5さて、エーキシは義父の命を取ろうとして、昔の人々の誓いの言葉で誓っていた仲間に頼んだ。そして彼らはエーキシの義父の首をはねた。それは、彼が王座に着いて、民の訴えを聞いていた最中のことであった。
6この邪悪な秘密結社は、その広がりが非常に大きく、すでにすべての民の心を腐敗させていた。そのために、ヤレドは王座に着いていて殺され、エーキシが彼に代わって統治したのであった。
7さて、エーキシは息子をねたむようになり、息子を牢に閉じ込めてほとんど食物を与えず、とうとう飢え死にさせてしまった。

---

26 ① 1 ニフ22・26
② 2 ニフ33・4、モロ7・12—17
第9章
1 ① エテ8・13—17
3 ① モル1・3、4・23
② モル6・1—15

8 すると、死んだ息子の兄弟（その名をニムラという）が、自分の兄弟に対して行った父の仕打ちのことで父を怒った。
9 そしてニムラは、少数の人々を集めてその地から逃げ出し、オメルのもとに行ってともに住んだ。
10 さて、エーキシはほかにも息子たちをもうけた。しかし、その息子たちは、父から求められるままにあらゆる悪事を行うと父に誓っていたにもかかわらず、民の信用を得た。
11 エーキシが権力を得たいと望んでいたように、エーキシの民も利得を得ることを望んでいたので、エーキシの息子たちは彼らに金銭を与えて、民の大半を引き寄せて自分たちに従わせたのである。
12 そこで、エーキシの息子たちとエーキシの間で戦争が始まり、その戦争は何年間も続いた。そして、王国の民はほとんど皆滅びてしまった。まことに、三十人の者と、オメルの家族と一緒に逃げた者たちを除く全員が死んでしまった。
13 そこで、オメルは再び自分の受け継ぎの地へ戻った。
14 さて、オメルは年を取ったが、それでも老年に及んでイーマーをもうけた。そして、オメルはイーマーに油を注ぎ、彼を自分に代わって統治する王とした。
15 オメルは、油を注いでイーマーを王とした後、二年間、国の平和な有様を見てから死んだ。彼の一生は非常に長かったが、悲しみに満ちたものであった。その後、イーマーが父に代わって統治し、父の足跡を歩んだ。
16 主は再び地からのろいを取り去られ、イーマーの家はイーマーの統治の間に非常に栄えた。そして、六十二年の間に彼らは大きな力をつけ、非常に豊かになった。
17 彼らはあらゆる果物や穀物、絹布や織り目の細かい亜麻布、また金や銀や貴重な品々を持つようになり、
18 またあらゆる家畜、雄牛、雌牛、羊、豚、やぎ、そのほか人の食用となる多くの動物も持つようになった。
19 彼らは馬とろばも持ち、また象とクレーロムとクモムもいた。これらはすべて人のために役立ったが、特に象とクレーロムとクモムは役に立った。

20 このように、主はほかのあらゆる地に勝ったえり[1]抜きのこの地に祝福を注がれた。そして主は、この地を所有する者はだれであろうと、主のためにここに住まなければならず、さもなければ、民の罪悪が熟したときに民は滅ぼされると命じられた。なぜならば主は、「わたしはそのような者にわたしの限りない怒りを注ぐ」と言われるからである。

21 イーマーは生涯義をもって裁きを行い、また多くの息子たちと娘たちをもうけた。また、彼はコリアンタムをもうけ、彼に油を注いで自分に代わって統治させた。

22 彼は自分に代わって統治するようにコリアンタムに油を注いだ後、四年間生き長らえ、国の平和な有様を見た。また、彼は義の御子にさえまみえ、主の日を喜んで誇りに思い、そして安らかに死んだ。

23 さて、コリアンタムは父の足跡に従って歩んだ。そして、多くの大きな町を築き、生涯民に良いものを与えた。しかし、高齢になるまで彼には子供がいなかった。

24 そして、彼の妻が百二歳で死んだので、コリアンタムは老年に及んで若いおとめをめとり、息子たちと娘たちをもうけた。彼は百四十二歳まで生き長らえた。

25 そして、彼はコムをもうけ、コムが彼に代わって統治した。コムは四十九年間統治した。また、彼はヘテをもうけ、ほかにも息子たちと娘たちをもうけた。

26 民はすでに再び地の全面に広がっており、地の面でひどい大きな悪事が行われ始めた。そして、ヘテは自分の父を殺そうとして、昔の秘密のはかりごとをまた受け入れるようになった。

27 そして、彼は自分の剣で父を殺して王位から退け、自分が代わって統治した。

28 すると、またこの地に預言者たちがやって来て、民に悔い改めを叫び、民は主の道を備えなければならない、さもなければ地の面にのろいが下る、すなわち、悔い改めなければひどい飢饉があって滅ぼされる、と告げた。

29 しかし民は預言者たちの言葉を信じることなく、彼らを追い出した。また、民はある預言者たちを穴の中に投げ込み、そのまま放置しておいて死なせた。そして、民はこれらのことをすべて、ヘテ王の

20① エテ2・15
20② エテ2・8−11
22① 3ニフ25・2

命令によって行ったのであった。
30さて、地にひどい飢饉が起こり、その飢饉のためにその地に住む者たちが次から次へと死んでいった。地の面に雨が少しも降らなかったからである。
31また、地の面に毒蛇も現れ、多くの人がその毒で死んだ。そして、彼らの家畜の群れは毒蛇に追われて、ニーファイ人がゼラヘムラと呼んだ南方の地へ向かって逃げ始めた。
32そして、途中でその多くが死んだ。それでも、ある群れは南方の地へ逃げ込んだ。
33そこで主は蛇にそれ以上家畜の群れを追うのをやめさせ、人々が通り抜けられないようにその道をふさがせて、通り抜けようとする者が毒蛇のために倒れるようにされた。
34そして、民は家畜の逃げた道をたどり、途中で倒れた家畜の死体をむさぼり食い、一つも残さずに食い尽くした。そして民は今や自分たちの滅びるのが避けられないことを知ると、罪悪を悔い改めて主に叫び求め始めた。
35そして、彼らが主の前に十分にへりくだったので、主は地の面に雨を降らせられた。そこで民は再び力を取り戻し、また北の地方と周りのあらゆる地方で、実がとれ始めた。このようにして、主は民を飢饉から守ることによって彼らに御自分の力を示された。

第10章

王が何代も代わる。義にかなった王もいれば、邪悪な王もいる。義が勝利を得ているとき、民は主によって祝福され、栄える。

1さて、ヘテと彼の家のすべての者は、シェズを除いて全員飢饉のために死んでしまった。そこで、ヘテの子孫であったシェズは、離散した民を再び立て直し始めた。
2そしてシェズは、先祖が滅びたことを忘れず、義にかなった王国を築いた。彼は、主がヤレドと彼の兄弟に大海を渡らせるに当たって行われたことを覚えていたからである。そして彼は主の道を歩み、また息子たちと娘たちをもうけた。
3ところが、シェズという名の彼の長男が彼に背いた。しかし、このシェズは非常に多くの富を持って

31① オム1・13
33① 民数21・6−9
33① アル34・34、教義101・8
35① 教義5・24
第10章
2① エテ6・1−12

いたために、強盗の手で殺されてしまった。そして、再び彼の父に平和が戻った。
4さて、彼の父は地の面に多くの町を築き、民はまた地の全面に広がり始めた。そしてシェズは高齢になるまで生き長らえた。また彼はリプレーキシをもうけた。そして、彼が死ぬと、代わってリプレーキシが統治した。
5さて、リプレーキシは、主の目から見て正しいことを行わなかった。彼は多くの妻とそばめ[1]を持ち、また堪え難い重荷を人々の肩に負わせたからである。彼は重い税を人々に課し、その税で多くの大きな建物を建てた。
6彼は自分のために非常に美しい王座を作り、また牢もたくさん建てた。そして、課税に服そうとしない者を牢に入れ、また税を納める能力のない者も牢に入れて、彼らを絶えず働かせて生計を立てさせた。また彼は、働くことを拒む者を殺させた。
7また彼は見事な品物をすべて手に入れた。彼は牢の中で純金を精錬させ、あらゆる見事な細工を造らせて、それを自分のものとした。そして彼は、みだらな行いと忌まわしい行いをして民を苦しめた。
8そこで、彼が四十二年間統治した後、民は彼に対して謀反を起こした。そして、国でまた戦争が始まり、リプレーキシは殺され、彼の子孫は国から追放された。
9さて、それから長年たって、（リプレーキシの子孫であった）モリアントンが追放された者たちを大勢集め、出て行って民を攻め、多くの町の支配権を得た。そこで、戦争は非常に激しくなり、何年もの長い間続いた。そして彼は全地の支配権を得て、自分で全地を治める王になった。
10彼は自分で王になった後、民の負担を軽くして、民の好意を得た。そこで民は彼に油を注いで、彼を自分たちの王とした。
11彼は民に対しては公正であったが、自分自身に対してはそうではなかった。多くのみだらな行いをしていたからである。そのために、彼は主の前から絶たれてしまった。
12さて、モリアントンは多くの町を築き、民は彼の統治の間に非常に豊かになった。そして、建物や金や銀、また穀物の栽培、大小の家畜の群れ、およびに回復されたそのほかのものに富むようになっ

5
2 ① ヤコ3・5、モサ11・

た。
13また、モリアントンは非常に高齢になるまで生き長らえ、老年にキムをもうけた。そして、キムが父に代わって統治し、八年治めたときに父は死んだ。キムは義をもって統治しなかったので、主の恵みを受けなかった。
14その後、彼の兄弟が彼に対して謀反を起こし、彼を囚われの身に陥れた。そして彼は生涯囚われの身で過ごし、囚われの身で息子たちと娘たちをもうけた。そして彼は年取ってからレビをもうけて死んだ。
15さて、レビは父の死後四十二年間、囚われの身にあって仕えた。その後、彼は国の王と戦い、その戦争によって王位を得た。
16彼は王位を得た後、主の目から見て正しいことを行い、民はこの地で栄えた。そして彼は高齢になるまで生き長らえ、息子たちと娘たちをもうけた。彼はまたコロムをもうけ、油を注いで自分に代わる王とした。
17そして、コロムは生涯主の目から見て善いことを行い、また多くの息子たちと娘たちをもうけた。彼は多くの日を過ごした後、世のほかの人々と同じように世を去った。そして、キシが彼に代わって統治した。
18そして、キシも世を去り、リブが彼に代わって統治した。
19さて、リブも主の目から見て善いことを行った。また、リブの時代に毒蛇が全滅したので、人々は南方の地へ行き、狩りをして民の食糧を手に入れた。その地には森の動物が満ちていたからである。そして、リブ自身も卓越した狩人になった。
20また、彼らは地峡のそばに、すなわち海によって陸が分けられている場所の近くに一つの大きな町を築いた。
21また、彼らは南方の地を、猟の獲物をとる荒れ野としてそのまま残しておいた。そして北方の地には、全面にわたって人々が住んでいた。
22彼らは非常に勤勉であり、売買し、互いに交易して利益を得た。
23また、彼らはあらゆるあらがねで物を造った。彼らは金や銀や鉄や真鍮、そのほかあらゆる金属を造った。彼らはあらがねを地の中から掘り出したの

19① エテ9・31
23① 2ニフ5・15

で、金や銀や鉄や銅のあらがねを得るために大きな土の山が幾つもできた。そして彼らはあらゆる見事な細工を造った。

24 彼らは絹布とより糸で織った亜麻布を得ていた。また、裸を覆うためにあらゆる織物を作った。

25 また、彼らは地を耕すあらゆる道具を造り、すく道具、種をまく道具、刈り取る道具、脱穀する道具を造った。

26 また、彼らは家畜に付けて働かせるためのあらゆる道具を造った。

27 彼らはあらゆる武器を造った。また彼らは非常に入念な造りのあらゆる細工を造った。

28 彼らほど祝福された民、また彼らほど主の手によって繁栄を得た民はなかった。彼らはあらゆる地に勝ったえり抜きの地に住んでいた。主がそのように言われたからである。

29 さて、リブは長年生きて、息子たちと娘たちをもうけ、またヒアルサムをもうけた。

30 そして、ヒアルサムが父に代わって統治した。しかし、ヒアルサムは二十四年間統治して、見よ、王位を奪われた。そして、彼は囚われの身で何年もの長い間、まことに、余生を仕えて暮らしたのであった。

31 また、彼はヘテをもうけ、ヘテも囚われの身で生涯を送った。そしてヘテはアロンをもうけ、アロンも囚われの身で生涯を送った。そして彼はアムニガダをもうけ、アムニガダも囚われの身で生涯を送った。そして彼はコリアンタムをもうけ、コリアンタムも囚われの身で生涯を送った。そして彼はコムをもうけた。

32 さて、コムは王国の半分を引き寄せ、四十二年間王国の半分を統治した。それから彼はアムギド王と戦うために出て行き、両者は長年の間戦った。その間にコムはアムギドに対する支配権を得て、王国の残りも治める権力を手に入れた。

33 ところが、コムの時代に国に強盗が出始めた。そして強盗たちは昔のはかりごとを取り入れ、昔の人々に倣って誓いを立て、またもや王国を滅ぼそうとした。

34 そこでコムは大いに彼らと戦ったが、彼らに勝てなかった。

33 ①社」GS「誓い」「秘密結

第11章

戦争、不和、悪事がヤレド人の生活を支配する。預言者たち、悔い改めなければヤレド人が完全に滅びることを預言する。民は預言者たちの言葉を拒む。

1 コムの時代にまた多くの預言者が来て、この大いなる民は、悔い改めて主に立ち返り、殺人と悪事を捨てなければ滅びると預言した。
2 さて、預言者たちは民に拒まれ、民に殺されそうになったため、保護を求めてコムのもとに逃げた。
3 そして彼らはコムに多くのことを預言し、コムは残りの全生涯にわたって祝福を受けた。
4 そして彼は高齢になるまで生き長らえ、シブロムをもうけた。そして、シブロムが彼に代わって統治した。ところが、シブロムの兄弟が彼に背き、全地で非常に大きな戦争が始まった。
5 そして、シブロムの兄弟は民の滅亡を預言したすべての預言者を殺させた。
6 すると、全地にひどい災いが生じた。かつて預言者たちが、もしも民が悪事を悔い改めなければ、ひどいのろいが地と民に下り、地の面にかつてなかったほどのひどい滅亡が彼らの中にあり、彼らの骨は土の山[1]のように地の面に積み上げられると証していた。
7 ところが民は邪悪な結社があったために、主の声に聞き従わなかった。そのために、全地で戦争と争いが始まり、また多くの飢饉と疫病が起こって、地の面にこれまでまったく知られていなかったほどのひどい滅亡が生じた。これはすべて、シブロムの時代に起こったことである。
8 すると民は自分たちの罪悪を悔い改め始めた。そして、彼らが悔い改めたので、主は彼らに憐れみ[1]をかけられた。
9 さて、シブロムは殺され、セツは囚われの身に陥って、生涯囚われの状態で過ごした。
10 そして、彼の息子エーハは王位を得て、生涯民を治めた。しかし彼は生涯あらゆる罪悪を行い、多くの血を流したので、彼の一生は短かった。
11 また、イーサムはエーハの子孫であり、王位を得たが、彼もまた生涯邪悪なことを行った。
12 そして、イーサムの時代に多くの預言者が来て、民に再び預言をした。預言者たちは、民が悔い改め

第11章
6① オム1・22、エテ14・21
8① GS「憐れみ」

なければ、主は地の面から民をことごとく滅ぼしてしまわれると預言した。
13さて、民は心をかたくなにして、預言者たちの言葉に聞き従おうとしなかった。そこで預言者たちは、悲しみながら民の中から去って行った。
14さて、イーサムは生涯悪をもって裁きを行った。そして彼はモロンをもうけた。その後、モロンが彼に代わって統治し、主の前に邪悪なことを行った。
15さて、民の中に謀反[1]が起こった。それは権力と利益を得るために築かれたあの秘密結社のために生じたものである。また民の中に、罪悪に勢いのある一人の男が現れ、モロンと戦って、その戦いで王国の半分を打ち破った。そして、彼は長年の間その王国の半分を治めた。
16さて、モロンはこの男を倒して、再び王位を取り戻した。
17そして、また別の勢いのある男が現れた。彼はヤレドの兄弟の子孫であった。
18そして、彼はモロンを打ち破って、王位を得た。そのために、モロンは囚われの身で余生を送り、コリアントルをもうけた。
19そして、コリアントルも囚われの身で生涯を送った。
20また、コリアントルの時代に多くの預言者が来て、大いなる驚くべきことを預言し、民に悔い改めを叫んで、もしも悔い改めなければ、主なる神が彼らに対して裁きを行って、彼らを完全に滅ぼされると告げた。
21また主なる神が、かつてこの民の先祖を導いたように御自分の力によって別[1]の民を送り、いや、別の民を導いてこの地を所有させられると、預言者たちは告げた。
22しかし、民は彼らの秘密結社と邪悪な忌まわしい行いのために、預言者たちの言葉をことごとく拒んだ。
23さて、コリアントルはエテル[1]をもうけ、囚われの身で生涯を過ごして死んだ。

第12章

預言者エテル、神を信じるよう民に説き勧める。モロナイ、信仰によって行われた数々の不思議と驚くべきことを列挙する。信仰によってヤレドの兄弟がキリ

13① モサ16・2
15① GS「背く」
15① GS「裁き」
20① エテ13・20−21
21① エテ1・6、15・33
23① −34

ストにまみえたこと。主は人々が謙遜になるように、人々に弱さを与えられる。ヤレドの兄弟が信仰によってゼリン山を移したこと。信仰と希望と慈愛は救いに欠かせない。モロナイ、顔と顔を合わせてイエスにまみえる。

1 さて、エテルとコリアンタマーは同時代の人である。このコリアンタマーは、全地を治める王であった。[1]

2 エテルは主の預言者であった。そこで、エテルはコリアンタマーの時代に出て行って、民に預言し始めた。彼の内に主の御霊があったために、そうせずにはおれなかったからである。[2]

3 彼は朝から日の沈むまで大声を上げ、滅ぼされることのないように、神を信じて悔い改めることを民に勧め、また信仰によってすべてが成就することを彼らに告げた。

4 さて、神を信じる者はだれであろうと、もっと良い世界を、まことに神の右に一つの場所を、確かに望むことができる。この望みは信仰から生じ、人々にとってその心をしっかりとした不動のものにする錨となる。そしてそのような人々はいつも多くの善い行いをし、神をあがめるようになる。[3][4]

5 そして、エテルは数々の大いなる驚くべきことを民に預言した。しかし彼らは、現実にそれらのことを見なかったので信じなかった。

6 さて、わたしモロナイはこれらのことについて少々述べたい。信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものであることを、世の人々に示したい。あなたがたは、自分が見ていないからということで疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。

7 キリストが死者の中からよみがえられた後、わたしたちの先祖に御自身を現されたのは、信仰による。先祖がキリストを信じてからでなければ、キリストは先祖に御自身を現されなかった。したがって、キリストを信じていた人々がいたに違いない。キリストは、俗世の人々には御自身を現されなかったからである。

8 しかし、人々が信じたので、キリストは世の人々に御自身を現し、御父の名の栄光を表し、さらに、ほかの人々が天の賜物にあずかる者となれるよう

第12章

1 (1) エテ 13・13−31
2 (1) GS「エテル」
(2) エレ 20・9、エノ 1・26、アル 43・1
3 (1) 教義 112・5
(2) エテ 11・12、20−22
(3) GS「信仰」
4 (1) GS「希望」
(2) ヘブ 6・19
(3) 1コリ 15・58
(4) 3ニフ 12・16
6 (1) ヘブ 11・1
(2) ロマ 8・24−25
(3) アル 32・21
(4) 3ニフ 26・11、教義 105・19、121・7−8

に、また、彼らがまだ見ていないものを待ち望むことができるように、道を備えられた。

9 したがって、あなたがたも信仰を持ちさえすれば、望みを持つことができ、賜物にあずかる者となれるのである。

10 見よ、昔の人々が神の聖なる位に従って召されたのは、信仰による。

11 それで、信仰によってモーセの律法が与えられた。しかし神は、御子を送ることによってもっとすばらしい方法を備えられた。そして、信仰によって、モーセの律法が成就したのである。

12 もしも人の子らの中にまったく信仰がなければ、神は人の子らの中で何の奇跡も行うことがおできにならない。したがって、彼らが信じてからでなければ、神は御自身を現されなかった。

13 見よ、牢を地に倒したのは、アルマとアミュレクの信仰であった。

14 見よ、レーマン人に変化を生じさせて、彼らに火と聖霊によるバプテスマを受けさせたのは、ニーファイとリーハイの信仰であった。

15 見よ、レーマン人の中であのように大きな奇跡を行ったのは、アンモンと彼の同僚たちの信仰であった。

16 そして、奇跡を行った者は皆、キリスト以前にいた者でも、キリスト以後にいた者でも、信仰によって奇跡を行った。

17 三人の弟子たちが死を味わわないという約束を得たのは、信仰によるものであった。しかし彼らは、信じてからでなければ、その約束を得なかった。

18 どのようなときでも、信じてからでなければ奇跡を行った者はいない。したがって、奇跡を行った者はまず神の御子を信じたのである。

19 キリストが来られる以前にも、非常に深い信仰を持っていた人々が多くおり、これらの人は幕の内側を見るのを禁じられなかったので、彼らは実際に自分の目で様々なものを見た。それらのものは、彼らがすでに信仰の目で見ていたものである。そして、彼らは喜んだ。

20 見よ、この記録で分かるように、これらの人の中の一人がヤレドの兄弟であった。神を信じる彼の信仰が非常に深かったので、神は御自分の指を差し伸べられたときに、ヤレドの兄弟の目からその指を隠

10 ①アル 13・3—4、GS「召し・神の召し」
11 ①1コリ 12・31
12 ①2ニフ 27・23、モサ 8・18、モロ 7・37、教義 35・8—11
13 ②マタ 13・58、モル 9・20
14 ①アル 14・26—29
①ヒラ 5・50—52
②ヒラ 5・45、3ニフ 9・20
15 ①アル 17—26章
②アル 17・29—39
16 ①GS「奇跡」
②ヘブ 11・7—40
17 ①3ニフ 28・7、モル 8・10—12
②2ニフ 11・1—4、ヤコ 4・4—5、ジェロ 1・11、アル 25・15—16
18 ①エテ 3・6、GS「幕」エテ 3・4
19 ①2ニフ 11・1—4、ヤコ 4・4—5、ジェロ 1・11、アル 25・15—16
20 ①②エテ 3・4

すことがおできにならなかった。神が以前に彼に言われた御言葉があったからである。その御言葉は、ヤレドの兄弟が信仰によって得たものである。
21また、主の指を見た後、ヤレドの兄弟には信仰によって得た1)約束があったので、主は彼の目から何も隠すことがおできにならなかった。そこで、主は彼にすべてのものをお見せになった。彼はもはや2)幕の外側にとどめられなかったからである。
22また、これらのことが異邦人を通じて同胞に伝わるという1)約束をわたしの先祖が得たのも、信仰による。そのために、主は、すなわちイエス・キリストは、わたしに命じられたのである。
23わたしは主に言った。「主よ、わたしたちの物を書き記す力が弱いので、異邦人はこれらのことをあざけるでしょう。主よ、あなたはわたしたちを、信仰によって言葉に力のある者とされましたが、物を書き記す2)力のある者とはされませんでした。あなたはこの民に聖霊をお授けになり、聖霊のためにすべての者が大いに語れるようにされました。
24また、わたしたちの手が不器用であったために、わたしたちがわずかしか書けないようにされました。まことに、あなたはわたしたちを、ヤレドの兄弟のように物を書き記す力のある者とはされませんでした。あなたはヤレドの兄弟を物を書き記す力のある者とされたので、彼の書き記したことはあなた御自身のように力強く、それを読む者を圧倒するほどのものとなりました。
25あなたはまた、わたしたちの言葉を力強くまた大いなるものとし、わたしたちがそれを書き記せないほどのものとされました。そのため、わたしたちは書き記すときに、わたしたちの弱さを知り、またわたしたちの言葉の用法を誤ってしまいます。ですから、異邦人がわたしたちの言葉をあざけるのではないかと心配です。」
26わたしがこのように言うと、主はわたしに言われた。「愚か者はあざけるが、後に嘆き悲しむ。わたしの恵みは柔和な者に十分であり、彼らがあなたの弱さに付け込むことはない。
27もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分であ

21 ①エテ3・25—26 ②エテ3・20、教義67・10—13
22 ①エノ1・13 ②モル8・17、9・33
23 ①2ニフ33・1 ②GS「言葉・言語」
24 ①1コリ2・14
25 ①ガラ6・7
26 ①ヤコ4・7 ②出エ4・11、1コリ1・27
27 ①ルカ18・10—14、教義1・28、GS「謙遜」 ②GS「恵み」

る。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの5)弱さを強さに変えよう。

28 見よ、わたしは異邦人に彼らの弱さを示し、また1)信仰と希望と慈愛が彼らをわたしのもとに、すなわち、あらゆる義の源に導くことを彼らに示そう。」

29 わたしモロナイは、これらの御言葉を聞くと慰めを得て言った。「おお、主よ、あなたの義の御心が行われますように。わたしはあなたが人の子らのために、彼らの信仰に応じて働かれることを存じています。

30 ヤレドの兄弟がゼリン山に向かって、『1)移れ』と言うと、移りました。もし彼に信仰がなかったならば、移らなかったでしょう。ですから、人々が信仰を持った後に、あなたは働かれます。

31 このようにあなたは、弟子たちに御自身を現されました。彼らが1)信仰を持ち、あなたの御名によって語った後に、あなたは大いなる力をもって彼らに御自身を現されました。

32 わたしはまた、あなたの言われたことを覚えています。あなたは御父の1)住まいの中に、人のために住む所を用意したと言われました。人がもっと大きな2)希望を持てるようにするためでした。ですから、人は希望を持たなければなりません。さもなければ、あなたの用意してくださった場所に受け継ぎを得ることができません。

33 さらに、わたしはあなたの言われたことを覚えています。あなたは、世のために御自分の命を捨てるほどこの世を1)愛したと言われました。あなたは再び御自分の命を得て、人の子らのための場所を用意するために、御自分の命を捨てられたのです。

34 あなたが人の子らに対して1)抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。ですから、人は慈愛を持たなければ、あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません。

35 ですから、あなたの言われたこのことから、もし異邦人がわたしたちの弱さを見て慈愛を持たなければ、あなたは彼らを試し、彼らの1)タラントを、彼らがすでに得ているものまでも取り上げて、もっと豊かに持っている者たちに与えられるということが分

27 ⑤ ルカ 9・46−48、2コリ 12・9
28 ① 1コリ 13・1−13、モロ 7・39−47
30 ① マタ 17・20、ヤコ 4・6、ヒラ 10・6、9、GS「力」
31 ① GS「信仰」
32 ① ヨハ 14・2、エノ 1・27、教義 72・4、98・18
33 ① ② GS「希望」
34 ① ヨハ 3・16−17、モロ 7・47、GS「愛」
35 ① 「慈愛」マタ 25・14−30、GS「賜物」「タラント」

かります。」
36そしてわたしは、異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに1)恵みを授けてくださることを主に祈った。
37そこで主はわたしに言われた。「たとえ彼らに慈愛がなくても、あなたにとっては問題ではない。あなたは忠実であったので、あなたの衣は清くされるであろう。また、あなたは自分の2)弱さを認めたので、強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。」
38さて、わたしモロナイは、キリストの1)裁きの座の前で会うときまで、異邦人とわたしの愛する同胞に別れを告げる。その裁きの座の前で、すべての人は、わたしの2)衣があなたがたの血で汚れていないことを知るであろう。
39またそのとき、あなたがたはわたしがイエスにまみえたことと、イエスが2)顔と顔を合わせてわたしと話をされたことと、人が人に語るようにまったく謙遜に、イエスがわたしの言語でわたしにこれらのことについて話されたことを知るであろう。
40しかし、わたしは物を書き記す力が弱いので、少ししか書き記さなかった。
41わたしは、預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを1)求めるように、あなたがたに勧めたい。そうすれば、父なる神と主イエス・キリストと、この御二方のことを2)証される聖霊の恵みが、とこしえにあなたがたの内にとどまるであろう。アーメン。

第13章

エテル、ヨセフの子孫によって新エルサレムがアメリカに築かれることを述べる。エテルは預言し、追い出され、ヤレド人の歴史を書き記し、ヤレド人の滅亡を予告する。全地で激しい戦争が起こる。

1さて、わたしモロナイは、これまでこの民のことを書き記してきたが、民の滅亡についてのわたしの記録を続けて、これを終えることにしよう。
2見よ、彼らはエテルの言葉をことごとく拒んだ。エテルは、人の始まりからの一切のことを実際に彼らに告げた。1)水がこの地の面から引いた後、この地がほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地、すなわち主の選ばれた土地になったので、主はこの地の面

36① GS「恵み」
37① 教義38・42、88・74―75、135・4―5
② エテ12・27
38① GS「イエス・キリスト―裁き」
② ヤコ1・19
39① GS「イエス・キリスト―死後の現れ」
② 創世32・30、出エ33・11
41① 教義88・63、101・38
② 3ニフ11・32
第13章
2① 創世7・11―24、8・3

に住むすべての人に、御自分に仕えることを望まれたと、エテルは告げた。

3 またこの地は新エルサレムが天から降って来る場所であり、主の聖所であると、彼は告げた。

4 見よ、エテルはキリストの時代を目にし、またこの地の新エルサレムについて述べた。

5 彼はイスラエルの家と、リーハイが出て来るエルサレムについても述べた。エルサレムは破壊された後、主のために聖なる都として再び築かれる。したがって、それは昔存在していたので、新しいエルサレムではあり得ないが、それは再び築かれて、主の聖なる都となる。それはイスラエルの家のために築かれる。

6 また新エルサレムは、ヨセフの子孫の残りの者のためにこの地に築かれる。このことについてはすでに予型があった。

7 ヨセフは自分の父をエジプトの地に導いたので、父はそこで死んだ。そして主は、ヨセフの父が滅びないように、彼に憐れみをかけられたと同様に、ヨセフの子孫が滅びないように、彼らに憐れみをかけ、ヨセフの子孫の残りの者をエルサレムの地から導き出された。

8 ヨセフの家の残りの者は将来この地で増えて、この地は彼らの受け継ぎの地となる。そして、彼らは主のために昔のエルサレムのような聖なる都を築く。また、彼らはもはや乱されることはなく、終わりが来て大地が過ぎ去る。

9 しかも、新しい天と新しい地がある。その天と地は以前のものに似ている。ただ以前のものは過ぎ去り、すべてのものが新しくなるだけである。

10 その後、新エルサレムが成る。そこに住む者たちは幸いである。彼らの衣は小羊の血によって白いからである。彼らは、イスラエルの家に属するヨセフの子孫の残りの者の中に数えられる者たちである。

11 またそのときに、昔のエルサレムも成る。そこに住む者たちは幸いである。彼らは、小羊の血によって洗われているからである。彼らは散らされた後に、地の四方および北の地方から集められた者たちであり、神が彼らの先祖アブラハムと交わされた聖約を果たされるときに、それにあずかる者たちである。

12 これらのことが起こるときに、先にいた者で後に

---

2 ②エテ 2・8
3 ①3ニフ 20・22、21・23–24、GS「新エルサレム」
4 ①②黙示 3・12、21・2
5 ①②GS「シオン」1ニフ 1・18–20
②③GS「エルサレム」黙示 21・10、3ニフ 20・29–36
6 ①教義 42・9、45・66・67、84・2–5、箇条 1・10
②③GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」アル 46・24、GS「家徴」
7 ①創世 46・2–7、47・6
②②2ニフ 3・5
8 ①②GS「約束の地」モロ 10・31
9 ①②2ペテ 3・10–13、黙示 21・1、3ニフ 26・3、教義 101・23–25
10 ①黙示 7・14、1ニフ 12・10–11、アル 5・27
11 ①②GS「イスラエル」教義 133・26–35
②GS「イスラエルの集合」
③GS「アブラハムの聖約（契約）」マコ 10・31、1ニフ 13・42、ヤコ 5・63、教義 90・9
12 ①先にいた者

なる者がおり、また後にいた者で先になる者がいる、という聖文が事実となる。
13わたしはもっと書き記そうとしたが、そうすることを禁じられた。エテルの預言は大いなる驚くべきものであった。ところが民は、彼を取るに足りない者と見なして、追い出してしまった。そこで彼は日中は岩の洞穴に身を隠し、夜に出て行って、民に及ぶ様々な出来事を見た。
14また彼は岩の洞穴に住んでいたときに、民に及んだ滅亡を夜の間に見て、この記録の残りの部分を記した。
15さて、彼が民の中から追い出されたその年に、民の中に大きな戦争が始まり、力のある者たちが多く立って、前に述べた悪事の秘密のはかりごとによって、コリアンタマーを滅ぼそうとした。
16ところがコリアンタマー自身も、あらゆる戦術と世のあらゆる悪知恵を研究していたので、自分を滅ぼそうとした者たちを攻めた。
17しかし彼は悔い改めなかった。また、彼の麗しい息子たちや娘たちも、コーホルの麗しい息子たちや娘たちも、コリホルの麗しい息子たちや娘たちも、要するに全地の面にいる麗しい息子たちと娘たちはだれ一人、自分の罪を悔い改めなかった。
18さて、エテルが岩の洞穴に住むようになった最初の年に、王位を得ようとしてコリアンタマーと戦った、あの秘密結社[1]の者たちの剣で殺された者がたくさんいた。
19そして、コリアンタマーの息子たちは大いに戦い、ひどく傷ついた。
20そして、第二年に主の言葉がエテルに下り、[1]コリアンタマーのもとに行って預言するようにと言われた。その預言は次のとおりである。すなわち、もし彼と彼の家のすべての者が悔い改めるならば、主は彼に王位を与え、民の命を救われる。
21さもなければ、彼らは滅ぼされ、彼の家のすべての者も彼一人を除いて全員が滅ぼされる。そして、彼はただ一人生き長らえて、この地を受け継ぎとして受ける[1]別の民について前に述べられている預言が成就するのを見る。その後、コリアンタマーは彼らによって葬られる。[2]コリアンタマーを除いてすべての者が滅ぼされる。
22さて、コリアンタマーも、彼の家の者たちも、民

18① エテ 8・9—26
20① エテ 12・1—2
21① オム 1・19—21、エテ 15・29—32
② 11・21

も悔い改めず、戦争はやまなかった。そして、民はエテルを殺そうとした。しかし、彼は民の前から逃げて、再び岩の洞穴に隠れた。

23そして、シェレドが立って、彼もコリアンタマーを攻めた。そして、シェレドはコリアンタマーを打ち負かし、第三年に彼を囚われの身に陥れた。

24しかし、第四年にコリアンタマーの息子たちがシェレドを打ち負かし、父のために王位を取り戻した。

25さて、地の全面で戦争が始まり、男は皆それぞれ自分の仲間とともに、自分の望みを遂げようとして戦った。

26また、強盗もいた。要するに、地の全面であらゆる悪事が行われていた。

27さて、コリアンタマーはシェレドのことを非常に怒り、軍隊を伴って彼と戦うために出て行った。そして、両者はひどい怒りを抱いて出会い、ギルガルの谷で戦いを交えた。その戦いは非常に激しいものとなった。

28そしてシェレドは、三日間コリアンタマーと戦った。その後、コリアンタマーは彼を打ち負かし、ヘシロンの平原に着くまで追撃した。

29そこでシェレドはその平原でまたコリアンタマーと戦い、見よ、今度は彼を打ち負かして、ギルガルの谷までまた追い返した。

30そしてコリアンタマーはギルガルの谷でまたシェレドと戦い、彼を打ち負かして殺してしまった。

31しかし、コリアンタマーはシェレドのためにももを負傷した。そのために、彼は二年間戦いに出なかった。その間、地の面で民は皆、血を流し続け、それを止める者はだれもいなかった。

第14章

民の罪悪が地にのろいを招く。コリアンタマー、ギレアデと戦い、次いでリブと戦い、シズと戦う。流血と虐殺が地を覆う。

1さて、民の罪悪のために、全地にひどいのろい[1]が下り始めた。人が自分の道具や剣を棚の上か、それを保管しておく場所に置いておくと、見よ、翌日にはそれを見つけることができなかったほど、地に下ったのろいはひどかった。

2そこで、人は皆、自分のものをしっかりと手に握

第14章
1 ① ヒラ12・18、13・17−23、モル1・17−18、2・10−14

り締め、借りようとも貸そうともしなかった。そして男は皆、自分の財産と命と妻子を守るために、いつも右手に剣の柄を握っていた。

3 さて、シェレドが死んだ後二年たって、見よ、今度はシェレドの兄弟が立ち、コリアンタマーを攻めた。しかし、コリアンタマーは彼を打ち負かし、エーキシの荒れ野まで彼を追撃した。

4 そこでシェレドの兄弟は、エーキシの荒れ野で彼に攻めかかって来た。そして、戦いは非常に激しくなり、何千人も剣で倒れた。

5 そこでコリアンタマーは荒れ野を包囲した。しかし、シェレドの兄弟は夜に紛れて荒れ野から出て来て、コリアンタマーの軍隊の一部が酒に酔っていたので、彼らを殺した。

6 そして彼はモロンの地へ進んで行って、コリアンタマーの王座に上った。

7 そこで、コリアンタマーは二年間、軍隊とともに荒れ野の中で暮らし、大きな兵力を加えた。

8 シェレドの兄弟はその名をギレアデといい、秘密結社のおかげで彼もまた軍隊に大きな兵力を加えた。

9 さて、彼が王座に着いていたときに、彼の大祭司が彼を殺してしまった。

10 そして、秘密結社に属する者の一人が、間道でその大祭司を殺し、王位を奪った。この男の名はリブといった。リブは非常に背丈の高い男で、民の中のだれよりも高かった。

11 さて、リブの治世第一年に、コリアンタマーはモロンの地へ上って行き、リブを攻めた。

12 そして、彼はリブと戦ったが、リブに腕を打たれて負傷した。しかし、コリアンタマーの軍隊がリブに攻めかかったので、リブは海岸の境の地へ逃げて行った。

13 そこでコリアンタマーは彼を追撃した。するとリブは、海岸で彼に攻めかかって来た。

14 そして、コリアンタマーの軍隊はリブに打たれ、またもやエーキシの荒れ野に逃げた。

15 そして、リブはコリアンタマーをエーゴシの平原に着くまで追撃した。しかし、コリアンタマーはリブに追われて逃げながら、自分の逃げた地方の民をことごとく引き連れて行った。

16 そして彼はエーゴシの平原に着くと、リブに攻め

かかり、彼を討って、とうとう殺してしまった。ところが、今度はリブの兄弟がリブに代わってコリアンタマーを攻め、戦いは非常に激しくなった。そして、コリアンタマーはまたもやリブの兄弟の軍隊の前から逃げた。

17 リブの兄弟の名はシズと呼ばれた。シズはコリアンタマーの後を追い、多くの町を滅ぼし、女も子供も殺し、幾つもの町を焼いた。

18 そして、シズに対する恐れが全地に広がり、「だれがシズの軍隊の前に立てようか。見よ、シズは地を荒らして行く」という叫び声が全地に広がった。

19 さて、民は地の全面で群れを成し、幾つもの集団となった。

20 そして、彼らは分かれ、ある者たちはシズの軍隊へ逃げ込み、またある者たちはコリアンタマーの軍隊へ逃げ込んだ。

21 戦争は大規模で、長期間続き、また流血と虐殺の有様が久しく続いたので、地の全面に死体が散乱していた。

22 また、戦争は急激で速やかであったことから、残って死者を葬る者がなく、彼らは流血から流血へと進んで行き、男女子供の区別なく死体が地の面に散乱したまま、肉に付くうじのえさになるに任された。[1]

23 そして、そのにおいが地の面に、すなわち地の全面に広がったので、民は昼も夜もそのにおいに悩まされた。

24 それでもシズは、コリアンタマーを追撃するのをやめなかった。それは彼が、殺された自分の兄弟の血のために、コリアンタマーに報復すると誓っていたからであり、またコリアンタマーが剣によって倒れることはないという主の言葉が、エテルに下されていたからである。

25 これによって分かるように、主は限りない怒りをもって彼らを罰せられた。そして、彼らは悪事と忌まわしい行いによって、自分たちの永遠の滅亡の道を備えていたのである。

26 さて、シズはコリアンタマーを追いかけて東の方向へ、海岸に近い境の地まで進んでいた。すると、そこでコリアンタマーがシズに攻めかかり、三日間戦った。

27 そして、シズの軍隊の被った損害が非常にひどか

21① エテ11・6
22① イザ14・9—11

ったため、民はおびえて、コリアンタマーの軍隊の前から逃げ始めた。そして彼らはコリホルの地まで逃げ、その途中で、自分たちに合流しようとしない民をことごとく滅ぼした。

28それから彼らはコリホルの谷に天幕を張った。一方コリアンタマーはシャーの谷に天幕を張った。シャーの谷はコムノルの丘に近かった。そこで、コリアンタマーはコムノルの丘の上に軍隊を集め、シズの軍隊を戦いに誘い出すために、彼らに向かってラッパを吹き鳴らした。

29そこで彼らは出て来たが、また撃退された。そして、再度出て来たが、再び撃退された。それから、彼らが三度目に出て来ると、戦いは非常に激しくなった。

30そして、シズはコリアンタマーを打ち、多くの深手を負わせた。そのため、コリアンタマーは血を失って意識をなくし、まるで死んだ者のように運び去られた。

31さて、両軍ともに男女子供の区別なく死者が非常に多かったので、シズは民に、コリアンタマーの軍隊を追わないように命じた。そこで、彼らは自分たちの宿営に引き返した。

第15章

数百万人のヤレド人、戦いで死ぬ。シズとコリアンタマー、民をことごとく集めて決戦に備える。主の御霊、民を励ますのをやめる。ヤレド人の国は完全に滅びる。コリアンタマー、ただ一人生き残る。

1さて、コリアンタマーは傷が快復すると、エテルが告げた[1]言葉を思い出した。

2彼は、民が二百万人ほど剣で殺されたのを見て、心の中で嘆いた。また、二百万人の屈強な男だけでなく、彼らの妻子も殺されていた。

3彼は自分がこれまで行ってきた悪事を悔い改め始め、すべての預言者たちの口を通して述べられてきた御言葉を思い出した。彼はこれまでそれらの預言がことごとく成就したのを見て、嘆き悲しみ、決して安らぐことはなかった。

4そして、彼はシズに手紙を書き、民の命を助けてほしい、そうすれば民の命の代わりに王位を譲ろうと告げた。

第15章
1 ① エテ13・20−21

5そこでシズは、コリアンタマーの手紙を受け取ると返事を書き、もしコリアンタマー自身がシズの剣で殺されるためにその身を引き渡すならば、民の命を助けると告げた。
6さて、民は罪悪を悔い改めなかった。そして、コリアンタマーの民はシズの民に対して怒りをかき立てられ、シズの民もコリアンタマーの民に対して怒りをかき立てられた。そこでシズの民は、コリアンタマーの民に攻めかかった。
7コリアンタマーは自分がまさに敗れそうであるのを見て、またもやシズの民の前から逃げた。
8そして、彼はリプリアンクムの海に着いた。リプリアンクムとは、広大な、すなわち、すべてをしのぐという意味である。彼らはこの海に着くと、天幕を張った。シズもまた彼らの近くに天幕を張った。
そして翌日、彼らは戦いに出た。
9そして、彼らは非常に激しく戦い、コリアンタマーはまた負傷し、血を失って意識をなくした。
10さて、コリアンタマーの軍隊はシズの軍隊を攻め立てて打ち負かし、彼らを敗走させた。そして、シズの軍隊は南方に逃げて、オーガスと呼ばれた場所に天幕を張った。
11そして、コリアンタマーの軍隊は、ラマの丘の近くに天幕を張った。その丘は、わたしの父モルモンが主に託して神聖な記録を隠したあの丘である。
12そして彼らは、それまでに殺されなかった地の全面の民を、エテルを除いてことごとく集めた。
13さて、エテルは民の行ったことをすべて見た。彼は、コリアンタマーに味方する者がコリアンタマーの軍隊に集まり、シズに味方する者がシズの軍隊に集まるのを見た。
14彼らは四年の間、地の面にいるすべての者を集めて、得られるかぎりの兵力をすべて得ようと、民を集め続けた。
15そして、すべての者が妻子を伴い、それぞれ自分の望む軍隊に集まった。男も女も子供も、武器で身を固め、盾と胸当てとかぶとを身に着け、戦いのいでたちで集まった。それから彼らは、戦うために互いに進軍し、一日中戦ったが、勝負がつかなかった。
16そして夜になると、彼らは疲れ果てて、それぞれの宿営に引き揚げた。そして彼らは宿営に引き揚

11① モル6・6
11① モサ8・7−10
15①

げた後、民の殺された者たちのために泣き叫び、悲しんだ。彼らの泣き叫び、悲しむ声は非常に大きく、大気を激しくつんざくほどであった。

17そして翌日、彼らはまた戦いに出た。その日は大変な恐ろしい日であったが、それでも勝負がつかなかった。そして、また夜がやって来ると、彼らは民の殺された者たちのために泣き叫び、悲しむ声が大気をつんざくほどであった。

18そこでコリアンタマーは、再びシズに手紙を書いて、もう戦いに出て来ないように、王位を譲ってよいので民の命を助けてほしいと告げた。

19しかし見よ、主の御霊は民を励ますのをやめており、サタン[1]が民の心を完全に支配していた。そして彼らは心をかたくなにし、思いをくらませるに任され、滅びに至るようにされたのである。そこで彼らは、またもや戦いに出て行った。

20そして、彼らは一日中戦い、夜になると、剣を手にしたまま眠った。

21翌日も、彼らは夜になるまで戦った。

22夜になると、彼らはまるでぶどう酒に酔っている者のように、怒りに酔った[1]よ。そして、また剣を手にしたまま眠った。

23その翌日、彼らはまた戦った。そして、夜になったときには、五十二人のコリアンタマーの民と六十九人のシズの民を除いて、全員が剣で倒れていた。

24そしてこの残った者たちは、その夜も剣を手にしたまま眠り、翌日、再び戦った。彼らは剣と盾をもって、一日中、力の限り戦った。

25そして、夜になったときには、シズの民が三十二人で、コリアンタマーの民が二十七人になっていた。

26そこで彼らは食べて眠り、翌日の死に備えた。彼らは体の大きな、体力のある男たちであった。

27そして、彼らは三時間戦い、血を失って意識をなくした。

28さて、コリアンタマーの兵たちは、力を得て歩けるようになると、命を惜しんで逃げ出そうとした。ところが見よ、シズと彼の兵たちは立ち上がり、シズはコリアンタマーを殺す、そうでなければ剣で死ぬと、怒って誓いを立てた。

29そのため、彼はコリアンタマーの民を追いかけて、翌日彼らに追いつき、彼らはまた剣で戦った。

19① GS「悪魔」
22① モロ9・23

そして、コリアンタマーとシズを除く全員[1]が剣で倒れた後、見よ、シズは血を失って意識をなくした。
30 そこでコリアンタマーは、自分の剣に寄りかかって少し休んでから、シズの首を打ち落とした。
31 そして、彼がシズの首を打ち落としたところ、シズは両手で身をもたげてから倒れ、息をしようともがいた後に死んだ。
32 そして、[1]コリアンタマーも地に倒れ、まるで死んだ者のようになった。
33 そこで、主はエテルに、「出て行きなさい」と言われた。そして、エテルは出て行くと、主の言葉がことごとく成就したのを見た。そして、彼は[1]記録を書き終えて（わたしはその百分の一も書いていない）、それを隠し、後にリムハイの民がそれを発見したのである。
34 [1]エテルの書き記した最後の言葉は、次のとおりである。「主がわたしの身を変えてわたしを天に移すことを望まれようと、あるいはわたしが肉にあって生き長らえ、主の御心に従うことを望まれようと、わたしは神の王国に救われるのであれば、それはどうでもよい。アーメン。」

29 ① エテ 13・20−21
32 ① オム 1・20−22
33 ① モサ 8・9、アル 37・21−31、エテ 1・1−5
34 ① エテ 12・2

モロナイ書

第1章

モロナイ、レーマン人のために書き記す。キリストを否定しないニーファイ人は殺される。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 さて、わたしモロナイ[1)]はヤレドの民の話を短くまとめ終えた後、もうこれ以上は書き記さないと思ったが、わたしはまだ命を失っていない。わたしはレーマン人に殺されないために、わたしのことを彼らに知られないようにしている。
2 見よ、レーマン人同士の[1)]戦争が今非常に激しい。また、彼らは憎しみのために、キリストを否定しないニーファイ人をすべて殺[2)]している。
3 わたしモロナイはキリストを[1)]否定しないので、命の安全を得られる場所を求めてさまよっている。
4 さて、わたしは以前の思いとは違って、もう少し書き記すことにする。わたしはもう書き記さないと思っていたが、主の御心のままに、将来いつかわたしの同胞であるレーマン人のために価値をもたらすと思われることを、もう少し書き記すことにする。

第2章

イエス、聖霊の賜物を授ける力を十二人のニーファイ人の弟子たちに与えられる。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 キリストが御自分の選ばれた十二人の[1)]弟子たちに手を置かれたとき、彼らに言われた御言葉は次のとおりである。
2 キリストは彼らの名を呼んで言われた。「わたしの名によって熱烈に祈って父に請い願いなさい。あなたがたはこのように行った後に、あなたがたが[1)]手[2)]を置く者に聖霊を授ける力[3)]を持つであろう。わたしの名によって聖霊を授けなさい。わたしの使徒たちはこのように行うからである。」
3 キリストは初めてその御姿を現されたとき、彼らにこれらの御言葉を語られた。群衆はこれを聞かず、弟子たちだけがこれを聞いた。そして、彼ら

モロナイ書
第1章
1 ① GS「モロナイ（モルモンの息子）」
2 ① 1ニフ12・20—23
② アル45・14
3 ① マタ10・32—33、3ニフ29・5
第2章
1 ① 3ニフ13・25
2 ① 3ニフ18・37
② GS「按手」
③ GS「力」

が手を置いたすべての者に聖霊が降られた。

第3章

長老たち、按手によって祭司と教師を聖任する。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 教会の長老と呼ばれた弟子たちが祭司と教師を聖任した方法は、次のとおりである。

2 彼らはキリストの名によって御父に祈った後、聖任を受ける者に手を置いて言った。

3 「イエス・キリストの御名によって、わたしはあなたを祭司に聖任し（もし教師であるならば、あなたを教師に聖任し）、悔い改めを宣べ伝える者、また最後までイエス・キリストの御名を信じ続ければ、イエス・キリストを通じて罪の赦しが得られることを宣べ伝える者とします。アーメン。」

4 このような方法で、彼らは人々に授けられる神の賜物と召しに応じて祭司と教師を聖任した。彼らは、自分たちの内にある聖霊の力によって聖任した。

第4章

長老と祭司が聖餐のパンを祝福する方法についての説明。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 長老と祭司が、教会員にキリストの肉と血を分け与えた方法は、次のとおりである。彼らがキリストの命じられたとおりに執行したので、わたしたちはこの方法が正しいことを知っている。長老または祭司がそれを執行した。

2 彼らは教会員とともにひざまずき、キリストの名によって御父に祈って言った。

3 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このパンを頂くすべての人々が、御子の体の記念にこれを頂けるように、また、進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように、このパンを祝福し、聖めてください。アーメン。」

---

3 ①使徒19・6

第3章
1 ①「長老」アル6・1、GS「長老」
②GS「聖任」
3 ①②GS「罪の赦し」
4 ①GS「賜物」教義18・32、20・60
②③1ニフ13・37、モロ6・9

第4章
1 ①GS「長老」
②③3ニフ18・1—7
3 ①③教義20・76—77
②GS「聖餐」ルカ22・19、1コリ11・23—24、3ニフ18・7
③GS「イエス・キリスト—御名を受ける」
④GS「聖霊」

第5章

聖餐のぶどう酒を祝福する方法についての説明。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 ぶどう酒を分け与えた方法[1]は、次のとおりである。見よ、彼らは器を取って言った。

2 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このぶどう酒[1]を頂くすべての人々が、この人々のために流された御子の血[2]の記念にこれを頂けるように、また、いつも御子を覚えていることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、御子の御霊を受けられるように、このぶどう酒を祝福し、聖めてください。アーメン。」

第6章

悔い改めた人々は、バプテスマを受けて教会員になる。悔い改める教会員は赦される。集会は聖霊の力によって行われる。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 次にバプテスマについて述べよう。見よ、長老、祭司、教師たちはバプテスマを受けた。しかし彼らは、バプテスマを受けるに値するふさわしい実を結[2]ばなければ、バプテスマを施されなかった。

2 また彼らは、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたことを教会員に証明した者でなければ、だれにもバプテスマを認めなかった。

3 また、最後までキリストに仕える決心をしてキリストの名を受けた者でなければ、だれもバプテスマを認められなかった。

4 そして人々はバプテスマを認められ、聖霊の力が働いて清められると、キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ、彼らの信仰の創始者であり完成者であるキリストの功徳にだけ頼らせるためである。

5 教会員は断食し、祈るため、また人の幸いについて互いに語り合うためにしばしば集まった。

6 また、主イエスを記念してパンとぶどう酒を頂く

第5章
1 ① 3ニフ18・8−11、教義20・78−79
2 ① 教義27・2−4、GS「聖餐」
② ルカ22・19−20、1コリ11・25

第6章
1 ① GS「バプテスマ」
② GS「ふさわしさ」
2 ① GS「打ち砕かれた心」
3 ① GS「イエス・キリスト−御名を受ける」
② GS「清さ」
③ 教義20・82、アル34・39、3ニフ18・15−18
④ ヘブ12・2
⑤ 2ニフ31・19、教義3・20
4 ① GS「イエス・キリストの教会」
② GS「断食」
③ 3ニフ18・22、4ニフ1・12、教義88・76

ためにしばしば集まった。
7 また彼らは、自分たちの中に決して罪悪があってはならないということを厳密に守った。そして、ある者たちが罪悪を犯したことが分かり、教会員の三人の証人が長老たちの前でその者たちを罪があるとし、もしその者たちが悔い改めず告白もしなければ、彼らの名は消されて、彼らはキリストの民の中に数えられなかった。
8 しかし、悔い改めて真心から赦しを求めた者は、その度に赦された。
9 また教会員の集会は、御霊の働くままに、聖霊の力によって教会員が指導した。教えを説くことも、勧めることも、祈ることも、請い願うことも、歌うことも、聖霊の力によって導かれるままに行われた。

第7章

主の安息に入るようにとの招き。真心から祈ること。キリストの御霊は人が善悪をわきまえることができるようにする。サタンはキリストを否定して、悪を行うように人に説き勧める。預言者たち、キリストの来臨について明らかにする。信仰によって奇跡が行われ、天使は教え導く。人は永遠の命を望み、慈愛を固く守らなければならない。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 さて、わたしモロナイは、父モルモンが信仰と希望と慈愛について述べた言葉を少々書き記しておく。父は、民が礼拝の場所として建てた会堂で彼らを教えたとき、次のように述べた。
2 「さて、わたしモルモンは、愛する同胞であるあなたがたに話したい。父なる神とわたしたちの主イエス・キリストの恵みにより、また主がわたしに召しの賜物をお与えくださったので、主の聖なる御心により、わたしは今あなたがたに語る機会を得ている。
3 そこでわたしは、教会に属しているあなたがた、すなわち、今から後、天で主とともに安息を得るときまで、キリストに穏やかに従い、主の安息に入れるという十分な望みを得ているあなたがたに、話したいと思う。
4 わたしの同胞よ、わたしは、あなたがたが人の子

---

7 ①教義20・54 ②教義42・80—81、GS「証人・証」 ③アル6・1、GS「長老」 ④GS「告白」 ⑤出エ32・33、教義20・83、GS「破門」
8 ①モサ26・30—31 ②GS「赦し」
9 ①GS「聖霊」 ②教義20・45、46・2

第7章
1 ①1コリ13・1—13、エテ12・3—22、27—37、モロ8・14、10・20—23 ②GS「召し・神の召し」
3 ①GS「安息」

らと穏やかに交わって暮らしているので、あなたが
たのことをこのように判断している。
5 わたしは、『あなたがたはその行いによって彼ら
を見分けるのである』と言われた神の御言葉を覚え
ているからである。彼らの行いが善ければ、彼らも
善い。
6 見よ、神は、『悪い者は善いことを行えない』と
言われた。人はささげ物をしても、神に祈っても、
真心からしなければ、その人にとって何の役にも立
たない。
7 見よ、それは彼にとって義と認められないからで
ある。
8 見よ、悪い者はささげ物をしても、惜しみながら
するので、ささげ物をしなかったと同じように見な
される。したがって、神の御前で悪と見なされる。
9 それと同様に、人が真心の伴わない祈りをするな
らば、それはその人にとって悪と見なされる。そし
て、それはその人にとって何の役にも立たない。神
はそのような祈りを受け入れられないからである。
10 したがって、悪い者は善いことを行えず、また良
い贈り物もしない。
11 見よ、苦い泉は良い水を出せないし、良い泉も苦
い水を出せない。そこで、悪魔の僕になっている者
は、キリストに従うことができない。もしキリスト
に従うとすれば、悪魔の僕ではあり得ない。
12 したがって、善いものはすべて神から出て、悪い
ものは悪魔から出る。悪魔は神に対する敵であっ
て、絶えず神と戦い、また人を誘い、そそのかし
て罪を犯させ、いつも悪いことを行わせようとす
る。
13 しかし見よ、神から出るものはいつも善を行うよ
うに誘い、促す。したがって、善を行い、神を愛し、
神に仕えるように誘い、促すものはすべて、神の霊
感を受けているのである。
14 さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは悪い
ものを神から出たと思わないように、あるいは善い
もので神から出ているものを、悪魔から出たと思わ
ないように気をつけなさい。
15 見よ、わたしの同胞よ、善悪をわきまえることが
できるように、物事を判断することはあなたがたに
任されている。そして、その判断の方法は明らかで
あり、善悪の違いは昼が闇夜と違うように、完全に

5 ① 3ニフ14・15−20
6 ① マタ7・15−18
② アル34・28、GS「祈り」
8 ① 箴言15・8
② 教義64・34
9 ① 新ヤコ1・6−7、5・16、モロ10・4
11 ① 新ヤコ3・11−12
② マタ6・24、2ニフ31・10−13、教義56・2
12 ① 新ヤコ1・17、1ヨハ4・1−2、エテ4・12
② アル5・39−42
③ ヒラ6・30、GS「罪」
13 ① 2ニフ33・4、エテ8・26
② GS「霊感」
14 ① イザ5・20、2ニフ15・20
15 ① GS「識別の賜物」

理解してわきまえることができる。
16 見よ、1)善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。
17 しかし、1)悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。
18 さて、わたしの同胞よ、あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知っているので、誤って裁かないように注意しなさい。あなたがたが裁くその2)裁きで、あなたがたも裁かれるからである。
19 そこでわたしは、同胞であるあなたがたに、善悪をわきまえることができるように、キリストの光の中で熱心に求めることを切に勧める。もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。
20 さて、わたしの同胞よ、どのようにすればあなたがたは、善いものをことごとく手にできるのであろうか。
21 ここで、わたしが話したいと前に言った信仰に行き着くのである。では、あなたがたが善いものをことごとく手にできる方法について話そう。
22 見よ、神は永遠から永遠にわたって存在し、すべてのことを御存じであるために、見よ、2)天使たちを遣わして、人の子らを教え導き、キリストの来臨について明らかにされた。キリストにあって、善いものがことごとく来るのである。
23 また神は、キリストが来られることを御自身の口を通して、預言者たちに宣言された。
24 見よ、いろいろな方法によって、神は人の子らに善いものを明らかにされた。そして、善いものはす

16 ①創世3・5、2ニフ2・5、18、26、モサ16・3、アル29・5、ヒラ14・31 ②GS「光・キリストの光」「良心」
17 ①GS「罪」
18 ①モサ16・9、教義50・24、88・7—13、GS「光・キリストの光」 ②JSマタ7・1—2、ルカ6・37、ヨハ7・24
19 ①教義84・45—46 ②モサ15・10—12、27・25、GS「神の息子、娘」
22 ①GS「神・神会」 ②モセ5・58、GS「天使」

べてキリストから来る。そうでなければ、人は堕落した状態になったので、善いものはまったく人に及ばなかったことであろう。

25 さて、天使の働きによって、また神の口から出る一つ一つの御言葉によって、人はキリストを信じるようになった。その結果、信仰によって人は善いものをことごとく手にした。キリストの来臨までそうであった。

26 また、キリストが来られた後も、人はキリストの御名を信じる信仰によって救われた。信仰によって人は神の子となっている。キリストが生きておられるように確かに、キリストはわたしたちの先祖にこのように言われた。すなわち、『あなたがたが与えられると信じて、信仰をもってわたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。』

27 さて、わたしの愛する同胞よ、キリストは、人の子らに対して持っておられる御自分の憐れみの権利を御父に求めるために、天に昇って神の右の座に着かれたので、奇跡がやんでしまったのであろうか。

28 キリストは律法の目的を達せられた。そして、キリストを信じるすべての者を、御自分に属するものと主張しておられる。また、キリストを信じる者は一切の善いものを固く守るので、キリストは人の子らを弁護してくださる。そして、キリストは永遠に天に住まわれるのである。

29 わたしの愛する同胞よ、キリストがこのように行われたので、奇跡はやんでしまったのであろうか。見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。また天使たちも人の子らに働きかけることをやめてはいない。

30 見よ、天使はキリストに従っており、深い信仰と確固とした心をもって、あらゆる方法で神を敬う者に自分自身を示し、キリストの命じられる御言葉のとおりに教え導いている。

31 天使の務めは、人を招いて悔い改めさせることと、御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行することと、主の選ばれた器にキリストの御言葉を告げ知らせることによって彼らがキリストについて証を述べるようにして、人の子らの中に道を備えることである。

32 このようにして、主なる神は道を備えて、残りの

---

24 ① 2ニフ2・5
25 ① アル12・28—30
26 ① 3ニフ18・20、GS「祈り」
27 ① イザ53・12、モサ14・12
28 ① ② GS「奇跡」
ロマ12・9、教義98・11 ② 1ヨハ2・1、2ニフ2・9、GS「弁護者」

人々もキリストを信じる1)信仰を持ち、聖霊がその力によって彼らの心の中に宿られるようにされるのである。このような方法で、御父は人の子らに立てられた聖約を果たされる。

33 キリストは言われた。『1)あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの2)心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう』と。

34 また、『地の果てに至るすべての人よ、1)悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。救われるためにわたしを信じなさい』と、キリストは言われた。

35 さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに話したこれらのことが真実であれば、また神は、これらのことが真実であることを、終わりの日に1)力と2)大いなる栄光とをもってあなたがたに示されるであろうが、もしこれらのことが真実であれば、奇跡の日は終わってしまったと言えるであろうか。

36 天使が人の子らに現れることは、終わってしまったのであろうか。神は聖霊の力を人の子らに1)与えられなくなったのであろうか。時が続くかぎり、大地が存在するかぎり、地の面に救われる人が一人でもいるかぎり、神は聖霊の力を与えるのを控えられるであろうか。

37 見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。1)奇跡が行われるのは信仰によるからである。天使が人に現れて教え導くのも、信仰による。したがって、もしこれらのことがなくなっているとすれば、それは2)不信仰のためであり、すべてはむなしいので、人の子らは災いである。

38 キリストの御言葉にあるとおり、キリストの御名を信じなければ、だれも救われないからである。したがって、もしこれらのことがなくなっているとすれば、信仰もなくなっている。そして、人はひどい状態にある。なぜならば、人はまるで贖いがまったくなかったかのような有様になるからである。

39 しかし見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたのことをもっと良い状態にあると判断している。あなたがたが柔和であるのを見て、あなたがたにはキリストを信じる信仰があると思うからである。あなたがたはキリストを信じていなければ、キリストの教会の民の中に数えられるにふさわしくない。1)

32 ① GS「信仰」
33 ① マタ17・20
② 教義88・64—65
34 ① 3ニフ27・20、エテ4・18
35 ① 教義35・8
② 2ニフ33・11
36 ① モロ10・4—5、7、19
37 ① マタ13・58、モル9・20、エテ12・12—18
38 ① モロ10・19—24
39 ① GS「ふさわしさ」
② 1)

40 また、わたしの愛する同胞よ、わたしは希望(1)について あなたがたに話したいと思う。あなたがたに希望がなければ、どうして信仰が得られるであろうか。

41 また、あなたがたは何を望(1)めばよいのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命(2)によみがえることを望(3)まなければならない。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。

42 したがって、もし人に信仰(1)があれば、必ず希望(2)もあるに違いない。信仰のない希望はあり得ないからである。

43 さらに見よ、あなたがたに言う。柔和(1)で心のへりくだった人でなければ、信仰と希望を持つことはできない。

44 たとえ持てたとしても、その人の信仰(1)と希望はむなしいものである。柔和で心のへりくだった人でなければ、神の御前に受け入れられないからである。また、人が柔和で、心がへりくだっており、イエスがキリストであることを聖霊の力によって認(2)めるならば、その人には慈愛が必ずなければならない。慈愛がなければ、その人は何の価値もない。したがって、人には慈愛が必ずなければならない。

45 慈愛(1)は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪事を少しも考えず、罪悪を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。(2)

46 したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

47 しかし、この慈愛(1)はキリストの純粋な愛(2)であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

48 したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従(1)う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈(2)りなさ

40 ①望 エテ 12・4、GS「希望」
41 ①望 教義 138・14
② ③ GS「永遠の命」
テト 1・2、ヤコ 4・4、アル 25・16、モロ 9・25
42 ①信仰 GS「信仰」
② モロ 10・20
43 ①柔和 GS「柔和」
44 ①信仰 アル 7・24、エテ 12・28−34
② ルカ 12・8−9、GS「証」
45 ①希望 GS「告白」
② 1コリ 13・1−13
46 ①慈愛 GS「ねたみ」
47 ①慈愛 2ニフ 26・30、GS「慈愛」
② ヨシ 22・5、GS「愛」
48 ①従 GS「イエス・キリスト−模範」「従順・従う」
② GS「祈り」

い。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に[3]似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが[4]清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。アーメン。」

第8章

幼児のバプテスマは邪悪な忌まわしい行いである。幼い子供たちは、贖罪のおかげでキリストによって生きている。信仰、悔い改め、柔和で心のへりくだった状態、聖霊を受けること、最後まで堪え忍ぶこと、これらは人々を救いに導く。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 わたしモロナイにあてて書かれた父[1]モルモンの手紙は、次のとおりである。これは、わたしが神の務めに召されて間もなく、わたしにあてて書かれたものである。父はわたしに次のように述べている。

2 「愛する息子モロナイよ、わたしは、主イエス・キリストがあなたを心にかけ、主の務めに、また主の聖なる業にあなたを召してくださったことを、非常に喜んでいる。

3 わたしは祈る度に、いつもあなたのことを心にかけ、御父の限りない慈しみと[2]恵みによって、またあなたが最後まで御父の聖なる御子イエスの御名を信じ続ける信仰によって、御父があなたをお守りくださるようにと、御子イエスの御名により父なる神に絶えず祈っている。

4 ところで、わが子よ、わたしが非常に憂慮している事柄についてあなたに述べよう。あなたがたの中に[1]論争が起こるのは、わたしにとって悲しいことである。

5 もしわたしの聞いたことが事実であれば、あなたがたの中には、幼い子供たちのバプテスマについて論争があったということである。

6 わが子よ、わたしが願うのは、あなたが力を尽くして、この大きな過ちがあなたがたの中から取り除かれるようにすることである。わたしがこの手紙を書いたのはそのためである。

7 わたしは、あなたがたのこの状況を聞いた後すぐに、この件について主に尋ねた。すると、主の御

---

48 ③ 1ヨハ3・1—3、④ 3ニフ27・27、GS「清さ」
第8章
1 ① モ言1・1
3 ① モサ4・11 ② GS「恵み」
4 ① 3ニフ11・22、28、18・34
7 ① GS「言葉（神の）」

言葉が聖霊の力によってわたしに下ってこう言われた。

8 『あなたがたの贖い主、あなたがたの神であるキリストの言葉を聴きなさい。見よ、わたしがこの世に来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。[1]健康な人には医者は要らない。要るのは病人である。幼い[2]子供たちは、[3]罪を犯すことができないので[4]健康である。したがって、アダムののろいは、わたしによって彼らから取り去られており、彼らを支配する力を持っていない。また、[5]割[6]礼の律法もわたしによって廃されている。』

9 聖霊がこのように神の御言葉をわたしに明らかにしてくださったので、愛する息子よ、わたしは、幼い子供たちにバプテスマを施すことが、神をひどくあざける行為であることを知っている。

10 見よ、わたしはあなたに言う。あなたがたは[1]責任を負うことができ、罪を犯す可能性のある者に、このこと、すなわち悔い改めとバプテスマについて教えなさい。親たちに、悔い改めてバプテスマを受け、幼い[2]子供たちのようにへりくだらなければならないことを教えなさい。そうすれば、彼らは皆、幼い子供たちとともに救われるであろう。

11 幼い[1]子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない。見よ、バプテスマは悔い改めに導くものであり、[2]罪の赦しを得るための戒めを守ることである。

12 幼い[1]子供たちは、世の初めからキリストによって生きている。もしそうでなければ、神は不公平な神であり、気まぐれな神であり、人を[2]偏り見る御方である。何と多くの幼い子供たちが、これまでバプテスマを受けることなく死んだことであろう。

13 もし幼い子供たちがバプテスマなしでは救われないとすれば、これらの子供たちは無窮の地獄へ行ったに違いない。

14 見よ、わたしはあなたに言うが、幼い子供たちにもバプテスマが必要であると考える者は、苦汁の中におり、罪悪の縄目を受けている。このような者には[1]信仰も希望も慈愛もない。したがって、そのような考えを抱いたまま絶たれることにでもなれば、地獄に下って行かなければならない。

15 ある子供はバプテスマを受けたので神によって救われるが、ほかの子供はバプテスマを受けていない

8 ①マコ2・17 ②③マコ10・13−16 ④GS「罪」 モサ3・16、教義74・7 ⑤2ニフ2・25−27、GS「堕落（アダムとエバの）」 ⑥創世17・10−11、GS「割礼」
10 ①GS「責任を負う」 ②GS「謙遜」「子供」
11 ①GS「子供」「バプテスマ→資格」 ②GS「罪の赦し」
12 ①②教義29・46−47、93・38 ②エペ6・9、2ニフ26・33、教義38・16
14 ①1コリ13・1−13、エテ12・6、モロ7・25−28、10・20−23

ので滅びる、と考えることは恐ろしい悪である。
16 このように主の道を曲げる者たちは災いである。
このような者たちは、悔い改めなければ滅びるから
である。見よ、わたしは神から授けられた[1]権能を持
っているので、大胆に語る。わたしは人のすること
は恐れない。完全な[2]愛はあらゆる恐れを[3]取り除くか
らである。
17 わたしは[1]慈愛、すなわち永遠の愛で満たされてい
るので、すべての子供はわたしにとって等しい存在
である。したがって、わたしは完全な愛をもって幼
い[2]子供たちを愛している。幼い子供たちは皆等しい
存在であり、救いにあずかる者である。
18 わたしは神が不公平な神ではなく、気まぐれな御
方でもなく、[1]永遠から永遠にわたって[2]変わらない御
方であることを知っている。
19 幼い[1]子供たちは悔い改めることができないので、
幼い子供たちへの神の清い憐れみを否定すること
は、恐ろしい悪である。幼い子供たちは皆、神の[2]憐
れみのおかげで、神によって生きているからであ
る。
20 幼い子供たちにバプテスマが必要であると言う者
は、キリストの憐れみを否定し、キリストの[1]贖罪と
キリストの贖いの力を軽んじる者である。
21 このような者は災いである。このような者は、死
と[1]地獄と[2]無窮の苦痛を被る恐れがあるからである。
わたしは神から命じられたのでこのことを大胆に語
る。これらの御言葉に耳を傾け、注意を払いなさい。
さもなければ、これらの御言葉は、キリストの[3]裁き
の座であなたを責めるものとなる。
22 見よ、すべての幼い子供たちはキリストによっ
て[1]生きている。[2]律法のない者たちも皆同様であ
る。[3]贖いの力は律法を持たないすべての者に及ぶか
らである。したがって、罪に定められない者、すな
わち罪の宣告を決して受けない者は、悔い改めるこ
とができないので、このような者にとってバプテス
マは何の役にも立たない。
23 むしろ、それは神をあざける行為であり、キリス
トの憐れみと神の聖なる御霊の力を否定し、[1]死んだ
行いに頼るものである。
24 見よ、わが子よ、このようなことがあってはなら
ない。[1]悔い改めは罪の宣告を受ける者、律法を犯し
てのろいを受ける者のためにあるのである。

16 ① GS「権威・権限・権能」
② GS「愛」
③ 1ヨハ4・18
17 ① GS「慈愛」
② モサ3・16—19
18 ① モロ7・22
② アル7・20、モル9・9、GS「神・神会」
19 ① ルカ18・15—17
② GS「憐れみ」
20 ① GS「贖いの計画」
21 ① GS「地獄」
② ヤコ6・10、モサ28・3、教義19・10—12
③ GS「イエス・キリスト—裁き」
22 ① GS「救い—幼い子供たちの救い」
② 使徒17・30、教義76・71—72
③ GS「贖い・贖う」
23 ① 教義22・2
24 ① GS「悔い改め」

25 悔い改めの最初の実はバプテスマである。[2]バプテスマは信仰によって行われ、戒めを守ることである。そして、戒めを守ることは罪の赦しを生じ、[3]罪の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、[1]柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。[2]この慰め主は、[3]希望と完全な愛を人の心に満たされる。[4]そしてこの愛は、[5]熱心に祈ることによって、すべての[6]聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。

27 見よ、わが子よ、わたしがすぐにレーマン人に向かって出て行くことがなければ、またあなたに書こう。見よ、この国民、すなわちニーファイ人の民は、[1]悔い改めなければ高慢のために滅びてしまう。

28 わが子よ、彼らが悔い改められるように、彼らのために祈りなさい。しかし見よ、御霊がすでに彼らを[1]励ますのをやめているのではないかと、わたしは懸念している。この地方の者たちも、神から出ているすべての権威と権能を倒そうとしており、また聖霊を[2]否定している。

29 わが子よ、彼らはこれまで理解していたそのように大いなる知識を拒んだので、間もなく滅びるに違いない。そして、預言者たちの述べた預言と、わたしたちの救い主御自身の御言葉が成就するであろう。

30 わが子よ、わたしがまたあなたに書くときまで、あるいはあなたに会うときまで別れを告げる。アーメン。」

モルモンが息子モロナイにあてた第二の手紙。次の第九章がそれに相当する。

第9章

ニーファイ人もレーマン人もともに邪悪になり、堕落している。彼らは互いに苦しめ合い、殺し合う。モルモン、恵みと慈しみがとこしえにモロナイにあるように祈る。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 「愛するわが子よ、わたしは自分がまだ生きていることを知らせるためにまたあなたに書いている。しかし、悲しいことを多少書くことになる。

2 見よ、わたしはレーマン人と激しい戦いをした

25 ①GS「バプテスマ—資格」 ②モセ6・58—60 ③教義76・52、GS「罪の赦し」
26 ①GS「柔和」 ②GS「聖霊」 ③GS「慰め主・助け主」 ④GS「希望」 ⑤1ペテ1・22、1ニフ11・22—25 ⑥GS「熱心」 ⑦GS「祈り」 ⑧GS「聖徒」
27 ①教義38・39、GS「高慢」
28 ①モル5・16 ②アル39・6、GS「赦されない罪」

が、勝利は得なかった。アルキアンタスは剣に倒れ、ルラムとエムロンも倒れた。また、わたしたちは優秀な兵を多数失ってしまった。

3さて見よ、わが子よ、わたしはレーマン人がこの民を滅ぼしてしまうのではないかと恐れている。この民が悔い改めず、サタンが絶えずこの民をあおり立てて、互いを怒るように仕向けているからである。

4見よ、わたしは絶えず彼らに働きかけている。しかし、わたしが厳しく神の御言葉を告げると、彼らは身を震わせてわたしに対して怒り、また、わたしが厳しく言わないと、神の御言葉に対して心をかたくなにする。だからわたしは、主の御霊がすでに彼らを励ますのをやめているのではないかと心配している。

5彼らは、死をも恐れないと見えるほどにひどく怒っている。互いに対する愛をすでに失っており、いつも血と報復を渇望している。

6さて、愛するわが子よ、彼らがかたくなであっても、わたしたちは力を尽くそう。働くことをやめれば、わたしたちは罪の宣告を受けるに違いない。わたしたちには、あらゆる義の敵を打ち破って、神の王国で安息を得るために、この土の幕屋に宿っている間に果たさなければならない務めがあるからである。

7さて、わたしはこの民の被っている苦難について少し書こう。わたしがアモーロンから受けた知らせによれば、見よ、レーマン人にはシェライザの塔から連れ去った多くの捕虜がいるとのことである。捕虜は、男もいれば女もおり、子供もいた。

8そしてレーマン人は、女子供の夫や父親を殺して、夫の肉を妻に、父親の肉を子供に食べさせ、また水はほんの少ししか与えていない。

9レーマン人の行いは、このようにひどく忌まわしいものではあるが、モリアンタムでのわたしたちの民の行いはそれ以上である。見よ、わたしたちの民はレーマン人の多くの娘たちを捕虜にし、あらゆるものに勝って最も大切で貴いもの、すなわち純潔と徳を奪った後、

10彼らはこのようなことをした後、非常にむごい方法で彼女たちをなぶり殺しにした。そして、彼らはそうした後、心がかたくなであったので、野獣のよ

第9章
4① 2ニフ1・26−27、教義121・41−43
5①② 教義1・33
6① モル4・11−12
② GS「熱心」
9① ヤコ1・19、エノ1・20、GS「義務」
② GS「純潔」
GS「徳」

うにその娘たちの肉を食べてしまい、それを勇気のある証拠としている。
11 おお、愛するわが子よ、どうしてこのような野蛮な民に対して、
12 （わずか数年前まで、彼らは礼儀正しい喜ばしい民であったが）
13 おお、わが子よ、どうしてこのようにひどい忌まわしい行いを喜びとするこのような民に対して、
14 どうしてこのようなわたしたちに対して、神が裁きの御手をとどめてくださるなどと期待できようか。
15 見よ、わたしの心は、『この民は災いだ。おお、神よ、裁きを下して、この民の罪と悪事と忌まわしい行いを、あなたの御前から隠してください』と叫んでいる。
16 また、わが子よ、シェライザには多くのやもめとその娘たちが残っている。レーマン人が運び去らなかった食糧は、見よ、すでにゼネファイの軍隊が運び去ってしまい、やもめたちとその娘たちは、食べ物を求めてさまようままに放置されている。そして多くの老女たちは、行き倒れになり死んでいる。
17 また、わたしとともにいる軍隊は弱く、しかもレーマン人の軍隊がシェライザとわたしの間にいる。これまでアロンの軍隊に逃げ込んで行った者は皆、彼らの恐ろしい蛮行の犠牲となった。
18 おお、わたしの民は何と堕落したことか。彼らには秩序もなく、情けもない。見よ、わたしはただの人であり、わたしには一人の人間としての力しかない。わたしはもはや命令を実行させることはできない。
19 彼らは邪悪の度を増し、皆同じように残忍になり、老若の区別なくだれの命も助けない。また、彼らは善いことでなければどんなことでも喜ぶ。この地の全面でニーファイ人の女子供の被っている苦難は、あらゆるものを越えており、まことに、筆舌に尽くし難い。
20 さて、わが子よ、わたしはこのすさまじい有様についてはもう述べない。見よ、あなたはこの民の悪事を知っており、また彼らが道義心のない、心の鈍い民であることも知っている。彼らの悪事はレーマン人の悪事を越えている。
21 見よ、わが子よ、わたしは神に打たれるのを恐れ

1) 14 (1) アル10・23
1) 16 (1) GS「やもめ」
1) 17 (1) モル2・9
1) 20 (1) ヒラ6・34—35

て、この民を神に推薦することができない。
22しかし見よ、わが子よ、あなたのことは神に推薦しよう。わたしは、あなたが救われるであろうということについては、キリストに信頼を寄せている。また、神があなたの命を1)助けて、神の民が神に立ち返るところを、あるいは彼らが完全に滅びるところを、あなたに見せてくださるように、わたしは神に祈っている。彼らが2)悔い改めて神に立ち返らなければ、必ず滅びることを知っているからである。
23もし彼らが滅びるとすれば、それはヤレド人と同様であり、彼らが強情であって、彼らが血と1)報復を2)求めてそうなるのである。
24また、もし彼らが滅びるならば、わたしたちが知っているように、わたしたちの同胞の多くがすでにレーマン人のもとに1)脱走して行ったが、もっと多くの者がレーマン人のもとに脱走して行くであろう。ところで、もしあなたが命を助けられ、わたしが死んであなたに会えないようであれば、少し書き記しなさい。しかしわたしは、もうすぐあなたに会えると確信している。あなたに2)渡したい神聖な記録を持っているからである。
25わが子よ、キリストに忠実でありなさい。わたしの書いたことを悲しんで、打ちひしがれて死ぬことのないように。キリストに支えられて、キリストの1)苦しみと死と、キリストがわたしたちの先祖に御自分の体を示されたことと、キリストの憐れみと寛容と、キリストの栄光と2)永遠の命とを願う望みが、とこしえにあなたの3)心の中にとどまるように。
26天の高い所にある王座に着いておられる父なる神の恵みと、また万物が従うまで神の1)右に座する主イエス・キリストの恵みが、とこしえにあなたとともにあるように。アーメン。」

第10章

『モルモン書』についての証は、聖霊の力によって与えられる。御霊の賜物は忠実な者に分け与えられる。霊的な賜物は必ず信仰に伴う。モロナイの言葉は地から語る。キリストのもとに来て、キリストによって完全になり、清められなさい。紀元約四百二十一年。

1さて、わたしモロナイは、自分がよいと思うままに少し書き記す。わたしは同胞であるレーマン人に

22 ①モル8・3 ②マラ3・7、ヒラ13・11、3ニフ10・6、24・7
23 ①エテ15・15—31 ②モル4・11—12
24 ①アル45・14 ②モル6・6
25 ①GS「贖罪」 ②GS「永遠の命」 ③GS「思い・心」、ルカ22・69、使徒7・55—56、モサ5・9、アル28・12
26 ①教義10・48
第10章
1 ①

書き記す。キリストの来臨のしるしが現れてから、すでに四百二十年以上たったことを知ってほしい。
2 わたしはあなたがたへの勧めとして少しの言葉を述べた後、この記録を封じることにする。
3 見よ、わたしはあなたがたに勧めたい。あなたがたにとってこの記録を読むことが、神の知恵にかなうようであれば、あなたがたはこれを読むときに、アダムが造られてからあなたがたがこれを受けるときまで、主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考えてほしい。
4 また、この記録を受けるとき、これが1)真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に2)問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを3)信じながら、4)誠心5)誠意問うならば、神はこれが6)真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに7)明らかにしてくださる。
5 そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの1)真理を知るであろう。
6 善いものは何であろうと、正しくて真実である。したがって、善いものはキリストを否定することなく、キリストがおられることを認める。
7 そしてあなたがたは、キリストがおられることを聖霊の力によって知ることができる。したがって、わたしはあなたがたに、神の力を否定しないようにと勧めたい。神は今日も、明日も、とこしえに同じ御方で、人の子らの1)信仰に応じて力をもって働かれる。
8 さらに、わたしは同胞であるあなたがたに、神の1)賜物は多いので、これらの賜物を否定しないように勧める。これらの賜物は同じ神から出る。これらの賜物の与えられ方は2)様々であるが、すべての人の中ですべての働きをされるのは同じ神である。これらの賜物は人を益するために、神の御霊の現れによって人に授けられるのである。
9 見よ、ある人には神の御霊によって、知恵の言葉を教える賜物が授けられ、
10 ある人には同じ御霊によって、知識の言葉を教える賜物、
11 ある人には非常に深い1)信仰、ある人には同じ御霊によって2)癒しの賜物、
12 また、ある人には大きな1)奇跡を行う賜物、

---

2 ① GS「聖文ー出現を預言された聖文」
3 ① 申命 6・6—7
② 申命 11・18—19、GS「深く考える」
4 ① 1ニフ 13・39、14・30、モサ 1・6、エテ 4・10—11、5・3
② GS「祈り」
③ GS「信仰」
④ GS「正直」
⑤ 新ヤコ 1・5—7、モロ 7・9
⑥ GS「真理」
⑦ GS「啓示」
5 ① ヨハ 8・32
② 教義 35・19、GS「証」
7 ① 1ニフ 10・17—19
8 ① GS「御霊の賜物」
② 教義 46・15
9 ① 1コリ 12・8—11、教義 46・8—29
② 教義 88・77—79、118
11 ① GS「信仰」
② GS「癒し」
12 ① GS「奇跡」

13 また、ある人にはあらゆる事柄について預言する賜物、
14 また、ある人には天使と仕える霊を見る賜物、
15 また、ある人にはあらゆる異言、ある人には様々な言語といろいろな異言を解釈する賜物が授けられる。
16 また、これらの賜物はすべて、キリストの御霊によって授けられる。そして、キリストの望まれるままに、それぞれすべての人に授けられるのである。
17 わたしは愛する同胞であるあなたがたに、[1]あらゆる善い賜物はキリストから来るということを覚えておくように勧めたい。
18 また、わたしは愛する同胞であるあなたがたに勧めたい。キリストは昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であるということと、わたしが述べたこれらの霊的な賜物はすべて、人の子らが[1]不信仰になるときでなければ、世界のあるかぎり決してなくならないことを覚えておきなさい。
19 また、わたしは愛する同胞であるあなたがたに勧めたい。キリストは昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であるということと、わたしが述べたこれらの霊的な賜物はすべて、人の子らが[2]不信仰になるときでなければ、世界のあるかぎり決してなくならないことを覚えておきなさい。
20 したがって、[1]信仰がなければならない。もし信仰がなければならないとすれば、希望もまたなければならない。そして、もし希望がなければならないとすれば、慈愛もまたなければならない。
21 あなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは決して神の王国に救われない。また、信仰がなければ神の王国に救われないし、また希望がなければ救われない。
22 もしあなたがたに希望がなければ、あなたがたは必ず絶望を味わうであろう。絶望は罪悪のために生じる。
23 キリストは、まことにわたしたちの先祖に、「[1]信仰があれば、あなたがたは、わたしの心にかなうすべてのことを行うことができる」と言われた。
24 さて、わたしは地の果てに至るすべての人に告げる。もしあなたがたの中に、神の力と賜物のなくなる時が来るとすれば、それは[1]不信仰のためである。
25 もしこのようになるとすれば、人の子らは災いである。あなたがたの中には、[1]善を行う者は一人としていないからである。もしあなたがたの中に善を行う者がいれば、その人は神の力と賜物をもって働くであろう。
26 これらのものを絶やして死ぬ者たちは災いである。彼らは罪のうちに死ぬので、神の王国に救われ

16 ①GS「異言の賜物」
18 ①新ヤコ1・17
19 ①ヘブ13・8 ②モロ7・37
20 ①モロ7・37 エテ12・3−37
21 ①1コリ13・1−13、モロ7・1、42−48、GS「慈愛」
23 ①モロ7・33 24 ①モロ7・37、GS「不信仰」 25 ①JS詩篇14・1−7、ロマ3・10−12 26 ①ヨハ8・21 ②エゼ18・26−27、フ15・32−33、モサ15・1ニ

ることはあり得ないからである。わたしはこのことを、キリストの言葉のとおりに告げる。わたしは偽りを言わない。

27 わたしは、これらのことを覚えておくように勧める。わたしが偽りを言っていないことが、あなたがたに分かる時がすぐに来るからである。あなたがたは、神の法廷でわたしに会うであろう。そして、主なる神はあなたがたに、「わたしはあなたがたに、死者の中から叫ぶもののように、まことに地の中から語るもののように、この人が書き記したわたしの言葉を告げなかったか」と言われるであろう。

28 わたしがこれらのことを告げるのは、預言が成就するためである。見よ、これらのことは永遠の神の口から出るであろう。そして、神の言葉は代々響き渡るであろう。

29 また神は、わたしの書き記してきたことが事実であるということをあなたがたに示されるであろう。

30 さらに、わたしはあなたがたに、キリストのもとに来て、あらゆる善い賜物を得るように、また悪い賜物や清くないものに触れないように勧めたい。

31 おお、エルサレムよ、目を覚まして地から立ち上がりなさい。おお、シオンの娘よ、美しい衣を着なさい。おお、イスラエルの家よ、あなたの杭を強くし、あなたの境をとこしえに広げて、決して二度と乱されることのないようにし、また永遠の御父があなたに立てられた聖約が果たされるようにしなさい。

32 まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。

33 さらにあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になり、神の力を否定しなければ、神の恵みによりキリストによって聖められる。それはキリストの血が流されたことによるものである。キリストの血が流されたのは、あなたがたの罪の赦しのために御父が聖約されたことによるものであり、そ

---

27 ① 2ニフ3・19−20、27・13、33・13、モル9・30
② イザ29・4
③ 2ニフ33・10−11
28 ① 2ニフ29・2
30 ① 1ニフ6・4、モル9・27、エテ5・5
② アル5・57
31 ① イザ52・1−2
② GS「シオン」
③ GS「ステーク」
④ イザ54・2
⑤ エテ13・8
32 ① マタ11・28、2ニフ26・33、ヤコ1・7、オム1・26
② マタ5・48、3ニフ12・48、GS「完全」
③ 教義4・2、59・5−6
④ 2ニフ25・23
33 ① GS「聖め」
② GS「贖罪」
③ GS「罪の赦し」

れによってあなたがたは染みのない清い[4]者となるのである。

34 さて、わたしはすべての者に別れを告げる。わたしは間もなく行って、神のパラダイス[1]で安息[2]を得る。その後、わたしの霊[3]と体は再び結合する。そしてわたしは勝利を得て空中[5]に上げられ、生者と死者双方の永遠の裁き[6]主である大いなるエホバ[7]の楽しい法廷であなたがたに会うことになる。アーメン。

完

33④ GS「聖い」
34① GS「パラダイス」
② GS「安息」
③ GS「霊」
④ GS「復活」
⑤ 1テサ4・17
⑥ GS「イエス・キリスト―裁き」
⑦ GS「エホバ」
⑧ ヤコ6・13

末日聖徒イエス・キリスト教会の

教義と聖約

預言者ジョセフ・スミスに
与えられた啓示
ならびにその継承者である
大管長たちに
与えられた啓示

序文

『教義と聖約』は、終わりの時に地上に神の王国を設立して治めるために与えられた、神の啓示と霊感による宣言を集めたものである。そのほとんどの章は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にあてられたものであるが、そのメッセージと警告、および勧告は全人類を益するものであって、そこには、主イエス・キリストの声に耳を傾けるようにとの全地のすべての人への招きが含まれている。主イエス・キリストは、人々のこの世における幸福と永遠の救いのために語っておられるのである。

この書に収められている啓示のほとんどは、末日聖徒イエス・キリスト教会の最初の預言者であり大管長であるジョセフ・スミス・ジュニアを通して与えられたものである。そのほかの啓示は、彼の継承者として大管長の職に就いた人々を通して発表された（教義と聖約第百三十五、百三十六、百三十八章の前書きと、公式の宣言一、二を参照）。

『教義と聖約』の書は、『聖書』『モルモン書』『高価な真珠』とともに、当教会の標準聖典の一つを成している。しかしながら、『教義と聖約』はほかの聖典とは趣を異にする。これは昔の記録の翻訳ではなく、その起源が近代にあり、この時代に神の聖なる業を回復し、地上に神の王国を設立するために、選ばれた預言者たちを通して神から与えられたものだからである。これらの啓示からは、時満ちる神権時代に新たに語りかけられた主イエス・キリストの優しい、それでいて確固とした声が聞こえてくる。この声によって開始された業は、主の再臨に備えるものであり、世界が始まって以来のすべての聖なる預言者たちの言葉にかない、それを成就するものである。

ジョセフ・スミス・ジュニアは、千八百五年十二月二十三日に、アメリカ合衆国のバーモント州ウィンザー郡シャロンで生まれた。そして若いときに、家族とともにニューヨーク州西部のマンチェスターに移り住んだ。彼が最初の示現を受けたのは、千八百二十年の春、十四歳で、マンチェスターの近くに住んでいたときのことである。そのと

き、彼は永遠の父なる神とその御子イエス・キリストの直接の訪れを受けた。彼はこの示現の中で、新約の時代に設立されて完全な福音を伝えたイエス・キリストのまことの教会が、もはや地上にないことを告げられた。その後も何度か神聖な現れがあり、彼は多くの天使から教えを受けた。そして、彼が地上でなすべき特別な業を神が備えておられること、また彼によってイエス・キリストの教会が地上に回復されることが明らかにされた。

やがてジョセフ・スミスは神の助けを得て、『モルモン書』を翻訳し、出版するに至った。その間、千八百二十九年五月に、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは、バプテスマのヨハネによってアロン神権に聖任され（教義と聖約第十三章）、その後間もなく、昔の使徒ペテロとヤコブとヨハネによってメルキゼデク神権にも聖任された（教義と聖約第二十七章十二節）。その後も聖任を受け、モーセ、エリヤ、エライアス、および昔の多くの預言者から神権の鍵を授けられた（教義と聖約第百十章、百二十八章十八、二十一節）。実際、これらの聖任によって、地上の人間に神の権能が回復されたのである。そして、預言者ジョセフ・スミスは天からの指示を受けて、千八百三十年四月六日に教会を組織した。このようにして、イエス・キリストのまことの教会が、福音を教え、救いの儀式を執行する権能を持つ一つの組織として、もう一度人々の間で働きをすることになったのである（高価な真珠、ジョセフ・スミス—歴史第一章一—七十五節、教義と聖約第二十章）。

これらの神聖な啓示は、必要な折々に祈りへの答えとして受けたものであり、実在の人々の現実の状況に応じて与えられたものである。預言者と彼の同僚たちは神の導きを求めた。そして、これらの啓示は、彼らがその導きを受けたことを証明している。これらの啓示から、イエス・キリストの福音が回復され、明らかにされ、そして時満ちる神権時代が到来したことが分かるのである。ニューヨーク州とペンシルベニア州から、オハイオ州、ミズーリ州、イリノイ州を経て、ついにアメリカ西部の大盆地に至る教会の西方への移動、また近代にシオンを地上に築き上げようとした聖徒たちの力強い努力も、これらの啓示の中に示されている。

初めの幾つかの章は、『モルモン書』の翻訳と出版に関する事柄に関連したものである（教義と聖約第三、五、十、十七、十九章参照）。また、その後の幾つかの章は、霊感

により『聖書』の翻訳を行っていた預言者ジョセフ・スミスの働きを反映したものである。この翻訳の間に、重要な教義を含む章の多くが与えられたのであった（例として、教義と聖約第三十七、四十五、七十三、七十六、七十七、八十六、九十一、百三十二章を参照。これらの各章は、『聖書』の翻訳に直接何らかの関連を持っている）。

これらの啓示の中では、次のような基本的な事柄について福音の教義が説かれ、明らかにされている。すなわち、神会の属性、人の起源、サタンの実在、死すべき生涯の目的、従順の必要性、悔い改めの必要性、聖なる御霊の働き、救いに関する儀式と行い、地球の行く末、復活と裁きに続く人の将来の状態、婚姻関係が永遠に続くこと、家族の永遠性。さらに、ビショップと大管長会、十二使徒評議会、および七十人の召し、ならびにその他の管理の職と定員会の設置に伴い、教会の管理組織が次第に明らかにされたことも示されている。最後に、イエス・キリストについて、すなわち、イエス・キリストの神性、尊厳、完全、愛、贖いの力について述べられた証は、この書を全人類にとって非常に貴重なもの、また全地の富よりも価値あるものとしている。

千八百三十三年に、多くの啓示が『キリストの教会の統治のための戒めの書』（A Book of Commandments for the Government of the Church of Christ）という書名で、ミズーリ州シオン（インディペンデンス）において出版された。この出版に当たって、当教会の長老たちは、これらの啓示が真実であるとの証を主から受けたことを厳粛に証した。主は御自分の僕たちとの交わりを続けられ、二年後に、増補版が、『末日聖徒の教会の教義と聖約』（Doctrine and Covenants of the Church of the Latter Day Saints）と題して、オハイオ州カートランドで出版された。千八百三十五年のこの版には、次のような十二使徒の証が添えられた。

『教義と聖約』の書が真実であるという十二使徒の証

主の戒めの書についての証人の証。これらの戒めは、主がジョセフ・スミス・ジュニアを通して主の教会に与えられたものであり、ジョセフ・スミス・ジュニアはこの目的のために教会員の声によって任命された者である。

したがって、わたしたちは、これらの戒めが神から霊感によって与えられ、すべての人にとって有益であり、まことに真実であると、主がわたしたちに注がれた聖霊を通してわたしたちに証されたことを、全人類、すなわち地の面のすべての造られたものに進んで証したいと思う。

主をわたしたちの助け主として、わたしたちはこの証を世の人々に伝えるものである。わたしたちが世の人々に証を述べるというこの特権にあずかることを許されているのは、父なる神とその御子イエス・キリストの恵みによるものである。わたしたちはこの特権を大いに喜び、人の子らがこれによって益を得るようにと常に主に祈っている。

十二使徒の名前は次のとおりである。

トーマス・B・マーシュ　デビッド・W・パッテン
ブリガム・ヤング　ヒーバー・C・キンボール
オーソン・ハイド　ウィリアム・E・マクレラン
パーリー・P・プラット　ルーク・S・ジョンソン
ウィリアム・スミス　オーソン・プラット
ジョン・F・ボイントン　ライマン・E・ジョンソン

『教義と聖約』のその後の版には、さらに別の啓示やそのほかの記録事項が、与えられたままに、また教会の所管の会議や大会で受け入れられたままに追加されてきた。

また、千八百三十五年版以来、「信仰に関する講話」と呼ばれる七課から成る神学上の一連の教えが掲載されていた。これは、オハイオ州カートランドにおける「預言者の塾」で使用するために、千八百三十四年から千八百三十五年にかけて準備されたものである。これらの講話は教義と教えの点では有益であるが、教会全体への啓示として与えられたものではなく、また受け入れの提示もされていないため、千九百二十一年版以降、『教義と聖約』から省かれている。

過去の版では、若干の誤りが、特に章の前書きの歴史的説明の部分に残っていたことは明らかである。そこで、日付や地名の訂正、そのほか適切と思われる小さな訂正が若干行われた。これらの変更は歴史文書に合致するように行われたものである。この最新版のそのほかの特徴は、相互参照、聖句、章の前書き、および概要が改善されたことにある。これはすべて、読者が『教義と聖約』の中に述べられている主のメッセージを理解して喜びを得られるように工夫されたものである。

また、各章の前書きに『教会歴史』(History of the Church) の参照箇所が挙げられている。『教会歴史』は、千八百二十年から千八百四十八年までの末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史を記した全七巻の書物である。しかし、これはまだ翻訳されておらず、英語版しかないので、『教義と聖約』の章の前書きにおける『教会歴史』の参照箇所は英語版を指す。

年代順に見た目次

時	場　所	章
1823年 9月	ニューヨーク州マンチェスター	2
1828年 7月	ペンシルベニア州ハーモニー	3
夏	ペンシルベニア州ハーモニー	10
1829年 2月	ペンシルベニア州ハーモニー	4
3月	ペンシルベニア州ハーモニー	5
4月	ペンシルベニア州ハーモニー	6, 7, 8, 9
5月	ペンシルベニア州ハーモニー	11, 12, 13
6月	ニューヨーク州フェイエット	14, 15, 16, 17, 18
1830年 3月	ニューヨーク州マンチェスター	19
4月	ニューヨーク州フェイエット	20*, 21
4月	ニューヨーク州マンチェスター	22, 23
7月	ペンシルベニア州ハーモニー	24, 25, 26
8月	ペンシルベニア州ハーモニー	27
9月	ニューヨーク州フェイエット	28, 29, 30, 31
10月	ニューヨーク州フェイエット	32*, 33
11月	ニューヨーク州フェイエット	34
12月	ニューヨーク州フェイエット	35, 36, 37
1831年 1月	ニューヨーク州フェイエット	38, 39, 40
2月	オハイオ州カートランド	41, 42, 43, 44
3月	オハイオ州カートランド	45, 46, 47, 48, 49
5月	オハイオ州カートランド	50
5月	オハイオ州トンプソン	51
6月	オハイオ州カートランド	52, 53, 54, 55, 56
7月	ミズーリ州ジャクソン郡シオン	57
8月	ミズーリ州ジャクソン郡シオン	58, 59, 60
8月	ミズーリ州ミズーリ川のほとり	61, 62
8月	オハイオ州カートランド	63
9月	オハイオ州カートランド	64
10月	オハイオ州ハイラム	65
10月	オハイオ州オレンジ	66
11月	オハイオ州ハイラム	1, 67, 68, 69, 133
11月	オハイオ州カートランド	70
12月	オハイオ州ハイラム	71
12月	オハイオ州カートランド	72
1832年 1月	オハイオ州ハイラム	73, 74
1月	オハイオ州アマースト	75
2月	オハイオ州ハイラム	76
3月	オハイオ州ハイラム	77, 78, 79, 80, 81
4月	ミズーリ州ジャクソン郡	82, 83
4月	ミズーリ州インディペンデンス	83

*その場所，またはその付近

時	場　所	章
1832 年 8 月	オハイオ州ハイラム	99
9 月	オハイオ州カートランド	84
11月	オハイオ州カートランド	85
12月	オハイオ州カートランド	86, 87*, 88
1833 年 2 月	オハイオ州カートランド	89
3 月	オハイオ州カートランド	90, 91, 92
5 月	オハイオ州カートランド	93, 94
6 月	オハイオ州カートランド	95, 96
8 月	オハイオ州カートランド	97, 98
10月	ニューヨーク州ペリーズバーグ	100
12月	オハイオ州カートランド	101
1834 年 2 月	オハイオ州カートランド	102, 103
4 月	オハイオ州カートランド	104*
6 月	ミズーリ州フィッシング川	105
11月	オハイオ州カートランド	106
1835 年 3 月	オハイオ州カートランド	107
8 月	オハイオ州カートランド	134
12月	オハイオ州カートランド	108
1836 年 1 月	オハイオ州カートランド	137
3 月	オハイオ州カートランド	109
4 月	オハイオ州カートランド	110
8 月	マサチューセッツ州セーレム	111
1837 年 7 月	オハイオ州カートランド	112
1838 年 3 月	ミズーリ州ファーウェスト	113*
4 月	ミズーリ州ファーウェスト	114, 115
5 月	ミズーリ州デイビーズ郡スプリングヒル	116
7 月	ミズーリ州ファーウェスト	117, 118, 119, 120
1839 年 3 月	ミズーリ州クレイ郡リバティーの監獄	121, 122, 123
1841 年 1 月	イリノイ州ノーブー	124
3 月	イリノイ州ノーブー	125
7 月	イリノイ州ノーブー	126
1842 年 9 月	イリノイ州ノーブー	127, 128
1843 年 2 月	イリノイ州ノーブー	129
4 月	イリノイ州レイマス	130
5 月	イリノイ州レイマス	131
7 月	イリノイ州ノーブー	132
1844 年 6 月	イリノイ州ノーブー	135
1847 年 1 月	ウィンタークォーターズ（現ネブラスカ州）	136
1890 年10月	ユタ準州ソルトレーク・シティー	公式の宣言一
1918 年10月	ユタ州ソルトレーク・シティー	138
1978 年 6 月	ユタ州ソルトレーク・シティー	公式の宣言二

*その場所，またはその付近

教義と聖約

第1章

千八百三十一年十一月一日、オハイオ州ハイラムで開かれた教会の長老たちの特別大会中に、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百二十一—二百二十四ページ）。このときより前に主から多くの啓示が与えられており、これらの啓示を編集して書物として出版することが、この大会で決議された主要な議題の一つであった。この章は、この神権時代に与えられた教義、聖約、および戒めについての主のはしがきとなっている。

1—7 警告の声がすべての民に及ぶ。8—16 再臨に先立つ背教と悪事。17—23 主の真理と力を地上に回復するために、ジョセフ・スミスが召される。24—33 『モルモン書』が出され、まことの教会が設立される。34—36 平和が地から取り去られる。37—39 これらの戒めを調べなさい。

1 聴きなさい、おお、わたしの1)教会の人々よ。高い所に住み、その目がすべての人のうえにある者の2)声は言う。まことにわたしは言う。遠くの民よ、聴きなさい。海の島々にいる者よ、ともに耳を傾けなさい。

2 まことに、1)主の声はすべての人に及び、2)逃れる者は一人もいない。目として見ないものはなく、耳として聞かないものはなく、3)心として貫かれないものもない。

3 また、1)背く者は深い悲しみに刺し貫かれる。彼らの罪悪が2)屋根の上で語られ、彼らの隠れた行いが暴かれるからである。

4 また、1)警告の声は、この2)終わりの時にわたしが選んだ弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ。

5 彼らは出て行き、彼らをとどめる者はいない。主なるわたしが彼らに命じたからである。

6 見よ、これはわたしの1)権威であり、わたしの僕たちの権威であり、わたしの戒めの書へのはしがきである。おお、地に住む者よ、これらの戒めは、あなたがたに2)知らせるためにわたしが僕たちに与えたものである。

教義と聖約 第1章

1 ① 3ニファ27・3、教義20・1、GS「イエス・キリストの教会」 ② 教義38・7—8、GS「神・神会」 ③ 申命32・1、教義133・16
2 ① ビリ2・9—11 ② ③ GS「心」
3 ① ③ GS「背く」 ② ルカ8・17、12・3、2ニファ27・11、モル5・8
4 ① エゼ3・17—21、教義63・37、GS「警告」「伝道活動」 ② GS「終わりの時・末日」
6 ① GS「イエス・キリスト・権威」 ② 教義72・21

7 それゆえ、おお、民よ、[1]畏れおののきなさい。主
なるわたしがこれらの中で告げたことは[2]成就する
からである。
8 まことに、わたしはあなたがたに言う。地に住む
者にこれらのおとずれを伝えるために出て行く者に
は、信じない者や[1]背く者を地上でも天でも[2]結び固め
る力が与えられる。
9 まことに、神の[1]激しい怒りが限りなく[2]悪人のうえ
に注がれる日のために、彼らを結び固めるのであ
る。
10 主が[1]来てすべての人にその[2]行いに応じて[3]報いを与
え、またすべての人をその同胞を量ったはかりで[4]量
る日のために。
11 それゆえ、主の声は、聞こうとするすべての人が
聞けるように地の果てにまで及ぶ。
12 あなたがたは備えなさい。来るべきことのために
備えなさい。主は近いからである。
13 主の[1]怒りは燃え、主の[2]剣は天において浸されてい
る。そして、それは地に住む者のうえに下る。
14 主の[1]腕が現される。そして、主の声もその僕たち
の声も[2]聞こうとせず、預言者たちや使徒たちの言葉
も[3]心に留めようとしない者たちが、民の中から[4]絶た
れる日が来る。
15 彼らはわたしの[1]定めから[2]離れ去り、わたしの[3]永遠
の聖約を[4]破った。
16 彼らは主の義を打ち立てるために主を[1]求めようと
せずに、すべての人が[2]自分の[3]道を、自分の神の[4]像を
求めて歩む。その像は俗世の形であり、その本質は
偶像のそれである。それは[5]古びて、バビロン、まこ
とに大いなるバ[6]ビロンにおいて滅び、バビロンは倒
れる。
17 主なるわたしは、地に[1]住む者に下る災いを知って
いるので、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニア
を訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた。
18 また、ほかの者たちにも戒めを与えて、彼らがこ
れらのことを世に宣言するようにした。これはすべ
て、預言者たちによって書き記されたことが成就す
るためである。
19 すなわち、世の[1]弱い者たちが出て来て、力ある強
い者たちを打ち破る。それは、人がその同胞に忠告
することや、肉の腕に[2]頼ることのないようにするた
めであり、

7 ① 申命5・29、伝道12・13
② 教義1・38
8 ① GS「背く」
② GS「結び固め」
9 ① 黙示19・15—16、1ニフ22・16—17
② モサ16・2、ジーマタ1・31、55
10 ① GS「イエス・キリストの再臨」
② 箴言24・12、アル9・28、41・2—5、教義6・33
③ エゼ7・4、教義56・19、GS「イエス・キリスト—裁き」
④ マタ7・2
13 ① 教義63・6
② エゼ21・3、教義35・14
14 ① イザ53・1
② 2ニフ9・31、モサ26・28
③ 教義11・2
④ 使徒3・23、アル50・20、教義50・8、56・3
15 ① GS「定め」
② ヨシ23・16、イザ24・5
③ GS「新しくかつ永遠の聖約」
④ GS「背教・背信」
16 ① マタ6・33
② イザ53・6
③ 教義82・6
④ 出エ20・4、3ニフ21・17、GS「偶像礼拝」
⑤ イザ50・9
⑥ 教義64・24、133・14、GS「バビロン・バベル」「物欲」
17 ① イザ24・1—6

20 すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため、
21 信仰もまた地に増すため、
22 わたしの永遠の聖約が確立されるため、
23 わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで、また王や統治者の前に宣べられるためである。
24 見よ、わたしは神であり、わたしがこれを語った。これらの戒めはわたしから出ており、わたしの僕たちに、彼らの弱さのあるままに、彼らの言葉に倣って与えられた。それは、彼らが理解できるようにするためである。
25 また、彼らが誤りを犯したならば、それを知らされるため、
26 知恵を求めたならば、教えを授けられるため、
27 罪を犯したならば、懲らしめを受けて、悔い改められるようにするため、
28 謙遜であれば、強くされ、高い所から祝福を受け、また折々知識を与えられるようにするためである。
29 また、まことにわたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが、ニーファイ人の記録を受けた後、神の憐れみによって、神の力により『モルモン書』を翻訳する力を持てるようにするためであった。
30 また、これらの戒めを与えられた人々もこの教会の基礎を据える力と、暗黒から、また暗闇から、全地の面に唯一まことの生ける教会をもたらす力を持てるようにするためであった。教会について言えば、主なるわたしはこれを心から喜んでいる。しかし、それは全体について言うのであって、一人一人を指すのではない。
31 主なるわたしは、ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはないからである。
32 それでも、悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう。
33 また、悔い改めない者は、すでに受けている光さえ取り去られる。わたしの御霊はいつでも人を励ますわけではないからである、と万軍の主は言う。
34 さらにまた、おお、地に住む者よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。主なるわたしは、これらのことを進んですべての肉なるものに知らせようと思う。

---

19 ①使徒4・13、1コリ1・27、教義35・13、133・②58—59、GS「柔和」、2ニフ28・31、GS「信頼」　20 ①GS「証する」、教義39・11、GS「新しくかつ永遠の聖約」、GS「聖約（契約）」　23 ①GS「福音」　②1コリ1・26—29　24 ①②GS「伝道活動」、2ニフ33・10—11、モロ10・27—28　②2ニフ31・3、エテ12・39　③教義50・12、GS「理解」　26 ①新ヤコ1・5、教義42・68、GS「知恵」　27 ①②GS「懲らしめ」、GS「悔い改め」　28 ①②GS「謙遜」　②GS「知識」　29 ①②GS「モルモン書」　30 ①GS「福音の回復」、「末日聖徒イエス・キリスト教会」　②GS「暗闇（霊的な）」　③エベ4・5、11—14、GS「まことの教会のしるし」　④教義1・4—5、17・18　教義38・10　⑤教義38・10　31 ①アル45・16、教義24・2、GS「罪」　32 ①教義58・42—43、GS「赦し」　33 ①モサ26・32　②アル24・30、教義60・2—3　③GS「聖霊」

35 わたしは人を偏り見ない者であり、その日が速やかに来ることをすべての人が知るようにと望んでいるからである。平和が地から取り去られ、悪魔が自分の領域を支配する力を持つ時はまだ来ていないが、それはもう近い。

36 そして、主も聖徒たちを支配する力を持ち、彼らの中で治め、またイドマヤ、すなわち世を裁くために降って来る。

37 これらの戒めを調べなさい。これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するからである。

38 主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。

39 見よ、見よ、主は神であり、御霊は証する。そして、その証は真実であり、真理はとこしえにいつまでも変わらない。アーメン。

第2章

千八百二十三年九月二十一日の夜、預言者ジョセフ・スミスがニューヨーク州マンチェスターの父の家に住んでいたときに受けた、天使モロナイの言葉からの抜粋（『教会歴史』第一巻、十二ページ）。モロナイは、現在『モルモン書』として世に出されている記録を作った歴代の歴史家の中の最後の人物である（マラキ書第四章五―六節、本書第二十七章九節、第百十章十三―十六節、第百二十八章十八節を参照）。

1 エリヤが神権を現す。2−3 先祖の約束が子孫の心に植えられる。

1 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。

2 彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。

3 そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。

---

33 ④ 創世6・3、2ニフ26・11、モル5・16、エテ2・15、モロ9・4
34 ① マタ28・19、教義1・2、42・58
35 ① 申命10・17、使徒10・34、モロ8・12、教義38・16
② GS「終わりの時・末日」
③ 教義87・1−2、GS「時のしるし」「平安・平和」
36 ① ④ GS「悪魔」
② GS「聖徒」
③ GS「イエス・キリスト―キリストによる福千年の統治」
37 ① ⑤ ④ GS「世」
② GS「裁き」
GS「聖文」
教義58・31、62・6、82・10
38 ① 列下10・10、マタ5・18、24・35、2ニフ9・16、ジーマタ1・35
② 教義101・64
申命18・18、教義18・33−38、21・5、GS「啓示」「声」
③ GS「預言者」
④ GS「権威・権限・権能」
⑤ GS「支持（教会指導者の）」
39 ① 1ヨハ5・6、教義20・27、42・17
② GS「真理」

第2章
1 ① 教義34・6−9、43・17−26

第3章

千八百二十八年七月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示。『モルモン書』の最初の部分はリーハイ書と呼ばれたが、この啓示は、それから翻訳された百十六ページの原稿の紛失に関連して与えられたものである。これより以前、預言者はこの原稿を自己の保管よりマーティン・ハリスの保管に移すことを心ならずも許した。このマーティン・ハリスは、『モルモン書』の翻訳で短期間筆記者を務めた人物である。この啓示はウリムとトンミムによって与えられた（『教会歴史』第一巻、二十一—二十三ページ）（本書第十章を参照）。

1—4 主の道は一つの永遠の環である。5—15 ジョセフ・スミスは悔い改めなければならない。そうしなければ、翻訳の賜物を失う。16—20 リーハイの子孫を救うために『モルモン書』が出る。

1 神の[1]業と計画と目的がくじかれることはあり得ず、またそれらが無に帰することもあり得ない。
2 [1]神は曲がった道を歩まず、右にも左にも曲がらず、また述べたことからそれることはない。それゆえ、神の道はまっすぐであり、その[2]道は一つの永遠の環である。
3 覚えておきなさい。くじかれるのは神の[1]業ではなく、人間の業であることを覚えておきなさい。
4 たとえある人が多くの啓示を受け、多くの力ある業を行う力を持つとしても、もし自分の力を[1]自慢し、神の[2]勧告を無視して、自分の思いと[3]肉の欲望が命じることに従うならば、彼は必ず落ちて、公正な神の[4]報復を自分に招くであろう。
5 見よ、あなたはこれらのものを託された。しかし、あなたに与えられた戒めは何と厳しかったことか。また、戒めに背かないという条件であなたに与えられた約束も思い出しなさい。
6 また見よ、あなたは何としばしば神の戒めと律法に[1]背き、人々の[2]説き伏せに乗ってきたことか。
7 見よ、あなたは人を神よりも[1]恐れてはならなかった。たとえ人々が神の勧告を無視し、神の言葉を[2]軽んじても、
8 それでも、あなたは忠実でなければならなかった。そうすれば、神はその腕を伸べて、[1]敵対する者

---

1 ② マラ4・5—6、3ニフ25・5—6、教義110・13—15、128・17、ジー歴史1・38—39、GS「エリヤ」「神権の鍵」
2 ① 教義27・9、98・16—17
② GS「死者の救い」「結び固め」

第3章

1 ① 詩篇8・3—9、教義10・43
2 ① アル7・20、GS「神・神会」
② 1ニフ10・18—19、教義35・1
3 ① 使徒5・38—39、モル8・22、教義10・43
4 ① 教義84・73、GS「高慢」
② ヤコ4・10、アル37・37、GS「戒め（神の）」「勧告・勧め」
③ GS「現世的」
④ GS「報復」
6 ① 教義5・21、ジー歴史1・28—29
② 教義45・29、46・7
7 ① 詩篇27・1、ルカ9・26、教義122・9、GS「畏れ・恐れ」「勇敢・勇気」
② レビ26・42—43、1ニフ19・7、ヤコ4・8—10
8 ① GS「悪魔」

の放つすべての火の矢[2]からあなたを助けたであろう。また、[3]苦難のときには、いつもあなたとともにいたであろう。

9 見よ、あなたはジョセフである。あなたは主の業を行うために選ばれた。しかし、背きのゆえに、あなたは用心しなければ落ちるであろう。

10 しかし、神は憐れみ深いということを覚えておきなさい。それゆえ、あなたが行ったことで、わたしがあなたに与えた戒めに反する行いを悔い改めなさい。そうすれば、あなたはまだ選ばれた者であって、再び業に召される。

11 こうしなければ、あなたは見放されてほかの人々と同様になり、もう賜物を持つことはなくなるであろう。

12 また、あなたは、神から与えられた眼力と力によって[1]翻訳したものを引き渡したとき、[2]悪人の手に神聖なものを引き渡したのである。

13 彼は神の勧告を無視し、神の前で交わした最も神聖な約束を破り、自分の分別に頼り、自分の知恵を自慢した。[1]

14 この理由で、あなたはしばらくの間特権を失うことになった。

15 [1]導きを与える者の勧告が踏みにじられるのを初めから許したからである。

16 それでも、わたしの業は進み行く。ユダヤ人の証[1]によって[2]救い主のことが世に知られるようになったが、まさにそのように、救い主のことがわたしの民にも[3]知られるようになるであろう。

17 すなわち、[1]ニーファイ人と、ヤコブ人と、ヨセフ人と、ゾーラム人に、彼らの先祖の証によって知られるようになるであろう。

18 また、この[1]証は[2]レーマン人と、レムエル人と、イシマエル人にも知られるようになるであろう。彼らは先祖の罪悪のゆえに[3]不信仰に陥った者たちであり、彼らの先祖は主から許されて、同胞であるニーファイ人をその罪悪と忌まわしい行いのゆえに[4]滅ぼした者たちである。

19 そして、まさしくこの[1]目的のために、すなわち、主がその民に与えた[2]約束が果たされるために、これらの記録が載せられている[3]版は保存されているのである。

20 また、[1]レーマン人が彼らの先祖についての知識を

---

8 ②エペ6・16、1ニフ15・24、教義27・17
12 ①③教義1・29、5・4 ②教義10・6—8
13 ①②GS「高慢」 ①主のこと
15 ①1ニフ13・23—25、16 ①2ニフ29・4—6 ②GS「救い主」
17 ①③モサ3・20 ②2ニフ5・8—9
18 ①GS「モルモン書」 ②2ニフ5・14、エノ1・13—18
19 ①④モル8・2—3 ②2ニフ26・15—16 ③1ニフ9・3、5 ②3ニフ5・14—15、教義10・46—50
20 ①③GS「金版」 ②2ニフ30・3—6、教義28・8、49・24

得、主の約束を知り、そして福音を信じてイエス・キリストの功徳に頼り、イエス・キリストの名を信じる信仰によって栄光を得、また悔い改めることによって救われるためである。アーメン。

第4章

千八百二十九年二月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して彼の父ジョセフ・スミス・シニアに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二十八ページ）。

1—4 主の務めに携わる者は、雄々しく奉仕することによって救われる。5—6 神聖な特質を持つ者には、その務めに携わる資格がある。7 人は神に関することを求めなければならない。

1さて見よ、[1]驚くべき業が、まさに人の子らの中に現れようとしている。

2それゆえ、おお、神の[1]務めに出で立とうとする人々よ、終わりの日に神の前に[2]罪のない状態で立てるように、あなたがたの[3]心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に[4]仕えなさい。

3あなたがたは神に仕えたいと望むならば、その業に[1]召されている。

4見よ、[1]畑はすでに白くなり[2]刈り入れを待っているからである。見よ、勢力を尽くして鎌を入れる者は、滅びることなく自分に救いをもたらすように[3]蓄えるのである。

5神の[1]栄光にひたすら[2]目を向けて、[3]信仰、[4]希望、[5]慈愛、[6]愛を持つ者には、その業に携わる資格がある。

6[1]信仰、徳、知識、節制、[2]忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、[3]謙遜、[4]勤勉を思い起こしなさい。

7[1]求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。アーメン。

第5章

千八百二十九年三月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、マーティン・ハリスの求めに応じて預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二十八—三十一ページ）。

20② モル3・19—21
③ 2ニフ31・19、モロ6・4
④ モロ7・26、38

第4章

1① イザ29・14、1ニフ14・7、22・8、教義6・1、18・44、GS「福音の回復」
② GS「奉仕」
2① 1コリ1・8、ヤコ1・19、3ニフ27・20
② ヨシ22・5、サ上7・3、教義20・19、76・5
③ GS「心」「思い・心」
3① 教義11・4、15、36・5、63・57、GS「召し・神の召し」
② ヨハ4・35、アル26・4
③ 3—5、教義11・3、33・3、7
4① GS「刈り入れ」
② 1テモ6・19
③ GS「栄光」
5① 詩篇141・8、マタ6・22、モル8・15
② GS「信仰」
③ GS「希望」
④ GS「慈愛」
⑤ GS「愛」
⑥ GS「徳」
6① GS「忍耐」
② GS「謙遜」
③ GS「熱心」
④ GS「勤勉」
7① マタ7・7—8、2ニフ32・4、GS「祈り」

1—10 この時代の人々は、ジョセフ・スミスを通して主の言葉を受ける。11—18 三人の証人が『モルモン書』について証する。19—20 前の時代におけると同様に、主の言葉は実証される。21—35 マーティン・ハリスは悔い改めて、証人の一人となることができる。

1 見よ、わたしはあなたに言う。わたしの僕マーテ[1]
イン・ハリスは、あなた、すなわちわたしの僕ジョ
セフ・スミス・ジュニアがわたしから受けたと証
し、証言した版[2]を持っていることについて、わたし
の手から確証を得たいと望んでいるので、
2 さて見よ、あなたはこのことを彼に言わなければ
ならない。すなわち、あなたに語った者があなたに
次のように述べたことを。主なるわたしは神であ
り、あなた、すなわちわたしの僕ジョセフ・スミ
ス・ジュニアにこれらのものを与えて、これらのも
のの証人[1]となるように命じた。
3 また、わたしがあなたに命じた人々[1]のほかにはこ
れらのものを見せない、という聖約をあなたに交わ
させた。これらのものを自由にする力[2]は、わたしが
あなたに授けないかぎり、あなたは決して持つこと
はないのである。
4 あなたは版を翻訳する賜物を持っている。これ
は、わたしがあなたに授けた最初の賜物である。そ
してわたしは、これによってわたしの目的が達せら
れるまで、ほかの賜物を求めてはならないと命じ
た。これが終わるまで、わたしはあなたにほかの賜
物を授けないからである。
5 まことに、わたしはあなたに言う。地に住む者が
わたしの言葉に聞き[1]従わなければ、彼らに災いが及
ぶであろう。
6 この後、あなたは聖任[1]され、出て行って人の子ら
にわたしの言葉[2]を告げるからである。
7 見よ、もし彼らがわたしの言葉を信じ[1]なければ、
たとえあなた、すなわちわたしの僕ジョセフが、わ
たしからゆだねられたこれらのものをすべて彼らに
見せることができたとしても、彼らはあなたを信じ
ないであろう。
8 ああ、この不信仰[1]でかたくなな[2]時代の人々よ。わ
たしの怒りは彼らに向かって燃えている。
9 見よ、まことに、わたしはあなたに言う。わたし
の内にある賢明な目的のために、わたしはあなた、

第5章
1 ① 教義5・23—24、ジ—歴史1・61
② GS「金版」
2 ① GS「証人・証」
3 ① 2ニフ27・13。『モルモン書』の序のページの「三人の証人の証」と「八人の証人の証」を参照
② 2ニフ3・11
5 ① エレ26・4—5、アル5・37—38、教義1・14
6 ① 教義20・2—3、GS「聖任」
② 2ニフ29・7
7 ① ルカ16・27—31、教義63・7—12
8 ① GS「不信仰」
② モル8・33、GS「高慢」

すなわちわたしの僕ジョセフに託したそれらのものを保存してきた。[1)ほぞん] その目的は、後の時代の人々に知らされるであろう。

10 しかし、この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける。

11 また、あなたの証のほかに、わたしの三人の僕の証がある。[1)あかし] わたしは彼らを召して聖任し、これらのものを彼らに示し、彼らはあなたを通して与えられるわたしの言葉を携えて行くであろう。

12 まことに、彼らはこれらのものが真実であることを確かに知るであろう。天からわたしが彼らにそれを宣言するからである。

13 わたしは、彼らがありのままにこれらのものを目にし、見ることができるように、彼らに力を与えよう。

14 わたしはこの時代の人々の中では、[1)]ほかのだれにも、これと同じ証を受ける力を授けない。今はわたしの[2)きょうかい]教会が荒れ野から立ち上がって出て来る始まりであり、わたしの教会は、[3)つき]月のように明るく、太陽のように美しく、旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなる。

15 わたしは、わたしの言葉について、三人の証人の[1)しょうにん]証を送り出そう。

16 そして見よ、だれでもわたしの言葉を[1)]信じる者に、わたしは、わたしの[2)]御霊の現れを[3)]与えよう。彼らはわたしから生まれる、すなわち、[4)]水と御霊によって生まれるであろう。[5)]

17 あなたは、もうしばらくの間待たなければならない。あなたはまだ[1)]聖任されていないからである。

18 また、彼らの証も進み行き、この時代の人々は、もしわたしの言葉に対してその心をかたくなにするならば、[1)]罪の宣告を受けるであろう。

19 荒廃をもたらす懲らしめが[1)]地に住む者の間に及び、もし彼らが[2)]悔い改めなければ折々に続けて懲らしめが与えられ、ついに地は[3)]むなしくなり、地に住む者はわたしの[4)]来臨の輝きにより焼き尽くされて、ことごとく滅ぼされるからである。

20 見よ、わたしは、エルサレムの滅亡について民に[1)]告げたように、あなたがたにこれらのことを告げる。わたしの[2)]言葉は、これまでに実証されたように、そのときにも実証されるであろう。

21 さて、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョ

---

9 ① アル 37・18
11 ① 2ニフ 27・12、エテ 5・3—4、教義 17・1—5
14 ① 2ニフ 27・13
② GS「イエス・キリストの教会」「福音の回復」
③ 教義 105・31、109・73
15 ① 教義 17・1—20、GS「証人（モルモン書の）」
16 ① エテ 4・11
② GS「聖霊」
③ 教義 8・1—3
④ 1ニフ 2・16
⑤ GS「聖霊の賜物」「バプテスマ」「再び生まれる」
17 ① GS「権威・権限・権能」「聖任」
18 ① 1ニフ 14・7、教義 20・13—15
19 ① 教義 29・8、35・11、43・17—27、GS「終わりの時・末日」「時のしるし」
② GS「悔い改め」
③ イザ 24・1、5—6
④ 133・41、GS「イエス・キリストの再臨」
20 ① 1ニフ 1・18、2ニフ 25・9
② 教義 1・38

セフに命じる。悔い改めてわたしの前をさらにまっすぐに歩み、これからはもう人々の説き伏せに乗ることのないようにしなさい。

22 また、わたしがあなたに命じた戒めを確固として[1]守りなさい。あなたがそうするならば、見よ、たとえあなたが[2]殺されようと、わたしはあなたに永遠の命を授ける。

23 さらにまた、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフに、証を得たいと望んでいる[1]その人について語る。

24 見よ、わたしは彼に言う。彼は自分を高くして、わたしの前に十分にへりくだっていない。しかし、もし彼がわたしの前に身をかがめて、熱烈な祈りと信仰とをもって真心からへりくだるならば、わたしは、見たいと望んでいるものを[1]見ることを彼に認めよう。

25 その後、彼はこの時代の人々に言わなければならない。「まことに、わたしは、主がジョセフ・スミス・ジュニアに示されたものを見た。わたしはそれらが真実であることを確かに[1]知っている。わたしはそれらを見たからである。それらは人の力ではなく、神の力によってわたしに示されたからである」と。

26 主なるわたしは、彼、すなわちわたしの僕マーティン・ハリスに命じる。これらのものについて次のように言う以外に、人々に何も言ってはならない。「わたしはそれらのものを見た。それらのものは神の力によってわたしに示された。」これが彼の言うべき言葉である。

27 しかし、彼がこれを拒めば、彼は以前にわたしと交わした聖約を破ることになる。そして見よ、彼は罪に定められる。

28 さて、彼はへりくだり、自分が行った誤った事柄をわたしに認め、わたしの戒めを守ると聖約し、わたしを信じる信仰を働かせなければ、見よ、わたしは彼に、このようなものを見ないであろうと言う。わたしは前に語ったものを見ることを彼に認めないからである。

29 そしてこの場合、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフに命じる。あなたは彼に、これ以上何も行わないように、またこの件についてもうわたしを煩わさないように言いなさい。

30 そしてこの場合、見よ、わたしはあなた、ジョセ

---

22 ① GS「従順、従う」
② アル 60・13、教義 6・30、135・1-7
23 ① 教義 5・1
24 ① 「モルモン書」の序のページの「三人の証人の証」を参照
25 ① エテ 5・3

フに言う。もう数枚翻訳を終えたならば、わたしが再び命じるまで、しばらくの間、中止しなければならない。その後、あなたは再び翻訳することができる。

31 もしあなたがこうしなければ、見よ、あなたはもう賜物を持たず、わたしはあなたに託したものを取り上げるであろう。

32 さて、わたしはあなたを滅ぼそうとするたくらみがあることをあらかじめ知っており、まことに、わたしの僕マーティン・ハリスが、へりくだってわたしの手から証を受けなければ過ちに陥ることをわたしはあらかじめ知っているので、

33 また、あなたを地の面から[1]滅ぼし去ろうとたくらんでいる者が多くいるので、このために、すなわちあなたの命が長く保たれるようにするために、わたしはこれらの戒めをあなたに与えたのである。

34 まことに、このためにわたしは言ったのである。「中止して、わたしがあなたに命じるまでそのままでいなさい。そうすれば、わたしがあなたに命じたことを成し遂げる[1]手立てを与えよう。」

35 わたしの戒めを[1]忠実に守るならば、あなたは終わりの日に[2]高く上げられるであろう。アーメン。

第6章

千八百二十九年四月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三十二—三十五ページ）。オリバー・カウドリは、千八百二十九年四月七日に、『モルモン書』の翻訳の筆記者として働き始めた。彼は『モルモン書』の記録が刻まれている版に関する預言者の証が真実であるという神の示しをすでに受けていた。預言者はウリムとトンミムによって主に尋ね、この答えを受けた。

1—6 主の畑で働く者は救いを得る。7—13 救いの賜物に勝る大いなる賜物はない。14—27 真理の証は御霊の力によって得られる。28—37 キリストを仰ぎ見て、絶えず善を行いなさい。

1 大いなる[1]驚くべき業が、まさに人の子らに現れようとしている。

2 見よ、わたしは神である。わたしの[1]言葉を心に留

33 ① 教義10・6、38・13、28
34 ① 1ニフ3・7
35 ① 出エ15・26、教義11・20 ② ヨハ6・39—40、1テサ4・17、3ニフ15・1、教義9・14、17・8、75・16、22

第6章
1 ① イザ29・14、教義4・1、17、18・44
2 ① ヘブ4・12、黙示1・16、教義27・1

めなさい。わたしの言葉は生きていて、力があり、もろ刃の剣よりも鋭くて、関節も骨髄も切り離すほどである。それゆえ、わたしの言葉を心に留めなさい。

3 見よ、1)畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、だれでも刈り入れをしたいと望む者は、永遠の救いが神の王国で自分のために蓄えられるように、勢力を尽くして鎌を入れ、日のあるうちに刈り取りなさい。

4 まことに、だれでも1)鎌を入れて刈り取ろうとする者は、神から召されている。

5 それゆえ、あなたはわたしに求めれば、1)与えられるであろう。たたけば、開かれるであろう。

6 さて、あなたは求めたので、見よ、わたしはあなたに言う。わたしの戒めを守り、1)シオンの大義を起こして確立するように2)努めなさい。

7 1)富を求めずに、2)知恵を3)求めなさい。そうすれば、見よ、神の4)奥義はあなたに明らかにされ、そのとき、あなたは豊かにされる。見よ、5)永遠の命を持つ者は豊かである。

8 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたがわたしに望むことが、あなたにそのとおりになるであろう。もしあなたが望むならば、あなたはこの時代に大いに善を行う仲立ちとなるであろう。

9 この時代の人々には、1)悔い改めのほかに何も語ってはならない。わたしの戒めを守り、またわたしの命じたとおりにわたしの業を起こす助けをしなさい。そうすれば、あなたは祝福されるであろう。

10 見よ、あなたは一つの賜物を持っている。この賜物のゆえに、あなたは幸いである。これは1)神聖で、上から来ていることを覚えておきなさい。

11 あなたは尋ねるならば、大いなる驚くべき2)奥義を知るであろう。それゆえ、奥義を見いだして、多くの人を真理の知識に導き、まことに彼らの行いが誤っていることを3)納得させるために、あなたは自分の4)賜物を使わなければならない。

12 あなたと同じ信仰を持つ者以外、だれにもあなたの賜物を知らせないようにしなさい。1)神聖なものを軽んじないようにしなさい。

13 あなたは善を行い、そして1)最後まで2)忠実であり3)続ければ、神の王国に救われるであろう。これは、神のあらゆる賜物の中で4)最も大いなるものである。救

---

2 1) ヒラ 3・29、教義 33・
3 1) ヨハ 4・35、教義 31・33・3、4、101・64
4 1) 黙示 14・15−19、アル 26・5、教義 11・3−4、27
5 1) マタ 7・7−8
6 1) GS「シオン」 2) 1 ニフ 13・37
7 1) 列上 3・10−13、マタ 6・19、23、ヤコ 2・18−19、2) GS「富」「物欲」 3) GS「知恵」 4) アル 39・14、教義 68・31
8 1) 教義 42・61、65、GS「神の奥義」 2) 教義 14・7 5) アル 29・9、教義 15・6、18・14−15、34・6、GS「悔い改め」「伝道活動」
9 1) 教義 63・64 10 1) 教義 102・23、ジー歴史 1・18、26 2) マタ 11・25、13・10−11、アル 12・9 3) 新ヤコ 5・20、アル 62・45、教義 18・44 4) GS「賜物」「御霊の賜物」
11 1) マタ 7・6 12 1) GS「堪え忍ぶ」 2) モサ 2・41、エテ 4・19、教義 51・19、63・47 3) 1 ニフ 15・24 4) GS「救い」

いの賜物に勝る大いなる賜物はないからである。
14まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたが行ってきたことのために、あなたは幸いである。あなたはわたしに1)尋ね、そして見よ、尋ねる度に、わたしの御霊からの教えを受けてきたからである。そうでなかったならば、現在あなたがいる所に来ることはなかったであろう。
15見よ、あなたがわたしに尋ねたので、わたしがあなたの1)思いを照らしたことを、あなたは知っている。そして今、あなたが真理の御霊に照らされたことを知るように、わたしはこれらのことをあなたに告げるのである。
16まことに、わたしはあなたに告げる。それは、あなたの1)心の思いと2)志を知っている者は神のほかにだれもいないことを、あなたが知るためである。
17わたしはあなたへの証としてこれらのことを告げる。すなわち、あなたが記してきた言葉、すなわちその書は1)真実である。
18それゆえ、1)熱心でありなさい。わたしの僕ジョセフがその言葉のためにどのような困難な状況に陥ろうと、忠実に彼の傍らに2)立っていなさい。
19彼の過ちについて彼を訓戒し、また彼からも訓戒を受けなさい。忍耐強くありなさい。まじめでありなさい。自制しなさい。忍耐と信仰、希望、慈愛を持ちなさい。
20見よ、あなたはオリバーであり、わたしがあなたに語ったのは、あなたが望んだからである。それゆえ、これらの言葉をあなたの心の中に大切に1)蓄えておきなさい。神の戒めを忠実かつ熱心に守りなさい。そうすれば、わたしはあなたをわたしの愛の腕の中に抱くであろう。
21見よ、わたしは1)神の子イエス・キリストである。わたしは自分の2)民のところに来た者である。そして、民はわたしを受け入れなかった。わたしは3)暗闇の中に輝いている1)光である。そして、暗闇はそれを理解しない。
22まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたはこれ以上の証を望むならば、これらのことが真実であるのを知ろうとして心の中でわたしに叫び求めた夜のことを思い出しなさい。
23わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大いな

---

14 ①GS「祈り」
15 ①GS「思い・心」
16 ①列上8・39 ②歴上28・9、マタ12・25、ヘブ4・12、モサ24・12、3ニフ28・6、GS「全知」
17 ①教義18・2 ②GS「熱心」
18 ①教義124・95—96 ②エテ3・21、教義84・85
20 ①GS「イエス・キリスト」
21 ①ヨハ1・10—12、使徒3・13—17、3ニフ9・16、教義45・8 ②GS「暗闇（霊的な）」 ③ヨハ1・5、教義10・58、GS「光・キリストの光」
22 ①GS「識別の賜物」
23 ①GS「平安・平和」

る証(2)があるであろうか。
24 さて見よ、あなたは証を得た。だれも知らない事柄をわたしがあなたに告げたので、あなたは証を得たではないか。
25 見よ、もしあなたがわたしに望むならば、わたしはあなたに、わたしの僕ジョセフのように、(1)翻訳する賜物を授ける。
26 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの福音の多くを載せた数々の(1)記録がある。それらは人々の(2)悪のゆえに与えられなかったものである。
27 さて、わたしはあなたに命じる。もしあなたが善い望み、すなわち、自分自身のために天に宝を蓄えたいという望みを持つならば、あなたは自分の賜物をもって、罪悪のゆえにこれまで隠されてきたわたしの聖文(1)のそれらの部分を明るみに出す助けをしなければならない。
28 さて見よ、わたしはあなたと、わたしの僕ジョセフに、この賜物の鍵を与える。それはこの務めを明るみに出すであろう。そして、二人または三人の証(1)人の口によって、すべての言葉が確定される。
29 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。たとえ人々がわたしの言葉と、わたしの福音と務めのこの部分とを拒んだとしても、あなたがたは幸いである。彼らはわたしに行った以上のことをあなたがたに行えないからである。
30 また、たとえ彼らがわたしに行ったようにあなたがたに(1)行うとしても、あなたがたは幸いである。あなたがたはわたしとともに(2)栄光の中に(3)住むからである。
31 しかし、彼らが与えられる(1)証によって確定されるわたしの言葉を(2)拒まないならば、彼らは幸いである。そのとき、あなたがたは自分たちの労苦の結ぶ実を喜ぶであろう。
32 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。一つのことについて二人または三人がわたしの名によって(1)集まっている所には、見よ、わたしもその中(2)にいる、とわたしが弟子たちに言ったように、まさにそのようにわたしはあなたがたの中にいるのである。
33 息子(1)たちよ、善を行うのを恐れてはならない。あなたがたは、何であろうとまいたものをまた刈り入(2)

---

23 ② 1ヨハ 5・9、教義 18・2
25 ① モサ 8・13、教義 5・4、9・1—5、10
26 ① 教義 8・1、9・2、GS「聖文—出現を預言された聖文」 ② GS「邪悪」
27 ① ② 教義 35・20
28 ① 申命 19・15、2コリ 13・1、2ニフ 27・12—14、教義 128・3
30 ① 教義 5・22、135・1—7、GS「殉教者・殉教」 ② GS「栄光」
31 ① ③ ② 黙示 3・21 GS「証」 ② 3ニフ 16・10—14、教義 20・8—15 マタ 18・19—20、GS「一致」 ① ② 教義 29・5、38・7 33 ① ② GS「勇敢・勇気」 ガラ 6・7—8、モサ 7・30—31、アル 9・28、教義 1・10

れるからである。それゆえ、あなたがたは善をまけば、報いとしてまた善を刈り入れることになる。
34それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの[1]岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。
35見よ、わたしはあなたがたを罪に定めない。あなたがたの道を行き、これからはもう[1]罪を犯さないようにしなさい。わたしがあなたがたに命じた業をまじめに行いなさい。
36あらゆる思いの中でわたしを[1]仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。
37わたしの[1]わきを突き刺した傷跡と、わたしの手と足にある[2]釘の跡を見なさい。忠実であり、わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたがたは[3]天の王国を[4]受け継ぐであろう。アーメン。

第7章

千八百二十九年四月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに与えられた啓示。彼らが、主から愛された弟子ヨハネが肉体にとどまっているか、それとも死んでしまったか、ウリムとトンミムによって尋ねたときに与えられたものである。この啓示は、ヨハネが羊皮紙に記して自ら隠しておいた記録の訳文である（『教会歴史』第一巻、三十五―三十六ページ）。

1―3 主から愛されたヨハネは、主が来られるときまで生き長らえる。4―8 ペテロとヤコブとヨハネは、福音の鍵を持つ。

1主はわたしに言われた。「わたしの[1]愛するヨハネよ、あなたは何を[2]望むか。あなたの欲することを求めれば、授けられるであろう。」
2そこで、わたしは主に申し上げた。「主よ、わたしが生き長らえて、人々をあなたのみもとに導くことができるように、[1]死を制する力をお与えください。」
3すると、主はわたしに言われた。「まことに、まことに、あなたに言う。あなたがこれを望んでいるので、わたしが[1]栄光のうちに来るときまであなたはこの世に[2]とどまり、もろもろの国民、部族、国語の民、

34①詩篇71・3、マタ7・24―25、1コリ10・11―4、ヒラ5・12、教義10・69、18・4、17、33・13、モセ7・53、GS「岩」
35①ヨハ8・3―11
36①イザ45・22、教義43・34
37①GS「十字架の刑」
②GS「イエス・キリスト―死後の現れ」
③GS「神の王国・天の王国」
④マタ5・3、10、3ニフ12・3、10

第7章
1①GS「ヨハネ（ゼベダイの子）」
②3ニフ28・1―10
2①ルカ9・27、GS「死（肉体の）」
3①GS「イエス・キリストの再臨」「栄光」
②ヨハ21・20―23、GS「身を変えられた人」

民族の前で預言[3]するであろう。」

4 そしてこのために、主はペテロに言われた。「わたしが来るときまで彼がこの世にとどまっていることを、わたしが望んだとしても、それがあなたに何の関係があろうか。彼は人々をわたしのもとに連れて来ることを望んだが、あなたはわたしの王国[1]においてわたしのもとに速やかに来ることを望んでいるからである。

5 わたしはあなたに言う。ペテロよ、これは善い望みであった。しかし、わたしの愛する者はそれ以上のこと、すなわち、彼がこれまで行ってきたことよりもさらに大いなる業を人々の中で行うことを望んだ。

6 まことに、彼はさらに大いなる業を引き受けた。それゆえ、わたしは彼を燃える火のようにし、また仕[1]える天使とする。[2]地上に住んでいる救いを受け継ぐ者のために、彼は仕えるであろう。

7 また、わたしはあなたを、彼とあなたの兄弟ヤコブのために仕えさせよう。そして、わたしはあなたがた三人に、わたしが来るときまでこの力とこの務めの鍵[1]とを授けよう。

8 まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは二人とも、望みどおりに与えられるであろう。あなたがたは二人とも、望んだことを喜び[1]としているからである。」

第 8 章

千八百二十九年四月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してオリバー・カウドリに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三十六—三十七ページ）。『モルモン書』の翻訳中筆記者として働き続け、預言者の口述を筆記していたオリバーは、翻訳の賜物を授けられることを願った。主はこの啓示を下して、彼の嘆願にこたえられた。

1—5 啓示は聖霊の力によって与えられる。6—12 神の奥義についての知識と昔の記録を翻訳する力は、信仰によって与えられる。

1 [1]オリバー・カウドリよ、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたの神であり、あなたの贖い主である主が生きているように確かに、あなた

3 ③ 黙示10・11
4 ① GS「神の王国・天の王国」
6 ① 教義130・5
② ヨハ10・8—11、教義77・14
③ 教義76・86—88
7 ① マタ16・19、使徒15・7、ジ—歴史1・72、GS「神権の鍵」
8 ① GS「喜び」

第8章
1 ① ジ—歴史1・66、GS「カウドリ、オリバー」

が古い記録に刻まれたものについて知識を与えられると信じながら、信仰をもって、正直な心で求めるものは何であろうと、その知識を確かに与えられるであろう。その古い[1]記録は昔のものであり、わたしの聖文のうち、わたしの御霊の現れによって語られた部分を含むものである。

2 まことに見よ、あなたに降ってあなたの心の中にとどまる[1]聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に[2]告げよう。[3]

3 さて見よ、これは啓示の霊である。見よ、モーセがイスラエルの子らを導いて乾いた地を通って[1]紅海を渡らせたのは、この霊による。

4 これがあなたの賜物である。この賜物を使いなさい。そうすれば、あなたは幸いである。これはあなたを敵の手から救い出すからである。もしそうしなければ、彼らはあなたを殺し、あなたの霊を滅びに至らせるであろう。

5 おお、これらの[1]言葉を覚えておき、わたしの戒めを守りなさい。これがあなたの賜物であることを覚えておきなさい。

6 ところで、これがあなたの賜物のすべてではない。あなたはもう一つの賜物を持っている。それはアロンの賜物である。見よ、それは多くのことをあなたに告げてきた。

7 見よ、このアロンの賜物をあなたに持たせる力は、神の力をおいてほかにない。

8 それゆえ、疑ってはならない。それは神の賜物だからである。そして、あなたはそれを手に持ち、驚くべき業をなすであろう。また、それは神の業であるから、いかなる力もあなたの手からそれを取り去ることができないであろう。

9 また、あなたがその手立てによって告げてほしいとわたしに求めることは何であろうと、わたしはあなたに授けよう。そして、あなたはそれについての知識を得るであろう。

10 [1]信仰がなければ何も行えないことを覚えておきなさい。それゆえ、信仰をもって求めなさい。これらのものを軽んじないようにしなさい。求めてはならないものを求めないようにしなさい。

11 神の奥義を知ることができるように、また隠されていた、神聖な、それらのすべての昔の記録を[1]翻訳して知識を得ることができるように、求めなさい。

---

1 ②
2 ④ ③ GS「知識」 教義 6・26—27、9・
2 ① ⑤ 教義 5・16
GS「聖霊」
③ ② GS「心」 教義 9・7—9、GS「啓示」
3 ① 出エ 14・13—22、申命 11・4、1ニフ 4・2、モサ 7・19、GS「紅海」
5 ① 申命 11・18—19
10 ① GS「信仰」 教義 88・63—65
11 ① ② 教義 9・1、10

そうすれば、あなたの信仰に応じてそのとおりになるであろう。

12 見よ、これを語ったのはわたしである。わたしは初めからあなたに語った者である。アーメン。

第9章

千八百二十九年四月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してオリバー・カウドリに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三十七—三十八ページ）。オリバーは忍耐強くあるように戒められ、また、翻訳を試みるよりは、今のところ翻訳者の口述を受けて書き取ることに満足するように勧められる。

1—6 まだ翻訳されていない昔の記録がほかにある。7—14『モルモン書』は、研究と御霊の確認とによって翻訳される。

1 見よ、わたしは、わたしの子であるあなたに言う。あなたがわたしに望んだようには1)翻訳をせずに、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアのために再び書き取ることを始めたので、まことにわたしは、彼に託したこの記録をあなたが書き続けて完結するように望むものである。

2 その後、見よ、1)ほかの2)記録があるので、わたしはあなたに力を与えて翻訳を助けさせよう。

3 息子よ、忍耐強くありなさい。それはわたしの知恵にかなうからである。現在あなたが翻訳することは適切ではない。

4 見よ、あなたが行うように召されている業は、わたしの僕ジョセフのために筆記することである。

5 また見よ、わたしがあなたからこの特権を取り去ったのは、あなたが翻訳を開始したときのように翻訳を続けなかったからである。

6 息子よ、1)つぶやいてはならない。わたしがこのようにあなたを遇したことは、わたしの知恵にかなうからである。

7 見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

8 しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく1)思い計り、その後、それが正しい

第9章
1 ① 教義8・1、11
② ジ—歴史1・67
2 ① ほかにも翻訳されるものがあることを示している。『聖書』のジョセフ・スミス訳とアブラハム書もこれに当たる。オリバー・カウドリは筆記者としてその翻訳を助けた。GS「ジョセフ・スミス訳（JS）」
② 教義6・26、8・1
6 ① GS「つぶやき」
8 ① GS「深く考える」

かどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。

9 しかし、もしそれが正しくなければ、あなたはこのような感じを少しも受けず、思いが鈍くなり、それによって誤っている事柄を忘れるようになる。それゆえ、あなたはわたしから与えられなければ、神聖なことを書くことはできない。

10 さて、もしあなたがこれを知っていたならば、翻訳できたであろう。しかしながら、あなたが今翻訳することは適切ではない。

11 見よ、あなたが始めたときには適切であった。しかし、あなたは恐れた。そして、時は過ぎ去り、今や適切ではなくなった。

12 あなたは、わたしがそれを補う十分な力をわたしの僕ジョセフに与えたのを見ていないか。あなたがたのどちらをも、わたしは罪に定めない。

13 わたしがあなたに命じたこのことを行いなさい。そうすれば、あなたは栄えるであろう。忠実であり、決して誘惑に負けないようにしなさい。

14 わたしがあなたを召した業にしっかりと立ちなさい。そうすれば、あなたの髪の毛一筋も失われることはない。そして、あなたは終わりの日に高く上げられるであろう。アーメン。

第10章

千八百二十八年の夏に、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二十一二十三ページ）。主はこの啓示の中で、『モルモン書』中のリーハイ書から翻訳された百十六ページの原稿が悪人たちによって変更されたことをジョセフに告げておられる。これらの原稿は、一時それを預かったマーティン・ハリスの手もとから紛失したものである（第三章の前書きを参照）。悪人たちの計画は、盗んだ原稿の相当部分が予想どおりに再翻訳されるのを待ち、書き変えたことによって生じた違いを示して翻訳者の信用を落とすことであった。この悪計が悪しき者によって考え出され、昔のニーファイ人の歴史家モルモンが集積された版の要約を作っていた時点ですでに主に知られていたことが、『モルモン書』の中に示されている（モルモンの言葉第

8 ②GS「祈り」ルカ24・32
③GS「証」「霊感」
④教義8・2—3
⑤教義10・2
9 ①教義8・11
10 ①GS「畏れ・恐れ」
11 ①教義18・8
12 ①GS「誘惑」
13 ①GS「召し・神の召し」
②1コリ16・13
③アル13・29、教義17・8

一章三—七節を参照）。

1—26 サタンは主の業に反対するように悪人たちをあおり立てる。27—33 サタンは人々の霊を滅ぼそうとしている。34—52 福音は『モルモン書』によってレーマン人とすべての国民に伝わる。53—63 主は人々の間に御自分の教会と福音を確立される。64—70 主は悔い改めた者を御自分の教会に集め、従順な者を救われる。

1 さて見よ、わたしはあなたに言う。あなたは、ウ[1)]リムとトンミムによって翻訳する力を与えられたあの書き物を悪人[2)]の手に渡したので、それを失ってしまった。

2 また、同時にあなたの賜物も失い、あなたの思い[1)]は暗くなった。

3 それにもかかわらず、それは今再びあなたに返[1)]された。それゆえ、あなたは忠実であり、あなたが始めたとおりに翻訳の仕事の残りの部分を完結するまで続けるようにしなさい。

4 あなたは翻訳できるように与えられた力[1)]と手段以上に急いだり、それ以上に働いたりすることのないようにしなさい。しかし、最後まで励[3)]みなさい。

5 勝利者となるために、まことに、サタンに打ち勝つために、またサタンの業を支えるサタンの手下どもの手から逃れるために、常[1)]に祈りなさい。

6 見よ、彼らはあなたを滅[1)]ぼそうとした。まことに、あなたが信頼した人[2)]でさえもあなたを滅ぼそうとした。

7 この理由で、わたしは、彼は悪人であると言ったのである。それは、彼があなたに託されたものを取り去ろうとし、またあなたの賜物を損なおうとしたからである。

8 そして、あなたが彼の手にその書き物を渡したので、見よ、悪人たちはあなたからそれを奪った。

9 それゆえ、あなたはそれを、すなわち神聖なものを悪に引き渡したのである。

10 また見よ、[1)]サタンはあなたが書き取らせた言葉、すなわち、あなたが翻訳した言葉であるあなたの手を離れたものを書き変えようとする思いを彼らの心に入れた。

11 そこで見よ、わたしはあなたに言う。彼らがそれ

第10章

1 ①GS「ウリムとトンミム」
2 ①②教義3・1—15 GS「思い・心」
3 ①教義3・10 ②出エ18・13—26 ③モサ4・27
4 ①マタ10・22、GS「熱心」
5 ①GS「祈り」 3ニフ18・15—21、教義5・32—33、38・6 ①GS「悪魔」
10 ①②13教義5・1—2

らの言葉を書き変えたので、それはあなたが翻訳して書き取らせたものとは反対の意味に読まれてしまう。

12 このように、悪魔はこの業を損なうために狡猾な計画を企ててきた。

13 サタンは、あなたが翻訳したと見せかけたその言葉であなたを見破ったと彼らが偽って言えるように、彼らの心にこのことを行う思いを入れた。

14 まことに、わたしはあなたに言う。わたしはサタンがこのことについて悪計を遂げるのを許さない。

15 見よ、サタンは、あなたにもう一度それを翻訳することを神に求めさせて主なるあなたの神を試みさせようとする思いを、彼らの心に入れた。

16 その後、見よ、彼らはその心の中で次のように言って考える。「我々は神が彼に翻訳する力を与えたかどうか見よう。もしそうであれば、神は再び彼に力を与えるだろう。

17 もし神が再び彼に力を与えれば、つまり彼が再び翻訳すれば、言い換えれば、彼が同じ言葉を訳出すれば、見よ、同じものが我々のところにあり、我々はそれを書き変えている。

18 だから、両者は一致しない。そこで我々は、彼はその言葉について偽りを語った、彼は賜物を持っておらず、力も持っていない、と言おう。

19 こうして我々は彼を滅ぼし、その業も損なおう。我々は最後に恥じることのないように、また世の誉れを得るために、このことを行おう。」

20 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。サタンは彼らの心をしっかりと捕らえている。彼は善いことに逆らって罪悪[1]を行うように彼らをあおり立てている。[2]

21 そして、彼らの心は腐敗しており、悪[2]と忌まわしさに満ちている。また、彼らはその行い[3]が悪いので、光よりも闇[4]を愛している。[5]そのために、彼らはわたしに求めようとしない。

22 サタン[1]は彼らをあおり立てて、彼らの霊を滅びに導く[2]のである。

23 このように、サタンは神の業を損なおうと考えて、狡猾な計画を企てた。しかし、わたしは彼らの手にこの責任を求めよう。これは裁き[1]の日に彼らの恥となり、罪の宣告となるであろう。

24 まことに、サタンは彼らの心をあおり立てて、こ

13① エレ 5・26
20① GS「罪」
20② 2ニフ 28・20—22
21① 教義 112・23—24
21② GS「邪悪」
29③ ヨハ 3・18—21、教義
29④ 45 モサ 15・26、GS「暗闇（霊的な）」
22① モセ 5・13—18
22② 2ニフ 2・17—18
23① GS「誘惑」
23② ヒラ 8・25、教義 121・25

の業に対して怒らせている。

25まことに、サタンは彼らに、「欺き、たくらんでわなにかけて、滅ぼせ。見よ、これは少しも悪いことではない」と言う。このように、彼は彼らにへつらい、偽りを言う者を見破って滅ぼすために自ら偽りを言うのは何ら罪ではないと彼らに告げる。

26このように、サタンは彼らにへつらい、彼らを導いて、最後には彼らの霊を地獄[2]へと引きずり込む。また、このようにして彼は、彼らが自分で仕掛けたわな[3]に陥るようにするのである。

27このように、サタンは人々の霊を滅ぼ[1]そうとして、地を行きつ戻りつ、あちらこちら[2]と歩き回っている。

28まことに、まことに、わたしはあなたに言う。ほかの者が偽り欺いていると考えて自分も偽り欺く者は、災いである。このような者は神の正義[2]を免れないからである。

29さて見よ、サタンが彼らに、「彼はあなたがたを欺いた」と言うので、彼らはこれらの言葉を書き変えた。このように、サタンは彼らにへつらって、罪悪を行うように、すなわち、あなたに主なるあなたの神を試みさせる[1]ように彼らを仕向ける。

30見よ、わたしはあなたに言う。あなたの手を離れたそれらの言葉を再び翻訳してはならない。

31見よ、彼らはそれらの言葉に対する偽りの悪計を遂げることはない。見よ、もしもあなたが同じ言葉を訳出すれば、彼らはあなたが偽った、翻訳したと見せかけたが食い違っていた、と言うであろう。

32そして見よ、彼らはこれを出版する。そして、サタンは人々の心をかたくなにし、あなたに対して怒るように人々をあおり立て、人々がわたしの言葉を信じないようにする。

33このように、サタン[1]はこの時代におけるあなたの証を打ち倒そうと考えているが、それは、この時代における業が進まないようにするためである。

34しかし見よ、ここに知恵がある。わたしがあなたに知恵[1]を示し、あなたが何をなすべきか、これらのことについて戒めをあなたに与えるので、あなたは翻訳の業を完了するまでそれを世に示してはならない。

35わたしがあなたに、「ここに知恵がある。それを世に示してはならない」と言ったことを不思議に思っ

25① 2ニフ2・18、28・8—9、アル10・17、モセ4・4、GS「偽り」
26① GS「背教・背信」
② GS「地獄」
③ 箴言29・5—6、1ニフ14・3
27① 2ニフ28・19—23、教義76・28—29
28① ② ヨブ1・7
② GS「欺き」
ロマ2・3、GS「正義」
29① マタ4・7
33① GS「悪魔」
34① GS「知恵」

てはならない。あなたが守られるために、わたしは、「それを世に示してはならない」と言ったのである。

36 見よ、わたしは義人にそれを示してはならないとは言わない。

37 しかし、あなたは必ずしも義人を[1]判定できないので、すなわち、あなたは必ずしも義人と悪人を見分けることができないので、わたしはあなたに言う。この件についてすべてのことを世に知らせるのがふさわしいとわたしが認めるまで、[2]黙していなさい。

38 さて、まことに、わたしはあなたに言う。あなたが書き取った、あなたの手を[1]離れてしまった事柄についての話が、ニーファイの[2]版に刻まれている。

39 また、ニーファイの版にはこれらの事柄についてもっと詳細な話が記されていることが、あの書き物の中に言われていたのを、あなたは記憶している。

40 さて、ニーファイの版に刻まれている話は、わたしがこの話によって人々に知らせたいと自らの知恵により望んでいる事柄に関して、もっと詳細なものである。

41 それゆえ、あなたはベニヤミン王の治世に至るまで、すなわち、あなたが翻訳して所持している部分に至るまで、ニーファイの[1]版に刻まれている記録を翻訳しなければならない。

42 そして見よ、あなたはこれをニーファイの記録として出版しなければならない。このようにして、わたしは、わたしの言葉を書き変えた者たちを辱めよう。

43 わたしは彼らがわたしの業を損なうのを許さない。まことに、わたしの知恵が悪魔の狡猾さに勝っていることを彼らに示そう。

44 見よ、彼らはただ一部分、すなわち、ニーファイの記録の要約を持っているにすぎない。

45 見よ、ニーファイの版には、わたしの福音についてもっと深い見方を与える多くの事柄が刻まれている。それゆえ、あなたがこのニーファイの刻まれた記録の最初の部分を翻訳して、この書に加えることは、わたしの知恵にかなっている。

46 また見よ、この書の[1]残りのすべてに、わたしの聖なる預言者たちと弟子たちが彼らの祈りの中でこの民に伝わるようにと[2]願った、わたしの[3]福音のすべての部分が載っている。

47 またわたしは、彼らが祈りで示した[1]信仰に応じて

---

37 ①マタ 23・28
②出エ 14・14
38 ①②『モルモン書』の初版のはしがきの中で、預言者は、失われた百十六ページの記事は「リーハイ書」と呼ばれる版の一部から翻訳されたものであることを説明している
41 ①②GS「版」
モ言 1・3−7
46 ①GS「モルモン書」
②エノ 1・12−18、モル 8・24−26、9・34−37
47 ①③GS「福音」
GS「信仰」

それがかなえられることを彼らに告げた。

48 まことに、彼らの信仰は次のとおりであった。すなわち、彼らがその時代に宣べ伝えることができるようにわたしが与えた福音が、彼らの同胞であるレーマン人[1]と、離反してレーマン人となったすべての者に伝わる、と。

49 さて、それだけではない。彼らが祈りで示した信仰は、もしほかの国民がこの地を所有することがあれば、この福音が知らされるというものであった。

50 このようにして、彼らは、この地でこの福音を信じる者が永遠の命を得られるように、彼らの祈りの中でこの地に祝福を残したのである。

51 まことに、いかなる国民、部族、国語の民、民族であろうと、すべての者がそれを価なしに得られるように祝福を残したのである。

52 さて見よ、彼らが祈りで示した信仰に応じて、わたしは、わたしの福音のこの部分をわたしの民に知らせよう。見よ、わたしがこれを知らせるのは、わたしの民が受けているものを損なうためではなく、それを築き上げるためである。

53 そしてこのために、わたしは、「もしこの時代の人々がその心をかたくなにしなければ、わたしは彼らの間にわたしの教会を設けよう」と言ったのである。

54 さて、わたしがこのように言うのは、わたしの教会を滅ぼすためではなく、わたしの教会を築き上げるためである。

55 それゆえ、だれでもわたしの教会に属する者は、[1]恐れる必要がない。このような者は天の王国を受け継ぐからである。[3]

56 しかし、わたしを畏れず、わたしの戒めを守らず、[2]利を得ようとして自分のために[3]教会を築き上げる者、また悪を行い、悪魔の王国を築き上げるすべての者を、まことに、まことに、わたしはあなたに言うが、わたしはこれらの者を乱し、おののかせ、中心までも震わせよう。

57 見よ、わたしは[1]神の子イエス・キリストである。わたしは自分の民のところに来たのに、民はわたしを受け入れなかった。

58 わたしは暗闇の中に輝いている[1]光である。そして、暗闇はそれを理解しない。

59 わたしは、「わたしには、この囲いにいない[1]他

---

47 ② 3ニフ 5・13−15、教義 3・19−20
48 ① モロ 10・1−5、教義 109・65−66
55 ① GS「畏れ・恐れ」
② GS「神の王国・天の王国」
③ マタ 5・10
56 ① 伝道 12・13−14
② 4ニフ 1・26
③ GS「悪魔−悪魔の教会」
57 ① ロマ 1・4
58 ① 教義 6・21
59 ① ヨハ 10・16

の羊がある」とわたしの弟子たちに言った者である。そこにいた多くの者はわたしを理解しなかった。

60 わたしには他の羊がおり、彼らはヤコブの家の一枝であったことを、わたしはこの民に示そう。

61 そして、わたしは他の羊がわたしの名によって行った驚くべき業を明るみに出そう。

62 わたしはまた、彼らに教えられたわたしの福音も明るみに出そう。見よ、この民はあなたが受けたものを否定せずにそれを築き上げ、わたしの教義の真の要点を明るみに出すであろう。その教義は、わたしの内にある唯一の教義である。

63 わたしがこのことを行うのは、わたしの福音を確立し、ひどい争いがないようにするためである。まことに、サタンは人々の心をあおり立て、わたしの教義の要点について争わせる。そして、人々はこれらのことについて過ちを犯す。聖文を曲げて解釈し、それを理解しないからである。

64 それゆえ、わたしはこの大いなる奥義を彼らに明らかにしよう。

65 見よ、彼らが心をかたくなにしなければ、わたしはめんどりが羽の下にひなを集めるように、彼らを集めよう。

66 まことに、彼らは来ようと思うならば、来て、価なしに命の水を飲むことができる。

67 見よ、これはわたしの教義である。すなわち、だれでも悔い改めてわたしのもとに来る者は、わたしの教会である。

68 だれでもこれ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを告げる者は、わたしにつく者ではなく、わたしに反対する者である。それゆえ、その人はわたしの教会に属する者ではない。

69 さて見よ、だれでもわたしの教会に属し、教会にあって最後まで堪え忍ぶ者を、わたしはわたしの岩の上に建てよう。そうすれば、地獄の門も彼らに打ち勝つことはない。

70 さて、世の命であり光である者、あなたの贖い主、あなたの主、またあなたの神である者の言葉を覚えておきなさい。アーメン。

第 11 章

千八百二十九年五月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して彼の兄ハ

---

59 ②GS「良い羊飼い」
60 ①③3ニフ15・16−18 ①GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
62 ①3ニフ11・31−40 ①GS「悪魔」 ②GS「争い」 ③2ペテ3・16
65 ①ルカ13・34、3ニフ10・4−6、教義43・24
66 ①GS「生ける水」
67 ①マタ11・28−30 ②GS「イエス・キリストの教会」
68 ①3ニフ11・40 ②ルカ11・23
69 ①②GS「岩」 ②マタ16・18、2ニフ4・31−32、教義17・8、128・10
70 ①GS「光・キリストの光」 ②GS「イエス・キリスト」

イラム・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三十九—四十六ページ）。この啓示は、ジョセフの嘆願と問いに対する答えとして、ウリムとトンミムによって受けたものである。『教会歴史』によれば、この啓示を受けたのはアロン神権が回復された後のことであったと思われる。

1—6 ぶどう園で働く者は救いを得る。7—14 知恵を求め、悔い改めを叫び、御霊を信頼しなさい。15—22 戒めを守り、主の言葉を研究しなさい。23—27 啓示の霊と預言の霊を否定してはならない。28—30 キリストを受け入れる者は神の子となる。

1 大いなる[1]驚くべき業が、まさに人の子らの中に現れようとしている。

2 見よ、わたしは神である。わたしの[1]言葉[2]を心に留めなさい。わたしの言葉は生きていて、[3]力があり、もろ刃の剣よりも鋭くて、[4]関節も骨髄も切り離すほどである。それゆえ、わたしの言葉を心に留めなさい。

3 見よ、畑はすでに[1]白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、だれでも刈り入れをしたいと望む者は、[2]永遠の救いが神の王国で自分のために蓄えられるように、勢力を尽くして鎌を入れ、日のあるうちに刈り取りなさい。

4 まことに、だれでも[1]鎌を入れて刈り取ろうとする者は、神から召されている。

5 それゆえ、あなたはわたしに[1]求めれば、与えられるであろう。たたけば、開かれるであろう。

6 さて、あなたは求めたので、見よ、わたしはあなたに言う。わたしの戒めを守り、[1]シオンの大義を起こして確立するように努めなさい。

7 富を[1]求めずに、[2]知恵を求めなさい。そうすれば、見よ、神の奥義はあなたに明らかにされ、そのとき、あなたは豊かにされる。見よ、永遠の命を持つ者は豊かである。

8 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたがわたしに望むことは、あなたにそのとおりになるであろう。もしあなたが望むならば、あなたはこの時代に大いに善を行う仲立ちとなるであろう。

9 この時代の人々には、[1]悔い改めのほかに何も[2]語ってはならない。わたしの戒めを守り、またわたし

第11章

1 ①章、GS「福音の回復」
2 ①ヘブ 4・12
② 1ニフ 15・23—25、教義 1・14、84・43—45
③アル 4・19、31・5
④ヒラ 3・29—30、教義 6・2
3 ①教義 12・3
②1テモ 6・19
③ルカ 18・22、ヒラ 5・8
4 ①黙示 14・15、教義 14・3—4
5 ①GS「祈り」
6 ①イザ 52・7—8、教義 66・11、GS「シオン」
7 ①列上 3・11—13、2ニフ 26・31、ヤコ 2・17—19、教義 38・39
②GS「知恵」
9 ①GS「悔い改め」
②教義 19・21—22

の[3]命じたとおりにわたしの業を起こす助けをしなさ
い。そうすれば、あなたは祝福されるであろう。
10 見よ、あなたは一つの[1]賜物を持っている。すなわ
ち、イエス・キリストの力、すなわち今あなたに語
っているわたしの力を信じながら、信仰をもっ
て、[2]正直な心でわたしに願うならば、あなたは一つ
の賜物を持つであろう。
11 見よ、今語っているのはわたしである。見よ、わ
たしは暗闇の中に輝いている[1]光であり、わたしの[2]力
によってこれらの言葉をあなたに与える。
12 さて、まことに、まことに、わたしはあなたに言
う。善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、
[1]へりくだって[2]歩み、義にかなって[3]裁くように導く[4]御
霊を[5]信頼しなさい。これはわたしの御霊である。
13 まことに、まことに、あなたに言う。わたしはあ
なたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあ
なたの[1]思いを[2]照らし、あなたの霊に[3]喜びを満たすで
あろう。
14 そのとき、あなたは知るであろう。すなわち、こ
れによってあなたは、わたしから与えられると信じ
ながら信仰をもってわたしに願うことで、[1]義にかか
わることは何であろうとすべて知るであろう。
15 見よ、わたしはあなたに命じる。あなたは[1]召しを
受けるまで、教えを説くために召されたと思うには
及ばない。
16 あなたはわたしの教義を確実に知るために、わた
しの言葉、わたしの[1]岩、わたしの教会、わたしの福
音を得るまで、もう少しの間待ちなさい。
17 その後、見よ、あなたの望みに応じて、まことに
あなたの信仰に応じてそのとおりになるであろう。
18 わたしの戒めを守り、黙して、わたしの御霊に請
い求めなさい。
19 まことに、これまで語ってきたそれらのもの、す
なわちわたしの業の翻訳を明るみに出す助けができ
るように、心の底からわたしに[1]すがりなさい。それ
を成し遂げるまで忍耐強くありなさい。
20 見よ、あなたの勢力と思いと力を尽くしてわたし
の戒めを[1]守ることが、あなたのなすべきことであ
る。
21 わたしの言葉を告げようとしないで、まずわたし
の言葉を[1]得るように努めなさい。そうすればその
後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、

---

9 ③ 教義105・5
10 ① 教義46・8−12
② ルカ8・15
11 ① GS「光・キリストの光」
② GS「力」
12 ① GS「謙遜」
② GS「歩む（神とともに）」
③ マタ7・1−5、アル41・14−15
④ ロマ8・1−9、1ヨハ4・1−6
⑤ 教義84・116、GS「信頼」
13 ① GS「思い・心」
② 教義76・12
③ GS「喜び」
14 ① GS「義」
15 ① 箇条1・5、GS「権威・権限・権能」「召し・神の召し」
16 ① 教義6・34、GS「岩」
19 ① ヤコ6・5、教義98・11
20 ① GS「従順・従う」
21 ① アル17・2−3、教義84・85

あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。

22 しかし、今は黙していなさい。まことに、あなたはわたしがこの時代に人の子らに[1]授けるすべてのものを得るまで、すでに人の子らの中に出ているわたし[2]の言葉を研究し、さらにまた人の子らの中に出て行くわたしの言葉、すなわち現在翻訳されつつあるわたし[3]の言葉を研究しなさい。[4]そうすればその後、すべてのものがこれに加えられるであろう。

23 見よ、あなたはわたしの子、[1]ハイラムである。神の王国を[2]求めなさい。そうすれば、正当であるかぎりすべてのものが添えて与えられるであろう。

24 わたしの[1]福音であるわたしの岩の上に[2]建てなさい。

25 [1]啓示の霊も[2]預言の霊も否定してはならない。これらのものを否定する者は災いだからである。

26 それゆえ、あなたが出て行くことがわたしの知恵にかなうときまで、あなたの心の中に大切に[1]蓄えておきなさい。

27 見よ、善い望みを持ち、刈り入れのために[1]鎌を入れているすべての者に、わたしは語る。

28 見よ、わたしは神の子[1]イエス・キリストである。わたしは世の命であり[2]光である。わたしは自分の民のところに来た者である。そして、民はわたしを受け入れなかった。

29 わたしは自分のところに来た者である。そして、民はわたしを受け入れなかった。

30 しかし、まことに、まことに、あなたに言う。わたしを受け入れるすべての者、すなわち、わたしの名を信じる者に、わたしは[1]神の子となる力を[2]与えよう。アーメン。

第12章

千八百二十九年五月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してジョセフ・ナイト・シニアに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、四十七―四十八ページ）。ジョセフ・ナイトは、ジョセフ・スミスが『モルモン書』の版を所有していること、ならびに当時翻訳の業が進行中であることについて語った彼の言葉を信じて、ジョセフ・スミスと彼の筆記者が翻訳を続けられるように、数回にわたって物質的な援助を与えてきた。預言者はジョセフ・ナイトの求めに応じて主に尋ね、この啓示を受けた。

---

22 ①アル29・8 ②『聖書』のこと ③『モルモン書』のこと
23 ①「値」 ④GS「聖文―聖文の価
ジー歴史1・4
24 ①②マタ6・33 GS「福音」
24 ①②マタ7・24―27
25 ①②GS「啓示」
黙示19・10、GS「預言」
26 ①申命11・18、教義6・20、43・34、ジーマタ1・37
27 ①GS「伝道活動」
28 ①GS「イエス・キリスト」 ②GS「光・キリストの光」
30 ①②GS「神の息子、娘」
ヨハ1・12

1—6ぶどう園で働く者は救いを得る。7—9望みを持ち、資格のあるすべての者は、主の業を助けることができる。

1 1)大いなる驚くべき業が、まさに人の子らの中に現れようとしている。
2 見よ、わたしは神である。わたしの言葉を心に留めなさい。わたしの言葉は生きていて、力があり、もろ刃の剣よりも鋭くて、関節も骨髄も切り離すほどである。それゆえ、わたしの言葉を心に留めなさい。
3 見よ、畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、だれでも刈り入れをしたいと望む者は、永遠の救いが神の王国で自分のために蓄えられるように、勢力を尽くして鎌を入れ、日のあるうちに刈り取りなさい。
4 まことに、だれでも鎌を入れて刈り取ろうとする者は、神から召されている。
5 それゆえ、あなたはわたしに求めれば、与えられるであろう。たたけば、開かれるであろう。
6 さて、あなたは求めたので、見よ、わたしはあなたに言う。わたしの戒めを守り、シオンの大義を起こして確立するように努めなさい。
7 見よ、わたしはあなたと、またこの業を起こして確立したいと望むすべての者に語る。
8 人は1)謙遜であり、2)愛に満ち、3)信仰と4)希望と5)慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。
9 見よ、これらの言葉を語っているわたしは、世の光であり命である。それゆえ、力を尽くしてこれらの言葉を心に留めなさい。そうすれば、あなたは召されるであろう。アーメン。

第13章

千八百二十九年五月十五日、ペンシルベニア州ハーモニー近くのサスケハナ川の岸辺で行われた、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリのアロン神権への聖任（『教会歴史』第一巻、三十九—四十二ページ）。この聖任は、自らヨハネと名乗った一人の天使の手によって行われた。このヨハネは、『新約聖書』の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている人物である。この天使

第12章
1 ① 類似の相互参照として、教義11・1—6を参照
8 ① GS「謙遜」 ② GS「愛」 ③ GS「信仰」 ④ GS「希望」 ⑤ GS「慈愛」

は、メルキゼデクの神権と呼ばれる大神権の鍵を持っている昔の使徒、ペテロとヤコブとヨハネの指示の下に務めを果たしていることを説明した。ふさわしいときにジョセフとオリバーにメルキゼデクの神権が授けられるという約束が与えられた（第二十七章七、八、十二節を参照）。

アロン神権の鍵と力について説明される。

1わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの[1]神権を[2]授ける。これは[3]天使の働きの鍵と、[4]悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈める[5]バプテスマの鍵を持つ。また、[6]レビの子らが再び[7]義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。

第14章

千八百二十九年六月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してデビッド・ホイットマーに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、四十八—五十ページ）。ホイットマー家の人々は、『モルモン書』の翻訳に大いに関心を寄せるようになっていた。預言者はピーター・ホイットマー・シニアの家を住まいとし、翻訳の仕事を完了してこの出版予定の書の版権を取得するまでそこに住んだ。ホイットマー家の息子たちのうちの三人はそれぞれ、この業が真実のものであるという証を得ていたので、自分のなすべき務めをひどく気にかけるようになった。この啓示と次の二つの啓示（第十五章と第十六章）は、問いに対する答えとして、ウリムとトンミムによって与えられたものである。デビッド・ホイットマーは、後に『モルモン書』に関する三人の証人の一人となった。

1—6ぶどう園で働く者は救いを得る。7—8永遠の命は、神の賜物の中で最も大いなるものである。9—11キリストは天と地を創造された。

1大いなる[1]驚くべき業が、まさに人の子らに現れようとしている。

2見よ、わたしは神である。わたしの言葉を心に留

第13章
1 ① 教義27・8、84・18—34、GS「アロン神権」
② GS「聖任」
③ GS「天使」
④ GS「悔い改め」
⑤ GS「バプテスマ」
⑥ 「ジョセフ・スミス—歴史」の最後にある、アロン神権の回復についてのオリバー・カウドリの記事を参照。申命10・8、歴上6・48、教義128・24
⑦ GS「義」

第14章
1 ① 類似の相互参照として、教義11・1—6を参照

めなさい。わたしの言葉は生きていて、力があり、もろ刃の剣よりも鋭くて、関節も骨髄も切り離すほどである。それゆえ、わたしの言葉を心に留めなさい。

3 見よ、畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、だれでも刈り入れをしたいと望む者は、永遠の救いが神の王国で自分のために蓄えられるように、勢力を尽くして鎌を入れ、日のあるうちに刈り取りなさい。

4 まことに、だれでも鎌を入れて刈り取ろうとする者は、神から召されている。

5 それゆえ、あなたはわたしに求めれば、与えられるであろう。たたけば、開かれるであろう。

6 わたしのシオンを起こして確立するように努めなさい。すべてのことについてわたしの戒めを守りなさい。

7 わたしの戒めを守り[1]、最後まで堪え忍ぶ[2]ならば、あなたは永遠[3]の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。

8 さて、あなたが信じて、信仰をもって、わたしの名によって父に求めるならば、あなたは、あなたの見聞き[1]する事柄の証人[2]になれるように、またこの時代の人々に悔い改めを告げることができるように、語るべき言葉を与える聖霊[3]を受けるであろう。

9 見よ、わたしは生ける神[2]の子イエス・キリスト[3]、天と地[1]を創造した者、暗闇[6]の中に隠れることのできない光[7]である。

10 わたしは必ず[1]わたしの完全な福音を異邦人[2]からイスラエルの家にもたらす。

11 見よ、あなたはデビッドであり、あなたは助けるために召されている。あなたはこのことを行い、忠実であれば、霊的にも物質的にも祝福され、あなたの受ける報いは大きいであろう。アーメン。

第15章

千八百二十九年六月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してジョン・ホイットマーに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、五十ページ）（第十四章の前書きを参照）。このメッセージは、主がジョン・ホイットマーと主御自身にしか分からない事柄を述べておられるという意味で、感銘深く、きわめて個人的な内容のものである。ジョン・

7 ①レビ26・3—12、ヨハ15・10、モサ2・22、41、教義58・2 ②GS「堪え忍ぶ」 ③2ニフ31・20、教義6・13、GS「永遠の命」 8 ①「モルモン書」の序のページの「三人の証人の証」を参照 ②モサ18・8—10、GS「証人・証」 ③GS「聖霊」 9 ①ダニ6・26、アル7・6、教義20・19 ②ロマ1・4 ③モサ4・2、教義76・20—24 ④アブ4・12、24—25 ⑤ヨハ1・1—3、14、3ニフ9・15、教義45・1、GS「創造・創造する」 ⑥GS「暗闇（霊的な）」 ⑦サ下22・29、GS「光・キリストの光」 10 ①教義20・8—9、ジー歴史1・34 ②GS「異邦人」

ホイットマーは、後に『モルモン書』に関する八人の証人の一人となった。

1—2 主の腕は全地のうえにある。3—6 福音を宣べ伝えて人々を救うことは、最も価値のあることである。

1 聴きなさい、わたしの僕ジョンよ。あなたの主であり、あなたの贖い主であるイエス・キリストの言葉に耳を傾けなさい。

2 見よ、わたしはあなたに、はっきりと[1]力強く語る。わたしの腕は全地のうえにあるからである。

3 わたしは、わたしとあなた一人のほかにだれも知らない事柄を告げよう。

4 あなたは自分にとって最も価値のあることを知るために、何度もわたしに願ったからである。

5 見よ、あなたはこのことのゆえに、またわたしがあなたに与えた言葉をわたしの命じたとおりに語ったので、幸いである。

6 さて見よ、わたしはあなたに言う。あなたにとって最も価値のあることは、この民に悔い改めを[1]告げて人々をわたしのもとに導き、わたしの[2]父の[3]王国で彼らとともに[4]安息を得られるようにすることである。アーメン。

第16章

千八百二十九年六月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してピーター・ホイットマー・ジュニアに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、五十一ページ）（第十四章の前書きを参照）。ピーター・ホイットマー・ジュニアは、後に『モルモン書』に関する八人の証人の一人となった。

1—2 主の腕は全地のうえにある。3—6 福音を宣べ伝えて人々を救うことは、最も価値のあることである。

1 聴きなさい、[1]わたしの僕ピーターよ。あなたの主であり、あなたの贖い主であるイエス・キリストの言葉に耳を傾けなさい。

2 見よ、わたしはあなたに、はっきりと力強く語る。わたしの腕は全地のうえにあるからである。

第15章
2 ① 「力」 ヒラ 3・29—30、GS
6 ① 教義 18・15—16、GS「伝道活動」
② GS「天の御父」
③ GS「神の王国・天の王国」
④ GS「安息」

第16章
1 ① 類似の相互参照として、教義 15・1—6 を参照

3わたしは、わたしとあなた一人のほかにだれも知らない事柄を告げよう。4あなたは自分にとって最も価値のあることを知るために、何度もわたしに願ったからである。5見よ、あなたはこのことのゆえに、またわたしがあなたに与えた言葉をわたしの命じたとおりに語ったので、幸いである。6さて見よ、わたしはあなたに言う。あなたにとって最も価値のあることは、この民に悔い改めを告げて人々をわたしのもとに導き、わたしの父の王国で彼らとともに安息を得られるようにすることである。アーメン。

第17章

千八百二十九年六月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してオリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、およびマーティン・ハリスに与えられた啓示。この啓示は、『モルモン書』の記録が刻まれていた版を目にする前に与えられたものである（『教会歴史』第一巻、五十二—五十七ページ）。ジョセフ・スミスとその筆記者オリバー・カウドリは、『モルモン書』の版の翻訳から、三人の特別な証人が指名されることを知った（エテル書第五章二—四節、ニーファイ第二書第十一章三節、第二十七章十二節を参照）。オリバー・カウドリと、デビッド・ホイットマーと、マーティン・ハリスは、三人の特別な証人となる望みを持つよう霊感によって促された。預言者は主に尋ね、その答えとしてウリムとトンミムによってこの啓示が与えられた。

1—4 信仰によって、三人の証人は版とその他の神聖な品々を見るであろう。5—9『モルモン書』が神から与えられたものであることについてのキリストの証。

1見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはわたしの言葉に頼らなければならない。あなたがたは誠心誠意そうするならば、[1]版を目にし、また胸当て、[3]ラバンの剣、[4]ヤレドの兄弟が主と[5]顔と顔を合わせて語ったときに山の上で授けられた[6]ウリムとトンミム、また[7]リーハイが紅海の境の荒れ野にいたときに授かった[8]不思議な指示器も目にするであろう。

第17章
1① モル6・6、ジー歴史1・52、GS「版」
② 2ニフ27・12、エテ5・2—4、教義5・15。「モルモン書」の序のページの「三人の証人の証」を参照
③ 1ニフ4・8—9、2ニフ5・14、ヤコ1・10、モサ1・16
④ エテ3・1—28
⑤ 創世32・30、出エ33・11、モセ1・2
⑥ GS「ウリムとトンミム」
⑦ 1ニフ2・5
⑧ 1ニフ16・10、16、26—29、アル37・38—47

2 あなたがたがこれらのものを目にするのは、あなたがたの信仰、すなわち、昔の預言者たちが持っていたような信仰によるのである。

3 あなたがたは信仰を得て、自分の目でこれらのものを見た後、神の力によってこれらのものについて証しなければならない。[1)あかし]

4 あなたがたは、わたしの僕ジョセフ・スミスが滅ぼされることのないようにこのことを行い、わたしがこの業によって人の子らのためにわたしの義にかなった目的を達することができるようにしなければならない。

5 あなたがたは、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアがこれらのものを見たように、あなたがたもこれらのものを見たことを証しなければならない。彼がこれらのものを見たのはわたしの力によるのであり、それは彼に信仰があったからである。

6 そして、彼はその書を、[1)]すなわちわたしが彼に命じた部分を[2)ふぶん]翻訳した。あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である。

7 そのために、あなたがたは彼と同じ力、同じ信仰、同じ賜物を受けた。

8 あなたがたがわたしの与えたこの最後の戒めに従うならば、地獄の門[1)]もあなたがたに打ち勝つことはない。それは、わたしの恵み[2)]があなたがたに対して十分であり、あなたがたは終わりの日に高く上げ[3)]られるからである。

9 わたし、すなわち、あなたがたの主[1)]であるあなたがたの神であるイエス・キリストが、これをあなたがたに語ったのは、人の子らのためにわたしの義にかなった目的を達するためである。アーメン。

第18章

千八百二十九年六月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、およびデビッド・ホイットマーに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、六十—六十四ページ）。アロン神権を授けられた際に、メルキゼデク神権を授けられることが約束されていた（第十三章の前書きを参照）。この件について知らせてくださるようにとの嘆願にこたえて、主はこの啓示を与えられた。

---

3 ① GS「証する」「証人・証」
6 ① GS「モルモン書」
② 2ニフ27・22、3ニフ26・7—10
8 ① マタ16・18、3ニフ11・39、教義10・69
② GS「恵み」
③ 1ニフ13・37、3ニフ27・14—15、22、教義9・14
9 ① GS「主」

1—5 聖典には教会を築き上げる方法が示されている。6—8 世の罪悪は熟しつつある。9—16 人の価値は大いなるものである。17—25 救いを得るために、人々はキリストの名を受けなければならない。26—36 十二使徒の召しと使命が明らかにされる。37—39 オリバー・カウドリとデビッド・ホイットマーは、十二使徒を探し出さなければならない。40—47 救いを得るために、人々は悔い改め、バプテスマを受け、戒めを守らなければならない。

1 さて見よ、あなた、すなわちわたしの僕オリバー・カウドリがわたしから知りたいと望んだ事柄のため、わたしはこれらの言葉をあなたに与える。
2 見よ、わたしは、あなたが記してきたものが真実であることを、度々わたしの御霊によって示してきた。それゆえ、あなたはそれが1)真実であることを知っている。
3 そして、あなたはそれが真実であることを知っているので、見よ、わたしはあなたに一つの戒めを与える。あなたは1)記されているものに頼りなさい。
4 その中には、わたしの教会とわたしの1)福音とわたしの岩の2)基について、すべてのことが記されているからである。
5 それゆえ、あなたがわたしの福音とわたしの岩の基の上にわたしの教会を築き上げるならば、地獄の門もあなたに打ち勝つことはない。
6 見よ、1)世の罪悪は熟しつつある。そして人の子らは、2)異邦人もイスラエルの家も、ともに悔い改めを促される必要がある。
7 さて、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアにわたしが命じたように、あなたは彼の手によってバプテスマを1)受けたので、彼はわたしが命じたことを果たした。
8 さて、わたしが目的を達するために彼を召したことを、不思議に思ってはならない。その目的をわたしは知っている。彼はわたしの戒めを1)熱心に2)守るならば、3)祝福されて永遠の命を受けるであろう。彼の名は4)ジョセフである。
9 さて、オリバー・カウドリよ、わたしはあなたと、またデビッド・ホイットマーに戒めとして告げる。見よ、わたしはどこにいる人でもすべての人に悔い改めるように命じる。わたしは、わたしの使徒パウ

第18章
2 1) 教義 6・15—17
3 1) 教義 98・11、GS「聖文—聖文の価値」
4 1) GS「福音」
6 1) GS「岩」
6 2) GS「世」
6 3) GS「異邦人」
7 1) ジ—歴史 1・70—71
8 1) GS「熱心」
8 2) GS「従順、従う」
8 3) GS「祝福」
8 4) 2ニフ 3・14—15、GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」
9 1) ロマ 1・1

ロに語ったようにあなたがたに語る。あなたがたはまさに、パウロが召されたと同じ召しに召されているからである。

10 人[1)]の価値[2)]が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。

11 見よ、主なるあなたがたの贖い主[1)]は、肉体において死を受けた[2)]。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた[3)][4)]。

12 そして、悔い改め[1)]を条件として、すべての人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえった[2)]のである。

13 人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。

14 あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶために召されている。

15 あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人[1)]でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

16 さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国[1)]に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導く[2)]とすればその喜び[3)]はいかに大きいことか。

17 見よ、わたしの福音はあなたがたの前にある。わたしの岩、またわたしの救い[1)]がある。

18 与えられると信じて、信仰[1)]をもって、わたしの名によって父に求めなさい[2)]。そうすれば、あなたがたは人の子らに必要[3)]なすべてのことを示す聖霊を受けるであろう。

19 もしもあなたがたに信仰[1)]と希望[2)]と慈愛[3)]がなければ、あなたがたは何も行うことができない。

20 悪魔[1)]の教会のほか、いかなる教会とも争ってはならない[2)]。

21 キリスト[1)]の名を受け、まじめに真理を語りなさい。

22 悔い改めて、イエス・キリストであるわたしの名によってバプテスマ[1)]を受け、最後まで堪え忍[2)]ぶ者は皆、救われるであろう。

23 見よ、イエス・キリストとは、父から与えられている名[1)]である。この名のほかには、人に救いを与え

---

10 ①GS「人（霊を持つ存在としての）」 ②GS「人（霊を持つ存在としての）−人の価値」
11 ①GS「贖い主」 ②GS「十字架の刑」 ③イザ 53・4−5、GS「贖罪」 ④GS「贖い・贖う」
12 ①教義 19・4−18、GS「悔い改め」 ②GS「復活」
13 ①ルカ 15・7 ②アル 29・1−2、教義 34・5−6、63−57
14 ①GS「人（霊を持つ存在としての）−人の価値」
15 ①GS「神の王国・天の王国」 ②GS「伝道活動」 ③アル 26・11、GS「喜び」
16 ①GS「救い」
17 ①ヨハ 15・16 ②GS「祈り」 ③教義 88・63−65
18 ①GS「信仰」 ②GS「希望」 ③GS「慈愛」
19 ①GS「悪魔−悪魔の教会」
20 ①2テモ 2・23−24、3ニフ 11・29−30 ②2ニフ 31・13、モサ 5・8、3ニフ 27・5、教義 20・37
21 ①ロマ 12・3 ②教義 100・5−8
22 ①GS「バプテスマ」 ②GS「堪え忍ぶ」マラ 1・11、使徒 4・12、モサ 3・17、ヒラ 3・28−29
23 ①GS「人（霊を持つ存在としての）−人の価値」

ることのできる名は与えられていない。
24それゆえ、すべての人は、父から与えられているこの名を受けなければならない。この名によって、人々は終わりの日に呼ばれるからである。
25それゆえ、人々は自分が呼ばれる名を知らなければ、わたしの父の王国[2]に住む場所を得ることはできない。
26さて見よ、わたしの福音を異邦人とユダヤ人の両方に告げ知らせるために召される人々がほかにいる。
27すなわち、十二人いる。この十二人はわたしの弟子となり、彼らはわたしの名を受けるであろう。この十二人は、十分に固い決意をもってわたしの名を受けたいと願う人々である。
28そして、彼らが十分に固い決意をもってわたしの名を受けたいと願うならば、彼らは全世界に出て行って、すべての造られたものにわたしの福音を宣べ伝えるために召される。
29また彼らは、記されているとおりに、わたしの名によってバプテスマを施すために、わたしから聖任を受ける人々である。
30あなたがたの前には記されているものがある。それゆえ、あなたがたは、記されている言葉のとおりにそれを執り行わなければならない。
31さて、わたしはあなたがた十二人に語る。見よ、わたしの恵みはあなたがたに対して十分である。あなたがたはわたしの前をまっすぐに歩まなければならず、罪を犯してはならない。
32また見よ、あなたがたは、祭司と教師を聖任するためにわたしから聖任を受ける人々である。あなたがたの内にある聖霊の力により、また人々に授けられる神の召しと賜物に応じて、わたしの福音を告げ知らせるために、聖任を受ける人々である。
33わたし、すなわち、あなたがたの主でありあなたがたの神である、イエス・キリストがこれを語った。
34これらの言葉は人々から、人間から出ているのではなく、わたしから出ているのである。それゆえ、あなたがたは、これらの言葉がわたしから出ているものであって、人間から出ているものではないことを証しなければならない。
35これらの言葉をあなたがたに語っているのは、わ

25① モサ 5・9−14
② GS「日の栄え」
26① 教義 90・8−9、112・4
② GS「使徒」
27① 教義 27・12
② マコ 16・15−16
28① 教義 1・2、42・58
② GS「福音」
29① 3 ニフ 11・21−28、教義 20・72−74
② 教義 107・23−35
31① モロ 3・1−4、教義 20・60、107・58、GS「聖任」
② 2 ペテ 1・21、教義 68・3−4
32① 教義 20・27
33① GS「聖文」
34① ③

たしの声である。これらの言葉は、わたしの御霊によってあなたがたに与えられているからである。そして、わたしの力によって、あなたがたはこれらの言葉を互いに読み合うことができる。わたしの力によらなければ、あなたがたはこれらの言葉を得ることはできない。

36 そのために、あなたがたは、わたしの声を聞いたこと、そしてわたしの言葉を知っていることを証できるのである。

37 さて見よ、わたしはあなたオリバー・カウドリと、またデビッド・ホイットマーに、わたしが語ったような願いを持つ十二人を探し出す務めを与える。

38 あなたがたは、彼らの願いと行いによって彼らを見分けるであろう。

39 あなたがたは彼らを見いだしたら、これらのことを彼らに知らせなければならない。

40 また、あなたがたは伏して、わたしの名によって父を礼拝しなければならない。

41 また、あなたがたは世の人々に教えを説いて言わなければならない。「あなたがたは悔い改めて、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けなければならない。」

42 すべての人は悔い改めて、バプテスマを受けなければならないからである。男だけでなく、女も、また責任を負う年齢に達した子供たちもそうしなければならない。

43 さて、あなたがたはこれを受けた後、すべてのことについてわたしの戒めを守らなければならない。

44 あなたがたの手によって、わたしは人の子らの中に驚くべき業を行い、彼らの多くに罪のあることを自覚させ、彼らが悔い改めて、わたしの父の王国に来られるようにしよう。

45 わたしがあなたがたに与える祝福は、すべてのものに勝っている。

46 あなたがたはこれを受けた後、もしもわたしの戒めを守らなければ、わたしの父の王国に救われることはできない。

47 見よ、わたし、すなわち、あなたがたの主、あなたがたの神、またあなたがたの贖い主であるイエス・キリストが、わたしの御霊の力によってこれを語ったのである。アーメン。

---

35 ① 教義 1・38、GS「声」
36 ① GS「証する」
38 ① GS「行い」
40 ① GS「礼拝」
42 ① 教義 20・71、29・47、68・27、GS「責任を負う」
43 ① GS「戒め」、〈神の〉イザ 29・14、教義 4・1
45 ② アル 36・12−19、62・
46 ① ① 教義 84・35−38
教義 82・3

第19章

千八百三十年三月、ニューヨーク州マンチェスターにおいて、ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、七十二—七十四ページ）。預言者は彼の記した歴史の中で、この啓示は「永遠なる御方からマーティン・ハリスに与えられた、人間の戒めではなく、神の戒め」（『教会歴史』第一巻、七十二ページ）であると述べている。

1—3 キリストは一切の権威を持っておられる。4—5 人は皆悔い改めなければならない。そうしなければ苦しみを受ける。6—12 永遠の罰とは神の罰である。13—20 キリストはすべての人に代わって苦しみを負い、人々が悔い改めることによって苦しみを受けることのないようにされた。21—28 悔い改めの福音を宣べ伝えなさい。29—41 喜びのおとずれを告げ知らせなさい。

1 わたしはアルパ[1]でありオメガであり、主なるキリスト[2]である。すなわち、わたしは初めであり終わりである者、世の贖い主である。

2 わたしは、わたしの属する御方、すなわち父の、わたしについての御心をなし終えた[1]。わたしは万物をわたし自身に従わせようと[2]、このことを行ってきた。

3 わたしは、世の終わり[1]に、最後の大いなる裁きの日に、サタンと彼の業を滅ぼす[2]ほどの一切の権威[3]を保持している。その日に、わたしはすべての人をそのなした行い[1]と業に応じて裁き[2]、世に住む者に宣告を下すであろう。

4 人は皆必ず悔い改め[1]なければならない。そうしなければ苦しみを受ける[2]。神であるわたしは無窮[3]である。

5 それゆえ、わたしは宣告する裁きを取り消[1]さない。まことに、わたしの左[2]にいる者たちには、涙を流し、泣き[3]わめき、歯ぎしりをするほどの災いが下るであろう。

6 それでも、この苦痛には終わりがないとは記[1]されておらず、無窮[2]の苦痛と記されている。

7 また、永遠[1]の罰の定めとも記されている。それゆえ、これはほかの聖句よりも明確であって、人の子らの心に十分に訴え、わたしの名の栄光を表す。

第19章
1 ① 黙示1・8、11、3ニフ9・18、教義35・1、61・1、GS「アルパとオメガ」 ② GS「イエス・キリスト」
2 ① ヨハ17・4、3ニフ11・11 ② ピリ3・21 GS「世—世の終わり」
3 ① ② イザ14・12—17、1ヨハ3・8、1ニフ22・26、教義88・111—115 GS「力」 ③ GS「行い」 ④ ⑤ GS「最後の裁き」
4 ① GS「悔い改め」 ② ルカ13・3、ヒラ14・19
5 ① ③ モセ1・3、教義56・4、58・32 ② マタ25・41—43 マタ13・42
6 ① ③ 教義76・105—106、138・59
7 ① ② 教義76・33、44—45 ヒラ12・25—26 教義29・44

8 わたしはこの奥義をあなたがたに説明しよう。わたしの使徒たちのように、これを知るのはあなたがたにふさわしいからである。

9 わたしはこのことのために選ばれているあなたがたに、まさに一人に語るように語って、あなたがたがわたしの安息[1]に入れるようにしよう。

10 見よ、神性の奥義[1]は何と深いことか。見よ、わたしは無窮であり、わたしの手から与えられる罰は無窮の罰である。無窮[2]とはわたしの名である。それゆえ、

11 永遠[1]の罰とは、神の罰である。

12 無窮の罰とは、神の罰である。

13 わたしはあなたに命じる。悔い改めなさい。また、あなたがわたしの名によってわたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアの手より受けた戒め[1]を守りなさい。

14 あなたがそれらを受けたのは、わたしの全能の力による。

15 それゆえ、わたしは、悔い改めるようにあなたに命じる。わたしの口の鞭によって、わたしの憤りによって、またわたしの怒りによって打たれて、つらい苦しみ[1]を被ることのないように、悔い改めなさい。これらの苦しみがいかにつらいか、あなたは知らない。いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない。

16 見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い[1]、人々が悔い改めるならば苦しみを受ける[2]ことのないようにした。

17 しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむ[1]であろう。

18 その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のために おののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯[1]を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

19 しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終え[1]たのである。

20 それゆえ、わたしは再びあなたに命じる。悔い改めなさい。そうしなければ、わたしは全能の力によってあなたをへりくだらせよう。また、あなたの罪を告白[1]しなさい。そうしなければ、あなたはわたし

9 (1) GS「安息」
10 (1) ヤコ 4・8、教義 76・114—116
11 (1) GS (2) モセ 1・3、7・35、GS「無窮」
12 マタ 25・46
13 (1) 教義 5・2、10・6—7、17・1—9
15 (1) アル 36・11—19
16 (1) アル 11・40—41、GS「贖罪」 (2) GS「罪の赦し」
17 (1) (3) 教義 29・17 (2) GS「憐れみ」
18 (1) ルカ 22・42—44
19 (1) ヨハ 17・4、19・30
20 (1) 民数 5・6—7、モサ 26・29、教義 58・43、64・7、GS「告白」

が語ったこれらの罰を受けて苦しむであろう。わたしが御霊を取り去ったときに、あなたはその最も小さなもの、まことにその最も軽度なものを味わったことがある。

21 わたしはあなたに命じる。悔い改めのほかに何も宣べ伝えてはならない。[1)の] また、わたしの知恵にかなうときまで、これらのことを世の人々に示してはならない。

22 彼らは今は肉に堪えられず、[2)ちち] 乳を飲まなければならないからである。それゆえ、彼らはこれらのことを知ってはならない。そうでなければ、彼らは滅びるであろう。

23 わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。

24 わたしはイエス・キリストである。わたしは父の御心によって来た。そして、父の御心を行う。

25 さらにまた、わたしはあなたに命じる。あなたは隣人の妻をむさぼってはならない。隣人の命を求めてはならない。

26 さらにまた、あなたに命じる。あなたは自分の財産をむさぼることなく、真理と神の言葉が載っている『モルモン書』を印刷するために惜しみなくそれを分け与えなさい。

27 この書は異邦人にあてたわたしの言葉であり、これはユダヤ人に、すなわちレーマン人はその残りの者である、そのユダヤ人に間もなく伝えられるであろう。それは、彼らが福音を信じて、すでに来ているメシヤが来るのを待ち望むことのないようにするためである。

28 さらにまた、あなたに命じる。あなたは心の中で祈るだけでなく、声に出しても祈りなさい。隠れて祈るだけでなく、世の人々の前でも祈り、ひそかに祈るだけでなく、公にも祈りなさい。

29 また、あなたは喜びのおとずれを告げ知らせなさい。山々の上で、すべての高い所で、またあなたが会うのを許されるすべての民の中で、それを告げて広めなさい。

30 また、あなたは謙遜の限りを尽くしてそれを行いなさい。わたしを信頼し、またののしる者にののしり返すことのないようにしなさい。

31 また、あなたは様々な教義を話すことをせずに、

---

21 ① 教義11・9
② ジ歴史1・42
22 ① 教義78・17−18
② ヘブ5・11−14、教義
23 ① 50・40
② GS「柔和」
③ モロ7・3−4
24 ① GS「平安・平和」
② GS「イエス・キリスト」
25 ① 出エ20・17、1コリ7・2−4、GS「姦淫」
② GS「貪欲・むさぼり」
26 ① GS「真理」
② GS「異邦人」
27 ① GS「ユダヤ人」
② オム1・14−19、モサ25・2−4、ヒラ8・21、3ニフ2・12−16
③ GS「メシヤ」
④ 教義20・47、51、23・6
28 ① 1テモ2・8、GS「祈り」
29 ① GS「伝道活動」
30 ① GS「信頼」
31 ① 2テモ2・23−24

悔い改めと救い主を信じる信仰、[2]バプテスマによる[3]罪の赦し、および[4]火すなわち[5]聖霊による[6]罪の赦しを告げなさい。

32 見よ、これはこの件についてわたしがあなたに与える、大いなる最後の[1]戒めである。あなたの日々の歩みにとって、生涯の最後までこれで十分だからである。

33 あなたはこれらの[1]勧告を軽んじれば、悲惨を招き、あなた自身と財産の滅亡さえ招くであろう。

34 あなたの財産の一部、すなわちあなたの土地の一部、あなたの家族の扶養分を除くすべてを分け[1]与えなさい。

35 印刷業者との[1]契約によって生じた[2]負債を支払いなさい。[3]束縛から自らを解放しなさい。

36 家族に会いたいと望むときのほかは、あなたの家と家庭を[1]離れなさい。

37 そして、すべての者に自由に[1]語りなさい。まことに大声で、「ホサナ、ホサナ、主なる神の御名がほめたたえられますように」と叫びながら喜びの声を上げて、説き、勧め、[2]真理を告げ知らせなさい。

38 [1]常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大いなるものとなる。まことに、地の宝と、それと同等の腐敗するものを得るよりも、それは大きいであろう。

39 見よ、あなたはこれを読んで、喜ばずに、また喜びのために心を高揚させずにいられようか。

40 あなたは目の不自由な導き手として長く駆け回ることができようか。

41 それとも、あなたは[1]謙遜で、柔和であり、わたしの前であなた自身賢く振る舞うことができるか。まことに、あなたの救い主であるわたしの[2]もとに来なさい。アーメン。

第20章

千八百三十年四月、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた、教会の組織と管理に関する啓示（『教会歴史』第一巻、六十四−七十ページ）。預言者はこの啓示を記録するに先立ち、次のように記している。「わたしたちは預言と啓示の霊によって、イエス・キリストから次の啓示を受けた。わたしたちはこれによって多くの知識を得ただけでなく、主の御心と命令に従って、この地上にもう一度主の教会を組織し始めるべき

---

31 ② GS「信仰」
31 ③ GS「バプテスマ」
31 ④ GS「罪の赦し」
31 ⑤ マタ 3・11
31 ⑥ GS「聖霊の賜物」
32 ① 教義 58・26−29
33 ① GS「戒め（神の）」
33 ② 使徒 4・34−35
34 ① 「モルモン書」の初版の出版費用の支払いのために
35 ① GS「負債」
35 ② 箴言 22・7
35 ③ マタ 19・29
36 ① 教義 58・47、68・8、
37 ① 71・7
37 ② 教義 75・4
38 ① ルカ 18・1、2 ニフ
38 ② 32・9、教義 10・5
41 ① 箴言 1・23 使徒 2・17
41 ② GS「謙遜」
マタ 11・28−30

具体的な日取りも指示された。」（『教会歴史』第一巻、六十四ページ）

1—16『モルモン書』は、末日の業が神から出ているものであることを証明している。17—28 創造と堕落、贖罪、およびバプテスマの教義が確認される。29—37 悔い改めと義認、聖め、およびバプテスマに関する律法が説明される。38—67 長老と祭司、教師、および執事の義務が要約される。68—74 会員の義務と子供の祝福、およびバプテスマの様式が明らかにされる。75—84 聖餐の祈りと教会の会員資格についての決まりが定められる。

1この終わりの時におけるキリストの教会[1]の起こり。それは、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストが肉体を取って来られてから千八百三十年であって、第四の月、四月と呼ばれる月の第六日に、神の御心と命令により、わが国の法律にかなって正式に組織、[3]設立された。

2この命令は、神から召[1]されて、イエス・キリストの使徒[2]に聖任され、この教会の第一[3]の長老となったジョセフ・スミス・ジュニアと、

3また、イエス・キリストの使徒となり、この教会の第二の長老となるために神から召され、ジョセフ・スミス・ジュニアの手の下で聖任されたオリバー・カウドリに与えられた。

4これは、わたしたちの主であり救い主である、イエス・キリストの恵みによる。主イエス・キリストに、今もとこしえにも、すべての栄光がありますように。アーメン。

5この第一の長老は、自分の罪の赦しを受けたことをまことに明らかにされた後、再び世の虚栄に巻き込まれた。

6しかし、彼が信仰によって悔い改めて心からへりくだると、神は一人の聖なる天使[1]によって彼を教え導かれた。その天使の顔[2]は稲妻のようであり、その衣はほかのどんな白いものにも勝って清らかで白かった。

7そして、神は彼を鼓舞する数々の戒めを下された。

8また、前もって備えられた手立て[1]によって『モルモン書』を翻訳するために、高い所から彼に力を授けられた。

第20章

1 ①3ニフ27・1—8、GS「教会の名称」「末日聖徒イエス・キリスト教会」
②ジ—歴史1・2
②③教義21・3
2 ①GS「権威・権限・権能」「召し・神の召し」
②GS「使徒」
③②GS「長老」
5 ①ジ—歴史1・28—29
6 ①ジ—歴史1・30—35、GS「天使」
8 ①②マタ28・2—3
②GS「ウリムとトンミム」

9 この書には、ある堕落した民の記録と、異邦人ならびにユダヤ人にあてたイエス・キリストの[1]完全な[2]福音が載っている。
10 これは霊感によって与えられ、天使たちの働きによってほかの人々に確認され、その人々によって世の人々に知らされるのである。
11 これらのことは、聖文が真実であること、また神が実に人々に霊感を与えて、昔と同じようにこの時期と時代にあっても神の聖なる業に人々を召しておられることを、世に証明している。
12 これによって、神は、御自分が昨日も、今日も、またとこしえに変わることのない神であることを示しておられるのである。アーメン。
13 それゆえ、このような大いなる証があるので、世の人々、すなわち、この後この業について知るすべての人は、これらの証によって裁かれるであろう。
14 そして、信仰をもってこれを受け入れ、義を行う者は、永遠の命の冠を受けるであろう。
15 しかし、不信仰によって心をかたくなにし、これを拒む者は、そのことによって自分の罪の宣告を招くであろう。
16 主なる神がこれを語られたからである。わたしたち、教会の長老はこれを聞き、高い所におられる栄えある威光の御方の言葉について証する。この御方に、とこしえにいつまでも栄光がありますように。アーメン。
17 これらのことによって、わたしたちは、天に神がおられ、この神は無限かつ永遠で、永遠から永遠にわたって変わることのない同じ神であり、天地とその中にある万物を形造られた御方であることを知っている。
18 また、神は人を創造された。すなわち、御自分の形に、御自分に似せて、男と女に創造された。
19 そして、神は彼らに、唯一の生けるまことの神である御自分を愛し、御自分に仕えるようにとの戒め、また御自分が彼らの礼拝すべき唯一の存在であるとの戒めを与えられた。
20 しかし、これらの聖なる律法に背いたことによって、人は官能におぼれ、悪魔に従うようになり、堕落した者となった。
21 そこで、全能の神は御自分の独り子を与えられた。それは、与えられている聖文に、独り子につい

---

9 ①ジ—歴史1・34
10 ①②GS「福音」モロ7・29—32、教義5・11
②「モルモン書」の序のページの「三人の証人の証」と「八人の証人の証」を参照
11 ①GS「聖文—聖文の価値」
②GS「霊感」
②GS「聖い」
12 ①③②ヘブ13・8、1ニフ10・18—19、モル9・9—10、教義35・1、38・1—4
13 ①②GS「義」
②GS「永遠の命」「昇栄」
14 ①GS「不信仰」
15 ①②GS「神・神会」
17 ①ヨシ2・11、GS「神・神会」
②教義76・22—23
18 ①②GS「創造・創造する」創世1・26—27、モサ7・27、エテ3・14—17
19 ①申命11・1、マタ22・37、モロ10・32、教義59・5—6
②申命6・13—15、GS「奉仕」
20 ①③GS「礼拝」
②GS「肉欲」
③②GS「悪魔」
GS「生まれながらの人」
21 ①GS「独り子」

て書き記されているとおりである。

22 独り子は数々の[1]誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった。

23 独り子は十字架につけられ、死んで、三日目によみがえり、

24 [1]御父の右に座して御父の御心に従って全能の力をもって治めるために、天に昇って行かれた。

25 それは、[1]信じて、その聖なる名によってバプテスマを受け、最後まで信仰をもって[2]堪え忍ぶすべての人が救われるためである。

26 すなわち、独り子が[1]時の中間に肉体を取って来られた後に信じた人々だけでなく、時の初めからのすべての人、すなわち、独り子が来られる前にいたすべての人で、[2]聖霊の賜物によって霊感を受けるままに語り、すべてのことにおいて独り子について実際に証した[3]聖なる預言者たちの言葉を信じたすべての人も、永遠の命を得るためであり、

27 また後に来る人々で、御父と御子のことを[1]証する聖霊がもたらされる神の[2]賜物と召しを信じる人々も永遠の命を得るためである。

28 この御父と御子と聖霊は、無限かつ永遠で、終わりのない一[1]つの神であられる。アーメン。

29 また、わたしたちは知っている。すなわち、すべての人は悔い改めて[1]イエス・キリストの名を信じ、イエス・キリストの名によって御父を礼拝し、またイエス・キリストの名を[2]信じて最後まで堪え忍ばなければならない。そうしなければ、神の王国に[3]救われない。

30 また、わたしたちは知っている。すなわち、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの[1]恵みによる[2]義認は、正しく、かつ真実である。

31 わたしたちはまた知っている。すなわち、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みによる[1]聖めは、神を愛し、[2]勢力と思いと力を尽くして神に仕えるすべての人にとって、正しく、かつ真実である。

32 しかし、人が恵みから[1]落ち、生ける神から離れることもあり得る。

33 それゆえ、教会員は[1]誘惑に陥らないように、用心して、常に祈りなさい。

34 まことに、聖められている人々でさえも用心しなさい。

---

22 ① マタ 4・1—11、27・40
23 ① GS「十字架の刑」
② GS「復活」
24 ① GS「神・神会—父なる神」
② GS「天の御父」
25 ① GS「昇天」
② 教義 35・2、38・4、45・5、8、68・9、76・51—53
26 ① GS「堪え忍ぶ」
② 教義 39・1—3
② モセ 5・58、GS「聖霊」
③ GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
27 ① 教義 42・17
② 教義 18・32
28 ① ヨハ 17・20—22、3 ニフ 11・27、36、GS「神・神会」
② ヤコ 4・4、7・11、モサ 13・33
29 ① GS「悔い改め」
② GS「信仰」
③ GS「贖いの計画」
30 ① GS「救い」
② GS「恵み」
② GS「義認・義とされる」
31 ① GS「聖め」
② 申命 6・5、モロ 10・32
32 ① GS「背く」「背教・背信」
33 ① GS「誘惑」

35 また、わたしたちは知っている。すなわち、これらのことは真実であり、ヨハネの啓示にあるとおりであり、わたしたちは彼の書の預言や数々の聖文[1]や、この後聖霊の賜物と力によって、神の声によって[2]、あるいは天使の働きによって与えられる神の啓示に加えることも、そこから取り去ることもない。[3]

36 主なる神がこれらのことを語られた。主なる神の聖なる御名に、今も、またいつまでも、誉れと力と栄光がありますように。アーメン。

37 さらにまた、バプテスマの様式に関して教会に与えられた戒めは、次のとおりである。すなわち、神の前にへりくだって、[1]バプテスマを受けたいと願い、打ち砕かれた[2]心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたことと、最後までイエス・キリストに仕える[3]決心をして進んでイエス・キリストの名を受けることとを教会員の前に証明し、[4]また自分の罪の赦しを得るようにキリスト[5]の御霊を受けたことをその行いによってまことに明らかにする人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。[6]

38 長老と祭司、教師、執事、およびキリストの教会の会員の義務は、次のとおりである。すなわち、使徒は長老であり、その召しは[1]バプテスマを施し、[2]

39 他の長老や祭司、教師、執事を聖任し、[1]

40 キリストの肉と血の象徴であるパンとぶどう酒の式を執行し、[1]

41 バプテスマを受けて教会に入る人々に、聖文にあるとおりに、火と聖霊によるバプテスマのための[1]按手による[2]確認を行い、[3]

42 教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、教会員を見守り、

43 按手と聖霊の授与とによって教会員を確認し、

44 またすべての集会を指導することである。

45 長老は、神の戒めと啓示にあるとおりに、聖霊に導かれるままに集会を執り行わなければならない。[1]

46 祭司の義務は、説き、[2]教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、聖餐を執行することであり、

47 また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して[1]祈り、ひそかにも祈るように、また家庭における[2]すべての義務を果たすように勧めることである。[3]

48 祭司はまた、他の祭司や教師、執事を聖任することもできる。[1]

---

35 ①GS「聖文」
教義18・33−36
②GS「バプテスマ」
③GS「打ち砕かれた心」
37 ①GS「堪え忍ぶ」
モサ5・7−9、18・8−10、GS「イエス・キリスト御名を受ける」
②③④GS「罪の赦し」
⑤⑥新ヤコ2・18、GS「行い」
38 ①GS「使徒」
②3ニフ11・21−22
39 ①②モロ3・1−4、教義107・58
40 ①GS「聖餐」
②GS「聖霊の賜物」
41 ①GS「按手」
②教義33・11、14−15、55・3
③モロ6・9、教義46・2
45 ①教義84・111、107・61、GS「祭司（アロン神権の）」
46 ①②GS「教える・教師」
教義19・28
47 ①②1テモ2・8
③GS「家族」
48 ①GS「聖任」

49 また、長老が一人もいないときには、祭司は集会を指導しなければならない。

50 しかし、長老がいるときは、祭司は説き、教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、

51 また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧めるだけである。

52 これらのすべての義務について、祭司は、必要であれば長老を助けなければならない。

53 教師の義務は、常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強めることであり、

54 教会の中に罪悪がないように、互いにかたくになることのないように、偽り、陰口、[2]悪口のないように取り計らうことであり、

55 また教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計らうことである。

56 また教師は、長老や祭司が不在のときに集会を指導しなければならず、

57 必要であれば、教会における教師のすべての職務について、常に執事の助けを受けなければならない。

58 しかし、教師や執事には、バプテスマを施し、聖餐を執行し、按手を行う権能はない。

59 しかしながら、彼らは警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招かなければならない。

60 [1]長老、祭司、教師、執事はそれぞれ、与えられる神の賜物と召しに応じて聖任されなければならない。また、聖任する者の内にある聖霊の力によって聖任されなければならない。

61 キリストのこの教会を構成する長老たちは、三か月に一度の大会に、あるいはその大会が指示または指定する折々に集まらなければならない。

62 そして、これらの大会は、何でもそのときに行う必要のある教会の業務を行わなければならない。

63 長老たちは、自分が所属する教会の賛意の表明によって、他の長老たちから、あるいは大会から認可書を得なければならない。

64 祭司から聖任を受ける祭司や教師、執事はそれぞれ、そのときに聖任を行う祭司から証明書を受け取ることができる。聖任を受けた者はその証明書を長老に提示すると、自分の召しの義務を遂行するため

---

52 ①教義107・14
53 ①GS「教師（アロン神権の）」 ②GS「見守る・見守る者」
54 ①1テサ5・11−13 ②GS「悪口」
57 ①GS「執事」
60 ①GS「長老」 ②GS「召し・神の召し」
63 ①GS「同意の律法」
64 ①教義20・84、52・41

の権能を与える認可書を要求できる。あるいは、それを大会から得ることができる。

65 この教会の正式に組織された支部がある所では、その教会の賛意の表明がなければ、だれもこの教会におけるいかなる職にも聖任されることはない。

66 しかし、賛意の表明を求めることのできる教会の支部がない所では、管理長老や巡回ビショップ、高等評議員、大祭司、長老が、聖任の特権を持つことができる。

67 大神権の長（すなわち管理長老）やビショップ、高等評議員、大祭司はそれぞれ、高等評議会あるいは総大会の指示によって聖任されなければならない。

68 バプテスマによって受け入れられた後の会員の義務は、次のとおりである。彼らが聖餐を受け、また長老たちの按手によって確認されるに先立ち、長老または祭司は、キリストの教会に関するすべてのことを説明する十分な時間を取って、彼らが理解できるようにしなければならない。それは、すべてのことが秩序正しく行われるためである。

69 そして会員たちは、聖文にかなった行いと信仰があるように、信仰深い歩みと会話によって、すなわち主の前を聖く歩むことによって、自分がそれを受けるにふさわしい者であることを教会員の前に、また長老たちの前にも示さなければならない。

70 子供を持つキリストの教会の各会員は、教会員の前で長老たちのもとに子供たちを連れて来なければならない。そして長老たちは、イエス・キリストの名によって彼らに手を置き、その名によって彼らに祝福を授けなければならない。

71 人は神の前に責任を負う年齢に達し、かつ悔い改めの能力がなければ、だれもキリストの教会には受け入れられない。

72 バプテスマは、悔い改めるすべての人のために、次の方法で執行しなければならない。

73 すなわち、神から召され、イエス・キリストからバプテスマを施す権能を授けられている人は、バプテスマのために出頭した人とともに水の中に降りて行き、彼または彼女の名を呼んで、次のように言わなければならない。「わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン。」

---

65 ①教義26・2、GS「同意の律法」
67 ①GS「聖任」 ②GS「ビショップ」 ③GS「大祭司」
68 ①GS「高等評議会」 ②GS「義務」 ③GS「聖餐」
69 ①GS「按手」 ②GS「聖い」 ④GS「理解」
70 ①新ヤコ2・14−17 ②GS「祝福ー子供の祝福」
71 ①教義18・42、29・47、68・25−27、GS「責任を負う」「バプテスマー資格」
72 ①GS「悔い改め」 ②3ニフ11・22−28

74 その後、その人は、彼または彼女を水中に沈め、そして再び水から出て来なければならない。

75 教会員は、主イエスの記念としてパンとぶどう酒を受けるために、しばしば集まることが必要である。

76 長老または祭司がこれを執行しなければならない。次のような方法で執行しなければならない。すなわち、彼は教会員とともにひざまずき、厳粛な祈りによって御父に呼び求めて、次のように言わなければならない。

77 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このパンを頂くすべての人々が、御子の体の記念にこれを頂けるように、また、進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように、このパンを祝福し、聖めてください。アーメン。」

78 ぶどう酒を祝福する方法は、次のとおりである。すなわち、彼はまた杯を取って、次のように言わなければならない。

79 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このぶどう酒を頂くすべての人々が、この人々のために流された御子の血の記念にこれを頂けるように、また、いつも御子を覚えていることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、御子の御霊を受けられるように、このぶどう酒を祝福し、聖めてください。アーメン。」

80 また、戒めに背いている、あるいは過ちに陥っているキリストの教会の会員はだれであろうと、聖文で指示されているとおりに取り扱われなければならない。

81 キリストの教会を構成する各教会は、教会の長老たちが開く大会に出席するように一人以上の教師を派遣する義務がある。

82 その際、教師は前回の大会以来教会に加入した会員たちの名簿を携えて出席する。あるいは、それを祭司の手によって送ってもよい。これは、全教会のすべての人名の載っている正式な名簿が、他の長老たちにより折々に選任される長老によって、一冊の書に保管されるためである。

---

74 ① GS「バプテスマー全身を水に沈める」
75 ① GS「聖餐」
② 使徒20・7
76 ① モロ4・1−3
77 ① ルカ22・19
② モサ5・8−12
③ GS「従順・従う」
④ モサ18・8−10、教義20・37
⑤ ヨハ14・16
78 ① モロ5・1−2
② ルカ22・20
79 ① 教義27・2−4
82 ① モロ6・4

83 また、もしもだれかが教会から[1]除名されたならば、彼らの名前を人名の一般教会記録から抹消するためでもある。

84 自分の住んでいる場所の教会から転居するすべての会員は、面識のない教会へ行く場合、自分が正式な、ふさわしい会員であることを証明する手紙を携えて行くことができる。その手紙を受ける会員は、長老または祭司をだれか個人的に知っていれば、その証明書にその長老または祭司の署名をもらうことができる。あるいは、教会の教師または執事から署名をもらってもよい。

第21章

千八百三十年四月六日、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、七十四−七十九ページ）。この啓示は、前述の日に、ピーター・ホイットマー・シニアの家において教会が組織されたときに与えられたものである。以前にバプテスマを受けていた六名の人々が、教会の組織にかかわった。これらの人は、神が命じられたとおりに組織したいという彼らの望みと決心とを全会一致で表明した（第二十章を参照）。彼らはまた、ジョセフ・スミス・ジュニアとオリバー・カウドリを教会の管理役員として受け入れ、支持するという意思の表明も行った。その後、按手によって、ジョセフはオリバーを教会の長老に聖任し、また同様にオリバーもジョセフを教会の長老に聖任した。聖餐の執行後、聖霊の授与と教会員としての確認のために、ジョセフとオリバーは関係者一人一人に按手を施した。

1−3 ジョセフ・スミスは、聖見者、翻訳者、預言者、使徒、および長老として召される。4−8 彼の言葉はシオンの大義を導く。9−12 彼が慰め主によって語るとき、聖徒たちはその言葉を信じるであろう。

1 見よ、あなたがたの間で[1]記録を記さなければならない。そして、その記録の中で、父なる神の御心とあなたがたの主イエス・キリストの恵みによって、あなたは[2]聖見者、翻訳者、預言者、イエス・キリストの[3]使徒、教会の長老と呼ばれなければならない。

2 あなたは、教会の基を据えて、最も聖なる信仰の

83 ① 出エ32・33、アル5・57、モロ6・7、GS「破門」
第21章
1 ① 教義47・1、69・3
1−8、85・1
② GS「聖見者」
③ GS「使徒」

ためにこれを築き上げるように、聖霊による[1]霊感を受けた。

3 この教会は、あなたがたの主の千八百三十年、第四の月、四月と呼ばれる月の第六日に組織、設立された。

4 それゆえ、彼がわたしの前を完全に[1]聖く歩み、わたしの[2]言葉と戒めを受けるとき、あなたがた教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

5 あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。

6 これらのことを行えば、[1]地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。そして、主なる神はあなたがたの前から[2]闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の[3]栄光のために天を[4]震わせるであろう。

7 主なる神はこのように言う。わたしは、善のために大いなる力をもってシオンの大義を推し進めるようにと彼に霊感を与えた。彼が勤勉であることを、わたしは知っており、また彼の祈りを、わたしは聞いた。

8 まことに、彼がシオンのために涙を流したのを、わたしは見た。そこでわたしは、もうシオンのために彼を嘆き悲しませないようにしよう。彼の罪が赦され、彼の業のうえにわたしの祝福が現れて、彼の喜ぶ日が来た。

9 見よ、わたしは力強い祝福をもって、わたしのぶどう園で働くすべての人を祝福しよう。彼らは、わたしを通じて慰め主によって彼に与えられる言葉を信じるであろう。慰め主は、イエスが世の罪のために、すなわち悔いる心に罪の赦しをもたらすために、[6]罪人たちによって十字架につけられたことを明らかにする。

10 彼があなた、すなわちわたしの使徒オリバー・カウドリによって[1]聖任されることは、わたしにとって必要である。

11 これはあなたのための儀式である。すなわち、彼はあなたにとって第一の者であるから、あなたは彼の手の下で長老になる。それによって、あなたはわたしの名を持つこのキリストの教会の長老となり、

12 教会員にとっての、また世の人々の前での、すな

---

2 ① GS「霊感」
3 ① GS「末日聖徒イエス・キリスト教会」
② 教義20・1
4 ① ② GS「聖い」
GS「聖文」
5 ① 教義1・38、GS「支持（教会指導者の）」「預言者」
6 ① マタ16・18、教義10・69
② コロ1・12—13
③ GS「栄光」
教義35・24
④ GS「シオン」
7 ① 教義20・5—6
8 ① GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
② 1ニフ13・37、ヤコ5・70—76
③ GS「慰め主：助け主」
④ 1ヨハ2・2、GS「世」
9 ① GS「戒めに従わない人々」
⑤ GS「打ち砕かれた心」
⑥ GS「罪」
⑦ GS「十字架の刑」
⑧ GS「証する」
10 ① GS「聖任」
教義20・2
11 ① 教義20・2

わち異邦人の前での、この教会の最初の説教者となるためである。また主なる神はこのように言う。見よ、見よ、あなたはユダヤ人[1]にとっても、この教会の最初の説教者となる。アーメン。

第22章

千八百三十年四月、ニューヨーク州マンチェスターにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、七十九—八十ページ）。この啓示は、前にバプテスマを受けたある人々が再びバプテスマを受けることなしに教会に加入したいと望んだことから、教会に与えられたものである。

1 バプテスマは、一つの新しくかつ永遠の聖約である。2—4 権能によって執行されるバプテスマが必要とされる。

1 見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしはこのことによって、すべての[1]古い聖約が廃されるようにした。これは一つの新しくかつ[2]永遠の聖約、すなわち初めからあったものである。

2 それゆえ、たとえ人が百度バプテスマを受けたとしても、それはその人にとって何の役にも立たない。あなたがたはモーセ[1]の律法によっても、あなたがたの[2]死んだ行いによっても、狭い門から入ることはできないからである。

3 わたしが、昔に行ったようにわたしのためにこの最後の聖約を立てさせ、この教会を築き上げさせたのは、あなたがたの死んだ行いのゆえである。

4 それゆえ、わたしが命じたように[1]門から入りなさい。そして、あなたがたの神に[2]忠告しようとしてはならない。アーメン。

第23章

千八百三十年四月、ニューヨーク州マンチェスターにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してオリバー・カウドリ、ハイラム・スミス、サミュエル・H・スミス、ジョセフ・スミス・シニア、およびジョセフ・ナイト・シニアに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、八十ページ）。前述の五人が各々の務めを知りたいと真剣に望んだ結果、預言者は主に尋ね、この啓示を受けた。

---

12 ①1ニフ13・42、教義19・27、90・8—9
第22章
1 ①ヘブ8・13、3ニフ12・46—47 ②教義66・2、GS「新しくかつ永遠の聖約」
2 ①「聖約（契約）」ガラ2・16、GS「モーセの律法」 ②モロ8・23—26
4 ①マタ7・13—14、ルカ13・24、2ニフ9・41、31・9、17—18、3ニフ14・13—14、GS「バプテスマ」 ②ヤコ4・10

1—7 これら初期の弟子たちは、宣べ伝え、勧め、教会員を強めるために召される。

1 見よ、わたしはあなた、オリバーに少しの言葉を語る。見よ、あなたは祝福されており、何ら罪の宣告を受けていない。しかし、あなたは[1]誘惑に陥ることのないように、[2]高慢に気をつけなさい。
2 あなたの召しを教会員に、また世の人々の前に知らせなさい。そうすれば、今から後とこしえに真理を宣べ伝えるために、あなたの心は開かれるであろう。アーメン。
3 見よ、わたしはあなた、ハイラムに少しの言葉を語る。あなたもまた何ら罪の宣告を受けていない。またあなたの心は開かれ、あなたの舌は緩められている。そして、あなたの召しは、説き勧め、また絶えず教会員を[1]強めることである。あなたの務めはとこしえに教会に対するものである。これはあなたの家族のゆえである。アーメン。
4 見よ、わたしはあなた、サミュエル[1]に少しの言葉を語る。あなたもまた何ら罪の宣告を受けていない。そして、あなたの召しは、説き勧め、また教会員を強めることである。あなたはまだ世の人々の前に教えを説くようには召されていない。アーメン。
5 見よ、わたしはあなた、ジョセフに少しの言葉を語る。あなたもまた何ら罪の宣告を受けていない。そして、あなたの召しもまた、説き勧め、教会員を強めることである。これが今から後とこしえにあなたの務めである。アーメン。
6 見よ、わたしはこれらの言葉によって、あなた、ジョセフ・ナイトに明らかにする。あなたは自分の[1]十字架を負って、世の人々の前で[2]声に出して[3]祈り、またひそかにも祈り、また家族の中や、友人たちの中や、あらゆる場所において祈らなければならない。
7 そして見よ、まことの教会に[1]加わり、働き人の報いを受けるために絶えずあなたの言葉をもって説き勧めるのが、あなたの務めである。アーメン。

第24章

千八百三十年七月、ペンシルベニア州[1]ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百一—百三

第23章
1 ①GS「誘惑」
②GS「高慢」
3 ①教義81・4—5、108・7
4 ①ジ—歴史1・4
6 ①マタ10・38、3ニフ12・30
②教義20・47、51
7 ①③GS「祈り」
②GS「バプテスマ—必要不可欠な条件」

ページ）。教会が組織されてから四か月足らずであるが、迫害が激しくなり、指導者たちは、時には隠れて生活することで身の安全を図らなければならなかった。次の三つの啓示は、このときに、彼らを強め、励まし、教えるために与えられたものである。

1−9 ジョセフ・スミスは、翻訳し、教えを説き、聖文を説き明かすために召されている。10−12 オリバー・カウドリは、福音を宣べ伝えるために召されている。13−19 奇跡、のろい、足のちりを払うこと、財布も袋も持たずに出かけることに関しての律法が明らかにされる。

1 見よ、あなたは『モルモン書』を記し、またわたしの務めに携わるために、召され、選ばれた。わたしはあなたを苦難の中から引き上げ、またあなたに勧告したので、あなたはすべての敵から救い出され、サタンの力と暗闇からも救い出された。

2 それでも、あなたは自分が戒めに背いたことについては弁解の余地がない。それでも、あなたの道を行き、これからはもう罪を犯さないようにしなさい。

3 あなたの務めを尊んで大いなるものとしなさい。また、あなたは畑に種をまき、畑を安全にしてから、速やかにコールズビルと、フェイエットと、マンチエスターにある教会に行きなさい。彼らはあなたを支えるであろう。そうすれば、わたしは霊的にも物質的にも彼らを祝福しよう。

4 しかし、もしも彼らがあなたを受け入れなければ、わたしは彼らに祝福の代わりにのろいを送るであろう。

5 あなたは引き続きわたしの名によって神に呼び求め、慰め主によってあなたに与えられるものを記し、また教会員にすべての聖文を説き明かさなければならない。

6 あなたが語り、また書き記すべきことは、まさにその瞬間にあなたに与えられるであろう。そして、彼らはそれを聞かなければならない。そうしなければ、わたしは彼らに祝福の代わりにのろいを送るであろう。

7 あなたはシオンにおいてすべての務めに献身しなければならない。そうすれば、これに関してあなた

第24章
2 ① 教義1・31−32
3 ① ヤコ1・19、2・2
② 教義26・1、37・2
③ 教義70・12
5 ① GS「慰め主・助け主」
6 ① 出エ4・12、マタ10・19−20、ルカ12・11−12、ヒラ5・18−19、教義84・85、100・5−8、モセ6・32
7 ① GS「奉仕」

は力を持つであろう。

8 苦難の中で忍耐強くありなさい。あなたは多くの苦難を受けるからである。しかし、それに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。

9 世俗の働きについては、あなたは力を持たないであろう。これはあなたの召しではないからである。あなたの召しに励みなさい。そうすれば、あなたの務めを尊んで大いなるものとし、すべての聖文を説き明かすのに必要なものを得るであろう。また、引き続き按手を施し、教会を強めなさい。

10 あなたの兄弟オリバーは、世の人々の前に、また教会員に、わたしの名を伝え続けなければならない。彼はわたしの大義のために十分に語れると思ってはならない。また見よ、わたしは最後まで彼とともにいる。

11 彼は弱いときにも、強いときにも、束縛されているときにも、自由なときにも、彼自身によってではなく、わたしにあって栄光を得るであろう。

12 また、いつでも、どこででも、彼は口を開き、昼も夜も、ラッパの音のようにわたしの福音を告げ知らせなければならない。そうすれば、わたしは人々の中で知られていないほどの力を彼に与えるであろう。

13 わたしがあなたがたに命じないかぎり、悪霊を追い出し、病人を癒し、毒蛇や毒物の毒を消すこと以外の奇跡を求めてはならない。

14 また、聖文が成就するために、これらのことを望む者から求められないかぎり、あなたがたはこれを行ってはならない。あなたがたは記されているとおりに行わなければならないからである。

15 また、あなたがたの入って行く所がどこであろうと、彼らがわたしの名によってあなたがたを受け入れなければ、あなたがたは彼らに対して証として足のちりを払い落とし、また道端で足を洗い清めることによって、祝福の代わりにのろいを残さなければならない。

16 そしてまた、だれでもあなたがたに手をかけて暴力を振るおうとする者があれば、あなたがたはわたしの名によって打たれるように彼らに命じなさい。すると見よ、わたしはふさわしいと思うときに、あなたがたの言葉のとおりに彼らを打つであろう。

---

8 ①GS「逆境」 ②GS「忍耐」 ③④GS「堪え忍ぶ」マタ 28・20

9 ①④GS「管理人・管理人の職」 ②教義 34・6 ③GS「宣べ伝える」 ⑤1ニフ 17・50 ①②GS「霊—悪霊」 ③GS マコ 16・17 ④⑤GS「癒し」使徒 28・3—9、教義 84・71—72、124・98—99 ⑥GS「奇跡」「しるし」 ①GS「病人への癒しの祝福」

15 ①マタ 10・11—15 ②マコ 6・11、ルカ 10・11、教義 60・15、75・19—22、99・4—5

17 また、だれでもあなたを法に訴えようとする者は、法によってのろわれるであろう。
18 また、あなたは財布[1]も、袋も、杖も、二枚の上着も持って行ってはならない。あなたが食物や、衣服や、履物や、金銭や、袋を必要とするそのときに、教会員があなたにそれを与えるからである。
19 あなたはわたしのぶどう園で、まことに最後に力強く刈り込み[1]をするように召されている。また、あなたが聖任[2]したすべての人もそうである。彼らはまさにこの規範に倣って行わなければならない。アーメン。

第25章

千八百三十年七月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百三—百四ページ）（第二十四章の前書きを参照）。この啓示は、預言者の妻エマ・スミスへの主の御心を示している。

1—6 選ばれた婦人エマ・スミスは、夫を助け、慰め、説き明かし、賛美歌を選ぶためにも召される。12—14 義人の歌は主への祈りである。15—16 この啓示にある従順の原則は、すべての人に当てはまる。

1 わたしがあなた、すなわちわたしの娘エマ・スミスに語る間、主なるあなたの神の声を聴きなさい。まことに、わたしはあなたに言う。わたしの福音を受け[1]入れる者は皆、わたしの王国[2]においてわたしの息子であり、娘だからである。
2 わたしはあなたに、わたしの思いについて啓示を与える。あなたが忠実であって、わたしの前に徳[1]の道を歩む[2]ならば、わたしはあなたの命を守ろう。そして、あなたはシオンで受け継ぎ[3]を得るであろう。
3 見よ、あなたの罪[1]は赦されている。あなたは、わたしが召[2]した、選ばれた婦人である。
4 あなたは見ていないもののことでつぶやいてはならない。それらのものは、あなたにも世の人々にも見せられないからである。こうすることは、将来のためにわたしの知恵にかなうことである。
5 また、あなたが召された務めは、わたしの僕、す

18 ①マタ10・9—10、ルカ10・4、教義84・78—79 ②ヤコ5・61—74、教義39・17、71・4 ②GS「聖任」

第25章
1 ①ヨハ1・12、GS「神の息子、娘」 ②GS「神の王国・天の王国」
2 ①GS「徳」 ②GS「歩む（神とともに）」 ③教義52・42、64・30、101・18、GS「シオン」
3 ①マタ9・2 ②GS「召し・神の召し」

なわちあなたの夫であるジョセフ・スミス・ジュニアを、彼が苦難に遭うときに、慰めの言葉をもって柔和な心で慰めることである。

6 また、あなたは彼が出て行くときに彼とともに行き、また彼のために筆記者がだれもいないときは、筆記者とならなければならない。わたしが、どこでも自分の望む所にわたしの僕オリバー・カウドリを遣わすことができるようにするためである。

7 また、あなたはわたしの御霊により知らされるままに、聖文を説き明かし、教会員に説き勧めるために、彼の手の下で聖任を受けなければならない。

8 彼があなたに手を置くと、あなたは聖霊を受けるであろう。また、あなたの時間は、記録することと、多く学ぶことに費やさなければならない。

9 また、あなたの夫が教会の中にあってあなたを支えるので、あなたは恐れる必要がない。彼の召しは彼らに対するものであって、わたしが望むことは何事であろうとすべて、彼らの信仰に応じて彼らに明らかにされるのである。

10 まことに、わたしはあなたに言う。あなたはこの世のものを捨てて、この世に勝る世のものを求めなければならない。

11 また、教会で利用できるように、あなたに示されるままに、わたしにとって喜びである神聖な賛美歌の選定をする務めがあなたに与えられる。

12 わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。

13 また、心を高めて喜び、あなたが交わした聖約を固く守りなさい。

14 柔和な心を持ち続け、また高慢に気をつけなさい。あなたは、あなたの夫と、彼に来る栄光とを喜びなさい。

15 絶えずわたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたは義の冠を受けるであろう。あなたはこのことを行わなければ、わたしのいる所に来ることはできない。

16 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。これはすべての者へのわたしの声である。アーメン。

第26章

千八百三十年七月、ペンシルベニア州ハーモニーに

---

5 (1) GS「哀れみ」
7 (1) 任命のこと。GS「任命」
8 (1) GS「按手」
9 (1) GS「召し・神の召し」
「預言者」
10 (1) (2) GS「啓示」「預言」
(2) GS「富」「貪欲・むさぼり」
11 (1) (3) エテ12・4
12 (1) GS「賛美歌」
(2) GS「心」
歴上16・9、GS「歌う」
14 (1) GS「柔和」
15 (1) (2) GS「高慢」
GS「義」
(2) GS「冠」「昇栄」
16 (1) (3) ヨハ7・34
教義1・38

おいて、預言者ジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、およびジョン・ホイットマーに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百四ページ）（第二十四章の前書きを参照）。

1 彼らは聖文を研究し、教えを説くように指示される。2 会員の同意の律法が確認される。

1見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは次回の大会を開くために西部へ行くまで、1)聖文を研究することと、教えを説くことと、2)コールズビルの教会を強めることと、必要に応じてその地で仕事に携わることに時間を費やしなさい。その後、あなたがたの行うべきことが知らされるであろう。

2すべてのことは、大いなる祈りと信仰によって、教会員の同意を得て行わなければならない。すべてのことを、あなたがたは信仰によって受け入れなければならないからである。アーメン。

第27章

千八百三十年八月、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百六—百八ページ）。パンとぶどう酒の聖餐が執行される宗教上の集まりの準備をするために、ジョセフはぶどう酒を手に入れようとして出かけた。その途中で、天の御使いに会い、この啓示を受けた。一部はそのときに記され、残りは翌九月に記された。当教会の聖餐式では、現在はぶどう酒の代わりに水が使われている。

1—4 聖餐を受けるときに用いられる象徴が説明される。5—14 キリストとすべての神権時代のキリストの僕たちが、聖餐を受ける。15—18 神の武具をことごとく身に着けなさい。

1あなたがたの主、あなたがたの神、あなたがたの贖い主であるイエス・キリストの声を聴きなさい。その言葉は1)生きていて、力がある。

2見よ、わたしはあなたがたに言う。1)聖餐を受けるとき、あなたがたがわたしの2)栄光にひたすら目を向けて、あなたがたのために葬られたわたしの体と、あなたがたの3)罪の赦しのために流されたわたしの4)血

第26章
1 ① GS「聖文＝聖文の価値」
② 教義24・3、37・2
2 ① サ上8・7、モサ29・26、GS「同意の律法」

第27章
1 ① ヒラ3・29、教義6・2
② GS「聖餐」
2 ① GS「栄光」
② GS「罪の赦し」
③ GS「血」
④

を父に記念して、それを受けるならば、あなたがたは何を食べ、何を飲んでも差し支えがない。

3 それゆえ、わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたは敵からぶどう酒も、強い飲み物も買ってはならない。

4 それゆえ、あなたがたは、地上に築き上げられるわたしの父のこの王国において、あなたがたの中で新たに造ったもののほかは、何も飲んではならない。

5 見よ、これはわたしの知恵にかなっている。それゆえ、驚いてはならない。ぶどうの実から造ったもの[1]を、わたしが地上であなたとともに飲む時が来るからである。またそのときに、わたしの完全な永遠の福音を載せた『モルモン書』を明らかにするために、わたしがあなたに遣わした[2]モロナイ、すなわちわたしがエフライム[3]の木の記録の鍵をゆだねたモロナイとともに、

6 また、世界が始まって以来、終わりの時に関してすべての聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物の回復をもたらす鍵をわたしがゆだねたエライ[1]アスとともに、

7 また、彼（エライアス）[1]がザカリヤを訪れて、ザカリヤは息子を持ち、その子は名をヨハネ[2]といい、エライアスの霊に満たされると約束を与えた、そのザカリヤの息子ヨハネ、

8 すなわち、アロン[1]のように召され聖任[2]されるように、わたしの僕であるあなたがた、ジョセフ・スミス・ジュニアとオリバー・カウドリを、あなたがたの受けた最初の神権[3]に聖任するために、わたしがあなたがたのもとに遣わしたヨハネとともに、

9 また、全地がのろいをもって打たれることのないように、先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向ける[1]力の鍵をわたしがゆだねたエリヤ[2]とともに、

10 また、数々の[1]約束をとどめるあなたがたの先祖、ヨセフとヤコブ、イサク、およびアブラハムとともに、

11 また、すべての者の先祖、すべての者の君、日の老いたる者であるミカエル、すなわちアダム[1]とともに、

12 また、わたしがあなたがたのもとに遣わして、あなたがたを聖任[1]し、あなたがたを使徒[2]およびわたしの名の特別な証人[3]として確認し、またあなたがたの

---

5 ① マタ 26・29、マコ 14・25、ルカ 22・18
② ジ一歴史 1・30—34
③ エゼ 37・16、GS「エフライム—エフライムまたはヨセフの木」
6 ① GS「エライアス」
7 ① ルカ 1・17—19
② ルカ 1・13、教義 84・27—28
8 ① 出エ 28・1—3、41、教義 107・13
② GS「聖任」
③ 教義 13・1、GS「アロン神権」
9 ① GS「系図」
② 列上 17・1—22、列下 1—2 章、教義 2・1—3、110・13—16、ジ一歴史 1・38—39、GS「エリヤ」「系図」
10 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
11 ① GS「アダム」
12 ① ジ一歴史 1・72、GS「メルキゼデク神権」
② GS「使徒」
③ 使徒 1・8

務めの鍵と、わたしが彼らに明らかにした事柄と同
じ事柄の鍵を持つことをあなたがたに確認したペテ
ロとヤコブとヨハネ、
13 すなわち、[1]終わりの時代のために、また天にある
ものと地にあるもののすべてを[2]一つに集める[3]時満ち
る時代のために、わたしの王国の[4]鍵と[5]福音の[6]神権時
代とをわたしがゆ[7]だねた三人とともに、
14 また、父が世からわたしに[1]与えてくださったすべ
ての者とともに、わたしは飲むであろう。
15 それゆえ、あなたがたの心を高めて喜び、また腰
に帯を締めなさい。災いの日に耐えられるように、
そしてすべてを成し遂げて[1]立つことができるよう
に、わたしの[2]武具を身に着けなさい。
16 それゆえ、立って[1]真理の[2]帯を腰に締め、[3]正義の[4]胸
当てを着け、わたしが[5]天使たちを遣わしてあなたが
たに託した[6]平和の福音の備えを足に履き、
17 悪い者の放つ[1]火の矢をことごとく消すことのでき
る信仰の盾を取り、
18 また、救いのかぶとをかぶり、わたしがあなたが
たに注ぐわたしの御霊の剣を取り、わたしがあなた
がたに明らかにするわたしの言葉を保ちなさい。ま
た、あなたがたがわたしに求めるすべてのことにつ
いて心を一つにし、わたしが来るまで忠実でありな
さい。そうすれば、あなたがたは[1]引き上げられて、
わたしのいる所にあ[2]なたがたもいるようになるであ
ろう。アーメン。

第28章

千八百三十年九月、ニューヨーク州フェイエットに
おいて、預言者ジョセフ・スミスを通してオリバー・
カウドリに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百九
—百十一ページ）。教会の会員であるハイラム・ペー
ジは、ある石を手に入れ、その助けによってシオンの
建設と教会の秩序について啓示を受けていると公言
した。何人かの会員たちはこの主張に欺かれ、オリバ
ー・カウドリさえこれにより誤って影響を受けた。予
定されていた大会の直前に、預言者はこの件に関して
主に熱心に尋ね、この啓示を受けた。

1—7 ジョセフ・スミスは奥義の鍵を持っており、
彼だけが教会のために啓示を受ける。8—10 オリバ
ー・カウドリはレーマン人に宣べ伝えなければならな

13 ① ヤコ5・71、教義43・28—30
② 教義84・100
③ エペ1・9—10、教義112・30、124・41
④ GS「神権の鍵」
⑤ GS「福音」
⑥ GS「神権時代」
⑦ マタ16・19
14 ① ヨハ6・37、17・9、11、3ニフ15・24、教義50・41—42、84・63
15 ① マラ3・2、教義87・8
② ロマ13・12、エペ6・11—18
16 ① GS「真理」
② イザ11・5
③ GS「義」
④ イザ59・17
⑤ 教義128・19—21
⑥ 2ニフ19・6
17 ① 1ニフ15・24、教義3・8
18 ① 1ニフ13・37、教義17・8
② ヨハ14・3

い。11–16 サタンはハイラム・ページを欺き、彼に偽りの啓示を与えた。

1 見よ、わたしはあなた、オリバー[1]に言う。わたしが与えた啓示と戒めに関して、あなたが慰め主[2]によって教会員に教えるすべてのことを、教会員は聞かなければならない。

2 しかし見よ、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの僕[1]ジョセフ・スミス・ジュニアのほかに、だれもこの教会で戒めと啓示を受けるために任命される者はいない。[2]彼はモーセのように戒めと啓示を受けるからである。

3 あなたは、わたしが彼に与えることにアロン[1]のように従順であり、力と権能[2]をもってその戒めと啓示を教会員に忠実に告げなければならない。

4 あなたはどんなときでも、教会員に語り[1]、あるいは教え、あるいはいつでも戒めを与えるように、慰め主によって導かれるならば、あなたはそれを行うことができる。

5 しかし、あなたは戒めとして記すのではなく、知恵をもって記さなければならない。

6 また、あなたはあなたの長であり、教会の長である者に命じてはならない。

7 わたしは彼に代わる別の者を彼らのために任命するまでは、[1]奥義の鍵[2]と封じられている啓示とを彼に授けたからである。

8 さて見よ、わたしはあなたに言う。あなたはレーマン人[1]のところへ行き、わたしの福音[2]を宣べ伝えなければならない。そして、彼らがあなたの教えを受け入れるならば、彼らの中にわたしの教会が設立されるようにしなければならない。また、あなたは数々の啓示を受けるであろうが、それらを戒めとして記してはならない。

9 さて見よ、わたしはあなたに言う。どこにシオン[1]の町[2]が築かれるかは明らかにされておらず、だれもそれを知らない。しかし、それはこの後明らかにされるであろう。見よ、わたしはあなたに言う。それはレーマン人に近い境の地である。

10 あなたは大会の後まで、この地を去ってはならない。わたしの僕ジョセフは、大会の声によって大会を管理するように任命されなければならない。そして、彼があなたに語ることを、あなたは述べなけれ

第28章

1 ① 教義20・3
② GS「慰め・主・助け主」
③ GS「教える・教師—御霊によって教える」
2 ① 2ニフ3・14—20、GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」
② 教義35・17—18、43・4
3 ① GS「アロン（モーセの兄）」
② GS「権威・権限・権能」
4 ① 出エ4・12—16、教義24・5—6
7 ① GS「神の奥義」
② 教義64・5、84・19
8 ① 2ニフ3・18—22、教義30・5—6、32・1—3
9 ① 教義3・19—20
② 教義52・42—43、GS「シオン」
② 教義57・1—3

ばならない。
11 さらにまた、あなたはあなたの兄弟ハイラム・ペ
ージを、彼と[1]二人だけの所へ連れて行き、彼がその
石によって記録した事柄はわたしから出たものでは
ないこと、そして[2]サタンが彼を[3]欺いていることを彼
に告げなさい。
12 見よ、これらのことは彼に命じられておらず、ま
た教会の聖約に反することは、この教会のだれに
も命じられないからである。
13 すべてのことを秩序正しく、信仰の祈りによっ
て、教会員の[1]同意を得て行わなければならない。
14 あなたはレーマン人の中に旅をする前に、教会の
聖約にかなって、これらのことをすべて解決する助
けをしなければならない。
15 また、あなたが行くときから戻るときまで、あな
たのなすべきことがあなたに[1]示されるであろう。
16 あなたはいつも口を開き、喜びの声を上げてわた
しの福音を告げ知らせなければならない。アーメン。

第29章

千八百三十年九月、ニューヨーク州フェイエットに
おいて、六人の長老の居合わせた場所で預言者ジョセ
フ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第
一巻、百十一―百十五ページ）。この啓示は、千八百三
十年九月二十六日に始まった大会の何日か前に与えら
れたものである。

1―8 キリストは御自分の選民を集められる。9―
11 キリストの来臨によって福千年が始まる。12―13
十二使徒が全イスラエルを裁く。14―21 数々のしる
し、疫病、荒廃が再臨に先立ってある。22―28 福千年
に続いて、最後の復活と最後の裁きがある。29―35 主
にとってはすべてが霊にかかわるものである。36―39
悪魔とその軍勢は天から追い出され、人を誘惑するこ
とになった。40―45 堕落と贖罪は救いをもたらす。46
―50 幼い子供たちは贖罪によって贖われる。

1 あなたがたの贖い主、[1]わたしは有るという大いな
る者、[2]憐れみの腕があなたがたの罪に対する[3]贖いを
した者、イエス・キリストの声を聴きなさい。
2 わたしは自分の民を、すなわち、わたしの声に聞
き従って、わたしの前に[1]へりくだり、熱烈な祈りに

11 ① マタ18・15
② 黙示20・10
③ 教義43・5―7
13 ① GS「同意の律法」
15 ① 2ニフ32・3、5

第29章
1 ① GS「わたしは有る」
② GS「憐れみ」
③ GS「贖罪」
2 ① GS「謙遜」

よってわたしを呼ぶすべての者を、めんどりが羽の
下にひなを集めるように[2]集めよう。
3 見よ、まことに、まことに、わたしはあなたがた
に言う。今やあなたがたの罪は[1]赦されているので、
あなたがたはこれを受けている。しかし、数々の危
難があなたがたに及ぶことのないように、よく覚え
ておいてこれからはもう罪を犯さないようにしなさ
い。
4 まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたが
たは、[1]ラッパの音のように喜びの声を上げてわたし
の福音を告げ知らせるために、世から選び出され
た。
5 心を高めて喜びなさい。わたしはあなたがたの[1]中
におり、父に対するあなたがたの[2]弁護者だからであ
る。あなたがたに[3]王国を与えてくださるのは、父の
好意である。
6 また、書き記されているように、あなたがたが[1]信
仰をもって、わたしの命じたとおりに[2]一つになり祈
って[3]求めるものは、何でも与えられるであろう。
7 あなたがたはわたしの[1]選民を[2]集めるために召され
ている。わたしの選民はわたしの声を[3]聴き、その[4]心
をかたくなにしないからである。
8 それゆえ、[1]艱難と荒廃が悪人のうえに送られる日
のために、わたしの選民の心を[2]備え、またあらゆる
点で備えられるように、彼らはこの地の面の一つの
場所に[3]集められなければならない、と父からの定め
が出ている。
9 地が熟すその時は近く、その日はもう近づいてい
る。そして、すべて[1]高ぶる者と悪を行う者は、[2]わら
のようになる。悪が地上にないように、わたしは彼
らを[3]焼き尽くそう、と万軍の主は言う。
10 その時は近く、わたしの使徒たちが[1]語ったことは
必ず成就するからである。彼らが語ったようにそ
れは起こるのである。
11 わたしは力と大いなる栄光とをもって、天のすべ
ての[1]衆群とともに天から姿を現し、[2]千年の間地上で
人々とともに[3]義のうちに住む。そして、悪人は耐え
られない。
12 さらにまた、まことに、まことに、あなたがたに
言う。父の御心によって堅い定めとして出たことで
あるが、わたしの[1]使徒たち、すなわち、わたしがエ
ルサレムで務めに携わっていたときにわたしととも

---

2 ② マタ23・37、3ニフ10・4—6
3 ① GS「赦し」
4 ① アル29・1—2、教義19・37、30・9
5 ① マタ18・20、教義6・32、38・7、88・62—63
② GS「弁護者」
③ GS「神の王国・天の王国」
6 ① マコ11・24
② 3ニフ27・1—2、教義84・1
③ マタ21・22、ヨハ14・13
7 ① マコ13・20、教義84・34、GS「選民」
② GS「イスラエル—イスラエルの集合」
③ アル5・37—41
④ GS「心」
8 ① 教義5・19、43・17—27
② 教義58・6—9、78・7
③ 教義45・64—66、57・1
9 ① 2ニフ20・33、3ニフ25・1、GS「高慢」
② ナホ1・10、マラ4・1、1ニフ22・15、23、ジ—歴史1・37
③ 教義45・57、63・34、54、64・24、88・94、101・23—25、133・64、GS「地球（地）—地球の清め」
10 ① GS「イエス・キリストの再臨」
11 ① ジーマタ1・37
② GS「イエス・キリスト—キリストによる福千年の統治」「福千年」
③ GS「義」
12 ① GS「使徒」

にいた十二使徒は、義の衣を身にまとい、その頭に冠をかぶり、わたしと同じように栄光を受けて、わたしが火の柱の中を来る日にわたしの右に立つであろう。それは、ほかのだれでもなく、イスラエルの家に属するすべての者を、まことにわたしを愛してわたしの戒めを守ったすべての者を裁くためである。

13 シナイ山であったように、ラッパが長くかつ高く鳴り響き、全地が震動するであろう。そして、彼ら、すなわちわたしにあって死んだ者が、義の冠を受けるために、わたしのように義の衣を身にまとうために、わたしとともにいてわたしたちが一つとなるために出て来るであろう。

14 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。この大いなる日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血に変わり、星は天から落ちるであろう。また、上には天に、下には地に、さらに大きな数々のしるしがあるであろう。

15 また、多くの人が涙を流し、泣きわめくであろう。

16 また、激しい雹を伴う嵐が送られて、地の作物を損なうであろう。

17 そしてまた、世の悪のゆえに、わたしは悪人に報復しよう。彼らが悔い改めようとしないからである。わたしの憤りの杯は満ちているからである。見よ、彼らがわたしの言うことを聞かなければ、わたしの血は彼らを清めない。

18 それゆえ、主なる神であるわたしは、地の面にあぶを送る。それらは地に住む者に取り付いてその肉を食い、うじを生じさせるであろう。

19 そして、彼らの舌はこわばり、彼らはわたしに反対して語ることができなくなる。また、彼らの肉は骨から離れ、目はその穴から落ちるであろう。

20 そのとき、森の獣と空の鳥は彼らをむさぼり食うであろう。

21 また、全地の淫婦である大きな忌まわしい教会は、これらのことについて語った預言者エゼキエルの口を通して語られたとおりに、焼き尽くす火によって倒されるであろう。これらのことはまだ起こっていないが、わたしが生きているように確かに起こる。忌まわしい行いが支配することはないからである。

---

12 ②GS「イエス・キリスト−栄光」「栄光」
③イザ66・15−16、教義130・7、133・41
④マタ19・28、ルカ22・30、1ニフ12・9、モル3・18−19
13 ①教義43・18、45・45
②教義88・97、133・56
③GS「冠」「昇栄」
④教義76・94−95、84・35−39
14 ①GS「イエス・キリストの再臨」
②ヨエ2・10、ジーマタ1・33
③GS「時のしるし」
15 ①マタ13・42
16 ①エゼ38・22、黙示11・19、16・21
17 ①GS「邪悪」
②黙示16・7−11、2ニフ30・10、ジーマタ1・53−55、GS「報復」
③1ヨハ1・7、アル11・40−41、教義19・16−
18 ゼカ14・12
19 ①イザ18・6、エゼ39・17、黙示19・17−18
20 ①黙示19・2
②GS「悪魔−悪魔の教会」
③ヨエ1・19−20、2・3、教義97・25−26、GS「地球(地)−地球の清め」
④教義1・38

22 さらにまた、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。千年[1]が終わり、人々が再び彼らの神を否定し始めるとき、わたしはしばし[2]の間だけ地をそのままにしておこう。

23 そして、終わり[1]が来て、天地は焼き尽くされて過ぎ去り、新しい天と新しい地[3]があるであろう。

24 すべて古いものは過ぎ去り[1]、万物が新しくなるからである。まことに天地とその中にある万物、すなわち人も、獣も、空の鳥も、海の魚も新しくなるのである。

25 髪[1]の毛一筋も、ちりも、失われない。それはわたしの手で造られたものだからである。

26 しかし見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。地が過ぎ去る前に、わたしの天使長[1]ミカエル[2]はラッパ[3]を吹き鳴らす。そのとき、墓が開かれるので、すべての死者は目[4]を覚まし、彼ら、すなわちすべての者が出て[5]来る。

27 そして、義人[1]はわたしの右[2]に集められて永遠の命を受けるであろう。また、わたしの左にいる悪人を父の前に持つことを、わたしは恥じる。

28 それゆえ、わたしは彼らに、「のろわれた者どもよ、わたしから離れ[1]去り、悪魔[2]とその使いのために用意されている永遠の火[3]に入れ」と言おう。

29 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしはいまだかつて、わたし自身の口から、彼らは戻って来ると告げたことはない。わたしのいる所[1]に、彼らは来ることができないからである。彼らにはその力がないからである。

30 しかし、わたしのすべての裁きが人々に明らかにされるわけではないことを覚えておきなさい。言葉がわたしの口から出ると、そのとおりに成就する。すなわち、わたしの御霊の力であるわたしの力の言葉によってわたしが創造したすべてのものに関して、先[1]のものは後になり、後のものは先になるのである。

31 わたしの御霊の力によって、わたしはそれらのもの、すなわち、霊的[1]なものと物質的なものの両方についてすべてのものを創造[2]した。

32 わたしの業の初めには、先に霊的[1]なものがあり、次に物質的なものがあり、さらにまたわたしの業の終わりには、先に物質的なものがあり、次に霊的なものがある。

---

22 ①GS「福千年」 ②黙示20・3、教義43・30—31、88・110—111 23 ①マタ24・14、GS「世の終わり」 ②マタ24・35、ジーマタ1・35 ③GS「地球（地）」—最終的な状態」 24 ①黙示21・1—4 25 ①アル40・23 GS「天使長・天使のかしら」 ②GS「アダム」「ミカエル」 26 ①1コリ15・52—55 ②③GS「不死不滅」「復活」 ④⑤ヨハ5・28—29 27 ①GS「義」 ②マタ25・33、GS「最後の裁き」 28 ①マタ25・41、教義29・41 ②GS「悪魔」 ③教義43・33 29 ①③ヨハ7・34、教義76・112 30 ①13・42 31 ①モセ3・4—5 ②GS「創造・創造する」 32 ①GS「霊の創造」

33 このように言うのは、あなたがたが自然に理解できるようにするためである。しかし、わたし自身にとっては、わたしの業には終わりもなく、初めもない。しかし、あなたがたがわたしに求めて心を一つにしているので、あなたがたが理解できるようにこれが与えられているのである。

34 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしにとってはすべてが霊にかかわるものであり、わたしはいまだかつて、現世の律法をあなたがたに与えたことがない。どんな人にも、人の子らにも、わたしが創造したあなたがたの先祖アダムにも与えたことがない。

35 見よ、わたしはアダムに、1)自ら選択し行動する者となることを許した。そして、彼に戒めを与えた。しかし、わたしが彼に与えたのは、現世の戒めではない。わたしの2)戒めは霊にかかわるものだからである。それらは自然のものでも、現世のものでもなく、肉欲のものでも、官能的なものでもない。

36 そして、アダムは悪魔に誘惑された。見よ、1)悪魔はアダムの前にいた。悪魔は、「わたしにあなたの2)誉れを与えてください」と言って、わたしに3)背いた。彼の求めた誉れはわたしの力である。また、彼は天の4)衆群の5)三分の一を、彼らの6)選択の自由によってわたしから背き去らせた。

37 そして、彼らは落とされて、1)悪魔とその2)使いになった。

38 見よ、初めから彼らのために用意された場所がある。その場所は1)地獄である。

39 また、悪魔が人の子らを1)誘惑するのは必要である。そうでなければ、人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない。2)苦いことを経験しなければ、甘いことを知ることができないからである。

40 それゆえ、悪魔はアダムを誘惑した。そして、アダムは禁断の実を1)食べ、戒めに背いた。このようにして、彼は誘惑に負けたので、悪魔の意に従うことになった。

41 それゆえ、主なる神であるわたしは、彼をその背きのゆえに1)エデンの園から、わたしの前から2)追い出した。このようにして、彼は3)霊的に死ぬことになった。これが第一の死、まことに、わたしが「4)のろわれた者どもよ、離れ去れ」と言うときに悪人に宣言される霊的な最後の5)死と同じものである。

---

33 ① 詩篇111・7−8、モセ4・1−4
35 ① GS「選択の自由」 ② GS「戒め（神の）」 教義76・25−26、モセ4・1−4
36 ① GS「敬う」 ② GS「天上の会議」 ③ イザ14・12−14、教義76・28−29 ④ 教義38・1、45・1、GS「前世」 ⑤ 黙示12・3−4 ⑥ GS「選択の自由」 ⑦ GS「悪魔」
37 ① 2ペテ2・4、ユダ1・6、モセ7・26、GS「天使」
38 ① GS「地獄」 モセ4・3−4、GS「誘惑」
39 ① モセ6・55 ② 創世3・6、モセ4・7−13
40 ① 2ニフ10・24、モサ16・3−5、アル5・41−42
41 ① GS「エデン」 ② GS「堕落（アダムとエバの）」 ③ GS「死（霊の）」 教義29・27−28、76・31−39 ④ アル40・26

42 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。主なる神であるわたしは、わたしの独り子の名を信じる信仰による悔い改めと[2]贖いを彼らに告げるために天使たちを遣わすまで、アダムとその子孫が肉体の死を受けることのないようにした。

43 このようにして、主なる神であるわたしは、人に試しの生涯を定めた。人が、すなわち信じるすべての者が、肉体の死によって不死不滅によみがえり、永遠の命を受けられるようにするためである。

44 また、信じない者は永遠の罰の定めを受ける。彼らは悔い改めないので、霊的な堕落からの贖いを受けることができないからである。

45 彼らは光よりも闇を愛し、その行いは悪く、自分が従おうとした者の報いを受けるのである。

46 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。幼い子供たちは、わたしの独り子によって世の初めから贖われている。

47 それゆえ、彼らは罪を犯さない。彼らがわたしの前に責任を負うようになるまで、サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられないからである。

48 わたしは、大いなることが彼らの父親に求められるように、わたしの望むとおりに、わたし自身の思いのままに幼い子供たちに行うのである。

49 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。知識のある者に、わたしは悔い改めを命じなかったであろうか。

50 また、理解する能力のない者については、書き記されているとおりに行うだけである。さて、わたしはあなたがたに、今はこれ以上のことを告げない。アーメン。

第30章

千八百三十年九月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してデビッド・ホイットマー、ピーター・ホイットマー・ジュニア、およびジョン・ホイットマーに与えられた啓示。この啓示は、フェイエットでの三日間の大会後、教会の長老たちが散会する前に与えられたものである（『教会歴史』第一巻、百十五—百十六ページ）。当初は三つの啓示として出版されていたが、預言者は千八百三十五年版の『教義と聖約』でこれを一つにまとめた。

---

42 ①モセ5・6—8 ②GS「悔い改め」 ③④アル12・18—30 ⑤2ニフ2・21、GS「死（肉体の）」

43 ①アル12・24、42・10 ②モセ1・39、GS「不死不滅」 ③GS「復活」

44 ①④教義19・7—12、GS「罰の定め」

45 ①ヨハ3・18—20、教義93・31—32 ②モサ2・32—33、アル3・26—27、5・41—42、30・60 ③モロ8・8、12、教義93・38、GS「子供」

46 ①教義74・7、GS「贖い・贖う」

47 ①②GS「責任を負う」

48 ①②教義68・25、GS「誘惑」

50 ①教義137・7—10、GS「理解」

1—4 デビッド・ホイットマーは、熱心に奉仕するのを怠ったために懲らしめを受ける。5—8 ピーター・ホイットマー・ジュニアは、オリバー・カウドリとともに、レーマン人への伝道に出かけなければならない。9—11 ジョン・ホイットマーは、福音を宣べ伝えるように召される。

1 見よ、わたしはあなた、デビッド[1]に言う。あなたは人を恐れ[2]、当然なすべきであるのにわたしに頼[3]って強さを得ようとしなかった。

2 それどころか、あなたの心は、あなたの造り主であるわたしにかかわる事柄や、あなたが召された務めよりも、世[1]の事柄のうえにあった。そして、あなたはわたしの御霊やあなたの上に置かれた人々を心に留めず、わたしから命じられていない者たちに説きつけられてきた。

3 それゆえ、あなたは自分自身でわたしに尋ね、自分が受けた事柄について深く[1]考えるに任されている。

4 また、わたしがあなたにさらに戒めを与えるまで、あなたは父の家に住まなければならない。そして、あなたは教会で、また世の人々の前で、さらに周りの地域で、[1]務めに専念しなければならない。アーメン。

5 見よ、わたしはあなた、ピーター[1]に言う。あなたは、あなたの兄弟オリバーとともに[2]旅をしなければならない。あなたが口を開いてわたしの福音を告げ知らせることを、わたしが必要とする[3]時が来たからである。それゆえ、恐れることなく、むしろあなたの兄弟があなたに与える言葉と忠告を心に留めなさい。

6 また、彼のあらゆる苦難を自分の苦難とし、彼とあなたが救い出されるように、祈りと信仰をもっていつもわたしに向かって心を高くしなさい。わたしは彼に、[1]レーマン人の中にわたしの教会[2]を築き上げる力を与えたからである。

7 またわたしは、彼の兄弟ジョセフ・スミス・ジュニアのほかには、教会の諸事について教会内で彼の[1]上に立つ助言者をだれも任命していない。

8 それゆえ、これらのことを心に留めて、わたしの戒めを熱心に守りなさい。そうすれば、あなたは祝福されて永遠の命を受けるであろう。アーメン。

第30章
1 ①GS「ホイットマー、デビッド」 ②使徒5・29 ③歴下16・7—9
2 ①教義25・10
3 ①GS「深く考える」
4 ①GS「仕える」「奉仕」
5 ①GS「ホイットマー、ピーター、ジュニア」 ②教義32・1—3 ③④GS「勧告、勧め」「支持（教会指導者の）」
6 ①教義3・20、49・24、GS「レーマン人」 ②GS「末日聖徒イエス・キリスト教会」
7 ①教義20・2—3

9 見よ、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョンに言う。あなたはこれから先、[1]ラッパの音のようにわたしの福音を宣言することを始めなければならない。

10 あなたは、あなたの兄弟フィリップ・バローズの家で、またその周りの地域で、すなわち、あなたが語ることを聞く人々のいる所ならどこででも、そこから去るようにわたしがあなたに命じるまで働かなければならない。

11 今から後、あなたは精神を尽くして、シオンですべての働きをしなければならない。まことに、あなたは[1]人がなし得ることを[2]恐れずに、わたしの大義のためにいつも口を開かなければならない。わたしは[3]あなたとともにいるからである。アーメン。

第31章

千八百三十年九月、預言者ジョセフ・スミスを通してトーマス・B・マーシュに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百十五—百十七ページ）。この啓示が与えられたのは、教会の大会直後のことである（第三十章の前書きを参照）。トーマス・B・マーシュはこの月の早い時期にバプテスマを受け、この啓示が与えられる前に当教会の長老に聖任されていた。

1—6 トーマス・B・マーシュは、福音を宣べ伝えるように召され、また家族の幸せが保証される。7—13 彼は忍耐強くあり、常に祈り、慰め主に従うように勧告される。

1 わたしの子[1]トーマスよ。わたしの業を信じる信仰のゆえに、あなたは幸いである。

2 見よ、あなたは家族のゆえに多くの苦難に遭ってきた。それにもかかわらず、わたしはあなたとあなたの家族、すなわちあなたの幼い者たちを祝福しよう。彼らが信じて真理を知り、わたしの教会においてあなたと一つになる日が来る。

3 心を高めて喜びなさい。あなたの伝道の時が来たからである。あなたの舌は緩められ、あなたはこの時代の人々に向かって[1]胸躍る大いなる喜びのおとずれを告げ知らせるであろう。

4 あなたは、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアに明らかにされてきたことを[1]告げなければならな

9 ① 教義33・2
② 教義15・6
11 ① GS「畏れ・恐れ」
② GS「畏れ・恐れ」「勇敢・勇気」
③ マタ28・19—20

第31章
1 ① GS「マーシュ、トーマス・B」
3 ① イザ52・7、ルカ2・10—11、モサ3・3—5
4 ① モサ18・19、教義42・12、52・36

い。あなたはこれから先、教えを説き、すでに白くなり焼かれるばかりになっている畑で刈り入れを始めなければならない。

5 それゆえ、心を尽くして1)鎌を入れなさい。そうすれば、あなたの罪は2)赦されて、あなたは背に3)束を積まれるであろう。4)働き人が報酬を受けるのは当然だからである。また、あなたの家族は生きるであろう。

6 見よ、まことに、わたしはあなたに言う。しばしの間だけ家族を離れて出かけ、わたしの言葉を告げなさい。そうすれば、わたしはあなたの家族のために一つの場所を用意しよう。

7 まことに、わたしは人々の心を1)開こう。そして、彼らはあなたを受け入れるであろう。また、わたしはあなたの手によって一つの教会を設けよう。

8 あなたは彼らを1)強くし、彼らが集められるときのために彼らを備えなければならない。

9 1)苦難の中で2)忍耐強くあり、ののしる者にののしり返してはならない。3)柔和に家を治め、また確固としていなさい。

10 見よ、わたしはあなたに言う。あなたは教会員にとっての医者となるであろう。しかし、世の人々にはそうではない。彼らはあなたを受け入れないからである。

11 あなたはどこでもわたしの望む所に行きなさい。あなたのなすべきことと行くべき所は、1)慰め主によってあなたに伝えられるであろう。

12 あなたは誘惑に陥って自分の報いを失うことのないように、2)常に祈りなさい。

13 最後まで1)忠実でありなさい。見よ、わたしは2)あなたとともにいる。これらの言葉は人から出ているものではなく、人々から出ているものでもなく、父3)の御心によって、わたし、すなわちあなたの贖い主であるイエス・キリストから出ているものである。アーメン。

第32章

千八百三十年十月、預言者ジョセフ・スミスを通して、パーリー・P・プラットとザイバ・ピーターソンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百十八—百二十ページ）。教会員は『モルモン書』から、レーマン人に祝福が与えられると予告されていることを知って、

4 (2) 教義4・4—6
5 (1) 黙示14・15
(2) GS「赦し」
(3) 教義79・3
(4) ルカ10・3—11、教義75・24
7 (1) GS「改宗」
8 (1) 教義81・5、108・7
9 (1) GS「逆境」
(2) GS「忍耐」
(3) GS「家族—親の責任」
11 (1) GS「聖霊」「慰め主：助け主」
12 (1) GS「誘惑」
(2) 3ニフ18・17—21、GS「祈り」
13 (1) GS「堪え忍ぶ」
(2) マタ28・20
(3) GS「イエス・キリスト—権威」

長老たちはレーマン人に深い関心を持ち、大きな望みを抱いた。その結果、当時西部のインディアンの部族のもとに長老たちを送るべきかどうかについて、御心を示してくださるように主に懇願した。そして、この啓示が与えられた。

1—3 パーリー・P・プラットとザイバ・ピーターソンは、レーマン人に教えを説くように、またオリバー・カウドリとピーター・ホイットマー・ジュニアに同行するように召される。4—5 彼らは聖文の理解を求めて祈らなければならない。

1さて、わたしの僕パーリー・P・プラット[1]について、見よ、わたしは彼に言う。わたしは自分が生きているように確かに、彼がわたしの福音を告げ知らせ、わたしに学び、また柔和で心のへりくだった者であることを望む。

2また、わたしが彼に定めたのは、彼がわたしの僕たち、オリバー・カウドリならびにピーター・ホイットマー・ジュニアとともに荒れ野に赴いてレーマン人[1]の中に行くことである。

3ザイバ・ピーターソン[1]も彼らとともに行かなければならない。また、わたし自身も彼らとともに行き、彼らの中[2]にいるであろう。わたしは父に対する彼らの弁護者[3]であり、何ものも彼らに打ち勝つことはないであろう。

4また、彼らは書き記されていることを心に留め[1]なければならない。ほかの啓示[2]を求めてはならない。また、わたしがそれを明らか[3]にして彼らが理解[1]できるように、常に祈らなければならない。

5また、彼らはこれらの言葉を心に留めるようにしなければならない。軽んじてはならない。そうすれば、わたしは彼らを祝福しよう。アーメン。

第33章

千八百三十年十月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してエズラ・セアとノースロップ・スイートに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百二十六—百二十七ページ）。この啓示を記すに当たり、預言者は、「主はいつも、信仰をもって熱心に求める人々を教えようとしておられる」（『教会歴史』第一巻、百二十六ページ）と断言した。

第32章
1 ① GS「プラット、パーリー・パーカー」
② マタ 11・28—30
2 ① ② 教義 3・18—20
3 ① ② 教義 28・8、30・5
② 教義 58・60、マタ 18・20、教義 6・32、38・7
4 ① ③ GS「弁護者」
② 1ニフ 15・25、教義 84・43—44
③ 教義 28・2
④ ジ—歴史 1・74
GS「理解」

1—4 十一時に福音を告げ知らせるために、働き人たちが召される。5—6 教会が設立され、選民が集められる。7—10 天の王国が近づいているので、悔い改めなさい。11—15 教会は福音の岩の上に建てられる。16—18 花婿が来られるときのために備えなさい。

1 見よ、わたしはあなたがた、すなわちわたしの僕、エズラとノースロップに言う。あなたがたの耳を開き、主なるあなたがたの神の声を聴きなさい。わたしの[1]言葉は生きていて、力があり、もろ刃の剣よりも鋭くて、関節と骨髄、精神と霊とを切り離すほどである。また、わたしは心の思いと志とを見分ける者である。

2 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはラッパ[1]の音のように声を上げ、曲がったよこしまな時代の人々にわたしの福音を告げ知らせるために召されている。

3 見よ、[1]畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。今は[2]十一時であり、わたしが働き人をわたしのぶどう園に呼び入れる[3]最後の時である。

4 わたしのぶどう園はことごとく[1]悪くなっており、[2]少数を除いて善を行う者はいない。また、彼らも[1]偽善売教のために度々過ちを犯す。すべての者が腐敗した心を持っているからである。

5 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはこの[1]教会を設け、荒れ野から呼び出した。

6 同じように、わたしは地の[1]四方からわたしの選民を、すなわち、わたしを信じてわたしの声に聞き従うすべての者を集めよう。

7 まことに、まことに、あなたがたに言う。畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、あなたがたの鎌を入れ、あなたがたの勢力と思いと力を尽くして刈り取りなさい。

8 あなたがたの[1]口を開きなさい。そうすれば、あなたがたの口は満たされるであろう。そして、あなたがたは、エルサレムを出て荒れ野を旅した昔のニーファイのようになるであろう。

9 まことに、あなたがたの口を開きなさい。惜しんではならない。そうすれば、あなたがたは背に束を積まれるであろう。見よ、わたしはあなたがたとともにいるからである。

10 まことに、あなたがたの口を開きなさい。そうす

第33章

1 (1) ヘブ4・12、ヒラ3・29—30
(2) アル18・32、教義6・16
2 (1) イザ58・1
3 (1) ヨハ4・35、教義4・4、12・3、14・3
(2) マタ20・1—16
ヤコ5・71、教義43・28
4 (1) GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
(2) 2ニフ28・2—14、モル8・28—41
(3) ロマ3・12、教義35・12
(4) GS「偽善売教」
(5) 2ニフ28・14
5 (1) GS「末日聖徒イエス・キリスト教会」
(2) GS「福音の回復」
6 (1) 2ニフ19・15—17
(2) GS「イスラエル—イスラエルの集合」
8 (1) 教義88・81
(2) 2ニフ1・26—28
9 (1) 詩篇126・6、アル26・3—5、教義75・5

れば、あなたがたの口は満たされて言うであろう。「悔い改めなさい。[1]悔い改めなさい。主の道を備え、その道筋をまっすぐにしなさい。天の王国が近づいているからである。

11 まことに、悔い改めなさい。そして、あなたがたは一人一人、自分の罪の赦しのために[1]バプテスマを受けなさい。まことに、水によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、その後、火と聖霊によるバプテスマが来る。」

12 見よ、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。これがわたしの[1]福音である。そして、人々はわたしを信じる信仰を持たなければならず、そうしなければ決して救われない、ということを覚えておきなさい。

13 この[1]岩の上に、わたしは、わたしの教会を建てよう。まことに、この岩の上にあなたがたは建てられる。そして、あなたがたが続けるならば、[2]地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない。

14 また、あなたがたは教会の[1]規定と聖約を覚えて、これらを守るようにしなければならない。

15 また、あなたがたは信仰を持っている人々を、わたしの教会で[1]按手によって[2]確認しなければならない。そうすれば、わたしは彼らに[3]聖霊の賜物を授けよう。

16 『モルモン書』と[1]聖文が、あなたがたを[2]教えるためにわたしから与えられている。また、わたしの御霊の力は万物を生かす。[3]

17 忠実であり、常に祈り、あなたがたのランプの芯を切りそろえて火をともし、油を備えて、[1]花婿が来るときに用意ができているようにしなさい。

18 見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはすぐに来る。[1]まことにそのとおりである。アーメン。

第34章

千八百三十年十一月四日、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してオーソン・プラットに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百二十七―百二十八ページ）。プラット兄弟は、当時十九歳であった。六週間前に、彼は兄パーリー・P・プラットが回復された福音を宣べ伝えるのを聞いて改宗し、バプテスマを受けた。この啓示は、ピータ

10 ①マタ3・1−3
11 ①GS「バプテスマ」
12 ①3ニフ27・13−22
13 ①GS「岩」
②マタ16・16−19、教義10・69−70
14 ①第20−22章を参照。
教義42・13
15 ①GS「按手」
②教義20・41
16 ①③GS「聖霊の賜物」
②2テモ3・16
③ヨハ6・63
17 ①マタ25・1−13、GS「花婿」
18 ①黙示22・20、GS「イエス・キリストの再臨」

ー・ホイットマー・シニアの家で与えられたものである。

1—4　忠実な者は贖罪によって神の子となる。5—9　福音を宣べ伝えることによって、再臨のための道が備えられる。10—12　預言は聖霊の力によって与えられる。

1 わたしの子オーソン[1]よ、主なる神であるわたし、すなわちあなたの贖い主であるイエス・キリストがあなたに言うことに耳を傾け、それを聞き、そして見なさい。

2 わたしは世の光[1]であり命である。暗闇の中に輝いている光である。そして、暗闇はそれを理解しない。

3 わたし[1]は自分の命を与えたほどにこの世を愛した[2][3]。それは信じるすべての者が神の子[4]となるためである。それゆえ、あなたはわたしの子である。

4 あなたは信じたので、幸い[1]である。

5 また、あなたはわたしの福音を宣べ伝えるために[1]わたしから召されているので、なおさら幸いである。

6 あなたはラッパの音のように長くかつ大きな声を上げ、曲がったよこしまな時代の人々に悔い改めを叫[1]んで、主の再臨[2]のために道を備えるように召されている。

7 見よ、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。わたしが力と大いなる栄光とをもって雲[1]の中を来る時[2]は、もう近づいている。

8 わたしの来臨の時に、それは大いなる日[1]となる。すべての国民がおののく[2]からである。

9 しかし、その大いなる日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血に変わり、星は光を放つのを拒み、落ちる星もある。そして、大いなる滅亡が悪人を待ち受けている。

10 それゆえ、あなたがたの声を上げなさい。惜しんではならない。主なる神が語ったからである。それゆえ、預言しなさい。そうすれば、それは聖霊[1]の力によって与えられるであろう。

11 あなたが忠実であれば、見よ、わたしが来るまで、わたしはあなたとともにいる。

12 まことに、まことに、あなたに言う。わたしはすぐに来る。わたしはあなたの主であり、あなたの贖い主である。まことにそのとおりである。アーメン。

第34章

1 ① GS「プラット、オーソン」
2 ① ヨハ 1・1—5、GS「光・キリストの光」
3 ① GS「贖い主」
② GS「贖い・贖う」「贖罪」
③ ヨハ 3・16、15・13、GS「愛」
④ ヨハ 1・9—12、ロマ 8・14、16—17、モセ 6・64—68、GS「神の息子、娘」
4 ① ヨハ 20・29
5 ① GS「召し・神の召し」
6 ① 教義 6・9
② GS「イエス・キリストの再臨」
7 ① ルカ 21・27
② 黙示 1・3
8 ① ヨエ 2・11、マラ 4・5、教義 43・17—26、GS「イエス・キリストの再臨」
② イザ 64・2
10 ① イザ 58・1
② 2 ペテ 1・21

第35章

千八百三十年十二月、ニューヨーク州フェイエットまたはその付近において、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百二十八―百三十一ページ）。当時、預言者はほとんど毎日、『聖書』の翻訳に従事していた。その翻訳は早くも千八百三十年六月には開始され、オリバー・カウドリとジョン・ホイットマーの二人が筆記者として働いてきた。今や彼らはほかの務めに召されたので、シドニー・リグドンが、この業において預言者の筆記者として働くように神の指名によって召された（第二十節を参照）。預言者はこの啓示の記録の前書きとして、次のように記している。「十二月に、シドニー・リグドンが主に尋ねるために（オハイオから）やって来た。また、彼とともにエドワード・パートリッジも来た。……これら二人の兄弟たちの到着後間もなく、主はこのように語られた。」（『教会歴史』第一巻、百二十八ページ）

1–2　人々が神の子となる方法。3–7　シドニー・リグドンは、バプテスマを施し、聖霊を授けるために召される。8–12　しるしと奇跡は信仰によって起こる。13–16　主の僕たちは御霊の力によってもろもろの国民を打ってえり分ける。17–19　ジョセフ・スミスは奥義の鍵を持つ。20–21　選民は主の来られる日に堪える。22–27　イスラエルは救われる。

1 主なるあなたがたの神[1]、すなわちアルパ[2]でありオメガであり、初めであり終わりであり、その道[3]が一つの永遠の環である者、昨日も、今日も、またとこしえに変わることのない者[4]の声を聴きなさい。
2 わたしは神の子イエス・キリストであり、世の罪のために、すなわちわたしの名を信じるすべての者の罪のために十字架[2]につけられた者である。それは、彼らが神の子となり、わたしが父にあって一つであり、父がわたしにあって一つであられるのと同様に、まことに彼らがわたしにあって一つとなり、わたしたちが一つとなるためである。
3 見よ、まことに、まことに、わたしの僕シドニーに言う。わたしはあなたとあなたの行いを見てきた。わたしはあなたの祈りを聞き、一つのさらに大いなる業のためにあなたを備えてきた。

第35章
1 ①GS「主」　②黙示1・8、GS「アルパとオメガ」　③1ニフ10・19、教義3・2　④ヘブ13・8、教義38・1–4、39・1–3
2 ①教義20・25、45・5、8　②GS「十字架の刑」　③GS「神の息子、娘」　④GS「神・神会」　⑤ヨハ17・20–23、GS「一致」

4 あなたは大いなることを行うので、祝福されている。見よ、あなたはヨハネのようにわたしの前に道を備えるために、またやがて来るエリヤ[2]の前に道を備えるために遣わされた。そして、あなたはそれを知らなかった。

5 あなたは悔い改めのために水によってバプテスマを施したが、人々は聖霊を受けなかった。[1]

6 しかし今、わたしはあなたに一つの戒めを与える。あなたは水によってバプテスマを施さなければならない。そうすれば、昔の使徒たちが行ったように、[2]按手によって人々は[3]聖霊を受けるであろう。

7 また、この地に、すなわち異邦人[1]の中に、一つの大いなる業が起こるであろう。彼らの愚かさと忌わしい行いが、すべての人の目に明らかにされるであろう。

8 わたしは神であり、わたしの腕は短くない。わたしの名を[2]信じるすべての者に、わたしは数々の奇跡[3]を[4]行い、耳の聞こえない者を聞こえるようにし、口の利けない者を話せるようにし、足の不自由な者を歩けるようにするであろう。

10 また、数々の大いなることが人の子らに示される時が、速やかに来る。

11 しかし、[1]信仰がなければ、[2]不貞に対する激しい怒りのぶどう酒をすべての国民に飲ませてきたバビロンの[1]荒廃のほかに、何事も示されないであろう。

12 また、わたしがこの時代の人々に送り出した、わたしの完全な福音を受け入れる備えのできた人々以外に、善を行う者は[1]だれもいない。

13 それゆえ、わたしは、わたしの御霊の力によってもろもろの国民を打ってえり分けるために、世の[2]弱い者たち、無学で見下されている者たちを呼ぶ。

14 そして、彼らの腕はわたしの腕となる。わたしは彼らの[1]盾となり、彼らの小盾となろう。わたしは彼らの腰に帯を締めよう。そして、彼らはわたしのために勇敢に戦うであろう。彼らの[2]敵は彼らの足に踏まれるであろう。また、わたしは彼らのために剣を[3]下し、わたしの憤りの[4]火によって彼らを守ろう。

15 また、[1]貧しい者と[2]柔和な者に福音が宣べ伝えら

---

4 ①マラ3・1、マタ11・10、1ニフ11・27、教義84・27—28　②3ニフ25・5—6、教義2・1、110・13—15
5 ①使徒19・1—6
6 ①GS「バプテスマ」　②GS「按手」　③GS「聖霊の賜物」
7 ①GS「異邦人」　イザ50・2、59・1
8 ①GS「信じる」　②GS「奇跡」　③GS「しるし」　④GS「癒し」
9 ①GS「信仰」　②マコ1・21—45　③マコ16・17
11 ①教義63・11—12　②黙示18・2—4　③GS「バビロン・バベル」
12 ①教義5・19—20　②ロマ3・10—12、教義33・4、38・10—11、84・49
13 ①1コリ1・27、教義1・19—23、124・1　②使徒4・13　③サ下22・2—3　④教義98・34—38、教義1・13—14
14 ①教義128・24　②マタ11・5　③GS「柔和」

れ、彼らはわたしの来臨の時を待ち望むであろう。それはもう近いからである。

16 彼らはいちじくの木のたとえを学ぶであろう。夏は今やすでに近いからである。

17 またわたしは、わたしの僕ジョセフの手によって、わたしの完全な福音を送り出した。また、わたしは彼を弱い状態にあって祝福した。

18 またわたしは、彼がわたしにつながっていることを条件に、封じられてきたそれらのこと、すなわち世の初めからあったことと、またこの時点からわたしの来臨までにあることの奥義の鍵を彼に与えた。もし彼がわたしにつながっていないならば、わたしは彼の代わりにほかの者を立てよう。

19 それゆえ、彼の信仰がなくならないように、彼を守りなさい。そうすれば、それは慰め主、すなわちすべてのことを知っている聖霊によって与えられるであろう。

20 また、わたしは一つの戒めをあなたに与える。あなたは彼のために書き記さなければならない。そうすれば、わたしの胸の内にあるままに聖文が授けられ、わたしの選民は救われるであろう。

21 彼らはわたしの声を聞き、わたしを見、また眠ることなく、わたしが来る日に堪えるであろう。わたしが清いように、彼らは清められるからである。

22 さて、わたしはあなたに言う。彼とともにとどまりなさい。そうすれば、彼はあなたとともに旅をするであろう。彼を見捨ててはならない。見捨てなければ、これらのことは必ず成就するであろう。

23 また、あなたが書き記さないときは、見よ、彼は預言することを許される。あなたはわたしの福音を宣べ伝え、また彼に言葉が与えられるままに、聖なる預言者たちを呼んで彼の言葉を証明しなければならない。

24 あなたがたが守る義務のあるすべての戒めと聖約を守りなさい。そうすれば、わたしはあなたがたのために天を震わせよう。そしてサタンはおののき、シオンはもろもろの丘の上で喜び、栄えるであろう。

25 イスラエルは、わたしがふさわしいと思うときに救われるであろう。わたしが与えた鍵によって彼らは導かれ、もはや決して乱されることはない。

26 心を高めて喜びなさい。あなたがたの贖いは近づ

---

15 ③ 教義39・23、45・39、モセ7・62
16 ① ④ 教義63・53 GS「時のしるし」 マタ24・32、教義45・36−38、ジーマタ1・38、
17 ① ② 教義135・3 ダニ12・9、マタ13・35、2ニフ27・10−11、エテ4・4−7、ジー歴史1・65
18 ① ② 教義42・12 ヨハ14・16、26、15・26、GS「慰め主、助け主」
19 ① ③ ② 教義128・18 教義84・19
20 ① ② 当時、預言者は啓示による『聖書』の翻訳に携わっており、シドニー・リグドンはそのための筆記者に召された GS「選民」 ヨエ2・11、教義43・17−25、88・90、133・50−51 ② GS「イエス・キリストの再臨」
21 ① ② 教義43・17−25、88・90、133・50−51 ② GS「イエス・キリストの再臨」 マラ3・2−3 ③ GS「清さ」 教義100・9−11
22 ① ④ 教義100・9−11 シドニー・リグドンが筆記に携わらないときは、の意
23 ① 聖文のこと 教義103・7 教義21・6 ② 1ニフ22・26 ③ GS「喜び」 GS「イスラエル」 イザ45・17、1ニフ22・12
24 ① ② 教義103・7 教義21・6 ② 1ニフ22・26 ③ GS「喜び」 GS「イスラエル」 イザ45・17、1ニフ22・12
25 ① ② GS「イスラエル」 イザ45・17、1ニフ19・15−16

いている。

27 小さい群れよ、恐れてはならない。わたしが来るまで、1)王国はあなたがたのものである。見よ、わたしはすぐに2)来る。まことにそのとおりである。アーメン。

第36章

千八百三十年十二月、ニューヨーク州フェイエットの近くで、預言者ジョセフ・スミスを通してエドワード・パートリッジに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百三十一ページ）（第三十五章の前書きを参照）。エドワード・パートリッジは「敬虔の模範であり、主の偉人の一人であった」（『教会歴史』第一巻、百二十八ページ）と、預言者は述べている。

1−3 主はシドニー・リグドンの手によって、エドワード・パートリッジに御手を置かれる。4−8 福音を受け入れて、神権を受けるすべての者は、出て行って宣べ伝えるように召される。

1 イスラエルの1)力ある者である主なる神は、このように言う。見よ、わたしはあなた、すなわちわたしの僕2)エドワードに言う。あなたは祝福されており、あなたの罪は赦されている。また、あなたはラッパの音のようにわたしの福音を宣べ伝えるために召されている。

2 わたしは、わたしの僕シドニー・リグドンの手によって、あなたにわたしの手を1)置こう。そうすれば、あなたは、わたしの御霊、聖霊、すなわち2)慰め主を受けるであろう。その慰め主は、王国にかかわる3)平和をもたらす事柄をあなたに教えるであろう。

3 そこで、あなたは、「ホサナ、いと高き神の御名がほめたたえられますように」と言い、大声で王国にかかわる事柄を告げなければならない。

4 わたしは今、すべての人について、次のような召しと戒めをあなたに与える。

5 この召しと戒めを受け入れて、わたしの僕であるシドニー・リグドンとジョセフ・スミス・ジュニアの前に来るすべての者は、1)聖任を受けて、もろもろの国民の中に永遠の福音を宣べ伝えるために遣わされなければならない。

6 悔い改めを叫び、「この曲がった時代から救われ

---

25 ③ GS「神権の鍵」
26 ① ルカ21・28
27 ① GS「神の王国・天の王国」
② 黙示22・20

第36章

1 ① GS「イエス・キリスト」「エホバ」
② 教義41・9−11
2 ① GS「按手」
② GS「聖霊」「慰め主・助け主」
③ 教義42・61
5 ① 教義63・57、GS「聖任」
② GS「宣べ伝える」
6 ① 使徒2・40

なさい。そして、火から出て来て、肉によって汚されたその衣さえも忌み嫌いなさい」と言いながら、宣べ伝えるのである。

7 この戒めをわたしの教会の長老たちに与えて、真心をもってこれを受け入れるすべての者が、わたしの語ったように、聖任されて遣わされるようにしなければならない。

8 わたしは神の子イエス・キリストである。それゆえ、あなたの腰に帯を締めなさい。わたしは突如わたしの神殿に来る。まことにそのとおりである。アーメン。

第37章

千八百三十年十二月、ニューヨーク州フェイエットの近くで、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百三十九ページ）。ここで、この神権時代における集合に関して最初の戒めが与えられる。

1–4 聖徒たちはオハイオに集まるように告げられる。

1 見よ、わたしはあなたがたに言う。オハイオに行くまで、あなたがたがこれ以上の翻訳をすることは、わたしにとって必要ではない。これは敵のゆえであり、またあなたがたのためである。

2 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの地方でわたしの福音を宣べ伝えるまで、そして教会のあるすべての所で、特にコールズビルで教会を強くするまで、出かけてはならない。見よ、彼らが深い信仰をもってわたしに祈っているからである。

3 さらにまた、一つの戒めをわたしは教会員に与える。わたしが必要としているのは、わたしの僕オリバー・カウドリが彼らのもとに帰るときに備えて、彼らがオハイオに集まることである。

4 見よ、ここに知恵がある。わたしが来るまで、各人に自ら選ばせなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

第38章

千八百三十一年一月二日、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与え

---

6 ② ユダ1・23
8 ① マラ3・1

第37章

1 ① すでに実施されている「聖書」の翻訳のこと
2 ① 教義24・3、26・1
3 ① オハイオ州。教義38・31–32
4 ① GS「選択の自由」

られた啓示（『教会歴史』第一巻、百四十—百四十三ページ）。このときは、教会の大会であった。

1—6 キリストが万物を創造された。7—8 キリストは聖徒たちの中におられる。聖徒たちは間もなくキリストにまみえる。9—12 すべての肉なるものはキリストの前に堕落している。13—22 キリストは、この世においても永遠にわたっても、御自分の聖徒たちのために約束の地を備えておられる。23—27 聖徒たちは一つとなるように、また兄弟として互いに尊び合うように命じられる。28—29 戦争が予告される。30—33 聖徒たちは高い所から力を授けられ、すべての国民の中に出て行かなければならない。34—42 教会は貧しい人と乏しい人の世話をするように、また永遠の富を求めるように命じられる。

1 主なるあなたがたの神は、このように言う。すなわち、イエス・キリスト、わたしは有るという大いなる者、アルパでありオメガであり、初めであり終わりであり、世界が造られる[3]前に[1]永遠の大いなる広がりと天の[5]すべてのこうごうしい衆群を見た者、

2 すべてのことが目の前にあるのですべてのことを知っている[2]者は、このように言う。

3 わたしは、言葉を発して、それで世界が造られ、万物がわたしによって存在するようになったその者である。

4 わたしは自分の懐にエノクのシオンを受け入れた者である。また、まことにわたしは言うが、わたしの名を信じたすべての者を受け入れた者である。わたしはキリストであり、わたし自身の名によって、またわたしが流した血によって、父の前で彼らのために弁護をしてきた。

5 しかし見よ、世の終わりに訪れる大いなる日の裁きまで、わたしは悪人の残りを暗闇の鎖にとどめてきた。

6 また、わたしの声を聞こうとせずに、心をかたくなにする悪人を、同じようにとどめておこう。彼らの不幸な行く末は、災いである、災いである、災いである。

7 しかし見よ、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの目はあなたがたのうえにある。わたしはあなたがたの中にいるが、あなたがた

第38章
1 ①① GS「わたしは有る」 ②③ 黙示1・8 ④ 詩篇90・2 ⑤ GS「前世」
2 ①⑤ 教義45・1 箴言5・21、2ニフ9・20 ② 教義88・41、モセ1・35、GS「全知」
3 ① 詩篇33・6—9、GS「創造、創造する」
4 ① 教義45・11—14、76・66—67、84・99—100、モセ7・18—21、JS創世14・25—40、GS「シオン」 ② 教義20・25、35・2、45・3—5
5 ①③ GS「贖罪」 ②② GS「最後の裁き」 ③ 2ペテ2・4、ユダ1・6、GS「地獄」
7 ①② 教義1・1、教義6・32、29・5

はわたしを見ることができない。

8 しかし、あなたがたがわたしを見て、[1]わたしのいることを知る日がすぐに来る。暗黒の幕が間もなく裂かれるからである。[2]清められていない者は、その日に堪えられないであろう。

9 それゆえ、腰に帯を締めて、備えなさい。見よ、[1]王国はあなたがたのものであり、そして敵は勝利を得ないであろう。

10 まことに、あなたがたに言う。あなたがたは[1]清いが、すべての者が清いわけではない。また、わたしが心から[2]喜んでいる者は、ほかにだれもいない。

11 すべての[1]肉なるものはわたしの前に堕落している。そして[2]闇の力は、天のすべての衆群の前において、人の子らの中で地上に広く及んでいる。

12 そのために、沈黙が支配し、すべて永遠なるものは[1]悲しんでいる。また[2]天使たちは、[3]毒麦を集めてそれを焼くために、地を刈り入れるようにとの大いなる命令を待っている。また見よ、敵は連合している。

13 さて、わたしは一つの秘密、すなわち、時がたってまことにあなたがたを[1]滅ぼすために密室で行われている一つの事柄をあなたがたに示そう。あなたがたはそれを知らなかった。

14 しかし今、わたしはあなたがたにそれを告げる。あなたがたは祝福されているが、それはあなたがたの罪悪のゆえでも、また不信仰の心のゆえでもない。まことにあなたがたのある者はわたしの前に罪悪があるが、それでもわたしは、あなたがたの弱さを憐れもう。

15 それゆえ、あなたがたは今から後、[1]強くありなさい。[2]恐れてはならない。王国はあなたがたのものだからである。

16 また、あなたがたの救いのために、わたしはあなたがたに戒めを与える。わたしはあなたがたの祈りを聞き、[1]貧しい者がわたしの前に訴えたからである。わたしは富んでいる[2]者を造った。すべての肉なるものはわたしのものであり、わたしは人を[3]偏り見ない者である。

17 わたしは地を豊かに造った。見よ、それはわたしの[1]足台である。それゆえ、わたしは再びその上に立とう。

18 わたしはさらに大いなる富、すなわち、主が来るときにまったくのろいのない一つの約束の地、乳と

---

8 ①黙示 22・4—5、GS「イエス・キリストの再臨」 ②GS「清さ」
9 ①③ルカ 6・20、GS「神の王国・天の王国」 ②マラ 3・2
10 ①GS「清いものと清くないもの」 ②教義 1・30
11 ①②イザ 1・3—4、教義 33・4 ②ミカ 3・6、教義 112・23、モセ 7・61—62
12 ①②教義 86・3—7 ③教義 88・94、101・65
13 ①④マタ 13・30 ⑤GS「刈り入れ」
15 ①GS「勇敢・勇気」 ②GS「畏れ・恐れ—人への恐れ」
16 ①モサ 4・16—18 ②③使徒 10・34、モロ 8・サ上 2・7
17 ①11—12、教義 1・34—35 2・7 1ニフ 17・39、アブ

蜜の流れる一つの地をあなたがたに差し出して授けよう。

19 あなたがたが一心に求めるならば、わたしはあなたがたの受け継ぎの地としてそれを与えよう。

20 これがあなたがたと交わすわたしの聖約である。すなわち、大地のあるかぎり、あなたがたはその地をあなたがたの受け継ぎの地として、またあなたがたの子孫の[1]受け継ぎとしていつまでも所有するであろう。また、あなたがたは再び永遠にそれを所有し、それはもう過ぎ去ることはないであろう。

21 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。やがてあなたがたは王も支配者も持たなくなる。わたしがあなたがたの[1]王となり、あなたがたを見守るからである。

22 それゆえ、わたしの声を聞いて、わたしに[1]従いなさい。そうすれば、あなたがたは[2]自由な民となり、わたしが来るときにわたしの律法のほかにどんな法も持たないであろう。わたしがあなたがたの[3]立法者だからである。何がわたしの手をとどめることができるであろうか。

23 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしがあなたがたを任命したその職に応じて、互いに[1]教え合いなさい。

24 各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように[1]尊び、わたしの前で[2]徳高く[3]聖くあるようにしなさい。

25 また重ねて、あなたがたに言う。各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊びなさい。

26 あなたがたの中に、十二人の息子を持っていて、彼らを決して偏り見ることなく、彼らから従順に仕えられているのに、息子の一人に「あなたは礼服を着てここに座りなさい」と言い、またほかの息子に「あなたはぼろを着てそこに座りなさい」と言い、息子たちを見て、「わたしは公平だ」と言う者がいるであろうか。

27 見よ、わたしはあなたがたに、これを一つのたとえとして告げた。これはまさにわたしのようである。わたしはあなたがたに言う。[1]一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。

28 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。密室の敵はあなたがたの[1]命をねらっている。

---

20 ① 教義45・58
21 ① ゼカ14・9、2ニフ10・14、アル5・50
22 ① ヨハ10・27
② GS「イエス・キリストーキリストによる福千年の統治」
③ イザ33・22、ミカ4・2、教義45・59
23 ① 教義88・77—79、118、122、GS「教える・教師」
24 ① 申命17・20、1コリ4・6
② 教義46・33、GS「徳」
27 ① ③ GS「聖い」
② ヨハ17・21—23、1コリ1・10、エペ4・11—14、3ニフ11・28—30、モセ7・18、GS「一致」
28 ① 教義5・33、38・13

29 あなたがたは遠くの国々における[1]戦争について聞くと、遠くの国々で間もなく大きな戦争があると言う。しかし、あなたがたはあなたがた自身の地における人々の心を知らない。

30 わたしはあなたがたの祈りにこたえて、これらのことをあなたがたに告げる。それゆえ、あなたがたの胸に[1]知恵を[2]蓄えなさい。人々の悪が、その悪事によって、地を震わす声よりも大きな声であなたがたの耳もとに語る方法で、あなたがたにこれらのことを明らかにすることのないようにするためである。しかし、備えていれば恐れることはない。

31 あなたがたが敵の力から逃れ、染みがなく、罪もない、義にかなった民としてわたしのもとに集められるために、

32 このために、わたしは、[1]オハイオへ行くようにという戒めをあなたがたに与えたのである。わたしはそこであなたがたにわたしの[2]律法を与えよう。あなたがたはそこで、高い所から[3]力を授けられるであろう。

33 そしてそこから、わたしの望む者が[1]すべての国民の中に出て行くであろう。また、彼らのなすべきことが、彼らに告げられるであろう。わたしには備えてある一つの大いなる業がある。イスラエルは[2]救われ、わたしは自分の望む所に彼らを導く。そして、どのような力もわたしの手をとどめ得ないであろう。

34 さて、わたしはこの地方の教会に戒めを与える。彼らの中のある人々を任命しなければならない。教会員の[1]声によって任命しなければならない。

35 これらの人は貧しい者と乏しい者の世話をし、彼らが苦しみを受けることのないように[1]必要なものを与え、わたしが命じた場所に彼らを送り出すようにしなければならない。

36 この教会の財産に関する諸事をつかさどることが、彼らの仕事となる。

37 また、売ることのできない農場を持っている者たちは、それをそのままにしておくか、賃貸するか、彼らがよいと思うままにしなさい。

38 気をつけて、すべてのものが保たれるようにしなさい。人々が高い所から[1]力を授けられて送り出されるときに、これらすべてのものは教会の懐に集められるであろう。

---

29 ①教義45・26、63、87・1—5、130・12
30 ①GS「知恵」 ②ジーマタ1・37
31 ①2ペテ3・14 ②教義37・3
32 ①教義42章 ②ルカ24・49、教義39・15、95・8、110・9—10 ③GS「伝道活動」
33 ①イザ45・17、エレ30・10、教義136・22 ②ダニ4・35
34 ①GS「同意の律法」
35 ①GS「福祉」
38 ①GS「エンダウメント」

39 また、父があなたがたに与えたいと望んでおられる富[1]を、あなたがたが求めるならば、あなたがたはすべての民の中で最も富んだ者になるであろう。あなたがたは永遠の富を持つからである。地の富[2]はわたしのものであり、わたしがそれを与えるのである。しかし、あなたがたは昔のニーファイ人[3]のようにならないよう、高慢[1]に気をつけなさい。

40 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに戒めを与える。長老も、祭司も、教師も、また会員も、すべての人がわたしの命じたことを準備して成し遂げるために、勢力を尽くし、その手の労苦[1]を尽くしなさい。

41 また、あなたがたの教え[1]を説くことが警告[2]の声となるように、各人がそれぞれ隣人に、穏やかに、かつ柔和に警告するようにしなさい。

42 あなたがたは悪人の中から出[1]なさい。あなたがた自身を救いなさい。主の器を担う者たちよ、清くありなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

第39章

千八百三十一年一月五日、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してジェームズ・コービルに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百四十三—百四十五ページ）。ジェームズ・コービルは、およそ四十年間バプテスト派の牧師を務めた人であるが、彼は主が預言者ジョセフを通して与えてくださる戒めには何でも従うと、主に聖約した。

1—4 聖徒たちは神の子となる力を持っている。**5—6** 福音を受け入れることは、キリストを受け入れることである。**7—14** ジェームズ・コービルは、バプテスマを受けて、主のぶどう園で働くように命じられる。**15—21** 主の僕たちは、再臨の前に福音を宣べ伝えなければならない。**22—24** 福音を受け入れる者は、この世においても永遠にわたっても集められる。

1 永遠[1]から永遠にわたって存在する者、わたしは有るという大いなる者、すなわちイエス・キリストの声に耳を傾け、聴きなさい。

2 わたしは世の光[1]であり命である。暗闇の中に輝いている光である。そして、暗闇はそれを理解しない。

3 わたしは時の中間[1]にわたしの民のところに来た

---

39 ①ヤコ2・17—19、教義11・7　②ハガ2・8　③モロ8・27　④GS「高慢」
40 ①1コリ4・12
41 ①GS「宣べ伝える」　②GS「警告」
42 ①イザ52・11
第39章
1 ①ヘブ13・8、教義20・12、35・1、38・1—4　②出エ3・14、GS「エホバ」
2 ①GS「光、キリストの光」
3 ①教義20・26、モセ6・57—62

者である。そして、民はわたしを受け入れなかった。

4 しかし、わたしは、わたしを受け入れたすべての者に、わたしの子となる力を与えた。またそのように、わたしを受け入れるすべての者に、わたしの子となる力を与えよう。

5 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの福音を受け入れる者はわたしを受け入れ、また、わたしの福音を受け入れない者はわたしを受け入れないのである。

6 そして、これこそわたしの福音である。すなわち、悔い改めと、水によるバプテスマ、その後、火と聖霊によるバプテスマがある。聖霊すなわち慰め主は、すべてのことを示し、王国にかかわる平和をもたらす事柄を教える。

7 さて見よ、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジェームズに言う。わたしはあなたの行いを見てきて、あなたを知っている。

8 まことに、わたしはあなたに言う。あなたの心は現在、わたしの前に正しい。また見よ、わたしはあなたの頭に数々の大いなる祝福を授けてきた。

9 それにもかかわらず、あなたはひどい悲しみに遭ってきた。それは、あなたが高慢と世の思い煩いのために、何度もわたしを拒んだからである。

10 しかし見よ、あなたがわたしの声を聴くならば、あなたの救いの日は来ている。わたしの声はあなたに言う。「わたしの名を呼び、立ってバプテスマを受け、あなたの罪を洗い清めなさい。そうすれば、あなたはわたしの御霊と、かつて知らなかったほどの大いなる祝福を受けるであろう。」

11 あなたがこれを行うならば、わたしは一つのさらに大いなる業のためにあなたを備えている。あなたは、わたしがこの終わりの時に送り出したわたしの完全な福音、すなわち、わたしがイスラエルの家に属するわたしの民を再び元に戻すために送り出した聖約を宣べ伝えるであろう。

12 そして、力があなたに宿るであろう。あなたは大いなる信仰を持ち、わたしはあなたとともにいて、あなたに先立って行くであろう。

13 あなたは、わたしのぶどう園で働き、わたしの教会を築き上げ、シオンをもたらして、シオンがもろもろの丘の上で喜び、栄えるようにするために召されている。

---

4 ①ヨハ 1・12、GS「神の息子、娘」
5 ①ヨハ 13・20
6 ①GS「悔い改め」「バプテスマ」「福音」 ②GS「聖霊」「再び生まれる」 ③教義 42・61
7 ①教義 40・1
9 ①マタ 13・22
10 ①教義 40・1—3、GS「バプテスマ」
11 ①GS「イスラエル—イスラエルの集合」
12 ①2コリ 12・9
13 ①マタ 20・1—16 ②イザ 52・8 ③教義 117・7

14見よ、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたは東の地方へ行くようには召されておらず、オハイオへ行くように召されている。
15わたしの民がオハイオに集まるならば、わたしは人の子らの間に知られていないほどの1)祝福を備えており、それは彼らの頭に注がれるであろう。そして、そこから人々はすべての2)3)国民の中に出て行くであろう。
16見よ、まことに、まことに、あなたに言う。オハイオの人々は、わたしがもろもろの国民に対するわたしの裁きの手をとどめると思い、深い信仰をもってわたしに呼び求めている。しかし、わたしは自分の言葉を否定し得ない。
17それゆえ、勢力を尽くして取りかかり、わたしのぶどう園に忠実な働き人を呼び入れて、最後の1)刈り込みが行われるようにしなさい。
18人々が悔い改めて、わたしの完全な福音を受け入れ、聖くなるならば、わたしは1)裁きの手をとどめよう。
19それゆえ、出て行き、大声で叫んで、「天の王国は近づいている」と言い、また、「ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられますように」と叫びなさい。
20出て行って水でバプテスマを施し、わたしの来臨1)の時のためにわたしの前に道を備えなさい。
21時が近づいているからである。その日、その時間は、だれも知2)らない。しかし、それは確かに来る。
22これらのことを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。彼らは、この世においても永遠にわたっても、わたしのもとに集められるであろう。
23さらにまた、あなたが水でバプテスマを施すべての者に、あなたは手1)を置かなければならない。そうすれば、彼らは2)聖霊の賜物を受け、わたしの来臨3)のしるしを待ち望むようになり、わたしを知るであろう。
24見よ、わたしはすぐに来る。まことにそのとおりである。アーメン。

第40章

千八百三十一年一月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百四十五

15①教義38・32、95・8、110・8—10
②教義1・2
③GS「伝道活動」
17①GS「伝道活動」
②ヤコ5・61—75、教義24・19
18①GS「イエス・キリスト—裁き」
20①GS「イエス・キリストの再臨」
21①マタ24・36
②ジーマタ1・40
23①GS「抜手」
②GS「聖霊の賜物」
②ペテ3・10—14
③黙示3・3、教義35・15、45・39—44
④

ページ）。預言者はこの啓示を記録するに先立ち、次のように記している。「ジェームズ・コービルが主の言葉を拒んで、彼の以前の信条と人々のもとに戻って行ったので、主はわたしとシドニー・リグドンに次の啓示を与えられた。」（『教会歴史』第一巻、百四十五ページ）

1—3 迫害の恐れと世の思い煩いは、福音を拒む原因となる。

1 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ジェームズ・コービル[1]の心は、わたしの前に正しかった。わたしの言葉に従うと聖約したからである。

2 そして、彼は喜んで御言葉を受け入れたが、サタンはすぐに彼を誘惑した。そして、[2]迫害の恐れと世の思い煩いが、彼に御言葉を拒ませた。[3]

3 それゆえ、彼はわたしの聖約を破った。そこでわたしは、わたしがよいと思うままに彼に行うことにする。アーメン。

第41章

千八百三十一年二月四日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して教会に与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百四十六—百四十七ページ）。当時、当教会のカートランド支部の会員数は急激に増加していた。預言者はこの啓示の前書きとして、次のように記している。「幾つかの奇妙な考えや偽りの霊が会員たちの間にひそかに入り込んでいたが、彼らは神の御心を知っている範囲内で行おうと努めていた。……（そこで）主は教会に次の啓示を与えられた。」（『教会歴史』第一巻、百四十六—百四十七ページ）

1—3 長老たちは、啓示の霊によって教会を治めなければならない。4—6 まことの弟子は、主の律法を受け入れて守る。7—12 エドワード・パートリッジが、教会のためにビショップに指名される。

1 耳を傾けて聞きなさい、おお、わたしの民よ。主であり、あなたがたの神である者は言う。わたしの語ることを聞く者よ、わたしはあなたがたを、すべ

第40章
1① 教義39・7—11
2① マコ4・16—19、GS
② 「迫害」マタ13・20—22、GS
③ GS「背教・背信」

ての祝福の中で最も大いなるものをもって祝福することを喜びとする。また、わたしの名を公言しながら、わたしの語ることを聞かない者よ、わたしはあなたがたを、あらゆるのろいの中で最も厳しいのろいをもってのろうであろう。

2 聴きなさい、おお、わたしが召したわたしの教会の長老たちよ。見よ、わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたはわたしの言葉について一致するために集まりなさい。

3 あなたがたは、わたしの教会を治める方法を知り、すべてのことをわたしの前に正すために、あなたがたの信仰の祈りによってわたしの律法を受けるであろう。

4 わたしが来るとき、わたしはあなたがたを治める者となる。見よ、わたしはすぐに来る。あなたがたは気をつけて、わたしの律法を守るようにしなければならない。

5 わたしの律法を受け入れて、それを行う者は、わたしの弟子である。また、律法を受け入れると言って、それを行わない者は、わたしの弟子ではなく、あなたがたの中から追い出されなければならない。

6 王国の子らに属するものを、ふさわしくない者や犬に与えることは良くないからである。すなわち、豚に真珠を投げ与えることは良くないからである。

7 さらにまた、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが住んで翻訳するための家を一軒建てるのは、適切なことである。

8 さらにまた、わたしの僕シドニー・リグドンは、わたしの戒めを守るならば、彼がよいと思うままに住むのは適切なことである。

9 さらにまた、わたしは、わたしの僕エドワード・パートリッジを召した。そして、戒めを与える。彼は教会員の声によって指名され、教会のためにビショップに聖任されなければならない。それは、彼が自分の商売をやめて、教会の仕事に全時間を費やし、

10 わたしが律法を授ける日に、その律法によって彼に定められるままにすべてのことを取り計らうためである。

11 これは、彼の心がわたしの前に清いからである。彼は心に偽りのない、昔のナタナエルのようである。

第41章

1 ①GS「祝福」
②教義56・1—4、112・24—26
③申命11・26—28、1ニフ2・23
2 ①GS「一致」
3 ①教義42章
4 ①GS「イエス・キリストの再臨」
②ゼカ14・9、教義45・59、GS「イエス・キリストによる福千年の統治」
5 ①マタ7・24
②新ヤコ1・22—25、教義42・60
③教義50・8—9、GS「破門」
6 ①マタ15・26
②マタ7・6
7 ①「聖書」の翻訳のこと。教義45・60—61
②教義42・71
9 ①教義36・1
②教義72・9—12、107・68—75、GS「ビショップ」
③教義51章
11 ①ヨハ1・47

12 これらの言葉はあなたがたに与えられており、わたしの前にあって清い。それゆえ、これらをどう扱うか、あなたがたは気をつけなさい。裁きの日に、あなたがたはこれらに対して責任を問われるからである。まことにそのとおりである。アーメン。

第42章

千八百三十一年二月九日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百四十八—百五十四ページ）。これは、十二人の長老たちの前で受けたもので、オハイオで「律法」が与えられると言われたかつての主の約束を果たすものである（第三十八章三十二節を参照）。預言者はこの啓示を、「教会の律法を含むもの」（『教会歴史』第一巻、百四十八ページ）と明記している。

1—10 長老たちは、福音を宣べ伝え、改心した人にバプテスマを施し、教会を築き上げるために召されている。11—12 彼らは召され、聖任され、聖文に見いだされる福音の原則を教えなければならない。13—17 彼らは御霊の力によって教え、預言しなければならない。18—29 聖徒たちは、殺さないように、盗まないように、偽りを言わないように、情欲を抱かないように、姦淫をしないように、ほかの人々の悪口を言わないように命じられる。30—39 財産の奉献に関する律法が明らかにされる。40—42 高慢と怠惰が非難される。43—52 病人は癒しの祝福と信仰によって癒しを受けなければならない。53—60 聖文は教会を律するものであり、世に宣言されなければならない。61—69 新エルサレムの場所と王国の奥義が示される。70—73 奉献された財産を教会役員の生活を支えるために使わなければならない。74—93 不貞、姦淫、殺人、盗み、罪の告白に関する律法が明らかにされる。

1 聴きなさい、おお、わたしの名によって、すなわち生ける神の子イエス・キリスト、世の救い主の名によって集まったわたしの教会の長老たちよ。あなたがたはわたしの名を信じ、わたしの戒めを守っているからである。

2 重ねて、わたしはあなたがたに言う。耳を傾けて聞き、わたしが与える[1]律法に従いなさい。

第42章
2① 教義58・23、GS「律法」

3 まことに、あなたがたに言う。あなたがたはわたしが命じた戒め[1]に従って集まり、この一つのことについて心を[2]一つにし、わたしの名によって父に求めてきたので、そのとおりに与えられるであろう。
4 見よ、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたにこの最初の戒めを与える。あなたがたは、わたしの僕であるジョセフ・スミス・ジュニアとシドニー・リグドンを除いて、一人残らずわたしの名によって出て行かなければならない。
5 また、わたしは彼らにも、しばしの間出て行くようにとの戒めを与える。そして、彼らがいつ帰るべきかは、[1]御霊の力によって知らされるであろう。
6 あなたがたはわたしの御霊の力をもって出て行き、[1]二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣べ伝え、ラッパの音のように声を上げ、神の天使のようにわたしの言葉を宣べなければならない。
7 また、あなたがたは出て行って水でバプテスマを施し、「悔い改めなさい。悔い改めなさい。天の王国は近づいているからである」と言わなければならない。
8 あなたがたはこの場所から西の地域に出て行かなければならない。そして、あなたがたを受け入れる人々を見いだしたら、それぞれの地域でわたしの教会を築き上げなければならない。
9 あなたがたが一つに[1]集められて、それによってあなたがたがわたしの[2]民となり、わたしがあなたがたの神となるために、[3]新エルサレムの[1]都がいつ備えられるかが高い所から示される時が来るまで、そのようにしなさい。
10 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕[1]エドワード・パートリッジは、わたしが任命した職において務めなければならない。もし彼が戒めに背くならば、彼の代わりに[2]別の者が任命されるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。
11 重ねて、わたしはあなたがたに言う。だれか[1]権能を持つ者によって[2]聖任され、そして権能を持っていることと、教会の長たちによって正式に聖任されたことが教会員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を[3]宣べ伝えるために出て行くこと、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない。
12 さらにまた、この教会の[1]長老と祭司と教師は、

3 ①教義38・32 ②マタ18・19
5 ①GS「聖霊」、マコ6・7、GS「伝道活動」
6 ①GS「イスラエル—イスラエルの集合」
9 ①②ゼカ8・8 ②③エテ13・2—11、教義45・66—71、84・2—5、モセ7・62、箇条1・10、GS「新エルサレム」 ③④教義57・1—2 ④教義41・9—11、124・19
10 ①②教義64・40 ②GS「権威・権限・権能」
11 ①GS「神権」 ②GS「聖任」、「召し・神の召し」 ③GS「宣べ伝える」
12 ①GS「長老」

『聖書』[2]と完全な福音[3]が載っている『モルモン書』[4]の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない。

13 また、彼らは聖約と教会の規定とを守って実行しなければならない。また、御霊に導かれるままに、これらを彼らの教えとしなければならない。

14 御霊は信仰の祈り[1]によってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊[2]を受けなければ、あなたがたは教えてはならない。

15 わたしの聖文[1]のすべてが与えられるまで、あなたがたの教えることについてわたしが命じたとおりに、以上のことをすべて守って行うようにしなければならない。

16 あなたがたは慰め主[1]によって声を上げるとき、わたしがよいと思うままに語り、預言するであろう。

17 見よ、慰め主はすべてのことを知っており、父と子のことを証するからである。

18 さて見よ、わたしは教会員に語る。あなたは殺し[1]てはならない。殺す者は、この世でも来るべき世でも、赦しを得られない。

19 また重ねて言う。あなたは殺してはならない。それでも殺す者は、死[1]ななければならない。

20 あなたは盗[1]んではならない。盗んで悔い改めようとしない者は、追い出されなければならない。

21 あなたは偽り[1]を言ってはならない。偽りを言って悔い改めようとしない者は、追い出されなければならない。

22 あなたは心を尽くして妻を愛し[1]、妻と結び合[2]わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。

23 情欲[1]を抱いて女を見る者は、信仰を否定するのであり、御霊を受けることはない。もしも悔い改めなければ、彼は追い出されなければならない。

24 あなたは姦淫[1]をしてはならない。姦淫をして悔い改めない者は、追い出されなければならない。

25 しかし、姦淫をしても、真心から悔い[1]改め、それを捨てて、再び行わない者を、あなたは赦[2]さなければならない。

26 しかし、再び[1]行うならば、赦されることはなく追い出される。

27 あなたは隣人の悪口[1]を言ったり、隣人に害を与えたりしてはならない。

---

12 ②GS「聖書」 ③④GS「福音」 ④GS「聖文＝聖文の価値」「モルモン書」 ⑤モサ18・19−20、教義52・9、36、GS「教える・教師」

14 ①教義63・64、GS「祈り」 ②GS「教える・教師」「御霊によって教える」

15 ①教義42・56−58、GS「聖霊」

16 ①1コリ2・10−14、教義68・2−4、GS「慰め主・助け主」

18 ①出エ20・13−17、マタ5・21−37、2ニフ9・35、モサ13・21−24、3ニフ12・21−37

19 ②GS「殺人」

20 ①GS「盗み」

21 ①GS「偽り」「正直」

22 ①GS「愛」「結婚」 ②創世2・23−24、エペ5・25、28−33

23 ①マタ5・28、3ニフ12・28、教義63・16、GS「欲望」

24 ①GS「姦淫」

25 ①GS「悔い改め」 ②ヨハ8・3−11、GS「赦し」

26 ①2ペテ2・20−22、教義82・7

27 ①GS「うわさ話」

28 あなたは、これらのことに関するわたしの律法がわたしの聖文の中に与えられていることを知っている。罪を犯して悔い改めない者は、追い出されなければならない。

29 あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え、わたしのすべての戒めを守るべきである。

30 また見よ、あなたは貧しい者を思い起こし、破ることのできない聖約と証書をもって、彼らに分け与える必要のある分を、彼らの扶養のためにあなたの財産のうちから奉献するであろう。

31 あなたがたが貧しい者に持ち物を分け与えるのは、すなわち、わたしにするのである。それらは、わたしの教会のビショップ、ならびに彼がその目的のために指名して任命する、あるいは指名して任命した、二人の長老または大祭司である顧問の前に置かなければならない。

32 それらをわたしの教会のビショップの前に置いた後、また、ビショップがわたしの戒めにかなって、それらを教会から取り去ることはできないという、わたしの教会の財産の奉献に関するこれらの証書を受け取った後、すべての人はわたしに対して責任を持ち、自分自身の財産、すなわち、奉献によって受け取った自分自身と家族に足りる分の財産の管理人とされる。

33 さらにまた、この最初の奉献の後、教会または教会のだれか個人の手に、自らの生活に必要な分以上の財産、すなわちビショップに奉献すべき残余があれば、持っていない人々に折々与えるためにそれを蓄えて、困窮しているすべての人が十分に供給を受け、彼らの入り用に応じて与えられるようにしなければならない。

34 それゆえ、残余はわたしの倉に蓄えておき、教会の高等評議会、およびビショップとその評議会が指定するままに、貧しい者と乏しい者に与えるために、35 また教会の公益のための土地を買い、礼拝の家を建て、この後啓示される新エルサレムを築くために使うようにしなければならない。

36 それは、わたしが神殿に来るその日に、わたしの聖約の民を一つに集めるためである。わたしがこれを行うのは、わたしの民を救うためである。

37 また、罪を犯して悔い改めない者は、教会から追い出されなければならず、彼がわたしの教会の貧し

---

28 ①GS「破門」
29 ①ヨハ 14・15、21 ②GS「奉仕」 ③GS「従順・従う」
30 ①モサ 4・16−26、アル 1・27、GS「貧しい」 ②GS「福祉」 ③GS「奉献・奉献の律法」
31 ①GS「貧しい」 ②モサ 2・17、GS「施し」 ③GS「ビショップ」 ④GS「任命」
32 ①教義 51・4 ②教義 72・3−11、GS「責任を負う」 ③教義 51・3 ④GS「管理人・管理人の職」
33 ①教義 42・55、51・13、119・1−3
35 ①GS「シオン」「新エルサレム」 ②マラ 3・1 ③教義 36・8 ④教義 41・5、50・8
37 ①GS「破門」

い者と乏しい者のために[2]奉献したもの、言い換えれば、
わたしにささげたものを、再び受けることはない。
38 あなたがたが[1]これらの最も小さい者にするのは、
すなわち、わたしにするのである。
39 わたしの預言者たちの口を通してわたしが語った
ことは成就する。わたしは、異邦人の中でわたしの
福音を心から受け入れる者の富を聖別し、イスラエ
ルの家に属するわたしの民の貧しい者に与えるから
である。
40 さらにまた、あなたは心の中で[1]高ぶってはならな
い。あなたの[2]衣服はすべて簡素で、その美しさはあ
なた自身の手の業の美しさであるようにしなさい。
41 また、すべてのことがわたしの前に清く行われる
ようにしなさい。
42 あなたは[1]怠惰であってはならない。怠惰な者は働
く者のパンを食べてはならないし、その衣服も着て
はならないからである。
43 また、あなたがたの中のだれかが[1]病気で、癒され
る信仰はないが主を信じているならば、優しさの限
りを尽くし、薬草と柔らかい食物によって養われる
ようにしなければならない。それが敵の手によって
行われることがあってはならない。
44 また、教会の二人またはそれ以上の長老を呼ん
で、わたしの名によって彼らのために祈り、彼ら
に[1]按手をするようにしなければならない。もしも彼
らが死ぬならば、彼らはわたしのために[2]死ぬのであ
り、また生きるならば、わたしのために生きるので
ある。
45 あなたは死ぬ者を失うことで[1]涙を流すほどに、ま
た特に、栄光ある復活の[2]望みがない者のために涙を
流すほどに、ともに[3]愛をもって[4]生活するようにしな
ければならない。
46 わたしにあって死ぬ者は[1]死を味わわないであろ
う。死は彼らにとって[2]甘いからである。
47 また、わたしにあることなく死ぬ者は、災いであ
る。彼らの死は苦いからである。
48 さらにまた、わたしによって[1]癒されるという[2]信仰
を持っていて、死に[3]定められていない者は、癒され
るであろう。
49 見る信仰を持つ者は、見るであろう。
50 聞く信仰を持つ者は、聞くであろう。
51 足の不自由な者で跳びはねる信仰を持つ者は、跳

---

37 ② GS「奉献・奉献の律法」
38 ① マタ25・34−40、GS「慈愛」「福祉」
40 ① 箴言16・5、GS「高慢」
② GS「慎み」
42 ① 教義68・30−32、GS「怠惰」
43 ① GS「病気」
44 ① GS「按手」「病人への癒しの祝福」
② ロマ14・8、黙示14・13、教義63・49
45 ① アル28・11−12
② 1コリ15・19−22、GS「希望」
③ GS「愛」
④ 1ヨハ4・16、20−21
46 ① GS「死（肉体の）」
② 黙示14・13
48 ① GS「癒し」
② 教義46・19、GS「信仰」
③ 伝道3・1−2、使徒17・26、ヘブ9・27、教義122・9

びはねるであろう。

52 また、このような信仰は持たないが、それでもわたしを信じる者は、わたしの子となる[1]力を持つ。彼らがわたしの律法を破らないかぎり、あなたは彼らの弱さを[2]負わなければならない。

53 あなたは、自分の[1]管理人の職の場に立たなければならない。

54 あなたは、兄弟の衣服を取ってはならない。あなたは、兄弟から受けるものに対して支払わなければならない。

55 自分の生活に必要な分よりも多く[1]得るならば、すべてのことがわたしの言ったとおりに行われるように、それをわたしの[2]倉に渡さなければならない。

56 あなたは求めなければならない。そうすれば、わたしが定めたように、わたしの[1]聖文が与えられるであろう。そして、それは安全に[2]保存されなければならない。

57 また、あなたはそれについて黙していて、そのすべてを受けるまで人々に教えないようにすることが必要である。

58 また、わたしはあなたがたに戒めを与える。それらを受けたならば、あなたがたはすべての人に教えなければならない。[1]すべての国民、部族、国語の民、民族に教えなければならない。

59 あなたは受けたこと、すなわち、わたしの聖文の中で律法として与えられたことを、わたしの教会を治めるわたしの律法として受け入れなければならない。

60 これらのことに従って[1]行う者は、救われるであろう。また、これらのことを行わない者は、もしもそれを続けるならば[2]罰の定めを受けるであろう。

61 あなたは求めれば、[1]啓示の上に啓示を、[2]知識の上に知識を受けて、数々の[3]奥義と平和をもたらす事柄、すなわち[4]喜びをもたらし永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。

62 あなたは求めなければならない。そうすれば、[1]新エルサレムがどこに建てられるかが、わたしがふさわしいと思うときにあなたに示されるであろう。

63 また見よ、わたしの僕たちは、東に、西に、北に、南に遣わされるであろう。

64 そして今や東に行く者は、改宗する者たちに教えて西へ逃れさせなさい。これは、地上に起ころうと

---

52 ①GS「神の息子、娘」 ②ロマ15・1、GS「フェローシップ」
53 ①GS「管理人・管理人の職」
55 ①教義82・17−19、119・1−3 ②教義42・34、51・13
56 ①②「聖書」の翻訳を指す。教義45・60−61 ②GS「聖文−聖文の価値」
58 ①教義1・2 ②教義41・5、GS「従順・従う」
60 ①②モセ5・15、GS「罰の定め」
61 ①GS「啓示」 ②アブ1・2、GS「証」「知識」 ③教義63・23、GS「神の奥義」 ④教義39・6
62 ①④GS「喜び」 ⑤教義57・1−5
64 ①教義45・64

していることと2)秘密結社のゆえである。
65 見よ、あなたはこれらのことをすべて守らなければならない。そうすれば、あなたの受ける報いは大きいであろう。あなたがたには王国の奥義を知ることが許されているが、世の人々には許されていない。
66 あなたがたは受けた律法を守り、忠実でなければならない。
67 あなたがたはこの後、この地と新エルサレムの両方であなたがたを確立するのに十分な、教会の1)聖約を数々受けるであろう。
68 それゆえ、1)知恵に不足している者はわたしに願い求めなさい。そうすれば、わたしはとがめもせずに惜しみなく与えるであろう。
69 心を高めて喜びなさい。あなたがたに1)王国、言い換えれば、教会の鍵が授けられたからである。まことにそのとおりである。アーメン。
70 1)祭司と2)教師は、会員と同じように自分の3)管理人の職を持たなければならない。
71 また、すべてのことについて顧問としてビショップを助けるように任じられている長老や大祭司は、前に述べたように、貧しい者のためと、ほかの目的のためにビショップに1)奉献された財産によって、自分の家族の養いを受けなければならない。
72 あるいは彼らは、顧問とビショップが最善であると考えまたは決定したとおりに、自分のすべての務めに対して、管理人の職またはほかの形で正当な報酬を受けなければならない。
73 ビショップもまた、教会での自分のすべての務めに対して、生活費または正当な報酬を受けなければならない。
74 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中のだれかが、1)不貞が原因でその伴侶を去らせたとき、言い換えれば、これが事実であることを彼らができるかぎりへりくだった心であなたがたの前に証言するとき、あなたがたは、彼らをあなたがたの中から追い出してはならない。
75 しかし、1)姦淫のために自分の伴侶を見捨てた者がいて、罪を犯したのが本人で、その伴侶がまだ生きていることをあなたがたが知ったならば、その者をあなたがたの中から2)追い出さなければならない。
76 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなた

---

64 ② GS「秘密結社」
67 ① 教義82・11−15
68 ① 新ヤコ1・5、GS「知恵」
69 ① GS「神の王国・天の王国」
② マタ16・19、教義65・2、GS「神権の鍵」
70 ① GS「祭司（アロン神権の）」
② GS「教師（アロン神権の）」
③ GS「管理人・管理人の職」
71 ① GS「奉献・奉献の律法」
74 ① GS「性的不道徳」「不貞」
75 ① GS「姦淫」
② GS「破門」

がたは十分に問い尋ねて用心深くまた注意深くあり、このような者が結婚していれば、彼らをあなたがたの中に受け入れないようにしなければならない。

77 また、結婚していなくても、このような者は罪をすべて悔い改めなければならない。そうでなければ、あなたがたはこのような者を受け入れてはならない。

78 さらにまた、キリストのこの教会に属している人は皆、教会のすべての戒めと聖約を守るように努めなければならない。

79 もしあなたがたのだれかが人を殺すならば、その者を引き渡し、その地の法律に従って処置することになる。彼は決して赦されないことを覚えておきなさい。また、それはその地の法律に従って立証しなければならない。

80 もしだれか男または女が姦淫をするならば、彼または彼女は、教会の二人またはそれ以上の長老たちの前で審理を受けなければならない。そして、彼または彼女に対するすべての言葉は、敵の証人によってではなく、教会の二人の証人によって確定しなければならない。二人以上の証人がいれば、もっとよい。

81 しかし、彼または彼女は、二人の証人の口によって罪に定められる。そして、長老たちはこの件を教会の前に持ち出し、教会員は彼または彼女に対して挙手をし、彼らが神の律法に従って扱われるようにする。

82 可能であれば、ビショップも出席することが必要である。

83 あなたがたの前に持ち出されるすべての件について、あなたがたはこのように行わなければならない。

84 もしある男または女が物を奪い取るならば、彼または彼女をその地の法律に引き渡さなければならない。

85 もしある男または女が盗むならば、彼または彼女をその地の法律に引き渡さなければならない。

86 もしある男または女が偽りを言うならば、彼または彼女をその地の法律に引き渡さなければならない。

87 もしある男または女が何らかの罪悪を犯すなら

---

76 ① GS「見守る・見守る者」
79 ① GS「殺人」
85 ① GS「盗み」
86 ① GS「偽り」「正直」

ば、彼または彼女を法、すなわち神の律法に引き渡さなければならない。

88 もしあなたの兄弟[1]または姉妹があなたに対して罪[2]を犯すならば、あなたは彼または彼女と二人だけで会い、そして、もし彼または彼女が告白[3]すれば、あなたは和解しなければならない。

89 もし彼または彼女が告白しなければ、あなたは彼または彼女を教会に、すなわち会員ではなく長老たちに引き渡さなければならない。それは一つの集会において行うべきもので、世の人々の前で行ってはならない。

90 もしあなたの兄弟または姉妹が多くの人に対して罪を犯すならば、彼または彼女は多くの人の前で懲らしめ[1]を受けなければならない。

91 もしだれかが公然と罪を犯すならば、彼または彼女が恥じるように、公然と責めなければならない。もし彼または彼女が告白しなければ、彼または彼女を神の律法に引き渡さなければならない。

92 もしだれかがひそかに罪を犯すならば、彼または彼女をひそかに責めなければならない。そのことによって、彼または彼女が、自分が罪を犯した相手と、神とに、ひそかに告白する機会を持てるようにして、教会員が彼または彼女についてとがめるような話をすることのないようにするためである。

93 あなたがたは、すべてのことについてこのように行わなければならない。

第 43 章

千八百三十一年二月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百五十四―百五十六ページ）。この当時、教会のある会員たちは、啓示を受けたと偽りの主張をする人々によって心を乱されていた。そこで預言者は主に尋ね、教会の長老たちにあてたこの教えを受けた。初めの部分には教会の方針についての事柄が取り上げられており、後の部分には、長老たちが地のもろもろの国民に伝えなければならない警告が挙げられている。

1–7 啓示と戒めは、任命された人を通してのみ与えられる。8–14 聖徒たちは、主の前に聖さを尽くして行動することによって聖められる。15–22 長老たち

88 ① GS「兄弟」「姉妹」
90 ①③② GS マタ 18・15–17
GS「告白」
GS「懲らしめ」

は、悔い改めを叫んで人々を主の大いなる日に備えさせるために遣わされる。23—28 主は御自分の声によって、また自然の力によって、人々に呼びかけられる。29—35 福千年が来て、サタンが縛られる。

1 聴きなさい、おお、わたしの教会の長老たちよ。わたしがあなたがたに語る言葉に耳を傾けなさい。
2 見よ、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、わたしの手から戒めと啓示を受けるようにあなたがたのためにわたしが任命した者を通して、わたしの教会のために律法として戒めを受けた。
3 あなたがたは、このことをよく知っておかなければならない。すなわち、もし彼がわたしにつながっているならば、彼が取り去られるまで、あなたがたのために戒めと啓示を受けるよう任命される者は彼のほかにだれもいない。
4 しかし、まことに、まことに、あなたがたに言う。彼によらずに、この賜物を受けるように任命される者はほかにだれもいない。もしもそれが彼から取り去られるならば、彼は、自分に代わる別の者を任命する力のほかに何も持たないであろう。
5 あなたがたへの律法はこれである。すなわち、あなたがたの前にやって来るだれかの教えを、あなたがたは啓示または戒めとして受け入れてはならない。
6 これをわたしがあなたがたに与えるのは、あなたがたが欺かれることのないため、またそれらの教えがわたしから出ていないことをあなたがたが知るためである。
7 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしから聖任を受ける者は、わたしが以前にあなたがたに告げたように、門から入って聖任を受けて、わたしが任命した者を通して受けた啓示を、また将来受ける啓示を教えるであろう。
8 さて見よ、わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたは集まるとき、どのように行動し、わたしの教会を導くか、またどのようにわたしが与えた律法と戒めの要点を実行するかを知ることができるように、互いに教え合い、教化し合わなければならない。
9 このようにして、あなたがたはわたしの教会の律

第43章
2 ①「啓示」GS「戒め（神の）」
3 ①② 教義42章
4 ①② ヨハ15・4
6 ① 教義28・2—3
7 ① 教義46・7、GS「欺き」
② GS「聖任」
8 ① マタ7・13—14、2ニフ9・41、31・9、17—18、3ニフ14・13—14、教義22・1—4
教義88・77

法に通じた者となり、あなたがたが受け入れたものによって聖められるのである。またあなたがたは、わたしの前に聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない。

10 あなたがたがこれを行うならば、あなたがたの受けた王国に栄光が加えられるであろう。あなたがたがそれを行わなければ、あなたがたの受けたものさえも取り去られるであろう。

11 あなたがたは、あなたがたの間にある罪悪を清めなさい。わたしの前に自らを聖めなさい。

12 あなたがたは王国の栄光を望むならば、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアを選び、信仰の祈りによってわたしの前で彼を支持しなさい。

13 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは王国の奥義を望むならば、彼に食物と衣服を与え、また、わたしが彼に命じた業を成し遂げるために必要とするすべてのものを与えなさい。

14 もしもあなたがたがそれを行わなければ、彼は自分を受け入れた人々のもとにとどまって、わたしが一つの清い民をわたし自身のためにわたしの前に残しておけるようにするであろう。

15 重ねて言う。わたしが任命したわたしの教会の長老たちよ、聴きなさい。あなたがたは教えを受けるためではなく、わたしが御霊の力によってあなたがたの手の中に置いたものを、人の子らに教えるために遣わされているのである。

16 あなたがたは高い所から教えを受けなければならない。自らを聖めなさい。そうすれば、あなたがたは力を授けられて、わたしが語ったように与えることができるであろう。

17 あなたがたは聴きなさい。見よ、主の大いなる日はもう近い。

18 主が天から声を発する日が来る。天は震え、地は揺れ動くであろう。神のラッパが長くかつ高く鳴り響いて、眠っているもろもろの国民に、「あなたがた聖徒よ、立ち上がって生きなさい。あなたがた罪人よ、わたしが再び呼ぶまで、そのまま眠っていなさい」と言うであろう。

19 それゆえ、あなたがたは悪人の中に見いだされることのないように、腰に帯を締めなさい。

20 あなたがたの声を上げなさい。惜しんではならない。もろもろの国民に、老いた者にも、若い者にも、

---

9 ① GS「聖め」
10 ① アル12・10
② マコ4・25
11 ① GS「罪」
12 ① GS「支持（教会指導者の）」
13 ① GS「神の奥義」
14 ① GS「清さ」
15 ① GS「教える・教師−御霊によって教える」
16 ① GS「伝道活動」
② GS「霊感」
③ GS「聖め」
ルカ24・49、教義38・32、95・8−9、110・8−10
17 ① マラ4・5、教義2・1、34・6−9
② 教義29・8、GS「イエス・キリストの再臨」
18 ① 教義133・ヨエ2・11
② ヨエ2・10、3・16、教義45・48
③ 教義88・87
④ 教義29・13、45・45
⑤ GS「復活」
⑥ 教義76・85、88・100−101
⑦ モル9・13−14

束縛された者にも、自由な者にも、悔い改めを呼び
かけて言いなさい。「主の大いなる日のために、自
らを備えなさい。
21 人間であるわたしが声を上げてあなたがたに悔い
改めを呼びかけ、そのことであなたがたがわたしを
憎むならば、やがて[1]雷が地の果てから声を発して、
『悔い改めよ。主の大いなる日のために備えよ』と、
生きているすべての者の耳に告げる日が来るとき、
あなたがたは何と言うつもりか。
22 さらにまた、稲妻が東から西に走り、生きている
すべての者に向かって声を発し、聞くすべての者の
耳を鳴らして、『悔い改めよ。主の大いなる日が来た
からである』というこれらの言葉を告げる日が来る
とき、あなたがたは何と言うつもりか。」
23 さらにまた、主は天から声を発して言うであろ
う。「聴きなさい、おお、地のもろもろの国民よ。あ
なたがたを造った神の言葉を聞きなさい。
24 おお、地のもろもろの国民よ、[1]めんどりが羽の下
にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度
集めようとしたことか。しかし、あなたがたは[2]応じ
ようとしなかった。

25 わたしの[1]僕たちの口により、また[2]天使たちの働き
により、またわたし自身の声により、また雷の声に
より、また稲妻の声により、また暴風雨の声により、
また地震と雹を伴う大嵐の声により、また[3]飢饉とあ
らゆる疫病の声により、またラッパの大きな音によ
り、また裁きの声により、また終日続く[4]憐れみの声
により、また栄光と誉れと永遠の命の富の声によ
り、わたしはあなたがたを幾度[5]呼び、[6]永遠の救いを
もってあなたがたを幾度救おうとしてきたことか。
しかし、あなたがたは応じようとしなかった。
26 見よ、わたしの憤りの激しい怒りの杯が満ちる日
は来た。
27 見よ、まことに、あなたがたに言う。これは主な
るあなたがたの神の言葉である。」
28 それゆえ、あなたがたは働きなさい。あなたがた
はわたしのぶどう園で最後の[1]働きをしなさい。地に
住む者に最後の呼びかけをしなさい。
29 わたしはふさわしいときに、裁きのために地上
に[1]来る。そして、わたしの民は贖われ、わたしとと
もに地上を治めるであろう。
30 わたしが僕たちの口を通して語った、大いなる[1]福

21 ① 2ニフ27・2、教義88・90
24 ① マタ23・37、3ニフ10・4－6
② GS「背く」
25 ① マタ23・34、GS「預言者」
② 教義7・6、130・4－5
③ エレ24・10、アモ4・6、教義87・6、ジーマタ1・29
④ GS「憐れみ」
⑤ ヒラ12・2－4
⑥ GS「永遠の命」「救い」
28 ① ヤコ5・71、教義33・3、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
29 ① GS「イエス・キリストの再臨」
30 ① GS「福千年」

千年が来る。
31 そして、サタン[1]は縛られる[2]。また、彼は再び解放
されると、しばしの間[3]だけ支配し、その後地球の終[4]
わりが来る。
32 義[1]のうちに生活する者は一瞬のうちに変[2]えられ、
地球は火によるかのごとくに過ぎ去るであろう。
33 悪人は消すことのできない火[1]の中に入るであろ
う。彼らの末路を、地上の人はだれも知らず、彼ら
が裁[2]きのためにわたしの前に来るまで決して知らな
いであろう。
34 あなたがたはこれらの言葉を聴きなさい。見よ、
わたしは世の救い主[1]イエス・キリストである。これ
らのことをあなたがたの心の中に大切に蓄[2]えておき
なさい。永遠の厳粛[3]さを心[4]にとどめなさい。
35 まじめ[5]でありなさい。わたしの戒めをすべて守り
なさい。まことにそのとおりである。アーメン。

第44章

千八百三十一年二月下旬、オハイオ州カートランド
において、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグ
ドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百五十七
ページ）。この中で述べられている要件に従って、教
会は来る六月の初めに大会を催すことを決定した。

1−3 長老たちは大会に集まらなければならない。
4−6 彼らはその地の法律に従って組織を作り、貧し
い人の世話をしなければならない。

1 見よ、主はあなたがた、すなわち、わたしの僕た
ちにこのように言う。わたしが必要としているの
は、わたしの教会の長老たちが手紙やそのほかの
方法で、東から、西から、北から、南から呼び集め
られることである。
2 彼らが忠実であり、わたしを信じる信仰を働か
せるならば、わたしは、彼らが集まる日にわたしの御[1]
霊を注ごう。
3 それから、彼らは周りの地域に出て行き、人々に
悔い改めを宣[1]べ伝えなければならない。
4 そして、多くの人が改宗[1]するので、あなたがたは
人間の法律[2]に従って自らを組織する力を得るであろ
う。
5 それは、あなたがたの敵[1]があなたがたを支配する

31 ① 1ニフ22・26、GS「悪魔」
② 教義45・55、84・100、88・110
③ 黙示20・3、ヤコ5・77、教義29・22
④ GS「世−世の終わり」
32 ① GS「義」
② 1コリ15・51−52、教義63・51、101・31、GS「復活」
33 ① マタ3・12
② GS「イエス・キリスト−裁き」
34 ① GS「救い主」
② ジーマタ1・37
③ 教義84・61、100・7−8
④ GS「思い・心」
⑤ GS「深く考える」
35 ① ロマ12・3、教義18・21

第44章
2 ① 使徒2・17
3 ① GS「宣べ伝える」
4 ① GS「改宗」
② 教義98・5−7
5 ① 2ニフ4・33

力を持たないようにするため、またあなたがたがあらゆる点で守られるため、またあなたがたがわたしの律法を守ることができるようになるため、また敵がわたしの民を滅ぼそうとして立てたあらゆる盟約が打ち破られるためである。

6 見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは貧しい者と乏しい者を訪れ、彼らに必要なものを与えて、あなたがたの受けたわたしの律法に従ってすべてのことが行われるまで、彼らを守るようにしなければならない。アーメン。

第45章

千八百三十一年三月七日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して教会に与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百五十八—百六十三ページ）。預言者はこの啓示の記録の前書きとして、次のように述べている。「教会のこの時代に、人々が御業を研究するのを、あるいは信仰を受け入れるのを妨げようとして、多くの偽りの記事や愚かな作り話が出版されたり、流布されたりした。……しかし……聖徒たちにとって喜ばしいことに、わたしは次の啓示を受けた。」（『教会歴史』第一巻、百五十八ページ）

1—5 キリストは御父に対するわたしたちの弁護者である。6—10 福音は主の前に道を備える使いである。11—15 エノクとその同胞は、主によって主御自身のもとに受け入れられた。16—23 キリストは、オリブ山で述べられたように、御自分の来臨のしるしを示された。24—38 福音は回復され、異邦人の時は満ち、荒廃をもたらす病気が地を覆う。39—47 しるしと不思議と復活が再臨に伴う。48—53 キリストはオリブ山に立たれ、ユダヤ人はキリストの手足の傷を見る。54—59 主が福千年の間治められる。60—62 預言者は『新約聖書』の翻訳を始めるように指示され、それによって重要な事柄が知らされる。63—75 聖徒たちは、集まって新エルサレムを建てるように命じられる。そこには、すべての国から人々がやって来る。

1 聴きなさい、おお、[1]王国を与えられたわたしの教会の人々よ。聴きなさい。地の基を据え、もろもろの天と天の万物を[3]造り、生きて、動いて、存在している万物を造った者の言葉に耳を[2]傾けなさい。

---

6 ①新ヤコ1・27、GS「哀れみ」「福祉」

第45章
1 ①教義50・35 ②GS「イエス・キリストの教会」 ③エレ14・22、3ニフ9・15、教義14・9、GS「創造、創造する」

2 さらにまた、わたしは言う。[1]死があなたがたを捕
らえることのないように、わたしの声に聞き従いな
さい。あなたがたの[2]思いがけないときに、夏が過ぎ
去り、[3]刈り入れが終わり、あなたがたが救われない
ということのないように。
3 父に対する[1]弁護者であって、父の前であなたがた
のために弁じる者の言葉を聴きなさい。
4 すなわち、「父よ、[1]罪を犯したことがなく、あなた
が御心にかなうとされた者の、[2]苦しみと死を御覧く
ださい。あなたの子が流した血、すなわち、あなた
御自身が[3]栄光を受けるために、あなたがお与えにな
った者の血を御覧ください。
5 そのために、父よ、わたしの名を[1]信じるこれらわ
たしの兄弟たちが、わたしのもとに来て[2]永遠の命を
得られるように、彼らをお救いください」と。
6 聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ。長老
たちよ、ともに聴きなさい。[1]今日と呼ばれる間に、
わたしの声を聞きなさい。そして、心をかたくなに
してはならない。
7 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは
[1]アルパでありオメガであり、初めであり終わりであ
り、世の光であり命である。わたしは暗闇の中に輝
いている[2]光である。そして、暗闇はそれを理解しな
い。
8 わたしは自分の民のところに来たのに、民はわ
たしを受け入れなかった。しかし、わたしを受け入
れたすべての者に、わたしは多くの[1]奇跡を行う[2]力
と、[3]神の子となる力を与えた。まことに、わたしの
名を[4]信じる者に、わたしは[5]永遠の命を得る力を与え
た。
9 まことにそのように、わたしの[1]永遠の[2]聖約を世に
送って、世の光とし、またわたしの民とそれを求め
る[3]異邦人のための[4]旗とし、さらにわたしに先立ち、
わたしの前に道を備える[5]使者とする。
10 それゆえ、あなたがたはそのもとに来なさい。そ
うすれば、昔の人々と論じたように、わたしはやっ
て来る者と論じよう。そして、わたしは[1]力強い論拠
をあなたがたに示そう。
11 それゆえ、あなたがたはともに聴きなさい。わた
しはあなたがたに、まことにわたしの知恵を、すな
わち、[1]エノクとその同胞の神であるとあなたがたが
言う者の知恵を示してみせよう。

---

2 ① アル34・33−35
② マタ24・44
③ エレ8・20、教義56・16、GS「刈り入れ」
3 ① 教義62・1、GS「弁護者」
4 ① ヘブ4・15
② 教義19・18−19、GS「贖罪」
③ ヨハ12・28
5 ① 教義20・25、35・2、38・4
② ヨハ3・16
6 ① ヘブ3・13、教義64・23−25
7 ① 黙示1・8、21・6、教義19・1
② ヨハ1・5
8 ① GS「奇跡」
② マタ10・1、GS「力」
③ GS「神の息子、娘」
④ GS「信仰」「信じる」
⑤ 教義14・7
9 ① GS「新しくかつ永遠の聖約」
② エレ31・31−34、モル5・20
③ イザ42・6、2ニフ10・9−18
④ 2ニフ29・2
⑤ マラ3・1
10 ① イザ41・21、教義50・10−12
11 ① モセ7・69

12 エノクとその同胞は地から分けられて、わたし自身のもとに受け入れられた。それは、義の日が来るまで残しておかれる町である。その日はすべての聖なる人々が捜し求めた日であるが、悪事と忌まわしい行いのゆえに、彼らはその日を見いださなかった。

13 彼らは自分たちが地上における寄留者であり旅人であることを告白したが、

14 その日を見いだして肉体にあってそれを見るであろうとの約束を得た。

15 それゆえ、聴きなさい。わたしはあなたがたと論じ、昔の人々に行ったようにあなたがたに語り、預言しよう。

16 わたしは肉体にあってわたしの弟子たちの前に立ち、彼らに語りながら示したように、分かりやすくそれを示そう。「あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた約束を果たすために栄光をもって天の雲の中を来る日の、わたしの来臨のしるしについて尋ねた。

17 あなたがたがそれについて尋ねたのは、自分の霊が体から長い間離れていることを一つの束縛と考えてきたからである。そこで、わたしは贖いの日がどのように来るか、また散らされたイスラエルの回復がどのように起こるかをあなたがたに示そう。

18 さて、あなたがたは、エルサレムにある、あなたがたが神の宮と呼んでいるこの神殿を見ている。また、あなたがたの敵は、この宮は決して倒れないと言う。

19 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。夜の盗人のように、荒廃が今の時代の人々に及ぶであろう。そして、この民は滅ぼされ、またすべての国民の中に散らされるであろう。

20 また、あなたがたが今見ているこの神殿は、一つの石が他の石の上に残ることのないように崩されるであろう。

21 そして、わたしがあなたがたに告げた荒廃がことごとく起こるまで、この時代のユダヤ人は世を去らないであろう。

22 あなたがたは、世の終わりが来ることを知っていると言う。あなたがたはまた、天地が過ぎ去ることも知っていると言う。

---

12 ① JS創世14・30—34、教義38・4、モセ7・62—64、GS「シオン」
13 ① ②ヘブ11・13、1ペテ2・11
14 ① ヘブ11・8—13、モセ7・63
16 ① マタ24章、ルカ21・7—36、ジ—マタ1章
② GS「イエス・キリストの再臨」
17 ① GS「霊」教義138・50
② ③ 1ニフ10・12—14、GS「イスラエルーイスラエルの散乱」
④ GS「イスラエルーイスラエルの集合」
22 ① GS「世ー世の終わり」

23 これについて、あなたがたは真実を述べている。そのとおりだからである。しかし、すべてが成就するまで、わたしがあなたがたに告げたこれらのことは過ぎ去ることがない。

24 わたしはエルサレムに関して、以上のことをあなたがたに告げておく。その日が来ると、残りの者はすべての国民の中に散らされるであろう。[1)ち]

25 しかし、彼らは再び集められる。それでも、異邦人の時が満ちるまで、彼らはそのまま残るであろう。[1)あつ]

26 その日、戦争と戦争のうわさが聞かれ、全地が混乱し、人々は気落ちするであろう。また、人々は、世の終わりまでキリストは来臨を延ばされると言うであろう。[1)]

27 人々の愛が冷え、不法がはびこるであろう。

28 また、異邦人の時が来ると、暗闇に座する者たちの間に光がさすであろう。それはわたしの完全な福音である。

29 しかし、彼らはそれを受け入れない。彼らはその光に気づかず、また人の訓戒のゆえに、わたしから心をそらすからである。

30 そして、その時代に異邦人の時は満ちる。

31 また、その時代に生きていて、あふれる懲らしめを見るまで世を去らない人々がいる。荒廃をもたらす病気が地を覆うからである。

32 しかし、わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち、動かされない。しかし、悪人の中では、人々が声を上げ、神をのろって死ぬであろう。[2)]

33 また、方々に地震もあり、また多くの荒廃もある。それでも、人々はわたしに対して心をかたくなにし、互いに剣を取り、殺し合う。」[2)つるぎ]

34 さて、主なるわたしがこれらの言葉を弟子たちに語り終えると、彼らは心配した。

35 そこで、わたしは彼らに言った。「心配することはない。これらすべてのことが起こるとき、あなたがたは、与えられた約束が果たされることが分かるからである。

36 そして、光がさし始めると、それは彼らにとって、わたしがあなたがたに示すたとえのようになる。

37 すなわち、あなたがたは[1)]いちじくの木を眺めて見る。あなたがたは自分の目でそれを見る。そして、いちじくの木が芽吹き始め、その葉がまだ柔らかい

---

24 (1) 2ニフ25・15
25 (1) ネヘ1・9、イザ11・12−14、1ニフ22・10−12、2ニフ21・12−14
26 (1) (2) ルカ21・24
GS「終わりの時・末日」(2)
教義87章、ジーマタ1・23
28 (1) (3) ルカ21・26
2ペテ3・3−10
1ニフ15・13
(2) GS「光・キリストの光」
「福音の回復」
29 (1) ヨハ1・5
(2) 教義3・6−8、46、ジー歴史1・19
31 (1) (3) マタ15・8−9
教義5・19−20、97・7
(2) 教義101・21−22、64
32 (1) 黙示16・11、21
教義43・18、88・87
33 (1) (2) 教義63・33
35 (1) (2) マタ24・6
マコ13・28、ルカ21・9−90
37 (1) 29−31

と、夏がもう近いと、あなたがたは言う。
38 同じように、人々はこれらすべてのことを見るその日に、時が近いことを知るであろう。
39 そして、わたしを畏れる者は、主の大いなる日[2]が来るのを、すなわち人[3]の子の来臨のしるし[4]を待ち望[5]むであろう。
40 彼らは数々のしるしと不思議を見るであろう。これらは、上は天に、下は地に示されるからである。
41 彼らは血と、火[1]と、立ち込める煙を見るであろう。
42 また、主の日が来る前に、太陽[1]は暗くなり、月は血に変わり、星は天から落ちるであろう。
43 また、残りの者はこの場所に集められるであろう。
44 そのとき、彼らはわたしを待ち望むであろう。見よ、わたしは来る。そして彼らは、天の雲の中に、力と大いなる栄光[1]とをまとって、すべての聖なる天使たちとともにいるわたしを見るであろう。また、わたしを待ち受け[2]ない者は絶たれるであろう。
45 しかし、主の腕が下る前に、一人の天使[1]がラッパを吹き鳴らし、眠っていた聖徒たちは雲[2]の中でわたしに会うために出て[3]来る。
46 さて、あなたがたは安らか[1]に眠っていたならば、幸いである。なぜなら、今わたしを見て、わたしがいることを知っているように、あなたがたはわたし[2]のもとに来て、生きて、[3]あなたがたの贖いは完成されるからである。また、聖徒たちは地の四方から出て来るであろう。
47 それから、主の腕[1]がもろもろの国民に下る。
48 そしてその後、主はこの山[1]の上に足を置く。[2]すると、これは二つに裂ける。また、地は揺れ動き、あちらこちらとよろめき、また天も震[3]える。
49 また、主は声を発し、地の果てに至るすべての者がそれを聞く。そして、地のもろもろの国民は嘆き悲しみ、笑った者たちは自分の愚かさを知るであろう。
50 災いがあざ笑った者を覆い、あざける者は焼き尽くされるであろう。また、罪悪の機をうかがう者は、切り倒されて火の中に投げ込まれるであろう。
51 それから、ユダヤ[1]人はわたしを見て、『あなたの両手と両足のこの傷は何ですか』と言う[2]であろう。
52 そのとき、彼らはわたしが主であることを知る。わたしは、『この傷は、わたしの友の家で負った傷で

---

39 ①教義 10・55−56、GS「畏れ・恐れ−神への畏れ」「従順・従う」
②GS「イエス・キリストの再臨」
③GS「人の子」
④GS「時のしるし」
⑤2ペテ 3・10−13、教義 35・15−16、モセ 7・62
41 ①教義 29・21、97・25
42 ①ヨエ 2・10、黙示 6・12、教義 88・87、133・49
44 ①GS「イエス・キリスト−栄光」
②マタ 24・43−51、マコ 13・32−37
45 ①教義 29・13、43・18
②1テサ 4・16−17
③教義 88・96−97、GS「復活」
46 ①アル 40・12
②イザ 55・3
③GS「永遠の命」
47 ①教義 1・12−16
48 ①ゼカ 14・4
②教義 43・18、88・87
③ヨエ 3・16、教義 49・26
49 ①教義 87・6
51 ①GS「ユダヤ人」
②ゼカ 12・10
52 ①ゼカ 13・6

ある。わたしは上げられた者である。[2]十字架につけられたイエスである。神の子である』と彼らに言うからである。

53 そのとき、彼らは自分たちの犯した罪悪のゆえに[1]涙を流す。そのとき、彼らは自分たちの[2]王を迫害したので、嘆き悲しむであろう。

54 それから、[1]異教の諸国民が贖われる。そして、律法を知らなかった者は第一の[2]復活にあずかる。彼らはそれに堪えられるであろう。[3]

55 また、サタンは[1]縛られて、[2]人の子らの心の中に決して場所を得られないであろう。

56 わたしが栄光のうちに来るその日に、[1]わたしが十人の[2]おとめについて語ったたとえは成就するであろう。

57 賢くて、[1]真理を受け入れ、自分の[2]導き手として聖なる御霊を受け、そして[3]欺かれなかった者、すなわち、まことにわたしはあなたがたに言うが、彼らは切り倒されて火の[1]中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。

58 そして、[1]地球は[2]受け継ぎとして彼らに与えられる。彼らは増えて強くなり、その子孫は罪のないまま成長して[3]救いを得るであろう。[4]

59 主は彼らの[1]中にあり、主の栄光は彼らのうえにあり、主は彼らの王となり、[2]立法者となるからである。」

60 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。『[1]新約聖書』が翻訳されるまで、この章についてこれ以上知ることは許されないが、その『新約聖書』の中で、これらすべてのことが知らされるであろう。

61 それゆえ、あなたがたが来るべきことのために備えられるように、わたしはあなたがたが今それを翻訳できるようにする。

62 まことに、わたしはあなたがたに言う。大いなることがあなたがたを待ち受けている。

63 あなたがたは諸外国における[1]戦争について聞いている。しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。それは近く、あなたがたの戸口まで近づいている。これから多くの年を経ずに、あなたがたは、あなたがた自身の地における戦争について聞くであろう。

64 それゆえ、主なるわたしは言ったのである。あなたがたは[1]東の地から集まりなさい。あなたがた、わたしの教会の長老たちは集まりなさい。あなたが

---

52 ② GS「十字架の刑」
53 ① 黙示1・7
② ルカ23・38、ヨハ19・3、14−15
54 ① エゼ36・23、39・21
② GS「復活」
③ 教義75・22
55 ① GS「悪魔」
② 黙示20・2、1ニフ22・26、教義43・31、88・110
56 ① GS「イエス・キリストの再臨」
② マタ25・1−13、教義63・54
57 ① GS「真理」
② GS「聖霊」
③ ジーマタ1・37
④ 教義29・7−9、63・34、64・23−24、101・22−
58 ① GS「福千年」
② マタ5・5
③ 教義63・51、101・29−31
④ GS「救い」
59 ① 教義29・11、104・59
② 創世49・10、ゼカ14・9、教義38・21−22
60 ① GS「ジョセフ・スミス訳（JS）」。「聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）」も参照
② 教義38・29、87・1−5、130・12
64 ① 教義42・64

たは西の地に出て行き、住民に悔い改めるように呼びかけなさい。そして、彼らが悔い改めるならば、わたしのために教会を築き上げなさい。

65 また、心を一つにし、思いを一つにし、あなたがたの富を集めて、この後あなたがたに指定される受け継ぎを購入するようにしなさい。

66 それは、新エルサレム、平和の地、避け所の都、いと高き神の聖徒のための安全の地と呼ばれるであろう。

67 そして、主の栄光がそこにある。また、主の恐怖もそこにあるので、悪人はそこに来ようとしない。そこはシオンと呼ばれる。

68 そして、悪人の中にいて、隣人に対して自分の剣を取らない者は皆、安全のために必ずシオンに逃れて来なければならない。

69 そこには天下のあらゆる国から人々が集められるであろう。その民は互いに戦争をしない唯一の民である。

70 また、悪人の間では、「我々は上って行ってシオンと戦わないようにしよう。シオンに住む者は恐ろしいから。だから、我々は立ち向かうことはできない」と言われるであろう。

71 また、義人はすべての国の中から集められ、永遠の喜びの歌を歌いながらシオンに来るであろう。

72 さて、わたしはあなたがたに言う。わたしが必要とするまで、これらのことを世に広めないようにしなさい。それは、あなたがたが人々の目の前で、またあなたがたの敵の目の前でこの業を成し遂げるためであり、また、わたしが命じたことをあなたがたが成し遂げるまで、彼らがあなたがたの業を知らないようにするためである。

73 それによって、彼らがそれを知るとき、これらのことを考えることができるようにするためである。

74 主が現れるとき、主は彼らにとって恐ろしい存在となり、恐れが彼らを捕らえ、彼らは遠く離れて立っておののくであろう。

75 すべての国民は、主の恐怖と主の強い力のゆえに恐れるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第46章

千八百三十一年三月八日、オハイオ州カートランド

---

65 ① 教義63・27
66 ① エテ13・5−6、モセ7・62、箇条1・10、GS「シオン」「新エルサレム」
② GS「平安・平和」
③ 教義57・1−3
④ イザ4・6、教義115・6
67 ① 教義64・41−43、97・15−18、GS「イエス・キリスト−栄光」
69 ① 申命30・3、エレ32・37−39、教義33・6
74 ① ゼパ2・11

において、預言者ジョセフ・スミスを通して教会に与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百六十三―百六十五ページ）。教会のこの初期の時代には、教会の集会の執り行い方についてまだ統一された方式が定着していなかった。しかしながら、聖餐会やそのほかの教会の集会への出席は、教会員と熱心な求道者だけに認めるという習わしが、やや一般的となっていた。この啓示は、集会を管理し、執り行うことに関する主の御心を表している。

1−2 長老たちは、聖なる御霊によって導かれるままに集会を執り行わなければならない。3−6 真理の探求者を聖餐会から締め出してはならない。7−12 神に願い、御霊の賜物を求めなさい。13−26 これらの賜物の幾つかが挙げられる。27−33 教会の指導者は、御霊の賜物を見分ける力を与えられる。

1 聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ。まことに、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、あなたがたに[1]益を与え、教えるために語られたものである。

2 しかし、書き記されたそれらのものがあるにもかかわらず、聖なる御霊によって指示され導かれるままにすべての集会を[1]執り行うことが、初めから常にわたしの教会の[2]長老たちに指示されてきたし、またこれから先いつまでも指示されるであろう。

3 それでも、あなたがたは、世の人々の前で開かれるあなたがたの公の集会から、決してだれも[1]追い出さないように命じられている。

4 あなたがたはまた、[1]教会に属する者をだれもあなたがたの聖餐会から追い出さないように命じられている。しかしながら、だれかが過ちを犯したならば、和解するまで彼に[2]聖餐を受けさせないようにしなさい。

5 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、真剣に王国を求めている者をだれもあなたがたの聖餐会から追い出してはならない。わたしは、このことを教会に属していない者について語っている。

6 さらにまた、わたしはあなたがたの[1]確認の会についてあなたがたに言う。教会に属していない者がだれかいても、真剣に王国を求めていれば、あなたが

第46章
1 ① 2テモ3・16−17
2 ① モロ6・9、教義20・45
② アル6・1
3 ① 3ニフ18・22−25、GS「フェローシップ」
4 ① GS「イエス・キリストの教会」
② 3ニフ18・26−32、GS「聖餐」
6 ① 最近バプテスマを受けた人々の確認のために行われる

たは彼らを追い出してはならない。
7しかし、あなたがたはすべてのことについて、惜
しみなく与える神に[1]願い求めるように命じられてい
る。また、あなたがたがまったく[2]聖い心をもって、
わたしの前をまっすぐに歩み、あなたがたの救いの
結末について[3]考え、祈りと[4]感謝をもってすべてのこ
とを行いながら、御霊があなたがたに証する事柄を
行うようにと、わたしは望んでいる。それは、あな
たがたが邪悪な霊、あるいは[5]悪霊の教義、または人
間の[6]戒めに[7]打ち負かされないためである。あるもの
は人間から出ており、またほかのものは悪霊から出
ているからである。
8それゆえ、欺かれないように気をつけなさい。そ
して、欺かれないために熱心に[1]最善の賜物を求め、
それらが何のために与えられているのかを常に覚え
ておきなさい。
9まことに、わたしはあなたがたに言う。それらは、
わたしを愛してわたしのすべての戒めを守る者たち
と、そうしようと努める者たちのために与えられ
る。それは、わたしを求める者たちや、わたしに願
い求める者たち、願い求めるけれども[1]自分の欲のた
めに使うように[2]しるしを求めるのではない者たちの
すべてが、益を得られるようにするためである。
10さらにまた、まことに、あなたがたに言う。教会
員に与えられているそれらの[1]賜物が何であるか、常
に覚えておき、また常に[2]心に留めておくようにと、
わたしは望んでいる。
11すべての人があらゆる賜物を与えられるわけでは
ない。賜物は多くあり、[1]各人に神の御霊によって一
つの賜物が与えられるのである。
12ある人にはある賜物、またある人には別の賜物が
与えられて、すべての人がそれによって益を得られ
るようになっている。
13ある人には、イエス・キリストが神の子であり、
世の罪のために十字架につけられたことを[1]知ること
が、聖霊によって許される。
14ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永
遠の命が得られるように、彼らの言葉を[1]信じること
が許される。
15さらにまた、ある人には、[1]様々な管理の務めを知
ることが、同じ主の心にかなうままに、すなわち人
の子らの状態に応じて憐れみを施す主が望むとお

7 ① 新ヤコ1・5−6、教義88・63
② GS「聖い」
③ GS「深く考える」
④ 詩篇100篇、アル34・38、GS「感謝」
⑤ GS「悪魔」
⑥ 教義3・6−7、45・29
⑦ 1テモ4・1−4、教義43・5−7
8 ① 1コリ12・31
9 ① 新ヤコ4・3
② GS「しるし」
10 ① 1コリ14・12、GS「御霊の賜物」
② GS「思い・心」
11 ① 1コリ12・4−11
13 ① GS「証」
14 ① 3ニフ12・2、GS「信じる」
15 ① モロ10・8

りに、聖霊によって許される。
16さらにまた、ある人には、種々の働きが神から出ているかどうかを知ることが、聖霊によって許される。それは、御霊の現れがすべての人に与えられ、これによって益するためである。
17さらにまた、まことに、あなたがたに言う。ある人には、神の御霊によって知恵[1]の言葉が与えられる。
18別の人には、知識[1]の言葉が与えられる。それは、すべての人が教えられて賢くなり、また知識を得るためである。
19さらにまた、ある人には、癒される信仰[1]を持つことが許される。
20また、ほかの人には、癒す[1]信仰を持つことが許される。
21さらにまた、ある人には、奇跡[1]の働きが与えられる。
22また、ほかの人には、預言[1]することが許される。
23また、ほかの人には、霊の識別[1]が与えられる。
24さらにまた、ある人には、異言[1]で語ることが許される。
25また、別の人には、異言の解釈が与えられる。
26これらすべての賜物[1]は、神[2]の子たちを益するために神から来る。
27また、教会のビショップ[1]、および教会を見守るように、また教会の長老となるように神が選んで聖任する人々には、それらすべての賜物を見分けることが許される。それは、あなたがたの中に、神から出ていると公言しながらそうではない者がいることのないようにするためである。
28そして、御霊[1]によって求める者は、御霊によって与えられる。
29それは、ある人にそれらすべての賜物を持つことが許されて、一人の長がいるようにし、すべての会員がそれによって益を得るためである。
30御霊[1]によって求める[2]者は、神の御心[3]にかなって求めるのである。それゆえ、彼が求めるとおりに行われる。
31さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが御霊によって行うことは何であろうと、すべてのことはキリストの名によって行わなければならない。

---

17 ①モロ10・9、GS「知恵」
18 ①GS「知識」
19 ①教義42・48—52、GS「信仰」
20 ①GS「癒し」
21 ①GS「奇跡」
22 ①GS「預言」
23 ①モセ1・13—15
24 ①GS「異言の賜物」
26 ①②モロ10・8—19「神の息子、娘」
27 ①②GS「ビショップ」
28 ①②GS「識別の賜物」
30 ①②③教義88・64—65、GS「聖霊」、教義50・29、2ニフ4・35

32 また、与えられる祝福が何であろうと、あなたがたは御霊によって神に1)感謝をしなければならない。33 また、あなたがたは絶えずわたしの前で1)徳高く2)聖くなければならない。まことにそのとおりである。アーメン。

第47章

千八百三十一年三月八日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百六十六ページ）。このときよりも前に、オリバー・カウドリは、教会歴史家兼記録者として働いていた。ジョン・ホイットマーは歴史家としての任命を求めていなかったが、この職に就いて働くように求められたので、この件について主の御心に従いたいと言った。彼はすでに預言者の秘書として、ニューヨーク州フェイエットとその近くで受けた多くの啓示を記録していた。

1−4 ジョン・ホイットマーは、教会の歴史を書き残し、また預言者のために書き記すように指名される。

1 見よ、わたしが必要としているのは、わたしの僕ジョンが、さらに別の務めに召されるまで正式な1)記録と歴史を書き記して残すこと、またあなた、すなわちわたしの僕ジョセフを助けてあなたに与えられるすべての事柄を書き取ることである。2 さらに、まことに、わたしはあなたに言う。彼もまた必要なときにはいつでも、集会において声を上げることができる。3 さらにまた、わたしはあなたに言う。彼は教会の記録と歴史を絶えず書き残すために任命される。わたしはオリバー・カウドリを別の職に任命したからである。4 それゆえ、彼が忠実であれば、これらのものを書き記すように、1)慰め主によって彼に知らされるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第48章

千八百三十一年三月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百六十六−百六十七ページ）。預言者は、聖徒たちの定住のために土地を入手する

32 ①歴上16・8−15、1テサ1・2、アル37・37、教義59・7、21、GS「感謝」
33 ①GS「徳」 ②GS「聖い」
第47章
1 ①教義69・2−8、85・1−2
4 ①GS「聖霊」「慰め主・助け主」

手順について主に尋ねた。オハイオに集まるようにとの主の命令に従って、合衆国東部から教会の会員が移り住んで来たことを考えると、これは重要な問題であった（第三十七章一―三節、第四十五章六十四節を参照）。

1−3 オハイオの聖徒たちは、彼らの土地を兄弟たちと分かち合わなければならない。4−6 聖徒たちは土地を購入し、町を築き、管理役員の助言に従わなければならない。

1 あなたがたの事情にかなうままに、あなたがたは今のところ、あなたがたの住んでいる場所にとどまる必要がある。

2 そして、あなたがたは土地を持っていれば、東部の兄弟たちに分け与えなければならない。

3 また、土地を持っていなければ、今のところ、その周りの地域で、彼らがよいと思うままに彼らに購入させなさい。今のところ、彼らが住む場所を得ることは、ぜひとも必要だからである。

4 あなたがたができるかぎり金銭を蓄えること、また義をもってできるかぎり金銭を得ることは、ぜひとも必要である。それは、やがてあなたがたが受け継ぎとしての土地、すなわち町[1]を購入[2]できるようにするためである。

5 その場所はまだ示されない。しかし、あなたがたの兄弟たちが東から来た後、[1]ある人々が任命されて、彼らにその場所が知らされ[2]るであろう。すなわち、彼らにそれが示されるであろう。

6 また、彼らは任命を受けてその土地を購入し、その町[1]の基を据えることを開始しなければならない。そのとき、すべての人が自分の家族[2]に応じて、自分の事情に応じて、さらに、あなたがたがすでに受けた、またこの後受ける律法と戒めにかなって教会の大管長会とビショップより指定されるままに、家族とともに集合を始めるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第49章

千八百三十一年三月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してシドニー・リグドン、パーリー・P・プラット、およびリーマン・

第48章
2 (1) GS「福祉」
4 (1) 教義57・4−5
(2) 教義42・35−36、45・65−67
5 (1) 教義57・6−8
(2) 教義57・1−3
6 (1) GS「新エルサレム」
(2) 教義51・3

コプリーに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百六十七—百六十九ページ）。（ある歴史資料では、この啓示の日付は千八百三十一年五月とされている。）リーマン・コプリーは福音を受け入れたが、以前に所属していたシェーカー派（キリスト再出現信者連合会）の教えの幾つかをなお信じていた。シェーカー派の人々が信じていた事柄を幾つか挙げると、次のとおりである。キリストの再臨はすでにあり、キリストは女の姿を取ってアン・リーとして現れた。水によるバプテスマは必須のものとは見なされない。豚肉を食べることは特に禁じられ、多くの者がまったく肉を食べない。独身生活は結婚生活よりも尊いとされる。預言者はこの啓示の前書きとして、「この件についてさらに完全な理解を得るために、わたしは主に尋ねて、次の啓示を受けた」（『教会歴史』第一巻、百六十七ページ）と記している。この啓示は、シェーカー派の人々の基本的な考えの幾つかについて、その誤りを指摘している。前述の兄弟たちは、この啓示の写しを持って（オハイオ州クリーブランド近くの）シェーカー派の共同体へ行き、その全文を彼らに読んで聞かせた。しかし、これは拒絶された。

1—7 キリストの来臨の日時は、キリストが来られるまで知らされない。8—14 人々は救いを得るために、悔い改め、福音を信じ、儀式に従わなければならない。15—16 結婚は神によって定められた。17—21 肉を食べることは認められている。22—28 再臨前に、シオンは栄え、レーマン人はばらのように花咲く。

1 わたしの僕たち、シドニーとパーリーとリーマンよ、わたしの言葉を聴きなさい。見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは行って、シェーカー派の人々に、あなたがたが受けたわたしの福音を、受けたそのままに宣べ伝えなければならない。
2 見よ、わたしはあなたがたに言う。彼らは真理を一部分知りたいとは望んでいるが、すべてではない。彼らはわたしの前に[1]正しくなく、必ず悔い改めなければならない。
3 それゆえ、わたしは彼らに福音を宣べ伝えるためにあなたがた、すなわちわたしの僕たち、シドニーとパーリーを遣わす。
4 また、わたしの僕リーマンは、この業に聖任され

第49章
1 ① GS「宣べ伝える」
2 ① 使徒8・21

なければならない。それは彼が、彼らから受けたことに従ってではなく、わたしの僕であるあなたがたより教えられたことに従って彼らと論じるためである。そのようにすれば、わたしは彼を祝福しよう。そうしなければ、彼は栄えないであろう。

5 主はこのように言う。わたしは神である。わたしは、世の贖いのためにわたしの独り子を世に遣わし、そして彼を受け入れる者は救われ、彼を受け入れない者は罰の定めを受けると宣言した。

6 人々はまことに彼らの欲するままに、人の子をあしらった。人の子は神の栄光の右手にあって自分の力を得て、現在は天において治めており、また地上に降って来てすべての敵を自分の足の下に置くまで治めるであろう。その時はもう近づいている。

7 主なる神であるわたしがこれを語った。しかし、その時、その日は、だれも知らず、天にいる天使たちも知らない。人の子が来るまで、彼らは知らないであろう。

8 それゆえ、わたしはすべての人が悔い改めることを望んでいる。わたしがわたし自身のもとに残しておいた者たち、すなわちあなたがたの知らない聖なる人々のほかは、すべての者が罪の下にあるからである。

9 それゆえ、わたしはあなたがたに言う。わたしは、わたしの永遠の聖約、すなわち初めからあったものをあなたがたに送った。

10 わたしが約束したことを、わたしはそのように果たした。地のもろもろの国民はそれに身をかがめるであろう。また、たとえ自らそうしなくても、彼らは低くなるであろう。現在自ら高ぶっている者は、力によって低くされるからである。

11 それゆえ、わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたはこの民の中に行き、その名をペテロといった昔のわたしの使徒のように、彼らに言いなさい。

12 「かつて地上におり、またやがて来る、初めであり終わりである主イエスの名を信じなさい。

13 悔い改めなさい。そして、聖なる戒めのとおりに、罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

14 だれでもこれを行う者は、教会の長老たちの按手によって聖霊の賜物を受けるであろう。

---

4 ①GS「真理」「福音」
5 ①GS「贖い・贖う」「贖い主」
②ヨハ3・16—17、教義132・24、GS「イエス・キリスト—権威」
6 ①③GS「罰の定め」
②GS「人の子」
②GS「イエス・キリスト—栄光」
③使徒7・55—56、教義76・20—23
7 ①マタ24・36、マコ13・32—37、黙示16・15、教義133・11
8 ①ヘブ13・2、3ニフ28・25—29
②ガラ3・22、モサ16・3—5
9 ①創世17・7、教義66・2、GS「新しくかつ永遠の聖約」
10 ①ゼカ2・11、教義45・66—69、97・18—21
②イザ60・14
③マタ23・12
11 ①③GS「伝道活動」
13 ①3ニフ27・19—20
14 ①GS「按手」
②GS「聖霊の賜物」

15 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。だれでも結婚を禁じる者は、神から聖任されていない。[2]結婚は人のために神によって定められているからである。

16 それゆえ、人が一人の妻を持つこと、また彼ら二人が一体となることは正当である。これはすべて、地がその創造の目的にかなうためであり、

17 世界が造られる前の人の創造に応じて、地が人の数で満たされるためである。

18 また、だれでも肉を断つように言う者、すなわち、人は肉を食べてはならないとして禁じる者は、神から聖任されていない。

19 見よ、野の獣と空の鳥、また地から生じるものは、食物として、また着る物として人が使うように、また人が豊かに持てるように定められているからである。

20 しかし、人がほかの人以上のものを持つようには定められていない。それゆえ、世は罪の状態にある。

21 必要がないのに、血を流したり、肉を無駄にしたりする者は、災いである。

22 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。人の子は、女の姿や地上を旅する男の姿では来ない。

23 それゆえ、[1]欺かれてはならない。引き続き確固としていて、天が震え、地が揺れ動いて酔った者のようにあちらこちらとよろめくのを、またもろもろの[2]谷が高くなるのを、また[3]山々が低くなるのを、また起伏の激しい所が平らになるのを[1]待ち望みなさい。これはすべて、天使がラッパを[5]吹き鳴らすときに起こるであろう。

24 しかし、主の大いなる日が来る前に、[1]ヤコブは荒れ野に栄え、レーマン人は[2]ばらのように花咲くであろう。

25 シオンはもろもろの[1]丘の上で栄え、[2]山々の上で喜び、わたしが指定した場所に集められるであろう。」

26 見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしがあなたがたに命じたように、出て行きなさい。あなたがたのすべての罪を悔い改めなさい。[1]求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。

27 見よ、わたしはあなたがたの前を行き、またあな

---

15 ①1テモ 4・1−3 ②創世 2・18、24、1コリ 11、GS「結婚」 16 ①ヤコ 2・27−30 ②創世 2・24、マタ 19・5−6 ③GS「地球（地）−人のために創造された」 17 ①GS「前世」 ②モセ 3・4−5、GS「創造・創造する」 18 ①創世 9・3、1テモ 4・1−3 19 ①教義 89・10−13 20 ①使徒 4・32、教義 51・3、70・14、78・6 ②GS「物欲」 21 ①②JS 創世 9・10−15 22 ①GS「イエス・キリストの再臨」 23 ①マタ 24・4−5 ②イザ 40・4、教義 109・74 ③ミカ 1・3−4 ④2ペテ 3・12、教義 45・39 ⑤マタ 24・29−31 24 ①3ニフ 5・21−26 ②イザ 35・1、2ニフ 30・5−6、3ニフ 21・22−25、教義 3・20、109・65 25 ①創世 49・26、2ニフ 12・2−3 ②教義 35・24 26 ①②教義 88・63

たがたのしんがり[1]となろう。わたしはあなたがたの中[2]におり、あなたがたは打[3]ち破られないであろう。

28 見よ、わたしはイエス・キリストである。わたしはすぐ[1]に来る。まことにそのとおりである。アーメン。

第50章

千八百三十一年五月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百七十―百七十三ページ）。預言者は、ある長老たちが地の方々に見られる様々な霊の現れを理解していなかったこと、またこの啓示がその件について彼が特別に尋ねた問いへの答えとして与えられたものであることを告げている。いわゆる心霊現象は会員たちの間では珍しくなく、彼らの中のある者たちは示現や啓示を受けていると主張した。

1−5 多くの偽りの霊が地の方々にいる。6−9 偽善者と教会から絶たれる者とは、災いである。10−14 長老たちは、御霊によって福音を宣べ伝えなければならない。15−22 宣べ伝える者も聴く者も、御霊に照らされる必要がある。23−25 人を教化しないものは、神から出てはいない。26−28 忠実な者はすべてのものの所有者である。29−36 清められた者の祈りはこたえられる。37−46 キリストは良い羊飼いであり、イスラエルの石である。

1 聴きなさい、おお、わたしの教会の長老たちよ。生ける神の声に耳を傾けなさい。また、知恵の言葉を心に留めなさい。それは、あなたがたが教会と地の方々にいるもろもろの霊とについて尋ね、心を一つにしてきたのに応じて与えられるものである。

2 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。偽[1]りの霊である多くの霊がおり、その霊たちは地に出て行き、世の人々を欺いている。

3 また、サタン[1]もあなたがたを打ち破るために、あなたがたを欺こうと努めてきた。

4 見よ、主なるわたしはあなたがたを眺め、わたしの名を公言[1]する教会員の中に忌まわしい行いを見た。

5 しかし、忠実であって堪[1]え忍ぶ者は、生きるも死

第50章
2① 教義129章、GS「霊―悪霊」
3① ルカ22・31、3ニフ18・18
4① GS「イエス・キリスト―御名を受ける」
5① GS「堪え忍ぶ」

27① イザ52・12
28① ② 3ニフ20・22
③ 84・116 1ペテ2・6、教義1・12

ぬも幸いである。彼らは永遠の命を受け継ぐからである。

6 しかし、[1]欺く者と偽善者は災いである。主が、「わたしは彼らを裁こう」と言うからである。

7 見よ、まことに、あなたがたに言う。あなたがたの中に[1]偽善者がおり、彼らはある人々を欺いてきた。このことが[2]敵対する者に力を与えてきた。しかし見よ、[1]このような者たちは救い出されるであろう。

8 しかし、偽善者たちは、生きるも死ぬも、わたしが望むとおりに見破られ、[1]絶たれるであろう。そして、わたしの教会から絶たれる者は災いである。彼らは世に打ち負かされるからである。

9 それゆえ、すべての人に、わたしの前に真理と義にかなわないことを行わないよう気をつけさせなさい。

10 さて、主は御霊によって、主の教会の長老たちに言う。さあ、あなたがたが理解できるように、わたしたちは論じ合おう。

11 人が顔と顔を合わせて互いに論じるように、わたしたちは論じよう。

12 さて、人は論じるときに、一人の人として論じるのでほかの人から理解される。そのように、主なるわたしはあなたがたと論じて、あなたがたが[1]理解できるようにしよう。

13 それゆえ、主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。すなわち、「何のためにあなたがたは[1]聖任されたのか。」

14 [1]御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた[2]慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝えるためである。

15 その後、あなたがたは、あなたがたが理解できないもろもろの[1]霊を受け、それらを神からのものとして受け入れた。これに関して、あなたがたは義とされるであろうか。

16 見よ、あなたがたはこの問いに自ら答えなければならない。それでも、わたしはあなたがたを憐れもう。あなたがたの中の弱い者は、この後、[1]強くされるであろう。

17 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしから聖任され、慰め主すなわち真理の御霊によって真理の言葉を[1]宣べ伝えるために遣わされる者は、[2]真理

---

6 ①GS「欺き」
7 ①マタ 23・13−15、アル 34・28 ②GS「悪魔」
8 ①モサ 27・8−9 ③④欺かれた者のこと 教義 1・14、56・3、64・35 GS「破門」
10 ①イザ 1・18、教義 45・
10 ①教義 1・24
12 ①GS「聖任」
13 ①教義 43・15、GS「教える・教師―御霊によって教える」
14 ①②GS「慰め主・助け主」
15 ①GS「識別の賜物」
16 ①エテ 12・23−27 GS「伝道活動」「宣べ伝える」
17 ①②教義 6・15、GS「真理」「聖霊」

の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。
18 もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。
19 さらにまた、真理の言葉を受け入れる者は、真理の御霊によってそれを受け入れるか、それとも何かほかの方法によって受け入れるか。
20 もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。
21 それゆえ、真理の御霊によって御言葉を受ける者は、真理の御霊によって宣べられるままにそれを受けるということを、あなたがたが理解して知ることができないのはなぜか。
22 それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。
23 また、人を教化しないものは、神から出てはおらず、1)暗闇である。
24 神から出ているものは1)光である。光を受け、2)神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。
25 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしがそれを語るのは、あなたがたが真理を知り、暗闇をあなたがたの中から追い払うためである。
26 神から聖任され、遣わされる者は、最も小さい者であってすべての者の僕であるにもかかわらず、2)最も大いなる者となるように任命されているのである。
27 それゆえ、彼はすべてのものの1)所有者である。天においても地上においても、すべてのものが彼に従うからである。父の御心によってその子イエス・キリストを通じて送られる、命も光も、御霊も力もそうである。
28 しかし、だれもすべての罪から清められてきれいにされなければ、すべてのものの所有者ではない。
29 もしもあなたがたがすべての罪から清められてきれいにされるならば、何であろうと自分の望むことをイエスの名によって1)求めると、それは行われる。
30 しかし、このことを知っておきなさい。願い求めるべきものはあなたがたに知らされるであろう。また、あなたがたは1)長に任命されているので、もろも

---

22 ①1コリ14・26
23 ①②ヨハ4・36
24 ①GS「暗闇（霊的な）」
1ヨハ2・8−11
モロ7・14−19、教義84・45−47、88・49、GS「光・キリストの光」
②ヨハ15・4−5、10
25 ①2ニフ28・30
②ヨハ8・32
26 ①マコ10・42−45、GS「奉仕」
②マタ23・11
27 ①②教義76・5−10、53
60、84・34−41
28 ①②GS「力」
3ニフ19・28−29、教義88・74−75、GS「清さ」「聖め」
29 ①②1ヨハ1・7−9
ヒラ10・5、教義46・30、GS「祈り」
30 ①GS「権威・権限・権能」

ろの霊はあなたがたに従うであろう。
31それゆえ、もしもあなたがたが自分の理解できない[1]霊が現れたのを目にし、かつその霊を受けていなければ、あなたがたはイエスの名によって父に求めなければならない。もしも父がその霊をあなたがたに与えられなければ、それが神から出ていないことが分かる。
32また、その霊を制する[1]力があなたがたに与えられるであろう。そこで、あなたがたは、その霊が神から出ていないことを、大きな声でその霊に対して宣言しなければならない。
33そのときに、あなたがたは打ち負かされないために、[1]ののしり責めることなく、またその霊に捕らえられないために、[2]誇ったり喜んだりして宣言してはならない。
34神から受ける者は、それが神からのものであることを考えなさい。また、それを受けるにふさわしいと神から認められたことを喜びなさい。
35それも、注意を払いながら、あなたがたが受けたこれらのこと、またこの後あなたがたが受けることを実行することによってである。[1]王国は父からあなたがたに与えられており、また父から定められていないすべてのものに打ち勝つ[2]力も、あなたがたに与えられている。
36見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕の口から今わたしのこれらの言葉を聞いているあなたがたは、幸いである。あなたがたの罪は[1]赦されたからである。
37わたしが心から喜んでいるわたしの僕ジョセフ・ウェイクフィールドと、わたしの僕[1]パーリー・P・プラットは、諸教会の中に出て行き、[2]勧めの言葉によって彼らを強めなさい。
38また、わたしの僕ジョン・コリルや、この職に聖任されるわたしのすべての僕たちも、同様である。これらの者は[1]ぶどう園で働きなさい。また、わたしが定めたことを彼らが行うのを、だれも妨げてはならない。
39それゆえ、このことに関して、わたしの僕[1]エドワード・パートリッジは義とされない。しかしながら、悔い改めなさい。そうすれば、赦されるであろう。
40見よ、あなたがたは幼い子供であり、今はすべてのことに[1]耐えることはできない。あなたがたは[2]恵み

31 ①1ヨハ4・1、GS
32 ①「霊－悪霊」
33 ①マタ10・1
ユダ1・9
②教義84・67、73
35 ①GS「神の王国・天の王国」
②1ヨハ4・4、教義63・20、47
36 ①教義58・42−43、GS「赦し」
37 ①GS「プラット、パーリー・パーカー」
②教義97・3−5
38 ①GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
39 ①GS「パートリッジ、エドワード」
40 ①3ニフ17・2−3、教義78・17−18
②GS「恵み」

と[3]真理の知識とにおいて、[4]成長しなければならない。

41 [1]幼い子供たちよ、[2]恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり、わたしはすでに世に[3]勝っており、そしてあなたがたは父がわたしに[4]与えてくださった者に属しているからである。

42 父がわたしに与えてくださった者は、だれも[1]失われない。

43 父とわたしとは[1]一つである。わたしは父におり、父はわたしにおられる。そして、あなたがたがわたしを受け入れたので、あなたがたはわたしにおり、わたしはあなたがたにいる。

44 それゆえ、わたしはあなたがたの中にいる。わたしは[1]良い羊飼いであり、イスラエルの[2]石である。この[3]岩の上に建てる者は、[4]決して倒れることはない。

45 そして、あなたがたがわたしの声を聞き、わたしを[1]見て、わたしがいることを知る日が来る。

46 それゆえ、[1]目を覚ましていて、[2]用意ができているようにしなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

第51章

千八百三十一年五月、オハイオ州トンプソンにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百七十三―百七十四ページ）。当時、東部諸州から移住しつつあった聖徒たちが、オハイオに到着し始めた。そこで、彼らの定住のために具体的な準備をすることが必要になった。この仕事は特にビショップの職に属するものであったので、エドワード・パートリッジビショップはこの件について指示を求め、預言者が主に尋ねた。

1−8 エドワード・パートリッジは、管理人の職と財産を監督するために任命される。**9−12** 聖徒たちは正直に振る舞い、等しく受けるようにしなければならない。**13−15** 彼らはビショップの倉を持ち、主の律法に従って財産を整えなければならない。**16−20** オハイオは一時的な集合地となる。

1 わたしの言葉を聴きなさい、と主なるあなたがたの神は言う。わたしは、わたしの僕[1]エドワード・パートリッジに語り、彼に指示を与える。彼はこの民

---

40 ③ GS「真理」
41 ① 教義19・22−23
② 1コリ3・2−3、GS「神の息子、娘」
③ 1ヨハ4・18
④ ヨハ16・33
42 ① 2、3ニフ10・27−29、17・2、3ニフ15・24、教義84・63
43 ① 27・14、ヨハ17・12、3ニフ27・30−31
② ヨハ17・20−23、3ニフ11・35−36、GS「神・神会」
44 ① ヨハ10・14−15、GS「良い羊飼い」
② 創世49・24、1ペテ2・4−8、GS「隅の石」
③ 1コリ10・1−4、GS「イエス・キリスト」「岩」
④ ヒラ5・12
45 ① 教義67・10−13
② GS「見守る・見守る者」
46 ① アル34・32−33

第51章
1 ① GS「パートリッジ、エドワード」

を組織する方法について指示を受けることが必要だからである。

2 彼らをわたしの律法[1]に従って組織することが必要だからである。もしもそうしなければ、彼らは絶たれるであろう。

3 それゆえ、わたしの僕エドワード・パートリッジと、彼が選んだわたしの心にかなう者たちは、この民に対して彼らの受取分を、各人の家族に応じて、また各人の事情と入り用と必要に応じて、[1]平等に指定しなさい。

4 また、わたしの僕エドワード・パートリッジは、ある人にその人の受取分を指定するとき、その受取分を保証する文書、すなわち、彼が戒めに背いて、教会員の声によって、また教会の律法と[1]聖約によって教会に属するにふさわしくないと見なされるまで、教会におけるこの権利とこの受け継ぎを保有することを述べた文書を彼に渡しなさい。

5 もしも彼が戒めに背いて、教会に属するにふさわしくないと見なされたならば、彼はわたしの教会の貧しい者や乏しい者のためにビショップに奉献したその分については、これを要求する権利を持たない。それゆえ、彼はそのささげ物を保有せず、ただ文書をもって彼に譲渡された分だけを受け取る権利を持つ。

6 すべてのことがこのように、その地の[1]法律に[2]従って確実にされなければならない。

7 また、この民に属するものは、この民に指定しなさい。

8 この民の残りの[1]金銭に関しては、この民の入り用に応じて食物と衣服を提供するためにその[2]金銭を受け取る一人の代理人を、この民のために任命するようにしなさい。

9 また、わたしがあなたがたに命じたように、あなたがたが[1]一つとなるために、すべての人がこの民の中で[2]正直に振る舞い、平等であり、等しく受けるようにしなさい。

10 また、この民に属するものを取って、[1]別の教会に与えることのないようにしなさい。

11 それゆえ、もし別の教会がこの教会から金銭を受けようとするときは、その教会に、両者の合意するとおりにこの教会への返済をさせなさい。

12 このことは、教会員の[1]声によって任命されるビショップか代理人を通して行わなければならない。

---

2 ① 教義42・30—39、105・5、GS「奉献・奉献の律法」
3 ① 使徒2・44—45、4ニフ1・2—3
② 教義49・20
4 ① 第20章と第22章は、「キリストの教会の規定と聖約」と呼ばれる。教義33・14、42・13、GS「聖約（契約）」
6 ① 教義58・21—22
② 1ペテ2・13、教義98・5—7
8 ① 教義84・104
② 教義104・15—18
9 ① 教義38・27、GS「一致」
② GS「正直」
10 ① 教会の別の支部、または別の教派のこと
12 ① GS「同意の律法」

13 さらにまた、ビショップはこの教会のために倉を[1]設けなさい。そして、金銭と食物の両方について、この民の入り用のために必要[2]とされる分を超えたすべてのものが、ビショップの手の中に保管されるようにしなさい。

14 また、ビショップにはこの仕事を行う務めがあるので、ビショップはまた自分自身の入り用のため、またその家族の入り用のため、自分の分を残しておきなさい。

15 このようにわたしはこの民に、わたしの[1]律法に従って自らを組織する特権を授ける。

16 また、主なるわたしが彼らのために別の備えをして、彼らにここから出て行くよう命じるまで、わたしはしばしの間、彼らのために[1]この地を聖別する。

17 その時もその日も彼らには示されない。それゆえ、彼らに、多年にわたって住むかのようにこの地で行動させなさい。そうすれば、これは彼らのために益となるであろう。

18 見よ、これはわたしの僕エドワード・パートリッジにとって、ほかの場所でのすべての教会における[1]一つの手本である。

19 だれでも忠実で、正しく、賢い[1]管理人であると認められる者は、主の[2]喜びに入り、永遠の命を受け継ぐであろう。

20 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはイエス・キリストであり、あなたがたの[1]思いがけないときにすぐに[2]来る。まことにそのとおりである。アーメン。

第52章

千八百三十一年六月七日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して教会の長老たちに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百七十五−百七十九ページ）。カートランドで大会が開かれ、それは六月三日に始まり六日に終わった。この大会では、大祭司の職への聖任が明確な形で初めて行われ、また偽りと欺きの霊の現れが見破られ、叱責された。

1−2 次の大会をミズーリで開くように指示される。3−8 ともに旅をするように、ある長老たちに指示が与えられる。9−11 長老たちは、使徒たちや預言者たちが書き記してきた事柄を教えなければならな

13 ①教義42・55、GS「倉」 ②教義42・33−34、55、82・17−19
15 ①教義51・2
16 ①オハイオ州カートランドの地域
18 ①一つの規範
19 ①マタ24・45−47、GS「管理人、管理人の職」 ②GS「喜び」
20 ①マタ24・44、黙示22・6−16

い。12–21 御霊に照らされる人々は、賛美と知恵の実を結ぶ。22–44 何人もの長老たちが、出て行って、大会のためにミズーリへ旅をしながら福音を宣べ伝えるように任命される。

1 見よ、主は、この終わりの時に、主の御霊の声によって召して選んだ長老たちにこのように言う。
2 すなわち、主なるわたしは、今から次の大会までに行ってほしいことをあなたがたに知らせよう。次の大会はミズーリ、すなわち、ヤコブの[1]残りの者であり、[2]聖約による相続人であるわたしの民のためにわたしが[3]聖別する地[4]において開かれる。
3 それゆえ、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアとシドニー・リグドンは、彼らの家を離れる準備が整い次第、旅に出て、ミズーリの地へ向かいなさい。
4 彼らがわたしに忠実であれば、彼らのなすべきことが知らされるであろう。
5 彼らが忠実であれば、あなたがたの[1]受け継ぎの地もまた彼らに知らされるであろう。
6 もしも彼らが忠実でなければ、わたしが望むままに、わたしがよいと思うままに、彼らは絶たれる。
7 さらにまた、まことに、あなたがたに言う。わたしの僕ライマン・ワイトと、わたしの僕ジョン・コリルは、速やかに旅に出なさい。
8 また、わたしの僕ジョン・マードックと、わたしの僕ハイラム・スミスも、デトロイトを通って同じ所に旅をしなさい。
9 彼らは、そこから先は途中で御言葉を宣べ伝えながら旅をしなさい。しかし、[1]預言者たちや使徒たちが書き記したことと、信仰の祈りによって[2]慰め主により教えられることのほかは[3]何も語ってはならない。
10 [1]二人ずつ組んで行きなさい。このようにして、旅の途中すべての会衆の中で教えを説き、[2]水によって、また水辺での[3]按手によって、バプテスマを施しなさい。
11 主はこのように言う。わたしは義にかなってわたしの業を短くしよう。わたしが勝利のために裁きを送る日が来るからである。
12 わたしの僕ライマン・ワイトは気をつけなさい。サタンがもみ殻のようにふるいにかけることを願っているからである。

第52章
1① GS「召し・神の召し」
2①[1] 詩篇135・4、3ニフ5・21–26
②[2] アブ2・6–11、GS「アブラハムの聖約（契約）」
③[3] 教義58・57、84・3
4① 教義57・1–3
5① 教義57・1–3
GS「聖文」
9① 教義42・12、52・36、
②GS「教える・教師」
「聖霊」「慰め主・助け主」
③ モサ18・19–20
10① マコ6・7、教義61・35
② ヨハ1・26
③ 使徒8・14–17
11① ロマ9・28
12① ルカ22・31、3ニフ18・17–18

13 また見よ、1)忠実な者は、多くのものを治める者とされるであろう。

14 さらにまた、あなたがたが欺かれないために、わたしはすべてのことに関して規範を与えよう。サタンは地の方々におり、出て行ってもろもろの国民を惑わすからである。

15 祈り、また1)悔い改める霊を持っている者は、わたしの2)定めに従うならば、わたしに3)受け入れられる。

16 語り、悔いる霊を持ち、その言葉が柔和で人を教化する者は、わたしの定めに従うならば、神から出ているのである。

17 さらにまた、わたしの力の下でおののく者は1)強くされ、わたしがあなたがたに与えたもろもろの啓示と真理にかなって賛美と2)知恵の実を結ぶであろう。

18 さらにまた、打ち負かされ、まことにこの規範に従って実を1)結ばない者は、わたしから出ている者ではない。

19 それゆえ、あなたがたはこの規範によって、どのような場合にも、すべての天の下のもろもろの霊を1)知るであろう。

20 人々の信仰に応じて彼らに1)行われる日が来た。

21 見よ、この戒めは、わたしが選んだすべての長老たちに与えられる。

22 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕1)トーマス・B・マーシュと、わたしの僕エズラ・セアも旅に出て、この同じ地に向かう途中で御言葉を宣べ伝えなさい。

23 さらにまた、わたしの僕アイザック・モーリーと、わたしの僕エズラ・ブースも旅に出て、この同じ地に向かう途中で御言葉を宣べ伝えなさい。

24 さらにまた、わたしの僕1)エドワード・パートリッジとマーティン・ハリスは、わたしの僕シドニー・リグドンならびにジョセフ・スミス・ジュニアとともに旅に出なさい。

25 わたしの僕デビッド・ホイットマーとハービー・ホイットロックも旅に出て、この同じ地に向かう途中で教えを説きなさい。

26 また、わたしの僕1)パーリー・P・プラットと2)オーソン・プラットは旅に出て、まことにこの同じ地に向かう途中で教えを説きなさい。

27 また、わたしの僕ソロモン・ハンコックとシメオン・カーターもこの同じ地に向かって旅をし、途中

---

13 ①マタ25・23、教義132・53
15 ①GS「打ち砕かれた心」
17 ①GS「定め」 ②教義97・8 ③教義66・8、133・58
18 ①GS「知恵」
19 ①マタ3・10 GS「識別の賜物」
20 ①教義56・5、GS「マーシュ、トーマス・B」
22 ①マタ8・5−13
24 ①GS「パートリッジ、エドワード」
26 ①GS「プラット、パーリー・パーカー」 ②GS「プラット、オーソン」

で教えを説きなさい。
28 わたしの僕エドソン・フラーとジェイコブ・スコットも旅に出なさい。
29 わたしの僕リーバイ・W・ハンコックとゼベディー・コルトリンも旅に出なさい。
30 わたしの僕レーノルズ・カフーンとサミュエル・H・スミスも旅に出なさい。
31 わたしの僕ホイーラー・ボールドウィンとウィリアム・カーターも旅に出なさい。
32 また、わたしの僕ニューエル・ナイトとセラ・J・グリフィンの両人は聖任を受け、彼らも旅に出なさい。
33 まことに、わたしは言う。これらすべての者は、それぞれ別の道を一つの所に向かって旅をしなさい。その際、互いにほかの人の土台の上に建てることのないように、またほかの人の通った跡を旅することのないようにしなければならない。
34 忠実な者は守られて、多くの実を祝福されるであろう。
35 さらにまた、あなたがたに言う。わたしの僕ジョセフ・ウェイクフィールドとソロモン・ハンフリーは東の地に旅をしなさい。
36 この二人は、自分の家族に働きかけて、使徒たちと預言者たちの教え、ならびに彼らが見聞きして最も深く確かに信じていることだけを告げ知らせて、預言が成就するようにしなさい。
37 ヒーマン・バセットは戒めに背いたので、彼に授けられていたものを取り去り、それをサイモンズ・ライダーの頭に置きなさい。
38 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。ジェレド・カーターが祭司に聖任され、またジョージ・ジェームズも祭司に聖任されるようにしなさい。
39 残りの長老たちは、教会を見守り、また周りの地域で御言葉を告げ知らせなさい。また、偶像礼拝や悪事が行われないように、自分の手を使って働きなさい。
40 また、貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こしなさい。これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではないからである。
41 さらにまた、わたしの僕たちジョセフ・スミス・

32 ①教義56・6−7
33 ①ロマ15・20
34 ①ヨハ15・16、教義18・15−16
36 ①ヨハ3・11
②GS「信じる」
③モサ18・19−20、教義52・9
37 ①マタ25・25−30
38 ①教義79・1
②GS「祭司（アロン神権の）」
39 ①アル6・1
②GS「偶像礼拝」
40 ①教義104・15−18、GS「貧しい」
②GS「福祉」

ジュニアと、シドニー・リグドンと、エドワード・パートリッジは、教会からの推薦状を持って行きなさい。また、わたしの僕オリバー・カウドリも推薦状を得るようにしなさい。

42 このようにしてわたしが言ったように、あなたがたは忠実であれば、あなたがたの受け継ぎの地であるが、今はあなたがたの敵の地である、ミズーリの地に集まって喜びを得るであろう。

43 しかし見よ、主なるわたしは、その時が来れば速やかに町を築き、忠実な者に喜びと歓喜の冠を与えよう。

44 見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは終わりの日に彼らを高く上げよう。まことにそのとおりである。アーメン。

第53章

千八百三十一年六月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してアルジャノン・シドニー・ギルバートに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百七十九—百八十ページ）。シドニー・ギルバートの求めに応じて、預言者は教会におけるギルバート兄弟の務めと任命について主に尋ねた。

1—3 教会におけるシドニー・ギルバートの召しと選びは、長老に聖任されることである。4—7 彼はまた、ビショップの代理人としても働かなければならない。

1 見よ、わたしはあなた、すなわちわたしの僕シドニー・ギルバートに言う。わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたはわたしを呼び、主なるわたしがこの終わりの時に起こした教会におけるあなたの召しと選びについて、主なるあなたの神から知らせを受けることを願った。

2 見よ、世の罪のために十字架につけられた主なるわたしは、あなたに戒めを与える。あなたは世を捨ててなければならない。

3 わたしの聖任、すなわち長老への聖任を受け入れて、わたしの言葉のとおりに、信仰と悔い改めと罪の赦しと、また按手により聖なる御霊を受けることを宣べ伝え、

4 また、この後与えられる戒めに従って、ビショップから指定される所でこの教会のために代理人と

---

41 ①教義20・64
42 ①教義25・2、57・1
43 ①②GS「シオン」
44 ①GS「喜び」教義88・96—98
第53章 1 ①GS「選び」「召しと選び」 2 ①GS「十字架の刑」 ②GS「物欲」「世」 3 ①②GS「罪の赦し」 ②GS「按手」 4 ①教義57・6、8—10、14—15、84・113

なりなさい。

5さらにまた、まことに、わたしはあなたに言う。あなたは、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアならびにシドニー・リグドンとともに旅に出なさい。

6見よ、これらはあなたが受ける最初の定めである。残りは、わたしのぶどう園におけるあなたの働きに応じて、将来知らされるであろう。

7さらにまた、わたしは、最後まで堪え忍ぶ[1]者だけが救われるということを、あなたが知るようにと望んでいる。まことにそのとおりである。アーメン。

第54章

千八百三十一年六月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してニューエル・ナイトに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百八十—百八十一ページ）。オハイオ州トンプソンにおける支部の教会員たちは、財産の奉献に関する問題で分裂していた。利己心と貪欲が表面化し、また、リーマン・コプリーは、自分の広い農場をニューヨーク州コールズビルから到着しつつあった聖徒たちの受け継ぎの場所として奉献するという聖約を破っていた。エズラ・セアもその論争に巻き込まれた。その結果、（トンプソンにおける支部の会長であった）ニューエル・ナイトとほかの長老たちは、預言者のところに来て、対処する方法を尋ねた。そこで預言者は主に尋ね、この啓示を受けた（この件の継続である第五十六章も参照）。

1—6聖徒たちは、憐れみを受けるために、福音の聖約を守らなければならない。7—10聖徒たちは、艱難の中で忍耐強くなければならない。

1見よ、主、すなわちアルパ[1]でありオメガであり、初めであり終わりであり、世の罪のために十字架につけられた者はこのように言う。

2見よ、まことに、まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ニューエル・ナイトに言う。あなたは、わたしが任命した職にしっかりと立たなければならない。

3また、あなたの兄弟たちは、敵から逃れたいと望むならば、すべての罪を悔い改め、わたしの前に心から謙遜になり、悔いるようにしなければならない。[1]

---

7 ① GS「堪え忍ぶ」
第54章
1 ① 黙示1・8、教義19・1、GS「アルパとオメガ」
② GS「十字架の刑」
3 ① GS「謙遜」

4 また、彼らがわたしに立てた[1]聖約は破られたので、それはむなしくなり、無効となった。[2]

5 このつまずきをもたらした者は災いである。彼にとっては、海の深みに沈められた方がよかったからである。[1]

6 しかし、聖約を守り、戒めに従ってきた者は幸いである。彼らは[1]憐れみを受けるからである。

7 また、あなたがたの敵に襲われないように、今去ってこの地を逃れなさい。旅に出なさい。また、あなたがたが望む者を指導者とし、あなたがたのために金銭を支払う者としなさい。

8 このようにして、あなたがたは西の地域へ、[1]ミズーリの地へ、レーマン人の境の地へ旅をしなければならない。

9 そして、旅を終えたら、見よ、わたしはあなたがたに言うが、わたしがあなたがたのために場所を用意するまで、ほかの人々のように[1]生計を求めなさい。

10 さらにまた、わたしが[1]来るまで、艱難の中で[2]忍耐強くありなさい。見よ、わたしはすぐに来る。そして、わたしの報いはわたしとともにある。わたしを早く[3]求めた者は、自分自身に安息を[4]見いだすであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第55章

千八百三十一年六月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してウィリアム・W・フェルプスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百八十四—百八十六ページ）。印刷業者のウィリアム・W・フェルプスとその家族がカートランドに到着したばかりで、預言者は彼についての情報を主に求めた。

1—3 W・W・フェルプスは、バプテスマを受け、長老に聖任され、福音を宣べ伝えるように召され、選ばれる。4 彼はまた、教会の学校の子供たちのために本を書かなければならない。5—6 彼は、自分が働く地となるミズーリへ旅をしなければならない。

1 見よ、主、すなわち[1]全地の主は、あなた、すなわちわたしの僕ウィリアムにこのように言う。あなたは召され、選ばれている。あなたは水によって[2]バプ

4 ①教義42・30—39、GS「奉献・奉献の律法」 ②教義58・32—33 5 ①マタ18・6—7 6 ①GS「憐れみ」 8 ①教義52・42 9 ①1テサ4・11 10 ①黙示22・12、GS「イエス・キリストの再臨」 ②GS「忍耐」 ③箴言8・17、GS「祈り」 ④マタ11・28—30、GS「安息」

第55章

1 ①申命10・14、1ニフ11・6、2ニフ29・7 ②GS「バプテスマ」

テスマを受けると、しかも神の栄光にひたすら目を向けてそうするならば、罪の赦しを受け、[3]按手によって聖なる御霊を受けるであろう。

2 その後あなたは、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアの手により聖任されて、この教会のために長老となり、悔い改めと、生ける神の子イエス・キリストの名によるバプテスマによっての[1]罪の赦しを宣べ伝えるであろう。

3 また、だれでもあなたが手を置く者がわたしの前に悔いる状態であれば、あなたはその人に聖なる御霊を授ける力を持つであろう。

4 さらにまた、あなたは、わたしの僕オリバー・カウドリを助けるように聖任されて、印刷の仕事をし、また幼い子供たちもわたしの前で教えを受けられるように、この教会の学校のために[1]書籍を選び、著作する仕事に携わるであろう。幼い子供たちが教えを受けることは、わたしにとっての喜びである。

5 さらにまた、まことに、わたしはあなたに言う。あなたはこのために、すなわち、あなたの受け継ぎの地に[1]根を下ろしてこの仕事ができるようにするために、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアならびにシドニー・リグドンとともに旅に出なければならない。

6 さらにまた、わたしの僕ジョセフ・コーも、彼らとともに旅に出なさい。残りは、わたしが望むままに、この後知らされるであろう。アーメン。

第56章

千八百三十一年六月、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百八十六—百八十八ページ）。トーマス・B・マーシュとともにミズーリへ旅をするように任命されていたエズラ・セア（第五十二章二十二節を参照）は、トーマス・B・マーシュの準備が整ったときに、その伝道に出発することができなかった。セア長老は、オハイオ州トンプソンで問題に巻き込まれたために、旅に出る準備ができなかったのである（第五十四章の前書きを参照）。主はこの啓示を与えて、この件についての預言者の問いに答えられた。

1—2 聖徒たちは救いを得るために、自分の十字架を負い、主に従わなければならない。3—13 主は命じ

1 ③ GS「按手」
2 ① GS「罪の赦し」
4 ① 教義88・118、109・7、14
5 ① アモ9・15

られ、また取り消される。そして、不従順な者は絶たれる。14–17 貧しい人を助けない金持ちは災いである。また、貧しい人で、心が打ち砕かれていない者は災いである。18–20 貧しい人で、心が清い者は幸いである。彼らは地を受け継ぐからである。

1 聴きなさい、おお、わたしの名を公言する[1]人々よ。主なるあなたがたの神は言う。見よ、わたしの怒りは背く者に向かって燃えている。彼らは、もろもろの国民に下される[2]刑罰と激しい怒りの日に、わたしの腕とわたしの憤りを知るであろう。

2 自分の十字架を負ってわたしに[1]従おうとせず、またわたしの戒めを守ろうとしない者は、[2]救われないであろう。

3 見よ、主なるわたしは命じる。そして、わたしが命じた後に、その戒めが破られると、[1]従おうとしない者は、わたしがふさわしいと思うときに[2]絶たれる。

4 それゆえ、主なるわたしは、わたしがよいと思うままに命じ、また取り消す。[1]そして、これはすべて[2]背く者の頭に帰する、と主は言う。

5 それゆえ、わたしは、わたしの僕たち[1]トーマス・B・マーシュとエズラ・セアに与えた戒めを取り消し、わたしの僕トーマスに新しい戒めを与える。彼はミズーリの地へ速やかに旅をしなければならない。また、わたしの僕セラ・J・グリフィンも彼とともに行かなければならない。

6 見よ、わたしは、トンプソンにいるわたしの民が強情であり、背いたために、わたしの僕たちセラ・J・グリフィンとニューエル・ナイトに与えた戒めを取り消す。

7 それゆえ、わたしの僕ニューエル・ナイトは、彼らとともにとどまりなさい。わたしの前に悔いる状態であって、行くことを望むすべての者は、彼に導かれて、わたしが指定した地に行くことができる。

8 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕エズラ・セアは、[1]高慢とわがままを悔い改め、彼の住む場所に関してわたしが与えた以前の戒めに従わなければならない。

9 もしそうするならば、彼はなおミズーリの地へ行くように命じられる。土地の分配が行われないからである。

第56章

1 ①教義41・1 ②イザ10・3—4、モル9・2、教義1・13—14、124・10
2 ①ルカ14・27 ②1ペテ2・21、2ニフ31・10—13、モロ7・11、GS「イエス・キリスト模範」
3 ①GS「従順・従う」教義1・14—16、50・8 ②教義58・31—33
4 ①GS「背く」
5 ①②GS「マーシュ、トーマス・B」
8 ①GS「高慢」

10 そうしなければ、彼は自分が納めた金銭を受け取って、その場所を去り、わたしの教会から絶たれなければならない、と主なる万軍の神は言う。
11 たとえ天地が過ぎ去ろうと、これらの言葉は過ぎ去ることがなく、成就するであろう。
12 また、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが金銭を払う必要があれば、見よ、主なるわたしはミズーリの地で彼にそれを払い戻そう。それは、彼に金銭を与える人々が、彼らの行うことに応じて報われるためである。
13 彼らの行うことに応じて、彼らは土地を受け継ぎとして得るであろう。
14 見よ、主はわたしの民にこのように言う。すなわち、あなたがたにはなすべきことと、悔い改めるべきことがたくさんある。見よ、あなたがたの罪はわたしのもとに上ってきているが、赦されていない。あなたがたが自分の方法で勧めをしようとするからである。
15 あなたがたの心は満足していない。あなたがたは真理に従わないで、不義を喜んでいる。
16 あなたがた、金持ちで自分の持ち物を貧しい者に与えようとしない者は、災いである。あなたがたの富はあなたがたを腐敗させるからである。そして、刑罰と裁きと憤りの日におけるあなたがたの悲しみは、このようである。すなわち、「刈り入れの時は過ぎ、夏は終わった。しかし、わたしは救われていない」と。
17 あなたがた、貧しい者で心が打ち砕かれておらず、霊が悔いておらず、腹が満たされておらず、他人の所有物に手を置くのをとどめられず、その目が貪欲に満ちており、自分自身の手で働こうとしない者は、災いである。
18 しかし、貧しい者で、心が清く、心が打ち砕かれており、霊が悔いている者は、幸いである。彼らを救い出すために力と大いなる栄光とのうちに来る神の王国を見るからである。地の豊かなものが彼らのものとなるであろう。
19 見よ、主は来る。主は報いを携えて来て、すべての人に報いを与え、貧しい者は喜ぶであろう。
20 彼らの子孫は代々とこしえにいつまでも、地を受け継ぐであろう。これで、わたしはあなたがたに語ることを終わりにする。まことにそのとおりであ

---

10 (1) GS「破門」
11 (1) 2ニフ 9・16
14 (1) ヤコ 4・10
15 (1) アル 41・10、3ニフ 27・11
16 (1) エレ 17・11、2ニフ 9・30
(2) 箴言 14・31、アル 5・55−56、GS「貧しい」
(3) GS「施し」
(4) 新ヤコ 5・3
(5) エレ 8・20、アル 34・33−35、教義 45・2
17 (1) モサ 4・24−27、教義 42・42、68・30−32
(2) GS「貪欲・むさぼり」
18 (1) マタ 5・3、8、ルカ 6・20、3ニフ 12・3、GS「貧しい」
(2) GS「打ち砕かれた心」
(3) GS「神の王国・天の王国」
(4) GS「地球（地）」
19 (1) 黙示 22・12、教義 1・10
20 (1) マタ 5・5、教義 45・56−58

る。アーメン。

第57章

千八百三十一年七月二十日、ミズーリ州ジャクソン郡シオンにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百八十九—百九十ページ）。主の命令（第五十二章）に従って、長老たちはカートランドからミズーリへ旅をして来たが、途中で様々な経験をし、また多少の妨害に遭った。預言者は、レーマン人の状態と、また広く民の中に教養や気品や宗教心が欠けていることをつくづくと考えて叫んだ。「いつ荒れ野はばらのように花咲くのでしょうか。いつシオンはその栄光のうちに築き上げられ、また、終わりの時にすべての国民がやって来るあなたの神殿は、どこに立つのでしょうか。」（『教会歴史』第一巻、百八十九ページ）その後に、この啓示を受けた。

1—3 ミズーリ州インディペンデンスは、シオンの町と神殿のための場所である。4—7 聖徒たちはその地方で土地を購入し、受け継ぎを得なければならない。8—16 シドニー・ギルバートは店を開き、W・W・フェルプスは印刷を行い、オリバー・カウドリは出版のために資料を編集しなければならない。

1 聴きなさい、おお、わたしの命じたとおりにこの地、すなわち[1]ミズーリの地に集まって来たわたしの教会の長老たちよ。主なるあなたがたの神は言う。ここは、わたしが聖徒の[2]集合のために指定し、[3]聖別した[4]地である。

2 それゆえ、ここは約束の地であり、[1]シオンの町のための[2]場所である。

3 また、主なるあなたがたの神はこのように言う。もしあなたがたが知恵を得たいと望むならば、ここに知恵がある。見よ、今インディペンデンスと呼ばれている場所は中心の場所であり、[1]神殿の建てられる地点は西方の、郡庁舎から遠くない地所にある。

4 それゆえ、聖徒たちがその土地を[1]購入することは賢明である。また、西方に位置している土地、すなわち、[2]ユダヤ人と異邦人の間をまっすぐ走っている境界線に至るまでのすべての土地を、

5 また大平原に接するすべての土地も、わたしの弟

第57章

1 ① 教義52・42
② GS「イスラエル—イスラエルの集合」
③ 教義61・17
④ 教義29・7—8、45・64—66

2 ① GS「シオン」
② 教義28・9、42・9、62

3 ① 教義58・57、97・15—17

4 ① 教義48・4
② ここで言われている「ユダヤ人」とはレーマン人のことであり、「異邦人」とは白人住民のことである

子たちがそれらの土地を買えるかぎり購入することは賢明である。見よ、これは賢明なことである。彼らが永遠の受け継ぎとしてそれを得るためである。

6 また、わたしの僕シドニー・ギルバートは、わたしが任命した職に就いて、金銭を受け取り、教会のために代理人となり、また義をもって行えるかぎり、知恵に導かれるままに、周りのすべての地域で土地を買いなさい。

7 また、わたしの僕エドワード・パートリッジは、わたしが任命した職に就いて、わたしが命じたように、聖徒たちに彼らの受け継ぎを分配しなさい。また、彼を助けるように彼から任命された人々も同様である。

8 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕シドニー・ギルバートはこの地に定住し、一軒の店を開くことによって、正直に品物を売り、聖徒たちのために土地を買う金銭を得、弟子たちが受け継ぎの地に定住するために必要なものを何でも得られるようにしなさい。

9 また、わたしの僕シドニー・ギルバートは許可証を手に入れて、自分の業務で店員として雇いたいと思う者たちを使い、人々に品物を送るようにしなさい。見よ、ここに知恵がある。読む者は理解しなさい。

10 このようにして、わたしの聖徒たちに必要なものを与えて、暗闇に、また死の地と陰に座している人々にわたしの福音が宣べ伝えられるようにしなさい。

11 さらにまた、まことに、あなたがたに言う。わたしの僕ウィリアム・W・フェルプスはこの地に定住し、教会のために印刷の仕事をしなさい。

12 また見よ、世の人々が彼の書いたものを受け入れるならば、——見よ、ここに知恵がある——彼は、義をもって得られるものをすべて聖徒たちの益のために得るようにしなさい。

13 また、わたしの僕オリバー・カウドリは、わたしが指定するあらゆる場所で、わたしが命じたように、ウィリアム・W・フェルプスが筆写し、校正し、選択するのを助けなさい。御霊により彼を通して明らかにされるままに、すべてのことがわたしの前に正しくあるためである。

---

5 ①教義58・49、51、101・68—74 ②教義56・20 6 ①②教義53章 7 ①教義58・24、GS「パートリッジ、エドワード」 ②教義41・9—11、58・14—18 10 ①イザ9・2、マタ4・16、GS「暗闇（霊的な）」 ②詩篇23・4 11 ①②GS「フェルプス、ウィリアム・W」 13 ①②教義58・37、40—41 GS「カウドリ、オリバー」

14 このように、わたしが語った人々は、できるだけ速やかに家族とともにシオンの地に定住し、わたしが語ったとおりにそれらのことを行いなさい。
15 さて、集合に関して、ビショップと代理人は、できるだけ早く、この地に来るように命じられたそれらの家族のために準備をし、彼らを受け継ぎの地に定住させるようにしなさい。
16 また、長老たちと会員たちの残りには、この後さらに指示が与えられるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第58章

千八百三十一年八月一日、ミズーリ州ジャクソン郡シオンにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百九十—百九十五ページ）。ミズーリ州ジャクソン郡に預言者と一行が到着した後、最初の安息日に礼拝が行われ、バプテスマによって二人の会員が受け入れられた。その週の間に、トンプソン支部より、コールズビルの聖徒たちから成る会員たちと他の人々が到着した（第五十四章を参照）。多くの人が、新たな集合地での自分たちに関する主の御心を知りたいとしきりに願った。

1—5 艱難に耐える者は、栄光を冠として与えられる。6—12 聖徒たちは、小羊の婚宴と主の晩餐に備えなければならない。13—18 ビショップはイスラエルの判士である。19—23 聖徒たちは、その地の法律に従わなければならない。24—29 人は自分の選択の自由を使って、善を行うようにしなければならない。30—33 主は命じられ、また取り消される。34—43 悔い改めるために、人は自分の罪を告白し、それを捨てなければならない。44—58 聖徒たちは受け継ぎの地を購入し、ミズーリに集合しなければならない。59—65 福音はすべての造られたものに宣べ伝えられなければならない。

1 聴きなさい、おお、わたしの教会の長老たちよ。わたしの言葉に耳を傾けて、あなたがたに関して、またわたしがあなたがたを遣わしたこの地[1]に関して、わたしが望んでいる事柄をわたしから学びなさい。
2 まことに、わたしはあなたがたに言う。生きるも死ぬ[1]も、わたしの戒めを守る者は幸いである。[2][3]艱

第58章
1 ① 教義57・1—8
2 ① 1ペテ4・6
② モサ2・22
③ GS「逆境」

難の中で[4]忠実な者の受ける報いは、天の王国においてもっと大きい。
3 あなたがたは、この後に起こることに関するあなたがたの[1]神の計画と、多くの艱難の後に来る[2]栄光を、今は肉体の目で見ることができない。
4 多くの[1]艱難の後に[2]祝福は来る。それゆえ、あなたがたが大いなる[3]栄光を[4]冠として与えられる日が来る。その時はまだ来ていないが、もう近い。
5 わたしが前もってあなたがたに告げるこのことを覚えておきなさい。そうすれば、あなたがたはそれを[1]心に留めて、来るべきものを受けることができる。
6 見よ、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの理由で遣わしたのである。すなわち、あなたがたが従順であるため、またあなたがたの心が来るべきことについて[1]証を述べるように[2]備えられるためである。
7 さらに、あなたがたが基を据えるという誉れと、また神の[1]シオンが立つ地について証するという誉れを与えられるためである。
8 また、肥えたものの祝宴が[1]貧しい者のために備えられるようにするためでもある。まことに、預言者たちの口が偽りを言わないことを、地の人々が知ることのできるように、肥えたものと、[2]澱がよく精製されたぶどう酒の祝宴が備えられるようにするためである。
9 まことに、よく備えられた主の家の晩餐に、すべての国民が招かれるであろう。
10 まず、富者と学者、知者と貴人が招かれる。
11 その後、わたしの力の日が来る。それから、貧しい者と、足の不自由な者、目の見えない者、耳の聞こえない者が、小羊の[1]婚宴に来て、来るべき大いなる日のために備えられた主の[2]晩餐にあずかるであろう。
12 見よ、主なるわたしがこれを語った。
13 また、[1]証がシオンから、すなわち神の譲りの町の口から出るように、
14 まことに、この理由で、わたしはあなたがたをここに遣わし、わたしの僕[1]エドワード・パートリッジを選んで、この地における使命を彼に定めたのである。
15 しかし、もしも彼が自分の罪、すなわち不信仰と

2 ④ 2テサ1・4
3 ① GS「神・神会」
② GS「栄光」
4 ① 詩篇30・5、教義101・2—7、103・11—14、109・76
② GS「祝福」
③ ロマ8・17—18、教義136・31
④ GS「冠」「昇栄」
5 ① 申命11・18—19
6 ① GS「証」
② 教義29・8
7 ① GS「シオン」
8 ① GS「貧しい」
② イザ25・6
11 ① マタ22・1—14、黙示19・9、教義65・3
② ルカ14・16—24
13 ① ミカ4・2
14 ① GS「パートリッジ、エドワード」

心の暗さを悔い改めなければ、1)倒れることのないように彼に気をつけさせなさい。
16 見よ、彼の使命はすでに与えられており、再びそれが与えられることはない。
17 この使命に携わる者は、昔と同じように、イスラエルの1)判士となるように任命されて、神の2)子らに神の譲りの地を分け、
18 また、神の1)預言者たちより与えられる王国の律法に従って、正しい者の証言により、また彼の顧問たちの助けにより神の民を裁くのである。
19 まことに、わたしはあなたがたに言う。この地でわたしの律法は守られなければならない。
20 だれも自分を支配者であると考えてはならない。そうではなく、裁く者、言い換えれば、勧告する者や裁きの座に着く者を、神に神の思いのまま治めさせるようにしなさい。
21 だれもその地の1)法律を破ってはならない。神の律法を守る者は、その地の法律を破る必要がないからである。
22 それゆえ、1)治める権利を持つ者が治め、すべての敵をその足の下に従わせるまで、今ある権力に従いなさい。
23 見よ、あなたがたがわたしの手から受けた律法は、教会の律法である。このことに照らして、あなたがたはこれらを掲げるようにしなければならない。見よ、ここに知恵がある。
24 さて、わたしの僕エドワード・パートリッジについて語ったように、この地は彼の居住の地、また彼が顧問として任命した者たちの居住の地である。また、わたしの倉を1)管理するようにわたしが任命した者の居住の地でもある。
25 それゆえ、彼らに、彼ら自身とわたしとの間で協議するとおりに、彼らの家族をこの地に連れて来させなさい。
26 見よ、わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。すべてのことを強いられて行う者は1)怠惰であって、賢い僕ではない。したがって、彼は報いを受けない。
27 まことに、わたしは言う。人は1)熱心に善いことに携わり、多くのことをその自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならない。

15 ①1コリ10・12
17 ①教義107・72—74、GS「ビショップ」
18 ①②GS「神の息子、娘」
21 ①GS「預言者」
98・4—10、箇条1・12、
22 ①GS「政府」
GS「イエス・キリスト」「福千年」「メシヤ」
23 ①GS「律法」
24 ①11マタ24・45—51、教義51・13、70・7—
26 ①107・99—100
27 ①GS「行い」「熱心」

28 人は自らの内に力があり、それによって自ら[1]選択し行動する者だからである。そして、人は善を行うならば、決してその報いを失うことはない。
29 しかし、命じられるまで何事も行わず、疑いの心をもって戒めを受け入れ、それを不承不承守る者は、[1]罰の定めを受ける。
30 主は言う。人を造ったわたしが、わたしの戒めに従わない者を罪のない者とするであろうか。
31 主は言う。わたしが[1]約束をして、果たさなかったことがあるであろうか。
32 わたしが命じて、人々が従わないと、わたしは命じたことを取り消し、[1]彼らは祝福を受けない。
33 すると、彼らは心の中で、「これは主の業ではない。約束が果たされていないから」と言う。しかし、このような者は災いである。彼らの報いは[1]下に潜み、上からは来ないからである。
34 さて、わたしはこの地に関してさらに幾つかの指示をあなたがたに与える。
35 わたしの僕マーティン・ハリスが彼の金銭を教会のビショップの前に[1]置いて、教会員の模範となることは、わたしの知恵にかなっている。
36 またこれは、受け継ぎを得るためにこの地にやって来るすべての人への律法である。そして、彼らはその律法が指示するとおりに、その金銭を処置しなければならない。
37 倉のために、また[1]印刷所のために、インディペンデンスに土地を購入することもまた賢明である。
38 また、わたしの僕マーティン・ハリスには、彼がよいと思うままに受け継ぎを得られるように、彼に関するほかの指示が御霊によって与えられるであろう。
39 しかし、彼は世の[1]誉れを求めているので、罪を悔い改めさせなさい。
40 また、わたしの僕[1]ウィリアム・W・フェルプスも、わたしが任命した職に就いて、この地で彼の受け継ぎを得るようにさせなさい。
41 しかし、彼も悔い改める必要がある。彼は抜きんでることを求めて、わたしの前に十分柔和になっていないので、主なるわたしは彼を喜んでいないからである。
42 見よ、自分の罪を[1]悔い改めた者は[2]赦され、主なるわたしはもうそれを[3]思い起こさない。

---

28 ① GS「選択の自由」
29 ① GS「罰の定め」
30 ① イザ45・9−10、ヒラ12・6
31 ① 教義1・37−38、82・10
32 ① 教義56・3−4
33 ① 教義29・45
35 ① 教義42・30−32
37 ① 教義57・11−12
39 ① 2ニフ26・29、教義121・34−37
40 ① GS「フェルプス、ウィリアム・W」
42 ① GS「悔い改め」 ② イザ1・18 ③ GS「赦し」、イザ43・25

43 人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し[1]、そしてそれを捨てる[2]。

44 さて、まことに、わたしは、わたしの教会の長老たちの残りについて言う。彼らがこの地で受け継ぎを得る時は、彼らが信仰の祈りによってそれを望んで、主から定められなければ、まだ長年の間来ない。

45 見よ、彼らは地の果てから人々を押し集めなければならないからである[1]。

46 あなたがたは集まりなさい。そして、この地にとどまるように命じられていない者は、周りの地域で福音を宣べ伝えなさい。それから、自分の家に帰りなさい。

47 長老たちは途中で教えを説き、すべての場所で真理について証を述べ、富んでいる者や、地位の高い者や低い者、また貧しい者に悔い改めを呼びかけなさい。

48 そして、地に住む者が悔い改めるならば、教会[1]を築き上げなさい。

49 また、教会員の声によってオハイオの教会に代理人を定め、シオン[1]の土地を購入する金銭を受け取らせなさい。

50 わたしは、わたしの僕シドニー・リグドンに戒めを与える。彼は御霊によって知らされるままに、シオンの地の詳細と神の御心を知らせる声明とを記[1]さなければならない。

51 また、金銭を得るためにすべての教会に渡す手紙と同意書を作成して、神の子らの受け継ぎの地を購入するため、彼がよいと思うままに、あるいは彼が指示するままに、ビショップか、彼自身、あるいは代理人の手にその金銭を納めるようにしなければならない。

52 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。主は弟子たちと人の子らがその心を開いて、まことに時間の許すかぎりできるだけ早く、この地域全体を購入することを望んでいる。

53 見よ、ここに知恵がある。彼らにこれを行わせなさい。そうでなければ、彼らは血を流すことなしには、決して受け継ぎを得られないであろう[1]。

54 さらにまた、土地を手に入れたならば、すべての職種の働き手をこの地に送って、神の聖徒たちの

---

43 (1) GS「告白」
45 (1) 教義19・20、64・7、82・7
(2) 申命33・17、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
46 (1) 教義68・8
47 (1) 教会の支部のこと
48 (1) GS「シオン」
49 (1) 教義63・55—56
50 (1) 教義63・27—31
53 (1) 教義19・20、64・7、82・7

ために働かせなさい。

55 これらすべてのことを秩序正しく行いなさい。また、教会のビショップや代理人は、時々この土地で得られる特権について報告するようにしなさい。

56 集合の業は慌てることのないようにし、また逃げるようにして行うことのないようにしなさい。しかし、それは、教会の長老たちが大会で決めるとおりに、また彼らが折々に受ける知識に従って行うようにしなさい。

57 また、わたしの僕シドニー・リグドンは、この土地と[1]神殿用地を主のために聖別し、奉献しなさい。

58 大会の集会を召集しなさい。その後、わたしの僕シドニー・リグドンとジョセフ・スミス・ジュニアは帰り、また彼らとともにオリバー・カウドリも帰って、わたしが彼ら自身の土地で彼らに指定した業の残り、ならびに大会で[1]決定されることの残務を果たしなさい。

59 また、この地から帰る者は、自分が知っており、最も深く確かに信じている事柄について、途中で証を述べないで帰ることのないようにしなさい。

60 ザイバ・ピーターソンに授けられたものを彼から取り去りなさい。そして、彼を教会の一会員として、彼が自分のすべての罪に対して十分に懲らしめを受けるまで、兄弟たちとともに彼自身の手を使って働かせなさい。彼は自分の罪を告白せず、それらを隠そうと考えているからである。

61 この地に向かっているこの教会の長老たちの残りの者も、この地で大会を開きなさい。その中のある者たちは非常に、まことに計り知れないほど祝福されている。

62 わたしの僕エドワード・パートリッジは、彼らが開く大会を指導しなさい。

63 そして、彼らも帰り、途中で福音を宣べ伝え、彼らに明らかにされた事柄について証を述べなさい。

64 まことに、この知らせはこの地から全世界に、また地の最も遠い所まで出て行くであろう。福音はすべての造られたものに[1]宣べ伝えられ、信じる者には数々のしるしが伴うであろう。

65 そして見よ、人の子が来る。アーメン。

第59章

千八百三十一年八月七日、ミズーリ州ジャクソン郡

57 ① 教義57・3、84・3
58 ① 1−5、31、97・10−17
59 ① GS「同意の律法」
60 ① GS「証」
61 ① GS「懲らしめ」
64 ① GS「宣べ伝える」
65 ① GS「しるし」
② GS「イエス・キリストの再臨」

シオンにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、百九十六—二百一ページ）。預言者はこの啓示を記録するに先立ち、当時人々が集合していたシオンの地の様子を詳細に描写している。その土地は主から指示されたとおりに聖別され、また将来の神殿のための敷地が奉献された。主はこれらの戒めを、特にシオンの聖徒たちに当てはまるものとしておられる。

1—4 シオンの忠実な聖徒たちは祝福される。5—8 彼らは主を愛し、主に仕え、主の戒めを守らなければならない。9—19 主の日を聖く守ることによって、聖徒たちは物質的にも霊的にも祝福される。20—24 義人はこの世において平和を、また来るべき世において永遠の命を約束される。

1 見よ。主は言う。わたしの命じたとおりに、わたしの栄光にひたすら目を向けてこの地に上って来た人々は、幸いである。

2 生きている者は地を受け継ぎ、死ぬ者はその労苦をすべて解かれて休み、彼らの業は彼らについて行くからである。そして、彼らは、わたしが彼らのために用意した父の住まいで冠を受けるであろう。

3 まことに、わたしの福音に従っていて、自分の足でシオンの地に立つ者は、幸いである。彼らは地の良いものを報いとして受けるからである。そして、地は力強く産するであろう。

4 彼らは上からの数々の祝福を、また少なからぬ戒めを、さらに時にかなった数々の啓示を冠として与えられるであろう。わたしの前に忠実かつ熱心である者は、このとおりである。

5 それゆえ、わたしは彼らに戒めを与えて、このように言う。あなたは心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければならない。また、イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならない。

6 あなたは自分自身を愛するように隣人を愛さなければならない。あなたは盗んではならない。姦淫をしてはならない。殺してはならない。これに類することをしてはならない。

7 あなたはすべてのことについて、主なるあなたの神に感謝しなければならない。

第59章

1 ①マタ 6・22—24、教義 88・67
2 ①教義 20・48—49、②黙示 14・13、GS「死（肉体の）」、「パラダイス」、③ヨハ 14・2、教義 72・4、76・111、81・6、98・18
3 ①④GS「冠」、「昇栄」、創世 4・12、モセ 5・37
4 ①教義 42・61、76・7、98・12、121・26—29、GS「啓示」
5 ①③②GS「熱心」、GS「心」、申命 11・1、マタ 22・37、モロ 10・32、教義 20・19、GS「愛」、GS「奉仕」、GS「フェローシップ」
6 ①③GS「ふさわしさ」、②GS「盗み」、③GS「姦淫」、④GS「殺人」、詩篇 92・1、アル 37・37、教義 46・32、GS「感謝」

8 あなたは、義をもって主なるあなたの神に犠牲を、すなわち打ち砕かれた心と悔いる霊の犠牲をささげなければならない。

9 また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。

10 まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。

11 それでも、あなたの誓言は、毎日、また常に、義をもってささげなければならない。

12 しかし、この主の日に、あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげ、また兄弟たちと主の前にあなたの罪を告白しなければならないことを覚えておきなさい。

13 また、この日には、あなたはほかに何事もしないようにしなければならない。ただ、あなたの食物を真心を込めて準備して、あなたの断食が完全になるように、言い換えれば、あなたの喜びが満たされるようにするだけである。

14 まことに、これは断食と祈り、言い換えれば、喜びと祈りである。

15 あなたがたが、感謝して、楽しげな心と表情をもって、しかも、ひどく笑うことは罪であるのでそうすることなく、しかし喜びの心と楽しげな表情をもって、これらのことを行うならば、

16 まことに、わたしは言うが、あなたがたがこれを行うならば、地に満ちているもの、すなわち、野の獣と空の鳥、また木に登るものと地上を歩くものは、あなたがたのものとなる。

17 まことにまた、草と、地から生じる良いものも、あなたがたのものとなる。これらのものは、食物のため、または衣服のため、または家屋のため、または小屋のため、または果樹園のため、または菜園のため、またはぶどう園のために用いられる。

18 まことに、季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。

19 まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけるために造られている。

20 神はこれらのものをすべて人に与えたことを喜ん

---

8 (1) GS「義」
(2) GS「犠牲」
(3) GS「打ち砕かれた心」
9 (1) 新ヤコ1・27
(2) GS「安息日」
10 (1) GS「礼拝」
(2) 神と同胞のためにささげる時間や才能、財産。
12 (1) GS「犠牲」
(2) GS「告白」
13 (1) GS「断食」
(2) GS「喜び」
15 (1) GS「感謝」
(2) 出エ25・2、教義64・34
(3) 箴言17・22、教義88・69
18 (1) GS「地球（地）」
(2)
(3)
(4)

でいる。この目的のためにこれらのものは、思慮分別をもって、度を越さず、貪欲に取ることなく使うように造られたからである。

21 また、すべてのことの中に神の手を1)認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。

22 見よ、これは律法と預言者にかなっている。それゆえ、この件についてこれからはもうわたしを煩わさないようにしなさい。

23 しかし、義の業を行う者はその2)報いを受ける、すなわち、この世において3)平和を、また来るべき世において4)永遠の命を受けるということを知っておきなさい。

24 主なるわたしがこれを語った。そして、御霊が証する。アーメン。

第60章

千八百三十一年八月八日、ミズーリ州ジャクソン郡において、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百一―二百二ページ）。このとき、東部へ帰るように命じられた長老たちは、どのように事を進めるべきか、またどの経路を、どのような方法で旅をしなければならないか知りたいと望んだ。

1−9 長老たちは、悪人の集まりの中で福音を宣べなければならない。10−14 長老たちは時間を無駄に過ごしてはならず、自分のタラントを隠してはならない。15−17 彼らは福音を拒む者に対する証として、自分の足を洗うことができる。

1 見よ、自分たちが出て来た地に速やかに帰らなければならない主の教会の長老たちに、主はこのように言う。見よ、あなたがたがここに上って来たことを、わたしは喜んでいる。

2 しかし、ある人々については、わたしは心から喜んではいない。彼らは1)口を開こうとせず、人を2)恐れて、わたしが与えたタラントを3)隠しているからである。このような者は災いである。わたしの怒りは彼らに向かって燃えているからである。

21 ①ヨブ 1・21
23 ①GS「義」
②GS「祝福」
③マタ 11・28−30、GS「平安・平和」
④教義 14・7

第60章
2 ①エペ 6・19−20
②マタ 25・14−30、GS「畏れ・恐れ−人への恐れ」
③ルカ 8・16、18

3 そして、彼らはもっとわたしに忠実でなければ、持っているものまでも取り上げられるであろう。
4 主なるわたしは、上は天で治め、また地の軍勢[1]の中でも治めているからである。そして、わたしが自分の宝石[2]を集める日に、すべての人は、神の力を示すものが何かを知るであろう。
5 しかしまことに、わたしは、あなたがたが出て来た地に帰る旅について語ろう。舟を造ろうと買おうと、あなたがたがよいと思うようにしなさい。それはわたしにとっては問題ではない。そして、セントルイスと呼ばれている地に向かって速やかに旅に出なさい。
6 そこから、わたしの僕たちシドニー・リグドンと、ジョセフ・スミス・ジュニアと、オリバー・カウドリは、シンシナティに向けて旅をしなさい。
7 この地で、彼らは声を上げ、また怒ったり疑ったりしないで聖い手を挙げて、大きな声でわたしの言葉を告げなさい。わたしはあなたがたを聖[1]くすることができ、あなたがたの罪は赦[2]されている。
8 また、残りの者は、二人ずつ組んでセントルイスから旅をし、彼らが出て来たそれぞれの教会に帰り着くまで、悪人の集まりの中で急ぐことなく御言葉を宣べなさい。
9 これはすべてそれぞれの教会のためである。この目的でわたしは彼らを遣わしたのである。
10 また、わたしの僕エドワード・パートリッジ[1]は、わたしが与えた金銭の一部を、戻るように命じられているわたしの長老たちに分け与えなさい。
11 そして、できる者には代理人を通してそれを返金させなさい。また、できない者にはそれは求められていない。
12 さて、わたしはこの地に来ることになっている残りの者について語る。
13 見よ、彼らは悪人の集まりの中でわたしの福音を宣べるために遣わされている。それゆえ、わたしは彼らに戒めを与える。それは次のとおりである。すなわち、あなたは時間[1]を無駄に過ごしてはならず、また[2]タラントを隠して、それが知られないようにしてはならない。
14 あなたはシオンの地に上って来て、わたしの言葉を宣言した後、速やかに帰って、悪人の集まりの中で、急ぐことなく、[1]怒ったり争ったりせずに、わた

3 ①マコ4・25、教義1・33
4 ①アル43・50 ②イザ62・3、ゼカ9・16、マラ3・17、教義101・3
7 ①GS「聖い」 ②GS「赦し」
10 ①GS「パートリッジ、エドワード」
13 ①教義42・42、GS「怠惰」 ②マタ25・24—30、教義82・18
14 ①箴言14・29

しの言葉を宣言しなければならない。
15また、あなたを受け入れない者たちに対して、あなたの足のちり[1]を払い落としなさい。ただし、彼らを怒らせることのないように、彼らの前でせずに、ひそかにしなさい。また、裁きの日における彼らに対する証として、あなたの足を洗いなさい。
16見よ、あなたがたのためにはこれで十分であり、これがあなたがたを遣わした者の思いである。
17また、シドニー・リグドンとオリバー・カウドリに関しては、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアの口を通して知らされるであろう。残りはこの後に。まことにそのとおりである。アーメン。

第61章

千八百三十一年八月十二日、ミズーリ川のマクイルウェインズ・ベンドの岸で、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百二—二百五ページ）。預言者と十人の長老たちは、カートランドへの帰路、カヌーでミズーリ川を下った。その旅の三日目に、彼らは多くの危険な経験をした。ウィリアム・W・フェルプス長老は、白昼の示現の中で、滅ぼす者が力をもって水の面を進んで行くのを見た。

1—12 主は水の上に多くの滅びがあるように定められた。13—22 水はヨハネによってのろわれた。そして、滅ぼす者が水の面を進んで行く。23—29 ある人々は水に命じる力を持つ。30—35 長老たちは二人ずつ組んで旅をし、福音を宣べ伝えなければならない。36—39 長老たちは人の子の来臨のために備えなければならない。

1見よ、一切の[1]権威を持つ者、永遠から永遠にわたって存在する者、すなわち、アルパであり[2]オメガであり、初めであり終わりである者の声を聴きなさい。
2見よ、この場所に集まっているあなたがた、おお、わたしの教会の長老たちよ、主なるわたしは罪を[1]赦し、またへりくだった心をもって自分の罪を[2]告白する者たちに[3]憐れみ深いので、今罪が赦されているあなたがたに、主はまことにこのように言う。
3まことに、わたしはあなたがたに言う。川の両岸

15 ①マタ10・14、ルカ9・5、使徒13・51、教義24・15、75・20、84・92
第61章
1 ①②GS「力」
②GS「アルパとオメガ」
2 ①モサ4・10—11、GS「赦し」
②③GS「告白」
③GS「憐れみ」

に住む者たちが不信仰で滅びつつあるときに、わたしの長老たちのこの一行全員が水の上を速く進んで行くことは必要ではない。

4 それでも、わたしは、あなたがたが証を述べられるように、水の上を行くことを許した。見よ、水の上には多くの危険があり、特にこの後さらに多くなる。

5 主なるわたしが怒って、水の上に多くの滅びがあるように定めたからである。そして、これらの水の上には特にそうである。

6 それでも、すべての肉なるものはわたしの手の内にあり、あなたがたの中の忠実な者は、水によって滅びることはない。

7 さて、わたしの僕シドニー・ギルバートとわたしの僕ウィリアム・W・フェルプス[1]は、急いで彼らの用向きと使命に就くことが必要である。

8 それでも、わたしは、あなたがたが自分のすべての罪に対して懲らしめ[1]を受けるまで、あなたがたを別れさせようとしなかった。それは、あなたがたが一つとなるためであり、またあなたがたが悪[2]の中で滅びないためである。

9 しかし今、まことに、わたしは言う。あなたがたが別れることは、わたしにとって必要である。それゆえ、わたしの僕シドニー・ギルバートとウィリアム・W・フェルプスを、彼らの以前の一行とともに行かせなさい。使命を果たすために、急いで旅をさせなさい。そうすれば、信仰によって彼らは勝利を得るであろう。

10 彼らは忠実であれば、守られるであろう。主なるわたしは彼らとともにいるであろう。

11 また、残りの者は、着る物として必要なものを携えて行きなさい。

12 わたしの僕シドニー・ギルバートには、あなたがたが同意するままに、あなたがたに必要のないものを携えて行かせなさい。

13 さて見よ、あなたがたのために、わたしはこれらのことに関して[1]戒めを与えた。また、主なるわたしは、昔の人々と行ったようにあなたがたと論じよう。

14 見よ、主なるわたしは初めに水[1]を祝福したが、終わりの時には、わたしの僕ヨハネの口によって水[2]をのろった。

---

7 ① GS「フェルプス、ウィリアム・W」
8 ① GS「懲らしめ」
② GS「邪悪」
13 ① 教義21・6
② GS「戒め（神の）」
14 ① 創世1・20
② 黙示8・8—11

15 それゆえ、肉なるものが水の上で安全でない時が来る。
16 来るべき時には、心のまっすぐな者のほかには、だれも水の上をシオンの地に上って行くことはできないと言われるであろう。
17 また、主なるわたしは初めに地をのろったように、[1]終わりの時には、ふさわしいときに地をわたしの聖徒たちが使うために祝福して、彼らが地の豊かなものにあずかれるようにした。
18 さて、わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。わたしは一人に言うことをすべての者に言う。あなたがたはこれらの水に関して兄弟たちに前もって警告して、彼らがこれらの水の上を旅をして来ないようにしなければならない。そうでなければ、彼らの信仰はなくなり、彼らはわなにかけられる。
19 主なるわたしが定め、滅ぼす者が水の面を進んで行く。わたしはその定めを取り消さない。
20 主なるわたしは昨日はあなたがたのことを怒ったが、今日は、わたしの怒りも解けている。
21 それゆえ、急いで旅に出なければならないとわたしが語った者たちに、もう一度わたしはあなたがたに言うが、彼らに急いで旅をさせなさい。
22 しばしの後、彼らが自分の使命を果たすならば、彼らが水路を取ろうと、陸路を取ろうと、問題ではない。その後は、彼らの判断に従って、彼らに知らされるままにしておきなさい。
23 さて、わたしの僕たちシドニー・リグドンと、ジョセフ・スミス・ジュニアと、オリバー・カウドリに関してであるが、彼らは、家に向かう旅では、運河の上のほかは再び水の上を行かないようにしなさい。言い換えれば、彼らは運河のほかは、水の上を旅してはならない。
24 見よ、主なるわたしは、わたしの聖徒たちの旅のために一つの道を定めた。見よ、これがその道である。すなわち、彼らは旅をしてシオンの地に上って行くように命じられたら、運河を離れた後は、陸路を行かなければならない。
25 彼らは途中で[1]天幕を張りながら、イスラエルの子らのように旅をしなければならない。
26 見よ、あなたがたはこの戒めをすべての兄弟たちに伝えなければならない。
27 それでも、水に命じる[1]力を与えられる者には、御

17 ① モセ 4・23
25 ① 民数 9・18
27 ① GS「神権」「力」

霊によって、主のすべての道を知ることが許される。

28 それゆえ、その者には、この後わたしが望むとおりに、陸上であろうと水上であろうと、生ける神の御霊が命じるままに行わせなさい。

29 また、聖徒たちが旅をする経路、すなわち主の陣営の聖徒たちが旅をする道は、あなたがたに示されている。

30 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕たちシドニー・リグドンと、ジョセフ・スミス・ジュニアと、オリバー・カウドリは、シンシナティに到着するまで、悪人の集まりの中で口を開いてはならない。

31 そして、その場所で、彼らはその民に対して、すなわち滅亡の機がまさに熟している[1]民に対して、神に、すなわちその民の悪事にその怒りを燃やしている神に声を上げなければならない。

32 また、彼らは、そこから兄弟たちの集まりに向かって旅をしなさい。彼らの働きがまことに今、悪人の集まりの中におけるよりも、彼らの中において大いに望まれているからである。

33 さて、残りの者についてであるが、彼らは旅をして、御言葉が与えられるのに応じて、悪人の集まりの中で御言葉を告げなさい。

34 彼らはこれを行うならば、その衣から汚れが除かれて、わたしの前に汚れのない者となるであろう。

35 彼らは、全員一緒であろうと、[1]二人ずつであろうと、彼らがよいと思うままに旅をしなさい。ただ、わたしが心から喜んでいるわたしの僕たちレイノルズ・カフーンとサミュエル・H・スミスは、家に帰り着くまで別れてはならない。これはわたしの内にある、ある賢明な目的のためである。

36 さて、まことに、あなたがたに言う。そして、わたしは一人に言うことをすべての者に言う。幼い子供たちよ、元気を出しなさい。わたしはあなたがたの[2]中におり、あなたがたを[3]見捨てていないからである。

37 あなたがたがわたしの前にへりくだったので、[1]王国の祝福はあなたがたのものである。

38 人の子の来臨を待ち望んで、腰に帯を締め、[1]目を覚ましていて、まじめでありなさい。あなたがたの思いがけないときに、人の子は来るからである。

---

31 ①14、教義101・11
33 ①GS「証する」「宣べ伝える」
34 ①2ニフ9・44、ヤコ2・2、モサ2・28
35 ①GS「伝道活動」
36 ①ヨハ13・33　②マタ18・20　③イザ41・15−17、1ニフ21・14−15
37 ①教義50・35
38 ①GS「見守る・見守る者」

39 あなたがたは、1)誘惑に陥らないように常に2)祈って、生きるも死ぬも主の来る日に堪えられるようにしなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

第62章

千八百三十一年八月十三日、ミズーリ州チャリトンのミズーリ川の岸で、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百五—二百六ページ）。この日、インディペンデンスからカートランドへ向かっていた預言者とその一行は、シオンの地へ向かっていた数人の長老たちに出会い、喜びのあいさつを交わした後にこの啓示を受けた。

1—3 証は天で記録されている。4—9 長老たちは、自らの判断力に従って、また御霊により導かれるままに、旅をして、教えを説かなければならない。

1 見よ、おお、わたしの教会の長老たちよ、聴きなさい。主なるあなたがたの神、すなわちイエス・キリスト、あなたがたの1)弁護者、人の弱さを知っており、2)誘惑を受ける者たちを助ける3)方法を知っている者は言う。

2 まことに、わたしの目は、シオンの地にまだ上って来ていない者たちのうえにある。シオンの地にまだ上って来ていないので、あなたがたの使命はまだ果たされていない。

3 それでも、あなたがたは祝福されている。あなたがたが述べた1)証は、天使たちが見るために天で2)記録されているからである。そして、天使たちはあなたがたのことを喜んでおり、あなたがたの3)罪は赦されている。

4 さて、あなたがたの旅を続けなさい。1)シオンの地に集まって、集会を開き、ともに喜び合い、いと高き方に聖式をささげなさい。

5 その後、あなたがたは証するために帰ってよい。すなわち、あなたがたがよいと思うままに、全員一緒に帰ろうと、二人ずつで帰ろうと、問題ではない。ただ、忠実であって、地に住む者に、すなわち悪人の集まりの中で喜びのおとずれを告げなさい。

6 見よ、主なるわたしは、あなたがたの中の忠実な者が守られてミズーリの地でともに喜び合うという約束が果たされるように、あなたがたを集めてき

---

39 ①GS「誘惑」 ②GS「祈り」

第62章

1 ①教義45・3—4、GS「弁護者」 ②GS「誘惑」 ③ヘブ2・18、アル7・12

3 ①ルカ12・8—9、GS「証」 ②GS「命の書」 ③教義84・61

4 ①教義57・1—2

5 ①GS「伝道活動」

た。主なるわたしは忠実な者に約束を与え、[1]偽りを
言うことができない。
7 あなたがたの中のだれかが、馬か、らばか、馬車
に乗ることを望み、かつすべてのことに[1]感謝の心を
もって主の手からこの祝福を受けるならば、主なる
わたしは喜んで、彼がそれを受けられるようにしよ
う。
8 これらのことは、判断力と御霊の指示に従って行
うようにあなたがたに任されている。
9 見よ、[1]王国はあなたがたのものである。見よ、見
よ、わたしは常に忠実な者と[2]ともにいる。まこと
にそのとおりである。アーメン。

第63章

千八百三十一年八月下旬、オハイオ州カートランド
において、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられ
た啓示（『教会歴史』第一巻、二百六—二百十一ペー
ジ）。預言者、シドニー・リグドン、およびオリバー・
カウドリは、ミズーリへの訪問を終えて、八月二十七
日にカートランドに到着していた。預言者はこの啓示
の記録の前書きとして、次のように記している。「教
会のこの幼年期に、何らかの点でわたしたちの救いに
かかわっているあらゆる事柄について、主の言葉を頂
きたいという切なる願いがあった。また、シオンの地
は今考えられている最も重要なこの世的な関心事で
あったので、わたしは、聖徒の集合と、土地の購入
と、そのほかの事柄についてもっと知るために主に尋
ねた。」（『教会歴史』第一巻、二百七ページ）

1–6 激しい怒りの日が悪人に及ぶ。7–12 しるし
は信仰によって生じる。13–19 心の中で姦淫をする者
は信仰を否定する。そして、火の池に投げ込まれる。
20 忠実な者は、変貌した地球上で受け継ぎを得る。
21 変貌の山での出来事についての完全な記録は、ま
だ明らかにされていない。22–23 従順な者は王国の
奥義を受ける。24–31 シオンにおける受け継ぎは、購
入しなければならない。32–35 主は戦争を定めておら
れ、悪人が悪人を殺す。36–48 聖徒たちはシオンに集
合し、シオンを築き上げるために金銭を提供しなけれ
ばならない。49–54 忠実な者には、再臨の時、復活の
時、福千年の間に数々の祝福が与えられることが保
証される。55–58 今は警告の時である。59–66 権能を

6 ① エテ 3・12
7 ① GS「感謝」
9 ① 教義 61・37
② マタ 28・20

持たずに主の名を使う者たちが、御名をみだりに唱えている。

1 聴きなさい、おお、人々よ。心を開き、遠くから耳を傾けなさい。主の民と自称するあなたがたは、聴きなさい。主の言葉と、あなたがたに関する主の思いを聞きなさい。

2 まことに、わたしは言う。悪人と背く[1]者に向かって怒りを燃やしている者の言葉を聞きなさい。

3 まことに自分が取りたいと思う者たちを取り、また自分が命を守りたいと思う者たちの命を守る者、

4 自分の意のまま、思いのままに築き上げる者、自分がよいと思うときに滅ぼす者、霊を地獄に投げ落とすことのできる者の言葉を聞きなさい。

5 見よ、主なるわたしが声を発すると、それには従わなければならない。

6 それゆえ、まことに、わたしは言う。悪人は用心し、背く者は恐れおののき、信じない者は口をつぐみなさい。[1]激しい怒りの日が[2]旋風のようにこれらの者に及ぶからである。そして、すべての肉なるものはわたしが神であることを[3]知るであろう。

7 しるしを求める者は[1]しるしを見るが、救いには至らない。

8 まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中にしるしを求める者たちがいる。このような者は、まことに初めからいた。

9 しかし見よ、信仰はしるしによっては生じないが、信じる者にはしるしが伴う。

10 まことに、しるしは[1]信仰によって生じる。それらは人の意志によらず、人の欲するままにではなく、神の思いによる。

11 まことに、しるしは信仰によって生じ、力ある業をもたらす。[1]信仰がなければ、だれも神に喜ばれない。また、神の怒りを受ける者を、神が心から喜ぶことはない。それゆえ、このような者に、神は何のしるしも示さず、ただ[2]激しく怒って[3]罪の宣告を下すだけである。

12 それゆえ、あなたがたの中の、信仰のためにしるしと不思議を求めていて、人々を益してわたしの栄光をもたらすためにこれらを求めようとしない者たちを、主なるわたしは喜ばない。

13 さて、わたしは戒めを与える。多くの者がわたし

第63章
2① GS「背く」
3① GS「死（肉体の）」
6① GS「イエス・キリストの再臨」「正義」
② エレ30・23
③ イザ49・26
7① 教義46・9、GS「しるし」
10① モロ7・37、GS「信仰」
11① ヘブ11・6
② 教義35・11
③ 教義88・65

の戒めから離れ去り、それらを守ってこなかった。
14 あなたがたの中に、1)姦淫をした男女がいた。そのうちのある者たちはあなたがたから離れ去った。しかし、ほかの者たちはあなたがたの中にとどまっており、彼らについてはこの後、明らかにされるであろう。
15 このような者たちは気をつけて、速やかに悔い改めなさい。そうしなければ、裁きがわなのようにこれらの者に及び、彼らの愚かさが明らかにされ、彼らの業が人々の目の前で彼らについて行くであろう。
16 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしが前に言ったように、1)情欲を抱いて女を見る者は、すなわちだれか心の中で3)姦淫をするならば、彼らは御霊を持たなくなり、信仰を否定し、恐れるようになる。
17 それゆえ、主なるわたしは言ってきた。すなわち、1)恐れる者、信じない者、すべて偽りを2)言う者、偽りを好んで3)行う者、みだらな行いをする者、魔術を使う者は、火と4)硫黄の燃える池で報いを受ける。これが第二の5)死である。
18 まことに、わたしは言う。彼らは1)第一の復活にあずからない。
19 さて見よ、主なるわたしはあなたがたに言う。これらの事柄があなたがたの中にあるので、あなたがたは義とされない。
20 それにもかかわらず、信仰をもって堪え忍び、わたしの思うところを行う者は、勝利を得て、地上で2)受け継ぎを得るであろう。それは、変貌の日が来る時、
21 1)大地がまことにわたしの使徒たちに2)山上で示されたひながたに倣って3)変貌する時のことである。その出来事についての完全な記録を、あなたがたはまだ受けていない。
22 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いをあなたがたに知らせると言ったように、見よ、わたしはあなたがたにそれを知らせよう。しかし、戒めとしてではない。わたしの戒めを守ろうとしない多くの者がいるからである。
23 しかし、わたしの戒めを守る者に、わたしは、わたしの王国の1)奥義を与えよう。それは彼の内で生ける水の井戸となり、そこから永遠の命に至る水がわ3)

---

14 ①教義42・24−25
16 ①GS「欲望」 ②マタ5・27−28、教義42・23−26 ③GS「姦淫」
17 ①③黙示21・8 ②GS「偽り」 ③黙示22・15、教義76・103 ④黙示19・20、2ニフ9・8−19、26、28、23、ヤコ6・10、アル12・16
18 ①教義76・36、GS「地獄」 ⑤GS「死（霊の）」
19 ①黙示20・6 GS「義認・義とされる」
20 ①②教義101・35、マタ5・5、教義59・2、88・25−26
21 ①GS「地球（地）−最終的な状態」 ②マタ17・1−3 GS「世−世の終わり」
23 ①アル12・9−11、教義42・61、84・19、107・18−19 ②GS「生ける水」 ③ヨハ4・14

き出るであろう。

24さて見よ、主の聖徒たちに関する主なるあなたがたの神の思いは、彼らがシオンの地に集まることである。しかし、混乱が起こって疫病をもたらすことのないために、急いではならない。

25見よ、[1]シオンの地を。主なるわたしは、それをわたし自身の手の中に保つ。

26それでも、主なるわたしは、カイザルのものは[1]カイザルに返す。

27それゆえ、主なるわたしは、あなたがたが土地を購入することを望んでいる。それによって、あなたがたが世に対して有利な立場を得るように、世に対して権利を持つように、また彼らがそそのかされて怒ることのないようにするためである。

28なぜならば、[1]サタンが彼らの心の中に、あなたがたに対して怒る思いと、血を流そうとする思いを入れるからである。

29それゆえ、シオンの地は、購入によるか、流血によるか、それ以外では得られない。そうでなければ、あなたがたのために受け継ぎはない。

30そして、もし購入によるとすれば、見よ、あなたがたは祝福される。

31もし流血によるとすれば、あなたがたは血を流すことを禁じられているので、見よ、敵はあなたがたを襲い、あなたがたは鞭打たれて町から町へ、会堂から会堂へと追われる。そして、残って受け継ぎを得る者はわずかであろう。

32主なるわたしは悪人のことを怒っており、地に住む者にわたしの御霊を与えるのを控えている。

33わたしは激しく怒って誓い、地の面に[1]戦争があるように定めた。そこで、悪人は悪人を殺し、恐怖がすべての人に及ぶであろう。

34また、[1]聖徒たちもほとんど逃れられない。それにもかかわらず、主なるわたしは彼らとともにおり、また、天から、父のもとから[2]降って来て、消すことのできない[3]火で[4]悪人を焼き尽くそう。

35見よ、これはまだではあるが、やがて起こる。

36それゆえ、主なるわたしは、これらすべてのことが地の面にあるように定めたので、わたしの聖徒たちがシオンの地に集まるように望んでいる。

37また、すべての人がその手に[1]義を取り、その腰に[2]忠信をまとい、地に住む者に[3]警告の声を上げ、荒

---

25 ①GS「シオン」
26 ①ルカ20・25、教義58・21–23、GS「政府」
28 ①GS「悪魔」
33 ①GS「戦争」
34 ①GS「聖徒」 ②GS「イエス・キリストの再臨」 ③GS「火」 ④マタ3・12、2ニフ26・6、教義45・57、64・24、101・23–25、66、GS「邪悪」
37 ①GS「義」 ②教義1・4 ③イザ47・11

廃が悪人に及ぶことを言葉と逃げ去ることの両方
によって告げ知らせるようにと、わたしは望んでい
る。
38 それゆえ、この農場に住んでいるカートランドの
わたしの弟子たちは、この世のものを整えなさい。
39 この農場を管理しているわたしの僕タイタス・
ビリングズは、来春シオンの地に旅をする準備がで
きるように、土地を処分しなさい。わたしが命じる
まで行かないようにわたし自身のために残しておく
人々を除き、この地に住んでいる人々とともに行き
なさい。
40 また、節約できる金銭をすべてシオンの地に送
り、これを受け取るためにわたしが任命しておいた
人々に届くようにしなさい。それが少ないか多い
か、それは問題ではない。
41 見よ、主なるわたしは、わたしの僕ジョセフ・ス
ミス・ジュニアに、シオンの地に上って行かなけれ
ばならない者と、わたしの弟子たちのうちでとどま
らなければならない者とを、御霊によって見分ける
ことのできる力を与えよう。
42 わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーには、
彼の店、言い換えれば、その店を、もうしばしの間
保持させなさい。
43 それでも、彼が分け与えることのできる金銭をす
べて分けて、シオンの地に送らせなさい。
44 見よ、これらのことは彼の手にゆだねられてい
る。彼に、知恵に従って行わせなさい。
45 まことに、わたしは言う。この地にとどまる弟子
たちのために、彼を代理人として聖任しなさい。彼
をこの力を有する職に聖任しなさい。
46 そして、わたしの僕オリバー・カウドリとともに、
今速やかに諸教会を訪れさせ、これらのことを詳
しく説明させなさい。見よ、わたしの思いはこれで
ある。すなわち、彼らがわたしの指示したように金
銭を得ることである。
47 忠実であって堪え忍ぶ者は、世に打ち勝つであろ
う。
48 シオンの地に宝を送る者は、この世において受け
継ぎを得、その業は彼について行き、また彼は来る
べき世においても報いを受けるであろう。
49 また、今から後、主にあって死ぬ者は幸いである。
主が来て、古いものが過ぎ去り、万物が新しくなる

41 ① GS「識別の賜物」
47 ① モサ2・41、教義6・13
48 ① 教義101・18
49 ① 黙示14・13、教義42・44−47
② 2コリ5・17

とき、彼らは死者の中からよみがえり、その後死ぬことはなく、聖なる都において主の前で受け継ぎを得るであろう。[3]

50 また、主が来るときに生きていて、信仰を保っている者は、[1]幸いである。それでも、その人は人間の寿命で死ぬように定められる。[2]

51 それゆえ、子供たちは高齢になるまで[1]成長し、高齢の人々は死ぬ。しかし、彼らは地の中に眠ることはなく、一瞬のうちに[2]変えられる。

52 したがってこのために、使徒たちは世の人々に死者の復活を宣べ伝えたのである。

53 これらのことは、あなたがたが待ち望まなければならないことである。そして、主の言い方で語れば、これらのことはもう[1]近づいており、将来、すなわち人の子の来臨の日にある。

54 そのときまで、賢い[1]おとめたちの中に愚かなおとめがいるであろう。そしてそのときに、義人と悪人の完全な分離がある。その日に、わたしは、わたしの天使たちを[2]遣わし、悪人を抜き取って、消すことのできない火の中に投げ込もう。

55 さて見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。主なるわたしは、わたしの僕[1]シドニー・リグドンを喜ばない。彼は心の中で[2]高ぶり、勧告を受け入れず、御霊を悲しませた。

56 それゆえ、彼の[1]書いたものを主は受け入れないので、彼は別のものをもう一つ作らなければならない。そして、もしも主がそれを受け入れなければ、見よ、彼はわたしが任命した職にもはやとどまらないであろう。

57 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。悔い改めるよう罪人に[1]警告したいと心の中で柔和に望んでいる[2]者たちを、この力を有する職に聖任しなさい。

58 今は警告の時であり、多くの言葉を費やす時ではないからである。終わりの時に主なるわたしが侮られることはない。

59 見よ、わたしは上から来た者であり、わたしの力は下にある。わたしは万物の上にあり、万物の中にあり、万物を貫いてあり、またすべてのことを究めている。そして、万物がわたしに従う日が来る。

60 見よ、わたしは[1]アルパでありオメガである。すなわち、イエス・キリストである。

---

49 ③ GS「復活」
④ 45、教義88・116、GS「不死不滅」
50 ① GS「祝福」
② GS「死（肉体の）」
51 ① イザ65・20−22、教義45・58、101・29−31
② 教義43・32、1コリ15・51−52、教義35・15、マタ25・1−13、教義45・56−59
53 ① 教義58・50
② モサ16・2
54 ① GS「リグドン、シドニー」
② GS「高慢」
55 ① 教義58・50
② 教義18・14−15、GS「警告」「伝道活動」
57 ① 教義4・3−6
② 1コリ2・10
59 ① GS「アルパとオメガ」
60 ① 黙示21・4、アル11・45、教義88・116、GS「不死不滅」

61 それゆえ、すべての人は、わたしの名[1]をどのように口にするか気をつけなさい。
62 見よ、まことに、わたしは言う。この罪の宣告を受ける多くの者がいる。彼らは主の名を使い、権能を持たずにみだりにそれを使っている。
63 それゆえ、教会員は罪を悔い改めなさい。そうすれば、主なるわたしは彼らを自分のものとする。そうでなければ、彼らは絶たれるであろう。
64 上から来るものは神聖[1]であり、それについては注意して、御霊の促し[2]によって語るようにしなければならないことを覚えておきなさい。こうすれば、罪の宣告を受けることはなく、あなたがたは祈り[3]によって御霊を受ける。それゆえ、こうしなければ罪の宣告がある。
65 わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアとシドニー・リグドンは、祈り[1]によって御霊により教えられるままに、家を一軒捜し求めなさい。
66 これらのことは忍耐をもって打ち勝つようにすべきものであり、そうすれば、彼らはさらに優れた、永遠の重み[1]のある栄光[2]を受けることができる。そうでなければ、もっと大きな罪の宣告を受ける。アーメン。

第64章

千八百三十一年九月十一日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して教会の長老たちに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百十一―二百十四ページ）。預言者はミズーリに行っていた間中断していた『聖書』の翻訳の仕事を再開するために、オハイオ州ハイラムに転居する準備をしていた。（ミズーリ州）シオンへ旅をするように命じられた兄弟たちの一行は、十月に出発するための準備に本格的に携わっていた。この多忙なときに、この啓示が与えられた。

1―11 聖徒たちは互いに赦し合うように命じられる。そうしなければ、もっと大きな罪が彼らの中に残る。12―22 悔い改めない者は、教会員の前に連れて来なければならない。23―25 什分の一を納める者は、主の来臨の時に焼かれない。26―32 聖徒たちは負債を抱えることのないように警告される。33―36 背く者はシオンから絶たれる。37―40 教会はもろもろの国民を裁

61① GS「不敬」
64① GS「聖い」
64② GS「敬虔」
64③ 教義42・14
65① GS「祈り」
66① 2コリ4・17
66② ロマ8・18、教義58・4、136・31

く。41−43シオンは栄える。

1 見よ、主なるあなたがたの神は、あなたがたにこのように言う。おお、わたしの教会の長老たちよ、あなたがたは耳を傾けて聞き、あなたがたに関するわたしの思いを受け入れなさい。
2 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたが世に打ち勝つように望んでいるので、あなたがたを哀れもう。
3 あなたがたの中に罪を犯した者たちがいる。しかし、まことに、わたしは言う。この度に限って、わたし自身の栄光と人々の救いのために、わたしはあなたがたの罪を赦した。
4 わたしはあなたがたに王国を与えたので、あなたがたに憐れみ深くあろう。
5 王国の奥義の鍵は、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアがわたしの定めに従うかぎり、彼が生きている間、わたしが定めた方法によって彼から取り去られることはない。
6 理由もなく彼に反対する機をうかがってきた者たちがいる。
7 それでも、彼は罪を犯してきた。しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。主なるわたしは、わたしの前に自分の罪を告白して赦しを求める者たちで、死に至る罪を犯していない者たちについては罪を赦す。
8 昔のわたしの弟子たちは、互いに機をうかがい合い、またその心の中で互いを赦さなかった。そして、この悪のゆえに彼らは苦しめられ、ひどく懲らしめられた。
9 それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。
10 主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。
11 あなたがたは心の中で言うべきである。すなわち、「神がわたしとあなたの間を裁き、あなたの行いに応じてあなたに報いてくださるように」と。
12 また、自分の罪を悔い改めず、それを告白しない者を、あなたがたは教会員の前に連れて来て、戒め

第64章
2① 1ヨハ5・4
② GS「哀れみ」
3① モセ1・39
② イザ43・25
5① 教義28・7、84・19、
GS「神権の鍵」
② GS「定め」
7① 民数5・6−7、教義
② 19・20、58・43、GS「告白」
③ 教義76・31−37
GS「罪の赦し」「赦し」
8① GS「争い」
② GS「懲らしめ」
9① マコ11・25−26、教義
② 82・1
マタ6・14−15、エペ
4・32
10① 出エ33・19、アル39・
6、教義56・14
② モサ26・29−31
11① サ上24・12
② 2テモ4・14
12① 教義42・80−93

によろうと啓示によろうと、聖文があなたがたに言っているとおりに彼に対処しなければならない。
13 神がたたえられるように、あなたがたはこれを行わなければならない。それは、あなたがたが思いやりを持っていないので赦さないためではなく、あなたがたの立法者に対して罪を犯すことのないように律法の目で義とされるためである。
14 まことに、わたしは言う。この理由で、あなたがたはこれらのことを行わなければならない。
15 見よ、主なるわたしは、わたしの僕であったエズラ・ブースと、またわたしの僕アイザック・モーリーのことを怒った。それは、彼らが律法も戒めも守らなかったからである。
16 彼らは心の中で悪を求めた。そこで、主なるわたしは、わたしの御霊を与えずにおいた。彼らはまったく悪のないものを悪として非難[1]した。それでも、わたしはわたしの僕アイザック・モーリーを赦した。
17 また、わたしの僕エドワード・パートリッジ[1]も、見よ、彼も罪を犯し、サタン[2]は彼の霊を滅ぼそうとしている。しかし、これらのことが彼らに知らされて、彼らが悪を悔い改めるとき、彼らは赦される。
18 さて、まことに、わたしは言う。わたしの僕シドニー・ギルバートが、数週間後に自分の仕事に戻り、シオンの地における代理人の業務に携わること、
19 また、彼の見聞きしたことをわたしの弟子たちに知らせて、彼らが滅びないようにすることは、わたしにとって必要である。このために、わたしはこれらのことを語ってきたのである。
20 さらにまた、あなたがたに言う。わたしの僕アイザック・モーリーが、耐えられないような誘惑[1]を受けて、あなたがたの害となる誤った助言をすることのないために、わたしは彼の農場を売るように命じた。
21 わたしは、わたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズが彼の農場を売ることは望まない。主なるわたしは、五年の間、カートランドの地に一つのとりでを保持したいからである。その間は、そのことによって何人かの者たちを救えるように、わたしは悪人を打ち滅ぼさない。
22 その時が過ぎると、主なるわたしは、素直な心で

16 ① 2ニフ15・20、教義121・16
17 ① GS「パートリッジ、エドワード」
② GS「悪魔」
20 ① GS「誘惑」

シオンの地に上って行く者をだれも罪があるとはしない。主なるわたしは、人の子らの心を求めるからである。

23 見よ、今、人の子の来臨までは今日と呼ばれる。まことに、今日は犠牲の日であり、わたしの民が什分の一を納める日である。什分の一を納める者は、主の来臨の時に焼かれないであろう。

24 今日が過ぎると、焼き払いがある。これは主の言い方である。まことに、わたしは言う。明日、すべて高ぶる者と悪を行う者は、わらのようになる。わたしは彼らを焼き尽くそう。わたしは万軍の主である。わたしはバビロンにとどまる者をだれも容赦しない。

25 それゆえ、あなたがたはわたしを信じるならば、今日と呼ばれるうちに働くであろう。

26 また、わたしの僕であるニューエル・K・ホイットニーとシドニー・ギルバートが、ここにある彼らの店と所有物を売ることは、適切ではない。この地にとどまっている教会員の残りがシオンの地に上って行くまで、それらのものを売るのは賢明ではないからである。

27 見よ、あなたがたの敵に対して負債を抱えることは、わたしの律法の中で言われている、つまり禁じられている。

28 しかし見よ、主が主の欲するときに受け取り、主のよいと思うままに支払うこともしてはならないとは、どんなときにも言われていない。

29 さて、あなたがたは代理人であるので、主の用向きを受けている。そして、あなたがたが主の思いに従って行うことは何であろうと、主の業務である。

30 主はこの終わりの時に、主の聖徒たちがシオンの地で受け継ぎを得られるように、彼らに必要なものを与えるためにあなたがたを任命した。

31 見よ、主なるわたしはあなたがたに宣言する。そして、わたしの言葉は確かであり、果たされないことはない。すなわち、彼らは受け継ぎを得るであろう。

32 しかし、すべてのことは時節にかなって起こる。

33 それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。

---

22 ① 出エ35・5、教義59・15、64・34
23 ① GS「イエス・キリストの再臨」
② 教義45・6、64・24−25
③ GS「犠牲」
④ マラ3・10−11、GS「什分の一」
⑤ マラ4・1、3ニフ25・1、ジー歴史1・37
24 ① イザ66・15−16、GS「地球（地）−地球の清め」「世−世の終わり」
② マラ3・15、2ニフ12・12、23・11、GS「高慢」
③ 教義1・16、GS「バビロン・バベル」
26 ① GS「ホイットニー、ニューエル・K」
② 教義57・8
27 ① GS「負債」
30 ① 教義63・48
31 ① マコ13・31、2ニフ31・15、教義1・37−38
② 教義76・3
33 ① ガラ6・9
② 教義123・16

34 見よ、主は心と進んで行う精神とを求める。2)そして、進んで行う従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう。
35 しかし、1)背く者はシオンの地から絶たれ、2)追い出され、その地を受け継がない。
36 まことに、わたしは言う。背く者はエフライムの血統に属さないので、彼らは抜き取られる。
37 見よ、主なるわたしはこの終わりの時に、わたしの教会を、もろもろの国民を裁くために丘の上、あるいは高い場所に座を占める裁判官のようにした。
38 シオンに住む者は、シオンに関するすべてのことを1)裁くであろう。
39 そして、偽りを言う者や偽善者はシオンに住む者たちによって立証され、また使徒でも預言者でもない者たちは知られるようになる。
40 また、1)判士であるビショップや、その顧問たちでさえ、もしも彼らが自分の管理人の職に忠実でなければ罪があるとされ、ほかの人々が代わりに立てられる。4)
41 見よ、わたしはあなたがたに言う。シオンは栄えて、主の2)栄光がそのうえにあるであろう。
42 そして、シオンは民のために1)旗となり、天下のあらゆる国から人々がシオンに来るであろう。
43 地のもろもろの国民がシオンのゆえに1)おののき、シオンの恐ろしい者たちのゆえに恐れる日が来るであろう。主がこれを語った。アーメン。

第65章

千八百三十一年十月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百十八ページ）。預言者はこの啓示を一つの祈りと称している。

1−2 神の王国の鍵が地上の人にゆだねられており、福音の大義は勝利を得る。3−6 福千年の天の王国が来て、地上の神の王国と一つになる。

1 見よ、高い所から遣わされた者、力強く勢力のある者、地の果てまで出て行く者、まことにその声が人々に及ぶ者の声を聴きなさい。「1)主の道を備え、その道筋をまっすぐにせよ。」
2 1)神の王国の2)鍵は地上の人にゆだねられており、あ

---

34 ①申命32・46、ヨシュ22・5、モル9・27、GS「心」　②ミカ6・8　③イザ1・19、GS「従順・従う」
35 ①GS「背く」　②教義41・5、50・8、56・3、GS「破門」
36 ①申命33・16−17　②イザ2・3−4、教義133・1、21　③黙示2・2、GS「使徒」
39 ①教義58・17、107・72
40 ①1−74　②GS「ビショップ」　③GS「管理人・管理人の職」　④教義107・99−100
41 ①GS「シオン」　②教義45・67、84・4　③1・5、97・15−20、GS「栄光」
42 ①GS「旗」
43 ①イザ60・14、教義97・19−20
第65章 1 ①イザ40・3、マタ3・3、ヨハ1・23　②教義90・1−5　③マタ16・19、教義42・69、GS「神権の鍵」

たかも人手によらずに山から切り出された石が全地[3]に満ちるまで転がり進むように、そこから福音は地の果てまで転がり進むであろう。

3 まことに、一つの声は叫ぶ。「あなたがたは主の道を備え、小羊の婚宴[1]を備え、花婿[2]のために用意をせよ。」

4 主に祈り、主の聖なる名を呼び、主の驚くべき業を人々の間に知らせなさい。

5 主に呼び求めて、主の王国が地上に進み行くようにして、地に住む者がそれを受け入れて来るべき時に備えられるようにしなさい。そのとき、人の子は、地上に建てられた神[1]の王国に会うために、その栄光[2]の輝き[3]をまとって天の中を降って来る[4]であろう。

6 そのために、神[1]の王国が進み行きますように。それによって、天[2]の王国が来て、おお、神よ、あなたが天でも地上でもたたえられ、あなたの敵が征服されますように。誉れと力と栄光は、とこしえにいつまでもあなた[3]のものです。アーメン。

第66章

千八百三十一年十月二十五日、オハイオ州オレンジにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百十九—二百二十一ページ）。この日は、ある重要な大会の初日であった。預言者はこの啓示の前書きとして、「ウィリアム・E・マクレランの求めに応じて、わたしは主に尋ね、次の啓示を受けた」（『教会歴史』第一巻、二百二十ページ）と記している。

1—4 永遠の聖約は完全な福音である。5—8 長老たちは宣べ伝え、証し、人々と論じなければならない。9—13 主の業において忠実に仕える者は、永遠の命の受け継ぎを保証される。

1 見よ、主はこのようにわたしの僕ウィリアム・E・マクレランに言う。あなたは自分の罪悪を捨てて、わたしの真理を受け入れたので、幸いである、と主なるあなたの贖い主、世の救い主、すなわち、わたしの名を信じるすべての者の救い主は言う。

2 まことに、わたしはあなたに言う。あなたはわたしの永遠[1]の聖約、すなわち、人の子らのもとに送り出されたわたしの完全な福音を受け入れているの

2 ③ ダニ2・34—45
④ 詩篇72・19、GS「終わりの時・末日」「ダニエル—ダニエル書」
3 ① マタ22・1—14、黙示19・9、教義58・11
② GS「花婿」
5 ① ダニ2・44
② GS「栄光」
③ 詩篇93・1
④ マタ24・30
6 ① GS「神の王国・天の王国」
② 黙示11・15
③ 歴上29・11

第66章
1 ① ヨハ1・12、GS「信じる」
2 ① GS「新しくかつ永遠の聖約」

で、幸いである。それは、昔の使徒たちと預言者たちによって書き記されたとおり、人の子らが命[2)]を得て、終わりの時に明らかにされる栄光にあずかる者とされるためである。

3 まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ウィリアムに言う。あなたは清いが、完全に清いわけではない。それゆえ、わたしの目にかなわない事柄を悔い改めなさい、と主は言う。主はあなたにそれらの事柄を知らせ[1)し]るからである。

4 さて、まことに、主なるわたしは、わたしがあなたについて何を望んでいるか、すなわち、あなたに関するわたしの思いは何であるかをあなたに示そう。

5 見よ、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの思いは、あなたがわたしの福音を地方から地方へ、町から町へ、すなわち、それが宣言されていないそれらの周りの地域で[1)]宣言することである。

6 この地に長い間とどまってはならない。シオンの地にまだ上って行ってはならない。しかし、あなたは送れるだけ送りなさい。それ以外に、あなたの財産のことを考えてはならない。

7 東の地方へ行き[1)]、あらゆる場所ですべての人に向かって、また彼らの会堂で、[2)]証を述べ、人々と論じなさい。

8 わたしの僕サミュエル・H・スミスをあなたとともに行かせなさい。そして、彼を見捨てないようにし、彼にあなたの指示を与えなさい。忠実な者はあらゆる所で強く[1)]されるであろう。また、主なるわたしはあなたとともに行こう。

9 病人にあなたの手を[1)]置きなさい。そうすれば、[2)]快復するであろう。主なるわたしがあなたを遣わすまで、帰ってはならない。苦難の中で忍耐強くありなさい。[3)]求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。

10 煩わされないようにしなさい。すべての不義を捨てなさい。[1)]姦淫をしてはならない。これはあなたが悩まされてきた誘惑である。

11 これらの言葉を[1)]守りなさい。これらの言葉は真実であり、確かである。また、あなたは自分の務めを尊んで大いなるものとし、多くの人を、その頭に与えられる永遠の喜びの歌[2)]とともに、シオンに押し進めなければならない。

---

2 ②ヨハ 10・10、3 ニフ 5・13
3 ①ヤコ 4・7、エテ 12・27
5 ①マコ 16・15
7 ①教義 75・6
8 ①②GS「証」
9 ①教義 52・17、133・58
②GS「按手」「病人への癒しの祝福」
③新ヤコ 1・5
10 ①GS「姦淫」
11 ①教義 35・24、イザ 35・10、教義 45・71、②GS「歌う」
③教義 11・6

12 最後までこれらのことを続けなさい。[1)]そうすればあなたは、恵みと真理に満ちておられる父の右において永遠の命の冠を受けるであろう。[2)]

13 まことに、主なるあなたの神、[1)]あなたの贖い主、すなわち、イエス・キリストはこのように言う。アーメン。

第67章

千八百三十一年十一月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百二十四―二百二十五ページ）。この啓示が与えられたのは、特別大会のときである。この大会では、預言者を通してすでに主から受けていた啓示の出版が検討され、決定された（第一章の前書きを参照）。オリバー・カウドリとジョン・ホイットマーが啓示の原稿をインディペンデンスに持って行き、そこでW・W・フェルプスがそれを『戒めの書』として出版することが決定された。多くの兄弟たちが、彼らのうえに注がれる聖霊が証するままに、当時出版のために集められた啓示はまことに真実であることを厳粛に証した。第一章として知られている啓示を受けた後、啓示の中で使われている言葉について多少の否定的な会話があったことを、預言者は記録している。この啓示はその後に与えられたものである。

1−3 主は長老たちの祈りを聞き、見守っておられる。4−9 主は最も賢い者に、主の啓示の中で最も小さいものと同じものを作るように挑まれる。10−14 忠実な長老たちは御霊によって変えられ、神の顔を拝する。

1 見よ、そして聴きなさい、おお、ともに集まっているわたしの教会の[1)]長老たちよ、わたしがその祈りを聞き、その心を知り、その望みがわたしの前に上って来ている者よ。

2 見よ、見よ、わたしの目は[1)]あなたがたのうえにある。天と地はわたしの手の内にある。永遠の富はわたしのものであり、わたしが与えるものである。

3 あなたがたは、自分に差し出された祝福を得られると、努めて信じようとした。しかし見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの心の中に[1)]恐れがある。まことにこれが、あなたがたが祝

12 ① 2テモ 3・14−15、2ニフ 31・20 ② イザ 62・3、マタ 25・21、1ペテ 5・4
13 ① GS「神・神会―子なる神」
第67章
1 ① GS「長老」
2 ① 詩篇 34・15
3 ① GS「畏れ・恐れ」

福を受けなかった理由である。

4 さて、主なるわたしは、あなたがたの前にあるこれらの戒めが真実であるという証[1]をあなたがたに与える。

5 あなたがたの目は、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアのうえにあった。あなたがたは彼の言葉[1]を知り、また彼の不完全なところを知った。そして、あなたがたは自分の心の中で、彼の言葉よりも優れた表現をするために知識を求めてきた。このことはあなたがたも知っている。

6 さて、あなたがたは『戒めの書』から、まことに戒めの中で最も小さいものを捜し、またあなたがたの中で最も賢い者を選びなさい。

7 あるいは、あなたがたの中のだれかを選び、最も小さい戒めと同等のものを作るならば、そのとき、あなたがたはそれらが真実であるとは分からないと言っても義とされる。

8 しかし、あなたがたがそれと同等のものを作れない場合、それらが真実であることを証[1]しなければ、あなたがたは罪の宣告を受ける。

9 それらの中には少しの不義もないこと、また義[1]にかなうものは上から、光[2]の父から降って来ることを、あなたがたは知っているからである。

10 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。次に述べることはあなたがたの特権であり、またこの務めに聖任されたあなたがたにわたしが与える約束である。すなわち、あなたがたがねたみ[1]と恐[2]れを除き去り、また、まだ十分に[3]へりくだっていないのでわたしの前にへりくだるならば、[4]幕は裂け、あなたがたはわたしを見[5]て、わたしがいることを知るであろう。ただし、肉の思いや、生まれながらの心ではなく、霊の心で見るであろう。

11 人[1]は神の御霊によって変えられないかぎり、いまだかつて肉体において神を見た者はいない。

12 生[1]まれながらの人はだれも神の臨在に堪えられない。肉の思いに従う者もそうである。

13 あなたがたは今は神の臨在にも、天使たちの訪れにも堪えることができない。それゆえ、あなたがたが完全[1]になるまで忍耐[2]し続けなさい。

14 あなたがたの心を引き戻さないようにしなさい。そうすれば、あなたがたがふさわしくなって、わたしがよいと思うときに、あなたがたは、わたしの僕[1]

---

4 ① GS「証」「真理」
5 ① 教義1・24
6 ① 2ニフ9・28—29、42
8 ① GS「証人」「証」
9 ① モロ7・15—18
10 ① GS「ねたむ」
② 新ヤコ1・17、教義50・24、84・45、88・49
③ GS「畏れ・恐れ」
④ GS「謙遜」
⑤ GS「幕」
97・16 教義88・68、93・1、
11 ① JS出エ33・20、23、ヨハ1・18、6・46、JS1ヨハ4・12、教義84・19—22、モセ1・11、14
12 ① モサ3・19、GS「生まれながらの人」
13 ① マタ5・48、3ニフ12・48
② ロマ2・7、GS「忍耐」
14 ① GS「ふさわしさ」

ジョセフ・スミス・ジュニアの手によって授けられたものを目にし、知るであろう。アーメン。

第68章

千八百三十一年十一月、オハイオ州ハイラムにおいて、オーソン・ハイド、ルーク・S・ジョンソン、ライマン・E・ジョンソン、およびウィリアム・E・マクレランの求めに応じて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百二十七—二百二十九ページ）。この啓示は、前述の長老たちについて主の思いが知らされるようにとの嘆願にこたえて与えられたものであるが、その内容の多くは全教会に関係するものである。

1—5 聖霊に感じて語る長老たちの言葉は、聖文である。6—12 長老たちは宣べ伝え、バプテスマを施さなければならない。そうすれば、心から信じる者にはしるしが伴う。13—24 アロンの子孫の中の長子は、大管長会の指示の下に、管理ビショップとして務めることができる（すなわち、ビショップとして長の職の鍵を持つ）。25—28 両親は自分の子供たちに福音を教えるように命じられる。29—35 聖徒たちは安息日を守り、熱心に働き、祈らなければならない。

1 わたしの僕オーソン・ハイドは、民から民へ、地方から地方へ、悪人の集まりの中で、彼らの会堂で、彼らと論じながら、また彼らにすべての聖文を説き明かしながら、生ける神の[1]御霊により永遠の福音を宣言するように、聖任によって召された。

2 見よ、見よ、これはこの神権に聖任され、出て行く使命に定められたすべての者にとっての一つの範例である。

3 また、聖霊に感じるままに[1]語ることは、彼らにとっての範例である。

4 そして、何であろうと[1]聖霊に感じて語ることは、聖文となり、主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、[2]救いを得させる神の力となる。

5 見よ、おお、わたしの僕たちよ、これはあなたがたへの主の約束である。

6 元気を出しなさい。[1]恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍ら

第68章
1 (1) GS「聖霊」
3 (1) 2ペテ1・21、教義18・32、42・16、100・5
4 (1) GS「啓示」「聖霊」
6 (1) ロマ1・16
(2) イザ41・10

に立つからである。あなたがたは、わたし、すなわちイエス・キリストについて、わたしが生ける神の子であること、わたしがかつており、今おり、やがて来ることを証しなければならない。

7 あなた、すなわちわたしの僕[1]オーソン・ハイドへの、またわたしの僕ルーク・ジョンソンへの、またわたしの僕ライマン・ジョンソンへの、またわたしの僕ウィリアム・E・マクレランへの、またわたしの教会のすべての忠実な長老たちへの主の言葉はこれである。

8 すなわち、全世界に出て行って[1]、すべての造られた[2]ものに福音を宣べ伝え[3]、わたしがあなたがたに授けた権能[4]を行使し、父と子と聖霊の名によってバプテスマ[5]を施しなさい。

9 信じてバプテスマを受ける者は救われる[2]。しかし、信じない者は罰[3]の定めを受ける。

10 信じる者は、書き記されているように、それに伴うしるし[1]を祝福として授けられる。

11 また、あなたがたには、時[1]のしるしと人の子の来臨のしるしを知ることが許される。

12 また、父が証されるすべての者について、あなたがたには、彼らを永遠の命に結び固める[1]力が与えられるであろう。アーメン。

13 さて、聖約と戒めに加える幾つかの事項に関してであるが、それらは次のとおりである。

14 この後、主がふさわしいと思うときに、教会のために[1]ほかのビショップたちが任命されて、最初のビショップと同じように仕えることになる。

15 彼らはふさわしい[1]大祭司でなければならず、アロンの直系の子孫である場合を除いては、メルキゼデク神権の大管長会[2]によって選任されなければならない。

16 もし彼らがアロン[1]の直系の子孫であり、アロンの子孫の中の長子であれば、ビショップの職に就く律法上の権利を持つ。

17 長子はこの神権[1]をつかさどる長の職の権利と、この神権の鍵すなわち権能[1]を所有するからである。

18 だれもアロンの直系[1]の子孫で、かつ長子でなければ、この職に就き、この神権の鍵を所有する律法上の権利を持たない。

19 しかし、メルキゼデク神権の大祭司[1]は、それ以下のすべての職の職務を行う権能を持つので、アロン

---

7 ①GS「ハイド、オーソン」
8 ①教義1・2、63・37 ②マコ16・15 ③GS「伝道活動」「宣べ伝える」 ④GS「権威・権限・権能」 ⑤GS「バプテスマ」 マコ16・16、教義20・9
9 ①25 ②GS「救い」 ③GS「罰の定め」
10 ①GS「しるし」
11 ①GS「時のしるし」
12 ①教義1・8、132・49、GS「結び固め」
14 ①GS「ビショップ」
15 ①教義72・1 ②GS「アロン（モーセの兄）」
16 ①③GS「大管長会」 教義107・15—17、GS「アロン神権」
17 ①GS「神権の鍵」 出エ40・12—15、教義84・18、107・13—16、70—76
19 ①GS「大祭司」

の直系の子孫がだれも見つからないときは、メルキゼデク神権の大管長会の手の下でこの力を有する職に召され、任命され、聖任されるならば、[2]ビショップの職務を行うことができる。

20 また、アロンの直系の子孫もこの大管長会によって指名され、ふさわしいと認められ、[1]油を注がれ、この大管長会の手の下で[2]聖任されなければならない。そうでなければ、彼らはその神権において職務を行う律法上の権能を与えられない。

21 しかし、父から息子へ伝えられる彼らの神権の権利についての定めがあるので、いつでも彼らが自分の血統を立証できるならば、あるいは前に述べた大管長会の手の下で主からの啓示によってそれを確認するならば、彼らはその油注ぎを要求することができる。

22 さらにまた、ビショップまたはこの務めのために任命される大祭司は、教会の[1]大管長会の前で受けるほか、どのような罪科に対しても審理や罪の宣告を受けることはない。

23 彼はこの大管長会の前で、異議を申し立てる余地のない証拠によって罪があると認められたならば、罪の宣告を受ける。

24 また、悔い改めるならば、彼は教会の聖約と戒めに従って[1]赦される。

25 さらにまた、シオンにおいて、または組織されているそのいずれかの[1]ステークにおいて、子供を持つ[2]両親がいて、[3]八歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを[4]教えなければ、[5]罪はその両親の頭にある。

26 これが、[1]シオン、または組織されているそのいずれかのステークに住む者への律法である。

27 その子供たちは、[1]八歳のときに[2]罪の赦しのための[3]バプテスマを受け、また按手を受けなければならない。

28 また、彼らはその子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことも教えなければならない。

29 シオンに住む者はまた、[1]安息日を守ってこれを聖なる日として保たなければならない。

30 シオンに住む者はまた、働くように命じられるならば、それを覚えて忠信を尽くして働かなければならない。怠惰な者は主の前に覚えられるからである。

---

19 ② GS「ビショップ」
20 ① GS「油注ぎ」
② GS「聖任」
22 ① GS「大管長会」
24 ① GS「赦し」
25 ① GS「ステーク」
② GS「家族―親の責任」
③ GS 教義18・42、20・71
④ GS「教える・教師」
⑤ 46―48 ヤコ1・19、教義29・
26 ① GS「シオン」
27 ① GS「責任を負う」
② GS「罪の赦し」
③ GS「バプテスマ」
28 ① GS「祈り」
29 ① 教義59・9―12、GS「安息日」

31 ところで、主なるわたしはシオンに住む者を喜んでいない。彼らの中に怠惰な[1]者たちがいるからである。そして、彼らの子供たちも悪事を[2]するようになり、彼らも永遠の富を熱心に[3]求めず、その目は貪欲に満ちている。

32 これらのことはあってはならず、彼らの中からなくしてしまわなければならない。それゆえ、わたしの僕オリバー・カウドリは、これらの言葉をシオンの地に伝えなさい。

33 また、一つの戒めを、わたしは彼らに与える。すなわち、祈るべきときに主の前に[1]祈りをすることを守らない者が、わたしの民の判士の前に[2]覚えられるようにしなさい。

34 これらの[1]言葉は真実であり、確かである。それゆえ、これらに背いてはならないし、これから[2]取り去ってもならない。

35 見よ、わたしは[1]アルパでありオメガである。わたしはすぐに[2]来る。アーメン。

第69章

千八百三十一年十一月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百三十四―二百三十五ページ）。早期の出版を意図していた啓示の集録が、十一月一日の特別大会において承認された。現在第百三十三章となっている啓示が十一月三日に加えられ、「付録」と呼ばれた。大会の決議によって、オリバー・カウドリが、編集された啓示と戒めの原稿を印刷のためにミズーリ州インディペンデンスに運ぶように任命された。彼はまた、ミズーリにおける教会を建てるために寄付された金銭も持参することになった。その旅の道は人家がまばらな地方を通って辺境へ向かうものであり、旅の同伴者のいることが望まれた。

1−2 ジョン・ホイットマーは、ミズーリまでオリバー・カウドリに同行しなければならない。3−8 彼はまた教えを説き、歴史資料を集め、記し、書かなければならない。

1 主なるあなたがたの神は言う。わたしの僕オリバー・カウドリのために、わたしの言葉を聴きなさい。真実で忠実な者が彼とともに行くのでなけれ

---

31 ①GS「怠惰」 ②GS「邪悪」 ③教義6・7
33 ①GS「祈り」 ②GS「懲らしめ」「裁き」
34 ①黙示22・6 ②教義20・35、93・24
35 ①1:25 ②GS「アルパとオメガ」 教義1・12

第69章
1 ①GS「カウドリ、オリバー」

ば、シオンの地に運ぶ戒めと金銭を彼に託すことは、賢明ではない。

2 それゆえ、主なるわたしは、わたしの僕ジョン・[1]ホイットマーがわたしの僕オリバー・カウドリとともに行くことを望んでいる。

3 また、彼がわたしの教会について目にして知る、すべての重要な事柄の歴史を[1]引き続き書いて作成することを、

4 また彼がわたしの僕オリバー・カウドリやほかの人々から[1]助言と助けを受けることを、主なるわたしは望んでいる。

5 さらにまた、地の方々にいるわたしの僕たちは、自分の[1]管理人の職についての報告書をシオンの地に送らなければならない。

6 シオンの地はこれらのものを受け取って行う中心地であり、場所だからである。

7 それでも、わたしの僕ジョン・ホイットマーは、もっと容易に情報を得るために、場所から場所へ、また教会から教会へと巡って何度も旅をしなさい。

8 また、教えを説き、説き明かし、教会のためになる、またシオンの地で成長して代々とこしえにいつまでもそれを所有する後の世代のためになる、すべての事柄を書き、写し、選択し、手に入れなさい。アーメン。

第70章

千八百三十一年十一月十二日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百三十五―二百三十七ページ）。預言者が記した歴史には、十一月一日から十二日までに四回の特別大会が開かれたことが述べられている。これらの最後の集会で、後に『教義と聖約』と呼ばれる『戒めの書』の重要性が検討された。預言者はそれを、「この終わりの時における教会の基であり、世に益をもたらすものであって、わたしたちの救い主の王国の奥義の鍵が再び人に託されたことを示すものである」（『教会歴史』第一巻、二百三十五ページ）と述べている。

1―5 啓示を出版するために管理人たちが任命される。6―13 霊的な事柄で働く者たちが報酬を受けるのは当然である。14―18 聖徒たちは現世のものについ

2 ①GS「ホイットマー、ジョン」
3 ①教義47・1―3、85・1
4 ①GS「勧告・勧め」
5 ①GS「管理人・管理人の職」
8 ①GS「シオン」

て平等でなければならない。

1 見よ、そして聴きなさい、おお、シオンに住む人々と、遠くにいるわたしの教会のすべての人々よ。わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアと、わたしの僕マーティン・ハリスと、わたしの僕オリバー・カウドリと、わたしの僕ジョン・ホイットマーと、わたしの僕シドニー・リグドンと、わたしの僕ウィリアム・W・フェルプスに、わたしが戒めとして与える主の言葉を聞きなさい。

2 わたしは彼らに一つの戒めを与える。それゆえ、耳を傾けて聞きなさい。主はこのように言う。

3 主なるわたしは彼らを選び、わたしが彼らに与えた、またこの後彼らに与える数々の啓示と戒めについての1)管理人となるように彼らを聖任した。

4 この管理人の職についての報告を、わたしは裁きの日に彼らに求める。

5 それゆえ、わたしはそれらとそれらにかかわる事柄、すなわちそれらによる利益を管理するように彼らを任命した。これが神の教会における彼らの務めである。

6 それゆえ、わたしは彼らに一つの戒めを与える。すなわち、これらのものを教会員にも、世の人々にも与えてはならない。

7 しかしながら、彼らは自分の必要と入り用のために必要な分より多くのものを受けるならば、わたしの倉にそれを渡さなければならない。

8 その利益はシオンに住む者たちのために、また彼らの子孫が王国の律法に従って1)相続人となるならばその子孫のために、奉献しなければならない。

9 見よ、これは、まことに、主なるわたしが1)管理人の職を人に与えたときに、あるいは将来与えるときに、その職に関して各人に求めることである。

10 見よ、生ける神の教会に属する者は、だれもこの律法を免れない。

11 まことに、ビショップも、主の倉を管理する1)代理人も、現世のものに関する管理人の職に任命される者も、この律法を免れない。

12 霊的な事柄をつかさどるように任命される者は、現世のものを取り扱うために管理人の職に任命される者たちと同じように、1)報酬を受けるのは当然である。

第70章

3 1) 1コリ4・1、教義72・20

7 1) 教義72・9—10

8 1) 教義38・20

9 1) GS「管理人・管理人の職」

11 1) 教義57・6

12 1) ルカ10・7

13まことに、いっそう豊かに受け、その豊かさは御霊の現れによって彼らに増し加えられる。14それでも、現世のものについて、あなたがたは[1]平等でなければならない。しかもそれが不承不承であってはならない。そうでなければ、豊かな御霊の現れは与えられないであろう。15さて、この戒めをわたしは僕たちに、彼らがとどまっている間彼らを益するため、また彼らの頭にわたしの祝福が現れるため、さらに彼らの[2]精励の報いと彼らの安全のために与える。16また、食物と、衣服と、受け継ぎと、家と、土地のために、これを与える。主なるわたしが彼らを配置するどのような状況の下にあっても、また彼らを送り出すどの場所にあってもそうである。17彼らは[1]多くのことに忠実であり、罪を犯さずに、よく行ってきた。18見よ、主なるわたしは[1]憐れみ深い者であり、彼らを祝福する。そして、彼らはこれらのことから喜びを得るであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第71章

千八百三十一年十二月一日、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百三十八―二百三十九ページ）。預言者はシドニー・リグドンを筆記者として『聖書』の翻訳を続けてきたところで、この啓示を受けた。このとき、この中で与えられている指示を果たすために、翻訳は一時中断された。背教したエズラ・ブースによる幾つかの新聞記事が公表された結果として教会に対して生じていた悪感情を静めるために、兄弟たちは出て行って教えを説かなければならなかった。

1−4 ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、福音を宣言するために遣わされる。5−11 聖徒の敵は言い伏せられる。

1見よ、主はあなたがた、すなわちわたしの僕であるジョセフ・スミス・ジュニアとシドニー・[1]リグドンにこのように言う。あなたがたが口を開いて、わたしの望むままに与えられる御霊と力によって、わ

14① 教義49・20、GS「奉献・奉献の律法」
15① 申命10・12−13
16① GS「熱心」
16② 教義59・16−20
17① マタ25・21−23
18① GS「憐れみ」

第71章
1① GS「リグドン、シドニー」

たしの福音、すなわち王国にかかわる事柄を宣言し、聖文からその奥義を説き明かすことが、必要かつ望まれる時がやって来た。

2まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたに知らされるまで、しばらくの間、周りの地域において世の人々に宣言し、また教会においても宣言しなさい。

3まことにこれは、わたしがあなたがたに与える、しばらくの間の使命である。

4それゆえ、あなたがたはわたしのぶどう園で働きなさい。地に住む者に呼びかけ、証し、来るべき戒めと啓示のために道を備えなさい。

5さて見よ、これは賢明なことである。読む者は理解し、また受け入れなさい。

6これを受け入れる者には、もっと豊かに、力さえも与えられるであろう。

7それゆえ、あなたがたの敵を言い伏せなさい。公にも、ひそかにも、あなたがたと会うように彼らに呼びかけなさい。あなたがたが忠実であれば、彼らの恥が明らかにされるであろう。

8それゆえ彼らに、主に反対するしっかりした論拠を示させなさい。

9まことに、主はあなたがたにこのように言う。あなたがたを攻めるために造られる武器は、まったく役に立たない。

10また、もしだれかがあなたがたに反対して声を上げるならば、その者はわたしがふさわしいと思うときに打ち破られるであろう。

11それゆえ、わたしの戒めを守りなさい。これらは真実であり、確かである。まことにそのとおりである。アーメン。

第72章

千八百三十一年十二月四日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百三十九—二百四十一ページ）。数人の長老と会員が、自分の務めを知るために、また教会の教えについてさらに教化を受けるために集まっていた。本章は、同じ日に受けた二つの啓示を一つにまとめたものである。第一—八節では、ビショップとしてのニューエル・K・ホイットニーの召しが知らされている。この後に、彼は召され聖任さ

1 ②GS「伝道活動」
5 ①③教義42・61、65
12 ②GS「理解」
12・9—11
6 ①②マタ13・12
7 ①モセ7・13—17
7 ②教義63・37、68・8
9 ①19イザ54・17

れた。その後、ビショップの義務に関して追加の情報を与える第九—二十六節を受けた。

1—8 長老たちは、ビショップに自分の管理人の職について報告しなければならない。9—15 ビショップは倉を管理し、貧しい人と乏しい人の世話をする。16—26 ビショップは長老たちのふさわしさを証明しなければならない。

1 耳を傾け、主の声を聴きなさい、おお、ともに集まったあなたがた、わたしの教会の[1]大祭司であり、[2]王国と力を与えられた者たちよ。

2 まことに、主はこのように言う。わたしが必要としているのは、一人の[1]ビショップがあなたがたのために、すなわち主のぶどう園のこの場所における教会のために、あなたがたの中から任命されることである。

3 まことに、このことに関して、あなたがたは賢明に行ってきた。この世においても永遠にわたっても、主はすべての[1]管理人の手より、[2]管理人の職について[3]報告することを求める。

4 この世において忠実で[1]賢い者は、彼のために用意された父の[2]住まいを受け継ぐのにふさわしいと見なされる。

5 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの[1]ぶどう園のこの場所における教会の長老たちは、わたしのぶどう園のこの場所でわたしから任命されるビショップに、自分の管理人の職について報告しなければならない。

6 これらのことは記録に残して、シオンのビショップに渡さなければならない。

7 [1]ビショップの義務は、与えられた戒めと大会の声によって知らされるであろう。

8 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕[1]ニューエル・K・ホイットニーは、この力を持つように選ばれ、聖任されるべき人である。これは主なるあなたがたの神、あなたがたの贖い主の思いである。まことにそのとおりである。アーメン。

9 すでに与えられている律法に加えて、ぶどう園のこの場所における教会のために聖任されたビショップの義務を知らせる主の言葉は、まことに次のとおりである。

第72章

1 ① 教義68・14—19
② GS「神の王国・天の王国」
2 ① GS「ビショップ」
3 ① GS「管理人・管理人の職」
② ルカ19・11—27
③ 教義42・32、104・11—13
4 ① マタ24・45—47
② 教義59・2
5 ① GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
7 ① 教義42・31、46・27、58・17—18、107・87—88
8 ① GS「ホイットニー、ニューエル・K」

10 すなわち、主の倉[1]を管理すること、ぶどう園のこの場所における教会の基金を受け取ること、
11 前に命じられたように長老たちの報告を記録すること、および彼らの入り用を補う[1]ことである。彼らは返済するものを持っていれば、自分が受けるものに対して返済しなければならない。
12 これもまた教会の益のために、すなわち貧しい者と乏しい者のために奉献するためである。
13 また、返済するものを持っていない者[1]については、報告を記録し、それをシオンのビショップに渡すようにする。するとシオンのビショップは、主が彼の手にゆだねるものから負債の支払いをする。
14 教会員のために、また世の人々のために、福音と王国にかかわる事柄を取り扱い、霊的な事柄において働く忠実な人の働きは、負債に対する支払いをシオンのビショップに求めるものである。
15 このように、その支払いは教会が行う。[1]律法に従ってシオンに上って来る人は皆、シオンのビショップの前にすべてのものを置かなければならないからである。
16 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。ぶどう園のこの場所にいる長老は皆、ぶどう園のこの場所のビショップに自分の管理人の職についての報告書を出さなければならないので、
17 ぶどう園のこの場所における判士すなわちビショップから、シオンのビショップにあてた証明書[1]によって、すべての人は受け入れられる者とされ、そして受け継ぎのために、また賢い管理人[1]かつ忠実な働き人として迎え入れられるために、すべてのことが満たされるのである。
18 そうでなければ、シオンのビショップに受け入れられない。
19 さて、まことに、あなたがたに言う。ぶどう園のこの場所における教会のビショップに報告をするすべての長老は、自分が働いている教会や諸教会からの推薦をもらって、自分自身と自分の報告をあらゆる点で承認してもらえるようにしなさい。
20 さらにまた、わたしの教会の出版[1]に関する諸事を扱う管理人として任命されているわたしの僕たちは、すべての事柄についてビショップまたはビショップたちに援助を要求する権利を持つ。
21 それは、啓示[1]が出版されて地の果てまで出て行

10 ① 教義70・7−11、78・3、GS「倉」
11 ① 教義75・24
13 ① GS「貧しい」
15 ① 教義42・30−31、「奉献・奉献の律法」GS
17 ① 教義20・64、84
② 教義42・32
20 ① 教義70・3−5
21 ① GS「教義と聖約」

くようにするため、また彼らがあらゆる点で教会を益する資金を得られるようにするため、
22 また彼らもあらゆる点で承認を受け、賢い管理人と見なされるためである。
23 さて見よ、これは、わたしの教会の支部が設けられるどこの地においても、広い範囲に及ぶすべての支部のために範例とすべきものである。わたしはこれでわたしの言葉を終わりにする。アーメン。
24 王国の律法に加えて、少しの言葉を、教会の会員について、すなわちシオンに上って行くように聖なる御霊により[1]命じられる者と、シオンに上って行く特権を与えられている者について述べておく。
25 これらの者は、教会の三人の長老からの証明書、またはビショップからの証明書をビショップのもとに携えて行きなさい。
26 シオンの地に上って行く者は、そうしなければ、賢い管理人とは見なされないであろう。これもまた一つの範例である。アーメン。

第73章

千八百三十二年一月十日、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百四十一—二百四十二ページ）。前年の十二月上旬以来、預言者とシドニーは教えを説く業に従事してきた。そして、この方法によって、教会に対して生じていた批判的な感情が大いに軽減された（第七十一章の前書きを参照）。

1—2 長老たちは宣べ伝え続けなければならない。
3—6 ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、『聖書』の翻訳を完了するまで翻訳を続けなければならない。

1 まことに、主はこのように言う。わたしが必要としているのは、大会まで、[1]彼らが福音を宣べ伝え、周りの地域における諸教会で説き続けることである。
2 その後、見よ、大会の[1]声によって、彼らの様々な使命が知らされるであろう。
3 さて、まことに、わたしはあなたがた、すなわちわたしの僕であるジョセフ・スミス・ジュニアとシ

24 ① GS「召し・神の召し」
第73章
1 ① 伝道中の人々のこと。教義57—68章参照
2 ① 教義20・63

ドニー・リグドンに言う。再び翻訳する必要がある、と主は言う。

4 可能なかぎり大会まで周りの地域で教えを説き、そしてその後は、翻訳の仕事を完了するまで続ける必要がある。

5 書き記されているようにさらに知らされるまで、これを長老たちにとっての規範としなさい。

6 さて、今はこれ以上のことを示さない。腰に帯を締め、まじめでありなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

第74章

千八百三十二年一月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百四十二ページ）。預言者は次のように記している。「前述の主の言葉〔教義と聖約第七十三章〕を受けるとすぐに、わたしは聖典の翻訳を再開し、一月二十五日に開かれることになっていた大会の直前まで熱心に働いた。この間に、わたしはまた、コリント人への第一の手紙第七章十四節の説明として次の啓示を受けた。」（『教会歴史』第一巻、二百四十二ページ）

1—5 パウロは彼の時代の教会員に、モーセの律法に従わないように忠告する。6—7 幼い子供たちは聖い者であり、贖罪によって聖められている。

1 なぜなら、信者でない夫は妻によって聖められており、また、信者でない妻も夫によって聖められているからである。もしそうでなければ、あなたがたの子供たちは汚れていることになるが、しかし今、聖いではないか。

2 さて、使徒の時代には、イエス・キリストの福音を信じていないすべてのユダヤ人の間で、割礼の律法が守られていた。

3 そして、割礼の律法に関して人々の間で大きな論争が起こった。信者でない夫が、その子供たちが割礼を受けて、すでに成就したモーセの律法に従うことを願ったからである。

4 そして、その子供たちはモーセの律法に従って育てられたので、彼らの先祖の言い伝えを心に留め、キリストの福音を信じなかった。このようにして、

3 ① 教義45・60—61、76・15、GS「ジョセフ・スミス訳（JS）」
② ジョセフとシドニーは、以前に、翻訳を中止して福音を宣べ伝えるように命じられていた。教義71・2
6 ① 1ペテ1・13

第74章
1 ① 1コリ7・14—19
3 ① GS「割礼」
② 使徒15・1—35、ガラ2・1—5
③ GS「モーセの律法」
4 ① GS「言い伝え」

彼らは聖くない者となった。

5 したがって、この理由で、使徒は教会員に手紙を書いて、主からではなく彼自身から出た戒めを与えたのである。すなわち、モーセの律法が彼らの中から廃されないかぎり、信者は信者でない者と結ばれてはならないというものである。

6 それは、その子供たちに割礼が施されることのないためであり、また幼い子供たちは聖くないという言い伝えが廃されるようにするためである。そのような言い伝えがユダヤ人の中にあったからである。

7 しかし、幼い子供たちは、イエス・キリストの贖罪によって聖められているので、聖い者である。これが聖文の意味していることである。

第75章

千八百三十二年一月二十五日、オハイオ州アマーストにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百四十一—二百四十五ページ）。この啓示が与えられたのは、以前に指定された大会のときである。この大会で、ジョセフ・スミスは大神権の大管長に支持され、聖任された。自分が伝える教えを人々に理解させるのに困難を覚えていたある長老たちは、彼らの当面の義務についてもっと詳しく知りたいと望んだ。そこで、この啓示が与えられた。

1—5 福音を宣べ伝える忠実な長老たちは、永遠の命を得る。6—12 すべてのことを教えてくださる慰め主を受けるために祈りなさい。13—22 長老たちは、彼らの伝える教えを拒む者たちを裁く座に着く。23—36 宣教師の家族は、教会員から助けを受けなければならない。

1 まことに、まことに、わたしの御霊の声によって語る者、アルパでありオメガであり、あなたがたの主でありあなたがたの神であるわたしは、あなたがたに言う。

2 聴きなさい、おお、出て行ってわたしの福音を宣言し、わたしのぶどう園で刈り込みをすることを志願した人々よ。

3 見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いは、あなたがたが出て行き、とどまることも怠ける

5 ①② 2ニフ25・24—27 GS「結婚—異なった信仰を持つ人との結婚」

7 ①義29・46—47、137・10 モロ8・8—15、教 ②GS「贖罪」 ③GS「救い—幼い子供たちの救い」 ④GS「聖い」

第75章

1 ①② GS「啓示」 黙示1・8、GS「アルパとオメガ」

2 ①樹園）（主の） GS「ぶどう園（果 ②ヤコ5・62

3 ①GS「怠惰」

こともなく、あなたがたの勢力を尽くして働くことである。

4 ラッパの音のようにあなたがたの声を上げ、わたしがあなたがたに与えた啓示と戒めに従って[1]真理を[2]宣言しなさい。

5 このように、忠実であれば、あなたがたは多くの[1]束を積まれ、[2]誉れと、[3]栄光と、[4]不死不滅と、[3]永遠の命を、[6]冠として与えられるであろう。

6 それゆえ、まことに、わたしは、わたしの僕ウィリアム・E・マクレランに言う。わたしは東の地方へ行くようにという彼に与えた任務を[1]取り消す。

7 そして、彼に新しい任務と新しい戒めを与え、それによって、彼の心の[1]つぶやきに対して[2]懲らしめを与える。

8 彼は罪を犯した。それでも、わたしは彼を赦し、再び彼に、「あなたは南の地方へ行きなさい」と言う。

9 わたしの僕ルーク・ジョンソンを彼とともに行かせ、わたしが二人に命じた事柄を宣言させなさい。

10 二人にとって必要なすべてのことを教える[1]慰め主を受けるために、主の名を呼ばせなさい。

11 気を落とさないように[1]常に祈らせなさい。これを行うならば、わたしはまことに最後まで彼らとともにいるであろう。

12 見よ、これがあなたがたに関する、主なるあなたがたの神の思いである。まことにそのとおりである。アーメン。

13 さらにまた、まことに、主はこのように言う。わたしの僕[1]オーソン・ハイドとわたしの僕[2]サミュエル・H・スミスに、東の地方へ旅をさせ、わたしが彼らに命じたことを宣言させなさい。彼らが忠実であれば、見よ、わたしはまことに最後まで[3]彼らとともにいるであろう。

14 さらにまた、まことに、わたしの僕[1]ライマン・ジョンソンと、わたしの僕[1]オーソン・プラットに言う。彼らも東の地方へ旅に出なければならない。そうすれば、見よ、見よ、わたしは最後まで彼らとともにいる。

15 さらにまた、わたしの僕エイサ・ドッズと、わたしの僕カーブズ・ウィルソンに言う。彼らも西の地方へ旅に出て、わたしが彼らに命じたようにわたしの福音を宣言しなければならない。

---

4 ①教義19・37
5 ①②GS「伝道活動」
詩篇126・6、アル26・5
②GS「敬う」
③GS「栄光」
④GS「不死不滅」
⑤GS「永遠の命」
⑥GS「冠」
6 ①教義66・1—13
7 ①GS「思い」「つぶやき」
②GS「懲らしめ」
10 ①②ヨハ14・26、GS「慰め主・助け主」
11 ①2ニフ32・9
13 ①GS「ハイド、オーソン」
②GS「スミス、サミュエル・H」
③マタ28・19—20
14 ①③GS「プラット、オーソン」

16 忠実な者はすべてのものに打ち勝ち、終わりの日に高く上げられるであろう。

17 さらにまた、わたしの僕メージャー・N・アシュリーと、わたしの僕バー・リッグズに言う。彼らも南の地方へ旅に出なさい。

18 まことに、これらすべての者は、わたしが命じたように旅に出て、家から家へ、村から村へ、町から町へ行きなさい。

19 そして、どの家に入っても、人々があなたがたを迎えてくれるなら、その家にあなたがたの祝福を残しなさい。

20 また、どの家に入っても、人々が迎えてくれなければ、あなたがたは速やかにその家を去り、彼らに対する証としてあなたがたの足のちりを払い落とさなければならない。

21 そうすれば、あなたがたは喜びと楽しみで満たされるであろう。また、このことを知っておきなさい。すなわち、裁きの日に、あなたがたはその家の裁き人となり、彼らを罪に定めるであろう。

22 裁きの日には、異教徒の方がその家よりも耐えやすいであろう。それゆえ、腰に帯を締め、忠実でありなさい。そうすれば、あなたがたはすべてのものに打ち勝ち、終わりの日に高く上げられるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

23 さらにまた、主はあなたがたにこのように言う。おお、あなたがたに関する主の思いを知ろうとして自分の名を告げた、わたしの教会の長老たちよ。

24 見よ、わたしはあなたがたに言う。世の人々に福音を宣言するために召されて、世の人々のもとに遣わされる必要のある人々の家族を扶養する助けをすること、またその人々の家族を扶養することは、教会の義務である。

25 それゆえ、主なるわたしは、あなたがたにこの戒めを与える。あなたがたは、兄弟たちが喜んで心を開くならば、あなたがたの家族の住む所を手に入れなさい。

26 そして、家族の住む所を手に入れ、かつ教会から家族の扶助を得ることのできるすべての者は、東であろうと、西であろうと、北であろうと、南であろうと、必ず世に出て行かなければならない。

27 彼らに求めさせなさい。そうすれば、彼らに与え

16① 教義5・35
20① マタ10・14、ルカ10・11—12、教義24・15、60・15
21① GS「裁き」
22① エペ6・14、教義27・15—18

られるであろう。たたかせなさい。そうすれば、開かれるであろう。彼らの行くべき所は、高い所から、まことに慰め主によって知らされるであろう。

28 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。自分の家族[1]を扶養する義務[2]を負っている者には皆、扶養させなさい。そうすれば、その人は決して冠を失うことはない。また、このような者には教会の中で働かせなさい。

29 皆、すべてのことについて熱心[1]でありなさい。怠惰な者は、悔い改めて自分の行いを改めないかぎり、教会の中でいるべき場所を得られないであろう。[2]

30 わたしの僕シメオン・カーターとわたしの僕エマー・ハリスに、務めに関して一つとならせなさい。

31 また、わたしの僕エズラ・セアとわたしの僕トーマス・B・マーシュ[1]も、

32 わたしの僕ハイラム・スミスとわたしの僕レイノルズ・カフーンも、

33 わたしの僕ダニエル・スタントンとわたしの僕セイモア・ブランソンも、

34 わたしの僕シルベスター・スミスとわたしの僕ギデオン・カーターも、

35 わたしの僕ラグルズ・エイムズとわたしの僕ステーブン・バーネットも、

36 また、わたしの僕マイカ・B・ウェルトンとわたしの僕イーデン・スミスも、同様である。まことにそのとおりである。アーメン。

第76章

千八百三十二年二月十六日、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた示現（『教会歴史』第一巻、二百四十五―二百五十二ページ）。預言者はこの示現の記録の前書きとして、次のように記している。「わたしはアマーストの大会から帰ると、聖典の翻訳を再開した。これまでに受けてきたいろいろな啓示から、人の救いに関する多くの重要な事項が『聖書』から取り去られたか、あるいはそれが編さんされる前に失われたか、どちらかであることは明らかであった。残された真理からおのずと明らかなように、もし神がすべての人に肉体にあってなした行いに応じて報いを与えられるとすれば、聖徒たちの永遠の住まいとされる『天』という

27 ① 2ニフ32・5、教義8・2、GS「聖霊」
28 ① GS「家族」 ② 1テモ5・8、教義83・2
29 ① GS「熱心」 ② GS「怠惰」
31 ① GS「マーシュ、トーマス・B」

言葉には、一つではなく複数の王国が含まれるに違いない。それで、『ヨハネによる福音書』を翻訳している最中に、わたしとリグドン長老は次のような示現を見た。」（『教会歴史』第一巻、二百四十五ページ）この示現が与えられたのは、預言者が、ヨハネによる福音書第五章二十九節を翻訳した後のことである。

1—4 主は神であられる。5—10 王国の奥義は、すべての忠実な者に明らかにされる。11—17 すべての者が、正しい者の復活の時か、あるいは正しくない者の復活の時に出て来る。18—24 多くの世界に住む者が、イエス・キリストの贖罪によって神のもとに生まれた息子や娘となる。25—29 神の一天使が落ちて、悪魔になった。30—49 滅びの子は永遠の罰の定めを受ける。そのほかの者は皆、何らかの階級の救いを得る。50—70 日の栄えの王国における昇栄する者の栄光と報いが述べられる。71—80 月の栄えの王国を受け継ぐ者について述べられる。81—113 星の栄え、月の栄え、日の栄えの世界の栄光の内にある者の状態が説明される。114—119 忠実な者は、聖なる御霊の力によって神の王国の奥義を目にし、理解することができる。

1 おお、天よ、聞[1]け。おお、地よ、耳を傾けよ。そこに住む者よ、喜べ。主は神[2]であり、主のほ[3]かに救[4]い主はおられないからである。

2 主の知恵は偉大[1]であり、主の道は驚[2]くべきものであって、主の行われることの広大さをだれも知り尽くすことはできない。

3 主の目的[1]が達せられないことはなく、主の手をとどめることのできる者はだれもいない。

4 永遠から永遠にわたって主は変[1]わることのない御方であり、主の年は尽[2]きることがない。

5 「主はこのように言う。すなわち、主なるわたしは、わたしを畏[1]れる者に憐[2]れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕[3]える者に誉れを与えるのを喜びとする。

6 彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光[1]は永遠である。

7 わたしは彼らにすべての奥義[1]を、すなわち昔から隠されていたわたしの王国のすべての奥義を明[2]らかにし、また来るべき時代におけるわたしの王国に関するすべてのことについても、わたしの思いのよしとするところを彼らに知らせよう。

第76章

1 ① イザ1・2
② エレ10・10、GS「神・神会—子なる神」
③ イザ43・11、ホセ13・4
④ GS「救い主」

2 ① 2ニフ2・24、教義38・1—3
② 黙示15・3

3 ① 列上8・56、教義1・38、64・31

4 ① ヘブ13・8、教義35・1、38・1—4、39・1—3
② 詩篇102・25—27、ヘブ1・12

5 ① 申命6・13、ヨシ4・23—24、GS「畏れ・恐れ」「敬虔」
② 出エ34・6、詩篇103・8、GS「憐れみ」
③ 教義4・2

6 ① GS「日の栄え」

7 ① GS「神の奥義」
② 教義42・61、59・4、98・12、121・26—33

8 まことに、永遠の驚異さえも、彼らは知るであろう。また、わたしは来るべきこと、多くの時代のことさえも彼らに示そう。

9 彼らの知恵[1]は大いなるものとなり、彼らの理解[2]は天に達する。彼らの前で知者の知恵は滅び[3]、賢者の理解も無に帰する。

10 わたしは、わたしの御霊[1]によって彼らに光を注[2]ぎ、またわたしの力[3]によってわたしのひそかな思い、すなわち、目[4]が見ず、耳が聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったそれらの事柄を彼らに知らせるからである。」

11 わたしたち、ジョセフ・スミス・ジュニアとシドニー・リグドンは、主の千八百三十二年二月十六日、御霊[1]に感じて、

12 神にかかわる事柄を目にし理解できるように、御霊[1]の力によってわたしたちの目[2]は開かれ、わたしたちの理解に光が注がれた。

13 それらの事柄は、世界が存在する前に初めからあったこと、まことに初めから御父の懐におられた御父の独り子を通して御父によって定められたことである。

14 わたしたちはその御方について証する。わたしたちが述べる証は、御子であるイエス・キリスト、すなわち、わたしたちが天の示現[1]の中で目にし、言葉[2]を交わしたイエス・キリストの完全な福音である。

15 わたしたちは、主がわたしたちに命じられた翻訳[1]の業を行っていたときに、ヨハネによる福音書第五章二十九節に至り、それはわたしたちに次のように与えられた。

16 すなわち、それは死者の復活について、また人[1]の子の声を聞く[2]者について語っている。

17 「善[1]を行った人々は正しい者の復活[3]の時に、また悪を行った人々は正しくない者の復活の時に出て来るであろう。」

18 これはわたしたちを驚かせた。それが御霊によってわたしたちに与えられたからである。

19 わたしたちがこれらのことについて思い[1]にふけっていたときに、主はわたしたちの理解の目に御手を触れてくださり、わたしたちの理解の目が開かれた。そして、主の栄光が周りを照らした。

20 そして、わたしたちは御父[1]の右に御子[2]の栄光[3]を見、その完全を受けた。

---

9 ①GS「知恵」 ②③イザ 29・14、2ニフ 9・28—29
10 ①モロ 10・5 ②GS「証」「啓示」 ③④GS「力」 イザ 64・4、1コリ 2・9、3ニフ 17・15—
11 ①黙示 1・10
12 ①GS「変貌」 ②教義 110・1、137・1、138・11、29
13 ①モセ 4・2
14 ①GS「示現」 ②教義 109・57
15 ①②GS「ジョセフ・スミス訳（JS）」
16 ①GS「人の子」 ②ヨハ 5・28
17 ①②GS「行い」 使徒 24・15
19 ①②③GS「復活」 GS「深く考える」
20 ①GS「神・神会・父なる神」 ②③使徒 7・56 GS「イエス・キリスト—栄光」

21 また、神と小羊を拝しており、またとこしえにいつまでも神と小羊を拝する、聖なる天使たちと聖められている者たちを御父の御座の前に見た。

22 そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、「小羊は生きておられる。

23 わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、「彼は御父の独り子であり、

24 彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる」と。

25 また、わたしたちはこのことも見たので証する。すなわち、神の前で権威を持っていた神の一天使が、御父から愛されて御父の懐におられた独り子に背き、神と御子の前から落とされ、

26 そして、滅びと呼ばれた。もろもろの天は彼のために泣き悲しんだからである。彼は暁の子ルシフェルであった。

27 わたしたちは見た。見よ、彼は落ちた。暁の子でさえも落ちた。

28 わたしたちがまだ御霊に感じている間に、主はわたしたちに、その示現を書き記すように命じられた。神に背き、わたしたちの神とそのキリストの王国を取ろうとしたサタン、年を経た蛇、すなわち悪魔を、わたしたちは見たからである。

29 彼は神の聖徒たちに戦いを挑み、彼らを取り囲む。

30 また、わたしたちは、彼と戦って打ち負かされた者たちの苦しみを示現で見た。主の声が次のようにわたしたちに聞こえた。

31 「わたしの力を知り、それにあずかる者とされながら、自らを悪魔の力に打ち負かされるに任せ、また真理を否定し、わたしの力に反抗するに自らを任せたすべての者について、主は次のように言う。

32 すなわち、彼らは滅びの子であり、生まれなかった方が彼らのためによかったとわたしが言う者である。

33 彼らは激しい怒りの器であり、悪魔やその使いとともに永遠に神の激しい怒りを受けるように定められるからである。

---

21 ①GS「礼拝」 ②マタ 25・31、教義 130・6—7、136・37 22 ①③GS「聖め」 ②GS「証」 23 ①②教義 20・17 GS「神・神会—父なる神」 ②GS「イエス・キリスト—死後の現れ」 ③ヨハ 1・14、GS「独り子」 24 ①ヘブ 1・1—3、3ニフ 9・15、教義 14・9、93・8—10 ②モセ 1・31—33、7・30、GS「創造・創造する」 ③使徒 17・28、29、ヘブ 12・9、GS「神の息子、娘」 25 ①教義 29・36—39、モセ 4・1—4、GS「悪魔」 26 ①イザ 14・12—17、GS「ルシフェル」 27 ①ルカ 10・18 GS「天での戦い」 28 ①黙示 12・9 ③GS「悪魔」 29 ①黙示 13・7、2ニフ 2・18、28・19—23 31 ①GS「背教、背信」 教義 76・26、モセ 5・32 ①②26 22—GS「滅びの子」

34 この世でも来るべき世でも赦されることはないとわたしが言ったのは、彼らについてである。」
35 それは、彼らが聖なる御霊を受けた後にそれを否定したため、また御父の独り子を否定したため、また独り子を自ら十字架につけて公に辱めたためである。
36 これらの者は、悪魔やその使いとともに火と硫黄の池の中に入る者であり、
37 また第二の死が何らかの力を持つ唯一の者であり、
38 まことに、主の激しい怒りによる苦しみを受けた後も、主の定められたときに贖われない唯一の者である。
39 残りの者は皆、もろもろの世界が造られる前に御父の懐におられた、ほふられた小羊の勝利と栄光によって、死者の復活により導き出されるからである。
40 天からの声がわたしたちに証した福音、すなわち喜びのおとずれはこれである。
41 「彼、すなわちイエスは、世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため世に来た。
42 御父からイエスの力の下に置かれて、彼により造られたすべての者が、彼によって救われるためである。
43 彼は御父の栄光を現し、そして、御父から御子を示された後に御子を否定する滅びの子らを除く、その御手によって造られたすべての者を救われる。」
44 それゆえ、イエスは彼らを除くすべての者を救われる。しかし、彼らは悪魔やその使いとともに永遠に治めるために、永久の罰、すなわち無窮の罰、すなわち永遠の罰を受ける。そこでは、彼らのうじは死なず、火は消えることがない。それが彼らの苦痛である。
45 また、その終わり、その場所、その苦痛を知っている者はだれもいない。
46 それを受ける者とされる者のほかに、それは人に明らかにされなかっただけでなく、今も明らかにされず、また将来も明らかにされることはない。
47 「それでも、主なるわたしはそれを示現によって多くの者に示すが、すぐにまたそれを閉じる。
48 それゆえ、その終わり、その幅、その高さ、その深

---

34 ①「赦し」 マタ 12・31−32、GS
35 ① 2 ペテ 2・20−22、アル 39・6、GS「赦されない罪」 ② ヘブ 6・4−6、1 ニフ 19・7、教義 132・27
36 ① 黙示 19・20、20・10、21・8、2 ニフ 9・16、28・23、アル 12・16−18、教義 63・17
37 ① GS「死（霊の）」
38 ① GS「滅びの子」
39 ① GS「イエス・キリスト」 ② GS「復活」 ③ 贖われる、の意。38 節を参照。すべての人が復活する。アル 11・41−45、GS「生かす」
40 ① 3 ニフ 27・13−22、GS「贖いの計画」「福音」
41 ① GS「十字架の刑」 1 ヨハ 2・1−2 ② イザ 53・4−12、ヘブ 9・28 ③ GS「聖め」 ④ GS「贖い」「贖う」 ⑤ GS「救い」
42 ① GS「悪魔」
44 ① 教義 19・6−12 ② GS「罰の定め」 ③ イザ 66・24、マコ 9・43−48
45 ① 教義 29・28−29
48 ① 黙示 20・1

さ、またその悲惨さを、彼らは理解することなく、この罪[2]の宣告に定められる者のほかにはだれも知らない。」

49 そして、わたしたちは、「示現を書き記しなさい。見よ、これで神を敬わない者の受ける苦しみの示現は終わりである」と告げる声を聞いた。

50 さらにまた、わたしたちは証する。わたしたちは見聞きしたからである。正しい者の復活[1]の時に出て来る人々に関するキリストの福音[2]の証はこれである。

51 すなわち、彼らはイエスの証を受け入れ、その名を信じ[1]、そしてイエスから与えられた戒めのとおりにその埋葬[3]に倣ってバプテスマ[4]を受けた者である。

52 それは戒めを守ることによって、彼らが自分のすべての罪から洗われて[1]清く[2]され、この力を持つように聖任[3]され結び固められている者の按手[5]によって聖[4]なる御霊を受けるためである。

53 また、彼らは信仰によって勝利を得、御父が正しくかつ真実な者すべてに注がれる約束[1]の聖なる御霊により結び[2]固められている者である。

54 彼らは長子[1]の教会である。

55 彼らは御父からすべてのものをその手に与えられた者である。

56 彼らは祭司[1]であり、王であり、御父の完全と御父の栄光を受けた者であり、

57 また、メルキゼデクの位に従ういと高き方の祭司[1]である。このメルキゼデクの位は、エノク[2]の位に従い、かつ独り子[3]の位に従うものであった。

58 それゆえ、書き記されているように、彼らは神々[1]、すなわち神[2]の子[3]である。

59 それゆえ、生も死も、現在のものも将来のもの[1]も、すべてのものは彼らのものである。すべては彼らのものであり、彼らはキリストのものであり、キリストは神のものである。

60 彼らはすべてのものに打ち勝つ[1]。

61 それゆえ、だれも人間を誇[1]ってはならない。むしろすべての敵をその足の下に従[2]わせる神を誇[3]りなさい。

62 これらの者は、とこしえにいつまでも神とそのキリストの前[1]に住む[2]。

63 これらは、キリストが地上でその民を治[1]めるため

---

48 ②アル 42・22
50 ①GS「復活」 ②GS「証」
51 ①教義 20・25−27、37 ②ロマ 6・3−5、GS「バプテスマ−全身を水に沈める」
52 ①教義 128・13 ②GS「バプテスマ」 ③2 ニフ 9・23、モロ 8・25−26 ④GS「清さ」 ⑤GS「権威・権限・権能」
53 ①エベ 1・13、教義 88・3−5、GS「約束の聖なる御霊」 ②GS「結び固め」
54 ①ヘブ 12・23、教義 93・21−22、GS「長子・初子」
55 ①2 ペテ 1・3−4、教義 50・26−28、84・35−38
56 ①出エ 19・6、黙示 1・5−6、20・6
57 ①GS「祭司（メルキゼデク神権の）」 ②創世 5・21−24、GS「エノク」 ③教義 107・1−4
58 ①詩篇 82・1、6、ヨハ 10・34−36、GS「人−天の御父のようになる可能性を持った人間」 ②教義 121・32、GS「神・神会」 ③GS「神の息子、娘」
59 ①ルカ 12・42−44、3 ニフ 28・10、教義 84・36−38

に天の雲の中を来られるとき、キリストが伴って来られる者である。

64 これらは、[1]第一の復活にあずかる者である。

65 これらは、正しい者の[1]復活の時に出て来る者である。

66 これらは、シオンの[1]山に、また生ける神の都、天の場所、至聖所に来る者である。

67 これらは、無数の天使の集まりと、[1]エノクの教会の総集いと、[2]長子の教会の総集いに加わった者である。

68 これらは、神とキリストが万民の審判者として住まわれる、天にその名が記されている者である。

69 これらは、自らの[1]血を流すことによってこの完全な贖罪を成し遂げられた、あたらしい[3]聖約の仲保者イエスを通じて完全な者とされた正しい人々である。

70 これらは、その体が日の栄えの状態にある者である。その栄光は太陽の栄光、すなわちすべての者の至高者なる神の栄光であり、その栄光は大空の太陽によって象徴されると記されている。

71 さらにまた、わたしたちは月の栄えの世界を見た。見よ、見よ、これらの者は月の栄えの世界に属する者であり、その栄光は、月の栄光が大空の太陽と違っているように、御父の完全を受けた長子の教会の栄光とは違っている。

72 見よ、これらは、律法なしに死んだ者である。

73 また、[1]獄にとどめられた人々の霊であって、肉において人間として裁きを受けるために、御子が訪れて、[3]福音を宣べ伝えられた者である。

74 また、これらは、肉においてはイエスの証を受け入れなかったが、後にそれを受け入れた者である。

75 これらは、世の高潔な人々でありながら、人間の悪巧みによって目をくらまされた者である。

76 これらは、イエスの栄光を受けるが、その完全は受けない者である。

77 これらは、御子の臨在は受けるが、御父の完全は受けない者である。

78 それゆえ、彼らは日の栄えの体ではなく、月の栄えの体であって、月が太陽と違っているように栄光において違っている。

79 これらは、イエスの証に雄々しくない者である。それゆえ、彼らはわたしたちの神の王国の冠を得ない。

---

60 ① 黙示 3・5、21・7
61 ① ヨハ 5・41—44、1コリ 3・21—23
② ② 教義 49・6
2ニフ 33・6、アル 26・11—16、GS「栄光」
62 ① 教義 130・7、GS「永遠の命」
② 詩篇 15・1—3、24・3—4、1ニフ 15・33—34、モセ 6・57
63 ① 教義 58・22、GS「イエス・キリスト—キリストによる福千年の統治」
② マタ 24・30
③ ② 教義 88・96—98、GS「イエス・キリストの再臨」
64 ① ① 黙示 20・6
65 ① ① GS「復活」
66 ① ② イザ 24・23、「ヘブ 12・22—24、黙示 14・1、教義 84・2、133・56
67 ① ② 教義 45・9—12
ヘブ 12・23、教義 76・53—54、GS「長子・初子」
68 ① ① GS「イエス・キリスト—裁き」
69 ① ② GS「命の書」
② ② GS「血」
③ ② GS「贖罪」
③ GS「新しくかつ永遠の聖約」
④ モロ 10・32—33
⑤ 教義 129・3、138・12
70 ① ① 教義 88・28—29、131・1—4、137・7—10、GS「日の栄え」
71 ① ② 教義 137・1—4
マタ 13・43
③ ② 教義 88・30、GS「月の栄え」

80 さて、これでわたしたちが月の栄えの世界について見た示現は終わり、わたしたちがまだ御霊に感じている間に、これを書き記すように主はわたしたちに命じられた。

81 さらにまた、わたしたちは星[1]の栄えの世界の栄光を見た。その栄光は、星の栄光が大空の月の栄光と違っているように、さらに劣った世界の栄光である。

82 これらは、キリストの福音を受け入れず、イエスの証[1]も受け入れなかった者である。

83 これらは、聖なる御霊を否定しない者である。

84 これらは、地獄[1]に落とされる者である。

85 これらは、最後[1]の復活まで、主すなわち小羊[2]なるキリストがその業を終えられるまで、悪魔[3]から贖われない者である。

86 これらは、永遠の世界において主の完全を受けないが、月の栄えの者の働きによって聖なる御霊を受ける者である。

87 そして、月の栄えの者は、日の栄えの者の働き[1]によって受ける。

88 また、星の栄えの者は、彼らのために仕えるように任じられる天使たち、すなわち彼らのために仕える霊となるように任じられる天使たちの働きによって聖き御霊を受ける。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。

89 このように、わたしたちは天の示現の中に星の栄えの世界の栄光を見たが、それは人知ではとうてい計り知れないものである。

90 神からそれを示された者のほかには、だれもそれを知らない。

91 このように、わたしたちは月の栄えの世界の栄光を見たが、それはあらゆる点で、すなわち栄光において、力において、威勢において、支配において、星の栄えの世界の栄光に勝っている。

92 またこのように、わたしたちは日の栄えの世界の栄光を見たが、それはあらゆる点で勝っている。ここにおいて、神すなわち御父は、とこしえにいつまでもその御座に着いて治めておられる。

93 その御座の前に、すべてのものが恭しく[1]身をかがめ、とこしえにいつまでも神に栄光を帰するのである。

94 神[1]の前に住む者は長子[2]の教会である。彼らは神の完全と神の恵み[3]を受けたので、彼らが見られている

---

71 ② 1コリ15・40−41
72 ① GS「律法」
② 教義137・7、9
73 ① 教義88・99、138・8、GS「地獄」、「死者の救い」
② アル40・11−14、GS「霊」
③ GS「福音」
74 ① 4・6、教義138・28−37
④ 1ペテ3・19−20、GS「証」
78 ① 1コリ15・40−42
79 ① 教義56・16
81 ① 教義88・31、GS「星の栄え」
82 ① 教義138・21
84 ① 2ニフ9・12、アル12・11、GS「地獄」
85 ① アル11・41、教義43・18、88・100−101
② GS「神の小羊」
③ GS「悪魔」、教義138・37
87 ① GS「敬虔」
93 ① 教義130・7
94 ① GS「長子」、「初子」
② GS「教会」
③ GS「恵み」

ように見、彼らが知られているように知る。

95 また、神は力において、威勢において、支配において、彼らを等しい者とされる。

96 太陽の栄光が一つであるように、日の栄えの世界の栄光は一つである。

97 また、月の栄光が一つであるように、月の栄えの世界の栄光は一つである。

98 また、もろもろの星の栄光が一つであるように、星の栄えの世界の栄光は一つである。ある星と別の星との間に栄光の違いがあるように、星の栄えの世界においては、あるものと別のものとの間に栄光の違いがある。

99 これらは、パウロにつく者であり、アポロにつく者であり、またケパにつく者である。

100 これらは、自分たちはある者につく、また自分たちは別の者につくと言う者である。すなわち、ある者はキリストに、ある者はヨハネに、ある者はモーセに、ある者はエライアスに、ある者はイザヤスに、ある者はイザヤに、またある者はエノクにつく。

101 しかし福音も、イエスの証も、預言者たちも、永遠の聖約も受け入れなかった。

102 最後に、これらすべての者は、聖徒たちとともに集められず、長子の教会のもとに引き上げられて雲の中に迎えられることのない者である。

103 これらは、偽りを言う者、魔術を使う者、姦淫を行う者、みだらな行いをする者、また偽りを好んで行う者である。

104 これらは、地上で神の激しい怒りを受ける者である。

105 これらは、永遠の火の刑罰を受ける者である。

106 これらは、キリストがすべての敵をその足の下に従わせて、その業を完成される時の満ちるまで、地獄に投げ落とされて、全能の神の激しい怒りを受ける者である。

107 そのときに、キリストは汚れのない状態で王国を御父に引き渡し、それをささげて、「わたしは勝利を得て、独りで酒ぶねを、すなわち全能の神の激しい怒りの酒ぶねを踏みました」と言われる。

108 その後、キリストは栄光の冠を受け、その力の御座に着いてとこしえにいつまでも治められる。

109 しかし見よ、見よ、わたしたちは星の栄えの世界の栄光とそこに住む者と、彼らが天の大空の星のよ

---

95 ① 1コリ 13・12
96 ① 1コリ 15・40—41
99 ① 1コリ 3・4—7、22 ① GS「新しくかつ永遠の聖約」
101 ① 1テサ 4・16—17、教義 88・96—98
102 ① 教義 78・21
103 ① ② GS「偽り」、黙示 21・8、教義 63・63・1—3
104 ① ② ③ GS「姦淫」
105 ① ① GS「罰の定め」、ユダ 1・7
106 ① ① 1コリ 15・24—28 ② ヘブ 10・14 ③ ② ⑤ エベ 1・10 ④ ⑤ GS「地獄」、教義 87・6
107 ① ⑥ 教義 19・3—20、創世 49・10—12、イザ 63・1—3、黙示 19・15、教義 88・106、133・46—53
108 ① 教義 137・3

うに、あるいは海辺の砂のように数限りないのを目にし、

110 また主の声が告げられるのを聞いた。「これらすべての者はひざをかがめ、すべての舌が、とこしえにいつまでも御座に着いている者に[1]告白するであろう。

111 彼らはその[1]行いに応じて裁かれ、すべての人は自分の行いに応じて、用意されている[2]住まいにおいて自分の領域を受けるであろう。

112 彼らはいと高き方の僕である。しかし、神とキリストの[1]住む所には、[2]世々限りなく、来ることができない。」

113 これでわたしたちが見た示現は終わり、わたしたちはまだ御霊に感じている間に、これを書き記すように命じられた。

114 しかし、主の業と、主がわたしたちに示してくださった主の王国の[1]奥義は、[2]大いなる驚くべきものであり、栄光において、威勢において、支配において、すべての理解を超えている。

115 主はわたしたちに、わたしたちがまだ御霊に感じている間に、これらを書き記してはならないと命じられた。これらは、人が語ることを[1]許されないものである。

116 また、人にはこれらを知らせる[1]能力もない。これらは、神を愛し、神の前に自らを清くする者に神が授けてくださる聖なる御霊の力によってのみ、目にし、[2]理解することのできるものだからである。

117 神はこれらの者に、自分で見て知るこの特権を授けられる。

118 それは、御霊の力と現れによって、彼らが肉体にあって栄光の世界における神の臨在に堪えることができるためである。

119 神と小羊に、とこしえにいつまでも、栄光と誉れと支配がありますように。アーメン。

第77章

千八百三十二年三月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百五十三―二百五十五ページ）。預言者は、「聖文の翻訳に関連して、わたしは『ヨハネの黙示録』について次の説明を受けた」（『教会歴史』第一巻、二百五十三ページ）と記している。

110 ① ピリ 2・9−11、モサ 27・31
111 ① 黙示 20・12−13、GS「行い」
② ヨハ 14・2、教義 59・2、81・6
112 ① 黙示 21・23−27
② 教義 29・29
114 ① ヤコ 4・8
② 黙示 15・3、モル 9・15−18、モセ 1・3−5
115 ① 2コリ 12・4
② 3ニフ 17・15−17、19・32−34
116 ① 1コリ 2・10−12

1—4 生き物は霊を持っており、不滅の状態の地球上で永遠の幸いな状態の中に住む。5—7 この地球には、七千年間の現世の存在がある。8—10 何人もの天使が福音を回復し、地上で業を行う。11 十四万四千人に印が押される。12—14 キリストは第七の千年の初めに来られる。15 二人の預言者が、ユダヤ民族に対して立てられる。

1 問い。黙示録第四章六節でヨハネにより述べられているガラスの海[1]とは何か。

答え。それは聖められた、不滅かつ永遠[2]の状態にある地球[3]である。

2 問い。同じ節の中で述べられている四つの生き物によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。それらは黙示者ヨハネが神のパラダイス[1]である天[2]、および人と獣と這うものと空の鳥の幸福[3]を描写するのに用いた比喩的[4]な表現である。霊のものは現世のものの形であり、現世のものは霊のものの形である。人間の霊[5]はその体の形であり、また獣[6]の霊、および神が創造されたほかのあらゆる生き物の霊も同様である。

3 問い。四つの生き物は個々の生き物に限られるか。それとも、それらは種類や階級を表すか。

答え。それらは四つの個々の生き物に限られる。これは、幾つかの種類の生き物が永遠の幸い[1]を享受する際の、それらに定められた創造の階級や領域[2]における栄光を表すために、ヨハネに示されたものである。

4 問い。それらの生き物が持っていた目と翼によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。それらの目は、光と知識の表れ[1]である。すなわち、それらは知識に満ちている。また、それらの翼[2]は力の表れであり、動く力や、行動する力などを表す。

5 問い。ヨハネにより述べられている二十四人の長老[1]によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、ヨハネが見たこれらの長老たちは、奉仕の業に忠実[2]であって、すでに亡くなっていた長老である。彼らは七つ[3]の教会に属し、そのときには神のパラダイスにいた。

6 問い。ヨハネが見た七つの封印で裏を封じられて

第77章

1 ① 教義130・6—9
② GS「地球（地）—最終的な状態」「日の栄え」
2 ① 教義88・17—20、25—26
② GS「パラダイス」
③ GS「天」
④ GS「喜び」
⑤ GS「象徴」
⑥ エテ3・15—16、アブ5・7—8、GS「霊」
3 ① モセ3・19
② 教義93・33—34
③ 教義93・30、モセ3・9
4 ① GS「知識」
② GS「力」
5 ① 黙示4・4、10
② 黙示14・4—5
③ 黙示1・4
6 ① 黙示5・1

いる巻き物によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、それには明らかにされた神の御心と[2]奥義と業が載っている。また、この地球が存続する七千年間、すなわち現世の存在の間のこの地球に関する神の摂理についての隠された事柄も載っている。[3]

7 問い。それを封じている七つの封印によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、最初の封印には[1]最初の千年のことが載っており、また第二の封印には第二の千年のこと、というようにして第七に至る。

8 問い。黙示録第七章一節に述べられている四人の天使によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、彼らは神から遣わされた四人の天使であり、地の四方を支配する力を与えられていて、命を救ったり、滅ぼしたりする。これらの者は、あらゆる国民、部族、国語の民、民族に託す[1]永遠の福音を持っており、また天を閉じる力、命に結び固める力、あるいは[2]暗闇の世界に投げ落とす力を持っている。

9 問い。黙示録第七章二節の、東から上って来る天使によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、東から上って来る天使は、[1]イスラエルの十二の部族を治めるために生ける神の印を与えられている者である。それゆえ、彼は永遠の福音を持っている四人の天使に叫んで、「わたしたちの神の僕たちの額に、わたしたちが印を押してしまうまでは、地も、海も、木も損なってはならない」と言う。また、もしあなたがたがそれを受け入れることを望めば、この人こそ、イスラエルの部族を集め、万事を元どおりにするために来ることになっているエライアスである。[4]

10 問い。この章に述べられていることが完了するのはいつか。

答え。これらのことは[1]第六の千年、すなわち第六の封印が解かれるときに完了する。

11 問い。イスラエルの全部族から十四万四千人、す

6 ② GS「神の奥義」
7 ① ③ GS「地球（地）」
8 ① ② 教義88・108—110
黙示14・6—7
マタ8・11—12、22・1—14、教義133・71—73
9 ① ② 黙示7・4—8
エゼ9・4
③ ④ GS「福音の回復」
GS「エライアス」
10 ① ① 黙示6・12—17
11 ① 黙示14・3—5

なわち各部族から一万二千人ずつ印を押すことによって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、印を押される者たちは、永遠の福音をつかさどるために神の聖なる位に聖任される[2]大祭司である。彼らは、[3]長子の教会に来たいと望むすべての者を導くために、地のもろもろの国民を治める力を与えられている天使たちによって、あらゆる国民、部族、国語の民、民族の中から聖任される者である。

12 問い。黙示録第八章に述べられている、ラッパ[1]を吹き鳴らすことによって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、神が六日の間に世界を造り、七日目にその業を終えて、それを[2]聖なるものとし、また地の[3]ちりから人を造られたように、まさにそのように第七の千年の初めに主なる神は地球を[4]聖なるものとし、人の救いを完了し、すべてのものを[5]裁き、そしてすべてのものの終わりに至るまですべてのものを結び固め終えるときにその力の下に置かれなかったものののほか、すべてのものを贖われる。また、七人の天使がラッパを吹き鳴らすのは、第七の千年の初めにおける主なる神の業の備えと完了、すなわち主の来臨の時に先立つ道の備えである。

13 問い。黙示録第九章に記されている様々なことが完了するのはいつか。

答え。これらのことは、第七の封印が解かれた後、キリストの来臨前に完了する。

14 問い。黙示録第十章に述べられている、ヨハネが[1]食べた小さな巻き物によって、わたしたちは何を理解すべきか。

答え。わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、それは彼がイスラエルのもろもろの部族を[2]集めるという使命であり、定めであった。見よ、この人こそ、書き記されているように、必ず来て万事を[3]元どおりにするエライアスである。

15 問い。黙示録第十一章の二人の[1]証人によって、何を理解すべきか。

答え。彼らは、[2]終わりの時、[3]回復の時にユダヤ[4]民族に対して立てられ、ユダヤ人が集められて彼らの[5]先祖の地にエルサレムの都を築いた後に彼らに預

---

11 ② GS「大祭司」
③ 教義76・51−70、GS「長子・初子」
12 ① 黙示8・2
② 創世2・1−3、出エ20・11、31・12−17、モサ13・16−19、モセ3・1−3、アブ5・1−3
③ 創世2・7
④ 教義88・17−20
⑤ GS「イエス・キリスト−裁き」
⑥ GS「贖い・贖う」
14 ① エゼ2・9−10、3・1−4、黙示10・10
② GS「イスラエル−イスラエルの集合」
③ マタ17・11
15 ① 黙示11・1−14
② GS「終わりの時・末日」
③ GS「福音の回復」
④ GS「ユダヤ人」
⑤ アモ9・14−15

言することになっている、二人の預言者である。

第78章

千八百三十二年三月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百五十五—二百五十七ページ）。貧しい人のために倉を設けるという目的をもって、この制度が主からジョセフ・スミスに示された。数々の啓示の中で主が語りかけられた各個人がだれであるか、世の人々に知られることは、必ずしも望ましいことではなかった。そのため、この啓示、ならびにこれに続く幾つかの啓示の出版に際して、その兄弟たちは実名以外の名前で呼ばれた。各個人の名前を知られないようにしておく必要性がなくなってから後は、彼らの実名が括弧に入れて示された。しかし今日、変名を使い続ける必要がないので、本書では現在、最初の原稿にあるとおりに実名だけが使われている。

1—4 聖徒たちは組織して、倉を設けなければならない。5—12 彼らの財産の賢明な使用は救いに通じる。13—14 教会はこの世の権力から独立していなければならない。15—16 ミカエル（アダム）は聖者（キリスト）の指示の下に仕えている。17—22 忠実な者は幸いである。彼らはすべてのものを受け継ぐからである。

1 主はジョセフ・スミス・ジュニアに語って言われた。「わたしの教会の[1]大神権に聖任されている者たち、ともに集まった者たちよ、わたしの言葉を聴きなさい、と主なるあなたがたの神は言う。

2 高い所からあなたがたを[1]聖任した者、あなたがたがわたしの前に持ち出した事柄によって救いがあなたがたにあるように、あなたがたの耳に知恵の言葉を語る者の[2]勧告を聴きなさい、と主なる神は言う。

3 まことに、わたしはあなたがたに言う。時は来ており、今や近い。見よ、見よ、この地においてもシオンの地においても、わたしの民の中の[2]貧しい者のために[3]倉の諸事を整え確立するに当たって、わたしの民の[1]組織があることが必要である。

4 人の救いと、天におられるあなたがたの父の栄光のために、あなたがたが支持してきた大義を推し進める目的をもって、わたしの教会の不変かつ永遠の

第78章
1 ① 神権」GS「メルキゼデク
2 ① GS「聖任」
② GS「勧告・勧め」
3 ① 教義57・1—2
② 教義42・30—31、GS「福祉」
③ 教義72・9—10、83・5—6
④ 教義82・11—12、15—21

組織と制度としてそれが必要である。

5 それは、あなたがたが天のものとのきずなにおいて[1]平等になり、また天のものを得るために地上のものにおいても平等になるためである。

6 あなたがたは地上のものにおいて平等でなければ、天のものを得ることにおいて平等にはなれないからである。

7 あなたがたは、わたしから日の栄えの世界で一つの場所を与えられることを望むならば、わたしがあなたがたに命じ、あなたがたに求めてきたことを[2]行うことによって、自らを[3]備えなければならない。

8 さて、まことに、主はこのように言う。わたしの[1]栄光のために、この[2]制度にともに加わっているあなたがたによって、すべてのことが行われることが必要である。

9 言い換えれば、わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーと、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニア、およびわたしの僕シドニー・リグドンは、シオンにいる聖徒たちとともに評議会の席に着きなさい。

10 そうしなければ、[1]サタンが彼らの心を真理からそらそうとしているので、彼らは目をくらまされた者となり、彼らのために備えられている事柄を理解しないであろう。

11 それゆえ、わたしは一つの戒めをあなたがたに与える。破ることのできない盟約、すなわち永遠の[1]聖約によって、自らを備えかつ組織しなさい。

12 それを破る者は、教会における自分の職と立場を失い、また贖いの日までサタンに引き渡されて[1]打たれるであろう。

13 見よ、これはわたしがあなたがたを備えるものであり、基であり、またあなたがたが与えられる戒めを果たせるように、わたしがあなたがたに与える範例である。

14 それは、あなたがたに下る[1]艱難があるにもかかわらず、わたしの摂理によって、教会が日の栄えの世界の下にある他のすべての造られたものの上で自立するためである。

15 また、あなたがたが備えられた[1]冠を受け、多くの[2]王国を治める者とされるためである。このように、[3]アダム・オンダイ・アーマンの基を設けたシオンの聖者である主なる神は言う。

---

5 ①教義49・20、GS「奉献・奉献の律法」
7 ①GS「日の栄え」 ②教義82・10 ③教義29・8、132・3
8 ①モセ1・39 ②教義92・1
10 ①GS「悪魔」
11 ①GS「聖約（契約）」 1コリ5・5、教義82・21、104・8—10
12 ①教義58・2—4
14 ①GS「冠」「昇栄」 黙示5・10、教義76・56—60、132・19
15 ①GS「アダム・オンダイ・アーマン」

16 この神は、ミカエル[1]をあなたがたの君に任じ、彼
の足を定め、彼を高い所に置き、また日の初めもな
く命の終わりもない聖者の勧告と指示の下における
救いの鍵を彼に授けた。
17 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。
あなたがたは幼い子供であり、父がどれほどの大い
なる祝福を御手の中に持っていて、あなたがたのた
めに備えておられるかをまだ理解していない。
18 あなたがたは、今はすべてのことに耐[1]えることは
できない。しかし、元気を出しなさい。わたしがあ
なたがたを導[2]いて行くからである。王国はあなたが
たのものであり、その祝福もあなたがたのものであ
り、また永遠[3]の富もあなたがたのものである。
19 すべてのことを感謝[1]して受け入れる者は、栄光を
与えられるであろう。また、この世のものも百倍[2]、
いやそれ以上、加えられるであろう。
20 それゆえ、わたしがあなたがたに命じたことを行
いなさい、とあなたがたの贖い主、すなわち子なる
アーマン[1]、あなたがたを取り上げる[2]前にすべてのこ
とを備える者は言う。
21 あなたがたは長子[1]の教会であり、主はあなたがた
を雲の中に取り上げて[2]、すべての人にその人の分を
定めるからである。
22 そして、忠実で賢い管理人[1]は、すべてのものを受
け継ぐであろう。アーメン。」

第79章

千八百三十二年三月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百五十七ページ）。

1—4 ジェレド・カーターは、慰め主によって福音を宣べ伝えるように召される。

1 まことに、わたしはあなたに言う。わたしの思い
は、わたしの僕ジェレド・カーターが、聖任を受け
たその聖任[1]の力をもって、地方から地方へ、町から
町へ、再び東の地方へ赴き、胸躍る大いなる喜びの
おとずれ、すなわち永遠の福音を宣言することであ
る。
2 わたしは彼に、真理と彼の行くべき道とを教え
る慰め主[1]を遣わそう。

16 ① 教義27・11、107・54—55、GS「アダム」
18 ① ヨハ16・12、3ニフ17・2—3、教義50・40
② 教義112・10
③ GS「永遠の命」
19 ① モサ2・20—21、GS「感謝」
② マタ19・29
20 ① 教義95・17
② 1テサ4・17
21 ① 教義76・53—54
② 教義88・96—98
22 ① 教義72・3—4
② GS「管理人・管理人の職」
③ 教義84・38

第79章
1 ① 教義52・38、GS「聖任」
2 ① ヨハ14・26、GS「慰め主・助け主」

3そして、彼が忠実であれば、わたしはそれに応じて彼に数々の束を冠として与えよう。
4それゆえ、わたしの僕ジェレド・カーターよ、心を喜ばせなさい、[1]恐れてはならない、とあなたの主、すなわちイエス・キリストは言う。アーメン。

第80章

千八百三十二年三月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百五十七ページ）。

1—5 スティーブン・バーネットとイーデン・スミスは、どこでも彼らが選ぶ場所において宣べ伝えるように召される。

1まことに、主はあなた、すなわちわたしの僕スティーブン・バーネットにこのように言う。行きなさい。世界に出て行って、あなたの声の下に来るすべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。
2あなたが同僚を欲しているので、わたしはあなたにわたしの僕イーデン・スミスを与えよう。
3それゆえ、あなたがたは行って、わたしの福音を宣べ伝えなさい。北であろうと南であろうと、東であろうと西であろうと、どこでもよい。あなたがたは迷うことはあり得ないからである。
4あなたがたがこれまでに聞き、確かに信じ、かつ真実であると知っている事柄を告げ知らせなさい。
5見よ、これがあなたがたを召した者、あなたがたの慰め主、すなわちイエス・キリストの思いである。アーメン。

第81章

千八百三十二年三月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百五十七—二百五十八ページ）。フレデリック・G・ウィリアムズが、大祭司、ならびに大神権の大管長会における顧問に召される。歴史記録の示すところによれば、この啓示が千八百三十二年三月に与えられたとき、ジェシー・ガウスが、啓示によって大管長会におけるジョセフ・スミスの顧問の職に召された。しかしながら、彼がこの職にふさわしい態度を保ち続けられなかったとき、その召

4①　教義68・5—6
第80章
1①　マコ16・15
4①　GS「証し」
5①　GS「召し」・神の召し

しは、その後フレデリック・G・ウィリアムズに移された。（千八百三十二年三月付けの）この啓示は大管長会の正式な組織への一歩と見なされるべきものであり、特にこの組織における顧問の職を指定し、この職が尊いものであることを説明している。ガウス兄弟はしばらくの間働いたが、千八百三十二年十二月に教会から破門された。ウィリアムズ兄弟は、千八百三十三年三月十八日に、ここで述べられている職に聖任された。

1−2 王国の鍵は常に大管長会によって保持される。3−7 フレデリック・G・ウィリアムズは務めに忠実であれば、永遠の命を受ける。

1 まことに、まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズに言う。語る者の声、すなわち主なるあなたの神の言葉に耳を傾けなさい。あなたが召される召し、すなわち、わたしの教会における大祭司[1]となり、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアの顧問となる召しに留意しなさい。

2 わたしは、大神権の大管長会[1]に常に属する王国の鍵[2]を彼に授けた。

3 それゆえ、まことに、わたしは彼を認めており、彼を祝福する。また、わたしがあなたを選任した職においてあなたが忠実に助言し、またあなたが声に出しても心の中でも、公にもひそかにも常に忠実に祈り、さらに生ける者の地で、また同胞の間で福音を宣言するあなたの務めにも忠実であるならば、わたしはあなたも祝福しよう。

4 これらのことを行うことによって、あなたは同胞に最も大いなる善を行い、またあなたの主である者の栄光[1]を増すであろう。

5 それゆえ、忠実でありなさい。わたしがあなたを任命した職において務めなさい。弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強[3]めなさい。

6 あなたは最後まで忠実であれば、わたしが父の家に用意した住まい[1]において、不死不滅[2]と永遠の命[3]の冠を受けるであろう。

7 見よ、見よ、これらは、アルパでありオメガである者、すなわちイエス・キリストの言葉である。アーメン。

第81章
1 ① GS「大祭司」
1 ① 教義107・8−9、22、
2 ① GS「大管長会」
2 ② GS「神権の鍵」
4 ① モセ1・39
5 ① モサ4・15−16
5 ② イザ35・3
5 ③ 教義108・7
6 ① ヨハ14・2−3、教義59・2、106・8
6 ② GS「不死不滅」
6 ③ GS「永遠の命」
「昇栄」

第82章

千八百三十二年四月二十六日、ミズーリ州ジャクソン郡において、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百六十七—二百六十九ページ）。この啓示が与えられたのは、預言者ジョセフ・スミスが大神権の大管長として支持された教会の総会のときである。彼は、千八百三十二年一月二十五日、オハイオ州アマーストで大祭司と長老と会員の大会においてすでにこの職に聖任されていた（第七十五章の前書きを参照）。以前はこの啓示の出版に際して、名前を挙げられた人がだれであるかを隠すために、変名が使われていた（第七十八章の前書きを参照）。

1—4 多く与えられれば、多く求められる。5—7 暗闇が世を支配している。8—13 わたしたちが主の言われることを行うとき、主はそれに対して義務を負われる。14—18 シオンは美しさと聖さを増さなければならない。19—24 すべての者は自分の隣人の益を図るように努めなければならない。

1 まことに、まことに、わたしはあなたがた、すなわちわたしの僕たちに言う。あなたがたが互いに過ちを赦し合ったので、主なるわたしは同じようにあなたがたを赦す。

2 それでも、あなたがたの中にはひどく罪を犯した者がいる。まことに、あなたがたのすべてが罪を犯した。しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。ひどい裁きがあなたがたの頭に下らないように、今から後、気をつけて、罪から遠ざかりなさい。

3 多く与えられる者からは多く求められ、いっそう大いなる光に対して罪を犯す者は、いっそう大きな罪の宣告を受けるからである。

4 あなたがたが啓示を求めてわたしの名を呼ぶと、わたしはそれらをあなたがたに与える。そして、わたしがあなたがたに与えるわたしの言葉をあなたがたが守らなければ、あなたがたは戒めに背く者となる。正義と裁きは、わたしの律法に付随する罰である。

5 それゆえ、わたしは一人に言うことをすべての者に言う。すなわち、敵対する者がその領域を広

第82章
1 ① マタ 6・14—15、教義 64・9—11
2 ① ロマ 3・23
3 ① ルカ 12・48、新ヤコ 4・17、GS「責任を負う」
② GS「管理人・管理人の職」
③ ヨハ 15・22—24、GS「光・キリストの光」
④ GS「罪」「背教・背信」
4 ① GS「啓示」
5 ① GS「正義」
② GS「悪魔」

げ、2)暗闇が支配しているので、目を覚ましていなさい。

6 神の怒りは地に住む者に向かって燃えている。そして、だれ一人善を行う者はいない。すべての者が道を外れているからである。1)

7 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。主なるわたしは、どのような罪もあなたがたに負わせない。あなたがたの道を行き、これからはもう罪を犯さないようにしなさい。1)罪を犯す者には2)以前の罪が戻るであろう、と主なるあなたがたの神は言う。

8 さらにまた、あなたがたに言う。わたしはあなたがたに新しい戒めを与えて、あなたがたがわたしの思いを理解できるようにする。1)

9 言い換えれば、あなたがたの救いのためとなるように、あなたがたがわたしの前でどのように行動すればよいか、あなたがたに指示を与える。1)

10 あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。1)しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。

11 それゆえ、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕たち、エドワード・パートリッジとニューエル・K・ホイットニー、A・シドニー・ギルバートとシドニー・リグドン、わたしの僕ジョセフ・スミス、ジョン・ホイットマーとオリバー・カウドリ、およびW・W・フェルプスとマーティン・ハリスは、背きによって裁きが直ちに伴うことなしには破ることのできない盟約と聖約によって、あなたがたの様々な管理人の職においてともに結ばれることが必要である。1)

12 貧しい者の諸事と、シオンの地とカートランドの地の両方におけるビショップの務めに関するすべてのことを処理するためである。

13 わたしは、いと高き方の聖徒たちの益のために、またシオンのためのステークとして、わたしがふさわしいと思うときにカートランドの地を聖別した。1)

14 シオンは美しさと聖さを増し、その境は広げられ、そのステークは強くされなければならない。まことに、わたしはあなたがたに言う。シオンは立ち上がり、2)その美しい衣を着なければならない。

15 それゆえ、わたしはあなたがたに次の戒めを与える。すなわち、あなたがたはこの聖約によって結束

5 ②GS「暗闇（霊的な）」
③GS「見守る・見守る者」
6 ①ロマ3・12、教義1・16
7 ①GS「罪」
②教義1・32—33、58・43
8 ①ヨハ13・34
9 ①教義43・8
10 ①ヨシ23・14、列上8・23、教義1・38、130・20—21、GS「従順・従う」
11 ①GS「祝福」、教義78・3—7、11—15
13 ①イザ33・20、54・2、GS「ステーク」
14 ①GS「シオン」
②イザ52・1、教義113・7—8

しなさい。それは主の律法に従って行わなければならない。

16 見よ、これはあなたがたの益のために、わたしの知恵にかなっている。

17 あなたがたは平等[1]でなければならない。言い換えれば、あなたがたは自分の管理人の職に関する諸事を処理するために、その入り用が正当であれば、それぞれ自分の入り用と必要に応じて財産を要求する平等な権利がある。

18 これはすべて、生ける神の教会の益のため、またすべての者が自分のタラント[1]をさらに増すため、またすべての者がほかのタラントをまことに百倍も得て、全教会の共有財産となるように主の倉に納めるためである。

19 すべての者はその隣人の益を図るように努め、また神の栄光にひたすら目[1]を向けてすべてのことをなすようにしなければならない。

20 あなたがたが罪を犯さなければ、わたしはこの制[1]度を、あなたがたのために、またあなたがたの継承者のために永遠の制度となるように定めた。

21 この聖約に対して罪を犯し、それに対して心をかたくなにする者は、わたしの教会の律法に従って扱い、贖いの日までサタンに引き渡して打たれるに任[1]せなければならない。

22 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。そして、これは賢明なことである。すなわち、あなたがた自身のために、不義の富を持つ者と友になりなさい。そうすれば、彼らはあなたがたを滅ぼさないであろう。

23 裁きはわたし一人に任せなさい。それはわたしのすることであり、わたしが報[1]復するからである。平安があなたがたにあるように。わたしの祝福があなたがたに続くように。

24 あなたが確固とした状態から堕落しなければ、王[1]国はなおもあなたがたのものであり、いつまでもそうである。まことにそのとおりである。アーメン。

第83章

千八百三十二年四月三十日、ミズーリ州インディペンデンスにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百六十九―二百七十ページ）。この啓示は、預言者が兄弟たちと評

17 ① 教義51・3、GS「奉献・奉献の律法」
18 ① 60・13、GS「賜物」「御霊の賜物」
19 ① 教義42・30―34、55、② 119・1―3、GS「倉」「目」
20 ① 教義88・67、GS「共同制度」
21 ① 104・8―10
23 ① 15 ロマ12・19、モル3・3―5、GS「神の王国・天の王国」
24 ① ルカ12・32、教義64・

議会の席に着いていたときに受けたものである。

1—4 婦人と子供は、その夫と父親に扶養を求める権利がある。5—6 やもめと孤児は、教会に扶養を求める権利がある。

1 まことに、教会の律法に加えて、女たちと子供たち、すなわち教会に属している者で自分の夫や父親を失った者について、主はこのように言う。

2 女たちは夫が取り去られるまで、夫に扶養を要求する権利がある。また、彼女たちは戒めに背く者であるとされなければ、教会内で会員資格を持つ。

3 もし忠実でなければ、彼女たちは教会内で会員資格を持たない。しかしそれでも、彼女たちはその地の法律に従って自分の受け継ぎの地にとどまることができる。

4 すべての子供たちは成人になるまで、その親に扶養を求める権利がある。

5 またその後、親が彼らに受け継ぎを与える分を持っていなければ、彼らは教会に、言い換えれば、主の倉に求める権利がある。

6 倉は教会員の奉献によって維持しなければならない。そして、やもめ[1]と孤児を扶養しなければならない。貧しい者[2]も同様である。アーメン。

第84章

千八百三十二年九月二十二、二十三日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百八十六—二百九十五ページ）。九月の間に、長老たちが東部諸州における伝道から帰り、彼らの働きについての報告を始めていた。次の教えを受けたのは、彼らがこの喜びの時節にともにいたときのことである。預言者はこれを神権に関する啓示と呼んだ。

1—5 新エルサレムと神殿がミズーリに建てられる。6—17 モーセからアダムに至る神権の系譜が与えられる。18—25 大神権は神の知識の鍵を持つ。26—32 小神権は天使の働きと備えの福音の鍵を持つ。33—44 人は神権の誓詞と聖約によって永遠の命を得る。45—53 キリストの御霊は人々を照らす。また、世は罪の状態にある。54—61 聖徒たちは自分が受けたものについ

第83章
1 ① 新ヤコ1・27
2 ① 1テモ5・8
4 ① モサ4・14
5 ① 教義78・3、GS「倉」
6 ① GS「やもめ」
② モサ4・16—26、ヒラ4・11—13、教義42・30—39、GS「貧しい」

て証しなければならない。62—76 彼らは福音を宣べ伝えなければならない。宣べ伝えれば、しるしが伴う。77—91 長老たちは財布や袋を持たずに出て行くべきである。そうすれば、主は彼らの必要としているものに心を配ってくださる。92—97 悪疫とのろいが、福音を拒む者を待ち受けている。98—102 シオンの贖いについての新しい歌が明らかにされる。103—110 各人をそれぞれの職に就かせ、それぞれの召しにおいて働かせなさい。111—120 主の僕たちは、終わりの時の荒廃の忌わしさについて宣言しなければならない。

1 イエス・キリストの僕ジョセフ・スミス・ジュニアと六人の長老たちがその心を一つにし、高い所にその声を上げたときに、彼らに与えられたイエス・キリストの啓示。

2 まことに、主がその預言者たち[1]の口を通して語ったとおり、主の民の回復[2]のために、また新エルサレム[3]の都となるシオンの山に立つ聖徒[5]たちの集合のために、終わりの時に設立された主の教会に関する主の言葉。

3 この都は主の指によって指定され、ジョセフ・スミス・ジュニアと、主の心にかなう他の者たちによって奉献された、ミズーリ州の西の境にある神殿用地[1]を起点として建てられるであろう。

4 まことに、主の言葉は次のとおりである。すなわち、新エルサレム[1]の都は聖徒たちの集合によって、この場所、すなわち神殿[2]の場所を起点として建てなければならない。この神殿はこの時代に築かれるであろう。

5 まことに、主のために一つの家が建てられて、雲がその上にとどまるまで、この時代の人々のすべてが世を去ることはない。その雲とは、まことにその家に満ちる主の栄光[1]である。

6 そして、聖なる神権によるモーセの息子たち、そのモーセは彼のしゅうとであるエテロ[1]の手[2]の下でそれを受け、

7 エテロはカレブの手の下でそれを受け、

8 カレブはエリフの手の下でそれを受け、

9 エリフはエレミの手の下で受け、

10 エレミはガドの手の下で受け、

11 ガドはイザヤスの手の下で受け、

12 イザヤスは神の手の下でそれを受けた。

第84章

1 ①GS「祈り」
2 ①使徒3・19—21
②GS「イスラエル」
③エテ13・2—11、教義42・8—9、45・66—67、箇条1・10、GS「新エルサレム」
④イザ2・2—5、ヘブ12・22、黙示14・1、教義76・66、84・32、133・18、56
⑤GS「聖徒」
3 ①教義57・3
4 ①GS「新エルサレム」
②GS「神殿・主の宮」
5 ①教義45・67、64・41—43、97・15—20、109・12、37
6 ①GS「エテロ」
②GS「按手」

13 イザヤスはまたアブラハムの時代に生きていて、彼から祝福を受けた。

14 このアブラハムはメルキゼデクから神権を受け、メルキゼデクは先祖の血統を通してそれを受け、ことにノアまで至り、

15 ノアから先祖の血統を通してエノクまで至り、

16 エノクから、兄の陰謀によって殺されたアベルに至る。アベルは、神の命令により最初の人であった父アダムの手によって神権を受けた。

17 この神権はあらゆる時代に神の教会の中に存続し、日の初めもなく年の終わりもない。

18 また、主はアロンとその子孫にも、代々一つの神権を確認した。この神権も、神の最も聖なる位に従う神権とともにいつまでも存続し、残るものである。

19 また、この大神権は福音をつかさどり、王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を持つ。

20 それゆえ、この神権の儀式によって神性の力が現れる。

21 また、神権の儀式と権能がなくては、肉体を持つ人間に神性の力は現れない。

22 これがなくては、だれも神、すなわち父の御顔を見て、なお生きていることはできないからである。

23 さて、このことを、モーセは荒れ野の中でイスラエルの子らに分かりやすく教え、その民が神の顔を見ることができるように、彼らを聖めようと熱心に努めた。

24 しかし、彼らは心をかたくなにし、神の臨在に堪えることができなかった。そのため、主の怒りは彼らに向かって燃え、主は激しく怒って、彼らは荒れ野にいる間神の安息に入れないと誓った。この安息とは、主の完全な栄光のことである。

25 それゆえ、主は彼らの中からモーセを取り去り、また聖なる神権も取り去った。

26 そして、小神権が存続した。この神権は、天使の働きと備えの福音の鍵を持つものである。

27 この福音は、悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音、また肉の戒めの律法であって、主は激しく怒り、この律法をアロンの家とともにイスラエルの子らの中にヨハネに至るまで存続させた。そのヨハネは、母の胎内から聖霊に満たされており、神が立てた者である。

---

14 ①GS「アブラハム」 ②GS「メルキゼデク」
15 ①GS「ノア（族長）」 ③GS「エノク」
16 ①GS「エノク」 ②GS「アベル」 ③GS「アダム」
17 ①教義107・40−57 ④アル13・1−19、アブ2・9、11、GS「メルキゼデク神権」
18 ①GS「アロン（モーセの兄）」 ②GS「アロン神権」
19 ①③教義13・1 教義63・23、107・18 19、GS「神の奥義」
20 ①②アブ1・2 GS「儀式」
21 ①GS「権威、権限、権能」「神権」
22 ①教義67・11 出エ19・5−11、33・20 ②出エ24・9−11、教義93・1
24 ①③出エ20・18−21、32・8、申命9・23、1ニフ17・30−31、42 ②詩篇95・8、ヘブ3・8−11、ヤコ1・7−8、アル12・36 ③JS出エ34・1−2、民数14・23、ヘブ4・1−11
25 ①11申命34・1−5 ②GS「メルキゼデク神権」
26 ①GS「アロン神権」 ②教義107・20 教義13・1 GS「悔い改め」
27 ①③GS「悔い改め」

28 彼はまだ子供のときにバプテスマを受け、また生後八日で神の天使によってこの力、すなわち、ユダヤ人の王国を打ち倒し、主の民の前に主の道をまっすぐにし、一切の[2]権威をその手に与えられている主の来臨のために彼らを備える力を持つように聖任されたのである。

29 さらにまた、長老とビショップの職は、大神権に属する、なくてはならない[1]付属の職である。

30 さらにまた、教師と執事の職は、小神権に属する、なくてはならない付属の職である。この小神権は、アロンと彼の子孫に確認されたものである。

31 それゆえ、わたしがモーセの息子たちに関して言ったように、モーセの息子たちと、アロンの息子たちは、受け入れられるささげ物と犠牲を主の家においてささげるであろう。その家はこの時代に、わたしが定めたように聖別された[2]場所に主のために建てられる。

32 そして、モーセの息子たちとアロンの息子たちは、シオンの[1]山の主の家で、主の[2]栄光をもって満たされるであろう。その息子たちとは、あなたがたのことである。また、わたしの[3]教会を築き上げるためにわたしが召して遣わした多くの者も、同様である。

33 だれでも[1]忠実であって、わたしが語ったこれら二つの[2]神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御霊により[3]聖められてその体が更新される。

34 これらの者は、モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの[1]子孫[2]となり、神の教会となり、神の王国となり、神の[3]選民となる。

35 主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

36 わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを[1]受け入れるからである。

37 また、わたしを[1]受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

38 そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。それゆえ、わたしの父が持っておられるすべてが、彼に与えられるであろう。

39 これは神権に伴う[1]誓詞と聖約によってである。

40 それゆえ、神権を受ける者は皆、わたしの父のこ

---

27 ② GS「バプテスマ」 ③ GS「罪の赦し」 ④ ヘブ 7・11−16 ⑤ GS「モーセの律法」 ⑥ GS「ヨハネ（バプテスマの）」

28 ① ルカ 1・15 イザ 40・3、マタ 3・1−3、ヨハ 1・23 ② マタ 28・18、ヨハ 17・2、1 ペテ 3・22、教義 93・16−17

29 ① 教義 107・5 教義 128・24 ② 教義 57・3

31 ① ② ヘブ 12・22、教義 76・66、84・2、133・56

32 ① ② GS「栄光」 ③ GS「イエス・キリストの教会」

33 ① GS「ふさわしさ」 ② ③ GS「聖め」 教義 132・30−32、GS「アブラハムの聖約（契約）」 ② ガラ 3・29、アブ 2・9−11、GS「アブラハム−アブラハムの子孫」 ③ GS「選民」

36 ① マタ 10・40−42、ルカ 10・16、教義 112・20

37 ① ヨハ 13・20

38 ① ルカ 12・43−44、ロマ 8・32、黙示 21・7、3 ニフ 28・10、教義 132・18−20、GS「昇栄」

39 ① GS「神権の誓詞と聖約」

の誓詞と聖約を受け入れるのである。わたしの父がこれを破られることはあり得ず、またこれが取り消されることもあり得ない。

41 しかし、だれでもこの聖約を受け入れた後にこれを破り[1]、これから完全に離れてしまう者は、この世でも来るべき世でも、罪の赦しを受け[2]ることはない。

42 また、この神権に来ない者は皆、災いである。あなたがたはこの神権をすでに受けており、わたしは今日ここにいるあなたがたに、天からわたし自身の声によって今これを確認する。また、まことに、わたしは天の衆群とわたしの天使[1]たちに、あなたがたに対する務めを与えた。

43 わたしは、今あなたがたに一つの戒めを与える。自分自身について気をつけ、永遠の命の言葉を熱心に心[1]に留めるようにしなさい。

44 あなたがたは、神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならないからである。

45 主の言葉[1]は真理であり、また真理[2]であるものはすべて光であり、光であるものはすべて御霊、すなわちイエス・キリストの御霊だからである。

46 御霊は世に来るすべての人[1]に光を与え[2]、また御霊はその声を聴く全世界のすべての人を照らす。

47 そして、御霊の声を聴くすべての人は、神、すなわち父のもとに来る。

48 すると、父はその人に、あなたがたに更新し確認された聖約[1]について教え[2]られる。これはあなたがたのために、またあなたがたのためだけでなく全世界のためにも、あなたがたに確認されているものである。

49 全世界[1]は罪の状態にあり、暗闇[2]の下で、また罪の束縛の下でうめいている。

50 そして、彼らが罪[1]の束縛[2]の下にあるのは、これによって分かる。すなわち、彼らはわたしのもとに来ないからである。

51 だれでもわたしのもとに来ない者は、罪の束縛の下にあるのである。

52 また、だれでもわたしの声を受け入れない者は、わたしの声を知らず、わたしにつく者ではない。

53 これによって、あなたがたは義人と悪人の違いを知り、また今まさに全世界[1]が罪と暗闇[2]の下でうめいているのを知ることができるのである。

---

41 ① GS「背教・背信」
② 教義76・34—38、132・27

42 ① 教義84・88
② 1ニフ15・23—25、教義1・14

43 ① 申命8・3、マタ4・4、教義98・11

44 ① 詩篇33・4、GS「言葉（神の）」

45 ① GS「真理」
② ヨハ1・9、教義93・2

46 ① GS「光・キリスト」
② GS「良心」

48 ① GS「新しくかつ永遠の聖約」「聖約（契約）」
② GS「霊感」

49 ① 1ヨハ5・19
② GS「暗闇（霊的な）」

50 ① GS「罪」
② ガラ4・9

52 ① ヨハ10・27
② GS「世」

53 ① GS「物欲」
② ロマ8・22、モセ7・48 ③

54 また、不信仰[1]のために、また自分の受けたものを軽々しく扱ったために、あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった。

55 この虚栄[1]と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた。この罪の宣告はシオンの子ら、まことにすべての者のうえにある。

56 彼らが悔い改めて、新しい聖約[1]、すなわち『モルモン書』[2]と、わたしが彼らに与えた以前[3]の戒めを思い起こし、そしてただ口にするだけでなく、わたしが記してきたものに従って行動[4]するまで、彼らは依然としてこの罪の宣告の下にある。

57 これによって、彼らが父の王国にふさわしい実を結べるようにするためである。そうでなければ、シオンの子らのうえに注がれる懲らしめと裁きが残る。

58 王国の子らはわたしの聖なる地を汚すであろうか。まことに、わたしはあなたがたに、「汚さない」と言う。

59 まことに、まことに、わたしの言葉[1]、すなわちわたしの声を今聞いているあなたがたに言う。あなたがたはこれらのものを受け入れるならば、幸いである。

60 わたしはあなたがたの罪を赦[1]して、この戒めを与えるからである。すなわち、あなたがたは、あなたがたに知らされたこれらのことを世のすべての人に証するために、[2]厳粛に、また祈りの精神をもって、あなたがたの思いを確固としていなさい。

61 あなたがたは全世界[1]に出て行きなさい。また、あなたがたはどこでも自分の行けない所に証を送り、それがあなたがたから全世界のすべての造られたものに伝わるようにしなさい。

62 わたしはあなたがたに言う。あなたがたはわたしの使徒[1]、すなわち神の大祭司[2]だからである。あなたがたは、父がわたしに与えてくださった者である。あなたがたはわたしの友[3]である。

63 それゆえ、わたしの使徒たちに言ったように、もう一度あなたがたに言う。あなたがたの言葉を信じ[1]て、罪[2]の赦しのために水でバプテスマを受ける者は皆、聖霊[4]を受けるであろう。

64 そして、信じる者には、このようなしるし[1]が伴う。すなわち、わたしの名によって、彼らは多くの驚[1]

---

54 ①GS「不信仰」
55 ①GS「うぬぼれ」
57 ①エレ31・31—34
②GS「モルモン書」
③1ニフ13・40—41
④新ヤコ1・22—25、教義42・13—15
60 ①教義18・34—36
61 ①ダニ9・9、GS「赦し」
②教義43・34、88・121、100・7
62 ①マコ16・15、教義1・2—5、GS「伝道活動」
63 ①GS「使徒」
②3ニフ15・24、教義50・41—42
③ヨハ15・13—15、教義93・45
64 ①マコ16・15—16、GS「信じる」
②GS「罪の赦し」
③GS「人（霊を持つ存在としての）」
④GS「聖霊の賜物」
65 ①マコ16・17—18、GS「しるし」

くべき業[1]を行う。

67 わたしの名[1]によって、彼らは悪霊を追い出す。

68 わたしの名によって、彼らは病人を癒す[1]。

69 わたしの名によって、彼らは目の見えない者の目を開け、耳の聞こえない者の耳を開く。

70 また、口の利けない者の舌は語るようになる。

71 だれかが毒[1]を盛っても、それは彼らに害を与えない。

72 蛇の毒は彼らを害する力を持たない。

73 しかし、わたしは一つの戒めを彼らに与える。彼らはこれらのことを自慢[1]してはならないし、世の人々の前でこれらを語ってもならない。これらのことはあなたがたの益のために、また救いのために、あなたがたに与えられるからである。

74 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの言葉を信じることなく、また聖霊を受けるために、わたしの名によって水の中で罪の赦しのためのバプテスマ[1]を受けない者は、罰[2]の定めを受け、父とわたしがいる父の王国に来ることはないであろう。

75 あなたがたにあてたこの啓示と戒めは、まさに今この時点から世のすべての者に効力を持つ。そして、福音はそれをまだ受けていないすべての者に及ぶ。

76 しかし、まことに、わたしは王国を与えられたすべての者に言う。彼らは以前の悪い行いを悔い改めるべきであることを、あなたがたは彼らに宣べなければならない。彼らはその不信仰な悪い心のゆえに、とがめを受けなければならない。また、シオンのあなたがたの兄弟たちも、わたしがあなたがたを遣わしたときにあなたがたに逆らったので、とがめを受けなければならない。

77 さらにまた、わたしは、友であるあなたがたに言う。今から後、わたしはあなたがたを友と呼ぶ。わたしがあなたがたにこの戒めを与えることは必要である。すなわち、あなたがたは、わたしがともにいて、わたしの力をもって福音を宣べ伝えるために旅をした時代のわたしの友のようになりなさい。

78 わたしは彼らに、財布[1]も袋も、また二枚の上着も持つことを許さなかった。

79 見よ、わたしは世の人々を試みるためにあなたがたを遣わす。そして、働き人が報酬[1]を受けるのは当

---

66 ① GS「行い」
67 ① マタ 17・14—21
68 ① GS「癒し」マコ 16・18、使徒 28・3—9、教義 24・13、124・98—100
71 ① 教義 105・24、GS「高慢」
73 ① 2 ニフ 9・23、教義 50—52、GS「バプテスマ—必要不可欠な条件」
74 ① 76・② ヨハ 3・18
78 ① マタ 10・9—10、教義 24・18
79 ① 教義 31・5

然である。

80 また、行って王国のこの福音[1]を宣べ伝え[2]、あらゆる点で引き続き忠実である者は、心が疲れることも暗くなることもなく、体や手足や関節が疲れることもない。[3]髪の毛一筋も、知られずに地に落ちることはない。また、これらの者は飢えることも、渇くこともない。

81 それゆえ、あなたがたは明日のことを思い煩ってはならない。何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと思い煩ってはならない。

82 野のゆりがどのように育っているか、考えてみるがよい。働きもせず、紡ぎもしない。そして、栄華を極めた世の王国も、この花の一つほどにも着飾ってはいない。

83 天におられるあなたがたの父[1]は、これらのものがすべてあなたがたに必要であることを知っておられる。[2]

84 それゆえ、明日のことは明日に思い煩わせなさい。

85 また、あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。[2]そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。[3]

86 それゆえ、この戒めは神から務めに召される教会のすべての忠実な者にあてられたものであるので、[1]あなたがたの中で、出て行って王国のこの福音を宣言する者はだれも、この時点から、財布や袋を携えてはならない。

87 見よ、わたしは世の人々を彼らのすべての不義な行いのゆえに責めるために、また来るべき裁きについて彼らに教えるために、あなたがたを遣わす。[1]

88 そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使[2]たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。

89 だれでもあなたがたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。その人はあなたがたに食物を与え、衣服を与え、また金銭を与えるであろう。

90 そして、あなたがたに食物を与え、衣服を与え、

---

80 ① GS「福音」
② GS「伝道活動」
③ ルカ 21・18
81 ① マタ 6・25−28
83 ① GS「天の御父」
② マタ 6・8
84 ① マタ 6・34
85 ① マタ 10・19−20、ルカ 12・11−12、教義 100・6
② 2ニフ 31・20、アル 17・2−3、教義 6・20、11・21−26、GS「深く考える」
③ GS「教える・教師−御霊によって教える」
86 ① マタ 24・44−46、教義 58・26−29、107・99−100
87 ① GS「伝道活動」
88 ① マタ 10・40、ヨハ 13・20
② 教義 84・42、GS「天使」

あるいは金銭を与える者は、決してその報いを1)失うことはない。

91 また、これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではない。これによって、あなたがたはわたしの弟子を知ることができる。

92 あなたがたを受け入れない者から離れて、独りになり、暑くても寒くても、あなたがたの足を水で、すなわち純粋な水で1)洗い清め、天におられるあなたがたの父にその証を示しなさい。そして、再びその人のもとに戻ってはならない。

93 どの村や町に入っても、同様にしなさい。

94 しかしながら、熱心に探しなさい。惜しんではならない。あなたがたや、あなたがたの言葉や、わたしについてのあなたがたの証を拒む家や村や町は、災いである。

95 わたしはもう一度言う。あなたがたや、あなたがたの言葉や、わたしについてのあなたがたの証を拒む家や村や町は、災いである。

96 1)全能者であるわたしは、もろもろの国民をその2)悪事のゆえに3)懲らしめるために、彼らの上にわたしの手を置いた。

97 そして、悪疫が出て行く。それらの悪疫は、義にかなって1)短くされるわたしの業が完了するまで、地から取り去られることはないであろう。

98 そのとき、最も小さい者から最も大いなる者に至るまで、生き残っているすべての者が、わたしを知り、主を知る知識に満たされ、目と目を1)合わせ、声を2)上げ、声を合わせて次のような新しい歌を歌うであろう。

99 主はシオンを回復された。
1)恵みの2)選びによって、
主はその民3)イスラエルを4)贖われた。
先祖の信仰と5)聖約によって、
それは成し遂げられた。

100 主はその民を贖われた。
サタンは1)縛られ、もはや時はない。
主は万物を2)一つに集められた。
主は上からシオンを3)下された。
主は下からシオンを4)上げられた。

101 1)地は産みの苦しみをなし、その力を産み出した。
真理は地の中に打ち立てられている。
天は地にほほえみかけた。

---

90 ① マタ 10・42、マコ 9・41
91 ① ヨハ 13・35
92 ① マタ 10・14、ルカ 9・5、教義 60・15
96 ① GS「全能」
97 ① GS「邪悪」
② 教義 1・13−14
③ マタ 24・22、イザ 52・8
98 ① 詩篇 96・1、黙示 15・3、教義 25・12、133・56
② GS「歌う」
99 ① GS「恵み」
② GS「選び」
③ GS「イスラエル」
④ 黙示 5・9、教義 43・29
⑤ GS「アブラハムの聖約（契約）」
100 ① 黙示 20・2−3、教義 43・31、45・55、88・110
② エペ 1・10、教義 27・13
③ 教義 45・11−14、モセ 7・62−64
④ GS「シオン」
教義 76・102、88・96
101 ① GS「地球（地）」

地はその神の2)栄光をまとっている、
神がその民の中に立っておられるので。
102 栄光と、誉れと、力と、威勢が、
わたしたちの神に帰せられるように。
神は1)憐れみ、公正、恵みと真理、
2)平安に満ちておられるので。
とこしえにいつまでも、アーメン。

103 さらにまた、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。出て行ってわたしの永遠の福音を宣言する者は皆、もし家族がいて、贈り物として金銭を受けたならば、主が指示するように、それを家族に送るか、あるいは彼らのために利用することが適切である。わたしにはこうあることがよいと思われるからである。

104 家族を持たない者で金銭を受けた者は皆、シオンのビショップか、あるいはオハイオのビショップにそれを送って、啓示の公表とその印刷のために、またシオンの確立のために、それが聖別されるようにしなさい。

105 また、だれかが上着あるいは服をあなたがたのだれかにくれたならば、古いものを取ってそれを貧しい者に与え、喜びながらあなたの道を行きなさい。

106 また、あなたがたの中で御霊において強い者がいれば、その人は弱い者を伴って行きなさい。それは、弱い者ができるかぎり柔和に教化されて、彼らも強くなるためである。

107 それゆえ、あなたがたは小神権に聖任されている者を伴い、彼らをあなたがたに先立って行かせて、約束を取りつけさせ、道を備えさせ、あなたがた自身の果たせない約束を果たさせなさい。

108 見よ、これこそ、昔のわたしの使徒たちが、わたしのために教会を築き上げた方法である。

109 それゆえ、各人をそれぞれの職に就かせ、それぞれの召しにおいて働かせなさい。頭は足に向かって、足は要らないと言ってはならない。足がなければ、体はどうして立つことができるであろうか。

110 体はまたあらゆる部分を必要としていて、すべてがともに教化され、全体が完全に保たれるのである。

111 また見よ、大祭司は旅に出なければならない。また、長老も小神権の祭司も同じである。しかし、執事と教師は教会員を見守り、教会の常任教導者となるように任じられる。

---

101 ② GS「栄光」
102 ① GS「憐れみ」
② GS「平安・平和」
104 ① 13 教義51・8−9、12−
105 ① GS「貧しい−物質的な貧しさ」
106 ① GS「フェローシップ」
② GS「柔和」
107 ① GS「アロン神権」
110 ① 1コリ12・12−23
111 ① GS「大祭司」
② GS「祭司（アロン神権の）」
③ GS「執事」
④ GS「教師（アロン神権の）」
⑤ GS「見守る・見守る者」

112 また、ビショップのニューエル・K・ホイットニーも、貧しい者を捜しながら周囲やすべての教会の中を旅し、富んでいる者と高ぶっている者をへりくだらせることによって、貧しい者に彼らの入り用としているものを与えるようにしなければならない。

113 彼はまた、彼が指示するままに責任を負って彼の実務を果たす、一人の代理人を雇わなければならない。

114 しかしながら、ビショップは、ニューヨーク市に、またオールバニ市に、またボストン市にも行き、それらの町の人々に、福音の知らせとともに、もしも彼らがこれを拒むならば彼らを待ち受けている荒廃と完全な滅亡について、大声で警告しなさい。

115 もしも彼らがこれを拒むならば、彼らの裁きの時は近づいており、彼らの家は荒れ果てるに任されるであろう。

116 ビショップはわたしを頼りなさい。そうすれば、打ち破られることはない。髪の毛一筋も、知られずに地に落ちることはないであろう。

117 まことに、わたしはあなたがた、すなわちわたしの僕たちの残りに言う。あなたがたは事情の許すまに、それぞれの召しに応じて、大きくかつ有名な町や村へ出て行き、義をもって世の人々を彼らのすべての不義で不敬な行いのゆえに責め、また終わりの時における忌まわしい荒廃についてはっきりと分かりやすく宣べなさい。

118 全能の主は言う。あなたがたによって、わたしは彼らの王国を裂こう。わたしは地を揺り動かすだけでなく、星の満ちた天をも震わせよう。

119 主なるわたしは、天の力を働かせるためにわたしの手を伸べた。あなたがたは今それを見ることはできないが、もうしばらくすれば、それを見て、わたしがいること、また、わたしが来てわたしの民とともに治めることを知るであろう。

120 わたしはアルパでありオメガであり、初めであり終わりである。アーメン。

第85章

千八百三十二年十一月二十七日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百九十八―二百九十九ページ）。この章は、ミズーリ州インディペンデ

---

112 ①教義56:16 ②GS「福祉」
113 ①教義90:22 ②教義1:13−14
114 ①ルカ13:35 ②GS「信頼」
115 ①詩篇22:5、1ペテ2:6 ②マタ10:29−31
116 ①ダニ2:44−45 ②ヨエ2:10、教義43:18、45:33、48、88:87、90、GS「終わりの時・末日」「時のしるし」
118 ①教義1:12、35−36、29:9−11、45:59、GS「イエス・キリストの再臨」 ②GS「福千年」
119 ①GS「アルパとオメガ」

ンスに住んでいたW・W・フェルプスにあてた預言者の手紙からの抜粋である。これは、シオンに移り住んだが、教会における定められた手順に従って受け継ぎを得ていない聖徒たちについての問いに答えて与えられたものである。

1—5 シオンでの受け継ぎは、奉献によって得なければならない。6—12 一人の力ある強い者が、聖徒たちにシオンでの受け継ぎを与える。

1 主が任命された主の書記の義務は、歴史を記録し、シオンで起こるすべてのことについて、また財産を奉献してビショップから律法にかなって受け継ぎを得るすべての人について、一般教会記録を書き残すことである。

2 また、彼らの生活の様子や、彼らの信仰や、行いについても、また受け継ぎを得た後に背教する背教者についても、記録を書き残すことである。

3 神より与えられた神の律法にかなった奉献によって自分の受け継ぎを得ない者が、神の民とともにその名を登録されることは、神の御心と戒めに反する。神は報復と焼き払いの日に対してその民を備えるために、彼らに什分の一を納めさせようと、その律法を与えられたのである。

4 また、彼らの系図を書き残してはならず、教会のいかなる記録や歴史の中にもそれが見いだされることがあってはならない。

5 神の律法の書に彼らの名前も、父の名前も、子孫の名前も見いだされることがあってはならない、と万軍の主は言われる。

6 まことに、万物を貫き通してささやき、それが現れるときにわたしの骨をしばしば震わせる静かな細い声は、次のように告げられる。

7 「主なる神であるわたしは、一人の力ある強い者を遣わす。その者はその手に力の笏を持ち、光を衣としてまとい、その口は言葉、すなわち永遠の言葉を語る。また、その腹は真理の泉である。わたしが彼を遣わすのは、神の家を整えるためであり、また神の律法の書に名前が見いだされ、その父とその子孫の名前が登録される聖徒たちの受け継ぎをくじによって手配するためである。

8 しかし、神から召されて任命されたその人は、神

第85章

1 ① 教義42・30—35
② 教義21・1、47・1、69・3—6
3 ① GS「奉献・奉献の律法」
② マラ3・10—11、17、教義97・25—26
③ GS「什分の一」
5 ① GS「命の書」
6 ① ヘブ4・12
② 列上19・11—12、ヒラ5・30—31、3ニフ11・3—7
8 ① サト6・6—7、歴上13・9—10、GS「契約の箱」

の箱を支えるために手を伸べると、まぶしい稲妻に撃たれる木のように、死の矢によって倒れるであろう。

9 また、1)覚えの書に記されていない者は皆、その日に何の受け継ぎも見いだされず、裂かれて、その持ち分は不信仰な者たちの中に定められ、そこで泣き2)わめき、歯ぎしりをするであろう。」

10 これらのことを、わたしは自分から言っているのではない。それゆえ主は、語られるとおりに果たされる。

11 大神権を持つ者で、また小神権を持つ者や会員で、その名前が1)律法の書に記されていない者、あるいは2)背教した者、または教会から3)絶たれた者は、その日に、いと高き方の聖徒たちの中に受け継ぎを見いだされないであろう。

12 それゆえ、エズラ記第二章六十一、六十二節に記されている祭司の子孫に行われたように、彼らに行われなければならない。

第86章

千八百三十二年十二月六日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百ページ）。この啓示は、預言者が『聖書』の翻訳の原稿を校閲し校訂していたときに受けたものである。

1—7 主は小麦と毒麦のたとえの意味を明らかにされる。8—11 肉による正当な相続人である人々への神権の祝福について説明される。

1 まことに、主は、小麦と毒麦のたとえについて、わたしの僕であるあなたがたにこのように言う。

2 見よ、まことに、わたしは言う。畑は世界であり、使徒たちは種をまく者であった。

3 彼らが眠った後、教会のひどい迫害者、背教者、淫婦、すなわちバビロンが現れる。このバビロンはすべての国民に自分の杯から飲ませる。そして彼らの心の中に、敵、すなわちサタンが座して支配する。見よ、彼が毒麦をまく。それゆえ、毒麦は小麦の生長を妨げて、教会を荒れ野に追いやる。

4 しかし見よ、終わりの時に、すなわち主が御言葉をもたらし始め、葉が生え出てまだ柔らかい、まさ

9 ①3ニフ24・16、モセ6・5—6、GS「覚えの書」 ②教義19・5
11 ①②GS「命の書」 ②③GS「背教・背信」 ③GS「破門」
第86章
1 ①マタ13・6—43、教義101・64—67 ②黙示17・1—9、GS「バビロン・バベル」 ③黙示12・6、14 ④GS「終わりの時・末日」

に今、

5 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言うが、畑を刈り入れるために遣わされる準備をして待っている[2]天使たちは、日夜、主に叫び求めている。

6 しかし、主は彼らに言う。小麦も損なうといけないので、葉がまだ柔らかい間は毒麦を抜き取ってはならない。（まことに、あなたがたの信仰が弱いからである。）

7 それゆえ、作物が十分に熟すまで、小麦と毒麦をともに育つままにしておきなさい。その後、あなたがたはまず毒麦の中から小麦を集めなければならない。小麦を集めた後、見よ、見よ、毒麦は束にされ、畑は焼かれるばかりである。

8 それゆえ、主は、先祖の血統を通して[1]神権が続いてきたあなたがたにこのように言う。

9 なぜなら、あなたがたは肉による正当な相続人であり、神のうちにキリストとともに世から[2]隠されてきたからである。

10 それゆえ、あなたがたの命と神権は存続しており、また、世界が始まって以来すべての聖なる預言者たちの口を通して語られてきた万物の[1]回復まで、神権はあなたがたとあなたがたの血統を通して必ず存続しなければならない。

11 それゆえ、もしあなたがたがわたしの慈しみの中にとどまるならば、すなわち、引き続き異邦人への[1]光となり、この神権によってわたしの民イスラエルのために救い手となるならば、あなたがたは幸いである。主がこのことを述べた。アーメン。

第87章

千八百三十二年十二月二十五日、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた、戦争に関する啓示と預言（『教会歴史』第一巻、三百一—三百二ページ）。この章は、兄弟たちがアメリカ大陸におけるアフリカ人の奴隷制度と、全世界における人の子らの奴隷制度について深く考え、論じていたときに受けたものである。

1—4 北部諸州と南部諸州の間の戦争が預言される。5—8 大きな災難が地の全住民のうえに降りかかる。

1 まことに、主は、間もなく起こる戦争に関してこ

5 ① GS「刈り入れ」
② 教義38・12
8 ① 教義113・8、GS「メルキゼデク神権」
9 ① アブ2・9—11、GS「アブラハムの聖約（契約）」
② イザ49・2—3
10 ① 使徒3・19—21、GS「福音の回復」
11 ① イザ49・6
② 教義109・59—67

のように言う。それはサウスカロライナの反乱で始まり、ついには多くの人の死と苦悩に終わるであろう。

2 戦争がこの地で始まって、すべての国々のうえに押し寄せる時が来る。

3 見よ、南部諸州は北部諸州に反対して分裂する。そして、南部諸州は他の国々、それもグレートブリテンと呼ばれている国を呼び、それらはまた他の国々から自らを守るために他の国々を呼ぶ。その後、戦争がすべての国々のうえに押し寄せる。

4 また、多くの日の後、戦争のために整えられて訓練される奴隷が、彼らの主人に反抗して立つ。

5 また、地に残っている残りの者たちが自らを整え、大いに怒り、ひどい苦しみをもって異邦人を悩ます。

6 このように、剣と流血により、地に住む者は嘆き悲しむであろう。また、地に住む者は、飢饉と、悪疫と、地震と、天の雷と、猛烈なまぶしい稲妻によっても、全能の神の激しい怒りと憤りと懲らしめの手を感じるであろう。そしてついに、定められた滅びが、すべての国をことごとく終わらせるであろう。

7 これによって、聖徒たちの叫びと聖徒たちの血の叫びが、地から上ってサバオスの主の耳に達して彼らの敵に報復するように求めることはやむ。

8 それゆえ、主の日が来るまで、あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。見よ、その日はすぐに来る、と主は言う。アーメン。

第88章

千八百三十二年十二月二十七日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百二—三百十二ページ）。これは預言者によって、「パラダイスの木から摘み取られた『オリーブの葉』、わたしたちへの主の平和のメッセージ」（『教会歴史』第一巻、三百十六ページ）と呼ばれた。この啓示が、千八百三十二年十二月二十七、二十八日と、千八百三十三年一月三日に与えられたものであることは、歴史記録から明らかである。

1—5 忠実な聖徒たちは、永遠の命の約束である慰め主を受ける。6—13 万物はキリストの光によって統

第87章
1 ①教義130・12—13
2 ①ヨエ3・9—16、マタ24・6—7、教義45・26、63・33
3 ①教義45・68—69 ②教義134・12 ③GS「懲らしめ」 ④GS「世—世の終わり」
4 ①教義29・14—21、45・49 ②ジーマタ1・29
6 ①エテ8・22—24
7 ①KJ新ヤコ5・4、教義88・2、95・7
8 ①マタ24・15、教義45・32、101・21—22 ②黙示3・11

御され、治められている。14—16 復活は贖いによって来る。17—31 日の栄え、月の栄え、あるいは星の栄えの律法に従うことによって、人々はそれぞれの王国と栄光に備えられる。32—35 罪の中にとどまることを望む者は、なお汚れたままである。36—41 すべての王国は律法によって治められている。42—45 神は万物に律法を与えられた。46—50 人は神をさえ理解するようになる。51—61 僕たちを畑に送り出して、順番に彼らを訪れる人のたとえ。62—73 主に近づきなさい。そうすれば、あなたがたは主の顔を見るであろう。74—80 自分自身を聖めて、互いに王国の教義を教え合いなさい。81—85 警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。86—94 数々のしるし、自然界の大変動、および天使たちによって、主の来臨のための道が備えられる。95—102 天使のラッパが死者を順番に呼び出す。103—116 天使のラッパが、福音の回復とバビロンの倒壊、および大いなる神の戦いを宣言する。117—126 学問を求め、神の宮（神殿）を建て、慈愛のきずなを身にまといなさい。127—141 洗足の儀式を含む、預言者の塾の規律が明らかにされる。

1 まことに、あなたがたに関する主の思いを受けようと集まったあなたがたに、主はこのように言う。**2** 見よ、これはあなたがたの主にとって喜びであり、天使たちはあなたがたのことを喜んでいる。[1]あなたがたの祈りの施しは[2]サバオスの主の耳に達し、聖められた者、すなわち日の栄えの世界に住む者の[1]名前の書に記録されている。**3** それゆえ、わたしは今あなたがたに、まことにわたしの友であるあなたがたに、別の慰め主、すなわち[2]約束の聖なる御霊を遣わして、それがあなたがたの心の中にとどまるようにする。この他の慰め主は、ヨハネの証の中に記されているように、わたしが弟子たちに約束したものである。**4** この慰め主は、[1]永遠の命、すなわち[2]日の栄えの王国の栄光について、わたしがあなたがたに与える約束である。**5** この栄光は、[1]長子の教会の栄光、すなわちすべての中で最も聖なる御方である神の栄光であって、神の子イエス・キリストを通じて来る。**6** [1]イエス・キリストは高い所に昇り、また万物の下に[2]身を落とし、それによってすべてのことを悟っ[3]

第88章
2 ① ルカ15・10
② 使徒10・1—4、GS「祈り」
③ 新ヤコ5・4、教義95・7
④ GS「命の書」
3 ① ヨハ14・16
② 教義76・53、GS「約束の聖なる御霊」
4 ① 教義14・7
② GS「日の栄え」
5 ① GS「長子・初子」
6 ① GS「イエス・キリスト」
② 教義122・8、GS「贖罪」
③ GS「全知」

て、万物の中にあり、万物を貫いてあり、真理の光となった。

7 この真理は輝いている。これはキリスト[1]の光である。また、彼は太陽の中にあり、太陽の光であり、太陽が[2]造られたその力である。

8 また、彼は月の中にあり、月の光であり、月が造られたその力である。

9 また、星の光であり、それらが造られたその力である。

10 地球、すなわちあなたがたが[1]立っている地球と、その力も同じである。

11 また、今輝いてあなたがたに光を与える光は、あなたがたの目を明らかにする者によって来るものであり、これはあなたがたの[1]理解を活気づける光と同じである。

12 この[1]光は、広大な空間を[2]満たすために神の前から発している。

13 これは[1]万物の中にあり、万物に[2]命を与える光であり、万物が治められる[3]律法、すなわち御座に着き、永遠の懐にあり、万物のただ中におられる神の力である。

14 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたのためになされている[1]贖いによって、死者の中からの復活が成し遂げられる。

15 そして、[1]霊と[2]体が[3]人を成す。

16 死者の中からの[1]復活は、人の贖いである。

17 人の贖いは、万物を生かす者によって来る。その者の胸のうちに、地の[1]貧しい者と[2]柔和な者はそれを受け継ぐということが定められている。

18 それゆえ、地球は[1]日の栄えの栄光に備えられるように、すべての不義から必ず聖められなければならない。

19 地球はその創造の目的を達した後、[1]栄光、すなわち父なる神の臨在を冠として与えられるであろう。

20 それによって、日の栄えの王国に属する者たちが、とこしえにいつまでも、これを[1]所有できるようにするためである。この[2]目的でこれは造られ、創造され、またこのために彼らは[3]聖められるのである。

21 わたしがあなたがたに与えた律法、すなわちキリストの律法によって聖められない者は、別の王国、すなわち月の栄えの王国か、星の栄えの王国を受け継がなければならない。

---

6 ④ 教義93・2、8—39、GS「真理」「光・キリストの光」
7 ① 84・45 モロ7・15—19、教義
② 創世1・16、GS「創造・創造する」
10 ① モセ2・1
11 ① GS「理解」
12 ① GS「光・キリストの光」
② エレ23・24 コロ1・16—17
13 ② 70 ヨブ38章、教義88・
③ 36—38、GS「律法」「贖いの計画」「贖罪」
14 ① GS「人—天の御父の霊の子供としての人間」「霊」
15 ① ② GS「体」
③ 創世2・7、GS「人（霊を持つ存在としての）」
16 ① アル11・42、GS「復活」
17 ① GS「地球（地）—最終的な状態」
② ③ GS「貧しい」GS「柔和」
18 ① ③ GS「日の栄え」
19 ① ① 教義130・7—9
20 ① ② 教義38・20 モセ1・39、GS「人—天の御父のようになる可能性を持った人間」
③ GS「聖め」

22 日の栄えの王国の律法に従えない者は、日の栄えの栄光に堪えられないからである。
23 また、月の栄えの王国の律法に従えない者は、月の栄えの栄光に堪えられない。
24 また、星の栄えの王国の律法に従えない者は、星の栄えの栄光に堪えられない。それゆえ、彼は栄光の王国にふさわしくない。そこで、彼は栄光の王国ではない王国を受けなければならない。
25 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。地球は日の栄えの王国の律法に従う。地球はその創造の目的を達して、律法に背かないからである。
26 それゆえ、地球は聖められる。まことに、それは死ぬにもかかわらず、再び生かされ、それを生かす力に堪える。そして、義人がそれを受け継ぐ。
27 彼らも死ぬにもかかわらず、再び霊的な体によみがえるからである。
28 日の栄えの霊を持つ者は、肉の体であったその同じ体を受けるであろう。すなわち、あなたがたはあなたがたの体を受け、またあなたがたの栄光は、あなたがたの体が生かされるその栄光である。
29 日の栄えの栄光の一部によって生かされるあなたがたは、そのとき、その同じものを、すなわちそのすべてを受ける。
30 また、月の栄えの栄光の一部によって生かされる者は、そのとき、その同じものを、すなわちそのすべてを受ける。
31 さらにまた、星の栄えの栄光の一部によって生かされる者は、そのとき、その同じものを、すなわちそのすべてを受ける。
32 また、取り残されている者もまた生かされる。しかしながら、彼らは、彼らが受けることのできたはずのものを進んで享受しなかったので、彼らが進んで受け入れるものを享受するために、再び彼ら自身の場所に帰る。
33 ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。見よ、彼は与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ばない。
34 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。律法によって治められるものは、また律法によって守られ、それによって完全にされ、聖められる。

---

22 ①教義105・5
23 ①GS「月の栄え」
24 ①GS「星の栄え」
25 ①GS「地球（地）」
26 ①GS「地球（地）」―最終的な状態」 ②GS「世―世の終わり」 ③2ペテ3・11―14、④マタ5・5、教義45・58、59・2、63・49
27 ①1コリ15・44 ②GS「復活」
28 ①GS「最後の裁き」 ②教義43・32、63・51、101・31
29 ①GS「日の栄え」 ②GS「人―天の御父のようになる可能性を持った人間」
30 ①GS「月の栄え」
31 ①GS「星の栄え」
32 ①アル11・41―45 ②GS「選択の自由」
34 ①GS「聖め」

35 律法を破って[1]律法に従わず、自らのために律法になろうとし、罪の中にとどまることを望み、そして完全に罪の中にとどまるものは、律法によっても、また[2]憐れみや公正、公平によっても聖められることはあり得ない。それゆえ、彼らはなお[3]汚れたままでいなければならない。

36 すべての王国には律法が与えられている。

37 そして、多くの[1]王国がある。王国のない空間はないからである。また、大きな王国も小さな王国も、その中に空間のない王国はない。

38 そして、すべての王国に一つの[1]律法が与えられており、すべての律法に一定の限界と条件がある。

39 それらの条件の中にとどまっていない者は皆、[2]義とされない。

40 [1]英知は英知に結びつき、[2]知恵は知恵を受け入れ、[3]真理は真理を迎え入れ、[4]徳は徳を愛し、[5]光は光に結びつき、憐れみは憐れみに同情を寄せ[6]自らの権利を主張し、正義はその道を進み続けてその権利を主張し、裁きは御座に着いて万物を治め、万事をなす者の前を行くからである。

41 彼はすべてのことを悟っており、万物は彼の前にあり、万物は彼の周りにある。また、彼は万物の上にあり、万物の中にあり、万物を貫いてあり、万物の周りにある。そして、万物は彼、すなわち神によって存在し、またとこしえにいつまでも神から出る。

42 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。神は万物に、その[1]時とその時期に応じて運行する律法を与えた。

43 そして、それらの軌道、すなわち地球とすべての惑星を含む天と地の軌道は定まっている。

44 それらは、その時とその時期に、すなわちその分に、その時間に、その日に、その週に、その月に、その年に、互いに[1]光を与え合う。すなわち、これらはすべて神にとっては[2]一年であるが、人にとってはそうではない。

45 地球はその翼をもって回転して進み、[1]太陽は昼間にその光を与え、月は夜中にその光を与え、またもろもろの星も、[2]神の力の中にあって、その栄光をもってその翼で回転して進みながらその光を与える。

46 あなたがたが理解できるように、わたしはこれらの王国を何にたとえようか。

---

35 ① GS「背く」 ② GS「憐れみ」 ③ 黙示22:11、1ニフ15:33−35、2ニフ9:16、アル7:21、教義78:15

36 ① 教義88:13

37 ① 教義130:20−21

38 ① GS「義認・義とされる」

39 ① GS「英知」 ② GS「知恵」 ③ GS「真理」 ④ GS「徳」 ⑤ GS「光・キリストの光」 ⑥ GS「哀れみ」

40 ① 1ヨハ3:20、1ニフ9:6、2ニフ9:20、教義38:1−3、GS「全知」

41 ① ダニ2:20−22、アブ3:4−19

42 ① GS「光・キリストの光」 ② 詩篇90:4、2ペテ3:8、創世1:16、アブ4:16、教義88:7−13

47 見よ、これらはすべて王国であり、またこれらの
どれでも、あるいは最も小さいものでも見た者は、
尊厳と力をもって進む神を見[1]たのである。
48 わたしはあなたがたに言う。彼は神を見たのであ
る。それにもかかわらず、自分[1]の民のところに来た
者は理解されなかった。
49 その光[1]は暗闇の中に輝いている。そして、暗闇は
それを理解しない。それにもかかわらず、あなたが
たは神にあって、また神によって生かされるので、
まことに神を理解[2]する日が来るであろう。
50 そのとき、あなたがたは、わたしを見たこと、わ
たしがいること、わたしがあなたがたの中にあるま
ことの光であること、またあなたがたがわたしにい
ることを知るであろう。そうでなければ、あなたが
たは豊かになることができない。
51 見よ、わたしはこれらの王国を、畑を持っている
一人の男にたとえよう。彼はその畑を耕すために自
分の僕たちをその畑に送り出した。
52 そして、彼は最初の僕に、「あなたは畑に行って働
きなさい。第一の時に、わたしはあなたのところに
行こう。そして、あなたはわたしの喜ぶ顔を見るで
あろう」と言った。
53 また、彼は第二の僕に、「あなたも畑に行きなさ
い。第二の時に、わたしは喜ぶ顔をもってあなたを
訪れよう」と言った。
54 そしてまた、第三の僕にも、「わたしはあなたを訪
れよう」と言った。
55 また第四の僕にも、というようにして第十二の僕
に至った。
56 そして、畑の主人は第一の時に最初の僕のところ
に行って、その時間いっぱい彼とともにいた。そし
て、彼はその主人の顔の光によって喜びを得た。
57 その後、彼は最初の僕のもとを去って、第二の僕
を訪れた。そして、第三の僕、また第四の僕、とい
うようにして第十二の僕に至った。
58 このようにして、彼らは皆、その時間に、その時
に、その時期に、一人一人彼らの主人の顔の光を受
けた。
59 すなわち、最初の僕から始めて最後[1]に至るまで、
そして最後から最初、また最初から最後まで、
60 すべての者がその順序で、彼の時間が終わるま
で、その主人が彼に命じたとおりに行った。それに

47 ① アル30・44、モセ1・27－28、6・63、アブ3・21
48 ① ヨハ1・11、3ニフ9・16、教義39・1－4
49 ① 教義6・21、50・23－24、84・45－47
② ヨハ17・3、教義93・1、28
59 ① マタ20・1－16

より、その主人が彼によって栄光を受け、また彼もその主人によって栄光を受けて、彼らが皆栄光を受けるためである。

61それゆえ、このたとえに、わたしはこれらすべての王国とそこに住む者をなぞらえよう。すなわち、神が出した定めのとおりに、あらゆる王国はその時間に、その時に、その時期に訪れを受けるのである。

62さらにまた、まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。あなたがたの心の中で深く考えるように、わたしはこれらの言葉と、あなたがたに与えるこの戒めとを残す。わたしが近くにいる間に、あなたがたはわたしに呼び求めなければならない。

63すなわち、わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。

64あなたがたがわたしの名によって父に求めるもので、あなたがたにとって必要なものは何でも、与えられるであろう。

65また、もしあなたがたが自分にとって必要でないものを求めるならば、それはあなたがたの罪の宣告となる。

66見よ、あなたがたが聞いているのは、荒れ野で叫ぶ者の声のようである。荒れ野でというのは、あなたがたはその者を見ることができないからである。この声はわたしの声である。わたしの声は御霊だからである。わたしの御霊は真理である。真理は存続し、終わりがない。そして、それがあなたがたの中にあれば、それはますます豊かになる。

67また、あなたがたがわたしの栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、あなたがたの中に暗さがないであろう。そして、光に満たされるその体はすべてのことを悟る。

68それゆえ、あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように、自らを聖めなさい。そうすれば、あなたがたが神を見る日が来る。神はあなたがたにその顔を現すからである。それは神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って起こる。

69わたしがあなたがたに与えた大いなる最後の約束を思い出しなさい。あなたがたの無益な思いと過度

---

61 ①教義76・24
62 ①教義84・63、93・45 ②GS「深く考える」 ③イザ55・6、新ヤコ1・5、教義46・7
63 ①ゼカ1・3、新ヤコ4・8、黙示3・20 ②歴上28・9、エテ12・41、教義101・38 ③教義4・7、49・26
64 ①③GS「祈り」 ②教義18・18、46・28
65 ①1ヨハ1・9 ②新ヤコ4・3
66 ①教義63・7−11 ②イザ40・3、1ニフ17・13、アル5・37−38、教義128・20 ②GS「聖霊」「光・キリストの光」 ③GS「真理」
67 ①②ヨハ7・18、マタ6・22、ルカ11・34−36、教義82・19、箴言28・5、教義93・28、GS「識別の賜物」
68 ①GS「思い・心」 ②③GS「聖め」、教義67・10−13、93・1、97・15−17、マタ12・36、モサ4・29−30、アル12・14
69 ①マタ6・7

の笑いを遠くに捨ててしまいなさい。

70 あなたがたはとどまりなさい。あなたがたはこの場所にとどまりなさい。そして、聖会、すなわちこの最後の王国における最初の働き人たちの聖会を召集しなさい。

71 また、彼らの旅で警告を受けた者たちは、しばしの間、主に呼び求め、受けた警告を心の中で深く考えなさい。

72 見よ、見よ、わたしはあなたがたの群れの世話をし、長老たちを立てて彼らのもとに遣わそう。

73 見よ、わたしは、時が来ればわたしの業を速やかに行う。

74 また、わたしはこの最後の王国における最初の働き人であるあなたがたに、一つの戒めを与える。あなたがたは集まって、自らを組織し、自らを備え、また自らを聖めなさい。まことに、あなたがたの心を清くし、またわたしの前に手と足を清めなさい。それは、わたしがあなたがたを清くするためであり、75 また、あなたがたがこの邪悪な時代の血から清められていることを、わたしがあなたがたの父、あなたがたの神、わたしの神に証するためであり、さらにわたしがこの約束、すなわち、わたしがあなたがたに与えたこの大いなる最後の約束を、わたしが望むときに果たすためである。

76 さらに、わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたはこれから先、祈りと断食を続けなければならない。

77 また、あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。

78 熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。

79 また、天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、すぐにも必ず起こること、国内にあること、国外にあること、戦争と諸国民の混乱、地上にある裁き、国々と王国に関する知識についても同様である。

80 それは、わたしが再びあなたがたを遣わすとき

---

69 (2) 教義59・15、88・121
71 (1) GS「警告」
74 (1) マタ20・1、16
(2) レビ20・7−8、23
フ19・28−29、教義50・28−29、133・62
(3) GS「清いものと清くないもの」
(4) エテ12・37
75 (1) GS「神・神会−父なる神」「天の御父」「人−天の御父の霊の子供としての人間」
76 (1) GS「祈り」
(2) GS「断食」
77 (1) GS「キリストの教義」
(2) GS「教える・教師」
78 (1) GS「恵み」
(2) 教義88・118、90・15、93・53
79 (1) GS「天」
(2) GS「戦争」

に、あなたがたが、わたしがあなたがたを召したその召しと、あなたがたを任命したその使命とを尊んで大いなるものとするように、あらゆる点で備えられるためである。

81 見よ、わたしは、人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。

82 それゆえ、彼らは弁解の余地がなく、彼らの罪は彼ら自身の頭にある。

83 わたしを早く求める者は、わたしを見いだし、見捨てられないであろう。

84 それゆえ、あなたがた、すなわち主の口によって指名される者は皆、とどまって熱心に働きなさい。それは、最後に異邦人の中に出て行き、律法を束ねて証を封じ、来るべき裁きの時に対して聖徒たちを備えさせる、あなたがたの務めにおいて完全になるためである。

85 それによって、彼らが神の激しい怒り、すなわちこの世でも来るべき世でも悪人を待ち受けている忌まわしい荒廃を免れることができるためである。まことに、わたしはあなたがたに言う。最初の長老でない者たちには、彼らの時はまだ来ていないので、主の口が彼らを呼ぶまで、引き続きぶどう園にいるようにさせなさい。彼らの衣は、まだこの時代の人々の血から清められていない。

86 あなたがたは、自由にされたその自由の中にとどまっていなさい。罪に掛かり合うことなく、主が来るまであなたがたの手を清くしていなさい。

87 今から日ならずして、地が揺れ動いて、酔った者のようにあちらこちらとよろめくであろう。また、太陽はその顔を隠して光を与えようとせず、月は血に浸される。また、もろもろの星は激しく怒り、木から落ちるいちじくのように落ちるであろう。

88 また、あなたがたの証の後に、激しい怒りと憤りが人々に及ぶ。

89 あなたがたの証の後に、地の中でうなりを起こす地震の証が来る。そして、人々は立っていることができず、地上に倒れる。

90 また、雷の声と、稲妻の声と、暴風雨の声と、その境を越えて打ち上げる海の波の声の証も来る。

91 また、すべての物事が混乱する。そして、必ず人々は気落ちする。恐れがすべての人に及ぶからで

81 ①GS「証する」 ②教義 63・58、GS「警告」
83 ①アル 37・35
84 ①申命 4・29−31、エレ 29・12−14、教義 54・10 ②ジ−歴史 1・41
85 ①マタ 24・15 ②イザ 8・16−17
86 ①教義 11・15 ②ヨハ 8・36、GS「自由」「選択の自由」
87 ①ヤコ 1・19、2・2、教義 112・33、GS「清さ」 ②モサ 5・8 ③1ニフ 12・10−11、GS「罪」 ④ガラ 5・1 ⑤ヨブ 17・9、詩篇 24・4、アル 5・19
88 ①教義 43・18、教義 45・イザ 13・4−13 ②ヨエ 2・10、教義 45・42、133・49 ③黙示 6・12 ④ヨエ 3・15 ⑤教義 45・33
89 ①黙示 8・5、教義 43・17−25
90 ①教義 45・26
91 ①教義

ある。

92 また、1)天使たちが天のただ中を飛び、大声で叫び、神のラッパを吹き鳴らして言う。「おお、地に住む者よ、備えなさい、備えなさい。わたしたちの神の裁きが来たからである。見よ、見よ、2)花婿は来られる。あなたがたは花婿を迎えに出なさい。」

93 そして直ちに、1)一つの大いなるしるしが天に現れて、すべての人がともにそれを見る。

94 また、別の一人の天使が、ラッパを吹き鳴らして言う。「あの1)大きな2)教会、すなわち、自分の3)不貞に対する激しい怒りのぶどう酒をすべての国民に飲ませ、神の聖徒たちを迫害し、彼らの血を流した忌まわしい行いの1)母。すなわち、多くの水の上に、また海の島々の上に座している者。見よ、彼女は地の5)毒麦である。彼女は束にされる。その縄は強く縛られて、だれもそれを解くことができない。それであるから、彼女は6)焼かれるばかりである。」そして、彼はそのラッパを長くかつ高く吹き鳴らし、すべての国民がそれを聞く。

95 そして、半時間、天に1)静けさがある。その後直ちに、2)巻き物が巻かれた後に開かれるように、天の幕が開かれて、主の3)顔が現される。

96 そして、生きて地上にいる聖徒たちは、身を変えられて、主に会うために1)引き上げられる。

97 また、墓の中で眠っていた者たちは、彼らの墓が開かれるので出て来る。1)そして、彼らもまた、天の柱のただ中で主に会うために引き上げられる。

98 彼らはキリストのもの、1)初穂、キリストとともに最初に降る者、地上や墓の中にいてキリストに会うために最初に引き上げられる者である。これはすべて、神の天使が吹き鳴らすラッパの音による。

99 またこの後、別の天使が吹き鳴らすのは、第二のラッパである。それから、キリストの来臨の時にキリストのものとなる者たちの贖いが来る。これらの者は、福音を受け入れて肉において人間として裁きを受けるため、彼らのために備えられている2)獄において彼らの分を受けた者である。

100 さらにまた、別のラッパが鳴り響くのは、第三のラッパである。それから、裁きを受けて1)罪があることを認められる人々の2)霊が来る。

101 これらの者は1)死者の残りである。2)千年が終わるまで再び、すなわち世の終わりまで再び、彼らは生き

---

92 ① 黙示 8・13、教義 133・17
② マタ 25・1—13、教義 33・17、133・10、19
93 ① マタ 24・30、ルカ 21・25—27、GS「時のしるし」
94 ① 1ニフ 13・4—9
② GS「悪魔—悪魔の教会」
③ 黙示 14・8
④ 黙示 17・5
⑤ マタ 13・38
⑥ 教義 64・23—24、101・23—25、GS「地球（地）」
95 ① 教義 38・12
② 黙示 6・14
③ GS「イエス・キリストの再臨」
96 ① 1テサ 4・16—17
97 ① 教義 29・13、45・45—46、133・56、GS「復活」
98 ① 1コリ 15・23
99 ① 1ペテ 4・6
② 教義 76・73、138・8、GS「死者の救い」
100 ① GS「罪の宣告」
② 黙示 20・12—13、アル 11・41、教義 43・18、76・85
101 ① 黙示 20・5
② GS「福千年」

ることはない。

102 また、別のラッパが鳴り響くのは、第四のラッパで、このように言う。「あの大いなる終わりの日まで、すなわち最後まで残る者たちの中に、なお汚れたままの者が見いだされる。」

103 また、別のラッパが鳴り響くのは、第五のラッパであり、天のただ中を飛びながらすべての国民、部族、国語の民、民族に永遠の福音を託す第五の天使である。

104 これは、天と地と地の下にいるすべての人に告げるラッパの音である。そのラッパの音が聞こえて、「神を畏れ、とこしえにいつまでも御座に着いておられる神に栄光を帰しなさい。神の裁きの時が来たからである」と言うときに、すべての耳がそれを聞き、すべてのひざがかがみ、すべての舌が告白するからである。

105 さらにまた、別の天使がラッパを吹き鳴らすのは、第六のラッパで、このように言う。「自分の不貞に対する激しい怒りのぶどう酒をすべての国民に飲ませた者は倒れた。彼女は倒れた、倒れた。」

106 さらにまた、別の天使がラッパを吹き鳴らすのは、第七のラッパで、このように言う。「終わった、終わった。神の小羊は勝利を得て、御独りで酒ぶねを、すなわち全能の神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれた。」

107 その後、天使たちは小羊の力の栄光を冠として与えられる。また、聖徒たちは小羊の栄光をもって満たされ、彼らの受け継ぎを得、小羊と等しい者とされる。

108 それから、最初の天使が再び、すべての生ける者の耳にラッパを吹き鳴らし、最初の千年における人々の隠れた行いと神の力ある業を明らかにする。

109 それから、第二の天使がラッパを吹き鳴らし、第二の千年における人々の隠れた行いと、彼らの心の思いと志と、神の力ある業を明らかにする。

110 このようにして、第七の天使がラッパを吹き鳴らすに至る。そして彼は、地の上と海の上に立ち、御座に着いている者の名によって、もう時がないと誓う。また、あの年を経た蛇、悪魔と呼ばれているサタンは縛られ、千年の間解放されない。

111 その後、彼はしばしの間解放されて、自分の軍勢を集める。

---

102 ①GS「汚れ」
103 ①黙示 14・6−7、GS「福音の回復」
104 ①GS「畏れ・恐れ−神への畏れ」「敬虔」 ②黙示 5・13、イザ 45・23、ピリ 2・9−11
105 ①黙示 14・8、教義 1・16
106 ①GS「神の小羊」 ②1コリ 15・25、イザ 63・3−4、黙示 19・15、教義 76・107、133・50
107 ①②GS「聖徒」 ③GS「日の栄え」 ④教義 76・95
108 ①④教義 77・6−7 ②アル 37・25、教義 1・3
109 ①②教義 84・100
110 ①③黙示 20・1−3、1ニフ 22・26、教義 101・28、GS「悪魔」
111 ①③GS「福千年」 教義 29・22、43・30−31

112 また、第七の天使、すなわち天使長[1]ミカエルは、彼の軍勢、すなわち天の衆群を集める。

113 また、悪魔は自分の軍勢、すなわち地獄の衆群を集め、ミカエルおよびその軍勢と戦うために上って来る。

114 それから、大いなる神の戦いがある。そして、悪魔とその軍勢は、もはや決して聖徒たちを支配する力を持つことのないように、彼らのおるべき場所に投げ込まれる。

115 なぜならば、ミカエルが彼らの戦いを戦い、そして御座に着いている者の御座、すなわち小羊の御座を求める者に打ち勝つからである。[1]もと

116 これは神の栄光であり、[1]聖められた者の栄光である。そして、彼らはもはや[2]死を見ることがないであろう。

117 それゆえ、まことに、わたしは[1]友であるあなたがたに言う。わたしがあなたがたに命じたように、あなたがたの聖会を召集しなさい。

118 また、すべてが信仰を持っているわけではないので、あなたがたは知恵の言葉を熱心に求め、互いに[2]教え合いなさい。まことに、最良の[3]書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。

119 あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの[1]家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。

120 それは、あなたがたの入って来ることが主の名によって行われ、あなたがたの出て行くことが主の名によって行われ、あなたがたのあいさつが、いつもいと高き方に向かって両手を挙げて主の名によって行われるためである。

121 それゆえ、あなたがたのすべての軽々しい話、すべての[1]高笑い、すべてのみだらな欲望、すべての[2]高慢と軽薄、すべての邪悪な行いをやめなさい。[3]

122 あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように、またすべての人が等しい特権を持てるようにするためである。[4]

---

112 ① GS「ミカエル」
115 ① 黙示16・14、イザ14・12−17、モセ4・1−4
116 ① GS「聖め」「昇栄」
② 黙示21・4、アル11・45、12・18、教義63・49、GS「不死不滅」
117 ① GS「知恵」
118 ① 教義109・6
② 教義88・76−80、GS「教える・教師」
③ 教義55・4、109・7、14
119 ① 教義95・3、97・10、I・17、109・2−9、115・8、GS「神殿・主の宮」
121 ① 教義59・15、88・69
② ③ GS「高慢」
④ 教義43・34、100・7

123 あなたがたは互いに愛し合うようにしなさい。むさぼるのをやめなさい。福音が求めているように、互いに分かち合うようになりなさい。

124 怠惰であるのをやめなさい。不純であるのをやめなさい。互いに非難し合うのをやめなさい。必要以上に長く眠るのをやめなさい。疲れることのないように、早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように、早起きをしなさい。

125 何よりも、完全と平和のきずなである慈愛のきずなを、外套のように身にまといなさい。

126 わたしが来るまで、気を落とさないように常に祈りなさい。見よ、見よ、わたしはすぐに来て、あなたがたをわたしのもとに迎え入れるであろう。アーメン。

127 さらにまた、彼らに、すなわち教会のすべての役員に、言い換えれば、大祭司から始まって執事に至るまで教会で務めに召される者たちに、必要なすべてのことを教えるために設けられた、預言者の塾長会のために備えられた家の規律。

128 塾長会の家の規律は、次のとおりである。塾長または教師になるように任命される者は、彼のために備えられるその家で、彼のいるべき場所に立っていなければならない。

129 それゆえ、彼は神の家に最初に来て、大声で話さなくてもその家の中の会衆が注意深くはっきりと彼の言葉を聞ける場所にいるようにしなければならない。

130 また、彼はその家に最初にいなければならないので――見よ、これは麗しく、彼は模範となる――彼は神の家に入るとき、

131 永遠の聖約のしるし、すなわち記念として、神の前にひざまずいて祈りをささげなさい。

132 そして、彼の後にだれかが入って来るとき、教師は立ち上がって両手を天に向けて、まことにまっすぐに伸ばし、次のような言葉でその兄弟、または兄弟たちにあいさつしなさい。

133 「あなたは兄弟、または兄弟たちですか。わたしは永遠の聖約のしるし、すなわち記念として、主イエス・キリストの御名によってあなたにあいさつします。この聖約に従って、わたしは、神の恵みにより、愛のきずなをもって、あなたの友になり兄弟になるという、また感謝をもって、罪がなく、神のす

123 ① GS「貪欲・むさぼり」 ② GS「愛」
124 ① GS「怠惰」 ② 教義64・7−10、GS「悪口」
125 ① GS「平安・平和」 ② GS「慈愛」
126 ① GS「祈り」 ② 教義1・12
127 ① GS「職」 ② GS「預言者の塾」
131 ① GS「礼拝」 ② GS「預言者の塾」
133 ① GS「兄弟」 ② GS「姉妹」

べての戒めに従ってとこしえにいつまでも歩むという、確固とした揺るぎない不変の決意をもってあなたを仲間[2]に迎え入れます。アーメン。」

134 また、このあいさつを受けるにふさわしくないとされる者が、あなたがたの中に場所を得るようなことがあってはならない。わたしの家がそのような者によって汚[1]されるのを、許してはならないからである。

135 また、入って来る者で、わたしの前に忠実であり、兄弟である者は、あるいは彼らが兄弟たちであれば彼らは、両手を天に向けて伸ばし、この同じ祈りと聖約をもって、またはその同じ[1]しるしとして「アーメン」と言うことにより、塾長または教師にあいさつしなければならない。

136 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。これが、神の家における預言者の塾で互いに交わすあいさつのための、あなたがたにとっての一つの範例である。

137 あなたがたは、祈りと感謝をもって、また御霊が告げるままに、以上のことを行うように召されている。御霊は、主の家における預言者の塾であなたがたが行うすべてのことを告げるであろう。このように行うのは、主の家が聖所、あなたがたを教化する[1]聖なる御霊の幕屋となるためである。

138 また、あなたがたは、この時代の人々の血から清められている者のほか、あなたがたの中のだれもこの塾に受け入れてはならない。

139 そして、[1]洗足の儀式によって受け入れなければならない。この目的で洗足の儀式は制定されたからである。

140 さらにまた、洗足の儀式は、教会の大管長、すなわち管理長老が執行しなければならない。

141 それは祈りで始めなければならない。そして、パン[1]とぶどう酒を受けた後、大管長は、わたしに関してヨハネの証の第十三章に与えられている[2]規範に倣って仕度しなければならない。アーメン。

第89章

千八百三十三年二月二十七日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百二十七−三百二十九ページ）。初期の兄弟たちが集会中にたばこを

---

133 ② GS「フェローシップ」
134 ① 教義97・15−17、110・7−8
137 ① 教義50・21−24
138 ① 教義88・74−75、84
139 ① 1−85
GS「洗い」
141 ① GS「聖餐」
② ヨハ13・4−17

常用していたことから、預言者はこの件について深く考えるように導かれた。その結果、彼はこれについて主に尋ねた。「知恵の言葉」として知られるこの啓示はその答えであった。最初の三節は、霊感による序論および説明として、預言者が初版の中に書き入れたものである。

1—9 ぶどう酒や強い飲み物、たばこ、および熱い飲み物の利用が禁止される。10—17 草や果実、肉、および穀物は、人間と動物が用いるように定められている。18—21「知恵の言葉」を含めて福音の律法に従うことは、物質的また霊的な祝福をもたらす。

1 カートランドに会した大祭司の集まりと、教会員と、シオンの聖徒たちのための 1)「知恵の言葉」。

2 あいさつとして送られるもの。戒めや強制としてではなく、啓示と知恵の言葉としてのもので、終わりの時におけるすべての聖徒たちの現世の救いに関する神の方式と御心を示すもの。

3 1)約束を伴う原則として与えられるもので、現在聖徒である、あるいは聖徒と呼ばれ得るすべての 2)聖徒の中の弱い者および最も弱い者の能力に適するもの。

4 見よ、まことに、主はあなたがたにこのように言う。終わりの時に 1)陰謀を企てる人々の心の中に今あり、また将来もある 2)悪ともくろみのゆえに、わたしはあなたがたに 3)警告を与えており、また、啓示によりこの知恵の言葉を与えることによって、あなたがたにあらかじめ警告するものである。

5 すなわち、あなたがたの中のだれかが 1)ぶどう酒や強い飲み物を飲むならば、見よ、それはあなたがたの父の目に良いとされず、父の目にかなわない。これを飲んでよいのは、あなたがたが集まって、父の前にあなたがたの聖式をささげるときだけである。

6 また見よ、これはぶどう酒、すなわち、ぶどうで造った 1)自家製の純粋なぶどう酒でなければならない。

7 さらにまた、1)強い飲み物は腹のためにならず、あなたがたの体を洗うためのものである。

8 さらにまた、たばこは 1)体のためにも、腹のためにもならず、人間のために良くないが、打ち身とあらゆる病気の家畜に効く薬草であり、判断力と熟練

第89章

1 1) GS「知恵の言葉」
2 1) 教義29・34、GS「戒め（神の）」
3 1) 教義89・18—21
4 1) GS「聖徒」 2) GS「秘密結社」
4 2) GS「欺き」 3) GS「警告」
5 1) レビ10・9—11、イザ5・11—12、1コリ6・10
6 1) 教義27・1—4
7 1) 箴言20・1、23・29
8 1) 1コリ3・16—17、GS「体」

をもって用いるべきものである。
9 さらにまた、熱い飲み物は体や腹のためにならない。
10 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。神は健康に良いすべての草を[1]、人間の体質、体力、利用のために定めた。
11 すなわち、それぞれの季節のあらゆる草と、それぞれの季節のあらゆる果実、これらはすべて、思慮分別と感謝をもって[1]用いるべきものである。
12 まことに、[1]獣の肉と[2]空の鳥の肉もまた、主なるわたしは、人間が感謝をもって用いるために定めた。しかしながら、これらは[3]控えめに用いなければならない。
13 冬季や寒いときや飢饉のときのほか、これらを用いないことがわたしの心にかなう。
14 すべての[1]穀物は人間と獣が用いるように、すなわち、人間のためだけでなく、野の獣と、空の鳥と、地上を走るあるいは這うすべての野生の動物のためにも、命の糧となるように定められている。
15 また、飢饉のときと飢えの甚だしいときにのみ人間が用いるように、神はこれらの生き物を造った。
16 すべての穀物は人間の食物として良い。つるの実、地中であろうと地上であろうと、実を結ぶものの実もそうである。
17 しかしながら、人間には小麦、牛にはとうもろこし、馬にはえん麦、鳥と豚とすべての野の獣にはライ麦、すべての有益な動物には大麦、また温和な飲み物のためにはほかの穀物と同様に大麦がよい。
18 これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに[1]健康を受け、その骨に髄を受けるであろう。
19 また、[1]知恵と、[2]知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。
20 また、[1]走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。
21 また、主なるわたしは彼らに一つの[1]約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを[2]過ぎ越して、彼らを殺すことはない。アーメン。

第90章

千八百三十三年三月八日、オハイオ州カートランド

---

10 ①植物。創世1・29、教義59・17—20
11 ①GS「感謝」
12 ①1テモ4・3—4、教義49・18—21
②創世9・3、レビ11・1—8
14 ①教義59・20
18 ①ダニ1・6—20
19 ①箴言3・8
②GS「知恵」
20 ①GS「証」「知識」
21 ①イザ40・31
②教義84・80、出エ12・23、29

において与えられた、預言者ジョセフ・スミスへの啓示（『教会歴史』第一巻、三百二十九—三百三十一ページ）。この啓示は大管長会を確立するに当たっての継続的な一段階であり（第八十一章の前書きを参照）、この啓示の結果、ここに述べられている顧問たちが、千八百三十三年三月十八日に聖任された。

1—5 王国の鍵は、ジョセフ・スミスに、また彼を通じて教会にゆだねられている。6—7 シドニー・リグドンとフレデリック・G・ウィリアムズは、大管長会で働かなければならない。8—11 福音はイスラエルの諸国民と、異邦人と、またユダヤ人に宣べ伝えられなければならず、すべての人は自分の言葉で福音を聞くであろう。12—18 ジョセフ・スミスと彼の顧問たちは、教会を整えなければならない。19—37 何人もの人々が、まっすぐに歩んで主の王国で奉仕するように、主から勧告される。

1 主はこのように言う。まことに、まことに、わたしの子であるあなたに言う。あなたの祈りとあなたの兄弟たちの祈りがわたしの耳に達したので、あなたの嘆願どおりにあなたの罪は赦されている。[1)]

2 それゆえ、与えられた王国の鍵[1)]を持っているあなたは、今から後、祝福される。この王国[2)]は最後に出て来ようとしている。

3 まことに、わたしはあなたに言う。あなたが世にいる間、また来るべき世においても、この王国の鍵があなたから取り去られることは決してない。

4 さらに、あなたを通じて、神託[1)]は別の者、すなわち教会員に与えられるであろう。

5 また、神託を受け入れるすべての者に、それらが軽々しいものと見なされることのないように、またそれによって彼らが罪の宣告の下に置かれ、嵐が襲い、風が吹きつけ、雨[1)]が降って彼らの家に打ちつけるときにつまずいて倒れることのないように、それらをどのように扱うか気をつけさせなさい。[2)]

6 さらにまた、まことに、わたしはあなたの兄弟たち、シドニー・リグドンとフレデリック・G・ウィリアムズに言う。彼らの罪も赦されている。そして、彼らはこの最後の王国の鍵を持つことに関して、あなたと等しいと見なされる。

7 また、彼らは、あなたの働きによって、わたしが

第90章

1 ①① GS「赦し」
2 ① 教義65・2、GS「神権の鍵」
② GS「神の王国・天の王国」
4 ① 使徒7・38、ロマ3・2、ヘブ5・12、教義124・39、126、GS「預言」
5 ①① マタ7・26—27
② 教義1・14

組織するように命じた預言者の塾の鍵も持つ。

8 それによって、彼らが、シオンの救いのために、また信じようとするすべてのイスラエルの諸国民と異邦人の救いのために、その務めにおいて完全になるためである。

9 また、あなたがたの働きによって彼らが御言葉を受け、彼らの働きによって御言葉が地の果てまで、すなわちまず異邦人のもとに出て行き、それから、見よ、見よ、彼らがユダヤ人に向かうためである。

10 その後、もろもろの国民、すなわち異教の諸国民、およびヨセフの家に、彼らの救いの福音を確信させるため、主の腕が力をもって現される日が来る。

11 その日には、イエス・キリストを啓示するために注がれる慰め主の働きによって、この力を有する職に聖任される者たちを通じて、すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう。

12 さて、まことに、わたしはあなたに言う。わたしはあなたに一つの戒めを与える。あなたは奉仕の務めと大管長の職を続けなさい。

13 そして、あなたは預言者の書の翻訳を終えたならば、その後、教会と塾の諸事を管理し、

14 また、折々慰め主により示されるままに啓示を受けて、王国の奥義を明らかにしなければならない。

15 また、諸教会を整え、研究して学び、すべての良い書物に通じ、またもろもろの言語と国語と民族に通じるようにしなければならない。

16 また、評議会を開いて管理し、この教会と王国のすべての事柄を整えることは、あなたがたの生涯にわたっての務めであり、使命である。

17 恥を受けることや、辱められることがあってはならない。むしろ、すべてあなたがたの慢心と高慢について訓戒を受けるようにしなさい。それらはあなたがたにとってわなとなるからである。

18 あなたがたの家を整えなさい。怠惰と汚れを遠ざけなさい。

19 さて、まことに、わたしはあなたに言う。できるだけ早くあなたの顧問兼筆記者、すなわちフレデリック・G・ウィリアムズの家族のために、場所を備えるようにしなさい。

20 また、わたしの年老いた僕ジョセフ・スミス・シニアを、彼が今住んでいる所に彼の家族とともに引き続き住まわせなさい。主の口が命じるまで、それ

---

7 ①GS「預言者の塾」
9 ①マタ19・30、エテ13・10—12 ②1ニフ13・42、教義133・8
10 ①創世49・22—26、1ニフ15・13—14 ②教義43・23—27、88・87—92
11 ①GS「慰め主・助け主」 ②GS「神権」 ③GS「聖任」「召し・神の召し」
12 ①GS「伝道活動」 ②GS「仕える」 ③GS「預言者の塾」
13 ①教義107・91—92
14 ①GS「啓示」 ②GS「神の奥義」
15 ①教義88・76—80、118 ②93・53、教義107・99—100、130・18—19
17 ①GS「言葉・言語」 ②ロマ1・16、2ニフ6・13 ③教義88・121、GS「高慢」
18 ①教義58・26—29、GS「怠惰」
20 ①教義38・42 ②GS「スミス、ジョセフ、シニア」

を売らせてはならない。

21 また、わたしの顧問、すなわちシドニー・リグドン[1]を、主の口が命じるまで、彼が今住んでいる所にとどまらせなさい。

22 また、ビショップは[1]代理人を熱心に探して得るようにしなさい。代理人は[2]富を蓄えた人、信仰の強い神の人でなければならない。

23 それによって彼がすべての負債を弁済できて、人々の目の前で主の倉が評判を落とすことのないためである。

24 [1]熱心に探し、[2]常に祈り、そして信じていなさい。あなたがたがまっすぐに歩み、互いに交わした[3]聖約を思い起こすならば、[4]万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。

25 あなたがたの家族に属さない者に関してであるが、あなたがたの家族を、特にわたしの年老いた僕ジョセフ・スミス・シニア[1]の家族を少なくしなさい。

26 それは、わたしの業を成し遂げるためにあなたがたに与えられるものが、あなたがたから取り上げられて、ふさわしくない者に与えられることのないためである。

27 そのことによってあなたがたは、わたしから命じられたことを成し遂げるのを妨げられるからである。

28 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いは、わたしのはしためビエナ・ジャックスが、彼女の費用を支払うために金銭を受け取って、シオンの地に上って行き、

29 金銭の残余をわたしに奉献し、わたしがふさわしいとするときに報いを受けることである。

30 まことに、あなたがたに言う。彼女がシオンの地に上って行き、ビショップの手から受け継ぎを得ることは、わたしの目にかなうことである。

31 それは、彼女が忠実であって、その後生涯を通じて怠惰でなければ、平安に暮らすことができるようにするためである。

32 また見よ、まことに、あなたがたに言う。あなたがたはこの戒めを書き送り、愛のこもったあいさつを添えて、わたしがふさわしいと思うときにシオンも[1]管理するようにわたしがあなたがたを召したことを、シオンの兄弟たちに告げなければならない。

33 それゆえ、彼らに、この件についてわたしを煩わ

---

21 ① GS「リグドン、シドニー」
22 ① 教義84・112—113
② ヤコ2・17—19
24 ① GS「熱心」
② GS「祈り」
③ GS「聖約」(契約)
④ エズ8・22、ロマ8・28、教義100・15、122・7—8
25 ① ジョセフ・スミス・シニアが世話をしていた貧しい人々のこと
32 ① 教義107・91—92

すことのないようにさせなさい。
34 見よ、わたしはあなたがたに言う。シオンのあなたがたの兄弟たちは悔い改めを始めており、天使たちは彼らのことを喜んでいる。
35 しかしながら、わたしは多くのことを喜んでいない。わたしは、わたしの僕[1]ウィリアム・E・マクレランと、わたしの僕シドニー・ギルバートを喜んではいない。ビショップについても同じである。また、ほかの人々にも悔い改めるべき多くのことがある。
36 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。主なるわたしは[1]シオンと論じ合い、その強い者たちを説きつけ、シオンが勝利を得てわたしの前に[2]清くなるまでシオンを[3]懲らしめよう。
37 シオンがその場所から移されることはないからである。主なるわたしがこれを語った。アーメン。

第91章

千八百三十三年三月九日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百三十一—三百三十二ページ）。預言者はこのとき、『旧約聖書』の翻訳に携わっていた。聖書外典と呼ばれる古代文書の部分に達したとき、彼は主に尋ね、この指示を受けた。

1—3 聖書外典は大部分正確に翻訳されているが、人の手によって書き入れられた真実でないものも多く含まれている。4—6 聖書外典は御霊に照らされる者に益を与える。

1 まことに、[1]聖書外典に関して、主はあなたにこのように言う。その中には真実なことが多く載せられており、それは大部分正確に翻訳されている。
2 しかし、その中には真実でないことも多く載せられている。それは人の手によって書き入れられたものである。
3 まことに、わたしはあなたに言う。聖書外典を翻訳することは必要ではない。
4 それゆえ、それを読む者は、御霊が真理を明らかにするので[1]理解しなさい。
5 [1]御霊に照らされる者は、それから益を得るであろう。
6 また、御霊によって受けない者は、益を得られな

35 ① 教義66・1、75・6—9
36 ① GS「シオン」
② GS「清さ」
③ GS「懲らしめ」
第91章
1 ① GS「聖書外典」
4 ① GS「理解」
5 ① GS「聖霊」「霊感」

い。それゆえ、それを翻訳することは必要ではない。アーメン。

第92章

千八百三十三年三月十五日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百三十三ページ）。この啓示は、大管長会における顧問に最近任命されたフレデリック・G・ウィリアムズにあてたものである。

1—2 共同制度への加入に関する戒めが与えられる。

1まことに、主はこのように言う。わたしは、以前に与えた戒めに従って組織された共同制度[1]に、わたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズに関する啓示と戒めを与える。あなたがたは、彼をこの制度に受け入れなければならない。わたしは一人に言うことをすべての者に言う。

2さらにまた、わたしはあなた、すなわちわたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズに言う。あなたはこの制度における活発な一員でなければならない。そして、これまでに与えられたすべての戒めを忠実に守るならば、あなたはとこしえに祝福されるであろう。アーメン。

第93章

千八百三十三年五月六日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百四十三—三百四十六ページ）。

1—5 忠実な者は皆、主にまみえる。6—18 神の御子は御父の完全な栄光を受けるまで恵みに恵みを受けられたことを、ヨハネは証した。19—20 忠実な人々も恵みに恵みを受けることによって、御父の完全な栄光を受ける。21—22 キリストによって生まれる者は長子の教会である。23—28 キリストはすべての真理を受けられた。人も従順であることによって、同じようにそれができる。29—32 人は初めに神とともにいた。33—35 元素は永遠であり、人は復活の時に満ちみちる喜びを受けることができる。36—37 神の栄光は英知である。

第92章
1① 教義82・11、15—21、GS「共同制度」

38—40 キリストの贖いがあるので、子供たちは神の前に罪がない。41—53 指導的立場にある兄弟たちが、自分の家族を整えるように命じられる。

1 まことに、主はこのように言う。自分の罪を捨て、わたしのもとに来て、わたしの名を呼び、わたしの声に従い、わたしの戒めを守る者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう。

2 また、わたしが世に来るすべての人を照らすまことの光であること、

3 また、わたしが父におり、父がわたしにおられ、父とわたしが一つであることを知るであろう。

4 父と一つであるというのは、父がわたしに御自分の完全を与えてくださったからである。また、子であるのは、わたしが世にいて、肉体をわたしの幕屋とし、人の子らの中に住んだからである。

5 わたしは世にいて、父から受けた。そして、父の業は分かりやすく示された。

6 また、ヨハネはわたしの完全な栄光を見て、証した。ヨハネのすべての記録は、この後明らかにされる。

7 彼は証して言った。「わたしは彼の栄光を目にし、また世界が存在する前に初めに彼がおられたのを見た。

8 それゆえ、初めに言葉があった。彼は言葉、すなわち救いの使者であり、

9 世の光であり、世の贖い主であり、世に来られた真理の御霊であった。彼が世に来られたのは、世が彼によって造られたからである。また、彼の中に人の命と人の光があった。

10 もろもろの世界は彼によって造られた。人は彼によって造られた。万物は彼によって、彼を通じて、彼から造られた。

11 わたしヨハネは証する。わたしは御父の、恵みと真理に満ちておられる独り子の栄光としての、すなわち世に来て肉体に宿り、わたしたちの中に住まわれた真理の御霊の栄光としての彼の栄光を見た。

12 また、わたしヨハネは、彼が最初から完全は受けず、恵みに恵みを加えられたのを見た。

13 彼は最初から完全は受けず、恵みに恵みを受け続け、ついに完全を受けられた。

14 このようにして、彼は神の子と呼ばれた。彼は最

第93章

1 ① GS「悔い改め」「ふさわしさ」
② ヨエ 2・32
③ GS「従順・従う」
④ JS 1ヨハ 4・12
⑤ 出エ 33・11、教義 38・7—8、67・10—12、88・68、101・23、130・3、GS「慰め主・助け主」
2 ① ヨハ 1・4—9、教義 14・9、84・45—47、88・6—7、GS「光・キリストの光」
3 ① ヨハ 10・25—38、17・20—23、教義 50・43—45
4 ① モサ 15・1—7
② GS「イエス・キリスト・権威」
③ ルカ 1・26—35、2・4—14、3 ニフ 1・12—14、エテ 3・14—16
5 ① ヨハ 5・36、10・25、14・10—12
6 ① ヨハ 1・34
② GS「イエス・キリスト・栄光」
③ ヨハ 20・30—31
7 ① ヨハ 1・1—3、14、17・5、教義 76・39
8 ① GS「イエス・キリスト」「エホバ」
9 ① GS「光・キリストの光」
② GS「贖い主」
10 ① ヘブ 1・1—3、教義 76・24、モセ 1・31—33
12 ① ピリ 2・6—11
② ヨハ 1・16—17
13 ① ルカ 2・52
14 ① ルカ 1・31—35、教義 6・21、GS「神・神会」「子なる神」

初から完全は受けられなかったからである。

15 わたしヨハネ[1]は証する。見よ、天が開かれ、聖霊[2]が鳩[3]の形を取って彼の上に降って、彼の上にとどまられた。また、天から声があって言われた。『これはわたしの愛する子[1]である。』

16 わたしヨハネは証する。彼は御父の完全な栄光を受けられた。

17 彼は天においても地においても、一切[1]の権威[2]を受けられた。そして、御父[3]の栄光は彼とともにあった。御父が彼のうちにおられたからである。」

18 さて、もしあなたがたが忠実であれば、あなたがたはヨハネの記録のすべてを受けるであろう。

19 わたしはこれらの言葉をあなたがたに与える。それは、あなたがたが礼拝[1]する方法を理解して知り、また自分が礼拝するものを知ることによって、あなたがたがわたしの名により父のもとに来て、定められたときに父の完全を受けられるようにするためである。

20 あなたがたは、わたしの戒め[1]を守るならば、父の完全[2]を受け、わたしが父によって受けているように、あなたがたはわたしによって栄光[3]を受けるからである。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは恵み[1]に恵みを加えられるであろう、と。

21 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは初め[1]に父とともにいた。わたしは長子[2]である。

22 また、わたしによって生まれる者は皆、長子の栄光[1]にあずかる者であり、長子の教会[2]である。

23 あなたがたも初め[1]に父とともにおり、御霊すなわち真理の御霊であった。

24 真理[1]とは、現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識[2]である。

25 これ以上[1]のこと、あるいはこれ以下のことは何であろうと、初めから偽り[2]者であったあの悪い者の霊である。

26 真理[1]の御霊は神から出ている。わたしは真理の御霊であり、ヨハネはわたしについて証して、「主は完全な真理、すなわちすべての真理を受けられた」と言った。

27 人はだれも神の戒めを守らないかぎり、完全[1]な真理を受けることはない。

---

15 ①GS「聖霊」 ②GS「鳩のしるし」 ③マタ 3:16—17
16 ①GS「神・神会—父なる神」 ②GS「イエス・キリスト—権威」「力」 ③ヨハ 4:21—26、17:3、使徒 17:22—25、GS「礼拝」
19 ①教義 50:28、ヨハ 1:16、教義 84:36—39
20 ①ヨハ 1:1—2、1ペテ 1:19—20、モセ 4:2 ②GS「長子・初子」 ③1ペテ 5:1、教義 133:57
21 ①ヨハ 1:1—2、1ペテ 1:19—20、モセ 4:2 ②GS「長子・初子」 ③GS「人—天の御父のようになる可能性を持った人間」 ④GS「恵み」
22 ①GS「日の栄え」 ②1ペテ 5:1、教義 23:1 GS「人—天の御父の霊の子供としての人間」
24 ①GS「真理」 ②GS「知識」
25 ①教義 20:35 ②ヨハ 8:44、2ニフ 2:18、モセ 4:4
26 ①ヨハ 14:6
27 ①GS「完全」

28 神の戒めを守る者は真理と光を受け、ついに真理によって栄光を受けて、すべてのことを知るようになる。

29 人もまた初めに神とともにいた。英知すなわち真理の光は、創造されることも、作られることもなく、実にそうすることのできないものである。

30 すべての真理は、神がそれを置かれた領域において独立し、それ自体で作用する。すべての英知も同様である。そうでなければ、存在というものはない。

31 見よ、ここに人の選択の自由があり、またここに人の罪の宣告がある。なぜならば、初めからあったものが分かりやすく示されているのに、彼らがその光を受け入れないからである。

32 その霊が光を受け入れない者は皆、罪の宣告の下にある。

33 人は霊である。元素は永遠であり、分離しないように結合した霊と元素は、満ちみちる喜びを受ける。

34 これらが分離するとき、人は満ちみちる喜びを受けることはできない。

35 その元素は神の幕屋である。まことに、人は神の幕屋すなわち神殿である。そして、いかなる神殿でも汚されると、神はその神殿を滅ぼすであろう。

36 神の栄光は英知である。言い換えれば、光と真理である。

37 光と真理はあの悪しき者を捨てる。

38 人の霊は皆、初めに罪がなかった。そして、神が人を堕落から贖ったので、人々は、幼児の状態で、再び神の前に罪のない者となった。

39 そして、あの邪悪な者が来て、人の子らから、不従順によって、また先祖の言い伝えによって、光と真理を取り去る。

40 しかし、わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。

41 しかし、まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズに言う。あなたは引き続きこの罪の宣告の下にある。

42 あなたは、戒めに従ってあなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。そのために、あの邪悪な者は今なおあなたを支配する力を持っている。あなたが苦難を受けてきた原因はこれである。

43 さて、わたしは戒めをあなたに与える。すなわち、あなたは救い出されたいと望むならば、自分自身の

---

28 ①GS「従順、従う」 ②教義50・24、84・45、GS「光・キリストの光」 ③ヨハ17・3、教義88・49、67
29 ①アブ3・18、GS「前世」「人」 ②GS「英知」 ②2ニフ2・13−27
30 ①②GS「選択の自由」 ②申命30・11−14、教義84・23−24
31 ①GS「真理」「光・キリストの光」 ①教義77・2、アブ5・7−8、GS「人−天の御父の霊の子供としての人間」 ②教義131・7−8、138・17、GS「復活」 ②2ニフ9・8−10
32 ①②GS「喜び」 ②教義130・22
33 ①1コリ3・16−17、GS「イエス・キリスト−栄光」「栄光」 ②教義130・18−19、アブ3・19、GS「英知」 ③教義88・6−13
34 ①モセ1・12−16、GS「悪魔」 ②GS「罪がない」 ②GS「堕落（アダムとエバの）」 ③モサ27・24−26、モセ5・9、箇条1・3、GS「贖い・贖う」 ④モロ8・8、12、22、教義29・46−47、GS「救い−幼い子供たちの救い」
35 ①エゼ20・18−19、アル3・8、GS「言い伝え」

家を整えなければならない。あなたの家には、正しくないことがたくさんあるからである。

44 まことに、わたしの僕シドニー・リグドンに言う。子供たちに関する幾つかの事柄について戒めを守っていないことがある。それゆえ、まずあなたの家を整えなさい。

45 まことに、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアに言う。言い換えれば、あなたがたをわたしの友であり、わたしとともに受け継ぎを得るからである。

46 わたしは世のためにあなたがたを僕と呼んだ。そして、あなたがたはわたしのために彼らの僕となる。

47 さて、まことに、わたしはジョセフ・スミス・ジュニアに言う。あなたは戒めを守らなかったので、主の前に必ず責めを受けなければならない。

48 あなたの家族は必ず悔い改めて、ある事柄を捨て、あなたの言うことにもっと真剣に注意を払わなければならない。そうしなければ、彼らの場所から退けられることになる。

49 わたしは一人に言うことをすべての者に言う。あの邪悪な者があなたがたの中で力を持ち、あなたがたの場所からあなたがたを退けることのないように、常に祈りなさい。

50 わたしの教会のビショップである、わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーも、懲らしめを受ける必要があり、また家族を整える必要がある。また、家族の者に、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わり、常に祈るようにさせる必要がある。そうしなければ、彼らはその場所から退けられるであろう。

51 さて、わたしは友であるあなたがたに言う。わたしの僕シドニー・リグドンは旅に出なさい。急ぎなさい。そして、わたしが彼に語る力を与えるままに、主の恵みの年と救いの福音を告げ知らせなさい。心を一つにしたあなたがたの信仰の祈りによって、わたしは彼を支えよう。

52 また、わたしの僕たち、ジョセフ・スミス・ジュニアとフレデリック・G・ウィリアムズも急ぎなさい。そうすれば、まことに信仰の祈りに応じて与えられるであろう。あなたがたはわたしの言うことを守るならば、この世でも来るべき世でも、辱められることはない。

---

39 ② マタ 13・18−19、2 コリ 4・3−4、アル 12・9−11
40 ① GS「家族−親の責任」
42 ① サム上 3・11−13、教義 68・25−31
43 ① 1 テモ 3・4−5
45 ① 教義 84・63、88・62
46 ① レビ 25・55、1 ニフ 21・3−8、GS「奉仕」
47 ① 教義 95・1−2、GS「懲らしめ」
48 ① GS「家族−子供の責任」
49 ① 3 ニフ 18・15−21
50 ① 教義 64・40
51 ① ルカ 4・19

53 また、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いは、あなたがたがわたしの聖文を急いで翻訳して、歴史の知識と、国々の知識と、もろもろの王国の知識と、神と人の法の知識を早く得ることである。これはすべてシオンの救いのためである。アーメン。

第94章

千八百三十三年五月六日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百四十六—三百四十七ページ）。ハイラム・スミス、レイノルズ・カフーン、およびジェレド・カーターが、教会建築委員会として任命される。

1–9 大管長会の務めのために家を建てることについての戒めが与えられる。10–12 印刷所を建てなければならない。13–17 幾つかの受け継ぎが割り当てられる。

1 さらにまた、まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。わたしは一つの戒めをあなたがたに与える。あなたがたはこのカートランドの地で、わたしの家から始めて、シオンのステークの町の始まりと基を据えて準備する仕事を開始しなければならない。

2 見よ、それは、わたしがあなたがたに与えた型に従って行わなければならない。

3 南側の第一の敷地をわたしに奉献して、大管長会のために、また啓示を受けるという大管長会の務めのために、また教会と王国に関するすべてのことにおける大管長会の奉仕の業のために、一つの家を建てるようにしなさい。

4 まことに、わたしはあなたがたに言う。それは、内部の部屋が幅五十五フィート、奥行六十五フィートとなるように建てなければならない。

5 また、この後あなたがたに与えられる型に従って、下の部屋と上の部屋を設けなければならない。

6 また、この後あなたがたに与えられる型に従い、神権の方式にのっとって、それをその土台から主に奉献しなければならない。

7 大管長会の務めのために、それをことごとく主

53 ①GS「ジョセフ・スミス訳（JS）」
③②GS「知識」教義88・76—80、118

第94章
1 ①教義93・45
2 ①②GS「ステーク」教義52・14—15
3 ①教義107・9、22

に奉献しなければならない。

8 また、あなたがたは、何であろうと清くないものがそこに入るのを許してはならない。そうすれば、わたしの栄光[2]はそこにあり、わたしはそこにいる。

9 しかし、もしも何であろうと清くない[1]ものがそこに入るならば、わたしの栄光はそこになく、わたしはそこに来ることはない。

10 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。南側の第二の敷地もわたしに奉献して、わたしの聖文の翻訳[1]の印刷[2]、ならびにわたしがあなたがたに命じるすべてのものの印刷の仕事のために、わたしに対して一つの家を建てなさい。

11 それは、内部の部屋が幅五十五フィート、奥行六十五フィートで、下の部屋と上の部屋を設けなければならない。

12 この家は、わたしがあなたがたに命じるすべてのものを印刷するために、また清くかつ汚されないために、すべてのことにおいてあなたがたに与えられるままの型に従って、その土台からことごとく主に奉献しなければならない。

13 また、第三の敷地は、わたしの僕ハイラム・スミスが受け継ぎとして得るものである。

14 また、北側の第一と第二の敷地は、わたしの僕たち、レイノルズ・カフーンとジェレド・カーターが受け継ぎとして得るものである。

15 それは、主なる神であるわたしがあなたがたに与えた命令どおりに、彼らがわたしの家を建てる委員会としての、わたしから定められた仕事を行うためである。

16 これら二つの家は、それに関してわたしがあなたがたに命じるまで建ててはならない。

17 さて、わたしは今はあなたがたにこれ以上のことを示さない。アーメン。

第95章

千八百三十三年六月一日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百五十—三百五十二ページ）。この啓示は、礼拝と教えのために家を、特に主の宮を建てるようにとの神の指示の続きである（第八十八章百十九—百三十六節、および第九十四章を参照）。

8 ① ルカ19・45—46、教義109・16—20 ② 列上8・10—11、GS「栄光」
9 ① 教義97・15—17
10 ① GS訳（ジョセフ・スミス訳（JS）） ② 教義104・58—59

1—6 聖徒たちは、主の宮を建てるのを怠ったために懲らしめを受ける。7—10 主は、その民に高い所から力を授けるためにその宮を使うことを望んでおられる。11—17 礼拝の場所として、また使徒の塾のために、その宮を奉献しなければならない。

1 まことに、主は、愛するあなたがたにこのように言う。そして、わたしはまた、愛する者たちを懲らしめる。それは、彼らの罪が赦されるためである。わたしは懲らしめるとともに、すべてのことにおいて彼らが誘惑から救い出される道を備えるからである。わたしはあなたがたを愛してきた。

2 それゆえ、あなたがたは必ず懲らしめを受け、わたしの前に必ず責めを受けなければならない。

3 あなたがたはわたしに対して非常に重い罪を犯したからである。すなわち、あなたがたは、わたしの家を建てることに関してわたしがあなたがたに与えた大いなる戒めを、あらゆる点で考慮しなかった。

4 その家を建てるのは、使徒たちにわたしのぶどう園で最後に刈り込みをする備えをさせようと考えている準備のためである。それによって、わたしが比類のない業を行い、またわたしの御霊をすべての肉なるものに注ぐためである。

5 しかし見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中には聖任され、召された者は多いが、選ばれた者は少ない。

6 選ばれなかった者たちは非常に重い罪を犯した。すなわち、彼らは真昼に暗闇の中を歩いている。

7 このために、わたしはあなたがたに、聖会を召集しなければならないという戒めを与えたのである。聖会を召集するのは、あなたがたの断食とあなたがたの嘆きがサバオスの主、訳せば、最初の日の創造主、初めであり終わりである者の耳に達するようにするためである。

8 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは、一つの家を建てるようにという戒めをあなたがたに与えた。わたしはこの家の中で、わたしが選んだ者たちに高い所から力を授けようと考えている。

9 これがあなたがたへの父の約束である。それゆえ、わたしはあなたがたに、エルサレムのわたしの使徒たちのようにとどまることを命じる。

10 それにもかかわらず、わたしの僕たちは非常に重

第95章

1 ①1) 申命11・1—8、箴言13・18、ヘブ12・5—11、ヒラ15・3、教義101・4—5、105・6、GS「懲らしめ」
②GS「赦し」
③GS「誘惑」
2 ①1) 1コリ10・13
3 ①ハガ1・7—11、教義88・119、GS「神殿・主の宮」
4 ①1) ヤコ5・61—75、教義24・19、33・3—4、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
②イザ28・21、教義101・95
③箴言1・23、ヨエ2・28、教義19・38、GS「聖霊」「御霊の賜物」
5 ①1) マタ20・16、教義35—37、105・121・34—40、GS「選び」
6 ①GS「暗闇（霊的な）」教義88・70、74—82、117—120
7 ①1) 2) 3) 4) そうぞうぬし
②GS「断食」
③GS「エホバ」
④GS「創造・創造する」
8 ①教義38・32、39・15、43・16、110・9—10、GS「エンダウメント」
9 ①ルカ24・49

い罪を犯した。預言者の塾[1]で論争[2]が起こったが、これはわたしにとって非常に悲しいことであった、とあなたがたの主は言う。それゆえ、わたしは懲らしめを与えるために彼らを追い出した。

11 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いは、あなたがたが家を建てることである。あなたがたは、わたしの戒めを守るならば、それを建てる力を持つであろう。

12 もしあなたがたがわたしの戒めを守らなければ[1]、父の愛[2]が引き続きあなたがたに伴うことはなく、それゆえあなたがたは暗闇の中を歩くことになる。

13 さて、ここに知恵があり、主の思いがある。わたしはあなたがたが世の方法で生活するのを望まないので、世の方法によらずにその家を建てなさい。

14 わたしがあなたがたの中の三人に示す方法に従って、それを建てなさい。そのために、あなたがたは彼らをこの力を持つように選び、聖任しなければならない。

15 その家の大きさは、内部の部屋が幅五十五フィート、奥行六十五フィートでなければならない。

16 そして、内部の一階は、あなたがたの聖式をささげるために、またあなたがたの説教と、断食と、祈りのために、またあなたがたの最も聖なる望みをわたしにささげる[1]ために、わたしに奉献しなさい、とあなたがたの主は言う。

17 また、内部の二階はわたしの使徒たちの塾のためにわたしに奉献しなさい、と子なるアーマン[1]、言い換えれば、アルパス、言い換えれば、オメガス、すなわちあなたがたの主[2]イエス・キリストは言う。アーメン。

第96章

千八百三十三年六月四日、オハイオ州カートランドにおいて、シオンの町またはステークの制度を示すために、カートランドの聖徒たちへの手本として預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、三百五十二―三百五十三ページ）。この啓示が与えられたのは、大祭司の大会のときである。この大会で考慮された主要な事項は、カートランドの近くで教会が所有していたフレンチ農場として知られる土地の扱い方であった。大会ではその土地の責任をだれが持つかについて意見の一致を見なかったので、すべて

10 ①GS「預言者の塾」 ②GS「争い」
12 ①ヨハ15・10 ②1ヨハ2・10、15
16 ①教義59・9−14 ②教義78・20
17 ①GS「主」 ②

の者はその件について主に尋ねることに同意した。

1 シオンのカートランドステークを強くしなければならない。2−5 ビショップは聖徒たちのために受け継ぎを分配しなければならない。6−9 ジョン・ジョンソンは、共同制度の一員にならなければならない。

1見よ、わたしはあなたがたに言う。ここに知恵があり、これによって、あなたがたは、この件に関してどのように行うべきかを知ることができる。シオンを強くするためにわたしが設けたこのステーク[1]を強くすることは、わたしにとって必要である。

2それゆえ、わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーは、今あなたがたが述べているその場所に対する責任を持つようにしなさい。わたしはそこにわたしの聖なる家を建てることを考えている。

3さらにまた、あなたがたが評議会で決めるとおりに、受け継ぎを求める者たちのために、知恵を用いてそこを区割りするようにしなさい。

4あなたがたはこのことに注意を払い、また人の子らにわたしの言葉をもたらすためにわたしの制度[1]に利益を与えるのに必要な部分にも、注意を払うようにしなさい。

5見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。人の子らの心をあなたがたのために和らげる目的をもって、わたしの言葉が人の子らの中に出て行くこと、これがわたしの最も必要としていることである。まことにそのとおりである。アーメン。

6さらにまた、まことに、あなたがたに言う。わたしの知恵にかない、またわたしが必要としていることがある。わたしは僕であるジョン・ジョンソンのささげ物を受け入れ、彼の祈りを聞いた。彼が今から後わたしの戒めを守るならば、わたしは彼に永遠の命の約束を与える。

7彼はヨセフ[1]の子孫であり、その先祖に与えられた約束の祝福にあずかる者だからである。

8まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしが必要としているのは、彼が制度の一員となって、人の子らにわたしの言葉をもたらす助けをすることである。

9それゆえ、あなたがたは、この祝福に彼を聖任しなければならない。そして、彼は今あなたがたが述

第96章
1① イザ33・20、54・2、GS「ステーク」
4① 教義78・3−4、GS「共同制度」
7① GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」

べているその家の抵当権を取り除くように熱心に努めて、そこに住めるようにしなければならない。まことにそのとおりである。アーメン。

第97章

千八百三十三年八月二日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、四百―四百二ページ）。この啓示は、特にミズーリ州ジャクソン郡シオンにおける聖徒たちのことを扱っており、預言者が主に導きを求めたことへの答えとして与えられたものである。当時、ミズーリ州の教会の会員たちは厳しい迫害を受けており、彼らはジャクソン郡を去るという合意書に、千八百三十三年七月二十三日に無理やり署名させられていた。

1−2（ミズーリ州ジャクソン郡）シオンの聖徒たちの多くは、彼らの忠実さのゆえに祝福される。3−5パーリー・P・プラットは、シオンにおける学校での働きを褒められる。6−9聖約を守る者は、主によって受け入れられる。10−17心の清い者が神にまみえる場所である一つの宮を、シオンに建てなければならない。18−21シオンとは、心の清い者である。22−28シオンは、忠実であれば主の懲らしめを免れる。

1まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。わたしの声、すなわちわたしの御霊の声をもってあなたがたに語る。それは、[1]シオンの地におけるあなたがたの兄弟たち、その多くが心からへりくだり、知恵を得て真理を見いだそうと熱心に努めているその兄弟たちについて、わたしの思いをあなたがたに示すためである。

2まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。そのような者はそれを得るので、幸いである。主なるわたしは、[1]柔和な者すべてと、わたしの欲する者すべてに憐れみを示すからである。それは、わたしが彼らを裁くときに、わたしが正しいとされるためである。

3見よ、わたしは、シオンにおける[1]塾に関してあなたがたに言う。主なるわたしは、シオンに塾があることを心から喜んでおり、またわたしの僕[2]パーリー・P・プラットのことも、彼がわたしにつながっ

第97章
1 ① GS「シオン」
2 ① マタ5・5、モサ3・19
3 ① GS「預言者の塾」
② GS「プラット、パーリー・パーカー」

ているので心から喜んでいる。
4 そして、彼が続けてわたしにつながっていれば、わたしがほかの戒めを彼に与えるまで、彼はシオンの地における塾を引き続き管理するであろう。
5 また、わたしは、彼がシオンにおける塾と教会を教化するために、すべての聖文と奥義を説き明かせるように、多くの祝福をもって彼を祝福しよう。
6 塾の残りの者に、主なるわたしは喜んで憐れみを示す。にもかかわらず、懲らしめ[1]を受けなければならない者たちがおり、彼らの行いは知らされるであろう。
7 斧[1]は木の根元に置かれている。良い実[2]を結ばない木はことごとく切り倒されて、火の中に投げ込まれるであろう。主なるわたしがこれを語った。
8 まことに、わたしはあなたがたに言う。彼らの中で、その心[1]が正直[2]で、打ち砕かれていて、かつその霊が悔いていることを知っており、また犠牲[3]を払って、すなわち主なるわたしが命じるあらゆる犠牲を払って自分の聖約[4]を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる。[5]
9 主なるわたしは、良い土地で清らかな流れのほとりに植えられた、多くの貴い実を結ぶ実り豊かな木のように、彼らに実を結ばせるからである。
10 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いは、わたしがあなたがたに与えた[1]型に倣って、シオンの地にわたしのために一つの家[2]を建てることである。
11 すなわち、わたしの民の納める什分の一によって速やかにそれを建てなさい。
12 見よ、これは、シオンの救いのためにわたしに一つの家[1]を建てるように、主なるわたしが彼らの手に求める什分の一[2]と犠牲である。
13 すなわち、この家は、すべての聖徒たちが感謝[1]をささげる場所として、またそれぞれの召しと職のすべてにおいて奉仕の業に召されたすべての人を教える場所として建てられるものである。
14 それは、彼らの務めを理解[1]することにおいて、理論において、原則において、教義において、その王国の鍵[2]があなたがたに授けられている地上の神[3]の王国に関するすべてのことにおいて、彼らが完全になるためである。
15 また、わたしの民が主の名によってわたしに一つ

6 (1) GS「懲らしめ」
7 (1) マタ 3:10
(2) ルカ 6:43—45、ヤコ 3:12、ニフ 14:5、36、52、
8 (1) GS「打ち砕かれた心」
15—20
(2) GS「正直」
(3) GS「犠牲」
(4) 教義 64:34
(5) 教義 52:15、132・50
10 (1) 教義 115:14—16
(2) 教義 57:3、88:119、124:51
12 (1) GS「神殿・主の宮」
13 (1) GS「感謝」
(2) GS「什分の一」
14 (1) GS「理解」
(2) GS「神権の鍵」
(3) GS「神の王国・天の王国」

の家を建て、それが汚されないように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さなければ、わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。

16 まことにまた、わたしはそこにいる。わたしはそこに来るからである。そして、そこに入って来る心の清い者は皆、神を見るであろう。

17 しかし、もしもそれが汚されるならば、わたしがそこに来ることはなく、わたしの栄光はそこにない。わたしは清くない神殿には来ないからである。

18 さて見よ、シオンがこれらのことを行うならば、シオンは栄え、自らを広げ、非常に栄光に満ちた、きわめて大いなる、そして甚だ恐ろしいものとなるであろう。

19 そして、地のもろもろの国民はシオンを尊び、言うであろう。「確かにシオンは我々の神の都であり、また、確かにシオンは倒れることも、その場所から移されることもあり得ない。神がそこにおられ、主の御手がそこにあるからである。

20 主はシオンの救いとなりシオンの高いやぐらになると、その強い力によって誓われた。」

21 それゆえ、主はこのように言う。まことに、シオンを喜ばせなさい。心の清い者、これこそシオンである。それゆえ、シオンを喜ばせなさい。一方、悪人は皆嘆き悲しむであろう。

22 見よ、見よ、報復は神を敬わない者のうえに旋風のように速やかに及ぶ。そして、だれがそれを免れるであろうか。

23 主の懲らしめは夜も昼も通り行き、その知らせはすべての人を悩ます。すなわち、主が来るまで、それはとどめられないであろう。

24 主の憤りは、彼らの忌まわしい行いとすべての邪悪な行いに向かって燃えているからである。

25 それでも、シオンがわたしの命じたすべてのことを努めて行うならば、シオンは免れるであろう。

26 しかし、もしシオンがわたしの命じたことを何であろうと努めて行うようにしなければ、わたしはシオンのすべての行いに応じて、ひどい苦難、疫病、悪疫、剣、報復、焼き尽くす火をシオンに見舞おう。

27 しかしながら、この度に限って、シオンの耳に次のことを読み聞かせなさい。すなわち、主なるわたしはシオンのささげ物を受け入れた。そして、シオンがこれからもう罪を犯さなければ、これらのこと

15 ① 教義94・9、109・20—21 ② ハガ2・7、教義84・5
16 ① 教義110・1—10 ② マタ5・8、教義67・13、88・68、GS「清さ」 ③ 教義90・24、100・15
18 ① イザ60・14、ゼカ2・10—12、教義45・66—70、49・10 ② GS「新エルサレム」
19 ① サ下22・3 ② モセ7・18、GS「清さ」「シオン」
20 ① GS「報復」
21 ① イザ28・14—19、教義45・31
22 ① 2ニフ6・13—18、教義63・34、ジマタ1・20
23 ① ルカ21・10—13
25 ① マラ4・1—3、3ニフ21・20—21
26 ① ヨエ1・15—20 ② 教義84・54—59

はどれもシオンに及ばないであろう。
28 また、わたしは数々の祝福をもってシオンを祝福し、シオンと、シオンの代々の子孫にとこしえにいつまでも多くの祝福を増し加える、と主なるあなたがたの神は言う。アーメン。

第98章

千八百三十三年八月六日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、四百三―四百六ページ）。この啓示は、ミズーリの聖徒たちに対して迫害があったために下されたものである。肉体的に苦しみを受け、財産も失ったミズーリの聖徒たちが、報復し、仕返しをしたいという気持ちになるのは当然であった。そこで、主はこの啓示を与えられた。ミズーリでの問題について、多少の知らせが（およそ千四百五十キロ離れていた）カートランドの預言者に届いていたことは疑いもないが、彼は、啓示によらなければ、その事態の重大さをこの日に知ることはできなかったはずである。

1–3 聖徒たちの苦難は、彼らの益となる。4–8 聖徒たちは、国の合憲的な法律を擁護しなければならない。9–10 正直で、賢明で、善良な人々を支援し、彼らが公職に就くようにしなければならない。11–15 主の大義において自分の命を捨てる者は、永遠の命を得るであろう。16–18 戦争を放棄して、平和を宣言しなさい。19–22 カートランドの聖徒たちは責めを受け、悔い改めるように命じられる。23–32 主の民が被る迫害と苦難について、主は律法を明らかにされる。33–38 戦争は、主が命じられるときにのみ正しいとされる。39–48 聖徒たちは敵を赦さなければならない。敵が悔い改めるならば、彼らも主の報復を免れるであろう。

1 まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。[1]恐れてはならない。心に慰めを得なさい。まことに、いつも喜び、すべてのことについて[2]感謝しなさい。
2 忍耐強く主を待ち望みなさい。あなたがたの祈りはサバオスの主の耳に達しており、この封印と証をもって記録されているからである。すなわち、祈り

27 ① エゼ18・27
28 ① GS「祝福」

第98章
1 ① 教義68・6
② GS「感謝」
2 ① 詩篇27・14、イザ30・18–19、教義133・45

がかなえられることを、主は誓って定めた。
3 それゆえ、主は、祈りはかなえられるという不変の聖約をもって、あなたがたに約束を与える。また、あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために、またわたしの名の栄光のためにともに働く、と主は言う。
4 さて、まことに、わたしは国の法律についてあなたがたに言う。わたしの思いは、わたしの民が、わたしの命じることを何であろうとすべて努めて行うことである。
5 憲法にかない、権利と特権を維持することによってその自由の原則を支持する国の法律は、全人類のものであり、わたしの前に正当と認められる。
6 それゆえ、あなたがたと、わたしの教会のあなたがたの兄弟たちが、国の合憲的な法律を擁護することを、主なるわたしは正しいとする。
7 人間の法律に関しては、これ以上のもの、あるいはこれ以下のものは何であろうと、悪から来るのである。
8 主なる神であるわたしはあなたがたを自由にする。それゆえ、あなたがたはほんとうに自由である。
そして、法律もあなたがたを自由にする。
9 それにもかかわらず、邪悪な者が治めるとき、民は嘆き悲しむ。
10 それゆえ、正直な人々と賢明な人々を熱心に捜し求めなければならない。そして、善良な人々と賢明な人々を支援するように努めなければならない。そうでなければ、これらに劣るものは何であろうと、悪から来る。
11 また、わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたはすべての悪を捨て、すべての善を固く守らなければならない。また、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きなければならない。
12 神は忠実な者に対して、教えに教え、訓戒に訓戒を与えるからである。そして、わたしはこれによってあなたがたを試み、あなたがたを試そう。
13 また、わたしの名のために、わたしの大義において自分の命を捨てる者は、再びそれを見いだすであろう。すなわち、永遠の命を見いだすであろう。
14 それゆえ、あなたがたの敵を恐れてはならない。あなたがたがふさわしいと認められるように、死に至るまでもわたしの聖約の中にとどまるかどうか、

3 ①教義122・7、GS「逆境」
5 ①教義101・77—80、109・54、GS「憲法」 ②1ペテ2・13—14、教義58・21、134・5
8 ①ヨハ8・32、2コリ3・17、GS「自由」「選択の自由」
9 ①箴言29・2
10 ①GS「正直」
11 ①申命8・3、マタ4・4、教義84・43—44
12 ①イザ28・10、教義42・61
13 ①②アブ3・25—26 ②ルカ9・24、教義101・35—38、103・27—28、GS「殉教者・殉教」
14 ①ネヘ4・14、教義122・9 ②黙示2・10、教義136・31(2)・39

あらゆる点であなたがたを試すことを、わたしは心の内に定めたからである、と主は言う。
15 もしあなたがたがわたしの聖約の中にとどまらなければ、あなたがたはわたしにふさわしくないからである。
16 それゆえ、1)戦争を放棄して、2)平和を宣言しなさい。そして、3)子孫の心をその先祖に、また先祖の心を子孫に向けるように熱心に努めなさい。
17 さらにまた、1)ユダヤ人の心を預言者たちに、また預言者たちの心をユダヤ人に向けるように熱心に努めなさい。これは、わたしが来て、のろいをもって全地を打ち、すべての肉なるものがわたしの前で焼き尽くされることのないためである。
18 あなたがたの心を騒がせないようにしなさい。わたしの父の家には1)住まいがたくさんあり、わたしはあなたがたのために一つの場所を用意したからである。そして、わたしの父とわたしがいる所に、あなたがたもいるであろう。
19 見よ、主なるわたしは、カートランドの教会にいる多くの者を喜んでいない。
20 彼らは自分の罪と、その悪い道と、その心の高ぶりと、その貪欲と、そのすべての憎むべきことを捨てず、わたしが彼らに与えた知恵の言葉と永遠の命の言葉に従っていないからである。
21 まことに、わたしはあなたがたに言う。彼らが悔い改めて、わたしの言ったすべてのことを守らなければ、主なるわたしは彼らを1)懲らしめ、わたしの欲することを行おう。
22 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがわたしの命じることを何であろうと努めて1)行うならば、主なるわたしは、あなたがたからすべての怒りと憤りを解こう。そして、2)地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない。
23 さて、わたしはあなたがたの家族についてあなたがたに言う。もし人々が一度、あなたがたや、あなたがたの家族を1)打っても、あなたがたが忍耐強くそれに耐えて、彼らをののしったり、仕返しをしようとしたりしなければ、あなたがたは報われるであろう。
24 しかし、もしも忍耐強くそれに耐えなければ、それはあなたがたに対して正しい升として1)量られたものと見なされる。

---

14 ③ 教義124・55
16 ① GS「戦争」、アル48・14、② GS「平和をつくり出す人」、③ GS「平安・平和」、マラ4・5−6、教義
17 ① 2・1−2 GS「ユダヤ人」
18 ① 2、76・111、81・6 ヨハ14・2、教義59・
21 ① 3、GS「懲らしめ」 モサ23・21、ヒラ12・
22 ① GS「従順・従う」 ② マタ16・17−18、教義
23 ① 33・12−13 ルカ6・29、アル43・
24 ① 46−47、GS「迫害」 マタ7・1−2

25 さらにまた、もし敵が再度あなたがたを打っても、あなたがたがその敵をののしらず、忍耐強くそれに耐えるならば、あなたがたの報いは百倍になる。
26 さらにまた、もし敵が三度目としてあなたがたを打っても、あなたがたが忍耐強くそれに耐えるならば、あなたがたの報いはさらに四倍に倍加される。
27 そして、もし敵が悔い改めなければ、これら三度の証拠は彼を責めるものとなり、消し去られることはない。
28 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。その敵がわたしの報復を免れて、わたしの前で裁きを受けることがなければ、彼がもうあなたがたや、あなたがたの家族を、まことにあなたがたの子供たちの子孫を三代、四代に至るまで襲わないよう、あなたがたはわたしの名によって彼に警告しなければならない。
29 それでも、もし敵があなたがたや、あなたがたの子供たち、あるいはあなたがたの子供たちの子孫を三代、四代に至るまで襲うならば、わたしはあなたの敵をあなたの手に渡す。
30 そして、それでもあなたが彼を容赦するならば、あなたはその義のゆえに報われ、またあなたの子供たちと、あなたの子供たちの子孫も三代、四代に至るまで報われるであろう。
31 しかしながら、あなたの敵はあなたの手の内にある。そこで、あなたが彼の行いに応じて彼に報いるならば、あなたは義とされる。もし彼があなたの命をねらい、あなたの命が彼によって危険にさらされるならば、あなたの敵はあなたの手の内にあり、あなたは義とされる。
32 見よ、これは、わたしの僕ニーファイと、あなたの先祖、ヨセフ、ヤコブ、イサク、およびアブラハム、ならびにわたしの昔の預言者たちと使徒たちすべてにわたしが与えた律法である。
33 さらにまた、わたしが昔のわたしの民に与えた律法は、次のとおりである。すなわち、主なるわたしが命じないかぎり、わたしの民は、いかなる国民、部族、国語の民、民族に対しても戦うために出て行ってはならない。
34 また、いかなる国民、国語の民、民族から宣戦されようとも、わたしの民は、まずその民族、国民、国語の民に平和の旗を掲げなければならない。

26① GS「忍耐」
28① GS「警告」
32① 教義27・10
33① 申命20・10、アル48・14−16
34① 教義105・38−41

35 そして、もしその人々が平和の申し出を受け入れず、二度も、三度も受け入れなければ、わたしの民はこれらの証拠を主の前に持って来なければならない。

36 すると、主なるわたしは彼らに命じて、彼らがその国民、国語の民、あるいは民族と戦うために出て行くことを正しいとする。

37 そして、彼らと、彼らの子供たちと、彼らの子供たちの子孫が、そのすべての敵に対して三代、四代にわたって報復するまで、主なるわたしは彼らの戦いを戦う。[1]

38 見よ、これはわたしの前に義とされるためのすべての民に対する一つの範例である、と主なるあなたがたの神は言う。

39 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしあなたの敵が初めてあなたを襲った後、彼が悔い改めて、赦しを請うてあなたのもとに来るならば、あなたは彼を赦して、それをもうあなたの敵に対する証拠としてはならない。

40 二度目も、三度目も同様にしなさい。あなたの敵があなたに対して犯した過ちを悔い改める度に、七の七十倍まで、あなたは彼を赦さなければならない。[1]

41 もし彼があなたに対して過ちを犯し、最初は悔い改めなくても、それでも、あなたは彼を赦さなければならない。

42 もし彼が再度あなたに対して過ちを犯し、悔い改めなくても、それでも、あなたは彼を赦さなければならない。

43 もし彼が三度あなたに対して過ちを犯し、悔い改めなくても、あなたはまた彼を赦さなければならない。

44 しかし、もし彼が四度あなたに対して過ちを犯すならば、あなたは彼を赦すことなく、これらの証拠を主の前に持って来なければならない。彼が悔い改めをして、あなたに対して過ちを犯したすべてのことに関してあなたに四倍報いるまで、それらは消し去られないであろう。

45 もし彼がこれを行うならば、あなたは真心から彼を赦さなければならない。また、もし彼がこれを行わなければ、主なるわたしがあなたの敵に百倍の報復をしよう。[1]

37① ヨシ23・10、イザ49・25
40① マタ18・21−22、教義64・9−11、GS「赦し」
45① モル8・20

46 また、彼の子供たちと、彼の子供たちの子孫、すなわちわたしを憎むすべての者の子孫に、三代、四代に至るまでそうしよう。

47 しかし、その子供たち、あるいはその子供たちの子孫が悔い改めて、彼らの心を尽くし、彼らの勢力と思いと力を尽くして主なる神に立ち返り、そして彼らが犯した、あるいは彼らの父が犯した、あるいは彼らの父の先祖が犯したすべての過ちについて四倍返すならば、そのとき、あなたは憤りを解かなければならない。

48 そして、報復はもう彼らに及ぶことはなく、彼らの過ちが彼らに対する証拠として主の前に持ち出されることは決してない、と主なるあなたがたの神は言う。アーメン。

第99章

千八百三十二年八月、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してジョン・マードックに与えられた啓示。千八百七十六年以降の『教義と聖約』の諸版は、この啓示を、千八百三十三年八月にカートランドで与えられたものとしてきたが、それ以前の版ならびに他の歴史記録は、千八百三十二年八月が正しいことを証明している。

1−8 ジョン・マードックは福音を宣言するために召される。また、彼を受け入れる者は、主を受け入れるのであり、憐れみを受けるであろう。

1 見よ、主はこのようにわたしの僕ジョン・マードックに言う。すなわち、あなたは東の地方へ行って、家から家へ、また村から村へ、町から町へと巡り、迫害と悪事の中で、その住民にわたしの永遠の福音を宣言するように召されている。

2 そして、あなたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。あなたは、わたしの聖なる御霊の証明のうちにわたしの言葉を告げ知らせる力を持つであろう。

3 また、幼子のようにあなたを受け入れる者は、わたしの王国を受ける。彼らは幸いである。彼らは憐れみを受けるからである。

4 また、あなたを拒む者は、父とその家から拒まれるであろう。あなたは、彼らに対する証として、道

---

46 1a 申命 5・9−10
47 1a モサ 7・33、モル 9・6
48 1a エゼ 18・19−23
第99章
1 1a GS「迫害」
2 1a マタ 10・40
2b 1コリ 2・4−5
3 1a マタ 18・1−6
3b GS「神の王国・天の王国」
3c GS「憐れみ」
4 1a ヨハ 12・44−50

の傍らのひそかな場所であなたの足[2]を洗い清めなければならない。

5 見よ、見よ、巻き物の書物にわたしについて書かれてあるとおり、わたしはすぐに来て[1]、裁き[2]を行い、すべての者に、彼らがわたしに対して犯した不敬な行いを立証する。

6 さて、まことに、わたしはあなたに言う。あなたの子供たちに必要なものを与えて、シオンのビショップのもとに優しく送り出すまで、あなたが出かけることは賢明ではない。

7 また、数年の後、あなたがわたしに願うならば、あなたも良い土地に上って行って受け継ぎを得ることができる。

8 そうでなければ、あなたは取り去[1]られるまで、わたしの福音を宣言し続けなければならない。アーメン。

第100章

千八百三十三年十月十二日、ニューヨーク州ペリーズバーグにおいて、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、四百十六、四百十九―四百二十一ページ）。数日間家族から離れていた二人の兄弟は、家族のことを多少心配に思った。

1−4 ジョセフとシドニーは、人々の救いのために福音を宣べ伝えなければならない。**5−8** 彼らの言うべきことは、まさにそのときに授けられる。**9−12** シドニーは代弁者となり、またジョセフは啓示者となり、力強く証する者とならなければならない。**13−17** 主は一つの清い民を起こされ、従順な者は救われる。

1 まことに、主は友であるあなたがた、シドニー[1]とジョセフ[2]にこのように言う。あなたがたの家族は健在である。彼らはわたしの手の内にあり、わたしは自分のよいと思うままに彼らに行う。わたしには一切の権威があるからである。

2 それゆえ、わたしに従い、わたしがあなたがたに与える勧告を聴きなさい。

3 見よ、見よ、この場所に、また周りの地域に、わたしの民が大勢いる。この東の地における周りの地域で、効果的な門が開かれるであろう。

---

4 ②教義75・19−22
5 ①教義1・11−14
②ユダ1・14−15、GS「イエス・キリスト―裁き」
8 ①マタ19・29

第100章

1 ①GS「リグドン、シドニー」
②GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」

4 それゆえ、主なるわたしは、あなたがたがこの場
所に来るのを許した。わたしは人々の救い[1]のために
これを必要としたからである。
5 それゆえ、まことに、わたしはあなたがたに言う。
この民に向かって声を上げなさい。わたしがあなた
がたの心の中に入れる思いを語り[1]なさい。そうすれ
ば、あなたがたは人々の前で辱められることはない
であろう。
6 あなたがたの言うべきことは、まさにそのとき
に、まことにその瞬間にあなたがたに授け[1]られるか
らである。
7 しかし、わたしはあなたがたに一つの戒めを与え
る。あなたがたがわたしの名によって告げ[1]ることは
何であろうと、すべてのことについて厳粛な心
と柔和[2]な心で告げなければならない。
8 わたしはあなたがたにこの約束を与える。すなわ
ち、あなたがたがこれを行うならば、聖霊[1]が注がれ
て、あなたがたの述べるすべてのことを証するであ
ろう。
9 また、わたしが必要としているのは、あなた、す
なわちわたしの僕シドニーがこの民に語る代弁者[1]と
なることである。まことに、わたしはあなたをこの
召しに、すなわちわたしの僕ジョセフのための代弁
者となるように聖任する。
10 また、わたしは力強く証する[1]力を彼に与えよう。
11 また、あなたが彼のための代弁者となれるよう
に、わたしはあなたに、すべての聖文を力強く[1]説き
明かす力を与えよう。また、あなたが地上における
わたしの王国のことに関するすべてのことが確か
であるのを知ることができるように、彼はあなたにと
って啓示者[2]となるであろう。
12 それゆえ、旅を続け、心を喜ばせなさい。見よ、
見よ、わたしは最後まであなたがたとともにいるか
らである。
13 さて、わたしはあなたがたにシオン[1]に関して一つ
の言葉を与える。シオンはしばしの間懲らしめを受
けるが、贖[2]われるであろう。
14 あなたがたの兄弟たち、わたしの僕オーソン[1]・
ハイドとジョン・グールドはわたしの手の内にあ
る。わたしの戒めを守るならば、彼らは救われるで
あろう。
15 それゆえ、心に慰めを得なさい。まっすぐに歩む

4 ① GS「救い」
5 ① ヒラ5・18、教義68・3−4
6 ① マタ10・19−20、教義84・85
7 ① 教義84・61
② GS「柔和」
8 ① 2ニフ33・1−4
9 ① 出エ4・14−16、2ニフ3・17−18、教義124・103−104
10 ① GS「証する」
11 ① アル17・2−3
② 教義124・125
13 ① GS「シオン」
② 教義84・99、105・9−10、31、37
14 ① GS「ハイド、オーソン」

者たちに益となるように、また教会の聖めのために、[1]万事がともに働くからである。

16 わたしは、義をもってわたしに仕える一つの[1]清い民をわたしのために起こすであろう。

17 主の名を呼び、[1]主の戒めを守る者は皆、救われるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第101章

千八百三十三年十二月十六日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、四百五十八−四百六十四ページ）。このとき、ミズーリに集合した聖徒たちはひどい迫害に遭っていた。暴徒は彼らをジャクソン郡の家から追い出した。聖徒の中のある者たちは、バン・ビューレン郡に身を落ち着けようとしたが、そこでも迫害に遭った。聖徒たちの主体は、そのとき、ミズーリ州クレイ郡にあった。教会の会員たちに対して、多くの死の脅迫があった。人々は家具や衣服、家畜、そのほかの個人的財産を失い、彼らの収穫物の多くが損なわれた。

1−8 聖徒たちは、彼らの背きのゆえに懲らしめを受け、苦しめられる。**9−15** 主の憤りがもろもろの国民に下るが、主の民は集められ、慰められる。**16−21** シオンとそのステークは確立されなければならない。**22−31** 福千年での生活の状態が説明される。**32−42** そのときに、聖徒たちは祝福され、報われる。**43−62** 身分の高い人とオリーブの木のたとえは、シオンの受ける苦難とシオンの最終的な贖いを表す。**63−75** 聖徒たちは集合を続けなければならない。**76−80** 主は合衆国憲法を制定された。**81−101** 女と不正な裁判官のたとえのように、聖徒たちは、不正に対する補償を執拗に求めなければならない。

1 苦しめられ、[1]迫害され、受け継ぎの地から[2]追い出されたあなたがたの兄弟たちに関して、まことに、わたしはあなたがたに言う。

2 主なるわたしは、彼らの[1]背きのゆえに、彼らの受けている[2]苦難が彼らに及ぶのを許した。

3 それでも、わたしは彼らを自分のものとする。わたしが来てわたしの宝石を集める日に、彼らは[1]わたしのものとなるであろう。

---

15 ①ロマ 8・28、教義 90・24、105・40
16 ①GS「清さ」
17 ①ヨエ 2・32、アル 38・4−5

第101章

1 ①GS「迫害」
②教義 103・1−2、11、109・47
2 ①モサ 7・29−30、教義 103・4、105・2−10
②教義 58・3−4、イザ 62・3、マラ 3・17、教義 60・4
3 ①教義 90・4

4 それゆえ、彼らは必ず懲らしめ[1]を受け、自分の独り子をささげるように命じられたアブラハム[2]のように、試みられなければならない。

5 懲らしめに耐えないで、わたしを否定[1]する者は皆、聖[2]められることはあり得ないからである。

6 見よ、わたしはあなたがたに言う。彼らの中には、あつれきや争い[1]、ねたみ[2]、対立、およびみだらなむさぼり[3]の欲望があった。それゆえ、これらのことによって、彼らはその受け継ぎを汚したのである。

7 彼らは主なる神の声に聞き従[1]うのが遅かった。それゆえ、主なる彼らの神は、彼らの祈りを聴くのを遅くする、すなわち彼らの苦難の日に彼らにこたえるのを遅くするのである。

8 平穏な日には、彼らはわたしの勧告を軽んじた。しかし、苦難[1]の日にはやむを得ずわたしを捜[2]し求める。

9 まことに、わたしはあなたがたに言う。彼らが罪を犯したにもかかわらず、わたしの心は、彼らに対する哀れみ[1]に満たされている。わたしは彼らをことごとく捨[2]ててしまうことはせず、激[3]しい怒りの日に憐れみを思い起こそう。

10 わたしは、わたしの民のために憤り[1]の剣を下すという誓いを立て、あなたがたに与えた以前の戒めによってその定めを出した。わたしが述べたとおりに、それは起こるであろう。

11 わたしの憤りは、間もなくすべての国民のうえに限りなく注がれる。これをわたしは、彼らの罪悪の杯が満ちる[1]ときに行う。

12 その日、見張り台[1]の上にいるすべての者、言い換えれば、わたしのイスラエルはすべて救われる。

13 散らされた者は集[1]められる。

14 嘆き悲[1]しんできた者は皆、慰められる。

15 わたしの名のために自分の命[1]を与えた者は皆、冠を授けられる。

16 それゆえ、シオンについて心に慰めを得なさい。すべての肉なるものはわたしの手[1]の内にあるからである。安らかにしていて、わたしが神であることを知[2]りなさい。

17 シオン[1]の子らが散らされても、シオンがその場所から移されることはない。

18 生き残っている心の清い者は帰って来る。彼らとその子孫は、シオンの荒れた所を築[1]き上げるため

---

4 ①教義95・1—2、136・
31、GS「懲らしめ」
②創世22・1—14、ヤコ4・5、GS「アブラハム」
5 ①マタ10・32—33、ロマ1・16、2ニフ31・14
6 ①GS「聖め」
②GS「争い」
③GS「ねたみ」
GS「欲望」
7 ①③イザ59・2、モサ11・22—25、21・15、アル5・38
②GS「聞き従う」
8 ①ヒラ12・3
②使徒17・27、アル32・5—16
9 ①GS「哀れみ」「憐れみ」
②エレ30・11
10 ①③教義98・21—22
教義1・13—14
11 ①ヒラ13・14、エテ2・9—11
12 ①GS「見守る・見守る者」
13 ①申命30・3—6、1ニフ10・14、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
14 ①マタ5・4
15 ①マタ10・39、GS「殉教者・殉教」
16 ①モセ6・32
②出エ14・13—14、詩篇46・10
17 ①GS「シオン」
アモ9・13—15、教義84・2—5、103・11
18 ①教義95・1—2、136・

に、永遠の喜びの歌[2]を歌いながら、彼らの受け継ぎ[3]の地にやって来るであろう。

19 すべてこれらのことが起こるのは、預言者たちの述べたことが成就するためである。

20 見よ、わたしが指定した場所[1]のほかに指定される所はどこもない。わたしの聖徒たちの集合の業のために、わたしが指定した場所のほかに指定される所はどこもない。

21 そして、ついに彼らのためにもう余地のない日が来る。そのとき、わたしが彼らに指定するほかの場所がある。シオンの幕のために、すなわちシオンを強めるために、それらは[1]ステークと呼ばれる。

22 見よ、わたしの思いは、わたしの名を呼び、わたしの永遠の福音に従ってわたしを礼拝する者が皆[1]集まり、[2]聖なる場所に立ち、

23 来るべき啓示に備えることである。そのとき、地を隠すわたしの幕屋にある神殿を覆っている[1]幕は取り去られて、すべての肉なるものがともにわたしを見る。[2]

24 また、人も、野の獣も、空の鳥も、海の魚も、全地の面に住んでいるすべての朽ち[1]るものが焼き尽く[2]される。

25 元素から成るものは酷熱に溶かされる[1]。そして、万物が新[2]しくなって、わたしの知識と栄光が全地のうえにある。

26 その日、人の敵意[1]、もろもろの生き物の敵意、すなわちすべての肉なるものの敵意が、わたしの前からなくなる。

27 その日には、人が求めるものは何でも与えられる。[2]

28 また、その日には、サタン[1]はだれをも誘惑する力を持たない。

29 また、死がないので悲しみ[1]もない。

30 その日には、幼児[1]は年を取るまで死ぬことはない。そして、人の生涯は木の寿命のようである。

31 また、人は死ぬときに眠ることなく、すなわち地の中に眠ることなく、一瞬のうちに変えられ[1]て引き[2]上げられる。そして、彼の安息は栄光あるものとなる。

32 まことに、わたしはあなたがたに言う。主が来るその日に、[1]主はすべてのことを明らかにする。[2]

33 すなわち、過ぎ去ったこと、だれも知らなかっ

---

18 ② イザ 35・10、教義 45・71、GS「歌う」
19 ① ③ 教義 103・11—14
20 ① ② 教義 57・1—4
21 ① ② 教義 82・13—14、115・6、17—18、GS「ステーク」
22 ① ② GS「イスラエル—イスラエルの集合」
23 ① ② マタ 24・15、教義 45・32、115・6
24 ① ② GS「幕」
25 ① ② イザ 40・5、教義 38・8、93・1、GS「イエス・キリストの再臨」
26 ① ② ゼパ 1・2—3、マラ 4・1、教義 29・24
27 ① ② 教義 88・94、ジー歴史 1・37
28 ① ② アモ 9・5、2 ペテ 3・10—14、GS「地球（地）—地球の清め」
29 ① ② 黙示 21・5
30 ① ② GS「福千年」
31 ① ② イザ 11・6—9、GS「敵意」
32 ① ② GS「平安・平和」
33 ① ② 黙示 20・2—3、1 ニフ 22・26、教義 88・110
29 ① ② 黙示 21・4
30 ① ② イザ 65・20—22、教義 63・51
31 ① ② 1 コリ 15・52、教義 43・32
1 テサ 4・16—17
32 ① ② 教義 29・11、GS「福千年」
② 教義 121・26—28

た[1]隠されていたこと、地球が造られた方法とその目的と行く末など地球に関すること、
34 最も貴いこと、上にあること、下にあること、地中や地上や天にあることを。
35 わたしの名のために[1]迫害を受け、信仰をもって堪え忍ぶ者は皆、たとえ召されてわたしのために命を[2]捨てるとしても、なお彼らはこのすべての栄光にあずかるであろう。
36 それゆえ、死に[1]至るまでも恐れてはならない。この世ではあなたがたの喜びは満たされないが、わたしにあってあなたがたの[2]喜びは満たされるからである。
37 それゆえ、体も体の命も心にかけてはならない。[1]霊と霊の命とを心にかけなさい。
38 また、あなたがたは[1]忍耐することによって自分の霊を保つために、常に主の顔を[2]求めなさい。そうすれば、あなたがたは永遠の命を得るであろう。
39 人々がわたしの[1]永遠の福音に召され、永遠の聖約を交わすとき、彼らは地の[2]塩、また人の味と見なされる。
40 彼らは人の味となるように召される。それゆえ、もし地の塩がその塩気を失ったら、見よ、もはや何の役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけである。
41 見よ、ここにシオンの子らに関する知恵がある。すなわち、そのすべてではないが、多くの者に関する知恵がある。彼らは戒めに背く者であるとされた。それゆえ、必ず[1]懲らしめを受けなければならない。
42 自分を[1]高くする者は低くされ、自分を[2]低くする者は高くされるであろう。
43 さて、あなたがたがシオンの贖いについて、わたしの思いを知ることができるように、一つのたとえを示そう。
44 ある[1]身分の高い人が、特別な良い土地を一か所持っていた。そして、彼は僕たちに言った。「おまえたちはわたしの果樹園[2]、すなわちこの特別な良い土地へ行って、十二本のオリーブの木を植えなさい。
45 そして、それらの周りに[1]見張り人たちを置き、また一つの見張り台を築いて、その台の上で見張り人となる者が周りの土地を見渡せるようにしなさい。このようにして、敵がやって来て、わたしの果樹園

---

33 (1) GS「神の奥義」
35 (1) 教義63・20、GS「迫害」 (2) 教義98・13
36 (1) (2) GS「死（肉体の）」 GS「喜び」
37 (1) GS「人（霊を持つ存在としての）」
38 (1) GS「忍耐」 (2) 歴下7・14、教義93・1
39 (1) GS「新しくかつ永遠の聖約」 (2) マタ5・13、教義103・10
41 (1) GS「懲らしめ」
42 (1) オバ1・3—4、ルカ14・11、ヒラ4・12—13 (2) ルカ18・14、GS「謙遜」
44 (1) 教義103・21—22 (2) GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
45 (1) エゼ33・2、7、3ニフ16・18、GS「見守る・見守る者」

の実を奪って自分のものにしようとするときに、わたしのオリーブの木が折り倒されることのないようにしなさい。」

46 さて、その身分の高い人の僕たちは行って、主人が命じたように行い、オリーブの木を植え、一つの垣を巡らし、見張り人たちを置き、また一つの見張り台を築き始めた。

47 そして、まだその土台を据えていたときに、彼らは仲間内で、「わたしの主人に、なぜこの見張り台が必要なのか」と言い始めた。

48 そして、久しく相談し、仲間内で言った。「今は平和な時であるのに、主人に、なぜこの見張り台が必要なのか。

49 この金を銀行に預けてはどうだろう。このようなことは必要がないのだから。」

50 彼らは互いに意見の合わないうちに、非常に怠惰になった。そして、その主人の命令に聞き従わなかった。

51 すると、夜に敵がやって来て、1)垣を壊した。そこで、身分の高い人の僕たちは起き出し、驚いて逃げた。そこで、敵は彼らの造ったものを壊し、オリーブの木を折り倒した。

52 さて見よ、身分の高い人、すなわちその果樹園の主人は僕たちのところにやって来て、彼らに言った。「どうしたことだ。この大きな災いの原因は何だ。

53 おまえたちはわたしが命じたとおりに行うべきではなかったか。おまえたちは果樹園で植え付けをし、垣を巡らし、その防壁の上に見張り人を置いた後、敵から襲われることのないように見張り台も築いて、その見張り台の上に見張り人を置き、わたしの果樹園を見張って寝入らないようにすべきではなかったのか。

54 そうすれば、見よ、敵がまだ遠くにいる間に、見張り台の上の見張り人は敵に気づいたことだろう。そして、おまえたちは備えをして、敵がその垣を壊すのを防ぎ、滅ぼす者の手からわたしの果樹園を救うことができたであろうに。」

55 果樹園の主人は僕の一人に言った。「僕たちの残りを集めて、とどまるようにわたしが命じた者たちを除くわたしの家の1)勇士全員、すなわち、わたしの戦士たち、わたしの家の勇士であるすべての僕たち

51① 55①
イザ 5・1—7、教義 103・22、29—30、105・16、29—30

の中の若者たちと中年の者たちを率いて行きなさい。

56 そして、すぐにわたしの果樹園の地へ行き、果樹園を取り戻しなさい。それはわたしのものだからだ。わたしはそれを金で買ったのだ。

57 それであるから、すぐにわたしの土地へ行き、敵の防壁を取り壊し、彼らの見張り台を崩して見張り人を追い散らしなさい。

58 敵が反抗して集まるならば、彼らに1)報復し、わたしがやがてわたしの家の残りの者とともに行ってその土地を所有できるようにしなさい。」

59 その僕は主人に、「いつ、そのことはあるのでしょうか」と言った。

60 彼は僕に言った。「わたしが望むときである。おまえはすぐに行き、わたしが命じたすべてのことを行いなさい。

61 そうすれば、わたしがおまえに与える証印と祝福はこれである。すなわち、おまえはわたしの家の中の1)忠実で賢い管理人、わたしの王国で2)治める者になる。」

62 そこで、僕はすぐに行って、主人から命じられたすべてのことを行った。そして、1)多くの日の後、すべてのことが成し遂げられた。

63 さらに、まことに、わたしはあなたがたに言う。すべての諸教会が、彼らの救いのために正しくかつ適切な道に喜んで導かれようとするならば、わたしは彼らに関して、わたしの内にある知恵をあなたがたに示そう。

64 それは、わたしの聖徒たちの集合の業が続いて、わたしがわたしの名のために1)聖なる場所に彼らを築き上げることができるようにするためである。2)刈り入れの時は来ており、わたしの言葉は必ず成就するからである。

65 それゆえ、わたしは小麦と1)毒麦のたとえに従ってわたしの民を集めなければならない。それは、わたしが父の王国に来て、すべての人にその行いに応じて報いを与えるとき、小麦が倉に安全に納められて永遠の命を得、2)日の栄えの栄光を冠として与えられるためである。

66 一方、毒麦は束にされ、縄で強く縛られて、消すことのできない火で1)焼かれるのである。

67 それゆえ、わたしはすべての諸教会に一つの戒

---

58 ① 教義97・22−24、105・15
61 ① 教義78・22
62 ① マタ25・20−23
64 ① 教義87・8
② 教義33・3、7、GS「刈り入れ」
65 ① ③ 教義1・38、マタ13・6−43、教義86・1−7
② GS「日の栄え」
66 ① ② ナホ1・5、マタ3・12、教義38・12、63・33−34

めを与える。教会員は、わたしが指定した場所に引き続き集合しなければならない。

68 しかしながら、わたしが以前の戒めの中であなたがたに言ったように、あなたがたは慌てて[1]集まることも、逃げるようにして集まることもないようにしなさい。むしろ、万事をあなたがたの前に備えるようにしなさい。

69 そして、万事をあなたがたの前に備えるために、わたしがこれらのことに関して与えた戒めを守りなさい。

70 すなわち、その戒めが告げるところ、あるいは教えるところは、わたしの聖徒たちが集合を開始するために、シオンの地となるようわたしが定めた土地の周りの地域において、金銭で[1]購入することのできるすべての土地を金銭をもって購入すること、

71 すなわち、ジャクソン郡とその周りの郡で購入することのできるすべての土地を購入すること、そして残りをわたしの手にゆだねることである。

72 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。すべての教会はその金銭をすべて集めなさい。これらのことを、時にかなって行うようにしなさい。[1]急いで行ってはならない。万事をあなたがたの前に備えるようにしなさい。

73 高潔な人々、すなわち賢明な人々を任命し、彼らを派遣してこれらの土地を購入しなさい。

74 また、東の地方の諸教会は築き上げられるとき、もしこの勧告に聞き従うならば、土地を買ってそこに集まるとよい。このようにして、彼らはシオンを設立することができる。

75 わたしの名にちなんで自分自身を呼ぶ諸教会がわたしの声に[1]進んで聞き従うならば、もう二度と倒されることのないようにシオンを贖って、シオンの荒れた所を打ち建てるために、今やすでに十分な、まことに豊かな蓄えがある。

76 さらにまた、わたしはあなたがた、敵に散らされた者たちに言う。わたしの思いは、あなたがたが、統治者に任じられてあなたがたを治める権威を持っている者たちの手によって補償と譲り戻しを受けるために、執拗に求め続けることである。

77 すなわち、わたしが制定を許した、また公正かつ聖なる原則に従ってすべての肉なるものの[1]権利と保護のために[2]維持されるべき、人民の法律と憲法に従

---

68 ①教義58・56
70 ①教義63・27—29
72 ①イザ52・10—12
75 ①アル5・37—39
77 ①GS「自由」
② GS「政府」

って求めることである。

78 それは、すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて、未来に関する教義と原則に従って行動できるようにして、各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負うようにするためである。

79 それゆえ、どんな人であっても、一人の人がほかの人に束縛されるということは正しくない。

80 この目的のために、わたしはこの国の憲法を制定する賢人たちを立てて、彼らの手によってその憲法を制定し、流血によって国を贖ったのである。

81 さて、わたしはシオンの子らを何にたとえようか。彼らを女と不正な裁判官のたとえになぞらえよう。人々は常に祈るべきであり、気を落としてはならないからである。そのたとえは、次のとおりである。

82 ある町に、神を畏れず、人を人とも思わない裁判官がいた。

83 また、その町に一人のやもめがいて、彼のもとにやって来ては、「わたしの相手に報復してください」と言った。

84 彼はしばらくの間聞き入れないでいたが、その後、心の中で考えた。「わたしは神を畏れず、人を人とも思わないが、このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のために報復してやろう。そうしたら、絶えずやって来てわたしを悩ますことがなくなるだろう。」

85 このようにわたしはシオンの子らをたとえよう。

86 シオンの子らは裁判官の足もとで執拗に求めなさい。

87 もし彼が心に留めなければ、知事の足もとで執拗に求めなさい。

88 もし知事が心に留めなければ、大統領の足もとで執拗に求めなさい。

89 もし大統領が心に留めなければ、そのとき、主は立って隠れ場から出て来て、憤りをもってその国を悩ませ、

90 主がふさわしいとするときに、その激しい憤りをもって、また激しい怒りをもって、それらの邪悪で、不忠実で、不正な管理人を絶ち、彼らの持ち分を偽善者や不信仰な者の中に定めるであろう。

91 まことに、涙を流し、泣きわめき、歯ぎしりをする外の暗闇の中に。

---

78 ①GS「選択の自由」 ②GS「最後の裁き」 ③GS「責任を負う」、2ニフ1・7—9、教義98・5—6、GS「憲法」

80 ①2ニフ1・13—19

81 ①ルカ18・1—8 ②GS「祈り」

89 ①イザ45・15、教義121・1、4、123・6 ②GS「管理人・管理人の職」

90 ①黙示21・8、GS「不信仰」

91 ①マタ25・30、教義19・5、29・15—17、124・8

92 それゆえ、彼らの耳があなたがたの叫び声に対して開かれるように、あなたがたは祈りなさい。彼らがあなたがたの叫び声を聞けば、わたしは彼らを憐[1]れんで、これらのことが彼らに及ぶことのないようにする。

93 わたしがあなたがたに述べてきたことは、必ず起こる。それは、すべての人に弁[1]解の余地のないようにするためであり、

94 賢人たちや統治者たちが、彼らのかつて考[1]えたことのないことを聞いて知るためであり、

95 また、わたしがわたしの行い、すなわち比[1]類のない行いを成し遂げ、わたしの業、すなわち比類のない業を行い続けて、人々が義人と悪人の区別を知ることができるようにするためである、とあなたがたの神は言う。

96 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕シドニー・ギルバートが、わたしが自分の民のために設けた倉[1]をわたしの敵の手に売ることは、わたしの戒めと思いに反する。

97 わたしの設けたものが、わたしの名にちなんで自分自身を呼[1]ぶ者たちの同意によって、わたしの敵により汚されることのないようにしなさい。

98 これは、わたしがすでに定めていて間もなくもろもろの国民に降りかかる数々の出来事のゆえに、わたしに対しても、わたしの民に対しても非常に嘆かわしくかつ重い罪だからである。

99 それゆえ、たとえわたしの民がそこに住むことを許されなくても、わたしが彼らのために設けたものについて彼らが権利を主張し、所有権を保有することは、わたしの思いにかなうのである。

100 わたしは、彼らがそこに住むことはないとは言わない。彼らはわたしの王国にふさわしい実を結び、ふさわしい行いをするならば、将来そこに住むからである。

101 彼らが建てて、別の者がそれを受[1]け継ぐということはない。彼らはぶどう園を設け、その実を食べるであろう。まことにそのとおりである。アーメン。

第102章

千八百三十四年二月十七日、オハイオ州カートランドにおける教会の最初の高等評議会の組織に関する議事録（『教会歴史』第二巻、二十八—三十一ページ）。

92 ①GS「憐れみ」
93 ①ロマ1・18—21
94 ①イザ52・15、3ニフ20・45、21・8
95 ①イザ28・21、教義95・4 ②マラ3・18、GS「識別の賜物」
96 ①GS「倉」
97 ①教義103・4、112・25
101 ①I 26、125・2、イザ65・21—22、GS「福千年」

原議事録はオリバー・カウドリ長老とオーソン・ハイド長老によって記録された。二日後、議事録は預言者によって修正され、高等評議会に読み上げられ、評議会によって承認された。十二使徒評議会に関する第三十—三十二節は、預言者ジョセフ・スミスがこの章を『教義と聖約』に含める準備をしていた千八百三十五年に、彼によって加えられたものである。

1—8 教会内に起こる重大な問題を解決するために、高等評議会が設けられる。9—18 事実関係の審理のための手順が与えられる。19—23 評議会の会長が決定を下す。24—34 上訴の手順が説明される。

1 今日、啓示によって、二十四人の大祭司から成る総会が、ジョセフ・スミス・ジュニアの家で会合を持ち、キリストの教会の高等評議会の組織に着手した。この高等評議会は、十二人の大祭司と、必要に応じて一人ないし二人の会長から成るものである。

2 この高等評議会は、教会内で起こり得る重大な問題のうち、教会またはビショップの評議会によって当事者に満足のいく解決が得られない問題を解決するために、啓示によって設けられた。

3 ジョセフ・スミス・ジュニアと、シドニー・リグドンと、フレデリック・G・ウィリアムズが、総会の声によって会長として承認された。また、ジョセフ・スミス・シニアと、ジョン・スミス、ジョセフ・コー、ジョン・ジョンソン、マーティン・ハリス、ジョン・S・カーター、ジェレド・カーター、オリバー・カウドリ、サミュエル・H・スミス、およびルーソン・ハイド、シルベスター・スミス、およびルーク・S・ジョンソンたち大祭司が、総会の全会一致の声によって、教会のための常任評議会となるように選ばれた。

4 前記の評議員たちは、その後、その任命を受け入れるかどうか、また天の律法に従ってその職務を遂行するかどうか尋ねられ、全員がその任命を受け入れ、彼らに授けられる神の恵みに従ってその職務を果たすと答えた。

5 教会の名によって教会のために賛意を表明して前記の評議員たちを任じた総会の構成員は四十三人で、次のとおりである。すなわち、大祭司九人、長老十七人、祭司四人、会員十三人。

第102章
1 1① GS「高等評議会」
2 2① 教義107・72—74

6 議決事項。前記の評議員または正式に任命された後任者のうちの七人が出席していなければ、高等評議会は職務を遂行する権限を持てない。

7 これら七人は、欠席の評議員の代わりを務めるのにふさわしく、かつ能力があると考えられる他の大祭司を指名する権限を持つ。

8 議決事項。前記の評議員の中のだれかの死亡や、戒めに背くことによる職務からの解任、あるいはこの教会の管轄地域からの転居によって欠員が生じたときはいつでも、それは会長あるいは会長たちの指名によって補充され、教会の名において行動するためにそれを承認するという目的で召集された、大祭司の総会の声によって承認されなければならない。

9 評議会の会長でもある教会の大管長は、[1]啓示によって任じられ、彼が管理することを教会員の声によって[2]承認される。

10 彼が教会の評議会を管理するのは、彼の職の尊厳による。また、彼自身が任命されたのと同じ方法で任命される、他の二人の会長の補佐を受けることは、彼の特権である。

11 また、彼を補佐するために任命されている者の一人あるいは両者が欠席の場合、彼は補佐なしに評議会を管理する権限を持つ。また、彼自身が欠席の場合、他の会長の両者あるいはいずれか一人が、彼の代わりに管理する権限を持つ。

12 キリストの教会の高等評議会が前記の形式に従って正式に組織されているときは、十二人の評議員は数字を書いたくじを引き、それによって一番から順番に十二番まで、十二人のうちのだれが最初に話すかを決めなければならない。

13 何かの事件で職務を果たすためにこの評議会が召集される場合、十二人の評議員はそれが難しいものかそうでないか考える。難しいものでなければ、前に記した方式で評議員の二人だけがそれについて話す。

14 しかし、難しいと思えば、四人を指名しなければならない。また、もっと難しければ、六人を指名しなければならない。しかし、いかなる場合も、六人以上を話すように指名してはならない。

15 訴えられた者は、すべての事件において、侮辱や不公平を防止するために評議会の半数の弁護を受け

9 ①GS「啓示」
②GS「支持（教会指導者の）」

る権利を持つ。

16 評議会の前で話すように指名された評議員たちは、証拠を検討した後、評議会の前にその事件の真相を提示しなければならない。また、各人は公平かつ公正に話さなければならない。

17 偶数、すなわち二、四、六、八、十、十二の数を引いた評議員は、訴えられた者のために立って、侮辱と不公平を防止しなければならない人である。

18 すべての事件において証言を聞き、その事件について話すように指名された評議員たちが彼らの所見を述べ終えた後、訴えた者と訴えられた者は評議会の前で自分自身のために語る特権を持つ。

19 証言を聞き、評議員と訴えた者と訴えられた者が語り終えた後、会長はその事件について自分の得ている理解に従って判決を下し、十二人の評議員に、彼らの賛意の表明によってそれを承認するように求める。

20 しかし、発言しなかった残りの評議員たち、すなわち彼らの中のだれかが、証言と弁論とを公平に聞いた後、会長の判決の中に誤りを見いだしたならば、彼らはそれを明らかにすることができる。そうすれば、その事件は再審理されることになる。

21 慎重な再審理の後、その事件についてさらに何らかの見解が示されたら、それに応じて判決を変更しなければならない。

22 しかし、新たな見解がない場合は、評議員の過半数がそれを決定する権限を持っているので、最初の判決がそのまま有効である。

23 1)教義や原則に関する問題の場合、評議会の人々の心にその件を明らかにするに十分な記述がなければ、会長は主に尋ね、2)啓示によって主の思いを知ることができる。

24 遠方の地では、当事者の双方あるいはどちらか一方が要請するときに、大祭司たちが前述の方法に倣って評議会を召集し組織して、問題を解決する権限を持つ。

25 前述の大祭司の評議会は、一時的にこのような評議会を管理するように彼ら自身のうちから一人を任じる権限を持つ。

26 前述の評議会には、その手続きの記録の写しを、その判決を添えたすべての証言記録とともに、教会の大管長会の所在地にある高等評議会に直ちに

23 ①民数9・8 ②GS「啓示」

送付する義務がある。

27 当事者の双方あるいはどちらか一方が前述の評議会の判決に不満であれば、彼らは教会の大管長会の所在地にある高等評議会に上訴し、再審理を受けることができる。そこではこの事件は、あたかもこのような判決が下されなかったかのように、前記の形式に従って取り扱われる。

28 遠方の地におけるこの大祭司の評議会は、教会に関する最も[1]困難な事件についてのみ召集すべきものである。普通一般の事件では、このような評議会を召集するに当たらない。

29 遠方の地における巡回大祭司や常駐大祭司は、このような評議会を召集することが必要か否かを告げる権限を持つ。

30 遠方の地における高等評議会や巡回大祭司と、十二人の使徒[1]によって構成される[2]巡回高等評議会との間には、その判決に差異がある。

31 前者の判決からは上訴があり得るが、後者の判決からはあり得ない。

32 後者では、戒めに対する背きが関係している場合に、教会の中央幹部だけが異議を唱えることができる。

33 議決事項。教会の大管長会の所在地にいる会長や会長たちは、上訴と、それに伴う証拠と陳述とを検討した後、上訴される事件が正当に再審理を受けるに相当するかどうかを決定する権限を持つ。

34 その後、十二人の評議員は、だれが最初に話すかを決めるためにくじ引き、すなわち抽選に移った。以下がその結果である。すなわち、一．オリバー・カウドリ、二．ジョセフ・コー、三．サミュエル・H・スミス、四．ルーク・ジョンソン、五．ジョン・S・カーター、六．シルベスター・スミス、七．ジョン・ジョンソン、八．オーソン・ハイド、九．ジェレド・カーター、十．ジョセフ・スミス・シニア、十一．ジョン・スミス、十二．マーティン・ハリス。祈りの後、休会した。

書記　オリバー・カウドリ
オーソン・ハイド

第103章

千八百三十四年二月二十四日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与え

28 ① 教義107・78
30 ① GS「使徒」
② 教義107・23－24、35－38

られた啓示（『教会歴史』第二巻、三十六—三十九ページ）。パーリー・P・プラットとライマン・ワイトが、ジャクソン郡の聖徒たちの救助ならびに聖徒たちが彼らの土地に戻ることについて預言者と協議するために、ミズーリからオハイオ州カートランドにやって来た。この啓示は、彼らが到着した後に与えられたものである。

1—4 ジャクソン郡の聖徒たちが迫害されるのを主が許された理由。5—10 聖徒たちは戒めを守るならば勝利を得る。11—20 シオンの贖いは力によって成し遂げられる。主は主の民の前を行かれる。21—28 聖徒たちはシオンに集合しなければならない。自分の命を捨てる者は、再びそれを見いだす。29—40 何人もの兄弟たちがシオンの陣営を組織してシオンへ行くように召される。忠実であれば、彼らは勝利を約束される。

1 まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。見よ、シオンの地に散らされた兄弟たちの救いと贖い[1]に関して、あなたがたが自分たちの務めを果たす[2]方法を知ることができるように、わたしはあなたがたに啓示と戒めを与える。

2 彼らはわたしの敵の手によって追い出され[1]、打たれた。それゆえ、わたしは、わたし自身の定めたときに、激しい怒りをこれらの敵に限りなく注ごう。

3 わたしは今まで彼らがそうするのを許してきた。それは、彼らがその罪悪の升目を満たして[1]、その杯が満ちるためであり、

4 また、わたしの名にちなんで自分自身を呼ぶ者たちが、わたしの与えた訓戒と戒めに完全には聞き従[1]わなかったので、しばしの間、ひどくかつ厳しい懲らしめ[2]を受けるようにするためである。

5 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの民が、主なる彼らの神であるわたしの与える勧告[1]に今この時点から聞き従うならば、わたしは、彼らが将来はっきりと理解する一つの定めをすでに下している。

6 見よ、わたしが定めたので、彼らはまさに今この時点から、わたしの敵に打ち勝ち始めるであろう。

7 主なる彼らの神であるわたしの語るすべての言葉に聞き従[1]うことによって、彼らは絶えず勝利を得るであろう。そして、ついには世のもろもろの王国[2]が

第103章
1 ① 教義101・43—62
② 教義43・8
2 ① 教義101・1、109・47
3 ① 13
4 ① 教義101・2、105・2
6 ② 教義95・1、GS「懲らしめ」
5 ① GS「勧告・勧め」
7 ① 教義35・24、GS「従う」
② ダニ2・44

わたしの足の下に従い、地が[3]聖徒たちに[4]与えられ
て、聖徒たちはとこしえにいつまでもこれを[5]所有す
るようになるであろう。
8 しかし、もしもわたしの民がわたしの戒めを[1]守ら
ず、わたしのすべての言葉に聞き従おうとしなけれ
ば、世の王国が彼らに打ち勝つであろう。
9 彼らは世の[1]光となり、人々の救い手となるように
定められた。
10 もしも彼らが人々の救い手でなければ、彼らは塩
気を失った[1]塩のようであり、もはや何の役にも立た
ず、ただ外に捨てられて人々に踏みつけられるだけ
である。
11 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。
わたしは、散らされたあなたがたの兄弟たちがそ
の[1]受け継ぎの地に帰って、シオンの荒れた所を築き
上げるように定めた。
12 わたしが以前の戒めの中であなたがたに言ったよ
うに、[1]多くの艱難の後に祝福が来るのである。
13 見よ、あなたがたの贖いと、あなたがたの兄弟た
ちの贖い、すなわち彼らがシオンの地に戻されて、
打ち立てられ、もう二度と倒されることのないこ
と、これが、わたしがあなたがたの艱難とあなたが
たの兄弟たちの艱難の後に来ると約束した祝福で
ある。
14 しかしながら、もしも彼らがその受け継ぎを汚す
ならば、彼らは倒される。彼らがその受け継ぎを汚
すならば、わたしは彼らを容赦しないからである。
15 見よ、わたしはあなたがたに言う。シオンの贖い
は力によって成し遂げられなければならない。
16 それゆえ、わたしは一人の男をわたしの民のため
に立てよう。その男は、[1]モーセがイスラエルの子ら
を導いたように彼らを導くであろう。
17 あなたがたはイスラエルの子らであり、[1]アブラハ
ムの子孫であって、力により、また伸べられた腕を
もって、囚われの身から導き出されなければならな
いからである。
18 そして、あなたがたの先祖が最初に導かれたよう
に、まことにシオンは贖われるであろう。
19 それゆえ、あなたがたは気落ちしてはならない。
わたしはあなたがたの先祖に、「わたしの[1]天使はあ
なたがたの前を上って行くけれども、わたしは[2]一緒
ではない」と言ったが、あなたがたにはそのように

7 ③ GS「聖徒」
④ ダニ7・27
⑤ 教義38・20
8 ① モサ1・13、教義82・10
9 ① 1ニフ21・6
10 ① マタ5・13−16、教義101・39−40
11 ① 教義101・18
12 ① 黙示7・13−14、教義58・4、112・13
16 ① 出エ3・2−10、教義107・91−92、GS「モーセ」
17 ① GS「アブラハム−アブラハムの子孫」「アブラハムの聖約（契約）」
19 ① GS「天使」
② 教義84・18−24

言わないからである。

20 むしろ、わたしはあなたがたに言う。「わたしの天[1]使たちはあなたがたの前を上って行き、わたしもともにおり、やがてあなたがたは良い土地を[2]所有するであろう。」

21 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアこそ、わたしがあなたがたに述べたたとえの中で[1]果樹園の主人の語りかけた僕にたとえた[2]人である。

22 それゆえ、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアは、シオンの地、すなわちわたしに奉献された金銭をもってわたしが買った土地に集まるように、わたしの家の[1]勇士、すなわち、わたしの若者たちと中年の者たちに言いなさい。

23 また、すべての教会は、賢い人々を金銭を持たせて遣わし、わたしが命じたように土地を[1]購入しなさい。

24 また、あなたがたがわたしの敵に対する証拠をわたしの前に持って来た後に、彼らが、わたしがシオンの地となるように聖別した良い[1]土地から、すなわちあなたがた自身の土地から、あなたがたを追い払うためにあなたがたに向かって来るならば、あなたがたは彼らをのろわなければならない。

25 また、だれであろうと、あなたがたがのろう者をわたしはのろうであろう。また、あなたがたはわたしの敵に報復しなければならない。

26 わたしを憎む者たちの三代、四代に至るまで、わたしはあなたがたとともにいて、わたしの敵に[1]報復するであろう。

27 だれもわたしのために自分の命を捨てるのを恐れてはならない。わたしのために自分の命を捨てる[1]者は、再びそれを見いだすからである。

28 また、わたしのために進んで自分の命を捨てない者は、わたしの弟子ではない。

29 わたしの思いは、わたしの僕[1]シドニー・リグドンが、東の地方における会衆の中でその声を上げて、シオンの回復と贖いに関してわたしが諸教会に与えた戒めを守るように、彼らを備えることである。

30 わたしの思いは、わたしの僕[1]パーリー・P・プラットとわたしの僕ライマン・ワイトが、シオンの地に上って行く隊を、十人、二十人、五十人、百人ずつ

---

20 ①出エ14・19−20 ②教義100・13
21 ①GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」 ②教義101・55−58
22 ①教義35・13−14、105
23 ①教義42・35−36、57・68−74
24 ①教義29・7−8、45・64−66、57・1−2
26 ①教義97・22
27 ①マタ10・39、ルカ9・24、教義98・13−15、124・54
29 ①GS「リグドン、シドニー」
30 ①GS「プラット、パーリー・パーカー」

つ得て、わたしの家の勇士五百人を得るまで、兄弟たちの地に帰らないことである。

31 見よ、これがわたしの思いである。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。しかし、人はいつでもわたしの思うところを行うわけではない。[1]

32 それゆえ、あなたがたは、もし五百人を得ることができなければ、三百人を得るように熱心に努めなさい。

33 また、もし三百人を得ることができなければ、百人を得るように熱心に努めなさい。

34 しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたとともにシオンの地に上って行くわたしの家の勇士百人を得るまで、シオンの地に上って行ってはならない。

35 それゆえ、わたしがあなたがたに言ったように、求めなさい、そうすれば与えられるであろう。わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアがあなたがたとともに行き、わたしの民の中で管理し、[1]奉献された土地でわたしの王国を組織し、あなたがたに与えられた、また将来与えられる律法と戒めの上にシオンの子らを打ち立てることができるように、真剣に祈りなさい。

36 すべての勝利と栄光は、あなたがたの[1]熱心さと、忠実さと、[2]信仰の祈りを通してあなたがたにもたらされるのである。

37 わたしの僕パーリー・P・プラットは、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアとともに旅をしなさい。

38 わたしの僕ライマン・ワイトは、わたしの僕シドニー・リグドンとともに旅をしなさい。

39 わたしの僕ハイラム・スミスは、わたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズとともに旅をしなさい。

40 わたしの僕オーソン・ハイドは、わたしの僕オーソン・プラットとともに旅をし、わたしがあなたがたに与えたこれらの戒めを守るために、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが彼らに告げる所へどこへでも行きなさい。そして、残りはわたしの手にゆだねなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

---

30 ②教義101・55
31 ①教義82・10
31 ①教義84・31
35 ①GS「熱心」
36 ①教義104・79—82
36 ②

第104章

千八百三十四年四月二十三日、共同制度、すなわち貧しい人を益するための教会の制度に関して、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第二巻、五十四—六十ページ）。この啓示が与えられたのは、大管長会と他の大祭司たちの評議会でのことである。この評議会では、人々の緊急の物質的必要が考慮された。カートランドの共同制度は一時的に解散されて再組織され、財産はその制度の会員の間で管理人の職として分配されることになった。

1—10 共同制度に反して戒めに背く聖徒たちはのろわれる。11—16 主は御自分の方法で聖徒たちを扶養される。17—18 福音の律法によって、貧しい人の世話の仕方が規定される。19—46 何人かの兄弟たちの管理人の職と祝福が示される。47—53 カートランドの共同制度とシオンの制度は、別個に運営されることになる。54—66 主の神聖な金庫が、聖文の印刷のために設けられる。67—77 共同制度の一般金庫は、会員の同意に基づいて運営されることになる。78—86 共同制度に属する者は、自分の負債をすべて返済しなければならない。そうすれば、主は金銭上の束縛から彼らを救い出してくださる。

1 まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。わたしが共同制度[1]また永遠の制度として組織し、設立することを命じた制度に属するすべての財産に関して、わたしはあなたがたに勧告と戒めを与える。この制度は、わたしが来るまでわたしの教会を益し、人々を救うためのものである。

2 わたしが命じたこのことには、わたしから命じられた者たちが忠実であれば多くの祝福をもって祝福されるという、不変不易の約束が伴っていた。

3 しかし、もしも忠実でなければ、彼らはやがてのろわれることになっていた。

4 それゆえ、わたしの僕の中のある者たちが戒めを守らず、[1]貪欲によって、また偽りの言葉をもって聖約を破ったので、わたしは非常にひどくかつ厳しいのろいをもって彼らをのろったのである。

5 その制度に属するだれかが戒めに背く者であると分かれば、言い換えれば、あなたがたを結び合わせる聖約を破るならば、彼は生涯のろわれて、わたし

第104章
1 ① 教義78・3—15、GS「共同制度」
4 ① GS「貪欲・むさぼり」

が望む者により踏みつけられると、主なるわたしは心の中に定めたからである。

6 主なるわたしは、これらのことで侮られることはないからである。

7 これはすべて、あなたがたの中の罪のない者が正しくない者とともに罪に定められることのないためであり、またあなたがたの中の罪のある者が罰を免れることのないためである。主なるわたしは、わたしの右手における栄光の冠をあなたがたに約束したからである。

8 それゆえ、もしあなたがたが戒めに背く者であると分かれば、あなたがたは生涯、わたしの激しい怒りを免れることはできない。

9 あなたがたは、戒めに背いて絶たれるならば、贖いの日までサタンから打たれるのを免れることはできない。

10 この制度に属する者で、戒めに背く者であることが分かり、しかもその悪を悔い改めない者がいれば、あなたがたがその者をサタンに引き渡して打たせるように、わたしは、まさに今この時点からあなたがたに力を与える。しかも、彼はあなたがたに害悪を及ぼす力を持たないであろう。

11 わたしの知恵にかなうので、一つの戒めを、わたしはあなたがたに与える。あなたがたは自らを組織し、すべての人をその管理人の職に任じなければならない。

12 それは、すべての人が、自分に定められる管理人の職についてわたしに報告できるようにするためである。

13 主なるわたしが、被造物のために造って備えたこの世のもろもろの祝福に対する管理人としての責任を、すべての人に取らせることは、必要なことだからである。

14 主なるわたしは天を広げ、また地を築いた。これらはまことにわたしの手の業である。そして、その中にある万物はわたしのものである。

15 万物はわたしのものであるから、わたしが意図しているのは、聖徒たちに必要なものを与えることである。

16 しかしそれは、わたし自身の方法で行われなければならない。見よ、富んでいる者を低くすることによって貧しい者を高くすること、これこそ、主なる

---

6 (1) ガラ 6・7−9
7 (1) イザ 62・3、教義 76・56、GS「栄光」
9 (1) GS「破門」
(2) GS「悪魔」
(3) 教義 82・21
10 (1) 教義 109・25−27
11 (1) 教義 42・32、GS「管理人、管理人の職」
13 (1) 教義 72・3−5、16−22
GS「責任を負う」
14 (1) イザ 42・5、45・12、GS「創造、創造する」
(2) 詩篇 19・1、24・1
16 (1) 教義 105・5、GS「福祉」
(2) サ上 2・7−8、ルカ 1・51−53、教義 88・17

わたしが聖徒たちに必要なものを与えるために定めた方法である。

17 1)地は満ちており、十分にあり余っているからである。まことに、わたしはすべてのものを備え、人の子らが自ら2)選択し行動する者となるようにした。

18 それゆえ、わたしの造った1)豊かなものの中から取りながら、わたしの福音の2)律法に従って3)貧しい者や乏しい者に物を分け与えることをしない者は、悪人とともに、4)地獄で苦しみながら見上げるであろう。

19 さて、まことに、わたしはこの1)制度の財産に関してあなたがたに言う。

20 わたしの僕シドニー・リグドンには、わたしが命じるときに、わたしの望むままに彼がわたしのぶどう園で働く間、彼を扶養するために、彼が今住んでいる場所と皮なめし所の敷地を彼の管理の財産として定めるようにしなさい。

21 すべてのことを、カートランドの地に住むこの制度の会員の助言と、この制度の会員の一致した同意や声に従って行いなさい。

22 この管理の財産と祝福を、主なるわたしは、わたしの僕シドニー・リグドンと彼の後の子孫への祝福として彼に授ける。

23 また、彼がわたしの前に謙遜であれば、わたしは彼に数々の祝福を増し加えよう。

24 さらにまた、わたしの僕マーティン・ハリスには、彼と彼の後の子孫のために、わたしの僕ジョン・ジョンソンが以前の受け継ぎの地と引き換えに得た土地の敷地を、彼の管理の財産として定めるようにしなさい。

25 また、彼が忠実であれば、わたしは彼と彼の後の子孫に数々の祝福を増し加えよう。

26 また、わたしの僕マーティン・ハリスに、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが指示するとおりに、わたしの言葉を宣言するために金銭をささげさせなさい。

27 さらにまた、わたしの僕フレデリック・G・ウィリアムズには、彼が今住んでいる場所を所有させなさい。

28 わたしの僕オリバー・カウドリには、印刷所として使われる家に隣接する区画された敷地、すなわち第一の敷地と、彼の父親が住んでいる敷地を所有さ

17 ①教義59・16—20、GS「地球（地）」
18 ①②GS「選択の自由」 ②ルカ3・11、新ヤコ2・15—16 ②教義42・30 ②③箴言14・21、モサ4・26、教義52・40 ④ルカ16・20—31
19 ①GS「共同制度」

せなさい。

29 わたしの僕たち、フレデリック・G・ウィリアムズとオリバー・カウドリに、印刷所とそれに付属するすべてのものを与えなさい。

30 これは彼らに定められる管理の財産となる。

31 彼らが忠実であれば、見よ、わたしは彼らを祝福し、数々の祝福を増し加えよう。

32 これは、彼らと彼らの後の子孫のために、わたしが彼らを任じた管理人の職の初めである。

33 彼らが忠実であれば、わたしは彼らと彼らの後の子孫に数々の祝福を、まことに多くの祝福を増し加えよう。

34 さらにまた、わたしの僕ジョン・ジョンソンに、彼が住んでいる家と受け継ぎの地のすべてを与えなさい。ただし、わたしの家を建てるために確保されているその受け継ぎの地に付属する土地、ならびにわたしの僕オリバー・カウドリのために指定された敷地は除外される。

35 彼が忠実であれば、わたしは彼に数々の祝福を増し加えよう。

36 わたしの思いは、御霊の声によって、この制度の会員の助言によって、またこの制度の会員の声によって彼に知らされるとおりに、彼がわたしの聖徒たちの町を築くために区画された敷地を売ることである。

37 これは、彼と彼の後の子孫への祝福として、わたしが彼に定めた管理人の職の初めである。

38 彼が忠実であれば、わたしは彼に多くの祝福を増し加えよう。

39 さらにまた、わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーには、彼が今住んでいる家と敷地、および商店のある敷地と建物、ならびに商店の南の角にある敷地、それに灰焼場のある敷地を定めるようにしなさい。

40 これをすべて、わたしは、わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーの管理の財産として、彼と彼の後の子孫への祝福として、またわたしがカートランドの地におけるわたしのステークのために設けたわたしの制度の商店の益のために、彼に定めたのである。

41 まことに、この商店のすべては、わたしの僕N・K・ホイットニーに、まことに彼と彼の代理人、お

34① 教義94・3、10
36① GS「啓示」
36① GS「ホイットニー、ニューエル・K」
39① 教義84・112—113
41①

よび彼の後の子孫にわたしが定めた管理の財産である。

42 彼がわたしから与えられた戒めを忠実に守れば、わたしは彼と彼の後の子孫に数々の祝福を、まことに多くの祝福を増し加えよう。

43 さらにまた、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアには、わたしの家を建てるために区画されている奥行四十ロッド、幅十二ロッドの敷地と、また彼の父親が今住んでいる受け継ぎの地を定めるようにしなさい。

44 これは、彼と彼の父親への祝福として、わたしが彼に定めた管理人の職の初めである。

45 見よ、わたしは彼の父親[1]を扶養するために、彼のための受け継ぎの地を取っておいたからである。それゆえ、彼はわたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアの家の中に数えられるであろう。

46 わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが忠実であれば、わたしは彼の家に数々の祝福を、まことに多くの祝福を増し加えよう。

47 さて、わたしはシオンに関してあなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたはもはや、一つの共同制度としてシオンの同胞に拘束されることがあってはならない。ただ次のようになる。

48 すなわち、あなたがたは自らを組織した後に、「カートランドの町、シオンのステーク[1]の共同制度」と呼ばなければならない。また、あなたがたの兄弟たちは組織した後、「シオンの町の共同制度」と呼ばなければならない。

49 彼らは彼ら自身の名によって、またそれ自体の名によって組織しなければならない。また、彼らはそれ自体の名によって、また彼ら自身の名によって務めを行わなければならない。

50 そして、あなたがたはそれ自体の名によって、またあなたがた自身の名によってあなたがたの務めを行わなければならない。

51 わたしはこれを、あなたがたの救いと、彼らの救いのために行うように命じた。彼らが追い出されたためであり、また来るべきことのためである。

52 聖約[1]が、戒めに背くことによって、また貪欲[2]と偽りの言葉によって破られたので、

53 あなたがたは、兄弟たちと結ばれていた共同制度としては解散される。そして、この時点まではと

45 ① 教義90・20、GS「スミス、ジョセフ、ジニア」
48 ① 教義82・13、94・1、109・59、GS「ステーク」
51 ① 教義109・47
52 ① GS「聖約（契約）」 ② GS「貪欲・むさぼり」

もかく、これからはわたしの述べたように、この制度が評議会において同意し、あなたがたの事情が許して評議会の声が支持するままに行う貸し借りのほか、あなたがたは兄弟たちと結びつきを持たない。

54さらにまた、わたしがあなたがたに定めた管理の財産に関して、あなたがたに戒めを与える。

55見よ、すべてこれらの財産はわたしのものである。そうでなければ、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは偽善者とされ、あなたがたがわたしと交わした聖約は破られる。

56そして、それらの財産がわたしのものであるならば、あなたがたは管理人[1]である。そうでなければ、あなたがたは管理人ではない。

57しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたをわたしの家をつかさどる管理人とした。実にあなたがたは管理人なのである。

58そして、わたしがあなたがたに自らを備えるようにと命じたのは、この目的のためである。すなわち、わたしの聖文[1]のすべてと、わたしがかつてあなたがたに与えた啓示、またこの後折々あなたがたに与える啓示を印刷するためである。

59それらの啓示が与えられるのは、地上にわたしの教会と王国を築き上げ、わたしが自分の民とともに住むときに対して彼らを備えるためである。[2] その時はもう近づいている。

60あなたがたは金庫のための場所を備えて、そこをわたしの名のために奉献しなければならない。

61また、その金庫を守るためにあなたがたの中の一人を任命し、この祝福に聖任しなければならない。

62また、その金庫に封を施し、すべて神聖なものをその金庫に納めなければならない。そして、あなたがたの中のだれも、それを、あるいはその一部といえども自分のものと言ってはならない。それはあなたがた全員のものだからである。

63わたしは今この時点から、あなたがたにそれを与える。あなたがたは行って、わたしが述べたようにこれらの神聖なものを印刷するために、神聖なものは除いて、わたしがあなたがたに定めた管理の財産を使うようにしなさい。

64また、その神聖なものから得る利益は金庫に納

56① GS「管理人・管理人の職」
58① GS「ジョセフ・スミス訳（JS）」
59① 教義1・35—36、29・9—11
② GS「福千年」

め、その上に封を施さなければならない。そして、制度の会員の声によるか、あるいは戒めによる以外には、だれもそれを使ったり、金庫から取り出したりしてはならず、またその上に施された封を解くことも許されない。

65 このように、あなたがたはその神聖なものから得る利益を、神聖かつ聖なる目的のために金庫に保管しなければならない。

66 そして、これを主の神聖な金庫と呼ばなければならない。また、それが聖なるもので、主に奉献されたものとなるように、その上に封を施さなければならない。

67 さらにまた、別の金庫を備え、その金庫を守るために金庫係を任命し、またそれに封を施さなければならない。

68 また、わたしがあなたがたに定めた財産、すなわち家や土地や家畜や、わたしが神聖かつ聖なる目的でわたしのために取っておいた神聖かつ聖なる書き物を除くすべてのものを、よく活用することによって、あなたがたが管理の財産から得るすべての金銭は、それを受け取り次第、百ドルでも、五十ドルでも、二十ドルでも、十ドルでも、五ドルでも、金庫に納めるようにしなければならない。

69 言い換えれば、五ドルを得た者は、五ドルを金庫に納めなさい。十ドル、二十ドル、五十ドル、あるいは百ドルを得たとしても、同様にしなさい。

70 そして、あなたがたの中のだれも、それは自分のものであると言ってはならない。それは、あるいはその一部といえども、自分のものと言ってはならないからである。

71 また、制度の会員の声と同意によらなければ、その一部といえども使ったり、金庫から取り出したりしてはならない。

72 制度の会員の声と同意とはこうである。すなわち、あなたがたの中のだれかが金庫係に、「わたしの管理人の職の助けとしてこれが必要です」と言う。

73 五ドルでも、十ドルでも、二十ドルでも、五十ドルでも、百ドルでも、金庫係は、彼が管理人の職を果たすのを助けるために必要な金額を与えなければならない。

74 彼が戒めに背く者であると見なされ、不忠実で愚かな管理人であることがこの制度の評議会の前には

74① ルカ16・1—12

っきりと明らかになるまで、そのようにしなければならない。

75 しかし、彼が完全な会員資格を持ち、管理人の職に関して忠実で賢明であるかぎり、これは金庫係にとって、金庫係が拒んではならないしるしとなる。

76 しかし、彼が戒めに背いている場合、金庫係はこの制度の評議会と声に従わなければならない。

77 また、金庫係が不忠実で愚かな管理人であると見なされた場合、彼はこの制度の評議会と声に従い、その職から退けられる。そして、1)別の者が彼の代わりに任命される。

78 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたの負債に関してあなたがたに言う。見よ、わたしの思いは、あなたがたがすべての1)負債を2)返済することである。

79 また、わたしの思いは、あなたがたがわたしの前に1)へりくだり、あなたがたの2)熱心と謙遜と信仰の祈りによってこの祝福を得ることである。

80 そして、あなたがたが熱心かつ謙遜であり、信仰をもって1)祈るならば、見よ、わたしは貸し主の心を和らげ、その間に資産を授けてあなたがたを救おう。

81 それゆえ、速やかにニューヨークに手紙を書き送り、わたしの御霊が告げるとおりに書き伝えなさい。わたしはあなたがたの貸し主の心を和らげて、あなたがたを苦しめようという思いが彼らの心の中から取り去られるようにしよう。

82 そして、あなたがたが1)謙遜かつ忠実であり、わたしの名を呼ぶならば、見よ、わたしはあなたがたに2)勝利を与えよう。

83 わたしはあなたがたに一つの約束を与える。あなたがたはこの度に限って、束縛から解放されるであろう。

84 もしあなたがたが束縛から救われるに十分な借り入れをするまで、百ドルでも、千ドルでも、金銭を借り入れる機会を得るとすれば、それはあなたがたの特典である。

85 会員の同意により、あるいはあなたがたが良いと思うそのほかの方法により、この度に限ってあなたがたの名をもって、わたしがあなたがたの手に渡した財産を抵当に入れなさい。

86 わたしはこの度に限って、あなたがたにこの特典

---

77 ① 教義107・99—100
78 ① GS「負債」
② 教義42・54
79 ① GS「謙遜」
② GS「熱心」
80 ① 新ヤコ5・15
81 ① GS「聖霊」
82 ① ルカ14・11、教義67・10
② 教義103・36

を与える。見よ、あなたがたがわたしの命じたとおりに、わたしがあなたがたの前に提示したことに取りかかるならば、すべてこれらのものはわたしのものであり、あなたがたはわたしの管理人であるので、主人は自分の家に押し入られるのを許さない。まことにそのとおりである。アーメン。

第105章

千八百三十四年六月二十二日、ミズーリ州フィッシング川において、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第二巻、百八—百十一ページ）。ミズーリの聖徒たちに対する集団暴行が増し、幾つかの郡からの組織集団が教会の人々を滅ぼす意図のあることを宣言していた。預言者は、衣類と生活物資を運んで来た「シオンの陣営」として知られる一隊を率いてカートランドからやって来ていた。この隊がフィッシング川で野営していたときに、預言者はこの啓示を受けた。

1—5 シオンは日の栄えの律法に従って築き上げなければならない。6—13 シオンの贖いは、しばしの間延期される。14—19 主はシオンの戦いを戦われる。20—26 聖徒たちは集合するとき、賢明であって、力ある業を自慢してはならない。27—30 ジャクソン郡とそれに隣接する郡の土地を購入しなければならない。31—34 長老たちは、カートランドにおける主の宮でエンダウメントを受けなければならない。35—37 召されかつ選ばれる聖徒たちは、聖められる。38—41 聖徒たちは世に平和の旗を掲げなければならない。

1 まことに、わたしは、苦しんでいるわたしの民の1)贖いに関するわたしの思いを知るために集まったあなたがたに言う。

2 見よ、わたしはあなたがたに言う。各個人ではなく教会全体について語れば、わたしの民は戒めに1)背かなかったならば、今はもう贖われていたであろう。

3 しかし見よ、彼らはわたしが彼らの手に求めたことに従おうとせず、あらゆる悪に満ち、また聖徒としてふさわしく彼らの中の貧しい者や苦しんでいる者に持ち物を1)分け与えない。

4 また、日の栄えの王国の律法により求められている和合一致に1)従って結束していない。

第105章
1 1) 教義100・13
2 1) 教義104・4—5、52
3 1) 使徒5・1—11、教義42・30、GS「奉献・奉献の律法」
4 1) 教義78・3—7

5 日[1]の栄えの王国の律法の諸原則[2]によらなければ、シオン[3]を築き上げることはできない。そうでなければ、わたしはシオンをわたしのもとに迎えることはできない。
6 そして、わたしの民は、たとえ苦しみを受けることによらなければならないとしても、従順[1]を学ぶまで、必ず懲らしめ[2]を受けなければならない。
7 わたしが述べているのは、わたしの民を導くために任命された者たち、すなわちわたしの教会の最初[1]の長老たちについてではない。彼らのすべてがこの罪の宣告の下にいるわけではないからである。
8 わたしが述べているのは、外にあるわたしの諸教会についてである。多くの者は言う。「彼らの神はどこにおられるのか。見よ、苦難のときに、神は彼らを救い出されるであろう。そうでなければ、我々はシオンに上って行かず、我々の金銭を取っておこう。」
9 それゆえ、わたしの民が戒めに背い[1]たので、わたしが必要としているのは、わたしの長老たちがしばしの間シオンの贖いを待つことである。
10 それは、彼ら自身が備えられるためであり、またわたしの民がもっと十分に教えを受け、経験を得、彼らの義務[1]とわたしがその手に求めることに関してもっと十分に知るためである。
11 わたしの長老[1]たちが高い所から力[2]を授けられるまで、これは成し遂げられない。
12 見よ、彼らが忠実であり、わたしの前に引き続き謙遜であるならば、わたしは、一つの大いなるエンダウメントと祝福が彼らに注[1]がれるように用意をしている。
13 それゆえ、わたしが必要としているのは、長老たちがしばしの間シオンの贖いを待つことである。
14 見よ、わたしはシオンの戦いを戦うことを彼らの手に求めない。「わたしはあなたがたの戦いを戦う[1]」と、以前の戒めの中で言ったとおりに、わたしが行うからである。
15 見よ、わたしは、敵を滅ぼし荒らすために滅ぼす[1]者を遣わした。これから多くの年がたたないうちに、敵がわたしの譲りの地を汚したり、聖徒たちの集合のためにわたしが聖別[2]した地で彼らがわたしの名を汚[3]したりすることは許されなくなるであろう。

---

5 ① 教義88・22
② 教義104・15−16
③ GS「シオン」
6 ① GS「従順・従う」
② 教義95・1−2、GS「懲らしめ」
7 ① 教義20・2−3
9 ① 教義103・4
10 ① GS「義務」
11 ① GS「長老」
② 教義38・32、95・8、GS「エンダウメント」
12 ① 教義110章
14 ① ヨシ10・12−14、イザ49・25、教義98・37
15 ① 教義1・13−14、
② 教義84・3−4、103・35
③ 教義112・24−26、GS「冒瀆・汚す罪」

16 見よ、わたしの家の勇士[1]、すなわち、わたしの戦士、わたしの若者たちと中年の者たちに、わたしの民の贖いのために集まってわたしの敵の見張り台を崩し、その見張り人[2]を追い散らすように告げよ、とわたしは僕であるジョセフ・スミス・ジュニアに命じた。

17 しかし、わたしの家の勇士はわたしの言葉に聞き従わなかった。

18 しかし、ある者たちはわたしの言葉に聞き従ったので、彼らが続けて忠実であれば、わたしは彼らのために祝福とエンダウメント[1]を用意している。

19 わたしは彼らの祈りを聞いた。そして、彼らのさげ物を受け入れる。信仰[1]の試練として、彼らがここまで連れて来られることは、わたしにとって必要であった。

20 さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに戒めを与える。ここまで上って来た者で、この周りの地域にとどまることのできる者がいれば、彼らを皆とどまらせなさい。

21 また、東部に家族がいて、とどまることのできない者は、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが指示するままに、しばしの間滞在しなさい。

22 わたしはこの件に関して彼に助言するので、彼が指示することはすべて果たされるであろう。

23 また、この周りの地域に住むわたしの民は皆、大いに忠実であり、よく祈り、わたしの前にへりくだりなさい。そして、わたしが明らかにした事柄を、それらを知らせるのがわたしの知恵にかなうときまで知らせないようにしなさい。

24 裁きについて語らず、また信仰も力ある業も自慢[1]することなく、注意深く集まって、人々の気持ちに添うようにできるだけ一地域にいるようにしなさい。

25 また見よ、あなたがたが、「法律に従ってわたしたちのために裁きと公平とを行い、わたしたちの受けた不当な扱いに対して補償をしてください」と人々に言っている間、あなたがたが平穏[1]かつ安全でいられるように、わたしは彼らの好意と善意をあなたがたに与えよう。

26 さて見よ、わたしは友であるあなたがたに言う。このような方法で、あなたがたは人々の好意を得ることができ、ついにイスラエルの軍勢[1]はきわめて大

16①教義101・55、103・22、30②GS「見守る・見守る者」
18①教義110・8—10
19①GS「信仰」
24①教義84・73、GS「高慢」
25①GS「平安・平和」
26①ヨエ2・11

いなるものとなる。

27 わたしは、パロ[1)]の心を和らげたように、折々に人々の心を和らげよう。そして、わたしが任命したわたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアとわたしの長老たちが、わたしの家の勇士を集める時間と、

28 また、ジャクソン郡やその周りの隣接する郡においてすべての購入可能な土地を購入[1)]することに関して、わたしが命じたことを果たすために、賢い[2)]人々を遣わす時間を得られるようにしよう。

29 わたしの思いは、聖徒たちがこれらの土地を購入し、これらを購入した後、わたしの与えた奉献[1)]の律法に従ってこれらを所有することである。

30 そして、これらの土地を購入した後は、イスラエルの軍勢[1)]が以前に金銭をもって購入した彼ら自身の土地を所有し、そこにあるわたしの敵の見張り台を崩し、その見張り人を追い散らし、わたしを憎む者たちの三代、四代に至るまでわたしの敵に報復[2)]することを、わたしは罪がないとするであろう。

31 しかし、まず、わたしの軍勢[1)]をきわめて大いなるものとなし、わたしの前に聖なるものとしなさい。それが太陽のように美しく、月[2)]のように明るくなり、またその旗がすべての国民にとって恐ろしいものとなるためである。

32 そして、この世のもろもろの王国が、「シオンの王国は、まことに我らの神とそのキリストの王国[1)]である。だから、その律法[2)]に従おう」と認めざるを得なくするためである。

33 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしが必要としているのは、カートランドの地にわたしの名のために建てるように命じたわたしの家において、わたしの教会の最初の長老たちが、高い所から授けられるエンダウメント[1)]を受けることである。

34 わたしがシオンとその律法[1)]に関して与えたそれらの戒めは、シオンの贖いの後に実行し、果たすようにしなさい。

35 召し[1)]の日は過ぎ去り、選びの日が来た。そこで、ふさわしい[2)]者たちを選ぶようにしなさい。

36 選ばれ[1)]る者たちについては、御霊の声によって、わたしの僕に明らかにされるであろう。そして、彼らは聖められ[2)]るであろう。

37 また、彼らが自分の受ける勧告[1)]に従うならば、多くの日の後、彼らはシオンに関するすべてのことを

---

27 ①創世 47・1—12
28 ①教義 42・35—36 ②教義 101・73
29 ①教義 42・30、GS「共同制度」「奉献・奉献の律法」
30 ①教義 35・13—14、101・55、103・22、26 ②教義 97・22
31 ①②GS「聖め」 ②雅歌 6・10、教義 5・14、109・73
32 ①黙示 11・15、GS「神の王国・天の王国」 ②GS「政府」
33 ①②教義 95・8—9、GS「エンダウメント」
34 ①第 42 章は「律法」として知られている
35 ①GS「召し・神の召し」 ②GS「ふさわしさ」
36 ①②教義 95・5、GS「選ぶ」
37 ①②GS「聖め」 GS「勧告・勧め」

成し遂げる力を持つであろう。
38さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたを打った人々だけでなく、すべての人に平和を訴えなさい。
39平和の旗[1]を掲げ、地の果てまで平和を宣言しなさい。
40また、あなたがたの内にある御霊の声に従って、あなたがたを打った者に和解を申し出なさい。そうすれば、万事があなたがたの益[1]となるようにともに働くであろう。
41それゆえ、忠実でありなさい。そうすれば、見よ、見よ、わたしはまことに最後まであなたがたとともにいる。まことにそのとおりである。アーメン。

第106章

千八百三十四年十一月二十五日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第二巻、百七十一百七十一ページ）。この啓示は、オリバー・カウドリの兄ウォレン・A・カウドリにあてられたものである。

1−3 ウォレン・A・カウドリが地元の管理役員として召される。4−5 再臨が盗人のように不意に光の子を襲うことはない。6−8 教会で忠実に奉仕すると、大いなる祝福がもたらされる。

1わたしの思いは、わたしの僕ウォレン・A・カウドリが、[1]フリーダムの地とその周りの地域におけるわたしの教会の管理大祭司に選ばれ、聖任され、
2わたしの永遠の福音を宣べ伝え、彼の任地だけでなく隣接する郡においても、その声を上げて人々に警告し、
3わたしが今彼に与えるこの気高くかつ聖なる召しに全時間をささげ、[1]天の王国とその義を熱心に求めることである。そうすれば、必要なものはすべて添えて与えられるであろう。[3]働き人が報酬を受けるのは当然だからである。
4さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。主の来臨[1]が近づいており、[2]それは夜の盗人[3]のように不意に世を襲う。
5それゆえ、あなたがたは光[1]の子となるために、腰に帯を締めなさい。そうすれば、その日が盗人のよ

---

39 ①GS「平安・平和」 ②GS「旗」
40 ①ロマ8・28、教義90・24、100・15
41 ①マタ28・19−20
第106章
1 ①ニューヨーク州フリーダムの町とその周辺
3 ①マタ6・33 ②GS「神の王国・天の王国」 ③マタ10・10、教義31・5
4 ①新ヤコ5・8 ②GS「終わりの時・末日」 ③1テサ5・2
5 ①GS「光・キリストの光」

うに不意にあなたがたを襲[2]うことはないであろう。
6 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ウォレンがわたしの笏に身をかがめ、人の悪賢い行いから身を引いたとき、天に喜びがあった。
7 それゆえ、わたしの僕ウォレンは、幸いである。わたしは彼を憐れむからである。彼に虚栄心があるにもかかわらず、もし彼がわたしの前にへりくだるならば、わたしは彼を高く上げよう。
8 また、わたしは彼に[1]恵みと確信を与えて、彼が立てるようにしよう。もし彼が続けて忠実な証人であり、教会にとって光となるならば、わたしは父の[2]住まいに彼のために冠を用意している。まことにそのとおりである。アーメン。

第107章

千八百三十五年二月二十八日付けの、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた神権に関する啓示（『教会歴史』第二巻、二百九―二百十七ページ）。この日に、十二使徒は評議会を開き、各自の弱点と短所を告白し、悔い改めを表明し、主のいっそうの導きを求めた。彼らは割り当てられた地方への伝道のために、別れて出かけようとしていたところであった。本章の多くの部分はこの日に与えられたが、歴史記録によれば、千八百三十一年十一月に与えられた部分を初めとして、いろいろな時期に与えられたものが含まれている。

1–6 二つの神権、すなわちメルキゼデク神権とアロン神権がある。7–12 メルキゼデク神権を持つ者は、教会におけるすべての職務を行う力を持つ。13–17 ビショップリックは、外形上の儀式を執行するアロン神権を管理する。18–20 メルキゼデク神権はすべての霊的な祝福の鍵を持つ。アロン神権は天使の働きの鍵を持つ。21–38 大管長会、十二使徒会、および七十人会はそれぞれ管理定員会を構成し、彼らの決議は一致と義によって下されなければならない。39–52 アダムからノアまで族長制度が確立された。53–57 古代の聖徒たちがアダム・オンダイ・アーマンに集まり、主が彼らに姿を現された。58–67 十二使徒会は教会の役員たちを整えなければならない。68–76 ビショップはイスラエルの一般判士を務める。77–84 大管長会と十二使徒

---

5 ② 黙示16・15
7 ① GS「こうぼれ」
8 ① GS「恵み」
② ヨハ14・2、エテ12・32–34、教義59・2、76・111、81・6、98・18

会は、教会の最高法廷を構成する。85−100 神権組織の
会長は、それぞれの定員会を管理する。

1 教会には二つの神権、すなわち、[1]メルキゼデク神
権と、レビ神権を含む[2]アロン神権がある。
2 なぜ前者がメルキゼデク神権と呼ばれるかといえ
ば、[1]メルキゼデクはそれほど偉大な大祭司であった
からである。
3 彼の時代の前には、これは神の[1]御子の位に従う聖
なる神権と呼ばれていた。
4 しかし、至高者の名を[1]敬い尊ぶことから、この名
をあまり頻繁に繰り返すのを避けるために、昔の教
会員はこの神権を、メルキゼデクにちなんで、メル
キゼデク神権と呼んだのである。
5 教会における他のすべての権能または職は、こ
の神権に[1]付属するものである。
6 しかし、二つの区分、すなわち大きな部類がある。
一つはメルキゼデク神権であり、他はアロン神権ま
たは[1]レビ神権である。
7 [1]長老の職は、メルキゼデクの神権の下にある。
8 メルキゼデク神権は管理する権利を有し、この世
のあらゆる時代に、教会におけるすべての職を管理
し、霊的な事柄をつかさどる力と[1]権能を持つ。
9 メルキゼデクの位に従う大神権の[1]大管長会は、
教会におけるすべての職務を行う権利を持つ。
10 メルキゼデク神権の位に従う[1]大祭司は、大管長
会の指示の下に、自らの職において職務を行い、霊
的な事柄をつかさどる[2]権利を持つ。また、長老や
（レビの位の）祭司、教師、執事、および会員の職
務を行う権利をも持つ。
11 長老は、大祭司が不在のときに、彼の代わりに職
務を行う権利を持つ。
12 大祭司と長老は、教会の聖約と戒めにかなって、
霊的な事柄をつかさどらなければならない。また、
彼らは、上位の権能を持つ者が不在のときに、教会
のすべての職務を行う権利を持つ。
13 第二の神権は、[1]アロンの神権と呼ばれる。それが
[2]アロンとその子孫に代々授けられたからである。
14 なぜそれが小神権と呼ばれるかといえば、それが
大神権、すなわちメルキゼデク神権に[1]付属するもの
であり、外形上の儀式を執行する力を持つからであ
る。

第107章
1 ① GS「メルキゼデク神権」
② GS「アロン神権」
2 ① JS創世14・25−40、教義84・14、GS「メルキゼデク」
3 ① アル13・3−19、教義76・57
4 ① GS「敬虔」
5 ① 教義84・29、107・14
6 ① 申命10・8−9
7 ① GS「長老」
8 ① GS「権威・権限・権能」
9 ① 教義81・2、107・22、65−67、91−92
10 ① GS「大祭司」
② 教義121・34−37
13 ① GS「アロン神権」
② GS「アロン（モーセの兄）」
14 ① 教義20・52、107・5

15 1)ビショップリックはこの神権の会長会であり、その鍵、すなわち権能を持つ。

16 だれもアロンの直系の子孫でなければ、この職に就き、この神権の鍵を所有する律法上の権利を持つことはない。

17 しかし、メルキゼデク神権の大祭司は、それ以下のすべての職の職務を行う権能を持つので、アロンの直系の子孫がだれも見つからないときは、メルキゼデク神権の1)大管長会の手によってこの力を有する職に召され、任命され、2)聖任されるならば、ビショップの職務を行うことができる。

18 大神権すなわちメルキゼデク神権の力と権能とは、教会のすべての霊的な祝福の1)鍵を持つことである。

19 すなわち、天の王国の1)奥義を受ける特権を持ち、天が彼らに開かれ、2)長子の教会の総集いと親しく交わり、また父なる神と新しい3)聖約の仲保者イエスの親しい交わりと臨在とを享受することである。

20 小神権すなわちアロン神権の力と権能とは、天使の働きの1)鍵を持ち、また聖約と戒めにかなって外形上の2)儀式、すなわち福音の3)文字、4)罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを執行することである。

21 これら二つの神権におけるそれぞれの職に聖任された者たちの中から、会長、すなわち管理役員が出るように、すなわち任命されるようにする必要がある。

22 1)メルキゼデク神権を持つ者の中から、この団体によって選ばれ、その職に指名され、聖任され、また教会員の信頼と信仰と祈りによって2)支持された三人の3)管理大祭司が、教会の大管長会の定員会を構成する。

23 1)十二人の巡回評議員は召されて、十二使徒、すなわち全世界におけるキリストの名の特別な証人となる。このように彼らは、その召しの義務が教会における他の役員とは違っている。

24 そして、彼らは、前に述べた三人から成る大管長会と同等の権能と力を持つ定員会を構成する。

25 1)七十人も召されて、福音を宣べ伝え、異邦人と全世界に対する特別な証人となる。このように彼らは、その召しの義務が教会における他の役員とは違っている。

26 そして、彼らは、今述べた十二人の特別な証人、

15 ①GS「ビショップ」 ②教義68・14—21、107・68—76
16 ①教義68・15
17 ①②GS「聖任」
18 ①②GS「神権の鍵」 ②アル12・9—11、教義63・23、84・19—22、GS「神の奥義」
19 ①②ヘブ12・22—24 ③GS「仲保者」 教義13・1、84・26
20 ①②GS「儀式」 ③ロマ7・6 ④⑤GS「罪の赦し」 GS「バプテスマ」
21 ①GS「メルキゼデク神権」 ②GS「支持（教会指導者の）」 ③教義90・3、6、107・9、65—67、78—84、91—
22 ①②GS「使徒」
23 ①教義107・33—35
25 ①②GS「七十人」

すなわち十二使徒の権能と同等の権能を持つ定員会を構成する。

27 これらいずれの定員会が下す決議も皆、その定員会の全会一致の声によってなされなければならない。すなわち、彼らの決議を互いに同等の力すなわち効力のあるものとするために、各定員会のすべての会員がその決議に同意しなければならない。

28 事情によりやむを得ないときは、過半数で定員会を成立させることができる。

29 定員会の決議が全会一致でないかぎり、彼らの決議は、メルキゼデクの位に従って聖任された、義にかなった聖なる人であった昔の三人の長から成る定員会の決議が受けるに値したものと同等の祝福を受けるに値しない。

30 これらの定員会、またはそれらのいずれかの決議は、完全な義により、聖さとへりくだった心、柔和と寛容により、また信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、および慈愛により下されなければならない。

31 なぜならば、これらのものが彼らの内にますます豊かになるならば、彼らは主を知る知識について実を結ばない者となることはない、という約束があるからである。

32 また、これらの定員会のいかなる決議でも不義に下されるならば、教会の霊にかかわる権能を持つ者たちが構成する複数の定員会の総会の前にそれを持ち出すことができる。そうでなければ、彼らの決議からの上訴はあり得ない。

33 十二使徒会は巡回管理高等評議会であり、天の規定にかなって教会の大管長会の指示の下に主の名において職務を行い、まずまず異邦人のために、次いでユダヤ人のために、教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。

34 七十人は、[1]十二使徒会、すなわち巡回高等評議会の指示の下に主の名において行動し、まず異邦人のために、次いでユダヤ人のために、教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。

35 十二使徒は、遣わされ、鍵を持ち、イエス・キリストの福音を宣言することによって門を開く。これはまず異邦人に、次いでユダヤ人に行われる。

36 シオンのステークにおける常任高等評議会は、

30 ① 教義121・36、GS「義」
31 ① 教義121・41、GS「徳」
② 2ペテ1・5−8
33 ① 1ニフ13・42、3ニフ16・4−13、教義90・8−9
34 ① 教義112・21
36 ① GS「高等評議会」

教会の諸事に関する彼らのすべての決議において、大管長会の定員会、あるいは巡回高等評議会と同等の権能を持つ定員会を構成する。

37 シオンにおける高等評議会は、教会の諸事に関する彼らのすべての決議において、シオンのステークにおける十二人の評議会と同等の権能を持つ定員会を構成する。

38 巡回高等評議会は、福音を宣べ伝え、福音を施すために、様々な召しを果たすに当たって助けを必要とするときには、ほかの人々ではなく、七十人[1]に要請しなければならない。

39 十二使徒は、教会のすべての大きな支部において、啓示により知らされるままに、[1]福音の教導者を聖任しなければならない。

40 この神権の位は、父親から息子へ継承されるように確認されたものであり、約束を与えられた、選ばれた血統の直系の子孫に正当に属するものである。

41 この位はアダム[1]の時代に設けられ、次のように血統[2]によって継承された。

42 すなわち、アダムからセツに継承された。[1]セツは六十九歳のときにアダムによって聖任され、また彼（アダム）の死ぬ三年前に彼によって祝福を授けられ、その子孫は主の選民となり、世の終わりまで守られるという神の約束を父を通じて受けた。

43 彼（セツ）は[1]完全な人であり、[2]その姿は彼の父に生き写しであったので、彼はあらゆる点で父のようであり、年齢によってのみ父と見分けることができた。

44 エノスは百三十四歳四か月のときに、アダムの手によって聖任された。

45 カイナンが四十歳の年に、神は荒れ野で彼を訪れた。また、彼はシェドラマクの地に向かって旅をしていた途中でアダムに会った。彼は聖任を受けたとき、八十七歳であった。

46 マハラレルはアダムの手によって聖任されたとき、四百九十六歳と七日であった。アダムはまた彼を祝福した。

47 ヤレドはアダムの手の下で聖任されたとき、二百歳であった。アダムはまた彼を祝福した。

48 エノク[1]はアダムの手の下で聖任されたとき、二十五歳であった。また、彼が六十五歳のときに、アダムは彼を祝福した。

38 ① GS「七十人」
39 ① GS「祝福師」「伝道者」
41 ① GS「アダム」
　② 創世5章、教義84・6−16、モセ6・10−25
42 ① GS「セツ」
　② GS「完全」
43 ① 創世5・3
48 ① GS「エノク」

49 そして、彼は主にまみえ、主とともに歩み、絶えず主の前にあった。三百六十五年、彼は神とともに歩み、[1]身を変えられて天に移されたとき、四百三十歳であった。

50 [1]メトセラはアダムの手の下で聖任されたとき、百歳であった。

51 レメクはセツの手の下で聖任されたとき、三十二歳であった。

52 [1]ノアはメトセラの手の下で聖任されたとき、十歳であった。

53 アダムは死ぬ三年前に、すべて[1]大祭司であったセツ、エノス、カイナン、マハラレル、ヤレド、エノク、およびメトセラを、義にかなった子孫の残りとともに[2]アダム・オンダイ・アーマンの谷に呼び集め、そこで彼らに最後の祝福を授けた。

54 すると、主が彼らに現れた。彼らは立ち上がって[1]アダムをほめたたえ、彼を[2]ミカエル、君、天使長と呼んだ。

55 また、主はアダムに慰めを与え、そして言った。「わたしはあなたを立てて首長とした。多くの民族があなたから出るであろう。そして、あなたはとこしえに彼らを治める[1]君である。」

56 そこで、アダムは会衆の中に立ち上がった。彼は老齢で腰が曲がっていたにもかかわらず、聖霊に満たされ、最後の世代に至るまでその子孫に起こることを[1]預言した。

57 これらのことはすべてエノクの書に記されており、定められたときに証されるであろう。

58 [1]十二使徒はまた、啓示に従って教会の他のすべての役員を[2]聖任し、整えなければならない。その啓示は次のとおりである。

59 すなわち、教会の務めに関する教会の[1]律法に加えて、シオンの地におけるキリストの教会へ。

60 万軍の主は言う。まことに、わたしはあなたがたに言う。長老の職にある者たちを管理する[1]管理長老がいなければならない。

61 また、祭司の職にある者たちを管理する[1]祭司も、さらに執事もまたいなければならない。

62 同じように[1]教師の職にある者たちを管理する教師も、さらに執事もまたいなければならない。

63 執事から教師に、教師から祭司に、祭司から長老に至るまで、教会の聖約と戒めに従ってそれぞれ任命されるままに、いなければならない。

---

49 ①創世5・22、ヘブ11・5、モセ7・69 ②GS「身を変えられた人」
50 ①GS「メトセラ」
52 ①GS「ノア（族長）」
53 ①GS「大祭司」 ②教義78・15、116・1、GS「アダム・オンダイ・アーマン」
54 ①教義128・21、GS「アダム」 ②GS「ミカエル」
55 ①教義78・16
56 ①モセ5・10
58 ①GS「使徒」 ②GS「聖任」
59 ①教義43・2—9
60 ①教義107・89—90
61 ①教義107・87
62 ①教義107・85—86

64 次に、大神権が来る。これはすべての中で最も大いなるものである。

65 それゆえ、大神権を持つ者の中から一人がその神権を管理するために任命されることが必要であり、彼は教会の大神権の大管長と呼ばれる。

66 言い換えれば、教会の大神権を管理する[1]管理大祭司である。

67 この人から、[1]按手によって儀式の執行と教会員への祝福が来る。

68 それゆえ、ビショップの職はそれと同等ではない。[1]ビショップの職は、すべて現世の事柄をつかさどるものだからである。

69 それでも、ビショップはアロンの[1]直系の子孫でないかぎり、[2]大神権を持つ者の中から選ばれなければならない。

70 彼はアロンの直系の子孫でないかぎり、その神権の鍵を持てないからである。

71 しかしながら、メルキゼデクの位に従う大祭司は、現世の事柄をつかさどるように任命され、真理の御霊によってその知識を得、

72 イスラエルの[1]判士となり、教会の務めを行い、教会の長老たちの中から選んだ顧問たち、あるいは将来選ぶ顧問たちの助けを得て、律法に従って彼の前に提出される証拠に基づいて戒めに背く者を裁く席に着く。

73 これは、アロンの直系の子孫ではなく、メルキゼデクの位に従う大神権に聖任されたビショップの義務である。

74 シオンの境が広げられ、シオンまたはそのほかの場所において、ほかのビショップすなわち判士が必要になるまで、彼はこのように判士とならなければならない。すなわち、シオンであれ、シオンのステークであれ、あるいは彼がこの務めに任命される教会のいかなる支部であれ、そこに住む者の中で一般判士とならなければならない。

75 ほかのビショップたちが任命されれば、彼らもその職務を遂行する。

76 しかし、アロンの直系の子孫には、この神権の会長の職に就き、この務めの[1]鍵を持ち、メルキゼデクの位に従う大神権の大管長を裁く場合のほかは顧問なしに独立してビショップの職務を遂行し、イスラエルの判士として席に着く、律法上の権利がある。

66① 教義107・9、91—92、GS「長」
67① GS「按手」
68① GS「ビショップ」
69① 教義68・14—24、84・18、107・13—17
② GS「メルキゼデク神権」
72① 教義58・17—18
① GS「神権の鍵」

77 これらいずれの評議会の判決も、戒めにかなっていること。その戒めは次のとおりである。

78 さらにまことに、わたしはあなたがたに言う。教会の最も重要な事務、および教会の最も困難な事件は、ビショップや判士たちの判決が満足のいくものでなければ、これを教会の評議会に、すなわち大神権の大管長会の前に引き継いで渡さなければならない。

79 大神権の評議会の大管長会は、顧問として補佐する他の大祭司、すなわち十二人を召す力を持つ。このようにして、大神権の大管長会とその顧問たちは、教会の律法に従って証拠に基づいて判決を下す力を持つ。

80 この判決の後は、もうそれを主の前に持ち出してはならない。これは神の教会の最高評議会であり、また霊にかかわる事柄に関する論争についての最終判決だからである。

81 教会に属する者で、教会のこの評議会から免れる者はだれもいない。

82 もしも大神権の大管長が戒めに背いたならば、彼は大神権を持つ十二人の顧問によって補佐される教会の一般評議会の前に覚えられる。

83 彼の頭に下される彼らの判決は、彼に関する論争の終わりである。

84 このように、神の正義と律法から免れる者はだれもおらず、すべてのことが、真理と義によって神の前に秩序正しく厳粛に行われるのである。

85 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。執事の職を管理する会長の義務は、聖約に従って与えられているとおりに、十二人の執事を管理し、彼らとともに会議の席に着き、彼らに義務を教え、互いに教化し合うことである。

86 また、教師の職を管理する会長の義務も、聖約の中で与えられているとおりに、二十四人の教師を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らにその職の義務を教えることである。

87 また、アロンの神権を管理する会長の義務も、聖約の中で与えられているとおりに、四十八人の祭司を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らにその職の義務を教えることである。

88 この会長はビショップでなければならない。これはこの神権の義務の一つだからである。

---

78 ① 教義102・13、28
② 教義68・22
84 ① GS「正義」
85 ① GS「執事」
② 教義38・23、88・77−79、118
86 ① 教義20・53−60、GS「教師（アロン神権の）」
87 ① GS「祭司（アロン神権の）」
88 ① GS「ビショップ」

89 さらに、1)長老の職を管理する会長の義務は、聖約に従って、九十六人の長老を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らを教えることである。

90 この会長会は七十人の会長とは異なり、全世界を旅しない者たちのために設けられる。

91 さらにまた、大神権の職の大管長の義務は、全教会を管理し、1)2)モーセのようであることである。

92 見よ、ここに知恵がある。まことに、神が教会の長に授ける神のすべての賜物を持つ1)聖見者、2)啓示者、翻訳者、および3)預言者となることである。

93 また、1)七十人が七十人の人々の中から選ばれた七人の会長によって管理されることは、七十人の秩序を示す示現による。

94 これらの会長のうちの第七の会長が、六人を管理しなければならない。

95 これら七人の会長は、彼らが属する最初の七十人のほかに別の七十人を選び、彼らを管理しなければならない。

96 また、ぶどう園における働きで当然必要とされれば、七十の七倍まで、別の七十人を選び、管理する。

97 これらの七十人は、まず異邦人のもとへ、そしてユダヤ人のもとへも行く1)巡回教導者となる。

98 十二使徒会にも七十人会にも属さない教会の他の役員は、すべての国々を旅をする責任はないが、事情の許すときには旅をしなければならない。彼らは旅をする責任はないが、十二使徒や七十人と同じように、教会内で高い責任ある職に就いている。

99 それゆえ、今や人は皆、1)自分の義務を学び、任命されている職務をまったく2)勤勉に遂行するようにしなさい。

100 1)怠惰な者は、その職にいるに2)ふさわしい者と見なされない。また、自分の義務を学ばず、認められるに足る者であることを示さない者は、その職にいるにふさわしい者と見なされない。まことにそのとおりである。アーメン。

第108章

千八百三十五年十二月二十六日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第二巻、三百四十五ページ）。この章はライマン・シャーマンの求めに応じて

89 ①GS「長老」
90 ①教義124・137 ②教義107・9、65−67
91 ①教義28・2、103・16 ②I-21
92 ①GS「御霊の賜物」 ②モサ8・13−18、GS「聖見者」 ③GS「啓示」 ④教義21・1、GS「預言者」
93 ①教義107・38、GS「七十人」
97 ①教義124・138−139
99 ①GS「義務」 ②GS「熱心」
100 ①教義58・26−29、GS「怠惰」 ②GS「ふさわしさ」

与えられたものである。彼はすでに大祭司と七十人に聖任されていたが、彼の務めを知らせる啓示を求めて預言者のもとにやって来たのであった。

1—3ライマン・シャーマンは罪を赦されている。
4—5彼は教会の指導的立場にある長老たちとともに数えられる。6—8彼は福音を宣べ伝え、兄弟たちを強めるように召される。

1まことに、主はあなた、すなわちわたしの僕ライマンにこのように言う。あなたはわたしが任命した者から助言を受けるために、わたしの声に従って今朝ここにやって来たので、あなたの罪は赦されている。

2それゆえ、あなたの霊の立場について心を安らかにし、もうわたしの声に逆らってはならない。

3また、立って、あなたがすでに交わした誓いと、これから交わす誓いを、今から後さらに注意深く守りなさい。そうすれば、あなたはきわめて大いなる祝福をもって祝福されるであろう。

4わたしの僕たちによって1)聖会が召集されるまで、忍耐強く待ちなさい。そのとき、あなたはわたしの長老たちの最初の者とともに覚えられ、わたしが選んだ長老たちの残りとともに聖任されて権利を受けるであろう。

5見よ、これは、あなたが続けて忠実であることを条件に与えられた父の1)約束である。

6その日にそれは成就し、あなたはそのときから後、どこでもわたしが遣わす所でわたしの福音を1)宣べ伝える権利を持つであろう。

7それゆえ、あなたのすべての生き方により、またすべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行いにより、あなたの兄弟たちを1)強めなさい。

8見よ、見よ、わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福し、とこしえにあなたを1)救う。アーメン。

第109章

千八百三十六年三月二十七日、オハイオ州カートランドの神殿の奉献に当たってささげられた祈り（『教会歴史』第二巻、四百二十—四百二十六ページ）。預言者の述べたところによれば、この祈りは啓示によって彼に与えられたものである。

第108章
2 1) GS「安息」
4 1) 教義109・6—10
5 1) 教義82・10
6 1) GS「伝道活動」
7 1) ルカ22・31—32
8 1) ニフ9・19

1–5 カートランド神殿は、人の子が訪れる場所として建てられた。6–21 それは祈りと断食、信仰、学び、栄光、および秩序の家であり、また神の家である。22–33 主の民に敵対する者で悔い改めない者が辱められるように。34–42 聖徒たちが力をもって出て行き、義人をシオンに集めることができるように。43–53 終わりの時に悪人のうえに注がれる恐るべきことから、聖徒たちが救い出されるように。54–58 諸国民と諸民族と諸教会が、福音のために備えられるように。59–67 ユダヤ人、レーマン人、および全イスラエルが贖われるように。68–80 聖徒たちが栄光と誉れを冠として与えられ、永遠の救いを得られるように。

1 おお、主なるイスラエルの神よ、あなたの御名に[1]感謝いたします。真心から御前をまっすぐに歩むあなたの僕たちに対して、[2]聖約を守り、憐れみを示してくださる主なるイスラエルの神よ。

2 あなたはこの地（カートランド）にあなたの御名のために宮を建てるように、僕たちに命じられました。

3 おお、主よ、御覧のように、僕たちはあなたが命じられたとおりに行いました。

4 聖なる御父よ、わたしたちは、あなたの懐におられる御子イエス・キリストの御名によって、すなわち、その御名によってのみ人の子らに救いがもたらされる御方の御名によって、願い求めます。おお、主よ、何とぞ、あなたがわたしたちに建てるようにお命じになった、あなたの僕であるわたしたちの手で[1]造られたこの[2]宮を受け入れてくださいますように。

5 あなたは、わたしたちがひどい艱難を経てこの仕事を成し遂げたことを御存じです。人の子がその民に御自身を現す場所を得られるように、わたしたちは、あなたの御名のために[1]宮を建てるため、貧しい中からわたしたちの持ち物を差し出しました。

6 あなたはわたしたちに与えてくださった[1]啓示の中で、わたしたちを友と呼び、このように言われました。「わたしがあなたがたに命じたように、あなたがたの聖会を召集しなさい。

7 また、すべてが信仰を持っているわけではないので、あなたがたは知恵の言葉を熱心に求め、互いに教え合いなさい。まことに、最良の書物から知恵の

第109章
1 ①アル37・37、教義46・32、GS「感謝」
2 ②ダニ9・4、GS「聖約（契約）」
4 ①教義88・119
5 ①2ニフ5・16
6 ①列上9・3、GS「神殿・主の宮」
教義124・27–28
教義88・117–120

言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。

8 あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。

9 それは、あなたがたの入って来ることが主の名によって行われ、あなたがたの出て行くことが主の名によって行われ、あなたがたのあいさつが、いつもいと高き方に向かって両手を挙げて主の名によって行われるためである。」

10 さて、聖なる御父よ、何とぞ、わたしたちの聖会を召集するに当たり、あなたの民であるわたしたちをあなたの恵みをもって助け、その聖会があなたの誉れと神聖な承認のために行われるようにしてくださいますように。

11 また、わたしたちに下された啓示の中であなたの民であるわたしたちに与えてくださった[1]約束を果たすのがふさわしいと、あなたの目にかなって認めていただけるような方法で、その聖会が行われるようにしてください。

12 これによって、あなたの[1]栄光があなたの民のうえにとどまり、またわたしたちが今あなたに奉献するこのあなたの宮のうえにもとどまって、これが聖なるものとして聖められ、聖別され、あなたの聖なる訪れが絶えずこの宮の中にありますように。

13 主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が、あなたの力を感じ、またあなたがこれを聖められたことと、これがあなたの宮、あなたの聖さのある所であることを認める促しを感じますように。

14 聖なる御父よ、この宮で礼拝するすべての者が最良の書物から知恵の言葉を教わり、またあなたが言われたとおり、彼らが研究によって、また信仰によって学問を求めますように。

15 また、彼らがあなたにあって成長し、聖霊の全きを受け、あなたの律法に従って組織され、すべての必要なものを得るために備えられますように。

16 この宮が祈りの家、断食の家、信仰の家、栄光の家、また神の家、すなわちあなたの家となりますように。

17 あなたの民がこの宮に入って来ることが、いつも主の御名によって行われますように。

---

11 ① 教義38・32、105・11
12 ① 1・12、18、33 GS「栄光」

18 彼らがこの宮から出て行くことが、いつも主の御
名によって行われますように。
19 また、彼らのあいさつが、いつもいと高き御方に
向かって聖なる両手を挙げて主の御名によって行わ
れますように。
20 1)清くないものがあなたの宮に入るのを許されてこ
れを汚すということが決してありませんように。
21 だれであろうとあなたの民が戒めに背くとき、彼
らが速やかに悔い改め、あなたに立ち返り、あな
たの御前に恵みを得、そしてあなたの宮であなた
を1)敬う人々に注がれると定められた数々の祝福を
回復されますように。
22 聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕たちがこの宮
からあなたの力を帯びて出て行けますように。あな
たの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼ら
の周りにあり、あなたの1)天使たちが彼らに対する務
めを果たしますように。
23 彼らがこの場所から地の1)果てまで、真理にかなっ
て、きわめて大いなる栄えあるおとずれを携えて行
き、それによって人々が、これがあなたの御業であ
ることを知り、またあなたが終わりの時に関して、
預言者たちの口を通して語られたことを成就する
ために御手を伸べられたことを知ることができます
ように。
24 聖なる御父よ、何とぞ、このあなたの宮で礼拝し
て名と地位を立派に維持する民を、すべての世代に
わたって、また永遠に確立してくださいますよう
に。
25 彼らを攻めるために1)造られるいかなる武器も役に
立ちませんように。彼らのために2)穴を掘る者が自ら
その穴の中に落ちますように。
26 この宮であなたの1)御名を受けた民に対して、いか
なる悪の結社も、立ち上がって2)打ち勝つ力を持つこ
とがありませんように。
27 いかなる民でもこの民に敵対して立ち上がるなら
ば、あなたの怒りが彼らに向かって燃えますよう
に。
28 もしも彼らがこの民を打つならば、彼らを打って
くださいますように。かつて戦いの日に戦われたよ
うにあなたの民のために戦って、すべての敵の手か
らあなたの民を救い出してくださいますように。
29 聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕や僕たちに反

20 ① 教義94・8—9、97・15—17
21 ① GS「敬虔」
22 ① GS「天使」
23 ① 教義1・2
25 ① イザ54・17
② 箴言26・27、1ニフ14・3、22・14
26 ① 列上8・29
② 教義98・22

して偽りの報告を世に言い広めたすべての者が、もしも永遠の福音をその耳に宣言されたときに悔い改めようとしなければ、彼らを辱め、驚かせ、恥と混乱を彼らに与えてくださいますように。

30 そして、彼らのすべての業が無に帰し、[1]雹により、またあなたが怒りをもって送られるもろもろの裁きにより一掃されて、あなたの民に対する[2]偽りと中傷がなくなりますように。

31 おお、主よ、御存じのように、あなたの僕たちはあなたの御名について証したために、これらのことを受けましたが、僕たちは御名について証したとき、あなたの御前に罪のない者でした。

32 それゆえ、何とぞ、このくびきからすっかり完全に解き放してくださいますように。[1]

33 おお、主よ、それを取り除いてください。あなたの力によって、あなたの僕たちの首からそれを取り除き、わたしたちがこの時代の人々の中に立ち上がって、あなたの御業を行えるようにしてください。

34 おお、エホバよ、この民を憐れんでください。人は皆[1]罪を犯しますので、あなたの民の背きを赦し、とこしえにそれをぬぐい去ってください。

35 あなたに仕える者の[1]油注ぎが、高い所からの力とともに彼らに結び固められますように。

36 五旬節の日におけるごとく、それが彼らに成就しますように。炎のように分かれた[1]舌なる[2]異言の賜物とその解釈が、あなたの民に注がれますように。

37 激しい大風のごとく、あなたの宮があなたの[1]栄光で満たされますように。

38 あなたの僕たちに聖約の[1]証をお与えください。それによって、彼らが出て行って、あなたの御言葉を宣言するときに、彼らが律法を[2]封じ、[3]地に住む者の背きのゆえにあなたが激しい怒りをもって彼らのうえに送ろうとしておられるすべての裁きに対して、あなたの聖徒たちの心を備えることができて、あなたの民が苦難の日に気落ちすることのないようにしてください。

39 あなたの僕たちがどの町に入ろうと、その町の人々が彼らの証を受け入れるならば、あなたの平安とあなたの救いがその町にありますように。それによって、僕たちがその町から義人を集めることができて、義人たちが永遠の喜びの歌を歌いながらシオンに、あるいはあなたの指定の場所であるそのステ

---

30 ① イザ 28・17、モサ 12・6、教義 29・16
32 ① ② 3 ニフ 21・19—21
GS「くびき」
ロマ 3・23、5・12、
34 ① GS「罪」
35 ① GS「油注ぎ」
使徒 2・1—3
36 ① ② GS「異言の賜物」
教義 84・5、109・12、
37 ① GS「栄光」
38 ① GS「証」
イザ 8・16、教義 1・8 ② ③ GS「地球（地）—地球の清め」
39 ① イザ 35・10

ークに来ることができますように。

40 そして、これが成し遂げられるまで、あなたの裁きがその町に下りませんように。

41 あなたの僕たちがどの町に入ろうと、その町の人々があなたの僕たちの証を受け入れず、そのうえ、僕たちが彼らにこの曲がった時代から救われるようにと警告をしたならば、あなたの預言者たちの口を通してあなたの語られたことが、そのとおりにその町に起こりますように。

42 しかし、おお、エホバよ、何とぞ、あなたの僕たちを彼らの手から救い出し、僕たちを彼らの血から清めてくださいますように。

43 おお、主よ、わたしたちは同胞が滅びるのを喜びません。彼らはあなたの御前に貴い[1]ひとびと人々です。

44 しかし、あなたの御言葉は成就しなければなりません。あなたの恵み[1]をもってあなたの僕たちを助け、彼らが、「おお、主よ、わたしたちの思いではなく、御心が行われますように」と言えるようにしてください。

45 あなたが終わり[1]の時における悪人について恐るべきことを預言者たちの口を通して語られたこと、すなわちあなたが限りなくあなたの裁きを注がれることを、わたしたちは知っています。

46 それゆえ、おお、主よ、あなたの民を悪人の災いから救い出してください。あなたの僕たちが焼き払いの日に対して備えられるよう、律法を封じ、証を束ねることができますように。

47 聖なる御父よ、何とぞ、ミズーリ州ジャクソン郡の住民によって受け継ぎの地から追い出された者たちを思い起こし、おお、主よ、彼らのうえにかけられた苦難のくびきを取り除いてくださいますように。

48 おお、主よ、あなたは、彼らが悪人たちによってひどく虐げられ、苦しめられてきたことを御存じです。彼らの堪え難い重荷のゆえに、わたしたちの心は悲しみであふれるほどです[1]。

49 おお、主よ、あなたは[1]いつまで、この民をこの苦難に耐えさせ、その罪のない者の叫びをあなたの耳に届かせ、彼らの血[2]を証としてあなたの御前に上らせて、彼らのためにあなたの証を示そうとされないのですか。

50 おお、主よ、あなたの民を追い出した邪悪な暴徒

---

43 ① GS「人（霊を持つ存在としての）」
44 ① GS「恵み」
45 ① GS「終わりの時・末日」
48 ① GS「哀れみ」
49 ① 詩篇13・1—2
② GS「殉教者・殉教」

を[1]憐れんでください。彼らが略奪することをやめ、
もし悔い改めることがあれば、その罪を悔い改める
ことができますように。
51 しかし、もし彼らがそうしなければ、おお、主よ、
あなたの御腕を現してください。そして、あなたが
定められたもの、すなわちシオンをあなたの民のた
めに[1]贖ってください。
52 もしほかの方法ではなし得ないとすれば、あなた
の民の大義があなたの御前で果たされないというこ
とのないよう、あなたの怒りが燃え、あなたの憤り
が彼らに下って、彼らが天の下から根も枝も払い去
られますように。
53 しかし、彼らが悔い改めるならば、あなたは恵み
深く、憐れみ深いので、油注がれた者の顔を見られ
るときにあなたの怒りを解いてください。
54 おお、主よ、地のすべての国民を憐れんでくださ
い。わたしたちの国を治める者たちを憐れんでくだ
さい。わたしたちの先祖によって立派に気高く守ら
れた原則、すなわちわたしたちの国の[1]憲法がとこし
えに確立されますように。
55 諸王、諸公、高貴な人々、地の偉大な人々、およ
びすべての民、諸教会、地のすべての貧しい人、乏
しい人、苦しんでいる人を思い起こしてください。
56 おお、エホバよ、あなたの僕たちがあなたの御名
について証を述べるためにあなたの宮から出て行く
とき、これらの人の心が和らぎますように。彼らの
偏見が[1]真理の前で消散し、あなたの民がすべての者
の好意を得ますように。
57 あなたの僕であるわたしたちがあなたの御声を[1]聞
き、あなたがわたしたちを遣わされたことを、地の
果てに至るすべての者が知りますように。
58 これらすべての中から、ヤコブの子らであるあな
たの僕たちが義人を集めて、あなたから命じられた
ように、あなたの御名のために聖なる都を築くこと
ができますように。
59 何とぞ、あなたが定められたこのステークのほか
に、シオンのために他の[1]ステークも定めてくださ
り、それによって、あなたの民の[2]集合が大いなる力
と尊厳をもって進んで、あなたの業が義にかなっ
て[3]短くされますように。
60 おお、主よ、[1]異邦人と見なされているわたしたち
にあなたが与えてくださった啓示や戒めについて、

50 ① GS「憐れみ」
51 ① 教義100・13、105・2
54 ① 1ペテ2・13−15、教義98・5−7、101・77、80、GS「憲法」
56 ① GS「真理」
57 ① 教義20・16、76・22−24
59 ① イザ54・2
② GS「イスラエル−イスラエルの集合」
③ マタ24・22
60 ① 1ニフ13・1−32、15・13−18

今これらの言葉を、わたしたちはあなたの御前に語ってきました。

61 あなたは、曇った暗い日に長い間山々の上に散らされていたヤコブの子らに対して、御自分が大いなる愛をお持ちであることを御存じです。

62 それゆえ、何とぞ、ヤコブの子らを憐れんで、この時点からエルサレム[1]が贖われ始めるようにしてくださいますように。

63 束縛のくびきがダビデ[1]の家から取り除かれ始めますように。

64 ユダ[1]の子らが、その先祖であるアブラハムにあなたが与えられた土地[2]に帰り始めますように。

65 また、自分の背きのゆえにのろわれ打たれたヤコブの残り[1]の者が、その粗暴で野蛮な状態から完全な永遠の福音に改宗[2]するようにしてください。

66 彼らが殺害の武器を捨てて、反抗をやめますように。

67 また、イスラエル[1]の散らされた残りの者で、地の果てに追い出された者が皆、真理を知るようになり、メシヤを信じ、虐げから贖われ、あなたの御前で喜びますように。

68 おお、主よ、あなたの僕ジョセフ・スミス・ジュニアと、彼の受けたあらゆる苦難と迫害と、彼がどのようにエホバ[1]に聖約[2]し、おお、ヤコブの力ある神よ、あなたにどのように誓ったかを、またあなたが彼に与えられた数々の戒めと、そして彼があなたの御心を行おうと心から努めてきたことを思い起こしてください。

69 おお、主よ、彼の妻と子供たちを憐れんで、彼らがあなたの御前に高く上げられ、あなたの養いの御手によって守られるようにしてください。

70 彼らの近親者すべてを憐れんで、彼らの偏見が解けて洪水によるように一掃されて、彼らが改宗し、イスラエルとともに贖われ、あなたが神であられることを知るようにしてください。

71 おお、主よ、大管長と管長、まことにあなたの教会の大管長と管長を皆思い起こして、あなたの右手をもって、彼らをそのすべての家族、ならびにその近親者とともに高く上げ、また彼らの名を不朽にし、代々永遠に覚えられるようにしてください。

72 おお、主よ、あなたのすべての教会員を、そのすべての家族、ならびにそのすべての近親者とともに

---

62 ① 3ニフ20・29、GS「エルサレム」
63 ① GS「ダビデ」
64 ① ゼカ12・6—9、マラ3・4、教義133・13、35、GS「ユダ」 ② 創世17・1—8、GS「約束の地」
65 ① 2ニフ30・3、アル46・23—24、3ニフ20・15—21、教義19・27 ② 2ニフ30・6、3ニフ21・20—22、GS「改宗」
67 ① GS「イスラエル—イスラエルの集合」
68 ① GS「エホバ」 ② GS「聖約［契約］」

に、そのすべての病気の人、ならびに苦しんでいる人とともに、また地のすべての貧しい人、ならびに柔和な人とともに思い起こしてください。それによって、あなたが人手によらずに設けられた[1]王国が、大きな山となって全地に満ちますように。

73 また、あなたの教会が暗黒の荒れ野から出て来て、[1]月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなり、

74 あなたがもろもろの天の覆いを取り去り、山々をあなたの御前に崩し、もろもろの[2]谷を高くし、起伏の激しい所を平らにされるその日のために、教会が花嫁のように美しく飾られて、あなたの栄光が地に満ちますように。

75 死者のためにラッパが鳴り響くとき、わたしたちが雲の中に[1]引き上げられ、あなたにまみえて、いつも主とともにいられるようになりますように。

76 わたしたちの衣が清くなりますように。わたしたちが手になつめやしを持ち、頭に栄光の冠をかぶって、義の衣を身にまとい、わたしたちのあらゆる[3]苦難に代わって永遠の[4]喜びを刈り入れることができますように。

77 おお、全能の主なる神よ、わたしたちのこれらの願いを聞き、あなたが[1]栄光、誉れ、力、尊厳、威勢、支配、真理、公正、公平、憐れみ、および無限の完全さをもって永遠から永遠にわたって御座に着いておられる、あなたの聖なる住まいである天からわたしたちにおこたえください。

78 おお、お聞きください、おお、お聞きください、おお、わたしたちの願いをお聞きください、おお、主よ。そして、これらの願いにこたえ、わたしたちがあなたの御名のために建て、わたしたちの手で造ったこの宮をあなたに奉献することを受け入れてください。

79 また、この教会も受け入れて、あなたの御名をお与えください。あなたの御霊の力によってわたしたちを助けて、わたしたちがあなたの御座の周りの光り輝く[1]セラフたちと声を合わせ、「神と小羊に、ホサナ」と歌いながら賛美の叫び声を上げられるようにしてください。

80 あなたの油注がれた者であるこれらの者たちに救いを[1]着せ、あなたの聖徒たちを声高らかに喜び呼ばわらせてください。アーメン、アーメン。

---

72 ① ダニ 2・44—45 教義 65・2
73 ① 雅歌 6・10、教義 5・14、105・31
74 ① イザ 40・4、ルカ 3・5、教義 49・23
75 ① 1テサ 4・17
76 ① GS「冠」「昇栄」 ② 黙示 7・13—15、2ニフ 9・14 ③ ヘブ 12・1—11、教義 58・4 ④ GS「喜び」
77 ① GS「栄光」
79 ① イザ 6・1—2
80 ① GS「神の小羊」詩篇 132・16 ② 教義 133・21—22、40

第110章

千八百三十六年四月三日、オハイオ州カートランドの神殿で、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現された示現（『教会歴史』第二巻、四百三十五―四百三十六ページ）。この示現が現されたのは、安息日の集会時のことであった。預言者はこの現れの記録に、次のような前書きを記している。「午後、わたしは、この日に聖卓での務めを果たす特権を与えられた十二使徒から主の晩餐を受けた後、管長たちを手伝って、それを教会員に配った。わたしは兄弟たちのためにこの務めをなし終えた後、オリバー・カウドリとともに教壇に退いて、幕を下ろし、身をかがめて厳粛に無言の祈りをささげた。そして、祈りを終えて立ち上がると、わたしたち二人に次の示現が開かれた。」（『教会歴史』第二巻、四百三十五ページ）

1–10 主なるエホバが栄光の中に現れて、カートランド神殿を主の宮として受け入れられる。11–12 モーセとエライアスがそれぞれ現れて、彼らの鍵と神権時代とをゆだねる。13–16 エリヤが戻って来て、マラキにより約束されたように彼の神権時代の鍵をゆだねる。

1 わたしたちの心から幕[1)]が取り去られ、理解の目[2)]が開かれた。

2 わたしたちは、主がわたしたちに面して教壇の手すりの上に立っておられるのを見た。その足の下には、こはくのような色の純金の床があった。

3 その目[1)]は燃える炎のようであり、その頭髪は清らかな雪のように白く、その顔[2)]は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声[3)]、すなわちエホバ[4)]の声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。

4 「わたしは最初[1)]であり、最後である。わたしは生きている者[2)]であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者[3)]である。

5 見よ、あなたがたの罪は赦[1)]されており、あなたがたはわたしの前に清い。それゆえ、頭を上げて喜びなさい。

6 あなたがたの兄弟たちの心を喜ばせ、わたしのすべての民の心を喜ばせなさい。彼らは力を尽くしてわたしの名のためにこの家を建[1)]てた人々である。

第110章

1 ① GS「幕」
② 教義76・12、19、136・11
2 ① 32、138・11
② 黙示1・14
③ 黙示1・16、ジ一歴史1・17
3 ① エゼ43・2、黙示1・15、教義133・21–22
② GS「エホバ」
③ GS「長子・初子」
④ 申命5・24
4 ① GS「弁護者」
② GS「赦し」
5 ① 教義109・4–5
6 ① 教義109・4–5

7 見よ、わたしはこの家[1]を受け入れた。そして、わたしの名はここにあるであろう。わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。

8 まことに、わたしの民がわたしの戒めを守り、この聖なる家[1]を汚さなければ[2]、わたしは僕たちに現れて、わたし自身の声をもって彼らに語るであろう。[3]

9 まことに、幾千幾万の人の心が、注がれる数々の祝福[1]と、この家で僕たちに授けられるエンダウメント[2]のゆえに、大いに喜ぶであろう。

10 そして、この家の名声は諸外国に広まるであろう。これはわたしの民の頭に注がれる祝福の初めである。まことにそのとおりである。アーメン。」

11 この示現[1]が閉じた後、天が再びわたしたちに開かれた。そして、モーセ[2]がわたしたちの前に現れ、地の四方[3]からのイスラエルの集合[4]と北の地からの十部族の導き[5]の鍵をわたしたちにゆだねた。

12 この後、エライアス[1]が現れ、わたしたちと子孫によってわたしたちの後の時代のすべての者が祝福を受けるであろうと述べて、アブラハム[2]の福音[3]の神権時代をゆだねた。

13 この示現が閉じた後、もう一つの大いなる栄えある示現が突如わたしたちに開かれた。死を味わうことなく天に取り去られた[1]預言者エリヤ[2]が、わたしたちの前に立って言った。

14 「見よ、マラキの口を通して語られた時がまさに来た。」マラキとは、主の大いなる恐るべき日が来る前に彼〔エリヤ〕が遣わされ、

15 先祖[1]の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする、と証した人である。

16 「それゆえ、この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている。これによってあなたがたは、主の大いなる恐るべき日[1]が近く、まさに戸口にあるのを知ることができる。」

第111章

千八百三十六年八月六日、マサチューセッツ州セーレムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第二巻、四百六十五—四百六十六ページ）。当時、教会の指導者たちは教会での働きのために多くの負債を抱えていた。預言者とシドニ

---

7 ①GS「神殿・主の宮」 ②歴下7・16
8 ①GS「聖い」 ②教義97・15—17
9 ①教義50・45 ②教義95・8、GS「エンダウメント」 ③創世12・1—3、教義39・15、アブ2・8—11
10 ①教義105・12
11 ①GS「示現」 ②マタ17・3 ③ヤコ6・2、教義29・7、GS「イスラエル」 ④GS「イスラエルの集合」、教義133・26—32、GS「イスラエル—行方の知れない十部族」 ⑤GS「神権の鍵」
12 ①GS「エライアス」 ②ガラ3・6—29、GS「アブラハムの聖約（契約）」 ③GS「神権時代」
13 ①GS「身を変えられた人」 ②GS「エリヤ」 ③ジ—歴史1・38—39、GS「系図」「死者の救い」
16 ①GS「終わりの時・末日」

ー・リグドン、ハイラム・スミス、およびオリバー・カウドリは、セーレムで多額の金銭が得られると聞いたので、その情報を調べるために、オハイオ州カートランドから福音を宣べ伝えながらそこまで旅をした。兄弟たちは教会の務めを幾つか果たし、多少教えを説いた。金銭が得られそうにないことが明らかになったとき、彼らはカートランドに帰った。この啓示の言葉の中に、これら幾つかの主要な背後事情が示されている。

1—5 主はその僕たちの物質的な必要に目を向けておられる。6—11 主はシオンを憐れみをもって扱い、その僕たちの益となるように万事を整えられる。

1 主なるあなたがたの神であるわたしは、あなたがたの愚かな行為にもかかわらず、あなたがたがこの旅をしてきたことを不快には思わない。

2 わたしは、シオンのためにあなたがたに与える多くの宝をこの町に持っている。また、時至ってわたしが、シオンのために、あなたがたの仲立ちによって集める多くの人がこの町にいる。

3 それゆえ、あなたがたは導かれるままに、また与えられるままに、この町の人々と知り合いになることが必要である。

4 そして、時が来れば、わたしはあなたがたの手にこの町を与えて、あなたがたがこれを治める力を持つようにし、彼らがあなたがたの心に秘めた事柄を知ることのないようにする。そして、この町の金銀に関する富は、あなたがたのものとなるであろう。

5 あなたがたの負債[1]について心配することはない。わたしはそれを返済する力をあなたがたに与えるからである。

6 シオンについて心配することはない。わたしはシオンを憐れみをもって扱うからである。

7 この地と周りの地域にとどまりなさい。

8 あなたがたがおもにとどまるようにと、わたしが望む場所は、あなたがたに注がれるわたしの御霊の平安[1]と力によって、あなたがたに知らされるであろう。

9 この場所をあなたがたは賃借できるであろう。そこで、この町のもっと昔の住民と創建者たちについて熱心に調べなさい。

第111章
5① 教義64・27—29
8① 教義27・16、GS「平安・平和」

10 この町には、あなたがたのために宝が幾つもあるであろう。
11 蛇のように賢くありなさい。[1]しかし、罪を犯してはならない。わたしはあなたがたの[2]益となるように、あなたがたが受け入れることのできる早さで万事を整えよう。アーメン。

第112章

千八百三十七年七月二十三日、オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通してトーマス・B・マーシュに与えられた啓示（『教会歴史』第二巻、四百九十九−五百一ページ）。この啓示には、小羊の十二使徒に関してトーマス・B・マーシュに告げられた主の言葉が含まれている。預言者は、福音が英国で初めて宣べ伝えられた日にこの啓示を受けたと記録している。トーマス・B・マーシュは当時、十二使徒定員会会長であった。

1−10 十二使徒はすべての国民と民族に福音をもたらし、警告の声を上げなければならない。11−15 彼らは自分の十字架を負い、イエスに従い、イエスの羊を養わなければならない。16−20 大管長会を受け入れる者は、主を受け入れる。21−29 暗闇が地を覆い、信じてバプテスマを受ける者だけが救われる。30−34 大管長会と十二使徒会が時満ちる神権時代の鍵を持つ。

1 まことに、主はあなた、すなわちわたしの僕トーマスにこのように言う。わたしはあなたの祈りを聞き、あなたの施しはわたしの前に届いて、あなたの兄弟たちのために[1]覚えられている。その兄弟たちとは、わたしの名について証を述べるために、またそれをすべての国民、部族、国語の民、民族の中に[2]もたらすために選ばれて、わたしの僕たちによって聖任された人々のことである。
2 まことに、わたしはあなたに言う。あなたの心の中に、またあなた自身に関して、主なるわたしの心にかなわないことが少しばかりあった。
3 しかしながら、あなたは自分を[1]低くしたので、高くされるであろう。それゆえ、あなたのすべての罪は赦されている。
4 わたしの前で[1]元気を出しなさい。あなたは[2]異邦人だけでなく、[3]ユダヤ人にも、わたしの名について証

11 ①マタ10・16 ②ロマ8・28、教義90・24、100・15
第112章
1 ①使徒10・4 ②教義18・28
3 ①マタ23・12、ルカ14・11
4 ①マタ9・2、ヨハ16・33 ②教義18・6、90・8−9 ③教義19・27

しなければならない。また、地の果てまでわたしの言葉を送り出さなければならない。

5 それゆえ、あなたは朝ごとに戦い、日々あなたの警告の声を発しなさい。そして、夜になると、地に住む者があなたの言葉のためにまどろむことのないようにしなさい。

6 シオンにおいてあなたの住まいが知られるようにしなさい。あなたの家を移してはならない。主なるわたしは、人の子らの中にわたしの名を告げて広めることに関して、あなたのなすべき一つの大いなる業を用意している。

7 それゆえ、その業のために腰に帯を締めなさい。また、足に履物を履きなさい。あなたは選ばれた者であり、あなたの道はもろもろの山の中に、また多くの国の中にあるからである。

8 あなたの言葉によって多くの高い者が低くされ、またあなたの言葉によって多くの低い者が高くされるであろう。

9 あなたの声は戒めに背く者にとって叱責となる。あなたの叱責で、中傷する者の舌にそのよこしまな行為をやめさせなさい。

10 あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。

11 わたしはあなたの心を知っており、兄弟たちについてのあなたの祈りを聞いた。彼らをほかの多くの人以上に偏って愛してはならない。しかし、自分自身を愛するように彼らを愛しなさい。すべての人を、またわたしの名を大切にするすべての者を豊かに愛しなさい。

12 また、十二使徒会の兄弟たちのために祈りなさい。わたしの名のために彼らを厳しく訓戒しなさい。そして彼らに、すべての罪のために訓戒を受けさせなさい。また、あなたはわたしの前でわたしの名に忠実でありなさい。

13 彼らが試練と多くの艱難を受けた後、見よ、主なるわたしは彼らを探ろう。そして、彼らがわたしに対してその心をかたくなにせず、強情でなければ、彼らは心を入れ替えるので、わたしは彼らを癒そう。

14 さて、わたしはあなたに言い、またあなたに言うことを十二使徒のすべてに言う。立って腰に帯を締め、自分の十字架を負い、わたしに従い、わたしの

---

5 ①ユダ 1・3
6 ①②教義 1・4−5
7 ①詩篇 125・1
8 ①エペ 6・13−17
10 ①GS「謙遜」
11 ①箴言 18・12
①「愛」「慈愛」マタ 5・43−48、GS
12 ①GS「イエス・キリスト ― 御名を受ける」
13 ①ヨハ 16・33、黙示 7・13−14、教義 58・3−4
②3 ニフ 18・32、GS「改宗」
14 ①マタ 16・24、JS マタ 16・25−26、ルカ 9・23

羊を養いなさい。2)

15 自分を高くしてはならない。わたしの僕ジョセフに背いてはならない。1)まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは彼とともにおり、わたしの手は彼のうえにある。そして、わたしが彼に授け、またあなたがたにも授けた鍵2)は、わたしが来るまで彼から取り去られることはない。

16 まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕トーマスに言う。あなたは、十二使徒会に関して、広くすべての国の中でわたしの王国の鍵を持つようにわたしが選んだ人である。

17 それは、わたしの僕ジョセフと、わたしの僕シドニー1)と、わたしの僕ハイラム2)が行くことのできないすべての場所で、あなたが王国の門の錠を開けるわたしの僕となるためである。

18 わたしは彼らに、しばしの間、すべての諸教会の重荷を負わせたからである。

19 それゆえ、あなたがたは、どこでも彼らがあなたがたを遣わす所に行きなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとともにいるであろう。そして、どこでもあなたがたがわたしの名を宣言する所で、人々がわたしの言葉を受け入れるように、1)効果的な門があなたがたのために開かれるであろう。

20 だれでもわたしの言葉を受け入れるのである。そして、だれでもわたしを受け入れる者は、わたしが遣わした者、わたしの名のためにあなたがたへの助言者とした者、すなわち大管長会を受け入れる。

21 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたによって正式に推薦されて権能を与えられた者で、兄弟たちすなわち十二使徒会2)の声により、わたしの名によって遣わされる者は、あなたがたから遣わされるどの国に対してでも、わたしの王国の門を開く力を持つ。

22 彼らがわたしの前にへりくだり、わたしの言葉のうちにとどまり、わたしの御霊の声を聴くかぎり、そうである。

23 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。暗闇1)が地を覆い、深い闇が人々の心を覆い、すべての肉なるものがわたしの前に悪2)くなってしまった。

24 見よ、1)報復が地に住む者のうえに速やかに及ぶ。

---

14 ② ヨハ 21・15—17
15 ① GS「背く」
② 教義 28・7、GS「神権の鍵」
17 ① GS「リグドン、シドニー」
② GS「スミス、ハイラム」
19 ① 1コリ 16・9、教義 118・3
20 ① 教義 84・35—38
21 ① GS「権威・権限・権能」
② 教義 107・34—35
22 ① GS「聞き従う・聴く」「従順・従う」
23 ① イザ 60・2、ミカ 3・6、教義 38・11、GS「背教・背信—過去のキリスト教会における背教」
② 教義 10・20—23
24 ① GS「報復」

これは激しい怒りの日、焼き払いの日、荒廃の日、泣き[2]嘆き、悲しむ日である。それは旋風のように地の全面に及ぶであろう、と主は言う。

25 わたしの家にそれは始まり[1]、わたしの家からそれは出て行く、と主は言う。

26 最初はあなたがたの中の、わたしの名を知っていると公言しながらわたしを知らず[2]、わたしの家の中でわたしを冒瀆[3]した者の中に始まる、と主は言う。

27 それゆえ、あなたがたはこの地におけるわたしの教会の諸事について心を悩ますことのないようにしなさい、と主は言う。

28 しかし、わたしの前に心を清く[1]しなさい。それから全世界に出て[2]行って、わたしの福音を与えられていないすべての造られたものにそれを宣べ伝えなさい。

29 信[1]じてバプテスマ[2]を受ける者は救われる。しかし、信じることなく、バプテスマを受けない者は、罰[3]の定めを受けるであろう。

30 あなたがた十二使徒[1]会と、あなたがたの助言者および指導者となるようにあなたがたとともに任命された[2]大管長会[2]に、この神権の力が、時満ちる[3]神権時代である終わりの時のために最後に与えられているからである。

31 あなたがたは、創造の初めからいずれの時であっても神権時代を受けたすべての者とともに、この力を保持している。

32 まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが受けた神権時代の鍵[1]は、先祖から継承[2]され、最後に天からあなたがたに下されたものである。

33 まことに、わたしはあなたがたに言う。見よ、あなたがたの召しは何と偉大なことか。この時代の人々の血があなたがたの手に求め[1]られることのないように、心と衣を清く[2]しなさい。

34 わたしが来るまで忠実でありなさい。わたしはすぐに来[1]るからである。わたしは報いを携えて来て、すべての人にその行い[2]に応じて報いる。わたしはアルパでありオメガである。アーメン。

第113章

千八百三十八年三月、イザヤの記した事柄に関する質問に対して預言者ジョセフ・スミスより与えられた答え（『教会歴史』第三巻、九—十ページ）。

---

24 ② 教義 124・8
25 ① 1ペテ 4・17—18
26 ① マタ 7・21—23、教義 41・1、56・1
② ルカ 6・46、モサ 26・24—27、3ニフ 14・21—
23 ③ GS「冒瀆・汚す罪」
28 ① ③ GS「清さ」
② マコ 16・15—16
29 ① モル 9・22—23、教義 20・25—26
② GS「バプテスマ」
③ GS「罰の定め」
30 ① GS「使徒」
② GS「大管長会」
③ エペ 1・10、教義 27・13、124・40—42、GS「神権時代」
32 ① 教義 110・11—16、GS「神権の鍵」
② アブ 1・2—3
33 ① 教義 72・3
② ヤコ 1・19
34 ① 黙示 22・7、12、教義 49・28、54・10
② GS「行い」

1−6 エッサイの株、そこから出る芽、およびエッサイの根の意味が明らかにされる。7−10 シオンの散らされた残りの者は、神権を受ける権利を持っており、主に立ち返るように勧められている。

1 イザヤ書第十一章一、二、三、四、五節の中で述べられている、[1]エッサイの株とはだれのことか。
2 まことに、主はこのように言われる。「それはキリストである。」
3 イザヤ書第十一章一節の中で述べられている、エッサイの株から出るはずの芽とは何か。
4 見よ、主はこのように言われる。「それはキリストの手の中の一人の僕であって、幾分は[1]エフライムの子孫、すなわちヨセフの家の子孫であるだけでなく、幾分はエッサイの子孫でもあり、大きな[2]力を授けられる者である。」
5 第十一章十節の中で述べられている、エッサイの根とは何か。
6 見よ、主はこのように言われる。「それはエッサイの子孫であり、ヨセフの子孫でもあって、終わりの時に、[1]旗となるために、またわたしの民を[2]集めるために、神権と王国の[3]鍵とを正当に所有する者である。」
7 エライアス・ヒグビーからの質問。イザヤ書第五十二章一節の中の、「シオンよ、力を着よ」という命令はどういう意味か。また、イザヤはどの民を指して述べたのか。
8 彼は、神が終わりの時に召される者たち、すなわち[1]シオンを元に戻し、イスラエルを贖う神権の力を持つ者たちを指して述べた。[2]力を着るとは、神権の権能をまとうことであり、シオンはそれを血統によって受ける[3]権利を持っている。また、シオンが失ったその力に復することでもある。
9 第二節の、シオンがその首の縄を解き捨てるということによって、わたしたちは何を理解すべきか。
10 わたしたちは次のように理解すべきである。すなわち、[1]散らされた残りの者は、かつて主のもとから落ちたが、その主に[2]立ち返るように勧められている。彼らがそうするならば、主は彼らに語る、すなわち彼らに啓示を与えると約束しておられる。第六、七、八節を参照。シオンの首の縄とは、シオンに下された神ののろい、すなわち、イスラエルの残

第113章
1 1① GS「エッサイ」
4 ①創世41:50−52、教義133:30−34、GS「エフライム」
6 ①②GS「力」、教義45:9、GS「旗」
②GS「イスラエル−イスラエルの集合」
8 ①③GS「神権の鍵」
②GS「シオン」、教義82:14
③②GS「長子の特権・生得権」
10 ①GS「イスラエル−イスラエルの散乱」
②ホセ3:4−5、2ニフ6:11

りの者が異邦人の間に散らされた状態にあるということである。

第114章

千八百三十八年四月十七日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第三巻、二十三ページ）。

1−2 忠実でない者が受けている教会の職は、ほかの者に与えるべきである。

1まことに、主はこのように言う。わたしの僕デビッド・W・パッテンが、できるだけ早く彼の事業をすべて清算し、その商品を処分し、そうすることによって来年の春に、ほかの者、すなわち彼自身を含む十二人の者とともに、全世界にわたしの名を証し、喜びのおとずれを携えて行く使命をわたしのために果たすようにすることは、彼にとって賢明である。

2まことに、主はこのように言う。あなたがたの中にわたしの名を否定する者がいれば、ほかの者を代わりに立てて、否定する者の職を与えなければならない。アーメン。

第115章

千八百三十八年四月二十六日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた、その地を築き上げて主の宮を建てることについての神の御心を知らせる啓示（『教会歴史』第三巻、二十三―二十五ページ）。この啓示は教会の管理役員たちにあてたものである。

1−4 主は御自分の教会を、末日聖徒イエス・キリスト教会と命名される。5−6 シオンとそのステークは、聖徒たちのための防御と避難の場所である。7−16 聖徒たちはファーウェストに主の宮を建てるように命じられる。17−19 ジョセフ・スミスは地上で神の王国の鍵を持つ。

1まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアと、またわたしの僕シドニー・リグドンと、またわたしの僕ハイラム・ス

第114章
2 ① 教義64・40
② 教義118・1、6

第115章
1 ① GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」
② GS「リグドン、シドニー」
③ GS「スミス、ハイラム」

ミス、およびすでに任命されている、またこの後任命されるあなたの顧問たち、

2 また、あなた、すなわちわたしの僕エドワード・パートリッジと、彼の顧問たち、

3 また、シオンにおけるわたしの教会の高等評議会（これからこのように呼ばれる）に属するわたしの忠実な僕たち、および全世界に散在しているわたしの末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての長老たちと人々に言う。

4 わたしの教会は、終わりの時にこのように、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない。

5 まことに、わたしはあなたがたすべてに言う。立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであり、

6 シオンの地とそのステークに集合することが、防御のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となるためである。

7 ファーウェストの町を、わたしのために聖なる聖別された地としなさい。それを最も聖なる地と呼ばなければならない。あなたが立っている地は聖なる地だからである。

8 それゆえ、わたしはあなたがたに命じる。聖徒たちがわたしを礼拝できるように、彼らの集まる場所として、わたしのために一つの家を建てなさい。

9 今年の夏にこの仕事を開始し、基礎造りをし、準備工事を始めなさい。

10 来る七月四日に開始して、そのときからわたしの民は熱心に働き、わたしの名のために家を建てなさい。

11 この日から一年後に、わたしの家の土台を据える作業を再開しなさい。

12 このようにしてそのときから、わたしの家がその隅石からその最上部に至るまで仕上げられ、仕上げられていない所がなくなるまで、熱心に働きなさい。

13 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ジョセフにも、わたしの僕シドニーにも、わたしの僕ハイラムにも、わたしの名のために家を建てるに当たってこれ以上負債を抱えさせないようにしなさい。

14 しかし、わたしが彼らに示す型に従って、わたし

---

2 ①GS「パートリッジ、エドワード」
4 ①3ニフ27・4—8 ②GS「末日聖徒イエス・キリスト教会」
5 ①イザ60・1—3 ②イザ11・12、GS「旗」
6 ①②GS「シオン」 ②教義101・21、GS「ステーク」 ③GS「イスラエル—イスラエルの集合」 ④黙示14・10、教義1・13—14 ⑤イザ25・1、4、教義45・66—71
7 ①GS「聖い」
8 ①教義88・119、95・8 ②教義118・5
11 ①教義124・45—54
14 ①②ヘブ8・5、教義97・10

の名のために家を建てなさい。

15もしわたしの民が、わたしが大管長会に示す型に従ってそれを建てなければ、わたしは彼らの手からそれを受け入れない。

16しかしわたしの民が、わたしが彼らの大管長会、すなわち、わたしの僕ジョセフと彼の顧問たちに示す型に従ってそれを建てるならば、わたしは民の手からそれを受け入れよう。

17さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの思いは、ファーウェストの町が、聖徒たちが集まることによって速やかに築かれることであり、

18また、その周りの他の場所が、折々わたしの僕ジョセフに明らかにされるままに、[1]ステークとして定められることである。

19見よ、わたしは彼とともにおり、また民の前で彼を聖める。わたしは彼にこの王国と務めの[1]鍵を授けたからである。まことにそのとおりである。アーメン。

第116章

千八百三十八年五月十九日、ミズーリ州デイビーズ郡ワイツフェリーの近くのスプリングヒルと呼ばれる地において、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第三巻、三十五ページ）。

1スプリングヒルは、主によって[1]アダム・オンダイ・アーマンと名付けられる。それというのも、主が言われるには、そこは[2]アダムがその民を訪れるために来る場所、すなわち預言者ダニエルによって述べられたように[3]日の老いたる者が座する場所だからである。

第117章

千八百三十八年七月八日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、ウィリアム・マークス、ニューエル・K・ホイットニー、およびオリバー・グレインジャーの当面の務めに関して、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第三巻、四十五―四十六ページ）。

1−9主の僕たちは現世のものをむさぼってはならない。「主にとって財産とは何であろうか」とあるから

18①教義101・21、GS「ステーク」
19①GS「神権の鍵」
第116章
1①教義78・15、GS「アダム・オンダイ・アーマン」
②③GS「アダム」
ダニ7・13−14、22

である。10–16 彼らは浅ましい心を捨てなければならない。そうすれば、彼らの犠牲は主にとって神聖なものとなる。

1 まことに主は、わたしの僕ウィリアム・マークスと、またわたしの僕ニューエル・K・ホイットニーにこのように言う。主なるわたしが地上に再び雪を送る前に、彼らは事業を速やかに清算して、カートランドの地を旅立ちなさい。

2 彼らは目を覚まし、立ち上がり、出て来て、とどまることのないようにしなさい。主なるわたしが命じるからである。

3 それゆえ、もしとどまるならば、それは彼らにとってよくない。

4 彼らはわたしの前で、すべての罪とすべてのむさぼりの欲望を悔い改めなさい、と主は言う。わたしにとって財産[1]とは何であろうか、と主は言う。

5 カートランドの財産を負債の支払いのために処分しなさい、と主は言う。それらを手放しなさい、と主は言う。そして、なお残るものがあれば、何でもそれをあなたがたの手に残しておきなさい、と主は言う。

6 わたしには空の鳥や、海の魚や、山の獣がいないか。わたしは地を造らなかったか。わたしは地の国々のすべての軍隊[1]の運命を握っていないか。

7 それゆえ、わたしは寂しい[1]所に芽を出させ、花を咲かせ、また豊かに実を結ばせないであろうか、と主は言う。

8 あなたがたが一滴のしずくにすぎないものをむさぼって、もっと重要なことをなおざりにするほど、アダム・オンダイ・アーマン[1]の山々とオラハ・シネハ[2]の平原、すなわちアダムの住んでいた地[3]に十分な余地がないのであろうか。

9 それであるから、この地、わたしの民の地、すなわちシオンに上って来なさい。

10 わたしの僕ウィリアム・マークスは、わずかなものにも忠実でありなさい。そうすれば、多くを治める者となるであろう。彼は、ファーウェストの町におけるわたしの民の中で管理し、わたしの民の祝福をもって祝福されるようにしなさい。

11 わたしの僕ニューエル・K・ホイットニーは、ニコライ派[1]と彼らのすべての秘密[2]の忌まわしい行い

第117章
4 ① 教義104・14
5 ① 教義104・78、使徒17・26、1ニフ6 ① 17・36−39
7 ① イザ35・1、教義49・24−25
8 ① 教義116・1、GS「アダム・オンダイ・アーマン」 ② アブ3・13
10 ① ③ GS「エデン」 マタ25・23
11 ① 黙示2・6、15 ② GS「秘密結社」

と、わたしの前における自分の浅ましさをすべて恥じなさい、と主は言う。そして、アダム・オンダイ・アーマンの地に上って来て、わたしの民のビショップになりなさい、と主は言う。名前ではなく、行いでそうしなさい、と主は言う。[3]

12 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕オリバー・グレインジャーを、わたしは覚えている。見よ、まことに、わたしは彼に言う。彼の名前は代々とこしえにいつまでも、神聖に覚えられるであろう、と主は言う。

13 それゆえ、彼はわたしの教会の大管長会の負債償却のために熱心に働きなさい、と主は言う。彼は倒れるとき、再び起き上がるであろう。彼の犠牲は彼が増し加えるものよりもわたしにとって神聖だからである、と主は言う。

14 それゆえ、彼はこの地、すなわちシオンの地に速やかに上って来なさい。そうすれば、ふさわしいときに、彼はわたしの名のために、またわたしの民の益のために、商いをする者とされるであろう、と主は言う。

15 それゆえ、だれもわたしの僕オリバー・グレインジャーを軽んじることなく、わたしの民の祝福がいつまでもとこしえに彼のうえにあるようにしなさい。

16 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。カートランドの地におけるわたしの僕は皆、主なる神とわたしの家とを思い起こし、それを聖なるものとして保って守り、わたしがふさわしいとするときに両替人を打ち倒しなさい、と主は言う。まことにそのとおりである。アーメン。

第118章

千八百三十八年七月八日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、「おお、主よ、十二使徒会についてのあなたの御心をわたしたちにお示しください」という願いに応じて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第三巻、四十六ページ）。

1−3 主は十二使徒の家族に必要なものを与えてくださる。4−6 十二使徒会の空席が満たされる。

1 まことに、主はこのように言う。大会をすぐに開

---

3) ③ GS「ビショップ」
12 ① カートランドにおける諸事に携わることを預言者から任された代理人
13 ① GS「犠牲」

きなさい。十二使徒会を組織しなさい。人々を任命して、堕落した者たちの職を満たしなさい。

2 わたしの僕トーマス[1]は、わたしの言葉を出版するために、しばらくの間シオンの地にとどまりなさい。

3 残りの者は、そのときから教えを説くことを続けなさい。彼らができるかぎりへりくだった心で、柔和と謙遜[1]と寛容[2]をもってこれを行うならば、主なるわたしは彼らに、わたしがその家族に必要なものを与えると約束をしよう。またその後、効果的な門が彼らのために開かれるであろう。

4 来年の春、彼らは大海を越えて行き、そこでわたしの福音、すなわち完全な福音を広め、わたしの名について証しなさい。

5 主は言う。来年の四月二十六日に、ファーウェストの町におけるわたしの家の建築地点で、わたしの聖徒たちに別れを告げなさい。

6 わたしの僕ジョン・テーラーと、またわたしの僕ジョン・E・ページと、またわたしの僕ウィルフォード・ウッドラフと、またわたしの僕ウィラード・リチャーズが、堕落した者たちの空席を満たすために任命され、その任命が正式に通知されるようにしなさい。

第119章

千八百三十八年七月八日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第三巻、四十四ページ）。これは、「おお、主よ、あなたは什分の一として、あなたの民の財産のうちのどれほどをお求めになるか、あなたの僕にお示しください」という預言者の願いに応じて与えられたものである。この啓示が下される以前には、今日理解されているような什分の一の律法は教会に与えられていなかった。前述の祈りと以前の啓示（第六十四章二十三節、第八十五章三節、第九十七章十一節）の中の「什分の一」という言葉は、十分の一を意味するだけでなく、教会の基金への自由意志によるすべてのささげ物や寄付をも意味していた。主は以前に財産の奉献と管理人の職の律法を教会に与えられ、会員たち（おもに指導的立場にある長老たち）は、聖約によってその律法に入っていた。その聖約は永遠のもののはずであった。しかし、多くの者がその聖約

第118章
1 ① 使徒1・13、16—17、22—26
2 ① GS「マーシュ、トーマス・B」
3 ① GS「謙遜」
② GS「堪え忍ぶ」

を守らなかったために、主は一時それを取り下げて、代わりに全教会に什分の一の律法を与えられた。そこで預言者は、神聖な目的のために彼らの財産のうちのどれほどを求められるか主に尋ねた。その答えがこの啓示である。

1—5 聖徒たちは彼らの剰余の財産を納め、その後、什分の一として、毎年彼らの得る利益の十分の一を差し出さなければならない。6—7 このような行いはシオンの地を聖める。

1 まことに、主はこのように言う。わたしは、彼らの剰余[1]の財産をすべてシオンにおけるわたしの教会のビショップの手にゆだねることを求める。

2 それは、わたしの家[1]を建てるため、シオンの基を据えるため、神権のため、またわたしの教会の大管長会の負債のためである。

3 これがわたしの民の納める什分[1]の一の始まりとなる。

4 その後、このように什分の一を納めた者は、毎年彼らの得る全利益の十分の一を納めるのである。そして、これはわたしの聖なる神権のために、とこしえに彼らにとっての永続的な律法となる、と主は言う。

5 まことに、わたしはあなたがたに言う。すなわち、シオン[1]の地に集まる者は皆、彼らの剰余の財産を什分の一として納め、この律法を守らなければならない。そうでなければ、あなたがたの中に住むにふさわしいと認められない。

6 また、わたしはあなたがたに言う。もしわたしの民がこの律法を守らずに、これを聖なるものとして保たず、またこの律法によってわたしのために[1]シオンの地を聖め、それによりわたしの掟と裁決がそこで守られて、それが最も聖なる地となるようにしなければ、見よ、まことに、わたしはあなたがたに言うが、それはあなたがたにとってシオンの地ではなくなる。

7 これはシオンのすべての[1]ステークにとっての一つの範例である。まことにそのとおりである。アーメン。

第119章
1 (1) 教義42・33—34、55、51・13、82・17—19
2 (1) 教義115・8
3 (1) 教義64・23、マラ3・8—12、GS「什分の一」
5 (1) 教義57・2—3
6 (1) GS「シオン」
7 (1) GS「ステーク」

第120章

千八百三十八年七月八日、ミズーリ州ファーウェストにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第三巻、四十四ページ）。これは、前の第百十九章の啓示の中で述べられた什分の一として納められた財産の配分について知らせるものである。

1まことに、主はこのように言う。わたしの教会の大管長会と、ビショップとその評議会、ならびにわたしの高等評議会により構成される評議会によって、また彼らへのわたし自身の声によって、それが配分されるべき時が今や来た、と主は言う。まことにそのとおりである。アーメン。

第121章

千八百三十九年三月二十日付けで、預言者ジョセフ・スミスによって記された祈りと預言（『教会歴史』第三巻、二百八十九―三百ページ）。このとき、預言者はミズーリ州リバティーの監獄において囚われの身であった。預言者と数人の同僚たちは、これまで数か月間拘留され、行政官や司法官にあてた彼らの請願や上訴も彼らを救助するには至らなかった。

1−6 預言者は苦しんでいる聖徒たちのために主に懇願する。7−10 主は彼に平安を告げられる。11−17 主の民は戒めに背いていると偽りの叫び声を上げる者は皆、のろわれる。18−25 彼らは神権を受ける権利を持たず、罰の定めを受ける。26−32 勇敢に堪え忍ぶ者に、栄光ある啓示が約束される。33−40 召される者は多いが選ばれる者は少ない理由。41−46 神権は義にかなってのみ用いなければならない。

1おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの[1]隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。

2あなたの御手は[1]いつまでとどめられ、あなたの目、まことにあなたの清い目はいつまで永遠の天からあなたの民とあなたの僕たちへの不当な扱いを眺め、またあなたの耳はいつまで彼らの叫び声で貫かれるのですか。

3まことに、おお、主よ、彼らがどれほど[1]長くこれらの不当な扱いと不法な虐げを受ければ、あなたの

第120章
1① 什分の一のこと
第121章
1① 詩篇13・1−2、102・1−2
2① ハバ1・2
3① 教義109・49

心は彼らに和らぎ、あなたの胸は彼らに対する哀れみの情に動かされるのですか。

4 おお、全能[1]の主なる神よ、天と地と海とその中にある万物の造り主よ、悪魔とシェオルなる暗い闇の領域を支配し従えておられる御方よ、あなたの御手を伸べてください。あなたの目が貫きますように。あなたの大幕が取り去られますように。あなたの隠れ場[2]がもはや覆われませんように。あなたの耳が傾けられますように。あなたの心が和らぎ、あなたの胸がわたしたちに対する哀れみの情に動かされますように。

5 あなたの怒りがわたしたちの敵に向かって燃えますように。そして、あなたの心の憤りをもって、あなたの剣でわたしたちへの不当な扱い[1]に報復してください。

6 おお、わたしたちの神よ、あなたの苦しんでいる聖徒たちを思い起こしてください。そうすれば、あなたの僕たちは、とこしえにあなたの御名を喜び歌います。

7 「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境[1]とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

8 その後、あなたがそれをよく堪え忍[1]ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。

9 あなたの友人[1]たちはまことにあなたの傍らに立っている。そして、彼らは温かい心と親しみのある手をもって、再びあなたを歓呼して迎えるであろう。

10 あなたはまだヨブ[1]のようではない。あなたの友人たちは、ヨブにその友人たちが行ったようにあなたに対して言い争わず、戒めに背いたとしてあなたを責めることもない。

11 戒めに背いたとしてあなたを責める者たちの希望は吹き消され、彼らの期待は、霜が朝日の強い日差しの前に解けるように解け去るであろう。

12 神は手を置いて印を押して、時[1]と季節とを変え、彼らの思いをくらました。それは、彼らが神の驚くべき業を理解できないようにするためであり、また神が彼らを試し、彼ら自身の悪巧みによって彼らを捕らえるためである。

13 また、彼らの心が腐敗しているので、彼らが進んで、ほかの人々のうえにもたらし、ほかの人々に受けさせたいと思っていることが、彼ら[1]自身のうえに

---

4 (1) GS「全能」
(2) 教義123・6
5 (1) ルカ18・7−8
7 (1) GS「逆境」
8 (1) 1ペテ2・19−23、GS「堪え忍ぶ」
9 (1) 教義122・3
10 (1) GS「ヨブ」
11 (1) 出エ16・14
12 (1) ダニ2・21
13 (1) 箴言28・10、1ニフ14・3

最大限に及ぶようにするためである。
14 また、彼らを失望させるためであり、彼らの望みを絶つためであり、
15 これから多くの年がたたないうちに、彼らとその子孫が天の下から一掃されて、だれも壁のそばに立つ者のいないようにするためである、と神は言う。
16 わたしの油注がれた者に向かってかかとを上げる者は皆のろわれる、と主は言う。わたしの油注がれた者がわたしの前に罪を犯すことなく、わたしの目にかなうことと、わたしから命じられたことを行ったのに、彼らは罪を犯したと叫ぶ者は皆のろわれる、と主は言う。
17 しかし、戒めに背いたと叫ぶ者は、彼ら自身が罪の僕であり、不従順の子らであるからそう叫ぶのである。
18 また、わたしの僕たちを束縛と死に至らせようと、偽り誓って彼らを訴える者、
19 彼らは災いである。彼らはわたしの幼い者たちをつまずかせたので、わたしの家の儀式から絶たれるであろう。
20 彼らのかごは満ちることなく、彼らの家と倉は朽ち果て、彼ら自身は彼らにへつらった者たちに見下されるであろう。
21 彼らも、彼らの後の子孫も代々、神権を受ける権利を持たないであろう。
22 彼らにとっては、石臼を首にかけられて、海の深みに沈められる方がよかった。
23 わたしの民を苦しめ、追い出し、殺し、また彼らについて不利な証言をする者は皆災いである、と万軍の主は言う。まむしの子らは地獄の罰を免れないであろう。
24 見よ、わたしの目は彼らのすべての行いを見て知っている。そして、わたしは彼らすべてのために、ふさわしい時期における速やかな裁きを保留している。
25 それは、すべての人のためにその行いに応じて定められた時があるからである。」
26 神はその聖なる御霊によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物によって、世界が存在するようになって以来現在まで示されたことのない知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。
27 それは、終わりの時代に示されることを、わたし

16 ① サ上26・9、詩篇105・15 ② 2ニフ15・20、モロ7・14、18
17 ① エペ5・6
19 ① マタ18・6、GS「つまずく・つまずかせる」 ② GS「儀式」
20 ① ② 申命28・15—20
21 ① GS「神権」
22 ① マタ18・6、教義54・5
23 ① マタ12・34
24 ① GS「全知」 ② ヒラ8・25、GS「裁き」
25 ① GS「行い」 ② ヨブ7・1、教義122・9
26 ① 教義8・2—3 ② GS「聖霊の賜物」 ③ ダニ2・20—22、箇条1・9、GS「啓示」

たちの先祖が切なる期待をもって待ち望んできたもの、彼らの完全な栄光のために取っておかれるものとして、その思いを向けるように天使たちによって促されたものである。

28 将来、1)何事も隠されることのないときに、唯一の神か、それとも多くの2)神々がおられるか、そのことが明らかにされるであろう。

29 すべての王位と主権、公国と力が示されて、イエス・キリストの福音のために勇敢に堪え忍んだすべての者に授けられるであろう。

30 また、天や海に、乾いた地に、太陽や月や星に限界があれば、

31 それらの回転のすべての時、定められたすべての日と月と年、またそれらの日と月と年のすべての日、またそれらのすべての栄光と律法と定められた時が、時満ちる1)神権時代に示されるであろう。

32 この世界が存在する前に、ほかのすべての神々を支配する永遠の1)神の2)会議で定められたこと、すなわち、すべての人が永遠の神のもとに行って神の不滅の3)安息に入るこの世の仕上げと終わりのために保留されるはずであったことに従って示されるであろう。

33 流水はいつまで濁ったままでいられようか。いかなる力が天をとどめるであろうか。全能者が末日聖徒の頭に天から1)知識を注ぐのを人が妨げようとするのは、人がそのか弱い腕を伸べて、定められた水路を流れる1)ミズーリ川をとどめようとするようなもの、あるいは逆流させようとするようなものである。

34 まことに、1)召される者は多いが、2)選ばれる者は少ない。では、なぜ彼らは選ばれないのであろうか。

35 それは、彼らがあまりにもこの世の1)ものに執着し、人の2)誉れを得ることを望んでいるために、次のような一つの教訓を学ばないからである。

36 すなわち、1)神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、天の2)力は義の3)原則に従ってしか制御することも、運用することもできないということである。

37 なるほどそれらがわたしたちに授けられることもあろう。しかし、わたしたちが自分の1)罪を2)覆い隠そうとしたり、自分の3)高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり、あるいはいかなる程度の不義に

---

28 ①教義42・61、76・7
29 ①1—8、98・12 ②詩篇82・1、6、ヨハ10・34—36、1コリ8・5—6、教義76・58、132・20、アブ4・1、5・1—2
30 ①教義101・32
31 ①ヨブ26・7—14、詩篇104・5—9、使徒17・26 ②GS「神権時代」
32 ①申命10・17 ②GS「天上の会議」 ③GS「人—天の御父のようになる可能性を持った人間」 ④GS「安息」
33 ①教義128・19、GS「知識」
34 ①マタ20・16、22・1—14、教義95・5—6、GS「召し・神の召し」 ②GS「選ばれた者」
35 ①GS「物欲」 ②マタ6・2、2ニフ26・29
36 ①GS「権威・権限・権能」 ②GS「力」 ③GS「義」
37 ①GS「罪」 ②箴言28・13 ③GS「高慢」

よってでも、人の子らを制御し、支配し、強制しようとしたりするとき、まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。

38 まことに、その人は気がつかないうちに、一人放置されて、とげのある鞭をけり、聖徒たちを迫害し、神と戦う。

39 わたしたちは悲しむべき経験によって学んだ。すなわち、ほとんどすべての人は、少しばかりの権能を得たと思うや、すぐに不義な支配を始めようとする性質と傾向がある。

40 それゆえに、召される者は多いが、選ばれる者は少ないのである。

41 いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

42 優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。

43 聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。

44 それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。

45 またあなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対して、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。

46 聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの笏は義と真理の不変の笏となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。

第122章

千八百三十九年三月、ミズーリ州リバティーの監獄において、囚われの身であった預言者ジョセフ・スミスに与えられた主の言葉（『教会歴史』第三巻、三百一—三百一ページ）。

---

37 ④ 教義1・33
38 ① 使徒26・14
② GS「迫害」
39 ① GS「生まれながらの人」
② 1ペテ5・1—3
41 ① 2コリ6・4—6
② 新ヤコ3・17
42 ① GS「懲らしめ」
② GS「愛」「慈愛」
43 ① GS「徳」
② GS「思い」
45 ① 申命32・1—2、教義128・19
② GS「聖霊」
③ ダニ7・13—14
46 ① GS「聖霊」
② GS「真理」

1–4 地の果ての人々がジョセフ・スミスの名を尋ねる。5–7 彼の被るすべての危難と労苦は彼に経験を与え、彼の益となる。8–9 人の子はすべての下に身を落とされた。

1 地の果ての人々があなたの名を[1a]尋ね、愚かな者はあなたをあざ笑い、地獄はあなたに激怒するであろう。

2 一方、心の清い者と、知恵のある者と、高潔な者と、徳高い者は、絶えずあなたの手から[1b]助言と権能と祝福を求めるであろう。

3 あなたの民が、裏切り者の証によってあなたに背くことは決してない。

4 あなたは裏切り者の影響により苦難の中に、また格子と壁の中に投げ込まれるが、それでもあなたは尊敬されるであろう。そして、[1]つかの間にして、あなたの声は、あなたの義のゆえに、あなたの敵の中でどう猛な[2]ライオンよりも恐ろしいものとなる。そして、あなたの神は、とこしえにいつまでも、あなたの傍らに立つであろう。

5 たとえあなたは艱難を経験するように定められても、たとえ偽兄弟の難に遭っても、たとえ強盗の難に遭っても、たとえ陸上や海上の難に遭っても、

6 たとえあらゆる偽りの罪状で告訴されても、たとえあなたの敵があなたを襲っても、たとえ彼らがあなたの父と母と兄弟と姉妹の交わりからあなたを引き離しても、また、たとえあなたの敵が抜き身の剣をもってあなたを妻と子供たちから引き離し、六歳にすぎないあなたの年長の息子があなたの服にすがりついて、「お父さん、お父さん、なぜ一緒にいられないの。ああ、お父さん、この人たちは何をしようとしているの」と叫んでも、そしてその後たとえ彼が剣をもってあなたから引き離され、あなたが獄に引きずり込まれ、あなたの敵が子羊の血を求めるおおかみのようにあなたの周りをうろついても、

7 また、たとえあなたが穴の中に投げ込まれたり、殺人者の手に渡されたりして、死刑の宣告が下されても、たとえあなたが[1]深みに投げ込まれても、たとえ寄せて来る大波があなたを巻き込もうとしても、たとえ暴風があなたの敵となっても、たとえ天が暗黒を集め、すべての元素が結束して道をふさいで

第122章
1 (1) ジ—歴史1・33
2 (1) GS「勧告・勧め」
4 (1) 教義121・7–8
(2) 3ニフ20・16–21、21・12
6 (1) ルカ10・3
7 (1) ヨナ2・3–6

も、また何にも増して、たとえ地獄[2]の入り口が大口を開けてあなたをのみ込もうとしても、息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験[3]を与え、あなたの益となるであろう。

8 人[1]の子はこれらすべての下に身[2]を落とした。あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。

9 それゆえ、あなたの道に踏みとどまりなさい。そうすれば、神権はあなたとともにある。[1]彼らの限界[2]は定められており、彼らはそれを越えることはできない。あなたの命数[3]は知られており、あなたの寿命が短くされることはない。それゆえ、人のなし得ることを恐れ[4]てはならない。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。

第123章

千八百三十九年三月、ミズーリ州リバティーの監獄において、囚われの身であった預言者ジョセフ・スミスによって明らかにされた、迫害者に関する聖徒たちの義務（『教会歴史』第三巻、三百二—三百三ページ）。

1—6 聖徒たちは、受けた苦難と迫害の記録を集めて出版しなければならない。7—10 偽りの信条を確立した霊が、聖徒たちの迫害を誘う。11—17 すべての教派の中の多くの者が、やがて真理を受け入れるであろう。

1 さらにまた、わたしたちは、次のことを考えるようにあなたがたに勧めたい。すなわち、すべての聖徒が、この州の人々から加えられた苦難と虐待に関する一切の事実について、情報を集めることは正当である。

2 また、聖徒たちが損害を被ったすべての財産と損害額を、不動産だけでなく、人格ならびに身体への侵害についても情報を集めること、

3 また、彼らが入手し、見つけ出せるかぎり、その暴虐に加担したすべての人の名前の情報を集めることについても同様である。

4 委員会を設けて、これらのことを調べ出し、申立書と宣誓供述書を取り、流布されている中傷的な刊行物を集め、

5 雑誌や百科事典の中にあるすべてのもの、またす

---

7 ② サ下22・5—7、ジー歴史1・15—16
③ 2コリ4・17、ヘブ12・10—11、2ニフ2・11
8 ① GS「人の子」
② ヘブ2・9、17—18、教義76・107、88・6
9 ① 教義90・3
② 使徒17・26
③ 教義121・25
④ ネヘ4・14、詩篇56・4、118・6、箴言3・5—6、イザ51・7、ルカ12・4—5、2ニフ8・7、教義3・7、98・14

でに出版された、あるいは現在執筆中のすべての中傷的な歴史、およびそれがだれによるものかについての情報も集め、この民に対して行われた極悪な所業と非道かつ残忍な詐欺行為の全体のつながりを明らかにすることもできるであろう。

6 それは、わたしたちがそれらを全世界に向けて出版するだけでなく、政府の指導者たちにそれらを暗い地獄のような状態のままで明らかにするためでもある。それは、わたしたちの天の御父にその[1]隠れ場から出て来ていただくという約束を果たすように求める権利を、わたしたちが十分かつ申し分なく主張するに先立って、天の御父からわたしたちに命じられている最後の努力である。さらにまた、それは、天の御父がその強い御腕の力を下される前に、全国民が弁解の余地のないようにするためである。

7 これは、わたしたちが神に対して、またわたしたちがともに立たされる天使たちに対して、また殺害や圧制や暴虐の最も忌まわしい手の下で嘆き、悲しみ、不安でくじかれたわたしたち自身と妻子に対して負っている、ぜひとも果たすべき義務である。その殺害や圧制や暴虐の最も忌まわしい手は、偽りを受け継いだ先祖の信条を子孫の心にしっかりと打ち込み、世を混乱で満たし、ますます勢力を増し、今やすべての背徳の源そのものとなっている、あの霊の影響力によって支援され、促され、支えられている。そして、[1]全地はその罪悪の重さの下でうめいている。

8 これは鉄の[1]くびきであり、強い縄である。それらはまさに地獄の手錠、鎖、手かせ、足かせである。

9 したがって、これは、わたしたちが自分たちの妻子に対してだけでなく、その鉄の手によって夫や父親を殺された、やもめや父のいない子供に対しても負っている、ぜひとも果たすべき義務である。

10 そのような暗い、暗黒を招く行為は、地獄をさえ震えおののかせ、恐れて顔色を失わせ、あの悪魔の手をも震わせ、まひさせるのに十分である。

11 これはまた、わたしたちが次の世代に対して、またすべての心の清い者に対して負っている、ぜひとも果たすべき義務である。

12 地上のすべての教派や宗派、門派の中には、欺こうと待ち伏せる人々の狡猾な悪巧みによって[1]目をくらまされ、見いだす場所を[2]知らないということだけ

第123章
6 ① 教義101・89、121・1、
4 7 ① モセ7・48−49
8 ① GS「くびき」
9 ① 教義98・13、124・54
12 ① コロ2・8、教義76・
② 75 1ニフ8・21−23

で真理を得られずにいる多くの人がいる。

13 したがって、わたしたちは、わたしたちの知るかぎりにおいて、闇の中の[1]隠されたことをすべて明るみに出すために、生涯をなげうって尽くさなければならず、これらはまことに天から示されるのである。

14 したがって、これらのことに大いに真剣に取り組まなければならない。

15 だれにも、これらのことをささいなことと思わせてはならない。聖徒たちに関して将来起こる多くのことは、これらのことにかかっているからである。

16 兄弟たちよ、あなたがたの知っているように、非常に大きな船も、嵐のときにはごく小さな舵に大いに[1]助けられ、風と波に対して進路を保つことができる。

17 したがって、親愛なる兄弟たちよ、わたしたちの力の限りすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて、神の[2]救いを目にし、また神の腕が現されるのを見ることができるように。

第124章

千八百四十一年一月十九日、イリノイ州ノーブーにおいて、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示（『教会歴史』第四巻、二百七十四—二百八十六ページ）。役人による迫害と不法な行為が増してきたため、聖徒たちはミズーリ州を立ち去らざるを得なかった。千八百三十八年十月二十七日付けで、ミズーリ州知事リルバーン・W・ボッグズによって発布された撲滅令は、彼らに選択の余地をまったく与えなかった（『教会歴史』第三巻、百七十五ページ）。この啓示が与えられた千八百四十一年には、かつてイリノイ州コマースという村があった場所に、聖徒たちによってノーブー市が築かれ、ここに教会の本部が設けられていた。

1—14 ジョセフ・スミスは、合衆国大統領、知事たち、およびすべての国の統治者たちに、福音を厳粛に宣言するよう命じられる。15—21 ハイラム・スミス、デビッド・W・パッテン、ジョセフ・スミス・シニア、および生者と死者の中にいるその他の人々が、彼らの高潔さと徳のゆえに祝福される。22—28 聖徒たちは、外来者をもてなすための家と神殿をノーブーに

13 ① 1コリ4・5
16 ① 新ヤコ3・4、アル37・6—7、教義64・33
17 ① 教義59・15
② 出エ14・13

建てるように命じられる。29—36 死者のためのバプテスマは、神殿内で執行しなければならない。37—44 主の民は、聖なる儀式の執行のためにいつも神殿を建てる。45—55 聖徒たちは、敵の暴虐があるので、ジャクソン郡に神殿を建てることを免除される。56—83 ノーブーハウスの建築のために、数々の指示が与えられる。84—96 ハイラム・スミスは召されて、祝福師となり、もろもろの鍵を受け、オリバー・カウドリの得ていた職に就く。97—122 ウィリアム・ローと他の人々は、彼らの働きに関して忠告される。123—145 中央と地元の役員たちが指名され、彼らの義務と所属する定員会が告げられる。

1 まことに、主はあなた、すなわちわたしの僕ジョセフ・スミスにこのように言う。わたしは、あなたのなしたささげ物と証とを心から喜んでいる。わたしがあなたを立てたのは、この目的のためである。すなわち、地の弱い者たちによってわたしの知恵を示すためである。

2 あなたの祈りをわたしは受け入れる。そして、祈りへの答えとして、わたしはあなたに言う。わたしの福音と、このステーク[1]について、直ちに厳粛に宣言するために、あなたは今召されている。このステークは、シオンの隅石となるようにわたしが設けたものであり、宮殿のような優美さをもって磨き上げられるであろう。

3 この宣言は、世界の四隅に至るまで、世のすべての王[1]に、またあなたが住んでいる国の高潔な次期大統領と気高い知事たちに、また散在している地のすべての国々に発せられなければならない。

4 これを、柔和[1]な心をもって、聖霊の力によって、書き記しなさい。これを書き記すときに、聖霊があなたの内に宿るであろう。

5 それらの王や役人に関するわたしの思い、すなわち将来何が彼らに起こるかは、聖霊によってあなたに知らされるからである。

6 見よ、わたしは、シオンの光と栄光を心に留めるように、彼らに呼びかけようとしている。シオンに恵みを授ける定められた時が来たからである。

7 それゆえ、あなたがたは彼らを恐れることなく、声高らかに宣言し、あなたがたの証を述べて彼らに呼びかけなさい。彼らは草[1]のようであり、彼らの栄

第124章

1 ① 1コリ1・26—28、教義1・19、35・13
2 ① GS「ステーク」
3 ① 詩篇119・46、マタ10・18、教義1・23
4 ① GS「柔和」
7 ① 詩篇103・15—16、イザ40・6—8、1ペテ1・24—25

華は皆、すぐに散る花のようだからである。彼らにそうするのは、彼らに弁解の余地がないようにするためである。

8 またそれは、わたしがわたしの顔の覆いを取り去る刑罰の日に彼らを訪れ、虐げる者の場所を偽善者の中に定めるためである。もしも彼らがわたしの僕たちと、わたしが彼らに明らかにしたわたしの証とを拒むならば、彼らはそこで歯ぎしりをするであろう。

9 さらにまた、わたしはあなたがたの益のために彼らの多くを訪れ、彼らの心を和らげ、それによって、あなたがたが彼らの前に恵みを得るように、また彼らが真理の光に来るように、そして異邦人がシオンをあがめるように、すなわち高めるようにしよう。

10 あなたがたの思いがけないときに、わたしの刑罰の日は速やかに来る。わたしの民の安全はどこにあり、またわたしの民の残された者たちの避け所はどこにあるであろうか。

11 目を覚ましなさい、おお、地の王たちよ。来なさい。おお、わたしの民を助けるために、あなたがたの金と銀を持って、シオンの娘たちの家に来なさい。

12 さらにまた、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの僕ロバート・B・トンプソンに、あなたがこの宣言を書く手伝いをさせなさい。わたしは彼のことを、また彼があなたとともにいることを心から喜んでいる。

13 それゆえ、彼があなたの助言に聞き従うようにさせなさい。そうすれば、わたしは多くの祝福をもって彼を祝福しよう。今から後、彼があらゆる点で忠実かつ誠実であるようにさせなさい。そうすれば、彼はわたしの目に大いなる者となるであろう。

14 しかし、わたしが管理人の職の報告を彼の手に求めるということを、彼に覚えておかせなさい。

15 さらにまた、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの僕ハイラム・スミスは幸いである。彼の心が高潔であるので、また彼がわたしの前に正しいことを愛するので、主なるわたしは彼を愛する、と主は言う。

16 さらに、わたしの僕ジョン・C・ベネットに、王たちと地の民にわたしの言葉を送り出すあなたの務めを助けさせ、また苦難のときにあなた、すなわちわたしの僕ジョセフ・スミスの傍らに立たせなさ

8 ①マタ8・12、アル40・13、教義101・91、112・24
9 ①イザ60・1−4、GS「光・キリストの光」
10 ①マタ1・48
14 ①GS「管理人・管理人の職」
15 ①GS「スミス、ハイラム」
②GS「高潔」

い。彼は[1]勧告を受け入れるならば、報いを失うことはないであろう。

17 愛があるので、彼は大いなる者となるであろう。彼はこのことを行うならば、わたしのものとなる、と主は言う。わたしは彼が行ってきたことを見た。彼がそれを続けるならば、わたしは彼の行いを受け入れて、彼にもろもろの祝福と大いなる栄光の冠を与えよう。

18 さらにまた、わたしはあなたに言う。わたしの思いは、わたしの僕[2]ライマン・ワイトが柔和な心をもってシオンのために教えを説き続け、世の人々の前にわたしを信じていることを告白することである。そうすれば、わたしは、[1]わしの翼に乗せるように彼を支えよう。そして、彼は彼自身のためとわたしの名のために、栄光と誉れを得るであろう。

19 それは、彼がその業を終えるとき、現在わたしとともにいるわたしの僕[1]デビッド・パッテンと、またわたしの僕エドワード・パートリッジと、またわたしの年老いた僕[3]ジョセフ・スミス・シニアを迎えたように、わたしが彼をわたし自身のもとに迎えるからである。ジョセフ・スミス・シニアは[4]アブラハムの右に座しており、幸いな者であり、聖なる者である。彼はわたしのものだからである。

20 さらにまた、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの僕ジョージ・ミラーには偽りがない。その心が高潔であるので、彼は信頼できる。そして、彼がわたしの証に抱いている愛のゆえに、主なるわたしは彼を愛するのである。

21 それゆえ、わたしはあなたに言う。わたしの僕エドワード・パートリッジに行ったように、わたしは、彼の頭上にビショップの[1]職を結び固めて、彼がわたしの家の奉献物を受け取り、わたしの民の中の貧しい者の頭上に祝福を与えられるようにする、と主は言う。わたしの僕ジョージはわたしをあがめるので、だれも彼を軽んじてはならない。

22 わたしの僕ジョージと、わたしの僕ライマンと、わたしの僕ジョン・スナイダーと、他の者たちは、わたしの僕ジョセフが示すような家を[1]一軒、彼が示す場所に、わたしの名のために建てなさい。

23 それは宿泊するための家、すなわち遠くから来る外来者が滞在する家となる。それゆえそれは、疲れた[1]旅人が主の言葉と、わたしがシオンのために定め

16 ①GS「勧告」「勧め」
18 ①出エ19・4、イザ40・31
19 ①教義124・130、GS「パッテン、デビッド・W」 ②GS「パートリッジ、エドワード」 ③GS「スミス、ジョセフ、シニア」
21 ①④教義137・5
22 ①教義41・9、GS「ビショップ」
23 ①教義124・56—60、申命31・12、マタ25・35、38

た2)隅石について、つくづくと考える間、健康と安全を得られるように、そのまま受け入れるに値する立派な家でなければならない。

24この家をわたしの名のために建てるならば、そして任命される館長がいかなる汚れもそこに入って来ることがないようにするならば、それは健全な住まいとなるであろう。それは聖なるものでなければならない。そうでなければ、主なるあなたがたの神はそこに住まない。

25さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの聖徒たちを皆遠くから来させなさい。

26あなたがたは足の速い使者たち、すなわち選ばれた使者たちを遣わして、彼らに言いなさい。「あなたがたのすべての金と、銀と、宝石と、すべての古物を携えて来なさい。また、古物についての知識を持っている者で、来ることを望み、かつ来ることのできる者を、皆伴って来なさい。また、つげの木と、もみの木と、松の木を、地のすべての貴い木とともに持って来なさい。

27また、鉄と、銅と、真鍮と、亜鉛と、地のすべての貴いものも持って来なさい。そして、いと高き方が住める1)ように、わたしの名のために一つの2)家を建てなさい」と。

28それは、いと高き者が来て、失われたもの、すなわちいと高き者が取り去ったもの、すなわち完全な神権を再びあなたがたに1)回復できる場所が地上にないからである。

29それは、彼ら、すなわちわたしの聖徒たちが死者の代わりに1)バプテスマを受ける2)バプテスマフォントが地上にないからである。

30すなわち、この儀式はわたしの家に属するものであり、あなたがたがわたしのために家を建てることのできないほど貧しいときを除いて、わたしはこれを受け入れることはあり得ない。

31しかし、わたしはあなたがた、すなわち、わたしの聖徒であるあなたがたすべてに命じる。わたしのために家を1)建てなさい。わたしのために家を建てるのに十分な時間を、わたしはあなたがたに与える。そして、この期間中は、あなたがたのバプテスマを受け入れる。

32しかし見よ、この定められた期間が終わると、わたしはあなたがたの死者のためのバプテスマを受け

---

23 ②教義124・2
27 ①出エ25・8、教義97・15—17
28 ①②教義109・5、GS「神殿・主の宮」
29 ①1コリ15・29、教義127・6、138・33、GS「死者の救い」「バプテスマ—死者のためのバプテスマ」
31 ①②教義128・13
教義97・10

入れない。そして、もしあなたがたが定められた期間の終わりにこれらのことを行わなければ、あなたがたの死者とともに、あなたがたは教会として拒まれるであろう、と主なるあなたがたの神は言う。

33 まことに、わたしはあなたがたに言う。死者のためのバプテスマの儀式を行う家をわたしのために建てる十分な時間を得た後は、あなたがたの死者のためのバプテスマを受け入れることはあり得ない。これは、死者のためのバプテスマを行う場所として、創世の前から定められたものである。

34 あなたがたは誉れと栄光を受けるために、そこで聖なる神権の[1]鍵を授けられるのである。

35 この期間が過ぎた後は、散在している者たちによる死者のためのバプテスマをわたしは受け入れない、と主は言う。

36 シオンとそのステークとエルサレム、すなわち、わたしが[1]避け所として定めたそれらの場所は、あなたがたの死者のためのバプテスマを行う所となる、と定められているからである。

37 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがわたしの名のために建てた家であなたがたの[1]洗いを行わなくて、どうしてそれがわたしに受け入れられようか。

38 わたしがモーセに、一つの[1]幕屋を建てるように、そして荒れ野の中をそれを運んで行くように、また約束の地で一つの[2]家を建てるように命じたのはこのためである。そうすることによって、世界が存在する前から隠されてきた儀式を明らかにするためであった。

39 それゆえ、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの[1]油注ぎと、あなたがたの洗いと、あなたがたの[2]死者のためのバプテスマと、あなたがたの[3]聖会と、レビの子らによるあなたがたの犠牲の記念と、あなたがたが神との交わりを受ける[5]最も聖なる場所におけるあなたがたの神託と、シオンの啓示と基の始まりのための、またシオンのすべての町の栄光と誉れとエンダウメントのためのあなたがたの掟と裁決は、わたしの聖なる名のために建てるようにとわたしの民に常に命じられる、わたしの聖なる家の儀式によって定められる。

40 まことに、あなたがたに言う。わたしの名のためにこの家を建てて、わたしがそこで民に儀式を示す

---

34 ①教義110・14−16、GS「神権の鍵」
36 ①イザ4・5−6
37 ①GS「洗い」
38 ①出エ25・1−9、33・7、GS「幕屋」 ②GS「神殿・主の宮」
39 ①出エ29・7、GS「油注ぎ」 ②GS「儀式ー身代わりの儀式」 ③教義88・117、教義13・1、84・31、128・24、ジ歴史1・69 ④エゼ41・4、教義45・32、87・8、101・22 ⑤

ことができるようにしなさい。

41 わたしは創世の前から[1]隠されてきたこと、すなわち[2]時満ちる神権時代に関することを、わたしの教会に[3]示そうと思うからである。

42 [1]わたしはこの家に関するすべてのことと、その神権と、これを建てる場所をわたしの僕ジョセフに示そう。

43 あなたがたは、これを建てることを考えた場所に、これを建てなければならない。そこは、これを建てるようにわたしがあなたがたのために選んだ場所だからである。

44 あなたがたが勢力を尽くして働くならば、わたしはその場所を聖別して、[1]聖なる所としよう。

45 そして、わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たち[1]の声に聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。

46 しかし、もし彼らがわたしの声にも、わたしが任命したこれらの者の声にも聞き従おうとしなければ、彼らはわたしの聖なる地と、聖なる儀式と憲章と、わたしが彼らに与える聖なる言葉を汚すので、祝福されないであろう。

47 そして、もしあなたがたがわたしの名のために家を建てながら、わたしの言うことを行わなければ、わたしはあなたがたに立てる[1]誓いを果たさず、あなたがたがわたしの手に期待する約束も履行しない、と主は言う。

48 あなたがたは、[1]祝福の代わりに、あなたがた自身の行いによって、すなわちあなたがたの愚かな行為によって、またあなたがたがわたしの前でなすすべての忌まわしい行いによって、あなたがた自身の頭にのろいと激しい怒り、憤り、および裁きを招くからである。

49 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしが人の子らのだれかにわたしの名のためにある業を行うよう命じ、そしてそれら人の子らが勢力を尽くし、彼らの持っているすべてを尽くしてその業を成し遂げるように努め、かつ[1]熱心であることをやめなければ、彼らの敵が彼らを襲って、彼らがその業を成し遂げるのを妨げるとき、見よ、わたしは当然のこととして、もう人の子らの手にその業を[2]求めることはなく、彼らのささげ物を受け入れる。

41 ① 教義121・26−32
② エペ1・9−10、教義27・13、112・30
42 ① 教義95・14−17
③ 箇条1・9
45 ① 教義1・38、GS「預言者」
44 ① 教義1・38、GS「聖い」
47 ① GS「誓い」
48 ① 申命28・15
49 ① GS「熱心」
② 教義56・4、137・9

50 そして、わたしの業を妨げた者が悔い改めず、わたしを憎むかぎり、わたしは彼らの頭に、三代、四代に至るまで、罪悪の報いと、わたしの聖なる律法と戒めに背いたことの報いをもたらす、と主なる神は言う。

51 それゆえ、この理由で、ミズーリ州ジャクソン郡にわたしの名のために一つの町と一つの家を建てるようにわたしから命じられたが、敵によって妨げられた者たちの、そのささげ物をわたしは受け入れたのである、と主なるあなたがたの神は言う。

52 敵が悔い改めず、わたしを憎むかぎり、わたしは彼らの頭に、三代、四代に至るまで、裁きと激しい怒り、憤り、悲嘆、苦悩、歯ぎしりを及ぼそう、と主なるあなたがたの神は言う。

53 わたしは、業を行うように命じられながら敵の手によって、また暴虐によってそれを妨げられたすべての者に関して、あなたがたを慰めるために、これをあなたがたへの一つの例とする、と主なるあなたがたの神は言う。

54 わたしは主なるあなたがたの神であり、ミズーリの地で殺された、あなたがたの心の清い同胞をすべて救う、と主は言う。

55 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは再びあなたがたに命じる。わたしの名のためにまことにこの場所に一つの家を建てて、わたしから命じられるすべてのことに忠実であることを身をもって示し、また、わたしがあなたがたを祝福し、あなたがたに誉れと不死不滅と永遠の命を冠として与えることができるようにしなさい。

56 さて、わたしは、外来者の宿泊のために建てるように命じたわたしの宿泊所に関して、あなたがたに言う。それをわたしの名のために建て、わたしの名を付け、わたしの僕ジョセフとその家族を代々そこに住まわせるようにしなさい。

57 この油注ぎを、わたしは彼の頭に行って、彼の祝福が彼の後の子孫の頭にも与えられるようにしたからである。

58 また、わたしは地のもろもろの部族についてアブラハムに言ったように、わたしの僕ジョセフにも言う。「あなたにより、またあなたの子孫により、地の部族は祝福を受けるであろう。」

59 それゆえ、わたしの僕ジョセフと彼の後の子孫

---

50 ①GS「悔い改め」
②申命 5・9、教義 98・46—47
51 ①モサ 12・1
②③GS「ジャクソン郡（ミズーリ州）」
52 ①②教義 115・11
①教義 121・11—23
54 ①教義 98・13、103・27—28
②GS「清さ」
55 ①②教義 127・4
①アブ 3・25
②教義 124・22—24
56 ①創世 12・3、22・18、アブ 2・11、GS「アブラハム」
②教義 110・12、GS「アブラハムの聖約（契約）」

を、代々とこしえにいつまでも、その家に住まわせるようにしなさい、と主は言う。

60 また、その家をノーブーハウスと名付けなさい。そして、それが人にとって喜ばしい住まい、また疲れた旅人にとって休息所となるようにして、彼がシオンの栄光と、その隅石であるこの町の栄光をつくづくと考えられるようにしなさい。

61 また、名高い[1]栽培所となりシオンの防壁の上の[2]見張り人となるようにわたしが定めた者たちから、助言も受けられるようにしなさい。

62 見よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ジョージ・ミラーと、わたしの僕ライマン・ワイトと、わたしの僕ジョン・スナイダーと、わたしの僕ピーター・ホーズは、その家を建てるために、自らを組織し、その中の一人を選んで委員会を管理する会長にしなさい。

63 また、規約を作成し、それによりその家を建てるための株式資本を受け取れるようにしなければならない。

64 彼らはその家の株式として一株五十ドル未満を受け取ってはならない。また、その家の株式として、だれであろうと一人から一万五千ドルを受け取ることは許される。

65 しかし、だれであろうと一人から一万五千ドルを超える株式資本を受け取ることは許されない。

66 また、その家の株式として、だれであろうと一人から一株五十ドル未満を受け取ることも許されない。

67 また、だれであろうと株を受け取るときに彼らの手にその株式資本を払い込まない者を、この家の株主として受け入れることは許されない。

68 また、彼は彼らの手に払い込む株式資本に比例して、その家の株を受け取る。しかし、もしも彼らの手に払い込みをしなければ、彼はその家の株を一切受け取ってはならない。

69 また、だれであろうと彼らの手に株式資本を払い込むならば、それは、彼自身と代々の後の子孫のために、その家の株に交換される。彼とその相続人がその株を保有して、彼ら自身の自由意志と行為によりその株を売却あるいは譲渡しないかぎり、そのままである。あなたがたがわたしの思うところを行おうと思うならば、この指示に従うであろう、と主な

61 ① イザ 61・3、エゼ 34・② 29 GS「見守る・見守る者」

るあなたがたの神は言う。

70さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしわたしの僕ジョージ・ミラーと、わたしの僕ライマン・ワイトと、わたしの僕ジョン・スナイダーと、わたしの僕ピーター・ホーズは、現金で、あるいは現金に換えられる財産で、株式資本をその手に受け取るならば、その株式資本のいかなる部分であろうと、それをその家に関する以外どのような目的にも流用してはならない。

71また、もし彼らがその株式資本のいかなる部分であろうと、株主の承諾なしにその家以外のどこかに流用するならば、そしてその家以外のどこかに用するその株式資本の四倍を返済しなければ、彼らはのろわれ、その職から退けられる、と主なる神は言う。主なるわたしは神であり、これらのことのいずれに関しても侮られることはあり得ないからである。

72まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ジョセフに、その家を建てるために、彼がよいと思うままに、彼らの手に株式資本を払い込ませなさい。しかし、わたしの僕ジョセフは、その家のために一万五千ドルを超える株式資本を払い込むことはできないし、五十ドルに満たない分も払い込むことはできない。ほかのいかなる者もそれはできない、と主は言う。

73また、自分に関するわたしの思いを知りたいと望んでいる者たちがほかにもおり、彼らはわたしにそれを願い求めてきた。

74それゆえ、わたしの僕ビンソン・ナイトについてあなたがたに言う。彼がわたしの思うところを行おうとするならば、彼に、彼自身と代々の後の子孫のために、その家の株式資本を出資させなさい。

75また、彼に、民の中で長くかつ大きく声を上げて、貧しい者と乏しい者のことを訴えさせなさい。彼は怠ってはならず、気落ちしてはならない。これを守れば、彼のささげ物はわたしにとってカインのささげ物のようではなくなるので、わたしはそれを受け入れよう。そして、彼はわたしのものとなる、と主は言う。

76彼の家族を喜ばせ、彼らの心を苦難から転じさせなさい。わたしは彼を選び、彼に油を注ぎ、そして彼は家族の中で誉れを与えられるからである。わた

71①ガラ6・7
75①箴言31・9
②創世4・4—5、モセ5・18—28

しは彼のすべての罪を赦そう、と主は言う。アーメン。

77まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ハイラムに、彼がよいと思うままに、彼自身と代々の後の子孫のために、その家の株式資本を出資させなさい。

78わたしの僕アイザック・ギャランドに、その家の株式資本を出資させなさい。主なるわたしは彼が行ってきたことのゆえに彼を愛し、彼のすべての罪を赦す。それゆえ、彼がその家の株を持っていることを代々覚えておきなさい。

79わたしの僕アイザック・ギャランドがあなたがたの中から選ばれ、わたしの僕ウィリアム・マークスによって聖任され、彼から祝福を受けて、わたしの僕ハイラムとともに出かけ、わたしの僕ジョセフが彼らに指示する業を成し遂げられるようにしなさい。そうすれば、彼らは大いに祝福されるであろう。

80わたしの僕ウィリアム・マークスに、彼がよいと思うままに、彼自身と代々の子孫のために、その家の株式資本を払い込ませなさい。

81わたしの僕ヘンリー・G・シャーウッドに、彼がよいと思うままに、彼自身と代々の後の子孫のために、その家の株式資本を払い込ませなさい。

82わたしの僕ウィリアム・ローに、彼自身と代々の後の子孫のために、その家の株式資本を払い込ませなさい。

83彼がわたしの思うところを行おうとするならば、彼に、東の地、すなわちカートランドに家族を連れて行かせてはならない。それでも、主なるわたしはカートランドを築き上げる。しかし、主なるわたしはその住民に対して懲らしめを用意している。

84わたしの僕アルモン・バビットについては、わたしが喜ばない多くのことがある。見よ、彼はわたしが定めた助言、すなわちわたしの教会の大管長会の助言の代わりに、自分の助言を確立しようと切望している。彼はわたしの民が礼拝するために一つの金の子牛を掲げている。

85わたしの戒めを守ろうとしてここに来た者をだれも、この場所から去らせないようにしなさい。

86彼らがここに住むならば、わたしのために生きるようにさせ、もしも死ぬならば、わたしのために死ぬようにさせなさい。彼らはここでその労苦をすべ

84①
85①
出エ32・2—4
ルカ9・62

て解かれて休み、彼らの業を続けるであろう。

87 それゆえ、わたしの僕ウィリアムに、わたしを信頼させ、この地の病気のことで家族について心配するのをやめさせなさい。あなたがたはわたしを愛するならば、わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、この地の病気はあなたがたに栄光をもたらすであろう。

88 わたしの僕ウィリアムに、わたしの御霊に感じるままに、ウォーソーの住民と、カーセージの住民と、バーリントンの住民と、マディソンの住民に対して、大声で、大いなる喜びをもってわたしの永遠の福音を宣言させなさい。また、わたしの総大会でさらに指示が与えられるのを、忍耐強くかつ熱心に待ち望ませなさい、と主は言う。

89 彼がわたしの思うところを行おうとするならば、彼に、今から後、わたしの僕ジョセフの助言に聞き従わせ、自分が持っているもので貧しい者を支えさせ、また地に住む者のためにわたしの聖なる言葉の新しい翻訳を出版させなさい。

90 彼がこれを行おうとするならば、わたしは多くの祝福をもって彼を祝福して、彼が見捨てられることも、その子孫がパンを請うこともないようにしよう。

91 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ウィリアムを、わたしの僕ハイラムの代わりにわたしの僕ジョセフの顧問として選び、聖任し、油を注ぎなさい。それは、わたしの僕ハイラムが、祝福によって、また権利によって、彼の父親により任命された祝福師という神権の職に就くためである。

92 それは、今から後、彼がわたしの民のすべての頭に授ける祝福師の祝福の鍵を持ち、

93 彼の祝福する者が祝福され、彼ののろう者がのろわれ、また彼が地上でつなぐことが何でも天でつながれ、彼が地上で解くことが何でも天で解かれるためである。

94 これから先、わたしは彼を任命して、わたしの僕ジョセフと同様に、わたしの教会のために預言者、聖見者、啓示者とする。

95 それは、彼がわたしの僕ジョセフと力を合わせて働くためであり、またわたしの僕ジョセフから助言を受けるためである。わたしの僕ジョセフは彼にも

---

86 ①黙示14・13、GS「安息」「パラダイス」
87 ①教義121・8、122・7 ②ヨハ14・15
88 ①GS「神・神会ー聖霊なる神」
89 ①教義78・3 ②「聖書」のジョセフ・スミス訳のこと
90 ①GS「祝福」 ②詩篇37・25
91 ①教義107・39—40、GS「祝福師」
92 ①GS「祝福師の祝福」
93 ①教義132・45—47 ②マタ16・19、GS「結び固め」
94 ①教義107・91—92、GS「聖見者」

ろもろの鍵[1)]を示すであろう。これらの鍵によって、彼は求めれば与えられ、またかつてわたしの僕[2)]オリバー・カウドリに与えられた同じ祝福と、栄光と、誉れと、神権と、神権の賜物を冠として受けるのである。

96 それは、わたしの僕ハイラムが、わたしが彼に示すことを証して、彼の名が代々とこしえにいつまでも尊敬を込めて覚えられるためである。

97 わたしの僕ウィリアム・ローにも、もろもろの鍵を与えて、それらの鍵によって彼が祝福を求めれば与えられるようにしなさい。彼がわたしの前に[1)]謙遜であって、偽りがないようにさせなさい。そうすれば、彼はわたしの御霊、すなわち慰め主[2)]を受けるであろう。その慰め主は、すべてのことについて彼に真理を明らかにし、また彼の言うべきことを必要なときに彼に知らせるであろう。

98 また、彼にはこのようなしるし[1)]が伴う。すなわち、彼は病人を癒し[2)]、悪霊を追い出し、また猛毒を盛る者から救い出されるであろう。

99 また、彼は毒蛇[1)]にかかとを捕らえられることのない道に導かれるであろう。また、わし[2)]の翼に乗っているように、彼の思い描く事柄の中を舞い上がるであろう。

100 彼が死者をよみがえらせることをわたしが望むならば、彼に、その声を抑えさせてはならない。

101 それゆえ、わたしの僕ウィリアムに、喜びと歓喜をもって、またとこしえにいつまでも御座に着いておられる御方に、「ホサナ」と叫びつつ、惜しむことなく声高らかに叫び求めさせなさい、と主なるあなたがたの神は言う。

102 見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ウィリアムと、わたしの僕ハイラムには、彼らのためだけの、ある使命を備えている。わたしの僕ジョセフは必要とされているので、家にとどまらせなさい。残りについては後にあなたがたに示す。まことにそのとおりである。アーメン。

103 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕シドニー[1)]がわたしに仕え、わたしの僕ジョセフの顧問であろうとするならば、彼を、立って上って来て召された職に就くようにさせ、わたしの前にへりくだらせなさい。

104 もし彼が受け入れられるささげ物をささげ、証を

---

95 ① 教義 6・28 ② GS「カウドリ、オリバー」
97 ① GS「謙遜」 ② GS「慰め主・助け主」
98 ① マコ 16・17−18、GS「御霊の賜物」 ② GS「癒し」
99 ① 教義 84・71−73 ② 出エ 19・4、イザ 40・31
103 ① GS「リグドン、シドニー」

述べ、わたしの民とともにとどまるならば、見よ、主なるあなたがたの神であるわたしは、彼が癒されるように彼を癒そう。そして、彼は山々の上で再び声を上げ、わたしの前で代弁者となるであろう。

105 彼を来させて、わたしの僕ジョセフが住む場所の近くに家族を住まわせるようにさせなさい。

106 また、彼が旅をしている間いつも、ラッパの音のように声を上げて、来るべき激しい怒りを逃れるよう地に住む者に警告させなさい。

107 彼にわたしの僕ジョセフを助けさせ、またわたしの僕ウィリアム・ローにもわたしの僕ジョセフを助けさせなさい。そして、わたしが以前にあなたがたに言ったように、地の王たちに厳粛に宣言しなさい。

108 わたしの僕シドニーがわたしの思うところを行おうとするならば、彼の家族を東の地に移させてはならない。しかし、わたしが言ったように、その住まいを変えさせなさい。

109 見よ、彼がわたしの指定した町、すなわちノーブー市から離れて、安全と避け所を見いだそうとすることは、わたしの思いにかなわない。

110 まことに、わたしはあなたがたに言う。まさに今、彼はわたしの声に聞き従うならば、幸いである。まことにそのとおりである。アーメン。

111 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕エイモス・デイビーズに、宿泊のための家、すなわちノーブーハウスを建てるためにわたしが任命した者たちの手に株式資本を払い込ませなさい。

112 彼が株を持つことを望むならば、彼に、このように行わせなさい。また、わたしの僕ジョセフの助言に聞き従わせ、人々の信頼を得るために自分の手を使って働かせなさい。

113 彼は、自分に任せられたすべてのこと、すなわちわずかなものにも忠実であることを身をもって示すとき、多くを治める者とされるであろう。

114 それゆえ、彼が高くされるために、自分自身を低くさせなさい。まことにそのとおりである。アーメン。

115 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕ロバート・D・フォスターがわたしの声に従おうとするならば、彼に、わたしの僕ジョセフと結んだ契約に従って、折々門が開かれるのに応じて、ジ

---

104 ①1 出エ 4・14−16、2ニフ 3・17−18、教義 100・9−11
107 ①1 教義 124・2−4
108 ①1 教義 124・82−83
109 ①1 GS「ノーブー（イリノイ州）」
113 ①1 マタ 25・14−30
114 ①1 42 マタ 23・12、教義 101・

ヨセフのために一軒の家を建てさせなさい。
116 彼に、愚かな行為をすべて悔い改めさせ、慈愛[1]をまとわせ、悪を行うことをやめさせ、彼の無情な言葉をすべて捨てさせなさい。
117 また、彼自身と代々の後の子孫のために、ノーブーハウスの委員会の手に株式資本を払い込ませなさい。
118 わたしの僕たち、ジョセフとハイラムとウィリアム・ローの助言に聞き従わせ、またわたしがシオンの基を据えるために召した権能を持つ者たちにも聞き従わせなさい。そうすれば、とこしえにいつまでも、彼は幸いである。まことにそのとおりである。アーメン。
119 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。『モルモン書』と、わたしがあなたがたに与えた数々の啓示を信じる者でなければ、だれにもノーブーハウスの委員会に株式資本を払い込ませてはならない、と主なるあなたがたの神は言う。
120 これ以上[1]のもの、あるいはこれ以下のものは悪から来て、祝福ではなく、のろいが伴うからである、と主なるあなたがたの神は言う。まことにそのとおりである。アーメン。
121 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。ノーブーハウスの委員会の者には、彼らがノーブーハウスを建てるに当たって行うすべての働きに対して、正当な俸給を得させなさい。彼らの俸給は、その金額について彼ら自身の間で同意するとおりにしなさい。
122 彼らの生活のために必要であれば、彼らの俸給に対する割り前を、株式資本を払い込む各人が負担するようにしなさい、と主は言う。そうでなければ、彼らの働きは、彼らのためにその家の株式資本に算入される。まことにそのとおりである。アーメン。
123 まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは今、わたしの神権に属する[1]役員をあなたがたに与えて、あなたがたがその[2]鍵、すなわち[3]メルキゼデクの位に従う、またわたしの独り子の位に従う神権の鍵を持てるようにする。
124 最初に、わたしはあなたがたにハイラム・スミスを与えて、あなたがたへの[1]祝福師とし、わたしの教会の[2]結び固めの祝福、すなわち[3]約束の聖なる御霊を持つ者とする。あなたがたは、誘惑の時があなたがた

116 ①愛」 コロ3・14、GS「慈
120 ①」 マタ5・37、教義98・7
123 ①職」 GS
② GS「神権の鍵」
③ GS「メルキゼデク
124 ①神権」 GS「祝福師」
② GS「結び固め」
③ 教義76・53、88・3−4、GS「約束の聖なる御霊」

たに及んでも倒れることのないように、その約束の聖なる御霊により贖いの日まで[4]結び固められるのである。

125 わたしはあなたがたに、わたしの僕ジョセフを与えて、わたしの教会のすべてを管理する管理長老とし、翻訳者、啓示者、[1]聖見者、預言者とする。

126 わたしは彼に、顧問としてわたしの僕シドニー・リグドンとわたしの僕ウィリアム・ローを与えて、これらの者が全教会のために[1]神託を受ける大管長会の定員会を構成するようにする。

127 わたしはあなたがたに、わたしの僕[1]ブリガム・ヤングを与えて、十二使徒巡回評議会を管理する会長とする。

128 この[1]十二使徒は、地の四隅にわたしの王国の権能を開き、その後、すべての造られたものにわたしの言葉を[2]送り出す鍵を持つ。

129 これらの者は、ヒーバー・C・キンボール、パーリー・P・プラット、オーソン・プラット、オーソン・ハイド、ウィリアム・スミス、ジョン・テーラー、ジョン・E・ページ、ウィルフォード・ウッドラフ、ウィラード・リチャーズ、ジョージ・A・スミスである。

130 [1]デビッド・パッテンは、わたしがわたし自身のもとに[2]受け入れた。見よ、彼の神権を彼から取り去る者はだれもいない。しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。別の者をその召しに任命してもよい。

131 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、シオンの隅石のために[1]高等評議会を与える。

132 すなわち、サミュエル・ベント、ヘンリー・G・シャーウッド、ジョージ・W・ハリス、チャールズ・C・リッチ、トーマス・グローバー、ニューエル・ナイト、デビッド・ドート、ダンバー・ウィルソン――セイモア・ブランソンは、わたしがわたし自身のもとに受け入れた。彼の神権を取り去る者はだれもいない。しかし、彼の代わりに別の者をその神権に任じてもよい。まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの僕アロン・ジョンソンを彼の代わりにこの召しに聖任しなさい――デビッド・フルマー、アルフィアス・カトラー、ウィリアム・ハンティントンである。

---

124 ④ エペ 4・30
125 ① 教義 21・1、GS「聖見者」
126 ① 教義 90・4−5
127 ① GS「ヤング、ブリガム」
128 ① GS「使徒」
② マコ 16・15
130 ① GS「パッテン、デビッド・W」
② 教義 124・19
131 ① GS「高等評議会」

133 さらにまた、わたしはあなたがたにドン・C・スミスを与えて、大祭司の定員会を管理する会長とする。

134 この儀式は、散在しているそれぞれのステークを管理する常任の会長すなわち僕に任命される者たちに資格を与える目的で制定されている。[1]

135 彼らは望むならば旅をしてもよいが、むしろ常任の会長として聖任されている。これは彼らが召された職である、と主なるあなたがたの神は言う。

136 わたしは彼に、顧問としてアマサ・ライマンとノア・パッカードを与えて、彼らがわたしの教会の大祭司の定員会を管理するようにする、と主は言う。

137 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ジョン・A・ヒックスと、サミュエル・ウィリアムズと、ジェシー・ベーカーを与える。彼らの神権は長老の定員会を管理するものであり、その定員会は常任教導者となるために設けられている。しかしながら、彼らは旅をしてもよいが、それでもわたしの教会の常任教導者となるために聖任されている、と主は言う。

138 さらにまた、わたしはあなたがたに、ジョセフ・ヤング、ジョサイア・バターフィールド、ダニエル・マイルズ、ヘンリー・ヘリマン、ゼラ・パルシファー、リーバイ・ハンコック、ジェームズ・フォスターを与えて、彼らが七十人[1]の定員会を管理するようにする。

139 この定員会は、巡回高等評議会すなわちわたしの使徒たちが、わたしの前に道を備えるために彼らを遣わす所であればどこででも、全世界でわたしの名について証する巡回長老のために設けられている。

140 この定員会と長老の定員会の違いは、一方が絶えず旅をするのに対して、他方は折々諸教会を管理するところにある。長老の定員会は折々管理の責任を持つが、七十人の定員会は管理の責任を持たない、と主なるあなたがたの神は言う。

141 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ビンソン・ナイトと、サミュエル・H・スミスと、シャドラク・ラウンディー（もし彼が受け入れるならば）を与えて、彼らがビショップリックを管理するようにする。このビショップリックについては、[2]『教義と聖約』の書の中に述べ

---

134 ① GS「ステーク」
137 ① 教義107・11−12、89
138 ① I−90、GS「長老」「定員会」
GS「七十人」
141 ① 教義68・14、107・15
② GS「教義と聖約」

られている。

142 さらにまた、わたしはあなたがたに言う。祭司のためにサミュエル・ロルフと彼の顧問たちを、また教師の会長とその顧問たち、執事の会長とその顧問たち、またステークの会長とその顧問たちをあなたがたに与える。

143 以上の職とその鍵をわたしがあなたがたに授けたのは、助けのため、管理のため、奉仕の業とわたしの聖徒たちの[1]完成のためである。

144 また、わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたはこれらの職をすべて満たし、わたしが述べたそれらの名前を総大会で[1]承認するか、そうでなければ、それらを否認しなければならない。

145 また、あなたがたはわたしの名のためにわたしの家を建てるとき、そこにこれらすべての職のための部屋を用意しなければならない、と主なるあなたがたの神は言う。まことにそのとおりである。アーメン。

第125章

千八百四十一年三月、イリノイ州ノーブーにおいて、アイオワ準州にいる聖徒たちに関して預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第四巻、三百十一—三百十二ページ）。

1—4 聖徒たちは数々の町を築き、シオンのステークに集合しなければならない。

1 アイオワ準州にいる聖徒たちに関する主の御心は何であろうか。

2 まことに、主はこのように言われる。「わたしはあなたがたに言う。もしわたしの名によって自分自身を呼んで、わたしの聖徒であろうと努めている者たちが、わたしの思うところを行い、彼らに関するわたしの戒めを守ろうとするならば、彼らを、わたしがわたしの僕ジョセフによって彼らに指定した場所に集め、わたしの名のために数々の町を築かせて、将来起こることに備えさせるようにしなさい。

3 彼らに、ノーブー市の対岸にわたしの名のために一つの町を築かせなさい。そして、ゼラヘムラと名付けなさい。

4 そして、東から、西から、北から、南から来て、

143①　エベ4・11—14
144①　教義26・2、GS「同意の律法」
第125章
2①　GS「イエス・キリスト御名を受ける」
3①　GS「ゼラヘムラ」

そこに住みたいと望むすべての者に、そこで、またナッシュビル[1]市で、あるいはノーブー市で、またわたしが指定したすべてのステーク[2]で彼らの受け継ぎを得させなさい」と主は言われる。

第126章

千八百四十一年七月九日、イリノイ州ノーブーのブリガム・ヤングの家で、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第四巻、三百八十二ページ）。このとき、ブリガム・ヤングは十二使徒定員会会長であった。

1−3 ブリガム・ヤングはその働きを褒められ、将来外国に旅をするのを免除される。

1 親愛なるブリガム[1]・ヤング兄弟、まことに、主はあなたにこのように言われる。「わたしの僕ブリガムよ、これまでのように家族を残して出かけることは、もうあなたに求められない。あなたのささげ物を、わたしは受け入れたからである。

2 わたしは、わたしの名のために行った旅における

あなたの働き[1]と労苦を見た。

3 それゆえ、わたしはあなたに、わたしの言葉を外国に送り出し、今から後いつまでもあなたの家族[1]の世話を特によくするように命じる。アーメン。」

第127章

千八百四十二年九月一日付けで、ノーブーにおいて書かれた、預言者ジョセフ・スミスからイリノイ州ノーブーの末日聖徒にあてた、死者のためのバプテスマについての指示を含む手紙（『教会歴史』第五巻、百四十二−百四十四ページ）。

1−4 ジョセフ・スミスは迫害と艱難を誇りとする。5−12 死者のためのバプテスマに関して、記録を保存しなければならない。

1 主がわたしに、ミズーリ州とこの州のわたしの敵が再びわたしを追って来たことを示してくださったので、また彼ら[1]は理由もなくわたしを追いかけ、わたしを告発するに当たって、彼らの側にはいささかの正当性も正義もないので、また彼らの主張はすべ

---

4 ①アイオワ州リー郡 ②GS「ステーク」

第126章

1 ①GS「ヤング、ブリガム」 ②GS「行い」 ③GS「家族」

第127章

1 ①ヨブ2・3、マタ5・10−12、1ペテ2・20−23

て真っ黒な偽りの中に基を置いているので、わたしは、自分の身の安全とこの民の安全のために、少しの間、この地を離れることがわたしにとって適切であり賢明であると考えました。わたしは仕事上の関係を持つすべての方々に申し上げたいと思います。わたしは代理人と書記たちに諸事を託しました。彼らはすべての仕事を敏速かつ適切な方法で処理することでしょう。また、彼らは必要に応じて、すなわち事情の許すままに、財産の処分そのほかの方法で、然るべきときにわたしの負債をすべて償却するでしょう。わたしはこの嵐が完全に静まったことが分かれば、再びあなたがたのもとに帰ります。

2 わたしが経験するように定められている数々の危難については、人のねたみと憤りが生涯を通じてわたしの日常のことであったので、それらはわたしにとってほんのささいなことに思われます。ある善い目的のために、あるいは人が悪いと呼びたければ悪い目的のために、わたしが創世[3]の前から任じられていたのでなければ、それはどのような理由のためか不可解に思われます。その目的が善いか悪いか、あなたがたは自ら判断してください。それが善いか悪いか、神はこれらすべてのことを御存じです。しかしそれでも、わたしがいつも泳いでいる水は深いのです。それはすべてわたしにとって第二の天性となっています。そして、わたしはパウロのように艱難[1]を誇りと感じています。わたしの先祖の神は、今日までそれらのすべてからわたしを救い出してくださり、またこれから後もわたしを救い出してくださるからです。まことに、まことに、わたしはわたしのすべての敵に打ち勝つでしょう。主なる神がそう告げられたからです。

3 したがって、聖徒は皆、喜び楽しみ、大いに喜んでください。イスラエルの神[1]は聖徒たちの神であり、虐げる者たちすべての頭に正当な報いを与えられるからです。

4 さらにまた、まことに、主はこのように言われます。「わたしの神殿[1]の仕事と、わたしがあなたがたに定めたすべての仕事を継続して行い、中止しないようにしなさい。あなたがたの熱心[2]さ、あなたがたの根気強さと忍耐、またあなたがたの働きを倍加しなさい。そうすれば、あなたがたは決してその報いを失うことはない、と万軍の主は言う。また、彼らが

2 ① 詩篇23・1—6、GS「迫害」
② GS「ねたみ」
③ GS「予任」
④ 2コリ6・4—5、GS「逆境」
3 ① 3ニフ11・12—14
4 ① 教義124・55
② GS「熱心」

あなたがたを迫害[3]するとしても、あなたがたより前の預言者たちと義人たちも同じように迫害されたのである。このすべてに対して、天における報いがある。

5 さらにまた、わたしはあなたがたの死者[1]のためのバプテスマ[2]について、あなたがたに一言告げる。

6 まことに、あなたがたの死者について、主はこのように言う。あなたがたのうちのだれでも、あなたがたの死者のために[1]バプテスマを受けるときは、記録者[2]がいるようにしなさい。そして、彼があなたがたのバプテスマの見証者となり、その耳で聞くようにしなさい。それは、彼が実際に証できるようにするためである、と主は言う。

7 また、あなたがたの記録するすべてのことについて、それが天でも記録[1]されるためであり、あなたがたが地上でつなぐ[2]ことが何でも天でつながれ、あなたがたが地上で解くことが何でも天で解かれるためである。

8 わたしは神権[1]に関して地上に多くの事柄を回復[2]しようとしている、と万軍の主は言う。

9 さらにまた、すべての記録[1]を整理して、わたしの聖なる神殿の記録保管所に収め、それらが代々覚えられるようにしなさい、と万軍の主は言う。」

10 わたしはすべての聖徒たちに申し上げます。わたしは次の安息日に、死者のためのバプテスマという主題で教壇からお話しすることを切に望んでいました。しかし、そうすることはできませんので、時々この件について主の言葉を書き、それを郵便であなたがたに送ります。ほかの多くの事柄についても同様にします。

11 もう時間がありませんので、今はこれでこの手紙を終わります。敵が機をうかがっているからです。救い主が言われたように、[1]この世の君が来ますが、わたしに対しては何の力もありません。

12 まことに、わたしが神にささげる祈りは、あなたがたすべてが救われるようにということです。わたしは主におけるあなたがたの僕、末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者および聖見者[1]としてここに署名します。

ジョセフ・スミス

---

4 (3) GS「迫害」
5 (1) GS「死者の救い」
(2) GS「バプテスマ―死者のためのバプテスマ」
6 (1) 1コリ15・29、教義128・13、18
(2) 教義128・2−4、7
7 (1) (2) GS「命の書」
(2) GS「結び固め」
8 (1) GS「メルキゼデク神権」
9 (1) (2) GS「福音の回復」
教義128・24
11 (1) ヨハ14・30、JSヨハ14・30、GS「悪魔」
12 (1) 教義124・125、GS「聖見者」

第128章

千八百四十二年九月六日付けで、イリノイ州ノーブーにおいて書かれた、預言者ジョセフ・スミスから末日聖徒イエス・キリスト教会にあてた、死者のためのバプテスマについての追加の指示を含む手紙（『教会歴史』第五巻、百四十八—百五十三ページ）。

1—5 地元と中央の記録者は、死者のためのバプテスマの事実を証明しなければならない。6—9 彼らの記録は拘束力があり、地上でも天でも記録される。10—14 バプテスマフォントは墓に似せて造られたものである。15—17 エリヤは死者のためのバプテスマに関する力を回復した。18—21 過去の神権時代のすべての鍵と力、権能が回復された。22—25 喜びの栄えあるおとずれが、生者と死者のために宣言される。

1 わたしが自分の居所を立ち去る前に、時々手紙を書いて多くの事項についてあなたがたに情報を提供すると述べたように、わたしは今、死者のためのバプテスマの件を再び採り上げます。[1] 敵に追われてからこのかた、この事項がわたしの心を占め、わたしの気持ちに最も重くのしかかっているように思われるからです。

2 わたしは記録者について、幾つか啓示の言葉をあなたがたに書きました。また、この件に関してさらに幾つかの見解を持つようになりましたので、それを今明らかにしましょう。すなわち、前の手紙で述べたとおり、主の御前に正確に記録を残すために、見証者となり、その耳で聞く[1]記録者がいなければなりません。

3 さて、この件に関しては、一人の記録者がいつも立ち会って、すべての事務を行うことは非常に難しいでしょう。この難しさを取り除くために、正確な記録を取るのに十分な資格のある記録者を、市の各区に一人ずつ任命することができます。その記録者は、きわめて詳細かつ正確にすべての手続きの記録を取り、その目で見、その耳で聞いたことをその記録の中で証明し、日付や名前など、また行われたすべての事柄の経過をも記すようにします。さらに、二人または三人の[1]証人の口によってすべての言葉が確定されるように、だれか立ち会う人がいれば、その事柄を証明するよう求められるときにいつで

第128章
1 ① GS「バプテスマ—死者のためのバプテスマ」
2 ① 教義127・6
3 ① GS「証人・証」

もそれができる三人ほどの名前も記します。

4 次に、彼らの作成した記録が真実であることを証明する彼ら自身が署名した証明書とともに、これらの記録を手渡すことのできる、中央記録者がいなければなりません。次に、中央教会記録者は、この記録を、もろもろの証明書ならびに立ち会っていたすべての証人名とともに、また、それらの記録者の大体の性格を知っていることと彼らが教会によって任命されているという事実からその声明と記録が真実であると確信しているという自らの声明書とともに、一般教会記録簿に入れることができます。これが一般教会記録簿に加えられると、あたかも彼がその目で見、その耳で聞き、一般教会記録簿にそれを記録したと同じように、この記録は神聖なものとなり、その儀式を有効とするのです。

5 あなたがたはこの手順をとても細かいと思うかもしれません。しかし、あなたがたに申し上げます。これは、[1]福音を知らずに死ぬ者の[2]救いのために、主が創世の前に定めかつ備えられた儀式と備えに従うことによって、ひたすら神の御心に応じるためなのです。

6 さらにまた、黙示者ヨハネが黙示録第二十章十二節にあるとおりに述べたとき、彼は死者に関してまさにこの件を考えていたということを、あなたがたは覚えておいてほしいのです。「またわたしは、死者が小さな者も大いなる者も、神の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれ、またもう一つの書物も開かれた。それは命の書である。そして、死者はこれらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。」

7 この引用文に見るとおり、数々の書物が開かれ、またもう一つの書物も開かれました。それは命の書でした。しかし、死者は数々の書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれました。したがって、ここで言われている数々の書物とは、彼らの行いの記録が載せられている書物のはずであり、地上で記される[2]記録を指すに違いないのです。また、命の書であるとされた書は、天で記される記録です。この原則は、わたしが自分の居所を立ち去る前にあなたがたに書いた手紙に載せられている啓示の中であなたがたに命じられた教義にかなっています。あなたがたの記録するすべてのことについ

5 ① ② 1ペテ4・6
7 ① GS「死者の救い」
② 黙示20・12、教義127・6—7、GS「命の書」
教義21・1

て、それが天でも記録されるためなのです。

8 さて、この儀式の本質は、イエス・キリストの啓示による神権[1]の力にあります。これによって、あなたがたが地上で[2]つなぐことは何でも天でつながれ、あなたがたが地上で解くことは何でも天で解かれるということが認められるのです。言い換えれば、この翻訳について別の見方をすると、あなたがたが地上で記録することは何でも天で記録され、またあなたがたが地上で記録しないことは天でも記録されないということです。それは、あなたがたの死者が、数々の書物に基づき、彼ら自身の行いに応じて裁かれるからです。すなわち、彼らが自らその[3]儀式を受けようと、あるいは代理人の仲立ちによって、神が創世の前から彼らの[4]救いのために備えられた儀式に従って、その死者に関して記された記録のとおりにその儀式を受けようと、それに応じて裁かれるのです。

9 わたしたちが語っていること、すなわち地上で記録し、すなわちつなぎ、かつ天でもつなぐ力があるということは、ある人々には、非常に大胆な教義であると思われるかもしれません。しかしながら、世のあらゆる時代において、主がある人に、あるいはある人々の集団に、実際の啓示によって[1]神権の施しを授けられたときはいつでも、この力が常に授けられてきたのです。したがって、何事であろうと、それらの人が[2]権能によって、主の御名によってなし、正しくかつ忠実に行い、それについての適切かつ正確な記録を記したことは、大いなる[3]エホバの定めによって地上でも天でも一つの律法となり、取り消せないものとなったのです。これは確かな言葉です。だれがそれを聞くことができるでしょうか。

10 さらにまた、その先例として、マタイによる福音書第十六章十八、十九節があります。「そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。地獄の門もそれに打ち勝つことはない。わたしは、あなたに天の王国の鍵を授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは何でも天でつながれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれるであろう。」

11 さて、この事柄全体の偉大かつ重要な真義と、わたしたちの前にある事項全体の最高善は、聖なる神権の力を得ることにあるのです。これらの[1]鍵を授け

---

8 ① GS「神権」「力」
② GS「結び固め」
③ GS「儀式」
④ GS「死者の救い」
9 ① GS「神権時代」
② GS「権威・権限・権能」
11 ① GS「エホバ」
③ GS「神権の鍵」

られる者にとって、人の子らの救い、すなわち死者と生者の両方の救いに関して、数々の事実を知ることは少しも難しいことではありません。

12 ここに、すなわち水によるバプテスマの儀式、すなわち死者の有様に応じるために水に沈められることに、栄光と誉れ、および不死不滅と永遠の命があります。死者の有様にそって水中に沈められるのは、一つの原則が他の原則に一致するためです。水中に沈められ、そして水から出て来ることは、墓から出て来る死者の復活に似ています。したがって、この儀式は、死者の有様に似ているので、死者のためのバプテスマの儀式と関連するように制定されたのです。

13 その結果、バプテスマフォントは墓に似たものとして設けられ、生者がいつも集まる場所の下にあるようにと命じられました。それによって、生者と死者を表すため、またすべてのことに類似するものがあるようにするため、またそれらが互いに一致するため、すなわちコリント人への第一の手紙第十五章四十六、四十七、四十八節でパウロが述べているように、地に属するものが天に属するものに一致するためなのです。

14 「最初にあったのは、霊のものではなく、肉のものであって、その後に霊のものが来るのである。第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る主である。土に属する人々は、土に属する人のようであり、天に属する人々は、天に属する人のようである。」そして、天の記録は、正しく作られるあなたがたの死者に関する地上の記録に似ています。したがって、これは結び固め、かつ、つなぐ力であり、ある意味では、知識の鍵から成る王国の鍵なのです。

15 さて、わたしの親愛なる兄弟姉妹たち、わたしはあなたがたに断言します。これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。それは、パウロが先祖について、わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。

16 さて、死者のためのバプテスマに関して、わたし

11 ② GS「救い」
12 ① GS「バプテスマ—全身を水に沈める」
② GS「栄光」
③ GS「敬う」
④ GS「不死不滅」
13 ① 教義124・29
② GS「象徴」
14 ① GS「結び固め」
② JSルカ11・53
15 ① GS「神権の鍵」
② GS「死者の救い」
③ ヘブ11・40、GS「完全」

はパウロのもう一つの言葉、すなわちコリント人への第一の手紙第十五章二十九節を引用しましょう。「もし死者が決してよみがえらないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、何をするのだろうか。なぜ死者のためにバプテスマを受けるのか。」

17 さらにまた、この引用文に関連して、一人の預言者の言葉を引用しましょう。彼は神権の回復[1]と、終わりの時に示される栄光と、また特に永遠の福音に属するすべての事項の中で最も栄光あるこの事柄、すなわち死者のためのバプテスマにその目を注いでいました。マラキは、その書の最後の章の第五節と六節で言っています。「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤ[2]をあなたがたに遣わす。彼は先祖の心を子孫に、子孫の心をその先祖に向けさせる。これは、わたしが来て、のろいをもって地を打つことのないようにするためである。」

18 わたしはこれをもっと分かりやすく[1]翻訳することもできましたが、このままでも十分に分かりやすく、わたしの目的にかないます。この場合、先祖と子孫の間にある事項について固いつながり[2]がなければ、地はのろいをもって打たれるということを知るだけで十分です。さて、その事項とは何でしょうか。それは死者[3]のためのバプテスマです。彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないのです。また、福音にあって死んだ者なしには、彼らもわたしたちも完全な者とされることはありません。今や訪れようとしている時満ちる神権時代[4]の到来に当たって、アダムの時代から現在に至るまでの、神権時代と鍵と力と栄光のすべての、ことごとくの、完全な和合と結合が起こり、示されることが必要だからです。またこれだけではなく、世[5]の初めからまだ一度も示されておらず、知恵のある者や賢い者から隠されてきた数々の事柄も、この時満ちる神権時代には、みどりごや乳飲み子[6]に示されることでしょう。

19 さて、わたしたちの受けた福音について、何を聞くでしょうか。喜びの声です。天からの憐れみの声、地からの真理[1]の声、死者のための喜びのおとずれ、生者と死者のための喜びの声、胸躍る大いなる[2]喜び

17 ① GS「福音の回復」
② 3ニフ25・5－6、教義2・1－3、110・13－16、GS「エリヤ」
18 ① ジー歴史1・36－39
② GS「儀式－身代わりの儀式」「系図」
③ 教義124・28－30、127・6－7
④ GS「神権時代」
⑤ 教義35・18
⑥ マタ11・25、ルカ10・21、アル32・23
19 ① 詩篇85・10－11
② ルカ2・10

のおとずれ。善の喜びのおとずれを伝え、シオンに向かって、「見よ、あなたの神が治めておられる」と言う者の足は、山の上にあって何と麗しいことでしょう。カルメルの露のように、神の知識が彼らに下ることでしょう。

20 さらにまた、わたしたちは何を聞くでしょうか。[1]クモラからの喜びのおとずれです。預言者たちの預言の成就と、明らかにされる[2]書について宣言する、天からの天使モロナイ。その書について証するように三人の証人に告げられた、セネカ郡フェイエットの荒れ野における主の声。悪魔が光の天使として現れたときにそれを暴いた、サスケハナ川の岸辺におけるミカエルの声。王国の鍵と時満ちる神権時代の鍵を持っていると自ら宣言した、サスケハナ川沿いのサスケハナ郡ハーモニーとブルーム郡コールズビルの間の荒れ野における[9]ペテロとヤコブとヨハネの声。

21 さらにまた、セネカ郡フェイエットのホイットマー翁の部屋における、またこの末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての旅と艱難を通じて、様々な時の、様々な場所における神の声。また、それぞれの[2]神権時代と権利、鍵、誉れ、尊厳と栄光、神権の力について宣言し、またここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を与え、また来るべき事柄を宣言することによってわたしたちに慰めを与え、わたしたちの希望を確かなものとした、天使長ミカエルの声、ガブリエルと、ラファエルと、ミカエルすなわちアダムから現在に至るまでの様々な天使たちの声。

22 兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。心を喜び楽しませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。死者は、王なるインマヌエルに向かって永遠の賛美の歌を語り出しなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。

23 山々は喜び呼ばわりなさい。すべての谷よ、声高らかに叫びなさい。すべての海と乾いた地よ、あなたがたの永遠の王の驚異を告げなさい。川よ、小川

19 ③ イザ 52・7—10、モサ 15・13—18、3ニフ 20・40
20 ① GS「クモラの丘」 ② イザ 29・4、11—14、2ニフ 27・6—29、GS「モルモン書」 ③ GS「モロナイ（モルモンの息子）」 ④ 教義 17・1—3 ⑤ GS「フェイエット（ニューヨーク州）」 ⑥ 2コリ 11・14 ⑦ 教義 27・11、GS「アダム」 ⑧ GS「神権の鍵」 ⑨ 教義 27・12
21 ① ピーター・ホイットマー・シニア ② GS「神権時代」 ③ イザ 28・10 ④ GS「希望」 ⑤ GS「ガブリエル」 ⑥ GS「ラファエル」 ⑦ 教義 107・53—56
22 ① GS「天使」 ② イザ 49・13 ③ イザ 7・14、アル 5・50、GS「インマヌエル」 ④ イザ 24・22、教義 76・72—74
23 ① GS「贖い・贖う」 ④ イザ 44・23

よ、せせらぎよ、喜びをもって流れ下りなさい。森と、野のすべての木々は、主をほめたたえなさい。硬い岩[2]よ、喜びの涙を流しなさい。太陽と月と夜明けの星は、ともに歌いなさい。神の子らは皆、喜び呼ばわりなさい。永遠の創造物は、とこしえにいつまでも神の御名をたたえなさい。さらにまた、わたしは申します。栄光と、救いと、誉れと、不死不滅[4]と、永遠の命[5]と、また王国と公国と力をわたしたちの耳に宣言する天から聞こえる声は、何と栄あることでしょう。

24 まことに、主の大いなる日[1]は近づいています。主の来られる日には、だれが堪えられる[2]でしょう。主が御姿を現されるときに、だれが立っていられるでしょう。主は精錬する者[3]の火のようであり、布さらしの灰汁のようです。主は銀を精錬し清める者[4]として座に着き、レビの子らを清め、金銀のように彼らを清めて、彼らが義をもってささげ物[6]を主にささげられるようにされます。したがって、わたしたちは教会として、また民として、また末日聖徒として、義をもってささげ物を主にささげましょう。また、主の聖なる神殿が完成するとき、わたしたちの死者の記録[7]を載せた、そのまま受け入れるに値する書をそこにささげましょう。

25 兄弟たちよ、わたしはこの件についてたくさんのことをあなたがたに申し上げたいと思いますが、今のところはこれで終わり、別の折にこの件を続けることにします。いつものように、わたしはあなたがたの卑しい僕であり、決して離れることのない友人です。

ジョセフ・スミス

第129章

千八百四十三年二月九日、イリノイ州ノーブーにおいて、預言者ジョセフ・スミスによって与えられた、仕える天使と霊の正体を見分けるための三つの大いなる鍵を明らかにした教え（『教会歴史』第五巻、二百六十七ページ）。

1−3 天には復活体と霊体がある。4−9 幕のかなたからの使者を見分ける鍵が与えられる。

1 天[1]に二種の存在者がいる。すなわち、第一は天使[2]

---

23 ②ルカ19・40 ③ヨブ38・7 ④GS「不死不滅」 ⑤GS「永遠の命」

24 ①GS「イエス・キリストの再臨」 ②マラ3・1−3 ③3ニフ24・2−3、GS「地球（地）−地球の清め」 ④ゼカ13・9 ⑤申命10・8、教義13・1、124・39 ⑥教義84・31、GS「ささげ物」 ⑦教義127・9、GS「系図」

第129章

1 ①GS「天」 ②GS「天使」

である。天使とは、骨肉の体を持つ[3]復活した人々である。

2 例えば、イエスは、「触って見なさい。霊には[1]肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはある」と言われた。

3 第二に、完全な者とされた[1]正しい人々の[2]霊である。彼らは復活していないが、同じ栄光を受け継ぐ。

4 ある使者が来て神の御告げがあると言うとき、あなたの手を差し出して握手を求めなさい。

5 もし彼が天使であれば、彼はそれに応じて、あなたはその手の感触を覚えるであろう。

6 もし彼が完全な者とされた正しい人の霊であれば、彼は栄光をもって来るであろう。それが、彼が現れることのできる唯一の方法だからである。

7 彼に握手を求めなさい。しかし、彼は応じないであろう。正しい人が欺くのは、天の秩序に反するからである。しかし、彼はそれでも御告げを伝えるであろう。

8 もしそれが光の天使としての[1]悪魔であれば、あなたが握手を求めると、彼はあなたに手を差し出すであろう。しかし、あなたは何も感じないので、彼を見破ることができる。

9 これらが、いかなる働きかけでもそれが神からのものかどうかを知るための三つの大いなる鍵である。

第130章

千八百四十三年四月二日、イリノイ州レイマスにおいて、預言者ジョセフ・スミスによって与えられた教え（『教会歴史』第五巻、三百二十三—三百二十五ページ）。

1—3 御父と御子が人に親しく御姿を現されることがある。4—7 天使たちは天球に住む。8—9 日の栄えの地球は、一つの雄大な「ウリムとトンミム」である。10—11 日の栄えの世界に入るすべての人に、一つの白い石が与えられる。12—17 再臨の時については預言者に知らされない。18—19 この世で得る英知は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。20—21 すべての祝福は律法に従うことによって与えられる。22—23 御父と御子は、骨肉の体を持っておられる。

---

1 ③ GS「復活」
2 ① ルカ24・39
3 ① ヘブ12・23、教義76・69
8 ①② GS「霊」
2 コリ11・14、2ニフ9・9

1 救い主が御姿を現されるとき、わたしたちは、救い主をありのままに見るであろう。わたしたちは、救い主がわたしたちのような[2]人間であるのを見るであろう。

2 ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない[1]永遠の栄光が伴う。

3 ヨハネによる福音書第十四章二十三節。この節における[1]御父と[2]御子の現れは、[3]直接の現れである。御父と御子が人の心の中に[4]住まわれるという考えは、昔からの諸教派の観念であって、誤りである。

4 「神の時、[1]天使の時、預言者の時、人間の時は、彼らが住んでいる惑星によって計算されるのか」との質問に対する答えとして、

5 わたしは、そのとおりであると答える。しかし、この地球において教え導く[1]天使たちで、この地球に属していない者、あるいはかつて属していなかった者はだれもいない。

6 天使たちはこの地球のような惑星には住んでおらず、

7 彼らは神の前で、[1]ガラスと[2]火の海のような球体の上に住んでいる。そこでは、彼らの栄光のために、過去も現在も未来もすべてのことが明らかにされ、またそれらは絶えず主の前にある。

8 神が住んでおられる所は、一つの雄大な「[1]ウリムとトンミム」である。

9 この[1]地球は、聖められて不滅の状態になると、水晶のようになり、そこに住む者たちにとって一つの「ウリムとトンミム」になる。そして、これによって下位の王国、すなわち低位のすべての王国に関するすべてのことが、そこに住む者たちに明らかにされる。また、この地球はキリストのものとなる。

10 そのとき、黙示録第二章十七節に述べられている白い石は、それを受ける各個人にとって一つの「ウリムとトンミム」になる。そして、これによって高位の王国に関することが知らされる。

11 日の栄えの王国に来る各人に一つの[1]白い石が与えられる。その石の上には新しい[2]名前が記されており、それを受ける者のほかにはだれもそれを知らない。その新しい名前は鍵の言葉である。

12 わたしは主なる神の名によって預言する。人の子の来臨前に多くの流血を引き起こす[1]難局の始まり

第130章

1 ①1 1ヨハ3・2、モロ7・48、GS「イエス・キリストの再臨」
②2 ルカ24・36−40
②1 GS「日の栄え」
3 ①1 GS「神・神会ー父なる神」
②2 GS「神・神会ー子なる神」
③3 教義93・1
④4 教義130・22、GS「神・神会」
4 ①1 2ペテ3・8、アブ3・4−10。アブラハム書の模写2、図1を参照
5 ①1 GS「天使」
7 ①1 黙示4・6、15・2
②2 イザ33・14、教義132・1−3
8 ①1 GS「ウリムとトンミム」
9 ①1 教義77・1、GS「地球（地）ー最終的な状態」
11 ①1 黙示2・17
12 ①2 イザ62・2、教義38・29、45・63

は、サウスカロライナにある。[2)]
13 それは恐らく奴隷問題によって起こるであろう。
千八百三十二年十二月二十五日、わたしがこの件に
ついて熱心に祈っていたとき、このことをある声が
わたしに告げた。
14 わたしはかつて、人の子が来られる時を知ろうと
して非常に熱心に祈っていたとき、ある声が次のよ
うに繰り返し告げるのを聞いた。
15 「わたしの子ジョセフよ、もしあなたが八十五歳
になるまで生きるならば、あなたは人の子の顔を見
るであろう。それゆえ、これで満足し、この件につ
いてもうわたしを煩わさないようにしなさい。」
16 このように、このときに来られることが福千年の
始まりを指すのか、それ以前の現れを指すのか、そ
れともわたしが死んで御顔を拝することなのか、わ
たしは判断できないままにしておかれた。
17 わたしは、人の子が来られるのはそのときよりも
早くはないと信じている。
18 わたしたちがこの世において得る英知の一切
は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。
19 そこで、もしある人が精励と従順によって、この
世でほかの人よりも多くの知識と英知を得るなら
ば、来るべき世でそれだけ有利になる。
20 創世の前に天において定められた不変の律法があ
り、すべての祝福はこれに基づいている。
21 すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基
づく律法に従うことによるのである。
22 御父は人間の体と同じように触れることのでき
る骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。
しかし、聖霊は骨肉の体を持たず、霊の御方であら
れる。もしそうでなければ、聖霊はわたしたちの内
にとどまり得ない。
23 人は聖霊を受けることができる。そして、聖霊が
人に降られることはあるが、しかし長くとどまられ
ることはない。

第131章

千八百四十三年五月十六、十七日、イリノイ州レイマスにおいて与えられた、預言者ジョセフ・スミスによる教え（『教会歴史』第五巻、三百九十二—三百九十三ページ）。

---

12 ② 教義87・1—5
14 ① GS「イエス・キリストの再臨」
18 ① GS「英知」
② GS「復活」
19 ① GS「熱心」
② GS「従順・従う」
③ GS「知識」
④ アル12・9—11
20 ① GS「前世」
② 教義82・10
③ 申命11・26—28、教義132・5、GS「祝福」
22 ① GS「神・神会」
② 使徒17・29
③ GS「聖霊」
23 ① GS「聖霊の賜物」

1—4 日の栄えの結婚は、最高の天における昇栄に不可欠である。5—6 永遠の命に結び固められる方法が説明される。7—8 すべての霊は物質である。

1 1)日の栄えの栄光には、三つの天、すなわち三つの階級がある。2 その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位（すなわち、2)結婚の新しくかつ永遠の聖約）に入らなければならない。3 そうしなければ、その人はそれを得ることができない。4 その人は他の階級に入ることはできるが、それは彼の王国の終わりであって、その人は1)増し加えることができないのである。5 （千八百四十三年五月十七日）いっそう確実な1)預言の言葉とは、人が聖なる神権の力によって2)永遠の命に結び3)固められたことを、啓示と預言の霊によって知ることである。6 人が1)無知で2)救われることは不可能である。7 実体のない物質というものは存在しない。1)霊はすべて物質であるが、もっと微細で純粋であり、2)より清い目によってのみ見分けることができるものである。8 わたしたちはそれを見ることができない。しかし、体が清められるとき、それがすべて物質であることが分かるであろう。

第132章

千八百四十三年七月十二日に記録された、イリノイ州ノーブーにおいて預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示。結婚聖約の永遠性と多妻を含む、新しくかつ永遠の聖約に関するもの（『教会歴史』第五巻、五百一—五百七ページ）。この啓示が記録されたのは千八百四十三年であるが、預言者がこの啓示に含まれている教義と原則を千八百三十一年から知っていたことは、歴史記録により明らかである。

1—6 昇栄は、新しくかつ永遠の聖約によって得られる。7—14 その聖約の条件が明らかにされる。15—20 日の栄えの結婚と家族の存続によって、人は神になることができる。21—25 狭くて細い道は永遠の命に至る。26—27 聖霊に対する冒瀆に関して律法が与えられる。

第131章
1 ① 教義 76・70、GS「日の栄え」
2 ① 教義 132・5—21、GS「昇栄」 ② GS「結婚—結婚の新しくかつ永遠の聖約」
4 ① 教義 132・16—17
5 ① 2 ペテ 1・19、GS「召しと選び」 ② GS「永遠の命」 ③ 教義 68・12、88・4、GS「結び固め」
6 ① 教義 107・99—100 ② GS「救い」
7 ① GS「霊」 ② 教義 76・12、97・16、モセ 1・11

る。28–39 あらゆる時代の預言者たちと聖徒たちに、永遠の増加と昇栄の約束が与えられる。40–47 地上でも天でもつなぎ、結ぶ力が、ジョセフ・スミスに与えられる。48–50 主は彼に昇栄を結び固められる。51–57 エマ・スミスは忠実で誠実であるように勧告される。58–66 多妻に関する律法が明らかにされる。

1 まことに、主はあなた、すなわちわたしの僕ジョセフにこのように言う。多くの1)妻とそばめを持つことの原則と教義について、主なるわたしがわたしの僕たちアブラハムと、イサクと、ヤコブ、またわたしの僕たちモーセと、ダビデと、ソロモンをどのような点で義としたのかを知り、かつ理解するために、あなたはわたしに尋ねたので、

2 見よ、見よ、わたしは主なるあなたの神であり、この件についてあなたに答えよう。

3 それゆえ、これからあなたに与える指示を受け入れて、これに従うために、心の1)備えをしなさい。この律法を示された者は皆、これに従わなければならないからである。

4 見よ、わたしはあなたがたに一つの新しくかつ永遠の1)聖約を示す。もしその聖約に従わなければ、あなたがたは2)罰の定めを受ける。だれもこの聖約を3)拒みながら、わたしの栄光に入るのを許されることはあり得ないからである。

5 わたしから1)祝福を受けたいと思う者は皆、その祝福のために定められた2)律法とその条件に従わなければならない。その律法とその条件は、創世の前から定められたものである。

6 この新しくかつ1)永遠の聖約についてであるが、これはわたしの完全な2)栄光のために定められたものであって、この完全な栄光を受ける者はその律法に従わなければならない。そうしなければ罰の定めを受ける、と主なる神は言う。

7 まことに、わたしはあなたがたに言う。この律法の1)条件は次のとおりである。すなわち、すべての聖約や契約、きずな、義務、2)誓詞、誓言、履行、関係、交際、期待がなされ、また交わされるとき、これらが油注がれた者の仲立ちによる3)啓示と戒めによって、最も聖なる方法で、この世においても永遠にわたっても、この力を持つようにわたしが地上で任じた油注がれた者によって、4)約束の聖なる御霊によ

第132章
1 ① 教義132・34、37–39、GS「結婚—多妻結婚」
3 ① 78・7
4 ① GS「聖約（契約）」
② GS「罰の定め」
5 ① ③ 教義131・1–4
② 教義130・20–21
6 ① ② GS「律法」
教義66・2、GS「新しくかつ永遠の聖約」
② 教義76・70、92–96、「日の栄え」
GS 教義88・38–39
7 ① GS「誓い」
② ③ GS「啓示」
④ GS「約束の聖なる御霊」

り結び固められなければ、これらは死者の中からの復活の時も、その後も、まったく効験や効能、効力がない。（わたしは、終わりの時にこの力を持つように、わたしの僕ジョセフに命じた。そして、この力とこの神権の鍵を授けられる者は、地上において同時期にただ一人しかいない。）この目的で結ばない契約はすべて、人が死ぬと終わるからである。

8 見よ、わたしの家は秩序の家であり、混乱の家ではない、と主なる神は言う。

9 主は言う。わたしの名によってなされないささげ物を、わたしが受け入れるであろうか。

10 わたしが命じなかったものを、あなたがたの手から受け取るであろうか。

11 また、世界が存在する前にわたしと父があなたがたのために定めたように、律法によることなしに、わたしがあなたがたに命じるであろうか、と主は言う。

12 わたしは主なるあなたの神である。そして、わたしはあなたにこの戒めを与える。すなわち、だれもわたしによらずに、あるいはわたしの律法であるわたしの言葉によらずに父のもとに来てはならない、と主は言う。

13 また主は言う。わたしによらずに、あるいはわたしの言葉によらずに定められる、世にあるすべてのものは、それが人によろうと、また王位や主権や力や何でも名のあるものによろうと、それは倒されて、人の死後、復活の時にもその後にも残ることはない、と主なるあなたの神は言う。

14 残るものは何であろうとわたしによるのであり、またわたしによらないものは何であろうと、揺るがされ、滅ぼされる。

15 それゆえ、もしある男がこの世において妻をめとるのに、彼がわたしによらずに、あるいはわたしの言葉によらずにめとるならば、彼がこの世にいるかぎり彼女と誓い、彼女も彼と誓うとしても、彼らの誓いと結婚は、彼らが死ぬと、そしてこの世の外に去ると、効力がない。それゆえ、彼らはこの世の外では、いかなる律法によっても結ばれないのである。

16 それゆえ、彼らはこの世の外に去ると、めとることも、嫁ぐこともなく、天において天使に任じられる。その天使たちは、はるかに優れた、並外れた、

---

7 ⑤ GS「結び固め」
9 ① ⑥ GS「神権の鍵」、モロ 7・5−6、「犠牲」
10 ① レビ 22・20−25、モセ 5・19−23
11 ① 教義 132・5
12 ① ヨハ 14・6
13 ① 3ニフ 27・10−11
15 ① GS「結婚」、マタ 22・23−33、マコ 12・18−25、ルカ 20・27−36
16 ② GS「天使」

永遠の重みのある栄光にふさわしい者たちに仕える奉仕の僕である。

17 これらの天使たちは、わたしの律法に従わなかったからである。それゆえ、彼らは増し加えられることがなく、永遠にわたって、昇栄することなく、救われた状態にあって、それぞれ独りのままでいることになる。それから後、彼らは神々ではなく、とこしえにいつまでも神の天使である。

18 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。たとえある男が妻をめとり、この世においても永遠にわたっても彼女と誓うとしても、もしもその誓いがわたしによらず、あるいはわたしの律法であるわたしの言葉によらず、またわたしが油を注いでこの力を持つように任じた者を通じて、約束の聖なる御霊により結び固められなければ、彼らはわたしによっても、わたしの言葉によっても結ばれないので、この世の外に去ると、それは有効ではなく、効力がない、と主は言う。彼らがこの世の外に去ると、そこではそれは受け入れられない。天使たちと神々がそこで任じられていて、彼らはそのそばを通り過ぎることができないからである。それゆえ、彼らはわたしの栄光を受け継ぐことができない。わたしの家は秩序の家だからである、と主なる神は言う。

19 さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしある男がわたしの律法であるわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが、わたしからこの力とこの神権の鍵とを与えられた油注がれた者によって、約束の聖なる御霊により彼らに結び固められ、また彼らに、「あなたがたは第一の復活に出て来るであろう。もしも第一の復活の後ならば、次の復活に出て来るであろう。そして、王位、王国、公国、および力、主権、すべての高い所と深い所を受け継ぐであろう」と言われるならば、また殺人を犯して罪のない者の血を流してはならないと小羊の命の書に記されているので、あなたがたがわたしの聖約の中にとどまり、殺人を犯して罪のない者の血を流すことがなければ、わたしの僕が彼らに授けたすべての事柄は何であろうと、この世においても永遠にわたっても、彼らに行われ、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ、彼ら

19 ① GS「結婚—結婚の新しくかつ永遠の聖約」
② GS「神権の鍵」
③ 教義76・52—53、88・3—4
④ GS「結び固め」
⑤ 出エ19・5—6、黙示5・10、20・6、教義76・78・15—18
⑥ 56、GS「命の書」

の頭に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。

20 それで、彼らは神々となる。彼らには終わりがないからである。それゆえ、彼らは続くので永遠から永遠に至り、すべてのものが彼らに従うので、彼らはすべてのものの上にあるであろう。それで、彼らは[1]神々となる。彼らは[2]一切の権威を持ち、天使たちが彼らに従うからである。

21 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはわたしの[1]律法に従わなければ、この栄光に達することができない。

22 昇栄と命の存続に至る門は狭く、[2]その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。あなたがたがこの世でわたしを受け入れず、わたしを知らないからである。

23 しかし、もしあなたがたがこの世でわたしを受け入れるならば、あなたがたはわたしを知り、昇栄を受けるであろう。わたしがいる[1]所に、あなたがたもいるためである。

24 [1]永遠の命とは、唯一の、知恵あるまことの神と、神の[2]遣わされたイエス・キリストとを知ることである。わたしがその者である。それゆえ、あなたがたはわたしの律法を受け入れなさい。

25 [1]死に至る門は大きく、[2]その道は広い。そして、そこから入って行く者が多い。彼らがわたしを[3]受け入れず、わたしの律法の中にとどまらないからである。

26 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしある男がわたしの言葉に従って妻をめとり、彼らがわたしの定めたことに従って[1]約束の聖なる御霊により結び固められるならば、彼または彼女がいかなる罪や新しくかつ永遠の聖約に対する背き、またあらゆる冒瀆を犯しても、もしも彼らが[2]殺人を犯して罪のない者の血を流すことがなければ、彼らは第一の復活に出て来て、昇栄に入るであろう。しかし、彼らは肉体にあって滅ぼされ、贖いの日まで[3]サタンに引き渡されて打たれる、と主なる神は言う。

27 この世でもこの世の外でも[1]赦されることのない、聖霊に対する[2]冒瀆とは、あなたがたがわたしの新しくかつ永遠の聖約を受け入れた後に、殺人を犯すことである、それによって罪のない者の血を流し、ま

---

19 ⑦ GS「昇栄」
20 ① マタ 25・21、教義 29・12—13、132・37、GS「人—天の御父のようになる可能性を持った人間」 ② 教義 50・26—29、76・94—95、84・35—39
21 ① GS「律法」 ② 教義 132・30—31
22 ① 教義 132・24、2 ニフ 33・9、ヒラ 3・29—30 ② ルカ 13・24、2 ニフ 2・9—41、31・17— ③ マタ 7・13—14、23、
23 ① ヨハ 14・2—3
24 ① ヨハ 17・3、GS「永遠の命」 ② ヨハ 3・16—17、教義 49・5
25 ① GS「死（霊の）」 ② マタ 7・13—14、3 ニフ 14・13—15 ③ ヨハ 5・43
26 ① GS「約束の聖なる御霊」 ② アル 39・5—6 ③ GS「悪魔」 ④ 教義 82・21、104・9—10
27 ① マタ 12・31—32、ヘブ 6・4—6、教義 76・31—35、GS「滅びの子」 ② GS「冒瀆・汚す罪」「赦されない罪」

たわたしの死に同意するのである、と主なる神は言う。この律法に従わない者は、決してわたしの栄光に入ることができず、3)罰の定めを受ける、と主は言う。

28 わたしは主なるあなたの神である。わたしは、世界が存在する前にわたしと父が定めたように、わたしの聖なる神権の律法をあなたに与えよう。

29 主は言う。1)アブラハムは、啓示と戒めによって、すなわちわたしの言葉によって、彼が受けたすべてのものを受け、そして昇栄に入ってその王座に着いている。

30 アブラハムは、その子孫とその腰から出た者について1)約束を受けた。――あなた、すなわちわたしの僕ジョセフは、その2)腰から出た者である――すなわち、彼らはこの世にいるかぎり続くということである。アブラハムとその子孫についてであるが、彼らはこの世の外でも続くであろう。この世でもこの世の外でも、彼らは星のように3)数限りなく続く。すなわち、たとえ海辺の砂を数えたとしても、彼らを数え尽くすことはできないであろう。

31 この約束はあなたがたに与えられたものでもある。あなたがたはアブラハムから出ており、この約束はアブラハムに与えられたものだからである。この律法によってわたしの父の業は続いており、この業によって父は栄光を受けられるのである。

32 それゆえ、あなたがたは行って、アブラハムの1)業を行いなさい。あなたがたはわたしの律法に入りなさい。そうすれば、救われるであろう。

33 しかし、もしわたしの律法に入らなければ、あなたがたは、わたしの父がアブラハムに与えられた約束を受けることはできない。

34 神がアブラハムに1)命じられたので、2)サラはアブラハムにハガルを与えて妻とした。彼女はなぜそうしたのであろうか。これが律法であったからである。そして、ハガルから多くの人が出た。それゆえ、ほかの数々の事柄とともに、これは約束を成就するものであった。

35 それで、アブラハムは罪の宣告を受けたであろうか。まことに、わたしはあなたがたに言う。「受けなかった。」主なるわたしがそれを1)命じたからである。

36 アブラハムは息子1)イサクをささげるように2)命じられた。それにもかかわらず、「3)あなたは殺してはなら

---

27 ③ GS「罰の定め」
29 ① GS「アブラハム」
30 ① 創世 12・1−3、13・16、GS「アブラハムの子孫」「アブラハムの聖約（契約）」
② 2ニフ 3・6−16
③ 創世 15・5、22・17
31 ① 教義 86・8−11
③ 1ペテ 1・12
32 ① ヨハ 8・39、アル 5・22−24
34 ① 創世 16・1−3
② GS「サラ」
③ 創世 25・12−18、GS「ハガル」
35 ① ヤコ 2・24−30
36 ① GS「イサク」
② 創世 22・2−12
③ 出エ 20・13

ない」と記されていた。しかし、アブラハムは拒まなかった。そして、それによって彼は義と認められた。

37 アブラハムはそばめたちを受け、そして彼女たちは彼のために子供をもうけた。そして、それによって彼は義と認められた。彼女たちは彼に与えられ、そして彼はわたしの律法の中にとどまったからである。イサクもヤコブも、命じられたことのほかに何も行わなかった。そして、彼らは命じられたことのほかに何も行わなかったので、約束のとおりに昇栄に入り、王座に着いている。彼らは天使ではなく、神々なのである。

38 ダビデも多くの妻とそばめを受けた。わたしの僕たちソロモンとモーセも、また創造の初めから現在に至るまでの、ほかの多くのわたしの僕たちも同様である。彼らはわたしから受けなかったものを除いては、どのようなことについても罪を犯さなかった。

39 ダビデの妻たちとそばめたちは、わたしの僕ナタンと、この力の鍵を持っていたほかの預言者たちによって、わたしから彼に与えられたのである。そして、これらのことのどれにおいても、ウリヤとその妻の場合を除けば、彼はわたしに対して罪を犯さなかった。しかし彼らのことで、彼は昇栄から落ちて、彼の受け取る分を受けた。この世の外では、彼は彼女たちを受け継ぐことはない。わたしは彼女たちを別の者に与えたからである、と主は言う。

40 わたしは主なるあなたの神である。そして、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフに一つの務めを与え、万事を元どおりにする。あなたの欲することを求めなさい。そうすれば、わたしの言葉のとおりに、それは与えられるであろう。

41 あなたが姦淫について尋ねたので、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。もしある男が新しくかつ永遠の聖約によって妻を迎え、そしてもし彼女が別の男とともにいて、しかもわたしが聖なる油注ぎによって彼を彼女に与えたのでなければ、彼女は姦淫をしたのであり、滅ぼされるであろう。

42 たとえ彼女が新しくかつ永遠の聖約に入っていなくても、別の男とともにいるならば、彼女は姦淫をしたのである。

43 また、もし夫が別の女とともにいて、彼が誓いを

---

36 ④ ヤコ 4・5、GS「義」
37 ① 創世 25・5−6 ② 創世 30・1−4、教義 132・65、GS「ヤコブ（イサクの息子）」 ③ GS「昇栄」「人−天の御父のようになる可能性を持った人間」
38 ① GS「ダビデ」 ② サ上 25・42−43、サ下 5・13、列上 11・1−3
39 ① GS「神権の鍵」 ② サ下 12・7−8 ③ サ下 11・4、27、12・9、列上 15・5、GS「姦淫」「殺人」 ④ エレ 8・10
40 ① ジ−歴史 1・33、GS「福音の回復」
42 ① 教義 42・22−26
43 ① GS「結婚」「聖約（契約）」

立てていたのであれば、彼はその誓いを破ったのであり、姦淫をしたのである。

44 また、もしその妻が姦淫をしておらず、罪がなく、自分の誓いを破っておらず、しかも彼女がそのことを知っており、わたしがあなた、すなわちわたしの僕ジョセフにそれを示すならば、あなたはわたしの聖なる神権の力によって、彼女を取って、姦淫したことのない忠実な者に彼女を与える力を持つ。彼は多くを治める者とされるからである。

45 わたしはあなたに神権の鍵と力を授けており、それによって、万事を元どおりにし、然るべきときにすべてのことをあなたに知らせる。

46 まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、またわたしの名によって、またわたしの言葉によって、あなたが地上でつなぐことは何でも天で永遠につながれる、と主は言う。また、あなたが地上で赦す罪は、だれの罪でも永遠に天で赦され、またあなたが地上で赦さずにおく罪は、だれの罪でも天でそのまま残るのである。

47 さらにまた、まことに、わたしは言う。だれでもあなたが祝福する者をわたしは祝福し、だれでもあなたがのろう者をわたしはのろう、と主は言う。主なるわたしはあなたの神だからである。

48 さらにまた、まことに、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフに言う。わたしの言葉によって、またわたしの律法によって、あなたが地上で何を与えようと、またあなたがだれにだれを与えようと、それはのろいではなく祝福をもたらし、わたしの力を伴い、そして地上でも天でも罪に定められることはない、と主は言う。

49 わたしは主なるあなたの神であり、世の終わりまで、また永遠にわたってあなたとともにいる。まことに、わたしはあなたに昇栄を結び固め、わたしの父の王国に、あなたのために先祖アブラハムとともに座する王座を用意している。

50 見よ、わたしはあなたの犠牲を見てきた。そして、あなたのすべての罪を赦す。わたしが告げたことに従うあなたの犠牲を、わたしは見てきた。それゆえ、行きなさい。わたしは、息子イサクをささげようとしたアブラハムの行為を受け入れたように、あなたの逃れる道を備えよう。

---

44 ①GS「純潔」
45 ①GS「神権の鍵」 ②使徒3・21、教義86・10、GS「福音の回復」
46 ①GS「結び固め」 ②GS「罪の赦し」
47 ①創世12・1—3、教義124・93 ②教義5・22、GS「召しと選び」 ③教義68・12 ④創世17・1—8、2ニフ8・2
49 ①マタ28・20 ②GS「召しと選び」
50 ①GS「犠牲」 ②創世22・10—14、教義97・8

51まことに、わたしはあなたに言う。わたしは、あなたに妻として与えたわたしのはしためエマ・スミスに、一つの戒めを与える。エマ・スミスは自分自身を抑えて、わたしがエマに与えるようにとあなたに命じたことにあずかってはならない。わたしはアブラハムに行ったようにあなたがた二人を試すために、また聖約と犠牲によりあなたがたからささげ物を求めるために、それを行ったのである、と主は言う。

52わたしのはしためエマ・スミス[1]は、わたしの僕ジョセフに与えられた、わたしの前に貞淑で清らかな者をすべて受け入れなさい。清らかでないのに自分は清らかであったと言う者は滅ぼされる、と主なる神は言う。

53わたしは主なるあなたの神であり、あなたがたはわたしの声に従わなければならないからである。わたしは、わたしの僕ジョセフが多くのものを治める者となることを許す。彼はわずかなものに忠実[1]であったからである。これから後、わたしは彼を強くしよう。

54また、わたしは、わたしのはしためエマ・スミスに、とどまって、わたしの僕ジョセフと結び合い、その他のものと結び合うことのないようにと命じる。しかし、もしもこの戒めに従おうとしなければ、彼女は滅ぼされる、と主は言う。わたしは主なるあなたの神であり、彼女がわたしの律法の中にとどまらなければ、彼女を滅ぼすであろう。

55もしも彼女がこの戒めに従おうとしなければ、わたしの僕ジョセフは、彼が言ったとおりにすべてのことを彼女にしなければならない。そうすれば、わたしは彼を祝福し、増やし、この世で父と母、兄弟と姉妹、家と土地、妻と子供について彼に百倍[1]を授け、永遠の世では永遠[2]の命の冠を授けよう。

56さらにまた、まことに、わたしは言う。わたしのはしためは、わたしの僕ジョセフの過ち[1]を赦しなさい。そうすれば、彼女はわたしに対して犯した過ちを赦されるであろう。そして、主なるあなたの神であるわたしは、彼女を祝福し、増やし、彼女の心を喜ばせるであろう。

57さらにまた、わたしは言う。わたしの僕ジョセフは、敵が来て滅ぼすことのないために、自分の財産を手放さないようにしなさい。サタンが滅[1]ぼそうと

52① GS「スミス、エマ・ヘイル」
53① マタ25・21、教義52・13
55① マコ10・28—31
② GS「永遠の命」「家族—永遠の家族」
56① GS「赦し」マタ10・28
57① 1)

するからである。わたしは主なるあなたの神であり、ジョセフはわたしの僕である。見よ、見よ、わたしはあなたの先祖アブラハムとともにいたように、2)昇栄と栄光に至るまでジョセフとともにいる。

58 さて、1)神権の律法については、それに関して多くのことがある。

59 まことに、もしある男がアロン1)のように、わたし自身の声によって、またわたしを遣わされた父の声によって父から召され、そしてわたしがこの神権の力の2)鍵を彼に授けたならば、彼がわたしの名によって、またわたしの律法によって、またわたしの言葉によって何を行おうと、彼は罪を犯すことはない。そして、わたしは彼を義とする。

60 それゆえ、だれもわたしの僕ジョセフを非難してはならない。わたしは彼を義とするからである。わたしが彼の背きに対してその手に求める犠牲を彼はささげるからである、と主なるあなたがたの神は言う。

61 さらにまた、神権の律法についてであるが、もしある男が一人のおとめをめとり、1)さらに2)別の一人をめとりたいと望んで、最初の者が承諾を与えるならば、そしてもし彼が二番目の者をめとり、二人ともおとめであってほかの男と誓いを立てたことがなければ、彼は義とされる。彼女たちは彼に与えられたので、彼が姦淫をすることはあり得ない。彼が、ほかのだれにも属さずに自分だけに属する者と姦淫をすることはあり得ないからである。

62 もしこの律法によって十人のおとめを与えられたとしても、彼が姦淫をすることはあり得ない。彼女たちは彼に属する者であり、彼に与えられているからである。それゆえ、彼は義とされる。

63 しかし、もし十人のおとめの中の一人、あるいはだれかが、嫁いだ後に別の男とともにいるとすれば、彼女は姦淫を行ったのであり、滅ぼされるであろう。彼女たちはわたしの戒めのとおりに1)増えて地を満たすために、また創世の前に父によって与えられた約束を成就するために、また永遠の世で昇栄を得て人々の霊をもうけるために、彼に与えられているのである。これによって、わたしの父の2)業は続けられて、父は栄光をお受けになるのである。

64 さらにまた、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしだれかこの力の鍵を持つ男が一

57 ②GS「昇栄」
58 ①教義84・19—26、GS
59 ①「神権」ヘブ5・4、GS「アロン（モーセの兄）」
②GS「神権の鍵」
61 ①②GS「おとめ」公式1、GS「結婚—多妻結婚」
63 ①創世1・26—28、ヤコ2・30
②モセ1・39

人の妻を持ち、これらのことに関するわたしの神権の律法を彼女に教えるならば、彼女は信じて彼に尽くさなければならない。そうでなければ、彼女は滅ぼされる、と主なるあなたがたの神は言う。わたしは彼女を滅ぼすからである。わたしは、わたしの律法を受け入れてその中にとどまるすべての者のうえに、わたしの名を高めるからである。

65 それゆえ、もし彼女がこの律法を受け入れなければ、主なる神であるわたしが授けるすべてのものを彼が受けるのは、わたしの律法にかなうことである。彼女がわたしの言葉のとおりに信じて彼に尽くさなかったためである。そのときに、彼女は戒めに背く者となる。そして、彼はサラの律法を免除される。サラは、わたしがアブラハムにハガルを妻とするように命じたとき、律法に従ってアブラハムに尽くした者である。

66 さて、この律法について、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。わたしは後にあなたにもっと示すので、今のところはこれで満足しなさい。見よ、わたしはアルパでありオメガである。アーメン。

第133章

千八百三十一年十一月三日、オハイオ州ハイラムにおいて、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示（『教会歴史』第一巻、二百二十九−二百三十四ページ）。預言者はこの啓示の前書きとして、次のように記している。「このとき、地に住む者に福音を宣べ伝えることと集合に関して、長老たちが知りたいと望んでいたことがたくさんあった。まことの光によって歩み、高い所から教えを受けるために、千八百三十一年十一月三日に、わたしは主に尋ね、次のような重要な啓示を受けた。」（『教会歴史』第一巻、二百二十九ページ）この章は、最初『教義と聖約』の書に「付録」として加えられたが、後に章の番号が割り当てられた。

1−6 聖徒たちは再臨に備えるように命じられる。7−16 すべての人は、バビロンから逃れ、シオンに来て、主の大いなる日に備えるように命じられる。17−35 主はシオンの山に立たれ、諸大陸が一つの地となり、イスラエルの行方の知れない部族が戻って来る。36−40 福音は全世界で宣べ伝えられるために、ジョセ

フ・スミスを通じて回復された。41–51 主は降って来て、悪人に報復される。52–56 それは主の贖われた者の年となる。57–74 福音は聖徒たちを救うために、また悪人を滅ぼすために送り出される。

1 「聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ。主なるあなたがたの神は言う。あなたがたについての主の言葉を聞きなさい。

2 その主とは、突如1)神殿に来る主である。2)裁きのためにのろいをもって世に、まことに神を忘れるすべての国民と、あなたがたの中の神を敬わないすべての者のうえに降って来る主である。

3 主はその聖なる腕をすべての国民の目の前に現す。そして、地の果てに至るすべての者が、彼らの神の2)救いを見るであろう。

4 それゆえ、おお、わたしの民よ、備えなさい、備えなさい。自らを聖めなさい。おお、わたしの教会の人々よ、とどまるように命じられていないあなたがたは皆、シオンの地に集まりなさい。

5 バビロン1)から出なさい。主の器を担う者たちよ、2)清くありなさい。

6 あなたがたの聖会を召集し、しばしば互いに1)語り合いなさい。また、すべての人に主の名を呼ばせなさい。

7 まことに、わたしは重ねてあなたがたに言う。主の声があなたがたに及ぶ時が来た。あなたがたはバビロンから出なさい。もろもろの国民の中から、天の果てから果てまで四方1)から2)集まりなさい。

8 わたしの教会の長老たちを、遠くにいるもろもろの国民に、海の島々1)に2)遣わしなさい。諸外国に3)遣わしなさい。まず異邦人へ、次いでユダヤ4)人へと、すべての国民に呼びかけなさい。

9 見よ、見よ、これが彼らの叫びであり、すべての人への主の声である。すなわち、『あなたがたはシオンの地へ行って、わたしの民の境が広げられ、シオンのステーク1)が強くされ、シオンが2)周りの地域に及ぶようにしなさい。』

10 まことに、あなたがたの叫びをすべての人の中に出て行かせなさい。『目を覚まし、立ち上がり、1)花婿を迎えに出なさい。見よ、見よ、花婿は来る。あなたがたは花婿を迎えに出なさい。主の2)大いなる日のために自らを備えなさい。

第133章

2 ① マラ3・1、教義36・8
② 教義1・36、GS「イエス・キリスト―裁き」
3 ① イザ52・10
② イザ12・2、52・10、GS「贖いの計画」「救い」
5 ① アル5・57、教義1・16、GS「バビロン・バベル」
② 「物欲」
② 2テモ2・21、3ニフ20・41、教義38・42、GS「清さ」
6 ① マラ3・16–18
7 ① ゼカ2・6–7、マコ13・27
② 教義29・8、GS「イスラエル―イスラエルの集合」
8 ① イザ11・11、1ニフ22・4、2ニフ10・8、20
② GS「伝道活動」
③ GS「異邦人」
GS「ユダヤ人」
9 ① イザ54・2、GS「ステーク」
② GS「シオン」
10 ① マタ25・6、教義33・17–18、45・54–59、GS「花婿」
② 教義1・12–14

11だから、目を覚ましていなさい。あなたがたはその日も、その時も知らないからである。
12だから、異邦人の中にいる人々はシオンに逃げなさい。
13ユダに属する人々はエルサレムに逃げなさい。これらは主の家の山である。
14あなたがたはもろもろの国民の中から、すなわちバビロンから、霊のバビロンである悪の中から出なさい。
15しかし、まことに、主はこのように言われる。「あなたがたは慌てて逃げることなく、むしろ、万事をあなたがたの前に備えるようにしなさい。そして、突如として滅びが襲うことのないために、去る者は振り返ってはならない。」』
16耳を傾けて聞きなさい、おお、地に住む者よ。ともに耳を傾け、主の声を聞きなさい、わたしの教会の長老たちよ。主はすべての人に呼びかけ、どこにいる人でもすべての人に悔い改めるように命じるからである。
17見よ、主なる神は、天のただ中で叫ぶ天使を遣わして、このように言わせる。『主の道を備え、その道筋をまっすぐにせよ。主の来臨の時は近いからである。
18そのとき、小羊はシオンの山に立ち、額に小羊の父の名を記された十四万四千人の人々が小羊とともにいるであろう。』
19それゆえ、あなたがたは花婿の来臨に備えなさい。行きなさい。花婿を迎えに出なさい。
20見よ、彼はオリブの山に、また広大な大洋、すなわち大いなる深みの上に、また海の島々の上に、またシオンの地に立つであろう。
21そして、彼はシオンから声を発し、またエルサレムから語って、その声はすべての人の中で聞かれるであろう。
22それは大水のとどろきのような、また激しい雷鳴のような声であり、山々を崩すであろう。そして、もろもろの谷は見えなくなる。
23彼が大いなる深みに命じると、それは北の地方へ退き、島々が一つの地となる。
24エルサレムの地とシオンの地は、それぞれの所に戻り、陸地はそれが分けられる前の時代のようになる。

---

11 ① マコ13・32－37、ジ－マタ1・46、48
② 教義49・7
12 ① 教義38・31、42
② GS「シオン」
13 ① GS「ユダ」
② GS「エルサレム」
③ 詩篇122・1－9
④ イザ2・1－3、エゼ38・8
15 ① イザ52・10－12、教義58・56
② 創世19・17、26、ルカ9・62
16 ① 教義1・1－6
② GS「悔い改め」
17 ① 教義13・1、27・7－8、88・92
② イザ40・3－5
③ マラ3・1
18 ① 黙示14・1、GS「神の小羊」
② 教義84・2
③ 黙示7・1－4
19 ① GS「花婿」
② マタ25・1－13、教義33・17－18、88・92、GS「イエス・キリストの再臨」
20 ① ゼカ14・4、教義45・48－53
21 ① イザ2・2－4
② ヨエ3・16、アモ1・2
22 ① エゼ43・2、黙示1・15、教義110・3
② 詩篇77・18、黙示14・2
③ 士師5・5、イザ40・4、64・1、黙示16・20、教義49・23、109・74
23 ① 黙示6・14
24 ① GS「エルサレム」

25 そして、主すなわち救い主が、その民のただ中に立ち、すべての肉なるものを治める。[1]おさ

26 また、[1]また北の地にいる者たちは、主の前に覚えられるようになる。彼らの預言者たちは主の声を聞き、もはや自分自身を抑えない。そして、彼らは岩を打ち、氷が彼らの前に崩れ落ちるであろう。

27 [1]おおじ[1]おおじ一つの大路が大いなる深みのただ中に設けられるであろう。

28 彼らの敵は彼らのえじきとなるであろう。

29 [1]ふもう不毛の砂漠に生ける水の池が現れ、焼けた土地はもはや乾いた地ではなくなる。

30 彼らは、わたしの僕である[1]エフライムの子らに貴い宝を持って来るであろう。

31 永久の丘の境[1]おかは彼らの前で揺れ動くであろう。

32 彼らはそこで、すなわちシオンにおいてひれ伏し、主の僕たち、すなわちエフライムの子らの手により栄光を冠として与えられるであろう。

33 そして、彼らは永遠の喜び[1]うたの歌をもって満たされるであろう。

34 見よ、これは[1]イスラエルの諸部族への永遠の神の祝福であり、[2]エフライムとその同胞の頭に授けられるさらに貴い祝福である。

35 また、[1]ユダの部族の者たちも、苦しみを受けた後、主の前で[2]聖なる状態に聖められ、日夜とこしえにいつまでも主の前に住むであろう。

36 さて、まことに、主は言う。おお、地に住む者よ、これらのことがあなたがたの間で知られるように、わたしは、永遠の[1]福音を携えて[2]天のただ中を飛ぶ天使を遣わした。この天使はすでにある人々に現れて、それを人間にゆだねた。また、彼は地上に住む多くの者に現れるであろう。

37 そして、この[1]福音はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に[3]宣べ伝えられるであろう。

38 また、神の僕たちは出て行って、大声で言うであろう。『神を畏れ、神に栄光を帰しなさい。神の裁きの時が来たからである。

39 天と地と海と水の源とを造られた御方を[1]礼拝しなさい。』

40 彼らは、日夜主の名を呼んで言うであろう。『どうか天を[1]裂いて降って来られますように。あなたの御前に山々が崩れ落ちますように。』

41 そして、それが聞き届けられるであろう。主の臨

---

24 ②創世10・25、GS「地球（地）ー分かれた地」
25 ①GS「イエス・キリストーキリストによる福千年の統治」
26 ①エレ16・14ー15、教義110・11、GS「イスラエル」ー行方の知れない十部族」
27 ①イザ11・15ー16、2ニフ21・16
29 ①イザ35・6ー7
30 ①ゼカ10・7ー12、GS「エフライムーエフライムの部族」
31 ①創世49・26
33 ①イザ35・10、51・11、教義66・11
34 ①GS「イスラエルーイスラエルの十二部族」
②創世48・14ー20、歴上5・1ー2、エテ13・7ー10
35 ①GS「ユダーユダの部族」
②GS「聖い」
36 ①②GS「福音の回復」
②黙示14・6ー7、教義20・5ー12
37 ①GS「福音」
②教義42・58
③GS「伝道活動」「宣べ伝える」
39 ①GS「礼拝」
40 ①イザ64・1ー2

在は物を溶かす燃える火のようであり、水を沸き立たせる火のようである。」

42 おお、主よ、あなたの敵に御名を知らせるために降って来られますように。そうすれば、すべての国民が御前でおののくことでしょう。

43 あなたが、恐るべきこと、すなわち彼らの予期していないことを行われるとき、

44 まことに、あなたが降って来られ、山々があなたの御前に崩れ落ちるとき、喜んで義を行い、あなたの道にあってあなたを覚えている者を、あなたは迎えてくださいます。

45 おお、神よ、あなたを待ち望む者のために、あなたがどれほど大いなるものを備えてくださったか、世の初めから、あなた以外にだれも聞いた者も、耳にした者も、目で見た者もありません。

46 「また、次のように言われるであろう。『染めた衣をまとって天の神のみもとから、まことに、栄光ある装いで、大いなる力をもって、知らない所から降って来られるこの御方はどなたか。』

47 すると、彼は言う。『わたしは義をもって語った者であり、救う力を持つ者である。』

48 主の装いは赤く、その衣は酒ぶねを踏む者のようである。

49 主の前の栄光はまことに大いなるものであるため、太陽は恥じてその顔を隠し、月はその光を与えず、もろもろの星はその場所から投げ落とされるであろう。

50 そして、主の声が聞かれる。『わたしは独りで酒ぶねを踏み、すべての人に裁きをもたらした。そして、だれもわたしとともにいなかった。

51 わたしは憤りをもって彼らを踏みつけ、怒りをもって彼らを踏みにじったので、彼らの血がわたしの衣に降りかかり、わたしの装いをことごとく汚した。これは、わたしの心の内にある報復の日であったからである。

52 今や贖われた者の年が来た。彼らは主の愛にあふれた優しさと、主がその慈しみとその愛にあふれた優しさによって彼らに授けたすべてのものについて、とこしえにいつまでも語るであろう。』

53 主は彼らのあらゆる苦難を自分の苦難とした。そして、主の前の天使は彼らを救った。その愛によって、またその哀れみによって、主は彼らを贖い、ま

41 ①ヨブ 41・31
44 ①1テサ 4・15—18
45 ①哀歌 3・25、2ニフ 6・7、13
②イザ 64・4、1コリ 2・9
46 ①イザ 63・1—2
②GS—イエス・キリストの再臨
48 ①創世 49・11—12、ルカ 22・44、黙示 19・11—15、JS 黙示 19・15、モサ 3・7、教義 19・18
49 ①イザ 13・10、24・23、教義 45・42、88・87
50 ①イザ 63・2—3、教義 76・107、88・106
51 ①レビ 8・30
53 ①イザ 63・4—9
②GS「慈愛」
③GS「贖い・贖う」

た昔から常に彼らを負い、彼らを担った。

54 まことに、エノク[1]も、彼とともにいた者たちも、彼より前にいた預言者たちも、またノア[2]も、彼より前にいた者たちも、またモーセ[3]も、彼より前にいた者たちも、

55 またモーセからエリヤに至り、エリヤからヨハネに至る預言者たちも、すなわちキリストの復活[1]の時にキリストとともにいたこれらの預言者たちも、聖なる使徒たちも、アブラハムやイサク、ヤコブとともに小羊の前にいるであろう。

56 そして、聖徒[1]たちの墓[2]が開[3]かれるであろう。小羊がシオン[4]の山と、聖なる都である新エルサレム[5]に立つとき、彼らは出て来て、小羊[6]の右に立つであろう。そして、彼らは、日夜とこしえにいつまでも小羊[7]の歌を歌うであろう。

57 また、主は人々を、明らかにされることになっていた栄光[1]にあずかる者とするために、主の完全な福音[2]、すなわち主の永遠の聖約を送り出し、分かりやすく簡潔に説いた。

58 それはすなわち、地上に起ころうとしていることに対して、また弱い者[1]が知恵のある者を辱め、小さい者が強い国となり、二人[3]で何万人も追い払うその日における主の用向きに対して、弱い者を備えるためである。

59 地の弱い者によって、主は御霊の力によりもろもろの国民を打ってえり分けるであろう。

60 この理由で、これらの戒めが与えられたのである。これらが与えられた日には、これらは世から隠しておくように命じられたが、今やすべての肉なるもの[2]に伝わるようにしなければならない。

61 これは、すべての肉なるものを治める主の思いと望みによる。

62 そして、悔い改めて[1]主の前に自らを聖める[2]者には、永遠[3]の命が与えられる。

63 また、主の声に聞き従[1]わない者には、彼らは民の中から絶[2]たれると、預言者モーセが記したことが成就する。

64 また、預言者マラキ[1]によって記されたことも成就する。『見よ、炉のように燃える[2]日が来る[3]。すべて高ぶる者と悪を行う者は、わらのようになる。やがて来る日が彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない、と万軍の主は言う。』

---

54 ①GS「エノク」 ②GS「ノア（族長）」
55 ①GS「モーセ」 ②GS「復活」 ③GS「聖徒」
56 ①教義29・13 ②教義45・45—46、88・96—97 ③イザ24・23、黙示14・1、教義76・66、84・2、98—102 ④GS「新エルサレム」 ⑤マタ25・33—34 ⑥GS「神の小羊」 ⑦黙示15・3、教義84・98—102
57 ①GS「栄光の階級」 ②GS「福音」
58 ①マタ11・25、1コリ1・27、アル32・23、37・6—7
59 ①イザ60・22 ②申命32・29—30 ③ミカ4・11—13
60 ①教義1・2 ②教義104・58—59
62 ①GS「悔い改め」 ②教義88・74、GS「聖め」 ③GS「永遠の命」
63 ①GS「聞き従う・聴く」 ②使徒3・22—23、1ニフ22・20—21、3ニフ20・23、21・11、教義1・14、ジ—歴史1・40
64 ①マラ4・1、GS「マラキ」 ②イザ66・15—16、1ニフ22・15、3ニフ25・1、教義29・9、64、24、GS「地球（地）—地球の清め」 ③ジ—歴史1・36—37

65 それゆえ、主は彼らに次のように言うであろう。
66 『わたしが自分の民のところに来た日に、あなたがたのだれもわたしを受け入れなかった。[1]そこで、あなたがたは追い出されたのである。
67 わたしが再び呼びかけたとき、応じる者はあなたがたの中にだれ一人いなかった。しかし、わたしが贖うことのできないほど、わたしの腕は[1]決して短くはなく、わたしが救い出す力も[2]そうである。
68 見よ、わたしは海をしかって[1]干上がらせ、川を荒れ野とし、海と川の魚は悪臭を放ち、渇きのために死ぬ。
69 わたしは天を暗黒で覆い、粗布をその覆いとする。
70 あなたがたがわたしの手から受けるのは、[1]悲しみのうちに横たわることである。
71 見よ、見よ、あなたがたを救い出す者はだれもいない。わたしが天からあなたがたを呼んだとき、あなたがたはわたしの声に従わなかったからである。あなたがたはわたしの僕たちを信じなかった。彼らがあなたがたのもとに[1]遣わされたとき、あなたがたは彼らを受け入れなかった。
72 それゆえ、彼らは証を[1]封じ、律法を束ねた。それで、あなたがたは暗闇に引き渡されたのである。
73 これらの者は外の暗闇に出て行き、そこで[1]涙を流し、泣きわめき、歯ぎしりをするであろう。
74 見よ、主なるあなたがたの神がこれを語ったのである。アーメン。』

第134章

千八百三十五年八月十七日、オハイオ州カートランドで開かれた教会の総会において全会一致で採択された、政府と法律全般に関する所信の宣言（『教会歴史』第二巻、二百四十七—二百四十九ページ）。この宣言が採択されたのは、『教義と聖約』の初版の内容として提案された事項を検討するために、教会の指導者が召集されたときのことである。そのときに、この宣言には次のように前書きが付けられた。「この世の政府と法律全般に関するわたしたちの所信が誤って解釈され、理解されることのないように、わたしたちは、これらに関するわたしたちの見解を本書の終わりに述べておくことが適切であると考えた。」（『教会歴史』第二巻、二百四十七ページ）

66①) ヨハ 1・11
67①) 2ニフ 28・32
67②) イザ 50・2、2ニフ 7・2
68①) 出エ 14・21、ヨシ 3・14—17
70①) イザ 50・11
71①) 歴下 36・15—16、エレ 44・4—5
72①) イザ 8・16—20
73①) マタ 8・11—12、ルカ 13・28、教義 19・5、GS「暗闇（霊的な）」「地獄」

1—4 政府は良心と礼拝の自由を守らなければならない。5—8 すべての人は自分の政府を支持し、法律を重んじ、尊重しなければならない。9—10 宗教団体は民事的権力を行使してはならない。11—12 人々は自分自身と自分の財産を守ることを正当とされる。

1 わたしたちは信じる。すなわち、[1]政府は人間のために神によって設けられた。そして、神は人々に、政府に関する彼らの行為に対して[2]責任を負わせ、人々は社会の福利と安全のために法律を制定し、施行する責任を負う。

2 わたしたちは信じる。すなわち、[1]良心の[2]自由な行使、財産の所有権と管理、および生命の[3]保護を各個人に保証する法律を制定し、かつ固く守らないかぎり、いかなる政府も平和に存立することはできない。

3 わたしたちは信じる。すなわち、すべての政府はその法律を施行するために必ず[1]官吏と長官を要する。また、もし共和国ならば人民の声によって、そうでなければ主権者の意志によって、公平かつ公正に法律を施行する者を捜し求めて、支持しなければならない。

4 わたしたちは信じる。すなわち、宗教は神によって設けられているものである。そして、その宗教上の考えが他人の権利と自由を侵害するように促すものでないかぎり、人は宗教の実践については神に、しかも神にのみ責任を負う。しかし、人間の法律には、[1]礼拝の規則の制定に干渉して人の良心を束縛する権利はないし、公であれ個人であれ、礼拝の方式を指図する権利もない。文官は犯罪を阻止すべきであるが、決して人の良心を支配すべきではない。罪のある者を罰すべきであるが、決して心の自由を抑圧すべきではない。

5 わたしたちは信じる。すなわち、すべての人は、その固有で不可譲の権利を政府の法律によって保護されているかぎり、自分が住む地のそれぞれの政府を支持し、支える義務を負う。治安妨害や[1]暴動は、このように保護されているすべての国民にとって似つかわしくなく、それ相応に罰せられなければならない。すべての政府は、公益を保証するために、しかしながら同時に良心の自由を神聖に保ちながら、政府自身の判断で最適と思われる法律を制定する権

第134章
1 ① 教義98・4—7、箇条1・12
② GS「責任を負う」
2 ① GS「良心」
② GS「選択の自由」
③ 教義42・18—19
3 ① 教義98・8—10
4 ① アル21・21—22、箇条1・11、GS「礼拝」
5 ① 箇条1・12、GS「背く」

利を持つ。

6 わたしたちは信じる。すなわち、すべての人は各々その職において尊ばれるべきである。すなわち、統治者や長官は、罪のない者を保護し、罪のある者を罰するために任じられているので、その職にある者として尊ばれるべきである。また、すべての人は法律を重んじ、尊重すべきである。法律がなければ、平和と協調は無秩序と恐怖に取って代わられるからである。人間の法律は、人と人との間で個人および国民としてわたしたちの諸事を律するという特別な目的のために制定されており、天から与えられた神の律法は、信仰と礼拝のために霊にかかわる諸事に関する規則を定めたものであり、人はその両方について造り主に対して責任を持つのである。

7 わたしたちは信じる。すなわち、統治者と国家、政府は、すべての国民がその宗教上の信条を自由に行使できるように保護するために、法律を制定する権利を持つとともに、その義務をも負う。しかし、法律に敬意と崇敬が払われ、かつその宗教上の考えが治安妨害や陰謀を正当とするものでないかぎり、彼らは国民からこの特権を奪ったり、あるいはその信条を持つことを禁じたりする正当な権利を持たない。

8 わたしたちは信じる。すなわち、犯罪の遂行はその罪科の性質に従って罰せられるべきである。殺人や反逆、強盗、窃盗、およびすべての点における一般的な平和の侵害は、その犯罪性と人に及ぼす悪の傾向に従って、その犯罪が行われた地の政府の法律によって罰せられるべきである。また、すべての人は、公共の平和と安寧のために、善良な法律に違反する者を処罰することに進んでその力を使うべきである。

9 わたしたちは、宗教的影響力と民事上の政治を混合することを正当と信じない。そのようにすれば、ある宗教団体は育成され、別の団体はその宗教上の特権を禁圧されて、その会員の国民としての個人的な権利が否定されることになる。

10 わたしたちは信じる。すなわち、すべての宗教団体は、その団体の規則と規定に従って、秩序を乱す行為に対してその会員を処分する権利を持つ。ただし、その処分は会員としての資格と身分に関してだけである。しかし、いかなる宗教団体も、財産や

6① 教義58・21、88・34
8① アルマ30・7−11、教義42・84−87

生命の権利について人々を裁く権限や、彼らからこの世のものを取る権限や、生命や身体を危険にさらす権限や、彼らに何らかの体罰を加える権限は持っていない。宗教団体ができることは、その団体から彼らを破門[1]することと、彼らの会員資格を取り消すことだけである。

11 わたしたちは信じる。すなわち、人々は身体的虐待を加えられたり、財産権や人格を侵害されたりする場合、それを保護する法律があれば、すべての不当な扱いと行為の補償を民法に訴えるべきである。しかし、すぐに法律に訴えて救助を受けることができない危急のときには、すべての人が自分自身と友人と財産と政府を、あらゆる人の不法な襲撃と侵害から守ることは正当である。

12 わたしたちは信じる。すなわち、地の諸国に福音を宣べ伝え、世の腐敗から救われるように義人に警告することは正当である。しかし、奴隷の所有者の意志と願いに反して、奴隷に口出しをしたり、福音を宣べ伝えたり、バプテスマを施したりすることは正しくない。また、少しでも彼らに干渉したり、感化したりして、現世における彼らの境遇に不満を抱かせ、それによって人命を危険にさらすことは正しくない。このような干渉は不法かつ不当であり、人を奴隷状態の中に置くことを容認するすべての政府の安寧にとって危険である。

第135章

千八百四十四年六月二十七日、イリノイ州カーセージにおける預言者ジョセフ・スミスとその兄である祝福師ハイラム・スミスの殉教（『教会歴史』第六巻、六百二十九―六百三十一ページ）。この文書は、その出来事の目撃者であった十二使徒評議会のジョン・テーラー長老が書いたものである。

1-2 ジョセフとハイラムは、カーセージの監獄で殉教した。3 預言者が傑出した地位にあることが宣言される。4-7 彼らの罪のない血は、御業が真実であり、神からのものであることを証する。

1 この書と『モルモン書』の証を確実なものとするために、わたしたちは、預言者[1]ジョセフ・スミスと祝福師ハイラム・スミスの殉教[2]を発表する。彼ら

10 ① GS「破門」
12 ① GS「伝道活動」「宣べ伝える」
第135章
1 ① GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」
② 教義5・22、6・30、GS「殉教者・殉教」

は、千八百四十四年六月二十七日午後五時ごろ、カーセージの監獄[3]において、百五十名から二百名の、顔を黒く塗り武装した暴徒により銃撃された。[4]ハイラムが最初に撃たれ、「わたしは死ぬ」と叫んで静かに倒れた。ジョセフは窓から飛び降りたが、その途中で撃たれ、「おお、わたしの神、主よ」と叫んで死んだ。彼ら二人は死んだ後も残酷に銃撃され、両者とも四個の弾丸を受けた。

2 そのときにその部屋にいたのは、十二使徒の二人、[1]ジョン・テーラーとウィラード・リチャーズだけであった。前者は四個の弾丸を受けてむごたらしく負傷したが、後に快復した。後者は、神の摂理により、その服に一つの弾丸も受けることなく逃れた。

3 主の預言者であり[1]聖見者[2]であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。二十年という短期間のうちに、彼は、彼自身が神の賜物と力によって翻訳して、両大陸で出版する仲立ちとなった『モルモン書』を出し、その書に載っている[3]完全な永遠の福音を地の四方に送り出し、人の子らのために『教義と聖約』という本書を構成する数々の啓示と戒め、およびそのほか多くの知恵ある文書と指示を出し、何千人もの末日聖徒を集め、一つの偉大な都市を建設し、覆されることのあり得ない誉れと名声を残した。彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。そして、昔の、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、彼は、自らの血[5]をもって自分の使命と業を証明したのである。彼の兄ハイラムも同様であった。彼らは生前に分かたれることはなく、また死後も離れることはなかった。

4 暗殺の二、三日前、ジョセフは、法律の見せかけの要求に応じて自分の身を引き渡すためにカーセージへ向かったとき、次のように言った。「わたしはほふり場に引かれて行く小羊[1]のように行く。しかし、わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は、神に対してもすべての人に対しても、責められることがない。わたしは罪のないまま死に、やがて『彼は冷酷に殺害された』と言われるだろう。」同じ朝、ハイラムは出かける用意を終えた後

1 ③ GS「カーセージの監獄」 ④ GS「スミス、ハイラム」
2 ① GS「テーラー、ジョン」
3 ① GS「預言者」 ② GS「聖見者」 ③ 教義35・17、42・12、GS「福音の回復」 ④ GS「ノーブー（イリノイ州）」 ⑤ ヘブ9・16—17、教義136・39
4 ① イザ53・7

――ほふり場へと言うべきであろうか、そうである、そのとおりであった――彼は『モルモン書』のエテル書第十二章の終わりに近い次の句を読み、そのページを折り返した。

5 「そしてわたしは、異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈った。そこで主はわたしに言われた。『たとえ彼らに慈愛がなくても、あなたにとっては問題ではない。あなたは忠実であったので、あなたの衣は清くされるであろう。また、あなたは自分の弱さを認めたので、強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。』さて、わたし……は、キリストの裁きの座の前で会うときまで、異邦人とわたしの愛する同胞に別れを告げる。その裁きの座の前で、すべての人は、わたしの衣があなたがたの血で汚れていないことを知るであろう。」その遺言者たちは今や死に、彼らの遺言は効力を持つ。

6 ハイラム・スミスは、千八百四十四年二月で四十四歳であり、ジョセフ・スミスは、千八百四十三年十二月で三十八歳であった。今後、彼らの名は殉教者の中に加えられる。そして、あらゆる国の読者が、荒れた世を救うために『モルモン書』と当教会の『教義と聖約』という本書が十九世紀の最も貴い血を犠牲にしてもたらされたことを思い起こし、また、もし神の栄光のために火が生木を損なうことがあり得るとすれば、腐ったぶどう園を清めるために枯れ木を焼き払うのはどれほど容易であるか思い起こすであろう。彼らは栄光のために生き、栄光のために死んだ。そして、栄光が彼らの永遠の報いである。彼らの名は、代々にわたって子孫に伝えられ、聖められた者にとって宝石のように見なされるであろう。

7 彼らは、以前にしばしば立証されたように、いかなる罪科も犯しておらず、裏切り者たちと悪人たちの陰謀によって監獄に閉じ込められたにすぎない。カーセージの監獄の床の上に流された彼らの罪のない血は、地上のいかなる法廷も拒むことのできない「モルモン教」に押された大いなる証印である。また、イリノイ州の紋章の上に注がれた彼らの罪のない血は、知事が保証したにもかかわらず破られたその州の信義とともに、永遠の福音が真実であること

---

5 (1) 教義88・74—75
6 (1)(3)(2) エテ12・36—38; ヘブ9・16—17; ルカ23・31

を告げる証であって、全世界の人々はこれに異議を申し立てることはできない。また、自由の旗と合衆国の大憲章の上に注がれた彼らの罪のない血は、イエス・キリストの宗教のための使節となって、すべての国民の中の正直な人々の心に感動を与えるであろう。そして、彼らの罪のない血は、ヨハネが見た[1]祭壇の下にいるすべての殉教者の罪のない血とともに、万軍の主が地上でその血の報復をされるまで、万軍の主に向かって叫ぶであろう。アーメン。

第136章

アイオワ州カウンシルブラッフスの近くのミズーリ川の西岸、オマハ族の土地におけるイスラエルの陣営の冬営地（ウィンタークォーターズ）で、ブリガム・ヤング会長を通して与えられた主の言葉と御心（『日誌で見た教会歴史』〔Journal History of the Church〕千八百四十七年一月十四日）。

1—16 西部への旅のためにイスラエルの陣営を編制する方法が説明される。17—27 聖徒たちは数々の福音の標準に従って生活するように命じられる。28—33 聖徒たちは歌い、踊り、祈り、知恵を得るべきである。34—42 預言者たちが殺されるのは、彼らに誉れが与えられ、悪人が罪に定められるためである。

1 西部に向かって旅をしているイスラエルの陣営に関する主の言葉と御心。

2 [1]まつじつせい末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての民と、彼らとともに旅をする人々は、主なるわたしたちの神のすべての戒めと掟を守るという聖約と約束をもって、部隊を編制しなさい。

3 部隊は、[1]十二使徒会の指示の下に、一人の部隊長と二人の副部隊長を頭として、百[2]人隊長と五十人隊長、および十人隊長をもって編制しなさい。

4 そして、主のすべての定めに[1]従って歩むことが、わたしたちの[2]聖約[3]となる。

5 各部隊は、準備できる牽引用家畜や荷車、食糧、衣服、そのほか旅に必要なものをすべてそれぞれで準備しなさい。

6 部隊を編制したら、その部隊は、とどまる者のために力を尽くして備えを始めなさい。

7 各部隊は、その隊長および部隊長とともに、この

7 ①黙示6・9
第136章
2 ①GS「末日聖徒イエス・キリスト教会」
3 ①GS「使徒」 ②出エ18・21—26
4 ①GS「定め」 ②GS「歩む（神とともに）」 ③GS「聖約（契約）」

春に何人が行けるかを決定し、その後、強壮で専門知識を持つ者を十分な人数選び出し、牽引用家畜と種と農具を携えて、春作物の植え付けの準備をする開拓者として行かせなさい。

8 各部隊は、分配を受けた財産に応じて、1)貧しい者、2)やもめ、3)父のいない子供、および軍隊に入った者の家族を伴う割合を等しく負担しなさい。やもめと父のいない子供の叫びが、主の耳に達してこの民を訴えることのないようにするためである。

9 各部隊は、この季節に後に残らなければならない人々のため、家と穀物を栽培する畑の準備をしなさい。これは主の民に関する主の思いである。

10 人々は皆、自分の影響力と財産をすべて使って、主がシオンのステークを設ける場所にこの民を移すようにしなさい。1)

11 もしあなたがたが忠信を尽くして清い心でこれを行うならば、あなたがたは祝福されるであろう。あなたがたは大小の家畜の群れと、畑と、家と、家族について祝福されるであろう。

12 わたしの僕たちエズラ・T・ベンソンとエラスタス・スノーは、一部隊を編制しなさい。

13 また、わたしの僕たちオーソン・プラットとウィルフォード・ウッドラフは、一部隊を編制しなさい。

14 また、わたしの僕たちアマサ・ライマンとジョージ・A・スミスも、一部隊を編制しなさい。

15 また、部隊長と百人隊長と五十人隊長と十人隊長を任命しなさい。

16 任命されたわたしの僕たちは行って、聖徒たちにわたしのこの思いを伝えて、彼らが平和の地へ行く用意ができるようにしなさい。

17 あなたの道を行き、わたしがあなたがたに告げたように行いなさい。敵を恐れてはならない。彼らはわたしの業をとどめる力を持たないからである。

18 シオンは、わたしがふさわしいと思うときに1)贖われるであろう。

19 もしだれかが自分を高くしようとして、わたしの1)勧告を求めなければ、彼は何の力も持たず、その愚かさが明らかにされるであろう。

20 あなたがたは求めなさい。あなたがたの誓いをすべて互いに1)守りなさい。兄弟のものを2)むさぼってはならない。

---

8 ①GS「貧しい」
②③GS「やもめ」、新ヤコ1・27、3ニフ24・5
10 ①GS「ステーク」
11 ①申命28・1–14、GS「祝福」
18 ①教義100・13
19 ①GS「勧告・勧め」
20 ①GS「正直」
②GS「貪欲・むさぼり」

21 主の名をみだりに唱える1)悪から遠ざかりなさい。わたしは主なるあなたがたの神、まことに、あなたがたの先祖の2)神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。

22 1)わたしはエジプトの地からイスラエルの子らを導き出した者である。わたしの民イスラエルを2)救うために、わたしの腕は終わりの時に伸べられている。

23 互いに1)言い争うのをやめなさい。互いに2)悪口を言い合うのをやめなさい。

24 1)酒に酔うことをやめなさい。また、あなたがたの言葉が互いに2)教化し合うのに役立つようにしなさい。

25 あなたは隣人から借りたならば、1)借りたものを返さなければならない。また、返済できなければ、隣人があなたを罪に定めることのないように、すぐに行って彼に告げなさい。

26 あなたは隣人の1)失ったものを見つける場合、熱心に捜して、それを再び彼に渡すようにしなければならない。

27 あなたは自分の持っているものを保存するように努めて、1)賢い2)管理人となるようにしなければならない。それは主なるあなたの神からの無償の賜物であり、あなたはその管理人だからである。

28 あなたは楽しければ、1)歌と、音楽と、踊りと、賛美と2)感謝の3)祈りをもって主をほめたたえなさい。

29 あなたは1)悲しければ、心が喜びに満ちるように、主なるあなたの神に呼び求めて嘆願しなさい。

30 あなたの敵を恐れてはならない。彼らはわたしの手の中にあり、わたしは彼らをわたしの思いのままにするからである。

31 わたしの民は、すべてのことにおいて1)試みを受けなければならない。それは彼らが、わたしが彼らのために持っている2)栄光、すなわちシオンの栄光を受けるように備えられるためである。そして、3)懲らしめに耐えない者は、わたしの王国にふさわしくないのである。

32 知識のない者は、その目が開かれて見えるように、またその耳が開かれて聞けるようになるために、1)へりくだって主なる神に呼び求めることによって2)知恵を得なさい。

33 わたしの1)御霊は、へりくだって悔いる者を照らすために、また神を敬わない者を罪に定めるために、

---

21 ①GS「不敬」 ②出エ3・6、1ニフ19・10
22 ①出エ13・18、エレ2・5—7、1ニフ5・15、アル36・28、GS「エホバ」 ②エレ30・10、エゼ20・33—34、教義38・33
23 ①3ニフ11・29—30、GS「争い」 ②教義20・54、GS「悪口」
24 ①GS「知恵の言葉」 ②教義108・7
25 ①詩篇37・21、モサ4・28、GS「正直」
26 ①レビ6・4、申命22・3
27 ①GS「熱心」 ②GS「管理人・管理人の職」
28 ①GS「歌う」 ②歴下5・13、教義59・15—16、GS「感謝」 ③GS「祈り」
29 ①サ下22・7 ②GS「喜び」 ③教義101・4、GS「逆境」
31 ①ロマ8・18、教義58・3—4、GS「栄光」 ②GS「懲らしめ」 ③GS「謙遜」
32 ①GS「知恵」 ②GS「聖霊」
33 ①GS「聖霊」

世に送られている。

34 あなたの同胞、すなわち、あなたがたを追い出した国民は、あなたがたとあなたがたの証を拒んだ。

35 そして今、彼らの災いの日、すなわち悲しみの日が、産みの苦しみを受ける女のように来る。彼らが速やかに、まことに速やかに悔い改めなければ、彼らの悲しみは深くなるであろう。

36 彼らは預言者たちと、彼らのもとに遣わされた人々を殺したからである。彼らは罪のない者の血を流し、その血が地の中から叫んで彼らを訴えている。

37 これらのことを驚いてはならない。あなたがたはまだ清くない。[1]あなたがたはまだわたしの栄光に堪えることができない。しかし、わたしがアダムの時代からアブラハムまで、アブラハムからモーセまで、モーセからイエスとその使徒たちまで、そしてイエスとその使徒たちからジョセフ・スミスまで、あなたがたに[2]与えてきたわたしのすべての言葉を、あなたがたが忠実に守るならば、あなたがたはわたしの栄光を見るであろう。わたしは、わたしの業をもたらすために、ジョセフ・スミスをわたしの[3]天使たち、すなわちわたしの奉仕の僕たちによって、また天からのわたし自身の声によって呼んだ。

38 彼はわたしの業の基を据え、忠実であった。それで、わたしは彼をわたし自身のもとに引き取った。

39 多くの者は彼の死のゆえに驚いた。しかし、彼に誉れが与えられ、悪人が罪に定められるために、彼が自らの[1]血をもって自分の[2]証を[3]確実なものとすることは必要であった。

40 わたしはあなたがたを[1]敵から救い出さなかったであろうか。実にわたしは、そのことによってわたしの名の証を残してきた。

41 さて、聴きなさい、おお、わたしの[1]教会の人々よ。長老たちよ、ともに耳を傾けなさい。あなたがたはわたしの[2]王国を受けた。

42 裁きがあなたがたに下り、あなたがたの信仰がなくなり、あなたがたの敵があなたがたを打ち負かすことのないように、わたしの戒めをすべて熱心に守りなさい。それでは、今はこれ以上述べない。アーメン、アーメン。

第137章

千八百三十六年一月二十一日、オハイオ州カートラ

---

34 ①GS「迫害」
37 ①GS「清さ」 ②ヒラ8・18 ③黙示14・6、教義110・11−16、128・19−21、ジー歴史1・30−47
39 ①GS「殉教者・殉教」 ②GS「証」 ③モサ17・20、教義135・3
40 ①出エ23・22、教義8・4、105・15
41 ①GS「イエス・キリストの教会」 ②ダニ7・27

ンドの神殿において、預言者ジョセフ・スミスに与えられた示現（『教会歴史』第二巻、三百八十—三百八十一ページ）。この示現が与えられたのは、それまでに示されていた範囲内でエンダウメントの儀式を執行していたときのことである。

1—6 預言者は日の栄えの王国に兄のアルビンを見る。7—9 死者のための救いの教義が示される。10 子供たちは皆、日の栄えの王国に救われる。

1 天[1]がわたしたちに開かれ、わたしは神の日[2]の栄えの王国とその栄光を見た。それが体[3]のままであったか、体を離れてであったか、わたしには分からない。

2 わたしは、その王国を受け継ぐ者たちが入る門[1]のたぐいない美しさを見た。それは回転している炎[2]のようであった。

3 わたしはまた、輝く[1]神の御座も見たが、そこには御父[2]と御子[3]が座しておられた。

4 わたしはその王国の美しい街路を見た。それは金[1]を敷き詰めたかのようであった。

5 わたしは父祖アダム[1]とアブラハム[2]、またわたしの父[3]と母[4]、眠ってから久しい兄のアルビン[5]を見た。

6 わたしは、兄がどのようにしてその王国で受け継[1]ぎを得たのか不思議に思った。兄は主が再び[2]イスラエルを集める業を始められる前にこの世を去り、罪の赦しのためのバプテスマ[3]を受けていなかったからである。

7 すると、主の声[1]が次のようにわたしに聞こえた。「この福音を知[2]らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆、神の日[3]の栄えの王国を受け継[4]ぐ者となる。

8 これから後、この福音を知らずに死ぬ者で、真心からそれを受け入れたであろう者も皆、その王国を受け継ぐ者となる。

9 主なるわたしは、すべての人をその行い[1]に応じて、またその心[2]の望みに応じて裁[3]くからである。」

10 わたしはまた、責任[1]を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちが皆、天の日の栄えの王国に救われるのを見た。

第138章

千九百十八年十月三日、ユタ州ソルトレーク・シテ

第137章

1 ①使徒7・55—56、1ニフ1・8、ヒラ5・45—49、ジ—歴史1・43 ②GS「日の栄え」 ③2コリ12・2—4、1ニフ11・1、モセ1・11

2 ①2ニフ9・41、31・17 ②出エ24・17、イザ33・14—15、ヒラ5・23、教義130・7 ③①イザ6・1、エゼ1・26—28 ②GS「神・神会—父なる神」 ③GS「神・神会—子なる神」

4 ①黙示21・21、教義110・2

5 ①GS「アダム」 ②教義132・29、GS「アブラハム」 ③教義124・19、GS「スミス、ジョセフ、シニア」 ④GS「スミス、ルーシー・マック」 ⑤ジ—歴史1・4

6 ①GS「死者の救い」 ②イザ11・11、1ニフ22・10—12、ヤコ6・2、GS「イスラエル—イスラエルの集合」 ③ヨハ3・3—5、2ニフ9・23、エテ4・18—19、教義76・50—52、84・74、GS「バプテスマ」

7 ①ヒラ5・30、GS「啓示」 ②JS1ベテ4・6、2ニフ9・25—26、モサ15・24

ィーにおいて、ジョセフ・F・スミス大管長に与えられた示現。千九百十八年十月四日、スミス大管長は、教会の第八十九回半期総大会における開会の説教の中で、過去数か月間に何回か神聖な交わりを受けたと言明した。そのうちの一つが、御自分の体が墓に納められていた間に行われた、救い主の死者の霊たちへの訪れに関するものであり、スミス大管長は大会の前日にそれを受けたのであった。それは大会の終了後すぐに書き記されて、千九百十八年十月三十一日に、大管長会における顧問と、十二使徒評議会、および祝福師に提示され、全会一致で受け入れられた。

1—10 ジョセフ・F・スミス大管長は、ペテロの記録と、わたしたちの主の霊界への訪れについて深く考える。11—24 スミス大管長は、パラダイスに集まっていた義人の死者と、彼らの中でのキリストの働きを見る。25—37 福音の宣教が霊たちの間でどのように組織されたかを見る。38—52 霊界にアダムとエバ、および多くの聖なる預言者たちを見る。彼らは復活前の霊の状態を束縛と考えていた。53—60 この時代の義人の死者は、霊の世界でその働きを続ける。

1 千九百十八年十月三日、わたしは自分の部屋にいて聖文に思いをはせ、
2 世の贖い[1]あがなのために神の御子が払われた大いなる贖い[2]あがなの犠牲と、
3 贖い[1]ぬしの[1]しょくざいこの世への来臨に当たって御父と御子が示された大きな驚くべき愛[2]あいについて深く考えていた。
4 この贖い主の贖罪によって、また福音の諸原則に[2]したがうことによって、人類は救われるのである。
5 このように考えていたところ、わたしは、主が十字架上で亡くなられた後に福音が宣べ伝えられた[1]ポントやガラテヤ、カパドキヤ、そのほかアジヤの各地に離散している[2]初期の聖徒たちにあてた、使徒ペテロの文書をまた思い出した。
6 わたしは『聖書』を開いて、ペテロの第一の手紙の第三章と第四章を読んだ。そして、読んでいたときに、次の聖句にかつてないほど深く胸を打たれた。
7 「キリストも、わたしたちを神のみもとに導くため、自らは正しい方であるのに、正しくない者たちのために、一度罪のゆえに苦しまれた。そして、肉

1 ①GS「深く考える」
② GS「贖い主」
2 ①GS「贖いの計画」
② マタ 20・28、GS「贖罪」
3 ①GS「贖い主」
② ヨハ 3・16、GS「愛」
4 ①箇条 1・3
② マタ 7・21、GS「従順・従う」
5 ①1 ペテ 1・1
② 昔の聖徒たち
7 ③GS「日の栄え」
④ 教義 76・50—70
8 ①アル 18・32、教義 6・16
9 ①GS「行い」
② 教義 64・34、GS「心」
③ 黙示 20・12—13、GS「最後の裁き」
10 ①GS「責任を負う」
② GS「救い—幼い子供たちの救い」

第 138 章

においては殺されたが、霊においては生かされたのである。

8 その霊において彼は、[1]獄にいる霊たちのところへ行って教えを説かれた。

9 この霊たちは、昔ノアの時代に箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者である。その箱舟に乗り込み、水によって救われたのは、わずかに八名だけであった。」（ペテロの第一の手紙第三章十八—二十節）

10 「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神のように生きるためである。」（ペテロの第一の手紙第四章六節）

11 [1]書き記されているこれらのことを深く考えていると、わたしの理解の目が[2]開かれ、主の御霊がわたしのうえにとどまった。[3]そして、[4]死者が小さな者も大いなる者もともに群れを成しているのが見えた。

12 [1]非常に多くの正しい者の霊が、一つの場所に集まっていた。彼らは死すべき世に住んでいた間、イエスの証に忠実であった者たちであり、

13 神の御子の大いなる犠牲のひながたとして[1]犠牲をささげ、また贖い主の名によって[2]艱難を受けた者たちである。

14 これらの者は皆、[1]父なる神とその独り子イエス・キリストの[3]恵みにより、栄光ある[4]復活の望みを[5]確固として持って死すべき世を去ったのである。

15 わたしは彼らが[1]喜びと楽しみに満たされ、解放の日が近づいたので、ともに喜んでいるのを見た。

16 彼らは集まって、神の御子が[1]霊界に来て死の[2]縄目からの贖いを宣言されるのを待っていた。

17 彼らの眠れるちりは、[1]骨が本来の骨と連なり、その上を筋と肉が覆って、その完全な造りに[2]回復されるのであった。彼らが満ちみちる[3]喜びを受けるために、[4]霊と体が決して再び分離することのないように結び合わされるのである。

18 この大群衆が死の鎖からの解放の時を喜び、語り合いながら待っていると、神の御子が現れて、忠実であった囚われ人に[1]自由を宣言された。

19 また、そこにおいて神の御子は、永遠の[1]福音と復活の教義、[2]堕落からの人類の贖い、および[3]悔い改めを条件とする個人の罪からの贖いについて彼らに[4]宣べ伝えられた。

---

8 ①イザ 61・1、ルカ 4・18、教義 76・73—74、88・99
11 ①GS「聖文—聖文の価値」 ②エペ 1・18、教義 76・10、12、19 ③イザ 11・2 ④GS「霊」 ⑤教義 76・69—70
12 ①教義 6・13、51・19、76・51—53
13 ①GS「犠牲」 ②マタ 5・10—12
14 ①GS「神・神会—父なる神」 ②GS「独り子」 ③GS「恵み」 ④GS「復活」 ⑤エテ 12・4、モロ 7・3、40—44、GS「希望」 ⑥イザ 51・11、アル 40・12
15 ①イザ 61・1、ルカ 23・43、アル 40・11—12、GS「パラダイス」 ②モル 9・13、エゼ 37・1—14
16 ①2ニフ 9・10—13 ②GS「喜び」 ③教義 93・33—34、イザ 61・1、GS「死者の救い」
17 ①GS「福音」 ②GS「堕落（アダムとエバの）」 ③GS「悔い改め」 ④教義 76・72—74

20 しかし、[1]悪人のところへは、御子は行かれなかった。また、神を敬わない者や、肉体にあるときに自らを[2]汚して悔い改めなかった者の中では、御子の声は発せられず、
21 昔の預言者たちの証と警告を拒んだ不従順な者は、御子の臨在を目にすることも、御子の顔を仰ぎ見ることもなかった。
22 これらの者のいる所では[1]暗闇が支配していた。しかし、義人の間には[2]平安があった。
23 そして、聖徒たちは彼らの[1]贖いを喜び、[2]ひざまずき、神の御子を贖い主、および死と[3]地獄の鎖からの解放者として受け入れた。
24 彼らの顔は光を放ち、主の前から発する[1]輝きが彼らのうえにとどまった。そして、彼らは主の聖なる名を[2]賛美した。
25 わたしは不思議に思った。というのは、救い主がユダヤ人とイスラエルの家の者たちの間での働きにおよそ三年を費やして、彼らに永遠の福音を教え、彼らを招いて悔い改めさせようとされたが、
26 それでも、救い主が大いなる[1]力と権能をもってその力ある業と数々の奇跡を行い、真理を宣言されたにもかかわらず、その御声に聞き従い、救い主の前にいることを喜び、その御手から救いを受けた者はほんのわずかであったことを、わたしは知っていたからである。
27 しかし、死者の中での救い主の働きは、十字架上の死と復活の間の[1]短い時間に限られていた。
28 わたしは、神の御子は昔ノアの時代に神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった獄にいる霊たちに宣べ伝えられた、というペテロの言葉を不思議に思った。神の御子は、どのようにしてそのような短い時間内にその霊たちに宣べ伝え、彼らの中で必要な働きを成し遂げることがおできになったのであろうか。
29 不思議に思っていると、わたしの目は開かれ、わたしの理解は[1]活気づけられた。そして、わたしは、主が悪人や真理を拒んだ不従順な者を教えるために彼らの中へ自ら行かれたのではないことを知った。
30 見よ、主は義人の中から軍勢を組織し、[1]力と権能をまとった使者たちを任じて、[2]暗闇の中にいる者たち、すなわち[3]すべての人の霊のもとへ行って福音の

20 ① アル40・13−14、GS「地獄」「邪悪」
② 1ニフ10・21
22 ① GS「暗闇（霊的な）」
② GS「平安・平和」
23 ① GS「贖いの計画」
② ロマ14・11、モサ27・31
③ 2ニフ1・13、アル12・11
24 ① 詩篇104・1−2、イザ60・19、黙示22・5、ジー歴史1・17、GS「光・キリストの光」
② GS「歌う」
26 ① 1ニフ11・28
27 ① マコ8・31
29 ① 教義76・12
30 ① ルカ24・49
② GS「暗闇（霊的な）」
③ 教義1・2

光を伝えるように彼らに命じられた。このようにして、福音が死者に宣べ伝えられたのである。

31 選ばれた使者たちは、主の恵みの日を告げ知らせ、束縛されている囚われ人、すなわち、自分の罪を悔い改めて福音を受け入れるすべての人に自由を宣言するために出て行った。[1]

32 このようにして、真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者に、福音が宣べ伝えられた。[2]

33 これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、[2]罪の赦しのための[3]身代わりのバプテスマ、按手による[4]聖霊の賜物について教えを受けた。

34 またこのほかに、肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神のように生きるための資格を得るうえで知っておく必要のある、福音のすべての原則が教えられた。[1]

35 そしてこのように、神の御子の[1]十字架上での犠牲によって贖いが行われたことが、死者の間に、すなわち、小さな者にも大いなる者にも、不義な者にも忠実な者にも知らされたのである。[2]

36 このようにして、わたしたちの贖い主は、霊の世界に滞在しておられる間、肉において贖い主のことを証した忠実な預言者たちの霊を教え、備えるのに、その時間を費やされたということが知らされたのである。[1]

37 それは、この預言者たちの霊が、[1]背反と戒めに対する背きのゆえに贖い主御自身が行くことのできなかった、すべての死者に贖いの知らせを伝えて、彼らも贖い主の僕たちの働きによって御言葉を聞けるようにするためであった。

38 この義人の大群衆の中に集まった偉大な力ある者たちの中に、日の老いたる者であって、すべての者の先祖である父祖[1]アダムがおり、

39 また、わたしたちの栄光ある母[1]エバも、様々な時代に生きてまことの生ける神を礼拝した多くの忠実な娘たちとともにいた。

40 最初の殉教者[1]アベルも、またその弟で、父アダムに生き写しであった、力ある者たちの一人であるセツもいた。[2]

41 洪水について警告を与えた[1]ノア、偉大な[2]大祭司セム、忠実な者の先祖アブラハム、イサク、ヤコブ、およびイスラエルの偉大な立法者モーセ、

---

31 ①イザ 61・2、ルカ 4・17−19
32 ①②GS「自由」教義 128・5、GS「知識」
33 ①②ヨハ 8・21−24 箇条 1・4、GS「信仰」
③②GS「罪の赦し」
③GS「儀式−身代わりの儀式」「バプテスマ−死者のためのバプテスマ」
④GS「聖霊の賜物」
34 ①GS「最後の裁き」
35 ①GS「十字架」「十字架の刑」
②アル 34・9−16、GS「犠牲」「贖罪」
36 ①教義 138・20、GS「背教」138・57
37 ①教義 138・20、GS「背く」
38 ①GS「アダム」モセ 4・26、GS「エバ」
39 ①GS「殉教者・殉教」
40 ①GS「アベル」創世 5・3、モセ 6・10
41 ①②③④GS「セツ」
②GS「ノア（族長）」
③GS「大祭司」
④GS「セム」創世 17・1−8、GS「アブラハム」
⑤創世 21・1−5、GS「イサク」
⑥創世 35・9−15、GS「ヤコブ（イサクの息子）」
⑦GS「モーセ」

42 それに、イザヤ[1]もそこにいた。このイザヤは、贖
い主が油を注がれて、打ち砕かれた心を持つ者を癒
し、囚[2]われ人に自由を宣言し、縛られていた者に獄[3]
が開かれることを宣言される、と預言によって言明
した人である。
43 さらに、枯[1]れた骨のある大いなる谷を示現によっ
て見せられ、それらの骨が死者の復活[2]の時に肉をま
とって再び出て来て生けるものとなるのを見たエゼ[3]
キエル、
44 末日に神[1]の王国が設立されて、それが決して再び
滅ぼされることも、ほかの民に渡されることもない
のを予見して告げたダニエル[2]、
45 変貌[1]の山でモーセとともにいたエライアス[2]、
46 それに、エリヤ[1]が来ることを証した預言者マラキ[2]
もそこにいた。モロナイも預言者ジョセフ・スミス
に、このエリヤについて語り、彼は主の大いなる恐
るべき日[3]が来る前に訪れると宣言した。
47 預言者エリヤは先祖に与えられた約束を子孫[1]の心
に植えることになっていた。
48 これは、主の来臨の時に全地がのろいをもって打
たれて、ことごとく荒廃することのないように、時
満ちる神権時代[1]に、主の神殿[2]で死者の贖いと親子
の結び固め[3]のために大いなる業[4]が行われることをあ
らかじめ示すものである。
49 これらすべての者と、さらに多くの者、すなわち、
ニーファイ人の中に住んで神の御子の来臨について
証した預言者[1]たちが、その大群集の中に交じって解
放を待っていた。
50 死者は、その霊[1]が体から長い間離れていることを
一つの束縛[2]と考えたからである。
51 この預言者たちを主は教え、彼らに力[1]を与えて、
彼らが、主が死者の中から復活された後に出て来
て、御父の王国に入り、そこで不死不滅[2]と永遠[3]の命
を冠として受け、
52 主から約束を受けたようにその後も働きを続け、
主を愛する者たちのために取っておかれたすべて
の祝福[1]にあずかる者となるようにされた。
53 預言者ジョセフ・スミスや、わたしの父ハイラ
ム・スミス、ブリガム・ヤング、ジョン・テーラー、
ウィルフォード・ウッドラフ、そのほか選ばれ
た霊たちも霊界にいた。彼らは、大いなる末日の業
の基[1]を据える務めに携わるために、時満ちる時代に

42 ① GS「イザヤ」
② イザ61・1—2
③ GS「地獄」
43 ① エゼ37・1—14
② GS「復活」
③ GS「エゼキエル」
44 ① ダニ2・44—45、GS「神の王国・天の王国」
② GS「ダニエル」
45 ① GS「変貌」
② GS「エライアス」
46 ① 教義110・13—15、GS「エリヤ」
② マラ4・5—6、ジー歴史1・36—39、GS「マラキ」
③ GS「イエス・キリストの再臨」
47 ① 教義128・17
48 ① GS「神権時代」
② GS「神殿・主の宮」
③ GS「家族—永遠の家族」「結び固め」
④ GS「死者の救い」
49 ① ヒラ8・19—22
50 ① GS「霊」
② 教義45・17
51 ① 1コリ6・14、アル40・19—21
② GS「不死不滅」
③ 教義29・43、GS「永遠の命」
52 ① イザ64・4、1コリ2・9、教義14・7
53 ① 教義64・33

来るようにとどめられていた者である。2)

54 神殿を建て、そこで死者の贖いのために儀式を執行することも、その大いなる末日の業に含まれるのである。1)

55 わたしは、彼らもまた神の教会で治める者となるように初めに選ばれた、1)高潔で偉大な者たちの中にいるのを見た。2)

56 まことに、彼らは生まれる前に、ほかの多くの者とともに、霊の世界において最初の教えを受け、主の定められたときに出て行って人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く準備をしたのである。1)2)3)

57 わたしは、この神権時代の忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け、死者の霊たちの大いなる世界において暗闇と罪の束縛の下にいる者たちの間で、悔い改めと神の独り子の犠牲による贖いの福音を宣べ伝えているのを見た。2)

58 悔い改める死者は、神の宮の儀式に従うことによって贖われるであろう。1)2)

59 彼らは自分の背きの代価を支払い、洗われて清くなった後、その行いに応じて報いを受けるであろう。1)2)

60 このように、死者の贖いの示現がわたしに示された。そして、わたしは証する。わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの祝福によって、わたしはこの証が真実であることを知っている。まことにそのとおりである。アーメン。1)

---

53 ②GS「予任」
54 ①GS「儀式−身代わりの儀式」
55 ①GS「予任」アブ 3・22−24
56 ①使徒 17・24−27 ②ヤコ 6・2−3、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」ヨブ 38・4−7、アル 13・3−7
57 ①GS「長老」 ②GS「地獄」
58 ①GS「儀式」 ②GS「贖い・贖う」
59 ①アル 5・17−22、GS「赦し」 ②GS「行い」
60 ①GS「真理」

公式の宣言一

関係者各位

ユタ委員会が内務長官にあてた最近の報告の中で、多妻結婚は今なお挙行されており、昨年の六月以来、または過去一年間に四十以上のそのような結婚がユタで行われた、そして教会の指導者たちが公の説教の中で一夫多妻制の実施の継続を教え、奨励し、促してきた、と申し立てられているという旨の速報が、ソルトレーク・シティーから政治的な目的をもって発信され、広く公表されるところとなった。

そこで、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、これらの非難が誤りであることを、ここに最も厳粛に宣言するものである。わたしたちは現在一夫多妻制、すなわち多妻結婚を教えておらず、だれにもそれを実施することを許していない。また、その期間中に当教会の神殿でも準州内のいずれの場所でも、四十またはいかなる数であっても多妻結婚が挙行されたということを、わたしは否定するものである。

千八百八十九年の春にソルトレーク・シティーのエンダウメントハウスで結婚が執行された、と当事者たちが申し立てているという報告が一件あったが、だれがその式を執行したのか、わたしはいまだに知ることができない。この件で何が行われたとしても、それはわたしの知らないことであった。この申し立てのあった事件の結果として、エンダウメントハウスは、わたしの指示によって直ちに取り壊された。

多妻結婚を禁じる法律が議会によって制定され、それらの法律が最高裁判所により合憲であると宣言された以上、わたしは、それらの法律に従い、またわたしが管理する教会の会員にもわたしの影響力を行使して同様にそれらの法律に従わせるようにすることを、ここに宣言するものである。

前述の期間中、教会員にあてたわたしの教え、あるいはわたしの同僚の教えの中には、一夫多妻制を教え込んでいる、あるいは奨励していると正当に解釈できるものはただの一つもない。また、だれであろうと教会の長老が、このような教えを伝えているように思われる言葉を使ったならば、その人は直ちに叱責されている。そしてわたしは今、国の法律によって禁じられたいかなる結婚も、それを行うのを差し控えるようにというのが、末日聖徒に対するわたしの勧告である、と公に宣言するものである。

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長

ウィルフォード・ウッドラフ

ロレンゾ・スノー会長は、次のように述べた。

「わたしは提議します。すなわち、わたしたちがウィルフォード・ウッドラフを末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長であり、また現在結び固めの儀式の鍵を保有している地上でただ一人の人であると認め、彼には、わたしたちが今読み上げられるのを聞いた、千八百九十年九月二十四日付けの『宣言』を発するに十分な権能が、その地位によって与えられていると考え、また総大会に集まった教会の総意として、わたしたちが多妻結婚に関するこの宣言を権威と拘束力のあるものとして受け入れることを、ここに提議します。」

前述の提議を支持する採決は、全会一致であった。

ユタ準州ソルトレーク・シティー

千八百九十年十月六日

「宣言」に関するウィルフォード・ウッドラフ大管長の三つの説教からの抜粋

主はわたしであろうと、ほかのだれであろうと、この教会の大管長として立つ者が皆さんを誤った道へ導くのをお許しになることは決してありません。そうすることは、計画の中にはありません。それは神の御心の中にありません。もしわたしがそうしようとしたならば、主はわたしをこの職から退けられることでしょう。また、ほかのだれであろうと人の子らを神託や彼らの職務から誤った道に導こうとする者に、主はそのようにされるでしょう。（第六十一回半期総大会、千八百九十年十月六日、月曜日、ユタ準州ソルトレーク・シティー。『デゼレト・イブニング・ニューズ』〔Deseret Evening News〕千八百九十年十月十一日、二ページ）

だれが生きようと、だれが死のうと、だれがこの教会を導くために召されようと、それは問題ではなく、彼らは全能の神の霊感によって教会を導かなければならないということです。彼らはそれによって教会を導かなければ、決して教会を導けないのです。……

わたしは最近幾つかの啓示を、それもわたしにとって非常に重要な啓示を受けました。そこで、主がわたしに言われたことを皆さんにお話ししましょう。「宣言」と呼ばれているものを思い出してください。

……

主はわたしに、末日聖徒に対して一つの質問をするように告げられました。また、

主はわたしに、彼らがわたしの言うことに耳を傾け、提示された質問に神の御霊と力によって答えるならば、彼らは皆同じように答え、この件に関して同じように信じるであろうとも告げられました。

その質問とはこれです。すなわち、末日聖徒が取るべき最も賢明な道はどちらであろうか。多妻結婚を禁じる国の法律と六千万の人々の反対があり、すべての神殿の没収と損失、生者と死者のためのそこでのすべての儀式の中止、大管長会と十二使徒会と教会内の家族の長たちの投獄、ならびに人々の個人財産の没収という代価を求められながら、多妻結婚を行う努力を続けることか。（これらすべてによって、その行為はおのずと中止されるでしょう。）それとも、この原則を固く守ることによってこれまで行ってきたことを行い、苦しんだ後に、その行為をやめて法律に従い、そうすることによって、預言者たちと使徒たちと父親たちを家に残して、彼らが人々を教え、教会の務めを果たせるようにし、また神殿も聖徒たちの手に残して、彼らが生者と死者のために福音の儀式に携われるようにすることか。

わたしたちがこの行為をやめなければまさに何が起こるかを、主は示現と啓示によってわたしに示してくださいました。もしわたしたちがそれをやめていなかったならば、ローガンのこの神殿で……人々は必要とされなかったことでしょう。シオンの全地ですべての儀式が差し止められたに違いないからです。混乱がイスラエル全体に及び、多くの人が囚人となっていたことでしょう。この苦難は全教会に及び、わたしたちはその行為をやめるように追い込まれていたことでしょう。さて、その質問とは、このような方法でそれをやめるか、それとも主がわたしたちに明らかにされた方法でやめて、わたしたちの預言者たちと使徒たちと父親たちを自由な人として残し、また神殿を民の手に残して死者が贖われるようにするか、ということです。すでに多くの者が、この民によって霊界における獄から救い出されてきました。この業を続けるか、それともやめるか。これが、わたしが末日聖徒の前に提示する質問です。皆さんは自ら判断しなければなりません。わたしは、皆さんが自らそれに答えるように望んでいます。わたしはそれに答えません。しかし、わたしたちが実際に取った道を取らなかったならば、それがまさにわたしたちが一つの民として陥っていた状態であると、皆さんに申し上げます。

……わたしは、もし何かを行わなければまさに何が起こるかを見ました。わたしは長い間この気持ちを抱いてきました。しかし、わたしはこう申し上げたいと思います。すなわち、もしも天の神がわたしの行ったことを行うようにわたしに命じられなかったならば、わたしはすべての神殿を手放し、わたし自身監獄に入り、またほかのすべての人もそこへ行かせたことでしょう。時が来て、それを行うように命じられたとき、わたしにはそれはすべて明らかでした。そこで、わたしは主の前に行き、主

が書くように告げられたことを書き記したのです。……

皆さんがじっくり考え、熟考するように、わたしはこれを皆さんにゆだねます。主はわたしたちとともに働いてくださっています。（キャッシュステーク大会、ユタ準州ローガン、千八百九十一年十一月一日、日曜日。『デゼレト・ウイークリー』〔Deseret Weekly〕千八百九十一年十一月十四日）

さて、わたしは皆さんに、何がわたしに示され、神の御子がこのことによって何を行われたかを申し上げましょう。……もしも「宣言」が与えられなかったならば、全能の神が生きておられるように確かに、これらのことがすべて起こっていたことでしょう。そこで、神の御子は御自分の心の内にある様々な目的のために、このことを教会と世に知らせることを望まれました。主はシオンの設立を命じておられました。主はこの神殿の完成を命じておられました。

主は生者と死者の救いが山間のこの谷において与えられることを定めておられました。また、全能の神は、悪魔がそれを妨げることはないと定められました。皆さんがこのことを理解できれば、これがそれに対する一つの鍵なのです。（ソルトレーク神殿の第六回奉献式における話、千八百九十三年四月。ユタ準州ソルトレーク・シティー、教会歴史部記録保管所、奉献式のタイプ原稿）

公式の宣言二

関係者各位

千九百七十八年九月三十日、末日聖徒イエス・キリスト教会の第百四十八回半期総大会において、教会の大管長会第一顧問、N・エルドン・タナー管長により次のことが提示された。

今年の六月初旬、大管長会は、教会のすべてのふさわしい男性会員に神権と神殿の祝福が授けられるようになるという啓示が、スペンサー・W・キンボール大管長に与えられたことを発表しました。キンボール大管長の要請により、わたしはこの大会に出席しておられる方々にお知らせします。この啓示はキンボール大管長が聖なる神殿の神聖な部屋で長い間瞑想し祈った後に下されたもので、大管長はこの啓示を受けた後、それを顧問たちに提示し、顧問たちはそれを受け入れ、承認しました。次いで、それは十二使徒定員会に提示され、彼らは全会一致でそれを承認し、次に、ほかのすべての中央幹部に提示され、彼らも同様に全会一致でそれを承認しました。

キンボール大管長の要請により、ここにこの手紙を読み上げます。

千九百七十八年六月八日

全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の中央ならびに地方の神権役員各位

拝啓

主の業が地の至る所で進展しているのを目にするに当たり、わたしたちは、多くの国の人々が回復された福音のメッセージに応じ、ますます多くの人が教会に加わっていることを感謝してきました。このことからわたしたちは、教会のすべてのふさわしい会員に、福音のもたらす特権と祝福のすべてが授けられるように望む気持ちを抱くよう霊感を与えられました。

神の永遠の計画の中で、すべてのふさわしい兄弟がいつか神権を受けるようになるという約束が、わたしたちよりも前の預言者たち、教会の大管長たちにより与えられたことを知っていたわたしたちは、神権を差し止められていた人々の忠実さを目にして、これらの忠実な兄弟たちのために長い間、熱心に主に懇願しました。そして、わたしたちは神聖な

導きを主に嘆願しながら、神殿の階上の部屋で何時間も過ごしました。

主はわたしたちの祈りを聞いてくださいました。そして、預言されて久しい約束の日が訪れたことを、主は啓示によって確認してくださったのです。すなわち、教会の忠実なふさわしい男性が皆、聖なる神権をその神の権能を行使する力とともに受けることができ、またそれからもたらされる、神殿の祝福を含むあらゆる祝福を愛する人々とともに享受することのできる日が訪れたのです。したがって、教会のすべてのふさわしい男性会員は、人種や肌の色にかかわりなく、神権への聖任を受けることができます。神権指導者は、アロン神権でもメルキゼデク神権でも、神権への聖任に当たっては、すべての候補者と入念に面接するという方針に従って、候補者がふさわしさに関する既定の標準を満たしていることを確認するようにしてください。

主の権能を与えられた僕たちの声に聞き従い、福音のあらゆる祝福を受けようと自らを備える、全地の主の子らすべてに祝福をもたらすために、主は今やその御心を知らせてくださいました。このことを、わたしたちは厳粛に宣言します。

敬具

大管長会

スペンサー・W・キンボール

N・エルドン・タナー

マリオン・G・ロムニー

スペンサー・W・キンボールを預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長であると認めて、わたしたちが律法制定の集まりとしてこの啓示を主の御言葉および御心として受け入れるように、ここに提議します。賛成してくださる方は全員、右手を挙げてその意を表してください。反対の方は同じ方法でその意を表してください。

前述の提議を支持する採決は、全会一致で同意を得た。

ユタ州ソルトレーク・シティー

千九百七十八年九月三十日

高価な真珠

末日聖徒イエス・キリスト教会
初代預言者，聖見者，啓示者
ジョセフ・スミスによる
啓示と翻訳と談話の選集

序文

『高価な真珠』は、末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰と教義の多くの重要な事項に関連のある、えりすぐった資料の選集である。これらの記事は、預言者ジョセフ・スミスによって準備され、その当時の教会の定期刊行物に掲載されたものである。

『高価な真珠』という表題が付けられた最初の選集は、千八百五十一年に、当時十二使徒評議会会員であり、英国伝道部の会長でもあったフランクリン・D・リチャーズ長老によって作成された。その目的は、ジョセフ・スミスの時代に限られた部数しか刊行されなかった幾つかの重要な記事を、人々がもっと容易に入手できるようにすることであった。ヨーロッパとアメリカの各地で教会員が多くなるにつれて、これらの記事を入手できるようにすることが必要となった。そして、『高価な真珠』は広く用いられるようになり、その後、千八百八十年十月十日に、ソルトレーク・シティーにおける総大会で、大管長会の提議によって教会の標準聖典の一つとなったのである。

さらに教会の必要に応じて、内容に幾つかの改訂が加えられた。千八百七十八年には、初版に含まれていなかった「モーセ書」の一部が加えられた。千九百二年には、『教義と聖約』に重複して掲載されていた幾つかの部分が『高価な真珠』から削除された。千九百二年にはまた、章と節に分けられ、脚注が付けられた。千九百二十一年には、初めて二段組になり、索引が付いた。その後、千九百七十六年四月まで変更はなかったが、この年に二つの啓示が加えられた。これら二つの啓示は、千九百七十九年に『高価な真珠』から『教義と聖約』に移された。それが現在の『教義と聖約』第百三十七章と第百三十八章である。また、現在の版には、内容を初期の記録と一致させるために幾つかの変更が加えられている。

以下は、現在の内容についての簡単な紹介である。

「モーセ書（抜粋）」　千八百三十年六月にジョセフ・スミスが翻訳を始めた、『聖書』のジョセフ・スミス訳の創世記からの抜粋（『教会歴史』〔History of the Church〕第

一巻、九十八―百一、百三十一―百三十九ページ参照）。

「アブラハム書」　千八百三十五年にジョセフ・スミスが入手したエジプトのパピルスからの翻訳。族長アブラハムの書き物がこれに含まれていた。その翻訳文は、イリノイ州ノーブーで千八百四十二年三月一日から『タイムズ・アンド・シーズンズ』（Times and Seasons）に連載された（『教会歴史』第四巻、五百十九―五百三十四ページ参照）。

「ジョセフ・スミス―マタイ」　『聖書』のジョセフ・スミス訳の中の、マタイの証からの抜粋。『新約聖書』の翻訳を始めるようにとの神の指示については、教義と聖約第四十五章六十―六十一節を参照。

「ジョセフ・スミス―歴史」　ジョセフ・スミスの公式の証と歴史からの抜粋。これは、彼が千八百三十八年に準備し、イリノイ州ノーブーで千八百四十二年三月十五日から『タイムズ・アンド・シーズンズ』に連載されたものである（全文については、『教会歴史』第一巻、一―四十四ページを参照）。

「末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰箇条」　ウェントワース書簡として一般に知られた教会の略史とともに、千八百四十二年三月一日に『タイムズ・アンド・シーズンズ』に掲載されたジョセフ・スミスの声明（『教会歴史』第四巻、五百三十五―五百四十一ページ参照）。

高価な真珠

目次

書名　ページ

モーセ書（抜粋）……1
アブラハム書……37
模写一……36
模写二……46
模写三……52
ジョセフ・スミス―マタイ……55
ジョセフ・スミス―歴史……60
信仰箇条……81

モーセ書（抜粋）

預言者ジョセフ・スミスに啓示された『聖書』の翻訳からの抜粋、千八百三十年六月―千八百三十一年二月。

第1章

（千八百三十年六月）

神がモーセに御自身を現される。モーセ、変貌する。サタンと相対する。人々の住む多くの世界を見る。無数の世界が御子によって創造された。神の業と栄光は人の不死不滅と永遠の命をもたらすことである。

1 モーセが非常に高い山に連れて行かれたときに、神がモーセに[2)]語られた御言葉。

2 このとき、彼は[1)]顔と顔を合わせて神にまみえ、神と語り、神の[3)]栄光がモーセのうえにあった。それゆえ、モーセは神の臨在に堪え[4)]ることができた。

3 神はモーセに言われた。「見よ、わたしは[1)]全能の主なる神であり、無窮[2)]とはわたしの名である。わたしは、日の初めもなく年の終わりもないからである。これは無窮ではないか。

4 また見よ、あなたはわたしの子である。それゆえ、[1)]見なさい。そうすれば、わたしはあなたに、わたしの[2)]手で造られたものを見せよう。しかし、すべてではない。わたしの[3)]業は[4)]終わりがないからである。わたしの[5)]言葉もそうである。それらは決して絶えることがないからである。

5 それゆえ、だれもわたしのすべての栄光を見ることなしに、わたしのすべての業を見尽くすことはできない。また、だれもわたしのすべての栄光を見ながら、その後、肉体をもって地上にとどまることはできない。

6 わたしの子モーセよ、わたしはあなたに一つの業を用意している。あなたはわたしの[1)]独り子にかたどられている。わたしの独り子は、現在も将来も[2)]救い[3)]主である。彼は[1)]恵みと[5)]真理に満ちているからである。しかし、わたしのほかに[6)]神はおらず、すべてのものはわたしとともにある。わたしはそれらすべてを[7)]知っているからである。

モーセ書
第1章
1 ①GS「モーセ」 ②アル12・30、モセ1・42
2 ①民数12・6−8、申命34・10、教義17・1 ②出エ3・6、33・11、ヨハ1・18、6・46、エテ3・6−16、モセ1・11、JS出エ33・20、23 ③申命5・24、モセ1・13−14、25、GS「栄光」 ④GS「変貌」
3 ①黙示11・17、19・6、1ニフ1・14、教義121・4、GS「神」 ②イザ63・16、教義19・9−12、モセ7・35、GS「無窮」
4 ①モセ7・4 ②モセ7・32、35−37 ③詩篇40・5、教義76・114 ④詩篇111・7−8、モセ1・38 ⑤2ニフ9・16、教義1・37−39、GS「言葉、神の」 ⑥①GS「独り子」 ②創世1・26、エテ3・14−15、モセ1・13−16 ③GS「救い主」 ④ヨハ1・14、17、アル13・9、GS「恵み」 ⑤モセ5・7 ⑥列上8・60、イザ45・5−18、21−22 ⑦1ニフ9・6、2ニフ9・20、アル18・32、教義38・1−2、GS「全知」

7さて見よ、わたしの子モーセよ、この一つのことを、わたしはあなたに示す。あなたが世にいるからである。今わたしはあなたにそれを示す。」

8そこでモーセは眺めて、自分が創造されて住んでいる世界[1]を見た。モーセは世界とその果てと、現在いる人の子らと、過去に創造された人の子らのすべてを見た[2]。そして、これらのことに彼はひどく驚くとともに、不思議に思った。

9それから、神がモーセのもとから去って行かれたので、神の栄光はモーセのうえになく、モーセは一人残された。彼は一人残されると、地に倒れた。

10さて、多くの時間が過ぎて、モーセは人としての本来の力を再び取り戻し、独り言を言った。「今これで、わたしは、人は[2]取るに足りないものであることが分かった。このことは、思ってもみないことだった。

11だが今、わたしは自分の目で神[1]を見た。しかし、わたしの肉体[2]の目ではなく、霊の目で見た。肉体の目では見られなかったであろう。神の御前では枯れ[3]て死んでしまっていたはずだ。しかし、神の栄光がわたしのうえにあり、わたしは神の御前で変貌[5]したので、神の御顔を見た[6]。」

12さて、モーセがこれらの言葉を語ったとき、見よ、サタン[1]が来て、彼を誘惑[2]して言った。「人の子モーセよ、わたしを拝みなさい。」

13そこで、モーセはサタンを見て言った。「おまえはだれだ。見よ、わたしは、神の独り子にかたどられている神[1]の子だ。おまえの栄光がどこにあるので、わたしがおまえを拝まなければならないのか。

14見よ、わたしは、神の栄光がわたしのうえに及んで、神の御前で変貌[1]しなかったならば、神を見ることはできなかった。ところが、今わたしは肉体のままで、おまえを見ることができる。実にそのとおりではないか。

15わたしの神の御名がほめたたえられるように。神の御霊はまだわたしから完全には退き去っていない。そうでなければ、おまえの栄光はどこにあるのか。それはわたしにとって闇だからだ。わたしはおまえと神とを区別することができる。神はわたしに、『神[1]を礼拝しなさい。あなたは神にのみ[2]仕えるべきである』と言われたからである。

16サタンよ、退け。わたしを欺くな。神はわたしに、

---

8 ①モセ2・1 ②モセ1・27 ③詩篇8・3−4
10 ①ダニ10・8、17、1ニフ17・47、アル27・17、ジ歴史1・20 ②ダニ4・35、ヒラ12・7
11 ①GS「神」 ②モセ6・36、教義67・10−13 ③出エ19・21 ④出エ20・19 ⑤マタ17・1−8、GS「変貌」 ⑥創世32・30、モセ7・4
12 ①モセ4・1−4、GS「悪魔」 ②モセ6・49、GS「誘惑」
13 ①詩篇82・6、1ヨハ3・2、ヘブ12・9
14 ①GS「変貌」マタ4・10、GS「礼拝」 ②サ上7・3、3ニフ13・24

『あなたはわたしの独り子にかたどられている』と言われたからである。
17 神はまた、燃えるしばの中からわたしを呼ばれたとき、わたしに戒めを与えて、『わたしの独り子の名によって神に呼び求め、わたしを礼拝しなさい』とも言われた。」
18 さらにモーセは言った。「わたしは神に呼び求めることをやめない。わたしには神に伺うことがほかにある。神の栄光がわたしのうえにあったので、わたしは神とおまえとを区別することができる。サタンよ、立ち去れ。」
19 さて、モーセがこれらの言葉を語り終えると、サタンは大声で叫び、地上でわめきたてて、「わたしが独り子だ。わたしを拝め」と命じて言った。
20 そこで、モーセはひどく恐れ始めた。そして、恐れ始めると、地獄の惨苦を目にした。それでも、彼は神に呼び求めたので、力を与えられた。そこで、彼は命じて言った。「サタンよ、わたしから離れ去れ。わたしは栄光の神であられるこの唯一の神のみを礼拝するからである。」
21 すると、サタンはおののき始め、地が揺れ動いた。モーセは力を与えられ、神に呼び求めて言った。「独り子の御名によって言う。サタンよ、立ち去れ。」
22 するとサタンは、涙を流し、泣きわめき、歯ぎしりをしながら、大声で叫んだ。そしてそこから、すなわちモーセの前から立ち去って、姿が見えなくなった。
23 さて、このことについてモーセは証を述べた。しかし、悪事のゆえにそれは人の子らの中に知られていない。
24 さて、サタンがモーセの前から立ち去ったとき、モーセはその目を天に向け、御父と御子のことを証される聖霊に満たされた。
25 そして、彼は神の名を呼ぶと、再び神の栄光を見た。神の栄光が彼のうえにあったからである。そして、彼は一つの声が告げられるのを聞いた。「モーセよ、あなたは幸いである。全能者であるわたしがあなたを選び、あなたは多くの水よりも強くされるからである。あたかもあなたが神であるかのように、水はあなたの命令に従うであろう。
26 見よ、わたしは、まことにあなたの生涯の最後まであなたとともにいる。あなたはわたしの民を、す

16① モセ1・6
17① 出エ3・2
② モセ5・8
19① マタ24・4−5
20① GS「地獄」
② ジ歴史1・15−16、GS「祈り」
21① GS「悪魔」
22① マタ13・41−42、モサ16・1−3
24① GS「聖霊」
25① 出エ14・21−22
② 出エ4・16
③ GS「神権」「力」

なわちわたしの選民[1]イスラエル[2]を奴隷[3]の状態から救い出さなければならないからである。」[4]

27 また、その声がまだ語っておられるうちに、モーセはその目を向けて、地を、まことに、そのすべてを見[1]た。彼が見なかったものはちり一つもなく、彼は神の御霊によってそれを見極めた。

28 また、彼は地に住む者も見た。彼が見なかった者は一人もなかった。彼は神の御霊によって見極めた。その数は多く、まことに海辺の砂のように数え切れなかった。

29 また、彼は多くの地を見た。それぞれの地は地球[1]と呼ばれ、その面に住む者がいた。

30 そこで、モーセは神に呼び求めて言った。「どうぞわたしにお話しください。これらのものはどうしてこうなのですか。そして、あなたはこれらのものを何によってお造りになったのですか。」

31 見よ、主の栄光がモーセのうえにあったので、モーセは神の前に立ち、[1]顔と顔を合わせて神と語った。そして、主なる神はモーセに言われた。「わたし自身に目的[2]があってこれらのものを造った。ここに知恵があり、それはわたしの内にある。

32 わたしの力の言葉[1]によって、わたしはこれらのものを創造した。わたしの力の言葉とは、恵み[2]と真理[3]に満ちている独り子のことである。

33 無数の世界[1]を、わたしは創造[2]した。また、わたし自身に目的があってこれらを創造した。子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子[3]のことである。

34 また、すべての人の最初[1]の者を、わたしはアダム[2]と名付けた。すなわち、数多[3]である。

35 しかし、この地球とこの地球に住む者の話だけをあなたにしよう。見よ、わたしの力の言葉によって過ぎ去った多くの世界がある。また、現在ある世界も多くあり、それらは人にとって数え切れない。しかし、わたしにはすべてのものが数えられている。それらはわたしのものであり、わたしはそれらを知[1]っているからである。」

36 そこで、モーセは主に言った。「おお、神よ、あなたの僕を憐れんでください。そして、この地球とこの地球に住む者と、また天について、わたしにお話しください。そうすれば、あなたの僕は満足します。」

37 そこで、主なる神はモーセに言われた。「もろもろ

---

26 ①② GS「選ばれた者」 列上 8・51−53、GS「イスラエル」 ③ 1ニフ 17・23−25
27 ①③ 出エ 3・7−12 ②④ 教義 88・47、モセ 1・8、GS「示現」 ⑤ GS「地球（地）」 31 ①① 申命 5・4、モセ 1・11 ② イザ 45・17−18、2ニフ 2・14−15
32 ①① ヨハ 1・1−4、14、ヘブ 1・1−3、黙示 19・13、ヤコ 4・9、モセ 2・1、5、GS「イエス・キリスト」 ② 詩篇 19・1、モセ 5・7−8、GS「恵み」 ③ GS「真理」
33 ①① 詩篇 8・3−4、教義 76・24、モセ 7・29−30 ② GS「創造」 34 ①② モセ 1・6 ③ モセ 3・7 ② アブ 1・3、GS「アダム」 ③ モセ 4・26、6・9
35 ①③ モセ 1・6、7・36、GS「全知」

の[1]天は数多く、人には数えることができない。しかし、わたしには数えられている。それらはわたしのものだからである。

38 一つの地球とその天が過ぎ去ると、まことに別のものが生じる。わたしの業にもわたしの言葉にも、[1]終わりがないのである。

39 見よ、人の[1]不死不滅と[2]永遠の命をもたらすこと、これがわたしの[3]業であり、わたしの[4]栄光である。

40 さて、わたしの子モーセよ、わたしはあなたが立っているこの地球についてあなたに語ろう。あなたはわたしが語ることを[1]書き記さなければならない。

41 人の子らがわたしの言葉を価値のないものと見なし、あなたが書き記す書からその多くを[1]取り去る日に、見よ、わたしは[2]あなたのような者を一人立てよう。そして、あなたが[3]書き記すものは、人の子ら、すなわちそれらを信じるすべての者の中に再びあるであろう。」

42 （これらの言葉は、その名が人の子らに知られることのない山の中でモーセに[1]語られた。そして今、それらはあなたに告げられている。信じる者のほかだれにもそれらを示してはならない。まことにそのとおりである。アーメン。）

第2章

（千八百三十年六月—十月）

神は天と地を創造される。すべての生き物が創造される。神は人を造り、ほかのすべてのものを治めさせられる。

1 さて、主はモーセに語って言われた。「[1]見よ、わたしはこの[2]天とこの地についてあなたに[3]示す。わたしが語る言葉を書き記しなさい。わたしは初めであり終わりであり、[4]全能の神である。わたしの[5]独り子によって、わたしはこれらのものを[6]創造した。まことに初めに、わたしは天とあなたが立っている地とを創造した。

2 [1]地は形なく、むなしかった。わたしは深い淵の面に闇を来らせ、わたしの御霊が水の面を動いていた。わたしは神である。

3 神であるわたしは、『[1]光あれ』と言った。すると、光があった。

4 神であるわたしが光を見ると、その光は[1]良かっ

---

37 ①アブ4・1、GS「天」
38 ①モセ1・4
39 ①GS「不死不滅」 ②GS「永遠の命」 ③ロマ8・16—17、2ニフ2・14—15、GS「贖いの計画」 ④GS「栄光」
40 ①2ニフ29・11—12
41 ①1ニフ13・23—32、モセ1・23 ②2ニフ3・7—19 ③1ニフ13・32、39—40、教義9・2
42 ①モセ1・1

第2章
1 ①GS「天」 ②モセ1・8 ③モセ1・30、36 ④GS「神・神会—父なる神」 ⑤GS「独り子」 ⑥GS「創造」
2 ①創世1・2、アブ4・2
3 ①教義88・6—13、GS「光」
4 ①創世1・4、アブ4・4

た。神であるわたしは光と闇とを分けた。
5 神であるわたしは光を昼と呼び、闇を夜と呼んだ。これを、わたしの力の言葉によって行った。そして、それはわたしが[2]語ったようになった。夕となり、また朝となった。[3]第一日である。
6 さらにまた、神であるわたしは、『水の間に[1]大空あれ』と言った。すると、わたしが語ったようになった。また、『大空が水と水とを分けよ』と言った。すると、そのようになった。
7 神であるわたしは大空を造り、[1]水を、すなわち、大空の下の大いなる水と大空の上の水とを分けた。そして、わたしが語ったようになった。
8 神であるわたしは大空を天と呼んだ。夕となり、また朝となった。第二日である。
9 神であるわたしは、『天の下の水は[1]一つ所に集まれ』と言った。すると、そのようになった。また、神であるわたしは、『乾いた地あれ』と言った。すると、そのようになった。
10 神であるわたしは乾いた地を[1]陸と呼び、水の集まった所を海と呼んだ。そして、神であるわたしは見て、自分が造ったすべてのものを良しとした。
11 神であるわたしは言った。『地は[1]青草と、種を持つ草と、種類に従って実を結ぶ果樹と、種のある実を結ぶ木を地の上に生えさせよ。』すると、わたしが語ったようになった。
12 地は青草と、種類に従って種を持つすべての草と、種類に従って種のある実を結ぶ木とを生えさせた。そして、神であるわたしは見て、自分が造ったすべてのものを良しとした。
13 夕となり、また朝となった。第三日である。
14 神であるわたしは言った。『天の大空に光があって、昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、
15 天の大空にあって地を照らす光となれ。』すると、そのようになった。
16 神であるわたしは二つの大きな光を造り、大きい[1]光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせた。大きい光とは太陽であり、小さい光とは月であった。また、もろもろの星も、わたしの言葉に従って造られた。
17 神であるわたしは、これらを天の大空に置いて地を照らさせ、

---

5 ① モセ1・32
② コリ4・6
③ 創世1・5
6 ① 創世1・6—8
7 ① アブ4・9—10
8 ① GS「天」
9 ① 創世1・9、アブ4・9
10 ① GS「地球（地）」
11 ① 創世1・11—12、アブ4・11—12
16 ① 創世1・16

18 太陽に昼をつかさどらせ、月に夜をつかさどら
せ、光と闇とを分けさせた。そして、神であるわた
しは見て、自分が造ったすべてのものを良しとし
た。
19 夕となり、また朝となった。第四日である。
20 神であるわたしは言った。『水は命を持つ動く生
き物を豊かに生じ、鳥は地の上、天の大空を飛べ。』
21 神であるわたしは、海の大いなる[1]獣と、水に群が
るすべての動く生き物とを、種類に従って創造し、
また翼のあるすべての鳥を、種類に従って創造し
た。そして、神であるわたしは見て、自分が創造し
たすべてのものを良しとした。
22 神であるわたしはこれらを祝福して言った。『生
めよ、[1]増えよ、海の水に満ちよ。また鳥は地に増え
よ。』
23 夕となり、また朝となった。第五日である。
24 神であるわたしは言った。『地は生き物を種類に
従って出せ。家畜と、這うものと、地の獣とを種類
に従って出せ。』すると、そのようになった。
25 神であるわたしは、地の獣を種類に従い、家畜を
種類に従い、また地を這うすべてのものを種類に従
って造った。そして、神であるわたしは見て、これ
らすべてのものを良しとした。
26 神であるわたしは、初めからわたしとともにいた
わたしの[1]独り子に言った。『わたしたちの[2]形に、わた
したちにかたどって人を[3]造ろう。』そして、そのよう
になった。また、神であるわたしは言った。『彼ら
に、海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべてのも
のと、地のすべての這うものを[4]治めさせよう。』
27 [1]神であるわたしは、自分の形に人を創造した。わ
たしの独り子の形に人を創造し、男と女に創造し
た。
28 神であるわたしは、彼らを祝福して言った。『生
めよ、[1]増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海
の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物を治め
よ。』
29 また、神であるわたしは人に言った。『見よ、わた
しは全地の面にある種を持つすべての草と、種のあ
る実を結ぶすべての木をあなたがたに与えた。これ
はあなたがたの[1]食物となるであろう。
30 また地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這う
すべてのもの、すなわちわたしが命を授けるものに

21 ① 創世1・21、アブ4・21
22 ① 創世1・22−25、アブ4・22−25
26 ① GS「イエス・キリスト」
② 創世1・26−27、モセ6・8−10、アブ4・26−27
③ GS「創造」
④ 創世1・28、モセ5・1、アブ4・28
27 ① GS「神」
28 ① モセ5・2
29 ① 創世1・29−30、アブ4・29−30

は、食物としてすべての清い草が与えられるであろう。』そして、わたしが語ったようになった。
31 神であるわたしは、自分が造ったすべてのものを見たところ、見よ、わたしが造ったすべてのものは非常に良かった。[1]よ 夕となり、また朝となった。[2]だい 第六日である。」

第3章

（千八百三十年六月—十月）

すべてのものが地上に自然に存在するに先立って、神はそれらを霊的に創造された。神は最初の肉なるものである人を地上で創造された。女は男のふさわしい助け手である。

1 「こうして天と地と、その[1]ばんしょう万象が[2]かんせい完成した。
2 神であるわたしは、第七日にわたしの業を終えた。すべてのものを、わたしは造り終えていた。そして、わたしは[1]だい第七日にわたしのすべての業を離れて[2]やす休んだ。わたしが造ったすべてのものは仕上げられた。神であるわたしは見て、それらを良しとした。
3 神であるわたしは[1]だい[1]しゅくふく第七日を祝福して、これを聖別した。わたしはこの日に、神であるわたしが創造し、造った、すべてのわたしの[2]わざ業を離れて休んだからである。
4 さて見よ、わたしはあなたに言う。これが天地創造の由来である。主なる神であるわたしが天と地を造ったとき、
5 地にはまだ[1]の野の植物もなく、また野の草も生えていなかった。主なる神であるわたしは、わたしが語ったすべてのものを、それらが地の面に自然に存在するに先立って[2]れいてき霊的に[3]そうぞう創造した。主なる神であるわたしは、地の面にまだ雨を降らせていなかったからである。主なる神であるわたしは、人の子らをすべて[1]そうぞう創造していたが、まだ[5]つち土を耕す人はいなかった。
6 しかし、主なる神であるわたしが語ると、[1]きり霧が地から立ち上って、土の全面を潤した。
7 主なる神であるわたしは、土の[1]ちり塵で人を[2]かたちづく形造り、命の息をその鼻に吹き入れた。そこで人は[3]いきもの生けるもの、地上における[4]さいしょ最初の肉なるもの、また最初

---

31 ①創世1・31、教義59・16—20 ②出エ20・11、アブ4・31
第3章
1 ①創世2・1、アブ5・1 ②GS「創造」 ③GS「安息日」 ④創世2・2—3、アブ5・2—3、GS「安息」 ⑤モサ13・19 ①出エ31・14—15 ②創世2・4—5、アブ5・4—5 ③アブ3・23、教義29・31—34、GS「霊の創造」 ④モセ6・51 ⑤GS「霊」 ⑥創世2・5 ⑦GS「天」 ①GS「人—天の御父の霊の子供としての人間」
6 ①創世2・6
7 ①創世2・7、モセ4・25、6・59、アブ5・7 ②GS「アダム」 ③GS「人（霊を持つ存在としての）」 ④モセ1・34

の人となった。しかしながら、すべてのものは以前に創造されたが、それは、わたしの言葉に従って霊的に創造され、造られたのである。

8 主なる神であるわたしは、東の方、[1]エデンに一つの園を設けて、わたしが形造った人をそこに置いた。

9 また、主なる神であるわたしは、人の目に美しいすべての木を自然に土から生えさせた。そして、人はそれを見ることができた。それもまた生けるものとなった。わたしがそれを創造したとき、それは霊のものであった。それは神であるわたしが創造したその領域に、すなわち、わたしが人の用いるように備えたすべてのものはわたしが創造したその領域にそのままあったのである。また、人はそれが食べるに良いのも見た。また、主なる神であるわたしは、園の中央に[1]命の木と[2]善悪を知る木を植えた。

10 主なる神であるわたしは、一つの川がエデンから流れ出て園を潤すようにした。そして、それはそこから分かれて、四つの川となった。

11 主なる神であるわたしは、第一の川の名をピソンと呼んだ。これは、主なる神であるわたしが多くの金を造ったハビラの全地を巡るものである。

12 その地の金は良く、またそこはブドラクと、しまめのうも産した。

13 第二の川の名はギホンと呼ばれ、これはエチオピヤの全地を巡るものである。

14 第三の川の名はヒデケルであって、アッスリヤの東に流れるものである。第四の川はユフラテであった。

15 主なる神であるわたしは、人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせた。

16 主なる神であるわたしは、その人に命じて言った。『あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

17 しかし、善悪を知る木からは取って食べてはならない。それでも、あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。しかし、わたしがそれを禁じたことを覚えておきなさい。あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬからである。』

18 また、主なる神であるわたしは、人が独りでいるのは良くないことをわたしの[1]独り子に言った。『それゆえ、彼のために[2]ふさわしい[2]助け手を造ろう。』

---

8 ①GS「エデン」
9 ①GS「命の木」
10 ①②創世2・9
17 ①モセ7・32、GS「選択の自由」
②アブ5・13
③創世2・17、GS「死（肉体の）」「死すべき状態」
18 ①GS「独り子」
14 ②創世2・18、アブ5・

19 また、主なる神であるわたしは、野のすべての獣と、空のすべての鳥を土で形造り、アダムのところへ来ることを命じ、彼がそれらをどう呼ぶかを見た。それらも生けるものであった。神であるわたしが、命の息をそれらに吹き入れたからである。そして、アダムがすべて生き物に与える名はその名になると、わたしは命じたのである。
20 それでアダムは、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣に名を付けたが、アダムにはふさわしい助け手が見つからなかった。
21 そこで、主なる神であるわたしは、アダムを深く眠らせた。そして、彼が眠ると、わたしは彼のあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさいだ。
22 主なる神であるわたしは、人から取ったあばら骨で一人の女を造り、人のところへ連れて来た。
23 すると、アダムは言った。『わたしは今や、これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉であることを知る。男から取ったものだから、これを女と呼ぼう。』
24 それで、人はその父と母を離れて、妻と結び合い、二人は一体となるのである。
25 人とその妻は、二人とも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。」

第 4 章

（千八百三十年六月—十月）

サタンはどのようにして悪魔となったか。サタン、エバを誘惑する。アダムとエバは堕落し、死が世に入る。

1 主なる神であるわたしは、モーセに語って言った。「あなたがわたしの独り子の名によって命じたあのサタンは、[2]初めからいた者である。彼はわたしの前に来て言った。『御覧ください。わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖って、一人も失われないようにしましょう。必ず[3]わたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。』
2 しかし見よ、初めからわたしが愛し[1]選んだ者であるわたしの愛する[2]子は、わたしに、『[3]父よ、あなたの[4]御心が行われ、[5]栄光はとこしえにあなたのもので

---

22 ①GS「エバ」「女」
23 ①創世 2・23、アブ 5・17
24 ①創世 2・24、教義 42・22、49・15—16、アブ 5・17—18
②GS「結婚」

第 4 章
1 ①GS「悪魔」
②教義 29・36—37
2 ①③イザ 14・12—15
②27、GS「予任」
②GS「イエス・キリスト」
③GS「神・神会—父なる神」
④ルカ 22・42
⑤GS「栄光」

ありますように』と言った。
3 あのサタンはわたしに背いて、主なる神であるわたしが与えた、人の選択の自由を損なおうとしたので、またわたしの力を自分に与えるように求めたので、わたしは独り子の力によって彼を投げ落とさせた。
4 そして、彼はサタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、またまことに、わたしの声を聴こうとしないすべての者を自分の意のままにとりこにする者となった。
5 さて、主なる神であるわたしが造った野の生き物のうちで、蛇が最も狡猾であった。
6 そこで、サタンは（すでに多くのものを引き寄せて自分に従わせていたので）蛇の心の中に思いを入れ、エバもだまそうとした。彼は神の思いを知らなかったので、世を滅ぼそうとしたのである。
7 彼は女に言った。『園のどの木からも取って食べてはならないと、ほんとうに神が言われたのですか。』（彼は蛇の口を通して語った。）
8 女は蛇に言った。『わたしたちは園の木の実は食べることを許されています。
9 しかし、園の中央に見える木の実については、取って食べてはならない、触れてもならない、死んではいけないから、と神は言われました。』
10 すると、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。
11 それを食べる日に、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。』
12 女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また、ともにいた夫にも与えたので、彼も食べた。
13 すると、二人の目は開け、自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らはいちじくの葉をつづり合わせて、前掛けとした。
14 日の涼しいころ、彼らが園の中を歩いていると、主なる神の声が聞こえた。そこで、アダムとその妻は主なる神の面を避けて、園の木の間に身を隠した。
15 主なる神であるわたしは、アダムに呼びかけて言った。『あなたはどこへ行くのか。』

---

3 ①GS「天上の会議」 ②GS「選択の自由」 ③教義76・25−27
4 ①2ニフ2・18、教義10・25、GS「欺き」「偽り」
5 ①創世3・1、モサ16・3、アル12・4
6 ①GS「エバ」
7 ①GS「エデン」
11 ①創世3・3−6、モセ5・10
12 ①アル12・31 ②創世3・6
13 ①GS「堕落（アダムとエバの）」
14 ①創世2・25
15 ①創世3・8 ②創世3・9

16 すると、彼は答えた。『園の中であなたの声を聞
き、恐れて、身を隠しました。自分が裸であるのを
見たからです。』
17 主なる神であるわたしは、アダムに言った。『あな
たが裸であるのを、だれが知らせたのか。食べては
ならない、食べれば必ず死ぬ、と命じておいた木か
ら、あなたは取って食べたのか。』
18 そこで、人は答えた。『あなたがわたしに与えてく
ださって、わたしとともにいるようにと命じられた
女が、その木の実をくれたので、わたしは食べまし
た。』
19 そこで、主なる神であるわたしは、女に言った。
『あなたは何ということをしたのか。』すると、女は
答えた。『蛇がわたしをだましたのです。それでわた
しは食べました。』
20 主なる神であるわたしは、蛇に言った。『おまえは
このことをしたので、すべての家畜、野のすべての
獣のうち、最ものろわれる。おまえは腹で這い回り、
一生、ちりを食べるであろう。
21 わたしは恨みを置く、おまえと女との間に、おま
えの子孫と女の子孫との間に。彼はおまえの頭を砕
き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。』
22 主なる神であるわたしは、女に言った。『わたしは
あなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦し
んで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、
彼はあなたを治めるであろう。』
23 また、主なる神であるわたしは、アダムに言った。
『あなたが妻の声に聞き従い、取って食べてはなら
ないとわたしがあなたに命じた木の実を食べたの
で、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、
苦しんで地から食物を得るであろう。
24 地はあなたのために、いばらとあざみを生じ、あ
なたは野の草を食べるであろう。
25 あなたは顔に汗してパンを食べ、土から取られた
ので、ついに土に帰る。あなたは必ず死ぬであろう。
あなたはちりであったから、ちりに帰るのである。』
26 さて、アダムはその妻をエバと呼んだ。彼女がす
べての命ある者の母であったからである。主なる神
であるわたしは、数多くいるすべての女の最初の者
をこのように呼んだ。
27 主なる神であるわたしは、アダムとその妻に皮の
衣を作って着せた。

17 ① モセ3・17
19 ① 創世3・13、モサ16・3
20 ① 創世3・13−15
22 ① 創世3・16
25 ① 創世3・17−19、GS「堕落（アダムとエバの）」
② 創世2・7、モセ6・59、アブ5・7
26 ① モセ1・34、6・9
27 ① GS「慎み」

28 そして、主なる神であるわたしは、独り子に言った。『見よ、1)人はわたしたちの一人のようになり、善悪を2)知る者となった。彼は手を伸ばして、3)命の木からも取って4)食べ、永久に生きるかもしれない。』
29 そこで、主なる神であるわたしは、彼をエデンの園から追い出して、彼自身が取り出された土を耕させることにした。
30 主なる神であるわたしが生きているように確かに、わたしの1)言葉が無に帰することはあり得ない。それはわたしの口から出ると、成就しなければならないからである。
31 そこで、わたしは人を追い出し、エデンの園の東に、1)ケルビムと、あらゆる方向に回る燃える剣を置いて、命の木の道を守らせた。」
32 （これらは、わたしが僕モーセに語った言葉であり、まことにわたしの望むとおりに真実である。わたしはあなたにこれを語った。わたしがあなたに命じるまで、あなたは信じる者のほか、だれにもこれを示してはならない。アーメン。）

第5章

（千八百三十年六月—十月）

アダムとエバ、子供をもうける。アダム、犠牲をささげ、神に仕える。カインとアベルが生まれる。カインは背き、神よりもサタンを愛し、滅びとなる。殺人と悪事が広がる。福音は最初から宣べ伝えられる。

1 「主なる神であるわたしが彼らを追い出した後、アダムは、主なるわたしが命じたように、地を耕し、野のすべての獣を1)治め、額に汗してパンを食べることを始めた。彼の妻エバも彼とともに働いた。
2 アダムはその妻を知り、彼女は彼に息子、娘たちを2)産んだ。そして、彼らは3)増えて、地を満たし始めた。
3 そのときから、アダムの息子、娘たちは二人ずつ地に分かれて、土地を耕し、家畜の群れを飼い始めた。そして、彼らもまた、息子、娘たちをもうけた。
4 アダムとその妻エバは主の名を呼び、1)エデンの園の方向から彼らに語る主の声を聞いた。しかし、主を目にすることはなかった。彼らは主の2)前から締め出されていたからである。

---

28 ①創世3・22、GS「人—天の御父のようになる可能性を持った人間」 ②GS「知識」 ③創世2・9、1ニフ11・25、モセ3・9、GS「命の木」 ④アル42・4—5
29 ①GS「エデン」
30 ①列上8・56、教義1・38
31 ①アル42・3、GS「ケルビム」
第5章
1 ①モセ2・26
2 ①創世5・4、教義138・39 ②創世1・28、モセ2・28 ③モセ5・28
3 ①GS「エデン」
4 ①アル42・9 ②

5 主は彼らに、主なる彼らの神を礼拝し、主へのささげ物として群れの初子をささげるようにと戒めを与えた。アダムは主の戒めに従順であった。
6 多くの日の後、主の天使がアダムに現れて言った。『あなたはなぜ主に犠牲をささげるのか。』そこで、アダムは彼に答えた。『わたしには分かりません。ただ、主がわたしに命じられたのです。』
7 すると、天使は語って言った。『これは、御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである。
8 したがって、あなたが行うすべてのことを御子の御名によって行いなさい。また、悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求めなさい。』
9 その日、御父と御子のことを証する聖霊がアダムに降り、そして言った。『わたしは初めから、また今から後とこしえに、父の独り子である。あなたは堕落したので、贖いを受けることができる。全人類、まことにそれを望むすべての者も同様である。』
10 その日、アダムは神をたたえ、満たされて、地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって神にまみえるであろう。』
11 彼の妻エバは、これらすべてのことを聞き、喜びながら言った。『わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。』
12 アダムとエバは神の名をたたえ、息子、娘たちにすべてのことを知らせた。
13 すると、サタンが彼らの中にやって来て、『わたしもまた、神の子だ』と言い、『そのことを信じてはならない』と彼らに命じて言った。そこで、彼らはそれを信じることなく、神よりもサタンを愛した。人々はそのときから、肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となり始めた。
14 主なる神は至る所で聖霊によって人々に呼びかけ、悔い改めるように命じた。
15 また、『御子を信じて自分の罪を悔い改めるすべての者は救われる。しかし、信じないで悔い改めないすべての者は、罰の定めを受ける。御言葉は堅い

---

5 ①GS「礼拝」 ②出エ13・12—13、民数18・17、モサ2・3、GS「長子・初子」
6 ①③GS「従順・従う」 ②GS「天使」
7 ①②GS「犠牲」 モセ1・6、32、GS「恵み」 ②アル34・10—15、GS「血」 ③GS「イエス・キリストーキリストの予型と象徴」
8 ①2ニフ31・21 ②モセ6・57、GS「悔い改め」 ③GS「祈り」
9 ①③GS「聖霊」 ②GS「イエス・キリスト」「独り子」 ③GS「死（霊の）」「堕落（アダムとエバの）」 ④モサ27・24—26、教義93・38、箇条1・3、GS「贖い・贖う」「贖いの計画」
10 ①GS「再び生まれる」 ②教義107・41—56、GS「預言」 ③GS「喜び」 ④ヨブ19・26、2ニフ9・4
11 ①GS「エバ」 ②2ニフ2・22—23
12 ①申命4・9
13 ①GS「悪魔」 ②GS「不信仰」 ③モセ6・15 ④GS「生まれながらの人」「現世的」
14 ①ヨハ14・16—18、26
15 ①GS「信じる」

定めとして神の口から出たので、それらは成就しなければならない』と告げた。

16アダムとその妻エバは、神に呼び求めることをやめなかった。また、アダムはその妻エバを知り、彼女は身ごもってカインを産み、『わたしは主から男[1]子を得ました。ですから、この子は神の御言葉を拒まないでしょう』と言った。しかし見よ、カインは耳を傾けずに言った。『わたしが知るべき主とはだれですか。』

17彼女はまた身ごもり、弟アベル[1]を産んだ。アベルは主の声に聞き従った[2]。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。

18カインは神よりもサタンを愛した[1]。サタンは彼に命じて、『主にささげ物をせよ[2]』と言った。

19時がたって、カインは地の産物を持って来て、主へのささげ物とした。

20アベルもまた、自分の羊の群れの初子の中から肥えたものを持って来た。主はアベルとそのささげ物[1]に目を留めた。

21しかし、主はカインとそのささげ物[1]には目を留めなかった。サタンはこれを知って喜んだ。カインは大いに憤って、顔を伏せた。

22そこで、主はカインに言った。『なぜ憤るのか。なぜ顔を伏せるのか。

23あなたは正しいことをしていれば、受け入れられる。もし正しいことをしていなければ、罪が門口で待ち伏せており、サタンはあなたを得ることを望んでいる。あなたがわたしの戒めに聞き従わなければ、わたしはあなたを引き渡し、彼の望みどおりになる。そして、あなたは彼を治めるであろう。

24これから先、あなたは彼が言う偽りの父となる。あなたは滅び[1]と呼ばれる。あなたもまた世に先立って存在していた。

25そして将来、「これらの忌まわしい[1]行いはカインから出た。彼は神から出たさらに大いなる勧告を拒んだからである」と言われるであろう。これが、あなたが悔い改めなければ、わたしがあなたに与えるのろいである。』

26カインは憤って、もはや決して主の声にも、主の前を聖く歩んだ弟アベルの声にも耳を傾けなかった。

27アダムとその妻は、カインとその兄弟たちのゆえ

---

15 ②GS「救い」
③教義42・60、GS「罰の定め」
16 ①創世4・1−2、GS「カイン」
17 ①GS「アベル」
②ヘブ11・4
18 ①②教義10・20−21
②教義132・8−11
20 ①GS「犠牲」「ささげ物」
21 ①創世4・3−7
23 ①創世4・7、教義52・15、97・8
24 ①GS「滅びの子」
25 ①ヒラ6・26−28

に主の前に嘆き悲しんだ。
28さて、カインはその兄弟の娘の一人を妻とし、彼らは神よりもサタンを愛した。
29サタンはカインに言った。『おまえののどにかけてわたしに誓え。それを話せば、おまえは死ぬのだ。また、おまえの兄弟たちに、その頭と生ける神とにかけて、それを話さないと誓わせよ。それを話せば、おまえの兄弟たちは必ず死ぬだろう。おまえの父に知られないためにこのようにせよ。そうすれば、今日、弟アベルをおまえの手に渡そう。』
30そして、サタンはカインに、彼の命じるとおりに行うことを誓った。これらのことはすべてひそかに行われた。
31カインは言った。『実に、わたしはこの大いなる秘密の主マハンであり、人を殺して利を得ることができる。』それで、カインは大マハンと呼ばれ、自分の悪事を誇った。
32カインは野に行き、弟アベルと語った。そして、野にいたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。
33そして、カインは自分がしたことを誇って言った。『わたしは自由だ。弟の羊の群れは必ずわたしの手に入る。』
34主はカインに言った。『弟アベルは、どこにいるのか。』カインは答えた。『知りません。わたしは弟の番人でしょうか。』
35主は言った。『あなたは何をしたのか。あなたの弟の血の声が土の中からわたしに叫んでいる。
36今あなたはのろわれて、この土地を離れなければならない。この土地が口を開けて、あなたの手から弟の血を受けたからである。
37あなたが土を耕しても、土はもはやあなたのために実を結ばない。あなたは、地上をさまよい歩く放浪者となるであろう。』
38すると、カインは主に言った。『サタンが、弟の羊の群れのゆえにわたしを誘惑したのです。また、わたしも憤っていました。あなたが弟のささげ物を受け入れて、わたしのものを受け入れてくださらなかったからです。わたしの罰は重くて負い切れません。
39あなたは今日、わたしを御前から追い出されました。わたしは御顔から隠されて、地上をさまよい歩く放浪者とならなければなりません。わたしを見つ

28① モセ5・13
31① GS「殺人」
31② 「マハン」という言葉の語根には、「心」「破壊者」「際立った者」という意味がある
33① GS「高慢」「物欲」
34① 創世4・9
37① 創世4・11−12
38① GS「貪欲・むさぼり」「誘惑」

ける者は、わたしが罪悪を犯したので、わたしを殺すでしょう。これらのことは主から隠されていません。』

40 そこで、主なるわたしは彼に言った。『だれでもあなたを殺す者は、七倍の復讐を受けるであろう。』そして、主なるわたしは、カインを見つける者がだれも彼を殺すことのないように、彼に[1]しるしを付けた。

41 カインは主の[1]前から締め出され、その妻および多くの兄弟たちとともに、エデンの東、ノドの地に住んだ。

42 カインはその妻を知った。彼女は身ごもってエノクを産んだ。彼はまた、多くの息子、娘たちをもうけた。カインは町を建て、その町を[1]息子の名にちなんでエノクと名付けた。

43 エノクには、イラデと、ほかの息子、娘たちが生まれた。イラデは、メホヤエルと、ほかの息子、娘たちをもうけた。メホヤエルは、メトサエルと、ほかの息子、娘たちをもうけた。メトサエルはレメクをもうけた。

44 レメクは二人の妻をめとった。一人の名はアダといい、もう一人の名はチラといった。

45 アダはヤバルを産んだ。彼は天幕に住む者の先祖であり、彼らは家畜を飼う者であった。その弟の名はユバルといい、竪琴と笛を奏するすべての者の先祖となった。

46 チラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄の工作をするすべての者の教師であった。トバル・カインの妹はナアマといった。

47 レメクはその妻たち、アダとチラに言った。『わたしの声を聞け、レメクの妻たちよ、わたしの言葉に耳を傾けよ。わたしは受けた傷のために人を殺し、受けた打ち傷のために若者を殺した。

48 カインのための復讐が七倍ならば、レメクのための復讐は[1]七十七倍であろう。』

49 レメクはカインに倣ってサタンと[1]契約を結び、それにより彼は、サタンによってカインに授けられた大いなる秘密の主、大マハンとなった。ところが、エノクの息子イラデは彼らの秘密を知り、アダムの子らにそれを暴き始めた。

50 そこで、レメクは怒って彼を殺した。利を得るために弟アベルを殺したカインのようではなく、彼は

---

40 ① 創世 4・15
41 ① モセ 6・49
42 ① カインの家系にエノクという名の人がおり、またその名によって呼ばれた町があった。これをセツの家系のエノクや、「エノクの町」と呼ばれた彼の町、シオンと混同してはならない
48 ① 創世 4・24。レメクは、サタンがカインのためにしたよりももっと多くのことを自分のためにしてくれるだろうと誇った。彼がこのように考えた理由が、第49、50節に示されている
49 ① GS「誓い」

誓いのために殺したのである。
51カインの時代から秘密結社[1]があり、彼らの業は闇の中にあって、彼らは自分の同胞を知っていた。
52そこで、主はレメクとその家族、ならびにサタンと契約を結んだすべての者をのろった。彼らが神の戒めを守らなかったからである。神は彼らが戒めを守らないことを不快に思い、彼らを教え導くことをしなかった。彼らの業は忌まわしいものであって、すべての人[1]の子らの中に広がり始めた。それは人の息子たちの中にあった。
53人の娘たちの中では、これらのことは語られなかった。レメクがその妻たちにその秘密を語り、彼女たちが彼に背いてこれらのことを広く告げ知らせ、同情を寄せなかったからである。
54そのためにレメクはさげすまれ、追い出され、そして死ぬことを恐れて人の子らの中に出て来なかった。
55このように、闇[1]の業はすべての人の子らの中に広がり始めた。
56神はひどいのろいをもって地をのろい、悪人を、また神が造ったすべての人の子らを怒った。
57彼らが神の声に聞き従おうとせず、またその独り[1]子、すなわち、時の中間に来ると神が宣言した者、創世の前に備えられた者を信じようとしなかったからである。
58このように、福音[1]は最初から宣べ伝えられ、神の前から遣わされた聖なる天使[2]たちによって、神自身の声によって、また聖霊[3]の賜物によって告げ知らされた。
59このようにして、すべてのことが聖なる儀式によってアダムに確かにされ、福音が宣べ伝えられ、世の終わりまで福音が世にあるようにという定めが出されたのである。このとおりであった。アーメン。」

第 6 章

（千八百三十年十一月―十二月）

アダムの子孫、覚えの書を記す。アダムの義にかなった子孫、悔い改めを宣べ伝える。神はエノクに御自身を現される。エノク、福音を宣べ伝える。救いの計画がアダムに明らかにされる。アダム、バプテスマと神権を受ける。

---

51 ① GS「秘密結社」
52 ① ① モセ 8・14−15 GS「暗闇（霊的な）」
55 ① GS「邪悪」
57 ① GS「イエス・キリスト」
58 ① GS「福音」 ② アル 12・28−30、モロ 7・25、29−31、GS「天使」 ③ GS「聖霊の賜物」

1 1)アダムは神の声に聞き従い、息子たちに悔い改めるように呼びかけた。
2 アダムはまたその妻を知り、彼女は男の子を産んだ。そして、アダムはその子を1)セツと名付けた。アダムは神の名をたたえて言った。「神は、カインが殺したアベルの代わりに、一人の子をわたしに授けてくださった。」
3 神はセツに御自身を現され、セツは背くことなく、兄アベルのように受け入れられる1)犠牲をささげた。また、セツにも男の子が生まれ、彼はその子をエノスと名付けた。
4 そのとき、これらの人は主の名を呼び始め、主は彼らを祝福された。
5 また、1)覚えの書が記され、アダムの言葉で記録された。神に呼び求めたすべての者は、2)霊感の霊によって書くことを許された。
6 そして、彼らによってその子供たちは読み書きを教えられ、その言葉は清らかで汚れのないものであった。
7 さて、初めにあったこの1)神権は、世の終わりにもあるであろう。
8 この預言を、アダムは1)聖霊に感じるままに語った。そして、2)神の子たちについて一つの3)系図が記された。これはアダムの歴代の書で、次のとおりであった。すなわち、神は人を創造された日に、神にかたどって人を造られた。
9 神は1)彼らを、御自分の体の2)形に、男と女に創造された。彼らが創造されて、神の3)足台の上の地で4)生けるものとなった日に、神は彼らを祝福して、彼らをアダムと5)名付けられた。
10 1)アダムは百三十歳になって、自分にかたどり、自分の2)形のような男の子をもうけ、その子をセツと名付けた。
11 アダムがセツをもうけた後、生きた年は八百年であって、彼は多くの息子、娘たちをもうけた。
12 アダムの生きた年は合わせて九百三十歳であった。そして、彼は死んだ。
13 セツは百五歳になって、エノスをもうけた。セツは一生の間預言し、息子エノスに主の道を教えたので、エノスもまた預言した。
14 セツはエノスをもうけた後、八百七年生きて、多くの息子、娘たちをもうけた。

第6章
1 (1) GS「アダム」
2 (1) 創世4・25、GS「セツ」
3 (1) GS「犠牲」
4 (1) 創世4・26、GS「祈り」
5 (1) アブ1・28、31、GS「覚えの書」
7 (1) (2) GS「霊感」
8 (1) (2) GS「神権」
9 (1) (2) 2ペテ1・21
10 (1) (2) (3) GS「神の息子、娘」
31 GS「系図」
2・26—29、アブ4・26—9 (1) GS「人」
(2) 創世1・26—28、モセ
(3) アブ2・7
(4) GS「人（霊を持つ存在としての）」
(5) モセ1・34、4・26
42—43 教義107・41—56、138・40
創世5・3、教義107・

15 人の子らは地の全面に非常に大勢いた。その時代に、サタンは人々の中で大きな力を持ち、彼らの心の中で荒れ狂った。そして、そのときから戦争と流血が起こった。また、[2]秘密の業のために、人は権力を求めて、自分の兄弟に手を下して殺した。
16 セツの年は合わせて九百十二歳であった。そして、彼は死んだ。
17 エノスは九十歳になって、カイナンをもうけた。[1]
エノスと神の民の残りの者は、シュロンと呼ばれた地を出て、彼がカイナンと名付けた自分の息子になんで呼んだ約束の地に住んだ。
18 エノスはカイナンをもうけた後、八百十五年生きて、多くの息子、娘たちをもうけた。エノスの年は合わせて九百五歳であった。そして、彼は死んだ。
19 カイナンは七十歳になって、マハラレルをもうけた。カイナンはマハラレルをもうけた後、八百四十年生きて、息子、娘たちをもうけた。カイナンの年は合わせて九百十歳であった。そして、彼は死んだ。
20 マハラレルは六十五歳になって、ヤレドをもうけた。マハラレルはヤレドをもうけた後、八百三十年生きて、息子、娘たちをもうけた。マハラレルの年は合わせて八百九十五歳であった。そして、彼は死んだ。
21 ヤレドは百六十二歳になって、[1]エノクをもうけた。ヤレドはエノクをもうけた後、八百年生きて、息子、娘たちをもうけた。ヤレドはエノクに神の道をすべて教えた。
22 これがアダムの子孫の系図である。アダムは[1]神の子であり、神は自ら彼と語られた。
23 彼らは義を説く者であって、[1]語り、[2]預言し、どこにいる人でもすべての人に[3]悔い改めるように呼びかけた。そして、人の子らに[4]信仰が教えられた。
24 さて、ヤレドの年は合わせて九百六十二歳であった。そして、彼は死んだ。
25 エノクは六十五歳になって、[1]メトセラをもうけた。
26 そして、エノクは地の上を行き、民の中を旅をした。彼が旅をしていると、神の御霊が天から降り、彼のうえにとどまった。
27 そして、彼は天から声が告げられるのを聞いた。「わたしの子エノクよ、この民に預言し、彼らに言いなさい。『悔い改めなさい。主は次のように言われる

15 ①モセ5・13
17 ①②GS「秘密結社」
21 ①創世5・10−14、教義107・45、53
22 ①セ7・69、8・1−2、GS「エノク」
23 ①ルカ3・38
GS「預言者」
②GS「預言」
③GS「悔い改め」
④GS「信仰」
25 ①GS「メトセラ」

からです。「わたしはこの民のことを怒っており、わたしの激しい怒りは彼らに向かって燃えている。彼らの心はかたくなになり、その耳は聞こえにくく、その目は遠くを見ることができない。

28 わたしが彼らを造った日以来、多くの世代にわたって、彼らは迷い、わたしを否定し、闇の中で自分の知恵を求め、彼らの忌まわしい行いの中で殺人を企て、わたしが彼らの先祖アダムに与えた戒めを守ってこなかった。

29 それゆえ、彼らは偽りの誓いを立て、その誓いによって自らに死を招いてきた。彼らが悔い改めなければ、わたしは彼らのために地獄を用意している。

30 これは、わたしが世の初めに、わたし自身の口から、しかも世の初めから送り出してきた定めである。そして、それが将来世の中に送り出されるように、あなたの先祖であるわたしの僕たちの口を通して、わたしはそれを地の果てまで布告してきたのである」と。』

31 エノクはこれらの御言葉を聞いたとき、主の前で地に伏し、主の前に語って言った。「わたしがあなたの目にかなったのはなぜでしょうか。わたしは若者にすぎず、すべての人はわたしを憎みます。わたしは口の重い者だからです。どうしてわたしはあなたの僕なのでしょうか。」

32 主はエノクに言われた。「行って、わたしがあなたに命じたように行いなさい。そうすれば、あなたを刺し貫く者はだれもいないであろう。あなたの口を開きなさい。そうすれば、それは満たされるであろう。わたしはあなたに語る力を与えよう。すべての肉なるものはわたしの手の内にあるからである。そして、わたしは自分がよいと思うままに行おう。

33 この民に、『あなたがたは今日、あなたがたを造られた主なる神に仕えることを選びなさい』と言いなさい。

34 見よ、わたしの御霊があなたのうえにあるので、あなたのすべての言葉を、わたしは正しいとする。山々はあなたの前から逃げ去り、川はその流れを変えるであろう。あなたはわたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたとつながっていよう。それゆえ、わたしとともに歩みなさい。」

35 主はエノクに語って言われた。「あなたの目に泥を塗り、それを洗いなさい。そうすれば、あなたは

---

27 ① 教義63・32 ② マタ13・15、2ニフ9・31、モサ26・28、教義1・2、11、14
28 ① ③ GS「背く」アル10・25、14・6
29 ① GS「誓い」 ② GS「地獄」出エ4・10—16、エレ1・6—9
31 ① 教義24・5—6、60・2
32 ① GS「選択の自由」
33 ① マタ17・20
34 ① モセ7・13 ② 創世5・24、モセ7・69、GS「歩む（神とともに）」

見るであろう。」そこで、彼はそうした。
36 そして、彼は神が造られた霊[1]たちを見た。彼はまた肉体[2]の目に見えないものも見た。それ以来、「主はその民のために、一人の聖見者[3]を立てられた」という言葉がその地に広まった。
37 さて、エノクはその地の人々の中に出て行き、もろもろの丘と高い所に立って、大声で叫び、彼らの行いを責める証を述べた。すると、すべての人が彼に腹[1]を立てた。
38 彼らは彼の言葉を聞くために高い所に出て来て、天幕を守る者たちに言った。「あなたがたはここにとどまって、天幕を守っていなさい。その間に、我々はあそこへ行って聖見者を見てくる。彼は預言をする。この地に変わったことがある。野生の男が我々の中にやって来たのだ。」
39 さて、彼の言葉を聞いたとき、彼に手を出す者はだれ一人いなかった。彼の言葉を聞いたすべての者に、恐れが及んだためである。彼が神とともに歩んだからである。
40 彼のもとに、その名をマヒヤという一人の男がやって来て言った。「あなたはだれで、どこから来たのか、はっきりと言ってください。」
41 そこで、彼は彼らに言った。「先祖の地であり、今日まで義の地であるカイナンの地からやって来ました。わたしの父はわたしに神の道をすべて教えてくれました。
42 そして、カイナンの地から東の海沿いに旅をしていたとき、わたしは示現を見ました。まことに、天を見ました。そして、主はわたしと語り、わたしに命を下されました。この理由で、すなわちその命に従うために、わたしはこれらの言葉を語っているのです。」
43 エノクはその話を続けて言った。「わたしと語られた主は、天の神です。わたしの神であり、またあなたがたの神です。あなたがたはわたしの兄弟です。どうしてあなたがたは自分で自分に勧めをして、天の神を否定するのですか。
44 神は天を造られ、地は神の足台[2]であり、地の基[1]は神のものです。まことに、神はそれを据えられ、地の面に大勢の人をもたらされました。
45 死はわたしたちの先祖に及びました。それでも、わたしたちは彼らを知っており、否定することはで

---

36 ①GS「霊の創造」
②モセ1・11
③GS「聖見者」1
37 ①ニフ16・1−3
43 ①箴言1・24−33、教義56・14−15
44 ①申命10・14
②アブ2・7

きません。まことに、わたしたちはすべての中の最初の人、アダムさえも知っています。
46 わたしたちは、神の指によって示された手本に従って、わたしたちの中で覚えの書[1]を記してきたからです。それはわたしたちの言葉で述べられています。」
47 エノクが神の言葉を語ると、民はおののき、彼の前に立っていることができなかった。
48 エノクは彼らに言った。「アダムが堕落[1]したので、わたしたちは存在しています。そして、アダムの堕落によって死[2]が生じ、わたしたちは不幸と災いを受ける者とされているのです。
49 まことに、サタンは人の子らの中にやって来て、彼を拝むように誘惑[1]します。そして、人々は肉欲[2]や官能[3]におぼれ、悪魔に従う者となって、神の御前から締め出されています。
50 しかし、神はわたしたちの先祖に、すべての人が悔い改めなければならないことをお知らせになりました。
51 神は御自身の声によって、わたしたちの先祖アダムに呼びかけて言われました。『わたしは神である。わたしは世界を造り、また人々を[1]、彼らが肉体にある前[2]に造った。』
52 神はまた彼に言われました。『あなたがわたしに心を向け、わたしの声を聴き、そして信じ、あなたのすべての背きを悔い改め、まことに水の中で、恵[1]みと真理に満ちている独り子、すなわちイエス・キリスト[2]の名によって、すなわちその名によって人の子らに救い[3]が及ぶ、天下に与えられる唯一の名[4]によってバプテスマ[5]を受けるならば、あなたは聖霊の賜物を受けるであろう。すべてのものをその名によって求めれば、何でも求めるものはあなたに与えられるであろう。』
53 わたしたちの先祖アダムは、主に語って、『人が悔い改めて水の中でバプテスマを受けなければならないのは、なぜでしょうか』と尋ねました。すると、主はアダムに、『見よ、わたしはエデンの園でのあなたの背き[1]を赦した』と言われました。
54 このことから、『神の御子[1]は最初のとがを贖[2]われ、それによって両親の罪がその子供[3]たちの頭に帰すことはあり得ない。彼らは世の初めから罪がないという言葉が人々の間に広まりました。

---

46 ① GS「覚えの書」
48 ① 2ニフ2・25、GS「堕落（アダムとエバの）」
49 ① ② GS「死（肉体の）」モセ1・12、GS「誘惑」 ② モサ16・3−4、モセ5・13 GS「現世的」 ③ GS「肉欲」
51 ① ④ ③ GS「死（霊の）」GS「人−夫の御父の霊の子供としての人間」 ② GS「霊の創造」
52 ① ② GS「恵み」 ② GS「イエス・キリスト」 ③ GS「救い」 ④ 使徒4・12、2ニフ31・21 ⑤ 3ニフ11・23−26、GS「バプテスマ」
53 ① GS「赦し」
54 ① GS「イエス・キリスト」 ② GS「贖罪」 ③ モサ3・16

55 主はアダムに語って言われました。『あなたの子供たちは罪のうちに宿されるので、まことに彼らが成長し始めると、彼らの心の中に罪[1]が宿る。そして、彼らは善を尊ぶことを知るために、[2]苦さを味わうのである。

56 そして、善悪を知ることが彼らに許される。それゆえ、彼らは自ら[1]選択し行動する者である。そこで、わたしはあなたに別の律法と戒めを与えた。

57 それゆえ、あなたの子供たちに次のことを教えなさい。すなわち、どこにいる人でもすべての人が、[1]悔い改めなければならない。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことはできない。[2]清くない者はそこに住むことができない、すなわち、神の[3]前に住むことができないからである。アダムの言葉で、[4]聖なる人とは神の名である。また、神の独り子の名は、[5]人の子、すなわちイエス・キリストであり、時の中間に来る義にかなった[6]裁き主である。

58 さて、わたしはあなたに戒めを与える。あなたの[1]子供たちに次のことを率直に教えなさい。すなわち、

59 背きによって堕落が生じ、その堕落が死をもたらす。あなたがたは水と血と、わたしが造った[1]霊とによってこの世に生まれ、ちりから生けるものとなったので、まことにあなたがたは、[2]水と[3]御霊によって再び天の王国に生まれ、[4]血によって、すなわちわたしの独り子の血によって清くされなければならない。それは、あなたがたがすべての罪から聖められ、この世において[5]永遠の命の言葉を享[6]受し、来るべき世において永遠の命、すなわち不死不滅の栄光を享受するためである。

60 それは、あなたがたが[1]水によって戒めを守り、御霊によって[2]義とされ、[3]血によって[4]聖められるからである。

61 それゆえ、天の記録、[1]慰め主、不死不滅の栄光の平和なること、すべてのものの真理、すべてのものを生かし活気づけるもの、すべてのことを知っており、知恵と憐れみと真理と公正と公平によって一切の権威を持つものが授けられて、あなたがたの内にとどまる。

62 さて見よ、わたしはあなたに言う。これが、時の中間に来るわたしの[1]独り子の血によってすべての人に与えられる救いの[2]計画である。

---

55 ①GS「罪」 ②教義29・39、GS「逆境」
56 ①2ニフ2・26−27、ヒラ14・29−30、GS「選択の自由」
57 GS ①1コリ6・9−10、GS「悔い改め」 ②1ニフ10・21、GS「清いものと清くないもの」 ③詩篇24・3−4、1ニフ15・33−36、モル7・7、教義76・50−62 ④モセ7・35、GS「聖なる人」 ⑤GS「人の子」 ⑥GS「イエス・キリスト−裁き」「正義」
58 ①GS「子供」
59 ①1ヨハ5・8 ②創世2・7、モセ4・25、アブ5・7 ③GS「バプテスマ」 ④GS「再び生まれる」 ⑤ヨハ6・68 ⑥2ニフ4・15−16、アル32・28 ⑦GS「日の栄え」
60 ①モロ8・25 ②GS「義認・義とされる」 ③GS「血」 ④GS「聖め」 ⑤GS「聖霊」
61 ①GS「聖霊」
62 ①GS「独り子」 ②GS「贖いの計画」

63 見よ、すべてのものにはそれに似たものがある。すべてのものは、現世にかかわるものも霊にかかわるものも、わたしのことを証するために創造され、造られている。すなわち、上の天にあるもの、地の上にあるもの、地の中にあるもの、地の下にあるもの、上のものも下のものも、すべてのものがわたしのことを証するのである。』

64 このように主がわたしたちの先祖アダムと語られたとき、アダムは主に叫び求めました。すると、彼は主の御霊に連れ去られ、水の中に運ばれ、水に沈められ、そして水から連れ出されました。

65 このようにして、彼はバプテスマを受け、神の御霊が彼に降られました。このようにして、彼は御霊によって生まれ、内なる人において生かされた者となったのです。

66 そして、彼は天からの声が告げられるのを聞きました。『あなたは火と聖霊によってバプテスマを受けた。これは今から後とこしえに、父と子の証である。

67 あなたは、永遠から永遠にわたって、日の初めもなく年の終わりもない者の位に従う者である。

68 見よ、あなたはわたしにあって一つであり、神の子である。このようにして、すべての者はわたしの子となることができるのである。アーメン。』

第7章

（千八百三十年十二月）

エノクは教え、民を導き、山々を動かす。シオンの町が設立される。エノク、人の子の来臨とその贖いの犠牲と聖徒たちの復活を先見する。また、回復と集合と再臨とシオンの帰還も先見する。

1 また、エノクはその話を続けて言った。「まことに、わたしたちの先祖アダムはこれらのことを教えました。すると、多くの者は信じて神の子となりましたが、信じないで罪の中に滅びた者も大勢いました。彼らは今、苦しみの中で恐れながら、火のような神の激しい怒りが自分たちに注がれるのを待っています。」

2 そのときから、エノクは預言し始めて、民に言った。「わたしが旅の途中に、マフヤという所に立って主に叫び求めると、天から、『あなたは引き返し

63 ①45—47 アル30・44、教義88・
64 ①GS「聖霊」 ②GS「バプテスマ」
65 ①GS「再び生まれる」 ②モサ27・25、アル5・12—15
66 ①教義19・31、GS「聖霊の賜物」 ②2ニフ31・17—18、3ニフ28・11
67 ①GS「メルキゼデク神権」 68 ①1ヨハ3・1—3、教義35・2 ②ヨハ1・12、教義34・3、GS「神の息子、娘」
第7章
1 ①GS「神の息子、娘」 ②アル40・11—14

て、シメオンの山に登りなさい』という御声がありました。
3そこで、わたしは引き返して、その山に登りました。そして、その山に立つと、わたしは天が開くのを見て、栄光に包まれました。
4わたしは主にまみえました。主はわたしの前に立ち、1)顔と顔を合わせて、人が互いに語り合うようにわたしと語られました。そして、主はわたしに言われました。『2)見なさい。そうすれば、わたしはあなたにこの世を多くの世代にわたって見せよう。』
5それから、わたしはシュムの谷に、まことに天幕に住む多くの人を見ました。それはシュムの民でした。
6主は再びわたしに、『見なさい』と言われました。そこで、わたしが北の方を眺めると、天幕に住むカナンの民が見えました。
7主はわたしに、『預言しなさい』と言われました。そこで、わたしは預言して言いました。『見よ、大勢のカナンの民がシュムの民に対して陣立てをして出て行き、彼らを殺して、ことごとく滅ぼすであろう。そして、カナンの民はその地で分かれて、その地は実を結ばない不毛の所となり、カナンの民のほかにいかなる民もそこに住むことはない。
8見よ、主はひどい暑さをもってその地をのろわれ、その不毛はとこしえに続くであろう。』そして、カナンのすべての子らのうえに1)暗黒が及んだので、彼らはすべての民の中でさげすまれました。
9また、主はわたしに、『見なさい』と言われました。そこで、わたしが眺めると、シャロンの地と、エノクの地と、オムナーの地と、ヘニの地と、セムの地と、ハネルの地と、ハナニハの地と、そのすべての住民が見えました。
10すると、主はわたしに言われました。『この民のところへ行って、「1)悔い改めよ」と言いなさい。わたしが出て行って、のろいをもって彼らを打ち、彼らが死ぬことのないためである。』
11そして主は、御父と、1)恵みと真理に満ちておられる御子と、御父と御子のことを証される2)聖霊との御名によってバプテスマを施すようにとの戒めをわたしに与えられました。」
12それからエノクは、カナンの民を除くすべての民に、悔い改めるように呼びかけ続けた。

3①GS「変貌」
4①創世32・30、申命5・4、モセ1・2、11、31
②モセ1・4
8①2ニフ26・33
10①モセ6・57、GS「悔い改め」
11①GS「恵み」
②GS「聖霊」
③GS「バプテスマ」

13 エノクの信仰[1]は非常に深かったので、彼は神の民を導いたが、敵が彼らと戦おうとして攻めて来た。そこで、彼が主の言葉を語ると、まことに彼の命に従って、地は揺れ動き、[2]山々は逃げ去った。水の流れる[3]川はその流れを変え、ライオンのほえる声が荒れ野から聞こえた。そして、すべての民族が大いに恐れた。それほどエノクの言葉は力[4]強く、また、それほど神が彼に与えられた言葉の力は大いなるものであった。

14 また、海の深みから一つの陸が出てきた。神の民の敵は大いに恐れたので、逃れて遠く離れて立ち、海の深みから出てきた陸に上がった。

15 その地の巨[1]人たちも遠く離れて立った。そして、神に逆らって戦ったすべての民にのろいが下った。

16 そのときから、彼らの中に戦争と流血があった。しかし、主は来て、主の民とともに住まわれた。そして、彼らは義のうちに住んだ。

17 [1]主への畏れがすべての民族にあった。それほど主の民のうえにある主の栄光は大いなるものであった。主はその地を祝[2]福され、彼らは山々の上と高い所で祝福されて、まことに栄えた。

18 主はその民を[1]シオンと呼ばれた。彼らが心を[2]一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。

19 エノクは、義をもって神の民に教えを説き続けた。そして、その生涯に、彼は一つの町を建て、それは聖なる都、すなわちシオンと呼ばれた。

20 さて、エノクは主とともに語り、主に言った。「必ずや、[1]シオンはとこしえに平穏に住むことでしょう。」しかし、主はエノクに言われた。「わたしはシオンを祝福したが、民の残りの者をのろった。」

21 さて、主はエノクに、地に住むすべての者を見せられた。彼はまことに、時がたってシオンが天に[1]取り上げられるのを見た。また、主はエノクに、「とこしえにわたしの住まいを見なさい」と言われた。

22 エノクはまた、アダムの子らである民の残りの者も見た。彼らは、カインの子孫を除くアダムのすべての子孫の混じり合った者であった。カインの子孫は[1]肌が黒く、彼らの中にいるべき場所がなかったからである。

23 そのシオンが[1]天に取り上げられた後、エノクは、まことに、地の[2]すべての民族が彼の前にあるのを見[3]

---

13 ① GS「信仰」 ② マタ 17・20 ③ モセ 6・34 ④ GS「神権」「力」
15 ① 創世 6・4、モセ 8・18
17 ① 出エ 23・27 ② 歴上 28・7−8、1 ニフ 17・35
18 ① GS「シオン」 ② 使徒 4・32、ピリ 2・1−4、GS「一致」
20 ① モセ 7・62−63、GS「新エルサレム」
21 ① モセ 7・69
22 ① 2 ニフ 26・33
23 ① GS「天」 ② 教義 88・47、モセ 1・27−29 ③ GS「示現」

た。
24そして、何世代かが過ぎ、エノクは高く上げられ、
まことに、御父と人の子の懐にいた。そして、見よ、
サタンの力が地の全面にあった。
25また、彼は天使たちが天から降るのを見た。そし
て、彼は大きな声が、「災いである。地に住む者は災
いである」と告げるのを聞いた。
26また、彼はサタンを見た。サタンはその手に大き
な鎖を持ち、それは地の全面を闇で覆った。サタン
は見上げて笑い、その使いどもは喜んだ。
27エノクはまた、天使たちが天から降って、御父と
御子のことを証するのを見た。聖霊が多くの者に降
られ、彼らは天の力によってシオンに連れ去られ
た。
28すると、天の神が民の残りの者を見て泣かれた。
エノクはそのことを証して言った。「どうして天が
泣き、雨が山々に降り注ぐようにその涙を流すので
すか。」
29また、エノクは主に言った。「あなたは、永遠から
永遠にわたって聖なる御方であるのに、どうして泣
くことがおできになるのですか。

30人が地の微粒子、まことにこの地球のような幾
百万の地球を数えることができたとしても、それ
はあなたが創造されたものの数の始めにも至りませ
ん。あなたのとばりは今なお広がっています。それ
でも、あなたはそこにおられ、あなたの懐はそこに
あります。また、あなたは公正な御方です。とこし
えに憐れみ深く、思いやりの深い御方です。
31あなたは御自分が創造されたすべてのものの中か
ら、永遠から永遠にわたって、シオンを御自分の懐
に取り去られました。あなたの御座のある所には、
ただ平安と公正と真理だけがあります。憐れみはあ
なたの前を進み、終わりがありません。どうしてあ
なたは泣くことがおできになるのですか。」
32主はエノクに言われた。「これらあなたの兄弟た
ちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたも
のである。わたしは彼らを創造した日に、彼らに知
識を与えた。また、エデンの園で人に選択の自由を
与えた。
33わたしはあなたの兄弟たちに語って、互いに愛し
合うように、また父であるわたしを選ぶようにとい
う戒めも与えた。ところが見よ、彼らは愛情がな

24 ① 2コリ12・1—4
26 ① アル12・10—11
② イザ60・1—2
③ ユダ1・6、教義29・36—37
27 ① GS「天使」
② GS「証」
29 ① イザ63・7—10
30 ① 教義76・24、モセ1・33
② GS「創造」
31 ① GS「平安・平和」
② GS「真理」
32 ① モセ1・4
② GS「知識」
③ GS「選択の自由」
33 ① GS「愛」

く、自分の血族を憎んでいる。
34 わたしの憤りの火[1]は彼らに向かって燃えている。
わたしは激しい憤りをもって、彼らに洪水[2]を送ろ
う。わたしの激しい怒りが彼らに向かって燃えてい
るからである。
35 見よ、わたしは神である。聖[1]なる人とはわたしの
名である。賢慮の人とはわたしの名であり、無窮も
永遠もわたしの名[2]である。
36 それゆえ、わたしは手を伸ばして、わたしが造っ
たすべての創造物を手に取ることができる。また、
わたしの目[1]はそれらを貫くこともできるが、わたし
の手で造られたすべてのものの中で、あなたの兄弟
たちの中にあるような大きな悪事[2]のあったことはな
い。
37 しかし見よ、彼らの罪はその先祖の頭にある。サ
タンが彼らの父となり、彼らの行く末は悲惨なもの
となる。そして、すべての天が、まことにわたしの
手で造られたすべてのものが、彼らのために泣くで
あろう。それゆえ、これらが苦しむのを見て、どう
して天が泣かないということがあろうか。
38 しかし見よ、あなたがその目で見ているこれらの
者は、洪水の中で滅びるであろう。見よ、わたしは
彼らを締め出す。わたしは彼らのために獄[1]を用意し
ている。
39 また、わたしの選[1]んだ者がわたしの前で嘆願し
た。それゆえ、彼は彼らの罪のために苦しみを受け
る。わたしの選[2]んだ者がわたしのもとに帰る日に彼
らが悔い改めるならば、その日まで、彼らは苦[3]しみ
の中にいるであろう。
40 このゆえに、天と、わたしの手で造られたすべて
のものは泣くのである。」
41 そして、主はエノクに語り、人の子らのすべての
行いをエノクに告げられた。そこでエノクはそれを
知り、彼らの悪事と惨めな状態を見て泣き、その両
腕を伸べた。すると、彼の心[1]は永遠のように膨れ広
がり、その胸は悲しみに打たれた。そして、永遠な
るものすべてが揺れ動いた。
42 エノクはまた、ノア[1]とその家族[2]を見た。ノアのす
べての息子たちの子孫が現世の救いを得るのを、彼
は見た。
43 エノクはノアが箱船[1]を造るのを見た。また、主が
それを見てほほえみ、御手の中にそれを保たれるの

34 ① イザ30・27、ナホ1・6、教義35・14
② 創世7・4、10、モセ8・17、24、GS「ノアの時代の洪水」
35 ① モセ6・57
② モセ1・3
36 ① 教義38・2、88・41、モセ1・35—37
② 創世6・5—6、モセ8・22、28—30
38 ① 1ペテ3・18—20、GS「地獄」
39 ① 救い主を指す
② モセ4・2、アブ3・27、GS「イエス・キリスト」
③ GS「罰の定め」
41 ① モサ28・3、GS「哀れみ」
42 ① GS「ノア（族長）」
② モセ8・12
43 ① 創世6・14—16、エテ6・7

を、エノクは見た。しかし、悪人の残りの者には洪水が押し寄せ、彼らをのみ込んでしまった。

44 エノクはこれを見ると、心に苦しみを覚え、その兄弟たちのために泣いて、天に向かって、「わたしは慰められるのを拒みます」[1]と言った。しかし、主はエノクに言われた。「心を高めて喜び、そして見なさい。」

45 そして、エノクは見た。すると、ノアから始まり、地のすべての氏族が見えた。そこで、彼は主に叫んで言った。「いつ主の日が来るのでしょうか。いつ義なる御方の血が流されて、嘆き悲しむすべての者が聖められ、永遠の命を受けられるようになるのでしょうか。」

46 主は言われた。「それは時の中間[1]、悪事と報復の時代である。

47 見よ、エノクは、人の子がまことに肉体を取って来られる日を見た。そして、彼は心から喜んで言った。「義なる御方が上げられる。小羊は世の初めからほふられている。信仰によって、わたしは御父の懐におり、まことに、シオン[2]はわたしとともにある。」

48 それから、エノクは地[1]を見た。すると、地の中から声が聞こえた。「災いだ。人々の母であるわたしは、災いだ。わたしの子供たちの悪事のゆえに、わたしは苦しみ、疲れている。わたしはいつ安息[2]を得て、わたしより出た汚れ[3]から清められるのか。わたしの創造主はいつわたしを聖めてくださり、わたしが安息を得て、義がしばらくの間わたしの面にあるようにしてくださるのか。」

49 エノクは地が嘆き悲しむのを聞いたとき、泣いて、主に叫んで言った。「おお、主よ、あなたは地に哀れみをかけられないのですか。あなたはノアの子孫を祝福なさらないのですか。」

50 エノクは主に叫び続けて言った。「おお、主よ、地が二度と洪水で覆われることのないように、ノアとその子孫を憐れんでくださるよう、わたしはあなたの独り子、すなわちイエス・キリストの御名によって願い求めます。」

51 そこで、主はそれに応じないではいられなかった。そして、主はエノクに聖約し、洪水[1]をとどめることと、ノアの子孫に呼びかけることを彼に誓って約束された。

---

44 ① 詩篇77・2、エテ15・3
45 ① GS「聖め」
46 ① モセ5・57
47 ① GS「神の小羊」
② モセ7・21
48 ① GS「地球（地）」―地球の清め」
② モセ7・54、58、64
51 ① ③ GS「汚れ」
② 詩篇104・6―9

52 そして、主は、大地のあるかぎり、彼の子孫の残りの者がいつでもすべての民族の中に見いだされるという不変の定めを出された。
53 そして、主は言われた。「子孫からメシヤが出る者は、幸いである。彼は、『わたしはメシヤであり、シオンの王であり、永遠のように広い天の岩である。だれでも門を入り、わたしによって登る者は、決して落ちることがない。それゆえ、わたしが語った者たちは、幸いである。彼らは永遠の喜びの歌を歌いながら来るからである』と言う。」
54 さらに、エノクは主に叫んで言った。「人の子が肉体を取って来られるとき、地は安息を得るのでしょうか。どうか、これらのことをわたしにお示しください。」
55 すると、主はエノクに、「見なさい」と言われた。そこで、彼が眺めると、人の習わしに従って人の子が十字架に上げられるのが見えた。
56 また、彼は大きな声を聞いた。天が覆われ、神が創造されたすべてのものが嘆き悲しみ、地がうめき、もろもろの岩が裂けた。また、聖徒たちがよみがえって、人の子の右において栄光の冠を受けた。
57 獄にいた霊たちの多くが出て来て、神の右に立った。そして、残りの者は、大いなる日の裁きまで暗闇の鎖につながれていた。
58 そこで再び、エノクは泣き、主に叫んで言った。「地はいつ安息を得るのでしょうか。」
59 するとエノクは、人の子が御父のもとに昇って行かれるのを見た。そこで、彼は主に呼びかけて言った。「あなたは再び地上に来られないのでしょうか。あなたは神であられ、わたしはあなたを知っており、あなたはわたしに誓いをなし、あなたの独り子の名によって尋ねるようにわたしに命じられました。あなたはわたしを造り、あなたの御座に至る権利を、わたし自身によらず、あなた御自身の恵みによってわたしに与えてくださいました。それでわたしは、あなたが再び地上に来られるかどうかお尋ねするのです。」
60 すると、主はエノクに言われた。「わたしが生きているように確かに、わたしは終わりの時に、すなわち悪事と報復の時代に来て、わたしがノアの子孫に関してあなたに立てた誓いを果たそう。
61 地が安息を得る日が来る。しかし、その日の前に、

---

52 ①モセ8・2
53 ①GS「メシヤ」 ②マタ2・2、2ニフ10・14、アル5・50、教義128・22 ③詩篇71・3、78・35、ヒラ5・12、GS「岩」 ④2ニフ31・19—20 ⑤GS「音楽」 ⑥GS「人の子」 ⑦3ニフ27・14、GS「十字架の刑」 ⑧マタ27・45、50—51 ⑨GS「復活」 ⑩マタ25・34 ⑪GS「冠」 ⑫「昇栄」 教義76・71—74、88・99
60 ①GS「霊」 ②GS「終わりの時」
61 ①GS「地球（地）—最終的な状態」

天は暗[2]くなり、暗黒の幕[3]が地を覆うであろう。天が震え、地も震えるであろう。そして、ひどい艱難が人の子らの中にあるが、わたしは自分の民を守ろう。

62 また、わたしは天から義[1]を下そう。また、地から真理[3]を出して、わたしの独り子と、死者の中からの独り子の復活[4]と、またすべての人の復活について証[5]しよう。そして、わたしは義と真理が洪水のごとくに地を満たすようにし、わたしが備える場所、すなわち聖なる都に地の四方からわたしの選民[6]を集めよう。それは、わたしの民がその腰に帯を締め、わたしの来臨の時を待ち望めるようにするためである。わたしの幕屋はそこにあり、そこはシオン、すなわち新[7]エルサレムと呼ばれるであろう。」

63 また、主はエノクに言われた。「そのとき、あなたとあなたの町[1]のすべての者はそこで彼らに会い、わたしたちは彼らを懐に迎え入れ、彼らはわたしたちを見るであろう。そして、わたしたちは彼らの首を抱き、彼らはわたしたちの首を抱いて、わたしたちは互いに口づけするであろう。

64 わたしの住まいはそこにある。それは、わたしが造ったすべての創造物の中から出て来るシオンである。そして、千年[1]の間、地は安息[2]を得るであろう。」

65 それからエノクは、人の子が千年の間地上で義のうちに住むために、終わりの時に来られる日を見た。

66 しかし、その日の前にひどい艱難が悪人の中にあるのを、彼は見た。彼はまた海も見たが、それは荒れていた。そして、人々は気落ち[1]して、悪人に下る全能の神の裁き[2]を恐れながら待っていた。

67 主はエノクに、まことに世の終わりに至るまですべてのことを示された。そして、彼は義人の日、彼らの贖いの時を見て、喜[1]びに満たされた。

68 エノクの生涯[1]におけるシオンの時代は、合わせて三百六十五年であった。

69 エノクとそのすべての民は神とともに歩み[1]、彼はシオンの中に住んだ。それから、シオンはなくなった。神が御自身の懐にそれを迎え入れられたからである。そのことから、「シオンは消えうせた」という言葉が広まった。

第 8 章

（千八百三十一年二月）

メトセラ、預言[1]する。ノアとその息子たち、福音を

---

61 ② 教義38・11−12、112・23 ③ GS「幕」 ④ 1ニフ22・15−22、2ニフ30・10 ⑤ 62 ① 詩篇85・11、GS「福音の回復」 ② イザ29・4 ③ GS「モルモン書」 ④ GS「復活」 ⑤ GS「証」 ⑥ GS「イスラエル イスラエルの集合」 ⑦ GS「新エルサレム」 63 ① 黙示21・9−11、教義45・11−12、モセ7・19、21 64 ① GS「福千年」 ② モセ7・48 65 ① ユダ1・14、GS「イエス・キリストの再臨」 66 ① イザ13・6−7 ② GS「最後の裁き」 67 ① GS「喜び」 68 ① 創世5・23、モセ8・1 69 ① 創世5・24、モセ6・34、GS「歩む（神とともに）」

宣べ伝える。ひどい悪事が広がる。悔い改めの呼びかけは無視される。神は洪水によるすべての肉なるものの滅びを定められる。

1 エノクの年は合わせて四百三十年であった。
2 エノクの息子メトセラ[1]は、主がエノクに立てられた聖約が果たされるために取り去られなかった。主はまことにエノクに、ノアが彼の腰から出ると聖約されたからである。
3 そこで、メトセラは自分の子孫から（ノアを通して）地のすべての王国が出ると預言し、栄光を自分のものとした。
4 地にひどい飢饉が起こった。主はひどいのろいをもって地をのろわれ、地に住む多くの者が死んだ。
5 さて、メトセラは百八十七歳になって、レメクをもうけた。
6 メトセラはレメクをもうけた後、七百八十二年生きて、息子、娘たちをもうけた。
7 メトセラの年は合わせて九百六十九歳であった。そして、彼は死んだ。
8 レメクは百八十二歳になって、男の子をもうけ、
9 「この子こそ、主が地をのろわれたため、骨折り働く我々を慰めるもの」と言って、その子をノア[2]と名付けた。
10 レメクはノアをもうけた後、五百九十五年生きて、息子、娘たちをもうけた。
11 レメクの年は合わせて七百七十七歳であった。そして、彼は死んだ。
12 ノアは四百五十歳でヤペテ[1]をもうけ、四十二年後にヤペテの母によってセム[2]をもうけ、五百歳のときにハム[3]をもうけた。
13 ノア[1]とその息子たちは主の言葉を聴いて[2]、心に留めた。そして、彼らは神[3]の子と呼ばれた。
14 これらの人が地の面に増え始め、娘たちが彼らに生まれたとき、人[1]の子らはこれらの娘が美しいのを見て、自分たちの選んだ者を妻とした。
15 主はノアに言われた。「あなたの息子たちの娘たちは自分自身を売り渡した[1]。見よ、わたしの怒りは人の子らに向かって燃えている。彼らがわたしの声に聞き従おうとしないからである。」
16 そこで、ノアは預言し、神にかかわることを、それが初めにあったとおりに教えた。

第8章
2 ①GS「メトセラ」
9 ①モセ4・23 ②GS「ノア（族長）」
12 ①創世5・32、GS「ヤペテ」 ②GS「セム」 ③GS「ハム」
13 ①教義138・41、GS「ガブリエル」 ②GS「従順・従う」 ③GS「神の息子、娘」
14 ①モセ5・52
15 ①GS「結婚ー異なった信仰を持つ人との結婚」

17 主はノアに言われた。「わたしの御霊はいつでも人を[1]励ますわけではない。人はすべての[2]肉なるものが死ぬことを知るであろう。それでも、人の年は百二十年である。もし人々が悔い改めなければ、わたしは彼らに[3]洪水を送ろう。」
18 その時代には地上に[1]巨人たちがおり、彼らはノアを捜して命を取ろうとした。しかし、主がノアとともにおられ、主の[2]力が彼のうえにあった。
19 そして、主は御自分の位に[1]従う者としてノアを[2]聖任され、彼に、出て行って、エノクに与えられたとおりに人の子らに福音を[3]告げ知らせるよう命じられた。
20 そこで、ノアは人の子らに、[1]悔い改めるようにと呼びかけた。しかし、彼らはノアの言葉に耳を傾けなかった。
21 また、彼らはノアの語ることを聞いた後、彼の前にやって来て言った。「見よ、我々は神の子だ。我々は人の娘たちをめとったではないか。我々は[1]食べたり、飲んだり、めとったり、嫁いだりしているではないか。我々の妻は我々に子供を産み、その子たちは昔の人々のように勇士であり、非常に名高い者たちである。」こうして、彼らはノアの言葉に耳を傾けなかった。
22 神は、人の悪が[1]地上でひどくなり、すべての人がその心に[2]思い計ることで高ぶっており、いつも悪いことばかりを考えているのを御覧になった。
23 そこで、ノアは民に[1]教えを説き続けて言った。「聴きなさい。わたしの言葉を心に留めなさい。
24 [1]信じて罪を悔い改め、わたしたちの先祖のように神の御子イエス・キリストの御名によって[2]バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて、すべてのことが[3]明らかにされるであろう。もしこのことをしなければ、洪水があなたがたを襲うであろう。」それでも、彼らは耳を傾けなかった。
25 ノアは、主が地上に人を造られたことを悔やみ、心を痛めた。彼はそれを心に深く悲しんだ。
26 すると、主は言われた。「わたしが創造した人を地の面から[1]ぬぐい去ろう。人も獣も、這うものも、空の鳥までも。わたしがそれらを創造し、それらを造ったことを、ノアが悔やんでいる。彼はわたしに呼び求めてきた。彼らが彼の命を取ろうとしたからである。」

---

17 ①創世6・3、2ニフ26・11、エテ2・15、教義1・33　②2ニフ9・4、GS「肉」　③創世7・4、10、モセ7・34
18 ①創世6・4、民数13・33、ヨシ17・15　②GS「力」　19 ①②GS「メルキゼデク神権」　③②アブ1・19　教義107・52、GS「聖任」
20 ①④GS「伝道活動」　GS「悔い改め」　21 ①マタ24・38−39、ジーマ1・41　22 ①創世6・5、モセ7・36−37　②モサ4・30、アル12・14、GS「思い」　23 ①GS「宣べ伝える」　24 ①GS「信じる」　②GS「バプテスマー資格」　③2ニフ32・2−5　26 ①GS「地球（他）−地球の清め」

27 このようにして、ノアは神の前に恵みを得た。ノアは正しい人であり、その時代の人々の中で完全であったからである。彼は神とともに歩んだ。その三人の息子、セム、ハム、ヤペテも同様であった。
28 世は神の前に堕落して、暴虐が地に満ちた。
29 神が地を見られると、まことにそれは堕落していた。すべての肉なるものが地の上でその道を乱したからである。
30 そこで、神はノアに言われた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は暴虐で満ちている。まことに、わたしはすべての肉なるものを地から滅ぼそう。」

---

27 ①GS「恵み」 ②創世6・9 28 ①③GS「歩む」 ①創世6・11−13 30 ①教義56・3

アブラハム書からの模写

第　一



説明

1. 主の天使。
2. 祭壇上に縛られたアブラハム。
3. アブラハムを犠牲としてささげようとしている、エルケナの神を偶像礼拝する祭司。
4. エルケナとリブナ、マーマクラ、コラシ、およびパロの神々の前にある、偶像礼拝する祭司たちが犠牲をささげる祭壇。
5. 偶像礼拝のエルケナの神。
6. 偶像礼拝のリブナの神。
7. 偶像礼拝のマーマクラの神。
8. 偶像礼拝のコラシの神。
9. 偶像礼拝のパロの神。
10. エジプトでのアブラハム。エジプト人が理解したとおりに、天の柱を表すもの。
11. ラーキーアン、天空、すなわち頭上の大空の意。しかし、ここではこの題目に関して、エジプト人はこれによってシャーマー、すなわちヘブライ語のシャーマイムに相当する言葉で、高いこと、つまり天を表した。
12.

アブラハム書

ジョセフ・スミスが
パピルスから翻訳したもの

エジプトの地下墓地から得られた幾つかの昔の記録の翻訳。「アブラハム書」と呼ばれる、アブラハムがエジプトにいた間に彼自身の手でパピルスに記した書き物（『教会歴史』第二巻、二百三十五―二百三十六、三百四十八―三百五十一ページを参照）。

第1章

アブラハム、族長制度の祝福を求める。アブラハム、カルデヤで偽祭司たちによって迫害される。エホバがアブラハムを救い出される。エジプトの起源と政体が概観される。

1 わたしの先祖が住んでいたカルデヤ人の地において、わたしアブラハムは、別の[3]居住の地を得ることが自分にとって必要であるのを知った。

2 また、わたしのためにさらに大いなる[1]幸福と平安と[2]安息があるのを知り、わたしは先祖の祝福と、わたしが聖任されるべきそれらの祝福をつかさどる権利とを得ようと努めた。わたしは自分自身が義に従う者であったので、また、多くの[4]知識を持つ者となり、義に従うさらに大いなる者となることを望み、もっと多くの知識を持ち、多くの国民の先祖、平和の君となることを望み、また数々の指示を受け、神の戒めを守ることを望んだので、先祖に属する[5]権利を持つ正当な相続人、[6]大祭司となった。

3 それは先祖からわたしに[1]授けられた。それは先祖から、時の初めから、まことに初めから、すなわち地が造られる前から現在まで伝わったものである。それは長子、すなわち最初の人、すなわち[2]アダム、すなわち最初の先祖の権利であり、先祖たちを通してわたしに至ったものである。

4 わたしは、子孫に関して先祖に与えられた神の定めに従って、神権に[1]任じられることを求めた。

5 わたしの[1]先祖は、彼らの義と主なる彼らの神が与えられた聖なる戒めから離れて、異教徒の神々を[2]礼

アブラハム書
第1章
1 ① GS「ウル」
② GS「アブラハム」
2 ① 使徒7・2―4
② GS「喜び」
③ GS「安息」
3 ① GS「義」
② 教義84・14
④ 教義42・61、GS「知識」
⑤ GS「メルキゼデク神権」
⑥ GS「大祭司」
3 ① 教義68・17、GS「長子・初子」
② モセ1・34、GS「アダム」
4 ① GS「長子の特権・生得権」
5 ① 創世12・1
② GS「偶像礼拝」

拝し、わたしの言葉を聴くのをまったく拒んだ。
6 彼らは悪を行うことをその心に留め、エルケナの神と、リブナの神と、マーマクラの神と、コラシの神と、エジプトの王パロの神にすっかり頼り切っていたからである。
7 そこで、彼らは異教徒の犠牲にその心を向けて、これら口の利けない偶像に彼らの子供たちをささげ、わたしの声を聴こうとせず、エルケナの祭司の手によってわたしの命を取ろうとした。エルケナの祭司はまた、パロの祭司であった。
8 さて当時、カルデヤの地に築かれた祭壇上でこれら異国の神々への犠牲として男女や子供をささげることが、エジプトの王パロの祭司の習わしであった。
9 そして、祭司はエジプト人の流儀に従って、パロの神にささげ物をし、またシャグレールの神にもささげ物をした。ところで、シャグレールの神は太陽であった。
10 パロの祭司は、オリシェムの平野の奥にあるポテパルの丘と呼ばれた丘のそばにあった祭壇上で、子供を感謝のささげ物としてささげることさえ行った。
11 さて、この祭司は、かつてこの祭壇上で三人のおとめをささげた。このおとめたちは、ハムの直系の王家の一人であるオニタの娘たちであった。このおとめたちはその節操のゆえにささげられたのである。彼女たちは木や石の神々をひれ伏して拝もうとしなかったために、この祭壇上で殺された。そして、それはエジプト人の流儀に従って行われた。
12 さて、祭司たちはわたしに暴力を振るい、この祭壇上でそのおとめたちを殺したように、わたしも殺そうとした。この祭壇について知るために、この記録の初めにある絵図を参照してほしい。
13 それはカルデヤ人の間で用いられたような寝台の形に倣って造られ、エルケナ、リブナ、マーマクラ、コラシの神々の前、およびエジプトの王パロの神に似た神の前に置かれていた。
14 あなたがたがこれらの神々について理解できるように、わたしは冒頭の図形中にそれらの型を示した。このような種類の図形を、カルデヤ人はラーレーノスと呼ぶ。それは象形文字という意味である。
15 彼らがわたしをささげて命を取るために、その手をわたしの上に振り上げたとき、見よ、わたしは主

6 ① アブラハム書からの模写第一に描かれている、偽りの神々
11 ① GS「ハム」
② ダニ 3・13−18

なる神に声を上げた。すると、主は耳を傾けて聞いてくださり、全能者の示現でわたしを満たしてくださった。そして、主の前の天使がわたしの傍らに立ち、直ちに縄を解いてくれた。

16 そして、主の声がわたしに及んだ。「アブラハム、アブラハム、見よ、わたしの名はエホバである。わたしはあなたの声を聞いた。そして、あなたを救い出し、あなたを父の家から、すべての親族からあなたの知らない異国の地へ連れ出すために降って来た。

17 これは、彼らがその心をわたしから背けて、エルケナの神と、リブナの神と、マーマクラの神と、コラシの神と、エジプトの王パロの神を礼拝したためである。そこでわたしは、彼らに報いを下し、わたしの子であるあなたアブラハムの命を取ろうとして手を振り上げた者を滅ぼすために、降って来たのである。

18 見よ、わたしはわたしの手によってあなたを導こう。わたしはあなたを受け入れて、わたしの名、すなわちあなたの父の神権を与えよう。わたしの力はあなたのうえにあるであろう。

19 それはノアとともにあったように、あなたとともにあるであろう。しかし、あなたの働きによって、わたしの名はとこしえにこの世に知られるであろう。わたしはあなたの神だからである。」

20 見よ、ポテパルの丘は、カルデヤのウルの地にあった。主はエルケナの祭壇とその地の神々の祭壇を壊し、それらを完全に破壊し、祭司を打たれたので、彼は死んだ。そして、カルデヤに、またパロの宮廷に大きな嘆きがあった。パロとは、王族の血統による王を意味する。

21 さて、このエジプトの王は、ハムの腰から出た子孫であり、生まれはカナン人の血統を引いた者であった。

22 この家系からすべてのエジプト人が出て、カナン人の血がその地に残されたのである。

23 エジプトの地は最初に一人の女によって発見された。この女はハムの娘であり、エジプタスの娘であった。エジプタスとは、カルデヤ語でエジプトを意味し、禁じられたものという意味である。

24 この女がその地を発見したとき、それは水の下にあったが、後に彼女はそこに息子たちを定住させ

15 ①モサ 9・17—18 ②アブ 2・13
16 ①GS「エホバ」 ②GS「約束の地」
18 ①GS「神権」
19 ①創世 12・1—3
20 ①創世 11・28、アブ 2・4
21 ①創世 10・6、詩篇 78・51、モセ 8・12
23 ①GS「エジプト」 ②「カナン」

た。このようにして、ハムから、その地にのろいをとどめた人種が出たのである。

25 さて、エジプトの最初の政府は、ハムの娘であるエジプタスの長男パロによって設けられた。それはハムの政府に倣い、族長制であった。

26 パロは義にかなった人であり、王国を設立して、生涯賢明かつ公正に民を治め、最初の世代、最初の族長、統治の時代、すなわちアダムやノアの治世に先祖たちによって設けられた制度を模倣しようと熱心に努めた。ノアは彼の先祖であり、彼に地の祝福と知恵の祝福を授けたが、神権に関しては彼をのろった。

27 さて、パロは神権[1]の権利を持つことのできない血統の出であったが、パロたちは、ハムを通してノアからそれを受けたと自ら主張した。そのために、わたしの父は彼らの偶像礼拝に惑わされたのである。

28 しかし、わたしはこの後、わたし自身から創造の初めまでさかのぼって年代記を書くようにしよう。数々の記録がわたしの手に入り、わたしは現在までそれを所有しているからである。

29 さて、エルケナの祭司が打たれて死んだ後、その地に飢饉があるであろうとカルデヤの地についてわたしに言われたことが成就した。

30 このために、飢饉がカルデヤの全地に広がった。すると、わたしの父はその飢饉のためにひどく苦しみ、わたしの命[1]を取ろうとわたしに対して企てた悪事を悔いた。

31 しかし、神権の権利に関する先祖すなわち族長たちの記録を、主なるわたしの神は、わたしの手の中に残された。したがって、創造の始まりと、もろもろの遊星[1]と、もろもろの星の知識を、それらが先祖に知らされたとおりに、わたしは今日まで保持してきたのである。そこで、わたしの後に来る子孫の益のために、わたしはこれらの事柄の多くをこの記録に書くようにしよう。

第 2 章

アブラハム、ウルの地を去ってカナンの地へ向かう。エホバ、ハランでアブラハムに御姿を現される。すべての福音の祝福がアブラハムの子孫に、またアブラハムの子孫を通してすべての人に約束される。アブラハム、カナンへ行き、続いてエジプトに向かう。

---

26 (1) GS「祝福」
27 (1) 公式 2、GS「神権」
28 (1) モセ 6・5、GS「覚えの書」
30 (1) アブ 1・7
31 (1) アブ 3・1−18

1さて、主なる神がウルの地において飢饉をひどくされたので、わたしの兄弟ハラン[1]は死んだ。しかし、わたしの父テラ[2]はなお、カルデヤのウルの地に住んでいた。

2そして、わたしアブラハムはサライ[1]をめとり、わたしの兄弟ナホル[2]はミルカをめとった。ミルカはハランの娘であった。

3さて、主はわたしに言われた[1]。「アブラハム、あなたは国を出て、親族と別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。」

4そこで、わたしはカルデヤのウル[1]の地を去り、カナンの地に向かった。わたしは兄弟の子ロトとその妻、およびわたしの妻サライを連れて行った。わたしの父[2]も、わたしたちがハランと名付けた地までわたしについて来た。

5そして、飢饉が和らいだ。すると、父はハランにとどまり、そこに住んだ。ハランには多くの羊の群れがあったからである。父は再び偶像礼拝[1]に戻り、そのためにハランにとどまった。

6しかし、わたしアブラハムとわたしの兄弟の子ロト[1]は、主に祈った。すると、主はわたしに現れて[2]言われた。「立って、ロトを伴って行きなさい。わたしはあなたをハランから連れ出し、異国の地[3]において、あなたをわたしの名を負う仕え人[4]にすると定めたからである。あなたの後の子孫がわたしの声に聞き従うときに、わたしはその地を彼らに永遠の所有として与えるであろう。

7わたしは主なるあなたの神である。わたしは天に住み、地はわたしの足台[1]である。わたしが海の上に手を差し伸べると、それはわたしの声に従う。わたしは風と火をおこしてわたしの車[2]とする。わたしが山々に向かって『ここを去れ』と言えば、見よ、それらは突如一瞬にして旋風により取り去られる。

8わたしの名はエホバ[1]であり、わたしは初めから終わりを知っている。それゆえ、わたしの手はあなたのうえにある。

9わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを計り知れないほど祝福[1]し、あなたの名をすべての国民の間で大いなるものとしよう。あなたはあなたの後の子孫にとって祝福の基となり、彼らはすべての国民にこの務めと神権[2]を携えて行くであろう。

10わたしはあなたの名によって彼らを祝福しよう。

第2章
1 ①創世11・28 ②創世11・24−26、歴上1・26
2 ①創世11・29、GS「サラ」 ②創世11・27、22・20−24
3 ①創世12・1、使徒7・1−3
4 ①ネヘ9・7 ②創世11・31−32
5 ①ヨシ24・2 ②GS「ロト」
6 ①創世17・1、GS「イエス・キリスト−前世におけるキリスト」 ②創世13・14−15、17・8、出エ33・1、GS「約束の地」 ③創世12・2−3、アブ1・19 ④1ニフ17・39、教義7・38、イザ66・15−16
8 ①GS「エホバ」 ②GS「全知」
9 ①1ニフ17・40、2ニフ29・14、3ニフ20・27、モル5・20、GS「アブラハム−アブラハムの子孫」 ②教義84・17−19、モセ6・7、GS「メルキゼデク神権」

この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によ
って呼ばれ、あなたの子孫と見なされ、立ち上がっ
てあなたを父としてたたえるであろう。
11 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなた
をのろう者をわたしはのろう。地のすべての氏族
は、あなた（すなわち、あなたの神権）によって、
また、この権利はあなたによって続くという約束を
わたしはあなたに与えるのであなたの子孫（すなわ
ち、あなたの神権）によって、またあなたの後の子
孫（すなわち、文字どおりの子孫、肉体の子孫）に
よって、救いの祝福すなわち永遠の命の祝福であ
る福音の祝福を授けられるであろう。」
12 さて、主がわたしに語るのをやめて、わたしから
退かれた後、わたしは心の中で言った。「あなたの僕
はあなたを熱心に求めてきました。そして今、わた
しはあなたを見いだしました。
13 あなたは天使を遣わして、エルケナの神々からわ
たしを救い出してくださいました。わたしはあなた
の御声によく聞き従うようにしますので、あなたの
僕を立ち上がらせて、安らかに去らせてください。」
14 それで、わたしアブラハムは、主が言われたよう
に出かけた。ロトもわたしと一緒に行った。わたし
アブラハムはハランを出たとき、六十二歳であっ
た。
15 わたしは、カルデヤのウルにいたときにめとった
サライと、わたしの兄弟の子ロトと、わたしたちが
集めたすべての財産と、ハランで得た人々を伴い、
カナンの地へ向かう道に出て、道を進みながら天幕
に住んだ。
16 したがって、わたしたちがハランからジェルショ
ンを通ってカナンの地へ向かう旅をしていたとき、
永遠はわたしたちの覆いであり、わたしたちの岩で
あり、わたしたちの救いであった。
17 さて、わたしアブラハムは、ジェルションの地
で祭壇を築き、主にささげ物をして、わたしの父の
家から飢饉が去って彼らが滅びることのないように
と祈った。
18 その後、わたしたちは、ジェルションからその地
を通ってシケムの地に着いた。それはモレの平野に
あり、わたしたちはすでにカナン人の地の境に入っ
ていた。わたしはモレの平野のそこで犠牲をささ
げ、心から主に呼び求めた。すでにこの偶像礼拝を

10 ① ガラ3・7−9
② 創世13・16、ガラ3・29、2ニフ30・2
③ GS「族長」
11 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
② GS「イスラエル」「神権」「長子の特権・生得権」
③ イザ61・9
12 ① 教義88・63
13 ① アブ1・15−17
14 ① 創世12・4−5
15 ① GS「ウル」
② GS「サラ」
③ GS「改宗」
④ GS「カナン」
16 ① GS「岩」
17 ① GS「祭壇」
② アブ1・29
18 ① 創世12・6
② GS「犠牲」

する民族の地に入っていたからである。
19 すると、主はわたしの祈りにこたえて、わたしに現れ、「わたしはあなたの子孫にこの地を与える」と言われた。
20 そこで、わたしアブラハムは、主のために築いた祭壇の所から立ち上がり、そこからベテル[1]の東の山に移って天幕を張った。西にはベテル、東には[2]アイがあった。そこにわたしは主のために別の祭壇を築いて、再び主の名を呼んだ。[3]
21 そして、わたしアブラハムはなおも進んで、南へ旅を続けた。その地には飢饉が続いていた。そこで、わたしアブラハムはエジプトに下って行き、そこに滞在することにした。飢饉が非常に激しくなったからである。
22 さて、わたしがエジプトに入ろうとしてそこに近づいたとき、主はわたしに言われた。「見よ、あなたの妻サライは、見るに非常に美しい女である。
23 それで、エジプト人はサライを見ると、『この女はあの男の妻だ』と言ってあなたを殺し、サライは生かしておくであろう。それゆえ、あなたは次のように行うようにしなさい。
24 サライに、あなたの妹であるとエジプト人に言わせなさい。そうすれば、あなたの命は助かるであろう。」
25 そこで、わたしアブラハムは、主がわたしに言われたことをすべて妻サライに告げた。「だから、どうかわたしの妹だと彼らに言ってほしい。そうすれば、わたしはあなたのおかげで無事であり、わたしの命はあなたによって助かるであろう。」

第3章

アブラハム、ウリムとトンミムによって太陽と月と星のことを知る。主はアブラハムに、霊の永遠性を明らかにされる。アブラハム、前世と予任、創造、贖い主の選び、人の第二の位のことを知る。

1 わたしアブラハムは、主なるわたしの神がカルデヤのウルでわたしに与えてくださったウリムとトンミムを持っていた。
2 そこで、わたしが数々の星[1]を見ると、それらはきわめて大いなるもので、その中の一つは神の御座の最も近くにあった。また、その近くには大いなる星

19 ① 創世13・12—15、17・8、出エ3・1—10、民数34・2、GS「約束の地」
20 ① GS「ベテル」 ② 創世13・3—4 ③ 創世12・8 創世12・11—13
22 ① 創世12・11—13
第3章
1 ① 出エ28・30、モサ8・13、28・13—16、ジ歴史1・35、GS「ウリムとトンミム」
2 ① アブ1・31

が多数あった。

3 主はわたしに言われた。「これらは支配する星である。そして、その大いなる星はわたしの近くにあるので、その名をコロブという。[1] わたしは主なるあなたの神である。わたしは、あなたが今立っている星と同じ系統に属するすべての星を治めるように、この星を置いた。」

4 主は、ウリムとトンミムによってわたしに言われた。「コロブは、その回転による時と季節については主の場合と同じであり、その一回転は主の計算の方法によれば主の一[1]日であって、それはあなたが今立っている星に定められた時によれば千[2]年である。これはコロブの計算による主の時の計算である。」

5 主はわたしに言われた。「小さい光である遊星、すなわち夜をつかさどる遊星は、昼をつかさどるものよりも小さいが、計算の点では、あなたが今立っているものよりも上位にある、すなわちもっと大いなるものである。それはもっとゆっくり整然と運行しているからである。これが秩序にかなっているのは、それがあなたの立っている地よりも上位にあるからである。それゆえ、その時の計算は、その日と月と年の数に関してはそれほど多くはない。」

6 主はわたしに言われた。「さて、アブラハム、これら二[1]つの事実がある。見よ、あなたはそれを見ている。あなたには、計算の時と定められた時、すなわち、あなたが立っている地の定められた時と、昼をつかさどるために置かれている大きい光の定められた時と、夜をつかさどるために置かれている小さい光の定められた時を知ることが許されている。

7 さて、小さい光の定められた時は、その時の計算に関しては、あなたが立っている地の時の計算よりも長い。

8 これら二つの事実がある所では、これらの上にまた別の事実がある。すなわち、時の計算がさらに長い別の遊星があるということである。

9 このように、ある遊星の時の計算は別の遊星のそれよりも上位にあり、ついにあなたはコロブに近づく。このコロブは主の時の計算に等しい。このコロブは神の御座の近くに置かれ、あなたが立っている遊星と同じ系統に属するすべての遊星を支配する。

10 あなたには、神の御座に近づくまで、光を与えるために置かれているすべての星の定められた時を知

---

3 ① 模写第二の図の説明1−5を参照。GS「コロブ」
4 ① アブ5・13
② 詩篇90・4、2ペテ3・8
6 ① アブ3・16−19
9 ① 教義88・37−44

ることが許されている。」
11 このように、わたしアブラハムは、人が互いに語り合うように顔と顔を合わせて主と語った。1)そして、主はその手で造られたものについてわたしに告げられた。
12 主はわたしに、「息子よ、息子よ（このように言って御手を伸ばされ）、見よ、わたしはあなたにこれらすべてを示そう」と言われた。そして、主がその手をわたしの両目に当てられると、主の手で造られたそれらのものがわたしに見えたが、それらは数多かった。それらはわたしの目の前で増えて、わたしはその終わりを見ることができなかった。
13 主はわたしに言われた。「これはシネハ、すなわち太陽である。」また、主はわたしに言われた。「ココブ、これは星である。」また、主はわたしに言われた。「オレア、これは月である。」また、主はわたしに言われた。「コカーベアム、これはもろもろの星、すなわち天の大空にあるすべての大きな光を意味する。」
14 主がこれらの言葉をわたしに告げられたのは、夜であった。「わたしはこれらのように、あなたとあなたの後の子孫を1)増やし、2)もしあなたが砂の3)数を数えることができるとすれば、あなたの子孫の数もそのようであろう。」
15 そして、主はわたしに言われた。「アブラハム、あなたがエジプトに入るに先立って、わたしはあなたにこれらのものを示す。それは、あなたがこれらの言葉をすべて告げるためである。
16 もし二つのものがあって、一つが他よりも上位にあるとすれば、これらよりもさらに大いなるものがある。[1]コロブは、あなたが見たすべてのコカーベアムの中で最も大いなるものである。それはわたしの最も近くにあるからである。
17 さて、もし二つのものがあって、一つが他よりも上位にあり、月が地よりも上位にあるとすれば、それよりも上位にある遊星、あるいは星もある。主なるあなたの神が行おうと心にかけたことで、1)行わないことはない。
18 とはいえ、主はさらに大いなる星を造った。同じように、もし二つの霊がいて、一方が他方よりも英知に優れているとしても、一方が他方よりも英知に優れているにもかかわらず、これら二つの霊には初

11 ① 創世17・1、民数12・5−8
14 ① 30 創世13・16、教義132・
② アブ2・9
③ 10 創世22・17、ホセ1・
16 ① アブ3・3
17 ① ヨブ9・4−12

アブラハム書からの模写

第　二



説明

1. コロブ。最初の創造物を表すもので、日の栄えの世界、すなわち神の住まいの最も近くにある。これは支配においては第一、時の計算に関しては最後である。この計算は日の栄えの時によるもので、日の栄えの時の一日は一キュビトを表す。コロブにおける一日は、この地球の計算によれば千年に相当する。エジプト人はこれをヤーオーエーと呼ぶ。

2. コロブの次にあり、エジプト人はこれをオリブリシュと呼ぶ。これは日の栄えの世界、すなわち神が住んでおられる所の近くにある、二番目の大いなる支配する力を持つ創造物である。これもほかの遊星に関する力の鍵を持つ。以上は、アブラハムが主のために築いた祭壇上で犠牲をささげたとき、神からアブラハムに示されたものである。

3. 権威と権能をまとって御座に着いておられる神を表すものとして描かれている。また、頭に永遠の光の冠をかぶっておられる。これはまた、エデンの園でアダムに示され、セツやノア、メルキゼデク、アブラハム、および神権が明らかにされたすべての者に示された、聖なる神権の大いなる鍵の言葉を表す。

4. ヘブライ語のラーキーアンに相当し、天空、すなわち天の大空を意味する。これはまた数字であって、エジプト語で千を意味する。その回転において、また時の計算においてコロブに等しいオリブリシュの時の計算に相当する。

5. エジプト語でエニシ・ゴ・オン・ドシと呼ばれる。これもまた支配する力を持つ遊星の一つであり、エジプト人はこれを太陽であって、カエ・エ・バンラシを通じてコロブから光を受けていると言う。カエ・エ・バンラシは大いなる鍵、言い換えれば支配する力であり、他の十五の恒星すなわち星を支配し、また年々の回転においてフロイースすなわち月と、地球と、太陽も支配する。この遊星は、クリ・フロス・イス・エス、またはハー・コ・カー・ベアム、すなわちコロブの回転から光を受ける22および23の絵図で表されている星を通じてその力を受ける。

6. この地球の四方を表す。

7. 御座に着いておられる神を表し、諸天を通じて神権の大いなる鍵の言葉を示す。また、鳩の形を取ってアブラハムに降られた聖霊のしるしをも示す。

8. 世の人に示すことのできない書き物を含む。しかし、神の聖なる神殿で得られるものである。

9. 今は示されない。

10. 今は示されない。

11. 今は示されない。世の人がこれらの意味を解くことができるならば、解かせなさい。アーメン。

12.

13.

14.

15.

16.

17.

18.

19.

20.

21. これらについては、主の定められたときに明らかにされるであろう。

前述の翻訳は、現在明らかにして差し支えない範囲で明らかにされている。

めがない。彼らは以前に存在しており、彼らには終
わりがなく、彼らは後にも存在する。彼らはグノー[1]
ラーム、すなわち永遠だからである。」
19 主はわたしに言われた。「実にこれら二つの事実
がある。すなわち、二つの霊がいて、一方が他方よ
りも英知に優れている。彼らよりもさらに英知の優
れた別の霊がいる。わたしは主なるあなたの神であ
って、わたしは彼らすべてよりも英知が優れている[1]。
20 主なるあなたの神は天使を遣わして、エルケナの
祭司の手からあなたを救い出した[1]。
21 わたしは彼らすべての中に住んでいる。そして、
わたしの手で造ったものをあなたに告げ知らせるた
めに、わたしは今あなたのもとに降って来たのであ
る。これにおいて、わたしの知恵は彼らすべてに勝
っている。わたしはあらゆる知恵と思慮とをもっ
て、あなたがその目で初めから見てきたすべての英
知たちを、上は天で、下は地で治めているからであ
る。わたしは初めに、あなたの見たすべての英知た
ちの中に降って来た。」
22 さて、主はわたしアブラハムに、世界が存在す
る前に組織された英知たちを見せてくださった。そ
して、これらすべての中には、高潔で偉大な者たち
が多くいた。
23 神がこれらの者を見られると、彼らは良かった。
そこで、神は彼らの中に立って言われた。「わたしは
これらの者を、治める者としよう。」神は霊であった
これらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされ
たからである。また、神はわたしに言われた。「アブ
ラハム、あなたはこれらの者の一人である。あなた
は生まれる前に選ばれたのである。」
24 そして、彼らの中に神のような者が一人立ち、と
もにいた者たちに言った。「あそこに空間があるの
で、わたしたちは降って行こう。そして、これらの
材料を取って、これらの者が住む地を造ろう。
25 そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、
何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべて
のことを彼らがなすかどうかを見よう。
26 第一の位を守る者は付け加えられるであろう。ま
た、第一の位を守らない者は、第一の位を守る者と
同じ王国で栄光を受けることはない。さらに、第二
の位を守る者は、とこしえに栄光をその頭に付け加

18 ①「グノーラーム」とは、永遠を意味するヘブライ語の音訳である
19 ①「全知」イザ55・8—9、GS
20 ①アブ1・15
21 ①教義88・45—47、モセ1・27—29
②GS「知恵」
22 ①GS「前世」「天上の会議」
②GS「英知」
③教義138・55
23 ①イザ49・1—5、エレ1・5、GS「選ばれた者」「予任」
24 ①GS「長子・初子」
②GS「地球（地）—人のために創造された」
③GS「創造」
25 ①教義98・12—14、124・55、GS「贖いの計画」「選択の自由」
②GS「従順・従う」
26 ①KJユダ1・6
②GS「死すべき状態」
③テト1・2、GS「栄光」

えられるであろう。」
27また、主は言われた。「わたしはだれを遣わそうか。」すると、一人が人の子のように答えた。「わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。」また、別の者が答えて言った。「わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。」そこで、主は言われた。「わたしは最初の者を遣わそう。」
28すると第二の者は怒り、その第一の位を守らなかった。そして、その日、多くの者が彼に従った。

第4章

神々、地とその上のすべての生き物の創造を計画される。六日間の創造のための神々の計画が明らかにされる。

1その後、主は、「降って行こう」と言われた。そして、彼らは最初に降って行き、彼らすなわち神々は、天と地を組織し、形造られた。
2地は形造られた後、むなしく、荒涼としていた。彼らが地のほかに何も形造っておられなかったからである。そして、闇が深い淵の面を支配し、神々の御霊が水の面を覆っていた。
3彼ら（神々）は、「光あれ」と言われた。すると、光があった。
4彼ら（神々）はその光を知覚された。それが輝いていたからである。そして、彼らはその光を闇から分けられた、すなわち光が分けられるようにされた。
5神々は光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼ばれた。これが、彼らが昼、夜と呼ばれたものの最初、すなわち初めであった。
6神々はまた言われた。「水の間に天空があって、水と水とを分けよ。」
7神々は、天空の下にある水と天空の上にある水を分けるように天空に命じられた。すると、彼らが命じられたようになった。
8神々はその天空を天と呼ばれた。夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼ばれた。これが、彼らが夜、昼と呼ばれた第二の時であった。
9神々は命じて、「天の下の水は一つ所に集まり、地は乾いて現れよ」と言われた。すると、神々が命じ

27① GS「神・神会ー父なる神」 ② GS「イエス・キリスト」「人の子」 ③ モセ4・1ー2
28① GS「悪魔」 ② GS「滅びの子」
第4章
1① 創世1・1、モセ2・1 ② GS「創造」 創世1・2、モセ2・2
6① 創世1・4ー6、モセ2・4
8① GS「天」 ② 創世1・8
9① アモ9・6、モセ2・7 ② 創世1・9

られたようになった。
10 神々は乾いた地を陸と宣言し、水の集まった所
1)大海と宣言された。神々はそれらが従うのを見られた。
11 神々は言われた。「地を備えて、1)青草と、種を持つ草と、種類に従って自らの形を生じる種を持つ実を結ぶ果樹を地の上に生えさせよう。」すると、神々が命じられたようになった。
12 神々は地を組織して、青草がその種から生えるようにし、また草がその種から生え、種類に従って種を生じるようにされた。また地を組織して、木をその種から生えさせ、種類に従って同じもののみを生じる種を持つ実を結ぶようにされた。神々はそれらが従うのを見られた。
13 そして、神々は日を数えられた。夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼ばれた。それが第三の時であった。
14 神々は天の大空に1)光を組織して、それらに昼と夜とを分けさせ、またそれらを組織して、しるしのため、季節のため、日のため、年のためとならせ、
15 またそれらを組織して、天の大空にあって地を照らす光とならせられた。すると、そのようになった。
16 神々は二つの大きな光を組織して、1)大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせられた。また、小さい光とともにもろもろの星も置かれた。
17 神々はこれらを天の大空に置いて地を照らさせ、昼と夜とをつかさどらせ、光と闇とを分けさせられた。
18 神々は命じられたこれらのものが従うまで見守られた。
19 夕から朝まで夜があり、朝から夕まで昼があった。それが第四の時であった。
20 神々は言われた。「水を備えて、命を持つ動く生き物を豊かに生じさせ、また鳥が地の上、天の大空を飛ぶようにさせよう。」
21 神々は水を備えて、海の大いなる1)獣と、水に群がるすべての動く生き物とをその種類に従って生じさせ、また翼のあるすべての鳥をその種類に従って生じさせられた。そして、神々はそれらが従うのを見、またその計画が良いのを見られた。
22 神々は言われた。「わたしたちはこれらを祝福し

10① 創世1・10、アブ4・22
11① 創世1・11−12、モセ2・11−12
14① 教義88・7−11
16① 創世1・16
21① 創世1・21、モセ2・21

て、生み、増え、海の水すなわち1)大海に満ちるようにさせ、また鳥も地に増えさせよう。」
23そして、夕から朝までを、神々は夜と呼ばれた。また、朝から夕までを、昼と呼ばれた。それが第五の時であった。
24神々は地を備えて、生き物をその種類に従って生じさせ、家畜と、這うものと、地の獣とをその種類に従って生じさせられた。そして、神々の言われたようになった。
25神々は地を組織して、獣をその種類に従い、家畜をその種類に従い、また地を這うすべてのものをその種類に従って生じさせられた。神々はそれらが従うのを見られた。
26神々は協議して言われた。「降って行って、わたしたちの1)形に、わたしたちにかたどって2)人を形造ろう。そして、彼らに、海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべてのものと、地のすべての這うものを治めさせよう。」
27そこで、1)神々は降って行って、御自分の形に人を組織し、神々の形に人を形造り、男と女に形造られた。
28そして、神々は、「彼らを祝福しよう」と言われた。また、神々は言われた。「彼らに、生み、増え、地に満ち、地を従わせるようにさせよう。また、海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物を治めさせよう。」
29また、神々は言われた。「見よ、わたしたちは全地の面に生える種を持つすべての草と、実を結ぶすべての木を彼らに与えよう。まことに、種を生じる木の実を彼らに与えよう。それは彼らの1)食物となるであろう。
30また地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべてのものに、まことに、命を与えよう。さらに、これらに食物としてすべての青草を与えよう。すべてこれらのものはこのようにして組織されるであろう。」
31神々は言われた。「わたしたちは言ったことをすべて行い、これらを組織しよう。見よ、これらはよく従うであろう。」そして、夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼ばれた。神々は1)第六の時を数えられた。

---

22 1) アブ 4・10
24 1) GS「神」
26 1) モセ 6・8−10
2) GS「人」
27 1) 創世 1・26−27、アブ 5・7
29 1) 創世 1・29−30
31 1) 出エ 31・17

アブラハム書からの模写

第　三



説明

1. 王の厚意によって、パロの王座に座っているアブラハム。その頭に神権を象徴する冠をかぶっている。これは天における大いなる管理会を象徴するものである。また、彼はその手に公正と公平の笏を持っている。
2. 王パロ。その名は頭上の文字で示されている。
3. エジプトでのアブラハムを表す。模写第一の10でも与えられている。
4. エジプトの王パロの王子。手の上に記されているとおりである。
5. シュレム。王の給仕頭の一人。その手の上の文字に表されているとおりである。
6. オリムラ。王子の奴隷。

アブラハムは王の宮廷で天文学の原理を説いている。

第5章

神々、万物の創造の計画を終えられる。神々、その計画に従って創造を成し遂げられる。アダム、すべての生き物に名を付ける。

1 「このようにわたしたちは天と地と、その万象を完成しよう。」
2 神々は互いに言われた。「1)第七の時に、わたしたちの協議した業を終えよう。そして、第七の時に、わたしたちの協議したすべての業を離れて休もう。」
3 神々は第七の時に終えられた。第七の時に、神々は協議して形造ったすべての業を離れて1)休もうとされたからである。そして、それを2)聖別された。神々が天と地を形造ろうとして協議したときに決められたことは、このとおりであった。
4 これが、神々が降って来て、これらを形造られた天地創造の由来である。神々が地と天を形造られたとき、
5 すべて神々が言われたとおりに、野のすべての植物については、地には1)まだそれが生えておらず、また野のすべての草も生えていなかった。神々がこれらを行うことを協議されたとき、地にまだ雨を降らせておらず、土を耕す人も形造っておられなかったからである。
6 しかし、霧が地から立ち上って、土の全面を潤した。
7 1)神々は土のちりで2)人を形造り、彼の3)霊（すなわち、人の霊）を取ってそれを彼の中に入れられた。そして、命の息をその鼻に吹き入れられると、人は4)生けるものとなった。
8 神々は東の方、1)エデンに一つの園を設けて、神々が先に形造った体の中にその霊を入れた人をそこに置かれた。
9 また、神々は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土から生えさせ、さらに園の中央に1)命の木と善悪を知る木を生えさせられた。
10 エデンから流れ出る一つの川があって園を潤し、それはそこから分かれて四つの川となった。
11 神々は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。
12 神々はその人に命じて言われた。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

第5章
2 1) GS「安息日」
3 1) 出エ20・8−11、モサ13・16−19
5 1) GS「霊の創造」 2) 教義77・12
7 1) アブ4・26−31 2) モセ4・25、6・59 3) 創世2・7、教義93・33、GS「前世」「霊」 4) GS「人（霊を持つ存在としての）」
8 1) GS「エデン」
9 1) GS「命の木」

13 しかし、善悪を知る木からは取って食べてはならない。あなたはそれを食べるときに、必ず死ぬからである。」さて、わたしアブラハムは、それが主の時[1)]、すなわちコロブ[2)]の時に基づいているのを知った。神々はまだアダムに時の計算を定めておられなかったからである。

14 また、神々は言われた。「この人のためにふさわしい助け手を造ろう。人が独りでいるのは良くないからである。それゆえ、わたしたちは彼のためにふさわしい助け手を形造ろう。」

15 そこで、神々はアダム[1)]を深く眠らせられた。そして、彼が眠ると、神々は彼のあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。

16 神々は人から取ったあばら骨で一人の女[1)]を形造り、人のところへ連れて来られた。

17 すると、アダムは言った。「これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉。今や、男から取ったものだから、これを女と呼ぼう。」

18 それで、人はその父と母を離れて、妻と結び合い[1)]、二人は一体[2)]となるのである。

19 人とその妻は、二人とも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

20 神々は野のすべての獣と、空のすべての鳥を土で形造り、アダムのところへ連れて来て、彼がそれらをどう呼ぶかを見られた。アダムがすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。

21 それでアダムは、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣に名を付けた。また、アダムにはふさわしい助け手が見つかった。

---

13 ① 2ペテ3・8
② アブ3・2—4、GS「コロブ」
15 ① GS「アダム」
16 ① GS「エバ」
18 ① 教義42・22、49・15—16
② GS「結婚」

ジョセフ・スミス―マタイ

千八百三十一年に預言者ジョセフ・スミスに啓示された『聖書』の翻訳からの抜粋。マタイによる福音書第二十三章三十九節、および第二十四章。

イエス、間近に迫ったエルサレムの滅亡を予告される。イエス、人の子の再臨と悪人の滅亡についても話される。

1 「わたしは言っておく。あなたがたは、『主の御名によって、天の雲の中をすべての聖なる天使たちとともに来られる方に、祝福あれ』と言うときまで、今から後わたしに会うことも、わたしが預言者たちによって書き記された者であるのを知ることもないであろう。」そのとき、イエスの弟子たちは、イエスが栄光を受けて神の右で冠を受けられた後、再び地上に来られるということを理解した。

2 そして、イエスが神殿から出て行かれると、弟子たちがイエスの言葉を聞こうとして近寄って来て言った。「先生、あなたは、『これらは崩され、荒れ果てるに任されるであろう』と言われましたが、この神殿の建物についてわたしたちにお示しください。」

3 そこで、イエスは彼らに向かって言われた。「あなたがたは、これらすべてのものを見て、それが分からないのか。よく言っておく。この神殿では、その石が一つでも崩されずに他の石の上に残ることはないであろう。」

4 イエスは彼らを後に残し、オリブ山に登られた。そして、オリブ山で座っておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「どうぞお話しください。あなたが神殿の滅亡とユダヤ人について言われたこれらのことは、いつ起こるのでしょうか。あなたがおいでになる時や、世の終わり、すなわち、世の終わりである悪人の滅亡には、どのようなしるしがありますか。」

5 そこで、イエスは答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。

6 多くの者がわたしの名を名乗って現れ、『わたしがキリストだ』と言って、多くの人を惑わすであろ

ジョセフ・スミスーマタイ

1 ① 11 マタ26・64、使徒1・GS「神」
3 ①②ルカ19・44
4 ①GS「オリブ山」
②GS「イエス・キリストの再臨」
③GS「世―世の終わり」
④マラ4・1、教義133・64―74、GS「邪悪」
⑤ルカ21・7―36、教義45・16―75、GS「終わりの時」「時のしるし」

う。
7 そのとき、人々はあなたがたを苦[1]しみに遭わせ、
また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名
のためにすべての民に憎[2]まれるであろう。
8 そのとき、多くの人がつまずき、また互いに裏切
り、憎み合うであろう。
9 また、多くの偽預言者が起こって、多くの人を惑
わすであろう。
10 また、不法がはびこるので、多くの人の愛[1]が冷え
るであろう。
11 しかし、確固としていて打ち負かされない者は救
われる。
12 エルサレムの滅亡[1]について預言者ダニエル[2]によっ
て言われた荒らす憎[3]むべき者を見たならば、聖[4]なる
場所に立たなければならない。読む者は理解しなさ
い。
13 そのとき、ユダヤにいる人々は山[1]へ逃げなさい。
14 屋上にいる者は逃げなさい。家から物を取り出そ
うとして戻ってはならない。
15 畑にいる者は、上着を取りに戻ってはならない。
16 その日には、身重[1]の女と乳飲み子を持つ女は不幸
である。
17 それであるから、あなたがたの逃げるのが冬や安
息日にならないように、主に祈りなさい。
18 そのときには、それらの日には、ユダヤ人[1]とエル
サレムに住む者に大きな艱難が起こるからである。
それは、イスラエルの王国の初めから今に至るま
で、かつて神からイスラエルに下されたことがな
く、また今後もイスラエルに下されることがないほ
どの艱難である。
19 しかし、彼らに起こるすべてのことは、彼らに及
ぶ数々の悲しみの始まりにすぎない。
20 もしその期間が縮められないなら、救われる者は
一人もないであろう。しかし、選民のためには、聖
約に従ってその期間が縮められるであろう。
21 見よ、わたしはユダヤ人について、あなたがたに
これらのことを語った。さらにまた、エルサレムに
及ぶそれらの日の艱難の後、だれかがあなたがた
に、『見よ、ここにキリストがいる』、また『あそこ
にいる』と言っても、信じてはならない。
22 それらの日には、偽キリストたちや偽預言者たち
も起こって、大きなしるしと不思議を示し、できれ

7 ① 1ペテ4・12—14
② GS「迫害」
10 ① 教義45・27
12 ① GS「エルサレム」
② GS「ダニエル」
③ ダニ12・11
④ 教義101・22—25
13 ① 教義133・13
16 ① ルカ23・29—30
18 ① GS「ユダヤ人」
② ゼカ12章、14・1—5

ば、聖約による選民である真の選民をも惑わそうとするであろう。
23 見よ、1)選民のために、わたしはあなたがたにこれらのことを語るのである。あなたがたはまた、2)戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。慌てないように気をつけなさい。わたしがあなたがたに告げたことはすべて、必ず起こるからである。しかし、まだ終わりではない。
24 見よ、わたしはあなたがたに前もって話した。
25 だから、人々が、『見よ、彼は荒れ野にいる』と言っても、出て行ってはならない。『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはならない。
26 ちょうど朝の光が1)東から出て、西に照り、全地を覆うように、人の子も来るからである。
27 さて、わたしはあなたがたに一つのたとえを示そう。見よ、死体のある所には、はげたかが集まるものである。それと同じように、わたしの選民は地の四方から1)集められるであろう。
28 そして、彼らは戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。
29 見よ、わたしは、わたしの選民のために語る。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に1)飢饉と疫病と地震があるであろう。
30 さらにまた、不法がはびこるので、人々の愛が冷えるであろう。しかし、打ち負かされない者は救われる。
31 さらにまた、この王国の福音は、すべての民への証として、1)全世界に宣べ伝えられるであろう。それから、終わり、すなわち悪人の滅亡が来るのである。
32 そして、荒らす憎むべき者について預言者ダニエルによって言われたことが、再び成就するであろう。
33 それらの日の艱難の後すぐに、1)太陽は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は天から落ち、天の力は揺り動かされるであろう。
34 よく言っておく。わたしがあなたがたに告げたすべてのことが成就するまでは、これらのことが示されるこの時代は過ぎ去ることがない。
35 天地の過ぎ去る日は来るが、それでもわたしの1)言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就するであろう。
36 前に言ったように、それらの日に1)艱難があり、天

23 ①
GS「選民」
26 ①②
教義45・26
27 ①
エゼ43・2
GS「イスラエルの集合」
29 ①
教義43・24—25
31 ①
マタ28・19—20
33 ①
ヨエ2・10、教義29・14
35 ①
教義1・38
36 ①
ジーマタ1・18

の力が揺り動かされた後、人の子のしるしが天に現れるであろう。そのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって人の子が天の雲の中を来るのを見るであろう。

37 だれでもわたしの[1]言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない。人の子は来て、大きなラッパの音とともに[2]天使たちを先立って遣わすであろう。すると天使たちは、天の果てから果てまで、四方から[3]選民の残りの者を呼び集めるであろう。

38 [1]いちじくの木から、たとえを学びなさい。その枝がまだ柔らかで、葉を出し始めると、夏の近いことが分かる。

39 そのように、わたしの選民は、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていることが分かるであろう。

40 しかし、その日、その時は、だれも[1]知らない。天にいる神の天使たちも知らない。ただ父だけが知っておられる。

41 人の子の来臨の時も、ちょうど[1]ノアの時代と同じようである。

42 人々は、[1]洪水の前の日々のような状態であろう。ノアが箱船に入る日まで、人々は食べたり、飲んだり、めとったり、嫁いだりしていた。

43 そして、洪水が襲ってきて、すべてのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の来臨もそのようであろう。

44 そのとき、記されていることは成就するであろう。すなわち、[1]終わりの時には、二人が畑にいると、一人は取り去られ、一人は残される。

45 二人が臼をひいていると、一人は取り去られ、一人は残される。

46 わたしは一人に言うことを、すべての人に言う。だから、[1]目を覚ましていなさい。いつあなたがたの主が来るか、あなたがたには分からないからである。

47 このことをわきまえていなさい。家の主人は盗人がいつごろ来るか分かっていたら、目を覚ましていて、自分の家に押し入られるのを許すことなく、用意をしていたであろう。

48 だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけないときに人の子は来るからである。

49 主人がその家の僕たちの上に立てて、時に応じて

---

36 ②GS「イエス・キリストの再臨」
37 ①教義29·11−15 ②③GS「イスラエルーイスラエルの集合」
38 ①教義35·16
40 ①教義39·20−21、49·7
41 ①①創世6·5
42 ①①GS「ノアの時代の洪水」
44 ①①GS「終わりの時」 ②ゼカ13·8
46 ①②GS「見守る·見守る者」

食物を備えさせる[1]忠実な思慮深い僕は、一体だれ
であろうか。
50 主人が帰って来たとき、そのように務めているの
を見られる僕は幸いである。よく言っておく。その
主人は、彼に自分の全財産を管理させるであろう。
51 しかし、それが悪い僕であって、『主人は帰りが[1]遅
い』と心の中で思い、
52 その僕仲間をたたき始め、また酒飲み仲間と一緒
に食べたり飲んだりしているなら、

53 その僕の主人は、思いがけない日、気がつかない
時に帰って来て、
54 彼を厳罰に処し、偽善者たちと同じ目に遭わせる
であろう。彼はそこで涙を流し、[1]歯ぎしりをするで
あろう。
55 このように、『彼らは民の中から絶たれるであろ
う』というモーセの預言のとおりに、悪人の[1]終わり
が来る。しかし、世の終わりはまだであって、それ
はやがて来る。」

49 ① GS「信頼」
51 ① 教義45・26
54 ① マタ8・12
55 ① 2ニフ30・10、教義1・9—10、29・17、GS「世—世の終わり」

ジョセフ・スミス—歴史

預言者ジョセフ・スミスの歴史からの抜粋

『教会歴史』第一巻、一—五章

ジョセフ・スミス、自分の先祖と家族と、家族が以前に住んでいた所について述べる。宗教についての異常な騒ぎがニューヨーク州西部に広がる。ジョセフ・スミス、ヤコブより指示されたとおりに知恵を求めることを決心する。御父と御子が現れ、ジョセフは預言者の務めに召される。（第一—二十節）

1 1)末日聖徒イエス・キリスト教会の2)起こりと発展に関して、たちが悪く腹黒い人々によって、多くのうわさが広められてきた。これらすべてのうわさは、その扇動者たちがこの教会の教会としての名声と世における発展とを損なおうと企てたものである。そのために、わたしはこの歴史を書くに至った。それは、世間の考えを正すためであり、また、真相を知ろうとするすべての人に、わたしが事実を知っている範囲で、わたし自身と教会の両方に関してその事実を起こったとおりに知らせるためである。

2 この歴史の中で、わたしは、真実かつ公正にこの教会に関する様々な出来事を、それらが起こったとおりに、あるいは現在あるとおりに述べよう。今や、この教会が組織されて八年目（千八百三十八年）である。

3 1)わたしは主の千八百五年十二月二十三日に、バーモント州ウィンザー郡シャロンの町で生まれた。……わたしの父2)ジョセフ・スミス・シニアはバーモント州を去って、ニューヨーク州オンタリオ郡（現在のウェイン郡）パルマイラに移り住んだ。当時、わたしは十歳くらいであった。父はパルマイラに着いてから約四年たって、家族とともに、同じオンタリオ郡内のマンチェスターに移った。

4 家族は十一人から成っていた。それは、父1)ジョセフ・スミス、母ルーシー・スミス（母の2)結婚前の姓はマックといい、ソロモン・マックの娘であった）、

ジョセフ・スミス—歴史
1 ① GS「末日聖徒イエス・キリスト教会」
② GS「福音の回復」
2 ① ② 教義20・1
3 ① GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」
② 2ニフ3・15
4 ① ② GS「スミス、ジョセフ、シニア」
② GS「スミス、ルーシー・マック」

兄弟たち、すなわちアルビン[3]（千八百二十三年十一月十九日、二十五歳で死去）[4]、ハイラム、わたし自身、[5]サミュエル・ハリソン、ウィリアム、ドン・カーロス、それに姉妹たち、すなわちソフロニア、キャサリン、およびルーシーであった。

5 マンチェスターに移り住んでから二年目のあるとき、わたしたちが住んでいた地域に宗教に関する異常な騒ぎがあった。それはメソジスト教徒から始まったが、間もなく広くその地域内のすべての教派に及んだ。実に、その地方全体がそれに影響されたようであった。そして、大勢の群衆が様々な教派に加わり、それが人々の間にただならぬ騒ぎと分裂を引き起こした。「見よ、ここだ」と叫ぶ人がいれば、「見よ、そこだ」と叫ぶ人もいた。ある人はメソジスト派の教えを、ある人は長老派の教えを、またある人はバプテスト派の教えを擁護して論争していた。

6 これら様々な教派に転じた改宗者たちは、改宗のときに深い愛を表明し、また、この尋常でない宗教的感情の場面を引き起こし助長するのに深くかかわった牧師たちは、すべての人を改心させるために、どこでも自分の好む教派に加わりなさいと言って、大いなる熱意を表した。にもかかわらず、改宗者たちのある人々はある教派、またある人々は別の教派というように所属が定まり始めると、牧師たちと改宗者たちの好ましく見えた感情は、真実ではなく偽りであるように思われた。牧師が牧師と、改宗者が改宗者と言い争うひどい混乱と悪感情の場面がこれに続き、その結果、すべてお互いの好感情は、もしかつて幾らかでもそのようなものがあったとしても、今は言葉の争いと見解についての論争ですっかり失われてしまったからである。

7 わたしは当時十四歳であった。父の家族は長老派の教えを受け入れ、そのうちの四人、すなわち母のルーシー、兄弟のハイラムとサミュエル・ハリソン、および姉のソフロニアがその教会に加入した。

8 このひどい騒ぎの間、わたしは心の中で深く考えさせられ、大きな不安を感じないではいられなかった。しかし、わたしの気持ちに深く、またしばしば痛烈に感じるものがあったにもかかわらず、なおわたしはこれらすべての教派から遠ざかっていた。それでも、機会があるごとに、彼らのいろいろな集まりには出席した。そうするうちに、わたしの心はや

---

3 教義137・5―6
4 GS「スミス、ハイラム」
5 GS「スミス、サミュエル・H」
1 マタ24・23
6 GS「争い」

やメソジスト派に傾き、彼らに加わりたいとかなり望むようになった。しかし、様々な教派間の混乱と争いが非常に激しかったので、わたしのように若く、世間のことを知らない者にとって、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。

9 わたしの心は時々ひどくかき乱され、叫び声と騒ぎの渦は熾烈なもので絶えることがなかった。長老派の人々は、バプテスト派の人々とメソジスト派の人々に断固反対し、あらん限りの理屈と詭弁の力を用いて彼らの誤りを立証しよう、あるいは少なくとも彼らは誤っていると人々に思わせようとした。他方、バプテスト派の人々とメソジスト派の人々は、彼らは彼らで、同じくらい熱心に、彼ら自身の教義を確立して他がことごとく誤っていることを立証しようと努めた。

10 この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中にあって、わたしはしばしば心に問うた。「何をしなければならないのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが[1]正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。」

11 これら宗教家たちの論争によって引き起こされた、極度に難しい事情の下で苦しんでいたある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第一章五節を読んでいた。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」

12 この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった。それはわたしの心の隅々に大きな力で入り込んで来るように思われた。もしだれか神からの知恵を必要とする者がいるとすれば、それは自分であることを悟って、わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした。なぜならば、わたしはどうしてよいか分からず、また自分がそのときに持っていた知恵よりも深い知恵を得られなければ、どのように行うべきかまったく分からなかったからである。それというのも、様々な教派の教師たちは同じ聖句を異なって[2]解釈し、その結果、『聖書』に訴え

---

10 ① GS「真理」
12 ① 1コリ2·10—16
② GS「聖書」

て疑問を解決することへの信頼をすべて打ち砕いてしまっていたからである。

13 とうとうわたしは、暗闇と混乱の中にとどまるか、それともヤコブが指示しているとおりに行うか、すなわち神に願い求めるか、どちらかにしなければならないという結論を出すに至った。わたしはついに「1)神に願い求め」ようと決意した。もし神が知恵に不足している者に知恵を与え、しかもとがめもせずに惜しみなく与えてくださるならば、思い切って願い求めてみるべきだと結論づけたのである。

14 そこで、神に願い求めるというこの決心に従って、わたしはこれを実行するために人目を避けて森に入って行った。それは千八百二十年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。わたしがこのようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のまっただ中にあっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。

15 わたしは前もって決めておいた場所に人目を避けて行き、辺りを見回し、自分一人であることを確かめると、ひざまずいて、心の願いを神に告げ始めた。わたしがそうし始めるやいなや、すぐにわたしは何かの力に捕らえられた。その力は完全にわたしを圧倒し、わたしの舌をしびれさせるほどの驚くべき力を振るったので、わたしは物を言うこともできなかった。深い闇がわたしの周囲に集まり、一時はあたかも突然の滅びを宣告されたかのように思われた。

16 しかし、わたしは自分を捕らえたこの敵の力から救い出してくださるようにと、あらん限りの力を尽くして神に[1)]呼び求めた。すると、わたしが今にも絶望し、破滅に身を任せようとしたその瞬間、すなわち想像上の破滅ではなく、目に見えない世界から来た実在する何者かの力、わたしがこれまでいかなる者にも一度も感じたことのないほどの驚くべき力を持った者の力に身を任せようとした瞬間、この非常な恐怖の瞬間に、わたしは自分の真上に、[2)]太陽の輝きにも勝って輝いている[3)]光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

17 それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと[1)]栄光を持つ[2)]二人の御方がわたしの上

13 ① GS「祈り」
14 ① GS「祈り」
16 ① モセ1・20
② 黙示1・16
17 ① 使徒26・13
② GS—栄光
③ 使徒7・55—56、コロ3・1、GS「神」

の空中に立っておられるのを見た。[3]すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、「これはわたしの[4]愛する[5]子である。彼に聞きなさい」と言われた。

18 わたしが主にお伺いしようとした目的は、自分が加わるべき教派を知るために、すべての教派のうちのどれが正しいかを知ることであった。そこで、わたしは我に返って物を言えるようになるやいなや、わたしの真上で光の中に立っておられた方々に、すべての教派のうちのどれが正しいか（当時は、すべての教派が間違っているということなど、わたしの心に思い浮かびもしなかったからである）、また自分はどれに加わるべきかを伺った。

19 すると、それらのどれにも加わってはならない、すべて[1]間違っているからである、とのお答えであった。また、わたしに話しかけられた御方は、彼らの信条はことごとくその目に忌まわしいものであり、信仰を告白するそれらの者たちはすべて腐敗しており、「彼らは唇をもってわたしに[2]近づくが、[3]その心はわたしから遠く離れている。彼らは人の[4]戒めを教義として教え、[5]神を敬うさまをするけれども神の力を否定している」と言われた。

20 その御方は再びわたしに、それらのどれにも加わることを禁じられた。また、ほかにも多くのことをわたしに言われたが、今はそれを書くことができない。わたしは再び我に返ると、自分が天を見上げて仰向けに横たわっているのに気づいた。光が去った後、わたしには力がなかった。しかし、間もなくある程度力を取り戻したので、家に帰った。そして、暖炉に寄りかかっていると、母がどうしたのかと尋ねた。そこでわたしは、「何でもありません。大丈夫です。元気です」と答えた。それから、わたしは母に、「長老派の教えは真実でないことが自分で分かりました」と言った。[1]敵対する者が、わたしの生涯のきわめて早い時期に、わたしが彼の王国を妨げ悩ます者になると定められていたことに気づいたかのように思われる。そうでなければ、どうして闇の力がわたしに敵対して連合したのであろうか。どうしてわたしがまだ幼いときに、わたしに対して[2]反対と迫害が起こったのか。

ある説教者たちと信仰を告白するほかの者たちは、

---

17 ③ GS「示現」
④ マタ3・17、17・5、
⑤ GS「イエス・キリスト」
18 ① 教義6・11、46・7
19 ① 詩篇14篇、GS「背教・背信—過去のキリスト教会における背教」
② イザ29・13—14、エゼ33・30—31
③ GS「背教・背信—一般的な背教」
④ テト1・14、教義45・20
⑤ 2テモ3・5
29 ① GS「悪魔」
② 2ニフ2・11、教義58・2—4、GS「逆境」
3 ニフ11・7
GS「イエス・キリスト」

最初の示現の話を拒絶する。幾多の迫害がジョセフ・スミスに及ぶ。彼は示現が事実であったことを証する。（第二十一—二十六節）

21 わたしはこの1)示現を受けてから数日後、前に述べた宗教上の騒ぎの中で盛んに活動をしていたメソジスト派の説教者の一人とたまたま一緒になった。そして、宗教のことについて彼と語るうちに、わたしは、その機会をとらえて、自分の受けた示現の話をした。ところが、わたしは彼の振る舞いにひどく驚いた。彼はわたしの話を軽くあしらっただけでなく、ひどく軽蔑した調子で、それはすべて悪魔から出たものであって、この時代に2)示現や3)啓示のようなものはなく、そのようなものはすべて使徒たちで終わっており、今後決してそのようなものはない、と言った。

22 しかし、それから間もなく、わたしがその話をしたことが、信仰を告白する人々の間にわたしに対する大きな偏見を引き起こし、ひどい1)迫害の原因となったことを、わたしは知った。そして、迫害は増し続けた。わたしはたかが十四、五歳の名もない少年であり、生活の状況からいっても世の人々の中で2)取るに足りない少年であったにもかかわらず、地位のある人々はわたしに目を留めて、一般の人々の心をわたしに敵対するようにあおり、激しい迫害を引き起こそうとしたのである。これはすべての教派に共通したことで、すべてが連合してわたしを迫害したのであった。

23 当時、真剣に考えさせられ、またそれ以来しばしば考えさせられてきたことであるが、十四歳を少し超えたばかりの名もない少年、それも日々の労働によってわずかな生活費を得なければならない定めに置かれた少年が、当時最も評判の良い教派に属する偉い方々の注意を引き、最も激しい迫害と悪口雑言を浴びせようとする思いを彼らの心中に起こすほどの重要人物と思われようとは、何とも不思議なことである。しかし、不思議であろうとなかろうと、それは事実であり、しばしばわたし自身にとってひどい悲しみの種となった。

24 しかしながら、それでもわたしが示現を見たことは事実であった。わたしはそれ以来、自分は1)パウロによく似た心境であると思ってきた。彼はアグリッ

---

21 ①GS「最初の示現」 ②GS「示現」 ③GS「啓示」 22 ①新ヤコ5・10—11、GS「迫害」 ②サ上16・7、アル37・35 24 ①GS「パウロ」

パ王の前で弁明し、自分が示現を受けて光を見、声を聞いたことを話した。それでもなお、彼を信じた者はほとんどなかった。ある者たちは彼は不正直だと言い、ほかの者たちは彼は気が狂っていると言った。そして、彼はあざけられ、ののしられた。しかし、すべてこのことも、彼が示現を受けたという事実を損なうことはなかった。彼は示現を見た。彼はそのことを知っており、天の下のあらゆる迫害も、その事実を変えることはできなかった。たとえ迫害されて死に至ろうとも、それでも彼は、自分が光を見、自分に語りかける声を聞いたことを知っていたのであり、最後の一息まで知っていたことだろう。全世界も、彼にそうでないと考えさせ、信じさせることはできなかった。

25 わたしについても同じであった。わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の[1]御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。そして、そのように言ったことで、人々がわたしを迫害し、わたしをののしり、わたしに対して不当にあらゆる悪口を浴びせているとき、わたしはこのように心の中で言うようになった。「真実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか。わたしは実際に示現を見た。どうしてわたしは神に逆らえようか。なぜ世の人々はわたしが実際に見たものを否定させようとするのか。」わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを[2]否定できず、またそうする勇気もなかった。少なくともわたしは、そのようにすれば自分が神に対して罪を犯し、罪の宣告を受けるということを知っていた。

26 教派社会に関するかぎり、わたしは今や心に満足を得ていた。すなわち、それらのどれにも加わる義務はなく、次の指示があるまでそのままでいればよかったのである。わたしは[1]ヤコブの証が真実であることを知った。すなわち、知恵に不足している者は神に願い求めることができ、そうすればとがめを受けることなく知恵を得られる、と。

モロナイ、ジョセフ・スミスに現れる。ジョセフの名は良くも悪くもすべての国民の中で知られるように

---

24 ②
25 ①使徒26・1—32
② ジ—歴史1・17
GS「高潔」「勇敢・勇気」
26 ①新ヤコ1・5—7

なる。モロナイ、『モルモン書』と来るべき主の裁きについて彼に告げ、また多くの聖句を引用する。金版の隠し場所が明らかにされる。モロナイ、引き続き預言者を教える。（第二十七―五十四節）

27わたしは千八百二十三年九月二十一日まで、この世の普通の仕事に従事していた。その間ずっと、宗教心のある人か宗教心のない人かを問わず、あらゆる階級の人々から容赦のない迫害を受けていた。わたしが示現を見たことを断言し続けたからである。

28示現を受けたときから千八百二十三年までの間、わたしは当時のどの教派にも加わることを禁じられており、非常に未熟な年齢でもあって、本来ならばわたしの友となり、わたしを優しく扱い、もしもわたしが惑わされていると思ったならば、適切な愛情に満ちた方法でわたしを改心させるように努めて当然であった人々によって迫害されたため、わたしはあらゆる誘惑[1]を受けるに任された。また、わたしはいろいろな人々と交わって、しばしば多くの愚かな誤りを犯し、若者としての弱さと人間性の至らなさを示した。遺憾ながら、このために神の目にかなわない様々な誘惑に誘い込まれた。この告白をしたからといって、わたしが何か大きな罪、すなわち憎むべき罪を犯したと思うには及ばない。このような罪を犯す性質など、決してわたしにはなかった。しかし、わたしは軽率な行動をし、時には陽気な仲間と交わるなどして、わたしのように神から召[2]された者が当然保つべき性格に一致しない行動をした。しかし、わたしの若いころを思い出し、わたしの生来の陽気な気質を知っている人には、このことはそれほど不思議には思われないであろう。

29これらのことの結果、わたしはしばしば自分の弱さと不完全さのゆえにとがめを感じた。そして、前に述べた九月二十一日の夜のことである。わたしはその夜、床に就いた後、全能の神に、わたしのすべての罪と愚かな行いを赦してくださるように、また神の前における自分の状態と立場を知るために示しを下さるように、祈って[1]嘆願した。以前に受けたように、神の示しを頂けるという十分な確信があったからである。

30わたしはこのように神に呼び求めていたとき、室

29 ①②
28 ①
GS GS GS
「誘惑」
「召し」
「祈り」

内に光が現れたのに気づいた。その光は次第に明るさを増し、ついにその部屋は真昼の時よりも明るくなった。すると、すぐに[1]一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ、空中に立たれた。というのは、その足が床から離れていたからである。

31 その方はこの上なく美しい[1]白さの、ゆったりとした衣を着ておられた。それは、わたしがこれまで見たこの世のいかなるものにも勝る白さであった。この世のいかなるものも、これほど白く輝いて見えるようにすることはできないと思う。その方の手はあらわで、衣の袖は手首の少し上までで、その足もあらわで、衣の裾は足首の少し上までしかなかった。その頭と首も覆われていなかった。その方の胸が見えるほど衣がゆったりとしていたので、わたしはその方がその衣のほか何も着ておられないのに気づいた。

32 その衣が非常に白かっただけでなく、その全身も筆紙に尽くし難い[1]輝きに満ち、その顔はまことに[2]稲妻のようであった。部屋は非常に明るかったが、その方のすぐ周りほど明るくはなかった。わたしは最初にその方を見たときに恐れたが、[3]その恐れはすぐに去った。

33 その方はわたしの[1]名を呼び、自分は神の前から遣わされた使者であること、その名はモロナイであること、神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることをわたしに告げられた。

34 その方はまた、この大陸の先住民の話と彼らの起源を伝える、[1]金版に記された[2]書が隠されていることも告げられた。また、それには救い主がその昔の住民に述べられたままに[3]完全な永遠の福音が載っていることも告げられた。

35 また、銀のつるにはめた二つの石も版とともに隠されていること——これらの石は[1]胸当てに付けてあって、ウリムとトンミムと呼ばれるものを成す——これらの石を[2]所有して使った者が昔すなわち前の時代の[3]「聖見者」となったこと、ならびにその書を翻訳するために神がそれらを備えてくださったことを、その方は告げられた。

36 その方はこれらのことをわたしに告げられた

30 ①GS「天使」「モロナイ（モルモンの息子）」
31 ①使徒10・30、1ニフ8・5、3ニフ11・8
32 ①3ニフ19・25、GS「栄光」 ②出エ34・29—35、ヒラ5・36、教義110・3 ③出エ3・6、エテ3・6—8、19
33 ①出エ33・12、17、イザ45・3—4
34 ①GS「金版」 ②GS「モルモン書」 ③GS「福音の回復」
35 ①レビ8・8、GS「胸当て」 ②出エ28・30、GS「ウリムとトンミム」 ③GS「聖見者」

後、『旧約聖書』の預言を引用し始められた。最初にマラキ書の第三章の一部を引用し、またわたしたちの『聖書』に言われているのとは少し異なるが、同じ預言の第四章、すなわち最後の章も引用された。わたしたちの『聖書』にあるとおりに第一節を引用する代わりに、次のように引用された。

37 「見よ、炉のように燃える日が来る。すべて高ぶる者と悪を行う者は、わらのように燃える。やがて来る者たちが彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない、と万軍の主は言う。」

38 さらにまた、その方は第五節を次のように引用された。「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。」

39 また、その次の節を言葉を違えて引用された。「彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」

40 これらに加えて、その方はイザヤ書の第十一章を引用し、それはまさに成就しようとしていると言われた。また、使徒行伝第三章第二十二、二十三節も、まさにわたしたちの『新約聖書』にあるとおりに引用された。その方は、その預言者とはキリストのことである、しかし、「彼の声を聞こうとしない者は民の中から絶たれるであろう」というその日はまだ来ていないが、間もなく来る、と言われた。

41 その方はまた、ヨエル書の第二章も第二十八節から最後まで引用された。そして、これはまだ成就していないが、間もなく成就する、と言われた。さらに、異邦人が満ちみちる恵みにあずかる時代が間もなく来ることを告げられた。その方はほかにも多くの聖句を引用し、多くの説き明かしをされたが、ここで述べることはできない。

42 さらに、わたしがその方の語ったその版を受け取るとき——というのは、それを手に入れる時はまだ来ていなかったからである——その版や、ウリムとトンミムの付いた胸当てを、それらを見せるように命じられた人々のほかにはだれにも見せてはならない、もしも見せたならば滅ぼされる、とその方はわたしに告げられた。その方が版についてわたしと語っておられる間に、わたしの心に示現が開かれ、わ

36 ①GS「旧約聖書」 ②GS「マラキ」
37 ①3ニフ25・1—6、教義64・23—24、GS「地球（地）—地球の清め」 ②GS「イエス・キリストの再臨」 ③ナホ1・8—10、1ニフ22・15、23、2ニフ26・4—6、教義29・9
38 ①教義27・9、110・13—16、GS「エリヤ」 ②GS「神権」「神権の鍵」
39 ①ガラ3・8、19 ②GS「系図」「死者の救い」
40 ①申命18・15—19 ②3ニフ20・23、21・20
41 ①使徒2・16—21 ②ロマ11・11—25、教義88・84、GS「異邦人」
42 ①GS「思い・心」

たしはその版の隠されている場所を見ることができた。そして、それは非常に明瞭ではっきりとしていたので、そこを訪れたときにはその場所が分かった。

43 この指示を受けた後、わたしが見ると、室内の光はたちまち、わたしに語っておられたその方の周りに集まり始めた。そして、光は集まり続け、その方のすぐ周りを除いてついにその部屋は再び暗くなった。その途端に、わたしが見ると、あたかも一筋の道が天に向かってまっすぐに開いたかのようで、その方は昇って行かれ、ついにその姿がまったく見えなくなった。そして、その部屋は、この天の光が現れる前の状態に戻った。

44 わたしはその奇異な有様をつくづくと考え、またこの常ならぬ使者によって告げられたことを不思議に思いながら横になっていた。このように1)思いにふけっている最中に、わたしは、突然部屋が再び明るくなり始めたのに気づいた。そして、あたかも突然であるかのように、同じ天の使者が再びわたしの寝台の傍らにおられた。

45 その方は語り始め、最初に訪れたときに述べたことをまったく同じことを少しも変えずに再び述べられた。それを述べた後、飢饉と戦争と疫病によるひどい荒廃を伴って地上に来ようとしている大きな裁きについてわたしに告げ、またこれらの厳しい裁きがこの時代に地上に来ることを告げられた。これらのことを述べた後、その方は再び前と同じように昇って行かれた。

46 このときには、心に受けた印象が非常に深かったので、わたしは目がさえて眠れなくなっており、見たり聞いたりしたことへの驚きに圧倒されて横になっていた。ところが何とも驚いたことに、わたしはまたもや寝台の傍らに同じ使者を見、その方が前と同じことをわたしに詳しく語られるのを、すなわち、再び繰り返し語られるのを聞いたのである。そして、その方はわたしに一つの警告を加え、（父の家族は貧しい暮らしをしていたので）金持ちになるために版を手に入れるように、1)サタンがわたしを誘惑しようとするであろうと告げられた。そしてその方は、このようなことのないようにわたしに命じ、版を手に入れるに当たっては神の栄光を現す以外の目的を心に抱いてはならないこと、また神の王国を築こうとする3)動機以外のいかなる動機にも左右されて

---

44 ①「深く考える」GS
44 ②「悪魔」GS
46 ①「誘惑」GS
46 ③ 教義121・37

はならないこと、そうでなければそれを手に入れることはできないことを告げられた。

47 この三度目の訪れの後、その方は前のようにまた天に昇って行かれた。そして、わたしはたった今経験したことの不思議さをまた深く考え続けた。その天の使者が三度目にわたしを離れて昇って行かれたのとほとんど同時に、鶏が鳴いたので、わたしは夜明けの近いことを知った。したがって、わたしは一晩中その使者と会見していたことになる。

48 わたしはその後間もなく起きて、いつものように、その日にしなければならない仕事に出かけた。しかし、わたしは普段のように働こうとしたが、まったく働けないほど疲れ果てているのを知った。わたしと一緒に働いていた父は、わたしの具合が悪いのに気づき、家に帰るように言った。そこで、わたしは家に帰ろうとして出かけた。しかし、囲いを越えて畑から出ようとしたときに、すっかり力を失ってぐったりと地に倒れ、しばらくの間まったく意識を失っていた。

49 わたしが思い出せる最初のことは、わたしの名を呼んで、わたしに語りかける声があったことである。見上げると、あの同じ使者が前のように光に包まれて、頭上に立っておられるのが見えた。それからその方は、前夜わたしに話したすべてのことを再びわたしに話し、[1]父のところへ行って、わたしが受けた示現と命令のことを告げるようにと命じられた。

50 わたしはそれに従い、畑にいた父のところへ戻って、父にすべてのことを詳しく告げた。すると、父はわたしに、それは神から出ていると答え、その使者から命じられたとおりにするように告げた。わたしは畑を去って、版が隠されていると使者から告げられた場所へ行った。すると、それに関して受けていた示現が明瞭であったので、そこに着くとすぐにその場所が分かった。

51 ニューヨーク州オンタリオ郡マンチェスターの村の近くに、かなりの大きさの丘[1]が一つある。そこはその界わい切っての高い丘である。この丘の頂上から遠くない西側の所にかなりの大きさの石があって、その石の下にあった石の箱の中に版が置かれていた。この石は厚みがあって、上部の中央が丸みを帯びており、へりに行くに従って薄くなっていたので、その中央部は地上に見えていたが、へりはすべ

49 ① GS「スミス、ジョセフ、シニア」
51 ① GS「クモラの丘」

て土に覆われていた。

52 わたしは土を取り除いて、てこを一本手に入れ、それをその石のへりの下に差し込んで、わずかな力でそれを持ち上げた。中をのぞき込むと、あの使者から言われたように、実際にそこに、[1]版と、[2]ウリムとトンミムと、[3]胸当てが見えた。それらが納められていた箱は、ある種のセメントの中に石を置いて造ったものである。箱の底には、横向きに二個の石が置かれ、その石の上に版とその他の物が一緒に載せられていた。

53 わたしはそれらを取り出そうとしたが、あの使者に止められた。そして、それらを出す時はまだ来ていないことを再び知らされた。また、そのときから四年たたないと、その時は来ないとのことであった。その方はわたしに、そのときからちょうど一年目にその場所に来るように、そうすれば彼がわたしに会ってくださること、また版を手に入れる時が来るまでわたしはそれを続けなければならないことを告げられた。

54 それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこへ行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を行おうとしておられるか、また終わりの時に主の[1]王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。

ジョセフ・スミス、エマ・ヘイルと結婚する。ジョセフ・スミス、モロナイから金版を受け取り、幾らかの文字を翻訳する。マーティン・ハリスはアンソン教授に文字と翻訳を見せ、アンソン教授は、「わたしは封じられた書を読むことはできない」と言う。（第五十五—六十五節）

55 わたしの父の暮らし向きは非常に窮屈であったので、わたしたちは必要に迫られて自分の手で働き、機会あるごとに日雇いの仕事やその他で雇われて働いた。わたしたちはあるときは家で働き、またあるときは外で働き、絶え間なく働くことで不自由のない生活をすることができた。

56 千八百二十三年に、父の家族は、わたしの長兄アルビンの死によってひどい苦難に遭った。千八百二十五年十月に、わたしはニューヨーク州シェナンゴ

52 ① モル6・6、GS「金版」　② GS「ウリムとトンミム」　54 ① ③ GS GS「胸当て」「神の王国・天の王国」　56 ① 教義137・5—8

郡に住むジョサイア・ストールという名の老紳士に雇われた。彼はペンシルベニア州サスケハナ郡ハーモニーでスペイン人によって開かれた銀山のことを聞き、わたしを雇い入れるに先立って、できればその銀山を発見しようとして試掘を行っていた。わたしが行って彼とともに生活するようになってから、彼はほかの使用人たちとともにわたしを伴って、その銀山を探す試掘に当たらせた。わたしはそこで一か月ほど働き続けたが、わたしたちの仕事はうまくいかなかった。それでついにわたしは、その老紳士を説き伏せてその試掘をやめさせた。このことから、わたしが山師であったという話が広く言われるようになったのである。

57 わたしはこのように雇われていた間、その地のアイザック・ヘイルという人の家に下宿していた。わたしが（ヘイル氏の娘である）わたしの妻エマ・ヘイル[1]に初めて会ったのは、そこでのことであった。千八百二十七年一月十八日、わたしがまだストール氏に雇われて働いていたときに、わたしたちは結婚した。

58 わたしが示現を見たと主張し続けたので、わたしに対する迫害[1]はなおも続き、妻の父の家族は、わたしたちが結婚することにひどく反対した。したがって、わたしは彼女をどこかよそに連れて行くほかなかった。それでわたしたちは出かけて行き、ニューヨーク州シェナンゴ郡サウスベインブリッジのターバル治安判事の家で結婚した。わたしは結婚後すぐに、ストール氏のもとを去り、わたしの父の家に帰って、その季節は父とともに農業に従事した。

59 ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやって来た。千八百二十七年九月二十二日、わたしがいつものように満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ天の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださった。すなわち、わたしはそれらに対して責任を持たなければならない、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであろう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしがそれらを保存[2]するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られる、というのであった。

60 わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つためにそのような厳しい責任を課せられたのか、またわ

57 ① GS「スミス、エマ・ヘイル」
58 ① GS「迫害」
59 ① ジ－歴史1・42
② GS「聖文－保存されるべき聖文」

たしが自分に求められたことを成し遂げたときにそれらを取りに来るとなぜ使者が言われたのか、その理由が分かった。わたしがそれらを持っていることが知れるやいなや、わたしからそれらを奪おうとするあらん限りの努力が払われたからである。そのために思いつく限りのあらゆる策略が実行に移された。迫害は以前にも増して激しく、容赦のないものとなり、大勢の人が、できればわたしからそれらを奪おうと絶えず機会をうかがった。しかし、わたしが求められたことをそれらによって成し遂げるまで、それらは神の知恵によって、わたしの手の中で無事であった。そして、前もって定められたとおり、使者がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使者に引き渡したのである。そして、千八百三十八年五月二日の今日まで、その使者がそれらを管理しておられる。

61 しかしながら、騒ぎはなおも続き、父の家族について、またわたし自身について偽りを言い広めるために、常におびただしいうわさが流された。もしわたしがその千分の一を述べたとしても、何冊もの本になるであろう。しかし、迫害が耐えられないほどになったので、わたしはやむを得ずマンチェスターを離れて、妻とともにペンシルベニア州サスケハナ郡へ行くことにした。わたしたちは非常に貧しく、迫害がひどいために貧しさから抜け出せず、苦難のただ中で出発の準備をしていたとき、[1]マーティン・ハリスという名の紳士と親しくなった。彼はわたしのところに来ると、わたしたちの旅の助けになるようにと五十ドルくれた。ハリス氏はニューヨーク州ウェイン郡パルマイラ町に住んでいる人で、社会的地位のある農場主であった。

62 この時宜にかなった援助によって、わたしはペンシルベニアの目的地に着くことができた。そしてそこに着くとすぐに、わたしは版から文字を写し取ることを始めた。わたしはかなりの文字を写し取り、[1]ウリムとトンミムによってそれらの多くを翻訳した。これを行ったのは、十二月に妻の父の家に着いてから翌年の二月までの間のことであった。

63 この二月のあるとき、前に述べたマーティン・ハリス氏がわたしたちのところにやって来て、わたしが版から書き取っておいた文字を取り、それを持ってニューヨーク市へ向かった。彼とその文字に関し

61① 教義5：1、GS「ハリス、マーティン」
62① GS「ウリムとトンミム」

て起こった出来事については、彼が帰って来てわたしに語った彼自身の言葉をお伝えする。それは次のとおりであった。

64「わたしはニューヨーク市へ行き、翻訳された文字をその翻訳とともに、文学上の学識があることで広く知られている一紳士、チャールズ・アンソン教授に披露した。するとアンソン教授は、この翻訳は正確であり、エジプト語から翻訳されたものでこれほど正確なのを見たことがないと述べた。その後、わたしがまだ翻訳されていないものを彼に見せたところ、彼は、それらはエジプト語、カルデア語、アッシリア語、およびアラビア語であると言った。また、それらはほんとうの文字であると言った。そして、それらがほんとうの文字であることと、それから翻訳されたものの翻訳も正確であることをパルマイラの人々に証明する証明書をわたしにくれた。そこで、わたしはその証明書を取ってポケットに入れ、まさにその家を去ろうとしたとき、アンソン氏はわたしを呼び返して、どうしてその青年は金版を見つけた場所にその金版のあることが分かったのかと尋ねた。そこでわたしは、神の天使が彼にそれを明らかにしたと答えた。

65すると彼は、『その証明書を見せてください』とわたしに言った。それでわたしがポケットからそれを取り出して彼に渡すと、彼はそれを取って細かく破って、今どき[1]天使の働きのようなものなどないと言い、また、その版を持って来れば翻訳してあげようと言った。そこでわたしは、版の一部は[2]封じられており、持って来ることを禁じられていると告げた。すると彼は、『わたしは封じられた書を読むことはできない』と答えた。わたしは彼のもとを去り、ミッチェル博士のところへ行ったが、彼も文字と翻訳の両方に関してアンソン教授が言ったことを認めた。」

・・・・・・

オリバー・カウドリ、『モルモン書』の翻訳に当たって筆記者を務める。ジョセフとオリバー、バプテスマのヨハネからアロン神権を受ける。二人はバプテスマを受け、聖任され、預言の霊を受ける。（第六十六—七十五節）

66千八百二十九年四月五日に、[1]オリバー・カウドリ

65 ① GS「天使」
② イザ29・11—12、2ニフ27・10、エテ4・4
66 ① GS「カウドリ、オリバー」

がわたしの家にやって来たが、わたしはそのときまで一度も彼に会ったことがなかった。彼はわたしの父が住んでいた所の近くの学校で教えており、わたしの父も子供をその学校に通わせていたので、一時期父の家に下宿していて、その間に家族から、わたしが版を受け取ったことについての詳しい事情を告げられ、それでわたしに尋ねるためにやって来たと言った。

67 カウドリ氏が到着して二日後（四月七日）に、わたしは『モルモン書』の翻訳に取りかかり、彼はわたしのために筆記し始めた。

・・・・・・

68 わたしたちはなおも翻訳の仕事を続けていたが、その翌月（千八百二十九年五月）のある日、わたしたちは、版の翻訳の中に述べられているのを見つけた罪の赦しのためのバプテスマ[2]に関して主に祈って伺うために、森の中に入って行った。わたしたちがこのようにして祈って、主に呼び求めていたとき、天からの使者[3]が光の雲[4]の中を降って来られた。そして、その使者はわたしたちの上に手を置き、次のように言ってわたしたちを聖任[6]された。

69 「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権[1]を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子ら[2]が再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。」

70 その方は、このアロン神権には聖霊[1]の賜物を授けるための按手をする力はないが、これは将来わたしたちに授けられると言われた。またその方は、行ってバプテスマを受けるようにわたしたちに命じ、わたしがオリバー・カウドリにバプテスマを施し、その後彼がわたしにバプテスマを施すようにと指示された。

71 それでわたしたちは行ってバプテスマを受けた。わたしがまず彼にバプテスマを施し、その後、彼がわたしにバプテスマを施した。それから、わたしが彼の頭に手を置いて、彼をアロン神権に聖任し、その後、彼がわたしに手を置いて、わたしを同じ神権に聖任した。そのようにわたしたちは命じられたからである。*

---

68 ①GS「罪の赦し」 ②③GS「バプテスマ」 ③GS「ヨハネ（バプテスマの）」 ④民数11・25、エテ2・4—5、14、教義34・7 箇条1・5、GS「按手」 ⑤GS「権威·権限·権能」「聖任」 69 ①GS「アロン神権」 ②申命10・8、教義13章、124・39、GS「レビ—レビの部族」 70 ①GS「聖霊の賜物」

72 このときわたしたちを訪れて、わたしたちにこの神権を授けてくださった使者は、自分の名はヨハネといい、『新約聖書』の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている者で、自分はメルキゼデクの神権の鍵[3]を持つペテロ[4]とヤコブ[5]とヨハネ[6]の指示の下に働いていると言われた。また、ふさわしいときにメルキゼデクの神権もわたしたちに授けられ、わたしは教会の第一の長老[7]と呼ばれ、彼（オリバー・カウドリ）は第二の長老と呼ばれる、と言われた。わたしたちがこの使者の手によって聖任され、バプテスマを受けたのは、千八百二十九年五月十五日のことであった。

73 わたしたちはバプテスマを受けて水から上がるとすぐに、天の御父からの大いなる栄光ある祝福を受けた。わたしがオリバー・カウドリにバプテスマを施すやいなや、[1]聖霊が彼に降られ、彼は立ち上がって、間もなく起こるはずの多くのことについて預言[2]した。さらにまた、わたしも彼によってバプテスマを受けるとすぐに、預言の霊を受けて立ち上がり、この教会の起こりと、教会に関連のあるその他の多くのことと、この時代の人の子らについて預言した。わたしたちは聖霊に満たされ、わたしたちの救いの神を喜びたたえた。

74 今やわたしたちの心に光が注がれ、わたしたちは聖文をはっきりと理解[1]できるようになってきた。より不明瞭な聖句の正確な意味[2]と意図が、以前に一度も経験することのできなかった方法で、あるいは以前に考えもしなかった方法でわたしたちに明らかにされたのである。しかし、すでに周りの地方に迫害の気運が現れていたので、しばらくの間、わたしたちは神権を受け、バプテスマを受けた事情を秘密にせざるを得なかった。

75 わたしたちは時々、暴徒に襲われるという脅威を加えられた。しかも、これが信仰を告白する人々によってであった。そして、わたしたちに暴行を加えようとする彼らの企ては、（神の摂理により）妻の父の家族の影響力によって何とかとどめられていた。妻の父の家族はわたしに好意的になっていて、暴徒に対抗し、わたしが何の妨げもなしに翻訳の仕事を続けられるようにすることをいとわなかった。それで彼らは、すべての不法行為から可能なかぎりわたしたちを守ると申し出て、それを約束してくれたのである。

---

72 ① GS「ヨハネ（バプテスマの）」 ② GS「メルキゼデク神権」 ③ GS「神権の鍵」 教義27·12—13、GS ④ 「ペテロ」 ⑤ GS「ヤコブ（ゼベダイの子）」 ⑥ GS「ヨハネ（ゼベダイの子）」 ⑦ GS「長老」

73 ① GS「聖霊」 ② GS「預言」

74 ① GS「理解」 ② ヨハ16·13

＊オリバー・カウドリは、これらの出来事を次のように述べている。「これらの日々は、決して忘れられないものであった。天の霊感によって語られた声、この胸にこの上ない感謝の念を呼び起こした声の下に座していたのである。彼が『モルモン書』と呼ばれる歴史すなわち記録を、ウリムとトンミム、すなわちニーファイ人が『解訳器』と呼んだものを用いて翻訳するままに、わたしは、来る日も来る日も、彼の口から出る言葉を絶え間なく書き続けた。

モルモンとその忠実な息子モロナイが述べた、かつて天からの愛と恵みを受けた民についての興味深い話をわずか数語でもここに採り上げるのは、わたしが現在意図していることではない。したがって、これは将来に譲ることにして、わたしが序論の中で述べたように、この教会の起こりに直接に関係のある若干の出来事に直ちに移ることにしよう。偏屈者たちの渋面と偽善者たちの中傷のまっただ中を進み出て、キリストの福音を心から受け入れた幾千もの人々にとって、これらの出来事は快いことだろう。

『イエス・キリストの復活による明らかな良心』をもって申し開きをするために水の墓の中に葬られることによって、進んで物事に取り組む心を示したいと望むことなしには、だれも冷静な状態で、人が救い主の教会を築き上げる具体的な方法について救い主の口からニーファイ人に与えられた数々の指示を翻訳して書き記すことはできなかったであろう。腐敗が人々の間に見られるあらゆる形式と制度のうえに不確実性を広げている場合は、特にそうである。

この大陸におけるヤコブの子孫の残りの者に対する救い主の働きについて述べられた話をわたしが記した後、預言者がそのようになるであろうと言ったとおりに、暗闇が地を覆い、深い闇が人々の心を覆っているのを認めるのは容易なことであった。さらに深く考えると、宗教に関するひどい争いと騒ぎのまっただ中で、だれも福音の儀式を執行する神からの権能を持っていなかったことを認めるのも同じく容易であった。キリストの証が預言の霊にほかならず、キリストに従う民が地上にいたあらゆる時代に、キリストの宗教が直接の啓示によって基を置かれ、築かれ、支えられてきたことを考えると、啓示を否定する人々がキリストの名によって御業をつかさどる権能を持っているのだろうかと、疑問が起こるであろう。一度人々の前に現れることを許されるとその悪知恵が危険である人々によって、これらの事実が埋められ、注意深く隠されたとしても、これらがわたしたちに隠されることはもはやなかった。そしてわたしたちは、『立ってバプテスマを受けなさい』という命令が与えられるのをただ待っていたのである。

これは望んで間もなく実現した。憐れみに富んでおられ、へりくだった者の絶え間ない祈りにいつも快くこたえてくださる主は、わたしたちが人々の住まいから離れて熱烈に主に呼び求めたところ、わたしたち

に御心を示してくださった。突如、永遠のただ中から来たかのように、贖い主の声がわたしたちに平安を告げられた。それと同時に、とばりが分けられ、神の天使が栄光をまとって降って来て、わたしたちが切に待ちこがれていた知らせを告げ、悔い改めの福音の鍵を渡してくださったのである。何という喜びであろう。何という驚異であろう。何という驚きであろう。世の人々が苦しみ、当惑していたときに――幾百万の人々が目の不自由な人のように壁を手探りしていたときに、また万人が一団となって不確実な状態にとどまっていたときに、『白昼の光』の中にいるように、まことにそれ以上に、そのとき自然界にその輝きを放っていた五月の陽光にも勝って、わたしたちの目は見、わたしたちの耳は聞いたのである。そのとき、その声は、優しいながらも心の底まで貫いた。そして、『わたしはあなたがたと同じ僕である』というその言葉は、すべての恐れを吹き飛ばした。わたしたちは耳を傾け、わたしたちは目を注ぎ、わたしたちは感嘆した。それは栄光からの天使の声であり、またそれはいと高き御方からの御告げであった。そして、わたしたちはそれを聞いて喜んだ。同時に、いと高き御方の愛はわたしたちの心に火をつけ、わたしたちは全能者の示現に包まれた。疑いの余地がどこにあろうか。どこにもない。不確実は消えうせ、疑いは没してもう姿を現すことはなかった。同時に、虚構と欺きも永久に消えうせたのである。

しかし、愛する兄弟よ、考えてみてほしい。さらにしばし考えてみてほしい。彼が、『わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはこの神権とこの権能を授ける。これらは、レビの子らがやがて義をもってささげ物を主にささげるためにこの世にそのままあるであろう』と言われ、その手によってわたしたちが聖なる神権を受けたとき、どれほどの喜びがわたしたちの心を満たし、またどれほど驚いてわたしたちがひれ伏したかを。（このような祝福を受けてひざまずかない者がいるだろうか。）

わたしはこの心の感情や、このときにわたしたちを取り囲んだ荘厳な美と栄光を、あなたがたにありのまま描写しようとは思わない。しかし、地球や人は、時の雄弁さをもってしても、この聖なる方のように言葉を魅力的で荘厳な表現にできそうもない、とわたしが言えば、あなたがたは信じるであろう。そのようなことはできないのである。また、この地球には、喜びを与える力も、平安を授ける力も、聖なる御霊の力によって告げられたそれぞれの言葉に含まれる知恵を理解する力もないのである。人間は同じ人間を欺き、欺きは欺きに伴い、悪い者の子らは愚かで無知な者を従わせる力を持つかもしれない。こうして、ついに虚構だけが多くの人を養い、偽りの実は軽薄な者をその流れに乗せて墓場へと運ぶ。しかし、彼の愛の指に一度触れれば、まことに天界から一条の栄光があれば、あるいは救い主の口から、永遠の懐からの一言があれば、それはすべて取るに足りない

ものとなり、それは記憶から永久に消し去られてしまうのである。自分たちが天使の前にいるという確信、自分たちがイエスの声を聞いたという確実さ、ならびに神の御心によって語られた清い方から流れ出たままの汚れない真理は、わたしにとって筆紙に尽くし難い。そこでわたしは、この世にとどまることを許されている間は、この救い主の慈しみの表れをいつも驚嘆と感謝の念をもって見るであろう。完全さがあって罪が決して来ることのないあの住まいにおいて、わたしは決して終わりのないその日に神をあがめたいと思うのである。」

——『メッセンジャー・アンド・アドボケイト』(Messenger and Advocate) 第一巻(千八百三十四年十月)、十四—十六ページ。

末日聖徒イエス・キリスト教会の

信仰箇条

『教会歴史』第四巻、五百三十五―五百四十一ページ

1 わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。

2 わたしたちは、人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられないことを信じる。

3 わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。

4 わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、第三に罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための按手であることを信じる。

5 わたしたちは、福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召されなければならないと信じる。

6 わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる。

7 わたしたちは、異言、預言、啓示、示現、癒し、異言の解釈などの賜物があることを信じる。

8 わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる。また、『モルモン書』も神の言葉であると信じる。

9 わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。

10 わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合と十部族の回復とを信じる。また、シオン（新エルサレム）がアメリカ大陸に築かれること、キリストが自ら地上を統治されること、そして地球は更新されて楽園の栄光を受けることを信じる。

11 わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての

信仰箇条

1 ①GS「神・神会―父なる神」 ②GS「イエス・キリスト」「神・神会―子なる神」 ③GS「神・神会―聖霊なる神」 ④GS「信じる」

2 ①④申命24・16、エゼ18・19―20、GS「責任を負う」 ②GS「堕落（アダムとエバの）」「選択の自由」

3 ①②GS「贖罪」 ③GS「福音」 ④GS「律法」 ⑤GS「従順・従う」 ⑥GS「モサ27・24―26、モセ5・9、GS「救い」

4 ①GS「儀式」 ②GS「信仰」 ③GS「悔い改め」「罪の赦し」 ④GS「聖霊の賜物」 ⑤GS「バプテスマ」 ⑥GS「按手」 ⑦GS「宣べ伝える」

5 ①アル13・8―16 ②GS「預言」 ③GS「権威・権限・権能」 ④GS「神権」 ⑤GS「按手」 ⑥GS「召し」

6 ①GS「まことの教会のしるし―教会の組織」 ②GS「使徒」 ③GS「預言者」 ④GS「ビショップ」 ⑤GS「祝福師」「伝道者」

7 ①GS「異言の賜物」 ②GS「預言」 ③GS「啓示」 ④GS「示現」

人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝[1)れいはい]しようと、わたしたちはそれを妨げない。

12 わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律[1)ほうりつ]を守り、尊び、支えるべきことを信じる。

13 わたしたちは、正直[1)しょうじき]、真実、純潔[2)じゅんけつ]、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行う[3)おこな]べきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告[4)かんこく]に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む[5)のぞ]。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。

ジョセフ・スミス

---

7 ⑤ GS「癒し」
⑥ 1コリ12・10、モル9・7—8
⑦ GS「御霊の賜物」
8 ① 1ニフ13・20—40、14・20—26
② GS「聖書」
③ GS「言葉（神の）」
④ GS「モルモン書」
9 ① GS「啓示」
② アモ3・7、教義121・26—33、GS「聖文—出現を預言された聖文」
10 ① イザ49・20—22、60・4、1ニフ19・16—17、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
② GS「イスラエル—行方の知れない十部族」
③ エテ13・2—11、教義45・66—67、84・2—5、モセ7・18、GS「シオン」「新エルサレム」
④ GS「福千年」
⑤ GS「地球（地）—地球の清め」
⑥ エデンの園のような状態、イザ11・6—9、35・1—10、51・1—3、65・17—25、エゼ36・35、「パラダイス」
⑦ GS「栄光」
11 ① GS「良心」
② GS「選択の自由」
③ 教義134・1—11
④ GS「礼拝」
12 ① 教義58・21—23、GS「律法」
13 ① GS「高潔」「正直」
② GS「純潔」
③ GS「奉仕」
④ ピリ4・8
⑤ GS「希望」
⑥ GS「堪え忍ぶ」
⑦ GS「慎み」「徳」

JAPANESE
4 02344 04300 0
34404 300

聖句ガイド

序 文
項目リスト
聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）
教会歴史の年表
地 図
写 真
聖書の地図
写 真

序　文

『聖句ガイド』は，『聖書』や『モルモン書』，『教義と聖約』，『高価な真珠』にある教義や原則，人物，地名の中から主要なものを選んで，その意味を解説したものである。また，各項目について学習ができるように，聖句のおもな参照箇所も付記した。この『聖句ガイド』は，個人や家族による聖典の学習に役立てることができる。また，福音に関する疑問の答えを見つけたり，テーマ別に聖典を研究したり，話やレッスンの準備をしたり，福音についての知識や証（あかし）を深めたりする際にも活用できるであろう。

『聖句ガイド』は次の 3 つの部分に分かれている。(1) 項目リスト，(2) 聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋），(3) 教会歴史の年表，地図，写真と聖書の地図，写真。

1．項目リスト　このリストでは，それぞれの項目について，まず短い解説があり，次いで最も重要と思われる参照聖句の箇所が挙げてある。そしてそれぞれの聖句には，その聖句の直接の引用または内容を短くまとめたものが付いている。参照聖句の掲載順は，(1)『旧約聖書』，(2)『新約聖書』，(3)『モルモン書』，(4)『教義と聖約』，(5)『高価な真珠』である。

2．聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）　1830 年，主は預言者ジョセフ・スミスに，『欽定訳聖書』の改訂すなわち翻訳の作業を開始するように指示をお与えになった。預言者の目的は，『聖書』の原典から失われた分かりやすくて貴い部分を回復することであった。そして，1833 年 7 月までにほとんどの作業を終えた。しかし預言者は，1844 年に死去するまで，原稿の印刷の準備をしながら引き続き修正を加えていた。この改訂は，聖句の意味について様々な洞察を与えてくれるものであり，『聖書』を理解するうえで貴重な資料となっている。『聖句ガイド』には，その改訂の中から重要なものを抜粋として載せた。（詳細については『聖句ガイド』項目リストの「ジョセフ・スミス訳（JS）」を参照）

末日聖徒イエス・キリスト教会では，英文公認『聖書』として『欽定訳聖書』を用いている。福音の回復において重要な役割を果たした『欽定訳聖書』は，今も引き続き多くの国で大きな影響力を持っている。

3．教会歴史の年表，地図，写真と聖書の地図，写真　聖典の中の出来事は，そこに出てくる地名の地理的な位置関係を知ることによってさらによく理解することができる。『聖句ガイド』には，教会歴史上重要な地域を示した地図が 6 枚，聖書関係の地図が 14 枚，それに世界の地図が 1 枚収められている。それぞれの地名を地図で探すには，索引を使うとよい。索引には，どの地図のどの部分を見ればよいかが示されている。教会史跡の写真 18 枚と聖書に関連した写真 32 枚にも，聖典の中の様々な出来事をさらによく理解するのに助けとなる説明が付いている。

教会歴史の年表には，末日聖徒イエス・キリスト教会の回復と発展にとって重要な出来事のあった日付が掲載されている。

『聖句ガイド』の項目リストは，聖典の学習に役立つ特色を幾つか備えている。例えば，「イエス・キリスト」という項目を見ると，そこには項目リストの中にある，救い主とその務めに関するすべての項目が列挙してある。項目リストの中でそのように多くの関連項目を列挙したものは「イエス・キリスト」だけであるが，それはとりもなおさず，全人類にとってキリストがいかに大切な存在であられるかを物語るものである。さらに，「年表」の項では，『聖書』や『モルモン書』の時代の重要な出来事が，おおよその年代とともに列挙してある。また「福音書」の項目には「福音書対観表」がある。これは，マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネによる福音書ならびに末日の啓示の中の救い主の教えを比較したものである。

『聖句ガイド』では以下の略記法を用いる。

旧約聖書

創世……創世記
出エ……出エジプト記
レビ……レビ記
民数……民数記
申命……申命記
ヨシ……ヨシュア記
士師……士師記
ルツ……ルツ記
サ上……サムエル記上
サ下……サムエル記下
列上……列王紀上
列下……列王紀下
歴上……歴代志上
歴下……歴代志下
エズ……エズラ記
ネヘ……ネヘミヤ記
エス……エステル記
ヨブ……ヨブ記
詩篇……詩篇
箴言……箴言
伝道……伝道の書
雅歌……雅歌
イザ……イザヤ書
エレ……エレミヤ書
哀歌……哀歌
エゼ……エゼキエル書
ダニ……ダニエル書
ホセ……ホセア書
ヨエ……ヨエル書
アモ……アモス書
オバ……オバデヤ書
ヨナ……ヨナ書
ミカ……ミカ書
ナホ……ナホム書
ハバ……ハバクク書
ゼパ……ゼパニヤ書
ハガ……ハガイ書
ゼカ……ゼカリヤ書
マラ……マラキ書

新約聖書

マタ……マタイによる福音書
マコ……マルコによる福音書
ルカ……ルカによる福音書
ヨハ……ヨハネによる福音書
使徒……使徒行伝
ロマ……ローマ人への手紙
1コリ…コリント人への第一の手紙
2コリ…コリント人への第二の手紙
ガラ……ガラテヤ人への手紙
エペ……エペソ人への手紙
ピリ……ピリピ人への手紙
コロ……コロサイ人への手紙
1テサ…テサロニケ人への第一の手紙
2テサ…テサロニケ人への第二の手紙
1テモ…テモテへの第一の手紙
2テモ…テモテへの第二の手紙
テト……テトスへの手紙
ピレ……ピレモンへの手紙
ヘブ……ヘブル人への手紙
新ヤコ…ヤコブの手紙
1ペテ…ペテロの第一の手紙
2ペテ…ペテロの第二の手紙
1ヨハ…ヨハネの第一の手紙
2ヨハ…ヨハネの第二の手紙
3ヨハ…ヨハネの第三の手紙
ユダ……ユダの手紙
黙示……ヨハネの黙示録

モルモン書

1ニフ…ニーファイ第一書
2ニフ…ニーファイ第二書
ヤコ……ヤコブ書
エノ……エノス書
ジェロ…ジェロム書
オム……オムナイ書
モ言……モルモンの言葉
モサ……モーサヤ書
アル……アルマ書
ヒラ……ヒラマン書
3ニフ…第三ニーファイ
4ニフ…第四ニーファイ
モル……モルモン書
エテ……エテル書
モロ……モロナイ書

教義と聖約

教義……教義と聖約
公式1…公式の宣言一
公式2…公式の宣言二

高価な真珠

モセ……モーセ書
アブ……アブラハム書
ジ―マタ…ジョセフ・スミス―マタイ
ジ―歴史…ジョセフ・スミス―歴史
箇条……信仰箇条

JS……ジョセフ・スミス訳聖書
KJ……欽定訳聖書

項目リスト

使い方　『聖句ガイド』の項目リストは，福音に関する項目を五十音順に並べたものである。それぞれの項目について，まず短い解説があり，次いで最も重要と思われる参照聖句の箇所が挙げてある。そしてそれぞれの聖句には，その聖句の直接の引用または内容を短くまとめたものが付いている。参照聖句の掲載順は，(1)『旧約聖書』，(2)『新約聖書』，(3)『モルモン書』，(4)『教義と聖約』，(5)『高価な真珠』である。以下はその例である。なお『聖書』の聖句については，特に指定がないかぎり，日本聖書協会発行『聖書』（1954，55 年改訳）を用いた。

項目は大きめの太字で示される。

聖文　「教義と聖約」「高価な真珠」「言葉（神の）」「聖書」「正典」「年表」「モルモン書」参照

時々『聖句ガイド』の中の別の項目に，探している情報が含まれていることがある。鍵括弧の項目はそれを調べるのに役立つ。

各項目の解説。

神の聖なる人々が聖霊に感じて書いたり，話したりした言葉。当教会が今日，公式の正典として認めている聖文は，『聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』である。イエスと『新約聖書』の著者たちは，『旧約聖書』の各書を聖文と見なしていた（マタ 22：29；ヨハ 5：39；2 テモ 3：15；2 ペテ 1：20―21）。

括弧内の聖句は，項目の解説をさらに深く理解できるようにするためのものである。

項目によっては，このように再分類しているものもある。分類項目は字体を変えて表示してある。

聖文の価値：あなたはイスラエルのすべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない（申命 31：10―13）。すべての聖文を自分たちに当てはめて，それが自分たちの利益となり（1ニフ 19：23）。わたしは聖文に喜びを感じる（2ニフ 4：15―16）。民は聖文を詳しく調べ，二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかった（ヤコ 7：23〔アル 14：1〕）。

参照聖句には，その聖句の引用または内容を短くまとめたものが付いている。

〔　〕の中は関連聖句である。

時々その項目の中に見つけたい情報がないことがある。そのときは鍵括弧の項目を調べてみる。

選択　「選ぶ」「選択の自由」参照

多妻結婚　「結婚―多妻結婚」参照

参照項目の中で再分類してあるものについては，―を用いて示してある。

アーメン　「祈り」参照

「そうでありますように」あるいは「そのとおりです」の意味。これは，心から厳粛に受け入れて同意すること（申命 27：14−26），あるいは自分の語ることが真実であること（列上 1：36）を示すために述べる言葉。今日では，祈りや証（あかし），話の後で，同意し，受け入れたことを示すために，それを聞いた人々がこの言葉を声に出して唱える。

旧約の時代には，誓いを立てるときに「アーメン」と唱えるように求められた（歴上 16：7，35−36；ネヘ 5：13；8：2−6）。キリストは「アァメンたる者，忠実な，まことの証人」と呼ばれている（黙示 3：14）。この言葉はまた，預言者の塾で聖約のしるしとして用いられた（教義 88：133−135）。

愛　「哀れみ」「慈愛」「敵意」参照

心から大切に思い，そのために献身すること。神への愛には，献身，礼拝，敬虔（けいけん），思いやり，憐（あわ）れみ，赦（ゆる）し，同情，優しさ，奉仕，感謝，親切などの要素が含まれる。御自身の子供たちに対する神の愛は，イエス・キリストの無窮の贖罪（しょくざい）の中に最もよく示されている。

あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない（レビ 19：18〔マタ 5：43−44；22：37−40；ロマ 13：9；ガラ 5：14；新ヤコ 2：8；モサ 23：15；教義 59：6〕）。あなたは心をつくして，あなたの神，主を愛さなければならない（申命 6：5〔モロ 10：32；教義 59：5〕）。あなたがたの神，主はあなたがたが主を愛するか，どうかを知ろうと，あなたがたを試みられる（申命 13：3）。主は，愛する者を，戒められる（箴言 3：12）。友はいずれの時にも愛する（箴言 17：17）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった（ヨハ 3：16〔教義 138：3〕）。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互（たがい）に愛し合いなさい（ヨハ 13：34〔ヨハ 15：12，17；モセ 7：33〕）。もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである（ヨハ 14：15〔教義 42：29〕）。人がその友のために自分の命を捨てること，これよりも大きな愛はない（ヨハ 15：13）。ペテロよ，わたしを愛するか（ヨハ 21：15−17）。どんな被造物も，わたしたちの主イエス・キリストにおける神の愛から，わたしたちを引き離すことはできない（ロマ 8：35−39）。目がまだ見なかったことを，神は，ご自分を愛する者たちのために備えられた（1コリ 2：9）。愛をもって互（たがい）に仕えなさい（ガラ 5：13）。夫たる者よ。妻を愛しなさい（エペ 5：25〔コロ 3：19〕）。世を愛してはいけない（1ヨハ 2：15）。神は愛である（1ヨハ 4：8）。わたしたちが愛し合うのは，神がまずわたしたちを愛して下さったからである（1ヨハ 4：19）。人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられる（1ニフ 19：9）。神とすべての人を愛して力強く進まなければならない（2ニフ 31：20）。子供たちに，互いに愛し合い，互いに仕え合うように教える（モサ 4：15）。贖（あがな）いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば，今でもそのように感じられるか（アル 5：26）。聖なる御霊（みたま）の

導きを得て，謙遜になり，愛に富み（アル 13：28）。激情をすべて制し，愛で満たされるようにしなさい（アル 38：12）。民の心の中に宿っていた神の愛のために，地の面にはまったく争いがなかった（4ニフ 1：15）。神を愛するように誘い，促すものはすべて，神の霊感を受けているのである（モロ 7：13−16）。慈愛はキリストの純粋な愛であって（モロ 7：47）。完全な愛はあらゆる恐れを取り除く（モロ 8:16〔1ヨハ 4：18〕）。愛を持つ者には，神の業に携わる資格がある（教義 4:5〔教義 12：8〕）。聖めは，神を愛し，神に仕えるすべての人に与えられる（教義 20：31）。あなたはわたしを愛するならば，わたしに仕え，わたしのすべての戒めを守るべきである（教義 42：29〔ヨハ 14：15〕）。あなたの責めた人にいっそうの愛を示しなさい（教義 121:43）。神よりもサタンを愛した（モセ 5：13，18，28）。

哀歌

『旧約聖書』の中の 1 書。エレミヤが書いたもの。エルサレムとイスラエル人の国の滅亡を嘆く詩と歌の集成。哀歌はエルサレムが滅ぼされた後の紀元前 586 年ごろに書かれた。

証

「証する」「証人；証」「聖霊」参照

聖霊によって与えられる知識と霊的な確信。個人が真理として理解していることを公式に，あるいは法律に基づいて宣言する証言も証の一つである（教義 102：26）。

わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる（ヨブ 19：25−26）。わたしたちの主のあかしをすることを，決して恥ずかしく思ってはならない（2テモ 1：8）。イエスのあかしは，すなわち預言の霊である（黙示 19：10）。いつでも神の証人になる（モサ 18：9）。純粋な証をもって責めるほかに，人々を改心させる方法がない（アル 4：19−20）。わたしはすべての事物をもって，これらのことが真実であると証する（アル 30：41−44）。信仰が試されてからでなければ，証は得られないからである（エテ 12：6）。わたしはあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大いなる証があるであろうか（教義 6：22−23）。そして今，小羊についてなされてきた多くの証の後，わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである（教義 76：22−24）。わたしは，人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした（教義 88：81−82）。その遺言者たちは今や死に，彼らの遺言は効力を持つ（教義 135：4−5）。エノクは，天使たちが御父と御子のことを証するのを見た（モセ 7：27）。示現を見たと言ったことで憎まれ，迫害されたとしても，それは真実であった（ジ―歴史 1：24−25）。

証する

「証」参照

聖霊の力によって証言をすること，また自分の知識や信念に基づいて厳粛に真理を宣言すること。

助け主はわたしについてあかしをするであろう（ヨハ 15：26）。人々に宣べ伝え，またあかしするようにと，神

はわたしたちにお命じになった（使徒10：42）。3人はその書物が真実であることを証する（2ニフ27：12）。聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである（2ニフ33：1）。聖文はキリストを証している（ヤコ7：10−11〔ヨハ5:39〕）。わたしは，自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている（アル5：45〔アル34：8〕）。あなたがたは神の力によってこれらのものについて証しなければならない（教義17：3−5）。御霊があなたがたに証する事柄を行うように（教義46：7）。わたしは，人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした（教義88：81）。

贖い；贖う　「イエス・キリスト」「死（肉体の）」「死（霊の）」「贖罪」「救い」「堕落（アダムとエバの）」参照

代価を払って人を束縛の境遇から自由にするように，人を解放したり，買い取ったり，人のために賠償をしたりすること。贖いという言葉は，イエス・キリストの贖罪と罪からの解放を指す。イエスの贖罪は，全人類を肉体の死から贖う。贖罪により，キリストを信じる信仰をもって悔い改める人は，霊の死からも贖われる。

わたしはあなたをあがなった（イザ44：22）。彼らを死から，あがなう（ホセ13：14〔詩篇49：15〕）。わたしたちはキリストの血を通して贖いを得ている（エペ1：7，14〔ヘブ9：11−15；1ペテ1：18−19；アル5：21；ヒラ5：9−12〕）。主はわたしを地獄から贖ってくださった（2ニフ1：15）。贖いは聖なるメシヤによって，またメシヤを通じてもたらされる（2ニフ2：6−7，26〔モサ15：26−27；26：26〕）。彼らは贖いをもたらした愛について歌った（アル5：9〔アル5：26；26：13〕）。悪人はあたかも贖いがなかったかのような有様であり（アル11：40−41〔アル34：16；42：13；ヒラ14：16−18〕）。イエス・キリストは世の贖いをもたらされた（モル7：5−7）。贖いの力は律法を持たないすべての者に及ぶ（モロ8：22〔教義45：54〕）。信じない者は霊的な堕落からの贖いを受けることができない（教義29：44）。幼い子供たちは，世の初めから贖われている（教義29：46）。主はその民を贖われた（教義84：99）。ジョセフ・F・スミスは示現の中で死者の贖いを見た（教義138章）。アダムとエバは，贖いを受けられることを喜んだ（モセ5：9−11）。

贖い主　「イエス・キリスト」「救い主」参照

贖罪によって全人類の罪の代価を払い，万人が復活できるようにされたイエス・キリストは，人類の偉大な贖い主であられる。

わたしをあがなう者は生きておられる（ヨブ19：25）。わたしはあなたを助ける。あなたをあがなう者はイスラエルの聖者である（イザ41：14〔イザ43：14；48：17；54：5；59：20〕）。あなたの救い主，またあなたのあがない主であることを知る（イザ49：26〔イザ60：16〕）。その名をイエスと名づけなさい。彼は，おのれの民をもろもろの罪から救う者となるからである（マタ1：21）。人の子がきたのも，多

くの人のあがないとして，自分の命を与えるためである（マタ 20：28〔1テモ 2：5–6〕）。主なるイスラエルの神はその民を顧みてこれをあがない（ルカ 1：68）。わたしたちは御子の死によって神との和解を受けた（ロマ 5：10）。キリストが，わたしたちのためにご自身をささげられたのは，わたしたちをすべての不法からあがない出して，聖別するためにほかならない（テト 2：13–14）。イエス・キリストは，その血によってわたしたちを罪から解放された（黙示 1：5）。贖いは聖なるメシヤによって，またメシヤを通じてもたらされる（2ニフ 2：6–7，26）。御子は人の子らの罪悪と背きを身に負い，彼らを贖い，正義の要求を満たされる（モサ 15：6–9，18–27）。キリストは，悔い改めのためのバプテスマを受ける人々を贖うために来られる（アル 9：26–27）。神の御子は御自分の民を贖うために，将来この世に来られ（アル 11：40–41）。贖いは悔い改めを条件に成し遂げられる（アル 42：13–26）。イエス・キリストが世を贖うために来られる（ヒラ 5：9–12）。キリストは人類を肉体の死と霊の死から贖われた（ヒラ 14：12–17）。キリストによって贖いは可能になる（3ニフ 9：17）。わたしは，自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である（エテ 3：14）。主なるあなたがたの贖い主は，肉体において死を受けた（教義 18：11）。神であるわたしはすべての人に代わって苦しみを負い（教義 19：1，16–20）。幼い子供たちは，独り子によって贖われている（教義 29：46）。わたしは，世の贖いのためにわたしの独り子を世に遣わし（教義 49：5）。キリストは世の光であり，世の贖い主である（教義 93：8–9）。ジョセフ・F・スミスは死者の贖いに関する示現を受けた（教義 138 章）。わたしたちは，キリストの贖罪により，全人類は救われ得ると信じる（箇条 1：3）。

贖いの計画　「イエス・キリスト」「贖罪」「救い」「堕落（アダムとエバの）」「福音書」参照

人の不死不滅と永遠の命をもたらすために定められたイエス・キリストの完全な福音。その中には，創造，堕落，贖罪，ならびに神から与えられたすべての律法と儀式と教義が含まれる。この計画によってすべての人が昇栄し，永遠に神とともに住むことができるようになった（2ニフ 2；9 章）。この計画は聖典の中で，救いの計画，幸福の計画，憐れみの計画とも呼ばれている。

彼はわれわれのとがのために傷つけられ（イザ 53：5〔モサ 14：5〕）。わたしたちを救いうる名は，これを別にしては，天下のだれにも与えられていない（使徒 4：12）。アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである（1コリ 15：22）。あなたがたの救われたのは，信仰によるのである（エペ 2：8〔2ニフ 25：23〕）。神が永遠の昔に約束された永遠のいのち（テト 1：2）。彼は永遠の救の源となり（ヘブ 5：8–9）。贖いの計画が死者にも伝えられた（1ペテ 3：18–20；4：6〔教義 138 章〕）。死は大いなる創造主の憐れみに満ちた計画を

成就する（2ニフ 9：6）。わたしたちの神の計画の何と偉大なことよ（2ニフ 9：13）。贖いの計画は復活と罪の赦しをもたらす（アル 12：25−34）。アロンはラモーナイ王の父に贖いの計画について教えた（アル 22：12−14）。アミュレクは救いの計画について説明した（アル 34：8−16）。アルマは救いの計画について説明した（アル 42：5−26，31）。近代の啓示の中で創造や堕落，贖罪，バプテスマの教義が確認された（教義 20：17−29）。この計画は世界が存在する前に定められた（教義 128：22）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。これが，すべての人に与えられる救いの計画である（モセ 6：52−62）。わたしたちはこれによって彼らを試し（アブ 3：22−26）。

悪魔　「地獄」「反キリスト」「滅びの子」「滅ぼす者」「ルシフェル」「霊―悪霊」参照

サタン。悪魔は義の敵であり，また神の御心を行おうと努める人々の敵である。悪魔は実際には神の霊の子であり，かつては神の前で権威を持っていた天使であった（イザ 14：12；2ニフ 2：17）。しかし，彼は前世で御父に背き，御父の霊の子供の 3 分の 1 を説きつけて背かせた（教義 29：36；モセ 4：1−4；アブ 3：27−28）。彼らは天から投げ落とされ，肉体を受けて現世の生活を体験する機会を与えられず，やがては永遠の罰の定めを受ける。悪魔は天から投げ落とされて以来，絶えずすべての人を欺いて神の業から遠ざけ，自分と同じように惨めにしようとしている（黙示 12：9；2ニフ 2：27；9：8−9）。

イエスがおしかりになると，悪魔は出て行った（マタ 17：18）。悪魔とその使たちとのために永遠の火が用意されている（マタ 25：41）。悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば，彼はあなたがたから逃げ去るであろう（新ヤコ 4：7）。邪悪な人々は悪魔に束縛されるようになる（1ニフ 14：7）。悪魔はあらゆる偽りの父である（2ニフ 2：18〔モセ 4：4〕）。悪魔は，すべての人が自分のように惨めになることを求めている（2ニフ 2：27）。もしも肉体がもう二度と起き上がることがないとすれば，わたしたちの霊は，悪魔となったあの天使に従うようになり（2ニフ 9:8−9）。悪魔は，荒れ狂い，人々をなだめ，へつらう（2ニフ 28：20−23）。悪いものは悪魔から出る（オム 1：25〔アル 5：40；モロ 7：12，17〕）。あなたがたの中に争いが起こらないように，また悪霊に従おうとすることのないように気をつけなさい（モサ 2：32）。もし良い羊飼いの羊でなければ，悪魔があなたがたの羊飼いであり（アル 5：38−39）。悪魔は終わりの日には自分の子らを助けようとせず（アル 30：60）。悪魔の誘惑に惑わされることのないように，絶えず祈りに心を配る（アル 34：39〔3ニフ 18：15，18〕）。贖い主の上に基を築けば，悪魔の大嵐に屈することはない（ヒラ 5：12）。サタンはあらゆる罪の根源である（ヒラ 6：26−31）。悪魔は狡猾な計画を企ててきた（教義 10：12）。悪魔が人の子らを誘惑するのは必要であ

る。そうでなければ，人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない（教義 29：39）。アダムは誘惑に負けたので，悪魔の意に従うことになった（教義 29：40）。滅びの子たちは，悪魔やその使いとともに永遠に治める（教義 76：33，44）。悪魔は千年の間縛られる（教義 88：110〔黙示 20：2〕）。邪悪な者が光と真理を取り去る（教義 93：39）。サタンはその第一の位を守らなかった（アブ 3：28）。

悪魔の教会：純粋で完全な福音をねじ曲げ，神の小羊に戦いを挑む，この世のすべての邪悪で世俗的な組織。

悪魔は大きな忌まわしい教会を設けた（1ニフ 13：6〔1 ニフ 14：9〕）。教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり，もう一つは悪魔の教会である（1ニフ 14：10〔アル 5：39〕）。悪魔の教会のほか，いかなる教会とも争ってはならない（教義 18：20）。大きな忌まわしい教会は，倒されるであろう（教義 29：21）。

アグリッパ　「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ヘロデ・アグリッパ 1 世の息子。ベルニケとドルシラの兄弟。レバノンのカルキスの王。彼は使徒パウロの言葉に耳を傾け，もう少しでクリスチャンとなるほどの確信を得た（使徒 25–26 章；ジ―歴史 1：24）。

悪霊　「霊―悪霊」参照

アサ

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国 3 代目の王。『聖書』には「アサの心は一生の間，主に対して全く真実であった」（列上 15:14）と記されている。彼は在位中に軍隊を強化して，エジプトのくびきを断ち，偽りの偶像を取り除き，民にエホバを求めるという誓いを立てさせた（列上第 15–16 章；歴下第 14–16 章）。しかし，足を病んだときに主の助けを求めず，死んだ（列上 15：23–24；歴下 16：12–13）。

欺き　「偽り」参照

聖典では，人に真実でないものを信じさせるという意味で用いられる。

偽って誓わない者は主の山に登る（詩篇 24：4）。よこしまな人からわたしを助け出してください（詩篇 43:1）。わざわいなるかな，彼らは悪を呼んで善といい，善を呼んで悪といい（イザ 5：20〔2 ニフ 15：20〕）。だれも自分を欺いてはならない（1コリ 3：18）。だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない（エペ 5：6）。悪人は人を惑わし人に惑わされる（2テモ 3：13）。全世界を惑わしたサタンは地に投げ落とされた（黙示 12：9）。サタンは諸国民を惑わすことがないようにつながれた（黙示 20：1–3）。主を欺くことはできない（2ニフ 9:41）。御子に従い，神の前に決して欺きを行うことがなければ，あなたがたは聖霊を受ける（2ニフ 31：13）。シーレムは，自分が悪魔の力によって欺かれていたことを告白した（ヤコ 7：18）。ノア王の民はへつらいの言葉にだまされた（モサ 11：7）。賢い者は自分の導き手として聖なる御霊（みたま）を受け，欺かれない（教義

45：57)。欺く者は災いである（教義 50：6)。彼はサタン，すなわち，あらゆる偽りの父である悪魔となって，人々を欺き，惑わし（モセ 4：4)。

アセル　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアのつかえめジルパの間に生まれた息子（創世 30：12−13)。

アセルの部族：ヤコブはアセルに祝福を授け（創世 49：20)，モーセはアセルの子孫に祝福を授けた（申命 33：1，24 − 29)。アセルの子孫は「えりぬきの大勇士」と呼ばれた（歴上 7：40)。

アダム　「アダム・オンダイ・アーマン」「エデン」「エバ」「堕落（アダムとエバの)」「天使長；天使のかしら」「ミカエル」参照

地上で創造された最初の人。

アダムは地上の人類の始祖，族長である。エデンの園での背きにより（創世 3 章；教義 29：40−42；モセ 4 章)，アダムは「堕落」し，死すべき者となった。それは人類がこの地上で進歩するのに必要な一つの段階である（2 ニフ 2：14−29；ア ル 12：21−26)。したがってアダムとエバは，人類に成長の機会を与えるという役割を果たしたことで，称賛を受けるに値する。アダムは日の老いたる者であり，またミカエルという名でも知られている（ダニ 7 章；教義 27：11；107：53−54；116 章；138：38)。アダムは天使長であり，イエス・キリストの再臨に先立ち，人類家族の長として再び地上を訪れる（教義 29：26)。

神は自分のかたちに人を創造された（創世 1：26−28〔モセ 2：26−28；アブ 4：26−28〕)。神は人に地を従わせる権威を与え，ふえよ，地に満ちよ，と命じられた（創世 1：28−31〔モセ 2：28−31；アブ 4：28−31〕)。神はエデンの園にアダムとエバを置き，善悪を知る木からは取って食べてはならないと命じられた（創世 2：7−9，15−17〔モセ 3：7−9，15−17；アブ 5：7−13〕)。アダムはすべての生き物に名を与えた（創世 2：19−20〔モセ 3：19−20；アブ 5：20−21〕)。アダムとエバは神によって夫婦となった（創世 2：18−25〔モセ 3：18−25；アブ 5：14−21〕)。アダムとエバはサタンに誘惑され，禁断の実を食べたために，エデンの園から追放された（創世 3 章〔モセ 4 章〕)。アダムは 930 歳で死んだ（創世 5：5〔モセ 6：12〕)。アダムは最初の人であった（教義 84：16)。アダムは死ぬ前に，義にかなった子孫をアダム・オンダイ・アーマンに呼び集め，彼らに祝福を授けた（教義 107：53−57)。アダムは犠牲をささげた（モセ 5：4−8)。アダムはバプテスマを受け，聖霊を受け，神権に聖任された（モセ 6：51−68)。

アダム・オンダイ・アーマン　「アダム」参照

アダムが自らの死の 3 年前に，義にかなった子孫に祝福を授けた場所（教義 107：53−56)。再臨の前にアダムはこの地を訪れる（教義 116 章)。

新しくかつ永遠の聖約　「聖約(契約)」参照

イエス・キリストの完全な福音（教義 66：2)。背教の時代の後に新たに啓示されるイエス・キリストの完全な福音は，いつの場合も新しいということができる。またそれは神の聖約であり，進んで受け入れようとする人々がいたすべての神権時代に授けられてきたという意味では，永遠である。新しくかつ永遠の聖約は，預言者ジョセフ・スミスを通して，イエス・キリストにより再び地上の人々に明らかにされた。その中には，神権の権能によって執行されるバプテスマや神殿結婚などの神聖な儀式も含まれる。これらの儀式は人の救い，不死不滅，永遠の命の備えとなるものである。人々が福音を受け入れ，神の戒めを守ると約束するときに，神は新しくかつ永遠の聖約に伴う祝福を与えると聖約される。

わたしはあなたと契約を立て（創世 17：7)。これは彼とその後の子孫に永遠の祭司職の契約となるであろう（民数 25：13)。とこしえの契約を破った(イザ 24：5〔教義 1：15〕)。わたしは，あなたがたと，とこしえの契約を立てて（イザ 55：3〔エレ 32：40〕)。これは彼らの永遠の契約となる（エゼ 37：26)。神は，「新しい」と言われたことによって，初めの契約を古いとされた(ヘブ 8：13)。新しい契約の仲保者(ちゅうほしゃ)イエス（ヘブ 12：24〔教義 76：69〕)。これは一つの新しくかつ永遠の聖約である（教義 22：1)。わたしの永遠の聖約を世に送って（教義 45：9〔教義 49：9〕)。主は完全な福音，すなわち永遠の聖約を送られた（教義 66：2〔教義 133：57〕)。日の栄えの王国の最高の階級を得るためには，人は結婚の新しくかつ永遠の聖約に入らなければならない（教義 131：1−2)。新しくかつ永遠の聖約が，主の完全な栄光のために定められた（教義 132：6, 19)。

悪口(あっこう)　「争い」「偽り」「うわさ」「うわさ話」参照

正しくない，人を傷つけるような，悪意のあることを口にすること。聖典では，人を苦しめようとの意図を持つ人の言動を指していうことが多い。

あなたの舌をおさえて悪を言わせず（詩篇 34：13〔1 ペテ 3：10〕)。よこしまな人は悪を企てる（箴言 16：27)。人々があなたがたに対し偽って様々の悪口(あっこう)を言う時には，あなたがたは，さいわいである（マタ 5：11〔3 ニフ 12：11〕)。悪い思いは，心の中から出てくるのであって（マタ 15：19〔マコ 7；21〕)。民のかしらを悪く言ってはいけない（使徒 23：5)。いっさいの悪意を捨て去りなさい(エペ 4：31)。互(たがい)に悪口(わるくち)を言い合ってはならない（新ヤコ 4：11)。陰口，悪口(あっこう)のないように取り計らう（教義 20：54)。

アッスリヤ

宿敵バビロニアと同様，旧約の時代に長期にわたって，シリアとパレスチナの国々の多くを支配した古代帝国。アッシリア人（アッスリヤ人）は紀元前 12 世紀中ごろから紀元前 7 世紀末にかけて大きな勢力を振るっていたが，決して安定した政治体系を確立す

ることはできなかった。彼らは火と剣で敵を壊滅させる，あるいは民の大部分を帝国内の他の地域に追放して弱体化を図るなど，恐怖による統治を行った。征服された人々の敵意は消えることがなく，帝国の全歴史を通して反乱が頻発した(列下 18−19 章;歴下 32 章;イザ 7：17−20；10 章；19：37)。

アナニヤ（エルサレムの）

『新約聖書』の中の人物。妻のサッピラとともに，主に奉献した金銭の一部を差し出さずに，主を欺いた。ペテロに見破られ，二人は地に倒れ，息絶えた（使徒 5：1−11)。

アナニヤ（ダマスコの）「パウロ」参照

ダマスコにいたキリストの弟子。パウロにバプテスマを施した（使徒 9：10−18；22：12)。

アハブ「イゼベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。北王国の非常によこしまな強権を誇った王。シドンの王女イゼベルと結婚。彼女の影響によって，イスラエルにバアルとアシタロテへの礼拝が持ち込まれ（列上 16：29−33；列下 3：2)，預言者を殺し，エホバ礼拝を滅ぼそうとの企てがなされた（列上 18：13)。

サマリヤで 22 年イスラエルを治めた（列上 16：29〔列上 16−22 章〕)。彼よりも先にいたすべての者にまさって，主の目の前に悪を行った（列上 16：30)。戦いで殺された（列上 22：29−40)。

アビナダイ「殉教者；殉教」参照

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者。

悔い改めなければ，神が邪悪なノア王の民を罰せられると預言した（モサ 11：20−25)。ノア王とその民の滅亡を預言したために投獄された（モサ 12：1−17)。ノア王の邪悪な祭司たちにモーセの律法とキリストについて教えた（モサ 12−16 章)。アルマは彼の言葉を信じてそれを記録した（モサ 17：2−4)。ノア王によって焼き殺された（モサ 17：20)。

油「油注ぎ」「オリーブの木」「病人への癒しの祝福」参照

一般的に，聖典に出てくる油という言葉は，オリーブ油を指す。旧約の時代から，オリーブ油は神殿や幕屋での儀式，また油注ぎに用いられ，灯火用や食用にも使われてきた。時として，オリーブ油は純粋さや，聖なる御霊とその影響力の象徴とされることもある（サ上 10：1，6；16：13；イザ 61：1−3)。

祭司は油を右の耳たぶにつけなければならない（レビ 14：28−29)。主は，わたしをつかわし，あなたに油をそそいで，その民イスラエルの王とされました（サ上 15：1)。やもめの油のびんは空にならなかった（列上 17：10−16)。わたしのこうべに油をそそがれる（詩篇 23：5)。大ぜいの病人に油をぬっていやした（マコ 6：13)。教会の長老たちを招き，オリブ油を注いで祈ってもらうがよい（新ヤコ 5：13−15)。あなたがたのランプの芯を

切りそろえて火をともし，油を備えて（教義 33：17〔マタ 25：1−13〕）。

油注がれた者　「イエス・キリスト」「メシヤ」参照

イエスはキリスト（ギリシャ語）あるいはメシヤ（アラム語）と呼ばれるが，これらはどちらも「油注がれた者」の意味である。イエスは人類の救いに関するすべての事柄について，御父の代理を務める者として，御父から油を注がれた御方である。

主がわたしに油を注いで（イザ 61：1−3）。主は福音を宣べ伝えさせるために，聖別してくださった（ルカ 4：16−22）。イエスは父なる神から油を注がれた（使徒 4：27）。神はイエスに油を注がれた（使徒 10：38）。

油注ぎ　「油」「病人への癒しの祝福」参照

昔，主の預言者は，アロンや祭司，イスラエルを治める王など，特別な務めを果たす人々に油を注いだ。今日の教会では，特別な祝福の一部として，頭に聖別された油を 1，2 滴注ぐ。これは，メルキゼデク神権の権能と権威によってのみ行われる。油が注がれた後，一人のメルキゼデク神権者がその油注ぎを結び固め，油注ぎを受けた人に対して特別な祝福を授けることができる。

彼らに油を注ぎ，彼らを聖別し，わたしに仕えさせなければならない（出エ 28：41〔レビ 8：6−12，30〕）。その人に油を注いで，わたしの民イスラエルの君としなさい（サ上 9：16；10：1）。長老たちは病人に油を注ぎ，祝福を授ける（新ヤコ 5：14−15〔教義 42：44〕）。

アブラハム　「アブラハムの聖約（契約）」参照

テラの息子。カルデヤのウルの生まれ（創世 11：26，31；17：5）。アブラハムは主の預言者であり，主は彼と永遠の聖約（契約）を交わされた。その聖約を通して地上のあらゆる国民が祝福を受ける。アブラハムの元の名はアブラムであった。

ハランに移住した（創世 11：31−32〔アブ 2：1−5〕）。神から召されてカナンへ旅をし，神聖な契約を受けた（創世 12：1−8〔アブ 2：4，15−17〕）。エジプトに旅をした（創世 12：9−20〔アブ 2：21−25〕）。ヘブロンに住んだ（創世 13：18）。ロトを救った（創世 14：1−16）。メルキゼデクに会った（創世 14：18−20）。ハガルが息子イシマエルを産んだ（創世 16：15−16）。名をアブラハムと変えられた（創世 17：5）。主はアブラハムとサラに男の子を授けると言われた（創世 17：15−22；18：1−14）。サラが息子イサクを産んだ（創世 21：2−3）。イサクを犠牲としてささげるように命じられた（創世 22：1−18）。サラが死んで葬られた（創世 23：1−2，19）。アブラハムは死んで葬られた（創世 25：8−10）。アブラハムがイサクをささげようとしたことは，神と神の独り子の相似であった（ヤコ 4：5）。メルキゼデクに什分の一を納めた（アル 13：15）。キリストの来臨を予見して，証した（ヒラ 8：16−17）。メルキゼデクから神権を受けた（教義 84：14）。忠実な人々はアブラ

ハムの子孫となる（教義 84：33−34〔ガラ 3：27−29〕）。啓示によってすべてのものを受けた（教義 132：29）。昇栄に入った（教義 132：29）。先祖の祝福と神権に任じられることを求めた（アブ 1：1−4）。カルデヤの偽りの祭司から迫害された（アブ 1：5−15）。主によって救い出された（アブ 1：16−20）。太陽と月と数々の星について学んだ（アブ 3：1−14）。前世と創造について学んだ（アブ 3：22−28）。

アブラハム書：アブラハムが書いた古代の記録で，1835 年に当教会の所有となった。この記録は幾体かのミイラとともに，アントニオ・レボロがエジプトの地下納骨堂で発見したもので，レボロによりマイケル・チャンドラーに遺贈された。チャンドラーは 1835 年にアメリカ合衆国の各地でこれらを展示した。ジョセフ・スミスの友人たちがこれらをチャンドラーから買い求め，預言者に贈った。そこで預言者ジョセフ・スミスはこれを翻訳した。現在，この記録の一部は『高価な真珠』の中に収められている。

第 1 章には，カルデヤのウルでアブラハムの身の上に起こったことが記録されている。ウルの邪悪な祭司たちは，アブラハムを犠牲としてささげようとした。第 2 章には，アブラハムのカナンへの旅の様子が述べられている。主がアブラハムに現れ，聖約（契約）を交わされた。第 3 章には，アブラハムが宇宙を見て，様々な天体の間の関係を理解したことが記されている。第 4−5 章は，天地創造に関する記録である。

アブラハムの子孫：イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うことにより，神がアブラハムに授けられた約束と聖約（契約）を受ける人々。アブラハムの血統に属する人，また福音を受け入れてバプテスマを受けることにより，アブラハムの家族に養子縁組された人は，男女を問わずこの祝福にあずかることができる（ガラ 3：26−29；4：1−7；教義 84：33−34；103：17；132：30−32；アブ 2：9−11）。しかし，アブラハムの文字どおりの子孫であっても，不従順によって祝福を失うことがある（ロマ 4：13；9：6−8）。

アブラハムの子孫　「アブラハム―アブラハムの子孫」参照

アブラハムの聖約（契約）　「アブラハム」「割礼」「聖約（契約）」参照

アブラハムは福音を受け入れ，大神権に聖任され（教義 84：14；アブ 2：11），昇栄の聖約である日の栄えの結婚をした（教義 131：1−4；132：19，29）。アブラハムは，これらの聖約に伴うすべての祝福が地上の自分の子孫にも授けられるという約束を受けた（教義 132：29−31；アブ 2：6−11）。これらの聖約と約束は，まとめてアブラハムの聖約（契約）と呼ばれる。この聖約の回復が，終わりの時における福音の回復であった。それは，地上のすべての国民がこの聖約を通して祝福を受けるためである（ガラ 3：8−9，29；教義 110：12；124：58；アブ 2：10−11）。

アブラム　「アブラハム」参照

アベデネゴ　「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク，メシャク，アベデネゴの3人のイスラエルの若者は，ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。アベデネゴのヘブライ語名は，アザリヤである。この4人の若者は，王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ(ダニ1章)。シャデラク，メシャク，アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが，神の御子によって守られた（ダニ3章)。

アベル　「アダム」「カイン」参照

『旧約聖書』の中の人物。アダムとエバの息子。

カインよりも優れた犠牲を神にささげた（創世4：4－5〔ヘブ11：4；モセ5:16−21〕)。カインに殺された（創世4：8〔モセ5：32〕)。アダムから神権を受けた（教義84：16)。サタンはアベルを殺すようにカインと謀った(モセ5：28−31〔ヒラ6：27〕)。

アマリキヤ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の反逆者。レーマン人の中で権力を握り，彼らをニーファイ人と戦わせた（アル46−51章)。

アマレカイ人

神の教えに背いたニーファイ人のグループ。ニーファイ人と戦うようにレーマン人をそそのかした（アル21−24；43章)。

アマレク人

アラバと地中海の間にあるパランの荒れ野に住んでいたアラブの1部族。彼らはモーセの時代（出エ17：8）からサウルやダビデの時代（サ上15章；27：8；30章；サ下8：11−12）に至るまで，絶えずヘブライ人と戦った。

アミュレク　「アルマ(アルマの息子)」参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの同僚宣教師。

天使の訪れを受けた（アル8：20；10:7)。アルマを自分の家に迎えた(アル8：21−27)。アモナイハの民に，教えを説いた（アル8：29−32；10：1−11)。ニーファイ，リーハイ，マナセの子孫であった（アル10：2−3)。真理について証(あかし)した（アル10：4−11)。人々に悔い改めを呼びかけたが，拒まれた（アル10：12−32)。ゼーズロムと論じ合った（アル11：20−40)。復活と裁き，回復について教えた（アル11：41−45)。信じた人々の殉教を阻止したいと思った（アル14：9−10)。アルマとともに投獄された（アル14：14−23)。信仰によって牢(ろう)から解放された(アル14:24−29)。贖罪(しょくざい)と憐(あわ)れみ，正義について証(あかし)した（アル34：8−16)。祈りについて教えた（アル34：17−28)。悔い改めを引き延ばすことのないように人々に勧めた（アル34：30−41)。牢(ろう)を地に倒したのは，アルマとアミュレクの信仰であった（エテ12：13)。

アムリサイ；アムリサイ人

『モルモン書』の中の人物。さばきつかさの治世に，王を望むニーファイ人の一団を率いた。アムリサイ人と呼ばれたこのニーファイ人たちは公然と神に背き，そのためにのろいを受けた(アル 2–3 章)。

アモス

旧約の預言者。ユダの王ウジヤとイスラエルの王ヤラベアムの時代に，紀元前 792–740 年ごろにかけて預言した。

アモス書：『旧約聖書』の中の 1 書。アモスの預言の多くは，イスラエルとその近隣諸国に，義に立ち返れとの警告を発している。

第 1–5 章では，イスラエルとその近隣諸国に悔い改めを呼びかけている。第 3 章では，主が預言者に隠れたことを啓示されること，また，イスラエルが背きのために敵から滅ぼされることが述べられている。第 6–8 章では，アッスリヤ（アッシリア）の侵攻よりもはるか以前にイスラエルが没落することが預言されている。第 9 章では，イスラエルがやがて彼らの所有の地に回復されることが預言されている。

歩む（神とともに）　「義」「従順;従う」「道」参照

神の教えに従い，神が望んでおられる生活をすること。聖霊の促しを受け入れ，それに従うこと。

主は直く歩む者に良い物を拒まれることはありません（詩篇 84：11）。彼らがわたしの定めに歩み，わたしのおきてを守って行い，わたしの民となるためである（エゼ 11：20–21〔申命 8：6〕）。主のあなたに求められることは，ただへりくだって神と共に歩むことではないか（ミカ 6：8〔教義 11：12〕）。神が光の中にいますように，わたしたちも光の中を歩くならば（1ヨハ 1：7〔2 ヨハ 1：6；3 ヨハ 1：4；4 ニフ 1：12〕）。命に至る細い道を歩み（2ニフ 33：9）。ベニヤミン王は澄んだ良心をもって神の前を歩んだ（モサ 2：27）。あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように（アル 7：22）。信仰深い歩みと会話によって，すなわち主の前を聖く歩むことによって（教義 20：69）。わたしの前を完全に聖く歩み，わたしの言葉と戒めを受けるとき(教義 21：4)。子供たちに祈ることと，主の前をまっすぐに歩むことを教えなければならない（教義 68：28）。あなたはわたしにつながっていなさい。そうすれば，わたしはあなたとつながっていよう。それゆえ，わたしとともに歩みなさい（モセ 6：34）。

洗い　「贖罪」「バプテスマ」参照

肉体的あるいは霊的に清めること。悔い改めた人は，象徴的な意味において，イエス・キリストの贖いの犠牲を通して，罪を負った生活とその結果から清められる。正当な神権の権能の下に執行される洗いは，神聖な儀式の中に数えられている。

祭司は衣服を洗い，水に身をすすいで（民数 19：7）。わたしの不義をことごとく洗い去り（詩篇 51：2，7）。身を洗って，清くなり，悪を行うことをやめ（イザ 1：16–18）。イエスは

弟子たちの足を洗われた（ヨハ 13：4−15〔教義 88：138−139〕）。バプテスマを受け，あなたの罪を洗い落としなさい（使徒 22：16〔アル 7：14；教義 39：10〕）。だれも衣を白く洗い清められないかぎり，救いを得られない（アル 5：21〔3 ニフ 27：19〕）。彼らの衣はキリストの血によって白く洗い清められた（アル 13：11〔エテ 13：10〕）。戒めを守ることによって，彼らが自分のすべての罪から洗われて清くされ（教義 76：52）。あなたがたの油注ぎと，あなたがたの洗いは，わたしの聖なる家の儀式によって定められる（教義 124：39−41）。

争い　「背く」参照

不和，敵対，論争など。特に主の教会の会員同士の争い，家族同士の争いは，主の不興を招く。

わたしとあなたの間に争いがないようにしましょう（創世 13：8）。高ぶりはただ争いを生じる（箴言 13：10）。もし互（たがい）に責むべきことがあれば，ゆるし合いなさい（コロ 3：13）。愚かな議論と争いを避けなさい（テト 3：9）。主なる神は，互いに言い争ってはならないと命じられた（2ニフ 26：32）。あなたがたは子供たちが互いに戦うのも，争い合うのもほうってはおかないであろう（モサ 4：14）。アルマは，教会員の間に決して争いがないように指示した（モサ 18：21）。サタンはうわさと争いを広め（ヒラ 16：22）。悪魔は争いの父であり，互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる（3ニフ 11：29〔モサ 23：15〕）。わたしの福音を確立し，ひどい争いがないようにするためである（教義 10：62−64）。互いに言い争うのをやめなさい（教義 136：23）。

アルコール飲料　「知恵の言葉」参照

アルパとオメガ　「イエス・キリスト」参照

アルパはギリシャ語アルファベットの最初の文字で，オメガは最後の文字である。これはまた，イエス・キリストに与えられた名称でもあり，創造された万物の本源と究極の目標がキリストであることを示す象徴として用いられている（黙示 1：8；教義 19：1）。

アルマ（アルマの息子）　「アミュレク」「アルマ（父）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の国の最初の大さばきつかさであり，預言者であった人。初め彼は教会を滅ぼそうとした（モサ 27：8−10）。しかし天使の現れを受けて，福音に心を向けた（モサ 27：8−24；アル 36：6−27）。後に，人々に教えを宣（の）べるために，大さばきつかさの職を辞した（アル 4：11−20）。

アルマ書：『モルモン書』の中の 1 書。アルマの息子であった預言者アルマと，その子ヒラマンの記録を要約したもの。アルマ書に書かれているのは，紀元前約 91−52 年にかけての出来事である。63 の章から成っている。第 1−4 章には，ニーホルやアムリサイに従った者たちのニーファイ人に対する反逆の様子が述べられている。そ

の結果起きた戦争は，それまでのニーファイ人の歴史の中で最も悲惨なものであった。第 5–16 章には，良い羊飼いに関する説教（アル 5 章）や，アモナイハの町でアミュレクと行った宣教など，アルマの初期の伝道での話が述べられている。第 17–27 章には，モーサヤの息子たちについて，またレーマン人の中での彼らの働きについての記録が収められている。第 28–44 章には，アルマの説教の中でも特に重要なものが幾つか含まれている。第 32 章で，アルマは御言葉を種にたとえている。第 36 章では，息子ヒラマンに自分が改心したいきさつを述べている。第 39–42 章には，道徳的な過ちを犯した息子コリアントンへの勧告が記されている。この重要な説教は，正義，憐れみ，復活，贖罪について説明したものである。第 45–63 章には，当時のニーファイ人の戦争と，ハゴスのもとでの移住のことが述べられている。司令官モロナイ，テアンクム，リーハイなどの偉大な指導者が，勇気と時宜を得た行動によって，ニーファイ人を窮地から救っている。

アルマ（父）

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者。邪悪なノア王の時代に教会を設立した。

邪悪な王ノアの祭司で，ニーファイの子孫であった（モサ 17：1–2）。アビナダイの言葉を聞いて信じたが，王に追い出された。彼は逃げて身を隠し，アビナダイの言葉を記録した（モサ 17：3–4）。悔い改めてアビナダイの言葉を教えた（モサ 18：1）。モルモンの泉でバプテスマを施した（モサ 18：12–16）。教会を設立した（モサ 18：17–29）。民とともにゼラヘムラの地に着いた（モサ 24：25）。教会を管理する権能を与えられた（モサ 26：8）。教会員を裁き，導いた（モサ 26：34–39）。息子を大祭司の職に聖任した（アル 4:4〔モサ 29:42;アル 5:3〕）。

アロン（モーサヤの息子）「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。アロンは宣教師として働き，その熱心な努力によって多くの人がキリストに帰依することとなった。

不信仰で，教会を滅ぼそうとした（モサ 27：8–10，34）。天使が彼と彼の仲間に現れた（モサ 27：11）。悔い改めて，神の言葉を宣べ伝え始めた（モサ 27：32–28：8）。王位を受けることを辞退し，神の言葉を宣べ伝えるためにレーマン人の地へ行った（アル 17:6–9）。導きを求めて断食し，祈った（アル 17：8–11）。ラモーナイ王の父を教えた（アル 22：1–26）。ゾーラム人のもとに行って御言葉を宣べ伝えた（アル 31：6–7）。

アロン（モーセの兄）「アロン神権」「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。アムラムとヨケベデの息子。レビの部族（出エ 6：16–20）。モーセの兄（出エ 7：7）。

モーセを助けてイスラエルの子らをエジプトから導き出すように，またモーセの代弁者となるように主から

召された（出エ 4：10−16，27−31；5：1−12：51）。モーセはシナイ山で，アロンとその 4 人の息子をアロン神権に任じることについて指示を受けた（出エ 28：1−4）。民の求めに応じて金の子牛を造った（出エ 32：1−6，21，24，35）。ホル山で 123 歳で死んだ（民数 20：22−29〔民数 33：38−39〕）。主はアロンとその子孫にも，代々一つの神権を確認した（教義 84：18，26−27，30）。神権の召しを尊んで大いなるものとする者はモーセの息子たち，またアロンの息子たちとなる（教義 84：33−34）。主はアロンのように御父から召された人々の義にかなった働きを義とされる（教義 132：59）。

アロン神権　「アロン（モーセの兄）」「神権」「モーセの律法」参照

小神権（ヘブ 7：11−12；教義 107：13−14）。アロン神権にはビショップ，祭司，教師，執事の職がある（教義 84：30；107：10，14 − 15，87 − 88）。古代においてはモーセの律法の下に大祭司，祭司，レビ人がいた。アロン神権がモーセに啓示されたのは，古代のイスラエル人が神に背いたためである。彼らは，聖めを受けることと，メルキゼデク神権とその儀式を受けることを拒んだ（教義 84：23−25）。アロン神権は，律法と福音の実務上また外形上の儀式を執り行う（歴上 23：27−32；教義 84：26−27；107：20）。アロン神権は，天使の働きの鍵と，悔い改めの福音の鍵と，バプテスマの鍵を持つ（教義 13 章）。アロン神権は，この神権時代において，1829 年 5 月 15 日に地上に回復された。バプテスマのヨハネが，ペンシルベニア州ハーモニー近くのサスケハナ川の岸辺で，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けた（教義 13 章；ジ―歴史 1：68−73）。

彼は永遠の神権の聖約を交わすであろう（KJ 民数 25：13）。主はレビの子らを清められる（マラ 3：3〔3 ニフ 24：3〕）。だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく（ヘブ 5：4）。レビ神権によって完全になることはない（ヘブ 7：11）。レビの子らがささげ物をささげるまで，この神権は決して再び地上から取り去られることはない（教義 13：1）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはアロン神権に聖任された（教義 27：8）。小神権は天使の働きの鍵を持つ（教義 84：26〔教義 13：1〕）。二つの神権，すなわち，メルキゼデク神権とアロン神権がある（教義 107：1）。第二の神権は，アロンの神権と呼ばれる（教義 107：13）。

哀れみ　「愛」「憐れみ」「慈愛」参照

聖典の中では，同情や気の毒に思う心，慈しみなどの意味で用いられる。

主は民に哀れみを示すように求められた（ゼカ 7：8−10）。彼らを深くあわれまれた（マタ 9：36〔マタ 20：34；マコ 1：41；ルカ 7：13〕）。あるサマリヤ人が彼を見て気の毒に思い（ルカ 10：33）。同情し合いなさい（1 ペテ 3：8）。キリストは人の子らを哀れむ思いに満たされている（モサ 15：9）。わたしの心は，あなたがたに対する哀れみに満たされている（3 ニフ 17：6）。ジョセフ・スミスは主の哀れ

みを祈り求めた（教義 121：3–5）。

憐れみ　「イエス・キリスト」「贖罪」「正義」「恵み」「赦し」参照

同情，優しさ，赦しの精神。憐れみは神の属性の一つである。イエス・キリストは贖いの犠牲を通してわたしたちに憐れみをかけられる。

主は，あわれみあり，恵みあり（出エ 34：6〔申命 4：31〕）。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない（歴上 16：34）。恵みといつくしみとが伴うでしょう（詩篇 23：6）。貧しい人をあわれむ者はさいわいである（箴言 14：21）。わたしはいつくしみを喜び，犠牲を喜ばない（ホセ 6：6）。あわれみ深い人たちは，さいわいである，彼らはあわれみを受けるであろう（マタ 5：7〔3 ニフ 12：7〕）。もっと重要な，公平とあわれみと忠実とを見のがしている（マタ 23：23）。あなたがたの父なる神が慈悲深いように，あなたがたも慈悲深い者となれ（ルカ 6：36）。わたしたちの行った義のわざによってではなく，ただ神のあわれみによって，救われたのである（テト 3：5）。主の深い憐れみは，すべての者のうえに及び（1 ニフ 1：20）。悔い改めない者には憐れみは及ばない（モサ 2：38–39）。神は御自分の御名を信じるすべての人に憐れみをかけられる（アル 32：22）。憐れみは正義の要求を満たし（アル 34：16）。あなたは憐れみが正義から何を奪うことができると思うか（アル 42：25〔アル 42：13–25〕）。幼い子供たちは皆，神の憐れみのおかげで，神によって生きている（モロ 8：19–20〔教義 29：46〕）。憐れみの腕があなたがたの罪に対する贖いをした者（教義 29：1）。わたしは，わたしの名を信じたすべての者を受け入れた者である。わたしが流した血によって，父の前で彼らのために弁護をしてきた（教義 38：4）。聖約を守ってきた者は憐れみを受ける（教義 54：6）。主なるわたしは罪を赦し，またへりくだった心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い（教義 61：2）。主なるわたしは，柔和な者すべてに憐れみを示す（教義 97：2）。幼子のようにあなたを受け入れる者は，わたしの王国を受ける。彼らは憐れみを受けるからである（教義 99：3）。憐れみはあなたの前を進み（モセ 7：31）。

按手　「聖任」「聖霊の賜物」「任命」「病人への癒しの祝福」参照

神権の儀式の一部として，人の頭に手を置く行為。聖任や祝福，病人への癒しの祝福，教会員としての確認，聖霊の授与など，神権の儀式の多くがこの按手によって行われる。

モーセは主が命じられたようにし，彼の上に手をおき（民数 27：18，22–23〔申命 34：9〕）。病人に手をおいていやされた（マコ 6：5〔モル 9：24〕）。使徒たちは祈って手を彼らの上においた（使徒 6：5–6）。手を彼らの上においたところ，彼らは聖霊を受けた（使徒 8：14–17）。アナニヤはサウロの上に手をおいて彼が再び見えるようにした（使徒 9：12，17–18）。パウロは手を彼の上においていやしてやった（使徒 28：8）。パウロはバプテスマや按手についての教義を教えた（ヘブ 6：2）。アルマは按手により祭

司たちと長老たちを聖任した（アル 6：1）。イエスは弟子たちに，按手によって聖霊を授ける力を与えられた（3ニフ 18：36−37）。あなたがたが手を置く者に聖霊を授ける（モロ 2：2）。長老たちは子供に手を置き，彼らに祝福を授けなければならない（教義 20：70）。按手によって人々は聖霊を受けるであろう（教義 35：6〔箇条 1：4〕）。長老たちは病人に按手をしなければならない（教義 42：44〔教義 66：9〕）。子供たちはバプテスマの後で按手を受けなければならない（教義 68：27）。神権は按手によって授けられる（教義 84：6−16）。

安息　「安息日」「平安；平和」参照

心配事や不安から解放された安らぎの状態。主は忠実に従う人々に，現世においてこのような安息を与えると約束された。また主はこのような人々のために，来世にも安息の場を備えておられる。

わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう（出エ 33：14）。すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう（マタ 11：28−29）。わたしたちは，民が神の安息に入るようにするために，民の中で熱心に働いて（ヤコ 1：7〔ヘブ 4：1−11〕）。悔い改める者はだれであろうと，わたしの安息に入るであろう（アル 12：34）。清められて，主なる神の安息に入った人々は大勢おり，非常に多くの数に上った（アル 13：12−16）。パラダイスと呼ばれる幸福な状態，すなわち安息の状態（アル 40：12〔アル 60：13〕）。わたしの血により衣を洗われた者のほかには，父の安息に入る者はいない（3ニフ 27：19）。この民に悔い改めを告げて人々をわたしのもとに導き，父の王国で彼らとともに安息を得られるように（教義 15：6〔教義 16：6〕）。死ぬ者はその労苦をすべて解かれて休み（教義 59：2〔黙示 14：13〕）。主の安息とは，主の完全な栄光のことである（教義 84：24）。

安息日　「安息」「創造；創造する」参照

休息と礼拝のために設けられた，週に 1 度の聖日。神は万物を創造された後，7 日目に休まれた。そして週の 1 日を，人々に神を思い起こさせるための安息の日とするように命じられた（出エ 20：8−11）。

キリストの復活まで，教会員はユダヤ人と同じように週の最後の日を安息日として守っていた。復活後は，ユダヤ人であれ異邦人であれ，教会員は主の復活を記念するために週の最初の日（主の日）を安息日とするようになった。今日の教会員も週の 1 日を，神を礼拝し世の働きを休む聖なる安息日として守り続けている。

安息日は人々に霊的な養いの必要性と神に従う義務を思い起こさせる。安息日の遵守をおろそかにする国は，生活全般にその影響を受け，その宗教生活が崩れ始める（ネヘ 13：15−18；エレ 17：21−27）。

神は第 7 日に休まれた（創世 2：1−3）。イスラエルの民は安息日にはマナを集めなかった（出エ 16：22−30）。安息

日を覚えて，これを聖とせよ（出エ 20：8−11〔モサ 13：16−19〕）。安息日は神と人との間のしるしとして与えられた（出エ 31：12−17〔エゼ 20：12，20〕）。安息日には売り買いをしてはならない（ネヘ 10：31）。安息日を喜びの日と呼び，主の聖日を尊ぶべき日ととなえ，おのが楽しみを求めず（イザ 58：13−14）。安息日は人のためにあるもので，人が安息日のためにあるのではない（マコ 2：23−28）。人の子は安息日の主である（ルカ 6：1−10）。イエスは安息日に会堂で教え，病人を癒された（ルカ 13:10−14）。ニーファイ人は安息日を聖なる日として守った（ジェロ 1：5）。安息日を守って聖なる日として保つ（モサ 18：23）。わたしの聖日に祈りの家に行って，聖式をささげなければならない（教義 59：9−13）。シオンに住む者はまた，安息日を守らなければならない（教義 68：29）。神であるわたしは，わたしのすべての業を離れて休んだ（モセ 3：1−3〔創世 2：1−3；アブ 5：1−3〕）。

アンタイ・ニーファイ・リーハイ人　「アンモン（モーサヤの息子）」「ヒラマンの息子たち」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の，モーサヤの息子たちによって改宗したレーマン人の呼び名。アンモンの民とも呼ばれたこの人々は，改宗した後，生涯従順であった（アル 23：4−7，16−17；27：20−27）。

彼らは，自分たちをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と名付けた（アル 23：16−17；24：1）。彼らは人の血を流すことを拒み，武器を埋めた（アル 24：6−19）。彼らの息子たちは戦争に備え，ヒラマンを自分たちの指揮官に選んだ（アル 53：16−19；56−58 章〔これらの息子たちは 2 千人の若い兵士としても知られていた〕）。

アンデレ

『新約聖書』の中の人物。シモン・ペテロの兄弟。イエスが地上で務めを果たしておられたときに召された十二使徒の一人（マタ 4：18−19；マコ 1：16−18，29）。

アンナ

『新約聖書』の中の人物。アセル族の女預言者。イエスの降誕のときに，彼女は年老いた寡婦であった。彼女は神殿に連れて来られた幼子イエスを見て，贖い主であると認めた（ルカ 2：36−38）。

アンナス　「カヤパ」参照

『新約聖書』の中の人物。サンヒドリン（議会）の有力者。イエスは逮捕されたとき，まずアンナスのもとに連行された（ヨハ 18：13）。使徒たちの裁判においても指導的な役割を演じた（使徒 4：3−6）。

アンモン（ゼラヘムラの子孫）　「リムハイ」参照

『モルモン書』の中の人物。屈強な力の強い男で，ゼラヘムラからニーファイ・リーハイの地へ向かう捜索隊を率いた（モサ 7：1−16）。昔の記録を見せられて，聖見者とは何かを説明

した（モサ 8：5–18）。後に，リムハイ王とその民をレーマン人から解放する手助けをし，彼らをゼラヘムラに連れ戻した（モサ 22 章）。

アンモン（モーサヤの息子）「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。アンモンは宣教師として働き，彼の熱心な努力によって多くの人がキリストに帰依することとなった。

不信仰で，教会を滅ぼそうとした（モサ 27：8–10，34）。天使が彼と彼の仲間に現れた（モサ 27：11）。悔い改めて，神の言葉を宣べ伝え始めた（モサ 27：32–28：8）。王位を受けることを辞退し，神の言葉を宣べ伝えるためにレーマン人の地へ行った（アル 17：6–9）。導きを求めて断食し，祈った（アル 17：8–11）。縛られてラモーナイ王の前に連れて行かれた（アル 17：20–21）。ラモーナイの羊の群れを取り戻した（アル 17：26–39）。ラモーナイに教えを説いた（アル 18：1–19：13）。神に感謝し，喜びのあまり力を失ってしまった（アル 19：14）。彼が改宗に導いた人々は，二度と道を踏み外さなかった（アル 23：6）。神の手に使われる者となり，何千もの人々を真理に導けたことを喜んだ（アル 26：1–8〔アル 26：1–37〕）。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民を安全な地に導いた（アル 27 章）。同僚たちとともにアルマに出会って，大きな喜びを感じた（アル 27：16–18）。

言い伝え

代々伝えられていく考えや習慣（2 テサ 2：15）。主は聖典の中で義人に対し，人の邪悪な言い伝えを避けるよう絶えず警告しておられる（レビ 18：30；マコ 7：6–8；モサ 1：5；教義 93：39–40）。

イエス・キリスト「贖い；贖う」「贖い主」「贖いの計画」「油注がれた者」「アルパとオメガ」「イエス・キリストの再臨」「生ける水」「命のパン」「岩」「インマヌエル」「生まれる；産む；もうける」「エホバ」「解放者」「神；神会」「神の小羊」「犠牲」「ゴルゴタ」「山上の垂訓」「主」「十字架」「十字架の刑」「昇天」「贖罪」「信仰」「救い主」「隅の石」「創造；創造する」「堕落（アダムとエバの）」「血」「仲保者」「長子；初子」「罪の赦し」「慰め主；助け主」「初め」「花婿」「光；キリストの光」「羊飼い」「人の子」「福音書」「復活」「蛇（青銅の）」「弁護者」「変貌」「マリヤ（イエスの母）」「道」「無窮」「恵み」「メシヤ」「良い羊飼い」「良心」「わたしは有る」参照

キリスト（ギリシャ語）とメシヤ（ヘブライ語）はともに「油注がれた者」の意味。イエス・キリストは霊における御父の長子であり（ヘブ 1：6；教義 93：21），肉における御父の独り子であられる（ヨハ 1：14；3：16）。またイエス・キリストはエホバであり（教義 110：3–4），世界が創造される前に，その偉大な召しに予任された。イエスは御父の指示の下に，地球と地上の万物を創造された（ヨハ 1：3，14；モセ 1：31–33）。イエスはマリヤの子

としてベツレヘムで生まれ，罪のない生活をし，また血を流し，十字架上で命をささげることによって，全人類の罪を完全に贖われた（マタ 2：1；1 ニフ 11：13−33；3 ニフ 27：13−16；教義 76：40−42）。イエスは死者の中からよみがえり，全人類がやがては復活できるようにされた。自分の罪を悔い改め，神の戒めに従う人は，イエスの贖罪と復活を通して，永遠にイエスと御父とともに住むことができる（2 ニフ 9：10−12；21−22 章；教義 76：50−53，62）。

イエス・キリストはこの地上に生を受ける者の中で，最も偉大な御方である。その生涯は，すべての人にいかに生きるべきかを教える完全な模範である。祈りや祝福，神権の儀式はすべてイエス・キリストの名によって行われなければならない。イエス・キリストは主の主，王の王，創造主，救い主，全地の神であられる。

イエス・キリストは福千年の間地上を統治するために，力と栄光とをもって再び来られる。終わりの日に，イエス・キリストは全人類を裁かれる（アル 11：40−41；ジ―マタ 1 章）。

イエス・キリストの生涯の要約（出来事順）：イエスの降誕と使命が預言された（ルカ 1：26−38〔イザ 7：14；9：6−7；1 ニフ 11 章〕）。イエスの降誕（ルカ 2：1−7〔マタ 1：18−25〕）。割礼を受けられた（ルカ 2：21）。神殿へ連れて行かれた（ルカ 2：22−38）。博士たちが訪れて来た（マタ 2：1−12）。マリヤとヨセフに連れられてエジプトへ逃れられた（マタ 2：13−18）。ナザレに連れて帰られた（マタ 2：19−23）。12 歳のとき，神殿に行かれた（ルカ 2:41−50）。弟や妹がいた（マタ 13：55−56〔マコ 6：3〕）。バプテスマを受けられた（マタ 3:13−17〔マコ 1：9−11；ルカ 3：21−22〕）。悪魔に試みられた（マタ 4：1−11〔マコ 1：12−13；ルカ 4：1−13〕）。弟子たちを召された（マタ 4：18−22〔マタ 9：9；マコ 1：16−20；2：13−14；ルカ 5：1−11，27−28；6：12−16；ヨハ 1：35−51〕）。十二弟子に権威をお授けになった（マタ 10:1−4〔マコ 3:13−19；ルカ 6：12−16〕）。山上の垂訓を述べられた（マタ 5−7 章）。御自身の死と復活を予告された（マタ 16：21〔マタ 17：22−23；20：17−19；マコ 8：31；9：30−32；10：32−34；ルカ 9：22；18：31−34〕）。変貌された（マタ 17：1−9〔マコ 9：2−8；ルカ 9:28−36〕）。七十人を遣わされた（KJ ルカ 10：1−20）。エルサレムに勝利の入城をされた（マタ 21：1−11〔マコ 11：1−11；ルカ 19：29−40；ヨハ 12：12−15〕）。聖餐を定められた（マタ 26：26−29〔マタ 14：22−25；ルカ 22：19−20〕）。ゲツセマネで苦しみ，祈られた（マタ 26：36−46〔マコ 14：32−42；ルカ 22：39−46〕）。裏切られ，捕らえられ，見捨てられた（マタ 26：47−56〔マコ 14：43−53；ルカ 22：47−54；ヨハ 18：2−13〕）。十字架につけられた（マタ 27:31−54〔マコ 15：20−41；ルカ 23：26−28，32−49；ヨハ 19：16−30〕）。復活された（マタ 28：1−8〔マコ 16：1−8；ルカ 24：1−12；ヨハ 20：1−10〕）。復活の後に御姿を現された（マタ 28:9−20〔マコ 16：9−18；ルカ 24：13−48；ヨハ 20：11−31；使徒 1：3−8；1 コリ

15：5–8〕)。天に昇られた（マコ 16：19–20〔ルカ 24：51–53；使徒 1：9–12〕)。ニーファイ人に御姿を現された（3ニフ 11：1–17〔3 ニフ 11–26 章〕)。ジョセフ・スミスに御姿を現された（ジ—歴史 1：15–20)。

前世におけるキリスト：主はアブラムに現れ（創世 12：7〔創世 17：1；18：1；アブ 2：6–8〕)。主はモーセと顔を合わせて語られた（出エ 33：11〔申命 34：10；モセ 1：1–2〕)。わたしは祭壇のかたわらに立っておられる主を見た（アモ 9：1)。初めに言があった。言は神と共にあった。そして言は肉体となり，わたしたちのうちに宿った（ヨハ 1：1，14〔1 ヨハ 1：1–3〕)。アブラハムの生れる前からわたしは，いるのである（ヨハ 8：58)。父よ，世が造られる前に，わたしがみそばで持っていた栄光で，今み前にわたしを輝かせて下さい（ヨハ 17：5)。ニーファイやヤコブが贖い主にまみえたと同じように，イザヤも贖い主にまみえた（2ニフ 11：2–3)。明日，わたしは世に来る（3ニフ 1：12–14)。世の始まる前からすでにおられた（3ニフ 26：5〔ヨハ 6：62〕)。わたしはあなたに現れているように，将来肉にあってわたしの民に現れる（エテ 3：14–17)。エノクは主にまみえ，主とともに歩んだ（教義 107：48–49)。初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子（モセ 4：2)。主は言われた。「わたしはだれを遣わそうか。」すると，一人が人の子のように答えた。「わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。」（アブ 3：27)。

降誕と死に関する預言：おとめがみごもって男の子を産む（イザ 7：14〔1 ニフ 11：13–20〕)。ベツレヘムから，イスラエルを治める者が出る（ミカ 5：2)。レーマン人サムエルは，2 昼 1 夜がまるで 1 日のようになる日，暗くならない夜，新しい星，そのほかのしるしについて預言した（ヒラ 14：2–6)。レーマン人サムエルは，暗闇や雷，稲妻，地震について預言した（ヒラ 14：20–27)。キリスト降誕のしるしが成就した（3ニフ 1：15–21)。イエスの死のしるしが成就した（3ニフ 8：5–23)。

キリストの予型と象徴：アベルは群れの初子をささげた（創世 4：4〔モセ 5：20〕)。あなたのひとり子イサクを燔祭としてささげなさい（創世 22：1–13〔ヤコ 4：5〕)。主はイスラエルの子らに，傷のない子羊をささげるよう命じられた（出エ 12：5，21，46〔民数 9：12；ヨハ 1：29；19：33；1 ペテ 1：19；黙示 5：6〕)。これは主があなたがたの食物として賜わるパンである（出エ 16：2–15〔ヨハ 6：51〕)。岩を打ちなさい。水がそれから出て，民はそれを飲むことができる（出エ 17：6〔ヨハ 4：6–14；1 コリ 10：1–4〕)。やぎは彼らのもろもろの悪をになって（レビ 16：20–22〔イザ 53：11；モサ 14：11；15：6–9〕)。モーセは，それを仰ぎ見る人々を救うために青銅のへびを掲げた（民数 21：8–9〔ヨハ 3：14–15；アル 33：19；ヒラ 8：14–15〕)。ヨナは 3 日 3 夜その魚の腹の中にいた（ヨナ 1：17〔マタ 12：40〕)。これは，御父の，恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである（モセ 5：4–8)。

権威：まつりごとはその肩にあり（イザ 9：6〔2 ニフ 19：6〕）。権威ある者のように教えられた（マタ 7：28–29〔マコ 1：22〕）。人の子は地上で罪をゆるす権威をもっている（マタ 9：6）。イエスが権威をもって命じられると，汚れた霊は従った（マコ 1：27〔ルカ 4：33–36〕）。イエスは 12 人を立て，権威を授けられた（マコ 3：14–15）。イエスの言葉には権威があった（ルカ 4：32）。裁きのことはすべて御父からゆだねられた（ヨハ 5：22，27）。神はイエスに聖霊と力とを注がれ（使徒 10：38）。創世の前から予任されていた（1ペテ 1：20〔エテ 3：14〕）。地獄と死との鍵（かぎ）を持っておられる（黙示 1：18）。すべての人が大いなる創造主に従うようになる（2ニフ 9：5）。天地の父，時の初めからの万物の創造主であられる（ヒラ 14：12）。父の御心を行うために，父の御心によって来られた（教義 19：24）。御父の完全な栄光を受け，また一切の権威を受けられた（教義 93：3–4，16–17〔ヨハ 3：35–36〕）。

模範：わたしは手本を示した（ヨハ 13：15）。わたしは道であり，真理であり，命である（ヨハ 14：6）。キリストも，あなたがたのために苦しみを受け，御足（みあし）の跡を踏み従うようにと，模範を残されたのである（1ペテ 2：21）。人は生ける神の御子の模範に倣って，最後まで堪え忍ばなければ救われない（2ニフ 31：16）。わたしが完全であるように，あなたがたも完全になることを，わたしは望んでいる（3ニフ 12：48）。あなたがたは，わたしがしたように，いつもこれを行うように努めなさい（3ニフ 18：6）。わたしはあなたがたのために模範を示した（3ニフ 18：16）。わたしが行うのを見たそのとおりのことを，あなたがたも行いなさい（3ニフ 27:21, 27）。イエス・キリストに真に従う者は御子に似た者となる（モロ 7：48）。

栄光：主の栄光が幕屋に満ちた（出エ 40：34–38）。その栄光は全地に満つ（イザ 6：3〔2 ニフ 16：3〕）。主の栄光があなたの上にあらわれる（イザ 60：1–2）。人の子は父の栄光のうちに来る（マタ 16：27）。父よ，世が造られる前に，わたしがみそばで持っていた栄光で，今み前にわたしを輝かせて下さい（ヨハ 17：5）。イスラエルの聖者が大いなる栄光をもって必ず統治される（1ニフ 22：24）。キリストの栄光を待ち望んでいた（ヤコ 4：4）。神の御子は栄光を帯びて来られる（アル 5：50）。イエスは世の初めから将来御自分が栄光のうちに来られるときまでのすべてのことについて説き明かされた（3ニフ 26：3）。わたしの使徒たちは，わたしと同じように栄光を受けて（教義 29：12〔教義 45：44〕）。わたしたちは御父の右に御子の栄光を見（教義 76：19–23）。ヨハネはわたしの完全な栄光を見て，証（あかし）した（教義 93：6〔ヨハ 1：14〕）。その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた（教義 110：3）。神の栄光がわたしのうえにあり，わたしは神の御顔を見た（モセ 1：1–11）。これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。

教会の頭（かしら）：キリストが教会のかしらであって（エペ 5:23〔エペ 1:22;4:15〕）。自らは，そのからだなる教会の

かしらである（コロ 1：18）。これはわたしの教会である（モサ 26：22〔モサ 27：13〕）。彼らの信仰の創始者であり完成者である（モロ 6：1–4）。わたしはこの教会を設け（教義 33：5〔3 ニフ 27：3–8〕）。

御名を受ける：わたしたちを救いうる名は，これを別にしては，だれにも与えられていない（使徒 4：12〔2 ニフ 31：21〕）。使徒たちは，御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜び（使徒 5：38–42）。その戒めというのは，神の子イエス・キリストの御名を信じることである（1ヨハ 3:23）。バプテスマを受けることによって，キリストの名を喜んで受けることを御父に証明する（2ニフ 31：13）。キリストの御名を受けてほしい（モサ 5：6–12〔モサ 1：11〕）。神の名を受けることを望んだ者はだれでも皆，神の教会に加わった（モサ 25：23）。キリストのまことの信者であった人々は皆，クリスチャンという名を喜んで受けた（アル 46：15）。天の門はイエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれている（ヒラ 3：28）。終わりの日に，わたしの名に忠実であると認められる者は幸いである（エテ 4：19）。進んで御子の御名を受け（モロ 4：3〔教義 20：77〕）。キリストの名を受けなさい（教義 18：21–25）。

イエス・キリストについての証（あかし）：パウロはイエスがキリストであることを証（あかし）した（使徒 18：5）。悪霊でさえも，イエスを知っていると証（あかし）した（使徒 19：15）。聖霊によらなければ，だれも「イエスは主である」と言うことができない（1コリ 12：3）。あらゆるものがひざをかがめ，また，あらゆる舌が，「イエス・キリストは主である」と告白し（ピリ 2：10–11）。わたしたちはキリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを預言し（2ニフ 25：26）。『モルモン書』は，イエスがキリストであられることをユダヤ人と異邦人に確信させる（2ニフ 26：12〔『モルモン書』のタイトルページ〕）。預言者と聖文はキリストについて証（あかし）している（ヤコ 7：11，19）。預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めるように（エテ 12：41）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは小羊を見，小羊が御父の独り子であられるという証（あかし）の声を聞いた（教義 76：20–24）。永遠の命とは，神とイエス・キリストとを知ることである（教義 132：24）。わたしたちは，永遠の父なる神と，その御子イエス・キリストと，聖霊とを信じる（箇条 1：1）。わたしたちは，キリストが自ら地上を統治されることを信じる（箇条 1：10）。

死後の現れ：イエスはよみがえって，まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた（マコ 16：9〔ヨハ 20：11–18〕）。イエスはエマオへの道で二人の弟子と一緒に歩き，話をされた（ルカ 24：13–34）。イエスが弟子たちに御姿を現され，弟子たちはその手と足に触れた（ルカ 24：36–43〔ヨハ 20：19–20〕）。イエスはトマスに御姿を現された（ヨハ 20：24–29）。イエスはテベリヤの海べで，ご自身をまた弟子たちにあらわされた（ヨハ 21：1–14）。イエスは復活の後，40 日にわたって人々を教え導かれた（使徒 1:2–3）。

ステパノは，イエスが神の右に立っておられるのを見た（使徒 7：55−56）。イエスはサウロに御姿を現された（使徒 9：1−8〔JS 使徒 9：7；使徒 26：9−17〕）。キリストは 500 人以上の兄弟たちに御姿を現された（1コリ 15：3−8）。イエス・キリストはニーファイの民に御自身を示された（3ニフ 11：1−17）。2,500 人の人々がイエスにまみえ，その声を聞いた（3ニフ 17：16−25）。モルモンは主の訪れを受けた（モル1:15）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは神の右にイエスを見た（教義 76：22−23）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，カートランド神殿で主にまみえた（教義 110:1−4）。ジョセフ・スミスは神の右にイエスを見た（ジ―歴史 1：15−17）。

キリストによる福千年の統治：まつりごとはその肩にあり（イザ 9：6〔2ニフ 19：6〕）。わたしが来て，あなたの中に住むからである（ゼカ 2：10−12〔ゼカ 14：9〕）。神は彼に父ダビデの王座をお与えになり（ルカ 1：30−33）。主は世々限りなく支配なさる（黙示 11：15）。キリストと共に千年の間，支配した（黙示 20：4〔教義 76：63〕）。聖者の民の義のために，サタンはまったく力を持たず（1ニフ 22：26〔黙示 20：1−3〕）。わたしは千年の間地上で人々とともに義のうちに住む（教義 29：11〔教義 43：29−30〕）。治める権利を持つ者が治めるまで，今ある権力に従いなさい（教義 58：22〔1コリ 15：25〕）。キリストが自ら地上を統治される（箇条 1:10〔イザ 32:1〕）。

裁き：主は正義をもって世界をさばき（詩篇 9：8〔3ニフ 27：16〕）。主は地をさばくために来られる（詩篇 96：13）。神は正しい者と悪い者とをさばかれる（伝道 3：17）。彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い（イザ 2：4〔ミカ 4：3；2ニフ 12：4〕）。正義をもって貧しい者をさばき（イザ 11：2−4）。さばきのことはすべて，子にゆだねられた（ヨハ 5：22）。もしわたしがさばくとすれば，わたしのさばきは正しい（ヨハ 8：16）。生者と死者との審判者として神に定められたかたである（使徒 10：42〔2テモ 4：1〕）。神がキリスト・イエスによって人々の隠れた事がらをさばかれる（ロマ 2：16）。わたしたちはみな，キリストのさばきの座の前に立つのである（KJ ロマ 14：10〔2コリ 5：10；アル 12：12；モル 3：20；7：6；エテ 12：38；教義 135：5〕）。人は皆，神の内にある真理と聖さによって裁かれる（2ニフ 2：10）。行いに応じて裁かれるために神の御前に立つ（アル 5：15〔アル 12：15；33：22；3ニフ 27：14〕）。神とキリストが万民の審判者であられる（教義 76：68）。

イエス・キリストの教会　「神の王国；天の王国」「教会の名称」「聖徒」「福音の回復」「まことの教会のしるし」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

バプテスマと確認によってイエス・キリストの名を受けた信者の組織。まことの教会であるということは，主の教会でなければならない。すなわち，主の権能，教え，律法，儀式，御名を持ち，主から任じられた代表者を通して，主によって治められていなければならない。

主は，救われる者を日々仲間に加えて下さった（使徒 2：47）。わたしたちも数は多いが，キリストにあって一つのからだであり（ロマ 12：5）。わたしたちは皆，一つの御霊（みたま）によって，一つのからだとなるようにバプテスマを受け（1コリ 12：13）。教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：19−20）。使徒や預言者は教会に欠かせない（エペ 4：11−16）。キリストが教会のかしらであって（エペ 5：23）。多くの教会があったにもかかわらず，それらはすべて一つの教会であった（モサ 25：19−22）。教会は清められ，秩序が確立された（アル 6：1−6）。キリストの教会は，キリストの名で呼ばれなければならない（3ニフ 27：8）。教会員は断食し，祈るため，また互いに語り合うためにしばしば集まった（モロ 6：5）。これは唯一まことの生ける教会である（教義 1：30）。この終わりの時にキリストの教会が起こされた（教義 20：1）。主は御自分の教会を築き上げるために僕（しもべ）を召される（教義 39：13）。わたしの教会は，終わりの時にこのように呼ばれなければならない（教義 115：4）。

イエス・キリストの降誕と死のしるし　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストの降誕と死に伴って起きた数々の出来事。

降誕：おとめがみごもって男の子を産む（イザ 7：14）。ベツレヘムから，イスラエルを治める者が出る（ミカ 5：2）。レーマン人サムエルは，2昼1夜がまるで1日のようになる日，暗くならない夜，新しい星，その他のしるしについて預言した（ヒラ 14：2−6）。しるしが成就した（3ニフ 1：15−21）。

死：レーマン人サムエルは，暗闇（くらやみ）や雷，稲妻，地震について預言した（ヒラ 14：20−27）。しるしが成就した（3ニフ 8：5−23）。

イエス・キリストの再臨　「イエス・キリスト」「ゴグ」「時のしるし」「ハルマゲドン」「マゴグ」参照

福千年の初めに，キリストは地上に戻って来られる。この出来事は，地球の現世の状態の終わりを告げるものである。悪人は地から除かれ，義人は地球が清められている間，雲の中に取り上げられる。キリストが再び来られる正確な日時はだれにも分からないが，キリストは，再臨の時が近いことを示すしるしとして，わたしたちが待ち受けるべきものを幾つか与えてくださった（マタ 24 章；ジ―マタ 1 章）。

後の日に彼は必ず地の上に立たれる（ヨブ 19：25）。すべてのひざはわが前にかがみ，すべての舌は誓いをたてる（イザ 45：23〔教義 88：104〕）。人の子のような者が，天の雲に乗ってきて（ダニ 7：13〔マタ 26：64；ルカ 21：25−28〕）。彼らはその刺した者を見る（ゼカ 12：10）。人が彼に「あなたの背中の傷は何か」と尋ねるならば（ゼカ 13：6〔教義 45：51〕）。その来る日には，だれが耐え得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり（マラ 3：2〔3 ニフ 24：2；教義 128：24〕）。人の子は父の栄光のうちに来る（マタ 16：27〔マタ 25：31〕）。その日，

その時は，だれも知らない。ただ父だけが知っておられる（マタ 24：36〔教義 49：7；ジ―マタ 1：38−48〕）。このイエスは，天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で，またおいでになるであろう（使徒 1：11）。主ご自身が天から下ってこられる（1テサ 4：16）。主の日は盗人（ぬすびと）のように襲って来る（2ペテ 3：10）。主は無数の聖徒たちを率いてこられた（ユダ 1：14）。彼は，雲に乗ってこられる。すべての人の目は，彼を仰ぎ見るであろう（黙示 1：7）。わたしが立って世の人々を裁く（3ニフ 27：14−18）。あなたがたは備えなさい。備えなさい。主は近いからである（教義 1：12）。わたしは力をもって，天から姿を現し，千年の間地上に住む（教義 29：9−12）。声を上げ，悔い改めを叫んで，主の再臨のために道を備えるように（教義 34:5−12）。わたしはイエス・キリストである。わたしは突如わたしの神殿に来る（教義 36：8〔教義 133：2〕）。あなたがたがわたしを見て，わたしのいることを知る日がすぐに来る（教義 38：8）。わたしを畏（おそ）れる者は，人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう（教義 45：39）。主の顔が現される（教義 88：95）。主の大いなる恐るべき日が近く（教義 110：16）。救い主が御姿を現されるとき，わたしたちは，救い主をありのままに見るであろう（教義 130：1）。救い主がその民のただ中に立ち，すべての肉なるものを治める（教義 133：25）。染めた衣をまとって天の神のみもとから降（くだ）って来られるこの御方はどなたか（教義 133：46〔イザ 63：1〕）。

生かす　「復活」参照

神のもとにいることができるように，人を命ある者とし，復活させ，変えること。

神はわたしたちを，キリストと共に生かし（エペ 2：4−5〔コロ 2：6，12−13〕）。キリストは，肉においては殺されたが，霊においては生かされたのである（1ペテ 3：18〔教義 138：7〕）。御霊（みたま）によって変えられないかぎり，いまだかつて肉体において神を見た者はいない（教義 67：11）。贖（あがな）いは，万物を生かす者によって来る（教義 88：16−17）。聖徒たちは，身を変えられて，キリストに会うために引き上げられる（教義 88：96）。アダムは内なる人において生かされる者となった（モセ 6：65）。

怒り　「愛」「憎しみ；憎む」参照

腹を立てた状態。主は聖徒たちに，怒りを抑えるように戒められた（マタ 5：22）。家庭にあっては，親も子供も互いをののしってはならない。聖典では，怒りはしばしば火にたとえられる（2 ニフ 15：25；教義 1：13）。

カインは大いに憤って，顔を伏せた（創世 4：5）。主は怒ることおそく，いつくしみ豊かです（詩篇 145：8）。柔らかい答（こたえ）は憤りをとどめ（箴言 15：1）。憤りやすい者は争いをおこし，怒りをおそくする者は争いをとどめる（箴言 15：18〔箴言 14：29〕）。わが名のために，わたしは怒りをおそくする（イザ 48：9）。民に，わたしはひねもす手を伸べて招いた。この民はまのあたり常にわたしを怒らせ（イザ 65：2

−3)。もし，だれかがあなたの右の頬を打つなら，ほかの頬をも向けてやりなさい（マタ 5：39)。父たる者よ。子供をおこらせないで（エペ 6：4)。わたしが真実を告げたので，あなたがたはわたしに対して怒っている（モサ 13：4)。主は怒ってこの民を罰し（アル 8：29)。すべてのことの中に神の手を認めない者のほかに，どのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない（教義 59：21)。主なるわたしは悪人のことを怒っており（教義 63：32)。

憤り　「怒り」参照

生ける水　「イエス・キリスト」参照

主イエス・キリストとその教えの象徴。肉体の命を保つのに水が不可欠であるように，永遠の命を得るには，救い主とその教え（生ける水）が欠かせない。

あなたがたは喜びをもって，救の井戸から水をくむ（イザ 12：3)。生ける水の源であるわたしを捨てて（エレ 2：13)。わたしが与える水を飲む者は，いつまでも，かわくことがない（ヨハ 4：6−15)。だれでもかわく者は，わたしのところにきて飲むがよい（ヨハ 7：37)。鉄の棒は人を生ける水の源に導く（1ニフ 11：25)。価なしに命の水を飲む（教義 10：66)。主の戒めは生ける水の井戸となる（教義 63：23)。

異言の賜物　「舌」「御霊の賜物」参照

聖霊の賜物の一つ。霊感を受けた人はこの賜物によって，自分が知らない言語を話したり，理解したり，通訳したりすることができる。わたしたちは異言の賜物を信じている（箇条 1：7)。

一同は聖霊に満たされ，いろいろの他国の言葉で語り出した（使徒 2：4)。異言を語る者は，人にむかって語るのではなく，神にむかって語るのである（1コリ 14：1−5，27−28)。異言は未信者のためのしるしである（1コリ 14：22−28)。火と聖霊によるバプテスマを受ける。すると天使の言葉で語ることができる（2ニフ 31：13−14)。異言で語る賜物を信じるように説き勧めよう（オム 1：25)。ある人には，異言で語ることが許される。また，別の人には，異言の解釈が与えられる（教義 46：24−25〔1 コリ 12：10；モロ 10：8，15−16〕)。異言の賜物が注がれますように（教義 109：36)。

イサク　「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の族長。老年のアブラハムとサラにイサクが生まれたのは，一つの奇跡であった（創世 15：4−6；17：15−21；21：1−8)。アブラハムが進んでイサクをささげたことは，神と神の独り子の相似であった（ヤコ 4：5)。イサクはアブラハムの聖約に伴う約束を受け継ぐ者であった（創世 21：9−12；1 ニ フ 17：40；教義 27：10)。

誕生（創世 21：1−7)。モリヤの山で犠牲としてささげられることになった（創世 22：1−19〔教義 101：4〕)。結婚した（創世 24 章)。息子たちへの対応（創世 27 章；28：1−9)。アブラハムやヤコブとともに昇栄を受けた

(教義 132：37〔マタ 8：11〕)。

イザヤ

旧約の預言者。紀元前 740−701 年にかけて預言した。イザヤはヒゼキヤ王の中心的な相談役として，宗教と政治の両面で大きな影響力を持っていた。

イエスは他のどの預言者の預言よりもイザヤの預言を多く引用された。イザヤの言葉は，ペテロ，ヨハネ，パウロによっても，『新約聖書』によく引用されている。『モルモン書』と『教義と聖約』は，他のどの預言者の言葉よりもイザヤの言葉を多く含み，その解釈に大きな貢献をしている。ニーファイはイザヤの言葉を引いて民を教えた (2 ニフ 12−24 章;イザ 2−14 章)。主はニーファイ人に「イザヤの言葉はまことに偉大」であり，イザヤの預言したすべてのことは成就すると言われた (3 ニフ 23：1−3)。

イザヤ書：『旧約聖書』の中の 1 書。イザヤの預言の多くは贖い主の来臨について述べたものであり，主の地上での務め (イザ 9：6) と末日における偉大な王としての来臨 (イザ 63 章) の両面を含んでいる。イザヤはイスラエルの将来についても多くの預言を残している。

第 1 章は，イザヤ書全体に対する序章である。イザヤ 7：14；9：6−7；11：1−5；53：1−12；61：1−3 は，救い主の使命をあらかじめ示すものである。第 2；11；12；35 章には，福音が回復され，イスラエルが集められ，乾いた地がばらのように花咲く，末日の数々の出来事が記されている。第 29 章には，『モルモン書』の出現に関する預言がある (2 ニフ 27 章)。第 40−46 章には，エホバが異教徒の礼拝する偶像神をしのぐまことの神であることが宣言されている。残る第 47−66 章には，主がその民の中にとどまられることとともに，イスラエルの最終的な回復とシオンの設立に伴う様々な出来事が描かれている。

イシマエル (アブラハムの息子) 「アブラハム」「ハガル」参照

『旧約聖書』の中の人物。アブラハムとハガルの子供。ハガルはエジプト人で，サラのつかえめであった (創世 16：11−16)。主はアブラハムとハガルに，イシマエルは大いなる国民の父祖になると約束された (創世 21：8−21)。

契約はイシマエルとではなく，イサクとの間に立てられた (創世 17：19−21〔ガラ 4：22−5：1〕)。神はイシマエルに，多くの子孫を得させるとの祝福を与えられた (創世 17：20)。アブラハムを埋葬した (創世 25：8−9)。イシマエルの 12 人の息子の名が述べられる (創世 25：12−16)。イシマエルの死 (創世 25：17−18)。エサウはイシマエルの娘マハラテを妻にめとった (創世 28：9)。

イシマエル (ニーファイの義父) 「リーハイ (ニーファイの父)」参照

『モルモン書』の中の人物。約束の地へ旅するリーハイの一行に，家族とともに加わった。

イシマエルとその家族は，リーハイ

やその家族と一緒に約束の地へ行くよう招きを受けた(1ニフ 7：2–5)。リーハイの子供たちとイシマエルの子供たちが結婚した（1ニフ 16：7)。荒れ野で死んだ（1ニフ 16：34)。

イスラエル　「アブラハム―アブラハムの子孫」「ヤコブ(イサクの息子)」「養子縁組」参照

『旧約聖書』には，イサクの子でありアブラハムの孫であるヤコブに，主がイスラエルという名を与えられたことが記されている（創世 32：28；35：10)。このイスラエルという名は，ヤコブやその子孫に対して，またその子孫がかつて旧約の時代に築いた王国に対して用いられる（サ下 1：24；23：3)。イスラエルの子らは，モーセによってエジプトの奴隷の状態から導き出された（出エ 3–14 章）後，300 年以上にわたって士師により治められた。サウル王から始まりソロモンの死に至るまで，統一イスラエルは王による統治を受けた。ソロモンの死に際して，10 の部族がレハベアムに背いて，別の国を作った。イスラエル王国の分裂後，数において勝っていた北の諸部族はイスラエルの名を継承したが，一方，南の王国はユダと呼ばれた。今日では，カナンの地もイスラエルと呼ばれている。別の意味で，イスラエルはキリストを心から信じる者を指す（ロマ 10：1；11：7；ガラ 6：16；エペ 2：12)。

イスラエルの十二部族：アブラハムの孫でイスラエルと改名したヤコブには，12 人の息子がいた。彼らの子孫は，イスラエルの十二部族，あるいはイスラエルの子らと呼ばれる。以下がその十二部族の名である。ルベン，シメオン，レビ，ユダ，イッサカル，ゼブルン（以上はヤコブとレアの子)，ダンとナフタリ（ヤコブとビルハの子)，ガドとアセル（ヤコブとジルパの子)，ヨセフとベニヤミン（ヤコブとラケルの子）（創世 29：32–30：24；35：16–18)。

ヤコブは死を前にして，各部族の指導者に祝福を与えた（創世 49：1–28)。詳細については，ヤコブのそれぞれの息子の項を参照のこと。

ヤコブの最初の妻レアの第一子ルベンは，不品行のゆえに（創世 49：3–4)，長子の特権の祝福と 2 倍の相続分とを失ってしまった。そして長子の特権は，ヤコブの 2 番目の妻ラケルの第一子ヨセフに与えられることになった（歴上 5：1–2)。レビは，神権の務めをなす部族として主から選ばれ，全部族の中で特別な務めを果たすように召されたため，受け継ぎの地は与えられなかった。これによってヨセフは 2 倍分を相続し，二人の息子エフライムとマナセがそれを分け（歴上 5：1；エレ 31：9)，この二人はそれぞれ独立した部族と見なされた（JS 創世 48：5–6)。

メシヤが来られるまでは，ユダの部族に属する者がイスラエルの民を統治することになっていた（創世 49：10；JS 創世 50：24)。終わりの時に，エフライムの部族は世の人々に福音の回復の知らせを伝え，散らされたイスラエルを集める特権を持つ（申命 33：13–17)。イエス・キリストの福音により，エフライムがイスラエルの全部族を統一させる業において指導的な役割を果たす時が来る（イザ 11：12–13；教義 133：26–34)。

イスラエルの散乱：主はイスラエルの十二部族を，その不義と背反のゆえに散らし，苦しめられた。しかし，主は選ばれた民をこのように国々の中に散乱させ，それによってその国々に祝福をもたらす機会とされた。

わたしはあなたがたを国々の間に散らし（レビ 26：33）。主はもろもろの民のうちにあなたがたを散らされるであろう（申命 28：25，37，64）。わたしは彼らを地の万国に忌みきらわれるものとなし（エレ 29：18−19）。わたしはイスラエルの家を万国民（ばんこくみん）のうちでふるう（アモ 9：9〔ゼカ 10：9〕）。イエスはイスラエルの家の失われた羊に遣わされた（マタ 15：24）。わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある（ヨハ 10：16）。イスラエルは地の全面に散らされる（1ニフ 22：3−8）。ヤコブ，栽培されたオリーブの木と野性のオリーブの木についての，ゼノスの述べた比喩（ひゆ）を引用する（ヤコ 5−6 章）。父の業は，散らされた者の中で始まるであろう（3ニフ 21：26）。

イスラエルの集合：イスラエルの家は，キリストの来臨に先立って終わりの時に集められる（箇条 1：10）。主が御自分の民イスラエルを集められるのは，彼らが主を受け入れ，主の戒めを守るときである。

主は旗をあげて招き，彼らは走って来る（イザ 5：26）。わたしは大いなるあわれみをもってあなたを集める（イザ 54：7）。イスラエルとユダは彼らの地に集められる（エレ 30:3）。主はイスラエルの家の者を，その散らされたもろもろの民の中から集められる（エゼ 28：25）。時の満ちる神権時代に，神はすべてのものを，キリストにあって一つに帰せしめようとされた（エペ 1：10）。イスラエルは散らされるが，また集められる（1ニフ 15：12−17）。主はイスラエルの家に属する民をすべて集められる（1ニフ 19:16〔3ニフ 16：5〕）。彼らはその受け継ぎの地に集められます。そして暗黒から連れ戻されます（1ニフ 22：12）。神はその子らを集めて，数えられる（1ニフ 22：25）。異邦人の国民はイスラエルを受け継ぎの地に連れ戻す（2ニフ 10：8〔3ニフ 16：4〕）。わたしの民は集め戻され，わたしの言葉も一つに集められる（2ニフ 29：13−14）。長老たちは選民を集めるために召されている（教義 29：7〔教義 39：11〕）。わたしはわたしの選民を集めよう（教義 33：6）。あなたがたが義にかなった民としてわたしのもとに集められるために（教義 38：31−33）。わたしがイスラエルの家に属するわたしの民を再び元に戻す（教義 39：11）。聖徒たちは地の四方から出て来るであろう（教義 45：46）。モーセが集合の鍵（かぎ）をゆだねた（教義 110：11）。義と真理は洪水のように地を満たし，主の選民を集める（モセ 7：62）。集合が，死体にはげたかが集まることにたとえられる（ジ―マタ 1：27）。

行方の知れない十部族：イスラエルの北王国を成していた十部族は，紀元前 721 年にアッシリア（アッスリヤ）に捕囚として連れ去られた。それから彼らは「北の地」へ向かい，やがて消息を絶った。この十部族は終わりの時に戻って来る。

わたしは北にむかって「ゆるせ」と言い（イザ 43：6）。人々は北から来る（イザ 49：12〔1 ニフ 21：12〕）。ユダとイスラエルは北の地から出て，共に来る（エレ 3：18）。イスラエルの民を北の国から導き出した主は生きておられる（エレ 16：14–16）。わたしは彼らを北の国から連れ帰り（エレ 31：8）。ニーファイ人とユダヤ人は，イスラエルの行方の知れない部族の言葉を得る（2ニフ 29：12–13）。わたしはイスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身を現そう（3ニフ 17：4）。福音がイスラエルの家の残された者たちに宣べ伝えられるとき，行方の知れない部族が彼らの受け継ぎの地に戻される（3ニフ 21：26–29）。モーセがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにイスラエルの集合の鍵をゆだねた（教義 110：11）。北の地にいる者たちは主の前に覚えられるようになる（教義 133:26–32）。わたしたちは，イスラエルの文字どおりの集合を信じる（箇条 1：10）。

イスラエルの家　「イスラエル」参照

イスラエルの子ら　「イスラエル」参照

イスラエルの集合　「イスラエル—イスラエルの集合」参照

イスラエルの十二部族　「イスラエル—イスラエルの十二部族」参照

イスラエルの聖者　「イエス・キリスト」参照

イゼベル　「アハブ」参照

『旧約聖書』の中の人物。フェニキア出身の邪悪な女。エリヤが預言者であったときのイスラエルの王アハブの妻（列上 16：30–31）。

イゼベルとアハブの結婚は，他のいかなる出来事にも増して，イスラエルの北王国の衰亡の大きな原因となった。イゼベルは，母国フェニキアからイスラエルに，エホバ礼拝に代えて最も邪悪な偶像礼拝の様式を持ち込んだのである（列上 18：13，19）。

神の預言者を大勢殺した（列上 18：4）。エリヤを殺そうとした（列上 19：1–3）。イゼベルの悪行は悲惨な死をもって終わった（列下 9：30–37）。

イッサカル　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの息子（創世 30：17–18；35：23；46：13）。イッサカルの子孫はイスラエルの十二部族の一つとなった。

イッサカルの部族：ヤコブがイッサカルに授けた祝福は，創世 49：14–15 に記されている。カナンに定住した後，この部族はエスドラエロン平原を含むパレスチナで最も肥沃な地を与えられた。イッサカルの領域には，カルメル，メギド，ドタン，ギルボア，エズレル，タボル，ナザレ（ヨシ 19:17–23）など，ユダヤ人の歴史の中で重要な場所が幾つかあった。

一致　「神；神会」参照

思いや望み，目的において，まず天

の御父とイエス・キリスト，次に他の聖徒たちと一つになること。

兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう（詩篇133：1）。わたしと父とは一つである（ヨハ10：30〔教義50：43〕）。わたしたちが一つであるように，彼らも一つとなるためであります（ヨハ17：11−23〔3ニフ19：23〕）。お互（たがい）の間に分争がないようにし，堅く結び合っていてほしい（1コリ1：10）。思いを一つにし，心を一つにして決意を固め，あらゆることに結束しなさい（2ニフ1：21）。互いに和合し，愛し合って結ばれた心を持ち（モサ18：21）。イエスはニーファイ人の間に一致があるように祈り求められた（3ニフ19：23）。弟子たちは集まり，一つになって熱烈に祈り，断食をした（3ニフ27：1）。御父と御子と聖霊は，一つの神であられる（教義20：27−28〔教義35：2；50：43〕）。まことの教会に加わるのが，あなたの務めである（教義23:7）。あなたがたが信仰をもって求めるものは，何でも与えられるであろう（教義29：6）。もしもあなたがたが一つでなければ，あなたがたはわたしのものではない（教義38：27）。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし，思いを一つにし，義のうちに住んだからである（モセ7：18）。

一夫多妻制　「結婚―多妻結婚」参照

偽り　「欺き」「悪口（あっこう）」「正直」参照

欺くことを目的に，真実でないことを言うこと。

互（たがい）に偽ってはならない（レビ19：11）。わたしは偽りを憎み，忌みきらいます（詩篇119：163）。偽りを言うくちびるは主に憎まれ（箴言12：22）。彼らはわが民，偽りのない子らである（イザ63：8）。彼は偽り者であり，偽りの父である（ヨハ8：44〔2ニフ2：18；エテ8：25；モセ4：4〕）。あなたは人を欺いたのではなくて，神を欺いたのだ（使徒5:4〔アル12:3〕）。「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は，偽り者である（1ヨハ4：20）。すべて偽りを言う者は第二の死を報いとして受ける（黙示21：8〔教義63：17〕）。偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである（2ニフ9：34）。少しばかり偽りを言っても悪いことではない，と言う者が大勢いる（2ニフ28：8−9〔教義10：25〕）。主に向かって偽りを言えるであろうか（アル5：17）。あなたは真理の神であり，偽りを言われることはありません（エテ3：12〔民数23：19；サ上15：29；テト1：2；ヘブ6：18；エノ1：6〕）。偽りを言って悔い改めようとしない者は，追い出されなければならない（教義42：21）。偽りを言う者は星の栄えの世界を受け継ぐ（教義76：81，103−106）。わたしたちは，正直であるべきことを信じる（箇条1：13）。

命　「永遠の命」「光；キリストの光」参照

神の力によってこの世的また霊的な存在が可能とされているもの。

わたしは，きょう，命とさいわいをあなたの前に置いた（申命30：15

−20)。あなたはいのちの道をわたしに示される（詩篇 16：11)。正義を追い求める者は，命を得る（箴言 21：21)。自分の命を得ている者はそれを失い，わたしのために自分の命を失っている者は，それを得るであろう（マタ 10：39〔マタ 16：25；マコ 8：35；ルカ 9：24；17：33〕)。この言(ことば)に命があった。そしてこの命は人の光であった（ヨハ 1：4)。わたしをつかわされたかたを信じる者は，死から命に移っている（ヨハ 5：24)。わたしは道であり，真理であり，命である（ヨハ 14：6)。もしわたしたちが，この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば，わたしたちは，最もあわれむべき存在となる（1コリ 15：19−22)。信心は，今のいのちと後の世のいのちとが約束されてあるので，万事に益となる（1テモ 4：8)。キリストの内にある命を待ち望むことができるようにする（2ニフ 25：23−27)。現世は人が神にお会いする用意をする時期である（アル 34：32〔アル 12：24〕)。わたしは世の光であり命である（3ニフ 9:18〔モサ 16:9；3 ニフ 11：11；エテ 4：12〕)。忠実な者は，生きるも死ぬも幸いである（教義 50：5)。永遠の命とは，神とイエス・キリストとを知ることである（教義 132：24)。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1:39)。

命の木　「エデン」参照

エデンの園と神のパラダイスにある木（創世 2：9；黙示 2：7)。リーハイの夢の中の命の木は神の愛を象徴し，神のあらゆる賜物(たまもの)の中で最も大いなるものとされている（1 ニフ 8 章；11：21−22，25；15：36)。

ケルビムと，回る炎のつるぎとを置いて，命の木の道を守らせられた（創世 3：24〔アル 12：21−23；42：2−6〕)。ヨハネは命の木と，その木の葉が諸国民を癒(いや)す力を持っているのを見た（黙示 22：2)。リーハイは命の木を見た（1ニフ 8：10−35)。ニーファイは父が見た木を見た（1ニフ 11：8−9)。鉄の棒は命の木に導く神の言葉である（1ニフ 11：25〔1 ニフ 15：22−24〕)。恐ろしい淵(ふち)が悪人を命の木から隔てていた（1ニフ 15：28，36)。禁断の実に対しては命の木がある（2ニフ 2:15)。わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう（アル 5：34，62)。もしもわたしたちの始祖が行って命の木から食べることができたとすれば，とこしえに不幸な状態でいたことであろう（アル 12:26)。御言葉を養おうとしなければ，あなたがたは決して命の木の実を得ることができない（アル 32：40)。主は園の中央に命の木を植えられた（モセ 3：9〔アブ 5：9〕)。神は，アダムが命の木からも取って食べ，永久に生きることのないように，彼をエデンの園から追い出された（モセ 4：28−31)。

命の書　「覚えの書」参照

ある意味で命の書とは，人の思いと行いを一まとめにしたもので，人生の記録である。しかし聖典は，忠実な人について記録が残されているとも教えている。その書には忠実な人々の名前

と，彼らの義にかなった行いが記されている。

主は罪を犯した者を主の書から消し去られる（出エ 32：33）。勝利を得る者は，その名をいのちの書から消されない（黙示 3：5）。もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった（黙示 20：12〔教義 128：6−7〕）。義人の名は命の書に書き記される（アル 5：58）。あなたがたの祈りは聖められた者の名前の書に記録されている（教義 88：2）。

命のパン　「イエス・キリスト」「聖餐」参照

イエス・キリストは命のパンである。聖餐のパンはキリストの体を象徴的に表している。

わたしが命のパンである（ヨハ 6：33−58）。命のパンを食べ，命の水を飲みなさい（アル 5：34）。キリストの体の記念にパンを食べる（3ニフ 18：5−7）。パンはキリストの肉の象徴である（教義 20：40，77〔モロ 4：1−3〕）。

祈り　「アーメン」「深く考える」「求める」「礼拝」参照

神に感謝し，祝福を願い求める，厳粛な神との交わり。祈りはイエス・キリストの名によって天の御父にささげる。祈りは声に出すこともできるし，心の中で唱えることもできる。神に向けられたものであれば，人が心に思うことも祈りといえる。義人の歌もまた神への祈りとなる（教義 25：12）。

祈りの目的は，神の御心を変えることではなく，神がわたしたちに与えようとすでに備えておられる祝福を，自分のため，また人々のために得ることである。しかし，それを得るには求めなければならない。

わたしたちはキリストの名によって御父に祈る（ヨハ 14：13−14；16：23−24）。自分の望みとキリストが望んでおられることが一致するときに，わたしたちは真の意味でキリストの名により祈ることができる（ヨハ 15：7；教義 46：30）。そうするときに，わたしたちは，正当であって神が与えるのをよしとされることを願い求めるのである（3ニフ 18：20）。祈りによっては，キリストが望んでおられることではなく，人間の利己心から出たものであるために，聞き届けられないものもある（新ヤコ 4：3；教義 46：9）。確かに，不当なことを神に求めるなら，それは罪の宣告となるのである（教義 88：65）。

この時，人々は主の名を呼び始めた（創世 4：26）。祭壇の所に行き，そこでアブラムは主の名を呼んだ（創世 13：4）。アブラハムの僕はイサクの妻を見つけられるよう助けを祈り求めた（創世 24：10−19）。わたしは，あなたがたのために祈ることをやめて主に罪を犯すことは，けっしてしないであろう（サ上 12：23）。主は正しい者の祈を聞かれる（箴言 15：29）。あなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば，わたしはあなたがたに会う（エレ 29：12−13）。迫害する者のために祈れ（マタ 5：44〔ルカ 6：28；3ニフ 12：44〕）。隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい（マタ 6：

5−8〔3ニフ 13：5−8〕)。だから，あなたがたはこう祈りなさい（マタ 6：9−13〔ルカ 11：2；3ニフ 13：9〕)。求めよ，そうすれば，与えられるであろう（マタ 7：7〔3ニフ 14：7；教義 4：7；6：5；66：9〕)。イエスは祈るためひそかに山へ登られた（マタ 14：23)。誘惑に陥らないように，目をさまして祈っていなさい（マタ 26：41〔マコ 14：38；3ニフ 18：15−18；教義 31：12〕)。疑わないで，信仰をもって願い求めなさい（新ヤコ 1:5−6〔教義 42：68；46：7〕)。義人の祈りは，大いに力があり（新ヤコ 5：16)。祈るように人に教えてくださる御霊（みたま）に耳を傾ける（2ニフ 32：8−9)。わたしは熱烈な祈りをもって造り主に叫び求めた（エノ 1：4)。わたしは幾日もの間，断食をして祈ってきた（アル 5：45−46〔アル 26：22〕)。しばしば祈り，また断食もした（アル 17：3)。ゼノスが祈りについて，すなわち礼拝について述べたものを覚えているだろうか（アル 33：3)。へりくだって，神に祈り続けなさい（アル 34：18−27)。あなたのすべての行いについて主と相談しなさい(アル 37:37)。あなたがたは，わたしの名によって常に父に祈らなければならない（3ニフ 18：19−20)。あなたがたの家族の中で祈りなさい（3ニフ 18：21)。イエスは御父に祈られた（3ニフ 19：31−34〔ヨハ 17 章；3ニフ 18：16〕)。イエスは，心の中で祈ることはやめないようにと命じられた（3ニフ 20：1)。神に祈っても，真心からしなければ，その人にとって何の役にも立たない（モロ 7：6−9)。求めてはならないものを求めないようにしなさい（教義 8：10)。勝利者となるために，常に祈りなさい（教義 10：5)。あなたに命じる。あなたは心の中で祈るだけでなく，声に出しても祈りなさい（教義 19：28)。御霊（みたま）は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう（教義 42：14)。祈りの家に行って，聖式をささげなければならない（教義 59：9〔マタ 21：13〕)。子供たちに祈ることを教えなければならない（教義 68：28)。主なる彼らの神は，彼らの祈りを聴くのを遅くする（教義 101：7−8〔モサ 21：15〕)。謙遜（けんそん）でありなさい。そうすれば，主なるあなたの神はあなたの祈りに答えを与えるであろう（教義 112：10)。アダムは，御子の名によって神に呼び求めるように命じられた（モセ 5：8)。御父と御子がジョセフ・スミスの祈りにこたえて御姿を現された（ジ―歴史 1：11−20)。

異邦人

聖典で用いられている「異邦人」という言葉には幾つかの意味がある。あるときはイスラエルの血統に属さない人々を指し，あるときはユダヤ人の血統以外の人々を指す。あるいは，イスラエルの血が幾分入っていても，福音を持っていない民を指す場合もある。この最後の用法は,『モルモン書』や『教義と聖約』に特に顕著である。

イスラエル人は異邦人と婚姻してはならない（申命 7：1−3)。わたしはあなたを，もろもろの国びとの光として与え（イザ 42：6)。ペテロは異邦人に福音を伝えるように命じられた（使徒 10：9−48)。神は，異邦人にも悔改めをお与えになった（使徒 11：18)。

わたしたちは，ユダヤ人もギリシヤ人も，一つのからだとなるようにバプテスマを受け（1コリ 12：13）。異邦人が，福音によりキリストにあって，共に神の国をつぐ者となり（エペ 3：6）。『モルモン書』は異邦人のために記録された（『モルモン書』のタイトルページ〔モル 3：17〕）。異邦人の中の一人の男が大海を渡った（1ニフ 13：12）。ほかにも幾つかの書物が異邦人から伝わった（1ニフ 13：39）。完全な福音が異邦人に与えられ（1ニフ 15：13〔3ニフ 16：7；教義 20：9〕）。この地は異邦人にとって自由の地となり（2ニフ 10：11）。異邦人は野性のオリーブの木にたとえられる（ヤコ 5 章）。福音は異邦人の時にもたらされる（教義 45：28〔教義 19：27〕）。御言葉が地の果てまで，すなわちまず異邦人のもとに出て行き，それから，ユダヤ人に向かう（教義 90：8–10）。七十人は異邦人に対する特別な証人となる（教義 107：25）。わたしの教会の長老たちを，もろもろの国民に遣わしなさい。まず異邦人へ，次いでユダヤ人へと呼びかけなさい（教義 133：8）。

戒め（神の）　「言葉（神の）」「十戒（じっかい）」「従順；従う」「罪」「律法」参照

神が人類に対し，個人的にあるいは一つの民としてお授けになる律法や要求。戒めを守る人には，主の祝福が授けられる（教義 130：21）。

ノアはすべて神の命じられたようにした（創世 6：22）。わたしの定めに歩み，わたしの戒めを守って（レビ 26：3）。わたしの戒めを守って，命を得よ（箴言 4：4〔箴言 7：2〕）。もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである（ヨハ 14：15〔教義 42：29〕）。願い求めるものは，なんでもいただけるのである。それは，わたしたちが神の戒めを守っているからである（1ヨハ 3：22）。神の戒めはむずかしいものではない（1ヨハ 5：3）。主の戒めを守ることにおいて揺るぎなくあるように（1ニフ 2：10）。主が命じられることには道が備えられており，それでなくては，主は何の命令も下されない（1ニフ 3：7）。わたしは神の厳しい命令に従ってこれを果たさなければならない（ヤコ 2：10）。あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える（ジェロ 1：9〔アル 9：13；50：20〕）。神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい（アル 37：35）。これらの戒めはわたしから出ており（教義 1：24）。これらの戒めを調べなさい（教義 1：37）。戒めを守らなければ，救われることはできない（教義 18：46〔教義 25：15；56：2〕）。わたしの戒めは霊にかかわるものだからである。それらは自然のものでも，現世のものでもなく（教義 29：35）。あなたがたに戒めを与えて，あなたがたがわたしの思いを理解できるようにする（教義 82：8）。わたしには分かりません。ただ，主がわたしに命じられたのです（モセ 5：6）。主は，御自分が命じるすべてのことを人がなすかどうかを御覧になる（アブ 3：25）。

戒めの書　「教義と聖約」「啓示」参照

預言者ジョセフ・スミスが受けた多くの啓示が，1833 年に『キリストの

教会の統治のための戒めの書』という書名で出版されることになり，その準備が進められた。主は御自分の僕たちとの交わりを続けられ，2年後に増補版が『教義と聖約』として出版された。

教義と聖約第1章は，主の戒めの書へのはしがきである（教義1：6）。主は最も賢い者に，『戒めの書』の中の最も小さい啓示と同等のものを書くように挑まれた（教義67：4–9）。啓示を出版するために管理人となる者たちが聖任された（教義70：1–5）。

忌まわしい行い　「罪」参照

聖典では，義人や清い人々に不愉快な思いや嫌悪感を抱かせるものとして用いられる言葉。

偽りを言うくちびるは主に憎まれる（箴言12：22）。高慢は主の目に忌まわしいことである（ヤコ2：13–22）。悪人は自分の忌まわしい行いの恐ろしい思いに引き渡される（モサ3：25）。不貞は，人を殺すことや聖霊を否定することを除いて，最も忌まわしい罪である（アル39：3–5）。主の憤りは，彼らの忌まわしい行いに向かって燃えている（教義97：24）。

忌まわしい教会　「悪魔―悪魔の教会」参照

癒し　「油注ぎ」「病人への癒しの祝福」参照

肉体的また霊的に健康な状態に戻すこと。聖典には，主とその僕による奇跡的な癒しの実例が数多く記録されている。

わたしは主であって，あなたをいやすものである（出エ15：26）。ナアマンは7たびヨルダンに身を浸すと，清くなった（列下5：1–14）。その打たれた傷によって，われわれはいやされた（イザ53：5〔モサ14：3〕）。義の太陽がのぼり，その翼には，いやす力を備えている（マラ4：2）。イエスはあらゆるわずらいをおいやしになった（マタ4：23〔マタ9：35〕）。イエスは十二弟子にあらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった（マタ10：1）。主はわたしをつかわして，打ちひしがれている者に自由を得させ（ルカ4：18）。人々は神の小羊の力によって癒され（1ニフ11：31）。キリストの贖いを信じるならば，あなたは癒しを得られます（アル15：8）。イエスは，連れて来られた者をことごとく癒された（3ニフ17：9）。癒されるという信仰を持っている者は，癒されるであろう（教義42:48）。わたしの名によって，彼らは病人を癒す（教義84：68）。わたしたちは，癒しの賜物があることを信じる（箇条1：7）。

岩　「イエス・キリスト」「啓示」「福音」参照

堅固な土台であり支えであるイエス・キリストとその福音を象徴的に示す（教義11：24；33：12–13）。神が人に福音を明らかにされる手段である啓示を指す言葉としても用いられる（マタ16：15–18）。

主は岩であって，そのみわざは全く（申命32：4）。主はわが岩，わたしは彼に寄り頼む（サ下22：2–3）。一つ

の石が人手によらずに切り出されて（ダニ 2：34−35）。岩を土台としているからである（マタ 7：25〔3 ニフ 14：25〕）。イエス・キリストは家造りらに捨てられた石である（使徒 4：10−11）。この岩はキリストにほかならない（1コリ 10：1−4〔出エ 17：6〕）。岩の上に建てられる者は喜んで神の真理を受け入れる（2ニフ 28：28）。ユダヤ人はその上に建物を建てることのできる石を拒む（ヤコ 4：15−17）。贖い主の岩の上に基を築かなければならない（ヒラ 5：12）。キリストの教義の上に建てる者はキリストの岩の上に建てるのであり，洪水が起こっても倒れない（3ニフ 11：39−40〔マタ 7：24−27；3 ニフ 18：12−13〕）。賢い人は岩の上に家を建てる（3ニフ 14：24）。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば，それら〔この世と地獄〕は打ち勝つことができない（教義 6：34）。この岩の上に建てる者は，決して倒れることはない（教義 50：44）。わたしはメシヤであり，シオンの王であり，天の岩である（モセ 7：53）。

インマヌエル　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストの呼び名の一つ。「神われらとともにいます」という意味のヘブライ語から出た言葉。

インマヌエルは神の救いのしるしとして与えられた呼称である（イザ 7：14）。マタイは，インマヌエルに関するイザヤの言葉はイエスの降誕の預言であると，明確な指摘をしている（マタ 1：18−25）。この呼び名は末日聖典にも出てくる（2 ニフ 17：14；18：8；教義 128：22）。

ウィリアムズ，フレデリック・G

回復された教会の初期の指導者。一時，大神権の大管長会で顧問を務めた（教義 81 章；90：6，19；102：3）。

受け継ぐ者

物質的あるいは霊的な賜物を受け継ぐ権利を持つ人。聖典には，義人は神が持っておられるすべてのものを受け継ぐ者になることが約束されている。

アブラムは家を継ぐ者を欲していた（創世 15：2−5）。アブラハムは信仰の義によって，世界を相続する者となった（ロマ 4：13）。神の相続人であって，キリストと共同の相続人なのである（ロマ 8：16−17〔教義 84：38〕）。あなたがたは子である。また神による相続人である（ガラ 4：7）。神は御子を万物の相続者と定め（ヘブ 1：2）。自分たちの罪の赦しを待ち望んでいる者は神の王国を受け継ぐ（モサ 15：11）。彼らはキリストの子であり，神の王国を受け継ぐ者であった（4ニフ 1：17）。福音を知らずに死んだ者は，神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる（教義 137：7−8）。悔い改める死者は，救いを受け継ぐ者である（教義 138：58−59）。アブラハムは，その義によって正当な相続人となった（アブ 1：2）。

失われた聖典　「聖文―失われた聖文」参照

失われた聖文　「聖文―失われた聖文」

参照

歌う　「音楽」「賛美歌」参照

歌によって神を礼拝し，賛美すること。

主に向かって歌え（歴上 16：23−36〔詩篇 96 篇〕）。主をほめうたい，感謝せよ（詩篇 30：4）。主にむかって喜ばしき声をあげよ（詩篇 100:1）。彼らは，さんびを歌った後，オリブ山へ出かけて行った（マタ 26：30）。歌うことも，聖霊の力によって導かれるままに行われた（モロ 6：9）。義人の歌はわたしへの祈りである（教義 25：12）。あなたは楽しければ，歌をもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

打ち砕かれた心　「犠牲」「悔い改め」「謙遜（けんそん）」「心」「柔和」参照

打ち砕かれた心を持つとは，謙遜（けんそん）であり，罪を悔い，柔和であること，すなわち神の御心をよく感じ取ることのできる状態をいう。

わたしは心砕けて，へりくだる者と共に住み（イザ 57：15）。メシヤは，打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために，御自身をささげられる（2ニフ 2：7）。打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：20〔教義 59：8〕）。打ち砕かれた心と悔いる霊を持つ者だけがバプテスマを認められる（モロ 6：2）。イエスが世の罪のために，すなわち悔いる心に罪の赦（ゆる）しをもたらすために，十字架につけられた（教義 21：9）。悔いる霊を持っている者は受け入れられる（教義 52：15）。悔いる状態の人には聖なる御霊（みたま）が約束されている（教義 55：3）。わたしの御霊（みたま）はへりくだって悔いる者を照らすために，世に送られている（教義 136：33）。

ウッドラフ，ウィルフォード　「公式の宣言一」「宣言」参照

預言者ジョセフ・スミスを通して福音が回復された後の教会の第 4 代大管長。1807 年に生まれ，1898 年に死去した。

十二使徒評議会の空席を満たすために召された（教義 118：6）。時満ちる時代に来るようにとどめられていた選ばれた霊たちの中にいた（教義 138：53）。教会における多妻結婚を中止する啓示を受けた（公式 1）。

促し　「聖霊」参照

何かをするように，あるいはしないようにとの強い働きかけ。特に，聖霊の影響や力によるものを指す。

わたしのうちの霊がわたしに迫る（ヨブ 32：18）。キリストの愛がわたしたちに強く迫っている（2コリ 5：14）。わたしはラバンを殺すように強く御霊（みたま）に促された（1ニフ 4：10）。御霊（みたま）が，わたしを制されます（アル 14：11）。わたしは，聖約に応じて，強く促されています（アル 60：34）。アマロンは聖霊に強く促されて，神聖な数々の記録を隠した（4ニフ 1：48）。上から来るものは，御霊（みたま）の促しによって語るようにしなければならない（教義 63：64）。

うぬぼれ　「高慢」参照

偽り，欺き，慢心。

あの大きく広々とした建物は，うぬぼれた空想と高慢である（1ニフ 12：18）。虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた（教義 84：54−55）。わたしたちが自分のうぬぼれた野望を満たそうとするとき，天は退き去り（教義 121：37）。

生まれながらの人　「現世的」「堕落(アダムとエバの)」「再び生まれる」参照

聖なる御霊（みたま）の促しよりも，激情，情欲，欲望，肉欲に影響された選択をする人。このような人は，物質的なことは理解できても，霊的なことは理解できない。アダムとエバの堕落によって，人は皆肉欲に従い，死すべき状態にある。生まれながらの状態から抜け出すには，イエス・キリストの贖罪（しょくざい）を通して，再び生まれなければならない。

生れながらの人は，神の御霊（みたま）の賜物（たまもの）を受けいれない（1コリ 2：14）。生まれながらの人は神の敵であり（モサ 3：19）。自分自身の肉の性質の中にとどまる者は，その堕落した状態にとどまって（モサ 16：5〔アル 42：7−24；教義 20：20〕）。生まれながらの人でこれらのことを知っている人がいるだろうか（アル 26：19−22）。生まれながらの状態，すなわちこの世的な状態にあるすべての人は，この世で神なしに生きている（アル 41：11）。その背きのゆえに，彼は霊的に死ぬことになった（教義 29：41）。生まれながらの人はだれも神の臨在に堪えられない（教義 67：12）。人々は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となり始めた（モセ 5：13〔モセ 6：49〕）。

生まれる；産む；もうける　「神の息子，娘」「キリストの子」「独り子」「再び生まれる」参照

聖典では，神によって生まれるということを指して用いられる場合が多い。イエス・キリストは肉において御父がもうけられた唯一の子であるが，人はだれでもキリストを受け入れ，その戒めに従い，聖霊の力によって新たな人となることにより，霊的にキリストから生まれることができる。

きょう，わたしはおまえを生んだ（詩篇 2：7〔使徒 13：33；ヘブ 1：5−6；5：5〕）。それは父のひとり子としての栄光であって（ヨハ 1：14〔2ニフ 25：12；アル 12：33−34；教義 76：23〕）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった（ヨハ 3：16〔教義 20：21〕）。キリストが霊的にあなたがたを子としてもうけられた（モサ 5：7）。主によって生まれる者は皆，長子の教会である（教義 93：22）。

敬う　「敬虔（けいけん）」「尊ぶ」参照

通常，聖典では，何かを尊び，礼を尽くすことの意味で用いられる。

あなたの父と母を敬え（出エ 20：12〔1ニフ 17：55；モサ 13：20〕）。あなたの財産をもって主をあがめよ（箴言 3：9）。もしわたしに仕えようとする人があれば，その人を父は重んじて下さるであろう（ヨハ 12：26）。夫は妻を尊ばなければならない（1ペテ 3：7）。この民は唇ではわたしをあがめるが（2ニフ 27：25〔イザ 29：13〕）。わたしは世の誉れを求めず（アル 60：36）。悪魔は，「わたしにあな

たの誉れを与えてください」と言って，わたしに背いた（教義 29：36）。忠実であれば，誉れを冠として与えられるであろう（教義 75：5〔教義 124：55〕）。主なるわたしは，わたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする（教義 76：5）。なぜ彼らは選ばれないのであろうか。人の誉れを得ることを望んでいるためである（教義 121：34−35）。わたしたちは，法律を守り，尊び，支えるべきことを信じる（箇条 1：12〔教義 134：6〕）。

ウリムとトンミム　「聖見者」「胸当て」参照

人が啓示を受けたり翻訳をしたりするのを助ける目的で，神が備えられた道具。ヘブライ語で「光と完全」を意味する。ウリムとトンミムは銀のつるにはめた二つの石で，胸当てとともに使われることもあった（教義 17：1；ジ―歴史 1：35，42，52）。この地球は聖められて不滅の状態になると，一つの雄大な「ウリムとトンミム」となる（教義 130：6−9）。

あなたはさばきの胸当にウリムとトンミムを入れて（出エ 28：30）。勝利を得る者には，白い石を与えよう（黙示 2：17）。その方は，あるものを持っていて，それを使って見れば翻訳することができます（モサ 8：13）。これらの二つの石をあなたに与えよう（エテ 3：23−24，28〔エテ 4：5〕）。ジョセフ・スミスはウリムとトンミムによって数々の啓示を受けた（教義 6；11；14−16 章の前書き）。あなたはウリムとトンミムによって翻訳する力を与えられた（教義 10：1）。三人の証人は，ヤレドの兄弟が山の上で授けられたウリムとトンミムを目にする（教義 17：1）。神が住んでおられる所は，一つの雄大な「ウリムとトンミム」である（教義 130：6−11）。わたしアブラハムは，ウリムとトンミムを持っていた（アブ 3：1，4）。

ウル

『旧約聖書』の中の地名。カルデア（カルデヤ）のウルはアブラハムが初め住んでいた場所である（創世 11：27−28，31；15：7；ネヘ 9：7；アブ 2：1，4）。

うわさ　「悪口」「うわさ話」参照

サタンは人々を神とあらゆる善いものから遠ざけるために，うわさ話や争いを広める（ヒラ 16：22；ジ―歴史 1：1）。それらは一部事実に基づいていることもある。イエス・キリストの再臨のしるしの一つとして，人々の間での戦争や戦争のうわさがある（マタ 24：6；教義 45：26；ジ―マタ 1：23）。

うわさ話　「悪口」「うわさ」参照

ほかの人について，本人の許しもなくとやかく言うこと。

人はその語る無益な言葉に対して，言い開きをしなければならない（マタ 12：36）。聖徒たちは，むだごとをしゃべったり，いたずらに動きまわったり，口にしてはならないことを言ったりしないように勧告されている（1テモ 5：11−14）。あなたは隣人の悪口を言ってはならない（教義 42：27）。あなたのすべての生き方により，あなたの兄

弟たちを強めなさい（教義 108：7）。

永遠の命　「命」「冠」「昇栄」「贖罪（しょくざい）」「日の栄え」参照

神の家族として，親しく神の前に永遠に住むこと（教義 132：19−20，24，55）。永遠の命は，人に与えられる神の最も大いなる賜物（たまもの）である。

永遠の命の言（ことば）をもっているのはあなたです（ヨハ 6：68）。永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります（ヨハ 17：3〔教義 132：24〕）。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて，永遠のいのちを獲得しなさい（1テモ 6：12）。人には自由と永遠の命を選ぶ自由がある（2ニフ 2：27〔ヒラ 14：31〕）。霊的な思いを抱くことは永遠の命である（2ニフ 9：39）。そのとき，あなたがたは，永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる（2ニフ 31：17−20）。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶ（2ニフ 33：4〔3ニフ 15：9〕）。永遠の命を持つ者は豊かである（教義 6：7〔教義 11：7〕）。永遠の命は，神のあらゆる賜物（たまもの）の中で最も大いなるものである（教義 14：7〔ロマ 6：23〕）。義の業を行う者は，この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける（教義 59：23）。最後まで堪え忍ぶ者は永遠の命の冠を受ける（教義 66：12〔教義 75：5〕）。福音を知らずに死んだ者で，もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆，神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる（教義 137：7−9）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすことが神の業であり，神の栄光である（モセ 1：39）。神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命（モセ 5：11）。

永遠の御父　「神；神会」「天の御父」参照

永遠の聖約　「新しくかつ永遠の聖約」「聖約（契約）」参照

栄光　「栄光の階級」「真理」「光；キリストの光」参照

聖典では，神の光と真理を指す言葉としてしばしば用いられる。また賛美，誉れ，永遠の命に伴うある特定の状態，神の栄光を指す場合もある。

聖なるかな，万軍の主，その栄光は全地に満つ（イザ 6：3〔2ニフ 16：3〕）。わたしたちは，栄光から栄光へと，主と同じ姿に変えられていく（2コリ 3：18）。神がわたしをよみがえらせ，栄光のうちに御自身とともに住めるようにしてくださる（アル 36：28）。復活の時に受ける栄光は，義に応じて違いがある（教義 76：50−119）。神の栄光は英知である（教義 93：36）。神の栄光は，人の不死不滅と永遠の命をもたらすことである（モセ 1：39）。わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方を見た（ジ―歴史 1：17）。

栄光の階級　「月の栄え」「日の栄え」「星の栄え」参照

天の様々な王国。最後の裁きにおいて，滅びの子を除くすべての者がそれぞれにふさわしい栄光の王国に永遠の

住まいを割り当てられる。

わたしの父の家には，すまいがたくさんある（ヨハ 14：2〔エテ 12：32〕）。日の栄光があり，月の栄光があり，星の栄光がある（1コリ 15：40−41）。パウロは第三の天にまで引き上げられた（2コリ 12：2）。栄光がなく，また永遠の罰を受ける所がある（教義 76：30−38，43−45）。3 つの栄光の階級がある（教義 76：50−113；88：20−32）。

英知　「真理」「光;キリストの光」「霊」参照

英知という言葉には幾つかの意味があり，以下はその中の 3 つの意味である。(1) 宇宙の万物に命と光を与える真理の光。これは常に存在してきた。(2)「英知たち」という言葉で神の霊の子供たちを指す場合がある。(3) 聖典では，人が霊の子供としてもうけられる前から存在していた霊の元素を指して英知ということもある。

英知は英知に結びつき（教義 88：40）。英知は，創造されることも，作られることもないものである（教義 93：29）。すべての英知は，神がそれを置かれた領域において独立している（教義 93：30）。神の栄光は英知である（教義 93：36−37）。この世において得る英知の一切は，復活の時にわたしたちとともによみがえる（教義 130：18−19）。主はすべての英知たちを治めておられる（アブ 3：21）。主はアブラハムに，世界が存在する前に組織された英知たちをお見せになった（アブ 3：22）。

エサウ　「イサク」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。イサクとリベカの長男。双子として生まれたヤコブの兄。エサウとヤコブは生まれたときから対抗的な関係にあった（創世 25：19−26）。エサウの子孫であるエドム人とヤコブの子孫であるイスラエル人は，互いに張り合う民となった（創世 25：23）。

エサウは長子の特権をヤコブに売った（創世 25：33〔ヘブ 12：16−17〕）。エサウはヘテびとを妻にめとり，両親にとって心の痛みとなった（創世 26：34−35）。ヤコブとエサウは和解した（創世 33 章）。

エジプタス

ノアの息子ハムの妻と娘の名前。この名はカルデア語でエジプト，すなわち禁じられたものの意味（アブ 1：23−25）。

エジプト

アフリカの北東の隅にある国。エジプトの多くは不毛の荒れ野である。ほとんどの住民は約 900㎞にわたって伸びるナイル渓谷に住んでいる。

古代のエジプトは豊かで繁栄していた。灌漑用水路，堅固な要塞都市，そして特にピラミッドと呼ばれる墓や神殿などの王家の記念建造物に代表される壮大な公共建築物は，今なお世界の驚異としてその姿をとどめている。一時期エジプトでは，神権の族長制度を模倣した政体が取られていた（アブ 1：21−27）。

アブラムとヨセフはエジプトへ導かれ，家族を飢饉から救った（創世 12：10〔創世 37：28〕）。ヨセフはエジプトに売られた（創世 45：4−5〔1 ニフ 5：14−15〕）。ヤコブはエジプトへ導かれた（創世 46：1−7）。モーセはイスラエルの子らをエジプトから導き出した（出エ 3：7−10；13：14〔ヘブ 11：27；1 ニフ 17：40；モセ 1：25−26〕）。エジプトは悪を象徴した（エゼ 29：14−15〔ホセ 9：3 −7；アブ 1：6，8，11−12，23〕）。幼な子とその母を連れて，エジプトに逃げなさい（マタ 2：13〔ホセ 11：1〕）。

エステル

エステル記に登場する主要人物で，偉大な信仰の女性。

エステル記：『旧約聖書』の中の 1 書。自分の民を滅亡から救うために働いた，王妃エステルの偉大な勇気の物語が描かれている。

第 1−2 章には，ユダヤ人モルデカイの養女であったユダヤ人エステルが，その美しさのゆえにペルシャの王妃として選ばれた経緯が記されている。第 3 章には，王宮で王の次に権力を得ていたハマンが，モルデカイを憎み，すべてのユダヤ人を殺害する詔を得たことが書かれている。第 4−10 章には，エステルが大きな危険を冒して，自分がユダヤ人であることを王に明かし，詔の取り消しを許されたことが書かれている。

エズラ

『旧約聖書』の中の祭司，学者。一部のユダヤ人をバビロンでの捕囚の境遇からエルサレムへ連れ戻した（エズ 7−10 章；ネヘ 8；12 章）。紀元前 458 年に，エズラはペルシャの王アルタシャスタから，自ら希望するユダヤ人を捕囚の境遇からエルサレムへ連れ帰る許しを得た（エズ 7：12−26）。

エズラの時代より以前は，「律法」と呼ばれる文書化された聖典の朗読は，ほぼ祭司が掌握していたが，エズラの助けによってどのユダヤ人も聖文を手にすることができるようになった。「律法の書」の公開朗読は最終的にはユダヤ国民の生活の中心となった。エズラの最も偉大な教えは，心の準備をして主の律法を調べ，それを行い，人に教えるという彼自身の模範から生じたものであろう（エズ 7：10）。

エズラ記：第 1−6 章には，紀元前 537 年のクロス王の勅令とゼルバベルの下に行われたユダヤ人の帰還など，エズラがエルサレムに到着する 60 年から 80 年前に起きた出来事が記録されている。第 7−10 章には，エズラのエルサレムへの帰還の様子が描かれている。エズラは同行した民とともに守りを求めて断食し，祈った。彼らはエルサレムで，以前にゼルバベルに率いられて帰っていたユダヤ人男性の多くが聖約外の結婚をし，自らを汚しているのを見た。エズラは彼らのために祈り，妻を離縁することを誓わせた。エズラのその後の生涯については，ネヘミヤ記に記されている。

エゼキエル

『旧約聖書』のエゼキエル書を書いた預言者。エゼキエルはザドクの家系

の祭司であり，ネブカデネザルにとりことして連れ去られたユダヤ人の一人であった。彼はユダヤの捕囚の民とともにバビロンに住み，紀元前 592–570 年の 22 年間，預言者として働いた。

エゼキエル書：エゼキエル書は 4 つの部分に分けることができる。第 1–3 章には，神の啓示とエゼキエルへの召しが述べられている。第 4–24 章には，エルサレムへの裁きとその原因が書かれている。第 25–32 章では国々への裁きの宣告がなされ，第 33–48 章には末日のイスラエルに関する示現が書かれている。

エッサイ　「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデの父。キリストとユダ王国のすべての王の先祖。

ルツの息子オベデはエッサイの父であった（ルツ 4：17，22）。ユダに至るまでのエッサイの先祖が述べられる（歴上 2：5–12〔マタ 1：5–6〕）。

エテル　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中のヤレド人の最後の預言者（エテ 12：1–2）。

エテル書：『モルモン書』の中の 1 書。この書の中には，ヤレド人の記録の一部が含まれている。ヤレド人は，リーハイの民より何世紀も前に西半球にいた。エテル書はリムハイの民が発見した 24 枚の版から取られたものである（モサ 8：8–9）。

第 1–2 章には，ヤレド人がバベルの塔の時代に故郷を離れて，現在アメリカ大陸として知られている地へ旅を始めた経緯が書かれている。第 3–6 章には，ヤレドの兄弟が肉体を受けられる前の救い主にまみえたこと，またヤレド人が 8 隻の船で旅をしたことが書かれている。第 7–11 章には，ヤレド人の歴史を色濃く染めていた悪事の数々が書かれている。エテルの記録を編集したモロナイは，第 12–13 章の中で，信仰によって行われた奇跡について，またキリストと将来の新エルサレムについて記録している。第 14–15 章には，強大な国家となったヤレド人が，悪事に帰因する内乱により滅びた経緯が記されている。

エテロ　「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ミデアンの地の有力者，祭司。エジプトから逃れてきたモーセを迎え入れた。エテロはリウエルとも呼ばれた（出エ 2：18）。モーセは後に，エテロの娘チッポラを妻とした（出エ 3：1；4：18；18：1–12）。エテロはモーセに委任について教えた（出エ 18：13–27）。モーセはエテロからメルキゼデク神権を受けた（教義 84：6–7）。

エデン　「アダム」「エバ」参照

人類の最初の両親であるアダムとエバの住んでいた所（創世 2：8 – 3：24；4：16；2 ニフ 2：19–25；モセ 3；4 章；アブ 5 章）。東の方，エデンに園があった。アダムとエバは，禁断の実を食べて死すべき存在となった後，エデンを追われた（モセ 4：29）。末日の啓示は，エデンの園に関する『聖書』の記述を確認し，さらにエデンの

園は現在北アメリカ大陸と呼ばれている地にあったという重要な知識を提供している（教義 116 章；117：8）。

エデンの園　「エデン」参照

エノク　「シオン」参照

シオンの町の民を導いた預言者。エノクの働きについては，『旧約聖書』と『高価な真珠』の両方に記録されている。彼はアダムから数えて 7 代目の族長であり，ヤレドを父とし，メトセラの父であった（創世 5：18−24；ルカ 3：37）。

エノクは偉大な人物であり，『聖書』中の彼に関する短い記録が示す以上の重要な働きをした。『聖書』には彼が身を変えられたことが記されているが（ヘブ 11：5），その働きの詳細は示されていない。ユダ 1：14 には，エノクが残した預言が引用されている。末日の啓示にはエノクについてはるかに多くのこと，具体的には彼の宣教の働き，シオンと呼ばれた彼の町，彼が受けた示現，および彼の預言が記されている（教義 107：48−57；モセ 6−7 章）。シオンはそこに住む民の義のゆえに，天に取り上げられた（モセ 7：69）。

神はエノクに御自身を現された（モセ 6：26−37）。エノクは福音を教えた（モセ 6:37−68）。エノクは人々を教え，シオンを確立した（モセ 7：1−21）。エノクはキリストの再臨を含めて，未来を見た（モセ 7：23−68）。

エノス（ヤコブの息子）

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者，記録者。エノスはキリストを信じる信仰を通して罪の赦しを祈り求め，それを受けた（エノ 1：1−8）。主はエノスに対して，レーマン人に『モルモン書』を授けると聖約された（エノ 1：15−17）。

エノス書：『モルモン書』の中の 1 書。この書には，エノスが罪の赦しのため，また自分の民と他の人々のために主に祈ったことが書かれている。主はエノスに，『モルモン書』が保存され，将来レーマン人に伝えられることを約束された。エノス書には一つの章しかないが，祈りの中で神を求め，神の戒めに従って生活し，この世において贖い主を知った人物の力強い物語が描かれている。

エバ　「アダム」「エデン」「堕落（アダムとエバの）」参照

この地上に生を受けた最初の女性（創世 2：21−25；3：20）。アダムの妻であった。この名前はヘブライ語で「命」を意味し，エバが地上で最初の母親であったことを示唆している（モセ 4：26）。彼女と最初の人アダムは，全人類の永遠の進歩を可能にするという彼らの務めを果たしたことに対して，ともに永遠の栄光を受ける。

エバは誘惑され，禁断の実を食べた（創世 3 章〔2 ニフ 2：15−20；モセ 4 章〕）。ジョセフ・F・スミス大管長は，霊界についての示現の中でエバを見た（教義 138：39）。エバは堕落が必要であったことと贖いの喜びを知った（モセ 5：11−12）。

エフライム　「イスラエル」「マナセ」「モルモン書」「ヨセフ(ヤコブの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヨセフとアセナテの2番目の息子（創世41：50−52；46：20)。エフライムはそれまでの習わしに反して，長男のマナセに代わって長子の特権の祝福を受けた(創世48：17−20)。エフライムはエフライムの部族の先祖となった。

エフライムの部族：エフライムはイスラエルにおける長子の特権を与えられた（歴上5：1−2；エレ31：9)。終わりの時における彼らの特権と責任は，神権を受け，世の人々に回復された福音の教えを伝え，散乱したイスラエルを集めるために旗を掲げることである（イザ11：12−13；2ニフ21：12−13)。エフライムの子らは，終わりの時に北の地から戻る人々に栄光を冠として授ける（教義133：26−34)。

エフライムまたはヨセフの木：エフライムの部族で，紀元前600年ごろにエルサレムからアメリカに導かれた民の記録。この民の記録は，エフライムまたはヨセフの木，すなわち『モルモン書』と呼ばれる。この木（モルモン書)とユダの木(聖書)は一つとなって，主イエス・キリストとその復活，またイスラエルの家のこれら二つの群れの中で主がなされた業を証(あかし)している。

エフライムの枝が折り取られ，キリストについてのもう一つの証(あかし)を記す（JS創世50：24−26，30−31)。ユダの木とヨセフの木は一つになる（エゼ37：15−19)。ユダの記録とヨセフの記録が一つに合わされる（2ニフ3：12)。主は多くの国民に語られる（2ニフ29章)。エフライムの木の記録の鍵(かぎ)がモロナイにゆだねられた（教義27：5)。

エフライムの木　「エフライム―エフライムまたはヨセフの木」参照

エペソ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。使徒パウロがエペソの聖徒たちにあてた手紙。この手紙は，キリストの教会についてのパウロの教えが含まれている点で非常に重要なものである。

第1章には通常のあいさつが述べられている。第2−3章には，人々が教会員となるとき，すなわち一つの教会の中で異邦人とユダヤ人が一致し，聖徒たちと同じ国籍の者となるときに，彼らに生じる変化が説明されている。第4−6章には，使徒と預言者の役割，一致の必要性，神の武具を身に着けなければならないことが説かれている。

エホバ　「イエス・キリスト」「わたしは有る」参照

イスラエルの神の契約名または固有名。「わたしは有る」の意（出エ3：14；ヨハ8：58)。エホバは肉体を受けられる前のイエス・キリストであり，マリヤの子として地上に来られた（モサ3：8；15：1；3ニフ15：1−5)。『旧約聖書』に出てくる「主」という言葉は，通常，エホバを指している。

エホバはキリストである：古代の預言者たちはエホバを知っていた（KJ

出エ 6：3；アブ 1：16)。使徒パウロは，キリストは旧約のエホバであると教えている（出エ 17：6；1 コリ 10：1−4)。『モルモン書』のヤレドの兄弟は，肉体を受けられる前のキリストにまみえ，礼拝した（エテ 3：13−15)。モロナイもキリストをエホバと呼んでいる（モロ 10：34)。カートランド神殿において，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは復活されたエホバにまみえた（教義 110：3−4)。

エライアス　「エリヤ」参照

エライアス（邦訳『新約聖書』中では，エリヤと訳されている）という名前あるいは称号は，聖典の中において幾つか異なる用い方をされている。

エリヤ：マタイ 17：3−4；ルカ 4：25−26；新約ヤコブ 5：17 などに出てくるエライアス（邦訳『聖書』では，エリヤ）は，列王紀上，列王紀下にその働きが記されている古代の預言者エリヤである。

先駆ける者：エライアスは先駆ける者の称号でもある。例えば，バプテスマのヨハネはエライアスであった。彼はイエスのために道を備えるように遣わされた（マタ 17：12−13)。

回復する者：エライアスという称号は，黙示者ヨハネ（教義 77：14）や，ガブリエル（ルカ 1：11−20；教義 27：6−7；110：12）など，特別な使命を持つ人々に対しても用いられる。

アブラハムの神権時代の人：アブラハムの時代にいたと思われる，イザヤスあるいはエライアスと呼ばれる一人の預言者（教義 84：11−13；110：12)。

選ばれた者　「召し；神の召し」参照

神によって選ばれて特別な責任を受けた者。

わたしはわたしの選んだ者と契約を結び（詩篇 89：3)。招かれる者は多いが，選ばれる者は少ない（マタ 22：14〔マタ 20：16；教義 95：5；121：34，40〕)。あなたがたは，選ばれた種族，祭司の国（1 ペテ 2：9)。キリストは，初めから神が愛し選んだ者である（モセ 4：2)。

選び　「召しと選び」参照

神は，前世におけるふさわしさに基づいて，アブラハムの子孫となり，イスラエルの家に属する者となり，また聖約（契約）の民となる者を選ばれた（申命 32：7−9；アブ 2：9−11)。これらの人々は世のすべての国民を祝福できるよう，特別な祝福と義務を与えられている（ロマ 11:5−7;1 ペテ 1:2；アル 13：1−5；教義 84：99)。しかし，これらの選ばれた人といえども，救いを得るには，この世において召され，また選ばれなければならない。

選ぶ　「自由」「選択の自由」「召し；神の召し」参照

主が個人やグループを選ばれるとき，その人々に奉仕の召しをお与えになるのが普通である。

あなたがたの仕える者を，きょう，選びなさい（ヨシ 24：15〔アル 30：8；モセ 6：33〕)。わたしは苦しみの

炉をもってあなたを試みた（イザ 48：10〔1 ニフ 20：10〕）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである（ヨハ 15：16）。神は，知者をはずかしめるために，この世の愚かな者を選び（1コリ 1：27）。神は天地の造られる前から，わたしたちを選び（エペ 1：4）。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27）。初めに選ばれた，高潔で偉大な者たち（教義 138：55−56）。イスラエルは神により選ばれた（モセ 1：26）。アブラハムは生まれる前に選ばれた（アブ 3：23）。

エリ　「サムエル（旧約の預言者）」参照

『旧約聖書』の中の人物。主がサムエルを預言者に召された当時の大祭司，士師（サ上 3 章）。主はエリを，息子たちの罪悪を見過ごしにしたことで叱責（しっせき）された（サ上 2：22−36；3：13）。

エリコ

ヨルダン渓谷の城塞（じょうさい）都市。海面下約 250 mの低い位置にある。エリコは，イスラエル人が約束の地に初めて足を踏み入れたときに川を渡った場所の近くにあった（ヨシ 2：1−3；3：16；6 章）。

イスラエル人はエリコで戦った（ヨシ 6：1−20）。ヨシュアはエリコにのろいを置いた（ヨシ 6：26〔列上 16：34〕）。エリコはベニヤミンの領地の中にあった（ヨシ 18：11−12，21）。主はエルサレムへの最後の旅のときにエリコを訪れられた（マコ 10：46〔ルカ 18：35；19：1〕）。

エリサベツ　「ヨハネ（バプテスマの）」参照

『新約聖書』の中の人物。ザカリヤの妻。バプテスマのヨハネの母。マリヤの親族であった（ルカ 1：5−60）。

エリシャ

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの北王国の預言者。北王国の王たちに顧問として信頼された。

エリシャは燃えるような熱意の師エリヤとは趣を異にし，温和で優しい人物であった。よく知られているエリシャの奇跡（列下 2−5；8 章）は，彼がエリヤの後を継いで預言者となったときに，確かにエリヤの力を受けたことを証（あかし）している（列下 2：9−12）。エリシャの奇跡としては，悪い水を清めたこと，ヨルダン川の水を分けたこと，やもめの油を増やしたこと，子供を生き返らせたこと，重い皮膚病にかかった人を癒（いや）したこと，おのを水面に浮かばせたこと，スリヤびとの目をくらませたこと（列下 2−6 章）がある。エリシャの働きは，ヨラム，エヒウ，エホアハズ，ヨアシの治世にわたり，50 年以上続いた。

エリヤの外套（がいとう）を受け取った（列下 2：13）。やもめの油を増やした（列下 4：1−7）。シュネムの女の子供を生き返らせた（列下 4：18−37）。スリヤ人ナアマンを癒（いや）した（列下 5：1−14）。スリヤ人の兵たちの目をくらまし，ま

た，エリシャの召し使いの目が開かれた（列下 6：8−23）。

エリヤ　「エライアス」「救い」「結び固め」参照

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに結び固めの力の鍵を授けるため，末日に再び地上を訪れた旧約の預言者。エリヤはこの世にいたとき，イスラエルの北王国で務めを果たした（列上 17−列下 2 章）。彼は主に対して大いなる信仰を持ち，多くの奇跡をなした人として知られている。3 年半にわたって雨が降らないようにし，死んだ少年を生き返らせ，天から火を呼び寄せた（列上 17−18 章）。ユダヤ教の人々は，マラキが預言したようにエリヤが戻って来るのを，今も待ち望んでいる（マラ 4：5）。彼らは，過越の祭のときには戸を開け放ち，一つの席を空け，いまだにエリヤを客として招いている。

預言者ジョセフ・スミスは，エリヤはメルキゼデク神権の結び固めの力を持つ預言者であり，またイエス・キリスト以前の時代にこの力を持っていた最後の預言者であると語っている。エリヤは変貌の山にモーセとともに現れ，ペテロ，ヤコブ，ヨハネに神権の鍵を授けた（マタ 17：3）。エリヤは 1836 年 4 月 3 日にも，モーセなどとともにオハイオ州のカートランド神殿に現れ，同じ鍵をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けた（教義 110：13−16）。これはすべて，マラキ 4：5−6 に述べられているように，主の再臨への備えとしてなされた。

エリヤが持っていた力は，神権の結び固めの力であり，これによって地上でつながれ，解かれることは，天においてもつながれ，解かれるのである（教義 128：8−18）。今日この世で主に選ばれた僕もこの結び固めの力を持ち，生者と死者のために福音の救いの儀式を執行することができる（教義 128：8）。

雨も露も降らせず，からすに養われた（列上 17：1−7）。やもめに，かめの粉は尽きず，びんの油は絶えないと告げた（列上 17：8−16）。やもめの子供を生き返らせた（列上 17：17−24）。バアルの預言者たちを打ち破った（列上 18：21−39）。静かな細い声が彼に語りかけた（列上 19：11−12）。火の車に乗って天に上った（列下 2：11）。マラキは末の日にエリヤが再び遣わされることを預言した（マラ 4：5−6〔3 ニフ 25:5〕）。1836 年にオハイオ州カートランドの神殿に現れた（教義 110：13−16）。

エルサレム

現代のイスラエルにある都市。『聖書』の歴史の中で最も重要な都市。エルサレムにはキリスト教徒やユダヤ教徒，イスラム教徒が最も神聖視している場所が幾つかあり，多くの信心深い人々が定期的に訪れる。しばしば聖なる都と言われる。

かつてはサレムと呼ばれていた（創世 14：18；詩篇 76：2）。ダビデに攻め取られるまで，エルサレムはエブス人の町であった（ヨシ 10：1；15：8；サ下 5：6−7）。ダビデはここを都とした。海抜約 800 m のこの場所は，それまではおもに山中のとりでとして機

能を果たしていた。北側を除く全面が深い谷で囲まれている。

ダビデ王はエルサレムでの治世の間，木造の宮廷に住んでいた。しかし，ソロモン王の治世に，民は王宮や神殿の建設をはじめとして，エルサレムを美しい都とするために多くのことを行った。

イスラエル王国とユダ王国に分裂した後も，エルサレムは引き続きユダ王国の都であった。エルサレムはしばしば侵略軍の攻撃にさらされた（列上 14：25；列下 14：13；16：5；18−19 章；24：10；25 章）。ヒゼキヤの時代にエルサレムは宗教の中心地となったが，紀元前 320 年，168 年，65 年に町の一部が破壊された。その後ヘロデが城壁と神殿を再建したが，紀元 70 年にローマ軍によって完全に破壊されてしまった。

メルキゼデクはサレムの王であった（創世 14：18〔ヘブ 7：2〕）。イザヤはエルサレムに美しい衣を着るように叫んだ（イザ 52：1）。主の言葉はエルサレムから出る（ミカ 4：2）。キリストはエルサレムの行く末を嘆かれた（マタ 23：37−39〔ルカ 13：34〕）。エルサレムは生ける神の都である（ヘブ 12：22）。悔い改めなければエルサレムは滅ぼされる（1ニフ 1:4, 13, 18〔2ニフ 1：4；ヒラ 8：20〕）。破壊の後に，エルサレムは再び民の住む所となる（3ニフ 20：46）。エルサレムが再び築かれる（エテ 13:5）。キリストは，エルサレムに警告されたように，末日聖徒にも警告を与えられた（教義 5：20）。ユダに属する人々はエルサレムに逃げなさい（教義 133：13）。主はエルサレムから語られる（教義 133：21）。

エルサレム（新しい）　「シオン」「新エルサレム」参照

エルバアル　「ギデオン（旧約聖書）」参照

『旧約聖書』の中のギデオンの別名。バアルの祭壇を打ち壊した後に彼に付けられた名（士師 6：32；7：1；9 章；サ上 12：11）。

エレミヤ　「哀歌」参照

旧約の預言者。祭司の家系に生まれ，紀元前 625−586 年にかけて，ユダ王国で預言した。エレミヤと大体同時代の偉大な預言者としては，リーハイ，エゼキエル，ホセア，ダニエルがいる。

エレミヤは前世において，預言者となるように聖任された（エレ 1：4−5）。預言者として活動した約 40 年の間，エレミヤはユダヤ人の中に見られた偶像礼拝と不道徳を糾弾（きゅうだん）した（エレ 3：1−5；7：8−10）。エレミヤは絶えず抵抗と侮辱を受けた（エレ 20：2；36：18−19；38：4）。エルサレム陥落後，エジプトへ逃げたユダヤ人たちはエレミヤも連れて行き（エレ 43:5−6），言い伝えによると，その地で彼を石で打ち殺したということである。

エレミヤ書：第 1−6 章には，ヨシヤの治世に与えられた預言が記されている。第 7−20 章には，エホヤキムの時代の預言が記録されている。第 21−38 章には，ゼデキヤの治世のことが採り上げられている。第 39−44 章

には，数々の預言と，エルサレム陥落後の歴史上の出来事が述べられている。第45章には，エレミヤの筆記者バルクに対して与えられた，彼の命は守られるという約束が記されている。第46–51章には，諸外国に対する預言が述べられており，第52章は歴史的結末である。エレミヤの預言の幾つかは，ニーファイが手に入れたラバンの真鍮版にも含まれていた（1ニフ5:10–13）。エレミヤについては，『モルモン書』の中で，ほかに2度言及されている（1ニフ7：14；ヒラ8：20）。

エレミヤ書には，人の前世とエレミヤの予任に関する記述もある（エレ1:4–5）。また，イスラエルは町から一人，氏族から二人とシオンに集められて，その散らされた状態から帰り，ユダとイスラエルが良い地で安全に安らかに住むようになるという預言（エレ3：12–19）や，主は多くの「漁夫」や「猟師」を遣わしてイスラエルの民を探し，北の地から集められるという預言（エレ16：14–21）もある。末日におけるこの業は，モーセがイスラエルをエジプトから導き出したときよりも規模の大きなものとなるであろう（エレ16：13–15；23：8）。

エロヒム　「神；神会」「天の御父」参照

エンダウメント　「神殿；主の宮」参照

一般的には，神からの力の賜物。資格のある教会員は，神殿の儀式を通して力の賜物を授かることができる。その賜物は，昇栄を得るのに必要な聖なる神権の教えと聖約を授けるものである。エンダウメントには救いの計画に関する教えが含まれている。

あなたがたはそこで，高い所から力を授けられるであろう（教義38：32，38〔ルカ24：49；教義43：16〕）。わたしはこの家の中で，わたしが選んだ者たちに力を授けようと考えている（教義95：8）。わたしは，一つの大いなるエンダウメントと祝福を用意している（教義105：12，18，33）。幾千幾万の人の心が，僕たちに授けられるエンダウメントのゆえに，大いに喜ぶであろう（教義110：9）。栄光と誉れとエンダウメントは，わたしの聖なる家の儀式によって定められる（教義124：39）。アロンのように，御父から召された人々は神権の鍵を授けられる（教義132：59）。

王政党

『モルモン書』に出てくる党派。ニーファイ人の政府の転覆を謀った（アル51：1–8）。

大きな忌まわしい教会　「悪魔—悪魔の教会」参照

奥義（神の）　「神の奥義」参照

行い

人が行うことで，善いことも悪いことも含む。人は皆，自分の行いによって裁かれる。

主はおのおのの行いにより，人に報いられる（箴言24：12）。あなたがたの光を人々の前に輝かし，人々があな

たがたのよいおこないを見て（マタ5：16〔3ニフ12：16〕）。御父の御心を行う者だけが天国に入る（マタ7：21）。行いのない信仰は死んだものである（新ヤコ2：14–26）。肉体をもってなした行いによって裁かれなければならない（1ニフ15：32〔モサ3：24〕）。わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に，神の恵みによって救われることを知っている（2ニフ25：23）。善い行いをするのに決して疲れず（アル37：34）。人々が自分の行いに応じて裁かれることは必要である（アル41：3）。あなたがたはその行いによって彼らを見分けるのである（モロ7：5〔教義18：38〕）。主なるわたしは，すべての人をその行いに応じて裁く（教義137：9）。

行う　「従順；従う」参照

幼い子供たちの救い　「子供」「救い—幼い子供たちの救い」参照

教える；教師　「聖霊」参照

人に知識，特に福音の真理についての知識を与え，義に導くこと。福音を教える人は御霊（みたま）の導きを受けなければならない。親は皆，それぞれの家族の中にあって教師である。聖徒たちは，主と指導者の教えを求め，進んで受け入れなければならない。

それらのことを，あなたの子孫に知らせなければならない（申命4：8–9）。努めてこれをあなたの子らに教え（申命6：7〔申命11：18–19〕）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言22：6）。あなたの子らはみな主に教（おしえ）をうけ（イザ54：13〔3ニフ22：13〕）。わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています（ヨハ3：2）。なぜ，人を教えて自分を教えないのか（ロマ2：21）。わたしは父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた（1ニフ1：1〔エノ1：1〕）。力の限り神の言葉を民に教えなければ，民の罪を自分たちの頭（こうべ）に受ける（ヤコ1:18–19）。耳を開いて聞き（モサ2：9）。互いに愛し合い，互いに仕え合うように教えるであろう（モサ4:15）。神の人でなければ，だれも，あなたがたの教師としてはならない（モサ23：14）。主は，御言葉を受け入れるように彼らの心を備えさせるために，その地の全面に主の御霊（みたま）を注がれた（アル16:16）。神の力と権能をもって教えた（アル17：2–3）。母親から教わっていた（アル56：47〔アル57：21〕）。知恵を求めたならば，教えを授けられるため（教義1：26）。わたしがあなたがたを任命したその職に応じて，互いに教え合いなさい（教義38：23）。『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義42：12）。あなたがたは高い所から教えを受けなければならない（教義43：15–16）。親は子供たちに教えなければならない（教義68：25–28）。互いに王国の教義を教え合わなければならない（教義88：77–78，118）。あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい（教義88：122）。あなたは，あなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。あなたが苦難を受けてきた原因はこれである（教義93：39–42）。あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい

(モセ 6：57−61)。

御霊によって教える：語る者は，あなたがたではなく，あなたがたの中にあって語る父の霊である（マタ 10：19−20)。聖書を説き明してくださったとき，お互の心が内に燃えたではないか（ルカ 24：32)。福音は御霊の力によって宣べ伝えられる（1コリ 2：1−14)。神から受けた力と権能をもって語り（モサ 13：5−9〔アル 17：3；ヒラ 5：17〕)。人々を確信に導く神の力を受けるであろう（教義 11：21)。あなたが慰め主によって教えるすべてのことを，教会員は聞かなければならない（教義 28：1〔教義 52：9〕)。御霊を受けなければ，あなたがたは教えてはならない（教義 42：14〔教義 42：6〕)。御霊の力によって人の子らに教える（教義 43：15)。長老たちは御霊によって福音を宣べ伝えなければならない（教義 50：13−22)。必要な部分が，必要なそのときに授けられるであろう（教義 84：85〔教義 100：5−8〕)。

畏れ；恐れ　「敬虔」「信仰」「勇敢；勇気」参照

次の二つの意味があると考えられる。(1) 神を畏れるとは，神に対して畏敬の念を持ち，その戒めに従うことである。(2) 人やこの世の様々な危難，苦しみ，悪を恐れるとは，これらを怖がり，不安を抱くことである。

神への畏れ：この所には神を恐れるということが，まったくない（創世 20：11)。あなたの神，主を恐れ(申命 6：13〔ヨシ 24：14；サ上 12：24〕)。恐れをもって主に仕え（詩篇 2：11)。主を恐れることは知恵のはじめである（詩篇 111：10)。主を恐れて，悪を離れよ(箴言 3:7)。神をかしこみ，み前に恐れをいだく者には幸福がある(伝道 8：12)。恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい（ピリ 2：12)。神をおそれ，神に栄光を帰せよ（黙示 14：7〔教義 88：104〕)。主を畏れる気持ちを抱くように，絶えず民を奮い立たせ（エノ 1：23)。アルマとモーサヤの息子たちは地に伏した。主への畏れを覚えたからである(アル 36：7)。主の前に恐れおののいて，自分の救いを達成しなさい（モル 9：27)。わたしを畏れない者を乱し，おののかせよう（教義 10：56)。わたしを畏れる者は，人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう（教義 45：39)。

人への恐れ：恐れてはならない。わたしはあなたと共におって（創世 26：24〔イザ 41：10〕)。主がわたしたちと共におられますから，彼らを恐れてはなりません（民数 14：9)。恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから（列下 6：16)。肉なる者はわたしに何をなし得ましょうか（詩篇 56：4)。人のそしりを恐れてはならない(イザ 51：7〔2ニフ 8：7〕)。神がわたしたちに下さったのは，臆する霊ではなく（2テモ 1：7)。完全な愛は恐れをとり除く（1ヨハ 4：18〔モロ 8：16〕)。ヒラマンの息子たちは死を恐れなかった（アル 56：46−48)。悪人の胸に満ちているあのひどく死を恐れる気持ち（モル 6：7)。人のすることは恐れない（モロ 8：16)。あなたは人

を神よりも恐れてはならなかった（教義 3：7〔教義 30：1，11；122：9〕）。善を行うのを恐れてはならない（教義 6：33）。だれでもわたしの教会に属する者は，恐れる必要がない（教義 10：55）。備えていれば恐れることはない（教義 38：30）。恐れを除き去り（教義 67：10）。元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり（教義 68：6）。敵を恐れてはならない（教義 136：17）。

夫　「家族」「結婚」参照

おとめ　「マリヤ（イエスの母）」参照

異性との交わりを持ったことのない結婚適齢期の女性。

おとめがみごもって男の子を産む（イザ 7：14〔マタ 1：23；2 ニフ 17：14〕）。天国は，十人のおとめが花婿を迎えに出て行くのに似ている（マタ 25：1−13）。ナザレの町に一人のおとめを見たが，それは神の御子の母であった（1 ニフ 11：13−18）。マリヤはおとめであって，尊い，選ばれた器である（アル 7：10）。

オバデヤ

旧約の預言者。エドムの滅亡を預言した。オバデヤが預言したのは，ヨラム王の治世（紀元前 848−844 年），あるいは紀元前 586 年のバビロニアによる侵略の時期と思われる。

オバデヤ書：『旧約聖書』の 1 書。1 章のみから成る。その中でオバデヤはエドムの滅亡について記し，また救う者たちがシオンの山に立つことを預言した。

オベデ　「ボアズ」「ルツ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ボアズとルツの息子で，エッサイの父。エッサイはダビデ王の父である（ルツ 4：13−17，21−22）。

覚えの書　「命の書」「系図」参照

最初にアダムが作ったもので，彼の子孫の行いが記録された。また，そのとき以来預言者や忠実な教会員によって作られた同様の記録をも指す。アダムとその子孫は，霊感によって書いた「覚えの書」と，系図を記した「歴代の書」を書き残した（モセ 6：5，8）。これらの記録は，わたしたちの最後の裁きを確定する際に用いられることが十分に考えられる。

覚え書（がき）がしるされた（マラ 3：16−18〔3 ニフ 24：16−18〕）。覚えの書に記されていない者は皆，その日に何の受け継ぎも見いだされず（教義 85：9）。死者は彼らの行いの記録が載せられている書物に基づいて裁かれる（教義 128：7）。わたしたちの死者の記録を載せた書をささげましょう（教義 128：24）。覚えの書が記された（モセ 6：5−8）。覚えの書を記してきた（モセ 6：46）。アブラハムは子孫のために記録を書こうと努めた（アブ 1：31）。

オムナー　「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。兄弟たちとともにレー

マン人への伝道の旅に出かけた（モサ 27：8−11，34−37；28：1−9）。

オムナイ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の記録者。紀元前 361 年ごろに記録を残した（ジェロ 1：15；オム 1：1−3）。

オムナイ書：『モルモン書』の中の 1 書。ニーファイの小版から翻訳されたもの。1 章のみから成るこの書には，ニーファイ人とレーマン人の間の戦争のことが記されている。オムナイが記録したのは，この書の初めの 3 節だけである。ニーファイの版は，アメーロン，ケミシ，アビナドム，そしてアマレカイへと順に伝えられた。アマレカイはこの版をゼラヘムラのベニヤミン王に渡した。

オメガ　「アルパとオメガ」「イエス・キリスト」参照

思い　「選択の自由」「深く考える」参照

人の心の中に生じる考えや印象。考える力は神からの賜物（たまもの）であり，わたしたちはこの力をどう使うか自由に選択することができる。わたしたちがどういう思いを抱くかは，態度や行動，また来世での状態にも大きな影響を与える。義にかなった思いは人を救いに導き，悪い思いは罰の定めに至る。

主はすべての思いを悟られる（歴上 28：9）。わが思いは，あなたがたの思いとは異なり（イザ 55：7−9）。イエスは彼らの思いを見抜いて（マタ 12：25〔ルカ 5：22；6：8〕）。内部から，人の心の中から，悪い思いが出て来る（マコ 7：20−23）。すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ（2コリ 10：5）。すべて真実なこと，すべて尊ぶべきこと，すべて純真なこと，すべて愛すべきことがあれば，それらのものを心にとめなさい（ピリ 4：8）。肉の思いを抱くことは死であり，霊的な思いを抱くことは永遠の命であることを覚えておきなさい（2ニフ 9：39）。もし自分自身や自分の思いに注意を払わないならば，あなたがたは滅びるに違いない（モサ 4：30）。思いもわたしたちを罪に定める（アル 12：14）。あなたの心の思いと志を知っている者は神のほかにだれもいない（教義 6：16〔教義 33：1〕）。あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい（教義 6：36）。命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい（教義 84：85）。あなたがたの無益な思いを遠くに捨ててしまいなさい（教義 88：69）。人の心の思いは明らかにされる（教義 88：109）。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい（教義 121：45）。すべての人がいつも悪いことばかりを考えている（モセ 8：22）。

思い；心

精神能力。思考力。

全（まった）き心をもって喜び勇んで彼に仕えなさい（歴上 28：9）。心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ（マタ 22：37）。肉の思いを抱くことは死であり，霊的な思いを抱くことは永遠の命であ

る（2ニフ 9：39）。主の声がわたしの思いに告げて（エノ 1：10）。御言葉は剣よりも民の心に力強い影響を及ぼした（アル 31：5）。わたしはあなたの思いに告げよう（教義 8：2）。心の中でそれをよく思い計り（教義 9：8）。永遠の厳粛さを心にとどめなさい（教義 43：34）。あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった（教義 84：54）。早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように，早起きをしなさい（教義 88：124）。サタンは神の思いを知らなかった（モセ 4：6）。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし，思いを一つにしたからである（モセ 7：18）。

重い皮膚病

『旧約聖書』と『新約聖書』の両方で何度も言及されている感染性の病気。モーセ（出エ 4：6−7）とその姉ミリアム（民数 12：10），ナアマン（列下 5 章），ウジヤ王（歴下 26:19−21）など，『聖書』の著名な人物の中にこの病気に苦しんだ人がいる。

イエスは何度か，重い皮膚病にかかった人を癒された（マタ 8:2−4〔マコ 1：40−45；ルカ 5：12−15；3 ニフ 17：7−9〕）。イエスは重い皮膚病にかかった 10 人の人を癒された（ルカ 17：11−19）。

親　「父（現世の）」「母」参照

父親と母親。神殿での結婚において正しく結び固められたふさわしい夫婦は，永遠にわたって親としての役割を果たすことができる。

両親に従いなさい（エペ 6:1−3〔コロ 3：20〕）。わたしたちの最初の先祖であるアダムとエバ（1ニフ 5：11）。その責任が両親の頭に帰するように（2ニフ 4：6）。親たちに，悔い改めてバプテスマを受けなければならないことを教えなさい（モロ 8：10）。親は子供たちに福音を教えるように命じられている（教義 68：25）。すべての子供たちはその親に扶養を求める権利がある（教義 83：4）。両親の罪がその子供たちの頭に帰することはあり得ない（モセ 6：54）。

オリーブの木　「油」「イスラエル」参照

イスラエルに広く分布している樹木。『聖書』の舞台となった地域では，オリーブは重要な農産物である。木材にしたり，果実を採取したり，油を採ったりするために栽培される。オリーブの木は聖典の中で，イスラエルの家の象徴として頻繁に用いられている。

イスラエルの家は，枝が折られて地の全面に散らされるオリーブの木にたとえられる（1ニフ 10：12〔1 ニフ 15：12〕）。主はイスラエルの家を栽培されたオリーブの木にたとえられた（ヤコ 5−6 章）。ジョセフ・スミスは教義と聖約 88 章の啓示をオリーブの葉と呼んだ（教義 88 章の前書き）。ある身分の高い人が僕たちに，自分の果樹園へ行って 12 本のオリーブの木を植えるようにと言った（教義 101：43−62）。

オリブ山　「ゲツセマネ」参照

エルサレムの東方のケデロンの谷の東にある丘。西側斜面のふもと近くにゲツセマネの園がある。山頂と東側斜面に，ベテパゲとベタニヤがある。この山は，かつて『聖書』に述べられている数多くの出来事の舞台となり（マタ 24：3），また将来も末日の様々な出来事の舞台となる（ゼカ 14：3–5；教義 45：48–54；133：20）。

終わりの時；末日　「イエス・キリストの再臨」「時のしるし」参照

わたしたちが生きている今の時代。主の再臨の直前の時代（あるいは神権時代）。

後の日に，あなたがたの上に起ることを，告げましょう（創世 49：1）。後の日に彼は必ず地の上に立たれる（ヨブ 19：25）。終りの日に主の家の山は堅く立ち（イザ 2：2）。終りの時には，苦難の時代が来る（2テモ 3：1–7）。終りの時に，あざける者たちが再臨を否定する（2ペテ 3：3–7）。わたしはあなたがたに，終わりの時について預言する（2ニフ 26：14–33）。わたしの教会は，終わりの時に，末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない（教義 115：4）。キリストは終わりの時に来られる（モセ 7：60）。

音楽　「歌う」「賛美歌」参照

喜びや賛美や礼拝の気持ちを表現するために，旋律や拍子に合わせて歌い，演奏することは，『聖書』の時代の初期から行われていた（サ下 6：5）。音楽は祈りの一形式でもある。詩篇は楽器の演奏に合わせて単純な旋律で歌われたものと思われる。

アロンの姉，女預言者ミリアムはタンバリンを手に取り，女たちも皆タンバリンを取って，踊り（出エ 15：20）。レビびとの歌うたう者はシンバルと，立琴（たてごと）と，琴をとって立ち，120人の祭司は彼らと一緒に立ってラッパを吹いた（歴下 5：12）。彼らは，さんびを歌った後，オリブ山へ出かけて行った（マタ 26：30）。互（たがい）に教えまた訓戒し，詩とさんびと霊の歌とによって，神をほめたたえなさい（コロ 3：16）。贖（あがな）いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるか（アル 5：26）。わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに，義人の歌はわたしへの祈りである（教義 25：12）。歌と，音楽と，踊りをもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

女　「人」参照

神の娘。聖典では，婦人という言葉が敬意を込めて用いられている場合がある（ヨハ 19：26）。

神は男と女とを創造された（創世 1：27〔モセ 2：27；6：9；アブ 4：27〕）。賢い妻は宝石よりもすぐれて尊い（箴言 31：10–31）。女は，また男の栄光である（1コリ 11：7）。主にあっては，男なしには女はないし，女なしには男はない（1コリ 11：11）。女はつつましい身なりをし（1テモ 2：9–10）。主なる神であるわたしは，婦人たちの貞節を喜ばしく思う（ヤコ 2：28）。見よ，あなたの罪は赦（ゆる）されている。あなたは，

わたしが召した，選ばれた婦人である（教義 25：3）。女たちは夫に扶養を要求する権利がある（教義 83：2）。

女預言者　「預言」参照

イエスの証を受け，啓示の霊を享受している女性。神権や神権の鍵を持つことはない。聖典の中で女預言者と呼ばれている女性はわずかであるが，リベカやハンナ，エリサベツ，マリヤなど，預言をした女性は多い。

ミリアムは女預言者と呼ばれた（出エ 15：20）。デボラは女預言者と呼ばれた（士師 4：4）。ホルダは女預言者と呼ばれた（列下 22：14〔歴下 34：22〕）。アンナは女預言者と呼ばれた（ルカ 2：36）。

カーセージの監獄　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「スミス，ハイラム」参照

ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは，1844 年 6 月 27 日にアメリカ合衆国イリノイ州カーセージの監獄で暴徒により殺された（教義 135 章）。

カートランド神殿

近代に教会が建設した最初の神殿。聖徒たちは主の戒めに従って，アメリカ合衆国オハイオ州カートランドにこの神殿を建設した（教義 94：3–9）。カートランド神殿建設の目的の一つは，ふさわしい教会員が霊的な力と権能，啓発を受けることのできる場所を提供することであった（教義 109；110 章）。カートランド神殿は 1836 年 3 月 27 日に奉献された。奉献の祈りは啓示によって預言者ジョセフ・スミスに与えられた（教義 109 章）。主はこの神殿において幾つかの重要な啓示を下し，必要な神権の鍵を回復された（教義 110；137 章）。カートランド神殿では，今日数々の神殿で行われている儀式がすべて執行されたわけではない。

カイザル

『新約聖書』に出てくる称号。幾人かのローマ皇帝はこの称号で呼ばれた。聖典では，世俗的な支配や権威の象徴として用いられている。

カイザルのものはカイザルに返しなさい（マタ 22：21〔マコ 12：17；ルカ 20：25；教義 63：26〕）。

改宗　「弟子」「再び生まれる」参照

信念や心や生活を変えて神の御心を受け入れ，御心に従って生活するようになること（使徒 3：19）。

改宗には，以前の習慣をやめ，キリストの弟子になるという意識的な決意が含まれる。改宗は，悔い改め，罪の赦しのためのバプテスマ，按手により聖霊を受けること，さらに主イエス・キリストを信じる信仰を持ち続けることによって完全なものとなる。生まれながらの人も，キリストなるイエスにより再び生まれて，聖められた新しい人となることができる（2 コリ 5：17；モサ 3：19）。

心をいれかえて幼な子のようにならなければ（マタ 18：3〔モサ 3：19〕）。あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい（ルカ 22：

32)。彼の勧めの言葉を受けいれた者たちは，バプテスマを受けた（使徒 2：37−41)。罪人を迷いの道から引きもどす（新ヤコ 5：20)。エノスは改心した（エノ 1：2−5)。ベニヤミン王の言葉は民の心の中に大きな変化を生じさせた（モサ 5：2〔アル 5：12−14〕)。全人類は再び生まれなければならない。人は神から生まれなければならない（モサ 27：25)。アルマとモーサヤの息子たちは改心した（モサ 27：33−35)。ラモーナイ王の父が改宗した（アル 22：15−18)。神の力と言葉によって主を信じるようになった（アル 53：10)。悔い改めは心の変化をもたらす（ヒラ 15：7)。心を改めた者は皆，神の御霊(みたま)を与えられたことを，民に実際に示した(3ニフ 7:21)。レーマン人は改心したときにわたしを信じたので，火と聖霊によるバプテスマを受けた（3ニフ 9：20)。彼らは出て行き，悔い改めを宣(の)べ伝えなければならない。そして，多くの人が改宗する(教義 44：3−4)。

会堂　「ユダヤ人」参照

宗教的な目的で使われた集会所。新約の時代は，内部の調度は一般的に質素で，律法を書いた巻き物など神聖な記録を収める箱，机，礼拝者用の座席が備えられていた。

長老によって構成される各地域の評議会がそれぞれの会堂を管理した。彼らは会堂にだれを入れ，また会堂からだれを追放するかの決定も下した（ヨハ 9：22；12：42)。最も重要な役職は会堂司(かいどうづかさ)であった（マコ 5：22；ルカ 13：14)。会堂司(かいどうづかさ)は通常，律法学者であり，建物の管理や様々な行事の監督を行った。そして，会衆が様々な聖職者的務めを果たした（ルカ 4：20)。

パレスチナでもその他の地域でも，ユダヤ人が住んでいる町には必ず会堂があった。これはイエス・キリストの福音を伝える大きな助けとなった。教会の初期の宣教師たちは普通，会堂で話をすることができたからである(使徒 13：5，14；14：1；17：1，10；18:4)。これと同じことが『モルモン書』の中の宣教師（アル 16：13；21：4−5；32：1）や，この神権時代の初期の宣教師たちの間でも行われた（教義 66：7；68：1)。

回復　「福音の回復」参照

取り去られたり，失われたりした物や状態が元に戻ること。

霊と体は再び結合して完全な形になり（アル 11：43−44)。回復とは悪を悪に，義を義に再び返すことである(アル 41：10−15)。わたしたちは，十部族の回復と，地球が更新されて楽園の栄光を受けることを信じる（箇条 1：10〔教義 133：23−24〕)。

解放者　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは，すべての人を死の束縛から解放し，悔い改める人を罪のもたらす罰から救うことから，人類の解放者である。

主はわが岩，わが城，わたしを救う者（サ下 22：2〔詩篇 18：2；144：2〕)。あなたはわが助け，わが救主(すくいぬし)です（詩篇 40：17〔詩篇 70：5〕)。救う者がシオンからきて（ロマ 11：26)。聖徒た

ちは，神の御子を贖い主および解放者として受け入れた（教義 138：23）。

カイン　「アダム」「アベル」「殺人」「秘密結社」参照

アダムとエバの息子。弟のアベルを殺した（創世 4：1−16）。

主はカインの供え物を顧みられなかった（創世 4：3−7〔モセ 5：5−8, 18−26〕）。弟アベルを殺した（創世 4：8−14〔モセ 5：32−37〕）。主はカインに一つのしるしをつけられた（創世 4：15〔モセ 5：37−41〕）。アダムとエバは，彼が生まれる前にも多くの息子，娘をもうけていた（モセ 5：1−3, 16−17）。神よりもサタンを愛した（モセ 5：13, 18）。サタンと邪悪な誓いを立てた（モセ 5：29−31）。

カウドリ，オリバー

回復された教会の第二の長老。『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証した三人の証人の一人。ジョセフ・スミスが金版から『モルモン書』を翻訳していたときに，筆記者として働いた（ジ―歴史 1：66−68）。

『モルモン書』の翻訳が真実であるとの証を受けた（教義 6：17, 22−24）。バプテスマのヨハネによって聖任された（教義 13 章〔教義 27：8；ジ―歴史 1：68−73。71 節の付記を参照〕）。あなたがたは信仰を得て，自分の目でこれらのものを見た後，これらのものを見たことを証しなければならない（教義 17：3, 5）。わたしは，あなたが記してきたものが真実であることを，度々わたしの御霊によって示してきた（教義 18：2）。数々の啓示についての管理人となるように，選ばれ，聖任された（教義 70：3）。ジョセフ・スミスとともに神権の鍵を授けられた（教義 110 章）。

顔

人の顔には，その人の霊性や精神状態が表れることがよくある。

王の顔色は変り，その心は思い悩んで乱れ（ダニ 5：6）。その顔は，太陽のようであった（黙示 1：16）。あなたがたの顔に神の面影を受けているか（アル 5：14, 19）。アンモンは王の顔色が変わったのを見た（アル 18：12）。楽しげな心と表情をもって断食と祈りをする（教義 59：14−15）。その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた（教義 110：3）。

雅歌

『旧約聖書』の中の 1 書。預言者ジョセフ・スミスは，雅歌は霊感によって書かれたものではないと教えた。

確信；信頼　「信仰」「信じる」「信頼」参照

何かに対して，特に神とイエス・キリストに対して，より頼むこと。

主に寄り頼むは人にたよるよりも良い（詩篇 118：8）。主があなたの信頼する者であり（箴言 3：26）。キリストが現れる時に，確信を持つためである（1ヨハ 2：28）。邪悪なニーファイ人は子供たちの信頼を失った（ヤコ 2：35）。神の前においてあなたの自信は

増すであろう（教義 121：45）。

確認　「按手（あんしゅ）」参照

陰口　「悪口（あっこう）」参照

家族　「結婚」「子供」「父（現世の）」「母」参照

聖典で言われている家族とは，夫，妻，子供，また時にはその他の親族を含めて，同じ家に，あるいは一人の家長のもとに暮らす共同体を指す。家族という言葉は，一人の親と子供，また子供がいない夫婦，独り暮らしの独身者に対して用いることもある。

一般的な聖句：地のすべてのやからは，あなたによって祝福される（創世 12：3〔創世 28：14；アブ 2：11〕）。わたしはイスラエルの全部族の神となり（エレ 31：1）。アダムとエバは全地の家族をもたらした（2ニフ 2：20）。その栄光とは，とこしえに子孫が続くことである（教義 132：19）。わたしは彼に，永遠の世では永遠の命の冠を授けよう（教義 132：55）。親子の結び固めは，時満ちる神権時代の大いなる業の一部である（教義 138：48）。わたしは，彼らを祝福して言った。「生めよ，増えよ」（モセ 2：27–28）。人が独りでいるのは良くない（モセ 3：18）。アダムとエバはともに働いた（モセ 5：1）。

親の責任：アブラハムは子らと家族とに命じて主の道を守らせ（創世 18：17–19）。努めてこれをあなたの子らに教え（申命 6：7〔申命 11：19〕）。子を愛する者は，つとめてこれを懲らしめる（箴言 13：24〔箴言 23：13〕）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6）。あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい（伝道 9：9）。あなたの子らはみな主に教（おしえ）をうけ（イザ 54：13〔3ニフ 22：13〕）。主の薫陶と訓戒とによって，彼らを育てなさい（エペ 6：1–4〔エノ 1：1〕）。もしある人が，その親族を，ことに自分の家族をかえりみない場合には，その信仰を捨てたことになる（1テモ 5：8）。父は優しい親の情を込めて勧めた（1ニフ 8：37）。わたしたちはキリストのことを話し，どこに罪の赦（ゆる）しを求めればよいかを，わたしたちの子孫に知らせる（2ニフ 25：26）。レーマン人の夫と妻は子供たちを愛している（ヤコ 3：7）。互いに愛し合い，互いに仕え合うように教える（モサ 4：14–15）。あなたがたは血を流してでも自分たちの家族を守りなさい（アル 43：47）。あなたがたの妻子が祝福を受けるように，あなたがたの家族の中で祈りなさい（3ニフ 18：21）。両親は子供に福音を教えなければならない（教義 68：25）。自分の家族を扶養する義務を負っている（教義 75：28）。すべての子供たちはその親に扶養を求める権利がある（教義 83：4）。あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるように（教義 93：40）。自分自身の家を整えなければならない（教義 93：43–44，50）。神権者は偽りのない愛により，人々に影響を及ぼすべきである（教義 121：41）。アダムとエバは子供たちにすべてのことを知らせた（モセ 5：12）。

子供の責任：あなたの父と母を敬

え（出エ 20：12）。わが子よ，あなたは父の教訓を聞き（箴言 1：8〔箴言 13：1；23：22〕）。イエスは両親にお仕えになった（ルカ 2：51）。イエスは御父の御心を行われた（ヨハ 6：38〔3 ニフ 27：13〕）。主にあって両親に従いなさい（エペ 6：1〔コロ 3：20〕）。その子供たちが悔い改めるならば，あなたは憤りを解かなければならない（教義 98：45–48）。エバの忠実な娘たちもまことの生ける神を礼拝した（教義 138：39）。

永遠の家族：『教義と聖約』には，婚姻関係と家族の永遠性について述べられている。日の栄えの結婚と家族単位の存続によって，夫と妻は神々になることができるのである（教義 132：15–20）。

家族歴史　「系図」「死者の救い」参照

型

人がそれに従って何らかの結果を得られる手本となるもの。通常聖典では，型は生活の仕方の模範，あるいは何かを作るためのひながたとなるものを意味する。

主はイスラエル人に，モーセに示す型に従って幕屋を造るよう命じられた（出エ 25 章）。永遠のいのちを受ける者の模範となる（1テモ 1：16）。あなたがたが欺かれないために，わたしはすべてのことに関して規範を与えよう（教義 52：14）。

割礼　「アブラハムの聖約（契約）」参照

旧約の神権時代に，イスラエルの男子に与えられたアブラハムの聖約（契約）のしるし（創世 17：10–11，23–27；JS 創世 17：11）。割礼では男の幼児また成人の「前の皮」を切る。割礼を受けた者は数々の特権を受けるとともに，その聖約に伴う責任をも受け入れた。聖約のしるしとしての割礼は，キリストの働きをもって廃された（モロ 8：8；教義 74：3–7）。

ガデアントンの強盗団　「秘密結社」参照

『モルモン書』の中の強盗団。ガデアントンという邪悪なニーファイ人によって作られた。彼らの組織は秘密主義と悪魔的な誓いを基にしていた。

ガデアントンはニーファイ人の国の滅亡をもたらした（ヒラ 2：12–13）。悪魔はガデアントンに秘密の誓いの言葉と誓約を与えた（ヒラ 6：16–32）。秘密結社がヤレド人の国を滅亡させた（エテ 8：15–26）。

家庭　「家族」参照

家庭は，福音と家族の活動の中心となるべき場所である。

束縛なく家にいて，そのめとった妻を慰めなければならない（申命 24：5）。イエスは彼を家に帰された（マコ 8：26）。子供たちに自分の家で孝養を尽くすことを学ばせるべきである（1テモ 5：4）。慎み深く，純潔で，家事に努め（テト 2：5）。自分の家に帰り，わたしが述べたことを深く考えなさい（3ニフ 17：2–3）。わたしは，自分たちの妻子と家と家庭を守るために戦うように，彼らに勧めた（モル 2：23）。

自分自身の家を整えなければならない（教義 93：43−44，48−50）。

ガド（聖見者）　「聖文―失われた聖文」参照

旧約の預言者。ダビデの忠実な友であり，助言者であった（サ上 22：5；サ下 24：11−19）。彼が書いたダビデの事績の書は，失われた聖典の一つとなっている（歴上 29：29）。

ガド（ヤコブの息子）　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとジルパの息子（創世 30：10−11）。彼の子孫はイスラエルの 1 部族となった。

ガドの部族：ヤコブが息子ガドに与えた祝福については，創世 49：19 を参照。モーセがガドの部族に与えた祝福については，申命 33：20−21 を参照。これらの祝福によると，ガドの子孫は好戦的な民になるとある。彼らがカナンの地で与えられたのはヨルダン川東方の地で，水利に恵まれた，牧草地として良い土地を含んでいた。

カナン；カナン人

『旧約聖書』の中の人物。ハムの四男（創世 9：22；10：1，6）。ノアの孫。カナン人とは，カナンが最初に住んだ地にいた人，およびカナンの子孫を指す。パレスチナの地中海沿いの低地に住んでいた民もカナン人と呼ばれていた。ギリシャ人がフェニキヤ人と呼んでいた，ヨルダン川の西方の地域に住むイスラエル以外のすべての民を指して用いられたこともある。

ガブリエル　「天使」「ノア（族長）」「マリヤ（イエスの母）」参照

ダニエル（ダニ 8：16；9：21），ザカリヤ（ルカ 1：11−19；教義 27：7），マリヤ（ルカ 1：26−38），その他の人々（教義 128：21）に遣わされた天使。預言者ジョセフ・スミスは，ガブリエルは旧約の預言者ノアであると述べている。

ガマリエル　「パリサイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。著名なパリサイ人でユダヤの律法に通じ，それを人々に教えていた。使徒パウロは彼の下で学んだ（使徒 22：3）。ガマリエルはサンヒドリンで非常に影響力のある人物であった（使徒 5：34−40）。

神；神会　「イエス・キリスト」「主」「聖霊」「天の御父」参照

神会はそれぞれ独立した御三方，すなわち，永遠の父なる神，御子イエス・キリスト，聖霊によって構成される。わたしたちはそれぞれの御方を信じている（箇条 1：1）。末日の啓示は，御父と御子は触れることのできる骨肉の体を持っておられること，また聖霊は骨肉の体を持たない霊の御方であられることを教えている（教義 130：22−23）。この御三方は目的と教えにおいて完全に一致，調和し，一つであられる（ヨハ 17：21−23；2 ニフ 31：21；3 ニフ 11：27，36）。

父なる神：一般に，神という称号で呼ばれている御方は，御父，すなわち

エロヒムを指す。御父と呼ばれるのは，人間の霊の父親だからである（民数 16：22；27：16；マラ 2：10；マタ 6：9；エペ 4：6；ヘブ 12：9）。父なる神は宇宙の至高の統治者であられる。また全能（創世 18：14；アル 26：35；教義 19：1−3），全知（マタ 6：8；2 ニフ 2：24）の御方であり，御霊（みたま）を通して遍在される（詩篇 139：7−12；教義 88：7−13，41）。人類は，他のいかなる被造物とも異なり，神と特別な関係にある。人は男女を問わず，神の霊の子供である（詩篇 82：6；1 ヨハ 3：1−3；教義 20：17−18）。

父なる神が人に御姿を現し，語りかけられたことを示す記録は少ない。聖典には，父なる神がアダムとエバに語りかけられたこと（モセ 4：14−31），また幾度かイエス・キリストを紹介されたこと（マタ 3：17；17：5；ヨハ 12：28−29；3 ニフ 11：3−7）が記録されている。父なる神は，ステパノに（使徒 7：55−56），またジョセフ・スミスに（ジ―歴史 1：17），そして後にはジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人に（教義 76：20，23）御姿を現された。時として神は，神を愛して御前に自らを清める人に，その御姿を目にして神の実在を自ら知る特権をお与えになる（マタ 5：8；3 ニフ 12：8；教義 76：116−118；93：1）。

わが神，わが神（マコ 15：34）。この人たちは，いと高き神の僕（しもべ）たちで（使徒 16：17）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：28−29）。いと高き方に礼拝をささげる（教義 59：10−12）。エノクは神が造られた霊たちを見た（モセ 6：36）。聖なる人とは神の名である（モセ 6：57）。

子なる神：エホバとして知られている神は，御子イエス・キリストである（イザ 12：2；43：11；49：26；1 コリ 10：1−4；1 テモ 1：1；黙示 1：8；2 ニフ 22：2）。イエスは御父の指示の下に働きをなし，御父と完全に一致しておられる。全人類は，イエス・キリストの弟妹である。イエス・キリストはエロヒムの霊の子供の長兄だからである。イエス・キリストに対して，神という言葉を用いている聖句も幾つかある。例えば，「神は天と地とを創造された」（創世 1：1）という聖句があるが，これは実際には，父なる神の指示の下に，創造主として働かれたイエスを指している（ヨハ 1：1−3，10，14；ヘブ 1：1−2）。

主は御自身を「わたしは有る」と言われた（出エ 3：13−16）。ただわたしのみ主〔エホバ〕である。わたしのほかに救う者はいない（イザ 43：11〔イザ 45：23〕）。わたしは世の光である（ヨハ 8：12）。アブラハムの生れる前からわたしは，いるのである（ヨハ 8：58）。主は土の幕屋に宿り，人々の中で御業を行われる（モサ 3：5−10）。アビナダイは，キリストがどのような意味で御父であり御子であるのかを説明した（モサ 15：1−4〔エテ 3：14〕）。主がヤレドの兄弟に御姿を現された（エテ 3 章）。あなたがたの贖（あがな）い主，あなたがたの主，あなたがたの神であるキリストの言葉を聴きなさい（モロ 8：8）。エホバは生者と死者双方の永遠の裁き主である（モロ 10：34）。イエスがジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに御姿を現された（教義 76：

20，23)。主エホバがカートランド神殿に御姿を現された（教義 110：1−4)。エホバがアブラハムに語りかけられた(アブ 1：16−19)。イエスがジョセフ・スミスに御姿を現された(ジ―歴史 1：17)。

聖霊なる神：聖霊も神であり，聖なる御霊(みたま)，御霊(みたま)，神の御霊(みたま)など，ほかにも様々な類似した呼び名や称号で呼ばれている。人は聖霊の助けによって，父なる神の御心を知り，またイエスがキリストであることも知ることができる（1 コリ 12：3)。

言うべきことは，聖霊が教えてくださる（ルカ 12：12)。聖霊は助け主とも呼ばれる（ヨハ 14：26〔ヨハ 16：7−15〕)。イエスは使徒たちに，聖霊によって命じられた（使徒 1：2)。聖霊は神とキリストについて証(あかし)される（使徒 5：29−32〔1 コ リ 12：3〕)。聖霊もまた，わたしたちにあかしをして(ヘブ 10：10−17)。聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう（モロ 10：5)。聖霊は啓示の霊である（教義 8：2−3〔教義 68：4〕)。

神から生まれる　「再び生まれる」参照

神の王国；天の王国　「イエス・キリストの教会」「日の栄え」参照

地上における神の王国は，末日聖徒イエス・キリスト教会である（教義 65 章)。教会の目的は，教会員に日の栄えの王国すなわち天の王国で永遠に住むための備えをさせることである。しかし，聖典の中では，教会は地上における天の王国であるという意味で，教会を天の王国と呼ぶことがある。

末日聖徒イエス・キリスト教会は地上における神の王国であるが，この王国という表現は，現在は宗務の範囲にとどまっている。しかし福千年には，政治的にも宗務的にも，神の王国となるのである。

主はとこしえに王でいらせられる(詩篇 10：16〔詩篇 11：4〕)。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく（ダニ 2：44〔教義 138：44〕)。悔い改めよ，天国は近づいた（マタ 3：2〔マタ 4：17〕)。御国がきますように。みこころが地にも行われますように（マタ 6：10)。まず神の国を求めなさい(マタ 6：33〔3 ニフ 13：33〕)。わたしは，あなたに天国のかぎを授けよう（マタ 16：19)。さあ，あなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい（マタ 25：34)。わたしの父の国であなたがたと共に，新しく飲む（マタ 26：26−29)。アブラハム，イサク，ヤコブやすべての預言者たちが，神の国にはいっている（ルカ 13：28)。正しくない者が神の国をつぐことはない（1 コリ 6：9)。肉と血とは神の国を継ぐことができない（1 コリ 15：50)。富を求める前に神の王国を求めなさい(ヤコ 2：18)。清くない者は決して天の王国を受け継ぐことができない（アル 11：37)。父の王国で彼らとともに安息を得られるように（教義 15：6)。あなたがたに王国，言い換えれば，教会の鍵(かぎ)が授けられた（教義 42：69〔教義 65：2〕)。神の王国が進み行きます

ように。それによって，天の王国が来て（教義 65：5−6）。この王国の鍵があなたから取り去られることは決してない（教義 90：3）。幼子のようにあなたを受け入れる者は，わたしの王国を受ける（教義 99：3）。わたしの教会は，終わりの時にこのように，すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない（教義 115：4）。天がわたしたちに開かれ，わたしは神の日の栄えの王国とその栄光を見た（教義 137：1−4）。

神の奥義

神の奥義とは，啓示によってのみ知ることのできる霊的な真理である。神は福音に従順な人に奥義を示される。神の奥義の中には，まだ明らかにされていないものもある。

あなたがたには，天国の奥義を知ることが許されている（マタ 13：11）。あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても，もし愛がなければ，わたしは無に等しい（1コリ 13:2）。ニーファイは神の奥義を深く知った（1ニフ 1：1）。神の奥義を知ることは多くの人に許されている（アル 12：9）。悔い改めて信仰を働かせ，善い行いをし，絶えず祈り続ける人には，神の奥義を知ることが許され（アル 26：22）。これらの奥義は，まだ全部はわたしに知らされていない（アル 37：11）。神御自身のほかだれも知らない隠されている奥義がたくさんある（アル 40：3）。神性の奥義は何と深いことか（教義 19：10）。あなたは求めれば，数々の奥義を知ることができる（教義 42：61，65〔1コリ 2：7，11−14〕）。わたしの戒めを守る者に，わたしは，わたしの王国の奥義を与えよう（教義 63：23）。わたしは彼らにすべての奥義を明らかにし（教義 76：7）。大神権は王国の奥義の鍵を持つ（教義 84：19）。主が来るその日に，主はすべてのことを明らかにする（教義 101：32−33）。メルキゼデク神権は天の王国の奥義を受ける特権を持つ（教義 107：19）。

神の御子　「イエス・キリスト」「神；神会」参照

神の国　「神の王国；天の王国」参照

神の子　「神の息子，娘」「人」参照

神の小羊　「イエス・キリスト」「贖罪」「過越」参照

救い主に対する呼び名の一つ。イエスが人類のための犠牲のささげ物であることを示している。

ほふり場にひかれて行く小羊のように（イザ 53：7〔モサ 14：7〕）。見よ，世の罪を取り除く神の小羊（ヨハ 1：29〔アル 7：14〕）。あがない出されたのは，きずも，しみもない小羊のようなキリストの尊い血によった（1ペテ 1：18−20）。ほふられた小羊こそはふさわしい（黙示 5：12）。わたしたちは，小羊の血によってサタンに打ち勝つ（黙示 12：11）。この人々の衣は，小羊を信じる信仰のために小羊の血によって白くされた（1ニフ 12：11）。神の小羊が永遠の御父の御子であって，世の救い主であられる（1ニフ 13：40〔1ニフ 11：21〕）。小羊の

血によって清められるように，イエスの名によって熱烈に御父に叫び求めなさい（モル 9：6〔黙示 7：14；アル 34：36〕）。小羊は世の初めからほふられている（モセ 7：47）。

神の息子，娘　「生まれる；産む；もうける」「キリストの子」「贖罪（しょくざい）」「人」「再び生まれる」参照

この言葉は，聖典の中では二つの意味で用いられている。一つは，人は皆文字どおり天の御父の霊の子供であるという意味であり，もう一つは，キリストの贖罪（しょくざい）を通して再び生まれた人を神の息子，娘という場合である。

御父の霊の子：あなたがたは神だ，あなたがたは皆いと高き者の子だ（詩篇 82：6）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：29）。たましいの父に服従し（ヘブ 12：9）。わたしは神の子だ（モセ 1：13）。

贖罪（しょくざい）を通して再び生まれた子供：彼を受けいれた者には，彼は神の子となる力を与えた（ヨハ 1：12〔ロマ 8：14；3 ニフ 9：17；教義 11：30〕）。わたしたちは今や神の子である（1 ヨハ 3：1–2）。あなたがたはキリストの子と呼ばれ，キリストの息子および娘と呼ばれる（モサ 5：7）。人は神から生まれ，神の息子や娘にならなければならない（モサ 27：25）。これらの者はわたしの息子となり，娘となる（エテ 3：14）。あなたがたは必ずキリストの子となる（モロ 7：19）。わたしの福音を受け入れる者は皆，息子であり，娘だからである（教義 25：1）。彼らは神々，すなわち神の子である（教義 76：58）。このようにして，すべての者はわたしの子となることができる（モセ 6：68）。多くの者は信じて神の子となり（モセ 7：1）。

カヤパ　「アンナス」「サドカイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。アンナスの義理の息子で大祭司。カヤパはイエスとその弟子たちに対立する立場を取り，そのために積極的な働きをした（マタ 26：3–4；ヨハ 11：47–51；18：13–14）。

からし種

からしの木の種。種は非常に小さいが，それから生長する木の丈は非常に高くなる。イエスは天の王国をからし種にたとえられた（マタ 13：31）。

からし種一粒ほどの信仰があるなら（マタ 17：20）。

体　「死（肉体の）」「死すべき状態」「人（霊を持つ存在としての）」「復活」参照

神の形に創造された死すべき骨肉の組織物。霊と結びつき，生ける人間を作り上げている。復活の時に，男女を問わず人の肉体は，再び霊と永遠に結合する。時として聖文は，結合した肉体と霊を命あるものと述べている（創世 2：7；教義 88：15；モセ 3：7，9，19；アブ 5：7）。

主なる神は土のちりで人を造り（創世 2：7〔モセ 3：7〕）。さわって見なさい。霊には肉や骨はない（ルカ 24：

39)。自分のからだを打ちたたいて服従させるのである（1コリ 9：27)。肉のからだがあるのだから，霊のからだもあるわけである（1コリ 15：44)。霊魂のないからだは死んだものである(新ヤコ 2：26)。死すべき体は不死不滅の体によみがえる（アル 11：43−45)。体のあらゆる部分が体そのものに回復される（アル 41：2)。イエスは復活した御自分の体をニーファイ人に示された（3ニフ 10：18−19；11：13−15)。御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である（教義 130：22)。神は彼らを，御自分の体の形に，男と女に創造された（モセ 6：9〔創世 9：6〕)。

ガラテヤ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。もともとは使徒パウロがガラテヤ一帯の聖徒に書き送った手紙であった。この手紙の主題は，真の自由はイエス・キリストの福音に従って生活することによってのみ得られるというものである。もし聖徒たちがモーセの律法の遵守を主張するユダヤ主義的キリスト教徒の教えを取り入れるならば，すでにキリストの中に見いだしていた自由を狭めるか，あるいは失ってしまうことになる。パウロはこの手紙の中で，使徒としての自分の立場を明確にし，信仰による義の教えを説き，霊的な教えの価値を断言している。

パウロは第 1−2 章で，ガラテヤ人の間に背教が起こっているという知らせに対して遺憾の意を表し，使徒の中における自分の立場を明らかにしている。第 3−4 章では，信仰と行いについての教義を論じている。第 5−6 章には，信仰についての教義から実際にどのような成果を得られるかが述べられている。

刈り入れ

この言葉は聖典の中で，地上における神の王国である教会に人々を導くこと，あるいはイエス・キリストの再臨などの裁きの時を指して，象徴的に用いられることがある。

刈入れの時は過ぎ，夏もはや終った，しかしわれわれはまだ救われない（エレ 8 ： 20〔教義 56：16〕)。収穫は多いが，働き人が少ない（マタ 9：37)。収穫とは世の終りのことである（マタ 13：39)。人は自分のまいたものを，刈り取ることになる（ガラ 6 ： 7−9〔教義 6：33〕)。畑はすでに白くなり刈り入れを待っている（教義 4：4)。刈り入れが終わり，あなたがたが救われない（教義 45：2)。刈り入れの時は来ており，わたしの言葉は必ず成就する(教義 101：64)。

ガリラヤ

ヨルダン川とガリラヤの海の西に当たるイスラエル最北の地。ガリラヤは，南北約 95㎞，東西約 50㎞の広がりを持つ地域である。古代のガリラヤには，イスラエルで最も肥沃（ひよく）な土地と繁華な町が含まれていた。また，ダマスコ，エジプト，イスラエル東部へ続く要路がガリラヤを通過していた。恵まれた気候と肥沃（ひよく）な土壌で，オリー

ブ，小麦，大麦，ぶどうを多く産した。ガリラヤの海での漁獲は多大な輸出をもたらし，人々はそれから多くの富を得た。救い主はその生涯の多くをガリラヤで過ごされた。

ガリラヤに大いなる光が現れる（イザ 9：1−3〔2 ニフ 19：1−3〕）。イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて，教え，宣べ伝え，わずらいをおいやしになった（マタ 4:23）。イエスは復活後，ガリラヤで人々に御姿を現された（マコ 14：28〔ヨハ 21：1−14〕）。イエスの名声はガリラヤの地方全体に広まった（ルカ 4：14）。イエスは最初のしるしをガリラヤのカナで行われた（ヨハ 2：11）。

ガリラヤの海：ガリラヤの海は北部イスラエルに位置している。『旧約聖書』ではキンネレテの海，『新約聖書』ではゲネサレ湖，テベリヤの海とも呼ばれている。イエスは幾度かここで教えを説かれた（マタ 13：2）。この海は西洋梨の形をしており，南北 20 ㎞，東西の幅は最も広い所で 12㎞ある。海面は地中海よりも 200 m余り低く，そのために周辺の気温が非常に高くなることがよくある。丘陵部から吹き下りる冷気が湖面上の暖気とぶつかり，突然の嵐となることも多い（ルカ 8：22−24）。

カルバリ　「ゴルゴタ」参照

カレブ

エジプトを出てから 2 年目に，カナンの地を探るためにモーセによって遣わされた者の一人。カレブとヨシュアだけがカナンの地について真実の報告をした（民数 13：6，30；14：6−38）。エジプトを出た者のうち，荒れ野での 40 年を生き延びて（民数 26：65；32：12；申命 1：36）カナンに入ったのはこの二人だけであった（ヨシ 14：6−14；15：13−19）。

軽んじる　「憎しみ；憎む」参照

姦淫　「純潔」「性的不道徳」「同性愛」「肉欲」「不貞」参照

男女の不法な性の交わり。姦淫という言葉は，一般には既婚者が配偶者以外の者と性の交わりを持つことを指すが，聖典では，未婚者についてもこの言葉が用いられる。

姦淫という言葉は時として，一つの国家や民全体が主の道から背き去ることの象徴として用いられる（民数 25：1−3；エレ 3：6−10；エゼ 16：15−59；ホセ 4 章）。

ヨセフはこの大きな悪を行わず，神に対して罪を犯さなかった（創世 39：7−12）。あなたは姦淫してはならない（出エ 20：14）。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫をしたのである（マタ 5：28）。不品行な者や姦淫をする者は，神の王国を受け継ぐことはない（1コリ 6：9−10）。神は，不品行な者や姦淫をする者をさばかれる（ヘブ 13：4）。姦淫の罪は，罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて，どのような罪よりも非常に忌まわしい行為である（アル 39：3−5）。姦淫をして悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：23−26）。心の中で姦淫をする

ならば，彼らは御霊（みたま）を持たなくなる（教義 63：14−16）。

勧告；勧め　「預言者」参照

主や聖任を受けた指導者から与えられる助言，警告，忠告，指示。

わたしはあなたに助言する（出エ 18：19）。あなたはさとしをもってわたしを導き（詩篇 73：24）。勧告がなければ民は倒れる（KJ 箴言 11：14）。パリサイ人と律法学者たちとは，神のみこころを無にした（ルカ 7：30）。神の勧告に聞き従うならば，学識のあるのはよいことである（2ニフ 9：29）。あなたがたを聖任した者の勧告を聴きなさい（教義 78：2）。わたしが任命した者から助言を受け（教義 108：1）。彼はわたしが定めた助言の代わりに，自分の助言を確立しようと切望している（教義 124：84）。わたしの僕（しもべ）ジョセフの助言に聞き従い（教義 124：89）。わたしの勧告を求めなければ，彼は何の力も持たず（教義 136：19）。

勧告する；勧める

この言葉は聖典で用いられているように，助言や指示を与えることを意味している。

あなたに勧める。わたしから火で精錬された金を買いなさい（黙示 3：18）。主に助言しようとしないで（ヤコ 4：10）。神は御自分が造られたすべてのものに知恵をもって助言を与えられる（アル 37：12）。あなたがたの罪はわたしのもとに上ってきている。あなたがたが自分の方法で勧めをしようとするからである（教義 56：14）。

感謝　「祝福」「礼拝」参照

神から受けた祝福をありがたいと思うこと。神は人が感謝を表すことを喜ばれる。真の礼拝には神への感謝が含まれる。わたしたちはすべてのことについて主に感謝をしなければならない。

主に感謝するのはよいことです（詩篇 92：1）。感謝をもって，み前に行き（詩篇 95：1−2）。主に感謝し，そのみ名をほめまつれ（詩篇 100：1−5）。絶えず感謝している（エペ 1：15−16）。感謝していなさい（コロ 3：15）。さんび，栄光，感謝，ほまれが，われらの神にあるように（黙示 7：12）。あなたがたはどれほど天の王に感謝すべきであろうか（モサ 2：19−21）。日々感謝しながら生活するように（アル 34：38）。朝起きるときに，神への感謝で心を満たしなさい（アル 37：37）。祈りと感謝をもってすべてのことを行い（教義 46：7）。あなたがたは神に感謝をしなければならない（教義 46：32）。感謝してこれらのことを行うならば（教義 59：15−21）。感謝の心をもって主の手からこの祝福を受ける（教義 62：7）。すべてのことを感謝して受け入れる者は，栄光を与えられるであろう（教義 78：19）。すべてのことについて感謝しなさい（教義 98：1〔1 テサ 5：18〕）。賛美と感謝の祈りをもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

感じる　「聖霊」参照

御霊（みたま）の促しを自覚すること。

あなたがたは心が鈍っていたので，その言葉を感じることができませんでした（1ニフ 17：45）。種がふくらみつつあるのを感じると，これは良い種であると思う（アル 32：28）。あなたはそれが正しいと感じるであろう（教義 9：8）。主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が，あなたの力を感じ（教義 109：13）。

完全

完成されて欠点がなく，余すところなく成長し，義においても非の打ちどころのないこと。また完全とは，罪や悪のないことも意味する。すべての面で完全であられたのはキリストだけである。キリストに心から従う人々は，キリストの恵みと贖罪（しょくざい）によって完全になることができる。

主に対して，心は全（まった）く真実でなければならない（列上 8：61）。あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい（マタ 5：48〔3ニフ 12：48〕）。言葉の上であやまちのない人があれば，そういう人は，完全な人である（新ヤコ 3：2）。信仰とは物事を完全に知ることではない（アル 32：21，26）。神は御自分が完全な神であり続けるために，贖（あがな）いをされる（アル 42：15）。モロナイは完全な理解力を備えた人であり（アル 48：11−13，17−18）。善悪の違いは，完全に理解してわきまえることができる。すべての人にキリストの御霊（みたま）が与えられているからである（モロ 7：15−17）。キリストのもとに来て，キリストによって完全になりなさい（モロ 10：32）。完全になるまで忍耐し続けなさい（教義 67：13）。これらは，イエスを通じて完全な者とされた正しい人々である（教義 76：69）。教会の職は聖徒たちの完成のためにある（教義 124：143〔エペ 4：11−13〕）。死者なしには，生者も完全な者とされることはない（教義 128：15，18）。ノアは正しい人であり，その時代の人々の中で完全であった（モセ 8：27）。

冠　「永遠の命」参照

統治者が頭にかぶった環状の装身具。冠は日の栄えの力と主権と神の位にあることの象徴ともされる。神の戒めをすべて守って最後まで堪え忍ぶ者は，永遠の命の冠を受ける（教義 20：14；モセ 7：56；ジ―マタ 1：1 参照）。

義の冠がわたしを待っている（2テモ 4：8）。しぼむことのない栄光の冠を受けるであろう（1ペテ 5：4）。主にあって死んだ者は義の冠を受ける（教義 29：13）。彼らは父の住まいで冠を受けるであろう（教義 59：2）。あなたがたが備えられた冠を受け（教義 78：15）。わたしの右手における栄光の冠をあなたがたに約束した（教義 104：7）。

管理人；管理人の職　「召し；神の召し」参照

託された仕事や財産に対して責任を負う人。管理人に託されたものを管理人の職という。地上のものはすべて主のものであり，わたしたちは主の管理

人である。わたしたちは主に報告をする責任があるが，管理人の職についての報告は，神から権能を受けている代表者に対して行うことができる。わたしたちは主や主より権能を与えられた僕から奉仕の召しを受けるが，その管理人の職には，霊的なことと物質的なことの両方が含まれる（教義 29：34）。

わずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう（マタ 25：14−23）。多く与えられた者からは多く求められ（ルカ 12:48〔教義 82:3〕）。イエスは不正な家令のたとえを話された（ルカ 16：1−8）。だれでも忠実で，正しく，賢い管理人であると認められる者は，主の喜びに入り（教義 51：19）。人は皆，管理人の職について報告しなければならない（教義 72：3−5）。忠実で賢い管理人は，すべてのものを受け継ぐ（教義 78：22）。この世のもろもろの祝福に対する管理人としての責任をすべての人に取らせる（教義 104:11−17〔教義 42:32〕）。努めて，賢い管理人となるようにしなければならない（教義 136：27）。

管理ビショップ

中央幹部の中に数えられる役職の一つ。管理ビショップは教会の物質面での福祉に対して全般的な責任を持つ（教義 107：68）。管理ビショップとその顧問はともに中央幹部であり，教会のアロン神権を管理する（教義 68：16−17；107：76，87−88）。

エドワード・パートリッジがビショップに聖任された（教義 41：9）。ビショップは大管長会によって召され，任命されなければならない（教義 68：14−15）。アロンの直系の子孫であり長子である者は，大管長会から召され任命された場合，ビショップの職に就く権利を持つ（教義 68：16，18−20）。大管長会の前でのみ審理を受けることができる（教義 68:22−24〔教義 107：82〕）。

義　「歩む（神とともに）」「高潔」「不義」「ふさわしさ」参照

正しく，聖く，徳高く，高潔であること。神の戒めに従って行動すること。罪を避けること。

主は正しい者を祝福し（詩篇 5：12）。主の目は正しい人をかえりみ（詩篇 34：15，17〔1 ペテ 3：12〕）。正しい者が権力を得れば民は喜び（箴言 29：2〔教義 98：9−10〕）。義に飢えかわいている人たちは，さいわいである（マタ 5：6〔3 ニフ 12：6〕）。まず神の国と神の義とを求めなさい（マタ 6：33）。正しい者は永遠の生命に入るであろう（マタ 25：46）。義人の祈は，大いに力があり（新ヤコ 5：16）。義にかなった者は神から恵みを受けます（1ニフ 17：35）。神は義人を守られる。したがって，義人は恐れるには及ばない（1ニフ 22：17，22）。聖者の民の義のために，サタンはまったく力を持たず（1ニフ 22：26）。もし義がなければ，幸福はない（2ニフ 2：13）。義人は神の王国を受け継ぐ（2ニフ 9：18）。義人は真理の言葉を恐れない（2ニフ 9：40）。人は義の状態に変わらなければならない（モサ 27：25−26）。義人の名は命の書に書き記

される（アル 5：58）。あなたがたは，罪悪を行いながら幸福を求めてきた。それは義の本質に反することである（ヒラ 13：38）。義人の歌はわたしへの祈りである（教義 25：12）。立って，正義の胸当てを着け（教義 27：16〔エペ 6:14〕）。義人にとって死は甘い（教義 42：46）。義人はすべての国の中から集められ（教義 45：71）。人は自由意志によって，義にかなう多くのことを成し遂げなければならない（教義 58：27）。義の業を行う者はその報いを受ける，すなわち，この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける（教義 59：23）。再臨の時に，義人と悪人の完全な分離がある（教義 63：54）。天の力は義の原則に従ってしか制御できない（教義 121：36）。義人の間には平安があった（教義 138：22）。シオンの民は義のうちに住んだ（モセ 7：18）。アブラハムは義に従う者であった（アブ 1：2）。

聞き従う；聴く　「従順；従う」「耳」参照

主の声や教えを聞き，それに従うこと。

主はひとりの預言者を起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない（申命 18：15）。聞くことは雄羊の脂肪にまさる（サ上 15：20−23）。われわれはしもべなる預言者たちが告げた言葉に聞き従いませんでした（ダニ 9：6）。預言者たちの言葉に聞き従う義人は，滅びを受けない（2ニフ 26：8）。もしあなたがたがその良い羊飼いの声を聴こうとしないならば，あなたがたはその良い羊飼いの羊ではない（アル 5：38〔ヒラ 7：18〕）。聴きなさい，おお，わたしの教会の人々よ（教義 1：1）。御霊（みたま）の声を聴くすべての人は，神のもとに来る（教義 84：46−47）。彼らは主の声に聞き従うのが遅かった。それゆえ，主なる神は，彼らの祈りを聴くのを遅くする（教義 101：7−9）。戒めに聞き従わない者は懲らしめを受ける（教義 103：4〔モセ 4：4〕）。

儀式　「系図」「神殿；主の宮」「救い」「結び固め」参照

神聖な儀礼や祭式。儀式は，霊的な意味を持つ所作を通して執行される。

教会の儀式には，病人への癒（いや）しの祝福（新ヤコ 5：14−15），聖餐（せいさん）の祝福（教義 20：77，79），水に沈めるバプテスマ（マタ 3：16；教義 20：72−74），幼児の祝福（教義 20：70），聖霊の授与（教義 20：68；33：15），神権の授与（教義 84：6−16；107：41−52），神殿の儀式（教義 124：39），新しくかつ永遠の聖約による結婚（教義 132：19−20）が含まれる。

民は神の儀式を厳密に守った（アル 30：3）。キリストの贖罪（しょくざい）により，全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る（箇条 1：3）。

身代わりの儀式：生者が死者の身代わりとして行う儀式。これらの儀式は，死者がその儀式を受け入れ，それに伴う聖約を守り，約束の聖なる御霊（みたま）によって結び固められたときにのみ効力を生ずる。今日，このような身代わりの儀式は神殿内で執行されている。

もし死者が全くよみがえらないとすれば，なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか（1コリ 15：29）。死者のためのバプテスマは神殿で執行される（教義 124：29−36）。霊界の霊たちは，罪の赦しのための身代わりのバプテスマについて教えを受けた（教義 138：29−34）。

キシクメン　「ガデアントンの強盗団」参照

『モルモン書』の中の人物。後にガデアントンの強盗として知られた邪悪なグループの指導者（ヒラ 1：9−12；2 章）。

犠牲　「イエス・キリスト」「打ち砕かれた心」「贖罪」「聖餐」「血」参照

古代において，犠牲は何かの物あるいは人を聖なるものとする手段であった。今は，主と主の王国のために，この世的なものを捨てたり，甘んじてそれらを失うままにしたりすることをいうようになった。主の教会の会員は，主のためにすべてのものを進んで犠牲にしなければならない。ジョセフ・スミスは次のように教えている。「すべてのものを犠牲にすることを求めない宗教は，命と救いに至るに必要な信仰を生み出すほどの，十分な力を決して持つことはない。」永遠という観点に立てば，犠牲によって得られる祝福は，そのためにささげたどのようなものよりも偉大である。

アダムとエバがエデンの園を追われた後，主は二人に犠牲の律法を授けられた。この律法には，群れの初子をささげることが含まれていた。この犠牲は神の独り子によってささげられる犠牲を象徴していた（モセ 5：4−8）。この犠牲はイエス・キリストが亡くなるまで続き，その死によって福音の儀式として動物を犠牲にすることは終わりを告げた（アル 34：13−14）。今日の教会では，教会員は，イエス・キリストの犠牲を記念してパンと水の聖餐を受ける。また今日のキリストの教会の会員は，打ち砕かれた心と悔いる霊をささげるように求められている（3 ニフ 9:19−22）。つまり，へりくだって，悔い改め，進んで神の戒めに従うように求められているのである。

アブラハムはその子イサクを縛って祭壇の上に載せた（創世 22：1−18〔ヤコ 4：5〕）。あなたは燔祭をささげなければならない（出エ 20：24）。主に犠牲としてささげる動物は傷のないものでなければならない（申命 15：19−21）。従うことは犠牲にまさり（サ上 15：22）。愛するということは，すべての燔祭や犠牲よりも，はるかに大事なことです（マコ 12：32−33）。わたしたちはキリストの犠牲を通して聖められる（ヘブ 10：10−14）。メシヤは，罪に対する犠牲として御自身をささげられる（2ニフ 2：6−7）。この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので，これは無限にして永遠の犠牲である（アル 34：8−14）。燔祭は取りやめなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：19−20〔詩篇 51：16−17；教義 59：8〕）。今日は犠牲の日であり（教義 64：23〔教義 97：12〕）。犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は，わたしに受け

入れられる（教義 97：8）。ジョセフ・Ｆ・スミスは，救い主の犠牲のひながたとして犠牲をささげた正しい者の霊を見た（教義 138：13）。神の御子の十字架上での犠牲によって贖いが行われた（教義 138：35）。

奇跡　「しるし」「信仰」参照

神の力によって起こる驚くべき出来事。奇跡はイエス・キリストの業の中の大切な要素である。奇跡には，癒しや死者の蘇生，復活などが含まれる。奇跡はイエス・キリストの福音の一部である。奇跡が現れるためには，信仰が必要である（マコ 6：5−6；モル 9：10−20；エテ 12：12）。

パロがあなたがたに，『不思議をおこなって証拠を示せ』と言う時（出エ 7：9）。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら，すぐそのあとで，わたしをそしることはできない（マコ 9：39）。カナはイエスが最初のしるしを行われた場所である（ヨハ 2：11）。わたしは神である。奇跡の神である（2ニフ 27：23）。数々の奇跡を行われた神の力（アル 23：6）。イエスは，アメリカ大陸の人々の深い信仰のゆえに，彼らに大きな奇跡を示された（3ニフ 19：35）。神は奇跡の神であることをやめてはおられない（モル 9：15）。わたしがあなたがたに命じないかぎり，奇跡を求めてはならない（教義 24：13−14）。ある人には，奇跡の働きが与えられる（教義 46：21〔モロ 10：12〕）。

偽善売教

利益や世の誉れを得るために，説教をしたり，世の光であると自称したりすること。このような人は，シオンの幸いとなることを求めようとはしない（2 ニフ 26：29）。

神の羊の群れを牧しなさい。恥ずべき利得のためではなく（1ペテ 5：2）。利を得るために設けられるすべての教会は，地に引き倒されなければならない（1ニフ 22：23〔モル 8：32−41〕）。人々は，偽善売教と罪悪のために，キリストを十字架につける（2ニフ 10：5）。民の中で偽善売教が行われれば，民は完全に滅びてしまうであろう（アル 1：12）。異邦人はあらゆる偽善売教にふける（3ニフ 16：10）。

ギデオン（旧約聖書）

イスラエルをミデアン人から救い出した指導者（士師 6：11−40；7−8 章）。

ギデオン（モルモン書）

忠実なニーファイ人の指導者。

屈強な男で，ノア王を敵としていた（モサ 19：4−8）。リムハイ王に助言した（モサ 20：17−22）。レーマン人の束縛から逃れるための計画を提案した（モサ 22：3−9）。ニーホルに殺された（アル 1：8−10）。

義認；義とされる　「聖め」「贖罪」参照

罪に対する罰を容赦され，罪がないと認められること。人は救い主を信じる信仰を通して，救い主の恵みにより

義とされる。この信仰は，悔い改めと，福音の律法と儀式に対する従順とによって示される。人はイエス・キリストの贖罪によって，悔い改めて義と認められ，罰を免れる。ほかに，罰を免れる道はない。

イスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる（イザ 45：25）。律法を聞く者が，神の前に義なるものではなく，律法を行う者が，義とされる（ロマ 2：13）。人はキリストの血によって義とされる（ロマ 5：1–2，9）。あなたがたは，主イエスの名によって，義とされたのである（1コリ 6：11）。わたしたちは，キリストの恵みによって義とされる（テト 3：7）。わたしたちの父祖アブラハムは，行いによって義とされたのではなかったか（新ヤコ 2：21）。人が義とされるのは，行いによるのであって，信仰だけによるのではない（新ヤコ 2：14–26）。律法によって義とされる者はだれもいない（2ニフ 2：5）。わたしの義にかなった僕は多くの者を義とするが，それは，彼が彼らの罪悪を身に負うからである（モサ 14：11〔イザ 53：11〕）。あなたがたは，自分の衣はキリストの血によって清められていると言えるであろうか（アル 5：27）。イエス・キリストの恵みによる義認は，正しく，かつ真実である（教義 20：30–31〔教義 88:39〕）。御霊によって義とされ（モセ 6：60）。

希望　「信仰」参照

約束された義の祝福を固い確信をもって待ち望むこと。聖典では，イエス・キリストを信じる信仰により永遠の命を待ち望むこととして，この言葉がしばしば用いられている。

主を頼みとする人はさいわいである（エレ 17：7）。聖書の与える忍耐と慰めとによって，望みをいだかせる（ロマ 15：4）。わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ（1ペテ 1：3）。この望みをいだいている者は皆，自らをきよくする（1ヨハ 3:2–3）。完全な希望の輝きを持ち，力強く進まなければならない（2ニフ 31：20）。あなたがたは信仰と希望，慈愛を必ず持つようにしてほしい（アル 7：24〔1コリ 13：13；モロ 10：20〕）。永遠の命を得る希望を抱き（アル 13：27–29）。もし信仰があれば，あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである（アル 32:21〔ヘブ 11:1〕）。望みは信仰から生じ，人々にとって錨となる（エテ 12：4〔ヘブ 6：17–19〕）。人は希望を持たなければなりません。さもなければ，受け継ぎを得ることができません（エテ 12：32）。モルモンは信仰と希望と慈愛について述べた（モロ 7：1）。あなたがたは，キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命によみがえることを望まなければならない（モロ 7：40–43）。聖霊は希望を人の心に満たす（モロ 8：26〔ロマ 15：13〕）。栄光ある復活の望みを確固として持って死すべき世を去った（教義 138：14）。

義務　「従順；従う」参照

聖典の中ではしばしば，主や主の僕から与えられる仕事，割り当て，責任などを意味する言葉として用いられている。

神の命令を守れ。これはすべての人の本分である（伝道 12：13）。主のあなたに求められることは，ただ公義をおこない（ミカ 6：8）。人間に従うよりは，神に従うべきである（使徒 5：29）。彼らは，自分たちの義務を思い出すように促すひどい艱難（かんなん）に悩まされた（モサ 1：17）。長老と祭司，教師，執事の義務が述べられる（教義 20：38−67）。神権者は家庭におけるすべての義務を果たすようにしなければならない（教義 20：47，51）。バプテスマを受けた後の会員の義務が述べられる（教義 20：68−69）。彼らの義務とわたしがその手に求めることに関してもっと十分に知るためである（教義 105：10）。人は皆，自分の義務を学び（教義 107：99−100）。

逆境　「懲らしめ」「堪え忍ぶ」「迫害」「誘惑」参照

人は試練，困苦，悲しみなどの逆境を通して多くの経験をし，そのことによって主に心を向け，霊的成長と永遠の進歩を遂げる。

神御自身があなたがたをすべての悩みと苦しみの中から救われる（サ上 10：19）。彼らはその悩みのうちに主に呼ばわった（詩篇 107：6，13，19，28）。主はあなたがたに悩みのパンと苦しみの水を与えられても，あなたの師は再び隠れることはなく（イザ 30：10−21）。すべての事物には反対のものがなければならない（2ニフ 2：11）。苦いことを経験しなければ，甘いことを知ることができない（教義 29：39）。あなたの逆境とあなたの苦難は，つかの間にすぎない（教義 121：7−8）。これらのことはすべて，あなたに経験を与え，あなたの益となるであろう（教義 122：5−8）。彼らは善を尊ぶことを知るために，苦さを味わう（モセ 6：55）。

旧約聖書　「五書」「聖書」「聖文」参照

聖なる御霊（みたま）の力を受けて働き，幾世紀にもわたってキリストとその来るべき務めについて証（あかし）した古代の預言者たちの記録。これには，アブラハムから始まる，彼とその子孫の歴史記録，および主がアブラハムやその子孫と交わされた聖約，すなわち契約も含まれている。

『旧約聖書』の最初の 5 書，すなわち創世記，出エジプト記，レビ記，民数記，申命記は，モーセによって書かれた。創世記は，地球や人類，言語，民族の起源，またイスラエルの家の始まりについて述べている。

歴史書は，イスラエルの中で起きた様々な出来事について述べたものである。歴史書には，ヨシュア記，士師記，ルツ記，サムエル記上・下，列王紀上・下，歴代志上・下，エズラ記，ネヘミヤ記，エステル記が含まれる。

詩歌には，預言者たちの知恵と文学が記録されている。その中にはヨブ記，詩篇，箴言，伝道の書，雅歌，哀歌が含まれる。

預言者たちはイスラエルの罪に対して警告を与え，また従順がもたらす祝福について証（あかし）した。また預言者たちは，罪を悔い改めて儀式を受け，福音に従う人々を贖（あがな）ってくださるキリストの来臨についても預言した。預言書には，イザヤ書，エレミヤ書，エゼキエル書，

ダニエル書，ホセア書，ヨエル書，アモス書，オバデヤ書，ヨナ書，ミカ書，ナホム書，ハバクク書，ゼパニヤ書，ハガイ書，ゼカリヤ書，マラキ書が含まれる。

『旧約聖書』のほとんどの書はヘブライ語で書かれた。ヘブライ語と同族のアラム語で書かれた部分もある。

キュビト

ヘブライ人が一般に用いた長さの単位。もともとは，肘から手の指先までの長さをいった。

聖い　「清さ」「聖め」参照

神聖なこと。神の御心にかなった性質。霊的また道徳的に汚れのないこと。この言葉の反対は，俗悪，卑俗である。

あなたがたはわたしに対して祭司の国となり，また聖なる民となるであろう（出エ 19：5−6〔1 ペテ 2：9〕）。わたしは聖なる者であるから，あなたがたは聖なる者とならなければならない（レビ 11：44−45）。聖所に立つべき者はだれか。手が清く，心のいさぎよい者（詩篇 24：3−4）。わが民に，聖と俗との区別を教え（エゼ 44：23）。神はわたしたちを救い，聖なる招きをもって召して下さった（2テモ 1:8−9）。幼い時から，聖書に親しみ（2テモ 3：15）。人々が聖霊に感じ，神によって語ったもの（2ペテ 1：21）。人は皆，神の内にある真理と聖さによって裁かれる（2ニフ 2：10）。主なるキリストの贖罪により，生まれながらの人を捨てて聖徒となり（モサ 3：19）。神の聖なる位に従って歩めるように（アル 7：22〔アル 13：11−12〕）。肉にあって聖められ，聖なる者となり（3ニフ 28：1−9，36−39）。神聖なものを軽んじないようにしなさい（教義 6：12）。あなたはわたしから与えられなければ，神聖なことを書くことはできない（教義 9：9）。あなたがたは，聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない（教義 43：9）。わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち（教義 45：32）。上から来るものは神聖であり（教義 63：64）。幼い子供たちは聖い者である（教義 74：7）。その場所を聖別して，聖なる所としよう（教義 124：44）。聖なる人とは神の名である（モセ 6：57〔モセ 7：35〕）。主は聖なる都に選民を集められる（モセ 7：62）。

清いものと清くないもの　「清さ」「汚れ」「モーセの律法」参照

『旧約聖書』の中で，主はモーセと古代のイスラエル人に対して，ある種の食べ物のみが清いものと見なされる，言い換えれば，食べるのに適しているという啓示を与えられた。イスラエル人が行った清いもの，清くないものという食物の区別は，彼らの宗教生活や社会生活に大きな影響を与えた。ある種の動物，鳥，魚は清いので食べてもよいとされたが，汚れているということで食べるのを禁じられたものもあった（レビ 11 章；申命 14：3−20）。ある種の病気にかかった人も，汚れていると考えられていた。

霊的な意味での清い状態とは，罪や罪深い欲望と無縁の状態をいう。この意味において清いという言葉は，高潔

で清らかな心の人を指すのに用いられる（詩篇 24：4）。神の聖約（契約）の民は，清くあるようにとの特別な教えをいつも授けられてきた（3 ニフ 20：41；教義 38：42；133：5）。

手が清く，心のいさぎよい者は主の山に登る（詩篇 24：3–5）。どんな人間をも清くないとか，汚れているとか言ってはならない（使徒 10：11–28）。あなたがたはその日，純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか（アル 5：19）。主は清くなるまでシオンを懲らしめられる（教義 90：36）。主の器を担う者たちよ，清くありなさい（教義 133：4–5, 14〔イザ 52：11〕）。

教会（イエス・キリストの）　「イエス・キリストの教会」参照

教会（大きな忌まわしい）　「悪魔—悪魔の教会」参照

教会の名称　「イエス・キリストの教会」「末日聖徒イエス・キリスト教会」「モルモン」参照

『モルモン書』によると，イエス・キリストは復活後間もなく義にかなったニーファイ人を訪れ，キリストの教会には，キリストの名を付けなければならないと言われた（3 ニフ 27：3–8）。近代において主は，この教会の名を「末日聖徒イエス・キリスト教会」とするようにとの啓示を与えられた（教義 115：4）。

教義と聖約　「戒めの書」「スミス, ジョセフ，ジュニア」「正典」「聖文」参照

末日における神の啓示と霊感による宣言を集めた書。主はそれらを，終わりの時に神の王国を地上に設立し治めるために，ジョセフ・スミスとその継承者たちに与えられた。『教義と聖約』は,『聖書』『モルモン書』『高価な真珠』とともに，末日聖徒イエス・キリスト教会の標準聖典の一つに数えられている。しかし，昔の記録の翻訳ではないという点で,『教義と聖約』は特異な聖典である。主は神の王国を回復するために，近代の選ばれた預言者たちに啓示を与えられたのである。これらの啓示を読む人には，主イエス・キリストの優しい，それでいて確固とした声が聞こえてくる（教義 18：35–36）。

預言者ジョセフ・スミスは,『教義と聖約』は終わりの時における教会の基であり，世に益をもたらすものであると語った（教義 70 章の前書き）。『教義と聖約』に含まれる啓示は，世界が始まって以来預言者たちによって語られたすべての言葉を成就するものとして，主の再臨に道を備える業を開始するものとなった。

教師（アロン神権の）　「アロン神権」参照

アロン神権の中の一つの職。

教師の義務は教会員を見守ることである（教義 20：53–60）。教師の職は，小神権に属する，なくてはならない付属の職である（教義 84：30，111）。教師定員会会長は 24 人の教師を管理する（教義 107：86）。

兄弟　「姉妹」「人」参照

天の御父の子供として，すべての人は男女を問わず，霊的な意味で兄弟姉妹である。末日聖徒イエス・キリスト教会では，男性の会員や教会に好意的な男性を兄弟と呼ぶことがよくある。

あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい（ルカ 22：32）。兄弟を愛さない者は，死のうちにとどまっている（1ヨハ 3：10−17）。同胞（はらから）を自分自身のように思いなさい（ヤコ 2：17）。それぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊ぶようにしなさい（教義 38：24−25）。あなたのすべての生き方により，あなたの兄弟たちを強めなさい（教義 108：7）。

共同制度　「奉献；奉献の律法」参照

回復された教会の初期の聖徒たちが，奉献の律法の実践を目指して運営した組織。各個人が財産や利益を共有し，必要に応じてその中から幾分かを受け取った（教義 51：3；78：1−15；104 章）。

現世のものについて，あなたがたは平等でなければならない（教義 70：14）。聖徒たちは自らを備えかつ組織して，すべてのことについて平等になるようにしなければならない（教義 78：3−11〔教義 82：17−20〕）。主は共同制度に啓示と戒めを与えられた（教義 92：1）。ジョン・ジョンソンは共同制度の一員とならなければならない（教義 96：6−9）。主は共同制度の運営について指示を与えられた（教義 104 章）。わたしの民は，日の栄えの王国の律法により求められている和合一致に従って結束していない（教義 105：1−13）。

清くないもの　「清いものと清くないもの」参照

清さ　「清いものと清くないもの」「聖（きよ）め」参照

罪のない状態。非難されることがないこと。思いと行いがあらゆる点で正しいとき，人は清くなる。罪を犯した人は，イエス・キリストを信じ，悔い改め，福音の儀式を受けることによって清くなることができる。

手が清く，心のいさぎよい者は主から祝福を受ける（詩篇 24：3−5）。主の器をになう者よ，おのれを清く保て（イザ 52：11〔教義 133：4−5〕）。心の清い人たちは，さいわいである（マタ 5：8〔3 ニフ 12：8〕）。純真なことがあれば，それらのものを心にとめなさい（ピリ 4：8〔箇条 1：13〕）。あなたがた，心の清いすべての人よ，頭を上げて，喜びをもたらす神の御言葉を受け入れなさい（ヤコ 3：2−3）。あなたがたはその日，純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか（アル 5：19）。神の御前に清く，染みのない状態になったので，罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった（アル 13：12）。清められて清い御子と同じようになれるよう（モロ 7：48〔モル 9：6〕）。キリストは一つの清い民を御自身のために残される（教義 43：14）。主はシオンに一つの家を建てるように命じられた。心の清い者はそこで神を見るであろう（教義 97：10−17）。心の清い者，これこそシオンである（教義 97：21）。

聖め　「イエス・キリスト」「義認；義とされる」「贖罪」参照

イエス・キリストの贖罪を通して，罪から解放された，純粋で，清く，聖なる状態となる過程（モセ 6：59−60）。

神があなたがたを初めから選んで，御霊によるきよめによって，救を得させようとし（2テサ 2：13）。イエス・キリストのからだがささげられたことによって，わたしたちはきよめられた（ヘブ 10：10）。イエスもまた，ご自分の血で民をきよめるために，苦難を受けられた（ヘブ 13：12）。大祭司は聖められて，彼らの衣は小羊の血によって白く洗い清められた（アル 13：10−12）。聖めは，彼らが心を神に従わせたために受けたのである（ヒラ 3：33−35）。悔い改めなさい。そうすれば，あなたがたは聖霊を受けて聖められる（3ニフ 27：20）。イエス・キリストの恵みによる聖めは，正しく，かつ真実である（教義 20：31）。イエスは，世を聖めるため世に来た（教義 76：41）。あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように，自らを聖めなさい（教義 88：68）。

キリスト　「イエス・キリスト」参照

キリストの教義　「贖いの計画」「福音」参照

イエス・キリストの福音の原則と教え。

わたしの教は雨のように降りそそぎ（申命 32：2）。つぶやく者も教をうける（イザ 29：24）。群衆はその教にひどく驚いた（マタ 7：28）。わたしの教はわたし自身の教ではなく，わたしをつかわされたかたの教である（ヨハ 7：16）。聖書はすべて人を教えるのに有益である（2テモ 3：16）。これがキリストの教義であって，御父の唯一の真正な教えである（2ニフ 31：21〔2 ニフ 32：6〕）。わたしの教義の要点について，論争が，今後決してあなたがたの中にあってはならない（3ニフ 11：28，32，35，39−40）。サタンは人々の心をあおり立て，わたしの教義の要点について争わせる（教義 10：62−63，67）。子供たちに，悔い改め，キリストを信じる信仰，バプテスマ，聖霊の賜物の教義を教える（教義 68：25）。互いに王国の教義を教え合わなければならない（教義 88：77−78）。神権の教義はあなたの心に滴るであろう（教義 121：45）。

キリストの子　「イエス・キリスト」「生まれる；産む；もうける」「神の息子，娘」「再び生まれる」参照

イエス・キリストの福音を受け入れた人。

幼な子のように自分を低くする者が，いちばん偉いのである（マタ 18：1−4）。光のある間に，光の子となるために，光を信じなさい（ヨハ 12：36）。生まれながらの人を捨てて，子供のようになりなさい（モサ 3：19；27：25−26）。聖約のために，あなたがたはキリストの子と呼ばれ（モサ 5：7）。あなたがたが善いものをことごとく手にすれば，あなたがたは必ずキリストの子となる（モロ 7：19）。わたしを受け入れたすべての者に，わたし

の子となる力を与えた（教義 39：4）。幼い子供たちよ，恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり（教義 50:40−41）。あなたはわたしにあって一つであり，神の子である（モセ 6:68）。

ギレアデの乳香

芳香性の樹脂または香料で，傷を癒すために用いられたもの（創世 43：11；エレ 8：22；46：11；51：8）。旧約の時代に乳香の原料となる樹脂を分泌する木がギレアデで特によく生育したため，「ギレアデの乳香」として知られるようになった（創世 37：25；エゼ 27：17）。

金銭　「什分の一」「富」「物欲」「施し」参照

物品や受けたサービスへの支払いに用いられる貨幣，紙幣，証券類。物質主義の象徴として用いられることがある。

あなたがたは，金を出さずにあがなわれる（イザ 52：3）。十二使徒は，パンも，袋も，金も持たずに旅をするように命じられた（マコ 6：8）。神の賜物が，金で得られるなどと思っているのか（使徒 8：20）。金銭を愛することは，すべての悪の根である（1テモ 6：10）。価値のないものに金を使ってはならない（2ニフ 9：50−51〔イザ 55：1−2；2 ニフ 26：25−27〕）。もしも金銭のために働くならば，滅びるであろう（2ニフ 26：31）。富を求める前に神の王国を求めなさい（ヤコ 2:18−19）。「金銭と引き換えにあなたがたの罪は赦される」と言う教会が設けられている時代に（モル 8：32，37）。福音を宣言する者に食物を与え，衣服を与え，あるいは金銭を与える者は，決してその報いを失うことはない（教義 84：89−90）。

禁断の実　「エデン」「堕落（アダムとエバの）」参照

欽定訳聖書

1611 年に英国王ジェームズ 1 世の命によって翻訳編集された英訳『聖書』。末日聖徒イエス・キリスト教会の英文公認『聖書』となっている。

金版　「版」「モルモン書」参照

金の版に書かれた記録。金版には，アメリカ大陸の二大文明の物語が記録されている。ジョセフ・スミスはこれらの版の一部を翻訳し，出版した。この翻訳された記録が『モルモン書』と呼ばれている。（詳細については『モルモン書』巻頭の「序文」ならびに「預言者ジョセフ・スミスの証」を参照）

キンボール，スペンサー・W　「公式の宣言二」参照

教会が 1830 年に設立されてから 12 代目の大管長。1973 年 12 月から 1985 年 11 月まで大管長の任にあった。1895 年に生まれ，1985 年に 90 歳で死去した。

大管長会は，1978 年 6 月に，神権と神殿の祝福がすべてのふさわしい男性会員に授けられるという啓示がキンボール大管長に下されたことを発表した。

悔い改め　「イエス・キリスト」「打ち砕かれた心」「告白」「贖罪」「罪の赦し」「赦し」参照

神と自分自身また生活全般に対して新たな姿勢をもたらす思いと心の変化。悔い改めとは，神の戒めと望みに従い，罪を捨てて，邪悪なことから遠ざかり，自分の心と思いを神に向けるという意味を含んでいる。真の悔い改めは，神への愛と，神の戒めに従いたいという心からの望みの結果として生じる。自分の行いに責任の取れる人はだれでも罪を犯す。したがって，救いに向かって成長していくには悔い改めなければならない。悔い改めはイエス・キリストの贖罪によってのみ有効なものとなり，神に受け入れられる。

主にざんげして（エズ 10：11）。あなたがたの悪い行いを除き，悪を行うことをやめ（イザ 1：16）。悔い改めて，あなたがたのすべてのとがを離れよ（エゼ 18：30−31）。悔い改めよ，天国は近づいた（マタ 3：2）。罪人がひとりでも悔い改めるなら，よろこびが，天にあるであろう（ルカ 15：7）。神は，みな悔い改めなければならないことを命じておられる（使徒 17：30〔2 ニフ 9：23；3 ニフ 11：31−40；教義 133：16〕）。神のみこころに添うた悲しみは，救を得させる悔改めに導き（2コリ 7：10）。御霊は，わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく，絶えず善を行う望みを持つように，わたしたちの心の中に大きな変化を生じさせ（モサ 5：2）。その者があなたとわたしの前で罪を告白し，悔い改めるならば，その者をあなたは赦しなさい（モサ 26：29）。アルマが人々に語り終えた後，多くの人がアルマの言葉を信じ，悔い改めて（アル 14：1）。悔い改めの日を引き延ばすことのないように（アル 34：33）。アルマは，自分の悔い改めと改心についてヒラマンに教えた（アル 36 章〔モサ 27：8−32〕）。罰がなければ，人は悔い改めをすることができなかった（アル 42：16）。自分の罪にだけ心を悩まし，その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい（アル 42：29）。あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：20）。悔い改めて幼子のようにわたしのもとに来る者を，わたしはだれでも受け入れよう（3ニフ 9：22）。地の果てに至るすべての者よ，悔い改めなさい（3ニフ 27：20）。悔い改めた者は，その度に赦された（モロ 6：8）。この時代の人々には，悔い改めのほかに何も語ってはならない（教義 6：9〔教義 11：9〕）。人が悔い改めるとき，主の喜びはいかに大きいことか（教義 18：13）。人は皆必ず悔い改めなければならない。そうしなければ苦しみを受ける（教義 19：4）。罪を犯して悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：28）。自分の罪を悔い改めた者は赦され（教義 58：42−43）。悔い改める死者は，贖われるであろう（教義 138：58）。わたしたちは悔い改めを信じる（箇条 1：4）。

悔いる霊　「打ち砕かれた心」参照

偶像礼拝

偶像を礼拝の対象とすること。あるいは，何かに過度に愛着を抱いたり，

心を奪われたりすること。

あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない（出エ 20：3〔モサ 12：35；13：12−13〕）。もし他の神々に従うならば，あなたがたはきっと滅びるであろう（申命 8：19）。強情は偶像礼拝の罪に等しい（サ上 15：23）。あなたは金，銀の神々をほめたたえた（ダニ 5：23）。あなたがたは，神と富とに兼ね仕えることはできない（マタ 6：24）。貪欲（どんよく）は偶像礼拝にほかならない（コロ 3：5）。子たちよ。気をつけて，偶像を避けなさい（1ヨハ 5：21）。偶像を礼拝する者は災いである（2ニフ 9：37）。ニーファイの民の偶像礼拝が彼らに戦争と滅亡を招いた（アル 50：21）。すべての人が自分の神の像を求めて歩む（教義 1：16）。偶像礼拝が行われないように，自分の手を使って働きなさい（教義 52：39）。アブラハムの父は偶像礼拝に惑わされた（アブ 1：27）。

くじ

幾つかの選択肢の中からあるものを選び出すための方法。あらかじめ用意した紙片や木片の中から一つを選び出すという方法で行われることが多い。

彼らはくじを引いて，その着物を分け（マタ 27：35〔詩篇 22：18；マコ 15：24；ルカ 23：34；ヨハ 19：24〕）。ふたりのためにくじを引いたところ，マッテヤに当った（使徒 1：23−26）。わたしたちは，だれがラバンの家に入って行くか，くじを引いた（1ニフ 3：11）。

くびき　「弟子」参照

複数の家畜や人間の首に固定して，一緒に決まった仕事をさせるための道具。キリストのくびきは，キリストの弟子であることの象徴である。一方，奴隷のくびきは，圧制の象徴である。

わたしのくびきは負いやすく，わたしの荷は軽いからである（マタ 11：29−30）。不信者と，つり合わないくびきを共にするな（2コリ 6：14）。奴隷のくびきにつながれてはならない（ガラ 5：1）。だれかに奴隷のくびきをかけたいと思っているためでもない（アル 44：2）。聖徒が受けた苦しみは，鉄のくびきであり，強い縄，地獄の鎖である（教義 123：1−3，7−8）。

クモラの丘　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「モルモン書」「モロナイ（モルモンの息子）」参照

アメリカ合衆国ニューヨーク州西部にある小さな丘。モロナイという古代の預言者は，ニーファイ人とヤレド人の民に関する幾つかの記録を載せた金版をこの丘に隠した。ジョセフ・スミスは，復活したモロナイにより 1827 年にこの丘に導かれ，その金版を受け取って一部を翻訳することになった。その翻訳されたものが，『モルモン書』である。

ニーファイ人がクモラに集まった（モル 6：2−4）。クモラは多くの水のある地にあった（モル 6：4）。モルモンは記録をクモラの丘に隠した（モル 6：6）。クモラで，24 人を除くすべてのニーファイ人が切り倒された（モル 6：11）。わたしたちはクモラからの喜

びのおとずれを聞く（教義 128：20）。ジョセフ・スミスはクモラの丘で版を受け取った（ジ―歴史 1：42，50−54，59）。

倉　「福祉」参照

ビショップが末日聖徒からささげられるものを受け取り，保管し，貧しい人に配るための施設。倉はそれぞれの状況によって規模が異なる。忠実な聖徒は，才能や技術，物品，金銭を，助けが必要な貧しい人々のためにビショップにささげる。したがって倉は，労働奉仕や金銭，食糧，その他の日用品などを資源として備えることができる。ビショップは倉の代理人であり，必要に応じて，また主の御霊（みたま）に導かれるままに様々な物品や労働奉仕を割り振る（教義 42：29−36；82：14−19）。

7 年の飢饉（ききん）に備えて食糧を彼らに集めさせた（創世 41：34−36，46−57）。十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい（マラ 3：10〔3 ニフ 24：10〕）。ビショップはこの教会のために倉を設けなさい（教義 51：13）。必要以上のものは主の倉に渡さなければならない（教義 70：7−8）。聖徒たちは倉を整え確立しなければならない（教義 78：1 − 4）。子供たちは，親が受け継ぎを与える分を持っていなければ，主の倉に求める権利がある（教義 83：5）。

暗闇（外の）（くらやみ）　「悪魔」「死（霊の）」「地獄」「滅びの子」参照

暗闇（霊的な）（くらやみ）　「邪悪」参照

邪悪なこと，または霊的な事柄に関して無知なこと。

わざわいなるかな，彼らは暗きを光とし（イザ 5：20〔2 ニフ 15：20〕）。暗きは地をおおい，やみはもろもろの民をおおう（イザ 60：2）。イエスは暗黒の中に住む者を照される（ルカ 1：79）。光はやみの中に輝いている。そして，やみはこれに勝たなかった（ヨハ 1：5〔教義 45：7〕）。やみのわざを捨てて，光の武具を着けようではないか（ロマ 13：12）。実を結ばないやみのわざに加わらないで（エペ 5：8−11）。あなたがたが求めもせず，それゆえ，光の中に導かれず，闇（やみ）の中で滅びてしまうに違いない（2ニフ 32:4）。サタンは闇（やみ）の業を広める（ヒラ 6：28−31）。闇（やみ）の力は地上に広く及んでいる（くら）（教義 38：8，11−12）。全世界は暗闇（やみ）の下で，また罪の束縛の下でうめいている（教義 84：49−54）。あなたがたが神の栄光にひたすら目を向けるならば，あなたがたの中に暗さがないであろう（教義 88：67）。闇（やみ）の業はすべての人の子らの中に広がり始めた（モセ 5：55）。

クリスチャン　「聖徒」「弟子」参照

イエス・キリストを信じる人々に付けられた呼び名。この言葉は全世界的に広く用いられているが，主はキリストに心から従う人々を聖徒と呼ばれる（使徒 9：13，32，41；1 コリ 1：2；教義 115：4）。

弟子たちはクリスチャンと呼ばれた（使徒 11：26）。クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば，恥じる

ことはない（1ペテ 4：16）。聖約のために，あなたがたはキリストの子と呼ばれ（モサ 5：7）。まことの信者は皆，教会に属していない者たちからクリスチャンと呼ばれていた（アル 46：13−16）。

来る　「従順；従う」「弟子」参照

聖典では「キリストのもとに来て，キリストによって完全になりなさい」（モロ 10：32）という言い回しにあるように，従うことによってだれかにさらに近づくということを表現する場合がある。

耳を傾け，わたしにきて聞け（イザ 55：3）。すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい（マタ 11：28）。幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない（マタ 19：14）。だれでもわたしについてきたいと思うなら，自分を捨て（ルカ 9：23）。わたしに来る者は決して飢えることがなく（ヨハ 6：35）。主は，御自分のもとに来るように，すべての人を招かれる（2ニフ 26：33）。わたしのもとに来て救いを得なさい（3ニフ 12：20）。キリストのもとに来て（モロ 10：32）。キリストのもとに来るようにすべての人を招かなければならない（教義 20：59）。わたしのもとに来て（教義 45：46）。

クロス

『旧約聖書』の中の人物。ペルシャの王。ユダヤ人に神殿再建のためのエルサレム帰還を許してバビロニア捕囚を部分的に終結させ，イザヤの預言を成就した（歴下 36：22−23；イザ 44：28；45：1）。イザヤの預言は，この王が帰還を許可する約 180 年前になされていた。

計画（贖いの）（あがな）　「贖（あがな）いの計画」参照

敬虔（けいけん）　「敬う」「畏（おそ）れ；恐れ」参照

神聖な事柄に対する深い敬意。

くつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである（出エ 3：4−5）。主は恐るべき神，恐るべき者です（詩篇 89：7）。恐れかしこみ，神に喜ばれるように，仕えていこう（ヘブ 12：28）。モロナイは地にひれ伏し，熱烈に神に祈った（アル 46：13）。群衆は地に伏して，キリストを拝した（3ニフ 11：12−19）。わたしの前に身をかがめて（教義 5：24）。その御座の前に，すべてのものが恭しく身をかがめ（教義 76：93）。自分の受けたものを軽々しく扱ったために，あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった（教義 84：54−57）。すべてのひざがかがみ，すべての舌が告白する（教義 88：104）。至高者の名を敬い尊ぶことから，教会員は，この神権をメルキゼデクにちなんでメルキゼデク神権と呼んだ（教義 107：4）。主の宮で主を敬う人々に数々の祝福が注がれる（教義 109：21）。

警告　「見守る；見守る者」参照

注意を与えること。預言者や指導者，親は，主とその教えに従順であるよう人々に警告し，教える。

ヤコブはニーファイの民に，あらゆる罪について警告した（ヤコ 3：12）。警告の声は，すべての民に及ぶ（教義 1：4）。あなたがたの教えを説くことが警告の声となるように（教義 38：41）。今は警告の時であり（教義 63：58）。警告を受けた人は皆，その隣人に警告しなければならない（教義 88：81）。わたしはあなたがたに警告を与えており，またこの知恵の言葉を与えることによって，あらかじめ警告するものである（教義 89：4）。

啓示　「声」「言葉（神の）」「示現」「聖霊」「光；キリストの光」「夢」「預言」「霊感」参照

神が地上の神の子らに御心を示されること。啓示はキリストの光や聖霊を通して，霊感や示現，夢，天使の訪れなどの方法により授けられる。啓示は，忠実な人を日の栄えの王国における永遠の救いに導く助けを与える。

主はその御業を預言者に明らかにし，また信じる人々に対して，預言者への啓示が真実であるとの確認をお与えになる（アモ 3：7）。導きを求め，信仰を持ち，悔い改めてイエス・キリストの福音に従うすべての人に，主は啓示を通して個人的な導きを与えられる。ジョセフ・スミスは，「聖霊は啓示者であり，だれも啓示を受けずに聖霊を授かることはない」と語っている。

主の教会の大管長会と十二使徒定員会は，教会と世に対する預言者，聖見者，啓示者である。教会の大管長は，教会のために啓示を受けるように主から権能を託された唯一の人である（教義 28：2–7）。人は皆自分自身のために個人的な啓示を受けることができる。

人は主の口から出るすべてのことばによって生きる（申命 8：3〔マタ 4：4；教義 98：11〕）。主は静かな細い声で語られる（列上 19：12）。示現がなければ民は滅びる（KJ 箴言 29：18）。主なる神は，そのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない（アモ 3:7）。バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である（マタ 16：15–19）。御霊（みたま）は人をあらゆる真理に導き，来るべき事を知らせる（ヨハ 16:13）。あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，神に，願い求めるがよい（新ヤコ 1：5）。世の終わりまでに起こることがすべて，人の子らに示される（2ニフ 27：11）。教えに教えを加えて，それを人の子らに与えよう（2ニフ 28：30）。秘密のことで明らかにされないことはなく（2ニフ 30：17）。聖霊はなすべきことをすべて示される（2ニフ 32：5）。主の道は，啓示されないかぎりだれも知ることはできない（ヤコ 4：8）。アルマは啓示を求めて断食して祈った（アル 5：46）。忠実な者には，まだ明らかにされていないことが明らかにされる（アル 26:22）。啓示を否定する者は，イエス・キリストの福音を知らない者，聖文を読んだことのない者である（モル 9：7–8）。信仰が試されてからでなければ，証（あかし）は得られない（エテ 12：6）。わたしの言葉はすべて成就する（教義 1：38）。わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであ

ろうか（教義 6：22−23）。わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう（教義 8：2−3）。もしそれが正しければ，わたしはあなたの胸を内から燃やそう（教義 9：8）。啓示の霊を否定してはならない（教義 11：25）。求めれば，啓示の上に啓示を受け（教義 42：61）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，主の声となり（教義 68：4）。神は知識を，あなたがたに与えてくださる（教義 121：26）。ジョセフ・スミスは御父と御子にまみえた（ジ―歴史 1：17）。わたしたちは，神がこれまでに啓示されたすべてのこと，また神がこの後も啓示されることを信じる（箇条 1：7，9）。

系図　「覚えの書」「家族」「儀式―身代わりの儀式」「死者の救い」「救い」「バプテスマ」参照

家族の系譜をたどった記録。神権の職や祝福が特定の家系に限られていた場合，聖文に記された系図は非常に重要であった（創世 5；10；25；46 章；歴上 1−9 章；エズ 2：61−62；ネヘ 7：63−64；マタ 1：1−17；ルカ 3：23−38；1 ニフ 3：1−4；5：14−19；ジェロ 1：1−2）。今日の回復された教会において，教会員は各自の家系の調査を続けている。その目的の一つは，亡くなった先祖に関する情報を得て，彼らのための救いの儀式が執行されるようにすることである。それらの儀式は，霊界でイエス・キリストの福音を受け入れる死者にとって有効なものとなる（教義 127；128 章）。

軽率　「悪口（あっこう）」参照

神聖なものを軽々しく扱うこと（教義 84：54）。

無益な思いと過度の笑いを遠くに捨ててしまいなさい（教義 88：69）。すべての高慢と軽薄，すべての邪悪な行いをやめなさい（教義 88：121）。

契約　「聖約（契約）」参照

契約の箱　「幕屋」参照

エホバの箱，証（あかし）の箱としても知られているこの契約の箱は，長方形の木箱で，金で覆われていた。この箱は，イスラエル人の宗教上の象徴の中で最も古くかつ神聖なものであった。ふたの部分に当たる贖罪所（しょくざいしょ）は，エホバが地上で住まわれる所と見なされていた（出エ 25：22）。契約の箱は，幕屋が完成するとその中の最も神聖な所である至聖所に置かれた（列上 8：1−8）。

モーセは神の戒めにより箱を造った（出エ 25 章）。レビの子らは契約の箱を守る責任を与えられた（民数 3：15，31）。契約の箱は，彼らに先立って行き（民数 10：33）。この律法の書をとって，契約の箱のかたわらに置きなさい（申命 31：24−26）。ヨルダンの水は契約の箱の前で流れをせきとめられた（ヨシ 3：13−17；4：1−7）。祭司たちはエリコを征服するときに契約の箱をかついだ（ヨシ 6：6−20）。ペリシテびとが神の箱を奪った（サ上 5 章）。主は，神の箱のゆえにオベデエドムの家を祝福された（サ下 6：11−12）。ウザは戒めに従わず手を伸べて箱を押えたため，主に撃たれた（歴上 13：9−12〔教義 85：8〕）。たって

主なる神の聖所を建て，契約の箱を携え入れなさい（歴上 22：19）。契約の箱の中に納められていたものについて述べられる（ヘブ 9：4）。

汚れ　「清いものと清くないもの」「邪悪」「罪」「不義」「不信心」参照

自分の意志で神に従わずに引き起こした霊的に清くない状態。

シオンの娘らの汚れを洗い（イザ 4：4〔2 ニフ 14：4〕）。神の王国は汚れてはいません（1ニフ 15：34〔アル 7：21〕）。汚れている者は，そのまま汚れた状態にある（2ニフ 9：16〔モル 9：14〕）。汚れた衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば，その人はどのように感じるであろうか（アル 5：22）。彼らはなお汚れたままでいなければならない（教義 88：35）。わたしはいつ安息を得て，汚れから清められるのか（モセ 7：48）。

結婚　「家族」「離婚」参照

1 組の男女を夫婦とする合法的な誓約，または契約。結婚は神によって定められた（教義 49：15）。

人がひとりでいるのは良くない（創世 2：18〔モセ 3：18〕）。人はその父と母を離れて，妻と結び合い，一体となるのである（創世 2：24〔マタ 19：5；アブ 5：18〕）。神が合わせられたものを，人は離してはならない（マタ 19：6〔マコ 10：9〕）。偽り者どもは，結婚を禁じたり（1テモ 4：1–3）。結婚を重んずべきである（ヘブ 13：4）。主はリーハイの息子たちに，イシマエルの娘たちを妻に迎えるように命じられた（1ニフ 7:1, 5〔1 ニフ 16:7–8〕）。神はアダムとエバを創造して夫婦とされた（モセ 3：7，18，21–25）。

結婚の新しくかつ永遠の聖約：福音の律法と聖なる神権の下に行われた結婚は，この世と永遠の世において効力を有する。神殿で結び固められて結婚したふさわしい男女は，永遠にわたって夫婦でいることができる。

イエスは結婚の律法について教えられた（ルカ 20:27–36）。主にあっては，女なしには男はない（1コリ 11：11）。いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として（1ペテ 3：7）。あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ（ヒラ 10：7〔マタ 16：19〕）。日の栄えの王国の最高の階級を得るためには，人は結婚の新しくかつ永遠の聖約に入らなければならない（教義 131：1–4）。彼がわたしによらずにめとるならば，彼らの誓いと結婚は，彼らが死ぬと，効力がない（教義 132：15）。もしある男がわたしの言葉によって，また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり，そしてそれが約束の聖なる御霊（みたま）により結び固められるならば，彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力がある（教義 132：19）。

異なった信仰を持つ人との結婚：宗教的信条や慣習を異にする男女間の結婚。

カナンびとのうちから，娘をわたしの子の妻にめとってはならない（創世 24：3）。もしヤコブがヘテびとの娘を妻にめとるなら，わたしは生きていて，何になりましょう（創世 27：46〔創世 28：1–2〕）。イスラエルはカナ

ンびとと婚姻をしてはならない（申命7：3−4）。イスラエルはカナンびとを妻にめとり，偽りの神々に仕えたため，のろわれた（士師3：1−8）。ソロモンの妻たちは彼の心を転じて偽りの神々に従わせた（列上11：1−6）。われわれはこの地の民らにわれわれの娘を与えず，われわれのむすこに彼らの娘をめとらない（ネヘ10：30）。不信者と，つり合わないくびきを共にするな（2コリ6：14）。主は，ニーファイ人がレーマン人と縁を結んで間違った言い伝えを信じることがないように，レーマン人にしるしを付けられた（アル3：6−10）。彼がわたしによらずにめとるならば，彼らの誓いと結婚は，彼らが死ぬと、効力がない（教義132：15）。人の子らは自分たちの選んだ者を妻とした（モセ8：13−15）。

多妻結婚：一人の男性が生存中の二人以上の女性と結婚すること。律法にかなうのは，主から啓示によって特に命じられないかぎり（ヤコ2：27−30），一人の男性が一人の女性のみと結婚することである。啓示によって，旧約の時代と回復された教会の初期の時代に，神権の鍵を持つ預言者の指示により多妻結婚が行われた（教義132：34−40，45）。しかし今日，当教会では多妻結婚は行われておらず（公式1），複数の女性を妻とする者は，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としての資格を持つことができない。

サライはアブラムにハガルを妻として与えた（創世16：1−11）。ヤコブはレアとラケル，またそのつかえめたちを妻として受け入れた（創世29：21−28〔創世30：4，9，26〕）。たとい，ほかに女をめとることがあっても，前の女に食物と衣服を与えることを絶えさせてはならない（出エ21：10）。ダビデは二人の妻とヘブロンへ上った（サ下2：1−2）。アブラハム，イサク，ヤコブは複数の妻を受け入れることにおいて，命じられたことを行った（教義132：37）。ダビデとソロモンは，神から与えられなかったものを除いては，どのようなことについても罪を犯さなかった（教義132：38−39）。

結社　「秘密結社」参照

ゲツセマネ　「オリブ山」「贖罪」参照

『新約聖書』の中の地名。オリブ山近くの園の名前。アラム語で「ゲツセマネ」は「オリーブしぼり」の意味。イエスは，ユダが裏切った夜にこの園へ行き，そこで祈り，人類の罪のために苦しみを受けられた（マタ26：36，39；マコ14：32；ヨハ18：1；アル21：9；教義19：15−19）。

ゲツセマネの園　「ゲツセマネ」参照

ケルビム

天上の生き物の象徴。正確な姿は知られていない。ケルビムは神聖な場所を守る召しを与えられている。

神はケルビムを置いて，命の木の道を守らせられた（創世3：24〔アル12：21−29；42：2−3；モセ4：31〕）。贖罪所の上には象徴であるケルビムが置かれた（出エ25：18，22〔列上6：23−28；ヘブ9：5〕）。エゼキエルが

受けた示現の中で，ケルビムについて語られている（エゼ 10 章；11：22）。

権威；権限；権能　「神権」「神権の鍵」「聖任」「力」「召し；神の召し」参照

神の業を行うに当たって，父なる神またはイエス・キリストのためにその代理として行動するように召され，聖任される人々に，この地上で与えられる承認。

わたしがあなたをつかわした（出エ 3：12−15）。わたしが命じることを，ことごとく告げなければならない（出エ 7：2）。イエスは十二弟子に権威をお授けになった（マタ 10：1）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである（ヨハ 15：16）。ニーファイとリーハイは，大きな力と権能をもって教えを説いた（ヒラ 5：18）。民はニーファイを，神から授けられた大いなる力と権能を持つ神の人として尊んだ（ヒラ 11：18〔3 ニフ 7：17〕）。イエスは 12 人のニーファイ人に力と権能を授けられた（3ニフ 12：1−2）。ジョセフ・スミスは神から召され，聖任された（教義 20：2）。聖任され，そして権能を持っていることが教会員に知られないかぎり，だれもわたしの福音を宣べ伝えること，あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない（教義 42：11）。長老は福音を宣べ伝え，権能を行使しなければならない（教義 68:8）。メルキゼデク神権は霊的な事柄をつかさどる権能を持つ（教義 107：8，18−19）。神聖な権能によって行われたことは律法となる（教義 128：9）。福音を宣べ伝え，その儀式を執行するためには，人は権能を持つ者によって，神から召されなければならない（箇条 1：5）。

健康　「知恵の言葉」参照

現世的　「生まれながらの人」「堕落（アダムとエバの）」「肉欲」参照

霊的でない物事を指す言葉。具体的には，一時的でこの世的なこと（教義 67：10），もしくは世俗的，肉感的，官能的なことを意味するのに用いられる（モサ 16：10−12）。

肉の思いを抱くことは死であり（2ニフ 9：39）。悪魔は人々をなだめ，彼らを欺いて現世での安全を確信させる（2ニフ 28：21）。彼らは，自分たちがこの世的な状態にあると思った（モサ 4：2）。自分自身の肉の性質の中にとどまる者は，その堕落した状態にとどまる（モサ 16：5）。人は神から生まれ，肉欲にふける堕落した状態から義の状態に変わらなければならない（モサ 27：25）。人類は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となった（アル 42：10）。自分の思いと肉の欲望に従う人々は必ず落ちる（教義 3：4）。人は肉の思いをもって神を見ることはできない（教義 67：10−12）。人々は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となり始めた（モセ 5：13；6：49）。

原則　「福音」参照

基本となる教義や真理，律法。福音の第一の原則は，主イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めである（箇条

1：4)。

わたしたちはキリストの教義の原則をなおざりにすることなく，完成を目ざして進もうではないか（KJ ヘブ 6：1−3)。長老と祭司と教師は，聖典の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義 42：12)。原則において，教義において，すべてのことにおいて，さらに完全に教えられるためである（教義 88：78〔教義 97：14〕)。すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて，未来に関する教義と原則に従って行動できるようにし（教義 101：78)。

謙遜（けんそん）　「打ち砕かれた心」「高慢」「柔和」「貧しい」「弱さ」参照

柔和で，素直なこと。また，神に頼らなければならないことを理解し，神の御心に従いたいと望むことも含まれる。

神はイスラエルを謙遜（けんそん）にするために，40 年の間荒れ野で導かれた（申命 8：2)。貧しくて賢いわらべは，老いて愚かで，もはや，いさめをいれることを知らない王にまさる（伝道 4：13)。わたしはへりくだる者と共に住み（イザ 57：15)。この幼な子のように自分を低くする者が，天国でいちばん偉いのである（マタ 18：4)。自分を低くする者は高くされるであろう（マタ 23：12〔ルカ 14：11；18：14〕)。イエスはおのれを低くして，死に至るまで従順であられた（ピリ 2：8〔ルカ 22：42；23：46〕)。神は高ぶる者をしりぞけ，へりくだる者に恵みを賜う（1ペテ 5：5−6〔2 ニフ 9：42〕)。心底謙遜（けんそん）にへりくだって（モサ 4：11〔2 ニフ 9：42；3 ニフ 12：2〕)。あなたがたは，十分にへりくだっていると言えるであろうか（アル 5：27−28)。謙遜（けんそん）な人々はますます謙遜（けんそん）になった（ヒラ 3：33−35)。わたしは人を謙遜（けんそん）にするために，人に弱さを与える（エテ 12：27)。謙遜（けんそん）であることはバプテスマを受けるための一つの条件である（教義 20：37)。わたしの前にへりくだるならば，あなたがたはわたしを見て，わたしがいることを知るであろう（教義 67:10)。謙遜（けんそん）でありなさい。そうすれば，主なるあなたの神はあなたの祈りに答えを与えるであろう（教義 112：10)。知識のない者は，へりくだって知恵を得なさい（教義 136：32)。御霊（みたま）はへりくだって悔いる者を照らすために，世に送られている（教義 136：33)。

憲法　「政府」「律法」参照

『教義と聖約』の中で述べられている「憲法」とは，福音の回復に道を備えるために神の霊感によって定められたアメリカ合衆国憲法を指している。

合憲的な法律は擁護しなければならない（教義 98：5−6)。主はその憲法の制定に関与された（教義 101：77，80)。

紅海　「モーセ」参照

エジプトとアラビアの間にある海。紅海北部の二つの湾に挟まれた所にシナイ半島がある。モーセに導かれたイスラエル人が乾いた地を通って行けるように，主の奇跡によって紅海の水が分けられた（出エ 14：13−31；ヘブ

11：29)。モーセが紅海の水を分けたことは，末日の啓示の中でも確認されている（1ニフ4：2；ヒラ8：11；教義8：3；モセ1：25)。

高価な真珠　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「正典」「聖文」参照

地上の神の王国は「高価な真珠」にたとえられる（マタ13：45−46)。

末日聖徒イエス・キリスト教会の「標準聖典」と呼ばれる4書の中の一つ。『高価な真珠』の初版は1851年に出版され，その中には現在の『教義と聖約』にある幾つかの文書も含まれていた。1902年以降の版には以下の記録が含まれている。(1)「モーセ書」と呼ばれる創世記のジョセフ・スミス訳の抜粋，ならびに「ジョセフ・スミス—マタイ」と呼ばれるマタイ24章のジョセフ・スミス訳。(2) 1835年に得たエジプトのパピルスをジョセフ・スミスが翻訳した記録。これは「アブラハム書」と呼ばれている。(3) ジョセフ・スミスが1838年に書いた教会の歴史からの抜粋。これは「ジョセフ・スミス—歴史」と呼ばれている。(4) 教会の信条と教義を13箇条に要約した「信仰箇条」。

高潔　「義」「正直」参照

義にかない，正直で，誠実であること。

わたしは死ぬまで，潔白を主張してやめない（ヨブ27：5)。欠けた所なく，正しく歩む人（箴言20：7)。彼らは託されたことは何であろうと，いつでも誠実に果たす者たちであった（アル53：20)。主はハイラム・スミスを，その心の高潔さのゆえに愛された（教義124：15)。

公式の宣言一　「ウッドラフ，ウィルフォード」「結婚—多妻結婚」「宣言」参照

『教義と聖約』の終わりの部分に掲載されている宣言。「公式の宣言一」の最初の部分は「宣言」としても知られている。ウィルフォード・ウッドラフ大管長が発表し，1890年10月6日の総大会の席上，教会員に提示された。1862年以来25年間，アメリカ合衆国では多妻結婚を違法とする様々な法律が作られた。聖徒が多妻結婚をやめなければ何が起こるかを，主は示現と啓示によってウィルフォード・ウッドラフに示された。この宣言は，多妻結婚がもはや行われていないことを正式に表明するものであった。

公式の宣言二　「キンボール，スペンサー・W」参照

神権がだれに授けられるかについての教義的な声明。『教義と聖約』の末尾に掲載されている。1978年6月の初めに，主はスペンサー・W・キンボール大管長に，神権が教会のすべてのふさわしい男性会員に授けられることを啓示された。これによって，人種や肌の色にかかわりなく，すべてのふさわしい男性が神権を受けることができ，またすべてのふさわしい会員が神殿の祝福にあずかれるようになった。1978年9月30日，この宣言は教会の総大会において提示され，全会一致で受け入れられた。

高等評議会

12人の大祭司から成る評議会。

回復された教会の初期の時代には，高等評議会という言葉は次の二つの異なる管理体を指すものとして用いられた。(1) 教会の十二使徒定員会（教義107：33，38)。(2) 各ステークで務めを果たす高等評議会（教義102章；107：36)。

幸福；幸せ　「喜び」参照

高慢　「うぬぼれ」「金銭」「謙遜（けんそん）」「富」「物欲」参照

謙遜（けんそん）さや素直さを欠いた状態。人は高慢になると互いに反目し，神に対しても敵対的になる。高慢な人は自分を人よりも優れていると考え，神の御心よりも自分の意志に従おうとする。うぬぼれ，ねたみ，冷酷さ，傲慢（ごうまん）さは，高慢な人によく見られる特徴である。

金銀が増し，持ち物がみな増し加わるとき，おそらく心にたかぶり（申命8：11−14)。わたしは高ぶりと，おごりを憎む（箴言8：13〔箴言6：16−17〕)。高ぶりは滅びにさきだち（箴言16：18)。その日には目をあげて高ぶる者は低くせられ（イザ2：11−12〔2ニフ12：11−12〕)。あなたの心の高ぶりは，あなたを欺いた（オバ1：3)。すべて高ぶる者は，わらのようになる（マラ4：1〔1ニフ22：15；3ニフ25：1；教義29：9〕)。自分を高くする者は低くされ（マタ23：12〔教義101：42〕)。神は高ぶる者をしりぞけ（1ペテ5：5)。あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢である（1ニフ11：36〔1ニフ12：18〕)。人は学識があると自分は賢いと思い（2ニフ9：28−29)。ほかの者より豊かに富を得たことで心が高慢になり（ヤコ2：13，16〔アル4：8−12〕)。あなたがたは高慢な心を取り去っているか（アル5：28)。民の心の中には大変にひどい高慢が入り込んでいた（ヒラ3：33−36)。人の子らは何と高慢になるのが早いことか（ヒラ12：4−5)。この国民は，高慢のために滅びてしまう（モロ8：27)。あなたがたはニーファイ人のようにならないよう，高慢に気をつけなさい（教義38：39)。すべての高慢と軽薄，すべての邪悪な行いをやめなさい（教義88：121)。

声　「啓示」参照

聖典の中では，主御自身あるいは天使の，人の耳に聞こえる言葉を指す場合がある。御霊（みたま）の声は耳に聞こえなくても，心に語りかけることがある。

主なる神の声を聞いた（KJ創世3：8〔モセ4：14〕)。主は静かな細い声でエリヤに語りかけられた（列上19：11−13)。義人はよい羊飼の声を聞いて従う（ヨハ10：1−16)。だれでも真理につく者は，わたしの声に耳を傾ける（ヨハ18：37)。わたしは御霊（みたま）の声に従い（1ニフ4：6−18)。わたしに声が聞こえた。「エノスよ，あなたの罪は赦（ゆる）された。あなたは祝福を受けるであろう。」(エノ1：5)。それはまったく優しい静かな声であり，それでいて心の底までも貫いた（ヒラ5：29−33〔3ニフ11：3−7〕)。わたし自身の声によろうと，わたしの僕（しもべ）たちの声によろうと，それは同じである（教義1：

38)。何であろうと聖霊に感じて語ることは，主の声となり（教義 68：2−4)。わたしの声に従う者は皆，わたしの顔を見て，わたしがいることを知るであろう（教義 93：1)。

ゴグ　「イエス・キリストの再臨」「マゴグ」参照

マゴグの王。エゼキエルは，主の再臨の時にゴグがイスラエルを攻めると預言した（エゼ 38−39 章)。ゴグとマゴグの戦いと呼ばれる別の戦いが福千年の後に起こる（黙示 20：7−9；教義 88：111−116)。

告白　「悔い改め」「赦し」参照

聖典はこの言葉を少なくとも二つの意味で用いている。一つは，イエスがキリストであることを告白するというように，何かに対する自分の信仰を表明する場合である（マタ 10：32；ロマ 10：9；1 ヨハ 4：1−3；教義 88：104)。

もう一つは，罪を告白する場合のように，自分に罪があるのを認めることである。人は皆，自分の罪をすべて主に告白して，その赦しを得なければならない（教義 58:42−43)。場合によっては，自分が罪を犯した相手に対して告白する必要がある。重大な罪については，教会の役員に（ほとんどの場合，ビショップに)告白しなければならない。

その罪を犯したことを告白し（レビ 5：5)。彼らが自分の罪を告白するなら（レビ 26：40−42)。イスラエルの神，主に栄光を帰し，あなたのしたことを告げなさい（ヨシ 7：19)。人々が自分の罪を告白し，ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた（マタ 3:5−6)。罪を告白する者は赦される（モサ 26：29)。あなたの罪を告白しなさい。そうしなければ，罰を受けて苦しむであろう（教義 19：20)。悔い改めた人は罪を告白して捨てる（教義 58：43)。主なるわたしは，へりくだった心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い（教義 61：2)。主なるわたしは，自分の罪を告白して赦しを求める者たちについては罪を赦す（教義 64：7)。

心　「打ち砕かれた心」「再び生まれる」参照

人の理性と意志の象徴。喜怒哀楽の象徴的な源でもある。

あなたは心をつくして，あなたの神，主を愛さなければならない（申命 6：5〔申命 6：3−7；マタ 22：37；ルカ 10：27；教義 59：5〕)。主は自分の心にかなう人を求めて（サ上 13：14)。人は外の顔かたちを見，主は心を見る（サ上 16：7)。手が清く，心のいさぎよい者は主から祝福をうけ（詩篇 24：3−5〔2 ニフ 25：16〕)。人はその心の内で思うそのとおりの人である（KJ 箴言 23：7)。エリヤは父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる（マラ 4：5−6〔ルカ 1：17；教義 2：2；110：14−15；138：47；ジ ― 歴史 1：39〕)。心の清い人たちは，さいわいである（マタ 5：8〔3 ニフ 12：8〕)。心からあふれ出ることを，口が語る（ルカ 6：45)。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたは心の

中に，この大きな変化を経験したか(アル 5：14)。打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：20〔3 ニフ 12：19；エテ 4：15；モロ 6：2〕)。聖霊によって，わたしはあなたの心に告げよう（教義 8：2)。

五旬節（ごじゅんせつ）「モーセの律法」参照

モーセの律法の一部として，過越（すぎこし）の祭の 50 日後に五旬節（ごじゅんせつ）すなわち初穂の祭が行われた（レビ 23：16)。五旬節は収穫を祝うためのものであり，『旧約聖書』では刈入れの祭あるいは七週の祭とも呼ばれた。エルサレムで使徒たちが聖霊に満たされ，異言を語ったのは，この祭が祝われていたときであった（使徒 2 章；教義 109：36−37)。

五書　「旧約聖書」「出エジプト記」「申命記」「創世記」「民数記」「モーセ」「レビ記」参照

『旧約聖書』の最初の 5 つの書，すなわち創世記，出エジプト記，レビ記，民数記，申命記を指す。ユダヤ人はこの五書を，トーラーすなわち律法と呼んだ。五書はモーセによって書かれた(1 ニフ 5：10−11)。

言葉　「イエス・キリスト―前世におけるキリスト」参照

言葉（神の）　「戒め（神の）」「啓示」「聖文」参照

神から授けられる教えや戒め，知らせ。神の子供たちは，御霊（みたま）による啓示を通して直接に，あるいは主の選ばれた僕（しもべ）を通して間接的に御言葉を受けることができる（教義 1：38)。

人は主の口から出るすべてのことばによって生きる（申命 8：3〔マタ 4：4；教義 84：43−44〕)。あなたのみ言葉はわが足のともしび，わが道の光です（詩篇 119：105)。一同は聖霊に満たされて，大胆に神の言（ことば）を語り出した(使徒 4：31−33)。鉄の棒は命の木に導く神の言葉である（1ニフ 11:25〔1 ニフ 15：23−25〕)。あなたがたは心が鈍っていたので，その言葉を感じることができませんでした（1ニフ 17：45−46)。神の言葉を拒む者は災いである（2ニフ 27：14〔2 ニフ 28：29；エテ 4：8〕)。キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み（2ニフ 31：20〔2 ニフ 32：3〕)。彼らは自分の不信仰のために，神の言葉を理解できなかった（モサ 26：3〔アル 12：10〕)。神の言葉を知るために聖文を熱心に調べて(アル 17:2)。神の言葉の力を使う（アル 31：5)。アルマは御言葉を一つの種にたとえた（アル 32：28−43)。何であろうと聖霊に感じて語ることは，主の言葉となり（教義 68：4)。神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならない（教義 84：44−45)。だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は，惑わされることがない(ジ―マタ 1：37)。

言葉；言語

情報や思想，観念を伝達するために特定の形式にまとめた一連の音声文字あるいは記述文字。言葉遣いは，神や人に対する思いを表す。主イエス・キ

リストは再臨の時に，すべての人に純粋な言葉をお授けになる（ゼパ 3：8−9）。

全地は同じ発音，同じ言葉であった（創世 11：1）。主が全地の言葉を乱された（創世 11：4−9）。彼らの生れ故郷の国語で，使徒たちが話しているのを，だれもかれも聞いて（使徒 2:1−6）。主なる神は人の言葉に倣って語られる（2ニフ 31：3〔教義 1：24〕）。ベニヤミンは，先祖のすべての言葉によって息子たちが教育を受けられるようにした（モサ 1：2−5）。言葉が柔和で人を教化する者は，わたしの定めに従うならば，神から出ている（教義 52：16）。もろもろの言語と国語と民族に通じるようにしなければならない（教義 90：15）。アダムとその子供たちの言葉は清らかで汚れのないものであった（モセ 6：5−6，46）。神はエノクに大いなる言葉の力を授けられた（モセ 7：13）。

子供　「家族」「祝福」「贖罪（しょくざい）」「救い—幼い子供たちの救い」「責任を負う」「幼児のバプテスマ」参照

年ごろになる以前の年少者。父親と母親は神の御心に従うように自分の子供を訓練しなければならない。責任を負う年齢に達するまで，子供には罪がない（モロ 8：22；教義 68：27）。

子供たちは神から賜わった嗣業であり（詩篇 127：3−5）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6）。幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない（マタ 19：14）。両親に従いなさい（エペ 6：1−3〔コロ 3：20〕）。堕落がなかったならば，アダムとエバは子供を持たなかったであろう（2ニフ 2：22−23）。子供たちに真理の道をまじめに歩むように教えなさい（モサ 4：14−15）。幼い子供たちも永遠の命を得る（モサ 15：25）。イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し（3ニフ 17：21）。あなたの子孫は皆，主によって教えを受け，あなたの子孫の平安は深い（3ニフ 22：13〔イザ 54：13〕）。幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない（モロ 8：8−24）。幼い子供たちは，わたしの独り子によって世の初めから贖（あがな）われている（教義 29：46−47）。両親は子供に福音の原則と生活習慣を教えなければならない（教義 68：25，27−28）。幼い子供たちは，イエス・キリストの贖罪（しょくざい）によって聖（きよ）められているので，聖（きよ）い者である（教義 74：7）。両親は子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じられている（教義 93：40）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。

ゴモラ　「ソドム」参照

『旧約聖書』の中の町。主によって滅ぼされた（創世 19：12−29）。

懲らしめ　「逆境」参照

個人やグループの改善と強化のためになされる矯正や懲戒。

全能者の懲らしめを軽んじてはならない（ヨブ 5：17〔箴言 3：11〕）。主よ，あなたによって懲らされる人はさ

いわいです（詩篇 94：12）。聖書はすべて，人を戒め，正しく導くのに有益である（2テモ 3：16）。主は愛する者を訓練し（ヘブ 12：5−11）。主は御自分の民を懲らしめるのを，御心にかなうことと見ておられる（モサ 23：21−22）。主が御自分の民を懲らしめられなければ，彼らは主を思い起こそうとしない（ヒラ 12：3）。主はヤレドの兄弟と話し，彼を懲らしめられた（エテ 2：14）。懲らしめを受けて，悔い改められるようにするため（教義 1：27）。わたしはまた，愛する者たちを懲らしめる。それは，彼らの罪が赦されるためである（教義 95：1）。懲らしめに耐えない者は皆，聖められることはあり得ない（教義 101：2−5）。わたしの民は従順を学ぶまで，必ず懲らしめを受けなければならない（教義 105：6）。懲らしめに耐えない者は，わたしの王国にふさわしくない（教義 136：31）。

ゴリアテ　「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。イスラエル軍に戦いを挑んだペリシテの巨人。ダビデはゴリアテの挑戦を受け入れ，主の助けによって彼を殺した（サ上 17 章）。

コリアンタマー　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の人物。ヤレド人の王。ヤレドの民の最後の残存者。

ゼラヘムラの民によって発見された（オム 1：21）。全地を治める王であった（エテ 12：1−2）。シェレドによって囚われの身となったが，息子たちによって自由の身となった（エテ 13：23−24）。様々な敵と戦った（エテ 13：28−14：31）。悔い改めた（エテ 15：3）。シズと最後の戦いをした（エテ 15：15−32）。

コリアントン　「アルマ（アルマの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの子。

ゾーラム人の中に出かけて行った（アル 31：7）。務めを放棄して，娼婦を追って行った（アル 39：3）。アルマは彼に，人の死後の状態と復活と贖罪について教えた（アル 39−42 章）。再び御言葉を宣べ伝えるように求められた（アル 42：31）。船で北方の地へ行った（アル 63：10）。

コリホル　「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。神の力の証拠としてしるしを求めた反キリスト。主はコリホルを物が言えないようにされた（アル 30：6−60）。

コリント人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 2 書。もともとはパウロがコリントの聖徒に，彼らの中に見られる無秩序を正すために書き送った手紙であった。コリント人は道徳的に邪悪な社会に住んでいた。

コリント人への第一の手紙：第 1 章には，パウロのあいさつと感謝の言葉が記されている。第 2−6 章にはコリント人の過ちをたしなめるパウロの言

葉，第 7−12 章には，幾つかの質問に対するパウロの答えが記されている。第 13−15 章は，慈愛や霊的な賜物，復活に関連した内容になっている。第 16 章には，信仰を強く保つようにとのパウロの勧告が含まれている。

コリント人への第二の手紙：第 1 章には，パウロのあいさつと感謝の言葉が記されている。第 2 章には，テトスへの個人的な助言が含まれている。第 3−7 章には，聖徒と指導者の生活における福音の力が採り上げられている。第 8−9 章には，貧しい人々に喜んで与える人になるようにとの聖徒への勧告が記されている。第 10−12 章では，パウロが使徒としての自分の立場を明確にしている。第 13 章には，完全になるようにとの勧告が記されている。

ゴルゴタ　「イエス・キリスト」「十字架の刑」参照

アラム語で「されこうべ」の意味。キリストが十字架につけられた場所（マタ 27：33；マコ 15：22；ヨハ 19：17）。ラテン語では「カルバリ」と呼ばれる。

コルネリオ　「異邦人」「百卒長」「ペテロ」参照

ペテロからバプテスマを受けたカイザリア（カイザリヤ）の百卒長（使徒 10 章）。ユダヤ教への改宗を経ずに教会に加わった最初の異邦人であったと思われる。コルネリオとその家族のバプテスマは，異邦人への福音宣教の開始を告げるものであった。この宣教を指導したのは，当時，地上における神の王国の鍵を持っていた使徒の頭ペテロであった。

コロサイ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。これはもともと使徒パウロがコロサイの教会の伝道者エパフラスの訪問を受けた後に，コロサイ人に書き送った手紙であった（コロ 1：7−8）。エパフラスはパウロに，コロサイ人が重大な過ちに陥ろうとしていると述べた。彼らは，幾つかの外形的儀式に注意深く従い（コロ 2：16），また物質的な欲求を断ち，天使礼拝を行っているということで自分たちが他の人々よりも優れていると考えていたのである（コロ 2：18）。コロサイ人たちは，このような行いのゆえに，自分たちは聖められていると考えていた。彼らはまた，自分たちは他の教会員よりも，宇宙の奥義を深く理解していると思っていた。パウロはその手紙の中で，贖いはキリストを通してのみ与えられること，また教会員は賢くあってキリストに仕えなければならないことを教え，彼らの過ちを正した。

第 1 章には，コロサイ人へのパウロのあいさつが記されている。第 2−3 章は教義的な内容であり，贖い主としてのキリスト，偽りの礼拝の危険性，復活の重要性などについて述べている。第 4 章では，聖徒はすべてのことにおいて賢くなければならないと教えている。

殺す　「殺人」「死刑」参照

コロブ

神の御座に最も近い位置にある星（アブ 3：2–3，9）。

アブラハムはコロブと数々の星を見た（アブ 3：2–18）。主の時はコロブの計算による（アブ 3：4，9〔アブ 5：13〕）。

罪悪感　「悔い改め」参照

罪に伴う後悔や悲しみの情。

罪を犯し，とがを得たならば（レビ 6：1–6）。罪のある者は，真理を厳しいものと思う（1ニフ 16：2）。わたしたちは，自分に罪があることについて，すべて完全な知識を得る（2ニフ 9：14）。わたしの罪がすでにぬぐい去られた（エノ 1：6）。罰が定められ，良心のとがめを生じさせた（アル 42：18）。自分の罪にだけ心を悩まし，その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい（アル 42：29）。あなたがたのある者はわたしの前に罪悪があるが，わたしは，あなたがたを憐れもう（教義 38：14）。神の御子は最初のとがを贖われ（モセ 6：54）。

最後の裁き　「イエス・キリスト―裁き主」「裁き」「罪の宣告」参照

復活の後に行われる最終的な裁き。神はイエス・キリストを通して，一人一人の人間がどの永遠の栄光を受けるか決めるために，裁きを行われる。この裁きは，イエス・キリストの贖いの犠牲を受け入れたかどうかも含めて，神の戒めに対する各人の従順さを基準にして行われる。

父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて，子にゆだねられた（ヨハ 5：22）。わたしたちはみな，キリストのさばきの座の前に立つのである（KJ ロマ 14：10）。死人は，書かれていることにしたがって，さばかれた（黙示 20：12〔教義 128：6–7〕）。あなたがたは自分のすべての行いについて裁きを受ける（1ニフ 10：20）。十二使徒と 12 人のニーファイ人の弟子はイスラエルを裁く（1ニフ 12：9〔教義 29：12〕）。すべての人は，イスラエルの聖者の裁きの座の前に出なければならない（2ニフ 9：15）。あの栄えある日のために，あなたがた自身を備えなさい（2ニフ 9：46）。神の裁きの座に連れ出される自分自身を，心に描くことができるであろうか（アル 5：17–25）。イエス・キリストは立って世を裁かれる（3ニフ 27：16）。主は裁きのためにのろいをもって，神を敬わない者のうえに降って来られる（教義 133：2）。

最後の晩餐　「過越」「聖餐」参照

『新約聖書』に書かれている，イエスが捕縛されて十字架につけられる前に取られた最後の食事（ルカ 22：14–18）。イエスと 12 人の使徒たちは過越のときにこの食事をされた（マタ 26：17–30；マコ 14：12–18；ルカ 22：7–13）。

イエスはパンとぶどう酒を祝福し，弟子たちに与えられた（マタ 26：26–29〔マコ 14：22–25；ルカ 22：7–20〕）。イエスは弟子たちの足を洗われた（ヨハ 13 章）。イエスはユダが裏切ろうとしていると言われた（ヨハ 13：21–26〔マタ 26：20–25〕）。

祭司（アロン神権の）「アロン（モーセの兄）」「アロン神権」「大祭司」参照

アロン神権の職の一つ。古代において祭司の職は，アロンとその子孫だけに授けられた，レビ神権の最高位の職であった。キリストがモーセの律法を成就されたことにより，この制限は取り除かれた。

回復された教会の祭司の義務が述べられる（教義 20：46−52）。

祭司（メルキゼデク神権の）「大祭司」「メルキゼデク神権」参照

ほかの人々のために，神に対して宗教上の儀式を執行する人。聖典に述べられている祭司は，実際はメルキゼデクの位に従う大祭司を指していることが多い（アル 13：2）。復活の後に神の完全な栄光を受ける人々は，日の栄えの世界で祭司となり王となる。

メルキゼデクはいと高き神の祭司であった（創世 14：18）。あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である（詩篇 110：4〔ヘブ 5：6；7：17，21〕）。わたしたちを，父なる神のために，王とし，祭司として下さった（KJ 黙示 1：6〔黙示 5：10；20：6〕）。主なる神が，聖なる位に従って祭司たちを聖任されたことを覚えておいてほしい（アル 13：1−20）。正しい者の復活の時に出て来る人々は祭司であり，王である（教義 76：50，55−60）。

最初の示現「スミス，ジョセフ，ジュニア」「福音の回復」参照

ある森の中で父なる神と御子イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに御姿を現された出来事。

1820 年の春，ジョセフ・スミス・ジュニアは 14 歳であり，家族とともにニューヨーク州パルマイラという町に住んでいた。彼らの家から西へ少し行った所に大きな木の生い茂る森があった。ジョセフはその森へ行き，どの教会が正しいかを知るために，神に祈りをささげた。以前，『聖書』を読んでいて，その答えを神に求めなければならないと強く心に感じていたのである（新ヤコ 1：5−6）。ジョセフの祈りにこたえて御父と御子が御姿を現し，それらのどれにも加わってはならない，すべて間違っているからである，と言われた（ジ―歴史 1：15−20）。この神聖な体験は，福音とイエス・キリストのまことの教会の回復をもたらす出来事の始まりを告げるものであった。

祭壇「犠牲」参照

犠牲や供え物をささげたり礼拝したりするために用いられる構築物。

ノアは主に祭壇を築いて，燔祭（はんさい）をささげた（創世 8：20）。アブラムは主のために祭壇を築いた（創世 12：7−8）。アブラハムはその子イサクを縛って祭壇の上に載せた（創世 22：9〔創世 22：1−13〕）。ヤコブは祭壇を築き，その所をエル・ベテルと名づけた（創世 35：6−7）。エリヤは祭壇を築き，バアルの預言者たちに挑んだ（列上 18：17−40）。祭壇に供え物をささげようとする場合，まず兄弟と和解しなさい（マタ 5：23−24）。神の言（ことば）のゆえに殺された人々の霊魂が，祭壇の下

にいるのを，わたしは見た（黙示 6：9〔教義 135：7〕）。リーハイは石で一つの祭壇を築き，主に感謝をささげた（1ニフ 2：7）。アブラハムはエルケナの祭壇上で死から救われた（アブ 1：8−20）。

再臨（イエス・キリストの）　「イエス・キリストの再臨」参照

サウル（イスラエルの王）

『旧約聖書』の中の人物。分裂前のイスラエルの最初の王。治世の当初は義人であったが，後に高慢になり，神に対して不従順になった（サ上 9−31 章）。

サウロ（タルソの）　「パウロ」参照

ザカリヤ　「エリサベツ」「ヨハネ（バプテスマの）」参照

『新約聖書』の中の人物。バプテスマのヨハネの父。祭司の職にあって，神殿で務めを果たした。

天使ガブリエルは，ザカリヤとその妻エリサベツに，男の子が授けられると約束した（ルカ 1:5−25〔教義 27:7〕）。口が開けて舌がゆるみ，神をほめたたえた（ルカ 1：59−79）。聖所と祭壇との間で殺された（マタ 23：35〔ルカ 11：50〕）。

ささげ物　「犠牲」「什分（じゅうぶん）の一」「断食」「福祉」「施し」参照

主への贈り物。『旧約聖書』では，犠牲あるいは燔祭（はんさい）を指す言葉としてしばしば用いられている。今日の教会は，断食献金や自由意志によるささげ物を（時間や才能や持ち物を含め），貧しい人々への援助やその他の価値ある事柄のために用いている。

あなたがたは，わたしの物を盗んでいる。十分の一と，ささげ物をもってである（マラ 3：8−10）。まず兄弟と和解し，それから供え物をささげることにしなさい（マタ 5：23−24）。自分自身をキリストへのささげ物としてささげ（オム 1：26）。人はささげ物をしても，真心からしなければ，その人にとって何の役にも立たない（モロ 7：6）。レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで，これは決して再び地上から取り去られることはないであろう（教義 13：1）。主の日に，あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげなければならない（教義 59：12）。わたしたちは教会として，また民として，また末日聖徒として，義をもってささげ物を主にささげましょう（教義 128：24）。

定め　「儀式」参照

神の律法や掟（おきて）を意味する。

神の定めを守ってきたことが，どんな益になっているか（3ニフ 24：13−14）。祈り，また悔いる霊を持っている者は，わたしの定めに従うならば，わたしに受け入れられる（教義 52：14−19）。

サタン　「悪魔」参照

殺人　「カイン」「死刑」参照

法によらず故意に人を殺すこと。殺

人は時の初めから罰すべき罪としてとがめられてきた(創世 4:1−12;モセ 5:18−41)。

人の血を流すものは，人に血を流される（創世 9：6〔JS 創世 9：12−13；出エ 21：12；アル 34：12〕)。あなたは殺してはならない（出エ 20：13〔申命 5：17；マタ 5：21−22；モサ 13：21；教義 59：6〕)。殺すな（マタ 19：18)。人殺しは第二の死を報いとして受ける（黙示 21：8)。あなたがたは心の中で人殺しをした（1ニフ 17：44)。故意に人を殺す者は災いである（2ニフ 9：35)。主なる神は，人を殺してはならないと命じられた（2ニフ 26：32)。殺人は主にとって忌まわしい行いである（アル 39：5−6)。殺す者は赦しを得られない（教義 42：18)。人を殺すならば，その者を引き渡し，その地の法律に従って処置することになる（教義 42：79)。

サドカイ人　「ユダヤ人」参照

ユダヤ人の中では少数派であったが，政治的に有力な党派であった。彼らはモーセの律法に字義どおりに従う厳密な信条と，霊や天使の存在ならびに復活と永遠の命の教義の否定によって最もよく知られていたと思われる(マコ 12：18−27；使徒 4：1−3；23：7−8)。

裁き　「イエス・キリスト―裁き」「最後の裁き」「罪の宣告」参照

福音の原則との関連において行いを評価すること。判断を下すこと。善悪を区別すること。

モーセは座して民をさばいた（出エ 18：13)。正義をもって隣人をさばかなければならない（レビ 19：15)。人をさばくな。自分がさばかれないためである（マタ 7：1〔JS マタ 7：1−2；ルカ 6：37；3 ニフ 14：1〕)。律法のもとで罪を犯した者は，律法によってさばかれる（ロマ 2：12)。聖徒は世をさばく（1コリ 6：2−3)。永遠の神の御子は世に裁かれた（1ニフ 11：32)。小羊の十二使徒はイスラエルの十二部族を裁く（1ニフ 12：9〔教義 29：12〕)。死と地獄と悪魔と，それらに捕らえられたすべての者は，裁かれる（2ニフ 28：23〔1 ニフ 15：33〕)。物乞いをする人を，あなたがたが裁くならば，自分の持ち物を与えないことで罪に定められることの方が，もっと理にかなってはいないだろうか（モサ 4：22)。人々が自分の行いに応じて裁かれる（アル 41：3)。義にかなって裁き，絶えず善を行いなさい（アル 41：14)。これから書き記される数々の書によって，民は裁かれるであろう(3ニフ 27：23−26〔黙示 20：12〕)。この民の残りの者は，イエスがエルサレムの地で選ばれた 12 人から裁きを受ける（モル 3：18−20)。モルモンは善悪を判断する方法を説明した（モロ 7：14−18)。義にかなって裁くように導く御霊を信頼しなさい（教義 11：12)。あなたがたは心の中で言うべきである。すなわち，「神がわたしとあなたの間を裁いてくださるように」と(教義 64：11)。主の教会はもろもろの国民を裁く（教義 64：37−38)。御子は獄にいる霊を訪れ，彼らが肉において人間として裁きを受けることができるようにされた（教義 76：73〔1 ペ

テ 4：6））。ビショップはイスラエルの判士となる（教義 107：72–74）。主なるわたしは，すべての人をその行いに応じて，またその心の望みに応じて裁く（教義 137：9）。

サマリヤ　「サマリヤ人」参照

『旧約聖書』の中の地名。イスラエルの北王国の首都（列上 16：23–24）。丘の上に位置するという軍事上の利点から，アッシリア人（アッスリヤ人）も 3 年にわたる包囲の末にようやく占領できたほどである（列下 17：5–6）。ヘロデがこれを再建し，セバステと呼んだ。新約の時代には，サマリア（サマリヤ）はヨルダン川西域のパレスチナ中央部全体を指す地名として用いられていた。

サマリヤ人　「サマリヤ」参照

『聖書』の中の民。イスラエルの北王国がアッシリア人（アッスリヤ人）に占領された後に，サマリア（サマリヤ）に住んだ人々。サマリア人（サマリヤ人）は，イスラエル人と異邦人の混血であった。彼らの宗教は，ユダヤ人と異教徒の信仰と慣習の混じり合ったものである。ルカ 10：25–37 の良いサマリア人のたとえからは，サマリア人がイスラエルの宗教に背を向けていたことで，ユダヤ人が彼らに憎しみを募らせていたことがうかがえる。主は使徒たちに，サマリア人にも福音を教えるように命じられた（使徒 1：6–8）。ピリポはサマリアの人々にキリストの福音を宣べ伝え，彼らの間で数多くの奇跡を行った（使徒 8：5–39）。

サム　「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの三男（1 ニフ 2：5）。正しく聖なる人で，主に従うことを選んだ（1 ニフ 2：17；2 ニフ 5：5–6；アル 3：6）。

サムエル（旧約の預言者）

旧約の預言者。エルカナとハンナの息子。母の祈りへの答えとして生まれた（サ上 1 章）。幼年時代，サムエルはシロに置かれていた幕屋で大祭司の務めにあったエリのもとで育てられた（サ上 2：11；3：1）。主は年若いサムエルを預言者として召された（サ上 3 章）。エリの死後，サムエルはイスラエルの偉大な預言者，士師となり，律法と秩序，規則にのっとった宗教礼拝を回復した（サ上 4：15–18；7：3–17）。

サムエル上 28：5–20 には，サウル王の要請でエンドルの口寄せがサムエルを死から呼び起こしたという記述がある。しかし，これを神からの示現と考えることはできない。口寄せやその他の霊媒には，自分の求めに従って預言者を登場させるような力はないからである（サ上 28：20）。

サムエル記上・下：『聖書』によっては，この上下巻をまとめて 1 書としているものもあり，2 書に分けられているものもある。この 2 書は，サムエルの誕生からダビデ王の死の直前までの約 130 年の期間を扱っている。

サムエル記上：第 1–4 章には，主がエリの家族に災いを宣告して，罰を下されたこと，またサムエルを大祭司

と士師の職に召されたことが書かれている。第4–6章には，契約の箱がペリシテ人の手に渡ったいきさつが述べられている。第7–8章には，偽りの神々と悪い王を持つことに対するサムエルの警告が書かれている。第9–15章には，サウルの戴冠と，王としての彼の治世が述べられている。第16–31章には，ダビデの経歴と彼が力をつけていく様子が描かれている。サムエルはゴリアテを倒したダビデに油を注いだ。サウルはダビデを憎んだ。しかしダビデは機会があったにもかかわらず，サウルを殺そうとしなかった。

サムエル記下：この書には，ユダの王，また後には全イスラエルの王としてのダビデの治世が詳細に描かれている。第1–4章には，ダビデがユダの王になった後も，ダビデの支持者とサウルの支持者の間で長い争いがあったことが記されている。第5–10章には，ダビデが多くの地域で権勢を伸ばしていった様子が描かれている。第11–21章には，自分自身の罪と家族の内部から起きた反逆のために，ダビデの霊的な力が衰えていく様子が描かれている。第22–24章には，ダビデの神との和解への試みが描かれている。

サムエル（レーマン人）

『モルモン書』の中の人物。レーマン人の預言者。ニーファイ人に教えと警告を与えるために，救い主の降誕直前に主から遣わされた。サムエルはイエス・キリストの降誕と死のしるし，ならびにニーファイ人の滅亡について預言した（ヒラ13–16章）。

サムソン

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの12番目の士師。サムソンは怪力で知られていたが，道徳的な選択と行いという面で幾つか過ちを犯した（士師13：24–16：31）。

サラ　「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の人物。アブラハムの最初の妻。老年になって，イサクを産んだ（創世18：9–15；21：2）。

サライア　「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの妻（1ニフ5：1–8；8：14–16；18：19）。子供として，レーマン，レムエル，サム，ニーファイ，ヤコブ，ヨセフ，それに何人かの娘がいた（1ニフ2：5；2ニフ5：6）。

サレム　「エルサレム」「メルキゼデク」参照

『旧約聖書』の中の地名。メルキゼデクが統治した町。この町は現在のエルサレムと同じ場所にあったと思われる。「サレム」という名は「平和」を意味するヘブライ語によく似ている。

サレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒とを持ってきた（創世14：18）。メルキゼデクはサレムの王であり，いと高き神の祭司であった（ヘブ7：1–2）。メルキゼデクは，サレムの地を治める王であった（アル13：17–18）。

賛意の表明　「同意の律法」参照

産児制限　「家族」「結婚」参照

妊娠を避けたり，抑制したりして，子供の出産数を制限すること。

生めよ，ふえよ，地に満ちよ（創世 1：28〔モセ 2：28〕）。子供たちは神から賜わった嗣業である（詩篇 127：3−5）。リーハイの家族は主のために子供をもうけられるようにした（1ニフ 7：1）。結婚は人のために神によって定められている（教義 49：15−17）。とこしえにいつまでも子孫が満ちて続く（教義 132：19，63）。

山上の垂訓　「イエス・キリスト」「至福の教え」参照

主イエス・キリストが，これから召しを受けて人々の間に遣わされることになっていた弟子たちに向けて語られた説教（マタ 5−7 章；ルカ 6：20−49）。主がこの教えを説かれたのは，十二使徒を召された直後である。

この説教の内容は，『聖書』のジョセフ・スミス訳と 3 ニーファイ 12−14 章に記録されている同様の説教によって意味が明確になっている。また，これら二つの記録により，マタイの記録から説教の重要な部分が失われていることが分かる。

三人の弟子（ニーファイ人の）　「弟子」「ニーファイ人」「身を変えられた人」参照

『モルモン書』の中の人物。キリストが選ばれた 3 人の弟子。

主はこの 3 人の弟子に，愛弟子（まなでし）ヨハネと同じ祝福を授けられた。それは，主が再び来られるまで地上にとどまり，人々をキリストのもとに導くことができるというものである。彼らは苦しみを感じることも死ぬこともないように，身を変えられた（3 ニフ 28 章）。

キリストは，その来臨の時まで生き長らえたいという 3 人の弟子たちの願いを聞き入れられた（3ニフ 28：1−9）。死の苦しみや悲しみを感じることがない（3ニフ 28：7−9）。彼らは満ちみちる喜びを得る（3ニフ 28：10）。一時的に天に引き上げられた（3ニフ 28：13−17）。彼らは民に仕え，迫害に耐えた（3ニフ 28：18−23）。モルモンを教え導いた（3ニフ 28：24−26〔モル 8:10−11〕）。異邦人，ユダヤ人，散らされた部族，およびすべての国民を教え導く（3ニフ 28：27−29）。サタンは彼らを支配する力をまったく持てない（3ニフ 28：39）。

賛美　「栄光」「感謝」参照

賛美歌　「歌う」「音楽」参照

神をたたえる歌。

十二使徒が賛美の歌を歌った後，主はゲツセマネへ行かれた（マタ 26：30）。主は賛美歌を選ぶためにエマ・スミスを召された（教義 25：11）。義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして，彼らの頭（こうべ）に祝福が注がれるであろう（教義 25：12）。歌と音楽をもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

サンヒドリン　「ユダヤ人」参照

行政と宗教の両面における，ユダヤの最高議会，最高法廷。サンヒドリンは，祭司長，律法学者，長老の中から選ばれた 71 人の議員で構成されていた。『聖書』の中ではしばしば「議会」と呼ばれている（マタ 26：59；マコ 14：55；使徒 5：34）。

散乱（イスラエルの）「イスラエル―イスラエルの散乱」参照

死（第二の）「死（霊の）」参照

死（肉体の）「死すべき状態」「救い」「堕落（アダムとエバの）」「復活」参照

肉体と霊の分離。アダムの堕落以前，地上にいた命あるものは死ぬことがなかった（2 ニフ 2：22；モセ 6：48）が，堕落によって，地上に腐朽と死がもたらされた。しかし，イエス・キリストの贖罪（しょくざい）が死を征服したので，すべての人が復活するようになった（1 コリ 15：21–23）。復活は，現世において善をなしたか悪をなしたかにかかわらず，すべての人に無料で与えられる賜物（たまもの）である（アル 11：42–44）。人は皆肉体の死を一度だけ経験するが，一度復活した後は，二度と死なない体になる（アル 11：45）。

すべての肉は共に滅び，人はちりに帰るであろう（ヨブ 34：15）。主の聖徒の死はそのみ前において尊い（詩篇 116：15）。ちりは土に帰り，霊は神に帰る（伝道 12：7）。死がひとりの人によってきた（1コリ 15：21）。死と黄泉（よみ）とのかぎを持っている（黙示 1：18）。もはや，死もなく，悲しみもない（黙示 21：4）。死がすべての人に及ぶようになった（2ニフ 9：6，11〔アル 12：24〕）。死を少しも恐ろしいと思わなかった（アル 27：28）。アルマは死と復活の間の人の状態について説明した（アル 40：11）。わたしにあって死ぬ者は死を味わわないであろう（教義 42：46）。死に定められていない者は，癒（いや）されるであろう（教義 42：48）。死に至るまでも，あらゆる点であなたがたを試す（教義 98：14）。あなたはちりに帰る（モセ 4：25）。アダムの堕落によって死が生じ（モセ 6：48）。

死（霊の）「悪魔」「地獄」「救い」「堕落（アダムとエバの）」「罰の定め」「滅びの子」参照

神とその影響からの分離。義に関する事柄について死んだ状態になること。ルシフェルと天の衆群の 3 分の 1 は，天から投げ落とされたときに霊の死を受けた（教義 29：36–37）。

霊の死はアダムの堕落によって世にもたらされた（モセ 6：48）。思いや言葉や行いが邪悪な人は，たとえこの世に生きていたとしても，霊的には死んでいる（1 テモ 5：6）。イエス・キリストの贖罪（しょくざい）を通して，また福音の原則と儀式に従うことにより，人は男女を問わず罪から清められ，霊の死に打ち勝つことができる。

霊の死は肉体の死の後にも起こる。復活した人に対しても，悪魔やその使いに対しても，裁きは行われるのである。福音の光と真理に故意に背く者は霊の死を受ける。この死はしばしば第二の死と呼ばれる（アル 12：16；ヒ

ラ 14：16−19；教義 76：36−38)。

悪を行う者は断ち滅ぼされ（詩篇 37：9)。肉の思いは死である（ロマ 8：6〔2 ニフ 9：39〕)。情欲は人を滅びと破壊とに沈ませる（1テモ 6：9)。罪は死を生み出す（新ヤコ 1：15)。勝利を得る者は，第二の死によって滅ぼされることはない（黙示 2：11)。この人たちに対しては，第二の死はなんの力もない（黙示 20：6，12−14)。火と硫黄の燃えている池が，邪悪な人々の受くべき報いである。これが第二の死である（黙示 21：8〔教義 63：17−18〕)。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27〔2 ニフ 10：23；アル 29：5；ヒラ 14：30−31〕)。神は死と地獄から逃れる道を備えてくださっている（2ニフ 9：10)。第二の死であるあの火と硫黄の池に投げ込まれることのないように，地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい（ヤコ 3：11)。生まれながらの人は神の敵であり（モサ 3：19)。主があなたがたに悔い改めることを許してくださって，あなたがたが第二の死を受けることのないように願っている（アル 13：30)。アルマは永遠の死の鎖に縛られていた（アル 36：18)。悪人は義にかかわることに関して死んだ状態になる（アル 40：26〔アル 12：16〕)。堕落は全人類に霊の死ももたらした（アル 42：9〔ヒラ 14：16−18〕)。アダムは堕落したとき，霊的に死ぬことになった（教義 29：40−41，44)。

慈愛　「愛」「哀れみ」「福祉」「奉仕」参照

キリストの純粋な愛（モロ 7：47)。キリストが人の子らに対して抱いておられる愛，また人の子らが互いに抱くべき愛（2 ニフ 26：30；33：7−9；エテ 12：33−34)。単なる愛慕の情ではなく，最も気高く，尊く，しかも強い愛。

知識は人を誇らせ，愛は人の徳を高める（1コリ 8：1)。慈愛すなわち純粋な愛は，他のいかなるものよりも大いなるものである（1コリ 13 章)。この命令は，清い心から出てくる愛を目標としている（1テモ 1：5)。兄弟愛に愛を加えなさい（2ペテ 1：7)。人は皆，慈愛すなわち愛を持つようにとの戒めを与えられた（2ニフ 26:30〔モロ 7：44−47〕)。あなたがたは信仰，希望，慈愛を必ず持つようにしてほしい（アル 7：24)。あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛である（エテ 12：33−34)。人は慈愛を持たなければ，あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません（エテ 12：34〔モロ 10：20−21〕)。モロナイは，信仰と希望と慈愛について述べたモルモンの言葉を記録した（モロ 7 章)。慈愛を持つ者には，主の業に携わる資格がある（教義 4：5−6〔教義 12：8〕)。慈愛のきずなを，身にまといなさい(教義 88：125)。あなたの心が慈愛で満たされるようにしなさい（教義 121：45)。

シーレム　「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。キリストを否定し，しるしを求めた（ヤコ 7：1−20)。

ジェロム

『モルモン書』の中の人物。エノスの息子で，リーハイの曾孫に当たる。ジェロムは紀元前 420–361 年までの 60 年間，ニーファイ人の記録を保管した（エノ 1：25；ジェロ 1：13）。彼は歴史的な記録をあまり書かなかったが，忠実な人物であった（ジェロ 1：2）。

ジェロム書：『モルモン書』の中で，この書はわずか 15 節しかない。ジェロムは，ニーファイ人がモーセの律法を守り続け，キリストの来臨を待ち望んでいたことを記録している。ニーファイ人は信仰の篤い王たちによって導かれた。彼らは，預言者や祭司，教師の言葉を心に留めたときには栄えた。

塩

古代世界においては，食物の保存料として重要であった。また，生命の維持に不可欠のものと考えられていた。

ロトの妻は塩の柱になった（創世 19：26）。あなたがたは，地の塩である（マタ 5：13〔ルカ 14：34；3 ニフ 12：13〕）。永遠の聖約を交わすとき，彼らは地の塩と見なされる（教義 101：39–40）。聖徒が人々の救い手でなければ，彼らは塩気を失った塩のようである（教義 103：9–10）。

シオン　「エノク」「新エルサレム」参照

心の清い者（教義 97：21）。シオンという言葉には，心の清い人々が住む所という意味もある。エノクとその民が築き，ついに義のゆえに天に取り上げられた町はシオンと名付けられた（教義 38：4；モセ 7：18–21，69）。末日にシオンという名の町がミズーリ州ジャクソン郡の近くに建設される。そしてイスラエルの諸部族がここに集合する（教義 103：11–22；133：18）。聖徒たちは，世界のどこに住んでいるかにかかわらず，その地でシオンを築くように勧告されている。

ダビデの町はシオンと呼ばれた（列上 8：1）。律法はシオンから出る（イザ 2：2–3〔ミカ 4：2；2 ニフ 12：2–3〕）。贖い主はシオンに来られる（イザ 59：20）。町からひとり，氏族からふたりを取って，あなたがたをシオンへ連れて行こう（エレ 3：14）。シオンの山とエルサレムとに，のがれる者があるからである（ヨエ 2:32〔オバ 1:17〕）。わたしのシオンを起こそうと努める者は幸いである（1ニフ 13：37）。シオンの娘たちは高ぶり（2ニフ 13：16〔イザ 3：16〕）。シオンでのんきに暮らす者は，災いである（2ニフ 28：19–25）。シオンの大義を起こして確立するように努めなさい（教義 6:6〔教義 11：6〕）。わたしは，善のために大いなる力をもってシオンの大義を推し進めるようにと彼に霊感を与えた（教義 21：7）。新エルサレムはシオンと呼ばれる（教義 45：66–67）。ミズーリ州インディペンデンスは，シオンの町のための場所である（教義 57:1–3）。悔い改めるまで，シオンの子らのうえに懲らしめが残る（教義 84：58）。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし，思いを一つにし，義のうちに住んだからである（モセ 7：18

−19)。シオンがアメリカ大陸に築かれる（箇条 1：10)。

死海

ヨルダン渓谷南端の塩湖。「塩の海」と呼ばれた。湖面は地中海の海面より約 400 m低い。湖岸近くには，ソドム，ゴモラ，またベラとも呼ばれたゾアルなどの町があった（創世 14：2−3)。

預言の成就として，また救い主の再臨のしるしの一つとして，死海の水は清くなり，多くの生き物が住むようになる（エゼ 47：8−9)。

識別の賜物（たまもの）　「御霊（みたま）の賜物（たまもの）」参照

御霊（みたま）の力によって理解すること，知ること。識別の賜物（たまもの）は御霊（みたま）の賜物（たまもの）の一つである。この賜物（たまもの）には，人の本来の姿や，霊的な現れの源や意味を理解することも含まれる。

人は外の顔かたちを見，主は心を見る（サ上 16：7)。彼らは悪を呼んで善といい（イザ 5：20〔2 ニフ 15：20〕)。神につけることは御霊（みたま）によって判断される（1コリ 2：14)。ほかの人には霊を見わける力が与えられている（1コリ 12：10)。思いを見抜くことができた（アル 18：18，32)。小さな声でありながら，聞いた人々の心の中まで貫いた（3ニフ 11：3)。欺かれないために熱心に最善の賜物（たまもの）を求め(教義 46:8, 23)。教会の指導者は御霊（みたま）の賜物（たまもの）を見分ける力を与えられる（教義 46：27)。光に満たされるその体はすべてのことを悟る（教義 88：67)。モーセは地を見た。彼は神の御霊（みたま）によってそれを見極めた（モセ 1：27)。

死刑　「殺人」参照

犯罪者に対してその命を絶つ刑罰。特に殺人罪に対する罰として行われる。

人の血を流すものは，人に血を流される（創世 9：6〔JS 創世 9：12−13〕)。故殺人（こさつにん）は必ず殺されなければならない（民数 35：16)。故意に人を殺す者は災いである。彼は死ぬからである（2ニフ 9：35)。法律により，あなたに死刑を宣告する（アル 1：13−14)。人を殺す者は死刑に処せられた（アル 1：18)。法律は人を殺した当人の命を要求する（アル 34：12)。殺す者は，死ななければならない（教義 42：19)。

示現　「啓示」「最初の示現」「夢」参照

聖霊の力を通して与えられる，出来事や人物，物事についての目に見える啓示。

重要な啓示として，次のような例を挙げることができる。終わりの時についてのエゼキエルの示現（エゼ 37−39 章)，神の右にイエスが立っておられるのを見たステパノの示現（使徒 7：55−56)，終わりの時についてのヨハネの黙示（黙示 4−21 章)，リーハイとニーファイの命の木の示現（1 ニフ 8；10−14 章)，主の天使を見た息子アルマの示現（モサ 27 章)，地に住むすべての民を見たヤレドの兄弟の示現（エテ 3 ： 25)，栄光の示現（教義 76 章)，カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに与えられた示現（教義 110 章)，死者の贖（あがな）いに関するジョセフ・F・スミスの示現

(教義138章), 神と創造についてのモーセの示現（モセ1章), 神にまみえたエノクの示現（モセ6−7章), ジョセフ・スミスの最初の示現（ジ―歴史1)。

示現がなければ民は滅びる（KJ箴言29：18)。若者たちは幻を見る（ヨエ2：28〔使徒2：17〕)。神は，示現によってわたしに知識を授けられた(2ニフ4：23)。神の前から遣わされた使者である（ジ―歴史1：33)。わたしたちは，預言，啓示，示現があることを信じる（箇条1：7)。

地獄　「悪魔」「死（霊の)」「罰の定め」「滅びの子」参照

末日の啓示では，地獄という言葉は少なくとも二つの意味で用いられている。一つは,現世において不従順であった人々が霊界で一時的にとどまる場所を指す。この意味では，地獄にも終わりがある。霊たちはそこで福音を教えられ，悔い改めた後に，自分にふさわしい栄えの階級に復活する。悔い改めないながらも，滅びの子とはならない者は，福千年の間地獄にとどまる。この苦しみの千年の後に，彼らは星の栄えの栄光に復活する（教義76：81−86；88：100−101)。

もう一つは，イエス・キリストの贖罪によって贖われない者が永久にとどまる所を指す。この意味では，地獄は永久的である。この地獄は「汚れたまま」の者のためにある（教義88：35, 102)。サタンとその使い，ならびに滅びの子，すなわち御父から御子を示された後に御子を否定した者たちが永遠に住む場所である（教義76：43−46)。

聖典には，地獄を外の暗闇と表現している箇所が幾つかある。

あなたはわたしを陰府に捨ておかれず（詩篇16：10〔詩篇86：13〕)。地獄の消えない火の中に落ち込む（マコ9：43〔モサ2：38〕)。金持が黄泉にいて苦しみながら，目をあげると（ルカ16：22−23〔教義104：18〕)。死も黄泉もその中にいる死人を出し（黙示20：13)。用意された場所が一つあります。まことに，それはあの恐ろしい地獄です(1ニフ15:35)。肉の思いは，悪魔の霊に力を与え，あなたがたを捕らえて地獄に落とし（2ニフ2：29)。キリストは死と地獄から逃れる道を備えてくださった（2ニフ9：10−12)。汚れている者は永遠の苦痛の中に入る(2ニフ9：16)。悪魔は人々をだまし，巧みに地獄に誘い落とすのである（2ニフ28：21)。イエスがわたしを地獄から贖ってくださった（2ニフ33：6)。地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい（ヤコ3：11)。悪魔に捕らえられて，悪魔の意のままに滅びに引き込まれる。地獄の鎖とはこのことを意味する（アル12：11)。悪人の霊は外の暗闇に追い出され，復活の時までその状態にとどまる（アル40：13−14)。汚れた者が神とともに住むときの悲惨は，地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう（モル9：4)。わたしの手から与えられる罰は無窮の罰である（教義19：10−12)。地獄は悪魔とその使いのために用意された場所である（教義29：37−38)。神を認める者は死と地獄の鎖から解放される（教義138：23)。

支持（教会指導者の）　「同意の律法」参照

中央また地元の教会指導者として働く人々を支えると誓うこと。

全会衆の前に立たせて，彼らの前で職に任じなさい（民数 27：18−19）。民はみな「王万歳」と叫んだ（サ上 10：24）。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう（歴下 20：20）。あなたがたの指導者たちに従いなさい（ヘブ 13：17）。あなたはつぶやくことがなかったので，主から恵みを受けるであろう（1ニフ 3：6）。預言者たちを受け入れた人々は命を助けられた（3ニフ 10：12−13）。この 12 人の言葉に注意を払うならば，あなたがたは幸いである（3ニフ 12：1）。わたし自身の声によろうと，わたしの僕（しもべ）たちの声によろうと，それは同じである（教義 1：38）。あたかもわたし自身の口から出ているかのように，彼の言葉を受け入れなければならない（教義 21：5）。この神権を受けるすべての者は，わたしを受け入れるのである（教義 84：35−38）。だれでもわたしを受け入れる者は，わたしが遣わした者を受け入れる（教義 112：20）。わたしが任命したこれらの者の声にも聞き従おうとしなければ，祝福されないであろう（教義 124：45−46）。

士師記

『旧約聖書』の中の 1 書。士師記は，ヨシュアの死からサムエルの誕生に至るまでのイスラエル人を扱ったものである。

第 1−3 章は，士師記全体の序に当たり，イスラエル人が敵をことごとく追い出すことをしなかったために（士師 1：16−35），信仰の喪失，不信者との結婚，偶像礼拝という結果を招いてしまったことが説明されている。第 3−5 章には，イスラエルをカナン人から救ったデボラとバラクの話が記されている。第 6−8 章は，主の祝福を受けてイスラエルをミデアン人から救った，信仰を鼓舞するギデオンの話である。第 9−12 章には，主として背教と抑圧の下でイスラエルの士師として働いた幾人かの話が載せられている。第 13−16 章には，最後の士師サムソンの隆盛と衰亡が描かれている。最後の第 17−21 章は付録に相当するもので，イスラエルの罪の深さを明らかにしている。

死者の救い　「贖（あがな）いの計画」「覚えの書」「系図」「救い」参照

福音の救いの儀式を受けることなく死んだ人々のために，生きているふさわしい教会員が神殿でこれらの儀式を執行すること。死者は霊界で福音を教えられ，地上で彼らのために執行された儀式を受け入れることができる。

忠実な教会員は，先祖の名前や出生年月日を明らかにすることにより，彼らのための救いの儀式が執行されるように，家族の歴史を調べ，記録を作成する。

捕えられた人に「出よ」と言い（イザ 49：9〔イザ 24：22；1 ニフ 21：9〕）。捕われ人に放免を告げ（イザ 61：1〔ルカ 4：18〕）。父の心をその子供たちに向けさせ（マラ 4：5−6〔3 ニフ 25：5

−6；教義 110：13−16〕)。死んだ人たちが，神の子の声を聞く時が来る（ヨハ 5：25)。なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか（1コリ 15：29)。獄に捕われている霊どものところに下って行き，宣べ伝えることをされた（1ペテ 3：18−20)。死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは（1ペテ 4：6)。獄にとどめられた人々の霊に，御子が訪れて，福音を宣べ伝えられた（教義 76：73)。獄において彼らの分を受けた者たちの贖いが来る（教義 88：99)。わたしの聖徒たちが死者の代わりにバプテスマを受けるバプテスマフォントが地上にない（教義 124：29)。福音を知らずに死んだ者で，受け入れたであろう者は皆，日の栄えの王国を受け継ぐ者となる（教義 137：7−10)。神の御子が現れて，忠実であった囚われ人に自由を宣言された（教義 138：18)。獄にいた霊たちの多くが出て来て（モセ 7：57)。

シズ　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の人物。ヤレド人の軍隊の指導者。シズはヤレド人の国家全体を滅ぼした大戦争の最後に死んだ（エテ 14：17−15：31)。

死すべき状態　「体」「死（肉体の）」「堕落（アダムとエバの）」「世」参照

誕生から肉体の死に至るまでの期間。第二の位と呼ばれることもある。

それを取って食べると，きっと死ぬであろう（創世 2：16−17〔モセ 3：16−17〕)。ちりは土に帰り，霊は神に帰る（伝道 12：7〔創世 3：19；モセ 4：25〕)。死ぬべきからだを罪の支配にゆだねることをせず（ロマ 6：12)。死ぬものは必ず死なないものを着ることになる（1コリ 15：53〔エノ 1：27；モサ 16：10；モル 6：21〕)。人の状態は試しの状態となった（2ニフ 2：21〔アル 12：24；アル 42：10〕)。アダムが堕落したのは人が存在するためであり（2ニフ 2：25)。この死すべき体がよみがえって不死のものとなり（アル 5：15)。現世は人が神にお会いする用意をする時期である（アル 34：32)。死に至るまでも恐れてはならない。この世ではあなたがたの喜びは満たされない（教義 101：36)。第二の位を守る者は，とこしえに栄光をその頭に付け加えられる（アブ 3：26)。

至聖所　「神殿；主の宮」「幕屋」参照

モーセの幕屋の中で，また後には神殿の中で最も神聖な部屋（出エ 26：33−34)。

舌　「異言の賜物」参照

口から出る言葉の象徴。聖徒は舌を制しなければならない。つまり，口から出る言葉を制しなければならないということである。舌はまた言語と民の象徴でもあり，その場合は「国語の民」と訳出される。最後には，すべてのひざがかがみ，すべての舌が神を認めて告白する（イザ 45：23；ロマ 14：11)。

あなたの舌をおさえて悪を言わせず（詩篇 34：13〔1 ペテ 3：10〕)。口と舌とを守る者はその魂を守って，悩みにあわせない（箴言 21：23)。もし

人が舌を制することをしないならば，その人の信心はむなしい（新ヤコ 1：26）。言葉の上であやまちのない人があれば，そういう人は，完全な人である（新ヤコ 3：1−13）。わたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後，あなたの舌は緩められる（教義 11：21）。

七十人　「使徒」「メルキゼデク神権」参照

男性が任じられるメルキゼデク神権の職の一つ。今日，七十人定員会は使徒的な権能を授けられた中央幹部であるが，使徒に聖任されてはいない。すべての時間をその務めにささげている。

主は別に七十人を選ばれた（KJ ルカ 10：1）。七十人も召されて，福音を宣べ伝え，イエス・キリストの特別な証人となる（教義 107：25−26）。七十人は，十二使徒会，すなわち巡回高等評議会の指示の下に主の名において行動し，教会を築き上げ，すべての国々において教会の諸事をすべて整える（教義 107：34）。必要とされれば，70 の 7 倍まで，別の七十人を選び（教義 107：93−97）。この定員会は，全世界でわたしの名について証する巡回長老のために設けられている（教義 124：138−139）。

十戒　「戒め（神の）」「モーセ」参照

道徳的規範として預言者モーセを通して神から与えられた 10 の律法。

十戒を表すヘブライ語は「10 の言葉」という意味である。十戒は「契約」（申命 9：9）あるいは「あかし」（出エ 25：21；32：15）とも呼ばれている。神がモーセに十戒を与え，さらにモーセを通してイスラエルに与えられたことは，出エジプト 19：9−20：23；32：15−19；34：1 に記録されている。十戒は 2 枚の石の板に刻まれ，その板は箱の中に収められた。そのために，この箱は「契約の箱」（民数 10：33）と呼ばれた。主は申命 6：4−5 とレビ 19：18 を引用して，十戒を「ふたつの大切な戒め」に要約された（マタ 22：37−39）。

十戒は末日の啓示の中でも繰り返し述べられている（JS 出エ 34：1−2；モ サ 12：32−37；13：12−24；教義 42：18−28；59：5−13）。

執事　「アロン神権」参照

使徒パウロの時代における教会の奉仕の召し（ピリ 1：1；1 テモ 3：8−13）。アロン神権の職の一つ（教義 20：38，57 − 59；84：30，111；107：85）。

使徒　「啓示」「弟子」参照

使徒に相当するギリシャ語には，「遣わされた者」の意味がある。これは，イエスが地上で務めを果たしておられたときに，最も身近な弟子となり助け手となるように選び聖任された 12 人の人々に，御自身でお与えになった呼び名である（ルカ 6：13；ヨハ 15：16）。イエスは昇天の後，御自身の代理人として，御自身に代わって務めを果たさせるために彼らを遣わされた。昔も，また今日の回復された教会の十二使徒定員会においても，使徒はイ

エス・キリストの神性と死者の中からの復活とを証する，全世界への特別な証人である（使徒 1：22；教義 107：23）。

キリストの教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：20；4：11）。リーハイとニーファイは，イエスに従う 12 人の使徒を見た（1ニフ 1：10；11：34）。使徒たちがイスラエルの家を裁く（モル 3：18）。預言者たちや使徒たちの言葉を心に留めようとしない者たちが，民の中から絶たれる（教義 1：14〔3 ニフ 12：1〕）。十二使徒の召しと使命が明らかにされた（教義 18:26–36）。ジョセフ・スミスが使徒に聖任された（教義 20：2；21：1）。使徒はキリストの名の特別な証人であり，その務めの鍵を持つ（教義 27：12〔教義 112：30–32〕）。十二使徒は，大管長会と同等の権能と力を持つ定員会を構成する（教義 107：23–24）。十二使徒会は巡回管理高等評議会である（教義 107：33）。十二使徒は伝道活動の鍵を持つ（教義 107：35）。使徒の務めの幾つかが述べられる（教義 107：58）。わたしは十二使徒のすべてに言う。わたしに従い，わたしの羊を養いなさい（教義 112：14–15）。わたしたちは，使徒があることを信じる（箇条 1：6）。

使徒の選任：使徒は主によって選ばれた（ヨハネ 6：70；15：16）。

イエスは弟子たちの中から 12 人の使徒を選ばれた（ルカ 6：13–16）。マッテヤが使徒として選ばれた（使徒 1：21–26）。オリバー・カウドリとデビッド・ホイットマーは十二使徒を探し出すように命じられた（教義 18：37–39）。

使徒行伝　「ルカ」参照

ルカが書いてテオピロに献呈した 2 部作の 2 番目の書である。1 番目の書は「ルカによる福音書」として知られている。第 1–12 章には，救い主の死と復活から間もなく，ペテロの指導の下に行われた十二使徒のおもな伝道活動が記されている。第 13–28 章は，使徒パウロの旅と伝道のあらましを伝えている。

シナイ山　「モーセ」「モーセの律法」参照

シナイ半島にある山。モーセとイスラエル人は，エジプトから脱出した後 3 か月間この近くに宿営した。この山はホレブ山とも呼ばれる（出エ 3：1）。ここで神はイスラエルの家のために，モーセに律法を授けられた。またここで幕屋が建設された（出エ 19：2；20：18；24：12；32：15）。

至福の教え　「山上の垂訓」参照

イエスが山上の説教の中で述べられた一連の教えで，優れた霊的特質について説明したものである（マタ 5：3–12；ルカ 6：20–23）。一つ一つの教えがそれぞれに，前に述べられている教えを基にして組み立てられている。3 ニーファイ 12 章には，この至福の教えがさらに包括的かつ正確な形で記録されている。

シブロン　「アルマ（アルマの息子）」

参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの息子。シブロンはゾーラム人に福音を教え，その義のために迫害された。主はその忠実さと忍耐とを御覧になって，彼を迫害から救い出された（アル 38 章）。シブロンは一時期，ニーファイ人の記録を保管した（アル 63:1–2，11–13）。

詩篇　「音楽」「ダビデ」参照

霊感によって作られた詩，または賛美歌。

詩篇：『旧約聖書』の中の 1 書。詩を集めたもので，その多くはキリストのことを述べている。詩篇は『新約聖書』にしばしば引用されている。

詩篇の多くはダビデによって書かれた。詩篇は神への賛美として書かれ，その多くに旋律が付けられた。

姉妹　「兄弟」「人」参照

天の御父の子供として，すべての人は男女を問わず，霊的な意味で兄弟姉妹である。末日聖徒イエス・キリスト教会では，女性の会員や教会に好意的な女性を姉妹と呼ぶことがよくある。

わたしの父のみこころを行う者はだれでも，わたしの兄弟，また姉妹なのである（マタ 12：50〔マコ 3：35〕）。教会の兄弟姉妹間の罪に関する告白について律法が定められる（教義 42：88–93）。

自慢；誇り　「高慢」参照

シメオン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとその妻レアの間に生まれた 2 番目の息子（創世 29：33；35：23；出エ 1：2）。シメオンはレビとともにシケム人を虐殺した（創世 34：25–31）。シメオンについてのヤコブの預言は，創世 49：5–7 に記されている。

シメオンの部族：シメオンの子孫はしばしばユダの部族とともに生活し，ユダ王国の領土内に住んだ（ヨシ 19：1–9；歴上 4：24–33）。シメオンの部族はユダと連合して，カナン人と戦った（士師 1：3，17）。彼らは後にダビデの軍隊に加わった（歴上 12：25）。

シモン（カナン人）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストが最初に召された十二使徒の一人（マタ 10：2–4）。

シモン・ペテロ　「ペテロ」参照

邪悪　「暗闇（くらやみ）（霊的な）」「汚れ」「不義」「不信心」参照

よこしまで悪いこと。神の戒めに従わないこと。

どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって，神に罪を犯すことができましょう（創世 39：7–9）。主（あ）は悪しき者に遠ざかり，正しい者の祈（いのり）を聞かれる（箴言 15：29）。悪（あ）しき者が治めるとき，民はうめき苦しむ（箴言 29:2〔教義 98：9〕）。その悪人を，あなたがたの中から除いてしまいなさい（1コリ

5：13)。わたしたちの戦いは，天上にいる悪の霊に対する戦いである（エペ6：12)。悪人から去り，離れ，彼らの清くないものに触れてはならない（アル5：56−57〔教義38：42〕)。これが悪人の最後の状態である（アル34：35〔アル40：13−14〕)。悪事は決して幸福を生じたことがない（アル41：10)。悪人によって悪人が罰せられる(モル4：5〔教義63：33〕)。そのときに，義人と悪人の完全な分離がある(教義63：54)。悪人の終わりが来る（ジ—マタ1：55)。

ジャクソン郡（ミズーリ州）「新エルサレム」参照

終わりの時における聖徒の集合地。ここは聖徒たちが新エルサレムを建設する中心の場所である（教義57−58；82章；101：69−71；105：28)。

シャデラク「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク，メシャク，アベデネゴの3人のイスラエルの若者は，ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。シャデラクのヘブライ語名は，ハナニヤである。この4人の若者は，王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ(ダニ1章)。シャデラク，メシャク，アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが，神の御子によって守られた（ダニ3章)。

主「イエス・キリスト」「神；神会」参照

父なる神と救い主イエス・キリストに対する深い尊敬の念を示す呼び名。この呼び名は，被造物に対する愛に満ちた至高の主としての御二方の位を示している。

主にとって不可能なことがありましょうか（創世18：14)。主はモーセと顔を合わせて語られた（出エ33：11)。あなたの神，主を愛さなければならない（申命6：5〔マタ22：37；マコ12：30〕)。わたしとわたしの家とは共に主に仕えます（ヨシ24：15)。主はわたしの牧者であって（詩篇23：1)。強く勇ましい主，戦いに勇ましい主である（詩篇24：8)。主なる神はわが力（イザ12：2〔2ニフ22：2〕)。主なるわたしが，あなたの救主（すくいぬし)，また，あなたのあがない主（イザ60：16)。主なるあなたの神を拝し(マタ4：10〔ルカ4：8〕)。主がどんなに大きなことをしてくださったか(マコ5：19)。唯一の主イエス・キリストのみがいますのである（1コリ8：6)。主は一つ，信仰は一つ，バプテスマは一つ（エペ4：5)。主ご自身が天から下ってこられる（1テサ4：16)。わたしは行って，主が命じられたことを行います（1ニフ3：7)。主なる神は，義をもって貧しい者を裁き（2ニフ30：9)。アブラハムの神である主なる神は，イスラエル人を奴隷の状態から救い出された（アル29：11)。主イエス・キリストを信じる以外に，何事もこの民を救うことはできない（ヒラ13：6〔モサ3：12〕)。あなたの主であるイエス・キリストの言葉に耳を傾けなさい（教義15：1)。常に主の顔を求めなさい（教義101：38)。主は赤い装いで再臨される（教義133：

48〔イザ 63：1−4〕)。アブラハムは顔と顔を合わせて主と語った（アブ 3：11)。わたしたちは，福音の第一の原則は主イエス・キリストを信じる信仰であることを信じる（箇条 1：4)。

自由　「選択の自由」「とりこ」参照

何の束縛もなく行動し，考えることのできる状態。福音の原則に従順な人は，罪という霊的な束縛から解放される（ヨハ 8：31−36)。

わたしはあなたのさとしを求めたので，自由に歩むことができます（詩篇 119：45)。真理は，あなたがたに自由を得させるであろう（ヨハ 8：32)。罪から解放される者は永遠の命を受ける（ロマ 6：19−23)。主の霊のあるところには，自由がある（2コリ 3：17)。自由を得させるために，キリストはわたしたちを解放して下さった（ガラ 5：1〔教義 88：86〕)。人は，自由と永遠の命を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27)。イスラエルの家の一本の義にかなった枝が，束縛から自由へ連れ出される（2ニフ 3：5)。この地は自由の地となり（2ニフ 10：11)。彼らは主なる神に，自由を保つことができるように叫び求めた（アル 43：48−50)。モロナイはニーファイ人の中に自由の旗を掲げさせた（アル 46：36)。モロナイは自分の国が自由であることを喜びとした（アル 48：11)。神の御霊は自由の精神である（アル 61：15)。わたしに従いなさい。そうすれば，あなたがたは自由な民となり（教義 38：22)。主とその僕たちは囚われ人に自由を宣言された（教義 138：18，31，42)。

収穫　「刈り入れ」参照

十字架　「イエス・キリスト」「ゴルゴタ」「十字架の刑」「贖罪」「聖餐」参照

イエス・キリストの十字架の刑に使われた木製の刑具（マコ 15：20−26)。世の多くの人々は今日，十字架をキリストの十字架の刑と贖いの犠牲の象徴と考えている。しかし主は，十字架の刑と犠牲の御自身の象徴として，聖餐のパンと水を定められた（マタ 26：26−28；教義 20：40，75−79)。聖典には，自分の十字架を負う者は，イエス・キリストを深く愛して，不信心とあらゆる世の欲を捨て，主の戒めを守ると説かれている（JS マタ 16：25−26)。

十字架を負うて，わたしに従ってきなさい（マコ 8：34〔3 ニフ 12：30；教義 23：6〕)。イエスは，十字架を忍び，神の御座の右に座するに至った（ヘブ 12：2)。神の小羊は世の罪のために十字架につけられて殺された（1ニフ 11：33)。世の十字架を堪え忍んできた人々は，神の王国を受け継ぐ（2ニフ 9：18)。父は，わたしが十字架に上げられるようにと，わたしを遣わされた（3ニフ 27：14−15)。自分の十字架を負ってわたしに従おうとせず，またわたしの戒めを守ろうとしない者は，救われないであろう（教義 56：2)。人の子が十字架に上げられるのが見えた（モセ 7：55)。

十字架の刑　「イエス・キリスト」「ゴルゴタ」「十字架」「贖罪」参照

新約の時代に広く行われたローマの死刑執行法。この刑を受ける者は，手

足を十字架に縛り付けられるか，釘を打ち付けられるかして殺された。普通この刑は，奴隷や重罪人に対してのみ行われた。多くの場合，十字架につけられる前に鞭打ちの刑が執行された（マコ 15：15）。この刑を受ける者は通常，自分で十字架を刑場まで運ばされた（ヨハ 19：16−17）。またその衣服は，刑を執行する兵士のものとなった（マタ 27：35）。十字架は，受刑者の足が地上からわずか 30 ないし 60cm の高さになるように，地中に打ち立てられた。また，受刑者が息を引き取るまで，兵士は十字架を見張った。絶命まで 3 日かかることもあった（ヨハ 19：31−37）。

イエス・キリストが十字架につけられたのは，カイザルへの反逆の罪と，自らを神の子と唱える冒瀆の罪を犯したという，不信者たちの偽証のためであった。イエスは紫の上着を着せられ（ヨハ 19：2），またいばらの冠をかぶせられて，ほかにも様々な辱めを受けられた（マタ 26：67；マコ 14：65）。

邪悪な者たちはメシヤの手と足を刺し貫く（詩篇 22：11−18）。キリストはほふり場にひかれる小羊のように行く（イザ 53：7）。イエスは御自身が十字架につけられることを予告された（マタ 20：18−19）。キリストの十字架の刑について述べられる（マタ 27：22−50〔マコ 15：22−37；ルカ 23：26−46；ヨハ 19：17−30〕）。ニーファイは，神の小羊が十字架につけられるのを示現で見た（1ニフ 11：33）。ニーファイはキリストの苦しみと十字架の刑について述べた（1ニフ 19：9−14）。ヤコブはイスラエルの聖者の働きと十字架の刑について述べた（2ニフ 6：9）。アメリカ大陸に起こった暴風雨，地震，火事，旋風で，エルサレムでのキリストの十字架の刑が証明された（3ニフ 8 章）。わたしは十字架につけられたイエスである（教義 45：51−52）。死者の中での救い主の働きは，十字架上の死と復活の間の短い時間に限られていた（教義 138：27）。

従順；従う　「歩む（神とともに）」「戒め（神の）」「聞き従う；聴く」「祝福」「喜び」「律法」参照

霊的な意味で，従順とは神の御心を行うことである。

ノアはすべて神の命じられたようにした（創世 6：22）。アブラハムは主に従った（創世 22：15−18）。わたしたちは主が仰せられたことを皆，従順に行います（出エ 24：7）。イスラエルよ，聞いて，それを守り行え（申命 6：1−3）。主を愛して，その声を聞き，主につき従わなければならない（申命 30：20）。従うことは犠牲にまさり（サ上 15：22）。神を恐れ，その命令を守れ（伝道 12：13−14）。みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである（マタ 7：21〔3 ニフ 14：21〕）。神のみこころを行おうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教が神からのものか，わかるであろう（ヨハ 7：17）。人間に従うよりは，神に従うべきである（使徒 5：29）。主にあって両親に従いなさい（エペ 6：1〔コロ 3：20〕）。わたしは行って，主が命じられたことを行います（1ニフ 3：7）。わたしは御霊の声に従い（1

ニフ 4：6−18)。もし人の子らが神の戒めを守るならば，神は彼らを養い（1ニフ 17：3)。悪霊に従おうとすることのないように気をつけなさい（モサ 2：32−33，37〔教義 29：45〕)。人は自分が従った霊に応じて報いを刈り取る（アル 3：26−27)。人は多くのことをその自由意志によって行わなければならない（教義 58：26−29)。神の手を認めない者と，神の戒めに従わない者のほかに，人はどのようなことについても神を怒らせることはない（教義 59：21)。あなたがたがわたしの言うことを行うとき，主なるわたしはそれに対して義務を負う（教義 82：10)。わたしの声に従う者は皆，わたしの顔を見て，わたしがいることを知るであろう（教義 93：1)。民は従順を学ぶまで，必ず懲らしめを受けなければならない（教義 105：6)。神から祝福を受けるときは，それが基づく律法に従うことによる（教義 130：21)。アダムは従順であった（モセ 5：5)。わたしたちは彼らを試し，何であろうと，主が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう（アブ 3：25)。

十二使徒定員会　「使徒」参照

十二使徒評議会　「使徒」参照

自由の旗　「モロナイ（司令官)」参照

『モルモン書』の中でニーファイ人の軍隊の総司令官モロナイが掲げた旗。モロナイは，自分たちの宗教と自由と平和と家族を守るようニーファイ人を奮い立たせるためにこの旗を作った。

モロナイは自分の衣を裂いて，自由の旗を作った（アル 46：12−13)。この旗を立てて守ろうとする者たちは聖約を交わした（アル 46：20−22)。モロナイはすべての塔の上に自由の旗を掲げさせた（アル 46：36〔アル 51：20〕)。

十部族　「イスラエル」参照

什分の一　「金銭」「ささげ物」参照

教会を通して主にささげる自分の年収の 10 分の 1。什分の一基金は教会や神殿の建築，伝道活動の支援など，地上に神の王国を築くために用いられる。

アブラムはメルキゼデクにすべての物の十分の一を贈った（創世 14：18−20〔ヘブ 7：1−2，9；アル 13：15〕)。十分の一はすべて主のものであって，主に聖なる物である（レビ 27：30−34)。あなたはすべての産物の十分の一を必ず取り分けなければならない（申命 14：22，28)。イスラエルの人々はすべての物の十分の一をおびただしく携えて来た（歴下 31：5)。人は神の物を盗むことをするだろうか。十分の一と，ささげ物をもってである（マラ 3：8−11〔3 ニフ 24：8−11〕)。什分の一を納める者は，主の来臨の時に焼かれない（教義 64:23〔教義 85：3〕)。主の家は主の民の什分の一によって建てられる（教義 97：11−12)。主は什分の一の律法を啓示された（教義 119 章)。什分の一は評議会によって配分される（教義 120 章)。

祝福　「感謝」「祝福師の祝福」「病人への癒しの祝福」「恵み」「律法」参照

神の恵みを人に授けること。真の幸福，喜び，成功に寄与するものはすべて祝福である。

祝福はすべて永遠の律法に基づいて与えられる（教義 130：20−21）。神は御自身の子供たちに人生の中で喜びを見いだすように望んでおられる（2ニフ 2：25）。そのために神は，戒めに従うことへの結果として（教義 82：10），また祈りや神権の儀式への答えとして（教義 19：38；107：65−67），あるいは恵みによって（2ニフ 25：23）人に祝福をお授けになる。

祝福された幸いな状態について述べたものとしてよく知られているのが，至福の教えである（マタ 5：1−12；3ニフ 12：1−12）。

一般：わたしはあなたを大いなる国民とし，あなたを祝福し（創世 12：2−3〔1ニフ 15：18；アブ 2：9−11〕）。正しい者のこうべには祝福があり（箴言 10：6）。忠実な人は多くの祝福を得る（箴言 28：20）。主は天の窓を開いて，あふれる恵みを注がれる（マラ 3：10〔3ニフ 24：10〕）。至福の教えによって祝福が約束される（マタ 5：1−12〔3ニフ 12：1−12〕）。小羊の婚宴に招かれた者は，さいわいである（黙示 19：9）。義にかなった者は神から恵みを受けます（1ニフ 17：35〔モサ 10：13〕）。聞き従うならば，わたしはあなたがたに祝福を残そう（2ニフ 1：28）。わたしは同じ祝福をあなたがたに残す（2ニフ 4：9）。神はすぐに祝福を授けてくださる（モサ 2：24）。主を信頼する者たちを，主は祝福し，栄えさせられる（ヒラ 12：1）。わたしの業を起こす助けをしなさい。そうすれば，あなたは祝福されるであろう（教義 6：9）。常に祈りなさい。そうすれば，あなたの祝福は大いなるものとなる（教義 19：38）。バプテスマを受けなさい。そうすれば，あなたはわたしの御霊（みたま）と，かつて知らなかったほどの大いなる祝福を受けるであろう（教義 39：10）。多くの艱難（かんなん）の後に祝福は来る（教義 58：4）。人々が従わないと，わたしは命じたことを取り消し，彼らは祝福を受けない（教義 58：32）。あなたがたは，父がどれほどの大いなる祝福をあなたがたのために備えておられるかを理解していない（教義 78：17）。大神権者から，儀式の執行と教会員への祝福が来る（教義 107：65−67）。不変の律法があり，すべての祝福はこれに基づいている（教義 130：20）。祝福を受けたいと思う者は皆，律法に従わなければならない（教義 132：5）。主を愛する者たちのために取っておかれたすべての祝福にあずかる者となる（教義 138：52）。アブラハムは先祖の祝福と，それらの祝福をつかさどる権利とを得ようと努めた（アブ 1：2）。

子供の祝福：彼らを抱き，手をその上において祝福された（マコ 10：16）。イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し（3ニフ 17：21）。長老たちは，イエス・キリストの名によって子供を祝福しなければならない（教義 20：70）。

祝福師　「祝福師の祝福」「父（現世の）」「伝道者」「メルキゼデク神権」参照

メルキゼデク神権の職の一つ。伝道者と言われることもある。祝福師は，ふ

さわしい教会員に特別な祝福を授ける。

彼は，ある人を預言者とし，ある人を伝道者とし（エペ 4：11〔箇条 1：6〕）。十二使徒は，福音の教導者を聖任しなければならない（教義 107：39）。ハイラムが神権の祝福師の職に就くためである（教義 124：91–92, 124；135：1）。

祝福師の祝福　「祝福師」「父（現世の）」「伝道者」参照

祝福師がふさわしい教会員に授ける祝福。祝福師の祝福には，それを受ける人に対する主の勧告と，イスラエルの家における血統の宣言が含まれる。

イスラエルは右の手を伸べてエフライムの頭に置いた（創世 48：14）。ヤコブは息子たちとその子孫に祝福を授けた（創世 49 章）。リーハイは子孫に祝福を授けた（2ニフ 4：3–11）。

取税人　「ローマ帝国」参照

古代ローマにおいて政府のために税の徴収を行った人。一般に，ユダヤ人は取税人を嫌っていた。取税人の中には，すぐに福音を受け入れた人々がいた（マタ 9：9–10；ルカ 19：2–8）。

出エジプト記　「五書」参照

モーセによって書かれた『旧約聖書』の中の 1 書。この書にはエジプトからのイスラエル人の脱出の様子が描かれている。出エジプト記に書かれている古代イスラエルの歴史は，次の 3 つの部分に分けることができる。(1) エジプトにおけるイスラエルの民の奴隷の境遇。(2) モーセの指導の下に行われたエジプトからの脱出。(3) 宗教上ならびに政治上の生活における神の業への献身。

最初の部分である第 1–15 章には，イスラエルがエジプトで受けた圧迫，モーセの生涯の初期の物語と彼に与えられた召し，エジプトからの脱出と過越，紅海への行進，パロの軍勢の滅亡，モーセの勝利の歌が記されている。

第 2 の部分の第 15–18 章には，イスラエルの贖い，紅海からシナイへの旅の途中での出来事，メラの苦い水の奇跡，うずらとマナが与えられたこと，安息日の遵守，レピデムでの水の奇跡とアマレク人との戦い，イスラエルの陣営へのエテロの到着と民の統治に関するエテロの助言が記されている。

第 3 の部分の第 19–40 章には，シナイでの神聖な出来事の間に，イスラエルの民が神の務めに献身したことが記されている。主はイスラエルの民を祭司の国とし，聖なる民とされた。また彼らに十戒を与え，幕屋とその調度品について，また幕屋内での礼拝について指示を与えられた。続いて金の子牛を礼拝した民の罪についての記録があり，最後に幕屋の建設とそこでの務めに関する規定が書かれている。

主の祈り　「祈り」参照

すべての祈りのひながたとして，救い主が弟子たちのためにささげられた祈り（マタ 6：9–13；3 ニフ 13：9–13）。

主の晩餐　「聖餐」参照

主の日　「安息日」「イエス・キリストの再臨」「最後の裁き」参照

主の宮　「神殿；主の宮」参照

殉教者；殉教

キリストや福音，義にかなった信条や原則を捨てるよりは，自分の命を捨てる方を選ぶ人。

アベルの血からザカリヤの血に至るまで，義人の血の報いが，ことごとくあなたがたに及ぶであろう（マタ 23：35〔ルカ 11：50〕）。キリストのため，また福音のために自分の命を失う者は，それを救うであろう（マコ 8:35〔教義 98：13〕）。ステパノに石を投げつけ（使徒 7：59〔使徒 22：20〕）。遺言には，遺言者の死の証明が必要である（ヘブ 9：16−17）。アビナダイは倒れて焼け死んだ（モサ 17：20）。改心したアモナイハの民は火の中に投げ込まれた（アル 14:8−11）。多くの預言者が，これらのことについて証したために殺された（3ニフ 10：15）。わたしの大義において自分の命を捨てる者は，永遠の命を見いだすであろう（教義 98：13−14）。ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは福音の回復のための殉教者であった（教義 135 章）。ジョセフ・スミスは血をもって自分の証を確実なものとした（教義 136：39）。

純潔　「姦淫」「徳」「肉欲」「不貞」参照

男性と女性の性的な清さ。

ヨセフはポテパルの妻の誘惑を退けた（創世 39：7−21〔教義 42：24；59：6〕）。あなたは姦淫してはならない（出エ 20：14）。賢い妻はその夫の冠である（箴言 12：4〔箴言 31：10〕）。あなたがたは知らないのか。自分のからだは，聖霊の宮であって（1コリ 6：18−19）。あなたは純潔にも，信者の模範になりなさい（1テモ 4：12）。清くない者は神とともに住むことができない（1ニフ 10：21）。主なる神であるわたしは，婦人たちの貞節を喜ばしく思う（ヤコ 2：28）。性的な罪は忌まわしい行いである（アル 39：1−13）。純潔と徳はあらゆるものに勝って最も大切で貴いものである（モロ 9：9）。わたしたちは，純潔であるべきことを信じる（箇条 1：13）。

昇栄　「永遠の命」「冠」「贖罪」「人―天の御父のようになる可能性を持った人間」「日の栄え」参照

日の栄えの王国の中で最も幸福で栄光に満ちた状態。

あなたの前には満ちあふれる喜びがあり（詩篇 16：11）。彼らは神々，すなわち神の子である。それゆえ，すべてのものは彼らのものである（教義 76:58−59）。聖徒たちは受け継ぎを得，小羊と等しい者とされる（教義 88：107）。これらの天使たちはわたしの律法に従わなかった。それゆえ，彼らは昇栄することなく，それぞれ独りのままでいることになる（教義 132：17）。昇栄を得るには神の律法に従って結婚しなければならない（教義 132：19−20）。昇栄に至る門は狭く，その道は細い（教義 132:22−23）。アブラハム，イサク，ヤコブは，昇栄に入った（教義 132：29，37）。わたしはあなたに

昇栄を結び固め（教義 132：49）。

正直　「高潔」参照

偽りがなく，誠実なこと。

真実を行う者は主に喜ばれる（箴言 12：22）。あなたの誓ったことを必ず果せ（伝道 5：4−5）。異邦人の中にあって，りっぱな行いをしなさい（1ペテ 2：12）。偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである（2ニフ 9：34）。御霊は真実を語り，偽りを言われることがない（ヤコ 4：13）。隣人から物を借りたなら，その物を約束どおりに返すようにしなければならない（モサ 4：28〔教義 136：25〕）。公正に振る舞い，義にかなって裁き，絶えず善を行いなさい（アル 41：14）。すべての人が正直に振る舞うようにしなさい（教義 51:9）。その心が正直なすべての者は，わたしに受け入れられる（教義 97：8）。公務に就く人として，正直，賢明，善良な人々を熱心に捜し求めなければならない（教義 98：4−10）。あなたは隣人の失ったものを熱心に捜して（教義 136：26）。わたしたちは，正直であるべきことを信じる（箇条 1：13）。

象徴

何かを用いて，他の事柄を想起，連想させること。聖典の中では，福音の原則や教えを表現するために，日常よく見受けられる物や出来事，あるいは状況が象徴として用いられる。例えば，『モルモン書』の預言者アルマは，神の言葉を表すのに種を用いている（アル 32 章）。

聖典の様々な箇所で，預言者たちは象徴を用いながら，イエス・キリストについて教えている。その例としては，典礼や儀式（モセ 6：63），犠牲（ヘブ 9：11−15；モセ 5：7−8），聖餐（ルカ 22：13−20；JS マ コ 14：20−24），バプテスマ（ロマ 6：1−6；教義 128：12−13）などがある。『聖書』に出てくる名称にも象徴的なものが数多くある。幕屋で行われた典礼やモーセの律法は，永遠の真理を象徴している（ヘブ 8−10 章；モサ 13：29−32；アル 25:15;ヒラ 8:14−15）。他の例として，マタイ 5：13−16；ヨハネ 3：14−15；ヤコブ 4:5;アルマ 37:38−45 を参照。

昇天　「イエス・キリスト」「イエス・キリストの再臨」参照

救い主が復活から 40 日後に，改まった形で地上を去って行かれた出来事。この昇天は弟子たちが見守る中，オリブ山の一地点で起こった（マコ 16：19；ルカ 24：51）。そのとき，二人の天使が，主は将来「同じ有様」で戻って来られると証した（使徒 1：9−12）。

証人（モルモン書の）　「証人;証」「モルモン書」参照

主は預言者ジョセフ・スミス以外の幾人かの人々に『モルモン書』が神から与えられたものであることを証するように命じられた（教義 17 章；128：20）。『モルモン書』の中の「三人の証人の証」，「八人の証人の証」を参照。

わたしは 3 人の言葉をもって，わたしの言葉を確かなものとする（2ニフ 11：3）。人の子らに神の言葉について証を

述べる（2ニフ 27：12−13）。3 人の証人の口を通してこれらのことは確認される（エテ 5：4）。信仰によって，三人の証人は版を見るであろう（教義 17 章）。

証人；証（あかし）　「証」参照

証人とは，自分が知っている事柄を基に，それらの証言をしたり，証拠を提出したりする人。証とは，ある事柄について，それが真実であると述べること，あるいはそれを裏付ける証拠。

あなたは偽証してはならない（出エ 20：16）。福音は，すべての民に対してあかしをするために，全世界に宣べ伝えられる（マタ 24:14〔ジ―マタ 1:31〕）。あなたがたはわたしの証人となるであろう（使徒 1:8）。御霊みずから，わたしたちの霊と共に，あかしして下さる（ロマ 8：16〔1 ヨハ 5：6〕）。いつでも神の証人になる（モサ 18：8−9）。わたしたちは，戒めを守り，いつも御子を覚えていることを御父に証明するために聖餐を受ける（3ニフ 18：10−11〔モロ 4；5 章；教義 20：77−79〕）。信仰が試されてからでなければ，証は得られないからである（エテ 12：6）。証人の律法：二人または三人の証人の口によって，すべての言葉が確定される（教義 6：28〔申命 17：6；マタ 18：16；2 コリ 13：1；エテ 5：4；教義 128：3〕）。あなたがたを使徒およびわたしの名の特別な証人として確認し（教義 27：12〔教義 107：23〕）。七十人は異邦人と全世界に対する特別な証人となる（教義 107：25）。記録者がいるようにしなさい。そして，彼があなたがたのバプテスマの見証者となり（教義 127：6〔教義 128：2−4〕）。

職　「神権」「聖任」参照

組織の中の権能や責任を伴う地位。聖典の中では神権の権能を伴う地位を意味する言葉としてしばしば用いられている。

すべての会員が同じ職を受けるのではない（ロマ 12：4）。主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした（ヤコ 1：19）。メルキゼデクは大神権の職を受けた（アル 13：18）。天使の務めは，人を招いて悔い改めさせることである（モロ 7：31）。その教会の賛意の表明がなければ，だれもこの教会におけるいかなる職にも聖任されることはない（教義 20：65）。各人をそれぞれの職に就かせ（教義 84：109）。これら二つの神権におけるそれぞれの職に聖任された者たちの中から，会長，すなわち管理役員が出るように（教義 107：21）。神権定員会を管理する者の義務が述べられる（教義 107：85−98）。人は皆，自分の義務を学び，任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい（教義 107：99−100）。わたしは，わたしの神権に属する役員をあなたがたに与え（教義 124：123）。

贖罪（しょくざい）　「贖い；贖う」「贖いの計画」「憐れみ」「イエス・キリスト」「神の息子，娘」「犠牲」「義認;義とされる」「聖め」「キリストの子」「悔い改め」「ゲツセマネ」「十字架」「十字架の刑」「救い」「聖餐」「堕落（アダムとエバの）」「血」「罪の赦し」「不死不滅」「復活」「恵み」「赦し」参照

神に対して人を執り成すこと。

聖典に書かれているように，贖罪とは，罪の行いに対する罰を引き受け，それによって悔い改める人から罪がもたらす影響を除き，神との和解を可能にすることである。イエス・キリストは全人類のために完全な贖罪をなし得る唯一の御方である。イエス・キリストが完全な贖罪をなし得たのは，この世が造られる前に天上の大会議において選ばれ，予任されていたからであり（エテ 3：14；モセ 4：1−2；アブ 3：27），また御自身が神の御子であり，罪のない御方であったからである。イエス・キリストの贖罪には，ゲツセマネの園において全人類の罪のために苦しまれたこと，そして御自身の血を流されたこと，また死とそれに続く墓からの復活が含まれる（イザ 53：3−12；モサ 3：5−11；アル 7：10−13）。贖罪によって，すべての人が不死不滅の体をもって死者の中からよみがえるようになった（1コリ 15：22）。また贖罪は，罪の赦しを受けて，永遠に神とともに住む道をわたしたちのために備えるものである。しかし，責任を負う年齢に達して律法を受け入れた人は，イエス・キリストを信じる信仰を持ち，罪を悔い改め，救いの儀式を受け，神の戒めに従うことによってのみ，これらの祝福にあずかることができる。責任を負う年齢に達していない人と律法を持たない人は，贖罪によって贖われる（モサ 15：24−25；モロ 8：22）。聖典は，キリストによる贖罪がなかったならば，いかなる律法も儀式も犠牲も正義の要求を満たすことができず，人は神のもとに戻ることはできないと明確に教えている（2ニフ 2；9 章）。

これは，罪のゆるしを得させるようにと，多くの人のために流すわたしの血である（マタ 26：28）。その汗が血のしたたりのように地に落ちた（ルカ 22：39−44）。わたしが与えるパンは，世の命のために与えるわたしの肉である（ヨハ 6：51）。わたしはよみがえりであり，命である（ヨハ 11：25）。キリストは，御自分に従順であるすべての人に対して，永遠の救いの源となられる（ヘブ 5：9）。わたしたちはキリストの血が流されたことによって聖められる（ヘブ 9 章；10：1−10）。キリストも，ひとたび罪のゆえに死なれた（1ペテ 3:18）。イエス・キリストの血が，すべての罪からわたしたちをきよめる（1ヨハ 1：7）。神の小羊が世の罪のために十字架につけられて殺された（1ニフ 11：32−33）。贖いは打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人々に及ぶ（2ニフ 2：3−10，25−27）。メシヤは，罪に対する犠牲として御自身をささげられる（2ニフ 2：7）。贖罪は人々を堕落から解放し，死と地獄から救う（2ニフ 9：5−24）。贖罪は無限の贖罪でなければならない（2ニフ 9：7）。キリストの贖罪を通じて神と和解しなさい（ヤコ 4：11）。この御方の血は，気づかないで罪を犯した者たちの罪も贖う（モサ 3：11−18）。人は贖罪によって救いを受けた（モサ 4：6−8）。贖罪がなければ，彼らは滅びるほかはない（モサ 13：27−32）。キリストは世の罪を贖われる（アル 34：8−16）。神は憐れみの計画を成し遂げるため，御自分で世の罪の贖いをされる（アル 42：11−30）。キリストは全地の神であり，世の罪のために殺された（3ニフ 11：

14)。神であるわたしは，すべての人に代わってこれらの苦しみを負い（教義 19：16)。幼い子供たちは，わたしの独り子によって贖われている（教義 29：46−47)。罪を犯したことがない者の，苦しみと死を御覧ください（教義 45：3−5)。これは独り子の犠牲のひながたである（モセ 5：7)。キリストの贖罪により，全人類は救われ得る（箇条 1：3)。

ジョセフ・スミス・ジュニア　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

ジョセフ・スミス訳（JS）　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスが 1830 年 6 月に始めた『欽定訳聖書』の改訂あるいは翻訳をいう。ジョセフ・スミスは神からその翻訳をするよう命じられ，それを預言者としての自分の召しの一部と考えた。

ジョセフは 1833 年 7 月までにこの翻訳をほとんど終えていたが，出版のための原稿を準備しながら，1844 年の死に至るまで加筆訂正を続けた。彼は生前その一部を出版したが，もし生き長らえて全部を出版していたとすれば，さらに変更を加えていたであろうと思われる。復元イエス・キリスト教会は，ジョセフ・スミスが霊感によって翻訳した『聖書』の初版を 1867 年に発行し，以来何度か版を重ねてきた。

預言者はこの翻訳の過程で多くのことを学んだ。『教義と聖約』の幾つかの章（教義 76；77；91；132 章など）は，この翻訳をきっかけに与えられたものである。また主はこの翻訳に関して，ジョセフに具体的な指示を与えられた。その指示は『教義と聖約』に記録されている（教義 37：1；45：60−61；76：15−18；90：13；91 章；94：10；104：58；124：89)。『高価な真珠』に収められているモーセ書とジョセフ・スミス―マタイはジョセフ・スミス訳から直接取ったものである。

ジョセフ・スミス訳は，『聖書』から抜き取られた分かりやすく貴い部分を回復した（1 ニフ 13 章)。ジョセフ・スミス訳は，末日聖徒イエス・キリスト教会公認の『聖書』ではないが，多くの興味深い洞察を与え，『聖書』を理解するうえで非常に有益である。また，預言者ジョセフ・スミスの神聖な召しと務めを証するものである。

しるし　「奇跡」「時のしるし」「まことの教会のしるし」参照

人々が何かの証拠あるいは証明として理解する出来事や経験。しるしという言葉は通常，神から与えられる奇跡的な現れを指す。サタンもまた，ある条件の下でしるしを示す力を持っている。聖徒は御霊の賜物を求めるべきであるが，好奇心を満足させたり，信仰の支えとしたりするためにしるしを求めてはならない。主は，信じる者にとってふさわしいと判断されたときに，しるしを与えられる（教義 58：64)。

主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる（イザ 7：14〔2 ニフ 17：14〕)。天においても，地においても，しるしと奇跡とをおこない（ダニ 6：27)。邪悪で不義な時代は，しるしを求める（マタ 12：39〔マタ 16：4；ルカ 11：29〕)。信じる者に

は，このようなしるしが伴う（マコ 16：17〔モル 9：24；エテ 4：18；教義 84：65〕）。シーレムはしるしを求めた（ヤコ 7：13−20）。コリホルはしるしを求めた（アル 30：48−60）。しるしを見せてくれれば，信じよう（アル 32：17）。民の大半がしるしと不思議を信じた（3ニフ 1：22）。民は数々のしるしと不思議を忘れ始め（3ニフ 2:1）。信仰が試されてからでなければ，証（あかし）は得られない（エテ 12：6）。わたしがあなたがたに命じないかぎり，奇跡を求めてはならない（教義 24：13）。信仰はしるしによっては生じないが，信じる者にはしるしが伴う（教義 63：7−11）。それらの日には，偽キリストたちや偽預言者たちも起こって，大きなしるしと不思議を示すであろう（ジ―マタ 1：22）。

しるし（イエス・キリストの降誕と死の）　「イエス・キリストの降誕と死のしるし」参照

しるし（時の）　「時のしるし」参照

しるし（まことの教会の）　「まことの教会のしるし」参照

新エルサレム

聖徒が集合し，キリストが福千年の間聖徒とともに自ら統治される場所。シオン（新エルサレム）はアメリカ大陸に築かれる。そして地球は更新されて，楽園の栄光を受ける（箇条 1：10）。新エルサレムは，福千年の初めに天から降（くだ）って来る聖なる都を指すこともある。

律法はシオンから出（ミカ 4：2）。神の都の名は新エルサレムである（黙示 3：12）。ヨハネは聖なる都，新しいエルサレムを見た（黙示 21：1−5）。わたしはこの民をこの地に立てて，この地は新エルサレムとなる（3ニフ 20：22）。新エルサレムはアメリカに築かれる（エテ 13：3−6，10）。新エルサレムの都が備えられる（教義 42：9，35，62−69）。聖徒たちは集合し，新エルサレムを築かなければならない（教義 45：63−75）。新エルサレムがミズーリに建てられる（教義 84：1−5〔教義 57：1−3〕）。小羊がシオンの山と，聖なる都である新エルサレムに立つ（教義 133：56）。わたしの幕屋はシオン，すなわち新エルサレムと呼ばれるであろう（モセ 7：62）。

神権　「アロン神権」「権威；権限；権能」「神権の鍵（かぎ）」「神権の誓詞と聖約」「聖任」「力」「メルキゼデク神権」参照

神が人の救いのためにあらゆることを行うよう授けられた権能と力（教義 50：26−27）。神権を持つ教会の男性会員は，定員会に組織され，儀式を執行し，教会内での特定の管理機能を果たす権限を受ける。

彼らが油そそがれることは，代々（よよ）ながく祭司職のためになすべきことである（出エ 40：15〔民数 25：13〕）。わたしがあなたがたを立てた（ヨハ 15：16）。あなたがたも，霊の家に築き上げられ，聖なる祭司となって（1ペテ 2：5）。あなたがたは，選ばれた種族，祭司の国（1ペテ 2：9〔出エ 19：6〕）。大祭司は非常に深い信仰と善い行いのために召される（アル 13：1−

12)。わたしはあなたに力を授ける（3ニフ 11：21)。聖霊を授ける力を持つであろう（モロ 2：2)。わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう（教義 2：1〔ジ一歴史 1：38〕)。主はアロンとその子孫にも，代々一つの神権を確認した（教義 84：18)。この大神権は福音をつかさどり(教義 84：19)。主は彼らの中からモーセを取り去り，また聖なる神権も取り去った（教義 84：25)。神権に伴う誓詞と聖約が述べられる（教義 84：33−42)。先祖の血統を通して神権が続いてきた（教義 86：8)。教会には二つの神権がある（教義 107：1)。メルキゼデク神権は，神の御子の位に従う聖なる神権である（教義 107：2−4)。神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており（教義 121：36)。いかなる力も影響力も，神権によって維持することはできない，あるいは維持すべきではない（教義 121：41)。教会のすべてのふさわしい男性会員は，神権への聖任を受けることができる（公式 2)。わたしたちは，神から召されなければならないと信じる（箇条 1：5)。

箴言

簡潔な格言または勧告の言葉。

箴言：『旧約聖書』の中の 1 書。多くのたとえや格言，詩を含む。その一部はソロモンが書いた。箴言は『新約聖書』にしばしば引用されている。

第 1−9 章には，真の知恵についての説明が述べられている。第 10−24 章は，正しい生き方と誤った生き方についての教訓を集めたものである。第 25−29 章には，ユダの王ヒゼキヤに属する人々が記録したソロモンの箴言が収められている。第 30−31 章は，徳高い女性について述べたものである。

神権時代　「神権」「神権の鍵」「福音」「福音の回復」参照

福音の神権時代とは，権能を与えられた，聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人，主が地上に置かれる時代をいう。

アダム，エノク，ノア，アブラハム，モーセ，イエス・キリスト，ジョセフ・スミスなどは，それぞれに新しい福音の神権時代を開いてきた。主は一つの神権時代を起こされるとき，その時代の人々が救いの計画を知るに当たって過去の神権時代に頼る必要がないように，新たに福音を啓示される。ジョセフ・スミスによって始められた神権時代は「時満ちる神権時代」と呼ばれている。

天の神は一つの国を立てられます(ダニ 2：44〔教義 65 章〕)。終りの時には，わたしの霊をすべての人に注ごう（使徒 2：17〔ヨエ 2：28〕)。イエスは，万物更新の時まで，天にとどめておかれねばならなかった（使徒 3：21)。時の満ちる神権時代に，神はすべてのものをキリストにあって一つに帰せしめようとされた（エペ 1：10)。わたしは彼らの中にわたしの教会を設けよう（3ニフ 21：22)。主は，終わりの時代のために，御自分の王国の鍵と福音の神権時代とをゆだねた（教義 27：13)。この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている（教義 110：12−16)。過去の神権時代のすべ

ての鍵が時満ちる神権時代に回復されてきた（教義 128：18−21）。

神権の鍵　「神権」「神権時代」「大管長会」参照

鍵とは，長の職に伴う権利，すなわち，地上において神権を管理し，統制し，治めるために神から人に授けられる権威である。長の職に召された神権者は，自分を管理する権能を持つ人から鍵を受ける。神権者は，鍵を持つ人が指示する範囲内でのみ，神権を行使する。教会の大管長は神権のすべての鍵を持つ（教義 107：65−67，91−92；132：7）。

ペテロは天国の鍵を授けられた（マタ 16：19）。ミカエルはイエス・キリストの指示の下に救いの鍵を受けた（教義 78：16）。王国の鍵は常に大神権の大管長会に属する（教義 81：2）。メルキゼデク神権は神の知識の鍵を持つ（教義 84：19）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，イスラエルの集合とアブラハムの福音と結び固めの権能に関する鍵を授けられた（教義 110：11−16）。十二使徒は特別な鍵を授けられる（教義 112：16）。大管長会と十二使徒会は，時満ちる神権時代の鍵を持つ（教義 112：30−34）。神権に属する役員は鍵を持つ（教義 124：123）。鍵を持つ人は知識を得ることができる（教義 128：11）。アロンの神権は天使の働きの鍵と，悔い改めの福音の鍵と，バプテスマの鍵を持つ（ジ―歴史 1：69〔教義 13 章〕）。

神権の誓詞と聖約　「神権」「聖約（契約）」「誓い」参照

誓詞とは，交わした約束に誠実かつ忠実であるという誓いの言葉である。また，聖約とは，当事者の間で交わされる厳粛な約束をいう。アロン神権は聖約のみで授けられる。メルキゼデク神権者は聖約と無言のうちの誓詞によって神権を受ける。忠実であり，神が命じられるままに召しを尊ぶ神権者は，神から祝福を受ける。また最後まで忠実で，神から求められるすべてのことを行う人は，御父が持っておられるすべてを受ける（教義 84：33−39）。

主はアブラハムと契約を結ばれ，アブラハムは従った（創世 15：18；17：1；22：16−18）。エゼキエルの時代の祭司たちは群れを養わなかった（エゼ 34：2−3）。マラキの時代の祭司たちは契約を破った（マラ 1−2 章）。

神権の聖任　「聖任」参照

信仰　「イエス・キリスト」「希望」「信じる」「信頼」参照

あるものに信頼を寄せること。聖典に何度も言われているように，信仰とはイエス・キリストに対する確信と信頼であり，その確信と信頼があれば，人はイエス・キリストに従うようになる。人を救いに導く信仰は，イエス・キリストを中心としたものでなければならない。また末日聖徒は，父なる神，聖霊，神権の力，また回復された福音のその他の重要な事柄に対しても信仰を持っている。

信仰には，まだ見ていない真実のことを待ち望むことも含まれる（ヘブ 11：1；アル 32：21；エテ 12：6）。信

仰は，神から遣わされた正当な権能を持つ者が教える福音を聞くことから始まる（ロマ 10：14−17）。奇跡が信仰を生み出すのではなく，イエス・キリストの福音に従うことによって強い信仰がはぐくまれるのである。言い換えれば，信仰は義から生じるのである（アル 32：40−43；エテ 12：4，6，12；教義 63：9−12）。

真の信仰は奇跡や示現，夢，癒し，および神が聖徒にお授けになるあらゆる賜物をもたらす。人は信仰によって罪の赦しを得，最後には神の前で生活できるようになる。信仰の欠如は，人を罪悪の結果である絶望に至らせる（モロ 10：22）。

義人はその信仰によって生きる（ハバ 2：4）。あなたの信仰があなたを救ったのです（マタ 9：22〔マコ 5：34；ルカ 7：50〕）。あなたがたの信仰どおり，あなたがたの身になるように（マタ 9：29）。からし種一粒ほどの信仰があるなら，あなたがたにできない事は，何もないであろう（マタ 17：20〔ルカ 17：6〕）。わたしはあなたの信仰がなくならないように，あなたのために祈った（ルカ 22：32）。イエスの名が，それを信じる信仰のゆえに，この人を強くした（使徒 3：16）。信仰は神の言葉を聞くことによる（ロマ 10：17）。もしキリストがよみがえらなかったとしたら，あなたがたの信仰もまたむなしい（1コリ 15：14）。信仰は愛によって働く（ガラ 5：6）。あなたがたの救われたのは，恵みにより，信仰によるのである（エペ 2：8〔2ニフ 25：23〕）。信仰のたてを手に取りなさい（エペ 6：16〔教義 27：17〕）。わたしは走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおした（2テモ 4：7）。信仰とは，望んでいる事がらを確信し（ヘブ 11：1）。信仰がなくては，神に喜ばれることはできない（ヘブ 11:6）。信仰も，行いを伴わなければ，死んだものである（新ヤコ 2：17−18，22）。わたしは行って，主が命じられたことを行います（1ニフ 3：7）。人の子らが主を信じる信仰を働かせれば，主は彼らのために何でもおできになります（1ニフ 7:12）。リアホナの指針は人々の信仰に応じて働いた（1ニフ 16：28）。聖者に対して完全な信仰を抱きながら，悔い改めて，神の御名によってバプテスマを受けなければならない（2ニフ 9：23）。イエスは，人の子らの中で，彼らの信仰に応じて大きな奇跡を行われる（2ニフ 26：13〔エテ 12：12；モロ 7：27−29，34−38〕）。エノスはキリストを信じる信仰のゆえに罪を赦された（エノ 1：3−8）。主イエス・キリストを信じるのでなければ，このような者には決して救いは与えられない（モサ 3：12）。キリストの御名を信じて心が改まった（モサ 5：7）。神の僕たちの祈りが，彼らの信仰に応じてかなえられる（モサ 27：14）。わたしたちの信仰に応じて，自由になる力をわたしたちにお与えください（アル 14：26）。信仰をもって神の御名を呼ぶ（アル 22：16）。信仰とは物事を完全に知ることではない（アル 32：21〔エテ 12：6〕）。それがふくらみ始めたら，あなたがたの信仰によってそれを養い育ててほしい（アル 33：23〔アル 32：28〕）。彼らが守られたのは，神の奇跡を起こす力によったものと考えざるを得ません（アル 57：25−

27)。信仰をもって神の御子を仰ぎ見る者は皆，生きることができる（ヒラ 8：15)。あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも，わたしは知っている（3ニフ 17：8)。信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものである（エテ 12：6)。奇跡を行った者は皆，信仰によって奇跡を行った（エテ 12：12−18)。もし彼らがわたしを信じるならば，そのとき，わたしは彼らの弱さを強さに変えよう（エテ 12：27−28，37)。モルモンは，信仰と希望と慈愛について教えた（モロ 7 章)。あなたがたが与えられると信じて，信仰をもってわたしの名によって父に求めるものは，正当であれば，何でもあなたがたに与えられる（モロ 7：26)。キリストを信じる者は一切の善いものを固く守る（モロ 7：28)。キリストを信じながら問うならば，神はこれが真実であることを明らかにしてくださる（モロ 10：4)。信仰がなければ何も行えない。それゆえ，信仰をもって求めなさい（教義 8：10)。彼らが祈りで示した信仰に応じてそれがかなえられる（教義 10：47，52)。すべての人はキリストの名を信じて最後まで堪え忍ばなければならない（教義 20：25，29)。イエス・キリストの恵みによる義認は，正しく，かつ真実である（教義 20：30)。御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう（教義 42：14)。信仰はしるしによっては生じないが，信じる者にはしるしが伴う（教義 63：9−12)。両親は子供にキリストを信じる信仰を教えなければならない（教義 68：25)。研究によって，また信仰によって学問を求めなさい（教義 88：118)。主イエス・キリストを信じる信仰は，福音の第一の原則である（箇条 1：4)。

信仰箇条　「高価な真珠」「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がよりどころとする 13 の基本的信条。

ジョセフ・スミスは，末日聖徒の信条を質問してきた『シカゴ・デモクラット』紙の編集者ジョン・ウェントワースに答える書簡の中で最初にこれを記した。この書簡は後に，ウェントワース書簡として知られるようになり，1842 年 3 月に『タイムズ・アンド・シーズンズ』紙上で初めて公にされた。1880 年 10 月 10 日に，「信仰箇条」は教会員の支持の挙手により正式に聖文として受け入れられ，『高価な真珠』の一部としてその中に収められた。

信じる　「イエス・キリスト」「信仰」「信頼」「不信仰」参照

何かを真実であるとして受け入れること。神の王国に救われるには，悔い改めて，イエス・キリストを信じなければならない（教義 20：29)。

あなたがたの神，主を信じなさい。主の預言者を信じなさい（歴下 20：20)。ダニエルは神を信じていたので，ししの穴の中で何の害も受けなかった（ダニ 6：23)。あなたの信じたとおりになるように（マタ 8：13)。祈のとき，信じて求めるものは，みな与えられるであろう（マタ 21：22)。恐れることはない。ただ信じなさい（マコ 5：36)。信ずる者には，どんな事でも

できる（マコ 9：23−24）。信じてバプテスマを受ける者は救われる（マコ 16：16〔2 ニフ 2：9；3 ニフ 11：33−35〕）。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである（ヨハ 3：16，18，36〔ヨハ 5：24；教義 10：50〕）。わたしたちは，あなたが神の聖者であることを信じ，また知っています（ヨハ 6：69）。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる（ヨハ 11：25−26）。わたしたち信じている者は，安息にはいることができる（ヘブ 4：3）。イエス・キリストの御名を信じ，互に愛し合うべきことである（1ヨハ 3：23）。メシヤは，御自分を信じる者を一人も滅ぼされない（2ニフ 6：14）。ユダヤ人はキリストを信じるようになるまで迫害される（2ニフ 25：16）。これらのことをすべて信じるならば，必ずそれを実行しなさい（モサ 4：10）。神の御子は御自分の御名を信じる人々の背きを負われる（アル 11：40）。進んで神の御言葉を信じる人は幸いである（アル 32：16）。信じようとする望みを持つだけでもよい。その望みを育ててゆけ（アル 32：27）。あなたがたは，イエス・キリストの御名を信じるならば，罪をすべて悔い改めるであろう（ヒラ 14：13）。わたしを信じる者は父をも信じるのである（3ニフ 11：35）。ヤレドの兄弟ほど深く主を信じた者はいなかった（エテ 3：15）。キリストを信じるように勧めるものはすべて，キリストの力によって送り出されている（モロ 7：16−17）。主の言葉を信じる者は御霊の現れを与えられる（教義 5：16）。主の名を信じる者は神の子となる（教義 11：30〔ヨハ 1：12〕）。ある人には，ほかの人の言葉を信じることが許される（教義 46：14）。信じる者には数々のしるしが伴う（教義 58：64〔教義 63：7−12〕）。信じ，悔い改め，バプテスマを受けるならば，聖霊の賜物を受ける（モセ 6：52）。

神性　「永遠の命」「昇栄」「人―天の御父のようになる可能性を持った人間」参照

神聖な　「聖い」参照

真鍮版　「版」参照

世の初めから紀元前 600 年までのユダヤ人の記録で，預言者の数多くの書が含まれている（1 ニフ 5：10−16）。この記録はエルサレムにいたユダヤ人の長老の一人，ラバンによって保管されていた。リーハイは家族とともに荒れ野にいたとき，この記録を手に入れるために息子たちをエルサレムに送り返した（1 ニフ 3−4 章）。（詳細については『モルモン書』の「『モルモン書』についての概説」を参照。）

神殿；主の宮　「エンダウメント」「儀式」「至聖所」「幕屋」参照

神殿は文字どおり主の宮である。主はいつも御自分の民に，神殿を建てることを命じてこられた。神殿は聖なる建物であり，ふさわしい聖徒たちがその中で，自分自身と死者のために神聖な福音の儀式を執行する。主は神殿を訪れられる。したがって神殿は，礼拝する場所としては最も神聖な所である。

モーセとイスラエルの子らが建てた幕屋は可動式の神殿であった。イスラ

エル人はエジプトから出て旅をしている間，幕屋を使っていた。

『聖書』の中で最もよく知られている神殿は，ソロモンがエルサレムに建てたものである（歴下 2–5 章）。この神殿は紀元前 600 年にバビロニア人によって破壊され，およそ 100 年後にゼルバベルによって再建された（エズ 1–6 章）。この神殿は紀元前 37 年に一部が焼失したが，後にヘロデ大王によって再建された。しかし，紀元 70 年にローマ人によって破壊された。

『モルモン書』でも，神に従う義にかなった人々は導きを受けて神殿を建て，そこで神を礼拝した（2 ニフ 5：16；モサ 1：18；3 ニフ 11：1）。神殿を建設し正しく使用することは，現在の回復された教会も含めて，どの神権時代においても，まことの教会のしるしとなっている。この神権時代に建設されて主に奉献された最初の神殿は，カートランド神殿である。それ以来，全世界の多くの国々で神殿が奉献されている。

その聖所に立つべき者はだれか（詩篇 24：3–5）。ヤコブの神の家へ行こう（イザ 2：2–3〔ミカ 4：1–2；2 ニフ 12：2–3〕）。主は，たちまちその宮に来る（マラ 3：1〔3 ニフ 24：1；教義 36：8；42：36〕）。イエスは宮清めをされた（マタ 21：12–16〔マコ 11：15–18；ルカ 19：45–48〕）。聖徒たちはミズーリ州に神殿を建てるように命じられた（教義 57：3〔教義 84：3–5〕）。神の家を建てなさい（教義 88：119〔教義 109：8〕）。主は神殿を建てるのを怠ったために聖徒たちを懲らしめられた（教義 95：1–12）。わたしは清くない神殿には来ない（教義 97：15–17）。わたしはこの家を受け入れた。わたしの名はここにあるであろう（教義 110：7–8）。主の民は，主の聖なる名のために神殿を建てるようにと常に命じられる（教義 124：39）。神殿で行われる大いなる業の中には，親子の結び固めも含まれる（教義 138：47–48）。神殿の建設は大いなる末日の業に含まれる（教義 138：53–54）。

神殿結婚　「結婚」参照

申命記　「五書」参照

「律法の写し」の意味がある。『旧約聖書』の 5 番目の書。

申命記には，モーセが身を変えられる直前にモアブの地で話した最後の 3 つの説教が載っている。最初の説教（第 1–4 章）は導入である。第 2 の説教（第 5–26 章）は次の二つの部分から成っている。(1) 第 5–11 章：十戒とその実践的説明。(2) 第 12–26 章：申命記全体の核となる律法の規定。第 3 の説教（第 27–30 章）には，イスラエルと神の間の聖約（契約）の厳粛な更新，また従順に伴う祝福と不従順の招くのろいに関する記述がある。第 31–34 章には，律法がレビ人に渡されたこと，またモーセの歌と最後の祝福，モーセの最期が記されている。

新約聖書　「聖書」「聖文」参照

イエス・キリストや使徒，イエス・キリストに従ったその他の人々の生涯と働きについて，霊感によって書かれた記録を集めたもの（ギリシャ語で書かれた）。『新約聖書』は通常，福音書，

使徒行伝，パウロの手紙，その他の手紙，黙示録に分類される。

マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネの四福音書は，キリストの生涯についての記録である。使徒行伝は教会の歴史と使徒たちの働きについて，特にキリストが亡くなられた後のパウロの伝道の旅について記録している。パウロの手紙は，教会の指導者や会員に教えを授けるためのものである。その他の手紙は他の使徒たちによって書かれ，初期の聖徒たちに新たな勧告を与えている。使徒ヨハネによって書かれた黙示録は，おもに終わりの時に関する預言を記録している。

信頼　「確信；信頼」「信仰」参照

人あるいは何かの物事を信じて頼りとすること。霊的な意味では，神とその御霊（みたま）に頼ることが含まれる。

たとえ神がわたしを殺しても，わたしは神を信頼する（KJ ヨブ 13：15）。心をつくして主に信頼せよ（箴言 3：5）。神は自分に寄り頼むしもべらを救った（ダニ 3：19–28）。あなたを頼ってまいります（2ニフ 4:34）。喜び，神に頼りなさい（モサ 7：19）。主に頼る者はだれであろうと，終わりの日に高く上げられる（モサ 23：22）。神に頼る者はだれであろうと，試練や災難や苦難の中にあって支えられ（アル 36：3，27）。肉の腕に頼ることのないように（教義 1：19）。善を行うように導く御霊（みたま）を信頼しなさい（教義 11：12）。ビショップはわたしを頼りなさい。そうすれば，打ち破られることはない（教義 84：116）。

真理　「英知」「知識」「光；キリストの光」参照

現在あるとおりの，過去にあったとおりの，また未来にあるとおりの，物事についての知識（教義 93：24）。真理はまた，天からの光と啓示を指す言葉としても用いられる。

まことは地からはえ（詩篇 85：11〔モセ 7：62〕）。また真理を知るであろう。そして真理は，あなたがたに自由を得させるであろう（ヨハ 8：32）。わたしは道であり，真理であり，命である（ヨハ 14：6）。もし，罪がないと言うなら，真理はわたしたちのうちにない（1ヨハ 1：8）。罪のある者は，真理を厳しいものと思う（1ニフ 16：2）。義人は真理を愛しており（2ニフ 9：40）。御霊（みたま）は真実を語り，偽りを言われることがない（ヤコ 4：13）。あなたは真理の神であり，偽りを言われることはありません（エテ 3：12）。聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう（モロ 10：5）。真理はとこしえにいつまでも変わらない（教義 1：39）。あなたが真理の御霊（みたま）に照らされた（教義 6：15）。真理と神の言葉が載っている『モルモン書』（教義 19：26）。真理を教えるために遣わされた慰め主（教義 50：14）。真理の御霊（みたま）によって御言葉（みたまのみことば）を受ける者は，真理の御霊（みたま）によって宣べられるままにそれを受ける（教義 50：17–22）。わたしがあなたがたに与えた啓示に従って真理を宣言しなさい（教義 75：3–4）。真理であるものはすべて光であり（教義 84：45）。キリストの光は真理の光である（教義 88：6–7，40）。わたしの御霊（みたま）は真理

である（教義 88：66）。英知すなわち真理の光は，創造されることもなく（教義 93：29）。神の栄光は英知である。言い換えれば，光と真理である（教義 93：36）。わたしはあなたがたに，あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた（教義 93：40）。わたしの独り子は，恵みと真理に満ちている（モセ 1：6）。

過越　「神の小羊」「最後の晩餐」参照

過越の祭は，滅ぼす天使が自分たちの家を過ぎ越して，エジプト人から救われたときのことをイスラエルの子らが覚えていられるようにするために定められたものである（出エ 12：21−28；13：14−15）。古代においては，傷のない子羊の血がイスラエルを救うためのしるしとして用いられたが，この傷のない子羊は，全人類を贖うために犠牲となられた神の小羊イエス・キリストの象徴である。

過越の祭の定めは次のとおりである（出エ 12：43）。イエスと弟子たちは最後の晩餐のときに過越を守った（マタ 26：17−29〔マコ 14：12−25〕）。見よ，世の罪を取り除く神の小羊（ヨハ 1：29，36）。わたしたちの過越の小羊であるキリストは，すでにほふられたのだ（1コリ 5：7）。あなたがたがあがない出されたのは，きずも，しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである（1ペテ 1：18−19）。神の小羊は世の罪を取り除く御方である（アル 7：14）。知恵の言葉に従う聖徒たちは，イスラエルの子らのように守られる（教義 89：21）。小羊は世の初めからほふられている（モセ 7：47）。

救い　「贖い；贖う」「贖いの計画」「イエス・キリスト」「死（肉体の）」「死（霊の）」「昇栄」「贖罪」「恵み」参照

肉体の死と霊の死から救われること。人は皆，イエス・キリストの死と復活を通して，神の恵みにより肉体の死から救われる。またイエス・キリストを信じる信仰を通して，神の恵みにより霊の死からも救われる。この信仰は，福音の律法と儀式に従順な生活とキリストへの奉仕の中に示される。

主はわたしの光，わたしの救だ（詩篇 27：1）。神こそわが岩，わが救（詩篇 62：2）。福音は救を得させる神の力である（ロマ 1：16〔教義 68：4〕）。恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい（ピリ 2：12）。神があなたがたを初めから選んで，きよめによって，救を得させようとし（2テサ 2：13）。救いは無料である（2ニフ 2：4）。救いの賜物に勝る大いなる賜物はない（教義 6：13）。イエス・キリストは，その名によって人の子らに救いが及ぶ，天下に与えられる唯一の名である（モセ 6：52〔使徒 4：10−12〕）。わたしたちは，キリストの贖罪により，全人類は救われ得ると信じる（箇条 1：3）。

幼い子供たちの救い：心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう（マタ 18：3）。幼い子供たちも永遠の命を得る（モサ 15：25）。幼児のバプテスマは忌まわしい行いである。幼い子供たちは贖罪のおかげでキリストによって生きている（モロ 8：8−24）。幼い子供たちは，独り子によって贖わ

れている。サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられない（教義 29：46−47）。子供たちに福音を教え，8 歳のときにバプテスマを施さなければならない（教義 68：25−28）。幼い子供たちは，イエス・キリストの贖罪によって聖められている（教義 74：7）。人々は，幼児の状態で，再び罪のない者となった（教義 93：38）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。子供たちは世の初めから罪がない（モセ 6：54）。

救い（死者の）　「死者の救い」参照

救い主　「イエス・キリスト」参照

救いをもたらす御方。イエス・キリストは贖罪によって，全人類に贖いと救いを与えようとされた。「救い主」は，イエス・キリストの名であり，称号である。

主はわたしの光，わたしの救だ（詩篇 27:1〔出エ 15:1−2；サ下 22:2−3〕）。ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない（イザ 43：11〔教義 76：1〕）。その名をイエスと名づけなさい。彼は，おのれの民をもろもろの罪から救う者となるからである（マタ 1:21）。きょう救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである（ルカ 2：11）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。この世が救われるためである（ヨハ 3：16−17）。キリストの名のほかに，人を救い得る名はない（使徒 4:10−12〔2 ニフ 25：20；モサ 3：17；5：8；教義 18：23；モセ 6：52〕）。救主，主イエス・キリストのこられるのを，わたしたちは待ち望んでいる（ピリ 3:20）。父が御子を世の救主としておつかわしになった（1ヨハ 4：14）。主なる神はメシヤ，言い換えれば，世の救い主を立てられる（1ニフ 10：4）。神の小羊は世の救い主であられる（1ニフ 13：40）。救い主についての知識が，あらゆる国民，部族，国語の民，民族の間に広まる（モサ 3：20）。イエス・キリストは必ず死ななくてはならない。救いがもたらされるためである（ヒラ 14：15−16）。イエス・キリストの恵みによる義認と聖めは，正しく，かつ真実である（教義 20：30−31）。わたしは世の救い主イエス・キリストである（教義 43:34）。わたしの独り子は，救い主である（モセ 1：6）。御子を信じて自分の罪を悔い改めるすべての者は救われる（モセ 5：15）。

救いの計画　「贖いの計画」参照

ステーク

末日聖徒イエス・キリスト教会の組織上また管理上のユニット。ステークは，幾つかのワードや支部で構成される。通常，ステークには地理的な境界があり，イザヤ 54：2 に描かれた天幕を連想させる。「あなたの綱を長くし，あなたの杭を強固にせよ。」（イザ 54：2）杭（stake）が天幕を支えているように，シオンの各ステークは教会を強くするための支えとなり，助けとなっている。ステークは，散乱したイスラエルの残りの者たちの集合場所である（教義 82：13 − 14；101：17 − 21）。

あなたの杭を強くし，あなたの境をとこしえに広げて（モロ 10：31〔教義 82：14〕）。このステークのほかに，シオンのために他のステークも定めてくださり（教義 109：59）。シオンの地とそのステークに集合することが，防御のためとなり（教義 115：6〔教義 101：21〕）。他の場所がステークとして定められる（教義 115：18）。大祭司定員会会長は，ステーク会長に任命される者たちに資格を与える目的で置かれた（教義 124：133−134）。あなたがたはシオンの地へ行って，シオンのステークが強くされるようにしなさい（教義 133：9）。

ステパノ

『新約聖書』の中の人物。救い主と教会のために殉教した。ステパノの宣教はパウロの偉大な働きを予告するものであり，パウロに影響を与えたと思われる。ステパノがサンヒドリンで弁明をしていたとき，パウロはその場にいた（使徒 8：1；22：20）。

十二使徒を助ける責任に任じられた（使徒 6：1−8）。めざましい奇跡としるしとを行っていた（使徒 6：8）。ユダヤ人たちと議論した（使徒 6：9−10）。訴えられ，議会で裁判を受けた（使徒 6：11−15）。弁論を行った（使徒 7：2−53）。聖霊に満たされて，示現の中で御父と御子を見た（使徒 7：55−56）。その証のゆえに殉教した（使徒 7：54−60）。

スミス，エマ・ヘイル　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの妻。主はエマに，教会のために賛美歌の選定をするよう命じられた。エマはまた扶助協会の初代会長を務めた。

主の御心について啓示が与えられた（教義 25 章）。主は結婚について勧告を与えられた（教義 132：51−56）。

スミス，サミュエル・H　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの弟（ジ―歴史 1：4）。1808 年に生まれ，1844 年に死去した。『モルモン書』の八人の証人の一人であり，回復された教会のために最初の宣教師の一人として務めを果たした（教義 23：4；52：30；61：33−35；66：7−8；75：13）。

スミス，ジョセフ，シニア　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「スミス，ルーシー・マック」参照

預言者ジョセフ・スミスの父。1771 年 7 月 12 日に生まれた。ルーシー・マックと結婚し，9 人の子供をもうけた（ジ―歴史 1：4）。末日の回復の業を忠実に信じ，初代の大祝福師となった。1840 年 9 月 14 日に死去した。

神は息子ジョセフを通して指示を与えられた（教義 4 章；23：5）。わたしの年老いた僕を，彼の家族とともに引き続き住まわせなさい（教義 90：20）。アブラハムの右に座している（教義 124：19）。ジョセフ・スミス・ジュニアは，日の栄えの王国の示現の中で自分の父を見た（教義 137：5）。使者がジョセフ・スミス・ジュニアに，受けた示現のことを父親に告げるように

と命じた（ジ―歴史 1：49–50）。

スミス，ジョセフ，ジュニア　「モルモン書」参照

地上にイエス・キリストの教会を回復するために選ばれた預言者。ジョセフ・スミスは 1805 年にアメリカ合衆国バーモント州で生まれ，1844 年に世を去った。

1820 年に父なる神とイエス・キリストの現れを受けたジョセフ・スミスは，地上にある教会はどれも正しくないことを知らされた（ジ―歴史 1：1–20）。後に天使モロナイの訪れを受けた。このモロナイは，アメリカ大陸の古代の住民の記録が刻まれている金版の隠し場所を彼に明らかにした（ジ―歴史 1：29–54）。

ジョセフはその金版を翻訳し，1830 年に『モルモン書』として出版した（ジ―歴史 1:60–67, 75）。1829 年に彼は，バプテスマのヨハネ，またペテロとヤコブとヨハネから神権の権能を受けた（教義 13 章；27：12；128：20；ジ―歴史 1：68–70）。

1830 年 4 月 6 日に，ジョセフは神の命に従い，他の数人とともに回復されたイエス・キリストの教会を組織した（教義 20：1–4）。ジョセフの指導の下に，教会はカナダや英国，合衆国東部，特にオハイオやミズーリ，イリノイで発展した。しかし，ジョセフと聖徒たちの住む所では必ず迫害が起こった。1844 年 6 月 27 日，ジョセフと兄ハイラム・スミスはアメリカ合衆国イリノイ州カーセージで殉教した。

ヤコブの息子であるヨセフは，ジョセフ・スミスについて預言した（2ニフ 3：6–15）。来るべき災いを知っておられた主は，ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れられた（教義 1：17〔教義 19：13〕）。イエス・キリストの使徒，また，この教会の第一の長老に聖任された（教義 20：2）。ペテロとヤコブとヨハネによって使徒に聖任された（教義 27：12）。ジョセフとシドニー・リグドンは，御父の独り子を見たことを証（あかし）した（教義 76：23）。オリバー・カウドリとともに示現の中で主にまみえた（教義 110：1–4）。主はジョセフを，管理長老とし，翻訳者，啓示者，聖見者，預言者として召された（教義 124：125）。ただイエスは別として，他のいかなる人よりも，この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた（教義 135：3）。

預言者ジョセフ・スミスが著した聖文：ジョセフは天使モロナイから託された金版の一部を翻訳し，1830 年に『モルモン書』として出版した。彼はまた，教会の基本的な教義や組織について述べた多くの啓示を主から受けた。その啓示の多くは，現在『教義と聖約』として知られている書物に編さんされている。またジョセフ・スミスの働きによって『高価な真珠』も出版されるに至った。『高価な真珠』には，モーセやアブラハム，マタイの記録，またジョセフの自伝と証（あかし）の抜粋，教会の教義と信条を 13 にまとめた信仰箇条が含まれている。

スミス，ジョセフ・F

教会の第 6 代大管長。ハイラム・スミスとメアリー・フィールディングの間に生まれたただ一人の男子。1838

年 11 月 13 日に生まれ，1918 年 11 月 19 日に死去した。

ジョセフ・F・スミスは死者の贖いに関する示現を受けた（教義 138 章）。

スミス, ハイラム　「スミス, ジョセフ, ジュニア」参照

ジョセフ・スミスの兄で，忠実な友でもあった。ハイラムは 1800 年 2 月 9 日に生まれた。彼は教会の長であったジョセフの補佐として，また教会の 2 代目の大祝福師として働いた。1844 年 6 月 27 日，ジョセフ・スミスとともにカーセージの監獄で殉教した。

神はジョセフ・スミスを通して指示を与えられた（教義 11 章；23：3）。心が高潔であったので，主から愛された（教義 124：15）。教会の祝福師の職に就くよう命じられた（教義 124：91−96，124）。ジョセフとハイラムはカーセージの監獄で殉教した（教義 135 章）。ハイラム・スミスやその他の選ばれた霊たちは，時満ちる時代に来るようにとどめられていた（教義 138：53）。

スミス，ルーシー・マック　「スミス, ジョセフ, シニア」「スミス, ジョセフ, ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの母。ジョセフ・スミス・シニアの妻（ジ―歴史 1：4，7，20）。1776 年 7 月 8 日に生まれ，1856 年 5 月 5 日に死去した。

ジョセフ・スミスは，日の栄えの王国の示現の中で自分の母を見た（教義 137：5）。

隅の石　「イエス・キリスト」参照

建物の基礎の隅に据えられる重要な石。イエス・キリストは隅のかしら石と呼ばれる（エペ 2：20）。

家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった（詩篇 118：22〔マタ 21：42−44；マコ 12：10；ルカ 20：17；使徒 4：10−12〕）。ユダヤ人は隅の石を拒んだ（ヤコ 4：15−17）。

正義　「憐れみ」「贖罪」参照

義にかなった思いと行いに対しては，結果として祝福が必ず与えられ，悔い改めなかった罪に対しては罰が課せられること。正義とは，神の律法が破られるたびに罰を要求する永遠の律法である（アル 42：13−24）。罪を犯した人は悔い改めなければその代価を支払わなければならない（モサ 2：38−39；教義 19：17）。しかし悔い改めれば，救い主が憐れみをかけて，贖罪によりその代価を支払ってくださる（アル 34：16）。

罪を犯した魂は必ず死ぬ（エゼ 18：4）。主のあなたに求められることは，ただ公義をおこない（ミカ 6：8）。神は真実で正しいかたであるから，その罪をゆるし（1ヨハ 1：9）。神の正義は悪人を義人から隔てている（1ニフ 15：30）。贖罪は，神の正義の要求を満たす（2ニフ 9：26）。全人類は堕落した状態になり，正義の支配下に入った（アル 42：14）。贖罪は正義の要求を満たす（アル 42：15）。あなたは憐れみが正義から何を奪うことができると思うか（アル 42：25）。悔い改めなければ，神の裁きが迫る（アル 54:6）。

正義と裁きは，わたしの律法に付随する罰である（教義 82：4）。正義はその道を進み続けてその権利を主張し（教義 88：40）。神の正義と律法から免れる者はだれもおらず（教義 107：84）。

聖見者　「ウリムとトンミム」「預言者」参照

神が世の人々から隠されたことを，霊の目をもって見るのを許された人（モセ 6：35−38）。聖見者は啓示者であり，また預言者でもある（モサ 8：13−16）。『モルモン書』の中でアンモンは，聖見者だけが特別な解訳器すなわちウリムとトンミムを使うことができると教えている（モサ 8：13；28：16）。聖見者は，過去，現在，未来の出来事を理解している。古代において，預言者はしばしば聖見者（先見者）と呼ばれた（サ上 9：9；サ下 24：11）。

ジョセフ・スミスは末日の偉大な聖見者である（教義 21:1；135:3）。また，大管長会と十二使徒評議会は，預言者，聖見者，啓示者として支持を受ける。

先見者の記録のうちにしるされている（歴下 33：19）。わたしはあなたの腰から出た者の中から，一人のえり抜きの聖見者を立てよう（2ニフ 3：6−15）。ここに知恵がある。それは，聖見者，啓示者，翻訳者，および預言者となることである（教義 107：92）。主はハイラム・スミスを，預言者，聖見者，啓示者に任命された（教義 124：91−94）。

聖餐　「イエス・キリスト」「生ける水」「命のパン」「犠牲」「最後の晩餐」「十字架」「贖罪」「バプテスマ」参照

末日聖徒にとって聖餐とは，キリストの贖いの犠牲を記念するパンと水にあずかる儀式を指す。裂かれたパンは主の引き裂かれた肉を象徴し，水は人の罪を贖うために流された主の血を象徴している（1コリ 11：23−25；教義 27：2）。ふさわしい教会員はこの聖餐にあずかるときに，キリストの名を受け，いつもキリストを覚え，その戒めを守ることを約束する。教会員はこの儀式を通して，バプテスマの聖約を新たにするのである。

イエスは最後の晩餐のときに，十二使徒と食事を共にして，聖餐の儀式について説明された（マタ 26：17−28；ルカ 22：1−20）。

イエスはパンを取り，祝福し，また杯を取り，感謝し（マタ 26：26−28〔マコ 14：22−24；ルカ 22：19−20〕）。わたしの肉を食べ，わたしの血を飲む者には，永遠の命があり（ヨハ 6：54）。主のからだをわきまえないで飲み食いする者は，その飲み食いによって自分にさばきを招く（1コリ 11:29〔3ニフ 18:29〕）。イエスはニーファイ人の十二弟子に，聖餐について教えられた（3ニフ 18：1−11）。イエスは弟子たちに，ふさわしくない人々が聖餐にあずかるのを禁じるように教えられた（3ニフ 18：28−29〔モル 9：29〕）。聖餐の祈りが述べられる（モロ 4−5 章〔教義 20：75−79〕）。聖餐は祭司または長老によって執行される（教義 20：46，76）。教師や執事には聖餐の祝福をする権能はない（教義 20：58）。聖餐にはぶどう酒以外の飲み物を使うことができる（教義 27：1−4）。

聖書　「エフライム―エフライムまたはヨセフの木」「旧約聖書」「新約聖書」「聖書外典」「正典」「聖文」「ユダ―ユダの木」参照

神聖な啓示を載せたヘブライ語文献とキリスト教文献の集成。聖書を表すバイブルという言葉には，「書物」という意味がある。『聖書』は，聖なる御霊（みたま）の感化の下に働いた，多くの預言者と霊感を受けた記録者が書き残したものである（2ペテ1：21）。

キリスト教徒が用いる聖書は，『旧約聖書』ならびに『新約聖書』として広く知られる二つの部分から成る。『旧約聖書』は，主がこの世で務めを果たしておられたときに，パレスチナのユダヤ人の間で用いられていた聖典である。『新約聖書』は使徒の時代に属する記録を含み，ユダヤ人の聖典と同じ神聖さと権威を備えていると見なされている。『旧約聖書』の各書は幾世紀にも及ぶ民族的文学の中から選ばれたものであり，そのほとんどがヘブライ語で書かれた。一方，『新約聖書』の各書は1世代の間に，おもにギリシャ語で記録された。

『旧約聖書』の「旧約」は，古い聖約（契約）の意味である。古い聖約とは，この世が始まって以来神の民が受けてきた完全な福音をイスラエルが拒んだときに，モーセに与えられた律法である。新しい聖約とは，イエス・キリストによって教えられたままの福音である。

ヘブライ語聖書（旧約聖書）の各書は，律法，預言者，諸書の3つに分類された。キリスト教界の中で用いられた『聖書』は，その内容により歴史書，詩歌，預言書などに分類されている。

『新約聖書』の各書は，一般に四福音書と使徒行伝，またパウロの手紙，ヤコブ，ペテロ，ヨハネ，ユダの公同書簡，ヨハネの黙示録の順序で配列されている。

末日聖徒イエス・キリスト教会は，『聖書』を尊ぶとともに，人類に対する神の計らいを記した『聖書』の記述を支持し確認する新たな啓示を，主が終わりの時に預言者を通して引き続き与えてくださると宣言している。

ユダの木（聖書）とヨセフの木（モルモン書）は主の手で一つになる（エゼ37：15–20）。『聖書』の真実性が末日の聖典によって確立される（1ニフ13:38–40）。『聖書』と『モルモン書』が一つに合わされて，偽りの教義を打ち破る（2ニフ3:12）。聖書か，聖書か。我々はすでに聖書を持っている（2ニフ29:3–10）。『聖書』を信じる人は『モルモン書』も信じるであろう（モル7：8–10）。長老は，『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義42：12）。わたしたちは，正確に翻訳されているかぎり，『聖書』は神の言葉であると信じる（箇条1：8）。

聖書（ジョセフ・スミス訳）　「ジョセフ・スミス訳（JS）」参照

聖書外典　「聖書」「聖文」参照

ユダヤ人が神聖なものと見なした諸書で，ヘブライ語『聖書』には含まれていなかったが，幾つかのキリスト教会の『聖書』には収録されているもの。これらの書物は『旧約聖書』と『新約

聖書』の歴史的つながりを知るうえで役立つことが多く，末日聖徒イエス・キリスト教会では有益なものと見なされている。

聖書外典は大部分正確に翻訳されているが，真実でない書き入れ文も含まれている（教義 91：1–3）。聖書外典は御霊（みたま）に照らされる者を益する（教義 91：4–6）。

性的不道徳　「姦淫（かんいん）」「肉欲」「不貞」参照

姦淫（かんいん），不貞，同性愛，近親相姦（そうかん）など，不浄で，不自然で，不純な，意図的に行われる性的行為。

父に酒を飲ませ，共に寝た（創世 19：30–36）。ルベンは父のそばめビルハのところへ行って，これと寝た（創世 35：22〔創世 49：4；歴上 5：1〕）。同性愛やその他の性倒錯は憎むべきことである（レビ 18：22–23）。男が女を犯したならば，その男だけが罪ありとされる（申命 22：25–27）。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫（かんいん）をしたのである（マタ 5：28〔3 ニフ 12：28〕）。性的な罪悪は忌まわしい行いである（アル 39：3–5）。

正典　「教義と聖約」「高価な真珠」「聖書」「聖文」「モルモン書」参照

正式に認められ，権威あるものと見なされた神聖な書物。末日聖徒イエス・キリスト教会では，正典は標準聖典と呼ばれ，この中には『旧新約聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』が含まれる。

聖徒　「イエス・キリストの教会」「クリスチャン」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

イエス・キリストの教会の忠実な会員。

わが聖徒をわたしのもとに集めよ（詩篇 50：5）。サウロはエルサレムで聖徒たちを大いに苦しめた（使徒 9：1–21）。ペテロはルダに住む聖徒たちのところへも下って行った（使徒 9：32）。ローマにいる，召された聖徒一同へ。恵みと平安とが，あなたがたにあるように（ロマ 1：7）。あなたがたは，聖徒たちと同じ国籍の者であり（エペ 2：19–21）。神の聖徒である小羊の教会の人々が見えた（1 ニフ 14：12）。キリストの贖罪（しょくざい）を通じて聖徒とならないかぎり，生まれながらの人は神の敵である（モサ 3：19）。主なるわたしは，地をわたしの聖徒たちが使うために祝福して（教義 61：17）。彼は神の聖徒たちに戦いを挑み（教義 76：28–29）。熱心に働きなさい。来るべき裁きの時に対して聖徒たちを備えさせるためである（教義 88：84–85）。聖徒は貧しい者や苦しんでいる者に持ち物を分け与えなければならない（教義 105：3）。以上の職とその鍵（かぎ）をわたしがあなたがたに授けたのは，奉仕の業とわたしの聖徒たちの完成のためである（教義 124：143〔エペ 4：12〕）。

聖なる人　「神；神会」「天の御父」「人の子」参照

父なる神の別称（モセ 6：57）。

聖なる御霊（みたま）　「聖霊」参照

聖なる森　「最初の示現」参照

聖任　「按手」「権威；権限；権能」「職」「神権」参照

権能を授けたり職に任じたりすること。主の教会で権能を行使するには，預言によって，また権能を持つ者による按手によって，神から召されなければならない（箇条 1：5）。人は聖任によって権能を受けることができるが，その権能に対する鍵を持つ者の指示の下にそれを行使する。

あなたを立てて万国の預言者とした（エレ 1：5）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして，あなたがたを立てた（ヨハ 15：16）。アルマは神から権能を授かっていたので，祭司たちを聖任した（モサ 18：18）。大祭司は聖なる位に従って聖任された（アル 13：1–9）。イエスは十二弟子を選び，聖任された（3ニフ 12：1）。長老は按手によって祭司と教師を聖任した（モロ 3 章）。もうしばらくの間待たなければならない。あなたはまだ聖任されていないからである（教義 5：17）。ジョセフ・スミスはイエス・キリストの使徒に聖任された（教義 20：2〔教義 27：12〕）。その教会の賛意の表明がなければ，だれも聖任されることはない（教義 20：65）。だれか権能を持つ者によって聖任されないかぎり，だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行くことは許されない（教義 42：11）。長老たちは福音を宣べ伝えるために聖任される（教義 50：13–18）。十二使徒には，教会の他のすべての役員を聖任する務めがある（教義 107：58）。わたしは先祖の祝福と，わたしが聖任されるべき権利を得ようと努めた（アブ 1：2）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは互いにアロン神権に聖任し合った（ジ—歴史 1：68–72）。

政府　「憲法」参照

イエス・キリストは地上に戻って来られると，義にかなった政府を打ち立てられる。

まつりごとはその肩にあり（イザ 9：6〔2 ニフ 19：6〕）。カイザルのものはカイザルに返しなさい（マタ 22：21〔教義 63：26〕）。上に立つ権威に従うべきである（ロマ 13：1）。王たちと上に立っているすべての人々のために，祈をささげなさい（1テモ 2:1–2）。支配者，権威ある者に服し，これに従い（テト 3：1）。あなたがたは，すべて人の立てた制度に，主のゆえに従いなさい（1ペテ 2：13–14）。イエス・キリストは地を最後に治める者とならられる（黙示 11：15）。正しい人をいつも王に頂く（モサ 23：8）。あなたがたは民の声によって職務を果たすように（モサ 29：26）。わたしが来るとき，わたしはあなたがたを治める者となる（教義 41：4）。神の律法を守る者は，その地の法律を破る必要がない（教義 58：21）。邪悪な者が治めるとき，民は嘆き悲しむ（教義 98：9–10）。政府は人間のために神によって設けられた（教義 134:1–5）。人は政府を支持し，支える義務を負う（教義 134：5）。わたしたちは，王，大統領，統治者，長官に従うべきことを信じる（箇条 1：12）。

聖文　「教義と聖約」「高価な真珠」「言葉（神の）」「聖書」「正典」「年表」「モルモン書」参照

神の聖なる人々が聖霊に感じて書いたり，話したりした言葉。当教会が今日，公式の正典として認めている聖文は，『聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』である。イエスと『新約聖書』の著者たちは，『旧約聖書』の各書を聖文と見なしていた（マタ 22：29；ヨハ 5：39；2 テモ 3：15；2 ペテ 1：20–21）。

聖書を説き明してくださったとき，お互（たがい）の心が内に燃えたではないか（ルカ 24：32）。聖文を調べなさい。わたしについてあかしをするものである（KJ ヨハ 5：39）。キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる（2ニフ 32：3）。聖文を信じるように導かれた者は皆，信仰において確固として堅固である（ヒラ 15:7–8）。人々は聖文を曲げて解釈し，それを理解しない（教義 10：63）。これらの言葉は人々から，人間から出ているのではなく，わたしから出ているのである（教義 18:34–36）。『モルモン書』の出現は，聖文が真実であることを世に証明している（教義 20：2，8–12）。聖文を研究することに時間を費やしなさい（教義 26：1）。聖文は聖徒を教えるために与えられている（教義 33：16）。聖文は選民の救いのために与えられる（教義 35:20）。『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義 42：12）。これらのことに関するわたしの律法がわたしの聖文の中に与えられている（教義 42：28）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，聖文となり（教義 68：4）。

失われた聖文：聖典の中に言及されているが，今わたしたちが手にしていない神聖な記録が数多くある。以下はそれらの記録や著者の一部である。「契約の書」（出エ 24：7），「主の戦いの書」（民数 21：14），「ヤシャルの書」（ヨシ 10：13；サ下 1：18），「ソロモンの事績の書」（列上 11：41），「先見者サムエルの書」（歴上 29：29），「預言者ナタンの書」（歴下 9：29），「預言者シマヤの書」（歴下 12：15），「預言者イドの書」（歴下 13：22），「エヒウの書」（歴下 20：34），先見者の記録（歴下 33:19），エノクの言葉（ユダ 1:14），ゼノク，ニアム，ゼノスの言葉（1 ニフ 19:10），ゼノス（ヤコ 5:1），ゼノクとイザイアス（ヒラ 8：20），覚えの書（モセ 6：5），コリント人への手紙（1 コリ 5：9），エペソ人への手紙（エペ 3：3），ラオデキヤからの手紙（コロ 4：16）。

保存されるべき聖文：これらの記録を手に入れるのは，神の知恵です。そうすれば預言者の口を通して語られてきた御言葉を残すことができる（1ニフ 3：19–20）。この小さい版はわたしが保存しなければならない（ヤコ 1：3）。これらのものが神の御手によって書き継がれ，そして残された（モサ 1:5）。これらの神聖なものを大切にしなさい（アル 37：47）。聖文は安全に保存されなければならない（教義 42：56）。保存するためあらゆる努力を尽くす（ジ—歴史 1：59）。

聖文の価値：あなたはイスラエルの

すべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない（申命 31：10−13）。律法の書をあなたの口から離すことなく（ヨシ 1：8）。主のおきては完全であって，魂を生きかえらせ（詩篇 19：7）。あなたのみ言葉はわが足のともしび（詩篇 119：105）。わたしについてあかしをするものである（ヨハ 5：39）。聖書は，すべて神の霊感を受けて書かれたものであって，人を教え，導くのに有益である（2テモ 3：15−16）。すべての聖文を自分たちに当てはめて，それが自分たちの利益となり（1ニフ 19：23）。わたしは聖文に喜びを感じる（2ニフ 4：15−16）。わたしたちは，キリストを信じるように説き勧めるために，熱心に記録し続けようと努めている（2ニフ 25：23）。民は聖文を詳しく調べ，二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかった（ヤコ 7：23〔アル 14：1〕）。この版がなかったならば，わたしたちは無知のままでいたに違いない（モサ 1：2−7）。神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきた（アル 17：2−3）。聖文は人々を救いに導くために保存される（アル 37：1−19〔2 ニフ 3：15〕）。神の言葉はキリストの人を導く（ヒラ 3：29）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，聖文となり，救いを得させる神の力となる（教義 68：4）。わたしの教会を築き上げ，彼らを備えるためである（教義 104：58−59）。だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は，惑わされることがない（ジ―マタ 1：37）。

出現を預言された聖文：イザヤは『モルモン書』の出現を預言した（イザ 29：11−14）。あなたは 1 本の木を取り，その上に『ユダのために』と書き（エゼ 37：15−20）。ほかにも幾つかの書物が現れる（1ニフ 13：39）。わたしの言葉がすべてそこに含まれていると思ってはならない（2ニフ 29：10−14）。キリストの福音を手にしなさい。キリストの福音はこの記録だけでなく，あなたがたに伝わる記録によってもあなたがたに知らされるであろう（モル 7：8−9）。この記録を明るみに出す者は幸いである（モル 8：16）。これらのことを書き記して封じなさい。わたしは自分がふさわしいと思うときに，これらのことを人の子らに知らせよう（エテ 3:27〔エテ 4:7〕）。わたしたちは，神がこの後も多くのことを啓示されると信じる（箇条 1：9）。

聖約（契約）「新しくかつ永遠の聖約」「アブラハムの聖約（契約）」「神権の誓詞と聖約」「誓い」参照

神と人との間で交わされる合意。ただし，この合意は対等の関係によるものではない。神は聖約に関して条件を定め，人は神から求められることを行うという同意をする。そして神は，人が従順であることに対して定められた祝福を与えると約束される。

原則や儀式は聖約によって与えられる。このような聖約を交わす教会員は，それを尊ぶことを約束する。例えば，教会員はバプテスマのときに主と聖約を交わし，聖餐（せいさん）を受けることによってその聖約を更新する。教会員はまた神殿でもさらに聖約を交わす。主の民は聖約の民であり，主との聖約を

守るときに，豊かに祝福される。

わたしはあなたと契約を結ぼう（創世 6：18）。わたしの契約を守るならば，あなたがたはわたしの宝となるであろう（出エ 19：5）。彼ら，および彼らの神々と契約を結んではならない（出エ 23：32）。安息日を覚え，永遠の契約としなければならない（出エ 31：16）。わたしはあなたと結んだ契約を決して破ることはない（士師 2：1）。いけにえをもってわたしと契約を結んだわが聖徒（詩篇 50：5〔教義 97：8〕）。その聖なる契約をおぼえ（ルカ 1：72〔教義 90：24〕）。神の力が主の聖約の民のうえに下る（1ニフ 14：14）。アブラハムに立てられた聖約は末日に成就する（1ニフ 15:18〔3ニフ 16：5，11−12；21：7；モル 9：37〕）。ベニヤミンの民は神の御心を行うという聖約を交わした（モサ 5:5）。バプテスマは神の御心を行うという聖約を交わした証拠である（モサ 18：13）。あなたがたは聖約の子孫だからである（3ニフ 20：25−26）。天使は，御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行する（モロ 7：31）。キリストの血が流されたのは，聖約されたことによる（モロ 10：33）。キリストのこの教会に属している人は皆，すべての聖約を守るように努めなければならない（教義 42:78）。聖約を守ってきた者は幸いである（教義 54：6）。聖約を破る者は教会における自分の職と立場を失い（教義 78：11−12）。神権を受ける者は皆，この誓詞と聖約を受け入れる（教義 84：39−40）。犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は，わたしに受け入れられる（教義 97：8）。結婚の聖約は永遠のものとすることができる（教義 132 章）。主のすべての定めに従って歩むことが，わたしたちの聖約となる（教義 136：4）。

聖霊　「神；神会」「啓示」「聖霊の賜物」「慰め主；助け主」「鳩のしるし」「バプテスマ」「約束の聖なる御霊」「赦されない罪」「霊感」参照

神会の第三の御方（1 ヨハ 5：7；教義 20：28）。霊の御方であり，骨肉の体は持っておられない（教義 130：22）。聖霊はしばしば，御霊，神の御霊と呼ばれる。

聖霊は救いの計画の中で幾つかの重要な役割を果たされる。(1) 御父と御子を証される（1 コリ 12：3；3 ニフ 28：11；エテ 12：41）。(2) すべてのことについて真理を明らかにされる（ヨハ 14：26；16：13；モロ 10：5；教義 39：6）。(3) 悔い改めてバプテスマを受けた人を聖められる（ヨハ 3:5；3 ニフ 27：20；モセ 6：64−68）。(4) 約束の聖なる御霊として働かれる（教義 76：50−53；132：7，18−19，26）。

聖霊の力は，まだバプテスマを受けていない人にも及び，福音が真実であることを証する。しかし，ふさわしい人に与えられる，聖霊を常に伴侶とする権利は，権能を持つ人からイエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた後に，メルキゼデク神権者の按手によってのみ授けられる賜物である。

イエスは，聖霊に対する冒瀆を除いて，すべての罪が赦されると教えられた（マタ 12：31−32；マコ 3：28−29；ルカ 12：10；ヘブ 6：4−8；教義

76：34−35）。

わが霊をあなたがたのうちに置いて（エゼ 36：27）。使徒たちは，父と子と聖霊との名によって人々にバプテスマを施す権能を与えられた（マタ 28：19）。聖霊は，あなたがたにすべてのことを教え（ヨハ 14：26）。人々が聖霊に感じ，神によって語ったもの（2ペテ 1：21）。ニーファイは御霊に導かれて行った（1ニフ 4：6）。神の奥義は聖霊の力によって人々に明らかにされる（1ニフ 10：17−19）。聖霊は，あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう（2ニフ 32：5）。聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう（モロ 10：5）。聖霊によって，わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう（教義 8：2）。御霊は公正に行動するように導く（教義 11：12）。聖霊はすべてのことを知っておられる（教義 35：19）。聖霊は王国にかかわる平和をもたらす事柄を教えられる（教義 36：2〔教義 39：6〕）。御霊を受けなければ，あなたがたは教えてはならない（教義 42：14）。聖霊は御父と御子のことを証される（教義 42:17〔1コリ 12：3；3ニフ 11：32，35−36〕）。ある人には，イエス・キリストが神の子であることを知ることが，聖霊によって許される（教義 46：13）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，聖文となり（教義 68：4）。聖霊が注がれて，あなたがたの述べるすべてのことを証するであろう（教義 100：8）。聖霊は常にあなたの伴侶となり（教義 121：45−46）。

聖霊の賜物　「神；神会」「聖霊」「賜物」「御霊の賜物」参照

絶えず聖霊の影響力を受けることは，バプテスマを受けて教会員となったすべてのふさわしい人に授けられる権利である。イエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた人は，正当な権能を持つ人の按手によって聖霊の賜物を受ける（使徒 8:12−25；モロ 2：1−3；教義 39：23）。聖霊の賜物を受けることは，しばしば火によるバプテスマと呼ばれる（マタ 3：11；教義 19：31）。

人々は，悔い改めてバプテスマを受け，聖霊の賜物を受けるように命じられている（使徒 2：38）。ペテロとヨハネは按手によって聖霊の賜物を授けた（使徒 8:14−22）。聖霊は按手によって授けられる（使徒 19：2−6）。火と聖霊によって罪の赦しが与えられる（2ニフ 31：17）。わたしたちは，聖霊の賜物を授けるための按手を信じる（箇条 1：4）。

ゼーズロム

『モルモン書』の中の人物。アモナイハの町の法律家。アルマとアミュレクは，ゼーズロムが偽りを言っていることを御霊によって見抜いた。後に彼は改心してキリストの福音に従った（アル 11：21−46；15：1−12）。

ゼカリヤ

旧約の預言者。紀元前 520 年ごろに預言した。預言者ハガイと同時代の人である（エズ 5：1；6：14）。

ゼカリヤ書：この書は，キリストのこの世での務めと再臨についての預言でよく知られている（ゼカ 9：9；11：12−13；12：10；13：6）。第 1−8 章には，神の民の将来についての一連の示現が記されている。第 9−14 章には，メシヤ，終わりの時，イスラエルの集合，最後の大戦争，再臨についての示現が述べられている。

責任を負う　「選択の自由」参照

主は，人は皆自分自身の思い，態度，望み，行動に対して責任があると言われた。

責任を負う年齢とは，子供が自分の行いに対して責任を有し，また罪を犯した後に悔い改めをすることができると見なされる年齢。

わたしはあなたがたを，おのおのその行いに従ってさばく（エゼ 18：30）。人はその語る無益な言葉に対して，言い開きをしなければならない（マタ 12：36）。あなたの会計報告を出しなさい（ルカ 16：2）。わたしたちひとりびとりは，神に対して自分の言いひらきをすべきである（ロマ 14：12）。死人はそのしわざに応じて，さばかれた（黙示 20：12）。わたしたちの言葉と行いと思いはわたしたちを罪に定める（アル 12：14）。人々は善を行うか悪を行うか自分で判断する（アル 41：7）。あなたがたは随意に行動することを許されている（ヒラ 14：29 − 31）。悔い改めとバプテスマについて教えなさい（モロ 8：10）。責任を負う年齢に達した人はすべて悔い改めて，バプテスマを受けなければならない（教義 18：42）。彼らがわたしの前に責任を負うようになるまで，サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられない（教義 29：46 − 47）。子供たちは，8 歳のときにバプテスマを受けなければならない（教義 68：27）。各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負う（教義 101：78）。善悪を知ることが彼らに許される。それゆえ，彼らは自ら選択し行動する者である（モセ 6：56）。人は自分の罪のゆえに罰せられる（箇条 1：2）。

責任を負う年齢　「責任を負う」参照

セツ　「アダム」参照

『旧約聖書』の中の人物。義人。アダムとエバの息子。

完全な人であり，その姿は彼の父に生き写しであった（教義 107：42−43〔創世 5：3〕）。霊界で力ある者たちの中にいた（教義 138：40）。神はセツに御自身を現された（モセ 6：1−3，8−14）。

ゼデキヤ　「ミュレク」参照

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国の最後の王（列下 24：17−20；25：2−7）。預言者エレミヤを投獄した（エレ 32：1−5）。エレミヤはゼデキヤが囚われの身となることを預言した（エレ 34：2−8，21）。リーハイとその家族は，ゼデキヤの治世第 1 年にエルサレムに住んでいた（1 ニフ 1：4）。ゼデキヤの息子たちは一人を除き全員が殺された。ゼデキヤの息子ミュレクは西半球へ逃れた（エレ 52：10；オム 1：15；ヒラ 8：21）。

ゼニフ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイの地に帰る人々を率いた。そして彼らの王となり，義にかなって導いた（モサ 9−10 章）。

ゼノク

旧約の時代のイスラエルの預言者。その名は『モルモン書』にのみ出てくる。

キリストの死について預言した（1ニフ 19：10）。神の御子について話した（アル 33：15〔アル 34：7〕）。真理のために殉教した（アル 33：17）。メシヤの来臨について預言した（ヒラ 8：20）。

ゼノス

旧約の時代のイスラエルの預言者。キリストの働きについて述べた彼の預言は，『モルモン書』にのみ記録されている。

キリストの埋葬と 3 日間の暗闇（くらやみ）について預言した（1ニフ 19：10，12）。イスラエルの集合を預言した（1ニフ 19：16）。ヤコブは，栽培されたオリーブの木と野性のオリーブの木の，ゼノスの比喩（ひゆ）を引用した（ヤコ 5 章）。ヤコブがゼノスの比喩（ひゆ）を解き明かした（ヤコ 6：1−10）。祈りと礼拝について教えた（アル 33：3−11）。贖（あがな）いが神の御子を通して与えられることを教えた（アル 34：7）。大胆に証（あかし）し，そのために殺された（ヒラ 8：19）。レーマン人の回復について預言した（ヒラ 15：11）。キリストの死のときに起こる破壊について証（あかし）した（3ニフ 10：15−16）。

ゼパニヤ

『旧約聖書』の中の人物。ヨシヤ王の治世の預言者（紀元前 639−608 年）。

ゼパニヤ書：第 1 章には，怒りと悩みに満ちた来るべき日のことが述べられている。第 2 章には，正義と謙遜（けんそん）さを求めよとのイスラエルの民への勧告が記されている。第 3 章には，すべての国民が集まって戦いをするときに再臨があることが述べられている。主は彼らのただ中で統治される。

ゼブルン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの息子（創世 30：19−20）。

ゼブルンの部族：ヤコブはゼブルンの部族に祝福を授けた（創世 49：13）。ゼブルンの部族は，デボラやバラクとともにイスラエルの敵と戦った（士師 4：4−6，10）。彼らはまた，ギデオンとともにミデアン人と戦った（士師 6：33−35）。

セム　「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。義人。ノアの息子。伝承によると，アラブ人，ヘブライ人，バビロニア人，シリア人，フェニキア人，アッシリア人を含む，セム族の始祖とされている（創世 5：29 − 32；6：10；7：13；9：26；10：21−32 ； モセ 8：12）。末日の啓示の中で，セムは「偉大な大祭司」と言われている（教義 138：41）。

ゼラヘムラ　「アンモン（ゼラヘムラの子孫）」「ミュレク」参照

『モルモン書』の中の人物や地名，民。(1) ミュレクの移民団を導いた人物。(2) 彼にちなんで名付けられた町。(3) ゼラヘムラの地。(4) 彼に従った民。

主がモーサヤの民を遣わされたので，ことのほか喜んだ（オム 1：14）。先祖の系図を述べた（オム 1：18）。アンモンはゼラヘムラの子孫であった（モサ 7：3，13）。教会がゼラヘムラの町に設けられた（アル 5：2）。この町が今救われているのは，義を守っている者たちのおかげである（ヒラ 13：12）。キリストの死のときに，ゼラヘムラの町は火で焼き尽くされた（3ニフ 8：8，24）。

ゼルバベル

『旧約聖書』の中の人物。クロスがユダヤ人にパレスチナへの帰還の許可を与えたとき，ゼルバベルは知事，すなわちユダヤの王家の代表に任じられた。彼のペルシャ語名は，セシバザルである（エズ 1：8）。彼はエルサレムの神殿の再建に従事した（エズ 3：2，8；5：2）。

宣言　「ウッドラフ，ウィルフォード」「結婚―多妻結婚」参照

1890 年にウィルフォード・ウッドラフ大管長が出した公式の宣言。当教会とその会員は国法に従い，多妻結婚を実施していないことを明確に宣言している（公式 1）。ウッドラフ大管長は神からの示現と啓示に従ってこの宣言を出した。

前世　「天上の会議」「天での戦い」「初め」「人」参照

地上に生まれる前の生活。男女を問わず人は皆，死すべき存在として地上に来る前は，神の霊の子供として神のもとにいた。前世は第一の位と呼ばれることもある（アブ 3：26）。

わたしが地の基をすえた時，どこにいたか。かの時には明けの星は相共（あいとも）に歌い，神の子たちはみな喜び呼ばわった（ヨブ 38：4–7）。霊はこれを授けた神に帰る（伝道 12：7）。わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに，あなたを知り（エレ 1：4–5）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：29）。神は天地の造られる前から，わたしたちを選び（エペ 1：3–4）。わたしたちは，たましいの父に服従して（ヘブ 12：9）。第一の位を保たなかった御使（みつかい）たちは，永遠の鎖で縛られた（KJ ユダ 1：6〔アブ 3：26〕）。サタンとその使いは投げ落とされた（黙示 12：9）。世の初めから召され，備えられていた（アル 13：3）。世界が造られる前に永遠の大いなる広がりと天の衆群を見た者（教義 38：1）。人もまた初めに神とともにいた（教義 93：29〔ヒラ 14：17；教義 49：17〕）。神の教会で治める者となるように初めに選ばれた，高潔で偉大な者たち（教義 138：53–55）。多くの者が霊の世界において最初の教えを受けた（教義 138：56）。すべてのものは，それらが地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造された（モセ 3：5）。わたしは世界を造り，また人々を，彼らが肉体にある前に造った（モセ 6：51）。アブラハムは，世界が存在する前に組織された英知たちを見

た（アブ 3：21–24）。

戦争　「平安；平和」参照

戦闘。武器を用いて戦うこと。主は聖徒たちに，家族や財産，権利，特権，自由を守る最後の手段として戦うことを認めておられる（アル 43：9，45–47）。

血を流してでも自分の民と，自分の権利と，自分の国と，自分の宗教を守ると固く誓って（アル 48:10–17）。ジョセフ・スミスは，戦争に関する啓示と預言を受けた（教義 87 章）。戦争を放棄して，平和を宣言しなさい（教義 98:16, 34–46）。わたしたちは信じる。人が自分自身と友人と財産と政府を守ることは正当である（教義 134：11）。わたしたちは，法律を守り，尊び，支えるべきことを信じる（箇条 1：12）。

選択　「選ぶ」「選択の自由」参照

選択の自由　「自由」「責任を負う」参照

神が人に授けられた，自分自身で選び，行動する能力と特権。

どの木からでも心のままに取って食べてよろしい（創世 2：16）。人は，誘われなければ，思いのままに行動することはできなかった（2ニフ 2：15–16）。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27）。あなたがたは自由であり，あなたがたは随意に行動することを許されている（ヒラ 14：30）。天の衆群の 3 分の 1 が，彼らの選択の自由によって背き去った（教義 29：36）。悪魔が人の子らを誘惑するのは必要である。そうでなければ，人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない（教義 29：39）。各人に自ら選ばせなさい（教義 37：4）。すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて，行動できるようにし（教義 101：78）。サタンは人の選択の自由を損なおうとした（モセ 4：3）。主は人に選択の自由を与えた（モセ 7：32）。

全知　「神；神会」参照

神の属性で，すべての知識を有すること（マタ 6：8；2 ニフ 2：24）。

全能　「神；神会」参照

神の属性で，すべての力を有すること（創世 18：14；アル 26：35；教義 19：1–3）。

選民

選民とは，心を尽くして神を愛し，神に喜ばれる生活をしている人々をいう。そのような弟子と呼ばれるにふさわしい生活をする人は，いつの日か主にえり分けられ，選ばれた子らの中に数えられる。

できれば，選民をも惑わそうとするであろう（マタ 24：24）。ヨハネは選ばれた婦人の子たちが忠実で信仰深いことを喜んだ（2ヨハ 1 章）。あなたの罪は赦されている。あなたは，選ばれた婦人である（教義 25：3）。わたしの選民はわたしの声を聴き，その心をかたくなにしない（教義 29：7）。同じように，わたしは地の四方からわたしの選民を集めよう（教義 33：6）。聖文が授けられ，わたしの選民は救わ

れるであろう（教義 35：20−21）。神権の召しを尊んで大いなるものとする者は神の選民となる（教義 84：33−34）。選民のためには，聖約に従ってその期間が縮められるであろう（ジ―マタ 1：20）。

創世記　「五書」参照

「創世記」に該当するギリシャ語には，「はじまり」あるいは「はじめに」という意味がある。創世記は『旧約聖書』の最初の書であり，預言者モーセによって書かれた。創世記には，地球の創造，地上に動物や人間が置かれたこと，アダムとエバの堕落，アダムへの福音の啓示，部族や人種の始まり，バベルでの様々な言語の発生，イスラエルの家の創成につながるアブラハムの家族の始まりなど，多くの事柄の起源が記録されている。創世記には，イスラエルを救う者としてのヨセフの役割が強調して描かれている。

末日の啓示は創世記の記録の真実性を立証し，明らかにしている（1 ニフ 5 章；エテ 1 章；モセ 1−8 章；アブ 1−5 章）。

創世記の第 1−4 章には，世界が創造され，アダムの家族が増え始めたことが書かれている。第 5−10 章には，ノアにまつわる歴史が記録されている。第 11−20 章には，イサクの時代に至るまでのアブラハムとその家族のことが記されている。第 21−35 章にはイサクの家族のこと，また第 36 章にはエサウとその家族のことが書かれている。そして第 37−50 章には，ヤコブの家族のことと，ヨセフがエジプトへ売られ，やがてイスラエルの家を救う者になったことが載っている。

創造；創造する　「安息日（あんそくにち）」「イエス・キリスト」「地球（地）」「初め」「霊の創造」参照

組織すること。神は御子イエス・キリストの働きを通して，自然界の元素を組織し，地球を形造られた。天の御父とイエスは御自分たちの形に人を創造された（モセ 2：26−27）。

はじめに神は天と地とを創造された（創世 1：1）。われわれにかたどって人を造り（創世 1：26〔モセ 2：26−27；アブ 4：26〕）。すべてのものは，キリストによってできた（ヨハ 1：3, 10）。万物は，天にあるものも，みな御子（みこ）にあって造られた（コロ 1:16〔モサ 3：8；ヒラ 14：12〕）。神は御子（みこ）によって，もろもろの世界を造られた（ヘブ 1：2）。人は初めに造られた（モサ 7：27）。わたしは天地とその中にある万物を創造した（3ニフ 9：15〔モル 9：11，17〕）。すべての人は初めにわたし自身の形に造られたのである（エテ 3：15）。イエス・キリストは天と地を創造された（教義 14：9）。神は人を創造された。すなわち，御自分の形に，男と女に創造された（教義 20：18）。無数の世界を，わたしは創造した（モセ 1:33）。わたしの独り子によって，わたしはこれらのものを創造した（モセ 2:1）。主なる神であるわたしは，すべてのものを，それらが地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造した（モセ 3：5）。この地球のような幾百万の地球も，あなたが創造されたものの数の始めにも至りません（モセ 7:30）。神々は，天と地を組織し，形造

られた（アブ 4：1）。

創造主　「イエス・キリスト」「創造；創造する」参照

相続人　「受け継ぐ者」参照

ゾーラム；ゾーラム人

『モルモン書』の中の人物。ラバンの召し使いであったが，ニーファイやリーハイとともに約束の地へ向かった（1 ニフ 4：31−38）。ゾーラムの忠実さを見たリーハイは，自分の息子たちだけでなく，ゾーラムにも祝福を授けた（2 ニフ 1：30−32）。彼の子孫はゾーラム人として知られるようになった（ヤコ 1：13）。

族長　「父（現世の）」参照

家族や部族の長。父親は自分の家族の族長として特別な祝福を授けることができる。しかし，教会はその祝福を記録することも，保管することもない。

ヤコブは息子たちとその子孫に祝福を授けた（創世 49：11−28）。族長ダビデについては，わたしはあなたがたにむかって大胆に言うことができる（使徒 2：29）。リーハイは子孫に勧告と祝福を与えた（2ニフ 4：3−11）。わたしは先祖に属する権利を持つ正当な相続人，大祭司となった（アブ 1：2−4）。

外の暗闇（くらやみ）　「地獄」参照

ソドム　「ゴモラ」参照

『旧約聖書』に出てくる邪悪な町。主によって滅ぼされた（創世 19：12−29）。

背く　「悪魔」「つぶやき」「罪」「背教；背信」参照

主に反抗したり，敵対したりすること。主の選ばれた指導者に従うのを拒んだり，故意に主の戒めに従わなかったりすることも含まれる。

主にそむいてはなりません（民数 14：9）。悪（あ）しき者はただ，そむく事のみを求める（箴言 17：11）。そむける子らはわざわいだ（イザ 30：1）。主は，御自分に背いて罪の中で死ぬ者については，決して贖（あがな）いをなさらない（モサ 15：26）。アムリサイ人は公然と神に背いた（アル 3：18−19）。背く者は深い悲しみに刺し貫かれる（教義 1：3）。主の怒りは背く者に向かって燃えている（教義 56：1〔教義 63：1−6〕）。サタンは神に背いた（モセ 4：3）。

ソロモン　「ダビデ」「バテシバ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデとバテシバの息子（サ下 12：24）。イスラエル王であった。

ダビデはソロモンを王とした（列上 1：11−53）。ダビデはソロモンに，主の道に歩むよう命じた（列上 2：1−9）。主は彼に聞き分ける心を与えると約束された（列上 3：5−15）。二人の女の間を裁き，どちらが子供のほんとうの母親かを言い当てた（列上 3：16−28）。箴言と歌を残した（列上 4：32）。神殿を建てた（列上 6 章；7：13−51）。神殿を奉献した（列上 8 章）。

シバの女王の訪れを受けた（列上 10：1−13）。外国の女と結婚し，その妻たちは彼の心を転じて偽りの神々に従わせた（列上 11：1−8）。主はソロモンを怒られた（列上 11：9−13）。ソロモンの死（列上 11：43）。ダビデはソロモンの輝かしい統治を預言した（詩篇 72 篇）。ソロモンは多くの妻とそばめを得たが，その中のある者たちは主から与えられた者ではなかった（教義 132：38〔ヤコ 2：24〕）。

大管長会　「啓示」「神権の鍵」「長」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長と顧問たち。3 人の大祭司から成る定員会を構成し，教会全体を管理する。大管長会は神権のすべての鍵を持つ。

王国の鍵は常に大神権の大管長会に属する（教義 81：2）。大神権の大管長会は，すべての職務を行う権利を持つ（教義 107：9，22）。だれでもわたしを受け入れる者は，大管長会を受け入れる（教義 112：20，30）。大管長会は全教会のために神託を受ける（教義 124：126）。

大祭司　「アロン神権」「メルキゼデク神権」参照

神権の職の一つ。この言葉は聖典の中で，次の二つの意味で用いられている。(1)メルキゼデク神権の職の一つ。(2) モーセの律法の下での，アロン神権の管理役員。

イエス・キリストを偉大なる大祭司と呼ぶのは，最初の意味による。アダムとすべての族長も大祭司であった。今日，3 人の管理大祭司が大管長会を構成し，他の神権者と教会のすべてを管理している。また, 今日の教会では，必要に応じてふさわしい人が大祭司に聖任される。大祭司がビショップとして召され，任命と聖任を受けることもある（教義 68：19；107：69−71）。

アロン神権の管理役員がモーセの律法の下で大祭司と呼ばれたのは，2 番目の意味による。この職は世襲であり，アロンの家系の長子を通して受け継がれた。アロン神権の初代大祭司はアロン自身であった（出エ 28−29 章；レビ 8 章；教義 84：18）。

メルキゼデクはいと高き神の祭司であった（創世 14：18〔アル 13：14〕）。大祭司は世の初めから召され，備えられていた（アル 13：1−10）。大祭司は霊的な事柄をつかさどる（教義 107：10，12，17）。

大神権　「メルキゼデク神権」参照

怠惰

義にかなった働きをおろそかにすること，またそれを果たさないこと。

働こうとしない者は，食べることもしてはならない（2テサ 3：10）。彼らは，悪意と狡猾さに満ちた怠惰な民となり（2ニフ 5：24）。怠惰にならないようにしなさい（アル 38：12）。怠惰な者は働く者のパンを食べてはならない（教義 42：42）。自分自身の手で働こうとしない者は，災いである（教義 56:17）。熱心に善いことに携わり（教義 58：27）。怠惰であるのをやめなさ

い（教義 88：124）。

第二の位　「死すべき状態」参照

第二の慰め主　「慰め主；助け主」参照

堪え忍ぶ　「逆境」「忍耐」「誘惑」参照

誘惑や反対や逆境に負けることなく，神の戒めに忠実であろうという決意を固く守り続けること。

最後まで耐え忍ぶ者は救われる（マタ 10：22〔マコ 13：13〕）。愛はすべてを耐える（1コリ 13：7）。アブラハムは忍耐強く待ったので，約束のものを得たのである（ヘブ 6：15）。彼らは最後まで堪え忍ぶならば，終わりの日に高く上げられて（1ニフ 13：37）。戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば，救われるでしょう（1ニフ 22:31〔アル 5：13〕）。キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み，最後まで堪え忍ぶならば，あなたがたは永遠の命を受ける（2ニフ 31：20〔3 ニフ 15：9；教義 14：7〕）。わたしの名を受け，最後まで堪え忍ぶ者は，救われるであろう（3ニフ 27：6）。教会にあって最後まで堪え忍ぶ者を，わたしはわたしの岩の上に建てよう（教義 10：69）。信仰をもって堪え忍ぶ者は，世に打ち勝つ（教義 63：20，47）。すべての王位と主権が示されて，イエス・キリストの福音のために勇敢に堪え忍んだすべての者に授けられるであろう（教義 121：29）。

多妻結婚　「結婚―多妻結婚」参照

たとえ　「福音書―福音書対観表」参照

霊的な真理や原則を説明したり，教えたりするのに使われる簡単な物語。たとえは，ありふれた事物を真理になぞらえたもので，受け入れる霊的な備えができていない人々は，それを聞いても言外の意味やメッセージを理解できないことが多い（マタ 13：10−17）。

イエスはしばしばたとえを用いて教えられた。イエスが話された重要なたとえについては，「福音書」の項を参照。

ダニエル

『旧約聖書』のダニエル書の中の人物。神の預言者であり，偉大な信仰の人であった。

貴族の出身と思われるが（ダニ 1：3），その両親については何も知られていない。ダニエルはとりことしてバビロンへ連れて行かれ，そこでベルテシャザルと名付けられた（ダニ 1：6−7）。ダニエルと他の 3 人のとりこは，宗教上の理由から王の食物を拒んだ（ダニ 1：8−16）。

ダニエルは夢を解き明かす能力によって（ダニ 2：4）ネブカデネザルとダリヨスの寵愛（ちょうあい）を得た。彼はまた壁に指で描かれた文字を読み，解き明かした（ダニ 5 章）。ダニエルは敵意を持つ者たちの策略によって，ししの穴に投げ入れられたが，主にその命を守られた（ダニ 6 章）。

ダニエル書：この書は二つに区分される。第 1 − 6 章はダニエルとその 3 人の同輩に関する物語，第 7−12 章は

ダニエルが見た預言的な示現である。ダニエル書は神に忠実であることの大切さを教え，主が忠実な者を祝福されることを説いている。

ダニエル書が大きく貢献しているのは，ネブカデネザル王の夢の解き明かしが記されていることである。その夢の中では，終わりの時における神の王国が，山から切り出される石として描かれている。その石は転がり進んで，やがて全地に満ちるであろう（ダニ2章；教義65：2）。

たばこ　「知恵の言葉」参照

ダビデ　「詩篇」「バテシバ」参照

『旧約聖書』の中の人物。古代イスラエルの王。

ダビデはユダ族のエッサイの息子であった。彼は勇敢な若者で，ししやくま，ペリシテ人の巨人ゴリアテを倒している（サ上17章）。彼はイスラエルの王に選ばれ，油を注がれた。サウルと同じように，成人してから大きな罪を犯したが，サウルと違うのは，心から罪を悔いたことである。それによって，ウリヤの殺害を除いては赦しを得ることができた（教義132：39）。ダビデの一生は次の4期に分けることができる。(1) 羊飼いとして暮らしたベツレヘム時代（サ上16－17章），(2) サウル王の宮廷で過ごした時代（サ上18章－19：18），(3) 逃亡生活の時代（サ上19：18－サ下1：27），(4) ヘブロンでユダの王として治めた時代（サ下2－4章）と，後に全イスラエルの王となった時代（サ下5章－列上2：11）。

ダビデはバテシバとの間に犯した姦淫の罪によって，人生最後の20年間を数々の不幸に苦しめられた。ダビデの治世に，国そのものは繁栄したが，彼自身は罪を犯したことで苦しみを味わった。家族の間に絶えず反目があり，アブサロムとアドニヤの場合は，公然とした反乱にまで至った。それらの出来事は，罪を犯したダビデに預言者ナタンが下した宣告の成就である（サ下12：7－13）。

これらの不幸にもかかわらず，ダビデの治世にイスラエルが最盛期に達したのは，彼が（1）諸部族を一つの国家に統一し，（2）領土を確保し，（3）真実の宗教を基とした政体を築いて，神の御心をイスラエルの法としたからである。これらの理由により，ダビデの治世は後に，イスラエルの黄金時代と言われ，メシヤ来臨時のより輝かしい時代をあらかじめ示すものと見なされた（イザ16：5；エレ23：5；エゼ37：24－28）。

ダビデの生涯は，人は皆義にかなった生活をして最後まで堪え忍ばなければならないことを教えている。若いときには，主の「心にかなう人」（サ上13：14）と言われ，長じてからも御霊によって語り，多くの啓示を受けた。しかしそのダビデも，神の戒めに不従順であったために大きな代価を払うことになってしまった（教義132：39）。

ダマスコ

シリアの古代都市。

ダマスコは砂漠の端の沃野に位置し，バラダ川を豊かな水源としている。ダマスコの名は聖典の中に何度も登場する（初出は創世15：2）。パウ

ロはダマスコに向かう途中，復活された主の訪れを受けた（使徒 9：1−27；22：5−16；26：12−20）。

賜物　「聖霊の賜物」「御霊の賜物」参照

神は人に多くの祝福と賜物をお与えになる。

霊の賜物は種々ある（1コリ 12：4−10）。更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい（1コリ 12：31）。あらゆる完全な賜物は，光の父から来る（新ヤコ 1：17）。聖霊の力は神の賜物である（1ニフ 10：17）。賜物がないと言う者は，キリストの福音を知らない者である（モル 9：7−8）。あらゆる善い賜物はキリストから来る（モロ 10：8−18）。永遠の命は，神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである（教義 14：7〔1 ニフ 15：36〕）。賜物は主を愛する者に与えられる（教義 46：8−11）。すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない（教義 46：11−29）。

賜物（聖霊の）　「聖霊の賜物」参照

賜物（御霊の）　「御霊の賜物」参照

堕落（アダムとエバの）　「贖い；贖う」「贖いの計画」「アダム」「イエス・キリスト」「生まれながらの人」「エバ」「死（霊の）」「死すべき状態」「贖罪」参照

人類がこの地上で死すべき状態となった過程。アダムとエバは禁断の実を食べて，死すべき状態，すなわち，罪と死に支配される者となった。アダムは地上で「最初の肉なるもの」（モセ 3：7）となった。末日の啓示は，「堕落」が一つの祝福であり，アダムとエバは全人類の始祖として尊ばれるべきであるということを明らかにしている。

堕落は人類の進歩に必要な一つの段階であった。神は堕落が起こることを承知しておられたので，前世で救い主を遣わす計画を立てられたのである。イエス・キリストはアダムの堕落に対して贖いをし，また悔い改めを条件に一人一人の罪を贖うために，時の中間に来られた。

それを取って食べると，きっと死ぬであろう（創世 2：17〔モセ 3：17〕）。エバはその実を取って食べた（創世 3：6〔モセ 4：12〕）。アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである（1コリ 15：22）。すべての人類は，迷い堕落した状態にあり（1ニフ 10：6）。人の堕落以来，方法が用意されており（2ニフ 2：4）。アダムとエバは禁断の実を食べた後，エデンの園から追い出され（2ニフ 2：19）。アダムが堕落したのは人が存在するためであり（2ニフ 2：15−26）。生まれながらの人は神の敵であり，アダムの堕落以来そうであって（モサ 3：19）。アロンはラモーナイ王の父に堕落について教えた（アル 22：12−14）。贖罪が行われることは必要である。すべての人は，堕落し，迷った状態にある（アル 34：9）。わたしたちの始祖は，肉体的にも霊的にも主の御前から絶たれてしまった（アル 42：2−15〔ヒラ 14：16〕）。堕落のために，

わたしたちの性質は絶えず悪くなっています（エテ 3：2）。これらの聖なる律法を破ったことによって，人は堕落した者となった（教義 20：20〔教義 29：34−44〕）。あなたは堕落したので，贖(あがな)いを受けることができる（モセ 5：9−12）。背きによって堕落が生じ（モセ 6：59）。人は自分の罪のゆえに罰せられる（箇条 1：2）。

タラント

古代に用いられた秤量(ひょうりょう)の単位。あるいは高額の通貨単位。またタラントは，イエス・キリストの福音など，非常に価値あるものの象徴としても使われた（マタ 25：14−29；エテ 12：35；教義 60：2，13）。

ダリヨス　「バビロン；バベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。ベルシャザルの死後バビロンを治めたメディア人（メデア人）の王（ダニ 5：31；6：9，25−28；9：1；11：1）。

ダン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブと，ラケルのつかえめビルハの間に生まれた男の子（創世 30：5−6）。

ダンの部族：ヤコブがダンに与えた祝福については，創世 49：16−18 を参照。モーセがダンの部族に与えた祝福については，申命 33：22 を参照。カナンに定住した後に，ダンの部族が受けた土地は，狭いものであったが非常に肥えていた（ヨシ 19：40−48）。その地をアモリ人（士師 1：34）やペリシテ人（士師 13：2，25；18：1）から守るのは非常に困難であった。結果的に，ダンの部族はパレスチナ北部のライシに移り（士師 18 章），この町の名をダンと改めた。この町は「ダンからベエルシバまで」広がるパレスチナの北辺の地としてよく知られている。

短気　「怒り」参照

断食　「ささげ物」「福祉」「施し」「貧しい」参照

主にさらに近づき，その祝福を求めるという目的の下に自分の意志で飲食を断つこと。個人的にであれ，グループとしてであれ，断食をする人は神の御心を理解し，霊的な力をさらに強めることができるように祈るべきである。いつの時代にも，まことの信者は断食を行ってきた。

今日の教会では，月に 1 度，安息日(あんそくにち)に断食を行うことになっている。断食の間，教会員は 24 時間飲食をしない。そして，もし食事をしていればかかったと思われる金額を，教会にささげる。これを断食献金という。教会は貧しい人や乏しい人のために断食献金を用いる。

われわれは断食して，われわれの神に求めた（エズ 8：21−23，31）。わたしは断食して天の神の前に祈って（ネヘ 1：4）。わたしのために断食してください。3 日のあいだ食い飲みしてはなりません（エス 4：16）。わたしは断食してわが身を苦しめた（詩篇 35：13）。このようなものは，わたしの選ぶ断食であろうか（イザ 58：3−12）。わが顔を主なる神に向け，断食をな

し，願い求めた（ダニ 9：3）。心をつくし，断食をもってわたしに帰れ（ヨエ 2：12）。ニネベの人々は神を信じ，断食をふれ（ヨナ 3：5）。イエスは 40 日 40 夜，断食をされた（マタ 4:2〔出エ 34：28；列上 19：8；ルカ 4：1−2〕）。断食をしていることが人に知れないで（マタ 6：18〔3 ニフ 13：16〕）。このたぐいは，祈と断食とによらなければ，追い出すことはできない（マタ 17：21）。断食と祈りを続け（オム 1：26〔4 ニフ 1：12〕）。彼らは断食して，主なる自分たちの神に祈り始め（モサ 27：22）。わたしは自分でこれらのことを知ることができるように，幾日もの間，断食をして祈ってきた（アル 5:46）。神の子たちは，しばしば集まって，ともに断食し（アル 6：6）。モーサヤの息子たちはしばしば祈り，また断食もした（アル 17：3，9）。断食と祈りを重ねた時であった（アル 28：5−6）。彼らは大いに断食し，大いに祈り（アル 45：1〔ヒラ 3：35〕）。あなたの食物を真心を込めて準備して，あなたの断食が完全になるように（教義 59：13−14）。あなたがたは祈りと断食を続けなければならない（教義 88：76）。

血　「イエス・キリスト」「犠牲」「贖罪」参照

古代イスラエルにおいても今日の数多くの社会においても，血は生命の源，肉なる者の活力と考えられている。旧約の時代に，主は血を食することをイスラエルに禁じられた（レビ 3：17；7：26−27；17：10−14）。

犠牲の贖いの力は血の中に存在した。なぜなら血は生命に欠かせないものと考えられていたからである。『旧約聖書』に述べられている動物の犠牲は，後にイエス・キリストによって果たされる偉大な犠牲の象徴であった（レビ 17：11；モセ 5：5−7）。イエス・キリストの贖いの血は，悔い改める人を罪から清める（1 ヨハ 1：7）。

その汗が血のしたたりのように地に落ちた（ルカ 22：44）。わたしたちはキリストの血が流されたことによって聖められる（ヘブ 10：1−22）。あらゆる毛穴から血が流れ出る（モサ 3：7〔教義 19：18〕）。主の血が罪の赦しのために流された（教義 27：2）。イエスは，自らの血を流すことによって完全な贖罪を成し遂げられた（教義 76：69）。血によって聖められる（モセ 6：60）。

知恵　「真理」「知識」「理解」参照

正しい判断を下せるように神から与えられた能力すなわち賜物。人は経験と学習によって，また神の勧告に従うことにより知恵を得ることができる。神の助けなくして，真の知恵を得ることはできない（2 ニフ 9：28；27：26）。

神はソロモンに非常に多くの知恵と悟りを授け（列上 4：29−30）。知恵は重要なものである，知恵を得よ（KJ 箴言 4：7）。知恵を得る者は自分の魂を愛し（箴言 19：8）。幼な子は，ますます知恵に満ち（ルカ 2：40，52）。知恵に不足している者があれば，神に，願い求めるがよい（新ヤコ 1：5〔教義 42：68；ジ―歴史 1：11〕）。わたしがこれらのことを語るのは，あなたがたに知恵を得させるためである（モサ

2：17)。若いうちに知恵を得なさい(アル 37：35)。知恵と，知識の大いなる宝，すなわち隠された宝さえ見いだすであろう（教義 89：19)。知識のない者は，へりくだって主なる神に呼び求めることによって知恵を得なさい(教義 136：32)。

知恵の言葉

聖徒の肉体と霊のために主から啓示された健康の律法（教義 89 章)。主は従う人々に，健康のための原則をいつも教えてこられた。主はジョセフ・スミスに，どのような種類の食物を取るべきか，また避けるべきかを明らかにされた。これには，知恵の言葉に従う人に与えられる肉体的また霊的な祝福が約束として添えられている。

ぶどう酒と濃い酒を飲んではならない（レビ 10：9)。酒は人をあざける者とし，濃い酒は人をあばれ者とする(箴言 20：1)。濃き酒はこれを飲む者に苦くなる（イザ 24：9)。ダニエルは王の食物と，王の飲む酒とをもって，自分を汚すまいと，心に思い定め（ダニ 1：8)。もし人が，神の宮を破壊するなら，神はその人を滅ぼすであろう（1コリ 3：16−17)。酒に酔う者は，神の国をつぐことはない（1コリ 6：10〔ガラ 5：21〕)。人は肉を食べてはならないとして禁じる者は，神から聖任されていない（教義 49：18−21)。地から生じるすべてのものは，思慮分別をもって，度を越さず使うようにしなければならない（教義 59：20)。主は聖徒たちに，ぶどう酒や強い飲み物，たばこ，および熱い飲み物を利用しないよう勧告された（教義 89：1−9)。草や果実，肉，穀物が人や動物のために備えられた（教義 89：10−17)。知恵の言葉に従うなら，肉体的な祝福と霊的な祝福を受けることができる（教義 89：18−21)。

誓い　「神権の誓詞と聖約」「聖約（契約)」参照

聖典では通常，神聖な誓いや約束を表す言葉として用いられる。しかし，サタンとその使いを含む邪悪な者たちも，そのよこしまな目的を遂げるために誓いを立てる。旧約の時代には誓いが認められていたが，イエス・キリストは神の名や被造物にかけて誓ってはならないと教えられた（マタ 5：33−37)。

わたしがあなたの父アブラハムに誓った誓いを果そう（創世 26：3)。もし人が主に誓願をかけるならば，その言葉を破ってはならない（民数 30：2)。誓ったことは，すべて主に対して果せ（マタ 5：33〔伝道 5：1−2；3 ニフ 12：33〕)。神は忠実な人々は救われることを，誓いによって保証された(ヘブ 6：13−18)。ゾーラムがわたしたちに誓ったので，彼についての心配はなくなった（1ニフ 4：37)。アンモンの民は決して血を流さないと誓いを立てた(アル 53:11)。邪悪なニーファイ人たちはサタンと秘密の誓いを交わした（ヒラ 6：21−30)。人は神権に伴う誓詞と聖約を通して永遠の命を得る（教義 84：33−42)。約束の聖なる御霊(みたま)により結ばれない聖約や契約，きずな，義務，誓詞はすべて死をもって終わる（教義 132：7)。

誓う；ののしる　「誓い」「不敬」「冒(ぼう)

瀆（とく）；汚す罪」参照

力　「権威；権限；権能」「神権」参照

何かを行う能力。人あるいは事物に対して力を持つとは，それらを治めたり，命じたりする能力を持つということである。聖典では，力は神の力あるいは天の力を指すことが多い。多くの場合，神に代わって行動する許可すなわち権利である神権の権能と密接な関連がある。

わたしがあなたをながらえさせたのは，あなたにわたしの力を見せるため（出エ 9：16）。あなたの手に善をなす力があるならば，これをさし控えてはならない（箴言 3：27）。わたしは主のみたまによって力に満ち（ミカ 3：8）。わたしは，天においても地においても，いっさいの権威を授けられた（マタ 28：18）。その言葉に権威があったので，彼らはその教（おしえ）に驚いた（ルカ 4：32）。上から力を授けられるまでは，あなたがたは都にとどまっていなさい（ルカ 24：49）。彼を受けいれた者には，彼は神の子となる力を与えた（ヨハ 1：12〔教義 11：30〕）。聖霊があなたがたにくだる時，あなたがたは力を受けて（使徒 1：8）。存在している権威は，すべて神によって立てられたものだからである（ロマ 13：1）。あなたがたは，救（すく）いにあずかるために，信仰により神の御力に守られている（1ペテ 1：3–5）。わたしは神の力に満たされている（1ニフ 17：48）。キリストのことは，聖霊の力によってもわたしに明らかにされました（ヤコ 7：12）。大きな力が神から授けられることもあります（モサ 8：16）。神の力と権能をもって教えた（アル 17：2–3）。ニーファイは，力と大きな権能をもって教えた（3ニフ 7：15–20〔3 ニフ 11：19–22〕）。たとえある人が多くの力ある業を行う力を持つとしても，もし自分の力を自慢するならば，彼は必ず落ちるであろう（教義 3：4）。善を行う力が人の内にある（教義 58：27–28）。メルキゼデク神権の儀式によって神性の力が現れる（教義 84：19–22）。神権の権利は天の力と不可分に結びついており（教義 121：34–46）。わたしの力はあなたのうえにあるであろう（アブ 1：18）。

地球（地）　「創造；創造する」「世」参照

わたしたちが今住んでいる惑星。人の試しの生涯の場として，イエス・キリストを通して神により創造された。地球は最終的には栄光を受け，昇栄した状態になる（教義 77：1–2；130：8–9）。また，日の栄えにふさわしい生活をした人々の永遠の住まいとなる（教義 88：14–26）。その人々は御父と御子の前に住む（教義 76：62）。

人のために創造された：神は人に地を従わせる権威を与えた（創世 1：28〔モセ 2：28〕）。地は主のものである（出エ 9：29〔詩篇 24：1〕）。主は地を人の子らに与えられた（詩篇 115：16）。わたしは地を造って，その上に人を創造した（イザ 45：12）。神の言葉の力によって人は大地の面に現れ（ヤコ 4：9）。地は自分の導き手として聖なる御霊（みたま）を受け入れる人々に与えられる（教義 45：56–58〔教義 103：7〕）。福音に従う人は地の良いものを報いとして受ける（教義 59：3）。地の貧しい者と柔和な者はそれを受け継ぐ（教

義 88：17〔マタ 5：5；3 ニフ 12：5〕)。これらの者が住む地を造ろう。そして彼らを試し（アブ 3：24−25)。

生命を持つ存在：地は永遠に変わらない（伝道 1：4)。ガラスの海とは，聖められた，不滅かつ永遠の状態にある地球である（教義 77：1)。地球は日の栄えの栄光に備えられるように，聖められなければならない（教義 88：18−19)。地が嘆き悲しむ声を上げた(モセ 7：48)。

分かれた地：水は一つ所に集まり，かわいた地が現れよ（創世 1：9)。ペレグの時代に地が分かれた（KJ 創世 10:25)。水がこの地の面から引いた後，この地がえり抜きの土地になった（エテ 13：2)。陸地はそれが分けられる前の時代のようになる（教義 133：24)。

地球の清め：40 日 40 夜，地に雨が降った（創世 7：4)。地は，さばきの日に火で焼かれる時までそのまま保たれる（2ペテ 3：7)。今日が過ぎると，焼き払いがある（教義 64：24)。地は汚れから清められることを望んでいる(モセ 7：48)。

最終的な状態：大地が巻き物のように巻かれ，天地が過ぎ去る（3ニフ 26：3〔教義 29：23〕)。新しい天と新しい地がある（エテ 13：9〔教義 29：23〕)。ガラスの海とは，聖められた，不滅かつ永遠の状態にある地球である(教義 77：1)。地球は日の栄えの栄光に備えられるように，聖められなければならない（教義 88：18−19)。この地球は水晶のようになり，一つの「ウリムとトンミム」になる（教義 130：8−9)。千年の間，地は安息を得るであろう（モセ 7：64)。地球は更新される（箇条 1：10)。

知識　「真理」「知恵」「理解」参照

何かに対する理解。特に御霊によって教えられ，確認された真理に対する理解。

主はすべてを知る神であって（サ上 2：3)。主は完全な知識を持っておられる（ヨブ 37：16)。主を恐れることは知識のはじめである（箴言 1：7)。言葉を少なくする者は知識のある者（箴言 17：27)。主を知る知識が地に満ちる（イザ 11：9〔2 ニフ 21：9；30：15〕)。あなたがたは，知識のかぎを取りあげて（ルカ 11：52)。人知をはるかに越えたキリストの愛（エペ 3：19)。あなたがたの信仰に徳を加え，徳に知識を（2ペテ 1:5)。ニーファイは神の慈しみを深く知った（1ニフ 1：1)。彼らは自分たちの贖い主を知るようになる（2ニフ 6：11)。義人は，自分の義について完全な知識を得（2ニフ 9：14)。御霊は理解を与えてくださる（アル 18：35)。あなたがたの知識はそのことに関しては完全である（アル 32：34)。レーマン人は彼らの贖い主について真実の知識に導かれる（ヒラ 15：13)。神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる（モロ 7：15−17)。聖徒たちは知識の大いなる宝を見いだすであろう（教義 89：19)。純粋な知識は心を大いに広げる（教義 121：42)。神権の鍵を授けられる者にとって，数々の事実を知ることは少しも難しいことではない（教義 128：11)。この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得

るならば，来るべき世でそれだけ有利になる（教義 130：19）。人が無知で救われることは不可能である（教義 131：6）。

父（現世の）　「親」「家族」「族長」参照

子供をもうけた男性，あるいは正式に子供を養子にした男性を指す神聖な呼び名。

あなたの父と母を敬え（出エ 20：12〔申命 5：16；マタ 19：19；モサ 13：20〕）。父はその愛する子を戒める（箴言 3：12）。父たる者よ。子供をおこらせないで（エペ 6：1−4）。わたしは父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた（1ニフ 1：1）。わたしは，父が正しい人であったことを知っている（エノ 1：1）。アルマは息子のために祈った（モサ 27：14）。アルマは息子たちに戒めを与えた（アル 36−42 章）。ヒラマンは息子たちに先祖の名を付けた（ヒラ 5：5−12）。モルモンは祈りの中で，いつも息子のことを心にかけていた（モロ 8：2−3）。大いなることが彼らの父親に求められる（教義 29：48）。自分の家族を扶養する義務を負っている（教義 75：28）。モロナイはジョセフに，父のところへ行くようにと命じた（ジ―歴史 1：49）。

父（天の）　「天の御父」参照

チッポラ　「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。エテロの娘。モーセの妻（出エ 2：21；18：2）。

中央幹部　「管理ビショップ」「七十人」「使徒」「大管長会」参照

仲保者　「イエス・キリスト」「贖罪」参照

執り成しをする者。イエス・キリストは神と人との間の仲保者である。キリストの贖罪は，人々が罪を悔い改め，神と和解する道を開いた。

だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない（ヨハ 14：6）。神と人との間の仲保者もただひとりであって（1テモ 2：5）。キリストはさらにまさった契約の仲保者である（ヘブ 8：6〔ヘブ 9：15；12：24；教義 107：19〕）。メシヤはすべての人の子らのために執り成しをしてくださる（2ニフ 2：9〔イザ 53：12；モサ 14:12〕）。偉大な仲保者に頼り（2ニフ 2：27−28）。新しい聖約の仲保者イエスを通じて完全な者とされ（教義 76：69）。

長　「大管長会」「預言者」参照

組織を管理する役員の呼称。教会の大管長は，預言者，聖見者，啓示者であり（教義 21：1；107：91−92），教会員は教会の預言者を「大管長」と呼ぶように求められている（教義 107：65）。教会の大管長は，神権のすべての鍵を行使する権限を持つ地上でただ一人の人である。

神権定員会や教会の他の組織の長は，会長と呼ばれる。

主はジョセフ・スミスに王国の数々の鍵を授けられた（教義 81：1−2）。3 人の管理大祭司が，教会の大管長会

の定員会を構成する（教義 107：21−24）。長はメルキゼデクの位に従って聖任された（教義 107:29）。執事，教師，祭司，長老のそれぞれの会長の義務が述べられる（教義 107：85−89〔教義 124：136−138，142〕）。七十人は七十人の人々の中から選ばれた 7 人の会長によって管理される（教義 107：93−95）。ステークの会長が任命された（教義 124：133−135）。

長子；初子（ういご）　「イエス・キリスト」「長子の特権；生得権」参照

古代の族長の時代においては，長男が長子の特権を受け（創世 43：33），父親の死とともに家族を統率する任務を引き継いだ。長子はこの責任を引き受けるにふさわしくなければならず（歴上 5：1−2），不義な行いをすれば長子の特権を失うこともあった。

モーセの律法の下では，長男は神に属する者と見なされた。長子は，父親の財産から他の者の 2 倍を受け継いだ（申命 21：17）。父親の死後，長子は母親と姉妹の世話をする責任があった。

動物の初子（ういご）も神に属するものとされていた。清い動物は犠牲としてささげられたが，清くない動物は贖（あがな）うか，売るか，または殺さなければならなかった（出エ 13：2，11−13；34：19−20；レビ 27：11−13，26−27）。

初子（ういご）はイエス・キリストと地上における主の務めを象徴し，偉大なメシヤの来臨を人々に思い起こさせた（モセ 5：4−8；6：63）。

イエスは天の御父の霊の子供の長子であり，また御父の肉における独り子であり，復活によって死者の中からよみがえられた最初の御方である（コロ 1：13−18）。忠実な聖徒は永遠に長子の教会の会員となる（教義 93：21−22）。

あなたのういごを，わたしにささげなければならない（出エ 22：29）。イスラエルのういごをわたしに帰せしめた（民数 3：13）。それは，御子（みこ）を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった（ロマ 8：29）。神は，その長子を世界に導き入れ（ヘブ 1：6）。彼らは長子の教会である（教義 76：54，94）。それは先祖からわたしに授けられた。それは長子の権利であり（アブ 1：3）。

長子の特権；生得権　「聖約（契約）」「長子；初子（ういご）」参照

長子に与えられる相続権。広い意味では，ある家族や文化の中に生まれた人に与えられる権利の一部，あるいはすべてを含んだもの。

まずあなたの長子の特権をわたしに売りなさい（創世 25：29−34〔創世 27：36〕）。長子は長子としてすわらせられた（創世 43：33）。彼はエフライムをマナセの先に立てた（創世 48：14−20〔エレ 31：9〕）。長子の権はヨセフのものとなった（歴上 5：2）。エサウは長子の権利を売り渡した（ヘブ 12：16）。あなたがたは正当な相続人であり（教義 86：9）。シオンは血統によって神権を受ける権利を持っている（教義 113：8〔アブ 2：9−11〕）。

長老　「神権」「メルキゼデク神権」参照

長老という言葉は，『聖書』では様々

な意味で用いられている。『旧約聖書』では，通常政治的な務めを託された部族内の高齢者を指すことが多い（創世 50：7；ヨシ 20：4；ルツ 4：2）。彼らの勧告は，その年齢と経験のゆえに重んじられた。彼らの地位は，必ずしも神権の召しではなかった。

旧約の時代には，メルキゼデク神権の長老に聖任されていた者もいた（出エ 24：9−11）。『新約聖書』では，長老は教会の神権の職の一つとして述べられている（新ヤコ 5：14−15）。ニーファイ人の中にも神権の長老に聖任された者がいた（アル 4:7, 16;モロ 3:1）。現在の神権時代においては，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリが初めて長老に聖任された（教義 20：2−3）。

現在，長老という言葉は，全メルキゼデク神権者を指す言葉として用いられている。例えば，男性の宣教師は長老と呼ばれている。また，使徒も長老であり，十二使徒定員会や七十人定員会の会員について話すときには長老と呼ぶのがふさわしい（教義 20：38；1 ペテ 5：1）。今日の教会の聖任された長老の義務については，末日の啓示の中に書かれている（教義 20：38−45；42：44；46：2；107：12）。

モーセは律法を書いて，イスラエルのすべての長老たちに授けた（申命 31：9）。バルナバは教会の長老たちに援助を送った（使徒 11：30）。教会ごとに長老が任命された（使徒 14：23〔テト 1：5〕）。病んでいる者は，教会の長老たちを招き，祈ってもらうがよい（新ヤコ 5：14）。按手によって長老たちが聖任された（アル 6：1）。長老たちは子供に祝福を授けなければならない（教義 20：70）。長老たちは，聖なる御霊に導かれるままに集会を執り行う（教義 46：2）。長老たちは，自分の管理人の職について報告しなければならない（教義 72：5）。長老たちは，もろもろの国民に福音を宣べ伝えなければならない（教義 133：8）。

仕える　「神権」「奉仕」参照

地上における主の業に携わること。神の選ばれた僕は，神の業に仕えるために，神から召されなければならない。心から仕える者たちが主の御心を行うとき，彼らはその公式の務めにあって主を代表し，主の代理人として行動することになる（教義 64：29）。そのようにして，人類の救いに必要な働きをするのである。主は聖徒たちを完全な者とし，奉仕の業を行わせるために，使徒，預言者，伝道者，大祭司，七十人，長老，ビショップ，祭司，教師，執事を立てられた（1 コリ 12：12−28；エペ 4：11−16；教義 20；107 章）。

主が彼を選び出して，主の名によって立って仕えさせられる（申命 18:5）。人の子がきたのも，仕えられるためではなく，仕えるためであり（マタ 20：26−28）。わたしがあなたに現れたのは，これを伝える務に，あなたを任じるためである（使徒 26：16−18）。あなたがたがかつて聖徒に仕え，今もなお仕えて，御名のために示してくれた愛（ヘブ 6：10）。奉仕する者は，神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである（1ペテ 4：10−11）。彼らは互いに教え，互いに仕え合った（3ニフ 26：19）。十二使徒は，福

音の教導者を聖任しなければならない（教義 107：39−40）。これらの七十人は巡回教導者となる（教義 107：93−97）。長老たちは教会の常任教導者となるために聖任されている（教義 124：137）。

仕える天使　「天使」参照

月の栄え　「栄光の階級」参照

最後の裁きの後に人々が住む 3 つの栄えの階級で 2 番目のもの。

パウロは月の輝きにたとえられる月の栄光を見た（1コリ 15：40−41）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは月の栄えの世界の栄光を見た（教義 76：71−80）。月の栄えの世界の栄光は，星の栄えの世界の栄光に勝っている（教義 76：91）。月の栄えの王国の律法に従えない者は，月の栄えの栄光に堪えられない（教義 88：23，30，38）。

慎み　「謙遜（けんそん）」参照

謙虚で節度ある上品な行いや外見。慎み深い人は，度を越した行為や見せかけの行動をしない。

神は皮の着物を作って，アダムとエバに着せられた（創世 3：21〔モセ 4：27〕）。女はつつましい身なりをし，適度に慎み深く身を飾るべきであって（1テモ 2：9）。慎み深く，純潔で，家事に努め（テト 2：5）。自分の衣服が高価なことで強情になって高ぶり（ヤコ 2：13）。あなたの衣服はすべて簡素であるようにしなさい（教義 42：40）。わたしたちは，純潔，徳高くあるべきことを信じる（箇条 1：13）。

つぶやき　「背く」参照

神の目的や計画，また神の僕（しもべ）に対して不平や不満を言うこと。

民はモーセにつぶやいて言った（出エ 15：23−16：3）。ユダヤ人らは，イエスについてつぶやき始めた（ヨハ 6：41）。レーマンとレムエルは多くのことでつぶやいた（1ニフ 2：11−12〔1ニフ 3：31；17：17〕）。あなたは見ていないもののことでつぶやいてはならない（教義 25：4）。

妻　「家族」「結婚」参照

つまずく；つまずかせる

神の律法を破ること。罪を犯すこと。人を苦しめたり，傷つけたりすること。人を不愉快にしたり，いらだたせたりすること。

もしあなたの右の目が罪を犯させるなら，それを抜き出して捨てなさい（マタ 5：29）。わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は，海の深みに沈められる方が，その人の益になる（マタ 18：6〔教義 121：19−22〕）。多くの人がつまずき，また互いに裏切り，憎み合う（ジ―マタ 1：8）。

罪　「忌まわしい行い」「汚れ」「邪悪」「背く」「不義」「不信心」参照

神の戒めに故意に従わないこと。

その罪を隠す者は栄えることがない（箴言 28：13）。あなたがたの罪は緋

のようであっても，雪のように白くなる（イザ 1：18）。罪人は死に，義人は救われる（エゼ 18 章）。神の小羊は世の罪を取り除く（ヨハ 1：29）。バプテスマを受け，あなたの罪を洗い落としなさい（使徒 22：16）。罪の支払う報酬は死である（ロマ 6：23）。人が，なすべき善を知りながら行わなければ，それは彼にとって罪である（新ヤコ 4：17）。わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください（2ニフ 4:31）。罪を抱いたまま死ぬ者は皆，災いである（2ニフ 9：38）。罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった（アル 13：12）。罪から幸福へ回復されると思ってはならない（アル 41：9−10）。主はほんのわずかでも，罪を見過ごしにされることはない（アル 45:16〔教義 1:31〕）。幼い子供たちは，罪を犯すことができない（モロ 8：8）。悔い改めるには，罪を告白して捨てなければならない（教義 58：42−43）。赦さない者の中にはもっと大きな罪が残る（教義 64：9）。いっそう大いなる光に対して罪を犯す者は，いっそう大きな罪の宣告を受ける（教義 82:3）。罪を犯す者には以前の罪が戻る（教義 82：7）。わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとするとき，天は退き去る（教義 121：37）。

罪がない

責められるべき点がないこと。

堕落前のアダムとエバは，罪のない状態にあった（2ニフ 2：23）。罪のない者の血は彼らを責める証拠となり（アル 14：11）。人の霊は皆，初めに罪がなかった（教義 93：38）。罪のない者が正しくない者とともに罪に定められることのないため（教義 104：7）。ジョセフ・スミスとハイラム・スミスには何の罪もなかった（教義 135：6−7）。子供は世の初めから罪がない（モセ 6：54）。

罪の宣告　「最後の裁き」「裁き」参照

罪に対して裁決を下すこと，あるいは神によって罪ありとされること。

悪い計りごとを設ける人は主に罰せられる（箴言 12：2）。それは，この世と共に罪に定められないために，主の懲らしめを受けることなのである（1コリ 11：32）。わたしたちの言葉，行い，思いはわたしたちを罪に定める（アル 12：14）。これらの事柄を知っていて行わないので，罪の宣告を受けることになり（ヒラ 14：19）。働くことをやめれば，わたしたちは罪の宣告を受けるに違いない（モロ 9：6）。自分の兄弟の過ちを赦さない者は，主の前に罪があるとされる（教義 64：9）。いっそう大いなる光に対して罪を犯す者は，いっそう大きな罪の宣告を受ける（教義 82：3）。彼らが悔い改めて，『モルモン書』を思い起こすまで，全教会は依然としてこの罪の宣告の下にある（教義 84：54−57）。

罪の赦し　「イエス・キリスト」「悔い改め」「贖罪」「赦し」参照

悔い改めを条件に過ちが赦されること。罪の赦しは，イエス・キリストの贖罪によって可能になる。キリストを信じる信仰を持ち，罪を悔い改め，またバプテスマの儀式と，聖霊の賜物

を受けるための抜手の儀式を受け，神の戒めに従う人は，罪の赦しを得る（箇条 1：3，4）。

あなたがたの罪は緋のようであっても，雪のように白くなる（イザ 1：16−18）。これは，罪のゆるしを得させるようにと，多くの人のために流すわたしの血である（マタ 26：28〔ヘブ 9：22−28；教義 27：2〕）。悔い改めなさい。そして，罪のゆるしを得るために，バプテスマを受けなさい（使徒 2:38〔ルカ 3：3；教義 107：20〕）。イエスを信じる者は，罪のゆるしが受けられる（使徒 10：43〔モサ 3：13〕）。キリストは，わたしたちが罪の赦しを求めることのできる源である（2ニフ 25：26）。罪の赦しを保つには，貧しい人や乏しい人に助けを与えなければならない（モサ 4：11−12，26）。悔い改める者はだれであろうと，憐れみを受け，罪の赦しを得る権利を持つ（アル 12：34）。戒めを守ることは罪の赦しを生じ（モロ 8：25）。アロンの神権は罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ（教義 13：1〔教義 84：64，74；箇条 1：4〕）。自分の罪を悔い改めた者は赦され（教義 58：42−43〔エゼ 18：21−22〕）。これらの者は，罪の赦しのための身代わりのバプテスマについて教えを受けた（教義 138：33）。

テアンクム

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の軍隊の偉大な指導者（アル 50：35；51−52 章；61−62 章）。

定員会　「神権」参照

定員会という言葉は，次の二つの意味で用いられる。(1) 同一の神権の職を持つ男性が構成する特定のグループ。(2) 教会の業務を遂行するために集会に出席すべき過半数すなわち定足数の神権者のグループ（教義 107：28）。

大管長会，十二使徒，七十人の定員会と，その相互の関係が述べられる（教義 107：22−26，33−34〔教義 124：126−128〕）。これらの定員会が下す決議も皆，全会一致の声によってなされなければならない（教義 107：27）。定員会の決議は，完全な義により下されなければならない（教義 107：30−32）。神権定員会の会長の義務が述べられる（教義 107：85−96）。長老の定員会は常任教導者となるために設けられている（教義 124：137）。

テーラー，ジョン

末日聖徒イエス・キリスト教会の第 3 代大管長。

十二使徒評議会に召された（教義 118：6〔教義 124：128−129〕）。ジョセフとハイラムの殉教について書いた（教義 135 章）。殉教の場で負傷した（教義 135：2）。ジョセフ・F・スミスが見た，霊界の偉大な者たちの中にいた（教義 138：53−56）。

敵意　「愛」「ねたみ」「報復」参照

聖典では，反抗，敵対，憎しみの意味を表す言葉として用いられる。

わたしは恨みをおく，おまえと女とのあいだに（創世 3：15〔モセ 4：21〕）。肉の思いは神に敵する（ロマ 8：

7)。世を友とするのは，神への敵対である（新ヤコ 4：4)。その日，敵意がわたしの前からなくなるであろう（教義 101：26)。

敵対する者　「悪魔」参照

テサロニケ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 2 書。紀元 50 年ごろ，初めてヨーロッパを訪れたパウロが，コリント滞在中にテサロニケ人に書き送った手紙。テサロニケでのパウロの働きについては，使徒 17 章に述べられている。パウロはテサロニケへ帰ることを望んだが，そうできなかった（1 テサ 2：18)。そこでパウロは改宗者を励まし，彼らの近況を知るためにテモテを派遣した。第一の手紙は，テモテが帰って直ちに書かれたパウロの感謝の気持ちである。

テサロニケ人への第一の手紙：第 1−2 章には，聖徒たちへのパウロのあいさつと祈りが記されている。第 3−5 章には，霊的な成長や愛，純潔，勤勉，イエス・キリストの再臨についての教えが書かれている。

テサロニケ人への第二の手紙：第 1 章には，聖徒のための祈りが記されている。第 2 章には，やがて背教が起こることが述べられている。第 3 章には，福音の目的が達せられるようにとのパウロの祈りが書かれている。

弟子　「改宗」「くびき」「クリスチャン」「使徒」参照

イエス・キリストに従い，その教えのとおりに生活をする人（教義 41:5)。弟子という言葉は，キリストが地上で務めを果たしておられたときに召された十二使徒を指す場合に用いられる（マタ 10：1−4)。また，イエスがニーファイ人とレーマン人の中で教会の指導者として選ばれた 12 人を指す場合にも使われる（3 ニフ 19：4)。

教(おしえ)をわが弟子たちのうちに封じておこう（イザ 8：16)。もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら，あなたがたはわたしの弟子なのである（ヨハ 8：31)。モルモンはイエス・キリストの弟子であった（3 ニフ 5：12−13)。あなたがたはわたしの弟子である（3 ニフ 15：12)。三人の弟子たちは死を味わうことがない（3 ニフ 28：4−10)。警告の声は，わたしが選んだ弟子たちの口を通して及ぶ(教義 1:4)。わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち（教義 45：32)。貧しい者と乏しい者，病気の者と苦しんでいる者を思い起こさない者は，わたしの弟子ではない（教義 52：40)。わたしのために進んで自分の命を捨てない者は，わたしの弟子ではない（教義 103：27−28)。

デゼレト　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中のヤレド人の言葉で「蜜蜂(みつばち)」を意味する（エテ 2：3)。

テトス　「テトスへの手紙」「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の人物。パウロとともにエルサレムへ旅をし，後に宣教師となった信頼できるギリシャ人改宗者（ガラ 2：1−4；2 テモ 4：10)。テ

トスはコリントの聖徒たちに，パウロの最初の手紙を届けた（2コリ7：5−8，13−15）。

テトスへの手紙　「テトス」「パウロ」「パウロの手紙」参照

パウロは一時的にローマでの獄中生活から解放されたとき，クレテにいたテトスにこの手紙を書いた。この手紙はおもに，教会の内部規律や組織についての問題を扱っている。

第1章には，パウロのあいさつと指示，ならびに監督（ビショップ）に求められる一般的な資格が述べられている。第2−3章には，一般的な教えとクレテの教会の様々な層の人々への対処の仕方が書かれている。パウロは聖徒たちに不品行をやめ，慎み深く，忠実であり，善い業を続けるよう励ましている。

デボラ

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルを裁き，バラクにカナン人と戦うよう励ましを与えた女預言者（士師4章）。デボラとバラクは，イスラエルが束縛から解放されたことを祝って歌った（士師5章）。

テモテ　「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。パウロが伝道したときの若い同僚宣教師（使徒16：1−3；2テモ1：1−5）。父はギリシャ人，母はユダヤ人であった。テモテは両親とともにルステラで暮らしていた。

パウロはテモテを「信仰によるわたしの真実な子」と呼んでいる（1テモ1：2，18；2テモ1：2）。テモテはパウロにとって最も信頼できる有能な助け手であったと思われる（ピリ2：19−23）。

テモテへの手紙　「テモテ」「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の2書。パウロがテモテに書き送った手紙。

テモテへの第一の手紙：パウロはこの第一の手紙を最初の獄中生活の後に書いた。彼はまた戻って来るつもりで，テモテをエペソに残していた（1テモ3：14）。しかし，遅れることになると感じて，テモテにこの手紙を書き送った。恐らくマケドニアからと思われる。その目的は，テモテに義務を果たすよう勧め励ますことであった。

第1章には，パウロのあいさつと，教会に入り込んできた様々な空論に関するパウロの教えが載っている。第2−3章には，公の礼拝行事と，神に仕える者としてのあるべき姿と行いについての指示が書かれている。第4−5章では，末日の背教の様子と，テモテが導いていた人々の教え導き方についての彼への勧告が述べられている。第6章は，忠実さを認められるように，またこの世の富を避けるようにとの勧めである。

テモテへの第二の手紙：この第二の手紙は，2度目の獄中生活の間，殉教の直前に書いたものである。この手紙にはパウロの最後の言葉が書かれ，死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と信頼が示されている。

第1章には，パウロのあいさつとテモテへの指示が書かれている。第2−3章では，将来に待ち受ける危険に立ち向かうようにとの励ましとともに，様々な警告や訓戒が与えられている。第4章には，背教者にどう対処すべきかの助言を含めて，パウロの友人たちに送る言葉が書かれている。

デリラ　「ペリシテ人」参照

『旧約聖書』の中の人物。サムソンをだまして裏切ったペリシテ人の女（士師16章）。

天　「神の王国；天の王国」「パラダイス」「日の栄え」参照

聖典に出てくる「天」という言葉には，二つの基本的な意味がある。(1) 神が住んでおられる所，また聖徒が将来住む所（創世28：12；詩篇11：4；マタ6：9）。(2) 地球を取り巻く広がり（創世1：1，17；出エ24：10）。天とパラダイスは明らかに異なる。パラダイスは，世を去った忠実な霊が一時的にとどまる場所を指す。イエスは，十字架上で息を引き取った後にパラダイスを訪れられた。しかし3日目に，イエスはマリヤに，御自分がまだ御父のもとに行っていないことを告げられた（ルカ23：39−44；ヨハ20：17；教義138：11−37）。

わたしは，あなたの指のわざなる天を見（詩篇8：3）。もろもろの天は主のみことばによって造られ（詩篇33：6）。あなたは天から落ちてしまった（イザ14：12〔2ニフ24：12〕）。もろもろの天は巻物のように巻かれ（イザ34：4）。わたしは新しい天と，新しい地とを創造する（イザ65：17）。わたしが天の窓を開いて（マラ3：10）。天にいますわれらの父よ，御名があがめられますように（マタ6：9〔3ニフ13：9〕）。パウロは第三の天にまで引き上げられた（2コリ12：2）。天に静けさがあった（黙示8：1〔教義88：95−98〕）。最後まで忠実であり続けるならば，彼らは天に迎えられ（モサ2：41）。天におられるあなたがたの父の子となるためである（3ニフ12：45）。天の雲の中を来る（教義45：16）。エリヤは死を味わうことなく天に取り去られた（教義110：13）。神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており（教義121：36）。天に2種の存在者がいる（教義129：1）。シオンが天に取り上げられた（モセ7：23）。

天国　「神の王国；天の王国」参照

天使

天には天使と呼ばれる2種の存在者がいる。霊の状態の者と骨肉の体を持つ者である。霊の状態の天使は，まだ骨肉の体を得ていない。すなわち，かつては死すべき体を持っていたが，今は復活を待っている者である。骨肉の体を持つ天使は，死者の中からよみがえった者か，または身を変えられた者である。

聖典には天使の働きに関する多くの記述がある。時には，雷のような声で神の御告げを伝えることがある（モサ27：11−16）。義人が天使と呼ばれることもある（JS創世19：15）。天上の

神の御座を取り囲む天使もいる（アル 36：22）。

聖典には悪魔の使いのことも記されている。前世でルシフェルに従い，神の前から追い払われ，地上に投げ落とされた霊たちである（黙示 12：1−9；2 ニフ 9：9，16；教義 29：36−37）。

ヤコブは神の使たちが上り下りしているのを見た（創世 28：12）。神の使たちがヤコブに会った（創世 32：1−2）。ギデオンは顔を合わせて主の使を見た（士師 6：22）。天の使が手をエルサレムに伸べてこれを滅ぼそうとした（サ下 24：16）。天の使が彼にさわり，「起きて食べなさい」と言った（列上 19：5−7）。ダニエルは示現の中で天使ガブリエルを見た（ダニ 8：15−16）。天使の長ミカエルが来て，ダニエルを助けた（ダニ 10：13）。天使ガブリエルが神から遣わされた（ルカ 1：19，26−27）。悪魔の使たちはさばきのために，しばりつけたまま，閉じ込めておかれた（ユダ 1：6〔2 ペテ 2：4〕）。人々は天使が天から降って来るのを見た（3ニフ 17：24）。モロナイは天使の働きについて記録した（モロ 7：25−32）。アロンの神権は天使の働きの鍵を持つ（教義 13 章）。モロナイ，バプテスマのヨハネ，ペテロとヤコブとヨハネ，エリヤ，エライアスが，天使としてジョセフ・スミスを訪れた（教義 27：5−12）。あなたがたは天使たちの訪れにも堪えることができない（教義 67：13）。天使長ミカエルはアダムである（教義 107：54）。天使とは，骨肉の体を持つ復活した人々である（教義 129 章）。この地球において教え導く天使たちで，この地球に属していない者はだれもいない（教義 130：5）。神の永遠の結婚の律法に従わない人は，めとることも，嫁ぐこともなく，天において天使に任じられる（教義 132：16−17）。

天使長；天使のかしら　「アダム」「ミカエル」参照

ミカエルすなわちアダムは，天使長すなわち天使のかしらである。

主ご自身が天使のかしらの声の鳴り響くうちに，天から下ってこられる（1 テサ 4：16）。ミカエルは御使のかしらである（ユダ 1：9〔教義 29：26；88：112；128：20−21〕）。

天上の会議　「贖いの計画」「前世」「天での戦い」参照

前世において開かれた会議。この会議で御父はこの地球に来ることになっていたすべての霊の子供たちに，御自身の計画を明らかにされた。

神の子たちはみな喜び呼ばわった（ヨブ 38：7）。わたしの王座を高く神の星の上におき（イザ 14：12−13）。天では戦いが起った（黙示 12：7−11）。彼らは生まれる前に，霊の世界において最初の教えを受け（教義 138：56）。サタンは前世で背いた（モセ 4：1−4）。英知は，世界が存在する前に組織された（アブ 3：22）。神々は協議された（アブ 4：26）。神々は協議したすべての業を離れて休まれた（アブ 5：2）。

天での戦い　「前世」「天上の会議」参照

前世において神の霊の子供たちの間に起きた戦い。

サタンは天を追われ，地に投げ落された（黙示 12：4，7−9）。悪魔と天の衆群の 3 分の 1 が落とされた（教義 29：36−37）。ルシフェルは独り子に背いた（教義 76：25−26）。サタンは御父の誉れを求め，人の選択の自由を損なおうとした（モセ 4：1−4〔イザ 14:12−15;アブ 3:27−28〕）。神に従った者たちは第一の位を守り，地球に来て肉体を受けた（アブ 3：26）。

伝道活動　「宣べ伝える」「福音書」参照

言葉と模範によりイエス・キリストの福音を伝えること。

救を告げる者の足は山の上にあって，なんと麗しいことだろう（イザ 52：7）。わたしは，わたしみずからわが羊を尋ねて，これを捜し出す（エゼ 34：11）。すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ（マコ 16:15〔モル 9:22〕）。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている（ヨハ 4:35）。つかわされなくては，どうして宣べ伝えることがあろうか（ロマ 10：15）。力の限り神の言葉を民に教え（ヤコ 1：19）。主はすべての国民に，主の御言葉を教えることを許される（アル 29：8）。福音は弱い者や純朴な者によって宣べられる（教義 1：23）。驚くべき業が現れようとしている（教義 4：1）。生涯力を尽くし，一人でもわたしのもとに導くならば，あなたがたの喜びはいかに大きいことか（教義 18：15）。わたしの選民はわたしの声を聴き，その心をかたくなにしない（教義 29：7）二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣べ伝え（教義 42：6）。この知らせはこの地から全世界に出て行く（教義 58：64）。口を開いて，わたしの福音を宣言し（教義 71：1）。啓示と戒めに従って真理を宣言しなさい（教義 75：4）。警告を受けた人は皆，その隣人に警告しなければならない（教義 88：81〔教義 38：40−41〕）。主は福音を宣べ伝える人々の家族を扶養される（教義 118：3）。神の僕たちは出て行って（教義 133：38）。忠実な長老たちが，死すべき世を去っても彼らの働きを続け（教義 138：57）。

伝道者　「祝福師」「祝福師の祝福」参照

イエス・キリストの福音のよきおとずれを証し，宣言する人。ジョセフ・スミスは，伝道者とは祝福師のことであると教えた。祝福師は，祝福師の祝福と呼ばれる特別な祝福を与えるために，十二使徒の指示の下に召され，聖任される。

ある人を使徒とし，ある人を預言者とし，ある人を伝道者とし（エペ 4：11）。伝道者のわざをなし（2テモ 4：5）。わたしたちは，使徒，預言者，牧者，教師，祝福師などがあることを信じる（箇条 1：6）。

伝道の書

『旧約聖書』の中の 1 書。人生の幾つかの難問に関する深い思索が書かれている。

著者である伝道者は，福音の知識を持たない人の観点からこの書の多くの部分を書いている。世の人々，つまり「日の下」（伝道 1：9）の人々の考えに立って書いているのである。この書には，否定的で悲観的に思える箇所が多くある（伝道 9：5，10）。しかし，それは主がわたしたちに望んでおられる人生観ではなく，光を受けていない世の人々の目に様々な事象がどう映るかを，伝道者が観察した結果である。この書の中で最も霊的な部分は，第 11 章と第 12 章の中にある。そこで著者は，不変の価値を持つのはただ一つ，神の戒めに従うことであると結論づけている。

天の御父　「神；神会」参照

全人類の霊の父（詩篇 82：6；マタ 5：48；ヨハ 10：34；ロマ 8:16−17；ガラ 4：7；1 ヨハ 3：2）。イエスは肉における御父の独り子であられる。人は御父に従い，畏敬の念を持ち，イエスの名によって御父に祈るように命じられている。

もしも，あなたがたが，人々のあやまちをゆるすならば，あなたがたの天の父も，あなたがたをゆるして下さるであろう（マタ 6：14〔マタ 18：35；3 ニフ 13：14〕）。あなたがたの天の父は，これらのものが，ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである（マタ 6：26−33〔3 ニフ 13：26−33〕）。天の父はなおさら，求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか（ルカ 11：11−13）。ほむべきかな，わたしたちの主イエス・キリストの父なる神（エペ 1：3）。あなたがたは天の御父にとこしえに恩を受けている（モサ 2：34）。キリストは御父の名の栄光を表し（エテ 12：8）。御父がその隠れ場から出て来られるに先立って，聖徒たちは受けた迫害について証言すべきである（教義 123：1−3，6）。わたしたちは天の御父からの大いなる栄光ある祝福を受けた（ジ―歴史 1：73）。

同意の律法　「イエス・キリストの教会」「支持（教会指導者の）」参照

教会員はこの原則によって，教会の奉仕の職に召された人への支持，また会員の支持が必要な教会の決定事項への支持を行う。通常，右手を挙げてその意を示す。

イエス・キリストは御自身の教会の頭である。イエス・キリストは聖霊による霊感を通して，重要な決定や決裁について教会の指導者を導かれる。しかし教会員はすべて，指導者の決定や決裁に対して支持・不支持の意を示す権利と特権を持っている。

民はみな同音に答えて言った（出エ 24：3〔民数 27：18−19〕）。使徒と長老たちは衆議一決した（使徒 15：25）。その教会の賛意の表明がなければ，だれも聖任されることはない（教義 20：65−66）。すべてのことは，教会員の同意を得て行わなければならない（教義 26：2〔教義 28：13〕）。すべてのことを会員の一致に従って行いなさい（教義 104：21）。

同性愛　「姦淫」「肉欲」参照

同性間の性的関係。主はこの種の性

的関係を禁じておられる。

それをここに出しなさい。われわれは彼らを知るであろう（創世 19：1−11〔モセ 5：51−53〕）。あなたは女と寝るように男と寝てはならない。これは憎むべきことである（レビ 18:22〔レビ 20：13〕）。イスラエルの男子は神殿男娼となってはならない（申命 23：17）。ソドムのようにその罪をあらわして隠さない（イザ 3:9〔2 ニフ 13:9〕）。男も互（たがい）にその情欲の炎を燃やし（ロマ 1：27）。男色をする者は，神の国をつぐことはない（1コリ 6：9−10）。律法は正しい人のために定められたのではなく，男色をする者のために定められている（1テモ 1：9−10）。不自然な肉欲に走った人々は，永遠の火の刑罰を受け，人々の見せしめにされている（ユダ 1：7）。

道徳　「姦淫（かんいん）」「純潔」「性的不道徳」「不貞」参照

尊ぶ　「敬う」「敬虔（けいけん）」参照

特に福音的な観点から，人や物事を価値ある有益な存在として大切に思うこと。

彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった（イザ 53：3−4）。人々の間で尊ばれるものは，神のみまえでは忌みきらわれる（ルカ 16：15）。人を自分よりすぐれた者としなさい（ピリ 2:3）。主はすべての人を公平に重んじられ（1ニフ 17：35）。すべての者は隣人を自分自身のように尊ばなければならない（モサ 27：4〔教義 38：24−25〕）。平穏な日には，彼らはわたしの勧告を軽んじた（教義 101：8）。

時のしるし　「イエス・キリストの再臨」「終わりの時；末日」「しるし」参照

神の業の中で何か重要なことがすでに起きていること，あるいは間もなく起こることを示すために，神が人々に与えられる出来事や経験。末日には，救い主の再臨を告げる多くのしるしが預言されている。それらのしるしは忠実な人々に神の計画を意識させ，警告を与え，備えをさせる。

主の家の山は，もろもろの山のかしらとして堅く立ち（イザ 2：2−3）。主は旗をあげて，イスラエルを集められる（イザ 5：26〔2 ニフ 15：26−30〕）。太陽は出ても暗く，月はその光を輝かさない（イザ 13：10〔ヨエ 3：15；教義 29：14〕）。民が律法にそむき，とこしえの契約を破る（イザ 24：5）。ニーファイ人はちりの中からの声のように語る（イザ 29：4〔2 ニフ 27 章〕）。イスラエルは力をもって集められる（イザ 49：22−23〔1 ニフ 21：22−23；3 ニフ 20−21 章〕）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく（ダニ 2:44〔教義 65：2〕）。戦争や夢，示現が再臨に先立つ（ヨエ 2 章）。万国の民を集めて，エルサレムを攻め撃たせる（ゼカ 14：2〔エゼ 38−39 章〕）。炉のように燃える日が来る（マラ 4：1〔3 ニフ 25：1；教義 133：64；ジ―歴史 1：37〕）。その時には，大きな患難（かんなん）が起る（マタ 24 章〔ジ―マタ 1 章〕）。パウロは終りの時の背教と苦難の時代について説明した（2テモ 3−4 章）。エルサレム

でふたりの預言者が殺され，復活する（黙示 11 章〔教義 77：15〕）。終わりの日に，天使の働きにより福音が回復される（黙示 14：6−7〔教義 13；27 章；110：11−16；128：8−24〕）。バビロンが打ち立てられるが，やがて倒れる（黙示 17−18 章）。イスラエルは力をもって集められる（1ニフ 21：13−26〔イザ 49：13−26；3 ニフ 20−21 章〕）。あなたがたが知ることのできるように，一つのしるしをあなたがたに示そう（3ニフ 21：1）。『モルモン書』は将来神の力によって出る（モル 8 章）。レーマン人はばらのように花咲く（教義 49：24−25）。悪人は悪人を殺し，恐怖がすべての人に及ぶ（教義 63：32−35〔黙示 9 章〕）。戦争がすべての国々のうえに押し寄せる（教義 87：2）。数々のしるしや自然界の大変動，天使の現れが主の来臨の道を備える（教義 88：86−94）。暗闇（くらやみ）が地を覆い（教義 112：23−24）。主は聖徒たちに再臨に備えるように命じられた（教義 133 章）。

徳　「高潔」「純潔」「力」参照

高潔さ，道徳的な美点。道徳的な清さ（モロ 9：9）。

あなたがりっぱな女であることを知っている（ルツ 3：11）。主の聖所に立つべき者はだれか。手が清く，心のいさぎよい者こそ，その人である（詩篇 24：3−4）。賢い妻はその夫の冠である（箴言 12：4）。賢い妻は宝石よりもすぐれて尊い（箴言 31：10−31）。あなたがたの信仰に徳を加え（2ペテ 1：5〔教義 4：6〕）。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい（教義 121：45）。わたしたちは徳高くあるべきことを信じる（箇条 1：13〔ピリ 4：8〕）。

独身主義　「結婚」参照

毒麦

小麦によく似た草で毒を持つもの。生長して大きくなるまでは，小麦と見分けがつかない（マタ 13：24−30；教義 86：1−7）。

トマス

『新約聖書』の中の人物。救い主が地上で務めを果たしておられたときに最初に選ばれた十二使徒の一人。ギリシャ語では，デドモと呼ばれていた（マタ 10：2−3；ヨハ 14：5；20：24−29；21：2）。トマスは自分の目で救い主を見るまで，イエスの復活を疑っていた。しかし，彼は強い意志の持ち主で，進んで迫害に立ち向かい，主とともに死のうとした（ヨハ 11：16；20：19−25）。

富　「金銭」「高慢」参照

金品などの財産。主は聖徒たちに，善を行うためでなければ，この世の富を求めてはならないと勧告された。聖徒は神の王国を求める前にこの世の富を追い求めてはならない。神の王国には永遠の富が用意されているのである（ヤコ 2：18−19）。

富の増し加わるとき，これに心をかけてはならない（詩篇 62：10）。宝は怒りの日に益なく（箴言 11：4）。自分の富を頼む者は衰える（箴言 11：

28)。令名は大いなる富にまさり（箴言 22：1)。財産のある者が神の国にはいるのは，なんとむずかしいことであろう（マコ 10：23〔ルカ 18：24−25〕)。金銭を愛することは，すべての悪の根である（1テモ 6：10)。彼らの心は彼らの富にあるので，富が彼らの神となっている（2ニフ 9：30)。義人は，富に執着することなく，すべての人に分かち与えた（アル 1：30)。人々は富のゆえに高慢になり始めた（アル 4：6−8)。民は，彼らの富の多少に応じて階級に区別され始めた（3ニフ 6：12)。富を求めずに，知恵を求めなさい（教義 6：7〔アル 39：14；教義 11:7〕)。地の富はわたしのものであり，わたしがそれを与えるのである。高慢に気をつけなさい（教義 38：39)。

永遠の富：天に，宝をたくわえなさい（マタ 6：19−21)。永遠の命の富の声により，わたしはあなたがたを幾度呼んできたことであろう（教義 43：25)。永遠の富はわたしのものであり，わたしが与えるものである（教義 67：2〔教義 78：18〕)。

とりこ　「自由」参照

肉体的あるいは霊的に束縛された状態にあること。

イスラエルの家が，その悪によって捕え移された（エゼ 39：23)。とりこになるべき者は，とりこになっていく（黙示 13：10)。邪悪な人々は悪魔に束縛されるようになる（1ニフ 14：4, 7)。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27)。肉の思いは，悪魔の霊に力を与え，あなたがたを捕らえて（2ニフ 2：29)。あなたがたは，先祖が囚われの状態にあったことをよく覚えているか（アル 5：5−6)。心をかたくなにする者は悪魔に捕らえられる（アル 12：11)。あなたがたは悪魔に誘惑されないように，また悪魔に捕らえられないように，常に目を覚ましていて祈らなくてはならない（3ニフ 18：15)。

貪欲；むさぼり　「ねたみ」参照

聖典でいう貪欲とは，人をうらやんだり，何かを過度に欲しがったりすることである。

あなたはむさぼってはならない（出エ 20：17〔申命 5：21；モサ 13：24；教義 19：25〕)。不正の利を憎む者は長命を得る（箴言 28：16)。彼らは田畑をむさぼってこれを奪い（ミカ 2：2)。貪欲に対してよくよく警戒しなさい（ルカ 12:15)。律法は「むさぼるな」と言っている（ロマ 7：7)。終りの時には，人々は金を愛する者となる（2テモ 3：1−2)。ラバンはわたしたちの持っているものを目にし，欲しくてたまらなくなった（1ニフ 3：25)。あなたは自分の財産をむさぼることなく（教義 19：26)。むさぼるのをやめなさい（教義 88：123)。兄弟のものをむさぼってはならない（教義 136：20)。

ナアマン　「エリシャ」参照

『旧約聖書』の中の人物。シリアの王の軍勢の長。ナアマンは重い皮膚病になったが，イスラエル人の娘の信仰により，預言者エリシャに会うために

イスラエルへ行った。ナアマンはヘりくだって，預言者エリシャに言われたとおりヨルダン川で7度身を洗い，重い皮膚病を癒された（列下 5：1−19；ルカ 4：27）。

ナオミ　「ルツ」参照

『旧約聖書』の中の人物。義にかなった女性でエリメレクの妻であった（ルツ 1−4 章）。エリメレクとナオミは，飢饉を避けて家族をモアブへ連れて行った。エリメレクと二人の息子の死後，ナオミは嫁のルツとともにベツレヘムに帰った。

慰め主；助け主　「イエス・キリスト」「聖霊」参照

聖典には慰め主として御二方が挙げられている。聖霊（ヨハ 14：26−27；モ ロ 8：26；教 義 21：9；42：17；90：11）と，主イエス・キリスト（ヨハ 14：18，21，23）である。ある人が第二の慰め主を得ると，イエス・キリストは時々その人に現れ，御父を現し，顔と顔を合わせて教えを授けられる（教義 130：3）。

ナザレ　「イエス・キリスト」参照

ガリラヤ湖西方の丘陵地帯にある村落。ナザレはイエスの故郷であった（マタ 2：23）。イエスはナザレの会堂で教え，御自身がイザヤ 61：1−2 の預言を成就したことを宣言された（マタ 13：54−58；マコ 6：1−6；ルカ 4：16−30）。

ナタナエル　「バルトロマイ」参照

『新約聖書』の中の人物。キリストの使徒の一人で，ピリポの友人（ヨハ 1：45−51）。ガリラヤのカナの出身（ヨハ 21：2）。キリストはナタナエルのことを，心に偽りのないイスラエル人と言われた（ヨハ 1：47）。一般に，ナタナエルとバルトロマイは同一人物であったと考えられている（マタ 10：3；マコ 3：18；ルカ 6：14；ヨハ 1：43−45）。

ナタン　「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデ王の時代の預言者。ダビデが主のために神殿を建てたいと申し出たとき，主はナタンに，それを建ててはならないとダビデに告げるように命じられた。ナタンはまた，ダビデが家来のウリヤを死に追いやり，その妻バテシバを奪ったことで，ダビデを責めた（サ下 12：1−15；教義 132：38−39）。ザドクはナタンとともに，ダビデの息子ソロモンに油を注いで王とした（列上 1：38−39，45）。

ナフタリ　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

ヤコブの 12 人の息子の中の 5 番目で，ラケルのつかえめビルハの 2 番目の子供（創世 30：7−8）。ナフタリには 4 人の息子がいた（歴上 7：13）。

ナフタリの部族：ナフタリに授けられたヤコブの祝福は，創世 49：21 に記録されている。また申命 33：23 には，この部族に対するモーセの祝福が記録されている。

ナホム

『旧約聖書』の中のガリラヤの預言者。紀元前 642–606 年ごろに預言を記した。

ナホム書：第 1 章には，再臨の時に地が焼かれることと，主の憐れみと力のことが書かれている。第 2 章は，ニネベの滅亡について述べている。ニネベの滅亡は末日に起こる事柄をあらかじめ示している。第 3 章は，続けてニネベの悲惨な滅亡を預言している。

ニーファイ（ニーファイの息子，ヒラマンの孫）「弟子」「ニーファイ（ヒラマンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。復活されたイエス・キリストによって選ばれた 12 人のニーファイ人の弟子の一人（3 ニフ 1：2–3；19：4）。この預言者は民のために熱烈に主に祈り，主の声を聞いた（3 ニフ 1:11–14）。またニーファイは天使の訪れを受け，悪霊を追い出し，自分の兄弟をよみがえらせ，打ち消すことのできない証を述べた（3 ニフ 7：15–19；19：4）。ニーファイは聖文が記された記録を保管した（3 ニフ 1：2–3）。

第三ニーファイ：『モルモン書』の中の 1 書。ニーファイの息子ニーファイによって書かれたもの。第 1–10 章には，主の来臨についての預言が成就したことが示されている。キリストの降誕のしるしが与えられると民は悔い改めたが，後に民はまた悪事を行うようになった。最後にキリストの死のしるしとして，嵐や地震，大暴風，ひどい滅亡が起こった。第 11–28 章には，アメリカ大陸へのキリストの訪れが記録されている。これが第三ニーファイの中心である。ここで語られているキリストの言葉の多くは，『聖書』に記されているものとよく似ている（例えば，マタ 5–7 章と 3 ニフ 12–14 章）。第 29–30 章には，末日の人々に向けられたモルモンの言葉が記されている。

第四ニーファイ：この書には全部で 49 節から成る一つの章しかないが，約 300 年にわたるニーファイ人の歴史が網羅されている（紀元 34–321 年）。この書は，数世代にわたりニーファイを含む幾人かによって記録された。第 1–19 節には，復活されたキリストの訪問の後，ニーファイ人とレーマン人がすべて心を改めて福音に従ったことが述べられている。平和と愛と一致が人々の間に広がった。再臨の時まで地上にとどまることをキリストから許された 3 人のニーファイ人の弟子（3 ニフ 28：4–9）が民に仕えた。ニーファイは息子のアモスに記録を託した。第 19–47 節には，アモスの働き（84 年間）とその息子アモスの働き（112 年間）が記されている。紀元 201 年に，高慢が原因となって民の間に様々な問題が起こり始め，民は階級に分かれ，偽りの教会が利益を得るようになった（4 ニフ 1：24–34）。

第四ニーファイの終わりの方には，民が再び悪事を犯すようになったことが記されている（4 ニフ 1：35–49）。紀元 305 年，アモスの息子アモスが亡くなり，その兄弟アマロンが神聖な記録をすべて安全に守るために隠した。アマロンは後にそれらの記録をモルモンに託した。そしてモルモンは自分の生涯にあった数多くの出来事を記録

し，後にそれらの記録を要約した（モル 1：2–4）。

ニーファイ（ヒラマンの息子）「ヒラマン（ヒラマンの息子）」「リーハイ（ニーファイ人の宣教師）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の偉大な預言者，宣教師。

ヒラマンの長男（ヒラ 3：21）。大さばきつかさに任じられた（ヒラ 3：37）。彼は兄弟のリーハイとともに多くのレーマン人を福音に帰依させた（ヒラ 5：18–19）。火に包まれ，牢から解放された（ヒラ 5：20–52）。自分の庭にある塔の上で祈った（ヒラ 7：6–10）。大さばきつかさの暗殺を暴いた（ヒラ 8：25–28；9：1–38）。主から大いなる力を与えられた（ヒラ 10：3–11）。飢饉を起こすこと，そして飢饉を止めることを主に求めた（ヒラ 11：3–18）。

ニーファイ（リーハイの息子）「ニーファイ人」「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。義人。リーハイとサライアの息子（1 ニフ 1：1–4；2：5）。ニーファイは神の言葉に深い信仰を持ち（1 ニフ 3：7），偉大な預言者，記録者，民の指導者となった。

従順であり，信じて祈り求めた（1 ニフ 2：16）。真鍮版を手に入れるためにエルサレムに戻った（1ニフ 3–4 章）。イシマエルの家族を荒れ野へ連れて来るためにエルサレムに戻った（1ニフ 7 章）。リーハイと同じ示現を受けた（1ニフ 10：17–22；11 章）。示現の中で自分の民の将来と福音の回復とを見た（1ニフ 12–13 章）。命の木の示現を解き明かした（1ニフ 15：21–36）。弓を折ってしまったが，信仰によって食糧を得ることができた（1ニフ 16：18–32）。船を造り，約束の地へ向けて旅をした（1ニフ 17–18 章）。ニーファイ人とレーマン人が分かれた（2ニフ 5 章）。最後の証を述べた（2ニフ 33 章）。

ニーファイ第一書：1 ニーファイ 1 章–18：8 には，預言者リーハイとその家族がエルサレムを去ってからの旅の様子がおもに描かれている。彼らは不毛の荒れ野を旅し，やがて海に着いた。1 ニーファイ 18:9–23 には，レーマンやレムエルの反逆があったにもかかわらず，主に導かれるままに約束の地に向かった彼らの航海の様子が述べられている。第 19–22 章には，主なる贖い主を忘れないようにすべての人に説き勧めるという，ニーファイが記録を残した目的が述べられている（1 ニフ 6 章；19：18）。彼はイザヤの言葉を引用し（1 ニフ 20–21 章），すべての人にイエス・キリストが彼らの救い主であり贖い主であることを知ってほしいという望みをもって，その言葉を解き明かした（1 ニフ 22：12）。

ニーファイ第二書：第 1–4 章には，リーハイが死を前にして残した最後の教えと預言が幾つか述べられている。その中には息子や子孫たちへの祝福も含まれている。第 5 章には，ニーファイ人がレーマン人から分かれた理由が説明されている。ニーファイ人は神殿を建て，モーセの律法を教え，記録を残した。第 6–10 章には，ニーファイ

の弟ヤコブの言葉が記されている。ヤコブはユダの歴史を振り返り，預言者イザヤの記録の一部を引きながら，メシヤについて預言している。第11–33章には，キリストについてのニーファイ自身とヤコブの証(あかし)，終わりの時に関する預言，また『旧約聖書』の一つの書であるイザヤ書から引いた幾つかの章が記録されている。

ニーファイの版：「版」の項を参照。

ニーファイ人　「ニーファイ（リーハイの息子）」「モルモン書」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の民。その多くはリーハイの息子である預言者ニーファイの子孫であった。彼らはレーマン人から分かれ，一般にレーマン人よりも義にかなっていた。しかし，悪事のためにレーマン人に滅ぼされることとなった。

ニーファイ人はレーマン人のもとを去った（2ニフ5：5–17）。レーマン人でない民はニーファイ人であった（ヤコ1：13）。ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた（アル43：6–9，45）。ニーファイの民にとって，モロナイの時代以上に幸せな時はかつて一度もなかった（アル50:23）。ニーファイ人は義人の祈りのおかげで救われた（アル62：40）。ニーファイ人は不信仰に陥るようになった（ヒラ6：34–35）。キリストはニーファイ人の中で教えと導きを施された（3ニフ11章 – 28：12）。民は皆，主に帰依し，すべてのものを共有した（4ニフ1：2–3）。民の心の中に宿っていた神の愛のために，まったく争いがなかった。彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった（4ニフ1：15–16）。心の中で誇り，虚栄心が強くなり始めた（4ニフ1：43）。地の全面でニーファイ人とレーマン人の双方に流血と虐殺が広がった（モル2：8）。ニーファイ人の罪悪が募ったために，モルモンは指揮官になることを断った（モル3：9–11）。24人を除く，すべてのニーファイ人が殺された（モル6：7–15）。キリストを否定しないニーファイ人はすべて殺された（モロ1：2）。ニーファイ人はその罪悪と忌まわしい行いのゆえに滅ぼされた（教義3：18）。あなたがたはニーファイ人のようにならないよう，高慢に気をつけなさい（教義38：39）。

ニーファイ人の弟子　「三人の弟子（ニーファイ人の）」参照

ニーホル　「偽善売教」「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。悪人。ニーホルはニーファイ人の間で偽善売教を行った最初の人である。偽りの教えを説き，ギデオンを殺した後で，死刑に処せられた（アル1章）。ニーホルに従った者たちは，ニーホルの死後も長くその邪悪な行いと教えとを続けた。

アルマとアミュレクは，ニーホルの教団に属するさばきつかさによって投獄された（アル14：14–18）。殺された者たちがニーホルの教団に属し（アル16：11）。多くがニーホルの教団に属していた（アル21：4）。多くの同胞(はらから)を殺した者の大多数は，ニーホルの教

団に属する者であった（アル 24：28）。

肉　「生まれながらの人」「体」「現世的」「死すべき状態」参照

肉という言葉には幾つかの意味がある。(1) 人間，動物，鳥，魚などの体を形造る柔らかな組織。(2) 死すべき状態。(3) 人間の物質欲あるいは肉欲。

肉体を形造る組織：生きて動くものはあなたがたの食物となるであろう（創世 9：3）。不必要に動物を殺してはならない（JS 創世 9：10−11〔教義 49：21〕）。野の獣と空の鳥は，食物として，また着る物として人が使うように定められている（教義 49:18−19〔教義 59：16−20〕）。肉は控えめに用いなければならない（教義 89：12−15）。

死すべき状態：イエスは御父の独り子であった（ヨハ 1：14〔モサ 15：1−3〕）。アダムは最初の肉なるものとなった（モセ 3：7）。

人間の肉欲：肉なる者を自分の腕とする人は，のろわれる（エレ 17：5）。心は熱しているが，肉体が弱いのである（マコ 14：38）。肉の欲は，父から出たものではなく（1ヨハ 2:16）。ニーファイは自分の肉と罪悪のために苦悩した（2ニフ 4：17−18，34）。悪魔の意志と肉の思いに自らを従わせてはならない（2ニフ 10：24）。

憎しみ；憎む　「愛」「敵意」「報復」参照

人や物事に対する強い嫌悪感のこと。

主であるわたしは，わたしを憎むものには，父の罪を子に報いて（出エ 20：5）。主の憎まれるものが 6 つある（箴言 6：16）。愚かな人はその母を軽んじる（箴言 15：20）。彼は侮られて人に捨てられ（イザ 53：3）。一方を憎んで他方を愛し，あるいは，一方に親しんで他方をうとんじるからである（マタ 6：24）。あなたがたは，わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう（マタ 10：22）。悪を行っている者はみな光を憎む（ヨハ 3：20）。あなたは，年が若いために軽んじられてはならない（1テモ 4：12）。彼らは自分が富んでいるので，貧しい者をさげすみ（2ニフ 9:30）。神の啓示を侮ってはならない（ヤコ 4：8）。彼らはわたしたちに対して，永遠の憎しみを抱いていた（ヤコ 7：24）。人々が神の勧告を無視し，神の言葉を軽んじても（教義 3：7）。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ，迫害されたとしても（ジ―歴史 1：25）。

肉欲　「姦淫（かんいん）」「純潔」「性的不道徳」「不貞」「欲望」参照

性的不品行に代表される不義な肉体的快楽への願望，愛着。

主人の妻はヨセフに目をつけ（創世 39：7）。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫（かんいん）をしたのである（マタ 5：28〔3 ニフ 12：28〕）。たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい（1ペテ 2：11）。肉の欲，目の欲は，父から出たものではなく（1ヨハ 2：16）。これからはもう自分の目の欲を追うことなく（アル 39：9）。聖なる律法を破ったことによって，人は官能におぼれるようになった（教義 20：20）。だれか心の中で姦淫（かんいん）をするなら

ば，彼らは御霊を持たなくなり（教義 63：16）。すべての邪悪な行いをやめなさい（教義 88：121）。人々は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となり始めた（モセ 5：13〔モサ 16：3；モセ 6：49〕）。

ニコデモ　「パリサイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。義人。ユダヤ人の指導者（サンヒドリンの一員であったと思われる）。パリサイ人（ヨハ 3：1）。

夜イエスのもとにきて言った（ヨハ 3：1−21）。パリサイ人に対してキリストを弁護した（ヨハ 7：50−53）。イエスの埋葬のために香料を持って来た（ヨハ 19：39−40）。

虹　「ノア（族長）」「ノアの時代の洪水」「箱舟」参照

神がノアと交わされた聖約（契約）のしるし（創世 9：13−17）。ジョセフ・スミス訳創世 9：21−25 では，この聖約には約束として，大地は二度と洪水で覆われないこと，エノクのシオンが戻って来ること，そして主が地上に住むために再び来臨されることが含まれていたと説明されている。

日曜日　「安息日」参照

ニネベ　「アッスリヤ」「ヨナ」参照

『旧約聖書』の中の地名。アッシリア（アッスリヤ）の首都で，200 年以上にわたり，チグリス川東岸の商業の一大中心地であった。紀元前 606 年，アッシリア帝国の滅亡と同時に陥落した。

アッスリヤの王セナケリブはニネベにいた（列下 19：36）。この町に悔い改めを叫ぶためにヨナが遣わされた（ヨナ 1：1−2〔ヨナ 3：1−4〕）。ニネベの人々は悔い改めた（ヨナ 3：5−10）。イエスはユダヤ人に対し，悔い改めの模範としてニネベの例を挙げられた（マタ 12：41）。

柔和　「打ち砕かれた心」「謙遜」「忍耐」参照

神を畏れる，義にかなった，謙遜な，素直な，苦難に耐える，などの意味を持つ言葉。柔和な人は福音の教えに喜んで従う。

モーセは非常に柔和であった（民数 12：3）。柔和な者は国を継ぎ（詩篇 37：11〔マタ 5：5；3 ニフ 12：5；教義 88：17〕）。わたしは柔和で心のへりくだった者である（マタ 11：29）。柔和は御霊の実である（ガラ 5：22−23）。反対する者を柔和な心で教え導くべきである（2テモ 2：24−25）。柔和でしとやかな霊は，神の前にきわめて尊いものである（1ペテ 3：4）。生まれながらの人を捨てて柔和になる（モサ 3：19〔アル 13：27−28〕）。柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい（アル 37：33）。わたしの恵みは柔和な者に十分であり（エテ 12：26）。あなたがたが柔和であるのを見て，あなたがたにはキリストを信じる信仰があると思う（モロ 7：39）。柔和で心のへりくだった人でなければ，神の御前に受け入れられない（モロ 7：44）。罪の赦しは柔和な状態を生じ，柔和な状態であれば聖霊の訪れがある（モロ 8：26）。わたしの御

霊の柔和な道を歩みなさい（教義 19：23）。柔和に家を治め（教義 31：9）。いかなる力も影響力も，温厚と柔和により（教義 121：41）。

忍耐　「堪え忍ぶ」「柔和」参照

心静かに耐えること。不平を言ったり報復をしたりせずに，苦しみや辱め，侮蔑などに耐える力。

主の前にもだし，耐え忍びて主を待ち望め（詩篇 37：7−8）。怒りをおそくする者は大いなる悟りがあり（箴言 14：29）。あなたがたは耐え忍ぶことによって，自分の魂をかち取るであろう（ルカ 21：19）。聖書の与える忍耐と慰めとによって，望みをいだかせる（ロマ 15：4）。信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように（ヘブ 6：12−15）。完全な，でき上がった人となるように，その忍耐力を十分に働かせるがよい（新ヤコ 1：2−4）。あなたがたは，ヨブの忍耐のことを聞いている（新ヤコ 5：11）。彼らは心楽しく忍耐して，主の御心にすべて従った（モサ 24：15）。主があなたとともにおられたので，あなたは忍耐してこれらすべてのことに耐えた（アル 38：4−5）。完全になるまで忍耐し続けなさい（教義 67：13）。

任命　「按手」「召し；神の召し」参照

聖なる目的のために選ばれ，任じられること。この任命は，正当な権能を持つ人の按手により教会の組織で特定の奉仕の務めを受ける人に対して行われる。神権定員会を管理する人だけが，任命を受けるときに鍵を授けられる。神権定員会の長以外の職に任命される人は，神権の祝福を受けることはできるが，それに伴って鍵を授けられることはない。

バルナバとサウロとを，わたしのために聖別して，仕事に当らせなさい（使徒 13：2−3）。ほかのビショップたちが任命される（教義 68:14）。ビショップは一般判士であり，この務めに任命されなければならない（教義 107：17，74）。人は預言によって，また権能を持つ者による按手によって，神から召されなければならない（箇条 1:5）。

盗み

不正直あるいは不法な手段で人のものを取ること。主はその子らに，盗んではならないと命じてこられた（出エ 20：15；マタ 19：18；2 ニフ 26：32；モサ 13：22；教義 59：6）。

自分のため，盗人らが押し入って盗み出すこともない天に，宝をたくわえなさい（マタ 6：19−21）。ニーファイ人が攻撃されたのは，彼らの高慢や富，略奪，盗みなどが原因であった（ヒラ 4：12）。盗んで悔い改めようとしない者は，追い出されなければならない（教義 42：20）。盗みを働く者をその地の法律に引き渡さなければならない（教義 42：84−85）。

ねたみ　「貪欲；むさぼり」「ねたむ」参照

聖典によると，他人の幸せをうらやましく思うのは悪いことである。

族長たちは，ヨセフをねたんで，エジプトに売りとばした（使徒 7：9）。愛はねたむことをしない（1コリ 13：4〔モロ 7：45〕）。高慢から，ねたみが生じる（1テモ 6：4）。ねたみのあるところには，混乱とあらゆる忌むべき行為とがある（新ヤコ 3：16）。主なる神は，ねたんではならないと命じられた（2ニフ 26：32）。ニーファイの民の中には，ねたみがなかった（4ニフ 1：15–18）。人のねたみと憤りが生涯を通じてわたしの日常のことであった（教義 127：2）。

ねたむ　「ねたみ」参照

聖典では，この言葉は二つの意味で用いられている。(1) 何かに対して一途な思いや，鋭敏で奥深い感情を持つこと。(2) ほかの人をうらやむこと，またほかの人の優れた点を快く思わないこと。

一途な思いを持つこと：わたしは，ねたむ神である（出エ 20:5〔申命 5:9；6：15；モサ 11：22〕）。わが聖なる名のために，ねたみを起す（エゼ 39：25）。わたしはエルサレムのため，シオンのために，大いなるねたみを起し（ゼカ 1：14）。

人をうらやむこと：ねたみは，その夫を激しく怒らせる（箴言 6：32–35）。エーキシは息子をねたむようになり（エテ 9：7）。ねたみと恐れを除き去り（教義 67：10）。

熱心

たゆまず雄々しく努力すること。特に，主に仕え，主の言葉に従うことについて用いられる。

わたしによく聞き従え（イザ 55：2）。力の限りをつくして，あなたがたの信仰に徳を加え（2ペテ 1：5）。力の限り神の言葉を民に教え（ヤコ 1：19）。聖文を熱心に調べて（アル 17：2）。この少数のレーマン人は喜んで力の限り主の戒めを守っていた（3ニフ 6:14）。わたしたちは力を尽くそう（モロ 9：6）。熱心に善いことに携わらなければならない（教義 58：27）。怠けることもなく，あなたがたの勢力を尽くして働く（教義 75：3）。永遠の命の言葉を熱心に心に留めるようにしなさい（教義 84：43）。人は皆，自分の義務を学び，任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい（教義 107：99）。

ネブカデネザル　「ダニエル」「バビロン；バベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。バビロンの王（紀元前 604–561 年）。ユダを征服し（列下 24：1–4），エルサレムを包囲した（列下 24：10–11）。紀元前 600 年ごろ，預言者リーハイはエルサレムから逃れるように命じられ，囚われの身となってバビロンへ連れ去られることがないようにされた（1 ニフ 1：4–13）。そのバビロニア捕囚で，ネブカデネザルはゼデキヤ王と民を連れ去った（列下 25：1，8–16，20–22）。ダニエルはネブカデネザルの夢を解き明かした（ダニ 2；4 章）。

ネヘミヤ

『旧約聖書』の中の人物。バビロン

にいた高貴な身分のイスラエル人（レビ人またはユダの部族に属していた）で，アルタシャスタ王の宮廷で給仕役の地位にあった。ネヘミヤはアルタシャスタからエルサレムの城壁の再建を認めるとの許可を得た。

ネヘミヤ記：この書はエズラ記の続編である。ユダヤ人がバビロニア捕囚から帰還した後の，エルサレムでの工事の進展と数々の障害についての記録が含まれている。第 1–7 章には，ネヘミヤの第 1 回エルサレム訪問と，大きな障害にもかかわらず城壁が再建されたことが書かれている。第 8–10 章には，ネヘミヤが実施しようとした宗教上の改革と社会改革について述べられている。第 11–13 章には，エルサレムに住む資格のある人々の名前が列挙され，また城壁の奉献の様子が記録されている。第 13 章の第 4–31 節には，12 年間在職した後のネヘミヤの 2 度目のエルサレム訪問のことが記されている。

眠る

活動することも意識することもない休息の状態。主は聖徒に，必要以上に眠らないように勧告しておられる（教義 88：124）。眠りは霊の死（1 コリ 11：30 ；2 ニフ 1：13）や，肉体の死（モル 9:13）の象徴となることもある。

年表

以下の年表は包括的なものではなく，『聖書』と『モルモン書』の時代の様々な出来事の時間的推移を示すものである。

古代族長時代の出来事：（この区分に入る出来事の正確な年代特定は困難であるため，年数表記はしていない。）

紀元前

4000　アダムの堕落
　　エノクの働き
　　ノアの働き；洪水が地を覆う
　　バベルの搭が建てられる；ヤレド人，約束の地に向かって旅をする
　　メルキゼデクの働き
　　ノアの死
　　アブラム（アブラハム）の誕生
　　イサクの誕生
　　ヤコブの誕生
　　ヨセフの誕生
　　ヨセフがエジプトに売られる
　　ヨセフ，パロの前に出る
　　ヤコブ（イスラエル）と家族がエジプトに下って行く
　　ヤコブ（イスラエル）の死
　　ヨセフの死

モーセの誕生
モーセがエジプトからイスラエルの子らを導き出す（出エジプト）
モーセ，身を変えられる
ヨシュアの死
ヨシュアの死後，士師の時代が始まる。最初の士師はオテニエル，最後の士師はサムエル。その他の士師の順序と時期は明確ではない
サウルが油を注がれて王となる

イスラエル統一王国の出来事：
1095　サウルの治世が始まる
1063　ダビデがサムエルにより王として油を注がれる
1055　ダビデがヘブロンで王となる
1047　ダビデがエルサレムで王となる；ナタンとガドが預言をする
1015　ソロモンが全イスラエルの王となる
991　神殿が完成する
975　ソロモンの死；北の 10 の部族がソロモンの息子レハベアムに対して反乱を起こし，イスラエルが分裂する

イスラエル王国の出来事：	ユダ王国の出来事：	『モルモン書』の歴史中の出来事：
975　ヤラベアムがイスラエルの王となる	949　エジプトの王シシャクがエルサレムを略奪する	
875　アハブがサマリヤでイスラエル北部を統治する；エリヤが預言をする		
851　エリシャが偉大な奇跡を行う		
792　アモスが預言をする		
790　ヨナとホセアが預言をする	740　イザヤが預言を始める；（ローマ建国；ナボナサル，バビロンの王として在位〔747 年〕；ティグラテピレセル 3 世，アッシリアの王として在位〔747―734 年〕）	

721　北王国の滅亡；10の部族は囚われの身となる；ミカが預言をする

728　ヒゼキヤ，ユダの王となる；（シャルマネセル4世，アッシリアの王として在位）
642　ナホムが預言をする
628　エレミヤとゼパニヤが預言をする
609　オバデヤが預言をする；ダニエルがバビロンへ捕囚として連行される；（ニネベが606年に陥落する；ネブカデネザルがバビロンの王として在位〔604―561年〕）
598　エゼキエルがバビロンで預言をする；ハバククが預言をする；ゼデキヤ，ユダの王となる
587　ネブカデネザルがエルサレムを占領する

600　リーハイがエルサレムをたつ
588　ミュレクが約束の地を目指してエルサレムをたつ
588　ニーファイ人がレーマン人から分かれる（588―570）

ユダヤの歴史中の出来事：

537　クロスがユダヤ人にバビロンからの帰国を許す布告を出す
520　ハガイとゼカリヤが預言をする
486　エステルの働き
458　エズラが任じられて改革を行う
444　ネヘミヤがユダヤの総督に任命される
432　マラキが預言をする

『モルモン書』の歴史中の出来事：

400　ジェロムが版を受け継ぐ
360　オムナイが版を受け継ぐ

332　アレクサンドロス大王がシリアとエジプトを征服する
323　アレクサンドロスの死
277　『七十人訳聖書』（ユダヤ人の『聖書』のギリシャ語訳）の翻訳が始まる
167　マカベア家のマッタティアがシリアに反乱を起こす
166　ユダ・マカベアがユダヤ人の指導者になる
165　神殿が清められ，再奉献される；ハヌカー祭の始まり
161　ユダ・マカベアの死

148　アビナダイの殉教；アルマがニーファイ人の間に教会を再建する
124　ベニヤミンがニーファイ人に最後の説教をする
100　息子アルマとモーサヤの息子たちが働きを始める
91　ニーファイ人の間でさばきつかさの統治が始まる

63　ポンペイウスがエルサレムを征服し，マカベア家によるイスラエル統治が終わる
51　クレオパトラの支配
41　ヘロデとファサエルがユダヤの共同領主に任じられる
37　ヘロデがエルサレムの指導者となる
31　アクティウムの海戦；アウグストゥス（アウグスト），ローマ皇帝として在位（前 31―後 14）
30　クレオパトラの死
17　ヘロデが神殿を修復する

6　レーマン人サムエルがキリストの降誕を預言する

キリスト教徒の歴史における出来事：紀元		『モルモン書』の歴史中の出来事：	
	イエス・キリストの降誕		
30	キリストの働きが始まる		
33	キリストの十字架刑		
35	パウロの改宗		
45	パウロが最初の伝道の旅に出る		
58	パウロがローマに送られる		
61	使徒行伝の歴史が終わる		
62	ローマの大火；ネロがキリスト教徒を迫害する		
70	キリスト教徒がペラに退く；エルサレムが包囲の末に占領される		
95	ドミティアヌスがキリスト教徒を迫害する		
		33 または 34	復活されたキリストのアメリカ大陸への訪れ
		385	ニーファイの民の滅亡
		421	モロナイが版を隠す

ノア（ゼニフの息子）

『モルモン書』の中の人物。邪悪な王。ニーファイの地に住むニーファイ人を支配していた。

多くの罪を犯した（モサ 11：1−15）。預言者アビナダイを殺すように命じた（モサ 13：1〔モサ 17：1，5−20〕）。焼き殺された（モサ 19：20）。

ノア（族長）「ガブリエル」「虹（にじ）」「ノアの時代の洪水」「箱舟」参照

『旧約聖書』の中の人物。レメクの息子。アダムから数えて 10 人目の族長（創世 5：29−32）。ノアはキリストについて証（あかし）し，邪悪な世の人々に悔い改めを宣（の）べ伝えた。神は人々がノアの言葉を拒んだとき，箱舟を造るようにノアに命じられた。邪悪な人々を滅ぼすため地を洪水が覆うときに，ノアの家族とすべての生き物をそれに乗せて守るためであった（創世 6：13−22；モセ 8：16−30）。預言者ジョセフ・スミスは，ノアは天使ガブリエルであり，救いの鍵（かぎ）を持つという点でアダムに次ぐ位にあると教えた。

ノアとその息子たちヤペテ，セム，ハムと，彼らの妻たちは，神に命じられて箱舟を造り，救われた（創世 6−8 章〔ヘブ 11：7；1 ペテ 3：20〕）。主はエノクと交わした契約を，ノアと更新された（創世 9：1−17〔JS 創世 9：15，21−25；モセ 7：49−52〕）。メトセラの手の下で聖任されたとき，10 歳であった（教義 107：52）。人々は彼の命を取ろうとしたが，主の力が彼を守った（モセ 8：18）。義を説く者となり，イエス・キリストの福音を教

えた（モセ 8：19，23−24〔2 ペテ 2：5〕）。

ノアの時代の洪水　「虹」「ノア（族長）」「箱舟」参照

ノアの時代に，地球は完全に水で覆われた。これは地球のバプテスマであり，清めを象徴していた（1 ペテ 3：20−21）。

わたしは地の上に洪水を送って，肉なるものを滅ぼし去る（創世 6:17〔モセ 7：34，43，50－52；8：17，30〕）。洪水が地に起った（創世 7：10）。神は契約のしるしとして雲の中ににじを置かれた（創世 9：9−17）。水が地の面から引いた後，アメリカの地はえり抜きの土地になった（エテ 13：2）。洪水の中で滅びるであろう（モセ 7：38；8：24）。

ノーブー（イリノイ州）

1839 年に末日聖徒がイリノイ州に建設した町。ミシシッピ川をセントルイスから約 320㎞さかのぼった所にある。

ミズーリ州での迫害により，聖徒たちはミシシッピ川を越えて北東へ約 320㎞移動し，前よりも恵まれた状態のイリノイ州へ入った。やがて聖徒たちはコマースという未開発の町の近くに土地を購入した。そこは数戸の粗末な建物しかないまったく未開の湿地であった。聖徒たちは土地の排水をし，家を建てた。ジョセフ・スミスも自分の家族を小さな丸太造りの家に移した。その町のコマースという名は，「美しい」を意味するヘブライ語にちなんで「ノーブー」と変えられた。

『教義と聖約』の幾つかの章はノーブーで記録された（教義 124−129；132；135 章）。聖徒たちはノーブーに神殿を建てるように告げられた（教義 124：26−27）。彼らは 1846 年に自分たちの家を追われる前に，神殿を建設し，シオンのステークを組織した。この迫害の結果，聖徒たちはノーブーを去り，西へ向かった。

宣べ伝える　「伝道活動」「福音書」参照

福音の原則や教義についてさらに深い理解を与えるメッセージを伝えること。

主がわたしに油を注いで，貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね（イザ 61：1〔ルカ 4：16−21〕）。立って，ニネベに行き，これに伝えよ（ヨナ 3：2−10）。この時からイエスは教を宣べはじめて（マタ 4：17）。全世界に出て行って，すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ（マコ 16：15）。わたしたちは，十字架につけられたキリストを宣べ伝える（1コリ 1：22−24）。彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き，宣べ伝えることをされた（1ペテ 3：19）。主を畏れる気持ちを抱くように，絶えず彼らを奮い立たせるほかに，方法はなかった（エノ 1：23）。悔い改めと，主を信じる信仰のほかは，何も説かないように指示した（モサ 18：20）。御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり（アル 31：5）。あなたは召しを受けるまで，教えを説くために召されたと思うには及ばない

(教義 11：15)。聖任されないかぎり，だれも宣べ伝えるために出て行くことは許されない（教義 42：11)。この福音はあらゆる国民に宣べ伝えられるであろう（教義 133：37)。福音は最初から宣べ伝えられた（モセ 5：58)。

飲み物　「知恵の言葉」参照

のろい　「罰の定め」「不敬」参照

聖典におけるのろいとは，物や個人，民に対して裁きとその結果が及ぶことを許す神の律法が適用されることである。その第 1 の原因は不義である。のろいは，神の愛と正義の表れである。のろいは，神が直接に下されることもあれば，権能を授けられた僕が宣言することもある。時には，のろいが下された理由が人に知らされないこともある。故意に神に背くことによって主の御霊から遠ざかる者は，こののろいの状態を経験する。

主は，イエス・キリストを信じる信仰と福音の律法と儀式への従順さを示した個人や民からのろいを取り除かれる（アル 23：16−18；3 ニフ 2：14−16；箇条 1：3)。

神は蛇を，アダムとエバをだましたことでのろわれた（創世 3：13−15〔モセ 4：19−21〕)。地はアダムとエバのためにのろわれた（創世 3：17−19〔モセ 4：23−25〕)。主はカインを，アベルを殺したことでのろわれた（創世 4：11−16〔モセ 5：22−41〕)。主はカナンとその子孫をのろわれた（創世 9：25−27〔モセ 7：6−8；アブ 1：21−27〕)。イスラエルは神に従順であれば祝福され，不従順であればのろわれる（申命 28：1−68〔申命 29：18−28〕)。ゲハジとその子孫はのろわれ，ナアマンの重い皮膚病を受けた（列下 5：20−27)。主は昔のイスラエルの民を，什分の一とささげ物を納めなかったことでのろわれた（マラ 3：6−10)。いちじくの木がイエスののろいによって枯れた（マコ 11：11−14，20−21)。イエスはコラジンやベツサイダ，カペナウムの町をのろわれた（ルカ 10：10−15)。主に聞き従わなかったレーマン人は，主の前から絶たれ，のろわれた（2ニフ 5：20−24)。主は，御自分のもとに来るように，すべての人を招かれる（2ニフ 26：33)。主はみだらなことを行う者をのろわれる（ヤコ 2：31−33)。ニーファイ人は，悔い改めなければレーマン人よりもひどいのろいを受ける（ヤコ 3：3−5)。反抗的な人々は自分自身にのろいを招く（アル 3：18−19〔申命 11：26−28〕)。コリホルは人々を神から離れさせたことでのろわれた（アル 30：43−60)。主なる神は，のろいが地に下るように，またあなたがたの富にも下るようにされた。それはあなたがたの罪悪のためである（ヒラ 13：22−23〔2 ニフ 1：7；アル 37：31〕)。主は邪悪なヤレド人をのろわれた（エテ 9：28−35)。キリストの贖罪は，幼い子供たちからアダムののろいを取り去る（モロ 8：8−12)。主に背く者はのろわれる（教義 41：1)。先祖と子孫の間に堅いつながりがなければ，地はのろいをもって打たれる（教義 128：18〔マラ 4：5−6〕)。

不敬：「のろい」という言葉は，冒瀆や不敬，侮辱の言葉を用いるという

意味でも使われる。

人は自分の父や母をのろってはならない（出エ 21：17〔マタ 15：4〕）。民の司（つかさ）をのろってはならない（出エ 22：28〔伝道 10:20〕）。男も女も神をのろってはならない（レビ 24：13−16）。ペテロはイエスとのかかわりを否定したとき，のろいの言葉さえ口にした（KJ マタ 26：69−74）。邪悪なニーファイ人は神をのろい，死ぬことを願った（モル 2：14）。

パートリッジ，エドワード

近代に回復された当教会の初期の会員で，指導者としての務めを果たした人物。当教会の最初のビショップ（教義 36 章；41：9 − 11；42：10；51：1 −18；115 章；124：19）。

バアル　「偶像礼拝」参照

おもにフェニキアで礼拝された男性格の太陽神（列上 16：31）。フェニキア以外の地でも，モアブ人のバアル・ペオル（民数 25：1−3），シケムのバアル・ベリテ（士師 8：33；9：4），エクロンのバアル・ゼブブ（列下 1:2）など様々な形で礼拝された。バアルは，バビロンのベルやギリシャのゼウスと同じとも考えられる。バアルという言葉は主人と奴隷の関係を示している。バアルは通常，雄牛をその象徴とした。一般に，バアルとともに，アシタロテという女神が礼拝された。

バアルは時として，ほかの名前や言葉と結合し，バアル礼拝が行われた場所やバアルのような属性を備えた人など，バアルとの関連性を示す場合にも用いられた。後にバアルという言葉が非常に邪悪な意味合いを帯びてきたため，これらの結合語の名称では，バアルがボセテという言葉に置き換えられた。ボセテとは「恥」の意味である。

背教；背信　「背く」「福音の回復」参照

個人，教会，あるいは国民全体が真理に背くこと。

一般的な背教：イスラエルは主を離れてはならない（申命 29：18）。示現がなければ民は滅びる（KJ 箴言 29：18）。とこしえの契約を破った（イザ 24：5）。風が吹いてその家に打ちつけると，倒れてしまう（マタ 7：27）。あなたがたがこんなにも早く，違った福音に落ちていくことが，わたしには不思議でならない（ガラ 1：6）。人々は道を歩き始めたころはよかったが，霧の中で道を見失ってしまった（1ニフ 8：23〔1 ニフ 12：17〕）。人々は，その実を味わった後に，禁じられた道に踏み込んでしまった（1ニフ 8：28）。ニーファイ人の背教は教会に属していない者たちにとってつまずきの石となった（アル 4：6−12）。多くの教会員が高慢になり，ほかの教会員を迫害するようになった（ヒラ 3:33−34〔ヒラ 4：11−13；5：2−3〕）。主が御自分の民を栄えさせられるとき，彼らは心をかたくなにし，主なる神を忘れることがある（ヒラ 12:2；13:38）。ニーファイ人は心をかたくなにし，サタンに支配された（3ニフ 2：1−3）。モロナイは終わりの時の背教について預言した（モル 8：28，31−41）。再臨の前に背教が起こる（教義 1：13−16）。

過去のキリスト教会における背教：この民は口をもってわたしに近づき（イザ 29：10，13）。暗きは地をおおい（イザ 60：2）。主は，主の言葉を聞くことのききんを送られる（アモ 8：11）。にせキリストたちや，にせ預言者たちが起って（マタ 24：24）。狂暴なおおかみが，あなたがたの中に入り込んできて（使徒 20：29）。あなたがたがこんなにも早く，あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて（ガラ 1：6）。再臨の前に背教が起こる（2テサ 2：3）。ある人々は真理からはずれている（2テモ 2：18）。ある人々は信心深い様子をしながらその実を捨てる者となる（2テモ 3：5）。人々が健全な教に耐えられなくなる時が来る（2テモ 4：3−4）。民の間に，にせ預言者とにせ教師が現れる（2ペテ 2：1）。不信仰な人々がしのび込んできて，唯一の君であり，わたしたちの主であるイエス・キリストを否定している（ユダ 1：4）。使徒と自称してはいるが，その実，使徒でない者たちがいる（黙示 2：2）。ニーファイは大きな忌まわしい教会が設立されるのを見た（1ニフ 13：26）。異邦人はつまずいた。そして多くの教会を設けた（2ニフ 26：20）。彼らはわたしの定めから離れ去り，わたしの永遠の聖約を破った（教義 1：15）。暗闇が地を覆い，深い闇が人々の心を覆い（教義 112：23）。ジョセフは，世の教会はすべて間違っていて，その心は神から遠く離れていると告げられた（ジ―歴史 1：19）。

ハイド，オーソン

この神権時代に召された最初の十二使徒定員会の一員（教義 68：1−3；75：13；102：3；124：128−129）。1841 年に行ったユダヤ人帰還のための聖地奉献を含め，教会のために数多くの使命を果たした。

パウロ　「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の人物。使徒。パウロのヘブライ語名は，サウロであった。彼は異邦人に伝道を始めるまで，このサウロという名で知られていた。彼はかつて教会を迫害していたが，イエス・キリストの示現を受けた後に改宗して，教会が説く真理に従った。パウロは長期にわたる伝道の旅を 3 度行い，聖徒たちにあてて多くの手紙を書いた。今日の『新約聖書』にはそのうちの 14 の手紙が載っている。最後に彼は囚人としてローマに連行され，紀元 65 年の春に殺されたと思われる。

ステパノを石で打つことに同意した（使徒 7：57−8：1）。聖徒たちを迫害した（使徒 8：3）。ダマスコへの旅の途中，イエスの現れを受けた（使徒 9：1−9）。アナニヤからバプテスマを受けた（使徒 9：10−18）。アラビヤに退いた後，宣べ伝えるためにダマスコへ戻った（使徒 9：19−25〔ガラ 1：17〕）。改宗して 3 年後にエルサレムに戻った（使徒 9：26−30〔ガラ 1：18−19〕）。3 度伝道の旅に出て，福音を宣べ伝え，ローマ帝国の各地に教会の支部を組織した（使徒 13：1−14：26；15：36−18：22；18：23−21：15）。3 度目の伝道の旅の後，エルサレムに戻ったところで捕らえられ，カイザリヤに送られた（使徒 21：

7−23：35)。カイザリヤで2年間獄中にあった（使徒24：1−26：32)。裁判のためにローマへ送られる途中，船が難破した（使徒27：1−28：11)。

パウロの手紙　「パウロ」それぞれの手紙を参照

『新約聖書』の中の14書。使徒パウロが教会員にあてて書いた手紙で，次のように分類できる。

テサロニケ人への第一・第二の手紙（紀元50−51年）

パウロは2回目の伝道の旅で，コリントからテサロニケ人にあててこの手紙を書いた。テサロニケでのパウロの働きについては，使徒17章に述べられている。パウロはテサロニケへ帰ることを望んだが，そうできなかった（1テサ2：18)。そこでパウロは改宗者を励まし，彼らの近況を知るためにテモテを派遣した。第一の手紙は，テモテが帰って直ちに書かれたパウロの感謝の気持ちである。第二の手紙はその少し後に書かれた。

コリント人への第一・第二の手紙，ガラテヤ人への手紙，ローマ人への手紙（紀元55−57年）

コリント人への第一・第二の手紙は，パウロが3回目の伝道の旅のときに書いたもので，コリントの聖徒の疑問に答え，また彼らの中にあった無秩序を正そうとしたものである。

ガラテヤ人への手紙は，ガラテヤ一帯の諸教会にあてて書き送ったものと思われる。教会員の中には，ユダヤ教の律法に固執して福音を捨てる者がいた。この手紙の中でパウロは，モーセの律法の目的と，霊的な教えの大切さを説明した。

ローマ人への手紙は，パウロがコリントから書き送ったものである。パウロはローマの聖徒たちのもとを訪れたいと望んでいたが，聖徒たちをそれに備えさせるのがこの手紙の目的の一つであった。またこの手紙は，キリスト教に改宗した一部のユダヤ人たちが疑いをもって論じていた幾つかの教義について再確認している。

ピリピ人への手紙，コロサイ人への手紙，エペソ人への手紙，ピレモンへの手紙，ヘブル人への手紙（紀元60−62年）

パウロは，ローマでの最初の獄中生活のときにこれらの手紙を書いた。

ピリピ人への手紙はおもに，パウロがピリピの聖徒たちに感謝と愛の気持ちを伝え，長期にわたる自分の投獄のことで悲しむ彼らに慰めを与えるために書き送ったものである。

コロサイ人への手紙は，コロサイの聖徒たちが重大な過ちに陥っているという報告を受けてパウロが書いたものである。彼らは，キリストのような人格を伸ばすことよりも，むしろ外形的な儀式に厳格に従うことによって完全になれると信じていた。

エペソ人への手紙は，キリストの教会に関するパウロの教えが書かれているという点で非常に重要である。

ピレモンへの手紙は，主人ピレモンのものを盗んでローマへ逃亡した奴隷オネシモについての個人的な手紙である。パウロは，オネシモを赦（ゆる）すようにとの手紙を添えて，彼を主人のもとに

送り返した。

ヘブル人への手紙は，モーセの律法がキリストにあって成就し，それに換えてキリストの福音の律法が与えられたことを，ユダヤ人教会員に理解させるために，パウロが書いたものである。

テモテへの第一・第二の手紙，テトスへの手紙（紀元 64−65 年）

パウロは，ローマでの最初の獄中生活から釈放された後に，これらの手紙を書いた。

パウロはエペソまで旅をして，様々な空論がはびこるのを食い止めるためにテモテをエペソに残し，自分はまた戻って来るつもりでいた。パウロがテモテへの第一の手紙を書いたのは，マケドニアからと思われる。その目的は，テモテに義務を果たすよう勧め励ますことであった。

テトスへの手紙は，パウロが釈放期間中に書いたものである。パウロはテトスが働いていたクレテを訪ねた可能性がある。この手紙はおもに，義にかなった生活と教会内の規律について述べている。

テモテへの第二の手紙は，2 度目の獄中生活の間，殉教の直前に書いたものである。この手紙にはパウロの最後の言葉が書かれ，死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と信頼が示されている。

墓　「復活」参照

遺体を葬る場所。贖罪（しょくざい）によって，すべての人が墓から復活する。

キリストの復活の後，墓が開け，多くの死体が生き返った（マタ 27：52−53〔3 ニフ 23：9−13〕）。死よ，おまえの勝利は，どこにあるのか（1コリ 15：55）。墓はそこに囚（とら）われている肉体を解き放して（2ニフ 9：11−13）。墓の中で眠っていた者たちは出て来る（教義 88：97−98）。バプテスマフォントは墓を象徴している（教義 128：12−13）。

ハガイ

旧約の預言者。ユダヤ人がバビロニア捕囚から戻った直後の紀元前 520 年ごろ，エルサレムで預言した（エズ 5：1；6：14）。ハガイはエルサレムでの主の神殿再建について語り，神殿が完成していなかったことで民を叱責（しっせき）した。ハガイはまた，福千年の神殿と救い主の統治についても書き記している。

ハガイ書：第 1 章で，主は，神殿がまだ建てられていないにもかかわらず，民が自分の家を建てて住んでいることを非難された。第 2 章には，主は神殿の中で平安を与えてくださるというハガイの預言が記録されている。

ハガル　「アブラハム」「イシマエル（アブラハムの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。サラに仕えたエジプト人のつかえめ。アブラハムの妻となり，イシマエルを産んだ（創世 16：1−16；25：12；教義 132：34，65）。主はハガルに，イシマエルから大いなる国民が出ると約束された（創世 21：9−21）。

迫害　「逆境」参照

信仰や社会的立場の違いを理由にほかの人を苦しめ悩ますこと。

義のために迫害されてきた人たちは，さいわいである（マタ 5：10〔3 ニフ 12：10〕）。迫害する者のために祈れ（マタ 5：44〔3 ニフ 12：44〕）。彼らは自分が富んでいるので，柔和な者を迫害する（2ニフ 9：30〔2 ニフ 28：12–13〕）。どのような迫害を受けても，確固としてキリストを待ち望む義人は，滅びを受けない（2ニフ 26:8）。これらのことはすべて，あなたに経験を与えるであろう（教義 122：7）。

ハゴス

『モルモン書』の中のニーファイ人。船の建造者（アル 63：5–7）。

箱舟　「虹（にじ）」「ノア（族長）」「ノアの時代の洪水」参照

『旧約聖書』に出てくる，ノアが大洪水のときに命あるものを救うために造った船。

あなたは，いとすぎの木で箱舟を造りなさい（創世 6：14）。箱舟はアララテの山にとどまった（創世 8：4）。ヤレド人の船はノアの箱船のようにしっかりしていた（エテ 6：7）。

初め　「イエス・キリスト」「前世」「創造；創造する」参照

一般には，現世より前の時，すなわち前世を指して用いられる。イエス・キリストを「初め」と呼ぶ場合もある。

はじめに神は天と地とを創造された（創世 1：1〔モセ 2：1〕）。初めに言葉（ことば）があった（ヨハ 1：1）。わたしはアルパでありオメガであり，初めであり終わりである（3ニフ 9：18）。キリストは初めであり終わりである（教義 19：1）。新しくかつ永遠の聖約は初めからあった（教義 22：1）。人は初めに神とともにいた（教義 93：23，29）。神の教会で治める者となるように初めに選ばれた，高潔で偉大な者たち（教義 138：55）。独り子は初めから神とともにおられた（モセ 2：26）。

旗

人々が一つの目的の下に，あるいは帰属するグループごとに集まるための目印となるもの。古代においては，戦場での兵士の集合地点を示すために用いられた。『モルモン書』とイエス・キリストの教会は，地のすべての国民に対する旗としての象徴的な存在である。

主は旗をあげて遠くから一つの国民を招き（イザ 5：26〔2 ニフ 15：26〕）。エッサイの根が立って，もろもろの民の旗となり（イザ 11：10〔2 ニフ 21：10；教義 113：6〕）。平和の旗を掲げ（教義 105：39）。

畑　「ぶどう園（果樹園）（主の）」「世」参照

聖典では，耕作などに用いる土地を指す。この世やこの世の民の象徴として用いることもよくある。

畑は世界である（マタ 13：38）。天国は，畑に隠してある宝のようなものである（マタ 13：44）。大きく広々とした野原が見えた（1ニフ 8：9，20）。

畑は熟していた（アル 26：5）。畑はすでに白くなり刈り入れを待っている（教義 4：4〔教義 6：3；11：3；12：3；14：3；31：4；33：3，7〕）。畑は世界であり（教義 86：1−2）。わたしはこれらの王国を，畑を持っている一人の男にたとえよう（教義 88：51）。

パッテン，デビッド・W

末日の神権時代に選ばれた最初の十二使徒定員会の一員。回復された教会の最初の殉教者。1838 年にクルックト川の戦いで死んだ。

自分の事業を清算し，伝道の使命を果たすように求められた（教義 114：1）。主のもとに迎えられた（教義 124：19，130）。

罰の定め　「悪魔」「死（霊の）」「地獄」「滅びの子」参照

進歩が止まり，神の臨在と栄えを拒まれた状態。罰の定めにも様々な段階がある。完全な日の栄えの昇栄を得ない人は，進歩と特権がある程度制約され，その程度に応じた罰の定めを受けることになる。

偽善な律法学者たちよ。あなたがたは，わざわいである。あなたがたは，もっときびしいさばきを受けるに違いない（マタ 23：14）。聖霊をけがす者は，永遠の罪に定められる（マコ 3：29）。悪をおこなった人々は，さばきを受けるためによみがえって，それぞれ出てくる（ヨハ 5：29〔3 ニフ 26：5〕）。主のからだをわきまえないで飲み食いする者は，その飲み食いによって自分にさばきを招く（1コリ 11：29〔3 ニフ 18：28−29〕）。悔い改めて神の御名を信じることをせず，バプテスマを受けることなく，最後まで堪え忍ぶことをしなければ，罰の定めを受ける（2ニフ 9：24〔マコ 16：16；エテ 4：18；教義 68：9；84：74〕）。悪人が神とともに住むときの悲惨は，地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどい（モル 9：4）。命じられるまで何事も行わない者は，罰の定めを受ける（教義 58：29）。新しくかつ永遠の聖約を受ける者は，その律法に従わなければならない。そうしなければ罰の定めを受ける（教義 132：6）。

初穂

季節の最初の収穫物。旧約の時代に，初穂は主にささげられた（レビ 23：9−20）。福音を受け入れ，忠実に最後まで堪え忍ぶ人は，神に属する人であり，象徴的な意味で初穂ということができる。

小羊の行く所へは，どこへでもついて行く。彼らは，神と小羊とにささげられる初穂として（黙示 14：4）。キリストとともに最初に降（くだ）る者は初穂である（教義 88：98）。

バテシバ　「ダビデ」参照

ウリヤの妻。後にダビデの妻となる。ソロモンの母。ダビデ王は彼女と姦淫（かんいん）の罪を犯した。ダビデはまた彼女の夫を戦死させる画策をし（サ下 11 章），その罪により永遠の報いを受けた（教義 132：39）。

鳩のしるし　「聖霊」参照

あらかじめ定められていたしるしであり，バプテスマのヨハネはこのしるしによってメシヤを認めた（ヨハ 1：32−34）。ジョセフ・スミスは，鳩のしるしは聖霊を証するものとして，この世が創造される前に定められていたものであり，悪魔は鳩のしるしによって来ることはできないと教えている。

神の御霊がはとのように下った（マタ 3：16）。イエスがバプテスマを受けられると，聖霊が鳩の形を取って降って来られた（1ニフ 11：27）。わたしヨハネは証する。見よ，天が開かれ，聖霊が鳩の形を取って彼の上に降って，彼の上にとどまられた（教義 93：15）。

花婿　「イエス・キリスト」参照

聖典では，イエス・キリストを象徴的に花婿と呼ぶ。また，末日聖徒イエス・キリスト教会は，キリストの花嫁として象徴されている。

10 人のおとめが花婿を迎えに出て行った（マタ 25：1−13）。花嫁をもつ者は花婿である（ヨハ 3：27−30）。小羊の婚宴に招かれた者は，さいわいである（黙示 19：5−10）。花婿が来るときに用意ができているようにしなさい（教義 33：17）。花婿のために用意をせよ（教義 65：3）。

母　「エバ」「親」「家族」参照

子供を産んだ女性，あるいは子供を養子とした女性を指す神聖な呼び名。神の霊の子供たちに死すべき体を与えることにより，神の計画の助け手となる。

アダムはその妻の名をエバと名づけた。彼女がすべて生きた者の母だからである（創世 3：20〔モセ 4：26〕）。あなたの父と母を敬え（出エ 20：12〔エペ 6：1−3；モサ 13：20〕）。母の教を捨ててはならない（箴言 1：8）。愚かな人はその母を軽んじる（箴言 15：20〔箴言 10：1〕）。年老いた母を軽んじてはならない（箴言 23：22）。その子らは立ち上がって彼女を祝し，その夫もまた彼女をほめたたえて言う（箴言 31：28）。十字架のそばには，イエスの母がたたずんでいた（ヨハ 19：25−27）。レーマン人の 2 千人の兵士たちは母親から教えを受けていた（アル 56：47〔アル 57：21〕）。わたしたちの栄光ある母エバも，多くの忠実な娘たちとともにいた（教義 138：38−39）。

ハバクク

『旧約聖書』の中のユダ王国の預言者。ハバククはエホヤキンの治世のころに，民の罪悪について語った（紀元前 600 年ごろ）。

ハバクク書：第 1 章には，エレミヤ書 12 章や教義と聖約 121 章に類似した，主と預言者の間で交わされた言葉が記されている。ハバククは，悪人が栄えている様子に心を悩ませていた。第 2 章で，主はハバククに，忍耐するように勧告し，義人は信仰によって生きるようにならなければならないと教えられた。第 3 章には，神の公正さを知ったハバククの祈りが記録されている。

バビロン；バベル　「ネブカデネザル」「世」参照

バビロニアの首都。

バベルはニムロデによって興された町で，メソポタミアの地，すなわちシナルにおける最古の都市の一つであった（創世 10：8−10）。主は人々がバベルの塔を築いていたときに，彼らの言葉を乱された（創世 11：1−9；エテ 1：3−5，33−35）。バビロンは後にネブカデネザルの治める都となった。ネブカデネザルは壮大な都市を築き，その廃虚は今なお残っている。バビロンは非常に邪悪な都市となり，以来この世の悪を象徴するようになった。

バビロンのうちからのがれ出て（エレ 51：6）。バビロンは打ち立てられるが，やがて倒れる（黙示 17−18 章）。バビロンも滅ぼされる（2ニフ 25：15）。バビロンは倒れる（教義 1：16）。わたしはバビロンにとどまる者をだれも容赦しない（教義 64：24）。バビロンから出なさい（教義 133：5，7，14）。

バプテスマ　「儀式」「聖霊」「再び生まれる」「幼児のバプテスマ」参照

「浸す」または「沈める」という意味のギリシャ語を語源とする言葉。権能を持つ者により水に沈められるバプテスマは，福音の最初の儀式であり，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるために必要なものである。バプテスマに先立って，イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めが求められる。この儀式の後に聖霊の賜物（たまもの）を受けることによって，バプテスマは完全なものとなる（2 ニフ 31：13−14）。日の栄えの王国に入るには，水と聖霊によるバプテスマが必要である。バプテスマを受けた最初の人はアダムである（モセ 6：64 −65）。イエスもすべての正しいことを成就し，全人類に道を示すために，バプテスマをお受けになった（マタ 3：13−17；2 ニフ 31：5−12）。

地上のすべての人が，死すべき状態にある間に福音を受け入れる機会に浴するわけではない。そのために，主は死者のために代理人によってバプテスマを行うことを承認された。これによって，霊界で福音を受け入れる者は，神の王国に入る資格を得ることができるのである。

必要不可欠な条件：今は受けさせてもらいたい。すべての正しいことを成就するのはふさわしいことである（マタ 3：15）。イエスは出てきて，ヨハネからバプテスマをお受けになった（マコ 1：9）。パリサイ人と律法学者たちとはバプテスマを受けないで，神のみこころを無にした（ルカ 7：30）。だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない（ヨハ 3：5）。悔い改めなさい。そして，あなたがたひとりびとりがバプテスマを受けなさい（使徒 2：38）。神はすべての人に，神の御名によってバプテスマを受けなければならないと命じておられる（2ニフ 9：23−24）。救いを得るためには，人はバプテスマを受け，聖霊を授かり，最後まで堪え忍ばなければならない（2ニフ 31 章）。キリストの教義とは，人は信じてバプテスマを受け，聖霊を受けなければならないというものである（3ニフ 11：20−40）。あなたがたの言葉を信じることなく，わたしの名によってバプテスマを受けない者は，罰の定めを受ける（教義 84：74）。神はアダムに，悔い改め

とバプテスマが必要な理由を説明された（モセ 6：52−60）。

全身を水に沈める：イエスはバプテスマを受けるとすぐ，水から上がられた（マタ 3：16〔マコ 1：10〕）。ヨハネもアイノンで，バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである（ヨハ 3：23）。ピリポと宦官は水の中に降りて行った（使徒 8：38）。わたしたちは，バプテスマによって，彼と共に葬られたのである（ロマ 6：4〔コロ 2：12〕）。あなたがたの主であり救い主である御方に従い，水に入り（2ニフ 31:13）。アルマ，ヘラム，そのほかの人々が水に沈められた（モサ 18：12−16）。それから，あなたがたはその人を水中に沈めなさい（3ニフ 11：25−26）。バプテスマの正しい執行方法が説明される（教義 20：72−74）。彼らはイエスの名によって水の中に沈められ，イエスの埋葬に倣ってバプテスマを受けた（教義 76：50−51）。アダムは水に沈められ，そして水から連れ出された（モセ 6：64）。水に沈めるバプテスマは罪の赦しのために行われる（箇条 1：4）。

罪の赦しのための儀式：バプテスマを受け，あなたの罪を洗い落としなさい（使徒 22：16）。バプテスマの後，火と聖霊によって罪の赦しが与えられる（2ニフ 31：17）。自分の罪から洗い清められるように，やって来て，悔い改めのためのバプテスマを受けなさい（アル 7：14）。信じて，バプテスマを受ける人々は，幸いである。彼らは罪の赦しを受けるからである（3ニフ 12：1−2）。悔い改めと救い主を信じる信仰，バプテスマによる罪の赦しを告げなさい（教義 19：31）。わたしたちは，罪の赦しのために水に沈めるバプテスマを信じる（箇条 1：4）。

正当な権能：行って，すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施し（マタ 28：19〔教義 68：8〕）。リムハイと彼の民の多くの者は，バプテスマを受けたいと願った。しかしその地には，神から権能を授かっている者は一人もいなかった（モサ 21：33）。わたしはあなたに力を授ける。この力をもってバプテスマを施しなさい（3ニフ 11：19−21）。アロン神権は，罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ（教義 13：1）。また彼らは，わたしの名によってバプテスマを施すために，わたしから聖任を受ける人々である（教義 18：29）。バプテスマのヨハネは，バプテスマを施す権能をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けた（ジ―歴史 1：68−69）。

資格：悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ（2ニフ 31：11）。あなたがたは悔い改め，再び生まれなければならない（アル 7：14）。ふさわしくないままでバプテスマを受けることのないようにしなさい（モル 9：29）。親たちに，悔い改めてバプテスマを受け，幼い子供たちのようにへりくだらなければならないことを教えなさい（モロ 8：10）。バプテスマを受けたいと望む人々に求められる資格が説明される（教義 20：37）。子供たちは，8 歳のときに罪の赦しのためのバプテスマを受けなければならない（教義 68：25，27）。

交わす聖約：主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした（モサ 18：8−10，13）。悔い改めて，キリストの名を受け，キリストに仕える決心をする人は，バプテスマによって受け入れられる（教義 20：37）。

死者のためのバプテスマ：死者のためにバプテスマを受ける人々は，なぜそれをするのだろうか（1コリ 15：29）。死者のためのバプテスマは，罪の赦しを得させるために執行される（教義 124：29；127：5−9；128：1；138：33）。

幼児には不要：幼い子供たちにバプテスマを施すことは，神をひどくあざける行為である（モロ 8：4−23）。子供たちは，8 歳のときにバプテスマを受けなければならない（教義 68：27）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。

パホーラン

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の 3 代目の大さばきつかさ（アル 50：39−40；51：1−7；59−62 章）。

ハム　「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ノアの 3 番目の息子（創世 5：32；6：10；モセ 8：12，27）。

ノアと息子たちと，彼らの妻とは箱舟に入った（創世 7：13）。ハムの子カナンはのろわれた（創世 9：18−25）。ハムの政府は族長制であり，地の祝福と知恵の祝福を授けられたが，神権に関してはのろわれた（アブ 1：21−27）。ハムの妻エジプタスはカインの子孫であった。そして，彼らの娘エジプタスはエジプトに移り住んだ（アブ 1：23，25〔詩篇 105：23；106：21−22〕）。

破門　「背く」「背教；背信」参照

教会から除名し，教会員としてのすべての権利と特権を取り去ること。教会役員は，該当する教会員が主の戒めに反する生活をすることを選び，それによって，自らをそれ以上教会員として認められない状態に置いたときにのみ，その教会員を破門する。

多くの者が心をかたくなにし，名が消された（アル 1：24〔アル 6：3〕）。悔い改めなければ，わたしの民の中に数えてはならない（3ニフ 18：31〔モサ 26 章〕）。姦淫をして悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：24）。罪を犯して悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：28）。教会内に起こる重大な問題を解決するための手順が定められる（教義 102 章〔教義 42：80−93〕）。ビショップがイスラエルの判士に任命される（教義 107：72）。宗教団体は秩序を乱す行為に対してその会員を処分する権利を持つ（教義 134：10）。

パラダイス　「天」参照

霊界の一部。この世を去った義人の霊はここで肉体の復活を待つ。パラダイスとは，幸福で平安な状態である。

パラダイスという言葉は聖典の中

で，霊の世界（ルカ 23：43），日の栄えの王国（2 コリ 12：4）を意味する言葉としても使われ，また栄光を受けた福千年の地球の状態を表す「楽園」という言葉（箇条 1:10）もこれに当たる。

勝利を得る者には，神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう（黙示 2：7）。神のパラダイスは義人の霊を解き放し（2 ニフ 9：13）。義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態に迎え入れられ（アル 40：11−12）。イエスが選ばれた弟子たちは，3 人を除いて，全員がすでに神のパラダイスへ行き（4 ニフ 1：14）。わたしは間もなく行って，神のパラダイスで安息を得る（モロ 10：34）。キリストはパラダイスの義人の霊たちに教えを授けられた（教義 138 章）。

バラバ

十字架の刑のときにイエスの代わりに釈放された男。暴動を扇動した者，人殺し，強盗であった（マタ 27：16−26；マコ 15：6−15；ルカ 23：18−25；ヨハ 18：40）。

バラム

『旧約聖書』の中の預言者。金銭のためにイスラエルをのろおうとしたが，のろってはならないと主から命じられた（民数 22−24 章）。

バラムのろばは，主の使（つかい）が道に立ちふさがっていたので先に進もうとしなかった（民数 22：22−35）。

パリサイ人　「ユダヤ人」参照

『新約聖書』の中のユダヤ教の一党派。パリサイという名には「分離された者」の意味がある。パリサイ人は，モーセの律法に厳格に従っていることと，異邦人とかかわりのあることをすべて避けていることを誇りとしていた。彼らは死後の生活や復活，天使と霊の存在を信じていた。また，口伝律法と伝承も，成文化された律法と同等の重要性を持つと信じていた。彼らの教えは宗教を規則の遵守という枠に押し込め，霊的慢心を助長した。そしてパリサイ人によって，多くのユダヤ人がキリストと福音に対して疑いを抱くようになった。マタイ 23 章；マルコ 7：1−23；ルカ 11：37−44 に記されているように，主はパリサイ人とその行いとを非難された。

ハリス，マーティン　「証人（モルモン書の）」参照

『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証（あかし）した三人の証人の一人。彼はジョセフ・スミスと教会に財政的な援助を与えた。主はマーティン・ハリスに，土地を売却してその金銭をささげることにより，『モルモン書』の出版の代金を支払い（教義 19：26−27，34−35），教会員の模範となり（教義 58：35），また伝道に必要な支払いの援助をする（教義 104：26）ように求められた。

マーティン・ハリスは教会から破門されたが，後に教会員としての資格を完全に回復した。彼は生涯の終わりまで，天使モロナイに会ったことと，ジョセフ・スミスが『モルモン書』の翻訳に用いた金版を見たこととを証（あかし）した。

バルトロマイ　「ナタナエル」参照
『新約聖書』の中の人物。キリストに選ばれた最初の十二使徒の一人（マタ 10：2−4）。

バルナバ

クプロ出身のレビ人ヨセフ（ヨセとも呼ばれる）の別名。自分の土地を売り，その代金を使徒たちのところに持って行った（使徒 4：36−37）。最初に選ばれた十二使徒の一人ではないが，後に使徒となり（使徒 14：4, 14），幾度か伝道の旅に出た（使徒 11：22−30；12：25；13−15 章；1 コリ 9：6；ガラ 2：1，9；コロ 4：10）。

ハルマゲドン　「イエス・キリストの再臨」「ゴグ」「マゴグ」参照

ハルマゲドンは，「メギドの丘」を意味するヘブライ語から派生した言葉である。メギドの平野は，エルサレムの北方約 80㎞に位置するエスドラエロン平原の西部にあり，旧約の時代，幾度か激しい戦闘があった場所である。主の再臨近くに行われる大規模な最後の戦いがハルマゲドンの戦いと呼ばれるのは，それがこの地で始まるからである（エゼ 39：11；ゼカ 12−14 章，特に 12：11；黙示 16：14−21）。

パロ　「エジプタス」「エジプト」参照

ハムの娘であるエジプタスの長男（アブ 1：25）。また，エジプトの王たちに付けられた称号（アブ 1：27）。

版　「金版」「モルモン書」参照

『モルモン書』の場合がそうであるように，幾つかの古代文明においては，金属の版に歴史や様々な記録を記した。詳細については，『モルモン書』の巻頭にある「『モルモン書』についての概説」を参照。

反キリスト　「悪魔」参照

人や事物を問わず真実の福音の救いの計画を装うもの，また公然か否かを問わずキリストに敵対するすべてのものを指す。黙示者ヨハネは反キリストを「惑わす者」と述べている（1 ヨハ 2：18−22；4：3−6；2 ヨハ 1：7）。反キリストの最たる者はルシフェルであるが，彼には，霊の者と死すべき者の双方に数多くの助け手がいる。

滅びの子は，すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり（2テサ 2：1−12）。しるしで，地に住む人々を惑わす（黙示 13：13−17）。シーレムはキリストを否定し，多くの人を欺いた（ヤコ 7：1−23）。ニーホルは偽りの教義を説き，教会を建て，偽善売教を始めた（アル 1：2−16）。コリホルは，キリストと贖罪（しょくざい）と預言の霊をあざけった（アル 30：6−60）。

万軍の主　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストに対する呼び名の一つ。イエス・キリストは天と地の衆群を治め，悪に対抗して義人を導いてくださる（教義 29：9；121：23）。

万軍の主，これこそ栄光の王である（詩篇 24：10）。万軍の主であるイスラエルの神（1ニフ 20：2）。わたしの御霊（みたま）はいつでも人を励ますわけではないからである，と万軍の主は言う（教

義 1：33)。

反対　「逆境」参照

ハンナ　「サムエル（旧約の預言者）」参照

旧約の預言者サムエルの母。主はハンナの祈りにこたえて，サムエルを与えられた（サ上 1：11，20−28)。ハンナはサムエルを主にささげた。ハンナの感謝の言葉は，イエスの母マリヤの言葉に対比できる（サ上 2：1−10；ルカ 1：46−55)。

火　「地獄」「聖霊」「地球（地）―地球の清め」「バプテスマ」参照

清め，純化，聖化の象徴。火は神の臨在の象徴としても用いられる。

あなたの神，主は焼きつくす火（申命 4：24)。主は火と炎をおのれのしもべとされる（詩篇 104：4)。万軍の主は焼きつくす火の炎をもって臨まれる（イザ 29：6〔2 ニフ 27：2〕)。主は火の中にあらわれて来られる（イザ 66：15)。彼は金をふきわける者の火のようであり（マラ 3：2〔3 ニフ 24：2；教義 128：24〕)。このかたは，聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう（マタ 3：11〔ルカ 3：16〕)。義人は火によって守られる（1ニフ 22：17)。悪人は火によって滅ぼされる（2ニフ 30：10)。ニーファイは火と聖霊によるバプテスマを受ける方法を説明した（2ニフ 31：13−14〔3 ニフ 9：20；12：1；19：13；エテ 12：14；教義 33：11〕)。火すなわち聖霊による罪の赦(ゆる)しを告げなさい（教義 19：31)。大きな忌まわしい教会は，焼き尽くす火によって倒されるであろう（教義 29：21)。地球は火によるかのごとくに過ぎ去るであろう（教義 43：32)。主の臨在は物を溶かす燃える火のようであり（教義 133：41)。アダムは火と聖霊によってバプテスマを受けた（モセ 6：66)。

光；キリストの光　「イエス・キリスト」「英知」「真理」「聖霊」「良心」参照

キリストを通して神から発せられ，万物に命と光を与える神聖なエネルギーや力，影響力。天においても地上においても万物が治められる律法である（教義 88：6−13)。またそれは，人々が福音の真理を理解し，救いに至る福音の道を歩めるように助けを与える（ヨハ 3：19−21；12：46；アル 26：15；32：35；教義 93：28−29，31−32，40，42)。

キリストの光を聖霊と混同してはならない。キリストの光は人格的な存在ではない。キリストの光は神から発する影響力であり，人に聖霊を受ける備えをさせるものである。また，人生においてすべての人を善に向かわせる力である（ヨハ 1：9；教義 84：46−47)。

キリストの光の一つの表れは，良心である。良心は善悪の選択ができるように人を助ける（モロ 7：16)。福音について学べば学ぶほど，良心は鋭敏になる（モロ 7：12−19)。キリストの光に聞き従う人々は，イエス・キリストの福音に導かれる（教義 84：46−48)。

主はわたしの光（詩篇 27：1)。われわれは主の光に歩もう（イザ 2：5〔2

ニフ 12：5〕）。主はとこしえにあなたの光となり（イザ 60：19）。すべての人を照すまことの光があって，世にきた（ヨハ 1：4−9〔ヨハ 3：19；教義 6：21；34：1−3〕）。わたしは世の光である（ヨハ 8：12〔ヨハ 9：5；教義 11：28〕）。光は何であろうと善である（アル 32：35）。キリストは世の命であり光である（アル 38：9〔3 ニフ 9：18；11：11；エテ 4：12〕）。善悪をわきまえることができるように，すべての人にキリストの御霊（みたま）が与えられている（モロ 7：15−19）。神から出ているものは光である。その光はますます輝きを増してついには真昼となる（教義 50：24）。御霊（みたま）はすべての人に光を与え（教義 84：45−48〔教義 93：1−2〕）。神の戒めを守る者は真理と光を受け（教義 93：27−28）。光と真理はあの悪しき者を捨てる（教義 93：37）。

ビショップ　「アロン神権」参照

「見守る者」の意味を持つ言葉で，責任ある職または地位を指す。ビショップは聖任によって授けられるアロン神権の職の一つであり（教義 20：67；107：87−88），イスラエルの一般判士である（教義 107：72，74）。

聖霊は，あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである（使徒 20：28）。監督（ビショップ）の資格が述べられる（1テモ 3:1−7〔テト 1:7〕）。ビショップは聖任されなければならない（教義 20：67）。エドワード・パートリッジが教会のためにビショップとして召された（教義 41:9）。ビショップは霊的な賜物（たまもの）を見分ける（教義 46：27，29）。大祭司はビショップの職務を行うことができる（教義 68:14，19〔教義 107:17〕）。ビショップは主から任命される（教義 72：1−26）。ビショップは貧しい人の世話をする（教義 84：112）。ビショップはすべて現世の事柄をつかさどる（教義 107：68）。ビショップはアロン神権の会長である（教義 107：87−88）。

ヒゼキヤ

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国を治めた義にかなった王。彼の治世は 29 年続き，その間イザヤがユダで預言者として働いた（列下 18−20 章；歴下 29−32 章；イザ 36−39 章）。イザヤはヒゼキヤが教会と国家を改革するのを助けた。ヒゼキヤは偶像礼拝をやめさせ，神殿の祭儀を復活させた。ヒゼキヤは，祈りと信仰によって命を 15 年延ばされた（列下 20：1−7）。彼の治世の初期は繁栄を享受したが，アッシリア（アッスリヤ）の王に背いた結果（列下 18：7），2 度にわたってアッシリアの侵攻を受けた。最初の侵攻については，イザヤ 10：24−32，2 度目の侵攻については，列王下 18：13−19：7 に記されている。2 度目の侵攻のとき，エルサレムは主の天使によって救われた（列下 19：35）。

羊飼い　「イエス・キリスト」「良い羊飼い」参照

主の子らを養う者を象徴的に表現した言葉。

主はわたしの牧者であって（詩篇 23：1）。牧者は群れを養うべき者ではないか（エゼ 34：2−3）。

人　「神；神会」「神の息子，娘」「霊」「霊の創造」参照

男女の別なく全人類を指す言葉。男であれ女であれ，人は皆文字どおり天の御父の霊の子供である。この世に生まれるとき，人は死すべき肉の体を与えられる。この肉体は神の形に造られたものである（創世 1：26−27）。忠実であって必要な儀式を受け，聖約を守り，神の戒めに従う人は，男女の別なく昇栄にあずかり，神のようになる。

神は自分のかたちに人を創造された（創世 1：27〔モサ 7：27；教義 20：17−18〕）。人は何者なので，これをみ心にとめられるのですか（詩篇 8：4−5）。人を頼みとし肉なる者を自分の腕としている人は，のろわれる（エレ 17：5〔2 ニフ 4：34；28：26，31〕）。おとなとなった今は，幼な子らしいことを捨ててしまった（1コリ 13：11）。人が存在するのは喜びを得るためである（2ニフ 2：25）。生まれながらの人は神の敵であり（モサ 3：19）。あなたがたはどのような人物であるべきか（3ニフ 27：27）。くじかれるのは神の業ではなく，人間の業である（教義 3：3）。あなたは人を神よりも恐れてはならなかった（教義 3：7〔教義 30：11；122：9〕）。すべてのものは，人の益と利用のために造られている（教義 59：18）。わたしは，人は取るに足りないものであることが分かった（モセ 1：10）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり（モセ 1：39）。

天の御父の霊の子供としての人間：神よ，すべての肉なる者の命の神よ（民数 16：22〔民数 27：16〕）。あなたがたはあなたがたの神，主の子供である（申命 14：1）。あなたがたは神だ，あなたがたは皆いと高き者の子だ（詩篇 82：6）。あなたがたは生ける神の子である（ホセ 1：10）。われわれの父は皆一つではないか。われわれを造った神は一つではないか（マラ 2：10）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：29）。御霊（みたま）みずから，わたしたちが神の子であることをあかしして下さる（ロマ 8：16）。たましいの父に服従し（ヘブ 12：9）。すべての人の霊は，彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される（アル 40：11）。世界に住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる（教義 76：24）。あなたがたも初めに神とともにおり（教義 93：23，29）。神は人を，地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造された（モセ 3：5−7）。わたしは神である。わたしは世界を造り，また人々を，彼らが肉体にある前に造った（モセ 6：51）。

天の御父のようになる可能性を持った人間：あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい（マタ 5：48〔3 ニフ 12：48〕）。あなたがたの律法に，「あなたがたは神々である」と書いてあるではないか（ヨハ 10：34〔教義 76：58〕）。わたしたちは，神の相続人またキリストと共同の相続人なのである（ロマ 8：17）。あなたがたは子である。また神による相続人である（ガラ 4：7）。彼が現れる時，わたしたちは彼に似るものとなる（1ヨハ 3：2）。勝利を得る者には，わたしと共にわ

たしの座につかせよう（黙示 3：21）。わたしを受け入れた者に，わたしは神の子となることを許した（3ニフ 9：17）。日の栄えの王国を受け継ぐ人々は，神々，すなわち神の子である（教義 76：50，58）。それで，彼らは神々となる。彼らは一切の権威を持つからである（教義 132：20）。

人（霊を持つ存在としての）「体」「霊」参照

聖典は霊を持つ存在としての人を次の 3 つに分類している。(1) 前世と来世における霊的存在（アル 40：11−14；アブ 3：23），(2) この世で一つに結合している霊と肉体（アブ 5：7），(3) 復活して霊と肉体が分離しないように結合した不死不滅の人（アル 40：23；教義 88：15−16）。

それは人にとって最も喜ばしいものである（1ニフ 11：23）。悪魔は人々をだまし（2ニフ 28：21）。今の人はキリストが来られる時代の人と同じように，神にとって貴い存在ではないだろうか（アル 39：17）。聖餐のパンと水は，それを受ける人々のために聖められる（モロ 4−5 章〔教義 20：77−79〕）。人の価値は大いなるものである（教義 18：10）。あなたがたは水と血と，霊とによってこの世に生まれ，生けるものとなった（モセ 6：59）。

人の価値：人は皆神の霊の子供である。神は子供たち一人一人を心にかけ，各人を大切な存在と考えておられる。人は神の子であり，神のようになる可能性を持っている。したがって，人には大いなる価値がある。

罪人がひとりでも悔い改めるなら，よろこびが，天にあるであろう（ルカ 15：10）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった（ヨハ 3：16）。彼らは，だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかった（モサ 28：3）。今の人はキリストが来られる時代の人と同じように，神にとって貴い存在ではないだろうか（アル 39：17）。あなたにとって最も価値のあることは，人々をわたしのもとに導くことである（教義 15：6）。人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい（教義 18：10−15）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。

一つ「一致」「神；神会」参照

人の子「イエス・キリスト」「神；神会」参照

イエス・キリストが御自身のことを語るときに用いられた呼び名（ルカ 9：22；21：36）。聖なる人の子の意味。聖なる人とは，父なる神の名である。イエスは御自身を指して人の子と言い，御父との神聖な関係を公に宣言された。この呼び名は福音書の中に頻繁に出てくる。末日の啓示は，救い主のこの呼び名が特別な意味を持っており，神聖なものであることを確認している（教義 45：39；49：6，22；58：65；モセ 6：57）。

独り子「イエス・キリスト」「生まれる；産む；もうける」参照

イエス・キリストの呼び名の一つ。

イエス・キリストは御父の独り子であられる（ルカ 1：26−35；ヨハ 1：14；3：16；1 ニ フ 11：18−20；2 ニフ 25：12；アル 7：10；12：33；モセ 7：62）。

日の老いたる者　「アダム」参照

日の栄え　「永遠の命」「栄光の階級」「昇栄」参照

人が死後に到達できる 3 つの段階の栄えの中で最高のもの。この栄えにおいて，義人は父なる神と御子イエス・キリストのもとで生活する。

天に属するものの栄光（1コリ 15：40〔教義 76：96〕）。パウロは第三の天にまで引き上げられた（2コリ 12：2）。日の栄えの栄光が示現で示された（教義 76：50−70）。日の栄えの世界の場所を望む聖徒は，備えなければならない（教義 78：7）。日の栄えの王国の律法に従えない者は，日の栄えの栄光に堪えられない（教義 88：15−22）。日の栄えの栄光には，3 つの天，すなわち 3 つの階級がある。その最高の階級を得るための条件が示される（教義 131：1−2）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。

秘密結社　「カイン」「ガデアントンの強盗団」参照

邪悪な目的を果たすために誓いによって結束した人々の組織。

偽りの父は，人の子らをそそのかして人殺しをする秘密結社を作らせ（2ニフ 9：9）。隠れた闇（やみ）の業を絶やさなければならない（2ニフ 10：15）。神の裁きが，秘密結社を作った者たちに下った（アル 37：30）。ニーファイ人国家の完全な滅亡は，ほとんどガデアントンにその原因があった（ヒラ 2：4−13）。サタンは人々の心に秘密の誓いの言葉と誓約を思い起こさせた（ヒラ 6：21−31）。主は秘密結社によって事を行われることはなく（エテ 8：19）。秘密結社を支援する国民は滅ぼされる（エテ 8：22−23）。民は彼らの秘密結社のために，預言者たちの言葉をことごとく拒んだ（エテ 11：22）。カインの時代から秘密結社があり（モセ 5：51）。

ヒムナイ　「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。ヒムナイは兄弟たちとともにレーマン人のところへ行き，教えを宣（の）べ伝えた（モサ 27：8−11，34−37；28：1−9）。

百卒長

ローマ軍の階級の一つ。50 人から 100 人までの兵士から成る隊を指揮した。このような隊が 60 集まってローマの一軍団が編成された（マタ 8：5；ルカ 23：47；使徒 10：1−8）。

病気

体に異常が起きること。聖典では，霊的健康を失った状態の象徴として病気を採り上げている箇所がある（イザ 1：4−7；33：24）。

わたしはあなたの祈（いのり）を聞き，あなた

の涙を見た。見よ，わたしはあなたをいやす（列下 20：1−5〔歴下 32：24；イザ 38：1−5〕）。イエスはあらゆる病気，あらゆるわずらいをおいやしになった（マタ 4：23−24〔1 ニフ 11：31；モサ 3：5−6〕）。丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である（マタ 9：10−13〔マコ 2：14−17；ルカ 5：27−32〕）。あなたがたの中に，病んでいる者があるか。その人は，教会の長老たちを招き（新ヤコ 5：14−15）。神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられる（アル 7：10−12）。イエスはニーファイ人の中の病気の者をすべて癒された（3ニフ 26：15）。優しさの限りを尽くし，薬草と柔らかい食物によって養われるように（教義 42：43〔アル 46：40〕）。病気の者と苦しんでいる者を，すべてのことにおいて思い起こしなさい（教義 52：40）。病人にあなたの手を置きなさい。そうすれば，快復するであろう（教義 66：9）。

標準聖典　「正典」参照

病人への癒しの祝福　「油」「油注ぎ」「按手」「癒し」「神権」参照

メルキゼデク神権を持つ男性が，聖別された油を用いて病人に授ける祝福。

手をその上においてやって下さい（マタ 9：18）。イエスは少数の病人に手をおいていやされた（マコ 6：5）。キリストの使徒たちは，大勢の病人に油をぬって癒しを施した（マコ 6：13）。長老たちは病人に油を注ぎ，癒しを施す（新ヤコ 5：14−15）。求められないかぎり，病人を癒してはならない（教義 24：13−14）。長老たちは病人に按手をしなければならない（教義 42：44）。病人にあなたの手を置きなさい。そうすれば，快復するであろう（教義 66：9）。

ピラト，ポンテオ

紀元 26–36 年にユダヤを治めたローマ総督（ルカ 3：1）。ピラトはユダヤ人とその宗教を嫌い，何人かのガリラヤ人を殺した（ルカ 13：1）。イエスはピラトの前に訴えられ，十字架の刑の宣告を受けた（マタ 27：2，11−26，58−66；マコ 15 章；ルカ 23 章；ヨハネ 18：28−19：38）。

ヒラマン（アルマの息子）　「アルマ（アルマの息子）」「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「ヒラマンの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。父アルマの子であるアルマの長男（アル 31：7）。ヒラマンは預言者であるとともに軍隊の指導者でもあった。

アルマは息子ヒラマンに，自分の民の記録とヤレド人の記録を託した（アル 37：1−2，21）。アルマは民の歴史を書き続けるようヒラマンに命じた（アル 45−62 章）。ヒラマンは再び教会を設立した（アル 45：22−23）。アンモン人の 2 千人の若い兵士たちはヒラマンが自分たちの指揮官になることを願った（アル 53：19，22）。ヒラマンと勇敢なアンモン人たちは，レーマン人と戦い，信仰によって守られた（アル 57：19−27）。

ヒラマン（ヒラマンの息子）

『モルモン書』の中の預言者，記録者。ニーファイの民を教えた。ヒラマンはアルマの息子アルマの孫であり，また自然界を治める権威を授けられたニーファイの父（ヒラ 5–10 章）である。息子のニーファイとともに，ヒラマン書を記した。

ヒラマン書：第 1–2 章には，政治的に大きな混乱を来した様子が述べられている。第 3–4 章には，ヒラマンとニーファイ人の軍隊の司令官モロナイハの働きによって，しばらくの間平和な世になったことが示されている。しかし，これらの優れた人々の指導にもかかわらず，民は次第に邪悪になっていった。第 5–6 章には，ニーファイがヒラマンの祖父アルマと同じように，人々を教えるために，さばきつかさの職を辞したことが記されている。民はしばらくの間は悔い改めた。しかし，第 6–12 章に述べられているように，ニーファイ人の国家は邪悪になっていった。最後の第 13–16 章には，レーマン人サムエルと呼ばれた預言者に関するすばらしい記録が載っている。サムエルは救い主の降誕と十字架の刑，また，それらの出来事に伴うしるしについて預言した。

ヒラマン（ベニヤミン王の息子）　「ベニヤミン（モーサヤの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。ベニヤミン王の 3 人の息子の中の一人（モサ 1：2–8）。

ヒラマンの息子たち　「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「ヒラマン（アルマの息子）」参照

『モルモン書』の中の，アンモン人として知られる改宗したレーマン人の息子たち。ヒラマン指揮下の兵士となった（アル 53：16–22）。

ヒラマンは彼らを，自分の息子と呼ぶにふさわしいと考えた（アル 56：10）。彼らの母親は，疑わなければ神が救ってくださると彼らに教えていた（アル 56：47）。彼らはレーマン人を打ち破り，信仰によって守られ，だれ一人死ななかった（アル 56：52–54, 56；57：26）。

ピリピ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。パウロがローマで最初に投獄されていたときに，ピリピの聖徒たちに書き送った手紙。

第 1 章には，パウロのあいさつと，一致や謙遜（けんそん）さ，忍耐についての教えが書かれている。第 2 章では，すべての者がキリストの前にひざをかがめるようになること，また各人が自分の救いの達成に努めるべきことが強調されている。第 3 章には，パウロがキリストのためにすべてを犠牲にしてきたことが述べられている。第 4 章には，ピリピの聖徒たちの助けに対するパウロの感謝の言葉が書かれている。

ピリポ

『新約聖書』の中の人物。救い主に召された十二使徒の一人で，ベツサイダの出身（マタ 10：2–4；ヨハ 1：43–45）。

十二使徒を補佐するために選ばれた7人の中に，ピリポという同名の人物がいた(使徒6:2–6)。彼はサマリア(サマリヤ)で宣べ伝え，エチオピア人（エチオピヤ人)の宦官を教えた(使徒8章)。

ピレモン　「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。キリスト教徒。ピレモンにはオネシモという奴隷がいたが，彼は逃亡して，パウロのもとで教えを受け入れた。パウロは，オネシモを赦すようにとの手紙を添えて，彼をピレモンのもとに送り返した。

ピレモンへの手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。パウロが書いた手紙。この手紙は，主人ピレモンのものを盗んでローマへ逃亡した奴隷オネシモについてのパウロの個人的な手紙である。パウロは，コロサイ人への手紙を託したテキコを同伴させて，オネシモをコロサイに住む主人のもとに送り返した。パウロは，オネシモを赦して同じキリスト教徒の仲間として再び受け入れてほしいとの願いを書いている。この手紙は，パウロがローマで最初に投獄されていたときに書いたものである。

フェイエット（ニューヨーク州）

ピーター・ホイットマー・シニア所有の農場があった場所。ジョセフ・スミスはここで数多くの啓示を受けた。1830年4月6日に，教会がこの地で組織された。また，この地で主の声が聞かれた（教義128：20)。

フェルプス，ウィリアム・W

1830年に回復された当教会の初期の会員で，指導者としての務めを果たした人物。主はウィリアム・W・フェルプスを教会のために印刷の仕事をするように召された（教義57：11；58：40；70：1)。

フェローシップ　「愛」「一致」参照

末日聖徒にとってフェローシップとは，他の人々と親しく交わり，奉仕し，高め，強めることである。

あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない(レビ19:18〔マタ19：19；教義59：6〕)。あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい（ルカ22：32)。互に愛し合うならば，あなたがたがわたしの弟子であることを（ヨハ13：35)。わたしの羊を養いなさい（ヨハ21：15–17)。彼らは聖徒たちへの奉仕に加わりたいと，熱心に願い出て(2コリ8:1–5)。わたしたちの交わりとは，父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである（1ヨハ1:3)。ニーファイ人とレーマン人は互いに親しく交わった（ヒラ6：3)。各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊び(教義38：24–25)。もしもあなたがたが一つでなければ，あなたがたはわたしのものではない（教義38：27)。あなたの友になり兄弟になるという，決意をもってあなたを仲間に迎え入れます（教義88：133)。

深く考える　「祈り」「啓示」参照

聖句や神にかかわる事柄について，

しばしば瞑想し，十分に思い巡らすこと。これが祈りと結びついたときに，啓示が与えられたり，理解の目が開かれたりすることがある。

マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて，思いめぐらしていた（ルカ 2：19）。わたしは思いにふけりながら腰を下ろしていたとき，主の御霊に捕らえられて（1ニフ 11：1）。聖文について心に深く考え（2ニフ 4:15）。ニーファイも，主が自分に示してくださったいろいろなことを深く考えながら，家路に就いた（ヒラ 10：2−3）。自分の家に帰り，わたしが述べたことを深く考えなさい（3ニフ 17：3）。主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし，それを心の中で深く考えてほしい（モロ 10：3）。自分が受けた事柄について深く考え（教義 30：3）。思いにふけっていたときに，主はわたしたちの理解の目に御手を触れてくださり（教義 76：19）。わたしは自分の部屋にいて聖文に思いをはせ（教義 138：1−11）。わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした（ジ―歴史 1：12）。

不義　「義」「汚れ」「邪悪」「罪」「不信心」参照

邪悪なこと。正しくないこと。神を愛さず，神にかかわることを大切にしないこと。また神の大義を行おうとしないこと。

正しくない者が神の国をつぐことはない（1コリ 6：9−10）。真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を，さばく（2テサ 2：12）。神はすべての不義からわたしたちをきよめて下さる（1ヨハ 1：9）。不義な王はあらゆる義の道を曲げる（モサ 29：23）。法律家たちとさばきつかさたちの不義によって，滅亡の基が据えられている（アル 10：27）。わたしは世の人々を不義な行いのゆえに責めるために，あなたがたを遣わす（教義 84：87）。人はすべての不義から必ず聖められなければならない（教義 88：17−18）。ほとんどすべての人は，不義な支配を始めようとする傾向がある（教義 121：39）。

武具

武器による攻撃から身を守るためにまとうもの。この言葉は，誘惑や罪悪から人を守る霊的な特質を意味するものとしても用いられる。

神の武具を身につけなさい（エペ 6：10−18〔教義 27：15−18〕）。

福音　「贖いの計画」「キリストの教義」「神権時代」参照

イエス・キリストの贖罪によって可能になった神の救いの計画。福音には，人が神のもとへ戻るのに必要な永遠の真理や律法，聖約，儀式が含まれる。神は預言者ジョセフ・スミスを通して，19 世紀に，完全な福音を地上に回復された。

全世界に出て行って，福音を宣べ伝えよ（マコ 16：15）。小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分が差し止められた（1ニフ 13：32）。福音とは，次のとおりである（3ニフ 27:13−21〔教義 39：6〕）。『モルモン書』には完全な福音が載っている（教義 20:8−9〔教

義 42：12〕)。福音はこれである（教義 76：40−43)。メルキゼデク神権は福音をつかさどる（教義 84：19)。すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう（教義 90：11)。御子は死者の霊に福音を宣べ伝えられた（教義 138：18−21，28−37)。福音は最初から宣べ伝えられ(モセ 5：58)。福音の第一の原則と儀式が述べられる（箇条 1：4)。

福音書　「マタイ」「マルコ」「ヨハネ(ゼベダイの子)」「ルカ」参照

『新約聖書』の最初の 4 書。イエスのこの世における生涯と，その務めにまつわる様々な出来事を記した 4 つの記録すなわち証。マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネによるこの 4 書は，キリストの生涯を記録した証である。『モルモン書』の第三ニーファイは，多くの点で『新約聖書』の 4 つの福音書と共通している。

『新約聖書』の各書はもともとはギリシャ語で書かれた。「福音」に当たるギリシャ語は「良い知らせ」の意味。良い知らせとは，イエス・キリストが全人類を死から贖い，各自の行いに応じて報いを与える贖罪の業を成し遂げられたということを知らせるものである（ヨハ 3：16；ロマ 5：10−11；2 ニフ 9：26；アル 34：9；教義 76：69)。

福音書対観表：マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネの福音書に書かれている救い主の教えを相互に，また末日の啓示と比較対照すると次のようになる。

福音書対観表

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
イエスの系図	1:2−17		3:23−38		
バプテスマのヨハネの誕生			1:5−25, 57−58		
イエスの誕生	2:1−15		2:6−7		1 ニフ 11:18−20; 2 ニフ 17:14; モサ3:5−8;アル7:10;ヒラ14:5−12; 3ニフ1:4−22

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
シメオンとアンナの預言			2:25－39		
宮もうで（過越の祭）			2:41－50		
ヨハネの働きの開始	3:1, 5－6	1:4	3:1－3	1:6－14	
イエスのバプテスマ	3:13－17	1:9－11	3:21－22	1:32－34	1ニフ 10:7－10; 2ニフ 31:4－21
イエス，誘惑を受ける	4:1－11		4:1－13		
バプテスマのヨハネの証				1:15－36	教義 93:6－18, 26
カナの婚礼（イエスの最初の奇跡）				2:1－11	
最初の宮清め				2:14－17	
ニコデモとの出会い				3:1－10	
井戸端のサマリヤの女				4:1－42	
イエス，ナザレで拒まれる	4:13－16		4:16－30		
人間をとるように召された漁師	4:18－22	1:16－20			

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
網が魚でいっぱいになった奇跡			5:1－11		
ヤイロの娘の蘇生	9:18－19, 23－26	5:21－24, 35－43	8:41－42, 49－56		
長血の女の癒し	9:20－22	5:25－34	8:43－48		
十二使徒の召し	10:1－42	3:13－19; 6:7－13	6:12－16; 9:1－2; 12:2－12, 49－53		1ニフ 13:24－26, 39－41; 教義 95:4
やもめの息子の蘇生			7:11－15		
キリストの足に香油を塗る女			7:36－50	12:2－8	
嵐を静める		4:36－41	8:22－25		
七十人の召し			10:1		教義107:25, 34, 93－97
悪霊の群れを豚に送り込む		5:1－20			
山上の垂訓	5－7章		6:17－49		3ニフ 12－14章

イエスのたとえは，日常の事物や出来事を真理になぞらえた短い物語である。イエスはたとえを用いてしばしば霊的真理を教えられた。

種まき：	13:3－9, 18－23	4:3－9, 14－20	8:4－8, 11－15		

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
毒麦：	13:24－30, 36－43				教義 86:1－7
からし種：	13:31－32	4:30－32	13:18－19		
パン種：	13:33		13:20－21		
畑に隠してある宝：	13:44				
高価な真珠：	13:45－46				
魚を囲み入れる網：	13:47－50				
一家の主人：	13:51－52				
迷い出た羊：	18:12－14		15:1－7		
なくした銀貨：			15:8－10		
放蕩息子：			15:11－32		
無慈悲な僕：	18:23－35				
良いサマリヤ人：			10:25－37		
不正な家令：			16:1－8		
ラザロと金持ち：			16:14－15, 19－31		
不義な裁判官：			18:1－8		
良い羊飼い：				10:1－21	3ニフ 15:17－24

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
ぶどう園の労働者：	20:1－16	10:31			
ミナ：			19:11－27		
ふたりの子：	21:28－32				
悪い農夫：	21:33－46	12:1－12	20:9－20		
王子の婚宴：	22:1－14		14:7－24		
10 人のおとめ：	25:1－13		12:35－36		教義 45:56－59
タラント：	25:14－30				
羊と山羊：	25:31－46				
5 千人に食物を与える	14:16－21	6:33－44	9:11－17	6:5－14	
イエス，水の上を歩く	14:22－33	6:45－52		6:16－21	
ペテロ，キリストについて証する	16:13－16	8:27－29	9:18－20		
王国の鍵がペテロに約束される	16:19				
命のパンの説教				6:22－71	
安息日に盲目の人を癒す				9:1－41	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
変貌；神権の鍵が託される	17:1－13	9:2－13	9:28－36		教義 63:20－21; 110:11－13
子供たちへの祝福	19:13－15	10:13－16	18:15－17		
主の祈り	6:5－15		11:1－4		
ラザロの蘇生				11:1－45	
勝利の入城	21:6－11	11:7－11	19:35－38	12:12－18	
神殿の両替人を追い出す	21:12－16	11:15－19	19:45－48		
やもめのささげ物		12:41－44	21:1－4		
再臨についての説教	24:1－51	13:1－37	12:37－48; 17:20－37; 21:5－38		教義 45:16－60; ジ―マタ 1:1－55
重い皮膚病にかかった 10 人の人の癒し			17:12－14		
イエスの最後の過越；聖餐を定める；十二使徒への教え；弟子たちの足を洗う	26:14－32	14:10－27	22:1－20	13－17 章	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
ゲツセマネでの苦しみ	26:36－46	14:32－42	22:40－46		2ニフ9:21－22; モサ3:5－12; 教義19:1－24
イエスはぶどうの木				15:1－8	
ユダの裏切り	26:47－50	14:43－46	22:47－48	18:2－3	
カヤパの審問	26:57	14:53	22:54, 66－71	18:24, 28	
ピラトの審問	27:2, 11－14	15:1－5	23:1－6	18:28－38	
ヘロデの審問			23:7－10		
イエスへの侮辱と嘲り	27:27－31	15:15－20		19:1－12	
十字架の刑	27:35－44	15:24－33	23:32－43	19:18－22	ヒラ14:20－27; 3ニフ8:5－22; 10:9
復活	28:2－8	16:5－8	24:4－8		
イエス, 弟子たちに現れる		16:14	24:13－32, 36－51	20:19－23	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
イエス，トマスに現れる				20:24－29	
昇天		16:19－20	24:50－53		

福音の回復　「神権時代」「スミス，ジョセフ，ジュニア」「背教;背信」「福音」参照

神がこの世の人々の間に福音の真理と儀式を再び確立されること。イエス・キリストの福音は，キリストの使徒たちが地上での働きを終えた後に起きた背教により，地上から失われた。この背教があったために，福音の回復が必要となった。地上の人々に与えられた示現や天使の働き，啓示を通して，神は福音を回復された。この回復は預言者ジョセフ・スミスに始まり（ジ―歴史 1：1－75；教義 128：20－21），主の生ける預言者たちの働きによって今日まで続いている。

主の家の山は，もろもろの山のかしらとして堅く立つ（イザ 2：2〔ミカ 4：2；2 ニフ 12：2〕）。神は不思議な驚くべき業を行われる（イザ 29：14〔2 ニフ 25：17－18；教義 4：1〕）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく（ダニ 2：44）。エリヤがきて，万事を元どおりに改めるであろう（マタ 17：11〔マコ 9：12；教義 77：14〕）。万物更新の時が来る（使徒 3：21〔教義 27：6〕）。時の満ちる神権時代に，神はすべてのものを一つに帰せしめようとされた（エペ 1：10）。ヨハネは永遠の福音を携えたもう一人の御使（みつかい）を見た（黙示 14：6）。完全な福音が異邦人に与えられる（1ニフ 15：13－18）。ユダヤ人がまことの教会に回復される（2ニフ 9：2）。末日には真理が明らかにされる（3ニフ 16：7）。わたしはアロンの神権を授ける（教義 13：1〔ジ―歴史 1：69〕）。終わりの時代のために，王国の鍵（かぎ）をわたしがゆだねた（教義 27：6, 13－14〔教義 128：19－21〕）。イスラエルの部族を集め，万事を元どおりにする（教義 77：9）。この神権時代の鍵（かぎ）がゆだねられる（教義 110:16〔教義 65：2〕）。この神権が時満ちる神権時代に与えられている（教義 112：30）。わたしは二人の御方を見た（ジ―歴史 1：17）。わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう（ジ―歴史 1:38〔マラ 4:5－6〕）。

福音の第一の原則　「悔い改め」「信仰」「聖霊」「バプテスマ」参照

福祉　「ささげ物」「断食」「奉仕」「施し」「貧しい」参照

霊的また物質的な助けが必要な人に手を差し伸べること，またその手段。

あなたはあなたの兄弟の乏しい者と，貧しい者とに，手を開かなければならない（申命 15：11）。貧しい者に

施す者は物に不足しない（箴言 28：27）。わたしが選ぶところの断食は，飢えた者に，あなたのパンを分け与え，貧しい者を，あなたの家に入れるなどの事ではないか（イザ 58：6−7）。あなたがたは，わたしが空腹のときに食べさせ，旅人であったときに宿を貸し（マタ 25：35−40）。乏しい人に自分の持ち物を与える（モサ 4：16−26）。彼らは，各々の必要と入り用に応じて物質的にも霊的にも互いに助け合い（モサ 18：29）。神の子たちは，神を知らない者たちの幸いのためにともに断食し，祈るように命じられた（アル 6：6）。あなたがたの幸いと，あなたがたの周りの人々の幸いを気遣う気持ちを心に満たし（アル 34：27−28）。彼らは，すべてのものを共有した（4ニフ 1:3）。貧しい者を思い起こし（教義 42：30−31）。貧しい者と乏しい者を訪れ（教義 44：6）。貧しい者と乏しい者を，すべてのことにおいて思い起こしなさい（教義 52：40）。あなたがた，金持ちで自分の持ち物を貧しい者に与えようとしない者は，災いである（教義 56：16−17）。彼らの中に貧しい者はいなかった（モセ 7：18）。

福千年　「イエス・キリストの再臨」「地獄」参照

キリストが戻って来て自ら地上を統治されるときに始まる平和な千年間（箇条 1：10）。

つるぎをあげず，彼らはもはや戦いのことを学ばない（イザ 2：4〔2ニフ 12：4；ミカ 4：3〕）。この荒れた地は，エデンの園のようになった（エゼ 36：35）。彼らは生きかえって，キリストと共に千年の間，支配した（黙示 20：4）。民の義のために，サタンはまったく力を持たず（1ニフ 22：26）。わたしは千年の間地上で義のうちに住む（教義 29：11）。千年が終わるとき，わたしはしばしの間だけ地をそのままにしておこう（教義 29：22）。大いなる福千年が来る（教義 43：30）。義人の子孫は罪のないまま成長する（教義 45：58）。子供たちは高齢になるまで成長し，人々は一瞬のうちに変えられる（教義 63：51）。第 7 の千年の初めに主なる神は地球を聖なるものとし（教義 77：12）。千年が終わるまで再び，彼らは生きることはない（教義 88：101）。サタンは縛られ，千年の間解放されない（教義 88：110）。福千年について述べられる（教義 101：23−34）。千年の間，地は安息を得る（モセ 7：64）。

不敬　「冒瀆（ぼうとく）；汚す罪」参照

神聖なものを尊ばないこと，あるいは軽視すること。特に，神の名を敬わないこと。

あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない（出エ 20：7〔2 ニフ 26：32；モサ 13：15；教義 136：21〕）。なにゆえ，われわれは先祖たちの契約を破って（マラ 2：10）。悪い者であるのに，どうして良いことを語ることができようか（マタ 12：34−37）。同じ口から，さんびとのろいとが出て来る。このような事は，あるべきでない（新ヤコ 3：10）。わたしたちの言葉はわたしたちを罪に定める（アル 12：14〔モサ 4：30〕）。すべての人は，わたしの名をどのように

口にするか気をつけなさい（教義 63：61−62）。

負債　「赦し」参照

聖典にあるように，人から借りた金銭や財産は，借りた人をある種の束縛状態に置く。イエスはそれとは別に，わたしたちが天の御父に負債を赦してくださるよう求めなければならないこと，すなわち，自分に罪を犯した人を赦した後，イエス・キリストの贖罪を通して，罪の代価の支払いから解放してくださるように求めなければならないことを教えられた（マタ 6：12；3 ニフ 13：11）。

悪しき者は物を借りて返すことをしない（詩篇 37：21）。借りる者は貸す人の奴隷となる（箴言 22：7）。あの負債を全部ゆるしてやったのだ……あわれんでやるべきではなかったか（マタ 18：23−35）。互に愛し合うことの外は，何人にも借りがあってはならない（ロマ 13：8）。あなたがたは，とこしえに神に恩を受けている（モサ 2：21−24，34）。隣人から物を借りたなら，その物を返すようにしなければならない（モサ 4：28）。負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい（教義 19：35）。あなたがたの敵に対して負債を抱えることは，禁じられている（教義 64：27）。すべての負債を返済することである（教義 104：78）。主の家を建てるに当たってこれ以上負債を抱えさせないようにしなさい（教義 115：13）。

ふさわしさ　「義」参照

個人として義にかなった状態。また神と神に任じられた指導者の目から見て正しいと認められる状態。

また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない（マタ 10：38）。働き人がその報いを得るのは当然である（ルカ 10：7〔教義 31：5〕）。ふさわしい状態ですべてのことを行い（モル 9：29）。ふさわしい実を結ばなければ，バプテスマを施されなかった（モロ 6：1）。怠惰な者は，その職にいるにふさわしい者と見なされない（教義 107：100）。懲らしめに耐えない者は，わたしの王国にふさわしくない（教義 136：31）。すべてのふさわしい男性会員は，神権を受けることができる（公式 2）。

不死不滅　「イエス・キリスト」「死すべき状態」「贖罪」「救い」「復活」参照

復活して，肉体の死に服することなく，永久に生きる状態。

イエスはよみがえって（マコ 16：6）。キリストにあってすべての人が生かされるのである（1コリ 15：22）。この死ぬものが死なないものを着るとき，死は勝利にのまれてしまう（1コリ 15：53−55）。キリストは死を滅ぼし，不死を明らかに示された（2テモ 1：10）。霊と体は再び本来のものに回復され，すべての人は不朽となり，不死となる（2ニフ 9：13）。霊は体と結合して，不死不滅のものとなり（アル 11：45）。忠実であれば，不死不滅と，永遠の命を冠として与えられるであろう（教義 75：5）。地球は聖められ，

不滅の状態となる（教義 77：1〔教義 130：9〕）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。

不信仰　「信じる」参照

神とその福音に対する信仰がないこと。

彼らの不信仰のゆえに，そこでは力あるわざを，あまりなさらなかった（マタ 13：58）。弟子たちは信仰が足りなかったために，悪霊を追い出すことができなかった（マタ 17：14–21）。不信仰なわたしを，お助けください（マコ 9：23–24）。イエスは彼らの不信仰と，心のかたくななことをお責めになった（マコ 16：14）。彼らのうちに不真実の者があったとしたら，その不真実によって，神の真実は無になるであろうか（ロマ 3：3）。一人の人が滅びるのは，一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい（1ニフ 4：13）。不信仰に陥る時が来ると，散らされ，打たれる（2ニフ 1：10–11〔教義 3：18〕）。彼らは自分の不信仰のために，神の言葉を理解できなかった（モサ 26：1–5）。彼らの不信仰のゆえに，このように大きな奇跡を彼らに現すことができなかった（3ニフ 19：35）。不信仰のために，あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった（教義 84：54–58）。

不信心　「汚れ」「邪悪」「罪」「不義」参照

神の御心や戒めに添わないこと。邪悪で汚れたこと。

悪しき者の道は滅びる（詩篇 1：6）。また義人でさえ，かろうじて救われるのだとすれば，不信なる者は，どうなるであろうか（1ペテ 4：18）。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい（モロ 10：32）。報復は神を敬わない者のうえに速やかに及ぶ（教義 97：22）。神を敬わない者の中では，御子の声は発せられず（教義 138：20）。

再び生まれる　「生まれながらの人」「生まれる；産む；もうける」「改宗」「神の息子，娘」「キリストの子」「バプテスマ」参照

主の御霊によって心の中に大きな変化が起こり，二度と悪を行おうとは思わず，それよりも神にかかわる事柄を求めたいと望むようになること。

彼らのうちに新しい霊を授け（エゼ 11：19〔エゼ 18：31；36：26〕）。キリストの名を信じた人々は，血すじによらず，神によって生れた（ヨハ 1：12–13）。だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない（ヨハ 3：3–7）。わたしたちは神の言葉によって再び生まれる（1ペテ 1：3–23）。すべて神から生まれた者は，罪にとどまることはない（JS1ヨハ 3：9）。すべて神から生れた者は，世に勝つからである（1ヨハ 5：4）。キリストから生まれる人は，神と聖約する（モサ 3：19；5：2–7）。全人類は再び生まれなければならない。人は神から生まれなければならない（モサ 27：25–26〔アル 5：49〕）。あなたがたは霊的に神から生まれているか（ア

ル 5：12−19)。再び生まれなければ天の王国を受け継ぐことができない（アル 7：14)。だれでもわたしの言葉を信じる者は，水と御霊によって生まれるであろう（教義 5：16)。あなたがたは再び天の王国に生まれなければならない（モセ 6：59)。

復活　「イエス・キリスト」「体」「死（肉体の）」「贖罪」「不死不滅」「霊」参照

死後，霊体と骨肉の体が再び結合すること。復活後は，霊と肉体は決して再び分離することがなく，人は不死不滅となる。イエス・キリストが死に打ち勝たれたため，地上に生を受けた人はすべて復活する（1 コリ 15：20−22)。

イエス・キリストはこの地上で復活した最初の御方である（使徒 26：23；コロ 1：18；黙示 1：5)。『新約聖書』には，イエスの墓が空になっていたこと，またイエスが魚と蜜を食べられたこと（KJ ルカ 24：42)，人々がイエスの体に触れたこと，天使が主の復活を証したことなど，イエスが肉体をもってよみがえられたことを示す証拠が数多く記されている（マコ 16：1−6；ルカ 24：1−12，36−43；ヨハ 20：1−18)。末日の啓示もキリストと万人の復活が確かなことを確認している（アル 11：40−45；40 章；3 ニフ 11：1−17；教義 76 章；モセ 7：62)。

すべての人が同じ栄光の状態に復活するわけではない（1 コリ 15：39−42；教義 76：89−98)。またすべての人が同じ時に復活するのでもない（1 コリ 15：22−23；アル 40：8；教義 76：64−65，85)。キリストの復活後，多くの聖徒が復活した（マタ 27：52)。義人は悪人よりも先に復活し，第一の復活の時に出て来る（1 テサ 4：16)。罪を悔い改めない者は最後の復活の時に出て来る（黙示 20：5−13；教義 76：85)。

たとえこの体が滅ぼされようとも，肉にあって，わたしは神を見るであろう（KJ ヨブ 19：26〔モセ 5：10〕)。わたしはあなたがたの墓を開き，あなたがたを墓からとりあげ（エゼ 37：12)。墓が開け，眠っている多くの死体が生き返った（マタ 27：52−53〔3 ニフ 23:9〕)。主はよみがえられた（ルカ 24：34)。霊には肉や骨はないが，あなたがたが見るとおり，わたしにはあるのだ（ルカ 24：39)。わたしはよみがえりであり，命である（ヨハ 11：25)。十二使徒はイエスがよみがえられたことを教えた（使徒 1:21−22〔使徒 2：32；3：15；4：33〕)。キリストにあってすべての人が生かされる（1 コリ 15：1−22)。キリストにあって死んだ人々が，まず最初によみがえる（1 テサ 4：16)。この第一の復活にあずかる者は，さいわいな者であり，また聖なる者である（黙示 20：6)。聖なるメシヤは，御自分の命を一度捨て，そして，死者の復活をもたらすために御霊の力によって再びそれを得られた（2 ニフ 2：8〔モサ 13：35；15：20；アル 33：22；40：3；ヒラ 14：15〕)。復活がなければ，わたしたちはサタンに従うようになる（2 ニフ 9：6−9)。復活はすべての人に及ぶ（2 ニフ 9：22)。アビナダイは第一の復活について教えた（モサ 15：21−26)。悪人

はあたかも贖(あがな)いがなかったかのような有様であり，ただ死の縄目からの解放だけがある（アル 11：41−45）。アルマは死ぬ時と復活の時の間の人の状態について説明した（アル 40：6，11−24）。主の来臨の時に，キリストにあって死んだ者が出て来る（教義 29：13〔教義 45：45−46；88：97−98；133：56〕）。特に，栄光ある復活の望みがない者のために涙を流す（教義 42：45）。律法を知らなかった者は第一の復活にあずかる（教義 45：54）。彼らは死者の中からよみがえり，その後死ぬことはなく（教義 63：49）。死者の中からの復活は，人の贖(あがな)いである（教義 88：14−16）。分離しないように結合した霊と元素は，満ちみちる喜びを受ける（教義 93：33）。天使とは，骨肉の体を持つ復活した人々である（教義 129：1）。わたしたちがこの世において得る英知の一切は，復活の時にわたしたちとともによみがえる（教義 130：18−19）。

復活祭　「イエス・キリスト」「復活」参照

物欲　「金銭」「高慢」「富」「むなしさ」参照

霊的な事柄をなおざりにして，金品に対して欲を持つこと。

たとい人が全世界をもうけても，自分の命を損したら，なんの得になろうか（マタ 16：26）。人々は俗世のむなしいものに執着するようになり（アル 4：8〔アル 31：27〕）。あなたはこの世のものを捨てて（教義 25：10）。彼らがあまりにもこの世のものに執着し（教義 121：35）。

不貞　「姦淫(かんいん)」「純潔」「肉欲」参照

婚姻関係にない男女が行う不法な性の交わり。聖典では，背教を象徴する言葉としても時々用いられる。

わたしをはずかしめてはなりません。このようなことはイスラエルでは行われません（サ下 13：12）。不品行を避け（使徒 15：20）。からだは不品行のためではなく，主のためであり（1コリ 6：13−18）。不品行に陥ることのないために，男子はそれぞれ自分の妻を持つがよい（1コリ 7：2−3）。神のみこころは，あなたがたが不品行を慎み（1テサ 4:3）。ヤコブはニーファイの民に，不貞について警告した（ヤコ 3：12）。あなたがたは，殺人と不貞と悪事のために滅びの機を熟させつつある（ヒラ 8：26）。不貞を働いた者が教会に入るには悔い改めなければならない（教義 42：74−78）。

ぶどう園（果樹園）（主の）　「イスラエル」「畑」参照

霊的な働きをする場の象徴。聖典の中では，この言葉は普通，イスラエルの家あるいは地上の神の王国を指すものとして用いられる。世の人々全体を指すこともある。

万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり（イザ 5：7〔2ニフ 15：7〕）。イエスはぶどう園の労働者のたとえを話された（マタ 20：1−16）。わたしはあなたを，人が自分の果樹園に植えて養いを与えた，一本の栽培されたオリーブの木にたとえよう（ヤコ 5 章）。

主の僕たちが主の果樹園に養いを与え，刈り込みを行うために主の力をもって出て行く（ヤコ 6 章）。わたしのぶどう園で働くすべての人を祝福しよう（教義 21：9〔アル 28：14〕）。あなたがたはわたしのぶどう園で最後の働きをしなさい（教義 43：28）。

不道徳　「邪悪」「純潔」「性的不道徳」「肉欲」参照

プラット，オーソン

近代の教会の回復後に召された最初の十二使徒の一人（教義 124：128–129）。教会員になってわずか 6 週間で，ジョセフ・スミスを通して主から啓示を受けた（教義 34 章）。教会の宣教師として働き（教義 52：26；75：14），また数年間教会歴史記録者としても務めを果たした。

プラット，パーリー・パーカー

オーソン・プラットの兄。近代の教会の回復後に召された最初の十二使徒の一人（教義 124：128–129）。何度か宣教師として働いたが，最初の伝道は，1830 年 10 月にジョセフ・スミスを通して主から授けられた啓示によるものであった（教義 32 章；50：37）。

平安；平和　「安息」「福千年」「平和をつくり出す人」参照

聖典では，神が忠実な聖徒に授けられる，御霊がもたらす内面的な安らぎや慰め（平安），また争いや混乱から解き放された状態（平和）を意味する言葉として用いられている。

争いや混乱から解き放された状態：主は戦いをやめさせ（詩篇 46：9）。彼らはもはや戦いのことを学ばない（イザ 2：4）。あなたがたは，できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。自分で復讐をしないで（ロマ 12：18–21）。地は依然として引き続き平和であった（4ニフ 1：4，15–20）。戦争を放棄して，平和を宣言しなさい（教義 98：16）。平和の旗を掲げなさい（教義 105：39）。

従順な者に神から与えられる状態：救い主は平和の君と呼ばれる（イザ 9：6）。悪い者には平安がない（イザ 48：22）。地の上では，平和があるように（ルカ 2：13–14）。わたしは平安をあなたがたに残して行く（ヨハ 14：27）。人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安（ピリ 4：7）。ベニヤミン王の民は良心の安らぎを得た（モサ 4：3）。平和を告げて広める者たちの足は，山の上にあって何と麗しいことであろう（モサ 15：14–18〔イザ 52：7〕）。アルマは主に叫び求め，安息を得た（アル 38：8）。義人の霊は平安な状態に迎え入れられ（アル 40：12）。わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか（教義 6：23）。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば，あなたはわたしによって平安を得るであろう（教義 19：23）。この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける（教義 59：23）。完全と平和のきずなである慈愛のきずなを，外套のように身にまといなさい（教義 88：125）。息子よ，あなたの心に平安があるように（教義 121：7）。わたしのためにさ

らに大いなる幸福と平安と安息があるのを知り，わたしは先祖の祝福を得ようと努めた（アブ 1：2）。

平和をつくり出す人　「平安；平和」参照

平和をもたらす人，または広めようとする人（マタ 5：9；3 ニフ 12：9）。福音を宣言する人も平和をつくり出す人であるといえる（モサ 15：11−18）。

ベタニヤ

イエス・キリストがこの世の生涯の最後の週に滞在した村（マタ 21：17；マコ 11：11）。オリブ山の南東斜面に位置し，ラザロ，マリヤ，マルタの家がここにあった（ヨハ 11:1−46;12:1）。

ベツレヘム

エルサレムの南約 8㎞にある小さな町。ヘブライ語で「パンの家」の意味。「実り豊かな」の意のエフラタとも呼ばれる。イエス・キリストはこのベツレヘムでお生まれになった（ミカ 5：2；マタ 2：1−8）。ラケルの埋葬地でもある（創世 35：19；48：7）。

ルツとボアズはここに住んだ（ルツ 1：22）。サムエルはここでダビデに油を注いだ（サ上 16：1−13；17：12, 15；20：6, 28）。ヘロデがここで子供たちを殺した（マタ 2：16）。

ベテル

ヘブライ語で「神の家」を意味する。イスラエルで最も神聖な場所の一つ。エルサレムの北約 15㎞に位置する。アブラハムはカナンの地に最初に着いたとき，ここに祭壇を築いた（創世 12：8；13：3）。この地でヤコブは，天に達するはしごを示現のうちに見た（創世 28：10−19）。ベテルはサムエルの時代にも神聖な場所とされていた（サ上 7：16；10：3）。

ペテロ

『新約聖書』の中の人物。ペテロは，シメオンあるいはシモンとして知られていた（2 ペテ 1：1）。ベツサイダの漁師で，妻とカペナウムで暮らしていた。イエスはペテロの妻の母の病を癒された（マコ 1：29−31）。ペテロは兄弟のアンデレとともに，イエス・キリストの弟子として召された（マタ 4：18−22；マコ 1：16−18；ルカ 5：1−11）。「聖見者」あるいは「岩」を意味するアラム語名「ケパ」は，主御自身から与えられたものである（ヨハ 1：40−42；JS ヨハ 1：42）。『新約聖書』にはペテロの肉体的な弱さが幾つか述べられているが，それと同時に，ペテロが肉体的な弱さを克服し，イエス・キリストを信じる信仰によって強くされたことも描かれている。

ペテロは，イエスがキリストであり，神の御子であることを告白した（ヨハ 6：68−69）。そして主はペテロを選び，地上における王国の鍵を持つ者とされた（マタ 16：13−18）。ペテロは変貌の山で，変貌された救い主，ならびにモーセとエリヤを目にした（マタ 17：1−9）。

ペテロは当時の使徒の頭であった。救い主の死と復活と昇天の後，ペテロは教会員を集め，イスカリオテのユダ

に代わる使徒を召す指示を与えた（使徒 1：15−26）。ペテロとヨハネは生まれながら足の不自由な人を癒した（使徒 3：1−16）。また二人は，奇跡的な方法で獄から解放された（使徒 5：11−29；12：1−19）。福音が初めて異邦人に伝えられるようになったのは，ペテロの働きによる（使徒 10−11 章）。ペテロは末日にヤコブやヨハネとともに天から降って来て，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権とその鍵を授けた（教義 27：12−13；128：20）。

ペテロの第一の手紙：この手紙は，ネロがキリスト教徒への迫害を始めた直後に，「バビロン」（恐らくローマ）から，現在小アジアと呼ばれている地域の聖徒たちに書き送られたものである。

第 1 章には，キリストが予任されていた贖い主としての務めのことが書かれている。第 2−3 章には，キリストが教会の隅のかしら石であること，また聖徒が王国の神権を授けられた者であること（KJ 1 ペテ 2：9），キリストが獄にいる霊たちに宣べ伝えられたことが述べられている。第 4−5 章には，福音が死者に宣べ伝えられた理由，また長老たちが羊の群れを牧するように求められている理由が説明されている。

ペテロの第二の手紙：第 1 章には，召しと選びとを確かなものにするようにとの，聖徒たちへの勧めの言葉が記されている。第 2 章には，偽教師に対する警告が述べられている。第 3 章には，末日とキリストの再臨のことが書かれている。

ベニヤミン（モーサヤの父）「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」参照

『モルモン書』の中の預言者，王（モサ 1−6 章）。

平和を確立するために数々の重要な問題を処理した（オム 1：23−25〔モ言 1:12−18〕）。息子たちを教えた（モサ 1：1−8）。王位を息子モーサヤに譲った（モサ 1：9−18）。民は彼の最後の言葉を聞くために集まった（モサ 2：1−8）。民に語った（モサ 2：9−4：30）。彼の民は主と聖約を交わした（モサ 5−6 章）。

ベニヤミン（ヤコブの息子）「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルの 2 番目の息子（創世 35：16−20）。

ベニヤミンの部族：ヤコブはベニヤミンに祝福を授けた（創世 49：27）。ベニヤミンの子孫は好戦的であった。ベニヤミンの部族から出た二人の重要な人物としては，イスラエル王国初代の王サウル（サ上 9：1−2）と『新約聖書』の使徒パウロ（ロマ 11：1）がいる。

蛇（青銅の）「イエス・キリスト」「モーセ」参照

荒れ野で火の蛇（毒蛇）にかまれたイスラエル人を癒すために，神の命令によってモーセが造った青銅の蛇（民数 21：8−9）。この青銅の蛇はさおにかけられ，「それを仰ぎ見ようとした者はだれでも，生き延びられるようにさ

れた」（アル 33：19−22）。主は御自身が十字架につけられることの象徴として，荒れ野でこの蛇が掲げられたことを述べておられる（ヨハ 3：14−15）。末日の啓示は，火の蛇と人々の癒しについての話が実際のものであったことを確認している（1 ニフ 17：41；2 ニフ 25：20；ヒラ 8：14−15）。

ヘブライ語　「イスラエル」参照

イスラエルの民が話したセム系言語の一つ。

ヘブライ語は，イスラエルの民がバビロニア捕囚から帰還するまで使っていた言葉である。帰還後は，アラム語が日常語として用いられるようになった。イエスの時代，ヘブライ語は学者の言葉であり，律法や宗教書を著すために用いられた言語であった。

ヘブル人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。パウロは，モーセの律法の重要な部分がキリストにあって成就し，さらに高度なキリストの福音の律法がそれに取って代わったことを説き教えるために，この手紙をユダヤ人の教会員に書き送った。パウロは 3 度目の伝道を終えてエルサレムに戻ったとき（紀元 60 年ごろ），多くのユダヤ人教会員がまだモーセの律法に固執しているのを見た（使徒 21：20）。これは，エルサレムにおける教会の大会で，モーセの律法の幾つかの儀式は異邦人のクリスチャンの救いに不必要であるとの決議がされてから少なくとも 10 年後のことであった。パウロはそれから間もなく，ヘブライ人（ヘブル人）にあてて手紙を書き，彼らの聖書と確かな根拠に基づいて，もはやモーセの律法に従う必要がない理由を明らかにした。

第 1−2 章には，イエスが天使よりも偉大な御方であることが説かれている。第 3−7 章は，イエスをモーセならびにモーセの律法と比較し，イエスがそのいずれよりも偉大であることを証している。また，メルキゼデク神権がアロン神権よりも偉大であることを教えている。第 8−9 章は，モーセの律法の下で定められていた事柄が民をキリストの御業に備えさせたこと，またキリストが新しい聖約の仲保者であることを説いている（アル 37：38−45；教義 84：21−24）。第 10 章は，熱心な働きと信仰の奨励である。第 11 章は信仰に関する説教である。第 12 章には，勧告とあいさつの言葉が記されている。第 13 章には，結婚が尊ばれるべきものであること，また従順の大切さが記されている。

ヘブロン

エルサレムの南約 30㎞の所にあったユダヤの昔の町。アブラハムとその家族が葬られた地でもある（創世 49：29−32）。ダビデ治世初期の都（サ下 5：3−5）。

ペリシテ人

『旧約聖書』の中の民族。カフトルから来た民族（アモ 9：7）で，アブラハムの時代以前に，ヨッパからエジプトの砂漠に至る地中海沿岸の肥沃な平地を領有していた（創世 21：32）。ペリシテ人とイスラエル人の間には，

長い年月にわたって軍事的な対立があった。後に，ペリシテ人の領地を表す「パレスチナ」という言葉が，聖地全土を指すものとして親しまれるようになった。

イスラエルは 40 年の間ペリシテ人の手に渡された（士師 13：1）。サムソンはペリシテ人と戦った（士師 13−16 章）。ゴリアテはガテのペリシテ人であった（サ上 17 章）。ダビデはペリシテ人を打ち破った（サ上 19：8）。

ベルシャザル　「バビロン；バベル」参照

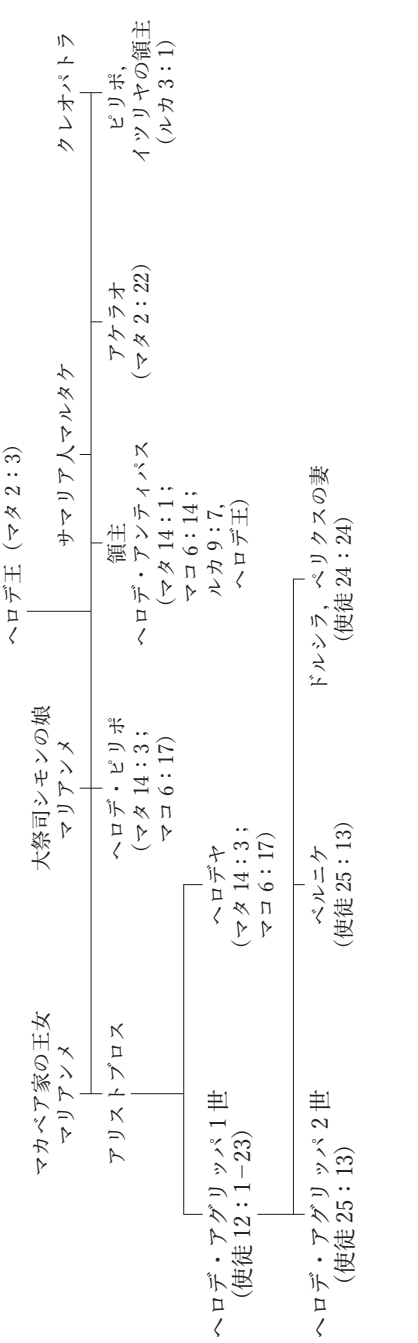
『旧約聖書』の中の人物。バビロニアの最後の王。クロスに征服される前に統治していた。ネブカデネザルの息子で，父の後を継いで王となった（ダニ 5：1−2）。

ペレグ

『旧約聖書』の中の人物。エベルの息子。セムの孫の孫。ペレグの時代に地が分かれた（KJ 創世 10：22−25）。

ヘロデ家

イエス・キリストの時代の前後にユダヤを統治した家系。『新約聖書』に記された多くの出来事の中で重要な役割を演じている。次の表を参照する。



ヘロデヤ

『新約聖書』の中の人物。ヘロデ・アグリッパの姉妹。叔父ヘロデ・ピリポの妻となり，娘サロメをもうける。ヘロデヤはサロメとともに，バプテスマのヨハネの斬首を画策した（マタ 14：3–11）。

弁護者　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者であり（モロ 7：28），わたしたちのために御父に対して弁護をしてくださる。

イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者である（1ヨハ 2：1〔教義 110：4〕）。メシヤはすべての人の子らのために執り成しをしてくださる（2ニフ 2：9〔ヘブ 7：25〕）。イエスは死に対して勝利を得，人の子らのために執り成しをする力を授けられる（モサ 15：8）。わたしは父に対するあなたがたの弁護者だからである（教義 29：5）。イエス・キリストはあなたがたのために弁じる（教義 45：3–5）。

偏在　「神；神会」参照

御霊によってどこにでも存在し得る神の能力（詩篇 139：7–12；教義 88：7–13，41）。

変貌　「イエス・キリスト」「神権の鍵」参照

天におられる御方の臨在や栄光に堪えられるように外見や肉体の性質が一時的に変えられた人の状態。つまり，霊的に高い水準に変えられた状態。

キリストの変貌：ペテロとヤコブとヨハネは，主が栄光を受けて身を変えられた様子を目撃した。救い主はそれ以前に，天の王国の鍵を授けるとペテロに約束しておられた（マタ 16：13–19；17：1–9；マコ 9：2–10；ルカ 9：28–36；2 ペテ 1：16–18）。この重大な出来事があったときに，救い主とモーセとエリヤがその約束の神権の鍵をペテロとヤコブとヨハネに授けた。これらの神権の鍵によって，使徒たちは，イエスが昇天された後も王国の業を続ける力を得たのである。

ジョセフ・スミスは，変貌の山でペテロとヤコブとヨハネも身を変えられたと教えている。3 人は，将来地球が栄光を受ける様子を示現で見た（教義 63：20–21）。そしてモーセとエリヤという身を変えられた二人の人物を目にし，御父の声を聞いた。御父は次のように言われた。「これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である。これに聞け。」（マタ 17：5）

変貌した人：彼らはイスラエルの神を見た（出エ 24：9–11）。主と語ったゆえに，顔の皮は光を放っている（出エ 34：29〔マコ 9：2–3〕）。イエスの姿が変り，その顔は日のように輝き（マタ 17：2〔マコ 9：2–3〕）。イスラエルの子らは，モーセの顔の消え去るべき栄光のゆえに，その顔を見つめることができなかった（2コリ 3：7）。彼の顔は非常な輝きを放っていた（モサ 13：5–9）。二人は火の中に立っているようであり（ヒラ 5：23，36，43–45〔3 ニフ 17：24；19：14〕）。彼らも，イエスの顔のように白くなった（3 ニフ 19：25）。彼らには変貌したよう

に思われた（3ニフ 28：15）。神の御霊によって変えられないかぎり，いまだかつて肉体において神を見た者はいない（教義 67：10−12）。御霊の力によってわたしたちの目は開かれ（教義 76：12）。神の栄光がモーセのうえにあった（モセ 1：2）。神の栄光がわたしのうえにあり，わたしは神の御前で変貌したので，神の御顔を見た（モセ 1：11）。わたしは天が開くのを見て，栄光に包まれました（モセ 7：3−4）。

ボアズ　「ルツ」参照

ルツの夫（ルツ 4：9−10）。イスラエルの王ダビデの曾祖父（ルツ 4：13−17）。王の王であるキリストの直系先祖（ルカ 3：32）。

ホイットニー，ニューエル・K

回復された教会の初期の指導者。オハイオ州カートランドのビショップ。後に教会の管理ビショップを務めた（教義 72：1−8；104；117 章）。

ホイットマー，ジョン

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の八人の証人の一人。『モルモン書』の中の「八人の証人の証」を参照。彼はまた福音を宣べ伝えるように召された（教義 30：9−11）。

ホイットマー，デビッド

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証した三人の証人の一人（教義 14；17−18 章）。教義と聖約 14 章；30：1−4 の中で，主は彼に個人的な指示を授けられた。

ホイットマー，ピーター，ジュニア

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の八人の証人の一人。『モルモン書』の中の「八人の証人の証」を参照。教義と聖約 16 章；30：5−8 の中で，主は彼に個人的な指示を授けられた。

奉献；奉献の律法　「神の王国；天の王国」「共同制度」参照

ささげること，あるいは聖くすること，または義の状態になること。奉献の律法とは，神の王国の建設と確立のために時間や才能や財産を進んでささげるという，神から与えられた原則である。

きょう，主に身をささげ（出エ 32：29）。信者たちは，いっさいの物を共有にし（使徒 2：44−45）。彼らはすべてのものを共有したので，物持ちも貧しい者もなく（4ニフ 1：3）。主は奉献の原則について説明された（教義 42：30−39〔教義 51：2−19；58：35−36〕）。人がほかの人以上のものを持つようには定められていない（教義 49：20）。各人はその家族に応じて平等に受取分を与えられた（教義 51：3）。天のものとのきずなにおいて平等になり，地上のものにおいても平等になるためである（教義 78：4−5）。あなたがたは，それぞれ自分の入り用と必要に応じて財産を要求する平等な権利がある（教義 82：17−19）。日の栄えの王国の律法の諸原則によらなければ，シオンを築くことはできない（教

義 105：5)。シオンの民は心を一つにし，思いを一つにし，義のうちに住んだ。そして，彼らの中に貧しい者はいなかった（モセ 7：18)。

奉仕　「愛」「福祉」参照

神と人のためになされる働き。人に奉仕するのは，神に仕えることでもある。

あなたがたの仕える者を，きょう，選びなさい（ヨシ 24：15)。これらの最も小さい者のひとりにしたのは，わたしにしたのである（マタ 25：35−45)。あなたがたのからだを，生きた，聖なる供え物としてささげなさい。それが，あなたがたのなすべき礼拝である（ロマ 12：1)。愛をもって互に仕えなさい（ガラ 5：13)。神に仕えて生涯を送るであろう（2ニフ 2：3)。あなたがたが同胞のために務めるのは，あなたがたの神のために務めるのである（モサ 2：17)。約束の地を所有する者は神に仕えなければならない。さもなければ一掃される（エテ 2：8−12)。神の務めに出で立とうとする人々よ，心を尽くして神に仕えなさい（教義 4：2)。神は，御自分を愛し，御自分に仕えるようにとの戒めを与えられた（教義 20：18−19)。イエス・キリストの名によって，神に仕えなければならない（教義 59：5)。主なるわたしは，わたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする（教義 76：5)。神を礼拝しなさい。あなたは神にのみ仕えるべきである（モセ 1：15)。

冒瀆；汚す罪　「不敬」「赦されない罪」参照

神や神聖な物事に対して不敬な言葉を口にすること。

イエスは冒瀆の言葉を口にしたとユダヤ人から非難されたことが何度かある。その理由とされたのは，罪を赦す権利があると主張したこと（マタ 9：2−3；ルカ 5：20−21)，また自らを神の子と呼んだこと（ヨハ 10：22−36；19：7)，自分が力ある者の右に座し，天の雲に乗って来るのをユダヤ人たちが見るであろうと述べたことなどである（マタ 26：64−65)。もしイエスがそれらの言葉どおりの御方でなかったら，ユダヤ人たちの批判は当たっていたと言える。サンヒドリン（ユダヤの議会）での裁判において偽証によりイエスに課せられた罪状（マタ 26：59−61）は，神殿を汚したというものであった。聖霊に対する冒瀆とは，キリストについて完全な知識を受けながら，自らの意志でキリストを否定することであり，それは赦されることのない罪である（マタ 12：31−32；マコ 3：28−29；教義 132：27)。

主の名を汚す者は必ず殺されるであろう（レビ 24：11−16)。主は，敵が御名を汚すのをそのままにしてはおかれない（教義 105：15)。報復が主を冒瀆した者のうえに及ぶ（教義 112：24−26)。

報復　「敵意」参照

害を加えた者に仕返しをすること。

あなたがたの神は報復をもって臨み（イザ 35：4)。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する（ロマ 12：19〔モル 3：15；8：20〕)。報

復の剣があなたがたに迫っている（モル 8：40−41）。わたしは悪人に報復しよう。彼らが悔い改めようとしないからである（教義 29：17）。主は悪事と報復の時代に来られた（モセ 7：45−46）。

ホサナ

ヘブライ語からの言葉で，「お救いください」の意味。賛美や嘆願の中で用いられる。

主がイスラエルを救い出して約束の地に導いてくださったことを祝う仮庵（かりいお）の祭で，人々は詩篇第 118 篇を唱え，なつめやしの枝を打ち振った。主がエルサレムへの勝利の入城をされたときに，群衆は「ホサナ」と叫び，イエスが通られる所になつめやしの枝を敷いた。それは，イエスが昔イスラエルを救い出された主と同じ御方であることを，彼らが理解していたことの表れである（詩篇 118：25−26；マタ 21：9，15；マコ 11：9−10；ヨハ 12：13）。彼らは，長く待ち望んできたメシヤとしてキリストを認めたのであった。「ホサナ」という言葉は，いつの時代にあっても，メシヤをたたえるものとなってきた（1 ニフ 11：6；3 ニフ 11：14−17）。ホサナ斉唱はカートランド神殿の奉献式の際に行われ，現在も神殿の奉献式の際に行われている（教義 109：79）。

星の栄え　「栄光の階級」参照

最後の裁きの後に人々が住む 3 つの栄えの階級でいちばん低いもの。

パウロは星の栄光を見た（1コリ 15：40−41）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは，星の栄えの世界の栄光を見た（教義 76：81−90）。星の栄えの世界に住む者は星のように数限りなかった（教義 76：109−112）。星の栄えの王国の律法に従えない者は，星の栄えの栄光に堪えられない（教義 88：24，31，38）。

ホセア

旧約の預言者。ヤラベアム 2 世の治世後期に，イスラエルの北王国で預言した。イスラエルの罪悪が原因で国が衰え滅びていく時代に生きた人物。

ホセア書：この書の基本的な主題は，民に対する神の愛である。神の懲らしめはすべて愛をもって課せられ，イスラエルの回復も，神の愛の結果である（ホセ 2：19；14：4）。対照的に，ホセアはイスラエルの背信と不実を指摘した。それでも神は，イスラエルが最後には贖（あがな）われることを待ち望まれるのである（ホセ 11：12−14：19）。

施し　「ささげ物」「断食」「福祉」「貧しい」参照

貧しい人を助けるために物を差し出すこと。

自分の義を，見られるために人の前で行わないように（マタ 6：1−4〔3 ニフ 13：1−4〕）。あの貧しいやもめは，だれよりもたくさん入れたのだ（マコ 12：41−44）。受けるよりは与える方が，さいわいである（使徒 20：33−35）。貧しい人に分け与えるようにしてほしい（モサ 4：26）。教会の人々が各々自分の持っている分に応じて持ち物を

分け与えるように（モサ 18：27）。

ポルノ；ポルノグラフィー　「姦淫」「純潔」「不貞」参照

滅び　「滅びの子」参照

滅びの子　「悪魔」「死（霊の）」「地獄」「罰の定め」「赦されない罪」参照

サタンに従う者たち。サタンとともに永遠の苦しみを味わう。滅びの子と呼ばれるのは，次の者たちである。(1) 前世でサタンに従って反逆したために，天から追放された者。(2) 肉体を受けてこの世に生まれることを許されながら，サタンに仕え，神にことごとく背いた者。後者は死者の中から復活するが，第二の死（霊の死）からは贖われず，栄光の王国に住むことはできない（教義 88：32，35）。

滅びの子だけが滅び（ヨハ 17：12）。ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である（ヘブ 6：4−6〔ヘブ 10：26−29〕）。そのような者には憐れみは及ばない。また，その者の最後の状態は，決して終わることのない苦痛に耐えることである（モサ 2：36−39）。その者はあたかも贖いがなかったかのようである（モサ 16：5）。利益を得るために，イエス・キリストによって行われる奇跡などないと言う者は，滅びの子のようになる（3ニフ 29：7）。この世でも来るべき世でも赦されることがない（教義 76：30−34〔教義 84：41；132：27〕）。第二の死から贖われないのは彼らだけである（教義 76：34−48）。聖なる御霊を受けた後にそれを否定した（教義 76：35）。御父から御子を示された後に御子を否定する者である（教義 76：43）。カインは滅びと呼ばれる（モセ 5：22−26）。

滅ぼす者　「悪魔」参照

サタンを指す言葉。

主は滅ぼす者が，あなたがたの家にはいるのを許されないであろう（出エ 12：23）。滅ぼす者が水の面を進んで行く（教義 61：19）。滅ぼす者の手からわたしの果樹園を救うことができたであろうに（教義 101：51−54）。

翻訳

ある言語で表現された概念の意味を別の言語のそれに対応する言葉で表現すること（モサ 8：8−13；箇条 1：8）。聖典にはこの能力について，神からの賜物と述べている箇所が幾つかある（アル 9：21；教義 8 章；9：7−9）。翻訳という言葉は，ある言語にすでに翻訳されているものを改訂したり，失われた部分を復元したりすることを意味する場合もある（教義 45：60−61）。ジョセフ・スミスは『欽定訳聖書』を霊感によって翻訳するように命じられた（教義 42：56；76：15）。

ジョセフ・スミス・ジュニアは，神の憐れみによって，神の力により翻訳する力を受けた（教義 1：29）。あなたは翻訳する賜物を持っている（教義 5：4）。もしあなたがわたしに望むならば，わたしはあなたに翻訳する賜物を授ける（教義 6：25）。『モルモン書』を翻訳するために，神は高い所からジョセフ・スミスに力を授けられた（教義 20:8）。ウリムとトンミムによっ

てそれらの多くを翻訳した（ジ―歴史 1：62〔モサ 8：13；28：13〕）。

マーシュ，トーマス・B

1830 年に教会が回復されてからの十二使徒定員会の初代会長。十二使徒会に関して王国の鍵を持ち（教義 112：16），また 1838 年には，主の言葉を出版するように啓示によって命じられた（教義 118：2）。『教義と聖約』の第 31 章は，彼に対して与えられたものである。マ－シュは 1839 年に破門されたが，1857 年 7 月に再バプテスマを受けた。

幕

聖典の中では次の意味で用いられている。(1) 幕屋や神殿で用いられる仕切り。(2) 神と人が隔てられた状態にあることの象徴。(3) 神が人々の前世の記憶を消されたこと。

その垂幕は聖所と至聖所とを隔て分ける（出エ 26：33）。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた（マタ 27：51〔マコ 15：38；ルカ 23：45〕）。わたしたちは，今は，鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には，顔と顔とを合わせて，見るであろう（1コリ 13：12）。王の心から不信仰という暗黒の覆いが取り除かれつつある（アル 19：6）。ヤレドの兄弟は幕の内側を見るのを禁じられなかった（エテ 3：19〔エテ 12：19〕）。幕は裂け，あなたがたはわたしを見て（教義 67:10〔教義 38:8〕）。神殿を覆っている幕は取り去られて（教義 101：23）。わたしたちの心から幕が取り去られ（教義 110：1）。暗黒の幕が地を覆うであろう（モセ 7：61）。

幕屋　「契約の箱」「至聖所」「神殿；主の宮」参照

主の宮。エジプトから出て旅をしている間，イスラエルの子らの礼拝の場として中心を成すものであった。幕屋は実際は可動式の神殿であり，分解したり組み立てたりすることができた。イスラエルの子らは，ソロモンの神殿を建てるまで幕屋を使っていた（教義 124：38）。

神はモーセに幕屋の型を示し（出エ 26–27 章），イスラエルの子らはその型に従って幕屋を建てた（出エ 35–40 章）。幕屋が完成したとき，雲が天幕を覆い，主の栄光が幕屋に満ちた（出エ 40：33–34）。その雲は神の臨在のしるしであり，夜は雲の中に火が現れた。雲が天幕の上にとどまっている間は，イスラエルの子らは宿営を続けた。そして雲が動くと，彼らもそれに伴って移動した（出エ 40：36–38；民数 9：17–18）。イスラエルの子らは，砂漠での放浪の間，またカナンの地を征服するまでの間，この幕屋を持ち運んだ。カナンの地を征服した後，幕屋は主が選ばれた地シロに置かれた（ヨシ 18：1）。イスラエルの子らがソロモン神殿を建てた後は，幕屋は完全に歴史からその姿を消した。

主とイザヤは幕屋を，主の再臨の時のシオンとエルサレムの象徴として用いている（イザ 33：20；モセ 7：62）。

マゴグ　「イエス・キリストの再臨」「ゴグ」参照

『聖書』に出てくる，黒海近くの地とそこに住む民の名。彼らの王ゴグは，キリスト再臨前の最後の大戦争でマゴグの軍勢を指揮する（エゼ 38：2；39：6）。聖典には，福千年の後に神の軍勢と悪の軍勢の間で行われる，ゴグとマゴグの戦いと呼ばれるもう一つの大戦争についても述べられている（黙示 20：7−9；教義 88：111−116）。

まことの教会のしるし　「イエス・キリストの教会」「しるし」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

まことの教会は，神によって認められた教義と機能を備えた教会である。主はそれを通して主の子らがすべての祝福を得られるように定められた。まことの教会のしるしは次のとおりである。

神会についての正しい理解：神は自分のかたちに人を創造された（創世 1：26−27）。主はモーセと顔を合わせて語られた（出エ 33：11）。永遠の命とは，父なる神とイエス・キリストとを知ることである（ヨハ 17：3）。御父と御子は骨肉の体を持っておられる（教義 130：22−23）。御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現された（ジ―歴史 1：15−20）。わたしたちは，永遠の父なる神を信じる（箇条 1：1）。

第一の原則と儀式：だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない（ヨハ 3：3−5）。悔い改めなさい。そして，あなたがたひとりびとりがイエス・キリストの名によって，バプテスマを受けなさい（使徒 2：38）。そこで，ふたりが手を彼らの上においたところ，彼らは聖霊を受けた（使徒 8：14−17）。キリスト・イエスにある信仰によって，神の子なのである（ガラ 3：26−27）。悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ（2ニフ 31：11−21）。信じた人々はバプテスマを受け，按手（あんしゅ）によって聖霊を受けた（教義 76：50−53）。バプテスマを施し，聖霊の賜物（たまもの）を授けるには正しい神権が必要である（ジ―歴史 1：70−72）。福音の第一の原則と儀式について述べられる（箇条 1：4）。

啓示：示現がなければ民は滅びる（KJ 箴言 29：18）。主は預言者に隠れたことを示される（アモ 3：7）。教会は啓示の岩の上に建てられる（マタ 16：17−18〔教義 33：13〕）。主はもはや啓示によって業を行われることはないと言う者は，災いである（3ニフ 29：6）。戒めと啓示は任命された者を通してのみ授けられる（教義 43：2−7）。わたしたちは，神がこれまでに啓示されたすべてのことを信じる（箇条 1：9）。

預言者：教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：19−20）。使徒や預言者は教会に欠かせない（エペ 4：11−16）。ジョセフ・スミスは聖見者，預言者，使徒と呼ばれた（教義 21：1−3）。わたしたちは，預言者があることを信じる（箇条 1:6）。

権能：イエスは弟子たちに力と権威とをお授けになった（ルカ 9：1−2〔ヨハ 15：16〕）。ヒラマンの息子ニーファイは，神から大いなる権能を授けられた（ヒラ 11：18〔3 ニフ 7：17〕）。預

言者は教会員のために戒めを受ける（教義 21：4–5）。権能を持つ者によって聖任されないかぎり，だれも福音を宣べ伝えるために出て行くこと，あるいは教会を築き上げることは許されない（教義 42：11）。長老は福音を宣べ伝え，権能を行使しなければならない（教義 68：8）。福音を宣べ伝え，その儀式を執行するためには，人は権能を持つ者によって，神から召されなければならない（箇条 1：5）。

追加して出される聖典：ユダの木はヨセフの木と一つになる（エゼ 37：15–20）。末日の聖典の出現が予告された（1ニフ 13:38–41）。わたしたちは，神がこの後も，神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる（箇条 1：9）。

教会の組織：教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：19–20）。使徒や預言者は教会に欠かせない（エペ 4：11–16）。キリストが教会のかしらであって（エペ 5：23）。キリストの教会は，キリストの名で呼ばれなければならない（3ニフ 27：8）。わたしたちは，初期の教会にあったと同一の組織があることを信じる（箇条 1：6）。

伝道活動：それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民に教えよ（マタ 28：19–20）。福音を宣べ伝えるために七十人が召された（KJ ルカ 10：1）。救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った（モサ 28：3）。長老は出て行き，二人ずつ組んで福音を宣べ伝えなければならない（教義 42：6）。福音はすべての造られたものに宣べ伝えられ（教義 58：64）。

霊的な賜物：一同はいろいろの他国の言葉で語り出した（使徒 2：4）。長老たちは病人に癒しを施す（新ヤコ 5：14）。賜物を否定しないように勧める（モロ 10：8）。霊的な賜物が列挙される（教義 46：13–26〔1コリ 12：1–11；モロ 10：9–18〕）。

神殿：わが聖所を永遠に彼らの中に置く（エゼ 37：26–27）。主は，たちまちその宮に来る（マラ 3：1）。ニーファイは神殿を建てた（2ニフ 5：16）。聖徒たちは，主の宮を建てるのを怠ったために懲らしめを受けた（教義 95 章〔教義 88：119〕）。主の民は，聖なる儀式の執行のためにいつも神殿を建てる（教義 124：37–44）。神殿の建設と儀式の執行は，大いなる末日の業に含まれる（教義 138：53–54）。

貧しい　「謙遜」「ささげ物」「断食」「福祉」「施し」参照

聖典の中で貧しいという言葉は，(1) 衣食住など，生活に必要なものが足りない人に対して，また (2) 高慢な思いがなく謙遜な人に対して用いられる。

物質的な貧しさ：貧しい兄弟にむかって手を閉じてはならない（申命 15：7）。悪しき者は高ぶって貧しい者を激しく責めます（詩篇 10：2）。貧しい者に施す者は物に不足しない（箴言 28：27）。貧しい者を，あなたの家に入れ（イザ 58：6–7）。完全になりたいと思うなら，貧しい人々に施しなさい（マタ 19：21〔マコ 10：21；ルカ 18：22〕）。神は，この世の貧しい人たちを選んで（新ヤコ 2：5）。彼ら

は自分が富んでいるので，貧しい者をさげすみ（2ニフ 9：30）。罪の赦しを続けて受けるために，持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい（モサ 4：26）。彼らは貧しい者に自分の持ち物を分け与えた（アル 1：27）。もし乏しい人を追い払ったりするならば，あなたがたの祈りはむなしく，何の役にも立たない（アル 34：28）。すべてのものを共有したので，物持ちも貧しい者もなく（4ニフ 1：3）。あなたは貧しい者を思い起こし（教義 42：30〔教義 52：40〕）。貧しい者で心が打ち砕かれていない者は，災いである（教義 56：17–18）。貧しい者が小羊の婚宴に来る（教義 58:6–11）。ビショップは貧しい者を捜さなければならない（教義 84：112）。福音の律法には，貧しい者への援助についての定めがある（教義 104：17–18）。彼らの中に貧しい者はいなかった（モセ 7：18）。

心が謙遜な状態：貧しいためにやむを得ずへりくだるのではなく，自ら進んで心からへりくだる人は，なおさら祝福を受ける（アル 32：4–6，12–16）。わたしのもとに来る心の貧しい人々は，幸いである（3ニフ 12:3〔マタ 5：3〕）。貧しい者と柔和な者に福音が宣べ伝えられる（教義 35：15）。

マタイ　「福音書」参照

イエス・キリストの使徒。『新約聖書』の最初の書の著者。マタイはカペナウムでローマ人のための税の取り立てをしていたユダヤ人であり，ヘロデ・アンティパスに雇われていたと推測される。改宗する前は，アルパヨの子レビとして知られていた（マコ 2：14）。イエスの弟子となるように召されて間もなく，彼は食事の席を設け，主もそこに来られた（マタ 9：9–13；マコ 2：14–17；ルカ 5:27–32）。マタイは『旧約聖書』の聖句について広範な知識を持ち，そのために主の生涯における預言の成就を詳細に理解できたと思われる。この使徒の晩年についてはほとんど知られていない。殉教したという言い伝えもある。

マタイによる福音書：『新約聖書』の最初の書。マタイのこの福音書は，当初，パレスチナに住むユダヤ人が用いるために書かれたと思われる。『旧約聖書』からの多くの引用文が使われている。マタイがおもに目的としたのは，イエスは旧約の預言者たちが語ったメシヤであるということを示すことであった。彼はまた，イエスが人々の王であり，裁き主であることも強調している。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

末日聖徒イエス・キリスト教会　「イエス・キリストの教会」「教会の名称」「福音の回復」「まことの教会のしるし」参照

他の神権時代の教会と区別するために，末日におけるキリストの教会に付けられた名称（教義 115：3–4）。

主は末日聖徒の頭に天から知識を注がれる（教義 121：33）。ジョセフ・スミスは，末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者および聖見者である（教義 127：12）。末日聖徒のために主の大いなる日は近づいている（教義 128：

21，24)。ジョセフ・スミスは末日聖徒の集合を助けた（教義 135：3)。アメリカ合衆国の西部に旅をするために，末日聖徒の部隊を組織しなければならない（教義 136：2)。結婚についての律法が末日聖徒に向けて明らかにされた（公式 1)。末日聖徒イエス・キリスト教会のすべてのふさわしい男性会員は，神権への聖任を受けることができる（公式 2)。すべての末日聖徒に向けて述べられた最初の示現の記録（ジ―歴史 1：1)。

マッテヤ　「使徒―使徒の選任」参照

イスカリオテのユダに代わり，十二使徒定員会の一員として選ばれた人物（使徒 1：15−26)。イエス・キリストが地上の務めを果たしておられた間，彼はずっと弟子として仕えていた（使徒 1：21−22)。

マナ　「命のパン」「出エジプト記」参照

蜜(みつ)を入れた菓子（出エ 16：14−31）あるいは油菓子（民数 11：8）のような味がする，良質のフレーク状の食物。主は荒れ野での 40 年間，イスラエルの民を養うためにこのマナを与えられた（出エ 16：4−5，14−30，35；ヨシ 5：12；1 ニフ 17：28)。

イスラエルの子らはこれを，「これはなんであろう」という意味のマナ（あるいはヘブライ語で「マンフー」）と呼んだ。彼らは，それが何か知らなかったからである（出エ 16：15)。マナは「天使のパン」また「天よりのパン」とも呼ばれた（詩篇 78:24−25;ヨハ 6:31)。マナは命のパンとなるキリストの象徴であった（ヨハ 6：31−35)。

マナセ　「イスラエル」「エフライム」「ヨセフ（ヤコブの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。エジプトに売られたヨセフとアセナテの長男（創世 41：50−51)。マナセと弟エフライムはヤコブ（イスラエル）の孫であったが，ヤコブに養子縁組され，ヤコブ自身の子供のように祝福を授けられた（創世 48：1−20)。

マナセの部族：マナセの子孫はイスラエルの部族の中に数えられた（民数 1：34−35；ヨシ 13：29−31)。モーセがヨセフの部族に授けた祝福は申命 33：13−17 に記録されており，その祝福はエフライムとマナセにも及んだ。マナセに割り当てられた土地の一部は，ヨルダン川の西の地域で，エフライムの地と隣接していた。マナセはまたバシャンやギレアデの肥沃(ひよく)な牧地など，ヨルダン川の東にも所領を得ていた。マナセの部族は終わりの時に，エフライムの部族を助けて，散らされたイスラエルを集合させる（申命 33：13−17)。『モルモン書』の預言者リーハイはマナセの子孫であった（アル 10：3)。

マラキ

旧約の預言者。紀元前 430 年ごろに預言者として働き，記録を残した。

マラキ書：マラキ書すなわちマラキの預言の書は，『旧約聖書』の巻末に収められている。マラキ書は次の 4 つの主題に添って書かれていると思われる。(1) イスラエルの罪－マラキ 1：

6−2：17；3：8−9。(2) 不従順のゆえにイスラエルに下される裁き−マラキ 1：14；2：2−3, 12；3：5。(3) 従順に対する約束−マラキ 3：10−12, 16−18；4：2−3。(4) イスラエルについての預言−マラキ 3：1−5；4：1, 5−6（教義 2 章；128：17；ジ―歴史 1：37−39）。

マラキはその預言の中で，バプテスマのヨハネ（マラ 3：1；マタ 11：10），什分の一の律法（マラ 3：7−12），主の再臨（マラ 4：5），エリヤの帰還（マラ 4：5−6；教義 2 章；128：17；ジ―歴史 1：37−39）について記している。救い主はニーファイ人のために，マラキ書の第 3 章と第 4 章のすべてを引用された（3 ニフ 24−25 章）。

マリヤ（イエスの母）「イエス・キリスト」「ヨセフ（マリヤの夫）」参照

『新約聖書』の中の人物。父なる神から，肉における御子の母となるように選ばれたおとめ。イエスの誕生後，マリヤは幾人かの子供をもうけた（マコ 6：3）

ヨセフと婚約していた（マタ 1：18〔ルカ 1：27〕）。ヨセフはマリヤを離縁したり，婚約を解消したりしないように告げられた（マタ 1：18−25）。博士たちがマリヤを訪れた（マタ 2：11）。マリヤとヨセフは幼な子を連れてエジプトに逃げた（マタ 2：13−14）。ヘロデが死んだ後，ヨセフの家族はナザレへ戻った（マタ 2：19−23）。天使ガブリエルの訪れを受けた（ルカ 1：26−38）。親族のエリサベツを訪ねた（ルカ 1：36，40−45）。主を賛美した（ルカ 1：46−55）。ヨセフとともにベツレヘムへ行った（ルカ 2：4−5）。生まれたイエスを飼葉おけの中に寝かせた（ルカ 2：7）。羊飼いたちはベツレヘムへ行って幼子キリストを捜し当てた（ルカ 2：16−20）。マリヤとヨセフはイエスをエルサレムの神殿へ連れて行った（ルカ 2：21−38）。マリヤとヨセフはイエスを過越の祭に連れて行った（ルカ 2：41−52）。カナの婚礼の場にいた（ヨハ 2：2−5）。イエスは十字架につけられていたとき，御自分の母の世話をするようヨハネに告げられた（ヨハ 19：25−27）。キリストが天に上げられた後，マリヤは使徒たちとともにいた（使徒 1：14）。マリヤはほかのどんなおとめにも勝って美しく，また麗しいおとめであった（1 ニフ 11：13−20）。キリストの母はマリヤと呼ばれる（モサ 3：8）。マリヤはおとめであって，尊い，選ばれた器である（アル 7：10）。

マリヤ（ベタニヤの）「マルタ」「ラザロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ラザロとマルタの姉妹。

イエスの足もとにすわって，御言に聞き入っていた（ルカ 10：39，42）。マリヤとその姉妹マルタは人をイエスのもとに遣わした（ヨハ 11：1−45）。香油をイエスの足に塗った（ヨハ 12：3−8）。

マリヤ（マグダラの）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストの献身的な弟子となった女性。マグダラはマリヤの出身地であり，

ガリラヤ湖西岸に位置する。

十字架の近くにいた（マタ 27:56〔マコ 15：40；ヨハ 19：25〕）。キリストの埋葬の場にいた（マタ 27：61〔マコ 15：47〕）。復活の日の朝に，墓を見に来た（マタ 28：1〔マコ 16：1；ルカ 24：10；ヨハ 20：1，11〕）。イエスはよみがえって，まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた（マコ 16：9〔ヨハ 20：14−18〕）。7 つの悪霊を追い出してもらった（ルカ 8：2）。

マリヤ（マルコの母）　「マルコ」参照

『新約聖書』の中の人物。マルコによる福音書を書いたヨハネ・マルコの母（使徒 12：12）。

マルコ　「福音書」参照

『新約聖書』の中の人物。ヨハネ・マルコはマリヤの息子で，エルサレムに住んでいた（使徒 12：12）。彼はバルナバのいとこ（または，おい）であったと考えられている（コロ 4：10）。マルコはパウロとバルナバの最初の伝道旅行に同行してエルサレムをたち，ペルガで彼らと別れた（使徒 12：25；13：5，13）。後にマルコはバルナバに同行してクプロへ行った（使徒 15：37−39）。彼はパウロとともにローマにおり（コロ 4：10；ピレ 1：24），ペテロとともにバビロン（恐らくローマを指す）にいた（1 ペテ 5：13）。最後に，彼はエペソでテモテとともにいた（2 テモ 4：11）。

マルコによる福音書：『新約聖書』の 2 番目の書。マルコのこの福音書は，ペテロの指示の下に書かれたと思われる。マルコのねらいは，人々の中で生活し行動した神の御子としての主を描くことであった。マルコは精力的かつ謙虚な態度で，人々がイエスから受けた印象を書いている。言い伝えによると，マルコはペテロの死後，エジプトに行ってアレクサンドリア（アレキサンデリヤ）で教会を組織し，殉教したとのことである。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

マルタ　「マリヤ（ベタニヤの）」「ラザロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ラザロとマリヤの姉妹（ルカ 10：38−42；ヨハ 11：1−46；12：2）。

ミカ

旧約の預言者。ミカはユダの平野のモレセテ・ガテ出身の人物で，ヒゼキヤが王位にあった時に預言者としての務めを果たした（ミカ 1：1−2）。

ミカ書：ミカ書は，メシヤがお生まれになる場所としてベツレヘムの名を挙げた『旧約聖書』中のただ一つの書である（ミカ 5：2）。主はこの書の中で御自分の民に勧告を与えるとともに，過去に与えた数々の慈しみを列挙し，彼らに正義と憐れみと謙遜さを求められた（ミカ 6：8）。

ミカエル　「アダム」「天使長；天使のかしら」参照

アダムの前世における名。天使長と呼ばれる。ヘブライ語で「神のような

者」の意。

天使の長のひとりであるミカエルがきて（ダニ 10：13，21〔教義 78：16〕）。大いなる君ミカエルが立ちあがります（ダニ 12：1）。御使のかしらミカエルは，悪魔と論じ争った（ユダ 1：9）。ミカエルとその御使たちとが，龍と戦った（黙示 12：7〔ダニ 7 章〕）。ミカエルはアダムである（教義 27：11〔教義 107：53−57；128：21〕）。天使長ミカエルはラッパを吹き鳴らす（教義 29：26）。ミカエルは彼の軍勢を集め，サタンと戦う（教義 88：112−115）。悪魔を暴いたミカエルの声（教義 128：20）。

身代わり　「儀式―身代わりの儀式」「死者の救い」参照

ミズーリ　「新エルサレム」参照

御霊の賜物　「賜物」参照

ふさわしい人に主がお授けになる特別な霊的祝福。この賜物はその人自身を益するため，またそれを用いて他の人々に祝福をもたらすために授けられる。御霊の賜物の説明については，教義と聖約 46：11−33；1 コリント 12：1−12；モロナイ 10：8−18 を参照のこと。

更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい（1コリ 12：31〔1 コリ 14：1〕）。ニーファイ人は多くの御霊の賜物を受けた（アル 9：21）。主はもはや賜物，聖霊の力によって業を行われることはないと言う者は，災いである（3ニフ 29：6）。神は忠実な者たちに賜物を与えられる（モル 9：7）。賜物はすべて，キリストの御霊によって授けられる（モロ 10：17）。賜物は多くあり，各人に神の御霊によって一つの賜物が与えられるのである（教義 46：11）。教会の指導者は御霊の賜物を識別する力を与えられる（教義 46：27）。教会の大管長は神のすべての賜物を持つ（教義 107：92）。

道　「歩む（神とともに）」「イエス・キリスト」参照

人が従って行く進路。イエスは御自身を道と呼ばれた（ヨハ 14：4−6）。

あなたの神，主の命令を守り，その道に歩んで（申命 8：6）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6〔2 ニフ 4：5〕）。わが道は，あなたがたの道とは異なっていると主は言われる（イザ 55：8−9）。命にいたる門は狭く，その道は細い（マタ 7:13−14〔3 ニフ 14：13−14；27：33；教義 132：22，25〕）。のがれる道も備えて下さる（1コリ 10：13）。主が命じられることには，道が備えられており，それでなくては，主は何の命令も下されない（1ニフ 3：7〔1 ニフ 9：6；17：3，13〕）。その門を通る以外に，ほかの道はない（2ニフ 9：41）。あなたがたは，永遠の死の道を選ぶことも，永遠の命の道を選ぶことも自由である（2ニフ 10：23）。これが道である。そして，このほかには道も名もない（2ニフ 31：21〔モサ 3：17；アル 38：9；ヒラ 5：9〕）。すべての人が自分の道を歩む（教義 1：16）。

御使い　「天使」参照

見守る；見守る者　「警告」参照

絶えず警戒すること，用心すること。絶えず心を配り，従う人は備えができた状態にある。見守る者とは，人々のために特定の責任を受けるよう主の代表者から召された指導者を指す。また指導者として召された人々には，世の残りの人々に対しても見守る者となる特別な責任がある。

わたしはあなたを見守る者とした（エゼ 3：17–21）。わたしはあなたを立てて，イスラエルの家を見守る者とする（エゼ 33：7–9）。だから，目をさましていなさい。いつの日に主がこられるのか，わからないからである（マタ 24：42–43〔マタ 25：13；マコ 13：35–37；教義 133：10–11〕）。誘惑に陥らないように，目をさまして祈っていなさい（マタ 26：41〔3 ニフ 18：15, 18〕）。もし自分自身や自分の思い，言葉，行いに注意を払わないならば，あなたがたは滅びるに違いない（モサ 4：30）。アルマは教会を管理し見守る祭司たちと長老たちを聖任した（アル 6：1）。救い主を待ち受けない者は絶たれる（教義 45：44）。教会を見守るように神が選んで聖任する人々には，すべての賜物（たまもの）を見分けることが許される（教義 46：27）。主は果樹園に見張り人たちを置かれた（教義 101：44–58）。

耳　「聞き従う；聴く」参照

聖典では，神に関する事柄を聞いて理解する能力の象徴としてよく用いられる。

耳があっても聞くことができない（詩篇 115：6）。わたしの耳をさまして（イザ 50：4–5〔2 ニフ 7：4–5〕）。耳のある者は聞くがよい（マタ 11：15）。その耳は聞えにくく（マタ 13：15〔モセ 6：27〕）。目がまだ見ず，耳がまだ聞かず，人の心に思い浮びもしなかったことを，神は，ご自分を愛する者たちのために備えられた（1コリ 2：9〔教義 76：10〕）。悪魔は彼らの耳にささやいて（2ニフ 28：22）。耳を開いて聞き（モサ 2：9〔3 ニフ 11：5〕）。幾度となく呼ばれたが，わたしは聞こうとしなかった（アル 10：6）。わたしの言葉に耳を傾けなさい（アル 36：1〔アル 38：1；教義 58：1〕）。耳として聞かないものはなく（教義 1：2）。耳が開かれるように，へりくだって主なる神に呼び求める（教義 136：32）。

ミュレク　「ゼデキヤ」参照

『旧約聖書』の王ゼデキヤの息子（紀元前 589 年ごろ）。『聖書』には，ゼデキヤの息子たちは皆殺されたように書かれている（列下 25：7）が，『モルモン書』は，ミュレクが生き延びたことを明確に述べている（ヒラ 8：21）。

ゼラヘムラはミュレクの子孫であった（モサ 25：2）。ミュレクの民とニーファイ人が一つになった（モサ 25：13）。主はミュレクを北の地へ導かれた（ヒラ 6：10）。ゼデキヤの息子たちはミュレクを除いて皆殺された（ヒラ 8：21）。

ミリアム　「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。モーセの

姉（民数 26：59）。

パピルスで編んだかごを見守った（出エ 2：1−8）。タンバリンを手にした女たちがその後に従った（出エ 15：20−21）。モーセを非難し，重い皮膚病となったが，癒された（民数 12：1−15〔申命 24：9〕）。

身を変えられた人

復活して不死不滅となるまで，痛みや死を味わうことがないように体の状態を変えられた人。

エノクは神とともに歩み，神が彼を取られたので，いなくなった（創世 5：24〔ヘブ 11：5；教義 107：48−49〕）。今日までモーセの墓を知る人はない（申命 34：5−6〔アル 45：19〕）。エリヤはつむじ風に乗って天にのぼった（列下 2：11）。わたしの来る時まで彼が生き残っていることを，わたしが望んだとしても，あなたにはなんの係わりがあるか（ヨハ 21:22−23〔教義 7:1−3〕）。あなたがたは決して死を味わうことがない（3ニフ 28：7）。彼らが死を味わわないように，ある変化が彼らの体に生じ（3ニフ 28:38〔4 ニフ 1:14；モル 8：10−11〕）。主から愛されたヨハネは，主が来られるときまで生き長らえる（教義 7 章）。わたしは自分の懐にエノクのシオンを受け入れた（教義 38：4〔モセ 7：21，31，69〕）。エノクとその同胞は，義の日が来るまで残しておかれる町である（教義 45：12）。エリヤは死を味わうことなく天に取り去られた（教義 110：13）。聖霊が多くの者に降り，彼らはシオンに連れ去られた（モセ 7：27）。

民数記　「五書」参照

『旧約聖書』の 4 番目の書。この書はモーセによって書かれた。民数記は，シナイ山からカナンの国境にあるモアブの平地に至るまでのイスラエル人の旅の物語を描いている。民数記の重要な教訓の一つは，神の民が成功の道を歩み続けるには，神の約束を信頼し，信仰によって歩まなければならないということである。民数記には，イスラエル人の不従順に対して下された神の罰と，イスラエルの律法に関する事柄が記録されている。民数記という書名は，氏族の数の調査に由来する（民数 1−2；26 章）。

第 1−10 章には，イスラエル人のシナイを出発する準備の様子が記録されている。第 11−14 章には，旅そのもの，またカナンの地への斥候の派遣，イスラエル人が約束の地に入るのを拒まれたことが記録されている。第 15−19 章には，様々な律法と歴史上の出来事が記されている。第 20−36 章には，荒れ野で過ごした最後の年の出来事が述べられている。

無窮　「神；神会」参照

神に対する呼び名の一つ。神の永遠性を示している（教義 19：10−12；モセ 1：3；7：35）。

むさぼる　「貪欲；むさぼり」参照

結び固め　「エリヤ」「儀式」「神権」参照

神権の権能によって地上で執行された儀式を，天においても有効なものと

すること。儀式は約束の聖なる御霊すなわち聖霊による承認を受けた時に結び固められる。

あなたが地上でつなぐことは，天でもつながれ（マタ 16：19〔マタ 18：18；教義 124：93；132：46〕）。あなたがたも，約束された聖霊の証印をおされたのである（エペ 1：13）。あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれるように，わたしはあなたに力を授ける（ヒラ 10：7）。地上でも天でも結ぶ力が与えられる（教義 1：8）。日の栄えの世界にいる者は約束の聖なる御霊によって結び固められた人々である（教義 76：50−70）。エリヤが結び固めの権能の鍵をジョセフ・スミスの手にゆだねた（教義 110：13−16）。これは結び固め，かつ，つなぐ力であり（教義 128：14）。いっそう確実な預言の言葉とは，人が永遠の命に結び固められたことを知ることである（教義 131：5）。約束の聖なる御霊により結ばれない聖約はすべて死をもって終わる（教義 132：7）。神殿で行われる大いなる業の中には，親子の結び固めも含まれる（教義 138：47−48）。

むなしさ　「物欲」参照

空虚なこと，価値のないこと。

その聖所に立つべき者はだれか。その魂がむなしい事に望みをかけない者（詩篇 24：3−4）。祈る場合，くどくどと祈るな（マタ 6：7）。あなたがたは俗世のむなしいものに執着し続けるつもりか（アル 5：53）。この世のむなしいものを求めてはならない。見よ，あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである（アル 39：14）。

胸当て　「ウリムとトンミム」参照

聖典には 2 種類の胸当てが出てくる。(1) 兵士の防御用の衣服やよろいの前の部分。象徴的な意味で，聖徒は悪に対して自らを守るために胸当てを身に着けなければならない（イザ 59：17；エペ 6：14）。(2) モーセの律法において大祭司が着用した衣装の一つ（出エ 28：13−30；39：8−21）。亜麻布でできており，12 個の宝石が取り付けてあった。時として，ウリムとトンミムと関連して述べられることがある（教義 17：1；ジ―歴史 1：35，42，52）。

目

聖典ではしばしば，神の光を受ける能力の象徴として用いられる。目は象徴的な意味で，霊的な状態と神に関する事柄への理解を示すこともある。

主の戒めはまじりなくて，眼を明らかにする（詩篇 19：8）。愚かな者は，目があっても見えない（エレ 5：21〔マコ 8：18〕）。目はからだのあかりである（マタ 6：22〔ルカ 11：34；3 ニフ 13：22；教義 88：67〕）。あなたがたの目は見ており，さいわいである（マタ 13：16）。心の目を明らかにして下さるように（エペ 1：17−18）。自分を見て賢いと思う者は災いである（2ニフ 15:21〔イザ 5:21〕）。断食して，神に祈り始め，民の目が開かれることを請い願った（モサ 27：22）。サタンは彼らの目をくらまし（3ニフ 2：2）。

『モルモン書』を出す力は，神の栄光にひたすら目を向けるのでなければ，だれも持つことができない（モル 8：15）。御霊の力によってわたしたちの目は開かれ，わたしたちの理解に光が注がれた（教義 76：12）。光は，あなたがたの目を明らかにする者によって来る（教義 88：11）。あなたがたが神の栄光にひたすら目を向けるならば，あなたがたの全身は光に満たされ（教義 88：67）。

瞑想する　「深く考える」参照

恵み　「憐れみ」「イエス・キリスト」「贖罪」「救い」参照

信仰を実践し，悔い改め，全力を尽くして戒めを守る人に神から授けられる力。この力によって，人はこの世で数々の祝福を受け，永遠の命と昇栄を授かることができる。このような神聖な助けや力は，神の憐れみと愛を通して授けられる。アダムの堕落と，人間としての弱さのゆえに，人は皆，神の恵みを必要としている。

めぐみとまこととは，イエス・キリストをとおしてきた（ヨハ 1：17）。主イエスのめぐみによって，われわれは救われる（使徒 15：11〔ロマ 3：23−24；教義 138：14〕）。わたしたちは，この恵みに信仰によって導き入れられ（ロマ 5：2）。あなたがたの救われたのは，恵みにより，信仰によるのである（エペ 2：8）。すべての人を救う神の恵みが現れた（テト 2：11）。はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか（ヘブ 4：16）。神はへりくだる者に恵みを賜う（1ペテ 5：5）。聖なるメシヤの功徳と憐れみと恵みによらなければ，だれも神の御前に住める者がいない（2ニフ 2：8）。あなたがたが救われるのは，ただ神の恵みによること，また神の恵みを通じてであること（2ニフ 10：24）。わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に，神の恵みによって救われる（2ニフ 25：23）。このようなことを行う力がわたしたちにあるのは，神の恵みによる（ヤコ 4：7）。それぞれの行いに応じた恵みに回復してくださるように（ヒラ 12：24）。わたしの恵みは柔和な者に十分であり，わたしの前にへりくだるすべての者に対して，わたしの恵みは十分である（エテ 12：26−27）。異邦人が慈愛を持てるように，主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈った（エテ 12：36，41）。あなたがたは神の恵みにより，キリストによって完全になることができる（モロ 10：32−33）。イエスは恵みに恵みを加えられた（教義 93：12−13，20）。

召し；神の召し　「選ばれた者」「選ぶ」「管理人；管理人の職」「権威；権限；権能」参照

神から召されるとは，定められた方法で神に仕えるために，神または神より正当な権威を授けられた教会の指導者から任命または要請を受けることである。

彼の上に手をおき，彼を任命した（民数 27：23）。わたしはあなたを預言者とした（エレ 1：5）。わたしがあなたがたを選んだ（ヨハ 15：16）。パウロは召されて使徒となった（ロマ 1：1）。だれもこの栄誉ある務を自分で得

るのではなく，神の召しによって受けるのである（ヘブ 5：4）。イエスは神によってメルキゼデクに等しい大祭司ととなえられた（ヘブ 5：10）。わたしは啓示と預言の霊によって，神の御言葉を宣べ伝えるように召され（アル 8：24）。祭司たちは世の初めから召され，備えられていた（アル 13：3）。あなたがたは神に仕えたいと望むならば，その業に召されている（教義 4:3）。わたしがあなたを召した業にしっかりと立ちなさい（教義 9：14）。あなたは召しを受けるまで，教えを説くために召されたと思うには及ばない（教義 11：15）。あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている（教義 29：7）。聖任されないかぎり，だれも主の教会を築き上げることは許されない（教義 42：11）。召される者は多いが，選ばれる者は少ない（教義 121：34）。人は神から召されなければならない（箇条 1：5）。

召しと選び　「選び」参照

キリストに従う義にかなった人々は，昇栄を保証される選民の中に数えられる。この召しと選びは悔い改めとバプテスマから始まり，「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み，最後まで堪え忍ぶ」ときに完全なものとなる（2 ニフ 31：19−20）。聖典はこの過程を，「召しと選びとを確かなものにする」と表現している（2 ペテ 1：4−11；教義 131：5−6）。

あなたがたはわたしに対して祭司の国となり（出エ 19:5−6〔黙示 1:6〕）。神は救いを得させようとして，初めから選民を選ばれた（2テサ 2：13）。ますます励んで，あなたがたの受けた召しと選びとを，確かなものにしなさい（2ペテ 1：10）。キリストから御自分のものとして印を押されるように（モサ 5：15）。あなたが永遠の命を受けると聖約する（モサ 26：20）。忠実な神権者は，神の教会となり，神の王国となり，神の選民となる（教義 84：33−34）。いっそう確実な預言の言葉とは，人が永遠の命に結び固められたことを知ることである（教義 131：5−6）。わたしはあなたに昇栄を結び固め（教義 132：49）。

メシヤ　「油注がれた者」「イエス・キリスト」参照

「油注がれた者」の意のアラム語とヘブライ語の一形態。『新約聖書』でイエスはキリストと呼ばれているが，これはメシヤに相当するギリシャ語である。その意味は油注がれた預言者，祭司，王，救い主であり，ユダヤ人はその訪れを熱望していた。

多くのユダヤ人は，ローマの支配からの解放と国家としてのいっそうの繁栄を望んでいたにすぎなかった。メシヤが来られたとき，指導者や多くの民が拒んだのは，そのためであった。ナザレ人イエスの中に真のキリストを見いだすことができたのは，謙遜で忠実な人々だけであった（イザ 53 章；マタ 16：16；ヨハ 4：25−26）。

メシヤは御霊を受け，福音を宣べ伝え，解放を告げられる（イザ 61：1−3〔ルカ 4：18−21〕）。わたしたちはメシヤ（訳せば，キリスト）にいま出会った（ヨハ 1：41〔ヨハ 4：25−26〕）。主なる神はユダヤ人の中にメ

シヤ，言い換えれば，世の救い主を立てられる（1ニフ 10：4）。来るべきメシヤである神の御子（1ニフ 10：17）。贖(あがな)いは聖なるメシヤによって，またメシヤを通じてもたらされる（2ニフ 2：6）。時が満ちると，メシヤが来られる（2ニフ 2：26）。メシヤが死者の中からよみがえり（2ニフ 25：14）。メシヤの御名によって，わたしはアロンの神権を授ける（教義 13：1）。わたしはメシヤであり，シオンの王であり（モセ 7：53）。

メシャク　「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク，メシャク，アベデネゴの 3 人のイスラエルの若者は，ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。メシャクのヘブライ語名は，ミシャエルである。この 4 人の若者は，王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ（ダニ 1 章）。シャデラク，メシャク，アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが，神の御子によって守られた（ダニ 3 章）。

メトセラ　「エノク」参照

『旧約聖書』の中の人物。エノクの息子。メトセラは 969 歳まで生きた（創世 5：21–27；ルカ 3：37；モセ 8：7）。メトセラはエノクの町が天に取り上げられたときに地上に残された義にかなった預言者である。彼は地上にとどまって子孫を残し，後にノアが生まれることになった（モセ 8：3–4）。

メルキゼデク　「サレム」「メルキゼデク神権」参照

『旧約聖書』の中の人物。洪水後のアブラハムの時代に生きていた偉大な大祭司，預言者，指導者。彼はサレム（エルサレム）の王，また平和の王，義の王（メルキゼデクとはヘブライ語で「義の王」の意味），いと高き神の祭司とも呼ばれた。

アブラムはメルキゼデクに十分の一を納めた（創世 14：18–20）。メルキゼデクの民は義を行い，天を得た（JS 創世 14：25–40）。あなたこそは，永遠に，メルキゼデクに等しい祭司である（ヘブ 5：6）。メルキゼデクはサレムの王であり，いと高き神の祭司であった（ヘブ 7：1–3）。メルキゼデクよりも偉大な人は一人もいなかった（アル 13：14–19）。アブラハムはメルキゼデクから神権を受けた（教義 84：14）。至高者の名を敬い尊ぶことから，昔の教会員は，この神権をメルキゼデク神権と呼んだ（教義 107：1–4）。

メルキゼデク神権　「神権」「長老」「メルキゼデク」参照

メルキゼデク神権は大神権であり，アロン神権は小神権である。メルキゼデク神権には，教会の霊的な祝福の鍵(かぎ)が含まれる。この大神権の儀式を通して神性の力が人々に現れる（教義 84：18–25；107：18–21）。

神は最初にこの大神権をアダムに示された。あらゆる神権時代の族長と預言者がこの権能を持っていた（教義 84：6–17）。初めは「神の御子の位に従う聖なる神権」と呼ばれ，後にメルキゼデク神権として知られるようになった（教義 107：2–4）。

イスラエルの子らがメルキゼデク神

権の特権と聖約にふさわしい生き方ができなかったとき，主はその高い律法を取り去り，小神権と低い律法とを授けられた（教義 84：23−26）。それはアロン神権ならびにモーセの律法と呼ばれた。イエスは地上に来られたとき，ユダヤ人にメルキゼデク神権を回復し，彼らの中に教会を築き始められた。しかし，この神権と教会は背教によって再び失われてしまった。そして後に，ジョセフ・スミス・ジュニアを通して回復されたのである（教義 27：12−13；128：20；ジ―歴史 1：73）。

メルキゼデク神権には，長老，大祭司，祝福師，七十人，使徒の職がある（教義 107 章）。メルキゼデク神権は常に，地上における神の王国の一部を成す。

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は，大神権すなわちメルキゼデク神権の大管長であり，地上における神の王国に関するすべての鍵を持つ。教会の大管長の召しは一時期に一人の人にしか与えられない。また，教会の大管長はすべての神権の鍵を行使する権能を持つ地上でただ一人の人である（教義 107：64−67；132：7）。

あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である（詩篇 110：4〔ヘブ 5：6，10；7：11〕）。メルキゼデク神権は福音をつかさどる（ヘブ 7 章〔教義 84：18−25〕）。メルキゼデクは力強い信仰を働かせ，大神権の職を受けた（アル 13：18）。メルキゼデク神権がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けられた（教義 27：12−13〔ジ―歴史 1：72〕）。この神権は誓詞と聖約によって授けられる（教義 84：33−42）。二つの区分，すなわち大きな部類がある。一つはメルキゼデク神権であり，他はアロン神権である（教義 107：6）。メルキゼデク神権は霊的な祝福をつかさどる権能を持つ（教義 107：8−18）。モーセとエライアスとエリヤがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに神権の鍵を授けた（教義 110:11−16）。わたしは今，わたしの神権に属する役員をあなたがたに与えて，あなたがたがその鍵を持てるようにする（教義 124：123）。

モアブ　「ロト」参照

旧約の時代の死海東方の地域。モアブ人はロトの子孫であり，イスラエルとは縁続きであった。モアブ人はヘブライ語に似た言葉を話した。モアブ人とイスラエル人は絶えず戦争を繰り返した（士師 3：12−30；11：17；サ下 8：2；列下 3：6−27；歴下 20：1−25；イザ 15 章）。

モーサヤ（ベニヤミンの父）　「ゼラヘムラ」「ベニヤミン（モーサヤの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の預言者。ゼラヘムラの民を治めた王。

ニーファイの地から逃げ出すように警告を受けた（オム 1：12）。ゼラヘムラの民を発見した（オム 1：14−15）。ゼラヘムラの民に自分の言葉を教えさせた（オム 1：18）。連合した民の王に選任された（オム 1：19）。息子ベニヤミンが彼に代わって治めた（オム 1：23）。

モーサヤ（ベニヤミンの息子）「ベニヤミン（モーサヤの父）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。義人。ニーファイ人の王，預言者。父の義にかなった模範に従った（モサ 6:4–7）。ヤレド人の記録を含む 24 枚の金版を翻訳した（モサ 28：17）。

モーサヤ書：『モルモン書』の中の 1 書。第 1–6 章には，民に向けて語ったベニヤミン王の力強い説教が記録されている。主の御霊に感動した民は，心を改め，悪を行おうとする思いを二度と抱かなかった。第 7–8 章には，レーマン人の間で暮らすようになったニーファイ人の一団のことが書かれている。彼らを捜し出すために捜索隊が派遣された。捜索隊の指導者アンモンは彼らを見つけ，彼らがレーマン人の圧制によって苦しみを受けてきたことを聞いた。第 9–24 章には，その圧制の様子，またゼニフ，ノア，リムハイという彼らの指導者がレーマン人の下でどのような生き方をしたかが記されている。アビナダイという預言者の殉教についても記録されている。アルマはアビナダイの裁判を機に改心した。第 25–28 章には，アルマの息子とモーサヤ王の 4 人の息子が改心するに至った話が書かれている。第 29 章には，モーサヤ王が王制に代えてさばきつかさの制度を設けるように勧めたことが書かれている。アルマの息子アルマが最初の大さばきつかさに選ばれた。

モーサヤの息子たち「アロン（モーサヤの息子）」「アンモン（モーサヤの息子）」「オムナー」「ヒムナイ」「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。天使の訪れを受け，悔い改めを求められて改心したモーサヤ王の 4 人の息子。彼らの名前は，アンモン，アロン，オムナー，ヒムナイといった（モサ 27：34）。彼らは 14 年にわたってレーマン人に福音を宣べ伝え，成功を収めた。アルマ 17–26 章には，レーマン人の間での彼らの働きが記録されている。

以前は不信仰で，教会を滅ぼそうとしていた（モサ 27：8–10〔アル 36：6〕）。天使に叱責され，悔い改めた（モサ 27：11–12，18–20）。レーマン人に宣べ伝える許しを得た（モサ 28：1–7）。

モーセ「アロン（モーセの兄）」「五書」「十戒」「変貌―キリストの変貌」「モーセの律法」参照

旧約の預言者。イスラエル人をエジプトの奴隷の状態から導き出し，神によって示されるままに，宗教，社会，食生活に関する一連の律法を彼らに授けた。

モーセの務めは，彼のこの世での生涯という枠を越えるものであった。ジョセフ・スミスは，モーセがエリヤとともに変貌の山に来て，神権の鍵をペテロとヤコブとヨハネに授けたと教えている（マタ 17:3–4；マコ 9:4–9；ルカ 9：30；教義 63：21）。

1836 年 4 月 3 日，モーセはオハイオ州カートランドの神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ，イスラエルの集合の鍵を二人に授けた（教義 110：11）。

末日の啓示はモーセについて多くのことを語っている。モーセの名は『モルモン書』にも何度か出てくる。また『教義と聖約』からは，モーセの務め（教義 84：20–26）と，義父エテロから神権を受けたこと（教義 84：6）が分かる。

また末日の啓示は，イスラエルの子らの間でモーセがなした働きに関する『聖書』の記録を確認し，彼が『旧約聖書』の最初の 5 書の著者であることを再確認している（1 ニフ 5：11；モセ 1：40–41）。

パロの娘に救われた（出エ 2：1–10）。ミデヤンの地へ逃れた（出エ 2：11–22）。主の使いは，しばの中の炎のうちに彼に現れた（出エ 3：1–15）。エジプト人に下る災いを宣言した（出エ 7–11 章）。主は彼を通して過越（すぎこし）の祭を定められた（出エ 12：1–30）。イスラエルの民を率いて紅海を渡った（出エ 14：5–31）。主は荒れ野でマナを与えられた（出エ 16 章）。ホレブで岩を打つと，そこから水が出た（出エ 17：1–7）。アロンとホルは，ヨシュアがアマレクに打ち勝つよう，モーセの手を支えた（出エ 17：8–16）。エテロから助言を受けた（出エ 18：13–26）。民を備えてシナイ山で主にまみえさせようとした（出エ 19 章）。主から十戒を与えられた（出エ 20：1–17）。モーセと七十人の長老たちは神を見た（出エ 24：9–11）。証（あかし）の板を砕き，金の子牛を壊した（出エ 32:19–20）。主と顔を合わせて語った（出エ 33：9–11）。イエスの変貌（へんぼう）のときに現れた（マタ 17：1 –13〔マコ 9：2–13；ルカ 9：28–36〕）。モーセのように強くなろうではありませんか（1 ニフ 4:2）。主がお立てになるモーセのような預言者とは，キリストである（1 ニフ 22：20–21〔3 ニフ 20：23；申命 18：15〕）。啓示によってイスラエルを導いた（教義 8：3）。偉大な霊たちの中にいた（教義 138：41）。顔と顔を合わせて神にまみえた（モセ 1：2，31）。独り子にかたどられていた（モセ 1：6，13）。創造について啓示されたことを記録するように命じられた（モセ 2：1）。

モーセ書：『高価な真珠』の中の 1 書。ジョセフ・スミスが霊感によって行った創世記の最初の 7 章の翻訳が含まれている。

第 1 章には，モーセが神にまみえたときの示現が記されている。神はモーセに救いの計画のすべてを啓示された。第 2–5 章は，創造と人の堕落についての記録である。第 6–7 章には，エノクと彼の地上での務めに関する示現が述べられている。第 8 章には，ノアと大洪水についての示現が含まれている。

モーセの五書：「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」の項を参照。

『旧約聖書』の最初の 5 書は，モーセの書として知られている。ニーファイがラバンから得た真鍮版（しんちゅうばん）はモーセの五書を含んでいた（1 ニフ 5：11）。

ニーファイはモーセの書に書かれた多くの事柄を読んだ（1 ニフ 19：23）。

モーセの律法　「アロン神権」「清いものと清くないもの」「モーセ」「律法」

参照

神はモーセを通してイスラエルの家に律法をお授けになったが，それは彼らが従うことのできなかった，より高度な律法に代えて与えられたものであった（出エ 34 章；JS 出エ 34：1–2；JS 申命 10:2）。モーセの律法は，人々に義務と責任を思い起こさせるための多くの原則や規則，祭儀，象徴から成っていた。それは，道徳的，かつ倫理的，宗教的，肉体的な戒めと勤めを伴う律法を含むものであり，神と神への義務を民に思い起こさせること（モサ 13：30）を目的とした様々な犠牲（レビ 1–7 章）を伴っていた。また，十戒や倫理的かつ道徳的に大きな価値のある他の多くの戒めと同じように，信仰と悔い改め，水によるバプテスマ，罪の赦しもその律法の一部であった。祭儀的律法の多くは，血を流す犠牲を終わらせたイエス・キリストの死と復活によって成就した（アル 34:13–14）。モーセの律法はアロン神権の下に執行された。またそれは，従う人々をキリストに導く備えの福音であった。

わたしは初めの時のように，彼らに律法を授けよう。しかしそれは，肉の戒めの律法にかかわるものである（JS 出エ 34：1–2）。律法はわたしたちをキリストに連れて行く養育掛となった（ガラ 3：19–24）。モーセの律法を守り，確固としてキリストを待ち望む（2ニフ 25：24–30）。モーセの律法だけでは救いは得られない（モサ 12：27–13：32）。わたしによってモーセの律法は成就している（3ニフ 9：17）。モーセに与えられた律法は，わたしによって成就している（3ニフ 15：1–10）。主はモーセと聖なる神権をイスラエルの民から取り上げ，肉の戒めの律法を与えられた（教義 84：23–27）。

黙示文書　「黙示録（ヨハネの）」参照

『新約聖書』の最後に収められている啓示の書。他の特筆すべき啓示を指してこのように呼ぶこともある。「明らかにされた」または「覆いを取った」を意味するギリシャ語が語源である。

黙示録（ヨハネの）　「黙示文書」「ヨハネ（ゼベダイの子）」参照

『新約聖書』の中の最後の書。使徒ヨハネに与えられた啓示が載せられている。ヨハネは世界の歴史，特に終わりの時の状態を見ることを許された（黙示 1：1–2；1 ニフ 14：18–27；教義 77 章）。

ヨハネは主の日にパトモス島でこの啓示を受けた（黙示 1：9–10）。パトモス島はエペソからさほど遠くない，アジヤの地の沖合にある。この啓示が与えられた正確な日時は不明である。

1 ニーファイ 14：18–27 と教義と聖約 77 章（エテ 4：15–16）には，黙示録を理解するための鍵が記されている。

第 1–3 章には，この書の序文と，アジヤの 7 つの教会への手紙が記されている。ヨハネは聖徒たちが幾つかの問題を解決できるよう助けを与えるためにこの手紙を書いた。第 4–5 章には，神とキリストの尊厳と義なる力を示す，ヨハネが受けた数々の示現が記録されている。第 6–9，11 章でヨハネは，7 つの封印で封じられた巻き物

を見たことを記録している。それぞれの封印は，地球の現世の歴史の各千年間を示している。これらの章には，第7の封印に含まれる出来事がおもに記されている（黙示8−9章；11：1−15）。第10章には，ヨハネが食べた巻き物のことが述べられている。この巻き物は，ヨハネが将来果たすべき使命を象徴している。第12章には，サタンが天で背いて投げ落とされたときに始まる悪についての示現が記録されている。天で始まったその戦いは，この地上でも続いている。第13，17−19章でヨハネは，サタンに支配された地上の諸々（もろもろ）の邪悪な王国について述べ，悪の最終的な滅亡を含め，それらの国々の行く末を記録している。第14−16章には，キリストの再臨の直前に悪のただ中にあって義を守る聖徒たちのことが書かれている。第20−22章には，福千年，美しい新エルサレムの都，地球の歴史の最後に起こる出来事が書かれている。

求める　「祈り」参照

問い，尋ねること。または，特別な恵みを神に請い願うこと。

求めよ，そうすれば，与えられるであろう（マタ7：7）。知恵に不足している者があれば，神に，願い求めるがよい（新ヤコ1：5〔ジ―歴史1：7−20〕）。信仰をもってわたしに求めれば（1ニフ15：11）。理解できないとすれば，それはあなたがたが求めないためである（2ニフ32：4）。真心から求めなさい（モサ4：10）。神は信仰をもって求める正当なものをすべて与えてくださる（モサ4：21）。これが真実かどうか神に問うように（モロ10：4）。彼らは光よりも闇（やみ）を愛している。そのために，彼らはわたしに求めようとしない（教義10：21）。あなたがたはすべてのことについて，神に願い求めるように命じられている（教義46：7）。

モルモン　「イエス・キリストの教会」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員を指す「モルモン」というニックネームは，この教会の会員でない人々が付けたものである。昔の預言者モルモンが編さんした『モルモン書』と題する神聖な書物がその由来である。しかし，この教会の会員を指すものとして主から与えられた名称は「聖徒」である。この教会の正しい名称は，末日聖徒イエス・キリスト教会である。

モルモン（ニーファイ人の預言者）
「モルモン書」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の預言者，総司令官，記録者。モルモンは紀元311−385年ごろに生きていた（モル1：2，6；6：5−6；8：2−3）。モルモンは15歳のときから，その生涯のほとんどを軍隊の指導者として過ごした（モル2：1−2；3：8−12；5：1；8：2−3）。アマロンはモルモンに，記録の管理と作成の責任を引き受けるために自らを備えるように指示した（モル1：2−5；2：17−18）。モルモンは自分の生涯の出来事を記録してから，モルモンの版に，ニーファイの大版を要約した。後にモルモンはこの神聖な記録を息子モロナイに託し

た。ジョセフ・スミスが『モルモン書』として翻訳した記録の一部がこの版である。

モルモンの言葉：『モルモン書』の中の小書。記録全体の編者であったモルモンは，オムナイ書にあるアマレカイの最後の言葉とモーサヤ書の最初の言葉の間に，この小さな書を挿入した(『モルモン書』巻頭の「『モルモン書』についての概説」を参照)。

モルモン書：『モルモン書』として知られる聖典の中に含まれる独立した1書。第1−2章には，ニーファイ人の預言者アマロンがモルモンに，いつ，どこで版を手に入れるように指示したかが書かれている。また，大規模な戦争が始まったこと，そして民の罪悪のために三人のニーファイ人が取り去られたことも記録されている。第3−4章には，モルモンが民に悔い改めを叫んだものの，彼らの心が鈍く，過去のイスラエルよりもひどい悪事が広がっていたことが記録されている。第5−6章には，ニーファイ人とレーマン人の最後の戦争のことが記録されている。モルモンも多くのニーファイ人とともに殺された。第7章でモルモンは，死ぬ前に，当時の人々と将来の人々に向かって悔い改めを叫んでいる。第8−9章には，モルモンの息子モロナイが最後にただ一人残されたことが書かれている。モロナイは，ニーファイ人の滅亡を含めて，死と殺戮(さつりく)の最後の様子を記録し，また，将来の世の人々とこの記録の読者にあててメッセージを残した。

モルモン書　「エフライム―エフライムまたはヨセフの木」「金版」「証人(モルモン書の)」「スミス，ジョセフ，ジュニア」「正典」「聖文」「版」「モルモン(ニーファイ人の預言者)」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会によって聖典として受け入れられている4巻の聖典の一つ。アメリカ大陸に住んでいた昔の民の記録をモルモンという名の古代の預言者が要約した書。イエスがキリストであることを証(あかし)するために書かれた。神の賜物(たまもの)と力によってこの記録を翻訳した預言者ジョセフ・スミスは，次のように語っている。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり，わたしたちの宗教のかなめ石である。そして，人はその教えを守ることにより，ほかのどの書物にもまして神に近づくことができる。」(『モルモン書』序文を参照)

『モルモン書』は，旧世界からアメリカ大陸へ移住した3つの民の宗教上の記録である。これらの民を導いたのは預言者であり，彼らは金属版に宗教と世俗の歴史を記した。『モルモン書』には，イエス・キリストが復活の後にアメリカ大陸の住民を訪れられたことが記録されている。そのキリストの訪れの後，200年間平和な時代が続いた。

ニーファイ人の最後の預言者兼歴史記録者モロナイは，紀元421年ごろ，これらの民についての要約した記録を封じて隠した。復活したモロナイは，1823年にジョセフ・スミスを訪れ，後にこれらの昔の神聖な記録を彼に託し，それを翻訳させ，イエス・キリストのもう一つの証(あかし)として世に出さ

せた。

ヨセフは実を結ぶ若木。その枝は，かきねを越えるであろう（創世 49：22−26）。まことは地からはえ（詩篇 85：11〔モル 8：16；モセ 7：62〕）。主は旗をあげて遠くから一つの国民（くにたみ）を招き，彼らを呼ばれる（イザ 5：26）。あなたの声は地から出（イザ 29：4〔2 ニフ 26:14−17〕）。このすべての幻は，あなたがたには封じた書物の言葉のようになり（イザ 29：11〔イザ 29：9−18；2 ニフ 27：6−26〕）。ヨセフの木とユダの木は主の手で一つになる（エゼ 37：15−20）。わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある（ヨハ 10：16〔3 ニフ 15：16−24〕）。『モルモン書』と『聖書』が一つに合わされる（2ニフ 3：12−21）。主の言葉は地の果てまで響き渡る（2ニフ 29：2）。主は『モルモン書』をレーマン人に伝えるとエノスに聖約された（エノ 1：15−16）。『モルモン書』は，わたしたちに『聖書』を信じさせるために記録された（モル 7：9）。この書物は世の人々に対する証（あかし）となる（エテ 5：4）。これが真実かどうか神に問うように（モロ 10:4）。キリストは『モルモン書』が真実であると証（あかし）された（教義 17:6）。『モルモン書』にはイエス・キリストの完全な福音が載っている（教義 20：9〔教義 20：8−12；42：12〕）。わたしたちは『モルモン書』が神の言葉であると信じる（箇条 1：8）。

モロナイ（司令官）　「自由の旗」参照

『モルモン書』の中の人物。紀元前 100 年ごろに生きていた，ニーファイ人の軍隊の司令官，義人。

モロナイはニーファイ人の全軍の司令官に任命された（アル 43：16−17）。自由のために戦うように，ニーファイ人の兵を奮い立たせた（アル 43：48−50）。自分の衣で自由の旗を作った（アル 46:12−13）。神の人であった（アル 48：11−18）。政府が国の自由を守るのに冷淡であるということで腹を立てた（アル 59：13）。

モロナイ（モルモンの息子）　「モルモン（ニーファイ人の預言者）」「モルモン書」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の最後の預言者（紀元 421 年ごろ）。モルモンは死ぬ少し前に，モルモンの版という歴史記録を息子モロナイに渡し（モ言 1：1），モロナイがそのモルモンの版の編さんを終えた。彼は，モルモン書に第 8 章と第 9 章を付け加え（モル 8：1），エテル書を要約して版に加え（エテ 1：1−2），さらにモロナイ書という自分自身の記録も付け加えた（モロ 1：1−4）。それから，版を封じて，クモラの丘に隠した（モル 8：14；モロ 10：2）。1823 年，モロナイはジョセフ・スミスに『モルモン書』を現すために，復活体をもって遣わされた（ジ―歴史 1：30−42，45；教義 27：5）。モロナイは 1823 年から 1827 年にかけて，この若い預言者に毎年教えを授け（ジ―歴史 1：54），そしてついに 1827 年，彼に版を渡したのである（ジ―歴史 1:59）。ジョセフ・スミスは翻訳を終えた後，その版をモロナイに返した。

モロナイ書：『モルモン書』の中の最後の書。ニーファイ人の最後の預

言者モロナイによって書かれた。第1−3章には，ニーファイ人の最終的な滅亡と，聖霊と神権の授与についての教えが書かれている。第4−5章には，聖餐の具体的な執行方法が書かれている。第6章には，教会で行われていたことが要約されている。第7−8章は，福音の第一の原則についての説教であり，信仰，希望，慈愛，また善悪の判断の方法に関するモルモンの教えも含まれている（モロ7章）。また幼い子供たちはキリストによって生きており，バプテスマは不要であるとのモルモンの説明も書かれている（モロ8章）。第9章には，ニーファイ人の民の堕落が描かれている。第10章は，モロナイの最後のメッセージであり，『モルモン書』が真実であることを知るための方法も書かれている（モロ10：3−5）。

モロナイハ（司令官モロナイの息子）

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の司令官，義人（紀元前60年ごろ）。

モロナイは，軍の指揮権をモロナイハという名の息子の手にゆだねた（アル62：43）。ゼラヘムラの町を取り返した（ヒラ1：33）。ニーファイ人を悔い改めさせ，レーマン人から所有地の半分を取り返した（ヒラ4：14−20）。

約束の聖なる御霊　「聖霊」参照

聖霊は約束の聖なる御霊である（使徒2：33）。聖霊は人の義にかなった行いや儀式，聖約を，神に受け入れられるものとして確認される。約束の聖なる御霊は，救いの儀式が適切に執行されたこと，またそれに伴う聖約が守られていることを御父に証される。

約束の聖なる御霊によって結び固められる人々は御父が持っておられるすべてを受ける（教義76：51−60〔エペ1：13−14〕）。すべての聖約は，約束の聖なる御霊により結び固められなければ，次の世では効力がない（教義132：7，18−19，26）。

約束の地

主が忠実に従う者やその子孫に受け継ぎとして与えると約束された地。多くの約束の地がある。『モルモン書』でしばしば述べられている約束の地は，アメリカ大陸である。

わたしはあなたの子孫にこの地を与えます（創世12：7〔アブ2：19〕）。わたしはあなたと後の子孫とにカナンの全地を与える（創世17：8〔創世28：13〕）。モーセはカナンでイスラエルの地の境を定めた（民数34：1−12〔民数27：12〕）。約束の地に導かれるであろう（1ニフ2:20〔1ニフ5:5〕）。主は義人を貴い地へ導き（1ニフ17：38）。神の戒めを守るかぎり，リーハイの子孫は約束の地で繁栄する（2ニフ1：5−9）。イスラエルはやがて自分たちの約束の地に帰る（2ニフ24：1−2〔イザ14：1−2〕）。この地を所有する国民はどの国民も神に仕えなければならない。さもなければ，彼らは一掃される（エテ2：9−12）。ここは約束の地であり，シオンの町のための場所である（教義57：2）。ユダの子ら

が，アブラハムに与えられた土地に帰り始めますように（教義 109：64）。新エルサレムがアメリカ大陸に築かれる（箇条 1：10）。

ヤコブ（アルパヨの子）

イエスが地上で務めを果たしておられたときに選ばれた十二使徒の一人（マタ 10：3；マコ 3：18；ルカ 6：15；使徒 1：13）。

ヤコブ（イサクの息子）

「イサク」「イスラエル」「エサウ」参照

『旧約聖書』の中の族長，預言者。イサクとリベカの間に生まれた双子のうちの弟（創世 25：19–26）。ヤコブは兄エサウに代わって長子の特権を得た。これはヤコブがふさわしい生活をし，聖約による結婚をした結果であった。一方，エサウは長子の特権を軽んじ，聖約外の結婚をした（創世 25：30–34；26：34–35；27 章；28：6–9；ヘブ 12：16）。

リベカはエサウがヤコブに仕えるようになることを主から知らされた（創世 25：23）。エサウから長子の特権を買った（創世 25：29–34）。天に通じるはしごの夢を見た（創世 28 章）。レアならびにラケルと結婚した（創世 29：1–30）。12 人の息子と 1 人の娘をもうけた（創世 29：31–30：24；35：16–20）。ビルハならびにジルパと結婚した（創世 30：3–4，9）。名をイスラエルと変えられた（創世 32：28）。顔と顔をあわせて神を見た（創世 32：30）。どの子よりもヨセフを愛した（創世 37：3）。家族とともにエジプトへ行った（創世 46：1–7）。息子たちとその子孫に祝福を授けた（創世 49 章）。ヤコブの死（創世 49：33）。戒めを守り，今はアブラハム，イサクとともに昇栄し，天の王座に着いている（教義 132：37）。

ヤコブ（主の兄弟）

『新約聖書』の中の人物。主の兄弟（ガラ 1：19）。ほかにヨセフ，シモン，ユダという名の兄弟と幾人かの姉妹がいた（マタ 13：55–56；マコ 6：3；ユダ 1：1）。彼はまた，義人ヤコブとしても知られ，エルサレムの教会で重要な地位にあった（使徒 12：17；15：13；1 コリ 15：7；ガラ 2：9–12）。ヤコブの手紙は，彼が書いたと思われる。

ヤコブの手紙：『新約聖書』の中の 1 書。もともとは国外に離散しているイスラエルの十二部族にあてた手紙で，エルサレムから書き送ったと思われる。この手紙には，教えの実践についての幾つかの事柄が明確に宣言されている。その一つに，知恵に不足している者は神に助けを求めるようにという，第 1 章の重要な助言もある（新ヤコ 1：5–6；ジ―歴史 1：9–20）。第 2 章には，信仰と行いについての記述がある。第 3–4 章には，舌を制する必要性と，互いに悪口を言い合ってはならないという聖徒への勧告が記されている。第 5 章には，忍耐強くあり，また病気のときは長老を呼んで祝福を求めるようにとの聖徒への勧めが記されている。さらに，人の改心を助けることによって得られる祝福についても教えられている。

ヤコブ（ゼベダイの子）

イエスが地上で務めを果たしておられたときに選ばれた十二使徒の一人。ヨハネの兄弟。ヤイロの娘の蘇生（マコ 5：37），変貌（マタ 17：1；マコ 9：2；ルカ 9：28），ゲツセマネ（マタ 26：37；マコ 14：33）など，幾つかの重要な場に，イエスとともにいるように選ばれた 3 人の使徒の一人。ペテロおよびヨハネとともに，ジョセフ・スミスを聖任することによって，地上にメルキゼデク神権を回復した（教義 27：12；128：20；ジ―歴史 1：72）。

ヤコブ（リーハイの息子）　「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の預言者。ニーファイ第二書とヤコブ書に記されている幾つかの説教の著者（2 ニフ 6–11 章；ヤコ 1–7 章）。

ヤコブ書：『モルモン書』の 3 番目の書。第 1 章には，ニーファイがヤコブに記録を渡し，その後ヤコブとその弟ヨセフを民を導く祭司と教師に任じたことが記されている。第 2–4 章は，道徳的に清くあるように民を諭す説教である。ヤコブはまた，人類を贖うメシヤの来臨について教え，イスラエルの民の中に地上に来るメシヤを受け入れようとしない人々がいる理由を挙げている。第 5–6 章には，イスラエルの民の歴史と使命に関する預言的な比喩とヤコブの証が記されている。第 7 章には，シーレムという博学な反抗者についての話が載っている。シーレムはヤコブの神聖な証に打ち負かされた。

ヤペテ　「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。預言者ノアの長男（モセ 8：12）。

ノアはヤペテをもうけた（創世 5：32〔創世 6：10；モセ 8：12〕）。ヤペテとその妻は箱舟に入った（創世 7：13）。箱舟から出た（創世 9：18）。神はヤペテを大いならしめ（創世 9：27）。

やもめ　「福祉」参照

夫に先立たれ，再婚していない女性。

孤児と寡婦を呼んで，それを食べさせ，満足させなければならない（申命 14：29）。あの貧しいやもめは，だれよりもたくさん入れたのだ。生活費全部を入れたからである（マコ 12：41–44）。困っている孤児や，やもめを見舞い（新ヤコ 1：27）。主はやもめを虐げる者に対して速やかに証を立てられる（3ニフ 24：5〔ゼカ 7：10〕）。やもめと孤児を扶養しなければならない（教義 83：6〔教義 136：8〕）。

ヤラベアム

『旧約聖書』の中の人物。分裂してできたイスラエルの北王国の初代の王。エフライムの部族。邪悪なヤラベアムはユダの家とダビデの家に対する反乱を指揮した。

ヤラベアムは，民が礼拝するようにダンとベテルに偶像を置いた（列上 12：28–29）。ヤラベアムをアヒヤが叱責した（列上 14：6–16）。ヤラベアムはイスラエルに恐ろしい罪を犯させ

たことで名を知られた（列上15:34〔列上12：30〕）。

ヤレド　「ヤレド人」「ヤレドの兄弟」参照

『モルモン書』の中の指導者。兄弟とともに，バベルの塔から西半球の約束の地へ民を率いた（エテ1：33−2：1）。

ヤレドは彼の兄弟に，自分たちの家族と友人たちの言語を乱さないよう主に祈ってほしいと頼んだ（エテ1：34−37）。海辺まで旅をし，4年間そこに住んだ（エテ2：13）。約束の地へ船出した（エテ6：4−12）。

ヤレド人　「モルモン書」「ヤレド」「ヤレドの兄弟」参照

『モルモン書』の中の民。ヤレドとヤレドの兄弟，また彼らの友人たちの子孫（エテ1：33−41）。バベルの塔から約束の地であるアメリカ大陸へ神によって導かれた（エテ1：42−43；2−3章；6：1−18）。一時は何百万もの民がいたが，悪事に端を発した内乱によって全滅した（エテ14−15章）。

ヤレドの兄弟　「ヤレド」「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の預言者。兄弟とともにバベルの塔から西半球の約束の地へ民を導き，ヤレド人の国の基を築いた（エテ1−6章）。彼は，主と顔と顔を合わせて語るほど偉大な信仰を持っていた（教義17：1）。彼についての話は，エテル書に記録されている。

ヤレドの兄弟は体の大きな強い人であり，主から大いに恵みを受けていた（エテ1：34）。信仰のゆえに，ヤレドの兄弟は主の指を見た（エテ3：6−9〔エテ12：20〕）。キリストがヤレドの兄弟に御自分の霊体を示された（エテ3：13−20）。ヤレドの兄弟に明らかにされたこと以上に大いなることは，いまだかつて明らかにされたことがない（エテ4：4）。ヤレドの兄弟は王政について民に警告を発した（エテ6：22−23）。主はヤレドの兄弟にすべてのものをお見せになった（エテ12：21）。物を書き記す力のある者とされた（エテ12：24）。信仰によってゼリン山を動かした（エテ12：30）。

ヤング，ブリガム

この神権時代の初期の使徒。末日聖徒イエス・キリスト教会の第2代大管長。聖徒たちをイリノイ州ノーブーからソルトレーク盆地へ導いた。また合衆国西部の偉大な植民者であった。

十二使徒巡回評議会を管理する会長として召された（教義124：127）。その働きを褒められ，将来外国に旅をするのを免除される（教義126章）。主は西部への旅のために聖徒たちを編制する方法についてブリガム・ヤングに指示を与えられた（教義136章）。霊界で選ばれた者たちの中にいた（教義138：53）。

勇敢；勇気　「畏（おそ）れ；恐れ」「信仰」参照

恐れないこと。特に正しい行動をするのを恐れないこと。

強く，かつ勇ましくなければならない(申命 31:6〔ヨシ 1:6−7〕)。堅く立って，しるされていることを，ことごとく守って行わなければならない（ヨシ 23：6)。神がわたしたちに下さったのは，臆する霊ではなく（2テモ 1：7)。聞くや，心が奮い立ち（アル 15:4〔アル 62：1〕)。ヒラマンの息子たちは非常に勇敢であった（アル 53：20−21)。わたしはこれまでこのような大いなる勇気を一度も見たことがありません(アル 56：45)。兄弟たちよ，勇気を出してください。勝利に向かって進み，進んでください（教義 128：22)。

誘惑　「悪魔」「選択の自由」「堪え忍ぶ」参照

悪を遠ざけ善を選ぶ力を試されること。罪を犯し，神ではなくサタンに従うように誘われること。

この大祭司は，わたしたちと同じように誘惑に遭われた（ヘブ 4：14−15)。敵対する者の誘惑や火の矢も，彼らを打ち破って盲目とし，滅びに至らせることはない（1ニフ 15：24〔ヒラ 5：12〕)。人は，一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ，思いのままに行動することはできなかった(2ニフ 2：11−16)。自分が耐えられないような誘惑を受けないように，目を覚ましていて絶えず祈りなさい（アル 13：28)。主イエス・キリストを信じる信仰をもって，悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい（アル 37：33)。悪魔に誘惑されないように，常に祈らなくてはならない（3ニフ 18：15，18〔教義 20：33；31：12；61：39〕)。誘惑に陥ることのないように，高慢に気をつけなさい（教義 23：1)。アダムは誘惑に負けたので，悪魔の意に従うことになった（教義 29：39−40)。わたしはあらゆる誘惑を受けるに任された（ジ―歴史 1：28)。

行方の知れない部族　「イスラエル―行方の知れない十部族」参照

ユダ　「イスラエル」「聖書」「ユダヤ人」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの間に生まれた 4 番目の息子（創世 29：35；37：26 − 27；43：3，8；44：16；49：8)。ヤコブはユダに，彼が自分の子らの中にあって生まれながらの指導者となり，シロ（イエス・キリスト）がその子孫から出るであろうとの祝福を授けた（創世 49：10)。

ユダの部族：ユダの部族はカナンに定住した後，指導的役割を果たした。ユダと肩を並べる部族の筆頭はエフライムであった。モーセはユダの部族を祝福した（申命 33：7)。ソロモンの治世後，ユダの部族はユダ王国となった。

ユダ王国：ソロモンの領土は，エフライムとユダの部族間の嫉妬(しっと)がおもな原因で，レハベアムの治世に二つの王国に分裂した。南王国すなわちユダ王国は，ユダの部族と，ベニヤミンの部族の半数以上を含み，エルサレムを都と定めた。ユダ王国は，エホバの礼拝においては総じて北王国よりも忠実であった。また，北方や東方からの攻撃にさらされることも少なかった。そし

て，その統治権は，バビロニア捕囚までダビデの一族の手にあった。人口や勢力において勝るイスラエル王国の滅亡後も，ユダ王国は135年間存続した。

ユダの木：これはユダの家の記録である『聖書』を指している（エゼ37：15−19）。終わりの時に，イスラエルの家から様々に分かれた民が集合するとき，彼らの神聖な記録もまた一つに集められる。これらの神聖な記録は互いに補い合い，一つの証（あかし）となって，イエスがキリストであり，またイスラエルの神，全地の神であられることを宣言する（JS創世50：24−36；2ニフ3；29章）。

ユダ（イエスの兄弟）

『新約聖書』の中の人物。イエスの兄弟の一人。ユダの手紙の著者と思われる（マタ13：55；ユダ1：1）。

ユダの手紙：『新約聖書』の中の1書で，信仰が弱くなっているある聖徒たちにユダが書き送った手紙。その聖徒たちの信仰を弱めていたのは，彼らの中にあってクリスチャンと自称しながら，不道徳な異教礼拝を行い，自分たちは道徳律の適用を受けないと主張する人々であった。ユダはこの聖徒たちの霊的危機感を目覚めさせ，信仰を守り通すように励ましを与えようとした。

ユダの手紙の中で特によく知られているのは，第6節と第14−15節である。第6節には，天上の戦いと，またルシフェルとその使いが前世の状態から追い出されたことが記されており（アブ3：26−28），第14−15節には，エノクの述べた預言が引用されている。

ユダ（イスカリオテの）

『新約聖書』の中の人物。イエスが召された十二使徒の一人（マタ10：4；マコ14：10；ヨハ6：71；12：4）。彼の姓イスカリオテは「ケリオテの人」の意味。ユダの部族の出身であり，当時の使徒の中でガリラヤ人でなかったのはユダだけであった。ユダは主を裏切った。

祭司長たちにキリストを引き渡し，銀貨30枚を受け取った（マタ26：14−16〔ゼカ11：12−13〕）。接吻（せっぷん）して主を裏切った（マタ26：47−50〔マコ14：43−45；ルカ22：47−48；ヨハ18：2−5〕）。首をつって死んだ（マタ27：5）。サタンがユダに入った（ルカ22：3〔ヨハ13：2，26−30〕）。ダビデはユダがイエスを裏切ることを預言していた（使徒1：16〔詩篇41：9〕）。

ユダ（ヤコブの兄弟）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストが最初に召された十二使徒の一人（ルカ6：13−16）。このユダはタダイとも呼ばれていたと思われる（マタ10：2−4）。

ユダの木　「ユダ—ユダの木」参照

ユダヤ人　「イスラエル」「ユダ」参照

ユダヤ人という言葉は次のような意味で用いられる。(1) ヤコブの12人の息子の一人であるユダの子孫。(2) 古代ユダ王国（南王国）の民。(3) 血

統的にユダヤ人かどうかを問わず，ユダヤ教の教えや生活様式，伝統に従う人々。ユダヤ人という言葉でヤコブのすべての子孫を指すことが慣例となりつつあるが，これは誤りである。ユダヤ人という言葉は，ユダ王国の民，また現代においてはもっと限定的に，ユダの部族とそれに連合した部族の民を指すと考えるべきである。

つえはユダを離れず，シロの来る時までに及ぶであろう（創世 49：10）。キリストの福音は，ユダヤ人をはじめ，すべて信じる者に救を得させる神の力である（ロマ 1：16）。主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者すなわちメシヤを立てられる（1ニフ 10：4）。その書物がユダヤ人の口から出て来た当時は，書き記されたことは分かりやすくて純粋であり（1ニフ 14：23）。ユダヤ人はすべての国民の中に散らされる（2ニフ 25：15）。ユダヤ人は昔主が聖約を交わされた民である（2ニフ 29：4）。散らされているユダヤ人もキリストを信じ始め（2ニフ 30：7）。ユダヤ人は，その上に建物を建てることのできる石を拒む（ヤコ 4：14–16）。ユダヤ人は，イエスがまことのキリストであることについて別の証人を与えられる（モル 3:20–21）。終わりの時に，ユダヤ民族に対して二人の預言者が立てられる（教義 77:15）。まず異邦人へ，次いでユダヤ人へと，すべての国民に呼びかけなさい（教義 133：8）。そのときには，ユダヤ人に大きな艱難が起こる（ジ―マタ 1：18）。

夢　「啓示」参照

神が地上の人々に御心を示すのに用いられる一つの方法。しかし，夢がすべて啓示というわけではない。霊感による夢は，信仰の結果として与えられるものである。

ヤコブは夢の中で天に達するはしごを見た（創世 28：12）。ヨセフは夢を見て（創世 37：5）。夢をもって，これと語るであろう（民数 12：6）。ネブカデネザルは夢を見（ダニ 2：1–3）。老人たちは夢を見（ヨエ 2：28〔使徒 2:17〕）。主の使が夢に現れて（マタ 1：20〔マタ 2：19〕）。リーハイは夢で見たことをたくさん書き記した（1ニフ 1：16）。リーハイは夢を見た（1ニフ 8 章）。

赦されない罪　「殺人」「聖霊」「冒瀆；汚す罪」「滅びの子」参照

聖霊を否定する罪。この罪を犯す者は赦しを受けることができない。

聖霊を汚す言葉は，ゆるされることはない（マタ 12：31–32〔マコ 3：29；ルカ 12：10〕）。いったん聖霊にあずかる者となりながら，ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である（ヘブ 6：4–6）。もしわたしたちが，真理の知識を受けたのちにもなお，ことさらに罪を犯しつづけるなら，罪のためのいけにえは，もはやあり得ない（ヘブ 10：26）。あなたがその聖霊を否定するならば，しかも自分で聖霊を否定していることを知っているならば，これは赦されない罪である（アル 39：5–6〔ヤコ 7：19〕）。独り子を否定し，また独り子を自ら十字架につけた者たちは，赦されることはない（教義 76：30–35）。この世でもこの世の

外でも赦されることのない，聖霊に対する冒瀆とは，新しくかつ永遠の聖約を受け入れた後に，罪のない者の血を流すことである（教義 132：26–27）。

赦し　「悔い改め」「告白」「贖罪」「罪の赦し」参照

聖典に出てくる赦しという言葉は，一般に次の二つのうちのどちらかの意味で用いられる。(1) 神が人を赦すとは，罪に対して定められた罰を取り消し，破棄することである。罪の赦しは，キリストの贖罪を通して，悔い改めを行うすべての人に与えられる。しかし，殺人または聖霊に対する赦されない罪を犯した者は除外される。(2) 人が互いに赦し合うとは，互いにキリストのような愛をもって接し，自分を傷つけた人に悪い感情を持たないことである（マタ 5：43–45；6：12–15；ルカ 17：3–4；1 ニフ 7：19–21）。

主は怒ることおそく，いつくしみに富み，罪ととがをゆるす者（民数 14：18）。たといあなたがたの罪は緋のようであっても，雪のように白くなるのだ（イザ 1：18）。わたしたちに負債のある者をゆるしましたように，わたしたちの負債をもおゆるしください（マタ 6：12〔ルカ 11：4；3 ニフ 13：11〕）。人の子は罪をゆるす権威をもっている（マタ 9：6〔マタ 18：35；マコ 2：10；ルカ 5：20–24〕）。兄弟がわたしに対して罪を犯した場合，幾たびゆるさねばなりませんか（マタ 18：21–22〔教義 98：40〕）。聖霊をけがす者は，いつまでもゆるされず（マコ 3：29〔アル 39：6〕）。もしあなたの兄弟が悔い改めたら，ゆるしてやりなさい（ルカ 17：3）。父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです（ルカ 23：34）。赦しを求めて祈るように勧めた（1 ニフ 7：21）。わたしたちが罪の赦しを受けて心が清められるように，キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください（モサ 4：2）。もしその者があなたとわたしの前で罪を告白し，悔い改めるならば，その者をあなたは赦しなさい（モサ 26：29–31）。悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう（教義 1：32）。心を尽くして鎌を入れなさい。そうすれば，あなたの罪は赦されて（教義 31：5〔教義 84：61〕）。自分の罪を悔い改めた者は赦され，主なるわたしはもうそれを思い起こさない（教義 58：42）。わたしは，わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし，あなたがたには，すべての人を赦すことが求められる（教義 64：10）。あなたがたが互いに過ちを赦し合ったので，主なるわたしは同じようにあなたがたを赦す（教義 82：1）。わたしはまた愛する者たちを懲らしめる。それは，彼らの罪が赦されるためである（教義 95：1）。わたしはあなたの背きを赦した（モセ 6：53）。

世　「死すべき状態」「地球（地）」「バビロン；バベル」参照

地球。死すべき人間が試しを受ける場所。象徴的な意味で，神の戒めに従わない人々。

死すべき状態：この世ではなやみがある（ヨハ 16：33）。死に至るまでも恐れてはならない。この世ではあなたがたの喜びは満たされない（教義

101：36)。

戒めに従わない人々：わたしはその悪のために世を罰し（イザ 13：11〔2ニフ 23：11〕）。もしこの世があなたがたを憎むならば，あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを，知っておくがよい（ヨハ 15：18−19)。あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢である（1ニフ 11：36)。見よ，世の罪悪は熟しつつある（教義 18：6)。世の汚れに染まらずに（教義 59：9)。忠実であって堪え忍ぶ者は，世に打ち勝つであろう（教義 63：47)。世の方法によらずに（教義 95：13)。

世の終わり：わたしは新しい地を創造する。さきの事はおぼえられることなく（イザ 65:17〔黙示 21:1;箇条 1:10〕)。毒麦が集められて火で焼かれるように，世の終りにもそのとおりになるであろう(マタ 13:40, 49〔マラ 4:1;ヤコ 6：3〕)。わたしは自分の果樹園を火で焼かせよう（ヤコ 5：77〔教義 64:23−24〕)。わたしは，世の終わりに，サタンと彼の業を滅ぼす (教義 19:3)。地球は死ぬにもかかわらず，再び生かされる（教義 88：25−26)。世の終わりに至るまですべてのことを示された(モセ 7：67)。

良い羊飼い　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは良い羊飼いである。イエス・キリストに従う人は，象徴的な意味で，イエス・キリストの見守りを受けている羊ということができる。

主はわたしの牧者であって（詩篇 23：1)。主は牧者のようにその群れを養い（イザ 40：11)。わたしはわが羊を捜し出し（エゼ 34：12)。わたしはよい羊飼であって（ヨハ 10：14−15)。イエスは羊の大牧者である（ヘブ 13：20)。聖者はその羊を数えられ，羊は聖者を知るようになります（1ニフ 22：25)。良い羊飼いはあなたがたを呼んでおられる（アル 5：38，60)。ついに一つの群れ，一人の羊飼いとなるであろう（3ニフ 15：21〔ヨハ 10：16〕)。

養子縁組　「アブラハム―アブラハムの子孫」「イスラエル」「神の息子, 娘」「キリストの子」参照

聖典には，2 種類の養子縁組について述べられている。

(1) イスラエルの血統に属さない人は，イエス・キリストを信じ，悔い改め，水に沈めるバプテスマを受け，聖霊を受けることによって，アブラハムの家族となり，イスラエルの家の一員となる（2 ニフ 31：17−18；教義 84：73−74；アブ 2：6，11)。

(2) 福音の救いの儀式を受けた人は，引き続き主の戒めに従うことによって，イエス・キリストの息子，娘となる（ロマ 8：15−17；ガラ 3：24−29；4：5−7；モサ 5：7−8)。

幼児のバプテスマ　「子供」「救い―幼い子供たちの救い」「責任を負う」「バプテスマ―幼児には不要」参照

8 歳未満で責任能力がない乳児や子供にバプテスマを施す不必要な慣行。主は幼児のバプテスマを非難しておられる（モロ 8：10−21)。子供は罪のな

い無垢な状態で生まれてくる。サタンは，子供が責任を負えるようになるまでは，彼らを誘惑する力を持たない(教義 29：46−47)。したがって，幼児は悔い改めやバプテスマの必要がない。子供は 8 歳でバプテスマを受けるべきである（教義 68：25−27)。

ヨエル

『旧約聖書』の中の，ユダの地の預言者。生没年は不明であるが，紀元前 850 年より以前のヨアシの治世と，ユダ部族のバビロニア捕囚からの帰還の間に生きていた人物と思われる。

ヨエル書：この書の主題は，ユダの地がひどい干ばつといなごによる被害を受けた後にヨエルが発した預言の中に述べられている（ヨエ 1：4−20)。ヨエルは人々に，悔い改めを通して再び神の祝福にあずかれるようになると励ました（ヨエ 2：12−14)。

第 1 章は，主の家における聖会の招集である。第 2 章には，福千年に先立って起こる戦争と荒廃が述べられている。第 3 章は末日について述べ，すべての国民が戦いをするが，最終的に主はシオンに住まわれると断言している。

ペテロは五旬節の日に，人々に御霊が注がれるというヨエルの預言を引用している（ヨエ 2：28−32；使徒 2：16−21)。天使モロナイもこの聖句を引用してジョセフ・スミスに語った(ジ—歴史 1：41)。

欲望　「肉欲」参照

何かに対する不適切かつ強い願望。

彼女の麗しさを心に慕ってはならない（箴言 6：25)。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫をしたのである（マタ 5：28〔3 ニフ 12：28〕)。男も互にその情欲の炎を燃やし（ロマ 1：27)。ラバンはわたしたちの持っているものを目にし，欲しくてたまらなくなった（1 ニフ 3：25)。これからはもう自分の目の欲を追うことなく（アル 39：3 − 4，9)。情欲を抱いて女を見る者は，信仰を否定するのであり（教義 42：23)。すべてのみだらな欲望を捨てなさい（教義 88：121)。

預言　「女預言者」「啓示」「聖見者」「預言者」参照

人が啓示によって聖霊から受ける神の霊感に満ちた言葉や記録。イエスの証は預言の霊である（黙示 19：10)。預言の内容は，過去，現在，未来を問わない。預言をする者は，神がその人に知ってほしいと望んでおられることを，自らのため，また人々のために語ったり記したりする。人は自分自身の生活のために，預言や啓示を受けることができる。

主の民がみな預言者となることは願わしいことだ（民数 11：29)。あなたがたのむすこ，娘は預言をし（ヨエ 2：28〔使徒 2：17−18〕)。主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない(アモ 3:7)。聖書の預言はすべて，自分勝手に解釈すべきでない（2ペテ 1：20)。ニーファイ人は多くの啓示と預言の霊を授けられていた（ヤコ 4:6，13)。アルマとアミュレクはゼーズロ

ムの心の思いを預言の霊によって知った(アル 12:7)。主はもはや預言によって業を行われることはないと言う者は，災いである（3ニフ 29：6)。イザヤの預言を調べなさい（モル 8：23)。預言はすべて成就する（教義 1：37−38)。人は預言によって，神から召されなければならない（箇条 1：5)。

預言者　「啓示」「聖見者」「長」「預言」参照

神によって召され，神に代わって語る人。神の使いとして神から戒めや預言，啓示を受ける。その責任は，人類に神の御心と真の属性を知らせることと，人類に対する神の計らいの意図するところを示すことである。預言者は罪を非難し，罪のもたらす結果を予告する。預言者は義の説教者である。時には，人類のために将来について予告をするように霊感を受けることがある。しかしながら，預言者の本来の務めは，キリストについて証(あかし)することである。末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は，今日の地上における神の預言者である。大管長会と十二使徒会の会員は，預言者，聖見者，啓示者として支持される。

主の民がみな預言者となることは願わしいことだ（民数 11：29)。もし，預言者があるならば，主なるわたしは幻をもって，これにわたしを知らせ（民数 12：6)。主はすべての預言者によってイスラエルを戒め（列下 17：13〔歴下 36：15−16；エレ 7：25〕)。あなたを立てて万国の預言者とした（エレ 1：5，7)。主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない（アモ 3：7)。聖なる預言者たちの口によってお語りになった（ルカ 1：70〔使徒 3：21〕)。預言者たちは皆，キリストを証(あかし)した(使徒 10：43)。神は教会の中で，人々を立てて，預言者とし（1 コリ 12：28〔エペ 4：11〕)。教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる(エペ 2：19−20)。民は預言者たちの言葉を拒んだ（1 ニフ 3：17−18〔2 ニフ 26：3〕)。すべてのことは御霊(みたま)によって預言者たちに知らされる（1 ニフ 22：1 − 2)。キリストは，聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就するために，ニーファイ人のもとに来られた（3 ニフ 1：13〔教義 42：39〕)。預言者たちの言葉を心に留めようとしない者たちが，民の中から絶たれる（教義 1：14)。預言者たちの言葉を信じる人は永遠の命を得る（教義 20：26−27)。あたかも主御自身の口から出ているかのように，預言者の言葉を受け入れなければならない（教義 21：4−6)。啓示と戒めは，任命された人を通してのみ授けられる（教義 43：1−7)。大管長の義務は，全教会を管理し，モーセのようであることであり，預言者となることである（教義 107：91−92)。わたしたちは，預言者があることを信じる(箇条 1：6)。

預言者の塾　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

主はジョセフ・スミスに，福音と神の王国にかかわるすべてのことについて兄弟たちを訓練するために，1832 年から 1833 年にかけての冬に，オハ

イオ州カートランドで一つの塾を組織するように命じられた。この塾から教会初期の数多くの指導者が出た。ミズーリ州ジャクソン郡では，パーリー・Ｐ・プラットが別に預言者あるいは長老の塾を開いた（教義 97：1–6）。聖徒たちが西部に移住して間もなく，同じような塾が幾つか開かれたが，短期間で姿を消した。福音は今日，家庭や神権定員会，様々な補助組織，また教会が経営する学校やセミナリー，インスティテュートのクラスで教えられている。

自らを聖め，互いに王国の教義を教え合わなければならない（教義 88：74–80）。熱心に求め，互いに教え合いなさい（教義 88：118–122）。預言者の塾の規律が定められる（教義 88：127–141）。大管長会は預言者の塾の鍵を持つ（教義 90：6–7）。

ヨシヤ

紀元前 641–610 年にかけて在位したユダの義にかなった王（列下 22–24 章；歴下 34–35 章）。彼の治世に，主の宮で律法の書が発見された（列下 22：8–13）。

ヨシャパテ

『旧約聖書』の中の人物。ユダの忠実な王（列上 15：24；22 章）。

ヨシュア　「エリコ」参照

『旧約聖書』の中の人物。預言者，指導者，モーセの後継者。イスラエルの子らが脱出する以前にエジプトで生まれた（民数 14：26–31）。ヨシュアとカレブは，ほかの 10 人とともにカナンの地に斥候として送られた。カナンの地について良い報告をしたのは，ヨシュアとカレブだけであった（民数 13：8，17–14：10）。ヨシュアは 110 歳で世を去った（ヨシ 24：29）。ヨシュアは預言者と戦士の両方の務めを忠実に果たした偉大な模範であった。

ヨシュア記：この書はヨシュアの名を冠しているが，それは彼が主要な登場人物だからであり，ヨシュア自身がこれを記録したということではない。ユダヤ人の伝承では，エレミヤが過去の記録に基づいてヨシュア記を書いたとされる。第 1–12 章はカナンの地の征服について述べたものであり，また，第 13–24 章には，イスラエルの部族が土地を分けたこととヨシュアの最後の勧告が記されている。

ヨシュア記で特によく知られている二つの箇所は，聖文について深く考えるようにとのヨシュアに与えられた主の戒め（ヨシ 1：8）と，主に忠実であるようにとのヨシュアの呼びかけ（ヨシ 24：15）である。

ヨセフ（アリマタヤの）

アリマタヤのヨセフはサンヒドリンの議員であるとともに，キリストの弟子でもあった。裕福で忠実なイスラエル人であり，主への罪の宣告には関与しなかった。十字架の刑の後，ヨセフは救い主の遺体をきれいな亜麻布で包み，岩を掘って造った自分の墓に納めた（マタ 27：57–60；マコ 15：43–46；ルカ 23：50–53；ヨハ 19：38–42）。

ヨセフ（マリヤの夫）「イエス・キリスト」「マリヤ（イエスの母）」参照

イエスの母マリヤの夫。ヨセフはダビデの子孫で（マタ 1：1–16；ルカ 3：23–38），ナザレに住んでいた。ヨセフはマリヤと婚約していた。結婚を間近に控えたあるとき，マリヤは天使ガブリエルの訪れを受け，救い主の母になる者として選ばれたことを告げられた（ルカ 1：26–35）。ヨセフもまた，救い主の降誕について啓示を受けた（マタ 1：20–25）。

マリヤは，この世におけるイエスの親としては唯一の人である。父なる神がイエスの父だからである。しかし，ユダヤ人たちはヨセフをイエスの父親であると考え，イエス自身もヨセフにそのように接した（ルカ 2：48，51）。夢の中で天使から警告を受けたヨセフは，エジプトへ逃れて幼な子イエスの命を守った（マタ 2：13–14）。ヘロデの死後，天使はヨセフに，幼いキリストを連れてイスラエルに帰るように告げた（マタ 2：19–23）。

ヨセフ（ヤコブの息子）「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルの間に生まれた最初の息子（創世 30：22–24；37：3）。

ヤコブの最初の妻の長子ルベンが過ちを犯してイスラエルの長子の特権を失ったので，ヨセフはその特権を得た（歴上 5：1–2）。ヨセフはふさわしかったので，ヤコブの 2 番目の妻の長子として，次にその祝福にあずかる順位にいたのである。ヨセフはまた，父ヤコブが死ぬ直前に，彼から祝福を受けた（創世 49：22–26）。

ヨセフは高潔で「さとく賢い」人物であった（創世 41：39）。ポテパルの妻の誘惑を拒んだことは，信仰，純潔，高潔の模範である（創世 39：7–12）。ヨセフはエジプトで兄たちに自分がだれかを明かしたときに，彼らが行ったことを責めず，逆に感謝の気持ちを示した。兄たちの行いが，神の御心を成就する助けになったと信じていたのである（創世 45：4–15）。

末日の啓示は，終わりの時にヨセフの子孫が果たすさらに大きな使命を明らかにしている（JS 創世 50 章；2 ニフ 3：3–24；3 ニフ 20：25–27）。

ヤコブはヨセフを深く愛して，彼のために長そでの着物を作った（創世 37：3）。ヨセフの兄たちは，ねたみからヨセフを憎んで殺そうとしたが，結局エジプトへ行く途中の商人たちに彼を売り渡した（創世 37：5–36）。主はエジプトでヨセフを栄えさせ，彼はポテパルの家をつかさどる者となった（創世 39：1–4）。ポテパルの妻はヨセフが自分を誘惑しようとしたと，うそをつき，ヨセフは無実の罪で投獄された（創世 39：7–20）。ヨセフはパロの給仕役と料理役の夢を解き明かした（創世 40 章）。パロは自分の夢を解き明かしたヨセフを重んじるようになり，エジプト全国のつかさとした（創世 41：14–45）。マナセとエフライムをもうけた（創世 41：50–52）。父や兄弟を迎え入れた（創世 45–46 章）。エジプトにおいて，110 歳で死んだ（創世 50：22–26）。

ヨセフの木「エフライム—エフライ

ムまたはヨセフの木」「モルモン書」参照

ヨナ　「ニネベ」参照

旧約の預言者。ニネベの町に対して悔い改めを説くよう，主に召された（ヨナ 1：1–2）。

ヨナ書：ヨナの生涯の出来事を記した『旧約聖書』の中の 1 書。この書はヨナ自身が記したものではないと思われる。ヨナ書の主題は，エホバは全地を治める御方であり，一つの国または民だけを偏愛する御方ではないということである。

第 1 章には，主がニネベに教えを宣べる召しをヨナに与えられたことが書かれている。ヨナは主から命じられたことに従わず，船で逃げたが，大きな魚にのみ込まれた。第 2 章には，ヨナが主に祈り，魚がヨナを陸に吐き出したことが書かれている。第 3 章には，ヨナがニネベに行き，滅亡を預言したことが書かれている。この結果，人々は悔い改めた。そして第 4 章には，ニネベの民が救われたことで怒っているヨナに対する主の叱責の言葉が記されている。

イエスは，ヨナが魚にのみ込まれたことは御自身の死と復活のしるしであると教えられた（マタ 12：39–40；16：4；ルカ 11：29–30）。

ヨナタン　「サウル（イスラエルの王）」「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの王サウルの息子。ダビデの親友であった（サ上 13–23；31 章）。

予任　「前世」参照

雄々しい霊の子供たちに現世で，ある使命を果たさせるために，神が前世で行われた聖任。

神は民の境を定められた（申命 32：8）。わたしはあなたをまだ胎につくらないさきに，あなたを預言者とした（エレ 1：5）。神はそれぞれに時代を区分された（使徒 17：26）。神はあらかじめ知っておられる者たちを，あらかじめ定めて下さった（ロマ 8：28–30）。天地の造られる前から，キリストにあってわたしたちを選び（エペ 1：3–4）。イエス・キリストは贖い主として予任された（1ペテ 1：19–20〔黙示 13：8〕）。祭司たちは世の初めから召され，備えられていた（アル 13：1–9）。わたしは，初めに選ばれた，高潔で偉大な者たちを見た（教義 138：55–56）。初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子（モセ 4：2）。アブラハムは生まれる前に選ばれた（アブ 3：23）。

世の終わり　「世―世の終わり」参照

ヨハネ（ゼベダイの子）　「使徒」「福音書」「身を変えられた人」「メルキゼデク神権」「黙示録（ヨハネの）」参照

『新約聖書』の中の十二使徒の一人。ゼベダイの子で，ヤコブの兄弟。初めは漁師であった（マコ 1：17–20）。ヨハネ 1：40 に出てくる名前の分からないバプテスマのヨハネの弟子は，このヨハネと思われる。後にイエス・キリストの弟子となる召しを受けた（マタ 4：21–22；ルカ 5：1–11）。ヨハネに

よる福音書と3つの手紙，それに黙示録は，彼の手によるものである。彼は，ヤイロの娘の蘇生（マコ 5：35−42），変貌の山（マタ 17：1−9），ゲツセマネ（マタ 26：36−46）にイエスとともにいた3人の弟子の一人である。ヨハネは自らの記録の中で自分自身を，イエスの愛された者（ヨハ 13：23；21：20），また「もうひとりの弟子」（ヨハ 20：2−8）と述べている。またイエスは，ヨハネとその兄弟をボアネルゲ，すなわち「雷の子」（マコ 3：17）と呼ばれた。十字架の刑と復活に関する記述の中には，ヨハネについての言及が数多く見受けられる（ルカ 22:8；ヨハ 18：15；19：26−27；20：2−8；21：1−2）。ヨハネは後にパトモス島に流刑になり，そこで黙示録を書いた（黙示 1：9）。

ヨハネの名は，末日の啓示の中で何度も述べられている（1ニフ 14：18−27；3ニフ 28：6；エテ 4：16；教義 7章；27：12；61：14；77章；88：141）。これらの聖句は，『聖書』のヨハネの記録を確認するとともに，彼が新約の時代と終わりの時に地上でなすように主から託された業の重要性と，彼自身の偉大さについても理解を与えてくれる。末日の聖典は，ヨハネが死んでおらず，主の再臨の時まで仕える天使として地上にとどまるのを許されたことを明らかにしている（ヨハ 21：20−23；3ニフ 28：6−7；教義 7章）。

ヨハネの手紙：この3つの手紙の著者は自分自身の名前を挙げていないが，言葉遣いが使徒ヨハネと非常によく似ているために，ヨハネによって書かれたと推測されている。

第一の手紙の第1章は，神との交わりにあずかるようにとの聖徒への勧告である。第2章は，聖徒が神を知るのは従順によることを強調し，世を愛さないようにと教えている。第3章は，すべての人に対して，神の子となり，互いに愛し合うように呼びかけている。第4章では，神は愛であり，御自身を愛する者の中に住まわれることが説かれている。また第5章では，聖徒とはキリストを信じることによって神から生まれた者であることが説かれている。

第二の手紙は第一の手紙とよく似ている。ヨハネはこの手紙の中で，「選ばれた婦人」の子供たちが従順であることに喜びを表している。

第三の手紙では，忠実さと，真理を愛する人々を助けたことについて，ガイオという人物をたたえている。

ヨハネによる福音書：『新約聖書』のこの書の中で，使徒ヨハネは以下の事柄を証している。(1) イエスはキリスト，すなわちメシヤである。(2) イエスは神の御子である（ヨハ 20：31）。ヨハネはこの目的を念頭に置いて，イエスの生涯の中の様々な出来事を慎重に選び，配列した。この書は，キリストは神とともにあり，神であり，万物の創造主であった，という前世におけるキリストの状態についての言葉で始まる。キリストは御父の独り子として肉体をもってお生まれになった。ヨハネはイエスの神性と死者の中からの復活を特に強調しながら，イエスの働きの跡をたどった。ヨハネは，奇跡や証，預言者の言葉，キリスト御自身の声を証拠として，イエスが神の御子

であると断言している。またヨハネは，光と闇，真理と誤り，善と悪，神と悪魔を対比しながら教えている。イエスの聖さと支配階級のユダヤ人の不信仰をこれほど分かりやすく述べた記録は，ほかにないであろう。

マタイやマルコ，ルカがガリラヤにおけるキリストの働きに重きを置いて書いているのに対し，ヨハネはユダヤにおける働き，特にこの世で過ごされた最後の週に重きを置いている。この福音書に記録されている幾つかのことが，末日の啓示の中で明確にされた（教義 7 章；88：138−141）。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

黙示録：「黙示録（ヨハネの）」の項を参照。

ヨハネ（バプテスマの）　「アロン神権」参照

『新約聖書』の中の人物。ザカリヤとエリサベツの息子。ヨハネは，人々にメシヤを受け入れる備えをさせるために遣わされた（ヨハ 1：19−27）。アロン神権の鍵を持ち，イエス・キリストにバプテスマを施した。

イザヤをはじめ，預言者たちはヨハネの使命について預言した（イザ 40：3〔マラ 3：1；1 ニフ 10：7−10；2 ニフ 31：4〕）。獄に入れられ，首をはねられた（マタ 14：3−12〔マコ 6：17−29〕）。ガブリエルはザカリヤに，ヨハネの誕生とその働きについて伝えた（ルカ 1：5−25）。イエスは，バプテスマのヨハネは偉大な預言者であると教えられた（ルカ 7：24−28）。イエスを神の子であると証した（ヨハ 1：29−34）。ヨハネの弟子たちはイエスの弟子となった（ヨハ 1：25−29，35−42〔使徒 1：21−22〕）。ヨハネはなんのしるしも行わなかった（ヨハ 10：41）。復活した者として，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリをアロン神権に聖任するために遣わされた（教義 13 章〔教義 27：7−8；ジ―歴史 1：68−72〕）。生後 8 日で神の天使によって聖任された（教義 84：28）。

ヨブ

『旧約聖書』の中の人物。非常な苦しみを受けながらも，忠実に神への信仰の中に踏みとどまった義人。その話はヨブ記に記されている。

ヨブ記：この書はヨブの苦難についての記録であるが，ヨブ（あるいはだれか他の人）の苦しみ，ならびに家族や財産の喪失の理由が何かという問いに対して，すべての答えを与えているわけではない。ヨブ記が明らかにしているのは，苦難は必ずしもその人が罪を犯した結果として受けるのではないということである。主は苦難を罰としてだけではなく，経験や訓練や教育を与えるためにも用いられる（教義 122 章）。

ヨブ記は 4 部に分けることができる。第 1−2 章は全体の序である。第 3−31 章には，ヨブと 3 人の友人の間で交わされた一連の対話が記録されている。第 32−37 章には，4 人目の友エリフの語ったことが載っている。エリフは初めの 3 人とは異なる理由を挙げてヨブを非難した。第 38−42 章はこの書の結びであり，ヨブは自分の生

き方が初めから正しいものであったという確認を得ている。

ヨブ記は，神について正しい知識を持ち，神に受け入れられる生活をするなら，訪れる試練にさらによく耐えられるであろうということを教えている。ヨブの不屈の信仰は，「神がわたしを殺されても，わたしは神を信頼する」（KJ ヨブ 13：15）という言葉によく表れている。ヨブについては，エゼキエル 14：14；新約ヤコブ 5：11；教義と聖約 121：10 でも言及されている。

ヨルダン川

ガリラヤの海から死海に向かって流れる川。ヘルモン山からの幾つかのわき水を集め，約 160㎞の長さがある。イスラエルで最も重要な川である。

この川にまつわる二つの重要な出来事として，イスラエルの民のために主が川の水をせき止められたこと（ヨシ 3：14−17）と，イエス・キリストのバプテスマ（マタ 3：13−17；1 ニフ 10：9）がある。

喜び　「従順；従う」参照

義にかなった生活から得られる非常に幸せな状態。現世の目的はすべての人が喜びを得ることである（2 ニフ 2：22−25）。満ちみちる喜びは，イエス・キリストを通してのみ得られる（ヨハ 15：11；教義 93：33−34；101：36）。

柔和な者は主によって新たなる喜びを得（イザ 29：19〔2 ニフ 27：30〕）。大きな喜びを，あなたがたに伝える（ルカ 2：10）。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない（ヨハ 16：22）。御霊（みたま）の実は，愛，喜び，平和（ガラ 5：22）。その木の実を食べると，わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた（1ニフ 8：12）。人が存在するのは喜びを得るためである（2ニフ 2：25）。義人の喜びはとこしえに満たされる（2ニフ 9：18）。彼らは，決して終わりのない幸福な状態で神とともに住める（モサ 2：41）。この大きな喜びを得るために，わたしは持ち物をすべて捨てよう（アル 22：15）。神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること，これがわたしの誇りであり，喜びである（アル 29:9）。何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか（アル 36：20）。わたしの御霊（みたま）はあなたの霊に喜びを満たすであろう（教義 11：13）。父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか（教義 18：15−16）。この世ではあなたがたの喜びは満たされないが，わたしにあってあなたがたの喜びは満たされるからである（教義 101：36）。わたしはこの世で喜びを受け（モセ 5：10−11）。

弱さ　「謙遜（けんそん）」参照

死すべき状態にあって，能力や体力，技能が不足していること。弱さは死すべき状態に必ず伴うものである。人は皆弱い存在であり，義にかなったことを行う力を受けるのは，ただ神の恵みによる（ヤコ 4:6−7）。この弱さは，個人の短所やもろさとなって表れることがある。

あなたがたは弱った手を強くし（イ

ザ 35：3−4)。心は熱しているが，肉体が弱いのである（マタ 26：41〔マコ 14：38〕)。肉においてのわたしの弱さのためであると申し開きをしよう（1ニフ 19：6)。わたしが，弱点があるにもかかわらず，これらのことを書き記すように命じられた（2ニフ 33：11)。あなたの僕があなたの御前にあって弱いからということで，あなたの僕をお怒りにならないでください（エテ 3：2)。わたしたちの物を書き記す力が弱いので，異邦人はこれらのことをあざけるでしょう（エテ 12：23−25, 40)。わたしは彼らに各々の弱さを示そう（エテ 12：27−28)。あなたは自分の弱さを認めたので，強くされて（エテ 12：37)。あなたがたの中の弱い者は，この後，強くされるであろう（教義 50：16)。イエス・キリストは人の弱さを知っておられる（教義 62：1)。

ラケル　「ヤコブ（イサクの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブの妻（創世 29−31；35 章)。ヨセフとベニヤミンの母。

ラザロ　「マリヤ（ベタニヤの)」「マルタ」参照

『新約聖書』の中の人物。マルタとマリヤの兄弟。イエスはラザロを蘇生させられた（ヨハ 11：1−44；12：1−2, 9−11)。イエスが教えられたたとえに登場する物乞いのラザロとは別の人物（ルカ 16：19−31)。

ラバン（真鍮版の保管者）　「真鍮版」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイと同時代にエルサレムで真鍮版を保管していた。ニーファイとその兄弟たちから財宝を奪い取り，彼らを殺そうとした（1 ニフ 3：1−27)。ニーファイはその版を手に入れるため，ラバンを殺すように御霊に促された（1 ニフ 4：1−26)。

ラバン（リベカの兄）　「リベカ」参照

『旧約聖書』の中の人物。リベカの兄。ヤコブの妻となったレアとラケルの父（創世 24：29－60；27：43－44；28：1－5；29：4－29；30：25－42；31：1－55)。

ラファエル　「天使」参照

万物の回復に関与した主の天使（教義 128：21)。

ラミアンプトム

『モルモン書』に出てくる高い台。ゾーラム人と呼ばれた背教したニーファイ人たちがこの台に上って祈った（アル 31：8−14)。

ラモーナイ　「アンモン（モーサヤの息子)」参照

『モルモン書』の中の人物。レーマン人の王。主の御霊と，アンモンの霊感に満ちた働きと教えによって改宗した（アル 17−19 章)。

リアホナ

『モルモン書』に出てくる真鍮製の

球。羅針盤のように方角を示す2本の指針が付いていた。また，リーハイとその一行が義にかなっていたときには，彼らに霊的な指示も与えた。主はリアホナを授けるとともに，それを通して様々な指示を与えられたのである。

純良な真鍮でできていて，その球の内部には2本の指針がある（1ニフ16：10）。人々の信仰と熱意と注意力に応じて働いた（1ニフ16:28−29〔アル37：40〕）。ベニヤミンはその球を息子にゆだねた（モサ1：16）。その球すなわち指示器はリアホナと呼ばれた（アル37：38）。リアホナはキリストの言葉にたとえられた（アル37：43−45）。『モルモン書』の三人の証人は，リーハイが授かった指示器を目にする（教義17：1）。

リーハイ（ニーファイ人の軍隊の司令官）

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の軍隊の司令官（アル43：35−53；49：16−17；52：27−36；53：2；61：15−21）。

リーハイ（ニーファイ人の宣教師）

「ヒラマン（ヒラマンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。ヒラマンの息子であるヒラマンの息子。偉大な宣教師であった（ヒラ3：21；4：14）。

先祖を思い起こせるように，リーハイと名付けられた(ヒラ5:4−6)。ニーファイとともに,多くの人を改心させ,投獄され，火に囲まれ，天使と語った（ヒラ5：14−48）。日々多くの啓示を受けていた（ヒラ11：23）。

リーハイ（ニーファイの父）

『モルモン書』の中のヘブライ人の預言者。紀元前600年ごろに家族と自分に同行する人々を，エルサレムから西半球の約束の地へと導いた。リーハイは，『モルモン書』に登場する民の最初の預言者であった。

主の命令により，家族とともにエルサレムを脱出した（1ニフ2：1−4）。エジプトに売られたヨセフの子孫であった（1ニフ5：14）。主は彼に命の木の示現をお与えになった（1ニフ8：2−35）。リーハイとその息子たちは1隻の船を造り，西半球へ向けて船出した（1ニフ17−18章）。リーハイとその子孫は新たな地に定住した（1ニフ18：23−25）。死を前にして，息子たちに祝福を授け，キリストについて，また末日に『モルモン書』が出されることについて教えた（2ニフ1−3章；4：1−12）。

リーハイ書:ジョセフ・スミスは『モルモン書』の翻訳に際して，まずリーハイ書から始めた。これは，モルモンがリーハイの版から要約した記録であった。この書を原稿の116ページ分まで翻訳したジョセフは，短期間自分の筆記者として働いたマーティン・ハリスにその原稿を貸し与えた。そして，その原稿は失われてしまった。ジョセフはその分をリーハイ書から再翻訳せず，金版から関連のあるほかの部分を別に翻訳した（教義3章と10章の前書きを参照）。この別の翻訳が『モル

モン書』の最初の 6 つの書である。

リウエル　「エテロ」参照

理解　「真理」「知恵」「知識」参照

生活への応用という点も含めて，真理について知り，その意味を把握すること。

あなたが何を得るにしても，悟りを得よ（箴言 4：7）。イエスは多くのたとえを語られたが，ある人々はそれを理解できなかった（マタ 13：12−17）。イエスは彼らの心を開いて（ルカ 24：45）。あなたがたが理解できないとすれば，それはあなたがたが求めないためである（2ニフ 32：4〔3 ニフ 17：3〕）。これらのものが残されたのは，これを読んで神の奥義を理解するためであって（モサ 1：2−5）。彼らは自分の不信仰のために，神の言葉を理解できなかった（モサ 26：3）。彼らは正しい理解力を備えた人々であり（アル 17：2−3）。これはわたしの心を広げ，わたしの理解力に光を注ぎ（アル 32：28）。あなたがたが理解できるように，わたしたちは論じ合おう（教義 50：10−12, 19−23）。親は子供に，理解するように教えなければならない（教義 68：25）。主の業と奥義は，聖なる御霊（みたま）の力によってのみ理解することができる（教義 76：114−116）。サタンが彼らの心を真理からそらそうとしている（教義 78：10）。キリストの光はわたしたちの理解を活気づける（教義 88：11）。

リグドン，シドニー

回復された当教会の初期の改宗者。1830 年代から 1840 年代初頭にかけての指導者。大管長会の第一顧問として一時期ジョセフ・スミスに仕えた（教義 35 章；58：50，57；63：55 − 56；76：11−12，19−23；90：6；93：44；100：9−11；124：126）。後に背教し，1844 年 9 月に破門された。

離婚　「結婚」参照

国法あるいは宗教上の律法により婚姻関係を解消すること。『新約聖書』によると，神は人々の心がかたくなであったため，幾つかの条件の下に離婚を許された。しかし，イエスが説かれたように，「初めからそうではなかった」のである（マタ 19：3−12）。聖典では一般に，離婚をしないようにとの勧告がなされ，夫と妻に対して，義をもって互いに愛し合うようにとの助言が与えられている（1 コリ 7：10−12；教義 42：22）。

離散　「イスラエル―イスラエルの散乱」参照

律法　「戒め（神の）」「従順；従う」「祝福」「モーセの律法」参照

神が定められた戒め，あるいは定め。天においても地上においても，祝福や罰はすべて律法に基づいて与えられる。神の律法に従う人々は約束された祝福を受ける。預言者ジョセフ・スミスは，人は国法にも従い，それを尊び，支持しなければならないと教えた（箇条 1：12）。

モーセの律法は，人々をキリストに導くための備えの律法であった。モー

セの律法は，制限的規定や規則，儀式を定めたものであった。モーセの律法を成就した現在のキリストの律法は，完全な福音すなわち「完全な自由の律法」（新ヤコ 1：25）である。

神はアダムに数々の戒めを与えられた（創世 1：28；2：16−17）。神はノアに律法を与えられた（創世 9：1）。主のおきては完全であって，魂を生きかえらせ（詩篇 19：7）。立法者であるかたは，ただひとりであって（新ヤコ 4：12）。律法がないところには罰がない（2ニフ 9：25）。律法が与えられている（アル 42：17−22）。人は律法により裁かれる（アル 42：23）。キリストは律法である（3ニフ 15：9）。律法はすべて霊にかかわるものである（教義 29：34）。ジョセフ・スミスは啓示により教会の律法を授けられた（教義 42 章）。神の律法を守る者は，その地の法律を破る必要がない（教義 58：21）。キリストの光は万物を治める律法である（教義 88：7−13）。神は万物に律法を与えられた（教義 88：42−43）。人々は国の法律を守らなければならない（教義 98：4−5）。神から祝福を受けるときは，それが基づく律法に従うことによる（教義 130：20−21）。教会がこの世の法律に関する所信を宣言した（教義 134 章）。全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る（箇条 1：3）。

律法学者

旧約の時代に聖文を筆写する務めを持っていた「書記」（エレ 8：8）が，後に律法を解釈する者になり，新約の時代には「律法学者」と呼ばれるようになった（マタ 13：52；マコ 2：16−17；11：17−18；ルカ 11：44−53；20：46−47）。

リバティーの監獄（ミズーリ州）　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

1838 年 11 月から 1839 年 4 月にかけて，預言者ジョセフ・スミスと幾人かの人々が不当に収監された小さな監獄。この困難な状況の中で，ジョセフ・スミスは幾つかの啓示を受け，預言をし，聖徒たちに重要な手紙を書き送るように霊感を受けた。それらの一部が教義と聖約第 121−123 章に収められている。

リベカ　「イサク」参照

『旧約聖書』の中の人物。族長イサクの妻（創世 24−27 章）。エサウとヤコブの母（創世 25：23−26）。

リムハイ　「ノア（ゼニフの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイの地に住んでいたニーファイ人の義にかなった王。ノア王の息子（モサ 7：7−9）。リムハイ王は神に仕えるという聖約を交わした（モサ 21：32）。リムハイは民をレーマン人の束縛から導き出し，ゼラヘムラに帰った（モサ 22 章）。

良心　「光；キリストの光」参照

すべての人にキリストの光から来る心の中の善悪の感覚（モロ 7：16）。キリストの光がすべての人に与えられているので，人は生まれながらに善悪

をわきまえる能力を持っている（教義 84：46）。人はこの能力があるために，責任を負う存在となっている。他の能力と同じように，良心も罪や誤用によってその働きが鈍くなることがある。

律法学者たちやパリサイ人たちは良心のとがめを感じた（ヨハ 8：9）。彼らの良心も共にあかしをして（ロマ 2：14−15）。背教者は良心に焼き印を押されている（1テモ 4：2）。人は善悪をわきまえることを十分に教えられている（2ニフ 2：5）。ベニヤミン王は神の前で澄んだ良心を持っていた（モサ 2：15）。ニーファイ人は良心の安らぎを得たので，喜びに満たされた（モサ 4：3）。ゼーズロムは，自分の罪を自覚して心をひどく苦しめた（アル 14：6）。喜びを望もうと良心のとがめを望もうと，自分の望むままに与えられる（アル 29：5）。罰が定められ，公正な律法が与えられて，それらが人に良心のとがめを生じさせた（アル 42：18）。善悪をわきまえることができるように，すべての人にキリストの御霊（みたま）が与えられている（モロ 7：16）。各個人は良心の自由な行使が保証されなければならない（教義 134：2）。わたしの良心は責められることがない（教義 135：4）。わたしたちは，自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し（箇条 1：11）。

ルカ　「使徒行伝」「福音書」参照

『新約聖書』のルカによる福音書と使徒行伝の著者。パウロの伝道の同僚。ギリシャ人を両親として生まれ，医者であった（コロ 4：14）。ルカはかなりの教育を受けた人物であった。彼自身の言葉によると，トロアスで使徒パウロと合流し，その同僚になったという（使徒 16：10−11）。パウロのエルサレムへの最後の旅においても，ルカはピリピでパウロと行動を共にした（使徒 20：6）。また二人は，ローマに着くまで一緒であった。ルカはまた，パウロのローマにおける 2 度目の投獄のときも一緒にいた（2 テモ 4：11）。言い伝えによると，彼は殉教したとのことである。

ルカによる福音書：ルカがイエス・キリストとその現世の働きについて書いた記録。使徒行伝は，ルカによる福音書の続編である。ルカは，イエスがユダヤ人にとっても異邦人にとっても救い主であることを述べ，イエスの働きについて詳細な記録を残した。ルカはイエスの教えと行いについて多くのことを書き記した。ルカによる福音書のみに記述が見られるものとして，以下のものが挙げられる。ザカリヤとマリヤへのガブリエルの訪れ（ルカ 1 章），幼な子イエスへの羊飼いの来訪（ルカ 2：8−18），イエスが 12 歳のときの神殿での出来事（ルカ 2：41−52），七十人の選任と派遣（KJ ルカ 10：1−24），イエスが血の汗を流されたこと（ルカ 22：44），十字架上でのイエスと犯罪人の会話（ルカ 23：39−43），イエスが復活後に魚を食べられたこと（ルカ 24：42−43）。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

ルシフェル　「悪魔」「地獄」「反キリ

スト」「滅びの子」「滅ぼす者」参照

ルシフェルという言葉には，「光り輝く者」あるいは「光を持つ者」の意味がある。「暁の子」としても知られている。ルシフェルは天の御父の霊の息子の一人であり，前世で反逆を指揮した。ルシフェルという名が『聖書』に出てくるのはイザヤ 14：12 に 1 度だけであるが，日本語訳『聖書』では「黎明（れいめい）の子」と訳されている。末日の啓示は，ルシフェルの堕落についてさらに詳細に伝えている（教義 76：25−29）。

前世で落ちてしまった（イザ 14：12〔ルカ 10：18；2 ニフ 24：12〕）。落とされてから，サタンすなわち悪魔となった（教義 76：25−29〔モセ 4：1−4〕）。

ルツ　「ボアズ」参照

『旧約聖書』の中の人物。モアブ人。イスラエル人であるナオミとエリメレクの息子の妻。夫の死後，ルツはナオミの親戚（しんせき）ボアズと再婚した。ルツとボアズの子オベデは，ダビデとキリストの先祖に当たる。ルツの物語は，イスラエル人でない者が改心してイスラエルの群れに加わった次第を美しく描いている。ルツは自分の神や生活を捨てて，イスラエルの神に仕え，その信仰の家族に加わったのである（ルツ 1：16）。

ルツ記：第 1 章には，モアブでのエリメレクとその家族の生活が描かれている。夫たちの死後，ナオミとルツはベツレヘムに移った。第 2 章には，ルツがボアズの畑で落ち穂拾いをしたことが述べられている。第 3 章には，ナオミがルツに打ち場へ行ってボアズの足もとで寝るように告げたことが書かれている。第 4 章は，ルツとボアズの結婚について記している。二人はオベデという息子を得た。ダビデとキリストはこのオベデの子孫である。

ルベン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの長男（創世 29：32；37：21−22，29；42：22，37）。ルベンは長子であったが，罪のために長子の特権を失った（創世 35：22；49：3−4）。

ルベンの部族：ヤコブがルベンに授けた祝福は，創世 49：3 と申命 33：6 に記されている。この部族は民の数が次第に減り，部族としては存続したものの，政治的な影響力は低下していった。ルベンの長子の特権は，ヨセフがヤコブの 2 番目の妻ラケルの長男であったため，ヨセフとその子孫に移った（歴上 5：1−2）。

レア　「ヤコブ（イサクの息子）」「ラバン（リベカの兄）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ラバンの長女。ヤコブの妻の一人（創世 29 章）。レアは 6 人の息子と 1 人の娘の母となった（創世 29：31−35；30：17−21）。

霊　「死（肉体の）」「人」「人（霊を持つ存在としての）」「復活」参照

現世に生まれる前に存在し，現世で肉体に宿り，死後復活の時まで分離し

た状態で生きて存在する要素。すべての生き物，すなわち，人間や動物，植物は，地上に生物が存在する前に霊として存在していた（創世 2：4−5；モセ 3：4−7）。霊体の形は肉体に似ている（1 ニフ 11：11；エテ 3：15−16；教義 77：2；129 章）。霊は物質であるが，この世の元素や物質より微細で純粋である（教義 131：7）。

人は皆文字どおり神の息子，娘であり，地上の肉による両親のもとに生まれる前に，天の両親の間に霊として誕生している（ヘブ 12：9）。地上に生を受けている人は皆，骨肉の体のほかに不滅の霊の体を持っている。聖典の中で何度か定義されているように，霊と肉体が一つになって霊を持つ存在としての人が形成されているのである（創世 2：7；教義 88：15；モセ 3：7, 9, 19；アブ 5：7）。霊は肉体がなくても生きることができるが，肉体は霊なしに生きられない（新ヤコ 2：26）。肉体の死とは，霊が肉体から分離することである。復活の時に，霊はかつて現世で結びついていた同じ骨肉の体と再結合するが，復活体は次の二つの点で現世の体と著しく異なる。第 1 に，霊と肉体が再び分離することは決してなく，第 2 に，その体は不死不滅で完全な状態である（アル 11：45；教義 138：16−17）。

霊には肉や骨はないが，あなたがたが見るとおり，わたしにはあるのだ（ルカ 24：39）。御霊（みたま）みずから，わたしたちの霊と共に，わたしたちが神の子であることをあかしして下さる（ロマ 8：16）。自分の体をもって，また自分の霊をもって，神の栄光を表しなさい（KJ1コリ 6：20）。この体は，わたしの霊の体である（エテ 3：16）。人は霊である（教義 93：33）。キリストはパラダイスの義人の霊の中で教えを授けられた（教義 138：28−30〔1 ペテ 3：18−19〕）。あなたがたは水と血と，霊とによってこの世に生まれ（モセ 6：59）。神は霊であったこれらの者の中に立って（アブ 3：23）。

悪霊：イエスは多くの悪霊を追い出された（マコ 1：27，34，39）。けがれた霊よ，この人から出て行け（マコ 5：2−13）。悪霊は祈ってはならないと人に教える（2ニフ 32：8）。彼は，イエスの名によって悪霊と汚れた霊を追い出し（3ニフ 7：19）。偽りの霊である多くの霊がおり，世の人々を欺いている（教義 50：2，31−32）。ジョセフ・スミスは，霊が神からのものか悪魔からのものかを見分ける 3 つの鍵（かぎ）について説明した（教義 129 章）。

霊界　「地獄」「前世」「パラダイス」参照

霊感　「啓示」「聖霊」参照

神から与えられる神聖な導き。霊感は御霊（みたま）により，しばしば様々な方法で人の思いと心にもたらされる。

火の後に静かな細い声が聞えた（列上 19：12）。聖霊は，あなたがたにすべてのことを教え（ヨハ 14：26）。真理の御霊（みたま）は，あなたがたをあらゆる真理に導いてくれる（ヨハ 16：13）。わたしは，前もって自分のなすべきことを知らないまま，御霊（みたま）に導かれて行った（1ニフ 4：6）。主の声がわたしの

思いに告げて（エノ 1：10）。善を行うように誘い，促すものはすべて，神の霊感を受けているのである（モロ 7：13–16）。わたしはあなたの心に平安を告げなかったであろうか（教義 6：23）。わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう（教義 8：2）。わたしの御霊はあなたの思いを照らし，あなたの霊に喜びを満たすであろう（教義 11：13）。あなたが語り，また書き記すべきことは，まさにその瞬間にあなたに与えられるであろう（教義 24：6〔教義 84：85〕）。静かな細い声は万物を貫き通してささやく（教義 85：6）。

霊の獄　「地獄」参照

霊の死　「死（霊の）」参照

霊の創造　「創造；創造する」「人」参照

主は万物を物質的に創造する前に，霊的に創造された（モセ 3：5）。

植物が地にある前に，主はそれらを造られた（創世 2：4–6〔アブ 5：5〕）。わたしの御霊の力によって，わたしは霊的なものと物質的なものの両方についてすべてのものを創造した（教義 29：31–32）。現世のものは霊のものの形である（教義 77：2）。わたしは世界を造り，また人々を，彼らが肉体にある前に造った（モセ 6：51）。

礼拝　「神；神会」参照

神への愛や敬虔な思い，奉仕，献身（教義 20：19）。礼拝には，祈りや断食，教会での奉仕，福音の儀式に加わること，また神への献身と愛を示す行いも含まれる。

あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない（出エ 20：3〔出エ 32：1–8，19–35；詩篇 81：9〕）。霊とまこととをもって父を礼拝する（ヨハ 4：23）。天と地とを造られたかたを，伏し拝め（黙示 14:7〔教義 133：38–39〕）。あなたがたの勢力と思いと力を尽くし，キリストを拝さなければならない（2ニフ 25：29）。キリストを信じ，キリストの名によって御父を拝した（ヤコ 4：5）。ゼノスは，人はどのような所にいても，祈り，礼拝しなければならないと教えた（アル 33：3–11）。どこにいても霊とまことをもって神を礼拝するように（アル 34：38）。彼らはイエスの足もとに伏して，イエスを拝した（3ニフ 11：17）。すべての人は悔い改めてイエス・キリストの名を信じ，イエス・キリストの名によって御父を礼拝し（教義 20：29）。あなたがたが礼拝する方法を理解して知り，また自分が礼拝するものを知ることによって（教義 93：19）。わたしはこの唯一の神のみを礼拝する（モセ 1:12–20）。わたしたちは，全能の神を礼拝する特権があると主張し（箇条 1：11）。

レーマン　「リーハイ（ニーファイの父）」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイとサライアの長男。ニーファイの長兄（1 ニフ 2：5）。レーマンは善よりも悪を選ぶ傾向が強かった。

レーマンは多くのことで父に対して

つぶやいた（1ニフ 2：11−12）。義人である弟のニーファイに背いた（1ニフ 7：6〔1ニフ 3：28−29〕）。リーハイの示現の中で，命の木の実を食べなかった（1ニフ 8：35−36）。のろいがレーマンと彼に従う者たちに下された（2ニフ 5：21〔アル 3：7〕）。

レーマン人　「ニーファイ人」「モルモン書」「レーマン」参照

『モルモン書』の中の民。その多くはリーハイの長男レーマンの子孫である。レーマン人は，ニーファイとその子孫から不当な扱いを受けたと考えていた（モサ 10：11−17）。その結果，彼らはニーファイ人に敵対し，しばしば福音の教えを拒んだ。しかし，キリスト降誕の直前に，レーマン人は福音を受け入れ，ニーファイ人よりも義にかなった民になった（ヒラ 6：34−36）。キリストのアメリカ大陸への訪れから 200 年後，レーマン人とニーファイ人はともに邪悪な民となり，互いに戦うようになった。紀元 400 年ごろに，レーマン人はニーファイ人の国家を完全に滅ぼした。

ニーファイの子孫を打ち負かした（1ニフ 12：19−20）。ニーファイ人を憎んだ（2ニフ 5：14）。ニーファイ人にとって鞭（むち）となる（2ニフ 5:25）。『モルモン書』はレーマン人に，彼らの先祖とキリストの福音についての知識を再び得させる（2ニフ 30：3−6〔『モルモン書』のタイトルページ〕）。レーマン人はユダヤ人の残りの者である（教義 19：27）。主の大いなる日が来る前に，レーマン人はばらのように花咲くであろう（教義 49：24）。

歴代志

『旧約聖書』の中の 2 書。天地創造から始まり，クロスが布告によってユダヤ人のエルサレム帰還を許したときに至るまで，数々の出来事を簡潔に記した歴史記録。

歴代志上：第 1−9 章には，アダムからサウルに至るまでの系図が記されている。第 10 章にはサウルの死，第 11−22 章にはダビデの統治に関連する出来事が記録されている。第 23−27 章にはソロモンの王位継承とレビ人の職務編成，第 28 章にはダビデがソロモンに与えた神殿建設の命令，第 29 章にはダビデの死が記録されている。

歴代志下：第 1−9 章には，ソロモンの統治に関連する出来事が記録されている。第 10−12 章には，イスラエル統一王国が南王国と北王国に分裂した，ソロモンの息子レハベアムの治世について記録されている。第 13−36 章には，ネブカデネザルによりユダ王国が征服されるまでの様々な王（とら）の統治が記録されている。そして，囚われの状態のユダの子らにエルサレム帰還を許したクロス王の布告で締めくくられている。

列王紀　「年表」参照

『旧約聖書』の中の 2 書。列王紀には，ダビデ王の 4 番目の息子アドニヤの反乱（紀元前 1015 年ごろ）から，ユダが最終的に捕囚となるまで（紀元前 586 年ごろ）のイスラエルの歴史が描かれている。また，王国の分裂からアッシリア（アッスリヤ）によって北の地に連れ去られて捕囚となるまでの

北王国（イスラエルの十部族）の全歴史が含まれている。

列王紀上：第1章には，ダビデの晩年が描かれている。第2−11章には，ソロモン王の生涯が記録されている。第12−16章には，ソロモンの後を継いで王となったレハベアムとヤラベアムのことが述べられている。ヤラベアムはイスラエル王国の分裂を引き起こした。また，その他の王たちのことも記されている。第17−21章には，イスラエルの王アハブへの勧告など，エリヤの働きの一部が書かれている。第22章には，アハブとユダの王ヨシャパテが同盟して行ったスリヤとの戦争が記録されている。預言者ミカヤは王たちに下る災いを預言した。

列王紀下：第1章には，エリヤのことが引き続き述べられている。第2−9章には，信仰と偉大な力によるエリシャの働きが記されている。第10章には，エヒウ王について，また彼がアハブの家とバアルの祭司たちをどのようにして滅ぼしたかが述べられている。第11−13章には，ヨアシの義にかなった治世と，エリシャの死が記録されている。第14−17章には，イスラエルやユダを治めた王たちのことが述べられている。彼らは邪悪な統治をすることが多かった。第15章には，イスラエルの十部族がアッシリア（アッスリヤ）の捕囚となったことが記録されている。第18−20章には，ユダの王ヒゼキヤの義にかなった生き方と，預言者イザヤのことが記されている。第21−23章には，マナセ王とヨシヤ王のことが述べられている。言い伝えによると，イザヤの殉教を引き起こしたのはマナセである。ヨシヤは義にかなった王で，ユダヤ人の間に律法を再び確立した。第24−25章には，バビロニア捕囚のことが記されている。

レハベアム　「ソロモン」参照

『旧約聖書』の中の人物。ソロモン王の息子。父の後を継ぎ，エルサレムで17年間統治した（列上11：43；14：21，31）。レハベアムの治世に，王国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した（列上11：31−36；12：19−20）。レハベアムはユダ王国を治めた。

レビ　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの間に生まれた3番目の息子（創世29：34；35：23）。レビはイスラエルの一つの部族の始祖となった。

レビの部族：ヤコブはレビとその子孫に祝福を授けた（創世49：5−7）。レビの子孫はイスラエルの聖所における務めを果たした（民数1：47−54）。アロンはレビ人で，彼の子孫は祭司であった（出エ6：16−20；28：1−4；29章）。レビ人は祭司であるアロンの息子たちを助けた（民数3：5−10；列上8：4）。レビ人は時には音楽を奏したり（歴上15：16；ネヘ11：22），犠牲の動物をほふったりしたが（歴下29：34；エズ6：20），普通は神殿の務めを果たしていた（ネヘ11：16）。レビ人は主の務めをなす者としてささげられ，イスラエルの子らのための儀

式を執行した。レビ人自身が，イスラエルの子らに代わってささげられたのである（民数 8：11−12）。それによってレビ人は長子の身代わりとして主にささげられ，特別に神に属する者となったのである（民数 8：16）。彼らは聖別はされなかったが，その務めのために清められた（民数 8：7−16）。レビ人はカナンで受け継ぎの土地を持たなかったが（民数 18：23−24），十分の一（民数 18：21）と，48 の町（民数 35：6）と，祭日に民の施しにあずかる権利（申命 12：18−19；14：27−29）を受けた。

レビ記　「五書」参照

『旧約聖書』の中の 1 書。イスラエルの祭司の義務について述べたもの。神の聖さと，民が聖い者となるために守るべき掟を強調している。この書の目的は，儀式を通して，モーセの律法の中の道徳的概念と宗教的真理を教えることにある。レビ記はモーセによって書かれた。

第 1−7 章には，犠牲の儀式が説明されている。第 8−10 章には，祭司を聖別するために行う儀式が説明されている。第 11 章には，食べてよいものとよくないもの，また，清いものと汚れているものについての説明がある。第 12 章には，産後の女性に関する規定が記されている。第 13−15 章には，汚れの清めに関する規定が記されている。第 16 章には，贖罪の日に行う儀式が記されている。第 17−26 章には，信仰生活，社会生活上の規定が記されている。第 27 章には，主がイスラエルに，収穫物や家畜をささげるよう命じられたことが書かれている。

レビ神権　「アロン神権」参照

レムエル　「リーハイ（ニーファイの父）」「レーマン」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの次男。ニーファイの兄の一人。レーマンと一緒になってニーファイに反対した。

リーハイはレムエルに，谷のように確固としているように諭した（1ニフ 2：10）。ニーファイに腹を立て，レーマンの言葉に聞き従った（1ニフ 3：28）。レムエル人はレーマン人の中に数えられた（ヤコ 1：13−14〔アル 47：35〕）。

ローマ　「ローマ帝国」参照

『新約聖書』に出てくるローマ帝国の首都（使徒 18：2；19：21；23：11）。イタリアのティベル川沿いに築かれた。パウロはローマ政府の下で囚われの身となっていたときに，ローマで福音を教えた（使徒 28：14−31；ロマ 1：7，15−16）。

ローマ帝国　「ローマ」参照

古代ローマの帝国。使徒の時代に，ローマ帝国は世界の一大勢力であった。ユーフラテス川，ドナウ川，ライン川，大西洋，サハラ砂漠に囲まれた全域を領有していた。パレスチナは紀元前 63 年ポンペイウスのエルサレム攻略により，ローマの属州となった。ローマ人はユダヤ人に数多くの特権を与えたが，ユダヤ人はローマの統治を

嫌い，絶えず反乱を起こした。

ローマ市民であったパウロは，帝国内で最も広く話されていたギリシャ語を用いて，福音を帝国中に宣べ伝えた。

カイザルのものはカイザルに返しなさい（マタ 22：17–22）。パウロはローマ市民としての権利を主張した（使徒 16：37–39〔使徒 22：25–29〕）。

ローマ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。パウロがローマの聖徒たちに書き送った手紙。パウロはエルサレムへ行くことを考えていたが，その旅が危険なものとなるのは確実であった。パウロは危機を脱したら，その後でローマに行くことを望んでいた。この手紙には，ローマに着いたときに自分を受け入れる備えを教会員にさせる意図が含まれていた。またこの手紙には論争の的になっていた幾つかの教義に関する明確な主張が載っていると考えられている。パウロはそれらの問題については最終的な決着がついていると考えていた。

第 1 章には，ローマ人へのパウロのあいさつが書かれている。第 2–11 章では，信仰や行い，憐れみの教義について幾つかの主張がなされている。第 12–16 章には，愛，義務，聖さについての実際的な教えが述べられている。

ロト　「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の人物。ハランの息子で，アブラハムのおい（創世 11：27，31；アブ 2：4）。ハランはウルの地で飢饉のために死んだ（アブ 2：1）。ロトはアブラハム，サラとともにウルを去り，カナンへの旅に出た（創世 12：4–5）。ロトは自ら選んでソドムに住んだ。主はロトに使いを送り，民の悪事のゆえにソドムを滅ぼすに先立ち，ソドムから逃れるように警告された（創世 13：8–13；19：1，13，15）。しかし，振り返ってソドムの滅亡を見たロトの妻は塩の柱となった（創世 19：26）。『新約聖書』にはロトについての幾つかの記述がある（ルカ 17：29；2 ペテ 2：6–7）。アブラハムと別れてから後のロトの生涯については，創世 13；14；19 章に描かれている。

わたしは有る　「イエス・キリスト」「エホバ」参照

主イエス・キリストの呼び名の一つ。

神はモーセに言われた，「わたしは，有って有る者」（出エ 3：14–15）。わたしは主である（出エ 6：2–3）。アブラハムの生れる前からわたしは，いる（ヨハ 8：56–59）。わたしは有るという大いなる者，イエス・キリストの声を聴きなさい（教義 29:1〔教義 38:1；39：1〕）。

聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）

以下は，『欽定訳聖書』のジョセフ・スミス訳（JS）を抜粋したものである。主は預言者ジョセフ・スミスに，原語で書かれた後に失われたり，書き変えられたりした『聖書』の本文について，真理を回復するように霊感をお与えになった。これらの回復された真理は，教義を明確にし，聖句への理解を深めてくれる。ガイドに収められた聖句は，翻訳された言語が何であれ，読者の聖句への理解を深めるであろう。

主がジョセフ・スミスに啓示されたのは，原記録者がかつて記録した真理そのものである。この点で，ジョセフ・スミス訳は世にある他の聖書翻訳と趣を異にする。この意味から，ここでの「訳」という言葉は，通常の場合よりももっと広義の，異なった意味で用いられていると言える。ジョセフ・スミスの翻訳は，ある言語から別の言語への逐語訳ではなくて啓示だからである。ジョセフ・スミス訳についての詳細は，ガイドの「ジョセフ・スミス訳（JS）」の項を参照されたい。

以下はジョセフ・スミス訳の例である。

この太字の箇所は，ジョセフ・スミス訳の聖句の箇所を示している。ジョセフ・スミス訳は『聖書』の本文を修復したものであるため，節番号が一般の『聖書』と異なることがある。

JS マタイ 4：1，5－6，8－9（マタイ 4：1，5－6，8－9 と比較せよ。ルカ 4：2，5－11 でも，同様の変更が行われた。）

括弧内は『聖書』の対照箇所を示している。

（イエスは，サタンによってではなく，御霊によって導かれた。）

この翻訳によってジョセフ・スミスがどのような教義を明らかにしたかの説明。

1　さて，イエスは御霊によって荒れ野に導かれた。神とともにいるためである。

5　それから，イエスは聖なる都に連れて行かれた。そして，御霊がイエスを宮の頂上に立たせられた。

6　そのとき，悪魔がイエスのもとに来て言った。「もしあなたが神の子であるなら，飛び降りてごらんなさい。『神があなたのために天使たちにお命じになると，あなたの足が石に打ちつけられないように，彼らはあなたを手で支えるであろう』と書いてありますから。」

ジョセフ・スミスの翻訳による本文。

JS創世9：10−15（創世9：4−9と比較せよ）

（人は，殺人とみだりに動物を殺すことについて将来責任を負うことになる。）

10　しかし，わたしがあなたがたに食物として与えたすべての肉の血は，その命を受ける大地に流すべきであって，あなたがたはその血を飲んではならない。
11　また，あなたがたの命を保つための食物とするときのほかは，決して血を流してはならない。わたしはすべての獣の血について，あなたがたの手にその血の値を要求する。
12　また，人の血を流す者は，人に血を流される。人は人の血を流してはならないからである。
13　わたしは戒めを与える。人の兄弟は皆，人の命を保つようにしなければならない。わたし自身の形に，わたしが人を造ったからである。
14　また，わたしは戒めをあなたがたに与える。あなたがたは，生めよ，増えよ，地に群がり，地の上に増えよ。」
15　また，神はノアと，彼とともにいる息子たちとに言われた。「わたしは，見よ，あなたがたと聖約を立てよう。それは，あなたがたの後の子孫について，わたしがあなたがたの先祖エノクと立てたものである。

JS創世9：21−25（創世9：16−17と比較せよ）

（エノクとノアへの神の聖約を思い出させるものとして，天ににじが置かれた。終わりの時に，長子の教会の総集い〔エノクの時代の主のシオン。モーセ7章参照〕が地上の義人と一つになる。）

21　そして，にじが雲の中に現れる。わたしはそれを見て，あなたの先祖エノクに立てた永遠の聖約を思い起こすであろう。その聖約は，人々がわたしの戒めをすべて守るとき，シオン，すなわち，わたしがわたし自身のもとに取り上げたエノクの町が，再び地上に降るというものである。
22　わたしの永遠の聖約はこれである。すなわち，あなたの子孫が真理を受け入れて仰ぎ見るとき，シオンは見下ろし，もろもろの天は歓喜に揺れ，地は喜びに震えるであろう。
23　そして，長子の教会の総集いが天から降って来て，地を所有し，終わりが来るまでその場所を得るであろう。これが，わたしがあなたの先祖エノクと交わした永遠の聖約である。
24　にじが雲の中に現れるであろう。そしてわたしは，将来地上にあるすべての肉なる生き物のために，わたしとあなたとの間に立てた聖約をあなたに立てるであろう。」
25　そして神はノアに言われた。「これが，将来地上にあるすべての肉なるもののために，わたしがわたしとあなたとの間に立てた聖約のしるしである。」

JS創世14：25−40（創世14章と比較せよ）

（メルキゼデクの大いなる務めについて述べられる。メルキゼデク神権の権威と祝福が説明される。）

25　メルキゼデクは声を上げて，アブラムを祝福した。

26 さて，メルキゼデクは信仰の人であり，義を行った。子供のころ，彼は神を畏れ，ライオンの口を封じ，猛火を鎮めた。

27 こうして彼は神から認められ，神がエノクと交わされた聖約の位に従う大祭司に聖任された。

28 それは，神の御子の位に従うものであり，その位は人によらず，人の意志によらずに与えられたもので，父も母もなく，日の初めも年の終わりもない。それは神から来たものであった。

29 それは，神御自身の声の召しにより，神御自身の御心に従って，人々に，すなわち神の名を信じるすべての人に与えられた。

30 神御自身がエノクと彼の子孫に固く誓っておられたからである。この位と召しに従って聖任された人は皆，信仰により，山々を崩し，海を分け，水を干上がらせ，その流れを変える力を持つであろう。

31 また，もろもろの国の軍勢をものともせず，地を分け，あらゆる縄目を解き，神の前に立ち，神の御心と命令のとおりにすべてのことを行い，支配と権威を服従させる力を持つであろう。これは，創世の前からおられた神の御子の御心によるのである。

32 この信仰を持ち，この神の位に上った人々は，身を変えられて天に取り上げられた。

33 さて，メルキゼデクはこの位の祭司であった。そのため，サレムで平和を得て，平和の君と呼ばれた。

34 そして，この民は義を行い，天を得，エノクの町を求めた。それは，末日まで，すなわち世の終わりまで取っておくために，神がかつて地から分けて取り上げられた町である。

35 神は，天と地が一つとなり，神の子らが火によるかのように試されると言い，固く誓われた。

36 このメルキゼデクはこのように義を打ち立てたので，彼の民によって天の王，言い換えれば，平和の王と呼ばれた。

37 そして，彼は大祭司であり，神の倉を守る人であったので，声を上げて，アブラムを祝福した。

38 神は彼を，貧しい人々のために什分の一を受け取るように定めておられた。

39 そこでアブラムは，自分が持っていたすべてのもの，すなわち神が必要を超えて授けてくださったすべての所有の富の什分の一を彼に納めた。

40 すると，神はアブラムを祝福し，御自身が交わされた聖約と，メルキゼデクが彼に授けた祝福とに従って，富と誉れと土地とを永遠の所有として彼に授けられた。

JS創世 15：9–12（創世 15：1–6 と比較せよ）

（アブラハム，神の御子を示現で見て，復活について知る。）

9 アブラムは言った。「主なる神よ，あなたはどのようにしてこの地を，永久の受け継ぎとしてわたしにお授けくださるのですか。」

10 すると，主は言われた。「たとえあなたが死んでも，それをあなたに授けられないことがあろうか。

11 あなたは，たとえ死んでもそれを所有する。人の子が生きる日が来るからである。しかし，死なないでどう

して生きることができるだろうか。人の子にまず命が与えられなければならない。」

12 そして，アブラムは将来を見て人の子の時代を目にし，喜んだ。そして，彼の霊は安息を得，彼は主を信じた。そして，主はこれを彼の義と認められた。

JS 創世 17：3－7，11－12（創世 17：3－12 と比較せよ）

（神はアブラハムと割礼の聖約を立てられる。バプテスマの儀式と子供が責任を負う者となる年齢が，アブラハムに明らかにされる。）

3 そこで，アブラムはひれ伏し，主の名を呼んだ。

4 すると，神は彼に語って言われた。「わたしの民はわたしの教えから迷い出て，彼らの先祖たちにわたしが与えた定めを守っていない。

5 また，彼らはわたしが命じた油注ぎと，埋葬すなわちバプテスマを守っておらず，

6 その戒めに背を向けて，子供の洗いや血の注ぎを採り入れ，

7 義人アベルの血は罪のために流されたと言い，そして自分たちがわたしの前に責任を問われることを理解していない。

11 わたしはあなたと割礼の聖約を立てよう。これは，わたしと，あなたおよびあなたの代々後の子孫との間の聖約となる。子供は八歳になるまでわたしの前に責任を負わないことを，あなたがとこしえに知るためである。

12 また，あなたは，わたしがあなたの先祖と交わしたすべての聖約を守るようにしなければならない。またあなたは，わたしがわたし自身の口によってあなたに与えた戒めを守らなければならない。そうすれば，わたしはあなたとあなたの後の子孫にとって神となるであろう。

JS 創世 17：23（創世 17：17 と比較せよ）

（アブラハム，イサクの誕生の予告を喜ぶ。）

23 そのとき，アブラハムはひれ伏して喜び，心の中で言った。「百歳の者に子が生まれ，九十歳のサラが子を産む。」

JS 創世 19：9－15（創世 19：5－10 と比較せよ）

（ロト，ソドムの悪に対抗する。）

9 彼らはロトに，「退け」と言った。彼らは彼に腹を立てていた。

10 そして，彼らは互いに言った。「この男は渡って来たよそ者であるのに，裁き人になろうとする。今，我々は彼らに加えるよりも，この男に多くの害を加えよう。」

11 そして，彼らはその人に言った。「あの男たちと，おまえの娘たちをもらおう。そして，好きなようにさせてもらう。」

12 さて，これがソドムの悪の流儀であった。

13 そこでロトは言った。「御覧ください。わたしにはまだ男を知らない娘が二人います。どうか兄弟たちよ，娘たちを差し出さなくてもよいようにしてください。娘たちに好き勝手なことはしないでください。

14 神の僕がそのようなことをするのを，神は義とはされないからです。ですから，兄弟たちよ，もう一度だけお願いします。この人たちに何もしないで，わたしの家に安らかにいられるようにしてください。わたしの屋根の下に身を寄せていただいたのですから。」

15 すると，彼らはロトに腹を立て，進み寄って戸を破ろうとした。しかし，聖なる人々である神の天使たちは，手を伸べてロトを家の中に引き入れ，戸を閉じた。

JS 創世 48：5－11（創世 48：5－6 と比較せよ）

（ヨセフの子孫，末日のイスラエルの集合において指導者となる。）

5 さて，エジプトにいるあなたのところにわたしが来る前に，エジプトの国で生まれたあなたの二人の子，エフライムとマナセについては，まことに，彼らはわたしの子とします。わたしの先祖の神は，彼らを祝福してくださるでしょう。ルベンやシメオンと同じように，彼らは祝福されるでしょう。彼らはわたしのものだからです。そこで彼らはわたしの名で呼ばれます。（それで彼らはイスラエルと呼ばれた。）

6 ただし彼らの後にあなたがもうける子供たちは，あなたのものとなります。そして，彼らの受け継ぎと部族はその兄弟たちの名で呼ばれます。したがって，彼らはマナセの部族，エフライムの部族と呼ばれるでしょう。」

7 また，ヤコブはヨセフに言った。「先にわたしの先祖の神は，カナンの地ルズでわたしに現れたとき，わたしとわたしの子孫にその地を永遠の所有として与えるとわたしに誓われました。

8 おお，息子よ，神はわたしを祝福してあなたを育てさせてくださり，あなたがわたしの僕となってわたしの家を死から救うように，

9 その地でのひどい飢饉からわたしの民であるあなたの兄弟たちを救い出すようにしてくださいました。それゆえ，あなたの先祖の神はあなたとあなたの腰から出た者を祝福してくださり，あなたの腰から出た者は，あなたの兄弟たち以上に，またあなたの父の家以上に祝福を受けるでしょう。

10 あなたは勝利を得，そしてあなたの父の家は，あなたが兄たちの手でエジプトに売られる前に示されたようにあなたに身をかがめました。そして，あなたの兄たちはこれから代々あなたに，またとこしえにあなたの腰から出た者に身をかがめることでしょう。

11 あなたはわたしの民の光となり，囚われの時代に彼らを奴隷の状態から救い出し，彼らが罪の下に身をかがめているときに救いをもたらすことでしょう。

JS 創世 50：24－38（創世 50：24－26 と比較せよ。2 ニーファイ 3 章も参照）

（エジプトでのヨセフのこの預言の中で，モーセとアロン，ジョセフ・スミスの名前が挙げられる。またヨセフは，『モルモン書』がユダの記録と対をなすことを預言する。）

24 ヨセフは兄弟たちに言った。「わたしはやがて死に，先祖のもとに行きます。わたしは喜んで墓に入ります。父ヤコブの神はあなたがたとともにい

て，奴隷の時代の苦難からあなたがたを救い出してくださるでしょう。主がわたしを訪れてくださり，わたしは主から約束を得たからです。すなわち，主なる神はわたしの腰から出た者から一本の義にかなった枝を起こし，父ヤコブがイスラエルと名付けたあなたのために（シロと呼ばれるメシヤではない）一人の預言者を立てられます。この預言者は，わたしの民を奴隷の時代にエジプトから救い出すことでしょう。

25 それから，彼らは再び散らされます。一本の枝が折り取られ，遠い国に運ばれることでしょう。しかし，メシヤが来られるときに，彼らは主の聖約の中で思い起こされます。メシヤが力の御霊によって末日にその御姿を彼らに現し，彼らを暗闇から光に，隠れた暗闇と束縛から自由へ連れ出されるのです。

26 主なるわたしの神は，一人の聖見者を立てられます。それは，わたしの腰から出た者のためのえり抜きの聖見者です。

27 わたしの先祖の主なる神は，わたしにこう言われました。『わたしはあなたの腰から出た者の中から，一人のえり抜きの聖見者を立てよう。彼はあなたの腰から出た者の中で大いに尊ばれるであろう。わたしはその聖見者に，彼の同胞であるあなたの腰から出た者のために一つの業を行うように命じよう。

28 彼は，わたしがあなたの先祖と交わした聖約をあなたの腰から出た者に知らせ，またわたしが彼に命じる業を何でも行うであろう。

29 彼はわたしの業を行うので，わたしは彼を，わたしの目にかなった偉大な者としよう。エジプトの地からわたしの民を救い出すために，おお，イスラエルの家よ，わたしがあなたのために立てると言っておいた者のように，彼は偉大な者となるであろう。わたしは一人の聖見者を立てて，わたしの民をエジプトの地から救い出そう。彼はモーセと呼ばれるであろう。彼はこの名によって，自分があなたの家の者であることを知る。彼は王の娘によって育てられ，彼女の息子と呼ばれる。

30 さらにまた，わたしはあなたの腰から出た者の中から一人の聖見者を立て，わたしの言葉をあなたの腰から出た子孫に伝える力を彼に授けよう。また，わたしの言葉を伝えるだけでなく，終わりの時にすでに彼らの中に伝わっているわたしの言葉を確信させる力も授けよう。

31 そのために，あなたの腰から出た者は書き記す。またユダの腰から出た者も書き記す。そして，あなたの腰から出た者が書き記すものと，ユダの腰から出た者が書き記すものは一つに合わされて，偽りの教義を打ち破り，争いを鎮め，あなたの腰から出た者の中に平和を確立し，また末日に先祖についての知識を彼らに与え，そしてまた，わたしの聖約についても知らせる。』主はそう言われます。

32 『イスラエルの家に属するわたしの民を元どおりにするわたしの業が，わたしのすべての民の中で進み行くその日，すなわち終わりの時に，その聖見者は弱さを強くされる。

33 わたしはその聖見者を祝福する。そして，彼を滅ぼそうとする者は

打ち破られる。わたしがこの約束をあなたに与えるからである。わたしはあなたを代々思い起こそう。その聖見者の名はヨセフと呼ばれ，それは彼の父の名を取って付けられる。そして，彼はあなたのようである。主が彼の手によってもたらされるものが，わたしの民を救いに至らせるからである。』」

34 主はヨセフに，彼の子孫をとこしえに守ると誓って言われた。「わたしはモーセを立てよう。杖が彼の手にあり，彼はわたしの民を集めて，羊の群れのように導き，また杖をもって紅海の水を打つであろう。

35 彼は能力を与えられ，主の言葉を書き記す。彼は多くの言葉を語らない。わたしが自分の手の指でわたしの律法を彼に書き与えるからである。また，わたしは彼のために一人の代弁者を備えよう。その代弁者の名はアロンと呼ばれる。

36 そしてそれは，わたしが誓ったように，終わりの時にもあなたに行われるであろう。」そこで，ヨセフは兄弟たちに言った。「神は必ずあなたがたを顧みて，この国から連れ出し，アブラハム，イサク，ヤコブに誓われた地に導き上られるでしょう。」

37 ヨセフは兄弟たちにほかにも多くのことを確認し，「神は必ずあなたがたを顧みられます。そのとき，あなたがたはわたしの骨をここから携え上ってください」と言ってイスラエルの子らに誓わせた。

38 こうしてヨセフは百十歳で死んだ。彼らは彼に薬を塗り，棺に納めて，エジプトに置いた。そしてイスラエルの子らは，彼を埋葬することなく，彼を携え上って彼の父とともに墓に納めることができるようにした。こうして彼らは，彼に立てた誓いを忘れなかった。

JS 出エジプト 4:21（出エジプト 4:21;7:3，13；9：12；10：1，20，27；11：10；14：4，8，17；申命 2：30 と比較せよ）

（パロが心をかたくなにしたのは，主のせいではない。JS 出エジプト 7:3, 13;9:12；10：1，20，27；11：10；14：4，8，17 も参照。各聖句が正しく翻訳されていれば，パロが自分の心をかたくなにしたことが分かる。）

21 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトに帰ったとき，わたしがあなたの手に授けた不思議を，ことごとくパロの前で行いなさい。わたしはあなたを栄えさせよう。しかし，パロは心をかたくなにする。そして，民を去らせないであろう。

JS 出エジプト 18：1（出エジプト 18：1 と比較せよ）

（エテロは大祭司であった。）

1 モーセのしゅうと，ミデアンの大祭司エテロは，神がモーセとその民イスラエルのために行われたすべてのこと，主がイスラエルをエジプトから導き出されたことを聞いた。

JS 出エジプト 22：18（出エジプト 22：18 と比較せよ）

（人を殺した者は生かしておいてはならない。）

18 人を殺した者は，これを生かして

おいてはならない。

JS 出エジプト 33：20，23（出エジプト 33：20，23 と比較せよ）

（罪のある者はだれも神の顔を見て，なお生きていることはできない。）

20　また，主はモーセに言われた。「あなたは今，わたしの顔を見ることはできない。わたしの怒りがあなたにも燃えて，わたしがあなたとあなたの民を滅ぼすことのないためである。彼らはひどく罪深いので，彼らのうちで今わたしを見て，なお生きている者はだれもいないからである。これまでも，またこれから先も，いかなる時も，罪のある者はわたしの顔を見て，なお生きていることはない。

23　そしてわたしが手をのけるとき，あなたはわたしの後ろを見るが，ほかの時と同じように，わたしの顔は見ないであろう。わたしは，わたしの民イスラエルを怒っているからである。」

JS 出エジプト 34：1－2，14（出エジプト 34：1－2，14；教義と聖約 84：21－26 と比較せよ）

（モーセに与えられた２回目の板には，初めの板よりも低い律法が記されていた。）

1　主はモーセに言われた。「あなたは前のような石の板をほかに二枚，切って造りなさい。そうすればわたしは，あなたが砕いた初めの板に記されていたように，律法の言葉をその板に書こう。しかし，それは初めのものと同じではない。わたしが彼らの中から神権を取り去るからである。それゆえ，わたしの聖なる位とその儀式は彼らに授けられない。わたしが彼らの中に現れて，彼らを滅ぼすことのないためである。

2　しかし，わたしは初めの時のように，彼らに律法を授けよう。しかしそれは，肉の戒めの律法にかかわるものである。なぜなら，彼らはその旅路の日々にわたしの前に，すなわちわたしの安息に入ることはないと，わたしは激しく怒って誓ったからである。それゆえ，わたしが命じたように行いなさい。あなたは朝までに備えをし，朝のうちにシナイ山に登って，山の頂でわたしの前に立ちなさい。

（エホバとは，旧約の民が主イエス・キリストの名として知っていた名であった。）

14　あなたは他の神を拝んではならない。主はその名を『エホバ』といって，ねたむ神だからである。

JS 申命 10：2（申命 10：2 と比較せよ）

（神は初めの板に，聖なる神権にかかわる永遠の聖約を明らかにされた。）

2　あなたが砕いた初めの板に書いてあった言葉を，わたしは聖なる神権にかかわる永遠の聖約の言葉を除いて，その板に書き記そう。あなたはそれをその箱に収めなければならない。』

JS サムエル上 16：14－16，23（サムエル上 16：14－16，23 と比較せよ。サムエル上 18：10 と 19：9 でも，同様の変更が行われた。）

（サウルに臨んだ悪霊は主からのものでは

なかった。）

14 さて主の御霊はサウルを離れ，主からのものではない悪霊が彼を悩ました。
15 サウルの家来たちは彼に言った。「御覧ください。神からのものではない悪霊があなたを悩ましているのです。
16 どうぞ，我々の主君が，あなたの前に仕えている家来たちに命じて，上手に琴を弾く者一人を捜させてください。神からのものではない悪霊があなたに臨むとき，彼が手で琴を弾くならば，あなたは良くなられるでしょう。」
23 そして，神からのものではない悪霊がサウルに臨むとき，ダビデは琴を取り，手でそれを弾くと，サウルは気が静まり，良くなって，悪霊は彼を離れた。

JS サムエル下 12：13（サムエル下 12：13 と比較せよ）

（神はダビデの重大な罪を除かれなかった。）

13 ダビデはナタンに言った。「わたしは主に罪を犯しました。」ナタンはダビデに言った。「主もまた，あなたが死なないようにあなたの罪を除くことはなさいませんでした。

JS 歴代下 18：22（歴代下 18：22 と比較せよ）

（主は，偽りを言う霊を預言者たちの口に入れることはなさらない。）

22 それゆえ，まことに，主は偽りを言う霊をこの，あなたの預言者たちの口に見つけ，そして主はあなたに対して災いを告げられたのです。」

JS 詩篇 14：1－7（詩篇 14：1－7 と比較せよ）

（詩篇の作者は回復の日を喜んだ。）

1 愚かな者は心の中で，「神を見た者はいない」と言う。神がわたしたちに御自身を示されないので，「神はいない」と言うのである。見よ，彼らは堕落し，憎むべきことをなし，善を行う者はだれもいない。
2 主は天から人の子らを見下ろし，その声によって僕に言われた。「神を知っている者がだれかいるかどうか，人の子らの中を調べなさい。」すると，僕は口を開いて主に言った。「自分をあなたのものだと言うこれらすべての者を御覧ください。」
3 主は答えて言われた。「彼らは皆迷い，等しく汚れている。あなたは，善を行う者をだれ一人彼らの中に見ることはできない，一人も見ることができない。
4 彼らが教師としている者たちは皆，悪を行う者たちであり，彼らの中に知識はない。彼らはわたしの民を食い尽くす者たちである。彼らはパンを食べるが，主を呼ぶことをしない。」
5 彼らは大いに恐れる。神は義人の一族とともにおられるからである。神は貧しい者の助言者である。貧しい者が悪人を恥とし，避け所である主のもとに逃げ込むからである。
6 彼らは貧しい者の助言者を恥とする。しかし，主が彼の避け所である。

7　どうか，天からシオンが打ち建てられ，イスラエルの救いが来ますように。おお，主よ，あなたはいつシオンを打ち建てられるのですか。主がその民の囚われ人を戻されるとき，ヤコブは喜び，イスラエルは楽しむことでしょう。

JS 詩篇 24:7–10（詩篇 24 篇と比較せよ）

（この詩篇はキリストの再臨を祝うものである。）

7　おお，あなたがた，ヤコブの子孫よ，頭を上げよ。元気を出せ。栄光の王である強く勇ましい主，戦いに勇ましい主が，とこしえにあなたを立てられる。
8　主はもろもろの天を過ぎ去らせられる。主は御自分の民を贖い，あなたがたに永遠の名を成させ，あなたがたを永遠の岩の上に立たせるために降って来られる。
9　おお，あなたがた，ヤコブの子孫よ，頭を上げよ。永遠の子孫よ，頭を上げよ。万軍の主，王の王，
10　すなわち，栄光の王があなたがたのもとに来られ，御自分の民を贖い，義のうちに彼らを打ち立てられる。セラ。

JS 詩篇 109:4（詩篇 109:4 と比較せよ）

（わたしたちは敵のために祈らなければならない。）

4　わたしの愛にもかかわらず，彼らはわたしに敵対します。しかし，わたしは続けて彼らのために祈ります。

JS イザヤ 42：19–23（イザヤ 42：19–22 と比較せよ）

（主は目の見えない人々のもとに僕を遣わされる。）

19　わたしは目の見えないあなたがたのもとにわたしの僕を遣わす。まことに，使者は目の見えない人の目を開き，耳の聞こえない人の耳を開く。
20　そして彼らは，主の僕であるその使者に聞き従うならば，目が見えなかったにもかかわらず完全な者とされるであろう。
21　あなたがたは多くのことを見ても認めず，耳を開いても聞かない民である。
22　主はそのような民を喜ばれない。しかし，主は御自分の義のために，律法を大いなるものとし，かつ光栄あるものとされる。
23　あなたがたは，かすめられ，奪われた民である。敵は皆，あなたがたを穴の中に捕らえ，獄屋の中に閉じ込めた。敵があなたがたをかすめても助ける者がなく，物を奪われても「戻せ」と言う者はいない。

JS エレミヤ 26：13（エレミヤ 26：13 と比較せよ）

（人は悔い改めなければならない。）

13　それで，あなたがたは今，あなたがたの道と行いを改め，あなたがたの神，主の声に従い，悔い改めなさい。そうするならば，主はあなたがたに宣言された災いを転じられる。

JS アモス 7：3（アモス 7：3 と比較せよ）

（悔い改めるのは主ではなく，人である。）

3 主はヤコブについてこう言われた。「ヤコブはこのことを悔い改めるであろう。それゆえ，わたしは彼をことごとく滅ぼすことをしない。」主はそう言われる。

JS マタイ 3：24−26（マタイ 2：23 と比較せよ）

（イエスの青年時代と幼年時代のことが述べられる。）

24 それから，イエスは弟たちとともに成長し，体もたくましくなり，御自分の務めの時が来るのを待っておられた。
25 イエスは父親のもとで働いておられたが，その語ることは他の人々とは異なり，イエスを教えることのできる人はだれもいなかった。教える人を必要とされなかったからである。
26 それから何年もたって，務めの時が近づいた。

JS マタイ 3：43−46（マタイ 3：13−17 と比較せよ）

（イエスは，ヨハネにより水に沈められるバプテスマを受けられる。）

43 しかし，イエスは答えて言われた。「今はあなたからバプテスマを受けさせてもらいたい。このように，あらゆる義を満たすのは，わたしたちにふさわしいことである。」そこで，ヨハネはイエスの言われるとおりにした。
44 そして，ヨハネは水の中に降りて行き，イエスにバプテスマを施した。
45 イエスはバプテスマを受けると，すぐ水から上がられた。そして，ヨハネが見ると，見よ，天が開かれ，神の御霊が鳩のようにイエスの上に降って来られるのが見えた。
46 また，天からの声を聞いた。「これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である。彼に聞きなさい。」

JS マタイ 4：1，5−6，8−9（マタイ 4：1，5−6，8−9 と比較せよ。ルカ 4：2，5−11 でも，同様の変更が行われた。）

（イエスは，サタンによってではなく，御霊によって導かれた。）

1 さて，イエスは御霊によって荒れ野に導かれた。神とともにいるためである。
5 それから，イエスは聖なる都に連れて行かれた。そして，御霊がイエスを宮の頂 上に立たせられた。
6 そのとき，悪魔がイエスのもとに来て言った。「もしあなたが神の子であるなら，飛び降りてごらんなさい。『神があなたのために天使たちにお命じになると，あなたの足が石に打ちつけられないように，彼らはあなたを手で支えるであろう』と書いてありますから。」
8 そしてまた，イエスは御霊に満たされた。そして，御霊はイエスを非常に高い山に連れて行き，この世のすべての国々とその栄華とを見せられた。
9 すると，悪魔がまたイエスのもとに来て言った。「もしあなたがひれ伏してわたしを拝むなら，これらのものをすべて，あなたにあげましょう。」

JS マタイ 4:11（マタイ 4:11 と比較せよ）

（イエスは天使たちを遣わされ，天使たち

はバプテスマのヨハネに教えと導きを授けた。）

11　さて，イエスは，ヨハネが獄に入れられたことを知って，天使たちを遣わされた。そして見よ，天使たちは来て，彼に教えと導きを授けた。

JS マタイ 4:18（マタイ 4:19 と比較せよ）

（旧約の預言者たちはイエスについて語った。）

18　イエスは彼らに言われた。「わたしは預言者たちによって書き記されている者である。わたしについて来なさい。あなたがたを，人間をとる漁師にしてあげよう。」

JS マタイ 4:22（マタイ 4:23 と比較せよ）

（イエス，御名を信じる人々の中で癒しを施される。）

22　イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて，諸会堂で教え，王国の福音を宣べ伝え，イエスの名を信じる人々の中のあらゆる病気，あらゆる患いをお癒しになった。

JS マタイ 6:14（マタイ 6:13 と比較せよ。ルカ 11：4 でも，同様の変更が行われた。）

（主はわたしたちを誘惑に陥らせることをされない。）

14　わたしたちが誘惑に陥ることのないようにし，悪からお救いください。

JS マタイ 6:22（マタイ 6:22 と比較せよ）

（わたしたちが神の栄光にひたすら目を向けるならば，わたしたちの全身に光が満ちる。）

22　体の明かりは目である。だから，あなたが神の栄光にひたすら目を向けるならば，あなたの全身に光が満ちるであろう。

JS マタイ 6:38（マタイ 6:33 と比較せよ）

（わたしたちはまず神の王国を築くことを求めるべきである。）

38　だから，この世のものを求めないで，まず，神の王国を築き，神の義を打ち立てることを求めなさい。そうすれば，これらのものはすべて添えて与えられるであろう。

JS マタイ 7：1−2（マタイ 7：1−2 と比較せよ）

（不義に裁いてはならない。）

1　さて，これは，人々に語るようにとイエスが弟子たちに教えられた言葉である。
2　不義に裁いてはならない。自分が裁かれないためである。義にかなった裁きをしなさい。

JS マタイ 7：9−11（マタイ 7：6 と比較せよ）

（王国の奥義を世の人々に知らせてはならない。）

9　世界に出て行き，『悔い改めなさい。天の王国が近づいたからである』と，すべての者に言いなさい。
10　王国の奥義はあなたがたの内にとどめておきなさい。聖なるものを犬

にやることや，真珠を豚に投げてやることは，ふさわしくない。彼らはそれらを足で踏みつけるからである。
11 世は，あなたがた自身が負うことのできないものを受けることはできない。だから，彼らに真珠を与えてはならない。そうでないと，彼らは向き直ってあなたがたにかみついてくるであろう。

JS マタイ 9:18－21（これは預言者ジョセフ・スミスによって回復された本文であり，マタイ 9：15 とマタイ 9：16 の間に挿入された。）

（イエスは，パリサイ人たちにバプテスマを施すのをお断わりになった。モーセの律法を与えられたのは，イエスであった。）

18 すると，パリサイ人たちがイエスに言った。「あなたはわたしたちが律法全体を守っているのを見ておられるのに，なぜバプテスマをもってわたしたちを受け入れてくださらないのですか。」
19 しかし，イエスは彼らに言われた。「あなたがたは律法を守っていない。もし守っていたら，わたしを受け入れていたはずである。律法を与えたのはわたしだからである。
20 わたしはあなたがたを，バプテスマをもって受け入れることをしない。それはあなたがたにとって何の役にも立たないからである。
21 新しいものが来ると，古いものは捨てられることになる。

JS マタイ 16：25－26（マタイ 16：24 と比較せよ）

（「イエスの十字架を負う」という言葉の意味は，不信心を捨てるということである。）

25 それから，イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら，自分を捨て，自分の十字架を負って，わたしに従って来なさい。
26 そして，自分の十字架を負う者は，すべての不信心とあらゆる世の欲を捨て，わたしの戒めを守らなければならない。

JS マタイ 17：10－14（マタイ 17：11－13 と比較せよ）

（二人のエライアスが来ることになっていた。一人は備えをするためであり，もう一人は万事を元どおりにするためである。）

10 イエスは彼らに答えて言われた。「預言者たちが書き記してきたように，確かに，まずエライアスが来て，万事を元どおりにするであろう。
11 また，あなたがたに言っておく。エライアスはすでに来たのである。彼について，『見よ，わたしは使者を遣わす。彼はわたしの前に道を備える』と書き記されている。しかし，人々は彼を認めず，自分勝手に彼をあしらった。
12 人の子もまた，そのように彼らから苦しみを受けることになろう。
13 しかし，わたしはあなたがたに言う。エライアスとはだれか。見よ，これがわたしの前に道を備えるためにわたしが遣わすエライアスである。」
14 そのとき，弟子たちは，イエス

がバプテスマのヨハネと，また別の者，すなわち，やって来て万事を元どおりにすると預言者たちが書き記している者のことを言われたのだと悟った。

JS マタイ 18：11（マタイ 18：11 と比較せよ。モロナイ 8 章も参照）

（幼い子供たちは悔い改めの必要がない。）

11 人の子は，失われた者を救い，罪人を招いて悔い改めさせるために来たのである。しかし，これらの幼い者たちは悔い改めの必要がない。そして，わたしは彼らを救うであろう。

JS マタイ 19：13（マタイ 19：13 と比較せよ）

（幼い子供たちは救われる。）

13 そのとき，イエスに手を置いて祈っていただくために，人々が幼い子供たちを連れて来た。ところが，弟子たちは彼らをたしなめて言った。「その必要はない。幼い子供たちは救われると，すでに主は言っておられる。」

JS マタイ 21：33（マタイ 21：32－34 と比較せよ）

（人はキリストを信じる前に，悔い改めなければならない。）

33 わたしのことでヨハネを信じなかった者は，まず悔い改めなければ，わたしを信じることができないのである。

JS マタイ 21：47－56（マタイ 21：45－46 と比較せよ）

（イエスは，御自分が隅のかしら石であることを宣言された。福音はユダヤ人に伝えられ，次いで異邦人に伝えられる。イエスが戻って来られるとき，悪人は滅ぼされる。）

47 祭司長たちやパリサイ人たちはこのたとえを聞いたとき，自分たちのことを指して言っておられることを悟った。

48 そして彼らは互いに言った。「この男は自分ひとりでこの国を奪い取れると思っているのだろうか。」そして，彼らはイエスに腹を立てた。

49 しかし，イエスを捕らえようとしたものの，群衆を恐れた。群衆がイエスを預言者だと思っていることが分かったからである。

50 さて，弟子たちがイエスのもとにやって来ると，イエスは彼らに言われた。「わたしが語ったたとえの言葉に驚いているのか。

51 あなたがたによく言っておく。わたしがその石であり，邪悪な者たちはわたしを捨てる。

52 わたしは隅のかしら石である。これらのユダヤ人はわたしの上に落ちて，打ち砕かれる。

53 そして，神の王国は彼らから取り上げられて，王国にふさわしい実を結ぶ民（すなわち，異邦人）に与えられるであろう。

54 それであるから，この石がだれかの上に落ちかかるなら，その人は粉みじんにされるであろう。

55 したがって，ぶどう園の主人は帰って来ると，その卑劣な悪人どもを殺して，季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに，まことに終わりの時

に，そのぶどう園を再び貸し与えるであろう。」

56 そのとき彼らは，イエスが語られたたとえを理解した。主が天から降って来て，主のぶどう園であるこの世と世に住む者たちを治められるとき，異邦人も滅ぼされるということである。

JS マタイ 23:6（マタイ 23:9 と比較せよ）

（天におられる御方は，わたしたちの創造主であられる。）

6 また，地上のだれをも，創造主，あるいは天の父と呼んではならない。あなたがたの創造主であり天の父である御方はただひとり，すなわち天におられる父である。

JS マタイ 26：22，24－25（マタイ 26：26－29；JS マルコ 14：20－25 と比較せよ）

（イエス，聖餐を定められる。）

22 一同が食事をしているとき，イエスはパンを取って裂き，それを祝福して，弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはあなたがたのために贖いとして与えるわたしの体を記念するものである。

24 これは，罪の赦しを得させるようにと，わたしの名を信じるすべての人のために流すわたしの新しい聖約の血を記念するものである。

25 わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたは，わたしが行うのを見たそのことをあなたがたも努めて行い，最後までわたしのことを証しなさい。

JS マタイ 27：3－6（マタイ 27：3－5；使徒 1：18 と比較せよ）

（ユダの死について述べられる。）

3 そのとき，イエスを裏切ったユダは，イエスが罪に定められたのを見て後悔し，銀貨三十枚を祭司長，長老たちに返して

4 言った。「わたしは罪のない人の血を売るようなことをして，罪を犯しました。」

5 しかし，彼らは言った。「それは，我々の知ったことか。自分で始末するがよい。おまえの罪はおまえにある。」

6 そこで，彼は銀貨を神殿に投げ込んで出て行き，木に首をつった。すると，たちまち落ちて，はらわたが流れ出し，そして死んだ。

JS マルコ 9：3（マルコ 9：4 と比較せよ）

（バプテスマのヨハネが変貌の山にいた。）

3 また，エライアスがモーセとともに，言い換えれば，バプテスマのヨハネとモーセが彼らに現れ，彼らはイエスと語り合っていた。

JS マルコ 9：40－48（マルコ 9：43－48 と比較せよ）

（人を誤った道に導く交際を絶つことが，罪を犯させる手や足を切り捨てることにたとえられる。）

40 だから，もしあなたの片手が罪を犯させるなら，それを切り捨てなさい。すなわち，あなたの兄弟があなたに罪を犯させ，その罪を告白することも捨てることもしないならば，彼を切り捨てなければならない。両手がそ

ろったままで地獄に行くよりは，片手になって命に入る方がよい。
41 あなたとあなたの兄弟が地獄に，すなわち決して消えることのない火に投げ入れられるよりは，兄弟抜きで命に入る方がよい。地獄では，うじが尽きず，火も消えることがない。
42 また，もしあなたの片足が罪を犯させるなら，それを切り捨てなさい。その傍らを歩むあなたの旗である者が戒めに背く者となるなら，彼を切り捨てなければならないからである。
43 両足がそろったままで地獄に，すなわち決して消えることのない火に投げ入れられるよりは，片足で命に入る方がよい。
44 だから，すべての人に，他人のためにではなく自分で立つか倒れるかさせなさい。人に頼ってはならない。
45 父に求めなさい。与えられると信じて，信仰をもって求めるならば，あなたがたが求めるものはまさにその時に与えられるであろう。
46 もしあなたの代わりに見る片方の目，すなわち，あなたを見守ってあなたに光を見せるように任じられている者が罪人となって，あなたに罪を犯させるなら，彼を抜き出しなさい。
47 両目がそろったままで地獄の火に投げ入れられるよりは，片目になって神の王国に入る方がよい。
48 あなたの兄弟とともに地獄に投げ入れられるよりは，あなた自身が救われる方がよいからである。地獄では，うじが尽きず，火も消えることがない。

JS マルコ 12：32（マルコ 12：27 と比較せよ）

（神は死者を墓からよみがえらせるので，死んだ者の神ではない。）

32 それであるから，神は死んだ者の神ではなく，生きている者の神である。神は死者を墓からよみがえらせるからである。あなたがたは非常な思い違いをしている。」

JS マルコ 14：20 − 25（マルコ 14：20 −25；JS マタイ 26：22，24−25 と比較せよ）

（イエス，聖餐を定められる。）

20 一同が食事をしているとき，イエスはパンを取り，それを祝福して裂き，弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。
21 見よ，これが，わたしの体の記念としてあなたがたに行ってもらいたいことである。これを行う度に，あなたがたは，わたしがあなたがたとともにいたこの時を思い起こすであろう。」
22 また，イエスが杯を取り，感謝して彼らに与えられると，一同はその杯から飲んだ。
23 イエスはまた言われた。「これは，多くの人のために流されるわたしの血と，わたしがあなたがたに与える新しい聖約を記念するものである。わたしについて，あなたがたは全世界に証しなければならない。
24 そして，この儀式を行う度に，あなたがたは，わたしが自分の務めの最後の時にあなたがたとともにおり，あなたがたとともにこの杯から飲んだ，この時を思い起こすであろう。
25 あなたがたによく言っておく。このことについて，あなたがたは証し

なければならない。神の王国で新しく飲むその日まで，わたしは決して二度と，ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない。」

JS マルコ 14：36－38（マルコ 14：32－34 と比較せよ）

（ゲツセマネにおいて，十二使徒のある者でさえ，イエスのメシヤとしての務めを十分に理解していなかった。）

36 さて一同は，園になっているゲツセマネと名付けられた場所に来た。すると，弟子たちはひどく驚き，打ち沈み，「この方はメシヤなのだろうか」と心の中でつぶやき始めた。

37 イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「わたしが祈っている間，ここに座っていなさい。」

38 そして，イエスはペテロとヤコブとヨハネを一緒に連れて行き，彼らをたしなめて言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて，目を覚ましていなさい。」

JS マルコ 16：3－6（マルコ 16：4－7 と比較せよ。マタイ 28：2－8 でも，同様の変更が行われた。ルカ 24：2－4 と比較せよ）

（救い主の墓で，二人の天使が女たちを迎える。）

3 ところが，見ると，石はすでに転がしてあった。（その石は非常に大きかった。）そして，そこに真っ白な長い衣を着た二人の天使が座っているのを見て，彼女たちは非常に驚いた。

4 すると，天使たちは言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているのであろうが，イエスはよみがえって，ここにはおられない。イエスをお納めした場所を御覧なさい。

5 そして，行って，弟子たちとペテロに伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねてあなたがたに言われたとおり，そこでお会いできるであろう，と。」

6 そこで，彼女たちは墓の中に入り，イエスをお納めした場所を見た。

JS ルカ 1：8（ルカ 1：8 と比較せよ）

（バプテスマのヨハネの父となるザカリヤは，神権の務めを果たしていた。）

8 ザカリヤは，神権の位にあって神の前に祭司の務めをしていたとき，

JS ルカ 2：46（ルカ 2：46 と比較せよ）

（神殿〔宮〕で教師たちがイエスの話を聞いたり，イエスに質問したりしていた。）

46 そして三日の後に，イエスが神殿で教師たちの真ん中に座っておられるのを見つけた。教師たちはイエスの話を聞いたり，またイエスに質問したりしていた。

JS ルカ 3：4－11（ルカ 3：4－6 と比較せよ）

（キリストは預言を成就し，罪を取り除き，救いをもたらし，光となるために来られる。キリストは力の日，時の満ちる日に来られる。）

4 それは，預言者イザヤの書に書いてあるとおりである。その言葉は次のとおりである。「荒れ野で叫ぶ者の声

がする。『主の道を備え，その道筋をまっすぐにせよ。』
5 見よ，見よ，預言者たちの書に書いてあるとおりに，主は，世の罪を取り除き，異教の諸国民に救いをもたらし，イスラエルの羊の群れに属する行方の知れない者たちを集めるために来られるからである。
6 まことに，散らされ，苦難にある者たちを集めるために，主は来られる。また，道を備え，異邦人に福音が宣べ伝えられるようにするために来られる。
7 地の果てに至るまで暗闇に座しているすべての人への光となり，また死者の中からの復活をもたらし，高い所に昇って御父の右に住むために来られる。
8 その後，時が満ちて，律法と証が結び固められ，王国の鍵が再び御父に引き渡される。
9 そして，主はすべての者を裁かれる。すなわち，すべての者に裁きを行うために降って来て，不信心な者が犯した不信心な行いを立証される。このことはすべて，主が来られる日に起こる。
10 その日は力の日である。まことに，すべての谷は埋められ，すべての山と丘は低くされ，曲がった所はまっすぐになり，起伏の激しい所は平らになる。
11 そして，人は皆，神の救いを見るであろう。」

JS ルカ 11:53（ルカ 11:52 と比較せよ）

（すべての聖文は知識の鍵である。）

53 あなたがた律法学者は災いである。あなたがたは知識の鍵，すなわちすべての聖文を取り上げて，自分が王国に入らないばかりか，入ろうとする人々を妨げてきた。

JS ルカ 12：9－12（ルカ 12：9－10 と比較せよ）

（聖霊に対する冒瀆は赦されない。）

9 しかし，人の前でわたしを拒む者は，神の天使たちの前で拒まれるであろう。」
10 弟子たちは，自分たちが人々の前で主のことを悪く言ったので，主がこのように言われたのだと分かっていた。彼らは，人の前で主を信じていると告白するのを恐れたのである。
11 そして，彼らは互いに論じ合った。「主はわたしたちの心を見抜いておられる。主はわたしたちが罪に定められると言っておられるのだ。わたしたちは赦されないだろう。」しかし，主は彼らに答えて言われた。
12 「人の子の悪口を言っても悔い改める者は赦されるが，聖霊を冒瀆する者は赦されない。

JS ルカ 12：41－57（ルカ 12：38－48 と比較せよ）

（わたしたちは主の来臨にいつも備えておかなければならない。）

41 主人は夕方に帰り，夜中にも帰り，夜明けにもまた帰るからである。
42 よく言っておく。書かれているとおり，すでに帰って来たのだ。そしてまた，夜中に帰って来ても，夜明けに帰って来ても，目を覚ましているのを見られる僕は，幸いである。

43 その僕たちの主人が帯を締めて，僕たちを食卓に着かせ，そばに来て給仕をしてくれるであろう。
44 さて，これらのことをあなたがたによく言っておく。あなたがたは，主人が帰って来るのは夜の盗人のようであることを知っておくがよい。
45 それは，ある家の主人のようである。自分の持ち物を見張っていないと，気がつかない時に盗人が来てその持ち物を奪い，仲間の間で分けてしまう。」
46 すると，彼らは互いに言った。「家の主人は，盗人がいつ来るか知っていたら，気をつけていて，自分の家に押し入られて持ち物を奪われるようなことはしないだろう。」
47 すると，主は彼らに言われた。「よく言っておく。あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」
48 すると，ペテロが言った。「主よ，このたとえを話しておられるのはわたしたちのためなのですか。それとも，みんなのためなのですか。」
49 そこで主は言われた。「主人が召し使いたちの上に立てて，時に応じて定めの食事を備えさせる者たちにあてて，わたしは語っているのである。」
50 すると，彼らは言った。「では，その忠実な思慮深い僕は，一体だれですか。」
51 主は彼らに言われた。「気をつけていて，時に応じて定めの食事を分ける僕である。
52 主人が帰って来るとき，そのようにしているのを見られる僕は，幸いである。
53 よく言っておくが，主人はその僕に自分の全財産を管理させるであろう。
54 しかし，気をつけていると認められない僕は，悪い僕である。気をつけていると認められない僕は，主人の帰りが遅いと心の中で思い，男女の召し使いたちを打ちたたき，食べたり，飲んだりして酔い始める。
55 その僕の主人は思いがけない日，気がつかない時に帰って来るであろう。そして，彼を厳しく罰して，不忠実な者たちと同じ目に遭わせるであろう。
56 主人の思いを知っていながら，主人が帰って来るときのために用意もせず，主人の思いどおりにしなかった僕は，多く鞭打たれるであろう。
57 しかし，主人の思いを知らずに，打たれるようなことをした者は，打たれ方が少ないだろう。多く与えられた者からは多く求められ，主人から多く任せられた者からはさらに多く要求されるのである。

JS ルカ 16：16−23（ルカ 16：16−18 と比較せよ）

（イエスは金持ちとラザロのたとえの背景を語られた。）

16 すると，彼らは言った。「我々には律法と預言者がある。我々はこの男を我々の支配者として受け入れない。この男は自ら我々の裁判人となっている。」
17 そこでイエスは彼らに言われた。「律法と預言者はわたしについて証している。まことに，ヨハネに至るまで，記録を残してきたすべての預言者が，今の時代を預言してきた。

18 それ以来，神の王国が宣べ伝えられ，真理を求める人々は皆，これに力ずくで入ろうとしている。
19 しかし，律法の一画が落ちるよりは，天地の過ぎ去る方がもっとたやすい。
20 あなたがたは律法を教えていながら，なぜ書かれていることを否定するのか。あなたがたすべてが贖われるように，律法を成就しようとして御父が遣わされた者を，なぜ非難するのか。
21 おお，愚かな者たちよ。あなたがたは心の中で『神はいない』と言う。そして正しい道を曲げる。天の王国はあなたがたから激しく襲われている。あなたがたは柔和な者たちを迫害し，王国を襲って滅ぼそうとしている。そして，王国の子らを奪い取っている。姦淫を行う者たちよ，あなたがたは災いである。」
22 すると彼らは，姦淫を行う者であると言われたことに腹を立て，再びイエスをののしった。
23 しかし，イエスは続けて言われた。「すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は，姦淫を行う者であり，また，夫から出された女をめとる者も，姦淫を行う者である。あなたがたによく言っておく。わたしはあなたがたを金持ちにたとえよう。

JS ルカ 17：21（ルカ 17：20－21 と比較せよ）

（神の王国はすでに来ている。）

21 『見よ，ここにある』『あそこにある』とも言えない。神の王国は，すでにあなたがたのもとに来ている。

JS ルカ 17：36－40（ルカ 17：37 と比較せよ）

（イエスは義人の集合に関して一つのたとえを語られた。）

36 弟子たちはイエスに言った。「主よ，彼らはどこに取り去られるのですか。」
37 すると，イエスは言われた。「死体が集まる所，言い換えれば，聖徒たちが集まる所には，はげたかも集まる，すなわち残りの者たちも集まるであろう。」
38 これはイエスが，聖徒たちの集合について，また天使たちが降って来て残りの者たちを聖徒たちのもとに集めることについて言われたのである。イエスが述べておられるように，ある者は寝室から，別の者はうすをひく場所から，またある者は畑から集められる。
39 まことに，義の住む新しい天と新しい地がある。
40 そこには汚れた者はいない。地は衣のように古び，堕落が高じて消え去り，その足台はすべての罪から清められ，聖くなって残るのである。

JS ルカ 18:27（ルカ 18:27 と比較せよ）

（富に頼る者は神の王国に入ることができない。）

27 イエスは彼らに言われた。「富に頼る者は神の王国に入ることができない。しかし，この世に属するものを捨てる者を入らせることは，神にはできる。」

JS ルカ 21：24－26（ルカ 21：24－26

と比較せよ）

（イエスは来臨のしるしを説明された。）

24 イエスはこれらのことを彼らに語られたが，これはエルサレムの滅亡についてのことであった。そこで弟子たちは尋ねて言った。「先生，あなたがおいでになる時のことについてお話しください。」

25 すると，イエスは答えて言われた。「異邦人の時が満ちる時代に，太陽と月と星とにしるしが現れるであろう。地上では，海と波がとどろくように，諸国民がおじ惑って悩むであろう。地も乱れ，大いなる深みの水も荒れるであろう。

26 人々は世界に起ころうとしていることを思い，恐ろしさのあまり気を失うであろう。天の力が揺り動かされるからである。

JS ルカ 21:32（ルカ 21:32 と比較せよ）

（異邦人の時が満ちるときに，すべてが成就する。）

32 よく聞いておきなさい。これらのことがことごとく起こるまで，この時代，すなわち異邦人の時が満ちる時代は過ぎ去らないであろう。

JS ルカ 23:35（ルカ 23:34 と比較せよ）

（イエス，御自分を十字架につけたローマの兵卒たちのために赦しを求められる。）

35 そのとき，イエスは言われた。「父よ，彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか分からずにいるのです。」（これは，イエスを十字架につけた兵卒たちのことを言われたのである。）彼らはイエスの着物をくじ引きで分け合った。

JS ヨハネ 1：1－34（ヨハネ 1：1－34 と比較せよ）

（イエス・キリストの福音は初めから宣べ伝えられてきた。一人のエライアス〔バプテスマのヨハネ〕がキリストのために道を備え，もう一人のエライアス〔キリスト〕が万事を元どおりにすることになっていた。）

1 初めに御子を通して福音が宣べられた。福音は言葉であり，言葉は御子とともにあり，御子は神とともにおられ，御子は神から出ておられた。

2 御子は初めに神とともにおられた。

3 すべてのものは，この御方によって造られた。造られたもののうち，一つとしてこの御方によらないものはなかった。

4 この御方の内に福音があった。福音は命であり，この命は人の光であった。

5 光は世の中で輝いている。そして，世はそれに気づかなかった。

6 神から遣わされた一人の人がいた。その名をヨハネといった。

7 この人は証のために世に来た。すべての人に光について証をし，御子による福音について証をし，彼によってすべての人が信じるためである。

8 彼は光ではなく，光について証をするために来たのである。

9 その光は，この世に来るすべての人を照らすまことの光，

10 すなわち神の御子であった。この御方は世におられた。そして，世は

この御方によって造られたのに，世はこの御方を知らずにいた。
11 この御方は御自分の民のところに来られた。そして，民はこの御方を受け入れなかった。
12 しかし，この御方を受け入れた人々，すなわち，その名を信じた人々だけに，この御方は神の子となる力をお与えになった。
13 この御方は，血すじによらず，肉の欲によらず，また人の欲にもよらず，ただ神によってお生まれになったのである。
14 その言葉は肉体となり，わたしたちの間に住まわれた。わたしたちはその栄光を見た。それは御父の独り子としての栄光であって，恵みと真理とに満ちていた。
15 ヨハネはこの御方について証をし，叫んで言った。「『わたしの後に来られる御方は，わたしよりも優れた御方である。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは，この御方のことである。」
16 初めに言葉，すなわち肉となられた御子がおられ，御父の御心によってわたしたちのもとに遣わされた。この御方の名を信じる者は皆，この御方の完全を受ける。わたしたちは皆，この御方の完全を受け，この御方の恵みによってまことに不死不滅と永遠の命を受ける。
17 律法はモーセを通して与えられ，命と真理はイエス・キリストを通して来たのである。
18 その律法は，肉の戒めに従って死を扱うものであるが，福音は御父の懐におられる独り子イエス・キリストを通して得られる，無窮の命の力によるものだからである。
19 神が御子を証されるときのほかは，神を見た者はまだだれもいない。なぜなら，御子によらなければ，だれも救われないからである。
20 さて，ユダヤ人たちが，エルサレムから祭司たちやレビ人たちをヨハネのもとに遣わして，「あなたはどなたですか」と問わせたが，そのときにヨハネが立てた証はこうであった。
21 すなわち，彼は告白して，自分がエライアスであることを否まず，「わたしはキリストではない」と告白して言った。
22 そこで，彼らは問うて言った。「どうしてあなたはエライアスなのですか。」彼は「わたしは万事を元どおりにするエライアスではない」と言った。すると彼らは問うて言った。「では，あの預言者ですか。」彼は「いいえ」と答えた。
23 そこで，彼らは言った。「あなたはどなたですか。わたしたちを遣わした人々に答えを持って行けるようにしていただきたい。あなたは自分を何だと言われるのですか。」
24 彼は言った。「わたしは，預言者イザヤが言っているように，『主の道をまっすぐにせよと荒れ野で叫ぶ者の声』である。」
25 遣わされた者たちはパリサイ人であった。
26 彼らはヨハネに問うて言った。「では，あなたがキリストでも，万事を元どおりにすることになっていたエライアスでも，またあの預言者でもないのなら，なぜバプテスマを授けるのですか。」
27 ヨハネは彼らに答えて言った。

「わたしは水でバプテスマを授けるが，あなたがたの知らない御方が，あなたがたの中に立っておられる。
28 わたしが証をするのは，その御方のことである。その御方はあの預言者，すなわちわたしの後においでになるエライアスであって，わたしよりも優れた御方である。わたしはその御方の履物のひもを解く値打ちもないし，その御方の座を占めることもできない。その御方は水だけでなく，火と聖霊とによってバプテスマを授けられるからである。」
29 その翌日，ヨハネはイエスが自分の方に来られるのを見て言った。「見よ，世の罪を取り除く神の小羊。」
30 ヨハネは人々に，イエスについて証をして言った。「『わたしの後に来る御方は，わたしよりも優れた御方である。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは，この御方のことである。わたしはこの御方を知っており，この御方がイスラエルに現れてくださるそのことのために，わたしは来て，水でバプテスマを授けているのである。」
31 ヨハネはまた証をして言った。「この御方がわたしからバプテスマをお受けになったとき，わたしは，御霊が鳩のように天から降って，この御方の上にとどまるのを見た。
32 わたしはこの御方を知っていた。水でバプテスマを授けるようにと，わたしをお遣わしになった御方が，わたしに言われた。『ある人の上に，御霊が降ってとどまるのを見たら，その人こそは，聖霊によってバプテスマを授ける人である。』
33 わたしはそれを見たので，この御方こそ神の御子であると，証をしたのである。」
34 これらのことは，ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダンの向こうのベテアバラであったのである。

JS ヨハネ 1:42（ヨハネ 1:42 と比較せよ）

（ケパとは「聖見者」または「石」という意味である。）

42 そして，彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。すると，イエスは彼に目を留めて言われた。「あなたはヨナの子シモンである。あなたをケパ（訳せば，聖見者または石）と呼ぶことにする。」彼らは漁師であったが，すぐにすべてのものを置いて，イエスに従った。

JS ヨハネ 4：1−4（ヨハネ 4：1−2 と比較せよ）

（イエス，バプテスマを施される。）

1 イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり，またバプテスマを施しておられるということを，パリサイ人たちが聞いたとき，
2 彼らはイエスを死に追いやる手立てを懸命に探した。多くの者がヨハネを預言者として受け入れたが，イエスを信じていなかったからである。
3 主はこれを知っておられた。しかし，主御自身，弟子たちほど多くはないが，バプテスマを施された。
4 互いに尊敬し合うという模範を彼らに示すためであった。

JS ヨハネ 4:26（ヨハネ 4:24 と比較せよ）

（神は心から信じる者たちに神の御霊を約束された。）

26 神はそのような者に，神の御霊を約束されたからである。だから，神を礼拝する者は，霊とまこととをもって礼拝しなければならない。」

JS ヨハネ 13：8−10（ヨハネ 13：8−10 と比較せよ）

（イエス，使徒たちの足を洗われる。）

8 ペテロはイエスに言った。「わたしの足を洗っていただくには及びません。」イエスは彼に答えられた。「もしわたしがあなたの足を洗わないなら，あなたはわたしと何のかかわりもなくなる。」

9 シモン・ペテロはイエスに言った。「主よ，では，足だけでなく，どうぞ，手も頭も。」

10 イエスは彼に言われた。「すでに手と頭を洗っている者は，足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなのだから。あなたがたはきれいなのだ。しかし，みんながそうなのではない。」さて，これは彼らの律法の下でのユダヤ人の習わしであったので，イエスは律法を成就するためにこれを行われたのである。

JS ヨハネ 14：30（ヨハネ 14：30 と比較せよ）

（暗黒の君，すなわちサタンは，この世に属する者である。）

30 わたしはもはや，あなたがたに多くを語るまい。この世に属する暗黒の君が来るからである。彼はわたしを支配する力は持たないが，あなたがたを支配する力は持っている。

JS 使徒 9:7（使徒 9:7；22:9 と比較せよ）

（パウロが改心したときに彼とともにいた者たちは，光を見たが，声は聞かず，主の姿を見ることもなかった。）

7 サウロの同行者たちは，実際に光を見て恐れた。しかし，サウロに語りかけた御方の声は聞かなかった。

JS ローマ 4:16（ローマ 4:16 と比較せよ）

（信仰と行いの両方があって，しかも恵みを受けなければ，救いは得られない。）

16 このようなわけで，あなたがたは信仰と行いにより，恵みを通して義とされるのである。こうして約束がすべての子孫に，すなわち，律法に立つ者だけでなく，わたしたちすべての者の父であるアブラハムの信仰に従う者にも保証されるのである。

JS ローマ 7：5−27（ローマ 7：5−25 と比較せよ）

（キリストには人を変える力がある。）

5 というのは，わたしたちが肉にあったときには，律法によらない罪の欲情が，死に至る実を結ばせようとして，わたしたちの肢体の内に働いていた。

6 しかし今は，律法に対して死んだので，わたしたちは自分たちをつないでいた律法から解放され，その結果，古い文字によってではなく，新しい霊によって仕えているのである。

7 それでは，わたしたちは何と言お

うか。律法は罪なのか。断じてそうではない。しかし,律法によらなければ,わたしは罪を知らなかったであろう。すなわち,もし律法が「むさぼるな」と言わなかったら,わたしはむさぼりなるものを知らなかったであろう。

8 しかるに,罪は戒めによって機会を捕らえ,わたしの内に働いて,あらゆるむさぼりを起こさせた。すなわち,律法がなかったら,罪は死んでいるのである。

9 わたしはかつては,律法に背くことなく生きていたが,キリストの戒めが来るに及んで,罪は生き返り,わたしは死んだ。

10 そして,命に導くように定められたキリストの戒めが来たことを信じなかったときに,わたしはそれがわたしを死に至る罪に定めることが分かった。

11 なぜなら,罪は機会を捕らえて戒めを否定し,わたしを欺き,そしてそれによってわたしは殺されたからである。

12 しかしながら,律法は聖なるものであり,戒めも聖なるものであって,正しく,かつ善なるものであることが,わたしには分かった。

13 では,善なるものがわたしにとって死となったのか。断じてそうではない。それはむしろ,善なるものがわたしの内で死となるために罪となって現れるその罪が,戒めによって,甚だしく悪性なものとなるのである。

14 わたしたちは,戒めは霊にかかわるものであることを知っている。しかし,わたしは律法の下にあったときは,まだ肉につける者であって,罪の下に売られていた。

15 しかし今,わたしは霊的である。行うように命じられていることを行っているからである。また,許さないように命じられていることは許さないからである。

16 わたしは,正しくないと知っていることは行わない。罪であることを,わたしは憎むからである。

17 もし自分が許さないことを行っていないとすれば,わたしは律法が良いものであることを承認していることになる。そして,わたしは罪に定められない。

18 そこで,罪を犯しているのは,もはやわたしではない。わたしは,わたしの内に宿っているその罪を従わせようとしているのである。

19 わたしの内には,すなわち,わたしの肉の内には,善なるものが宿っていないことを,わたしは知っている。なぜなら,善であることをしようとする意志は自分にあるが,それをなす力はキリストにしかないからである。

20 わたしは,律法の下でしようとした善は善ではないと分かっている。だから,わたしはそれをしない。

21 しかし,律法の下でしようとは思わない悪は善であると分かっている。だから,わたしはそれをする。

22 もしわたしが律法の下でしようと思わなかったことを,キリストの助けによってするならば,わたしは律法の下にない。そして,わたしはもはや不正を行うことではなく,わたしの内に宿っている罪を従わせることを求める。

23 そこで,律法の下では,善をしようと欲していたわたしに悪が入り込んでいたことが分かる。わたしは,内

なる人としては神の律法を喜んでいるからである。

24 そして今，わたしはキリストの戒めという別の律法を見ている。そして，それはわたしの心に刻み込まれている。

25 しかし，わたしの肢体は，わたしの心の法則に対して戦いを挑み，そして，肢体の内に存在する罪の法則の中にわたしをとりこにしている。

26 もしわたしが自分の内にある罪を従わせることをせずに，肉によって罪の法則に仕えるならば，おお，わたしは何という惨めな人間だろうか。だれがこの死の体から，わたしを救ってくれるだろうか。

27 わたしたちの主イエス・キリストを通して，神に感謝する。このように，わたし自身は，心で神の律法に仕えているのである。

JS ローマ 8:8（ローマ 8:8 と比較せよ）

（肉の習わしに従う者は神に喜ばれない。）

8 また，肉に従う者は，神を喜ばせることができない。

JS 1 コリント 7:1−2，5，26，29−33（1 コリント 7:1−2，5，26，29−33 と比較せよ）

（パウロ，伝道に召されている人々の間の結婚に関する質問に答える。）

1 さて，あなたがたが書いてよこしたこと，すなわち，男は女に触れない方がよいということについてであるが，

2 不品行に陥ることのないために，男はそれぞれ自分の妻を持ち，女もそれぞれ自分の夫を持つがよいと，わたしは答えよう。

5 互いに離れてはいけない。ただし，合意のうえで断食と祈りに専心するために，しばらく相別れ，それからまた一緒になることは差し支えない。そうでないと，自制力のないのに乗じて，サタンがあなたがたを誘惑するかもしれない。

26 わたしはこう考える。現在迫っている危機のゆえに，人はさらに大いなる善をなすため，そのままの状態でいるのがよい。

29 しかし，務めに召されているあなたがたに言う。兄弟たちよ，わたしの言うことを聞いてほしい。残りの時はほんのわずかであって，あなたがたは務めのために遣わされるからである。妻のある者はない者のようになるであろう。あなたがたは主の業を行うために召され，選ばれているからである。

30 主の業にあっては，泣く者は泣かない者のように，喜ぶ者は喜ばない者のように，買う者は持たない者のように，

31 世と交渉のある者は交渉のない者のようにすべきである。なぜなら，この世の有様は過ぎ去るからである。

32 しかし兄弟たちよ，あなたがたは自分の召しを尊んで大いなるものとしてほしい。思い煩わないようにしてほしい。未婚の男は，どうすれば主に喜ばれるかと，主のことに心を配る。だから，彼は勝利を得る。

33 しかし，結婚している男は，どうすれば妻に喜ばれるかと，世のことに心を配る。そこに相違がある。妨げを受けるからである。

JS 1コリント15：40（1コリント15：40と比較せよ）

（復活には３つの栄光の階級がある。）

40 日の栄えの体もあれば，月の栄えの体も，星の栄えの体もある。しかし，日の栄えのものの栄光と月の栄えのものの栄光と星の栄えのものの栄光は，違っている。

JS 2コリント5：16（2コリント5：16と比較せよ）

（パウロ，肉に従って生きることのないように聖徒たちに勧める。）

16 それだから，わたしたちはもう，肉に従って生きることはすまい。かつては肉に従って生きていたとしても，キリストを知ったのだから，今はもう肉に従って生きることはすまい。

JS ガラテヤ3：19−20（ガラテヤ3：19−20と比較せよ）

（キリストは新しい聖約〔契約〕の仲保者である。モーセの律法〔古い聖約〕と永遠の福音〔新しい聖約〕が比較される。）

19 それであるから，律法は背きのゆえに，後から加えられたのであって，モーセに与えられた律法の中で約束された子孫が来るまで存続するものであり，モーセは，この最初の聖約（律法）の仲保者となるために，天使たちの手によって聖任された者である。
20 さて，この仲保者は新しい聖約の仲保者ではなかった。新しい聖約には一人の仲保者がおられ，それはキリストであって，アブラハムとその子孫になされた約束についての律法の中に記されているとおりである。キリストは命の仲保者であられる。これが，神がアブラハムにお与えになった約束だからである。

JS エペソ4:26（エペソ4:26と比較せよ）

（不義な怒りは罪である。）

26 あなたがたは怒りながら罪を犯さずにいられようか。憤ったままで日が暮れるようであってはならない。

JS 1テサロニケ4:15（1テサロニケ4:15と比較せよ）

（生きながらえて主の来臨を迎える義にかなった人々が，亡くなった義人よりも利を得るということはない。）

15 わたしたちは主の言葉によって言うが，生きながらえて主の来臨を迎える人々が，眠ったままで主の来臨の時まで残っている人々より先になることはないであろう。

JS 2テサロニケ2：2−3，7−9（2テサロニケ2：2−9と比較せよ）

（パウロ，主が戻って来られる前の背教を預言する。）

2 わたしたちから受け取るものでないかぎり，キリストの日はすでに来たと告げる手紙によってすぐさま心を動かされたり，あわてたりしてはいけない。霊についても，言葉についても同じである。
3 だれがどんなことをしても，それにだまされてはならない。まず背教のことが起こり，罪の者，すなわち滅びの子が現れるに違いない。

7　不法の秘密の力がすでに働いている。今働いているのはその者であって，キリストは，時が満ちてその者が取り除かれるまで，その者が働くままにしておられる。
8　その時になると，邪悪な者が現れる。この者を主は口の息をもって殺し，来臨の輝きによって滅ぼされるであろう。
9　主すなわちイエスの来臨は，あらゆる力と，しるしと，偽りの不思議を伴ったサタンの働きによる背教が来なければ，起こらないのである。

JS 1テモテ2：4（1テモテ2：4と比較せよ）

（キリストは独り子であり，仲保者であられる。）

4　神は，すべての人が救われて，神の独り子であり神と人との間の仲保者として聖任を受けられたキリスト・イエスにある真理の知識に至ることを望んでおられる。キリスト・イエスは神であって，すべての人を支配する権威を持っておられる。

JS 1テモテ6：15−16（1テモテ6：15−16と比較せよ）

（心に宿る不死の光を持つ者は，イエスにまみえることができる。）

15　時が来れば，祝福に満ちた，ただ一人の力ある御方，王の王，主の主が，キリストを出現させてくださるであろう。誉れと永遠の支配が，神にあるように。
16　神はだれ一人まみえた者がなく，まみえることもできない御方で，心の中に不死の光と希望を持つ者でなければ，近づくことのできない御方である。

JS ヘブル1：6−7（ヘブル1：6−7と比較せよ）

（天使たちは仕える霊である。）

6　さらにまた，神はその長子を世界に導き入れるに当たって，「神の天使たちはことごとく，仕える者たちを炎とする者を拝すべきである」と言われた。
7　また，天使たちについては，「天使たちは仕える霊である」と言われた。

JS ヘブル4：3（ヘブル4：3と比較せよ）

（神の業は世の初めから備えられていた。）

3　ところが，わたしたち信じている者は，安息に入ることができる。それは，神がこう言われたからである。「わたしが怒って誓ったように，彼らは心をかたくなにするならば，わたしの安息に入れない。また，心をかたくなにしなければわたしの安息に入れると，わたしは誓った。もっとも，神の業は世の初めから備えられていた（すなわち，出来上がっていた）。」

JS ヘブル5：7−8

（ジョセフ・スミス訳の草稿には，7，8節はキリストではなくメルキゼデクについて語ったものであるとの書き込みが見られる。それ以外は，欽定訳とジョセフ・スミス訳は同じである。）

JS ヘブル6：1，3（ヘブル6：1，3と比較せよ）

（完成へと導くキリストの原則。）

1 そういうわけだから，わたしたちはキリストの教義の原則をなおざりにすることなく，完成を目指して進もうではないか。今さら，死んだ行いの悔い改めと神への信仰，
3 神の許しを得て，完成を目指して進もう。

JS ヘブル 7：3（ヘブル 7：3 と比較せよ）

（神の御子の位に従う聖なる神権は，父もなく母もなく，生涯の初めもなく終わりもない。）

3 なぜなら，このメルキゼデクは神の御子の位に従う祭司に聖任されたからである。その位とは父がなく，母がなく，系図がなく，生涯の初めもなく，命の終わりもないものである。そして，この神権に聖任される人々は皆，神の御子のようであって，いつまでも祭司なのである。

JS ヘブル 7：25－26（ヘブル 7：26－27 と比較せよ）

（仲保者としてのキリストの役割が説明される。）

25 このように，聖く，悪も汚れもなく，罪人とは区別され，かつ，もろもろの天を治める者とされている大祭司こそ，わたしたちにとってふさわしい御方である。
26 この御方は，まず自分の罪のため，次に民の罪のために，日々，犠牲をささげる大祭司のようではない。罪を知らないので，御自分の罪のために犠牲をささげる必要がないからである。しかし，民の罪のためには犠牲をささげる必要がある。この御方は一度だけ，御自分をささげてそれをされた。

JS ヘブル 11：35（ヘブル 11：35 と比較せよ）

（キリストのために苦しむ忠実な人々は，第一の復活にあずかる。）

35 女たちは，その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は，第一の復活にあずかるために，拷問の苦しみに甘んじ，放免されることを願わなかった。

JS ヤコブ 2：1（ヤコブ 2：1 と比較せよ）

（教会員は，人を見るときに分け隔てしてはならない。）

1 わたしの兄弟たちよ，人を分け隔てしていては，栄光の主であるわたしたちの主イエス・キリストを信じる信仰を持つことはできない。

JS 1 ペテロ 3：20（1 ペテロ 3：20 と比較せよ）

（獄にいた霊の中には，ノアの時代に不義を働いた者たちがいた。）

20 これらの霊の中には，ノアの時代に，箱舟が造られていた間，神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者たちがいた。その箱舟に乗り込み，水を経て救われたのは，わずかに八名だけであった。

JS 1 ペテロ 4：6（1 ペテロ 4：6 と比較せよ）

（福音が死んだ者たちに宣べ伝えられる。）

6 このために，死んだ者たちに福音が宣べ伝えられるのである。彼らが肉においては人間として裁きを受けるが，霊においては神の御心に従って生きるようになるためである。

JS 1 ペテロ 4：8（1 ペテロ 4：8 と比較せよ）

（慈愛は罪を犯すのを防ぐ。）

8 何よりもまず，互いに慈愛を熱く保ちなさい。慈愛は多くの罪を防ぐものである。

JS 1 ヨハネ 2：1（1 ヨハネ 2：1 と比較せよ）

（わたしたちが悔い改めるならば，キリストは御父に対する弁護者〔助け主〕となってくださる。）

1 わたしの子たちよ，これらのことを書き送るのは，あなたがたが罪を犯さないようになるためである。しかし，たとえ罪を犯しても悔い改めれば，わたしたちには御父に対する弁護者，義なるイエス・キリストがおられる。

JS 1 ヨハネ 3：9（1 ヨハネ 3：9 と比較せよ）

（だれでも神から生まれた者は，罪の中にとどまらない。）

9 だれでも神から生まれた者は，罪の中にとどまらない。神の御霊がその人の内にとどまっているからである。また，その人は神から生まれた者であり，約束の聖なる御霊を受けた者であるから，罪の中にとどまることはできないのである。

JS 1 ヨハネ 4：12（1 ヨハネ 4：12 と比較せよ）

（神を信じる者だけが神にまみえることができる。）

12 信じる者以外に，神にまみえた者はまだ一人もいない。もしわたしたちが互いに愛し合うなら，神はわたしたちのうちにおられ，神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

JS 黙示 1:1−4（黙示 1:1−4 と比較せよ）

（ヨハネはイエス・キリストから黙示を受け，アジヤの 7 つの教会を管理している指導者たちにそれを伝えた。）

1 神の僕であるヨハネの黙示。この黙示は，イエス・キリストから，すぐにも起こるべきことをその僕たちに示すためにヨハネに与えられたものである。イエス・キリストは天使を遣わして，これを僕ヨハネに伝えられた。

2 ヨハネは，神の言葉とイエス・キリストの証と，自分が見たすべてのことについて証した。

3 この預言の言葉を読む者たちと，これを聞いて理解し，その中に書かれていることを守る者たちとは，幸いである。主の来臨の時が近づいているからである。

4 さて，これは，アジヤにある七つの教会を管理している七人の僕へのヨハネの証である。今おられ，昔おられ，やがて来られる御方，すなわち，七つの教会を管理している七人の僕

に証するために，その御座の前から天使を遣わされた御方から，恵みと平安があなたがたにあるように。

JS 黙示 2：22（黙示 2：22 と比較せよ）

（悪人は地獄に投げ入れられる。）

22 見よ，わたしはこの女を地獄に投げ入れよう。この女と姦淫する者をも，その行いを悔い改めなければ，大きな艱難の中に投げ入れよう。

JS 黙示 5：6（黙示 5：6 と比較せよ）

（神の 12 人の僕が全世界に遣わされる。）

6 わたしはまた，御座と四つの生き物との間，長老たちの間に，ほふられたとみえる小羊が立っているのを見た。それには十二の角と十二の目があった。これらは，全世界に遣わされた，神の十二人の僕である。

JS 黙示 12：1－17（黙示 12：1－17；教義と聖約 77 章と比較せよ）

（女〔教会〕，子〔神の王国〕，鉄の杖〔神の言葉〕，龍〔サタン〕，ミカエルについて説明される。天での戦いが地上でも続いている。）

1 また，地上における数々のしるしと同じように，大いなるしるしが天に現れた。一人の女が太陽を着て，足の下に月を踏み，その頭に十二の星の冠をかぶっていた。

2 この女は子を宿しており，産みの苦しみと痛みのために泣き叫んでいた。

3 女は男の子を産んだが，彼は鉄の杖をもってすべての国民を治めるべき者である。この子は，神とその御座のもとに引き上げられた。

4 また，もう一つのしるしが天に現れた。見よ，大きな，赤い龍がいた。それに七つの頭と十の角とがあり，その頭に七つの冠をかぶっていた。その尾は天の星の三分の一を掃き寄せ，それらを地に投げ落とした。龍は子を産もうとしている女の前に立ち，生まれたなら，その子を食い尽くそうと構えていた。

5 女は荒れ野へ逃げて行った。そこには，彼女が千二百六十年の間 養われるように，神の用意された場所があった。

6 さて，天では戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが，龍と戦ったのである。龍とその使いたちはミカエルと戦った。

7 龍は，ミカエルにも，この子にも，この女にも勝てなかった。女は神の教会であり，すでに苦痛から解き放され，わたしたちの神とそのキリストの王国をもうけていた。

8 天には，この巨大な龍のいる所がなくなり，龍は投げ落とされた。すなわち，悪魔とか，サタンとか呼ばれた，全世界を惑わす年を経た蛇は，地に投げ落とされ，その使いたちもともに投げ落とされた。

9 そのとき，わたしは，大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や，わたしたちの神の救いと力と国と，神のキリストの権威とは，現れた。

10 わたしたちの兄弟たちを訴える者，日夜わたしたちの神の前で彼らを訴える者は，投げ落とされた。

11 兄弟たちは，小羊の血と彼らの証の言葉とによって彼に打ち勝った。

彼らは自分の命を惜しまず，死に至るまでも証を保ったからである。それゆえ，おお，天と，そこに住む者たちよ，大いに喜びなさい。」

12 この後，わたしは，別の声がこう言うのを聞いた。「地に住む者たちと，海の島々に住む者たちは，災いである。悪魔が自分の時が短いのを知り，激しい怒りをもって，あなたがたのところに降って来たからである。」

13 龍は自分が地上に投げ落とされたと知ると，男の子を産んだ女を追いかけた。

14 それで，女は荒れ野にある自分の場所へ逃げるために，大きな鷲の二つの翼を与えられた。そしてそこで蛇から逃れて，一時と二時と半時の間，養われることになっていた。

15 蛇は女の後に水を川のように口から吐き出して，女を押し流そうとする。

16 しかし，地は女を助ける。すなわち，地はその口を開いて，龍が口から吐き出す川を飲み干す。

17 それゆえ，龍は女に対して怒りを発し，女の子孫の残りの者，すなわち，神の戒めを守り，イエス・キリストの証を持っている者たちに対して戦いを挑むために出て行った。

JS 黙示 19：15，21（黙示 19：15，21 と比較せよ）

（神はキリストの言葉を使って諸国民を打たれる。）

15 その口から神の言葉が出て，彼はそれで諸国民を打つ。彼はその口の言葉をもって諸国民を治める。また，全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。

21 それ以外の者たちは，馬に乗っておられる御方の口から出る言葉で殺され，その肉を，すべての鳥が飽きるまで食べた。

教会歴史の年表

地 図

写 真

© 2004 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有

1805年12月23日
ジョセフ・スミス（1805－44），バーモント州シャロンでジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの間に生まれる（ジ－歴史 1：3 参照）。

1820年早春
預言者ジョセフ・スミス，ニューヨーク州パルマイラの町とマンチェスターの町にまたがる，自宅に近い森で最初の示現を受ける（ジ－歴史 1：15－17 参照）。

1823年9月21－22日
ジョセフ・スミス，天使モロナイの訪れを受け，『モルモン書』の記録について告げられる。ジョセフ，近くの丘（クモラ）に埋められている金版を目にする（ジ－歴史 1：27－54 参照）。

1827年9月22日
ジョセフ・スミス，クモラの丘でモロナイから金版を受け取る（ジ－歴史 1：59 参照）。

1829年5月15日
バプテスマのヨハネ，ペンシルベニア州ハーモニーでジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授ける（教義 13 章；ジ－歴史 1：71－72 参照）。

1829年5月
ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリ，ペンシルベニア州ハーモニーとニューヨーク州コールズビルの間にあるサスケハナ川の近くで，ペテロとヤコブとヨハネからメルキゼデク神権を受ける（教義 128：20 参照）。

1829年6月
『モルモン書』の翻訳が完了する。三人の証人と八人の証人に金版が示される（2 ニフ 11：3；27：12－13；教義 17 章参照）。

1830年3月26日
『モルモン書』の初版本がニューヨーク州パルマイラで出版される。

1830年4月6日
教会，ニューヨーク州フェイエットの町で組織される。

1830年9－10月
レーマン人（アメリカ先住民）に教えを説くために最初の宣教師たちが召される（教義 28；30；32 章参照）。

1830年12月－1831年1月
聖徒たち，オハイオに集合するように命じられる（教義 37 章；38：31－32 参照）。

1831年 7月20日
シオンの町（新エルサレム）のための予定地，ミズーリ州インディペンデンスにおいて預言者ジョセフ・スミスに啓示される（教義 57 章；箇条 1：10 参照）。

1833年3月18日
シドニー・リグドンとフレデリック・G・ウィリアムズ，大管長会の顧問として任命され（教義 81 章前書き参照），この最後の王国の鍵を授けられる（教義 90 章前書き，6 節参照）。

1833年11月7日
聖徒たち，ミズーリ州ジャクソン郡の暴徒から逃れてミズーリ川を渡り，クレイ郡に移り住む。

1834年5 月5日
ジョセフ・スミス大管長，ジャクソン郡から追放された聖徒たちを救うために，シオンの陣営の指導者としてオハイオ州カートランドを出てミズーリに向かう。

1835年2月14日
十二使徒定員会，オハイオ州カートランドで組織される（教義 107：23－24 参照）。

1835年2月28日
七十人第一定員会の組織の編制がオハイオ州カートランドで始まる。

1835年8月17日
『教義と聖約』，オハイオ州カートランドで教会の標準聖典として受け入れられる。

1836年3月27日
カートランド神殿，奉献される（教義 109 章参照）。

1836年4月3日
イエス・キリスト，カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御姿を現される。モーセとエライアスとエリヤが姿を現し，神権の鍵を授ける（教義 110 章参照）。

1837年7月19日
ヒーバー・C・キンボールとほか 6 人，教会初の海外伝道で英国リバプールに到着する。

1838年4月26日
教会の名称，啓示によって定められる（教義 115：4 参照）。

1838年12月1日
預言者ジョセフ・スミスたち，ミズーリ

州クレイ郡リバティーで，リバティーの監獄に収監される（教義 121−123 章参照）。

1840年8月15日

死者のためのバプテスマ，預言者ジョセフ・スミスにより公表される。

1841年10月24日

オーソン・ハイド長老，アブラハムの子孫の帰還のために聖地を奉献する（教義 68：1−3；124：128−129 参照）。

1842年3月17日

女性の扶助協会，イリノイ州ノーブーで組織される。

1842年5月4日

最初の完全な神殿エンダウメントが授けられる。

1844年6月27日

ジョセフ・スミスとハイラム・スミス，カーセージの監獄で殉教する（教義 135 章参照）。

1846年2月4日

ノーブーの聖徒たち，西部へ向かうためにミシシッピ川を渡り始める。合衆国東部の一部の聖徒たちは，カリフォルニアを目指してブルックリン号でニューヨーク市を出港する。

1846年7月16日

モルモン大隊，アイオワで合衆国軍の徴募に応じる。

1847年4月

ブリガム・ヤング会長の先遣隊，ウィンタークォーターズを出発して西部へ向かう（教義 136 章参照）。

1847年7月24日

ブリガム・ヤング会長，ソルトレーク盆地に入る。

1847年12月27日

教会の大会で，ブリガム・ヤング会長，ヒーバー・C・キンボール長老，ウィラード・リチャーズ長老が大管長会として支持を受ける。

1848年5−6月

ソルトレーク盆地でクリケットが作物を食い荒らす。かもめの群れがクリケットを食い尽くし，畑は全滅を免れる。

1849年12月9日

日曜学校，リチャード・バレンタインによって組織される。

1850年6月15日

Deseret News（デゼレト・ニューズ），ソルトレーク・シティーで発刊される。

1856年10月

ウィリー手車隊とマーティン手車隊，時期はずれの吹雪によって動けなくなり，ソルトレーク盆地からの救援隊により救助される。

1867年12月8日

扶助協会，ブリガム・ヤング大管長の指示の下に再組織される。

1869 年11月28日

青年女子倹約協会が組織される。これが後年，若い女性プログラムとなる。

1875年6月10日

青年男子相互発達協会が組織される。これが後年，若い男性プログラムとなる。

1877年4月6日

セントジョージ神殿，奉献される。ブリガム・ヤング大管長，神権組織とシオンのステークを整えるための啓示を受ける。

1878年8月25日

オーレリア・スペンサー・ロジャーズ，ユタ州ファーミントンで最初の初等協会の集会を開く。

1880年10月10日

ジョン・テーラー，大管長として支持される。『高価な真珠』が標準聖典として受け入れられる。

1883年4月14日

七十人の組織に関して，ジョン・テーラー大管長に啓示が与えられる。

1889年4月7日

ウィルフォード・ウッドラフ，大管長として支持される。

1890年10月6日

多妻結婚の実施の終結を発表する「公式の宣言」が，総大会で支持される（公式 1 参照）。

1893年4月6日

ウィルフォード・ウッドラフ大管長，40 年かけて建設されたソルトレーク神殿を奉献する。

1898年9月13日

ロレンゾ・スノー，大管長になる。

1899年5月17日

ロレンゾ・スノー大管長，什分の一を強調するように促す啓示をセントジョージで

受ける（教義 119 章参照）。

1901年10月17日
ジョセフ・F・スミス，大管長になる。

1918年10月3日
ジョセフ・F・スミス大管長，死者の贖いに関する示現を受ける（教義 138 章参照）。

1918年11月23日
ヒーバー・J・グラント，大管長になる。

1936年4月
教会保全プログラムが，大恐慌の時代に貧しい人々を助けるために設けられ，これが教会福祉プログラムになる。このプログラムは，かつてヒーバー・J・グラント大管長が受けた啓示を発展させたものである。

1941年4月6日
十二使徒会補助が初めて召される。

1945年5月21日
ジョージ・アルバート・スミス，大管長になる。

1951年4月9日
デビッド・O・マッケイ，大管長として支持される。

1961年9月30日
ハロルド・B・リー長老，大管長会の指示の下に，すべての教会プログラムは家族と個人を強めるために神権を通じて相互調整しなければならない旨，発表する。

1964年10月
「家庭の夕べ」の実施が再度強調される。

1970年1月23日
ジョセフ・フィールディング・スミス，大管長になる。

1971年1月
教会の新しい機関誌—Ensign（エンサイン），New Era（ニューエラ），Friend（フレンド）—が発刊される。

1972年7月7日
ハロルド・B・リー，大管長になる。

1973年12月30日
スペンサー・W・キンボール，大管長になる。

1975年10月3日
スペンサー・W・キンボール大管長，七十人第一定員会の再組織を発表する。

1976年4月3日
二つの啓示が『高価な真珠』に追加される。これは 1981 年に『教義と聖約』に移され，第 137 章と第 138 章になる。

1978年9月30日
人種や肌の色にかかわりなく，すべてのふさわしい男性会員に神権が授与されるという啓示が，教会により支持される（公式 2 参照）。

1979年8月
末日聖徒版『欽定訳聖書』（英語），学習ガイド付きで発行される。

1981年9月
新しい英語版の『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』が発行される。

1984年6月
七十人から召された会員で構成される地域会長会が設けられる。

1985年11月10日
エズラ・タフト・ベンソン，大管長になる。

1989年4月1日
七十人第二定員会，再組織される。

1994年6月5日
ハワード・W・ハンター，大管長になる。

1995年3月12日
ゴードン・B・ヒンクレー，大管長になる。

1995年4月1日
地区代表の職が廃止される。地域幹部という新たな指導者の職が発表される。

1995年9月23日
「家族—世界への宣言」，大管長会と十二使徒評議会から発表される。

1997年4月5日
地域幹部が七十人に聖任される。七十人第三，第四，第五定員会の設置が発表される。

1997年10月4日
ヒンクレー大管長，小規模神殿の建設を発表する。

1997年11月
教会員数が 1,000 万に達する。

1998年4月
ヒンクレー大管長，2000 年までに 100 の神殿を稼働可能にするという目標を発表する。

ここに収められている重要な教会史跡の写真は，初期の末日聖徒が歩んだ場所，近代の預言者たちが生活し教えた場所，また聖典中の多くの出来事があった場所を撮影したものである。研究する際に写真をよく活用できるように，それぞれの写真には短い説明が付いている。説明の番号と見出しは，同じ番号と見出しが付いている写真と対応している。説明の見出しに続く最初の段落では，注目すべき重要な事柄とその写真が撮影された方向など，写真の背景が述べられている。次の段落には，その場所で起きた聖典中の重要な出来事が記載されており，それらの出来事についてもっと読めるように参照聖句が挙げられている。

1．聖なる森

聖なる森は，ニューヨーク州のパルマイラとマンチェスターの町にまたがっている。この森は，1820 年にスミス家族の小さな丸太造りの家があった場所のすぐ西側にある。

重要な出来事：父なる神と御子イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスを訪れたのは，この森の中でのことである（ジ－歴史 1：14－20）。

2．クモラの丘とマンチェスター ――パルマイラ地域

この写真は，ニューヨーク州マンチェスターにあるクモラの丘を北方に向かって撮ったものである。この丘は，写真の右下から真ん中より少し上の方まで伸びている。丘の北端に見える白い記念碑は，天使モロナイと『モルモン書』の出現をたたえるものである。クモラの丘は，聖なる森から南東約 5 km にある。写真の上方付近がパルマイラで，約 6.5km 離れている。スミス家の農場と聖なる森は写真の左上方にある。

重要な出来事：最初の示現があった当時，預言者ジョセフ・スミスの家族はこの地域に住んでいた（ジ－歴史 1：3）。紀元 421 年に，モロナイは自分の民の神聖な歴史を載せた金版をクモラの丘に埋めた（モ言 1：1－11；モル 6：6；モロ 10：1－2）。この同じモロナイがジョセフ・スミスに，丘の北端の近辺，頂上の西側付近に金版があることを告げた。モロナイが金版をジョセフ・スミスに渡したのは，1827 年のことである（教義 27：5；128：20；ジ－歴史 1：33－35，51－54，59）。

3．ジョセフ・スミス・シニアの丸太造りの家

復元されたジョセフ・スミス・シニアの家。ニューヨーク州パルマイラに近い当時の丸太造りの家があった場所に建てられている。スミス家族は，パルマイラに到着後ほどなくして，中 2 階建ての荒削りの丸太造りの家を建てた。

重要な出来事：預言者ジョセフ・スミスは，どの教会が正しいか知りたいと願っていた当時，この家で『聖書』を研究していた（ジ－歴史 1：11－13）。ここで，モロナイがジョセフに現れ，『モルモン書』の金版について告げた（ジ－歴史 1：30－47）。

4．グランディンの印刷機と印刷所

歴史的なエグバート・B・グランディンの建物の中に復元された印刷所。ここで 1830 年に『モルモン書』の初版本が出版された。マーティン・ハリスは，自分の農場を抵当に入れ，その一部を売って 5,000 冊の『モルモン書』の印刷代金を支払った。1829 年 8 月に活字を組み始め，完成本の配布が開始されたのは 1830 年 3 月 26 日のことである。

重要な出来事：マーティン・ハリスは，『モルモン書』の印刷の債務を支払うために財産の一部を惜しみなくささげるように命じられた（教義 19：26－35）。

5．サスケハナ川

この写真は，ペンシルベニア州ハーモニーの町を流れるサスケハナ川を撮ったものである。

重要な出来事:ジョセフ・スミス・ジュニアは，1825 年に職を求めて，初めてハーモニーにやって来た。ジョセフ・スミスと彼の父は，この近くのアイザック・ヘイルの家に下宿し，ジョセフはここで後に妻となるエマ・ヘイルに初めて出会った（ジ－歴史 1：56－57）。ジョセフとエマは，1827 年 1 月 18 日に結婚した。預言者は，1827 年 9 月 22 日にニューヨーク州マン

チェスターで金版を受け取り，その後間もなく，エマとともにハーモニーに移り住んだ。ジョセフは，この川の近くの小さな家で金版の翻訳を開始した。『モルモン書』を翻訳していたとき，ジョセフとオリバー・カウドリは，バプテスマについてもっと知りたいと思い，この川のほとりまで歩いて行き，そのことについて主に祈りをささげた。その祈りへの答えとして，1829 年 5 月 15 日に，バプテスマのヨハネが姿を現した（ジ－歴史 1：66−74；教義 13 章）。ヨハネはジョセフとオリバーにアロン神権を授けた。それから二人はこの川に入り，罪の赦（ゆる）しのために互いにバプテスマを施し合った。その後，ジョセフとオリバーはアロン神権に聖任し合うようにバプテスマのヨハネから指示された。その後間もなく，この川の岸辺にペテロとヤコブとヨハネが姿を現し，ジョセフとオリバーにメルキゼデク神権を授けた（教義 27：12−13；128：20）。

6. ピーター・ホイットマー・シニアの丸太造りの家

再建されたピーター・ホイットマー・シニアの丸太造りの家。ニューヨーク州フェイエットの当時の家の基礎があった場所に建てられている。

重要な出来事：ジョセフ・スミスは，1829 年 6 月後半にここで『モルモン書』の翻訳を完了した。この家の近くの森で，三人の証人が天使モロナイに会い，金版を目にした。彼らの証は現在，すべての『モルモン書』に掲載されている。1830 年 4 月 6 日，およそ 60 人がピーター・ホイットマーの家に集まり，イエス・キリストの教会が正式に組織される場に立ち会った。設立後間もない教会の初期の集会と大会はここで行われた。『教義と聖約』に掲載されている啓示のうち，20 の啓示は，ピーター・ホイットマーの家で与えられたものである。

7. ニューエル・K・ホイットニーの店

この店はカートランドにおける教会の歴史の中で大きな役割を果たした。ジョセフとエマ・スミスは短期間ここに住んだ。ここは 1832 年に教会の本部となった。重要な啓示の幾つかがここで与えられた。1833 年 1 月 24 日から 1833 年 4 月のある時期まで，この店で「預言者の塾」が開かれた。

重要な出来事：預言者ジョセフは「知恵の言葉」に関する啓示を受けた（教義 89 章）。預言者は，ここで『聖書』の翻訳に関して多くの作業を行った。

8. ジョン・ジョンソンの家

ジョン・ジョンソンとアリス・ジョンソンの家は，オハイオ州ハイラムにあった。この部屋はその 2 階にある。

重要な出来事：預言者ジョセフ・スミスと妻のエマは，この家に住んでいた。ジョセフとシドニー・リグドンは，1832 年 2 月 16 日に，ほかの数人の前で，栄光の階級に関する驚くべき示現を受けた（教義 76 章）。預言者ジョセフはまた，この家でジョセフ・スミス訳『聖書』に関する作業を行った。ジョセフとエマがここに住んでいた 1832 年 3 月 24 日に，背教者と反モルモンから成る暴徒がジョセフとシドニーを激しく打ちたたき，二人にタールを塗り，羽を付けた。

9. カートランド神殿

カートランド神殿はオハイオ州カートランドにある。

重要な出来事：カートランド神殿は，この神権時代に建てられた最初の神殿である（教義 88：119；95 章）。この神殿で，ジョセフ・スミスは日の栄えの王国の示現を見た（教義 137 章）。この神殿は，1836 年 3 月 27 日に奉献された（教義 109 章）。1836 年 4 月 3 日に，救い主が御姿を現し，御自分の民に御言葉を明らかにされる場所としてこの神殿を受け入れられた（教義 110:1−10）。この現れに続いて，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，モーセ，エライアス，エリヤの訪れを受け，神権の鍵と重要な教えを与えられた（教義 110：11−16）。この神殿は，聖徒たちが迫害のためにカートランドから逃れることになるときまで，およそ 2 年の間，聖徒たちによって使用された。

10. アダム・オンダイ・アーマンの谷

東方にアダム・オンダイ・アーマンの谷を望む。この静かな美しい谷は，ミズーリ州の北西部，ガラティンの近くにある。

重要な出来事：アダムは，亡くなる 3 年前に，義にかなった子孫をこの谷に呼び集め，彼らに最後の祝福を授けた（教義 107：53−56）。1838 年には，アダム・オンダイ・アーマンに 500 人から 1,000 人の末日聖徒の住む定住地があった。聖徒たちは，ミズーリ州から追放されるときに，この定住地を放棄した。キリストが栄光のうちに再臨される前に，アダムと義にかなった子孫，すなわちすべての神権時代の聖徒を含む子孫は，再びこの谷に集まり，救い主にまみえる（ダニ 7：9−10，13−14；教義 27 章；107：53−57；116：1）。

11. ファーウェスト神殿用地

ミズーリ州ファーウェストの定住地は，ジャクソン郡とクレイ郡での迫害から逃れて来た 3,000 人から 5,000 人の聖徒たちが住む所となった。預言者ジョセフ・スミスとそのほかの教会指導者たちは，1838 年 10 月 31 日に逮捕され，リッチモンドで裁判にかけられた後，リバティーの監獄に入れられた。1838 年から 1839 年の冬にかけて，末日聖徒はミズーリ州のファーウェストやそのほかの地から追放され，イリノイ州に移り住んだ。

重要な出来事：神殿用地が奉献され，隅石が据えられた。『教義と聖約』に掲載されている 7 つの啓示はここで受けたものである（第 113−115；117−120 章）。第 6 代大管長ジョセフ・F・スミスは，1838 年 11 月 13 日にファーウェストで生まれた。ファーウェストには短期間，預言者ジョセフ・スミスの下に教会の本部が置かれた。

12. リバティーの監獄

ミズーリ州リバティーにある小さな監獄。ジョセフ・スミスとそのほか 5 人の兄弟たちが，1838 年 12 月 1 日から 1839 年 4 月 6 日まで，厚さ 1.2m の壁を持つこの監獄に収監されていた。（シドニー・リグドンは 2 月の終わりに釈放された。）彼らは建物の階下，すなわち地下牢の部分に閉じ込められ，ほとんど明かりもなく，冬の寒さから身を守るすべもないまま，冷たい岩の上にわらを敷いた所で眠った。

重要な出来事：預言者ジョセフは，ミズーリから追い出されつつある数千人の末日聖徒のために嘆願し，祈りに対する答えを受け，それを追放される聖徒たちへの手紙に書いた（教義 121−123 章）。

13. ノーブーのマンションハウス

ジョセフ・スミス・ジュニアと家族は，1843 年 8 月にノーブーのマンションハウスに移り住んだ。後に，本館の東側に増築が施され，計 22 部屋となった。1844 年 1 月以降，エビニーザ・ロビンソンがその家をホテルとして管理し，預言者は 6 部屋を家族のために使用した。この家はノーブー社会の社交場としての働きもした。預言者はここで要人を迎えた。

重要な出来事：1844 年 6 月 27 日に，預言者ジョセフと兄のハイラムは，イリノイ州カーセージで撃ち殺された。そして，彼らの遺体は葬儀に先立ってこの家に運ばれ，安置された。二人は大通りを渡ってすぐの所にある小さな家族墓地に埋葬されている。その墓地はジョセフがノーブーに初めて来たときに住んだ古い丸太造りの家の西側にある。エマ・スミスは 1871 年までマンションハウスに住んでいた。その後，エマはノーブーハウスに移り，1879 年にそこで亡くなった。

14. 預言者ジョセフ・スミスの赤レンガ造りの店

再建されたジョセフ・スミスの店と執務室がイリノイ州ノーブーにある。これはノーブー時代の教会で最も重要な建物の一つであった。この建物は雑貨店として使用されただけでなく，社交，経済，政治，宗教活動の中心となる場所でもあった。ジョセフ・スミスは 2 階に執務室を置いた。

重要な出来事：神殿が完成する以前，この店の 2 階の部屋が儀式の部屋として使用され，最初の完全なエンダウメントがここで授けられた。1842 年 3 月 17 日に，預言者ジョセフは教会の女性たちを組織して，扶助協会とした。

15. ノーブー神殿

ノーブー神殿のこの模型は，当時の神殿用地

における神殿の様子を描写したものである。この神殿の建築には，地元の灰白色の石灰岩が使われた。建物の大きさは，奥行が 39m，幅が 27m，地上から塔の頂までは 48m である。教会員は，1841 年の着工以来，この美しい神殿を建てるために多大の犠牲を払った。その建築のために，数か月間労働を提供した人々もいれば，金銭で犠牲を払った人々もいた。神殿は完全には完成していなかったが，西部へ脱出する前の数か月間，儀式を受けに来る教会員たちでいっぱいになった。多くの聖徒が暴徒から暴行の脅迫を受けて 1846 年早春にノーブーを去ったが，特別な使命を受けた人々がとどまって神殿を完成させた。1846 年 4 月 30 日，オーソン・ハイド長老とウィルフォード・ウッドラフ長老，そのほかおよそ 20 人がこの主の宮を奉献した。残っていた教会員がノーブーを追われた 9 月に神殿は放棄された。その後，暴徒たちは，その神聖な建物を世俗化し汚した。神殿は 1848 年 10 月に火災に遭い，破壊された。

重要な出来事：1845 年 10 月 5 日に，神殿の集会室で総大会が開かれた。エンダウメントの儀式は 1845 年 12 月 10 日に始められ，1846 年 2 月 7 日まで続けられた。5,500 人を超える末日聖徒が自身のエンダウメントを受け，また多くの死者のためのバプテスマと結び固めが執行された。

16. カーセージの監獄

イリノイ州カーセージの町にある監獄。

重要な出来事：ジョセフ・スミスと兄のハイラムは，1844 年 6 月 24 日にカーセージに馬で赴き，6 月 25 日に，反逆罪という根拠のない罪状によりこの監獄に投獄された。6 月 27 日，顔を黒く塗った暴徒が監獄になだれ込み，ジョセフとハイラムの二人は銃撃されて死んだ。ジョン・テーラーは数か所に傷を負った。不思議なことに，ウィラード・リチャーズは無傷であった。ジョン・テーラーは後に霊感に基づいて追悼文を記し，その記録が現在，『教義と聖約』の第 135 章となっている。

17. 西部への脱出

イリノイ州ノーブーからの退避は 3 月から 4 月の間に行うと予定されていた。しかし，暴徒の脅迫があったため，ブリガム・ヤング会長が指示を出して，ミシシッピ川を越える聖徒の脱出は 1846 年 2 月 4 日に始まることになった。ヤング会長は，聖徒たちにエンダウメントを施すために残り，ノーブーを去ったのは 2 月中旬であった。

重要な出来事：預言者ジョセフ・スミスは生前，次のように預言した。「あなたがたの中には生き長らえ，出て行って入植を手伝い，数々の町を建設する者がいるであろう。そして，聖徒がロッキー山脈の中で力強い民になるのを見るであろう。」1846 年 2 月から 9 月までの間に，およそ 12,000 人の聖徒がノーブーを出発した。聖徒たちは，ウィンタークォーターズやその他の場所を出発した後，隊長の下に十人隊，五十人隊，百人隊に組織された（教義 136：3）。1846 年 9 月，6 門の大砲を装備したおよそ 800 人から成る暴徒がノーブーを包囲した。数日間の戦闘の後，残った聖徒たちは降伏を強要され，降伏の代償に助命されて川を渡る機会を与えられた。500 人から 600 人の男女と子供たちが，川を渡って岸辺で野営した。ブリガム・ヤング会長は，物資を携えた救助隊を派遣し，これらの「貧しい聖徒たち」を退避させた。

18. ソルトレーク神殿

末日聖徒の開拓者の最初の一団がソルトレーク盆地に入った数日後，ブリガム・ヤング会長はステッキで地面をたたき，「ここに神の神殿を建てよう」と宣言した。1853 年 2 月 14 日に鍬入れ式が行われ，1853 年 4 月 6 日に隅石が据えられた。神殿が完成して奉献されたのは，40 年後の 1893 年 4 月 6 日である。大管長会と十二使徒定員会は，神の王国の管理運営と建設について審議し，主の導きを求めるために，毎週ここで集会を開いている。

重要な出来事：主はここで歴代の大管長とそのほかの中央幹部に啓示の霊を注いでこられた。その一つが「公式の宣言二」である。最近では，大管長会と十二使徒評議会は，「家族―世界への宣言」を全会一致で承認して公表した。生者と死者双方のために執行される神殿儀式は，おびただしい数の人々の生活に祝福をもたらしている。

アーカンザス川　6：D3
アーミントン校舎通り，パルマイラ地域　2：D3
アイオワ　5：E1, 6：E2
アイザック・モーリーの農場，カートランド　4：D1
アジア　7：F2
アダム・オンダイ・アーマン，ミズーリ　5：D3
アフリカ　7：E2
アマースト，オハイオ　3：C4
アルビン・スミスの墓，パルマイラ　2：C2

E・B・グランディン印刷所，パルマイラ　2：C2
イーストブランチ・シャグリン川，カートランド　4：B1
イリノイ　5：G3, 6：F2
印刷所，カートランド　4：B4
インディアナ　6：F2
インディアン特別保護区　5：B2, 6：D1, 6：D3
インディペンデンス，ミズーリ　5：D4, 6：E2
インド洋　7：F3

ウィンタークォーターズ，インディアン特別保護区　5：B1, 6：E2
ウェイン郡，ニューヨーク　2：A3, 2：C2

エリー運河，ニューヨーク　2：B2, 3：F1
エリー湖　3：C3

オーストラリア　7：G3
オールバニ，ニューヨーク　1：C3
オハイオ　3：B4, 6：F2
オレゴン準州　6：A1
オレンジ，オハイオ　3：C4
オンタリオ郡，ニューヨーク　2：A3, 2：C3
オンタリオ湖　1：A2, 3：F1

カーセージ，イリノイ　5：G2
ガーデングローブ，アイオワ　5：D2
カートランド，オハイオ　3：C3, 6：F2
カートランド神殿　4：B4
カウドリ通り，カートランド　4：A3
カウンシルブラッフス（ケインズビル），アイオワ　5：C1, 6：E2
学校，カートランド　4：B3
カナダ　1：C1, 3：C3, 3：D2, 6：F1
カナディアン川　6：D3
カナンダイガ通り，パルマイラ地域　2：C3
ガラティン，ミズーリ　5：D3
カリフォルニア　6：A3
カリフォルニア街道　6：B2
皮なめし所，カートランド　4：B2

北アメリカ　7：B2
北大西洋　7：D2
北太平洋　7：A2, 7：H2
北プラット川　6：C2
ギルサム，ニューハンプシャー　1：D2
銀行，カートランド　4：B4

クインシー，イリノイ　5：F2, 6：E2
クモラの丘，パルマイラ地域　2：C4
グランド川，ミズーリ　5：D2
クリーブランド，オハイオ　3：C4
グレートソルトレーク　6：B2

コールズビル，ニューヨーク　1：B3, 3：H3
コネチカット　1：C3
コネチカット川　1：D1

サウスベインブリッジ，ニューヨーク　3：H3
サクラメント　6：A2
サスケハナ川，ペンシルベニア　1：A4, 3：G3
サンタフェ　6：C3
サンディエゴ　6：A4
サンフランシスコ　6：A2
サンベルナルディノ　6：B3

シドニー・リグドンの家，カートランド　4：B4
ジャクソン郡，ミズーリ　5：D4
シャロン，バーモント　1：C2
ショールクリーク，ミズーリ　5：D3
ジョセフ・スミス・シニアの板張り木造家屋，パルマイラ地域　2：B3
ジョセフ・スミス・シニアの農場，パルマイラ地域　2：B3
ジョセフ・スミス・シニアの丸太造りの家，パルマイラ地域　2：B3
ジョセフ・スミス・ジュニアの家　3：H3, 4：B3
ジョセフ・スミス・ジュニアの雑貨店，カートランド　4：B3
ジョセフ・ナイト・シニアの家，コールズビル町，ニューヨーク　3：H3
ジョセフ通り，カートランド　4：A4
ジョン・ジョンソンの宿，カートランド　4：B2

スタッフォード通り，パルマイラ地域　2：B4
スネーク川　6：B1
スプリングフィールド，イリノイ　5：H2

製材所，カートランド　4：B2
聖なる森，パルマイラ地域　2：B3
製粉所，カートランド　4：B2
セーレム，マサチューセッツ　1：D3
せき，カートランド　4：B2
セントルイス，ミズーリ　5：H4

ソルトレーク・シティー　6：B2

大西洋　1：D4, 6：H2
太平洋　6：A1, 7：A3
タンブリッジ，バーモント　1：C2

チャリトン川，ミズーリ　5：E2
中央アメリカ　7：B2
チリコース街道，カートランド　4：B4

ツーソン　6：B4

デウィット，ミズーリ　5：E3
デラウェア川　1：B4

トプスフィールド，マサチューセッツ　1：D3
トロント，カナダ　3：E1
トンプソン，オハイオ　3：D3

南極大陸　7：E4

ニューエル・K・ホイットニーの家，カートランド　4：B2
ニューエル・K・ホイットニーの店，カートランド　4：B2
ニュージャージー　1：B4
ニューハンプシャー　1：D2
ニューヨーク　1：B3, 3：F3, 6：G1
ニューヨーク市　1：C4, 6：G1

ノーウィッチ，バーモント　1：D2
ノーブー，イリノイ　5：F2, 6：E2

ハーモニー，ペンシルベニア　1：B3, 3：H3
バーモント　1：C2
パーリー・P・プラットの家，カートランド　4：A3
灰焼場，カートランド　4：B3
ハイラム，オハイオ　3：C4
ハイラム・スミスの家，カートランド　4：B4
ハウンズミル，ミズーリ　5：D3
ハサウェイ川，パルマイラ地域　2：B2, 2：D4
バッファロー，ニューヨーク　3：E2
ハドソン川，ニューヨーク　1：C3
バプテスマ執行地点，カートランド　4：B2
パルマイラ町，ニューヨーク　1：A3, 2：D1, 3：F2
パルマイラ村，ニューヨーク　2：C2

ヒューロン湖　3：C1
ヒラ川　6：B4
ビンソン・ナイトの家，カートランド　4：A4

ファーウェスト，ミズーリ　5：D3, 6：E2
ファーミントン町，パルマイラ地域　2：A4
フィッシング川，ミズーリ　5：D3
フィラデルフィア，ペンシルベニア　1：B4, 6：G2
フィンガーレークス，ニューヨーク　1：A3, 3：G2
フェイエット，ニューヨーク　1：A3, 3：G2, 6：G1
プエブロ　6：C3
フォートブリッジャー　6：C2
フォートホール　6：B1
フォートララミー　6：C2
フォートレベンワース　5：D4, 6：E2
フォックス通り，パルマイラ地域　2：A3

プラット川　5：B1
フリーダム，ニューヨーク　3：F2

ペコス川　6：C4
ペリーズバーグ，ニューヨーク　3：E2
ペンシルベニア　1：B3, 3：F3, 6：G2

ホイットニー通り，カートランド　4：A3
ボストン，マサチューセッツ　1：D3
墓地，カートランド　4：B3
ホワイティンガム，バーモント　1：C3

マーケル通り，カートランド　4：A2
マーティン・ハリスの家，カートランド　4：D4
マーティン・ハリスの農場，パルマイラ地域　2：B1
マウントピスガ，アイオワ　5：D1
マクイルウェインズ・ベンド，ミズーリ　5：E3
マサチューセッツ　1：C3
マセドン町，パルマイラ地域　2：A1
マンチェスター町，ニューヨーク　1：A3, 2：D3, 3：F2

ミシシッピ川　5：G3
ミズーリ　5：F3, 6：E3
ミズーリ川　5：C2, 5：F4
ミッションサンルイスレイ　6：A4
南アメリカ　7：C3
南大西洋　7：D4
南太平洋　7：A4
南プラット川　6：C2

メイン　1：D2
メキシコ　6：B3
メンドン，ニューヨーク　3：F2

モントローズ，アイオワ　5：F2

ヨーロッパ　7：E1

リオグランデ川　6：C4
リッチモンド，ミズーリ　5：D4
リバティー，ミズーリ　5：D4, 6：E2

レイマス，イリノイ　5：G2
レッドクリーク，パルマイラ地域　2：D2
レバノン，ニューハンプシャー　1：D2
れんが工場，カートランド　4：A2

ロードアイランド　1：D3
ロサンゼルス　6：A3
ロチェスター，ニューヨーク　3：F1

ワシントン D.C.　6：G2

次の地図は，末日聖徒イエス・キリスト教会の初期の歴史，ならびに預言者ジョセフ・スミスやその後継者たちを通して啓示された聖文をより深く理解するための助けとなるものである。聖典の中で述べられている地域の地理を知ることによって，聖典中の出来事について理解を深めることができる。

1. 合衆国北東部
2. パルマイラ－マンチェスター，1820－31 年
3. アメリカ合衆国のニューヨーク，ペンシルベニア，オハイオ地域
4. オハイオ州カートランド，1830－38 年
5. アメリカ合衆国のミズーリ，イリノイ，アイオワ地域
6. 西部への教会の移動
7. 世界の地図

地名の五十音順索引は，地図上の特定の場所を探す際の助けとなる。それぞれの地名には，地図の番号と，その場所を示すアルファベットと数字の組み合わせが記されている。例えば，フォートホールの場所は 6:B1，すなわち地図 6 の，B1 の四角内にある。地図の上方のアルファベットと横の数字で囲まれた四角内を探すとよい。また別名は括弧内に記入されている。例：カウンシルブラッフス（ケインズビル）

地図で使われているいろいろな記号や字体の説明は次のとおりである。そのほか，特定の地図に関する追加の記号の説明もある。

赤い丸は市や町を表す。その丸から引き出された線の部分に市や場所の地名が書かれていることがある。

大西洋　この字体は，海洋や海，湖，川，山，荒野，谷，砂漠，島などの地理上の場所に対して使われている。

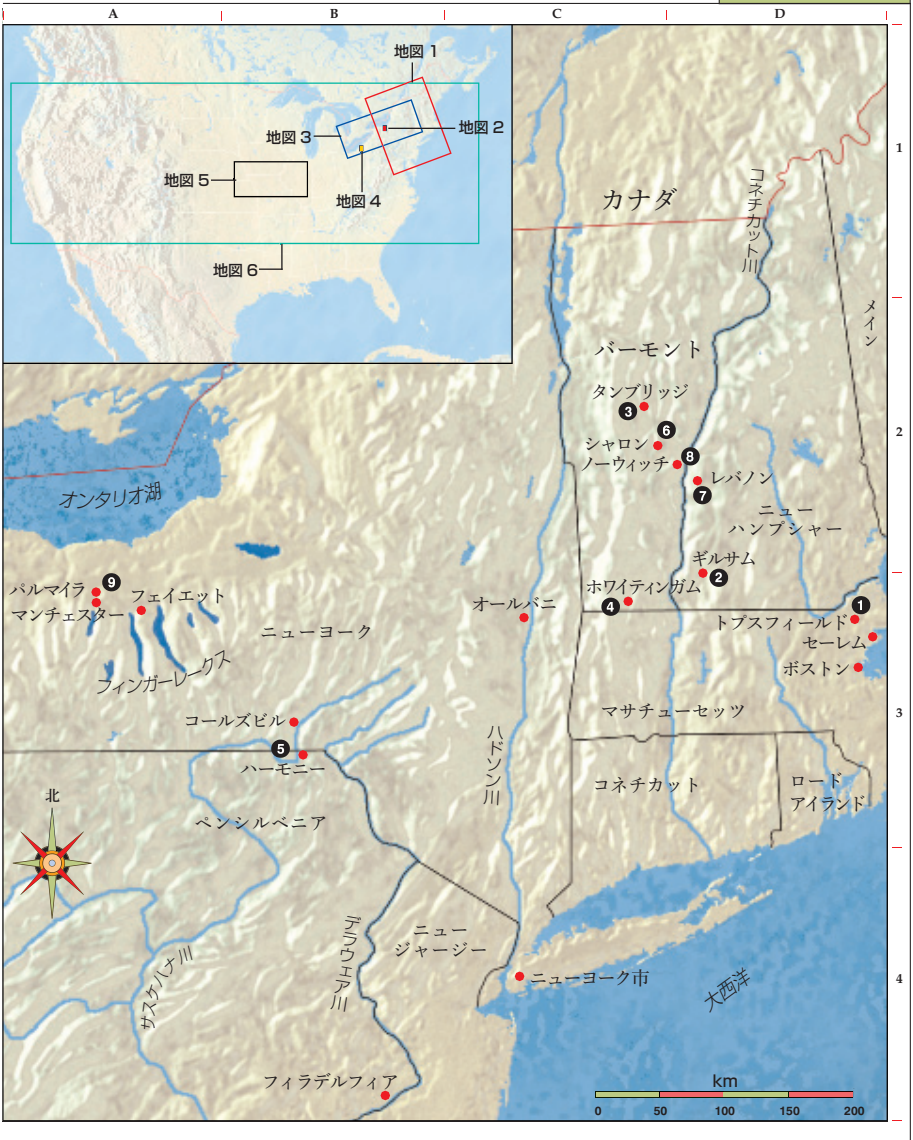
パルマイラ　この字体は，すべての市や町に対して使われている。

ニューヨーク　この字体は，地域や州，準州などの小行政区分に対して使われている。

カナダ　この字体は，国や大陸などの大行政区分に対して使われている。

合衆国北東部

地図 1



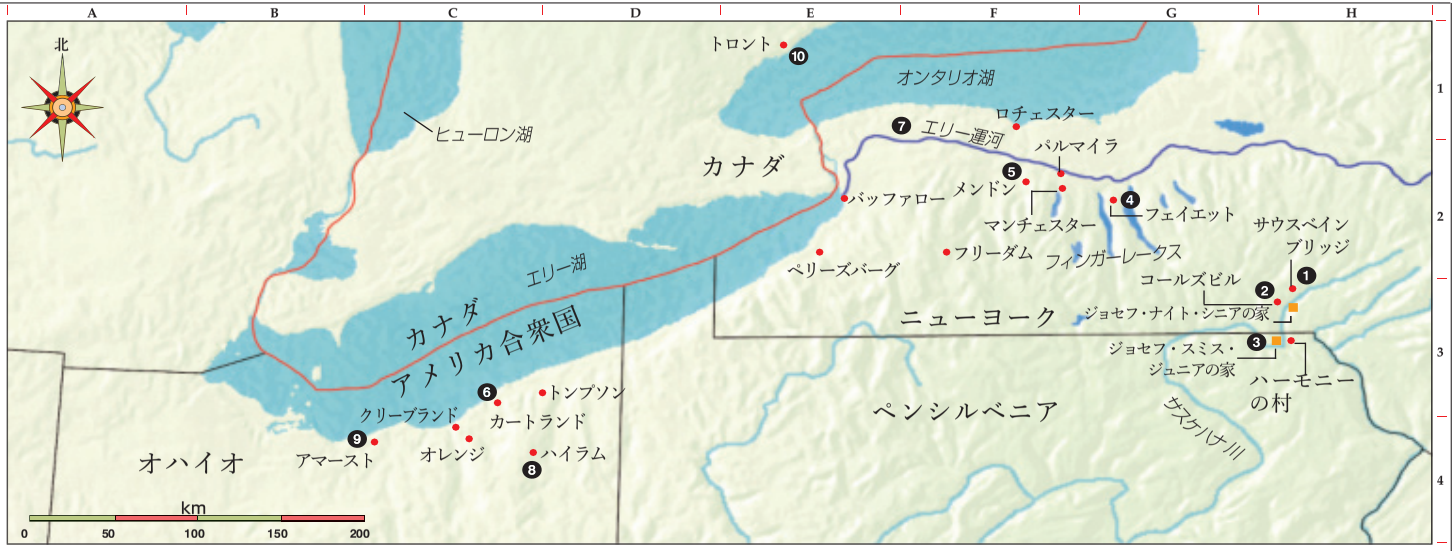
1. **トプスフィールド**　ジョセフ・スミス・シニアの出生地。1771 年 7 月 12 日に誕生。
2. **ギルサム**　ルーシー・マックは 1775 年 7 月 8 日にここで生まれた。
3. **タンブリッジ**　ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マックは 1796 年 1 月 24 日にここで結婚した。
4. **ホワイティンガム**　ブリガム・ヤングの出生地。1801 年 6 月 1 日に誕生。
5. **ハーモニー**　エマ・ヘイルは 1804 年 7 月 10 日にハーモニーの町で生まれた。
6. **シャロン**　ジョセフ・スミス・ジュニアは 1805 年 12 月 23 日にここで生まれた（ジ－歴史 1：3 参照）。
7. **レバノン**　スミス家族は 1811 年から 1813 年までレバノンの町に住んでいた。この間に，ジョセフ・スミス・ジュニアは脚の手術を数回受けた。
8. **ノーウィッチ**　スミス家族はパルマイラに移り住む以前，1814 年から 1816 年までここに住んでいた。
9. **パルマイラ**　1816 年に，スミス家族はここに引っ越した（ジ－歴史 1：3 参照）。

パルマイラ ― マンチェスター，1820−31 年

地図 2



1. **ジョセフ・スミス・シニアの丸太造りの家**　天使モロナイは，1823 年 9 月 21 日から 22 日にかけて，この家の 2 階の部屋でジョセフ・スミス・ジュニアに現れた（ジ－歴史 1：29−47 参照）。
2. **ジョセフ・スミス・シニアの農場**　この 4.7 ヘクタールの農場は 1820 年から 1829 年までの間にスミス家族により開墾された。
3. **聖なる森**　1820 年の早春に，ジョセフ・スミス・ジュニアはこの森で最初の示現を受けた（ジ－歴史 1：11− 20 参照）。
4. **ジョセフ・スミス・シニアの板張り木造家屋**　アルビン・スミスが 1822 年にこの家を建て始め，1825 年から 1829 年までスミス家族はここに住んだ。
5. **クモラの丘**　1827 年 9 月 22 日に，ここで天使モロナイが預言者ジョセフ・スミスに金版を渡した（ジ－歴史 1：50−54，59 参照）。
6. **マーティン・ハリスの農場**　この農場は抵当に入れられ，『モルモン書』の印刷代金の支払いのためにその一部が売却された。
7. **E・B・グランディン印刷所**　1829 年から 1830 年にかけて，ここで 5,000 冊の『モルモン書』が印刷された。
8. **ハサウェイ川**　この小川で何度か，教会初期のバプテスマが執行された。



1. **サウスベインブリッジ**　ジョセフ・スミス・ジュニアとエマ・ヘイルは，1827 年 1 月 18 日にここで結婚した（ジ－歴史 1：57 参照）。

2. **コールズビル**　1830 年に，コールズビルの町にあったジョセフ・ナイト・シニアの家で教会の最初の支部が組織された。

3. **ハーモニーのジョセフ・スミス・ジュニアの家**　『モルモン書』の翻訳の大半がここで行われた。サスケハナ川の岸辺で，1829 年に神権が回復された（教義 13 章；128：20；ジ－歴史 1：71－72 参照）。

4. **フェイエット**　三人の証人は金版を目にし，天使モロナイに会った（教義 17 章）。1829 年 6 月に，『モルモン書』の翻訳がここで完了した。1830 年 4 月 6 日に，教会はここで組織された（教義 20；21 章参照）。

5. **メンドン**　ブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールの出身地。

6. **カートランド**　レーマン人のもとに派遣された宣教師たちが 1830 年にここに滞在し，カートランド地域でシドニー・リグドンやそのほかの人々にバプテスマを施した。1831 年から 1838 年まで教会の本部があった。この神権時代の最初の神殿がカートランドに建てられ，1836 年 3 月 27 日に奉献された（教義 109 章参照）。

7. **エリー運河**　ニューヨーク州にあった教会の 3 つの支部の会員が，エリー運河とエリー湖を経由して，1831 年 4 月と 5 月にオハイオ州カートランドに移り住んだ。

8. **ハイラム**　1831 年 9 月から 1832 年 9 月まで，ジョセフとエマはここに住んでいた。ジョセフとシドニー・リグドンは『聖書』のジョセフ・スミス訳に携わった。幾つかの啓示がここで与えられた。教義と聖約第 1，65，67，68，69，71，73，74，76，77，79，80，81，99，133 章。

9. **アマースト**　1832 年 1 月 25 日に，ジョセフ・スミスは大神権の大管長として支持を受けた（教義 75 章参照）。

10. **トロント**　第 3 代大管長ジョン・テーラーとハイラム・スミスの妻メアリー・フィールディング・スミスの出身地。

オハイオ州カートランド，1830－38 年

地図 4



1. **ニューエル・K・ホイットニーの家**　ジョセフとエマは，1831 年に初めてカートランドに来た後，数週間ここに住んでいた。

2. **アイザック・モーリーの農場**　ジョセフとエマ・スミスは，1831 年 3 月から 9 月までここに住んでいた。最初の大祭司たちがここで聖任された。ジョセフはジョセフ・スミス訳に携わった。

3. **ニューエル・K・ホイットニーの店**　ここで大管長会に王国の鍵が授けられた。「預言者の塾」がここで初めて開かれた。ジョセフ・スミス訳は 1833 年にはここで完成途上にあった。ジョセフとエマは，1832 年から 1833 年までここに住んでいた。ジョセフはここで多くの啓示を受けた。

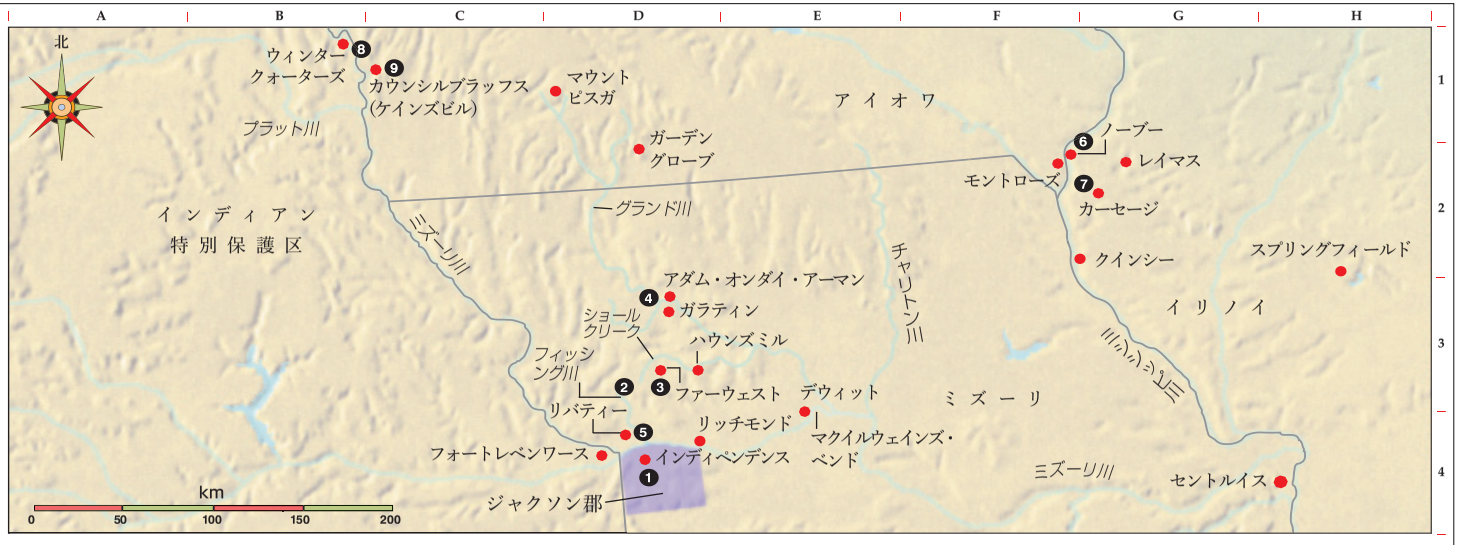
4. **ジョン・ジョンソンの宿**　ジョセフ・スミス・シニアが 1833 年にここで最初の大祝福師に召された。この宿にはカートランドで最初の印刷所があった。ミズーリ州ジャクソン郡で印刷機が壊された後，『イブニング・アンド・モーニング・スター』(The Evening and the Morning Star)がここで印刷された。十二使徒たちは，1835 年 5 月 4 日にここから最初の伝道に出かけた。

5. **ジョセフ・スミス・ジュニアの家**　ジョセフとエマは，1834 年から 1837 年までここに住んでいた。アブラハム書の翻訳が開始された。

6. **印刷所**　『信仰に関する講話』(Lectures on Faith)はこの建物で配布された。十二使徒定員会と七十人第一定員会がここで召され，聖任された。『教義と聖約』(初版)，『モルモン書』(第 2 版)，『イブニング・アンド・モーニング・スター』(The Evening and the Morning Star)，『末日聖徒のメッセンジャー・アンド・アドボケート』(Latter Day SaintsMessenger and Advocate)，最初の数版の『エルダーズ・ジャーナル』(Elders' Journal)がここで印刷された。

7. **カートランド神殿**　この神殿はこの神権時代の最初の神殿である。イエス・キリストが御姿を現し，神殿を受け入れられた。モーセ，エライアス，エリヤが現れ，それぞれ神権の鍵を回復した（教義 110 章参照）。「預言者の塾」もここで集会を行った。幾つかの啓示がここで与えられた。教義と聖約第 109，110，137 章。

カートランド（場所は特定できない）　1835 年 8 月 17 日に『教義と聖約』が聖典とされた。カートランドで受けた啓示として次のものがある。教義と聖約第 41－50，52－56，63－64，102－104，106－110，134，137 章。教義と聖約第 104 章では，共同制度に参加している教会員に管理人の職として特定の財産が与えられるとされている（19－46 節参照）。



1. **インディペンデンス**　シオンの中心の場所と定められた（教義 57：3 参照）。神殿用地が 1831 年 8 月 3 日に奉献された。聖徒たちは 1833 年にここから追放された。

2. **フィッシング川**　ジョセフ・スミスとシオンの陣営は，ジャクソン郡の聖徒たちを彼らの土地に戻すため，1834 年にオハイオ州カートランドからミズーリ州まで旅をした。この川の岸辺で教義と聖約第 105 章の啓示が与えられた。

3. **ファーウェスト**　ここはミズーリ州で最大規模のモルモン定住地であった。神殿のための用地がこの場所で奉献された（教義 115 章参照）。1838 年 7 月 8 日に，十二使徒定員会は英国諸島で伝道に携わるように主から召しを受けた（教義 118 章参照）。

4. **アダム・オンダイ・アーマン**　主はミズーリ州北部のこの場所を，将来大いなる集合が行われる地と定められた。その集合は，イエス・キリストがアダムとアダムの義にかなった子孫に会うために来られるときに行われるものである（教義 78：15；107：53－57；116 章参照）。

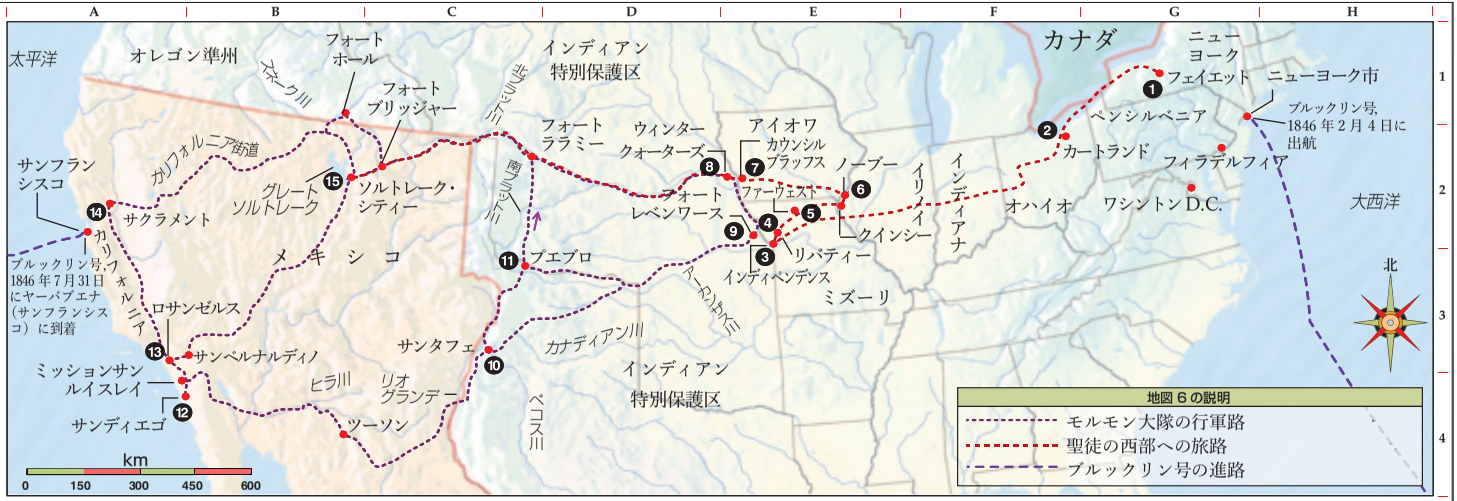
5. **リバティーの監獄**　ジョセフ・スミスたちは 1838 年 12 月から 1839 年 4 月までここに不当に収監された。教会が苦難のただ中にあったとき，ジョセフは主に指示を叫び求め，教義と聖約第 121－123 章の啓示を受けた。

6. **ノーブー**　ミシシッピ川の岸辺にあるこの地域は，1839 年から 1846 年まで聖徒たちの集合の地であった。ここに神殿が建てられ，死者のためのバプテスマやエンダウメント，家族の結び固めなどの儀式が開始された。ここで 1842 年に扶助協会が組織された。教義と聖約第 124－129 章を含む幾つかの啓示が与えられた。

7. **カーセージ**　1844 年 6 月 27 日に，ここで預言者ジョセフ・スミスと兄のハイラムが殉教した（教義 135 章参照）。

8. **ウィンタークォーターズ**　ソルトレーク盆地に向かう途中の聖徒たちが本部を置いた定住地（1846－48 年）。西部へ旅をするために，イスラエルの陣営が組織された（教義 136 章参照）。

9. **カウンシルブラッフス**（ケインズビル）　1847 年 12 月 27 日に，ここでブリガム・ヤングを大管長とする大管長会が支持された。



1. **フェイエット**　1831年1月に，預言者ジョセフ・スミスはフェイエットを発ってオハイオ州カートランドに向かった。1831年4月と5月に，ニューヨーク州の3つの支部が，集合するようにという主の命に従った(教義37:38章参照)。

2. **カートランド**　教会の本部が，1831年2月1日から，預言者がミズーリ州ファーウェストに移り住んだ1838年1月12日までここにあった。

3. **インディペンデンス**　1831年7月に，主は（ミズーリ州ジャクソン郡の）インディペンデンスをシオンの中心の場所と定められた（教義57：3参照）。1833年11月，暴徒は聖徒をジャクソン郡から強制的に退去させた。

4. **リバティー**　1833年から1836年まで，ジャクソン郡からの聖徒たちがクレイ郡に集合した。1836年，聖徒たちは再びこの地を去るように求められた。預言者ジョセフ・スミスとそのほかの人々がここで投獄された。

5. **ファーウェスト**　1836年から1838年にかけて，ここが聖徒たちの避け所とされた。1838年に，ここに教会の本部があった。1838年から1839年にかけて，聖徒たちはイリノイ州へ逃れるように強いられた。

6. **ノーブー**　1839年から1846年までの教会の本部。預言者と兄ハイラムの殉教後，聖徒たちは西部へ移住した。

7. **カウンシルブラッフス**　1846年6月に，開拓者たちがここに到着した。モルモン大隊の隊員たちは，ジェームズ・アレンの指揮下で1846年7月21日にここを出発した。

8. **ウィンタークォーターズ**　1846年から1848年までの教会の本部。1847年4月，ブリガム・ヤング会長の指示の下にある先発隊が西部へ向かった。

9. **フォートレベンワース**　モルモン大隊は，1846年8月に西への行軍を開始する前にここで旅の準備をした。

10. **サンタフェ**　フィリップ・クックがモルモン大隊の指揮を執り，1846年10月19日に，大隊は行軍を開始した。

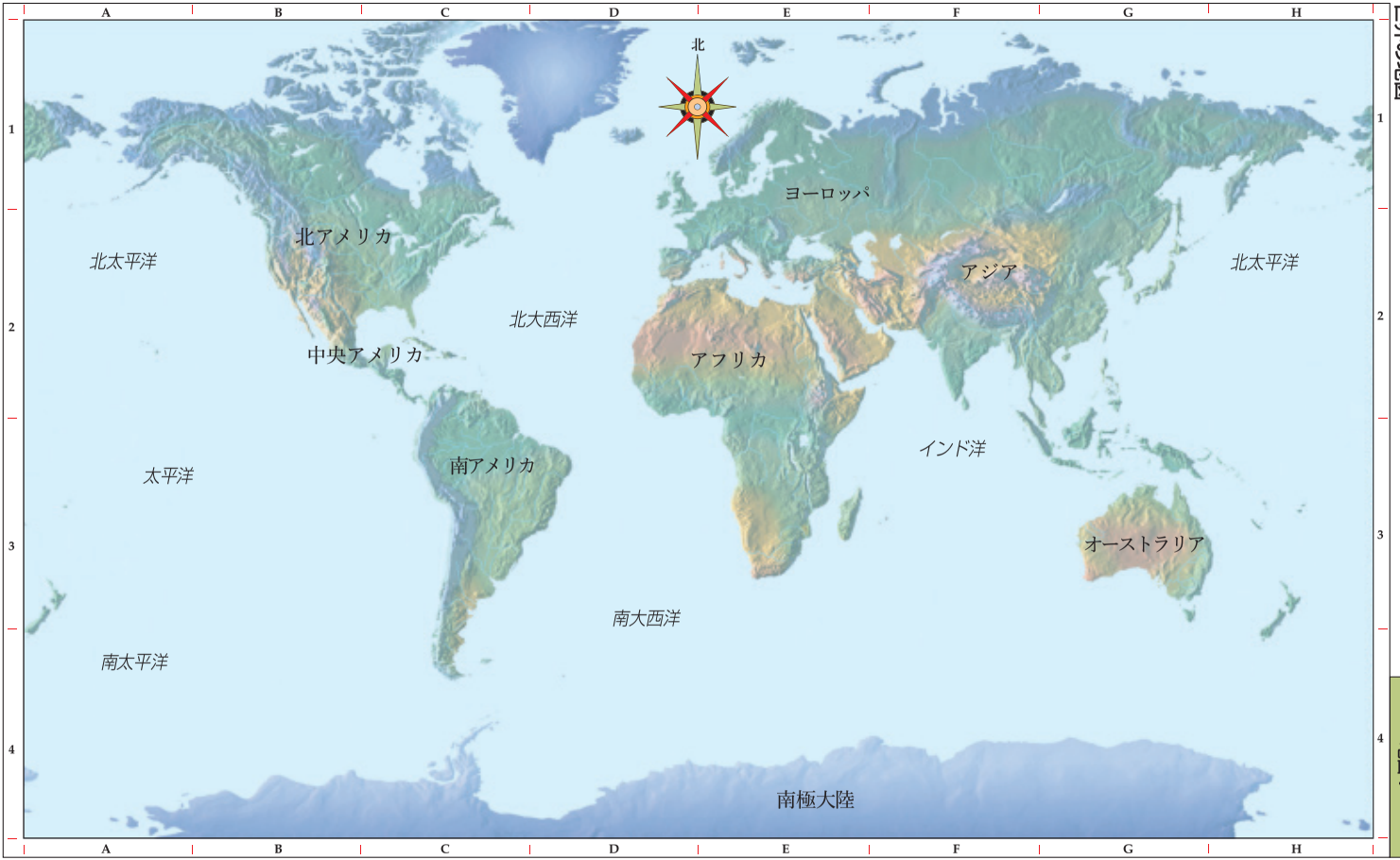
11. **プエブロ**　病人から構成される3つの分隊に，健康を快復するまでプエブロにとどまるようにとの命令が下された。その隊員たちは，1846年から1847年にかけての冬の間，ミシシッピから来た聖徒たちとともにここで過ごした。1847年7月に，これらの人々はソルトレーク盆地に入った。

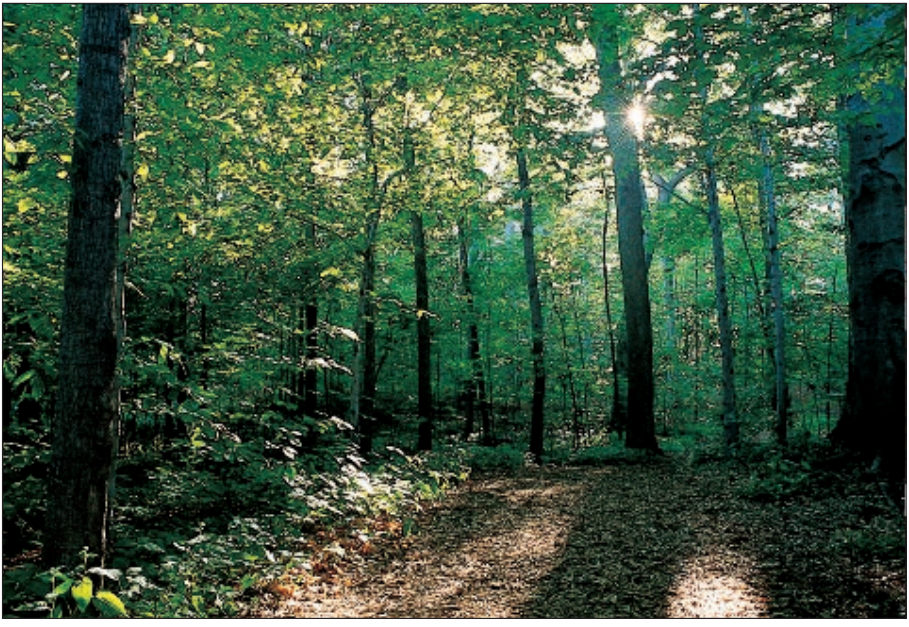
12. **サンディエゴ**　1847年1月29日に，モルモン大隊はこの地で3,200kmの行軍を終えた。

13. **ロサンゼルス**　1847年7月16日に，モルモン大隊はここで解散になった。

14. **サクラメント**　除隊した何人かの大隊隊員が，この地と，アメリカン川のさらに東方のサッター製材所で働き，金の発見を手伝った。

15. **ソルトレーク・シティー**　1847年7月24日に，ブリガム・ヤングがソルトレーク盆地に到着した。


A
B
C
D
E
F
G
H
1
2
3
4
北
ヨーロッパ
北アメリカ
北太平洋
アジア
北太平洋
北大西洋
中央アメリカ
アフリカ
インド洋
南アメリカ
太平洋
オーストラリア
南大西洋
南太平洋
南極大陸



1. 聖なる森　自宅近くのこの森で，預言者ジョセフ・スミスは最初の示現を受けた。



2. クモラの丘とマンチェスター－パルマイラ地域　天使モロナイはジョセフ・スミスに，この丘に埋めておいた金版を見つけるように指示した（丘は中央右にある）。



3. ジョセフ・スミス・シニアの丸太造りの家　これはスミス家族がかつて住んでいた家を復元したものである。



4. グランディンの印刷機と印刷所　『モルモン書』の最初の印刷がここで行われた。



5. サスケハナ川　アロン神権とメルキゼデク神権がこの川の岸辺で回復された（教義 13 章；128：20 参照）。



6. ピーター・ホイットマー・シニアの丸太造りの家　この家は 1830 年 4 月 6 日に教会が組織された場所に復元された。



7. ニューエル・K・ホイットニーの店　「知恵の言葉」として知られるようになった啓示（教義 89 章参照）がここで与えられた。ほかにも幾つかの啓示が下された。



8. ジョン・ジョンソンの家　預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは，この家で『聖書』のジョセフ・スミス訳に携わっていたときに，現在『教義と聖約』の第 76 章に記録されている啓示を受けた。ほかにも幾つかの啓示が与えられた。



9. カートランド神殿　1836 年に，この神権時代に建てられた最初の神殿。この神殿に，イエス・キリストとモーセ，エライアス，エリヤが現れ，神権の鍵が回復された（教義 110 章参照）。



10. アダム・オンダイ・アーマンの谷　ここでアダムと義にかなった子孫が集会を開いた（教義 107：53–57 参照）。アダム，そのほかの預言者たち，またすべての時代の忠実な聖徒たちが再臨に先立ってここで救い主にまみえる。



11. ファーウェスト神殿用地　主はここに神殿を建てるように 1838 年に聖徒たちに命じられた（教義 115：7 － 8 参照）。暴徒の迫害によりそれが妨げられた。



12. リバティーの監獄　預言者ジョセフ・スミスはここに不当に収監されていたときに（1838－39 年），現在『教義と聖約』の第 121－123 章に記録されている啓示を受けた。



13. ノーブーのマンションハウス　1843 年以降の預言者ジョセフ・スミスの住まい。教会の初期の時代に，ここは聖徒たちの社交の中心の場所であった。



14. 預言者ジョセフ・スミスの赤レンガ造りの店　この建物で，1842 年 3 月 17 日に扶助協会が組織された。



15. ノーブー神殿　この模型から，1848 年に火災に遭う前の当時の建物の美しさが分かる。



16. カーセージの監獄　1844 年 6 月 27 日に，ここで預言者ジョセフ・スミスと兄のハイラムが殉教した（教義 135 章参照）。



17. 西部への脱出　1846 年 2 月 4 日，最初の幌馬車隊がミシシッピ川を渡り，西部への歴史的な旅が始まった。



18. ソルトレーク神殿　ソルトレーク盆地のこの歴史的な建造物は建設に 40 年を要した。

聖書の地図

写　真

© 2004 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有

ここに収められている重要な場所の写真は，イエスが歩まれた場所，聖書の預言者たちが生活し教えた場所，また聖典中の多くの出来事があった場所を撮影したものである。研究する際に写真をよく活用できるように，それぞれの写真には短い説明が付いている。説明の番号と見出しは，同じ番号と見出しが付いている写真と対応している。説明の見出しに続く最初の段落では，注目すべき重要な事柄とその写真が撮影された方向など，写真の背景が述べられている。次の段落には，その場所で起きた聖典中の重要な出来事が記載されており，それらの出来事についてもっと読めるように参照聖句が挙げられている。

1. ナイル川とエジプト

草の生い茂るナイル川の岸辺。川の向こうには，エジプトのほぼ全域を覆う乾燥した砂漠地帯が広がる。

重要な出来事：この地はエジプタスによって発見された（アブ 1：23−25）。アブラハムはエジプトに来た（創世 12：10−20；アブ 2：21−25）。ヨセフはエジプトに売られて，全国のつかさとなり，家族を飢饉から救った（創世 37；39−46 章）。ヤコブの子孫はエジプトに住んだ（創世 47 章；出エ 1 章；12：40）。パロの娘はナイル川で赤子のモーセを見つけ，育てた（出エ 2：1−10）。モーセはイスラエルの民をエジプトから導き出した（出エ 3−14 章）。マリヤとヨセフとイエスはヘロデから逃れて，一時エジプトに住んだ（マタ 2：13−15，19−21）。終わりの時にエジプト人は主を知り，主はエジプトを祝福される（イザ 19：20−25）。（『聖句ガイド』「エジプト」の項を参照）

2. シナイ山（ホレブ）とシナイの荒野

高くそびえるのは，ジェベル・ムーサ（モーセの山）の峰々である。シナイ山と推測できる場所が幾つかある。一般に可能性が高いと考えられている場所の一つがジェベル・ムーサである。

重要な出来事：神がモーセに現れて，十戒を授けられた（出エ 19−20 章）。モーセ，アロン，アロンの二人の息子，70 人の長老は神にまみえ，神と言葉を交わした（出エ 24：9−12）。神はモーセに幕屋を建てるための指示を与えられた（出エ 25−28；30−31 章）。イスラエルの民は，アロンを説得して造らせた金の子牛を礼拝した（出エ 32：1−8）。エリヤは王妃イゼベルが住むエズレルの谷から逃れて，この地に来た（列上 19：1−18）。ここはエリヤが神と語った場所でもある（列上 19：8−19）。

3. ユダヤの荒野と死海

南東の方向にユダヤの荒野を望む。死海が遠方に見える。

重要な出来事：ユダヤの荒野は，過去の歴史では度々重要な避難の場となった。ダビデはサウル王から身を隠した（サ上 26：1−3）。イエスは 40 日 40 夜の断食をされた（マタ 4：1−11；マコ 1：12−13）。イエスは，エルサレムからユダヤの荒野を通ってエリコへ向かう道を，「良いサマリヤ人」のたとえの場面に使われた。その地域は単独で旅をする人が襲われやすかったからである（ルカ 10：25−37）。（『聖句ガイド』「死海」の項を参照）

4. カデシ・バルネア

広い砂漠の谷（ワジとも呼ばれる）を北東に望む。ここにカデシ・バルネアがあった。雨期にここを流れる川のおかげで，この地はチンの荒野の中でも潤いのある肥沃な地になる。

重要な出来事：この地点からモーセがカナンの地を偵察する 12 人の人々を派遣したと思われる（民数 13：17−30）。イスラエルの民は荒野をさまよったおよそ 40 年のうちの 38 年間，ここを宿営の中心地とした（申命 2：14）。ミリアムはここで死んで葬られた（民数 20：1）。コラが謀反を起こし，民がつぶやき，アロンの杖が芽を出したのもこの地であった（民数 16−17 章）。モーセが岩を打って水が出てきたのは，この付近であった（民数 20：7−11）。

5. 族長たちの墓

聖地全域で最も有名な建物の一つ。ヘブロンで，アブラハムが家族の墓所として購入したマクペラの洞穴があったとされる地点の上に，ヘロデ王がこれを建造した（創世 23 章）。

重要な出来事：サラ（創世 23 章）とアブラハム（創世 25：9）の埋葬地。イサク，リベカ，レアもここに葬られた（創世 49：30−31）。ヤコブの遺体は，エジプトからカナンに運ばれ，

ここの洞穴に葬られた（創世 50 章）。

6. ユダヤの丘陵地帯

ユダヤの丘陵地帯は，長さが約 56km，幅が約 27km ある。この地の多くが礫土質で耕作は難しい。丘陵地帯は幾つかの谷で分断されており，谷の部分はかなり肥沃である。この丘陵地帯に初めて定住したイスラエルの民は，これらの丘を侵入者から身を守る場所として活用した。エルサレムはこの地域にある。

重要な出来事：主はアブラハムとその子孫にこの地を与えると約束された（創世 13：14−18；17：8)。サラとアブラハムはヘブロンにあるマクペラの洞穴に葬られた（創世 23：19；25：9)。ダビデはエブスびとからエルサレムを奪った（サ下 5：4−9)。旧約聖書中の出来事としては，ほかの地域で起こった出来事よりもこの丘陵地帯での出来事がより多く記録されている。

7. ベツレヘム

この写真の前景は岩の多い丘陵と羊飼いの野であり，遠くに現在のベツレヘム市街が見える。

重要な出来事：ラケルはこの近くで埋葬された（創世 35：16−20)。ルツとボアズはここに住んでいた（ルツ 1：19−2：4)。ダビデ王はここで生まれ，王として油を注がれた（サ上 16：1−13)。救い主はここでお生まれになり，また羊飼いたちと博士たちが主を拝みに来た(マタ 2：1−11；ルカ 2：4−16)。(『聖句ガイド』「ベツレヘム」の項を参照)

8. エルサレム

北方を望む。「岩のドーム」と呼ばれる金色の屋根を持つイスラム教寺院が，写真の中央部に見える。ユダヤ人は昔，ここにあった神殿で礼拝した。「岩のドーム」の近くの壁は，エルサレムの旧市街を囲むものである。壁の右手にケデロンの谷がある。右の奥にオリブ山がある。北側の「岩のドーム」の向こうには，ゴルゴタ，すなわちカルバリであると考えられている場所がある。

重要な出来事：エルサレムは，昔はサレムと呼ばれていた（詩篇 76：2)。アブラハムはメルキゼデクに什分の一を納めた（創世 14：18−20)。アブラハムはイサクを犠牲としてささげるためにここに来た（創世 22：2−14)。ダビデ王はエブスびとからエルサレムを奪った(サ下 5：4−9)。ソロモン王は神殿を建てた(列上 6−7 章)。リーハイはエルサレムを去って約束の地に向かった（1 ニフ 1：4；2 章)。救い主は教えと導きを施し，人々の罪を贖い，復活された（マタ 21−28 章)。救い主が預言されたように，エルサレムは救い主の死後間もなく滅ぼされた（ジ－マタ 1：3−20)。エルサレムは終わりの日に侵略される（エゼ 38−39 章；ヨエ 2−3 章；黙示 11；16 章)。救い主は再臨の直前にここで御姿を現される（ゼカ 12−14 章；教義 45:48−53)。(『聖句ガイド』「エルサレム」「サレム」の項を参照)

9. ヘロデの神殿

この写真は，紀元 67 年に存在していたと思われるヘロデの神殿の縮小模型を撮ったものである。神殿とその付属の建物を囲む壁は，至聖所や聖所，3 つの広い庭を含む神聖な場所を外界から隔てている。

重要な出来事：ヨセフとマリヤは，幼子イエスを神殿に連れて来た（ルカ 2：22−38)。救い主は，12 歳のときに神殿で人々を教えられた（ルカ 2：41−46)。救い主は，両替人を神殿から追い出し（マタ 21：12−13)，また神殿が破壊されることを預言された（マタ 24：1−2)。将来エルサレムに神殿が建てられる（エゼ 40−48 章；ゼカ 8：7−9)。(『聖句ガイド』「神殿；主の宮」の項を参照)

10. 神殿への階段

神殿の構内は幾つかの庭に分けられており，外庭は最も低い場所にあった。礼拝する人々は様々な門を通って参入した。これらの人々は階段を上って門から外庭に入り，さらに内庭に入った。長年，多くの人々がこの階段を上った。神の御子も同様であった。ティトゥスの軍隊が紀元 70 年に神殿を破壊したとき，階段は瓦礫で覆われた。エルサレム旧市街の一部が発掘された際，その瓦礫が取り除かれた。

重要な出来事：エゼキエルは示現の中で将来の神殿の規模と形を見た（エゼ 40 章)。(『聖句ガイド』「神殿；主の宮」の項を参照)

11. オリブ山とオーソン・ハイド公園

オリブ山にあるオーソン・ハイド公園からエルサレムを南西方向に望む。オリブ山の西側の斜面にゲツセマネの園がある。1841 年 10 月 24

日，オーソン・ハイド長老は，オリブ山に登って，アブラハムの子孫の帰還と神殿の建設のために預言的な奉献の祈りをささげた。

重要な出来事：救い主が預言されたように，紀元 70 年にローマがエルサレムを破壊した（ジ－マタ 1：23）。将来，救い主は世のすべての人々に御姿を現される前に，オリブ山にお立ちになる（ゼカ 14：3－5；教義 45：48－53；133：19－20）。（『聖句ガイド』「オリブ山」の項を参照）

12. ゲツセマネの園

オリーブの老木のこの写真は，ゲツセマネの園と言い伝えられている場所で撮ったものである。救い主は裏切りの夜に二階の広間を出た後，この付近で祈りをささげられた。

重要な出来事：ここで，イエス・キリストは全人類の罪のために苦しみを受け始められた（マタ 26：36－44；マコ 14：32－41；教義 19：16－19）。祈りの後で，救い主はイスカリオテのユダに裏切られ，また弟子たちから一時的に見捨てられ，園で捕らえられた（マコ 14：50）。（『聖句ガイド』「ゲツセマネ」の項を参照）

13. ゴルゴタ

この岩は頭蓋骨に似ており，エルサレムのダマスカス門のすぐ外側にある。ここでイエス・キリストが十字架につけられたと推測されている。

重要な出来事：イエスはむち打たれ，あざけられた後，「ゴルゴタ，すなわち，されこうべの場」に連れて行かれ，十字架につけられた（マタ 27：26－35；ヨハ 19：17－18）。（『聖句ガイド』「ゴルゴタ」の項を参照）

14. 園の墓

ここは救い主が葬られたと言い伝えられている場所である。何人かの近代の預言者は，救い主の遺体はこの園の墓に納められたと感じてきた。

重要な出来事：救い主が十字架上で亡くなられた後，救い主の遺体は岩を掘って造った新しい墓に納められた（マタ 27：57－60）。3 日目に何人かの女たちが墓に行くと，救い主の遺体はそこにないことが分かった（マタ 28：1；ヨハ 20：1－2）。使徒のペテロとヨハネも墓に行ったが，救い主の遺体がそこにないのを知った（ヨハ 20：2－9）。復活した救い主がマグダラのマリヤに御姿を現された（ヨハ 20：11－18）。

15. エリコ

この写真は，木々の生い茂る現在のエリコを撮ったものである。エリコは海面下 252m の町で，昔はヨルダン川沿いの渓谷にある城壁都市であった。ここは肥沃な農業地帯であり，今ではなつめやしやかんきつ植物が豊かに育っている。遠景は誘惑の山と言い伝えられている山である（マタ 4：1－11）。

重要な出来事：この場所の近くで，ヨシュアとイスラエルの子らは，初めてヨルダン川を渡って約束の地に入った（ヨシ 2：1－3；3：14－16）。主は奇跡的な方法で，イスラエルの軍隊の前で城壁を崩された（ヨシ 6 章。ヘブ 11：30 も参照）。ヨシュアはこの町にのろいをかけ（ヨシ 6：26），それは現実となった（列上 16：34）。エリシャはエリコの水を良い水にした（列下 2：18－22）。救い主は，エルサレムへの最後の訪れの途中でここに立ち寄り，盲人バルテマイを癒し，取税人ザアカイとともに過ごされた（マコ 10：46－52；ルカ 18：35－43；19：1－10）。エルサレムからエリコへの道は，「良いサマリヤ人」のたとえの舞台となった（ルカ 10：30－37）。

16. シロ

昔の町の遺跡は，西を望むこの写真の中央のすぐ左にある。その遺跡は，周囲の高い丘に囲まれた小さな円形状の丘の上にある。

重要な出来事：イスラエルの部族は集合して，彼らの領域を割り当てられた（ヨシ 18－22 章）。幕屋と契約の箱はここに据えられ，数世紀の間ここに置かれた（ヨシ 18：1）。ハンナが祈りをささげて，主に仕えるように息子サムエルをささげたのは，この地でのことである（サ上 1 章）。イスラエルの民はシロから契約の箱を運び出し，ペリシテびとに敗れてその箱を奪われた（サ上 4：1－11）。

17. ゲリジム山とエバル山

西方を望む。左がゲリジム山で，右がエバル山である。この写真は現在のナブルスの町を撮ったものである。昔のシケムの町は，この二つの山の間のすぐ下の谷（写真のすぐ右）にあった。

重要な出来事：アブラハムはシケムに宿営した（創世 12：6－7）。ヤコブはここに宿営し，土地の一部を買い取った（創世 33：18－20）。ゲリジム山は祝福の山であり，他方，エバル山

はのろいの山であった（申命 27－28 章）。ヨシュアはエバル山にモーセの律法を伝える記念物を据え，その後イスラエルの民にその律法を読み聞かせた（ヨシ 8：30－35）。ヨセフの遺骨はシケムに葬られた（ヨシ 24：32）。

18. サマリヤのドタン

聖地の中でもこの地域の特徴は，多くの尾根と谷があることである。ここは優れた牧草地である。イスラエルの民がこの地に定住したとき，この地域はマナセに与えられた。

重要な出来事：ドタンの谷で，ヨセフはエジプトに売られた（創世 37：12－28）。イゼベルがイスラエルの預言者たちを殺そうとしたとき，オバデヤは 100 人の預言者を洞穴に隠して救った（列上 18：13）。スリヤの軍隊がエリシャと彼の召し使いを包囲したが，主は彼らを奇跡的に救い出された（列下 6：13－23）。

19. カイザリヤとシャロンの平原からカルメルへ

昔の港町カイザリヤに向かって北を望む。写真の上方にはカルメルの山並みが見える。

重要な出来事：エリヤはカルメル山でバアルの偽預言者たちに立ち向かった（列上 18 章）。カイザリヤの東には，「海の道」と呼ばれる古代の要路の一つがあった。ペテロはヨッパで驚くべき示現を受けた後，カイザリヤでコルネリオというローマ軍の百卒長に教えることにより，異邦人への伝道を開始した（使徒 10 章）。ピリポはここで教えを説き，ここに住み，彼の 4 人の娘は預言した（使徒 8：40；21：8－9）。パウロはこの町で 2 年間監禁状態にあった（使徒 23－26 章）。パウロは，ペリクス，フェスト，ヘロデ・アグリッパⅡ世に教えを説き，アグリッパは「おまえは少し説いただけで，わたしをクリスチャンにしようとしている」と述べた（使徒 26：28）。

20. ヨッパ

港町のヨッパ越しに北西の方向を望む。

重要な出来事：ヨナはヨッパに行き，タルシシに向かう船に乗った（ヨナ 1：1－3）。ヨッパはソロモンや後代のゼルバベルが利用した港であり，神殿を建てるためにレバノンの杉の森からここに木材が運ばれた（歴下 2:16；エズ 3:7）。ここでペテロはドルカスとしても知られるタビタを死から生き返らせた（使徒 9：36－43）。またペテロは清い生き物と清くない生き物の示現を受け，異邦人の間で教導の業を始める必要があることが彼に示された（使徒 10 章）。オーソン・ハイドは 1841 年に聖地を奉献するため，ここに到着した。

21. エズレルの谷

タボル山の頂上から西にエズレルの谷の一部を望む。エズレルの谷は一つの大きな谷と考えられがちであるが，実際は，アッコの平原をヨルダンの谷とガリラヤの海の地域につなぐ一連の谷である。例えば，メギドの谷はこの谷の西側にある。エズレルの谷は西方の地中海と東方のヨルダンの谷の間にある聖地を横切る主要なルートであった。

重要な出来事：エジプトとメソポタミヤを結ぶ大路がこの谷を通っており，ここで何度も戦いが行われた（士師 1：22－27；5：19；列下 23：29－30）。この地での最後の大きな戦いは，救い主の再臨の間際にあるハルマゲドンの戦いで始まる。その名は，ハル・メギド，すなわちメギドの山に由来する（エゼ 38 章；ヨエ 3:9－14；ゼカ 14：2－5；黙示 16：14－16）。

22. タボル山

北西方向を望む。タボル山の周囲の低地は，エスドラエロン平原としても知られるエズレルの谷である。ナザレはタボル山の向こう側の丘陵地帯にある。

重要な出来事：デボラとバラクは，主の軍勢を集めて，ハゾルの王ヤビンに立ち向かった（士師 4：4－14）。タボル山は救い主が変貌された地と言い伝えられている場所の一つである（マタ 17：1－9）。また，ヘルモン山が変貌の山であった可能性もある。（『聖句ガイド』「変貌」の項を参照）

23. ガリラヤの海と至福の教えの山

ガリラヤの海の北西部を南西方向に望む。ガリラヤの海は淡水湖である。向こう岸の，写真のはるか左側にテベリヤの町がある。前景中央にある丘は至福の教えの山と言い伝えられている。カペナウムは左にあり，写真には写っていない。

重要な出来事：救い主はこの世での御業の多くをこの地域で行われた。救い主は，この地

で十二使徒を召して聖任し（マタ 4：18−22；10：1−4；マコ 1：16−20；2：13−14；3：7, 13−19；ルカ 5：1−11），山上の垂訓を教え（マタ 5−7 章），たとえで教えを説かれた（マタ 13：1−52；マコ 4：1−34）。救い主は次のような奇跡を含む数々の奇跡を行われた。すなわち，重い皮膚病にかかった人を癒し（マタ 8：1−4），嵐を静め（マタ 8：23−27），一人の若者から悪霊（レギオン）を追い出された。そして，悪霊は豚の群れに入って海になだれ込んだ（マコ 5：1−15）。救い主はまた，ヤイロの娘を死からよみがえらせ（マタ 9：18−19, 23−26；マコ 5：22−24, 35−43），5 千人と 4 千人に食物を与えられた（マタ 14：14−21；15：32−38）。救い主が弟子たちに，網を投げるように命じられると，彼らはたくさんの魚を取ることができた（ルカ 5：1−6）。さらに救い主は多くの人々を癒し（マタ 15：29−31；マコ 3：7−12），また復活の後に御姿を現して弟子たちを教えられた（マコ 14：27−28；16：7；ヨハ 21：1−23）。

24. カペナウム

カペナウムはガリラヤの海の北岸にあり，イエスのガリラヤ伝道の中心地であった（マタ 9：1−2；マコ 2：1−5）。ここは漁業と商業の中心地として重要で，隆盛を誇った。また異邦人とユダヤ人の故郷であった。1 世紀の人口は，恐らく 1,000 人を超えたことがなかったと思われる。カペナウムは肥沃な土地に囲まれた，重要な貿易路が交差する場所にあった。ローマ兵たちはここに浴場と貯蔵施設を建て，これらは組織化された社会体制の中で立派な公共施設となった。この町で多くの奇跡が行われたにもかかわらず，一般的には人々は救い主の業を受け入れなかった。そのため，イエスはこの町をのろわれた（マタ 11：20, 23−24）。やがて，カペナウムは荒廃し，今も住む者はいない。

重要な出来事：カペナウムは，救い主御自身の町として知られていた（マタ 9：1−2；マコ 2：1−5）。救い主はこの地で多くの奇跡を行われた。例えば，救い主は多くの人々を癒された（マコ 1：32−34）。すなわち，百卒長の僕（ルカ 7：1−10），ペテロのしゅうとめ（マコ 1：21, 29−31），天井からつり下げられた中風の者（マコ 2：1−12），片手の不自由な男（マタ 12：9−13）を癒された。イエスはまた，ここで多くの悪霊を追い出し（マコ 1：21−28, 32−34），ヤイロの娘を死からよみがえらせ（マコ 5：22−24, 35−43），またカペナウムの会堂で命のパンの説教をされた（ヨハ 6：24−59）。救い主はペテロに，ガリラヤの海から魚を取ってきてその魚の口を開け，納入金を払うための銀貨を見つけ出すように言われた（マタ 17：24−27）。

25. ヨルダン川

ヨルダン川はガリラヤの海の北方に水源を持ち，ガリラヤの海に流れ込み，さらに南方の死海に続いている。

重要な出来事：ロトは自らヨルダンの低地を選んだ（創世 13：10−11）。ヨシュアは川の水を分けて，イスラエルの民がそこを通って約束の地に入れるようにした（ヨシ 3：13−17；4：1−9, 20−24）。エリヤとエリシャは川の水を分けた（列下 2：5−8, 12−14）。ナアマンは重い皮膚病から癒された（列下 5：1−15）。バプテスマのヨハネは救い主や多くの人々にバプテスマを施した（マタ 3：1−6, 13−16）。（『聖句ガイド』「ヨルダン川」の項を参照）

26. ピリポ・カイザリヤ

この泉はヘルモン山のふもとにあり，ヨルダン川の源流の一つである。この地域を統治していたヘロデ・ピリポは，カイザル（皇帝）と自分自身をたたえてここに町を築いた。この町はかつてパニアスと呼ばれ，今日はバニアス，またはピリポ・カイザリヤと呼ばれている。

重要な出来事：救い主はピリポ・カイザリヤで弟子たちに会われた。ここでペテロは，救い主は「生ける神の子キリストです」と宣言した。すると，救い主はペテロに「天国のかぎ」を約束された（マタ 16：13−20）。

27. ナザレ

現在のナザレの町を南方向に望む。聖書の時代には，ナザレは小さな村であった。

重要な出来事：ニーファイはナザレにいる救い主の母を示現で見た（1 ニフ 11：13−21）。天使ガブリエルはマリヤに，彼女が救い主の母になることを告げた（ルカ 1：26−35）。ガブリエルはヨセフに，マリヤを妻として迎え，また生まれてくる子をイエスと名付けるように告げた（マタ 1：18−25）。イエスはナザレで成長された（マタ 2：19−23；ルカ 2：4−40；

4：16)。イエスは会堂で教えを説き，御自分がメシヤであることを宣言された（ルカ 4：16−21)。しかし，ナザレの人々はイエスを拒んだ(マタ 13：54−58；ルカ 4：22−30)。

28. ダン

イスラエルの民がこの地を征服する前，この古代の町は，レセム（ヨシ 19：47)，あるいはライシ（士師 18：7, 14）と呼ばれていた。この地には幾つかの泉があり，ピリポ・カイザリヤの泉とともに，ヨルダン川の主要な水源となっている。

重要な出来事：アブラハムはロトを救い出した（創世 14：13−16)。ダンの部族はその地域を奪い取り，ダンと名付けた（ヨシ 19：47−48)。ヤラベアムは金の子牛を造り，その結果，北の十部族の滅亡を招いた（列上 12：26−33)。ダンはイスラエルの最北の町であり，そのためにイスラエルの地は，聖典では「ベエルシバからダンまで」と表現されている（歴下 30：5。ベエルシバは最南の町であった)。(『聖句ガイド』「ダン」の項を参照)

29. アテネ

この写真はアテネのパルテノン神殿の遺跡である。アテネは古代ギリシヤのアッティカの首都で，新約の時代にはローマのアカヤ州に属した。アテネは，ギリシヤの異教の女神アテナをたたえて命名された。新約の時代までに，アテネはすでに過去の偉大さと栄光の多くを失ってしまった。しかし，数々の立像と，「知られない神」（使徒 17：23）をはじめとする多くの神と女神のための記念建造物は今なお残っている。

重要な出来事：使徒パウロはこの町を訪れ，パルテノン神殿の近くのアレオパゴスの評議所で教えを説いた（使徒 17：15−34)。宣教師たちがアテネからギリシヤの他の場所に派遣された（1 テサ 3：1−2)。

30. コリント

ローマのアカヤ州の主要な町。この町はプロポネサスとギリシヤ本土を結ぶ地峡にあり，東側と西側の両方に港があった。この町は富と名声を誇る港町であった。

重要な出来事：パウロはコリントに 1 年 6 か月住み，ここに教会を設けた（使徒 18：1− 18)。パウロはコリントの地域に住む教会員に数通の手紙を書き，そのうちの 2 通が現在『新約聖書』の中に収められている（1 コリ；2 コリ)。

31. エペソ

エペソにあるギリシヤ式劇場の遺跡。パウロはここで教えを説いた。新約の時代に，エペソは，ローマの異教の女神アルテミスを祭った壮大な神殿があることで世界に広く知られていた。今は廃墟となっているエペソは，かつてローマのアジヤ州の首都で，商業の一大中心地であった。町の銀細工人たちは，アルテミス神殿の模型を売ることで商業を繁栄させた。

重要な出来事：使徒パウロは，2 回目の伝道の旅の終わり近くにエペソを訪れた（使徒 18：18−19)。3 回目の旅のときに，パウロは 2 年間この町に滞在した。パウロが偽りの女神アルテミスの礼拝に反対して教えを説いたときに，職を失いそうになった銀細工人たちが騒動を起こした。そのためにパウロはここを去ることになった（使徒 19：1，10，23−41；20：1)。エペソの劇場は，過去にギリシヤ人が建てた劇場の最大のものであり，パウロの同僚たちが暴徒と相対した場所であった（使徒 19：29−31)。パウロはローマで囚われの身であったときに，エペソの教会の会員に手紙を書いた。黙示録に書かれているアジヤにある教会の 7 つの支部の一つは，エペソにあった(黙示 1：10−11；2：1)。

32. パトモス島

ヨハネが流刑にされたエーゲ海の小島（黙示 1：9)。ヨハネはこの島の大理石の石切り場で働いたという言い伝えがある。

重要な出来事：ヨハネは黙示録として知られる偉大な示現を見た。主はそれをアジヤの 7 つの教会に送るようにヨハネに告げられた（黙示 1：11)。

次の地図は，聖典をより深く理解するための助けとなるものである。聖典の中で述べられている地域の地理を知ることによって，聖典中の出来事について理解を深めることができる。

1. 聖地の地図
2. イスラエルのエジプト脱出とカナンへの入植
3. 十二部族の土地の区分
4. ダビデとソロモンの帝国
5. アッスリヤ帝国
6. 新バビロニア帝国（ネブカデネザル）とエジプトの王国
7. ペルシャ帝国
8. ローマ帝国
9. 旧約の世界
10. 旧約の時代のカナン
11. 新約の時代の聖地
12. イエスの時代のエルサレム
13. 使徒パウロの伝道の旅
14. 聖書の時代の聖地の地勢図

地名の五十音順索引は，地図上の特定の場所を探す際の助けとなる。それぞれの地名には，地図の番号と，その場所を示すアルファベットと数字の組み合わせが記されている。例えば，最初の地図上のラバ（アンマン）に対しては 1: D5 という記載がある。すなわち，地図 1 の，D5 の四角内ということである。地図の上方のアルファベットと横の数字で囲まれた四角内を探すとよい。また別名は括弧内に記入されている。例：ラバ（アンマン）。地名の後ろに疑問符が付いているものは，その地図上に示されている場所が推測されたものであって，確定したものではないという意味である。

地図で使われているいろいろな記号や字体の説明は次のとおりである。そのほか，特定の地図に関する追加の記号の説明もある。

赤い丸は市や町を表す。その丸から引き出された線の部分に市や場所の地名が書かれていることがある。

▲ 小さな黒い三角は山を表す。

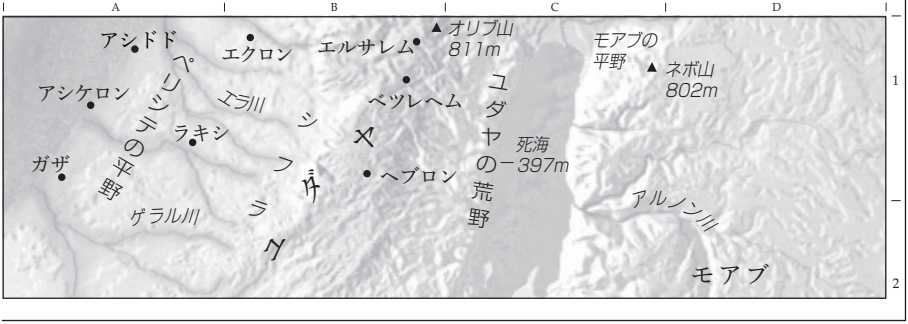
死海 この字体は，海洋や海，湖，川，山，荒野，谷，砂漠，島などの地理上の場所に対して使われている。

エルサレム この字体は，すべての市や町に対して使われている。（また，エルサレム市街の地図上の詳細な場所に対しても使われている。）

モアブ この字体は，地域や民，部族などの小行政区分に対して使われている。

ユダヤ この字体は，国や大陸などの大行政区分に対して使われている。

地図見本



アイ　2：D1, 10：B5
アイノン　11：C4
アカデ，地域　9：G2
アカバ湾　2：D4
アカヤ，ローマの州　8：C2, 13：D2
アシケロン　1：A6, 3：A5, 4：C5, 10：A6, 11：A6
アシドド（アゾト）　1：A6, 3：A5, 4：C5, 10：A6
アジヤ，ローマの州　8：C2, 13：F2
アシュル　5：C3, 9：F2
アセル，部族　3：A3
アゾト　11：A6
アッコ（トレマイ）　1：B3, 3：A3, 4：C3, 10：B2, 11：B3
アッスリヤ　9：F2
アッスリヤ帝国　5：C3
アテネ　6：A2, 7：A2, 8：C2, 13：D2
アドリヤ海　8：B2
アバナ川　1：D1
アビオ・ポロ　13：B1
アビレネ，地域　11：D1
アマレク，地域　4：C6
アヤロン川　1：B5, 10：B5, 11：B5
アラデ　2：D1, 3：A5, 4：C5
荒野の宿営地　2：C3
アラバ（大地溝帯）　1：C8, 2：D2, 4：C7, 10：C8
アラビヤ　5：B3, 8：D4
アラビヤ海　6：D4
アラビヤ砂漠　9：F3
アラム‐ダマスコ，地域　4：D2
アララテ山　9：F1
アラル海　5：D1, 6：D1, 7：C2
アリマタヤ　11：B5
アルゴブ，地域　4：D3
アルノン川　1：C7, 2：D1, 3：B5, 4：D5, 10：C7, 11：C7
アレキサンドリヤ（アレキサンデリヤ）　8：C3, 13：F4
アンテオケ，スリヤの　8：C3, 13：H2
アンテオケ，ピシデヤの　13：F2
アントニヤの塔，エルサレム　12：C3
アンマン（ラバ）　1：D5, 10：D5, 14：D2
アンモン，地域　1：D6, 3：B5, 4：D4, 10：D6

イコニオム　13：G2
イスパニヤ，地域　8：A2
イスラエル，地域　4：C4
イスラエルの池，エルサレム　12：C4
イタリヤ，ローマの州　8：B2, 13：A1
イッサカル，部族　3：B4
イドマヤ，地域　1：B7, 10：B7, 11：B7
インダス川　7：D4

魚の門，エルサレム　12：B3
美しの門　12：C4
ウラルトゥ，地域　9：E1
ウル　5：C3, 9：E2, 9：G3

エクロン　1：B6, 10：A6
エジオン・ゲベル　2：D3, 3：A8, 4：C8, 9：D4
エジプト，地域　2：A3, 5：B4, 7：A4, 8：C4, 9：C4, 13：F4
エジプトの王国　6：A3
エジプトの川　2：C2
エスドラエロンの谷　1：B3, 10：B3
エズレル　4：D4, 10：B4
エズレル（エスドラエロン）の谷　1：B3, 10：B3
エタムの荒野　2：B3
エドム，地域　1：C8, 2：D2, 3：B6, 4：D7, 10：C8
エバル山　1：B4, 3：A4, 4：C4, 10：B4, 11：B5, 14：B6
エフライム，部族　3：A4
エペソ　8：C2, 13：E2
エマオ　11：B6
エマオへの道　12：A4
エラ川　1：A6, 10：B6, 11：B6
エラム，地域　5：C3, 6：C3, 7：C3, 9：H3
エリコ　1：C5, 2：D1, 3：B5, 4：D5, 10：C5, 11：C6, 14：A7, 14：C3
エリコへの道　12：D5
エリム　2：C3
エルサレム（サレム）　1：B6, 2：D1, 3：A5, 4：C5, 5：B3, 6：B3, 7：A3, 8：C3, 9：D3, 10：B6, 11：B6, 13：H3, 14：B2, 14：B6
エルサレムの上町　12：B6
エルサレムの下町　12：C6
エンゲデ　4：D5, 10：C7
エンドル　10：C3
エンロゲルの泉　12：C7

王室廊，エルサレム　12：C5
大海（地中海，上の海）　1：A4, 2：B1, 3：A4, 4：C4, 5：A3, 6：A3, 7：A3, 9：B3, 10：A5, 11：A6, 13：D3, 14：A2, 14：A6
オリブ山　1：B6, 10：B6, 11：B6, 12：D4, 14：B6
オン（ヘリオポリス）　2：A3, 9：C4

カイザリヤ　11：B4, 13：H3
ガザ　1：A6, 2：C1, 3：A5, 4：C5, 10：A7, 11：A7, 13：H4
カスピ海　5：C1, 6：C1, 7：B2, 8：D2, 9：G1
ガダラ　11：C4
ガテ　3：A5, 4：C5, 10：A6
カデシ・バルネア　2：C2, 3：A6, 4：C6
ガテヘペル　10：B3
ガド，部族　3：B4
カナ　11：C3

カナン，地域　2：C1, 9：D3
カパドキヤ，地域　13：H2
カペナウム　11：C3
上ガリラヤ，地域　1：C2
上の海（大海，地中海）　7：A3, 9：B3
カヤパ邸，エルサレム　12：B6
ガラテヤ，地域　13：G1
ガリラヤ，地域　11：C2
ガリラヤの海（キンネレテの海）　1：C3, 3：B3, 4：D3, 9：D3, 10：C3, 11：C3, 14：B7
カルケミシ　5：B2, 6：B2, 9：D2
カルタゴ　8：B3
カルメル山　1：B3, 3：A3, 4：C3, 10：B3, 11：B3

キション川　1：B3, 10：B3, 11：B3
キッテム島（クプロ島）　9：C3
ギベア　4：C5
ギベオン　10：B5
ギホンの泉，エルサレム　12：D6
キヨス島　13：E2
キリキヤ，地域　13：G2
ギリシヤ　7：A2
キル・ハラセテ　10：C7
ギルガル　1：C5, 2：D1, 4：D5
ギルボア山　1：C4, 3：B4, 10：C4, 11：C4, 14：C6
ギレアデ，地域　1：C4, 10：C4
キンネレテの海　1：C3, 3：B3, 4：D3, 9：D3, 10：C3, 11：C3

クニド　13：E2
クプロ島（キッテム島）　8：C3, 9：C3, 13：G3
クレテ島　8：C3, 9：A3, 13：D3
クレネ　13：D3

ゲシュル，地域　4：D3
ゲゼル　4：C5
ゲツセマネの園，エルサレム　12：D4
ケデロンの谷，エルサレム　12：D6
ゲラル　10：A7
ゲラル川　1：A7, 10：A7, 11：A7
ゲリジム山　1：B5, 3：A4, 4：C4, 10：B5, 11：B5, 14：B6
ゲルマニア，地域　8：B1

紅海　2：D4, 5：B4, 6：B4, 7：B4, 8：C4, 9：D4
公海（大海，地中海，上の海）　8：B3
コーカサス山脈　5：C1, 8：D2, 9：F1
ゴール，地域　8：A1
ゴセン，地域　2：A2, 9：C4
黒海　5：B1, 6：B1, 7：A2, 8：C2, 9：B1, 13：F1
ゴモラの地　10：C8
コラジン　11：C3
コリント　13：D2
ゴルゴタ，エルサレム　12：B3

サマリヤ　1：B4, 5：B3, 10：B4, 11：B5, 13：H3
サマリヤ，地域　1：B4, 10：B4, 11：B4
サマリヤへの道　12：B1
サモトラケ島　13：E1
サラミス　13：G3
サリム　11：C4
サルマチア，地域　8：C1
サレプタ　11：B1
サレム（エルサレム）　9：D3

塩の海（死海）　1：C6, 2：D1, 3：B5, 4：D5, 9：D4
シオン山　14：B6
死海（塩の海）　1：C6, 2：D1, 3：B5, 4：D5, 9：D4, 10：C6, 11：C7, 14：A7, 14：C3
死海湖底　14：C3
死海湖面　14：A7, 14：C3
死海への道　12：C8
シケム　3：A4, 4：C4, 10：B4
下の海（東の海，ペルシャ湾）　5：C4, 6：C4, 7：B4, 8：D3, 9：H3
シドン　1：C1, 3：A2, 4：D2, 9：D3, 10：C1, 11：C1, 13：H3
シナイ山（ホレブ）　2：C4, 9：D4
シナイの荒野　2：C4
シナイ半島　2：C3
シナル（バベル）　9：G3
シフラ　1：B6, 10：B6, 14：B2
シメオン，部族　3：A6
下ガリラヤ，地域　1：C3
シャロンの平野　1：B4, 10：B4, 11：B5
シュルの荒野　2：B2
シラクサ　13：B2
シロ　3：A4, 4：D4, 10：B5
シロアムの池，エルサレム　12：C7
神殿(宮)，エルサレム　12：C4
神殿(宮)の頂上，エルサレム　12：D5
神殿への階段，エルサレム　12：D5
シンの荒野　2：C4
新バビロニア帝国　6：C3

スエズ湾　2：B3
スカル　11：B5
スコテ，イスラエルの　3：B4, 4：D4
スコテ，エジプトの　2：B2
スサ　6：C3, 7：B3, 9：G3
スサの門，エルサレム　12：D4
スパルタ　6：A2, 7：A2
スミルナ　13：E2
スリヤ，地域　6：B3, 8：C3, 9：D3, 11：C2, 13：H3

ゼブルン，部族　3：A3

ゼレデ川　1：C8, 2：D2, 3：B6, 4：D6, 10：C8, 11：C8

ソドムとゴモラの地　10：C8
園の墓，エルサレム　12：B3
ソレク川　1：B6, 10：B6, 11：B6
ソロモンの廊，エルサレム　12：D4

ダキア，地域　8：C2
タニス（ラメセス）　2：B2
タボル山　1：C3, 3：B4, 4：D4, 10：C3, 11：C3, 14：C6
ダマスコ　1：D1, 3：B2, 4：D2, 9：D3, 10：D1, 11：D1, 13：H3
タルソ　13：G2
ダン（ライシ）　1：C2, 3：B3, 4：D3, 10：C2
ダン，部族　3：A5, 3：B3

チクラグ　4：C5
チグリス川　5：C3, 6：C3, 8：D3, 9：G3
地中海（大海，上の海）　1：A4, 2：B1, 3：A4, 4：C4, 5：A3, 6：A3, 7：A3, 8：B3, 9：B3, 10：A5, 11：A6, 13：D3, 14：A2, 14：A6
地中海海面　14：A2, 14：A6
チンの荒野　2：C2

ツロ　1：B2, 3：A3, 4：C3, 9：D3, 10：B1, 11：B2, 13：H3

テーベ　5：B4, 6：B4, 7：A4, 8：C4
デカポリス，地域　11：C4
テコア　10：B6
テサロニケ　8：C2, 13：D1
テベリヤ　11：C3
デボン　2：D1
デルベ　13：G2

塔の池，エルサレム　12：B5
ドタン　10：B4
ドフカ　2：C4
ドラの平野　9：F2
トランス・ヨルダンの高台地　14：D2
ドル　3：A4, 4：C4
トレス・タベルネ　13：B1
トレマイ（アッコ）　1：B3, 11：B3, 13：H3
トロアス　6：A2, 7：A2, 13：E2
トロイ　9：B2

ナイル川　2：A3, 5：B4, 6：B4, 7：A4, 8：C4, 9：C4
ナイル・デルタ　2：A2, 9：C4
ナイン　11：C4
ナザレ　1：B3, 11：B3
ナバタ，地域　11：C8
ナフタリ，部族　3：B3

二階の広間　12：B6
ニネベ　5：C2, 9：F2

ネゲブ，地域　1：A8, 10：A8
ネボ山　1：C6, 2：D1, 3：B5, 4：D5, 10：C6, 11：C6

バシャン，地域　1：C3, 10：C2
ハスモン家の宮廷，エルサレム　12：C5
ハゾル　3：B3, 4：D3, 10：C2
パダンアラム（ハラン）　9：E2
パトモス島　13：E2
バビロニア，地域　9：F3
バビロン　5：C3, 6：C3, 7：B3, 9：F3
バベル（シナル）　9：G3
パポス　13：G3
ハラン（パダンアラム）　9：E2
パランの荒野　2：C3
パルテヤ帝国　8：D3
パルパル川　1：D1, 10：D1, 11：D2
パンフリヤ，地域　13：F2

東の荒野　2：D2
東の海（下の海）　5：C4, 6：C4
ピシデヤ，地域　13：F2
ヒゼキヤのトンネル水路，エルサレム　12：C6
羊の門，エルサレム　12：C4
ヒッタイトびと，民　9：D2
ビテニヤ，地域　13：G1
ビトム　2：B2
ビハヒロテ　2：B3
ヒビびと，民　3：B2
ヒラデルヒヤ　11：D6
ピリピ　13：D1
ピリポ・カイザリヤ　11：C2
ヒンノムの谷，エルサレム　12：B7

フーレ湖（メロムの水）　10：C2, 14：C6
フーレの谷　1：C2, 11：C2
フェニキヤ（ビニケ），地域　1：C1, 4：D2, 9：D3, 10：B1, 11：B2, 13：H3
ブリタニア，地域　8：A1
フルギヤ，地域　13：F2

ベエルシバ　1：B7, 2：C1, 3：A5, 4：C6, 9：D4, 10：B7, 11：B8
ヘシボン　4：D5
ベゼサ　12：B2
ベソル川　1：A7, 10：A7, 11：A8
ベタニヤ　11：B6
ベタニヤ（ベテアバラ）　11：C6
ベタニヤへの道　12：D5
ベツサイダ　11：C3
ベツレヘム　1：B6, 3：A5, 4：C5, 10：B6, 11：B6

ベツレヘムへの道　12：A7
ベテシャン　3：B4, 4：D4, 10：C4
ベテスダの池，エルサレム　12：C3
ベテパゲ　11：B6
ベテル（ルズ）　3：A5, 4：C5, 10：B5, 11：B6
ベニヤミン，部族　3：A5
ペヌエル　10：C4
蛇の池，エルサレム　12：A6
ヘブロン　1：B6, 2：D1, 3：A5, 4：C5, 10：B7, 11：B7
ヘブロンへの道　12：A7
ヘリオポリス（オン）　2：A3
ペリシテ，地域　4：C5
ペリシテの平野　1：A6, 10：A6
ペリシテびと，民　2：C2
ペルガ　13：F2
ペルガモ　13：E2
ペルシャ　5：D4, 6：D4
ペルシャ湾（下の海）　9：H3
ヘルモン山　1：C1, 3：B2, 4：D2, 10：C1, 11：D1, 14：D5
ベレヤ　13：D1
ベレヤ　11：C5
ヘロデの宮殿，エルサレム　12：B5

ボズラ　3：B6, 4：D6
ポテオリ　13：B1
ホリびと，民　9：E2
ホルマ　2：D1, 4：C6
ホル山　2：D2
ホレブ（シナイ山）　2：C4, 9：D4
ポント，地域　13：G1

マグダラ　11：C3
マケドニヤ，地域　7：A2, 8：C2, 13：D1
マケルス　11：C7
マナセ，部族　3：A4, 3：B3
マハナイム　10：C4
マルタ島　13：B3

ミケネ　5：A2
水の門，エルサレム　12：C7
ミデアン，地域　2：D4, 9：D4
ミラ　13：F2
ミレト　13：E2

ムシヤ，地域　13：E2

メギド　1：B3, 3：A4, 4：C4, 6：B3, 9：D3, 10：B3
メソポタミヤ　8：D3, 9：E2
メデバ　4：D5
メデヤ帝国　6：D3
メラ　2：B3
メリタ島（マルタ島）　13：B3
メロムの水（フーレ湖）　10：C2
メンピス　2：A3, 5：B3, 6：B3, 7：A3, 8：C3

モアブ，地域　1：C7, 2：D1, 3：B6, 4：D6, 10：C7
モアブの平野　1：C6, 11：C6
モリア山　14：B6
モレの丘　1：C3, 10：B3

ヤベシ・ギレアデ　3：B4
ヤボク川　1：C5, 3：B4, 4：D4, 10：C5, 11：C5
ヤルムク川　1：C3, 10：C3, 11：C3

ユダ，地域　5：B3, 10：B7
ユダ，部族　3：A5
ユダヤ，地域　1：B6, 11：B7
ユダヤの荒野　1：B7, 11：B7
ユダヤの丘陵地帯　14：B2
ユフラテ川　5：B3, 6：C3, 8：D3, 9：E2

良き港　13：E3
ヨッパ　1：A5, 3：A4, 4：C4, 10：A5, 11：A5, 13：H3
ヨッパへの道　12：A4
ヨルダン川　1：C5, 2：D1, 3：B4, 4：D4, 10：C5, 11：C5

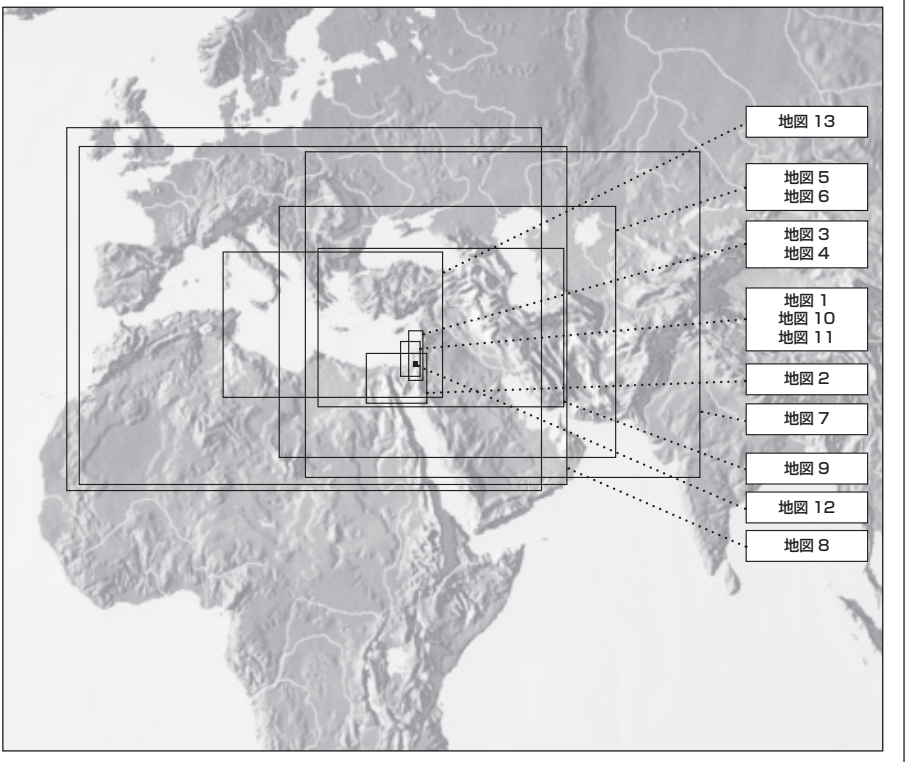
ライシ（ダン）　10：C2
ラオデキヤ　13：F2
ラキシ　1：A6, 3：A5, 4：C5, 10：A6
ラバ（アンマン）　1：D5, 3：B5, 10：D5, 14：D2
ラメセス（タニス）　2：B2
ラモテ・ギレアデ　3：B4, 4：D4

リタニ川　1：C1, 10：C1, 11：C2
リビヤ　8：B3, 13：C4
リビヤ砂漠　9：B4
リュディア，地域　13：E2

ルキヤ，地域　13：F2
ルズ（ベテル）　10：B5
ルステラ　13：G2
ルベン，部族　3：B5

レギオン　13：B2
レバノン山脈　1：C1, 10：C1, 11：C1
レビデム　2：C4

ローマ　8：B2, 13：A1
ロドス島　9：B3, 13：E3



聖書に関する地図

次の地図は聖典の研究を助けるために準備されたものであり，また教会の教授資料の中にある提示法の効果を高めることを意図したものである。

上の略図は，次ページ以降のそれぞれの番号の地図がどの場所のものかを示すものである。広域の地図とより詳細な地図の両方で構成されている。

地図 1　聖地の地図

地図 2　イスラエルのエジプト脱出とカナンへの入植

地図 3　十二部族の土地の区分

地図 4　ダビデとソロモンの帝国

地図 5　アッスリヤ帝国

地図 6　新バビロニア帝国（ネブカデネザル）とエジプトの王国

地図 7　ペルシャ帝国

地図 8　ローマ帝国

地図 9　旧約の世界

地図 10　旧約の時代のカナン

地図 11　新約の時代の聖地

地図 12　イエスの時代のエルサレム

地図 13　使徒パウロの伝道の旅

地図 14　聖書の時代の聖地の地勢図

聖地の地図

地図 1


A
B
C
D
1
2
3
4
5
6
7
8
北
シドン
フェニキヤ(ヒニケ)
レバノン山脈
アバナ川
ダマスコ
ヘルモン山▲
2,814m
パルパル川
リタニ川
ツロ
ダン
上ガリラヤ
フーレの谷
大海
(地中海)
トレマイ
(アッコ)
下ガリラヤ
バシャン
ガリラヤの海
(キンネレテの海)
−210m
キション川
ナザレ
カルメル山▲
546m
タボル山▲
588m
ヤルムク川
エズレルの谷
(エスドラロンの谷)
メギド
モレの丘
ギレアデ
ギルボア山▲
502m
サマリヤ
シャロンの平野
サマリヤ
エバル山▲
938m
ゲリジム山▲
868m
ヤボク川
ヨルダン川
ヨッパ
アヤロン川
ラバ
(アンマン)
ギルガル
エリコ
アンモン
ソレク川
エルサレム
オリブ山▲
811m
アシドド
エクロン
モアブの平野
ベツレヘム
ネボ山▲
802m
アシケロン
エラ川
シフラ
ペリシテの平野
ガザ
ユダヤ
ヘブロン
ユダヤの荒野
死海
−397m
ラキシ
アルノン川
ゲラル川
モアブ
ベエルシバ
イドマヤ
ゼレデ川
ネゲブ
アラバ
エドム
km
0
16
32
48

イスラエルのエジプト脱出とカナンへの入植

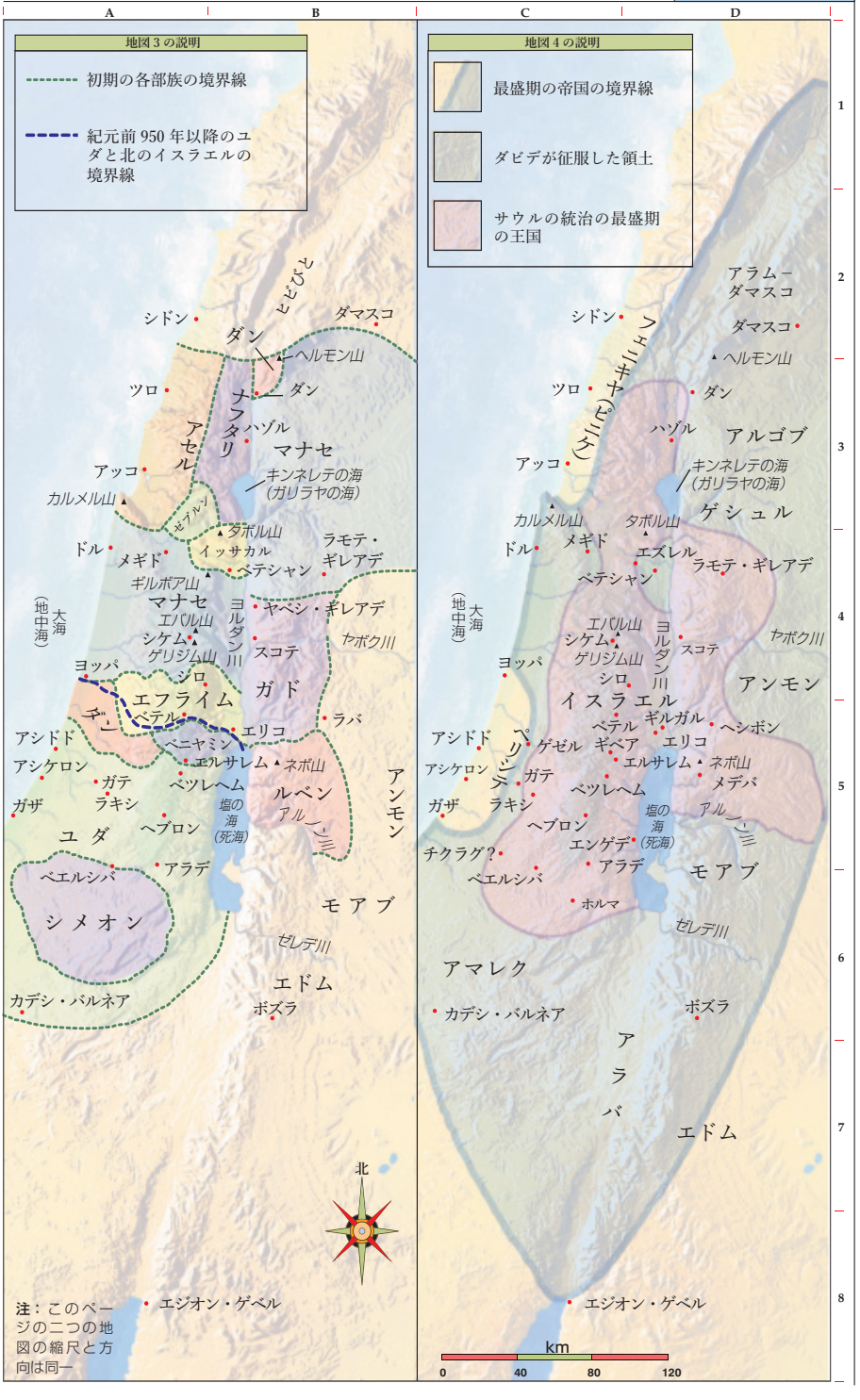
地図 2



1. **ラメセス**　イスラエルはエジプトから追放された（出エ 12 章；民数 33：5）。
2. **スコテ**　ヘブル人がこの最初の宿営地を出た後，主は彼らとともにあり，昼は雲の中に，夜は火の柱の中におられた（出エ 13：20−22）。
3. **ピハヒロテ**　イスラエルは紅海を通った（出エ 14 章；民数 33：8）。
4. **メラ**　主はメラの水を良い水にされた（出エ 15：23−26）。
5. **エリム**　イスラエルは 12 の泉のほとりに宿営した（出エ 15：27）。
6. **シンの荒野**　主はイスラエルを養うためにマナとうずらを送られた（出エ 16 章）。
7. **レピデム**　イスラエルはアマレクと戦った（出エ 17：8−16）。
8. **シナイ山**（ホレブ山またはジェベル・ムーサ）主は十戒を啓示された（出エ 19−20 章）。
9. **シナイの荒野**　イスラエルは幕屋を建てた（出エ 25−30 章）。
10. **荒野の宿営地**　モーセが民を治めるのを助けるために，70 人の長老が召された（民数 11：16−17）。
11. **エジオン・ゲベル**　イスラエルはエサウの地とアンモンの地を争うことなく通った（申命 2 章）。
12. **カデシ・バルネア**　モーセは約束の地に密偵を送った。イスラエルは背いて，その地に入ることができなかった。長年にわたって，カデシはイスラエルの主要な宿営地となった（民数 13：1−3, 17−33；14 章；32：8；申命 2：14）。
13. **東の荒野**　イスラエルはエドムやモアブと戦うことを避けた（民数 20：14−21；22−24 章）。
14. **アルノン川**　イスラエルはアモリびとと戦って，彼らを滅ぼした（申命 2：24−37）。
15. **ネボ山**　モーセは約束の地を見た（申命 34：1−4）。モーセは最後の 3 つの教えを説いた（申命 1−32 章）。
16. **モアブの平野**　主はイスラエルに，土地を分割して，住民を追い払うように告げられた（民数 33：50−56）。
17. **ヨルダン川**　イスラエルは乾いた地の上を歩いてヨルダン川を渡った。ギルガルの近くにヨルダン川の川底の石を積み上げて，ヨルダンの水が分けられたことの記念とした（ヨシ 3 章−5：1）。
18. **エリコ**　イスラエルの子らはこの町を奪い，滅ぼした（ヨシ 6 章）。

十二部族の土地の区分；ダビデとソロモンの帝国

地図３と４



注：このページの二つの地図の縮尺と方向は同一

アッスリヤ帝国

地図 5

紀元前 721 年ごろ（列王下 17：1−6）



新バビロニア帝国（ネブカデネザル）とエジプトの王国

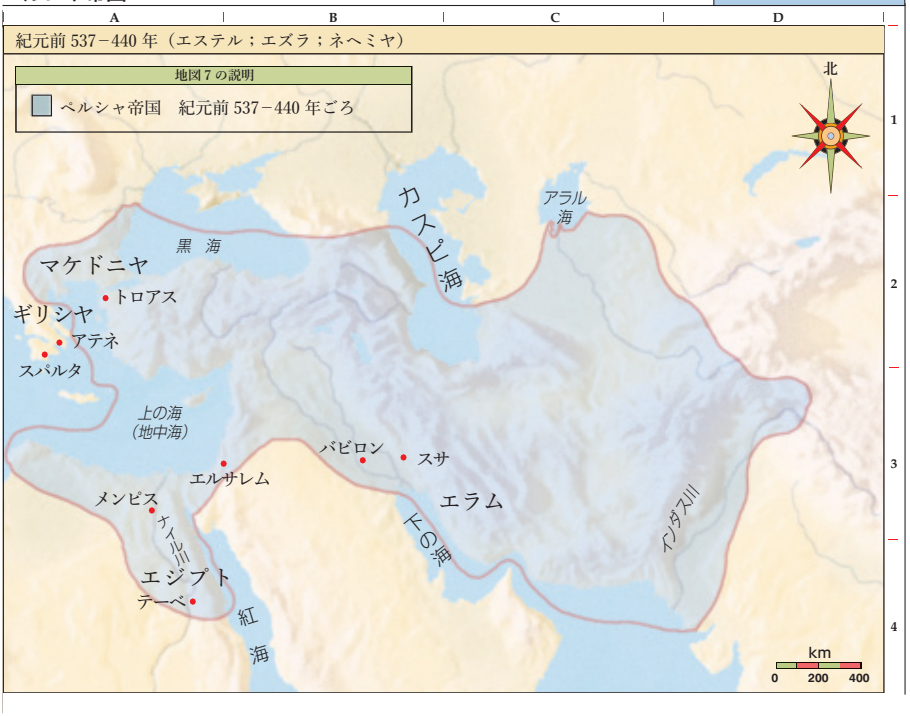
地図 6

紀元前 600−586 年ごろ（列王下 24−25 章）



ペルシャ帝国

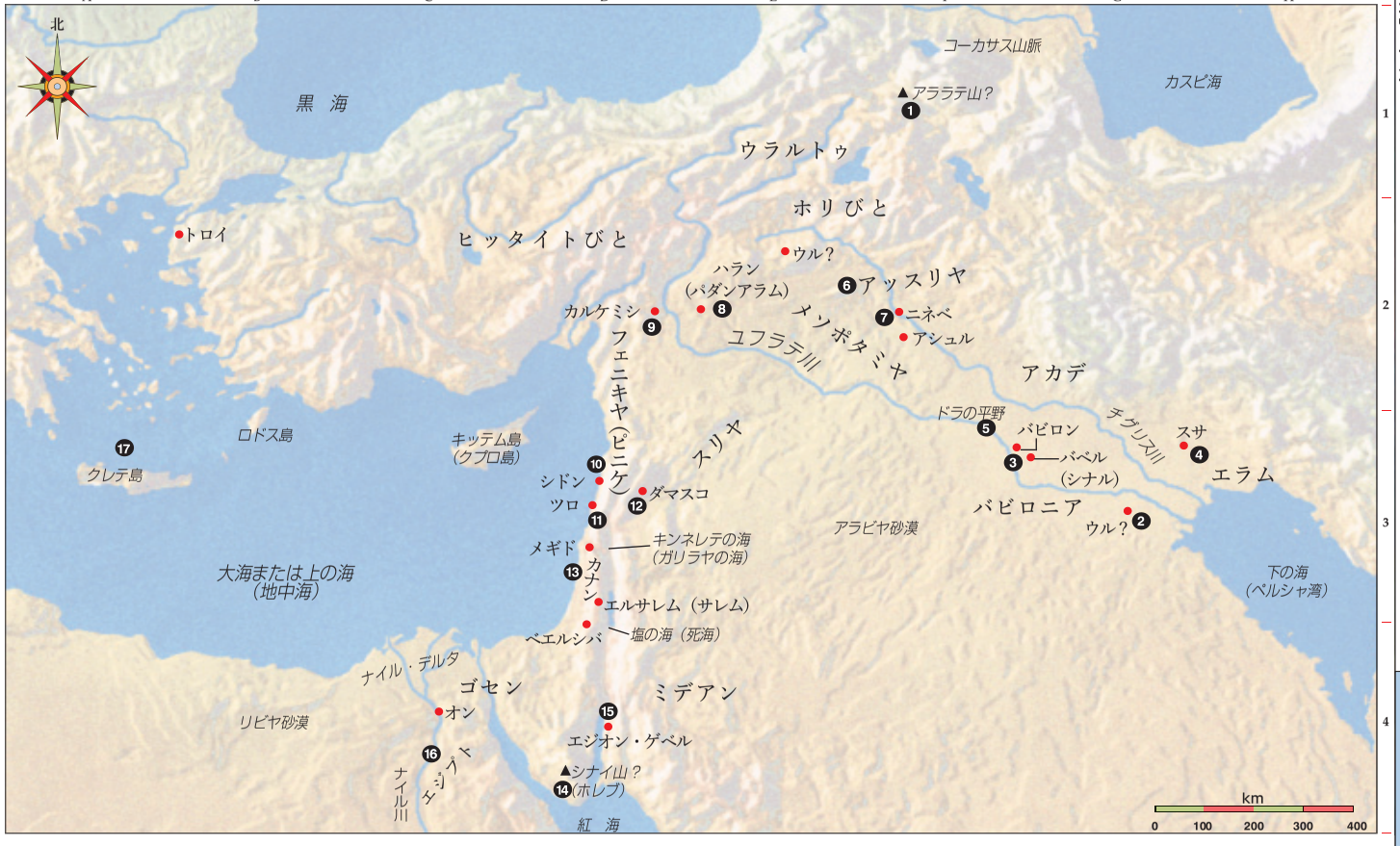
地図 7



ローマ帝国

地図 8




A
B
C
D
E
F
G
H
1
2
3
4
北
黒 海
コーカサス山脈
カスピ海
▲アララテ山？
1
ウラルトゥ
ホリびと
ヒッタイトびと
トロイ
ウル？
ハラン
（パダンアラム）
6アッスリヤ
8
カルケミシ
9
7ニネベ
アシュル
メソポタミヤ
ユフラテ川
アカデ
ドラの平野
5
バビロン
チグリス川
スサ
4
ロドス島
キッテム島
（クプロ島）
17
クレテ島
フェニキヤ（ビニケ）
ヤリメ
3
バベル
（シナル）
エラム
10
シドン
ダマスコ
12
ツロ
11
バビロニア
ウル？
2
アラビヤ砂漠
メギド
キンネレテの海
（ガリラヤの海）
13
カナン
大海または上の海
（地中海）
エルサレム（サレム）
ベエルシバ
塩の海（死海）
下の海
（ペルシャ湾）
ナイル・デルタ
ゴセン
ミデアン
オン
15
エジオン・ゲベル
リビヤ砂漠
16
ペトラ
▲シナイ山？
14（ホレブ）
ナイル川
紅 海
km
0
100
200
300
400

1. **アララテ山**　ノアの箱舟が漂着したとされる地(創世 8:4)。正確な場所は特定できない。

2. **ウル**　アブラハムの最初の居住地。ここでアブラハムはいけにえにされそうになり，エホバの天使を目にし，またウリムとトンミムを受け取った（創世 11：28−12：1；アブ 1 章；3：1)。(メソポタミヤ北部のウルもそのウルである可能性があることに留意する。)

3. **バビロン，バベル（シナル）**　ハムの息子クシが最初に住み，またニムロデも住んだ。シナルの平野にあったバベルの塔の時代にヤレドの民がここから起こった。後年，ここはバビロニアの州都となり，ネブカデネザルを含むバビロニアの王たちの居住地となった。ネブカデネザルはエルサレムの滅亡後，多くのユダヤ人を捕囚とし，この町に連れて来た（紀元前 587 年)。ユダヤ人はクロス王の時代まで，70 年間バビロンで囚われの状態にあった。クロス王はユダヤ人がエルサレムに帰って神殿を再建することを許した。預言者ダニエルも，ネブカデネザル，ベルシャザル，ダリヨス I 世の統治下でここに住んでいた（創世 10：10；11：1−9；列下 24−25 章；エレ 27：1−29：10；エゼ 1：1；ダニ 1−12 章；オム 1：22；エテ 1：33−43)。

4. **スサ**　ダリヨス I 世（ダリヨス大王), クセルクセス（アハシュエロス)，アルタクセルクセスの統治下におけるペルシャ帝国の首都。ユダヤ人を救うために勇気と信仰を示した王妃エステルの居住地でもある。ダニエルも，そして後年はネヘミヤも，ここで仕えた（ネヘ 1:1；2：1；エス 1：1；ダニ 8：2)。

5. **ドラの平野**　シャデラクとメシャクとアベデネゴは，ネブカデネザルが造った金の像を拝むことを拒んだため，火の燃え盛る炉に投げ込まれた。しかし，神の御子は彼らを守り，彼らは何の害も受けずに炉から出て来た（ダニ 3 章)。

6. **アッスリヤ**　アシュルはアッスリヤの最初の首都であったが，後にニネベが首都になった。アッスリヤの統治者たち，すなわちシャルマネセル V 世とサルゴン II 世はイスラエルの北王国を征服し，紀元前 721 年に十部族を捕らえ移した（列下 14−15，17−19 章)。アッスリヤは紀元前 612 年までユダにとって脅威であったが，この年にバビロンに征服された。

7. **ニネベ**　アッスリヤの首都。ヒゼキヤがユダを治め，預言者イザヤが教導の業に携わっていたときに，アッスリヤはユダの地を攻めた。天使がアッスリヤの兵 18 万 5 千人を討ったため，ユダの首都エルサレムは奇跡的に救われた（列下 19：32−37)。主は預言者ヨナに，この町に悔い改めを叫ぶように告げられた（ヨナ 1：2；3：1−4)。

8. **ハラン**　アブラハムはカナンへ行く前に，一時期ここに住んでいた。アブラハムの父と兄はここにとどまった。イサクの妻リベカと，ヤコブの妻たち，すなわちラケル，レア，ビルハ，ジルパはこの地方の出身である（創世 11：31−32；24：10；29：4−6；アブ 2：4−5)。

9. **カルケミシ**　パロ・ネコはここでネブカデネザルに破れ，カナンにおけるエジプトの覇権は終わった（歴下 35：20−36：6)。

10. **シドン**　この町はハムの孫シドンが築いたもので，カナンびとの最北の町である（創世 10：15−20)。ここはイスラエルにバアルの礼拝を持ち込んだイゼベルの故郷である（列上 16：30−33)。

11. **ツロ**　ここはスリヤの重要な商業と港湾の町であった。ツロのヒラムは，ソロモンが神殿を建てるのを助けるために杉と金と労働者を送った（列上 5：1−10，18；9：11)。

12. **ダマスコ**　アブラハムはこの付近でロトを救い出した。ここはスリヤの主要な町であった。ダビデ王の統治の時代に，イスラエルの民はこの町を征服した。エリヤはハザエルに油を注いで，ダマスコを治める王とした（創世 14：14−15；サ下 8：5−6；列上 19：15)。

13. **カナン**　アブラハムとその子孫に，永久の所有としてこの地が与えられた（創世 17：8)。

14. **シナイ山（ホレブ）**　主は燃えるしばの中からモーセに語られた（出エ 3：1−2)。モーセに律法と十戒が授けられた（出エ 19−20 章)。主は静かな細い声でエリヤに語られた（列上 19：8−12)。

15. **エジオン・ゲベル**　ソロモン王はエジオン・ゲベルで「数隻の船」を造った（列上 9：26)。シバの女王がソロモンの名声を聞いて王に会うために上陸したのがこの港と思われる（列上 10：1−13)。

16. **エジプト**　ウルの大飢饉のために，アブラハムはここに来た（アブ 2：1，21)。主はアブラハムに，主から啓示されたことをエジプト人に教えるように告げられた（アブ 3：15)。ヨセフの兄たちはヨセフを奴隷として売った（創世 37：28)。ヨセフはここでポテパルの家を治める者となり，その後，投獄された。ヨセフはパロの夢を解き明かし，エジプトで権限のある職を与えられた。ヨセフと兄弟たちは再会し，ヤコブとその家族はここに移り住んだ（創世 39−46 章)。イスラエルの子らはエジプトに滞在中，ゴセンに住んだ（創世 47：6)。イスラエルの民は増えて，「はなはだ強く」なった。その後，エジプト人によって束縛の身に置かれた（出エ 1：7−14)。一連の災害後，パロはイスラエルがエジプトから去ることを許した（出エ 12：31−41)。エレミヤはエジプトに連れて行かれた（エレ 43：4−7)。

17. **クレテ**　古代のミノス人の地。

1. **ダン（ライシ）** ヤラベアムは北王国の民が礼拝できるように金の子牛を設けた（列上 12：26−33）。ダンは古代イスラエルの北限であった。
2. **カルメル山** エリヤはバアルの預言者たちに立ち向かい，また天を開いて雨を降らせた（列上 18：17−46）。
3. **メギド** 多くの戦いがあった場所（士師 4：13−16；5：19；列下 23：29；歴下 35：20−23）。ソロモンはメギドを建てるために労働者を徴募した（列上 9：15）。ユダの王ヨシヤはエジプトのパロ・ネコとの戦いで致命傷を負った（列下 23：29−30）。主の再臨のときに，ハルマゲドンの戦いの一部として，エズレルの谷で大規模な最後の戦いが行われる（ヨエ 3：14；黙示 16：16；19：11−21）。ハルマゲドンという呼び名は，ヘブライ語のハル・メギド，すなわち「メギドの山」をギリシャ語に音訳したものである。
4. **エズレル** イスラエルで最も広く最も肥沃（ひよく）な谷であるエズレルにある同名の町の名。北王国の王たちはここに宮殿を建てた（サ下 2：8−9；列上 21：1−2）。邪悪な王妃イゼベルはここに住み，ここで死んだ（列上 21 章；列下 9：30）。
5. **ベテシャン** イスラエルはここでカナンびとに立ち向かった（ヨシ 17：12−16）。サウルの遺体はこの地の城壁に釘づけにされた（サ上 31：10−13）。
6. **ドタン** ヨセフは兄たちにより奴隷として売られた（創世 37：17, 28；45：4）。エリシャは山に満ちている馬と戦車の示現を見た（列下 6：12−17）。
7. **サマリヤ** 北王国の首都（列上 16：24−29）。アハブ王はバアルのために神殿を建てた（列上 16：32−33）。エリヤとエリシャが教導の業を行った（列上 18：2；列下 6：19−20）。紀元前 721 年，アッスリヤびとがここを征服し，十部族の捕囚を終えた（列下 18：9−10）。
8. **シケム** アブラハムは祭壇を築いた（創世 12：6−7）。ヤコブはこの付近に住んでいた。シメオンとレビがこの町の男たちをことごとく殺した（創世 34：25）。神に仕えるために「きょう，選びなさい」というヨシュアの勧めは，シケムで与えられたものである（ヨシ 24：15）。ヤラベアムはここに北王国の最初の首都を築いた（列上 12 章）。
9. **エバル山とゲリジム山** ヨシュアはイスラエルを分けて，これら二つの山に立たせた。そして，律法の祝福の言葉はゲリジム山から宣言され，のろいはエバル山から宣言された（ヨシ 8:33）。サマリヤびとは，後にゲリジムに神殿を建てた（列下 17：32−33）。
10. **ペヌエル** ヤコブはここで主の御使いと一晩中組み打ちした（創世 32：24−32）。ギデオンはミデアンびとのやぐらを打ち壊した（士師 8：5, 8−9）。
11. **ヨッパ** ヨナはニネベに対する自分の務めを避けて，ここでタルシシに向かう船に乗った（ヨナ 1：1−3）。
12. **シロ** 士師の時代に，イスラエルの首都と幕屋がここに置かれた（サ上 4：3−4）。
13. **ベテル（ルズ）** アブラハムはここでロトと別れ（創世 13：1−11），示現を見た（創世 13 章；アブ 2：19−20）。ヤコブは天に達するはしごの示現を見た（創世 28：10−22）。幕屋が一時期ここに置かれた（士師 20：26−28）。ヤラベアムは北王国の民が礼拝できるように金の子牛を設けた（列上 12：26−33）。
14. **ギベオン** この地から来たヒビびとは策略を巡らして，ヨシュアと条約を結んだ（ヨシ 9 章）。ヨシュアが戦いで勝利している間，太陽はとどまっていた（ヨシ10：2−13）。幕屋は一時期この地に置かれた（歴上 16：39）。
15. **ガザ，アシドド，アシケロン，エクロン，ガテ（ペリシテびとの５つの町）** これらの町から，ペリシテびとがしばしばイスラエルに戦いを仕掛けた。
16. **ベツレヘム** ラケルはこの近くに葬られた（創世 35：19）。ルツとボアズはここに住んでいた（ルツ 1：1−2；2：1, 4）。ダビデの町とも呼ばれた（ルカ 2：4）。
17. **ヘブロン** アブラハム（創世 13：18），イサク，ヤコブ（創世 35：27），ダビデ（サ下 2：1−4），アブサロム（サ下 15：10）はここに住んでいた。ここはダビデ王の統治下におけるユダの最初の首都であった（サ下 2：11）。アブラハム，サラ，イサク，リベカ，ヤコブ，レアはこの地のマクペラの洞穴に葬られたと信じられている（創世 23：17−20；49：31, 33）。
18. **エンゲデ** ダビデはサウルから身を隠し，またサウルの命を助けた（サ上 23：29；24：1−22）。
19. **ゲラル** アブラハムとイサクは一時期ここに住んでいた（創世 20−22，26 章）。
20. **ベエルシバ** アブラハムはここで井戸を掘り，アビメレクと契約を結んだ（創世 21：31）。イサクは主にまみえ（創世 26：17，23−24），ヤコブはここに住んでいた（創世 35：10；46：1）。
21. **ソドムとゴモラ** ロトはソドムに住むことを選んだ（創世 13：11−12；14：12）。ソドムとゴモラが邪悪であったため，神はこれらの町を滅ぼされた（創世 19：24−26）。後にイエスはこれらの町を邪悪の象徴として用いられた（マタ 10：15）。

旧約の時代のカナン

地図 10



1. **ツロとシドン**　イエスはコラジンやベツサイダをツロやシドンと対比された（マタ 11：20−22）。イエスは異邦人の女の娘を癒された（マタ 15：21−28）。
2. **変貌の山**　イエスはペテロ，ヤコブ，ヨハネの前で変貌され，また彼らは王国の鍵を授けられた（マタ 17：1−13）。（変貌の山はヘルモン山と信じる人々もいれば，タボル山と信じる人々もいる。）
3. **ピリポ・カイザリヤ**　ペテロは，イエスがキリストであると証し，王国の鍵を約束された（マタ 16：13−20）。イエスは御自身の死と復活を預言された（マタ 16：21−28）。
4. **ガリラヤ地方**　イエスは生涯のほとんどをガリラヤで過ごし，ここで教導の業を行われた（マタ 4：23−25）。イエスはここで山上の垂訓を与え（マタ 5−7 章），重い皮膚病にかかった人を癒し（マタ 8：1−4），十二使徒を選び，聖任し，遣わされた（マル 3：13−19）。ガリラヤびとでないのは，明らかにイスカリオテのユダだけであった。よみがえられたキリストは，ガリラヤで使徒たちに御姿を現された（マタ 28：16−20）。
5. **ガリラヤの海（後にテベリヤの海と呼ばれた）**　イエスはペテロの舟から教え（ルカ 5：1−3），またペテロとアンデレ，ヤコブ，ヨハネを召して人をとる漁師にされた（マタ 4：18−22；ルカ 5：1−11）。イエスはまた嵐を静め（ルカ 8：22−25），舟からたとえを教え（マタ 13 章），海の上を歩き（マタ 14：22−32），復活後に弟子たちに御姿を現された（ヨハ 21 章）。
6. **ベツサイダ**　ペテロとアンデレ，ピリポはベツサイダで生まれた（ヨハ 1：44）。イエスは使徒たちとともにひそかにベツサイダの近くに退かれた。群衆がイエスについて来たので，イエスは 5 千人に食べ物を与えられた（ルカ 9：10−17；ヨハ 6：1−14）。ここでイエスは盲人を癒された（マル 8：22−26）。
7. **カペナウム**　ここはペテロの故郷である（マタ 8：5，14）。マタイがイエスの町と言ったカペナウムで，イエスは中風の者を癒し（マタ 9：1−7；マル 2：1−12），百卒長の僕を治し，ペテロのしゅうとめを癒し（マタ 8：5−15），マタイを召して使徒の一人とし（マタ 9：9），盲人の目を開き，悪霊を追い出し（マタ 9：27−33），安息日に片手の不自由な人の手を癒し（マタ 12：9−13），命のパンの説教をし（ヨハ 6：22−65），また納入金を納めることを認めて，魚の口から銀貨を取り出すようペテロに告げられた（マタ 17：24−27）。
8. **マグダラ**　ここはマグダラのマリヤの故郷である（マル 16：9）。イエスは 4 千人に食べ物を与えた後，この地においでになった（マタ 15：32−39）。また，パリサイびととサドカイびとは，天からのしるしを見せるようにイエスに求めた（マタ 16：1−4）。
9. **カナ**　イエスは水をぶどう酒に変え（ヨハ 2：1−11），カペナウムにいた役人の息子を癒された（ヨハ 4:46−54）。カナはナタナエルの故郷でもある（ヨハ 21：2）。
10. **ナザレ**　マリヤとヨセフへの受胎告知はナザレで行われた（マタ 1：18−25；ルカ 1：26−38；2：4−5）。エジプトから戻った後，イエスは幼年時代から青年時代までここで過ごし（マタ 2：19−23；ルカ 2：51−52），御自分がメシヤであることを宣言されたが，御自分の民から拒まれた（ルカ 4：14−32）。
11. **エリコ**　イエスは盲人の目を見えるようにされた（ルカ 18：35−43）。イエスはまた「取税人のかしら」であったザアカイと食事を共にされた（ルカ 19：1−10）。
12. **ベタニヤ（ベテアバラ）**　バプテスマのヨハネは，自分は「荒野で呼ばわる者の声」であると証した（ヨハネ 1：19−28）。ヨハネはヨルダン川でイエスにバプテスマを施し，イエスが神の小羊であると証した（ヨハ 1：28−34）。
13. **ユダヤの荒野**　バプテスマのヨハネはこの荒野で教えを説いた（マタ 3：1−4）。イエスは 40 日間断食し，誘惑をお受けになった（マタ 4：1−11）。
14. **エマオ**　よみがえられたキリストは二人の弟子とともにエマオへの道を歩まれた（ルカ 24：13−32）。
15. **ベテパゲ**　二人の弟子がイエスのみもとに子ろばを連れて来て，イエスはそれに乗ってエルサレムへの勝利の入城を始められた（マタ 21：1−11）。
16. **ベタニヤ**　ここはマリヤとマルタ，ラザロの故郷である（ヨハ 11：1）。マリヤはイエスの言葉に耳を傾け，イエスはマリヤに，「良い方」を選んだと言われた（ルカ 10：38−42）。イエスはラザロを死からよみがえらせられた（ヨハ 11：1−44）。また，マリヤはイエスの足に油を塗った（マタ 26：6−13；ヨハ 12：1−8）。
17. **ベツレヘム**　イエスはここでお生まれになり，飼葉おけの中に寝かされた（ルカ 2：1−7）。御使いたちはイエスの降誕を羊飼いたちに告げた（ルカ 2：8−20）。博士たちは星によってイエスのみもとに導かれ（マタ 2：1−12），ヘロデは子供たちを殺した（マタ 2：16−18）。

新約の時代の聖地

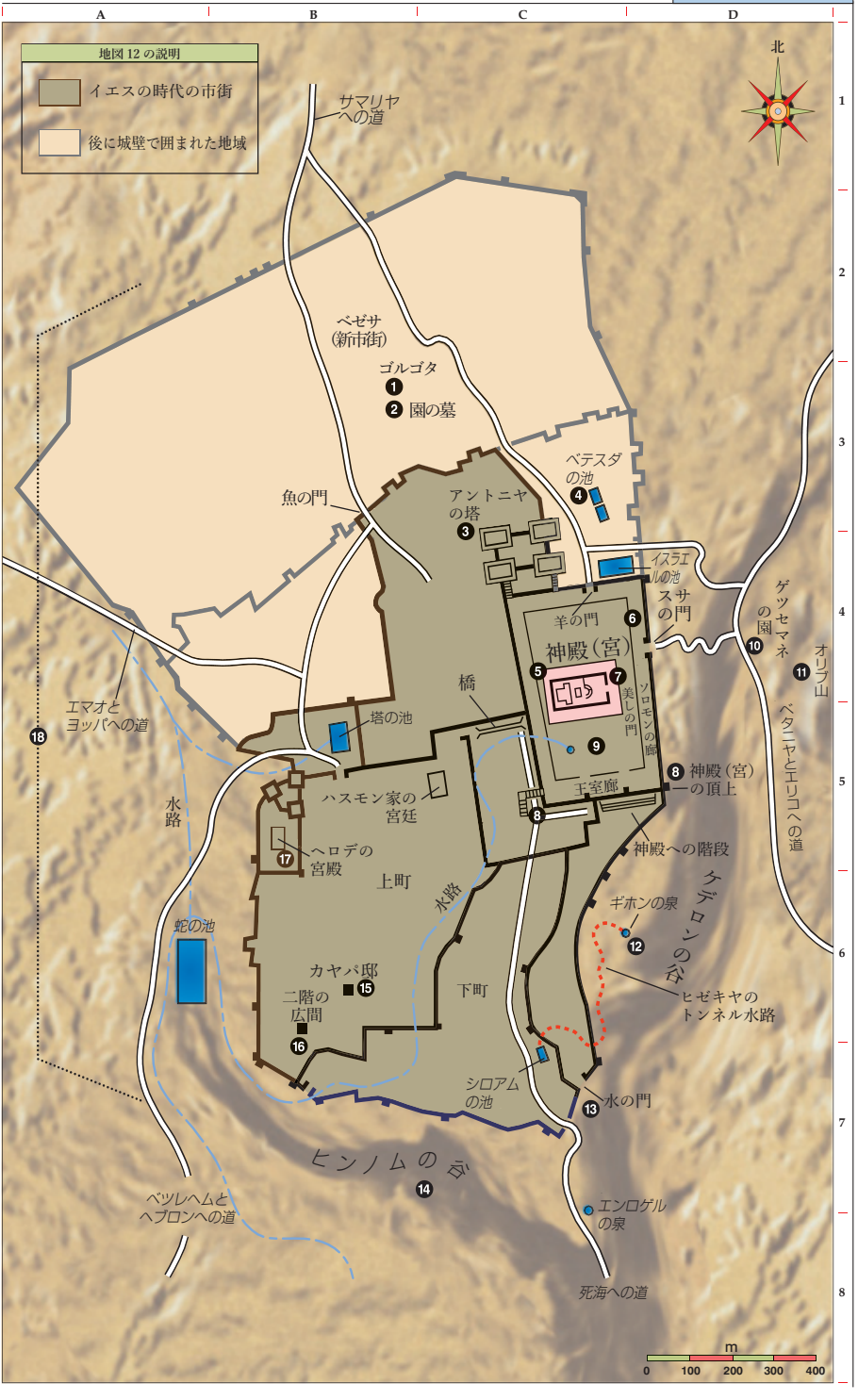
地図 11

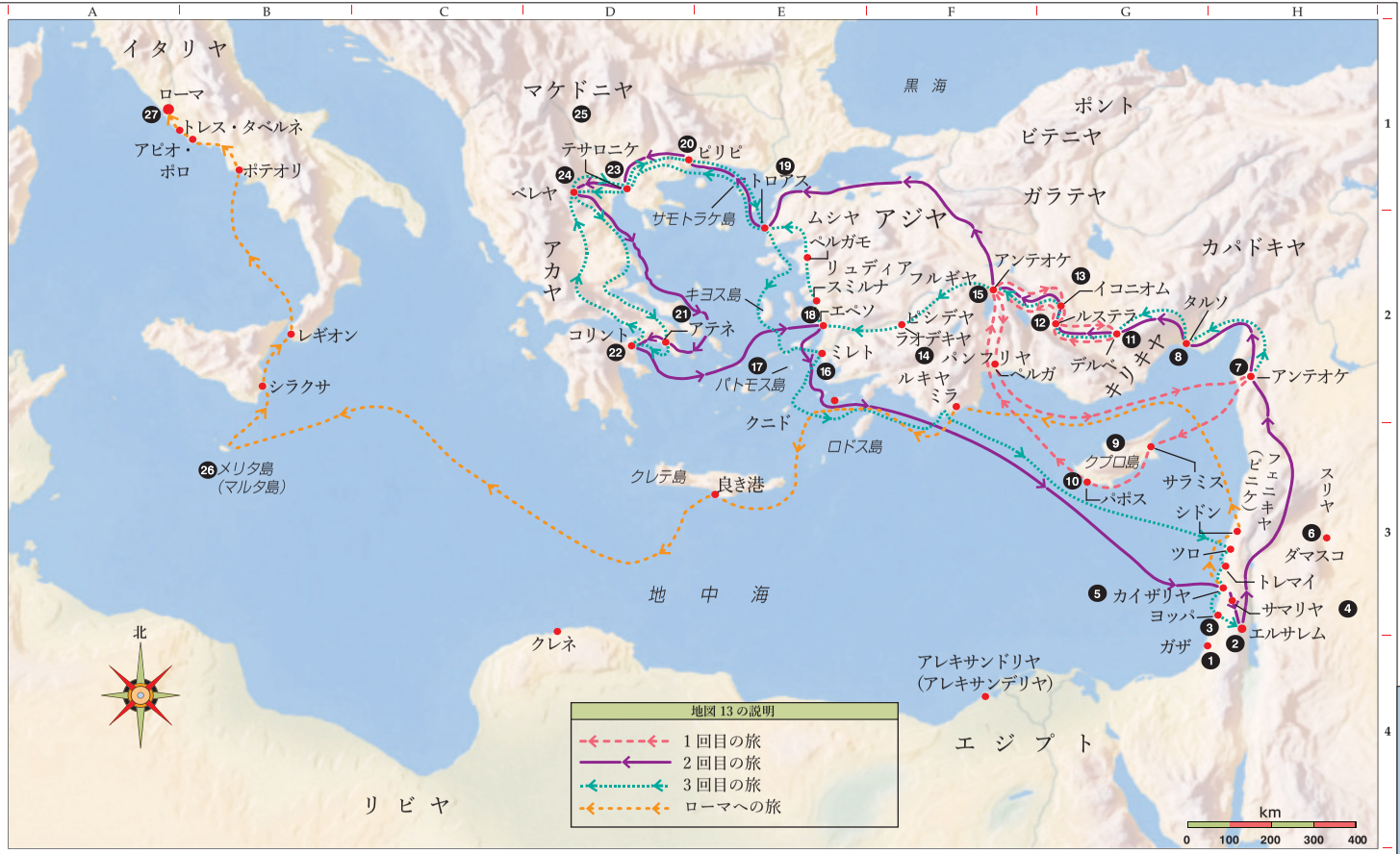


1. **ゴルゴタ**　イエスが十字架につけられたとされる場所（マタ 27：33−37）。
2. **園の墓**　イエスはここに葬られた（ヨハ 19：38−42）。よみがえられたキリストはこの園でマグダラのマリヤに御姿を現された（ヨハ 20：1−17）。
3. **アントニヤの塔**　イエスはこの場所で訴えられ，罪に定められ，あざけられ，むち打たれた（ヨハ 18：28−19：16）。パウロは逮捕され，自分の改宗談を語った（使徒 21：31−22：21）。
4. **ベテスダの池**　イエスは安息日に病気の人を癒された（ヨハ 5：2−9）。
5. **神殿（宮）**ガブリエルはザカリヤに，エリサベツは男の子を産むと約束した（ルカ 1：5−25）。救い主が亡くなられたとき，神殿の幕が裂けた（マタ 27：51）。
6. **ソロモンの廊**　イエスは御自分が神の御子であることを宣言された。ユダヤ人はイエスを石で打とうとした（ヨハ 10：22−39）。ペテロは足の不自由な人を癒した後，悔い改めを説いた（使徒 3：11−26）。
7. **美しの門**　ペテロとヨハネは足の不自由な人を癒した（使徒 3：1−10）。
8. **神殿（宮）の頂上**　イエスはサタンに誘惑された（マタ 4：5−7）。（この出来事について可能性がある場所は 2 か所ある。）
9. **聖なる山**（場所は特定できない）
   a. アブラハムはイサクを犠牲にする祭壇をここに築いたと言い伝えられている（創世 22：9−14）。
   b. ソロモンは神殿を建てた（列上 6：1−10；歴下 3：1）。
   c. 紀元前 587 年ごろ，バビロニア人は神殿を破壊した（列下 25：8−9）。
   d. 紀元前 515 年ごろ，ゼルバベルは神殿を再建した（エズ 3：8−10；5：2；6：14−16）。
   e. 紀元前 17 年以降，ヘロデは神殿の構内を拡張し，神殿を再建した。幼子イエスは神殿に連れて行かれた（ルカ 2：22−39）。
   f. 12 歳のとき，イエスは神殿で教えを説かれた（ルカ 2：41−50）。
   g. イエスは宮清めをされた（マタ 21：12−16；ヨハ 2：13−17）。
   h. イエスは何度か神殿で教えを説かれた（マタ 21：23−23：39；ヨハ 7：14−8：59）。
   i. ティトゥスの統治下のローマ人は，紀元 70 年に神殿を破壊した。
10. **ゲツセマネの園**　イエスは苦しみ，裏切られ，捕らえられた（マタ 26：36−46；ルカ 22：39−54）。
11. **オリブ山**
   a. イエスはエルサレムと神殿の滅亡を預言された。イエスはまた，再臨についても話された（マタ 24：3−25：46；ジ−マタも参照）。
   b. イエスはここから天に昇られた（使徒 1：9−12）。
   c. 1841 年 10 月 24 日に，オーソン・ハイド長老はアブラハムの子孫の帰還のために聖地を奉献した。
12. **ギホンの泉**　ソロモンは王として油を注がれた（列上 1：38−39）。ヒゼキヤはこの泉から町に水を引くためにトンネルを掘らせた（歴下 32：30）。
13. **水の門**　エズラは民にモーセの律法を読み聞かせ，解き明かした（ネヘ 8：1−8）。
14. **ヒンノムの谷**　偽りの神モレクに対する礼拝が行われ，子供が供え物とされた（列下 23:10；歴下 28:3）。
15. **カヤパ邸**　イエスはカヤパの前に連れて行かれた（マタ 26：57−68）。ペテロはイエスを知っていたことを否定した（マタ 26：69−75）。
16. **二階の広間**　イエスが過越の食事をし，聖餐を定められたと言い伝えられている場所（マタ 26：20−30）。イエスは十二使徒の足を洗い（ヨハ 13：4−17），彼らを教えられた（ヨハ 13：18−17：26）。
17. **ヘロデの宮殿**　キリストがヘロデの前に連れて行かれたのはこの場所と思われる（ルカ 23：7−11）。
18. **エルサレム**（場所は特定できない）
   a. メルキゼデクはサレムの王として治めた（創世 14：18）。
   b. ダビデ王はエブスびとからこの町を奪った（サ下 5：7；歴上 11：4−7）。
   c. 紀元前 587 年ごろに，この町はバビロニア人によって破壊された（列下 25：1−11）。
   d. 五旬節の日に多くの者が聖霊に満たされた（使徒 2：1 − 4）。
   e. ペテロとヨハネは捕らえられ，議会の前に連れ出された（使徒 4：1 − 23）。
   f. アナニヤとサッピラは主に偽り，死んだ（使徒 5：1−10）。
   g. ペテロとヨハネは捕らえられたが，天使が彼らを獄から救い出した（使徒 5：17−20）。
   h. 使徒たちは自分たちを助ける者として 7 人を選んだ（使徒 6：1−6）。
   i. ユダヤ人に対するステパノの証は拒まれ，彼は石で打ち殺された（使徒 6：8−7：60）。
   j. ヤコブが殉教した（使徒 12：1−2）。
   k. 天使がペテロを獄から解放した（使徒 12：5−11）。
   l. 使徒たちは割礼の問題について結論を出した（使徒 15：5−29）。
   m. ティトゥスの統治下のローマ人が，紀元 70 年に町を破壊した。

イエスの時代のエルサレム

地図 12




A
B
C
D
E
F
G
H
1
2
3
4
イタリヤ
ローマ
トレス・タベルネ
アピオ・ポロ
ポテオリ
レギオン
シラクサ
メリタ島（マルタ島）
マケドニヤ
黒海
ポント
ビテニヤ
ガラテヤ
カパドキヤ
テサロニケ
ピリピ
ベレヤ
トロアス
サモトラケ島
ムシヤ
アジヤ
アカヤ
ペルガモ
リュディア
スミルナ
フルギヤ
アンテオケ
イコニオム
ルステラ
タルソ
キヨス島
エペソ
ピシデヤ
コリント
アテネ
ラオデキヤ
パンフリヤ
ペルガ
デルベ
メソヤ
ミレト
パトモス島
ルキヤ
ミラ
アンテオケ
クニド
ロドス島
クプロ島
サラミス
パポス
フェニキヤ（ピニケ）
シリヤ
シドン
ツロ
ダマスコ
トレマイ
カイザリヤ
サマリヤ
ヨッパ
エルサレム
ガザ
クレテ島
良き港
地中海
クレネ
アレキサンドリヤ（アレキサンデリヤ）
エジプト
リビヤ
北
地図13の説明
1回目の旅
2回目の旅
3回目の旅
ローマへの旅
km
0
100
200
300
400

1. **ガザ**　ピリポはガザへ向かうエチオピヤ人の宦官にキリストのことを説き，彼にバプテスマを施した（使徒8：26−39）。

2. **エルサレム**　エルサレムでの出来事については地図12を参照。

3. **ヨッパ**　ペテロは，神が異邦人に悔い改めの賜物を与えられる示現を受けた（使徒10章；11：5−18）。ペテロはタビタを死から生き返らせた（使徒9：36−42）。

4. **サマリヤ**　ピリポはサマリヤで教えを説き（使徒8：5−13），後にペテロとヨハネがここで教えた（使徒8：14−25）。彼らが聖霊の賜物を授けた後，魔術師シモンは彼らからこの賜物を買おうとした（使徒8：9−24）。

5. **カイザリヤ**　ここで天使がコルネリオという名の百卒長に御告げを述べた後，ペテロは彼がバプテスマを受けることを認めた（使徒10章）。パウロはアグリッパの前で弁明した（使徒25−26章。ジ−歴史1：24−25も参照）。

6. **ダマスコ**　イエスはサウロに御姿を現された（使徒9：1−7）。アナニヤがサウロの視力を回復させた後，サウロはバプテスマを受け，教導の業を始めた（使徒9：10−27）。

7. **アンテオケ（スリヤの）**　弟子たちはここで初めてクリスチャンと呼ばれた（使徒11：26）。アガボは飢饉を預言した（使徒11：27−28）。割礼に関してアンテオケで激しい議論が起こった（使徒14：26−28；15：1−9）。アンテオケで，パウロは，シラス，バルナバ，およびバルサバというユダとともに2回目の伝道を始めた（使徒15：22，30，35）。

8. **タルソ**　パウロの故郷。パウロは兄弟たちによりここに送り出され，命を守られた（使徒9：29−30）。

9. **クプロ**　ある聖徒たちは，迫害された後，この島に逃れた（使徒11：19）。パウロは最初の伝道の旅でクプロを通って旅をした（使徒13：4−5）。後に，バルナバとマルコもここを訪れた（使徒15：39）。

10. **パポス**　パウロはここで魔術師をのろった（使徒13：6−11）。

11. **デルベ**　パウロとバルナバはこの町で福音を宣べ伝えた（使徒14：6−7，20−21）。

12. **ルステラ**　パウロが足の不自由な人を癒したとき，彼とバルナバは神々と呼ばれた。パウロは石で打たれて死んだようになったが，快復して，宣べ伝えることを続けた（使徒14：6−21）。テモテの故郷（使徒16：1−3）。

13. **イコニオム**　パウロとバルナバは，最初の伝道中にここで教えを説き，石で打たれそうになった（使徒13：51−14：7）。

14. **ラオデキヤとコロサイ**　ラオデキヤはパウロが訪れた教会の支部の一つである。パウロはここからの手紙を受け取った（コロ4：16）。黙示録にあげられている7つの町の一つである（ほかの町は，エペソ，スミルナ，ペルガモ，テアテラ，サルデス，ヒラデルヒヤ。黙示1：11参照）。コロサイはラオデキヤの東方18kmにある。パウロはここに住んでいる聖徒たちに手紙を書いた。

15. **アンテオケ（ピシデヤの）**　パウロとバルナバは，最初の伝道中に，キリストがダビデの子孫から出るとユダヤ人に教えた。パウロは福音をイスラエルに伝え，その後，異邦人に伝えた。パウロとバルナバは迫害され，追い出された（使徒13：14−50）。

16. **ミレト**　パウロは，3回目の伝道でここにいたとき，教会の長老たちに，「狂暴なおおかみ」が群れに入って来ると警告した（使徒20：29−31）。

17. **パトモス**　ヨハネはこの島に囚われていたとき，現在の黙示録に記されている数々の示現を受けた（黙示1：9）。

18. **エペソ**　アポロはここで力強く教えを説いた（使徒18：24−28）。パウロは，3回目の伝道中に2年間エペソで教え，多くの人々を改宗した（使徒19：10，18）。パウロはここで按手によって聖霊の賜物を授け（使徒19:1−7），また悪霊を追い出すなど，多くの奇跡を行った（使徒19：8−21）。ここで，アルテミスを礼拝する者たちがパウロに対して騒動を起こした（使徒19：22−41）。黙示録の一部はエペソの教会にあてられたものである（黙示1：11）。

19. **トロアス**　パウロは，2回目の伝道の旅でここにいたとき，マケドニヤの人が助けを求める示現を見た（使徒16：9−12）。パウロは，3回目の伝道中にユテコを死から生き返らせた（使徒20：6−12）。

20. **ピリピ**　パウロ，シラス，テモテはルデヤという名の女を改宗し，悪霊を追い出し，むち打たれた（使徒16：11−23）。彼らは神からの助けを受け，獄から救い出された（使徒16：23−26）。

21. **アテネ**　パウロは，アテネへの2回目の伝道中に，アレオパゴスの評議所で「知られない神」について教えを説いた（使徒17：22−34）。

22. **コリント**　パウロは，2回目の伝道でコリントへ行き，アクラとプリスキラとともにそこにとどまった。彼はここで教えを説き，多くの人々にバプテスマを施した（使徒18：1−18）。パウロはコリントからローマ人にあてて手紙を書いた。

23. **テサロニケ**　パウロは，2回目の伝道の旅をしていたとき，ここで教えを説いた。彼の伝道者の一行は，ユダヤ人に安全を脅かされたために，ベレヤに向かって出発した（使徒17：1−10）。

24. **ベレヤ**　パウロとシラスとテモテは，パウロの2回目の伝道の旅のときに，身分の高い人々を見つけて教えた。テサロニケから来たユダヤ人が，彼らを追って来て迫害した（使徒17：10−13）。

25. **マケドニヤ**　パウロは，2回目と3回目の旅のときに，ここで教えた（使徒16：9−40；19：21）。パウロは，自分やエルサレムの貧しい聖徒たちを援助してくれたマケドニヤの聖徒たちの寛大さをたたえた（ロマ15：26；2コリ8：1−5；11：9）。

26. **メリタ**　パウロの乗った舟はローマへ行く途中この島で座礁した（使徒26：32；27：1，41−44）。彼は蛇にかまれても害を受けず，またメリタにいる病気の人々を大勢癒した（使徒28：1−9）。

27. **ローマ**　パウロは家に幽閉された状態で，2年間ここで教えを説いた（使徒28：16−31）。彼はまたローマで囚われの状態にあった間，エペソ人，ピリピ人，コロサイ人，またテモテとピレモンに手紙を書いた。ペテロは，紀元64年にクリスチャンに対してネロが迫害を開始して間もなく，「バビロン」（恐らくローマと思われる）から最初の手紙を書き送った。ペテロとパウロはここで殉教したと一般に信じられている。

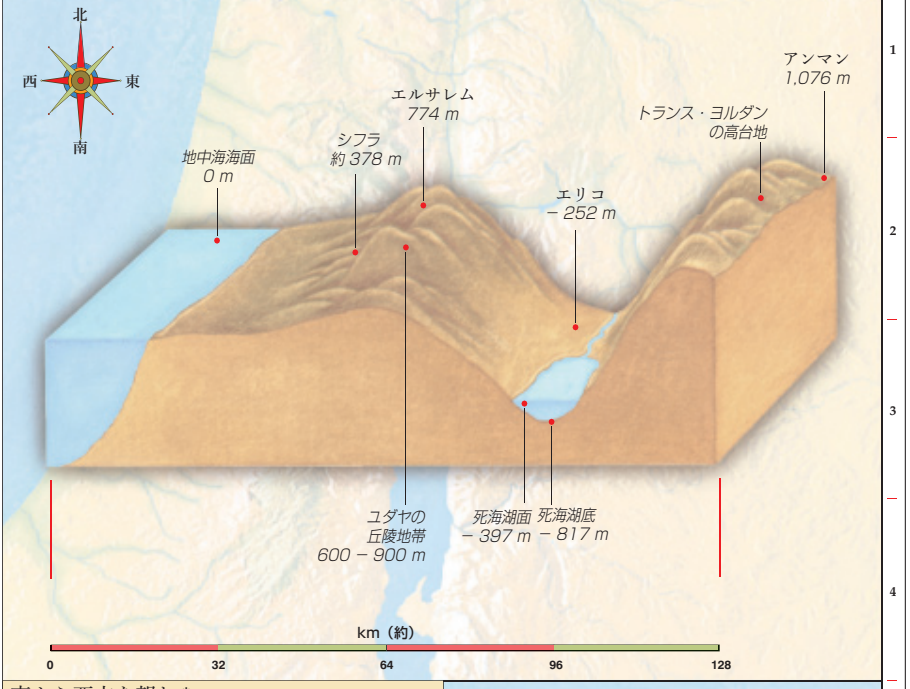
聖書の時代の聖地の地勢図

地図 14

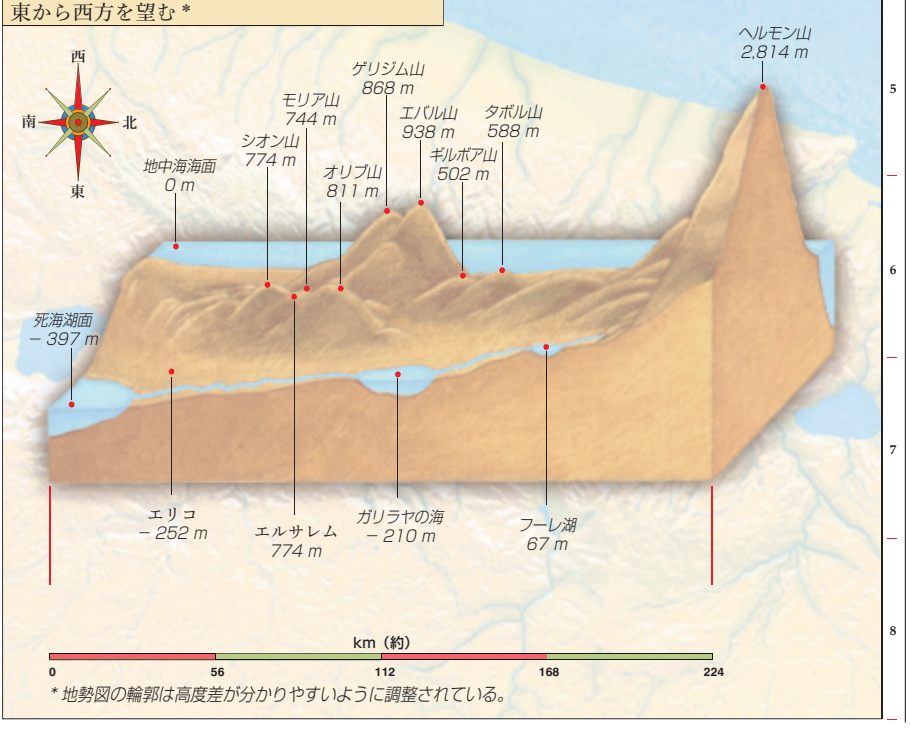
A　B　C　D

1　2　3　4　5　6　7　8

南から北方を望む *



東から西方を望む *



* 地勢図の輪郭は高度差が分かりやすいように調整されている。



1. ナイル川とエジプト　モーセの母親はこのような場所に幼い息子を隠した。パロの娘がモーセを見つけ，彼をエジプトの王宮で育てた。



2. シナイ山（ホレブ）とシナイの荒野　神から命じられて，モーセはこの山にイスラエルの民を連れて行き，神の律法を授けられた。この写真はシナイ山と言い伝えられている場所を撮ったものである。



3. ユダヤの荒野と死海　救い主は御父と交わるために荒野に行かれた。



4. カデシ・バルネア　カデシ・バルネアとして知られるこの地域は，イスラエルの民が荒野で 40 年間の大半を宿営した場所と推測されている。



5. 族長たちの墓　ヘブロンにあるこの建物は，アブラハム，イサク，ヤコブの墓所の上に建てられたものと言われている。



6. ユダヤの丘陵地帯　このような険しい景色がエルサレムの南や東に続く聖地の多くを覆っている。



7. **ベツレヘム**　この町で主イエス・キリストはお生まれになった。



8. **エルサレム**　この町は 3 つの宗教，すなわちキリスト教，ユダヤ教，イスラム教にとって聖なる場所と考えられている。



9. ヘロデの神殿　この模型は古代の神殿を正確に縮小したものと言われている。



10. 神殿への階段　ヘロデの神殿に通じるこの階段は考古学者により発掘された。



11．オリブ山とオーソン・ハイド公園　1841 年にこの場所の近くで，オーソン・ハイド長老はアブラハムの子孫の帰還のために聖地を奉献した。



12．ゲツセマネの園　これらのオリーブの老木は，救い主が贖罪を始めるに当たって祈り，血の汗を流された園にあったオリーブの木の子孫であるかもしれない。



13. ゴルゴタ　よく知られている伝承では，主イエス・キリストはこの近くで十字架につけられたとされる。



14. 園の墓　何人かの近代の預言者は，ここが十字架の刑の後に救い主の遺体が納められたアリマタヤのヨセフの墓であると感じてきた。



15. エリコ　ここはヨシュアが奪った最初の町である（ヨシ 6：2−20 参照）。エリコは地上で最も古い町の一つである。



16. シロ　契約の箱が納められていた幕屋はこの地に据えられ，数世紀にわたってここに置かれていた。



17. ゲリジム山とエバル山　この二つの山は，ヨセフの遺骨が葬られた古代のシケムの町を見下ろしている（ヨシ 24：32 参照）。



18. サマリヤのドタン　ヨセフの兄たちはこの肥沃な谷に羊の群れを連れて来ていたときに，弟をミデアンびととイシマエルびとの商人に売り渡した。



19．カイザリヤとシャロンの平原からカルメルへ　パウロはこの町でアグリッパ王に教えを説いた（使徒 26 章参照）。



20．ヨッパ　ペテロはここで示現を受け，異邦人に福音を携えて行くよう指示された（使徒 10 章参照）。



21．エズレルの谷　将来，万国の民がハルマゲドンの戦いのためにここに集まる（ゼカ 11－14 章；黙示 16：14－21 参照）。



22．タボル山　有名なこの山の頂は，キリストが使徒ペテロ，ヤコブ，ヨハネの前で変貌した場所と言い伝えられている（マタ 17：1－9 参照）。



23. ガリラヤの海と至福の教えの山　この丘の斜面は救い主が山上の垂訓を与えられた場所と言い伝えられている（マタ 5–7 章参照）。



24. カペナウム　救い主が多くの奇跡を行われた町であったことを示す廃墟がごくわずかに残っている。



25．ヨルダン川　この写真は，ガリラヤの海から流れ出す河口付近を撮影したものである。



26．ピリポ・カイザリヤ　イエス・キリストがペテロに王国の鍵を約束されたのはこの場所の近くであったと思われる（マタ 16：19 参照）。



27. ナザレ　イエスはこの町で成長された。



28. ダン　かつてここにあった旧約の町はイスラエルの最北の地であった。



29. アテネ　この写真のパルテノンは，パウロが「知られない神」についての教えを説いたアレオパゴスの評議所の近くにある（使徒 17：15−34 参照）。



30. コリント　パウロはこの町からローマ人に手紙を書いた。



31．エペソ　パウロはここで，偶像礼拝に反対する教えを説いて，女神アルテミスの神殿の模型を売って生計を立てていた銀細工人たちの怒りを買った（使徒 19：24－41 参照）。



32．パトモス島　この全景は，黙示者ヨハネが流刑にされた地中海の島の一部を撮ったものである（黙示 1：9 参照）。